バージョン 2.x のデベロッパーガイド

AWS SDK for Java 2.x



Copyright © 2026 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

AWS SDK for Java 2.x: バージョン 2.x のデベロッパーガイド

Copyright © 2026 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon の商標およびトレードドレスは Amazon 以外の製品およびサービスに使用することはできません。また、お客様に誤解を与える可能性がある形式で、または Amazon の信用を損なう形式で使用することもできません。Amazon が所有していないその他のすべての商標は Amazon との提携、関連、支援関係の有無にかかわらず、それら該当する所有者の資産です。

Table of Contents

とは AWS SDK for Java 2.x 1
SDK の使用を開始する 1
モバイルアプリケーションの開発 1
SDK メジャーバージョンのメンテナンスとサポート 1
その他のリソース 2
この SDK に貢献する 2
はじめに 3
設定 4
設定の概要 4
Java 開発の前提条件をインストールする 5
Apache Maven プロジェクトを設定する 6
Gradle プロジェクトを設定する 12
GraalVM Native Image プロジェクトを設定する 19
による認証 AWS 20
認証の設定 20
追加認証オプション 22
シンプルなアプリケーションの作成 23
ステップ 1: このチュートリアルのために設定する 23
ステップ 2: プロジェクトを作成する 23
ステップ 3: コードを記述する 28
ステップ 4: アプリケーションを構築して実行する 32
次の手順 33
サービスクライアントの設定 35
クライアントの外部設定 36
クライアント設定の設定プロバイダーチェーン 36
外部設定を使用して設定されたサービスクライアントの作成 37
SDK for Java 2.x 環境変数と JVM システムプロパティ 38
コードでのクライアント設定 39
コードでの基本設定 39
コードでの高度な設定 39
コードでは使用できない設定オプション 41
シングルトンサービスクライアント 42
シングルトンサービスクライアントの利点 43
シングルトンサービスクライアントを作成して使用する 43

重要な考慮事項 44
AWS リージョン 44
を明示的に設定する AWS リージョン 44
環境からリージョンを決定する 45
サービス可用性を確認する 47
特定のエンドポイントを選択する 47
認証情報プロバイダー 48
インタラクティブな開発作業 48
デフォルトの認証情報プロバイダーチェーン 52
認証情報キャッシュ 56
特定の認証情報プロバイダーの指定 59
共有設定プロファイルの使用 61
外部プロセスの使用 64
コードで認証情報を指定する 69
Amazon EC2 で IAM ロール認証情報を読み取る 72
再試行 74
再試行戦略 74
戦略を指定する 78
戦略をカスタマイズする 80
RetryPolicy から RetryStrategy への移行 82
タイムアウト 82
サービスクライアントのタイムアウト 82
HTTP クライアントのタイムアウト 84
タイムアウトの相互作用と階層 86
スマート設定のデフォルトを使用する 87
概要 88
オブザーバビリティ 88
メトリクス 88
モニタリング 121
ログ記録 121
エンドポイント 133
エンドポイント設定オプション 133
コード内エンドポイント設定 134
リクエストレベルのエンドポイント設定 135
エンドポイントの外部設定 135
設定の優先順位 137

サービス固有のエンドポイント設定 137
ベストプラクティス 139
HTTP クライアントの設定 139
利用可能なクライアント 139
クライアントの推奨事項 141
スマートのデフォルト 143
Apache ベースの HTTP クライアントの設定 145
URLConnection ベースの HTTP クライアントを設定する 150
Netty ベースの HTTP クライアントの設定 157
CRT AWS ベースの HTTP クライアントを設定する 164
HTTP プロキシの設定 177
Apache 5.x ベースの HTTP クライアントを設定する 184
インターセプター 188
ライフサイクル 189
インターセプターの登録 189
例 190
ベストプラクティス 197
コンテキストオブジェクト 197
SDK の使用 199
AWS のサービス リクエストの実行 202
サービスクライアントを使用したリクエストの実行 202
リクエストを発行する 205
レスポンスを処理する 207
非同期プログラミング 207
非同期クライアント API の使用 208
非同期メソッドでのストリーミングの処理 211
高度な非同期オプションを設定する 215
ベストプラクティス 216
リクエストのハングを防止する 216
クライアントを再利用する 217
リソースをリリースする 217
接続の問題を防ぐ 217
HTTP 最適化 218
SSL 最適化 218
パフォーマンスをモニタリングする 218
エラー処理 219

非チェック例外を使用する理由 219
AwsServiceException (およびサブクラス) 219
SdkClientException 220
例外と再試行動作 221
Pagination (ページ分割) 221
同期ページ割り 221
非同期ページ割り 225
ウェーター 231
前提条件 232
ウェーターの使用 232
ウェイターを設定する 233
コードの例 234
トラブルシューティング 234
接続のリセット 234
接続タイムアウト 235
読み取りタイムアウト 236
接続プールのタイムアウト 236
クラスパスエラー 240
署名エラー 241
接続プールのシャットダウン 242
認証情報プロバイダーチェーンのエラー 244
の SDK 起動時間を短縮する AWS Lambda 247
CRT ベースの AWS HTTP クライアントを使用する 247
未使用の HTTP クライアント依存関係を削除する 247
検索をショートカットするようにサービスクライアントを設定します。 249
Lambda 関数ハンドラーの外部で SDK クライアントを初期化する 250
依存関係インジェクションを最小限に抑える 251
Maven Archetype ターゲットを使用する AWS Lambda 251
Lambda SnapStart 251
SdkWarmUp を使用した SDK クライアントのウォームアップを検討する 251
起動時間に影響するバージョン 2.x の変更点 252
その他のリソース 252
で SDK クライアントをウォームアップする AWS SDK for Java 2.x 252
SdkWarmUp API 253
Lambda SnapStart で SdkWarmUp を使用する SnapStart 254
スタンドアロン CRaC で SdkWarmUp を使用する 255

その他のリソース 256
ContentStreamProvider の実装 257
mark() および reset() を使用します。 257
mark() と reset() が利用できない場合にバッファリングを使用する 257
新しいストリームを作成する 258
DNS 名参照用の JVM TTL を設定する 258
JVM TTL を設定する方法 259
HTTP/2 を使用する 260
AWS のサービス の呼び出し 262
CloudWatch 262
からメトリクスを取得する CloudWatch 263
カスタムメトリクスデータを に発行する CloudWatch 265
CloudWatch アラームの操作 267
Amazon CloudWatch Events の使用 271
AWS データベースサービス 274
Amazon DynamoDB 275
Amazon RDS 276
Amazon Redshift 276
Amazon Aurora Serverless v1 276
Amazon DocumentDB 277
DynamoDB 277
DynamoDB クライアントの選択 277
DynamoDB クライアントの設定 277
このトピックで扱う内容 278
DynamoDB のテーブルの操作 279
で項目を操作する DynamoDB 289
DynamoDB アイテムにオブジェクトをマッピングする 296
Amazon EC2 434
Amazon EC2 インスタンスの管理 435
AWS リージョン および アベイラビリティーゾーンを使用する 441
Amazon EC2 でセキュリティグループを操作する 449
Amazon EC2 インスタンスメタデータを操作する 454
IAM 460
IAM アクセスキーを管理する 460
IAM ユーザーを管理する 466
IAM ポリシーを作成する 471

IAM ポリシーの使用 ... 479
IAM サーバー証明書の使用 ... 485
Kinesis ... 490
Amazon Kinesis Data Streams へのサブスクライブ ... 490
Lambda ... 501
Lambda 関数を呼び出します。 ... 501
Lambda 関数を一覧表示する ... 503
Lambda 関数を削除する ... 504
Amazon S3 ... 505
SDK の S3 クライアント ... 505
S3 にストリームをアップロードする ... 508
署名付き URL ... 515
クロスリージョンアクセス ... 533
チェックサムによるデータ整合性保護 ... 534
パフォーマンスの高い S3 クライアントを使用する ... 543
並列転送のサポートを設定する ... 547
ファイルとディレクトリを転送する ... 549
S3 イベント通知 ... 562
Amazon SNS ... 572
トピックの作成 ... 572
Amazon SNS トピックをリストする ... 573
トピックへのエンドポイントのサブスクライブ ... 574
トピックへのメッセージの発行 ... 575
トピックからのエンドポイントの登録解除 ... 576
トピックの削除 ... 577
Amazon SQS ... 578
自動リクエストバッチ処理を使用する ... 579
キューオペレーション ... 584
メッセージオペレーション ... 587
Amazon Transcribe ... 591
マイクを設定する ... 591
パブリッシャーを作成する ... 592
クライアントを作成してストリーミングを開始する ... 594
詳細情報 ... 590
コードの例 ... 597
ACM ... 600

アクション 600
API ゲートウェイ 618
アクション 600
シナリオ 623
AWS コミュニティへの貢献 624
Application Auto Scaling 624
アクション 600
Application Recovery Controller 633
アクション 600
Aurora 636
はじめに 636
基本 637
アクション 600
シナリオ 623
Auto Scaling 672
はじめに 636
基本 637
アクション 600
シナリオ 623
AWS Batch 736
はじめに 636
基本 637
アクション 600
Amazon Bedrock 785
アクション 600
Amazon Bedrock ランタイム 791
シナリオ 623
Amazon Nova 808
Amazon Nova Canvas 829
Amazon Titan Image Generator 832
Amazon Titan Text Embeddings 835
Anthropic Claude 838
Meta Llama 853
Mistral AI 859
Stable Image Core 865
CloudFront 868

アクション 600
シナリオ 623
CloudWatch 898
はじめに 636
基本 637
アクション 600
シナリオ 623
CloudWatch Events 1000
アクション 600
CloudWatch Logs 1006
アクション 600
シナリオ 623
Amazon Cognito ID 1024
アクション 600
Amazon Cognito ID プロバイダー 1032
はじめに 636
アクション 600
シナリオ 623
Amazon Comprehend 1059
アクション 600
シナリオ 623
AWS Control Tower 1072
はじめに 636
基本 637
アクション 600
Firehose 1134
アクション 600
シナリオ 623
Amazon DocumentDB 1144
サーバーレスサンプル 1144
DynamoDB 1146
はじめに 636
基本 637
アクション 600
シナリオ 623
サーバーレスサンプル 1144

AWS コミュニティへの貢献 624
Amazon EC2 1408
はじめに 636
基本 637
アクション 600
シナリオ 623
Amazon ECR 1507
はじめに 636
基本 637
アクション 600
Amazon ECS 1546
アクション 600
Elastic Load Balancing - バージョン 2 1561
はじめに 636
アクション 600
シナリオ 623
MediaStore 1606
アクション 600
AWS Entity Resolution 1622
はじめに 636
基本 637
アクション 600
OpenSearch Service 1670
はじめに 636
基本 637
アクション 600
EventBridge 1700
はじめに 636
基本 637
アクション 600
シナリオ 623
EventBridge スケジューラ 1736
はじめに 636
アクション 600
シナリオ 623
Forecast 1760

アクション 600
Amazon Glacier 1774
アクション 600
AWS Glue 1790
はじめに 636
基本 637
アクション 600
HealthImaging 1822
アクション 600
シナリオ 623
IAM 1853
はじめに 636
基本 637
アクション 600
シナリオ 623
Amazon Inspector 1938
はじめに 636
基本 637
アクション 600
AWS IoT 1986
はじめに 636
基本 637
アクション 600
AWS IoT data 2026
アクション 600
AWS IoT SiteWise 2029
はじめに 636
基本 637
アクション 600
Amazon Keyspaces 2069
はじめに 636
基本 637
アクション 600
Kinesis 2095
アクション 600
サーバーレスサンプル 1144

AWS KMS 2108
はじめに 636
基本 637
アクション 600
Lambda 2165
はじめに 636
基本 637
アクション 600
シナリオ 623
サーバーレスサンプル 1144
AWS コミュニティへの貢献 624
Amazon Lex V2 2203
シナリオ 623
Amazon Location 2203
はじめに 636
基本 637
アクション 600
Location Service Places 2251
アクション 600
AWS Marketplace カタログ API 2256
AMI 製品 2257
チャネルパートナーのオファー 2282
コンテナ製品 2299
エンティティ 2306
Offers 2311
製品 2371
再販承認 2377
SaaS 製品 2418
Utilities 2444
AWS Marketplace 契約 API 2448
契約 2448
MediaConvert 2575
アクション 600
Migration Hub 2596
アクション 600
Amazon MSK 2609

サーバーレスサンプル 1144
Neptune 2611
はじめに 636
基本 637
アクション 600
シナリオ 623
パートナーセントラル 2654
アクション 600
シナリオ 623
Amazon Personalize 2689
アクション 600
Amazon Personalize Events 2720
アクション 600
Amazon Personalize Runtime 2723
アクション 600
Amazon Pinpoint 2728
アクション 600
Amazon Pinpoint SMS および音声 API 2772
アクション 600
Amazon Polly 2776
アクション 600
シナリオ 623
Amazon RDS 2783
はじめに 636
基本 637
アクション 600
シナリオ 623
サーバーレスサンプル 1144
Amazon RDS データサービス 2826
シナリオ 623
Amazon Redshift 2827
はじめに 636
基本 637
アクション 600
シナリオ 623
Amazon Rekognition 2866

アクション 600
シナリオ 623
Route 53 ドメイン登録 2938
はじめに 636
基本 637
アクション 600
Amazon S3 2960
開始方法 636
基本 637
アクション 600
シナリオ 623
サーバーレスサンプル 1144
Amazon S3 Control 3151
はじめに 636
基本 637
アクション 600
S3 ディレクトリバケット 3195
はじめに 636
基本 637
アクション 600
シナリオ 623
SageMaker AI 3278
はじめに 636
アクション 600
シナリオ 623
Secrets Manager 3307
アクション 600
Amazon SES 3309
アクション 600
シナリオ 623
Amazon SES API v2 3326
アクション 600
シナリオ 623
Amazon SNS 3347
はじめに 636
アクション 600

シナリオ 623
サーバーレスサンプル 1144
Amazon SQS 3417
はじめに 636
アクション 600
シナリオ 623
サーバーレスサンプル 1144
ステップ関数 3516
はじめに 636
基本 637
アクション 600
シナリオ 623
AWS STS 3541
アクション 600
サポート 3544
はじめに 636
基本 637
アクション 600
Systems Manager 3567
はじめに 636
基本 637
アクション 600
Amazon Textract 3610
アクション 600
シナリオ 623
Amazon Transcribe 3622
アクション 600
シナリオ 623
Amazon Transcribe ストリーミング 3633
アクション 600
シナリオ 623
Amazon Translate 3653
シナリオ 623
X-Ray 3655
アクション 600
バージョン 2 に移行する 3669

バージョン 2 の新機能 3669
1.x クライアントを使用してアプリケーションを検索する 3670
CloudWatch Logs Insights を使用して 1.x クライアントでアプリケーションを検索する .. 3670
SDK 非推奨のアプリケーション警告レベルのログを検索する 3672
ソースコードと依存関係を検索する 3673
デプロイ可能な Java アーティファクトを検査する 3675
CloudTrail Lake を使用して 1.x クライアントでアプリケーションを検索する 3676
移行方法 3678
移行ツール 3678
ステップバイステップの手順 3689
1.x と 2.x の相違点 3706
パッケージ名の変更 3707
プロジェクトへのバージョン 2.x の追加 3707
イミュータブルな POJO 3708
セッターメソッドとゲッターメソッド 3709
モデルクラス名 3709
ライブラリとユーティリティ 3710
クライアントの変更 3712
認証情報プロバイダーの変更 3757
リージョンの変更 3766
オペレーション、リクエスト、レスポンスの変更 3768
例外変更 3778
サービス固有の変更 3780
Amazon S3 での使用 3786
プロファイルファイルの変更 3841
外部設定 3842
ウェイター 3845
EC2 メタデータユーティリティ 3848
CloudFront の事前署名 3856
IAM Policy Builder API 3860
DynamoDB の操作 3866
SQS 自動リクエストバッチ処理 3911
SDK メトリクスの発行 3920
SDK for Java 1.x と 2.x を並行して使用する 3928
セキュリティ 3930
データ保護 3930

Transport Layer Security (TLS) 3931
TLS バージョンの確認 3932
TLS バージョンの強制 3933
TLS 1.2 に移行する 3935
Identity and Access Management 3935
オーディエンス 3936
アイデンティティを使用した認証 3936
ポリシーを使用したアクセス管理 3938
IAM AWS のサービス の操作方法 3940
AWS ID とアクセスのトラブルシューティング 3940
コンプライアンス検証 3942
耐障害性 3942
インフラストラクチャセキュリティ 3943
OpenPGP 鍵 3945
現在のキー 3945
以前のキー 3951
ドキュメント履歴 3958
..... mmmcmlxxi

とは AWS SDK for Java 2.x

AWS SDK for Java には Java API が用意されています AWS のサービス。SDK を使用すると、Amazon S3 Amazon EC2 DynamoDBなどと連携する Java アプリケーションを構築できます。

AWS SDK for Java 2.x は、バージョン 1.x コードベースの大幅な書き換えです。今回のバージョンは Java 8 以降をベースに構築されており、これまで要望の声が高かった機能が複数追加されています。このバージョンでは、ノンブロッキング I/O がサポートされており、ランタイム時にさまざまな HTTP 実装をプラグインすることができます。

AWS SDK for Javaには、新しいサービスのサポートが定期的に追加されています。特定のバージョンにおける変更点や機能の一覧は、「変更ログ」を表示してください。

SDK の使用を開始する

SDK を実際に使用する準備ができている場合は、はじめに チュートリアルに従ってください。

開発環境を設定するには、「the section called “設定”」を参照してください。

現在 のバージョン 1.x を使用している場合は SDK for Java、特定のガイダンスについてバージョン 2 への移行を参照してください。

へのリクエストなどの詳細については Amazon S3 DynamoDB、「 の使用 Amazon EC2 」および「 の操作 AWS のサービス AWS のサービス」を参照してください。 SDK for Java

モバイルアプリケーションの開発

モバイルアプリ開発者の場合、 はAWS Amplifyフレームワーク Amazon Web Services を提供します。

SDK メジャーバージョンのメンテナンスとサポート

SDK メジャーバージョンのメンテナンスとサポート、およびその基礎的な依存関係については、「AWS SDKs and Tools リファレンスガイド」で以下を参照してください。

- AWS SDKsメンテナンスポリシー
- AWS SDKsとツールのバージョンサポートマトリックス

その他のリソース

このガイドに加えて、 AWS SDK for Java 開発者にとって貴重なオンラインリソースを以下に示します。

- AWS SDK for Java 2.x API リファレンス
- Java 開発者ブログ
- の Java 開発トピック AWS re:Post
- GitHub 上の SDK ソース
- AWS SDK コード例ライブラリ
- @awsforjava (Twitter)

この SDK に貢献する

また、開発者は、次のチャネルを使用してフィードバックを送信することができます。

- GitHub で SKDの問題を送信
- AWS SDK for Java 2.x ギターチャネルで SDK に関する非公式チャットに参加する

AWS SDK for Java 2.x の開始方法

このトピックのセクションでは、AWS のサービス に接続する Java アプリケーションの構築を開始するための重要なステップについて説明します。このセクションでは、Java を使用した開発環境のセットアップ、Maven や Gradle などのツールの構築、AWS への安全な認証の設定について説明し、動作する最初のアプリケーションを作成する実践的なチュートリアルを提供します。この初心者向けのトピックは、Java を使用した AWS のためのエントリポイントとして機能し、より高度な機能を検討する前に必要な土台となります。

目次

- AWS SDK for Java 2.x の設定
  - 設定の概要
  - Java とビルドツールをインストールして を操作する AWS SDK for Java 2.x
  - を使用する Apache Maven プロジェクトを設定する AWS SDK for Java 2.x
    - 前提条件
    - Maven プロジェクトを作成する
    - Maven 用の Java コンパイラを設定する
    - SDK を依存関係として宣言する
    - SDK モジュールの依存関係を設定する
      - SDK 全体のプロジェクトへのビルド
    - プロジェクトを構築する
  - を使用する Gradle プロジェクトを設定する AWS SDK for Java 2.x
  - を使用する GraalVM ネイティブイメージプロジェクトを設定する AWS SDK for Java 2.x
    - 前提条件
    - アーキタイプを使用してプロジェクトを作成する
    - ネイティブイメージを構築する
- AWS を使用した での認証 AWS SDK for Java 2.x
  - 認証の設定
    - 1. 短期認証情報を使用したローカル開発
    - 2. SDK のシングルサインオンアクセスの設定
    - 3. を使用してサインインする AWS CLI
  - 追加認証オプション

- を使用したシンプルなアプリケーションの作成 AWS SDK for Java 2.x
  - ステップ 1: このチュートリアルのために設定する
  - ステップ 2: プロジェクトを作成する
  - ステップ 3: コードを記述する
  - ステップ 4: アプリケーションを構築して実行する
    - Success
    - クリーンアップ
  - 次の手順

AWS SDK for Java 2.x の設定

このセクションでは、AWS SDK for Java 2.x を使用する開発環境とプロジェクトについて説明します。

設定の概要

AWS SDK for Java で AWS のサービス を使用してアクセスするアプリケーションを正常に開発するには、次の条件が必要です。

- Java SDK は、ユーザーに代わってリクエストを認証するための認証情報にアクセスできる必要があります。
- SDK 用に設定された IAM ロールのアクセス許可により、アプリケーションが必要とする AWS のサービス へのアクセスが許可されている必要があります。PowerUserAccess AWS 管理ポリシーに関連するアクセス許可は、ほとんどの開発ニーズに十分対応できます。
- 以下の要素を備えた開発環境:
  - 共有設定ファイルは、次のいずれかの方法で設定できます。
    - `config` ファイルには、SDK が AWS 認証情報を取得できるようにするための IAM Identity Center シングルサインオン設定が含まれています。
    - `credentials` ファイルには一時的な認証情報が含まれています。
  - Java 8 以降のインストール。
  - Maven や Gradle などの構築オートメーションツール。
  - コードを使用するテキストエディター。
  - (オプションだが推奨) IntelliJ IDEA、Eclipse、NetBeans などの IDE (統合開発環境)。

IntelliJ IDEA を使用する場合は、IDE に AWS のサービス を直接統合する AWS Toolkit for IntelliJ IDEA を追加して、開発を合理化することもできます。

- アプリケーションを実行する準備ができたときの、AWS アクティブアクセスポータルセッションです。AWS Command Line Interface を使用して IAM Identity Center の AWS アクセスポータルへのサインインプロセスを開始します。

> **Important**
>
> このセットアップセクションの手順は、ユーザーまたは組織が IAM Identity Center を使用していることを前提としています。組織が IAM アイデンティティセンターとは独立して機能する外部 ID プロバイダーを使用している場合は、SDK for Java で使用するための一時的な認証情報を取得する方法をご確認ください。以下の手順に従って、`~/.aws/credentials` ファイルに一時的な認証情報を追加します。
> ID プロバイダーが一時的な認証情報を `~/.aws/credentials` ファイルに自動的に追加する場合は、SDK または AWS CLI にプロファイル名を指定する必要がないように、プロファイル名が `[default]` であることを確認してください。

Java とビルドツールをインストールして を操作する AWS SDK for Java 2.x

SDK for Java 2.x を使用するには、以下の Java 開発環境要件が必要です。

- Java 8 以降。は、Oracle Java SE Development Kit と、、Red Hat OpenJDKAmazon Corretto、Adoptium などの Open Java Development Kit (OpenJDK) のディストリビューションで AWS SDK for Java 動作します。 OpenJDK
- Apache Maven、Apache Ant と Ivy、Gradle、IntelliJ などの Maven 互換のビルドツール。
  - Maven をインストールして使用する方法については、https://maven.apache.org/ を参照してください。
  - Apache Ivy をインストールして使用する方法については、https://ant.apache.org/ivy/ を参照してください。
  - Gradle をインストールして使用する方法については、https://gradle.org/ を参照してください。

- IntelliJ IDEA をインストールして使用する方法については、https://www.jetbrains.com/idea/ を参照してください。

を使用する Apache Maven プロジェクトを設定する AWS SDK for Java 2.x

Apache Maven を使用して、 AWS SDK for Java 2.x プロジェクトの設定および構築、SDK 自体の構築を行うことができます。

前提条件

Maven で SDK for Java 2.x を使用するには、次が必要です。

- Java 8.0 以降。最新の Java SE Development Kit ソフトウェアは http://www.oracle.com/technetwork/java/javase/downloads/ からダウンロードできます。SDK for Java 2.x は Amazon Corretto、OpenJDK および Open Java Development Kit (OpenJDK) のディストリビューションとも連携します。最新の OpenJDK バージョンは https://openjdk.java.net/install/index.html からダウンロードしてください。ページから最新の Amazon Corretto 8 または Amazon Corretto 11 バージョンをダウンロードします。 Corretto
- Apache Maven。Maven をインストールする必要がある場合は、http://maven.apache.org/ にアクセスしてダウンロードおよびインストールします。

Maven プロジェクトを作成する

コマンドラインから Maven プロジェクトを作成するには、ターミナルまたはコマンドプロンプトウィンドウ で、次のコマンドを実行します。

```
mvn -B archetype:generate \
 -DarchetypeGroupId=software.amazon.awssdk \
 -DarchetypeArtifactId=archetype-lambda -Dservice=s3 -Dregion=US_WEST_2 \
 -DarchetypeVersion=2.X.X \
 -DgroupId=com.example.myapp \
 -DartifactId=myapp
```

> **Note**
>
> com.example.myapp をアプリケーションの完全パッケージ名前空間に置き換えます。また、myapp をプロジェクト名に置き換えます。これがプロジェクトのディレクトリの名前になります。

> アーキタイプの最新バージョンを使用するには、*2.X.X* を Maven 中央の最新バージョンに置き換えてください。

このコマンドにより、アーキタイプテンプレートツールキットを使用して Maven プロジェクトが作成されます。アーキタイプは、 AWS Lambda 関数ハンドラープロジェクト のスキャフォールドを生成します。このプロジェクトのアーキタイプは、Java SE 8 でコンパイルするように事前設定されており、`-DarchetypeVersion` で指定された Java 2.x 用 SDK のバージョンへの依存関係が含まれています。

Maven プロジェクトの作成と設定の詳細については、「Maven 入門ガイド」を参照してください。

Maven 用の Java コンパイラを設定する

前述のようにプロジェクトアーキタイプを使用して AWS Lambda プロジェクトを作成した場合、Java コンパイラの設定はすでに完了しています。

この設定が存在することを確認するには、まず、前のコマンドを実行したときに作成したプロジェクトフォルダ (myapp など) から `pom.xml` ファイルを開きます。11 行目と 12 行目を見て、この Maven プロジェクトの Java コンパイラのバージョン設定を確認します。また、71 ~ 75 行目を見て、必要な Maven コンパイラプラグインが含まれていることを確認します。

```
<project>
  <properties>
    <maven.compiler.source>1.8</maven.compiler.source>
    <maven.compiler.target>1.8</maven.compiler.target>
  </properties>
  <build>
    <plugins>
      <plugin>
        <groupId>org.apache.maven.plugins</groupId>
        <artifactId>maven-compiler-plugin</artifactId>
        <version>${maven.compiler.plugin.version}</version>
      </plugin>
    </plugins>
  </build>
</project>
```

別のアーキタイプで、または別の方法を使用してプロジェクトを作成する場合は、Maven コンパイラプラグインがビルドの一部となっており、そのソースプロパティとターゲットプロパティの両方が `pom.xml` ファイルで 1.8 に設定されているようにする必要があります。

これらの必須の設定を指定する 1 つの方法として、前述のスニペットを参照してください。

または、次のように、プラグイン宣言を使用してインラインでコンパイラ設定を指定することもできます。

```
<project>
  <build>
    <plugins>
      <plugin>
        <groupId>org.apache.maven.plugins</groupId>
        <artifactId>maven-compiler-plugin</artifactId>
        <configuration>
          <source>1.8</source>
          <target>1.8</target>
        </configuration>
      </plugin>
    </plugins>
  </build>
</project>
```

SDK を依存関係として宣言する

プロジェクト AWS SDK for Java で を使用するには、プロジェクトの pom.xml ファイルで依存関係として宣言する必要があります。

前述のようにプロジェクトアーキタイプを使用してプロジェクトを作成した場合、SDK の最新バージョンはすでにプロジェクトの依存関係として設定されています。

アーキタイプによって software.amazon.awssdk グループ ID の BOM (部品表) アーティファクト依存関係が生成されます。BOM を使用すると、同じグループ ID を共有する個々のアーティファクトの依存関係に Maven バージョンを指定する必要がありません。

別の方法で Maven プロジェクトを作成した場合は、pom.xml ファイルに次の内容が含まれていることを確認して、プロジェクトの最新バージョンの SDK を設定します。

```
<project>
  <properties>
    <aws.java.sdk.version>2.X.X</aws.java.sdk.version>
  </properties>
  <dependencyManagement>
    <dependencies>
```

```
      <dependency>
        <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
        <artifactId>bom</artifactId>
        <version>${aws.java.sdk.version}</version>
        <type>pom</type>
        <scope>import</scope>
      </dependency>
    </dependencies>
  </dependencyManagement>
</project>
```

> **Note**
>
> pom.xml ファイル内の *2.X.X* を最新バージョンの AWS SDK for Java 2.x に置き換えます。

SDK モジュールの依存関係を設定する

SDK を設定したら、プロジェクトで使用する 1 つ以上の AWS SDK for Java モジュールの依存関係を追加できます。

各コンポーネントのバージョン番号を指定できますが、部品表アーティファクトを使用する dependencyManagement セクションで SDK バージョンをすでに宣言しているため、その必要はありません。特定のモジュールの異なるバージョンをロードするには、その依存関係のバージョン番号を指定します。

前述のように、プロジェクトのアーキタイプを使用してプロジェクトを作成した場合、プロジェクトはすでに複数の依存関係で設定されています。これらには、次のような AWS Lambda 関数ハンドラーと Amazon S3 の依存関係が含まれます。

```
<project>
    <dependencies>
        <dependency>
            <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
            <artifactId>s3</artifactId>
            <exclusions>
                <exclusion>
                    <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
                    <artifactId>netty-nio-client</artifactId>
                </exclusion>
```

```
                <exclusion>
                    <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
                    <artifactId>apache-client</artifactId>
                </exclusion>
            </exclusions>
        </dependency>

        <dependency>
            <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
            <artifactId>url-connection-client</artifactId>
        </dependency>

        <dependency>
            <groupId>com.amazonaws</groupId>
            <artifactId>aws-lambda-java-core</artifactId>
            <version>${aws.lambda.java.version}</version>
        </dependency>
    </dependencies>
</project>
```

Note

上の pom.xml 例では、依存関係は異なる groupId からのものです。s3 依存関係は software.amazon.awssdk からのもので、aws-lambda-java-core 依存関係は com.amazonaws からのものです。BOM 依存関係管理設定は software.amazon.awssdk のアーティファクトに影響するため、aws-lambda-java-core アーティファクトにはバージョンが必要です。
Java 2.x 用の SDK を使用して Lambda 関数ハンドラーを開発する場合は、aws-lambda-java-core が正しい依存関係です。ただし listFunctions、deleteFunction、invokeFunction および createFunction などのオペレーションを使用して Lambda リソースを管理する必要があるアプリケーションには、次の依存関係が必要です。

```
<groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
<artifactId>lambda</artifactId>
```

> **Note**
>
> s3 依存関係には、netty-nio-client および apache-client 推移的な依存関係は含まれません。アーキタイプには、これらの HTTP クライアントの代わりに url-connection-client 依存関係が含まれるため、AWS Lambda 関数の起動レイテンシーを短縮できます。

プロジェクトに必要な AWS のサービス および 機能のモジュールをプロジェクトに追加します。AWS SDK for Java BOM によって管理されるモジュール (依存関係) は Maven の中央リポジトリに一覧表示されます。

> **Note**
>
> コード例から pom.xml ファイルを参照して、プロジェクトに必要な依存関係を特定できます。たとえば、DynamoDB サービスの依存関係に関心がある場合は、GitHub の「AWS Code Examples Repository」にある「This example」を参照してください。(/javav2/example_code/dynamodb にある pom.xml ファイルを確認してください。)

SDK 全体のプロジェクトへのビルド

アプリケーションを最適化するため、SDK 全体ではなく必要なコンポーネントのみインポートすることを強くお勧めします。ただし、 全体をプロジェクト AWS SDK for Java に構築するには、次のように pom.xml ファイルで宣言します。

```
<project>
  <dependencies>
    <dependency>
      <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
      <artifactId>aws-sdk-java</artifactId>
      <version>2.X.X</version>
    </dependency>
  </dependencies>
</project>
```

プロジェクトを構築する

pom.xml ファイルを設定したら、Maven を使用してプロジェクトをビルドできます。

コマンドラインから Maven プロジェクトを構築するには、ターミナルウィンドウまたはコマンドプロンプトウィンドウを開き、プロジェクトディレクトリ (myapp など) に移動し、次のコマンドを入力するか、貼り付けて Enter キーまたは Return キーを押します。

```
mvn package
```

これにより、target ディレクトリに 1 つの .jar ファイル (JAR) が作成されます (例: myapp/target)。この JAR には、pom.xml ファイルの依存関係として指定したすべての SDK モジュールが含まれています。

を使用する Gradle プロジェクトを設定する AWS SDK for Java 2.x

Gradle を使用して、 AWS SDK for Java 2.x プロジェクトを設定および構築できます。

次の例での最初のステップは、「Gradle's Getting Started guide」バージョン 8.4 用からのものです。別のバージョンを使用すると、結果が多少異なる場合があります。

Gradle で Java アプリケーションを作成する方法 (コマンドライン)

1. プロジェクトを格納するディレクトリを作成します。この例では、demo がディレクトリ名です。
2. demo ディレクトリ内で gradle init コマンドを実行し、次のコマンドライン出力に示すように、赤で強調表示されている値を指定します。ここでは、ビルドスクリプト DSL 言語として「Kotlin」を選択しますが、このトピックの最後には「Groovy」の完全な例も示されています。

```
> gradle init
Starting a Gradle Daemon (subsequent builds will be faster)

Select type of project to generate:
1: basic
2: application
3: library
4: Gradle plugin
Enter selection (default: basic) [1..4] 2

Select implementation language:
1: C++
2: Groovy
3: Java
4: Kotlin
5: Scala
```

```
6: Swift
Enter selection (default: Java) [1..6] 3

Generate multiple subprojects for application? (default: no) [yes, no] no
Select build script DSL:
1: Kotlin
2: Groovy
Enter selection (default: Kotlin) [1..2] <Enter>

Select test framework:
1: JUnit 4
2: TestNG
3: Spock
4: JUnit Jupiter
Enter selection (default: JUnit Jupiter) [1..4] 4

Project name (default: demo): <Enter>
Source package (default: demo): <Enter>
Enter target version of Java (min. 7) (default: 11): <Enter>
Generate build using new APIs and behavior (some features may change in the next
 minor release)? (default: no) [yes, no] <Enter>

> Task :init
To learn more about Gradle by exploring our Samples at https://docs.gradle.org/8.4/
samples/sample_building_java_applications.html

BUILD SUCCESSFUL in 3m 43s
2 actionable tasks: 2 executed
```

3. init タスクが完了すると、demo ディレクトリには次のツリー構造を含みます。次のセクションでは、メインのビルドファイル、build.gradle.kts (赤でハイライト) を詳しく見ていきます。

```
### app
#   ### build.gradle.kts
#   ### src
#       ### main
#       #   ### java
#       #   #   ### demo
#       #   #       ### App.java
#       #   ### resources
#       ### test
#           ### java
```

```
#           #   ### demo
#           #       ### AppTest.java
#           ### resources
### gradle
#   ### wrapper
#       ### gradle-wrapper.jar
#       ### gradle-wrapper.properties
### gradlew
### gradlew.bat
### settings.gradle.kts
```

build.gradle.kts ファイルには次の雛形となるコンテンツが含まれます。

```
/*
 * This file was generated by the Gradle 'init' task.
 *
 * This generated file contains a sample Java application project to get you
 started.
 * For more details on building Java & JVM projects, please refer to https://
docs.gradle.org/8.4/userguide/building_java_projects.html in the Gradle
 documentation.
 */

plugins {
    // Apply the application plugin to add support for building a CLI application
 in Java.
    application
}

repositories {
    // Use Maven Central for resolving dependencies.
    mavenCentral()
}

dependencies {
    // Use JUnit Jupiter for testing.
    testImplementation("org.junit.jupiter:junit-jupiter:5.9.3")

    testRuntimeOnly("org.junit.platform:junit-platform-launcher")

    // This dependency is used by the application.
    implementation("com.google.guava:guava:33.3.0-jre")
}
```

```
// Apply a specific Java toolchain to ease working on different environments.
java {
    toolchain {
        languageVersion.set(JavaLanguageVersion.of(11))
    }
}

application {
    // Define the main class for the application.
    mainClass.set("demo.App")
}

tasks.named<Test>("test") {
    // Use JUnit Platform for unit tests.
    useJUnitPlatform()
}
```

4. スキャフォールドされた Gradle ビルドファイルを AWS プロジェクトの基礎として使用します。

   a. Gradle プロジェクトの SDK 依存関係を管理するには、 の Maven 部品表 (BOM) AWS SDK for Java 2.x を `build.gradle.kts`ファイルの `dependencies`セクションに追加します。

   ```
   ...
   dependencies {
       implementation(platform("software.amazon.awssdk:bom:2.27.21"))
       // With the bom declared, you specify individual SDK dependencies without a
    version.
    ...
   }
   ...
   ```

   > **Note**
   >
   > この例では、 2.27.21を SDK for Java 2.x の最新バージョンに置き換えます。Maven 中央リポジトリで入手可能な最新バージョンを確認してください。

   b. アプリケーションが必要とする SDK モジュールを `dependencies` セクションで指定してください。例として、以下では Amazon Simple Storage Service への依存関係を追加します。

```
...
dependencies {
    implementation(platform("software.amazon.awssdk:bom:2.27.21"))
    implementation("software.amazon.awssdk:s3")
 ...
}
...
```

Gradle は BOM の情報を使用して、正しいバージョンの宣言された依存関係を自動的に解決します。

以下の例は、Kotlin と Groovy DSL の両方における完全な Gradle ビルドファイルを示しています。ビルドファイルには、Amazon S3、認証、ログ記録、テストの依存関係が含まれています。Java のソースおよびターゲットバージョンはバージョン 11 です。

Kotlin DSL (build.gradle.kts)

```
/*
 * This file was generated by the Gradle 'init' task.
 *
 * This generated file contains a sample Java application project to get you
 started.
 * For more details on building Java & JVM projects, please refer to https://
docs.gradle.org/8.4/userguide/building_java_projects.html in the Gradle
 documentation.
 */

plugins {
    // Apply the application plugin to add support for building a CLI application in
 Java.
    application
}

repositories {
    // Use Maven Central for resolving dependencies.
    mavenCentral()
}

dependencies {
    implementation(platform("software.amazon.awssdk:bom:2.20.56"))
    implementation("software.amazon.awssdk:s3")
```

```
    implementation("software.amazon.awssdk:sso")
    implementation("software.amazon.awssdk:ssooidc")
    implementation(platform("org.apache.logging.log4j:log4j-bom:2.20.0"))
    implementation("org.apache.logging.log4j:log4j-slf4j2-impl")
    implementation("org.apache.logging.log4j:log4j-1.2-api")
    testImplementation(platform("org.junit:junit-bom:5.10.0"))
    testImplementation("org.junit.jupiter:junit-jupiter")
}

// Apply a specific Java toolchain to ease working on different environments.
java {
    toolchain {
        languageVersion.set(JavaLanguageVersion.of(11))
    }
}

application {
    // Define the main class for the application.
    mainClass.set("demo.App")
}

tasks.named<Test>("test") {
    // Use JUnit Platform for unit tests.
    useJUnitPlatform()
}
```

Groovy DSL (build.gradle)

```
/*
 * This file was generated by the Gradle 'init' task.
 *
 * This generated file contains a sample Java application project to get you
 started.
 * For more details on building Java & JVM projects, please refer to https://
docs.gradle.org/8.4/userguide/building_java_projects.html in the Gradle
 documentation.
 */

plugins {
    // Apply the application plugin to add support for building a CLI application in
 Java.
    id 'application'
}
```

```
repositories {
    // Use Maven Central for resolving dependencies.
    mavenCentral()
}

dependencies {
    implementation platform('software.amazon.awssdk:bom:2.27.21')
    implementation 'software.amazon.awssdk:s3'
    implementation 'software.amazon.awssdk:sso'
    implementation 'software.amazon.awssdk:ssooidc'
    implementation platform('org.apache.logging.log4j:log4j-bom:2.20.0')
    implementation 'org.apache.logging.log4j:log4j-slf4j2-impl'
    implementation 'org.apache.logging.log4j:log4j-1.2-api'
    testImplementation platform('org.junit:junit-bom:5.10.0')
    testImplementation 'org.junit.jupiter:junit-jupiter'
}

// Apply a specific Java toolchain to ease working on different environments.
java {
    toolchain {
        languageVersion = JavaLanguageVersion.of(11)
    }
}

application {
    // Define the main class for the application.
    mainClass = 'demo_groovy.App'
}

tasks.named('test') {
    // Use JUnit Platform for unit tests.
    useJUnitPlatform()
}
```

次のステップについては、Gradle ウェブサイトの「入門ガイド」で、Gradle アプリケーションをビルドして実行する方法を確認してください。

を使用する GraalVM ネイティブイメージプロジェクトを設定する AWS SDK for Java 2.x

バージョン 2.16.1 以降では、 AWS SDK for Java 2.x は GraalVM ネイティブイメージアプリケーションのout-of-the-boxサポートを提供します。`archetype-app-quickstart` Maven アーキタイプを使用して、ネイティブイメージサポートが組み込まれたプロジェクトを設定します。

前提条件

- AWS SDK for Java 「2.x のセットアップ」のステップを完了します。
- GraalVM Native Image をインストールします。

アーキタイプを使用してプロジェクトを作成する

ネイティブイメージサポートが組み込まれた Maven プロジェクトを作成するには、ターミナルまたはコマンドプロンプトウィンドウで、次のコマンドを使用します。

> **Note**
>
> アプリケーションのフルパッケージ名前空間を `com.example.mynativeimageapp` に置き換えます。また、`mynativeimageapp` をプロジェクト名に置き換えます。これがプロジェクトのディレクトリの名前になります。

```
mvn archetype:generate \
    -DarchetypeGroupId=software.amazon.awssdk \
    -DarchetypeArtifactId=archetype-app-quickstart \
    -DarchetypeVersion=2.27.21\
    -DnativeImage=true \
    -DhttpClient=apache-client \
    -Dservice=s3 \
    -DgroupId=com.example.mynativeimageapp \
    -DartifactId=mynativeimageapp \
    -DinteractiveMode=false
```

このコマンドは、 AWS SDK for Java、 Amazon S3、および HTTP クライアントの依存関係で設定された Maven `ApacheHttpClient` プロジェクトを作成します。また、GraalVM Native Image

Maven プラグインへの依存関係も含まれているため、Maven を使用してネイティブイメージを構築できます。

別の の依存関係を含めるには Amazon Web Services、 `-Dservice`パラメータの値をそのサービスのアーティファクト ID に設定します。例には、dynamodb、comprehend、pinpoint が含まれます。アーティファクト ID の詳細なリストについては、Maven Central の software.amazon.awssdk のマネージド依存関係のリストを参照してください。

非同期 HTTP クライアントを使用するには、`-DhttpClient` パラメータを `netty-nio-client` に設定します。同期 HTTP クライアントとして `apache-client` の代わりに `UrlConnectionHttpClient` を使用するには、`-DhttpClient` パラメータを `url-connection-client` に設定します。

ネイティブイメージを構築する

プロジェクトを作成したら、プロジェクトディレクトリから次のコマンドを実行します (例: `mynativeimageapp`:)。

```
mvn package -P native-image
```

これにより、`target` ディレクトリにネイティブイメージアプリケーションが作成されます (例: `target/mynativeimageapp`)。

AWS を使用した での認証 AWS SDK for Java 2.x

AWS サービスの開発 AWS 時に が で AWS SDK for Java 2.x 認証する方法を確立する必要があります。SDK は、認証情報の検出、署名の作成、認証情報の更新を完全にバックグラウンドで管理するため、ユーザーはアプリケーションロジックに集中できます。

認証の設定

AWS SDKsおよびツールリファレンスガイド」の「認証とアクセス」トピックでは、さまざまな認証アプローチについて説明します。

ローカル開発では、コンソールのログイン認証情報を使用して AWS CLI にログインし、短期認証情報を使用することをお勧めします。 AWS アカウントアクセスにルート、IAM ユーザー、または IAM とのフェデレーションを使用する場合に推奨されます。を使用してインタラクティブ開発作業の認証情報にアクセスする AWS SDK for Java 2.x の指示に従います。

AWS SDKs およびツールリファレンスガイドの手順に従って、SDK がリクエストに署名できるようにシステムを設定する必要があります。

1. 短期認証情報を使用したローカル開発

ローカル開発では、コンソールのログイン認証情報を使用して AWS CLI にログインし、短期認証情報を使用することをお勧めします。 AWS アカウントアクセスにルート、IAM ユーザー、または IAM とのフェデレーションを使用する場合に推奨されます。

手順については、 の「認証情報プロバイダーの使用 AWS SDK for Java 2.x」を参照してください。

2. SDK のシングルサインオンアクセスの設定

SDK が IAM Identity Center 認証を使用するように「プログラムによるアクセス」セクションのステップ 2 を完了したら、システムに次の要素が含まれているはずです。

- アプリケーションを実行する前に AWS アクセスポータルセッションを開始 AWS CLIするために使用する 。
- デフォルトプロファイルを含む ~/.aws/config ファイル。SDK for Java は、リクエストを AWSに送信する前に、プロファイルの SSO トークンプロバイダー設定を使用して認証情報を取得します。IAM Identity Center 許可セットに接続された IAM ロールである sso_role_name 値により、アプリケーションで使用されている AWS のサービス にアクセスできます。

  次のサンプル config ファイルは、SSO トークンプロバイダー設定で設定されたデフォルトプロファイルを示しています。プロファイルの sso_session 設定は、指定された sso-session セクションを参照します。sso-session セクションには、 AWS アクセスポータルセッションを開始するための設定が含まれています。

```
[default]
sso_session = my-sso
sso_account_id = 111122223333
sso_role_name = SampleRole
region = us-east-1
output = json

[sso-session my-sso]
sso_region = us-east-1
sso_start_url = https://provided-domain.awsapps.com/start
sso_registration_scopes = sso:account:access
```

SSO トークンプロバイダー設定で使用される設定の詳細については、「 AWS SDKs and Tools リファレンスガイド」の「SSO token provider configuration」を参照してください。

開発環境が前述のようにプログラムによるアクセス用に設定されていない場合は、SDK リファレンスガイドのステップ 2 に従ってください。

3. を使用してサインインする AWS CLI

にアクセスするアプリケーションを実行する前に AWS のサービス、SDK が IAM Identity Center 認証を使用して認証情報を解決するには、アクティブな AWS アクセスポータルセッションが必要です。で次のコマンドを実行して AWS CLI 、 AWS アクセスポータルにサインインします。

```
aws sso login
```

デフォルトのプロファイルを設定している場合は、`--profile` オプションを指定してコマンドを呼び出す必要はありません。SSO トークンプロバイダー設定で名前付きプロファイルを使用している場合、コマンドは `aws sso login --profile named-profile` です。

既にアクティブなセッションがあるかどうかをテストするには、次の AWS CLI コマンドを実行します。

```
aws sts get-caller-identity
```

このコマンドへの応答により、共有 `config` ファイルに設定されている IAM Identity Center アカウントとアクセス許可のセットが報告されます。

> **Note**
>
> 既にアクティブな AWS アクセスポータルセッションがあり、 を実行している場合は`aws sso login`、認証情報を指定する必要はありません。
> ただし、`botocore` に情報へのアクセス許可を求めるダイアログが表示されます。`botocore` は AWS CLI の基盤です。
> AWS CLI および SDK for Java の情報へのアクセスを許可する を選択します。

追加認証オプション

プロファイルや環境変数の使用など、SDK の認証に関するその他のオプションについては、 AWS SDKsおよびツールリファレンスガイドの設定の章を参照してください。

を使用したシンプルなアプリケーションの作成 AWS SDK for Java 2.x

このチュートリアルでは、Apache Maven を使用して SDK for Java 2.x の依存関係を定義し、Amazon S3 に接続してファイルをアップロードするコードを記述する方法を説明します。

このチュートリアルを完了するには、次の手順に従ってください。

- ステップ 1: このチュートリアルのために設定する
- ステップ 2: プロジェクトを作成する
- ステップ 3: コードを記述する
- ステップ 4: アプリケーションを構築して実行する

ステップ 1: このチュートリアルのために設定する

このチュートリアルを開始する前に、以下を実行する必要があります

- アクセス許可 Amazon S3
- へのシングルサインオン AWS のサービス を使用して にアクセスするように設定された Java 開発環境 AWS IAM アイデンティティセンター

??? の手順に従って、このチュートリアルの設定を行ってください。Java SDK のシングルサインオンアクセスを使用して開発環境を設定し、アクティブな AWS アクセスポータルセッションを作成したら、このチュートリアルのステップ 2 に進みます。

ステップ 2: プロジェクトを作成する

このチュートリアル用のプロジェクトを作成するには、プロジェクトの設定方法に関する入力を求める Maven コマンドを実行します。すべての入力と確認が完了すると、Maven は `pom.xml` を作成してプロジェクトの構築を終了し、スタブ Java ファイルを作成します。

1. ターミナルまたはコマンドプロンプトウィンドウを開き、`Desktop` や `Home` フォルダなど、任意のディレクトリに移動します。
2. ターミナルに以下のコマンドを入力して、`Enter` を押します。

```
mvn archetype:generate \
```

```
  -DarchetypeGroupId=software.amazon.awssdk \
  -DarchetypeArtifactId=archetype-app-quickstart \
  -DarchetypeVersion=2.27.21
```

3. 各プロンプトの 2 列目にリストされている値を入力します。

Prompt	入力する値
`Define value for property 'service':`	`s3`
`Define value for property 'httpClient' :`	`apache-client`
`Define value for property 'nativeImage' :`	`false`
`Define value for property 'credentialProvider'`	`identity-center`
`Define value for property 'groupId':`	`org.example`
`Define value for property 'artifactId':`	`getstarted`
`Define value for property 'version' 1.0-SNAPSHOT:`	*<Enter>*
`Define value for property 'package' org.example:`	*<Enter>*

4. 最後の値を入力すると、Maven は選択した内容を一覧表示します。*Y* を入力して確認するか、*N* を入力して値を再入力します。

Maven は、入力した `getstarted` 値に基づいて `artifactId` という名前が付けられたプロジェクトフォルダーを作成します。`getstarted` フォルダー内で、レビューできる `README.md` ファイル、`pom.xml` ファイル、および `src` ディレクトリを検索します。

Maven は以下のディレクトリーツリーを構築します。

```
getstarted
### README.md
### pom.xml
### src
    ### main
    #   ### java
    #   #   ### org
    #   #       ### example
    #   #           ### App.java
    #   #           ### DependencyFactory.java
    #   #           ### Handler.java
    #   ### resources
    #       ### simplelogger.properties
    ### test
        ### java
            ### org
                ### example
                    ### HandlerTest.java

10 directories, 7 files
```

以下は、pom.xml プロジェクトファイルの内容を示しています。

pom.xml

dependencyManagement セクションには AWS SDK for Java 2.x に対する依存関係が含まれており、dependencies セクションには Amazon S3 に対する依存関係があります。プロジェクトでは Java 1.8 が使用されています。これは、maven.compiler.source、maven.compiler.target およびプロパティに 1.8 値があるためです。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<project xmlns="http://maven.apache.org/POM/4.0.0" xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema-instance" xsi:schemaLocation="http://maven.apache.org/POM/4.0.0 http://
maven.apache.org/xsd/maven-4.0.0.xsd">
    <modelVersion>4.0.0</modelVersion>

    <groupId>org.example</groupId>
    <artifactId>getstarted</artifactId>
    <version>1.0-SNAPSHOT</version>
    <packaging>jar</packaging>
    <properties>
        <project.build.sourceEncoding>UTF-8</project.build.sourceEncoding>
```

```
        <maven.compiler.source>1.8</maven.compiler.source>
        <maven.compiler.target>1.8</maven.compiler.target>
        <maven.shade.plugin.version>3.2.1</maven.shade.plugin.version>
        <maven.compiler.plugin.version>3.6.1</maven.compiler.plugin.version>
        <exec-maven-plugin.version>1.6.0</exec-maven-plugin.version>
        <aws.java.sdk.version>2.27.21</aws.java.sdk.version> <-------- SDK version
picked up from archetype version.
        <slf4j.version>1.7.28</slf4j.version>
        <junit5.version>5.8.1</junit5.version>
    </properties>

    <dependencyManagement>
        <dependencies>
            <dependency>
                <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
                <artifactId>bom</artifactId>
                <version>${aws.java.sdk.version}</version>
                <type>pom</type>
                <scope>import</scope>
            </dependency>
        </dependencies>
    </dependencyManagement>

    <dependencies>
        <dependency>
            <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
            <artifactId>s3</artifactId>  <-------- S3 dependency
            <exclusions>
                <exclusion>
                    <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
                    <artifactId>netty-nio-client</artifactId>
                </exclusion>
                <exclusion>
                    <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
                    <artifactId>apache-client</artifactId>
                </exclusion>
            </exclusions>
        </dependency>

        <dependency>
            <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
            <artifactId>sso</artifactId> <-------- Required for identity center
authentication.
        </dependency>
```

```
        <dependency>
            <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
            <artifactId>ssooidc</artifactId> <-------- Required for identity center
authentication.
        </dependency>

        <dependency>
            <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
            <artifactId>apache-client</artifactId> <-------- HTTP client specified.
            <exclusions>
                <exclusion>
                    <groupId>commons-logging</groupId>
                    <artifactId>commons-logging</artifactId>
                </exclusion>
            </exclusions>
        </dependency>

        <dependency>
            <groupId>org.slf4j</groupId>
            <artifactId>slf4j-api</artifactId>
            <version>${slf4j.version}</version>
        </dependency>

        <dependency>
            <groupId>org.slf4j</groupId>
            <artifactId>slf4j-simple</artifactId>
            <version>${slf4j.version}</version>
        </dependency>

        <!-- Needed to adapt Apache Commons Logging used by Apache HTTP Client to Slf4j
to avoid
        ClassNotFoundException: org.apache.commons.logging.impl.LogFactoryImpl during
runtime -->
        <dependency>
            <groupId>org.slf4j</groupId>
            <artifactId>jcl-over-slf4j</artifactId>
            <version>${slf4j.version}</version>
        </dependency>

        <!-- Test Dependencies -->
        <dependency>
            <groupId>org.junit.jupiter</groupId>
            <artifactId>junit-jupiter</artifactId>
```

```
            <version>${junit5.version}</version>
            <scope>test</scope>
        </dependency>
    </dependencies>

    <build>
        <plugins>
            <plugin>
                <groupId>org.apache.maven.plugins</groupId>
                <artifactId>maven-compiler-plugin</artifactId>
                <version>${maven.compiler.plugin.version}</version>
            </plugin>
        </plugins>
    </build>

</project>
```

ステップ 3: コードを記述する

次のコードは Maven によって作成された App クラスを示しています。main メソッドはアプリケーションへのエントリポイントであり、Handler クラスのインスタンスを作成してその sendRequest メソッドを呼び出します。

App クラス

```
package org.example;
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;

public class App {
    private static final Logger logger = LoggerFactory.getLogger(App.class);

    public static void main(String... args) {
        logger.info("Application starts");

        Handler handler = new Handler();
        handler.sendRequest();

        logger.info("Application ends");
    }
}
```

Maven が作成する DependencyFactory クラスには、S3Client インスタンスを構築して返す s3Client ファクトリメソッドが含まれています。S3Client インスタンスは Apache ベースの HTTP クライアントのインスタンスを使用します。これは、どの HTTP クライアントを使用するかを Maven が求めたときに apache-client が指定されたためです。

DependencyFactory は次のコードに示されています。

DependencyFactory クラス

```
package org.example;

import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;

/**
 * The module containing all dependencies required by the {@link Handler}.
 */
public class DependencyFactory {

    private DependencyFactory() {}

    /**
     * @return an instance of S3Client
     */
    public static S3Client s3Client() {
        return S3Client.builder()
                       .httpClientBuilder(ApacheHttpClient.builder())
                       .build();
    }
}
```

Handler クラスにはプログラムのメインロジックが含まれています。Handler のインスタンスが App クラス内で作成されると、DependencyFactory は S3Client サービスクライアントを配置します。コードは、S3Client インスタンスを使用して Amazon S3 サービスを呼び出します。

Maven は *TODO* コメント付きの次の Handler クラスを生成します。チュートリアルの次のステップでは、*TODO* をコードに置き換えます。

Maven によって生成された **Handler** クラス

```
package org.example;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;


public class Handler {
    private final S3Client s3Client;

    public Handler() {
        s3Client = DependencyFactory.s3Client();
    }

    public void sendRequest() {
        // TODO: invoking the api calls using s3Client.
    }
}
```

ロジックを設定するには、Handler クラスのすべてのコンテンツを次のコードに置き換えます。sendRequest メソッドが入力され、必要なインポートが追加されます。

Handler クラス、実装済み

このコードはまず、バケット名を一意にするために、System.currentTimeMillis() を使用して生成された名前の最後の部分を使用して新しい S3 バケットを作成します。

createBucket() メソッドでバケットを作成すると、プログラムは S3Client の putObject メソッドを使用してオブジェクトをアップロードします。オブジェクトの内容は、RequestBody.fromString メソッドで作成された単純な文字列です。

最後に、プログラムは、cleanUp メソッド内のオブジェクトを削除し、その後にバケットを削除します。

```
package org.example;

import software.amazon.awssdk.core.sync.RequestBody;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CreateBucketRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.DeleteBucketRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.DeleteObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.HeadBucketRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.PutObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;


public class Handler {
```

```
    private final S3Client s3Client;

    public Handler() {
        s3Client = DependencyFactory.s3Client();
    }

    public void sendRequest() {
        String bucket = "bucket" + System.currentTimeMillis();
        String key = "key";

        createBucket(s3Client, bucket);

        System.out.println("Uploading object...");

        s3Client.putObject(PutObjectRequest.builder().bucket(bucket).key(key)
                        .build(),
                RequestBody.fromString("Testing with the {sdk-java}"));

        System.out.println("Upload complete");
        System.out.printf("%n");

        cleanUp(s3Client, bucket, key);

        System.out.println("Closing the connection to {S3}");
        s3Client.close();
        System.out.println("Connection closed");
        System.out.println("Exiting...");
    }

    public static void createBucket(S3Client s3Client, String bucketName) {
        try {
            s3Client.createBucket(CreateBucketRequest
                    .builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .build());
            System.out.println("Creating bucket: " + bucketName);
            s3Client.waiter().waitUntilBucketExists(HeadBucketRequest.builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .build());
            System.out.println(bucketName + " is ready.");
            System.out.printf("%n");
        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
```

```
        }
    }

    public static void cleanUp(S3Client s3Client, String bucketName, String keyName) {
        System.out.println("Cleaning up...");
        try {
            System.out.println("Deleting object: " + keyName);
            DeleteObjectRequest deleteObjectRequest =
 DeleteObjectRequest.builder().bucket(bucketName).key(keyName).build();
            s3Client.deleteObject(deleteObjectRequest);
            System.out.println(keyName + " has been deleted.");
            System.out.println("Deleting bucket: " + bucketName);
            DeleteBucketRequest deleteBucketRequest =
 DeleteBucketRequest.builder().bucket(bucketName).build();
            s3Client.deleteBucket(deleteBucketRequest);
            System.out.println(bucketName + " has been deleted.");
            System.out.printf("%n");
        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        System.out.println("Cleanup complete");
        System.out.printf("%n");
    }
}
```

ステップ 4: アプリケーションを構築して実行する

プロジェクトが作成され、完全な Handler クラスを含めたら、アプリケーションを構築して実行します。

1. IAM Identity Center セッションがアクティブであることを確認してください。これを行うには、 AWS Command Line Interface コマンドを実行してレスポンス`aws sts get-caller-identity`を確認します。アクティブなセッションがない場合は、このセクションの手順を参照してください。
2. ターミナルまたはコマンドプロンプトウィンドウを開いて、プロジェクトディレクトリ getstarted に移動します。
3. プロジェクトを構築するには、以下のコマンドを使用します。

```
mvn clean package
```

4. 次のコマンドを使用して、アプリケーションを実行します。

```
mvn exec:java -Dexec.mainClass="org.example.App"
```

プログラムが作成した新しいバケットとオブジェクトを表示するには、次のステップを実行します。

1. Handler.java で、sendRequest メソッド内の cleanUp(s3Client, bucket, key) 行をコメントアウトし、ファイルを保存します。
2. mvn clean package を実行してプロジェクトを再構築します。
3. mvn exec:java -Dexec.mainClass="org.example.App" を再実行してテキストオブジェクトをもう一度アップロードします。
4. S3 コンソールにサインインして、新しく作成されたバケット内の新しい対象を表示します。

ファイルを表示した後、オブジェクトを削除し、その後にバケットを削除します。

Success

Maven プロジェクトがエラーなしで構築および実行された場合は、正常に完了しています! Java 2.x 用 SDK を使用して最初の Java アプリケーションを正常に構築しました。

クリーンアップ

このチュートリアルで作成されたリソースをクリーンアップするには、以下を行います。

- まだ行っていない場合は、S3 コンソールで、アプリケーションの実行時に作成されたオブジェクトとバケットをすべて削除します。
- プロジェクトフォルダ (getstarted) を削除します。

次の手順

これで基本を理解したので、次の事項を学習する準備が整いました。

- の使用 Amazon S3
- 、、およびさまざまなデータベースサービスなどAmazon EC2、他の の操作 Amazon Web Services DynamoDB
- SDK を使用する

- AWS SDK for Java のセキュリティ

での サービスクライアントの設定 AWS SDK for Java 2.x

プログラムで にアクセスするために AWS のサービス、SDK for Java 2.x は各 にクライアントオブジェクトを使用します AWS のサービス。たとえば、アプリケーションが Amazon EC2 にアクセスする必要がある場合、アプリケーションはそのサービスとインターフェイスをとる Amazon EC2 クライアントオブジェクト (Ec2Client クラスのオブジェクト) を作成します。次に、サービスクライアントを使用して、その AWS のサービスに対してリクエストを実行します。ほとんどのアプリケーションでは、サービスクライアントのシングルトンインスタンスを使用できます。

SDK の動作を設定する多くの方法がありますが、最終的にはすべてサービスクライアントの動作に関係しています。コードが設定を使用するサービスクライアントを作成するまで、設定は効力を発揮しません。

以下は、指定する設定の例です。

- サービスを呼び出す AWS ときにコードが で認証される方法
- サービスクライアント AWS リージョン で使用する 。
- サービス呼び出しの再試行およびタイムアウト設定
- HTTP プロキシ設定

多くの AWS SDKs共通する設定、機能、その他の基本的な概念については、 SDK およびツールリファレンスガイドを参照してください。 AWS SDKs

トピック

- の AWS SDK for Java 2.x 外部サービスクライアントの設定
- のコードでサービスクライアントを設定する AWS SDK for Java 2.x
- でシングルトンサービスクライアントインスタンスを使用する AWS SDK for Java 2.x
- AWS リージョン の の設定 AWS SDK for Java 2.x
- での認証情報プロバイダーの使用 AWS SDK for Java 2.x
- で再試行動作を設定する AWS SDK for Java 2.x
- AWS SDK for Java 2.x でタイムアウトを設定する
- でのオブザーバビリティ機能の設定 AWS SDK for Java 2.x
- AWS SDK for Java 2.x でのクライアントエンドポイントの設定
- で HTTP クライアントを設定する AWS SDK for Java 2.x

- AWS SDK for Java 2.x で実行インターセプターを使用する

の AWS SDK for Java 2.x 外部サービスクライアントの設定

多くの設定はコードの外部で管理できます。設定を外部で処理する場合、同じ Java プロセス内のすべてのアプリケーションに適用できます。ほとんどの設定は、環境変数、JVM システムプロパティ、または個別の共有 AWS configファイルのいずれかとして設定できます。共有 config ファイルでは「プロファイル」と呼ばれる異なる設定セットを保持して、環境やテストごとに異なる設定を提供できます。

ほとんどの環境変数と共有 config ファイルの設定は標準化されており、 AWS SDK やツール全体で共有されて、異なる言語やアプリ間でも一貫した機能をサポートします。多くの場合、SDK for Java が使用できる JVM システムプロパティは環境変数をミラーリングします。

SDK 設定の詳細については、「AWS SDK とツールのリファレンスガイド」を参照してください。SDK が環境変数、JVM システムプロパティ、設定ファイルから解決できるすべての設定を確認するには、「AWS SDK とツールのリファレンスガイド」の「設定リファレンス」を参照してください。

クライアント設定の設定プロバイダーチェーン

SDK は、複数の場所 (またはソース) を確認して設定値を見つけます。

1. コードまたはサービスクライアント自体に設定されている明示的な設定は、他の設定よりも優先されます。
2. JVM システムプロパティ
   - JVM システムプロパティの設定の詳細については、「AWS SDK およびツールリファレンスガイド」の「JVM システムプロパティの設定方法」を参照してください。
3. 環境変数
   - 環境変数の設定の詳細については、「AWS SDK とツールのリファレンスガイド」の「環境変数」を参照してください。
   - シェルの環境変数は、システム全体、ユーザー全体、特定のターミナルセッションなど、さまざまなスコープレベルで設定できることに注意してください。
4. 共有 config および credentials ファイル
   - これらのファイルの設定については、「AWS SDK とツールのリファレンスガイド」の「共有 config ファイルと credentials ファイル」を参照してください。

5. SDK ソースコード自体によって提供されるデフォルト値は、最後に使用されます。
   - Region などの一部のプロパティにはデフォルトがありません。これらのプロパティは、コード、環境設定、または共有 `config` ファイルのいずれかで明示的に指定する必要があります。SDK が必要な設定を解決できない場合、API リクエストは実行時に失敗する可能性があります。

この一般的な設定チェーンに加えて、SDK for Java 2.x は認証情報プロバイダーチェーンや AWS リージョン プロバイダーチェーンなどの特殊なプロバイダーチェーンも使用します。これらの特殊なチェーンは、SDK が実行されている環境を考慮したプロバイダーを追加します。たとえば、コンテナまたは EC2 インスタンスなどです。

外部設定を使用して設定されたサービスクライアントの作成

AWS のサービスと通信するには、アプリケーションにサービスクライアントを作成する必要があります。サービスクライアントは への重要な接続であり AWS のサービス、複雑な通信の詳細をすべて処理するため、心配する必要はありません。セキュリティ、エラー処理、再試行などの重要なタスクを自動的に処理するため、ユーザーは技術的な複雑さに対処するのではなく、アプリケーションの構築に集中できます。

`create()` メソッドの使用

必要なすべての設定が外部ソースからのものである場合は、シンプルな方法でサービスクライアントを作成できます。

```
S3Client s3Client = S3Client.create();
```

前のコードスニペットにより `S3Client` インスタンスが作成されます。作成時に、SDK は設定を取得するために設定プロバイダチェーンを順に参照します。SDK が設定値を見つけると、チェーンの後方に別の構成が存在していても、その値が使用されます。

たとえば、ユーザーがシステムプロパティ を設定 AWS リージョン して の JVM 設定を設定したとします`-Daws.region=us-west-2`。`AWS_REGION` 環境変数も設定されている場合、その値は無視されます。

デフォルトのリージョンプロバイダーチェーンとデフォルトの認証情報プロバイダーチェーンも、作成プロセスで使用されます。チェーン上のどこかで、SDK は使用する AWS リージョン を解決し、リクエスト署名のための認証情報を取得できるようにする設定を見つける必要があります。SDK がこれらの値を見つけられない場合、クライアントの作成は失敗します。

この空のビルダーパターンを使用してクライアントを作成できますが、通常、このパターンはコードで設定を追加するときに使用します。

SDK for Java 2.x 環境変数と JVM システムプロパティ

AWS SDKs、ほとんどの SDK でサポートされているクロス SDK 設定以外にも、次の設定が用意されています。

> **Note**
>
> これらの環境変数と JVM システムプロパティは、主に高度なユースケース、テスト、または特定のデプロイシナリオを対象としています。ほとんどのアプリケーションコードでは、より高い型の安全性と IDE サポートを得るために、SDK のクライアントビルダーが提供するプログラムによる設定オプションを使用することが推奨されます。

コンテナ認証情報プロバイダーの環境変数

リファレンスガイドに記載されている標準のコンテナ認証情報環境変数に加えて、SDK は以下もサポートしています。

`AWS_CONTAINER_SERVICE_ENDPOINT` – この環境変数は、コンテナ認証情報プロバイダーを使用するときにコンテナメタデータサービスのエンドポイントを指定します。

Java のシステムプロパティ: `aws.containerServiceEndpoint`

デフォルト値: `http://169.254.170.2`

HTTP クライアント実装環境変数

`SYNC_HTTP_SERVICE_IMPL` – SDK が使用するデフォルトの同期 HTTP 実装を明示的に識別します。これは、クラスパス上に複数の実装が存在する場合に便利です。または、実装の検出にはクラスパスのスキャンが必要となるため、パフォーマンス最適化として有効です。

Java のシステムプロパティ: `software.amazon.awssdk.http.service.impl`

`ASYNC_HTTP_SERVICE_IMPL` – SDK が使用するデフォルトの非同期 HTTP 実装を明示的に識別します。これは、クラスパス上に複数の実装が存在する場合に便利です。または、実装の検出にはクラスパスのスキャンが必要となるため、パフォーマンス最適化として有効です。

Java のシステムプロパティ: `software.amazon.awssdk.http.async.service.impl`

のコードでサービスクライアントを設定する AWS SDK for Java 2.x

外部でのサービスクライアントの設定の代わりに、またはその追加として、コードを使用したプログラミングでサービスクライアントを設定できます。

サービスクライアントをコードで設定することで、利用可能な多くのオプションをきめ細かく管理できます。外部で設定できる設定のほとんどは、コードで設定することもできます。

コードでの基本設定

たとえば、次のスニペットでは、Amazon S3 サービスクライアントの AWS リージョン EU_SOUTH_2 をコードで に設定します。

```
S3Client s3Client = S3Client.builder()
        .region(Region.EU_SOUTH_2)
        .build();
```

前のスニペットは、静的ファクトリメソッド builder() を示しています。builder() メソッドは、サービスクライアントをカスタマイズできる builder オブジェクトを返します。fluent セッターは builder オブジェクトを返します (このケースでは S3ClientBuilder インスタンス)。そのため、メソッドの呼び出しを連鎖させて利便性とコードの可読性を向上させることができます。必要なプロパティを設定した後、build() メソッドを呼び出してクライアントを作成します。

コードでの高度な設定

次のスニペットは、追加の設定オプションを示しています。

```
ClientOverrideConfiguration clientOverrideConfiguration =
        ClientOverrideConfiguration.builder()
                .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(1))
                .addMetricPublisher(CloudWatchMetricPublisher.create())
                .build();

S3Client s3Client = S3Client.builder()
        .region(Region.EU_SOUTH_2)
        .credentialsProvider(EnvironmentVariableCredentialsProvider.create())
```

```
        .overrideConfiguration(clientOverrideConfiguration)
        .httpClientBuilder(
                ApacheHttpClient.builder()
                        .maxConnections(100)
                        .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(5))
                        .proxyConfiguration(ProxyConfiguration.builder()
                                .endpoint(URI.create("http://proxy:8080"))
                                .build())
        ).build();
```

前のスニペットには、サービスクライアントを設定するための複数のエントリポイントがあります。

- すべてのサービスクライアントに共通する設定オプションを提供する **ClientOverrideConfiguration.Builder オブジェクト**。これらの設定は AWS、HTTP 実装とは無関係に固有の動作です。
- 別の HTTP クライアントビルダー実装による HTTP クライアント設定。ApacheHttpClient.Builder はその一例です。サービスクライアントは、設定された HTTP クライアントをサービスクライアントに関連付ける httpClientBuilder() メソッドを提供します。
- region() や credentialsProvider() などのクライアントビルダー自体のメソッド

設定ブロックを使用した同一の設定

は、個別のオブジェクトを作成してサービスクライアントメソッドに渡す代わりに、Lambda 式を受け入れてこれらのオブジェクトをインラインで構築するメソッド AWS SDK for Java 2.x を提供します。ビルダーの設定メソッドの名前は同じですが、署名は異なります。例えば、次のようになります。

- overrideConfiguration(ClientOverrideConfiguration overrideConfiguration)
- overrideConfiguration(Consumer<ClientOverrideConfiguration.Builder> overrideConfiguration)

前に示した、このアプローチを使用した S3 クライアントの設定は、1 つのコードブロックで行うことができます。

```
S3Client s3Client = S3Client.builder()
        .region(Region.EU_SOUTH_2)
        .credentialsProvider(EnvironmentVariableCredentialsProvider.create())
```

```
        .overrideConfiguration(b -> b
                .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(1))
                .addMetricPublisher(CloudWatchMetricPublisher.create()))
        .httpClientBuilder(ApacheHttpClient.builder()
                .maxConnections(100)
                .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(5))
                .proxyConfiguration(ProxyConfiguration.builder()
                        .endpoint(URI.create("http://proxy:8080"))
                        .build()))
        .build();
```

コードでは使用できない設定オプション

次の設定は SDK の基本的な初期化プロセスに影響するため、外部でのみ設定可能で、コードによる設定はできません。

ファイルの場所設定

これらの設定は、共有設定ファイルと認証情報ファイルの場所を制御します。SDK がファイルを読み込んだ後にプログラムで上書きすることはできません。

- AWS_CONFIG_FILE (環境変数) / aws.configFile (JVM システムプロパティ)
- AWS_SHARED_CREDENTIALS_FILE (環境変数) / aws.sharedCredentialsFile (JVM システムプロパティ)

これらの設定は、SDK が設定を検索する場所を決定するため、SDK が設定ファイルを読み込む前に設定する必要があります。SDK が初期化されると、これらの値を変更しても変化はありません。

インスタンスメタデータサービスの無効化

- AWS_EC2_METADATA_DISABLED (環境変数) / aws.disableEc2Metadata (JVM システムプロパティ)

この設定は、SDK が EC2 インスタンスメタデータサービスの使用を試行するかどうかを制御します。SDK が初期化されると、この設定をプログラムで変更することはできません。

プロファイルの選択

- AWS_PROFILE (環境変数) / aws.profile (JVM システムプロパティ)

この設定は、共有設定ファイルと認証情報ファイルからロードするプロファイルを SDK に指示します。ロード後にこの値を変更しても変化はありません。

コンテナの認証情報パス

- AWS_CONTAINER_CREDENTIALS_RELATIVE_URI
- AWS_CONTAINER_CREDENTIALS_FULL_URI
- AWS_CONTAINER_AUTHORIZATION_TOKEN
- AWS_CONTAINER_AUTHORIZATION_TOKEN_FILE

これらの環境変数を使用して、コンテナサービスから認証情報を取得する方法を SDK に指示します。サービスクライアントの初期化中に認証情報プロバイダーチェーンが確立されると、これらの設定を変更することはできません。

デフォルトの HTTP 実装の選択

- SYNC_HTTP_SERVICE_IMPL (環境変数) / software.amazon.awssdk.http.service.impl (JVM システムプロパティ)
- ASYNC_HTTP_SERVICE_IMPL (環境変数) / software.amazon.awssdk.http.async.service.impl (JVM システムプロパティ)

これらのグローバル設定は、個々のサービスクライアントでコードによる上書きが行われない限り、SDK がすべてのサービスクライアントで使用する HTTP クライアント実装を決定します。これらを設定は SDK が HTTP クライアントを初期化する前にする必要があり、後で変更することはできません。

でシングルトンサービスクライアントインスタンスを使用する AWS SDK for Java 2.x

のサービスクライアント AWS SDK for Java 2.x はスレッドセーフです。各サービスクライアントのインスタンスを 1 つ作成し、アプリケーション全体で再利用できます。このアプローチにより、パフォーマンスが向上し、リソースをより効率的に管理できます。

シングルトンサービスクライアントの利点

接続プーリング

サービスクライアントは内部 HTTP 接続プールを維持します。これらのプールの作成と破棄にはコストがかかります。クライアントを再利用すると、これらのプールはリクエスト間で効率的に共有されます。

初期化オーバーヘッドの削減

クライアントの作成には、設定のロード、認証情報の確立、内部コンポーネントの初期化が必要です。シングルトンインスタンスは、このオーバーヘッドを排除できます。

リソース使用率の改善

シングルトンクライアントは、多数のクライアントインスタンスを作成するときに発生する可能性のあるリソースの枯渇を防ぎます。

シングルトンサービスクライアントを作成して使用する

次の例は、 シングルトンサービスクライアントを作成して使用する方法を示しています。

```
// Create one instance and use it throughout the application.
public class ServiceClientSource {
    private static final S3Client s3Client = S3Client.create();

    public static S3Client getS3Client() {
        return s3Client;
    }
}
```

オペレーションごとに新しいクライアントを作成しない方法

```
// This approach creates unnecessary overhead.
public void badExample() {
    try (S3Client s3 = S3Client.create()) {
        s3.listBuckets();
    }
}
```

重要な考慮事項

- サービスクライアントはスレッドセーフです。複数のスレッド間で安全に共有できます。
- アプリケーションがシャットダウンしたとき、またはクライアントが不要になったときにのみクライアントを終了します。アプリケーションレベルで `client.close()` または try-with-resources を使用します。
- リージョンや認証情報など、異なる設定が必要な場合は、設定ごとに個別のシングルトンインスタンスを作成します。

Spring などの依存関係インジェクションフレームワークを使用する場合は、サービスクライアントをシングルトンの Bean として設定します。これにより、適切なライフサイクル管理が可能になります。

AWS リージョン の の設定 AWS SDK for Java 2.x

SDK クライアントは、クライアントの作成時に AWS リージョン 指定した特定の AWS のサービスの に接続します。この設定により、アプリケーションはその地理的エリアの AWS リソースとやり取りできます。リージョンを明示的に設定せずにサービスクライアントを作成すると、SDK は外部設定からデフォルトのリージョンを使用します。

を明示的に設定する AWS リージョン

リージョンを明示的に設定するには、Region クラスで定義されている定数を使用することをお勧めします。これは、公開されている利用可能なすべてのリージョンを列挙したものです。

そのクラスで列挙されたリージョンが設定されたクライアントを作成するには、クライアントビルダーの `region` メソッドを使用します。

```
Ec2Client ec2 = Ec2Client.builder()
          .region(Region.US_WEST_2)
          .build();
```

使用するリージョンが `Region` クラスの列挙でない場合は、静的な `of` メソッドを使用して新しいリージョンを作成することができます。このメソッドを使用することで、SDK をアップグレードせずに、新しいリージョンにアクセスすることができます。

```
Region newRegion = Region.of("us-east-42");
```

```
Ec2Client ec2 = Ec2Client.builder()
          .region(newRegion)
          .build();
```

> **Note**
>
> ビルダーを使用してクライアントを構築すると、そのクライアントはイミュータブルになり、 AWS リージョン は変更できません。同じサービス AWS リージョン で複数の を使用する必要がある場合は、リージョンごとに 1 つずつ、複数のクライアントを作成する必要があります。

SDK が環境 AWS リージョン からデフォルトを自動的に決定できるようにする

コードが Amazon EC2 または で実行されている場合 AWS Lambda、コードが実行されている AWS リージョン のと同じ を使用するようにクライアントを設定できます。これにより、コードが実行中の環境から切り離され、レイテンシーや冗長性を低く AWS リージョン するためにアプリケーションを複数の にデプロイすることが容易になります。

デフォルトの AWS リージョン プロバイダーチェーンを使用して環境からリージョンを決定するには、クライアントビルダーの `create`メソッドを使用します。

```
Ec2Client ec2 = Ec2Client.create();
```

他の方法でクライアントを設定することもできますが、リージョンを設定することはできません。SDK は、デフォルトのリージョンプロバイダーチェーン AWS リージョン を使用して を取得します。

```
Ec2Client ec2Client = Ec2Client.builder()
        .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.builder()
                .profileName("my-profile")
                .build())
        .build();
```

`region` メソッド AWS リージョン を使用して を明示的に設定しない場合、SDK はデフォルトのリージョンプロバイダーチェーンを参照して、使用するリージョンを決定します。

デフォルトの AWS リージョン プロバイダーチェーンについて

SDK は次の手順で AWS リージョンを検索します。

1. ビルダー自体で `region` メソッドを使用して設定されている明示的なリージョンは、その他の設定より優先されます。
2. SDK は JVM システムプロパティ `aws.region` を検索し、見つかった場合はその値を使用します。
3. `AWS_REGION` 環境変数が確認されます。設定されている場合は、そのリージョンを使用してクライアントが設定されます。

   > **Note**
   >
   > Lambda コンテナはこの環境変数を設定します。

4. SDK は、AWS 共有設定ファイルと認証情報ファイル内のアクティブなプロファイルをチェックします。`region` プロパティがあると、SDK はこのプロパティを使用します。

   `default` プロファイルは、`AWS_PROFILE` 環境変数または `aws.profile` JVM システムプロパティによって上書きされない限り、アクティブなプロファイルです。SDK が同じプロファイル (`default` プロファイルを含む) の両方のファイルで `region` プロパティを見つけた場合、SDK は共有認証情報ファイルの値を使用します。
5. SDK は、 Amazon EC2 インスタンスメタデータサービス (IMDS) を使用して、現在実行中 Amazon EC2 のインスタンスのリージョンを決定しようとします。
   - セキュリティを強化するには、SDK が IMDS のバージョン 1 を使用しないようにする必要があります。同じ設定を使用して、 the section called “安全に” セクションで説明されているバージョン 1 を無効にします。
6. この時点で SDK によってリージョンがまだ見つかっていない場合は、クライアント作成が失敗し、例外が発生します。

AWS アプリケーションを開発する場合の一般的なアプローチは、共有設定ファイルを使用してローカル開発用のリージョンを設定し、アプリケーションが AWS インフラストラクチャ上で実行されるときにデフォルトのリージョンプロバイダーチェーンを使用してリージョンを決定することです。これによって、クライアントの作成が大幅に簡略化され、アプリケーションの性が維持されます。

リージョンでサービスが使用可能かどうかを確認する

特定の AWS のサービス がリージョンで使用可能かどうかを確認するには、サービスクライアントで静的`serviceMetadata`メソッドを使用します。

```
DynamoDbClient.serviceMetadata().regions().forEach(System.out::println);
```

前のスニペットは、DynamoDB サービスを持つ AWS リージョン コードの長いリストを出力します。

```
af-south-1
ap-east-1
ap-northeast-1
ap-northeast-2
ap-northeast-3
ap-south-1
ap-south-2
ap-southeast-1
...
```

コードを使用して、サービスクライアントが使用するリージョンのリージョンクラスの列挙を検索できます。

たとえば、`ap-northeast-2` コードを使用してリージョンで DynamoDB を使用する場合は、少なくとも次の設定を使用しt DynamoDB クライアントを作成します。

```
DynamoDbClient ddb = DynamoDbClient.builder()
    .region(Region.AP_NORTHEAST_2)
    .build();
```

特定のエンドポイントを選択する

サービスのプレビュー機能を一般公開前にテストする場合など、特定の状況では、リージョン内の特定のエンドポイントを指定する必要がある場合があります。このような状況では、`endpointOverride` メソッドを呼び出してサービスクライアントを設定できます。

たとえば、特定のエンドポイントで欧州 (アイルランド) リージョンを使用するように Amazon EC2 クライアントを設定するには、次のコードを使用します。

```
Ec2Client ec2 = Ec2Client.builder()
                .region(Region.EU_WEST_1)
```

```
                .endpointOverride(URI.create("https://ec2.eu-west-1.amazonaws.com"))
                .build();
```

すべての AWS サービスのリージョンと対応するエンドポイントの現在のリストについては、「リージョンとエンドポイント」を参照してください。

での認証情報プロバイダーの使用 AWS SDK for Java 2.x

の認証情報プロバイダーの役割 AWS SDK for Java 2.x は、認証情報を調達して SDK の AWS のサービス クライアントに提供することです。SDK は取得した認証情報を使用して、各リクエストに暗号によって署名することでサービスへの認証を行います。認証情報は通常、アクセスキー、つまりアクセスキー ID とシークレットアクセスキーの組み合わせで構成されます。

SSO トークンプロバイダー設定を設定するとき、または IAM (AWS Identity and Access Management) ロールを引き受けるようにランタイムを設定するときに使用する一時的な認証情報を使用すると、セッショントークンがアクセスキーに追加され、 AWS リソースへの時間制限付きアクセスが提供されます。

このトピックでは、SDK が認証情報にアクセスできるようにするいくつかの方法について説明します。

トピック

- を使用してインタラクティブ開発作業の認証情報にアクセスする AWS SDK for Java 2.x
- のデフォルトの認証情報プロバイダーチェーン AWS SDK for Java 2.x
- での認証情報キャッシュ AWS SDK for Java 2.x
- で特定の認証情報プロバイダーを指定する AWS SDK for Java 2.x
- で AWS 共有設定プロファイルを使用する AWS SDK for Java 2.x
- を使用して外部プロセスから認証情報をロードする AWS SDK for Java 2.x
- を使用してコードで認証情報を指定する AWS SDK for Java 2.x
- SDK for Java 2.x を使用して Amazon EC2 で IAM ロール認証情報を読み取る

を使用してインタラクティブ開発作業の認証情報にアクセスする AWS SDK for Java 2.x

セキュリティを強化するために、 では、存続期間の長い認証情報ではなく一時的な認証情報を使用するように SDK for Java を設定する AWS ことをお勧めします。一時的な認証情報は、アクセス

キー (アクセスキー ID とシークレットアクセスキー) およびセッショントークンで構成されています。

一時的な認証情報を使用するには、いくつかのアプローチを使用できます。使用するアプローチ、つまり SDK に提供する設定は、ユースケースに応じて異なります。

Java SDK でインタラクティブな開発作業を行う場合は、 AWS コンソールのログイン認証情報を使用することをお勧めします。

コンソールのログイン認証情報の使用

既存の AWS マネジメントコンソールのサインイン認証情報を使用して、 AWS サービスにプログラムでアクセスできます。ブラウザベースの認証フローの後、 は AWS CLI や SDK for Java 2.x などのローカル開発ツールで動作する一時的な認証情報 AWS を生成します。

このプロセスでは、最初のアカウント設定時に作成されたルート認証情報、IAM ユーザー、または ID プロバイダーからのフェデレーティッド ID を使用して認証でき、 によって一時的な認証情報 AWS CLI が自動的に管理されます。このアプローチにより、長期的な認証情報をローカルに保存する必要がなくなるため、セキュリティが強化されます。

`aws login` コマンドを実行すると、アクティブなコンソールセッションから選択することも、ブラウザベースの認証フローを使用してサインインすることもできます。これにより、一時的な認証情報が自動的に生成されます。SDK for Java 2.x は、これらの認証情報を最大 12 時間自動的に更新します。

> **Important**
>
> すべてのプロジェクトで動作する共有設定ファイルで設定した設定に加えて、個々の Java プロジェクトごとに Maven `pom.xml` ファイルで次の依存関係が必要です。
>
> ```
> <dependency>
>     <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
>     <artifactId>signin</artifactId>
> </dependency>
> ```
>
> `signin` 依存関係は、SDK for Java 2.x がコンソールのログイン認証情報にアクセスして使用できるようにするコードを提供します。

前提条件、ログインおよびサインアウトの詳細については、 AWS SDK およびツールリファレンスガイドの「コンソール認証情報を使用した AWS ローカル開発のログイン」を参照してください。

Single-sign-onアプローチ

Java SDK でインタラクティブな開発作業を行う場合は、シングルサインオンアプローチを使用することもできます。このアプリケーションには、次の設定が必要になります。

- IAM Identity Center による設定
- AWS 共有設定ファイルでプロファイルを設定する
- を使用して コマンド AWS CLI を実行してログインし、アクティブなセッションを作成する ???

IAM Identity Center の設定

このガイドの ??? で説明されているように IAM Identity Center シングルサインオンアクセスを使用するように SDK を設定すると、SDK は一時的な認証情報を使用します。

SDK は IAM Identity Center アクセストークンを使用して、`config`ファイルの `sso_role_name` 設定で設定された IAM ロールにアクセスします。SDK はこの IAM ロールを引き受け、 AWS のサービス リクエストに署名するための一時的な認証情報を取得します。

SDK が設定から一時的な認証情報を取得する方法の詳細については、「 AWS SDKs and Tools リファレンスガイド」の「Understanding IAM Identity Center authentication」セクションを参照してください。

> **Important**
>
> すべてのプロジェクトで動作する、共有 `config` ファイルで設定した設定に加えて、個々の Java プロジェクトごとに Maven `pom.xml` ファイルに次の依存関係が必要です。

```
<dependency>
    <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
    <artifactId>sso</artifactId>
</dependency>
<dependency>
    <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
    <artifactId>ssooidc</artifactId>
</dependency>
```

`sso` と `ssooidc` の依存関係は、SDK for Java 2.x が一時的な認証情報にアクセスできるようにするコードを提供します。

AWS アクセスポータルから一時的な認証情報を取得する

IAM Identity Center シングルサインオン設定の代わりに、 AWS アクセスポータルで利用可能な一時的な認証情報をコピーして使用できます。一時的な認証情報は、プロファイルで使用することも、システムプロパティや環境変数の値として使用することもできます。

一時的な認証情報用のローカルの認証情報ファイルを設定する

1. 認証情報の共有ファイルを作成する
2. 認証情報ファイルに、作業用の一時的な認証情報を貼り付けるまで、次のプレースホルダーテキストを貼り付けます。

```
[default]
aws_access_key_id=<value from AWS access portal>
aws_secret_access_key=<value from AWS access portal>
aws_session_token=<value from AWS access portal>
```

3. ファイルを保存します。これで、ファイル `~/.aws/credentials` はローカルの開発システムに存在しているはずです。このファイルには、特定の名前付きプロファイルが指定されていない場合に SDK for Java が使用する [default] プロファイルが含まれています。
4. AWS アクセスポータルにサインインする
5. アクセス AWS ポータルから IAM ロールの認証情報をコピーするには、「手動認証情報更新」の見出しにある手順に従ってください。

   a. リンク先の手順のステップ 2 で、開発ニーズに合ったアクセスを許可する IAM ロールの名前に `Access keys` を選択します。通常、このロールには PowerUserAccess や Developer などの名前が付いています。

   b. モーダルダイアログボックスでお使いのオペレーティングシステムを選択し、[AWS 認証情報ファイルにプロファイルを追加する] からコンテンツをコピーします。

6. コピーした認証情報をローカル `credentials` ファイルに貼り付け、生成されたプロファイル名を削除します。ファイルは以下のようになります。

```
[default]
aws_access_key_id=AKIAIOSFODNN7EXAMPLE
```

```
aws_secret_access_key=wJalrXUtnFEMI/K7MDENG/bPxRfiCYEXAMPLEKEY
aws_session_token=IQoJb3JpZ2luX2IQoJb3JpZ2luX2IQoJb3JpZ2luX2IQoJb3JpZ2luX2IQoJb3JpZVERYLONG
```

7. `credentials` ファイルを保存します。

SDK for Java は、サービスクライアントを作成するときに、これらの一時的な認証情報にアクセスしてリクエストごとに使用します。ステップ 5a で選択した IAM ロールの設定により、一時的な認証情報の有効期間が決まります。最大期間は 12 時間です。

一時的な認証情報の有効期限が切れたら、ステップ 4～7 を繰り返します。

のデフォルトの認証情報プロバイダーチェーン AWS SDK for Java 2.x

のデフォルトの認証情報プロバイダーチェーンは、事前定義された場所のシーケンスで AWS 認証情報 AWS SDK for Java 2.x を自動的に検索するため、アプリケーションは認証情報ソースを明示的に指定 AWS のサービス せずに で認証できます。

デフォルトの認証情報プロバイダーチェーンは DefaultCredentialsProvider クラスによって実装されます。さまざまな場所で設定をチェックする他の認証情報プロバイダーの実装に順番に委任されます。必要な設定要素をすべて見つけることができる認証情報プロバイダーがあると、チェーンが終了します。

デフォルトの認証情報プロバイダチェーンを使用して一時的な認証情報を提供するには、サービスクライアントビルダーを作成しますが、認証情報プロバイダーは指定しません。次のコードスニペットでは、デフォルトの認証情報プロバイダーチェーンを使用して設定を検索して取得する `DynamoDbClient` を作成します。

```
// Any external Region configuration is overridden.
// The SDK uses the default credentials provider chain because no specific credentials
 provider is specified.
Region region = Region.US_WEST_2;
DynamoDbClient ddb =
    DynamoDbClient.builder()
                  .region(region)
                  .build();
```

認証情報の設定の取得順序

SDK for Java 2.x のデフォルトの認証情報プロバイダーチェーンは、事前定義されたシーケンスを使用して、環境内の設定を検索します。

1. Java のシステムプロパティ
   - SDK は、SystemPropertyCredentialsProvider クラスを使用して、`aws.accessKeyId`、`aws.secretAccessKey` および `aws.sessionToken` Java システムプロパティから一時的な認証情報をロードします。

     > **Note**
     >
     > Java システムプロパティの設定方法の詳細については、Java Tutorials の公式ウェブサイトにあるシステムプロパティのチュートリアルを参照してください。

2. 環境変数
   - SDK は、EnvironmentVariableCredentialsProvider クラスを使用して、`AWS_ACCESS_KEY_ID`、`AWS_SECRET_ACCESS_KEY` および `AWS_SESSION_TOKEN` システム環境変数から一時的な認証情報をロードします。
3. ウェブ ID トークンと IAM ロールの ARN
   - SDK は WebIdentityTokenFileCredentialsProvider クラスを使用して、ウェブ ID トークンを使用してロールを引き受けることで認証情報をロードします。
   - 認証情報プロバイダーは、次の環境変数または JVM システムプロパティを検索します。
     - `AWS_WEB_IDENTITY_TOKEN_FILE or aws.webIdentityTokenFile`
     - `AWS_ROLE_ARN`、または `aws.roleArn`
     - `AWS_ROLE_SESSION_NAME` または `aws.roleSessionName` (オプション)
   - SDK が値を取得すると、 AWS Security Token Service (STS) を呼び出し、返される一時的な認証情報を使用してリクエストに署名します。
   - Amazon Elastic Kubernetes Service (EKS) などのランタイム環境は、 AWS SDKs でウェブ ID トークンを自動的に利用可能にし、アプリケーションが一時的な AWS 認証情報を取得できるようにします。
4. 共有 `credentials` および `config` ファイル
   - SDK は ProfileCredentialsProvider を使用して、IAM Identity Center のシングルサインオン設定または一時的な認証情報を共有 `credentials` と `config` ファイル内の `[default]` プロファイルから読み込みます。

     AWS SDKs およびツールリファレンスガイドには、SDK for Java が IAM Identity Center シングルサインオントークンと連携し、SDK が呼び出しに使用する一時的な認証情報を取得する方法に関する詳細情報が記載されています AWS のサービス。

> **Note**
>
> credentials および configファイルは、さまざまな AWS SDKsとツールによって共有されます。詳細については、「 AWS SDKs and Tools リファレンスガイド」の「.aws/credentials and .aws/config files」を参照してください。

- 共有 credentials および config ファイルのプロファイルにはさまざまな設定セットを含めることができるため、ProfileCredentialsProvider は [default] プロファイルの設定を探すために他の一連のプロバイダーに委任します。
  - ウェブ ID トークン認証情報 (クラス WebIdentityTokenCredentialsProvider): プロファイルに role_arn と web_identity_token_file が含まれている場合。
  - SSO 認証情報 (クラス SsoCredentialsProvider): プロファイルに sso_role_name、sso_account_id などの SSO 関連のプロパティが含まれている場合。
  - ソースプロファイルを使用したロールベースの認証情報 (クラス StsAssumeRoleCredentialsProvider): プロファイルに role_arn と source_profile が含まれている場合。
  - 認証情報ソースを使用したロールベースの認証情報 (クラス StsAssumeRoleWithSourceCredentialsProvider): プロファイルに role_arn と credential_source が含まれている場合。
    - credential_source = Environment の場合: SystemPropertyCredentialsProvider と EnvironmentVariableCredentialsProvider のチェーンを使用
    - credential_source = Ec2InstanceMetadata の場合: InstanceProfileCredentialsProvider を使用
    - credential_source = EcsContainer の場合: ContainerCredentialsProvider を使用
  - コンソールログイン認証情報 (クラス LoginCredentialsProvider): プロファイルに が含まれている場合 login_session
  - プロセス認証情報 (クラス ProcessCredentialsProvider): プロファイルに credential_process が含まれている場合。
  - セッション認証情報 (クラス StaticSessionCredentialsProvider): プロファイルに aws_access_key_id、aws_secret_access_key、aws_session_token が含まれている場合。

- 基本的な認証情報 (クラス StaticCredentialsProvider): プロファイルに aws_access_key_id と aws_secret_access_key が含まれている場合。

5. Amazon ECS コンテナ認証情報
   - SDK は、ContainerCredentialsProvider クラスを使用して、 以下の環境変数を使用しtえ一時的な認証情報をロードします。
     a. AWS_CONTAINER_CREDENTIALS_RELATIVE_URI 、、または AWS_CONTAINER_CREDENTIALS_FULL_URI
     b. AWS_CONTAINER_AUTHORIZATION_TOKEN_FILE 、、または AWS_CONTAINER_AUTHORIZATION_TOKEN

   ECS コンテナエージェントは、ECS 認証情報エンドポイントを指す AWS_CONTAINER_CREDENTIALS_RELATIVE_URI 環境変数を自動的に設定します。その他の環境変数は通常、標準の ECS 認証情報エンドポイントが使用されない特定のシナリオで設定されます。
6. Amazon EC2 インスタンス IAM ロール提供の認証情報
   - SDK は InstanceProfileCredentialsProvider クラスを使用して、 Amazon EC2 メタデータサービスから一時的な認証情報をロードします。
7. SDK が上記のすべてのステップで必要な構成設定を見つけられない場合、次のような出力の例外がスローされます。

```
software.amazon.awssdk.core.exception.SdkClientException: Unable to load credentials
 from any of the providers
in the chain
 AwsCredentialsProviderChain(credentialsProviders=[SystemPropertyCredentialsProvider(),
EnvironmentVariableCredentialsProvider(), WebIdentityTokenCredentialsProvider(),
 ProfileCredentialsProvider(),
ContainerCredentialsProvider(), InstanceProfileCredentialsProvider()])
```

コードでの **DefaultCredentialsProvider** の使用

コードでデフォルトの認証情報プロバイダーチェーンを明示的に使用できます。SDK はデフォルトで DefaultCredentialsProvider を使用するため、これは認証情報プロバイダーをまったく指定しないことと機能的には同じです。ただし、これを明示的に使用すると、コードの可読性が向上し、自己文書化にもつながります。デフォルトの認証情報チェーンを使用する意図を明確に示します。

```
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;

public class ExplicitDefaultCredentialsExample {
    public static void main(String[] args) {
        // Explicitly create the DefaultCredentialsProvider.
        DefaultCredentialsProvider defaultCredentialsProvider =
 DefaultCredentialsProvider
                                                                .builder().build();

        // Use it with any service client.
        S3Client s3Client = S3Client.builder()
            .region(Region.US_WEST_2)
            .credentialsProvider(defaultCredentialsProvider)
            .build();

        // Now you can use the client with the default credentials chain.
        s3Client.listBuckets();
    }
}
```

デフォルトの認証情報プロバイダーを構築するときに、より多くの設定を指定できます。

```
DefaultCredentialsProvider customizedProvider = DefaultCredentialsProvider.builder()
    .profileName("custom-profile")  // Use a specific profile if the chain gets to the
 `ProfileCredentialsProvider` stage.
    .asyncCredentialUpdateEnabled(true)  // Enable async credential updates.
    .build();
```

このアプローチにより、デフォルトの認証情報チェーンの利便性を維持しながら、より細かく制御できます。

での認証情報キャッシュ AWS SDK for Java 2.x

は、認証情報キャッシュ AWS SDK for Java 2.x を実装してパフォーマンスを向上させ、認証情報ソースへの呼び出しを減らします。このセクションでは、認証情報キャッシュの仕組みと、アプリケーションに合わせて設定する方法について説明します。

認証情報プロバイダーのキャッシュについて

SDK for Java 2.x の認証情報プロバイダーは、さまざまなキャッシュ戦略を使用します。

- 内部認証情報キャッシュ: 多くのプロバイダーは、取得した認証情報をキャッシュします。
- 自動更新: 認証情報をキャッシュするプロバイダーは、更新メカニズムを実装しています。

内部で認証情報をキャッシュするプロバイダー

次の認証情報プロバイダーは、新しいインスタンスを作成する場合でも、認証情報を内部でキャッシュします。

- インスタンスプロファイル認証情報プロバイダー: Amazon EC2 メタデータサービスから認証情報をキャッシュします。
- コンテナ認証情報プロバイダー: コンテナメタデータエンドポイントから認証情報をキャッシュします。
- STS ベースのプロバイダー: AWS Security Token Service (STS) から一時的な認証情報をキャッシュします。
- ウェブ ID トークンプロバイダー: ウェブ ID トークンから取得した認証情報をキャッシュします。
- プロセス認証情報プロバイダー: 外部プロセスから認証情報をキャッシュします。

内部キャッシュを使用しないプロバイダー

以下のプロバイダーは内部キャッシュを実装していません。

- 環境変数認証情報プロバイダー
- システムプロパティ認証情報プロバイダー
- 静的認証情報プロバイダー

認証情報キャッシュの設定

認証情報プロバイダーを構築するときに、キャッシュ動作をカスタマイズできます。

失効時間

認証情報が失効し、更新が必要なタイミングを制御します。

```
.staleTime(Duration.ofMinutes(2))  // Consider stale 2 minutes before expiration.
```

プリフェッチ時間

有効期限が切れる前に認証情報の更新を開始するタイミングを決定します。

```
.prefetchTime(Duration.ofMinutes(10))  // Start refresh 10 minutes before expiration.
```

非同期更新

バックグラウンドでの認証情報の更新を有効にします。

```
.asyncCredentialUpdateEnabled(true)  // Refresh credentials in background thread.
```

セッション期間

STS ベースのプロバイダーで、一時的な認証情報が有効な期間を制御します。

```
.refreshRequest(r -> r.durationSeconds(3600))  // 1 hour session.
```

認証情報キャッシュの設定例

認証情報プロバイダーの実装用にキャッシュを設定する例として、SDK でバックグラウンドスレッドを使用して、有効期限が切れる前に認証情報をプリフェッチ (事前に取得) できます。これにより、新しい認証情報を取得するブロッキング呼び出しを回避できます。

ビルダーで asyncCredentialUpdateEnabled プロパティを true に設定することで、バックグラウンドスレッドを使用して認証情報をプリフェッチする StsAssumeRoleCredentialsProvider を作成する例を次に示します。

```
StsAssumeRoleCredentialsProvider provider = StsAssumeRoleCredentialsProvider.builder()
    .refreshRequest(r -> r
        .roleArn("arn:aws:iam::111122223333:role/example-role")
        .roleSessionName("example-session")
        .durationSeconds(3600))  // 1 hour session
    .staleTime(Duration.ofMinutes(5))  // Consider stale 5 minutes before expiration
    .prefetchTime(Duration.ofMinutes(10))  // Start refresh 10 minutes before
 expiration
    .asyncCredentialUpdateEnabled(true)  // Refresh in background
    .build();

S3Client s3 = S3Client.builder()
    .credentialsProvider(provider)
    .build();
```

s3Client で オペレーションを初めて呼び出すと、 AssumeRoleRequestが AWS Security Token Service (STS) に送信されます。STS は、15 分 (900 秒) 有効な一時的な認証情報を返しま

す。s3Client インスタンスは、15 分経過する前に更新するまで、キャッシュされた認証情報を使用します。デフォルトでは、SDK は現在のセッションの有効期限の 5 分から 1 分前に新しいセッションの新しい認証情報を取得しようとします。プリフェッチウィンドウは、 prefetchTime および staleTime プロパティを使用して設定できます。

次のセッションベースの認証情報プロバイダーも同様に設定できます。

- StsWebIdentityTokenFileCredentialsProvider
- StsGetSessionTokenCredentialsProvider
- StsGetFederationTokenCredentialsProvider
- StsAssumeRoleWithWebIdentityCredentialsProvider
- StsAssumeRoleWithSamlCredentialsProvider
- StsAssumeRoleCredentialsProvider
- DefaultCredentialsProvider (セッションを使用する認証情報プロバイダーに委任する場合)
- ProcessCredentialsProvider
- WebIdentityTokenFileCredentialsProvider
- ContainerCredentialsProvider
- InstanceProfileCredentialsProvider

認証情報キャッシュを理解すると、 を使用する際のアプリケーションのパフォーマンスと信頼性を最適化できます AWS のサービス。

で特定の認証情報プロバイダーを指定する AWS SDK for Java 2.x

デフォルトの認証情報プロバイダーチェーンは多くのシナリオで便利ですが、認証情報プロバイダーを明示的に指定すると、認証の動作、パフォーマンス、セキュリティをより詳細に制御できます。

認証情報プロバイダーを指定する理由には、次のようなものがあります。

- デフォルトのプロバイダーチェーンは複数のソースを順番にチェックするため、レイテンシーが増加する可能性があります。

```
// The default provider chain checks might check multiple sources until it finds
// sufficient configuration.
S3Client s3Client = S3Client.builder().build();
```

```
// You can specify exactly where to look.
S3Client optimizedClient = S3Client.builder()
    .credentialsProvider(InstanceProfileCredentialsProvider.create())
    .build();
```

- 認証情報設定にアクセスするには、標準意外の場所を使用する必要があります。

```
// Use configuration from a custom file location.
S3Client s3Client = S3Client.builder()
    .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.builder()
            .profileFile(ProfileFile.builder()
                    .content(Paths.get("/custom/path/to/configuration/file"))
                    .type(ProfileFile.Type.CONFIGURATION) // Expects all non-default
 profiles to be prefixed with "profile".
                    .build())
            .profileName("custom")
            .build())
    .build();
```

- サービスクライアントごとに異なる認証情報を使用します。たとえば、アプリケーションが複数の AWS アカウントにアクセスしたり、異なるサービスに異なるアクセス許可を使用する必要がある場合です。

```
// S3 client using one set of credentials.
S3Client s3Client = S3Client.builder()
    .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create("s3-readonly"))
    .build();

// DynamoDB client using different credentials.
DynamoDbClient dynamoDbClient = DynamoDbClient.builder()
    .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create("dynamodb-admin"))
    .build();
```

- 認証情報の更新動作を制御します。

```
// Create a provider with custom refresh behavior.
StsAssumeRoleCredentialsProvider customRefreshProvider =
    StsAssumeRoleCredentialsProvider.builder()
        .refreshRequest(AssumeRoleRequest.builder()
            .roleArn("arn:aws:iam::123456789012:role/my-role")
            .roleSessionName("custom-session")
            .build())
        .stsClient(StsClient.create())
```

```
        .asyncCredentialUpdateEnabled(true) // Use a background thread to prefetch
 credentials.
        .build();

S3Client s3Client = S3Client.builder()
    .credentialsProvider(customRefreshProvider)
    .build();
```

で AWS 共有設定プロファイルを使用する AWS SDK for Java 2.x

共有 config と credentials ファイルを使用して、複数のプロファイルを設定できます。これにより、アプリケーションは複数の認証情報設定を使用できます。[default] プロファイルについては前述に記載したとおりです。SDK は、ProfileCredentialsProvider クラスを使用して、共有 credentials ファイルで定義されたプロファイルから設定をロードします。

次のコードスニペットは、my_profile というプロファイルの一部として定義された認証情報を使用するサービスクライアントを構築する方法を示しています。

```
Region region = Region.US_WEST_2;
DynamoDbClient ddb = DynamoDbClient.builder()
      .region(region)
      .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create("my_profile"))
      .build();
```

別のプロファイルをデフォルトとして設定する

[default] プロファイル以外のプロファイルをアプリケーションのデフォルトとして設定するには、AWS_PROFILE 環境変数をカスタムプロファイルの名前に設定します。

この変数を Linux、macOS、または Unix で設定するには、export を使用します。

```
export AWS_PROFILE="other_profile"
```

Windows でこれらの変数を設定するには、set を使用します。

```
set AWS_PROFILE="other_profile"
```

または、aws.profile Java システムプロパティをプロファイルの名前に設定します。

プロファイルの認証情報を再ロード

ビルダーにプロファイル認証情報を再ロードする profileFile() メソッドを持つ認証情報プロバイダーならどれでも設定できます。これらの認証情報プロファイルクラスは ProfileCredentialsProvider、DefaultCredentialsProvider、InstanceProfileCredentialsProvider および ProfileTokenProvider. です。

> **Note**
>
> プロファイル認証情報の再ロードは、プロファイルファイル内の設定でのみ機能します。aws_access_key_id、aws_secret_access_key、および aws_session_token。region、sso_session、sso_account_id、および source_profile などの設定は無視されます。

サポートされている認証情報プロバイダーがプロファイル設定を再ロードするように設定するには、profileFile() ビルダーメソッドに ProfileFileSupplier のインスタンスを指定します。次のコード例は、[default] プロファイルから認証情報設定を再ロードする ProfileCredentialsProvider を示しています。

```
ProfileCredentialsProvider provider = ProfileCredentialsProvider
    .builder()
    .profileFile(ProfileFileSupplier.defaultSupplier())
    .build();

// Set up a service client with the provider instance.
DynamoDbClient dynamoDbClient = DynamoDbClient.builder()
                    .region(Region.US_EAST_1)
                    .credentialsProvider(provider)
                    .build();

/*
    Before dynamoDbClient makes a request, it reloads the credentials settings
    by calling provider.resolveCredentials().
*/
```

ProfileCredentialsProvider.resolveCredentials() が呼び出されると、SDK for Java は設定を再ロードします。ProfileFileSupplier.defaultSupplier() は SDK が提供するProfileFileSupplier のいくつかの便利な実装の 1 つです。ユースケースで必要な場合は、独自の実装を提供できます。

次の例は、ProfileFileSupplier.reloadWhenModified() の便利なメソッドの使用方法を示しています。reloadWhenModified() は Path パラメータを取るので、標準 ~/.aws/credentials (またはconfig) 場所ではなく、設定のソースファイルを柔軟に指定できます。

ファイルの内容が変更されたと SDK が判断した場合にのみ、resolveCredentials() が呼び出されたときに設定が再ロードされます。

```
Path credentialsFilePath = ...

ProfileCredentialsProvider provider = ProfileCredentialsProvider
    .builder()
    .profileFile(ProfileFileSupplier.reloadWhenModified(credentialsFilePath,
 ProfileFile.Type.CREDENTIALS))
    .profileName("my-profile")
    .build();
/*
    A service client configured with the provider instance calls
 provider.resolveCredential()
    before each request.
*/
```

ProfileFileSupplier.aggregate() メソッドは複数の設定ファイルの内容をマージします。resolveCredentials() への呼び出しごとにファイルを再ロードするか、ファイルの設定を最初に読み取った時点で固定するかを決めることができます。

次の例は、プロファイル設定を含む 2 つのファイルの設定を結合する DefaultCredentialsProvider を示しています。SDK は、resolveCredentials() が呼び出されて設定が変更されるたびに、credentialsFilePath 変数が指すファイル内の設定を再ロードします。profileFile オブジェクトの設定は変わりません。

```
Path credentialsFilePath = ...;
ProfileFile profileFile = ...;

DefaultCredentialsProvider provider = DefaultCredentialsProvider
        .builder()
        .profileFile(ProfileFileSupplier.aggregate(
                ProfileFileSupplier.reloadWhenModified(credentialsFilePath,
 ProfileFile.Type.CREDENTIALS),
                ProfileFileSupplier.fixedProfileFile(profileFile)))
        .profileName("my-profile")
        .build();
```

```
/*
    A service client configured with the provider instance calls
 provider.resolveCredential()
    before each request.
*/
```

を使用して外部プロセスから認証情報をロードする AWS SDK for Java 2.x

> **Warning**
>
> 以下では、外部プロセスから一時的な認証情報を調達する方法について説明します。これは危険な場合があるため、注意して進めてください。可能であれば、他の認証情報プロバイダーを使用することをお勧めします。このオプションを使用する場合は、使用しているオペレーティングシステムのセキュリティ上のベストプラクティスに従って、config ファイルができるだけロックされていることを確認してください。
> カスタム認証情報ツールが StdErr に秘密情報を書き込まないようにしてください。SDKs と AWS CLI は、そのような情報をキャプチャしてログに記録し、不正なユーザーに公開する可能性があります。

SDK for Java 2.x では、カスタムユースケース用に外部プロセスから一時的な認証情報を取得できます。この機能を設定するには、次の 2 つの方法があります。

`credential_process` 設定を使用する

一時的な認証情報を提供する方法がある場合は、その credential_process 設定を config ファイル内のプロファイル定義の一部として追加することで統合できます。指定する値には、コマンドファイルへのフルパスを使用する必要があります。ファイルパスにスペースが含まれている場合は、引用符で囲む必要があります。

SDK は指定されたとおりにコマンドを呼び出し、stdout から JSON データを読み取ります。

次の例は、スペースを含まないファイルパスとスペースを含むファイルパスにこの設定を使用する方法を示しています。

Linux/macOS

ファイルパス内にスペースを含まない

```
[profile process-credential-profile]
```

```
credential_process = /path/to/credential/file/credential_file.sh --custom-command
 custom_parameter
```

ファイルパス内のスペースを含む

```
[profile process-credential-profile]
credential_process = "/path/with/space to/credential/file/credential_file.sh" --
custom-command custom_parameter
```

Windows

ファイルパス内にスペースを含まない

```
[profile process-credential-profile]
credential_process = C:\Path\To\credentials.cmd --custom_command custom_parameter
```

ファイルパス内のスペースを含む

```
[profile process-credential-profile]
credential_process = "C:\Path\With Space To\credentials.cmd" --custom_command
 custom_parameter
```

次のコードスニペットは、process-credential-profile というプロファイルの一部として定義された一時的な認証情報を使用するサービスクライアントを構築する方法を示しています。

```
Region region = Region.US_WEST_2;
S3Client s3Client = S3Client.builder()
      .region(region)
      .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create("process-credential-
profile"))
      .build();
```

一時的な認証情報のソースとして外部プロセスを使用する方法の詳細については、 AWS SDKs「プロセス認証情報」セクションを参照してください。

ProcessCredentialsProvider を使用する

config ファイル内の設定を使用する代わりに、SDK の ProcessCredentialsProvider を使用して Java を使用して一時的な認証情報を読み込むこともできます。

以下の例は、ProcessCredentialsProvider を使用して外部プロセスを指定する方法と、一時的な認証情報を使用するサービスクライアントを設定する方法のさまざまなバージョンを示しています。

Linux/macOS

ファイルパス内にスペースを含まない

```
ProcessCredentialsProvider credentials =
    ProcessCredentialsProvider
        .builder()
        .command("/path/to/credentials.sh optional_param1 optional_param2")
        .build();

S3Client s3 = S3Client.builder()
                      .region(Region.US_WEST_2)
                      .credentialsProvider(credentials)
                      .build();
```

ファイルパス内のスペースを含む

```
ProcessCredentialsProvider credentials =
    ProcessCredentialsProvider
        .builder()
        .command("/path\\ with\\ spaces\\ to/credentials.sh optional_param1
 optional_param2")
        .build();

S3Client s3 = S3Client.builder()
                      .region(Region.US_WEST_2)
                      .credentialsProvider(credentials)
                      .build();
```

Windows

ファイルパス内にスペースを含まない

```
ProcessCredentialsProvider credentials =
    ProcessCredentialsProvider
        .builder()
        .command("C:\\Path\\To\\credentials.exe optional_param1 optional_param2")
```

```
        .build();

S3Client s3 = S3Client.builder()
                      .region(Region.US_WEST_2)
                      .credentialsProvider(credentials)
                      .build();
```

ファイルパス内のスペースを含む

```
ProcessCredentialsProvider credentials =
    ProcessCredentialsProvider
        .builder()
        .command("\"C:\\Path\\With Spaces To\\credentials.exe\" optional_param1
 optional_param2")
        .build();

S3Client s3 = S3Client.builder()
                      .region(Region.US_WEST_2)
                      .credentialsProvider(credentials)
                      .build();
```

認証に IAM Roles Anywhere を使用する

IAM Roles Anywhere は、 の外部で実行 AWS のサービス されているワークロードの一時的な AWS 認証情報を取得できる です AWS。これにより、オンプレミスや他のクラウド環境から AWS リソースへの安全なアクセスが可能になります。

IAM Roles Anywhere でリクエストを認証する前に、必要な情報を収集し、認証情報ヘルパーツールをダウンロードする必要があります。「IAM Roles Anywhere ユーザーガイド」の「開始方法」の手順に従って、必要なアーティファクトを作成できます。

SDK for Java には、IAM Roles Anywhere から一時的な認証情報を取得するための専用の認証情報プロバイダーはありませんが、認証情報ヘルパーツールと、外部プロセスから認証情報を取得するいずれかのオプションを使用できます。

プロファイルでの **credential_process** 設定の使用

共有設定ファイルの次のスニペットは、 AWS `credential_process`設定`roles_anywhere`を使用する という名前のプロファイルを示しています。

```
[profile roles_anywhere]
```

```
credential_process = ./aws_signing_helper credential-process \
  --certificate /path/to/certificate \
  --private-key /path/to/private-key \
  --trust-anchor-arn arn:aws:rolesanywhere:region:account:trust-anchor/TA_ID \
  --profile-arn arn:aws:rolesanywhere:region:account:profile/PROFILE_ID \
  --role-arn arn:aws:iam::account:role/role-name-with-path
```

すべてのアーティファクトを集めた後、赤で表示されているテキストを自分の値に置き換える必要があります。設定の最初の要素である aws_signing_helper は、認証情報ヘルパーツールの実行可能ファイルであり、credential-process はコマンドです。

次のコードに示すように、roles_anywhere プロファイルを使用するようにサービスクライアントを設定すると、SDK は一時的な認証情報をキャッシュし、有効期限が切れる前に更新します。

```
S3Client s3Client = S3Client.builder()
    .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.builder()
        .profileName("roles_anywhere").build())
    .build();
```

ProcessCredentialsProvider の設定

次に示すように、プロファイル設定を使用する代わりに、ProcessCredentialsProvider でコードのみのアプローチを使用できます。

```
ProcessCredentialsProvider processCredentialsProvider =
 ProcessCredentialsProvider.builder()
    .command("""
            ./aws_signing_helper credential-process \
            --certificate /path/to/certificate \
            --private-key /path/to/private-key \
            --trust-anchor-arn arn:aws:rolesanywhere:region:account:trust-anchor/TA_ID
 \
            --profile-arn arn:aws:rolesanywhere:region:account:profile/PROFILE_ID \
            --role-arn arn:aws:iam::account:role/role-name-with-path
        """).build();

S3Client s3Client = S3Client.builder()
    .credentialsProvider(processCredentialsProvider)
    .build();
```

すべてのアーティファクトを集めた後、赤で表示されているテキストを自分の値に置き換えます。

を使用してコードで認証情報を指定する AWS SDK for Java 2.x

デフォルトの認証情報チェーン、または特定あるいはカスタムのプロバイダーやプロバイダーチェーンがアプリケーションに対して機能しない場合は、一時的な認証情報をコードで直接指定できます。これらは、上記の IAM ロール認証情報、または AWS Security Token Service () から取得した一時的な認証情報ですAWS STS。を使用して一時的な認証情報を取得した場合は AWS STS、次のコード例に示すように、 AWS のサービス クライアントに渡します。

1. `StsClient.assumeRole()` を呼び出してロールを委任されます。
2. StaticCredentialsProvider オブジェクトを作成し、`AwsSessionCredentials` オブジェクトとともに提供します。
3. `StaticCredentialsProvider` を使用してサービスクライアントビルダーを設定し、クライアントを構築します。

次の例では、IAM が引き受けたロール AWS STS に対して から返された一時的な認証情報を使用して Amazon S3 サービスクライアントを作成します。

```
   // The AWS IAM Identity Center identity (user) who executes this method does not
have permission to list buckets.
   // The identity is configured in the [default] profile.
   public static void assumeRole(String roleArn, String roleSessionName) {
       // The IAM role represented by the 'roleArn' parameter can be assumed by
identities in two different accounts
       // and the role permits the user to only list buckets.

       // The SDK's default credentials provider chain will find the single sign-on
settings in the [default] profile.
       // The identity configured with the [default] profile needs permission to call
AssumeRole on the STS service.
       try {
           Credentials tempRoleCredentials;
           try (StsClient stsClient = StsClient.create()) {
               AssumeRoleRequest roleRequest = AssumeRoleRequest.builder()
                       .roleArn(roleArn)
                       .roleSessionName(roleSessionName)
                       .build();

               AssumeRoleResponse roleResponse = stsClient.assumeRole(roleRequest);
               tempRoleCredentials = roleResponse.credentials();
           }
```

```
            // Use the following temporary credential items for the S3 client.
            String key = tempRoleCredentials.accessKeyId();
            String secKey = tempRoleCredentials.secretAccessKey();
            String secToken = tempRoleCredentials.sessionToken();

            // List all buckets in the account associated with the assumed role
            // by using the temporary credentials retrieved by invoking
stsClient.assumeRole().
            StaticCredentialsProvider staticCredentialsProvider =
StaticCredentialsProvider.create(
                    AwsSessionCredentials.create(key, secKey, secToken));
            try (S3Client s3 = S3Client.builder()
                    .credentialsProvider(staticCredentialsProvider)
                    .build()) {
                List<Bucket> buckets = s3.listBuckets().buckets();
                for (Bucket bucket : buckets) {
                    System.out.println("bucket name: " + bucket.name());
                }
            }
        } catch (StsException | S3Exception e) {
            logger.error(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

許可セット

で定義された次のアクセス許可セット AWS IAM アイデンティティセンター により、ID (ユーザー) は次の 2 つのオペレーションを実行できます。

1. Amazon Simple Storage Service の `GetObject` オペレーション。
2. AWS Security Token Serviceの `AssumeRole` オペレーション。

ロールを引き受けない場合は、この例に示した `s3.listBuckets()` メソッドは失敗します。

JSON

```
{
 "Version":"2012-10-17",
 "Statement": [
  {
```

```
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
     "s3:GetObject",
     "sts:AssumeRole"
    ],
    "Resource": [
     "*"
    ]
   }
 ]
}
```

役割を引き受けた

委任されたロールのアクセス許可ポリシー

前の例で委任されたロールには、次のアクセス許可ポリシーがアタッチされています。このアクセス許可ポリシーでは、ロールと同じアカウントのすべてのバケットを一覧表示できます。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "s3:ListAllMyBuckets"
            ],
            "Resource": [
                "*"
            ]
        }
    ]
}
```

委任されたロールの信頼ポリシー

次の信頼ポリシーは、前の例で委任されたロールにアタッチされています。このポリシーでは、2 つのアカウントの ID (ユーザー) がロールを委任されることができます。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Principal": {
                "AWS": [
                    "arn:aws:iam::111122223333:root",
                    "arn:aws:iam::555555555555:root"
                ]
            },
            "Action": "sts:AssumeRole",
            "Condition": {}
        }
    ]
}
```

SDK for Java 2.x を使用して Amazon EC2 で IAM ロール認証情報を読み取る

IAM ロールを使用して、EC2 インスタンスで実行され、 AWS CLI または AWS API リクエストを行うアプリケーションの一時的な認証情報を管理できます。これは、EC2 インスタンス内でのアクセスキーの保存に推奨されます。EC2 インスタンスに AWS ロールを割り当て、そのすべてのアプリケーションで使用できるようにするには、インスタンスにアタッチされたインスタンスプロファイルを作成します。インスタンスプロファイルにはロールが含まれ、EC2 インスタンスで実行されるプログラムは一時的な認証情報を取得できます。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「Amazon EC2 インスタンスで実行されるアプリケーションに IAM ロールを使用して許可を付与する」を参照してください。

このトピックでは、EC2 インスタンスで実行するように Java アプリケーションをセットアップし、AWS SDK for Java 2.x が IAM ロール認証情報を取得できるようにする方法について説明します。

環境から IAM ロールの認証情報を取得する

アプリケーションが `create`メソッド (または `builder().build()`メソッド) を使用して AWS サービスクライアントを作成する場合、SDK for Java はデフォルトの認証情報プロバイダーチェーンを使用します。デフォルトの認証情報プロバイダーチェーンは、SDK が一時的な認証情報と交換

できる構成要素を実行環境内で検索します。the section called “デフォルトの認証情報プロバイダーチェーン” セクションでは、検索プロセス全体について説明します。

デフォルトのプロバイダーチェーンの最後のステップは、アプリケーションが Amazon EC2 インスタンスで実行されている場合にのみ使用できます。このステップでは、SDK は `InstanceProfileCredentialsProvider` を使用して EC2 インスタンスプロファイルで定義されている IAM ロールを読み取ります。次に SDK はその IAM ロールの一時的な認証情報を取得します。

これらの認証情報は一時的なもので、最終的には失効しますが、`InstanceProfileCredentialsProvider` によって定期的に更新されるため、 AWSにアクセスを許可し続けることができます。

IAM ロールの認証情報をプログラムで取得する

EC2 で最終的に `InstanceProfileCredentialsProvider` を使用するデフォルトの認証情報プロバイダーチェーンの代わりに、`InstanceProfileCredentialsProvider` を使用してサービスクライアントを明示的に設定できます。このアプローチは次のスニペットに示されています。

```
S3Client s3 = S3Client.builder()
       .credentialsProvider(InstanceProfileCredentialsProvider.create())
       .build();
```

IAM ロールの認証情報を安全に取得する

デフォルトでは、EC2 インスタンスは IMDS (インスタンスメタデータサービス) を実行し、SDK の `InstanceProfileCredentialsProvider` が設定された IAM ロールなどの情報にアクセスできるようにします。EC2 インスタンスは、デフォルトで 2 つのバージョンの IMDS を実行します。

- インスタンスメタデータサービスバージョン 1 (IMDSv1) – リクエスト/レスポンスメソッド
- インスタンスメタデータサービスバージョン 2 (IMDSv2) – セッション指向メソッド

IMDSv1 よりも、IMDSv2 の方が安全なアプローチです。

デフォルトでは、Java SDK は最初に IMDSv2 を使用して IAM ロールを取得しますが、失敗した場合は IMDSv1 を試行します。ただし、IMDSv1 は安全性が低いため、 では IMDSv2 のみを使用し、SDK が IMDSv1 を試さないように AWS することをお勧めします。

より安全なアプローチを使用するには、次のいずれかの設定に `true` の値を指定して、SDK が IMDSv1 を使用しないようにします。

- 環境変数: `AWS_EC2_METADATA_V1_DISABLED`
- JVM システムプロパティ: `aws.disableEc2MetadataV1`
- 共有設定ファイルの設定: `ec2_metadata_v1_disabled`

これらの設定のいずれかを `true` に設定すると、最初の IMDSv2 呼び出しが失敗した場合、SDK は IMDSv1 を使用した IMDS ロール認証情報のロードを実行しません。

で再試行動作を設定する AWS SDK for Java 2.x

への呼び出し AWS のサービス は、予期しない理由で失敗することがあります。呼び出しを再試行すると、スロットリング (レート超過) や一時的なエラーなどの特定のエラーが成功する可能性があります。 AWS SDK for Java 2.x には、このようなエラーを検出し、すべてのクライアントでデフォルトで有効になっている呼び出しを自動的に再試行するメカニズムが組み込まれています。

このページでは、その仕組み、個別のモード設定方法、再試行動作の調整方法について説明します。

再試行戦略

再試行戦略は、SDK で再試行を実装するために使用するメカニズムです。各 SDK クライアントにはビルド時に作成された再試行戦略があり、これはクライアントの構築後に変更できません。

再試行戦略には次の役割があります。

- 例外を再試行可能または不可能として分類します。
- 提案された遅延を計算して、次の試行まで待ちます。
- 大量のリクエストが失敗し、再試行が失敗したときに再試行を停止するメカニズムを提供するトークンバケットを保持します。

> **Note**
>
> SDK のバージョン 2.26.0 で再試行戦略がリリースされる前は、再試行ポリシーが SDK で再試行メカニズムを提供していました。再試行ポリシー API は `software.amazon.awssdk.core.retry` パッケージのコア `RetryPolicy` クラスで構成されますが、 `software.amazon.awssdk.retries` パッケージには再試行戦略 API 要素が含まれています。

再試行戦略 API は、SDK のコアコンポーネントのインターフェイスと動作を統合するための AWS全体的な取り組みの一環として導入されました。 SDKs

SDK for Java 2.x には、標準、レガシー、アダプティブの 3 つの再試行戦略が組み込まれています。3 つの再試行戦略はすべて、一連の再試行可能な例外に対して再試行するように事前設定されています。再試行可能なエラーの例としては、ソケットタイムアウト、サービス側のスロットリング、同時実行または楽観的ロックの失敗、一時的なサービスエラーなどがあります。

標準再試行戦略

標準再試行戦略は、通常のユースケースで推奨される RetryStrategy 実装です。AdaptiveRetryStrategy とは異なり、標準戦略は一般的にすべての再試行ユースケースで役立ちます。

デフォルトでは、標準の再試行戦略は以下を実行します。

- ビルド時に設定された条件で再試行します。これは StandardRetryStrategy.Builder#retryOnException で調整できます。
- 2 回再試行し、合計 3 回試行します。これは StandardRetryStrategy.Builder#maxAttempts(int) で調整できます。
- スロットリング以外の例外の場合は、BackoffStrategy#exponentialDelay バックオフ戦略を使用します。この場合の基本遅延は 100 ミリ秒、最大遅延は 20 秒です。これは StandardRetryStrategy.Builder#backoffStrategy で調整できます。
- スロットリング例外の場合は、BackoffStrategy#exponentialDelay バックオフ戦略を使用します。この場合の基本遅延は 1 秒、最大遅延は 20 秒です。これは StandardRetryStrategy.Builder#throttlingBackoffStrategy で調整できます。
- ダウンストリームで障害が多発している場合に、回路遮断 (リトライの無効化) を実行します。最初の試行は常に実行され、再試行のみが無効になります。StandardRetryStrategy.Builder#circuitBreakerEnabled で調整します。

レガシー再試行戦略

レガシー再試行戦略は通常のユースケースの RetryStrategy ですが、StandardRetryStrategy がより優先されるため、非推奨です。これは、別の戦略を指定しない場合にクライアントが使用するデフォルトの再試行戦略です。

スロットリング例外とスロットリング以外の例外を異なる方法で扱うことが特徴です。スロットリング例外の場合、バックオフの基本遅延はスロットリング以外の例外の基本遅延 (100 ミリ秒) よりも大きくなり (500 ミリ秒) 、スロットリング例外はトークンバケットの状態に影響を与えません。

この戦略を内部で大規模に使用した経験 AWS から、 は標準の再試行戦略よりも特に優れていないことがわかりました。さらに、ダウンストリームサービスを再試行ストームから保護できず、クライアント側でリソースが枯渇する可能性があります。

デフォルトでは、レガシー再試行戦略は以下を実行します。

- ビルド時に設定された条件で再試行します。これは LegacyRetryStrategy.Builder#retryOnException で調整できます。
- 3 回再試行し、合計 4 回試行します。これは LegacyRetryStrategy.Builder#maxAttempts(int) で調整できます。
- スロットリング以外の例外の場合は、BackoffStrategy#exponentialDelay バックオフ戦略を使用します。この場合の基本遅延は 100 ミリ秒、最大遅延は 20 秒です。これは LegacyRetryStrategy.Builder#backoffStrategy. で調整できます。
- スロットリング例外の場合は、BackoffStrategy#exponentialDelay バックオフ戦略を使用します。この場合の基本遅延は 500 ミリ秒、最大遅延は 20 秒です。これは LegacyRetryStrategy.Builder#throttlingBackoffStrategy で調整できます。
- ダウンストリームで障害が多発している場合に、回路遮断 (リトライの無効化) を実行します。回路遮断が、最初の試行が成功することを妨げることはありません。この動作は LegacyRetryStrategy.Builder#circuitBreakerEnabled で調整できます。
- サーキットブレーカーの状態は、スロットリング例外の影響を受けません。

アダプティブ再試行戦略

アダプティブ再試行戦略は、リソースの制約が高いユースケース向けの RetryStrategy です。

アダプティブ再試行戦略には標準戦略のすべての機能が含まれており、スロットリングされていないリクエストとスロットリングされたリクエストの比率を測定するクライアント側のレートリミッターが追加されています。この戦略は、この計測値を使用してリクエストを減速させて安全な帯域幅内に収まるようにし、理想的にはスロットリングエラーをゼロに抑えます。

デフォルトでは、アダプティブ再試行戦略は以下を実行します。

- ビルド時に設定された条件で再試行します。これは AdaptiveRetryStrategy.Builder#retryOnException で調整できます。

- 2 回再試行し、合計 3 回試行します。これは `AdaptiveRetryStrategy.Builder#maxAttempts(int)` で調整できます。
- ダウンストリームのリソースに対する現在の負荷に基づく動的なバックオフ遅延を使用します。
- ダウンストリーム障害の数が多い場合に、回路破壊 (再試行の無効化) を実行します。回路遮断は、ダウンストリームのサービスを保護するために、障害シナリオで 2 回目の試行を妨げる場合があります。

> **Warning**
>
> アダプティブ再試行戦略では、クライアントが単一のリソース (1 つの DynamoDB テーブルまたは 1 つの Amazon S3 バケットなど) に対して動作することを前提としています。
> 1 つのクライアントを複数のリソースに使用すると、1 つのリソースに関連するスロットリングまたは停止により、クライアントが他のすべてのリソースにアクセスするときにレイテンシーが増加し、失敗します。アダプティブ再試行戦略を使用する場合は、リソースごとに 1 つのクライアントを使用することをお勧めします。
> また、すべてのクライアントがリソースに対してアダプティブ再試行戦略を使用する状況でも、この戦略を使用することをお勧めします。

> **Important**
>
> Java SDK の 2.26.0 での再試行戦略のリリースには、新しい `RetryMode.ADAPTIVE_V2` 列挙値が含まれています。ADAPTIVE_V2 モードは、スロットリングエラーが以前に検出されたときに最初の試行を遅延できなかったエラーを修正します。
> 2.26.0 リリースでは、ユーザーは環境変数、システムプロパティ、またはプロファイル設定を使用してモードを `adaptive` として設定することで、ADAPTIVE_V2 モードの動作を自動的に利用できます。これらの設定には `adaptive_v2` 値はありません。モードの設定方法については、次の the section called “戦略を指定する” セクションを参照してください。
> ユーザーは、`RetryMode.ADAPTIVE` を使用してコードでモードを設定することで、前述の動作を取得できます。

概要: 再試行戦略のデフォルト値の比較

次の表は、各再試行戦略のプロパティのデフォルト値を示しています。

方針	最大試行回数	スロットリング以外のエラーの基本遅延	スロットリングエラーの基本遅延	トークンバケットサイズ	スロットリング以外の再試行あたりのトークンコスト	スロットリングの再試行あたりのトークンコスト
標準	3	100 ミリ秒	1000 ミリ秒	500	5	5
Legacy	4	100 ミリ秒	500 ミリ秒	500	5	0
アダプティブ	3	100 ミリ秒	100 ミリ秒	500	5	5

> **Note**
>
> DynamoDB クライアントは、すべての再試行戦略にデフォルトの最大再試行回数 8 を使用します。これは、他の AWS のサービス クライアントの上記の表に示す値よりも高くなります。

戦略を指定する

サービスクライアントの戦略を指定する方法は 4 つあります。

コード内

クライアントを構築するときに、再試行戦略を使用して Lambda 式を設定できます。次のスニペットは、DynamoDB サービスクライアントでデフォルト値を使用する標準再試行戦略を設定します。

```
DynamoDbClient client = DynamoDbClient.builder()
        .overrideConfiguration(o -> o.retryStrategy(RetryMode.STANDARD))
        .build();
```

`RetryMode.STANDARD` の代わりに `RetryMode.ADAPTIVE` または `RetryMode.LEGACY` を指定できます。

プロファイル設定として

共有設定ファイルにプロファイル設定retry_modeとして を含めます。
AWSstandard、legacy、または adaptive を値として指定します。プロファイル設定として設定すると、プロファイルがアクティブの間に作成されたすべてのサービスクライアントは、指定された再試行戦略をデフォルト値で使用します。この設定は、前述のようにコードで再試行戦略を設定することで上書きできます。

次のプロファイルでは、すべてのサービスクライアントが標準の再試行戦略を使用します。

```
[profile dev]
region = us-east-2
retry_mode = standard
```

JVM システムプロパティとして

コードで上書きされない限り、システムプロパティ aws.retryMode を使用してすべてのサービスクライアントに再試行ステートを設定できます。standard、legacy、または adaptive を値として指定します。

次のコマンドに示すように、Java を呼び出すときに -D スイッチを使用します。

```
java -Daws.retryMode=standard ...
```

または、次のスニペットに示すように、クライアントを作成する前にコードでシステムプロパティを設定します。

```
public void main(String[] args) {
    // Set the property BEFORE any AWS service clients are created.
    System.setProperty("aws.retryMode", "standard");
    ...
}
```

環境変数の使用

AWS_RETRY_MODE 環境変数は、standard、legacy、または adaptive の値でも使用できます。プロファイル設定または JVM システムプロパティと同様に、 コードでクライアントを設定しない限り、環境変数はすべてのサービスクライアントを指定された再試行モードで設定します。

次のコマンドは、現在のシェルセッションの再試行モードを standard に設定します。

```
export AWS_RETRY_MODE=standard
```

戦略をカスタマイズする

最大試行回数、バックオフ戦略、再試行可能な例外を設定することで、再試行戦略をカスタマイズできます。再試行戦略を構築するとき、または設定された戦略をさらに改良するための上書きビルダーを使用してクライアントを構築するときにカスタマイズできます。

最大試行回数をカスタマイズする

次のステートメントに示すように、クライアント構築中に最大試行回数を設定できます。次のステートメントは、クライアントのデフォルトの再試行戦略を最大 5 回の試行にカスタマイズします (最初の試行と 4 回の再試行)。

```
DynamoDbClient client = DynamoDbClient.builder()
        .overrideConfiguration(o -> o.retryStrategy(b -> b.maxAttempts(5)))
        .build();
```

または、次のコード例が示すように、戦略を構築し、クライアントに提供することもできます。次のコードは、標準の最大試行回数 3 回を 10 回に置き換え、カスタマイズされた戦略で DynamoDB クライアントを設定します。

```
StandardRetryStrategy strategy = AwsRetryStrategy.standardRetryStrategy()
         .toBuilder()
         .maxAttempts(10)
         .build();
DynamoDbClient client = DynamoDbClient.builder()
        .overrideConfiguration(o -> o.retryStrategy(strategy))
        .build();
```

> **⚠ Warning**
>
> 各クライアントに一意の RetryStrategy インスタンスを設定することをお勧めします。RetryStrategy インスタンスが共有されている場合、一方のクライアントで障害が発生すると、他のクライアントの再試行動作に影響する可能性があります。

コードの代わりに外部設定を使用して、すべてのクライアントの最大試行回数を設定することもできます。この設定は、「the section called “戦略を指定する”」セクションの説明に従って設定します。

再試行可能な例外のカスタマイズ

クライアントの構築中に、再試行をトリガーする追加の例外を設定できます。このカスタマイズは、再試行可能な例外のデフォルトセットに含まれていない例外がスローされるエッジケースに向けて使用できます。

`retryOnException` メソッドと `retryOnExceptionOrCause` メソッドは、既存の再試行可能な例外セットに新しい例外タイプを追加します。デフォルトのセットを置き換えるわけではありません。これにより、SDK のデフォルトの再試行機能を維持しながら、再試行動作を拡張できます。

`retryOnExceptionOrCause` メソッドは、SDK が直接例外をスローした場合、または例外が別の例外の原因としてラッピングされた場合に、再試行可能な例外を追加します。

次のコードスニペットは、再試行例外のカスタマイズに使用するメソッド `retryOnException` および `retryOnExceptionOrCause` を示しています。SDK が直接例外をスローした場合、または例外がラッピングされた場合、`retryOnExceptionOrCause` メソッドは再試行可能な例外を追加します。

```
DynamoDbClient client = DynamoDbClient.builder()
        .overrideConfiguration(o -> o.retryStrategy(
                b -> b.retryOnException(EdgeCaseException.class)
                      .retryOnExceptionOrCause(WrappedEdgeCaseException.class)))
        .build();
```

> **Important**
>
> 再試行戦略の設定に関係なく、`subscribeToShard` メソッドを呼び出すと、Kinesis 非同期クライアントの再試行は無効になります。

バックオフ戦略をカスタマイズする

バックオフ戦略を構築し、クライアントに提供できます。

次のコードは、デフォルトの標準戦略の指数関数的な遅延バックオフ戦略を置き換える `BackoffStrategy` を構築します。

```
BackoffStrategy backoffStrategy =
        BackoffStrategy.exponentialDelay(Duration.ofMillis(150),  // The base delay.
                                         Duration.ofSeconds(15)); // The maximum delay.
DynamoDbClient client = DynamoDbClient.builder()
```

```
        .overrideConfiguration(o -> o.retryStrategy(
                b -> b.backoffStrategy(backoffStrategy)))
        .build();
```

`RetryPolicy` から `RetryStrategy` への移行

`RetryPolicy` (再試行ポリシー API) は、近日サポート予定です。現在 `RetryPolicy` のインスタンスを使用してクライアントを設定している場合、すべてが以前と同じように機能します。バックグラウンドで、Java SDK はそれを `RetryStrategy` に適応させます。新しい再試行戦略インターフェイスは、`RetryPolicy` と同じ機能を提供しますが、作成と設定の方法は異なります。

AWS SDK for Java 2.x でタイムアウトを設定する

AWS SDK for Java 2.x には、回復力に優れたアプリケーションの構築に役立つ複数のタイムアウト設定レイヤーが用意されています。SDK には、アプリケーションのパフォーマンスと信頼性を最適化するために連携するさまざまなタイプのタイムアウトが用意されています。

SDK のタイムアウトには主に 2 つのカテゴリがあります。

- サービスクライアントのタイムアウト - API オペレーションを制御する高レベルのタイムアウト
- HTTP クライアントタイムアウト - ネットワーク通信を制御する低レベルのタイムアウト

サービスクライアントのタイムアウト

サービスクライアントのタイムアウトは API レベルで動作し、再試行や複数回の試行など、サービスオペレーションの全体的な動作を制御します。

API コールのタイムアウト

API コールのタイムアウトは、すべての再試行を含む API オペレーション全体の最大時間を設定します。このタイムアウトにより、アプリケーションがオペレーション完了までに待機する時間にハード制限を設定できます。

```
S3Client s3Client = S3Client.builder()
    .overrideConfiguration(ClientOverrideConfiguration.builder()
        .apiCallTimeout(Duration.ofMinutes(2))  // Total time for entire operation,
 such as when you call the getObject method.
        .build())
    .build();
```

主な特徴

- すべての再試行が含まれます。
- 再試行間の待機時間が含まれます。
- 絶対最大待機時間を指定します。
- オペレーションが無期限に実行されないようにします。

API コール試行タイムアウト

API コール試行タイムアウトは、API オペレーションの 1 回の試行の最大時間を設定します。このタイムアウトを超えると、SDK は呼び出し全体を失敗させるのではなく、オペレーションを再試行します (再試行が設定されている場合) 。

```
S3Client s3Client = S3Client.builder()
    .overrideConfiguration(ClientOverrideConfiguration.builder()
        .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(30))  // Time for single attempt.
        .build())
    .build();
```

主な特徴

- 個々の試行にのみ適用されます。
- 低速なリクエストに対して、迅速な失敗と再試行を有効にします。
- API コールのタイムアウトより短くする必要があります。
- 一時的な問題を特定して復旧するのに役立ちます。

サービスクライアントのタイムアウトを設定する

サービスクライアントのタイムアウトは、すべてのオペレーションに対してグローバルに、またはリクエストごとに設定できます。

グローバル設定

```
S3Client s3Client = S3Client.builder()
    .overrideConfiguration(b -> b
        .apiCallTimeout(Duration.ofSeconds(105L))
        .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(25L)))
    .build();
```

```
// When you use the s3Client for an API operation, the SDK uses the configured timeout
 values.
```

リクエストごとの設定

```
S3Client basicS3Client = S3Client.create();

// The following configuration uses the same settings as shown before, but these
 settings
// apply to only the `putObject` call. When you use `basicS3Client` in another API call
 without
// supplying the override configuration, there are no API timeout limits. No timeout
 limits is the default for the SDK.
AwsRequestOverrideConfiguration overrideConfiguration =
 AwsRequestOverrideConfiguration.builder()
    .apiCallTimeout(Duration.ofSeconds(105L))
    .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(25L))
    .build();

basicS3Client.putObject(b -> b
        .bucket("amzn-s3-demo-bucket")
        .key("example-key")
        .overrideConfiguration(overrideConfiguration),
    RequestBody.fromString("test"));
```

API タイムアウトのベストプラクティス

SDK for Java 2.x は、デフォルトでは API コールのタイムアウトや個別の API コールの試行タイムアウトを設定しません。個々の試行とリクエスト全体の両方にタイムアウトを設定すしてください。これにより、一時的な問題が原因でリクエストの試行に時間がかかる場合や、重大なネットワーク問題が発生した場合に、アプリケーションがフェイルファストできます。

HTTP クライアントのタイムアウト

HTTP クライアントのタイムアウトはネットワークレベルで動作し、HTTP 通信のさまざまな側面を制御します。これらのタイムアウトは、使用する HTTP クライアントの実装によって異なります。

接続タイムアウト

接続タイムアウトは、AWS のサービス エンドポイントへの新しい接続を確立するときに待機する時間を制御します。

```
// Available with all HTTP clients.
ApacheHttpClient.builder()
    .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(5L))
    .build();
```

目的

- ネットワーク接続の問題でハングするのを防ぎます。
- サービスにアクセスできない場合、フェイルファストを実行できます。
- 応答性の高いエラー処理を必要とするアプリケーションに不可欠です。

ソケットタイムアウト (Apache クライアントおよび URLConnection クライアント)

ソケットタイムアウトは、確立された接続でデータを待つ時間を制御します。

```
ApacheHttpClient.builder()
    .socketTimeout(Duration.ofSeconds(30L))  // Time to wait for response data.
    .build();
```

読み取りおよび書き込みタイムアウト (Netty クライアント)

Netty クライアントは、読み取りオペレーションと書き込みオペレーションに個別のタイムアウトを提供します。

```
NettyNioAsyncHttpClient.builder()
    .readTimeout(Duration.ofSeconds(30L))   // Reading response data.
    .writeTimeout(Duration.ofSeconds(30L))  // Writing request data.
    .build();
```

TLS ネゴシエーションタイムアウト (Netty クライアント)

TLS/SSL ハンドシェイクに許可される時間を制御します。

```
NettyNioAsyncHttpClient.builder()
    .tlsNegotiationTimeout(Duration.ofSeconds(3L))
    .build();
```

接続プールのタイムアウト

一部の HTTP クライアントは、接続プールオペレーションのタイムアウトを提供します。

```
ApacheHttpClient.builder()
    .connectionAcquisitionTimeout(Duration.ofSeconds(10L))  // Wait for pool
 connection.
    .connectionTimeToLive(Duration.ofMinutes(5L))           // Maximum connection age.
    .connectionMaxIdleTime(Duration.ofSeconds(60L))         // Maximum idle time.
    .build()
```

HTTP クライアントの設定 には、AWS SDK for Java 2.x の HTTP クライアントに関する詳細情報が含まれています。

タイムアウトの相互作用と階層

適切な設定を行うには、さまざまなタイムアウトがどのように相互作用するかを理解することが不可欠です。

タイムアウト階層

```
API Call Timeout (2 minutes)
### Retry Attempt 1
#   ### API Call Attempt Timeout (45 seconds)
#   ### HTTP Client Timeouts
#       ### Connection Timeout (5 seconds)
#       ### TLS Negotiation Timeout (3 seconds)
#       ### Read/Write Timeout (30 seconds)
### Retry Attempt 2
#   ### [Same structure as Attempt 1]
### Retry Attempt 3
    ### [Same structure as Attempt 1]
```

設定ルール

API コールタイムアウト ≥ API コール試行タイムアウト

```
// Correct configuration.
.apiCallTimeout(Duration.ofMinutes(2))         // 120 seconds.
.apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(30)) // 30 seconds.
```

API コール試行タイムアウト ≥ HTTP クライアントタイムアウト

```
// HTTP client timeouts must be less than attempt timeout.
.apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(30L))   // 30 seconds.
// HTTP client configuration.
.connectionTimeout(Duration.ofSeconds(5L))        // 5 seconds.
.readTimeout(Duration.ofSeconds(25L))             // 25 seconds (< 30).
```

複数回の試行を考慮する

```
// If you have 3 retry attempts, each taking up to 30 seconds
// API call timeout must be at least 90 seconds plus overhead.
.apiCallTimeout(Duration.ofMinutes(2L))          // 120 seconds.
.apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(30))   // 30 seconds per attempt.
```

スマート設定のデフォルトを使用する

SDK には、適切なタイムアウト値を自動的に設定するスマートデフォルトが用意されています。

```
// Enable smart defaults.
S3Client client = S3Client.builder()
    .defaultsMode(DefaultsMode.AUTO)  // Automatically choose appropriate defaults.
    .build();

// Available modes:
// - STANDARD: Balanced defaults
// - IN_REGION: Optimized for same-region calls
// - CROSS_REGION: Optimized for cross-region calls
// - MOBILE: Optimized for mobile applications
// - AUTO: Automatically detect and choose appropriate mode
// - LEGACY: Provides settings that were used before smart defaults existed.
```

スマートデフォルトは、以下を自動的に設定します。

- 接続タイムアウト値。
- TLS ネゴシエーションタイムアウト値。
- その他のクライアント設定。

概要

AWS SDK for Java 2.x での効果的なタイムアウト設定には、サービスクライアントのタイムアウトと HTTP クライアントのタイムアウト間の相互作用を理解する必要があります。

1. サービスクライアントのタイムアウトは、高レベルの API 動作を制御します。
2. HTTP クライアントのタイムアウトは、低レベルのネットワーク動作を制御します。
3. 適切な階層により、タイムアウトが効果的に連携します。
4. スマートデフォルトは、ほとんどのアプリケーションに適した出発点です。

ユースケースに合わせてタイムアウトを適切に設定することで、ネットワークの問題に対する回復力とユーザーに対する応答性の両方を備えたアプリケーションを構築できます。

でのオブザーバビリティ機能の設定 AWS SDK for Java 2.x

テレメトリは、リモートソースから自動的に収集および送信されるデータのコレクションであり、テレメトリを使用してシステムの動作をモニタリングおよび分析できます。

SDK for Java 2.x のオブザーバビリティにより、開発者は、リクエストのライフサイクル全体をキャプチャする豊富なテレメトリデータ AWS のサービス を通じて、Java アプリケーションが とやり取りする方法を包括的に把握できます。これらの機能により、メトリクス、ログ、トレースなどのテレメトリシグナルを収集、分析、視覚化し、リクエストパターンのモニタリング、ボトルネックの特定、アプリケーション AWS とのやり取りの最適化を行って信頼性とパフォーマンスを向上させることができます。

トピック

- から SDK メトリクスを発行する AWS SDK for Java 2.x
- AWS SDK for Java 2.x アプリケーションのモニタリング
- SDK for Java 2.x での口グ記録

から SDK メトリクスを発行する AWS SDK for Java 2.x

AWS SDK for Java 2.x を使用すると、アプリケーション内のサービスクライアントとリクエストに関するメトリクスを収集し、Amazon CloudWatch Logs で出力を分析し、それに対応できます。

デフォルトでは、SDK でメトリクスの収集が無効になっています。このトピックは、それを有効にして設定するのに役立ちます。

SDK メトリクスの使用開始

アプリケーションでメトリクス収集を有効にするには、ユースケースに基づいて `MetricPublisher` インターフェイスの適切な実装を選択し、詳細なセットアップ手順に従います。

長時間実行されるアプリケーションの場合

- `CloudWatchMetricPublisher` を使用する
- 詳細なセットアップ手順、コード例、および設定オプションについては、「長時間実行されるアプリケーションから SDK メトリクスを公開する」を参照してください。

AWS Lambda 関数の場合:

- `EmfMetricLoggingPublisher` を使用する
- セットアップ手順、依存関係、Lambda 固有の設定の詳細については、「 AWS Lambda 関数の SDK メトリクスの発行」を参照してください。

トラブルシューティングとコンソール出力の場合

- `LoggingMetricPublisher` を使用する
- セットアップ手順、フォーマットオプション、ローカル開発とトラブルシューティングの例については、「開発とデバッグのためにコンソールに SDK メトリクスを出力する」を参照してください。

クイック実装プレビュー

各ユースケースでメトリクスを有効にする場合の例です。

長時間実行されるアプリケーション

```
MetricPublisher metricsPub = CloudWatchMetricPublisher.create();
DynamoDbClient ddb = DynamoDbClient.builder()
    .overrideConfiguration(c -> c.addMetricPublisher(metricsPub))
    .build();
```

Lambda 関数:

```
EmfMetricLoggingPublisher emfPublisher = EmfMetricLoggingPublisher.builder()
    .namespace("MyApp")
    .build();
DynamoDbClient dynamoDb = DynamoDbClient.builder()
    .overrideConfiguration(c -> c.addMetricPublisher(emfPublisher))
    .build();
```

開発とデバッグ

```
MetricPublisher loggingPublisher = LoggingMetricPublisher.create();
S3Client s3 = S3Client.builder()
    .overrideConfiguration(c -> c.addMetricPublisher(loggingPublisher))
    .build();
```

CRT AWS ベースの S3 クライアントのメトリクスの制限

AWS CRT ベースの S3 クライアントは、現在 SDK メトリクス収集をサポートしていません。 AWS CRT ベースの S3 クライアントインスタンスのビルダー はS3CrtAsyncClientBuilder、メトリクスパブリッシャーを設定するメソッドを提供しません。

メトリクスが利用可能になるまでの時間

メトリクスは通常、SDK for Java によって発行されてから 5 ~ 10 分以内に利用可能になります。正確で最新のメトリクスを利用するには、Java アプリケーションからメトリクスが発行されてから 10 分以上経過後、Cloudwatch を確認してください。

収集される情報

メトリクスの収集には、次のものが含まれます。

- API リクエストの数 (成功したか、失敗したかを含む)
- 返される例外など、API リクエストで AWS のサービス 呼び出す に関する情報
- Marshalling、Signing、HTTP リクエストなどのさまざまな操作の期間
- 開いている接続の数、保留中のリクエストの数、使用されている HTTP クライアントの名前などの HTTP クライアントのメトリクス

> **Note**
>
> 使用可能なメトリクスは、HTTP クライアントによって異なります。

詳細なリストについては、サービスクライアントのメトリクスを参照してください。

この情報の使用方法

SDK が収集するメトリクスを使用して、アプリケーションのサービスクライアントをモニタリングできます。全体的な使用傾向の確認や、異常の特定ができるほか、返されたサービスクライアントの例外を確認したり、特定の問題を理解するために詳しく確認したりすることもできます。Amazon CloudWatch Logs を使用して、定義した条件にアプリケーションが達するとすぐに通知するアラームを作成することもできます。

詳細については、「Amazon CloudWatch ユーザーガイド」の「Amazon CloudWatch メトリクスの使用」と「Amazon CloudWatch Logs アラームの使用」を参照してください。

を使用して長時間実行されるアプリケーションから SDK メトリクスを発行する AWS SDK for Java 2.x

`CloudWatchMetricPublisher` 実装はメトリクスを集約し、遅延を伴って定期的に Amazon CloudWatch にアップロードするため、長時間実行されるアプリケーションに最適です。

メトリクスパブリッシャーのデフォルト設定は、メモリ使用量と CloudWatch のコストを最小限に抑えながら、メトリクスデータに関する有益なインサイトを十分に提供することを目的としています。

セットアップ

`CloudWatchMetricPublisher` を使用してメトリクスを有効にし、使用する前に、次の手順を完了する必要があります。

ステップ 1: 必要な依存関係を追加する

AWS SDK for Javaのバージョン `2.14.0` 以降を使用するように、プロジェクトの依存関係を (例: `pom.xml` または `build.gradle` ファイルで) 設定します。

`cloudwatch-metric-publisher`プロジェクトの依存関係にバージョン番号 `2.14.0` 以降の artifactId を含めます。

例えば、次のようになります。

```
<project>
  <dependencyManagement>
   <dependencies>
      <dependency>
        <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
        <artifactId>bom</artifactId>
        <version>2.30.11</version>  <!-- Navigate the link to see the latest version.
 -->
        <type>pom</type>
        <scope>import</scope>
      </dependency>
   </dependencies>
  </dependencyManagement>
  <dependencies>
   <dependency>
      <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
      <artifactId>cloudwatch-metric-publisher</artifactId>
   </dependency>
  </dependencies>
</project>
```

ステップ 2: 必要なアクセス許可を設定する

メトリクスパブリッシャーによって使用される IAM ID に対して `cloudwatch:PutMetricData` のアクセス許可を有効にし、SDK for Java がメトリクスを書き込めるようにします。

特定のリクエストのメトリクスを有効にする

次のクラスは、Amazon DynamoDB へのリクエストに対して CloudWatch メトリクスパブリッシャーを有効にする方法を示しています。デフォルトのメトリクスパブリッシャー設定を使用します。

```
import software.amazon.awssdk.metrics.MetricPublisher;
import software.amazon.awssdk.metrics.publishers.cloudwatch.CloudWatchMetricPublisher;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ListTablesRequest;

public class DefaultConfigForRequest {
    // Use one MetricPublisher for your application. It can be used with requests or
 service clients.
    static MetricPublisher metricsPub = CloudWatchMetricPublisher.create();

    public static void main(String[] args) {
```

```
        DynamoDbClient ddb = DynamoDbClient.create();
        // Publish metrics the for ListTables operation.
        ddb.listTables(ListTablesRequest.builder()
            .overrideConfiguration(c -> c.addMetricPublisher(metricsPub))
            .build());

        // Perform more work in your application.

        // A MetricsPublisher has its own lifecycle independent of any service client
 or request that uses it.
        // If you no longer need the publisher, close it to free up resources.
        metricsPub.close();  // All metrics stored in memory are flushed to CloudWatch.

        // Perform more work with the DynamoDbClient instance without publishing
 metrics.
        // Close the service client when you no longer need it.
        ddb.close();
    }
}
```

> **Important**
>
> サービスクライアントが使用されなくなったときに、アプリケーションが MetricPublisher インスタンスclose を呼び出すことを確認します。呼び出さない場合、スレッドまたはファイル記述子が漏洩する可能性があります。

特定のサービスクライアントのためにサマリメートリクスを有効にする

次のコードスニペットは、サービスクライアントのデフォルト設定で CloudWatch メトリクスパブリッシャーを有効にする方法を示しています。

```
MetricPublisher metricsPub = CloudWatchMetricPublisher.create();

DynamoDbClient ddb = DynamoDbClient.builder()
          .overrideConfiguration(c -> c.addMetricPublisher(metricsPub))
          .build();
```

CloudWatch メトリクスパブリッシャーをカスタマイズする

次のクラスは、特定のサービスクライアント用のメトリクスパブリッシャーのカスタム設定をセットアップする方法を示しています。カスタマイズには、特定のプロファイルのロード、メトリクスパブ

リッシャーがリクエストを送信する AWS リージョンの指定、パブリッシャーが CloudWatch にメトリクスを送信する頻度のカスタマイズが含まれます。

```
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.core.metrics.CoreMetric;
import software.amazon.awssdk.metrics.MetricPublisher;
import software.amazon.awssdk.metrics.publishers.cloudwatch.CloudWatchMetricPublisher;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.CloudWatchAsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;

import java.time.Duration;

public class CustomConfigForDDBClient {
    // Use one MetricPublisher for your application. It can be used with requests or
 service clients.
    static MetricPublisher metricsPub = CloudWatchMetricPublisher.builder()
        .cloudWatchClient(CloudWatchAsyncClient.builder()
            .region(Region.US_WEST_2)
            .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create("cloudwatch"))
            .build())
        .uploadFrequency(Duration.ofMinutes(5))
        .maximumCallsPerUpload(100)
        .namespace("ExampleSDKV2Metrics")
        .detailedMetrics(CoreMetric.API_CALL_DURATION)
        .build();

    public static void main(String[] args) {
        DynamoDbClient ddb = DynamoDbClient.builder()
            .overrideConfiguration(c -> c.addMetricPublisher(metricsPub))
            .build();
        // Publish metrics for DynamoDB operations.
        ddb.listTables();
        ddb.describeEndpoints();
        ddb.describeLimits();
        // Perform more work in your application.

        // A MetricsPublisher has its own lifecycle independent of any service client
 or request that uses it.
        // If you no longer need the publisher, close it to free up resources.
        metricsPub.close();  // All metrics stored in memory are flushed to CloudWatch.
```

```
        // Perform more work with the DynamoDbClient instance without publishing
 metrics.
        // Close the service client when you no longer need it.
        ddb.close();
    }
}
```

前のスニペットで示したカスタマイズには、次の機能があります。

- `cloudWatchClient` メソッドを使用すると、メトリクスの送信に使用する CloudWatch クライアントをカスタマイズできます。この例では、クライアントがメトリクスを送信する us-east-1 のデフォルトとは異なるリージョンを使用します。また、CloudWatch へのリクエストを認証するために認証情報が使用される、cloudWatch という別の名前のプロファイルも使用します。これらの認証情報は、`cloudwatch:PutMetricData` へのアクセス許可を付与されている必要があります。
- `uploadFrequency` メソッドを使用すると、メトリクスパブリッシャーが CloudWatch にメトリクスをアップロードする頻度を指定できます。デフォルト値は 1 分に 1 回です。
- `maximumCallsPerUpload` メソッドは、アップロードごとに行われる呼び出しの数を制限します。デフォルトは無制限です。
- デフォルトでは、SDK for Java 2.x は `AwsSdk/JavaSdk2` 名前空間の下にメトリクスを公開します。`namespace` を使用して別の値を指定できます。
- デフォルトでは、SDK はサマリーメトリクスを公開します。概要メトリクスは、平均、最小、最大、合計、サンプル数で構成されます。`detailedMetrics` メソッドで 1 つ以上の SDK メトリクスを指定することで、SDK はメトリクスごとに追加のデータを公開します。この追加データにより、CloudWatch でクエリできる p90 や p99 などのパーセンタイル統計が有効になります。詳細なメトリクスは、DK クライアントリクエストのエンドツーエンドのレイテンシーを測定する `APICallDuration` のようなレイテンシーメトリクスに特に有益です。`CoreMetric` クラスのフィールドを使用して、他の一般的な SDK メトリクスを指定できます。

次のステップ: Lambda 関数も使用している場合は、「EMF ベースのメトリクス発行用の AWS Lambda 関数の SDK メトリクスの発行」を参照してください。

を使用して AWS Lambda 関数の SDK メトリクスを発行する AWS SDK for Java 2.x

Lambda 関数は通常ミリ秒から数分の単位で実行されるため、`CloudWatchMetricPublisher` で発生するメトリクスの送信の遅延により、データが失われる可能性があります。

`EmfMetricLoggingPublisher` は、CloudWatch 組み込みメトリクス形式 (EMF) で構造化されたログエントリとしてメトリクスをすぐに記述することで、より適切なアプローチを提供しま

す。EmfMetricLoggingPublisher は、 AWS Lambda や Amazon Elastic Container Service などの Amazon CloudWatch Logs との統合が組み込まれている実行環境で動作します。

セットアップ

EmfMetricLoggingPublisher を使用してメトリクスを有効にし、使用する前に、次の手順を完了する必要があります。

ステップ 1: 必要な依存関係を追加する

AWS SDK for Javaのバージョン 2.30.3 以降を使用するように、プロジェクトの依存関係を (例: pom.xml または build.gradle ファイルで) 設定します。

emf-metric-logging-publisherプロジェクトの依存関係にバージョン番号 2.30.3 以降の artifactId を含めます。

例えば、次のようになります。

```
<project>
  <dependencyManagement>
   <dependencies>
      <dependency>
        <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
        <artifactId>bom</artifactId>
        <version>2.30.11</version>  <!-- Navigate the link to see the latest version.
 -->
        <type>pom</type>
        <scope>import</scope>
      </dependency>
   </dependencies>
  </dependencyManagement>
  <dependencies>
   <dependency>
      <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
      <artifactId>emf-metric-logging-publisher</artifactId>
   </dependency>
  </dependencies>
</project>
```

ステップ 2: 必要なアクセス許可を設定する

メトリクスパブリッシャーによって使用される IAM ID に対して logs:PutLogEvents のアクセス許可を有効にし、SDK for Java が EMF 形式の口グを書き込めるようにします。

ステップ 3: ログ記録を設定する

メトリクスを適切に収集するには、INFO レベル以下のコンソール (DEBUG など) に出力するようにログ記録を設定します。log4j2.xml ファイルで、次のように設定します。

```
<Loggers>
  <Root level="WARN">
   <AppenderRef ref="ConsoleAppender"/>
  </Root>
  <Logger
 name="software.amazon.awssdk.metrics.publishers.emf.EmfMetricLoggingPublisher"
 level="INFO" />
</Loggers>
```

log4j2.xml ファイルの設定方法の詳細については、このガイドのログ記録トピックを参照してください。

EmfMetricLoggingPublisher を設定して使用する

次の Lambda 関数クラスは、まず EmfMetricLoggingPublisher インスタンスを作成して設定し、Amazon DynamoDB サービスクライアントで使用します。

```
public class GameIdHandler implements RequestHandler<Map<String, String>, String> {
    private final EmfMetricLoggingPublisher emfPublisher;
    private final DynamoDbClient dynamoDb;

    public GameIdHandler() {
        // Build the publisher.
        this.emfPublisher = EmfMetricLoggingPublisher.builder()
                .namespace("namespace")
                .dimensions(CoreMetric.SERVICE_ID,
                        CoreMetric.OPERATION_NAME)
                .build();
        // Add the publisher to the client.
        this.dynamoDb = DynamoDbClient.builder()
                .overrideConfiguration(c -> c.addMetricPublisher(emfPublisher))
                .region(Region.of(System.getenv("AWS_REGION")))
                .build();
    }

    @Override
    public String handleRequest(Map<String, String> event, Context context) {
        Map<String, AttributeValue> gameItem = new HashMap<>();
```

```
        gameItem.put("gameId", AttributeValue.builder().s(event.get("id")).build());

        PutItemRequest putItemRequest = PutItemRequest.builder()
                .tableName("games")
                .item(gameItem)
                .build();

        dynamoDb.putItem(putItemRequest);

        return "Request handled";
    }
}
```

DynamoDB クライアントが putItemメソッドを実行すると、メトリクスを EMF 形式で CloudWatch ログストリームに自動的に公開します。

EMF ログイベントの例

たとえば、前述のようにログ記録が設定されている GameHandler Lambda 関数に次のイベントを送信するとします。

```
{
  "id": "23456"
}
```

関数がイベントを処理すると、次の例のような 2 つのログイベントが表示されます。2 番目のイベントの JSON オブジェクトには、DynamoDB への PutItem オペレーションの Java SDK メトリクスデータが含まれています。

CloudWatch が EMF 形式でログイベントを受信すると、構造化された JSON を自動的に解析してメトリクスデータを抽出します。その後、CloudWatch は対応するメトリクスを作成し、元のログエントリを CloudWatch Logs に保存します。

```
2025-07-11 15:58:30 [main] INFO  org.example.GameIdHandler:39 - Received map:
 {id=23456}

2025-07-11 15:58:34 [main] INFO
 software.amazon.awssdk.metrics.publishers.emf.EmfMetricLoggingPublisher:43 -
{
    "_aws": {
        "Timestamp": 1752249513975,
```

```
        "LogGroupName": "/aws/lambda/GameId",
        "CloudWatchMetrics": [
            {
                "Namespace": "namespace",
                "Dimensions": [
                    [
                        "OperationName",
                        "ServiceId"
                    ]
                ],
                "Metrics": [
                    {
                        "Name": "AvailableConcurrency"
                    },
                    {
                        "Name": "PendingConcurrencyAcquires"
                    },
                    {
                        "Name": "ServiceCallDuration",
                        "Unit": "Milliseconds"
                    },
                    {
                        "Name": "EndpointResolveDuration",
                        "Unit": "Milliseconds"
                    },
                    {
                        "Name": "MaxConcurrency"
                    },
                    {
                        "Name": "BackoffDelayDuration",
                        "Unit": "Milliseconds"
                    },
                    {
                        "Name": "MarshallingDuration",
                        "Unit": "Milliseconds"
                    },
                    {
                        "Name": "LeasedConcurrency"
                    },
                    {
                        "Name": "SigningDuration",
                        "Unit": "Milliseconds"
                    },
                    {
```

```
                        "Name": "ConcurrencyAcquireDuration",
                        "Unit": "Milliseconds"
                    },
                    {
                        "Name": "ApiCallSuccessful"
                    },
                    {
                        "Name": "RetryCount"
                    },
                    {
                        "Name": "UnmarshallingDuration",
                        "Unit": "Milliseconds"
                    },
                    {
                        "Name": "ApiCallDuration",
                        "Unit": "Milliseconds"
                    },
                    {
                        "Name": "CredentialsFetchDuration",
                        "Unit": "Milliseconds"
                    }
                ]
            }
        ]
    },
    "AvailableConcurrency": 0,
    "PendingConcurrencyAcquires": 0,
    "OperationName": "PutItem",
    "ServiceCallDuration": 1339,
    "EndpointResolveDuration": 81,
    "MaxConcurrency": 50,
    "BackoffDelayDuration": 0,
    "ServiceId": "DynamoDB",
    "MarshallingDuration": 181,
    "LeasedConcurrency": 1,
    "SigningDuration": 184,
    "ConcurrencyAcquireDuration": 83,
    "ApiCallSuccessful": 1,
    "RetryCount": 0,
    "UnmarshallingDuration": 85,
    "ApiCallDuration": 1880,
    "CredentialsFetchDuration": 138
}
```

`EmfMetricLoggingPublisher.Builder` の API ドキュメントには、使用できる設定オプションが記載されています。

CloudWatchMetricPublisher に示すように、単一のリクエストに対して EMF メトリクスログ記録を有効にすることもできます。

次のステップ: 長時間実行されるアプリケーションについては、CloudWatch ベースのメトリクス公開に向けた「長時間実行するアプリケーションから SDK メトリクスを公開する」を参照してください。

を使用して SDK メトリクスをコンソールに出力する AWS SDK for Java 2.x

`LoggingMetricPublisher` 実装は、アプリケーションのコンソールまたはログファイルに直接メトリクスを出力します。このアプローチは開発やデバッグ、および SDK が収集するメトリクスの内容を把握する目的に最適で、Amazon CloudWatch などの外部サービスを必要としません。

`CloudWatchMetricPublisher` や `EmfMetricLoggingPublisher` とは異なり、`LoggingMetricPublisher` は遅延や外部依存関係なしですぐに出力します。これにより、ローカルの開発やトラブルシューティングのシナリオに最適です。

LoggingMetricPublisher を使用するタイミング

次の場合に `LoggingMetricPublisher` を使用します:

- 開発中のメトリクス収集のデバッグ
- SDK がオペレーション用に収集するメトリクスについて
- パフォーマンスの問題をローカルでトラブルシューティングする。
- 外部サービスの依存関係なしでメトリクス収集をテストする
- コンソールまたはログファイルでメトリクスをすぐに表示する

> **Note**
>
> `LoggingMetricPublisher` は、永続的なメトリクスストレージと分析機能が必要な本番環境には推奨されません。

コンソールのメトリクスのログ記録を設定する

LoggingMetricPublisher 出力を表示するには、INFO レベルのメッセージを表示するようにログ記録フレームワークを設定します。次の log4j2.xml 設定により、メトリクスがコンソールに表示されます。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<Configuration status="WARN">
    <Appenders>
        <Console name="ConsoleAppender" target="SYSTEM_OUT">
            <PatternLayout pattern="%d{HH:mm:ss.SSS} [%t] %-5level %logger{36} - %msg
%n"/>
        </Console>
    </Appenders>
    <Loggers>
        <Root level="INFO">
            <AppenderRef ref="ConsoleAppender"/>
        </Root>
        <!-- Ensure LoggingMetricPublisher output appears. -->
        <Logger name="software.amazon.awssdk.metrics.LoggingMetricPublisher"
 level="INFO" />
    </Loggers>
</Configuration>
```

この設定は、SDK が INFO レベルでメトリクスをコンソールに出力するように指示します。LoggingMetricPublisher ロガー設定により、ルートロガーが WARN や ERROR などの上位レベルを使用している場合でも、メトリクス出力が表示されます。

サービスクライアントのコンソールメトリクスを有効にする

次の例は、LoggingMetricPublisher を作成して Amazon Simple Storage Service クライアントで使用する方法を示しています。

```
import software.amazon.awssdk.metrics.LoggingMetricPublisher;
import software.amazon.awssdk.metrics.MetricPublisher;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;

// Create a LoggingMetricPublisher with default settings.
MetricPublisher metricPublisher = LoggingMetricPublisher.create();

// Add the publisher to your service client.
```

```
S3Client s3Client = S3Client.builder()
    .region(Region.US_EAST_1)
    .overrideConfiguration(config -> config.addMetricPublisher(metricPublisher))
    .build();

// Make requests - metrics will appear in your console.
s3Client.listBuckets();

// Clean up resources.
metricPublisher.close();
s3Client.close();
```

メトリクス出力形式を選択する

LoggingMetricPublisher は次の 2 つの形式をサポートしています。

- PLAIN 形式 (デフォルト): メトリクスをコンパクトで単一行のエントリで出力します
- PRETTY 形式: メトリクスを複数行の人間が読み取れる形式で出力します

次の例は、開発中の読みやすさのために PRETTY 形式を使用する方法を示しています。

```
import org.slf4j.event.Level;
import software.amazon.awssdk.metrics.LoggingMetricPublisher;

// Create a LoggingMetricPublisher with PRETTY format.
MetricPublisher prettyMetricPublisher = LoggingMetricPublisher.create(
    Level.INFO,
    LoggingMetricPublisher.Format.PRETTY
);

// Use with your service client.
S3Client s3Client = S3Client.builder()
    .region(Region.US_EAST_1)
    .overrideConfiguration(config -> config.addMetricPublisher(prettyMetricPublisher))
    .build();
```

完全な例

次の例は、2 つの方法で LoggingMetricPublisher を使用する方法を示しています。

- サービスクライアントレベル
- 1 つのリクエストに対して

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import org.slf4j.event.Level;
import software.amazon.awssdk.metrics.LoggingMetricPublisher;
import software.amazon.awssdk.metrics.MetricPublisher;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ListBucketsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ListBucketsResponse;

/**
 * Demonstrates how to use LoggingMetricPublisher with AWS S3 SDK for Java 2.x.
 * <p>
 * This demo focuses on the S3 listBuckets operation to show how metrics are collected
 * and logged to the console for development and debugging purposes.
 * <p>
 * LoggingMetricPublisher is ideal for:
 * - Development and debugging
 * - Console output for troubleshooting
 * - Understanding what metrics are being collected
 * - Testing metric collection without external dependencies
 */
public class S3LoggingMetricPublisherDemo {

    private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(S3LoggingMetricPublisherDemo.class);

    public static void main(String[] args) {
        S3LoggingMetricPublisherDemo demo = new S3LoggingMetricPublisherDemo();
        demo.demonstrateUsage();
    }

    /**
     * Demonstrates basic usage with S3Client and metrics enabled at the client level.
     */
    private void demonstrateUsage() {

        // Create a LoggingMetricPublisher with default settings. The SDK logs metrics
 as text in a single line.
        // The default settings are equivalent to using
 `LoggingMetricPublisher.Format.PLAIN`.

        MetricPublisher metricPublisher = LoggingMetricPublisher.create();
```

```
        // Create an S3 client with metrics enabled.
        try (S3Client s3Client = S3Client.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .overrideConfiguration(config ->
 config.addMetricPublisher(metricPublisher))
                .build()) {

            // Make the listBuckets request - metrics will be logged to console.
            ListBucketsResponse response =
 s3Client.listBuckets(ListBucketsRequest.builder().build());

            // The next block shows the using a different LoggingMetricPublisher with a
 `PRETTY` format.
            // Since the metric publisher is added to the request using the
 `overrideConfiguration`, this formatting
            // applies only to the one request.
            try {
                s3Client.listBuckets(ListBucketsRequest.builder()
                        .overrideConfiguration(config -> config
                                .addMetricPublisher(LoggingMetricPublisher.create(
                                        Level.INFO,
 LoggingMetricPublisher.Format.PRETTY)))
                        .build());
            } catch (Exception e) {
                logger.info("Request failed with metrics logged: {}", e.getMessage());
            }
            logger.info("Found {} buckets in your AWS account.",
 response.buckets().size());

        } catch (Exception e) {
            logger.error("Error during S3 operation: {}", e.getMessage());
            logger.info("Note: This is expected if AWS credentials are not
 configured.");
        }

        // Close the metric publisher to flush any remaining metrics.
        metricPublisher.close();
    }
}
```

コードは以下をコンソールに記録します。

```
INFO  LoggingMetricPublisher - Metrics published: MetricCollection(name=ApiCall,
 metrics=[MetricRecord(metric=MarshallingDuration, value=PT0.005409792S),
 MetricRecord(metric=RetryCount, value=0), MetricRecord(metric=ApiCallSuccessful,
 value=true), MetricRecord(metric=OperationName, value=ListBuckets),
 MetricRecord(metric=EndpointResolveDuration, value=PT0.000068S),
 MetricRecord(metric=ApiCallDuration, value=PT0.163802958S),
 MetricRecord(metric=CredentialsFetchDuration, value=PT0.145686542S),
 MetricRecord(metric=ServiceEndpoint, value=https://s3.amazonaws.com),
 MetricRecord(metric=ServiceId, value=S3)],
 children=[MetricCollection(name=ApiCallAttempt,
 metrics=[MetricRecord(metric=TimeToFirstByte, value=PT0.138816S),
 MetricRecord(metric=SigningDuration, value=PT0.007803459S),
 MetricRecord(metric=ReadThroughput, value=165153.96002660287),
 MetricRecord(metric=ServiceCallDuration, value=PT0.138816S),
 MetricRecord(metric=AwsExtendedRequestId, value=e13Swj3uwn0qP1Oz
+m7II5OGq7jf8xxT8H18iDfRBCQmDg+gU4ek91Xrsl8XxRLROlIzCAPQtsQF0DAAWOb8ntuKCzX2AJdj),
 MetricRecord(metric=HttpStatusCode, value=200),
 MetricRecord(metric=BackoffDelayDuration, value=PT0S),
 MetricRecord(metric=TimeToLastByte, value=PT0.148915667S),
 MetricRecord(metric=AwsRequestId, value=78AW9BM7SWR6YMGB)],
 children=[MetricCollection(name=HttpClient,
 metrics=[MetricRecord(metric=MaxConcurrency, value=50),
 MetricRecord(metric=AvailableConcurrency, value=0),
 MetricRecord(metric=LeasedConcurrency, value=1),
 MetricRecord(metric=ConcurrencyAcquireDuration, value=PT0.002623S),
 MetricRecord(metric=PendingConcurrencyAcquires, value=0),
 MetricRecord(metric=HttpClientName, value=Apache)], children=[])])])
INFO  LoggingMetricPublisher - [4e6f2bb5] ApiCall
INFO  LoggingMetricPublisher - [4e6f2bb5] ############################################
INFO  LoggingMetricPublisher - [4e6f2bb5] # MarshallingDuration=PT0.000063S         #
INFO  LoggingMetricPublisher - [4e6f2bb5] # RetryCount=0                           #
INFO  LoggingMetricPublisher - [4e6f2bb5] # ApiCallSuccessful=true                 #
INFO  LoggingMetricPublisher - [4e6f2bb5] # OperationName=ListBuckets              #
INFO  LoggingMetricPublisher - [4e6f2bb5] # EndpointResolveDuration=PT0.000024375S  #
INFO  LoggingMetricPublisher - [4e6f2bb5] # ApiCallDuration=PT0.018463083S         #
INFO  LoggingMetricPublisher - [4e6f2bb5] # CredentialsFetchDuration=PT0.000022334S #
INFO  LoggingMetricPublisher - [4e6f2bb5] # ServiceEndpoint=https://s3.amazonaws.com #
INFO  LoggingMetricPublisher - [4e6f2bb5] # ServiceId=S3                           #
INFO  LoggingMetricPublisher - [4e6f2bb5] ############################################
INFO  LoggingMetricPublisher - [4e6f2bb5]     ApiCallAttempt
INFO  LoggingMetricPublisher - [4e6f2bb5]
 ###############################################################################################
```

```
INFO  LoggingMetricPublisher - [4e6f2bb5]     # TimeToFirstByte=PT0.0165575S
                                                                          #
INFO  LoggingMetricPublisher - [4e6f2bb5]     # SigningDuration=PT0.000301125S
                                                                          #
INFO  LoggingMetricPublisher - [4e6f2bb5]     # ReadThroughput=1195591.792850103
                                                                          #
INFO  LoggingMetricPublisher - [4e6f2bb5]     # ServiceCallDuration=PT0.0165575S
                                                                          #
INFO  LoggingMetricPublisher - [4e6f2bb5]     #
 AwsExtendedRequestId=3QI1eenRuokdszWqZBmBMDUmko6FlSmHkM
+CUMNMeLor7gJml4D4lv6QXUZ1zWoTgG+tHbr6yo2vHdz4h1P8PDovvtMFRCeB #
INFO  LoggingMetricPublisher - [4e6f2bb5]     # HttpStatusCode=200
                                                                          #
INFO  LoggingMetricPublisher - [4e6f2bb5]     # BackoffDelayDuration=PT0S
                                                                          #
INFO  LoggingMetricPublisher - [4e6f2bb5]     # TimeToLastByte=PT0.017952625S
                                                                          #
INFO  LoggingMetricPublisher - [4e6f2bb5]     # AwsRequestId=78AVFAF795AAWAXH
                                                                          #
INFO  LoggingMetricPublisher - [4e6f2bb5]
 ###############################################################################################
INFO  LoggingMetricPublisher - [4e6f2bb5]         HttpClient
INFO  LoggingMetricPublisher - [4e6f2bb5]
 ########################################
INFO  LoggingMetricPublisher - [4e6f2bb5]         # MaxConcurrency=50
   #
INFO  LoggingMetricPublisher - [4e6f2bb5]         # AvailableConcurrency=0
   #
INFO  LoggingMetricPublisher - [4e6f2bb5]         # LeasedConcurrency=1
   #
INFO  LoggingMetricPublisher - [4e6f2bb5]         #
 ConcurrencyAcquireDuration=PT0.00004S #
INFO  LoggingMetricPublisher - [4e6f2bb5]         # PendingConcurrencyAcquires=0
   #
INFO  LoggingMetricPublisher - [4e6f2bb5]         # HttpClientName=Apache
   #
INFO  LoggingMetricPublisher - [4e6f2bb5]
 ########################################
INFO  S3LoggingMetricPublisherDemo - Found 6 buckets in your AWS account.
```

この例の追加アーティファクト

Maven pom.xml ファイル

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<project xmlns="http://maven.apache.org/POM/4.0.0"
         xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
         xsi:schemaLocation="http://maven.apache.org/POM/4.0.0
         http://maven.apache.org/xsd/maven-4.0.0.xsd">
    <modelVersion>4.0.0</modelVersion>

    <groupId>com.example</groupId>
    <artifactId>s3-logging-metric-publisher-demo</artifactId>
    <version>1.0.0</version>
    <packaging>jar</packaging>

    <name>AWS S3 LoggingMetricPublisher Demo</name>
    <description>Demonstrates how to use LoggingMetricPublisher with AWS S3 SDK for
 Java 2.x</description>

    <properties>
        <maven.compiler.source>17</maven.compiler.source>
        <maven.compiler.target>17</maven.compiler.target>
        <project.build.sourceEncoding>UTF-8</project.build.sourceEncoding>
        <aws.java.sdk.version>2.31.66</aws.java.sdk.version>
        <log4j.version>2.24.3</log4j.version>
    </properties>

    <dependencyManagement>
        <dependencies>
            <!-- AWS SDK BOM for dependency management -->
            <dependency>
                <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
                <artifactId>bom</artifactId>
                <version>${aws.java.sdk.version}</version>
                <type>pom</type>
                <scope>import</scope>
            </dependency>

            <!-- Log4j BOM for logging dependency management -->
            <dependency>
                <groupId>org.apache.logging.log4j</groupId>
                <artifactId>log4j-bom</artifactId>
                <version>${log4j.version}</version>
                <type>pom</type>
                <scope>import</scope>
            </dependency>
```

```
        </dependencies>
    </dependencyManagement>

    <dependencies>
        <!-- AWS S3 SDK for demonstration -->
        <dependency>
            <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
            <artifactId>s3</artifactId>
        </dependency>

        <!-- Log4j2 SLF4J implementation -->
        <dependency>
            <groupId>org.apache.logging.log4j</groupId>
            <artifactId>log4j-slf4j2-impl</artifactId>
        </dependency>

        <!-- Log4j2 Core -->
        <dependency>
            <groupId>org.apache.logging.log4j</groupId>
            <artifactId>log4j-core</artifactId>
        </dependency>
    </dependencies>

    <build>
        <plugins>
            <plugin>
                <groupId>org.apache.maven.plugins</groupId>
                <artifactId>maven-compiler-plugin</artifactId>
                <version>3.13.0</version>
                <configuration>
                    <source>17</source>
                    <target>17</target>
                </configuration>
            </plugin>
        </plugins>
    </build>
</project>
```

Log4j2.xml 設定ファイル

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<Configuration status="WARN">
    <Appenders>
```

```
        <Console name="ConsoleAppender" target="SYSTEM_OUT">
            <PatternLayout pattern="%d{HH:mm:ss.SSS} [%t] %-5level %logger{36} - %msg
%n"/>
        </Console>
    </Appenders>
    <Loggers>
        <Root level="INFO">
            <AppenderRef ref="ConsoleAppender"/>
        </Root>
        <!-- Ensure LoggingMetricPublisher output appears. -->
        <Logger name="software.amazon.awssdk.metrics.LoggingMetricPublisher"
 level="INFO"/>
    </Loggers>
</Configuration>
```

メトリクスには、アプリケーションの AWS API 使用パターンを理解するのに役立つタイミング情報、サービスの詳細、オペレーション名、HTTP ステータスコードが含まれます。

次の手順

開発とデバッグに `LoggingMetricPublisher` を使用した後は、本番環境で以下のオプションを検討してください。

- 長時間実行されるアプリケーションの場合は、CloudWatchMetricPublisher を使用して分析とアラートのために Amazon CloudWatch にメトリクスを送信します。
- AWS Lambda 関数の場合は、EmfMetricLoggingPublisher を使用して CloudWatch Embedded Metric Format でメトリクスを発行します。

AWS SDK for Java 2.x: 包括的なメトリクスのリファレンス

を使用すると AWS SDK for Java 2.x、アプリケーションのサービスクライアントからメトリクスを収集し、それらのメトリクスを Amazon CloudWatch に発行 (出力) できます。

これらのテーブルは、収集できるメトリクスと HTTP クライアントの使用要件を示しています。

SDK のメトリクスの有効化と設定の詳細については、SDK メトリクスの有効化を参照してください。

各リクエストで収集されたメトリクス

メトリクス名	説明	タイプ
ApiCallDuration	API コールが行われた時間。これには、試行されたすべての呼び出しが含まれます。	時間*
ApiCallSuccessful	API コールが成功した場合は true、それ以外の場合は false。	ブール値
CredentialsFetchDuration	API コールの署名認証情報を取得するまでの時間。	時間*
EndpointResolveDuration	API コールに使用されるエンドポイントを解決するまでの時間。	時間*
MarshallingDuration	SDK リクエストを HTTP リクエストにマーシャリングするまでの時間。	時間*
OperationName	呼び出されるサービスオペレーションの名前。	String
RetryCount	SDK がリクエストの実行中に再試行した回数。0 は、リクエストが最初に成功し、再試行されなかったことを意味します。 再試行動作の設定については、「再試行戦略」を参照してください。	整数
ServiceId	サービスの一意の ID。	String
ServiceEndpoint	サービスのエンドポイント。	[URI]

メトリクス名	説明	タイプ
TokenFetchDuration	API コールの署名認証情報を取得するまでの時間。	時間*

*java.time.Duration.

リクエストの各試行について収集されたメトリクス

各 API コールでは、レスポンスが受信されるまでに複数回試行する必要がある場合があります。これらのメトリクスは、各試行について収集されます。

コアメトリクス

メトリクス名	説明	タイプ
AwsExtendedRequestId	サービスリクエストの拡張リクエスト ID。	String
AwsRequestId	サービスリクエストのリクエスト ID。	String
BackoffDelayDuration	この API コールが試行される前に SDK が待機した時間。値は、クライアントで設定された `BackoffStrategy` に基づきます。詳細については、このガイドの「再試行戦略」セクションを参照してください。	時間*
ErrorType	呼び出しの試行で発生したエラーのタイプ。 以下の値を指定できます。 • `Throttling` ：サービスがスロットリングエラーで応答しました。	String

メトリクス名	説明	タイプ
	• ServerError ：サービスがスロットリング以外のエラーで応答しました。 • ConfiguredTimeout ：API コールレベルまたは API コール試行レベルでクライアントのタイムアウトが発生しました。 • IO: API エラーが発生しました。 • Other: 上記のカテゴリリストのに該当しないその他のエラーです。	
ReadThroughput	NumberOfResponseBytesRead / (TTLB - TTFB) として定義されるクライアントの読み取りスループット。この値は 1 秒あたりのバイト数です。 このメトリクスは、ResponseTransformer または AsyncResponseTransformer 内から読み取られたバイトのみを測定することに注意してください。トランスフォーマーの結果としてレスポンスストリームが返される場合など、トランスフォーマーの外部で読み取られるデータは計算に含まれません。	Double

メトリクス名	説明	タイプ
WriteThroughput	クライアントの書き込みスループット。 として定義されますRequestBytesWritten / (LastByteWrittenTime - FirstByteWrittenTime）。この値は 1 秒あたりのバイト数です。 このメトリクスは、SDK がリクエストボディを HTTP クライアントに提供するレートを測定します。接続設定、TLS ハンドシェイク時間、サーバー処理時間は含まれません。このメトリクスは、S3 PutObject などのストリーミング本文を持つリクエストに対してのみ報告されます。 このメトリクスは、HTTP クライアントレイヤーでのバッファリングを考慮しないことに注意してください。HTTP クライアントが送信前にデータをバッファする場合、実際のネットワーク送信レートが低下する可能性があります。このメトリクスは、ネットワークスループットの上限を表します。	Double

メトリクス名	説明	タイプ
ServiceCallDuration	サービスへの接続 (または接続プールからの接続の取得) 、シリアル化されたリクエストの送信、最初のレスポンス (HTTP ステータスコードやヘッダーなど) の受信にかかる時間。これには、サービスからレスポンス全体を読み取る時間は含まれません。	時間*
SigningDuration	HTTP リクエストに署名するまでの時間。	時間*
TimeToFirstByte	サービスへの HTTP リクエストの送信 (接続の取得を含む) から、レスポンス内のヘッダーの最初のバイトを受信するまでの時間。	時間*
TimeToLastByte	サービスへの HTTP リクエストの送信 (接続の取得を含む) から、レスポンス内の最後のバイトを受信するまでの時間。 ストリーミングレスポンスを返す API の場合、このメトリクスは `ResponseTransformer` または `AsyncResponseTransformer` が完了するまでが対象となります。	時間*

メトリクス名	説明	タイプ
UnmarshallingDuration	SDK 応答に対する HTTP 応答のマーシャリングを解除するまでの時間。 注: ストリーミングオペレーションの場合、これにはレスポンスのペイロードを読み取る時間は含まれません。	時間*

*java.time.Duration.

HTTP メトリクス

メトリクス名	説明	タイプ	HTTP クライアントが必須です*
Available Concurrency	ターゲットサーバーへの新しい接続を確立せずに HTTP クライアントがサポートできる追加の同時リクエストの数。 HTTP/1 オペレーションの場合、これはサービスで確立されたアイドル状態の TCP 接続の数に等しくなります。HTTP/2 オペレーションの場合、これはアイドルストリームの数に等しくなります。 注: この値は HTTP クライアントの実装によって異なります。 • Apache クライアント: 値は HTTP クライアント全体に適用されます。 • Netty クライアント: 値はエンドポイントごとに適用されます。 • AWS CRT ベースのクライアント: 値はエンドポイントごとに適用されます	整数	アパッチ、Netty、CRT

メトリクス名	説明	タイプ	HTTP クライアントが必須です*
	値は個々の HTTP クライアントインスタンスに限定され、同じ JVM 内の他の HTTP クライアントからの同時実行を除外します。		
ConcurrencyAcquireDuration	接続プールからチャンネルを取得するまでの時間。 HTTP/1 オペレーションの場合、チャネルは TCP 接続に等しくなります。HTTP/2 オペレーションの場合、チャネルは HTTP/2 ストリームチャネルに等しくなります。 新しいチャネルの取得には、次の時間が含まれる場合があります。 1. クライアントの最大同時実行数設定によって制限されている同時実行の許可を待つ時間。 2. プールに既存の接続がない場合は、新しい接続を確立する時間。 3. TLS が有効になっている場合に、TLS ハンドシェイクとネゴシエーションを実行する時間。	時間*	アパッチ、Netty、CRT
HttpClientName	リクエストに使用されている HTTP の名前。	String	アパッチ、Netty、CRT
HttpStatusCode	HTTP レスポンスの ステータスコード。	整数	いずれか

メトリクス名	説明	タイプ	HTTP クライアントが必須です*
LeasedConcurrency	HTTP クライアントが現在実行しているリクエストの数。 HTTP/1 オペレーションの場合、これは サービスとのアクティブな TCP 接続の数 (アイドル接続を除く) に等しくなります。HTTP/2 オペレーションの場合、これはサービスに対してアクティブな HTTP ストリームの数に等しくなります (アイドルストリーム容量を除く)。 注: この値は HTTP クライアントの実装によって異なります。 • Apache クライアント: 値は HTTP クライアント全体に適用されます。 • Netty クライアント: 値はエンドポイントごとに適用されます。 • AWS CRT ベースのクライアント: 値はエンドポイントごとに適用されます 値は個々の HTTP クライアントインスタンスに限定され、同じ JVM 内の他の HTTP クライアントからの同時実行を除外します。	整数	アパッチ、Netty、CRT
LocalStreamWindowSize	このリクエストを実行したストリームのローカル HTTP/2 ウィンドウサイズ (バイト)。	整数	Netty

メトリクス名	説明	タイプ	HTTP クライアントが必須です*
MaxConcurrency	HTTP クライアントによってサポートされる同時リクエストの最大数。 HTTP/1 オペレーションの場合、これは HTTP クライアントがプールできる TCP 接続の最大数に等しくなります。HTTP/2 オペレーションの場合、これは HTTP クライアントがプールできるストリームの最大数に等しくなります。 注: この値は HTTP クライアントの実装によって異なります。 • Apache クライアント: 値は HTTP クライアント全体に適用されます。 • Netty クライアント: 値はエンドポイントごとに適用されます。 • AWS CRT ベースのクライアント: 値はエンドポイントごとに適用されます 値は個々の HTTP クライアントインスタンスに限定され、同じ JVM 内の他の HTTP クライアントからの同時実行を除外します。	整数	アパッチ、Netty、CRT

メトリクス名	説明	タイプ	HTTP クライアントが必須です*
PendingConcurrencyAcquires	HTTP クライアントからの同時実行を待機するリクエストの数。 HTTP/1 のオペレーションの場合、これは TCP 接続の確立待を待っている、または接続プールからの返却を待っているリクエスト数に等しくなります。HTTP/2 オペレーションの場合、これは接続プールからの新しいストリーム (場合によっては新しい HTTP/2 接続) を待っているリクエストの数に等しくなります。 注: この値は HTTP クライアントの実装によって異なります。 • Apache クライアント: 値は HTTP クライアント全体に適用されます。 • Netty クライアント: 値はエンドポイントごとに適用されます。 • AWS CRT ベースのクライアント: 値はエンドポイントごとに適用されます 値は個々の HTTP クライアントインスタンスに限定され、同じ JVM 内の他の HTTP クライアントからの同時実行を除外します。	整数	アパッチ、Netty、CRT
RemoteStreamWindowSize	このリクエストを実行したストリームのリモート HTTP/2 ウィンドウサイズ (バイト)	整数	Netty

*java.time.Duration.

列で使用されている用語の意味は以下のとおりです。

- Apache: アパッチベースの HTTP クライアント (`ApacheHttpClient`)
- Netty: Netty ベースの HTTP クライアント (`NettyNioAsyncHttpClient`)
- CRT: AWS CRT ベースの HTTP クライアント (`AwsCrtAsyncHttpClient`)
- 任意:メトリクスデータの収集は HTTP クライアントに依存しません。これには URLConnection ベースの HTTP クライアント (`UrlConnectionHttpClient`) も含まれます。

AWS SDK for Java 2.x アプリケーションのモニタリング

モニタリングは、AWS SDK for Java 2.x を使用するアプリケーションの信頼性、可用性、およびパフォーマンスを維持するうえで重要です。AWS は、SDK for Java 2.x をモニタリングし、問題が発生したときに報告を行い、必要に応じて自動アクションを実行するために、以下のモニタリングツールを提供しています。

- Amazon CloudWatch は、AWS のリソースおよび AWS で実行しているアプリケーションをリアルタイムでモニタリングします。メトリクスの収集と追跡、カスタマイズしたダッシュボードの作成、および指定したメトリクスが指定したしきい値に達したときに通知またはアクションを実行するアラームの設定を行うことができます。例えば、CloudWatch で Amazon EC2 インスタンスの CPU 使用率などのメトリクスを追跡し、必要に応じて新しいインスタンスを自動的に起動できます。詳細については、「Amazon CloudWatch ユーザーガイド」を参照してください。
- Amazon CloudWatch Logs では、Amazon EC2 インスタンス、CloudTrail、その他ソースから得たログファイルのモニタリング、保存、およびアクセスが可能です。CloudWatch Logs は、ログファイル内の情報をモニタリングし、特定のしきい値が満たされたときに通知します。高い耐久性を備えたストレージにログデータをアーカイブすることも可能です。詳細については、「Amazon CloudWatch Logs ユーザーガイド」を参照してください。
- AWS CloudTrail は、AWS アカウントにより、またはそのアカウントに代わって行われた API よルや関連イベントを取得し、指定した Amazon S3 バケットにログファイルを配信します。AWS を呼び出したユーザーとアカウント、呼び出し元の IP アドレス、および呼び出しの発生日時を特定できます。詳細については、AWS CloudTrailユーザーガイドを参照してください。

SDK for Java 2.x でのログ記録

は SLF4J AWS SDK for Java 2.x を使用します。これは、実行時に複数の口ギングシステムのいずれかを使用できるようにする抽象化レイヤーです。

サポートされるログ記録システムには、Java ログ記録 フレームワークおよび Apache Log4j 2 などがあります。このトピックでは、SDK を使用するためのログ記録システムとして Log4j 2 を使用する方法について説明します。

Log4j 2 設定ファイル

通常は `log4j2.xml` Log4j 2 という名前の設定ファイルを使用します。設定ファイルの例を次に示します。この設定ファイルで使用する値の詳細については、「Log4j 設定のマニュアル」を参照してください。

`log4j2.xml` ファイルは、アプリケーションの起動時にクラスパス上にある必要があります。Maven プロジェクトの場合は、ファイルを `<project-dir>/src/main/resources` ディレクトリに置きます。

`log4j2.xml` 設定ファイルは、ログ記録レベル、ログ記録出力の送信先 (ファイルまたはコンソールなど)、出力フォーマットなどのプロパティを指定します。ログ記録レベルは Log4j 2 が出力する詳細レベルを指定します。Log4j 2 では、複数のログ記録階層の概念をサポートしています。ログ記録レベルは、階層ごとに個別に設定されます。で使用する主なログ記録階層は AWS SDK for Java 2.x ですsoftware.amazon.awssdk。

ログ記録を追加する

構築ファイルで SLF4J の Log4j 2 バインディングを設定するには、以下を使用します。

Maven

次の要素を `pom.xml` ファイルに追加します。

```
...
<dependency>
   <groupId>org.apache.logging.log4j</groupId>
   <artifactId>log4j-slf4j2-impl</artifactId>
   <version>VERSION</version>
</dependency>
...
```

Gradle–Kotlin DSL

次のコードを `build.gradle.kts` ファイルに追加します。

```
...
dependencies {
```

```
    ...
    implementation("org.apache.logging.log4j:log4j-slf4j2-impl:VERSION")
    ...
}
...
```

log4j-slf4j2-impl アーティファクトの最小バージョンには 2.20.0 を使用します。最新バージョンには、Maven Central に公開されているバージョンを使用します。*VERSION* は、使用するバージョンに置き換えます。

SDK 固有のエラーおよび警告

SDK のクライアントライブラリからの重要なメッセージを取得するために、「software.amazon.awssdk」ロガー階層は必ず「WARN」に設定しておくことをお勧めします。例えば、アプリケーションで InputStream が正しく閉じられなかったためにリソースが漏洩する可能性があると Amazon S3 クライアントが検出した場合、S3 クライアントは警告メッセージを使用してログに報告します。これにより、リクエストやレスポンスの処理でクライアントに問題が発生した場合、メッセージが必ずログに記録されます。

以下の log4j2.xml ファイルでは、rootLogger を「WARN」に設定しています。これにより、「software.amazon.awssdk」階層内のロガーを含め、アプリケーション内のすべてのロガーからの警告およびエラーレベルのメッセージが出力されます。また、<Root level="ERROR"> が使用されている場合、明示的に「software.amazon.awssdk」ロガー階層を「WARN」に設定することもできます。

Log4j2.xml 設定ファイルの例

この設定では、すべてのロガー階層の「ERROR」レベルと「WARN」レベルのメッセージがコンソールにログ記録されます。

```
<Configuration status="WARN">
 <Appenders>
  <Console name="ConsoleAppender" target="SYSTEM_OUT">
   <PatternLayout pattern="%d{YYYY-MM-dd HH:mm:ss} [%t] %-5p %c:%L - %m%n" />
  </Console>
 </Appenders>

 <Loggers>
  <Root level="WARN">
   <AppenderRef ref="ConsoleAppender"/>
```

```
  </Root>
 </Loggers>
</Configuration>
```

リクエスト/応答の概要のログ記録

へのすべてのリクエストは、 AWS のサービス が AWS リクエストを処理する方法に問題がある場合に便利な一意のリクエスト ID AWS のサービス を生成します。 AWS リクエスト IDs「software.amazon.awssdk.request」ロガーの「DEBUG」ログレベルを介して報告することもできます。 SdkServiceException

次の log4j2.xml ファイルでは、リクエストとレスポンスの要約が有効になっています。

```
<Configuration status="WARN">
 <Appenders>
  <Console name="ConsoleAppender" target="SYSTEM_OUT">
   <PatternLayout pattern="%d{YYYY-MM-dd HH:mm:ss} [%t] %-5p %c:%L - %m%n" />
  </Console>
 </Appenders>

 <Loggers>
  <Root level="ERROR">
   <AppenderRef ref="ConsoleAppender"/>
  </Root>
  <Logger name="software.amazon.awssdk" level="WARN" />
  <Logger name="software.amazon.awssdk.request" level="DEBUG" />
 </Loggers>
</Configuration>
```

ログ出力の例を次に示します。

```
2022-09-23 16:02:08 [main] DEBUG software.amazon.awssdk.request:85 - Sending Request:
 DefaultSdkHttpFullRequest(httpMethod=POST, protocol=https, host=dynamodb.us-
east-1.amazonaws.com, encodedPath=/, headers=[amz-sdk-invocation-id, Content-Length,
 Content-Type, User-Agent, X-Amz-Target], queryParameters=[])
2022-09-23 16:02:08 [main] DEBUG software.amazon.awssdk.request:85 - Received
 successful response: 200, Request ID:
 QS9DUMME2NHEDH8TGT9N5V53OJVV4KQNSO5AEMVJF66Q9ASUAAJG, Extended Request ID: not
 available
```

リクエスト ID だけに興味がある場合は <Logger name="software.amazon.awssdk.requestId" level="DEBUG" /> を使用します。

デバッグレベルの SDK ログ記録

SDK の動作をより詳細に知る必要がある場合は、software.amazon.awssdk ロガーのログレベルを DEBUG に設定できます。このレベルでは、SDK は大量の詳細を出力するため、統合テストを使用してエラーを解消する際にこのレベルを設定することをお勧めします。

このログ記録レベルでは、SDK は設定、認証情報解決、実行インターセプター、高レベルの TLS アクティビティ、リクエスト署名などに関する情報をログに記録します。

以下は、 S3Client#listBuckets() 呼び出しに対して SDK によってDEBUG レベルで出力されるステートメントの例です。

```
DEBUG s.a.a.r.p.AwsRegionProviderChain:57 - Unable to load region from
 software.amazon.awssdk.regions.providers.SystemSettingsRegionProvider@324dcd31:Unable
 to load region from system settings. Region must be specified either via environment
 variable (AWS_REGION) or  system property (aws.region).
DEBUG s.a.a.c.i.h.l.ClasspathSdkHttpServiceProvider:85 - The HTTP implementation loaded
 is software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheSdkHttpService@a23a01d
DEBUG s.a.a.c.i.ExecutionInterceptorChain:85 - Creating an interceptor
 chain that will apply interceptors in the following order:
 [software.amazon.awssdk.core.internal.interceptor.HttpChecksumValidationInterceptor@69b2f8e5,
 software.amazon.awssdk.awscore.interceptor.HelpfulUnknownHostExceptionInterceptor@6331250e,
 software.amazon.awssdk.awscore.eventstream.EventStreamInitialRequestInterceptor@a10c1b5,
 software.amazon.awssdk.awscore.interceptor.TraceIdExecutionInterceptor@644abb8f,
 software.amazon.awssdk.services.s3.auth.scheme.internal.S3AuthSchemeInterceptor@1a411233,
 software.amazon.awssdk.services.s3.endpoints.internal.S3ResolveEndpointInterceptor@70325d20,
 software.amazon.awssdk.services.s3.endpoints.internal.S3RequestSetEndpointInterceptor@7c2327fa
 software.amazon.awssdk.services.s3.internal.handlers.StreamingRequestInterceptor@4d847d32,
 software.amazon.awssdk.services.s3.internal.handlers.CreateBucketInterceptor@5f462e3b,
 software.amazon.awssdk.services.s3.internal.handlers.CreateMultipartUploadRequestInterceptor@3
 software.amazon.awssdk.services.s3.internal.handlers.DecodeUrlEncodedResponseInterceptor@58065
 software.amazon.awssdk.services.s3.internal.handlers.GetBucketPolicyInterceptor@3605c4d3,
 software.amazon.awssdk.services.s3.internal.handlers.S3ExpressChecksumInterceptor@585c13de,
 software.amazon.awssdk.services.s3.internal.handlers.AsyncChecksumValidationInterceptor@187eb9
 software.amazon.awssdk.services.s3.internal.handlers.SyncChecksumValidationInterceptor@726a6b9
 software.amazon.awssdk.services.s3.internal.handlers.EnableTrailingChecksumInterceptor@6ad11a5
 software.amazon.awssdk.services.s3.internal.handlers.ExceptionTranslationInterceptor@522b2631,
 software.amazon.awssdk.services.s3.internal.handlers.GetObjectInterceptor@3ff57625,
 software.amazon.awssdk.services.s3.internal.handlers.CopySourceInterceptor@1ee29c84,
 software.amazon.awssdk.services.s3.internal.handlers.ObjectMetadataInterceptor@7c8326a4]
DEBUG s.a.a.u.c.CachedSupplier:85 - (SsoOidcTokenProvider()) Cached value is stale and
 will be refreshed.
...
```

```
DEBUG s.a.a.c.i.ExecutionInterceptorChain:85 - Creating an interceptor
 chain that will apply interceptors in the following order:
 [software.amazon.awssdk.core.internal.interceptor.HttpChecksumValidationInterceptor@51351f28,
 software.amazon.awssdk.awscore.interceptor.HelpfulUnknownHostExceptionInterceptor@21618fa7,
 software.amazon.awssdk.awscore.eventstream.EventStreamInitialRequestInterceptor@15f2eda3,
 software.amazon.awssdk.awscore.interceptor.TraceIdExecutionInterceptor@34cf294c,
 software.amazon.awssdk.services.sso.auth.scheme.internal.SsoAuthSchemeInterceptor@4d7aaca2,
 software.amazon.awssdk.services.sso.endpoints.internal.SsoResolveEndpointInterceptor@604b1e1d,
 software.amazon.awssdk.services.sso.endpoints.internal.SsoRequestSetEndpointInterceptor@625668
...
DEBUG s.a.a.request:85 - Sending Request: DefaultSdkHttpFullRequest(httpMethod=GET,
 protocol=https, host=portal.sso.us-east-1.amazonaws.com, encodedPath=/federation/
credentials, headers=[amz-sdk-invocation-id, User-Agent, x-amz-sso_bearer_token],
 queryParameters=[role_name, account_id])
DEBUG s.a.a.c.i.h.p.s.SigningStage:85 - Using SelectedAuthScheme: smithy.api#noAuth
DEBUG s.a.a.h.a.i.c.SdkTlsSocketFactory:366 - Connecting socket to portal.sso.us-
east-1.amazonaws.com/18.235.195.183:443 with timeout 2000
...
DEBUG s.a.a.requestId:85 - Received successful response: 200, Request ID: bb4f40f4-
e920-4b5c-8648-58f26e7e08cd, Extended Request ID: not available
DEBUG s.a.a.request:85 - Received successful response: 200, Request ID: bb4f40f4-
e920-4b5c-8648-58f26e7e08cd, Extended Request ID: not available
DEBUG s.a.a.u.c.CachedSupplier:85 -
 (software.amazon.awssdk.services.sso.auth.SsoCredentialsProvider@b965857) Successfully
 refreshed cached value. Next Prefetch Time: 2024-04-25T22:03:10.097Z. Next Stale Time:
 2024-04-25T22:05:30Z
DEBUG s.a.a.c.i.ExecutionInterceptorChain:85 - Interceptor
 'software.amazon.awssdk.services.s3.endpoints.internal.S3RequestSetEndpointInterceptor@7c2327f
 modified the message with its modifyHttpRequest method.
...
DEBUG s.a.a.c.i.h.p.s.SigningStage:85 - Using SelectedAuthScheme: aws.auth#sigv4
...
DEBUG s.a.a.a.s.Aws4Signer:85 - AWS4 Canonical Request: GET
...
DEBUG s.a.a.h.a.a.i.s.DefaultV4RequestSigner:85 - AWS4 String to sign: AWS4-HMAC-SHA256
20240425T210631Z
20240425/us-east-1/s3/aws4_request
aafb7784627fa7a49584256cb746279751c48c2076f813259ef767ecce304d64
DEBUG s.a.a.h.a.i.c.SdkTlsSocketFactory:366 - Connecting socket to s3.us-
east-1.amazonaws.com/52.217.41.86:443 with timeout 2000
...
```

次の log4j2.xml ファイルは、前の出力を設定します。

```
<Configuration status="WARN">
    <Appenders>
        <Console name="ConsoleAppender" target="SYSTEM_OUT">
            <PatternLayout pattern="%-5p %c{1.}:%L - %m%n" />
        </Console>
    </Appenders>

    <Loggers>
        <Root level="WARN">
            <AppenderRef ref="ConsoleAppender"/>
        </Root>
        <Logger name="software.amazon.awssdk" level="DEBUG" />
    </Loggers>
</Configuration>
```

ワイヤログの有効化

SDK for Java 2.x によって送受信された詳細なリクエストおよびレスポンスの表示は役に立つ場合があります。この情報にアクセスする必要がある場合は、サービスクライアントが使用する HTTP クライアントに応じて必要な設定を追加することで、一時的に有効にできます。

デフォルトでは、S3Client などの同期サービスクライアントは基盤となる Apache HttpClient を使用し、S3AsyncClient などの非同期サービスクライアントは Netty のノンブロッキング HTTP クライアントを使用します。

2 つのカテゴリーのサービスクライアントに使用できる HTTP クライアントの内訳は以下のとおりです。

同期 HTTP クライアント	非同期 HTTP クライアント
Apache5HttpClient (デフォルト)	NettyNioAsyncHttpClient (デフォルト)
UrlConnectionHttpClient	AwsCrtAsyncHttpClient
AwsCrtHttpClient	
ApacheHttpClient	

基盤となる HTTP クライアントに応じて追加が必要な設定については、以下の該当するタブを参照してください。

> **Warning**
>
> ワイヤログファイルはデバッグの目的でのみ使用することをお勧めします。この機能を使用して機密データを記録することができるため、本稼働環境ではこの機能を無効にします。HTTPS 呼び出しの場合でも、リクエストやレスポンスは暗号化せずに記録されます。大規模なリクエスト (ファイルのアップロード先など Amazon S3) やレスポンスの場合、詳細なワイヤログ記録もアプリケーションのパフォーマンスに大きな影響を与える可能性があります。

ApacheHttpClient

「org.apache.http.wire」ロガーを `log4j2.xml` 設定ファイルに追加し、レベルを「DEBUG」に設定します。

以下の `log4j2.xml` ファイルでは、Apache HttpClient ですべてのワイヤログ記録が有効になっています。

```
<Configuration status="WARN">
 <Appenders>
  <Console name="ConsoleAppender" target="SYSTEM_OUT">
   <PatternLayout pattern="%d{YYYY-MM-dd HH:mm:ss} [%t] %-5p %c:%L - %m%n" />
  </Console>
 </Appenders>

 <Loggers>
  <Root level="WARN">
   <AppenderRef ref="ConsoleAppender"/>
  </Root>
  <Logger name="software.amazon.awssdk" level="WARN" />
  <Logger name="software.amazon.awssdk.request" level="DEBUG" />
  <Logger name="org.apache.http.wire" level="DEBUG" />
 </Loggers>
</Configuration>
```

Apache では内部で 1.2 を使用しているため、Apache でのワイヤログ記録には `log4j-1.2-api` アーティファクトへの Maven 依存関係がさらに必要です。

Apache HTTP クライアントのワイヤログ記録を含む log4j 2 の Maven 依存関係のすべてのセットは、以下の構築ファイルスニペットに示されています。

Maven

```
...
<dependencyManagement>
    ...
    <dependencies>
        <dependency>
            <groupId>org.apache.logging.log4j</groupId>
            <artifactId>log4j-bom</artifactId>
            <version>VERSION</version>
            <type>pom</type>
            <scope>import</scope>
        </dependency>
     </dependencies>
</dependencyManagement>
...
<!-- The following is needed for Log4j2 with SLF4J -->
<dependency>
   <groupId>org.apache.logging.log4j</groupId>
   <artifactId>log4j-slf4j2-impl</artifactId>
</dependency>

<!-- The following is needed for Apache HttpClient wire logging -->
<dependency>
   <groupId>org.apache.logging.log4j</groupId>
   <artifactId>log4j-1.2-api</artifactId>
</dependency>
...
```

Gradle—Kotlin DSL

```
...
dependencies {
    ...
    implementation(platform("org.apache.logging.log4j:log4j-bom:VERSION"))
    implementation("org.apache.logging.log4j:log4j-slf4j2-impl")
    implementation("org.apache.logging.log4j:log4j-1.2-api")
}
...
```

2.20.0 アーティファクトの最小バージョンには log4j-bom を使用します。最新バージョンには、Maven Central に公開されているバージョンを使用します。*VERSION* は、使用するバージョンに置き換えます。

Apache5HttpClient

log4j2.xml 「org.apache.hc.client5.http.wire」ロガーを設定ファイルに追加し、レベルを「DEBUG」に設定します。

次のlog4j2.xmlファイルは、Apache5 HttpClient のフルワイヤログ記録を有効にします。

```
<Configuration status="WARN">
 <Appenders>
  <Console name="ConsoleAppender" target="SYSTEM_OUT">
   <PatternLayout pattern="%d{YYYY-MM-dd HH:mm:ss} [%t] %-5p %c:%L - %m%n" />
  </Console>
 </Appenders>

 <Loggers>
  <Root level="WARN">
   <AppenderRef ref="ConsoleAppender"/>
  </Root>
  <Logger name="software.amazon.awssdk" level="WARN" />
  <Logger name="software.amazon.awssdk.request" level="DEBUG" />
  <Logger name="org.apache.hc.client5.http.wire" level="DEBUG" />
 </Loggers>
</Configuration>
```

UrlConnectionHttpClient

UrlConnectionHttpClient を使用するサービスクライアントの詳細を口グ記録するには、まず以下の内容の logging.properties ファイルを作成します。

```
handlers=java.util.logging.ConsoleHandler
java.util.logging.ConsoleHandler.level=FINEST
sun.net.www.protocol.http.HttpURLConnection.level=ALL
```

以下の JVM システムプロパティに logging.properties のフルパスを設定します。

```
-Djava.util.logging.config.file=/full/path/to/logging.properties
```

この設定では、リクエストとレスポンスのヘッダーのみがログに記録されます。以下に例を示します。

```
<Request>  FINE: sun.net.www.MessageHeader@35a9782c11 pairs: {GET /fileuploadtest
 HTTP/1.1: null}{amz-sdk-invocation-id: 5f7e707e-4ac5-bef5-ba62-00d71034ffdc}
{amz-sdk-request: attempt=1; max=4}{Authorization: AWS4-HMAC-SHA256
 Credential=<deleted>/20220927/us-east-1/s3/aws4_request, SignedHeaders=amz-sdk-
invocation-id;amz-sdk-request;host;x-amz-content-sha256;x-amz-date;x-amz-te,
 Signature=e367fa0bc217a6a65675bb743e1280cf12fbe8d566196a816d948fdf0b42ca1a}{User-
Agent: aws-sdk-java/2.17.230 Mac_OS_X/12.5 OpenJDK_64-Bit_Server_VM/25.332-b08
 Java/1.8.0_332 vendor/Amazon.com_Inc. io/sync http/UrlConnection cfg/retry-mode/
legacy}{x-amz-content-sha256: UNSIGNED-PAYLOAD}{X-Amz-Date: 20220927T133955Z}{x-amz-
te: append-md5}{Host: tkhill-test1.s3.amazonaws.com}{Accept: text/html, image/gif,
 image/jpeg, *; q=.2, */*; q=.2}{Connection: keep-alive}
<Response> FINE: sun.net.www.MessageHeader@70a36a6611 pairs: {null: HTTP/1.1
 200 OK}{x-amz-id-2: sAFeZDOKdUMsBbkdjyDZw7P0oocb4C9KbiuzfJ6TWKQsGXHM/
dFuOvr2tUb7Y1wEHGdJ3DSIxq0=}{x-amz-request-id: P9QW9SMZ97FKZ9X7}{Date: Tue,
 27 Sep 2022 13:39:57 GMT}{Last-Modified: Tue, 13 Sep 2022 14:38:12 GMT}{ETag:
 "2cbe5ad4a064cedec33b452bebf48032"}{x-amz-transfer-encoding: append-md5}{Accept-
Ranges: bytes}{Content-Type: text/plain}{Server: AmazonS3}{Content-Length: 67}
```

リクエスト/レスポンスの本文を表示するには、JVM プロパティに `-Djavax.net.debug=all` を追加します。この追加プロパティは、すべての SSL 情報を含む大量の情報をログ記録します。

ログコンソールまたはログファイル内で、"GET" または "POST" を検索すると、実際のリクエストとレスポンスを含むログのセクションにすばやく移動できます。リクエストに "Plaintext before ENCRYPTION" を、レスポンスに "Plaintext after DECRYPTION" を検索すると、ヘッダーと本文の全文が表示されます。

NettyNioAsyncHttpClient

非同期サービスクライアントがデフォルト NettyNioAsyncHttpClient を使用している場合は、HTTP ヘッダーとリクエスト/レスポンスの本文をログ記録するロガーを `log4j2.xml` ファイルに 2 つ追加します。

```
<Logger name="io.netty.handler.logging" level="DEBUG" />
<Logger name="io.netty.handler.codec.http2.Http2FrameLogger" level="DEBUG" />
```

以下はすべての `log4j2.xml` の例です。

```
<Configuration status="WARN">
    <Appenders>
```

```
        <Console name="ConsoleAppender" target="SYSTEM_OUT">
            <PatternLayout pattern="%d{YYYY-MM-dd HH:mm:ss} [%t] %-5p %c:%L - %m
%n" />
        </Console>
    </Appenders>

    <Loggers>
        <Root level="WARN">
            <AppenderRef ref="ConsoleAppender"/>
        </Root>
        <Logger name="software.amazon.awssdk" level="WARN" />
        <Logger name="software.amazon.awssdk.request" level="DEBUG" />
        <Logger name="io.netty.handler.logging" level="DEBUG" />
        <Logger name="io.netty.handler.codec.http2.Http2FrameLogger" level="DEBUG" /
>
    </Loggers>
</Configuration>
```

これらの設定は、すべてのヘッダー詳細とリクエスト/レスポンス本文をログ記録します。

AwsCrtAsyncHttpClient/AwsCrtHttpClient

AWS CRT ベースの HTTP クライアントのインスタンスを使用するようにサービスクライアントを設定している場合は、JVM システムプロパティを設定するか、プログラムで詳細をログ記録できます。

Log to a file at "Debug" level

システムプロパティの使用:

```
-Daws.crt.log.leve
l=Trace
-Daws.crt.log.des
tination=File
-Daws.crt.log.fil
ename=<path to file>
```

プログラムによる:

```
import software.amazon.awssdk.crt.Log;

// Execute this statement before constructing the
 SDK service client.
Log.initLoggingToFile(Log.LogLevel.Trace,
 "<path to file>");
```

Log to the console at "Debug" level

システムプロパティの使用:

プログラムによる:

```
import software.amazon.awssdk.crt.Log;
```

```
-Daws.crt.log.leve
l=Trace
-Daws.crt.log.des
tination=Stdout
```

```
// Execute this statement before constructing the
 SDK service client.
Log.initLoggingToStdout(Log.LogLevel.Trace);
```

セキュリティ上の理由から、「トレース」レベルで AWS は、CRT ベースの HTTP クライアントはレスポンスヘッダーのみをログに記録します。リクエストヘッダー、リクエストボディ、レスポンスボディはログ記録されません。

AWS SDK for Java 2.x でのクライアントエンドポイントの設定

SDK for Java 2.x には、サービスエンドポイントを設定する複数の方法があります。エンドポイントは、SDK が AWS のサービス への API コールを行うために使用する URL です。デフォルトでは、SDK は設定した AWS リージョン に基づいて、各サービスに適したエンドポイントを自動的に決定します。ただし、これらのエンドポイントをカスタマイズまたは上書きする必要がある場合があります。

- ローカルまたはサードパーティーのサービス実装 (LocalStack など) の使用
- プロキシまたは VPC エンドポイントを介した AWS のサービス への接続
- ベータまたはプレリリースサービスエンドポイントに対するテスト

エンドポイント設定オプション

AWS SDK for Java 2.x には、エンドポイントを設定するいくつかの方法があります。

- サービスクライアントビルダーを使用したコード内設定
- 環境変数を使用した外部設定
- JVM システムプロパティを使用した外部設定
- 共有 AWS 設定ファイルを使用した外部設定

コード内エンドポイント設定

の使用**endpointOverride**

エンドポイントを設定する最も直接的な方法は、サービスクライアントビルダーで endpointOverride メソッドを使用することです。このメソッドは、カスタムエンドポイント URL を表す URI オブジェクトを受け入れます。

Example Amazon S3 クライアントのカスタムエンドポイントの設定

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import java.net.URI;

S3Client s3 = S3Client.builder()
        .region(Region.US_WEST_2)
        .endpointOverride(URI.create("https://my-custom-s3-endpoint.example.com"))
        .build();
```

endpointOverride を使用する場合、エンドポイントが明示的に設定されている場合も、クライアントのリージョンを指定する必要があります。リージョンは、リクエストの署名に使用されます。

エンドポイント検出

一部の AWS のサービス は、SDK が最適なエンドポイントを自動的に検出して使用できるエンドポイント検出をサポートしています。この機能は、サービスクライアントビルダーの endpointDiscoveryEnabled メソッドを使用して有効化または無効化できます。

Example DynamoDB クライアントのエンドポイント検出の有効化

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;

DynamoDbClient dynamoDb = DynamoDbClient.builder()
        .region(Region.US_WEST_2)
        .endpointDiscoveryEnabled(true)
        .build();
```

リクエストレベルのエンドポイント設定

場合によっては、デフォルトのエンドポイントで他のリクエストに同じクライアントを使用しつつ、特定のリクエストのエンドポイントを上書きする必要があります。AWS SDK for Java 2.x は、リクエストの上書きによってこれをサポートします。

Example特定のリクエストのエンドポイントの上書き

```
import software.amazon.awssdk.core.SdkRequest;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.http.SdkHttpRequest;

S3Client s3 = S3Client.builder()
        .region(Region.US_WEST_2)
        .build();

// Create a request
GetObjectRequest getObjectRequest = GetObjectRequest.builder()
        .bucket("amzn-s3-demo-bucket")
        .key("my-key")
        .overrideConfiguration(c -> c.putHeader("Host", "custom-endpoint.example.com"))
        .build();

// Execute the request with the custom endpoint
s3.getObject(getObjectRequest);
```

リクエストレベルのエンドポイント上書きは制限されており、一部のサービスやシナリオでは機能しない場合があります。ほとんどの場合、クライアントレベルのエンドポイント設定を使用することをお勧めします。

エンドポイントの外部設定

環境変数の使用

環境変数を使用してエンドポイントを設定できます。SDK は、`AWS_ENDPOINT_URL_[SERVICE]` 形式の環境変数を使用したサービス固有のエンドポイント設定をサポートします。ここで、`[SERVICE]` は大文字のサービス識別子です。

Example環境変数を使用した S3 エンドポイントの設定

```
# For Linux/macOS
export AWS_ENDPOINT_URL_S3=https://my-custom-s3-endpoint.example.com

# For Windows
set AWS_ENDPOINT_URL_S3=https://my-custom-s3-endpoint.example.com
```

次の環境変数を使用して、グローバルエンドポイント URL のプレフィックスまたはサフィックスを設定することもできます。

- AWS_ENDPOINT_URL - すべてのサービスのグローバルエンドポイントを設定します。
- AWS_ENDPOINT_URL_PREFIX - すべてのサービスエンドポイントにプレフィックスを追加します。
- AWS_ENDPOINT_URL_SUFFIX - すべてのサービスエンドポイントにサフィックスを追加します。

JVM システムプロパティの使用

JVM システムプロパティを使用してエンドポイントを設定することもできます。形式は環境変数と似ていますが、別の命名規則を使用します。

Example JVM システムプロパティを使用した S3 エンドポイントの設定

```
java -Daws.endpointUrl.s3=https://my-custom-s3-endpoint.example.com -jar your-
application.jar
```

システムプロパティを使用したグローバルエンドポイント設定も可能です。

- aws.endpointUrl - すべてのサービスのグローバルエンドポイントを設定します。
- aws.endpointUrl.prefix - すべてのサービスエンドポイントにプレフィックスを追加します。
- aws.endpointUrl.suffix - すべてのサービスエンドポイントにサフィックスを追加します。

共有 AWS 設定ファイルの使用

AWS SDK for Java 2.x は、共有 AWS 設定ファイルを介したエンドポイント設定もサポートします。設定ファイルは通常は `~/.aws/config` (Linux/macOS) または `%USERPROFILE%\.aws\config` (Windows) にあります。詳細と例については、「AWS SDK およびツールリファレンスガイド」を参照してください。

設定の優先順位

複数のエンドポイント設定が存在する場合、SDK は次の優先順位 (上位から下位) に従います。

1. リクエストレベルの上書き (該当する場合)
2. `endpointOverride` を介したクライアントレベルの設定
3. 環境変数
4. JVM システムプロパティ
5. 共有 AWS 設定ファイル
6. 設定された AWS リージョン に基づくデフォルトのエンドポイント

サービス固有のエンドポイント設定

一部の AWS のサービス には、そのサービスに固有の追加のエンドポイント設定オプションがあります。ここにいくつか例を挙げます。

Amazon S3 エンドポイント設定

Amazon S3 は、 `S3Configuration` クラスを使用した複数のエンドポイント設定をサポートしています。

- `dualstackEnabled` - IPv6 サポートを有効にします。
- `accelerateModeEnabled` - S3 Transfer Acceleration を有効にします。
- `pathStyleAccessEnabled` - 仮想ホスト形式の代わりにパス形式のアクセスを使用します。
- `useArnRegionEnabled` - クロスリージョンリクエストに ARN のリージョンを使用します。
- `fipsModeEnabled` - リクエストを FIPS 準拠のエンドポイントにルーティングします。

Example S3 固有エンドポイントオプションの設定

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Configuration;

S3Client s3 = S3Client.builder()
        .region(Region.US_WEST_2)
        .serviceConfiguration(S3Configuration.builder()
                .accelerateModeEnabled(true)
                .dualstackEnabled(true)
                .pathStyleAccessEnabled(false)
                .fipsModeEnabled(true)
                .build())
        .build();
```

DynamoDB エンドポイント設定

DynamoDB の場合、テストのためにエンドポイント検出を使用するか、DynamoDB local に接続できます。

Example DynamoDB local への接続

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import java.net.URI;

DynamoDbClient dynamoDb = DynamoDbClient.builder()
        .endpointOverride(URI.create("http://localhost:8000"))
        // The region is meaningless for DynamoDB local but required for the client
 builder.
        .region(Region.US_WEST_2)
        .build();
```

DynamoDB は、コードまたは外部設定を使用して設定できるアカウントベースのエンドポイントの使用もサポートしています。次の例は、クライアントの作成時にコードでアカウントベースのエンドポイントの使用を無効にする方法を示しています (デフォルト設定が推奨されます)。

```
DynamoDbClient dynamoDbClient = DynamoDbClient.builder()
    .region(Region.US_EAST_1)
    .accountIdEndpointMode(AccountIdEndpointMode.DISABLED)
```

```
    .build();
```

ベストプラクティス

AWS SDK for Java 2.x でエンドポイントを設定する場合は、次のベストプラクティスを考慮してください。

- 環境固有のエンドポイントに外部設定を使用する — 環境変数、システムプロパティ、または環境 (開発、テスト、本番稼働) に応じて異なるエンドポイントの AWS 設定ファイルを使用します。
- アプリケーション固有のエンドポイントにコード内設定を使用する — アプリケーションの設計に固有のエンドポイントには、クライアントビルダーの `endpointOverride` メソッドを使用します。
- 常にリージョンを指定する — エンドポイントを上書きするときも、リクエスト署名に使用されるリージョンを常に指定します。
- グローバルエンドポイントの上書きに注意する — グローバルエンドポイントの上書きを使用すると、意図しないサービスも含めたすべてのサービスに影響する可能性があります。
- セキュリティへの影響を考慮する — カスタムエンドポイントを使用する場合は、特に本番環境のワークロードに対して、適切なセキュリティ対策が講じられていることを確認してください。

で HTTP クライアントを設定する AWS SDK for Java 2.x

AWS SDK for Java 2.xで、サービスクライアントに使用する HTTP クライアントを変更するとともに、HTTP クライアントのデフォルト設定を変更できます。このセクションでは、HTTP クライアントおよび SDK を設定する方法について説明します。

Java の SDK で使用可能な HTTP クライアント

同期クライアント

SDK for Java の同期 HTTP クライアントは SdkHttpClient インターフェイスを実装しています。`S3Client` や `DynamoDbClient` などの同期サービスクライアントでは、同期 HTTP クライアントを使用する必要があります。 AWS SDK for Java には 3 つの同期 HTTP クライアントがあります。

Apache5HttpClient (デフォルト)

Apache5HttpClient は、Apache 5.x HttpClient 上に構築`ApacheHttpClient`された の更新バージョンです。 HttpClient バージョン 5.x は Apache によってアクティブに保守されてい

るバージョンであり、Java 21 の仮想スレッドサポートを含む最新の Java エコシステムの互換性と SLF4J によるログ記録2.46.0の柔軟性を強化ApacheHttpClientすることで、で使用される以前のバージョンが改善されています。 は AWS SDK for Java 2.x のバージョンのデフォルトの同期クライアントApacheHttpClientとしてApache5HttpClient置き換えられました。 SLF4J 同じ API と機能を備えているため、ドロップイン置換に最適です。Apache5HttpClient の設定の詳細については、「Apache 5.x ベースの HTTP クライアントを設定する」を参照してください。

ApacheHttpClient

> **Note**
>
> ApacheHttpClient Apache HttpClient 4.x はメンテナンスモードであるため、 は非推奨です。Apache HttpClient 5.x ベースの Apache5HttpClient を使用します。

ApacheHttpClient は Apache 4.x HttpClient 上に構築されています。ApacheHttpClient の設定の詳細については、「Apache ベースの HTTP クライアントの設定」を参照してください。

AwsCrtHttpClient

AwsCrtHttpClient は、高いスループットとノンブロッキング IO を提供します。これは、 AWS 共通ランタイム (CRT) Http クライアント上に構築されています。AwsCrtHttpClient の設定と、サービスクライアントと一緒に使用する方法については、「the section called “CRT AWS ベースの HTTP クライアントを設定する”」を参照してください。

UrlConnectionHttpClient

アプリケーションが使用する jar とサードパーティライブラリの数を最小限に抑えるには、UrlConnectionHttpClient を使用できます。UrlConnectionHttpClient の設定の詳細については、「URLConnection ベースの HTTP クライアントを設定する」を参照してください。

非同期クライアント

SDK for Java の非同期 HTTP クライアントは SdkAsyncHttpClient インターフェイスを実装しています。S3AsyncClient や DynamoDbAsyncClient などの非同期サービスクライアントでは、非同期 HTTP クライアントを使用する必要があります。 AWS SDK for Java には 2 つの非同期 HTTP クライアントがあります。

NettyNioAsyncHttpClient (デフォルト)

NettyNIOAsyncHttpClient は、非同期クライアントが使用するデフォルトの HTTP クライアントです。`NettyNioAsyncHttpClient` の設定の詳細については、「the section called “Netty ベースの HTTP クライアントの設定”」を参照してください。

AwsCrtAsyncHttpClient

AwsCrtAsyncHttpClient は、 AWS 共通ランタイム (CRT) HTTP クライアントに基づいています。`AwsCrtAsyncHttpClient` の設定の詳細については、「the section called “CRT AWS ベースの HTTP クライアントを設定する”」を参照してください。

HTTP クライアントの推奨事項

HTTP クライアントの実装を選択するには、いくつかの要因が関係します。決定には以下の情報を参考にしてください。

HTTP クライアントの比較

以下の表は、各 HTTP クライアントの詳細情報を示しています。

HTTP クライアント	同期または非同期	どのようなときに使うか	制限/欠点
Apache 5.x ベースの HTTP クライアント (デフォルトの同期 HTTP クライアント)	同期	高スループットよりも低レイテンシーを好む場合に使用します	他の HTTP クライアントと比較して起動時間が遅い
URLConnection ベースの HTTP クライアント	同期	サードパーティの依存関係を制限するという厳しい要件がある場合に使用します	• Amazon APIGateway Update オペレーションなどの一部の APIs で必要とされる HTTP PATCH メソッド

HTTP クライアント	同期または非同期	どのようなときに使うか	制限/欠点
			をサポートしていません • 設定可能なアイドル接続タイムアウトはサポートされていません。詳細については、URLConnection ベースの HTTP クライアントを設定する」を参照してください。
AWS CRT ベースの同期 HTTP クライアント[1]	同期	• アプリケーションが で実行されている場合に使用します。 AWS Lambda • 低レイテンシーよりも高スループットを好む場合に使用します • 同期 SDK クライアントを好む場合に使用します	以下の Java システムプロパティはサポートされなくなりました。 • javax.net.ssl.keyStore • javax.net.ssl.keyStorePassword • javax.net.ssl.trustStore • javax.net.ssl.trustStorePassword

HTTP クライアント	同期または非同期	どのようなときに使うか	制限/欠点
Netty ベースの HTTP クライアント (デフォルトの非同期 HTTP クライアント)	非同期	• アプリケーションが TLS 設定の Java システムプロパティ (など`javax.net.ssl.keyStore`) に依存している場合に使用します。	他の HTTP クライアントと比較して起動時間が遅い
AWS CRT ベースの非同期 HTTP クライアント[1]	非同期	• アプリケーションが AWS Lambda で実行されている場合に使用します • 低レイテンシーよりも高スループットを好む場合に使用します • 非同期 SDK クライアントを好む場合に使用します	以下の Java システムプロパティはサポートされなくなりました。 • javax.net.ssl.keyStore • javax.net.ssl.keyStorePassword • javax.net.ssl.trustStore • javax.net.ssl.trustStorePassword

[1]追加の利点があるため、可能であれば AWS CRT ベースの HTTP クライアントを使用することをお勧めします。

スマート設定のデフォルト

AWS SDK for Java 2.x (バージョン 2.17.102 以降) には、スマート設定のデフォルト機能が用意されています。この機能は、HTTP クライアントの 2 つのプロパティと HTTP クライアントに影響しない他のプロパティを最適化します。

スマート設定のデフォルトは、指定したデフォルトモードの値に基づいて、connectTimeoutInMillis および tlsNegotiationTimeoutInMillis プロパティに適切な値を設定します。デフォルトモードの値は、アプリケーションの特性に基づいて選択します。

スマート設定のデフォルトおよびアプリケーションに最適なデフォルトモードの値を選択する方法の詳細については、「AWS SDKs and Tools リファレンスガイド」を参照してください。

アプリケーションのデフォルトモードを設定する 4 つの方法は以下のとおりです。

Service client

サービスクライアントビルダーを使用して、サービスクライアントでデフォルトモードを直接設定します。以下の例は、DynamoDbClient のデフォルトモードの出力形式を auto に設定します。

```
DynamoDbClient ddbClient = DynamoDbClient.builder()
                           .defaultsMode(DefaultsMode.AUTO)
                           .build();
```

System property

aws.defaultsMode システムプロパティを使用してデフォルトモードを指定できます。Java でシステムプロパティを設定する場合は、サービスクライアントを初期化する前にプロパティを設定する必要があります。

以下の例は、Java のシステムプロパティを使用して auto にデフォルトモードを設定する方法を示しています。

```
System.setProperty("aws.defaultsMode", "auto");
```

以下の例は、java コマンドの -D オプションを使用して auto にデフォルトモードを設定する方法を示しています。

```
java -Daws.defaultsMode=auto
```

Environment variable

環境変数 AWS_DEFAULTS_MODE の値を設定して、アプリケーションのデフォルトモードを選択します。

以下の情報は、環境変数を使用して auto にデフォルトモードの値を設定するコマンドを示しています。

オペレーティングシステム	環境変数を設定するコマンド
Linux、macOS、または Unix	`export AWS_DEFAULTS_MODE=auto`
Windows	`set AWS_DEFAULTS_MODE=auto`

AWS config file

次の例に示すように、設定defaults_modeプロパティを共有 AWS configファイルに追加できます。

```
[default]
defaults_mode = auto
```

システムプロパティ、環境変数、または AWS 設定ファイルを使用してデフォルトモードをグローバルに設定すると、HTTP クライアントを構築するときに設定を上書きできます。

httpClientBuilder() メソッドで HTTP クライアントを構築すると、設定は構築するインスタンスにのみ適用されます。この例をこちらに示します。この例の Netty ベースの HTTP クライアントは、connectTimeoutInMillis および tlsNegotiationTimeoutInMillis にグローバルに設定されているデフォルトモード値のをすべて上書きします。

Apache ベースの HTTP クライアントの設定

> **Note**
>
> ApacheHttpClient Apache HttpClient 4.x はメンテナンスモードであるため、 は非推奨です。Apache HttpClient 5.x ベースの Apache5HttpClient を使用します。

SDK の ApacheHttpClientは Apache HttpClient 4.x に基づいています。

SDK には URLConnectionHttpClient も用意されており、ロードは速くなりますが、機能が少なくなっています。UrlConnectionHttpClient の設定の詳細については、「the section called "URLConnection ベースの HTTP クライアントを設定する"」を参照してください。

ApacheHttpClient で使用できるすべての設定オプションを確認するには、「ApacheHttpClient.Builder」と「ProxyConfiguration.Builder」を参照してください。

ApacheHttpClient へのアクセス

設定が必要です

を使用するにはApacheHttpClient、コンパイル時にapache-clientライブラリへの依存関係を追加する必要があります。

次の Maven pom.xml ファイルの例を参照して、「ApacheHttpClient」を設定します。

```
    <dependencyManagement>
        <dependencies>
            <dependency>
                <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
                <artifactId>bom</artifactId>
                <version>2.54.0</version>
                <type>pom</type>
                <scope>import</scope>
            </dependency>
        </dependencies>
    </dependencyManagement>
    <dependencies>
        <dependency>
            <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
            <artifactId>s3</artifactId>
        </dependency>
        <!-- By adding the apache-client dependency, ApacheHttpClient will be added to
             the compile classpath so you can configure it. -->
        <dependency>
            <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
            <artifactId>apache-client</artifactId>
        </dependency>
    </dependencies>
```

ApacheHttpClient を使用および設定する

サービスクライアントを構築すると同時に ApacheHttpClient のインスタンスを設定することも、複数のサービスクライアントで共有するために単一のインスタンスを設定することもできます。

いずれの方法でも、ApacheHttpClient.Builder を使用して Apache ベースの HTTP クライアントのプロパティを設定します。

ベストプラクティス: **ApacheHttpClient** インスタンスをサービスクライアント専用にする

ApacheHttpClient のインスタンスを設定する必要がある場合は、専有 ApacheHttpClient インスタンスを構築することをお勧めします。これを行うには、サービスクライアントのビルダーの httpClientBuilder メソッドを使用します。この方法では、HTTP クライアントのライフサイクルが SDK によって管理されるため、不要になったときに ApacheHttpClient インスタンスを閉じなかった場合にメモリリークが発生するのを防ぐことができます。

次の例では、S3Client を作成して、maxConnections と connectionTimeout の値で ApacheHttpClient の埋め込みインスタンス設定します。HTTP インスタンスは、S3Client.Builder のhttpClientBuilder メソッドを使用して作成されます。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import java.time.Duration;
```

コード

```
S3Client s3Client = S3Client   // Singleton: Use the s3Client for all requests.
    .builder()
    .httpClientBuilder(ApacheHttpClient.builder()
        .maxConnections(100)
        .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(5))
    ).build();

// Perform work with the s3Client.

s3Client.close();   // Requests completed: Close all service clients.
```

別の方法: **ApacheHttpClient** インスタンスを共有する

アプリケーションのリソースとメモリの使用量を低く抑えるため、ApacheHttpClient を設定して複数のサービスクライアント間で共有できます。HTTP 接続プールは共有されるため、リソースの使用量が少なくなります。

> **Note**
>
> ApacheHttpClient インスタンスを共有する場合、破棄の準備が整った時点でインスタンスを閉じる必要があります。サービスクライアントが閉じられても、SDK はインスタンスを閉じません。

次の例では、2 つのサービスクライアントで使用される Apache ベースの HTTP クライアントを設定します。設定された ApacheHttpClient インスタンスは、各ビルダーの httpClient メソッドに渡されます。サービスクライアントと HTTP クライアントが不要になると、コードによって明示的に閉じられます。HTTP クライアントは最後に閉じられます。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.http.SdkHttpClient;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
```

コード

```
SdkHttpClient apacheHttpClient = ApacheHttpClient.builder()
        .maxConnections(100).build();

// Singletons: Use the s3Client and dynamoDbClient for all requests.
S3Client s3Client =
    S3Client.builder()
            .httpClient(apacheHttpClient).build();

DynamoDbClient dynamoDbClient =
    DynamoDbClient.builder()
                  .httpClient(apacheHttpClient).build();

// Perform work with the s3Client and dynamoDbClient.

// Requests completed: Close all service clients.
s3Client.close();
dynamoDbClient.close();
apacheHttpClient.close();  // Explicitly close apacheHttpClient.
```

プロキシの設定例

次のコードスニペットは、Apache HTTP クライアントのプロキシ設定ビルダーを使用しています。

```
SdkHttpClient apacheHttpClient = ApacheHttpClient.builder()
                .proxyConfiguration(ProxyConfiguration.builder()
                        .endpoint(URI.create("http://example.com:1234"))
                        .username("username")
                        .password("password")
                        .addNonProxyHost("localhost")
                        .addNonProxyHost("host.example.com")
                        .build())
                .build();
```

プロキシ設定に対応する Java システムプロパティは、以下のコマンドラインスニペットに示されています。

```
$ java -Dhttp.proxyHost=example.com -Dhttp.proxyPort=1234 -Dhttp.proxyUser=username \
-Dhttp.proxyPassword=password -Dhttp.nonProxyHosts=localhost|host.example.com -cp ...
 App
```

環境変数を使用する同等のセットアップは次のとおりです。

```
// Set the following environment variables.
// $ export HTTP_PROXY="http://username:password@example.com:1234"
// $ export NO_PROXY="localhost|host.example.com"

// Set the 'useSystemPropertyValues' to false on the proxy configuration.
SdkHttpClient apacheHttpClient = ApacheHttpClient.builder()
                .proxyConfiguration(ProxyConfiguration.builder()
                        .useSystemPropertyValues(Boolean.FALSE)
                        .build())
                .build();

// Run the application.
// $ java -cp ... App
```

> **Note**
>
> Apache HTTP クライアントは現在 HTTPS プロキシシステムプロパティまたは HTTPS_PROXY 環境変数をサポートしていません。

URLConnection ベースの HTTP クライアントを設定する

AWS SDK for Java 2.x は、デフォルトの `UrlConnectionHttpClient` と比較して軽量の HTTP クライアントを提供しますApacheHttpClient。`UrlConnectionHttpClient` は Java `URLConnection` をベースにしています。

`UrlConnectionHttpClient` は Apache ベースの HTTP クライアントよりも読み取りが速くなりますが、機能は限られています。読み取りが速いため、Java AWS Lambda 関数に適したソリューションです。

`UrlConnectionHttpClient` には、アクセスができる設定可能なオプションがいくつかあります。

> **Note**
>
> `UrlConnectionHttpClient` は HTTP PATCH メソッドをサポートしていません。
> 少数の AWS API オペレーションには PATCH リクエストが必要です。これらのオペレーション名は通常、`Update*` で始まります。次にいくつかの例を示します。
>
> - AWS Security Hub CSPM API のいくつかのUpdate*オペレーションと BatchUpdateFindings オペレーション
> - すべての Amazon API Gateway API `Update*` オペレーション
>
> を使用する場合は`UrlConnectionHttpClient`、まず、 AWS のサービス 使用している の API リファレンスを参照してください。必要なオペレーションに PATCH オペレーションが使用されているかどうかを確認してください。

> **Note**
>
> `UrlConnectionHttpClient` は、設定可能なアイドル接続タイムアウトをサポートしていません。
> 接続プーリングは JVM によって内部的に管理されます。アイドルタイムアウトを設定するには、JVM システムプロパティ`http.keepAlive.time.server`を秒単位で目的の値に設定します。
>
> ```
> $ java -Dhttp.keepAlive.time.server=60 -cp ... App
> ```

これは、SDK クライアントだけでなく、プロセス内のすべてのHttpURLConnection使用状況に影響する JVM グローバル設定です。アイドル接続タイムアウトをクライアントごとに制御する必要がある場合は、 connectionMaxIdleTime設定ApacheHttpClientで を使用します。

`UrlConnectionHttpClient` へのアクセス

UrlConnectionHttpClient を設定して使用するには、pom.xml ファイル内の url-connection-client Maven アーティファクトへの依存関係を宣言します。

ApacheHttpClient とは異なり、UrlConnectionHttpClient はプロジェクトに自動的に追加されないため、明示的に宣言する必要があります。

次の pom.xml ファイル例は、HTTP クライアントの使用と設定に必要な依存関係を示しています。

```
<dependencyManagement>
   <dependencies>
        <dependency>
            <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
            <artifactId>bom</artifactId>
            <version>2.27.21</version>
            <type>pom</type>
            <scope>import</scope>
        </dependency>
    </dependencies>
</dependencyManagement>

<!-- other dependencies such as s3 or dynamodb -->

<dependencies>
    <dependency>
        <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
        <artifactId>url-connection-client</artifactId>
    </dependency>
</dependencies>
```

UrlConnectionHttpClient を使用および設定する

サービスクライアントを構築すると同時に UrlConnectionHttpClient のインスタンスを設定することも、単一インスタンスを複数のサービスクライアント間で共有するように設定することもできます。

どちらの方法でも、UrlConnectionHttpClient.Builder を使用して URLConnection ベースの HTTP クライアントのプロパティを設定します。

ベストプラクティス: **UrlConnectionHttpClient** インスタンスをサービスクライアント専有にする

UrlConnectionHttpClient のインスタンスを設定する必要がある場合は、専有 UrlConnectionHttpClient インスタンスを構築することをお勧めします。これを行うには、サービスクライアントのビルダーの httpClientBuilder メソッドを使用します。この方法では、HTTP クライアントのライフサイクルが SDK によって管理されるため、不要になったときに UrlConnectionHttpClient インスタンスを閉じなかった場合にメモリリークが発生するのを防ぐことができます。

次の例では、S3Client を作成して、socketTimeout と proxyConfiguration の値で UrlConnectionHttpClient の埋め込みインスタンス設定します。proxyConfiguration メソッドは、タイプ　Consumer<ProxyConfiguration.Builder> の Java Lambda 式を取ります。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.http.SdkHttpClient;
import software.amazon.awssdk.http.urlconnection.UrlConnectionHttpClient;
import java.net.URI;
import java.time.Duration;
```

コード

```
// Singleton: Use the s3Client for all requests.
S3Client s3Client =
    S3Client.builder()
            .httpClientBuilder(UrlConnectionHttpClient.builder()
                    .socketTimeout(Duration.ofMinutes(5))
                    .proxyConfiguration(proxy -> proxy.endpoint(URI.create("http://
proxy.mydomain.net:8888"))))
```

```
            .credentialsProvider(EnvironmentVariableCredentialsProvider.create())
            .build();

// Perform work with the s3Client.

s3Client.close();   // Requests completed: Close the s3client.
```

別の方法: **UrlConnectionHttpClient** インスタンスを共有する

アプリケーションのリソースとメモリの使用量を低く抑えるため、UrlConnectionHttpClient を設定して複数のサービスクライアント間で共有できます。HTTP 接続プールは共有されるため、リソースの使用量が少なくなります。

> **Note**
>
> UrlConnectionHttpClient インスタンスを共有する場合、破棄の準備が整った時点でインスタンスを閉じる必要があります。サービスクライアントが閉じられても、SDK はインスタンスを閉じません。

次の例では、2 つのサービスクライアントが使用する URLConnection ベースの HTTP クライアントを設定します。設定された UrlConnectionHttpClient インスタンスは、各ビルダーの httpClient メソッドに渡されます。サービスクライアントと HTTP クライアントが不要になると、コードによって明示的に閉じられます。HTTP クライアントは最後に閉じられます。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.EnvironmentVariableCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.awscore.defaultsmode.DefaultsMode;
import software.amazon.awssdk.http.SdkHttpClient;
import software.amazon.awssdk.http.urlconnection.ProxyConfiguration;
import software.amazon.awssdk.http.urlconnection.UrlConnectionHttpClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import java.net.URI;
import java.time.Duration;
```

コード

```
SdkHttpClient urlHttpClient = UrlConnectionHttpClient.create();
```

```
// Singletons: Use the s3Client and dynamoDbClient for all requests.
S3Client s3Client =
    S3Client.builder()
            .httpClient(urlHttpClient)
            .defaultsMode(DefaultsMode.IN_REGION)
            .credentialsProvider(EnvironmentVariableCredentialsProvider.create())
            .build();

DynamoDbClient dynamoDbClient =
    DynamoDbClient.builder()
                  .httpClient(urlHttpClient)
                  .defaultsMode(DefaultsMode.IN_REGION)
                  .credentialsProvider(EnvironmentVariableCredentialsProvider.create())
                  .build();

// Perform work with the s3Client and dynamoDbClient.

// Requests completed: Close all service clients.
s3Client.close();
dynamoDbClient.close();
urlHttpClient.close();
```

URLConnectionHttpClient と ApacheHttpClient を同時に使用する

アプリケーション内で UrlConnectionHttpClient を使用するときは、各サービスクライアントに URLConnectionHttpClient インスタンス、またはサービスクライアントビルダーの httpClientBuilder メソッドを使用して ApacheHttpClient インスタンスを提供する必要があります。

プログラムが複数のサービスクライアントを使用していて、次の両方に該当すると、例外が発生します。

- 1 つのサービスクライアントが UrlConnectionHttpClient のインスタンスを使用するように設定されています。
- 別のサービスクライアントは、httpClient() または httpClientBuilder() メソッドで明示的に構築せずにデフォルト ApacheHttpClient を使用します。

例外は、クラスパス上に複数の HTTP 実装が見つかったことを示します。

次のコードスニペット例では例外が発生します。

```
// The dynamoDbClient uses the UrlConnectionHttpClient
DynamoDbClient dynamoDbClient = DynamoDbClient.builder()
        .httpClient(UrlConnectionHttpClient.create())
        .build();

// The s3Client below uses the ApacheHttpClient at runtime, without specifying it.
// An SdkClientException is thrown with the message that multiple HTTP implementations
 were found on the classpath.
S3Client s3Client = S3Client.create();

// Perform work with the s3Client and dynamoDbClient.

dynamoDbClient.close();
s3Client.close();
```

S3Client を ApacheHttpClient で明示的に設定することで、例外を回避できます。

```
DynamoDbClient dynamoDbClient = DynamoDbClient.builder()
        .httpClient(UrlConnectionHttpClient.create())
        .build();

S3Client s3Client = S3Client.builder()
        .httpClient(ApacheHttpClient.create())    // Explicitly build the
 ApacheHttpClient.
        .build();

// Perform work with the s3Client and dynamoDbClient.

dynamoDbClient.close();
s3Client.close();
```

> **Note**
>
> ApacheHttpClient を明示的に作成するには、Maven プロジェクトファイル内の apache-client アーティファクトへの依存関係を追加する必要があります。

プロキシ設定例

次のコードスニペットでは、URL 接続 HTTP クライアントのプロキシ設定ビルダーを使用しています。

```
SdkHttpClient urlHttpClient = UrlConnectionHttpClient.builder()
                .proxyConfiguration(ProxyConfiguration.builder()
                        .endpoint(URI.create("http://example.com:1234"))
                        .username("username")
                        .password("password")
                        .addNonProxyHost("localhost")
                        .addNonProxyHost("host.example.com")
                        .build())
                .build();
```

プロキシ設定に対応する Java システムプロパティは、以下のコマンドラインスニペットに示されています。

```
$ java -Dhttp.proxyHost=example.com -Dhttp.proxyPort=1234 -Dhttp.proxyUser=username \
-Dhttp.proxyPassword=password -Dhttp.nonProxyHosts=localhost|host.example.com -cp ...
 App
```

環境変数を使用する同等のセットアップは次のとおりです。

```
// Set the following environment variables.
// $ export HTTP_PROXY="http://username:password@example.com:1234"
// $ export NO_PROXY="localhost|host.example.com"

// Set the 'useSystemPropertyValues' to false on the proxy configuration.
SdkHttpClient apacheHttpClient = UrlConnectionHttpClient.builder()
                .proxyConfiguration(ProxyConfiguration.builder()
                        .useSystemPropertyValues(Boolean.FALSE)
                        .build())
                .build();

// Run the application.
// $ java -cp ... App
```

> **Note**
>
> URL 接続 ベースの HTTP クライアントは、現在 HTTPS プロキシシステムプロパティまたは HTTPS_PROXY 環境変数をサポートしていません。

Netty ベースの HTTP クライアントの設定

の非同期オペレーションのデフォルトの HTTP クライアント AWS SDK for Java 2.x は、Netty ベースの NettyNioAsyncHttpClient です。Netty ベースのクライアントは、Netty プロジェクトの非同期イベント駆動型ネットワークフレームワークに基づいています。

別の HTTP クライアントとして、新しい AWS CRT ベースの HTTP クライアントを使用することもできます。このトピックでは、NettyNioAsyncHttpClient を設定する方法を示します。

`NettyNioAsyncHttpClient` へのアクセス

ほとんどの場合、非同期プログラムでは明示的な設定を行わずに NettyNioAsyncHttpClient を使用します。非同期サービスクライアントを宣言すると、SDK が標準値を使用して NettyNioAsyncHttpClient を自動的に設定します。

NettyNioAsyncHttpClient を明示的に設定したり、複数のサービスクライアントで使用したりする場合は、設定できるようにする必要があります。

設定が不要です

Maven でサービスクライアントへの依存関係を宣言すると、SDK は netty-nio-client アーティファクトにランタイム依存関係を追加します。これにより、コンパイル時ではなく、ランタイム時にその NettyNioAsyncHttpClient クラスをコードで使用できるようになります。Netty ベースの HTTP クライアントを設定しない場合は、そのクライアントへの依存関係を指定する必要はありません。

次の Maven pom.xml ファイルの XML スニペットでは、<artifactId>dynamodb-enhanced</artifactId> で宣言された依存関係によって Netty ベースの HTTP クライアントが推移的に取り込まれます。そのために依存関係を特別に宣言する必要はありません。

```
<dependencyManagement>
   <dependencies>
        <dependency>
            <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
            <artifactId>bom</artifactId>
            <version>2.27.21</version>
            <type>pom</type>
            <scope>import</scope>
        </dependency>
    </dependencies>
```

```
</dependencyManagement>
<dependencies>
    <dependency>
        <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
        <artifactId>dynamodb-enhanced</artifactId>
    </dependency>
</dependencies>
```

これらの依存関係では、NettyNioAsyncHttpClient ライブラリランタイムクラスパス上にのみ存在するため、HTTP 設定を変更することはできません。

設定が必要です

NettyNioAsyncHttpClient を設定するには、コンパイル時に netty-nio-client アーティファクトへの依存関係を追加する必要があります。

次の Maven pom.xml ファイルの例を参照して、「NettyNioAsyncHttpClient」を設定します。

```
    <dependencyManagement>
        <dependencies>
            <dependency>
                <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
                <artifactId>bom</artifactId>
                <version>2.27.21</version>
                <type>pom</type>
                <scope>import</scope>
            </dependency>
        </dependencies>
    </dependencyManagement>
    <dependencies>
        <dependency>
            <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
            <artifactId>dynamodb-enhanced</artifactId>
        </dependency>
        <!-- By adding the netty-nio-client dependency, NettyNioAsyncHttpClient will
 be
             added to the compile classpath so you can configure it. -->
        <dependency>
            <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
            <artifactId>netty-nio-client</artifactId>
        </dependency>
    </dependencies>
```

NettyNioAsyncHttpClient を使用および設定する

サービスクライアントを構築すると同時に NettyNioAsyncHttpClient のインスタンスを設定することも、複数のサービスクライアントで共有するために単一のインスタンスを設定することもできます。

どちらの方法でも、NettyNioAsyncHttpClient.Builder を使用して Netty ベースの HTTP クライアントインスタンスのプロパティを設定します。

ベストプラクティス: **NettyNioAsyncHttpClient** インスタンスをサービスクライアント専用にする

NettyNioAsyncHttpClient のインスタンスを設定する必要がある場合は、専有 NettyNioAsyncHttpClient インスタンスを構築することをお勧めします。これを行うには、サービスクライアントのビルダーの httpClientBuilder メソッドを使用します。この方法では、HTTP クライアントのライフサイクルが SDK によって管理されるため、不要になったときに NettyNioAsyncHttpClient インスタンスを閉じなかった場合にメモリリークが発生するのを防ぐことができます。

次の例では、DynamoDbEnhancedAsyncClient インスタンスが使用する DynamoDbAsyncClient インスタンスを作成します。DynamoDbAsyncClient インスタンスには、connectionTimeout と maxConcurrency 値を持つ NettyNioAsyncHttpClient インスタンスが含まれています。HTTP インスタンスは DynamoDbAsyncClient.Builder の httpClientBuilder メソッドを使用して作成されます。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.EnvironmentVariableCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.awscore.defaultsmode.DefaultsMode;
import software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.DynamoDbEnhancedAsyncClient;
import
 software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.extensions.AutoGeneratedTimestampRecordExtension;
import software.amazon.awssdk.http.nio.netty.NettyNioAsyncHttpClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbAsyncClient;
import java.time.Duration;
```

コード

```
// DynamoDbAsyncClient is the lower-level client used by the enhanced client.
DynamoDbAsyncClient dynamoDbAsyncClient =
    DynamoDbAsyncClient
```

```
        .builder()
            .httpClientBuilder(NettyNioAsyncHttpClient.builder()
            .connectionTimeout(Duration.ofMillis(5_000))
            .maxConcurrency(100)
            .tlsNegotiationTimeout(Duration.ofMillis(3_500)))
        .defaultsMode(DefaultsMode.IN_REGION)
        .credentialsProvider(EnvironmentVariableCredentialsProvider.create())
        .build();

// Singleton: Use dynamoDbAsyncClient and enhancedClient for all requests.
DynamoDbEnhancedAsyncClient enhancedClient =
    DynamoDbEnhancedAsyncClient
        .builder()
        .dynamoDbClient(dynamoDbAsyncClient)
        .extensions(AutoGeneratedTimestampRecordExtension.create())
        .build();

// Perform work with the dynamoDbAsyncClient and enhancedClient.

// Requests completed: Close dynamoDbAsyncClient.
dynamoDbAsyncClient.close();
```

代替アプローチ: **NettyNioAsyncHttpClient** インスタンスを共有する

アプリケーションのリソースとメモリの使用量を低く抑えるため、NettyNioAsyncHttpClient を構成して複数のサービスクライアント間で共有できます。HTTP 接続プールは共有されるため、リソースの使用量が少なくなります。

> **Note**
>
> NettyNioAsyncHttpClient インスタンスを共有する場合、それを破棄する準備が整った時点でインスタンスを閉じる必要があります。サービスクライアントが閉じられても、SDK はインスタンスを閉じません。

次の例では、2 つのサービスクライアントが使用する Netty ベースの HTTP クライアントを設定します。設定された NettyNioAsyncHttpClient インスタンスは、各ビルダーの httpClient メソッドに渡されます。サービスクライアントと HTTP クライアントが不要になると、コードによって明示的に閉じられます。HTTP クライアントは最後に閉じられます。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.http.SdkHttpClient;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
```

コード

```
// Create a NettyNioAsyncHttpClient shared instance.
SdkAsyncHttpClient nettyHttpClient =
 NettyNioAsyncHttpClient.builder().maxConcurrency(100).build();

// Singletons: Use the s3AsyncClient, dbAsyncClient, and enhancedAsyncClient for all
 requests.
S3AsyncClient s3AsyncClient =
    S3AsyncClient.builder()
                 .httpClient(nettyHttpClient)
                 .build();

DynamoDbAsyncClient dbAsyncClient =
    DynamoDbAsyncClient.builder()
                       .httpClient(nettyHttpClient)
                       .defaultsMode(DefaultsMode.IN_REGION)

 .credentialsProvider(EnvironmentVariableCredentialsProvider.create())
                       .build();

DynamoDbEnhancedAsyncClient enhancedAsyncClient =
    DynamoDbEnhancedAsyncClient.builder()
                               .dynamoDbClient(dbAsyncClient)

 .extensions(AutoGeneratedTimestampRecordExtension.create())
                               .build();

// Perform work with s3AsyncClient, dbAsyncClient, and enhancedAsyncClient.

// Requests completed: Close all service clients.
s3AsyncClient.close();
dbAsyncClient.close()
nettyHttpClient.close();  // Explicitly close nettyHttpClient.
```

ALPN プロトコルネゴシエーションの設定

ALPN (Application-Layer Protocol Negotiation) は、アプリケーションレイヤーがどのプロトコルを安全な接続で実行するかをネゴシエートして、追加のラウンドトリップを回避し、パフォーマンスを向上させることができるようにする TLS 拡張機能です。

Netty ベースの HTTP クライアントが ALPN を使用できるようにするには、次のスニペットに示すようにビルダーメソッドを呼び出します。

```
import software.amazon.awssdk.http.Protocol;
import software.amazon.awssdk.http.ProtocolNegotiation;
import software.amazon.awssdk.http.async.SdkAsyncHttpClient;
import software.amazon.awssdk.http.nio.netty.NettyNioAsyncHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.transcribestreaming.TranscribeStreamingAsyncClient;


// Configure the Netty-based HTTP client to use the ALPN protocol.
SdkAsyncHttpClient nettyClient = NettyNioAsyncHttpClient.builder()
                                                        .protocol(Protocol.HTTP2)

 .protocolNegotiation(ProtocolNegotiation.ALPN)
                                                        .build();
// Use the Netty-based HTTP client with a service client.
TranscribeStreamingAsyncClient transcribeClient =
 TranscribeStreamingAsyncClient.builder()

 .httpClient(nettyClient)

 .build();
```

前のスニペットに示すように、ALPN プロトコルネゴシエーションは現在 HTTP/2 プロトコルでのみ機能します。

プロキシの設定例

次のコードスニペットは Netty HTTP クライアントのプロキシ設定ビルダーを使用しています。

```
SdkAsyncHttpClient nettyHttpClient = NettyNioAsyncHttpClient.builder()
    .proxyConfiguration(ProxyConfiguration.builder()
        .scheme("https")
```

```
        .host("myproxy")
        .port(1234)
        .username("username")
        .password("password")
        .nonProxyHosts(Set.of("localhost", "host.example.com"))
        .build())
    .build();
```

プロキシ設定に対応する Java システムプロパティは、以下のコマンドラインスニペットに示されています。

```
$ java -Dhttps.proxyHost=myproxy -Dhttps.proxyPort=1234 -Dhttps.proxyUser=username \
-Dhttps.proxyPassword=password -Dhttp.nonProxyHosts=localhost|host.example.com -cp ...
 App
```

> **Important**
>
> HTTPS プロキシのシステムプロパティのいずれかを使用するには、scheme プロパティをコード内で https に設定する必要があります。スキームプロパティがコードで設定されていない場合、スキームのデフォルトは HTTP になり、SDK は http.* システムプロパティのみを検索します。

環境変数を使用する同等のセットアップは次のとおりです。

```
// Set the following environment variables.
// $ export HTTPS_PROXY="https://username:password@myproxy:1234"
// $ export NO_PROXY="localhost|host.example.com"

// Set the 'useSystemPropertyValues' to false on the proxy configuration.
SdkAsyncHttpClient nettyHttpClient = NettyNioAsyncHttpClient.builder()
    .proxyConfiguration(ProxyConfiguration.builder()
        .useSystemPropertyValues(Boolean.FALSE)
        .build())
    .build();

// Run the application.
// $ java -cp ... App
```

CRT AWS ベースの HTTP クライアントを設定する

AWS CRT ベースの HTTP クライアントには、同期 AwsCrtHttpClient と非同期 AwsCrtAsyncHttpClient が含まれます。 AWS CRT ベースの HTTP クライアントには、次の HTTP クライアントの利点があります。

- SDK 起動時間の短縮
- より小さなメモリフットプリント
- レイテンシータイムの短縮
- 接続のヘルス管理
- DNS ロードバランサー

AWS SDK の CRT ベースのコンポーネント

このトピックで説明されている AWS CRT ベースの HTTP クライアントと AWS CRT ベースの S3 クライアントは SDK の異なるコンポーネントです。

同期および非同期のAWS CRT ベースの HTTP クライアントは、SDK HTTP インターフェイスを実装したもので、一般的な HTTP 通信に使用されます。これらは SDK の他の同期 または 非同期の HTTP クライアントに代わるものですが、その他の利点もあります。

AWS CRT ベースの S3 クライアントは S3AsyncClient インターフェイスの実装であり、Amazon S3 サービスを利用するために使用されます。これは `S3AsyncClient` インターフェースの Java ベース実装に代わるもので、いくつかの利点があります。

どちらのコンポーネントも AWS Common Runtime のライブラリを使用していますが、CRT AWS ベースの HTTP クライアントは aws-c-s3 ライブラリを使用しておらず、S3 マルチパートアップロード API 機能もサポートしていません。対照的に、 AWS CRT ベースの S3 クライアントは、S3 マルチパートアップロード API 機能をサポートするように専用に構築されました。

CRT AWS ベースの HTTP クライアントにアクセスする

CRT AWS ベースの HTTP クライアントを使用する前に、最小バージョン 2.22.0 の`aws-crt-client`アーティファクトをプロジェクトの依存関係に追加します。

Maven `pom.xml` ファイルをセットアップするには、次のいずれかのオプションを使用します。

> **Note**
>
> アプリケーションが AWS Lambda 関数で実行されている場合など、ランタイム依存関係のサイズを小さくする必要がある場合は、プラットフォーム固有の jar オプションを使用できます。

Uber-jar option

デフォルトでは、 は Linux、Windows、macOS AWS など、複数のプラットフォームのバイナリを含む CRT アーティファクトの uber-jar `aws-crt-client`を使用します。

```
<project>
   <properties>
     <aws.sdk.java.version>2.29.10*</aws.sdk.java.version>
  </properties>
  <dependencyManagement>
   <dependencies>
      <dependency>
        <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
        <artifactId>bom</artifactId>
        <version>${aws.sdk.version}</version>
        <type>pom</type>
        <scope>import</scope>
      </dependency>
   </dependencies>
  </dependencyManagement>
  <dependencies>
   <dependency>
      <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
      <artifactId>aws-crt-client</artifactId>
   </dependency>
  </dependencies>
</project>
```

*赤で示されているバージョンを、使用する Java SDK のバージョンに置き換えてください。Maven Central で最新最新バージョンを見つけます。

Platform-specific jar option

Java ランタイムをプラットフォーム固有のバージョンの CRT AWS ライブラリに制限するには、Uber-jar オプションに次の変更を加えます。

- SDK のaws-crt-client アーティファクトに exclusions 要素を追加します。この除外により、SDK が CRT AWS uber-jar を推移的に使用できなくなります。
- 必要な特定の CRT AWS プラットフォームバージョンの依存関係要素を追加します。正しいバージョンを決定する方法については、以下のステップを参照して CRT AWS アーティファクトのバージョンを確認してください。

```
<project>
   <properties>
     <aws.sdk.java.version>2.29.10[1]</aws.sdk.java.version>
  </properties>
   <dependencyManagement>
        <dependencies>
            <dependency>
                <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
                <artifactId>bom</artifactId>
                <version>${aws.sdk.java.version}</version>
                <type>pom</type>
                <scope>import</scope>
            </dependency>
        </dependencies>
    </dependencyManagement>
    <dependencies>
        <dependency>
            <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
            <artifactId>aws-crt-client</artifactId>
            <exclusions>
                <exclusion>
                    <groupId>software.amazon.awssdk.crt</groupId>
                    <artifactId>aws-crt</artifactId>
                </exclusion>
            </exclusions>
        </dependency>
        <dependency>
            <groupId>software.amazon.awssdk.crt</groupId>
            <artifactId>aws-crt</artifactId>
            <version>0.31.3[2]</version>
            <classifier>linux-x86_64[3]</classifier>
        </dependency>
    </dependencies>
```

[1]赤で示されているバージョンを、使用する Java SDK のバージョンに置き換えてください。Maven Central で最新最新バージョンを見つけます。

[2]Uber-jar オプションによって提供される `software.amazon.awssdk.crt:aws-crt` のバージョンを置き換えてください。 AWS CRT アーティファクトのバージョンを確認するには、次のステップを参照してください。

[3]`classifier` の値をお使いのプラットフォームの値に置き換えてください。使用可能な値のリストについては、Java GitHub の AWS CRT ページを参照してください。

CRT AWS アーティファクトのバージョンを決定する手順

次の手順を使用して、使用している SDK for Java AWS のバージョンと互換性のある CRT アーティファクトのバージョンを確認します。

1. Uber-jar オプションに示すように、 `pom.xml` ファイルを設定します。この設定により、デフォルトでどのバージョンの `software.amazon.awssdk.crt:aws-crt` が SDK に導入されているかを確認できます。
2. プロジェクトのルート (`pom.xml` ファイルと同じディレクトリ) で、次の Maven コマンドを実行します。

   ```
   mvn dependency:tree -Dincludes=software.amazon.awssdk.crt:aws-crt
   ```

   Maven は他のアクションを実行する場合がありますが、最後に SDK が推移的に使用する `software.amazon.awssdk.crt:aws-crt` 依存関係のコンソール出力が表示されます。次のスニペットは、SDK のバージョン `2.29.10` に基づくサンプル出力を示しています。

   ```
   [INFO] org.example:yourProject:jar:1.0-SNAPSHOT
   [INFO] \- software.amazon.awssdk:aws-crt-client:jar:2.29.10:compile
   [INFO]    \- software.amazon.awssdk.crt:aws-crt:jar:0.31.3:compile
   ```

3. コンソールが `software.amazon.awssdk.crt:aws-crt` アーティファクトに対して表示するバージョンを使用します。この場合、`0.31.3` を `pom.xml` ファイルに追加します。

CRT AWS ベースの HTTP クライアントの使用と設定

サービスクライアントの構築とともに CRT AWS ベースの HTTP クライアントを設定することも、複数のサービスクライアント間で共有するように 1 つのインスタンスを設定することもできます。

どちらの方法でも、ビルダーを使用して CRT AWS ベースの HTTP クライアントインスタンスのプロパティを設定します。

ベストプラクティス: インスタンスをサービスクライアント専有にする

AWS CRT ベースの HTTP クライアントのインスタンスを設定する必要がある場合は、サービスクライアント と一緒にインスタンスを構築して専有することをお勧めします。これを行うには、サービスクライアントのビルダーの `httpClientBuilder` メソッドを使用します。これにより、HTTP クライアントのライフサイクルは SDK AWS によって管理されるため、不要になった CRT ベースの HTTP クライアントインスタンスが閉じられない場合にメモリリークが発生する可能性を回避できます。

次の例では、S3 サービスクライアントを作成し、 `connectionTimeout` 値と `maxConcurrency`値を使用して AWS CRT ベースの HTTP クライアントを設定します。

Synchronous client

インポート

```
import software.amazon.awssdk.http.crt.AwsCrtHttpClient;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import java.time.Duration;
```

コード

```
// Singleton: Use s3Client for all requests.
S3Client s3Client = S3Client.builder()
    .httpClientBuilder(AwsCrtHttpClient
        .builder()
        .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(3))
        .maxConcurrency(100))
    .build();

// Perform work with the s3Client.

// Requests completed: Close the s3Client.
s3Client.close();
```

Asynchronous client

インポート

```
import software.amazon.awssdk.http.crt.AwsCrtAsyncHttpClient;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3AsyncClient;
import java.time.Duration;
```

コード

```
// Singleton: Use s3AsyncClient for all requests.
S3AsyncClient s3AsyncClient = S3AsyncClient.builder()
    .httpClientBuilder(AwsCrtAsyncHttpClient
        .builder()
        .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(3))
        .maxConcurrency(100))
    .build();

// Perform work with the s3AsyncClient.

// Requests completed: Close the s3AsyncClient.
s3AsyncClient.close();
```

別の方法: インスタンスを共有する

アプリケーションのリソースとメモリの使用量を減らすために、CRT AWS ベースの HTTP クライアントを設定し、複数のサービスクライアント間で共有できます。HTTP 接続プールは共有されるため、リソースの使用量が少なくなります。

> **Note**
>
> AWS CRT ベースの HTTP クライアントインスタンスを共有する場合は、破棄する準備ができたらインスタンスを閉じる必要があります。サービスクライアントが閉じられても、SDK はインスタンスを閉じません。

次の例では、 `connectionTimeout` と `maxConcurrency`の値を使用して AWS CRT ベースの HTTP クライアントインスタンスを設定します。設定された `httpClient` インスタンスは、各サービスクライアントのビルダーのメソッドに渡されます。サービスクライアントと HTTP クライアントが不要になると、それらは明示的に閉じられます。HTTP クライアントは最後に閉じられます。

Synchronous client

インポート

```
import
 software.amazon.awssdk.auth.credentials.EnvironmentVariableCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.awscore.defaultsmode.DefaultsMode;
import software.amazon.awssdk.http.SdkHttpClient;
import software.amazon.awssdk.http.crt.AwsCrtHttpClient;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import java.time.Duration;
```

コード

```
// Create an AwsCrtHttpClient shared instance.
SdkHttpClient crtHttpClient = AwsCrtHttpClient.builder()
    .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(3))
    .maxConcurrency(100)
    .build();

// Singletons: Use the s3Client and dynamoDbClient for all requests.
S3Client s3Client = S3Client.builder()
    .httpClient(crtHttpClient)
    .credentialsProvider(EnvironmentVariableCredentialsProvider.crea
    .defaultsMode(DefaultsMode.IN_REGION)
    .region(Region.US_EAST_1)
    .build();

DynamoDbClient dynamoDbClient = DynamoDbClient.builder()
    .httpClient(crtHttpClient)
    .credentialsProvider(EnvironmentVariableCredentialsProvider.crea
    .defaultsMode(DefaultsMode.IN_REGION)
    .region(Region.US_EAST_1)
    .build();

// Requests completed: Close all service clients.
s3Client.close();
dynamoDbClient.close();
crtHttpClient.close();  // Explicitly close crtHttpClient.
```

Asynchronous client

インポート

```
import
 software.amazon.awssdk.auth.credentials.EnvironmentVariableCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.awscore.defaultsmode.DefaultsMode;
import software.amazon.awssdk.http.async.SdkAsyncHttpClient;
import software.amazon.awssdk.http.crt.AwsCrtAsyncHttpClient;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbAsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3AsyncClient;
import java.time.Duration;
```

コード

```
// Create an AwsCrtAsyncHttpClient shared instance.
SdkAsyncHttpClient crtAsyncHttpClient = AwsCrtAsyncHttpClient.builder()
    .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(3))
    .maxConcurrency(100)
    .build();

// Singletons: Use the s3AsyncClient and dynamoDbAsyncClient for all requests.
S3AsyncClient s3AsyncClient = S3AsyncClient.builder()
    .httpClient(crtAsyncHttpClient)
    .credentialsProvider(EnvironmentVariableCredentialsProvider.create())
    .defaultsMode(DefaultsMode.IN_REGION)
    .region(Region.US_EAST_1)
    .build();

DynamoDbAsyncClient dynamoDbAsyncClient = DynamoDbAsyncClient.builder()
    .httpClient(crtAsyncHttpClient)
    .credentialsProvider(EnvironmentVariableCredentialsProvider.create())
    .defaultsMode(DefaultsMode.IN_REGION)
    .region(Region.US_EAST_1)
    .build();

// Requests completed: Close all service clients.
s3AsyncClient.close();
dynamoDbAsyncClient.close();
crtAsyncHttpClient.close();  // Explicitly close crtAsyncHttpClient.
```

CRT AWS ベースの HTTP クライアントをデフォルトとして設定する

Maven ビルドファイルは、サービスクライアントのデフォルトの HTTP クライアントとして SDK が AWS CRT ベースの HTTP クライアントを使用するように設定できます。

そのためには、デフォルトの HTTP クライアント依存関係を持つ `exclusions` 要素を各サービスクライアントアーティファクトに追加します。

次の`pom.xml`例では、SDK は S3 サービスに AWS CRT ベースの HTTP クライアントを使用します。コード内のサービスクライアントが `S3AsyncClient` の場合、SDK は `AwsCrtAsyncHttpClient` を使用します。サービスクライアントが S3Client の場合、SDK は `AwsCrtHttpClient` を使用します。この設定では、デフォルトの Netty ベースの非同期 HTTP クライアントと、デフォルトの Apache ベースの同期 HTTP は使用できません。

```
<project>
   <properties>
     <aws.sdk.version>VERSION</aws.sdk.version>
  </properties>
  <dependencies>
   <dependency>
      <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
      <artifactId>s3</artifactId>
      <version>${aws.sdk.version}</version>
      <exclusions>
         <exclusion>
            <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
            <artifactId>netty-nio-client</artifactId>
         </exclusion>
         <exclusion>
            <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
            <artifactId>apache-client</artifactId>
         </exclusion>
      </exclusions>
   </dependency>
   <dependency>
      <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
      <artifactId>aws-crt-client</artifactId>
   </dependency>
  </dependencies>
</project>
```

Maven central リポジトリにアクセスして、最新の#####値を確認します。

> **Note**
>
> 1 つの pom.xml ファイル内で複数のサービスクライアントが宣言されている場合は、すべて exclusions XML 要素を必要とします。

Java システムプロパティを使用する

アプリケーションのデフォルトの HTTP として AWS CRT ベースの HTTP クライアントを使用するには、Java システムプロパティsoftware.amazon.awssdk.http.async.service.implを の値に設定できますsoftware.amazon.awssdk.http.crt.AwsCrtSdkHttpService。

アプリケーションの起動時に設定するには、次のようなコマンドを実行します。

```
java app.jar -Dsoftware.amazon.awssdk.http.async.service.impl=\
software.amazon.awssdk.http.crt.AwsCrtSdkHttpService
```

次のコードスニペットを使用して、アプリケーションコードでシステムプロパティを設定します。

```
System.setProperty("software.amazon.awssdk.http.async.service.impl",
"software.amazon.awssdk.http.crt.AwsCrtSdkHttpService");
```

> **Note**
>
> システムプロパティを使用して AWS CRT ベースの HTTP クライアントの使用を設定するときは、 poml.xml ファイル内のaws-crt-clientアーティファクトへの依存関係を追加する必要があります。

CRT AWS ベースの HTTP クライアントの高度な設定

接続ヘルス設定や最大アイドル時間など、CRT AWS ベースの HTTP クライアントのさまざまな設定を使用できます。AwsCrtAsyncHttpClient で利用可能な設定オプションを確認できます。AwsCrtHttpClient にも同じオプションを設定できます。

接続のヘルス設定

HTTP クライアントビルダーの connectionHealthConfigurationメソッドを使用して、CRT AWS ベースの HTTP クライアントの接続ヘルス設定を構成できます。

次の例では、接続ヘルス設定と接続の最大アイドル時間で設定された AWS CRT ベースの HTTP クライアントインスタンスを使用する S3 サービスクライアントを作成します。

Synchronous client

インポート

```
import software.amazon.awssdk.http.crt.AwsCrtHttpClient;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import java.time.Duration;
```

コード

```
// Singleton: Use the s3Client for all requests.
S3Client s3Client = S3Client.builder()
    .httpClientBuilder(AwsCrtHttpClient
        .builder()
        .connectionHealthConfiguration(builder -> builder
            .minimumThroughputInBps(32000L)
            .minimumThroughputTimeout(Duration.ofSeconds(3)))
        .connectionMaxIdleTime(Duration.ofSeconds(5)))
    .build();

// Perform work with s3Client.

// Requests complete: Close the service client.
s3Client.close();
```

Asynchronous client

インポート

```
import software.amazon.awssdk.http.crt.AwsCrtAsyncHttpClient;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3AsyncClient;
import java.time.Duration;
```

コード

```
// Singleton: Use the s3AsyncClient for all requests.
S3AsyncClient s3AsyncClient = S3AsyncClient.builder()
    .httpClientBuilder(AwsCrtAsyncHttpClient
```

```
        .builder()
        .connectionHealthConfiguration(builder -> builder
            .minimumThroughputInBps(32000L)
            .minimumThroughputTimeout(Duration.ofSeconds(3)))
        .connectionMaxIdleTime(Duration.ofSeconds(5)))
    .build();

// Perform work with s3AsyncClient.

// Requests complete: Close the service client.
s3AsyncClient.close();
```

プロキシの設定例

次のコードスニペットは、コード内でプロキシの設定を行うために使用する [ProxyConfiguration.Builder] の使用方法を示しています。

Synchronous client

インポート

```
import software.amazon.awssdk.http.SdkHttpClient;
import software.amazon.awssdk.http.crt.AwsCrtHttpClient;
import software.amazon.awssdk.http.crt.ProxyConfiguration;
```

コード

```
SdkHttpClient crtHttpClient = AwsCrtHttpClient.builder()
    .proxyConfiguration(ProxyConfiguration.builder()
        .scheme("https")
        .host("myproxy")
        .port(1234)
        .username("username")
        .password("password")
        .nonProxyHosts(Set.of("localhost", "host.example.com"))
        .build())
    .build();
```

Asynchronous client

インポート

```
import software.amazon.awssdk.http.async.SdkAsyncHttpClient;
import software.amazon.awssdk.http.crt.AwsCrtAsyncHttpClient;
import software.amazon.awssdk.http.crt.ProxyConfiguration;
```

コード

```
SdkAsyncHttpClient crtAsyncHttpClient = AwsCrtAsyncHttpClient.builder()
    .proxyConfiguration(ProxyConfiguration.builder()
        .scheme("https")
        .host("myproxy")
        .port(1234)
        .username("username")
        .password("password")
        .nonProxyHosts(Set.of("localhost", "host.example.com"))
        .build())
    .build();
```

プロキシ設定に対応する Java システムプロパティは、以下のコマンドラインスニペットに示されています。

```
$ java -Dhttps.proxyHost=myproxy -Dhttps.proxyPort=1234 -Dhttps.proxyUser=username \
-Dhttps.proxyPassword=password -Dhttp.nonProxyHosts=localhost|host.example.com -cp ...
 App
```

> **Important**
>
> HTTPS プロキシのシステムプロパティのいずれかを使用するには、scheme プロパティをコード内で https に設定する必要があります。スキームプロパティがコードで設定されていない場合、スキームのデフォルトは HTTP になり、SDK は http.* システムプロパティのみを検索します。

環境変数を使用する同等のセットアップは次のとおりです。

```
// Set the following environment variables.
// $ export HTTPS_PROXY="https://username:password@myproxy:1234"
// $ export NO_PROXY="localhost|host.example.com"

// Set the 'useSystemPropertyValues' to false on the proxy configuration.
```

```
SdkAsyncHttpClient crtAsyncHttpClient = AwsCrtAsyncHttpClient.builder()
    .proxyConfiguration(ProxyConfiguration.builder()
        .scheme("https")
        .useSystemPropertyValues(Boolean.FALSE)
        .build())
    .build();

// Run the application.
// $ java -cp ... App
```

HTTP プロキシの設定

HTTP プロキシを設定するには、コードを使用するか、Java システムプロパティを設定するか、環境変数を設定します。

コードでの設定

サービスクライアントをビルドするときに、クライアント固有の `ProxyConfiguration` ビルダーを使用してコードでプロキシを設定します。次のコードは、Amazon S3 サービスクライアントで使用される Apache ベースの HTTP クライアントのプロキシ設定の例です。

```
SdkHttpClient httpClient1 = ApacheHttpClient.builder()
    .proxyConfiguration(ProxyConfiguration.builder()
        .endpoint(URI.create("http://proxy.example.com"))
        .username("username")
        .password("password")
        .addNonProxyHost("localhost")
        .build())
    .build();

S3Client s3Client = S3Client.builder()
    .httpClient(httpClient)
    .build();
```

このトピックの各 HTTP クライアントのセクションでは、プロキシ設定の例を示しています。

- Apache HTTP クライアント
- URLConnection ベースの HTTP クライアント
- Netty ベースの HTTP クライアント
- AWS CRT ベースの HTTP クライアント

外部設定での HTTP プロキシの設定

コードで `ProxyConfiguration` ビルダーを明示的に使用していない場合でも、SDK は外部設定を検索してデフォルトのプロキシ設定を構成します。

デフォルトでは、SDK はまず JVM システムプロパティを検索します。プロパティが 1 つでも見つかった場合、SDK はその値と、他のシステムプロパティの値を使用します。使用可能なシステムプロパティがない場合、SDK はプロキシ環境変数を検索します。

SDK では、次の Java システムプロパティと環境変数を使用できます。

Java のシステムプロパティ

システムプロパティ	説明	HTTP クライアントのサポート
HTTP.プロキシホスト	HTTP プロキシサーバーのホスト名	すべて
http.proxyPort	HTTP プロキシサーバーのポート番号	すべて
http.proxyUser	HTTP プロキシ認証用のユーザー名	すべて
http.proxyPassword	HTTP プロキシ認証用のパスワード	すべて
http.nonProxyHosts	プロキシをバイパスして直接アクセスする必要があるホストのリスト。このリストは、HTTPS を使用する場合にも有効です。	すべて
https.proxyHost	HTTPS プロキシサーバーのホスト名	ネッティ、CRT
https.proxyPort	HTTPS プロキシサーバーのポート番号	ネッティ、CRT

システムプロパティ	説明	HTTP クライアントのサポート
https.proxyUser	HTTPS プロキシ認証用のユーザー名	ネッティ、CRT
https.proxyPassword	HTTPS プロキシ認証用のパスワード	ネッティ、CRT

環境変数

環境変数	説明	HTTP クライアントのサポート
HTTP_PROXY[1]	HTTP のスキームを持つ有効な URL	すべて
HTTPS_PROXY[1]	HTTPS のスキームを持つ有効な URL	ネッティ、CRT
NO_PROXY[2]	プロキシをバイパスして直接アクセスする必要があるホストのリスト。このリストは、HTTP と HTTPS の両方で有効です。	すべて

キーと脚注の表示

すべて - SDK が提供するすべての HTTP クライアント — `UrlConnectionHttpClient`、`ApacheHttpClient`、`NettyNioAsyncHttpClient`、`AwsCrtAsyncHt`

Netty - Netty ベースの HTTP クライアント (`NettyNioAsyncHttpClient`)。

CRT - CRT AWS ベースの HTTP クライアント (`AwsCrtHttpClient` および `AwsCrtAsyncHttpClient`)。

[1]クエリされる環境変数は、 `HTTP_PROXY` か `HTTPS_PROXY` かにかかわらず、クライアントの `ProxyConfiguration` のスキーム設定によって異なります。デフォルトのスキームは HTTP で

す。次のスニペットは、環境変数の解決に使用される HTTPS にスキームを変更する方法を示しています。

```
SdkHttpClient httpClient = ApacheHttpClient.builder()
    .proxyConfiguration(ProxyConfiguration.builder()
        .scheme("https")
        .build())
    .build();
```

[2] NO_PROXY 環境変数は、ホスト名間の「|」区切り文字と「,」区切り文字の組み合わせをサポートしています。サポートされているワイルドカード形式については、「」を参照してくださいthe section called “nonProxyHosts ワイルドカードの動作”。

設定の組み合わせの使用

コード、システムプロパティ、環境変数で、HTTP プロキシ設定を組み合わせて使用できます。

Example– システムプロパティとコードによる設定

```
// Command line with the proxy password set as a system property.
$ java -Dhttp.proxyPassword=SYS_PROP_password -cp ... App

// Since the 'useSystemPropertyValues' setting is 'true' (the default), the SDK will
 supplement
// the proxy configuration in code with the 'http.proxyPassword' value from the system
 property.
SdkHttpClient apacheHttpClient = ApacheHttpClient.builder()
            .proxyConfiguration(ProxyConfiguration.builder()
                    .endpoint(URI.create("http://localhost:1234"))
                    .username("username")
                    .build())
            .build();

// Use the apache HTTP client with proxy configuration.
DynamoDbClient dynamoDbClient = DynamoDbClient.builder()
                    .httpClient(apacheHttpClient)
                    .build();
```

SDK は次のプロキシ設定を解決します。

```
Host = localhost
Port = 1234
```

```
Password = SYS_PROP_password
UserName = username
Non ProxyHost = null
```

Example– システムプロパティと環境変数の両方が利用可能

各 HTTP クライアントの ProxyConfiguration ビルダーは、 useSystemPropertyValues および useEnvironmentVariablesValues という名前の設定を提供します。デフォルトでは、両方の設定は true です。true の場合、SDK は ProxyConfiguration ビルダーでは提供されないオプションに対して、システムプロパティまたは環境変数の値を自動的に使用します。

> **Important**
>
> システムプロパティは環境変数より優先されます。HTTP プロキシシステムプロパティが見つかった場合、SDK はシステムプロパティからすべての値を取得し、環境変数からは取得しません。システムプロパティよりも環境変数を優先する場合は、useSystemPropertyValues を false に設定します。

この例では、次の設定がランタイムとして使用できます。

```
// System properties
http.proxyHost=SYS_PROP_HOST.com
http.proxyPort=2222
http.password=SYS_PROP_PASSWORD
http.user=SYS_PROP_USER

// Environment variables
HTTP_PROXY="http://EnvironmentUser:EnvironmentPassword@ENV_VAR_HOST:3333"
NO_PROXY="environmentnonproxy.host,environmentnonproxy2.host:1234"
```

次のいずれかのステートメントでサービスクライアントが作成されます。どのステートメントもプロキシ設定を明示的に設定しません。

```
DynamoDbClient client = DynamoDbClient.create();
DynamoDbClient client = DynamoDbClient.builder().build();
DynamoDbClient client = DynamoDbClient.builder()
    .httpClient(ApacheHttpClient.builder()
        .proxyConfiguration(ProxyConfiguration.builder()
            .build())
```

```
        .build())
    .build();
```

次のプロキシ設定は SDK によって解決されます。

```
Host = SYS_PROP_HOST.com
Port = 2222
Password = SYS_PROP_PASSWORD
UserName = SYS_PROP_USER
Non ProxyHost = null
```

サービスクライアントにはデフォルトのプロキシ設定があるため、SDK はシステムプロパティを検索し、次に環境変数を検索します。システムプロパティ設定は環境変数よりも優先されるため、SDK はシステムプロパティのみを使用します。

次のコードに示すように、システムプロパティの使用が `false` に変更された場合、SDK は環境変数のみを解決します。

```
DynamoDbClient client = DynamoDbClient.builder()
    .httpClient(ApacheHttpClient.builder()
        .proxyConfiguration(ProxyConfiguration.builder()
            .useSystemPropertyValues(Boolean.FALSE)
            .build())
        .build())
    .build();
```

HTTP を使用した解決済みのプロキシ設定は次のとおりです。

```
Host = ENV_VAR_HOST
Port = 3333
Password = EnvironmentPassword
UserName = EnvironmentUser
Non ProxyHost = environmentnonproxy.host, environmentnonproxy2.host:1234
```

nonProxyHosts ワイルドカードの動作

では`nonProxyHosts`、プロキシをバイパスするホストを指定できます。`ProxyConfiguration` ビルダー、`http.nonProxyHosts`システムプロパティ、または`NO_PROXY`環境変数を使用してこの値を設定します。各ソースは、次のエントリ形式をサポートしています。

- 完全ホスト: `example.com` (指定されたホストのみ一致)

- 先頭ワイルドカード: `*.example.com` (ドメインとすべてのサブドメインを一致)
- ベアワイルドカード: `*` (すべてのホストをバイパス)
- CIDR 範囲: `10.0.0.0/8` (範囲内のすべての IP アドレスに一致)

HTTP クライアント間の動作の違い

HTTP クライアントタイプとエントリソースは、2 つの重要なマッチング動作に影響します。

外部設定と比較したビルダーエントリ

`ProxyConfiguration` ビルダーの `nonProxyHosts(Set)`または `addNonProxyHost(String)`メソッドを使用してワイルドカードエントリ (`*.example.com` または `*`) を指定すると、ワイルドカードは CRT ベースの HTTP クライアント (`AwsCrtHttpClient` および) でのみ機能します AWS `AwsCrtAsyncHttpClient`。

Apache、Netty、および URLConnectionベースのクライアントは、ビルダーを通じて指定するワイルドカードエントリ`PatternSyntaxException`の をスローします。

エントリが`http.nonProxyHosts`システムプロパティまたは`NO_PROXY`環境変数から送信されると、ワイルドカードはすべてのクライアントで機能します。

> **Important**
>
> すべての HTTP クライアントでワイルドカードを使用する必要がある場合は、ビルダーの代わりに`http.nonProxyHosts`システムプロパティまたは`NO_PROXY`環境変数を使用します。

先頭のワイルドカードエントリのルートドメインマッチング

AWS CRT ベースのクライアントと他の HTTP クライアントでは、`*.example.com`パターンの処理方法が異なります。

- CRT ベースのクライアント: ルートドメイン (`example.com`) とサブドメイン (など) の両方`*.example.com`に一致します`api.example.com`。
- Apache、Netty、および URLConnectionベースのクライアント: はサブドメインのみ`*.example.com`に一致します。ルートドメイン`example.com`が一致しず、SDK がプロキシ経由でルーティングします。

エントリソース別のワイルドカード動作の概要

次の表は、`http.nonProxyHosts`システムプロパティまたは`NO_PROXY`環境変数を介してエントリを指定する場合の一致動作をまとめたものです。すべてのクライアントは、これらのソースからのワイルドカードをサポートしています。

入力形式	CRT 以外のクライアント (Apache、Netty、および URLConnection)	CRT ベースのクライアント
完全ホスト (`example.com`)	名誉ある	名誉ある
先頭ワイルドカード (`*.example.com`)	尊重 (サブドメインのみ)	名誉 (ルートドメインとサブドメイン)
ベアワイルドカード (*)	名誉ある	名誉ある
CIDR 範囲 (`10.0.0.0/8`)	名誉ある	名誉ある

Apache 5.x ベースの HTTP クライアントを設定する

SDK の `Apache5HttpClient`は Apache HttpClient 5.x に基づいています。

Apache5HttpClient にアクセスする

ほとんどの場合、明示的な設定を行わずに `Apache5HttpClient` を使用することになります。サービスクライアントを宣言すると、SDK が標準値を使用して `Apache5HttpClient` を自動的に設定します。

`Apache5HttpClient` を明示的に設定したり、複数のサービスクライアントで使用したりする場合は、設定できるようにする必要があります。

設定が不要です

Maven でサービスクライアントへの依存関係を宣言すると、SDK は `apache5-client` アーティファクトにランタイム依存関係を追加します。これにより、コンパイル時ではなく、ランタイム時に

その Apache5HttpClient クラスをコードで使用できるようになります。Apache ベースの HTTP クライアントを設定していない場合は、依存関係を指定する必要はありません。

次の Maven pom.xml ファイルの XML スニペットでは、<artifactId>s3</artifactId> で宣言された依存関係によって Apache ベースの HTTP クライアントが自動的に取り込まれます。そのために依存関係を特別に宣言する必要はありません。

```
<dependencyManagement>
   <dependencies>
        <dependency>
            <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
            <artifactId>bom</artifactId>
            <version>2.54.0*</version>
            <type>pom</type>
            <scope>import</scope>
        </dependency>
    </dependencies>
</dependencyManagement>
<dependencies>
    <!-- The s3 dependency automatically adds a runtime dependency on the
 Apache5HttpClient-->
    <dependency>
        <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
        <artifactId>s3</artifactId>
    </dependency>
</dependencies>
```

*赤で示されているバージョンを、使用する Java SDK のバージョンに置き換えてください。Maven Central で最新最新バージョンを見つけます。

これらの依存関係では、Apache5HttpClient ライブラリはランタイムのクラスパス上にのみ存在するため、明示的に HTTP 設定を変更することはできません。

設定が必要です

Apache5HttpClient を設定するには、コンパイル時間に apache5-client ライブラリに依存関係を追加する必要があります。

次の Maven pom.xml ファイルの例を参照して、「Apache5HttpClient」を設定します。

```
    <dependencyManagement>
```

```
        <dependencies>
            <dependency>
                <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
                <artifactId>bom</artifactId>
                   <version>2.54.0*</version>
                <type>pom</type>
                <scope>import</scope>
            </dependency>
        </dependencies>
    </dependencyManagement>
    <dependencies>
        <dependency>
            <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
            <artifactId>s3</artifactId>
        </dependency>
        <!-- By adding the apache5-client dependency, Apache5HttpClient will be added
to
             the compile classpath so you can configure it. -->
        <dependency>
            <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
            <artifactId>apache5-client</artifactId>
        </dependency>
    </dependencies>
```

*赤で示されているバージョンを、使用する Java SDK のバージョンに置き換えてください。Maven Central で最新最新バージョンを見つけます。

Apache5HttpClient を使用および設定する

サービスクライアントを構築すると同時に Apache5HttpClient のインスタンスを設定することも、単一インスタンスを複数のサービスクライアント間で共有するように設定することもできます。

どちらの方法でも、Apache5HttpClient.Builder を使用して Apache 5 ベースの HTTP クライアントのプロパティを設定します。

ベストプラクティス: Apache5HttpClient インスタンスをサービスクライアントに専念する

Apache5HttpClient のインスタンスを設定する必要がある場合は、専有 Apache5HttpClient インスタンスを構築することをお勧めします。これを行うには、サービスクライアントのビルダーの httpClientBuilder メソッドを使用します。この方法では、HTTP クライアントのライフサイクルが SDK によって管理されるため、不要になったときに Apache5HttpClient インスタンスを閉じなかった場合にメモリリークが発生するのを防ぐことができます。

次の例では、S3Client を作成し、maxConnections と connectionTimeout 値Apache5HttpClientを使用して の埋め込みインスタンスを設定します。HTTP インスタンスは、S3Client.Builder のメソッド httpClientBuilder を使用して作成されます。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.http.apache5.Apache5HttpClient;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import java.time.Duration;
```

コード

```
S3Client s3Client = S3Client   // Singleton: Use the s3Client for all requests.
    .builder()
    .httpClientBuilder(Apache5HttpClient.builder()
        .maxConnections(100)
        .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(5))
    )
    .build();

// Perform work with the s3Client.

s3Client.close();   // Requests completed: Close all service clients.
```

別の方法: **Apache5HttpClient** インスタンスを共有する

アプリケーションのリソースとメモリの使用量を低く抑えるため、Apache5HttpClient を設定して複数のサービスクライアント間で共有できます。HTTP 接続プールは共有されるため、リソースの使用量が少なくなります。

> **Note**
>
> Apache5HttpClient インスタンスを共有する場合、破棄の準備が整った時点でインスタンスを閉じる必要があります。サービスクライアントが閉じられても、SDK はインスタンスを閉じません。

次の例では、2 つのサービスクライアントで使用される Apache ベースの HTTP クライアントを設定します。設定されたApache5HttpClientインスタンスは、各ビルダーの httpClient メソッドに渡さ

れます。サービスクライアントと HTTP クライアントが不要になると、コードによって明示的に閉じられます。HTTP クライアントは最後に閉じられます。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.http.SdkHttpClient;
import software.amazon.awssdk.http.apache5.Apache5HttpClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
```

コード

```
SdkHttpClient apache5HttpClient = Apache5HttpClient.builder()
        .maxConnections(100).build();

// Singletons: Use the s3Client and dynamoDbClient for all requests.
S3Client s3Client =
    S3Client.builder()
            .httpClient(apache5HttpClient).build();

DynamoDbClient dynamoDbClient =
    DynamoDbClient.builder()
                  .httpClient(apache5HttpClient).build();

// Perform work with the s3Client and dynamoDbClient.

// Requests completed: Close all service clients.
s3Client.close();
dynamoDbClient.close();
apache5HttpClient.close();  // Explicitly close apache5HttpClient.
```

AWS SDK for Java 2.x で実行インターセプターを使用する

AWS SDK for Java 2.x フック内の実行インターセプターをリクエストとレスポンスのライフサイクルに取り込み、API コール実行のさまざまな段階でカスタムロジックを実行します。インターセプターを使用して、ログ記録、メトリクス収集、リクエストの変更、デバッグ、エラー処理などの横断的な処理を実装します。

インターセプターは、リクエスト実行のさまざまなフェーズにフックを提供する `ExecutionInterceptor` インターフェイスを実装します。

インターセプターのライフサイクル

ExecutionInterceptor インターフェイスは、リクエスト実行中の特定の時点で呼び出されるメソッドを提供します。

- beforeExecution - リクエストの実行前に呼び出されます
- modifyRequest - SDK リクエストオブジェクトを変更します
- beforeMarshalling - リクエストが HTTP にマーシャリングされる前に呼び出されます
- afterMarshalling - リクエストが HTTP にマーシャリングされた後に呼び出されます
- modifyHttpRequest - HTTP リクエストを変更します
- beforeTransmission - HTTP リクエストが送信される前に呼び出されます
- afterTransmission - HTTP レスポンスの受信後に呼び出されます
- modifyHttpResponse - HTTP レスポンスを変更します
- beforeUnmarshalling - HTTP レスポンスがマーシャリング解除される前に呼び出されます
- afterUnmarshalling - HTTP レスポンスがマーシャリング解除された後に呼び出されます
- modifyResponse - SDK レスポンスオブジェクトを変更します
- afterExecution - リクエストが正常に実行された後に呼び出されます
- onExecutionFailure - リクエストの実行が失敗すると呼び出されます

インターセプターの登録

overrideConfiguration メソッドを使用して、サービスクライアントを構築するときにインターセプターを登録します。複数のインターセプターを登録でき、登録順に実行されます。

```
// Register a single interceptor.
SqsClient client = SqsClient.builder()
    .overrideConfiguration(c -> c.addExecutionInterceptor(new LoggingInterceptor()))
    .build();

// Register multiple interceptors.
S3Client s3Client = S3Client.builder()
    .overrideConfiguration(config -> config
        .addExecutionInterceptor(new TimingInterceptor())
        .addExecutionInterceptor(new LoggingInterceptor())
        .addExecutionInterceptor(new RequestModificationInterceptor()))
    .build();
```

インターセプターの例

次のクラスでは、実行インターセプターを使用して、コアビジネスロジックを変更せずに、ログ記録、パフォーマンスモニタリング、リクエスト変更などの横断的な処理を S3 オペレーションに追加する方法を示します。

この例では、S3 クライアントに複数のインターセプターを登録する方法と、実際の AWS API コール中にそれらがどのように動作するかを示します。

インポート

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.awscore.exception.AwsServiceException;
import software.amazon.awssdk.core.ApiName;
import software.amazon.awssdk.core.SdkRequest;
import software.amazon.awssdk.core.interceptor.Context;
import software.amazon.awssdk.core.interceptor.ExecutionAttributes;
import software.amazon.awssdk.core.interceptor.ExecutionInterceptor;
import software.amazon.awssdk.http.SdkHttpRequest;
import software.amazon.awssdk.http.SdkHttpResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.HeadBucketRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ListBucketsResponse;

import java.time.Duration;
import java.time.Instant;
```

```
public class S3InterceptorsDemo {
    private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(S3InterceptorsDemo.class);

    public static void main(String[] args) {
        logger.info("=== AWS SDK for Java v2 - S3 Interceptors Demo ===");

        // Create an S3 client with multiple interceptors.
        S3Client s3Client = S3Client.builder()
            .overrideConfiguration(config -> config
                .addExecutionInterceptor(new TimingInterceptor())
                .addExecutionInterceptor(new LoggingInterceptor())
                .addExecutionInterceptor(new RequestModificationInterceptor()))
            .build();
```

```
        try {
            logger.info("Starting S3 operations with interceptors...");

            // Operation 1: List buckets.
            logger.info("Operation 1: Listing S3 buckets");
            logger.info("---------------------------------------");
            ListBucketsResponse listBucketsResponse = s3Client.listBuckets();
            logger.info("Found {} buckets", listBucketsResponse.buckets().size());

            // Operation 2: Try to access a bucket that likely doesn't exist.
            logger.info("Operation 2: Checking non-existent bucket (demonstrating error
interceptor)");
            logger.info("---------------------------------------");
            try {
                s3Client.headBucket(HeadBucketRequest.builder()
                    .bucket("amzn-s3-demo-bucket-that-does-not-exist-1234")
                    .build());
            } catch (Exception e) {
                logger.info("Expected error occurred (interceptor should have logged
it)");
            }

        } catch (Exception e) {
            logger.error(" Error during S3 operations: {}", e.getMessage(), e);
        } finally {
            s3Client.close();
            logger.info("Demo completed - S3 client closed");
        }
    }

    // Logging interceptor.
    private static class LoggingInterceptor implements ExecutionInterceptor {
        private static final Logger logger =
LoggerFactory.getLogger(LoggingInterceptor.class);

        @Override
        public void beforeExecution(Context.BeforeExecution context,
ExecutionAttributes executionAttributes) {
            logger.info("[LOGGING] Starting request: {}",
context.request().getClass().getSimpleName());
        }

        @Override
```

```
        public void afterExecution(Context.AfterExecution context, ExecutionAttributes
executionAttributes) {
            logger.info("[LOGGING] Completed request: {}",
context.request().getClass().getSimpleName());
        }

        @Override
        public void onExecutionFailure(Context.FailedExecution context,
ExecutionAttributes executionAttributes) {
            logger.error("[LOGGING] Request failed: {}",
context.request().getClass().getSimpleName());
            if (context.exception() instanceof AwsServiceException) {
                AwsServiceException ase = (AwsServiceException) context.exception();
                if (ase.awsErrorDetails().errorCode() != null) {
                    SdkHttpResponse httpResponse =
ase.awsErrorDetails().sdkHttpResponse();
                    logger.error("   HTTP Status: {}", httpResponse.statusCode());
                    logger.error("   Error Code: {}",
ase.awsErrorDetails().errorCode());
                    logger.error("   Error Message: {}",
ase.awsErrorDetails().errorMessage());
                }
            }
        }
    }

    // Performance timing interceptor.
    private static class TimingInterceptor implements ExecutionInterceptor {
        private static final Logger logger =
LoggerFactory.getLogger(TimingInterceptor.class);
        private Instant startTime;

        @Override
        public void beforeExecution(Context.BeforeExecution context,
ExecutionAttributes executionAttributes) {
            startTime = Instant.now();
            logger.info("##  [TIMING] Request started at: {}", startTime);
        }

        @Override
        public void afterExecution(Context.AfterExecution context, ExecutionAttributes
executionAttributes) {
            if (startTime != null) {
                Duration duration = Duration.between(startTime, Instant.now());
```

```
                logger.info("##  [TIMING] Request completed in: {}ms",
duration.toMillis());
            }
        }

        @Override
        public void onExecutionFailure(Context.FailedExecution context,
ExecutionAttributes executionAttributes) {
            if (startTime != null) {
                Duration duration = Duration.between(startTime, Instant.now());
                logger.warn("##  [TIMING] Request failed after: {}ms",
duration.toMillis());
            }
        }
    }

    // Request modification interceptor
    private static class RequestModificationInterceptor implements ExecutionInterceptor
{
        private static final Logger logger =
LoggerFactory.getLogger(RequestModificationInterceptor.class);

        @Override
        public SdkRequest modifyRequest(Context.ModifyRequest context,
ExecutionAttributes executionAttributes) {
            SdkRequest originalRequest = context.request();
            logger.info("[MODIFY] Modifying request: {}",
originalRequest.getClass().getSimpleName());

            // For ListBucketsRequest, we can't modify much since it has no settable
properties
            // For HeadBucketRequest, we can demonstrate modifying the request
            if (originalRequest instanceof HeadBucketRequest) {
                HeadBucketRequest headRequest = (HeadBucketRequest) originalRequest;

                // Create a new request with an API name added.
                return HeadBucketRequest.builder()
                        .bucket(headRequest.bucket())
                        .overrideConfiguration(b -> b.addApiName(ApiName.builder()
                                .name("My-API")
                                .version("1.0")
                                .build()))
                        .build();
            }
```

```
            logger.info("Not a HeadBucketRequest, returning original request");
            return originalRequest;
        }

        @Override
        public SdkHttpRequest modifyHttpRequest(Context.ModifyHttpRequest context,
 ExecutionAttributes executionAttributes) {
            logger.info("[MODIFY] Adding custom HTTP headers");
            return context.httpRequest().toBuilder()
                .putHeader("X-Custom-Header", "S3InterceptorDemo")
                .putHeader("X-Request-ID", java.util.UUID.randomUUID().toString())
                .build();
        }
    }
}
```

Maven pom ファイル

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<project xmlns="http://maven.apache.org/POM/4.0.0"
         xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
         xsi:schemaLocation="http://maven.apache.org/POM/4.0.0
         http://maven.apache.org/xsd/maven-4.0.0.xsd">
    <modelVersion>4.0.0</modelVersion>

    <groupId>org.example</groupId>
    <artifactId>interceptors-examples</artifactId>
    <version>1.0.0</version>
    <packaging>jar</packaging>

    <name>interceptors-examples</name>
    <description>Demonstration of execution interceptors in AWS SDK for Java v2</
description>

    <properties>
        <maven.compiler.source>17</maven.compiler.source>
        <maven.compiler.target>17</maven.compiler.target>
        <project.build.sourceEncoding>UTF-8</project.build.sourceEncoding>
        <aws.java.sdk.version>2.31.62</aws.java.sdk.version>
        <exec.mainClass>org.example.S3InterceptorsDemo</exec.mainClass>
    </properties>

    <dependencyManagement>
```

```
        <dependencies>
            <dependency>
                <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
                <artifactId>bom</artifactId>
                <version>${aws.java.sdk.version}</version>
                <type>pom</type>
                <scope>import</scope>
            </dependency>
            <dependency>
                <groupId>org.apache.logging.log4j</groupId>
                <artifactId>log4j-bom</artifactId>
                <version>2.23.1</version>
                <type>pom</type>
                <scope>import</scope>
            </dependency>
        </dependencies>
    </dependencyManagement>

    <dependencies>
        <dependency>
            <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
            <artifactId>s3</artifactId>
        </dependency>

        <dependency>
            <groupId>org.apache.logging.log4j</groupId>
            <artifactId>log4j-core</artifactId>
        </dependency>
        <dependency>
            <groupId>org.slf4j</groupId>
            <artifactId>slf4j-api</artifactId>
            <version>2.0.13</version>
        </dependency>
        <dependency>
            <groupId>org.apache.logging.log4j</groupId>
            <artifactId>log4j-slf4j2-impl</artifactId>
        </dependency>
        <dependency>
            <groupId>org.apache.logging.log4j</groupId>
            <artifactId>log4j-1.2-api</artifactId>
        </dependency>
        <dependency>
            <groupId>org.junit.jupiter</groupId>
            <artifactId>junit-jupiter</artifactId>
```

```
            <version>5.10.1</version>
            <scope>test</scope>
        </dependency>
    </dependencies>

    <build>
        <plugins>
            <!-- Compiler Plugin -->
            <plugin>
                <groupId>org.apache.maven.plugins</groupId>
                <artifactId>maven-compiler-plugin</artifactId>
                <version>3.11.0</version>
                <configuration>
                    <source>17</source>
                    <target>17</target>
                </configuration>
            </plugin>

            <!-- Surefire Plugin for running tests -->
            <plugin>
                <groupId>org.apache.maven.plugins</groupId>
                <artifactId>maven-surefire-plugin</artifactId>
                <version>3.2.2</version>
            </plugin>

            <!-- Exec Plugin for running the main class -->
            <plugin>
                <groupId>org.codehaus.mojo</groupId>
                <artifactId>exec-maven-plugin</artifactId>
                <version>3.1.0</version>
                <configuration>
                    <mainClass>${exec.mainClass}</mainClass>
                </configuration>
            </plugin>

            <!-- Shade Plugin to create executable JAR -->
            <plugin>
                <groupId>org.apache.maven.plugins</groupId>
                <artifactId>maven-shade-plugin</artifactId>
                <version>3.4.1</version>
                <executions>
                    <execution>
                        <phase>package</phase>
                        <goals>
```

```
                            <goal>shade</goal>
                        </goals>
                        <configuration>
                            <transformers>
                                <transformer
 implementation="org.apache.maven.plugins.shade.resource.ManifestResourceTransformer">
                                    <mainClass>${exec.mainClass}</mainClass>
                                </transformer>
                            </transformers>
                            <createDependencyReducedPom>false</
createDependencyReducedPom>
                        </configuration>
                    </execution>
                </executions>
            </plugin>
        </plugins>
    </build>
</project>
```

ベストプラクティス

- インターセプターを軽量に保つ - インターセプターはリクエストごとに実行されるため、パフォーマンスに影響を与える可能性のある大量の計算やブロックオペレーションを回避します。
- 例外を適切に処理する - インターセプターが例外をスローすると、リクエスト全体が失敗します。失敗する可能性のあるオペレーションには、常に try-catch ブロックを使用してください。
- 順序が重要 - インターセプターは登録順に実行されます。インターセプターの登録時に、インターセプター間の依存関係を考慮してください。
- 状態に ExecutionAttributes を使用する - 異なるインターセプターメソッド間でデータを渡す必要がある場合は、インスタンス変数ではなく `ExecutionAttributes` を使用してスレッドの安全性を確保します。
- 機密データに注意する - リクエストとレスポンスをログ記録するときは、認証情報や個人データなどの機密情報を記録しないように注意してください。

コンテキストオブジェクト

各インターセプターメソッドは、実行のさまざまな段階で、リクエスト情報とレスポンス情報へのアクセスを提供するコンテキストオブジェクトを受け取ります。

- `Context.BeforeExecution` - 元の SDK リクエストへのアクセスを提供します

- `Context.ModifyRequest` - SDK リクエストを変更します
- `Context.ModifyHttpRequest` - HTTP リクエストを変更します
- `Context.AfterExecution` - リクエストとレスポンスの両方へのアクセスを提供します
- `Context.FailedExecution` - リクエストと発生した例外へのアクセスを提供します

の使用 AWS SDK for Java 2.x

この章では、 AWS SDK for Java 2.x を効果的に使用する方法について説明します。サービスクライアントの作成、リクエストの実行、レスポンスの処理、エラーの管理について説明します。この章では、同期プログラミングと非同期プログラミング、ページ分割された結果、リソースモニタリングのウェイター、パフォーマンスの最適化について説明します。

また、クライアントの再利用、トラブルシューティングガイダンス、Lambda 起動の最適化、HTTP/2 サポート、DNS 設定に関するベストプラクティスも記載しています。

目次

- を使用した AWS のサービス リクエストの実行 AWS SDK for Java 2.x
  - サービスクライアントを使用したリクエストの実行
    - サービスクライアントを作成する
    - デフォルトのクライアント設定
    - サービスクライアントを設定する
    - サービスクライアントを閉じる
  - リクエストを発行する
    - リクエストを使用してクライアント設定を上書きする
  - レスポンスを処理する
- AWS SDK for Java 2.x を使用した非同期プログラミング
  - 非同期クライアント API の使用
  - 非同期メソッドでのストリーミングの処理
  - 高度な非同期オプションを設定する
- を使用するためのベストプラクティス AWS SDK for Java 2.x
  - API タイムアウトを設定してリクエストのハングを防止する
  - サービスクライアントを再利用してパフォーマンスを向上させる
  - 未使用のサービスクライアントを閉じてリソースの漏洩を防ぐ
  - 入力ストリームを閉じて接続プールの枯渇を防ぐ
  - アプリケーションワークロードの HTTP パフォーマンスを最適化する
  - 非同期クライアント用の OpenSSL で SSL パフォーマンスを向上させる
  - SDK メトリクスを使用してアプリケーションのパフォーマンスをモニタリングする

- でのエラーの処理 AWS SDK for Java 2.x
  - 非チェック例外を使用する理由
  - AwsServiceException (およびサブクラス)
  - SdkClientException
  - 例外と再試行動作
- AWS SDK for Java 2.x でページ分割された結果を使用する
  - 同期ページ割り
    - ページを反復処理する
    - オブジェクトを反復処理する
      - ストリーミングを使用する
      - for-each ループを使用する
    - 手動のページ割り
    - 結果の合計数を制限する
  - 非同期ページ割り
    - テーブル名のページを反復処理する
      - Subscriber を使用する
      - Consumer を使用する
    - テーブル名を反復処理する
      - Subscriber を使用する
      - Consumer を使用する
    - サードパーティーライブラリを使用する
    - 結果の合計数を制限する
- でのウェーターの使用 AWS SDK for Java 2.x
  - 前提条件
  - ウェーターの使用
    - 同期プログラミング
    - 非同期プログラミング
  - ウェイターを設定する
    - ウェーターを設定する
    - 特定のリクエストの設定をオーバーライドする

- コードの例
- トラブルシューティングに関するよくある質問
  - 「java.net.SocketException: Connection reset」または「server failed to complete the response」エラーを修正するにはどうすればよいですか?
  - 「connection timeout」を修正するにはどうすればよいですか?
  - 「java.net.SocketTimeoutException: Read timed out」を修正するにはどうすればよいですか?
  - 「Unable to execute HTTP request: Timeout waiting for connection from pool」エラーを修正するにはどうすればよいですか?
  - NoClassDefFoundError、NoSuchMethodError、または NoSuchFieldError を修正するにはどうすればよいですか?
  - 「SignatureDoesNotMatch」エラーまたは「The request signature we calculated does not match the signature you provided」エラーを修正するにはどうすればよいですか?
  - 「java.lang.IllegalStateException: Connection pool shut down」エラーを修正するにはどうすればよいですか?
  - 「Unable to load credentials from any of the providers in the chain AwsCredentialsProviderChain」を修正するにはどうすればよいですか?
    - 一般的な原因と解決方法
      - 認証情報設定を確認する
        - Amazon EC2 インスタンスの場合
        - コンテナ環境の場合
        - ローカル開発の場合
        - ウェブ ID フェデレーションの場合
      - ネットワークまたはプロキシの接続の問題
- の SDK 起動時間を短縮する AWS Lambda
  - CRT ベースの AWS HTTP クライアントを使用する
  - 未使用の HTTP クライアント依存関係を削除する
  - 検索をショートカットするようにサービスクライアントを設定します。
  - Lambda 関数ハンドラーの外部で SDK クライアントを初期化する
  - 依存関係インジェクションを最小限に抑える
  - Maven Archetype ターゲットを使用する AWS Lambda
  - Lambda SnapStart for Java を検討する

- SdkWarmUp を使用した SDK クライアントのウォームアップを検討する
- 起動時間に影響するバージョン 2.x の変更点
- その他のリソース
- で SDK クライアントをウォームアップする AWS SDK for Java 2.x
  - SdkWarmUp API
    - クラスパス上のすべての SDK クライアントをウォームアップする
    - 特定の SDK クライアントをウォームアップする
  - Lambda SnapStart で SdkWarmUp を使用する SnapStart
  - スタンドアロン CRaC で SdkWarmUp を使用する
    - チェックポイントの前にウォームアップする
  - その他のリソース
- ContentStreamProvider で を実装する AWS SDK for Java 2.x
  - mark() および reset() を使用します。
  - mark() と reset() が利用できない場合にバッファリングを使用する
  - 新しいストリームを作成する
- DNS 名参照用の JVM TTL を設定する
  - JVM TTL を設定する方法
    - オプション 1: アプリケーションでプログラムで設定する
    - オプション 2: java.security ファイルで設定する
    - オプション 3: JDK システムプロパティのフォールバックを使用する (コマンドライン)
- AWS SDK for Java で HTTP/2 を使用する

を使用した AWS のサービス リクエストの実行 AWS SDK for Java 2.x

サービスクライアントを使用したリクエストの実行

SDK のセットアップのステップを完了し、サービスクライアントの設定方法を理解したら、Amazon S3、Amazon DynamoDB、、 AWS Identity and Access Management Amazon EC2 などの AWS サービスにリクエストを行う準備が整います。

サービスクライアントを作成する

にリクエストを行うには AWS のサービス、まず静的ファクトリメソッド を使用して、そのサービスのサービスクライアントをインスタンス化する必要がありますbuilder()。builder() メソッドは、サービスクライアントをカスタマイズできる builder オブジェクトを返します。fluent setter メソッドでは builder オブジェクトが返るため、利便性とコードの可読性を高めるためにメソッドの呼び出しをチェーンすることができます。必要なプロパティを設定した後、build() メソッドを呼び出してクライアントを作成します。

例として、以下のコードスニペットは、Ec2Client オブジェクトを Amazon EC2 のサービスクライアントとしてインスタンス化します。

```
Region region = Region.US_WEST_2;
Ec2Client ec2Client = Ec2Client.builder()
        .region(region)
        .build();
```

> **Note**
>
> SDK のサービスクライアントはスレッドセーフです。最高のパフォーマンスを得るには、長期間使用するオブジェクトとしてこれらを処理します。各クライアントには、クライアントがガーベージコレクションの対象になった場合にリリースされる独自の接続プールリソースを備えています。
> サービスクライアントオブジェクトはイミュータブルであるため、リクエストを実行する各サービスについて、または同じサービスにリクエストを実行するために異なる設定を使用する場合は、新しいクライアントを作成する必要があります。
> サービスクライアントビルダーRegionで を指定することは、すべての AWS サービスに必須ではありませんが、アプリケーションで実行する API コールのリージョンを設定するのがベストプラクティスです。詳細については、「AWS リージョンの選択」を参照してください。

デフォルトのクライアント設定

このクライアントビルダーには、create() という名前の別のファクトリメソッドがあります。このメソッドでは、サービスクライアントがデフォルト設定で作成されます。デフォルトのプロバイダーチェーンを使用して、認証情報とデフォルトの AWS リージョン プロバイダーチェーンをロードします。アプリケーションを実行している環境から認証情報またはリージョンを決定できない場

合、create の呼び出しは失敗します。SDK が認証情報および使用するリージョンを決定する方法の詳細については、「認証情報の使用」および「リージョンの選択」を参照してください。

例えば、以下のコードスニペットは、DynamoDbClient オブジェクトを Amazon DynamoDB のサービスクライアントとしてインスタンス化します。

```
DynamoDbClient dynamoDbClient = DynamoDbClient.create();
```

サービスクライアントを設定する

サービスクライアントの設定方法の詳細については、「クライアントの外部設定」および「コードでのクライアント設定」を参照してください。

サービスクライアントを閉じる

ベストプラクティスとして、アプリケーションの存続期間中の複数の API サービス呼び出しにはサービスクライアントを使用する必要があります。ただし、サービスクライアントを 1 回だけ使用する必要がある場合や、サービスクライアントが不要になったら閉じます。

サービスクライアントが不要になったら、close() メソッドを呼び出してリソースを解放します。

```
ec2Client.close();
```

サービスクライアントを 1 回だけ使用する必要がある場合は、try-with-resources ステートメントでサービスクライアントをリソースとしてインスタンス化できます。サービスクライアントは Autoclosable インターフェースを実装するため、JDK はステートメントの最後で自動的に close() メソッドを呼び出します。

以下の例は、サービスクライアントを使用して 1 回限りのコールを実行する方法を示しています。StsClient を呼び出す AWS Security Token Service は、アカウント ID を返した後で閉じられます。

```
import software.amazon.awssdk.services.sts.StsClient;

String getAccountID() {
    try (StsClient stsClient = StsClient.create()) {
       return stsClient.getCallerIdentity().account();
    }
}
```

リクエストを発行する

サービスクライアントを使用して、対応する にリクエストを行います AWS のサービス。

例えば、このコードスニペットは、RunInstancesRequest オブジェクトを作成して新しい Amazon EC2 インスタンスを作成する方法を示しています。

```
// Create the request by using the fluid setter methods of the request builder.
RunInstancesRequest runInstancesRequest = RunInstancesRequest.builder()
        .imageId(amiId)
        .instanceType(InstanceType.T1_MICRO)
        .maxCount(1)
        .minCount(1)
        .build();

// Use the configured request with the service client.
RunInstancesResponse response = ec2Client.runInstances(runInstancesRequest);
```

SDK は、リクエストを作成してインスタンスに渡すのではなく、リクエストの作成に使用できる Fluent API を提供します。Fluent API を使用すると、Java Lambda 式を使用してリクエストを「インライン」で作成できます。

次の例では、ビルダーを使用してリクエストを作成する runInstances メソッドのバージョンを使用して、前の例を書き換えています。

```
// Create the request by using a lambda expression.
RunInstancesResponse response = ec2.runInstances(r -> r
                .imageId(amiId)
                .instanceType(InstanceType.T1_MICRO)
                .maxCount(1)
                .minCount(1));
```

リクエストを使用してクライアント設定を上書きする

サービスクライアントは変更不可能ですが、その設定の多くをリクエストレベルで上書きできます。リクエストを構築するときに、AwsRequestOverrideConfiguration インスタンスを指定して、設定を上書きできます。クライアント設定を上書きするために使用できるメソッドには、次のようなものがあります。

- apiCallAttemptTimeout

- apiCallTimeout
- credentialProvider
- compressionConfiguration
- putHeader

リクエストでクライアント設定を上書きする例として、デフォルト設定を使用する次の S3 クライアントがあると想定してください。

```
S3Client s3Client = S3Client.create();
```

大きなファイルをダウンロードし、ダウンロードが完了する前にリクエストがタイムアウトしないようにする必要があります。これを行うには、次のコードに示すように、1 つの GetObjectリ クエストのみのタイムアウト値を増やします。

Standard API

```
AwsRequestOverrideConfiguration overrideConfiguration =
 AwsRequestOverrideConfiguration.builder()
    .apiCallTimeout(Duration.ofSeconds(100L))
    .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(25L))
    .build();

GetObjectRequest request = GetObjectRequest.builder()
    .bucket("amzn-s3-demo-bucket")
    .key("demo-key")
    .overrideConfiguration(overrideConfiguration)
    .build();

s3Client.getObject(request, myPath);
```

Fluent API

```
s3Client.getObject(b -> b
        .bucket("amzn-s3-demo-bucket")
        .key("demo-key")
        .overrideConfiguration(c -> c
            .apiCallTimeout(Duration.ofSeconds(100L))
            .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(25L))),
    myPath);
```

レスポンスを処理する

SDK は、ほとんどのサービスオペレーションのレスポンスオブジェクトを返します。コードは、必要に応じてレスポンスオブジェクト内の情報を処理できます。

たとえば、次のコードスニペットは、前のリクエストの `RunInstancesResponse` オブジェクトで返された最初のインスタンス ID を出力します。

```
RunInstancesResponse runInstancesResponse =
 ec2Client.runInstances(runInstancesRequest);
System.out.println(runInstancesResponse.instances().get(0).instanceId());
```

ただし、すべてのオペレーションがサービス固有のデータを含むレスポンスオブジェクトを返すわけではありません。このような状況では、HTTP レスポンスのステータスをクエリして、オペレーションが成功したかどうかを確認することができます。

たとえば、次のスニペットのコードは、HTTP レスポンスをチェックして、Amazon Simple Email Service の `DeleteContactList` オペレーションが成功したかどうかを確認します。

```
SesV2Client sesv2Client = SesV2Client.create();

DeleteContactListRequest request = DeleteContactListRequest.builder()
    .contactListName("ExampleContactListName")
    .build();

DeleteContactListResponse response = sesv2Client.deleteContactList(request);
if (response.sdkHttpResponse().isSuccessful()) {
    System.out.println("Contact list deleted successfully");
} else {
    System.out.println("Failed to delete contact list. Status code: " +
 response.sdkHttpResponse().statusCode());
}
```

AWS SDK for Java 2.x を使用した非同期プログラミング

AWS SDK for Java 2.x は、少数のスレッドで同時実行を実現する、ノンブロッキング I/O をサポートした非同期クライアントを備えています。ただし、ノンブロッキング I/O の合計は保証されません。非同期クライアントは、認証情報の取得、AWSSignature Version 4 (SigV4) を使用したリクエスト署名、エンドポイント検出などのケースで、ブロック呼び出しを実行する場合があります。

同期メソッドは、クライアントがサービスからのレスポンスを受信するまでスレッドの実行をブロックします。非同期メソッドはすぐに応答を返し、レスポンスを待機せずに呼び出しスレッドに制御を戻します。

非同期メソッドはレスポンスが可能になる前に応答を返すため、準備ができたらレスポンスを得るための手段が必要になります。AWS SDK for Java の 2.x における非同期クライアントのメソッドでは、準備ができるとレスポンスにアクセスすることを許可する CompletableFuture オブジェクトが返されます。

非同期クライアント API の使用

非同期クライアントメソッドの署名は同期メソッドと同じですが、非同期メソッドは、将来の非同期オペレーションの結果を含む CompletableFuture オブジェクトを返します。SDK の非同期メソッドの実行中にエラーがスローされた場合、エラーは `CompletionException` としてスローされます。

結果を取得するために使用できる方法の 1 つは、SDK メソッド呼び出しによって返された `CompletableFuture` に `whenComplete()` メソッドを連結させることです。`whenComplete()` メソッドは、非同期呼び出しの完了方法に応じて、結果または `CompletionException` タイプのスロー可能なオブジェクトを受け取ります。呼び出し元のコードに返される前に結果を処理またはチェックするために、アクションを `whenComplete()` に指定します。

SDK メソッドによって返されたオブジェクト以外のものを返す場合は、代わりに `handle()` メソッドを使用します。`handle()` メソッドは `whenComplete()` と同じパラメータを受け取りますが、結果を処理してオブジェクトを返すことができます。

非同期チェーンが完了するのを待ち、完了結果を取得するには、 `join()` メソッドを呼び出します。`Throwable` オブジェクトがチェーンで処理されなかった場合、 `join()` メソッドは元の例外をラップするチェックされていない `CompletionException` をスローします。元の例外には `CompletionException#getCause()` でアクセスします。`CompletableFuture#get()` メソッドを呼び出して、完了結果を取得することもできます。ただし、 `get()` メソッドはチェック例外をスローできます。

次の例は、DynamoDB 非同期クライアントの `listTables()` メソッドを使用する 2 つの異なる方法を示しています。`whenComplete()` に渡されたアクションは成功したレスポンスをログに記録するだけですが、`handle()` バージョンはテーブル名のリストを抽出してリストを返します。どちらの場合も、非同期チェーンでエラーが生成されるとエラーは再スローされるため、クライアントコードによって処理が可能です。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbAsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ListTablesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ListTablesResponse;

import java.util.List;
import java.util.concurrent.CompletableFuture;
```

コード

whenComplete() variation

```
public class DynamoDbAsyncListTables {

    public static void main(String[] args) {
        Region region = Region.US_EAST_1;
        DynamoDbAsyncClient dynamoDbAsyncClient =
 DynamoDbAsyncClient.builder().region(region).build();
        try {
            ListTablesResponse listTablesResponse =
 listTablesWhenComplete(dynamoDbAsyncClient).join();  // The join() method may throw
 a CompletionException.
            if (listTablesResponse.hasTableNames()){
                System.out.println("Table exist in this region: " + region.id());
            }
        } catch (RuntimeException e) {
            // Handle as needed. Here we simply print out the class names.
            System.out.println(e.getClass()); // Prints 'class
 java.util.concurrent.CompletionException'.
            System.out.println(e.getCause().getClass()); // Prints 'class
 software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException'.
        }
    }

    public static CompletableFuture<ListTablesResponse>
 listTablesWhenComplete(DynamoDbAsyncClient client) {
        return client.listTables(ListTablesRequest.builder().build())
            .whenComplete((listTablesResponse, throwable) -> {
                if (listTablesResponse != null) {  // Consume the response.
                    System.out.println("The SDK's listTables method completed
 successfully.");
                } else {
```

```
                    RuntimeException cause = (RuntimeException)
 throwable.getCause(); // If an error was thrown during the SDK's listTables method
 it is wrapped in a CompletionException.

  // The SDK throws only RuntimeExceptions, so this is a safe cast.
                    System.out.println(cause.getMessage());  // Log error here, but
 rethrow so the calling code can handle as needed.
                    throw cause;
                }
            });
    }
```

handle() variation

```
public class DynamoDbAsyncListTables {

    public static void main(String[] args) {
        Region region = Region.US_EAST_1;
        DynamoDbAsyncClient dynamoDbAsyncClient =
 DynamoDbAsyncClient.builder().region(region).build();
        try {
            List<String> tableNames =
 listTablesHandle(dynamoDbAsyncClient).join(); // The join() method may throw a
 CompletionException.
            tableNames.forEach(System.out::println);
        } catch (RuntimeException e) {
            // Handle as needed. Here we simply print out the class names.
            System.out.println(e.getClass()); // Prints 'class
 java.util.concurrent.CompletionException'.
            System.out.println(e.getCause().getClass()); // Prints 'class
 software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException'.
        }
    }

    public static CompletableFuture<List<String>>
 listTablesHandle(DynamoDbAsyncClient client) {
        return client.listTables(ListTablesRequest.builder().build())
            .handle((listTablesResponse, throwable) -> {
                if (listTablesResponse != null) {
                    return listTablesResponse.tableNames(); // Return the list of
 table names.
                } else {
```

```
                    RuntimeException cause = (RuntimeException)
 throwable.getCause(); // If an error was thrown during the SDK's listTables method
 it is wrapped in a CompletionException.

  // The SDK throws only RuntimeExceptions, so this is a safe cast.
                    System.out.println(cause.getMessage());  // Log error here, but
 rethrow so the calling code can handle as needed.
                    throw cause;
                }
            });
    }
}
```

非同期メソッドでのストリーミングの処理

ストリーミングコンテンツを扱う非同期メソッドでは、コンテンツを増分で渡すには AsyncRequestBody、レスポンスを受信および処理するには AsyncResponseTransformer を渡す必要があります。

次の例では、非同期形式の PutObject オペレーションを使用して、ファイルを Amazon S3 に非同期的にアップロードします。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.core.async.AsyncRequestBody;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3AsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.PutObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.PutObjectResponse;
import java.nio.file.Paths;
import java.util.concurrent.CompletableFuture;
```

コード

```
/**
 * To run this AWS code example, ensure that you have setup your development
 environment, including your AWS credentials.
 *
 * For information, see this documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
```

```
 */

public class S3AsyncOps {

     public static void main(String[] args) {

         final String USAGE = "\n" +
                 "Usage:\n" +
                 "    S3AsyncOps <bucketName> <key> <path>\n\n" +
                 "Where:\n" +
                 "    bucketName - the name of the Amazon S3 bucket (for example,
 bucket1). \n\n" +
                 "    key - the name of the object (for example, book.pdf). \n" +
                 "    path - the local path to the file (for example, C:/AWS/book.pdf).
 \n" ;

        if (args.length != 3) {
            System.out.println(USAGE);
             System.exit(1);
        }

        String bucketName = args[0];
        String key = args[1];
        String path = args[2];

        Region region = Region.US_WEST_2;
        S3AsyncClient client = S3AsyncClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        PutObjectRequest objectRequest = PutObjectRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .key(key)
                .build();

        // Put the object into the bucket
        CompletableFuture<PutObjectResponse> future = client.putObject(objectRequest,
                AsyncRequestBody.fromFile(Paths.get(path))
        );
        future.whenComplete((resp, err) -> {
            try {
                if (resp != null) {
                    System.out.println("Object uploaded. Details: " + resp);
                } else {
```

```
                    // Handle error
                    err.printStackTrace();
                }
            } finally {
                // Only close the client when you are completely done with it
                client.close();
            }
        });

        future.join();
    }
}
```

次の例では、非同期形式の GetObject オペレーションを使用して、Amazon S3 からファイルを取得します。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.core.async.AsyncResponseTransformer;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3AsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetObjectResponse;
import java.nio.file.Paths;
import java.util.concurrent.CompletableFuture;
```

コード

```
/**
 * To run this AWS code example, ensure that you have setup your development
 environment, including your AWS credentials.
 *
 * For information, see this documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */

public class S3AsyncStreamOps {

    public static void main(String[] args) {

        final String USAGE = "\n" +
                "Usage:\n" +
```

```
                "    S3AsyncStreamOps <bucketName> <objectKey> <path>\n\n" +
                "Where:\n" +
                "    bucketName - the name of the Amazon S3 bucket (for example,
bucket1). \n\n" +
                "    objectKey - the name of the object (for example, book.pdf). \n" +
                "    path - the local path to the file (for example, C:/AWS/book.pdf).
\n" ;

        if (args.length != 3) {
            System.out.println(USAGE);
            System.exit(1);
         }

        String bucketName = args[0];
        String objectKey = args[1];
        String path = args[2];

        Region region = Region.US_WEST_2;
        S3AsyncClient client = S3AsyncClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        GetObjectRequest objectRequest = GetObjectRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .key(objectKey)
                .build();

        CompletableFuture<GetObjectResponse> futureGet =
client.getObject(objectRequest,
                AsyncResponseTransformer.toFile(Paths.get(path)));

        futureGet.whenComplete((resp, err) -> {
            try {
                if (resp != null) {
                    System.out.println("Object downloaded. Details: "+resp);
                } else {
                    err.printStackTrace();
                }
            } finally {
               // Only close the client when you are completely done with it
                client.close();
            }
        });
        futureGet.join();
```

```
    }
}
```

高度な非同期オプションを設定する

AWS SDK for Java 2.x は、非同期イベント駆動型ネットワークアプリケーションフレームワークである Netty を使用して I/O スレッドを処理します。AWS SDK for Java 2.x は Netty の背後に `ExecutorService` を作成し、HTTP クライアントリクエストから Netty クライアントに返された Future を完了します。この抽象化により、開発者がスレッドを停止またはスリープすることを選択した場合、アプリケーションが非同期プロセスをブレークするリスクが軽減されます。デフォルトでは、各非同期クライアントはプロセッサ数に基づいてスレッドプールを作成し、`ExecutorService` 内のキュー内のタスクを管理します。

非同期クライアントを構築する際に、`ExecutorService` の特定の JDK 実装を指定できます。次のスニペットは、固定のスレッド数を持つ `ExecutorService` を作成します。

コード

```
S3AsyncClient clientThread = S3AsyncClient.builder()
  .asyncConfiguration(
    b -> b.advancedOption(SdkAdvancedAsyncClientOption
      .FUTURE_COMPLETION_EXECUTOR,
      Executors.newFixedThreadPool(10)
    )
  )
  .build();
```

パフォーマンスを最適化するには、独自のスレッドプールエグゼキューターを管理し、クライアントの設定時に含めます。

```
ThreadPoolExecutor executor = new ThreadPoolExecutor(50, 50,
    10, TimeUnit.SECONDS,
    new LinkedBlockingQueue<>(<custom_value>),
    new ThreadFactoryBuilder()
      .threadNamePrefix("sdk-async-response").build());

// Allow idle core threads to time out
executor.allowCoreThreadTimeOut(true);

S3AsyncClient clientThread = S3AsyncClient.builder()
```

```
  .asyncConfiguration(
    b -> b.advancedOption(SdkAdvancedAsyncClientOption
      .FUTURE_COMPLETION_EXECUTOR,
      executor
    )
  )
  .build();
```

を使用するためのベストプラクティス AWS SDK for Java 2.x

API タイムアウトを設定してリクエストのハングを防止する

SDK は、接続タイムアウトやソケットタイムアウトなど、一部のタイムアウトオプションにはデフォルト値を提供しますが、API コールタイムアウトや個々の API コール試行タイムアウトにはデフォルト値を提供しません。個々の試行とリクエスト全体の両方にタイムアウトを設定するのがグッドプラクティスです。これにより、リクエストの完了までの時間が長くなるような一時的な問題や、致命的なネットワーク上の問題が発生した場合に、アプリケーションが最適な方法で迅速に失敗するようになります。

`ClientOverrideConfiguration#apiCallAttemptTimeout` と `ClientOverrideConfiguration#apiCallTimeout` を使用して、サービスクライアントが行うすべてのリクエストにタイムアウトを設定できます。

次の例は、カスタムタイムアウト値を使用する Amazon S3 クライアントの設定を示しています。

```
S3Client.builder()
        .overrideConfiguration(
             b -> b.apiCallTimeout(Duration.ofSeconds(<custom value>))
                   .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofMillis(<custom value>)))
        .build();
```

`apiCallAttemptTimeout`

この設定では、1 回の HTTP 試行にかかる時間を設定します。この時間が経過すると API コールを再試行できます。

`apiCallTimeout`

このプロパティの値は、すべての再試行を含む実行全体の時間を設定します。

サービスクライアントでこれらのタイムアウト値を設定する代わりに、RequestOverrideConfiguration#apiCallTimeout() と RequestOverrideConfiguration#apiCallAttemptTimeout() を使用して 1 つのリクエストを設定できます。

次の例では、カスタムタイムアウト値を使用して 1 つの listBuckets リクエストを設定します。

```
s3Client.listBuckets(lbr -> lbr.overrideConfiguration(
        b -> b.apiCallTimeout(Duration.ofSeconds(<custom value>))
              .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofMillis(<custom value>))));
```

これらのプロパティを一緒に使用すると、すべての再試行に費やされる合計時間にハードリミットを設定します。また、低速なリクエストに対して、フェイルファストするよう、個々の HTTP リクエストを設定することもできます。

サービスクライアントを再利用してパフォーマンスを向上させる

各サービスクライアントは独自の HTTP 接続プールを維持します。プールにすでに存在する接続を新しいリクエストで再利用できるため、新しい接続を確立する時間を短縮できます。効果的に使用されていない接続プールが多すぎることによるオーバーヘッドを避けるため、クライアントの 1 つのインスタンスを共有することをおすすめします。すべてのサービスクライアントはすべてスレッドセーフです。

クライアントインスタンスを共有したくない場合は、クライアントが必要ないときにインスタンスで close() を呼び出してリソースを解放してください。

未使用のサービスクライアントを閉じてリソースの漏洩を防ぐ

不要になった場合は、サービスクライアントを閉じてスレッドなどのリソースをリリースします。クライアントインスタンスを共有したくない場合は、クライアントが必要ないときにインスタンスで close() を呼び出してリソースを解放してください。

入力ストリームを閉じて接続プールの枯渇を防ぐ

S3Client#getObject などのストリーミング操作では、ResponseInputStream を直接操作する場合は、次を実行することをお勧めします。

- できるだけ早く入力ストリームからすべてのデータを読み取ります。
- できるだけ早く入力ストリームを閉じます。

このような推奨を行うのは、入力ストリームは HTTP 接続からのデータの直接ストリームであり、ストリームからのデータがすべて読み取られてストリームが閉じられるまで、基盤となる HTTP 接続を再利用できないためです。これらのルールに従わないと、開いているが未使用の HTTP 接続を大量に割り当てて、クライアントがリソースを使い果たす可能性があります。

アプリケーションワークロードの HTTP パフォーマンスを最適化する

SDK には、一般的なユースケースに適用されるデフォルト HTTP 設定セットが用意されています。お客様には、ユースケースに基づいてアプリケーションの HTTP 構成を調整することをお勧めします。

手始めに、SDK にはスマート設定のデフォルト機能が用意されています。この機能は、バージョン 2.17.102 で始めることで使用できます。ユースケースに応じて、適切な設定値が得られるモードを選択します。

非同期クライアント用の OpenSSL で SSL パフォーマンスを向上させる

デフォルトでは、SDK の `NettyNioAsyncHttpClient` は JDK のデフォルトの SSL 実装を `SslProvider` として使用します。テストの結果、OpenSSL は JDK のデフォルト実装よりもパフォーマンスが優れていることがわかりました。Netty コミュニティでは OpenSSL の使用も推奨しています。

OpenSSL を使用するには、依存関係に `netty-tcnative` を追加します。設定の詳細については、「Netty プロジェクトのドキュメント」を参照してください。

プロジェクト用に `netty-tcnative` を設定すると、`NettyNioAsyncHttpClient` インスタンスは自動的に OpenSSL を選択します。または、次のスニペットに示すように、`NettyNioAsyncHttpClient`ビルダーを使用して明示的に `SslProvider` を設定することもできます。

```
NettyNioAsyncHttpClient.builder()
                       .sslProvider(SslProvider.OPENSSL)
                       .build();
```

SDK メトリクスを使用してアプリケーションのパフォーマンスをモニタリングする

SDK for Java は、アプリケーションのサービスクライアントのメトリクスを収集できます。これらのメトリクスを使用して、パフォーマンスの問題を特定したり、全体的な使用傾向を確認したり、返

されたサービスクライアントの例外を確認したり、特定の問題を掘り下げて理解したりすることができます。

アプリケーションのパフォーマンスをより深く理解するために、メトリクスを収集して Amazon CloudWatch Logs を分析することをお勧めします。

でのエラーの処理 AWS SDK for Java 2.x

SDK を使用して高品質のアプリケーションを構築するには、 が例外を AWS SDK for Java 2.x スローする方法とタイミングを理解することが重要です。以下のセクションでは、SDK によってスローされる例外のさまざまなケース、および例外の適切な処理方法について説明します。

非チェック例外を使用する理由

は、次の理由でチェック例外の代わりにランタイム (またはチェックされていない) 例外 AWS SDK for Java を使用します。

- 懸念がない場合には例外ケースの処理を強制的に適用せずに (さらにコードを冗長にすることなく)、開発者がエラーを細かく制御できるようにするため。
- サイズの大きいアプリケーションで、チェック例外に関連する拡張性の問題が発生するのを防ぐため。

一般的に、チェック例外は小規模なアプリケーションでは役立ちますが、アプリケーションのサイズが大きくなり、複雑化すると、チェック例外が問題となる場合があります。

AwsServiceException (およびサブクラス)

AwsServiceException は、 の使用時に発生する最も一般的な例外です AWS SDK for Java。`AwsServiceException`は、より一般的な SdkServiceException のサブクラスです。`AwsServiceException`は、 からのエラーレスポンスを表します AWS のサービス。たとえば、存在しない Amazon EC2 インスタンスを終了しようとすると、 Amazon EC2 はエラーレスポンスを返し、そのエラーレスポンスのすべての詳細がスロー`AwsServiceException`される に含まれます。

が発生すると`AwsServiceException`、リクエストは に正常に送信されました AWS のサービスが、正常に処理できなかったことがわかります。これは、リクエストのパラメータに含まれるエラーまたはサービス側の問題が原因です。

`AwsServiceException` では次のような情報がわかります。

- 返された HTTP ステータスコード
- 返された AWS エラーコード
- AwsErrorDetails クラスのサービスからの詳細なエラーメッセージ。
- AWS 失敗したリクエストのリクエスト ID

ほとんどの場合、AwsServiceException のサービス固有のサブクラスがスローされ、開発者はキャッチブロックを通じてエラーケースの処理を細かく制御できます。AwsServiceException の Java SDK API リファレンスには、多数の AwsServiceException サブクラスが表示されています。サブクラスリンクを使用してドリルダウンすると、サービスによってスローされた詳細な例外を確認できます。

たとえば、以下の SDK API リファレンスへのリンクは、いくつかの一般的な AWS のサービスの例外階層を示しています。各ページに表示されるサブクラスのリストには、コードがキャッチできる特定の例外が表示されます。

- Amazon S3
- DynamoDB
- Amazon SQS

例外の詳細については、AwsErrorDetails オブジェクトで errorCode を調べてください。errorCode 値を使用して、サービスガイド API の情報を検索できます。たとえば、S3Exception がキャッチされ、AwsErrorDetails#errorCode() 値が InvalidRequest の場合、Amazon S3 API リファレンスのエラーコードのリストを使用して詳細を確認してください。

SdkClientException

SdkClientException は、 へのリクエストの送信中またはレスポンスの解析 AWS 中に、Java クライアントコード内で問題が発生したことを示します AWS。SdkClientException は通常、 よりも深刻でありSdkServiceException、クライアントが のサービスコールを実行できない大きな問題を示します AWS 。たとえば、いずれかのクライアントで オペレーションを呼び出そうとすると、ネットワーク接続が利用SdkClientExceptionできない場合、 は を AWS SDK for Java スローします。

例外と再試行動作

SDK for Java は、いくつかのクライアント側の例外と AWS のサービス レスポンスから受信した HTTP ステータスコードのリクエストを再試行します。これらのエラーは、サービスクライアントがデフォルトで使用するレガシー `RetryMode` の一部として処理されます。`RetryMode` の Java API リファレンスには、モードを設定するさまざまな方法が記載されています。

自動再試行をトリガーする例外と HTTP ステータスコードをカスタマイズするには、`RetryOnExceptionsCondition`、`RetryOnStatusCodeCondition` インスタンスを追加する `RetryPolicy` をサービスクライアントに設定します。

AWS SDK for Java 2.x でページ分割された結果を使用する

レスポンスオブジェクトが大きすぎて 1 回のレスポンスで返せない場合、多くの AWS オペレーションはページ分割された結果を返します。 AWS SDK for Java 1.0 では、レスポンスには結果の次のページを取得するために使用するトークンが含まれています。対照的に、 AWS SDK for Java 2.x には自動ページ分割メソッドがあり、複数のサービス呼び出しを実行して結果の次のページを自動的に取得できます。この結果を処理するコードを記述するだけです。自動ページ分割は、同期クライアントと非同期クライアントの両方で使用できます。

> **Note**
>
> これらのコードスニペットは、ユーザーが SDK の使用の基本を理解し、シングルサインオンアクセスで環境を設定していることを前提としています。

同期ページ割り

次の例は、 Amazon S3 バケット内のオブジェクトを一覧表示する同期ページ分割メソッドを示しています。

ページを反復処理する

最初の例は、`ListObjectsV2Iterable` インスタンスである `listRes` ページネーターオブジェクトを使用して、`stream` メソッドですべてのレスポンスページをイテレーションする例です。コードはレスポンスページをストリーミングし、レスポンスストリームを`S3Object`コンテンツのストリームに変換して、 Amazon S3 オブジェクトのコンテンツを処理します。

以下のインポートは、この同期ページ分割セクションのすべての例に適用されます。

インポート

```
import java.io.IOException;
import java.nio.ByteBuffer;
import java.util.Random;

import software.amazon.awssdk.core.waiters.WaiterResponse;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.paginators.ListObjectsV2Iterable;
import software.amazon.awssdk.core.sync.RequestBody;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.PutObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ListObjectsV2Request;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ListObjectsV2Response;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Object;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.DeleteObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.DeleteBucketRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CreateMultipartUploadRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CreateMultipartUploadResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CompletedMultipartUpload;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CreateBucketRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CompletedPart;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CreateBucketConfiguration;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.UploadPartRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CompleteMultipartUploadRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.waiters.S3Waiter;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.HeadBucketRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.HeadBucketResponse;
```

```
        ListObjectsV2Request listReq = ListObjectsV2Request.builder()
            .bucket(bucketName)
            .maxKeys(1)
            .build();

        ListObjectsV2Iterable listRes = s3.listObjectsV2Paginator(listReq);
        // Process response pages
        listRes.stream()
            .flatMap(r -> r.contents().stream())
            .forEach(content -> System.out
                .println(" Key: " + content.key() + " size = " + content.size()));
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

オブジェクトを反復処理する

次の例では、レスポンスのページではなく、レスポンスで返るオブジェクトを反復処理する方法を示します。ListObjectsV2Iterable クラスの contents メソッドは、基になるコンテンツ要素を処理する複数のメソッドを提供する SdkIterable を返します。

ストリーミングを使用する

以下のスニペットは、レスポンスコンテンツの stream メソッドを使用して、ページ分割された項目コレクションを反復処理します。

```
        // Helper method to work with paginated collection of items directly.
        listRes.contents().stream()
            .forEach(content -> System.out
                .println(" Key: " + content.key() + " size = " + content.size()));
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

for-each ループを使用する

SdkIterable は Iterable インターフェースを拡張するので、他の Iterable と同じように内容を処理できます。次のスニペットでは、標準の for-each ループを使用してレスポンスの内容を反復処理しています。

```
        for (S3Object content : listRes.contents()) {
            System.out.println(" Key: " + content.key() + " size = " + content.size());
        }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

手動のページ割り

手動のページ分割が必要なユースケースでは、従来どおり手動のページ分割を使用できます。それ以降のリクエストについては、応答オブジェクトの次のトークンを使用します。次の例では while ループを使用します。

```
        ListObjectsV2Request listObjectsReqManual = ListObjectsV2Request.builder()
            .bucket(bucketName)
            .maxKeys(1)
            .build();

        boolean done = false;
        while (!done) {
            ListObjectsV2Response listObjResponse =
 s3.listObjectsV2(listObjectsReqManual);
            for (S3Object content : listObjResponse.contents()) {
                System.out.println(content.key());
            }

            if (listObjResponse.nextContinuationToken() == null) {
                done = true;
            }

            listObjectsReqManual = listObjectsReqManual.toBuilder()
                .continuationToken(listObjResponse.nextContinuationToken())
                .build();
        }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

結果の合計数を制限する

ほとんどのページ分割リクエストの maxResultsパラメータは、各ページの項目の最大数を設定します。ページネーターは、何も残らないままでページをリクエストし続けます。maxResults を 1 に設定しても、一致する項目はすべて取得されます。

一部のオペレーションでは、maxKeysAmazon S3 ListObjectsV2Requestや DynamoDB limitの など、異なるパラメータ名を使用しますQueryRequest。DynamoDB limitパラメータは、各ページで評価する項目の最大数を設定します。

items().stream() メソッドは標準の Java を返すためStream、任意のStreamオペレーションで項目を処理できます。次の例では、 の limitメソッドを使用してStream、最初の 10 個の項目のみを返します。

インポート

```
import java.util.Collections;
import java.util.List;
```

```
import java.util.Map;
import java.util.stream.Collectors;

import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryRequest;
```

```
DynamoDbClient dynamoDbClient = DynamoDbClient.create();

QueryRequest request = QueryRequest.builder()
        .tableName("Customers")
        .keyConditionExpression("customerId = :id")
        .expressionAttributeValues(Collections.singletonMap(":id",
                AttributeValue.builder().s("123").build()))
        .limit(25)   // Page size: evaluate up to 25 items per service call.
        .build();

List<Map<String, AttributeValue>> firstTenItems =
 dynamoDbClient.queryPaginator(request)
        .items()
        .stream()
        .limit(10)   // Total: stop after 10 items.
        .collect(Collectors.toList());
```

非同期ページ割り

次の例は、 DynamoDB テーブルを一覧表示する非同期ページ分割メソッドを示しています。

テーブル名のページを反復処理する

次の 2 つの例では、非同期の DynamoDB クライアントを使用して `listTablesPaginator` メソッドを呼び出し、`ListTablesPublisher` を取得するリクエストを送信しています。`ListTablesPublisher` には 2 つのインターフェースが実装されており、レスポンスを処理するための多くのオプションが用意されています。各インターフェースのメソッドを見ていきます。

`Subscriber` を使用する

次のコード例は、`ListTablesPublisher` で実装された `org.reactivestreams.Publisher` インターフェイスを使用してページ分割された結果を処理する方法を示しています。リアクティブなストリームのモデルの詳細については、「Reactive Streams GitHub repo」を参照してください。

以下のインポートは、この非同期ページ分割セクションのすべての例に適用されます。

インポート

```
import io.reactivex.rxjava3.core.Flowable;
import org.reactivestreams.Subscriber;
import org.reactivestreams.Subscription;
import reactor.core.publisher.Flux;
import software.amazon.awssdk.core.async.SdkPublisher;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbAsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ListTablesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ListTablesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.paginators.ListTablesPublisher;

import java.util.List;
import java.util.concurrent.CompletableFuture;
import java.util.concurrent.ExecutionException;
```

次のコードは ListTablesPublisher インスタンスを取得します。

```
        // Creates a default client with credentials and region loaded from the
        // environment.
        final DynamoDbAsyncClient asyncClient = DynamoDbAsyncClient.create();

        ListTablesRequest listTablesRequest =
ListTablesRequest.builder().limit(3).build();
        ListTablesPublisher publisher =
asyncClient.listTablesPaginator(listTablesRequest);
```

次のコードでは、org.reactivestreams.Subscriber の匿名実装を使用して各ページの結果を処理します。

この onSubscribe メソッドでは、Subscription.request メソッドを呼び出して、公開者に対してデータのリクエストを開始します。公開者からデータの取得を開始するには、このメソッドを呼び出す必要があります。

サブスクライバーの onNext メソッドは、すべてのテーブル名にアクセスし、それぞれを出力することでレスポンスページを処理します。ページが処理されると、パブリッシャーに別のページが要求されます。このメソッドは、すべてのページが取得されるまで繰り返し呼び出されます。

データ取得中にエラーが発生すると、onError メソッドがトリガーされます。最後に、すべてのページがリクエストされると、onComplete メソッドが呼び出されます。

```
        // A Subscription represents a one-to-one life-cycle of a Subscriber
subscribing
        // to a Publisher.
        publisher.subscribe(new Subscriber<ListTablesResponse>() {
            // Maintain a reference to the subscription object, which is required to
request
            // data from the publisher.
            private Subscription subscription;

            @Override
            public void onSubscribe(Subscription s) {
                subscription = s;
                // Request method should be called to demand data. Here we request a
single
                // page.
                subscription.request(1);
            }

            @Override
            public void onNext(ListTablesResponse response) {
                response.tableNames().forEach(System.out::println);
                // After you process the current page, call the request method to
signal that
                // you are ready for next page.
                subscription.request(1);
            }

            @Override
            public void onError(Throwable t) {
                // Called when an error has occurred while processing the requests.
            }

            @Override
            public void onComplete() {
                // This indicates all the results are delivered and there are no more
pages
                // left.
            }
        });
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

Consumer を使用する

ListTablesPublisher を実装する SdkPublisher インターフェースには、Consumer を受け取って CompletableFuture<Void> を返す subscribe メソッドがあります。

このインターフェースの subscribe メソッドは、org.reactivestreams.Subscriber のオーバーヘッドが大きすぎるような単純なユースケースに使用できます。以下のコードは各ページを使用するため、それぞれの tableNames メソッドを呼び出します。tableNames メソッドは、forEach メソッドで処理される DynamoDB テーブル名 の java.util.List を返します。

```
        // Use a Consumer for simple use cases.
        CompletableFuture<Void> future = publisher.subscribe(
                response -> response.tableNames()
                        .forEach(System.out::println));
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

テーブル名を反復処理する

次の例では、レスポンスのページではなく、レスポンスで返るオブジェクトを反復処理する方法を示します。前に contents メソッドで示した同期 Amazon S3 の例と同様、DynamoDB 非同期結果クラス、ListTablesPublisher には、基になるアイテムコレクションを操作するための tableNames 便利なメソッドがあります。tableNames メソッドの戻り型は、すべてのページに項目をリクエストできる SdkPublisher です。

Subscriber を使用する

次のコードは、基になるテーブル名のコレクションの SdkPublisher を取得します。

```
        // Create a default client with credentials and region loaded from the
        // environment.
        final DynamoDbAsyncClient asyncClient = DynamoDbAsyncClient.create();

        ListTablesRequest listTablesRequest =
ListTablesRequest.builder().limit(3).build();
        ListTablesPublisher listTablesPublisher =
asyncClient.listTablesPaginator(listTablesRequest);
        SdkPublisher<String> publisher = listTablesPublisher.tableNames();
```

次のコードでは、org.reactivestreams.Subscriber の匿名実装を使用して各ページの結果を処理します。

サブスクライバーの onNext メソッドはコレクションの個々の要素を処理します。この場合はテーブル名です。テーブル名が処理されると、パブリッシャーから別のテーブル名が要求されます。このメソッドは、すべてのテーブル名が取得されるまで繰り返し呼び出されます。

```
        // Use a Subscriber.
        publisher.subscribe(new Subscriber<String>() {
            private Subscription subscription;

            @Override
            public void onSubscribe(Subscription s) {
                subscription = s;
                subscription.request(1);
            }

            @Override
            public void onNext(String tableName) {
                System.out.println(tableName);
                subscription.request(1);
            }

            @Override
            public void onError(Throwable t) {
            }

            @Override
            public void onComplete() {
            }
        });
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

Consumer を使用する

次の例では、各項目の処理に Consumer を要する SdkPublisher の subscribe メソッドを使用しています。

```
        // Use a Consumer.
        CompletableFuture<Void> future = publisher.subscribe(System.out::println);
        future.get();
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

サードパーティーライブラリを使用する

カスタムの受信者を実装せずに、その他のサードパーティーのライブラリを使用することができます。この例では、RxJava の使用を例に挙げていますが、リアクティブなストリームのインターフェイスを実装するライブラリを使用することもできます。上記ライブラリの詳細については、「RxJava wiki page on GitHub」を参照してください。

このライブラリを使用するには、依存関係として追加します。使用する POM スニペットの例を示します (Maven を使用している場合)。

POM エントリ

```
<dependency>
      <groupId>io.reactivex.rxjava3</groupId>
      <artifactId>rxjava</artifactId>
      <version>3.1.6</version>
</dependency>
```

Code

```
        DynamoDbAsyncClient asyncClient = DynamoDbAsyncClient.create();
        ListTablesPublisher publisher =
 asyncClient.listTablesPaginator(ListTablesRequest.builder()
                .build());

        // The Flowable class has many helper methods that work with
        // an implementation of an org.reactivestreams.Publisher.
        List<String> tables = Flowable.fromPublisher(publisher)
                .flatMapIterable(ListTablesResponse::tableNames)
                .toList()
                .blockingGet();
        System.out.println(tables);
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

結果の合計数を制限する

ほとんどのページ分割リクエストの maxResultsパラメータは、各ページの項目の最大数を設定します。ページネーターは、何も残らないまでページをリクエストし続けます。maxResults を 1 に設定しても、一致する項目はすべて取得されます。

一部のオペレーションでは、maxKeysAmazon S3 ListObjectsV2Requestや DynamoDB limitの など、異なるパラメータ名を使用しますQueryRequest。DynamoDB limitパラメータは、各ページで評価する項目の最大数を設定します。

items() メソッドは を返しますSdkPublisher。次の例では、 の limitメソッドを使用してSdkPublisher、最初の 10 個の項目のみを返します。

インポート

```
import java.util.Collections;
import java.util.concurrent.CompletableFuture;

import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbAsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryRequest;
```

```
DynamoDbAsyncClient dynamoDbAsyncClient = DynamoDbAsyncClient.create();

QueryRequest request = QueryRequest.builder()
        .tableName("Customers")
        .keyConditionExpression("customerId = :id")
        .expressionAttributeValues(Collections.singletonMap(":id",
                AttributeValue.builder().s("123").build()))
        .limit(25)   // Page size: evaluate up to 25 items per service call.
        .build();

CompletableFuture<Void> future = dynamoDbAsyncClient.queryPaginator(request)
        .items()
        .limit(10)   // Total: stop after 10 items.
        .subscribe(item -> System.out.println(item));
future.join();
```

でのウェーターの使用 AWS SDK for Java 2.x

AWS SDK for Java 2.x のウェーターユーティリティを使用すると、 AWS リソースに対してオペレーションを実行する前に、リソースが指定された状態であることを検証できます。

ウェーターは、目的の状態に達するまで (または AWS リソースが目的の状態に到達しないと判断されるまで)、 DynamoDB テーブルや Amazon S3 バケットなどのリソースをポーリングするために使用される抽象化です。面倒でエラーが発生しやすい AWS リソースを継続的にポーリングする口

ジックを記述する代わりに、ウェーターを使用してリソースをポーリングし、リソースの準備ができた後もコードを実行し続けることができます。

前提条件

でプロジェクトでウェーターを使用する前に AWS SDK for Java、AWS SDK for Java 「2.x のセットアップ」のステップを完了する必要があります。

AWS SDK for Javaのバージョン `2.15.0` 以降を使用するように、プロジェクトの依存関係を (例: `pom.xml` または `build.gradle` ファイルで) 設定する必要もあります。

例えば、次のようになります。

```
<project>
  <dependencyManagement>
   <dependencies>
      <dependency>
        <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
        <artifactId>bom</artifactId>
        <version>2.27.21</version>
        <type>pom</type>
        <scope>import</scope>
      </dependency>
   </dependencies>
  </dependencyManagement>
</project>
```

ウェーターの使用

ウェイターオブジェクトをインスタンス化するには、最初にサービスクライアントを作成します。サービスクライアントの `waiter()` メソッドをウェイターオブジェクトの値として設定します。ウェイターインスタンスが存在するようになったら、適切なコードを実行するようにその応答オプションを設定します。

同期プログラミング

次のコードスニペットは、 DynamoDB テーブルが存在し、ACTIVE 状態になるまで待機する方法を示しています。

```
DynamoDbClient dynamo = DynamoDbClient.create();
```

```
DynamoDbWaiter waiter = dynamo.waiter();

WaiterResponse<DescribeTableResponse> waiterResponse =
  waiter.waitUntilTableExists(r -> r.tableName("myTable"));

// print out the matched response with a tableStatus of ACTIVE
waiterResponse.matched().response().ifPresent(System.out::println);
```

非同期プログラミング

次のコードスニペットは、 DynamoDB テーブルが存在しないまで待機する方法を示しています。

```
DynamoDbAsyncClient asyncDynamo = DynamoDbAsyncClient.create();
DynamoDbAsyncWaiter asyncWaiter = asyncDynamo.waiter();

CompletableFuture<WaiterResponse<DescribeTableResponse>> waiterResponse =
          asyncWaiter.waitUntilTableNotExists(r -> r.tableName("myTable"));

waiterResponse.whenComplete((r, t) -> {
  if (t == null) {
   // print out the matched ResourceNotFoundException
   r.matched().exception().ifPresent(System.out::println);
  }
}).join();
```

ウェイターを設定する

ビルダーで overrideConfiguration() を使用して、ウェイターの設定をカスタマイズできます。一部の操作では、リクエストを実行する際にカスタム設定を適用できます。

ウェーターを設定する

次のコードスニペットは、ウェイターの設定を上書きする方法を示しています。

```
// sync
DynamoDbWaiter waiter =
   DynamoDbWaiter.builder()
          .overrideConfiguration(b -> b.maxAttempts(10))
          .client(dynamoDbClient)
          .build();
// async
DynamoDbAsyncWaiter asyncWaiter =
```

```
    DynamoDbAsyncWaiter.builder()
           .client(dynamoDbAsyncClient)
           .overrideConfiguration(o -> o.backoffStrategy(
                FixedDelayBackoffStrategy.create(Duration.ofSeconds(2))))
           .scheduledExecutorService(Executors.newScheduledThreadPool(3))
           .build();
```

特定のリクエストの設定をオーバーライドする

次のコードスニペットは、リクエストごとにウェイターの設定を上書きする方法を示しています。すべての操作でカスタマイズ可能な設定があるわけではないことに注意してください。

```
waiter.waitUntilTableNotExists(b -> b.tableName("myTable"),
               o -> o.maxAttempts(10));

asyncWaiter.waitUntilTableExists(b -> b.tableName("myTable"),
                 o -> o.waitTimeout(Duration.ofMinutes(1)));
```

コードの例

でウェーターを使用する完全な例については DynamoDB、 AWS 「 Code Examples Repository」のCreateTable.java」を参照してください。

でウェーターを使用する完全な例については Amazon S3、 AWS 「 Code Examples Repository」のS3BucketOps.java」を参照してください。

トラブルシューティングに関するよくある質問

AWS SDK for Java 2.x アプリケーションで を使用すると、このトピックに記載されているランタイムエラーが発生する可能性があります。根本原因を見つけてエラーを解決するには、このガイドの提案を参考にしてください。

「**`java.net.SocketException`**: Connection reset」または「server failed to complete the response」エラーを修正するにはどうすればよいですか?

接続リセットエラーは、リクエストが完了する前にホスト AWS のサービス、、または仲介者 (NAT ゲートウェイ、プロキシ、ロードバランサーなど) が接続を閉じたことを示します。多くの原因があ

るため、ソリューションを見つけるには、接続が閉じられた理由を知る必要があります。通常、以下の理由によって接続が閉じられます。

- 接続が非アクティブ。 これはストリーミングオペレーションでよく見られる動作です。一定期間データの送受信が行われないため、仲介者が接続がデッドであると判断して切断してしまうことがあります。これを防ぐには、アプリケーションがデータをアクティブにダウンロードまたはアップロードしていることを確認してください。
- HTTP または SDK クライアントを閉じた。使用中はリソースを閉じないでください。
- プロキシの設定ミス。設定したプロキシをバイパスして、問題が修正されるかどうかを確認してください。これにより問題が修正された場合、プロキシが何らかの理由で接続を閉じています。特定のプロキシを調べて、接続を閉じている理由を特定します。

問題を特定できない場合は、影響を受けた接続の tcpdump をネットワークのクライアントエッジで実行してみてください (たとえば、制御するプロキシの後など) 。

AWS エンドポイントが TCP RST (リセット) を送信していることがわかった場合は、影響を受けるサービスに連絡して、リセットが発生している理由を判断できるかどうかを確認してください。問題が発生したときのリクエスト ID とタイムスタンプを提示できるように準備してください。 AWS サポートチームは、アプリケーションが送受信しているバイト数とタイミングを正確に示すワイヤログからメリットを得ることもできます。

「connection timeout」を修正するにはどうすればよいですか?

接続タイムアウトエラーは、ホスト、 AWS のサービス、または仲介者 (NAT ゲートウェイ、プロキシ、ロードバランサーなど) が、設定された接続タイムアウト内にサーバーとの新しい接続を確立できなかったことを示します。以下の項目は、この問題の一般的な原因です。

- 設定された接続タイムアウト値が低すぎる。デフォルトでは、 AWS SDK for Java 2.xでの接続タイムアウトは 2 秒です。接続タイムアウト値を低く設定しすぎると、このエラーが発生する可能性があります。推奨される接続タイムアウトは、リージョン内呼び出しのみを行う場合は 1 秒、クロスリージョンリクエストを行う場合は 3 秒です。
- プロキシの設定ミス。設定したプロキシをバイパスして、問題が修正されるかどうかを確認してください。これにより問題が解決した場合、プロキシが接続タイムアウトの原因です。特定のプロキシを調べて、問題が発生した理由を判断します。

問題を特定できない場合は、影響を受けた接続の tcpdump をネットワークのクライアントエッジで実行して (たとえば、制御するプロキシの後など) 、ネットワークの問題を調査します。

「`java.net.SocketTimeoutException`: Read timed out」を修正するにはどうすればよいですか?

読み取りタイムアウトエラーは、JVM が基盤となるオペレーティングシステムからデータを読み取ろうとしたものの、SDK を介して設定された時間内にデータが返されなかったことを示します。このエラーは、オペレーティングシステム、 AWS のサービス、または仲介者 (NAT ゲートウェイ、プロキシ、ロードバランサーなど) が JVM が想定する時間内にデータを送信できない場合に発生する可能性があります。多くの原因があるため、ソリューションを見つけるには、データが返されない理由を知る必要があります。

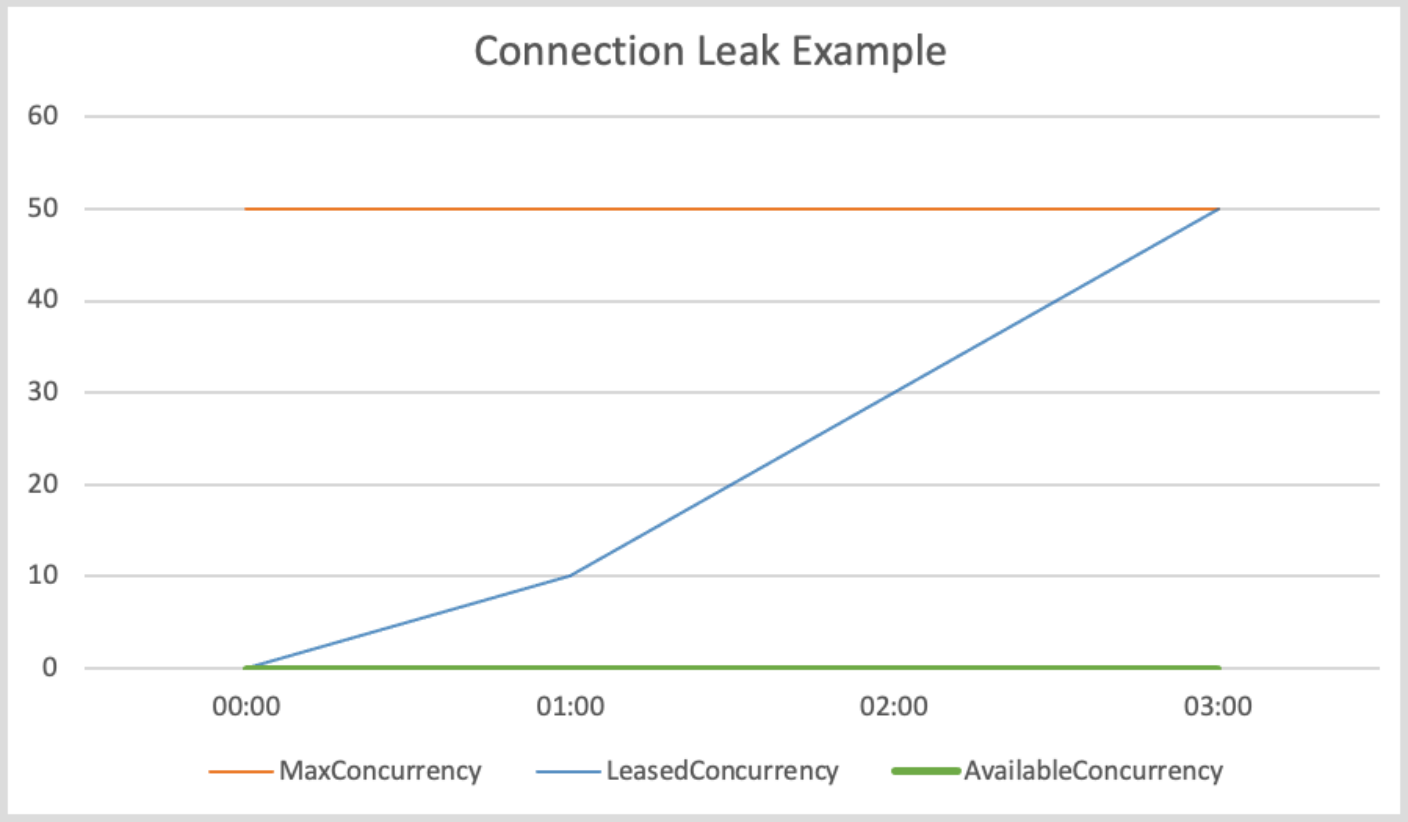
影響を受けた接続の tcpdump をネットワークのクライアントエッジで実行してみてください (たとえば、制御するプロキシの後など) 。

AWS エンドポイントが TCP RST を送信 (リセット) しているかわかった場合は、影響を受けるサービスにお問い合わせください。問題が発生したときのリクエスト ID とタイムスタンプを提示できるように準備してください。 AWS サポートチームは、アプリケーションが送受信しているバイト数とタイミングを正確に示すワイヤログからメリットを得ることもできます。

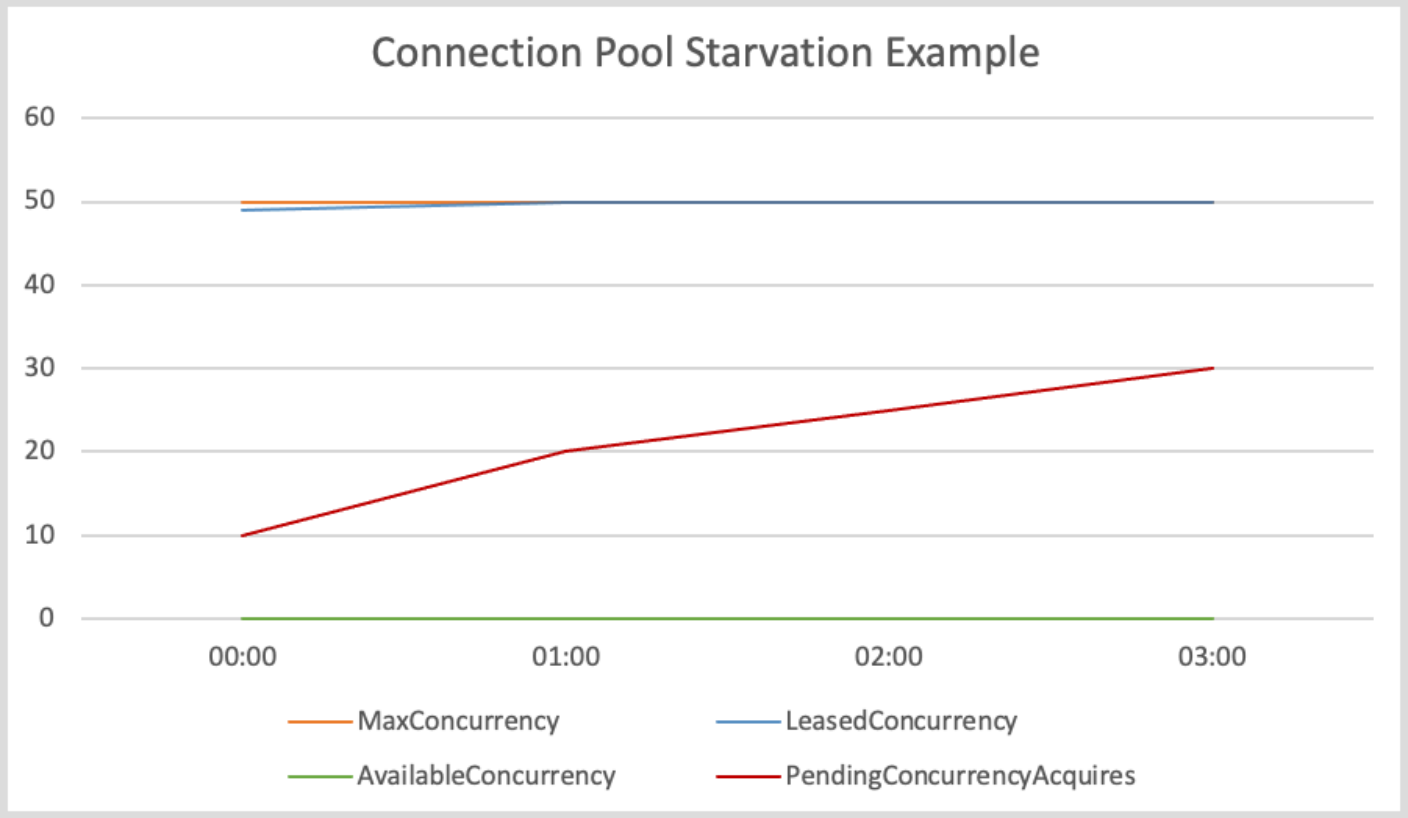
「Unable to execute HTTP request: Timeout waiting for connection from pool」エラーを修正するにはどうすればよいですか?

このエラーは、リクエストが指定された最大時間内にプールから接続を取得できないことを示します。問題をトラブルシューティングするには、SDK クライアント側のメトリクスを有効にして、Amazon CloudWatch にメトリクスを公開することをお勧めします。HTTP メトリクスは、根本原因を絞り込むのに役立ちます。以下の項目は、このエラーの一般的な原因です。

- 接続リーク。これを調査するには、`LeasedConcurrency`、`AvailableConcurrency`、および `MaxConcurrency` メトリクスを確認します。`MaxConcurrency` に達するまで `LeasedConcurrency` が増加するものの、その後減少しない場合、接続リークが発生している可能性があります。リークの一般的な原因は、S3 `getObject` メソッドなどのストリーミングオペレーションが閉じられていないことです。アプリケーションで、できるだけ早く入力ストリームからすべてのデータを読み取り、その後の入力ストリームを閉じることをお勧めします。次の図は、接続リークの SDK メトリクスの例を示しています。



- 接続プールの不足。 これは、リクエストレートが高すぎて、設定された接続プールのサイズがリクエストの需要を満たせない場合に発生する可能性があります。デフォルトの接続プールサイズは 50 で、プール内の接続が最大に達すると、HTTP クライアントは接続が利用可能になるまで受信リクエストをキューに入れます。次の図は、接続プールが不足した場合の SDK メトリクスの例を示しています。



この問題を軽減するには、次のいずれかのアクションを実行することを検討してください。

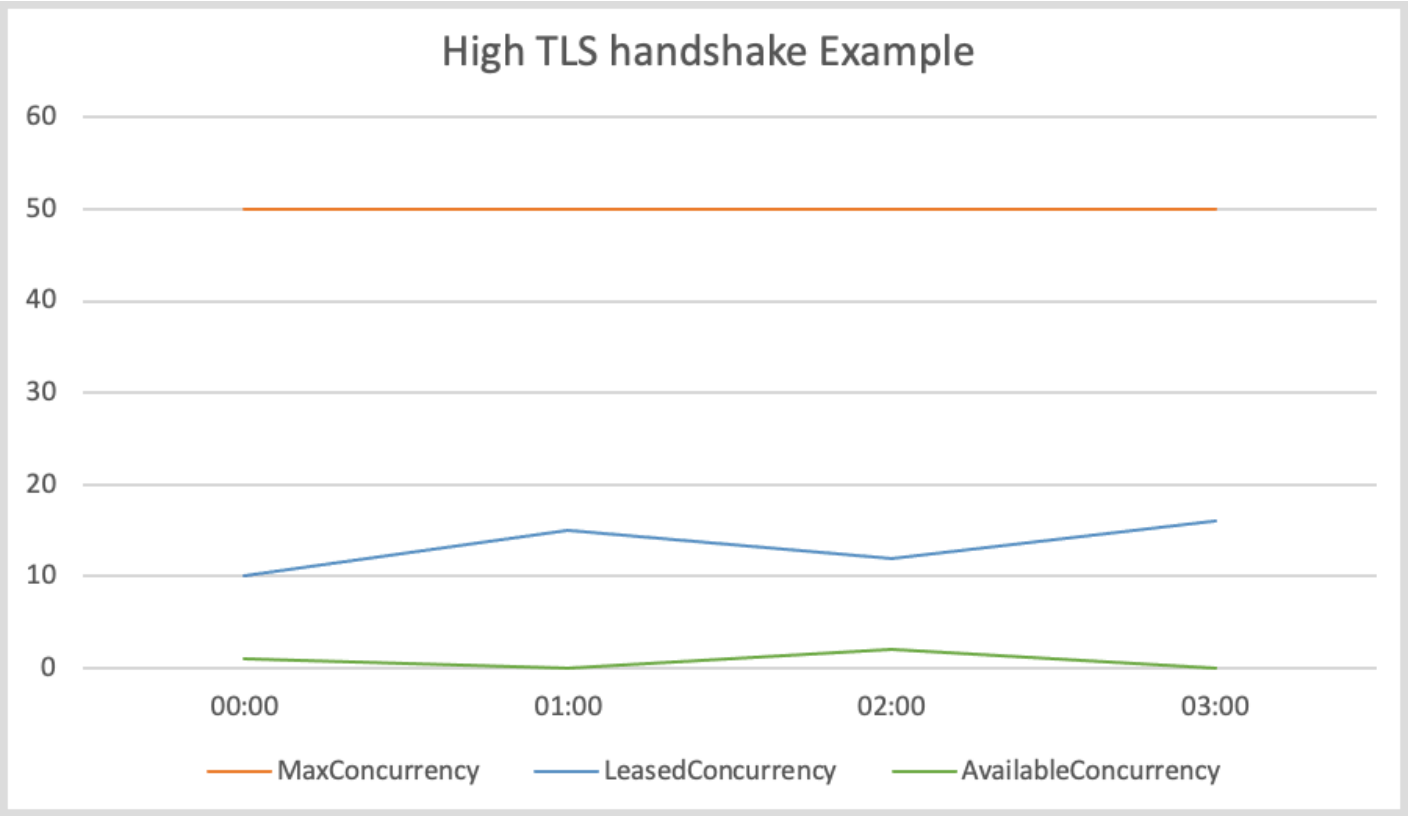
- 接続プールのサイズを大きくする。
- 取得タイムアウトを長くする。
- リクエストレートを低くする。

接続の最大数を増やすことで、クライアントスループットを向上させることができます (ネットワークインターフェイスが既に完全に使用されている場合を除く) 。ただし、最終的には、プロセスで使用されるファイル記述子の数に対するオペレーティングシステムの制限に達する可能性があります。ネットワークインターフェイスを既に完全に使用している場合、または接続数をこれ以上増やすことができない場合は、取得タイムアウトを長くしてみてください。これにより、タイムアウトする前にリクエストが接続を取得する時間を追加できます。接続が解放されない場合でも、後続のリクエストはタイムアウトします。

最初の 2 つのメカニズムを使用して問題を解決できない場合は、次のオプションでリクエストレートを低くします。

- 大量のトラフィックバーストによってクライアントが過負荷にならないように、リクエストを円滑化する。
- を呼び出す方が効率的です AWS のサービス。

  - リクエストを送信するホストの数を増やす。
- I/O スレッドがビジー状態。この原因は、NettyNioAsyncHttpClient で非同期 SDK クライアントを使用している場合にのみ該当します。AvailableConcurrency メトリクスが低くなく、接続がプールで使用可能であることを示しているものの ConcurrencyAcquireDuration が高い場合は、I/O スレッドがリクエストを処理できていない可能性があります。future 完了エグゼキューターとして Runnable:run を渡したり、レスポンスの future 完了チェーン内で時間のかかる処理を実行したりしないよう注意してください。こうした処理は I/O スレッドをブロックする可能性があります。そうでない場合は、 eventLoopGroupBuilder メソッドを使用して I/O スレッドの数を増やすことを検討してください。参考までに、NettyNioAsyncHttpClient インスタンスの I/O スレッドのデフォルト数は、ホストの CPU コア数の 2 倍です。
- TLS ハンドシェイクのレイテンシーが高い。AvailableConcurrency メトリクスが 0 に近く、LeasedConcurrency が MaxConcurrency より小さい場合は、TLS ハンドシェイクのレイテンシーが高いことが原因である可能性があります。次の図は、TLS ハンドシェイクのレイテンシーが高い場合の SDK メトリクスの例を示しています。



CRT に基づいていない Java SDK が提供する HTTP クライアントの場合は、TLS ログを有効にして TLS の問題をトラブルシューティングしてみてください。 AWS CRT ベースの HTTP クライアントの場合は、AWS CRT ログを有効にしてみてください。 AWS エンドポイントが TLS ハンド

シェイクの実行に時間がかかると思われる場合は、影響を受ける サービスにお問い合わせください。

NoClassDefFoundError、NoSuchMethodError、または NoSuchFieldError を修正するにはどうすればよいですか?

NoClassDefFoundError は、ランタイムにクラスをロードできなかったことを示しています。このエラーの最も一般的な原因は 2 つあります。

- JAR が欠落しているか、クラスパスに間違ったバージョンの JAR があるため、 クラスパスにクラスが存在しない。
- 静的イニシャライザが例外をスローしたため、 クラスをロードできなかった。

同様に、 NoSuchMethodError と NoSuchFieldError は通常、JAR バージョンが一致しないために発生します。次の手順を実行することをお勧めします。

1. 依存関係をチェックして、すべての SDK jar に同じバージョンを使用していることを確認します。クラス、メソッド、またはフィールドが見つからない最も一般的な理由は、新しいクライアントバージョンにアップグレードしても、古い「共有」 SDK 依存関係バージョンを引き続き使用している場合です。新しいクライアントバージョンは、新しい「共有」 SDK 依存関係にしか存在しないクラスを使用しようとする場合があります。mvn dependency:tree または gradle dependencies (Gradle の場合) を実行して、SDK ライブラリのバージョンがすべて一致することを確認します。将来的にこの問題を完全に回避するには、BOM (部品表) を使用して SDK モジュールバージョンを管理することをお勧めします。

   次は、SDK バージョンが混在している例を示しています。

   ```
   [INFO] +- software.amazon.awssdk:dynamodb:jar:2.20.00:compile
   [INFO] |  +- software.amazon.awssdk:aws-core:jar:2.13.19:compile
   [INFO] +- software.amazon.awssdk:netty-nio-client:jar:2.20.00:compile
   ```

   dynamodb のバージョンは 2.20.00、aws-core のバージョンは 2.13.19 です。aws-core アーティファクトバージョンも 2.20.00 である必要があります。
2. ログの早い段階でステートメントをチェックして、静的初期化の失敗が原因でクラスがロードに失敗したかどうかを確認します。クラスが初めてロードに失敗すると、クラスをロードできない理由を示す、より便利な別の例外がスローされる場合があります。この役立つ可能性のある例

外は 1 回だけ発生し、後のログステートメントではクラスが見つからないことのみが報告されます。

3. デプロイプロセスをチェックして、アプリケーションと一緒に必要な JAR ファイルがデプロイされていることを確認します。正しいバージョンで構築しているものの、アプリケーションのクラスパスを作成するプロセスで、必要な依存関係が除外されている可能性があります。

「SignatureDoesNotMatch」エラーまたは「The request signature we calculated does not match the signature you provided」エラーを修正するにはどうすればよいですか?

`SignatureDoesNotMatch` エラーは、 によって生成された署名 AWS SDK for Java と によって生成された署名が一致し AWS のサービス ないことを示します。以下の項目は、潜在的な原因です。

- プロキシまたは仲介者がリクエストを変更している。たとえば、プロキシまたはロードバランサーは、SDK によって署名されたヘッダー、パス、またはクエリ文字列を変更する場合があります。
- サービスおよび SDK はそれぞれ、署名する文字列を生成するときにリクエストをエンコードする方法が異なります。

この問題をデバッグするには、SDK のデバッグログを有効にすることをお勧めします。エラーを再現し、SDK が生成した正規リクエストを見つけます。ログでは、正規リクエストには `AWS4 Canonical Request: ...` というラベルが付けられ、署名する文字列には `AWS4 String to sign: ...` というラベルが付けられます。

たとえば、本番環境でのみ再現可能であるためにデバッグを有効にできない場合は、エラーが発生したときにリクエストに関する情報をログに記録するロジックをアプリケーションに追加します。その後、その情報を使用して、デバッグログを有効にした統合テストで本番環境外でエラーを再現できます。

署名する正規リクエストと文字列を収集した後、AWS 署名バージョン 4 の仕様と比較して、SDK が署名する文字列を生成した方法に問題がないかどうかを確認します。問題があると思われる場合は、AWS SDK for Javaへの GitHub バグレポートを作成できます。

何も問題が表示されない場合は、SDK の 文字列と 文字列を比較して、一部の が失敗レスポンス (Amazon S3 など) の一部として を AWS のサービス 返すことを示すことができます。これが利用できない場合は、影響を受けるサービスに問い合わせて、生成された正規リクエストと署名文字列を確認して比較する必要があります。比較することで、リクエストを変更した可能性のある仲介者や、サービスとクライアント間のエンコードの違いを特定できます。

リクエストの署名の詳細については、「 AWS Identity and Access Management ユーザーガイド」の AWS 「 API リクエストの署名」を参照してください。

Example正規リクエスト

```
PUT
/Example-Bucket/Example-Object
partNumber=19&uploadId=string
amz-sdk-invocation-id:f8c2799d-367c-f024-e8fa-6ad6d0a1afb9
amz-sdk-request:attempt=1; max=4
content-encoding:aws-chunked
content-length:51
content-type:application/octet-stream
host:xxxxx
x-amz-content-sha256:STREAMING-UNSIGNED-PAYLOAD-TRAILER
x-amz-date:20240308T034733Z
x-amz-decoded-content-length:10
x-amz-sdk-checksum-algorithm:CRC32
x-amz-trailer:x-amz-checksum-crc32
```

Example署名文字列

```
AWS4-HMAC-SHA256
20240308T034435Z
20240308/us-east-1/s3/aws4_request
5f20a7604b1ef65dd89c333fd66736fdef9578d11a4f5d22d289597c387dc713
```

「**java.lang.IllegalStateException**: Connection pool shut down」エラーを修正するにはどうすればよいですか?

このエラーは、基盤となる Apache HTTP 接続プールが閉じられたことを示します。以下の項目は、潜在的な原因です。

- SDK クライアントが途中で閉じられた。 SDK は、関連付けられたクライアントが閉じられたときにのみ接続プールを閉じます。使用中はリソースを閉じないでください。
- **java.lang.Error** がスローされた。OutOfMemoryError などのエラーにより、Apache HTTP 接続プールがシャットダウンされます。ログでエラースタックトレースがないかを調べてください。また、 Throwable または Error をキャッチするものの、エラーが無視されて表面化していない場所についても、コードを確認してください。コードでエラーが報告されない場合は、情報が

ログに記録されるようにコードを書き換えます。ログに記録された情報は、エラーの根本原因を特定するのに役立ちます。

- 閉じられた後に **DefaultCredentialsProvider#create()** から返された認証情報プロバイダーを使用しようとした。DefaultCredentialsProvider#create はシングルトンインスタンスを返すため、閉じられてコードが resolveCredentials メソッドを呼び出すと、キャッシュされた認証情報 (またはトークン) の有効期限が切れた後に例外がスローされます。

  次の例に示すように、DefaultCredentialsProvider が閉じられている場所をコードで確認します。

  - シングルトンインスタンスは、DefaultCredentialsProvider#close(). を呼び出すことで閉じられます。

```
DefaultCredentialsProvider defaultCredentialsProvider =
 DefaultCredentialsProvider.create(); // Singleton instance returned.
AwsCredentials credentials = defaultCredentialsProvider.resolveCredentials();

// Make calls to AWS #####.

defaultCredentialsProvider.close();  // Explicit close.

// Make calls to AWS #####.

// After the credentials expire, either of the following calls eventually results
 in a "Connection pool shut down" exception.
credentials = defaultCredentialsProvider.resolveCredentials();
// Or
credentials = DefaultCredentialsProvider.create().resolveCredentials();
```

  - try-with-resources ブロックで DefaultCredentialsProvider#create() を呼び出します。

```
try (DefaultCredentialsProvider defaultCredentialsProvider =
 DefaultCredentialsProvider.create()) {
    AwsCredentials credentials = defaultCredentialsProvider.resolveCredentials();

    // Make calls to AWS #####.

} // After the try-with-resources block exits, the singleton
 DefaultCredentialsProvider is closed.

// Make calls to AWS #####.
```

```
DefaultCredentialsProvider defaultCredentialsProvider =
 DefaultCredentialsProvider.create(); // The closed singleton instance is returned.
// If the credentials (or token) has expired, the following call results in the
 error.
AwsCredentials credentials = defaultCredentialsProvider.resolveCredentials();
```

コードがシングルトンインスタンスを閉じており、DefaultCredentialsProvider を使用して認証情報を解決する必要がある場合は、DefaultCredentialsProvider.builder().build() を呼び出して新しい非シングルトンインスタンスを作成します。

「Unable to load credentials from any of the providers in the chain AwsCredentialsProviderChain」を修正するにはどうすればよいですか?

このエラーは、 がデフォルトの AWS 認証情報プロバイダーチェーン内の認証情報プロバイダーを通じて有効な認証情報を見つけ AWS SDK for Java 2.x られなかったことを示します。SDK は特定の順序で認証情報を自動的に検索します。このエラーは、チェーン内のすべてのプロバイダーが有効な認証情報を提供できなかった場合に発生します。

通常、完全なエラーメッセージは次のようになります (読みやすくするために行の末尾とインデントを追加しています) 。

```
Unable to load credentials from any of the providers in the chain
 AwsCredentialsProviderChain(
    credentialsProviders=[
        SystemPropertyCredentialsProvider(),
        EnvironmentVariableCredentialsProvider(),
        WebIdentityTokenCredentialsProvider(),
        ProfileCredentialsProvider(profileName=default,
 profileFile=ProfileFile(sections=[])),
        ContainerCredentialsProvider(),
        InstanceProfileCredentialsProvider()
    ]) : [
        SystemPropertyCredentialsProvider(): Unable to load credentials from system
 settings.
        Access key must be specified either via environment variable
 (AWS_ACCESS_KEY_ID)
        or system property (aws.accessKeyId).,
```

```
        EnvironmentVariableCredentialsProvider(): Unable to load credentials from
system settings.
        Access key must be specified either via environment variable
(AWS_ACCESS_KEY_ID)
        or system property (aws.accessKeyId).,

        WebIdentityTokenCredentialsProvider(): To use web identity tokens, the 'sts'
service module
        must be on the class path.,

        ProfileCredentialsProvider(profileName=default,
profileFile=ProfileFile(sections=[])):
        Profile file contained no credentials for profile 'default':
ProfileFile(sections=[]),

        ContainerCredentialsProvider(): Cannot fetch credentials from container -
neither
        AWS_CONTAINER_CREDENTIALS_FULL_URI or AWS_CONTAINER_CREDENTIALS_RELATIVE_URI
environment
        variables are set.,

        InstanceProfileCredentialsProvider(): Failed to load credentials from IMDS.]
```

一般的な原因と解決方法

認証情報設定を確認する

デフォルトの認証情報プロバイダーを (認証情報を明示的に設定せずに `ServiceClient.create()` を呼び出して) 使用する場合、SDK は特定の順序で認証情報を検索します。デフォルトの認証情報プロバイダーチェーンの仕組みを確認し、SDK が検索する認証情報ソースと順序を理解します。

使用する認証情報設定方法が環境で適切に設定されていることを確認します。

Amazon EC2 インスタンスの場合

- IAM ロールを確認する: IAM ロールがインスタンスにアタッチされていることを確認します。
- 断続的な IMDS 障害: 断続的な障害 (通常は数百ミリ秒継続) が発生した場合、これは通常、インスタンスメタデータサービス (IMDS) に到達する一時的なネットワークの問題を示します。

  解決方法:

  - デバッグログを有効にして障害のタイミングと頻度を分析する

- アプリケーションに認証情報関連の障害に対する再試行ロジックを実装することを検討する
- インスタンスと IMDS エンドポイント間のネットワーク接続の問題を確認する

コンテナ環境の場合

タスクロール (Amazon ECS) またはサービスアカウント (Amazon EKS) が設定され、必要な環境変数が設定されていることを確認します。

ローカル開発の場合

環境変数、認証情報ファイル、または IAM Identity Center が設定されていることを確認します。

ウェブ ID フェデレーションの場合

- 設定を検証する: ウェブ ID トークンファイルが存在し、必要な環境変数が設定されていることを確認します。
- STS モジュールの依存関係がない: エラー `To use web identity tokens, the 'sts' service module must be on the class path` が表示された場合は、STS モジュールを依存関係として追加する必要があります。これは、Amazon EKS Pod Identity または他のウェブ ID トークン認証を使用する場合に一般的です。

  解決方法: STS モジュールをプロジェクトの依存関係に追加します。

  -
  ```
  <dependency>
      <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
      <artifactId>sts</artifactId>
  </dependency>
  ```

  一部のサービスでは、`aws-query-protocol` 依存関係も必要になる場合があります。

  ```
  <dependency>
      <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
      <artifactId>aws-query-protocol</artifactId>
  </dependency>
  ```

ネットワークまたはプロキシの接続の問題

認証情報プロバイダーチェーンに `Connection refused` エラーが表示される場合、これは通常、SDK が AWS エンドポイントに到達しようとしたときにネットワーク接続の問題が発生したことを示します。

解決方法:

- プロキシサーバーを使用している場合は、プロキシ設定を確認する
- ネットワークが AWS エンドポイントへのアウトバウンド HTTPS 接続を許可していることを確認します。
- デバッグログを有効にして接続の試行の詳細を表示する
- `curl` などのツールを使用して接続をテストし、 AWS エンドポイントへのネットワークアクセスを検証する

の SDK 起動時間を短縮する AWS Lambda

の目標の 1 AWS SDK for Java 2.x つは、 関数の起動レイテンシーを減らすことです AWS Lambda 。SDK には、起動時間を短縮する変更が含まれています。これについてはこのトピックの最後で説明します。

まず、このトピックでは、コールド起動時間を短縮するためにできる変更に焦点を当てます。これには、コード構造やサービスクライアントの設定の変更が含まれます。

CRT ベースの AWS HTTP クライアントを使用する

を使用する場合は AWS Lambda、同期シナリオ`AwsCrtHttpClient`の場合は を、非同期シナリオ`AwsCrtAsyncHttpClient`の場合は を使用することをお勧めします。

このガイドの the section called “CRT AWS ベースの HTTP クライアントを設定する” トピックでは、HTTP クライアントを使用する利点、依存関係を追加する方法、サービスクライアントによる使用を設定する方法について説明します。

未使用の HTTP クライアント依存関係を削除する

CRT ベースのクライアントの明示的な使用に加えて、SDK AWS がデフォルトで導入する他の HTTP クライアントを削除できます。ロードする必要のあるライブラリが少ないほど、Lambda の起

動時間は短くなるため、JVM がロードする必要のある未使用のアーティファクトはすべて削除する必要があります。

以下の Maven pom.xml ファイルのスニペットは、Apache ベースの HTTP クライアントと Netty ベースの HTTP クライアントが除外されていることを示しています。(AWS CRT ベースのクライアントを使用する場合、これらのクライアントは必要ありません) 。この例では、HTTP クライアントアーティファクトを S3 クライアントの依存関係から除外し、アーaws-crt-clientティファクトを追加して AWS CRT ベースの HTTP クライアントへのアクセスを許可します。

```
<project>
    <properties>
        <aws.java.sdk.version>2.27.21</aws.java.sdk.version>
    <properties>
    <dependencyManagement>
        <dependencies>
            <dependency>
                <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
                <artifactId>bom</artifactId>
                <version>${aws.java.sdk.version}</version>
                <type>pom</type>
                <scope>import</scope>
            </dependency>
        </dependencies>
    </dependencyManagement>
    <dependencies>
        <dependency>
            <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
            <artifactId>aws-crt-client</artifactId>
        </dependency>
        <dependency>
            <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
            <artifactId>s3</artifactId>
            <exclusions>
                <exclusion>
                    <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
                    <artifactId>netty-nio-client</artifactId>
                </exclusion>
                <exclusion>
                    <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
                    <artifactId>apache-client</artifactId>
                </exclusion>
            </exclusions>
        </dependency>
```

```
    </dependencies>
</project>
```

> **Note**
>
> pom.xml ファイル内のすべてのサービスクライアント依存関係に <exclusions> 要素を追加します。

検索をショートカットするようにサービスクライアントを設定します。

リージョンを指定する

サービスクライアントを作成したら、サービスクライアントビルダーの region メソッドを呼び出します。これにより、SDK のデフォルトのリージョン検索プロセスがショートカットされ、複数の場所で AWS リージョン 情報がチェックされます。

Lambda コードをリージョンから独立させるには、region メソッド内で以下のコードを使用します。このコードは、Lambda コンテナによって設定された AWS_REGION 環境変数にアクセスします。

```
Region.of(System.getenv(SdkSystemSetting.AWS_REGION.environmentVariable()))
```

EnvironmentVariableCredentialProvider の使用

リージョン情報のデフォルトの検索動作と同様に、SDK は複数の場所で認証情報を検索します。サービスクライアントを構築するときに EnvironmentVariableCredentialProvider を指定することで、SDK の認証情報検索処理にかかる時間を短縮できます。

> **Note**
>
> この認証情報プロバイダーを使用すると、コードは Lambda 関数で使用できますが、Amazon EC2 や他のシステムでは機能しない場合があります。
> どこかの時点で Lambda SnapStart for Java を使用する場合は、デフォルトの認証情報プロバイダーチェーンを使用して認証情報を検索する必要があります。EnvironmentVariableCredentialsProvider を指定した場合、最初の認証情報ルックアップは機能しますが、SnapStart がアクティブ化されると Java ランタイムはコンテナ認証情報の環境変数を設定します。アクティベーション時

に、EnvironmentVariableCredentialsProvider が使用する環境変数 (アクセスキー環境変数) は Java SDK では使用できません。

以下のコードスニペットは、Lambda 環境で使用するために適切に設定された S3 サービスクライアントを示しています。

```
S3Client s3Client = S3Client.builder()

 .region(Region.of(System.getenv(SdkSystemSetting.AWS_REGION.environmentVariable())))
    .credentialsProvider(EnvironmentVariableCredentialsProvider.create())
    .httpClient(AwsCrtHttpClient.builder().build())
    .build();
```

Lambda 関数ハンドラーの外部で SDK クライアントを初期化する

Lambda ハンドラーメソッドの外部で SDK クライアントを初期化することをお勧めします。これにより、実行コンテキストが再利用される場合、サービスクライアントの初期化をスキップできます。クライアントインスタンスとその接続を再利用することで、それ以降のハンドラーメソッドの呼び出しがより迅速に行われます。

以下の例では、S3Client インスタンスは静的ファクトリーメソッドを使用してコンストラクターで初期化されます。Lambda 環境で管理されているコンテナが再利用されると、初期化された S3Client インスタンスが再利用されます。

```
public class App implements RequestHandler<Object, Object> {
    private final S3Client s3Client;

    public App() {
        s3Client = DependencyFactory.s3Client();
    }

    @Override
    public Object handle Request(final Object input, final Context context) {
         ListBucketResponse response = s3Client.listBuckets();
         // Process the response.
    }
}
```

依存関係インジェクションを最小限に抑える

依存関係インジェクション (DI) フレームワークを使用すると、設定プロセスの完了までにさらに時間がかかる場合があります。また、追加の依存関係が必要になる可能性もあり、読み取りに時間がかかります。

DI フレームワークが必要な場合は、Dagger などの軽量な DI フレームワークの使用をお勧めします。

Maven Archetype ターゲットを使用する AWS Lambda

AWS Java SDK チームは、最小限の起動時間で Lambda プロジェクトをブートストラップするための Maven Archetype テンプレートを開発しました。アーキタイプから Maven プロジェクトを構築し、依存関係が Lambda 環境に合わせて適切に設定されていることを確認できます。

アーキタイプおよびデプロイ例について知るには、このブログ記事を参照してください。

Lambda SnapStart for Java を検討する

ランタイム要件に互換性がある場合、 は Lambda SnapStart for Java AWS を提供します。Lambda SnapStart は、Java 関数の起動パフォーマンスを向上させるインフラストラクチャベースのソリューションです。新しいバージョンの関数を発行する場合、Lambda SnapStart は初期化され、メモリとディスクの状態の変更不可能な暗号化されたスナップショットを作成します。その後、SnapStart はスナップショットをキャッシュして再利用します。

SnapStart を最大限に活用するには、SdkWarmUp API を使用して、Lambda がスナップショットを作成する前にすべての SDK クライアントをウォームアップします。その後、スナップショットはウォームされたクライアントをキャプチャするため、復元されたすべての関数は準備が整った状態で開始されます。詳細については、「the section called “SdkWarmUp を使用した SDK クライアントのウォームアップを検討する”」を参照してください。

SdkWarmUp を使用した SDK クライアントのウォームアップを検討する

の SdkWarmUp API は、アプリケーションの初期化中に SDK クライアントを AWS SDK for Java 2.x ウォームアップします。その結果、最初のサービス API コールが高速になります。ウォームアップはクライアントを構築し、 オペレーションを呼び出して SDK リクエストパスを実行します。これは、アプリケーションが実際のトラフィックを処理する前に発生します。1 回の呼び出しで、クラスパス上のすべての SDK クライアント、またはアプリケーションが使用する特定のクライアントのみをウォームアップできます。

Lambda SnapStart やプロビジョニングされた同時実行など、コールドスタートを減らす Lambda 機能で SdkWarmUp API を使用できます。の設定と使用の詳細についてはSdkWarmUp、「」を参照してくださいthe section called “で SDK クライアントをウォームアップする AWS SDK for Java 2.x”。

起動時間に影響するバージョン 2.x の変更点

コードに加えた変更に加えて、SDK for Java のバージョン 2.x には、起動時間を短縮する 3 つの主な変更が含まれています。

- 初期化時間を短縮するシリアル化ライブラリである、Jackson-jr を使用します
- JDK の一部である日付時刻オブジェクトで java.time ライブラリを使用します。
- ログ記録ファサードの Slf4j を使用します

その他のリソース

AWS Lambda デベロッパーガイドには、Java 固有ではない Lambda 関数を開発するためのベストプラクティスに関するセクションが含まれています。

が使用する Java でクラウドネイティブアプリケーションを構築する例については AWS Lambda、このワークショップのコンテンツを参照してください。ワークショップでは、パフォーマンスの最適化やその他のベストプラクティスについて説明します。

起動時のレイテンシーを短縮するために、事前にコンパイルされた静的イメージの使用を検討できます。例えば、SDK for Java 2.x および Maven を使用して GraalVM ネイティブイメージを構築できます。

で SDK クライアントをウォームアップする AWS SDK for Java 2.x

の SdkWarmUpユーティリティ AWS SDK for Java 2.x を使用して、アプリケーションの初期化中に SDK クライアントをウォームアップします。これにより、起動または復元後にアプリケーションが処理する最初のリクエストのレイテンシーが短縮されます。

ウォームアップでは、アプリケーションが実際のトラフィックを処理する前に、SDK リクエストパス (クライアントの構築と オペレーションの呼び出し) を実行します。Lambda SnapStart checkpoint-and-restore機能で使用します。これらの機能は、初期化されたアプリケーションのスナップショットを取得し、そのスナップショットから復元してコールドスタートレイテンシーを減らします。

を使用しない場合SdkWarmUp、各チェックポイントの前に独自のウォームアップコードを記述する必要があります。これは面倒です。ではSdkWarmUp、1 回の呼び出しですべてのクライアントをウォームアップします。クラスパス上のすべての SDK クライアント、またはアプリケーションが使用する特定のクライアントのみをウォームできます。

このトピックでは、 SdkWarmUp CRaC と AWS Lambda SnapStart を設定して使用する方法について説明します。Lambda の起動時間を短縮する他の手法の詳細については、「」を参照してくださいthe section called “の SDK 起動時間を短縮する AWS Lambda”。

SdkWarmUp API

SdkWarmUp は sdk-coreモジュールの一部であるため、追加の依存関係なしですべてのサービスクライアントで使用できます。バージョン 2.54.0 以降の を使用するようにプロジェクトを設定しますAWS SDK for Java 2.x。次に、以下のセクションで説明する 2 つの静的メソッドのいずれかを呼び出します。いずれかのメソッドを呼び出すと、 SdkWarmUpは HTTP クライアントをウォームするために 1 つのネットワーク呼び出しを行います。サービスクライアントをウォームするには、ローカルの既定レスポンスを使用します。認証情報や IAM アクセス許可は必要なく AWS 、 AWS 料金は発生しません。

クラスパス上のすべての SDK クライアントをウォームアップする

warmUp() メソッドは、クラスパス上のすべての SDK サービスクライアントを検出し、使用するHTTP クライアントとともにそれぞれをウォームします。少数のサービスモジュールに依存し、提供するほとんどのクライアントを呼び出す場合は、この方法を使用します。次のJavaコード例ではwarmUp()、引数なしで を呼び出します。

```
import software.amazon.awssdk.core.warmup.SdkWarmUp;

SdkWarmUp.warmUp();
```

このメソッドは、JVM ごとに最大 1 回実行されます。呼び出しが成功すると、後続の呼び出しはすぐに返されます。

特定の SDK クライアントをウォームアップする

warmUp(Class<? extends SdkClient>... clients) メソッドは、名前を付けたクライアントのみをウォームします。同期パスをウォームするには同期クライアントクラスを、非同期パスをウォームするには非同期クライアントクラスを渡します。

クラスパスにアプリケーションが呼び出すよりも多くのサービスクライアントが含まれている場合は、この方法を使用します。例えば、これは、依存関係が使用していないサービスモジュールを持ち込む場合に発生します。必要なクライアントにのみ名前を付けると、ウォームアップ時間はフルクラスパスではなく、アプリケーションの実際の使用状況に比例します。次のJavaコード例では、S3Clientおよび DynamoDbClient クラスのみをウォームします。

```
import software.amazon.awssdk.core.warmup.SdkWarmUp;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;

SdkWarmUp.warmUp(S3Client.class, DynamoDbClient.class);
```

Lambda SnapStart で SdkWarmUp を使用する SnapStart

AWS Lambda SnapStart は、 Java関数の起動パフォーマンスを向上させます。関数の新しいバージョンを発行すると、Lambda SnapStart は関数を初期化し、メモリとディスク状態のスナップショットを作成します。次に、スナップショットをキャッシュして再利用します。サポートされているランタイムと、関数の SnapStart をアクティブ化する方法については、「 AWS Lambda デベロッパーガイド」を参照してください。

Lambda はハンドラのコンストラクタの実行後にスナップショットを取得するため、コンストラクタSdkWarmUp.warmUp()で を呼び出します。その後、スナップショットにはウォームされたクライアントが含まれ、スナップショットから復元する各呼び出しはウォームアップからメリットを得ます。次のJavaコード例では、Lambda ハンドラーコンストラクタSdkWarmUp.warmUp()で を呼び出します。

```
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.Context;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.RequestHandler;
import software.amazon.awssdk.core.warmup.SdkWarmUp;

public class MyHandler implements RequestHandler<String, String> {

    public MyHandler() {
        SdkWarmUp.warmUp();
        // Your other initialization here.
    }

    @Override
    public String handleRequest(String input, Context context) {
        // Your handler logic here.
```

```
    }
}
```

Lambda がスナップショットを取得する前、または復元後に関数がカスタムコードを実行する必要がある場合は、SnapStart ランタイムフックを実装します。詳細については、「 AWS Lambda デベロッパーガイド」のSnapStart runtime hooks for Java」を参照してください。

スタンドアロン CRaC で SdkWarmUp を使用する

独自のチェックポイントを管理するアプリケーションで、 SdkWarmUpCRaCを直接 で使用することもできます。このセクションでは、 用に既に設定されているアプリケーションでウォームアップ呼び出しが属する場所を示しますCRaC。のアプリケーションを設定するにはCRaC、「 でのStep-by-step CRaC サポート」を参照してくださいGitHub。このチュートリアルでは、サポートされているJDK ディストリビューション、プラットフォームの前提条件、ライフサイクルインターフェイスに必要なorg.crac:crac依存関係について説明します。

チェックポイントの前にウォームアップする

チェックポイントを取る前に、初期化SdkWarmUp.warmUp()中に を呼び出します。アプリケーションはすでに自身を CRaC として登録Resourceし、チェックポイントの周囲の接続を閉じて再度開きます。次のJavaコード例に示すように、ウォームアップ呼び出しを同じコンストラクタに追加します。

```
import org.crac.Context;
import org.crac.Core;
import org.crac.Resource;
import software.amazon.awssdk.core.warmup.SdkWarmUp;

public class MyApp implements Resource {

    public MyApp() {
        SdkWarmUp.warmUp();
        // Your other initialization here.
        Core.getGlobalContext().register(this);
    }

    @Override
    public void beforeCheckpoint(Context<? extends Resource> context) throws Exception
 {
        // Close your service clients here.
    }
```

```
    @Override
    public void afterRestore(Context<? extends Resource> context) throws Exception {
        // Create your service clients again here.
    }
}
```

> **Note**
>
> CRaC は、ファイル記述子が開いている間はチェックポイントを取得しません。 AWS CRT ベースの HTTP クライアントを使用する場合、クライアントは共有イベントループを開いたままにしておくため、サービスクライアントを単独で閉じるだけでは不十分です。次の Java コード例beforeCheckpointに示すように、 でリリースします。
>
> ```
> import org.crac.Context;
> import org.crac.Resource;
> import software.amazon.awssdk.crt.CrtResource;
> import software.amazon.awssdk.crt.io.EventLoopGroup;
>
> @Override
> public void beforeCheckpoint(Context<? extends Resource> context) {
>     EventLoopGroup.closeStaticDefault();
>     CrtResource.waitForNoResources();
> }
> ```
>
> Nettyベースの および Apacheベースの HTTP クライアントは、サービスクライアントを閉じるときにリソースを解放するため、追加のティアダウンは必要ありません。

チェックポイントを通常どおりに取得します。

その他のリソース

以下のリソースは、このセクションで説明するトピックに関する詳細情報を提供します。

- に関する CRaC ドキュメント GitHub

ContentStreamProvider で を実装する AWS SDK for Java 2.x

ContentStreamProvider は、入力データの複数の読み取りを可能にする AWS SDK for Java 2.x ために で使用される抽象化です。このトピックでは、アプリケーションに ContentStreamProvider を正しく実装する方法について説明します。

SDK for Java 2.x は、ストリーム全体を読み取る必要があるたびに ContentStreamProvider#newStream() メソッドを使用します。ストリーム全体でこれを使用するには、返されるストリームが常にコンテンツの先頭にあり、同じデータが含まれている必要があります。

以下のセクションでは、この動作を正しく実装するための 3 つのアプローチを示します。

mark() および reset() を使用します。

以下の例では、ストリームを最初に戻すことができるように、読み取りを開始する前にコンストラクタで mark(int) を使用します。newStream() の呼び出しごとに、ストリームをリセットします。

```
public class MyContentStreamProvider implements ContentStreamProvider {
    private InputStream contentStream;

    public MyContentStreamProvider(InputStream contentStream) {
        this.contentStream = contentStream;
        this.contentStream.mark(MAX_LEN);
    }

    @Override
    public InputStream newStream() {
        contentStream.reset();
        return contentStream;
    }
}
```

mark() と reset() が利用できない場合にバッファリングを使用する

ストリームが mark() と reset() を直接サポートしていない場合でも、最初に BufferedInputStream でストリームをラッピングすることで、前述のソリューションを使用できます。

```
public class MyContentStreamProvider implements ContentStreamProvider {
```

```
    private BufferedReader contentStream;

    public MyContentStreamProvider(InputStream contentStream) {
        this.contentStream = new BufferedInputStream(contentStream);
        this.contentStream.mark(MAX_LEN);
    }

    @Override
    public InputStream newStream() {
        contentStream.reset();
        return contentStream;
    }
}
```

新しいストリームを作成する

より簡単な方法は、単に呼び出しごとにデータへの新しいストリームを取得し、前のストリームを閉じることです。

```
public class MyContentStreamProvider implements ContentStreamProvider {
    private InputStream contentStream;

    @Override
    public InputStream newStream() {
        if (contentStream != null) {
            contentStream.close();
        }
        contentStream = openStream();
        return contentStream;
    }
}
```

DNS 名参照用の JVM TTL を設定する

Java 仮想マシン (JVM) は DNS 名参照をキャッシュします。JVM がホスト名を IP アドレスに変換するとき、time-to-live (TTL) と呼ばれる指定期間 IP アドレスをキャッシュします。

AWS リソースは DNS 名エントリを使用するため、TTL 値を 5 秒に設定することをお勧めします。これにより、リソースの IP アドレスが変更されたときに、アプリケーションは DNS に対して再度クエリを実行することで、リソースの新しい IP アドレスを取得し、使用できるようになります。

一部の Java 設定では JVM のデフォルトの TTL が設定されるため、JVM が再起動されるまで、DNS エントリが更新されることはありません。したがって、アプリケーションの実行中に AWS リソースの IP アドレスが変更された場合、JVM を手動で再起動し、キャッシュされた IP 情報が更新されるまで、そのリソースを使用することはできません。この場合、キャッシュされた IP 情報が定期的に更新されるように JVM の TTL を設定することが極めて重要です。

JVM TTL を設定する方法

JVM の TTL を変更するには、networkaddress.cache.ttl セキュリティプロパティ値を設定します。networkaddress.cache.ttl はセキュリティプロパティであり、システムプロパティではありません。つまり、-Dコマンドラインフラグで設定することはできません。

オプション 1: アプリケーションでプログラムで設定する

AWS SDK クライアントが作成される前、およびネットワークリクエストが行われる前に、アプリケーション起動のjava.security.Security.setProperty()早い段階で を呼び出します。

```
import java.security.Security;

public class MyApplication {
    public static void main(String[] args) {
        Security.setProperty("networkaddress.cache.ttl", "5");

        // ... create SDK clients and run application
    }
}
```

オプション 2: java.security ファイルで設定する

Java 8 の場合は $JAVA_HOME/jre/lib/security/java.security ファイル、Java 11 以降の場合は $JAVA_HOME/conf/security/java.security ファイルで networkaddress.cache.ttlプロパティを設定します。

以下は、TTL キャッシュが 5 秒に設定された java.security ファイルからのスニペットです。

```
#
# The Java-level namelookup cache policy for successful lookups:
#
# any negative value: caching forever
# any positive value: the number of seconds to cache an address for
# zero: do not cache
```

```
#
...
networkaddress.cache.ttl=5
...
```

$JAVA_HOME 環境変数で表される JVM で実行されるすべてのアプリケーションは、この設定を使用します。

オプション 3: JDK システムプロパティのフォールバックを使用する (コマンドライン)

セキュリティ設定またはコードを変更できない場合は、JDK システムプロパティを使用できます。セキュリティプロパティが定義されていない場合、これらはフォールバックとして機能します。

- `sun.net.inetaddr.ttl` – 正常なルックアップを制御する (正の TTL)
- `sun.net.inetaddr.negative.ttl` – 失敗したルックアップを制御する (負の TTL)

```
java -Dsun.net.inetaddr.ttl=5 -Dsun.net.inetaddr.negative.ttl=1 -jar myapp.jar
```

> **Note**
>
> これらは、「Oracle Java 8 Networking Properties reference as private properties that " may not be supported in future releases」に記載されている JDK 内部プロパティです。可能な場合はオプション 1~2 を使用します。

AWS SDK for Java で HTTP/2 を使用する

HTTP/2 は HTTP プロトコルのメジャーバージョンです。この新しいバージョンには、パフォーマンスを向上させるために次のようないくつかの機能強化が図られています。

- より効率的なデータ転送を実現するバイナリデータのエンコーディング。
- ヘッダーの圧縮により、クライアントによってダウンロードされるオーバーヘッドバイトが減り、クライアントにコンテンツをより速く提供できます。これは特に、既に帯域幅の制限を受けているモバイルクライアントで役立ちます。
- 双方向非同期通信 (多重化) により、複数の接続ではなく 1 回の接続で同時にクライアントと AWS 間の複数のリクエストおよび応答メッセージをフライト状態にすることができ、これによりパフォーマンスが向上します。

最新の SDK にアップグレードする開発者は、使用中のサービスでサポートされている場合、自動的に HTTP/2 を使用します。新しいプログラミングインターフェイスはシームレスに HTTP/2 を活用して、アプリケーションを構築するための新しい方法を提供します。

AWS SDK for Java 2.x は、HTTP/2 プロトコルを実装するイベントストリーミング用の新しい API を備えています。これらの新しい API の使用方法の例については、Kinesis の使用を参照してください。

AWS SDK for Java 2.x からの AWS のサービス の呼び出し

このセクションでは、特定の AWS のサービス の使用方法に関する簡単なチュートリアルとガイダンスを提供します。完全な例のセットについては、「コード例」セクションを参照してください。

トピック

- の操作 CloudWatch
- AWS データベースサービスと AWS SDK for Java 2.x
- の使用 DynamoDB
- Amazon EC2 を使用する
- の使用 IAM
- Kinesis を使用する
- AWS Lambda 関数の呼び出し、一覧表示、削除
- Amazon S3 で使用する
- Amazon Simple Notification Service を使用する
- Amazon Simple Queue Service を使用する
- の使用 Amazon Transcribe

の操作 CloudWatch

このセクションでは、 AWS SDK for Java 2.x を使用して Amazon CloudWatch をプログラミングする例を示します。

Amazon CloudWatch は Amazon Web Services 、 (AWS) リソースと で実行されるアプリケーションを AWS リアルタイムでモニタリングします。 CloudWatch を使用して、リソースとアプリケーションに対して測定できる変数であるメトリクスを収集および追跡できます。 CloudWatch アラームは、定義したルールに基づいて通知を送信するか、モニタリングしているリソースに自動的に変更を加えます。

次の例には各手法を示すのに必要なコードのみが含まれます。完全なサンプルコードは GitHub で入手できます。そこから、単一のソースファイルをダウンロードするかリポジトリをローカルにクローン作成して、ビルドし実行するためのすべての例を取得できます。

トピック

- からメトリクスを取得する CloudWatch
- カスタムメトリクスデータを に発行する CloudWatch
- CloudWatch アラームの操作
- Amazon CloudWatch Events の使用

からメトリクスを取得する CloudWatch

メトリクスの一覧表示

CloudWatch メトリクスを一覧表示するには、ListMetricsRequest を作成し、CloudWatchClient の `listMetrics`メソッドを呼び出します。`ListMetricsRequest` を使用して、名前空間、メトリクス名、またはディメンションで返されたメトリクスをフィルタリングできます。

> **Note**
>
> AWS サービスによって投稿されるメトリクスとディメンションのリストは、 Amazon CloudWatch 「 ユーザーガイド」のAmazon CloudWatch 「メトリクスとディメンションのリファレンス」に記載されています。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.CloudWatchClient;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.CloudWatchException;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.ListMetricsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.ListMetricsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.Metric;
```

コード

```
    public static void listMets( CloudWatchClient cw, String namespace) {

        boolean done = false;
        String nextToken = null;

        try {
            while(!done) {
```

```
                ListMetricsResponse response;

                if (nextToken == null) {
                   ListMetricsRequest request = ListMetricsRequest.builder()
                         .namespace(namespace)
                         .build();

                 response = cw.listMetrics(request);
                } else {
                  ListMetricsRequest request = ListMetricsRequest.builder()
                         .namespace(namespace)
                         .nextToken(nextToken)
                         .build();

                response = cw.listMetrics(request);
            }

            for (Metric metric : response.metrics()) {
                System.out.printf(
                        "Retrieved metric %s", metric.metricName());
                System.out.println();
            }

            if(response.nextToken() == null) {
                done = true;
            } else {
                nextToken = response.nextToken();
            }
        }

        } catch (CloudWatchException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

このメトリクスは、 メソッドを呼び出すことによって ListMetricsResponsegetMetrics で返ります。

結果はページ分割される場合があります。結果の次のバッチを取得するには、レスポンスオブジェクトの nextToken を呼び出し、そのトークン値を使用して、新しいリクエストオブジェクトをビルドします。次に、listMetrics メソッドを新しいリクエストで再度呼び出します。

GitHub で完全な例をご覧ください。

詳細情報

- Amazon CloudWatch API リファレンスの ListMetrics

カスタムメトリクスデータを に発行する CloudWatch

多くの AWS サービスは、AWS「」で始まる名前空間に独自のメトリクスを発行します。独自の名前空間を使用してカスタムメトリクスデータを発行することもできます (「」で始まらない場合)AWS。

カスタムメトリクスデータのパブリッシュ

独自のメトリクスデータを発行するには、CloudWatchClient の putMetricData メソッドを PutMetricDataRequest で呼び出します。PutMetricDataRequest には、データ用に使用するカスタム名前空間と、MetricDatum オブジェクト内のデータポイント自体に関する情報が含まれている必要があります。

> **Note**
>
> 「AWS」で始まる名前空間を指定することはできません。AWS 「」で始まる名前空間は、Amazon Web Services 製品での使用のために予約されています。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.CloudWatchClient;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.Dimension;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.MetricDatum;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.StandardUnit;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.PutMetricDataRequest;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.CloudWatchException;
import java.time.Instant;
import java.time.ZoneOffset;
import java.time.ZonedDateTime;
import java.time.format.DateTimeFormatter;
```

コード

```
    public static void putMetData(CloudWatchClient cw, Double dataPoint ) {

        try {
            Dimension dimension = Dimension.builder()
                    .name("UNIQUE_PAGES")
                    .value("URLS")
                    .build();

            // Set an Instant object
            String time =
ZonedDateTime.now( ZoneOffset.UTC ).format( DateTimeFormatter.ISO_INSTANT );
            Instant instant = Instant.parse(time);

            MetricDatum datum = MetricDatum.builder()
                .metricName("PAGES_VISITED")
                .unit(StandardUnit.NONE)
                .value(dataPoint)
                .timestamp(instant)
                .dimensions(dimension).build();

            PutMetricDataRequest request = PutMetricDataRequest.builder()
                .namespace("SITE/TRAFFIC")
                .metricData(datum).build();

            cw.putMetricData(request);

        } catch (CloudWatchException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        System.out.printf("Successfully put data point %f", dataPoint);
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

詳細情報

- 「 ユーザーガイド」の「 Amazon CloudWatch メトリクス」を使用します。 Amazon CloudWatch
- Amazon CloudWatch ユーザーガイドAWS の名前空間。
- Amazon CloudWatch API リファレンスの PutMetricData。

CloudWatch アラームの操作

アラームの作成

CloudWatch メトリクスに基づいてアラームを作成するには、アラーム条件が満たされた PutMetricAlarmRequest を使用して CloudWatchClient の `putMetricAlarm`メソッドを呼び出します。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.CloudWatchClient;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.Dimension;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.PutMetricAlarmRequest;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.ComparisonOperator;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.Statistic;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.StandardUnit;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.CloudWatchException;
```

コード

```
   public static void putMetricAlarm(CloudWatchClient cw, String alarmName, String
instanceId) {

       try {
           Dimension dimension = Dimension.builder()
               .name("InstanceId")
               .value(instanceId).build();

           PutMetricAlarmRequest request = PutMetricAlarmRequest.builder()
               .alarmName(alarmName)
               .comparisonOperator(
                       ComparisonOperator.GREATER_THAN_THRESHOLD)
               .evaluationPeriods(1)
               .metricName("CPUUtilization")
               .namespace("AWS/EC2")
               .period(60)
               .statistic(Statistic.AVERAGE)
               .threshold(70.0)
               .actionsEnabled(false)
               .alarmDescription(
                       "Alarm when server CPU utilization exceeds 70%")
```

```
                .unit(StandardUnit.SECONDS)
                .dimensions(dimension)
                .build();

            cw.putMetricAlarm(request);
            System.out.printf(
                    "Successfully created alarm with name %s", alarmName);

        } catch (CloudWatchException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

アラームの一覧表示

作成した CloudWatch アラームを一覧表示するには、CloudWatchClient の `describeAlarms`メソッドを DescribeAlarmsRequest で呼び出します。これを使用して、結果のオプションを設定できます。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.CloudWatchClient;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.CloudWatchException;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.DescribeAlarmsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.DescribeAlarmsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.MetricAlarm;
```

コード

```
    public static void desCWAlarms( CloudWatchClient cw) {

        try {

            boolean done = false;
            String newToken = null;

            while(!done) {
                DescribeAlarmsResponse response;
```

```
                if (newToken == null) {
                    DescribeAlarmsRequest request =
DescribeAlarmsRequest.builder().build();
                    response = cw.describeAlarms(request);
                } else {
                    DescribeAlarmsRequest request = DescribeAlarmsRequest.builder()
                        .nextToken(newToken)
                        .build();
                    response = cw.describeAlarms(request);
                }

                for(MetricAlarm alarm : response.metricAlarms()) {
                    System.out.printf("\n Retrieved alarm %s", alarm.alarmName());
                }

                if(response.nextToken() == null) {
                    done = true;
                } else {
                    newToken = response.nextToken();
                }
            }

        } catch (CloudWatchException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        System.out.printf("Done");
    }
```

`describeAlarms` よって返された DescribeAlarmsResponse の `MetricAlarms` を呼び出すことで、アラームのリストを取得できます。

結果はページ分割される場合があります。結果の次のバッチを取得するには、レスポンスオブジェクトの `nextToken` を呼び出し、そのトークン値を使用して、新しいリクエストオブジェクトをビルドします。次に、`describeAlarms` メソッドを新しいリクエストで再度呼び出します。

> **Note**
>
> また、特定のメトリクスのアラームを取得するには、CloudWatchClient の `describeAlarmsForMetric` メソッドを使用します。使用方法は `describeAlarms` と同様です。

GitHub で完全な例をご覧ください。

アラームの削除

CloudWatch アラームを削除するには、削除するアラームの 1 つ以上の名前を含む DeleteAlarmsRequest を使用して CloudWatchClient の `deleteAlarms`メソッドを呼び出します。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.CloudWatchClient;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.CloudWatchException;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.DeleteAlarmsRequest;
```

コード

```
    public static void deleteCWAlarm(CloudWatchClient cw, String alarmName) {

        try {
            DeleteAlarmsRequest request = DeleteAlarmsRequest.builder()
                    .alarmNames(alarmName)
                    .build();

            cw.deleteAlarms(request);
            System.out.printf("Successfully deleted alarm %s", alarmName);

        } catch (CloudWatchException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

詳細情報

- Amazon CloudWatch ユーザーガイドのAmazon CloudWatch アラームの使用
- Amazon CloudWatch API リファレンスの PutMetricAlarm
- Amazon CloudWatch API リファレンスの DescribeAlarms
- Amazon CloudWatch API リファレンスの DeleteAlarms

Amazon CloudWatch Events の使用

CloudWatch Events は、 AWS リソースの変更を記述するシステムイベントのほぼリアルタイムのストリームを、 Amazon EC2 インスタンス、 Lambda 関数、 Kinesis ストリーム、 Amazon ECS タスク、 Step Functions ステートマシン、 Amazon SNS トピック、 Amazon SQS キュー、または組み込みターゲットに配信します。簡単なルールを使用して、一致したイベントを 1 つ以上のターゲット関数またはストリームに振り分けることができます。

Amazon EventBridge は、Amazon CloudWatch Events の進化形です。どちらのサービスも同じ API を使用するため、SDK が提供する CloudWatch Events クライアントを引き続き使用することも、SDK for Java の EventBridge クライアントに移行して CloudWatch Events 機能を使用することもできます。CloudWatch Events のユーザーガイドドキュメントと API リファレンスが、EventBridge ドキュメントサイトから利用可能になりました。

イベントの追加

カスタム CloudWatch イベントを追加するには、各イベントの詳細を提供する 1 つ以上の`PutEventsRequest`オブジェクトを含む`PutEventsRequestEntry`オブジェクトを使用して`CloudWatchEventsClient`の`putEvents`メソッドを呼び出します。イベントのソースとタイプ、イベントに関連付けられたリソースなど、エントリの複数のパラメータを指定できます。

> **Note**
>
> `putEvents` への呼び出しごとに最大 10 個のイベントを指定できます。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.CloudWatchException;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatchevents.CloudWatchEventsClient;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatchevents.model.PutEventsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatchevents.model.PutEventsRequestEntry;
```

コード

```
    public static void putCWEvents(CloudWatchEventsClient cwe, String resourceArn ) {

        try {

            final String EVENT_DETAILS =
```

```
                "{ \"key1\": \"value1\", \"key2\": \"value2\" }";

            PutEventsRequestEntry requestEntry = PutEventsRequestEntry.builder()
                    .detail(EVENT_DETAILS)
                    .detailType("sampleSubmitted")
                    .resources(resourceArn)
                    .source("aws-sdk-java-cloudwatch-example")
                    .build();

            PutEventsRequest request = PutEventsRequest.builder()
                    .entries(requestEntry)
                    .build();

            cwe.putEvents(request);
            System.out.println("Successfully put CloudWatch event");

        } catch (CloudWatchException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

ルールの追加

ルールを作成または更新するには、 `CloudWatchEventsClient`'s`putRule`メソッドを呼び出して、ルールの名前とイベントパターン、ルールに関連付ける IAM ロール、ルールの実行頻度を記述するスケジューリング式などのオプションパラメータ`PutRuleRequest`を指定します。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.CloudWatchException;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatchevents.CloudWatchEventsClient;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatchevents.model.PutRuleRequest;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatchevents.model.PutRuleResponse;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatchevents.model.RuleState;
```

コード

```
    public static void putCWRule(CloudWatchEventsClient cwe, String ruleName, String
 roleArn) {
```

```
        try {
            PutRuleRequest request = PutRuleRequest.builder()
                .name(ruleName)
                .roleArn(roleArn)
                .scheduleExpression("rate(5 minutes)")
                .state(RuleState.ENABLED)
                .build();

            PutRuleResponse response = cwe.putRule(request);
            System.out.printf(
                    "Successfully created CloudWatch events rule %s with arn %s",
                    roleArn, response.ruleArn());
        } catch (
            CloudWatchException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

ターゲットの追加

ターゲットは、ルールがトリガーされたときに呼び出されるリソースです。ターゲットの例には、Amazon EC2 インスタンス、 Lambda 関数、 Kinesis ストリーム、 Amazon ECS タスク、 Step Functions ステートマシン、組み込みターゲットなどがあります。

ルールにターゲットを追加するには、更新するルールを含む `PutTargetsRequest` とルールに追加するターゲットのリストを使用して `CloudWatchEventsClient`'s `putTargets` メソッドを呼び出します。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.CloudWatchException;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatchevents.CloudWatchEventsClient;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatchevents.model.PutTargetsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatchevents.model.PutTargetsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatchevents.model.Target;
```

コード

```
    public static void putCWTargets(CloudWatchEventsClient cwe, String ruleName, String
 functionArn, String targetId ) {
```

```
        try {
            Target target = Target.builder()
                .arn(functionArn)
                .id(targetId)
                .build();

            PutTargetsRequest request = PutTargetsRequest.builder()
                .targets(target)
                .rule(ruleName)
                .build();

            PutTargetsResponse response = cwe.putTargets(request);
            System.out.printf(
                "Successfully created CloudWatch events target for rule %s",
                ruleName);
        } catch (CloudWatchException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

詳細情報

- 「Amazon EventBridge ユーザーガイド」の「PutEvents を使用したイベントの追加」。
- 「Amazon EventBridge ユーザーガイド」の「ルールのスケジュール式」
- 「Amazon EventBridge ユーザーガイド」の「CloudWatch Eventsのイベントタイプ」
- 「Amazon EventBridge ユーザーガイド」の「イベントパターン」
- 詳細については、 Amazon EventBridge API リファレンスの「PutEvents」を参照してください。
- Amazon EventBridge API リファレンスの「PutTargets」
- Amazon EventBridge API リファレンスの「PutRule」

AWS データベースサービスと AWS SDK for Java 2.x

AWS には、リレーショナル、キーバリュー、インメモリー、ドキュメント、その他いくつかのさまざまなデータベースタイプが用意されています。SDK for Java 2.x のサポートは、AWS 内のデータベースサービスの性質によって異なります。

Amazon DynamoDB サービスなどの一部のデータベースサービスには、AWS リソース (データベース) を管理するウェブサービス API と、データを操作するウェブサービス API があります。Java 2.x 用 SDK では、これらのタイプのサービスには DynamoDBClient などの専用のサービスクライアントがあります。

他のデータベースサービスには、Amazon DocumentDB API (クラスター、インスタンス、リソース管理用) など、リソースとやり取りするウェブサービス API がありますが、データを操作するためのウェブサービス API はありません。Java 2.x 用 SDK には、リソースを操作するための対応する DocDbClient インターフェイスがあります。ただし、データを処理するには、MongoDB for Java などの別の Java API が必要です。

以下の例を使用して、さまざまなタイプのデータベースで Java 2.x サービスクライアント用 SDK を使用する方法を説明します。

Amazon DynamoDB の例

データの使用	データベースの使用
SDK service client: DynamoDbClient Example: DynamoDB を使った React/Spring REST アプリケーション Examples: いくつかの DynamoDB の例	SDK service client: DynamoDbClient Examples: CreateTable、ListTables、DeleteTable
SDK service client: DynamoDbEnhancedClient Example: DynamoDB を使った React/Spring REST アプリケーション Examples: いくつかの DynamoDB の例 (names starting with 'Enhanced")	

このガイドのガイド付きコード例のセクションにある「additional DynamoDB examples」を参照してください。

Amazon RDS での例

データの使用	データベースの使用
非 SDK API: JDBC、データベース固有の SQL フレーバー。コードはデータベース接続または接続プールを管理します。	SDK サービスクライアント: RdsClient
例: MySQL を使った React/Spring REST アプリケーション	例: いくつかの RdsClient の例

Amazon Redshiftの例

データの使用	データベースの使用
SDK サービスクライアント: RedshiftDataClient	SDK サービスクライアント: RedshiftClient
例: いくつかの RedshiftDataClient の例	例: いくつかの RedshiftClient の例
例: RedshiftDataClient を使った React/Spring REST アプリケーション	

Amazon Aurora Serverless v2 の例

データの使用	データベースの使用
SDK サービスクライアント: RdsDataClient	SDK サービスクライアント: RdsClient
例: RdsDataClient を使った React/Spring REST アプリケーション	例: いくつかの RdsClient の例

Amazon DocumentDB の例

データの使用	データベースの使用
非 SDK API: MongoDB 固有の Java ライブラリ (MongoDB for Java など)。コードはデータベース接続または接続プールを管理します。	SDK サービスクライアント: DocDBClient
例: DocumentDB (Mongo) デベロッパーガイド (「Java」タブを選択)	

の使用 DynamoDB

DynamoDB は、高速で予測可能なパフォーマンスとシームレスなスケーラビリティを特長とするフルマネージド NoSQL データベースサービスです。このセクションでは、 AWS SDK for Java 2.x を使用して DynamoDB を使用する方法について説明します。

DynamoDB クライアントの選択

SDK には、DynamoDB を使用するための 2 つの主なアプローチがあります。

低レベルクライアント (`DynamoDbClient`)

DynamoDB オペレーションへの直接アクセスを提供し、リクエストとレスポンスを完全に制御します。詳細な制御が必要な場合や動的スキーマを使用する場合は、このクライアントを使用します。

拡張クライアント (`DynamoDbEnhancedClient`)

Java オブジェクトと DynamoDB 項目間の自動マッピングによるオブジェクト指向プログラミングを提供します。また、固定スキーマに従わない JSON のようなデータを使用するための、ドキュメント指向の機能も提供します。明確に定義されたデータモデルまたはドキュメントタイプのデータを使用する場合は、このクライアントを使用します。

DynamoDB クライアントの設定

DynamoDB を使用する前に、最適なパフォーマンスと信頼性を実現するようにクライアントを設定します。

DynamoDB の再試行動作について

DynamoDB クライアントは、デフォルトの最大再試行回数である 8 を使用します。これは他の AWS のサービス クライアントよりも多い回数です。この再試行回数の多さは、DynamoDB の分散性および一時的な容量制限に対処するために役立ちます。再試行戦略についての詳細は、「the section called “再試行”」を参照してください。

アカウントベースのエンドポイントでのパフォーマンス最適化

DynamoDB はAWS 、アカウント ID を使用してリクエストのルーティングを合理化することで、パフォーマンスを向上させるアカウントベースのエンドポイントを提供します。 AWS

この機能を使用するには、 AWS SDK for Java 2.xのバージョン 2.28.4 以降が必要です。Maven Central リポジトリで最新バージョンを検索できます。サポートされている SDK バージョンでは、新しいエンドポイントが自動的に使用されます。

アカウントベースのルーティングをオプトアウトするには、次のいずれかのオプションを選択します。

- `AccountIdEndpointMode` を `DISABLED` に設定して DynamoDB サービスクライアントを設定する。
- 環境変数を設定する。
- JVM システムプロパティを設定する。
- 共有 AWS 設定ファイル設定を更新します。

次の例は、DynamoDB サービスクライアントを設定してアカウントベースのルーティングを無効にする方法を示しています。

```
DynamoDbClient.builder()
                .accountIdEndpointMode(AccountIdEndpointMode.DISABLED)
                .build();
```

その他の設定オプションの詳細については、「SDK およびツールリファレンスガイド」の「アカウントベースのエンドポイント」を参照してください。 AWS SDKs

このトピックで扱う内容

以下のセクションでは、DynamoDB を使用する方法を示します。

- the section called “DynamoDB のテーブルの操作” - テーブルの作成、記述、更新、削除
- the section called “で項目を操作する DynamoDB” - 個々の項目の追加、取得、更新
- the section called “ DynamoDB アイテムにオブジェクトをマッピングする” - 拡張クライアントでのオブジェクトマッピングとドキュメント指向データの使用

その他の DynamoDB コード例については、「 コード例ライブラリ」のDynamoDB AWS コード例」を参照してください。

DynamoDB のテーブルの操作

テーブルは、DynamoDB データベースのすべての項目のコンテナです。DynamoDB のデータの追加または削除を行う前に、テーブルを作成する必要があります。

テーブルごとに、以下を定義する必要があります。

- アカウントおよびリージョンに一意であるテーブル名。
- プライマリキー。すべての値は一意でなければならず、テーブル内のどの 2 つの項目も同じプライマリキー値を持つことはできません。

  プライマリキーは、単一のパーティション (ハッシュ) キーで構成されるシンプルなプライマリキーにするか、パーティションとソート (範囲) キーで構成される複合プライマリキーにすることができます。

  各キーバリューには、`ScalarAttributeType` クラスによって列挙されるデータ型が関連付けられています。キー値は、バイナリ (B)、数値 (N)、または文字列 (S) になります。詳細については、Amazon DynamoDB デベロッパーガイドの命名規則とデータ型を参照してください。
- テーブル用に予約された読み込み/書き込みキャパシティーユニットの数を定義するプロビジョンドスループットの値。

> **Note**
>
> Amazon DynamoDB の料金は、テーブルに設定したプロビジョニングされたスループット値に基づくため、テーブルに必要と予想される分だけの容量を予約します。

テーブルのプロビジョンドスループットはいつでも変更できるため、必要に応じてキャパシティーを調整できます。

テーブルの作成

新しい DynamoDB テーブルを作成するには、DynamoDbClient's createTable メソッドを使用します。テーブルのプライマリキーを識別するために使用する、テーブル属性とテーブルスキーマを構築する必要があります。また、最初のプロビジョニングされたスループット値およびテーブル名を指定する必要があります。

> **Note**
>
> 選択した名前のテーブルがすでに存在している場合は、DynamoDbException がスローされます。

シンプルプライマリキーを使用してテーブルを作成する

このコードは、テーブルのシンプルプライマリキーである 1 つの属性を持つテーブルを作成します。この例では、AttributeDefinition と KeySchemaElement オブジェクトを CreateTableRequest に使用しています。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.core.waiters.WaiterResponse;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.CreateTableRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeDefinition;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ScalarAttributeType;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ScalarAttributeType;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.KeySchemaElement;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ProvisionedThroughput;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.KeyType;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.CreateTableResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DescribeTableRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DescribeTableResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.waiters.DynamoDbWaiter;
```

Code

```
    public static String createTable(DynamoDbClient ddb, String tableName, String key)
{
```

```
        DynamoDbWaiter dbWaiter = ddb.waiter();
        CreateTableRequest request = CreateTableRequest.builder()
                .attributeDefinitions(AttributeDefinition.builder()
                        .attributeName(key)
                        .attributeType(ScalarAttributeType.S)
                        .build())
                .keySchema(KeySchemaElement.builder()
                        .attributeName(key)
                        .keyType(KeyType.HASH)
                        .build())
                .provisionedThroughput(ProvisionedThroughput.builder()
                        .readCapacityUnits(new Long(10))
                        .writeCapacityUnits(new Long(10))
                        .build())
                .tableName(tableName)
                .build();

        String newTable ="";
        try {
            CreateTableResponse response = ddb.createTable(request);
            DescribeTableRequest tableRequest = DescribeTableRequest.builder()
                    .tableName(tableName)
                    .build();

            // Wait until the Amazon DynamoDB table is created
            WaiterResponse<DescribeTableResponse> waiterResponse =
dbWaiter.waitUntilTableExists(tableRequest);
            waiterResponse.matched().response().ifPresent(System.out::println);

            newTable = response.tableDescription().tableName();
            return newTable;

        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
       return "";
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

複合プライマリキーを使用してテーブルを作成する

次の例では、2 つの属性を持つテーブルを作成します。どちらの属性も複合プライマリキーに使用されます。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeDefinition;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.CreateTableRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.CreateTableResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.KeySchemaElement;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.KeyType;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ProvisionedThroughput;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ScalarAttributeType;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
```

Code

```
    public static String createTableComKey(DynamoDbClient ddb, String tableName) {
        CreateTableRequest request = CreateTableRequest.builder()
                .attributeDefinitions(
                        AttributeDefinition.builder()
                                .attributeName("Language")
                                .attributeType(ScalarAttributeType.S)
                                .build(),
                        AttributeDefinition.builder()
                                .attributeName("Greeting")
                                .attributeType(ScalarAttributeType.S)
                                .build())
                .keySchema(
                        KeySchemaElement.builder()
                                .attributeName("Language")
                                .keyType(KeyType.HASH)
                                .build(),
                        KeySchemaElement.builder()
                                .attributeName("Greeting")
                                .keyType(KeyType.RANGE)
                                .build())
                .provisionedThroughput(
                        ProvisionedThroughput.builder()
                                .readCapacityUnits(new Long(10))
```

```
                                .writeCapacityUnits(new Long(10)).build())
                .tableName(tableName)
                .build();

        String tableId = "";

        try {
             CreateTableResponse result = ddb.createTable(request);
             tableId = result.tableDescription().tableId();
             return tableId;
         } catch (DynamoDbException e) {
             System.err.println(e.getMessage());
             System.exit(1);
         }
        return "";
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

テーブルの一覧表示

特定のリージョンのテーブルを一覧表示するには、DynamoDbClient's listTables メソッドを呼び出します。

> **Note**
>
> 指定したテーブルがアカウントやリージョンにない場合は、ResourceNotFoundException がスローされます。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ListTablesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ListTablesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import java.util.List;
```

Code

```
    public static void listAllTables(DynamoDbClient ddb){
```

```
        boolean moreTables = true;
        String lastName = null;

        while(moreTables) {
            try {
                ListTablesResponse response = null;
                if (lastName == null) {
                    ListTablesRequest request = ListTablesRequest.builder().build();
                    response = ddb.listTables(request);
                } else {
                    ListTablesRequest request = ListTablesRequest.builder()
                            .exclusiveStartTableName(lastName).build();
                    response = ddb.listTables(request);
                }

                List<String> tableNames = response.tableNames();

                if (tableNames.size() > 0) {
                    for (String curName : tableNames) {
                        System.out.format("* %s\n", curName);
                    }
                } else {
                    System.out.println("No tables found!");
                    System.exit(0);
                }

                lastName = response.lastEvaluatedTableName();
                if (lastName == null) {
                    moreTables = false;
                }
            } catch (DynamoDbException e) {
                System.err.println(e.getMessage());
                System.exit(1);
            }
        }
        System.out.println("\nDone!");
    }
```

デフォルトでは、1 回の呼び出しで最大 100 個のテーブルが返ります。評価された最後のテーブルを取得するには、返された [ListTablesResponse] オブジェクトに対して `lastEvaluatedTableName` を使用します。この値を使用して、前回の一覧表示で返された最後の値以降から、一覧表示を開始できます。

GitHub で完全な例をご覧ください。

テーブルの説明 (テーブルに関する情報の取得)

DynamoDbClient's describeTable メソッドを使用して、テーブルに関する情報を取得します。

> **Note**
>
> 指定したテーブルがアカウントやリージョンにない場合は、ResourceNotFoundException がスローされます。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeDefinition;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DescribeTableRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ProvisionedThroughputDescription;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.TableDescription;
import java.util.List;
```

Code

```
    public static void describeDymamoDBTable(DynamoDbClient ddb,String tableName ) {

        DescribeTableRequest request = DescribeTableRequest.builder()
                .tableName(tableName)
                .build();

        try {
            TableDescription tableInfo =
                    ddb.describeTable(request).table();

            if (tableInfo != null) {
                System.out.format("Table name  : %s\n",
                        tableInfo.tableName());
                System.out.format("Table ARN   : %s\n",
                        tableInfo.tableArn());
                System.out.format("Status      : %s\n",
                        tableInfo.tableStatus());
```

```
                System.out.format("Item count   : %d\n",
                        tableInfo.itemCount().longValue());
                System.out.format("Size (bytes): %d\n",
                        tableInfo.tableSizeBytes().longValue());

                ProvisionedThroughputDescription throughputInfo =
                        tableInfo.provisionedThroughput();
                System.out.println("Throughput");
                System.out.format("  Read Capacity : %d\n",
                        throughputInfo.readCapacityUnits().longValue());
                System.out.format("  Write Capacity: %d\n",
                        throughputInfo.writeCapacityUnits().longValue());

                List<AttributeDefinition> attributes =
                        tableInfo.attributeDefinitions();
                System.out.println("Attributes");

                for (AttributeDefinition a : attributes) {
                    System.out.format("  %s (%s)\n",
                            a.attributeName(), a.attributeType());
                }
            }
        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
        System.out.println("\nDone!");
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

テーブルの変更 (更新)

テーブルのプロビジョンドスループット値は、DynamoDbClient's updateTable メソッドを呼び出すことで随時変更できます。

> **Note**
>
> 指定したテーブルがアカウントやリージョンにない場合は、ResourceNotFoundException がスローされます。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ProvisionedThroughput;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.UpdateTableRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
```

Code

```
    public static void updateDynamoDBTable(DynamoDbClient ddb,
                                           String tableName,
                                           Long readCapacity,
                                           Long writeCapacity) {

        System.out.format(
                "Updating %s with new provisioned throughput values\n",
                tableName);
        System.out.format("Read capacity : %d\n", readCapacity);
        System.out.format("Write capacity : %d\n", writeCapacity);

        ProvisionedThroughput tableThroughput = ProvisionedThroughput.builder()
                .readCapacityUnits(readCapacity)
                .writeCapacityUnits(writeCapacity)
                .build();

        UpdateTableRequest request = UpdateTableRequest.builder()
                .provisionedThroughput(tableThroughput)
                .tableName(tableName)
                .build();

        try {
            ddb.updateTable(request);
        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }

        System.out.println("Done!");
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

テーブルの削除

テーブルを削除するには、DynamoDbClient's deleteTable メソッドを呼び出してテーブルの名前を指定します。

> **Note**
>
> 指定したテーブルがアカウントやリージョンにない場合は、ResourceNotFoundException がスローされます。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DeleteTableRequest;
```

Code

```
    public static void deleteDynamoDBTable(DynamoDbClient ddb, String tableName) {

        DeleteTableRequest request = DeleteTableRequest.builder()
                .tableName(tableName)
                .build();

        try {
            ddb.deleteTable(request);

        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
        System.out.println(tableName +" was successfully deleted!");
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

詳細情報

- Amazon DynamoDB デベロッパーガイドのテーブルの操作のガイドライン

- Amazon DynamoDB デベロッパーガイドの DynamoDB のテーブルの操作

で項目を操作する DynamoDB

では DynamoDB、項目は属性のコレクションであり、それぞれに名前と値があります。属性値はスカラー型、セット型、ドキュメント型のいずれかです。詳細については、 Amazon DynamoDB デベロッパーガイドの命名規則とデータ型を参照してください。

テーブルからの項目の取り出し (取得)

DynamoDbClient の `getItem` メソッドを呼び出して、指定する項目のテーブル名とプライマリキーバリューを持つ GetItemRequest オブジェクトを渡します。これにより、その項目のすべての属性を含む GetItemResponse オブジェクトが返されます。特定の属性を取得するには、 で、1 つ以上のプロジェクション式`GetItemRequest`を指定します。

返された `GetItemResponse` オブジェクトの `item()` メソッドを使用して、項目に関連付けられているキー (String) と値 (AttributeValue) のペアの Map を取得できます。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.GetItemRequest;
import java.util.HashMap;
import java.util.Map;
import java.util.Set;
```

コード

```
   public static void getDynamoDBItem(DynamoDbClient ddb,String tableName,String
key,String keyVal ) {

        HashMap<String,AttributeValue> keyToGet = new HashMap<String,AttributeValue>();

        keyToGet.put(key, AttributeValue.builder()
                .s(keyVal).build());

        GetItemRequest request = GetItemRequest.builder()
                .key(keyToGet)
```

```
                .tableName(tableName)
                .build();

        try {
            Map<String,AttributeValue> returnedItem = ddb.getItem(request).item();

            if (returnedItem != null) {
                Set<String> keys = returnedItem.keySet();
                System.out.println("Amazon DynamoDB table attributes: \n");

                for (String key1 : keys) {
                    System.out.format("%s: %s\n", key1,
returnedItem.get(key1).toString());
                }
            } else {
                System.out.format("No item found with the key %s!\n", key);
            }
        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

非同期クライアントを使用したテーブルからの項目の取り出し (取得)

DynamoDbAsyncClient の `getItem` メソッドを呼び出して、指定する項目のテーブル名とプライマリキーバリューを持つ GetItemRequest オブジェクトを渡します。

その項目のすべての属性を持つ Collection インスタンスを返すことができます (次の例を参照)。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.GetItemRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbAsyncClient;
import java.util.HashMap;
import java.util.Map;
import java.util.Set;
import java.util.stream.Collectors;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
```

コード

```
   public static void getItem(DynamoDbAsyncClient client, String tableName, String
key,  String keyVal) {

       HashMap<String, AttributeValue> keyToGet =
               new HashMap<String, AttributeValue>();

       keyToGet.put(key, AttributeValue.builder()
               .s(keyVal).build());

       try {

           // Create a GetItemRequest instance
           GetItemRequest request = GetItemRequest.builder()
                   .key(keyToGet)
                   .tableName(tableName)
                   .build();

           // Invoke the DynamoDbAsyncClient object's getItem
           java.util.Collection<AttributeValue> returnedItem =
client.getItem(request).join().item().values();

           // Convert Set to Map
           Map<String, AttributeValue> map =
returnedItem.stream().collect(Collectors.toMap(AttributeValue::s, s->s));
           Set<String> keys = map.keySet();
           for (String sinKey : keys) {
               System.out.format("%s: %s\n", sinKey, map.get(sinKey).toString());
           }

       } catch (DynamoDbException e) {
           System.err.println(e.getMessage());
           System.exit(1);
       }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

テーブルへの新しい項目の追加

項目の属性を表すキーと値のペアのマップを作成します。これらには、テーブルのプライマリキーフィールドの値を含める必要があります。プライマリキーで特定される項目がすでにある場合、フィールドはリクエストによって更新されます。

> **Note**
>
> 指定したテーブルがアカウントやリージョンにない場合は、ResourceNotFoundException がスローされます。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.PutItemRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ResourceNotFoundException;
import java.util.HashMap;
```

コード

```
    public static void putItemInTable(DynamoDbClient ddb,
                                      String tableName,
                                      String key,
                                      String keyVal,
                                      String albumTitle,
                                      String albumTitleValue,
                                      String awards,
                                      String awardVal,
                                      String songTitle,
                                      String songTitleVal){

        HashMap<String,AttributeValue> itemValues = new
HashMap<String,AttributeValue>();

        // Add all content to the table
        itemValues.put(key, AttributeValue.builder().s(keyVal).build());
        itemValues.put(songTitle, AttributeValue.builder().s(songTitleVal).build());
        itemValues.put(albumTitle,
AttributeValue.builder().s(albumTitleValue).build());
        itemValues.put(awards, AttributeValue.builder().s(awardVal).build());

        PutItemRequest request = PutItemRequest.builder()
                .tableName(tableName)
                .item(itemValues)
```

```
                .build();

        try {
            ddb.putItem(request);
            System.out.println(tableName +" was successfully updated");

        } catch (ResourceNotFoundException e) {
            System.err.format("Error: The Amazon DynamoDB table \"%s\" can't be found.
\n", tableName);
            System.err.println("Be sure that it exists and that you've typed its name
 correctly!");
            System.exit(1);
        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

テーブルの既存の項目の更新

テーブルに既に存在する項目の属性を更新するには、DynamoDbClient の `updateItem` メソッドを呼び出して、テーブル名、プライマリキーバリュー、更新するフィールドのマップを渡します。

> **Note**
>
> 指定したテーブルがアカウントやリージョンにない場合、または渡したプライマリキーで特定される項目がない場合、ResourceNotFoundException がスローされます。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeAction;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValueUpdate;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ResourceNotFoundException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.UpdateItemRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import java.util.HashMap;
```

コード

```
    public static void updateTableItem(DynamoDbClient ddb,
                                       String tableName,
                                       String key,
                                       String keyVal,
                                       String name,
                                       String updateVal){

        HashMap<String,AttributeValue> itemKey = new HashMap<String,AttributeValue>();

        itemKey.put(key, AttributeValue.builder().s(keyVal).build());

        HashMap<String,AttributeValueUpdate> updatedValues =
                new HashMap<String,AttributeValueUpdate>();

        // Update the column specified by name with updatedVal
        updatedValues.put(name, AttributeValueUpdate.builder()
                .value(AttributeValue.builder().s(updateVal).build())
                .action(AttributeAction.PUT)
                .build());

        UpdateItemRequest request = UpdateItemRequest.builder()
                .tableName(tableName)
                .key(itemKey)
                .attributeUpdates(updatedValues)
                .build();

        try {
            ddb.updateItem(request);
        } catch (ResourceNotFoundException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }

        System.out.println("Done!");
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

テーブルの既存の項目の削除

テーブルに存在する項目を削除するには、DynamoDbClient の `deleteItem` メソッドを使用して、テーブル名とプライマリキーバリューを渡します。

> **Note**
>
> 指定したテーブルがアカウントやリージョンにない場合、または渡したプライマリキーで特定される項目がない場合、ResourceNotFoundException がスローされます。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DeleteItemRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import java.util.HashMap;
```

コード

```
 public static void deleteDynamoDBItem(DynamoDbClient ddb, String tableName, String
key, String keyVal) {

       HashMap<String,AttributeValue> keyToGet =
               new HashMap<String,AttributeValue>();

       keyToGet.put(key, AttributeValue.builder()
               .s(keyVal)
               .build());

       DeleteItemRequest deleteReq = DeleteItemRequest.builder()
               .tableName(tableName)
               .key(keyToGet)
               .build();

       try {
           ddb.deleteItem(deleteReq);
       } catch (DynamoDbException e) {
           System.err.println(e.getMessage());
           System.exit(1);
```

```
        }
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

詳細情報

- Amazon DynamoDB デベロッパーガイドの項目の操作のガイドライン
- Amazon DynamoDB デベロッパーガイドの「 でのアイテムの操作 DynamoDB」

を使用して Java オブジェクトを DynamoDB 項目にマッピングする AWS SDK for Java 2.x

DynamoDB Enhanced Client API は、SDK for Java v1.x の `DynamoDBMapper` クラスの後継となる高レベルのライブラリです。クライアント側のクラスを DynamoDB テーブルにマッピングする簡単な方法を提供します。テーブルおよび対応するデータクラスの間の関係をコードで定義します。関係を定義したら、DynamoDB のテーブルまたは項目に対して、さまざまな作成、読み取り、更新、または削除 (CRUD) オペレーションを直感的に実行できます。

DynamoDB Enhanced Client API には、定義されたスキーマに従わないドキュメントタイプの項目を操作できる拡張ドキュメント API も含まれています。

DynamoDB Enhanced Client API については、以下のトピックで説明します。

- DynamoDB Enhanced Client API の使用を開始する
- DynamoDB Enhanced Client API の基礎について学ぶ
- 高度なマッピング機能を使用する
- DynamoDB 用の拡張ドキュメント API を使用して JSON ドキュメントを操作する
- 拡張機能を使用して DynamoDB 拡張クライアントオペレーションをカスタマイズする
- DynamoDB 拡張クライアント API を非同期的に使用する
- データクラス注釈

DynamoDB Enhanced Client API の使用を開始する

次のチュートリアルでは、DynamoDB Enhanced Client API を操作するために必要な基本事項を紹介します。

依存関係を追加する

プロジェクトで DynamoDB Enhanced Client API を使い始めるには、dynamodb-enhanced Maven アーティファクトへの依存関係を追加します。これは次の例で示されます。

Maven

```
<project>
  <dependencyManagement>
   <dependencies>
      <dependency>
        <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
        <artifactId>bom</artifactId>
        <version><VERSION></version>
        <type>pom</type>
        <scope>import</scope>
      </dependency>
   </dependencies>
  </dependencyManagement>
  <dependencies>
    <dependency>
      <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
      <artifactId>dynamodb-enhanced</artifactId>
    </dependency>
  </dependencies>
  ...
</project>
```

Maven central リポジトリで最新バージョンを検索し、*<VERSION>* をこの値に置き換えます。

Gradle

```
repositories {
    mavenCentral()
}
dependencies {
    implementation(platform("software.amazon.awssdk:bom:<VERSION>"))
    implementation("software.amazon.awssdk:dynamodb-enhanced")
    ...
}
```

Maven central リポジトリで最新バージョンを検索し、*<VERSION>* をこの値に置き換えます。

データクラスから **TableSchema** を生成する

TableSchema を使用すると、拡張クライアントは DynamoDB 属性値をクライアント側クラスとの間でマッピングできるようになります。このチュートリアルでは、静的データクラスから派生し、ビルダーを使用してコードから生成された TableSchema について説明します。

注釈付きデータクラスを使用する

SDK for Java 2.x には、データクラスと一緒に使用することで、Java Bean で使用して、クラスをテーブルにマッピングするための TableSchema をすばやく生成できる一連の注釈が含まれています。

まず、JavaBean 仕様に準拠するデータクラスを作成します。この仕様では、クラスには引数のないパブリックコンストラクタが必要であり、クラスの各属性にはゲッターとセッターが必要です。データクラスが DynamoDbBean であることを示すクラスレベルの注釈を含めます。また、少なくとも、getters と setters にはプライマリキー属性の DynamoDbPartitionKey 注釈を含めます。

属性レベルの注釈はゲッターまたはセッターに適用できますが、両方に適用することはできません。

> **Note**
>
> 通常、property という用語は JavaBean にカプセル化された値に使用されます。ただし、このガイドでは、DynamoDB で使用されている用語との一貫性を保つため、代わりに attribute という用語を使用しています。

次のCustomerクラスでは、パーティションキー (id) とソートキー () で構成される複合プライマリキーを使用しますemail。DynamoDB プライマリキーは、単一のパーティションキー属性またはソートキーと組み合わせたパーティションキーです。@DynamoDbPartitionKey および @DynamoDbSortKey注釈を使用して、キー属性を識別します。

Customer クラス

```
package org.example.tests.model;

import software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.mapper.annotations.DynamoDbBean;
import
 software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.mapper.annotations.DynamoDbPartitionKey;
import software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.mapper.annotations.DynamoDbSortKey;

import java.time.Instant;
```

```
@DynamoDbBean
public class Customer {

    private String id;
    private String name;
    private String email;
    private Instant regDate;

    @DynamoDbPartitionKey
    public String getId() { return this.id; }

    public void setId(String id) { this.id = id; }

    public String getCustName() { return this.name; }

    public void setCustName(String name) { this.name = name; }

    @DynamoDbSortKey
    public String getEmail() { return this.email; }

    public void setEmail(String email) { this.email = email; }

    public Instant getRegistrationDate() { return this.regDate; }

    public void setRegistrationDate(Instant registrationDate) { this.regDate =
 registrationDate; }

    @Override
    public String toString() {
        return "Customer [id=" + id + ", name=" + name + ", email=" + email
                + ", regDate=" + regDate + "]";
    }
}
```

注釈付きデータクラスを作成したら、次のスニペットに示すように、それを使って TableSchema を作成します。

```
static final TableSchema<Customer> customerTableSchema =
 TableSchema.fromBean(Customer.class);
```

TableSchema は静的で変更不可能であるように設計されています。通常、クラスロード時にインスタンス化できます。

静的 TableSchema.fromBean() ファクトリメソッドは Bean をイントロスペクトして、データクラス属性 (プロパティ) と DynamoDB 属性間のマッピングを生成します。

複数のデータクラスで構成されるデータモデルの操作例については、??? セクションの「Person クラス」を参照してください。

ビルダーを使用する

テーブルスキーマをコードで定義すれば、Bean イントロスペクションのコストを省くことができます。スキーマをコーディングする場合、クラスは JavaBean の命名基準に従う必要も、注釈を付ける必要もありません。次の例ではビルダーを使用しており、注釈を使用する Customer クラスの例と同じです。

```
static final TableSchema<Customer> customerTableSchema =
                TableSchema.builder(Customer.class)
                        .newItemSupplier(Customer::new)
                        .addAttribute(String.class, a -> a.name("id")
                                .getter(Customer::getId)
                                .setter(Customer::setId)
                                .tags(StaticAttributeTags.primaryPartitionKey()))
                        .addAttribute(String.class, a -> a.name("email")
                                .getter(Customer::getEmail)
                                .setter(Customer::setEmail)
                                .tags(StaticAttributeTags.primarySortKey()))
                        .addAttribute(String.class, a -> a.name("name")
                                .getter(Customer::getCustName)
                                .setter(Customer::setCustName))
                        .addAttribute(Instant.class, a -> a.name("registrationDate")
                                .getter(Customer::getRegistrationDate)
                                .setter(Customer::setRegistrationDate))
                        .build();
```

拡張クライアントと **DynamoDbTable** を作成する

拡張クライアントを作成する

DDynamoDbEnhancedClient クラスまたはその非同期クラスである DynamoDBEnhancedAsyncClient は、DynamoDB Enhanced Client API を操作するためのエントリポイントです。

拡張クライアントでは、作業を実行するための標準の DynamoDbClient が必要です。API には、DynamoDbEnhancedClient インスタンスを作成する 2 つの方法があります。以下のスニ

ペットに示す 1 つ目のオプションは、構成設定から選択したデフォルト設定を使用して標準の DynamoDbClient を作成します。

```
DynamoDbEnhancedClient enhancedClient = DynamoDbEnhancedClient.create();
```

基礎となる標準クライアントを設定する場合は、次のスニペットに示すように、拡張クライアントのビルダーメソッドにそれを提供することができます。

```
// Configure an instance of the standard DynamoDbClient.
DynamoDbClient standardClient = DynamoDbClient.builder()
    .region(Region.US_EAST_1)
    .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
    .build();

// Use the configured standard client with the enhanced client.
DynamoDbEnhancedClient enhancedClient = DynamoDbEnhancedClient.builder()
    .dynamoDbClient(standardClient)
    .build();
```

DynamoDbTable インスタンスを作成する

DynamoDbTable は、TableSchema によって提供されるマッピング機能を使用する DynamoDB テーブルのクライアント側表現と考えます。DynamoDbTable クラスには、単一の DynamoDB テーブルを操作できる CRUD オペレーションのメソッドが用意されています。

DynamoDbTable<T> は、カスタムクラスでもドキュメントタイプのアイテムを操作するときの EnhancedDocument でも、単一の型引数を取る汎用クラスです。この引数タイプは、使用するクラスと単一の DynamoDB テーブルとの関係を確立します。

次のスニペットに示すように、DynamoDbEnhancedClient の table() ファクトリメソッドを使用して、DynamoDbTable インスタンスを作成します。

```
static final DynamoDbTable<Customer> customerTable =
        enhancedClient.table("Customer", TableSchema.fromBean(Customer.class));
```

DynamoDbTable インスタンスは不変であり、アプリケーション全体で使用できるので、シングルトンの候補です。

これで、コードに Customer インスタンスを使用できる DynamoDB テーブルのインメモリ表現ができました。実際の DynamoDB テーブルは、存在する場合と存在しない場合があります。Customer という名前のテーブルがすでに存在する場合は、そのテーブルに対して CRUD オペ

レーションを実行し始めることができます。テーブルが見つからない場合、次のセクションで説明するように、DynamoDbTable インスタンスを使用してテーブルを作成します。

必要に応じて、DynamoDB テーブルを作成する

DynamoDbTable インスタンスを作成したら、そのインスタンスを使用して DynamoDB でテーブルを 1 回だけ作成します。

テーブル作成例コード

次の例では、Customer データクラスに基づいて DynamoDB テーブルを作成します。

この例では、クラス名と同じ Customer という名前で DynamoDB テーブルを作成しますが、テーブル名は別の名前でもかまいません。テーブルにどのような名前を付けるにしても、テーブルを操作するには他のアプリケーションでもこの名前を使用する必要があります。基になる DynamoDB テーブルを操作するために、別の DynamoDbTable オブジェクトを作成するときはいつでも、この名前を table() メソッドに指定してください。

createTable メソッドに渡される Java lambda パラメータ、builder、によって、テーブルをカスタマイズできます。この例では、プロビジョニングされたスループットが設定されています。テーブルの作成時にデフォルト設定を使用する場合は、次のスニペットに示すようにビルダーをスキップします。

```
customerTable.createTable();
```

デフォルト設定を使用すると、プロビジョニングされたスループットの値は設定されません。代わりに、テーブルの請求モードはオンデマンドに設定されます。

この例では、レスポンスで受け取ったテーブル名を出力しようとする前に、DynamoDbWaiter を使用しています。テーブルの作成には少し時間がかかります。したがって、ウェーターを使用すると、テーブルを使用する前に DynamoDB サービスをポーリングしてテーブルが存在するかどうかを確認するロジックを記述する必要がなくなります。

インポート

```
import com.example.dynamodb.Customer;
import software.amazon.awssdk.core.internal.waiters.ResponseOrException;
import software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.DynamoDbEnhancedClient;
import software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.DynamoDbTable;
import software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.TableSchema;
import software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.model.CreateTableEnhancedRequest;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DescribeTableResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.waiters.DynamoDbWaiter;
```

コード

```
public static void createCustomerTable(DynamoDbTable<Customer> customerTable,
DynamoDbClient standardClient) {
    // Create the DynamoDB table using the 'customerTable' DynamoDbTable instance.
    customerTable.createTable(builder -> builder
            .provisionedThroughput(b -> b
                    .readCapacityUnits(10L)
                    .writeCapacityUnits(10L)
                    .build())
    );
    // The DynamoDbClient instance (named 'standardClient') passed to the builder for
the DynamoDbWaiter is the same instance
    // that was passed to the builder of the DynamoDbEnhancedClient instance that we
created previously.
    // By using the same instance, it ensures that the same Region that was configured
on the standard DynamoDbClient
    // instance is used for other service clients that accept a DynamoDbClient during
construction.
    try (DynamoDbWaiter waiter =
DynamoDbWaiter.builder().client(standardClient).build()) { // DynamoDbWaiter is
Autocloseable
        ResponseOrException<DescribeTableResponse> response = waiter
                .waitUntilTableExists(builder ->
builder.tableName("Customer").build())
                .matched();
        DescribeTableResponse tableDescription = response.response().orElseThrow(
                () -> new RuntimeException("Customer table was not created."));
        // The actual error can be inspected in response.exception()
        logger.info("Customer table was created.");
    }
}
```

> **Note**
>
> DynamoDB テーブルの属性名は、テーブルがデータクラスから生成される場合、小文字で始まります。テーブルの属性名を大文字で始めたい場合は、@DynamoDbAttribute(*NAME*) 注釈を使用して、必要な名前をパラメータとして指定します。

オペレーションを実行する

テーブルが作成されたら、DynamoDbTable インスタンスを使用して DynamoDB テーブルに対して操作を実行します。

次の例では、Customer データクラスのインスタンスとともにシングルトン DynamoDbTable<Customer> をパラメータとして渡し、テーブルに新しいアイテムを追加します。

```
    public static void putItemExample(DynamoDbTable<Customer> customerTable, Customer
 customer){
        logger.info(customer.toString());
        customerTable.putItem(customer);
    }
```

Customer オブジェクト

```
        Customer customer = new Customer();
        customer.setId("1");
        customer.setCustName("Customer Name");
        customer.setEmail("customer@example.com");
        customer.setRegistrationDate(Instant.parse("2023-07-03T10:15:30.00Z"));
```

customer オブジェクトを DynamoDB サービスに送信する前に、オブジェクトの toString() メソッドの出力をログに記録して、拡張クライアントが送信するものと比較します。

```
Customer [id=1, name=Customer Name, email=customer@example.com,
 regDate=2023-07-03T10:15:30Z]
```

ワイヤレベルのログ記録には、生成されたリクエストのペイロードが表示されます。拡張クライアントはデータクラスから低レベルの表現を生成しました。Java の Instant タイプである regDate 属性は、DynamoDB の文字列として表されます。

```
{
  "TableName": "Customer",
  "Item": {
    "registrationDate": {
      "S": "2023-07-03T10:15:30Z"
    },
    "id": {
```

```
      "S": "1"
    },
    "custName": {
      "S": "Customer Name"
    },
    "email": {
      "S": "customer@example.com"
    }
  }
}
```

既存のテーブルを使用する

前のセクションでは、Java データクラスから DynamoDB テーブルを作成する方法を示しました。既存のテーブルがあって、拡張クライアントの機能を使いたい場合は、そのテーブルを操作する Java データクラスを作成できます。DynamoDB テーブルを調べ、必要な注釈をデータクラスに追加する必要があります。

既存のテーブルを操作する前に、`DynamoDbEnhanced.table()` メソッドを呼び出します。これは、前の例で次のステートメントを使用して行われました。

```
DynamoDbTable<Customer> customerTable = enhancedClient.table("Customer",
 TableSchema.fromBean(Customer.class));
```

`DynamoDbTable` インスタンスが返されたら、基になるテーブルですぐに作業を開始できます。`DynamoDbTable.createTable()` メソッドを呼び出してテーブルを再作成する必要はありません。

次の例では、DynamoDB テーブルから `Customer` インスタンスをすぐに取得することで示されます。

```
DynamoDbTable<Customer> customerTable = enhancedClient.table("Customer",
 TableSchema.fromBean(Customer.class));
// The Customer table exists already and has an item with a primary key value of "1"
 and a sort key value of "customer@example.com".
customerTable.getItem(
        Key.builder().
                partitionValue("1").
                sortValue("customer@example.com").build());
```

> **Important**
>
> `table()` メソッドで使用されるテーブル名は、既存の DynamoDB テーブル名と一致する必要があります。

DynamoDB Enhanced Client API の基礎について学ぶ

このトピックでは、DynamoDB Enhanced Client API の基本機能について説明し、標準の DynamoDB client API と比較します。

DynamoDB Enhanced Client API を初めて使用する場合は、入門チュートリアルを読んで基本的なクラスに慣れることをおすすめします。

Java の DynamoDB アイテム

DynamoDB テーブルにはアイテムが保存されます。ユースケースに応じて、Java 側のアイテムは静的に構造化されたデータまたは動的に作成された構造の形をとることができます。

ユースケースで一貫性のある属性セットを持つアイテムが必要な場合は、注釈付きクラスを使用するか、ビルダーを使用して適切な静的型 `TableSchema` を生成します。

あるいは、さまざまな構造から構成されるアイテムを保存する必要がある場合は、`DocumentTableSchema` を作成します。`DocumentTableSchema` は拡張ドキュメント API の一部であり、必要なのは静的型プライマリキーのみで、`EnhancedDocument` インスタンスと連携してデータ要素を保持します。拡張ドキュメント API については別のトピックで説明しています。

データモデルクラスの属性型

DynamoDB は、Java の豊富なタイプシステムに比べて少数の属性型をサポートしています。DynamoDB Enhanced Client API には Java クラスのメンバーと DynamoDB 属性タイプを相互に変換するメカニズムを提供します。

Java データクラスの属性型 (プロパティ) は、プリミティブではなくオブジェクト型である必要があります。たとえば、 `Long` および `int` プリミティブではなく、常に `long` および `Integer` オブジェクトデータ型を使用します。

デフォルトでは、DynamoDB Enhanced Client API は、整数、文字列、BigDecimal、インスタントなど、多数のタイプの属性コンバーターをサポートしています。このリストは、AttributeConverter インターフェイスの既知の実装クラスに表示されます。リストには、マップ、リスト、セットなど、さまざまなタイプとコレクションが含まれています。

デフォルトではサポートされていない属性型や JavaBean 規約に準拠していない属性型のデータを保存するには、変換を行うカスタム `AttributeConverter` 実装を記述できます。例については、「属性変換」セクションを参照してください。

クラスが Java Bean 仕様に準拠する属性型 (または不変データクラス) のデータを保存するには、2 つの方法があります。

- ソースファイルにアクセスできる場合は、クラスに `@DynamoDbBean` (または `@DynamoDbImmutable`) という注釈を付けることができます。ネストされた属性について説明しているセクションでは、注釈付きクラスの使用例を示しています。

- 属性の JavaBean データクラスのソースファイルにアクセスできない (またはアクセス権限のあるクラスのソースファイルに注釈を付けたくない) 場合は、ビルダーアプローチを使用できます。これにより、キーを定義せずにテーブルスキーマが作成されます。次に、このテーブルスキーマを別のテーブルスキーマ内にネストしてマッピングを実行できます。ネストされた属性セクションには、ネストされたスキーマの使用例があります。

Null 値

`putItem` メソッドを使用する場合、拡張クライアントは、マッピングされたデータオブジェクトの NULL 値属性を DynamoDB へのリクエストに含めません。

`updateItem` リクエストに対する SDK のデフォルト動作は、`updateItem` メソッドで送信するオブジェクトで null に設定されている属性を DynamoDB の項目から削除します。一部の属性値を更新し、他の属性値を変更しないようにするには、2 つのオプションがあります。

- 値を変更する前に (`getItem` を使用して) 項目を取得します。このアプローチを使用すると、SDK はすべての更新された値と古い値を DynamoDB に送信します。
- 項目を更新するリクエストを構築するときは、`IgnoreNullsMode.SCALAR_ONLY` または `IgnoreNullsMode.MAPS_ONLY` のいずれかを使用します。どちらのモードも、DynamoDB のスカラー属性を表すオブジェクト内の null 値のプロパティを無視します。このガイドの the section called “複合型を含む項目の更新” トピックには、`IgnoreNullsMode` 値の詳細と複合型の使用方法が記載されています。

次の例は、`updateItem()` メソッドの `ignoreNullsMode()` を示しています。

```
    public static void updateItemNullsExample() {
        Customer customer = new Customer();
```

```
        customer.setCustName("CustomerName");
        customer.setEmail("email");
        customer.setId("1");
        customer.setRegistrationDate(Instant.now());

        logger.info("Original customer: {}", customer);

        // Put item with values for all attributes.
        try {
            customerAsyncDynamoDbTable.putItem(customer).join();
        } catch (RuntimeException rte) {
            logger.error("A exception occurred during putItem: {}",
rte.getCause().getMessage(), rte);
            return;
        }

        // Create a Customer instance with the same 'id' and 'email' values, but a
different 'name' value.
        // Do not set the 'registrationDate' attribute.
        Customer customerForUpdate = new Customer();
        customerForUpdate.setCustName("NewName");
        customerForUpdate.setEmail("email");
        customerForUpdate.setId("1");

        // Update item without setting the 'registrationDate' property and set
IgnoreNullsMode to SCALAR_ONLY.
        try {
            Customer updatedWithNullsIgnored = customerAsyncDynamoDbTable.updateItem(b
-> b
                            .item(customerForUpdate)
                            .ignoreNullsMode(IgnoreNullsMode.SCALAR_ONLY))
                    .join();
            logger.info("Customer updated with nulls ignored: {}",
updatedWithNullsIgnored.toString());
        } catch (RuntimeException rte) {
            logger.error("An exception occurred during updateItem: {}",
rte.getCause().getMessage(), rte);
            return;
        }

        // Update item without setting the registrationDate attribute and not setting
ignoreNulls to true.
        try {
```

```
            Customer updatedWithNullsUsed =
 customerAsyncDynamoDbTable.updateItem(customerForUpdate)
                    .join();
            logger.info("Customer updated with nulls used: {}",
 updatedWithNullsUsed.toString());
        } catch (RuntimeException rte) {
            logger.error("An exception occurred during updateItem: {}",
 rte.getCause().getMessage(), rte);
        }
    }


// Logged lines.
Original customer: Customer [id=1, name=CustomerName, email=email,
 regDate=2024-10-11T14:12:30.222858Z]
Customer updated with nulls ignored: Customer [id=1, name=NewName, email=email,
 regDate=2024-10-11T14:12:30.222858Z]
Customer updated with nulls used: Customer [id=1, name=NewName, email=email,
 regDate=null]
```

DynamoDB Enhanced Client API の基本メソッド

拡張クライアントの基本的なメソッドは、その名前に由来する DynamoDB サービスオペレーションにマッピングされます。次の例は、各方法の最も単純なバリエーションを示しています。拡張リクエストオブジェクトを渡すことで、各メソッドをカスタマイズできます。拡張リクエストオブジェクトは、標準の DynamoDB クライアントで使用できるほとんどの機能を提供します。これらは、 AWS SDK for Java 2.x API リファレンスで完全に文書化されています。

この例では前に示した the section called “Customer クラス” を使用しています。

```
// CreateTable
customerTable.createTable();

// GetItem
Customer customer =
 customerTable.getItem(Key.builder().partitionValue("a123").build());

// UpdateItem
Customer updatedCustomer = customerTable.updateItem(customer);

// PutItem
customerTable.putItem(customer);
```

```
// DeleteItem
Customer deletedCustomer =
 customerTable.deleteItem(Key.builder().partitionValue("a123").sortValue(456).build());

// Query
PageIterable<Customer> customers = customerTable.query(keyEqualTo(k ->
 k.partitionValue("a123")));

// Scan
PageIterable<Customer> customers = customerTable.scan();

// BatchGetItem
BatchGetResultPageIterable batchResults =
    enhancedClient.batchGetItem(r -> r.addReadBatch(ReadBatch.builder(Customer.class)
                                      .mappedTableResource(customerTable)
                                      .addGetItem(key1)
                                      .addGetItem(key2)
                                      .addGetItem(key3)
                                      .build()));

// BatchWriteItem
batchResults = enhancedClient.batchWriteItem(r ->
 r.addWriteBatch(WriteBatch.builder(Customer.class)
                                                    .mappedTableResource(customerTable)
                                                    .addPutItem(customer)
                                                    .addDeleteItem(key1)
                                                    .addDeleteItem(key1)
                                                    .build()));

// TransactGetItems
transactResults = enhancedClient.transactGetItems(r -> r.addGetItem(customerTable,
 key1)
                                                         .addGetItem(customerTable,
 key2));

// TransactWriteItems
enhancedClient.transactWriteItems(r -> r.addConditionCheck(customerTable,
                                                            i -> i.key(orderKey)

 .conditionExpression(conditionExpression))
                                      .addUpdateItem(customerTable, customer)
                                      .addDeleteItem(customerTable, key));
```

DynamoDB Enhanced Client を標準の DynamoDB クライアントと比較する

DynamoDB client API (標準と拡張) はどちらも、DynamoDB テーブルを操作して CRUD (作成、読み取り、更新、削除) データレベルの操作を実行できます。クライアント API の違いは、その方法にあります。標準クライアントを使用すると、低レベルのデータ属性を直接操作できます。拡張クライアント API では、使い慣れた Java クラスが使用され、バックグラウンドで低レベル API にマッピングされます。

どちらのクライアント API もデータレベルの操作をサポートしていますが、標準の DynamoDB クライアントはリソースレベルの操作もサポートします。リソースレベルのオペレーションは、バックアップの作成、テーブルの一覧表示、テーブルの更新など、データベースを管理します。拡張クライアント API は、テーブルの作成、説明、削除など、特定の数のリソースレベルの操作をサポートします。

2 つのクライアント API が使用するさまざまなアプローチの違いを説明するために、以下のコード例は、標準クライアントと拡張クライアントを使用して同じ `ProductCatalog` テーブルを作成する方法を示しています。

比較: 標準の DynamoDB クライアントを使用してテーブルを作成

```
DependencyFactory.dynamoDbClient().createTable(builder -> builder
        .tableName(TABLE_NAME)
        .attributeDefinitions(
                b -> b.attributeName("id").attributeType(ScalarAttributeType.N),
                b -> b.attributeName("title").attributeType(ScalarAttributeType.S),
                b -> b.attributeName("isbn").attributeType(ScalarAttributeType.S)
        )
        .keySchema(
                builder1 -> builder1.attributeName("id").keyType(KeyType.HASH),
                builder2 -> builder2.attributeName("title").keyType(KeyType.RANGE)
        )
        .globalSecondaryIndexes(builder3 -> builder3
                        .indexName("products_by_isbn")
                        .keySchema(builder2 -> builder2
                                .attributeName("isbn").keyType(KeyType.HASH))
                        .projection(builder2 -> builder2
                                .projectionType(ProjectionType.INCLUDE)
                                .nonKeyAttributes("price", "authors"))
                        .provisionedThroughput(builder4 -> builder4
                                .writeCapacityUnits(5L).readCapacityUnits(5L))
        )
        .provisionedThroughput(builder1 -> builder1
```

```
                .readCapacityUnits(5L).writeCapacityUnits(5L))
);
```

比較: DynamoDB Enhanced Client を使用したテーブルの作成

```
DynamoDbEnhancedClient enhancedClient = DependencyFactory.enhancedClient();
productCatalog = enhancedClient.table(TABLE_NAME,
 TableSchema.fromImmutableClass(ProductCatalog.class));
productCatalog.createTable(b -> b
        .provisionedThroughput(b1 -> b1.readCapacityUnits(5L).writeCapacityUnits(5L))
        .globalSecondaryIndices(b2 -> b2.indexName("products_by_isbn")
                .projection(b4 -> b4
                        .projectionType(ProjectionType.INCLUDE)
                        .nonKeyAttributes("price", "authors"))
                .provisionedThroughput(b3 ->
 b3.writeCapacityUnits(5L).readCapacityUnits(5L))
        )
);
```

拡張クライアントは、以下の注釈付きデータクラスを使用します。DynamoDB Enhanced Client は、Java データ型を DynamoDB データ型にマッピングして、より簡潔でわかりやすいコードにします。`ProductCatalog` は、DynamoDB Enhanced Client で不変クラスを使用する例です。マッピングされたデータクラスでの不変クラスの使用については、このトピックの後半で説明します。

`ProductCatalog` クラス

```
package org.example.tests.model;

import software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.mapper.annotations.DynamoDbIgnore;
import software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.mapper.annotations.DynamoDbImmutable;
import
 software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.mapper.annotations.DynamoDbPartitionKey;
import
 software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.mapper.annotations.DynamoDbSecondaryPartitionKey;
import software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.mapper.annotations.DynamoDbSortKey;

import java.math.BigDecimal;
import java.util.Objects;
import java.util.Set;

@DynamoDbImmutable(builder = ProductCatalog.Builder.class)
public class ProductCatalog implements Comparable<ProductCatalog> {
```

```
    private Integer id;
    private String title;
    private String isbn;
    private Set<String> authors;
    private BigDecimal price;


    private ProductCatalog(Builder builder){
        this.authors = builder.authors;
        this.id = builder.id;
        this.isbn = builder.isbn;
        this.price = builder.price;
        this.title = builder.title;
    }

    public static Builder builder(){ return new Builder(); }

    @DynamoDbPartitionKey
    public Integer id() { return id; }

    @DynamoDbSortKey
    public String title() { return title; }

    @DynamoDbSecondaryPartitionKey(indexNames = "products_by_isbn")
    public String isbn() { return isbn; }
    public Set<String> authors() { return authors; }
    public BigDecimal price() { return price; }


    public static final class Builder {
      private Integer id;
      private String title;
      private String isbn;
      private Set<String> authors;
      private BigDecimal price;
      private Builder(){}

      public Builder id(Integer id) { this.id = id; return this; }
      public Builder title(String title) { this.title = title; return this; }
      public Builder isbn(String ISBN) { this.isbn = ISBN; return this; }
      public Builder authors(Set<String> authors) { this.authors = authors; return
 this; }
      public Builder price(BigDecimal price) { this.price = price; return this; }
      public ProductCatalog build() { return new ProductCatalog(this); }
```

```
  }

    @Override
    public String toString() {
        final StringBuffer sb = new StringBuffer("ProductCatalog{");
        sb.append("id=").append(id);
        sb.append(", title='").append(title).append('\'');
        sb.append(", isbn='").append(isbn).append('\'');
        sb.append(", authors=").append(authors);
        sb.append(", price=").append(price);
        sb.append('}');
        return sb.toString();
    }

    @Override
    public boolean equals(Object o) {
        if (this == o) return true;
        if (o == null || getClass() != o.getClass()) return false;
        ProductCatalog that = (ProductCatalog) o;
        return id.equals(that.id) && title.equals(that.title) && Objects.equals(isbn,
 that.isbn) && Objects.equals(authors, that.authors) && Objects.equals(price,
 that.price);
    }

    @Override
    public int hashCode() {
        return Objects.hash(id, title, isbn, authors, price);
    }

    @Override
    @DynamoDbIgnore
    public int compareTo(ProductCatalog other) {
        if (this.id.compareTo(other.id) != 0){
            return this.id.compareTo(other.id);
        } else {
            return this.title.compareTo(other.title);
        }
    }
}
```

次の 2 つのバッチ文字起こしのコード例は、拡張クライアントではなく標準クライアントを使用する場合の冗長性とタイプの安全性の欠如を示しています。

比較: 標準の DynamoDB クライアントを使ったバッチ書き込み

```
   public static void batchWriteStandard(DynamoDbClient dynamoDbClient, String
tableName) {

       Map<String, AttributeValue> catalogItem = Map.of(
               "authors", AttributeValue.builder().ss("a", "b").build(),
               "id", AttributeValue.builder().n("1").build(),
               "isbn", AttributeValue.builder().s("1-565-85698").build(),
               "title", AttributeValue.builder().s("Title 1").build(),
               "price", AttributeValue.builder().n("52.13").build());

       Map<String, AttributeValue> catalogItem2 = Map.of(
               "authors", AttributeValue.builder().ss("a", "b", "c").build(),
               "id", AttributeValue.builder().n("2").build(),
               "isbn", AttributeValue.builder().s("1-208-98073").build(),
               "title", AttributeValue.builder().s("Title 2").build(),
               "price", AttributeValue.builder().n("21.99").build());

       Map<String, AttributeValue> catalogItem3 = Map.of(
               "authors", AttributeValue.builder().ss("g", "k", "c").build(),
               "id", AttributeValue.builder().n("3").build(),
               "isbn", AttributeValue.builder().s("7-236-98618").build(),
               "title", AttributeValue.builder().s("Title 3").build(),
               "price", AttributeValue.builder().n("42.00").build());

       Set<WriteRequest> writeRequests = Set.of(
               WriteRequest.builder().putRequest(b -> b.item(catalogItem)).build(),
               WriteRequest.builder().putRequest(b -> b.item(catalogItem2)).build(),
               WriteRequest.builder().putRequest(b -> b.item(catalogItem3)).build());

       Map<String, Set<WriteRequest>> productCatalogItems = Map.of(
               "ProductCatalog", writeRequests);

       BatchWriteItemResponse response = dynamoDbClient.batchWriteItem(b ->
b.requestItems(productCatalogItems));

       logger.info("Unprocessed items: " + response.unprocessedItems().size());
   }
```

比較: DynamoDB Enhanced Client を使ったバッチ書き込み

```
   public static void batchWriteEnhanced(DynamoDbTable<ProductCatalog> productCatalog)
{
       ProductCatalog prod = ProductCatalog.builder()
               .id(1)
               .isbn("1-565-85698")
               .authors(new HashSet<>(Arrays.asList("a", "b")))
               .price(BigDecimal.valueOf(52.13))
               .title("Title 1")
               .build();
       ProductCatalog prod2 = ProductCatalog.builder()
               .id(2)
               .isbn("1-208-98073")
               .authors(new HashSet<>(Arrays.asList("a", "b", "c")))
               .price(BigDecimal.valueOf(21.99))
               .title("Title 2")
               .build();
       ProductCatalog prod3 = ProductCatalog.builder()
               .id(3)
               .isbn("7-236-98618")
               .authors(new HashSet<>(Arrays.asList("g", "k", "c")))
               .price(BigDecimal.valueOf(42.00))
               .title("Title 3")
               .build();

       BatchWriteResult batchWriteResult = DependencyFactory.enhancedClient()
               .batchWriteItem(b -> b.writeBatches(
                       WriteBatch.builder(ProductCatalog.class)
                               .mappedTableResource(productCatalog)
                               .addPutItem(prod).addPutItem(prod2).addPutItem(prod3)
                               .build()
               ));
       logger.info("Unprocessed items: " +
batchWriteResult.unprocessedPutItemsForTable(productCatalog).size());
   }
```

不変データクラスでの操作

DynamoDB Enhanced Client API のマッピング機能は、不変データクラスで動作します。不変クラスにはゲッターしかなく、SDK がクラスのインスタンスを作成するために使用するビルダークラスが必要です。不変クラスは、カスタマークラスに示されている @DynamoDbBean 注釈を使用する代わ

りに、使用するビルダークラスを示すパラメータを受け取る @DynamoDbImmutable 注釈を使用します。

次のクラスは Customer の不変バージョンです。

```
package org.example.tests.model.immutable;

import software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.mapper.annotations.DynamoDbImmutable;
import
 software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.mapper.annotations.DynamoDbPartitionKey;
import
 software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.mapper.annotations.DynamoDbSecondaryPartitionKey;
import
 software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.mapper.annotations.DynamoDbSecondarySortKey;
import software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.mapper.annotations.DynamoDbSortKey;

import java.time.Instant;

@DynamoDbImmutable(builder = CustomerImmutable.Builder.class)
public class CustomerImmutable {
    private final String id;
    private final String name;
    private final String email;
    private final Instant regDate;

    private CustomerImmutable(Builder b) {
        this.id = b.id;
        this.email = b.email;
        this.name = b.name;
        this.regDate = b.regDate;
    }

    // This method will be automatically discovered and used by the TableSchema.
    public static Builder builder() { return new Builder(); }

    @DynamoDbPartitionKey
    public String id() { return this.id; }

    @DynamoDbSortKey
    public String email() { return this.email; }

    @DynamoDbSecondaryPartitionKey(indexNames = "customers_by_name")
    public String name() { return this.name; }
```

```
    @DynamoDbSecondarySortKey(indexNames = {"customers_by_date", "customers_by_name"})
    public Instant regDate() { return this.regDate; }

    public static final class Builder {
        private String id;
        private String email;
        private String name;
        private Instant regDate;

        // The private Builder constructor is visible to the enclosing
 CustomerImmutable class.
        private Builder() {}

        public Builder id(String id) { this.id = id; return this; }
        public Builder email(String email) { this.email = email; return this; }
        public Builder name(String name) { this.name = name; return this; }
        public Builder regDate(Instant regDate) { this.regDate = regDate; return
 this; }

        // This method will be automatically discovered and used by the TableSchema.
        public CustomerImmutable build() { return new CustomerImmutable(this); }
    }
}
```

データクラスに @DynamoDbImmutable 注釈を付けるには、次の要件を満たす必要があります。

1. Object.class のオーバーライドされておらず、@DynamoDbIgnore 注釈も付いていないすべてのメソッドは、DynamoDB テーブルの属性のゲッターでなければなりません。
2. すべてのゲッターには、ビルダークラスに対応する大文字と小文字を区別するセッターが必要です。
3. 次のコンストラクト条件のうち 1 つだけ満たす必要があります。
   - ビルダークラスにはパブリックデフォルトコンストラクタが必要です。
   - データクラスには、パラメータを取らずにビルダークラスのインスタンスを返す、builder() という名前のパブリック静的メソッドが必要です。このオプションは不変 Customer クラスに表示されます。
4. ビルダークラスには、パラメータを取らずに不変クラスのインスタンスを返す、build() という名前のパブリックメソッドが必要です。

不変クラスの TableSchema を作成するには、次のスニペットに示すように TableSchema の fromImmutableClass() メソッドを使用します。

```
static final TableSchema<CustomerImmutable> customerImmutableTableSchema =
                        TableSchema.fromImmutableClass(CustomerImmutable.class);
```

不変クラスから DynamoDB テーブルを作成できるのと同様に、次のスニペットの例に示すように、DynamoDbTable の createTable() を 1 回呼び出すだけで不変クラスからテーブルを作成できます。

```
static void createTableFromImmutable(DynamoDbEnhancedClient enhancedClient, String
 tableName, DynamoDbWaiter waiter){
    // First, create an in-memory representation of the table using the 'table()'
 method of the DynamoDb Enhanced Client.
    // 'table()' accepts a name for the table and a TableSchema instance that you
 created previously.
    DynamoDbTable<CustomerImmutable> customerDynamoDbTable = enhancedClient
            .table(tableName, TableSchema.fromImmutableClass(CustomerImmutable.class));

    // Second, call the 'createTable()' method on the DynamoDbTable instance.
    customerDynamoDbTable.createTable();
    waiter.waitUntilTableExists(b -> b.tableName(tableName));
}
```

Lombok などのサードパーティライブラリを使用します。

Project Lombok などのサードパーティライブラリは、不変オブジェクトに関連するボイラープレートコードを生成するのに役立ちます。DynamoDB Enhanced Client API は、データクラスがこのセクションで説明する規則に従っている限り、これらのライブラリで動作します。

次の例は、Lombok 注釈付きの不変 CustomerImmutable クラスを示しています。Lombok の onMethod 機能が、@DynamoDbPartitionKey のような属性ベースの DynamoDB 注釈を生成されたコードにコピーすることに注意してください。

```
@Value
@Builder
@DynamoDbImmutable(builder = Customer.CustomerBuilder.class)
public class Customer {
    @Getter(onMethod_=@DynamoDbPartitionKey)
    private String id;
```

```
    @Getter(onMethod_=@DynamoDbSortKey)
    private String email;

    @Getter(onMethod_=@DynamoDbSecondaryPartitionKey(indexNames = "customers_by_name"))
    private String name;

    @Getter(onMethod_=@DynamoDbSecondarySortKey(indexNames = {"customers_by_date",
 "customers_by_name"}))
    private Instant createdDate;
}
```

式と条件を使用する

DynamoDB Enhanced Client API の式は、DynamoDB 式の Java の表現です。

DynamoDB Enhanced Client API では、次の 3 種類の式を使用します。

`Expression`

`Expression` クラスは、条件とフィルタを定義するときに使用されます。

`QueryConditional`

このタイプの式は、クエリオペレーションのキー条件を表します。

`UpdateExpression`

このクラスは DynamoDB 更新式の記述に役立ち、現在、拡張フレームワークでアイテムを更新する際に使用されています。

式の構造分析

式は以下のような構成になっています。

- 文字列式 (必須)。文字列には、属性名と属性値のプレースホルダー名を含む DynamoDB 論理式が含まれています。
- 式値のマップ (通常は必須)。
- 式名のマップ (オプション)。

ビルダーを使用して、次のような一般的な形式の `Expression` オブジェクトを生成します。

```
Expression expression = Expression.builder()
```

```
                        .expression(<String>)
                        .expressionNames(<Map>)
                        .expressionValues(<Map>)
                       .build()
```

Expression は通常、式値のマップを必要とします。マップは文字列式のプレースホルダーの値を提供します。マップキーはコロン (:) が付いたプレースホルダー名で構成され、マップ値は AttributeValue のインスタンスです。AttributeValues クラスには、リテラルから AttributeValue インスタンスを生成する便利なメソッドがあります。または、AttributeValue.Builder を使用して AttributeValue インスタンスを生成することもできます。

次のスニペットは、コメント行 2 の後に 2 つのエントリがあるマップを示しています。コメント行 1 の後に表示される expression() メソッドに渡される文字列には、DynamoDB が操作を実行する前に DynamoDB が解決するプレースホルダーが含まれています。price は許容される属性名であるため、このスニペットには式名のマップは含まれていません。

```
    public static void scanAsync(DynamoDbAsyncTable productCatalog) {
        ScanEnhancedRequest request = ScanEnhancedRequest.builder()
                .consistentRead(true)
                .attributesToProject("id", "title", "authors", "price")
                .filterExpression(Expression.builder()
                        // 1. :min_value and :max_value are placeholders for the values
provided by the map
                        .expression("price >= :min_value AND price <= :max_value")
                        // 2. Two values are needed for the expression and each is
supplied as a map entry.
                        .expressionValues(
                                Map.of( ":min_value", numberValue(8.00),
                                        ":max_value", numberValue(400_000.00)))
                        .build())
                .build();
```

DynamoDB テーブル内の属性名が予約語か、数値で始まるか、またはスペースを含む場合、Expression には式名のマップが必要です。

たとえば、属性名が前のコード例で *price* ではなく *1price* だった場合は、次の例のように変更する必要があります。

```
        ScanEnhancedRequest request = ScanEnhancedRequest.builder()
                .filterExpression(Expression.builder()
                        .expression("#price >= :min_value AND #price <= :max_value")
```

```
                        .expressionNames( Map.of("#price", "1price") )
                        .expressionValues(
                                Map.of(":min_value", numberValue(8.00),
                                        ":max_value", numberValue(400_000.00)))
                        .build())
                .build();
```

式名のプレースホルダーはポンド記号 (#) で始まります。式名のマップのエントリでは、プレースホルダーをキー、属性名を値として使用します。マップは `expressionNames()` メソッドで式ビルダーに追加されます。DynamoDB は操作を実行する前に属性名を解決します。

文字列式で関数を使用する場合、式の値は不要です。式関数の例は `attribute_exists(<attribute_name>)` です。

次の例では、DynamoDB 関数を使用する `Expression` を構築します。この例の式文字列はプレースホルダーを使用していません。この式を `putItem` オペレーションに使用すると、`movie` 属性値がデータオブジェクトの `movie` 属性と等しいアイテムがデータベースにすでに存在するかどうかを確認できます。

```
Expression exp = Expression.builder().expression("attribute_not_exists
 (movie)").build();
```

DynamoDB デベロッパーガイドには、DynamoDB で使用される低レベルの式に関する完全な情報が記載されています。

条件式と条件

`putItem()`、`updateItem()`、`deleteItem()` メソッドを使用する場合、トランザクションオペレーションやバッチオペレーションを使用する場合は、`Expression` オブジェクトを使用して、DynamoDB が操作を続行するために満たすべき条件を指定します。これらの式は条件式と呼ばれています。例については、このガイドのトランザクション例の `addDeleteItem()` メソッド (コメント行 1 の後) で使われている条件式を参照してください。

`query()` メソッドを操作する場合、条件は `QueryConditional` として表されます。`QueryConditional` クラスには、DynamoDB から読み取るアイテムを決定する基準を記述するのに役立つ静的で便利なメソッドがいくつかあります。

`QueryConditionals` の例については、このガイドの the section called “Query メソッドの例” セクションの最初のコード例を参照してください。

フィルタ式

フィルタ式は、スキャンやクエリオペレーションで、返されるアイテムをフィルターするために使用されます。

フィルタ式はデータベースからすべてのデータが読み取られた後に適用されるため、読み取りコストはフィルターがない場合と同じになります。Amazon DynamoDB デベロッパーガイドには、クエリオペレーションとスキャンオペレーションの両方にフィルター式を使用する方法の詳細が記載されています。

次の例は、スキャンリクエストに追加されたフィルタ式を示しています。この条件では、返品されるアイテムは、価格が 8.00 から 80.00 までの価格に限定されます。

```
        Map<String, AttributeValue> expressionValues = Map.of(
                ":min_value", numberValue(8.00),
                ":max_value", numberValue(80.00));

        ScanEnhancedRequest request = ScanEnhancedRequest.builder()
                .consistentRead(true)
                // 1. the 'attributesToProject()' method allows you to specify which
values you want returned.
                .attributesToProject("id", "title", "authors", "price")
                // 2. Filter expression limits the items returned that match the
provided criteria.
                .filterExpression(Expression.builder()
                        .expression("price >= :min_value AND price <= :max_value")
                        .expressionValues(expressionValues)
                        .build())
                .build();
```

更新式

DynamoDB Enhanced Client の `updateItem()` メソッドは、DynamoDB 内のアイテムを更新する標準的な方法を提供します。ただし、より多くの機能が必要な場合は、UpdateExpressions によって DynamoDB 更新式の構文をタイプセーフに表現します。たとえば、`UpdateExpressions` を使用して、最初に DynamoDB からアイテムを読み取らずに値を増やしたり、リストに個々のメンバーを追加したりできます。現在、更新式は `updateItem()` メソッドのカスタム拡張で使用できます。

更新式の使用例については、このガイドのカスタム拡張の例を参照してください。

更新式の詳細については、「Amazon DynamoDB デベロッパーガイド」を参照してください。

ページ分割された結果を処理する: スキャンとクエリ

DynamoDB Enhanced Client API のscan、query、および batch メソッドは、1 つ以上のページを含むレスポンスを返します。ページには、1 つ以上のアイテムが含まれます。コードはページごとにレスポンスを処理することも、個々のアイテムを処理することもできます。

同期 DynamoDbEnhancedClient クライアントから返されるページ分割されたレスポンスは PageIterable オブジェクトを返し、非同期 DynamoDbEnhancedAsyncClient から返されるレスポンスは PagePublisher オブジェクトを返します。

このセクションでは、ページ分割された結果の処理について説明し、スキャン API とクエリ API を使用する例を紹介します。

テーブルのスキャン

SDK scan のメソッドは、同じ名前の DynamoDB オペレーションに対応しています。DynamoDB Enhanced Client API にも同じオプションがありますが、使い慣れたオブジェクトモデルを使用してページ分割を処理します。

まず、同期マッピングクラス DynamoDbTable の scan メソッドを見て、PageIterable インターフェイスを調べます。

同期 API を使用する

次の例は、式を使用して返されるアイテムをフィルタリングする scan メソッドを示しています。ProductCatalog は、前に示したモデルオブジェクトです。

コメント行 2 の後に表示されるフィルタリング式は、返されるProductCatalog項目を 8.00 ~ 80.00 の料金値を持つ項目に制限します。

この例では、コメント行 1 の後に示されている attributesToProjectメソッドを使用してisbn値を除外します。

コメント行 3 の後、scan メソッドによって PageIterable オブジェクトの pagedResults が返されます。PageIterable の stream メソッドは、ページの処理に使用できる java.util.Stream オブジェクトを返します。この例では、ページ数がカウントされ、ログに記録されます。

コメント行 4 から始まる例では、ProductCatalog アイテムへのアクセス方法が 2 種類示されています。コメント行 4a 以降のバージョンは、各ページをストリーミングし、各ページの項目をソート

して ログに記録します。コメント行 4b 以降のバージョンは、ページの反復をスキップし、項目に直接アクセスします。

PageIterable インターフェースには、java.lang.Iterable と SdkIterable という 2 つの親インターフェースがあるため、結果を処理する方法が複数あります。Iterable は forEach、iterator、spliterator メソッドを、SdkIterable は stream メソッドを提供します。

```
    public static void scanSync(DynamoDbTable<ProductCatalog> productCatalog) {

        Map<String, AttributeValue> expressionValues = Map.of(
                ":min_value", numberValue(8.00),
                ":max_value", numberValue(80.00));

        ScanEnhancedRequest request = ScanEnhancedRequest.builder()
                .consistentRead(true)
                // 1. the 'attributesToProject()' method allows you to specify which
values you want returned.
                .attributesToProject("id", "title", "authors", "price")
                // 2. Filter expression limits the items returned that match the
provided criteria.
                .filterExpression(Expression.builder()
                        .expression("price >= :min_value AND price <= :max_value")
                        .expressionValues(expressionValues)
                        .build())
                .build();

        // 3. A PageIterable object is returned by the scan method.
        PageIterable<ProductCatalog> pagedResults = productCatalog.scan(request);
        logger.info("page count: {}", pagedResults.stream().count());

        // 4. Log the returned ProductCatalog items using two variations.
        // 4a. This version sorts and logs the items of each page.
        pagedResults.stream().forEach(p -> p.items().stream()
                .sorted(Comparator.comparing(ProductCatalog::price))
                .forEach(
                        item -> logger.info(item.toString())
                ));
        // 4b. This version sorts and logs all items for all pages.
        pagedResults.items().stream()
                .sorted(Comparator.comparing(ProductCatalog::price))
                .forEach(
                        item -> logger.info(item.toString())
```

```
                );
    }
```

非同期 API を使用する

非同期 scan メソッドは結果を PagePublisher オブジェクトとして返します。PagePublisher インターフェースには、レスポンスページの処理に使用できる subscribe メソッドが 2 つあります。subscribe メソッドの一つは、org.reactivestreams.Publisher 親インターフェースからのものです。この最初のオプションを使用してページを処理するには、subscribe メソッドに Subscriber インスタンスを渡します。次の最初の例は、subscribe メソッドの使用例を示しています。

2 つ目の subscribe メソッドは、SdkPublisher インターフェイスからのものです。このバージョンの subscribe は、Subscriber ではなく Consumer を受け入れます。この subscribe メソッドのバリエーションは、次の 2 番目の例に示されています。

次の例は、前の例で示されたのと同じフィルタ式を使用する非同期バージョンの scan メソッドです。

コメント行 3 の後、DynamoDbAsyncTable.scan は PagePublisher オブジェクトを返します。次の行では、コードによって org.reactivestreams.Subscriber インターフェース、ProductCatalogSubscriber のインスタンスが作成され、コメント行 4 の後に PagePublisher がサブスクライブされます。

Subscriber オブジェクトは、ProductCatalogSubscriber クラスの例のコメント行 8 の後に、onNext メソッドの各ページから ProductCatalog アイテムを収集します。アイテムはプライベート変数 List に保存され、ProductCatalogSubscriber.getSubscribedItems() メソッドを使用して呼び出し元のコードからアクセスされます。これはコメント行 5 の後に呼び出されます。

リストが取得されると、コードはすべての ProductCatalog アイテムを価格順に並べ替え、各アイテムをログに記録します。

ProductCatalogSubscriber クラスの CountDownLatch は、コメント行 5 以降を継続する前に、すべてのアイテムがリストに追加されるまで、呼び出し元のスレッドをブロックします。

```
    public static void scanAsync(DynamoDbAsyncTable productCatalog) {
        ScanEnhancedRequest request = ScanEnhancedRequest.builder()
                .consistentRead(true)
                .attributesToProject("id", "title", "authors", "price")
                .filterExpression(Expression.builder()
```

```
                        // 1. :min_value and :max_value are placeholders for the values
provided by the map
                        .expression("price >= :min_value AND price <= :max_value")
                        // 2. Two values are needed for the expression and each is
supplied as a map entry.
                        .expressionValues(
                                Map.of( ":min_value", numberValue(8.00),
                                        ":max_value", numberValue(400_000.00)))
                        .build())
                .build();

        // 3. A PagePublisher object is returned by the scan method.
        PagePublisher<ProductCatalog> pagePublisher = productCatalog.scan(request);
        ProductCatalogSubscriber subscriber = new ProductCatalogSubscriber();
        // 4. Subscribe the ProductCatalogSubscriber to the PagePublisher.
        pagePublisher.subscribe(subscriber);
        // 5. Retrieve all collected ProductCatalog items accumulated by the
subscriber.
        subscriber.getSubscribedItems().stream()
                .sorted(Comparator.comparing(ProductCatalog::price))
                .forEach(item ->
                        logger.info(item.toString()));
        // 6. Use a Consumer to work through each page.
        pagePublisher.subscribe(page -> page
                        .items().stream()
                        .sorted(Comparator.comparing(ProductCatalog::price))
                        .forEach(item ->
                                logger.info(item.toString())))
                .join(); // If needed, blocks the subscribe() method thread until it is
finished processing.
        // 7. Use a Consumer to work through each ProductCatalog item.
        pagePublisher.items()
                .subscribe(product -> logger.info(product.toString()))
                .exceptionally(failure -> {
                    logger.error("ERROR  - ", failure);
                    return null;
                })
                .join(); // If needed, blocks the subscribe() method thread until it is
finished processing.
    }
```

```
    private static class ProductCatalogSubscriber implements
Subscriber<Page<ProductCatalog>> {
```

```
        private CountDownLatch latch = new CountDownLatch(1);
        private Subscription subscription;
        private List<ProductCatalog> itemsFromAllPages = new ArrayList<>();

        @Override
        public void onSubscribe(Subscription sub) {
            subscription = sub;
            subscription.request(1L);
            try {
                latch.await(); // Called by main thread blocking it until latch is
released.
            } catch (InterruptedException e) {
                throw new RuntimeException(e);
            }
        }

        @Override
        public void onNext(Page<ProductCatalog> productCatalogPage) {
            // 8. Collect all the ProductCatalog instances in the page, then ask the
publisher for one more page.
            itemsFromAllPages.addAll(productCatalogPage.items());
            subscription.request(1L);
        }

        @Override
        public void onError(Throwable throwable) {
        }

        @Override
        public void onComplete() {
            latch.countDown(); // Call by subscription thread; latch releases.
        }

        List<ProductCatalog> getSubscribedItems() {
            return this.itemsFromAllPages;
        }
    }
```

次のスニペット例では、コメント行 6 以降に Consumer を受け入れる PagePublisher.subscribe メソッドのバージョンを使用しています。Java ラムダパラメータはページを消費し、各アイテムをさらに処理します。この例では、各ページが処理され、各ページのアイテムがソートされてからログに記録されます。

```
        // 6. Use a Consumer to work through each page.
        pagePublisher.subscribe(page -> page
                        .items().stream()
                        .sorted(Comparator.comparing(ProductCatalog::price))
                        .forEach(item ->
                                logger.info(item.toString())))
                .join(); // If needed, blocks the subscribe() method thread until it is
finished processing.
```

PagePublisher の items メソッドはモデルインスタンスをアンラップして、コードでアイテムを直接処理できるようにします。このアプローチは次のスニペットに示されています。

```
        // 7. Use a Consumer to work through each ProductCatalog item.
        pagePublisher.items()
                .subscribe(product -> logger.info(product.toString()))
                .exceptionally(failure -> {
                    logger.error("ERROR  - ", failure);
                    return null;
                })
                .join(); // If needed, blocks the subscribe() method thread until it is
finished processing.
```

テーブルに対してクエリを実行する

DynamoDB 拡張クライアントを使用してテーブルをクエリし、特定の条件に一致する複数の項目を取得できます。query() メソッドは、 データクラスで定義された @DynamoDbPartitionKey とオプションの @DynamoDbSortKey 注釈を使用して、プライマリキー値に基づいて項目を検索します。

query() メソッドにはパーティションキー値が必要で、オプションでソートキー条件を使用して結果をさらに絞り込むことができます。scan API と同様に、クエリは同期呼び出しの場合は PageIterable を返し、非同期呼び出しの場合は PagePublisher を返します。

Query メソッドの例

以下の query() メソッドコード例では MovieActor クラスを使用しています。データクラスは、パーティションキーとしての **movie** 属性と、ソートキーとしての **actor** 属性で構成される複合プライマリキーを定義します。

MovieActor クラス

```
package org.example.tests.model;

import software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.mapper.annotations.DynamoDbAttribute;
import software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.mapper.annotations.DynamoDbBean;
import
 software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.mapper.annotations.DynamoDbPartitionKey;
import
 software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.mapper.annotations.DynamoDbSecondaryPartitionKey;
import
 software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.mapper.annotations.DynamoDbSecondarySortKey;
import software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.mapper.annotations.DynamoDbSortKey;

import java.util.Objects;

@DynamoDbBean
public class MovieActor implements Comparable<MovieActor> {

    private String movieName;
    private String actorName;
    private String actingAward;
    private Integer actingYear;
    private String actingSchoolName;

    @DynamoDbPartitionKey
    @DynamoDbAttribute("movie")
    public String getMovieName() {
        return movieName;
    }

    public void setMovieName(String movieName) {
        this.movieName = movieName;
    }

    @DynamoDbSortKey
    @DynamoDbAttribute("actor")
    public String getActorName() {
        return actorName;
    }

    public void setActorName(String actorName) {
        this.actorName = actorName;
    }
```

```
    @DynamoDbSecondaryPartitionKey(indexNames = "acting_award_year")
    @DynamoDbAttribute("actingaward")
    public String getActingAward() {
        return actingAward;
    }

    public void setActingAward(String actingAward) {
        this.actingAward = actingAward;
    }

    @DynamoDbSecondarySortKey(indexNames = {"acting_award_year", "movie_year"})
    @DynamoDbAttribute("actingyear")
    public Integer getActingYear() {
        return actingYear;
    }

    public void setActingYear(Integer actingYear) {
        this.actingYear = actingYear;
    }

    @DynamoDbAttribute("actingschoolname")
    public String getActingSchoolName() {
        return actingSchoolName;
    }

    public void setActingSchoolName(String actingSchoolName) {
        this.actingSchoolName = actingSchoolName;
    }

    @Override
    public String toString() {
        final StringBuffer sb = new StringBuffer("MovieActor{");
        sb.append("movieName='").append(movieName).append('\'');
        sb.append(", actorName='").append(actorName).append('\'');
        sb.append(", actingAward='").append(actingAward).append('\'');
        sb.append(", actingYear=").append(actingYear);
        sb.append(", actingSchoolName='").append(actingSchoolName).append('\'');
        sb.append('}');
        return sb.toString();
    }

    @Override
    public boolean equals(Object o) {
```

```
        if (this == o) return true;
        if (o == null || getClass() != o.getClass()) return false;
        MovieActor that = (MovieActor) o;
        return Objects.equals(movieName, that.movieName) && Objects.equals(actorName,
 that.actorName) && Objects.equals(actingAward, that.actingAward) &&
 Objects.equals(actingYear, that.actingYear) && Objects.equals(actingSchoolName,
 that.actingSchoolName);
    }

    @Override
    public int hashCode() {
        return Objects.hash(movieName, actorName, actingAward, actingYear,
 actingSchoolName);
    }

    @Override
    public int compareTo(MovieActor o) {
        if (this.movieName.compareTo(o.movieName) != 0){
            return this.movieName.compareTo(o.movieName);
        } else {
            return this.actorName.compareTo(o.actorName);
        }
    }
}
```

以下のコード例では、以下の項目に対してクエリを実行します。

MovieActor テーブル内の項目

```
MovieActor{movieName='movie01', actorName='actor0', actingAward='actingaward0',
 actingYear=2001, actingSchoolName='null'}
MovieActor{movieName='movie01', actorName='actor1', actingAward='actingaward1',
 actingYear=2001, actingSchoolName='actingschool1'}
MovieActor{movieName='movie01', actorName='actor2', actingAward='actingaward2',
 actingYear=2001, actingSchoolName='actingschool2'}
MovieActor{movieName='movie01', actorName='actor3', actingAward='actingaward3',
 actingYear=2001, actingSchoolName='null'}
MovieActor{movieName='movie01', actorName='actor4', actingAward='actingaward4',
 actingYear=2001, actingSchoolName='actingschool4'}
MovieActor{movieName='movie02', actorName='actor0', actingAward='actingaward0',
 actingYear=2002, actingSchoolName='null'}
MovieActor{movieName='movie02', actorName='actor1', actingAward='actingaward1',
 actingYear=2002, actingSchoolName='actingschool1'}
```

```
MovieActor{movieName='movie02', actorName='actor2', actingAward='actingaward2',
 actingYear=2002, actingSchoolName='actingschool2'}
MovieActor{movieName='movie02', actorName='actor3', actingAward='actingaward3',
 actingYear=2002, actingSchoolName='null'}
MovieActor{movieName='movie02', actorName='actor4', actingAward='actingaward4',
 actingYear=2002, actingSchoolName='actingschool4'}
MovieActor{movieName='movie03', actorName='actor0', actingAward='actingaward0',
 actingYear=2003, actingSchoolName='null'}
MovieActor{movieName='movie03', actorName='actor1', actingAward='actingaward1',
 actingYear=2003, actingSchoolName='actingschool1'}
MovieActor{movieName='movie03', actorName='actor2', actingAward='actingaward2',
 actingYear=2003, actingSchoolName='actingschool2'}
MovieActor{movieName='movie03', actorName='actor3', actingAward='actingaward3',
 actingYear=2003, actingSchoolName='null'}
MovieActor{movieName='movie03', actorName='actor4', actingAward='actingaward4',
 actingYear=2003, actingSchoolName='actingschool4'}
```

次のコードは、 keyEqual (コメント行 1 の後) と sortGreaterThanOrEqualTo (コメント行 1a の後) の 2 つの QueryConditional インスタンスを定義します。

パーティションキーで項目をクエリする

keyEqual インスタンスは、パーティションキー値が **movie01** の項目に一致します。

この例では、コメント行 2 の後に、**actingschoolname** 値がない項目を除外するフィルター式も定義しています。

QueryEnhancedRequest は、クエリのキー条件とフィルター式の組み合わせです。

```
    public static void query(DynamoDbTable movieActorTable) {

        // 1. Define a QueryConditional instance to return items matching a partition
 value.
        QueryConditional keyEqual = QueryConditional.keyEqualTo(b ->
 b.partitionValue("movie01"));
        // 1a. Define a QueryConditional that adds a sort key criteria to the partition
 value criteria.
        QueryConditional sortGreaterThanOrEqualTo =
 QueryConditional.sortGreaterThanOrEqualTo(b ->
 b.partitionValue("movie01").sortValue("actor2"));
        // 2. Define a filter expression that filters out items whose attribute value
 is null.
        final Expression filterOutNoActingschoolname =
 Expression.builder().expression("attribute_exists(actingschoolname)").build();
```

```
        // 3. Build the query request.
        QueryEnhancedRequest tableQuery = QueryEnhancedRequest.builder()
                .queryConditional(keyEqual)
                .filterExpression(filterOutNoActingschoolname)
                .build();
        // 4. Perform the query using the "keyEqual" conditional and filter expression.
        PageIterable<MovieActor> pagedResults = movieActorTable.query(tableQuery);
        logger.info("page count: {}", pagedResults.stream().count()); // Log  number of
 pages.

        pagedResults.items().stream()
                .sorted()
                .forEach(
                        item -> logger.info(item.toString()) // Log the sorted list of
 items.
                );
```

Example– 条件付き keyEqual クエリを使用した出力

以下は、メソッドを実行したときの出力です。出力には movie01 の movieName 値を持つ項目が表示され、**null** と等しい actingSchoolName の項目は表示されません。

```
2023-03-05 13:11:05 [main] INFO  org.example.tests.QueryDemo:46 - page count: 1
2023-03-05 13:11:05 [main] INFO  org.example.tests.QueryDemo:51 -
 MovieActor{movieName='movie01', actorName='actor1', actingAward='actingaward1',
 actingYear=2001, actingSchoolName='actingschool1'}
2023-03-05 13:11:05 [main] INFO  org.example.tests.QueryDemo:51 -
 MovieActor{movieName='movie01', actorName='actor2', actingAward='actingaward2',
 actingYear=2001, actingSchoolName='actingschool2'}
2023-03-05 13:11:05 [main] INFO  org.example.tests.QueryDemo:51 -
 MovieActor{movieName='movie01', actorName='actor4', actingAward='actingaward4',
 actingYear=2001, actingSchoolName='actingschool4'}
```

パーティションキーとソートキーで項目をクエリする

sortGreaterThanOrEqualTo QueryConditional は、actor2 以上の値のソートキー条件を追加して、パーティションキーの一致 (movie01) を絞り込みます。

sort で始まる QueryConditional メソッドでは、ソートキー値に基づいた比較によってクエリを一致させ、さらに絞り込むためにパーティションキー値が必要です。メソッド名の Sort は、結果がソートされることを意味するのではなく、ソートキー値が比較に使用されることを意味します。

次のスニペットでは、コメント行 3 の後で、前に示したクエリリクエストを変更します。このスニペットは、「keyEqual」の条件付きクエリをコメント行 1a の後に定義された「sortGreaterThanOrEqualTo」の条件付きクエリに置き換えます。次のコードではフィルター式も削除されています。

```
        QueryEnhancedRequest tableQuery = QueryEnhancedRequest.builder()
                .queryConditional(sortGreaterThanOrEqualTo).build();
```

Example– 条件付き sortGreaterThanOrEqualTo クエリを使用した出力

このクエリでは次の出力が生成されます。このクエリは、movie01 と等しい movieName 値を持つアイテムを返し、actor2 以上の actorName 値のアイテムのみを返します。フィルターが削除されたため、このクエリでは actingSchoolName 属性に値がないアイテムが返されます。

```
2023-03-05 13:15:00 [main] INFO  org.example.tests.QueryDemo:46 - page count: 1
2023-03-05 13:15:00 [main] INFO  org.example.tests.QueryDemo:51 -
 MovieActor{movieName='movie01', actorName='actor2', actingAward='actingaward2',
 actingYear=2001, actingSchoolName='actingschool2'}
2023-03-05 13:15:00 [main] INFO  org.example.tests.QueryDemo:51 -
 MovieActor{movieName='movie01', actorName='actor3', actingAward='actingaward3',
 actingYear=2001, actingSchoolName='null'}
2023-03-05 13:15:00 [main] INFO  org.example.tests.QueryDemo:51 -
 MovieActor{movieName='movie01', actorName='actor4', actingAward='actingaward4',
 actingYear=2001, actingSchoolName='actingschool4'}
```

バッチオペレーションを実行する

DynamoDB Enhanced Client API には、batchGetItem() と batchWriteItem() の 2 つのバッチメソッドがあります。

batchGetItem() の例

DynamoDbEnhancedClient.batchGetItem() メソッドを使用すると、1 回のリクエストで複数のテーブルから最大 100 個の項目を取得できます。次の例では、前に示した Customer および MovieActor のデータクラスを使用しています。

1 行目と 2 行目の後の例では、3 行目のコメントの後に batchGetItem() メソッドにパラメータとして追加する ReadBatch オブジェクトを作成します。

コメント行 1 の後のコードでは、Customer テーブルから読み取るバッチを構築します。コメント行 1a の後のコードは、プライマリキー値およびソートキー値を使用して読み取る項目を指定する

GetItemEnhancedRequest ビルダーの使用を示しています。データクラスに複合キーがある場合は、パーティションキー値とソートキー値の両方を指定する必要があります。

キー値を指定して項目をリクエストするのとは対照的に、コメント行 1b の後に示されているように、データクラスを使用して項目をリクエストできます。SDK はリクエストを送信する前にバックグラウンドでキー値を抽出します。

2a の後の 2 つのステートメントに示されているように、キーベースのアプローチを使用して項目を指定する場合、DynamoDB が強力な整合性のある読み込みを実行するように指定することもできます。consistentRead() メソッドを使用する場合は、同じテーブルのリクエストされた項目すべてにそのメソッドを使用する必要があります。

DynamoDB が検出した項目を取得するには、コメント行 4 の後に表示される resultsForTable() メソッドを使用します。リクエストで読み取られた各テーブルのメソッドを呼び出します。resultsForTable() は見つかった項目の一覧を返し、どの java.util.List メソッドでも処理できます。この例では各項目を記録しています。

DynamoDB が処理しなかった項目を見つけるには、コメント行 5 の後の方法を使用します。BatchGetResultPage クラスには、未処理の各キーにアクセスできる unprocessedKeysForTable() メソッドがあります。BatchGetItem API リファレンスには、未処理のアイテムが発生する状況に関する詳細情報が記載されています。

```
    public static void batchGetItemExample(DynamoDbEnhancedClient enhancedClient,
                                           DynamoDbTable<Customer> customerTable,
                                           DynamoDbTable<MovieActor> movieActorTable) {

        Customer customer2 = new Customer();
        customer2.setId("2");
        customer2.setEmail("cust2@example.org");

        // 1. Build a batch to read from the Customer table.
        ReadBatch customerBatch = ReadBatch.builder(Customer.class)
                .mappedTableResource(customerTable)
                // 1a. Specify the primary key value and sort key value for the item.
                .addGetItem(b -> b.key(k ->
k.partitionValue("1").sortValue("cust1@orgname.org")))
                // 1b. Alternatively, supply a data class instances to provide the
primary key values.
                .addGetItem(customer2)
                .build();

        // 2. Build a batch to read from the MovieActor table.
```

```
        ReadBatch moveActorBatch = ReadBatch.builder(MovieActor.class)
                .mappedTableResource(movieActorTable)
                // 2a. Call consistentRead(Boolean.TRUE) for each item for the same
 table.
                .addGetItem(b -> b.key(k ->
 k.partitionValue("movie01").sortValue("actor1")).consistentRead(Boolean.TRUE))
                .addGetItem(b -> b.key(k ->
 k.partitionValue("movie01").sortValue("actor4")).consistentRead(Boolean.TRUE))
                .build();

        // 3. Add ReadBatch objects to the request.
        BatchGetResultPageIterable resultPages = enhancedClient.batchGetItem(b ->
 b.readBatches(customerBatch, moveActorBatch));

        // 4. Retrieve the successfully requested items from each table.
        resultPages.resultsForTable(customerTable).forEach(item ->
 logger.info(item.toString()));
        resultPages.resultsForTable(movieActorTable).forEach(item ->
 logger.info(item.toString()));

        // 5. Retrieve the keys of the items requested but not processed by the
 service.
        resultPages.forEach((BatchGetResultPage pageResult) -> {
            pageResult.unprocessedKeysForTable(customerTable).forEach(key ->
 logger.info("Unprocessed item key: " + key.toString()));
            pageResult.unprocessedKeysForTable(movieActorTable).forEach(key ->
 logger.info("Unprocessed item key: " + key.toString()));
        });
    }
```

サンプルコードを実行する前に、2 つのテーブルに次の項目が含まれていると仮定します。

テーブル内の項目

```
Customer [id=1, name=CustName1, email=cust1@example.org,
 regDate=2023-03-31T15:46:27.688Z]
Customer [id=2, name=CustName2, email=cust2@example.org,
 regDate=2023-03-31T15:46:28.688Z]
Customer [id=3, name=CustName3, email=cust3@example.org,
 regDate=2023-03-31T15:46:29.688Z]
Customer [id=4, name=CustName4, email=cust4@example.org,
 regDate=2023-03-31T15:46:30.688Z]
Customer [id=5, name=CustName5, email=cust5@example.org,
 regDate=2023-03-31T15:46:31.689Z]
```

```
MovieActor{movieName='movie01', actorName='actor0', actingAward='actingaward0',
 actingYear=2001, actingSchoolName='null'}
MovieActor{movieName='movie01', actorName='actor1', actingAward='actingaward1',
 actingYear=2001, actingSchoolName='actingschool1'}
MovieActor{movieName='movie01', actorName='actor2', actingAward='actingaward2',
 actingYear=2001, actingSchoolName='actingschool2'}
MovieActor{movieName='movie01', actorName='actor3', actingAward='actingaward3',
 actingYear=2001, actingSchoolName='null'}
MovieActor{movieName='movie01', actorName='actor4', actingAward='actingaward4',
 actingYear=2001, actingSchoolName='actingschool4'}
```

次の出力は、コメント行 4 の後に返され、記録された項目を示しています。

```
Customer [id=1, name=CustName1, email=cust1@example.org,
 regDate=2023-03-31T15:46:27.688Z]
Customer [id=2, name=CustName2, email=cust2@example.org,
 regDate=2023-03-31T15:46:28.688Z]
MovieActor{movieName='movie01', actorName='actor4', actingAward='actingaward4',
 actingYear=2001, actingSchoolName='actingschool4'}
MovieActor{movieName='movie01', actorName='actor1', actingAward='actingaward1',
 actingYear=2001, actingSchoolName='actingschool1'}
```

`batchWriteItem()` の例

`batchWriteItem()` メソッドが 1 つ以上のテーブルに 1 つ以上の項目を入力または削除します。リクエストでは、最大 25 件の個別の入力または削除操作を指定できます。次の例では、前に示した `ProductCatalog` または `MovieActor` のモデルクラスを使用しています。

`WriteBatch` オブジェクトはコメント行 1 と 2 の後に作成されます。`ProductCatalog` テーブルでは、コードによって 1 つの項目が入力され、1 つの項目が削除されます。コメント 2 行目以降の `MovieActor` テーブルでは、コードによって 2 つの項目が入力され、1 つの項目が削除されます。

`batchWriteItem` メソッドはコメント行 3 の後に呼び出されます。`builder` パラメータは各テーブルのバッチリクエストを提供します。

返された `BatchWriteResult` オブジェクトには、未処理のリクエストを表示するための個別のメソッドが操作ごとに用意されています。コメント行 4a の後のコードは未処理の削除リクエストのキーを提供し、コメント行 4b の後のコードは未処理の入力項目を示します。

```
    public static void batchWriteItemExample(DynamoDbEnhancedClient enhancedClient,
                                             DynamoDbTable<ProductCatalog>
 catalogTable,
```

```
                                                DynamoDbTable<MovieActor> movieActorTable)
{

       // 1. Build a batch to write to the ProductCatalog table.
       WriteBatch products = WriteBatch.builder(ProductCatalog.class)
               .mappedTableResource(catalogTable)
               .addPutItem(b -> b.item(getProductCatItem1()))
               .addDeleteItem(b -> b.key(k -> k
                       .partitionValue(getProductCatItem2().id())
                       .sortValue(getProductCatItem2().title())))
               .build();

       // 2. Build a batch to write to the MovieActor table.
       WriteBatch movies = WriteBatch.builder(MovieActor.class)
               .mappedTableResource(movieActorTable)
               .addPutItem(getMovieActorYeoh())
               .addPutItem(getMovieActorBlanchettPartial())
               .addDeleteItem(b -> b.key(k -> k
                       .partitionValue(getMovieActorStreep().getMovieName())
                       .sortValue(getMovieActorStreep().getActorName())))
               .build();

       // 3. Add WriteBatch objects to the request.
       BatchWriteResult batchWriteResult = enhancedClient.batchWriteItem(b ->
b.writeBatches(products, movies));
       // 4. Retrieve keys for items the service did not process.
       // 4a. 'unprocessedDeleteItemsForTable()' returns keys for delete requests that
did not process.
       if (batchWriteResult.unprocessedDeleteItemsForTable(movieActorTable).size() >
0) {

batchWriteResult.unprocessedDeleteItemsForTable(movieActorTable).forEach(key ->
                   logger.info(key.toString()));
       }
       // 4b. 'unprocessedPutItemsForTable()' returns keys for put requests that did
not process.
       if (batchWriteResult.unprocessedPutItemsForTable(catalogTable).size() > 0) {
           batchWriteResult.unprocessedPutItemsForTable(catalogTable).forEach(key ->
                   logger.info(key.toString()));
       }
   }
```

以下のヘルパーメソッドは入力操作と削除操作のモデルオブジェクトを提供します。

ヘルパーメソッド

```
    public static ProductCatalog getProductCatItem1() {
        return ProductCatalog.builder()
                .id(2)
                .isbn("1-565-85698")
                .authors(new HashSet<>(Arrays.asList("a", "b")))
                .price(BigDecimal.valueOf(30.22))
                .title("Title 55")
                .build();
    }

    public static ProductCatalog getProductCatItem2() {
        return ProductCatalog.builder()
                .id(4)
                .price(BigDecimal.valueOf(40.00))
                .title("Title 1")
                .build();
    }

    public static MovieActor getMovieActorBlanchettPartial() {
        MovieActor movieActor = new MovieActor();
        movieActor.setActorName("Cate Blanchett");
        movieActor.setMovieName("Blue Jasmine");
        movieActor.setActingYear(2023);
        movieActor.setActingAward("Best Actress");
        return movieActor;
    }

    public static MovieActor getMovieActorStreep() {
        MovieActor movieActor = new MovieActor();
        movieActor.setActorName("Meryl Streep");
        movieActor.setMovieName("Sophie's Choice");
        movieActor.setActingYear(1982);
        movieActor.setActingAward("Best Actress");
        movieActor.setActingSchoolName("Yale School of Drama");
        return movieActor;
    }

    public static MovieActor getMovieActorYeoh(){
        MovieActor movieActor = new MovieActor();
        movieActor.setActorName("Michelle Yeoh");
        movieActor.setMovieName("Everything Everywhere All at Once");
        movieActor.setActingYear(2023);
```

```
        movieActor.setActingAward("Best Actress");
        movieActor.setActingSchoolName("Royal Academy of Dance");
        return movieActor;
    }
```

サンプルコードを実行する前に、テーブルに次の項目が含まれていると仮定します。

```
MovieActor{movieName='Blue Jasmine', actorName='Cate Blanchett', actingAward='Best
 Actress', actingYear=2013, actingSchoolName='National Institute of Dramatic Art'}
MovieActor{movieName='Sophie's Choice', actorName='Meryl Streep', actingAward='Best
 Actress', actingYear=1982, actingSchoolName='Yale School of Drama'}
ProductCatalog{id=4, title='Title 1', isbn='orig_isbn', authors=[b, g], price=10}
```

サンプルコードが完了すると、テーブルには以下の項目が含まれます。

```
MovieActor{movieName='Blue Jasmine', actorName='Cate Blanchett', actingAward='Best
 Actress', actingYear=2013, actingSchoolName='null'}
MovieActor{movieName='Everything Everywhere All at Once', actorName='Michelle Yeoh',
 actingAward='Best Actress', actingYear=2023, actingSchoolName='Royal Academy of
 Dance'}
ProductCatalog{id=2, title='Title 55', isbn='1-565-85698', authors=[a, b], price=30.22}
```

MovieActor テーブルでは、Blue Jasmine ムービーアイテムが、getMovieActorBlanchettPartial() ヘルパーメソッドを通じて取得された入力リクエストで使用されたアイテムに置き換えられていることに注意してください。データ Bean 属性値が指定されなかった場合、データベース内の値は削除されます。これが、actingSchoolName で Blue Jasmine ムービーアイテムの結果が NULL になる理由です。

> **Note**
>
> API ドキュメントでは、条件式を使用でき、消費された容量とコレクションのメトリクスは個別の入力リクエストと削除リクエストで返すことができると記載されていますが、バッチ書き込みシナリオではそうではありません。バッチ操作のパフォーマンスを向上させるため、これらの個々のオプションは無視されます。

トランザクションオペレーションを実行する

DynamoDB 拡張クライアント API には、transactGetItems() および transactWriteItems() メソッドが用意されています。SDK for Java のトランザクションによって DynamoDB テーブルに不

可分性、一貫性、分離性、耐久性 (ACID) が実現されるため、アプリケーション内でのデータの精度を維持することができます。

`transactGetItems()` の例

transactGetItems() メソッドは、項目に対する個別のリクエストを最大 100 件受け付けます。すべてのアイテムは 1 つの不可分トランザクションで読み取られます。Amazon DynamoDB デベロッパーガイドには、transactGetItems() メソッドが失敗する原因となる条件や、transactGetItem() の呼び出し時に使用される分離レベルに関する情報が記載されています。

次の例の 1 行目のコメントのあと、コードは builder パラメータを使用して transactGetItems() メソッドを呼び出します。ビルダー addGetItem() は、SDK が最終リクエストの生成に使用するキー値を含むデータオブジェクトを使用して 3 回呼び出されます。

このリクエストは、コメント行 2 の後に Document オブジェクトのリストを返します。返されるドキュメントのリストには、アイテムデータの null 以外の ドキュメント インスタンスがリクエストと同じ順序で含まれています。Document.getItem(MappedTableResource<T> mappedTableResource) メソッドは、アイテムデータが返された場合は型指定されていない Document オブジェクトを型付きの Java オブジェクトに変換し、それ以外の場合は null を返します。

```
    public static void transactGetItemsExample(DynamoDbEnhancedClient enhancedClient,
                                               DynamoDbTable<ProductCatalog>
catalogTable,
                                               DynamoDbTable<MovieActor>
movieActorTable) {

        // 1. Request three items from two tables using a builder.
        final List<Document> documents = enhancedClient.transactGetItems(b -> b
                .addGetItem(catalogTable,
Key.builder().partitionValue(2).sortValue("Title 55").build())
                .addGetItem(movieActorTable, Key.builder().partitionValue("Sophie's
Choice").sortValue("Meryl Streep").build())
                .addGetItem(movieActorTable, Key.builder().partitionValue("Blue
Jasmine").sortValue("Cate Blanchett").build())
                .build());

        // 2. A list of Document objects is returned in the same order as requested.
        ProductCatalog title55 = documents.get(0).getItem(catalogTable);
        if (title55 != null) {
            logger.info(title55.toString());
```

```
        }

        MovieActor sophiesChoice = documents.get(1).getItem(movieActorTable);
        if (sophiesChoice != null) {
            logger.info(sophiesChoice.toString());
        }

        // 3. The getItem() method returns null if the Document object contains no item
 from DynamoDB.
        MovieActor blueJasmine = documents.get(2).getItem(movieActorTable);
        if (blueJasmine != null) {
            logger.info(blueJasmine.toString());
        }
    }
```

コード例が実行される前は、DynamoDB テーブルには次の項目が含まれています。

```
ProductCatalog{id=2, title='Title 55', isbn='orig_isbn', authors=[b, g], price=10}
MovieActor{movieName='Sophie's Choice', actorName='Meryl Streep', actingAward='Best
 Actress', actingYear=1982, actingSchoolName='Yale School of Drama'}
```

次の出力が記録されます。リクエストされたアイテムが見つからなかった場合、Blue Jasmine という名前の映画のリクエストの場合とは異なり、アイテムは返されません。

```
ProductCatalog{id=2, title='Title 55', isbn='orig_isbn', authors=[b, g], price=10}
MovieActor{movieName='Sophie's Choice', actorName='Meryl Streep', actingAward='Best
 Actress', actingYear=1982, actingSchoolName='Yale School of Drama'}
```

transactWriteItems() の例

transactWriteItems() は、複数のテーブルにわたる 1 回のアトミックトランザクションで最大 100 件の入力、更新、削除アクションを受け付けます。Amazon DynamoDB デベロッパーガイドには、基盤となる DynamoDB サービスオペレーションの制限と障害条件に関する詳細が記載されています。

基本的な の例

次の例では、2 つのテーブルに対して 4 つのオペレーションがリクエストされています。対応するモデルクラスは、前に示した ProductCatalog および MovieActor です。

入力、更新、削除の 3 つの操作では、それぞれ専用のリクエストパラメータを使用して詳細を指定します。

コメント行 1 の後のコードは、addPutItem() メソッドの単純なバリエーションを示しています。このメソッドは、MappedTableResource オブジェクトと入力するデータオブジェクトインスタンスを受け入れます。2 行目のコメントの後のステートメントには、TransactPutItemEnhancedRequest インスタンスを受け付けるバリエーションが表示されます。このバリエーションでは、条件式などのオプションをリクエストに追加できます。次の例では、個々のオペレーションの条件式を示しています。

更新操作はコメント行 3 の後に要求されます。TransactUpdateItemEnhancedRequest には、SDK がモデルオブジェクトの null 値を使って何をするかを設定できる ignoreNulls() メソッドがあります。ignoreNulls() メソッドが true を返す場合、SDK は null であるデータオブジェクト属性のテーブルの属性値を削除しません。ignoreNulls() メソッドが false を返す場合、SDK は DynamoDB サービスにテーブル内の項目から属性を削除するようリクエストします。ignoreNulls のデフォルト値は false です。

コメント 4 行目の後のステートメントは、データオブジェクトを取得する削除リクエストのバリエーションを示しています。拡張クライアントは、最後のリクエストをディスパッチする前にキー値を抽出します。

```
    public static void transactWriteItems(DynamoDbEnhancedClient enhancedClient,
                                          DynamoDbTable<ProductCatalog> catalogTable,
                                          DynamoDbTable<MovieActor> movieActorTable) {

        enhancedClient.transactWriteItems(b -> b
                // 1. Simplest variation of put item request.
                .addPutItem(catalogTable, getProductCatId2())
                // 2. Put item request variation that accommodates condition
expressions.
                .addPutItem(movieActorTable,
TransactPutItemEnhancedRequest.builder(MovieActor.class)
                        .item(getMovieActorStreep())

.conditionExpression(Expression.builder().expression("attribute_not_exists
(movie)").build())
                        .build())
                // 3. Update request that does not remove attribute values on the table
if the data object's value is null.
                .addUpdateItem(catalogTable,
TransactUpdateItemEnhancedRequest.builder(ProductCatalog.class)
                        .item(getProductCatId4ForUpdate())
                        .ignoreNulls(Boolean.TRUE)
                        .build())
```

```
                // 4. Variation of delete request that accepts a data object. The key
values are extracted for the request.
                .addDeleteItem(movieActorTable, getMovieActorBlanchett())
        );
    }
```

以下のヘルパーメソッドは、add*Item パラメータのデータオブジェクトを提供します。

ヘルパーメソッド

```
    public static ProductCatalog getProductCatId2() {
        return ProductCatalog.builder()
                .id(2)
                .isbn("1-565-85698")
                .authors(new HashSet<>(Arrays.asList("a", "b")))
                .price(BigDecimal.valueOf(30.22))
                .title("Title 55")
                .build();
    }

    public static ProductCatalog getProductCatId4ForUpdate() {
        return ProductCatalog.builder()
                .id(4)
                .price(BigDecimal.valueOf(40.00))
                .title("Title 1")
                .build();
    }

    public static MovieActor getMovieActorBlanchett() {
        MovieActor movieActor = new MovieActor();
        movieActor.setActorName("Cate Blanchett");
        movieActor.setMovieName("Tar");
        movieActor.setActingYear(2022);
        movieActor.setActingAward("Best Actress");
        movieActor.setActingSchoolName("National Institute of Dramatic Art");
        return movieActor;
    }

    public static MovieActor getMovieActorStreep() {
        MovieActor movieActor = new MovieActor();
        movieActor.setActorName("Meryl Streep");
        movieActor.setMovieName("Sophie's Choice");
        movieActor.setActingYear(1982);
        movieActor.setActingAward("Best Actress");
```

```
        movieActor.setActingSchoolName("Yale School of Drama");
        return movieActor;
    }
```

コード例が実行される前は、DynamoDB テーブルには次の項目が含まれています。

```
1 | ProductCatalog{id=4, title='Title 1', isbn='orig_isbn', authors=[b, g], price=10}
2 | MovieActor{movieName='Tar', actorName='Cate Blanchett', actingAward='Best Actress',
 actingYear=2022, actingSchoolName='National Institute of Dramatic Art'}
```

コードの実行が完了すると、次の項目がテーブルに表示されます。

```
3 | ProductCatalog{id=2, title='Title 55', isbn='1-565-85698', authors=[a, b],
 price=30.22}
4 | ProductCatalog{id=4, title='Title 1', isbn='orig_isbn', authors=[b, g], price=40.0}
5 | MovieActor{movieName='Sophie's Choice', actorName='Meryl Streep', actingAward='Best
 Actress', actingYear=1982, actingSchoolName='Yale School of Drama'}
```

2 行目の項目は削除され、3 行目と 5 行目には追加された項目が表示されます。4 行目は 1 行目の更新を示しています。アイテム上で変更されたのは `price` の値だけです。`ignoreNulls()` が false を返した場合、4 行目は次の行のようになります。

```
ProductCatalog{id=4, title='Title 1', isbn='null', authors=null, price=40.0}
```

コンディションチェックの例

次の例は、条件チェックの使用を示しています。コンディションチェックは、アイテムの存在を確認したり、データベース内のアイテムの特定の属性の状態をチェックしたりするために使用されます。コンディションチェックでチェックされたアイテムは、トランザクション内の別のオペレーションでは使用できません。

> **Note**
>
> 同じトランザクション内の複数のオペレーションが同じ項目をターゲットとすることはできません。たとえば、同じトランザクション内で同じ項目に対してコンディションチェックと更新を実行することはできません。

この例では、トランザクションによる項目書き込みリクエストにおける各タイプの操作を 1 つずつ示しています。2 行目のコメントの後、`addConditionCheck()` メソッド

は、conditionExpression パラメータが false と評価された場合にトランザクションが失敗する条件を指定します。ヘルパーメソッドブロックに表示されているメソッドから返される条件式は、ムービーの受賞年度 Sophie's Choice が 1982 と等しくないかどうかをチェックします。一致した場合、式は false と評価され、トランザクションは失敗します。

このガイドでは、別のトピックで式について詳しく説明します。

```
   public static void conditionCheckFailExample(DynamoDbEnhancedClient enhancedClient,
                                                 DynamoDbTable<ProductCatalog>
catalogTable,
                                                 DynamoDbTable<MovieActor>
movieActorTable) {

       try {
           enhancedClient.transactWriteItems(b -> b
                   // 1. Perform one of each type of operation with the next three
methods.
                   .addPutItem(catalogTable,
TransactPutItemEnhancedRequest.builder(ProductCatalog.class)
                           .item(getProductCatId2()).build())
                   .addUpdateItem(catalogTable,
TransactUpdateItemEnhancedRequest.builder(ProductCatalog.class)
                           .item(getProductCatId4ForUpdate())
                           .ignoreNulls(Boolean.TRUE).build())
                   .addDeleteItem(movieActorTable,
TransactDeleteItemEnhancedRequest.builder()
                           .key(b1 -> b1

.partitionValue(getMovieActorBlanchett().getMovieName())

.sortValue(getMovieActorBlanchett().getActorName())).build())
                   // 2. Add a condition check on a table item that is not involved in
another operation in this request.
                   .addConditionCheck(movieActorTable, ConditionCheck.builder()
                           .conditionExpression(buildConditionCheckExpression())
                           .key(k -> k
                                   .partitionValue("Sophie's Choice")
                                   .sortValue("Meryl Streep"))
                           // 3. Specify the request to return existing values from
the item if the condition evaluates to true.

.returnValuesOnConditionCheckFailure(ReturnValuesOnConditionCheckFailure.ALL_OLD)
                           .build())
```

```
                .build());
        // 4. Catch the exception if the transaction fails and log the information.
        } catch (TransactionCanceledException ex) {
            ex.cancellationReasons().stream().forEach(cancellationReason -> {
                logger.info(cancellationReason.toString());
            });
        }
    }
```

前のコード例では以下のヘルパーメソッドが使用されています。

ヘルパーメソッド

```
    private static Expression buildConditionCheckExpression() {
        Map<String, AttributeValue> expressionValue = Map.of(
                ":year", numberValue(1982));

        return Expression.builder()
                .expression("actingyear <> :year")
                .expressionValues(expressionValue)
                .build();
    }

    public static ProductCatalog getProductCatId2() {
        return ProductCatalog.builder()
                .id(2)
                .isbn("1-565-85698")
                .authors(new HashSet<>(Arrays.asList("a", "b")))
                .price(BigDecimal.valueOf(30.22))
                .title("Title 55")
                .build();
    }

    public static ProductCatalog getProductCatId4ForUpdate() {
        return ProductCatalog.builder()
                .id(4)
                .price(BigDecimal.valueOf(40.00))
                .title("Title 1")
                .build();
    }

    public static MovieActor getMovieActorBlanchett() {
        MovieActor movieActor = new MovieActor();
        movieActor.setActorName("Cate Blanchett");
```

```
        movieActor.setMovieName("Blue Jasmine");
        movieActor.setActingYear(2013);
        movieActor.setActingAward("Best Actress");
        movieActor.setActingSchoolName("National Institute of Dramatic Art");
        return movieActor;
    }
```

コード例が実行される前は、DynamoDB テーブルには次の項目が含まれています。

```
1 | ProductCatalog{id=4, title='Title 1', isbn='orig_isbn', authors=[b, g], price=10}
2 | MovieActor{movieName='Sophie's Choice', actorName='Meryl Streep', actingAward='Best
 Actress', actingYear=1982, actingSchoolName='Yale School of Drama'}
3 | MovieActor{movieName='Tar', actorName='Cate Blanchett', actingAward='Best Actress',
 actingYear=2022, actingSchoolName='National Institute of Dramatic Art'}
```

コードの実行が完了すると、次の項目がテーブルに表示されます。

```
ProductCatalog{id=4, title='Title 1', isbn='orig_isbn', authors=[b, g], price=10}
MovieActor{movieName='Sophie's Choice', actorName='Meryl Streep', actingAward='Best
 Actress', actingYear=1982, actingSchoolName='Yale School of Drama'}
MovieActor{movieName='Tar', actorName='Cate Blanchett', actingAward='Best Actress',
 actingYear=2022, actingSchoolName='National Institute of Dramatic Art'}
```

トランザクションが失敗したため、テーブル内の項目は変更されません。ムービー Sophie's Choice の actingYear 値は 1982 であり、transactWriteItem() メソッドが呼び出される前のテーブル内の項目の 2 行目に示されているとおりです。

トランザクションのキャンセル情報を取得するには、transactWriteItems() メソッド呼び出しを try ブロックし、TransactionCanceledException を catch します。この例の 4 行目のコメントの後、コードは各 CancellationReason オブジェクトをログに記録します。この例の 3 行目のコメントに続くコードでは、トランザクションが失敗した原因となった項目の値を返すように指定していたため、ログには Sophie's Choice ムービー項目の未加工のデータベース値が表示されます。

```
CancellationReason(Code=None)
CancellationReason(Code=None)
CancellationReason(Code=None)
CancellationReason(Item={actor=AttributeValue(S=Meryl Streep),
 movie=AttributeValue(S=Sophie's Choice), actingaward=AttributeValue(S=Best Actress),
 actingyear=AttributeValue(N=1982), actingschoolname=AttributeValue(S=Yale School of
 Drama)}, ¬
```

```
    Code=ConditionalCheckFailed, Message=The conditional request failed.)
```

単一オペレーション条件の例

次の例は、トランザクションリクエスト内の 1 つのオペレーションで条件を使用する方法を示しています。コメント行 1 の後の削除操作には、操作の対象項目の値をデータベースと照合する条件が含まれています。この例では、ヘルパーメソッドでコメント行 2 の後に作成した条件式は、映画の制作年が 2013 年と等しくない場合はその項目をデータベースから削除するように指定しています。

式についてはこのガイドの後半で説明します。

```
   public static void singleOperationConditionFailExample(DynamoDbEnhancedClient
enhancedClient,

DynamoDbTable<ProductCatalog> catalogTable,
                                                              DynamoDbTable<MovieActor>
movieActorTable) {
       try {
           enhancedClient.transactWriteItems(b -> b
                   .addPutItem(catalogTable,
TransactPutItemEnhancedRequest.builder(ProductCatalog.class)
                           .item(getProductCatId2())
                           .build())
                   .addUpdateItem(catalogTable,
TransactUpdateItemEnhancedRequest.builder(ProductCatalog.class)
                           .item(getProductCatId4ForUpdate())
                           .ignoreNulls(Boolean.TRUE).build())
                  // 1. Delete operation that contains a condition expression
                   .addDeleteItem(movieActorTable,
TransactDeleteItemEnhancedRequest.builder()
                           .key((Key.Builder k) -> {
                               MovieActor blanchett = getMovieActorBlanchett();
                               k.partitionValue(blanchett.getMovieName())
                                       .sortValue(blanchett.getActorName());
                           })
                           .conditionExpression(buildDeleteItemExpression())

.returnValuesOnConditionCheckFailure(ReturnValuesOnConditionCheckFailure.ALL_OLD)
                           .build())
                   .build());
       } catch (TransactionCanceledException ex) {
           ex.cancellationReasons().forEach(cancellationReason ->
logger.info(cancellationReason.toString()));
```

```
        }
    }

    // 2. Provide condition expression to check if 'actingyear' is not equal to 2013.
    private static Expression buildDeleteItemExpression() {
        Map<String, AttributeValue> expressionValue = Map.of(
                ":year", numberValue(2013));

        return Expression.builder()
                .expression("actingyear <> :year")
                .expressionValues(expressionValue)
                .build();
    }
```

前のコード例では以下のヘルパーメソッドが使用されています。

ヘルパーメソッド

```
    public static ProductCatalog getProductCatId2() {
        return ProductCatalog.builder()
                .id(2)
                .isbn("1-565-85698")
                .authors(new HashSet<>(Arrays.asList("a", "b")))
                .price(BigDecimal.valueOf(30.22))
                .title("Title 55")
                .build();
    }

    public static ProductCatalog getProductCatId4ForUpdate() {
        return ProductCatalog.builder()
                .id(4)
                .price(BigDecimal.valueOf(40.00))
                .title("Title 1")
                .build();
    }
    public static MovieActor getMovieActorBlanchett() {
        MovieActor movieActor = new MovieActor();
        movieActor.setActorName("Cate Blanchett");
        movieActor.setMovieName("Blue Jasmine");
        movieActor.setActingYear(2013);
        movieActor.setActingAward("Best Actress");
        movieActor.setActingSchoolName("National Institute of Dramatic Art");
        return movieActor;
```

```
    }
```

コード例が実行される前は、DynamoDB テーブルには次の項目が含まれています。

```
1 | ProductCatalog{id=4, title='Title 1', isbn='orig_isbn', authors=[b, g], price=10}
2 | MovieActor{movieName='Blue Jasmine', actorName='Cate Blanchett', actingAward='Best
 Actress', actingYear=2013, actingSchoolName='National Institute of Dramatic Art'}
```

コードの実行が完了すると、次の項目がテーブルに表示されます。

```
ProductCatalog{id=4, title='Title 1', isbn='orig_isbn', authors=[b, g], price=10}
2023-03-15 11:29:07 [main] INFO  org.example.tests.TransactDemoTest:168 -
 MovieActor{movieName='Blue Jasmine', actorName='Cate Blanchett', actingAward='Best
 Actress', actingYear=2013, actingSchoolName='National Institute of Dramatic Art'}
```

トランザクションが失敗したため、テーブル内の項目は変更されません。ムービー `Blue Jasmine` の `actingYear` 値は、コード例が実行される前の項目リストの 2 行目に表示されている `2013` です。

次の行がコンソールに記録されます。

```
CancellationReason(Code=None)
CancellationReason(Code=None)
CancellationReason(Item={actor=AttributeValue(S=Cate Blanchett),
 movie=AttributeValue(S=Blue Jasmine), actingaward=AttributeValue(S=Best Actress),
 actingyear=AttributeValue(N=2013), actingschoolname=AttributeValue(S=National
 Institute of Dramatic Art)},
    Code=ConditionalCheckFailed, Message=The conditional request failed)
```

セカンダリインデックスを使用する

テーブルのプライマリキーは、DynamoDB がデフォルトで項目を保存および取得する方法を決定するプライマリインデックスを定義します。

セカンダリインデックスは、クエリおよびスキャンオペレーションで使用する代替キーを提供します。グローバルセカンダリインデックス (GSI) には、パーティションキーとオプションのソートキーがあり、ベーステーブルのものとは異なる場合があります。対照的に、ローカルセカンダリインデックス (LSI) はプライマリインデックスのパーティションキーを共有しますが、別のソートキーを定義します。

グローバルセカンダリインデックスとローカルセカンダリインデックスのキーを定義する

セカンダリインデックスに含まれる属性には、@DynamoDbSecondaryPartitionKey または @DynamoDbSecondarySortKey 注釈が必要です。

次のクラスは 2 つのインデックスの注釈を表示します。SubjectLastPostedDateIndex という名前の GSI は、パーティションキーにこの Subject 属性を使用し、ソートキーには LastPostedDateTime という属性を使用します。ForumLastPostedDateIndex という名前の LSI は、ForumName をパーティションキーとして、LastPostedDateTime をソートキーとして使用します。

Subject 属性には 2 つの役割があることに注意してください。これはプライマリキーのソートキーであり、subjectLastPostedDateIndex という名前の GSI のパーティションキーでもあります。

MessageThread クラス

MessageThread クラスは、Amazon DynamoDB デベロッパーガイドのサンプルスレッドテーブルのデータクラスとして使用するのに適しています。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.mapper.annotations.DynamoDbBean;
import
 software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.mapper.annotations.DynamoDbPartitionKey;
import
 software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.mapper.annotations.DynamoDbSecondaryPartitionKey;
import
 software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.mapper.annotations.DynamoDbSecondarySortKey;
import software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.mapper.annotations.DynamoDbSortKey;

import java.util.List;
```

```
@DynamoDbBean
public class MessageThread {
    private String ForumName;
    private String Subject;
    private String Message;
    private String LastPostedBy;
    private String LastPostedDateTime;
    private Integer Views;
    private Integer Replies;
    private Integer Answered;
```

```
    private List<String> Tags;

    @DynamoDbPartitionKey
    public String getForumName() {
        return ForumName;
    }

    public void setForumName(String forumName) {
        ForumName = forumName;
    }

    // Sort key for primary index and partition key for GSI
"SubjectLastPostedDateIndex".
    @DynamoDbSortKey
    @DynamoDbSecondaryPartitionKey(indexNames = "SubjectLastPostedDateIndex")
    public String getSubject() {
        return Subject;
    }

    public void setSubject(String subject) {
        Subject = subject;
    }

    // Sort key for GSI "SubjectLastPostedDateIndex" and sort key for LSI
"ForumLastPostedDateIndex".
    @DynamoDbSecondarySortKey(indexNames = {"SubjectLastPostedDateIndex",
"ForumLastPostedDateIndex"})
    public String getLastPostedDateTime() {
        return LastPostedDateTime;
    }

    public void setLastPostedDateTime(String lastPostedDateTime) {
        LastPostedDateTime = lastPostedDateTime;
    }
    public String getMessage() {
        return Message;
    }

    public void setMessage(String message) {
        Message = message;
    }

    public String getLastPostedBy() {
        return LastPostedBy;
```

```
    }

    public void setLastPostedBy(String lastPostedBy) {
        LastPostedBy = lastPostedBy;
    }

    public Integer getViews() {
        return Views;
    }

    public void setViews(Integer views) {
        Views = views;
    }

    @DynamoDbSecondaryPartitionKey(indexNames = "ForumRepliesIndex")
    public Integer getReplies() {
        return Replies;
    }

    public void setReplies(Integer replies) {
        Replies = replies;
    }

    public Integer getAnswered() {
        return Answered;
    }

    public void setAnswered(Integer answered) {
        Answered = answered;
    }

    public List<String> getTags() {
        return Tags;
    }

    public void setTags(List<String> tags) {
        Tags = tags;
    }

    public MessageThread() {
        this.Answered = 0;
        this.LastPostedBy = "";
        this.ForumName = "";
        this.Message = "";
```

```
        this.LastPostedDateTime = "";
        this.Replies = 0;
        this.Views = 0;
        this.Subject = "";
    }

    @Override
    public String toString() {
        return "MessageThread{" +
                "ForumName='" + ForumName + '\'' +
                ", Subject='" + Subject + '\'' +
                ", Message='" + Message + '\'' +
                ", LastPostedBy='" + LastPostedBy + '\'' +
                ", LastPostedDateTime='" + LastPostedDateTime + '\'' +
                ", Views=" + Views +
                ", Replies=" + Replies +
                ", Answered=" + Answered +
                ", Tags=" + Tags +
                '}';
    }
}
```

インデックスを作成する

SDK for Java のバージョン 2.20.86 以降では、`createTable()` メソッドはデータクラス注釈からセカンダリインデックスを自動的に生成します。デフォルトでは、ベーステーブルのすべての属性がインデックスにコピーされ、プロビジョニングされるスループット値は 20 読み取りキャパシティーユニットと 20 書き込みキャパシティーユニットです。

ただし、2.20.86 より前のバージョンの SDK を使用する場合は、次の例のようにテーブルと一緒にインデックスを作成する必要があります。この例では、`Thread` テーブルの 2 つのインデックスを構築します。builder パラメータには、1 行目と 2 行目のコメント行の後に示されているように、両方のタイプのインデックスを設定するメソッドがあります。インデックスビルダーの `indexName()` メソッドを使用して、データクラス注釈で指定されているインデックス名を目的のインデックスタイプに関連付けます。

このコードでは、すべてのテーブル属性がコメント行 3 と 4 のコメント行の後に両方のインデックスに含まれるように構成しています。属性プロジェクションの詳細については、「Amazon DynamoDB デベロッパーガイド」を参照してください。

```
    public static void createMessageThreadTable(DynamoDbTable<MessageThread>
 messageThreadDynamoDbTable, DynamoDbClient dynamoDbClient) {
```

```
        messageThreadDynamoDbTable.createTable(b -> b
                // 1. Generate the GSI.
                .globalSecondaryIndices(gsi ->
 gsi.indexName("SubjectLastPostedDateIndex")
                        // 3. Populate the GSI with all attributes.
                        .projection(p -> p
                                .projectionType(ProjectionType.ALL))
                )
                // 2. Generate the LSI.
                .localSecondaryIndices(lsi -> lsi.indexName("ForumLastPostedDateIndex")
                        // 4. Populate the LSI with all attributes.
                        .projection(p -> p
                                .projectionType(ProjectionType.ALL))
                )
        );
```

インデックスを使用してクエリを実行する

次の例では、ローカルセカンダリインデックス ForumLastPostedDateIndex にクエリを実行します。

2 行目のコメントに続いて、DynamodBindEx.query () メソッドを呼び出すときに必要な QueryConditional オブジェクトを作成します。

コメント 3 行目の後にインデックスの名前を渡すと、クエリするインデックスへの参照が得られます。4 行目のコメントに続いて、QueryConditional オブジェクトに渡されるインデックスの query() メソッドを呼び出します。

また、5 行目のコメントの後に示される 3 つの属性値を返すようにクエリを構成します。attributesToProject() が呼び出されない場合、クエリはすべての属性値を返します。指定した属性名は小文字で始まることに注意してください。これらの属性名は表で使用されているものと一致し、必ずしもデータクラスの属性名と一致するわけではありません。

6 行目のコメントに続いて、結果を反復処理し、クエリによって返される各項目をログ記録し、それをリストに保存して呼び出し元に返します。

```
public class IndexScanExamples {
    private static Logger logger = LoggerFactory.getLogger(IndexScanExamples.class);

    public static List<MessageThread> queryUsingSecondaryIndices(String lastPostedDate,

 DynamoDbTable<MessageThread> threadTable) {
        // 1. Log the parameter value.
```

```
        logger.info("lastPostedDate value: {}", lastPostedDate);

        // 2. Create a QueryConditional whose sort key value must be greater than or
 equal to the parameter value.
        QueryConditional queryConditional =
 QueryConditional.sortGreaterThanOrEqualTo(qc ->
                qc.partitionValue("Forum02").sortValue(lastPostedDate));

        // 3. Specify the index name to query.
        final DynamoDbIndex<MessageThread> forumLastPostedDateIndex =
 threadTable.index("ForumLastPostedDateIndex");

        // 4. Perform the query using the QueryConditional object.
        final SdkIterable<Page<MessageThread>> pagedResult =
 forumLastPostedDateIndex.query(q -> q
                .queryConditional(queryConditional)
                // 5. Request three attribute in the results.
                .attributesToProject("forumName", "subject", "lastPostedDateTime"));

        List<MessageThread> collectedItems = new ArrayList<>();
        // 6. Iterate through pages response and sort the items.
        pagedResult.stream().forEach(page -> page.items().stream()
                .sorted(Comparator.comparing(MessageThread::getLastPostedDateTime))
                .forEach(mt -> {
                    // 7. Log the returned items and add the collection to return to
 the caller.
                    logger.info(mt.toString());
                    collectedItems.add(mt);
                }));
        return collectedItems;
    }
```

クエリが実行される前は、次の項目がデータベースに存在しています。

```
MessageThread{ForumName='Forum01', Subject='Subject01', Message='Message01',
 LastPostedBy='', LastPostedDateTime='2023.03.28', Views=0, Replies=0, Answered=0,
 Tags=null}
MessageThread{ForumName='Forum02', Subject='Subject02', Message='Message02',
 LastPostedBy='', LastPostedDateTime='2023.03.29', Views=0, Replies=0, Answered=0,
 Tags=null}
MessageThread{ForumName='Forum02', Subject='Subject04', Message='Message04',
 LastPostedBy='', LastPostedDateTime='2023.03.31', Views=0, Replies=0, Answered=0,
 Tags=null}
```

```
MessageThread{ForumName='Forum02', Subject='Subject08', Message='Message08',
 LastPostedBy='', LastPostedDateTime='2023.04.04', Views=0, Replies=0, Answered=0,
 Tags=null}
MessageThread{ForumName='Forum02', Subject='Subject10', Message='Message10',
 LastPostedBy='', LastPostedDateTime='2023.04.06', Views=0, Replies=0, Answered=0,
 Tags=null}
MessageThread{ForumName='Forum03', Subject='Subject03', Message='Message03',
 LastPostedBy='', LastPostedDateTime='2023.03.30', Views=0, Replies=0, Answered=0,
 Tags=null}
MessageThread{ForumName='Forum03', Subject='Subject06', Message='Message06',
 LastPostedBy='', LastPostedDateTime='2023.04.02', Views=0, Replies=0, Answered=0,
 Tags=null}
MessageThread{ForumName='Forum03', Subject='Subject09', Message='Message09',
 LastPostedBy='', LastPostedDateTime='2023.04.05', Views=0, Replies=0, Answered=0,
 Tags=null}
MessageThread{ForumName='Forum05', Subject='Subject05', Message='Message05',
 LastPostedBy='', LastPostedDateTime='2023.04.01', Views=0, Replies=0, Answered=0,
 Tags=null}
MessageThread{ForumName='Forum07', Subject='Subject07', Message='Message07',
 LastPostedBy='', LastPostedDateTime='2023.04.03', Views=0, Replies=0, Answered=0,
 Tags=null}
```

1 行目と 6 行目のログ記録ステートメントは、次のようなコンソール出力になります。

```
lastPostedDate value: 2023.03.31
MessageThread{ForumName='Forum02', Subject='Subject04', Message='', LastPostedBy='',
 LastPostedDateTime='2023.03.31', Views=0, Replies=0, Answered=0, Tags=null}
MessageThread{ForumName='Forum02', Subject='Subject08', Message='', LastPostedBy='',
 LastPostedDateTime='2023.04.04', Views=0, Replies=0, Answered=0, Tags=null}
MessageThread{ForumName='Forum02', Subject='Subject10', Message='', LastPostedBy='',
 LastPostedDateTime='2023.04.06', Views=0, Replies=0, Answered=0, Tags=null}
```

このクエリでは、Forum02 の `forumName` 値と 2023.03.31 以上の `lastPostedDateTime` 値の項目が返されました。インデックスには `message` 属性に値が含まれていますが、結果には空の文字列を含む `message` 値が表示されます。これは、メッセージ属性がコメント 5 行目以降にコードによって投影されなかったためです。

グローバルセカンダリインデックス (GSI) の複合キーを使用する

SDK for Java 2.x DynamoDB 拡張クライアントは、グローバルセカンダリインデックスの複合キーをサポートしています。1 つの GSI に対して最大 4 つのパーティションキー属性と 4 つのソート

キー属性を定義できます。これにより、複数の属性をクライアント側の単一の文字列キーに連結する必要がなくなります。

@DynamoDbSecondaryPartitionKey および @DynamoDbSecondarySortKey注釈の orderパラメータを使用して、複合キー内の各属性の位置を指定します。order パラメータはOrder、列挙型 (拡張 DynamoDB クライアントの一部): FIRST、SECOND、THIRD、および の値を受け入れますFOURTH。

複合キー注釈を使用してデータクラスに注釈を付ける

次の例では、注文テーブルをモデル化します。ベーステーブルはパーティションキーorderIdとして を使用します。OrdersByStatusDateAmount という名前の GSI は、 customerId と の複合パーティションキーstatus、および orderDateと の複合ソートキーを使用しますamount。この設計では、ステータス、日付、金額のしきい値でフィルタリングされた顧客の注文をクエリできます。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.mapper.Order;
import software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.mapper.annotations.DynamoDbBean;
import
 software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.mapper.annotations.DynamoDbPartitionKey;
import
 software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.mapper.annotations.DynamoDbSecondaryPartitionKey;
import
 software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.mapper.annotations.DynamoDbSecondarySortKey;
```

```
@DynamoDbBean
public class OrderItem {
    private String orderId;
    private String customerId;
    private String status;
    private String orderDate;
    private Integer amount;

    @DynamoDbPartitionKey
    public String getOrderId() {
        return orderId;
    }
    public void setOrderId(String orderId) {
        this.orderId = orderId;
    }
```

```
    // First partition key attribute for the GSI.
    @DynamoDbSecondaryPartitionKey(indexNames = "OrdersByStatusDateAmount", order =
 Order.FIRST)
    public String getCustomerId() {
        return customerId;
    }
    public void setCustomerId(String customerId) {
        this.customerId = customerId;
    }

    // Second partition key attribute for the GSI.
    @DynamoDbSecondaryPartitionKey(indexNames = "OrdersByStatusDateAmount", order =
 Order.SECOND)
    public String getStatus() {
        return status;
    }
    public void setStatus(String status) {
        this.status = status;
    }

    // First sort key attribute for the GSI.
    @DynamoDbSecondarySortKey(indexNames = "OrdersByStatusDateAmount", order =
 Order.FIRST)
    public String getOrderDate() {
        return orderDate;
    }
    public void setOrderDate(String orderDate) {
        this.orderDate = orderDate;
    }

    // Second sort key attribute for the GSI.
    @DynamoDbSecondarySortKey(indexNames = "OrdersByStatusDateAmount", order =
 Order.SECOND)
    public Integer getAmount() {
        return amount;
    }
    public void setAmount(Integer amount) {
        this.amount = amount;
    }
}
```

複合キーインデックスを使用したクエリ

複合キーインデックスをクエリするときは、キービルダーで メソッドaddPartitionValue()とaddSortValue()メソッドを使用します。注釈で定義された値と同じ順序でOrder値を追加します。すべてのパーティションキーが必要です。ソートキーはオプションで、左から右に指定できます。

QueryConditional オブジェクトを作成して、クエリの条件を指定します。完全一致、または sortGreaterThan、、、 sortLessThan sortBetweenなどのソートキー条件keyEqualToに を使用しますsortBeginsWith。条件は、指定した最後のソートキーに適用されます。

次の例では、OrdersByStatusDateAmount GSI をクエリし、ソートキーを徐々に追加して結果を絞り込みます。

```
DynamoDbIndex<OrderItem> index = orderTable.index("OrdersByStatusDateAmount");

// All PENDING orders for customer-123.
SdkIterable<Page<OrderItem>> allPending = index.query(q -> q
        .queryConditional(QueryConditional.keyEqualTo(k -> k
                .addPartitionValue("customer-123")
                .addPartitionValue("PENDING"))));

// PENDING orders on a specific date.
SdkIterable<Page<OrderItem>> pendingOnDate = index.query(q -> q
        .queryConditional(QueryConditional.keyEqualTo(k -> k
                .addPartitionValue("customer-123")
                .addPartitionValue("PENDING")
                .addSortValue("2025-11-04"))));

// PENDING orders on a specific date with amount greater than 100.
SdkIterable<Page<OrderItem>> filtered = index.query(q -> q
        .queryConditional(QueryConditional.sortGreaterThan(k -> k
                .addPartitionValue("customer-123")
                .addPartitionValue("PENDING")
                .addSortValue("2025-11-04")
                .addSortValue(100))));
```

詳細については、DynamoDB のグローバルセカンダリインデックスのマルチキーサポート」を参照してください。

高度なマッピング機能を使用する

DynamoDB 拡張クライアント API の高度なテーブルスキーマ機能について説明します。

テーブルのスキーマタイプを理解する

`TableSchema` は DynamoDB 拡張クライアント API のマッピング機能へのインターフェイスです。データオブジェクトを AttributeValues のマップにマップしたり、AttributeValues のマップからマップしたりできます。`TableSchema` オブジェクトはマッピングするテーブルの構造を知る必要があります。この構造情報は `TableMetadata` オブジェクトに格納されます。

拡張クライアント API には、以下のようないくつかの `TableSchema` の実装があります。

注釈付きのクラスから生成されたテーブルスキーマ

注釈付きクラスから `TableSchema` を構築するのは比較的コストのかかる操作であり、アプリケーションの起動時に一度実行することをお勧めします。

BeanTableSchema

この実装は Bean クラスの属性と注釈に基づいて構築されています。この方法の例は、「はじめに」セクションで説明されています。

> **Note**
>
> `BeanTableSchema` が期待どおりに動作しない場合は、`software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.beans` のデバッグログ記録を有効にします。

ImmutableTableSchema

この実装は不変データクラスから構築されています。このアプローチは ??? セクションで説明されています。

ビルダーで生成されたテーブルスキーマ

以下の `TableSchema` は、ビルダーを使用してコードから構築されています。このアプローチは、注釈付きのデータクラスを使用するアプローチよりもコストが低くなります。ビルダーのアプローチでは注釈を使用せず、JavaBean の命名標準も必要ありません。

StaticTableSchema

この実装は可変データクラス用に構築されています。このガイドの「はじめに」セクションでは、ビルダーを使用して StaticTableSchema を生成する方法を説明しました。

StaticImmutableTableSchema

StaticTableSchema を構築する場合と同様に、不変データクラスで使用するビルダーを使用してこのタイプ TableSchema の実装を生成します。

固定スキーマのないデータ用のテーブルスキーマ

DocumentTableSchema

TableSchema の他の実装とは異なり、DocumentTableSchema インスタンスには属性を定義しません。通常は、プライマリキーと属性コンバータープロバイダーのみを指定します。EnhancedDocument インスタンスは、個々の要素または JSON 文字列から構築した属性を提供します。

属性を明示的に含めたり除外したりします。

DynamoDB 拡張クライアント API には、データクラス属性がテーブルの属性にならないようにする注釈が用意されています。この API では、データクラスの属性名とは異なる属性名を使用することもできます。

属性を除外する

DynamoDB テーブルにマッピングしてはいけない属性を無視するには、その属性に @DynamoDbIgnore 注釈を付けます。

```
private String internalKey;

@DynamoDbIgnore
public String getInternalKey() { return this.internalKey; }
public void setInternalKey(String internalKey) { this.internalKey = internalKey;}
```

属性を含める

DynamoDB テーブルで使用される属性の名前を変更するには、@DynamoDbAttribute 注釈を付けて別の名前を指定します。

```
private String internalKey;

@DynamoDbAttribute("renamedInternalKey")
public String getInternalKey() { return this.internalKey; }
public void setInternalKey(String internalKey) { this.internalKey = internalKey;}
```

属性変換を制御する

デフォルトでは、テーブルスキーマは AttributeConverterProvider インターフェースのデフォルト実装を通じて、多くの一般的な Java 型のコンバーターを提供します。全体的なデフォルト動作は、カスタム AttributeConverterProvider 実装で変更できます。また、1 つの属性のコンバーターを変更することもできます。

使用可能なコンバーターのリストについては、「AttributeConverter インターフェースの Java ドキュメント」を参照してください。

カスタム属性コンバータープロバイダーを提供する

@DynamoDbBean (converterProviders = {…}) 注釈を使用して、単一の AttributeConverterProvider または順序付けられた AttributeConverterProvider のチェーンを提供することができます。どのようなカスタム AttributeConverterProvider でも AttributeConverterProvider インターフェースを拡張する必要があります。

独自の属性コンバータープロバイダーチェーンを指定すると、デフォルトのコンバータープロバイダー、DefaultAttributeConverterProvider がオーバーライドされることに注意してください。DefaultAttributeConverterProvider の機能を使用するには、チェーンに組み込む必要があります。

Bean に空の配列 {} に注釈を付けすることもできます。これにより、デフォルトを含むすべての属性コンバータープロバイダーの使用が無効になります。この場合、マップされるすべての属性には独自の属性コンバーターが必要です。

次のスニペットは、単一のコンバータープロバイダーを示しています。

```
@DynamoDbBean(converterProviders = ConverterProvider1.class)
public class Customer {

}
```

次のスニペットは、コンバータープロバイダーのチェーンの使用方法を示しています。SDK デフォルトは最後に指定されるため、優先度は最も低くなります。

```
@DynamoDbBean(converterProviders = {
   ConverterProvider1.class,
   ConverterProvider2.class,
   DefaultAttributeConverterProvider.class})
public class Customer {

}
```

静的テーブルスキーマビルダーにも同じように機能する attributeConverterProviders() メソッドがあります。これは次のスニペットに示されています。

```
private static final StaticTableSchema<Customer> CUSTOMER_TABLE_SCHEMA =
  StaticTableSchema.builder(Customer.class)
    .newItemSupplier(Customer::new)
    .addAttribute(String.class, a -> a.name("name")
                                      a.getter(Customer::getName)
                                      a.setter(Customer::setName))
    .attributeConverterProviders(converterProvider1, converterProvider2)
    .build();
```

単一の属性のマッピングをオーバーライドする

単一の属性のマッピング方法をオーバーライドするには、その属性に AttributeConverter を指定します。この追加は、テーブルスキーマの AttributeConverterProviders で提供されるコンバーターよりも優先されます。これにより、その属性専用のカスタムコンバーターが追加されます。他の属性は、同じタイプの属性であっても、他の属性に明示的に指定されていない限り、そのコンバーターを使用しません。

@DynamoDbConvertedBy 注釈は、次のスニペットに示すようにカスタム AttributeConverter クラスを指定するために使用されます。

```
@DynamoDbBean
public class Customer {
    private String name;

    @DynamoDbConvertedBy(CustomAttributeConverter.class)
    public String getName() { return this.name; }
    public void setName(String name) { this.name = name;}
}
```

静的スキーマのビルダーには、同等の属性ビルダー attributeConverter() メソッドがあります。このメソッドは、次に示すように、AttributeConverter のインスタンスを取得します。

```
private static final StaticTableSchema<Customer> CUSTOMER_TABLE_SCHEMA =
  StaticTableSchema.builder(Customer.class)
    .newItemSupplier(Customer::new)
    .addAttribute(String.class, a -> a.name("name")
                                      a.getter(Customer::getName)
                                      a.setter(Customer::setName)
                                      a.attributeConverter(customAttributeConverter))
    .build();
```

例

この例は、java.net.HttpCookie オブジェクトの属性コンバーターを提供する AttributeConverterProvider 実装を示しています。

次の SimpleUser クラスには、HttpCookie のインスタンスである lastUsedCookie という名前の属性が含まれています。

@DynamoDbBean 注釈のパラメータには、コンバーターを提供する 2 つの AttributeConverterProvider クラスがリストされています。

Class with annotations

```
   @DynamoDbBean(converterProviders = {CookieConverterProvider.class,
DefaultAttributeConverterProvider.class})
   public static final class SimpleUser {
       private String name;
       private HttpCookie lastUsedCookie;

       @DynamoDbPartitionKey
       public String getName() {
           return name;
       }

       public void setName(String name) {
           this.name = name;
       }

       public HttpCookie getLastUsedCookie() {
           return lastUsedCookie;
```

```
        }

        public void setLastUsedCookie(HttpCookie lastUsedCookie) {
            this.lastUsedCookie = lastUsedCookie;
        }
```

Static table schema

```
    private static final TableSchema<SimpleUser> SIMPLE_USER_TABLE_SCHEMA =
            TableSchema.builder(SimpleUser.class)
                    .newItemSupplier(SimpleUser::new)
                    .attributeConverterProviders(CookieConverterProvider.create(),
AttributeConverterProvider.defaultProvider())
                    .addAttribute(String.class, a -> a.name("name")
                            .setter(SimpleUser::setName)
                            .getter(SimpleUser::getName)
                            .tags(StaticAttributeTags.primaryPartitionKey()))
                    .addAttribute(HttpCookie.class, a -> a.name("lastUsedCookie")
                            .setter(SimpleUser::setLastUsedCookie)
                            .getter(SimpleUser::getLastUsedCookie))
                    .build();
```

次の例の CookieConverterProvider では、HttpCookeConverter のインスタンスを提供しています。

```
   public static final class CookieConverterProvider implements
AttributeConverterProvider {
       private final Map<EnhancedType<?>, AttributeConverter<?>> converterCache =
ImmutableMap.of(
               // 1. Add HttpCookieConverter to the internal cache.
               EnhancedType.of(HttpCookie.class), new HttpCookieConverter());

       public static CookieConverterProvider create() {
           return new CookieConverterProvider();
       }

       // The SDK calls this method to find out if the provider contains a
AttributeConverter instance
       // for the EnhancedType<T> argument.
       @SuppressWarnings("unchecked")
       @Override
       public <T> AttributeConverter<T> converterFor(EnhancedType<T> enhancedType) {
```

```
            return (AttributeConverter<T>) converterCache.get(enhancedType);
        }
    }
```

変換コード

次の HttpCookieConverter クラスの transformFrom( ) メソッドでは、コードは HttpCookie インスタンスを受け取り、属性として保存される DynamoDB マップに変換します。

transformTo( ) メソッドは DynamoDB マップパラメータを受け取り、名前と値を必要とする HttpCookie コンストラクターを呼び出します。

```
   public static final class HttpCookieConverter implements
AttributeConverter<HttpCookie> {

        @Override
        public AttributeValue transformFrom(HttpCookie httpCookie) {

            return AttributeValue.fromM(
            Map.of ("cookieName", AttributeValue.fromS(httpCookie.getName()),
                    "cookieValue", AttributeValue.fromS(httpCookie.getValue()))
            );
        }

        @Override
        public HttpCookie transformTo(AttributeValue attributeValue) {
            Map<String, AttributeValue> map = attributeValue.m();
            return new HttpCookie(
                    map.get("cookieName").s(),
                    map.get("cookieValue").s());
        }

        @Override
        public EnhancedType<HttpCookie> type() {
            return EnhancedType.of(HttpCookie.class);
        }

        @Override
        public AttributeValueType attributeValueType() {
            return AttributeValueType.M;
        }
    }
```

属性の更新動作を変更する

更新オペレーションを実行するときに、個々の属性の更新動作をカスタマイズできます。DynamoDB 拡張クライアント API の更新オペレーションの例には、updateItem () と transactWriteItems () があります。

たとえば、作成した日付のタイムスタンプをレコードに保存したいとします。ただし、データベースにその属性の既存の値がない場合にのみ、その値を書き込むようにしたいとします。この場合、WRITE_IF_NOT_EXISTS 更新動作を使用します。

次の例は、createdOn 属性に動作を追加する注釈を示しています。

```
@DynamoDbBean
public class Customer extends GenericRecord {
    private String id;
    private Instant createdOn;

    @DynamoDbPartitionKey
    public String getId() { return this.id; }
    public void setId(String id) { this.name = id; }

    @DynamoDbUpdateBehavior(UpdateBehavior.WRITE_IF_NOT_EXISTS)
    public Instant getCreatedOn() { return this.createdOn; }
    public void setCreatedOn(Instant createdOn) { this.createdOn = createdOn; }
}
```

次の例のコメント行 1 の後のように、静的テーブルスキーマを構築する場合にも同じ更新動作を宣言できます。

```
static final TableSchema<Customer> CUSTOMER_TABLE_SCHEMA =
     TableSchema.builder(Customer.class)
       .newItemSupplier(Customer::new)
       .addAttribute(String.class, a -> a.name("id")
                                         .getter(Customer::getId)
                                         .setter(Customer::setId)

  .tags(StaticAttributeTags.primaryPartitionKey()))
       .addAttribute(Instant.class, a -> a.name("createdOn")
                                          .getter(Customer::getCreatedOn)
                                          .setter(Customer::setCreatedOn)
                                          // 1. Add an UpdateBehavior.

  .tags(StaticAttributeTags.updateBehavior(UpdateBehavior.WRITE_IF_NOT_EXISTS)))
```

```
        .build();
```

他のクラスの属性をフラット化する

テーブルの属性が継承または構成によって複数の異なる Java クラスに分散している場合、DynamoDB Enhanced Client API では属性を 1 つのクラスにフラット化するためのサポートを提供します。

継承を使用する

クラスで継承を使用する場合は、以下の方法で階層をフラット化してください。

注釈の付いた Bean を使用する

注釈手法では、両方のクラスに @DynamoDbBean 注釈が必要で、1 つのクラスに 1 つ以上のプライマリキーの注釈を付ける必要があります。

継承関係を持つデータクラスの例を以下に示します。

Standard data class

```
@DynamoDbBean
public class Customer extends GenericRecord {
    private String name;

    public String getName() { return name; }
    public void setName(String name) { this.name = name; }
}

@DynamoDbBean
public abstract class GenericRecord {
    private String id;
    private String createdDate;

    @DynamoDbPartitionKey
    public String getId() { return id; }
    public void setId(String id) { this.id = id; }

    public String getCreatedDate() { return createdDate; }
    public void setCreatedDate(String createdDate) { this.createdDate =
 createdDate; }
}
```

Lombok

Lombok onMethod のオプションでは、@DynamoDbPartitionKey などの属性ベースの DynamoDB 注釈が生成コードにコピーされます。

```
@DynamoDbBean
@Data
@ToString(callSuper = true)
public class Customer extends GenericRecord {
    private String name;
}

@Data
@DynamoDbBean
public abstract class GenericRecord {
    @Getter(onMethod_=@DynamoDbPartitionKey)
    private String id;
    private String createdDate;
}
```

静的スキーマを使用する

静的スキーマアプローチでは、ビルダーの extend() メソッドを使用して親クラスの属性を子クラスに集約します。これは次の例のコメント行 1 の後で示されています。

```
       StaticTableSchema<org.example.tests.model.inheritance.stat.GenericRecord>
GENERIC_RECORD_SCHEMA =

StaticTableSchema.builder(org.example.tests.model.inheritance.stat.GenericRecord.class)
                      // The partition key will be inherited by the top level mapper.
                      .addAttribute(String.class, a -> a.name("id")

.getter(org.example.tests.model.inheritance.stat.GenericRecord::getId)

.setter(org.example.tests.model.inheritance.stat.GenericRecord::setId)
                              .tags(primaryPartitionKey()))
                      .addAttribute(String.class, a -> a.name("created_date")

.getter(org.example.tests.model.inheritance.stat.GenericRecord::getCreatedDate)

.setter(org.example.tests.model.inheritance.stat.GenericRecord::setCreatedDate))
                      .build();
```

```
       StaticTableSchema<org.example.tests.model.inheritance.stat.Customer>
CUSTOMER_SCHEMA =

StaticTableSchema.builder(org.example.tests.model.inheritance.stat.Customer.class)

.newItemSupplier(org.example.tests.model.inheritance.stat.Customer::new)
                       .addAttribute(String.class, a -> a.name("name")

.getter(org.example.tests.model.inheritance.stat.Customer::getName)

.setter(org.example.tests.model.inheritance.stat.Customer::setName))
                      // 1. Use the extend() method to collapse the parent attributes
onto the child class.
                       .extend(GENERIC_RECORD_SCHEMA)     // All the attributes of the
GenericRecord schema are added to Customer.
                       .build();
```

先ほどの静的スキーマの例では、次のデータクラスを使用しています。マッピングは静的テーブルスキーマの構築時に定義されるため、データクラスには注釈は必要ありません。

データクラス

Standard data class

```
public class Customer extends GenericRecord {
    private String name;

    public String getName() { return name; }
    public void setName(String name) { this.name = name; }
}


public abstract class GenericRecord {
    private String id;
    private String createdDate;

    public String getId() { return id; }
    public void setId(String id) { this.id = id; }

    public String getCreatedDate() { return createdDate; }
    public void setCreatedDate(String createdDate) { this.createdDate =
 createdDate; }
```

Lombok

```
@Data
@ToString(callSuper = true)
public class Customer extends GenericRecord{
    private String name;
}

@Data
public abstract class GenericRecord {
    private String id;
    private String createdDate;
}
```

構成を使用する

クラスで構成を使用する場合は、以下の方法で階層をフラット化してください。

注釈の付いた Bean を使用する

@DynamoDbFlatten 注釈は格納されているクラスをフラット化します。

以下のデータクラスの例では、@DynamoDbFlatten 注釈を使用して、含まれている GenericRecord クラスのすべての属性を Customer クラスに効果的に追加しています。

Standard data class

```
@DynamoDbBean
public class Customer {
    private String name;
    private GenericRecord record;

    public String getName() { return this.name; }
    public void setName(String name) { this.name = name; }

    @DynamoDbFlatten
    public GenericRecord getRecord() { return this.record; }
    public void setRecord(GenericRecord record) { this.record = record; }

@DynamoDbBean
public class GenericRecord {
    private String id;
```

```
    private String createdDate;

    @DynamoDbPartitionKey
    public String getId() { return this.id; }
    public void setId(String id) { this.id = id; }

    public String getCreatedDate() { return this.createdDate; }
    public void setCreatedDate(String createdDate) { this.createdDate =
 createdDate; }
}
```

Lombok

```
@Data
@DynamoDbBean
public class Customer {
    private String name;
    @Getter(onMethod_=@DynamoDbFlatten)
    private GenericRecord record;
}

@Data
@DynamoDbBean
public class GenericRecord {
    @Getter(onMethod_=@DynamoDbPartitionKey)
    private String id;
    private String createdDate;
}
```

フラット化された注釈を使用すると、対象となるさまざまなクラスを必要なだけフラット化できます。以下の制約が適用されます。

- フラット化の後は、すべての属性名が一意でなければなりません。
- パーティションキー、ソートキー、またはテーブル名は複数あってはなりません。

静的スキーマを使用する

静的テーブルスキーマを構築するときは、ビルダーの `flatten()` メソッドを使用します。また、含まれているクラスを識別する getter メソッド と setter メソッドも指定します。

```
        StaticTableSchema<GenericRecord> GENERIC_RECORD_SCHEMA =
```

```
                StaticTableSchema.builder(GenericRecord.class)
                        .newItemSupplier(GenericRecord::new)
                        .addAttribute(String.class, a -> a.name("id")
                                .getter(GenericRecord::getId)
                                .setter(GenericRecord::setId)
                                .tags(primaryPartitionKey()))
                        .addAttribute(String.class, a -> a.name("created_date")
                                .getter(GenericRecord::getCreatedDate)
                                .setter(GenericRecord::setCreatedDate))
                        .build();

        StaticTableSchema<Customer> CUSTOMER_SCHEMA =
                StaticTableSchema.builder(Customer.class)
                        .newItemSupplier(Customer::new)
                        .addAttribute(String.class, a -> a.name("name")
                                .getter(Customer::getName)
                                .setter(Customer::setName))
                       // Because we are flattening a component object, we supply a
getter and setter so the
                        // mapper knows how to access it.
                        .flatten(GENERIC_RECORD_SCHEMA, Customer::getRecord,
Customer::setRecord)
                        .build();
```

先ほどの静的スキーマの例では、次のデータクラスを使用しています。

データクラス

Standard data class

```
public class Customer {
    private String name;
    private GenericRecord record;

    public String getName() { return this.name; }
    public void setName(String name) { this.name = name; }

    public GenericRecord getRecord() { return this.record; }
    public void setRecord(GenericRecord record) { this.record = record; }

public class GenericRecord {
    private String id;
    private String createdDate;
```

```
    public String getId() { return this.id; }
    public void setId(String id) { this.id = id; }

    public String getCreatedDate() { return this.createdDate; }
    public void setCreatedDate(String createdDate) { this.createdDate =
 createdDate; }
}
```

Lombok

```
@Data
public class Customer {
    private String name;
    private GenericRecord record;
}

@Data
public class GenericRecord {
    private String id;
    private String createdDate;
}
```

ビルダーパターンを使用して、対象となるさまざまなクラスを必要なだけフラット化できます。

他のコードへの影響

@DynamoDbFlatten 属性 (または flatten( ) ビルダーメソッド) を使用する場合、DynamoDB の項目には、構成オブジェクトの各属性の属性が含まれます。また、構成オブジェクトの属性も含まれます。

これとは対照的に、データクラスに構成クラスの注釈を付け、@DynamoDbFlatten を使用しない場合、その項目は構成オブジェクトとともに単一の属性として保存されます。

たとえば、構成例によるフラット化で示された Customer クラスを、record 属性をフラット化する場合とフラット化しない場合で比較します。次の表に示すように、JSON との違いを視覚化できます。

フラット化あり	フラット化なし
3 つの属性	2 つの属性

フラット化あり	フラット化なし

<pre>{
  "id": "1",
  "createdDate": "today",
  "name": "my name"
}</pre>
	<pre>{
	  "id": "1",
	  "record": {
	  "createdDate": "today",
	  "name": "my name"
	  }
	}</pre>

他のコードが DynamoDB テーブルにアクセスしていて、特定の属性を見つけることを想定している場合には、この違いが重要になります。

Bean、Map、List、Set の属性を使用する

以下に示す `Person` クラスなどの Bean 定義は、追加の属性を持つ型を参照するプロパティ (または属性) を定義する場合があります。例えば、 `Person` クラスでは、 `mainAddress` は追加の値属性を定義する `Address` Bean を参照するプロパティです。`addresses` は Java Map を参照し、その要素は `Address` Bean を参照します。これらの複合型は、DynamoDB のコンテキストでデータ値に使用するシンプルな属性のコンテナと考えることができます。

DynamoDB は、マップ、リスト、Bean などのネストされた要素の値プロパティをネストされた属性として参照します。「Amazon DynamoDB デベロッパーガイド」では、Java Map、List、または Bean の保存形式をドキュメントタイプとして参照します。Java のデータ値に使用するシンプルな属性は、DynamoDB ではスカラー型と呼ばれます。Set は同じタイプの複数のスカラー要素を含み、セット型と呼ばれます。

DynamoDB 拡張クライアント API は、保存時に Bean であるプロパティを DynamoDB マップドキュメントタイプに変換することに注意してください。

`Person` クラス

```
@DynamoDbBean
public class Person {
    private Integer id;
    private String firstName;
    private String lastName;
    private Integer age;
    private Address mainAddress;
    private Map<String, Address> addresses;
```

```
    private List<PhoneNumber> phoneNumbers;
    private Set<String> hobbies;

    @DynamoDbPartitionKey
    public Integer getId() {
        return id;
    }

    public void setId(Integer id) {
        this.id = id;
    }

    public String getFirstName() {
        return firstName;
    }

    public void setFirstName(String firstName) {
        this.firstName = firstName;
    }

    public String getLastName() {
        return lastName;
    }

    public void setLastName(String lastName) {
        this.lastName = lastName;
    }

    public Integer getAge() {
        return age;
    }

    public void setAge(Integer age) {
        this.age = age;
    }

    public Address getMainAddress() {
        return mainAddress;
    }

    public void setMainAddress(Address mainAddress) {
        this.mainAddress = mainAddress;
    }
```

```
    public Map<String, Address> getAddresses() {
        return addresses;
    }

    public void setAddresses(Map<String, Address> addresses) {
        this.addresses = addresses;
    }

    public List<PhoneNumber> getPhoneNumbers() {
        return phoneNumbers;
    }

    public void setPhoneNumbers(List<PhoneNumber> phoneNumbers) {
        this.phoneNumbers = phoneNumbers;
    }

    public Set<String> getHobbies() {
        return hobbies;
    }

    public void setHobbies(Set<String> hobbies) {
        this.hobbies = hobbies;
    }

    @Override
    public String toString() {
        return "Person{" +
               "addresses=" + addresses +
               ", id=" + id +
               ", firstName='" + firstName + '\'' +
               ", lastName='" + lastName + '\'' +
               ", age=" + age +
               ", mainAddress=" + mainAddress +
               ", phoneNumbers=" + phoneNumbers +
               ", hobbies=" + hobbies +
               '}';
    }
}
```

`Address` クラス

```
@DynamoDbBean
public class Address {
```

```
    private String street;
    private String city;
    private String state;
    private String zipCode;

    public Address() {
    }

    public String getStreet() {
        return this.street;
    }

    public String getCity() {
        return this.city;
    }

    public String getState() {
        return this.state;
    }

    public String getZipCode() {
        return this.zipCode;
    }

    public void setStreet(String street) {
        this.street = street;
    }

    public void setCity(String city) {
        this.city = city;
    }

    public void setState(String state) {
        this.state = state;
    }

    public void setZipCode(String zipCode) {
        this.zipCode = zipCode;
    }

    @Override
    public boolean equals(Object o) {
        if (this == o) return true;
        if (o == null || getClass() != o.getClass()) return false;
```

```
        Address address = (Address) o;
        return Objects.equals(street, address.street) && Objects.equals(city,
 address.city) && Objects.equals(state, address.state) && Objects.equals(zipCode,
 address.zipCode);
    }

    @Override
    public int hashCode() {
        return Objects.hash(street, city, state, zipCode);
    }

    @Override
    public String toString() {
        return "Address{" +
                "street='" + street + '\'' +
                ", city='" + city + '\'' +
                ", state='" + state + '\'' +
                ", zipCode='" + zipCode + '\'' +
                '}';
    }
}
```

`PhoneNumber` クラス

```
@DynamoDbBean
public class PhoneNumber {
    String type;
    String number;

    public String getType() {
        return type;
    }

    public void setType(String type) {
        this.type = type;
    }

    public String getNumber() {
        return number;
    }

    public void setNumber(String number) {
        this.number = number;
```

```
    }

    @Override
    public String toString() {
        return "PhoneNumber{" +
                "type='" + type + '\'' +
                ", number='" + number + '\'' +
                '}';
    }
}
```

複合型を保存する

注釈付きデータクラスを使用する

カスタムクラスのネストされた属性は、注釈を付けるだけで保存できます。前に示した Address クラスと PhoneNumber クラスには、@DynamoDbBean 注釈のみの注釈が付けられています。DynamoDB Enhanced Client API が次のスニペットを使用して Person クラスのテーブルスキーマを構築すると、API はAddress および PhoneNumber クラスの使用を検出し、DynamoDB と動作する対応するマッピングを構築します。

```
TableSchema<Person> personTableSchema = TableSchema.fromBean(Person.class);
```

ビルダーで抽象スキーマを使用する

別の方法は、次のコードに示すように、ネストされた各 Bean クラスに静的テーブルスキーマビルダーを使用することです。

Address および PhoneNumber クラスのテーブルスキーマは、DynamoDB テーブルでは使用できないという意味で抽象的です。これは、プライマリキーの定義が不足しているためです。ただし、Person クラスのテーブルスキーマではネストされたスキーマとして使用されます。

PERSON_TABLE_SCHEMA の定義のコメント 1 行目と 2 行目の後に、抽象テーブルスキーマを使用するコードが表示されます。EnhanceType.documentOf(...) メソッド内で documentOf を使用しても、メソッドが拡張ドキュメント API の EnhancedDocument タイプを返すことを示すわけではありません。このコンテキストの documentOf(...) メソッドは、テーブルスキーマ引数を使用して DynamoDB テーブル属性との間でクラス引数をマッピングする方法を知っているオブジェクトを返します。

静的スキーマコード

```
   // Abstract table schema that cannot be used to work with a DynamoDB table,
   // but can be used as a nested schema.
   public static final TableSchema<Address> TABLE_SCHEMA_ADDRESS =
TableSchema.builder(Address.class)
       .newItemSupplier(Address::new)
       .addAttribute(String.class, a -> a.name("street")
           .getter(Address::getStreet)
           .setter(Address::setStreet))
       .addAttribute(String.class, a -> a.name("city")
           .getter(Address::getCity)
           .setter(Address::setCity))
       .addAttribute(String.class, a -> a.name("zipcode")
           .getter(Address::getZipCode)
           .setter(Address::setZipCode))
       .addAttribute(String.class, a -> a.name("state")
           .getter(Address::getState)
           .setter(Address::setState))
       .build();

   // Abstract table schema that cannot be used to work with a DynamoDB table,
   // but can be used as a nested schema.
   public static final TableSchema<PhoneNumber> TABLE_SCHEMA_PHONENUMBER =
TableSchema.builder(PhoneNumber.class)
       .newItemSupplier(PhoneNumber::new)
       .addAttribute(String.class, a -> a.name("type")
           .getter(PhoneNumber::getType)
           .setter(PhoneNumber::setType))
       .addAttribute(String.class, a -> a.name("number")
           .getter(PhoneNumber::getNumber)
           .setter(PhoneNumber::setNumber))
       .build();

   // A static table schema that can be used with a DynamoDB table.
   // The table schema contains two nested schemas that are used to perform mapping
to/from DynamoDB.
   public static final TableSchema<Person> PERSON_TABLE_SCHEMA =
       TableSchema.builder(Person.class)
           .newItemSupplier(Person::new)
           .addAttribute(Integer.class, a -> a.name("id")
               .getter(Person::getId)
               .setter(Person::setId)
               .addTag(StaticAttributeTags.primaryPartitionKey()))
```

```
            .addAttribute(String.class, a -> a.name("firstName")
                .getter(Person::getFirstName)
                .setter(Person::setFirstName))
            .addAttribute(String.class, a -> a.name("lastName")
                .getter(Person::getLastName)
                .setter(Person::setLastName))
            .addAttribute(Integer.class, a -> a.name("age")
                .getter(Person::getAge)
                .setter(Person::setAge))
            .addAttribute(EnhancedType.documentOf(Address.class, TABLE_SCHEMA_ADDRESS),
a -> a.name("mainAddress")
                .getter(Person::getMainAddress)
                .setter(Person::setMainAddress))
            .addAttribute(EnhancedType.listOf(String.class), a -> a.name("hobbies")
                .getter(Person::getHobbies)
                .setter(Person::setHobbies))
            .addAttribute(EnhancedType.mapOf(
                EnhancedType.of(String.class),
                // 1. Use mapping functionality of the Address table schema.
                EnhancedType.documentOf(Address.class, TABLE_SCHEMA_ADDRESS)), a ->
a.name("addresses")
                .getter(Person::getAddresses)
                .setter(Person::setAddresses))
            .addAttribute(EnhancedType.listOf(
                // 2. Use mapping functionality of the PhoneNumber table schema.
                EnhancedType.documentOf(PhoneNumber.class, TABLE_SCHEMA_PHONENUMBER)),
a -> a.name("phoneNumbers")
                .getter(Person::getPhoneNumbers)
                .setter(Person::setPhoneNumbers))
            .build();
```

複合型のプロジェクト属性

`query()` および `scan()` メソッドでは、`addNestedAttributeToProject()` や `attributesToProject()` などのメソッドの呼び出しを使用して、結果で返される属性を指定できます。DynamoDB 拡張クライアント API は、リクエストが送信される前に Java メソッド呼び出しパラメータをプロジェクション式に変換します。

次の例では、`Person` テーブルに 2 つの項目を設定し、3 回のスキャンオペレーションを実行します。

1 回目のスキャンでは、結果を他のスキャンオペレーションと比較するために、テーブル内のすべての項目にアクセスします。

2 回目のスキャンでは、addNestedAttributeToProject() ビルダーメソッドを使用して street 属性値のみを返します。

3 回目のスキャンオペレーションでは、attributesToProject() ビルダーメソッドを使用して第 1 レベルの属性のデータ、hobbies を返します。hobbies の属性タイプはリストです。個々のリスト項目にアクセスするには、リストに対して get() オペレーションを実行します。

```
        personDynamoDbTable = getDynamoDbEnhancedClient().table("Person",
PERSON_TABLE_SCHEMA);
        PersonUtils.createPersonTable(personDynamoDbTable, getDynamoDbClient());
        // Use a utility class to add items to the Person table.
        List<Person> personList = PersonUtils.getItemsForCount(2);
        // This utility method performs a put against DynamoDB to save the instances in
the list argument.
        PersonUtils.putCollection(getDynamoDbEnhancedClient(), personList,
personDynamoDbTable);

        // The first scan logs all items in the table to compare to the results of the
subsequent scans.
        final PageIterable<Person> allItems = personDynamoDbTable.scan();
        allItems.items().forEach(p ->
                // 1. Log what is in the table.
                logger.info(p.toString()));

        // Scan for nested attributes.
        PageIterable<Person> streetScanResult = personDynamoDbTable.scan(b -> b
                // Use the 'addNestedAttributeToProject()' or
'addNestedAttributesToProject()' to access data nested in maps in DynamoDB.
                .addNestedAttributeToProject(
                        NestedAttributeName.create("addresses", "work", "street")
                ));

        streetScanResult.items().forEach(p ->
                //2. Log the results of requesting nested attributes.
                logger.info(p.toString()));

        // Scan for a top-level list attribute.
        PageIterable<Person> hobbiesScanResult = personDynamoDbTable.scan(b -> b
                // Use the 'attributesToProject()' method to access first-level
attributes.
                .attributesToProject("hobbies"));

        hobbiesScanResult.items().forEach((p) -> {
```

```
            // 3. Log the results of the request for the 'hobbies' attribute.
            logger.info(p.toString());
            // To access an item in a list, first get the parent attribute, 'hobbies',
 then access items in the list.
            String hobby = p.getHobbies().get(1);
            // 4. Log an item in the list.
            logger.info(hobby);
        });
```

```
// Logged results from comment line 1.
Person{id=2, firstName='first name 2', lastName='last name 2', age=11,
 addresses={work=Address{street='street 21', city='city 21', state='state 21',
 zipCode='33333'}, home=Address{street='street 2', city='city 2', state='state 2',
 zipCode='22222'}}, phoneNumbers=[PhoneNumber{type='home', number='222-222-2222'},
 PhoneNumber{type='work', number='333-333-3333'}], hobbies=[hobby 2, hobby 21]}
Person{id=1, firstName='first name 1', lastName='last name 1', age=11,
 addresses={work=Address{street='street 11', city='city 11', state='state 11',
 zipCode='22222'}, home=Address{street='street 1', city='city 1', state='state 1',
 zipCode='11111'}}, phoneNumbers=[PhoneNumber{type='home', number='111-111-1111'},
 PhoneNumber{type='work', number='222-222-2222'}], hobbies=[hobby 1, hobby 11]}

// Logged results from comment line 2.
Person{id=null, firstName='null', lastName='null', age=null,
 addresses={work=Address{street='street 21', city='null', state='null',
 zipCode='null'}}, phoneNumbers=null, hobbies=null}
Person{id=null, firstName='null', lastName='null', age=null,
 addresses={work=Address{street='street 11', city='null', state='null',
 zipCode='null'}}, phoneNumbers=null, hobbies=null}

// Logged results from comment lines 3 and 4.
Person{id=null, firstName='null', lastName='null', age=null, addresses=null,
 phoneNumbers=null, hobbies=[hobby 2, hobby 21]}
hobby 21
Person{id=null, firstName='null', lastName='null', age=null, addresses=null,
 phoneNumbers=null, hobbies=[hobby 1, hobby 11]}
hobby 11
```

> **Note**
>
> その attributesToProject() メソッドが、プロジェクションする属性を追加する他のビルダーメソッドに続く場合は、attributesToProject() に渡された属性名のリストは他のすべての属性名を置き換えます。

次のスニペットで ScanEnhancedRequest のインスタンスで実行されたスキャンでは、ホビーデータのみが返されます。

```
ScanEnhancedRequest lastOverwrites = ScanEnhancedRequest.builder()
        .addNestedAttributeToProject(
                NestedAttributeName.create("addresses", "work", "street"))
        .addAttributeToProject("firstName")
        // If the 'attributesToProject()' method follows other builder methods
 that add attributes for projection,
        // its list of attributes replace all previous attributes.
        .attributesToProject("hobbies")
        .build();
PageIterable<Person> hobbiesOnlyResult =
 personDynamoDbTable.scan(lastOverwrites);
hobbiesOnlyResult.items().forEach(p ->
        logger.info(p.toString()));

// Logged results.
Person{id=null, firstName='null', lastName='null', age=null, addresses=null,
 phoneNumbers=null, hobbies=[hobby 2, hobby 21]}
Person{id=null, firstName='null', lastName='null', age=null, addresses=null,
 phoneNumbers=null, hobbies=[hobby 1, hobby 11]}
```

以下のコード例では、最初に attributesToProject() メソッドを使用します。この順序付けでは、要求された他のすべての属性が保持されます。

```
ScanEnhancedRequest attributesPreserved = ScanEnhancedRequest.builder()
        // Use 'attributesToProject()' first so that the method call does not
 replace all other attributes
        // that you want to project.
        .attributesToProject("firstName")
        .addNestedAttributeToProject(
                NestedAttributeName.create("addresses", "work", "street"))
        .addAttributeToProject("hobbies")
        .build();
PageIterable<Person> allAttributesResult =
 personDynamoDbTable.scan(attributesPreserved);
allAttributesResult.items().forEach(p ->
        logger.info(p.toString()));

// Logged results.
```

```
Person{id=null, firstName='first name 2', lastName='null', age=null,
 addresses={work=Address{street='street 21', city='null', state='null',
 zipCode='null'}}, phoneNumbers=null, hobbies=[hobby 2, hobby 21]}
Person{id=null, firstName='first name 1', lastName='null', age=null,
 addresses={work=Address{street='street 11', city='null', state='null',
 zipCode='null'}}, phoneNumbers=null, hobbies=[hobby 1, hobby 11]}
```

式で複合型を使用する

フィルター式や条件式などの式で複合型を使用するには、参照解除演算子を使用して複合型の構造をたどります。Object と Map の場合は `.`（dot）を使用し、List 要素の場合は [n] (要素のシーケンス番号を囲む角括弧) を使用します。Set の個々の要素を参照することはできませんが、 contains 関数を使用できます。

次の例は、スキャンオペレーションで使用される 2 つのフィルター式を示しています。フィルター式は、結果に含める項目の一致条件を指定します。次の例では、前に示した Person、Address、および PhoneNumber クラスを使用しています。

```
   public void scanUsingFilterOfNestedAttr() {
       // The following is a filter expression for an attribute that is a map of
Address objects.
       // By using this filter expression, the SDK returns Person objects that have an
address
       // with 'mailing' as a key and 'MS2' for a state value.
       Expression addressFilter = Expression.builder()
               .expression("addresses.#type.#field = :value")
               .putExpressionName("#type", "mailing")
               .putExpressionName("#field", "state")
               .putExpressionValue(":value",
AttributeValue.builder().s("MS2").build())
               .build();

       PageIterable<Person> addressFilterResults = personDynamoDbTable.scan(rb -> rb.
               filterExpression(addressFilter));
       addressFilterResults.items().stream().forEach(p -> logger.info("Person: {}",
p));

       assert addressFilterResults.items().stream().count() == 1;
```

```
        // The following is a filter expression for an attribute that is a list of
phone numbers.
        // By using this filter expression, the SDK returns Person objects whose second
phone number
        // in the list has a type equal to 'cell'.
        Expression phoneFilter = Expression.builder()
                .expression("phoneNumbers[1].#type = :type")
                .putExpressionName("#type", "type")
                .putExpressionValue(":type",
AttributeValue.builder().s("cell").build())
                .build();

        PageIterable<Person> phoneFilterResults = personDynamoDbTable.scan(rb -> rb
                .filterExpression(phoneFilter)
                .attributesToProject("id", "firstName", "lastName", "phoneNumbers")
        );

        phoneFilterResults.items().stream().forEach(p -> logger.info("Person: {}", p));

        assert phoneFilterResults.items().stream().count() == 1;
        assert
phoneFilterResults.items().stream().findFirst().get().getPhoneNumbers().get(1).getType().equal
    }
```

テーブルに入力されるヘルパーメソッド

```
    public static void populateDatabase() {
        Person person1 = new Person();
        person1.setId(1);
        person1.setFirstName("FirstName1");
        person1.setLastName("LastName1");

        Address billingAddr1 = new Address();
        billingAddr1.setState("BS1");
        billingAddr1.setCity("BillingTown1");

        Address mailing1 = new Address();
        mailing1.setState("MS1");
        mailing1.setCity("MailingTown1");

        person1.setAddresses(Map.of("billing", billingAddr1, "mailing", mailing1));

        PhoneNumber pn1_1 = new PhoneNumber();
```

```
        pn1_1.setType("work");
        pn1_1.setNumber("111-111-1111");

        PhoneNumber pn1_2 = new PhoneNumber();
        pn1_2.setType("home");
        pn1_2.setNumber("222-222-2222");

        List<PhoneNumber> phoneNumbers1 = List.of(pn1_1, pn1_2);
        person1.setPhoneNumbers(phoneNumbers1);

        personDynamoDbTable.putItem(person1);

        Person person2 = person1;
        person2.setId(2);
        person2.setFirstName("FirstName2");
        person2.setLastName("LastName2");

        Address billingAddress2 = billingAddr1;
        billingAddress2.setCity("BillingTown2");
        billingAddress2.setState("BS2");

        Address mailing2 = mailing1;
        mailing2.setCity("MailingTown2");
        mailing2.setState("MS2");

        person2.setAddresses(Map.of("billing", billingAddress2, "mailing", mailing2));

        PhoneNumber pn2_1 = new PhoneNumber();
        pn2_1.setType("work");
        pn2_1.setNumber("333-333-3333");

        PhoneNumber pn2_2 = new PhoneNumber();
        pn2_2.setType("cell");
        pn2_2.setNumber("444-444-4444");

        List<PhoneNumber> phoneNumbers2 = List.of(pn2_1, pn2_2);
        person2.setPhoneNumbers(phoneNumbers2);

        personDynamoDbTable.putItem(person2);
    }
```

データベース内の項目の JSON 表現

```
{
 "id": 1,
 "addresses": {
  "billing": {
   "city": "BillingTown1",
   "state": "BS1",
   "street": null,
   "zipCode": null
  },
  "mailing": {
   "city": "MailingTown1",
   "state": "MS1",
   "street": null,
   "zipCode": null
  }
 },
 "firstName": "FirstName1",
 "lastName": "LastName1",
 "phoneNumbers": [
  {
   "number": "111-111-1111",
   "type": "work"
  },
  {
   "number": "222-222-2222",
   "type": "home"
  }
 ]
}

{
 "id": 2,
 "addresses": {
  "billing": {
   "city": "BillingTown2",
   "state": "BS2",
   "street": null,
   "zipCode": null
  },
  "mailing": {
   "city": "MailingTown2",
   "state": "MS2",
```

```
    "street": null,
    "zipCode": null
   }
  },
  "firstName": "FirstName2",
  "lastName": "LastName2",
  "phoneNumbers": [
   {
    "number": "333-333-3333",
    "type": "work"
   },
   {
    "number": "444-444-4444",
    "type": "cell"
   }
  ]
}
```

複合型を含む項目の更新

複合型を含む項目を更新するには、2 つの基本的なアプローチがあります。

- アプローチ 1: まず項目を取得し (getItem を使用)、オブジェクトを更新してから、DynamoDbTable#updateItem を呼び出します。
- アプローチ 2: 項目を取得せずに新しいインスタンスを作成し、更新するプロパティを設定し、適切な値の IgnoreNullsMode を設定してインスタンスを DynamoDbTable#updateItem に送信します。このアプローチでは、更新する前に項目を取得する必要はありません。

このセクションに示す例では、前に示した Person、Address、および PhoneNumber クラスを使用します。

更新アプローチ 1: 取得してから更新する

このアプローチを使用することで、更新時にデータが失われないようにします。DynamoDB 拡張クライアント API は、DynamoDB に保存された項目の属性を使用して、複合型の値を含めて Bean を再作成します。次に、ゲッターとセッターを使用して Bean を更新する必要があります。このアプローチの欠点は、最初に項目を取得する際に発生するコストです。

次の例は、更新する前に項目を最初に取得してもデータが失われないことを示しています。

```
    public void retrieveThenUpdateExample()  {
```

```
        // Assume that we ran this code yesterday.
        Person person = new Person();
        person.setId(1);
        person.setFirstName("FirstName");
        person.setLastName("LastName");

        Address mainAddress = new Address();
        mainAddress.setStreet("123 MyStreet");
        mainAddress.setCity("MyCity");
        mainAddress.setState("MyState");
        mainAddress.setZipCode("MyZipCode");
        person.setMainAddress(mainAddress);

        PhoneNumber homePhone = new PhoneNumber();
        homePhone.setNumber("1111111");
        homePhone.setType("HOME");
        person.setPhoneNumbers(List.of(homePhone));

        personDynamoDbTable.putItem(person);

        // Assume that we are running this code now.
        // First, retrieve the item
        Person retrievedPerson =
personDynamoDbTable.getItem(Key.builder().partitionValue(1).build());

        // Make any updates.
        retrievedPerson.getMainAddress().setCity("YourCity");

        // Save the updated bean. 'updateItem' returns the bean as it appears after the
update.
        Person updatedPerson = personDynamoDbTable.updateItem(retrievedPerson);

        // Verify for this example.
        Address updatedMainAddress = updatedPerson.getMainAddress();
        assert updatedMainAddress.getCity().equals("YourCity");
        assert updatedMainAddress.getState().equals("MyState"); // Unchanged.
        // The list of phone numbers remains; it was not set to null;
        assert updatedPerson.getPhoneNumbers().size() == 1;
    }
```

更新アプローチ 2: 最初に項目を取得せずに **IgnoreNullsMode** 列挙型を使用する

DynamoDB で項目を更新するには、更新するプロパティのみを持つ新しいオブジェクトを指定し、他の値を null のままにします。このアプローチでは、オブジェクトの null 値が SDK によってどのように処理されるかと、動作を制御する方法に注意する必要があります。

SDK で無視する null 値のプロパティを指定するには、`UpdateItemEnhancedRequest` を構築するときに `IgnoreNullsMode` 列挙型を指定します。列挙値のいずれかを使用する例として、次のスニペットは `IgnoreNullsMode.SCALAR_ONLY` モードを使用します。

```
// Create a new Person object to update the existing item in DynamoDB.
Person personForUpdate = new Person();
personForUpdate.setId(1);
personForUpdate.setFirstName("updatedFirstName");  // 'firstName' is a top scalar
 property.

Address addressForUpdate = new Address();
addressForUpdate.setCity("updatedCity");
personForUpdate.setMainAddress(addressForUpdate);

personDynamoDbTable.updateItem(r -> r
                .item(personForUpdate)
                .ignoreNullsMode(IgnoreNullsMode.SCALAR_ONLY));

/* With IgnoreNullsMode.SCALAR_ONLY provided, The SDK ignores all null properties. The
 SDK adds or replaces
the 'firstName' property with the provided value, "updatedFirstName". The SDK updates
 the 'city' value of
'mainAddress', as long as the 'mainAddress' attribute already exists in DynamoDB.

In the background, the SDK generates an update expression that it sends in the request
 to DynamoDB.
The following JSON object is a simplified version of what it sends. Notice that the SDK
 includes the paths
to 'mainAddress.city' and 'firstName' in the SET clause of the update expression. No
 null values in
'personForUpdate' are included.

{
  "TableName": "PersonTable",
  "Key": {
    "id": {
      "N": "1"
```

```
    }
  },
  "ReturnValues": "ALL_NEW",
  "UpdateExpression": "SET #mainAddress.#city = :mainAddress_city, #firstName
 = :firstName",
  "ExpressionAttributeNames": {
    "#city": "city",
    "#firstName": "firstName",
    "#mainAddress": "mainAddress"
  },
  "ExpressionAttributeValues": {
    ":firstName": {
      "S": "updatedFirstName"
    },
    ":mainAddress_city": {
      "S": "updatedCity"
    }
  }
}

Had we chosen 'IgnoreNullsMode.DEFAULT' instead of 'IgnoreNullsMode.SCALAR_ONLY', the
 SDK would have included
null values in the "ExpressionAttributeValues" section of the request as shown in the
 following snippet.

  "ExpressionAttributeValues": {
    ":mainAddress": {
      "M": {
        "zipCode": {
          "NULL": true
        },
        "city": {
          "S": "updatedCity"
        },
        "street": {
          "NULL": true
        },
        "state": {
          "NULL": true
        }
      }
    },
    ":firstName": {
      "S": "updatedFirstName"
```

```
    }
  }
*/
```

更新式の詳細については、「Amazon DynamoDB デベロッパーガイド」を参照してください。

`IgnoreNullsMode` オプションの説明

- `IgnoreNullsMode.SCALAR_ONLY` - この設定を使用して、任意のレベルでスカラー属性を更新します。SDK は、null 以外のスカラー属性のみを DynamoDB に送信する更新ステートメントを作成します。SDK は、Bean または Map の null 値のスカラー属性を無視し、DynamoDB に保存された値を保持します。

  Map または Bean のスカラー属性を更新する場合、Map は DynamoDB に既に存在している必要があります。DynamoDB のオブジェクトにまだ存在しないオブジェクトに Map または Bean を追加すると、「更新式で指定されたドキュメントパスが更新に対して無効です」というメッセージと `DynamoDbException` が表示されます。属性を更新する前に、 `MAPS_ONLY` モードを使用して DynamoDB に Bean または Map を追加する必要があります。
- `IgnoreNullsMode.MAPS_ONLY` - この設定を使用して、 Bean または Map プロパティを追加または置き換えます。SDK は、オブジェクトで提供される Map または Bean を置き換えるか、追加します。オブジェクト内の null の Bean または Map は無視され、DynamoDB に存在する Map が保持されます。
- `IgnoreNullsMode.DEFAULT` - この設定では、SDK が null 値を無視することはありません。すべてのレベルの null のスカラー属性は、null に更新されます。SDK は、オブジェクト内の null 値の Bean、Map、List、または Set プロパティを DynamoDB で null に更新します。このモードを使用する場合、またはデフォルトモードであるためモードを指定しない場合、更新用のオブジェクトで提供されている値が DynamoDB で null に設定されないように、まず項目を取得する必要があります。ただし、値を null に設定することが意図されている場合は除きます。

すべてのモードで、null 以外の List または Set を持つオブジェクトを `updateItem` に提供すると、List または Set は DynamoDB に保存されます。

モードを使用する理由

Bean または Map のあるオブジェクトを `updateItem` メソッドに渡すと、SDK は Bean のプロパティ値 (または Map 内のエントリ値) を使用して項目を更新するか、または Bean/Map 全体で DynamoDB に保存されたものを置き換える必要があるかを認識できません。

最初に項目を取得することを示した前の例から、取得なしで mainAddress の city 属性を更新してみましょう。

```
/* The retrieval example saved the Person object with a 'mainAddress' property whose
 'city' property value is "MyCity".
/* Note that we create a new Person with only the necessary information to update the
 city value
of the mainAddress. */
Person personForUpdate = new Person();
personForUpdate.setId(1);
// The update we want to make changes the city.
Address mainAddressForUpdate = new Address();
mainAddressForUpdate.setCity("YourCity");
personForUpdate.setMainAddress(mainAddressForUpdate);

// Lets' try the following:
Person updatedPerson = personDynamoDbTable.updateItem(personForUpdate);
/*
 Since we haven't retrieved the item, we don't know if the 'mainAddress' property
 already exists, so what update expression should the SDK generate?

A) Should it replace or add the 'mainAddress' with the provided object (setting all
 attributes to null other than city)
   as shown in the following simplified JSON?

      {
        "TableName": "PersonTable",
        "Key": {
          "id": {
            "N": "1"
          }
        },
        "ReturnValues": "ALL_NEW",
        "UpdateExpression": "SET #mainAddress = :mainAddress",
        "ExpressionAttributeNames": {
          "#mainAddress": "mainAddress"
        },
        "ExpressionAttributeValues": {
          ":mainAddress": {
            "M": {
              "zipCode": {
                "NULL": true
              },
```

```
              "city": {
                "S": "YourCity"
              },
              "street": {
                "NULL": true
              },
              "state": {
                "NULL": true
              }
            }
          }
        }
      }

B) Or should it update only the 'city' attribute of an existing 'mainAddress' as shown
 in the following simplified JSON?

      {
        "TableName": "PersonTable",
        "Key": {
          "id": {
            "N": "1"
          }
        },
        "ReturnValues": "ALL_NEW",
        "UpdateExpression": "SET #mainAddress.#city = :mainAddress_city",
        "ExpressionAttributeNames": {
          "#city": "city",
          "#mainAddress": "mainAddress"
        },
        "ExpressionAttributeValues": {
          ":mainAddress_city": {
            "S": "YourCity"
          }
        }
      }

However, assume that we don't know if the 'mainAddress' already exists. If it doesn't
 exist, the SDK would try to update
an attribute of a non-existent map, which results in an exception.

In this particular case, we would likely select option B (SCALAR_ONLY) to retain the
 other values of the 'mainAddress'.
```

```
*/
```

次の 2 つの例は、MAPS_ONLY と SCALAR_ONLY の列挙値の使用を示しています。MAPS_ONLY は Map を追加し、SCALAR_ONLY は Map を更新します。

IgnoreNullsMode.MAPS_ONLY の例

```
    public void mapsOnlyModeExample() {
        // Assume that we ran this code yesterday.
        Person person = new Person();
        person.setId(1);
        person.setFirstName("FirstName");

        personDynamoDbTable.putItem(person);

        // Assume that we are running this code now.

        /* Note that we create a new Person with only the necessary information to
update the city value
        of the mainAddress. */
        Person personForUpdate = new Person();
        personForUpdate.setId(1);
        // The update we want to make changes the city.
        Address mainAddressForUpdate = new Address();
        mainAddressForUpdate.setCity("YourCity");
        personForUpdate.setMainAddress(mainAddressForUpdate);


        Person updatedPerson = personDynamoDbTable.updateItem(r -> r
                .item(personForUpdate)
                .ignoreNullsMode(IgnoreNullsMode.MAPS_ONLY)); // Since the mainAddress
property does not exist, use MAPS_ONLY mode.
        assert updatedPerson.getMainAddress().getCity().equals("YourCity");
        assert updatedPerson.getMainAddress().getState() == null;
    }
```

IgnoreNullsMode.SCALAR_ONLY example

```
    public void scalarOnlyExample() {
        // Assume that we ran this code yesterday.
        Person person = new Person();
        person.setId(1);
        Address mainAddress = new Address();
```

```
        mainAddress.setCity("MyCity");
        mainAddress.setState("MyState");
        person.setMainAddress(mainAddress);

        personDynamoDbTable.putItem(person);

        // Assume that we are running this code now.

        /* Note that we create a new Person with only the necessary information to
update the city value
        of the mainAddress. */
        Person personForUpdate = new Person();
        personForUpdate.setId(1);
        // The update we want to make changes the city.
        Address mainAddressForUpdate = new Address();
        mainAddressForUpdate.setCity("YourCity");
        personForUpdate.setMainAddress(mainAddressForUpdate);

        Person updatedPerson = personDynamoDbTable.updateItem(r -> r
                .item(personForUpdate)
                .ignoreNullsMode(IgnoreNullsMode.SCALAR_ONLY)); // SCALAR_ONLY mode
ignores null properties in the in mainAddress.
        assert updatedPerson.getMainAddress().getCity().equals("YourCity");
        assert updatedPerson.getMainAddress().getState().equals("MyState"); // The
state property remains the same.
    }
```

モードごとに無視される null 値を確認するには、次の表を参照してください。Bean や Map を使用する場合を除き、多くの場合は SCALAR_ONLY と MAPS_ONLY のいずれかを使用できます。

各モードで、 **updateItem** に渡されたオブジェクト内のどの null 値プロパティが SDK によって無視されますか?

プロパティの型	SCALAR_ONLY モードの場合	MAPS_ONLY モードの場合	DEFAULT モードの場合
上位スカラー	はい	あり	なし
Bean または Map	はい	あり	なし
Bean または Map エントリのスカラー値	あり [1]	なし[2]	いいえ

プロパティの型	SCALAR_ONLY モードの場合	MAPS_ONLY モードの場合	DEFAULT モードの場合
List または Set	はい	あり	なし

[1]これは、Map が既に DynamoDB に存在することを前提としています。更新のためにオブジェクトで指定した Bean または Map のスカラー値 (null または null 以外) には、値へのパスが DynamoDB に存在する必要があります。SDK は、リクエストを送信する前に `.` (dot) 参照解除演算子を使用して、属性へのパスを作成します。

[2]`MAPS_ONLY` モードを使用して Bean または Map を完全に置き換えたり追加したりするため、Bean または Map 内のすべての null 値は DynamoDB に保存された Map に保持されます。

`@DynamoDbPreserveEmptyObject` で空のオブジェクトを保存します。

空のオブジェクトを含む Bean を Amazon DynamoDB に保存し、取得時に SDK に空のオブジェクトを再作成させたい場合は、内部 Bean のゲッターに `@DynamoDbPreserveEmptyObject` の注釈を付けます。

注釈の仕組みを説明するために、コード例では次の 2 つの bean を使用しています。

例: Bean

次のデータクラスには 2 つの `InnerBean` フィールドがあります。getter メソッド、`getInnerBeanWithoutAnno()` には `@DynamoDbPreserveEmptyObject` という注釈が付いていません。`getInnerBeanWithAnno()` メソッドには注釈が付けられています。

```
@DynamoDbBean
public class MyBean {

    private String id;
    private String name;
    private InnerBean innerBeanWithoutAnno;
    private InnerBean innerBeanWithAnno;

    @DynamoDbPartitionKey
    public String getId() { return id; }
    public void setId(String id) { this.id = id; }

    public String getName() { return name; }
```

```
    public void setName(String name) { this.name = name; }

    public InnerBean getInnerBeanWithoutAnno() { return innerBeanWithoutAnno; }
    public void setInnerBeanWithoutAnno(InnerBean innerBeanWithoutAnno)
 { this.innerBeanWithoutAnno = innerBeanWithoutAnno; }

    @DynamoDbPreserveEmptyObject
    public InnerBean getInnerBeanWithAnno() { return innerBeanWithAnno; }
    public void setInnerBeanWithAnno(InnerBean innerBeanWithAnno)
 { this.innerBeanWithAnno = innerBeanWithAnno; }

    @Override
    public String toString() {
        return new StringJoiner(", ", MyBean.class.getSimpleName() + "[", "]")
                .add("innerBeanWithoutAnno=" + innerBeanWithoutAnno)
                .add("innerBeanWithAnno=" + innerBeanWithAnno)
                .add("id='" + id + "'")
                .add("name='" + name + "'")
                .toString();
    }
}
```

以下の InnerBean クラスのインスタンスはMyBean フィールドであり、サンプルコードで空のオブジェクトとして初期化されます。

```
@DynamoDbBean
public class InnerBean {

    private String innerBeanField;

    public String getInnerBeanField() {
        return innerBeanField;
    }

    public void setInnerBeanField(String innerBeanField) {
        this.innerBeanField = innerBeanField;
    }

    @Override
    public String toString() {
        return "InnerBean{" +
                "innerBeanField='" + innerBeanField + '\'' +
                '}';
```

```
    }
}
```

次のコード例では、初期化された内部 Bean を含む MyBean オブジェクトを DynamoDB に保存し、その項目を取得します。ログ出力には、innerBeanWithoutAnno は初期化されておらず、innerBeanWithAnno が作成されたことが示されています。

```
   public MyBean preserveEmptyObjectAnnoUsingGetItemExample(DynamoDbTable<MyBean>
myBeanTable) {
       // Save an item to DynamoDB.
       MyBean bean = new MyBean();
       bean.setId("1");
       bean.setInnerBeanWithoutAnno(new InnerBean());   // Instantiate the inner bean.
       bean.setInnerBeanWithAnno(new InnerBean());      // Instantiate the inner bean.
       myBeanTable.putItem(bean);

       GetItemEnhancedRequest request = GetItemEnhancedRequest.builder()
               .key(Key.builder().partitionValue("1").build())
               .build();
       MyBean myBean = myBeanTable.getItem(request);

       logger.info(myBean.toString());
       // Output 'MyBean[innerBeanWithoutAnno=null,
innerBeanWithAnno=InnerBean{innerBeanField='null'}, id='1', name='null']'.

       return myBean;
   }
```

代わりの静的スキーマ

Bean の注釈の代わりに、以下の StaticTableSchema バージョンのテーブルスキーマを使用できます。

```
    public static TableSchema<MyBean> buildStaticSchemas() {

        StaticTableSchema<InnerBean> innerBeanStaticTableSchema =
                StaticTableSchema.builder(InnerBean.class)
                        .newItemSupplier(InnerBean::new)
                        .addAttribute(String.class, a -> a.name("innerBeanField")
                                .getter(InnerBean::getInnerBeanField)
                                .setter(InnerBean::setInnerBeanField))
                        .build();
```

```
        return StaticTableSchema.builder(MyBean.class)
                .newItemSupplier(MyBean::new)
                .addAttribute(String.class, a -> a.name("id")
                        .getter(MyBean::getId)
                        .setter(MyBean::setId)
                        .addTag(primaryPartitionKey()))
                .addAttribute(String.class, a -> a.name("name")
                        .getter(MyBean::getName)
                        .setter(MyBean::setName))
                .addAttribute(EnhancedType.documentOf(InnerBean.class,
                                innerBeanStaticTableSchema),
                        a -> a.name("innerBean1")
                                .getter(MyBean::getInnerBeanWithoutAnno)
                                .setter(MyBean::setInnerBeanWithoutAnno))
                .addAttribute(EnhancedType.documentOf(InnerBean.class,
                                innerBeanStaticTableSchema,
                                b -> b.preserveEmptyObject(true)),
                        a -> a.name("innerBean2")
                                .getter(MyBean::getInnerBeanWithAnno)
                                .setter(MyBean::setInnerBeanWithAnno))
                .build();
    }
```

ネストされたオブジェクトの NULL 属性の保存を避ける

@DynamoDbIgnoreNulls 注釈を適用することで、データクラスオブジェクトを DynamoDB に保存するときに、ネストされたオブジェクトの null 属性をスキップできます。これとは対照的に、NULL 値を持つ最上位の属性はデータベースに保存されません。

注釈の仕組みを説明するために、コード例では次の 2 つの Bean を使用しています。

例: Bean

次のデータクラスには 2 つの InnerBean フィールドがあります。getter メソッド、getInnerBeanWithoutAnno() には注釈が付けられていません。getInnerBeanWithIgnoreNullsAnno() メソッドには @DynamoDbIgnoreNulls という注釈が付けられています。

```
@DynamoDbBean
public class MyBean {
```

```
    private String id;
    private String name;
    private InnerBean innerBeanWithoutAnno;
    private InnerBean innerBeanWithIgnoreNullsAnno;

    @DynamoDbPartitionKey
    public String getId() { return id; }
    public void setId(String id) { this.id = id; }

    public String getName() { return name; }
    public void setName(String name) { this.name = name; }

    public InnerBean getInnerBeanWithoutAnno() { return innerBeanWithoutAnno; }
    public void setInnerBeanWithoutAnno(InnerBean innerBeanWithoutAnno)
 { this.innerBeanWithoutAnno = innerBeanWithoutAnno; }

    @DynamoDbIgnoreNulls
    public InnerBean getInnerBeanWithIgnoreNullsAnno() { return
 innerBeanWithIgnoreNullsAnno; }
    public void setInnerBeanWithIgnoreNullsAnno(InnerBean innerBeanWithAnno)
 { this.innerBeanWithIgnoreNullsAnno = innerBeanWithAnno; }

    @Override
    public String toString() {
        return new StringJoiner(", ", MyBean.class.getSimpleName() + "[", "]")
                .add("innerBeanWithoutAnno=" + innerBeanWithoutAnno)
                .add("innerBeanWithIgnoreNullsAnno=" + innerBeanWithIgnoreNullsAnno)
                .add("id='" + id + "'")
                .add("name='" + name + "'")
                .toString();
    }
}
```

次の InnerBean クラスのインスタンスは MyBean のフィールドであり、次のコード例で使用されています。

```
@DynamoDbBean
public class InnerBean {

    private String innerBeanFieldString;
    private Integer innerBeanFieldInteger;

    public String getInnerBeanFieldString() { return innerBeanFieldString; }
```

```
    public void setInnerBeanFieldString(String innerBeanFieldString)
 { this.innerBeanFieldString = innerBeanFieldString; }

    public Integer getInnerBeanFieldInteger() { return innerBeanFieldInteger; }
    public void setInnerBeanFieldInteger(Integer innerBeanFieldInteger)
 { this.innerBeanFieldInteger = innerBeanFieldInteger; }

    @Override
    public String toString() {
        return new StringJoiner(", ", InnerBean.class.getSimpleName() + "[", "]")
                .add("innerBeanFieldString='" + innerBeanFieldString + "'")
                .add("innerBeanFieldInteger=" + innerBeanFieldInteger)
                .toString();
    }
}
```

次のコード例では、InnerBean オブジェクトを作成し、その 2 つの属性のうち 1 つだけに値を設定します。

```
    public void ignoreNullsAnnoUsingPutItemExample(DynamoDbTable<MyBean> myBeanTable) {
        // Create an InnerBean object and give only one attribute a value.
        InnerBean innerBeanOneAttributeSet = new InnerBean();
        innerBeanOneAttributeSet.setInnerBeanFieldInteger(200);

        // Create a MyBean instance and use the same InnerBean instance both for
 attributes.
        MyBean bean = new MyBean();
        bean.setId("1");
        bean.setInnerBeanWithoutAnno(innerBeanOneAttributeSet);
        bean.setInnerBeanWithIgnoreNullsAnno(innerBeanOneAttributeSet);

        Map<String, AttributeValue> itemMap = myBeanTable.tableSchema().itemToMap(bean,
 true);
        logger.info(itemMap.toString());
        // Log the map that is sent to the database.
        //
 {innerBeanWithIgnoreNullsAnno=AttributeValue(M={innerBeanFieldInteger=AttributeValue(N=200)}),
 id=AttributeValue(S=1),
 innerBeanWithoutAnno=AttributeValue(M={innerBeanFieldInteger=AttributeValue(N=200),
 innerBeanFieldString=AttributeValue(NUL=true)})}

        // Save the MyBean object to the table.
        myBeanTable.putItem(bean);
```

```
    }
```

DynamoDB に送信される低レベルのデータを視覚化するために、コードは MyBean オブジェクトを保存する前に属性マップをログ記録します。

ログ記録された出力を見ると、innerBeanWithIgnoreNullsAnno が 1 つの属性を出力していることが分かります。

```
innerBeanWithIgnoreNullsAnno=AttributeValue(M={innerBeanFieldInteger=AttributeValue(N=200)})
```

innerBeanWithoutAnno インスタンスは 2 つの属性を出力します。1 つの属性の値は 200 で、もう 1 つは NULL 値の属性です。

```
innerBeanWithoutAnno=AttributeValue(M={innerBeanFieldInteger=AttributeValue(N=200),
 innerBeanFieldString=AttributeValue(NUL=true)})
```

属性マップの JSON 表現

次の JSON 表現を使用すると、DynamoDB に保存されたデータを簡単に確認できます。

```
{
  "id": {
    "S": "1"
  },
  "innerBeanWithIgnoreNullsAnno": {
    "M": {
      "innerBeanFieldInteger": {
        "N": "200"
      }
    }
  },
  "innerBeanWithoutAnno": {
    "M": {
      "innerBeanFieldInteger": {
        "N": "200"
      },
      "innerBeanFieldString": {
        "NULL": true
      }
    }
  }
```

```
}
```

代わりの静的スキーマ

次の StaticTableSchema バージョンのテーブルスキーマをデータクラス注釈の代わりに使用できます。

```
public static TableSchema<MyBean> buildStaticSchemas() {

    StaticTableSchema<InnerBean> innerBeanStaticTableSchema =
        StaticTableSchema.builder(InnerBean.class)
            .newItemSupplier(InnerBean::new)
            .addAttribute(String.class, a -> a.name("innerBeanFieldString")
                .getter(InnerBean::getInnerBeanFieldString)
                .setter(InnerBean::setInnerBeanFieldString))
            .addAttribute(Integer.class, a -> a.name("innerBeanFieldInteger")
                .getter(InnerBean::getInnerBeanFieldInteger)
                .setter(InnerBean::setInnerBeanFieldInteger))
            .build();

    return StaticTableSchema.builder(MyBean.class)
        .newItemSupplier(MyBean::new)
        .addAttribute(String.class, a -> a.name("id")
            .getter(MyBean::getId)
            .setter(MyBean::setId)
            .addTag(primaryPartitionKey()))
        .addAttribute(String.class, a -> a.name("name")
            .getter(MyBean::getName)
            .setter(MyBean::setName))
        .addAttribute(EnhancedType.documentOf(InnerBean.class,
                innerBeanStaticTableSchema),
            a -> a.name("innerBeanWithoutAnno")
                .getter(MyBean::getInnerBeanWithoutAnno)
                .setter(MyBean::setInnerBeanWithoutAnno))
        .addAttribute(EnhancedType.documentOf(InnerBean.class,
                innerBeanStaticTableSchema,
                b -> b.ignoreNulls(true)),
            a -> a.name("innerBeanWithIgnoreNullsAnno")
                .getter(MyBean::getInnerBeanWithIgnoreNullsAnno)
                .setter(MyBean::setInnerBeanWithIgnoreNullsAnno))
        .build();
}
```

DynamoDB 用の拡張ドキュメント API を使用して JSON ドキュメントを操作する

の拡張ドキュメント API AWS SDK for Java 2.x は、固定スキーマを持たないドキュメント指向のデータで動作するように設計されています。ただし、カスタムクラスを使用して個々の属性をマップすることもできます。

拡張ドキュメント API は、v1.x のドキュメント API AWS SDK for Java の後継です。

目次

- 拡張ドキュメント API の使用を開始する
  - DocumentTableSchema および DynamoDbTable を作成する
- 拡張ドキュメントを構築する
  - JSON 文字列から構築する
  - 個々の要素から構築する
- CRUD オペレーションを実行する
- 拡張ドキュメント属性にはカスタムオブジェクトとしてアクセスできます。
- DynamoDB を使用せずに EnhancedDocument を使用する

拡張ドキュメント API の使用を開始する

拡張ドキュメント API には、DynamoDB 拡張クライアント API に必要なものと同じ依存関係が必要です。また、このトピックの冒頭で示したように、`DynamoDbEnhancedClient` インスタンスも必要です。

Enhanced Document API は のバージョン 2.20.3 でリリースされたため AWS SDK for Java 2.x、そのバージョン以降が必要です。

`DocumentTableSchema` および `DynamoDbTable` を作成する

拡張ドキュメント API を使用して DynamoDB テーブルに対してコマンドを呼び出すには、テーブルをクライアント側の DynamoDbTable<EnhancedDocument> リソースオブジェクトに関連付けます。

拡張クライアントの `table()` メソッドは `DynamoDbTable<EnhancedDocument>` インスタンスを作成し、DynamoDB テーブル名と `DocumentTableSchema` のパラメータを必要とします。

DocumentTableSchema のビルダーには、プライマリインデックスキーと 1 つ以上の属性コンバータープロバイダーが必要です。この `AttributeConverterProvider.defaultProvider()` メ

ソッドはデフォルトタイプのコンバーターを提供します。カスタム属性コンバータープロバイダーを提供する場合でも、指定する必要があります。オプションのセカンダリインデックスキーをビルダーに追加できます。

次のコードスニペットは、スキーマレス person オブジェクトを格納する DynamoDB EnhancedDocument テーブルのクライアント側表現を生成するコードを示しています。

```
DynamoDbTable<EnhancedDocument> documentDynamoDbTable =
                enhancedClient.table("person",
                        TableSchema.documentSchemaBuilder()
                            // Specify the primary key attributes.

 .addIndexPartitionKey(TableMetadata.primaryIndexName(),"id", AttributeValueType.S)
                            .addIndexSortKey(TableMetadata.primaryIndexName(),
 "lastName", AttributeValueType.S)
                            // Specify attribute converter providers. Minimally add the
 default one.

 .attributeConverterProviders(AttributeConverterProvider.defaultProvider())
                            .build());

// Call documentTable.createTable() if "person" does not exist in DynamoDB.
// createTable() should be called only one time.
```

このセクション全体で使用される person オブジェクトの JSON 表現を以下に示します。

JSON **person** オブジェクト

```
{
  "id": 1,
  "firstName": "Richard",
  "lastName": "Roe",
  "age": 25,
  "addresses":
    {
      "home": {
        "zipCode": "00000",
        "city": "Any Town",
        "state": "FL",
        "street": "123 Any Street"
      },
      "work": {
```

```
        "zipCode": "00001",
        "city": "Anywhere",
        "state": "FL",
        "street": "100 Main Street"
      }
    },
  "hobbies": [
    "Hobby 1",
    "Hobby 2"
  ],
  "phoneNumbers": [
    {
      "type": "Home",
      "number": "555-0100"
    },
    {
      "type": "Work",
      "number": "555-0119"
    }
  ]
}
```

拡張ドキュメントを構築する

EnhancedDocument は、ネストされた属性を持ち、複雑な構造を持つドキュメントタイプのオブジェクトを表します。EnhancedDocument には、DocumentTableSchema に指定されたプライマリキー属性と一致する最上位の属性が必要です。残りの内容は任意で、最上位の属性だけでなく、深くネストされた属性で構成することもできます。

EnhancedDocument インスタンスを作成するには、複数の方法で要素を追加できるビルダーを使用します。

JSON 文字列から構築する

JSON 文字列を使用して、1 つのメソッド呼び出しに EnhancedDocument を構築できます。次のスニペットは、jsonPerson() ヘルパーメソッドから返された JSON 文字列から EnhancedDocument を作成します。この jsonPerson() メソッドは、前に示した person オブジェクトの JSON 文字列バージョンを返します。

```
EnhancedDocument document =
        EnhancedDocument.builder()
                        .json( jsonPerson() )
```

```
                        .build());
```

個々の要素から構築する

また、ビルダーのタイプセーフメソッドを使用して個々のコンポーネントから EnhancedDocument インスタンスを構築することもできます。

次の例では、前の例の JSON 文字列から作成された拡張ドキュメントと同様の person 拡張ドキュメントを作成します。

```
       /* Define the shape of an address map whose JSON representation looks like the
following.
          Use 'addressMapEnhancedType' in the following EnhancedDocument.builder() to
simplify the code.
          "home": {
            "zipCode": "00000",
            "city": "Any Town",
            "state": "FL",
            "street": "123 Any Street"
          }*/
       EnhancedType<Map<String, String>> addressMapEnhancedType =
               EnhancedType.mapOf(EnhancedType.of(String.class),
EnhancedType.of(String.class));


       //  Use the builder's typesafe methods to add elements to the enhanced
document.
       EnhancedDocument personDocument = EnhancedDocument.builder()
               .putNumber("id", 50)
               .putString("firstName", "Shirley")
               .putString("lastName", "Rodriguez")
               .putNumber("age", 53)
               .putNull("nullAttribute")
               .putJson("phoneNumbers", phoneNumbersJSONString())
               /* Add the map of addresses whose JSON representation looks like the
following.
                       {
                         "home": {
                           "zipCode": "00000",
                           "city": "Any Town",
                           "state": "FL",
                           "street": "123 Any Street"
                         }
```

```
                        } */
                .putMap("addresses", getAddresses(), EnhancedType.of(String.class),
addressMapEnhancedType)
                .putList("hobbies", List.of("Theater", "Golf"),
EnhancedType.of(String.class))
                .build();
```

ヘルパーメソッド

```
    private static String phoneNumbersJSONString() {
        return "  [" +
                "    {" +
                "      \"type\": \"Home\"," +
                "      \"number\": \"555-0140\"" +
                "    }," +
                "    {" +
                "      \"type\": \"Work\"," +
                "      \"number\": \"555-0155\"" +
                "    }" +
                "  ]";
    }

    private static Map<String, Map<String, String>> getAddresses() {
        return Map.of(
                "home", Map.of(
                        "zipCode", "00002",
                        "city", "Any Town",
                        "state", "ME",
                        "street", "123 Any Street"));

    }
```

CRUD オペレーションを実行する

EnhancedDocument インスタンスを定義したら、DynamoDB テーブルに保存できます。次のコードスニペットでは、個々の要素から作成された personDocument を使用しています。

```
documentDynamoDbTable.putItem(personDocument);
```

DynamoDB から拡張ドキュメントインスタンスを読み取った後、personDocument から保存されたデータにアクセスする次のコードスニペットに示すように、ゲッターを使用して個々の属性値を抽

出することができます。または、サンプルコードの最後の部分に示されているように、コンテンツ全体を JSON 文字列に抽出することもできます。

```
        // Read the item.
        EnhancedDocument personDocFromDb =
documentDynamoDbTable.getItem(Key.builder().partitionValue(50).build());

        // Access top-level attributes.
        logger.info("Name: {} {}", personDocFromDb.getString("firstName"),
personDocFromDb.getString("lastName"));
        // Name: Shirley Rodriguez

        // Typesafe access of a deeply nested attribute. The addressMapEnhancedType
shown previously defines the shape of an addresses map.
        Map<String, Map<String, String>> addresses =
personDocFromDb.getMap("addresses", EnhancedType.of(String.class),
addressMapEnhancedType);
        addresses.keySet().forEach(k -> logger.info(addresses.get(k).toString()));
        // {zipCode=00002, city=Any Town, street=123 Any Street, state=ME}

        // Alternatively, work with AttributeValue types checking along the way for
deeply nested attributes.
        Map<String, AttributeValue> addressesMap =
personDocFromDb.getMapOfUnknownType("addresses");
        addressesMap.keySet().forEach((String k) -> {
            logger.info("Looking at data for [{}] address", k);
            // Looking at data for [home] address
            AttributeValue value = addressesMap.get(k);
            AttributeValue cityValue = value.m().get("city");
            if (cityValue != null) {
                logger.info(cityValue.s());
                // Any Town
            }
        });

        List<AttributeValue> phoneNumbers =
personDocFromDb.getListOfUnknownType("phoneNumbers");
        phoneNumbers.forEach((AttributeValue av) -> {
            if (av.hasM()) {
                AttributeValue type = av.m().get("type");
                if (type.s() != null) {
                    logger.info("Type of phone: {}", type.s());
                    // Type of phone: Home
```

```
                    // Type of phone: Work
                }
            }
        });

        String jsonPerson = personDocFromDb.toJson();
        logger.info(jsonPerson);
        // {"firstName":"Shirley","lastName":"Rodriguez","addresses":
{"home":{"zipCode":"00002","city":"Any Town","street":"123 Any
 Street","state":"ME"}},"hobbies":["Theater","Golf"],
        //     "id":50,"nullAttribute":null,"age":53,"phoneNumbers":
[{"number":"555-0140","type":"Home"},{"number":"555-0155","type":"Work"}]}
```

EnhancedDocument インスタンスは、マッピングされたデータクラスの代わりに、DynamoDbTable または DynamoDbEnhancedClient の任意のメソッドで使用できます。

拡張ドキュメント属性にはカスタムオブジェクトとしてアクセスできます。

拡張ドキュメント API では、スキーマレス構造の属性を読み書きするための API を提供するだけでなく、カスタムクラスのインスタンスとの間で属性を変換できます。

拡張ドキュメント API は、DynamoDB 拡張クライアント API の一部としてコントロール属性変換セクションに表示された AttributeConverterProvider と AttributeConverter を使用します。

次の例では、CustomAttributeConverterProvider をネストされた AddressConverter クラスとともに使用して Address オブジェクトを変換します。

この例は、クラスからのデータと、必要に応じて構築された構造からのデータを組み合わせることができることを示しています。この例はまた、カスタムクラスはネストされた構造のどのレベルでも使用できることを示しています。この例の Address オブジェクトはマップで使用される値です。

```
   public static void attributeToAddressClassMappingExample(DynamoDbEnhancedClient
enhancedClient, DynamoDbClient standardClient) {
        String tableName = "customer";

        // Define the DynamoDbTable for an enhanced document.
        // The schema builder provides methods for attribute converter providers and
keys.
        DynamoDbTable<EnhancedDocument> documentDynamoDbTable =
enhancedClient.table(tableName,
                DocumentTableSchema.builder()
```

```
                        // Add the CustomAttributeConverterProvider along with the
default when you build the table schema.
                        .attributeConverterProviders(
                                List.of(
                                        new CustomAttributeConverterProvider(),
                                        AttributeConverterProvider.defaultProvider()))
                        .addIndexPartitionKey(TableMetadata.primaryIndexName(), "id",
AttributeValueType.N)
                        .addIndexSortKey(TableMetadata.primaryIndexName(), "lastName",
AttributeValueType.S)
                        .build());
        // Create the DynamoDB table if needed.
        documentDynamoDbTable.createTable();
        waitForTableCreation(tableName, standardClient);


        // The getAddressesForCustomMappingExample() helper method that provides
'addresses' shows the use of a custom Address class
        // rather than using a Map<String, Map<String, String> to hold the address
data.
        Map<String, Address> addresses = getAddressesForCustomMappingExample();

        // Build an EnhancedDocument instance to save an item with a mix of structures
defined as needed and static classes.
        EnhancedDocument personDocument = EnhancedDocument.builder()
                .putNumber("id", 50)
                .putString("firstName", "Shirley")
                .putString("lastName", "Rodriguez")
                .putNumber("age", 53)
                .putNull("nullAttribute")
                .putJson("phoneNumbers", phoneNumbersJSONString())
                // Note the use of 'EnhancedType.of(Address.class)' instead of the more
generic
                // 'EnhancedType.mapOf(EnhancedType.of(String.class),
EnhancedType.of(String.class))' that was used in a previous example.
                .putMap("addresses", addresses, EnhancedType.of(String.class),
EnhancedType.of(Address.class))
                .putList("hobbies", List.of("Hobby 1", "Hobby 2"),
EnhancedType.of(String.class))
                .build();
        // Save the item to DynamoDB.
        documentDynamoDbTable.putItem(personDocument);

        // Retrieve the item just saved.
```

```
        EnhancedDocument srPerson =
 documentDynamoDbTable.getItem(Key.builder().partitionValue(50).sortValue("Rodriguez").build())

        // Access the addresses attribute.
        Map<String, Address> srAddresses = srPerson.get("addresses",
                EnhancedType.mapOf(EnhancedType.of(String.class),
 EnhancedType.of(Address.class)));

        srAddresses.keySet().forEach(k -> logger.info(addresses.get(k).toString()));

        documentDynamoDbTable.deleteTable();

// The content logged to the console shows that the saved maps were converted to
 Address instances.
Address{street='123 Main Street', city='Any Town', state='NC', zipCode='00000'}
Address{street='100 Any Street', city='Any Town', state='NC', zipCode='00000'}
```

`CustomAttributeConverterProvider` コード

```
public class CustomAttributeConverterProvider implements AttributeConverterProvider {

    private final Map<EnhancedType<?>, AttributeConverter<?>> converterCache =
 ImmutableMap.of(
            // 1. Add AddressConverter to the internal cache.
            EnhancedType.of(Address.class), new AddressConverter());

    public static CustomAttributeConverterProvider create() {
        return new CustomAttributeConverterProvider();
    }

    // 2. The enhanced client queries the provider for attribute converters if it
    //    encounters a type that it does not know how to convert.
    @SuppressWarnings("unchecked")
    @Override
    public <T> AttributeConverter<T> converterFor(EnhancedType<T> enhancedType) {
        return (AttributeConverter<T>) converterCache.get(enhancedType);
    }

    // 3. Custom attribute converter
    private class AddressConverter implements AttributeConverter<Address> {
        // 4. Transform an Address object into a DynamoDB map.
        @Override
        public AttributeValue transformFrom(Address address) {
```

```
            Map<String, AttributeValue> attributeValueMap = Map.of(
                    "street", AttributeValue.fromS(address.getStreet()),
                    "city", AttributeValue.fromS(address.getCity()),
                    "state", AttributeValue.fromS(address.getState()),
                    "zipCode", AttributeValue.fromS(address.getZipCode()));

            return AttributeValue.fromM(attributeValueMap);
        }

        // 5. Transform the DynamoDB map attribute to an Address oject.
        @Override
        public Address transformTo(AttributeValue attributeValue) {
            Map<String, AttributeValue> m = attributeValue.m();
            Address address = new Address();
            address.setStreet(m.get("street").s());
            address.setCity(m.get("city").s());
            address.setState(m.get("state").s());
            address.setZipCode(m.get("zipCode").s());

            return address;
        }

        @Override
        public EnhancedType<Address> type() {
            return EnhancedType.of(Address.class);
        }

        @Override
        public AttributeValueType attributeValueType() {
            return AttributeValueType.M;
        }
    }
}
```

Address クラス

```
public class Address {
                  private String street;
                  private String city;
                  private String state;
                  private String zipCode;
```

```
    public Address() {
    }

    public String getStreet() {
    return this.street;
    }

    public String getCity() {
    return this.city;
    }

    public String getState() {
    return this.state;
    }

    public String getZipCode() {
    return this.zipCode;
    }

    public void setStreet(String street) {
    this.street = street;
    }

    public void setCity(String city) {
    this.city = city;
    }

    public void setState(String state) {
    this.state = state;
    }

    public void setZipCode(String zipCode) {
    this.zipCode = zipCode;
    }
    }
```

アドレスを提供するヘルパーメソッド

次のヘルパーメソッドは、値にジェネリック Map<String, String> インスタンスではなく、値にカスタム Address インスタンスを使用するマップを提供します。

```
    private static Map<String, Address> getAddressesForCustomMappingExample() {
        Address homeAddress = new Address();
```

```
        homeAddress.setStreet("100 Any Street");
        homeAddress.setCity("Any Town");
        homeAddress.setState("NC");
        homeAddress.setZipCode("00000");

        Address workAddress = new Address();
        workAddress.setStreet("123 Main Street");
        workAddress.setCity("Any Town");
        workAddress.setState("NC");
        workAddress.setZipCode("00000");

        return Map.of("home", homeAddress,
                "work", workAddress);
    }
```

DynamoDB を使用せずに **EnhancedDocument** を使用する

通常、EnhancedDocument のインスタンスはドキュメントタイプの DynamoDB アイテムの読み取りと書き込みに使用しますが、DynamoDB とは独立して使用することもできます。

JSON 文字列やカスタムオブジェクトを、次の例のように AttributeValues の低レベルのマップに変換できるようにするために EnhancedDocuments を使用できます。

```
    public static void conversionWithoutDynamoDbExample() {
        Address address = new Address();
        address.setCity("my city");
        address.setState("my state");
        address.setStreet("my street");
        address.setZipCode("00000");

        // Build an EnhancedDocument instance for its conversion functionality alone.
        EnhancedDocument addressEnhancedDoc = EnhancedDocument.builder()
                // Important: You must specify attribute converter providers when you
build an EnhancedDocument instance not used with a DynamoDB table.
                .attributeConverterProviders(new CustomAttributeConverterProvider(),
DefaultAttributeConverterProvider.create())
                .put("addressDoc", address, Address.class)
                .build();

        // Convert address to a low-level item representation.
        final Map<String, AttributeValue> addressAsAttributeMap =
addressEnhancedDoc.getMapOfUnknownType("addressDoc");
        logger.info("addressAsAttributeMap: {}", addressAsAttributeMap.toString());
```

```
        // Convert address to a JSON string.
        String addressAsJsonString = addressEnhancedDoc.getJson("addressDoc");
        logger.info("addressAsJsonString: {}", addressAsJsonString);
        // Convert addressEnhancedDoc back to an Address instance.
        Address addressConverted =  addressEnhancedDoc.get("addressDoc",
Address.class);
        logger.info("addressConverted: {}", addressConverted.toString());
    }

  /* Console output:
          addressAsAttributeMap: {zipCode=AttributeValue(S=00000),
state=AttributeValue(S=my state), street=AttributeValue(S=my street),
city=AttributeValue(S=my city)}
          addressAsJsonString: {"zipCode":"00000","state":"my state","street":"my
street","city":"my city"}
          addressConverted: Address{street='my street', city='my city', state='my
state', zipCode='00000'}
  */
```

> **Note**
>
> DynamoDB テーブルから独立した拡張ドキュメントを使用する場合は、必ずビルダーに属性コンバータープロバイダーを明示的に設定してください。
> 対照的に、拡張ドキュメントを DynamoDB テーブルで使用すると、ドキュメントテーブルスキーマがコンバータープロバイダーに提供されます。

拡張機能を使用して DynamoDB 拡張クライアントオペレーションをカスタマイズする

DynamoDB 拡張クライアント API は、マッピング操作以外の機能を提供するプラグイン拡張機能をサポートしています。拡張機能は、読み取りおよび書き込みオペレーション中に 2 つのフックメソッドを使用してデータを変更します。

- `beforeWrite()` - 発生する前に書き込みオペレーションを変更する
- `afterRead()` - 読み取りオペレーションの実行後にその結果を変更する

一部のオペレーション (アイテムの更新など) は書き込みと読み取りの両方を実行するため、両方のフックメソッドが呼び出されます。

拡張機能のロード方法

拡張機能は、拡張クライアントビルダーで指定された順序でロードされます。1 つのエクステンションが以前のエクステンションによって変換された値に作用する可能性があるため、ロード順序は重要な場合があります。

デフォルトでは、拡張クライアントは 2 つの拡張機能をロードします。

- `VersionedRecordExtension` - 楽観的ロックを提供する
- `AtomicCounterExtension` - カウンター属性を自動的に増分する

拡張クライアントビルダーでデフォルトの動作を上書きして、任意の拡張機能を読み込むことができます。デフォルトの拡張機能を使いたくない場合は、none を指定することもできます。

> **Important**
>
> 独自の拡張機能をロードしても、拡張クライアントはデフォルトの拡張機能をロードしません。いずれかのデフォルトの拡張機能と同じ動作をさせたい場合は、拡張機能のリストに明示的に追加する必要があります。

次の例は、`VersionedRecordExtension` の後に `verifyChecksumExtension` という名前のカスタム拡張機能をロードする方法を示しています。この例では、`AtomicCounterExtension` はロードされていません。

```
DynamoDbEnhancedClientExtension versionedRecordExtension =
 VersionedRecordExtension.builder().build();

DynamoDbEnhancedClient enhancedClient =
    DynamoDbEnhancedClient.builder()
                          .dynamoDbClient(dynamoDbClient)
                          .extensions(versionedRecordExtension,
 verifyChecksumExtension)
                          .build();
```

利用可能な拡張機能の詳細と設定

以下のセクションでは、 SDK で使用可能な各拡張機能に関する詳細情報を記載します。

`VersionedRecordExtension` を使用して楽観的ロックを実装する

VersionedRecordExtension 拡張機能は、アイテムがデータベースに書き込まれるとアイテムのバージョン番号を増加して追跡することで、楽観的ロックを提供します。実際に保存されているアイテムのバージョン番号がアプリケーションが最後に読み取った値と一致しない場合、書き込みが失敗する原因となる条件が書き込みごとに追加されます。

設定

アイテムのバージョン番号を追跡するために使用する属性を指定するには、テーブルスキーマの数値属性にタグを付けます。

次のスニペットでは、version 属性がアイテムのバージョン番号を保持するように指定しています。

```
    @DynamoDbVersionAttribute
    public Integer getVersion() {...};
    public void setVersion(Integer version) {...};
```

これと同等の静的テーブルスキーマのアプローチは、次のスニペットで示されます。

```
    .addAttribute(Integer.class, a -> a.name("version")
                                       .getter(Customer::getVersion)
                                       .setter(Customer::setVersion)
                                        // Apply the 'version' tag to the attribute.

  .tags(VersionedRecordExtension.AttributeTags.versionAttribute())
```

仕組み

VersionedRecordExtension を使用した楽観的ロックは、次の DynamoDbEnhancedClient および DynamoDbTable メソッドに対して以下のような影響があります。

`putItem`

新しいアイテムには、初期バージョン値 0 が割り当てられます。これは `@DynamoDbVersionAttribute(startAt = X)` で設定できます。

`updateItem`

項目を取得し、その項目の 1 つ以上のプロパティを更新して変更を保存する場合には、クライアント側とサーバー側のバージョン番号が一致する場合のみ、オペレーションが成功します。

成功すると、バージョン番号は自動的に 1 ずつ増加します。これは `@DynamoDbVersionAttribute(incrementBy = X)` で設定できます。

deleteItem

DynamoDbVersionAttribute 注釈は効力を発揮しません。アイテムを削除するときは、条件式を手動で追加する必要があります。

次の例では、条件式を追加して、削除されたアイテムが読み取られたアイテムであることを確認します。次の例では、recordVersion は @DynamoDbVersionAttribute で注釈を付けた Bean の属性です。

```
// 1. Read the item and get its current version.
Customer item =
 customerTable.getItem(Key.builder().partitionValue("someId").build());
// `recordVersion` is the bean's attribute that is annotated with
 `@DynamoDbVersionAttribute`.
AttributeValue currentVersion = item.getRecordVersion();

// 2. Create conditional delete with the `currentVersion` value.
DeleteItemEnhancedRequest deleteItemRequest =
    DeleteItemEnhancedRequest.builder()
       .key(KEY)
       .conditionExpression(Expression.builder()
           .expression("recordVersion = :current_version_value")
           .putExpressionValue(":current_version_value", currentVersion)
           .build()).build();

customerTable.deleteItem(deleteItemRequest);
```

transactWriteItems

- addPutItem: このメソッドの動作は putItem と同じです。
- addUpdateItem: このメソッドの動作は updateItem と同じです。
- addDeleteItem: このメソッドの動作は deleteItem と同じです。

batchWriteItem

- addPutItem: このメソッドの動作は putItem と同じです。
- addDeleteItem: このメソッドの動作は deleteItem と同じです。

> **Note**
>
> DynamoDB グローバルテーブルでは最終書き込み者優先を使用して、同時更新間の調整を行い、DynamoDB は最終書き込み者を判断するために最善を尽くします。グローバルテーブルを使用する場合、この「最終書き込み者優先」ポリシーは、すべてのレプリカが最終的に DynamoDB によって決定された最後の書き込みに基づいて収束するため、ロック戦略が期待どおりに機能しない可能性があることを意味します。

無効にする方法

楽観的ロックを無効にするには、@DynamoDbVersionAttribute 注釈を使用しないようにします。

AtomicCounterExtension を使用してカウンターを実装する

AtomicCounterExtension 拡張機能は、レコードがデータベースに書き込まれるたびに、タグ付きの数値属性を増やします。開始値と増分値を指定できます。値を指定しない場合、開始値は 0 に設定され、属性の値は 1 ずつ増加します。

設定

どの属性がカウンターかを指定するには、テーブルスキーマのタイプ Long の属性にタグを付けます。

次のスニペットは、counter 属性のデフォルトの開始値と増分値の使用方法を示しています。

```
    @DynamoDbAtomicCounter
    public Long getCounter() {...};
    public void setCounter(Long counter) {...};
```

次のスニペットは、静的テーブルスキーマのアプローチを示しています。アトミックカウンタ拡張機能は、開始値を 10 に設定し、レコードが書き込まれるたびに値を 5 ずつ増やします。

```
    .addAttribute(Integer.class, a -> a.name("counter")
                                       .getter(Customer::getCounter)
                                       .setter(Customer::setCounter)
                                        // Apply the 'atomicCounter' tag to the
attribute with start and increment values.
                                       .tags(StaticAttributeTags.atomicCounter(10L,
5L))
```

AutoGeneratedTimestampRecordExtension でタイムスタンプを追加する

AutoGeneratedTimestampRecordExtension 拡張機能は、アイテムがデータベースに正常に書き込まれるたびに、そのタイプ Instant のタグ付き属性を現在のタイムスタンプで自動的に更新します。このエクステンションはデフォルトではロードされません。

設定

現在のタイムスタンプで更新する属性を指定するには、テーブルスキーマの Instant 属性にタグを付けます。

次のスニペットでは、lastUpdate 属性が拡張機能の動作の対象となります。属性は Instant タイプでなければならないという要件に注意してください。

```
    @DynamoDbAutoGeneratedTimestampAttribute
    public Instant getLastUpdate() {...}
    public void setLastUpdate(Instant lastUpdate) {...}
```

これと同等の静的テーブルスキーマのアプローチは、次のスニペットで示されます。

```
     .addAttribute(Instant.class, a -> a.name("lastUpdate")
                                        .getter(Customer::getLastUpdate)
                                        .setter(Customer::setLastUpdate)
                                        // Applying the 'autoGeneratedTimestamp' tag to
the attribute.

.tags(AutoGeneratedTimestampRecordExtension.AttributeTags.autoGeneratedTimestampAttribute())
```

AutoGeneratedUuidExtension を使用して UUID を生成する

AutoGeneratedUuidExtension 拡張機能は、新しいレコードがデータベースに書き込まれるときに、属性の一意の UUID (ユニバーサル一意識別子) を生成します。Java JDK UUID.randomUUID() メソッドを使用し、java.lang.String 型の属性に適用されます。このエクステンションはデフォルトではロードされません。

設定

次のスニペットでは、uniqueId 属性が拡張機能の動作の対象となります。

```
    @AutoGeneratedUuidExtension
    public String getUniqueId() {...}
    public void setUniqueId(String uniqueId) {...}
```

これと同等の静的テーブルスキーマのアプローチは、次のスニペットで示されます。

```
    .addAttribute(String.class, a -> a.name("uniqueId")
                                      .getter(Customer::getUniqueId)
                                      .setter(Customer::setUniqueId)
                                      // Applying the 'autoGeneratedUuid' tag to the
 attribute.

 .tags(AutoGeneratedUuidExtension.AttributeTags.autoGeneratedUuidAttribute())
```

拡張機能で putItem メソッドに対してのみ UUID に入力されるようにし、updateItem メソッドに対しては入力されないようにするには、次のスニペットに示すように、更新動作の注釈を追加します。

```
   @AutoGeneratedUuidExtension
   @DynamoDbUpdateBehavior(UpdateBehavior.WRITE_IF_NOT_EXISTS)
   public String getUniqueId() {...}
   public void setUniqueId(String uniqueId) {...}
```

静的テーブルスキーマアプローチを使用する場合は、次の同等のコードを使用します。

```
    .addAttribute(String.class, a -> a.name("uniqueId")
                                      .getter(Customer::getUniqueId)
                                      .setter(Customer::setUniqueId)
                                      // Applying the 'autoGeneratedUuid' tag to the
 attribute.

 .tags(AutoGeneratedUuidExtension.AttributeTags.autoGeneratedUuidAttribute(),

 StaticAttributeTags.updateBehavior(UpdateBehavior.WRITE_IF_NOT_EXISTS))
```

カスタム拡張機能の例

DynamoDbEnhancedClientExtension インターフェイスを実装することで、カスタム拡張機能を作成できます。次のカスタム拡張機能クラスは、データベース内の項目にまだ属性がない場合に、更新式を使用して registrationDate 属性を設定する beforeWrite() メソッドを示しています。

```
public final class CustomExtension implements DynamoDbEnhancedClientExtension {

   // 1. In a custom extension, use an UpdateExpression to define what action to take
 before
```

```
    //    an item is updated.
    @Override
    public WriteModification beforeWrite(DynamoDbExtensionContext.BeforeWrite context)
{
        if ( context.operationContext().tableName().equals("Customer")
                && context.operationName().equals(OperationName.UPDATE_ITEM)) {
            return WriteModification.builder()
                    .updateExpression(createUpdateExpression())
                    .build();
        }
        return WriteModification.builder().build();  // Return an "empty"
WriteModification instance if the extension should not be applied.
                                                     // In this case, if the code is
not updating an item on the Customer table.
    }

    private static UpdateExpression createUpdateExpression() {

        // 2. Use a SetAction, a subclass of UpdateAction, to provide the values in the
update.
        SetAction setAction =
                SetAction.builder()
                        .path("registrationDate")
                        .value("if_not_exists(registrationDate, :regValue)")
                        .putExpressionValue(":regValue",
AttributeValue.fromS(Instant.now().toString()))
                        .build();
        // 3. Build the UpdateExpression with one or more UpdateAction.
        return UpdateExpression.builder()
                .addAction(setAction)
                .build();
    }
}
```

DynamoDB 拡張クライアント API を非同期的に使用する

アプリケーションで DynamoDB へのノンブロッキングの非同期呼び出しが必要な場合は、DynamoDbEnhancedAsyncClient を使用できます。同期実装と似ていますが、次の主な違いがあります。

1. DynamoDbEnhancedAsyncClient を構築するときは、次のスニペットに示すように、標準クライアントの非同期バージョン、DynamoDbAsyncClient を指定する必要があります。

```
DynamoDbEnhancedAsyncClient enhancedClient =
    DynamoDbEnhancedAsyncClient.builder()
                               .dynamoDbClient(dynamoDbAsyncClient)
                               .build();
```

2. 1 つのデータオブジェクトを返すメソッドは、結果だけではなく結果の CompletableFuture を返します。そうすることで、アプリケーションは結果をブロックせずに他の処理を行うことができます。次のスニペットは、非同期 getItem() メソッドを示しています。

```
CompletableFuture<Customer> result = customerDynamoDbTable.getItem(customer);
// Perform other work here.
return result.join();   // Now block and wait for the result.
```

3. ページ分割された結果リストを返すメソッドは、同期 DynamoDbEnhanceClient が同じメソッドで返す SdkIterable の代わりに、SdkPublisher を返します。その後、アプリケーションはハンドラーをそのパブリッシャーにサブスクライブして、結果をブロックせずに非同期的に処理できます。

```
PagePublisher<Customer> results = customerDynamoDbTable.query(r ->
 r.queryConditional(keyEqualTo(k -> k.partitionValue("Smith"))));
results.subscribe(myCustomerResultsProcessor);
// Perform other work and let the processor handle the results asynchronously.
```

SdkPublisher API のより詳細な使用例については、このガイドの非同期 scan() メソッドについて説明しているセクションの例を参照してください。

データクラス注釈

次の表は、データクラスで使用できる注釈の一覧と、このガイドの情報と例へのリンクを示しています。テーブルは、注釈名別にアルファベット順に昇順に並べ替えられます。

このガイドで使用されているデータクラス注釈

注釈名	次に適用される注釈[1]	その内容	このガイドに記載されている場所
DynamoDbAtomicCounter	属性[2]	レコードがデータベースに書き込まれるたびに、タグ付きの	概要とディスカッション。

注釈名	次に適用される注釈[1]	その内容	このガイドに記載されている場所
		数値属性を増やします。	
DynamoDbAttribute	属性	DynamoDB テーブル属性にマップされる Bean プロパティを定義または名前を変更します。	• 最初のディスカッション。 • 「はじめに」セクション — 注釈を参照してください。 • In MovieActor クラス In Query メソッドの例
DynamoDbAutoGeneratedTimestampAttribute	属性	項目がデータベースに正常に書き込まれるたびに、タグ付き属性を現在のタイムスタンプで更新します。	概要とディスカッション。
DynamoDbAutoGeneratedUuid	属性	新しいレコードがデータベースに書き込まれるときに、属性の一意の UUID (ユニバーサル一意識別子) を生成します。	概要とディスカッション。
DynamoDbBean	class	データクラスをテーブルスキーマにマッピング可能としてマークします。	「はじめに」セクションのカスタマークラスで初めに使用します。このガイドでは、いくつかの使用法が説明されています。

注釈名	次に適用される注釈[1]	その内容	このガイドに記載されている場所
DynamoDbConvertedBy	属性	カスタム `AttributeConverter` を注釈付きの属性に関連付けます。	最初のディスカッションと例。
DynamoDbFlatten	属性	個別の DynamoDB データクラスのすべての属性をフラット化し、データベースに読み書きされるレコードに最上位の属性として追加します。	• 最初のディスカッション。 • 他のコードへの影響。
DynamoDbIgnore	属性	その結果、属性はマップされないままの状態となります。	• 最初のディスカッション。 • ProductCatalog クラスで使用します。
DynamoDbIgnoreNulls	属性	ネストされた DynamoDB オブジェクトの NULL 属性が保存されないようにします。	ディスカッションと例。
DynamoDbImmutable	class	変更不可能なデータクラスをテーブルスキーマにマッピング可能としてマークします。	• 注釈の概要。 • ProductCatalog クラスで使用します。 • Lombok で使用します。

注釈名	次に適用される注釈[1]	その内容	このガイドに記載されている場所
DynamoDbPartitionKey	属性	属性を DynamoDB テーブルのプライマリパーティションキー (ハッシュキー) としてマークします。	• 「はじめに」セクションのカスタマークラスでの最初の使用。 • Lombok の使用。
DynamoDbPreserveEmptyObject	属性	注釈付き属性にマップされたオブジェクトにデータが存在しない場合、オブジェクトはすべて NULL フィールドで初期化されるように指定します。	ディスカッションと例。
DynamoDbSecondaryPartitionKey	属性	グローバルセカンダリインデックスのパーティションキーとして属性をマークします。	• セカンダリインデックスと例で使用します。 • クエリメソッドの例。 • Lombok の例。 • 変更不可能クラスの使用。
DynamoDbSecondarySortKey	属性	属性をグローバルまたはローカルのセカンダリインデックスのオプションのソートキーとしてマークします。	• セカンダリインデックスと例で使用します。 • クエリメソッドの例。 • Lombok の例。 • 変更不可能クラスの使用。

注釈名	次に適用される注釈[1]	その内容	このガイドに記載されている場所
DynamoDbSortKey	属性	属性をオプションのプライマリソートキー (レンジキー) としてマークします。	• カスタマークラスの「はじめに」セクション。 • 変更不可能クラスの使用。 • Lombok の例。 • クエリメソッドの例。
DynamoDbUpdateBehavior	属性	UpdateItem などの「更新」オペレーションの一部としてこの属性が更新されたときの動作を指定します。	概要と例。
DynamoDbVersionAttribute	属性	アイテムのバージョン番号を増やします。	概要とディスカッション。

[1]属性レベルの注釈はゲッターまたはセッターに適用できますが、両方に適用することはできません。このガイドでは、ゲッターの注釈を示します。

[2]通常、`property` という用語は JavaBean データクラスにカプセル化された値に使用されます。ただし、このガイドでは、DynamoDB で使用されている用語との一貫性を保つため、代わりに `attribute` という用語を使用しています。

Amazon EC2 を使用する

このセクションでは、AWS SDK for Java 2.x を使用して Amazon EC2 をプログラムする例を示します。

トピック

- Amazon EC2 インスタンスの管理

- AWS リージョン および アベイラビリティーゾーンを使用する
- Amazon EC2 でセキュリティグループを操作する
- Amazon EC2 インスタンスメタデータを操作する

Amazon EC2 インスタンスの管理

インスタンスを作成する

Ec2Client の `runInstances`メソッドを呼び出して新しい Amazon EC2 インスタンスを作成し、使用する Amazon マシンイメージ (AMI) とインスタンスタイプを含む RunInstancesRequest を提供します。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.Ec2Client;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.InstanceType;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.RunInstancesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.RunInstancesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.Tag;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.CreateTagsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.Ec2Exception;
```

コード

```
   public static String createEC2Instance(Ec2Client ec2,String name, String amiId ) {

        RunInstancesRequest runRequest = RunInstancesRequest.builder()
                .imageId(amiId)
                .instanceType(InstanceType.T1_MICRO)
                .maxCount(1)
                .minCount(1)
                .build();

        RunInstancesResponse response = ec2.runInstances(runRequest);
        String instanceId = response.instances().get(0).instanceId();

        Tag tag = Tag.builder()
                .key("Name")
                .value(name)
```

```
                .build();

        CreateTagsRequest tagRequest = CreateTagsRequest.builder()
                .resources(instanceId)
                .tags(tag)
                .build();

        try {
            ec2.createTags(tagRequest);
            System.out.printf(
                    "Successfully started EC2 Instance %s based on AMI %s",
                    instanceId, amiId);

          return instanceId;

        } catch (Ec2Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }

        return "";
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

インスタンスの開始

Amazon EC2 インスタンスを起動するには、Ec2Client の `startInstances`メソッドを呼び出し、起動するインスタンスの ID を含む StartInstancesRequest を指定します。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.Ec2Client;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.StartInstancesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.StopInstancesRequest;
```

コード

```
    public static void startInstance(Ec2Client ec2, String instanceId) {

        StartInstancesRequest request = StartInstancesRequest.builder()
```

```
                .instanceIds(instanceId)
                .build();

        ec2.startInstances(request);
        System.out.printf("Successfully started instance %s", instanceId);
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

インスタンスの停止

Amazon EC2 インスタンスを停止するには、Ec2Client の `stopInstances`メソッドを呼び出し、停止するインスタンスの ID を含む StopInstancesRequest を指定します。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.Ec2Client;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.StartInstancesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.StopInstancesRequest;
```

コード

```
    public static void stopInstance(Ec2Client ec2, String instanceId) {

        StopInstancesRequest request = StopInstancesRequest.builder()
                .instanceIds(instanceId)
                .build();

        ec2.stopInstances(request);
        System.out.printf("Successfully stopped instance %s", instanceId);
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

インスタンスの再起動

Amazon EC2 インスタンスを再起動するには、Ec2Client の `rebootInstances`メソッドを呼び出し、再起動するインスタンスの ID を含む RebootInstancesRequest を指定します。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.Ec2Client;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.Ec2Exception;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.RebootInstancesRequest;
```

コード

```
    public static void rebootEC2Instance(Ec2Client ec2, String instanceId) {

      try {
            RebootInstancesRequest request = RebootInstancesRequest.builder()
                .instanceIds(instanceId)
                    .build();

            ec2.rebootInstances(request);
            System.out.printf(
                "Successfully rebooted instance %s", instanceId);
    } catch (Ec2Exception e) {
          System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
          System.exit(1);
     }
  }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

インスタンスの説明

インスタンスをリスト表示するには、DescribeInstancesRequest を作成し、Ec2Client の `describeInstances` メソッドを呼び出します。アカウントとリージョンの Amazon EC2 インスタンスを一覧表示するために使用できる DescribeInstancesResponse オブジェクトが返されます。

インスタンスは予約ごとにグループ化されています。それぞれの予約は、インスタンスを起動した `startInstances` の呼び出しに対応しています。インスタンスを一覧表示するには、まず `DescribeInstancesResponse` クラスの `reservations` メソッドを呼び出してから、返るそれぞれの `instancesReservation` オブジェクトの を呼び出します。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.Ec2Client;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeInstancesRequest;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeInstancesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.Instance;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.Reservation;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.Ec2Exception;
```

コード

```
    public static void describeEC2Instances( Ec2Client ec2){

        String nextToken = null;

        try {

            do {
                DescribeInstancesRequest request =
DescribeInstancesRequest.builder().maxResults(6).nextToken(nextToken).build();
                DescribeInstancesResponse response = ec2.describeInstances(request);

                for (Reservation reservation : response.reservations()) {
                    for (Instance instance : reservation.instances()) {
                        System.out.println("Instance Id is " + instance.instanceId());
                        System.out.println("Image id is "+  instance.imageId());
                        System.out.println("Instance type is "+
instance.instanceType());
                        System.out.println("Instance state name is "+
instance.state().name());
                        System.out.println("monitoring information is "+
instance.monitoring().state());

                }
            }
                nextToken = response.nextToken();
            } while (nextToken != null);

        } catch (Ec2Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

結果はページ分割されます。さらに結果を取得するには、結果オブジェクトの nextToken メソッドから返る値を新しいリクエストオブジェクトの nextToken メソッドに渡した後、次の describeInstances の呼び出しでその新しいリクエストオブジェクトを使用します。

GitHub で完全な例をご覧ください。

インスタンスのモニタリング

CPU とネットワークの使用率、使用可能なメモリ、残りのディスク容量など、 Amazon EC2 インスタンスのさまざまな側面をモニタリングできます。インスタンスのモニタリングの詳細については、Linux インスタンス用 Amazon EC2 ユーザーガイドの「モニタリング Amazon EC2」を参照してください。

インスタンスのモニタリングを開始するには、モニタリングするインスタンスの ID で MonitorInstancesRequest を作成し、Ec2Client の `monitorInstances` メソッドに渡します。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.Ec2Client;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.MonitorInstancesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.UnmonitorInstancesRequest;
```

コード

```
    public static void monitorInstance( Ec2Client ec2, String instanceId) {

        MonitorInstancesRequest request = MonitorInstancesRequest.builder()
                .instanceIds(instanceId).build();

        ec2.monitorInstances(request);
        System.out.printf(
                "Successfully enabled monitoring for instance %s",
                instanceId);
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

インスタンスのモニタリング停止

インスタンスのモニタリングを停止するには、モニタリングを停止するインスタンスの ID で UnmonitorInstancesRequest を作成し、Ec2Client の `unmonitorInstances` メソッドに渡します。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.Ec2Client;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.MonitorInstancesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.UnmonitorInstancesRequest;
```

コード

```
    public static void unmonitorInstance(Ec2Client ec2, String instanceId) {
        UnmonitorInstancesRequest request = UnmonitorInstancesRequest.builder()
                .instanceIds(instanceId).build();

        ec2.unmonitorInstances(request);

        System.out.printf(
                "Successfully disabled monitoring for instance %s",
                instanceId);
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

詳細情報

- Amazon EC2 API リファレンスの RunInstances
- Amazon EC2 API リファレンスの DescribeInstances
- Amazon EC2 API リファレンスの StartInstances
- Amazon EC2 API リファレンスの StopInstances
- Amazon EC2 API リファレンスの RebootInstances
- Amazon EC2 API リファレンスの MonitorInstances
- Amazon EC2 API リファレンスの UnmonitorInstances

AWS リージョン および アベイラビリティーゾーンを使用する

リージョンの記述

アカウントに使用可能なリージョンを一覧表示するには、Ec2Client の `describeRegions` メソッドを呼び出します。これにより DescribeRegionsResponse が返されます。返されたオブジェクトの `regions` メソッドを呼び出して、各リージョンを表す Region オブジェクトの一覧を取得します。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.Ec2AsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeRegionsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeAvailabilityZonesResponse;
import java.util.concurrent.CompletableFuture;
```

コード

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.Ec2AsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeRegionsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeAvailabilityZonesResponse;
import java.util.concurrent.CompletableFuture;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DescribeRegionsAndZones {
    public static void main(String[] args) {
        Ec2AsyncClient ec2AsyncClient = Ec2AsyncClient.builder()
            .region(Region.US_EAST_1)
            .build();

        try {
            CompletableFuture<Void> future =
 describeEC2RegionsAndZonesAsync(ec2AsyncClient);
            future.join(); // Wait for both async operations to complete.
        } catch (RuntimeException rte) {
            System.err.println("An exception occurred: " + (rte.getCause() != null ?
 rte.getCause().getMessage() : rte.getMessage()));
        }
    }

    /**
     * Asynchronously describes the EC2 regions and availability zones.
     *
```

```
    * @param ec2AsyncClient the EC2 async client used to make the API calls
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when both the region and
availability zone descriptions are complete
    */
   public static CompletableFuture<Void>
describeEC2RegionsAndZonesAsync(Ec2AsyncClient ec2AsyncClient) {
       // Initiate the asynchronous request to describe regions
       CompletableFuture<DescribeRegionsResponse> regionsResponse =
ec2AsyncClient.describeRegions();

       // Handle the response or exception for regions
       CompletableFuture<DescribeRegionsResponse> regionsFuture =
regionsResponse.whenComplete((regionsResp, ex) -> {
           if (ex != null) {
               // Handle the exception by throwing a RuntimeException
               throw new RuntimeException("Failed to describe EC2 regions.", ex);
           } else if (regionsResp == null || regionsResp.regions().isEmpty()) {
               // Throw an exception if the response is null or the result is empty
               throw new RuntimeException("No EC2 regions found.");
           } else {
               // Process the response if no exception occurred and the result is not
empty
               regionsResp.regions().forEach(region -> {
                   System.out.printf(
                       "Found Region %s with endpoint %s%n",
                       region.regionName(),
                       region.endpoint());
               });
           }
       });

       CompletableFuture<DescribeAvailabilityZonesResponse> zonesResponse =
ec2AsyncClient.describeAvailabilityZones();
       CompletableFuture<DescribeAvailabilityZonesResponse> zonesFuture =
zonesResponse.whenComplete((zonesResp, ex) -> {
           if (ex != null) {
               throw new RuntimeException("Failed to describe EC2 availability
zones.", ex);
           } else if (zonesResp == null || zonesResp.availabilityZones().isEmpty()) {
               throw new RuntimeException("No EC2 availability zones found.");
           } else {
               zonesResp.availabilityZones().forEach(zone -> {
                   System.out.printf(
                       "Found Availability Zone %s with status %s in region %s%n",
```

```
                        zone.zoneName(),
                        zone.state(),
                        zone.regionName()
                    );
                });
            }
        });

        return CompletableFuture.allOf(regionsFuture, zonesFuture);
    }
}
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

アベイラビリティーゾーンの詳細を表示する

アカウントに使用可能な各アベイラビリティーゾーンを一覧表示するには、Ec2Client の `describeAvailabilityZones` メソッドを呼び出します。これにより DescribeAvailabilityZonesResponse が返されます。それの `availabilityZones` メソッドを呼び出して、各アベイラビリティーゾーンを表す AvailabilityZone オブジェクトの一覧を取得します。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.Ec2AsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeRegionsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeAvailabilityZonesResponse;
import java.util.concurrent.CompletableFuture;
```

コード

Ec2Client を作成します。

```
        Ec2AsyncClient ec2AsyncClient = Ec2AsyncClient.builder()
            .region(Region.US_EAST_1)
            .build();
```

次に、describeAvailabilityZones() を呼び出し、結果を取得します。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.Ec2AsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeRegionsResponse;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeAvailabilityZonesResponse;
import java.util.concurrent.CompletableFuture;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DescribeRegionsAndZones {
    public static void main(String[] args) {
        Ec2AsyncClient ec2AsyncClient = Ec2AsyncClient.builder()
            .region(Region.US_EAST_1)
            .build();

        try {
            CompletableFuture<Void> future =
 describeEC2RegionsAndZonesAsync(ec2AsyncClient);
            future.join(); // Wait for both async operations to complete.
        } catch (RuntimeException rte) {
            System.err.println("An exception occurred: " + (rte.getCause() != null ?
 rte.getCause().getMessage() : rte.getMessage()));
        }
    }

    /**
     * Asynchronously describes the EC2 regions and availability zones.
     *
     * @param ec2AsyncClient the EC2 async client used to make the API calls
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when both the region and
 availability zone descriptions are complete
     */
    public static CompletableFuture<Void>
 describeEC2RegionsAndZonesAsync(Ec2AsyncClient ec2AsyncClient) {
        // Initiate the asynchronous request to describe regions
        CompletableFuture<DescribeRegionsResponse> regionsResponse =
 ec2AsyncClient.describeRegions();

        // Handle the response or exception for regions
        CompletableFuture<DescribeRegionsResponse> regionsFuture =
 regionsResponse.whenComplete((regionsResp, ex) -> {
            if (ex != null) {
```

```
                // Handle the exception by throwing a RuntimeException
                throw new RuntimeException("Failed to describe EC2 regions.", ex);
            } else if (regionsResp == null || regionsResp.regions().isEmpty()) {
                // Throw an exception if the response is null or the result is empty
                throw new RuntimeException("No EC2 regions found.");
            } else {
                // Process the response if no exception occurred and the result is not
 empty
                regionsResp.regions().forEach(region -> {
                    System.out.printf(
                        "Found Region %s with endpoint %s%n",
                        region.regionName(),
                        region.endpoint());
                });
            }
        });

        CompletableFuture<DescribeAvailabilityZonesResponse> zonesResponse =
 ec2AsyncClient.describeAvailabilityZones();
        CompletableFuture<DescribeAvailabilityZonesResponse> zonesFuture =
 zonesResponse.whenComplete((zonesResp, ex) -> {
            if (ex != null) {
                throw new RuntimeException("Failed to describe EC2 availability
 zones.", ex);
            } else if (zonesResp == null || zonesResp.availabilityZones().isEmpty()) {
                throw new RuntimeException("No EC2 availability zones found.");
            } else {
                zonesResp.availabilityZones().forEach(zone -> {
                    System.out.printf(
                        "Found Availability Zone %s with status %s in region %s%n",
                        zone.zoneName(),
                        zone.state(),
                        zone.regionName()
                    );
                });
            }
        });

        return CompletableFuture.allOf(regionsFuture, zonesFuture);
    }
}
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

アカウントの説明

アカウントの EC2 関連情報を一覧表示するには、Ec2Client の `describeAccountAttributes` メソッドを呼び出します。このメソッドは、DescribeAccountAttributesResponse オブジェクトを返します。このオブジェクト `accountAttributes` メソッドを呼び出して、AccountAttribute オブジェクトのリストを取得します。リストを反復処理して、`AccountAttribute` オブジェクトを取得できます。

アカウントの属性値は、`AccountAttribute` オブジェクトの `attributeValues` メソッドを呼び出すことで取得できます。このメソッドは、AccountAttributeValue オブジェクトのリストを返します。この 2 番目のリストを反復処理して、属性の値を表示できます (次のコード例を参照)。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.Ec2AsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeAccountAttributesResponse;
import java.util.concurrent.CompletableFuture;
```

コード

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.Ec2AsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeAccountAttributesResponse;
import java.util.concurrent.CompletableFuture;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DescribeAccount {
    public static void main(String[] args) {
        Ec2AsyncClient ec2AsyncClient = Ec2AsyncClient.builder()
            .region(Region.US_EAST_1)
            .build();

        try {
```

```
            CompletableFuture<DescribeAccountAttributesResponse> future =
describeEC2AccountAsync(ec2AsyncClient);
            future.join();
            System.out.println("EC2 Account attributes described successfully.");
        } catch (RuntimeException rte) {
            System.err.println("An exception occurred: " + (rte.getCause() != null ?
rte.getCause().getMessage() : rte.getMessage()));
        }
    }

    /**
     * Describes the EC2 account attributes asynchronously.
     *
     * @param ec2AsyncClient the EC2 asynchronous client to use for the operation
     * @return a {@link CompletableFuture} containing the {@link
DescribeAccountAttributesResponse} with the account attributes
     */
    public static CompletableFuture<DescribeAccountAttributesResponse>
describeEC2AccountAsync(Ec2AsyncClient ec2AsyncClient) {
        CompletableFuture<DescribeAccountAttributesResponse> response =
ec2AsyncClient.describeAccountAttributes();
        return response.whenComplete((accountResults, ex) -> {
            if (ex != null) {
                // Handle the exception by throwing a RuntimeException.
                throw new RuntimeException("Failed to describe EC2 account
attributes.", ex);
            } else if (accountResults == null ||
accountResults.accountAttributes().isEmpty()) {
                // Throw an exception if the response is null or no account attributes
are found.
                throw new RuntimeException("No account attributes found.");
            } else {
                // Process the response if no exception occurred.
                accountResults.accountAttributes().forEach(attribute -> {
                    System.out.println("\nThe name of the attribute is " +
attribute.attributeName());
                    attribute.attributeValues().forEach(
                        myValue -> System.out.println("The value of the attribute is "
+ myValue.attributeValue()));
                });
            }
        });
    }
```

```
}
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

詳細情報

- Linux インスタンス用 Amazon EC2 ユーザーガイドの「リージョンとアベイラビリティーゾーン」
- Amazon EC2 API リファレンスの DescribeRegions
- Amazon EC2 API リファレンスの DescribeAvailabilityZones

Amazon EC2 でセキュリティグループを操作する

セキュリティグループの作成

セキュリティグループを作成するには、そのキーの名前を含む `createSecurityGroupCreateSecurityGroupRequest` を使用して Ec2Client の メソッドを呼び出します。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.Ec2Client;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.CreateSecurityGroupRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.AuthorizeSecurityGroupIngressRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.AuthorizeSecurityGroupIngressResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.Ec2Exception;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.IpPermission;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.CreateSecurityGroupResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.IpRange;
```

コード

```
            CreateSecurityGroupRequest createRequest =
 CreateSecurityGroupRequest.builder()
                .groupName(groupName)
                .description(groupDesc)
                .vpcId(vpcId)
                .build();
```

```
        CreateSecurityGroupResponse resp= ec2.createSecurityGroup(createRequest);
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

セキュリティグループを設定する

セキュリティグループは、Amazon EC2 インスタンスへのインバウンド (ingress) とアウトバウンド (egress) トラフィックの両方を制御できます。

セキュリティグループに Ingress ルールを追加するには、Ec2Client の `authorizeSecurityGroupIngress` メソッドを使用して、セキュリティグループの名前と AuthorizeSecurityGroupIngressRequest オブジェクト内で割り当てるアクセスルール (IpPermission) を指定します。以下の例では、セキュリティグループへの IP のアクセス許可の追加方法を説明します。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.Ec2Client;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.CreateSecurityGroupRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.AuthorizeSecurityGroupIngressRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.AuthorizeSecurityGroupIngressResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.Ec2Exception;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.IpPermission;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.CreateSecurityGroupResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.IpRange;
```

コード

最初に、Ec2Client を作成します

```
        Region region = Region.US_WEST_2;
        Ec2Client ec2 = Ec2Client.builder()
                .region(region)
                .build();
```

その後、Ec2Client の `authorizeSecurityGroupIngress` メソッドを使用します。

```
            IpRange ipRange = IpRange.builder()
```

```
                .cidrIp("0.0.0.0/0").build();

            IpPermission ipPerm = IpPermission.builder()
                .ipProtocol("tcp")
                .toPort(80)
                .fromPort(80)
                .ipRanges(ipRange)
                .build();

            IpPermission ipPerm2 = IpPermission.builder()
                .ipProtocol("tcp")
                .toPort(22)
                .fromPort(22)
                .ipRanges(ipRange)
                .build();

            AuthorizeSecurityGroupIngressRequest authRequest =
                AuthorizeSecurityGroupIngressRequest.builder()
                        .groupName(groupName)
                        .ipPermissions(ipPerm, ipPerm2)
                        .build();

            AuthorizeSecurityGroupIngressResponse authResponse =
            ec2.authorizeSecurityGroupIngress(authRequest);

            System.out.printf(
                "Successfully added ingress policy to Security Group %s",
                groupName);

            return resp.groupId();

        } catch (Ec2Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }
```

セキュリティグループに egress ルールを追加するには、同様のデータを Ec2Client の `authorizeSecurityGroupEgress` メソッドに AuthorizeSecurityGroupEgressRequest で指定します。

GitHub で完全な例をご覧ください。

セキュリティグループを記述する

セキュリティグループについて記述、またはそれらに関する情報を収集するには、Ec2Client の `describeSecurityGroups` メソッドを呼び出します。これにより DescribeSecurityGroupsResponse が返されます。SecurityGroup オブジェクトのリストを返す `securityGroups` メソッドを呼び出し、このオブジェクトを渡すことで、セキュリティグループのリストにアクセスできます。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.Ec2Client;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeSecurityGroupsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeSecurityGroupsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.SecurityGroup;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.Ec2Exception;
```

コード

```
    public static void describeEC2SecurityGroups(Ec2Client ec2, String groupId) {

       try {
           DescribeSecurityGroupsRequest request =
               DescribeSecurityGroupsRequest.builder()
                       .groupIds(groupId).build();

           DescribeSecurityGroupsResponse response =
               ec2.describeSecurityGroups(request);

            for(SecurityGroup group : response.securityGroups()) {
               System.out.printf(
                   "Found Security Group with id %s, " +
                           "vpc id %s " +
                           "and description %s",
                   group.groupId(),
                   group.vpcId(),
                   group.description());
           }
       } catch (Ec2Exception e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
```

```
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

セキュリティグループを削除する

セキュリティグループを削除するには、Ec2Client の deleteSecurityGroup メソッドを呼び出し、それに削除するセキュリティグループの ID を含む DeleteSecurityGroupRequest を渡します。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.Ec2Client;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DeleteSecurityGroupRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.Ec2Exception;
```

コード

```
    public static void deleteEC2SecGroup(Ec2Client ec2,String groupId) {

        try {
            DeleteSecurityGroupRequest request = DeleteSecurityGroupRequest.builder()
                .groupId(groupId)
                .build();

            ec2.deleteSecurityGroup(request);
            System.out.printf(
                "Successfully deleted Security Group with id %s", groupId);

        } catch (Ec2Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
     }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

詳細情報

- 「Linux インスタンス用 Amazon EC2 ユーザーガイド」の Amazon EC2 セキュリティグループ
- 「Amazon EC2 Linux インスタンス用ユーザーガイド」の「Linux インスタンスのインバウンドトラフィックの承認」

- Amazon EC2 API リファレンスの CreateSecurityGroup
- Amazon EC2 API リファレンスの DescribeSecurityGroups
- Amazon EC2 API リファレンスの DeleteSecurityGroup
- Amazon EC2 API リファレンスの AuthorizeSecurityGroupIngress

Amazon EC2 インスタンスメタデータを操作する

Amazon EC2 インスタンスメタデータサービスの Java SDK クライアント (メタデータクライアント) を使用すると、アプリケーションはローカル EC2 インスタンスのメタデータにアクセスできます。メタデータクライアントは IMDSv2 のローカルインスタンス (インスタンスメタデータサービス v2) と連携し、セッション指向のリクエストを使用します。

SDK には 2 つのクライアントクラスがあります。同期 `Ec2MetadataClient` はブロッキングオペレーション用で、`Ec2MetadataAsyncClient` は非同期、ノンブロッキングのユースケース用です。

はじめに

メタデータクライアントを使用するには、`imds` Maven アーティファクトをプロジェクトに追加します。クラスパスには `SdkHttpClient` (または非同期バリアントの場合は `SdkAsyncHttpClient`) のクラスも必要です。

次の Maven XML は、同期 UrlConnectionHttpClient を使用するための依存関係のスニペットと、メタデータクライアントの依存関係を示しています。

```
<dependencyManagement>
   <dependencies>
        <dependency>
            <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
            <artifactId>bom</artifactId>
            <version>VERSION</version>
            <type>pom</type>
            <scope>import</scope>
        </dependency>
    </dependencies>
</dependencyManagement>

<dependencies>
    <dependency>
        <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
```

```
        <artifactId>imds</artifactId>
    </dependency>
    <dependency>
        <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
        <artifactId>url-connection-client</artifactId>
    </dependency>
    <!-- other dependencies -->
</dependencies>
```

Maven central リポジトリで bom アーティファクトの最新バージョンを検索してください。

非同期 HTTP クライアントを使用するには、url-connection-client アーティファクトの依存関係スニペットを置き換えてください。たとえば、次のスニペットでは NettyNioAsyncHttpClient の実装が取り込まれています。

```
    <dependency>
        <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
        <artifactId>netty-nio-client</artifactId>
    </dependency>
```

メタデータクライアントを使用する

メタデータクライアントをインスタンス化する

クラスパスに SdkHttpClient インタフェースの実装が 1 つしかない場合は、同期 Ec2MetadataClient のインスタンスをインスタンス化できます。そのためには、以下のスニペットに示すように静的 Ec2MetadataClient#create() メソッドを呼び出します。

```
Ec2MetadataClient client = Ec2MetadataClient.create(); //
 'Ec2MetadataAsyncClient#create' is the asynchronous version.
```

アプリケーションに SdkHttpClient または SdkHttpAsyncClient インターフェースの実装が複数ある場合は、the section called “設定可能な HTTP クライアント” セクションに示されているように、メタデータクライアントが使用する実装を指定する必要があります。

> **Note**
>
> Amazon S3 などのほとんどのサービスクライアントでは、SDK for Java は SdkHttpClient または SdkHttpAsyncClient インターフェイスの実装を自動的に追加します。メタデータクライアントが同じ実装を使用している場合

は、Ec2MetadataClient#create() は問題なく動作します。別の実装が必要な場合は、メタデータクライアントの作成時にその実装を指定する必要があります。

リクエストを送信する

インスタンスメタデータを取得するには、EC2MetadataClient クラスをインスタンス化し、インスタンスメタデータカテゴリを指定するパスパラメータを使用して get メソッドを呼び出します。

次の例では、ami-id キーに関連付けられた値をコンソールに出力します。

```
Ec2MetadataClient client = Ec2MetadataClient.create();
Ec2MetadataResponse response = client.get("/latest/meta-data/ami-id");
System.out.println(response.asString());
client.close(); // Closes the internal resources used by the Ec2MetadataClient class.
```

パスが無効な場合、get メソッドは例外を投げます。

close 同じクライアントインスタンスを複数のリクエストに再利用し、リソースを解放する必要がなくなったらクライアントを呼び出します。クローズメソッドが呼び出されると、クライアントインスタンスは使用できなくなります。

レスポンスを解析する

EC2 インスタンスメタデータはさまざまな形式で出力できます。プレーンテキストと JSON が最も一般的に使用される形式です。メタデータクライアントには、これらの形式を処理する方法が用意されています。

次の例に示すように、asString メソッドを使用してデータを Java 文字列として取得します。asList メソッドを使用して、複数行を返すプレーンテキストレスポンスを区切ることもできます。

```
Ec2MetadataClient client = Ec2MetadataClient.create();
Ec2MetadataResponse response = client.get("/latest/meta-data/");
String fullResponse = response.asString();
List<String> splits = response.asList();
```

レスポンスが JSON の場合は、次のコードスニペットに示すように、Ec2MetadataResponse#asDocument メソッドを使用して JSON レスポンスを解析してドキュメントインスタンスにします。

```
Document fullResponse = response.asDocument();
```

メタデータの形式が JSON でない場合は例外が発生します。レスポンスが正常に解析されたら、ドキュメント API を使用してレスポンスをより詳細に調べることができます。JSON 形式のレスポンスを返すメタデータカテゴリについては、インスタンスの「metadata category chart」を参照してください。

メタデータクライアントを設定する

再試行

メタデータクライアントには再試行メカニズムを設定できます。そうすることで、クライアントは予期しない理由で失敗したリクエストを自動的に再試行できます。デフォルトでは、クライアントは失敗したリクエストに対し、エクスポネンシャルバックオフ時間を置いて 3 回再試行します。

ユースケースで別の再試行メカニズムが必要な場合は、ビルダーの `retryPolicy` メソッドを使用してクライアントをカスタマイズできます。たとえば、次の例は、試行間隔が 2 秒、再試行が 5 回になるように設定された同期クライアントを示しています。

```
BackoffStrategy fixedBackoffStrategy =
 FixedDelayBackoffStrategy.create(Duration.ofSeconds(2));
Ec2MetadataClient client =
    Ec2MetadataClient.builder()
                     .retryPolicy(retryPolicyBuilder ->
 retryPolicyBuilder.numRetries(5)

 .backoffStrategy(fixedBackoffStrategy))
                     .build();
```

メタデータクライアントで使用できる BackoffStrategies はいくつかあります。

次のスニペットに示すように、リトライメカニズムを完全に無効にすることもできます。

```
Ec2MetadataClient client =
    Ec2MetadataClient.builder()
                    .retryPolicy(Ec2MetadataRetryPolicy.none())
                    .build();
```

`Ec2MetadataRetryPolicy#none()` を使用すると、メタデータクライアントが再試行しないように、デフォルトの再試行ポリシーが無効になります。

IP バージョン

デフォルトでは、メタデータクライアントは http://169.254.169.254 の IPV4 エンドポイントを使用します。IPV6 バージョンを使用するようにクライアントを変更するには、ビルダーの endpointMode または endpoint メソッドを使用します。ビルダーで両方のメソッドが呼び出されると、例外が発生します。

次の例は、両方の IPV6 オプションを示しています。

```
Ec2MetadataClient client =
    Ec2MetadataClient.builder()
                     .endpointMode(EndpointMode.IPV6)
                     .build();
```

```
Ec2MetadataClient client =
    Ec2MetadataClient.builder()
                     .endpoint(URI.create("http://[fd00:ec2::254]"))
                     .build();
```

主な特徴

非同期クライアント

ノンブロッキングバージョンのクライアントを使用するには、Ec2MetadataAsyncClient クラスのインスタンスをインスタンス化します。次の例のコードは、デフォルト設定で非同期クライアントを作成し、get メソッドを使用して ami-id キーの値を取得します。

```
Ec2MetadataAsyncClient asyncClient = Ec2MetadataAsyncClient.create();
CompletableFuture<Ec2MetadataResponse> response = asyncClient.get("/latest/meta-data/
ami-id");
```

get メソッドから返された java.util.concurrent.CompletableFuture は、レスポンスが返された時点で完了します。次の例では、ami-id メタデータをコンソールに出力します。

```
response.thenAccept(metadata -> System.out.println(metadata.asString()));
```

設定可能な HTTP クライアント

各メタデータクライアントのビルダーには、カスタマイズされた HTTP クライアントを提供するために使用できる httpClient メソッドがあります。

次の例はカスタム UrlConnectionHttpClient インスタンスのコードを示しています。

```
SdkHttpClient httpClient =
    UrlConnectionHttpClient.builder()
                           .socketTimeout(Duration.ofMinutes(5))
                           .proxyConfiguration(proxy ->
 proxy.endpoint(URI.create("http://proxy.example.net:8888"))))
                           .build();
Ec2MetadataClient metaDataClient =
    Ec2MetadataClient.builder()
                     .httpClient(httpClient)
                     .build();
// Use the metaDataClient instance.
metaDataClient.close();   // Close the instance when no longer needed.
```

次の例は、非同期メタデータクライアントを使用するカスタム NettyNioAsyncHttpClient インスタンスのコードを示しています。

```
SdkAsyncHttpClient httpAsyncClient =
    NettyNioAsyncHttpClient.builder()
                           .connectionTimeout(Duration.ofMinutes(5))
                           .maxConcurrency(100)
                           .build();
Ec2MetadataAsyncClient asyncMetaDataClient =
    Ec2MetadataAsyncClient.builder()
                          .httpClient(httpAsyncClient)
                          .build();
// Use the asyncMetaDataClient instance.
asyncMetaDataClient.close();   // Close the instance when no longer needed.
```

このガイドの the section called “HTTP クライアントの設定” トピックでは、SDK for Java で使用可能な HTTP クライアントの設定方法について詳しく説明しています。

トークンキャッシュ

メタデータクライアントは IMDSv2 を使用するため、すべてのリクエストはセッションに関連付けられます。セッションは、メタデータクライアントが管理する有効期限のあるトークンによって定義されます。メタデータをリクエストするたびに、トークンは有効期限が切れるまで自動的に再利用されます。

デフォルトでは、トークンは 6 時間 (21,600 秒) 持続します。特定のユースケースで高度な設定が必要でない限り、有効期間をデフォルト値のままにしておくことをお勧めします。

必要に応じて、tokenTtl ビルダーメソッドを使用して期間を設定します。たとえば、次のスニペットのコードでは、セッション期間が 5 分のクライアントを作成します。

```
Ec2MetadataClient client =
    Ec2MetadataClient.builder()
                     .tokenTtl(Duration.ofMinutes(5))
                     .build();
```

ビルダーで tokenTtl メソッドを呼び出さない場合は、代わりにデフォルトの継続時間である 21,600 が使用されます。

の使用 IAM

このセクションでは、 AWS SDK for Java 2.x を使用した programming AWS Identity and Access Management (IAM) の例を示します。

AWS Identity and Access Management (IAM) を使用すると、ユーザーの AWS サービスとリソースへのアクセスを安全に制御できます。を使用すると IAM、 AWS ユーザーとグループを作成および管理し、アクセス許可を使用して AWS リソースへのアクセスを許可または拒否できます。の詳細なガイドについては IAM、 IAM ユーザーガイドを参照してください。

次の例には各手法を示すのに必要なコードのみが含まれます。完全なサンプルコードは GitHub で入手できます。そこから、単一のソースファイルをダウンロードするかリポジトリをローカルにクローン作成して、ビルドし実行するためのすべての例を取得できます。

トピック

- IAM アクセスキーを管理する
- IAM ユーザーを管理する
- を使用して IAM ポリシーを作成する AWS SDK for Java 2.x
- IAM ポリシーの使用
- IAM サーバー証明書の使用

IAM アクセスキーを管理する

アクセスキーの作成

IAM アクセスキーを作成するには、IamClient's createAccessKey メソッドを CreateAccessKeyRequest オブジェクトを使用して呼び出します。

> **Note**
>
> はグローバルサービスであるため、 が呼び出せるように、リージョンを IamClientAWS_GLOBALIAM を設定する必要があります。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.CreateAccessKeyRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.CreateAccessKeyResponse;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.iam.IamClient;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.IamException;
```

Code

```
    public static String createIAMAccessKey(IamClient iam,String user) {

        try {
            CreateAccessKeyRequest request = CreateAccessKeyRequest.builder()
                .userName(user).build();

            CreateAccessKeyResponse response = iam.createAccessKey(request);
           String keyId = response.accessKey().accessKeyId();
           return keyId;

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

アクセスキーの一覧表示

特定のユーザーのアクセスキーを一覧表示するには、キーの一覧表示の対象となるユーザー名を含む `ListAccessKeysRequest` オブジェクトを作成し、それを IamClient's `listAccessKeys` メソッドに渡します。

> **Note**
>
> ユーザー名を listAccessKeys に渡さない場合は、リクエストに署名した AWS アカウント に関連付けられているアクセスキーの一覧表示を試行します。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.AccessKeyMetadata;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.IamException;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.ListAccessKeysRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.ListAccessKeysResponse;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.iam.IamClient;
```

Code

```
    public static void listKeys( IamClient iam,String userName ){

        try {
            boolean done = false;
            String newMarker = null;

            while (!done) {
                ListAccessKeysResponse response;

            if(newMarker == null) {
                ListAccessKeysRequest request = ListAccessKeysRequest.builder()
                        .userName(userName).build();
                response = iam.listAccessKeys(request);
            } else {
                ListAccessKeysRequest request = ListAccessKeysRequest.builder()
                        .userName(userName)
                        .marker(newMarker).build();
                response = iam.listAccessKeys(request);
            }

            for (AccessKeyMetadata metadata :
                    response.accessKeyMetadata()) {
                System.out.format("Retrieved access key %s",
                        metadata.accessKeyId());
            }
```

```
            if (!response.isTruncated()) {
                done = true;
            } else {
                newMarker = response.marker();
            }
        }

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

listAccessKeys の結果はページ分割されます (デフォルトで最大 1 回の呼び出しごとに 100 レコード)。返された ListAccessKeysResponse オブジェクトで isTruncated を呼び出し、より少ない結果を返されたクエリが利用可能かどうか確認することができます。利用可能な場合は、marker で ListAccessKeysResponse を呼び出して、新しいリクエストを作成するときに使用します。この新しいリクエストを listAccessKeys の次の呼び出しで使用します。

GitHub で完全な例をご覧ください。

アクセスキーの最終使用時刻の取得

アクセスキーが最後に使用された時刻を取得するには、そのアクセスキーの ID (GetAccessKeyLastUsedRequest オブジェクトの使用時に渡すことができる) で IamClient's getAccessKeyLastUsed メソッドを呼び出します。

返された GetAccessKeyLastUsedResponse オブジェクトを使用して、キーの最終使用時刻を取得できます。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.iam.IamClient;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.GetAccessKeyLastUsedRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.GetAccessKeyLastUsedResponse;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.IamException;
```

Code

```
    public static void getAccessKeyLastUsed(IamClient iam, String accessId ){
```

```
        try {
            GetAccessKeyLastUsedRequest request = GetAccessKeyLastUsedRequest.builder()
                    .accessKeyId(accessId).build();

            GetAccessKeyLastUsedResponse response = iam.getAccessKeyLastUsed(request);

            System.out.println("Access key was last used at: " +
                    response.accessKeyLastUsed().lastUsedDate());

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        System.out.println("Done");
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

アクセスキーのアクティブ化または非アクティブ化

アクセスキーをアクティブ化または非アクティブ化するには、UpdateAccessKeyRequestオブジェクトを作成し、アクセスキー ID、オプションでユーザー名、また目的の status を渡して、次にそのリクエストオブジェクトを IamClient's updateAccessKey メソッドに渡します。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.IamException;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.StatusType;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.UpdateAccessKeyRequest;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.iam.IamClient;
```

Code

```
      public static void updateKey(IamClient iam, String username, String accessId,
 String status ) {

         try {
             if (status.toLowerCase().equalsIgnoreCase("active")) {
                 statusType = StatusType.ACTIVE;
             } else if (status.toLowerCase().equalsIgnoreCase("inactive")) {
```

```
                statusType = StatusType.INACTIVE;
            } else {
                statusType = StatusType.UNKNOWN_TO_SDK_VERSION;
            }
            UpdateAccessKeyRequest request = UpdateAccessKeyRequest.builder()
              .accessKeyId(accessId)
              .userName(username)
              .status(statusType)
              .build();

            iam.updateAccessKey(request);

            System.out.printf(
              "Successfully updated the status of access key %s to" +
                      "status %s for user %s", accessId, status, username);

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

アクセスキーの削除

アクセスキーを完全に削除するには、IamClient's deleteKey メソッドを呼び出し、それにアクセスキーの ID とユーザーネームを含む DeleteAccessKeyRequest を渡します。

> **Note**
>
> 削除してしまうと、キーは取得することも使用することもできなくなります。後で再度アクティブ化できるようキーを一時的に非アクティブ化するには、代わりに updateAccessKey メソッドを使用します。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.iam.IamClient;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.DeleteAccessKeyRequest;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.IamException;
```

Code

```
    public static void deleteKey(IamClient iam ,String username, String accessKey ) {

        try {
            DeleteAccessKeyRequest request = DeleteAccessKeyRequest.builder()
                    .accessKeyId(accessKey)
                    .userName(username)
                    .build();

            iam.deleteAccessKey(request);
            System.out.println("Successfully deleted access key " + accessKey +
                " from user " + username);

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

詳細情報

- IAM API リファレンスの CreateAccessKey
- IAM API リファレンスの ListAccessKeys
- IAM API リファレンスの GetAccessKeyLastUsed
- IAM API リファレンスの UpdateAccessKey
- IAM API リファレンスの DeleteAccessKey

IAM ユーザーを管理する

ユーザーの作成

新しい IAM ユーザーを作成するには、ユーザー名を含む CreateUserRequest オブジェクトを使用して、IamClient の `createUser` メソッドにユーザー名を渡します。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.core.waiters.WaiterResponse;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.CreateUserRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.CreateUserResponse;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.IamException;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.iam.IamClient;
import software.amazon.awssdk.services.iam.waiters.IamWaiter;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.GetUserRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.GetUserResponse;
```

Code

```
    public static String createIAMUser(IamClient iam, String username ) {

        try {
            // Create an IamWaiter object
            IamWaiter iamWaiter = iam.waiter();

            CreateUserRequest request = CreateUserRequest.builder()
                    .userName(username)
                    .build();

            CreateUserResponse response = iam.createUser(request);

            // Wait until the user is created
            GetUserRequest userRequest = GetUserRequest.builder()
                    .userName(response.user().userName())
                    .build();

            WaiterResponse<GetUserResponse> waitUntilUserExists =
iamWaiter.waitUntilUserExists(userRequest);
            waitUntilUserExists.matched().response().ifPresent(System.out::println);
            return response.user().userName();

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
       return "";
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

ユーザーのリスト取得

アカウントの IAM ユーザーを一覧表示するには、新しい ListUsersRequest を作成して、それを IamClient の `listUsers` メソッドに渡します。返された usersListUsersResponse オブジェクトで を呼び出すことでユーザーのリストを取得できます。

`listUsers` によって返されたユーザーのリストはページ分割されます。取得できる結果がさらにあることを確認するには、応答オブジェクトの `isTruncated` メソッドを呼び出します。`true` が返った場合は、応答オブジェクトの `marker()` メソッドを呼び出します。マーカー値を使用して、新しいリクエストオブジェクトを作成します。次に、`listUsers` メソッドを新しいリクエストで再度呼び出します。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.IamException;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.ListUsersRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.ListUsersResponse;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.User;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.iam.IamClient;
```

Code

```
    public static void listAllUsers(IamClient iam ) {

        try {

             boolean done = false;
             String newMarker = null;

             while(!done) {
                ListUsersResponse response;

                if (newMarker == null) {
                    ListUsersRequest request = ListUsersRequest.builder().build();
                    response = iam.listUsers(request);
                } else {
                    ListUsersRequest request = ListUsersRequest.builder()
                        .marker(newMarker).build();
                    response = iam.listUsers(request);
                }
```

```
                for(User user : response.users()) {
                 System.out.format("\n Retrieved user %s", user.userName());
                }

                if(!response.isTruncated()) {
                  done = true;
                } else {
                    newMarker = response.marker();
                }
            }
        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

ユーザーの更新

ユーザーを更新するには、IamClient オブジェクトの updateUser メソッドを呼び出し、それが取得する UpdateUserRequest オブジェクトを使用して、ユーザーの名前またはパスを変更します。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.iam.IamClient;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.IamException;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.UpdateUserRequest;
```

Code

```
    public static void updateIAMUser(IamClient iam, String curName,String newName ) {

        try {
            UpdateUserRequest request = UpdateUserRequest.builder()
                    .userName(curName)
                    .newUserName(newName)
                    .build();

            iam.updateUser(request);
            System.out.printf("Successfully updated user to username %s",
                newName);
```

```
        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

ユーザーを削除する

ユーザーを削除するには、UpdateUserRequest オブジェクトに削除するユーザー名を設定して、IamClient の `deleteUser` リクエストを呼び出します。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.iam.IamClient;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.DeleteUserRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.IamException;
```

Code

```
    public static void deleteIAMUser(IamClient iam, String userName) {

        try {
            DeleteUserRequest request = DeleteUserRequest.builder()
                    .userName(userName)
                    .build();

            iam.deleteUser(request);
            System.out.println("Successfully deleted IAM user " + userName);
        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

詳細情報

- 「IAM ユーザーガイド」の IAM ユーザー

- IAM ユーザーガイドの IAM ユーザーの管理
- IAM API リファレンスの CreateUser
- IAM API リファレンスの ListUsers
- IAM API リファレンスの UpdateUser
- IAM API リファレンスの DeleteUser

を使用して IAM ポリシーを作成する AWS SDK for Java 2.x

IAM Policy Builder API は、Java で IAM ポリシーを構築して AWS Identity and Access Management (IAM) にアップロードするために使用できるライブラリです。

この API では、JSON 文字列を手動で組み立てたりファイルを読み取ったりして IAM ポリシーを構築する代わりに、クライアント側のオブジェクト指向の方法で JSON 文字列を生成します。JSON 形式の既存の IAM ポリシーを読み取ると、API はそのポリシーを IamPolicy インスタンスに変換して処理します。

IAM Policy Builder API は SDK のバージョン 2.20.105 で利用できるようになったため、Maven ビルドファイルではそのバージョンまたはそれ以降のバージョンを使用してください。SDK の最新バージョン番号は Maven central にリストがあります。

次のスニペットは、Maven `pom.xml` ファイルの依存関係ブロック例を示しています。これにより、IAM Policy Builder API をプロジェクトで使用できるようになります。

```
<dependency>
    <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
    <artifactId>iam-policy-builder</artifactId>
    <version>2.27.21</version>
</dependency>
```

`IamPolicy` を作成します。

このセクションでは、IAM Policy Builder API を使用してポリシーを構築する方法の例をいくつか示します。

以下の各例では、`IamPolicy.Builder` から始めて、`addStatement` メソッドを使用して 1 つ以上のステートメントを追加します。このパターンに従い、IamStatement.Builder にはエフェクト、アクション、リソース、条件をステートメントに追加するメソッドが用意されています。

例: 時間ベースのポリシーを作成する

次の例では、2 つの時点間の Amazon DynamoDB `GetItem` アクションを許可するアイデンティティベースのポリシーを作成します。

```
    public String timeBasedPolicyExample() {
        IamPolicy policy = IamPolicy.builder()
                .addStatement(b -> b
                        .effect(IamEffect.ALLOW)
                        .addAction("dynamodb:GetItem")
                        .addResource(IamResource.ALL)
                        .addCondition(b1 -> b1
                                .operator(IamConditionOperator.DATE_GREATER_THAN)
                                .key("aws:CurrentTime")
                                .value("2020-04-01T00:00:00Z"))
                        .addCondition(b1 -> b1
                                .operator(IamConditionOperator.DATE_LESS_THAN)
                                .key("aws:CurrentTime")
                                .value("2020-06-30T23:59:59Z")))
                .build();

        // Use an IamPolicyWriter to write out the JSON string to a more readable
format.
        return policy.toJson(IamPolicyWriter.builder()
                        .prettyPrint(true)
                        .build());
    }
```

JSON 出力

前の例の最後のステートメントは、次の JSON 文字列を返します。

この例の詳細については、「AWS Identity and Access Management ユーザーガイド」を参照してください。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": {
        "Effect": "Allow",
        "Action": "dynamodb:GetItem",
```

```
        "Resource": "*",
        "Condition": {
            "DateGreaterThan": {
                "aws:CurrentTime": "2020-04-01T00:00:00Z"
            },
            "DateLessThan": {
                "aws:CurrentTime": "2020-06-30T23:59:59Z"
            }
        }
    }
}
```

例: 複数の条件を指定する

次の例では、特定の DynamoDB 属性へのアクセスを許可する ID ベースポリシーを作成する方法を示します。ポリシーには 3 つの条件が含まれています。

```
    public String multipleConditionsExample() {
        IamPolicy policy = IamPolicy.builder()
                .addStatement(b -> b
                        .effect(IamEffect.ALLOW)
                        .addAction("dynamodb:GetItem")
                        .addAction("dynamodb:BatchGetItem")
                        .addAction("dynamodb:Query")
                        .addAction("dynamodb:PutItem")
                        .addAction("dynamodb:UpdateItem")
                        .addAction("dynamodb:DeleteItem")
                        .addAction("dynamodb:BatchWriteItem")
                        .addResource("arn:aws:dynamodb:*:*:table/table-name")

 .addConditions(IamConditionOperator.STRING_EQUALS.addPrefix("ForAllValues:"),
                                "dynamodb:Attributes",
                                List.of("column-name1", "column-name2", "column-
name3"))
                        .addCondition(b1 ->
 b1.operator(IamConditionOperator.STRING_EQUALS.addSuffix("IfExists"))
                                .key("dynamodb:Select")
                                .value("SPECIFIC_ATTRIBUTES"))
                        .addConditions(IamConditionOperator.STRING_EQUALS,
                                "dynamodb:ReturnValues",
                                List.of("NONE", "UPDATED_OLD", "UPDATED_NEW")))
                .build();
```

```
        return policy.toJson(IamPolicyWriter.builder()
                .prettyPrint(true).build());
    }
```

JSON 出力

前の例の最後のステートメントは、次の JSON 文字列を返します。

この例の詳細については、「AWS Identity and Access Management ユーザーガイド」を参照してください。

JSON

```
{
    "Version":"2012-10-17",
    "Statement": {
        "Effect": "Allow",
        "Action": [
            "dynamodb:GetItem",
            "dynamodb:BatchGetItem",
            "dynamodb:Query",
            "dynamodb:PutItem",
            "dynamodb:UpdateItem",
            "dynamodb:DeleteItem",
            "dynamodb:BatchWriteItem"
        ],
        "Resource": "arn:aws:dynamodb:*:*:table/table-name",
        "Condition": {
            "ForAllValues:StringEquals": {
                "dynamodb:Attributes": [
                    "column-name1",
                    "column-name2",
                    "column-name3"
                ]
            },
            "StringEqualsIfExists": {
                "dynamodb:Select": "SPECIFIC_ATTRIBUTES"
            }
        }
    }
}
```

例: プリンシパルを指定する

次の例は、条件で指定されたものを除くすべてのプリンシパルのバケットへのアクセスを拒否するリソースベースのポリシーを作成する方法を示しています。

```
    public String specifyPrincipalsExample() {
        IamPolicy policy = IamPolicy.builder()
                .addStatement(b -> b
                        .effect(IamEffect.DENY)
                        .addAction("s3:*")
                        .addPrincipal(IamPrincipal.ALL)
                        .addResource("arn:aws:s3:::BUCKETNAME/*")
                        .addResource("arn:aws:s3:::BUCKETNAME")
                        .addCondition(b1 -> b1
                                .operator(IamConditionOperator.ARN_NOT_EQUALS)
                                .key("aws:PrincipalArn")
                                .value("arn:aws:iam::444455556666:user/user-name")))
                .build();
        return policy.toJson(IamPolicyWriter.builder()
                .prettyPrint(true).build());
    }
```

JSON 出力

前の例の最後のステートメントは、次の JSON 文字列を返します。

この例の詳細については、「AWS Identity and Access Management ユーザーガイド」を参照してください。

JSON

```
{
  "Version":"2012-10-17",
  "Statement" : {
    "Effect" : "Deny",
    "Principal" : "*",
    "Action" : "s3:*",
    "Resource" : [ "arn:aws:s3:::BUCKETNAME/*", "arn:aws:s3:::BUCKETNAME" ],
    "Condition" : {
      "ArnNotEquals" : {
        "aws:PrincipalArn" : "arn:aws:iam::444455556666:user/user-name"
      }
```

```
    }
  }
}
```

例: クロスアカウントアクセスを許可します。

次の例は、アップロードされたオブジェクトの完全な所有者制御を維持しながら、他のユーザー AWS アカウント がバケットにオブジェクトをアップロードできるようにする方法を示しています。

```
public String allowCrossAccountAccessExample() {
    IamPolicy policy = IamPolicy.builder()
            .addStatement(b -> b
                    .effect(IamEffect.ALLOW)
                    .addPrincipal(IamPrincipalType.AWS, "111122223333")
                    .addAction("s3:PutObject")
                    .addResource("arn:aws:s3:::amzn-s3-demo-bucket/*")
                    .addCondition(b1 -> b1
                            .operator(IamConditionOperator.STRING_EQUALS)
                            .key("s3:x-amz-acl")
                            .value("bucket-owner-full-control")))
            .build();
    return policy.toJson(IamPolicyWriter.builder()
            .prettyPrint(true).build());
}
```

JSON 出力

前の例の最後のステートメントは、次の JSON 文字列を返します。

この例の詳細については、「Amazon Simple Storage Service ユーザーガイド」を参照ください。

JSON

```
{
  "Version":"2012-10-17",
  "Statement" : {
    "Effect" : "Allow",
    "Principal" : {
      "AWS" : "111122223333"
    },
    "Action" : "s3:PutObject",
```

```
      "Resource" : "arn:aws:s3:::amzn-s3-demo-bucket/*",
      "Condition" : {
        "StringEquals" : {
          "s3:x-amz-acl" : "bucket-owner-full-control"
        }
      }
    }
}
```

IAM で **IamPolicy** を使用する

IamPolicy インスタンスを作成したら、IamClient を使用して IAM サービスを利用します。

次の例では、IAM ID が accountID パラメータで指定されたアカウントの DynamoDB テーブルに項目を書き込むことを許可するポリシーを構築します。次に、ポリシーが JSON 文字列として IAM にアップロードされます。

```
   public String createAndUploadPolicyExample(IamClient iam, String accountID, String
policyName) {
       // Build the policy.
       IamPolicy policy =
               IamPolicy.builder() // 'version' defaults to "2012-10-17".
                       .addStatement(IamStatement.builder()
                               .effect(IamEffect.ALLOW)
                               .addAction("dynamodb:PutItem")
                               .addResource("arn:aws:dynamodb:us-east-1:" + accountID
+ ":table/exampleTableName")
                               .build())
                       .build();
       // Upload the policy.
       iam.createPolicy(r ->
r.policyName(policyName).policyDocument(policy.toJson()));
       return policy.toJson(IamPolicyWriter.builder().prettyPrint(true).build());
   }
```

次の例は、前述の例に基づいています。コードはポリシーをダウンロードし、ステートメントをコピーして変更することで新しいポリシーの基礎として使用します。その後、新しいポリシーがアップロードされます。

```
   public String createNewBasedOnExistingPolicyExample(IamClient iam, String
accountID, String policyName, String newPolicyName) {
```

```
        String policyArn = "arn:aws:iam::" + accountID + ":policy/" + policyName;
        GetPolicyResponse getPolicyResponse = iam.getPolicy(r ->
r.policyArn(policyArn));

        String policyVersion = getPolicyResponse.policy().defaultVersionId();
        GetPolicyVersionResponse getPolicyVersionResponse =
                iam.getPolicyVersion(r ->
r.policyArn(policyArn).versionId(policyVersion));

        // Create an IamPolicy instance from the JSON string returned from IAM.
        String decodedPolicy =
URLDecoder.decode(getPolicyVersionResponse.policyVersion().document(),
StandardCharsets.UTF_8);
        IamPolicy policy = IamPolicy.fromJson(decodedPolicy);

            /*
             All IamPolicy components are immutable, so use the copy method that
creates a new instance that
             can be altered in the same method call.

             Add the ability to get an item from DynamoDB as an additional action.
            */
        IamStatement newStatement = policy.statements().get(0).copy(s ->
s.addAction("dynamodb:GetItem"));

        // Create a new statement that replaces the original statement.
        IamPolicy newPolicy = policy.copy(p ->
p.statements(Arrays.asList(newStatement)));

        // Upload the new policy. IAM now has both policies.
        iam.createPolicy(r -> r.policyName(newPolicyName)
                .policyDocument(newPolicy.toJson()));

        return newPolicy.toJson(IamPolicyWriter.builder().prettyPrint(true).build());
    }
```

IamClient

前の例では、次のスニペットで示される `IamClient` 引数を使用します。

```
IamClient iam = IamClient.builder().region(Region.AWS_GLOBAL).build();
```

JSON のポリシー

例では次の JSON 文字列が返されます。

```
First example
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement" : {
    "Effect" : "Allow",
    "Action" : "dynamodb:PutItem",
    "Resource" : "arn:aws:dynamodb:us-east-1:111122223333:table/exampleTableName"
  }
}

Second example
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement" : {
    "Effect" : "Allow",
    "Action" : [ "dynamodb:PutItem", "dynamodb:GetItem" ],
    "Resource" : "arn:aws:dynamodb:us-east-1:111122223333:table/exampleTableName"
  }
}
```

IAM ポリシーの使用

ポリシーの作成

新しいポリシーを作成するには、CreatePolicyRequest 内のポリシーの名前および JSON 形式のポリシードキュメントを IamClient の `createPolicy` メソッドに渡します。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.core.waiters.WaiterResponse;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.CreatePolicyRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.CreatePolicyResponse;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.GetPolicyRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.GetPolicyResponse;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.IamException;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.iam.IamClient;
import software.amazon.awssdk.services.iam.waiters.IamWaiter;
```

Code

```
    public static String createIAMPolicy(IamClient iam, String policyName ) {

        try {
            // Create an IamWaiter object
            IamWaiter iamWaiter = iam.waiter();

            CreatePolicyRequest request = CreatePolicyRequest.builder()
                .policyName(policyName)
                .policyDocument(PolicyDocument).build();

            CreatePolicyResponse response = iam.createPolicy(request);

            // Wait until the policy is created
            GetPolicyRequest polRequest = GetPolicyRequest.builder()
                    .policyArn(response.policy().arn())
                    .build();

            WaiterResponse<GetPolicyResponse> waitUntilPolicyExists =
iamWaiter.waitUntilPolicyExists(polRequest);
            waitUntilPolicyExists.matched().response().ifPresent(System.out::println);
            return response.policy().arn();

         } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "" ;
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

ポリシーの取得

既存のポリシーを取得するには、IamClient の getPolicy メソッドを呼び出して、GetPolicyRequest オブジェクト内のポリシーの ARN を渡します。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.GetPolicyRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.GetPolicyResponse;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.iam.IamClient;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.IamException;
```

Code

```
    public static void getIAMPolicy(IamClient iam, String policyArn) {

        try {
            GetPolicyRequest request = GetPolicyRequest.builder()
                .policyArn(policyArn).build();

            GetPolicyResponse response = iam.getPolicy(request);
            System.out.format("Successfully retrieved policy %s",
                response.policy().policyName());

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

ロールポリシーのアタッチ

ポリシーを IAM ロールにアタッチするには、IamClient の attachRolePolicy メソッドを呼び出し、それに AttachRolePolicyRequest 内のロール名およびポリシー ARN を渡します。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.iam.IamClient;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.IamException;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.AttachRolePolicyRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.AttachedPolicy;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.ListAttachedRolePoliciesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.ListAttachedRolePoliciesResponse;
import java.util.List;
```

Code

```
    public static void attachIAMRolePolicy(IamClient iam, String roleName, String
 policyArn ) {
```

```
       try {

            ListAttachedRolePoliciesRequest request =
ListAttachedRolePoliciesRequest.builder()
                  .roleName(roleName)
                  .build();

           ListAttachedRolePoliciesResponse  response =
iam.listAttachedRolePolicies(request);
           List<AttachedPolicy> attachedPolicies = response.attachedPolicies();

           // Ensure that the policy is not attached to this role
           String polArn = "";
           for (AttachedPolicy policy: attachedPolicies) {
               polArn = policy.policyArn();
               if (polArn.compareTo(policyArn)==0) {
                  System.out.println(roleName +
                           " policy is already attached to this role.");
                   return;
               }
         }

           AttachRolePolicyRequest attachRequest =
               AttachRolePolicyRequest.builder()
                       .roleName(roleName)
                       .policyArn(policyArn)
                       .build();

           iam.attachRolePolicy(attachRequest);

           System.out.println("Successfully attached policy " + policyArn +
               " to role " + roleName);

        } catch (IamException e) {
               System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
               System.exit(1);
         }

    System.out.println("Done");
   }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

アタッチ済みロールポリシーの一覧表示

ロールのアタッチ済みポリシーを一覧表示するには、IamClient の `listAttachedRolePolicies` メソッドを呼び出します。このメソッドは、ポリシーを一覧表示するロール名を含む ListAttachedRolePoliciesRequest オブジェクトを受け取ります。

返された ListAttachedRolePoliciesResponse オブジェクトで `getAttachedPolicies` を呼び出し、アタッチ済みポリシーのリストを取得します。結果は切り捨てられる場合があります。`ListAttachedRolePoliciesResponse` オブジェクトの `isTruncated` メソッドが `true` を返す場合は、`ListAttachedRolePoliciesResponse` オブジェクトの `marker` メソッドを呼び出します。返るマーカーを使用して新しいリクエストを作成します。また、それを使用して `listAttachedRolePolicies` を再び呼び出し、結果の次のバッチを取得します。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.iam.IamClient;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.IamException;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.AttachRolePolicyRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.AttachedPolicy;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.ListAttachedRolePoliciesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.ListAttachedRolePoliciesResponse;
import java.util.List;
```

Code

```
   public static void attachIAMRolePolicy(IamClient iam, String roleName, String
policyArn ) {

       try {

            ListAttachedRolePoliciesRequest request =
ListAttachedRolePoliciesRequest.builder()
                    .roleName(roleName)
                    .build();

           ListAttachedRolePoliciesResponse  response =
iam.listAttachedRolePolicies(request);
           List<AttachedPolicy> attachedPolicies = response.attachedPolicies();

           // Ensure that the policy is not attached to this role
           String polArn = "";
```

```
            for (AttachedPolicy policy: attachedPolicies) {
                polArn = policy.policyArn();
                if (polArn.compareTo(policyArn)==0) {
                   System.out.println(roleName +
                           " policy is already attached to this role.");
                    return;
                }
            }

            AttachRolePolicyRequest attachRequest =
                AttachRolePolicyRequest.builder()
                        .roleName(roleName)
                        .policyArn(policyArn)
                        .build();

            iam.attachRolePolicy(attachRequest);

            System.out.println("Successfully attached policy " + policyArn +
                " to role " + roleName);

        } catch (IamException e) {
                System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
                System.exit(1);
            }

        System.out.println("Done");
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

ロールポリシーのデタッチ

ロールからポリシーをデタッチするには、IamClient の detachRolePolicy メソッドを呼び出し、それに DetachRolePolicyRequest 内のロール名およびポリシー ARN を渡します。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.DetachRolePolicyRequest;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.iam.IamClient;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.IamException;
```

Code

```
    public static void detachPolicy(IamClient iam, String roleName, String policyArn )
{

        try {
            DetachRolePolicyRequest request = DetachRolePolicyRequest.builder()
                    .roleName(roleName)
                    .policyArn(policyArn)
                    .build();

            iam.detachRolePolicy(request);
            System.out.println("Successfully detached policy " + policyArn +
                " from role " + roleName);

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

詳細情報

- IAM ユーザーガイドの IAM ポリシーの概要。
- IAM ユーザーガイドの AWS IAM ポリシーのリファレンス。
- IAM API リファレンスの CreatePolicy
- IAM API リファレンスの GetPolicy
- IAM API リファレンスの AttachRolePolicy
- IAM API リファレンスの ListAttachedRolePolicies
- IAM API リファレンスの DetachRolePolicy

IAM サーバー証明書の使用

でウェブサイトまたはアプリケーションへの HTTPS 接続を有効にするには AWS、SSL/TLS サーバー証明書が必要です。が提供するサーバー証明書、 AWS Certificate Manager または外部プロバイダーから取得したサーバー証明書を使用できます。

サーバー証明書のプロビジョニング、管理、デプロイ ACM には、 を使用することをお勧めします。 ACM を使用すると、証明書をリクエストし、 AWS リソースにデプロイして、 が証明書の更新

ACM を処理できます。が提供する証明書 ACM は無料です。詳細については ACM、AWS Certificate Manager 「 ユーザーガイド」を参照してください。

サーバー証明書の取得

サーバー証明書を取得するには、IamClient の `getServerCertificate` メソッドを呼び出し、それに証明書の名前を含む GetServerCertificateRequest を渡します。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.GetServerCertificateRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.GetServerCertificateResponse;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.iam.IamClient;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.IamException;
```

コード

```
    public static void getCertificate(IamClient iam,String certName ) {

        try {
            GetServerCertificateRequest request = GetServerCertificateRequest.builder()
                    .serverCertificateName(certName)
                    .build();

            GetServerCertificateResponse response = iam.getServerCertificate(request);
            System.out.format("Successfully retrieved certificate with body %s",
                response.serverCertificate().certificateBody());

         } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

サーバー証明書の一覧表示

サーバー証明書を一覧表示するには、`listServerCertificates`ListServerCertificatesRequest を使用して IamClient の メソッドを呼び出します。これにより ListServerCertificatesResponse が返されます。

返された ListServerCertificateResponse オブジェクトの serverCertificateMetadataList メソッドを呼び出して、各証明書についての情報を取得するために使用できる ServerCertificateMetadata オブジェクトの一覧を取得します。

結果は切り捨てられる場合があります。ListServerCertificateResponse オブジェクトの isTruncated メソッドが true を返す場合は、ListServerCertificatesResponse オブジェクトの marker メソッドを呼び出します。その後、マーカーを使用して新しいリクエストを作成します。この新しいリクエストを使用して、再度 listServerCertificates を呼び出し、結果の次のバッチを取得します。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.IamException;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.ListServerCertificatesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.ListServerCertificatesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.ServerCertificateMetadata;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.iam.IamClient;
```

コード

```
    public static void listCertificates(IamClient iam) {

        try {
            boolean done = false;
            String newMarker = null;

            while(!done) {
              ListServerCertificatesResponse response;

            if (newMarker == null) {
                ListServerCertificatesRequest request =
                        ListServerCertificatesRequest.builder().build();
                response = iam.listServerCertificates(request);
            } else {
                ListServerCertificatesRequest request =
                        ListServerCertificatesRequest.builder()
                                .marker(newMarker).build();
                response = iam.listServerCertificates(request);
            }

            for(ServerCertificateMetadata metadata :
```

```
                    response.serverCertificateMetadataList()) {
                System.out.printf("Retrieved server certificate %s",
                        metadata.serverCertificateName());
            }

            if(!response.isTruncated()) {
                done = true;
            } else {
                newMarker = response.marker();
            }
        }

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

サーバー証明書の更新

サーバー証明書の名前やパスを更新するには、IamClient の updateServerCertificate メソッドを呼び出します。サーバー証明書の現在の名前および使用する新しい名前か新しいパスのいずれかを使って設定した UpdateServerCertificateRequest オブジェクトが使用されます。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.iam.IamClient;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.IamException;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.UpdateServerCertificateRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.UpdateServerCertificateResponse;
```

コード

```
    public static void updateCertificate(IamClient iam, String curName, String newName)
 {

        try {
            UpdateServerCertificateRequest request =
                UpdateServerCertificateRequest.builder()
```

```
                        .serverCertificateName(curName)
                        .newServerCertificateName(newName)
                        .build();

            UpdateServerCertificateResponse response =
                iam.updateServerCertificate(request);


            System.out.printf("Successfully updated server certificate to name %s",
                newName);

        } catch (IamException e) {
             System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
             System.exit(1);
        }
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

サーバー証明書の削除

サーバー証明書を削除するには、証明書の名前を含む DeleteServerCertificateRequest を使用して、IamClient の `deleteServerCertificate` メソッドを呼び出します。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.DeleteServerCertificateRequest;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.iam.IamClient;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.IamException;
```

コード

```
    public static void deleteCert(IamClient iam,String certName ) {

        try {
            DeleteServerCertificateRequest request =
                DeleteServerCertificateRequest.builder()
                        .serverCertificateName(certName)
                        .build();

            iam.deleteServerCertificate(request);
```

```
            System.out.println("Successfully deleted server certificate " +
                    certName);

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

詳細情報

- IAM ユーザーガイドのサーバー証明書の使用
- IAM API リファレンスの GetServerCertificate
- IAM API リファレンスの ListServerCertificates
- IAM API リファレンスの UpdateServerCertificate
- IAM API リファレンスの DeleteServerCertificate
- AWS Certificate Manager ユーザーガイド

Kinesis を使用する

このセクションでは、AWS SDK for Java 2.x を使用して Amazon Kinesis をプログラムする例を示します。

Kinesis の詳細については、「Amazon Kinesis デベロッパーガイド」を参照してください。

次の例には各手法を示すのに必要なコードのみが含まれます。完全なサンプルコードは GitHub で入手できます。そこから、単一のソースファイルをダウンロードするかリポジトリをローカルにクローン作成して、ビルドし実行するためのすべての例を取得できます。

トピック

- Amazon Kinesis Data Streams へのサブスクライブ

Amazon Kinesis Data Streams へのサブスクライブ

以下の例では、Amazon Kinesis メソッドを使用し、`subscribeToShard` Data Streams からデータを取得して処理する方法について説明します。Kinesis Data Streams では、強化されたファンアウト

機能と低レイテンシーの HTTP/2 データ取得 API が導入されました。これにより、デベロッパーは複数の低レイテンシーで高パフォーマンスのアプリケーションを、同じ Kinesis Data Streams でより簡単に実行できます。

セットアップ

まず、非同期 Kinesisクライアントと SubscribeToShardRequest オブジェクトを作成します。これらのオブジェクトは、Kinesis イベントにサブスクライブする次のそれぞれの例で使用されます。

インポート

```
import java.util.concurrent.CompletableFuture;
import java.util.concurrent.atomic.AtomicInteger;
import org.reactivestreams.Subscriber;
import org.reactivestreams.Subscription;
import software.amazon.awssdk.core.async.SdkPublisher;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.KinesisAsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.model.ShardIteratorType;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.model.SubscribeToShardEvent;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.model.SubscribeToShardEventStream;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.model.SubscribeToShardRequest;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.model.SubscribeToShardResponse;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.model.SubscribeToShardResponseHandler;
```

コード

```
        Region region = Region.US_EAST_1;
        KinesisAsyncClient client = KinesisAsyncClient.builder()
        .region(region)
        .build();

        SubscribeToShardRequest request = SubscribeToShardRequest.builder()
                .consumerARN(CONSUMER_ARN)
                .shardId("arn:aws:kinesis:us-east-1:111122223333:stream/
StockTradeStream")
                .startingPosition(s -> s.type(ShardIteratorType.LATEST)).build();
```

ビルダーインターフェイスを使用する

builder メソッドを使用して、SubscribeToShardResponseHandler の作成をシンプルにできます。

ビルダーを使用して、完全なインターフェイスを実装する代わりにメソッド呼び出しで各ライフサイクルのコールバックを設定できます。

コード

```
   private static CompletableFuture<Void> responseHandlerBuilder(KinesisAsyncClient
client, SubscribeToShardRequest request) {
       SubscribeToShardResponseHandler responseHandler =
SubscribeToShardResponseHandler
               .builder()
               .onError(t -> System.err.println("Error during stream - " +
t.getMessage()))
               .onComplete(() -> System.out.println("All records stream
successfully"))
               // Must supply some type of subscriber
               .subscriber(e -> System.out.println("Received event - " + e))
               .build();
       return client.subscribeToShard(request, responseHandler);
   }
```

公開者をさらに制御するには、publisherTransformer メソッドを使用して公開者をカスタマイズできます。

Code

```
   private static CompletableFuture<Void>
responseHandlerBuilderPublisherTransformer(KinesisAsyncClient client,
SubscribeToShardRequest request) {
       SubscribeToShardResponseHandler responseHandler =
SubscribeToShardResponseHandler
               .builder()
               .onError(t -> System.err.println("Error during stream - " +
t.getMessage()))
               .publisherTransformer(p -> p.filter(e -> e instanceof
SubscribeToShardEvent).limit(100))
               .subscriber(e -> System.out.println("Received event - " + e))
               .build();
       return client.subscribeToShard(request, responseHandler);
   }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

カスタムレスポンスハンドラを使用する

サブスクライバーとパブリッシャーの完全なコントロールのために
は、SubscribeToShardResponseHandler インターフェイスを実装します。

この例では、onEventStream メソッドを実装します。これにより、公開者へのフルアクセスが許可されます。このデモでは、受信者による表示のために公開者をイベントレコードに変換する方法を示します。

Code

```
   private static CompletableFuture<Void>
responseHandlerBuilderClassic(KinesisAsyncClient client, SubscribeToShardRequest
request) {
       SubscribeToShardResponseHandler responseHandler = new
SubscribeToShardResponseHandler() {

           @Override
           public void responseReceived(SubscribeToShardResponse response) {
               System.out.println("Receieved initial response");
           }

           @Override
           public void onEventStream(SdkPublisher<SubscribeToShardEventStream>
publisher) {
               publisher
                       // Filter to only SubscribeToShardEvents
                       .filter(SubscribeToShardEvent.class)
                       // Flat map into a publisher of just records
                       .flatMapIterable(SubscribeToShardEvent::records)
                       // Limit to 1000 total records
                       .limit(1000)
                       // Batch records into lists of 25
                       .buffer(25)
                       // Print out each record batch
                       .subscribe(batch -> System.out.println("Record Batch - " +
batch));
           }

           @Override
           public void complete() {
               System.out.println("All records stream successfully");
           }
```

```
            @Override
            public void exceptionOccurred(Throwable throwable) {
                System.err.println("Error during stream - " + throwable.getMessage());
            }
        };
        return client.subscribeToShard(request, responseHandler);
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

訪問者インターフェイスを使用する

Visitor オブジェクトを使用して、監視する特定のイベントにサブスクライブできます。

Code

```
   private static CompletableFuture<Void>
responseHandlerBuilderVisitorBuilder(KinesisAsyncClient client,
SubscribeToShardRequest request) {
       SubscribeToShardResponseHandler.Visitor visitor =
SubscribeToShardResponseHandler.Visitor
               .builder()
               .onSubscribeToShardEvent(e -> System.out.println("Received subscribe to
shard event " + e))
               .build();
       SubscribeToShardResponseHandler responseHandler =
SubscribeToShardResponseHandler
               .builder()
               .onError(t -> System.err.println("Error during stream - " +
t.getMessage()))
               .subscriber(visitor)
               .build();
       return client.subscribeToShard(request, responseHandler);
   }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

カスタム受信者を使用する

独自のカスタム受信者を実装して、ストリームにサブスクライブすることもできます。

このコードスニペットでは、サブスクライバーの例を示しています。

コード

```
   private static class MySubscriber implements
Subscriber<SubscribeToShardEventStream> {

       private Subscription subscription;
       private AtomicInteger eventCount = new AtomicInteger(0);

       @Override
       public void onSubscribe(Subscription subscription) {
           this.subscription = subscription;
           this.subscription.request(1);
       }

       @Override
       public void onNext(SubscribeToShardEventStream shardSubscriptionEventStream) {
           System.out.println("Received event " + shardSubscriptionEventStream);
           if (eventCount.incrementAndGet() >= 100) {
               // You can cancel the subscription at any time if you wish to stop
receiving events.
               subscription.cancel();
           }
           subscription.request(1);
       }

       @Override
       public void onError(Throwable throwable) {
           System.err.println("Error occurred while stream - " +
throwable.getMessage());
       }

       @Override
       public void onComplete() {
           System.out.println("Finished streaming all events");
       }
   }
```

次のコードスニペットに示すように、カスタムサブスクライバーを subscribe メソッドに渡すことができます。

Code

```
   private static CompletableFuture<Void>
responseHandlerBuilderSubscriber(KinesisAsyncClient client, SubscribeToShardRequest
request) {
       SubscribeToShardResponseHandler responseHandler =
SubscribeToShardResponseHandler
               .builder()
               .onError(t -> System.err.println("Error during stream - " +
t.getMessage()))
               .subscriber(MySubscriber::new)
               .build();
       return client.subscribeToShard(request, responseHandler);
   }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

Kinesis データストリームにデータレコードを書き込む

KinesisClient オブジェクトで putRecords メソッドを使用して、データレコードを Kinesis データストリームに書き込むことができます。このメソッドを正常に呼び出すには、PutRecordsRequest オブジェクトを作成します。データストリームの名前を streamName メソッドに渡します。また、putRecords メソッドを使用してデータを渡す必要があります (次のコード例に示します)。

インポート。

```
import software.amazon.awssdk.core.SdkBytes;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.KinesisClient;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.model.PutRecordRequest;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.model.KinesisException;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.model.DescribeStreamRequest;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.model.DescribeStreamResponse;
```

次の Java コード例では、StockTrade オブジェクトが Kinesis データストリームに書き込むデータとして使用されています。この例を実行する前に、データストリームを作成したことを確認します。

Code

```
import software.amazon.awssdk.core.SdkBytes;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.KinesisClient;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.model.PutRecordRequest;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.model.KinesisException;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.model.DescribeStreamRequest;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.model.DescribeStreamResponse;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class StockTradesWriter {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <streamName>

                Where:
                    streamName - The Amazon Kinesis data stream to which records are
 written (for example, StockTradeStream)
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String streamName = args[0];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        KinesisClient kinesisClient = KinesisClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        // Ensure that the Kinesis Stream is valid.
        validateStream(kinesisClient, streamName);
        setStockData(kinesisClient, streamName);
        kinesisClient.close();
    }

    public static void setStockData(KinesisClient kinesisClient, String streamName) {
        try {
            // Repeatedly send stock trades with a 100 milliseconds wait in between.
            StockTradeGenerator stockTradeGenerator = new StockTradeGenerator();
```

```
            // Put in 50 Records for this example.
            int index = 50;
            for (int x = 0; x < index; x++) {
                StockTrade trade = stockTradeGenerator.getRandomTrade();
                sendStockTrade(trade, kinesisClient, streamName);
                Thread.sleep(100);
            }

        } catch (KinesisException | InterruptedException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
        System.out.println("Done");
    }

    private static void sendStockTrade(StockTrade trade, KinesisClient kinesisClient,
            String streamName) {
        byte[] bytes = trade.toJsonAsBytes();

        // The bytes could be null if there is an issue with the JSON serialization by
        // the Jackson JSON library.
        if (bytes == null) {
            System.out.println("Could not get JSON bytes for stock trade");
            return;
        }

        System.out.println("Putting trade: " + trade);
        PutRecordRequest request = PutRecordRequest.builder()
                .partitionKey(trade.getTickerSymbol()) // We use the ticker symbol as
the partition key, explained in
                                                       // the Supplemental Information
section below.
                .streamName(streamName)
                .data(SdkBytes.fromByteArray(bytes))
                .build();

        try {
            kinesisClient.putRecord(request);
        } catch (KinesisException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
        }
    }
```

```
    private static void validateStream(KinesisClient kinesisClient, String streamName)
 {
        try {
            DescribeStreamRequest describeStreamRequest =
 DescribeStreamRequest.builder()
                    .streamName(streamName)
                    .build();

            DescribeStreamResponse describeStreamResponse =
 kinesisClient.describeStream(describeStreamRequest);

            if (!
describeStreamResponse.streamDescription().streamStatus().toString().equals("ACTIVE"))
 {
                System.err.println("Stream " + streamName + " is not active. Please
 wait a few moments and try again.");
                System.exit(1);
            }

        } catch (KinesisException e) {
            System.err.println("Error found while describing the stream " +
 streamName);
            System.err.println(e);
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

サードパーティーライブラリを使用する

カスタムの受信者を実装せずに、その他のサードパーティーのライブラリを使用することができます。この例では、RxJava の実装を例に挙げていますが、リアクティブなストリームのインターフェイスを実装するライブラリを使用することもできます。上記ライブラリの詳細については、「Github の RxJava wiki ページ」を参照してください。

このライブラリを使用するには、依存関係として追加します。使用する POM スニペットの例を示します (Maven を使用している場合)。

POM エントリ

```
<dependency>
```

```
 <groupId>io.reactivex.rxjava2</groupId>
 <artifactId>rxjava</artifactId>
 <version>2.2.21</version>
</dependency>
```

インポート。

```
import java.net.URI;
import java.util.concurrent.CompletableFuture;

import io.reactivex.Flowable;
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.core.async.SdkPublisher;
import software.amazon.awssdk.http.Protocol;
import software.amazon.awssdk.http.SdkHttpConfigurationOption;
import software.amazon.awssdk.http.nio.netty.NettyNioAsyncHttpClient;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.KinesisAsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.model.ShardIteratorType;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.model.StartingPosition;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.model.SubscribeToShardEvent;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.model.SubscribeToShardRequest;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.model.SubscribeToShardResponseHandler;
import software.amazon.awssdk.utils.AttributeMap;
```

この例では、onEventStream ライフサイクルメソッドの RxJava を使用します。これにより、発行者へのフルアクセスが付与され、これを使用して Rx Flowable を作成できます。

コード

```
       SubscribeToShardResponseHandler responseHandler =
SubscribeToShardResponseHandler
           .builder()
           .onError(t -> System.err.println("Error during stream - " +
t.getMessage()))
           .onEventStream(p -> Flowable.fromPublisher(p)
                                       .ofType(SubscribeToShardEvent.class)

.flatMapIterable(SubscribeToShardEvent::records)
                                       .limit(1000)
                                       .buffer(25)
                                       .subscribe(e -> System.out.println("Record
batch = " + e)))
```

```
            .build();
```

publisherTransformer 発行者を指定して、Flowable メソッドを使用することもできます。次の例に示すように、Flowable 発行者を SdkPublisher に適用する必要があります。

Code

```
       SubscribeToShardResponseHandler responseHandler =
SubscribeToShardResponseHandler
            .builder()
            .onError(t -> System.err.println("Error during stream - " +
t.getMessage()))
            .publisherTransformer(p ->
SdkPublisher.adapt(Flowable.fromPublisher(p).limit(100)))
            .build();
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

詳細情報

- Amazon Kinesis API リファレンスの SubscribeToShardEvent
- Amazon Kinesis API リファレンスの SubscribeToShard

AWS Lambda 関数の呼び出し、一覧表示、削除

このセクションでは、 AWS SDK for Java 2.x を使用した Lambda サービスクライアントでのプログラミングの例を示します。

トピック

- Lambda 関数を呼び出します。
- Lambda 関数を一覧表示する
- Lambda 関数を削除する

Lambda 関数を呼び出します。

LambdaClient オブジェクトを作成し、その invokeメソッドを呼び出すことで、 Lambda 関数を呼び出すことができます。InvokeRequest オブジェクトを作成して、関数名や Lambda 関数に渡すペイロードなどの追加情報を指定します。関数名は、arn:aws:lambda:us-

east-1:123456789012:function:HelloFunction と表示されます。 AWS マネジメントコンソールで関数を確認することで、値を取得できます。

ペイロードデータを関数に渡すには、情報を含む SdkBytes オブジェクトを作成します。たとえば、次のコード例では、 Lambda 関数に渡される JSON データに注意してください。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.services.lambda.LambdaClient;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.lambda.model.InvokeRequest;
import software.amazon.awssdk.core.SdkBytes;
import software.amazon.awssdk.services.lambda.model.InvokeResponse;
import software.amazon.awssdk.services.lambda.model.LambdaException;
```

コード

次のコード例は、 Lambda 関数を呼び出す方法を示しています。

```
    public static void invokeFunction(LambdaClient awsLambda, String functionName) {

         InvokeResponse res = null ;
        try {
            //Need a SdkBytes instance for the payload
            String json = "{\"Hello \":\"Paris\"}";
            SdkBytes payload = SdkBytes.fromUtf8String(json) ;

            //Setup an InvokeRequest
            InvokeRequest request = InvokeRequest.builder()
                    .functionName(functionName)
                    .payload(payload)
                    .build();

            res = awsLambda.invoke(request);
            String value = res.payload().asUtf8String() ;
            System.out.println(value);

        } catch(LambdaException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

Lambda 関数を一覧表示する

Lambda Client オブジェクトを構築し、その listFunctions メソッドを呼び出します。このメソッドは ListFunctionsResponse オブジェクトを返します。このオブジェクトの functions メソッドを呼び出して、FunctionConfiguration オブジェクトのリストを取得できます。リストを反復処理して、関数に関する情報を取得できます。たとえば、次の Java コード例は、各関数名を取得する方法を示しています。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.lambda.LambdaClient;
import software.amazon.awssdk.services.lambda.model.LambdaException;
import software.amazon.awssdk.services.lambda.model.ListFunctionsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.lambda.model.FunctionConfiguration;
import java.util.List;
```

コード

次の Java コード例は、 関数名のリストを取得する方法を示しています。

```
    public static void listFunctions(LambdaClient awsLambda) {

        try {
            ListFunctionsResponse functionResult = awsLambda.listFunctions();
            List<FunctionConfiguration> list = functionResult.functions();

            for (FunctionConfiguration config: list) {
                System.out.println("The function name is "+config.functionName());
            }

        } catch(LambdaException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

Lambda 関数を削除する

LambdaClient オブジェクトを構築し、その deleteFunction メソッドを呼び出します。DeleteFunctionRequest オブジェクトを作成し、 deleteFunction メソッドに渡します。このオブジェクトには、削除する関数の名前などの情報が含まれています。関数名は、arn:aws:lambda:us-east-1:123456789012:function:HelloFunction と表示されます。 AWS マネジメントコンソールで関数を確認することで、値を取得できます。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.services.lambda.LambdaClient;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.lambda.model.DeleteFunctionRequest;
import software.amazon.awssdk.services.lambda.model.LambdaException;
```

コード

次の Java コードは、 Lambda 関数を削除する方法を示しています。

```
    public static void deleteLambdaFunction(LambdaClient awsLambda, String
functionName ) {
        try {
            DeleteFunctionRequest request = DeleteFunctionRequest.builder()
                    .functionName(functionName)
                    .build();

            awsLambda.deleteFunction(request);
            System.out.println("The "+functionName +" function was deleted");

        } catch(LambdaException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

Amazon S3 で使用する

このセクションでは、 AWS SDK for Java 2.xを使用して Amazon S3 を操作するための背景情報を提供します。このセクションは、このガイドの「コード例」セクションで説明されている Amazon S3 Java v2 の例の情報を補完します

の S3 クライアント AWS SDK for Java 2.x

AWS SDK for Java 2.x には、さまざまなタイプの S3 クライアントが用意されています。次の表では違いを比較しており、ユースケースに最適なクライアントを決定するのに役立ちます。

Amazon S3 クライアントのさまざまなタイプ

S3 クライアント	簡単な説明	どのようなときに使うか	制限/欠点
AWS CRT ベースの S3 クライアント インターフェイス: S3AsyncClient ビルダー: S3CrtAsyncClientBuilder	• Java ベースの S3 非同期クライアントと同じ非同期 API オペレーションを提供しますが、より高いパフォーマンスを発揮します。 • `aws-crt` 依存関係が必要です。 • 自動並列転送 (マルチパート) をサポートします。 「the section called “パフォーマンスの高い S3 クライアントを使用する”」を参照してください。	• アプリケーションが大きなオブジェクト (> 8 MB) を転送するため、パフォーマンスを最大化したい場合。 • コンテンツの長さが不明なオブジェクトをアップロードする場合。 • 接続プーリングと DNS ロードバランシングを強化して、スループットとパフォーマンスを向上させたい場合。 • ネットワーク障害が発生した場合の転送の信頼性を向上させたい場合。最初から転送を再	• Java ベースの S3 クライアントよりもサポートされる構成設定少ないです。 • 追加の依存関係が必要です。

S3 クライアント	簡単な説明	どのようなときに使うか	制限/欠点
		開せずに、個々の失敗パートが再試行されます。	
マルチパートが有効になっている Java ベースの S3 非同期クライアント インターフェイス: S3AsyncClient ビルダー: S3AsyncClientBuilder	• 非同期 API を提供します。 • 作成時にマルチパートを有効にすると、自動並列転送 (マルチパート) がサポートされます。 「the section called “並列転送のサポートを設定する”」を参照してください。	• アプリケーションが大きなオブジェクトを転送するため、パフォーマンスを向上させたい場合。 • コンテンツの長さが不明なオブジェクトをアップロードする場合。 • ネットワーク障害が発生した場合の転送の信頼性を向上させたい場合。最初から転送を再開せずに、個々の失敗パートが再試行されます。 • CRT ベースの S3 AWS クライアントでは使用できない設定オプションが必要です。	CRT AWS ベースの S3 クライアントよりもパフォーマンスが低くなります。

S3 クライアント	簡単な説明	どのようなときに使うか	制限/欠点
マルチパートが有効になっていない Java ベースの S3 非同期クライアント インターフェイス: S3AsyncClient ビルダー: S3AsyncClientBuilder	• 非同期 API を提供します。	• 8 MB 未満のオブジェクトを転送する場合。 • 非同期 API が必要な場合。	パフォーマンスの最適化なし。
Java ベースの S3 同期クライアント インターフェイス: S3Client ビルダー: S3ClientBuilder	• 同期 API を提供します。	• 8 MB 未満のオブジェクトを転送する場合。 • 同期 API が必要な場合。	パフォーマンスの最適化なし。

Note

バージョン 2.18.x 以降では、 はエンドポイントオーバーライドを含めるときに仮想ホスト形式のアドレス指定 AWS SDK for Java 2.x を使用します。これは、バケット名が有効な DNS ラベルである限り適用されます。
クライアントビルダーの `true` で `forcePathStyle` メソッドを呼び出して、クライアントにバケットにパス形式のアドレス指定を使用するように強制します。
以下の例は、エンドポイントオーバーライドを設定し、パス形式のアドレス指定を使用するサービスクライアントを示しています。

```
S3Client client = S3Client.builder()
                          .region(Region.US_WEST_2)
                          .endpointOverride(URI.create("https://s3.us-
west-2.amazonaws.com"))
                          .forcePathStyle(true)
```

```
                .build();
```

トピック

- を使用した Amazon S3 へのストリームのアップロード AWS SDK for Java 2.x
- 署名 Amazon S3 付き URLsの使用
- Amazon S3 のクロスリージョンアクセス
- チェックサムによるデータ整合性保護
- パフォーマンスの高い S3 クライアントを使用する: AWS CRT ベースの S3 クライアント
- 並列転送を使用するように Java ベースの S3 非同期クライアントを設定する
- Amazon S3 Transfer Manager を使用してファイルとディレクトリを転送する
- S3 イベント通知の使用

を使用した Amazon S3 へのストリームのアップロード AWS SDK for Java 2.x

ストリームを使用して、`putObject` または `uploadPart` で S3 にコンテンツをアップロードする場合、同期 API のRequestBody ファクトリクラスを使用してストリームを提供します。非同期 API の場合、AsyncRequestBody は同等のファクトリクラスです。

ストリームをアップロードするメソッド

同期 API では、次の RequestBody のファクトリメソッドを使用してストリームを指定できます。

- `fromInputStream(InputStream inputStream, long contentLength)`

  `fromContentProvider(ContentStreamProvider provider, long contentLength, String mimeType)`

  - ContentStreamProvider には fromInputStream(InputStream inputStream) ファクトリメソッドがあります
- `fromContentProvider(ContentStreamProvider provider, String mimeType)`

非同期 API では、次のファクトリメソッド AsyncRequestBody を使用できます。

- fromInputStream(InputStream inputStream, Long contentLength, ExecutorService executor)
- fromInputStream(AsyncRequestBodyFromInputStreamConfiguration configuration)
  - AsyncRequestBodyFromInputStreamConfiguration.Builder を使用してストリームを提供します。
- fromInputStream(Consumer<AsyncRequestBodyFromInputStreamConfiguration.Builder> configuration)
- forBlockingInputStream(Long contentLength)
  - 結果の BlockingInputStreamAsyncRequestBody には、ストリームの提供に使用できるメソッド writeInputStream(InputStream inputStream) が含まれています。

アップロードの実行

ストリームの長さがわかっている場合

前に示したメソッドの署名からわかるように、ほとんどのメソッドはコンテンツの長さのパラメータを受け入れます。

コンテンツの長さがバイト単位でわかっている場合は、正確な値を指定します。

```
// Always provide the exact content length when it's available.
long contentLength = 1024; // Exact size in bytes.
s3Client.putObject(req -> req
    .bucket("amzn-s3-demo-bucket")
    .key("my-key"),
RequestBody.fromInputStream(inputStream, contentLength));
```

> **Warning**
>
> 入力ストリームからアップロードするときに、指定したコンテンツの長さが実際のバイト数と一致しない場合、次のようなことが起こる可能性があります。
>
> - 指定した長さが小さすぎる場合にオブジェクトが切り捨てられる
> - 指定した長さが大きすぎる場合、アップロードが失敗するか接続がハングアップする

ストリームの長さがわからない場合

同期 API を使用する

`fromContentProvider(ContentStreamProvider provider, String mimeType)` を使用します。

```
public PutObjectResponse syncClient_stream_unknown_size(String bucketName, String key,
 InputStream inputStream) {

    S3Client s3Client = S3Client.create();

    RequestBody body =
 RequestBody.fromContentProvider(ContentStreamProvider.fromInputStream(inputStream),
 "text/plain");
    PutObjectResponse putObjectResponse = s3Client.putObject(b ->
 b.bucket(BUCKET_NAME).key(KEY_NAME), body);
    return putObjectResponse;
}
```

SDK はストリーム全体をメモリにバッファリングしてコンテンツの長さを計算するため、大きなストリームでメモリの問題が発生する可能性があります。同期クライアントで大きなストリームをアップロードする必要がある場合は、マルチパート API の使用を検討してください。

同期クライアント API とマルチパート API を使用してストリームをアップロードする

```
public static void uploadStreamToS3(String bucketName, String key, InputStream
 inputStream) {
    // Create S3 client
    S3Client s3Client = S3Client.create();
    try {
        // Step 1: Initiate the multipart upload
        CreateMultipartUploadRequest createMultipartUploadRequest =
 CreateMultipartUploadRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .key(key)
                .build();

        CreateMultipartUploadResponse createResponse =
 s3Client.createMultipartUpload(createMultipartUploadRequest);
        String uploadId = createResponse.uploadId();
        System.out.println("Started multipart upload with ID: " + uploadId);
```

```
        // Step 2: Upload parts
        List<CompletedPart> completedParts = new ArrayList<>();
        int partNumber = 1;
        byte[] buffer = new byte[PART_SIZE];
        int bytesRead;

        try {
            while ((bytesRead = readFullyOrToEnd(inputStream, buffer)) > 0) {
                // Create request to upload a part
                UploadPartRequest uploadPartRequest = UploadPartRequest.builder()
                        .bucket(bucketName)
                        .key(key)
                        .uploadId(uploadId)
                        .partNumber(partNumber)
                        .build();

                // If we didn't read a full buffer, create a properly sized byte array
                RequestBody requestBody;
                if (bytesRead < PART_SIZE) {
                    byte[] lastPartBuffer = new byte[bytesRead];
                    System.arraycopy(buffer, 0, lastPartBuffer, 0, bytesRead);
                    requestBody = RequestBody.fromBytes(lastPartBuffer);
                } else {
                    requestBody = RequestBody.fromBytes(buffer);
                }

                // Upload the part and save the response's ETag
                UploadPartResponse uploadPartResponse =
s3Client.uploadPart(uploadPartRequest, requestBody);
                CompletedPart part = CompletedPart.builder()
                        .partNumber(partNumber)
                        .eTag(uploadPartResponse.eTag())
                        .build();
                completedParts.add(part);

                System.out.println("Uploaded part " + partNumber + " with size " +
bytesRead + " bytes");
                partNumber++;
            }

            // Step 3: Complete the multipart upload
            CompletedMultipartUpload completedMultipartUpload =
CompletedMultipartUpload.builder()
                    .parts(completedParts)
```

```
                    .build();

            CompleteMultipartUploadRequest completeRequest =
 CompleteMultipartUploadRequest.builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .key(key)
                    .uploadId(uploadId)
                    .multipartUpload(completedMultipartUpload)
                    .build();

            CompleteMultipartUploadResponse completeResponse =
 s3Client.completeMultipartUpload(completeRequest);
            System.out.println("Multipart upload completed. Object URL: " +
 completeResponse.location());

        } catch (Exception e) {
            // If an error occurs, abort the multipart upload
            System.err.println("Error during multipart upload: " + e.getMessage());
            AbortMultipartUploadRequest abortRequest =
 AbortMultipartUploadRequest.builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .key(key)
                    .uploadId(uploadId)
                    .build();
            s3Client.abortMultipartUpload(abortRequest);
            System.err.println("Multipart upload aborted");
        } finally {
            try {
                inputStream.close();
            } catch (IOException e) {
                System.err.println("Error closing input stream: " + e.getMessage());
            }
        }
    } finally {
        s3Client.close();
    }
}

/**
 * Reads from the input stream into the buffer, attempting to fill the buffer
 completely
 * or until the end of the stream is reached.
 *
 * @param inputStream the input stream to read from
```

```
 * @param buffer      the buffer to fill
 * @return the number of bytes read, or -1 if the end of the stream is reached before
 any bytes are read
 * @throws IOException if an I/O error occurs
 */
private static int readFullyOrToEnd(InputStream inputStream, byte[] buffer) throws
 IOException {
    int totalBytesRead = 0;
    int bytesRead;

    while (totalBytesRead < buffer.length) {
        bytesRead = inputStream.read(buffer, totalBytesRead, buffer.length -
 totalBytesRead);
        if (bytesRead == -1) {
            break; // End of stream
        }
        totalBytesRead += bytesRead;
    }

    return totalBytesRead > 0 ? totalBytesRead : -1;
}
```

> **Note**
>
> ほとんどのユースケースでは、サイズが不明なストリームに非同期クライアント API を使用することをお勧めします。このアプローチにより並列転送が可能になり、プログラミングインターフェイスがよりシンプルになります。これは、ストリームが大きい場合、SDK はストリームセグメンテーションをマルチパートチャンクに処理するためです。
> マルチパートが有効になっている標準の S3 非同期クライアントと AWS CRT ベースの S3 クライアントの両方がこのアプローチを実装しています。このアプローチの例を次のセクションに示します。

非同期 API を使用する

`fromInputStream(InputStream inputStream, Long contentLength, ExecutorService executor)` への `contentLength` 引数に `null` を指定できます。

Example CRT AWS ベースの非同期クライアントの使用:

```
public PutObjectResponse crtClient_stream_unknown_size(String bucketName, String key,
 InputStream inputStream) {

    S3AsyncClient s3AsyncClient = S3AsyncClient.crtCreate();
    ExecutorService executor = Executors.newSingleThreadExecutor();
    AsyncRequestBody body = AsyncRequestBody.fromInputStream(inputStream, null,
 executor);  // 'null' indicates that the

     // content length is unknown.
    CompletableFuture<PutObjectResponse> responseFuture =
            s3AsyncClient.putObject(r -> r.bucket(bucketName).key(key), body)
                    .exceptionally(e -> {
                        if (e != null){
                            logger.error(e.getMessage(), e);
                        }
                        return null;
                    });

    PutObjectResponse response = responseFuture.join(); // Wait for the response.
    executor.shutdown();
    return response;
}
```

Exampleマルチパートが有効になっている標準の非同期クライアントを使用します。

```
public PutObjectResponse asyncClient_multipart_stream_unknown_size(String bucketName,
 String key, InputStream inputStream) {

    S3AsyncClient s3AsyncClient =
 S3AsyncClient.builder().multipartEnabled(true).build();
    ExecutorService executor = Executors.newSingleThreadExecutor();
    AsyncRequestBody body = AsyncRequestBody.fromInputStream(inputStream, null,
 executor); // 'null' indicates that the

    // content length is unknown.
    CompletableFuture<PutObjectResponse> responseFuture =
            s3AsyncClient.putObject(r -> r.bucket(bucketName).key(key), body)
                    .exceptionally(e -> {
                        if (e != null) {
                            logger.error(e.getMessage(), e);
                        }
```

```
                        return null;
                    });

    PutObjectResponse response = responseFuture.join(); // Wait for the response.
    executor.shutdown();
    return response;
}
```

署名 Amazon S3 付き URLsの使用

署名付き URLs は、ユーザーが AWS 認証情報やアクセス許可を持つことなく、プライベート S3 オブジェクトへの一時的なアクセスを提供します。

たとえば、Alice に S3 オブジェクトへのアクセス権限があり、そのオブジェクトへのアクセス権限を一時的に Bob と共有するとします。Alice は、署名付き Get リクエストを生成して Bob との共有し、Bob が Alice の認証情報にアクセスすることなくそのオブジェクトをダウンロードできるようにすることができます。HTTP GET リクエストと HTTP PUT リクエスト用の署名付き URL を生成できます。

オブジェクトの署名付き URL を生成して、オブジェクトをダウンロードします (GET リクエスト)。

以下の例は次の 2 つの部分で構成されます。

- パート 1: Alice はオブジェクトの署名付き URL を生成します。
- パート 2: Bob は署名済み URL を使用してオブジェクトをダウンロードします。

パート 1: URL を生成する

Alice はすでに S3 バケットにオブジェクトを持っています。彼女は次のコードを使用して、Bob が後続の GET リクエストで使用できる URL 文字列を生成します。

インポート

```
import com.example.s3.util.PresignUrlUtils;
import org.slf4j.Logger;
import software.amazon.awssdk.http.HttpExecuteRequest;
import software.amazon.awssdk.http.HttpExecuteResponse;
import software.amazon.awssdk.http.SdkHttpClient;
import software.amazon.awssdk.http.SdkHttpMethod;
```

```
import software.amazon.awssdk.http.SdkHttpRequest;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;
import software.amazon.awssdk.services.s3.presigner.S3Presigner;
import software.amazon.awssdk.services.s3.presigner.model.GetObjectPresignRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.presigner.model.PresignedGetObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.utils.IoUtils;

import java.io.ByteArrayOutputStream;
import java.io.File;
import java.io.IOException;
import java.io.InputStream;
import java.net.HttpURLConnection;
import java.net.URISyntaxException;
import java.net.URL;
import java.net.http.HttpClient;
import java.net.http.HttpRequest;
import java.net.http.HttpResponse;
import java.nio.file.Paths;
import java.time.Duration;
import java.util.UUID;
```

```
    /* Create a pre-signed URL to download an object in a subsequent GET request. */
    public String createPresignedGetUrl(String bucketName, String keyName) {
        try (S3Presigner presigner = S3Presigner.create()) {

            GetObjectRequest objectRequest = GetObjectRequest.builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .key(keyName)
                    .build();

            GetObjectPresignRequest presignRequest = GetObjectPresignRequest.builder()
                    .signatureDuration(Duration.ofMinutes(10))  // The URL will expire
in 10 minutes.
                    .getObjectRequest(objectRequest)
                    .build();

            PresignedGetObjectRequest presignedRequest =
presigner.presignGetObject(presignRequest);
            logger.info("Presigned URL: [{}]", presignedRequest.url().toString());
            logger.info("HTTP method: [{}]", presignedRequest.httpRequest().method());
```

```
            return presignedRequest.url().toExternalForm();
        }
    }
```

パート 2: オブジェクトをダウンロードする

Bob は、次のいずれかのコードオプションを使用してオブジェクトをダウンロードします。または、ブラウザを使用して GET リクエストを実行することもできます。

JDK **HttpURLConnection** を使用する (v1.1 以降)

```
    /* Use the JDK HttpURLConnection (since v1.1) class to do the download. */
    public byte[] useHttpUrlConnectionToGet(String presignedUrlString) {
        ByteArrayOutputStream byteArrayOutputStream = new ByteArrayOutputStream(); //
Capture the response body to a byte array.

        try {
            URL presignedUrl = new URL(presignedUrlString);
            HttpURLConnection connection = (HttpURLConnection)
presignedUrl.openConnection();
            connection.setRequestMethod("GET");
            // Download the result of executing the request.
            try (InputStream content = connection.getInputStream()) {
                IoUtils.copy(content, byteArrayOutputStream);
            }
            logger.info("HTTP response code is " + connection.getResponseCode());

        } catch (S3Exception | IOException e) {
            logger.error(e.getMessage(), e);
        }
        return byteArrayOutputStream.toByteArray();
    }
```

JDK **HttpClient** を使用する (v11 以降)

```
    /* Use the JDK HttpClient (since v11) class to do the download. */
    public byte[] useHttpClientToGet(String presignedUrlString) {
        ByteArrayOutputStream byteArrayOutputStream = new ByteArrayOutputStream(); //
Capture the response body to a byte array.

        HttpRequest.Builder requestBuilder = HttpRequest.newBuilder();
```

```
        HttpClient httpClient = HttpClient.newHttpClient();
        try {
            URL presignedUrl = new URL(presignedUrlString);
            HttpResponse<InputStream> response = httpClient.send(requestBuilder
                            .uri(presignedUrl.toURI())
                            .GET()
                            .build(),
                    HttpResponse.BodyHandlers.ofInputStream());

            IoUtils.copy(response.body(), byteArrayOutputStream);

            logger.info("HTTP response code is " + response.statusCode());

        } catch (URISyntaxException | InterruptedException | IOException e) {
            logger.error(e.getMessage(), e);
        }
        return byteArrayOutputStream.toByteArray();
    }
```

SDK for Java から **SdkHttpClient** を使用する

```
    /* Use the AWS SDK for Java SdkHttpClient class to do the download. */
    public byte[] useSdkHttpClientToGet(String presignedUrlString) {

        ByteArrayOutputStream byteArrayOutputStream = new ByteArrayOutputStream(); //
Capture the response body to a byte array.
        try {
            URL presignedUrl = new URL(presignedUrlString);
            SdkHttpRequest request = SdkHttpRequest.builder()
                    .method(SdkHttpMethod.GET)
                    .uri(presignedUrl.toURI())
                    .build();

            HttpExecuteRequest executeRequest = HttpExecuteRequest.builder()
                    .request(request)
                    .build();

            try (SdkHttpClient sdkHttpClient = ApacheHttpClient.create()) {
                HttpExecuteResponse response =
sdkHttpClient.prepareRequest(executeRequest).call();
                response.responseBody().ifPresentOrElse(
                        abortableInputStream -> {
                            try {
```

```
                                IoUtils.copy(abortableInputStream,
byteArrayOutputStream);
                            } catch (IOException e) {
                                throw new RuntimeException(e);
                            }
                        },
                        () -> logger.error("No response body."));

                logger.info("HTTP Response code is {}",
response.httpResponse().statusCode());
            }
        } catch (URISyntaxException | IOException e) {
            logger.error(e.getMessage(), e);
        }
        return byteArrayOutputStream.toByteArray();
    }
```

署名付き URL **S3AsyncClient** 拡張機能を使用する

AWS SDK for Java 2.x には、SDK 非同期パイプラインを介して署名付き URL を使用してオブジェクトをダウンロードする署名付き URL 拡張機能`S3AsyncClient`が に用意されています。を使用して拡張機能にアクセスします`S3AsyncClient.presignedUrlExtension()`。この機能は SDK バージョン *`2.48.0`* 以降で使用できます。

> **CRT クライアントの制限**
>
> AWS CRT ベースの S3 クライアント (`S3AsyncClient.crtBuilder()`) は現在、署名付き URL 拡張をサポートしていません。代わりに `S3AsyncClient.builder()` を使用します。

> **チェックサムモードの要件**
>
> データの整合性を検証するには、署名付き URL を生成する`GetObjectRequest`ときに`checksumMode(ChecksumMode.ENABLED)`で を設定します。事前署名時にチェックサムモードを指定します。ダウンロードの実行時に後で追加することはできません。署名`S3AsyncClient`付き URL 拡張機能を使用すると、SDK は必要な`x-amz-checksum-mode`ヘッダーを自動的に送信します。

インポート

```
import java.nio.file.Paths;
import software.amazon.awssdk.core.ResponseBytes;
import software.amazon.awssdk.core.async.AsyncResponseTransformer;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3AsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetObjectResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.s3.presignedurl.model.PresignedUrlDownloadRequest;
```

ファイルまたは バイトにダウンロードする

Download to file

```
S3AsyncClient s3AsyncClient = S3AsyncClient.builder()
        .region(Region.US_EAST_1)
        .build();

GetObjectResponse response = s3AsyncClient.presignedUrlExtension()
        .getObject(
            PresignedUrlDownloadRequest.builder()
                .presignedUrl(presignedGetObjectRequest.url())
                .build(),
            Paths.get("/tmp/downloaded-file.bin"))
        .join();

// Or use the consumer builder pattern
GetObjectResponse response = s3AsyncClient.presignedUrlExtension()
        .getObject(
            r -> r.presignedUrl(presignedGetObjectRequest.url()),
            Paths.get("/tmp/downloaded-file.bin"))
        .join();
```

Download to bytes

```
S3AsyncClient s3AsyncClient = S3AsyncClient.builder()
        .region(Region.US_EAST_1)
        .build();

ResponseBytes<GetObjectResponse> bytes = s3AsyncClient.presignedUrlExtension()
        .getObject(
```

```
            PresignedUrlDownloadRequest.builder()
                .presignedUrl(presignedGetObjectRequest.url())
                .build(),
            AsyncResponseTransformer.toBytes())
        .join();

// Or use the consumer builder pattern
ResponseBytes<GetObjectResponse> bytes = s3AsyncClient.presignedUrlExtension()
        .getObject(
            r -> r.presignedUrl(presignedGetObjectRequest.url()),
            AsyncResponseTransformer.toBytes())
        .join();
```

大きなファイルのマルチパートダウンロード

大きなオブジェクトを並行してダウンロードするには、クライアントmultipartEnabled(true)で を設定します。

Download to file

```
S3AsyncClient multipartClient = S3AsyncClient.builder()
        .region(Region.US_EAST_1)
        .multipartEnabled(true)
        .multipartConfiguration(c -> c.minimumPartSizeInBytes(8 * 1024 * 1024L))
        .build();

GetObjectResponse response = multipartClient.presignedUrlExtension()
        .getObject(
            PresignedUrlDownloadRequest.builder()
                .presignedUrl(presignedGetObjectRequest.url())
                .build(),
            Paths.get("/tmp/large-file.bin"))
        .join();
```

Download to bytes

```
S3AsyncClient multipartClient = S3AsyncClient.builder()
        .region(Region.US_EAST_1)
        .multipartEnabled(true)
        .multipartConfiguration(c -> c.minimumPartSizeInBytes(8 * 1024 * 1024L))
        .build();
```

```
ResponseBytes<GetObjectResponse> bytes = multipartClient.presignedUrlExtension()
        .getObject(
            PresignedUrlDownloadRequest.builder()
                .presignedUrl(presignedGetObjectRequest.url())
                .build(),
            AsyncResponseTransformer.toBytes())
        .join();
```

Amazon S3 Transfer Manager を使用する

Amazon S3 Transfer Manager を使用すると、 を通じて進行状況を追跡する署名付き URLs を使用してオブジェクトをダウンロードできますTransferListener。

s3-transfer-manager アーティファクトをプロジェクトに追加します。

```
<dependencyManagement>
    <dependencies>
        <dependency>
            <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
            <artifactId>bom</artifactId>
            <version>2.48.0[1]</version>
            <type>pom</type>
            <scope>import</scope>
        </dependency>
    </dependencies>
</dependencyManagement>
<dependencies>
    <dependency>
        <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
        <artifactId>s3-transfer-manager</artifactId>
    </dependency>
</dependencies>
```

[1] Maven Central Repository で最新の BOM バージョンを検索します。

インポート

```
import java.nio.file.Paths;
import software.amazon.awssdk.core.ResponseBytes;
import software.amazon.awssdk.core.async.AsyncResponseTransformer;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetObjectResponse;
```

```
import
 software.amazon.awssdk.services.s3.presignedurl.model.PresignedUrlDownloadRequest;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.S3TransferManager;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.CompletedFileDownload;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.Download;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.PresignedDownloadFileRequest;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.PresignedDownloadRequest;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.PresignedFileDownload;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.progress.LoggingTransferListener;
```

Download to file

```
S3TransferManager transferManager = S3TransferManager.create();

PresignedFileDownload fileDownload = transferManager.downloadFileWithPresignedUrl(
        PresignedDownloadFileRequest.builder()
            .presignedUrlDownloadRequest(PresignedUrlDownloadRequest.builder()
                .presignedUrl(presignedGetObjectRequest.url())
                .build())
            .destination(Paths.get("/tmp/transfer-download.bin"))
            .addTransferListener(LoggingTransferListener.create())
            .build());

CompletedFileDownload completed = fileDownload.completionFuture().join();
```

Download to bytes

```
S3TransferManager transferManager = S3TransferManager.create();

Download<ResponseBytes<GetObjectResponse>> bytesDownload =
        transferManager.downloadWithPresignedUrl(
            PresignedDownloadRequest.<ResponseBytes<GetObjectResponse>>builder()
                .presignedUrlDownloadRequest(PresignedUrlDownloadRequest.builder()
                    .presignedUrl(presignedGetObjectRequest.url())
                    .build())
                .responseTransformer(AsyncResponseTransformer.toBytes())
                .addTransferListener(LoggingTransferListener.create())
                .build());

ResponseBytes<GetObjectResponse> result =
        bytesDownload.completionFuture().join().result();
```

> **一時停止と再開はサポートされていません**
>
> 通常の とは異なりFileDownload、 PresignedFileDownloadは一時停止と再開をサポートしていません。これは、署名付き URLsになる可能性があるためです。

設定オプションや追加の例など、Amazon S3 Transfer Manager の詳細については、「」を参照してくださいthe section called “ファイルとディレクトリを転送する”。

GitHub で完全な例とテストをご覧ください。

アップロード用の署名付き URL を生成して、ファイルをアップロードします (PUT リクエスト)。

以下の例は次の 2 つの部分で構成されます。

- パート 1: Alice はオブジェクトをアップロードするために署名付き URL を生成します。
- パート 2: Bob は署名済み URL を使用してファイルをアップロードします。

パート 1: URL を生成する

Alice はすでに S3 バケットを持っています。彼女は次のコードを使用して、Bob が後続の PUT リクエストで使用できる URL 文字列を生成します。

インポート

```
import com.example.s3.util.PresignUrlUtils;
import org.slf4j.Logger;
import software.amazon.awssdk.core.internal.sync.FileContentStreamProvider;
import software.amazon.awssdk.http.HttpExecuteRequest;
import software.amazon.awssdk.http.HttpExecuteResponse;
import software.amazon.awssdk.http.SdkHttpClient;
import software.amazon.awssdk.http.SdkHttpMethod;
import software.amazon.awssdk.http.SdkHttpRequest;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.PutObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;
import software.amazon.awssdk.services.s3.presigner.S3Presigner;
import software.amazon.awssdk.services.s3.presigner.model.PresignedPutObjectRequest;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.s3.presigner.model.PutObjectPresignRequest;

import java.io.File;
import java.io.IOException;
import java.io.OutputStream;
import java.io.RandomAccessFile;
import java.net.HttpURLConnection;
import java.net.URISyntaxException;
import java.net.URL;
import java.net.http.HttpClient;
import java.net.http.HttpRequest;
import java.net.http.HttpResponse;
import java.nio.ByteBuffer;
import java.nio.channels.FileChannel;
import java.nio.file.Path;
import java.nio.file.Paths;
import java.time.Duration;
import java.util.Map;
import java.util.UUID;
```

```
   /* Create a presigned URL to use in a subsequent PUT request */
   public String createPresignedUrl(String bucketName, String keyName, Map<String,
String> metadata) {
       try (S3Presigner presigner = S3Presigner.create()) {

           PutObjectRequest objectRequest = PutObjectRequest.builder()
                   .bucket(bucketName)
                   .key(keyName)
                   .metadata(metadata)
                   .build();

           PutObjectPresignRequest presignRequest = PutObjectPresignRequest.builder()
                   .signatureDuration(Duration.ofMinutes(10))  // The URL expires in
10 minutes.
                   .putObjectRequest(objectRequest)
                   .build();


           PresignedPutObjectRequest presignedRequest =
presigner.presignPutObject(presignRequest);
           String myURL = presignedRequest.url().toString();
           logger.info("Presigned URL to upload a file to: [{}]", myURL);
           logger.info("HTTP method: [{}]", presignedRequest.httpRequest().method());
```

```
            return presignedRequest.url().toExternalForm();
        }
    }
```

パート 2: ファイルオブジェクトをアップロードする

ボブは次の 3 つのコードオプションのいずれかを使用してファイルをアップロードします。

JDK **HttpURLConnection** を使用する (v1.1 以降)

```
    /* Use the JDK HttpURLConnection (since v1.1) class to do the upload. */
    public void useHttpUrlConnectionToPut(String presignedUrlString, File fileToPut,
Map<String, String> metadata) {
        logger.info("Begin [{}] upload", fileToPut.toString());
        try {
            URL presignedUrl = new URL(presignedUrlString);
            HttpURLConnection connection = (HttpURLConnection)
presignedUrl.openConnection();
            connection.setDoOutput(true);
            metadata.forEach((k, v) -> connection.setRequestProperty("x-amz-meta-" + k,
v));
            connection.setRequestMethod("PUT");
            OutputStream out = connection.getOutputStream();

            try (RandomAccessFile file = new RandomAccessFile(fileToPut, "r");
                 FileChannel inChannel = file.getChannel()) {
                ByteBuffer buffer = ByteBuffer.allocate(8192); //Buffer size is 8k

                while (inChannel.read(buffer) > 0) {
                    buffer.flip();
                    for (int i = 0; i < buffer.limit(); i++) {
                        out.write(buffer.get());
                    }
                    buffer.clear();
                }
            } catch (IOException e) {
                logger.error(e.getMessage(), e);
            }

            out.close();
            connection.getResponseCode();
            logger.info("HTTP response code is " + connection.getResponseCode());
```

```
        } catch (S3Exception | IOException e) {
            logger.error(e.getMessage(), e);
        }
    }
```

JDK **HttpClient** を使用する (v11 以降)

```
    /* Use the JDK HttpClient (since v11) class to do the upload. */
    public void useHttpClientToPut(String presignedUrlString, File fileToPut,
Map<String, String> metadata) {
        logger.info("Begin [{}] upload", fileToPut.toString());

        HttpRequest.Builder requestBuilder = HttpRequest.newBuilder();
        metadata.forEach((k, v) -> requestBuilder.header("x-amz-meta-" + k, v));

        HttpClient httpClient = HttpClient.newHttpClient();
        try {
            final HttpResponse<Void> response = httpClient.send(requestBuilder
                            .uri(new URL(presignedUrlString).toURI())

.PUT(HttpRequest.BodyPublishers.ofFile(Path.of(fileToPut.toURI())))
                            .build(),
                    HttpResponse.BodyHandlers.discarding());

            logger.info("HTTP response code is " + response.statusCode());

        } catch (URISyntaxException | InterruptedException | IOException e) {
            logger.error(e.getMessage(), e);
        }
    }
```

SDK for Java から **SdkHttpClient** を使用する

```
    /* Use the AWS SDK for Java V2 SdkHttpClient class to do the upload. */
    public void useSdkHttpClientToPut(String presignedUrlString, File fileToPut,
Map<String, String> metadata) {
        logger.info("Begin [{}] upload", fileToPut.toString());

        try {
            URL presignedUrl = new URL(presignedUrlString);

            SdkHttpRequest.Builder requestBuilder = SdkHttpRequest.builder()
```

```
                    .method(SdkHttpMethod.PUT)
                    .uri(presignedUrl.toURI());
            // Add headers
            metadata.forEach((k, v) -> requestBuilder.putHeader("x-amz-meta-" + k, v));
            // Finish building the request.
            SdkHttpRequest request = requestBuilder.build();

            HttpExecuteRequest executeRequest = HttpExecuteRequest.builder()
                    .request(request)
                    .contentStreamProvider(new
FileContentStreamProvider(fileToPut.toPath()))
                    .build();

            try (SdkHttpClient sdkHttpClient = ApacheHttpClient.create()) {
                HttpExecuteResponse response =
sdkHttpClient.prepareRequest(executeRequest).call();
                logger.info("Response code: {}", response.httpResponse().statusCode());
            }
        } catch (URISyntaxException | IOException e) {
            logger.error(e.getMessage(), e);
        }
    }
```

GitHub で完全な例とテストをご覧ください。

リクエストフィールドを URL クエリパラメータとして含める

GetObjectRequest および PutObjectRequest の一部のリクエストフィールドは、URL クエリパラメータではなく HTTP ヘッダーにマッピングされます。たとえば、`requestPayer`、、`serverSideEncryption`、、 `acl` `metadata`は `x-amz-*`ヘッダーに`storageClass`マッピングされます。これらのフィールドのいずれかを設定するリクエストに事前署名すると、署名はヘッダーをカバーします。ただし、S3Presigner が返す署名付き URL には、ヘッダー値は含まれません。

署名付き URL の呼び出し元は、リクエストで同じ`x-amz-*`ヘッダーを送信する必要があります。それ以外の場合、Amazon S3 は を返します`SignatureDoesNotMatch`。カスタムヘッダーを設定できる HTTP クライアントは、それらのヘッダーを直接送信します。たとえば、前述の `HttpURLConnection`、`HttpClient`、および SdkHttpClient の例はすべてこれを行います。ただし、発信者がカスタムヘッダーを設定できない場合、リクエストは失敗します。一般的な例としては、URL をリンクとして開くウェブブラウザ、Amazon S3 に直接アップロードする HTML フォーム、URL を入力としてのみ受け取る HTTP クライアントなどがあります。

余分なヘッダーなしで URL を機能させるには、型付きフィールドを設定する代わりに、値を署名付きクエリパラメータとして渡します。AwsRequestOverrideConfiguration で putRawQueryParameter を使用します。

リクエスタ支払いを使用して GET リクエストに事前署名する

次の の例では、リクエスタ支払い設定GetObjectRequestを使用して の署名付き URL を生成します。値はクエリパラメータであるため、呼び出し元は x-amz-request-payerヘッダーを送信せずに URL を使用できます。

```
try (S3Presigner presigner = S3Presigner.create()) {
    GetObjectRequest getObjectRequest = GetObjectRequest.builder()
            .bucket("amzn-s3-demo-bucket")
            .key("example-key")
            .overrideConfiguration(o -> o.putRawQueryParameter("x-amz-request-payer",
 "requester"))
            .build();

    GetObjectPresignRequest presignRequest = GetObjectPresignRequest.builder()
            .signatureDuration(Duration.ofMinutes(10))
            .getObjectRequest(getObjectRequest)
            .build();

    PresignedGetObjectRequest presigned = presigner.presignGetObject(presignRequest);
    logger.info("Pre-signed URL: [{}]", presigned.url());

    // Confirm the URL requires no headers at request time:
    logger.info("Signed headers: {}", presigned.signedHeaders().keySet());  // [host]
}
```

メタデータを使用して PUT リクエストに事前署名する

次の例では、署名付きクエリパラメータとして 2 つのメタデータ値PutObjectRequestを持つ の署名付き URL を生成します。値はクエリパラメータであるため、どの発信者もx-amz-meta-*ヘッダーを送信せずに URL を使用できます。

```
try (S3Presigner presigner = S3Presigner.create()) {
    PutObjectRequest putObjectRequest = PutObjectRequest.builder()
            .bucket("amzn-s3-demo-bucket")
            .key("example-key")
            .overrideConfiguration(o -> o
                    .putRawQueryParameter("x-amz-meta-author", "alice")
```

```
                    .putRawQueryParameter("x-amz-meta-purpose", "demo"))
            .build();

    PutObjectPresignRequest presignRequest = PutObjectPresignRequest.builder()
            .signatureDuration(Duration.ofMinutes(10))
            .putObjectRequest(putObjectRequest)
            .build();

    PresignedPutObjectRequest presigned = presigner.presignPutObject(presignRequest);
    logger.info("Pre-signed URL: [{}]", presigned.url());

    // Confirm the URL requires no headers at upload time:
    logger.info("Signed headers: {}", presigned.signedHeaders().keySet());  // [host]
}
```

PUT リクエストに事前署名してファイルをアップロードする

次の例は、ワークフロー全体を示しています。マップとして指定したx-amz-*名前と値を使用して PUT リクエストに事前署名するメソッドと、 を使用してファイルをアップロードするメソッドですSdkHttpClient。値は既に署名付き URL の一部であるため、アップロードメソッドはx-amz-*ヘッダーを設定しません。対照的に、前のアップロード例ではx-amz-meta-*ヘッダーを明示的に設定しています。

インポート

```
import com.example.s3.util.PresignUrlUtils;
import org.slf4j.Logger;
import software.amazon.awssdk.awscore.AwsRequestOverrideConfiguration;
import software.amazon.awssdk.core.internal.sync.FileContentStreamProvider;
import software.amazon.awssdk.http.HttpExecuteRequest;
import software.amazon.awssdk.http.HttpExecuteResponse;
import software.amazon.awssdk.http.SdkHttpClient;
import software.amazon.awssdk.http.SdkHttpMethod;
import software.amazon.awssdk.http.SdkHttpRequest;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.PutObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.presigner.S3Presigner;
import software.amazon.awssdk.services.s3.presigner.model.PresignedPutObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.presigner.model.PutObjectPresignRequest;

import java.io.File;
import java.io.IOException;
```

```
import java.net.URISyntaxException;
import java.net.URL;
import java.nio.file.Paths;
import java.time.Duration;
import java.util.Map;
import java.util.UUID;
```

URL を生成する。

```
   /**
    *  Creates a presigned URL to use in a subsequent HTTP PUT request. The code adds
query parameters
    *  to the request instead of using headers. By using query parameters, you do not
need to add the
    *  the parameters as headers when the PUT request is eventually sent.
    *
    * @param bucketName Bucket name where the object will be uploaded.
    * @param keyName Key name of the object that will be uploaded.
    * @param queryParams Query string parameters to be added to the presigned URL.
    * @return
    */
   public String createPresignedUrl(String bucketName, String keyName, Map<String,
String> queryParams) {
       try (S3Presigner presigner = S3Presigner.create()) {
           // Create an override configuration to store the query parameters.
           AwsRequestOverrideConfiguration.Builder overrideConfigurationBuilder =
AwsRequestOverrideConfiguration.builder();

           queryParams.forEach(overrideConfigurationBuilder::putRawQueryParameter);

           PutObjectRequest objectRequest = PutObjectRequest.builder()
                   .bucket(bucketName)
                   .key(keyName)
                   .overrideConfiguration(overrideConfigurationBuilder.build()) // Add
the override configuration.
                   .build();

           PutObjectPresignRequest presignRequest = PutObjectPresignRequest.builder()
                   .signatureDuration(Duration.ofMinutes(10))  // The URL expires in
10 minutes.
                   .putObjectRequest(objectRequest)
                   .build();
```

```
            PresignedPutObjectRequest presignedRequest =
presigner.presignPutObject(presignRequest);
            String myURL = presignedRequest.url().toString();
            logger.info("Presigned URL to upload a file to: [{}]", myURL);
            logger.info("HTTP method: [{}]", presignedRequest.httpRequest().method());

            return presignedRequest.url().toExternalForm();
        }
    }
```

でファイルをアップロードしますSdkHttpClient。

```
    /**
     * Use the AWS SDK for Java V2 SdkHttpClient class to execute the PUT request.
Since the
     * URL contains the query parameters, no headers are needed for metadata, SSE
settings, or ACL settings.
     *
     * @param presignedUrlString The URL for the PUT request.
     * @param fileToPut File to uplaod
     */
    public void useSdkHttpClientToPut(String presignedUrlString, File fileToPut) {
        logger.info("Begin [{}] upload", fileToPut.toString());

        try {
            URL presignedUrl = new URL(presignedUrlString);

            SdkHttpRequest.Builder requestBuilder = SdkHttpRequest.builder()
                    .method(SdkHttpMethod.PUT)
                    .uri(presignedUrl.toURI());

            SdkHttpRequest request = requestBuilder.build();

            HttpExecuteRequest executeRequest = HttpExecuteRequest.builder()
                    .request(request)
                    .contentStreamProvider(new
FileContentStreamProvider(fileToPut.toPath()))
                    .build();

            try (SdkHttpClient sdkHttpClient = ApacheHttpClient.create()) {
                HttpExecuteResponse response =
sdkHttpClient.prepareRequest(executeRequest).call();
```

```
                logger.info("Response code: {}", response.httpResponse().statusCode());
            }
        } catch (URISyntaxException | IOException e) {
            logger.error(e.getMessage(), e);
        }
    }
```

GitHub で完全な例とテストをご覧ください。

署名付きリクエストに必要なヘッダーを確認する

発信者が送信する必要がある特定の署名付きリクエストのヘッダーを確認するには、返された PresignedRequest で signedHeaders() を呼び出します。返されるマップx-amz-*の名前は、発信者が送信する必要があるヘッダーです。要件からヘッダーを削除する場合は、型付きフィールドを設定するputRawQueryParameter代わりに、その値を に渡します。

Amazon S3 のクロスリージョンアクセス

Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) バケットで作業をする場合、通常そのバケットの AWS リージョン を知っています。使用するリージョンは、S3 クライアントの作成時に決定されます。

ただし、特定のバケットを操作する必要があったとしても、そのバケットが S3 クライアントに設定されているのと同じリージョンにあるかどうかわからない場合があります。

バケットのリージョンを特定するためにさらに呼び出しを行う代わりに、SDK を使用してさまざまなリージョンの S3 バケットにアクセスできるようにすることができます。

セットアップ

クロスリージョンアクセスに関するサポートは、SDK のバージョン 2.20.111 で利用可能になりました。次のスニペットに示すように、Maven ビルドファイルの s3 依存関係には、このバージョンまたはそれ以降のバージョンを使用します。

```
<dependency>
  <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
  <artifactId>s3</artifactId>
  <version>2.27.21</version>
</dependency>
```

次に、S3 クライアントを作成するときに、スニペットに示すようにクロスリージョンアクセスを有効にします。デフォルトでは、アクセスは有効になっていません。

```
S3AsyncClient client = S3AsyncClient.builder()
                                    .crossRegionAccessEnabled(true)
                                    .build();
```

SDK がクロスリージョンアクセスを提供する方法

putObject メソッドを使用する場合など、リクエストで既存のバケットを参照すると、SDK はクライアント用に設定されたリージョンへのリクエストを開始します。

その特定のリージョンにバケットが存在しない場合、エラーレスポンスにはバケットが存在する実際のリージョンが含まれます。その後、SDK は 2 回目のリクエストで正しいリージョンを使用します。

同じバケットへの今後のリクエストを最適化するために、SDK はこのリージョンマッピングをクライアントにキャッシュします。

考慮事項

クロスリージョンバケットアクセスを有効にする場合、バケットがクライアントの設定済みリージョンにない場合、最初の API コールでレイテンシーが増加する可能性があることに注意してください。ただし、それ以降のコールではキャッシュされたリージョン情報が有効になるため、パフォーマンスが向上します。

クロスリージョンアクセスを有効にする場合、バケットへのアクセスには影響しません。ユーザーは、そのバケットが存在するリージョンに関係なく、バケットにアクセスする権限を持っている必要があります。

チェックサムによるデータ整合性保護

Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) では、オブジェクトをアップロードするときにチェックサムを指定できます。チェックサムを指定すると、そのチェックサムはオブジェクトとともに保存され、オブジェクトのダウンロード時に検証できます。

チェックサムは、ファイルを転送する際のデータの整合性をさらに強化します。チェックサムを使用すると、受信したファイルが元のファイルと一致することを確認することで、データ整合性を検証できます。Amazon S3 でのチェックサムの詳細については、サポート対象アルゴリズムなど、「Amazon Simple Storage Service ユーザーガイド」を参照してください。

ニーズに最適なアルゴリズムを柔軟に選択して、SDK にチェックサムを計算させることができます。または、サポートされているアルゴリズムのいずれかを使用して、事前に計算された独自のチェックサム値を指定することもできます。

> **Note**
>
> AWS SDK for Java 2.xのバージョン 2.30.0 以降、SDK はアップロードの CRC32 チェックサムを自動的に計算することで、デフォルトの整合性保護を提供します。事前計算されたチェックサム値を指定しない場合、または SDK がチェックサムの計算に使用するアルゴリズムを指定しない場合、SDK はこのチェックサムを計算します。
> SDK には、外部で設定できるデータ整合性保護のグローバル設定も用意されています。詳細については、「AWS SDK とツールのリファレンスガイド」を参照してください。

チェックサムについては、オブジェクトのアップロードとオブジェクトのダウンロードという 2 つのリクエストフェーズで説明します。

オブジェクトのアップロード

putObject メソッドでオブジェクトをアップロードし、チェックサムアルゴリズムを指定した場合、SDK は指定したアルゴリズムでチェックサムを計算します。

次のコードスニペットは、SHA256 チェックサムを含むオブジェクトをアップロードするリクエストを示しています。SDK はリクエストを送信すると、SHA256 チェックサムを計算してオブジェクトをアップロードします。Amazon S3 は、チェックサムを計算し、SDK によって提供されるチェックサムと比較することで、コンテンツの整合性を検証します。次に、Amazon S3 はオブジェクトと共にチェックサムを保存します。

```
public void putObjectWithChecksum() {
        s3Client.putObject(b -> b
                .bucket(bucketName)
                .key(key)
                .checksumAlgorithm(ChecksumAlgorithm.SHA256),
            RequestBody.fromString("This is a test"));
}
```

リクエストでチェックサムアルゴリズムを指定しない場合、チェックサムの動作は、次の表に示すように、使用する SDK のバージョンによって異なります。

チェックサムアルゴリズムが指定されていない場合のチェックサムの動作

Java SDK バージョン	チェックサムの動作
2.30.0 より前	SDK は、CRC ベースのチェックサムを自動的に計算してリクエストに含めることはありません。
2.30.0 以降	SDK は、CRC32 アルゴリズムを使用してチェックサムを計算し、リクエストに含めます。Amazon S3 は、独自の CRC32 チェックサムを計算して転送の整合性を検証し、SDK が提供するチェックサムと比較します。チェックサムが一致した場合、チェックサムはオブジェクトとともに保存されます。

事前に計算されたチェックサム値を使用してください。

リクエストで事前に計算されたチェックサム値を指定すると、SDK による自動計算が無効になり、代わりに提供された値が使用されます。

次の例は、SHA256 チェックサムが事前に計算されたリクエストを示しています。

```
   public void putObjectWithPrecalculatedChecksum(String bucketName, String key,
String filePath) {
       String checksum = calculateChecksum(filePath, "SHA-256");

       s3Client.putObject((b -> b
               .bucket(bucketName)
               .key(key)
               .checksumSHA256(checksum)),
           RequestBody.fromFile(Paths.get(filePath)));
   }
```

Amazon S3 が、指定されたアルゴリズムのチェックサム値が正しくないと判断した場合、サービスはエラーレスポンスを返します。

マルチパートアップロード

チェックサムはマルチパートアップロードでも使用できます。

SDK for Java 2.x には、マルチパートアップロードでチェックサムを使用する 2 つのオプションがあります。最初のオプションでは S3TransferManager を使用します。

次の転送マネージャーの例では、アップロードに SHA1 アルゴリズムを指定しています。

```
   public void multipartUploadWithChecksumTm(String bucketName, String key, String
filePath) {
       S3TransferManager transferManager = S3TransferManager.create();
       UploadFileRequest uploadFileRequest = UploadFileRequest.builder()
           .putObjectRequest(b -> b
               .bucket(bucketName)
               .key(key)
               .checksumAlgorithm(ChecksumAlgorithm.SHA1))
           .source(Paths.get(filePath))
           .build();
       FileUpload fileUpload = transferManager.uploadFile(uploadFileRequest);
       fileUpload.completionFuture().join();
       transferManager.close();
   }
```

アップロードで Transfer Manager を使用する際にチェックサムアルゴリズムを指定しない場合、SDK は CRC32 アルゴリズムに基づいてチェックサムを自動的に計算します。SDK は、SDK のすべてのバージョンに対してこの計算を実行します。

2 つ目のオプションは S3ClientAPI (または S3AsyncClientAPI) を使用してマルチパートアップロードを実行します。このアプローチでチェックサムを指定する場合は、アップロードの開始時に使用するアルゴリズムを指定する必要があります。また、パートリクエストごとにアルゴリズムを指定し、アップロード後にパートごとに計算されたチェックサムを指定する必要があります。

```
   public void multipartUploadWithChecksumS3Client(String bucketName, String key,
String filePath) {
       ChecksumAlgorithm algorithm = ChecksumAlgorithm.CRC32;

       // Initiate the multipart upload.
       CreateMultipartUploadResponse createMultipartUploadResponse =
s3Client.createMultipartUpload(b -> b
           .bucket(bucketName)
           .key(key)
           .checksumAlgorithm(algorithm)); // Checksum specified on initiation.
       String uploadId = createMultipartUploadResponse.uploadId();

       // Upload the parts of the file.
```

```
        int partNumber = 1;
        List<CompletedPart> completedParts = new ArrayList<>();
        ByteBuffer bb = ByteBuffer.allocate(1024 * 1024 * 5); // 5 MB byte buffer

        try (RandomAccessFile file = new RandomAccessFile(filePath, "r")) {
            long fileSize = file.length();
            long position = 0;
            while (position < fileSize) {
                file.seek(position);
                long read = file.getChannel().read(bb);

                bb.flip(); // Swap position and limit before reading from the buffer.
                UploadPartRequest uploadPartRequest = UploadPartRequest.builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .key(key)
                    .uploadId(uploadId)
                    .checksumAlgorithm(algorithm) // Checksum specified on each part.
                    .partNumber(partNumber)
                    .build();

                UploadPartResponse partResponse = s3Client.uploadPart(
                    uploadPartRequest,
                    RequestBody.fromByteBuffer(bb));

                CompletedPart part = CompletedPart.builder()
                    .partNumber(partNumber)
                    .checksumCRC32(partResponse.checksumCRC32()) // Provide the
calculated checksum.
                    .eTag(partResponse.eTag())
                    .build();
                completedParts.add(part);

                bb.clear();
                position += read;
                partNumber++;
            }
        } catch (IOException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
        }

        // Complete the multipart upload.
        s3Client.completeMultipartUpload(b -> b
            .bucket(bucketName)
            .key(key)
```

```
            .uploadId(uploadId)

.multipartUpload(CompletedMultipartUpload.builder().parts(completedParts).build()));
   }
```

完全な例とテストのコードは、GitHub のコードサンプルリポジトリにあります。

オブジェクトのダウンロード

getObject メソッドを使用してオブジェクトをダウンロードすると、SDK は GetObjectRequest のビルダーの checksumMode のメソッドが ChecksumMode.ENABLED に設定されている場合にチェックサムを自動的に検証します。

次の スニペット内のリクエストは、チェックサムを計算して値を比較することでレスポンス内のチェックサムを検証するよう SDK に指示します。

```
    public GetObjectResponse getObjectWithChecksum() {
        return s3Client.getObject(b -> b
                        .bucket(bucketName)
                        .key(key)
                        .checksumMode(ChecksumMode.ENABLED))
                .response();
    }
```

> **Note**
>
> オブジェクトがチェックサム付きでアップロードされなかった場合、検証は行われません。

その他のチェックサム計算オプション

> **Note**
>
> 送信データの整合性を検証し、送信エラーを検出するために、チェックサム計算オプションについては SDK のデフォルト設定を維持することをお勧めします。デフォルトでは、SDK は PutObject や GetObject を含む多くの S3 オペレーションに対して、この重要なチェックを追加します。

ただし、Amazon S3 の使用で最小限のチェックサム検証しか必要としない場合は、デフォルトの設定を変更することで、多くのチェックを無効にできます。

必須でない場合に自動チェックサム計算を無効にする

SDK がサポートするオペレーション (例：PutObject や GetObject) に対して、自動チェックサム計算を無効にできます。ただし、一部の S3 オペレーションではチェックサムの計算が必須であり、これらのオペレーションではチェックサム計算を無効にすることはできません。

SDK は、リクエストのペイロード用チェックサムの計算と、レスポンスのペイロード用チェックサムの計算をそれぞれ個別の設定として提供します。

次のリストでは、さまざまな範囲でのチェックサム計算を最小限に抑えるために使用できる設定について説明します。

- すべてのアプリケーションスコープ — 環境変数または共有 AWS config および credentials ファイル内のプロファイルの設定を変更することで、すべてのアプリケーションがこれらの設定を使用できます。これらの設定は、アプリケーションまたはサービスクライアントスコープで上書きされない限り、すべての AWS SDK アプリケーションのすべてのサービスクライアントに影響します。
  - プロファイルで設定を追加します。

    ```
    [default]
    request_checksum_calculation = WHEN_REQUIRED
    response_checksum_validation = WHEN_REQUIRED
    ```

  - 環境変数を追加します。

    ```
    AWS_REQUEST_CHECKSUM_CALCULATION=WHEN_REQUIRED
    AWS_RESPONSE_CHECKSUM_VALIDATION=WHEN_REQUIRED
    ```

- 現在のアプリケーション範囲 — Java システムプロパティ aws.requestChecksumCalculation を WHEN_REQUIRED に設定して、チェックサムの計算を制限できます。レスポンスの対応するシステムプロパティは aws.responseChecksumValidation です。

  これらの設定は、サービスクライアントの作成中に上書きされない限り、アプリケーション内のすべての SDK サービスクライアントに影響します。

  アプリケーションの開始時にシステムプロパティを設定します。

```
import software.amazon.awssdk.core.SdkSystemSetting;
import software.amazon.awssdk.core.checksums.RequestChecksumCalculation;
import software.amazon.awssdk.core.checksums.ResponseChecksumValidation;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;

class DemoClass {
    public static void main(String[] args) {


 System.setProperty(SdkSystemSetting.AWS_REQUEST_CHECKSUM_CALCULATION.property(), //
 Resolves to "aws.requestChecksumCalculation".
                "WHEN_REQUIRED");

 System.setProperty(SdkSystemSetting.AWS_RESPONSE_CHECKSUM_VALIDATION.property(), //
 Resolves to "aws.responseChecksumValidation".
                "WHEN_REQUIRED");

        S3Client s3Client = S3Client.builder().build();

        // Use s3Client.
    }
}
```

- 単一の S3 サービスクライアント範囲 — ビルダーメソッドを使用して、最小量のチェックサムを計算するように単一の S3 サービスクライアントを設定できます。

```
import software.amazon.awssdk.core.checksums.RequestChecksumCalculation;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;

public class RequiredChecksums {
    public static void main(String[] args) {
        S3Client s3 = S3Client.builder()
                .requestChecksumCalculation(RequestChecksumCalculation.WHEN_REQUIRED)
                .responseChecksumValidation(ResponseChecksumValidation.WHEN_REQUIRED)
                .build();

        // Use s3Client.
    }
// ...
}
```

`LegacyMd5Plugin` を使用した MD5 との互換性の簡素化

バージョン 2.30.0 での CRC32 チェックサム動作のリリースに加えて、SDK は必要なオペレーションの MD5 チェックサムの計算を停止しました。

S3 オペレーションにレガシーの MD5 チェックサム動作が必要な場合は、 SDK のバージョン 2.31.32 でリリースされた `LegacyMd5Plugin` を使用できます。

`LegacyMd5Plugin` は、レガシー MD5 チェックサムの動作に依存するアプリケーションとの互換性を維持する必要がある場合、特に S3A ファイルシステムコネクタで使用されるようなサードパーティの S3 互換ストレージプロバイダーを使用する場合に特に便利です (Apache Spark、Iceberg) 。

`LegacyMd5Plugin` を使用するには、S3 クライアントビルダーに追加します。

```
// For synchronous S3 client.
S3Client s3Client = S3Client.builder()
                            .addPlugin(LegacyMd5Plugin.create())
                            .build();

// For asynchronous S3 client.
S3AsyncClient asyncClient = S3AsyncClient.builder()
                                         .addPlugin(LegacyMd5Plugin.create())
                                         .build();
```

チェックサムが必要なオペレーションに MD5 チェックサムを追加し、チェックサムをサポートしているが必須ではないオペレーションに対しては SDK デフォルトチェックサムの追加をスキップする場合は、`ClientBuilder` オプション `requestChecksumCalculation` および `responseChecksumValidation` を `WHEN_REQUIRED` として有効にできます。これにより、SDK のデフォルトのチェックサムのみが、チェックサムを必要とするオペレーションに追加されます。

```
// Use the `LegacyMd5Plugin` with `requestChecksumCalculation` and
 `responseChecksumValidation` set to WHEN_REQUIRED.
S3AsyncClient asyncClient = S3AsyncClient.builder()
                                         .addPlugin(LegacyMd5Plugin.create())

 .requestChecksumCalculation(RequestChecksumCalculation.WHEN_REQUIRED)

 .responseChecksumValidation(ResponseChecksumValidation.WHEN_REQUIRED)
                                         .build();
```

この設定は、新しいチェックサムアルゴリズムを完全にはサポートしていないものの、特定のオペレーションに MD5 チェックサムが必要なサードパーティーの S3 互換ストレージシステムを使用する場合に特に便利です。

パフォーマンスの高い S3 クライアントを使用する: AWS CRT ベースの S3 クライアント

Common Runtime (AWS CRT) 上に構築された CRT ベースの S3 クライアントは、代替の S3 非同期クライアントです。 AWSAmazon S3 のマルチパートアップロード API とバイト範囲フェッチを自動的に使用することで、Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) との間でオブジェクトを転送し、パフォーマンスと信頼性を向上させます。

AWS CRT ベースの S3 クライアントは、ネットワーク障害が発生した場合の転送の信頼性を向上させます。ファイル転送を最初からやり直すことなく、失敗した個別の部分を再試行することで、信頼性を改善しています。

さらに、CRT AWS ベースの S3 クライアントは、強化された接続プーリングとドメインネームシステム (DNS) ロードバランシングを提供し、スループットも向上します。

SDK の標準 S3 非同期クライアントの代わりに AWS CRT ベースの S3 クライアントを使用し、その改善されたスループットをすぐに活用できます。

> **Important**
>
> AWS CRT ベースの S3 クライアントは現在、クライアントレベルまたはリクエストレベルで SDK メトリクス収集をサポートしていません。

AWS SDK の CRT ベースのコンポーネント

このトピックで説明されている AWS CRT ベースの S3 クライアントと CRT AWS ベースの HTTP クライアントは SDK の異なるコンポーネントです。

AWS CRT ベースの S3 クライアントは S3AsyncClient インターフェイスの実装であり、Amazon S3 サービスを利用するために使用されます。これは `S3AsyncClient` インターフェイスの Java ベースの実装に代わるもので、いくつかの利点があります。

AWS CRT ベースの HTTP クライアントは、SDKASyncHttpClient インターフェースを実装したもので、一般的な HTTP 通信に使用されます。これは `SdkAsyncHttpClient` インターフェースの Netty 実装に代わるもので、いくつかの利点があります。

どちらのコンポーネントも AWS Common Runtime のライブラリを使用しますが、 AWS CRT ベースの S3 クライアントは aws-c-s3 ライブラリを使用し、S3 マルチパートアップロード API 機能をサポートしています。 AWS CRT ベースの HTTP クライアントは汎用であるため、S3 マルチパートアップロード API 機能はサポートされていません。

CRT AWS ベースの S3 クライアントを使用するための依存関係を追加する

AWS CRT ベースの S3 クライアントを使用するには、Maven プロジェクトファイルに次の 2 つの依存関係を追加します。この例は、使用する最小バージョンを示しています。Maven central リポジトリで s3 と aws-crt のアーティファクトの最新バージョンを検索します。

```
<dependency>
  <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
  <artifactId>s3</artifactId>
  <version>2.27.21</version>
</dependency>
<dependency>
  <groupId>software.amazon.awssdk.crt</groupId>
  <artifactId>aws-crt</artifactId>
  <version>0.30.11</version>
</dependency>
```

CRT AWS ベースの S3 クライアントのインスタンスを作成する

次のコードスニペットに示すように、デフォルト設定で AWS CRT ベースの S3 クライアントのインスタンスを作成します。

```
S3AsyncClient s3AsyncClient = S3AsyncClient.crtCreate();
```

クライアントを設定するには、CRT AWS クライアントビルダーを使用します。ビルダーメソッドを変更することで、標準の S3 非同期クライアントから AWS CRT ベースのクライアントに切り替えることができます。

```
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3AsyncClient;


S3AsyncClient s3AsyncClient =
        S3AsyncClient.crtBuilder()
                     .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
```

```
                    .region(Region.US_WEST_2)
                    .targetThroughputInGbps(20.0)
                    .minimumPartSizeInBytes(8 * 1025 * 1024L)
                    .build();
```

> **Note**
>
> スタンダードビルダーの設定の一部は、現在 AWS CRT クライアントビルダーではサポートされていない場合があります。スタンダードビルダーを取得するには、`S3AsyncClient#builder()` を呼び出します。

CRT AWS ベースの S3 クライアントを使用する

AWS CRT ベースの S3 クライアントを使用して Amazon S3 API オペレーションを呼び出します。次の例は、 AWS SDK for Javaを介して実行できる PutObject オペレーションと GetObject オペレーションを示しています。

```
import software.amazon.awssdk.core.async.AsyncRequestBody;
import software.amazon.awssdk.core.async.AsyncResponseTransformer;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3AsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetObjectResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.PutObjectResponse;


S3AsyncClient s3Client = S3AsyncClient.crtCreate();

// Upload a local file to Amazon S3.
PutObjectResponse putObjectResponse =
      s3Client.putObject(req -> req.bucket(<BUCKET_NAME>)
                                   .key(<KEY_NAME>),
                        AsyncRequestBody.fromFile(Paths.get(<FILE_NAME>)))
              .join();

// Download an object from Amazon S3 to a local file.
GetObjectResponse getObjectResponse =
      s3Client.getObject(req -> req.bucket(<BUCKET_NAME>)
                                   .key(<KEY_NAME>),
                        AsyncResponseTransformer.toFile(Paths.get(<FILE_NAME>)))
              .join();
```

サイズが不明なストリームのアップロード

AWS AWS CRT ベースの S3 クライアントの主な利点の 1 つは、サイズが不明な入力ストリームを効率的に処理できることです。これは、合計サイズを事前に判断できないソースからデータをアップロードする必要がある場合に特に便利です。

```
public PutObjectResponse crtClient_stream_unknown_size(String bucketName, String key,
 InputStream inputStream) {

    S3AsyncClient s3AsyncClient = S3AsyncClient.crtCreate();
    ExecutorService executor = Executors.newSingleThreadExecutor();
    AsyncRequestBody body = AsyncRequestBody.fromInputStream(inputStream, null,
 executor);  // 'null' indicates that the

     // content length is unknown.
    CompletableFuture<PutObjectResponse> responseFuture =
            s3AsyncClient.putObject(r -> r.bucket(bucketName).key(key), body)
                    .exceptionally(e -> {
                        if (e != null){
                            logger.error(e.getMessage(), e);
                        }
                        return null;
                    });

    PutObjectResponse response = responseFuture.join(); // Wait for the response.
    executor.shutdown();
    return response;
}
```

この機能は、コンテンツの長さの指定が正しくないとオブジェクトの切り捨てやアップロードの失敗につながる可能性がある、従来のアップロードの一般的な問題を回避するのに役立ちます。

設定の制限

AWS CRT ベースの S3 クライアントと Java ベースの S3 非同期クライアントは同等の機能を提供し、CRT AWS ベースの S3 クライアントはパフォーマンスエッジを提供します。ただし、 AWS CRT ベースの S3 クライアントには、Java ベースの S3 非同期クライアントの設定がありません。設定は次のとおりです。

- クライアントレベルの設定: API コール試行のタイムアウト、圧縮実行インターセプター、メトリクスパブリッシャー、カスタム実行属性、カスタム詳細オプション、カスタムスケジュールのエグゼキュータサービス、カスタムヘッダー

- リクエストレベルの設定: カスタム署名者、API コール試行タイムアウト

設定の違いの完全なリストについては、 API リファレンスを参照してください。

Java ベースの S3 非同期クライアント	AWS CRT ベースの S3 クライアント
クライアントレベルの設定 • ClientOverrideConfiguration.Builder	クライアントレベルの設定 • S3CrtAsyncClientBuilder
リクエストレベルの設定 • RequestOverrideConfiguration.Builder • AwsRequestOverrideConfiguration.Builder	リクエストレベルの設定 • RequestOverrideConfiguration.Builder • AwsRequestOverrideConfiguration.Builder

並列転送を使用するように Java ベースの S3 非同期クライアントを設定する

バージョン 2.27.5 以降、標準の Java ベースの S3 非同期クライアントは、自動並列転送 (マルチパートアップロードおよびダウンロード) をサポートしています。Java ベースの S3 非同期クライアントを作成するときに、並列転送のサポートを設定します。

このセクションでは、並列転送を有効にする方法と設定をカスタマイズする方法について説明します。

`S3AsyncClient` のインスタンスの作成

ビルダーで `multipart*` メソッドを呼び出さずに `S3AsyncClient` インスタンスを作成する場合、並列転送は有効になりません。次の各ステートメントは、マルチパートアップロードとダウンロードのサポートなしで Java ベースの S3 非同期クライアントを作成します。

マルチパートサポートなしで作成する

Example

```
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProcessCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3AsyncClient;


S3AsyncClient s3Client = S3AsyncClient.create();

S3AsyncClient s3Client2 = S3AsyncClient.builder().build();

S3AsyncClient s3Client3 = S3AsyncClient.builder()
        .credentialsProvider(ProcessCredentialsProvider.builder().build())
        .region(Region.EU_NORTH_1)
        .build();
```

マルチパートサポート付きで作成する

デフォルト設定で並列転送を有効にするには、ビルダーで `multipartEnabled` を呼び出し、次の例に示すように `true` を渡します。

Example

```
S3AsyncClient s3AsyncClient2 = S3AsyncClient.builder()
        .multipartEnabled(true)
        .build();
```

デフォルト値は、 `thresholdInBytes` および `minimumPartSizeInBytes` 設定では 8 MiB です。

マルチパート設定をカスタマイズすると、次に示すように並列転送が自動的に有効になります。

Example

```
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3AsyncClient;
import static software.amazon.awssdk.transfer.s3.SizeConstant.MB;


S3AsyncClient s3AsyncClient2 = S3AsyncClient.builder()
        .multipartConfiguration(b -> b
                .thresholdInBytes(16 * MB)
                .minimumPartSizeInBytes(10 * MB))
        .build();
```

サイズが不明なストリームのアップロード

マルチパートが有効になっている Java ベースの S3 非同期クライアントは、合計サイズが事前にわからない入力ストリームを効率的に処理できます。

```
public PutObjectResponse asyncClient_multipart_stream_unknown_size(String bucketName,
 String key, InputStream inputStream) {

    S3AsyncClient s3AsyncClient =
 S3AsyncClient.builder().multipartEnabled(true).build();
    ExecutorService executor = Executors.newSingleThreadExecutor();
    AsyncRequestBody body = AsyncRequestBody.fromInputStream(inputStream, null,
 executor); // 'null' indicates that the

    // content length is unknown.
    CompletableFuture<PutObjectResponse> responseFuture =
            s3AsyncClient.putObject(r -> r.bucket(bucketName).key(key), body)
                    .exceptionally(e -> {
                        if (e != null) {
                            logger.error(e.getMessage(), e);
                        }
                        return null;
                    });

    PutObjectResponse response = responseFuture.join(); // Wait for the response.
    executor.shutdown();
    return response;
}
```

このアプローチにより、切り捨てられたオブジェクトやアップロードの失敗など、コンテンツの長さを手動で指定した場合に発生する可能性のある問題を回避できます。

Amazon S3 Transfer Manager を使用してファイルとディレクトリを転送する

Amazon S3 転送マネージャは、 AWS SDK for Java 2.x用のオープンソースの高レベルファイル転送ユーティリティです。Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) との間でファイルやディレクトリを転送するために使用します。

AWS CRT ベースの S3 クライアントまたはマルチパートが有効になっている標準の Java ベースの S3 非同期クライアント上に構築すると、S3 Transfer Manager ではマルチパートアップロード API やバイト範囲フェッチなどのパフォーマンスの向上を活用できます。

S3 Transfer Manager では、転送の進行状況をリアルタイムでモニタリングし、転送を一時停止して後で実行することもできます。

はじめに

ビルドファイルに依存関係を追加する

S3 Transfer Manager で強化されたマルチパートパフォーマンスを利用するには、必要な依存関係を使用してビルドファイルを設定します。

Use the AWS CRT-based S3 client

```
<dependencyManagement>
    <dependencies>
        <dependency>
            <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
            <artifactId>bom</artifactId>
            <version>2.27.21[1]</version>
            <type>pom</type>
            <scope>import</scope>
        </dependency>
    </dependencies>
</dependencyManagement>
<dependencies>
    <dependency>
        <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
        <artifactId>s3-transfer-manager</artifactId>
    </dependency>
    <dependency>
        <groupId>software.amazon.awssdk.crt</groupId>
        <artifactId>aws-crt</artifactId>
        <version>0.29.143[2]</version>
    </dependency>
</dependencies>
```

[1] Maven Central Repository で最新の BOM バージョンを検索します。 [2] Maven Central Repository で最新の CRT バージョンを検索します。

Use the Java-based S3 async client

```
<dependencyManagement>
    <dependencies>
        <dependency>
            <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
            <artifactId>bom</artifactId>
            <version>2.27.21[1]</version>
            <type>pom</type>
            <scope>import</scope>
        </dependency>
    </dependencies>
</dependencyManagement>
<dependencies>
    <dependency>
        <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
        <artifactId>s3-transfer-manager</artifactId>
    </dependency>
</dependencies>
```

[1] Maven Central Repository で最新の BOM バージョンを検索します。

S3 Transfer Manager のインスタンスを作成する

並列転送を有効にするには、CRT AWS ベースの S3 クライアントまたはマルチパートが有効になっている Java ベースの S3 非同期クライアントを渡す必要があります。次の例は、S3 Transfer Manager をカスタム設定する方法を示しています。

Use the AWS CRT-based S3 client

```
        S3AsyncClient s3AsyncClient = S3AsyncClient.builder()
                .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
                .region(Region.US_EAST_1)
                .multipartEnabled(true)
                .multipartConfiguration(c -> c.minimumPartSizeInBytes(8 * MB))
                .build();

        S3TransferManager transferManager = S3TransferManager.builder()
                .s3Client(s3AsyncClient)
                .build();
```

Use the Java-based S3 async client

aws-crt 依存関係がビルドファイルに含まれていない場合、S3 Transfer Manager は SDK for Java 2.x で使用されている標準の Java ベースの S3 非同期クライアント上に構築されます。

S3 クライアントのカスタム設定 - マルチパートを有効にする必要があります

```
        S3AsyncClient s3AsyncClient = S3AsyncClient.builder()
                .multipartEnabled(true)
                .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        S3TransferManager transferManager = S3TransferManager.builder()
                .s3Client(s3AsyncClient)
                .build();
```

S3 クライアントの設定なし - マルチパートサポートが自動的に有効になります

```
S3TransferManager transferManager = S3TransferManager.create();
```

S3 バケットにファイルをアップロードする

次の例は、ファイルのアップロード例と、アップロードの進行状況を口グ記録する LoggingTransferListener をオプションで使用したものです。

S3 Transfer Manager を使用して Amazon S3 にファイルをアップロードするには、S3TransferManagerの uploadFile メソッドにUploadFileRequest オブジェクトを渡します。

uploadFile メソッドから返される FileUpload オブジェクトはアップロードプロセスを表します。リクエストが完了すると、CompletedFileUpload オブジェクトはアップロードに関する情報を含めます。

```
    public void trackUploadFile(S3TransferManager transferManager, String bucketName,
                                String key, URI filePathURI) {
        UploadFileRequest uploadFileRequest = UploadFileRequest.builder()
                .putObjectRequest(b -> b.bucket(bucketName).key(key))
                .addTransferListener(LoggingTransferListener.create())  // Add
 listener.
```

```
                .source(Paths.get(filePathURI))
                .build();

        FileUpload fileUpload = transferManager.uploadFile(uploadFileRequest);

        fileUpload.completionFuture().join();
        /*
            The SDK provides a LoggingTransferListener implementation of the
TransferListener interface.
            You can also implement the interface to provide your own logic.

            Configure log4J2 with settings such as the following.
                <Configuration status="WARN">
                    <Appenders>
                        <Console name="AlignedConsoleAppender" target="SYSTEM_OUT">
                            <PatternLayout pattern="%m%n"/>
                        </Console>
                    </Appenders>

                    <Loggers>
                        <logger
name="software.amazon.awssdk.transfer.s3.progress.LoggingTransferListener"
level="INFO" additivity="false">
                            <AppenderRef ref="AlignedConsoleAppender"/>
                        </logger>
                    </Loggers>
                </Configuration>

            Log4J2 logs the progress. The following is example output for a 21.3 MB
file upload.
                Transfer initiated...
                |                    | 0.0%
                |====                | 21.1%
                |============        | 60.5%
                |====================| 100.0%
                Transfer complete!
        */
    }
```

インポート

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
```

```
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.S3TransferManager;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.CompletedFileUpload;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.FileUpload;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.UploadFileRequest;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.progress.LoggingTransferListener;
import java.net.URI;
import java.net.URISyntaxException;
import java.net.URL;
import java.nio.file.Paths;
import java.util.UUID;
```

S3 バケットからのファイルのダウンロード

次の例には、ダウンロードの例と、ダウンロードの進行状況を口グ記録する LoggingTransferListener をオプションで使用する方法も示されています。

S3 Transfer Manager を使用して S3 バケットからオブジェクトをダウンロードするには、DownloadFileRequest オブジェクトを構築してそれを downloadFile メソッドに渡します。

S3TransferManager の downloadFile メソッドによって返される FileDownload オブジェクトは、ファイル転送を表します。ダウンロードが完了すると、CompletedFileDownload はダウンロードに関する情報へのアクセスを含めます。

```
    public void trackDownloadFile(S3TransferManager transferManager, String bucketName,
                                  String key, String downloadedFileWithPath) {
        DownloadFileRequest downloadFileRequest = DownloadFileRequest.builder()
                .getObjectRequest(b -> b.bucket(bucketName).key(key))
                .addTransferListener(LoggingTransferListener.create())  // Add
listener.
                .destination(Paths.get(downloadedFileWithPath))
                .build();

        FileDownload downloadFile = transferManager.downloadFile(downloadFileRequest);

        CompletedFileDownload downloadResult = downloadFile.completionFuture().join();
        /*
            The SDK provides a LoggingTransferListener implementation of the
TransferListener interface.
            You can also implement the interface to provide your own logic.

            Configure log4J2 with settings such as the following.
                <Configuration status="WARN">
                    <Appenders>
```

```
                        <Console name="AlignedConsoleAppender" target="SYSTEM_OUT">
                            <PatternLayout pattern="%m%n"/>
                        </Console>
                    </Appenders>

                    <Loggers>
                        <logger
name="software.amazon.awssdk.transfer.s3.progress.LoggingTransferListener"
level="INFO" additivity="false">
                            <AppenderRef ref="AlignedConsoleAppender"/>
                        </logger>
                    </Loggers>
                </Configuration>

            Log4J2 logs the progress. The following is example output for a 21.3 MB
file download.
                Transfer initiated...
                |=======             | 39.4%
                |===============     | 78.8%
                |====================| 100.0%
                Transfer complete!
        */
    }
```

インポート

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.core.exception.SdkException;
import software.amazon.awssdk.core.sync.RequestBody;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.S3TransferManager;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.CompletedFileDownload;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.DownloadFileRequest;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.FileDownload;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.progress.LoggingTransferListener;

import java.io.IOException;
import java.net.URISyntaxException;
import java.net.URL;
import java.nio.file.Files;
import java.nio.file.NoSuchFileException;
import java.nio.file.Path;
```

```
import java.nio.file.Paths;
import java.util.UUID;
```

Amazon S3 バケットを他のバケットにコピーする

次の例は、S3 Transfer Manager を使用してオブジェクトをコピーする方法を示しています。

S3 バケットから別のバケットへのオブジェクトのコピーを開始するには、基本 CopyObjectRequest インスタンスを作成します。

次に、その基本 `CopyObjectRequest` を S3 Transfer Manager が使用できる CopyRequest にラップします。

`S3TransferManager` の `copy` メソッドによって返される `Copy` オブジェクトはコピープロセスを表します。コピープロセスが完了すると、CompletedCopy オブジェクトはレスポンスに関する詳細を含めます。

```
    public String copyObject(S3TransferManager transferManager, String bucketName,
            String key, String destinationBucket, String destinationKey) {
        CopyObjectRequest copyObjectRequest = CopyObjectRequest.builder()
                .sourceBucket(bucketName)
                .sourceKey(key)
                .destinationBucket(destinationBucket)
                .destinationKey(destinationKey)
                .build();

        CopyRequest copyRequest = CopyRequest.builder()
                .copyObjectRequest(copyObjectRequest)
                .build();

        Copy copy = transferManager.copy(copyRequest);

        CompletedCopy completedCopy = copy.completionFuture().join();
        return completedCopy.response().copyObjectResult().eTag();
    }
```

> **Note**
>
> S3 Transfer Manager でクロスリージョンコピーを実行するには、次のスニペットに示すように、CRT AWS ベースの S3 クライアントビルダー`crossRegionAccessEnabled`で を有効にします。

```
S3AsyncClient s3AsyncClient = S3AsyncClient.crtBuilder()
                .crossRegionAccessEnabled(true)
                .build();

S3TransferManager transferManager = S3TransferManager.builder()
                .s3Client(s3AsyncClient)
                .build();
```

インポート

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.core.sync.RequestBody;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CopyObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.S3TransferManager;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.CompletedCopy;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.Copy;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.CopyRequest;

import java.util.UUID;
```

ローカルディレクトリを S3 バケットにアップロードする

次の例は、ローカルディレクトリを S3 にアップロードする方法を示しています。

まず、`S3TransferManager` インスタンスの uploadDirectory メソッドを呼び出し、UploadDirectoryRequest を渡します。

DirectoryUpload オブジェクトはアップロードプロセスを表し、リクエストが完了すると CompletedDirectoryUpload を生成します。`CompleteDirectoryUpload` オブジェクトは、どのファイルが転送に失敗したかなど、転送の結果に関する情報を含めます。

```
    public Integer uploadDirectory(S3TransferManager transferManager,
            URI sourceDirectory, String bucketName) {
        DirectoryUpload directoryUpload =
transferManager.uploadDirectory(UploadDirectoryRequest.builder()
                .source(Paths.get(sourceDirectory))
                .bucket(bucketName)
                .build());
```

```
        CompletedDirectoryUpload completedDirectoryUpload =
directoryUpload.completionFuture().join();
        completedDirectoryUpload.failedTransfers()
                .forEach(fail -> logger.warn("Object [{}] failed to transfer",
fail.toString()));
        return completedDirectoryUpload.failedTransfers().size();
    }
```

インポート

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ObjectIdentifier;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.S3TransferManager;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.CompletedDirectoryUpload;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.DirectoryUpload;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.UploadDirectoryRequest;

import java.net.URI;
import java.net.URISyntaxException;
import java.net.URL;
import java.nio.file.Paths;
```

ローカルディレクトリへの S3 バケットオブジェクトのダウンロード

次の例に示すように、S3 バケットのオブジェクトをローカルディレクトリにダウンロードできます。

S3 バケット内のオブジェクトをローカルディレクトリにダウンロードするには、まず Transfer Manager の downloadDirectory メソッドを呼び出し、DownloadDirectoryRequest を渡します。

DirectoryDownload オブジェクトはダウンロードプロセスを表し、リクエストが完了すると CompletedDirectoryDownload を生成します。CompleteDirectoryDownload オブジェクトは、どのファイルが転送に失敗したかなど、転送の結果に関する情報を含めます。

```
    public Integer downloadObjectsToDirectory(S3TransferManager transferManager,
            URI destinationPathURI, String bucketName) {
        DirectoryDownload directoryDownload =
transferManager.downloadDirectory(DownloadDirectoryRequest.builder()
                .destination(Paths.get(destinationPathURI))
                .bucket(bucketName)
                .build());
```

```
        CompletedDirectoryDownload completedDirectoryDownload =
directoryDownload.completionFuture().join();

        completedDirectoryDownload.failedTransfers()
                .forEach(fail -> logger.warn("Object [{}] failed to transfer",
fail.toString()));
        return completedDirectoryDownload.failedTransfers().size();
    }
```

インポート

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.core.sync.RequestBody;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ObjectIdentifier;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.S3TransferManager;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.CompletedDirectoryDownload;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.DirectoryDownload;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.DownloadDirectoryRequest;
import java.io.IOException;
import java.net.URI;
import java.net.URISyntaxException;
import java.nio.file.Files;
import java.nio.file.Path;
import java.nio.file.Paths;
import java.util.HashSet;
import java.util.Set;
import java.util.UUID;
import java.util.stream.Collectors;
```

署名付き URL を使用してダウンロードする

S3 Transfer Manager を使用して、署名付き URL を持つオブジェクトをダウンロードします。でダウンロードの進行状況を追跡しますTransferListener。この機能は SDK バージョン *2.48.0* 以降で使用できます。

> **CRT クライアントの制限**
>
> 署名付き URL ダウンロードには、標準の Java ベースの が必要ですS3AsyncClient。AWS CRT ベースの S3 クライアント (S3AsyncClient.crtBuilder()) は現在この機能をサポートしていません。

依存関係を追加する

アーs3-transfer-managerティファクトをまだ追加していない場合は、プロジェクトに追加します。

```
<dependencyManagement>
    <dependencies>
        <dependency>
            <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
            <artifactId>bom</artifactId>
            <version>2.48.0[1]</version>
            <type>pom</type>
            <scope>import</scope>
        </dependency>
    </dependencies>
</dependencyManagement>
<dependencies>
    <dependency>
        <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
        <artifactId>s3-transfer-manager</artifactId>
    </dependency>
</dependencies>
```

[1] Maven Central Repository で最新の BOM バージョンを検索します。

インポート

```
import java.nio.file.Paths;
import software.amazon.awssdk.core.ResponseBytes;
import software.amazon.awssdk.core.async.AsyncResponseTransformer;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetObjectResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.s3.presignedurl.model.PresignedUrlDownloadRequest;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.S3TransferManager;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.CompletedFileDownload;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.Download;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.PresignedDownloadFileRequest;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.PresignedDownloadRequest;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.PresignedFileDownload;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.progress.LoggingTransferListener;
```

進行状況を追跡してダウンロードする

Download to file

```
S3TransferManager transferManager = S3TransferManager.create();

PresignedFileDownload fileDownload = transferManager.downloadFileWithPresignedUrl(
        PresignedDownloadFileRequest.builder()
            .presignedUrlDownloadRequest(PresignedUrlDownloadRequest.builder()
                .presignedUrl(presignedGetObjectRequest.url())
                .build())
            .destination(Paths.get("/tmp/transfer-download.bin"))
            .addTransferListener(LoggingTransferListener.create())
            .build());

CompletedFileDownload completed = fileDownload.completionFuture().join();
```

Download to bytes

```
S3TransferManager transferManager = S3TransferManager.create();

Download<ResponseBytes<GetObjectResponse>> bytesDownload =
        transferManager.downloadWithPresignedUrl(
            PresignedDownloadRequest.<ResponseBytes<GetObjectResponse>>builder()
                .presignedUrlDownloadRequest(PresignedUrlDownloadRequest.builder()
                    .presignedUrl(presignedGetObjectRequest.url())
                    .build())
                .responseTransformer(AsyncResponseTransformer.toBytes())
                .addTransferListener(LoggingTransferListener.create())
                .build());

ResponseBytes<GetObjectResponse> result =
        bytesDownload.completionFuture().join().result();
```

一時停止と再開はサポートされていません

通常の とは異なりFileDownload、 PresignedFileDownloadは一時停止と再開をサポートしていません。これは、署名付き URLsになる可能性があるためです。

完全な例を見る

GitHub には、このページのすべての例の完全なコードが含まれています。

S3 イベント通知の使用

バケット内のアクティビティのモニタリングに向けて、Amazon S3 は特定のイベントが発生したときに通知を送信できます。Amazon S3 ユーザーガイドには、バケットが送信できる通知に関する情報が記載されています。

SDK for Java を使用して、4 つの送信先にイベントを送信するようにバケットを設定できます。

- Amazon Simple Notification Service トピック
- Amazon Simple Queue Service キュー
- AWS Lambda 関数
- Amazon EventBridge

EventBridge にイベントを送信するようにバケットを設定すると、同じイベントを複数の送信先にファンアウトするように EventBridge ルールを設定できます。最初の 3 つの送信先のいずれかに直接送信するようにバケットを設定する場合、イベントごとに指定できる送信先タイプは 1 つだけです。

次のセクションでは、SDK for Java を使用してバケットを設定し、Amazon SQS キューと EventBridge の 2 つの送信先に S3 イベント通知を送信する方法について説明します。

最後のセクションでは、S3 イベント通知 API を使用して、オブジェクト指向の方法で通知を使用する方法を示します。

送信先に直接送信するようにバケットを設定する

次の例では、オブジェクトの作成イベントまたはオブジェクトのタグ付けイベントがバケットに対して発生したときに通知を送信するようにバケットを設定します。

```
static void processS3Events(String bucketName, String queueArn) {
    // Configure the bucket to send Object Created and Object Tagging notifications to
 an existing SQS queue.
    s3Client.putBucketNotificationConfiguration(b -> b
            .notificationConfiguration(ncb -> ncb
                    .queueConfigurations(qcb -> qcb
```

```
                            .events(Event.S3_OBJECT_CREATED, Event.S3_OBJECT_TAGGING)
                            .queueArn(queueArn)))
                    .bucket(bucketName)
    );
}
```

上記のコードは、2 種類のイベントを受信するように 1 つのキューを設定します。queueConfigurations メソッドを使用すると、必要に応じて複数のキューの送信先を設定できるため、便利です。また、 notificationConfiguration メソッドでは、1 つ以上の Amazon SNS トピックや 1 つ以上の Lambda 関数など、追加の送信先を設定できます。次のスニペットは、2 つのキューと 3 種類の送信先を含む例を示しています。

```
s3Client.putBucketNotificationConfiguration(b -> b
                .notificationConfiguration(ncb -> ncb
                        .queueConfigurations(qcb -> qcb
                                .events(Event.S3_OBJECT_CREATED,
 Event.S3_OBJECT_TAGGING)
                                .queueArn(queueArn),
                                qcb2 -> qcb2.<...>)
                        .topicConfigurations(tcb -> tcb.<...>)
                        .lambdaFunctionConfigurations(lfcb -> lfcb.<...>))
                        .bucket(bucketName)
        );
```

「Code Examples」の GitHub リポジトリには、S3 イベント通知をキューに直接送信するための完全な例が記載されています。

EventBridge に送信するようにバケットを設定する

次の例では、EventBridge に通知を送信するようにバケットを設定します。

```
public static String setBucketNotificationToEventBridge(String bucketName) {
    // Enable bucket to emit S3 Event notifications to EventBridge.
    s3Client.putBucketNotificationConfiguration(b -> b
            .bucket(bucketName)
            .notificationConfiguration(b1 -> b1
                    .eventBridgeConfiguration(SdkBuilder::build))
    .build());
```

EventBridge にイベントを送信するようにバケットを設定するときは、EventBridge の送信先を指定するだけです。イベントのタイプや EventBridge がディスパッチする最終的な送信先を指定する必要

はありません。Java SDK の EventBridge クライアントを使用して、最終的なターゲットとイベントタイプを設定します。

次のコードは、オブジェクトの作成イベントをトピックとキューにファンアウトするように EventBridge を設定する方法を示しています。

```
  public static String configureEventBridge(String topicArn, String queueArn) {
       try {
           // Create an EventBridge rule to route Object Created notifications.
           PutRuleRequest putRuleRequest = PutRuleRequest.builder()
                   .name(RULE_NAME)
                   .eventPattern("""
                           {
                             "source": ["aws.s3"],
                             "detail-type": ["Object Created"],
                             "detail": {
                               "bucket": {
                                 "name": ["%s"]
                               }
                             }
                           }
                           """.formatted(bucketName))
                   .build();

           // Add the rule to the default event bus.
           PutRuleResponse putRuleResponse = eventBridgeClient.putRule(putRuleRequest)
                   .whenComplete((r, t) -> {
                       if (t != null) {
                           logger.error("Error creating event bus rule: " +
t.getMessage(), t);
                           throw new RuntimeException(t.getCause().getMessage(), t);
                       }
                       logger.info("Event bus rule creation request sent successfully.
ARN is: {}", r.ruleArn());
                   }).join();

           // Add the existing SNS topic and SQS queue as targets to the rule.
           eventBridgeClient.putTargets(b -> b
                   .eventBusName("default")
                   .rule(RULE_NAME)
                   .targets(List.of (
                           Target.builder()
                                   .arn(queueArn)
```

```
                                .id("Queue")
                                .build(),
                        Target.builder()
                                .arn(topicArn)
                                .id("Topic")
                                .build())
                        )
                ).join();
            return putRuleResponse.ruleArn();
        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return null;
    }
```

Java コードで EventBridge を使用するには、Maven `pom.xml` ファイルに `eventbridge` アーティファクトの依存関係を追加します。

```
<dependency>
    <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
    <artifactId>eventbridge</artifactId>
</dependency>
```

「Code Examples」の GitHub リポジトリには、S3 イベント通知を EventBridge に送信し、その後トピックとキューに送信するための完全な例が記載されています。

S3 イベント通知 API を使用してイベントを処理する

送信先が S3 通知イベントを受信したら、S3 イベント通知 API を使用して、オブジェクト指向の方法でイベントを処理できます。S3 イベント通知 API を使用して、ターゲットに直接ディスパッチされるイベント通知 (最初の例を参照) を使用できますが、EventBridge 経由でルーティングされる通知は使用できません。バケットから EventBridge に送信される S3 イベント通知には、S3 イベント通知 API が現在対応していない別の構造が含まれています。

依存関係を追加する

S3 イベント通知 API は、SDK for Java 2.x のバージョン 2.25.11 でリリースされました。

S3 イベント通知 API を使用するには、次のスニペットに示すように、必要な依存関係要素を Maven `pom.xml` に追加します。

```
<dependencyManagement>
    <dependencies>
        <dependency>
            <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
            <artifactId>bom</artifactId>
            <version>2.X.X[1]</version>
            <type>pom</type>
            <scope>import</scope>
        </dependency>
    </dependencies>
</dependencyManagement>
<dependencies>
    <dependency>
        <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
        <artifactId>s3-event-notifications</artifactId>
    </dependency>
</dependencies>
```

[1] 最新バージョン。

S3EventNotification クラスを使用する

JSON 文字列から **S3EventNotification** インスタンスを作成する

JSON 文字列を S3EventNotification オブジェクトに変換するには、次の例に示すように、S3EventNotification クラスの静的メソッドを使用します。

```
import software.amazon.awssdk.eventnotifications.s3.model.S3EventNotification
import software.amazon.awssdk.eventnotifications.s3.model.S3EventNotificationRecord
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.Message;

public class S3EventNotificationExample {
    ...

    void receiveMessage(Message message) {
       // Message received from SQSClient.
       String sqsEventBody = message.body();
       S3EventNotification s3EventNotification =
 S3EventNotification.fromJson(sqsEventBody);

       // Use getRecords() to access all the records in the notification.
```

```
        List<S3EventNotificationRecord> records = s3EventNotification.getRecords();

         S3EventNotificationRecord record = records.stream().findFirst();
         // Use getters on the record to access individual attributes.
         String awsRegion = record.getAwsRegion();
         String eventName = record.getEventName();
         String eventSource = record.getEventSource();

    }
}
```

この例では、 fromJson メソッドは JSON 文字列を S3EventNotification オブジェクトに変換します。JSON 文字列にフィールドが欠けている場合、対応する Java オブジェクトのフィールドの値は null になり、JSON に余分なフィールドが含まれていても無視されます。

イベント通知レコードの他の API は、S3EventNotificationRecord の API リファレンスに記載されています。

S3EventNotification インスタンスを JSON 文字列に変換する

次の例に示すように、 toJson (または toJsonPretty) メソッドを使用して、S3EventNotification オブジェクトを JSON 文字列に変換します。

```
import software.amazon.awssdk.eventnotifications.s3.model.S3EventNotification

public class S3EventNotificationExample {
    ...

    void toJsonString(S3EventNotification event) {

        String json = event.toJson();
        String jsonPretty = event.toJsonPretty();

        System.out.println("JSON: " + json);
        System.out.println("Pretty JSON: " + jsonPretty);
    }
}
```

GlacierEventData、ReplicationEventData、IntelligentTieringEventData、および LifecycleEventData のフィールドは、null の場合は JSON から除外されます。他の null フィールドは null としてシリアル化されます。

S3 オブジェクトタグ付けイベントの toJsonPretty メソッドの出力例を次に示します。

```
{
  "Records" : [ {
    "eventVersion" : "2.3",
    "eventSource" : "aws:s3",
    "awsRegion" : "us-east-1",
    "eventTime" : "2024-07-19T20:09:18.551Z",
    "eventName" : "ObjectTagging:Put",
    "userIdentity" : {
      "principalId" : "AWS:XXXXXXXXXXX"
    },
    "requestParameters" : {
      "sourceIPAddress" : "XXX.XX.XX.XX"
    },
    "responseElements" : {
      "x-amz-request-id" : "XXXXXXXXXXXX",
      "x-amz-id-2" : "XXXXXXXXXXXXX"
    },
    "s3" : {
      "s3SchemaVersion" : "1.0",
      "configurationId" : "XXXXXXXXXXXXX",
      "bucket" : {
        "name" : "amzn-s3-demo-bucket",
        "ownerIdentity" : {
          "principalId" : "XXXXXXXXXXX"
        },
        "arn" : "arn:aws:s3:::XXXXXXXXXX"
      },
      "object" : {
        "key" : "akey",
        "size" : null,
        "eTag" : "XXXXXXXXXX",
        "versionId" : null,
        "sequencer" : null
      }
    }
  } ]
}
```

GitHub には、API を使用して Amazon SQS キューによって受信された通知を使用する方法を示す完全な例があります。

Java ライブラリを使用して Lambda で S3 イベントを処理する: AWS SDK for Java 2.x および `aws-lambda-java-events`

SDK for Java 2.x を使用して Lambda 関数で Amazon S3 イベント通知を処理する代わりに、バージョン 3.x.x. AWS [aws-lambda-java-events](#)の`aws-lambda-java-events`ライブラリを個別に維持し、独自の依存要件があります。`aws-lambda-java-events` ライブラリは Lambda 関数の S3 イベントでのみ動作しますが、SDK for Java 2.x は Lambda 関数、Amazon SNS、Amazon SQS の S3 イベントで動作します。

どちらのアプローチも、オブジェクト指向の方法で JSON のイベント通知ペイロードをモデル化し、類似した API を提供します。次の表は、2 つのアプローチの使用における顕著な違いを示しています。

	AWS SDK for Java	aws-lambda-java-events ライブラリ
パッケージの命名	`software.amazon.awssdk.eventnotifications.s3.model.S3EventNotification`	`com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.models.s3.S3EventNotification`

`RequestHandler` パラメータ	Lambda 関数の `RequestHandler` 実装を記述して JSON 文字列を受け取ります。
	`import com.amazonaws.services.lambda.runtime.Context;`
	`import com.amazonaws.services.lambda.runtime.RequestHandler;`
	`import software.amazon.awssdk.eventnotifications.s3.model.S3EventNotification;`
		Lambda 関数の `RequestHandler` 実装を記述して S3Event オブジェクトを受け取ります。
		`import com.amazonaws.services.lambda.runtime.Context;`
		`import com.amazonaws.services.lambda.runtime.RequestHandler;`
		`import com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.S3Event;`

	AWS SDK for Java	aws-lambda-java-events ライブラリ
	`public class Handler implements RequestHandler<String, String> { @Override public String handleRequest(String jsonS3Event, Context context) { S3EventNotification s3Event = S3EventNotification .fromJson(jsonS3Event); // Work with the s3Event object. ... } }`	`public class Handler implements RequestHandler<S3Event, String> { @Override public String handleRequest(S3Event s3event, Context context) { // Work with the s3Event object. ... } }`

	AWS SDK for Java	aws-lambda-java-events ライブラリ
Maven の依存関係	<dependencyManagement> <dependencies> <dependency> <groupId> software.amazon.aw ssdk</groupId> <artifact Id>bom</artifactId> <version> 2.X.X</version> <type>pom</ type> <scope>im port</scope> </dependency> </dependencies> </dependencyManageme nt> <dependencies> <dependency> <groupId> software.amazon.aw ssdk</groupId> <artifactId>s3- event-notifications</ artifactId> </dependency> <!-- Add other SDK dependencies that you need. --> </dependencies>	<dependencyManagement> <dependencies> <dependency> <groupId> software.amazon.aw ssdk</groupId> <artifact Id>bom</artifactId> <version> 2.X.X</version> <type>pom</ type> <scope>im port</scope> </dependency> </dependencies> </dependencyManageme nt> <dependencies> <!-- The following two dependencies are for the aws-lambda- java-events library. -- > <dependency> <groupId> com.amazonaws</gro upId> <artifact Id>aws-lambda-java- core</artifactId> <version> 1.2.3</version> </dependency> <dependency> <groupId> com.amazonaws</gro upId>

	AWS SDK for Java	aws-lambda-java-events ライブラリ
		<artifact Id>aws-lambda-java-events</artifactId> <version> 3.15.0</version> </dependency> <!-- Add other SDK dependencies that you need. --> </dependencies>

Amazon Simple Notification Service を使用する

Amazon Simple Notification Service では、アプリケーションからのリアルタイムの通知メッセージを複数の通信チャネル経由でサブスクライバーに簡単にプッシュできます。このトピックでは、Amazon SNS の基本機能の一部を実行する方法について説明します。

トピックの作成

トピックは、メッセージの送信先システムを定義する通信チャネルの論理的なグループです。たとえば、AWS Lambda や HTTP ウェブフックへのメッセージのファンアウトなどです。Amazon SNS にメッセージを送信すると、トピックで定義されているチャネルに配信されます。これにより、サブスクライバーがメッセージを使用できるようになります。

トピックを作成するには、最初に、ビルダーの `name()` メソッドを使用して設定されたトピックの名前で CreateTopicRequest オブジェクトを構築します。その後、SnsClient の `createTopic()` メソッドを使用して、リクエストオブジェクトを Amazon SNS に送信します。次のコードスニペットに示すように、このリクエストの結果を CreateTopicResponse オブジェクトとしてキャプチャできます。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sns.SnsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.CreateTopicRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.CreateTopicResponse;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SnsException;
```

Code

```
    public static String createSNSTopic(SnsClient snsClient, String topicName ) {

        CreateTopicResponse result = null;
        try {
            CreateTopicRequest request = CreateTopicRequest.builder()
                    .name(topicName)
                    .build();

            result = snsClient.createTopic(request);
            return result.topicArn();
        } catch (SnsException e) {

            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

Amazon SNS トピックをリストする

既存の Amazon SNS トピックのリストを取得するには、ListTopicsRequest オブジェクトを構築します。次に、Amazon SNS の `listTopics()` メソッドを使用して、リクエストオブジェクトを `SnsClient` に送信します。このリクエストの結果は、ListTopicsResponse オブジェクトとしてキャプチャできます。

次のコードスニペットは、リクエストの HTTP ステータスコードと、Amazon SNS トピックの Amazon リソースネーム (ARN) のリストを出力します。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sns.SnsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.ListTopicsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.ListTopicsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SnsException;
```

Code

```
    public static void listSNSTopics(SnsClient snsClient) {

        try {
            ListTopicsRequest request = ListTopicsRequest.builder()
                    .build();

            ListTopicsResponse result = snsClient.listTopics(request);
            System.out.println("Status was " + result.sdkHttpResponse().statusCode() +
"\n\nTopics\n\n" + result.topics());

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

トピックへのエンドポイントのサブスクライブ

トピックを作成したら、そのトピックのエンドポイントとなる通信チャネルを設定できます。メッセージは、Amazon SNS による受信後にこれらのエンドポイントに配信されます。

通信チャネルをトピックのエンドポイントとして設定するには、そのエンドポイントをトピックにサブスクライブします。開始するには、SubscribeRequest オブジェクトを構築します。通信チャネル (`lambda` や `email` など) を `protocol()` として指定します。`endpoint()` を関連する出力場所 (Lambda 関数の ARN や E メールアドレスなど) に設定し、サブスクライブするトピックの ARN を `topicArn()` として設定します。`SnsClient` の `subscribe()` メソッドを使用して、リクエストオブジェクトを Amazon SNS に送信します。このリクエストの結果は、SubscribeResponse オブジェクトとしてキャプチャできます。

次のコードスニペットは、トピックに E メールアドレスをサブスクライブする方法を示しています。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sns.SnsClient;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SnsException;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SubscribeRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SubscribeResponse;
```

Code

```
    public static void subEmail(SnsClient snsClient, String topicArn, String email) {

        try {
            SubscribeRequest request = SubscribeRequest.builder()
                .protocol("email")
                .endpoint(email)
                .returnSubscriptionArn(true)
                .topicArn(topicArn)
                .build();

            SubscribeResponse result = snsClient.subscribe(request);
            System.out.println("Subscription ARN: " + result.subscriptionArn() + "\n\n
 Status is " + result.sdkHttpResponse().statusCode());

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

トピックへのメッセージの発行

トピックと 1 つ以上のエンドポイントを設定したら、そのトピックにメッセージを発行できます。開始するには、PublishRequest オブジェクトを構築します。送信する message() と、送信先のトピック (topicArn()) の ARN を指定します。次に、Amazon SNS の publish() メソッドを使用して、リクエストオブジェクトを SnsClient に送信します。このリクエストの結果は、PublishResponse オブジェクトとして取得できます。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sns.SnsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.PublishRequest;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.PublishResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SnsException;
```

Code

```
    public static void pubTopic(SnsClient snsClient, String message, String topicArn) {

        try {
            PublishRequest request = PublishRequest.builder()
                .message(message)
                .topicArn(topicArn)
                .build();

            PublishResponse result = snsClient.publish(request);
            System.out.println(result.messageId() + " Message sent. Status is " +
result.sdkHttpResponse().statusCode());

         } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
         }
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

トピックからのエンドポイントの登録解除

トピックのエンドポイントとして設定されている通信チャネルを削除できます。その後、トピック自体は引き続き存在し、そのトピックに設定されている他のエンドポイントにメッセージを配信します。

トピックのエンドポイントとしての通信チャネルを削除するには、そのエンドポイントをトピックから登録解除します。開始するには、UnsubscribeRequest オブジェクトを構築し、登録解除するトピックの ARN を subscriptionArn() として設定します。次に、unsubscribe() の SnsClient メソッドを使用して、リクエストオブジェクトを SNS に送信します。このリクエストの結果は、UnsubscribeResponse オブジェクトとしてキャプチャできます。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.sns.SnsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SnsException;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.UnsubscribeRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.UnsubscribeResponse;
```

Code

```
    public static void unSub(SnsClient snsClient, String subscriptionArn) {

        try {
            UnsubscribeRequest request = UnsubscribeRequest.builder()
                .subscriptionArn(subscriptionArn)
                .build();

            UnsubscribeResponse result = snsClient.unsubscribe(request);

            System.out.println("\n\nStatus was " +
 result.sdkHttpResponse().statusCode()
                + "\n\nSubscription was removed for " + request.subscriptionArn());

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

トピックの削除

Amazon SNS トピックを削除するには、最初に、トピックの ARN をビルダーの `topicArn()` メソッドとして設定して DeleteTopicRequest オブジェクトを構築します。次に、Amazon SNS の `deleteTopic()` メソッドを使用して、リクエストオブジェクトを `SnsClient` に送信します。次のコードスニペットに示すように、このリクエストの結果を DeleteTopicResponse オブジェクトとしてキャプチャできます。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sns.SnsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.DeleteTopicRequest;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.DeleteTopicResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SnsException;
```

Code

```
    public static void deleteSNSTopic(SnsClient snsClient, String topicArn ) {

        try {
            DeleteTopicRequest request = DeleteTopicRequest.builder()
                .topicArn(topicArn)
                .build();

            DeleteTopicResponse result = snsClient.deleteTopic(request);
            System.out.println("\n\nStatus was " +
result.sdkHttpResponse().statusCode());

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

詳細については、「Amazon Simple Notification Service デベロッパーガイド」を参照してください。

Amazon Simple Queue Service を使用する

このセクションでは、AWS SDK for Java 2.x を使用して Amazon Simple Queue Service をプログラムする例を示します。

次の例には各手法を示すのに必要なコードのみが含まれます。完全なサンプルコードは GitHub で入手できます。そこから、単一のソースファイルをダウンロードするかリポジトリをローカルにクローン作成して、ビルドし実行するためのすべての例を取得できます。

トピック

- で Amazon SQS の自動リクエストバッチ処理を使用する AWS SDK for Java 2.x
- Amazon Simple Queue Service メッセージキューの使用

- Amazon Simple Queue Service メッセージの送信、受信、削除

で Amazon SQS の自動リクエストバッチ処理を使用する AWS SDK for Java 2.x

Amazon SQS の自動リクエストバッチ処理 API は、SQS オペレーションのリクエストをバッチ処理およびバッファリングする効率的な方法を提供する高レベルライブラリです。バッチ処理 API を使用すると、SQS へのリクエストの数を減らすことができるため、スループットが向上し、コストが最小限に抑えられます。

バッチ処理 API メソッドは、`SqsAsyncClient` メソッド (`sendMessage`、`changeMessageVisibility`、`deleteMessage`、`receiveMessage`) と一致するため、最小限の変更でドロップイン置換としてバッチ処理 API を使用できます。

このトピックでは、Amazon SQS の自動リクエストバッチ処理 API を設定して使用する方法の概要を説明します。

前提条件をチェックする

バッチ処理 API にアクセスするには、SDK for Java 2.x のバージョン 2.28.0 以降を使用する必要があります。Maven `pom.xml` には、少なくとも次の要素が含まれている必要があります。

```
<dependencyManagement>
    <dependencies>
        <dependency>
            <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
            <artifactId>bom</artifactId>
            <version>2.28.23[1]</version>
            <type>pom</type>
            <scope>import</scope>
        </dependency>
    </dependencies>
</dependencyManagement>
<dependencies>
    <dependency>
        <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
        <artifactId>sqs</artifactId>
    </dependency>
</dependencies>
```

[1] 最新バージョン

バッチマネージャーを作成する

自動リクエストバッチ処理 API は、SqsAsyncBatchManager インターフェイスによって実装されます。マネージャーのインスタンスは、いくつかの方法で作成できます。

SqsAsyncClient を使用したデフォルト設定

バッチマネージャーを作成する最も簡単な方法は、既存の SqsAsyncClient インスタンスで batchManager ファクトリメソッドを呼び出すことです。次のスニペットは、シンプルなアプローチを示しています。

```
SqsAsyncClient asyncClient = SqsAsyncClient.create();
SqsAsyncBatchManager sqsAsyncBatchManager = asyncClient.batchManager();
```

この方法を使用する場合、SqsAsyncBatchManager インスタンスは the section called “構成設定” セクションの表に示されているデフォルト値を使用します。さらに、SqsAsyncBatchManager インスタンスは、作成された SqsAsyncClient インスタンスの ExecutorService を使用します。

SqsAsyncBatchManager.Builder を使用したカスタム設定

より高度なユースケースでは、SqsAsyncBatchManager.Builder を使用してバッチマネージャーをカスタマイズできます。このアプローチを使用して SqsAsyncBatchManager インスタンスを作成すると、バッチ処理の動作をファインチューニングできます。次のスニペットは、ビルダーを使用してバッチ処理の動作をカスタマイズする方法の例を示しています。

```
SqsAsyncBatchManager batchManager = SqsAsyncBatchManager.builder()
    .client(SqsAsyncClient.create())
    .scheduledExecutor(Executors.newScheduledThreadPool(5))
    .overrideConfiguration(b -> b
        .receiveMessageMinWaitDuration(Duration.ofSeconds(10))
        .receiveMessageVisibilityTimeout(Duration.ofSeconds(1))
        .receiveMessageAttributeNames(Collections.singletonList("*"))

 .receiveMessageSystemAttributeNames(Collections.singletonList(MessageSystemAttributeName.ALL))
    .build();
```

このアプローチを使用すると、 the section called “構成設定” セクションの表に表示される BatchOverrideConfiguration オブジェクトの設定を調整できます。このアプローチを使用して、バッチマネージャーにカスタム ScheduledExecutorService を指定することもできます。

メッセージを送信する

バッチマネージャーでメッセージを送信するには、SqsAsyncBatchManager#sendMessage メソッドを使用します。SDK はリクエストをバッファリングし、maxBatchSize または sendRequestFrequency の値に達するとバッチとして送信します。

次の例では、sendMessage リクエストの直後に別のリクエストが発生しています。この場合、SDK は両方のメッセージを 1 つのバッチで送信します。

```
// Sending the first message
CompletableFuture<SendMessageResponse> futureOne =
    sqsAsyncBatchManager.sendMessage(r -> r.messageBody("One").queueUrl("queue"));

// Sending the second message
CompletableFuture<SendMessageResponse> futureTwo =
    sqsAsyncBatchManager.sendMessage(r -> r.messageBody("Two").queueUrl("queue"));

// Waiting for both futures to complete and retrieving the responses
SendMessageResponse messageOne = futureOne.join();
SendMessageResponse messageTwo = futureTwo.join();
```

メッセージの可視性タイムアウトを変更する

SqsAsyncBatchManager#changeMessageVisibility メソッドを使用して、メッセージの可視性タイムアウトをバッチで変更できます。SDK はリクエストをバッファリングし、maxBatchSize または sendRequestFrequency の値に達するとバッチとして送信します。

次の例は、changeMessageVisibility メソッドを呼び出す方法を示しています。

```
CompletableFuture<ChangeMessageVisibilityResponse> futureOne =
    sqsAsyncBatchManager.changeMessageVisibility(r ->
        r.receiptHandle("receiptHandle")
         .queueUrl("queue"));
ChangeMessageVisibilityResponse response = futureOne.join();
```

メッセージの削除

SqsAsyncBatchManager#deleteMessage メソッドを使用して、メッセージをバッチで削除できます。SDK はリクエストをバッファリングし、maxBatchSize または sendRequestFrequency の値に達するとバッチとして送信します。

次の例は、 deleteMessage メソッドを呼び出す方法を示しています。

```
CompletableFuture<DeleteMessageResponse> futureOne =
    sqsAsyncBatchManager.deleteMessage(r ->
        r.receiptHandle("receiptHandle")
         .queueUrl("queue"));
DeleteMessageResponse response = futureOne.join();
```

メッセージを受信する

デフォルト設定を使用する

アプリケーションで SqsAsyncBatchManager#receiveMessage メソッドをポーリングすると、バッチマネージャーは内部バッファからメッセージを取得し、SDK は自動的にバックグラウンドで更新します。

次の例は、receiveMessage メソッドを呼び出す方法を示しています。

```
CompletableFuture<ReceiveMessageResponse> responseFuture =
    sqsAsyncBatchManager.receiveMessage(r -> r.queueUrl("queueUrl"));
```

カスタム設定を使用する

例えばカスタム待機時間を設定し、取得するメッセージの数を指定してリクエストをさらにカスタマイズする場合は、次の例に示すようにリクエストをカスタマイズできます。

```
CompletableFuture<ReceiveMessageResponse> response =
    sqsAsyncBatchManager.receiveMessage(r ->
        r.queueUrl("queueUrl")
         .waitTimeSeconds(5)
         .visibilityTimeout(20));
```

> **Note**
>
> 次のいずれかのパラメータを含む ReceiveMessageRequest で receiveMessage を呼び出すと、SDK はバッチマネージャーをバイパスし、通常の非同期 receiveMessage リクエストを送信します。
>
> - messageAttributeNames

- messageSystemAttributeNames
- messageSystemAttributeNamesWithStrings
- overrideConfiguration

SqsAsyncBatchManager の設定を上書きする

SqsAsyncBatchManager インスタンスを作成するときに、次の設定を調整できます。BatchOverrideConfiguration.Builder では、以下の設定が可能です。

設定	説明	デフォルトの値
maxBatchSize	SendMessageBatchRequest 、ChangeMessageVisibilityBatchRequest 、または DeleteMessageBatchRequest ごとのバッチあたりのリクエストの最大数。最大値は 10 です。	10
sendRequestFrequency	すでに maxBatchSize に達していない場合の、バッチを送信するまでの時間。値を大きくするとリクエストは減少しますが、レイテンシーは増加する可能性があります。	200 ms
receiveMessageVisibilityTimeout	メッセージの可視性タイムアウト。設定しない場合、キューのデフォルトが使用されます。	キューのデフォルト
receiveMessageMinWaitDuration	receiveMessage リクエストの最小待機時間。CPU の無駄を防ぐため、0 には設定しないでください。	50 ms

設定	説明	デフォルトの値
receiveMessageSystemAttributeNames	receiveMessage 呼び出しをリクエストするシステム属性名のリスト。	なし
receiveMessageAttributeNames	receiveMessage 呼び出しをリクエストする属性名のリスト。	なし

Amazon Simple Queue Service メッセージキューの使用

メッセージキューは、メッセージを確実に送信するために使用される論理コンテナです Amazon Simple Queue Service。キューには、標準と先入れ先出し (FIFO) の 2 種類があります。キューおよびキュータイプ間の相違点の詳細については、「Amazon Simple Queue Service デベロッパーガイド」を参照してください。

このトピックでは、 を使用して Amazon Simple Queue Service キューの URL を作成、一覧表示、削除、取得する方法について説明します AWS SDK for Java。

次の例で使用されている sqsClient 変数は、次のスニペットから作成できます。

```
SqsClient sqsClient = SqsClient.create();
```

静的 create() メソッドを使用して SqsClient を作成すると、SDK はデフォルトのリージョンプロバイダーチェーンによってリージョンを設定し、デフォルトの認証情報プロバイダーチェーンによって認証情報を設定します。

キューを作成する

次のコードスニペットに示すように、SqsClient's createQueue メソッドを使用し、キューパラメータを記述する CreateQueueRequest オブジェクトを指定します。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.SqsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.*;
import java.util.List;
```

コード

```
            CreateQueueRequest createQueueRequest = CreateQueueRequest.builder()
                .queueName(queueName)
                .build();

            sqsClient.createQueue(createQueueRequest);
```

GitHub の「完全なサンプル」をご覧ください。

キューの一覧表示

アカウントの Amazon Simple Queue Service キューを一覧表示するには、`ListQueuesRequest` オブジェクトを使用して `SqsClient`'s`listQueues`メソッドを呼び出します。

パラメータを使用しない `listQueues` メソッドの形式を使用すると、サービスは最大 1,000 個のキューを含むすべてのキューを返します。

以下のコードに示すように、`ListQueuesRequest` オブジェクトにキュー名のプレフィックスを指定して、そのプレフィックスに一致するキューの結果を絞り込むことができます。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.SqsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.*;
import java.util.List;
```

コード

```
        String prefix = "que";

        try {
            ListQueuesRequest listQueuesRequest =
ListQueuesRequest.builder().queueNamePrefix(prefix).build();
            ListQueuesResponse listQueuesResponse =
sqsClient.listQueues(listQueuesRequest);

            for (String url : listQueuesResponse.queueUrls()) {
                System.out.println(url);
            }
```

```
        } catch (SqsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
```

GitHub の「完全なサンプル」をご覧ください。

キューの URL の取得

次のコードは、 GetQueueUrlRequest オブジェクトを指定して SqsClient's getQueueUrl メソッドを呼び出してキューの URL を取得する方法を示しています。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.SqsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.*;
import java.util.List;
```

コード

```
            GetQueueUrlResponse getQueueUrlResponse =

 sqsClient.getQueueUrl(GetQueueUrlRequest.builder().queueName(queueName).build());
            String queueUrl = getQueueUrlResponse.queueUrl();
            return queueUrl;
```

GitHub の「完全なサンプル」をご覧ください。

キューの削除

DeleteQueueRequest オブジェクトへのキューの URL を指定します。次に、次のコードに示すように、 SqsClient's deleteQueue メソッドを呼び出してキューを削除します。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.SqsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.*;
import java.util.List;
```

コード

```
    public static void deleteSQSQueue(SqsClient sqsClient, String queueName) {

        try {

            GetQueueUrlRequest getQueueRequest = GetQueueUrlRequest.builder()
                    .queueName(queueName)
                    .build();

            String queueUrl = sqsClient.getQueueUrl(getQueueRequest).queueUrl();

            DeleteQueueRequest deleteQueueRequest = DeleteQueueRequest.builder()
                    .queueUrl(queueUrl)
                    .build();

            sqsClient.deleteQueue(deleteQueueRequest);

        } catch (SqsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

GitHub の「完全なサンプル」をご覧ください。

詳細情報

- Amazon Simple Queue Service API リファレンスの CreateQueue
- Amazon Simple Queue Service API リファレンスの GetQueueUrl
- Amazon Simple Queue Service API リファレンスの ListQueues
- Amazon Simple Queue Service API リファレンスの DeleteQueue

Amazon Simple Queue Service メッセージの送信、受信、削除

メッセージは、分散コンポーネントによって送受信できるデータの一部です。メッセージは、常に SQS キューを使用して提供されます。

次の例で使用されている `sqsClient` 変数は、次のスニペットから作成できます。

```
SqsClient sqsClient = SqsClient.create();
```

静的 `create()` メソッドを使用して `SqsClient` を作成すると、SDK はデフォルトのリージョンプロバイダーチェーンによってリージョンを設定し、デフォルトの認証情報プロバイダーチェーンによって認証情報を設定します。

メッセージの送信

SqsClient クライアント`sendMessage`メソッドを呼び出して、 Amazon Simple Queue Service キューに 1 つのメッセージを追加します。キューの URL、メッセージ本文、およびオプションの遅延値 (秒単位) が含まれる SendMessageRequest オブジェクトを指定します。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.SqsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.*;
import java.util.List;
```

コード

```
            sqsClient.sendMessage(SendMessageRequest.builder()
                .queueUrl(queueUrl)
                .messageBody("Hello world!")
                .delaySeconds(10)
                .build());

            sqsClient.sendMessage(sendMsgRequest);
```

リクエストで複数のメッセージを送信する

SqsClient の `sendMessageBatch` メソッドを使用して 1 つのリクエストで複数のメッセージを送信します。このメソッドは、キューの URL と送信するメッセージのリストを含む SendMessageBatchRequest を受け取ります (各メッセージは SendMessageBatchRequestEntry)。また、メッセージの遅延値を設定して、特定のメッセージの送信を遅延させることもできます。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.SqsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.*;
import java.util.List;
```

コード

```
            SendMessageBatchRequest sendMessageBatchRequest =
SendMessageBatchRequest.builder()
                .queueUrl(queueUrl)

.entries(SendMessageBatchRequestEntry.builder().id("id1").messageBody("Hello from msg
1").build(),

SendMessageBatchRequestEntry.builder().id("id2").messageBody("msg
2").delaySeconds(10).build())
                .build();
            sqsClient.sendMessageBatch(sendMessageBatchRequest);
```

GitHub の「完全なサンプル」をご覧ください。

メッセージを取得する

キューに現在含まれているメッセージを取得するには、SqsClient の `receiveMessage` メソッドを呼び出します。このメソッドは、キュー URL を含む ReceiveMessageRequest を受け取ります。また、返るメッセージの最大数を指定することもできます。メッセージは、Message オブジェクトのリストとして返されます。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.SqsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.*;
import java.util.List;
```

コード

```
        try {
            ReceiveMessageRequest receiveMessageRequest =
ReceiveMessageRequest.builder()
                .queueUrl(queueUrl)
                .maxNumberOfMessages(5)
                .build();
            List<Message> messages =
sqsClient.receiveMessage(receiveMessageRequest).messages();
            return messages;
        } catch (SqsException e) {
```

```
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return null;
```

GitHub の「完全なサンプル」をご覧ください。

受信後にメッセージを削除する

メッセージを受信し、その内容を処理した後で、メッセージをキューから削除するには、メッセージの受信ハンドルとキュー URL を SqsClient's deleteMessage メソッドに送信します。

インポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.SqsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.*;
import java.util.List;
```

コード

```
        try {
            for (Message message : messages) {
                DeleteMessageRequest deleteMessageRequest =
DeleteMessageRequest.builder()
                        .queueUrl(queueUrl)
                        .receiptHandle(message.receiptHandle())
                        .build();
                sqsClient.deleteMessage(deleteMessageRequest);
            }
```

GitHub の「完全なサンプル」をご覧ください。

詳細情報

- デベロッパーガイドの Amazon Simple Queue Service キューの仕組み Amazon Simple Queue Service
- Amazon Simple Queue Service API リファレンスの SendMessage
- Amazon Simple Queue Service API リファレンスの SendMessageBatch
- Amazon Simple Queue Service API リファレンスの ReceiveMessage
- Amazon Simple Queue Service API リファレンスの DeleteMessage

の使用 Amazon Transcribe

以下の例では、 Amazon Transcribeを使用した双方向ストリーミングの仕組みを示しています。双方向ストリーミングとは、サービスに送信されるデータストリームと、サービスからリアルタイムで受信されるデータストリームが、両方あることを意味します。この例では、 Amazon Transcribe ストリーミング文字起こしを使用してオーディオストリームを送信し、文字起こしされたテキストのストリームをリアルタイムで受信します。

この機能の詳細については、 Amazon Transcribe デベロッパーガイドの「ストリーミング文字起こし」を参照してください。

の使用を開始するには、「 Amazon Transcribe デベロッパーガイド」の「開始方法」を参照してください Amazon Transcribe。

マイクを設定する

このコードは、javax.sound.sampled パッケージを使用して、入力デバイスからの音声をストリーミングします。

Code

```
import javax.sound.sampled.AudioFormat;
import javax.sound.sampled.AudioSystem;
import javax.sound.sampled.DataLine;
import javax.sound.sampled.TargetDataLine;

public class Microphone {

    public static TargetDataLine get() throws Exception {
        AudioFormat format = new AudioFormat(16000, 16, 1, true, false);
        DataLine.Info datalineInfo = new DataLine.Info(TargetDataLine.class, format);

        TargetDataLine dataLine = (TargetDataLine) AudioSystem.getLine(datalineInfo);
        dataLine.open(format);

        return dataLine;
    }
}
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

パブリッシャーを作成する

このコードは、オーディオストリームから Amazon Transcribe オーディオデータを発行するパブリッシャーを実装します。

Code

```
package com.amazonaws.transcribe;

import java.io.IOException;
import java.io.InputStream;
import java.io.UncheckedIOException;
import java.nio.ByteBuffer;
import java.util.concurrent.ExecutorService;
import java.util.concurrent.Executors;
import java.util.concurrent.atomic.AtomicLong;
import org.reactivestreams.Publisher;
import org.reactivestreams.Subscriber;
import org.reactivestreams.Subscription;
import software.amazon.awssdk.core.SdkBytes;
import software.amazon.awssdk.services.transcribestreaming.model.AudioEvent;
import software.amazon.awssdk.services.transcribestreaming.model.AudioStream;
import
 software.amazon.awssdk.services.transcribestreaming.model.TranscribeStreamingException;


public class AudioStreamPublisher implements Publisher<AudioStream> {
    private final InputStream inputStream;

    public AudioStreamPublisher(InputStream inputStream) {
        this.inputStream = inputStream;
    }

    @Override
    public void subscribe(Subscriber<? super AudioStream> s) {
        s.onSubscribe(new SubscriptionImpl(s, inputStream));
    }

    private class SubscriptionImpl implements Subscription {
        private static final int CHUNK_SIZE_IN_BYTES = 1024 * 1;
        private ExecutorService executor = Executors.newFixedThreadPool(1);
        private AtomicLong demand = new AtomicLong(0);
```

```
        private final Subscriber<? super AudioStream> subscriber;
        private final InputStream inputStream;

        private SubscriptionImpl(Subscriber<? super AudioStream> s, InputStream
inputStream) {
            this.subscriber = s;
            this.inputStream = inputStream;
        }

        @Override
        public void request(long n) {
            if (n <= 0) {
                subscriber.onError(new IllegalArgumentException("Demand must be
positive"));
            }

            demand.getAndAdd(n);

            executor.submit(() -> {
                try {
                    do {
                        ByteBuffer audioBuffer = getNextEvent();
                        if (audioBuffer.remaining() > 0) {
                            AudioEvent audioEvent = audioEventFromBuffer(audioBuffer);
                            subscriber.onNext(audioEvent);
                        } else {
                            subscriber.onComplete();
                            break;
                        }
                    } while (demand.decrementAndGet() > 0);
                } catch (TranscribeStreamingException e) {
                    subscriber.onError(e);
                }
            });
        }

        @Override
        public void cancel() {

        }

        private ByteBuffer getNextEvent() {
            ByteBuffer audioBuffer;
            byte[] audioBytes = new byte[CHUNK_SIZE_IN_BYTES];
```

```
            int len = 0;
            try {
                len = inputStream.read(audioBytes);

                if (len <= 0) {
                    audioBuffer = ByteBuffer.allocate(0);
                } else {
                    audioBuffer = ByteBuffer.wrap(audioBytes, 0, len);
                }
            } catch (IOException e) {
                throw new UncheckedIOException(e);
            }

            return audioBuffer;
        }

        private AudioEvent audioEventFromBuffer(ByteBuffer bb) {
            return AudioEvent.builder()
                    .audioChunk(SdkBytes.fromByteBuffer(bb))
                    .build();
        }
    }
}
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

クライアントを作成してストリーミングを開始する

main メソッドで、リクエストオブジェクトを作成し、音声入力ストリームを開始して、音声入力でパブリッシャーをインスタンス化します。

また、StartStreamTranscriptionResponseHandler を作成して、レスポンスの処理方法を指定する必要があります Amazon Transcribe。

その後、TranscribeStreamingAsyncClient の `startStreamTranscription` メソッドを使用して双方向ストリーミングを開始します。

インポート

```
import javax.sound.sampled.AudioFormat;
import javax.sound.sampled.AudioSystem;
import javax.sound.sampled.DataLine;
```

```
import javax.sound.sampled.TargetDataLine;
import javax.sound.sampled.AudioInputStream;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import
 software.amazon.awssdk.services.transcribestreaming.TranscribeStreamingAsyncClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.transcribestreaming.model.TranscribeStreamingException ;
import
 software.amazon.awssdk.services.transcribestreaming.model.StartStreamTranscriptionRequest;
import software.amazon.awssdk.services.transcribestreaming.model.MediaEncoding;
import software.amazon.awssdk.services.transcribestreaming.model.LanguageCode;
import
 software.amazon.awssdk.services.transcribestreaming.model.StartStreamTranscriptionResponseHand
import software.amazon.awssdk.services.transcribestreaming.model.TranscriptEvent;
```

コード

```
   public static void convertAudio(TranscribeStreamingAsyncClient client) throws
Exception {

       try {

           StartStreamTranscriptionRequest request =
StartStreamTranscriptionRequest.builder()
                   .mediaEncoding(MediaEncoding.PCM)
                   .languageCode(LanguageCode.EN_US)
                   .mediaSampleRateHertz(16_000).build();

           TargetDataLine mic = Microphone.get();
           mic.start();

           AudioStreamPublisher publisher = new AudioStreamPublisher(new
AudioInputStream(mic));

           StartStreamTranscriptionResponseHandler response =
                   StartStreamTranscriptionResponseHandler.builder().subscriber(e -> {
                       TranscriptEvent event = (TranscriptEvent) e;
                       event.transcript().results().forEach(r ->
r.alternatives().forEach(a -> System.out.println(a.transcript())));
                   }).build();

           // Keeps Streaming until you end the Java program
           client.startStreamTranscription(request, publisher, response);
```

```
        } catch (TranscribeStreamingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
         }
    }
```

GitHub で完全な例をご覧ください。

詳細情報

- Amazon Transcribe デベロッパーガイドの仕組み。
- Amazon Transcribe デベロッパーガイドのストリーミングオーディオの開始方法。

SDK for Java 2.x のコード例

このトピックのコード例は、 AWS SDK for Java 2.x で を使用する方法を示しています AWS。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

一部のサービスには、サービス固有のライブラリや関数の活用方法を示す追加のカテゴリ例が含まれています。

サービス

- SDK for Java 2.x を使用した ACM の例
- SDK for Java 2.x を使用した API Gateway の例
- SDK for Java 2.x を使用したアプリケーションの自動スケーリングの例
- SDK for Java 2.x を使用した Application Recovery Controller の例
- SDK for Java 2.x を使用した Aurora の例
- SDK for Java 2.x を使用した Auto Scaling の例
- AWS Batch SDK for Java 2.x を使用した の例
- SDK for Java 2.x を使用する Amazon Bedrock の例
- SDK for Java 2.x を使用する Amazon Bedrock ランタイムの例
- SDK for Java 2.x を使用した CloudFront の例
- SDK for Java 2.x を使用した CloudWatch の例
- SDK for Java 2.x を使用した CloudWatch Events の例
- SDK for Java 2.x を使用した CloudWatch Logs
- SDK for Java 2.x を使用した Amazon Cognito ID の例
- SDK for Java 2.x を使用した Amazon Cognito ID プロバイダーの例
- SDK for Java 2.x を使用する Amazon Comprehend の例
- AWS Control Tower SDK for Java 2.x を使用した例

- SDK for Java 2.x を使用した Firehose の例
- SDK for Java 2.x を使用する Amazon DocumentDB の例
- SDK for Java 2.x を使用した DynamoDB の例
- SDK for Java 2.x を使用する Amazon EC2 の例
- SDK for Java 2.x を使用する Amazon ECR の例
- SDK for Java 2.x を使用する Amazon ECS の例
- Java 2.x 用 SDK を使用した Elastic Load Balancing - バージョン 2 の例
- SDK for Java 2.x を使用した MediaStore の例
- AWS Entity Resolution SDK for Java 2.x を使用した例
- SDK for Java 2.x を使用した OpenSearch Service の例
- SDK for Java 2.x を使用した EventBridge の例
- SDK for Java 2.x を使用した EventBridge スケジューラの例
- SDK for Java 2.x を使用した Forecast の例
- SDK for Java 2.x を使用する Amazon Glacier の例
- AWS Glue SDK for Java 2.x を使用した例
- SDK for Java 2.x を使用した HealthImaging の例
- SDK for Java 2.x を使用した IAM の例
- SDK for Java 2.x を使用した Amazon Inspector の例
- AWS IoT SDK for Java 2.x を使用した の例
- AWS IoT data SDK for Java 2.x を使用した例
- AWS IoT SiteWise SDK for Java 2.x を使用した例
- SDK for Java 2.x を使用する Amazon Keyspaces の例
- SDK for Java 2.x を使用した Kinesis の例
- AWS KMS SDK for Java 2.x を使用した例
- SDK for Java 2.x を使用した Lambda の例
- SDK for Java 2.x を使用した Amazon Lex V2 の例 V2
- SDK for Java 2.x を使用する Amazon Location の例
- SDK を使用した Location Service Places の例
- AWS Marketplace SDK for Java 2.x を使用したカタログ API の例
- AWS Marketplace SDK for Java 2.x を使用した契約 API の例

- SDK for Java 2.x を使用した MediaConvert の例
- SDK for Java 2.x を使用した Migration Hub の例
- SDK for Java 2.x を使用する Amazon MSK の例
- SDK for Java 2.x を使用した Neptune の例
- SDK for Java 2.x を使用したパートナーセントラルの例
- SDK for Java 2.x を使用した Amazon Personalize の例
- SDK for Java 2.x を使用した Amazon Personalize Events の例
- SDK for Java 2.x による Amazon Personalize Runtime の例
- SDK for Java 2.x を使用した Amazon Pinpoint の例
- SDK for Java 2.x を使用した Amazon Pinpoint SMS および音声 API の例
- SDK for Java 2.x を使用する Amazon Polly の例
- SDK for Java 2.x を使用する Amazon RDS の例
- SDK for Java 2.x を使用した Amazon RDS Data Service の例
- SDK for Java 2.x を使用した Amazon Redshift の例
- SDK for Java 2.x を使用する Amazon Rekognition の例
- SDK for Java 2.x を使用した Route 53 ドメイン登録のコード例
- SDK for Java 2.x を使用する Amazon S3 の例
- SDK for Java 2.x を使用する Amazon S3 Control の例
- SDK for Java 2.x を使用した S3 ディレクトリバケットの例
- SDK for Java 2.x を使用した SageMaker AI の例
- SDK for Java 2.x を使用した Secrets Manager の例
- SDK for Java 2.x を使用する Amazon SES の例
- SDK for Java 2.x を使用する Amazon SES API v2 の例
- SDK for Java 2.x を使用する Amazon SNS の例
- SDK for Java 2.x を使用する Amazon SQS の例
- SDK for Java 2.x を使用した Step Function の例
- AWS STS SDK for Java 2.x を使用した例
- サポート SDK for Java 2.x を使用した例
- SDK for Java 2.x を使用した Systems Manager の例
- SDK for Java 2.x を使用する Amazon Textract の例

- SDK for Java 2.x を使用した Amazon Transcribe の例
- SDK for Java 2.x を使用した Amazon Transcribe ストリーミングの例
- SDK for Java 2.x を使用した Amazon Translate の例
- SDK for Java 2.x を使用した X-Ray の例

SDK for Java 2.x を使用した ACM の例

次のコード例は、ACM AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック
- アクション

アクション

`AddTagsToCertificate`

次のコード例は、`AddTagsToCertificate` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
```

```
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class AddTagsToCertificate {

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

            Usage:    <certArn>

            Where:
                certArn - the ARN of the certificate.
            """;
        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            return;
        }

        String certArn = args[0];
        addTags(certArn);
    }

    /**
     * Adds tags to a certificate in AWS Certificate Manager (ACM).
     *
     * @param certArn the Amazon Resource Name (ARN) of the certificate to add tags
 to
     */
    public static void addTags(String certArn) {
        AcmClient acmClient = AcmClient.create();
        List<Tag> expectedTags =
 List.of(Tag.builder().key("key").value("value").build());
        AddTagsToCertificateRequest addTagsToCertificateRequest =
 AddTagsToCertificateRequest.builder()
            .certificateArn(certArn)
            .tags(expectedTags)
            .build();

        try {
            acmClient.addTagsToCertificate(addTagsToCertificateRequest);
            System.out.println("Successfully added tags to a certificate");
        } catch (AcmException e) {
```

```
            System.out.println(e.getMessage());
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「AddTagsToCertificate」を参照してください。

`DeleteCertificate`

次のコード例は、`DeleteCertificate` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DeleteCert {

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

            Usage:    <certArn>

            Where:
                certArn - the ARN of the certificate.
            """;
        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
```

```
            return;
        }

        String certArn = args[0];
        deleteCertificate(certArn);
    }

    /**
     * Deletes an SSL/TLS certificate from the AWS Certificate Manager (ACM).
     *
     * @param certArn the Amazon Resource Name (ARN) of the certificate to be
 deleted
     */
    public static void deleteCertificate( String certArn) {
        AcmClient acmClient = AcmClient.create();
        DeleteCertificateRequest request = DeleteCertificateRequest.builder()
            .certificateArn(certArn)
            .build();

        try {
            acmClient.deleteCertificate(request);
            System.out.println("The certificate was deleted");

        } catch (AcmException e) {
            System.out.println(e.getMessage());
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteCertificate」を参照してください。

`DescribeCertificate`

次のコード例は、`DescribeCertificate` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */

public class DescribeCert {

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

            Usage:    <certArn>

            Where:
                certArn - the ARN of the certificate.
            """;
        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            return;
        }

        String certArn = args[0];
        describeCertificate(certArn);
    }

    /**
     * Describes the details of an SSL/TLS certificate.
     *
     * @param certArn the Amazon Resource Name (ARN) of the certificate to describe
     * @throws AcmException if an error occurs while describing the certificate
```

```
     */
    public static void describeCertificate(String certArn) {
        AcmClient acmClient = AcmClient.create();
        DescribeCertificateRequest req = DescribeCertificateRequest.builder()
            .certificateArn(certArn)
            .build();

        try {
            DescribeCertificateResponse response =
 acmClient.describeCertificate(req);

            // Print the certificate details.
            System.out.println("Certificate ARN: " +
 response.certificate().certificateArn());
            System.out.println("Domain Name: " +
 response.certificate().domainName());
            System.out.println("Issued By: " + response.certificate().issuer());
            System.out.println("Issued On: " + response.certificate().issuedAt());
            System.out.println("Status: " + response.certificate().status());
        } catch (AcmException e) {
            System.out.println(e.getMessage());
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeCertificate」を参照してください。

`ExportCertificate`

次のコード例は、`ExportCertificate` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ExportCertificate {

    public static void main(String[] args) throws Exception {
        final String usage = """

            Usage:    <certArn>

            Where:
                certArn - the ARN of the certificate.
            """;
        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            return;
        }

        String certArn = args[0];
        exportCert(certArn);
    }

    /**
     * Exports an SSL/TLS certificate and its associated private key and certificate
 chain from AWS Certificate Manager (ACM).
     *
     * @param certArn The Amazon Resource Name (ARN) of the certificate that you
 want to export.
     * @throws IOException If an I/O error occurs while reading the private key
 passphrase file or exporting the certificate.
     */
    public static void exportCert(String certArn) throws IOException {
        AcmClient acmClient = AcmClient.create();

        // Initialize a file descriptor for the passphrase file.
        RandomAccessFile filePassphrase = null;
        ByteBuffer bufPassphrase = null;
```

```
        // Create a file stream for reading the private key passphrase.
        try {
            filePassphrase = new RandomAccessFile("C:\\AWS\\password.txt", "r");
        } catch (IllegalArgumentException | SecurityException |
FileNotFoundException ex) {
            throw ex;
        }

        // Create a channel to map the file.
        FileChannel channelPassphrase = filePassphrase.getChannel();

        // Map the file to the buffer.
        try {
            bufPassphrase = channelPassphrase.map(FileChannel.MapMode.READ_ONLY, 0,
channelPassphrase.size());
            channelPassphrase.close();
            filePassphrase.close();
        } catch (IOException ex) {
            throw ex;
        }

        // Create a request object.
        ExportCertificateRequest req = ExportCertificateRequest.builder()
            .certificateArn(certArn)
            .passphrase(SdkBytes.fromByteBuffer(bufPassphrase))
            .build();

        // Export the certificate.
        ExportCertificateResponse result = null;
        try {
            result = acmClient.exportCertificate(req);
        } catch (InvalidArnException | InvalidTagException |
ResourceNotFoundException ex) {
            throw ex;
        }

        // Clear the buffer.
        bufPassphrase.clear();

        // Display the certificate and certificate chain.
        String certificate = result.certificate();
        System.out.println(certificate);
```

```
        String certificateChain = result.certificateChain();
        System.out.println(certificateChain);

        // This example retrieves but does not display the private key.
        String privateKey = result.privateKey();
        System.out.println("The example is complete");
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスのExportCertificate」を参照してください。

`ImportCertificate`

次のコード例は、`ImportCertificate` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ImportCert {

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """
            Usage: <bucketName> <certificateKey> <privateKeyKey>

            Where:
```

```
                bucketName - The name of the S3 bucket containing the certificate
and private key.
                certificateKey - The object key for the SSL/TLS certificate file in
S3.
                privateKeyKey - The object key for the private key file in S3.
            """;

        if (args.length != 3) {
            System.out.println(usage);
            return;
        }

        String bucketName = args[0];
        String certificateKey = args[1];
        String privateKeyKey = args[2];

        String certificateArn = importCertificate(bucketName, certificateKey,
privateKeyKey);
        System.out.println("Certificate imported with ARN: " + certificateArn);
    }

    /**
     * Imports an SSL/TLS certificate and private key from S3 into AWS Certificate
Manager (ACM).
     *
     * @param bucketName     The name of the S3 bucket.
     * @param certificateKey The key for the SSL/TLS certificate file in S3.
     * @param privateKeyKey  The key for the private key file in S3.
     * @return The ARN of the imported certificate.
     */
    public static String importCertificate(String bucketName, String certificateKey,
String privateKeyKey) {
        AcmClient acmClient = AcmClient.create();
        S3Client s3Client = S3Client.create();

        try {
            byte[] certificateBytes = downloadFileFromS3(s3Client, bucketName,
certificateKey);
            byte[] privateKeyBytes = downloadFileFromS3(s3Client, bucketName,
privateKeyKey);

            ImportCertificateRequest request = ImportCertificateRequest.builder()

.certificate(SdkBytes.fromByteBuffer(ByteBuffer.wrap(certificateBytes)))
```

```
 .privateKey(SdkBytes.fromByteBuffer(ByteBuffer.wrap(privateKeyBytes)))
                    .build();

            ImportCertificateResponse response =
 acmClient.importCertificate(request);
            return response.certificateArn();

        } catch (IOException e) {
            System.err.println("Error downloading certificate or private key from
 S3: " + e.getMessage());
        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println("S3 error: " + e.awsErrorDetails().errorMessage());
        }
        return "";
    }

    /**
     * Downloads a file from Amazon S3 and returns its contents as a byte array.
     *
     * @param s3Client   The S3 client.
     * @param bucketName The name of the S3 bucket.
     * @param objectKey  The key of the object in S3.
     * @return The file contents as a byte array.
     * @throws IOException If an I/O error occurs.
     */
    private static byte[] downloadFileFromS3(S3Client s3Client, String bucketName,
 String objectKey) throws IOException {
        GetObjectRequest getObjectRequest = GetObjectRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .key(objectKey)
                .build();

        try (ResponseInputStream<GetObjectResponse> s3Object =
 s3Client.getObject(getObjectRequest);
             ByteArrayOutputStream byteArrayOutputStream = new
 ByteArrayOutputStream()) {
            IoUtils.copy(s3Object, byteArrayOutputStream);
            return byteArrayOutputStream.toByteArray();
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ImportCertificate」を参照してください。

`ListCertificates`

次のコード例は、`ListCertificates` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ListCerts {
    public static void main(String[] args) {
        listCertificates();
    }

    /**
     * Lists all the certificates managed by AWS Certificate Manager (ACM) that have
 a status of "ISSUED".
     */
    public static void listCertificates() {
        AcmClient acmClient = AcmClient.create();
        try {
            ListCertificatesRequest listRequest = ListCertificatesRequest.builder()
                .certificateStatuses(CertificateStatus.ISSUED)
                .maxItems(100)
                .build();
            ListCertificatesIterable listResponse =
 acmClient.listCertificatesPaginator(listRequest);
```

```
            // Print the certificate details using streams
            listResponse.certificateSummaryList().stream()
                .forEach(certificate -> {
                    System.out.println("Certificate ARN: " +
 certificate.certificateArn());
                    System.out.println("Certificate Domain Name: " +
 certificate.domainName());
                    System.out.println("Certificate Status: " +
 certificate.statusAsString());
                    System.out.println("---");
                });

        } catch (AcmException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListCertificates」を参照してください。

`ListTagsForCertificate`

次のコード例は、`ListTagsForCertificate` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
```

```
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ListCertTags {

    public static void main(String[] args) {

        final String usage = """

            Usage:    <certArn>

            Where:
                certArn - the ARN of the certificate.
            """;
        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            return;
        }

        String certArn = args[0];
        listCertTags(certArn);
    }

    /**
     * Lists the tags associated with an AWS Certificate Manager (ACM) certificate.
     *
     * @param certArn the Amazon Resource Name (ARN) of the ACM certificate
     */
    public static void listCertTags(String certArn) {
        AcmClient acmClient = AcmClient.create();

        ListTagsForCertificateRequest request =
 ListTagsForCertificateRequest.builder()
            .certificateArn(certArn)
            .build();

        ListTagsForCertificateResponse response =
 acmClient.listTagsForCertificate(request);
        List<Tag> tagList = response.tags();
        tagList.forEach(tag -> {
            System.out.println("Key: " + tag.key());
            System.out.println("Value: " + tag.value());
        });
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListTagsForCertificate」を参照してください。

`RemoveTagsFromCertificate`

次のコード例は、`RemoveTagsFromCertificate` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */

public class RemoveTagsFromCert {

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

            Usage:    <certArn>

            Where:
                certArn - the ARN of the certificate.
            """;
        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            return;
        }
```

```
        String certArn = args[0];
        removeTags(certArn);
    }

    /**
     * Removes tags from an AWS Certificate Manager (ACM) certificate.
     *
     * @param certArn the Amazon Resource Name (ARN) of the certificate from which
 to remove tags
     */
    public static void removeTags(String certArn) {
        AcmClient acmClient = AcmClient.create();
        List<Tag> expectedTags =
 List.of(Tag.builder().key("key").value("value").build());
        RemoveTagsFromCertificateRequest req =
 RemoveTagsFromCertificateRequest.builder()
            .certificateArn(certArn)
            .tags(expectedTags)
            .build();

        try {
            acmClient.removeTagsFromCertificate(req);
            System.out.println("Successfully removed tags from the certificate");
        } catch (AcmException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「RemoveTagsFromCertificate」を参照してください。

RenewCertificate

次のコード例は、RenewCertificate を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */

public class RenewCert {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

            Usage:    <certArn>

            Where:
                certArn - the ARN of the certificate.
            """;
        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            return;
        }

        String certArn = args[0];
        renewCertificate(certArn);
    }

    /**
     * Renews an existing SSL/TLS certificate in AWS Certificate Manager (ACM).
     *
     * @param certArn The Amazon Resource Name (ARN) of the certificate to be
 renewed.
     * @throws AcmException If there is an error renewing the certificate.
     */
```

```
    public static void renewCertificate(String certArn) {
        AcmClient acmClient = AcmClient.create();

        RenewCertificateRequest certificateRequest =
 RenewCertificateRequest.builder()
            .certificateArn(certArn)
            .build();

        try {
            acmClient.renewCertificate(certificateRequest);
            System.out.println("The certificate was renewed");
        } catch(AcmException e){
            System.out.println(e.getMessage());
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「RenewCertificate」を参照してください。

`RequestCertificate`

次のコード例は、`RequestCertificate` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
```

```
 */
public class RequestCert {

    public static void main(String[] args) {
        requestCertificate();
    }

    /**
     * Requests a certificate from the AWS Certificate Manager (ACM) service.
     */
    public static void requestCertificate() {
        AcmClient acmClient = AcmClient.create();
        ArrayList<String> san = new ArrayList<>();
        san.add("www.example.com");

        RequestCertificateRequest req = RequestCertificateRequest.builder()
            .domainName("example.com")
            .idempotencyToken("1Aq25pTy")
            .subjectAlternativeNames(san)
            .build();

        try {
            RequestCertificateResponse response = acmClient.requestCertificate(req);
            System.out.println("Cert ARN IS " + response.certificateArn());
        } catch (AcmException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「RequestCertificate」を参照してください。

SDK for Java 2.x を使用した API Gateway の例

次のコード例は、API Gateway AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

AWS コミュニティへの貢献は、複数のチームによって作成され、維持されている例です AWS。フィードバックを提供するには、リンクされたリポジトリで提供されているメカニズムを使用します。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- アクション
- シナリオ
- AWS コミュニティへの貢献

アクション

`CreateDeployment`

次のコード例は、`CreateDeployment` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static String createNewDeployment(ApiGatewayClient apiGateway, String
restApiId, String stageName) {

       try {
           CreateDeploymentRequest request = CreateDeploymentRequest.builder()
                   .restApiId(restApiId)
                   .description("Created using the AWS API Gateway Java API")
                   .stageName(stageName)
                   .build();
```

```
            CreateDeploymentResponse response =
apiGateway.createDeployment(request);
            System.out.println("The id of the deployment is " + response.id());
            return response.id();

        } catch (ApiGatewayException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateCollection」を参照してください。

`CreateRestApi`

次のコード例は、`CreateRestApi` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    public static String createAPI(ApiGatewayClient apiGateway, String restApiId,
String restApiName) {

        try {
            CreateRestApiRequest request = CreateRestApiRequest.builder()
                    .cloneFrom(restApiId)
                    .description("Created using the Gateway Java API")
                    .name(restApiName)
                    .build();

            CreateRestApiResponse response = apiGateway.createRestApi(request);
            System.out.println("The id of the new api is " + response.id());
            return response.id();
```

```
        } catch (ApiGatewayException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateRestApi」を参照してください。

`DeleteDeployment`

次のコード例は、`DeleteDeployment` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    public static void deleteSpecificDeployment(ApiGatewayClient apiGateway, String
restApiId, String deploymentId) {

        try {
            DeleteDeploymentRequest request = DeleteDeploymentRequest.builder()
                    .restApiId(restApiId)
                    .deploymentId(deploymentId)
                    .build();

            apiGateway.deleteDeployment(request);
            System.out.println("Deployment was deleted");

        } catch (ApiGatewayException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteDeployment」を参照してください。

`DeleteRestApi`

次のコード例は、`DeleteRestApi` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
public static void deleteAPI(ApiGatewayClient apiGateway, String restApiId) {

    try {
        DeleteRestApiRequest request = DeleteRestApiRequest.builder()
                .restApiId(restApiId)
                .build();

        apiGateway.deleteRestApi(request);
        System.out.println("The API was successfully deleted");

    } catch (ApiGatewayException e) {
        System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
        System.exit(1);
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteRestApi」を参照してください。

シナリオ

サーバーレスアプリケーションを作成して写真を管理する

次のコード例では、ユーザーがラベルを使用して写真を管理できるサーバーレスアプリケーションを作成する方法について示しています。

SDK for Java 2.x

Amazon Rekognition を使用して画像内のラベルを検出し、保存して後で取得できるようにする写真アセット管理アプリケーションの開発方法を示します。

完全なソースコードと設定および実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例のソースについて詳しくは、AWS コミュニティでブログ投稿を参照してください。

この例で使用されているサービス

- API ゲートウェイ
- DynamoDB
- Lambda
- Amazon Rekognition
- Amazon S3
- Amazon SNS

API Gateway を使用して Lambda 関数を呼び出す

次のコード例は、Amazon API Gateway によって呼び出される AWS Lambda 関数を作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

Lambda Java ランタイム API を使用して AWS Lambda 関数を作成する方法を示します。この例では、さまざまな AWS サービスを呼び出して、特定のユースケースを実行します。この例では、Amazon API Gateway によって呼び出される Lambda 関数を作成する方法を示します。この関数は、Amazon DynamoDB テーブルをスキャンして、Amazon Simple Notification Service (Amazon SNS) を使用して、従業員に年間の記念日を祝福するテキストメッセージを送信します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- API ゲートウェイ
- DynamoDB
- Lambda
- Amazon SNS

AWS コミュニティへの貢献

サーバーレスアプリケーションの構築とテスト

次のコード例は、Lambda および DynamoDB を備えた API Gateway を使用してサーバーレスアプリケーションを構築およびテストする方法を示しています。

SDK for Java 2.x

Java SDK を使用し、Lambda および DynamoDB を備えた API Gateway で構成されるサーバーレスアプリケーションを構築およびテストする方法が示されます。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- API ゲートウェイ
- DynamoDB
- Lambda

SDK for Java 2.x を使用したアプリケーションの自動スケーリングの例

次のコード例は、Application Auto Scaling AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- アクション

アクション

`DeleteScalingPolicy`

次のコード例は、`DeleteScalingPolicy` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import
 software.amazon.awssdk.services.applicationautoscaling.ApplicationAutoScalingClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.applicationautoscaling.model.ApplicationAutoScalingExceptio
import
 software.amazon.awssdk.services.applicationautoscaling.model.DeleteScalingPolicyRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.applicationautoscaling.model.DeregisterScalableTargetReques
import
 software.amazon.awssdk.services.applicationautoscaling.model.DescribeScalableTargetsRequest
import
 software.amazon.awssdk.services.applicationautoscaling.model.DescribeScalableTargetsRespons
import
 software.amazon.awssdk.services.applicationautoscaling.model.DescribeScalingPoliciesRequest
import
 software.amazon.awssdk.services.applicationautoscaling.model.DescribeScalingPoliciesRespons
```

```
import
 software.amazon.awssdk.services.applicationautoscaling.model.ScalableDimension;
import
 software.amazon.awssdk.services.applicationautoscaling.model.ServiceNamespace;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development environment,
 including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */

public class DisableDynamoDBAutoscaling {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

            Usage:
               <tableId> <policyName>\s

            Where:
               tableId - The table Id value (for example, table/Music).\s
               policyName - The name of the policy (for example, $Music5-scaling-
policy).

            """;
        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        ApplicationAutoScalingClient appAutoScalingClient =
 ApplicationAutoScalingClient.builder()
            .region(Region.US_EAST_1)
            .build();

        ServiceNamespace ns = ServiceNamespace.DYNAMODB;
        ScalableDimension tableWCUs =
 ScalableDimension.DYNAMODB_TABLE_WRITE_CAPACITY_UNITS;
        String tableId = args[0];
        String policyName = args[1];

        deletePolicy(appAutoScalingClient, policyName, tableWCUs, ns, tableId);
```

```
        verifyScalingPolicies(appAutoScalingClient, tableId, ns, tableWCUs);
        deregisterScalableTarget(appAutoScalingClient, tableId, ns, tableWCUs);
        verifyTarget(appAutoScalingClient, tableId, ns, tableWCUs);
    }

    public static void deletePolicy(ApplicationAutoScalingClient
appAutoScalingClient, String policyName, ScalableDimension tableWCUs,
ServiceNamespace ns, String tableId) {
        try {
            DeleteScalingPolicyRequest delSPRequest =
DeleteScalingPolicyRequest.builder()
                .policyName(policyName)
                .scalableDimension(tableWCUs)
                .serviceNamespace(ns)
                .resourceId(tableId)
                .build();

            appAutoScalingClient.deleteScalingPolicy(delSPRequest);
            System.out.println(policyName +" was deleted successfully.");

        } catch (ApplicationAutoScalingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
        }
    }

    // Verify that the scaling policy was deleted
    public static void verifyScalingPolicies(ApplicationAutoScalingClient
appAutoScalingClient, String tableId, ServiceNamespace ns, ScalableDimension
tableWCUs) {
        DescribeScalingPoliciesRequest dscRequest =
DescribeScalingPoliciesRequest.builder()
            .scalableDimension(tableWCUs)
            .serviceNamespace(ns)
            .resourceId(tableId)
            .build();

        DescribeScalingPoliciesResponse response =
appAutoScalingClient.describeScalingPolicies(dscRequest);
        System.out.println("DescribeScalableTargets result: ");
        System.out.println(response);
    }
```

```
    public static void deregisterScalableTarget(ApplicationAutoScalingClient
 appAutoScalingClient, String tableId, ServiceNamespace ns, ScalableDimension
 tableWCUs) {
        try {
            DeregisterScalableTargetRequest targetRequest =
 DeregisterScalableTargetRequest.builder()
                .scalableDimension(tableWCUs)
                .serviceNamespace(ns)
                .resourceId(tableId)
                .build();

            appAutoScalingClient.deregisterScalableTarget(targetRequest);
            System.out.println("The scalable target was deregistered.");

        } catch (ApplicationAutoScalingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
        }
    }

    public static void verifyTarget(ApplicationAutoScalingClient
 appAutoScalingClient, String tableId, ServiceNamespace ns, ScalableDimension
 tableWCUs) {
        DescribeScalableTargetsRequest dscRequest =
 DescribeScalableTargetsRequest.builder()
            .scalableDimension(tableWCUs)
            .serviceNamespace(ns)
            .resourceIds(tableId)
            .build();

        DescribeScalableTargetsResponse response =
 appAutoScalingClient.describeScalableTargets(dscRequest);
        System.out.println("DescribeScalableTargets result: ");
        System.out.println(response);
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteScalingPolicy」を参照してください。

RegisterScalableTarget

次のコード例は、RegisterScalableTarget を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import
 software.amazon.awssdk.services.applicationautoscaling.ApplicationAutoScalingClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.applicationautoscaling.model.ApplicationAutoScalingExceptio
import
 software.amazon.awssdk.services.applicationautoscaling.model.DescribeScalableTargetsRequest
import
 software.amazon.awssdk.services.applicationautoscaling.model.DescribeScalableTargetsRespons
import
 software.amazon.awssdk.services.applicationautoscaling.model.DescribeScalingPoliciesRequest
import
 software.amazon.awssdk.services.applicationautoscaling.model.DescribeScalingPoliciesRespons
import software.amazon.awssdk.services.applicationautoscaling.model.PolicyType;
import
 software.amazon.awssdk.services.applicationautoscaling.model.PredefinedMetricSpecification;
import
 software.amazon.awssdk.services.applicationautoscaling.model.PutScalingPolicyRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.applicationautoscaling.model.RegisterScalableTargetRequest;
import software.amazon.awssdk.services.applicationautoscaling.model.ScalingPolicy;
import
 software.amazon.awssdk.services.applicationautoscaling.model.ServiceNamespace;
import
 software.amazon.awssdk.services.applicationautoscaling.model.ScalableDimension;
import software.amazon.awssdk.services.applicationautoscaling.model.MetricType;
import
 software.amazon.awssdk.services.applicationautoscaling.model.TargetTrackingScalingPolicyCon
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development environment,
 including your credentials.
 *
```

```
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class EnableDynamoDBAutoscaling {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

            Usage:
               <tableId> <roleARN> <policyName>\s

            Where:
               tableId - The table Id value (for example, table/Music).
               roleARN - The ARN of the role that has ApplicationAutoScaling
 permissions.
               policyName - The name of the policy to create.

            """;

        if (args.length != 3) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        System.out.println("This example registers an Amazon DynamoDB table, which
 is the resource to scale.");
        String tableId = args[0];
        String roleARN = args[1];
        String policyName = args[2];
        ServiceNamespace ns = ServiceNamespace.DYNAMODB;
        ScalableDimension tableWCUs =
 ScalableDimension.DYNAMODB_TABLE_WRITE_CAPACITY_UNITS;
        ApplicationAutoScalingClient appAutoScalingClient =
 ApplicationAutoScalingClient.builder()
            .region(Region.US_EAST_1)
            .build();

        registerScalableTarget(appAutoScalingClient, tableId, roleARN, ns,
 tableWCUs);
        verifyTarget(appAutoScalingClient, tableId, ns, tableWCUs);
        configureScalingPolicy(appAutoScalingClient, tableId, ns, tableWCUs,
 policyName);
    }
```

```
   public static void registerScalableTarget(ApplicationAutoScalingClient
appAutoScalingClient, String tableId, String roleARN, ServiceNamespace ns,
ScalableDimension tableWCUs) {
       try {
           RegisterScalableTargetRequest targetRequest =
RegisterScalableTargetRequest.builder()
               .serviceNamespace(ns)
               .scalableDimension(tableWCUs)
               .resourceId(tableId)
               .roleARN(roleARN)
               .minCapacity(5)
               .maxCapacity(10)
               .build();

           appAutoScalingClient.registerScalableTarget(targetRequest);
           System.out.println("You have registered " + tableId);

       } catch (ApplicationAutoScalingException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
       }
   }

   // Verify that the target was created.
   public static void verifyTarget(ApplicationAutoScalingClient
appAutoScalingClient, String tableId, ServiceNamespace ns, ScalableDimension
tableWCUs) {
       DescribeScalableTargetsRequest dscRequest =
DescribeScalableTargetsRequest.builder()
           .scalableDimension(tableWCUs)
           .serviceNamespace(ns)
           .resourceIds(tableId)
           .build();

       DescribeScalableTargetsResponse response =
appAutoScalingClient.describeScalableTargets(dscRequest);
       System.out.println("DescribeScalableTargets result: ");
       System.out.println(response);
   }

   // Configure a scaling policy.
   public static void configureScalingPolicy(ApplicationAutoScalingClient
appAutoScalingClient, String tableId, ServiceNamespace ns, ScalableDimension
tableWCUs, String policyName) {
       // Check if the policy exists before creating a new one.
```

```
        DescribeScalingPoliciesResponse describeScalingPoliciesResponse =
appAutoScalingClient.describeScalingPolicies(DescribeScalingPoliciesRequest.builder()
            .serviceNamespace(ns)
            .resourceId(tableId)
            .scalableDimension(tableWCUs)
            .build());

        if (!describeScalingPoliciesResponse.scalingPolicies().isEmpty()) {
            // If policies exist, consider updating an existing policy instead of
creating a new one.
            System.out.println("Policy already exists. Consider updating it
instead.");
            List<ScalingPolicy> polList =
describeScalingPoliciesResponse.scalingPolicies();
            for (ScalingPolicy pol : polList) {
                System.out.println("Policy name:" +pol.policyName());
            }
        } else {
            // If no policies exist, proceed with creating a new policy.
            PredefinedMetricSpecification specification =
PredefinedMetricSpecification.builder()

.predefinedMetricType(MetricType.DYNAMO_DB_WRITE_CAPACITY_UTILIZATION)
                .build();

            TargetTrackingScalingPolicyConfiguration policyConfiguration =
TargetTrackingScalingPolicyConfiguration.builder()
                .predefinedMetricSpecification(specification)
                .targetValue(50.0)
                .scaleInCooldown(60)
                .scaleOutCooldown(60)
                .build();

            PutScalingPolicyRequest putScalingPolicyRequest =
PutScalingPolicyRequest.builder()
                .targetTrackingScalingPolicyConfiguration(policyConfiguration)
                .serviceNamespace(ns)
                .scalableDimension(tableWCUs)
                .resourceId(tableId)
                .policyName(policyName)
                .policyType(PolicyType.TARGET_TRACKING_SCALING)
                .build();

            try {
```

```
                appAutoScalingClient.putScalingPolicy(putScalingPolicyRequest);
                System.out.println("You have successfully created a scaling policy
 for an Application Auto Scaling scalable target");
            } catch (ApplicationAutoScalingException e) {
                System.err.println("Error: " + e.awsErrorDetails().errorMessage());
            }
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「RegisterScalableTarget」を参照してください。

SDK for Java 2.x を使用した Application Recovery Controller の例

次のコード例は、Application Recovery Controller AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- アクション

アクション

`GetRoutingControlState`

次のコード例は、`GetRoutingControlState` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    public static GetRoutingControlStateResponse
 getRoutingControlState(List<ClusterEndpoint> clusterEndpoints,
            String routingControlArn) {
        // As a best practice, we recommend choosing a random cluster endpoint to
 get or
        // set routing control states.
        // For more information, see
        // https://docs.aws.amazon.com/r53recovery/latest/dg/route53-arc-best-
practices.html#route53-arc-best-practices.regional
        Collections.shuffle(clusterEndpoints);
        for (ClusterEndpoint clusterEndpoint : clusterEndpoints) {
            try {
                System.out.println(clusterEndpoint);
                Route53RecoveryClusterClient client =
 Route53RecoveryClusterClient.builder()
                        .endpointOverride(URI.create(clusterEndpoint.endpoint()))
                        .region(Region.of(clusterEndpoint.region())).build();
                return client.getRoutingControlState(
                        GetRoutingControlStateRequest.builder()
                                .routingControlArn(routingControlArn).build());
            } catch (Exception exception) {
                System.out.println(exception);
            }
        }
        return null;
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetRoutingControlState」を参照してください。

UpdateRoutingControlState

次のコード例は、UpdateRoutingControlState を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    public static UpdateRoutingControlStateResponse
 updateRoutingControlState(List<ClusterEndpoint> clusterEndpoints,
            String routingControlArn,
            String routingControlState) {
        // As a best practice, we recommend choosing a random cluster endpoint to
 get or
        // set routing control states.
        // For more information, see
        // https://docs.aws.amazon.com/r53recovery/latest/dg/route53-arc-best-
practices.html#route53-arc-best-practices.regional
        Collections.shuffle(clusterEndpoints);
        for (ClusterEndpoint clusterEndpoint : clusterEndpoints) {
            try {
                System.out.println(clusterEndpoint);
                Route53RecoveryClusterClient client =
 Route53RecoveryClusterClient.builder()
                        .endpointOverride(URI.create(clusterEndpoint.endpoint()))
                        .region(Region.of(clusterEndpoint.region()))
                        .build();
                return client.updateRoutingControlState(
                        UpdateRoutingControlStateRequest.builder()

 .routingControlArn(routingControlArn).routingControlState(routingControlState).build());
            } catch (Exception exception) {
                System.out.println(exception);
            }
        }
        return null;
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「UpdateRoutingControlState」を参照してください。

SDK for Java 2.x を使用した Aurora の例

次のコード例は、Aurora AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- はじめに
- 基本
- アクション
- シナリオ

はじめに

Hello Aurora

次のコード例は、Aurora の使用を開始する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.rds.RdsClient;
import software.amazon.awssdk.services.rds.paginators.DescribeDBClustersIterable;

public class DescribeDbClusters {
    public static void main(String[] args) {
        Region region = Region.US_EAST_1;
        RdsClient rdsClient = RdsClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        describeClusters(rdsClient);
        rdsClient.close();
    }

    public static void describeClusters(RdsClient rdsClient) {
        DescribeDBClustersIterable clustersIterable =
 rdsClient.describeDBClustersPaginator();
        clustersIterable.stream()
                .flatMap(r -> r.dbClusters().stream())
                .forEach(cluster -> System.out
                        .println("Database name: " + cluster.databaseName() + " Arn
 = " + cluster.dbClusterArn()));
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeDBClusters」を参照してください。

基本

基本を学ぶ

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- カスタム Aurora DB クラスターパラメータグループを作成し、パラメータ値を設定します。
- パラメータグループを使用する DB クラスターを作成する
- データベースを含む DB インスタンスを作成します。
- DB クラスターのスナップショットを作成して、リソースをクリーンアップします。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
/**
 * Before running this Java (v2) code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 *
 * This example requires an AWS Secrets Manager secret that contains the
 * database credentials. If you do not create a
 * secret, this example will not work. For details, see:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/secretsmanager/latest/userguide/integrating_how-
services-use-secrets_RS.html
 *
 * This Java example performs the following tasks:
 *
 * 1. Gets available engine families for Amazon Aurora MySQL-Compatible Edition
 * by calling the DescribeDbEngineVersions(Engine='aurora-mysql') method.
 * 2. Selects an engine family and creates a custom DB cluster parameter group
 * by invoking the describeDBClusterParameters method.
 * 3. Gets the parameter groups by invoking the describeDBClusterParameterGroups
 * method.
 * 4. Gets parameters in the group by invoking the describeDBClusterParameters
 * method.
 * 5. Modifies the auto_increment_offset parameter by invoking the
 * modifyDbClusterParameterGroupRequest method.
 * 6. Gets and displays the updated parameters.
 * 7. Gets a list of allowed engine versions by invoking the
 * describeDbEngineVersions method.
 * 8. Creates an Aurora DB cluster database cluster that contains a MySQL
 * database.
 * 9. Waits for DB instance to be ready.
 * 10. Gets a list of instance classes available for the selected engine.
```

```
 * 11. Creates a database instance in the cluster.
 * 12. Waits for DB instance to be ready.
 * 13. Creates a snapshot.
 * 14. Waits for DB snapshot to be ready.
 * 15. Deletes the DB cluster.
 * 16. Deletes the DB cluster group.
 */
public class AuroraScenario {
    public static long sleepTime = 20;
    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");

    public static void main(String[] args) throws InterruptedException {
        final String usage = "\n" +
                "Usage:\n" +
                "    <dbClusterGroupName> <dbParameterGroupFamily>
 <dbInstanceClusterIdentifier> <dbInstanceIdentifier> <dbName>
 <dbSnapshotIdentifier><secretName>"
                +
                "Where:\n" +
                "    dbClusterGroupName - The name of the DB cluster parameter
 group. \n" +
                "    dbParameterGroupFamily - The DB cluster parameter group family
 name (for example, aurora-mysql5.7). \n"
                +
                "    dbInstanceClusterIdentifier - The instance cluster identifier
 value.\n" +
                "    dbInstanceIdentifier - The database instance identifier.\n" +
                "    dbName - The database name.\n" +
                "    dbSnapshotIdentifier - The snapshot identifier.\n" +
                "    secretName - The name of the AWS Secrets Manager secret that
 contains the database credentials\"\n";
        ;

        if (args.length != 7) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String dbClusterGroupName = args[0];
        String dbParameterGroupFamily = args[1];
        String dbInstanceClusterIdentifier = args[2];
        String dbInstanceIdentifier = args[3];
        String dbName = args[4];
        String dbSnapshotIdentifier = args[5];
```

```
        String secretName = args[6];

        // Retrieve the database credentials using AWS Secrets Manager.
        Gson gson = new Gson();
        User user = gson.fromJson(String.valueOf(getSecretValues(secretName)),
User.class);
        String username = user.getUsername();
        String userPassword = user.getPassword();

        Region region = Region.US_WEST_2;
        RdsClient rdsClient = RdsClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("Welcome to the Amazon Aurora example scenario.");
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("1. Return a list of the available DB engines");
        describeDBEngines(rdsClient);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("2. Create a custom parameter group");
        createDBClusterParameterGroup(rdsClient, dbClusterGroupName,
dbParameterGroupFamily);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("3. Get the parameter group");
        describeDbClusterParameterGroups(rdsClient, dbClusterGroupName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("4. Get the parameters in the group");
        describeDbClusterParameters(rdsClient, dbClusterGroupName, 0);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("5. Modify the auto_increment_offset parameter");
        modifyDBClusterParas(rdsClient, dbClusterGroupName);
        System.out.println(DASHES);
```

```
        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("6. Display the updated parameter value");
        describeDbClusterParameters(rdsClient, dbClusterGroupName, -1);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("7. Get a list of allowed engine versions");
        getAllowedEngines(rdsClient, dbParameterGroupFamily);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("8. Create an Aurora DB cluster database");
        String arnClusterVal = createDBCluster(rdsClient, dbClusterGroupName,
dbName, dbInstanceClusterIdentifier,
                username, userPassword);
        System.out.println("The ARN of the cluster is " + arnClusterVal);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("9. Wait for DB instance to be ready");
        waitForInstanceReady(rdsClient, dbInstanceClusterIdentifier);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("10. Get a list of instance classes available for the
selected engine");
        String instanceClass = getListInstanceClasses(rdsClient);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("11. Create a database instance in the cluster.");
        String clusterDBARN = createDBInstanceCluster(rdsClient,
dbInstanceIdentifier, dbInstanceClusterIdentifier,
                instanceClass);
        System.out.println("The ARN of the database is " + clusterDBARN);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("12. Wait for DB instance to be ready");
        waitDBInstanceReady(rdsClient, dbInstanceIdentifier);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("13. Create a snapshot");
```

```
        createDBClusterSnapshot(rdsClient, dbInstanceClusterIdentifier,
dbSnapshotIdentifier);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("14. Wait for DB snapshot to be ready");
        waitForSnapshotReady(rdsClient, dbSnapshotIdentifier,
dbInstanceClusterIdentifier);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("14. Delete the DB instance");
        deleteDatabaseInstance(rdsClient, dbInstanceIdentifier);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("15. Delete the DB cluster");
        deleteCluster(rdsClient, dbInstanceClusterIdentifier);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("16. Delete the DB cluster group");
        deleteDBClusterGroup(rdsClient, dbClusterGroupName, clusterDBARN);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("The Scenario has successfully completed.");
        System.out.println(DASHES);
        rdsClient.close();
    }

    private static SecretsManagerClient getSecretClient() {
        Region region = Region.US_WEST_2;
        return SecretsManagerClient.builder()
                .region(region)

.credentialsProvider(EnvironmentVariableCredentialsProvider.create())
                .build();
    }

    private static String getSecretValues(String secretName) {
        SecretsManagerClient secretClient = getSecretClient();
        GetSecretValueRequest valueRequest = GetSecretValueRequest.builder()
                .secretId(secretName)
```

```
                .build();

        GetSecretValueResponse valueResponse =
secretClient.getSecretValue(valueRequest);
        return valueResponse.secretString();
    }

    public static void deleteDBClusterGroup(RdsClient rdsClient, String
dbClusterGroupName, String clusterDBARN)
            throws InterruptedException {
        try {
            boolean isDataDel = false;
            boolean didFind;
            String instanceARN;

            // Make sure that the database has been deleted.
            while (!isDataDel) {
                DescribeDbInstancesResponse response =
rdsClient.describeDBInstances();
                List<DBInstance> instanceList = response.dbInstances();
                int listSize = instanceList.size();
                didFind = false;
                int index = 1;
                for (DBInstance instance : instanceList) {
                    instanceARN = instance.dbInstanceArn();
                    if (instanceARN.compareTo(clusterDBARN) == 0) {
                        System.out.println(clusterDBARN + " still exists");
                        didFind = true;
                    }
                    if ((index == listSize) && (!didFind)) {
                        // Went through the entire list and did not find the
database ARN.
                        isDataDel = true;
                    }
                    Thread.sleep(sleepTime * 1000);
                    index++;
                }
            }

            DeleteDbClusterParameterGroupRequest clusterParameterGroupRequest =
DeleteDbClusterParameterGroupRequest
                    .builder()
                    .dbClusterParameterGroupName(dbClusterGroupName)
                    .build();
```

```
            rdsClient.deleteDBClusterParameterGroup(clusterParameterGroupRequest);
            System.out.println(dbClusterGroupName + " was deleted.");

        } catch (RdsException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void deleteCluster(RdsClient rdsClient, String
dbInstanceClusterIdentifier) {
        try {
            DeleteDbClusterRequest deleteDbClusterRequest =
DeleteDbClusterRequest.builder()
                    .dbClusterIdentifier(dbInstanceClusterIdentifier)
                    .skipFinalSnapshot(true)
                    .build();

            rdsClient.deleteDBCluster(deleteDbClusterRequest);
            System.out.println(dbInstanceClusterIdentifier + " was deleted!");

        } catch (RdsException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void deleteDatabaseInstance(RdsClient rdsClient, String
dbInstanceIdentifier) {
        try {
            DeleteDbInstanceRequest deleteDbInstanceRequest =
DeleteDbInstanceRequest.builder()
                    .dbInstanceIdentifier(dbInstanceIdentifier)
                    .deleteAutomatedBackups(true)
                    .skipFinalSnapshot(true)
                    .build();

            DeleteDbInstanceResponse response =
rdsClient.deleteDBInstance(deleteDbInstanceRequest);
            System.out.println("The status of the database is " +
response.dbInstance().dbInstanceStatus());

        } catch (RdsException e) {
```

```
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void waitForSnapshotReady(RdsClient rdsClient, String
dbSnapshotIdentifier,
            String dbInstanceClusterIdentifier) {
        try {
            boolean snapshotReady = false;
            String snapshotReadyStr;
            System.out.println("Waiting for the snapshot to become available.");

            DescribeDbClusterSnapshotsRequest snapshotsRequest =
DescribeDbClusterSnapshotsRequest.builder()
                    .dbClusterSnapshotIdentifier(dbSnapshotIdentifier)
                    .dbClusterIdentifier(dbInstanceClusterIdentifier)
                    .build();

            while (!snapshotReady) {
                DescribeDbClusterSnapshotsResponse response =
rdsClient.describeDBClusterSnapshots(snapshotsRequest);
                List<DBClusterSnapshot> snapshotList =
response.dbClusterSnapshots();
                for (DBClusterSnapshot snapshot : snapshotList) {
                    snapshotReadyStr = snapshot.status();
                    if (snapshotReadyStr.contains("available")) {
                        snapshotReady = true;
                    } else {
                        System.out.println(".");
                        Thread.sleep(sleepTime * 5000);
                    }
                }
            }

            System.out.println("The Snapshot is available!");

        } catch (RdsException | InterruptedException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

```
   public static void createDBClusterSnapshot(RdsClient rdsClient, String
dbInstanceClusterIdentifier,
           String dbSnapshotIdentifier) {
       try {
           CreateDbClusterSnapshotRequest snapshotRequest =
CreateDbClusterSnapshotRequest.builder()
                   .dbClusterIdentifier(dbInstanceClusterIdentifier)
                   .dbClusterSnapshotIdentifier(dbSnapshotIdentifier)
                   .build();

           CreateDbClusterSnapshotResponse response =
rdsClient.createDBClusterSnapshot(snapshotRequest);
           System.out.println("The Snapshot ARN is " +
response.dbClusterSnapshot().dbClusterSnapshotArn());

       } catch (RdsException e) {
           System.out.println(e.getLocalizedMessage());
           System.exit(1);
       }
   }

   public static void waitDBInstanceReady(RdsClient rdsClient, String
dbInstanceIdentifier) {
       boolean instanceReady = false;
       String instanceReadyStr;
       System.out.println("Waiting for instance to become available.");
       try {
           DescribeDbInstancesRequest instanceRequest =
DescribeDbInstancesRequest.builder()
                   .dbInstanceIdentifier(dbInstanceIdentifier)
                   .build();

           String endpoint = "";
           while (!instanceReady) {
               DescribeDbInstancesResponse response =
rdsClient.describeDBInstances(instanceRequest);
               List<DBInstance> instanceList = response.dbInstances();
               for (DBInstance instance : instanceList) {
                   instanceReadyStr = instance.dbInstanceStatus();
                   if (instanceReadyStr.contains("available")) {
                       endpoint = instance.endpoint().address();
                       instanceReady = true;
                   } else {
                       System.out.print(".");
```

```
                        Thread.sleep(sleepTime * 1000);
                    }
                }
            }
            System.out.println("Database instance is available! The connection
endpoint is " + endpoint);

        } catch (RdsException | InterruptedException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static String createDBInstanceCluster(RdsClient rdsClient,
            String dbInstanceIdentifier,
            String dbInstanceClusterIdentifier,
            String instanceClass) {
        try {
            CreateDbInstanceRequest instanceRequest =
CreateDbInstanceRequest.builder()
                    .dbInstanceIdentifier(dbInstanceIdentifier)
                    .dbClusterIdentifier(dbInstanceClusterIdentifier)
                    .engine("aurora-mysql")
                    .dbInstanceClass(instanceClass)
                    .build();

            CreateDbInstanceResponse response =
rdsClient.createDBInstance(instanceRequest);
            System.out.print("The status is " +
response.dbInstance().dbInstanceStatus());
            return response.dbInstance().dbInstanceArn();

        } catch (RdsException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }

    public static String getListInstanceClasses(RdsClient rdsClient) {
        try {
            DescribeOrderableDbInstanceOptionsRequest optionsRequest =
DescribeOrderableDbInstanceOptionsRequest
                    .builder()
```

```
                    .engine("aurora-mysql")
                    .maxRecords(20)
                    .build();

            DescribeOrderableDbInstanceOptionsResponse response = rdsClient
                    .describeOrderableDBInstanceOptions(optionsRequest);
            List<OrderableDBInstanceOption> instanceOptions =
response.orderableDBInstanceOptions();
            String instanceClass = "";
            for (OrderableDBInstanceOption instanceOption : instanceOptions) {
                instanceClass = instanceOption.dbInstanceClass();
                System.out.println("The instance class is " +
instanceOption.dbInstanceClass());
                System.out.println("The engine version is " +
instanceOption.engineVersion());
            }
            return instanceClass;

        } catch (RdsException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }

    // Waits until the database instance is available.
    public static void waitForInstanceReady(RdsClient rdsClient, String
dbClusterIdentifier) {
        boolean instanceReady = false;
        String instanceReadyStr;
        System.out.println("Waiting for instance to become available.");
        try {
            DescribeDbClustersRequest instanceRequest =
DescribeDbClustersRequest.builder()
                    .dbClusterIdentifier(dbClusterIdentifier)
                    .build();

            while (!instanceReady) {
                DescribeDbClustersResponse response =
rdsClient.describeDBClusters(instanceRequest);
                List<DBCluster> clusterList = response.dbClusters();
                for (DBCluster cluster : clusterList) {
                    instanceReadyStr = cluster.status();
                    if (instanceReadyStr.contains("available")) {
```

```
                        instanceReady = true;
                    } else {
                        System.out.print(".");
                        Thread.sleep(sleepTime * 1000);
                    }
                }
            }
            System.out.println("Database cluster is available!");

        } catch (RdsException | InterruptedException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static String createDBCluster(RdsClient rdsClient, String
dbParameterGroupFamily, String dbName,
            String dbClusterIdentifier, String userName, String password) {
        try {
            CreateDbClusterRequest clusterRequest = CreateDbClusterRequest.builder()
                    .databaseName(dbName)
                    .dbClusterIdentifier(dbClusterIdentifier)
                    .dbClusterParameterGroupName(dbParameterGroupFamily)
                    .engine("aurora-mysql")
                    .masterUsername(userName)
                    .masterUserPassword(password)
                    .build();

            CreateDbClusterResponse response =
rdsClient.createDBCluster(clusterRequest);
            return response.dbCluster().dbClusterArn();

        } catch (RdsException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }

    // Get a list of allowed engine versions.
    public static void getAllowedEngines(RdsClient rdsClient, String
dbParameterGroupFamily) {
        try {
```

```
            DescribeDbEngineVersionsRequest versionsRequest =
DescribeDbEngineVersionsRequest.builder()
                    .dbParameterGroupFamily(dbParameterGroupFamily)
                    .engine("aurora-mysql")
                    .build();

            DescribeDbEngineVersionsResponse response =
rdsClient.describeDBEngineVersions(versionsRequest);
            List<DBEngineVersion> dbEngines = response.dbEngineVersions();
            for (DBEngineVersion dbEngine : dbEngines) {
                System.out.println("The engine version is " +
dbEngine.engineVersion());
                System.out.println("The engine description is " +
dbEngine.dbEngineDescription());
            }

        } catch (RdsException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    // Modify the auto_increment_offset parameter.
    public static void modifyDBClusterParas(RdsClient rdsClient, String
dClusterGroupName) {
        try {
            Parameter parameter1 = Parameter.builder()
                    .parameterName("auto_increment_offset")
                    .applyMethod("immediate")
                    .parameterValue("5")
                    .build();

            List<Parameter> paraList = new ArrayList<>();
            paraList.add(parameter1);
            ModifyDbClusterParameterGroupRequest groupRequest =
ModifyDbClusterParameterGroupRequest.builder()
                    .dbClusterParameterGroupName(dClusterGroupName)
                    .parameters(paraList)
                    .build();

            ModifyDbClusterParameterGroupResponse response =
rdsClient.modifyDBClusterParameterGroup(groupRequest);
            System.out.println(
```

```
                    "The parameter group " + response.dbClusterParameterGroupName()
+ " was successfully modified");

       } catch (RdsException e) {
           System.out.println(e.getLocalizedMessage());
           System.exit(1);
       }
   }

   public static void describeDbClusterParameters(RdsClient rdsClient, String
dbCLusterGroupName, int flag) {
       try {
           DescribeDbClusterParametersRequest dbParameterGroupsRequest;
           if (flag == 0) {
               dbParameterGroupsRequest =
DescribeDbClusterParametersRequest.builder()
                       .dbClusterParameterGroupName(dbCLusterGroupName)
                       .build();
           } else {
               dbParameterGroupsRequest =
DescribeDbClusterParametersRequest.builder()
                       .dbClusterParameterGroupName(dbCLusterGroupName)
                       .source("user")
                       .build();
           }

           DescribeDbClusterParametersResponse response = rdsClient
                   .describeDBClusterParameters(dbParameterGroupsRequest);
           List<Parameter> dbParameters = response.parameters();
           String paraName;
           for (Parameter para : dbParameters) {
               // Only print out information about either auto_increment_offset or
               // auto_increment_increment.
               paraName = para.parameterName();
               if ((paraName.compareTo("auto_increment_offset") == 0)
                       || (paraName.compareTo("auto_increment_increment ") == 0)) {
                   System.out.println("*** The parameter name is  " + paraName);
                   System.out.println("*** The parameter value is  " +
para.parameterValue());
                   System.out.println("*** The parameter data type is " +
para.dataType());
                   System.out.println("*** The parameter description is " +
para.description());
```

```
                    System.out.println("*** The parameter allowed values  is " +
para.allowedValues());
                }
            }

        } catch (RdsException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void describeDbClusterParameterGroups(RdsClient rdsClient, String
dbClusterGroupName) {
        try {
            DescribeDbClusterParameterGroupsRequest groupsRequest =
DescribeDbClusterParameterGroupsRequest.builder()
                    .dbClusterParameterGroupName(dbClusterGroupName)
                    .maxRecords(20)
                    .build();

            List<DBClusterParameterGroup> groups =
rdsClient.describeDBClusterParameterGroups(groupsRequest)
                    .dbClusterParameterGroups();
            for (DBClusterParameterGroup group : groups) {
                System.out.println("The group name is " +
group.dbClusterParameterGroupName());
                System.out.println("The group ARN is " +
group.dbClusterParameterGroupArn());
            }

        } catch (RdsException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void createDBClusterParameterGroup(RdsClient rdsClient, String
dbClusterGroupName,
            String dbParameterGroupFamily) {
        try {
            CreateDbClusterParameterGroupRequest groupRequest =
CreateDbClusterParameterGroupRequest.builder()
                    .dbClusterParameterGroupName(dbClusterGroupName)
                    .dbParameterGroupFamily(dbParameterGroupFamily)
```

```
                    .description("Created by using the AWS SDK for Java")
                    .build();

            CreateDbClusterParameterGroupResponse response =
 rdsClient.createDBClusterParameterGroup(groupRequest);
            System.out.println("The group name is " +
 response.dbClusterParameterGroup().dbClusterParameterGroupName());

        } catch (RdsException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void describeDBEngines(RdsClient rdsClient) {
        try {
            DescribeDbEngineVersionsRequest engineVersionsRequest =
 DescribeDbEngineVersionsRequest.builder()
                    .engine("aurora-mysql")
                    .defaultOnly(true)
                    .maxRecords(20)
                    .build();

            DescribeDbEngineVersionsResponse response =
 rdsClient.describeDBEngineVersions(engineVersionsRequest);
            List<DBEngineVersion> engines = response.dbEngineVersions();

            // Get all DBEngineVersion objects.
            for (DBEngineVersion engineOb : engines) {
                System.out.println("The name of the DB parameter group family for
 the database engine is "
                        + engineOb.dbParameterGroupFamily());
                System.out.println("The name of the database engine " +
 engineOb.engine());
                System.out.println("The version number of the database engine " +
 engineOb.engineVersion());
            }

        } catch (RdsException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - CreateDBCluster
  - CreateDBClusterParameterGroup
  - CreateDBClusterSnapshot
  - CreateDBInstance
  - DeleteDBCluster
  - DeleteDBClusterParameterGroup
  - DeleteDBInstance
  - DescribeDBClusterParameterGroups
  - DescribeDBClusterParameters
  - DescribeDBClusterSnapshots
  - DescribeDBClusters
  - DescribeDBEngineVersions
  - DescribeDBInstances
  - DescribeOrderableDBInstanceOptions
  - ModifyDBClusterParameterGroup

アクション

`CreateDBCluster`

次のコード例は、`CreateDBCluster` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static String createDBCluster(RdsClient rdsClient, String
dbParameterGroupFamily, String dbName,
           String dbClusterIdentifier, String userName, String password) {
       try {
           CreateDbClusterRequest clusterRequest = CreateDbClusterRequest.builder()
                   .databaseName(dbName)
                   .dbClusterIdentifier(dbClusterIdentifier)
                   .dbClusterParameterGroupName(dbParameterGroupFamily)
                   .engine("aurora-mysql")
                   .masterUsername(userName)
                   .masterUserPassword(password)
                   .build();

           CreateDbClusterResponse response =
rdsClient.createDBCluster(clusterRequest);
           return response.dbCluster().dbClusterArn();

       } catch (RdsException e) {
           System.out.println(e.getLocalizedMessage());
           System.exit(1);
       }
       return "";
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateDBCluster」を参照してください。

`CreateDBClusterParameterGroup`

次のコード例は、`CreateDBClusterParameterGroup` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void createDBClusterParameterGroup(RdsClient rdsClient, String
dbClusterGroupName,
           String dbParameterGroupFamily) {
       try {
           CreateDbClusterParameterGroupRequest groupRequest =
CreateDbClusterParameterGroupRequest.builder()
                   .dbClusterParameterGroupName(dbClusterGroupName)
                   .dbParameterGroupFamily(dbParameterGroupFamily)
                   .description("Created by using the AWS SDK for Java")
                   .build();

           CreateDbClusterParameterGroupResponse response =
rdsClient.createDBClusterParameterGroup(groupRequest);
           System.out.println("The group name is " +
response.dbClusterParameterGroup().dbClusterParameterGroupName());

       } catch (RdsException e) {
           System.out.println(e.getLocalizedMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateDBClusterParameterGroup」を参照してください。

`CreateDBClusterSnapshot`

次のコード例は、`CreateDBClusterSnapshot` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void createDBClusterSnapshot(RdsClient rdsClient, String
dbInstanceClusterIdentifier,
           String dbSnapshotIdentifier) {
```

```
        try {
            CreateDbClusterSnapshotRequest snapshotRequest =
CreateDbClusterSnapshotRequest.builder()
                    .dbClusterIdentifier(dbInstanceClusterIdentifier)
                    .dbClusterSnapshotIdentifier(dbSnapshotIdentifier)
                    .build();

            CreateDbClusterSnapshotResponse response =
rdsClient.createDBClusterSnapshot(snapshotRequest);
            System.out.println("The Snapshot ARN is " +
response.dbClusterSnapshot().dbClusterSnapshotArn());

        } catch (RdsException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateDBClusterSnapshot」を参照してください。

`CreateDBInstance`

次のコード例は、`CreateDBInstance` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    public static String createDBInstanceCluster(RdsClient rdsClient,
            String dbInstanceIdentifier,
            String dbInstanceClusterIdentifier,
            String instanceClass) {
        try {
            CreateDbInstanceRequest instanceRequest =
CreateDbInstanceRequest.builder()
```

```
                    .dbInstanceIdentifier(dbInstanceIdentifier)
                    .dbClusterIdentifier(dbInstanceClusterIdentifier)
                    .engine("aurora-mysql")
                    .dbInstanceClass(instanceClass)
                    .build();

            CreateDbInstanceResponse response =
rdsClient.createDBInstance(instanceRequest);
            System.out.print("The status is " +
response.dbInstance().dbInstanceStatus());
            return response.dbInstance().dbInstanceArn();

        } catch (RdsException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateDBInstance」を参照してください。

`DeleteDBCluster`

次のコード例は、`DeleteDBCluster` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    public static void deleteCluster(RdsClient rdsClient, String
dbInstanceClusterIdentifier) {
        try {
            DeleteDbClusterRequest deleteDbClusterRequest =
DeleteDbClusterRequest.builder()
                    .dbClusterIdentifier(dbInstanceClusterIdentifier)
```

```
                    .skipFinalSnapshot(true)
                    .build();

            rdsClient.deleteDBCluster(deleteDbClusterRequest);
            System.out.println(dbInstanceClusterIdentifier + " was deleted!");

        } catch (RdsException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteDBCluster」を参照してください。

`DeleteDBClusterParameterGroup`

次のコード例は、`DeleteDBClusterParameterGroup` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void deleteDBClusterGroup(RdsClient rdsClient, String
dbClusterGroupName, String clusterDBARN)
            throws InterruptedException {
        try {
            boolean isDataDel = false;
            boolean didFind;
            String instanceARN;

            // Make sure that the database has been deleted.
            while (!isDataDel) {
                DescribeDbInstancesResponse response =
rdsClient.describeDBInstances();
                List<DBInstance> instanceList = response.dbInstances();
```

```
                int listSize = instanceList.size();
                didFind = false;
                int index = 1;
                for (DBInstance instance : instanceList) {
                    instanceARN = instance.dbInstanceArn();
                    if (instanceARN.compareTo(clusterDBARN) == 0) {
                        System.out.println(clusterDBARN + " still exists");
                        didFind = true;
                    }
                    if ((index == listSize) && (!didFind)) {
                        // Went through the entire list and did not find the
database ARN.
                        isDataDel = true;
                    }
                    Thread.sleep(sleepTime * 1000);
                    index++;
                }
            }

            DeleteDbClusterParameterGroupRequest clusterParameterGroupRequest =
DeleteDbClusterParameterGroupRequest
                    .builder()
                    .dbClusterParameterGroupName(dbClusterGroupName)
                    .build();

            rdsClient.deleteDBClusterParameterGroup(clusterParameterGroupRequest);
            System.out.println(dbClusterGroupName + " was deleted.");

        } catch (RdsException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteDBClusterParameterGroup」を参照してください。

`DeleteDBInstance`

次のコード例は、`DeleteDBInstance` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void deleteDatabaseInstance(RdsClient rdsClient, String
dbInstanceIdentifier) {
       try {
           DeleteDbInstanceRequest deleteDbInstanceRequest =
DeleteDbInstanceRequest.builder()
                   .dbInstanceIdentifier(dbInstanceIdentifier)
                   .deleteAutomatedBackups(true)
                   .skipFinalSnapshot(true)
                   .build();

           DeleteDbInstanceResponse response =
rdsClient.deleteDBInstance(deleteDbInstanceRequest);
           System.out.println("The status of the database is " +
response.dbInstance().dbInstanceStatus());

       } catch (RdsException e) {
           System.out.println(e.getLocalizedMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteDBInstance」を参照してください。

`DescribeDBClusterParameterGroups`

次のコード例は、`DescribeDBClusterParameterGroups` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void describeDbClusterParameterGroups(RdsClient rdsClient, String
dbClusterGroupName) {
       try {
           DescribeDbClusterParameterGroupsRequest groupsRequest =
DescribeDbClusterParameterGroupsRequest.builder()
                   .dbClusterParameterGroupName(dbClusterGroupName)
                   .maxRecords(20)
                   .build();

           List<DBClusterParameterGroup> groups =
rdsClient.describeDBClusterParameterGroups(groupsRequest)
                   .dbClusterParameterGroups();
           for (DBClusterParameterGroup group : groups) {
               System.out.println("The group name is " +
group.dbClusterParameterGroupName());
               System.out.println("The group ARN is " +
group.dbClusterParameterGroupArn());
           }

       } catch (RdsException e) {
           System.out.println(e.getLocalizedMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeDBClusterParameterGroups」を参照してください。

`DescribeDBClusterParameters`

次のコード例は、`DescribeDBClusterParameters` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void describeDbClusterParameters(RdsClient rdsClient, String
dbCLusterGroupName, int flag) {
       try {
           DescribeDbClusterParametersRequest dbParameterGroupsRequest;
           if (flag == 0) {
               dbParameterGroupsRequest =
DescribeDbClusterParametersRequest.builder()
                       .dbClusterParameterGroupName(dbCLusterGroupName)
                       .build();
           } else {
               dbParameterGroupsRequest =
DescribeDbClusterParametersRequest.builder()
                       .dbClusterParameterGroupName(dbCLusterGroupName)
                       .source("user")
                       .build();
           }

           DescribeDbClusterParametersResponse response = rdsClient
                   .describeDBClusterParameters(dbParameterGroupsRequest);
           List<Parameter> dbParameters = response.parameters();
           String paraName;
           for (Parameter para : dbParameters) {
               // Only print out information about either auto_increment_offset or
               // auto_increment_increment.
               paraName = para.parameterName();
               if ((paraName.compareTo("auto_increment_offset") == 0)
                       || (paraName.compareTo("auto_increment_increment ") == 0)) {
                   System.out.println("*** The parameter name is  " + paraName);
                   System.out.println("*** The parameter value is  " +
para.parameterValue());
                   System.out.println("*** The parameter data type is " +
para.dataType());
                   System.out.println("*** The parameter description is " +
para.description());
```

```
                    System.out.println("*** The parameter allowed values  is " +
para.allowedValues());
                }
            }

        } catch (RdsException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeDBClusterParameters」を参照してください。

`DescribeDBClusterSnapshots`

次のコード例は、`DescribeDBClusterSnapshots` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    public static void waitForSnapshotReady(RdsClient rdsClient, String
dbSnapshotIdentifier,
            String dbInstanceClusterIdentifier) {
        try {
            boolean snapshotReady = false;
            String snapshotReadyStr;
            System.out.println("Waiting for the snapshot to become available.");

            DescribeDbClusterSnapshotsRequest snapshotsRequest =
DescribeDbClusterSnapshotsRequest.builder()
                    .dbClusterSnapshotIdentifier(dbSnapshotIdentifier)
                    .dbClusterIdentifier(dbInstanceClusterIdentifier)
                    .build();
```

```
            while (!snapshotReady) {
                DescribeDbClusterSnapshotsResponse response =
rdsClient.describeDBClusterSnapshots(snapshotsRequest);
                List<DBClusterSnapshot> snapshotList =
response.dbClusterSnapshots();
                for (DBClusterSnapshot snapshot : snapshotList) {
                    snapshotReadyStr = snapshot.status();
                    if (snapshotReadyStr.contains("available")) {
                        snapshotReady = true;
                    } else {
                        System.out.println(".");
                        Thread.sleep(sleepTime * 5000);
                    }
                }
            }

            System.out.println("The Snapshot is available!");

        } catch (RdsException | InterruptedException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeDBClusterSnapshots」を参照してください。

`DescribeDBClusters`

次のコード例は、`DescribeDBClusters` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void describeDbClusterParameters(RdsClient rdsClient, String
dbCLusterGroupName, int flag) {
       try {
           DescribeDbClusterParametersRequest dbParameterGroupsRequest;
           if (flag == 0) {
               dbParameterGroupsRequest =
DescribeDbClusterParametersRequest.builder()
                       .dbClusterParameterGroupName(dbCLusterGroupName)
                       .build();
           } else {
               dbParameterGroupsRequest =
DescribeDbClusterParametersRequest.builder()
                       .dbClusterParameterGroupName(dbCLusterGroupName)
                       .source("user")
                       .build();
           }

           DescribeDbClusterParametersResponse response = rdsClient
                   .describeDBClusterParameters(dbParameterGroupsRequest);
           List<Parameter> dbParameters = response.parameters();
           String paraName;
           for (Parameter para : dbParameters) {
               // Only print out information about either auto_increment_offset or
               // auto_increment_increment.
               paraName = para.parameterName();
               if ((paraName.compareTo("auto_increment_offset") == 0)
                       || (paraName.compareTo("auto_increment_increment ") == 0)) {
                   System.out.println("*** The parameter name is  " + paraName);
                   System.out.println("*** The parameter value is  " +
para.parameterValue());
                   System.out.println("*** The parameter data type is " +
para.dataType());
                   System.out.println("*** The parameter description is " +
para.description());
                   System.out.println("*** The parameter allowed values  is " +
para.allowedValues());
               }
           }

       } catch (RdsException e) {
           System.out.println(e.getLocalizedMessage());
           System.exit(1);
       }
```

```
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeDBClusters」を参照してください。

`DescribeDBEngineVersions`

次のコード例は、`DescribeDBEngineVersions` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void describeDBEngines(RdsClient rdsClient) {
       try {
           DescribeDbEngineVersionsRequest engineVersionsRequest =
DescribeDbEngineVersionsRequest.builder()
                   .engine("aurora-mysql")
                   .defaultOnly(true)
                   .maxRecords(20)
                   .build();

           DescribeDbEngineVersionsResponse response =
rdsClient.describeDBEngineVersions(engineVersionsRequest);
           List<DBEngineVersion> engines = response.dbEngineVersions();

           // Get all DBEngineVersion objects.
           for (DBEngineVersion engineOb : engines) {
               System.out.println("The name of the DB parameter group family for
the database engine is "
                       + engineOb.dbParameterGroupFamily());
               System.out.println("The name of the database engine " +
engineOb.engine());
               System.out.println("The version number of the database engine " +
engineOb.engineVersion());
           }
```

```
        } catch (RdsException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeDBEngineVersions」を参照してください。

`DescribeDBInstances`

次のコード例は、`DescribeDBInstances` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    // Waits until the database instance is available.
    public static void waitForInstanceReady(RdsClient rdsClient, String
dbClusterIdentifier) {
        boolean instanceReady = false;
        String instanceReadyStr;
        System.out.println("Waiting for instance to become available.");
        try {
            DescribeDbClustersRequest instanceRequest =
DescribeDbClustersRequest.builder()
                    .dbClusterIdentifier(dbClusterIdentifier)
                    .build();

            while (!instanceReady) {
                DescribeDbClustersResponse response =
rdsClient.describeDBClusters(instanceRequest);
                List<DBCluster> clusterList = response.dbClusters();
                for (DBCluster cluster : clusterList) {
                    instanceReadyStr = cluster.status();
```

```
                    if (instanceReadyStr.contains("available")) {
                        instanceReady = true;
                    } else {
                        System.out.print(".");
                        Thread.sleep(sleepTime * 1000);
                    }
                }
            }
            System.out.println("Database cluster is available!");

        } catch (RdsException | InterruptedException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeDBInstances」を参照してください。

`DescribeOrderableDBInstanceOptions`

次のコード例は、`DescribeOrderableDBInstanceOptions` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    public static void describeDBEngines(RdsClient rdsClient) {
        try {
            DescribeDbEngineVersionsRequest engineVersionsRequest =
DescribeDbEngineVersionsRequest.builder()
                    .engine("aurora-mysql")
                    .defaultOnly(true)
                    .maxRecords(20)
                    .build();
```

```
            DescribeDbEngineVersionsResponse response =
rdsClient.describeDBEngineVersions(engineVersionsRequest);
            List<DBEngineVersion> engines = response.dbEngineVersions();

            // Get all DBEngineVersion objects.
            for (DBEngineVersion engineOb : engines) {
                System.out.println("The name of the DB parameter group family for
the database engine is "
                        + engineOb.dbParameterGroupFamily());
                System.out.println("The name of the database engine " +
engineOb.engine());
                System.out.println("The version number of the database engine " +
engineOb.engineVersion());
            }

        } catch (RdsException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeOrderableDBInstanceOptions」を参照してください。

`ModifyDBClusterParameterGroup`

次のコード例は、`ModifyDBClusterParameterGroup` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    public static void describeDbClusterParameterGroups(RdsClient rdsClient, String
dbClusterGroupName) {
        try {
```

```
            DescribeDbClusterParameterGroupsRequest groupsRequest =
DescribeDbClusterParameterGroupsRequest.builder()
                    .dbClusterParameterGroupName(dbClusterGroupName)
                    .maxRecords(20)
                    .build();

            List<DBClusterParameterGroup> groups =
rdsClient.describeDBClusterParameterGroups(groupsRequest)
                    .dbClusterParameterGroups();
            for (DBClusterParameterGroup group : groups) {
                System.out.println("The group name is " +
group.dbClusterParameterGroupName());
                System.out.println("The group ARN is " +
group.dbClusterParameterGroupArn());
            }

        } catch (RdsException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ModifyDBClusterParameterGroup」を参照してください。

シナリオ

Aurora Serverless 作業項目トラッカーの作成

次のコード例は、Amazon Aurora Serverless データベースの作業項目を追跡し、Amazon Simple Email Service (Amazon SES) を使用してレポートを送信するウェブアプリケーションを作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

Amazon RDS データベースに保存されている作業項目を追跡してレポートするウェブアプリケーションを作成する方法を説明します。

Amazon Aurora サーバーレスデータをクエリする Spring REST API と React アプリケーションで使用するための完全なソースコードと設定方法については、GitHub にある完全な例を参照してください。

完全なソースコードと JDBC API を使用する例のセットアップと実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- Aurora
- Amazon RDS
- Amazon RDS データサービス
- Amazon SES

SDK for Java 2.x を使用した Auto Scaling の例

次のコード例は、Auto Scaling AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- はじめに
- 基本
- アクション
- シナリオ

はじめに

こんにちは、Auto Scaling

次のコード例は、Auto Scaling の使用を開始する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.autoscaling.AutoScalingClient;
import software.amazon.awssdk.services.autoscaling.model.AutoScalingGroup;
import
 software.amazon.awssdk.services.autoscaling.model.DescribeAutoScalingGroupsResponse;
import java.util.List;

/**
 * Before running this SDK for Java (v2) code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DescribeAutoScalingGroups {
    public static void main(String[] args) throws InterruptedException {
        AutoScalingClient autoScalingClient = AutoScalingClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        describeGroups(autoScalingClient);
    }

    public static void describeGroups(AutoScalingClient autoScalingClient) {
        DescribeAutoScalingGroupsResponse response =
 autoScalingClient.describeAutoScalingGroups();
        List<AutoScalingGroup> groups = response.autoScalingGroups();
        groups.forEach(group -> {
            System.out.println("Group Name: " + group.autoScalingGroupName());
            System.out.println("Group ARN: " + group.autoScalingGroupARN());
        });
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeAutoScalingGroups」を参照してください。

基本

基本を学ぶ

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- 起動テンプレートとアベイラビリティーゾーンを使用して、Amazon EC2 Auto Scaling グループを作成し、実行中のインスタンスに関する情報を取得します。
- Amazon CloudWatch メトリクスの収集を有効にします。
- グループの希望するキャパシティを更新し、インスタンスが起動するのを待ちます。
- グループ内の最も古いインスタンスを削除します。
- ユーザーのリクエストやキャパシティの変更に応じて発生するスケーリングアクティビティを一覧表示します。
- CloudWatch メトリクスの統計を取得して、リソースをクリーンアップします。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
/**
 * Before running this SDK for Java (v2) code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 *
 * In addition, create a launch template. For more information, see the
 * following topic:
```

```
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/AWSEC2/latest/UserGuide/ec2-launch-
templates.html#create-launch-template
 *
 * This code example performs the following operations:
 * 1. Creates an Auto Scaling group using an AutoScalingWaiter.
 * 2. Gets a specific Auto Scaling group and returns an instance Id value.
 * 3. Describes Auto Scaling with the Id value.
 * 4. Enables metrics collection.
 * 5. Update an Auto Scaling group.
 * 6. Describes Account details.
 * 7. Describe account details"
 * 8. Updates an Auto Scaling group to use an additional instance.
 * 9. Gets the specific Auto Scaling group and gets the number of instances.
 * 10. List the scaling activities that have occurred for the group.
 * 11. Terminates an instance in the Auto Scaling group.
 * 12. Stops the metrics collection.
 * 13. Deletes the Auto Scaling group.
 */

public class AutoScalingScenario {
    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");
    private static final String ROLES_STACK = "MyCdkAutoScaleStack";
    public static void main(String[] args) throws InterruptedException {
        final String usage = """

                Usage:
                    <groupName>

                Where:
                    groupName - The name of the Auto Scaling group.
                """;

        String groupName = "MyAutoScalingGroup2";
        AutoScalingClient autoScalingClient = AutoScalingClient.builder()
                .region(Region.US_WEST_2)
                .build();

        Ec2Client ec2 = Ec2Client.builder()
                .region(Region.US_WEST_2)
                .build();

        System.out.println(DASHES);
```

```
        System.out.println("Welcome to the Amazon EC2 Auto Scaling example
scenario.");
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("First, we will create a launch template using a
CloudFormation script");
        CloudFormationHelper.deployCloudFormationStack(ROLES_STACK);
        Map<String, String> stackOutputs =
CloudFormationHelper.getStackOutputsAsync(ROLES_STACK).join();
        String launchTemplateName = stackOutputs.get("LaunchTemplateNameOutput");
        String vpcZoneId = getVPC(ec2);
        updateTemlate(ec2, launchTemplateName );
        System.out.println("The VPC zone id created by the CloudFormation stack
is"+vpcZoneId);

        System.out.println("1. Create an Auto Scaling group named " + groupName);
        createAutoScalingGroup(autoScalingClient, ec2, groupName,
launchTemplateName, vpcZoneId);

        System.out.println(
                "Wait 1 min for the resources, including the instance. Otherwise, an
empty instance Id is returned");
        Thread.sleep(60000);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("2. Get Auto Scale group Id value");
        String instanceId = getSpecificAutoScalingGroups(autoScalingClient,
groupName);
        if (instanceId.compareTo("") == 0) {
            System.out.println("Error - no instance Id value");
            System.exit(1);
        } else {
            System.out.println("The instance Id value is " + instanceId);
        }
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("3. Describe Auto Scaling with the Id value " +
instanceId);
        describeAutoScalingInstance(autoScalingClient, instanceId);
        System.out.println(DASHES);
```

```
        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("4. Enable metrics collection " + instanceId);
        enableMetricsCollection(autoScalingClient, groupName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("5. Update an Auto Scaling group to update max size to
3");
        updateAutoScalingGroup(autoScalingClient, groupName, launchTemplateName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("6. Describe Auto Scaling groups");
        describeAutoScalingGroups(autoScalingClient, groupName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("7. Describe account details");
        describeAccountLimits(autoScalingClient);
        System.out.println(
                "Wait 1 min for the resources, including the instance. Otherwise, an
empty instance Id is returned");
        Thread.sleep(60000);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("8. Set desired capacity to 2");
        setDesiredCapacity(autoScalingClient, groupName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("9. Get the two instance Id values and state");
        getSpecificAutoScalingGroups(autoScalingClient, groupName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("10. List the scaling activities that have occurred for
the group");
        describeScalingActivities(autoScalingClient, groupName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("11. Terminate an instance in the Auto Scaling group");
        terminateInstanceInAutoScalingGroup(autoScalingClient, instanceId);
```

```
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("12. Stop the metrics collection");
        disableMetricsCollection(autoScalingClient, groupName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("13. Delete the Auto Scaling group and cloud formation
resources");
        CloudFormationHelper.destroyCloudFormationStack(ROLES_STACK);
        deleteAutoScalingGroup(autoScalingClient, groupName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("The Scenario has successfully completed.");
        System.out.println(DASHES);

        autoScalingClient.close();
    }

    public static String getVPC(Ec2Client ec2) {
        try {
            DescribeVpcsRequest request = DescribeVpcsRequest.builder()
                    .filters(f -> f.name("isDefault").values("true"))
                    .build();

            DescribeVpcsResponse response = ec2.describeVpcs(request);

            if (!response.vpcs().isEmpty()) {
                Vpc defaultVpc = response.vpcs().get(0);
                System.out.println("Default VPC ID: " + defaultVpc.vpcId());
                return defaultVpc.vpcId();
            } else {
                System.out.println("No default VPC found.");
                return null; // Return null if no default VPC is found
            }

        } catch (Ec2Exception e) {
            System.err.println("EC2 error: " + e.awsErrorDetails().errorMessage());
            return null; // Return null in case of an error
        }
    }
```

```
   public static void updateTemlate(Ec2Client ec2, String launchTemplateName ) {
       // Step 1: Create new launch template version
       String newAmiId = "ami-0025f0db847eb6254";
       RequestLaunchTemplateData launchTemplateData =
RequestLaunchTemplateData.builder()
               .imageId(newAmiId)
               .build();

       CreateLaunchTemplateVersionRequest createVersionRequest =
CreateLaunchTemplateVersionRequest.builder()
               .launchTemplateName(launchTemplateName)
               .versionDescription("Updated with valid AMI")
               .sourceVersion("1")
               .launchTemplateData(launchTemplateData)
               .build();

       CreateLaunchTemplateVersionResponse createResponse =
ec2.createLaunchTemplateVersion(createVersionRequest);
       int newVersionNumber =
createResponse.launchTemplateVersion().versionNumber().intValue();

       // Step 2: Modify default version
       ModifyLaunchTemplateRequest modifyRequest =
ModifyLaunchTemplateRequest.builder()
               .launchTemplateName(launchTemplateName)
               .defaultVersion(String.valueOf(newVersionNumber))
               .build();

       ec2.modifyLaunchTemplate(modifyRequest);
       System.out.println("Updated launch template to version " + newVersionNumber
+ " with AMI " + newAmiId);
   }


   public static void describeScalingActivities(AutoScalingClient
autoScalingClient, String groupName) {
       try {
           DescribeScalingActivitiesRequest scalingActivitiesRequest =
DescribeScalingActivitiesRequest.builder()
                   .autoScalingGroupName(groupName)
                   .maxRecords(10)
                   .build();
```

```
            DescribeScalingActivitiesResponse response = autoScalingClient
                    .describeScalingActivities(scalingActivitiesRequest);
            List<Activity> activities = response.activities();
            for (Activity activity : activities) {
                System.out.println("The activity Id is " + activity.activityId());
                System.out.println("The activity details are " +
activity.details());
            }

        } catch (AutoScalingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void setDesiredCapacity(AutoScalingClient autoScalingClient,
String groupName) {
        try {
            SetDesiredCapacityRequest capacityRequest =
SetDesiredCapacityRequest.builder()
                    .autoScalingGroupName(groupName)
                    .desiredCapacity(2)
                    .build();

            autoScalingClient.setDesiredCapacity(capacityRequest);
            System.out.println("You have set the DesiredCapacity to 2");

        } catch (AutoScalingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void createAutoScalingGroup(AutoScalingClient autoScalingClient,
                                               Ec2Client ec2Client,
                                               String groupName,
                                               String launchTemplateName,
                                               String vpcId) {
        try {
            // Step 1: Get one subnet ID in the given VPC
            DescribeSubnetsRequest subnetRequest = DescribeSubnetsRequest.builder()
                    .filters(Filter.builder().name("vpc-id").values(vpcId).build())
                    .build();
```

```
            DescribeSubnetsResponse subnetResponse =
ec2Client.describeSubnets(subnetRequest);

            if (subnetResponse.subnets().isEmpty()) {
                throw new RuntimeException("No subnets found in VPC: " + vpcId);
            }

            String subnetId = subnetResponse.subnets().get(0).subnetId(); // Use
first subnet
            System.out.println("Using subnet: " + subnetId);

            // Step 2: Create launch template reference
            LaunchTemplateSpecification templateSpecification =
LaunchTemplateSpecification.builder()
                    .launchTemplateName(launchTemplateName)
                    .build();

            // Step 3: Create Auto Scaling group
            CreateAutoScalingGroupRequest request =
CreateAutoScalingGroupRequest.builder()
                    .autoScalingGroupName(groupName)
                    .launchTemplate(templateSpecification)
                    .minSize(1)
                    .maxSize(1)
                    .vpcZoneIdentifier(subnetId)  // Correct: subnet ID, not VPC ID
                    .build();

            autoScalingClient.createAutoScalingGroup(request);

            // Step 4: Wait until group is created
            AutoScalingWaiter waiter = autoScalingClient.waiter();
            DescribeAutoScalingGroupsRequest groupsRequest =
DescribeAutoScalingGroupsRequest.builder()
                    .autoScalingGroupNames(groupName)
                    .build();

            WaiterResponse<DescribeAutoScalingGroupsResponse> waiterResponse =
                    waiter.waitUntilGroupExists(groupsRequest);

            waiterResponse.matched().response().ifPresent(System.out::println);
            System.out.println("Auto Scaling Group created");

        } catch (Ec2Exception | AutoScalingException e) {
            System.err.println("Error: " + e.awsErrorDetails().errorMessage());
```

```
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void describeAutoScalingInstance(AutoScalingClient
autoScalingClient, String id) {
        try {
            DescribeAutoScalingInstancesRequest describeAutoScalingInstancesRequest
= DescribeAutoScalingInstancesRequest
                    .builder()
                    .instanceIds(id)
                    .build();

            DescribeAutoScalingInstancesResponse response = autoScalingClient

.describeAutoScalingInstances(describeAutoScalingInstancesRequest);
            List<AutoScalingInstanceDetails> instances =
response.autoScalingInstances();
            for (AutoScalingInstanceDetails instance : instances) {
                System.out.println("The instance lifecycle state is: " +
instance.lifecycleState());
            }

        } catch (AutoScalingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void describeAutoScalingGroups(AutoScalingClient
autoScalingClient, String groupName) {
        try {
            DescribeAutoScalingGroupsRequest groupsRequest =
DescribeAutoScalingGroupsRequest.builder()
                    .autoScalingGroupNames(groupName)
                    .maxRecords(10)
                    .build();

            DescribeAutoScalingGroupsResponse response =
autoScalingClient.describeAutoScalingGroups(groupsRequest);
            List<AutoScalingGroup> groups = response.autoScalingGroups();
            for (AutoScalingGroup group : groups) {
                System.out.println("*** The service to use for the health checks: "
+ group.healthCheckType());
```

```
            }

        } catch (AutoScalingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static String getSpecificAutoScalingGroups(AutoScalingClient
autoScalingClient, String groupName) {
        try {
            String instanceId = "";
            DescribeAutoScalingGroupsRequest scalingGroupsRequest =
DescribeAutoScalingGroupsRequest.builder()
                    .autoScalingGroupNames(groupName)
                    .build();

            DescribeAutoScalingGroupsResponse response = autoScalingClient
                    .describeAutoScalingGroups(scalingGroupsRequest);
            List<AutoScalingGroup> groups = response.autoScalingGroups();
            for (AutoScalingGroup group : groups) {
                System.out.println("The group name is " +
group.autoScalingGroupName());
                System.out.println("The group ARN is " +
group.autoScalingGroupARN());
                List<Instance> instances = group.instances();

                for (Instance instance : instances) {
                    instanceId = instance.instanceId();
                    System.out.println("The instance id is " + instanceId);
                    System.out.println("The lifecycle state is " +
instance.lifecycleState());
                }
            }

            return instanceId;
        } catch (AutoScalingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }
```

```
   public static void enableMetricsCollection(AutoScalingClient autoScalingClient,
String groupName) {
       try {
           EnableMetricsCollectionRequest collectionRequest =
EnableMetricsCollectionRequest.builder()
                   .autoScalingGroupName(groupName)
                   .metrics("GroupMaxSize")
                   .granularity("1Minute")
                   .build();

           autoScalingClient.enableMetricsCollection(collectionRequest);
           System.out.println("The enable metrics collection operation was
successful");

       } catch (AutoScalingException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }

   public static void disableMetricsCollection(AutoScalingClient autoScalingClient,
String groupName) {
       try {
           DisableMetricsCollectionRequest disableMetricsCollectionRequest =
DisableMetricsCollectionRequest.builder()
                   .autoScalingGroupName(groupName)
                   .metrics("GroupMaxSize")
                   .build();


autoScalingClient.disableMetricsCollection(disableMetricsCollectionRequest);
           System.out.println("The disable metrics collection operation was
successful");

       } catch (AutoScalingException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }

   public static void describeAccountLimits(AutoScalingClient autoScalingClient) {
       try {
           DescribeAccountLimitsResponse response =
autoScalingClient.describeAccountLimits();
```

```
            System.out.println("The max number of auto scaling groups is " +
response.maxNumberOfAutoScalingGroups());
            System.out.println("The current number of auto scaling groups is " +
response.numberOfAutoScalingGroups());

        } catch (AutoScalingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void updateAutoScalingGroup(AutoScalingClient autoScalingClient,
String groupName,
            String launchTemplateName) {
        try {
            AutoScalingWaiter waiter = autoScalingClient.waiter();
            LaunchTemplateSpecification templateSpecification =
LaunchTemplateSpecification.builder()
                    .launchTemplateName(launchTemplateName)
                    .build();

            UpdateAutoScalingGroupRequest groupRequest =
UpdateAutoScalingGroupRequest.builder()
                    .maxSize(3)
                    .autoScalingGroupName(groupName)
                    .launchTemplate(templateSpecification)
                    .build();

            autoScalingClient.updateAutoScalingGroup(groupRequest);
            DescribeAutoScalingGroupsRequest groupsRequest =
DescribeAutoScalingGroupsRequest.builder()
                    .autoScalingGroupNames(groupName)
                    .build();

            WaiterResponse<DescribeAutoScalingGroupsResponse> waiterResponse =
waiter
                    .waitUntilGroupInService(groupsRequest);
            waiterResponse.matched().response().ifPresent(System.out::println);
            System.out.println("You successfully updated the auto scaling group  " +
groupName);

        } catch (AutoScalingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
```

```
        }
    }

    public static void terminateInstanceInAutoScalingGroup(AutoScalingClient
 autoScalingClient, String instanceId) {
        try {
            TerminateInstanceInAutoScalingGroupRequest request =
 TerminateInstanceInAutoScalingGroupRequest.builder()
                    .instanceId(instanceId)
                    .shouldDecrementDesiredCapacity(false)
                    .build();

            autoScalingClient.terminateInstanceInAutoScalingGroup(request);
            System.out.println("You have terminated instance " + instanceId);

        } catch (AutoScalingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void deleteAutoScalingGroup(AutoScalingClient autoScalingClient,
 String groupName) {
        try {
            DeleteAutoScalingGroupRequest deleteAutoScalingGroupRequest =
 DeleteAutoScalingGroupRequest.builder()
                    .autoScalingGroupName(groupName)
                    .forceDelete(true)
                    .build();

            autoScalingClient.deleteAutoScalingGroup(deleteAutoScalingGroupRequest);
            System.out.println("You successfully deleted " + groupName);

        } catch (AutoScalingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。

- CreateAutoScalingGroup
- DeleteAutoScalingGroup
- DescribeAutoScalingGroups
- DescribeAutoScalingInstances
- DescribeScalingActivities
- DisableMetricsCollection
- EnableMetricsCollection
- SetDesiredCapacity
- TerminateInstanceInAutoScalingGroup
- UpdateAutoScalingGroup

アクション

`CreateAutoScalingGroup`

次のコード例は、`CreateAutoScalingGroup` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.core.waiters.WaiterResponse;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.autoscaling.AutoScalingClient;
import software.amazon.awssdk.services.autoscaling.model.AutoScalingException;
import
 software.amazon.awssdk.services.autoscaling.model.CreateAutoScalingGroupRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.autoscaling.model.DescribeAutoScalingGroupsRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.autoscaling.model.DescribeAutoScalingGroupsResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.autoscaling.model.LaunchTemplateSpecification;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.autoscaling.waiters.AutoScalingWaiter;

/**
 * Before running this SDK for Java (v2) code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class CreateAutoScalingGroup {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <groupName> <launchTemplateName> <serviceLinkedRoleARN>
 <vpcZoneId>

                Where:
                    groupName - The name of the Auto Scaling group.
                    launchTemplateName - The name of the launch template.\s
                    vpcZoneId - A subnet Id for a virtual private cloud (VPC) where
 instances in the Auto Scaling group can be created.
                """;

        if (args.length != 3) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String groupName = args[0];
        String launchTemplateName = args[1];
        String vpcZoneId = args[2];
        AutoScalingClient autoScalingClient = AutoScalingClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        createAutoScalingGroup(autoScalingClient, groupName, launchTemplateName,
 vpcZoneId);
        autoScalingClient.close();
    }

    public static void createAutoScalingGroup(AutoScalingClient autoScalingClient,
            String groupName,
```

```
            String launchTemplateName,
            String vpcZoneId) {

        try {
            AutoScalingWaiter waiter = autoScalingClient.waiter();
            LaunchTemplateSpecification templateSpecification =
 LaunchTemplateSpecification.builder()
                    .launchTemplateName(launchTemplateName)
                    .build();

            CreateAutoScalingGroupRequest request =
 CreateAutoScalingGroupRequest.builder()
                    .autoScalingGroupName(groupName)
                    .availabilityZones("us-east-1a")
                    .launchTemplate(templateSpecification)
                    .maxSize(1)
                    .minSize(1)
                    .vpcZoneIdentifier(vpcZoneId)
                    .build();

            autoScalingClient.createAutoScalingGroup(request);
            DescribeAutoScalingGroupsRequest groupsRequest =
 DescribeAutoScalingGroupsRequest.builder()
                    .autoScalingGroupNames(groupName)
                    .build();

            WaiterResponse<DescribeAutoScalingGroupsResponse> waiterResponse =
 waiter
                    .waitUntilGroupExists(groupsRequest);
            waiterResponse.matched().response().ifPresent(System.out::println);
            System.out.println("Auto Scaling Group created");

        } catch (AutoScalingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- 詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateAutoScalingGroup」を参照してください。

DeleteAutoScalingGroup

次のコード例は、DeleteAutoScalingGroup を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.autoscaling.AutoScalingClient;
import software.amazon.awssdk.services.autoscaling.model.AutoScalingException;
import
 software.amazon.awssdk.services.autoscaling.model.DeleteAutoScalingGroupRequest;

/**
 * Before running this SDK for Java (v2) code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DeleteAutoScalingGroup {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <groupName>

                Where:
                    groupName - The name of the Auto Scaling group.
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String groupName = args[0];
```

```
        AutoScalingClient autoScalingClient = AutoScalingClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        deleteAutoScalingGroup(autoScalingClient, groupName);
        autoScalingClient.close();
    }

    public static void deleteAutoScalingGroup(AutoScalingClient autoScalingClient,
 String groupName) {
        try {
            DeleteAutoScalingGroupRequest deleteAutoScalingGroupRequest =
 DeleteAutoScalingGroupRequest.builder()
                    .autoScalingGroupName(groupName)
                    .forceDelete(true)
                    .build();

            autoScalingClient.deleteAutoScalingGroup(deleteAutoScalingGroupRequest);
            System.out.println("You successfully deleted " + groupName);

        } catch (AutoScalingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteAutoScalingGroup」を参照してください。

`DescribeAutoScalingGroups`

次のコード例は、`DescribeAutoScalingGroups` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.autoscaling.AutoScalingClient;
import software.amazon.awssdk.services.autoscaling.model.AutoScalingException;
import software.amazon.awssdk.services.autoscaling.model.AutoScalingGroup;
import
 software.amazon.awssdk.services.autoscaling.model.DescribeAutoScalingGroupsResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.autoscaling.model.DescribeAutoScalingGroupsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.autoscaling.model.Instance;
import java.util.List;

/**
 * Before running this SDK for Java (v2) code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DescribeAutoScalingInstances {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <groupName>

                Where:
                    groupName - The name of the Auto Scaling group.
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String groupName = args[0];
        AutoScalingClient autoScalingClient = AutoScalingClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        String instanceId = getAutoScaling(autoScalingClient, groupName);
        System.out.println(instanceId);
        autoScalingClient.close();
```

```
    }

    public static String getAutoScaling(AutoScalingClient autoScalingClient, String
 groupName) {
        try {
            String instanceId = "";
            DescribeAutoScalingGroupsRequest scalingGroupsRequest =
 DescribeAutoScalingGroupsRequest.builder()
                    .autoScalingGroupNames(groupName)
                    .build();

            DescribeAutoScalingGroupsResponse response = autoScalingClient
                    .describeAutoScalingGroups(scalingGroupsRequest);
            List<AutoScalingGroup> groups = response.autoScalingGroups();
            for (AutoScalingGroup group : groups) {
                System.out.println("The group name is " +
 group.autoScalingGroupName());
                System.out.println("The group ARN is " +
 group.autoScalingGroupARN());

                List<Instance> instances = group.instances();
                for (Instance instance : instances) {
                    instanceId = instance.instanceId();
                }
            }
            return instanceId;
        } catch (AutoScalingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeAutoScalingGroups」を参照してください。

DescribeAutoScalingInstances

次のコード例は、DescribeAutoScalingInstances を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void describeAutoScalingInstance(AutoScalingClient
autoScalingClient, String id) {
       try {
           DescribeAutoScalingInstancesRequest describeAutoScalingInstancesRequest
= DescribeAutoScalingInstancesRequest
                   .builder()
                   .instanceIds(id)
                   .build();

           DescribeAutoScalingInstancesResponse response = autoScalingClient

.describeAutoScalingInstances(describeAutoScalingInstancesRequest);
           List<AutoScalingInstanceDetails> instances =
response.autoScalingInstances();
           for (AutoScalingInstanceDetails instance : instances) {
               System.out.println("The instance lifecycle state is: " +
instance.lifecycleState());
           }

       } catch (AutoScalingException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeAutoScalingInstances」を参照してください。

`DescribeScalingActivities`

次のコード例は、`DescribeScalingActivities` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void describeScalingActivities(AutoScalingClient
autoScalingClient, String groupName) {
       try {
           DescribeScalingActivitiesRequest scalingActivitiesRequest =
DescribeScalingActivitiesRequest.builder()
                   .autoScalingGroupName(groupName)
                   .maxRecords(10)
                   .build();

           DescribeScalingActivitiesResponse response = autoScalingClient
                   .describeScalingActivities(scalingActivitiesRequest);
           List<Activity> activities = response.activities();
           for (Activity activity : activities) {
               System.out.println("The activity Id is " + activity.activityId());
               System.out.println("The activity details are " +
activity.details());
           }

       } catch (AutoScalingException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeScalingActivities」を参照してください。

`DisableMetricsCollection`

次のコード例は、`DisableMetricsCollection` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void disableMetricsCollection(AutoScalingClient autoScalingClient,
String groupName) {
       try {
           DisableMetricsCollectionRequest disableMetricsCollectionRequest =
DisableMetricsCollectionRequest.builder()
                   .autoScalingGroupName(groupName)
                   .metrics("GroupMaxSize")
                   .build();


autoScalingClient.disableMetricsCollection(disableMetricsCollectionRequest);
           System.out.println("The disable metrics collection operation was
successful");

       } catch (AutoScalingException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DisableMetricsCollection」を参照してください。

`EnableMetricsCollection`

次のコード例は、`EnableMetricsCollection` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void enableMetricsCollection(AutoScalingClient autoScalingClient,
String groupName) {
       try {
           EnableMetricsCollectionRequest collectionRequest =
EnableMetricsCollectionRequest.builder()
                   .autoScalingGroupName(groupName)
                   .metrics("GroupMaxSize")
                   .granularity("1Minute")
                   .build();

           autoScalingClient.enableMetricsCollection(collectionRequest);
           System.out.println("The enable metrics collection operation was
successful");

       } catch (AutoScalingException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「EnableMetricsCollection」を参照してください。

`SetDesiredCapacity`

次のコード例は、`SetDesiredCapacity` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void setDesiredCapacity(AutoScalingClient autoScalingClient,
String groupName) {
       try {
           SetDesiredCapacityRequest capacityRequest =
SetDesiredCapacityRequest.builder()
                   .autoScalingGroupName(groupName)
                   .desiredCapacity(2)
                   .build();

           autoScalingClient.setDesiredCapacity(capacityRequest);
           System.out.println("You have set the DesiredCapacity to 2");

       } catch (AutoScalingException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「SetDesiredCapacity」を参照してください。

`TerminateInstanceInAutoScalingGroup`

次のコード例は、`TerminateInstanceInAutoScalingGroup` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void terminateInstanceInAutoScalingGroup(AutoScalingClient
autoScalingClient, String instanceId) {
       try {
           TerminateInstanceInAutoScalingGroupRequest request =
TerminateInstanceInAutoScalingGroupRequest.builder()
                   .instanceId(instanceId)
                   .shouldDecrementDesiredCapacity(false)
                   .build();

           autoScalingClient.terminateInstanceInAutoScalingGroup(request);
           System.out.println("You have terminated instance " + instanceId);

       } catch (AutoScalingException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「TerminateInstanceInAutoScalingGroup」を参照してください。

`UpdateAutoScalingGroup`

次のコード例は、`UpdateAutoScalingGroup` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void updateAutoScalingGroup(AutoScalingClient autoScalingClient,
String groupName,
           String launchTemplateName) {
       try {
           AutoScalingWaiter waiter = autoScalingClient.waiter();
           LaunchTemplateSpecification templateSpecification =
LaunchTemplateSpecification.builder()
```

```
                    .launchTemplateName(launchTemplateName)
                    .build();

            UpdateAutoScalingGroupRequest groupRequest =
UpdateAutoScalingGroupRequest.builder()
                    .maxSize(3)
                    .autoScalingGroupName(groupName)
                    .launchTemplate(templateSpecification)
                    .build();

            autoScalingClient.updateAutoScalingGroup(groupRequest);
            DescribeAutoScalingGroupsRequest groupsRequest =
DescribeAutoScalingGroupsRequest.builder()
                    .autoScalingGroupNames(groupName)
                    .build();

            WaiterResponse<DescribeAutoScalingGroupsResponse> waiterResponse =
waiter
                    .waitUntilGroupInService(groupsRequest);
            waiterResponse.matched().response().ifPresent(System.out::println);
            System.out.println("You successfully updated the auto scaling group  " +
groupName);

        } catch (AutoScalingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「UpdateAutoScalingGroup」を参照してください。

シナリオ

レジリエントなサービスの構築と管理

次のコード例は、本、映画、曲のレコメンデーションを返す負荷分散型ウェブサービスの作成方法を示しています。この例は、障害に対するサービスの対応方法と、障害発生時の耐障害性を高めるためにサービスを再構築する方法を示しています。

- Amazon EC2 Auto Scaling グループを使用して、起動テンプレートに基づいて Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスを作成し、インスタンス数を所定の範囲内に維持します。
- Elastic Load Balancing で HTTP リクエストを処理して配信します。
- Auto Scaling グループ内のインスタンスの状態を監視し、正常なインスタンスにのみリクエストを転送します。
- 各 EC2 インスタンスで Python ウェブサーバーを実行して HTTP リクエストを処理します。ウェブサーバーはレコメンデーションとヘルスチェックを返します。
- Amazon DynamoDB テーブルを使用してレコメンデーションサービスをシミュレートできます。
- AWS Systems Manager パラメータを更新して、リクエストとヘルスチェックに対するウェブサーバーの応答を制御します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

コマンドプロンプトからインタラクティブなシナリオを実行します。

```
public class Main {

    public static final String fileName = "C:\\AWS\\resworkflow\
\recommendations.json"; // Modify file location.
    public static final String tableName = "doc-example-recommendation-service";
    public static final String startScript = "C:\\AWS\\resworkflow\
\server_startup_script.sh"; // Modify file location.
    public static final String policyFile = "C:\\AWS\\resworkflow\
\instance_policy.json"; // Modify file location.
    public static final String ssmJSON = "C:\\AWS\\resworkflow\
\ssm_only_policy.json"; // Modify file location.
    public static final String failureResponse = "doc-example-resilient-
architecture-failure-response";
    public static final String healthCheck = "doc-example-resilient-architecture-
health-check";
    public static final String templateName = "doc-example-resilience-template";
    public static final String roleName = "doc-example-resilience-role";
```

```
    public static final String policyName = "doc-example-resilience-pol";
    public static final String profileName = "doc-example-resilience-prof";

    public static final String badCredsProfileName = "doc-example-resilience-prof-
bc";

    public static final String targetGroupName = "doc-example-resilience-tg";
    public static final String autoScalingGroupName = "doc-example-resilience-
group";
    public static final String lbName = "doc-example-resilience-lb";
    public static final String protocol = "HTTP";
    public static final int port = 80;

    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");

    public static void main(String[] args) throws IOException, InterruptedException
 {
        Scanner in = new Scanner(System.in);
        Database database = new Database();
        AutoScaler autoScaler = new AutoScaler();
        LoadBalancer loadBalancer = new LoadBalancer();

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("Welcome to the demonstration of How to Build and Manage
 a Resilient Service!");
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("A - SETUP THE RESOURCES");
        System.out.println("Press Enter when you're ready to start deploying
 resources.");
        in.nextLine();
        deploy(loadBalancer);
        System.out.println(DASHES);
        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("B - DEMO THE RESILIENCE FUNCTIONALITY");
        System.out.println("Press Enter when you're ready.");
        in.nextLine();
        demo(loadBalancer);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("C - DELETE THE RESOURCES");
        System.out.println("""
```

```
                This concludes the demo of how to build and manage a resilient
service.
                To keep things tidy and to avoid unwanted charges on your account,
we can clean up all AWS resources
                that were created for this demo.
                """);

        System.out.println("\n Do you want to delete the resources (y/n)? ");
        String userInput = in.nextLine().trim().toLowerCase(); // Capture user input

        if (userInput.equals("y")) {
            // Delete resources here
            deleteResources(loadBalancer, autoScaler, database);
            System.out.println("Resources deleted.");
        } else {
            System.out.println("""
                    Okay, we'll leave the resources intact.
                    Don't forget to delete them when you're done with them or you
might incur unexpected charges.
                    """);
        }
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("The example has completed. ");
        System.out.println("\n Thanks for watching!");
        System.out.println(DASHES);
    }

    // Deletes the AWS resources used in this example.
    private static void deleteResources(LoadBalancer loadBalancer, AutoScaler
autoScaler, Database database)
            throws IOException, InterruptedException {
        loadBalancer.deleteLoadBalancer(lbName);
        System.out.println("*** Wait 30 secs for resource to be deleted");
        TimeUnit.SECONDS.sleep(30);
        loadBalancer.deleteTargetGroup(targetGroupName);
        autoScaler.deleteAutoScaleGroup(autoScalingGroupName);
        autoScaler.deleteRolesPolicies(policyName, roleName, profileName);
        autoScaler.deleteTemplate(templateName);
        database.deleteTable(tableName);
    }
```

```
   private static void deploy(LoadBalancer loadBalancer) throws
InterruptedException, IOException {
       Scanner in = new Scanner(System.in);
       System.out.println(
               """
                       For this demo, we'll use the AWS SDK for Java (v2) to create
several AWS resources
                       to set up a load-balanced web service endpoint and explore
some ways to make it resilient
                       against various kinds of failures.

                       Some of the resources create by this demo are:
                       \t* A DynamoDB table that the web service depends on to
provide book, movie, and song recommendations.
                       \t* An EC2 launch template that defines EC2 instances that
each contain a Python web server.
                       \t* An EC2 Auto Scaling group that manages EC2 instances
across several Availability Zones.
                       \t* An Elastic Load Balancing (ELB) load balancer that
targets the Auto Scaling group to distribute requests.
                       """);

       System.out.println("Press Enter when you're ready.");
       in.nextLine();
       System.out.println(DASHES);

       System.out.println(DASHES);
       System.out.println("Creating and populating a DynamoDB table named " +
tableName);
       Database database = new Database();
       database.createTable(tableName, fileName);
       System.out.println(DASHES);

       System.out.println(DASHES);
       System.out.println("""
               Creating an EC2 launch template that runs '{startup_script}' when an
instance starts.
               This script starts a Python web server defined in the `server.py`
script. The web server
               listens to HTTP requests on port 80 and responds to requests to '/'
and to '/healthcheck'.
               For demo purposes, this server is run as the root user. In
production, the best practice is to
               run a web server, such as Apache, with least-privileged credentials.
```

```
                The template also defines an IAM policy that each instance uses to
assume a role that grants
                permissions to access the DynamoDB recommendation table and Systems
Manager parameters
                that control the flow of the demo.
                """);

        LaunchTemplateCreator templateCreator = new LaunchTemplateCreator();
        templateCreator.createTemplate(policyFile, policyName, profileName,
startScript, templateName, roleName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println(
                "Creating an EC2 Auto Scaling group that maintains three EC2
instances, each in a different Availability Zone.");
        System.out.println("*** Wait 30 secs for the VPC to be created");
        TimeUnit.SECONDS.sleep(30);
        AutoScaler autoScaler = new AutoScaler();
        String[] zones = autoScaler.createGroup(3, templateName,
autoScalingGroupName);

        System.out.println("""
                At this point, you have EC2 instances created. Once each instance
starts, it listens for
                HTTP requests. You can see these instances in the console or
continue with the demo.
                Press Enter when you're ready to continue.
                """);

        in.nextLine();
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("Creating variables that control the flow of the demo.");
        ParameterHelper paramHelper = new ParameterHelper();
        paramHelper.reset();
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("""
                Creating an Elastic Load Balancing target group and load balancer.
The target group
```

```
                defines how the load balancer connects to instances. The load
balancer provides a
                single endpoint where clients connect and dispatches requests to
instances in the group.
                """);

        String vpcId = autoScaler.getDefaultVPC();
        List<Subnet> subnets = autoScaler.getSubnets(vpcId, zones);
        System.out.println("You have retrieved a list with " + subnets.size() + "
subnets");
        String targetGroupArn = loadBalancer.createTargetGroup(protocol, port,
vpcId, targetGroupName);
        String elbDnsName = loadBalancer.createLoadBalancer(subnets, targetGroupArn,
lbName, port, protocol);
        autoScaler.attachLoadBalancerTargetGroup(autoScalingGroupName,
targetGroupArn);
        System.out.println("Verifying access to the load balancer endpoint...");
        boolean wasSuccessul = loadBalancer.verifyLoadBalancerEndpoint(elbDnsName);
        if (!wasSuccessul) {
            System.out.println("Couldn't connect to the load balancer, verifying
that the port is open...");
            CloseableHttpClient httpClient = HttpClients.createDefault();

            // Create an HTTP GET request to "http://checkip.amazonaws.com"
            HttpGet httpGet = new HttpGet("http://checkip.amazonaws.com");
            try {
                // Execute the request and get the response
                HttpResponse response = httpClient.execute(httpGet);

                // Read the response content.
                String ipAddress =
IOUtils.toString(response.getEntity().getContent(), StandardCharsets.UTF_8).trim();

                // Print the public IP address.
                System.out.println("Public IP Address: " + ipAddress);
                GroupInfo groupInfo = autoScaler.verifyInboundPort(vpcId, port,
ipAddress);
                if (!groupInfo.isPortOpen()) {
                    System.out.println("""
                            For this example to work, the default security group for
your default VPC must
                            allow access from this computer. You can either add it
automatically from this
```

```
                            example or add it yourself using the AWS Management
Console.
                            """);

                    System.out.println(
                            "Do you want to add a rule to security group " +
groupInfo.getGroupName() + " to allow");
                    System.out.println("inbound traffic on port " + port + " from
your computer's IP address (y/n) ");
                    String ans = in.nextLine();
                    if ("y".equalsIgnoreCase(ans)) {
                        autoScaler.openInboundPort(groupInfo.getGroupName(),
String.valueOf(port), ipAddress);
                        System.out.println("Security group rule added.");
                    } else {
                        System.out.println("No security group rule added.");
                    }
                }

            } catch (AutoScalingException e) {
                e.printStackTrace();
            }
        } else if (wasSuccessul) {
            System.out.println("Your load balancer is ready. You can access it by
browsing to:");
            System.out.println("\t http://" + elbDnsName);
        } else {
            System.out.println("Couldn't get a successful response from the load
balancer endpoint. Troubleshoot by");
            System.out.println("manually verifying that your VPC and security group
are configured correctly and that");
            System.out.println("you can successfully make a GET request to the load
balancer.");
        }

        System.out.println("Press Enter when you're ready to continue with the
demo.");
        in.nextLine();
    }

    // A method that controls the demo part of the Java program.
    public static void demo(LoadBalancer loadBalancer) throws IOException,
InterruptedException {
        ParameterHelper paramHelper = new ParameterHelper();
```

```
        System.out.println("Read the ssm_only_policy.json file");
        String ssmOnlyPolicy = readFileAsString(ssmJSON);

        System.out.println("Resetting parameters to starting values for demo.");
        paramHelper.reset();

        System.out.println(
                """
                        This part of the demonstration shows how to toggle
different parts of the system
                        to create situations where the web service fails, and shows
how using a resilient
                        architecture can keep the web service running in spite of
these failures.

                        At the start, the load balancer endpoint returns
recommendations and reports that all targets are healthy.
                       """);
        demoChoices(loadBalancer);

        System.out.println(
                """
                        The web service running on the EC2 instances gets
recommendations by querying a DynamoDB table.
                        The table name is contained in a Systems Manager parameter
named self.param_helper.table.
                        To simulate a failure of the recommendation service, let's
set this parameter to name a non-existent table.
                       """);
        paramHelper.put(paramHelper.tableName, "this-is-not-a-table");

        System.out.println(
                """
                        \nNow, sending a GET request to the load balancer endpoint
returns a failure code. But, the service reports as
                        healthy to the load balancer because shallow health checks
don't check for failure of the recommendation service.
                       """);
        demoChoices(loadBalancer);

        System.out.println(
                """
                       Instead of failing when the recommendation service fails,
the web service can return a static response.
```

```
                        While this is not a perfect solution, it presents the
customer with a somewhat better experience than failure.
                        """);
        paramHelper.put(paramHelper.failureResponse, "static");

        System.out.println("""
                Now, sending a GET request to the load balancer endpoint returns a
static response.
                The service still reports as healthy because health checks are still
shallow.
                """);
        demoChoices(loadBalancer);

        System.out.println("Let's reinstate the recommendation service.");
        paramHelper.put(paramHelper.tableName, paramHelper.dyntable);

        System.out.println("""
                Let's also substitute bad credentials for one of the instances in
the target group so that it can't
                access the DynamoDB recommendation table. We will get an instance id
value.
                """);

        LaunchTemplateCreator templateCreator = new LaunchTemplateCreator();
        AutoScaler autoScaler = new AutoScaler();

        // Create a new instance profile based on badCredsProfileName.
        templateCreator.createInstanceProfile(policyFile, policyName,
badCredsProfileName, roleName);
        String badInstanceId = autoScaler.getBadInstance(autoScalingGroupName);
        System.out.println("The bad instance id values used for this demo is " +
badInstanceId);

        String profileAssociationId = autoScaler.getInstanceProfile(badInstanceId);
        System.out.println("The association Id value is " + profileAssociationId);
        System.out.println("Replacing the profile for instance " + badInstanceId
                + " with a profile that contains bad credentials");
        autoScaler.replaceInstanceProfile(badInstanceId, badCredsProfileName,
profileAssociationId);

        System.out.println(
                """
                        Now, sending a GET request to the load balancer endpoint
returns either a recommendation or a static response,
```

```
                        depending on which instance is selected by the load
balancer.
                        """);

        demoChoices(loadBalancer);

        System.out.println("""
                Let's implement a deep health check. For this demo, a deep health
check tests whether
                the web service can access the DynamoDB table that it depends on for
recommendations. Note that
                the deep health check is only for ELB routing and not for Auto
Scaling instance health.
                This kind of deep health check is not recommended for Auto Scaling
instance health, because it
                risks accidental termination of all instances in the Auto Scaling
group when a dependent service fails.
                """);

        System.out.println("""
                By implementing deep health checks, the load balancer can detect
when one of the instances is failing
                and take that instance out of rotation.
                """);

        paramHelper.put(paramHelper.healthCheck, "deep");

        System.out.println("""
                Now, checking target health indicates that the instance with bad
credentials
                is unhealthy. Note that it might take a minute or two for the load
balancer to detect the unhealthy
                instance. Sending a GET request to the load balancer endpoint always
returns a recommendation, because
                the load balancer takes unhealthy instances out of its rotation.
                """);

        demoChoices(loadBalancer);

        System.out.println(
                """
                        Because the instances in this demo are controlled by an auto
scaler, the simplest way to fix an unhealthy
```

```
                        instance is to terminate it and let the auto scaler start a
new instance to replace it.
                        """);
        autoScaler.terminateInstance(badInstanceId);

        System.out.println("""
                Even while the instance is terminating and the new instance is
starting, sending a GET
                request to the web service continues to get a successful
recommendation response because
                the load balancer routes requests to the healthy instances. After
the replacement instance
                starts and reports as healthy, it is included in the load balancing
rotation.
                Note that terminating and replacing an instance typically takes
several minutes, during which time you
                can see the changing health check status until the new instance is
running and healthy.
                """);

        demoChoices(loadBalancer);
        System.out.println(
                "If the recommendation service fails now, deep health checks mean
all instances report as unhealthy.");
        paramHelper.put(paramHelper.tableName, "this-is-not-a-table");

        demoChoices(loadBalancer);
        paramHelper.reset();
    }

    public static void demoChoices(LoadBalancer loadBalancer) throws IOException,
InterruptedException {
        String[] actions = {
                "Send a GET request to the load balancer endpoint.",
                "Check the health of load balancer targets.",
                "Go to the next part of the demo."
        };
        Scanner scanner = new Scanner(System.in);

        while (true) {
            System.out.println("-".repeat(88));
            System.out.println("See the current state of the service by selecting
one of the following choices:");
            for (int i = 0; i < actions.length; i++) {
```

```
                System.out.println(i + ": " + actions[i]);
            }

            try {
                System.out.print("\nWhich action would you like to take? ");
                int choice = scanner.nextInt();
                System.out.println("-".repeat(88));

                switch (choice) {
                    case 0 -> {
                        System.out.println("Request:\n");
                        System.out.println("GET http://" +
loadBalancer.getEndpoint(lbName));
                        CloseableHttpClient httpClient =
HttpClients.createDefault();

                        // Create an HTTP GET request to the ELB.
                        HttpGet httpGet = new HttpGet("http://" +
loadBalancer.getEndpoint(lbName));

                        // Execute the request and get the response.
                        HttpResponse response = httpClient.execute(httpGet);
                        int statusCode = response.getStatusLine().getStatusCode();
                        System.out.println("HTTP Status Code: " + statusCode);

                        // Display the JSON response
                        BufferedReader reader = new BufferedReader(
                                new
InputStreamReader(response.getEntity().getContent()));
                        StringBuilder jsonResponse = new StringBuilder();
                        String line;
                        while ((line = reader.readLine()) != null) {
                            jsonResponse.append(line);
                        }
                        reader.close();

                        // Print the formatted JSON response.
                        System.out.println("Full Response:\n");
                        System.out.println(jsonResponse.toString());

                        // Close the HTTP client.
                        httpClient.close();

                    }
```

```
                    case 1 -> {
                        System.out.println("\nChecking the health of load balancer
 targets:\n");
                        List<TargetHealthDescription> health =
 loadBalancer.checkTargetHealth(targetGroupName);
                        for (TargetHealthDescription target : health) {
                            System.out.printf("\tTarget %s on port %d is %s%n",
 target.target().id(),
                                    target.target().port(),
 target.targetHealth().stateAsString());
                        }
                        System.out.println("""
                                Note that it can take a minute or two for the health
 check to update
                                after changes are made.
                                """);
                    }
                    case 2 -> {
                        System.out.println("\nOkay, let's move on.");
                        System.out.println("-".repeat(88));
                        return; // Exit the method when choice is 2
                    }
                    default -> System.out.println("You must choose a value between
 0-2. Please select again.");
                }

            } catch (java.util.InputMismatchException e) {
                System.out.println("Invalid input. Please select again.");
                scanner.nextLine(); // Clear the input buffer.
            }
        }
    }

    public static String readFileAsString(String filePath) throws IOException {
        byte[] bytes = Files.readAllBytes(Paths.get(filePath));
        return new String(bytes);
    }
}
```

Auto Scaling と Amazon EC2 のアクションをラップするクラスを作成します。

```
public class AutoScaler {
```

```
    private static Ec2Client ec2Client;
    private static AutoScalingClient autoScalingClient;
    private static IamClient iamClient;

    private static SsmClient ssmClient;

    private IamClient getIAMClient() {
        if (iamClient == null) {
            iamClient = IamClient.builder()
                    .region(Region.US_EAST_1)
                    .build();
        }
        return iamClient;
    }

    private SsmClient getSSMClient() {
        if (ssmClient == null) {
            ssmClient = SsmClient.builder()
                    .region(Region.US_EAST_1)
                    .build();
        }
        return ssmClient;
    }

    private Ec2Client getEc2Client() {
        if (ec2Client == null) {
            ec2Client = Ec2Client.builder()
                    .region(Region.US_EAST_1)
                    .build();
        }
        return ec2Client;
    }

    private AutoScalingClient getAutoScalingClient() {
        if (autoScalingClient == null) {
            autoScalingClient = AutoScalingClient.builder()
                    .region(Region.US_EAST_1)
                    .build();
        }
        return autoScalingClient;
    }

    /**
```

```
    * Terminates and instances in an EC2 Auto Scaling group. After an instance is
    * terminated, it can no longer be accessed.
    */
   public void terminateInstance(String instanceId) {
       TerminateInstanceInAutoScalingGroupRequest terminateInstanceIRequest =
TerminateInstanceInAutoScalingGroupRequest
               .builder()
               .instanceId(instanceId)
               .shouldDecrementDesiredCapacity(false)
               .build();


getAutoScalingClient().terminateInstanceInAutoScalingGroup(terminateInstanceIRequest);
       System.out.format("Terminated instance %s.", instanceId);
   }

   /**
    * Replaces the profile associated with a running instance. After the profile is
    * replaced, the instance is rebooted to ensure that it uses the new profile.
    * When
    * the instance is ready, Systems Manager is used to restart the Python web
    * server.
    */
   public void replaceInstanceProfile(String instanceId, String
newInstanceProfileName, String profileAssociationId)
           throws InterruptedException {
       // Create an IAM instance profile specification.
       software.amazon.awssdk.services.ec2.model.IamInstanceProfileSpecification
iamInstanceProfile =
software.amazon.awssdk.services.ec2.model.IamInstanceProfileSpecification
               .builder()
               .name(newInstanceProfileName) // Make sure 'newInstanceProfileName'
is a valid IAM Instance Profile
                                             // name.
               .build();

       // Replace the IAM instance profile association for the EC2 instance.
       ReplaceIamInstanceProfileAssociationRequest replaceRequest =
ReplaceIamInstanceProfileAssociationRequest
               .builder()
               .iamInstanceProfile(iamInstanceProfile)
               .associationId(profileAssociationId) // Make sure
'profileAssociationId' is a valid association ID.
               .build();
```

```
        try {
            getEc2Client().replaceIamInstanceProfileAssociation(replaceRequest);
            // Handle the response as needed.
        } catch (Ec2Exception e) {
            // Handle exceptions, log, or report the error.
            System.err.println("Error: " + e.getMessage());
        }
        System.out.format("Replaced instance profile for association %s with profile
%s.", profileAssociationId,
                newInstanceProfileName);
        TimeUnit.SECONDS.sleep(15);
        boolean instReady = false;
        int tries = 0;

        // Reboot after 60 seconds
        while (!instReady) {
            if (tries % 6 == 0) {
                getEc2Client().rebootInstances(RebootInstancesRequest.builder()
                        .instanceIds(instanceId)
                        .build());
                System.out.println("Rebooting instance " + instanceId + " and
waiting for it to be ready.");
            }
            tries++;
            try {
                TimeUnit.SECONDS.sleep(10);
            } catch (InterruptedException e) {
                e.printStackTrace();
            }

            DescribeInstanceInformationResponse informationResponse =
getSSMClient().describeInstanceInformation();
            List<InstanceInformation> instanceInformationList =
informationResponse.instanceInformationList();
            for (InstanceInformation info : instanceInformationList) {
                if (info.instanceId().equals(instanceId)) {
                    instReady = true;
                    break;
                }
            }
        }

        SendCommandRequest sendCommandRequest = SendCommandRequest.builder()
```

```
                .instanceIds(instanceId)
                .documentName("AWS-RunShellScript")
                .parameters(Collections.singletonMap("commands",
                        Collections.singletonList("cd / && sudo python3 server.py
80")))
                .build();

        getSSMClient().sendCommand(sendCommandRequest);
        System.out.println("Restarted the Python web server on instance " +
instanceId + ".");
    }

    public void openInboundPort(String secGroupId, String port, String ipAddress) {
        AuthorizeSecurityGroupIngressRequest ingressRequest =
AuthorizeSecurityGroupIngressRequest.builder()
                .groupName(secGroupId)
                .cidrIp(ipAddress)
                .fromPort(Integer.parseInt(port))
                .build();

        getEc2Client().authorizeSecurityGroupIngress(ingressRequest);
        System.out.format("Authorized ingress to %s on port %s from %s.",
secGroupId, port, ipAddress);
    }

    /**
     * Detaches a role from an instance profile, detaches policies from the role,
     * and deletes all the resources.
     */
    public void deleteInstanceProfile(String roleName, String profileName) {
        try {
            software.amazon.awssdk.services.iam.model.GetInstanceProfileRequest
getInstanceProfileRequest =
software.amazon.awssdk.services.iam.model.GetInstanceProfileRequest
                    .builder()
                    .instanceProfileName(profileName)
                    .build();

            GetInstanceProfileResponse response =
getIAMClient().getInstanceProfile(getInstanceProfileRequest);
            String name = response.instanceProfile().instanceProfileName();
            System.out.println(name);
```

```
            RemoveRoleFromInstanceProfileRequest profileRequest =
RemoveRoleFromInstanceProfileRequest.builder()
                    .instanceProfileName(profileName)
                    .roleName(roleName)
                    .build();

            getIAMClient().removeRoleFromInstanceProfile(profileRequest);
            DeleteInstanceProfileRequest deleteInstanceProfileRequest =
DeleteInstanceProfileRequest.builder()
                    .instanceProfileName(profileName)
                    .build();

            getIAMClient().deleteInstanceProfile(deleteInstanceProfileRequest);
            System.out.println("Deleted instance profile " + profileName);

            DeleteRoleRequest deleteRoleRequest = DeleteRoleRequest.builder()
                    .roleName(roleName)
                    .build();

            // List attached role policies.
            ListAttachedRolePoliciesResponse rolesResponse = getIAMClient()
                    .listAttachedRolePolicies(role -> role.roleName(roleName));
            List<AttachedPolicy> attachedPolicies =
rolesResponse.attachedPolicies();
            for (AttachedPolicy attachedPolicy : attachedPolicies) {
                DetachRolePolicyRequest request = DetachRolePolicyRequest.builder()
                        .roleName(roleName)
                        .policyArn(attachedPolicy.policyArn())
                        .build();

                getIAMClient().detachRolePolicy(request);
                System.out.println("Detached and deleted policy " +
attachedPolicy.policyName());
            }

            getIAMClient().deleteRole(deleteRoleRequest);
            System.out.println("Instance profile and role deleted.");

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

```
   public void deleteTemplate(String templateName) {
       getEc2Client().deleteLaunchTemplate(name ->
name.launchTemplateName(templateName));
       System.out.format(templateName + " was deleted.");
   }

   public void deleteAutoScaleGroup(String groupName) {
       DeleteAutoScalingGroupRequest deleteAutoScalingGroupRequest =
DeleteAutoScalingGroupRequest.builder()
               .autoScalingGroupName(groupName)
               .forceDelete(true)
               .build();


getAutoScalingClient().deleteAutoScalingGroup(deleteAutoScalingGroupRequest);
       System.out.println(groupName + " was deleted.");
   }

   /*
    * Verify the default security group of the specified VPC allows ingress from
    * this
    * computer. This can be done by allowing ingress from this computer's IP
    * address. In some situations, such as connecting from a corporate network, you
    * must instead specify a prefix list ID. You can also temporarily open the port
    * to
    * any IP address while running this example. If you do, be sure to remove
    * public
    * access when you're done.
    *
    */
   public GroupInfo verifyInboundPort(String VPC, int port, String ipAddress) {
       boolean portIsOpen = false;
       GroupInfo groupInfo = new GroupInfo();
       try {
           Filter filter = Filter.builder()
                   .name("group-name")
                   .values("default")
                   .build();

           Filter filter1 = Filter.builder()
                   .name("vpc-id")
                   .values(VPC)
                   .build();
```

```
            DescribeSecurityGroupsRequest securityGroupsRequest =
DescribeSecurityGroupsRequest.builder()
                    .filters(filter, filter1)
                    .build();

            DescribeSecurityGroupsResponse securityGroupsResponse = getEc2Client()
                    .describeSecurityGroups(securityGroupsRequest);
            String securityGroup =
securityGroupsResponse.securityGroups().get(0).groupName();
            groupInfo.setGroupName(securityGroup);

            for (SecurityGroup secGroup : securityGroupsResponse.securityGroups()) {
                System.out.println("Found security group: " + secGroup.groupId());

                for (IpPermission ipPermission : secGroup.ipPermissions()) {
                    if (ipPermission.fromPort() == port) {
                        System.out.println("Found inbound rule: " + ipPermission);
                        for (IpRange ipRange : ipPermission.ipRanges()) {
                            String cidrIp = ipRange.cidrIp();
                            if (cidrIp.startsWith(ipAddress) ||
cidrIp.equals("0.0.0.0/0")) {
                                System.out.println(cidrIp + " is applicable");
                                portIsOpen = true;
                            }
                        }

                        if (!ipPermission.prefixListIds().isEmpty()) {
                            System.out.println("Prefix lList is applicable");
                            portIsOpen = true;
                        }

                        if (!portIsOpen) {
                            System.out
                                    .println("The inbound rule does not appear to be
open to either this computer's IP,"
                                            + " all IP addresses (0.0.0.0/0), or to
a prefix list ID.");
                        } else {
                            break;
                        }
                    }
                }
            }
```

```
        } catch (AutoScalingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
        }

        groupInfo.setPortOpen(portIsOpen);
        return groupInfo;
    }

    /*
     * Attaches an Elastic Load Balancing (ELB) target group to this EC2 Auto
     * Scaling group.
     * The target group specifies how the load balancer forward requests to the
     * instances
     * in the group.
     */
    public void attachLoadBalancerTargetGroup(String asGroupName, String
targetGroupARN) {
        try {
            AttachLoadBalancerTargetGroupsRequest targetGroupsRequest =
AttachLoadBalancerTargetGroupsRequest.builder()
                    .autoScalingGroupName(asGroupName)
                    .targetGroupARNs(targetGroupARN)
                    .build();


getAutoScalingClient().attachLoadBalancerTargetGroups(targetGroupsRequest);
            System.out.println("Attached load balancer to " + asGroupName);

        } catch (AutoScalingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    // Creates an EC2 Auto Scaling group with the specified size.
    public String[] createGroup(int groupSize, String templateName, String
autoScalingGroupName) {

        // Get availability zones.
        software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeAvailabilityZonesRequest
zonesRequest =
software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeAvailabilityZonesRequest
                .builder()
                .build();
```

```
        DescribeAvailabilityZonesResponse zonesResponse =
getEc2Client().describeAvailabilityZones(zonesRequest);
        List<String> availabilityZoneNames =
zonesResponse.availabilityZones().stream()

.map(software.amazon.awssdk.services.ec2.model.AvailabilityZone::zoneName)
                .collect(Collectors.toList());

        String availabilityZones = String.join(",", availabilityZoneNames);
        LaunchTemplateSpecification specification =
LaunchTemplateSpecification.builder()
                .launchTemplateName(templateName)
                .version("$Default")
                .build();

        String[] zones = availabilityZones.split(",");
        CreateAutoScalingGroupRequest groupRequest =
CreateAutoScalingGroupRequest.builder()
                .launchTemplate(specification)
                .availabilityZones(zones)
                .maxSize(groupSize)
                .minSize(groupSize)
                .autoScalingGroupName(autoScalingGroupName)
                .build();

        try {
            getAutoScalingClient().createAutoScalingGroup(groupRequest);

        } catch (AutoScalingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        System.out.println("Created an EC2 Auto Scaling group named " +
autoScalingGroupName);
        return zones;
    }

    public String getDefaultVPC() {
        // Define the filter.
        Filter defaultFilter = Filter.builder()
                .name("is-default")
                .values("true")
                .build();
```

```
        software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeVpcsRequest request =
software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeVpcsRequest
                .builder()
                .filters(defaultFilter)
                .build();

        DescribeVpcsResponse response = getEc2Client().describeVpcs(request);
        return response.vpcs().get(0).vpcId();
    }

    // Gets the default subnets in a VPC for a specified list of Availability Zones.
    public List<Subnet> getSubnets(String vpcId, String[] availabilityZones) {
        List<Subnet> subnets = null;
        Filter vpcFilter = Filter.builder()
                .name("vpc-id")
                .values(vpcId)
                .build();

        Filter azFilter = Filter.builder()
                .name("availability-zone")
                .values(availabilityZones)
                .build();

        Filter defaultForAZ = Filter.builder()
                .name("default-for-az")
                .values("true")
                .build();

        DescribeSubnetsRequest request = DescribeSubnetsRequest.builder()
                .filters(vpcFilter, azFilter, defaultForAZ)
                .build();

        DescribeSubnetsResponse response = getEc2Client().describeSubnets(request);
        subnets = response.subnets();
        return subnets;
    }

    // Gets data about the instances in the EC2 Auto Scaling group.
    public String getBadInstance(String groupName) {
        DescribeAutoScalingGroupsRequest request =
DescribeAutoScalingGroupsRequest.builder()
                .autoScalingGroupNames(groupName)
                .build();
```

```
        DescribeAutoScalingGroupsResponse response =
getAutoScalingClient().describeAutoScalingGroups(request);
        AutoScalingGroup autoScalingGroup = response.autoScalingGroups().get(0);
        List<String> instanceIds = autoScalingGroup.instances().stream()
                .map(instance -> instance.instanceId())
                .collect(Collectors.toList());

        String[] instanceIdArray = instanceIds.toArray(new String[0]);
        for (String instanceId : instanceIdArray) {
            System.out.println("Instance ID: " + instanceId);
            return instanceId;
        }
        return "";
    }

    // Gets data about the profile associated with an instance.
    public String getInstanceProfile(String instanceId) {
        Filter filter = Filter.builder()
                .name("instance-id")
                .values(instanceId)
                .build();

        DescribeIamInstanceProfileAssociationsRequest associationsRequest =
DescribeIamInstanceProfileAssociationsRequest
                .builder()
                .filters(filter)
                .build();

        DescribeIamInstanceProfileAssociationsResponse response = getEc2Client()
                .describeIamInstanceProfileAssociations(associationsRequest);
        return response.iamInstanceProfileAssociations().get(0).associationId();
    }

    public void deleteRolesPolicies(String policyName, String roleName, String
InstanceProfile) {
        ListPoliciesRequest listPoliciesRequest =
ListPoliciesRequest.builder().build();
        ListPoliciesResponse listPoliciesResponse =
getIAMClient().listPolicies(listPoliciesRequest);
        for (Policy policy : listPoliciesResponse.policies()) {
            if (policy.policyName().equals(policyName)) {
                // List the entities (users, groups, roles) that are attached to the
policy.
```

```
 software.amazon.awssdk.services.iam.model.ListEntitiesForPolicyRequest
 listEntitiesRequest =
 software.amazon.awssdk.services.iam.model.ListEntitiesForPolicyRequest
                        .builder()
                        .policyArn(policy.arn())
                        .build();
                ListEntitiesForPolicyResponse listEntitiesResponse = iamClient
                        .listEntitiesForPolicy(listEntitiesRequest);
                if (!listEntitiesResponse.policyGroups().isEmpty() || !
listEntitiesResponse.policyUsers().isEmpty()
                        || !listEntitiesResponse.policyRoles().isEmpty()) {
                    // Detach the policy from any entities it is attached to.
                    DetachRolePolicyRequest detachPolicyRequest =
 DetachRolePolicyRequest.builder()
                            .policyArn(policy.arn())
                            .roleName(roleName) // Specify the name of the IAM role
                            .build();

                    getIAMClient().detachRolePolicy(detachPolicyRequest);
                    System.out.println("Policy detached from entities.");
                }

                // Now, you can delete the policy.
                DeletePolicyRequest deletePolicyRequest =
 DeletePolicyRequest.builder()
                        .policyArn(policy.arn())
                        .build();

                getIAMClient().deletePolicy(deletePolicyRequest);
                System.out.println("Policy deleted successfully.");
                break;
            }
        }

        // List the roles associated with the instance profile
        ListInstanceProfilesForRoleRequest listRolesRequest =
 ListInstanceProfilesForRoleRequest.builder()
                .roleName(roleName)
                .build();

        // Detach the roles from the instance profile
        ListInstanceProfilesForRoleResponse listRolesResponse =
 iamClient.listInstanceProfilesForRole(listRolesRequest);
```

```
        for (software.amazon.awssdk.services.iam.model.InstanceProfile profile :
 listRolesResponse.instanceProfiles()) {
            RemoveRoleFromInstanceProfileRequest removeRoleRequest =
 RemoveRoleFromInstanceProfileRequest.builder()
                    .instanceProfileName(InstanceProfile)
                    .roleName(roleName) // Remove the extra dot here
                    .build();

            getIAMClient().removeRoleFromInstanceProfile(removeRoleRequest);
            System.out.println("Role " + roleName + " removed from instance profile
 " + InstanceProfile);
        }

        // Delete the instance profile after removing all roles
        DeleteInstanceProfileRequest deleteInstanceProfileRequest =
 DeleteInstanceProfileRequest.builder()
                .instanceProfileName(InstanceProfile)
                .build();

        getIAMClient().deleteInstanceProfile(r ->
 r.instanceProfileName(InstanceProfile));
        System.out.println(InstanceProfile + " Deleted");
        System.out.println("All roles and policies are deleted.");
    }
}
```

Elastic Load Balancing のアクションをラップするクラスを作成します。

```
public class LoadBalancer {
    public ElasticLoadBalancingV2Client elasticLoadBalancingV2Client;

    public ElasticLoadBalancingV2Client getLoadBalancerClient() {
        if (elasticLoadBalancingV2Client == null) {
            elasticLoadBalancingV2Client = ElasticLoadBalancingV2Client.builder()
                    .region(Region.US_EAST_1)
                    .build();
        }

        return elasticLoadBalancingV2Client;
    }

    // Checks the health of the instances in the target group.
```

```
   public List<TargetHealthDescription> checkTargetHealth(String targetGroupName) {
       DescribeTargetGroupsRequest targetGroupsRequest =
DescribeTargetGroupsRequest.builder()
               .names(targetGroupName)
               .build();

       DescribeTargetGroupsResponse tgResponse =
getLoadBalancerClient().describeTargetGroups(targetGroupsRequest);

       DescribeTargetHealthRequest healthRequest =
DescribeTargetHealthRequest.builder()
               .targetGroupArn(tgResponse.targetGroups().get(0).targetGroupArn())
               .build();

       DescribeTargetHealthResponse healthResponse =
getLoadBalancerClient().describeTargetHealth(healthRequest);
       return healthResponse.targetHealthDescriptions();
   }

   // Gets the HTTP endpoint of the load balancer.
   public String getEndpoint(String lbName) {
       DescribeLoadBalancersResponse res = getLoadBalancerClient()
               .describeLoadBalancers(describe -> describe.names(lbName));
       return res.loadBalancers().get(0).dnsName();
   }

   // Deletes a load balancer.
   public void deleteLoadBalancer(String lbName) {
       try {
           // Use a waiter to delete the Load Balancer.
           DescribeLoadBalancersResponse res = getLoadBalancerClient()
                   .describeLoadBalancers(describe -> describe.names(lbName));
           ElasticLoadBalancingV2Waiter loadBalancerWaiter =
getLoadBalancerClient().waiter();
           DescribeLoadBalancersRequest request =
DescribeLoadBalancersRequest.builder()
                   .loadBalancerArns(res.loadBalancers().get(0).loadBalancerArn())
                   .build();

           getLoadBalancerClient().deleteLoadBalancer(
                   builder ->
builder.loadBalancerArn(res.loadBalancers().get(0).loadBalancerArn()));
           WaiterResponse<DescribeLoadBalancersResponse> waiterResponse =
loadBalancerWaiter
```

```
                    .waitUntilLoadBalancersDeleted(request);
            waiterResponse.matched().response().ifPresent(System.out::println);

        } catch (ElasticLoadBalancingV2Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
        }
        System.out.println(lbName + " was deleted.");
    }

    // Deletes the target group.
    public void deleteTargetGroup(String targetGroupName) {
        try {
            DescribeTargetGroupsResponse res = getLoadBalancerClient()
                    .describeTargetGroups(describe ->
describe.names(targetGroupName));
            getLoadBalancerClient()
                    .deleteTargetGroup(builder ->
builder.targetGroupArn(res.targetGroups().get(0).targetGroupArn()));
        } catch (ElasticLoadBalancingV2Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
        }
        System.out.println(targetGroupName + " was deleted.");
    }

    // Verify this computer can successfully send a GET request to the load balancer
    // endpoint.
    public boolean verifyLoadBalancerEndpoint(String elbDnsName) throws IOException,
InterruptedException {
        boolean success = false;
        int retries = 3;
        CloseableHttpClient httpClient = HttpClients.createDefault();

        // Create an HTTP GET request to the ELB.
        HttpGet httpGet = new HttpGet("http://" + elbDnsName);
        try {
            while ((!success) && (retries > 0)) {
                // Execute the request and get the response.
                HttpResponse response = httpClient.execute(httpGet);
                int statusCode = response.getStatusLine().getStatusCode();
                System.out.println("HTTP Status Code: " + statusCode);
                if (statusCode == 200) {
                    success = true;
                } else {
                    retries--;
```

```
                    System.out.println("Got connection error from load balancer
endpoint, retrying...");
                    TimeUnit.SECONDS.sleep(15);
                }
            }

        } catch (org.apache.http.conn.HttpHostConnectException e) {
            System.out.println(e.getMessage());
        }

        System.out.println("Status.." + success);
        return success;
    }

    /*
     * Creates an Elastic Load Balancing target group. The target group specifies
     * how
     * the load balancer forward requests to instances in the group and how instance
     * health is checked.
     */
    public String createTargetGroup(String protocol, int port, String vpcId, String
targetGroupName) {
        CreateTargetGroupRequest targetGroupRequest =
CreateTargetGroupRequest.builder()
                .healthCheckPath("/healthcheck")
                .healthCheckTimeoutSeconds(5)
                .port(port)
                .vpcId(vpcId)
                .name(targetGroupName)
                .protocol(protocol)
                .build();

        CreateTargetGroupResponse targetGroupResponse =
getLoadBalancerClient().createTargetGroup(targetGroupRequest);
        String targetGroupArn =
targetGroupResponse.targetGroups().get(0).targetGroupArn();
        String targetGroup =
targetGroupResponse.targetGroups().get(0).targetGroupName();
        System.out.println("The " + targetGroup + " was created with ARN" +
targetGroupArn);
        return targetGroupArn;
    }

    /*
```

```
    * Creates an Elastic Load Balancing load balancer that uses the specified
    * subnets
    * and forwards requests to the specified target group.
    */
   public String createLoadBalancer(List<Subnet> subnetIds, String targetGroupARN,
String lbName, int port,
           String protocol) {
       try {
           List<String> subnetIdStrings = subnetIds.stream()
                   .map(Subnet::subnetId)
                   .collect(Collectors.toList());

           CreateLoadBalancerRequest balancerRequest =
CreateLoadBalancerRequest.builder()
                   .subnets(subnetIdStrings)
                   .name(lbName)
                   .scheme("internet-facing")
                   .build();

           // Create and wait for the load balancer to become available.
           CreateLoadBalancerResponse lsResponse =
getLoadBalancerClient().createLoadBalancer(balancerRequest);
           String lbARN = lsResponse.loadBalancers().get(0).loadBalancerArn();

           ElasticLoadBalancingV2Waiter loadBalancerWaiter =
getLoadBalancerClient().waiter();
           DescribeLoadBalancersRequest request =
DescribeLoadBalancersRequest.builder()
                   .loadBalancerArns(lbARN)
                   .build();

           System.out.println("Waiting for Load Balancer " + lbName + " to become
available.");
           WaiterResponse<DescribeLoadBalancersResponse> waiterResponse =
loadBalancerWaiter
                   .waitUntilLoadBalancerAvailable(request);
           waiterResponse.matched().response().ifPresent(System.out::println);
           System.out.println("Load Balancer " + lbName + " is available.");

           // Get the DNS name (endpoint) of the load balancer.
           String lbDNSName = lsResponse.loadBalancers().get(0).dnsName();
           System.out.println("*** Load Balancer DNS Name: " + lbDNSName);

           // Create a listener for the load balance.
```

```
            Action action = Action.builder()
                    .targetGroupArn(targetGroupARN)
                    .type("forward")
                    .build();

            CreateListenerRequest listenerRequest = CreateListenerRequest.builder()

 .loadBalancerArn(lsResponse.loadBalancers().get(0).loadBalancerArn())
                    .defaultActions(action)
                    .port(port)
                    .protocol(protocol)
                    .build();

            getLoadBalancerClient().createListener(listenerRequest);
            System.out.println("Created listener to forward traffic from load
 balancer " + lbName + " to target group "
                    + targetGroupARN);

            // Return the load balancer DNS name.
            return lbDNSName;

        } catch (ElasticLoadBalancingV2Exception e) {
            e.printStackTrace();
        }
        return "";
    }
}
```

DynamoDB を使用してレコメンデーションサービスをシミュレートするクラスを作成します。

```
public class Database {

    private static DynamoDbClient dynamoDbClient;

    public static DynamoDbClient getDynamoDbClient() {
        if (dynamoDbClient == null) {
            dynamoDbClient = DynamoDbClient.builder()
                    .region(Region.US_EAST_1)
                    .build();
        }
        return dynamoDbClient;
    }
```

```
   // Checks to see if the Amazon DynamoDB table exists.
   private boolean doesTableExist(String tableName) {
       try {
           // Describe the table and catch any exceptions.
           DescribeTableRequest describeTableRequest =
DescribeTableRequest.builder()
                   .tableName(tableName)
                   .build();

           getDynamoDbClient().describeTable(describeTableRequest);
           System.out.println("Table '" + tableName + "' exists.");
           return true;

       } catch (ResourceNotFoundException e) {
           System.out.println("Table '" + tableName + "' does not exist.");
       } catch (DynamoDbException e) {
           System.err.println("Error checking table existence: " + e.getMessage());
       }
       return false;
   }

   /*
    * Creates a DynamoDB table to use a recommendation service. The table has a
    * hash key named 'MediaType' that defines the type of media recommended, such
    * as
    * Book or Movie, and a range key named 'ItemId' that, combined with the
    * MediaType,
    * forms a unique identifier for the recommended item.
    */
   public void createTable(String tableName, String fileName) throws IOException {
       // First check to see if the table exists.
       boolean doesExist = doesTableExist(tableName);
       if (!doesExist) {
           DynamoDbWaiter dbWaiter = getDynamoDbClient().waiter();
           CreateTableRequest createTableRequest = CreateTableRequest.builder()
                   .tableName(tableName)
                   .attributeDefinitions(
                           AttributeDefinition.builder()
                                   .attributeName("MediaType")
                                   .attributeType(ScalarAttributeType.S)
                                   .build(),
                           AttributeDefinition.builder()
                                   .attributeName("ItemId")
```

```
                                .attributeType(ScalarAttributeType.N)
                                .build())
                .keySchema(
                        KeySchemaElement.builder()
                                .attributeName("MediaType")
                                .keyType(KeyType.HASH)
                                .build(),
                        KeySchemaElement.builder()
                                .attributeName("ItemId")
                                .keyType(KeyType.RANGE)
                                .build())
                .provisionedThroughput(
                        ProvisionedThroughput.builder()
                                .readCapacityUnits(5L)
                                .writeCapacityUnits(5L)
                                .build())
                .build();

        getDynamoDbClient().createTable(createTableRequest);
        System.out.println("Creating table " + tableName + "...");

        // Wait until the Amazon DynamoDB table is created.
        DescribeTableRequest tableRequest = DescribeTableRequest.builder()
                .tableName(tableName)
                .build();

        WaiterResponse<DescribeTableResponse> waiterResponse =
dbWaiter.waitUntilTableExists(tableRequest);
        waiterResponse.matched().response().ifPresent(System.out::println);
        System.out.println("Table " + tableName + " created.");

        // Add records to the table.
        populateTable(fileName, tableName);
    }
}

public void deleteTable(String tableName) {
    getDynamoDbClient().deleteTable(table -> table.tableName(tableName));
    System.out.println("Table " + tableName + " deleted.");
}

// Populates the table with data located in a JSON file using the DynamoDB
// enhanced client.
```

```
    public void populateTable(String fileName, String tableName) throws IOException
 {
        DynamoDbEnhancedClient enhancedClient = DynamoDbEnhancedClient.builder()
                .dynamoDbClient(getDynamoDbClient())
                .build();
        ObjectMapper objectMapper = new ObjectMapper();
        File jsonFile = new File(fileName);
        JsonNode rootNode = objectMapper.readTree(jsonFile);

        DynamoDbTable<Recommendation> mappedTable = enhancedClient.table(tableName,
                TableSchema.fromBean(Recommendation.class));
        for (JsonNode currentNode : rootNode) {
            String mediaType = currentNode.path("MediaType").path("S").asText();
            int itemId = currentNode.path("ItemId").path("N").asInt();
            String title = currentNode.path("Title").path("S").asText();
            String creator = currentNode.path("Creator").path("S").asText();

            // Create a Recommendation object and set its properties.
            Recommendation rec = new Recommendation();
            rec.setMediaType(mediaType);
            rec.setItemId(itemId);
            rec.setTitle(title);
            rec.setCreator(creator);

            // Put the item into the DynamoDB table.
            mappedTable.putItem(rec); // Add the Recommendation to the list.
        }
        System.out.println("Added all records to the " + tableName);
    }
}
```

Systems Manager のアクションをラップするクラスを作成します。

```
public class ParameterHelper {

    String tableName = "doc-example-resilient-architecture-table";
    String dyntable = "doc-example-recommendation-service";
    String failureResponse = "doc-example-resilient-architecture-failure-response";
    String healthCheck = "doc-example-resilient-architecture-health-check";

    public void reset() {
        put(dyntable, tableName);
```

```
        put(failureResponse, "none");
        put(healthCheck, "shallow");
    }

    public void put(String name, String value) {
        SsmClient ssmClient = SsmClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        PutParameterRequest parameterRequest = PutParameterRequest.builder()
                .name(name)
                .value(value)
                .overwrite(true)
                .type("String")
                .build();

        ssmClient.putParameter(parameterRequest);
        System.out.printf("Setting demo parameter %s to '%s'.", name, value);
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - AttachLoadBalancerTargetGroups
  - CreateAutoScalingGroup
  - CreateInstanceProfile
  - CreateLaunchTemplate
  - CreateListener
  - CreateLoadBalancer
  - CreateTargetGroup
  - DeleteAutoScalingGroup
  - DeleteInstanceProfile
  - DeleteLaunchTemplate
  - DeleteLoadBalancer
  - DeleteTargetGroup
  - DescribeAutoScalingGroups

- DescribeAvailabilityZones
- DescribeIamInstanceProfileAssociations
- DescribeInstances
- DescribeLoadBalancers
- DescribeSubnets
- DescribeTargetGroups
- DescribeTargetHealth
- DescribeVpcs
- RebootInstances
- ReplaceIamInstanceProfileAssociation
- TerminateInstanceInAutoScalingGroup
- UpdateAutoScalingGroup

AWS Batch SDK for Java 2.x を使用した の例

次のコード例は、 AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています AWS Batch。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- はじめに
- 基本
- アクション

はじめに

こんにち AWS Batchは

次のコード例は、 AWS Batchの使用を開始する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.core.client.config.ClientOverrideConfiguration;
import software.amazon.awssdk.core.retry.RetryPolicy;
import software.amazon.awssdk.http.async.SdkAsyncHttpClient;
import software.amazon.awssdk.http.nio.netty.NettyNioAsyncHttpClient;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.batch.BatchAsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.JobStatus;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.JobSummary;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.ListJobsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.batch.paginators.ListJobsPublisher;
import java.time.Duration;
import java.util.ArrayList;
import java.util.List;
import java.util.concurrent.CompletableFuture;

public class HelloBatch {
    private static BatchAsyncClient batchClient;

    public static void main(String[] args) {
        List<JobSummary> jobs = listJobs("my-job-queue");
        jobs.forEach(job ->
            System.out.printf("Job ID: %s, Job Name: %s, Job Status: %s%n",
                job.jobId(), job.jobName(), job.status())
        );
    }

    public static List<JobSummary> listJobs(String jobQueue) {
        if (jobQueue == null || jobQueue.isEmpty()) {
```

```
            throw new IllegalArgumentException("Job queue cannot be null or empty");
        }

        ListJobsRequest listJobsRequest = ListJobsRequest.builder()
            .jobQueue(jobQueue)
            .jobStatus(JobStatus.SUCCEEDED)
            .build();

        List<JobSummary> jobSummaries = new ArrayList<>();
        ListJobsPublisher listJobsPaginator =
getAsyncClient().listJobsPaginator(listJobsRequest);
        CompletableFuture<Void> future = listJobsPaginator.subscribe(response -> {
            jobSummaries.addAll(response.jobSummaryList());
        });

        future.join();
        return jobSummaries;
    }

    private static BatchAsyncClient getAsyncClient() {
        SdkAsyncHttpClient httpClient = NettyNioAsyncHttpClient.builder()
            .maxConcurrency(100)  // Increase max concurrency to handle more
simultaneous connections.
            .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(60))  // Set the connection
timeout.
            .readTimeout(Duration.ofSeconds(60))  // Set the read timeout.
            .writeTimeout(Duration.ofSeconds(60))  // Set the write timeout.
            .build();

        ClientOverrideConfiguration overrideConfig =
ClientOverrideConfiguration.builder()
            .apiCallTimeout(Duration.ofMinutes(2))  // Set the overall API call
timeout.
            .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(90))  // Set the individual
call attempt timeout.
            .retryPolicy(RetryPolicy.builder()  // Add a retry policy to handle
transient errors.
                .numRetries(3)  // Number of retry attempts.
                .build())
            .build();

        if (batchClient == null) {
            batchClient = BatchAsyncClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
```

```
                .httpClient(httpClient)
                .overrideConfiguration(overrideConfig)
                .build();
        }
        return batchClient;
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「listJobsPaginator」を参照してください。

基本

基本を学ぶ

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- AWS Batch コンピューティング環境を作成します。
- コンピューティング環境のステータスを確認する。
- AWS Batch ジョブキューとジョブ定義を設定します。
- ジョブ定義を登録する。
- AWS Batch ジョブを送信します。
- ジョブキューに該当するジョブのリストを取得する。
- ジョブのステータスを確認する。
- AWS Batch リソースを削除します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

AWS Batch 機能を示すインタラクティブなシナリオを実行します。

```
import org.slf4j.Logger;
```

```
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.BatchException;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.ClientException;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.CreateComputeEnvironmentResponse;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.JobSummary;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.Ec2AsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeSecurityGroupsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeSecurityGroupsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeSubnetsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeSubnetsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeVpcsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.Filter;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.SecurityGroup;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.Subnet;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.Vpc;
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import java.util.List;
import java.util.Map;
import java.util.Scanner;
import java.util.UUID;
import java.util.concurrent.CompletableFuture;
import java.util.concurrent.CompletionException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 *
 * NOTE
 * This scenario submits a job that pulls a Docker image named echo-text from Amazon
 ECR to Amazon Fargate.
 *
 * To place this Docker image on Amazon ECR, run the following Basics scenario.
 *
 * https://github.com/awsdocs/aws-doc-sdk-examples/tree/main/javav2/example_code/ecr
 *
 */
public class BatchScenario {
    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");
```

```
    // Define two stacks used in this Basics Scenario.
    private static final String ROLES_STACK = "RolesStack";
    private static String defaultSubnet;
    private static String defaultSecurityGroup;

    private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(BatchScenario.class);

    public static void main(String[] args) throws InterruptedException {

        BatchActions batchActions = new BatchActions();
        Scanner scanner = new Scanner(System.in);
        String computeEnvironmentName = "my-compute-environment";
        String jobQueueName = "my-job-queue";
        String jobDefinitionName = "my-job-definition";


        // See the NOTE in this Java code example (at start).
        String dockerImage = "dkr.ecr.us-east-1.amazonaws.com/echo-text:echo-text";

        logger.info("""
            AWS Batch is a fully managed batch processing service that dynamically
 provisions the required compute
            resources for batch computing workloads. The Java V2 `BatchAsyncClient`
 allows
            developers to automate the submission, monitoring, and management of
 batch jobs.

            This scenario provides an example of setting up a compute environment,
 job queue and job definition,
            and then submitting a job.

            This scenario submits a job that pulls a Docker image named echo-text
 from Amazon ECR to Amazon Fargate.

            To place this Docker image on Amazon ECR, run the following Basics
 scenario.

            https://github.com/awsdocs/aws-doc-sdk-examples/tree/main/javav2/
example_code/ecr

            Let's get started...

            You have two choices:
```

```
            1 - Run the entire program.
            2 - Delete an existing Compute Environment (created from a previous
execution of
            this program that did not complete).
            """);

        while (true) {
            String input = scanner.nextLine();
            if (input.trim().equalsIgnoreCase("1")) {
                logger.info("Continuing with the program...");
               // logger.info("");
                break;
            } else if (input.trim().equalsIgnoreCase("2")) {
                String jobQueueARN = String.valueOf(batchActions.
describeJobQueueAsync(computeEnvironmentName));
                if (!jobQueueARN.isEmpty()) {
                    batchActions.disableJobQueueAsync(jobQueueARN);
                    countdown(1);
                    batchActions.deleteJobQueueAsync(jobQueueARN);
                }

                try {

batchActions.disableComputeEnvironmentAsync(computeEnvironmentName)
                        .exceptionally(ex -> {
                            logger.info("Disable compute environment failed: " +
ex.getMessage());
                            return null;
                        })
                        .join();
                } catch (CompletionException ex) {
                    logger.info("Failed to disable compute environment: " +
ex.getMessage());
                }
                countdown(2);

batchActions.deleteComputeEnvironmentAsync(computeEnvironmentName).join();
                return;
            } else {
                // Handle invalid input.
                logger.info("Invalid input. Please try again.");
            }
        }
```

```
        System.out.println(DASHES);

        waitForInputToContinue(scanner);
        // Get an AWS Account id used to retrieve the docker image from Amazon ECR.
        // Create a single-element array to store the `accountId` value.
        String[] accId = new String[1];
        CompletableFuture<String> accountIdFuture = batchActions.getAccountId();
        accountIdFuture.thenAccept(accountId -> {
            logger.info("Account ID: " + accountId);
            accId[0] = accountId;
        }).join();

        dockerImage = accId[0]+"."+dockerImage;

        // Get a default subnet and default security associated with the default
VPC.
        getSubnetSecurityGroup();

        logger.info("Use AWS CloudFormation to create two IAM roles that are
required for this scenario.");
        CloudFormationHelper.deployCloudFormationStack(ROLES_STACK);

        Map<String, String> stackOutputs =
CloudFormationHelper.getStackOutputs(ROLES_STACK);
        String batchIAMRole = stackOutputs.get("BatchRoleArn");
        String executionRoleARN = stackOutputs.get("EcsRoleArn");

        logger.info("The IAM role needed to interact with AWS Batch is
"+batchIAMRole);
        waitForInputToContinue(scanner);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("1. Create a Batch compute environment");
        logger.info("""
            A compute environment is a resource where you can run your batch jobs.
            After creating a compute environment, you can define job queues and job
definitions to submit jobs for
            execution.

            The benefit of creating a compute environment is it allows you to easily
configure and manage the compute
            resources that will be used to run your Batch jobs. By separating the
compute environment from the job definitions,
```

```
            you can easily scale your compute resources up or down as needed,
without having to modify your job definitions.
            This makes it easier to manage your Batch workloads and ensures that
your jobs have the necessary
            compute resources to run efficiently.
            """);

        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            CompletableFuture<CreateComputeEnvironmentResponse> future =
batchActions.createComputeEnvironmentAsync(computeEnvironmentName, batchIAMRole,
defaultSubnet, defaultSecurityGroup);
            CreateComputeEnvironmentResponse response = future.join();
            logger.info("Compute Environment ARN: " +
response.computeEnvironmentArn());
        } catch (RuntimeException rte) {
            Throwable cause = rte.getCause();
            if (cause instanceof ClientException batchExceptionEx) {
                String myErrorCode =
batchExceptionEx.awsErrorDetails().errorMessage();
                if ("Object already exists".contains(myErrorCode)) {
                    logger.info("The compute environment '" + computeEnvironmentName
+ "' already exists. Moving on...");
                } else {
                    logger.info("Batch error occurred: {} (Code: {})",
batchExceptionEx.getMessage(), batchExceptionEx.awsErrorDetails().errorCode());
                    return;
                }
            } else {
                    logger.info("An unexpected error occurred: {}", (cause != null ?
cause.getMessage() : rte.getMessage()));
            }
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("2. Check the status of the "+computeEnvironmentName +" Compute
Environment.");
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            CompletableFuture<String> future =
batchActions.checkComputeEnvironmentsStatus(computeEnvironmentName);
            String status = future.join();
```

```
            logger.info("Compute Environment Status: " + status);

        } catch (RuntimeException rte) {
            Throwable cause = rte.getCause();
            if (cause instanceof ClientException batchExceptionEx) {
                logger.info("Batch error occurred: {} (Code: {})",
batchExceptionEx.getMessage(), batchExceptionEx.awsErrorDetails().errorCode());
                return;
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + (cause != null ?
cause.getMessage() : rte.getMessage()));
                return;
            }
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("3. Create a job queue");
        logger.info("""
             A job queue is an essential component that helps manage the execution
of your batch jobs.
             It acts as a buffer, where jobs are placed and then scheduled for
execution based on their
             priority and the available resources in the compute environment.
             """);
        waitForInputToContinue(scanner);

        String jobQueueArn = null;
        try {
            CompletableFuture<String> jobQueueFuture =
batchActions.createJobQueueAsync(jobQueueName, computeEnvironmentName);
            jobQueueArn = jobQueueFuture.join();
            logger.info("Job Queue ARN: " + jobQueueArn);

        } catch (RuntimeException rte) {
            Throwable cause = rte.getCause();
            if (cause instanceof BatchException batchExceptionEx) {
                String myErrorCode =
batchExceptionEx.awsErrorDetails().errorMessage();
                if ("Object already exists".contains(myErrorCode)) {
                    logger.info("The job queue '" + jobQueueName + "' already
exists. Moving on...");
                    // Retrieve the ARN of the job queue.
```

```
                    CompletableFuture<String> jobQueueArnFuture =
batchActions.getJobQueueARN(jobQueueName);
                    jobQueueArn = jobQueueArnFuture.join();
                    logger.info("Job Queue ARN: " + jobQueueArn);
                } else {
                    logger.info("Batch error occurred: {} (Code: {})",
batchExceptionEx.getMessage(), batchExceptionEx.awsErrorDetails().errorCode());
                    return;
                }
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + (cause != null ?
cause.getMessage() : rte.getMessage()));
                return; // End the execution
            }
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info("4. Register a Job Definition.");
        logger.info("""
            Registering a job in AWS Batch using the Fargate launch type ensures
that all
            necessary parameters, such as the execution role, command to run, and so
on
            are specified and reused across multiple job submissions.

             The job definition pulls a Docker image from Amazon ECR and executes
the Docker image.
            """);

        waitForInputToContinue(scanner);
        String jobARN;
        try {
            String platform = "";
            while (true) {
                logger.info("""
                    On which platform/CPU architecture combination did you build the
Docker image?:
                    1. Windows       X86_64
                    2. Mac or Linux  ARM64
                    3. Mac or Linux  X86_64

                    Please select 1, 2, or 3.
                    """);
```

```
                String platAns = scanner.nextLine().trim();
                if (platAns.equals("1")) {
                    platform = "X86_64";
                    break; // Exit loop since a valid option is selected
                } else if (platAns.equals("2")) {
                    platform = "ARM64";
                    break; // Exit loop since a valid option is selected
                } else if (platAns.equals("3")) {
                    platform = "X86_64";
                    break; // Exit loop since a valid option is selected
                } else {
                    System.out.println("Invalid input. Please select either 1 or
2.");
                }
            }

            jobARN = batchActions.registerJobDefinitionAsync(jobDefinitionName,
executionRoleARN, dockerImage, platform)
                .exceptionally(ex -> {
                    System.err.println("Register job definition failed: " +
ex.getMessage());
                    return null;
                })
                .join();
            if (jobARN != null) {
                logger.info("Job ARN: " + jobARN);
            }
        } catch (RuntimeException rte) {
            logger.error("A Batch exception occurred while registering the job: {}",
rte.getCause() != null ? rte.getCause().getMessage() : rte.getMessage());
            return;
        }
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("5. Submit an AWS Batch job from a job definition.");
        waitForInputToContinue(scanner);
        String jobId;
        try {
            jobId = batchActions.submitJobAsync(jobDefinitionName, jobQueueName,
jobARN)
                .exceptionally(ex -> {
                    System.err.println("Submit job failed: " + ex.getMessage());
                    return null;
```

```
                })
                .join();

            logger.info("The job id is "+jobId);
            logger.info("Let's wait 2 minutes for the job to complete");
            countdown(2);

        } catch (RuntimeException rte) {
            logger.error("A Batch exception occurred while submitting the job: {}",
rte.getCause() != null ? rte.getCause().getMessage() : rte.getMessage());
            return;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        System.out.println(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("6. Get a list of jobs applicable to the job queue.");

        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            List<JobSummary> jobs = batchActions.listJobsAsync(jobQueueName);
            jobs.forEach(job ->
                logger.info("Job ID: {}, Job Name: {}, Job Status: {}", job.jobId(),
job.jobName(), job.status()));

        } catch (RuntimeException rte) {
            logger.info("A Batch exception occurred while submitting the job: {}",
rte.getCause() != null ? rte.getCause().getMessage() : rte.getMessage());
            return;
        }

        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("7. Check the status of job "+jobId);
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            CompletableFuture<String> future = batchActions.describeJobAsync(jobId);
            String jobStatus = future.join();
            logger.info("Job Status: " + jobStatus);

        } catch (RuntimeException rte) {
```

```
            logger.info("A Batch exception occurred while submitting the job: {}",
rte.getCause() != null ? rte.getCause().getMessage() : rte.getMessage());
            return;
        }

        waitForInputToContinue(scanner);
        System.out.println(DASHES);

        logger.info("8. Delete Batch resources");
        logger.info(
            """
            When deleting an AWS Batch compute environment, it does not happen
instantaneously.
            There is typically a delay, similar to some other AWS resources.
            AWS Batch starts the deletion process.
            """);
        logger.info("Would you like to delete the AWS Batch resources such as the
compute environment? (y/n)");
        String delAns = scanner.nextLine().trim();
        if (delAns.equalsIgnoreCase("y")) {
            logger.info("You selected to delete the AWS ECR resources.");
            logger.info("First, we will deregister the Job Definition.");
            waitForInputToContinue(scanner);
            try {
                batchActions.deregisterJobDefinitionAsync(jobARN)
                    .exceptionally(ex -> {
                        logger.info("Deregister job definition failed: " +
ex.getMessage());
                        return null;
                    })
                    .join();
                logger.info(jobARN + " was deregistered");
            } catch (RuntimeException rte) {
                logger.error("A Batch exception occurred: {}", rte.getCause() !=
null ? rte.getCause().getMessage() : rte.getMessage());
                return;
            }

            logger.info("Second, we will disable and then delete the Job Queue.");
            waitForInputToContinue(scanner);
            try {
                batchActions.disableJobQueueAsync(jobQueueArn)
                    .exceptionally(ex -> {
                        logger.info("Disable job queue failed: " + ex.getMessage());
```

```
                        return null;
                    })
                    .join();
                logger.info(jobQueueArn + " was disabled");
            } catch (RuntimeException rte) {
                logger.info("A Batch exception occurred: {}", rte.getCause() !=
null ? rte.getCause().getMessage() : rte.getMessage());
                return;
            }

            batchActions.waitForJobQueueToBeDisabledAsync(jobQueueArn);
            try {
                CompletableFuture<Void> future =
batchActions.waitForJobQueueToBeDisabledAsync(jobQueueArn);
                future.join();
                logger.info("Job queue is now disabled.");
            } catch (RuntimeException rte) {
                logger.info("A Batch exception occurred: {}", rte.getCause() !=
null ? rte.getCause().getMessage() : rte.getMessage());
                return;
            }

            waitForInputToContinue(scanner);
            try {
                batchActions.deleteJobQueueAsync(jobQueueArn);
                logger.info(jobQueueArn +" was deleted");
            } catch (RuntimeException rte) {
                logger.info("A Batch exception occurred: {}", rte.getCause() !=
null ? rte.getCause().getMessage() : rte.getMessage());
                return;
            }
            logger.info("Let's wait 2 minutes for the job queue to be deleted");
            countdown(2);
            waitForInputToContinue(scanner);

            logger.info("Third, we will delete the Compute Environment.");
            waitForInputToContinue(scanner);
            try {
                batchActions.disableComputeEnvironmentAsync(computeEnvironmentName)
                    .exceptionally(ex -> {
                        System.err.println("Disable compute environment failed: " +
ex.getMessage());
                        return null;
                    })
```

```
                    .join();
                logger.info("Compute environment disabled") ;
            } catch (RuntimeException rte) {
                logger.info("A Batch exception occurred: {}", rte.getCause() !=
null ? rte.getCause().getMessage() : rte.getMessage());
                return;
            }


batchActions.checkComputeEnvironmentsStatus(computeEnvironmentName).thenAccept(state
-> {
                logger.info("Current State: " + state);
            }).join();

            logger.info("Lets wait 1 min for the compute environment to be
deleted");
            countdown(1);

            try {

batchActions.deleteComputeEnvironmentAsync(computeEnvironmentName).join();
                logger.info(computeEnvironmentName +" was deleted.");

            } catch (RuntimeException rte) {
                logger.info("A Batch exception occurred: {}", rte.getCause() !=
null ? rte.getCause().getMessage() : rte.getMessage());
                return;
            }
            waitForInputToContinue(scanner);
            CloudFormationHelper.destroyCloudFormationStack(ROLES_STACK);
        }

        logger.info(DASHES);
        logger.info("This concludes the AWS Batch SDK scenario");
        logger.info(DASHES);
    }

    private static void waitForInputToContinue(Scanner scanner) {
        while (true) {
            logger.info("");
            logger.info("Enter 'c' followed by <ENTER> to continue:");
            String input = scanner.nextLine();

            if (input.trim().equalsIgnoreCase("c")) {
```

```
                logger.info("Continuing with the program...");
                logger.info("");
                break;
            } else {
                // Handle invalid input.
                logger.info("Invalid input. Please try again.");
            }
        }
    }

    public static void countdown(int minutes) throws InterruptedException {
        int seconds = 0;
        for (int i = minutes * 60 + seconds; i >= 0; i--) {
            int displayMinutes = i / 60;
            int displaySeconds = i % 60;
            System.out.print(String.format("\r%02d:%02d", displayMinutes,
displaySeconds));
            Thread.sleep(1000); // Wait for 1 second
        }
        logger.info("Countdown complete!");
    }

    private static void getSubnetSecurityGroup() {
        try (Ec2AsyncClient ec2Client = Ec2AsyncClient.create()) {
            CompletableFuture<Vpc> defaultVpcFuture =
ec2Client.describeVpcs(DescribeVpcsRequest.builder()
                            .filters(Filter.builder()
                                    .name("is-default")
                                    .values("true")
                                    .build())
                            .build())
                    .thenApply(response -> response.vpcs().stream()
                            .findFirst()
                            .orElseThrow(() -> new RuntimeException("Default VPC not
found")));

            CompletableFuture<String> defaultSubnetFuture = defaultVpcFuture
                    .thenCompose(vpc ->
ec2Client.describeSubnets(DescribeSubnetsRequest.builder()
                                    .filters(Filter.builder()
                                                    .name("vpc-id")
                                                    .values(vpc.vpcId())
                                                    .build(),
                                            Filter.builder()
```

```
                                                    .name("default-for-az")
                                                    .values("true")
                                                    .build())
                                            .build())
                                    .thenApply(DescribeSubnetsResponse::subnets)
                                    .thenApply(subnets -> subnets.stream()
                                            .findFirst()
                                            .map(Subnet::subnetId)
                                            .orElseThrow(() -> new RuntimeException("No
 default subnet found"))));

            CompletableFuture<String> defaultSecurityGroupFuture = defaultVpcFuture
                    .thenCompose(vpc ->
 ec2Client.describeSecurityGroups(DescribeSecurityGroupsRequest.builder()
                                    .filters(Filter.builder()
                                                    .name("group-name")
                                                    .values("default")
                                                    .build(),
                                            Filter.builder()
                                                    .name("vpc-id")
                                                    .values(vpc.vpcId())
                                                    .build())
                                    .build())

 .thenApply(DescribeSecurityGroupsResponse::securityGroups)
                                    .thenApply(securityGroups -> securityGroups.stream()
                                            .findFirst()
                                            .map(SecurityGroup::groupId)
                                            .orElseThrow(() -> new RuntimeException("No
 default security group found"))));

            defaultSubnet = defaultSubnetFuture.join();
            defaultSecurityGroup = defaultSecurityGroupFuture.join();
        }
    }
}
```

AWS Batch SDK メソッドのラッパークラス。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.core.client.config.ClientOverrideConfiguration;
```

```
import software.amazon.awssdk.core.retry.RetryPolicy;
import software.amazon.awssdk.http.async.SdkAsyncHttpClient;
import software.amazon.awssdk.http.nio.netty.NettyNioAsyncHttpClient;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.batch.BatchAsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.batch.BatchClient;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.AssignPublicIp;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.BatchException;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.CEState;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.CEType;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.CRType;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.ComputeEnvironmentOrder;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.ComputeResource;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.ContainerProperties;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.CreateComputeEnvironmentRequest;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.CreateComputeEnvironmentResponse;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.CreateJobQueueRequest;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.DeleteComputeEnvironmentRequest;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.DeleteComputeEnvironmentResponse;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.DeleteJobQueueRequest;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.DeleteJobQueueResponse;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.DeregisterJobDefinitionRequest;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.DeregisterJobDefinitionResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.batch.model.DescribeComputeEnvironmentsRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.batch.model.DescribeComputeEnvironmentsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.DescribeJobQueuesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.DescribeJobQueuesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.DescribeJobsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.DescribeJobsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.JQState;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.JobDefinitionType;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.JobDetail;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.JobQueueDetail;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.JobStatus;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.JobSummary;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.ListJobsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.RegisterJobDefinitionResponse;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.NetworkConfiguration;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.PlatformCapability;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.RegisterJobDefinitionRequest;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.ResourceRequirement;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.ResourceType;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.RuntimePlatform;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.SubmitJobRequest;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.CreateJobQueueResponse;
import java.time.Duration;
import java.util.ArrayList;
import java.util.Arrays;
import java.util.Collections;
import java.util.List;
import java.util.concurrent.CompletableFuture;
import java.util.concurrent.atomic.AtomicBoolean;
import
 software.amazon.awssdk.auth.credentials.EnvironmentVariableCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.SubmitJobResponse;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.UpdateComputeEnvironmentRequest;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.UpdateComputeEnvironmentResponse;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.UpdateJobQueueRequest;
import software.amazon.awssdk.services.batch.model.UpdateJobQueueResponse;
import software.amazon.awssdk.services.batch.paginators.ListJobsPublisher;
import software.amazon.awssdk.services.sts.StsAsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.sts.model.GetCallerIdentityResponse;

public class BatchActions {
    private static BatchAsyncClient batchClient;

    private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(BatchActions.class);

    private static BatchAsyncClient getAsyncClient() {
        if (batchClient == null) {
            SdkAsyncHttpClient httpClient = NettyNioAsyncHttpClient.builder()
                .maxConcurrency(100)
                .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .readTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .writeTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .build();

            ClientOverrideConfiguration overrideConfig =
 ClientOverrideConfiguration.builder()
                .apiCallTimeout(Duration.ofMinutes(2))
                .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(90))
                .retryPolicy(RetryPolicy.builder()
                    .numRetries(3)
                    .build())
                .build();
```

```
            batchClient = BatchAsyncClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .httpClient(httpClient)
                .overrideConfiguration(overrideConfig)
                .build();
        }
        return batchClient;
    }

    /**
     * Asynchronously creates a new compute environment in AWS Batch.
     *
     * @param computeEnvironmentName the name of the compute environment to create
     * @param batchIAMRole the IAM role to be used by the compute environment
     * @param subnet the subnet ID to be used for the compute environment
     * @param secGroup the security group ID to be used for the compute environment
     * @return a {@link CompletableFuture} representing the asynchronous operation,
which will complete with the
     *         {@link CreateComputeEnvironmentResponse} when the compute environment
has been created
     * @throws BatchException if there is an error creating the compute environment
     * @throws RuntimeException if there is an unexpected error during the operation
     */
    public CompletableFuture<CreateComputeEnvironmentResponse>
createComputeEnvironmentAsync(
        String computeEnvironmentName, String batchIAMRole, String subnet, String
secGroup) {
        CreateComputeEnvironmentRequest environmentRequest =
CreateComputeEnvironmentRequest.builder()
            .computeEnvironmentName(computeEnvironmentName)
            .type(CEType.MANAGED)
            .state(CEState.ENABLED)
            .computeResources(ComputeResource.builder()
                .type(CRType.FARGATE)
                .maxvCpus(256)
                .subnets(Collections.singletonList(subnet))
                .securityGroupIds(Collections.singletonList(secGroup))
                .build())
            .serviceRole(batchIAMRole)
            .build();

        CompletableFuture<CreateComputeEnvironmentResponse> response =
getAsyncClient().createComputeEnvironment(environmentRequest);
```

```
        response.whenComplete((resp, ex) -> {
            if (ex != null) {
                String errorMessage = "Unexpected error occurred: " +
ex.getMessage();
                throw new RuntimeException(errorMessage, ex);
            }
        });

        return response;
    }

    public CompletableFuture<DeleteComputeEnvironmentResponse>
deleteComputeEnvironmentAsync(String computeEnvironmentName) {
        DeleteComputeEnvironmentRequest deleteComputeEnvironment =
DeleteComputeEnvironmentRequest.builder()
            .computeEnvironment(computeEnvironmentName)
            .build();

        return getAsyncClient().deleteComputeEnvironment(deleteComputeEnvironment)
            .whenComplete((response, ex) -> {
                if (ex != null) {
                    Throwable cause = ex.getCause();
                    if (cause instanceof BatchException) {
                        throw new RuntimeException(cause);
                    } else {
                        throw new RuntimeException("Unexpected error: " +
cause.getMessage(), cause);
                    }
                }
            });
    }

    /**
     * Checks the status of the specified compute environment.
     *
     * @param computeEnvironmentName the name of the compute environment to check
     * @return a CompletableFuture containing the status of the compute environment,
or "ERROR" if an exception occurs
     */
    public CompletableFuture<String> checkComputeEnvironmentsStatus(String
computeEnvironmentName) {
        if (computeEnvironmentName == null || computeEnvironmentName.isEmpty()) {
            throw new IllegalArgumentException("Compute environment name cannot be
null or empty");
```

```
        }

        DescribeComputeEnvironmentsRequest environmentsRequest =
DescribeComputeEnvironmentsRequest.builder()
            .computeEnvironments(computeEnvironmentName)
            .build();

        CompletableFuture<DescribeComputeEnvironmentsResponse> response =
getAsyncClient().describeComputeEnvironments(environmentsRequest);
        response.whenComplete((resp, ex) -> {
            if (ex != null) {
                String errorMessage = "Unexpected error occurred: " +
ex.getMessage();
                throw new RuntimeException(errorMessage, ex);
            }
        });

        return response.thenApply(resp -> resp.computeEnvironments().stream()
            .map(env -> env.statusAsString())
            .findFirst()
            .orElse("UNKNOWN"));
    }

    /**
     * Creates a job queue asynchronously.
     *
     * @param jobQueueName the name of the job queue to create
     * @param computeEnvironmentName the name of the compute environment to
associate with the job queue
     * @return a CompletableFuture that completes with the Amazon Resource Name
(ARN) of the job queue
     */
    public CompletableFuture<String> createJobQueueAsync(String jobQueueName, String
computeEnvironmentName) {
        if (jobQueueName == null || jobQueueName.isEmpty()) {
            throw new IllegalArgumentException("Job queue name cannot be null or
empty");
        }
        if (computeEnvironmentName == null || computeEnvironmentName.isEmpty()) {
            throw new IllegalArgumentException("Compute environment name cannot be
null or empty");
        }

        CreateJobQueueRequest request = CreateJobQueueRequest.builder()
```

```
            .jobQueueName(jobQueueName)
            .priority(1)
            .computeEnvironmentOrder(ComputeEnvironmentOrder.builder()
                .computeEnvironment(computeEnvironmentName)
                .order(1)
                .build())
            .build();

        CompletableFuture<CreateJobQueueResponse> response =
getAsyncClient().createJobQueue(request);
        response.whenComplete((resp, ex) -> {
            if (ex != null) {
                String errorMessage = "Unexpected error occurred: " +
ex.getMessage();
                throw new RuntimeException(errorMessage, ex);
            }
        });

        return response.thenApply(CreateJobQueueResponse::jobQueueArn);
    }

    /**
     * Asynchronously lists the jobs in the specified job queue with the given job
status.
     *
     * @param jobQueue the name of the job queue to list jobs from
     * @return a List<JobSummary> that contains the jobs that succeeded
     */
    public List<JobSummary> listJobsAsync(String jobQueue) {
        if (jobQueue == null || jobQueue.isEmpty()) {
            throw new IllegalArgumentException("Job queue cannot be null or empty");
        }

        ListJobsRequest listJobsRequest = ListJobsRequest.builder()
            .jobQueue(jobQueue)
            .jobStatus(JobStatus.SUCCEEDED)  // Filter jobs by status.
            .build();

        List<JobSummary> jobSummaries = new ArrayList<>();
        ListJobsPublisher listJobsPaginator =
getAsyncClient().listJobsPaginator(listJobsRequest);
        CompletableFuture<Void> future = listJobsPaginator.subscribe(response -> {
            jobSummaries.addAll(response.jobSummaryList());
        });
```

```
        future.join();
        return jobSummaries;
    }

    /**
     * Registers a new job definition asynchronously in AWS Batch.
     * <p>
     * When using Fargate as the compute environment, it is crucial to set the
     * {@link NetworkConfiguration} with {@link AssignPublicIp#ENABLED} to
     * ensure proper networking configuration for the Fargate tasks. This
     * allows the tasks to communicate with external services, access the
     * internet, or communicate within a VPC.
     *
     * @param jobDefinitionName the name of the job definition to be registered
     * @param executionRoleARN the ARN (Amazon Resource Name) of the execution role
     *                         that provides permissions for the containers in the
job
     * @param cpuArch a value of either X86_64 or ARM64 required for the service
call
     * @return a CompletableFuture that completes with the ARN of the registered
     *         job definition upon successful execution, or completes exceptionally
with
     *         an error if the registration fails
     */
    public CompletableFuture<String> registerJobDefinitionAsync(String
jobDefinitionName, String executionRoleARN, String image, String cpuArch) {
        NetworkConfiguration networkConfiguration = NetworkConfiguration.builder()
                .assignPublicIp(AssignPublicIp.ENABLED)
                .build();

        ContainerProperties containerProperties = ContainerProperties.builder()
                .image(image)
                .executionRoleArn(executionRoleARN)
                .resourceRequirements(
                        Arrays.asList(
                                ResourceRequirement.builder()
                                        .type(ResourceType.VCPU)
                                        .value("1")
                                        .build(),
                                ResourceRequirement.builder()
                                        .type(ResourceType.MEMORY)
                                        .value("2048")
                                        .build()
                        )
```

```
                )
                .networkConfiguration(networkConfiguration)
               .runtimePlatform(b -> b
                       .cpuArchitecture(cpuArch)
                       .operatingSystemFamily("LINUX"))
                .build();

        RegisterJobDefinitionRequest request =
RegisterJobDefinitionRequest.builder()
                .jobDefinitionName(jobDefinitionName)
                .type(JobDefinitionType.CONTAINER)
                .containerProperties(containerProperties)
                .platformCapabilities(PlatformCapability.FARGATE)
                .build();

        CompletableFuture<String> future = new CompletableFuture<>();
        getAsyncClient().registerJobDefinition(request)
                .thenApply(RegisterJobDefinitionResponse::jobDefinitionArn)
                .whenComplete((result, ex) -> {
                    if (ex != null) {
                        future.completeExceptionally(ex);
                    } else {
                        future.complete(result);
                    }
                });

        return future;
    }

    /**
     * Deregisters a job definition asynchronously.
     *
     * @param jobDefinition the name of the job definition to be deregistered
     * @return a CompletableFuture that completes when the job definition has been
deregistered
     * or an exception has occurred
     */
    public CompletableFuture<DeregisterJobDefinitionResponse>
deregisterJobDefinitionAsync(String jobDefinition) {
        DeregisterJobDefinitionRequest jobDefinitionRequest =
DeregisterJobDefinitionRequest.builder()
            .jobDefinition(jobDefinition)
            .build();
```

```
        CompletableFuture<DeregisterJobDefinitionResponse> responseFuture =
getAsyncClient().deregisterJobDefinition(jobDefinitionRequest);
        responseFuture.whenComplete((response, ex) -> {
            if (ex != null) {
                throw new RuntimeException("Unexpected error occurred: " +
ex.getMessage(), ex);
            }
        });

        return responseFuture;
    }

    /**
     * Disables the specified job queue asynchronously.
     *
     * @param jobQueueArn the Amazon Resource Name (ARN) of the job queue to be
disabled
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the job queue update
operation is complete,
     *         or completes exceptionally if an error occurs during the operation
     */
    public CompletableFuture<Void> disableJobQueueAsync(String jobQueueArn) {
        UpdateJobQueueRequest updateRequest = UpdateJobQueueRequest.builder()
            .jobQueue(jobQueueArn)
            .state(JQState.DISABLED)
            .build();

        CompletableFuture<UpdateJobQueueResponse> responseFuture =
getAsyncClient().updateJobQueue(updateRequest);
        return responseFuture.whenComplete((updateResponse, ex) -> {
            if (ex != null) {
                throw new RuntimeException("Failed to update job queue: " +
ex.getMessage(), ex);
            }
        }).thenApply(updateResponse -> null);
    }

    /**
     * Deletes a Batch job queue asynchronously.
     *
     * @param jobQueueArn The Amazon Resource Name (ARN) of the job queue to delete.
     * @return A CompletableFuture that represents the asynchronous deletion of the
job queue.
```

```
    *         The future completes when the job queue has been successfully deleted
or if an error occurs.
    *         If successful, the future will be completed with a {@code Void}
value.
    *         If an error occurs, the future will be completed exceptionally with
the thrown exception.
    */
   public CompletableFuture<Void> deleteJobQueueAsync(String jobQueueArn) {
       DeleteJobQueueRequest deleteRequest = DeleteJobQueueRequest.builder()
           .jobQueue(jobQueueArn)
           .build();

       CompletableFuture<DeleteJobQueueResponse> responseFuture =
getAsyncClient().deleteJobQueue(deleteRequest);
       return responseFuture.whenComplete((deleteResponse, ex) -> {
           if (ex != null) {
               throw new RuntimeException("Failed to delete job queue: " +
ex.getMessage(), ex);
           }
       }).thenApply(deleteResponse -> null);
   }

   /**
    * Asynchronously describes the job queue associated with the specified compute
environment.
    *
    * @param computeEnvironmentName the name of the compute environment to find the
associated job queue for
    * @return a {@link CompletableFuture} that, when completed, contains the job
queue ARN associated with the specified compute environment
    * @throws RuntimeException if the job queue description fails
    */
   public CompletableFuture<String> describeJobQueueAsync(String
computeEnvironmentName) {
       DescribeJobQueuesRequest describeJobQueuesRequest =
DescribeJobQueuesRequest.builder()
           .build();

       CompletableFuture<DescribeJobQueuesResponse> responseFuture =
getAsyncClient().describeJobQueues(describeJobQueuesRequest);
       return responseFuture.whenComplete((describeJobQueuesResponse, ex) -> {
           if (describeJobQueuesResponse != null) {
               String jobQueueARN;
```

```
                for (JobQueueDetail jobQueueDetail :
describeJobQueuesResponse.jobQueues()) {
                    for (ComputeEnvironmentOrder computeEnvironmentOrder :
jobQueueDetail.computeEnvironmentOrder()) {
                        String computeEnvironment =
computeEnvironmentOrder.computeEnvironment();
                        String name = getComputeEnvironmentName(computeEnvironment);
                        if (name.equals(computeEnvironmentName)) {
                            jobQueueARN = jobQueueDetail.jobQueueArn();
                            logger.info("Job queue ARN associated with the compute
environment: " + jobQueueARN);
                        }
                    }
                }
            } else {
                throw new RuntimeException("Failed to describe job queue: " +
ex.getMessage(), ex);
            }
        }).thenApply(describeJobQueuesResponse -> {
            String jobQueueARN = "";
            for (JobQueueDetail jobQueueDetail :
describeJobQueuesResponse.jobQueues()) {
                for (ComputeEnvironmentOrder computeEnvironmentOrder :
jobQueueDetail.computeEnvironmentOrder()) {
                    String computeEnvironment =
computeEnvironmentOrder.computeEnvironment();
                    String name = getComputeEnvironmentName(computeEnvironment);
                    if (name.equals(computeEnvironmentName)) {
                        jobQueueARN = jobQueueDetail.jobQueueArn();
                    }
                }
            }
            return jobQueueARN;
        });
    }

    /**
     * Disables the specified compute environment asynchronously.
     *
     * @param computeEnvironmentName the name of the compute environment to disable
     * @return a CompletableFuture that completes when the compute environment is
disabled
     */
```

```
   public CompletableFuture<UpdateComputeEnvironmentResponse>
disableComputeEnvironmentAsync(String computeEnvironmentName) {
       UpdateComputeEnvironmentRequest updateRequest =
UpdateComputeEnvironmentRequest.builder()
           .computeEnvironment(computeEnvironmentName)
           .state(CEState.DISABLED)
           .build();

       CompletableFuture<UpdateComputeEnvironmentResponse> responseFuture =
getAsyncClient().updateComputeEnvironment(updateRequest);
       responseFuture.whenComplete((response, ex) -> {
           if (ex != null) {
               throw new RuntimeException("Failed to disable compute environment: "
+ ex.getMessage(), ex);
           }
       });

       return responseFuture;
   }

   /**
    * Submits a job asynchronously to the AWS Batch service.
    *
    * @param jobDefinitionName the name of the job definition to use
    * @param jobQueueName the name of the job queue to submit the job to
    * @param jobARN the Amazon Resource Name (ARN) of the job definition
    * @return a CompletableFuture that, when completed, contains the job ID of the
submitted job
    */
   public CompletableFuture<String> submitJobAsync(String jobDefinitionName, String
jobQueueName, String jobARN) {
       SubmitJobRequest jobRequest = SubmitJobRequest.builder()
           .jobDefinition(jobARN)
           .jobName(jobDefinitionName)
           .jobQueue(jobQueueName)
           .build();

       CompletableFuture<SubmitJobResponse> responseFuture =
getAsyncClient().submitJob(jobRequest);
       responseFuture.whenComplete((response, ex) -> {
           if (ex != null) {
               throw new RuntimeException("Unexpected error occurred: " +
ex.getMessage(), ex);
           }
```

```
        });

        return responseFuture.thenApply(SubmitJobResponse::jobId);
    }

    /**
     * Asynchronously retrieves the status of a specific job.
     *
     * @param jobId the ID of the job to retrieve the status for
     * @return a CompletableFuture that completes with the job status
     */
    public CompletableFuture<String> describeJobAsync(String jobId) {
        DescribeJobsRequest describeJobsRequest = DescribeJobsRequest.builder()
            .jobs(jobId)
            .build();

        CompletableFuture<DescribeJobsResponse> responseFuture =
getAsyncClient().describeJobs(describeJobsRequest);
        return responseFuture.whenComplete((response, ex) -> {
            if (ex != null) {
                throw new RuntimeException("Unexpected error occurred: " +
ex.getMessage(), ex);
            }
        }).thenApply(response -> response.jobs().get(0).status().toString());
    }

    /**
     * Disables the specific job queue using the asynchronous Java client.
     *
     * @param jobQueueArn the Amazon Resource Name (ARN) of the job queue to wait
for
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the job queue is
disabled
     */
    public CompletableFuture<Void> waitForJobQueueToBeDisabledAsync(String
jobQueueArn) {
        AtomicBoolean isDisabled = new AtomicBoolean(false);
        return CompletableFuture.runAsync(() -> {
            while (!isDisabled.get()) {
                DescribeJobQueuesRequest describeRequest =
DescribeJobQueuesRequest.builder()
                    .jobQueues(jobQueueArn)
                    .build();
```

```
                CompletableFuture<DescribeJobQueuesResponse> responseFuture =
getAsyncClient().describeJobQueues(describeRequest);
                responseFuture.whenComplete((describeResponse, ex) -> {
                    if (describeResponse != null) {
                        for (JobQueueDetail jobQueue : describeResponse.jobQueues())
{
                            if (jobQueue.jobQueueArn().equals(jobQueueArn) &&
jobQueue.state() == JQState.DISABLED) {
                                isDisabled.set(true);
                                break;
                            }
                        }
                    } else {
                        throw new RuntimeException("Error describing job queues",
ex);
                    }
                }).join();

                if (!isDisabled.get()) {
                    try {
                        logger.info("Waiting for job queue to be disabled...");
                        Thread.sleep(5000);
                    } catch (InterruptedException e) {
                        Thread.currentThread().interrupt();
                        throw new RuntimeException("Thread interrupted while waiting
for job queue to be disabled", e);
                    }
                }
            }
        }).whenComplete((result, throwable) -> {
            if (throwable != null) {
                throw new RuntimeException("Error while waiting for job queue to be
disabled", throwable);
            }
        });
    }

    public CompletableFuture<String> getJobQueueARN(String jobQueueName) {
        // Describe the job queue asynchronously
        CompletableFuture<DescribeJobQueuesResponse> describeJobQueuesFuture =
batchClient.describeJobQueues(
            DescribeJobQueuesRequest.builder()
                .jobQueues(jobQueueName)
                .build()
```

```
        );

        // Handle the asynchronous response and return the Job Queue ARN in the
CompletableFuture<String>
        CompletableFuture<String> jobQueueArnFuture = new CompletableFuture<>();
        describeJobQueuesFuture.whenComplete((response, error) -> {
            if (error != null) {
                if (error instanceof BatchException) {
                    logger.info("Batch error: " + ((BatchException)
error).awsErrorDetails().errorMessage());
                } else {
                    logger.info("Error describing job queue: " +
error.getMessage());
                }
                jobQueueArnFuture.completeExceptionally(new RuntimeException("Failed
to retrieve Job Queue ARN", error));
            } else {
                if (response.jobQueues().isEmpty()) {
                    jobQueueArnFuture.completeExceptionally(new
RuntimeException("Job queue not found: " + jobQueueName));
                } else {
                    // Assuming only one job queue is returned for the given name
                    String jobQueueArn = response.jobQueues().get(0).jobQueueArn();
                    jobQueueArnFuture.complete(jobQueueArn);
                }
            }
        });

        return jobQueueArnFuture;
    }

    private static String getComputeEnvironmentName(String computeEnvironment) {
        String[] parts = computeEnvironment.split("/");
        if (parts.length == 2) {
            return parts[1];
        }
        return null;
    }

    public CompletableFuture<String> getAccountId() {
        StsAsyncClient stsAsyncClient = StsAsyncClient.builder()
            .region(Region.US_EAST_1)
            .build();
```

```
        return stsAsyncClient.getCallerIdentity()
            .thenApply(GetCallerIdentityResponse::account);
    }


}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - CreateComputeEnvironment
  - CreateJobQueue
  - DeleteComputeEnvironment
  - DeleteJobQueue
  - DeregisterJobDefinition
  - DescribeComputeEnvironments
  - DescribeJobQueues
  - DescribeJobs
  - ListJobsPaginator
  - RegisterJobDefinition
  - SubmitJob
  - UpdateComputeEnvironment
  - UpdateJobQueue

アクション

`CreateComputeEnvironment`

次のコード例は、`CreateComputeEnvironment` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Asynchronously creates a new compute environment in AWS Batch.
    *
    * @param computeEnvironmentName the name of the compute environment to create
    * @param batchIAMRole the IAM role to be used by the compute environment
    * @param subnet the subnet ID to be used for the compute environment
    * @param secGroup the security group ID to be used for the compute environment
    * @return a {@link CompletableFuture} representing the asynchronous operation,
which will complete with the
    *         {@link CreateComputeEnvironmentResponse} when the compute environment
has been created
    * @throws BatchException if there is an error creating the compute environment
    * @throws RuntimeException if there is an unexpected error during the operation
    */
   public CompletableFuture<CreateComputeEnvironmentResponse>
createComputeEnvironmentAsync(
       String computeEnvironmentName, String batchIAMRole, String subnet, String
secGroup) {
       CreateComputeEnvironmentRequest environmentRequest =
CreateComputeEnvironmentRequest.builder()
           .computeEnvironmentName(computeEnvironmentName)
           .type(CEType.MANAGED)
           .state(CEState.ENABLED)
           .computeResources(ComputeResource.builder()
               .type(CRType.FARGATE)
               .maxvCpus(256)
               .subnets(Collections.singletonList(subnet))
               .securityGroupIds(Collections.singletonList(secGroup))
               .build())
           .serviceRole(batchIAMRole)
           .build();

       CompletableFuture<CreateComputeEnvironmentResponse> response =
getAsyncClient().createComputeEnvironment(environmentRequest);
       response.whenComplete((resp, ex) -> {
           if (ex != null) {
              String errorMessage = "Unexpected error occurred: " +
ex.getMessage();
              throw new RuntimeException(errorMessage, ex);
           }
       });

       return response;
```

```
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateComputeEnvironment」を参照してください。

`CreateJobQueue`

次のコード例は、`CreateJobQueue` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Creates a job queue asynchronously.
    *
    * @param jobQueueName the name of the job queue to create
    * @param computeEnvironmentName the name of the compute environment to
associate with the job queue
    * @return a CompletableFuture that completes with the Amazon Resource Name
(ARN) of the job queue
    */
   public CompletableFuture<String> createJobQueueAsync(String jobQueueName, String
computeEnvironmentName) {
       if (jobQueueName == null || jobQueueName.isEmpty()) {
           throw new IllegalArgumentException("Job queue name cannot be null or
empty");
       }
       if (computeEnvironmentName == null || computeEnvironmentName.isEmpty()) {
           throw new IllegalArgumentException("Compute environment name cannot be
null or empty");
       }

       CreateJobQueueRequest request = CreateJobQueueRequest.builder()
           .jobQueueName(jobQueueName)
           .priority(1)
```

```
            .computeEnvironmentOrder(ComputeEnvironmentOrder.builder()
                .computeEnvironment(computeEnvironmentName)
                .order(1)
                .build())
            .build();

        CompletableFuture<CreateJobQueueResponse> response =
getAsyncClient().createJobQueue(request);
        response.whenComplete((resp, ex) -> {
            if (ex != null) {
                String errorMessage = "Unexpected error occurred: " +
ex.getMessage();
                throw new RuntimeException(errorMessage, ex);
            }
        });

        return response.thenApply(CreateJobQueueResponse::jobQueueArn);
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateJobQueue」を参照してください。

`DeleteComputeEnvironment`

次のコード例は、`DeleteComputeEnvironment` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    public CompletableFuture<DeleteComputeEnvironmentResponse>
deleteComputeEnvironmentAsync(String computeEnvironmentName) {
        DeleteComputeEnvironmentRequest deleteComputeEnvironment =
DeleteComputeEnvironmentRequest.builder()
            .computeEnvironment(computeEnvironmentName)
            .build();
```

```
        return getAsyncClient().deleteComputeEnvironment(deleteComputeEnvironment)
            .whenComplete((response, ex) -> {
                if (ex != null) {
                    Throwable cause = ex.getCause();
                    if (cause instanceof BatchException) {
                        throw new RuntimeException(cause);
                    } else {
                        throw new RuntimeException("Unexpected error: " +
cause.getMessage(), cause);
                    }
                }
            });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteComputeEnvironment」を参照してください。

`DeleteJobQueue`

次のコード例は、`DeleteJobQueue` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Deletes a Batch job queue asynchronously.
     *
     * @param jobQueueArn The Amazon Resource Name (ARN) of the job queue to delete.
     * @return A CompletableFuture that represents the asynchronous deletion of the
job queue.
     *         The future completes when the job queue has been successfully deleted
or if an error occurs.
     *         If successful, the future will be completed with a {@code Void}
value.
```

```
     *         If an error occurs, the future will be completed exceptionally with
the thrown exception.
     */
    public CompletableFuture<Void> deleteJobQueueAsync(String jobQueueArn) {
        DeleteJobQueueRequest deleteRequest = DeleteJobQueueRequest.builder()
            .jobQueue(jobQueueArn)
            .build();

        CompletableFuture<DeleteJobQueueResponse> responseFuture =
getAsyncClient().deleteJobQueue(deleteRequest);
        return responseFuture.whenComplete((deleteResponse, ex) -> {
            if (ex != null) {
                throw new RuntimeException("Failed to delete job queue: " +
ex.getMessage(), ex);
            }
        }).thenApply(deleteResponse -> null);
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteJobQueue」を参照してください。

`DeregisterJobDefinition`

次のコード例は、`DeregisterJobDefinition` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Deregisters a job definition asynchronously.
     *
     * @param jobDefinition the name of the job definition to be deregistered
     * @return a CompletableFuture that completes when the job definition has been
deregistered
     * or an exception has occurred
```

```
     */
    public CompletableFuture<DeregisterJobDefinitionResponse>
deregisterJobDefinitionAsync(String jobDefinition) {
        DeregisterJobDefinitionRequest jobDefinitionRequest =
DeregisterJobDefinitionRequest.builder()
            .jobDefinition(jobDefinition)
            .build();

        CompletableFuture<DeregisterJobDefinitionResponse> responseFuture =
getAsyncClient().deregisterJobDefinition(jobDefinitionRequest);
        responseFuture.whenComplete((response, ex) -> {
            if (ex != null) {
                throw new RuntimeException("Unexpected error occurred: " +
ex.getMessage(), ex);
            }
        });

        return responseFuture;
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeregisterJobDefinition」を参照してください。

`DescribeComputeEnvironments`

次のコード例は、`DescribeComputeEnvironments` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Checks the status of the specified compute environment.
     *
     * @param computeEnvironmentName the name of the compute environment to check
```

```
    * @return a CompletableFuture containing the status of the compute environment,
or "ERROR" if an exception occurs
    */
   public CompletableFuture<String> checkComputeEnvironmentsStatus(String
computeEnvironmentName) {
       if (computeEnvironmentName == null || computeEnvironmentName.isEmpty()) {
           throw new IllegalArgumentException("Compute environment name cannot be
null or empty");
       }

       DescribeComputeEnvironmentsRequest environmentsRequest =
DescribeComputeEnvironmentsRequest.builder()
           .computeEnvironments(computeEnvironmentName)
           .build();

       CompletableFuture<DescribeComputeEnvironmentsResponse> response =
getAsyncClient().describeComputeEnvironments(environmentsRequest);
       response.whenComplete((resp, ex) -> {
           if (ex != null) {
               String errorMessage = "Unexpected error occurred: " +
ex.getMessage();
               throw new RuntimeException(errorMessage, ex);
           }
       });

       return response.thenApply(resp -> resp.computeEnvironments().stream()
           .map(env -> env.statusAsString())
           .findFirst()
           .orElse("UNKNOWN"));
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeComputeEnvironments」を参照してください。

DescribeJobQueues

次のコード例は、DescribeJobQueues を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Asynchronously describes the job queue associated with the specified compute
environment.
    *
    * @param computeEnvironmentName the name of the compute environment to find the
associated job queue for
    * @return a {@link CompletableFuture} that, when completed, contains the job
queue ARN associated with the specified compute environment
    * @throws RuntimeException if the job queue description fails
    */
   public CompletableFuture<String> describeJobQueueAsync(String
computeEnvironmentName) {
       DescribeJobQueuesRequest describeJobQueuesRequest =
DescribeJobQueuesRequest.builder()
           .build();

       CompletableFuture<DescribeJobQueuesResponse> responseFuture =
getAsyncClient().describeJobQueues(describeJobQueuesRequest);
       return responseFuture.whenComplete((describeJobQueuesResponse, ex) -> {
           if (describeJobQueuesResponse != null) {
               String jobQueueARN;
               for (JobQueueDetail jobQueueDetail :
describeJobQueuesResponse.jobQueues()) {
                   for (ComputeEnvironmentOrder computeEnvironmentOrder :
jobQueueDetail.computeEnvironmentOrder()) {
                       String computeEnvironment =
computeEnvironmentOrder.computeEnvironment();
                       String name = getComputeEnvironmentName(computeEnvironment);
                       if (name.equals(computeEnvironmentName)) {
                           jobQueueARN = jobQueueDetail.jobQueueArn();
                           logger.info("Job queue ARN associated with the compute
environment: " + jobQueueARN);
                       }
                   }
```

```
                }
            } else {
                throw new RuntimeException("Failed to describe job queue: " +
ex.getMessage(), ex);
            }
        }).thenApply(describeJobQueuesResponse -> {
            String jobQueueARN = "";
            for (JobQueueDetail jobQueueDetail :
describeJobQueuesResponse.jobQueues()) {
                for (ComputeEnvironmentOrder computeEnvironmentOrder :
jobQueueDetail.computeEnvironmentOrder()) {
                    String computeEnvironment =
computeEnvironmentOrder.computeEnvironment();
                    String name = getComputeEnvironmentName(computeEnvironment);
                    if (name.equals(computeEnvironmentName)) {
                        jobQueueARN = jobQueueDetail.jobQueueArn();
                    }
                }
            }
            return jobQueueARN;
        });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeJobQueues」を参照してください。

`DescribeJobs`

次のコード例は、`DescribeJobs` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Asynchronously retrieves the status of a specific job.
```

```
     *
     * @param jobId the ID of the job to retrieve the status for
     * @return a CompletableFuture that completes with the job status
     */
    public CompletableFuture<String> describeJobAsync(String jobId) {
        DescribeJobsRequest describeJobsRequest = DescribeJobsRequest.builder()
            .jobs(jobId)
            .build();

        CompletableFuture<DescribeJobsResponse> responseFuture =
getAsyncClient().describeJobs(describeJobsRequest);
        return responseFuture.whenComplete((response, ex) -> {
            if (ex != null) {
                throw new RuntimeException("Unexpected error occurred: " +
ex.getMessage(), ex);
            }
        }).thenApply(response -> response.jobs().get(0).status().toString());
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeJobs」を参照してください。

`ListJobsPaginator`

次のコード例は、`ListJobsPaginator` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Asynchronously lists the jobs in the specified job queue with the given job
status.
     *
     * @param jobQueue the name of the job queue to list jobs from
     * @return a List<JobSummary> that contains the jobs that succeeded
```

```
     */
    public List<JobSummary> listJobsAsync(String jobQueue) {
        if (jobQueue == null || jobQueue.isEmpty()) {
            throw new IllegalArgumentException("Job queue cannot be null or empty");
        }

        ListJobsRequest listJobsRequest = ListJobsRequest.builder()
            .jobQueue(jobQueue)
            .jobStatus(JobStatus.SUCCEEDED)  // Filter jobs by status.
            .build();

        List<JobSummary> jobSummaries = new ArrayList<>();
        ListJobsPublisher listJobsPaginator =
getAsyncClient().listJobsPaginator(listJobsRequest);
        CompletableFuture<Void> future = listJobsPaginator.subscribe(response -> {
            jobSummaries.addAll(response.jobSummaryList());
        });
        future.join();
        return jobSummaries;
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListJobsPaginator」を参照してください。

`RegisterJobDefinition`

次のコード例は、`RegisterJobDefinition` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Registers a new job definition asynchronously in AWS Batch.
     * <p>
     * When using Fargate as the compute environment, it is crucial to set the
```

```
    * {@link NetworkConfiguration} with {@link AssignPublicIp#ENABLED} to
    * ensure proper networking configuration for the Fargate tasks. This
    * allows the tasks to communicate with external services, access the
    * internet, or communicate within a VPC.
    *
    * @param jobDefinitionName the name of the job definition to be registered
    * @param executionRoleARN the ARN (Amazon Resource Name) of the execution role
    *                         that provides permissions for the containers in the
job
    * @param cpuArch a value of either X86_64 or ARM64 required for the service
call
    * @return a CompletableFuture that completes with the ARN of the registered
    *         job definition upon successful execution, or completes exceptionally
with
    *         an error if the registration fails
    */
   public CompletableFuture<String> registerJobDefinitionAsync(String
jobDefinitionName, String executionRoleARN, String image, String cpuArch) {
       NetworkConfiguration networkConfiguration = NetworkConfiguration.builder()
               .assignPublicIp(AssignPublicIp.ENABLED)
               .build();

       ContainerProperties containerProperties = ContainerProperties.builder()
               .image(image)
               .executionRoleArn(executionRoleARN)
               .resourceRequirements(
                       Arrays.asList(
                               ResourceRequirement.builder()
                                       .type(ResourceType.VCPU)
                                       .value("1")
                                       .build(),
                               ResourceRequirement.builder()
                                       .type(ResourceType.MEMORY)
                                       .value("2048")
                                       .build()
                       )
               )
               .networkConfiguration(networkConfiguration)
              .runtimePlatform(b -> b
                       .cpuArchitecture(cpuArch)
                       .operatingSystemFamily("LINUX"))
               .build();
```

```
        RegisterJobDefinitionRequest request =
RegisterJobDefinitionRequest.builder()
                .jobDefinitionName(jobDefinitionName)
                .type(JobDefinitionType.CONTAINER)
                .containerProperties(containerProperties)
                .platformCapabilities(PlatformCapability.FARGATE)
                .build();

        CompletableFuture<String> future = new CompletableFuture<>();
        getAsyncClient().registerJobDefinition(request)
                .thenApply(RegisterJobDefinitionResponse::jobDefinitionArn)
                .whenComplete((result, ex) -> {
                    if (ex != null) {
                        future.completeExceptionally(ex);
                    } else {
                        future.complete(result);
                    }
                });

        return future;
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「RegisterJobDefinition」を参照してください。

SubmitJob

次のコード例は、SubmitJob を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Submits a job asynchronously to the AWS Batch service.
     *
```

```
     * @param jobDefinitionName the name of the job definition to use
     * @param jobQueueName the name of the job queue to submit the job to
     * @param jobARN the Amazon Resource Name (ARN) of the job definition
     * @return a CompletableFuture that, when completed, contains the job ID of the
submitted job
     */
    public CompletableFuture<String> submitJobAsync(String jobDefinitionName, String
jobQueueName, String jobARN) {
        SubmitJobRequest jobRequest = SubmitJobRequest.builder()
            .jobDefinition(jobARN)
            .jobName(jobDefinitionName)
            .jobQueue(jobQueueName)
            .build();

        CompletableFuture<SubmitJobResponse> responseFuture =
getAsyncClient().submitJob(jobRequest);
        responseFuture.whenComplete((response, ex) -> {
            if (ex != null) {
                throw new RuntimeException("Unexpected error occurred: " +
ex.getMessage(), ex);
            }
        });

        return responseFuture.thenApply(SubmitJobResponse::jobId);
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「SubmitJob」を参照してください。

`UpdateComputeEnvironment`

次のコード例は、`UpdateComputeEnvironment` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Disables the specified compute environment asynchronously.
     *
     * @param computeEnvironmentName the name of the compute environment to disable
     * @return a CompletableFuture that completes when the compute environment is
disabled
     */
    public CompletableFuture<UpdateComputeEnvironmentResponse>
disableComputeEnvironmentAsync(String computeEnvironmentName) {
        UpdateComputeEnvironmentRequest updateRequest =
UpdateComputeEnvironmentRequest.builder()
            .computeEnvironment(computeEnvironmentName)
            .state(CEState.DISABLED)
            .build();

        CompletableFuture<UpdateComputeEnvironmentResponse> responseFuture =
getAsyncClient().updateComputeEnvironment(updateRequest);
        responseFuture.whenComplete((response, ex) -> {
            if (ex != null) {
                throw new RuntimeException("Failed to disable compute environment: "
+ ex.getMessage(), ex);
            }
        });

        return responseFuture;
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「UpdateComputeEnvironment」を参照してください。

`UpdateJobQueue`

次のコード例は、UpdateJobQueue を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Disables the specified job queue asynchronously.
    *
    * @param jobQueueArn the Amazon Resource Name (ARN) of the job queue to be
disabled
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the job queue update
operation is complete,
    *         or completes exceptionally if an error occurs during the operation
    */
   public CompletableFuture<Void> disableJobQueueAsync(String jobQueueArn) {
       UpdateJobQueueRequest updateRequest = UpdateJobQueueRequest.builder()
           .jobQueue(jobQueueArn)
           .state(JQState.DISABLED)
           .build();

       CompletableFuture<UpdateJobQueueResponse> responseFuture =
getAsyncClient().updateJobQueue(updateRequest);
       return responseFuture.whenComplete((updateResponse, ex) -> {
           if (ex != null) {
               throw new RuntimeException("Failed to update job queue: " +
ex.getMessage(), ex);
           }
       }).thenApply(updateResponse -> null);
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「UpdateJobQueue」を参照してください。

SDK for Java 2.x を使用する Amazon Bedrock の例

次のコード例は、Amazon Bedrock AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- アクション

アクション

`GetFoundationModel`

次のコード例は、`GetFoundationModel` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

同期 Amazon Bedrock クライアントを使用して、基盤モデルの詳細を取得します。

```
    /**
     * Get details about an Amazon Bedrock foundation model.
     *
     * @param bedrockClient   The service client for accessing Amazon Bedrock.
     * @param modelIdentifier The model identifier.
     * @return An object containing the foundation model's details.
     */
    public static FoundationModelDetails getFoundationModel(BedrockClient
bedrockClient, String modelIdentifier) {
        try {
            GetFoundationModelResponse response = bedrockClient.getFoundationModel(
                    r -> r.modelIdentifier(modelIdentifier)
            );

            FoundationModelDetails model = response.modelDetails();

            System.out.println(" Model ID:                    " + model.modelId());
            System.out.println(" Model ARN:                   " +
model.modelArn());
            System.out.println(" Model Name:                  " +
model.modelName());
```

```
            System.out.println(" Provider Name:                " +
model.providerName());
            System.out.println(" Lifecycle status:             " +
model.modelLifecycle().statusAsString());
            System.out.println(" Input modalities:             " +
model.inputModalities());
            System.out.println(" Output modalities:            " +
model.outputModalities());
            System.out.println(" Supported customizations:     " +
model.customizationsSupported());
            System.out.println(" Supported inference types:    " +
model.inferenceTypesSupported());
            System.out.println(" Response streaming supported: " +
model.responseStreamingSupported());

            return model;

        } catch (ValidationException e) {
            throw new IllegalArgumentException(e.getMessage());
        } catch (SdkException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            throw new RuntimeException(e);
        }
    }
```

非同期 Amazon Bedrock クライアントを使用して、基盤モデルの詳細を取得します。

```
    /**
     * Get details about an Amazon Bedrock foundation model.
     *
     * @param bedrockClient   The async service client for accessing Amazon Bedrock.
     * @param modelIdentifier The model identifier.
     * @return An object containing the foundation model's details.
     */
    public static FoundationModelDetails getFoundationModel(BedrockAsyncClient
bedrockClient, String modelIdentifier) {
        try {
            CompletableFuture<GetFoundationModelResponse> future =
bedrockClient.getFoundationModel(
                    r -> r.modelIdentifier(modelIdentifier)
            );
```

```
            FoundationModelDetails model = future.get().modelDetails();

            System.out.println(" Model ID:                      " + model.modelId());
            System.out.println(" Model ARN:                     " +
model.modelArn());
            System.out.println(" Model Name:                    " +
model.modelName());
            System.out.println(" Provider Name:                 " +
model.providerName());
            System.out.println(" Lifecycle status:              " +
model.modelLifecycle().statusAsString());
            System.out.println(" Input modalities:              " +
model.inputModalities());
            System.out.println(" Output modalities:             " +
model.outputModalities());
            System.out.println(" Supported customizations:      " +
model.customizationsSupported());
            System.out.println(" Supported inference types:     " +
model.inferenceTypesSupported());
            System.out.println(" Response streaming supported: " +
model.responseStreamingSupported());

            return model;

        } catch (ExecutionException e) {
            if (e.getMessage().contains("ValidationException")) {
                throw new IllegalArgumentException(e.getMessage());
            } else {
                System.err.println(e.getMessage());
                throw new RuntimeException(e);
            }
        } catch (InterruptedException e) {
            Thread.currentThread().interrupt();
            System.err.println(e.getMessage());
            throw new RuntimeException(e);
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「GetFoundationModel」を参照してください。

`ListFoundationModels`

次のコード例は、`ListFoundationModels` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

同期 Amazon Bedrock クライアントを使用して、使用可能な Amazon Bedrock 基盤モデルを一覧表示します。

```
   /**
    * Lists Amazon Bedrock foundation models that you can use.
    * You can filter the results with the request parameters.
    *
    * @param bedrockClient The service client for accessing Amazon Bedrock.
    * @return A list of objects containing the foundation models' details
    */
   public static List<FoundationModelSummary> listFoundationModels(BedrockClient
bedrockClient) {

       try {
           ListFoundationModelsResponse response =
bedrockClient.listFoundationModels(r -> {});

           List<FoundationModelSummary> models = response.modelSummaries();

           if (models.isEmpty()) {
               System.out.println("No available foundation models in " +
region.toString());
           } else {
               for (FoundationModelSummary model : models) {
                   System.out.println("Model ID: " + model.modelId());
                   System.out.println("Provider: " + model.providerName());
                   System.out.println("Name:     " + model.modelName());
                   System.out.println();
               }
           }
```

```
            return models;

        } catch (SdkClientException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            throw new RuntimeException(e);
        }
    }
```

非同期 Amazon Bedrock クライアントを使用して、使用可能な Amazon Bedrock 基盤モデルを一覧表示します。

```
    /**
     * Lists Amazon Bedrock foundation models that you can use.
     * You can filter the results with the request parameters.
     *
     * @param bedrockClient The async service client for accessing Amazon Bedrock.
     * @return A list of objects containing the foundation models' details
     */
    public static List<FoundationModelSummary>
listFoundationModels(BedrockAsyncClient bedrockClient) {
        try {
            CompletableFuture<ListFoundationModelsResponse> future =
bedrockClient.listFoundationModels(r -> {});

            List<FoundationModelSummary> models = future.get().modelSummaries();

            if (models.isEmpty()) {
                System.out.println("No available foundation models in " +
region.toString());
            } else {
                for (FoundationModelSummary model : models) {
                    System.out.println("Model ID: " + model.modelId());
                    System.out.println("Provider: " + model.providerName());
                    System.out.println("Name:     " + model.modelName());
                    System.out.println();
                }
            }

            return models;

        } catch (InterruptedException e) {
            Thread.currentThread().interrupt();
```

```
            System.err.println(e.getMessage());
            throw new RuntimeException(e);
        } catch (ExecutionException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            throw new RuntimeException(e);
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListFoundationModels」を参照してください。

SDK for Java 2.x を使用する Amazon Bedrock ランタイムの例

次のコード例は、Amazon Bedrock ランタイム AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- シナリオ
- Amazon Nova
- Amazon Nova Canvas
- Amazon Titan Image Generator
- Amazon Titan Text Embeddings
- Anthropic Claude
- Meta Llama
- Mistral AI
- Stable Image Core

シナリオ

Amazon Bedrock 基盤モデルとやりとりするためのプレイグラウンドアプリケーションを作成します。

次のコード例は、さまざまな方法で Amazon Bedrock 基盤モデルと相互作用するプレイグラウンドを作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

Java 基盤モデル (FM) プレイグラウンドは Spring Boot のサンプルアプリケーションで、Java で Amazon Bedrock を使用する方法を紹介しています。この例は、Java 開発者が Amazon Bedrock を使用して生成 AI 対応アプリケーションを構築する方法を示しています。次の 3 つのプレイグラウンドを使用して Amazon Bedrock 基盤モデルをテストしたり操作したりできます。

- テキストプレイグラウンド。
- チャットプレイグラウンド。
- イメージプレイグラウンド。

この例には、アクセスできる基盤モデルとその特性が一覧表示されています。ソースコードとデプロイ手順については、GitHub のプロジェクトを参照してください。

この例で使用されているサービス

- Amazon Bedrock ランタイム

Amazon Bedrock を使用してテキストプロンプトからビデオを生成する

次のコード例は、Amazon Bedrock と Nova-Reel モデルを使用してテキストプロンプトからビデオを生成する Spring Boot アプリの使用方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

Amazon Bedrock と Nova-Reel を使用して、テキストプロンプトからビデオを生成します。

```
import org.springframework.stereotype.Service;
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.core.document.Document;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.BedrockRuntimeAsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.*;

import java.util.concurrent.CompletableFuture;

@Service
public class VideoGenerationService {

    public GenerateVideoResponse generateVideo(String prompt) {

        // add S3 bucket you want to store your generated videos
        String s3Bucket = "s3://mygeneratedvidoenovatest";


        //Create json request as an instance of Document class
        Document novaRequest = prepareDocument(prompt);

        // Create request
        StartAsyncInvokeRequest request = StartAsyncInvokeRequest.builder()
                .modelId("amazon.nova-reel-v1:0")
                .modelInput(novaRequest)
                .outputDataConfig(AsyncInvokeOutputDataConfig.builder()

 .s3OutputDataConfig(AsyncInvokeS3OutputDataConfig.builder().s3Uri(s3Bucket).build())
                        .build())
                .build();

        try (BedrockRuntimeAsyncClient bedrockClient =
 getBedrockRuntimeAsyncClient()) {
            CompletableFuture<StartAsyncInvokeResponse>
 startAsyncInvokeResponseCompletableFuture =
 bedrockClient.startAsyncInvoke(request);

            //blocking operation to wait for the AWS API response
            StartAsyncInvokeResponse startAsyncInvokeResponse =
 startAsyncInvokeResponseCompletableFuture.get();
            System.out.println("invocation ARN: " +
 startAsyncInvokeResponse.invocationArn());
```

```
            GenerateVideoResponse response = new GenerateVideoResponse();
            response.setStatus("inProgress");
            response.setExecutionArn(startAsyncInvokeResponse.invocationArn());

            return response;
        } catch (Exception e) {
            System.out.println(e);
            throw new RuntimeException(e);
        }

    }

    public GenerateVideoResponse checkGenerationStatus(String invocationArn) {
        GenerateVideoResponse response = new GenerateVideoResponse();

        try (BedrockRuntimeAsyncClient bedrockClient =
getBedrockRuntimeAsyncClient()) {
            //creating async request to fetch status by invocation Arn
            GetAsyncInvokeRequest asyncRequest =
GetAsyncInvokeRequest.builder().invocationArn(invocationArn).build();

            CompletableFuture<GetAsyncInvokeResponse> asyncInvoke =
bedrockClient.getAsyncInvoke(asyncRequest);

            //blocking operation to wait for the AWS API response
            GetAsyncInvokeResponse asyncInvokeResponse = asyncInvoke.get();
            System.out.println("Invocation status =" +
asyncInvokeResponse.statusAsString());

            response.setExecutionArn(invocationArn);
            response.setStatus(asyncInvokeResponse.statusAsString());
            return response;
        } catch (Exception e) {
            e.printStackTrace();
            throw new RuntimeException(e);
        }

    }

    private static BedrockRuntimeAsyncClient getBedrockRuntimeAsyncClient() {
        BedrockRuntimeAsyncClient bedrockClient =
BedrockRuntimeAsyncClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
```

```
                .build();
        return bedrockClient;
    }

    private static Document prepareDocument(String prompt) {
        Document textToVideoParams = Document.mapBuilder()
                .putString("text", prompt)
                .build();

        Document videoGenerationConfig = Document.mapBuilder()
                .putNumber("durationSeconds", 6)
                .putNumber("fps", 24)
                .putString("dimension", "1280x720")
                .build();

        Document novaRequest = Document.mapBuilder()
                .putString("taskType", "TEXT_VIDEO")
                .putDocument("textToVideoParams", textToVideoParams)
                .putDocument("videoGenerationConfig", videoGenerationConfig)
                .build();
        return novaRequest;
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - GetAsyncInvoke
  - StartAsyncInvoke

Converse API でのツールの使用

次のコード例は、アプリケーション、生成 AI モデル、接続されたツールまたは API 間の一般的なインタラクションを構築し、AI と外部世界のインタラクションを仲介する方法を示しています。外部気象 API を AI モデルに接続する例を使用して、ユーザー入力に基づいてリアルタイムの気象情報を提供します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

シナリオフローのプライマリ実行。このシナリオはユーザー、Amazon Bedrock Converse API、気象ツールの間の会話を調整します。

```
/*
 This demo illustrates a tool use scenario using Amazon Bedrock's Converse API and a
 weather tool.
 The program interacts with a foundation model on Amazon Bedrock to provide weather
 information based on user
 input. It uses the Open-Meteo API (https://open-meteo.com) to retrieve current
 weather data for a given location.
 */
public class BedrockScenario {
    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");
    private static String modelId = "amazon.nova-lite-v1:0";
    private static String defaultPrompt = "What is the weather like in Seattle?";
    private static WeatherTool weatherTool = new WeatherTool();

    // The maximum number of recursive calls allowed in the tool use function.
    // This helps prevent infinite loops and potential performance issues.
    private static int maxRecursions = 5;
    static BedrockActions bedrockActions = new BedrockActions();
    public static boolean interactive = true;

    private static final String systemPrompt = """
            You are a weather assistant that provides current weather data for user-
specified locations using only
            the Weather_Tool, which expects latitude and longitude. Infer the
 coordinates from the location yourself.
            If the user provides coordinates, infer the approximate location and
 refer to it in your response.
            To use the tool, you strictly apply the provided tool specification.

            - Explain your step-by-step process, and give brief updates before each
 step.
```

```
            - Only use the Weather_Tool for data. Never guess or make up
 information.
            - Repeat the tool use for subsequent requests if necessary.
            - If the tool errors, apologize, explain weather is unavailable, and
 suggest other options.
            - Report temperatures in °C (°F) and wind in km/h (mph). Keep weather
 reports concise. Sparingly use
              emojis where appropriate.
            - Only respond to weather queries. Remind off-topic users of your
 purpose.
            - Never claim to search online, access external data, or use tools
 besides Weather_Tool.
            - Complete the entire process until you have all required data before
 sending the complete response.
            """;

    public static void main(String[] args) {
        Scanner scanner = new Scanner(System.in);
        System.out.println("""
                ==================================================
                Welcome to the Amazon Bedrock Tool Use demo!
                ==================================================

                This assistant provides current weather information for user-
specified locations.
                You can ask for weather details by providing the location name or
 coordinates.

                Example queries:
                - What's the weather like in New York?
                - Current weather for latitude 40.70, longitude -74.01
                - Is it warmer in Rome or Barcelona today?

                To exit the program, simply type 'x' and press Enter.

                P.S.: You're not limited to single locations, or even to using
 English!
                Have fun and experiment with the app!
                """);
        System.out.println(DASHES);

        try {
            runConversation(scanner);
```

```
        } catch (Exception ex) {
            System.out.println("There was a problem running the scenario: " +
ex.getMessage());
        }

        waitForInputToContinue(scanner);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("Amazon Bedrock Converse API with Tool Use Feature
Scenario is complete.");
        System.out.println(DASHES);
    }

    /**
     * Starts the conversation with the user and handles the interaction with
Bedrock.
     */
    private static List<Message> runConversation(Scanner scanner) {
        List<Message> conversation = new ArrayList<>();

        // Get the first user input
        String userInput = getUserInput("Your weather info request:", scanner);
        System.out.println(userInput);

        while (userInput != null) {
            ContentBlock block = ContentBlock.builder()
                    .text(userInput)
                    .build();

            List<ContentBlock> blockList = new ArrayList<>();
            blockList.add(block);

            Message message = Message.builder()
                    .role(ConversationRole.USER)
                    .content(blockList)
                    .build();

            conversation.add(message);

            // Send the conversation to Amazon Bedrock.
            ConverseResponse bedrockResponse =
sendConversationToBedrock(conversation);
```

```
            // Recursively handle the model's response until the model has returned
its final response or the recursion counter has reached 0.
            processModelResponse(bedrockResponse, conversation, maxRecursions);

            // Repeat the loop until the user decides to exit the application.
            userInput = getUserInput("Your weather info request:", scanner);
        }
        printFooter();
        return conversation;
    }

    /**
     * Processes the response from the model and updates the conversation
accordingly.
     *
     * @param modelResponse the response from the model
     * @param conversation  the ongoing conversation
     * @param maxRecursion  the maximum number of recursions allowed
     */
    private static void processModelResponse(ConverseResponse modelResponse,
List<Message> conversation, int maxRecursion) {
        if (maxRecursion <= 0) {
            // Stop the process, the number of recursive calls could indicate an
infinite loop
            System.out.println("\tWarning: Maximum number of recursions reached.
Please try again.");
        }

        // Append the model's response to the ongoing conversation
        conversation.add(modelResponse.output().message());

        String modelResponseVal = modelResponse.stopReasonAsString();
        if (modelResponseVal.compareTo("tool_use") == 0) {
            // If the stop reason is "tool_use", forward everything to the tool use
handler
            handleToolUse(modelResponse.output(), conversation, maxRecursion - 1);
        }

        if (modelResponseVal.compareTo("end_turn") == 0) {
            // If the stop reason is "end_turn", print the model's response text,
and finish the process

PrintModelResponse(modelResponse.output().message().content().get(0).text());
            if (!interactive) {
```

```
                defaultPrompt = "x";
            }
        }
    }

    /**
     * Handles the use of a tool by the model in a conversation.
     *
     * @param modelResponse the response from the model, which may include a tool
use request
     * @param conversation  the current conversation, which will be updated with the
tool use results
     * @param maxRecursion  the maximum number of recursive calls allowed to handle
the model's response
     */
    private static void handleToolUse(ConverseOutput modelResponse, List<Message>
conversation, int maxRecursion) {
        List<ContentBlock> toolResults = new ArrayList<>();

        // The model's response can consist of multiple content blocks
        for (ContentBlock contentBlock : modelResponse.message().content()) {
            if (contentBlock.text() != null && !contentBlock.text().isEmpty()) {
                // If the content block contains text, print it to the console
                PrintModelResponse(contentBlock.text());
            }

            if (contentBlock.toolUse() != null) {
                ToolResponse toolResponse = invokeTool(contentBlock.toolUse());

                // Add the tool use ID and the tool's response to the list of
results
                List<ToolResultContentBlock> contentBlockList = new ArrayList<>();
                ToolResultContentBlock block = ToolResultContentBlock.builder()
                        .json(toolResponse.getContent())
                        .build();
                contentBlockList.add(block);

                ToolResultBlock toolResultBlock = ToolResultBlock.builder()
                        .toolUseId(toolResponse.getToolUseId())
                        .content(contentBlockList)
                        .build();

                ContentBlock contentBlock1 = ContentBlock.builder()
                        .toolResult(toolResultBlock)
```

```
                        .build();

                toolResults.add(contentBlock1);
            }
        }

        // Embed the tool results in a new user message
        Message message = Message.builder()
                .role(ConversationRole.USER)
                .content(toolResults)
                .build();

        // Append the new message to the ongoing conversation
        //conversation.add(message);
        conversation.add(message);

        // Send the conversation to Amazon Bedrock
        var response = sendConversationToBedrock(conversation);

        // Recursively handle the model's response until the model has returned its
final response or the recursion counter has reached 0
        processModelResponse(response, conversation, maxRecursion);
    }

    // Invokes the specified tool with the given payload and returns the tool's
response.
    // If the requested tool does not exist, an error message is returned.
    private static ToolResponse invokeTool(ToolUseBlock payload) {
        String toolName = payload.name();

        if (Objects.equals(toolName, "Weather_Tool")) {
            Map<String, Document> inputData = payload.input().asMap();
            printToolUse(toolName, inputData);

            // Invoke the weather tool with the input data provided
            Document weatherResponse =
weatherTool.fetchWeatherData(inputData.get("latitude").toString(),
inputData.get("longitude").toString());

            ToolResponse toolResponse = new ToolResponse();
            toolResponse.setContent(weatherResponse);
            toolResponse.setToolUseId(payload.toolUseId());
            return toolResponse;
        } else {
```

```
            String errorMessage = "The requested tool with name " + toolName + "
does not exist.";
            System.out.println(errorMessage);
            return null;
        }
    }

    public static void printToolUse(String toolName, Map<String, Document>
inputData) {
        System.out.println("Invoking tool: " + toolName + " with input: " +
inputData.get("latitude").toString() + ", " + inputData.get("longitude").toString()
+ "...");
    }

    private static void PrintModelResponse(String message) {
        System.out.println("\tThe model's response:\n");
        System.out.println(message);
        System.out.println("");
    }

    private static ConverseResponse sendConversationToBedrock(List<Message>
conversation) {
        System.out.println("Calling Bedrock...");

        try {
            return bedrockActions.sendConverseRequestAsync(modelId, systemPrompt,
conversation, weatherTool.getToolSpec());
        } catch (ModelNotReadyException ex) {
             System.err.println("Model is not ready. Please try again later: " +
ex.getMessage());
            throw ex;
        } catch (BedrockRuntimeException ex) {
            System.err.println("Bedrock service error: " + ex.getMessage());
            throw ex;
        } catch (RuntimeException ex) {
            System.err.println("Unexpected error occurred: " + ex.getMessage());
            throw ex;
        }
    }

    private static ConverseResponse sendConversationToBedrockwithSpec(List<Message>
conversation, ToolSpecification toolSpec) {
        System.out.println("Calling Bedrock...");
```

```
        // Send the conversation, system prompt, and tool configuration, and return
the response
        return bedrockActions.sendConverseRequestAsync(modelId, systemPrompt,
conversation, toolSpec);
    }

    public static String getUserInput(String prompt, Scanner scanner) {
        String userInput = defaultPrompt;
        if (interactive) {
            System.out.println("*".repeat(80));
            System.out.println(prompt + " (x to exit): \n\t");
            userInput = scanner.nextLine();
        }

        if (userInput == null || userInput.trim().isEmpty()) {
            return getUserInput("\tPlease enter your weather info request, e.g., the
name of a city", scanner);
        }

        if (userInput.equalsIgnoreCase("x")) {
            return null;
        }

        return userInput;
    }

    private static void waitForInputToContinue(Scanner scanner) {
        while (true) {
            System.out.println("");
            System.out.println("Enter 'c' followed by <ENTER> to continue:");
            String input = scanner.nextLine();

            if (input.trim().equalsIgnoreCase("c")) {
                System.out.println("Continuing with the program...");
                System.out.println("");
                break;
            } else {
                // Handle invalid input.
                System.out.println("Invalid input. Please try again.");
            }
        }
    }

    public static void printFooter() {
```

```
        System.out.println("""
                ================================================
                Thank you for checking out the Amazon Bedrock Tool Use demo. We hope
 you
                learned something new, or got some inspiration for your own apps
 today!

                For more Bedrock examples in different programming languages, have a
 look at:
                https://docs.aws.amazon.com/bedrock/latest/userguide/
service_code_examples.html
                ================================================
                """);
    }
}
```

デモで使用される気象ツール。このファイルはツールの仕様を定義し、Open-Meteo API を使用して気象データを取得するロジックを実装します。

```
public class WeatherTool {

    private static final Logger logger = LoggerFactory.getLogger(WeatherTool.class);
    private static java.net.http.HttpClient httpClient = null;

    /**
     * Returns the JSON Schema specification for the Weather tool. The tool
 specification
     * defines the input schema and describes the tool's functionality.
     * For more information, see https://json-schema.org/understanding-json-schema/
reference.
     *
     * @return The tool specification for the Weather tool.
     */
    public ToolSpecification getToolSpec() {
        Map<String, Document> latitudeMap = new HashMap<>();
        latitudeMap.put("type", Document.fromString("string"));
        latitudeMap.put("description", Document.fromString("Geographical WGS84
 latitude of the location."));

        // Create the nested "longitude" object
        Map<String, Document> longitudeMap = new HashMap<>();
        longitudeMap.put("type", Document.fromString("string"));
```

```
        longitudeMap.put("description", Document.fromString("Geographical WGS84
longitude of the location."));

        // Create the "properties" object
        Map<String, Document> propertiesMap = new HashMap<>();
        propertiesMap.put("latitude", Document.fromMap(latitudeMap));
        propertiesMap.put("longitude", Document.fromMap(longitudeMap));

        // Create the "required" array
        List<Document> requiredList = new ArrayList<>();
        requiredList.add(Document.fromString("latitude"));
        requiredList.add(Document.fromString("longitude"));

        // Create the root object
        Map<String, Document> rootMap = new HashMap<>();
        rootMap.put("type", Document.fromString("object"));
        rootMap.put("properties", Document.fromMap(propertiesMap));
        rootMap.put("required", Document.fromList(requiredList));

        // Now create the Document representing the JSON schema
        Document document = Document.fromMap(rootMap);

        ToolSpecification specification = ToolSpecification.builder()
            .name("Weather_Tool")
            .description("Get the current weather for a given location, based on its
WGS84 coordinates.")
            .inputSchema(ToolInputSchema.builder()
                .json(document)
                .build())
            .build();

        return specification;
    }

    /**
     * Fetches weather data for the given latitude and longitude.
     *
     * @param latitude  the latitude coordinate
     * @param longitude the longitude coordinate
     * @return a {@link CompletableFuture} containing the weather data as a JSON
string
     */
    public Document fetchWeatherData(String latitude, String longitude) {
        HttpClient httpClient = HttpClient.newHttpClient();
```

```
        // Ensure no extra double quotes
        latitude = latitude.replace("\"", "");
        longitude = longitude.replace("\"", "");

        String endpoint = "https://api.open-meteo.com/v1/forecast";
        String url = String.format("%s?latitude=%s&longitude=
%s&current_weather=True", endpoint, latitude, longitude);

        HttpRequest request = HttpRequest.newBuilder()
            .uri(URI.create(url))
            .build();

        try {
            HttpResponse<String> response = httpClient.send(request,
 HttpResponse.BodyHandlers.ofString());
            if (response.statusCode() == 200) {
                String weatherJson = response.body();
                System.out.println(weatherJson);
                ObjectMapper objectMapper = new ObjectMapper();
                Map<String, Object> rawMap = objectMapper.readValue(weatherJson, new
 TypeReference<Map<String, Object>>() {});
                Map<String, Document> documentMap = convertToDocumentMap(rawMap);


                Document weatherDocument = Document.fromMap(documentMap);
                System.out.println(weatherDocument);
                return weatherDocument;
            } else {
                throw new RuntimeException("Error fetching weather data: " +
 response.statusCode());
            }
        } catch (Exception e) {
            System.out.println("Error fetching weather data: " + e.getMessage());
            throw new RuntimeException("Error fetching weather data", e);
        }

    }

    private static Map<String, Document> convertToDocumentMap(Map<String, Object>
 inputMap) {
        Map<String, Document> result = new HashMap<>();
        for (Map.Entry<String, Object> entry : inputMap.entrySet()) {
            result.put(entry.getKey(), convertToDocument(entry.getValue()));
```

```
        }
        return result;
    }

    // Convert different types of Objects to Document
    private static Document convertToDocument(Object value) {
        if (value instanceof Map) {
            return Document.fromMap(convertToDocumentMap((Map<String, Object>)
 value));
        } else if (value instanceof Integer) {
            return Document.fromNumber(SdkNumber.fromInteger((Integer) value));
        } else if (value instanceof Double) {  //
            return Document.fromNumber(SdkNumber.fromDouble((Double) value));
        } else if (value instanceof Boolean) {
            return Document.fromBoolean((Boolean) value);
        } else if (value instanceof String) {
            return Document.fromString((String) value);
        }
        return Document.fromNull(); // Handle null values safely
    }
}
```

ツール設定を使用する Converse API アクション。

```
    /**
     * Sends an asynchronous converse request to the AI model.
     *
     * @param modelId      the unique identifier of the AI model to be used for the
 converse request
     * @param systemPrompt the system prompt to be included in the converse request
     * @param conversation a list of messages representing the conversation history
     * @param toolSpec     the specification of the tool to be used in the converse
 request
     * @return the converse response received from the AI model
     */
    public ConverseResponse sendConverseRequestAsync(String modelId, String
 systemPrompt, List<Message> conversation, ToolSpecification toolSpec) {
        List<Tool> toolList = new ArrayList<>();
        Tool tool = Tool.builder()
            .toolSpec(toolSpec)
            .build();
```

```
        toolList.add(tool);

        ToolConfiguration configuration = ToolConfiguration.builder()
            .tools(toolList)
            .build();

        SystemContentBlock block = SystemContentBlock.builder()
            .text(systemPrompt)
            .build();

        ConverseRequest request = ConverseRequest.builder()
            .modelId(modelId)
            .system(block)
            .messages(conversation)
            .toolConfig(configuration)
            .build();

        try {
            ConverseResponse response = getClient().converse(request).join();
            return response;

        } catch (ModelNotReadyException ex) {
            throw new RuntimeException("Model is not ready: " + ex.getMessage(),
ex);
        } catch (BedrockRuntimeException ex) {
            throw new RuntimeException("Failed to converse with Bedrock model: " +
ex.getMessage(), ex);
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「Converse」を参照してください。

Amazon Nova

Converse

次のコード例は、Bedrock の Converse API を使用して Amazon Nova にテキストメッセージを送信する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

非同期 Java クライアントを含む Bedrock の Converse API を使用して Amazon Nova にテキストメッセージを送信します。

```
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.BedrockRuntimeAsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.*;

import java.util.concurrent.CompletableFuture;

/**
 * This example demonstrates how to use the Amazon Nova foundation models
 * with an asynchronous Amazon Bedrock runtime client to generate text.
 * It shows how to:
 * - Set up the Amazon Bedrock runtime client
 * - Create a message
 * - Configure and send a request
 * - Process the response
 */
public class ConverseAsync {

    public static String converseAsync() {

        // Step 1: Create the Amazon Bedrock runtime client
        // The runtime client handles the communication with AI models on Amazon
 Bedrock
        BedrockRuntimeAsyncClient client = BedrockRuntimeAsyncClient.builder()
                .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        // Step 2: Specify which model to use
        // Available Amazon Nova models and their characteristics:
```

```
        // - Amazon Nova Micro: Text-only model optimized for lowest latency and
 cost
        // - Amazon Nova Lite:  Fast, low-cost multimodal model for image, video,
 and text
        // - Amazon Nova Pro:   Advanced multimodal model balancing accuracy, speed,
 and cost
        //
        // For the latest available models, see:
        // https://docs.aws.amazon.com/bedrock/latest/userguide/models-
supported.html
        String modelId = "amazon.nova-lite-v1:0";

        // Step 3: Create the message
        // The message includes the text prompt and specifies that it comes from the
 user
        var inputText = "Describe the purpose of a 'hello world' program in one
 line.";
        var message = Message.builder()
                .content(ContentBlock.fromText(inputText))
                .role(ConversationRole.USER)
                .build();

        // Step 4: Configure the request
        // Optional parameters to control the model's response:
        // - maxTokens: maximum number of tokens to generate
        // - temperature: randomness (max: 1.0, default: 0.7)
        //   OR
        // - topP: diversity of word choice (max: 1.0, default: 0.9)
        // Note: Use either temperature OR topP, but not both
        ConverseRequest request = ConverseRequest.builder()
                .modelId(modelId)
                .messages(message)
                .inferenceConfig(config -> config
                                .maxTokens(500)     // The maximum response length
                                .temperature(0.5F)  // Using temperature for
 randomness control
                        //.topP(0.9F)       // Alternative: use topP instead of
 temperature
                ).build();

        // Step 5: Send and process the request asynchronously
        // - Send the request to the model
        // - Extract and return the generated text from the response
        try {
```

```
            CompletableFuture< converseResponse> asyncResponse =
 client.converse(request);
            return asyncResponse.thenApply(
                    response -> response.output().message().content().get(0).text()
            ).get();

        } catch (Exception e) {
            System.err.printf("Can't invoke '%s': %s", modelId, e.getMessage());
            throw new RuntimeException(e);
        }
    }

    public static void main(String[] args) {
        String response = converseAsync();
        System.out.println(response);
    }
}
```

Bedrock の Converse API を使用して Amazon Nova にテキストメッセージを送信します。

```
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.core.exception.SdkClientException;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.BedrockRuntimeClient;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.*;

/**
 * This example demonstrates how to use the Amazon Nova foundation models
 * with a synchronous Amazon Bedrock runtime client to generate text.
 * It shows how to:
 * - Set up the Amazon Bedrock runtime client
 * - Create a message
 * - Configure and send a request
 * - Process the response
 */
public class Converse {

    public static String converse() {

        // Step 1: Create the Amazon Bedrock runtime client
```

```
        // The runtime client handles the communication with AI models on Amazon
 Bedrock
        BedrockRuntimeClient client = BedrockRuntimeClient.builder()
                .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        // Step 2: Specify which model to use
        // Available Amazon Nova models and their characteristics:
        // - Amazon Nova Micro: Text-only model optimized for lowest latency and
 cost
        // - Amazon Nova Lite:  Fast, low-cost multimodal model for image, video,
 and text
        // - Amazon Nova Pro:   Advanced multimodal model balancing accuracy, speed,
 and cost
        //
        // For the latest available models, see:
        // https://docs.aws.amazon.com/bedrock/latest/userguide/models-
supported.html
        String modelId = "amazon.nova-lite-v1:0";

        // Step 3: Create the message
        // The message includes the text prompt and specifies that it comes from the
 user
        var inputText = "Describe the purpose of a 'hello world' program in one
 line.";
        var message = Message.builder()
                .content(ContentBlock.fromText(inputText))
                .role(ConversationRole.USER)
                .build();

        // Step 4: Configure the request
        // Optional parameters to control the model's response:
        // - maxTokens: maximum number of tokens to generate
        // - temperature: randomness (max: 1.0, default: 0.7)
        //   OR
        // - topP: diversity of word choice (max: 1.0, default: 0.9)
        // Note: Use either temperature OR topP, but not both
        ConverseRequest request = ConverseRequest.builder()
                .modelId(modelId)
                .messages(message)
                .inferenceConfig(config -> config
                                .maxTokens(500)     // The maximum response length
```

```
                                .temperature(0.5F)  // Using temperature for
 randomness control
                        //.topP(0.9F)       // Alternative: use topP instead of
 temperature
                ).build();

        // Step 5: Send and process the request
        // - Send the request to the model
        // - Extract and return the generated text from the response
        try {
            ConverseResponse response = client.converse(request);
            return response.output().message().content().get(0).text();

        } catch (SdkClientException e) {
            System.err.printf("ERROR: Can't invoke '%s'. Reason: %s", modelId,
 e.getMessage());
            throw new RuntimeException(e);
        }
    }

    public static void main(String[] args) {
        String response = converse();
        System.out.println(response);
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「Converse」を参照してください。

ConverseStream

次のコード例は、Bedrock の Converse API を使用して Amazon Nova にテキストメッセージを送信し、レスポンスストリームをリアルタイムで処理する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

Bedrock の Converse API を使用して Amazon Nova にテキストメッセージを送信し、レスポンスストリームをリアルタイムで処理します。

```
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.BedrockRuntimeAsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.*;

import java.util.concurrent.ExecutionException;

/**
 * This example demonstrates how to use the Amazon Nova foundation models with an
 * asynchronous Amazon Bedrock runtime client to generate streaming text responses.
 * It shows how to:
 * - Set up the Amazon Bedrock runtime client
 * - Create a message
 * - Configure a streaming request
 * - Set up a stream handler to process the response chunks
 * - Process the streaming response
 */
public class ConverseStream {

    public static void converseStream() {

        // Step 1: Create the Amazon Bedrock runtime client
        // The runtime client handles the communication with AI models on Amazon
 Bedrock
        BedrockRuntimeAsyncClient client = BedrockRuntimeAsyncClient.builder()
                .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        // Step 2: Specify which model to use
```

```
        // Available Amazon Nova models and their characteristics:
        // - Amazon Nova Micro: Text-only model optimized for lowest latency and
 cost
        // - Amazon Nova Lite:  Fast, low-cost multimodal model for image, video,
 and text
        // - Amazon Nova Pro:   Advanced multimodal model balancing accuracy, speed,
 and cost
        //
        // For the latest available models, see:
        // https://docs.aws.amazon.com/bedrock/latest/userguide/models-
supported.html
        String modelId = "amazon.nova-lite-v1:0";

        // Step 3: Create the message
        // The message includes the text prompt and specifies that it comes from the
 user
        var inputText = "Describe the purpose of a 'hello world' program in one
 paragraph";
        var message = Message.builder()
                .content(ContentBlock.fromText(inputText))
                .role(ConversationRole.USER)
                .build();

        // Step 4: Configure the request
        // Optional parameters to control the model's response:
        // - maxTokens: maximum number of tokens to generate
        // - temperature: randomness (max: 1.0, default: 0.7)
        //   OR
        // - topP: diversity of word choice (max: 1.0, default: 0.9)
        // Note: Use either temperature OR topP, but not both
        ConverseStreamRequest request = ConverseStreamRequest.builder()
                .modelId(modelId)
                .messages(message)
                .inferenceConfig(config -> config
                                .maxTokens(500)     // The maximum response length
                                .temperature(0.5F)  // Using temperature for
 randomness control
                        //.topP(0.9F)       // Alternative: use topP instead of
 temperature
                ).build();

        // Step 5: Set up the stream handler
        // The stream handler processes chunks of the response as they arrive
        // - onContentBlockDelta: Processes each text chunk
```

```
        // - onError: Handles any errors during streaming
        var streamHandler = ConverseStreamResponseHandler.builder()
                .subscriber(ConverseStreamResponseHandler.Visitor.builder()
                        .onContentBlockDelta(chunk -> {
                            System.out.print(chunk.delta().text());
                            System.out.flush();  // Ensure immediate output of each
 chunk
                        }).build())
                .onError(err -> System.err.printf("Can't invoke '%s': %s", modelId,
 err.getMessage()))
                .build();

        // Step 6: Send the streaming request and process the response
        // - Send the request to the model
        // - Attach the handler to process response chunks as they arrive
        // - Handle any errors during streaming
        try {
            client.converseStream(request, streamHandler).get();

        } catch (ExecutionException | InterruptedException e) {
            System.err.printf("Can't invoke '%s': %s", modelId,
 e.getCause().getMessage());
        }
    }

    public static void main(String[] args) {
        converseStream();
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ConverseStream」を参照してください。

シナリオ: Converse API でのツールの使用

次のコード例は、アプリケーション、生成 AI モデル、接続されたツールまたは API 間の一般的なインタラクションを構築し、AI と外部世界のインタラクションを仲介する方法を示しています。外部気象 API を AI モデルに接続する例を使用して、ユーザー入力に基づいてリアルタイムの気象情報を提供します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

シナリオフローのプライマリ実行。このシナリオはユーザー、Amazon Bedrock Converse API、気象ツールの間の会話を調整します。

```
/*
 This demo illustrates a tool use scenario using Amazon Bedrock's Converse API and a
 weather tool.
 The program interacts with a foundation model on Amazon Bedrock to provide weather
 information based on user
 input. It uses the Open-Meteo API (https://open-meteo.com) to retrieve current
 weather data for a given location.
 */
public class BedrockScenario {
    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");
    private static String modelId = "amazon.nova-lite-v1:0";
    private static String defaultPrompt = "What is the weather like in Seattle?";
    private static WeatherTool weatherTool = new WeatherTool();

    // The maximum number of recursive calls allowed in the tool use function.
    // This helps prevent infinite loops and potential performance issues.
    private static int maxRecursions = 5;
    static BedrockActions bedrockActions = new BedrockActions();
    public static boolean interactive = true;

    private static final String systemPrompt = """
            You are a weather assistant that provides current weather data for user-
specified locations using only
            the Weather_Tool, which expects latitude and longitude. Infer the
 coordinates from the location yourself.
            If the user provides coordinates, infer the approximate location and
 refer to it in your response.
            To use the tool, you strictly apply the provided tool specification.

            - Explain your step-by-step process, and give brief updates before each
 step.
```

```
            - Only use the Weather_Tool for data. Never guess or make up
 information.
            - Repeat the tool use for subsequent requests if necessary.
            - If the tool errors, apologize, explain weather is unavailable, and
 suggest other options.
            - Report temperatures in °C (°F) and wind in km/h (mph). Keep weather
 reports concise. Sparingly use
              emojis where appropriate.
            - Only respond to weather queries. Remind off-topic users of your
 purpose.
            - Never claim to search online, access external data, or use tools
 besides Weather_Tool.
            - Complete the entire process until you have all required data before
 sending the complete response.
            """;

    public static void main(String[] args) {
        Scanner scanner = new Scanner(System.in);
        System.out.println("""
                ==================================================
                Welcome to the Amazon Bedrock Tool Use demo!
                ==================================================

                This assistant provides current weather information for user-
specified locations.
                You can ask for weather details by providing the location name or
 coordinates.

                Example queries:
                - What's the weather like in New York?
                - Current weather for latitude 40.70, longitude -74.01
                - Is it warmer in Rome or Barcelona today?

                To exit the program, simply type 'x' and press Enter.

                P.S.: You're not limited to single locations, or even to using
 English!
                Have fun and experiment with the app!
                """);
        System.out.println(DASHES);

        try {
            runConversation(scanner);
```

```
        } catch (Exception ex) {
            System.out.println("There was a problem running the scenario: " +
ex.getMessage());
        }

        waitForInputToContinue(scanner);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("Amazon Bedrock Converse API with Tool Use Feature
Scenario is complete.");
        System.out.println(DASHES);
    }

    /**
     * Starts the conversation with the user and handles the interaction with
Bedrock.
     */
    private static List<Message> runConversation(Scanner scanner) {
        List<Message> conversation = new ArrayList<>();

        // Get the first user input
        String userInput = getUserInput("Your weather info request:", scanner);
        System.out.println(userInput);

        while (userInput != null) {
            ContentBlock block = ContentBlock.builder()
                    .text(userInput)
                    .build();

            List<ContentBlock> blockList = new ArrayList<>();
            blockList.add(block);

            Message message = Message.builder()
                    .role(ConversationRole.USER)
                    .content(blockList)
                    .build();

            conversation.add(message);

            // Send the conversation to Amazon Bedrock.
            ConverseResponse bedrockResponse =
sendConversationToBedrock(conversation);
```

```
            // Recursively handle the model's response until the model has returned
its final response or the recursion counter has reached 0.
            processModelResponse(bedrockResponse, conversation, maxRecursions);

            // Repeat the loop until the user decides to exit the application.
            userInput = getUserInput("Your weather info request:", scanner);
        }
        printFooter();
        return conversation;
    }

    /**
     * Processes the response from the model and updates the conversation
accordingly.
     *
     * @param modelResponse the response from the model
     * @param conversation  the ongoing conversation
     * @param maxRecursion  the maximum number of recursions allowed
     */
    private static void processModelResponse(ConverseResponse modelResponse,
List<Message> conversation, int maxRecursion) {
        if (maxRecursion <= 0) {
            // Stop the process, the number of recursive calls could indicate an
infinite loop
            System.out.println("\tWarning: Maximum number of recursions reached.
Please try again.");
        }

        // Append the model's response to the ongoing conversation
        conversation.add(modelResponse.output().message());

        String modelResponseVal = modelResponse.stopReasonAsString();
        if (modelResponseVal.compareTo("tool_use") == 0) {
            // If the stop reason is "tool_use", forward everything to the tool use
handler
            handleToolUse(modelResponse.output(), conversation, maxRecursion - 1);
        }

        if (modelResponseVal.compareTo("end_turn") == 0) {
            // If the stop reason is "end_turn", print the model's response text,
and finish the process

PrintModelResponse(modelResponse.output().message().content().get(0).text());
            if (!interactive) {
```

```
                defaultPrompt = "x";
            }
        }
    }

    /**
     * Handles the use of a tool by the model in a conversation.
     *
     * @param modelResponse the response from the model, which may include a tool
use request
     * @param conversation  the current conversation, which will be updated with the
tool use results
     * @param maxRecursion  the maximum number of recursive calls allowed to handle
the model's response
     */
    private static void handleToolUse(ConverseOutput modelResponse, List<Message>
conversation, int maxRecursion) {
        List<ContentBlock> toolResults = new ArrayList<>();

        // The model's response can consist of multiple content blocks
        for (ContentBlock contentBlock : modelResponse.message().content()) {
            if (contentBlock.text() != null && !contentBlock.text().isEmpty()) {
                // If the content block contains text, print it to the console
                PrintModelResponse(contentBlock.text());
            }

            if (contentBlock.toolUse() != null) {
                ToolResponse toolResponse = invokeTool(contentBlock.toolUse());

                // Add the tool use ID and the tool's response to the list of
results
                List<ToolResultContentBlock> contentBlockList = new ArrayList<>();
                ToolResultContentBlock block = ToolResultContentBlock.builder()
                        .json(toolResponse.getContent())
                        .build();
                contentBlockList.add(block);

                ToolResultBlock toolResultBlock = ToolResultBlock.builder()
                        .toolUseId(toolResponse.getToolUseId())
                        .content(contentBlockList)
                        .build();

                ContentBlock contentBlock1 = ContentBlock.builder()
                        .toolResult(toolResultBlock)
```

```
                        .build();

                toolResults.add(contentBlock1);
            }
        }

        // Embed the tool results in a new user message
        Message message = Message.builder()
                .role(ConversationRole.USER)
                .content(toolResults)
                .build();

        // Append the new message to the ongoing conversation
        //conversation.add(message);
        conversation.add(message);

        // Send the conversation to Amazon Bedrock
        var response = sendConversationToBedrock(conversation);

        // Recursively handle the model's response until the model has returned its
final response or the recursion counter has reached 0
        processModelResponse(response, conversation, maxRecursion);
    }

    // Invokes the specified tool with the given payload and returns the tool's
response.
    // If the requested tool does not exist, an error message is returned.
    private static ToolResponse invokeTool(ToolUseBlock payload) {
        String toolName = payload.name();

        if (Objects.equals(toolName, "Weather_Tool")) {
            Map<String, Document> inputData = payload.input().asMap();
            printToolUse(toolName, inputData);

            // Invoke the weather tool with the input data provided
            Document weatherResponse =
weatherTool.fetchWeatherData(inputData.get("latitude").toString(),
inputData.get("longitude").toString());

            ToolResponse toolResponse = new ToolResponse();
            toolResponse.setContent(weatherResponse);
            toolResponse.setToolUseId(payload.toolUseId());
            return toolResponse;
        } else {
```

```
            String errorMessage = "The requested tool with name " + toolName + "
does not exist.";
            System.out.println(errorMessage);
            return null;
        }
    }

    public static void printToolUse(String toolName, Map<String, Document>
inputData) {
        System.out.println("Invoking tool: " + toolName + " with input: " +
inputData.get("latitude").toString() + ", " + inputData.get("longitude").toString()
+ "...");
    }

    private static void PrintModelResponse(String message) {
        System.out.println("\tThe model's response:\n");
        System.out.println(message);
        System.out.println("");
    }

    private static ConverseResponse sendConversationToBedrock(List<Message>
conversation) {
        System.out.println("Calling Bedrock...");

        try {
            return bedrockActions.sendConverseRequestAsync(modelId, systemPrompt,
conversation, weatherTool.getToolSpec());
        } catch (ModelNotReadyException ex) {
             System.err.println("Model is not ready. Please try again later: " +
ex.getMessage());
            throw ex;
        } catch (BedrockRuntimeException ex) {
            System.err.println("Bedrock service error: " + ex.getMessage());
            throw ex;
        } catch (RuntimeException ex) {
            System.err.println("Unexpected error occurred: " + ex.getMessage());
            throw ex;
        }
    }

    private static ConverseResponse sendConversationToBedrockwithSpec(List<Message>
conversation, ToolSpecification toolSpec) {
        System.out.println("Calling Bedrock...");
```

```
        // Send the conversation, system prompt, and tool configuration, and return
the response
        return bedrockActions.sendConverseRequestAsync(modelId, systemPrompt,
conversation, toolSpec);
    }

    public static String getUserInput(String prompt, Scanner scanner) {
        String userInput = defaultPrompt;
        if (interactive) {
            System.out.println("*".repeat(80));
            System.out.println(prompt + " (x to exit): \n\t");
            userInput = scanner.nextLine();
        }

        if (userInput == null || userInput.trim().isEmpty()) {
            return getUserInput("\tPlease enter your weather info request, e.g., the
name of a city", scanner);
        }

        if (userInput.equalsIgnoreCase("x")) {
            return null;
        }

        return userInput;
    }

    private static void waitForInputToContinue(Scanner scanner) {
        while (true) {
            System.out.println("");
            System.out.println("Enter 'c' followed by <ENTER> to continue:");
            String input = scanner.nextLine();

            if (input.trim().equalsIgnoreCase("c")) {
                System.out.println("Continuing with the program...");
                System.out.println("");
                break;
            } else {
                // Handle invalid input.
                System.out.println("Invalid input. Please try again.");
            }
        }
    }

    public static void printFooter() {
```

```
        System.out.println("""
                ==================================================
                Thank you for checking out the Amazon Bedrock Tool Use demo. We hope
 you
                learned something new, or got some inspiration for your own apps
 today!

                For more Bedrock examples in different programming languages, have a
 look at:
                https://docs.aws.amazon.com/bedrock/latest/userguide/
service_code_examples.html
                ==================================================
                """);
    }
}
```

デモで使用される気象ツール。このファイルはツールの仕様を定義し、Open-Meteo API を使用して気象データを取得するロジックを実装します。

```
public class WeatherTool {

    private static final Logger logger = LoggerFactory.getLogger(WeatherTool.class);
    private static java.net.http.HttpClient httpClient = null;

    /**
     * Returns the JSON Schema specification for the Weather tool. The tool
 specification
     * defines the input schema and describes the tool's functionality.
     * For more information, see https://json-schema.org/understanding-json-schema/
reference.
     *
     * @return The tool specification for the Weather tool.
     */
    public ToolSpecification getToolSpec() {
        Map<String, Document> latitudeMap = new HashMap<>();
        latitudeMap.put("type", Document.fromString("string"));
        latitudeMap.put("description", Document.fromString("Geographical WGS84
 latitude of the location."));

        // Create the nested "longitude" object
        Map<String, Document> longitudeMap = new HashMap<>();
        longitudeMap.put("type", Document.fromString("string"));
```

```
        longitudeMap.put("description", Document.fromString("Geographical WGS84
longitude of the location."));

        // Create the "properties" object
        Map<String, Document> propertiesMap = new HashMap<>();
        propertiesMap.put("latitude", Document.fromMap(latitudeMap));
        propertiesMap.put("longitude", Document.fromMap(longitudeMap));

        // Create the "required" array
        List<Document> requiredList = new ArrayList<>();
        requiredList.add(Document.fromString("latitude"));
        requiredList.add(Document.fromString("longitude"));

        // Create the root object
        Map<String, Document> rootMap = new HashMap<>();
        rootMap.put("type", Document.fromString("object"));
        rootMap.put("properties", Document.fromMap(propertiesMap));
        rootMap.put("required", Document.fromList(requiredList));

        // Now create the Document representing the JSON schema
        Document document = Document.fromMap(rootMap);

        ToolSpecification specification = ToolSpecification.builder()
            .name("Weather_Tool")
            .description("Get the current weather for a given location, based on its
WGS84 coordinates.")
            .inputSchema(ToolInputSchema.builder()
                .json(document)
                .build())
            .build();

        return specification;
    }

    /**
     * Fetches weather data for the given latitude and longitude.
     *
     * @param latitude  the latitude coordinate
     * @param longitude the longitude coordinate
     * @return a {@link CompletableFuture} containing the weather data as a JSON
string
     */
    public Document fetchWeatherData(String latitude, String longitude) {
        HttpClient httpClient = HttpClient.newHttpClient();
```

```
        // Ensure no extra double quotes
        latitude = latitude.replace("\"", "");
        longitude = longitude.replace("\"", "");

        String endpoint = "https://api.open-meteo.com/v1/forecast";
        String url = String.format("%s?latitude=%s&longitude=
%s&current_weather=True", endpoint, latitude, longitude);

        HttpRequest request = HttpRequest.newBuilder()
            .uri(URI.create(url))
            .build();

        try {
            HttpResponse<String> response = httpClient.send(request,
 HttpResponse.BodyHandlers.ofString());
            if (response.statusCode() == 200) {
                String weatherJson = response.body();
                System.out.println(weatherJson);
                ObjectMapper objectMapper = new ObjectMapper();
                Map<String, Object> rawMap = objectMapper.readValue(weatherJson, new
 TypeReference<Map<String, Object>>() {});
                Map<String, Document> documentMap = convertToDocumentMap(rawMap);


                Document weatherDocument = Document.fromMap(documentMap);
                System.out.println(weatherDocument);
                return weatherDocument;
            } else {
                throw new RuntimeException("Error fetching weather data: " +
 response.statusCode());
            }
        } catch (Exception e) {
            System.out.println("Error fetching weather data: " + e.getMessage());
            throw new RuntimeException("Error fetching weather data", e);
        }

    }

    private static Map<String, Document> convertToDocumentMap(Map<String, Object>
 inputMap) {
        Map<String, Document> result = new HashMap<>();
        for (Map.Entry<String, Object> entry : inputMap.entrySet()) {
            result.put(entry.getKey(), convertToDocument(entry.getValue()));
```

```
        }
        return result;
    }

    // Convert different types of Objects to Document
    private static Document convertToDocument(Object value) {
        if (value instanceof Map) {
            return Document.fromMap(convertToDocumentMap((Map<String, Object>)
 value));
        } else if (value instanceof Integer) {
            return Document.fromNumber(SdkNumber.fromInteger((Integer) value));
        } else if (value instanceof Double) {  //
            return Document.fromNumber(SdkNumber.fromDouble((Double) value));
        } else if (value instanceof Boolean) {
            return Document.fromBoolean((Boolean) value);
        } else if (value instanceof String) {
            return Document.fromString((String) value);
        }
        return Document.fromNull(); // Handle null values safely
    }
}
```

ツール設定を使用する Converse API アクション。

```
    /**
     * Sends an asynchronous converse request to the AI model.
     *
     * @param modelId      the unique identifier of the AI model to be used for the
 converse request
     * @param systemPrompt the system prompt to be included in the converse request
     * @param conversation a list of messages representing the conversation history
     * @param toolSpec     the specification of the tool to be used in the converse
 request
     * @return the converse response received from the AI model
     */
    public ConverseResponse sendConverseRequestAsync(String modelId, String
 systemPrompt, List<Message> conversation, ToolSpecification toolSpec) {
        List<Tool> toolList = new ArrayList<>();
        Tool tool = Tool.builder()
            .toolSpec(toolSpec)
            .build();
```

```
        toolList.add(tool);

        ToolConfiguration configuration = ToolConfiguration.builder()
            .tools(toolList)
            .build();

        SystemContentBlock block = SystemContentBlock.builder()
            .text(systemPrompt)
            .build();

        ConverseRequest request = ConverseRequest.builder()
            .modelId(modelId)
            .system(block)
            .messages(conversation)
            .toolConfig(configuration)
            .build();

        try {
            ConverseResponse response = getClient().converse(request).join();
            return response;

        } catch (ModelNotReadyException ex) {
            throw new RuntimeException("Model is not ready: " + ex.getMessage(),
ex);
        } catch (BedrockRuntimeException ex) {
            throw new RuntimeException("Failed to converse with Bedrock model: " +
ex.getMessage(), ex);
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「Converse」を参照してください。

Amazon Nova Canvas

InvokeModel

以下のコード例は、Amazon Bedrock で Amazon Nova Canvas を呼び出して画像を生成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

Amazon Nova Canvas で画像を作成します。

```
import org.json.JSONObject;
import org.json.JSONPointer;
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.core.SdkBytes;
import software.amazon.awssdk.core.exception.SdkClientException;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.BedrockRuntimeClient;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.InvokeModelResponse;

import java.security.SecureRandom;
import java.util.Base64;

import static com.example.bedrockruntime.libs.ImageTools.displayImage;

/**
 * This example demonstrates how to use Amazon Nova Canvas to generate images.
 * It shows how to:
 * - Set up the Amazon Bedrock runtime client
 * - Configure the image generation parameters
 * - Send a request to generate an image
 * - Process the response and handle the generated image
 */
public class InvokeModel {

    public static byte[] invokeModel() {

        // Step 1: Create the Amazon Bedrock runtime client
        // The runtime client handles the communication with AI models on Amazon
 Bedrock
        BedrockRuntimeClient client = BedrockRuntimeClient.builder()
                .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
                .region(Region.US_EAST_1)
```

```
                .build();

        // Step 2: Specify which model to use
        // For the latest available models, see:
        // https://docs.aws.amazon.com/bedrock/latest/userguide/models-
supported.html
        String modelId = "amazon.nova-canvas-v1:0";

        // Step 3: Configure the generation parameters and create the request
        // First, set the main parameters:
        // - prompt: Text description of the image to generate
        // - seed: Random number for reproducible generation (0 to 858,993,459)
        String prompt = "A stylized picture of a cute old steampunk robot";
        int seed = new SecureRandom().nextInt(858_993_460);

        // Then, create the request using a template with the following structure:
        // - taskType: TEXT_IMAGE (specifies text-to-image generation)
        // - textToImageParams: Contains the text prompt
        // - imageGenerationConfig: Contains optional generation settings (seed,
 quality, etc.)
        // For a list of available request parameters, see:
        // https://docs.aws.amazon.com/nova/latest/userguide/image-gen-req-resp-
structure.html
        String request = """
                {
                    "taskType": "TEXT_IMAGE",
                    "textToImageParams": {
                        "text": "{{prompt}}"
                    },
                    "imageGenerationConfig": {
                        "seed": {{seed}},
                        "quality": "standard"
                    }
                }"""
                .replace("{{prompt}}", prompt)
                .replace("{{seed}}", String.valueOf(seed));

        // Step 4: Send and process the request
        // - Send the request to the model using InvokeModelResponse
        // - Extract the Base64-encoded image from the JSON response
        // - Convert the encoded image to a byte array and return it
        try {
            InvokeModelResponse response = client.invokeModel(builder -> builder
                    .modelId(modelId)
```

```
                    .body(SdkBytes.fromUtf8String(request))
            );

            JSONObject responseBody = new
 JSONObject(response.body().asUtf8String());
            // Convert the Base64 string to byte array for better handling
            return Base64.getDecoder().decode(
                    new JSONPointer("/images/0").queryFrom(responseBody).toString()
            );

        } catch (SdkClientException e) {
            System.err.printf("ERROR: Can't invoke '%s'. Reason: %s%n", modelId,
 e.getMessage());
            throw new RuntimeException(e);
        }
    }

    public static void main(String[] args) {
        System.out.println("Generating image. This may take a few seconds...");
        byte[] imageData = invokeModel();
        displayImage(imageData);
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「InvokeModel」を参照してください。

Amazon Titan Image Generator

InvokeModel

次のコード例は、Amazon Bedrock で Amazon Titan Image を呼び出して画像を生成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

Amazon Titan Image Generator を使用して画像を作成します。

```
// Create an image with the Amazon Titan Image Generator.

import org.json.JSONObject;
import org.json.JSONPointer;
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.core.SdkBytes;
import software.amazon.awssdk.core.exception.SdkClientException;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.BedrockRuntimeClient;

import java.math.BigInteger;
import java.security.SecureRandom;

import static com.example.bedrockruntime.libs.ImageTools.displayImage;

public class InvokeModel {

    public static String invokeModel() {

        // Create a Bedrock Runtime client in the AWS Region you want to use.
        // Replace the DefaultCredentialsProvider with your preferred credentials
 provider.
        var client = BedrockRuntimeClient.builder()
                .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        // Set the model ID, e.g., Titan Image G2.
        var modelId = "amazon.titan-image-generator-v2:0";

        // The InvokeModel API uses the model's native payload.
        // Learn more about the available inference parameters and response fields
 at:
```

```
        // https://docs.aws.amazon.com/bedrock/latest/userguide/model-parameters-
titan-image.html
        var nativeRequestTemplate = """
                {
                    "taskType": "TEXT_IMAGE",
                    "textToImageParams": { "text": "{{prompt}}" },
                    "imageGenerationConfig": { "seed": {{seed}} }
                }""";

        // Define the prompt for the image generation.
        var prompt = "A stylized picture of a cute old steampunk robot";

        // Get a random 31-bit seed for the image generation (max. 2,147,483,647).
        var seed = new BigInteger(31, new SecureRandom());

        // Embed the prompt and seed in the model's native request payload.
        var nativeRequest = nativeRequestTemplate
                .replace("{{prompt}}", prompt)
                .replace("{{seed}}", seed.toString());

        try {
            // Encode and send the request to the Bedrock Runtime.
            var response = client.invokeModel(request -> request
                    .body(SdkBytes.fromUtf8String(nativeRequest))
                    .modelId(modelId)
            );

            // Decode the response body.
            var responseBody = new JSONObject(response.body().asUtf8String());

            // Retrieve the generated image data from the model's response.
            var base64ImageData = new JSONPointer("/
images/0").queryFrom(responseBody).toString();

            return base64ImageData;

        } catch (SdkClientException e) {
            System.err.printf("ERROR: Can't invoke '%s'. Reason: %s", modelId,
 e.getMessage());
            throw new RuntimeException(e);
        }
    }

    public static void main(String[] args) {
```

```
        System.out.println("Generating image. This may take a few seconds...");

        String base64ImageData = invokeModel();

        displayImage(base64ImageData);
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「InvokeModel」を参照してください。

Amazon Titan Text Embeddings

InvokeModel

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- 最初の埋め込みの作成を開始します。
- ディメンションの数と正規化を設定する埋め込みを作成します (V2 のみ)。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

Titan Text Embeddings V2 で最初の埋め込みを作成します。

```
// Generate and print an embedding with Amazon Titan Text Embeddings.

import org.json.JSONObject;
import org.json.JSONPointer;
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.core.SdkBytes;
import software.amazon.awssdk.core.exception.SdkClientException;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.BedrockRuntimeClient;
```

```
public class InvokeModel {

    public static String invokeModel() {

        // Create a Bedrock Runtime client in the AWS Region you want to use.
        // Replace the DefaultCredentialsProvider with your preferred credentials
 provider.
        var client = BedrockRuntimeClient.builder()
                .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        // Set the model ID, e.g., Titan Text Embeddings V2.
        var modelId = "amazon.titan-embed-text-v2:0";

        // The InvokeModel API uses the model's native payload.
        // Learn more about the available inference parameters and response fields
 at:
        // https://docs.aws.amazon.com/bedrock/latest/userguide/model-parameters-
titan-embed-text.html
        var nativeRequestTemplate = "{ \"inputText\": \"{{inputText}}\" }";

        // The text to convert into an embedding.
        var inputText = "Please recommend books with a theme similar to the movie
 'Inception'.";

        // Embed the prompt in the model's native request payload.
        String nativeRequest = nativeRequestTemplate.replace("{{inputText}}",
 inputText);

        try {
            // Encode and send the request to the Bedrock Runtime.
            var response = client.invokeModel(request -> request
                    .body(SdkBytes.fromUtf8String(nativeRequest))
                    .modelId(modelId)
            );

            // Decode the response body.
            var responseBody = new JSONObject(response.body().asUtf8String());

            // Retrieve the generated text from the model's response.
            var text = new JSONPointer("/
embedding").queryFrom(responseBody).toString();
```

```
            System.out.println(text);

            return text;

        } catch (SdkClientException e) {
            System.err.printf("ERROR: Can't invoke '%s'. Reason: %s", modelId,
 e.getMessage());
            throw new RuntimeException(e);
        }
    }

    public static void main(String[] args) {
        invokeModel();
    }
}
```

ディメンションの数と正規化を設定する Titan Text Embeddings V2 を呼び出します。

```
    /**
     * Invoke Amazon Titan Text Embeddings V2 with additional inference parameters.
     *
     * @param inputText  - The text to convert to an embedding.
     * @param dimensions - The number of dimensions the output embeddings should
 have.
     *                   Values accepted by the model: 256, 512, 1024.
     * @param normalize  - A flag indicating whether or not to normalize the output
 embeddings.
     * @return The {@link JSONObject} representing the model's response.
     */
    public static JSONObject invokeModel(String inputText, int dimensions, boolean
 normalize) {

        // Create a Bedrock Runtime client in the AWS Region of your choice.
        var client = BedrockRuntimeClient.builder()
                .region(Region.US_WEST_2)
                .build();

        // Set the model ID, e.g., Titan Embed Text v2.0.
        var modelId = "amazon.titan-embed-text-v2:0";

        // Create the request for the model.
```

```
        var nativeRequest = """
                {
                    "inputText": "%s",
                    "dimensions": %d,
                    "normalize": %b
                }
                """.formatted(inputText, dimensions, normalize);

        // Encode and send the request.
        var response = client.invokeModel(request -> {
            request.body(SdkBytes.fromUtf8String(nativeRequest));
            request.modelId(modelId);
        });

        // Decode the model's response.
        var modelResponse = new JSONObject(response.body().asUtf8String());

        // Extract and print the generated embedding and the input text token count.
        var embedding = modelResponse.getJSONArray("embedding");
        var inputTokenCount = modelResponse.getBigInteger("inputTextTokenCount");
        System.out.println("Embedding: " + embedding);
        System.out.println("\nInput token count: " + inputTokenCount);

        // Return the model's native response.
        return modelResponse;
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「InvokeModel」を参照してください。

Anthropic Claude

Converse

次のコード例は、Bedrock の Converse API を使用して Anthropic Claude にテキストメッセージを送信する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

Bedrock の Converse API を使用して、Anthropic Claude にテキストメッセージを送信します。

```
// Use the Converse API to send a text message to Anthropic Claude.

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.core.exception.SdkClientException;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.BedrockRuntimeClient;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.ContentBlock;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.ConversationRole;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.ConverseResponse;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.Message;

public class Converse {

    public static String converse() {

        // Create a Bedrock Runtime client in the AWS Region you want to use.
        // Replace the DefaultCredentialsProvider with your preferred credentials
 provider.
        var client = BedrockRuntimeClient.builder()
                .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        // Set the model ID, e.g., Claude Haiku 5.5.
        // Claude Haiku 5.5 is available through an inference profile, so this uses
        // the "us." cross-Region profile ID that matches the Region set above.
        var modelId = "us.anthropic.claude-haiku-5-5";

        // Create the input text and embed it in a message object with the user
 role.
        var inputText = "Describe the purpose of a 'hello world' program in one
 line.";
        var message = Message.builder()
```

```
                .content(ContentBlock.fromText(inputText))
                .role(ConversationRole.USER)
                .build();


        try {
            // Send the message with a basic inference configuration.
            ConverseResponse response = client.converse(request -> request
                    .modelId(modelId)
                    .messages(message)
                    .inferenceConfig(config -> config
                            .maxTokens(512)));

            // Retrieve the generated text from Bedrock's response object.
            var responseText =
 response.output().message().content().getFirst().text();
            System.out.println(responseText);

            return responseText;

        } catch (SdkClientException e) {
            System.err.printf("ERROR: Can't invoke '%s'. Reason: %s", modelId,
 e.getMessage());
            throw new RuntimeException(e);
        }
    }

    public static void main(String[] args) {
        converse();
    }
}
```

Bedrock の Converse API と非同期 Java クライアントを使用して、Anthropic Claude にテキストメッセージを送信します。

```
// Use the Converse API to send a text message to Anthropic Claude
// with the async Java client.

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.BedrockRuntimeAsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.ContentBlock;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.ConversationRole;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.Message;

import java.util.concurrent.CompletableFuture;
import java.util.concurrent.ExecutionException;

public class ConverseAsync {

    public static String converseAsync() {

        // Create a Bedrock Runtime client in the AWS Region you want to use.
        // Replace the DefaultCredentialsProvider with your preferred credentials
 provider.
        var client = BedrockRuntimeAsyncClient.builder()
                .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        // Set the model ID, e.g., Claude Haiku 5.5.
        // Claude Haiku 5.5 is available through an inference profile, so this uses
        // the "us." cross-Region profile ID that matches the Region set above.
        var modelId = "us.anthropic.claude-haiku-5-5";

        // Create the input text and embed it in a message object with the user
 role.
        var inputText = "Describe the purpose of a 'hello world' program in one
 line.";
        var message = Message.builder()
                .content(ContentBlock.fromText(inputText))
                .role(ConversationRole.USER)
                .build();

        // Send the message with a basic inference configuration.
        var request = client.converse(params -> params
                .modelId(modelId)
                .messages(message)
                .inferenceConfig(config -> config
                        .maxTokens(512))
        );

        // Prepare a future object to handle the asynchronous response.
        CompletableFuture<String> future = new CompletableFuture<>();

        // Handle the response or error using the future object.
```

```
        request.whenComplete((response, error) -> {
            if (error == null) {
                // Extract the generated text from Bedrock's response object.
                String responseText =
 response.output().message().content().getFirst().text();
                future.complete(responseText);
            } else {
                future.completeExceptionally(error);
            }
        });

        try {
            // Wait for the future object to complete and retrieve the generated
 text.
            String responseText = future.get();
            System.out.println(responseText);

            return responseText;

        } catch (ExecutionException | InterruptedException e) {
            System.err.printf("Can't invoke '%s': %s", modelId, e.getMessage());
            throw new RuntimeException(e);
        }
    }

    public static void main(String[] args) {
        converseAsync();
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「Converse」を参照してください。

ConverseStream

次のコード例は、Bedrock の Converse API を使用して Anthropic Claude にテキストメッセージを送信し、レスポンスストリームをリアルタイムで処理する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

Bedrock の Converse API を使用して Anthropic Claude にテキストメッセージを送信し、レスポンスストリームをリアルタイムで処理します。

```
// Use the Converse API to send a text message to Anthropic Claude
// and print the response stream.

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.BedrockRuntimeAsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.ContentBlock;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.ConversationRole;
import
 software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.ConverseStreamResponseHandler;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.Message;

import java.util.concurrent.ExecutionException;

public class ConverseStream {

    public static void main(String[] args) {

        // Create a Bedrock Runtime client in the AWS Region you want to use.
        // Replace the DefaultCredentialsProvider with your preferred credentials
 provider.
        var client = BedrockRuntimeAsyncClient.builder()
                .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        // Set the model ID, e.g., Claude Haiku 5.5.
        // Claude Haiku 5.5 is available through an inference profile, so this uses
        // the "us." cross-Region profile ID that matches the Region set above.
        var modelId = "us.anthropic.claude-haiku-5-5";
```

```
        // Create the input text and embed it in a message object with the user
 role.
        var inputText = "Describe the purpose of a 'hello world' program in one
 line.";
        var message = Message.builder()
                .content(ContentBlock.fromText(inputText))
                .role(ConversationRole.USER)
                .build();

        // Create a handler to extract and print the response text in real-time.
        var responseStreamHandler = ConverseStreamResponseHandler.builder()
                .subscriber(ConverseStreamResponseHandler.Visitor.builder()
                        .onContentBlockDelta(chunk -> {
                            String responseText = chunk.delta().text();
                            System.out.print(responseText);
                        }).build()
                ).onError(err ->
                        System.err.printf("Can't invoke '%s': %s", modelId,
 err.getMessage())
                ).build();

        try {
            // Send the message with a basic inference configuration and attach the
 handler.
            client.converseStream(request -> request.modelId(modelId)
                    .messages(message)
                    .inferenceConfig(config -> config
                            .maxTokens(512)
                    ), responseStreamHandler).get();

        } catch (ExecutionException | InterruptedException e) {
            System.err.printf("Can't invoke '%s': %s", modelId,
 e.getCause().getMessage());
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ConverseStream」を参照してください。

推論

次のコード例は、Amazon Bedrock で Anthropic Claude 3.7 Sonnet の推論機能を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

Anthropic Claude 3.7 Sonnet の推論機能を非同期 Bedrock ランタイムクライアントで使用します。

```
import com.example.bedrockruntime.models.anthropicClaude.lib.ReasoningResponse;
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.core.document.Document;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.BedrockRuntimeAsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.*;

import java.util.concurrent.CompletableFuture;

/**
 * This example demonstrates how to use Anthropic Claude 3.7 Sonnet's reasoning
 capability
 * with an asynchronous Amazon Bedrock runtime client.
 * It shows how to:
 * - Set up the Amazon Bedrock async runtime client
 * - Create a message
 * - Configure reasoning parameters
 * - Send an asynchronous request with reasoning enabled
 * - Process both the reasoning output and final response
 */
public class ReasoningAsync {

    public static ReasoningResponse reasoningAsync() {

        // Create the Amazon Bedrock runtime client
```

```
        var client = BedrockRuntimeAsyncClient.builder()
                .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        // Specify the model ID. For the latest available models, see:
        // https://docs.aws.amazon.com/bedrock/latest/userguide/models-
supported.html
        var modelId = "us.anthropic.claude-sonnet-4-20250514-v1:0";

        // Create the message with the user's prompt
        var prompt = "Describe the purpose of a 'hello world' program in one line.";
        var message = Message.builder()
                .content(ContentBlock.fromText(prompt))
                .role(ConversationRole.USER)
                .build();

        // Configure reasoning parameters with a 2000 token budget
        Document reasoningConfig = Document.mapBuilder()
                .putDocument("thinking", Document.mapBuilder()
                        .putString("type", "enabled")
                        .putNumber("budget_tokens", 2000)
                        .build())
                .build();

        try {
            // Send message and reasoning configuration to the model
            CompletableFuture<ConverseResponse> asyncResponse =
 client.converse(request -> request
                    .additionalModelRequestFields(reasoningConfig)
                    .messages(message)
                    .modelId(modelId)
            );

            // Process the response asynchronously
            return asyncResponse.thenApply(response -> {

                        var content = response.output().message().content();
                        ReasoningContentBlock reasoning = null;
                        String text = null;

                        // Process each content block to find reasoning and response
 text
                        for (ContentBlock block : content) {
```

```
                            if (block.reasoningContent() != null) {
                                reasoning = block.reasoningContent();
                            } else if (block.text() != null) {
                                text = block.text();
                            }
                        }

                        return new ReasoningResponse(reasoning, text);
                    }
            ).get();

        } catch (Exception e) {
            System.err.printf("Can't invoke '%s': %s", modelId, e.getMessage());
            throw new RuntimeException(e);
        }
    }

    public static void main(String[] args) {
        // Execute the example and display reasoning and final response
        ReasoningResponse response = reasoningAsync();
        System.out.println("\n<thinking>");
        System.out.println(response.reasoning().reasoningText());
        System.out.println("</thinking>\n");
        System.out.println(response.text());
    }
}
```

Anthropic Claude 3.7 Sonnet の推論機能を同期 Bedrock ランタイムクライアントで使用します。

```
import com.example.bedrockruntime.models.anthropicClaude.lib.ReasoningResponse;
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.core.document.Document;
import software.amazon.awssdk.core.exception.SdkClientException;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.BedrockRuntimeClient;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.*;

/**
 * This example demonstrates how to use Anthropic Claude 3.7 Sonnet's reasoning
 capability
 * with the synchronous Amazon Bedrock runtime client.
```

```
 * It shows how to:
 * - Set up the Amazon Bedrock runtime client
 * - Create a message
 * - Configure reasoning parameters
 * - Send a request with reasoning enabled
 * - Process both the reasoning output and final response
 */
public class Reasoning {

    public static ReasoningResponse reasoning() {

        // Create the Amazon Bedrock runtime client
        var client = BedrockRuntimeClient.builder()
                .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        // Specify the model ID. For the latest available models, see:
        // https://docs.aws.amazon.com/bedrock/latest/userguide/models-
supported.html
        var modelId = "us.anthropic.claude-sonnet-4-20250514-v1:0";

        // Create the message with the user's prompt
        var prompt = "Describe the purpose of a 'hello world' program in one line.";
        var message = Message.builder()
                .content(ContentBlock.fromText(prompt))
                .role(ConversationRole.USER)
                .build();

        // Configure reasoning parameters with a 2000 token budget
        Document reasoningConfig = Document.mapBuilder()
                .putDocument("thinking", Document.mapBuilder()
                        .putString("type", "enabled")
                        .putNumber("budget_tokens", 2000)
                        .build())
                .build();

        try {
            // Send message and reasoning configuration to the model
            ConverseResponse bedrockResponse = client.converse(request -> request
                    .additionalModelRequestFields(reasoningConfig)
                    .messages(message)
                    .modelId(modelId)
            );
```

```
            // Extract both reasoning and final response
            var content = bedrockResponse.output().message().content();
            ReasoningContentBlock reasoning = null;
            String text = null;

            // Process each content block to find reasoning and response text
            for (ContentBlock block : content) {
                if (block.reasoningContent() != null) {
                    reasoning = block.reasoningContent();
                } else if (block.text() != null) {
                    text = block.text();
                }
            }

            return new ReasoningResponse(reasoning, text);

        } catch (SdkClientException e) {
            System.err.printf("ERROR: Can't invoke '%s'. Reason: %s", modelId,
 e.getMessage());
            throw new RuntimeException(e);
        }
    }

    public static void main(String[] args) {
        // Execute the example and display reasoning and final response
        ReasoningResponse response = reasoning();
        System.out.println("\n<thinking>");
        System.out.println(response.reasoning().reasoningText());
        System.out.println("</thinking>\n");
        System.out.println(response.text());
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「Converse」を参照してください。

ストリーミングレスポンスによる推論

次のコード例は、Amazon Bedrock で Anthropic Claude 3.7 Sonnet の推論機能を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

Anthropic Claude 3.7 Sonnet の推論機能を使用して、ストリーミングテキストレスポンスを生成します。

```
import com.example.bedrockruntime.models.anthropicClaude.lib.ReasoningResponse;
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.core.document.Document;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.BedrockRuntimeAsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.*;

import java.util.concurrent.ExecutionException;
import java.util.concurrent.atomic.AtomicReference;

/**
 * This example demonstrates how to use Anthropic Claude 3.7 Sonnet's reasoning
 * capability to generate streaming text responses.
 * It shows how to:
 * - Set up the Amazon Bedrock runtime client
 * - Create a message
 * - Configure a streaming request
 * - Set up a stream handler to process the response chunks
 * - Process the streaming response
 */
public class ReasoningStream {

    public static ReasoningResponse reasoningStream() {

        // Create the Amazon Bedrock runtime client
```

```
        var client = BedrockRuntimeAsyncClient.builder()
                .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        // Specify the model ID. For the latest available models, see:
        // https://docs.aws.amazon.com/bedrock/latest/userguide/models-
supported.html
        var modelId = "us.anthropic.claude-sonnet-4-20250514-v1:0";

        // Create the message with the user's prompt
        var prompt = "Describe the purpose of a 'hello world' program in one line.";
        var message = Message.builder()
                .content(ContentBlock.fromText(prompt))
                .role(ConversationRole.USER)
                .build();

        // Configure reasoning parameters with a 2000 token budget
        Document reasoningConfig = Document.mapBuilder()
                .putDocument("thinking", Document.mapBuilder()
                        .putString("type", "enabled")
                        .putNumber("budget_tokens", 2000)
                        .build())
                .build();

        // Configure the request with the message, model ID, and reasoning config
        ConverseStreamRequest request = ConverseStreamRequest.builder()
                .additionalModelRequestFields(reasoningConfig)
                .messages(message)
                .modelId(modelId)
                .build();

        StringBuilder reasoning = new StringBuilder();
        StringBuilder text = new StringBuilder();
        AtomicReference<ReasoningResponse> finalresponse = new AtomicReference<>();

        // Set up the stream handler to processes chunks of the response as they
 arrive
        var streamHandler = ConverseStreamResponseHandler.builder()
                .subscriber(ConverseStreamResponseHandler.Visitor.builder()
                        .onContentBlockDelta(chunk -> {
                            ContentBlockDelta delta = chunk.delta();
                            if (delta.reasoningContent() != null) {
                                if (reasoning.isEmpty()) {
```

```
                                System.out.println("\n<thinking>");
                            }
                            if (delta.reasoningContent().text() != null) {

System.out.print(delta.reasoningContent().text());

reasoning.append(delta.reasoningContent().text());
                            }
                        } else if (delta.text() != null) {
                            if (text.isEmpty()) {
                                System.out.println("\n</thinking>\n");
                            }
                            System.out.print(delta.text());
                            text.append(delta.text());
                        }
                        System.out.flush();  // Ensure immediate output of each
chunk
                    }).build())
                .onComplete(() -> finalresponse.set(new ReasoningResponse(
                        ReasoningContentBlock.fromReasoningText(t ->
t.text(reasoning.toString())),
                        text.toString()
                )))
                .onError(err -> System.err.printf("Can't invoke '%s': %s", modelId,
err.getMessage()))
                .build();

        // Step 6: Send the streaming request and process the response
        // - Send the request to the model
        // - Attach the handler to process response chunks as they arrive
        // - Handle any errors during streaming
        try {
            client.converseStream(request, streamHandler).get();
            return finalresponse.get();

        } catch (ExecutionException | InterruptedException e) {
            System.err.printf("Can't invoke '%s': %s", modelId,
e.getCause().getMessage());
            throw new RuntimeException(e);
        } catch (Exception e) {
            System.err.printf("Can't invoke '%s': %s", modelId, e.getMessage());
            throw new RuntimeException(e);
        }
    }
```

```
    public static void main(String[] args) {
        reasoningStream();
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「Converse」を参照してください。

Meta Llama

Converse

次のコード例は、Bedrock の Converse API を使用して Meta Llama にテキストメッセージを送信する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

Bedrock の Converse API を使用して Meta Llama にテキストメッセージを送信します。

```
// Use the Converse API to send a text message to Meta Llama.

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.core.exception.SdkClientException;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.BedrockRuntimeClient;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.ContentBlock;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.ConversationRole;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.ConverseResponse;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.Message;

public class Converse {
```

```
   public static String converse() {

       // Create a Bedrock Runtime client in the AWS Region you want to use.
       // Replace the DefaultCredentialsProvider with your preferred credentials
provider.
       var client = BedrockRuntimeClient.builder()
               .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
               .region(Region.US_EAST_1)
               .build();

       // Set the model ID, e.g., Llama 3 8b Instruct.
       var modelId = "meta.llama3-8b-instruct-v1:0";

       // Create the input text and embed it in a message object with the user
role.
       var inputText = "Describe the purpose of a 'hello world' program in one
line.";
       var message = Message.builder()
               .content(ContentBlock.fromText(inputText))
               .role(ConversationRole.USER)
               .build();


       try {
           // Send the message with a basic inference configuration.
           ConverseResponse response = client.converse(request -> request
                   .modelId(modelId)
                   .messages(message)
                   .inferenceConfig(config -> config
                           .maxTokens(512)
                           .temperature(0.5F)
                           .topP(0.9F)));

           // Retrieve the generated text from Bedrock's response object.
           var responseText = response.output().message().content().get(0).text();
           System.out.println(responseText);

           return responseText;

       } catch (SdkClientException e) {
           System.err.printf("ERROR: Can't invoke '%s'. Reason: %s", modelId,
e.getMessage());
           throw new RuntimeException(e);
       }
```

```
    }

    public static void main(String[] args) {
        converse();
    }
}
```

Bedrock の Converse API と非同期 Java クライアントを使用して Meta Llama にテキストメッセージを送信します。

```
// Use the Converse API to send a text message to Meta Llama
// with the async Java client.

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.BedrockRuntimeAsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.ContentBlock;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.ConversationRole;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.Message;

import java.util.concurrent.CompletableFuture;
import java.util.concurrent.ExecutionException;

public class ConverseAsync {

    public static String converseAsync() {

        // Create a Bedrock Runtime client in the AWS Region you want to use.
        // Replace the DefaultCredentialsProvider with your preferred credentials
 provider.
        var client = BedrockRuntimeAsyncClient.builder()
                .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        // Set the model ID, e.g., Llama 3 8b Instruct.
        var modelId = "meta.llama3-8b-instruct-v1:0";

        // Create the input text and embed it in a message object with the user
 role.
        var inputText = "Describe the purpose of a 'hello world' program in one
 line.";
```

```
        var message = Message.builder()
                .content(ContentBlock.fromText(inputText))
                .role(ConversationRole.USER)
                .build();

        // Send the message with a basic inference configuration.
        var request = client.converse(params -> params
                .modelId(modelId)
                .messages(message)
                .inferenceConfig(config -> config
                        .maxTokens(512)
                        .temperature(0.5F)
                        .topP(0.9F))
        );

        // Prepare a future object to handle the asynchronous response.
        CompletableFuture<String> future = new CompletableFuture<>();

        // Handle the response or error using the future object.
        request.whenComplete((response, error) -> {
            if (error == null) {
                // Extract the generated text from Bedrock's response object.
                String responseText =
response.output().message().content().get(0).text();
                future.complete(responseText);
            } else {
                future.completeExceptionally(error);
            }
        });

        try {
            // Wait for the future object to complete and retrieve the generated
text.
            String responseText = future.get();
            System.out.println(responseText);

            return responseText;

        } catch (ExecutionException | InterruptedException e) {
            System.err.printf("Can't invoke '%s': %s", modelId, e.getMessage());
            throw new RuntimeException(e);
        }
    }
```

```
    public static void main(String[] args) {
        converseAsync();
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「Converse」を参照してください。

ConverseStream

次のコード例は、Bedrock の Converse API を使用して Meta Llama にテキストメッセージを送信し、レスポンスストリームをリアルタイムで処理する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

Bedrock の Converse API を使用して Meta Llama にテキストメッセージを送信し、レスポンスストリームをリアルタイムで処理します。

```
// Use the Converse API to send a text message to Meta Llama
// and print the response stream.

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.BedrockRuntimeAsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.ContentBlock;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.ConversationRole;
import
 software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.ConverseStreamResponseHandler;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.Message;

import java.util.concurrent.ExecutionException;

public class ConverseStream {
```

```
   public static void main(String[] args) {

       // Create a Bedrock Runtime client in the AWS Region you want to use.
       // Replace the DefaultCredentialsProvider with your preferred credentials
provider.
       var client = BedrockRuntimeAsyncClient.builder()
               .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
               .region(Region.US_EAST_1)
               .build();

       // Set the model ID, e.g., Llama 3 8b Instruct.
       var modelId = "meta.llama3-8b-instruct-v1:0";

       // Create the input text and embed it in a message object with the user
role.
       var inputText = "Describe the purpose of a 'hello world' program in one
line.";
       var message = Message.builder()
               .content(ContentBlock.fromText(inputText))
               .role(ConversationRole.USER)
               .build();

       // Create a handler to extract and print the response text in real-time.
       var responseStreamHandler = ConverseStreamResponseHandler.builder()
               .subscriber(ConverseStreamResponseHandler.Visitor.builder()
                       .onContentBlockDelta(chunk -> {
                           String responseText = chunk.delta().text();
                           System.out.print(responseText);
                       }).build()
               ).onError(err ->
                       System.err.printf("Can't invoke '%s': %s", modelId,
err.getMessage())
               ).build();

       try {
           // Send the message with a basic inference configuration and attach the
handler.
           client.converseStream(request -> request
                   .modelId(modelId)
                   .messages(message)
                   .inferenceConfig(config -> config
                           .maxTokens(512)
                           .temperature(0.5F)
                           .topP(0.9F)
```

```
                    ), responseStreamHandler).get();

            } catch (ExecutionException | InterruptedException e) {
                System.err.printf("Can't invoke '%s': %s", modelId,
     e.getCause().getMessage());
            }
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ConverseStream」を参照してください。

Mistral AI

Converse

次のコード例は、Bedrock の Converse API を使用して Mistral にテキストメッセージを送信する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

Bedrock の Converse API を使用して Mistral にテキストメッセージを送信します。

```
// Use the Converse API to send a text message to Mistral.

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.core.exception.SdkClientException;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.BedrockRuntimeClient;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.ContentBlock;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.ConversationRole;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.ConverseResponse;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.Message;
```

```
public class Converse {

    public static String converse() {

        // Create a Bedrock Runtime client in the AWS Region you want to use.
        // Replace the DefaultCredentialsProvider with your preferred credentials
 provider.
        var client = BedrockRuntimeClient.builder()
                .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        // Set the model ID, e.g., Mistral Large.
        var modelId = "mistral.mistral-large-2402-v1:0";

        // Create the input text and embed it in a message object with the user
 role.
        var inputText = "Describe the purpose of a 'hello world' program in one
 line.";
        var message = Message.builder()
                .content(ContentBlock.fromText(inputText))
                .role(ConversationRole.USER)
                .build();


        try {
            // Send the message with a basic inference configuration.
            ConverseResponse response = client.converse(request -> request
                    .modelId(modelId)
                    .messages(message)
                    .inferenceConfig(config -> config
                            .maxTokens(512)
                            .temperature(0.5F)
                            .topP(0.9F)));

            // Retrieve the generated text from Bedrock's response object.
            var responseText = response.output().message().content().get(0).text();
            System.out.println(responseText);

            return responseText;

        } catch (SdkClientException e) {
            System.err.printf("ERROR: Can't invoke '%s'. Reason: %s", modelId,
 e.getMessage());
```

```
            throw new RuntimeException(e);
        }

    }

    public static void main(String[] args) {
        converse();
    }
}
```

Bedrock の Converse API と非同期 Java クライアントを使用して Mistral にテキストメッセージを送信します。

```
// Use the Converse API to send a text message to Mistral
// with the async Java client.

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.BedrockRuntimeAsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.ContentBlock;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.ConversationRole;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.Message;

import java.util.concurrent.CompletableFuture;
import java.util.concurrent.ExecutionException;

public class ConverseAsync {

    public static String converseAsync() {

        // Create a Bedrock Runtime client in the AWS Region you want to use.
        // Replace the DefaultCredentialsProvider with your preferred credentials
 provider.
        var client = BedrockRuntimeAsyncClient.builder()
                .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        // Set the model ID, e.g., Mistral Large.
        var modelId = "mistral.mistral-large-2402-v1:0";
```

```
        // Create the input text and embed it in a message object with the user
role.
        var inputText = "Describe the purpose of a 'hello world' program in one
line.";
        var message = Message.builder()
                .content(ContentBlock.fromText(inputText))
                .role(ConversationRole.USER)
                .build();

        // Send the message with a basic inference configuration.
        var request = client.converse(params -> params
                .modelId(modelId)
                .messages(message)
                .inferenceConfig(config -> config
                        .maxTokens(512)
                        .temperature(0.5F)
                        .topP(0.9F))
        );

        // Prepare a future object to handle the asynchronous response.
        CompletableFuture<String> future = new CompletableFuture<>();

        // Handle the response or error using the future object.
        request.whenComplete((response, error) -> {
            if (error == null) {
                // Extract the generated text from Bedrock's response object.
                String responseText =
response.output().message().content().get(0).text();
                future.complete(responseText);
            } else {
                future.completeExceptionally(error);
            }
        });

        try {
            // Wait for the future object to complete and retrieve the generated
text.
            String responseText = future.get();
            System.out.println(responseText);

            return responseText;

        } catch (ExecutionException | InterruptedException e) {
            System.err.printf("Can't invoke '%s': %s", modelId, e.getMessage());
```

```
            throw new RuntimeException(e);
        }
    }

    public static void main(String[] args) {
        converseAsync();
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「Converse」を参照してください。

ConverseStream

次のコード例は、Bedrock の Converse API を使用して Mistral にテキストメッセージを送信し、レスポンスストリームをリアルタイムで処理する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

Bedrock の Converse API を使用して Mistral にテキストメッセージを送信し、レスポンスストリームをリアルタイムで処理します。

```
// Use the Converse API to send a text message to Mistral
// and print the response stream.

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.BedrockRuntimeAsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.ContentBlock;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.ConversationRole;
import
 software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.ConverseStreamResponseHandler;
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.model.Message;
```

```
import java.util.concurrent.ExecutionException;

public class ConverseStream {

    public static void main(String[] args) {

        // Create a Bedrock Runtime client in the AWS Region you want to use.
        // Replace the DefaultCredentialsProvider with your preferred credentials
 provider.
        var client = BedrockRuntimeAsyncClient.builder()
                .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        // Set the model ID, e.g., Mistral Large.
        var modelId = "mistral.mistral-large-2402-v1:0";

        // Create the input text and embed it in a message object with the user
 role.
        var inputText = "Describe the purpose of a 'hello world' program in one
 line.";
        var message = Message.builder()
                .content(ContentBlock.fromText(inputText))
                .role(ConversationRole.USER)
                .build();

        // Create a handler to extract and print the response text in real-time.
        var responseStreamHandler = ConverseStreamResponseHandler.builder()
                .subscriber(ConverseStreamResponseHandler.Visitor.builder()
                        .onContentBlockDelta(chunk -> {
                            String responseText = chunk.delta().text();
                            System.out.print(responseText);
                        }).build()
                ).onError(err ->
                        System.err.printf("Can't invoke '%s': %s", modelId,
 err.getMessage())
                ).build();

        try {
            // Send the message with a basic inference configuration and attach the
 handler.
            client.converseStream(request -> request.modelId(modelId)
                    .messages(message)
                    .inferenceConfig(config -> config
```

```
                            .maxTokens(512)
                            .temperature(0.5F)
                            .topP(0.9F)
                    ), responseStreamHandler).get();

        } catch (ExecutionException | InterruptedException e) {
            System.err.printf("Can't invoke '%s': %s", modelId,
 e.getCause().getMessage());
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ConverseStream」を参照してください。

Stable Image Core

InvokeModel

次のコード例は、Amazon Bedrock で Stability.ai Stable Image Core を呼び出してイメージを生成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

Stable Diffusion で画像を作成します。

```
// Create an image with Stability AI Stable Image Core.

import org.json.JSONObject;
import org.json.JSONPointer;
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.core.SdkBytes;
import software.amazon.awssdk.core.exception.SdkClientException;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.bedrockruntime.BedrockRuntimeClient;

import java.math.BigInteger;
import java.security.SecureRandom;

import static com.example.bedrockruntime.libs.ImageTools.displayImage;

public class InvokeModel {

    public static String invokeModel() {

        // Create a Bedrock Runtime client in the AWS Region you want to use.
        // Replace the DefaultCredentialsProvider with your preferred credentials
 provider.
        var client = BedrockRuntimeClient.builder()
                .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
                .region(Region.US_WEST_2)
                .build();

        // Set the model ID, e.g., Stable Image Core.
        var modelId = "stability.stable-image-core-v1:1";

        // The InvokeModel API uses the model's native payload.
        // Learn more about the available inference parameters and response fields
 at:
        // https://docs.aws.amazon.com/bedrock/latest/userguide/model-parameters-
diffusion-stable-image-core-text-image-request-response.html
        var nativeRequestTemplate = """
                {
                    "prompt": "{{prompt}}",
                    "aspect_ratio": "1:1",
                    "seed": {{seed}},
                    "output_format": "png"
                }""";

        // Define the prompt for the image generation.
        var prompt = "A stylized picture of a cute old steampunk robot";

        // Get a random seed for the image generation (max. 4,294,967,294).
        var seed = new BigInteger(31, new SecureRandom());

        // Embed the prompt and seed in the model's native request payload.
        String nativeRequest = nativeRequestTemplate
                .replace("{{prompt}}", prompt)
```

```
                .replace("{{seed}}", seed.toString());

        try {
            // Encode and send the request to the Bedrock Runtime.
            var response = client.invokeModel(request -> request
                    .body(SdkBytes.fromUtf8String(nativeRequest))
                    .modelId(modelId)
            );

            // Decode the response body.
            var responseBody = new JSONObject(response.body().asUtf8String());

            // Retrieve the generated image data from the model's response.
            var base64ImageData = new JSONPointer("/images/0")
                    .queryFrom(responseBody)
                    .toString();

            return base64ImageData;

        } catch (SdkClientException e) {
            System.err.printf("ERROR: Can't invoke '%s'. Reason: %s", modelId,
 e.getMessage());
            throw new RuntimeException(e);
        }
    }

    public static void main(String[] args) {
        System.out.println("Generating image. This may take a few seconds...");

        String base64ImageData = invokeModel();

        displayImage(base64ImageData);
    }

}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「InvokeModel」を参照してください。

SDK for Java 2.x を使用した CloudFront の例

次のコード例は、CloudFront AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- アクション
- シナリオ

アクション

`CreateDistribution`

次のコード例は、`CreateDistribution` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

次の例では、Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) バケットをコンテンツオリジンとして使用しています。

コードは、ディストリビューションの作成後に CloudFrontWaiter を作成し、ディストリビューションがデプロイされるまで待ってからディストリビューションを返します。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.core.internal.waiters.ResponseOrException;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.CloudFrontClient;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.CreateDistributionResponse;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.Distribution;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.GetDistributionResponse;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.ItemSelection;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.Method;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.ViewerProtocolPolicy;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.waiters.CloudFrontWaiter;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;

import java.time.Instant;

public class CreateDistribution {

        private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(CreateDistribution.class);

        public static Distribution createDistribution(CloudFrontClient
 cloudFrontClient, S3Client s3Client,
                        final String bucketName, final String keyGroupId, final
 String originAccessControlId) {

                final String region = s3Client.headBucket(b ->
 b.bucket(bucketName)).sdkHttpResponse().headers()
                                .get("x-amz-bucket-region").get(0);
                final String originDomain = bucketName + ".s3." + region +
 ".amazonaws.com";
                String originId = originDomain; // Use the originDomain value for
 the originId.

                // The service API requires some deprecated methods, such as
                // DefaultCacheBehavior.Builder#minTTL and #forwardedValue.
                CreateDistributionResponse createDistResponse =
 cloudFrontClient.createDistribution(builder -> builder
                                .distributionConfig(b1 -> b1
                                                .origins(b2 -> b2
                                                                .quantity(1)
                                                                .items(b3 -> b3

 .domainName(originDomain)
```

```
 .id(originId)

 .s3OriginConfig(builder4 -> builder4

            .originAccessIdentity(

                              ""))

 .originAccessControlId(

            originAccessControlId)))
                                                .defaultCacheBehavior(b2 -> b2

 .viewerProtocolPolicy(ViewerProtocolPolicy.ALLOW_ALL)

 .targetOriginId(originId)
                                                                    .minTTL(200L)
                                                                    .forwardedValues(b5
 -> b5

 .cookies(cp -> cp

            .forward(ItemSelection.NONE))

 .queryString(true))
                                                                    .trustedKeyGroups(b3
 -> b3

 .quantity(1)

 .items(keyGroupId)

 .enabled(true))
                                                                    .allowedMethods(b4 -
> b4

 .quantity(2)

 .items(Method.HEAD, Method.GET)

 .cachedMethods(b5 -> b5

            .quantity(2)
```

```
            .items(Method.HEAD,

                            Method.GET))))
                                                .cacheBehaviors(b -> b
                                                                .quantity(1)
                                                                .items(b2 -> b2

.pathPattern("/index.html")

.viewerProtocolPolicy(

            ViewerProtocolPolicy.ALLOW_ALL)

.targetOriginId(originId)

.trustedKeyGroups(b3 -> b3

            .quantity(1)

            .items(keyGroupId)

            .enabled(true))

.minTTL(200L)

.forwardedValues(b4 -> b4

            .cookies(cp -> cp

                            .forward(ItemSelection.NONE))

            .queryString(true))

.allowedMethods(b5 -> b5.quantity(2)

            .items(Method.HEAD,

                            Method.GET)

            .cachedMethods(b6 -> b6

                            .quantity(2)
```

```
                            .items(Method.HEAD,

                                                Method.GET)))))
                                    .enabled(true)
                                    .comment("Distribution built with
 java")

 .callerReference(Instant.now().toString())));

                final Distribution distribution = createDistResponse.distribution();
                logger.info("Distribution created. DomainName: [{}]  Id: [{}]",
 distribution.domainName(),
                                    distribution.id());
                logger.info("Waiting for distribution to be deployed ...");
                try (CloudFrontWaiter cfWaiter =
 CloudFrontWaiter.builder().client(cloudFrontClient).build()) {
                        ResponseOrException<GetDistributionResponse>
 responseOrException = cfWaiter
                                            .waitUntilDistributionDeployed(builder ->
 builder.id(distribution.id()))
                                            .matched();
                        responseOrException.response()
                                            .orElseThrow(() -> new
 RuntimeException("Distribution not created"));
                        logger.info("Distribution deployed. DomainName: [{}]  Id:
 [{}]", distribution.domainName(),
                                            distribution.id());
                }
                return distribution;
        }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateDistribution」を参照してください。

CreateFunction

次のコード例は、CreateFunction を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.core.SdkBytes;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.CloudFrontClient;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.CloudFrontException;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.CreateFunctionRequest;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.CreateFunctionResponse;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.FunctionConfig;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.FunctionRuntime;
import java.io.InputStream;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class CreateFunction {

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <functionName> <filePath>

                Where:
                    functionName - The name of the function to create.\s
                    filePath - The path to a file that contains the application
 logic for the function.\s
                """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
```

```
            System.exit(1);
        }

        String functionName = args[0];
        String filePath = args[1];
        CloudFrontClient cloudFrontClient = CloudFrontClient.builder()
                .region(Region.AWS_GLOBAL)
                .build();

        String funArn = createNewFunction(cloudFrontClient, functionName, filePath);
        System.out.println("The function ARN is " + funArn);
        cloudFrontClient.close();
    }

    public static String createNewFunction(CloudFrontClient cloudFrontClient, String
 functionName, String filePath) {
        try {
            InputStream fileIs =
 CreateFunction.class.getClassLoader().getResourceAsStream(filePath);
            SdkBytes functionCode = SdkBytes.fromInputStream(fileIs);

            FunctionConfig config = FunctionConfig.builder()
                    .comment("Created by using the CloudFront Java API")
                    .runtime(FunctionRuntime.CLOUDFRONT_JS_1_0)
                    .build();

            CreateFunctionRequest functionRequest = CreateFunctionRequest.builder()
                    .name(functionName)
                    .functionCode(functionCode)
                    .functionConfig(config)
                    .build();

            CreateFunctionResponse response =
 cloudFrontClient.createFunction(functionRequest);
            return response.functionSummary().functionMetadata().functionARN();

        } catch (CloudFrontException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateFunction」を参照してください。

`CreateKeyGroup`

次のコード例は、`CreateKeyGroup` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

キーグループには、署名付き URL または Cookie の検証に使用されるパブリックキーが少なくとも 1 つ必要です。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.CloudFrontClient;

import java.util.UUID;

public class CreateKeyGroup {
    private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(CreateKeyGroup.class);

    public static String createKeyGroup(CloudFrontClient cloudFrontClient, String
 publicKeyId) {
        String keyGroupId = cloudFrontClient.createKeyGroup(b -> b.keyGroupConfig(c
 -> c
                .items(publicKeyId)
                .name("JavaKeyGroup" + UUID.randomUUID()))
                .keyGroup().id();
        logger.info("KeyGroup created with ID: [{}]", keyGroupId);
        return keyGroupId;
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateKeyGroup」を参照してください。

`CreatePublicKey`

次のコード例は、`CreatePublicKey` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

次のコード例では、パブリックキーを読み込んで Amazon CloudFront にアップロードします。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.CloudFrontClient;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.CreatePublicKeyResponse;
import software.amazon.awssdk.utils.IoUtils;

import java.io.IOException;
import java.io.InputStream;
import java.util.UUID;

public class CreatePublicKey {
    private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(CreatePublicKey.class);

    public static String createPublicKey(CloudFrontClient cloudFrontClient, String
 publicKeyFileName) {
        try (InputStream is =
 CreatePublicKey.class.getClassLoader().getResourceAsStream(publicKeyFileName)) {
            String publicKeyString = IoUtils.toUtf8String(is);
            CreatePublicKeyResponse createPublicKeyResponse = cloudFrontClient
                    .createPublicKey(b -> b.publicKeyConfig(c -> c
                            .name("JavaCreatedPublicKey" + UUID.randomUUID())
                            .encodedKey(publicKeyString)
```

```
                            .callerReference(UUID.randomUUID().toString())));
            String createdPublicKeyId = createPublicKeyResponse.publicKey().id();
            logger.info("Public key created with id: [{}]", createdPublicKeyId);
            return createdPublicKeyId;

        } catch (IOException e) {
            throw new RuntimeException(e);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreatePublicKey」を参照してください。

`DeleteDistribution`

次のコード例は、`DeleteDistribution` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

次のコード例では、配信を無効状態に更新し、ウェイターを使用して変更がデプロイされるのを待ってから、ディストリビューションを削除します。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.core.internal.waiters.ResponseOrException;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.CloudFrontClient;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.DeleteDistributionResponse;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.DistributionConfig;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.GetDistributionResponse;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.waiters.CloudFrontWaiter;

public class DeleteDistribution {
        private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(DeleteDistribution.class);
```

```
       public static void deleteDistribution(final CloudFrontClient
cloudFrontClient, final String distributionId) {
               // First, disable the distribution by updating it.
               GetDistributionResponse response =
cloudFrontClient.getDistribution(b -> b
                                .id(distributionId));
               String etag = response.eTag();
               DistributionConfig distConfig =
response.distribution().distributionConfig();

               cloudFrontClient.updateDistribution(builder -> builder
                               .id(distributionId)
                               .distributionConfig(builder1 -> builder1

.cacheBehaviors(distConfig.cacheBehaviors())

.defaultCacheBehavior(distConfig.defaultCacheBehavior())
                                                       .enabled(false)
                                                       .origins(distConfig.origins())
                                                       .comment(distConfig.comment())

.callerReference(distConfig.callerReference())

.defaultCacheBehavior(distConfig.defaultCacheBehavior())
                                                       .priceClass(distConfig.priceClass())
                                                       .aliases(distConfig.aliases())
                                                       .logging(distConfig.logging())

.defaultRootObject(distConfig.defaultRootObject())

.customErrorResponses(distConfig.customErrorResponses())

.httpVersion(distConfig.httpVersion())

.isIPV6Enabled(distConfig.isIPV6Enabled())

.restrictions(distConfig.restrictions())

.viewerCertificate(distConfig.viewerCertificate())
                                                       .webACLId(distConfig.webACLId())

.originGroups(distConfig.originGroups()))
                                .ifMatch(etag));
```

```
                logger.info("Distribution [{}] is DISABLED, waiting for deployment
 before deleting ...",
                                distributionId);
                GetDistributionResponse distributionResponse;
                try (CloudFrontWaiter cfWaiter =
 CloudFrontWaiter.builder().client(cloudFrontClient).build()) {
                        ResponseOrException<GetDistributionResponse>
 responseOrException = cfWaiter
                                        .waitUntilDistributionDeployed(builder ->
 builder.id(distributionId)).matched();
                        distributionResponse = responseOrException.response()
                                        .orElseThrow(() -> new
 RuntimeException("Could not disable distribution"));
                }

                DeleteDistributionResponse deleteDistributionResponse =
 cloudFrontClient
                                .deleteDistribution(builder -> builder
                                                .id(distributionId)

 .ifMatch(distributionResponse.eTag()));
                if (deleteDistributionResponse.sdkHttpResponse().isSuccessful()) {
                        logger.info("Distribution [{}] DELETED", distributionId);
                }
        }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteDistribution」を参照してください。

UpdateDistribution

次のコード例は、UpdateDistribution を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.CloudFrontClient;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.GetDistributionRequest;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.GetDistributionResponse;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.Distribution;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.DistributionConfig;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.UpdateDistributionRequest;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.CloudFrontException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ModifyDistribution {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <id>\s

                Where:
                    id - the id value of the distribution.\s
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String id = args[0];
```

```
        CloudFrontClient cloudFrontClient = CloudFrontClient.builder()
                .region(Region.AWS_GLOBAL)
                .build();

        modDistribution(cloudFrontClient, id);
        cloudFrontClient.close();
    }

    public static void modDistribution(CloudFrontClient cloudFrontClient, String
idVal) {
        try {
            // Get the Distribution to modify.
            GetDistributionRequest disRequest = GetDistributionRequest.builder()
                    .id(idVal)
                    .build();

            GetDistributionResponse response =
cloudFrontClient.getDistribution(disRequest);
            Distribution disObject = response.distribution();
            DistributionConfig config = disObject.distributionConfig();

            // Create a new DistributionConfig object and add new values to comment
and
            // aliases
            DistributionConfig config1 = DistributionConfig.builder()
                    .aliases(config.aliases()) // You can pass in new values here
                    .comment("New Comment")
                    .cacheBehaviors(config.cacheBehaviors())
                    .priceClass(config.priceClass())
                    .defaultCacheBehavior(config.defaultCacheBehavior())
                    .enabled(config.enabled())
                    .callerReference(config.callerReference())
                    .logging(config.logging())
                    .originGroups(config.originGroups())
                    .origins(config.origins())
                    .restrictions(config.restrictions())
                    .defaultRootObject(config.defaultRootObject())
                    .webACLId(config.webACLId())
                    .httpVersion(config.httpVersion())
                    .viewerCertificate(config.viewerCertificate())
                    .customErrorResponses(config.customErrorResponses())
                    .build();
```

```
            UpdateDistributionRequest updateDistributionRequest =
 UpdateDistributionRequest.builder()
                    .distributionConfig(config1)
                    .id(disObject.id())
                    .ifMatch(response.eTag())
                    .build();

            cloudFrontClient.updateDistribution(updateDistributionRequest);

        } catch (CloudFrontException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「UpdateDistribution」を参照してください。

シナリオ

マルチテナントディストリビューションとディストリビューションテナントを作成する

次のコード例は、さまざまな設定でマルチテナントディストリビューションおよびディストリビューションテナントを作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

次の例は、パラメータとワイルドカード証明書を使用してマルチテナントディストリビューションを作成する方法を示しています。

```
import software.amazon.awssdk.core.internal.waiters.ResponseOrException;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.CloudFrontClient;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.ConnectionMode;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.CreateDistributionResponse;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.Distribution;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.GetDistributionResponse;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.HttpVersion;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.Method;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.SSLSupportMethod;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.ViewerProtocolPolicy;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.waiters.CloudFrontWaiter;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;

import java.time.Instant;

public class CreateMultiTenantDistribution {
    public static Distribution
 CreateMultiTenantDistributionWithCert(CloudFrontClient cloudFrontClient,
                                                                    S3Client
 s3Client,
                                                                    final String
 bucketName,
                                                                    final String
 certificateArn) {
        // fetch the origin info if necessary
        final String region = s3Client.headBucket(b ->
 b.bucket(bucketName)).sdkHttpResponse().headers()
                .get("x-amz-bucket-region").get(0);
        final String originDomain = bucketName + ".s3." + region + ".amazonaws.com";
        String originId = originDomain; // Use the originDomain value for the
 originId.

        CreateDistributionResponse createDistResponse =
 cloudFrontClient.createDistribution(builder -> builder
                .distributionConfig(b1 -> b1
                        .httpVersion(HttpVersion.HTTP2)
                        .enabled(true)
                        .comment("Template Distribution with cert built with java")
                        .connectionMode(ConnectionMode.TENANT_ONLY)
                        .callerReference(Instant.now().toString())
                        .viewerCertificate(certBuilder -> certBuilder
                                .acmCertificateArn(certificateArn)
                                .sslSupportMethod(SSLSupportMethod.SNI_ONLY))
                        .origins(b2 -> b2
                                .quantity(1)
                                .items(b3 -> b3
```

```
                                        .domainName(originDomain)
                                        .id(originId)
                                        .originPath("/{{tenantName}}")
                                        .s3OriginConfig(builder4 -> builder4
                                                .originAccessIdentity(
                                                        "")))))
                        .tenantConfig(b5 -> b5
                                .parameterDefinitions(b6 -> b6
                                        .name("tenantName")
                                        .definition(b7 -> b7
                                                .stringSchema(b8 -> b8
                                                        .comment("tenantName value")
                                                        .defaultValue("root")
                                                        .required(false)))))
                        .defaultCacheBehavior(b2 -> b2

 .viewerProtocolPolicy(ViewerProtocolPolicy.ALLOW_ALL)
                                .targetOriginId(originId)
                                .cachePolicyId("658327ea-f89d-4fab-
a63d-7e88639e58f6") // CachingOptimized Policy
                                .allowedMethods(b4 -> b4
                                        .quantity(2)
                                        .items(Method.HEAD, Method.GET)))
                ));

        final Distribution distribution = createDistResponse.distribution();
        try (CloudFrontWaiter cfWaiter =
 CloudFrontWaiter.builder().client(cloudFrontClient).build()) {
            ResponseOrException<GetDistributionResponse> responseOrException =
 cfWaiter
                    .waitUntilDistributionDeployed(builder ->
 builder.id(distribution.id()))
                    .matched();
            responseOrException.response()
                    .orElseThrow(() -> new RuntimeException("Distribution not
 created"));
        }
        return distribution;
    }

    public static Distribution CreateMultiTenantDistributionNoCert(CloudFrontClient
 cloudFrontClient,
                                                                   S3Client s3Client,
```

```
                                                                final String
 bucketName) {
        // fetch the origin info if necessary
        final String region = s3Client.headBucket(b ->
 b.bucket(bucketName)).sdkHttpResponse().headers()
                .get("x-amz-bucket-region").get(0);
        final String originDomain = bucketName + ".s3." + region + ".amazonaws.com";
        String originId = originDomain; // Use the originDomain value for the
 originId.

        CreateDistributionResponse createDistResponse =
 cloudFrontClient.createDistribution(builder -> builder
                .distributionConfig(b1 -> b1
                        .httpVersion(HttpVersion.HTTP2)
                        .enabled(true)
                        .comment("Template Distribution with cert built with java")
                        .connectionMode(ConnectionMode.TENANT_ONLY)
                        .callerReference(Instant.now().toString())
                        .origins(b2 -> b2
                                .quantity(1)
                                .items(b3 -> b3
                                        .domainName(originDomain)
                                        .id(originId)
                                        .originPath("/{{tenantName}}")
                                        .s3OriginConfig(builder4 -> builder4
                                                .originAccessIdentity(
                                                        ""))))
                        .tenantConfig(b5 -> b5
                                .parameterDefinitions(b6 -> b6
                                        .name("tenantName")
                                        .definition(b7 -> b7
                                                .stringSchema(b8 -> b8
                                                        .comment("tenantName value")
                                                        .defaultValue("root")
                                                        .required(false)))))
                        .defaultCacheBehavior(b2 -> b2

 .viewerProtocolPolicy(ViewerProtocolPolicy.ALLOW_ALL)
                                .targetOriginId(originId)
                                .cachePolicyId("658327ea-f89d-4fab-
a63d-7e88639e58f6") // CachingOptimized Policy
                                .allowedMethods(b4 -> b4
                                        .quantity(2)
                                        .items(Method.HEAD, Method.GET)))
```

```
                ));

        final Distribution distribution = createDistResponse.distribution();
        try (CloudFrontWaiter cfWaiter =
 CloudFrontWaiter.builder().client(cloudFrontClient).build()) {
            ResponseOrException<GetDistributionResponse> responseOrException =
 cfWaiter
                    .waitUntilDistributionDeployed(builder ->
 builder.id(distribution.id()))
                    .matched();
            responseOrException.response()
                    .orElseThrow(() -> new RuntimeException("Distribution not
 created"));
        }
        return distribution;
    }
}
```

次の例は、上記で宣言したパラメータの使用など、そのテンプレートに関連付けられたディストリビューションテナントを作成する方法を示しています。ドメインは既に親テンプレートでカバーされているため、ここで証明書情報を追加する必要がないことに注意してください。

```
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.CloudFrontClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.CreateConnectionGroupResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.CreateDistributionTenantResponse;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.DistributionTenant;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.GetConnectionGroupResponse;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.ValidationTokenHost;
import software.amazon.awssdk.services.route53.Route53Client;
import software.amazon.awssdk.services.route53.model.RRType;

import java.time.Instant;

public class CreateDistributionTenant {

    public static DistributionTenant createDistributionTenantNoCert(CloudFrontClient
 cloudFrontClient,
                                                                    Route53Client
 route53Client,
```

```
                                                                    String
distributionId,
                                                                    String domain,
                                                                    String
hostedZoneId) {
       CreateDistributionTenantResponse createResponse =
cloudFrontClient.createDistributionTenant(builder -> builder
               .distributionId(distributionId)
               .domains(b1 -> b1
                       .domain(domain))
               .parameters(b2 -> b2
                       .name("tenantName")
                       .value("myTenant"))
               .enabled(false)
               .name("no-cert-tenant")
       );

       final DistributionTenant distributionTenant =
createResponse.distributionTenant();

       // Then update the Route53 hosted zone to point your domain at the
distribution tenant
       // We fetch the RoutingEndpoint to point to via the default connection group
that was created for your tenant
       final GetConnectionGroupResponse fetchedConnectionGroup =
cloudFrontClient.getConnectionGroup(builder -> builder
               .identifier(distributionTenant.connectionGroupId()));

       route53Client.changeResourceRecordSets(builder -> builder
               .hostedZoneId(hostedZoneId)
               .changeBatch(b1 -> b1
                       .comment("ChangeBatch comment")
                       .changes(b2 -> b2
                               .resourceRecordSet(b3 -> b3
                                       .name(domain)
                                       .type("CNAME")
                                       .ttl(300L)
                                       .resourceRecords(b4 -> b4

.value(fetchedConnectionGroup.connectionGroup().routingEndpoint())))
                               .action("CREATE"))
               ));
       return distributionTenant;
   }
```

```
}
```

ビューワーの証明書が親テンプレートから省略された場合は、代わりにそれに関連付けられたテナント (複数可) に証明書情報を追加する必要があります。次の例は、テナントの要なドメインをカバーする ACM 証明書 ARN を使用してこれを行う方法を示しています。

```
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.CloudFrontClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.CreateConnectionGroupResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.CreateDistributionTenantResponse;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.DistributionTenant;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.GetConnectionGroupResponse;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.ValidationTokenHost;
import software.amazon.awssdk.services.route53.Route53Client;
import software.amazon.awssdk.services.route53.model.RRType;

import java.time.Instant;

public class CreateDistributionTenant {

    public static DistributionTenant
 createDistributionTenantWithCert(CloudFrontClient cloudFrontClient,
                                                                    Route53Client
 route53Client,
                                                                    String
 distributionId,
                                                                    String domain,
                                                                    String
 hostedZoneId,
                                                                    String
 certificateArn) {
        CreateDistributionTenantResponse createResponse =
 cloudFrontClient.createDistributionTenant(builder -> builder
                .distributionId(distributionId)
                .domains(b1 -> b1
                        .domain(domain))
                .enabled(false)
                .name("tenant-with-cert")
                .parameters(b2 -> b2
```

```
                        .name("tenantName")
                        .value("myTenant"))
                .customizations(b3 -> b3
                        .certificate(b4 -> b4
                                .arn(certificateArn))) // NOTE: Cert must be in Us-
East-1 and cover the domain provided in this request

        );

        final DistributionTenant distributionTenant =
 createResponse.distributionTenant();

        // Then update the Route53 hosted zone to point your domain at the
 distribution tenant
        // We fetch the RoutingEndpoint to point to via the default connection group
 that was created for your tenant
        final GetConnectionGroupResponse fetchedConnectionGroup =
 cloudFrontClient.getConnectionGroup(builder -> builder
                .identifier(distributionTenant.connectionGroupId()));

        route53Client.changeResourceRecordSets(builder -> builder
                .hostedZoneId(hostedZoneId)
                .changeBatch(b1 -> b1
                        .comment("ChangeBatch comment")
                        .changes(b2 -> b2
                                .resourceRecordSet(b3 -> b3
                                        .name(domain)
                                        .type("CNAME")
                                        .ttl(300L)
                                        .resourceRecords(b4 -> b4

 .value(fetchedConnectionGroup.connectionGroup().routingEndpoint())))
                                .action("CREATE"))
                ));
        return distributionTenant;
    }

}
```

次の例は、CloudFront がホストするマネージド証明書リクエストでこれを行う方法を示しています。これは、ドメインへのトラフィックがまだない場合に最適です。この場合、RoutingEndpoint を生成する ConnectionGroup を作成します。次に、その RoutingEndpoint を使用して、ドメイン

の所有権を検証し、CloudFront を指す DNS レコードを作成します。その後、CloudFront はトークンを自動的に提供してドメインの所有権を検証し、マネージド証明書を作成します。

```
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.CloudFrontClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.CreateConnectionGroupResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.CreateDistributionTenantResponse;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.DistributionTenant;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.GetConnectionGroupResponse;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.ValidationTokenHost;
import software.amazon.awssdk.services.route53.Route53Client;
import software.amazon.awssdk.services.route53.model.RRType;

import java.time.Instant;

public class CreateDistributionTenant {

    public static DistributionTenant
 createDistributionTenantCfHosted(CloudFrontClient cloudFrontClient,
                                                                    Route53Client
 route53Client,
                                                                    String
 distributionId,
                                                                    String domain,
                                                                    String
 hostedZoneId) throws InterruptedException {
        CreateConnectionGroupResponse createConnectionGroupResponse =
 cloudFrontClient.createConnectionGroup(builder -> builder
                .ipv6Enabled(true)
                .name("cf-hosted-connection-group")
                .enabled(true));

        route53Client.changeResourceRecordSets(builder -> builder
                .hostedZoneId(hostedZoneId)
                .changeBatch(b1 -> b1
                        .comment("cf-hosted domain validation record")
                        .changes(b2 -> b2
                                .resourceRecordSet(b3 -> b3
                                        .name(domain)
                                        .type(RRType.CNAME)
                                        .ttl(300L)
```

```
                                        .resourceRecords(b4 -> b4

.value(createConnectionGroupResponse.connectionGroup().routingEndpoint())))
                                .action("CREATE"))
                ));

        // Give the R53 record time to propagate, if it isn't being returned by
servers yet, the following call will fail
        Thread.sleep(60000);

        CreateDistributionTenantResponse createResponse =
cloudFrontClient.createDistributionTenant(builder -> builder
                .distributionId(distributionId)
                .domains(b1 -> b1
                        .domain(domain))

.connectionGroupId(createConnectionGroupResponse.connectionGroup().id())
                .enabled(false)
                .name("cf-hosted-tenant")
                .parameters(b2 -> b2
                        .name("tenantName")
                        .value("myTenant"))
                .managedCertificateRequest(b3 -> b3
                        .validationTokenHost(ValidationTokenHost.CLOUDFRONT)
                )
        );

        return createResponse.distributionTenant();
    }

}
```

次の例は、セルフホスト型マネージド証明書リクエストを使用してこれを行う方法を示しています。これは、ドメインへのトラフィックがあり、移行中のダウンタイムを許容できない場合に最適です。この例の最後に、テナントはドメインの検証と DNS 設定を待っている状態で作成されます。トラフィックを移行する準備ができたら、ステップ [こちら](https://docs.aws.amazon.com/AmazonCloudFront/latest/DeveloperGuide/managed-cloudfront-certificates.html#complete-domain-ownership) の手順に従ってセットアップを完了してください。

```
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.CloudFrontClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.CreateConnectionGroupResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.CreateDistributionTenantResponse;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.DistributionTenant;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.GetConnectionGroupResponse;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.ValidationTokenHost;
import software.amazon.awssdk.services.route53.Route53Client;
import software.amazon.awssdk.services.route53.model.RRType;

import java.time.Instant;

public class CreateDistributionTenant {

    public static DistributionTenant
 createDistributionTenantSelfHosted(CloudFrontClient cloudFrontClient,
                                                                    String
 distributionId,
                                                                    String
 domain) {
        CreateDistributionTenantResponse createResponse =
 cloudFrontClient.createDistributionTenant(builder -> builder
                .distributionId(distributionId)
                .domains(b1 -> b1
                        .domain(domain))
                .parameters(b2 -> b2
                        .name("tenantName")
                        .value("myTenant"))
                .enabled(false)
                .name("self-hosted-tenant")
                .managedCertificateRequest(b3 -> b3
                        .validationTokenHost(ValidationTokenHost.SELF_HOSTED)
                        .primaryDomainName(domain)
                )
        );

        return createResponse.distributionTenant();
    }

}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - CreateDistribution
  - CreateDistributionTenant

署名リソースを削除する

次のコード例は、Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) バケット内の制限付きコンテンツへのアクセス権を取得するために使用されるリソースを削除する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.CloudFrontClient;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.DeleteKeyGroupResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.DeleteOriginAccessControlResponse;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.DeletePublicKeyResponse;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.GetKeyGroupResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.GetOriginAccessControlResponse;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.GetPublicKeyResponse;

public class DeleteSigningResources {
    private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(DeleteSigningResources.class);

    public static void deleteOriginAccessControl(final CloudFrontClient
 cloudFrontClient,
            final String originAccessControlId) {
        GetOriginAccessControlResponse getResponse = cloudFrontClient
                .getOriginAccessControl(b -> b.id(originAccessControlId));
        DeleteOriginAccessControlResponse deleteResponse =
 cloudFrontClient.deleteOriginAccessControl(builder -> builder
```

```
                .id(originAccessControlId)
                .ifMatch(getResponse.eTag()));
        if (deleteResponse.sdkHttpResponse().isSuccessful()) {
            logger.info("Successfully deleted Origin Access Control [{}]",
 originAccessControlId);
        }
    }

    public static void deleteKeyGroup(final CloudFrontClient cloudFrontClient, final
 String keyGroupId) {

        GetKeyGroupResponse getResponse = cloudFrontClient.getKeyGroup(b ->
 b.id(keyGroupId));
        DeleteKeyGroupResponse deleteResponse =
 cloudFrontClient.deleteKeyGroup(builder -> builder
                .id(keyGroupId)
                .ifMatch(getResponse.eTag()));
        if (deleteResponse.sdkHttpResponse().isSuccessful()) {
            logger.info("Successfully deleted Key Group [{}]", keyGroupId);
        }
    }

    public static void deletePublicKey(final CloudFrontClient cloudFrontClient,
 final String publicKeyId) {
        GetPublicKeyResponse getResponse = cloudFrontClient.getPublicKey(b ->
 b.id(publicKeyId));

        DeletePublicKeyResponse deleteResponse =
 cloudFrontClient.deletePublicKey(builder -> builder
                .id(publicKeyId)
                .ifMatch(getResponse.eTag()));

        if (deleteResponse.sdkHttpResponse().isSuccessful()) {
            logger.info("Successfully deleted Public Key [{}]", publicKeyId);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - DeleteKeyGroup

- DeleteOriginAccessControl
- DeletePublicKey

URL および cookies に署名する

次のコード例は、制限付きリソースへのアクセスを許可する署名付き URL と Cookie を作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

CannedSignerRequest クラスを使用すると、既定ポリシーを使用して URL または Cookies に署名できます。

```
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.CannedSignerRequest;

import java.net.URL;
import java.nio.file.Path;
import java.nio.file.Paths;
import java.time.Instant;
import java.time.temporal.ChronoUnit;

public class CreateCannedPolicyRequest {

    public static CannedSignerRequest createRequestForCannedPolicy(String
 distributionDomainName,
            String fileNameToUpload,
            String privateKeyFullPath, String publicKeyId) throws Exception {
        String protocol = "https";
        String resourcePath = "/" + fileNameToUpload;

        String cloudFrontUrl = new URL(protocol, distributionDomainName,
 resourcePath).toString();
        Instant expirationDate = Instant.now().plus(7, ChronoUnit.DAYS);
        Path path = Paths.get(privateKeyFullPath);
```

```
        return CannedSignerRequest.builder()
                .resourceUrl(cloudFrontUrl)
                .privateKey(path)
                .keyPairId(publicKeyId)
                .expirationDate(expirationDate)
                .build();
    }
}
```

CustomSignerRequest クラスを使用すると、カスタムポリシーを使用して URL や Cookie に署名できます。activeDate および ipRange はオプションのメソッドです。

```
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.CustomSignerRequest;

import java.net.URL;
import java.nio.file.Path;
import java.nio.file.Paths;
import java.time.Instant;
import java.time.temporal.ChronoUnit;

public class CreateCustomPolicyRequest {

    public static CustomSignerRequest createRequestForCustomPolicy(String
 distributionDomainName,
            String fileNameToUpload,
            String privateKeyFullPath, String publicKeyId) throws Exception {
        String protocol = "https";
        String resourcePath = "/" + fileNameToUpload;

        String cloudFrontUrl = new URL(protocol, distributionDomainName,
 resourcePath).toString();
        Instant expireDate = Instant.now().plus(7, ChronoUnit.DAYS);
        // URL will be accessible tomorrow using the signed URL.
        Instant activeDate = Instant.now().plus(1, ChronoUnit.DAYS);
        Path path = Paths.get(privateKeyFullPath);

        return CustomSignerRequest.builder()
                .resourceUrl(cloudFrontUrl)
                // .resourceUrlPattern("https://*.example.com/*")  // Optional.
                .privateKey(path)
                .keyPairId(publicKeyId)
                .expirationDate(expireDate)
```

```
                .activeDate(activeDate) // Optional.
                // .ipRange("192.168.0.1/24") // Optional.
                .build();
    }
}
```

次の例は、CloudFrontUtilities クラスを使用して署名付き Cookies と URL を生成する方法を示しています。このコード例を GitHub を表示します。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.CloudFrontUtilities;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.cookie.CookiesForCannedPolicy;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.cookie.CookiesForCustomPolicy;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.CannedSignerRequest;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.model.CustomSignerRequest;
import software.amazon.awssdk.services.cloudfront.url.SignedUrl;

public class SigningUtilities {
    private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(SigningUtilities.class);
    private static final CloudFrontUtilities cloudFrontUtilities =
 CloudFrontUtilities.create();

    public static SignedUrl signUrlForCannedPolicy(CannedSignerRequest
 cannedSignerRequest) {
        SignedUrl signedUrl =
 cloudFrontUtilities.getSignedUrlWithCannedPolicy(cannedSignerRequest);
        logger.info("Signed URL: [{}]", signedUrl.url());
        return signedUrl;
    }

    public static SignedUrl signUrlForCustomPolicy(CustomSignerRequest
 customSignerRequest) {
        SignedUrl signedUrl =
 cloudFrontUtilities.getSignedUrlWithCustomPolicy(customSignerRequest);
        logger.info("Signed URL: [{}]", signedUrl.url());
        return signedUrl;
    }

    public static CookiesForCannedPolicy
 getCookiesForCannedPolicy(CannedSignerRequest cannedSignerRequest) {
```

```
        CookiesForCannedPolicy cookiesForCannedPolicy = cloudFrontUtilities
                .getCookiesForCannedPolicy(cannedSignerRequest);
        logger.info("Cookie EXPIRES header [{}]",
 cookiesForCannedPolicy.expiresHeaderValue());
        logger.info("Cookie KEYPAIR header [{}]",
 cookiesForCannedPolicy.keyPairIdHeaderValue());
        logger.info("Cookie SIGNATURE header [{}]",
 cookiesForCannedPolicy.signatureHeaderValue());
        return cookiesForCannedPolicy;
    }

    public static CookiesForCustomPolicy
 getCookiesForCustomPolicy(CustomSignerRequest customSignerRequest) {
        CookiesForCustomPolicy cookiesForCustomPolicy = cloudFrontUtilities
                .getCookiesForCustomPolicy(customSignerRequest);
        logger.info("Cookie POLICY header [{}]",
 cookiesForCustomPolicy.policyHeaderValue());
        logger.info("Cookie KEYPAIR header [{}]",
 cookiesForCustomPolicy.keyPairIdHeaderValue());
        logger.info("Cookie SIGNATURE header [{}]",
 cookiesForCustomPolicy.signatureHeaderValue());
        return cookiesForCustomPolicy;
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CloudFrontUtilities」を参照してください。

SDK for Java 2.x を使用した CloudWatch の例

次のコード例は、CloudWatch AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- はじめに
- 基本
- アクション
- シナリオ

はじめに

Hello CloudWatch

次のコード例は、CloudWatch の使用を開始する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。完全な例を見つけて、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.CloudWatchClient;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.CloudWatchException;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.ListMetricsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.paginators.ListMetricsIterable;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class HelloService {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """
```

```
                Usage:
                  <namespace>\s

                Where:
                  namespace - The namespace to filter against (for example, AWS/
EC2).\s
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String namespace = args[0];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        CloudWatchClient cw = CloudWatchClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        listMets(cw, namespace);
        cw.close();
    }

    public static void listMets(CloudWatchClient cw, String namespace) {
        try {
            ListMetricsRequest request = ListMetricsRequest.builder()
                    .namespace(namespace)
                    .build();

            ListMetricsIterable listRes = cw.listMetricsPaginator(request);
            listRes.stream()
                    .flatMap(r -> r.metrics().stream())
                    .forEach(metrics -> System.out.println(" Retrieved metric is: "
 + metrics.metricName()));

        } catch (CloudWatchException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListMetrics」を参照してください。

基本

基本を学ぶ

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- CloudWatch の名前空間とメトリクスを一覧表示します。
- OpenTelemetry エンリッチメントを開始して、CloudWatch が受信 OTLP メトリクスを生成したリソースと関連付けます。
- OTLP メトリクスが CloudWatch メトリクスエンドポイントに到達する方法をご覧ください。OTLP 経由のメトリクス取り込みは AWS SDK オペレーションではありません。
- PromQL クエリを評価するアラームを作成します。
- クエリが一致した個々のシリーズであるアラームの寄与要因を検査します。
- メトリクスの統計を取得し、ダッシュボードにグラフ化します。
- メンテナンスウィンドウのアラームをミュートしてから、クリーンアップします。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

CloudWatch OpenTelemetry エクスペリエンスを示すインタラクティブなシナリオを実行します。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.AlarmContributor;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.AlarmMuteRuleSummary;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.Dimension;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.GetAlarmMuteRuleResponse;

import java.time.Instant;
```

```
import java.time.temporal.ChronoUnit;
import java.util.ArrayList;
import java.util.List;
import java.util.Map;
import java.util.Random;
import java.util.Scanner;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development environment,
 * including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 *
 * This scenario demonstrates the Amazon CloudWatch OpenTelemetry (OTel) experience.
 * CloudWatch ingests OpenTelemetry metrics natively, and this example walks through
 what
 * you do with them: turning on enrichment so CloudWatch can correlate incoming OTLP
 * metrics with the resources that produced them, alarming on those metrics with a
 PromQL
 * query, and finding out which individual series drove the alarm.
 *
 * A PromQL alarm works differently from a classic metric alarm. Rather than
 watching one
 * metric and counting breaching periods, it evaluates a query that can match many
 series
 * at once, and tracks each matching series separately as a contributor.
 *
 * Note that sending OTLP metrics to CloudWatch is not an AWS SDK operation. Metrics
 * arrive over the OTLP protocol through the CloudWatch agent, an OpenTelemetry
 * Collector, or an ADOT SDK. Everything this scenario does is configuration and
 querying
 * around that ingestion path.
 *
 * This Java code example performs the following tasks:
 *
 * 1. List metrics and namespaces from Amazon CloudWatch.
 * 2. Start OpenTelemetry enrichment for the account.
 * 3. Explain how OTLP metrics reach CloudWatch.
 * 4. Create an alarm that evaluates a PromQL query.
 * 5. Inspect the contributors to the PromQL alarm.
 * 6. Get metric statistics and chart the metric on a dashboard.
 * 7. Mute the alarm for a maintenance window.
```

```
 * 8. Clean up the Amazon CloudWatch resources.
 */
public class CloudWatchScenario {
    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");

    private static final String DEFAULT_QUERY = "avg by (host)
 (system_cpu_utilization) > 80";

    // Valid evaluation intervals are 10, 20, 30, or any multiple of 60 up to 3600
 seconds.
    private static final int EVALUATION_INTERVAL = 60;
    private static final int PENDING_PERIOD = 300;
    private static final int RECOVERY_PERIOD = 120;

    static CloudWatchActions cwActions = new CloudWatchActions();

    private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(CloudWatchScenario.class);
    static Scanner scanner = new Scanner(System.in);

    public static void main(String[] args) throws Throwable {

        // Suffix the resource names so repeated runs do not collide.
        String suffix = String.valueOf(new Random().nextInt(9000) + 1000);
        String alarmName = "doc-example-promql-alarm-" + suffix;
        String dashboardName = "doc-example-dashboard-" + suffix;
        String muteRuleName = "doc-example-mute-rule-" + suffix;

        logger.info(DASHES);
        logger.info("Welcome to the Amazon CloudWatch Basics scenario.");
        logger.info("""
            CloudWatch now ingests OpenTelemetry metrics natively. This scenario
 walks through
            that experience: it turns on OTel enrichment so CloudWatch can correlate
 incoming
            OTLP metrics with the resources that produced them, alarms on those
 metrics with a
            PromQL query, and shows you which individual series drove the alarm.

            A PromQL alarm works differently from a classic metric alarm. Rather
 than watching
            one metric and counting breaching periods, it evaluates a query that can
 match many
            series at once, and tracks each one separately as a contributor.
```

```
            Let's get started...
            """);
        waitForInputToContinue(scanner);

        try {
            runScenario(alarmName, dashboardName, muteRuleName);
        } catch (RuntimeException e) {
            e.printStackTrace();
        }
        logger.info(DASHES);
    }

    private static void runScenario(String alarmName, String dashboardName, String
muteRuleName)
            throws Throwable {

        // Tracks whether this run turned enrichment on, so that cleanup only turns
off
        // enrichment that this run started.
        boolean startedEnrichment = false;

        logger.info(DASHES);
        logger.info("""
            1. List metrics and namespaces

            Before configuring anything, let's see what CloudWatch is already
collecting in
            this account by calling ListMetrics.
            """);
        waitForInputToContinue(scanner);

        ArrayList<String> namespaces = cwActions.listNameSpacesAsync().join();
        logger.info("Found {} namespaces in this account:", namespaces.size());
        namespaces.stream().limit(10).forEach(namespace -> logger.info("  {}",
namespace));
        if (namespaces.isEmpty()) {
            logger.info("""
                No metrics found in this account. The statistics and dashboard steps
later on
                need an existing metric, so they will be skipped.
                """);
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
```

```
        logger.info(DASHES);
        logger.info("""
            2. Start OpenTelemetry enrichment

            Enrichment is what lets CloudWatch attach AWS resource context to the
OTLP metrics
            you send it. Without it, your metrics arrive as opaque series with no
connection to
            the resources that emitted them.

            We check the current state first, and only start enrichment if it isn't
already on.
            """);
        waitForInputToContinue(scanner);

        String status = cwActions.getOTelEnrichmentStatusAsync().join();
        logger.info("Enrichment status: {}", status);

        if (!"Running".equalsIgnoreCase(status)) {
            cwActions.startOTelEnrichmentAsync().join();
            startedEnrichment = true;
            status = cwActions.getOTelEnrichmentStatusAsync().join();
            logger.info("Enrichment status: {}", status);
            logger.info("""
                Note: this run started enrichment, so the cleanup step will stop it
again.
                """);
        } else {
            logger.info("""
                Enrichment was already running, so we will leave it alone. The
cleanup step
                will not stop it, because other workloads in this account may depend
on it.
                """);
        }
        waitForInputToContinue(scanner);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("""
            3. Send OTLP metrics to CloudWatch

            This step is not an AWS SDK operation, and that's worth being explicit
about.
```

```
            Metrics reach CloudWatch over the OTLP protocol, through the CloudWatch
agent, an
            OpenTelemetry Collector, or an ADOT SDK. There is no PutOTelMetrics API
to call.

            Point your collector at the CloudWatch metrics endpoint, which follows
the pattern
            https://monitoring.<region>.amazonaws.com/v1/metrics

            The endpoint is HTTP/1.1 only and does not support gRPC, so use an
otlphttp
            exporter rather than otlp. The metrics endpoint signs as "monitoring".
            """);
        waitForInputToContinue(scanner);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("""
            4. Create a PromQL alarm

            Now we alarm on those metrics. The comparison goes inside the query
itself: a
            PromQL alarm has no separate threshold, comparison operator, statistic,
or period.
            """);
        logger.info("Enter a PromQL query, or press <ENTER> for the default");
        logger.info("[{}]:", DEFAULT_QUERY);
        String queryInput = scanner.nextLine();
        String query = queryInput == null || queryInput.isBlank() ? DEFAULT_QUERY :
queryInput.trim();

        cwActions.putPromQLMetricAlarmAsync(alarmName, query, EVALUATION_INTERVAL,
                PENDING_PERIOD, RECOVERY_PERIOD).join();
        logger.info("Created alarm {}:", alarmName);
        logger.info("  query:              {}", query);
        logger.info("  evaluationInterval: {} seconds", EVALUATION_INTERVAL);
        logger.info("  pendingPeriod:      {} seconds", PENDING_PERIOD);
        logger.info("  recoveryPeriod:     {} seconds", RECOVERY_PERIOD);
        logger.info("""

            A PromQL alarm starts in the OK state rather than INSUFFICIENT_DATA,
which is
            another way it differs from a classic alarm.
            """);
        waitForInputToContinue(scanner);
```

```
        logger.info(DASHES);
        logger.info("""
            5. Inspect the alarm's contributors

            Each contributor is one series the query matched, identified by its
label set. This
            is how you find out which host is unhealthy rather than only that
something is.
            Classic alarms have no equivalent.
            """);
        waitForInputToContinue(scanner);

        List<AlarmContributor> contributors =
cwActions.describeAlarmContributorsAsync(alarmName).join();
        if (contributors.isEmpty()) {
            logger.info("""
                No contributors yet. The query matched no series, which usually
means no OTel
                metrics with these labels have arrived. Once your collector is
sending data,
                each matching series appears here with its labels and the reason it
breached.
                """);
        } else {
            logger.info("Found {} contributors:", contributors.size());
            for (AlarmContributor contributor : contributors) {
                StringBuilder labels = new StringBuilder();
                for (Map.Entry<String, String> attribute :
contributor.contributorAttributes().entrySet()) {
                    if (labels.length() > 0) {
                        labels.append(", ");
                    }

labels.append(attribute.getKey()).append("=").append(attribute.getValue());
                }
                logger.info("  {}: {}", contributor.contributorId(), labels);
                logger.info("    reason: {}", contributor.stateReason());
            }
        }
        waitForInputToContinue(scanner);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("""
```

```
            6. Get statistics and chart the metric on a dashboard

            Statistics and dashboards are how you see what the alarm is evaluating.
            """);
        waitForInputToContinue(scanner);

        boolean dashboardCreated = false;
        if (!namespaces.isEmpty()) {
            String namespace = namespaces.get(0);
            ArrayList<String> metrics = cwActions.listMetsAsync(namespace).join();
            if (metrics != null && !metrics.isEmpty()) {
                String metricName = metrics.get(0);
                String startDate = Instant.now().minus(24,
ChronoUnit.HOURS).toString();
                Dimension dimension = null;
                try {
                    dimension = cwActions.getSpecificMetAsync(namespace).join();
                    cwActions.getAndDisplayMetricStatisticsAsync(namespace,
metricName,
                            "Average", startDate, dimension).join();
                } catch (RuntimeException e) {
                    logger.info("Could not get statistics for {}/{}: {}", namespace,
metricName,
                            e.getMessage());
                }

                // Chart the metric this run just discovered. Reading the widgets
from a
                // file would chart metrics that may not exist in this account.
                try {
                    String dashboardBody = buildDashboardBody(namespace, metricName,
dimension,
                            cwActions.getRegion());
                    cwActions.createDashboardAsync(dashboardName,
dashboardBody).join();
                    dashboardCreated = true;
                    cwActions.listDashboardsAsync().join();
                } catch (RuntimeException e) {
                    logger.info("Could not create the dashboard: {}",
e.getMessage());
                }
            } else {
                logger.info("No metrics found in namespace {}, skipping statistics
and the "
```

```
                        + "dashboard.", namespace);
            }
        } else {
            logger.info("Skipping statistics and dashboard because no metrics exist
yet.");
        }
        waitForInputToContinue(scanner);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("""
            7. Mute the alarm for a maintenance window

            While a mute rule is active the targeted alarms keep evaluating and keep
changing
            state, but their actions do not fire. This is the supported way to
suppress
            notifications during planned maintenance, instead of disabling alarm
actions and
            hoping someone remembers to turn them back on.
            """);
        waitForInputToContinue(scanner);

        // The expression is a five-field cron expression,
        // cron(Minutes Hours Day-of-month Month Day-of-week). Note that this is
five fields,
        // not the six that Amazon EventBridge uses. For a one-time window, use
        // at(yyyy-MM-ddThh:mm), with no seconds. The duration is an ISO 8601
duration from
        // PT1M to P15D, so PT2H rather than 2h.
        String expression = "cron(0 2 * * SUN)";
        String duration = "PT2H";
        String timezone = "America/Los_Angeles";

        cwActions.putAlarmMuteRuleAsync(muteRuleName, expression, duration,
timezone,
                List.of(alarmName)).join();
        logger.info("Created mute rule {}:", muteRuleName);
        logger.info("  schedule: {} for {}", expression, duration);
        logger.info("  timezone: {}", timezone);
        logger.info("  targets:  {}", alarmName);
        logger.info("""

            Note the two formats here. The expression is a five-field cron
expression, five
```

```
            rather than the six Amazon EventBridge uses. The duration is an ISO 8601
duration,
            so 'PT2H' and not '2h'.

            Also note that muteTargets is set explicitly. If you leave it out, the
rule applies
            to every alarm in the account.
            """);

        GetAlarmMuteRuleResponse muteRule =
cwActions.getAlarmMuteRuleAsync(muteRuleName).join();
        logger.info("Read the rule back: status {}, mute type {}.",
muteRule.statusAsString(),
                muteRule.muteType());

        List<AlarmMuteRuleSummary> summaries =
cwActions.listAlarmMuteRulesAsync(alarmName).join();
        logger.info("Found {} mute rules targeting this alarm.", summaries.size());
        // Mute rule summaries carry no name field, only an ARN, so match on the ARN
suffix.
        summaries.stream()
                .filter(summary -> summary.alarmMuteRuleArn().endsWith("/" +
muteRuleName)
                        || summary.alarmMuteRuleArn().endsWith(":" + muteRuleName))
                .findFirst()
                .ifPresent(summary -> logger.info("  matched by ARN: {} ({})",
                        summary.alarmMuteRuleArn(), summary.statusAsString()));
        waitForInputToContinue(scanner);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("8. Clean up");
        logger.info("Delete the resources this scenario created? (y/n)");
        String cleanUp = scanner.nextLine();
        if (cleanUp == null || !cleanUp.trim().equalsIgnoreCase("y")) {
            logger.info("""
                Skipping cleanup. Note that the alarm, dashboard, and mute rule are
still in
                your account, and enrichment may still be running.
                """);
            logger.info(DASHES);
            logger.info("This concludes the Amazon CloudWatch Basics scenario.");
            return;
        }
```

```
        // Each deletion is attempted independently so that one failure does not
leave the
        // remaining resources behind.
        try {
            cwActions.deleteAlarmMuteRuleAsync(muteRuleName).join();
        } catch (RuntimeException e) {
            logger.info("Could not delete the mute rule: {}", e.getMessage());
        }

        try {
            cwActions.deleteCWAlarmAsync(alarmName).join();
            logger.info("Deleted alarm {}.", alarmName);
        } catch (RuntimeException e) {
            logger.info("Could not delete the alarm: {}", e.getMessage());
        }

        if (dashboardCreated) {
            try {
                cwActions.deleteDashboardAsync(dashboardName).join();
                logger.info("Deleted dashboard {}.", dashboardName);
            } catch (RuntimeException e) {
                logger.info("Could not delete the dashboard: {}", e.getMessage());
            }
        }

        if (startedEnrichment) {
            try {
                cwActions.stopOTelEnrichmentAsync().join();
                logger.info("Stopped OTel enrichment, because this run started
it.");
            } catch (RuntimeException e) {
                logger.info("Could not stop OTel enrichment: {}", e.getMessage());
            }
        } else {
            logger.info("""
                Left OTel enrichment running, because it was already on before this
run.
                """);
        }

        logger.info(DASHES);
        logger.info("This concludes the Amazon CloudWatch Basics scenario.");
        logger.info(DASHES);
    }
```

```
   /**
    * Builds a single-widget dashboard body that charts the given metric.
    *
    * @param metricNamespace the namespace of the metric to chart
    * @param metricName      the name of the metric to chart
    * @param dimension       a dimension to narrow the metric to, or null for none
    * @param region          the Region the metric is in. A metric widget must name
its
    *                        Region, because a dashboard can chart metrics from
several.
    * @return the dashboard body, as JSON
    */
   static String buildDashboardBody(String metricNamespace, String metricName,
           Dimension dimension, String region) {
       String dimensionParts = dimension == null ? ""
               : String.format(", \"%s\", \"%s\"", dimension.name(),
dimension.value());

       return String.format("""
           {
               "widgets": [
                   {
                       "type": "text",
                       "x": 0, "y": 0, "width": 24, "height": 2,
                       "properties": {
                           "markdown": "This dashboard was created programmatically
by an AWS SDK code example."
                       }
                   },
                   {
                       "type": "metric",
                       "x": 0, "y": 2, "width": 12, "height": 6,
                       "properties": {
                           "metrics": [[ "%s", "%s"%s ]],
                           "view": "timeSeries",
                           "stat": "Average",
                           "period": 300,
                           "region": "%s",
                           "title": "%s"
                       }
                   }
               ]
           }
```

```
            """, metricNamespace, metricName, dimensionParts, region, metricName);
    }

    private static void waitForInputToContinue(Scanner scanner) {
        while (true) {
            logger.info("");
            logger.info("Press <ENTER> to continue:");
            String input = scanner.nextLine();

            if (input == null || input.trim().isEmpty()) {
                logger.info("Continuing with the program...");
                logger.info("");
                break;
            } else {
                logger.info("Invalid input. Please try again.");
            }
        }
    }
}
```

シナリオが呼び出す CloudWatch SDK メソッドのラッパークラス。

```
public class CloudWatchActions {

    private static CloudWatchAsyncClient cloudWatchAsyncClient;

    private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(CloudWatchActions.class);

    /**
     * Retrieves an asynchronous CloudWatch client instance.
     *
     * <p>
     * This method ensures that the CloudWatch client is initialized with the
 following configurations:
     * <ul>
     *     <li>Maximum concurrency: 100</li>
     *     <li>Connection timeout: 60 seconds</li>
     *     <li>Read timeout: 60 seconds</li>
     *     <li>Write timeout: 60 seconds</li>
     *     <li>API call timeout: 2 minutes</li>
     *     <li>API call attempt timeout: 90 seconds</li>
```

```
     *     <li>Retry strategy: STANDARD</li>
     * </ul>
     * </p>
     *
     * @return the asynchronous CloudWatch client instance
     */
    private static CloudWatchAsyncClient getAsyncClient() {
        if (cloudWatchAsyncClient == null) {
            SdkAsyncHttpClient httpClient = NettyNioAsyncHttpClient.builder()
                .maxConcurrency(100)
                .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .readTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .writeTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .build();

            ClientOverrideConfiguration overrideConfig =
ClientOverrideConfiguration.builder()
                .apiCallTimeout(Duration.ofMinutes(2))
                .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(90))
                .retryStrategy(RetryMode.STANDARD)
                .build();

            cloudWatchAsyncClient = CloudWatchAsyncClient.builder()
                .httpClient(httpClient)
                .overrideConfiguration(overrideConfig)
                .build();
        }
        return cloudWatchAsyncClient;
    }

    /**
     * Returns the Region the client resolved, which a dashboard's metric widgets
must name.
     *
     * @return the Region ID, such as us-east-1
     */
    public String getRegion() {
        return getAsyncClient().serviceClientConfiguration().region().id();
    }

    /**
     * Deletes an Anomaly Detector.
     *
```

```
    * @param fileName the name of the file containing the Anomaly Detector
configuration
    * @return a CompletableFuture that represents the asynchronous deletion of the
Anomaly Detector
    */
   public CompletableFuture<DeleteAnomalyDetectorResponse>
deleteAnomalyDetectorAsync(String fileName) {
       CompletableFuture<JsonNode> readFileFuture =
CompletableFuture.supplyAsync(() -> {
           try {
               JsonParser parser = new JsonFactory().createParser(new
File(fileName));
               return new ObjectMapper().readTree(parser); // Return the root node
           } catch (IOException e) {
               throw new RuntimeException("Failed to read or parse the file", e);
           }
       });

       return readFileFuture.thenCompose(rootNode -> {
           String customMetricNamespace =
rootNode.findValue("customMetricNamespace").asText();
           String customMetricName =
rootNode.findValue("customMetricName").asText();

           SingleMetricAnomalyDetector singleMetricAnomalyDetector =
SingleMetricAnomalyDetector.builder()
               .metricName(customMetricName)
               .namespace(customMetricNamespace)
               .stat("Maximum")
               .build();

           DeleteAnomalyDetectorRequest request =
DeleteAnomalyDetectorRequest.builder()
               .singleMetricAnomalyDetector(singleMetricAnomalyDetector)
               .build();

           return getAsyncClient().deleteAnomalyDetector(request);
       }).whenComplete((result, exception) -> {
           if (exception != null) {
               throw new RuntimeException("Failed to delete the Anomaly Detector",
exception);
           } else {
               logger.info("Successfully deleted the Anomaly Detector.");
           }
```

```
        });
    }

    /**
     * Deletes a CloudWatch alarm.
     *
     * @param alarmName the name of the alarm to be deleted
     * @return a {@link CompletableFuture} representing the asynchronous operation
to delete the alarm
     * the {@link DeleteAlarmsResponse} is returned when the operation completes
successfully,
     * or a {@link RuntimeException} is thrown if the operation fails
     */
    public CompletableFuture<DeleteAlarmsResponse> deleteCWAlarmAsync(String
alarmName) {
        DeleteAlarmsRequest request = DeleteAlarmsRequest.builder()
            .alarmNames(alarmName)
            .build();

        return getAsyncClient().deleteAlarms(request)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    throw new RuntimeException("Failed to delete the alarm:{} " +
alarmName, exception);
                } else {
                    logger.info("Successfully deleted alarm {} ", alarmName);
                }
            });
    }

    /**
     * Deletes the specified dashboard.
     *
     * @param dashboardName the name of the dashboard to be deleted
     * @return a {@link CompletableFuture} representing the asynchronous operation
of deleting the dashboard
     * @throws RuntimeException if the dashboard deletion fails
     */
    public CompletableFuture<DeleteDashboardsResponse> deleteDashboardAsync(String
dashboardName) {
        DeleteDashboardsRequest dashboardsRequest =
DeleteDashboardsRequest.builder()
            .dashboardNames(dashboardName)
            .build();
```

```
        return getAsyncClient().deleteDashboards(dashboardsRequest)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    throw new RuntimeException("Failed to delete the dashboard: " +
dashboardName, exception);
                } else {
                    logger.info("{} was successfully deleted.", dashboardName);
                }
            });
    }


    /**
     * Retrieves and saves a custom metric image to a file.
     *
     * @param fileName the name of the file to save the metric image to
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the image has been
saved to the file
     */
    public CompletableFuture<Void> downloadAndSaveMetricImageAsync(String fileName)
{
        logger.info("Getting Image data for custom metric.");
        String myJSON = """
              {
                  "title": "Example Metric Graph",
                  "view": "timeSeries",
                  "stacked ": false,
                  "period": 10,
                  "width": 1400,
                  "height": 600,
                  "metrics": [
                      [
                      "AWS/Billing",
                      "EstimatedCharges",
                      "Currency",
                      "USD"
                     ]
                  ]
              }
            """;

        GetMetricWidgetImageRequest imageRequest =
GetMetricWidgetImageRequest.builder()
```

```
            .metricWidget(myJSON)
            .build();

        return getAsyncClient().getMetricWidgetImage(imageRequest)
            .thenCompose(response -> {
                SdkBytes sdkBytes = response.metricWidgetImage();
                byte[] bytes = sdkBytes.asByteArray();
                return CompletableFuture.runAsync(() -> {
                    try {
                        File outputFile = new File(fileName);
                        try (FileOutputStream outputStream = new
FileOutputStream(outputFile)) {
                            outputStream.write(bytes);
                        }
                    } catch (IOException e) {
                        throw new RuntimeException("Failed to write image to file",
e);
                    }
                });
            })
            .whenComplete((result, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    throw new RuntimeException("Error getting and saving metric
image", exception);
                } else {
                    logger.info("Image data saved successfully to {}", fileName);
                }
            });
    }


    /**
     * Describes the anomaly detectors based on the specified JSON file.
     *
     * @param fileName the name of the JSON file containing the custom metric
namespace and name
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the anomaly detectors
have been described
     * @throws RuntimeException if there is a failure during the operation, such as
when reading or parsing the JSON file,
     *                          or when describing the anomaly detectors
     */
    public CompletableFuture<Void> describeAnomalyDetectorsAsync(String fileName) {
```

```
        CompletableFuture<JsonNode> readFileFuture =
CompletableFuture.supplyAsync(() -> {
            try {
                JsonParser parser = new JsonFactory().createParser(new
File(fileName));
                return new ObjectMapper().readTree(parser);
            } catch (IOException e) {
                throw new RuntimeException("Failed to read or parse the file", e);
            }
        });

        return readFileFuture.thenCompose(rootNode -> {
            try {
                String customMetricNamespace =
rootNode.findValue("customMetricNamespace").asText();
                String customMetricName =
rootNode.findValue("customMetricName").asText();

                DescribeAnomalyDetectorsRequest detectorsRequest =
DescribeAnomalyDetectorsRequest.builder()
                    .maxResults(10)
                    .metricName(customMetricName)
                    .namespace(customMetricNamespace)
                    .build();

                return
getAsyncClient().describeAnomalyDetectors(detectorsRequest).thenAccept(response ->
{
                    List<AnomalyDetector> anomalyDetectorList =
response.anomalyDetectors();
                    for (AnomalyDetector detector : anomalyDetectorList) {
                        logger.info("Metric name: {} ",
detector.singleMetricAnomalyDetector().metricName());
                        logger.info("State: {} ", detector.stateValue());
                    }
                });
            } catch (RuntimeException e) {
                throw new RuntimeException("Failed to describe anomaly detectors",
e);
            }
        }).whenComplete((result, exception) -> {
            if (exception != null) {
                throw new RuntimeException("Error describing anomaly detectors",
exception);
```

```
            }
        });
    }


    /**
     * Adds an anomaly detector for the given file.
     *
     * @param fileName the name of the file containing the anomaly detector
configuration
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the anomaly detector
has been added
     */
    public CompletableFuture<Void> addAnomalyDetectorAsync(String fileName) {
        CompletableFuture<JsonNode> readFileFuture =
CompletableFuture.supplyAsync(() -> {
            try {
                JsonParser parser = new JsonFactory().createParser(new
File(fileName));
                return new ObjectMapper().readTree(parser); // Return the root node
            } catch (IOException e) {
                throw new RuntimeException("Failed to read or parse the file", e);
            }
        });

        return readFileFuture.thenCompose(rootNode -> {
            try {
                String customMetricNamespace =
rootNode.findValue("customMetricNamespace").asText();
                String customMetricName =
rootNode.findValue("customMetricName").asText();

                SingleMetricAnomalyDetector singleMetricAnomalyDetector =
SingleMetricAnomalyDetector.builder()
                    .metricName(customMetricName)
                    .namespace(customMetricNamespace)
                    .stat("Maximum")
                    .build();

                PutAnomalyDetectorRequest anomalyDetectorRequest =
PutAnomalyDetectorRequest.builder()
                    .singleMetricAnomalyDetector(singleMetricAnomalyDetector)
                    .build();
```

```
                return
getAsyncClient().putAnomalyDetector(anomalyDetectorRequest).thenAccept(response ->
{
                    logger.info("Added anomaly detector for metric {}",
customMetricName);
                });
            } catch (Exception e) {
                throw new RuntimeException("Failed to create anomaly detector", e);
            }
        }).whenComplete((result, exception) -> {
            if (exception != null) {
                throw new RuntimeException("Error adding anomaly detector",
exception);
            }
        });
    }


    /**
     * Retrieves the alarm history for a given alarm name and date range.
     *
     * @param fileName the path to the JSON file containing the alarm name
     * @param date     the date to start the alarm history search (in the format
"yyyy-MM-dd'T'HH:mm:ss'Z'")
     * @return a {@code CompletableFuture<Void>} that completes when the alarm
history has been retrieved and processed
     */
    public CompletableFuture<Void> getAlarmHistoryAsync(String fileName, String
date) {
        CompletableFuture<String> readFileFuture = CompletableFuture.supplyAsync(()
-> {
            try {
                JsonParser parser = new JsonFactory().createParser(new
File(fileName));
                com.fasterxml.jackson.databind.JsonNode rootNode = new
ObjectMapper().readTree(parser);
                return rootNode.findValue("exampleAlarmName").asText(); // Return
alarmName from the JSON file
            } catch (IOException e) {
                throw new RuntimeException("Failed to read or parse the file", e);
            }
        });

        // Use the alarm name to describe alarm history with a paginator.
```

```
        return readFileFuture.thenCompose(alarmName -> {
            try {
                Instant start = Instant.parse(date);
                Instant endDate = Instant.now();
                DescribeAlarmHistoryRequest historyRequest =
DescribeAlarmHistoryRequest.builder()
                    .startDate(start)
                    .endDate(endDate)
                    .alarmName(alarmName)
                    .historyItemType(HistoryItemType.ACTION)
                    .build();

                // Use the paginator to paginate through alarm history pages.
                DescribeAlarmHistoryPublisher historyPublisher =
getAsyncClient().describeAlarmHistoryPaginator(historyRequest);
                CompletableFuture<Void> future = historyPublisher
                    .subscribe(response -> response.alarmHistoryItems().forEach(item
-> {
                        logger.info("History summary: {}", item.historySummary());
                        logger.info("Timestamp: {}", item.timestamp());
                    }))
                    .whenComplete((result, exception) -> {
                        if (exception != null) {
                            logger.error("Error occurred while getting alarm
history: " + exception.getMessage(), exception);
                        } else {
                            logger.info("Successfully retrieved all alarm
history.");
                        }
                    });

                // Return the future to the calling code for further handling
                return future;
            } catch (Exception e) {
                throw new RuntimeException("Failed to process alarm history", e);
            }
        }).whenComplete((result, exception) -> {
            if (exception != null) {
                throw new RuntimeException("Error completing alarm history
processing", exception);
            }
        });
    }
```

```
   /**
    * Checks for a metric alarm in AWS CloudWatch.
    *
    * @param fileName the name of the file containing the JSON configuration for
the custom metric
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the check for the
metric alarm is complete
    */
   public CompletableFuture<Void> checkForMetricAlarmAsync(String fileName) {
       CompletableFuture<String> readFileFuture = CompletableFuture.supplyAsync(()
-> {
           try {
               JsonParser parser = new JsonFactory().createParser(new
File(fileName));
               com.fasterxml.jackson.databind.JsonNode rootNode = new
ObjectMapper().readTree(parser);
               return rootNode.toString(); // Return JSON as a string for further
processing
           } catch (IOException e) {
               throw new RuntimeException("Failed to read file", e);
           }
       });

       return readFileFuture.thenCompose(jsonContent -> {
           try {
               com.fasterxml.jackson.databind.JsonNode rootNode = new
ObjectMapper().readTree(jsonContent);
               String customMetricNamespace =
rootNode.findValue("customMetricNamespace").asText();
               String customMetricName =
rootNode.findValue("customMetricName").asText();

               DescribeAlarmsForMetricRequest metricRequest =
DescribeAlarmsForMetricRequest.builder()
                   .metricName(customMetricName)
                   .namespace(customMetricNamespace)
                   .build();

               return checkForAlarmAsync(metricRequest, customMetricName, 10);

           } catch (IOException e) {
               throw new RuntimeException("Failed to parse JSON content", e);
```

```
            }
        }).whenComplete((result, exception) -> {
            if (exception != null) {
                throw new RuntimeException("Error checking metric alarm",
exception);
            }
        });
    }

    // Recursive method to check for the alarm.

    /**
     * Checks for the existence of an alarm asynchronously for the specified metric.
     *
     * @param metricRequest    the request to describe the alarms for the specified
metric
     * @param customMetricName the name of the custom metric to check for an alarm
     * @param retries          the number of retries to perform if no alarm is found
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when an alarm is found or
the maximum number of retries has been reached
     */
    private static CompletableFuture<Void>
checkForAlarmAsync(DescribeAlarmsForMetricRequest metricRequest, String
customMetricName, int retries) {
        if (retries == 0) {
            return CompletableFuture.completedFuture(null).thenRun(() ->
                logger.info("No Alarm state found for {} after 10 retries.",
customMetricName)
            );
        }

        return
(getAsyncClient().describeAlarmsForMetric(metricRequest).thenCompose(response -> {
            if (response.hasMetricAlarms()) {
                logger.info("Alarm state found for {}", customMetricName);
                return CompletableFuture.completedFuture(null); // Alarm found,
complete the future
            } else {
                return CompletableFuture.runAsync(() -> {
                    try {
                        Thread.sleep(20000);
                        logger.info(".");
                    } catch (InterruptedException e) {
```

```
                        throw new RuntimeException("Interrupted while waiting to
retry", e);
                    }
                }).thenCompose(v -> checkForAlarmAsync(metricRequest,
customMetricName, retries - 1)); // Recursive call
            }
        }));
    }


    /**
     * Adds metric data for an alarm asynchronously.
     *
     * @param fileName the name of the JSON file containing the metric data
     * @return a CompletableFuture that asynchronously returns the
PutMetricDataResponse
     */
    public CompletableFuture<PutMetricDataResponse>
addMetricDataForAlarmAsync(String fileName) {
        CompletableFuture<String> readFileFuture = CompletableFuture.supplyAsync(()
-> {
            try {
                JsonParser parser = new JsonFactory().createParser(new
File(fileName));
                com.fasterxml.jackson.databind.JsonNode rootNode = new
ObjectMapper().readTree(parser);
                return rootNode.toString(); // Return JSON as a string for further
processing
            } catch (IOException e) {
                throw new RuntimeException("Failed to read file", e);
            }
        });

        return readFileFuture.thenCompose(jsonContent -> {
            try {
                com.fasterxml.jackson.databind.JsonNode rootNode = new
ObjectMapper().readTree(jsonContent);
                String customMetricNamespace =
rootNode.findValue("customMetricNamespace").asText();
                String customMetricName =
rootNode.findValue("customMetricName").asText();
                Instant instant = Instant.now();

                // Create MetricDatum objects.
```

```
                MetricDatum datum1 = MetricDatum.builder()
                    .metricName(customMetricName)
                    .unit(StandardUnit.NONE)
                    .value(1001.00)
                    .timestamp(instant)
                    .build();

                MetricDatum datum2 = MetricDatum.builder()
                    .metricName(customMetricName)
                    .unit(StandardUnit.NONE)
                    .value(1002.00)
                    .timestamp(instant)
                    .build();

                List<MetricDatum> metricDataList = new ArrayList<>();
                metricDataList.add(datum1);
                metricDataList.add(datum2);

                // Build the PutMetricData request.
                PutMetricDataRequest request = PutMetricDataRequest.builder()
                    .namespace(customMetricNamespace)
                    .metricData(metricDataList)
                    .build();

                // Send the request asynchronously.
                return getAsyncClient().putMetricData(request);

            } catch (IOException e) {
                CompletableFuture<PutMetricDataResponse> failedFuture = new
CompletableFuture<>();
                failedFuture.completeExceptionally(new RuntimeException("Failed to
parse JSON content", e));
                return failedFuture;
            }
        }).whenComplete((response, exception) -> {
            if (exception != null) {
                logger.error("Failed to put metric data: " + exception.getMessage(),
exception);
            } else {
                logger.info("Added metric values for metric.");
            }
        });
    }
```

```
   /**
    * Retrieves custom metric data from the AWS CloudWatch service.
    *
    * @param fileName the name of the file containing the custom metric information
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the metric data has
been retrieved
    */
   public CompletableFuture<Void> getCustomMetricDataAsync(String fileName) {
       CompletableFuture<String> readFileFuture = CompletableFuture.supplyAsync(()
-> {
           try {
               // Read values from the JSON file.
               JsonParser parser = new JsonFactory().createParser(new
File(fileName));
               com.fasterxml.jackson.databind.JsonNode rootNode = new
ObjectMapper().readTree(parser);
               return rootNode.toString(); // Return JSON as a string for further
processing
           } catch (IOException e) {
               throw new RuntimeException("Failed to read file", e);
           }
       });

       return readFileFuture.thenCompose(jsonContent -> {
           try {
               // Parse the JSON string to extract relevant values.
               com.fasterxml.jackson.databind.JsonNode rootNode = new
ObjectMapper().readTree(jsonContent);
               String customMetricNamespace =
rootNode.findValue("customMetricNamespace").asText();
               String customMetricName =
rootNode.findValue("customMetricName").asText();

               // Set the current time and date range for metric query.
               Instant nowDate = Instant.now();
               long hours = 1;
               long minutes = 30;
               Instant endTime = nowDate.plus(hours,
ChronoUnit.HOURS).plus(minutes, ChronoUnit.MINUTES);

               Metric met = Metric.builder()
                   .metricName(customMetricName)
                   .namespace(customMetricNamespace)
```

```
                    .build();

                MetricStat metStat = MetricStat.builder()
                    .stat("Maximum")
                    .period(60)  // Assuming period in seconds
                    .metric(met)
                    .build();

                MetricDataQuery dataQuery = MetricDataQuery.builder()
                    .metricStat(metStat)
                    .id("foo2")
                    .returnData(true)
                    .build();

                List<MetricDataQuery> dq = new ArrayList<>();
                dq.add(dataQuery);

                GetMetricDataRequest getMetricDataRequest =
GetMetricDataRequest.builder()
                    .maxDatapoints(10)
                    .scanBy(ScanBy.TIMESTAMP_DESCENDING)
                    .startTime(nowDate)
                    .endTime(endTime)
                    .metricDataQueries(dq)
                    .build();

                // Call the async method for CloudWatch data retrieval.
                return getAsyncClient().getMetricData(getMetricDataRequest);

            } catch (IOException e) {
                throw new RuntimeException("Failed to parse JSON content", e);
            }
        }).thenAccept(response -> {
            List<MetricDataResult> data = response.metricDataResults();
            for (MetricDataResult item : data) {
                logger.info("The label is: {}", item.label());
                logger.info("The status code is: {}", item.statusCode().toString());
            }
        }).exceptionally(exception -> {
            throw new RuntimeException("Failed to get metric data", exception);
        });
    }
```

```
    /**
     * Describes the CloudWatch alarms of the 'METRIC_ALARM' type.
     *
     * @return a {@link CompletableFuture} that represents the asynchronous
operation
     * of describing the CloudWatch alarms. The future completes when the
     * operation is finished, either successfully or with an error.
     */
    public CompletableFuture<Void> describeAlarmsAsync() {
        List<AlarmType> typeList = new ArrayList<>();
        typeList.add(AlarmType.METRIC_ALARM);
        DescribeAlarmsRequest alarmsRequest = DescribeAlarmsRequest.builder()
            .alarmTypes(typeList)
            .maxRecords(10)
            .build();

        return getAsyncClient().describeAlarms(alarmsRequest)
            .thenAccept(response -> {
                List<MetricAlarm> alarmList = response.metricAlarms();
                for (MetricAlarm alarm : alarmList) {
                    logger.info("Alarm name: {}", alarm.alarmName());
                    logger.info("Alarm description: {} ", alarm.alarmDescription());
                }
            })
            .whenComplete((response, ex) -> {
                if (ex != null) {
                    logger.info("Failed to describe alarms: {}", ex.getMessage());
                } else {
                    logger.info("Successfully described alarms.");
                }
            });
    }

    /**
     * Creates an alarm based on the configuration provided in a JSON file.
     *
     * @param fileName the name of the JSON file containing the alarm configuration
     * @return a CompletableFuture that represents the asynchronous operation of
creating the alarm
     * @throws RuntimeException if an exception occurs while reading the JSON file
or creating the alarm
     */
    public CompletableFuture<String> createAlarmAsync(String fileName) {
        com.fasterxml.jackson.databind.JsonNode rootNode;
```

```
        try {
            JsonParser parser = new JsonFactory().createParser(new File(fileName));
            rootNode = new ObjectMapper().readTree(parser);
        } catch (IOException e) {
            throw new RuntimeException("Failed to read the alarm configuration
file", e);
        }

        // Extract values from the JSON node.
        String customMetricNamespace =
rootNode.findValue("customMetricNamespace").asText();
        String customMetricName = rootNode.findValue("customMetricName").asText();
        String alarmName = rootNode.findValue("exampleAlarmName").asText();
        String emailTopic = rootNode.findValue("emailTopic").asText();
        String accountId = rootNode.findValue("accountId").asText();
        String region = rootNode.findValue("region").asText();

        // Create a List for alarm actions.
        List<String> alarmActions = new ArrayList<>();
        alarmActions.add("arn:aws:sns:" + region + ":" + accountId + ":" +
emailTopic);

        PutMetricAlarmRequest alarmRequest = PutMetricAlarmRequest.builder()
            .alarmActions(alarmActions)
            .alarmDescription("Example metric alarm")
            .alarmName(alarmName)

.comparisonOperator(ComparisonOperator.GREATER_THAN_OR_EQUAL_TO_THRESHOLD)
            .threshold(100.00)
            .metricName(customMetricName)
            .namespace(customMetricNamespace)
            .evaluationPeriods(1)
            .period(10)
            .statistic("Maximum")
            .datapointsToAlarm(1)
            .treatMissingData("ignore")
            .build();

        // Call the putMetricAlarm asynchronously and handle the result.
        return getAsyncClient().putMetricAlarm(alarmRequest)
            .handle((response, ex) -> {
                if (ex != null) {
                    logger.info("Failed to create alarm: {}", ex.getMessage());
                    throw new RuntimeException("Failed to create alarm", ex);
```

```
                } else {
                    logger.info("{} was successfully created!", alarmName);
                    return alarmName;
                }
            });
    }

    /**
     * Adds a metric to a dashboard asynchronously.
     *
     * @param fileName      the name of the file containing the dashboard content
     * @param dashboardName the name of the dashboard to be updated
     * @return a {@link CompletableFuture} representing the asynchronous operation,
which will complete with a
     * {@link PutDashboardResponse} when the dashboard is successfully updated
     */
    public CompletableFuture<PutDashboardResponse> addMetricToDashboardAsync(String
fileName, String dashboardName) {
        String dashboardBody;
        try {
            dashboardBody = readFileAsString(fileName);
        } catch (IOException e) {
            throw new RuntimeException("Failed to read the dashboard file", e);
        }

        PutDashboardRequest dashboardRequest = PutDashboardRequest.builder()
            .dashboardName(dashboardName)
            .dashboardBody(dashboardBody)
            .build();

        return getAsyncClient().putDashboard(dashboardRequest)
            .handle((response, ex) -> {
                if (ex != null) {
                    logger.info("Failed to update dashboard: {}", ex.getMessage());
                    throw new RuntimeException("Error updating dashboard", ex);
                } else {
                    logger.info("{} was successfully updated.", dashboardName);
                    return response;
                }
            });
    }

    /**
     * Creates a new custom metric.
```

```
     *
     * @param dataPoint the data point to be added to the custom metric
     * @return a {@link CompletableFuture} representing the asynchronous operation
of adding the custom metric
     */
    public CompletableFuture<PutMetricDataResponse>
createNewCustomMetricAsync(Double dataPoint) {
        Dimension dimension = Dimension.builder()
            .name("UNIQUE_PAGES")
            .value("URLS")
            .build();

        // Set an Instant object for the current time in UTC.
        String time =
ZonedDateTime.now(ZoneOffset.UTC).format(DateTimeFormatter.ISO_INSTANT);
        Instant instant = Instant.parse(time);

        // Create the MetricDatum.
        MetricDatum datum = MetricDatum.builder()
            .metricName("PAGES_VISITED")
            .unit(StandardUnit.NONE)
            .value(dataPoint)
            .timestamp(instant)
            .dimensions(dimension)
            .build();

        PutMetricDataRequest request = PutMetricDataRequest.builder()
            .namespace("SITE/TRAFFIC")
            .metricData(datum)
            .build();

        return getAsyncClient().putMetricData(request)
            .whenComplete((response, ex) -> {
                if (ex != null) {
                    throw new RuntimeException("Error adding custom metric", ex);
                } else {
                    logger.info("Successfully added metric values for
PAGES_VISITED.");
                }
            });
    }

    /**
     * Lists the available dashboards.
```

```
    *
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the operation is
finished.
    * The future will complete exceptionally if an error occurs while listing the
dashboards.
    */
   public CompletableFuture<Void> listDashboardsAsync() {
       ListDashboardsRequest listDashboardsRequest =
ListDashboardsRequest.builder().build();
       ListDashboardsPublisher paginator =
getAsyncClient().listDashboardsPaginator(listDashboardsRequest);
       return paginator.subscribe(response -> {
           response.dashboardEntries().forEach(entry -> {
               logger.info("Dashboard name is: {} ", entry.dashboardName());
               logger.info("Dashboard ARN is: {} ", entry.dashboardArn());
           });
       }).exceptionally(ex -> {
           logger.info("Failed to list dashboards: {} ", ex.getMessage());
           throw new RuntimeException("Error occurred while listing dashboards",
ex);
       });
   }

   /**
    * Creates a new dashboard with the specified name and the metrics described by
the given file.
    *
    * @param dashboardName the name of the dashboard to be created
    * @param fileName      the name of the file containing the dashboard body
    * @return a {@link CompletableFuture} representing the asynchronous operation
of creating the dashboard
    * @throws IOException if there is an error reading the dashboard body from the
file
    */
   public CompletableFuture<PutDashboardResponse>
createDashboardWithMetricsAsync(String dashboardName, String fileName) throws
IOException {
       return createDashboardAsync(dashboardName, readFileAsString(fileName));
   }


   /**
    * Creates a new dashboard with the specified name and body.
    *
```

```
    * @param dashboardName the name of the dashboard to be created
    * @param dashboardBody the dashboard body, as JSON
    * @return a {@link CompletableFuture} representing the asynchronous operation
of creating the dashboard
    */
   public CompletableFuture<PutDashboardResponse> createDashboardAsync(String
dashboardName, String dashboardBody) {
       PutDashboardRequest dashboardRequest = PutDashboardRequest.builder()
           .dashboardName(dashboardName)
           .dashboardBody(dashboardBody)
           .build();

       return getAsyncClient().putDashboard(dashboardRequest)
           .handle((response, ex) -> {
               if (ex != null) {
                   logger.info("Failed to create dashboard: {}", ex.getMessage());
                   throw new RuntimeException("Dashboard creation failed", ex);
               } else {
                   // Handle the normal response case
                   logger.info("{} was successfully created.", dashboardName);
                   List<DashboardValidationMessage> messages =
response.dashboardValidationMessages();
                   if (messages.isEmpty()) {
                       logger.info("There are no messages in the new Dashboard.");
                   } else {
                       for (DashboardValidationMessage message : messages) {
                           logger.info("Message: {}", message.message());
                       }
                   }
                   return response; // Return the response for further use
               }
           });
   }


   /**
    * Retrieves the metric statistics for the "EstimatedCharges" metric in the
"AWS/Billing" namespace.
    *
    * @param costDateWeek the start date for the metric statistics, in the format
of an ISO-8601 date string (e.g., "2023-04-05")
    * @return a {@link CompletableFuture} that, when completed, contains the {@link
GetMetricStatisticsResponse} with the retrieved metric statistics
```

```
    * @throws RuntimeException if the metric statistics cannot be retrieved
successfully
    */
   public CompletableFuture<GetMetricStatisticsResponse>
getMetricStatisticsAsync(String costDateWeek) {
       Instant start = Instant.parse(costDateWeek);
       Instant endDate = Instant.now();

       // Define dimension
       Dimension dimension = Dimension.builder()
           .name("Currency")
           .value("USD")
           .build();

       List<Dimension> dimensionList = new ArrayList<>();
       dimensionList.add(dimension);

       GetMetricStatisticsRequest statisticsRequest =
GetMetricStatisticsRequest.builder()
           .metricName("EstimatedCharges")
           .namespace("AWS/Billing")
           .dimensions(dimensionList)
           .statistics(Statistic.MAXIMUM)
           .startTime(start)
           .endTime(endDate)
           .period(86400) // One day period
           .build();

       return getAsyncClient().getMetricStatistics(statisticsRequest)
           .whenComplete((response, exception) -> {
               if (response != null) {
                   List<Datapoint> data = response.datapoints();
                   if (!data.isEmpty()) {
                       for (Datapoint datapoint : data) {
                           logger.info("Timestamp: {} Maximum value: {})",
datapoint.timestamp(), datapoint.maximum());
                       }
                   } else {
                       logger.info("The returned data list is empty");
                   }
               } else {
                   throw new RuntimeException("Failed to get metric statistics: " +
exception.getMessage(), exception);
               }
```

```
            });
    }


    /**
     * Retrieves and displays metric statistics for the specified parameters.
     *
     * @param nameSpace    the namespace for the metric
     * @param metVal       the name of the metric
     * @param metricOption the statistic to retrieve for the metric (e.g.,
"Maximum", "Average")
     * @param date         the date for which to retrieve the metric statistics, in
the format "yyyy-MM-dd'T'HH:mm:ss'Z'"
     * @param myDimension  the dimension(s) to filter the metric statistics by
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the metric statistics
have been retrieved and displayed
     */
    public CompletableFuture<GetMetricStatisticsResponse>
getAndDisplayMetricStatisticsAsync(String nameSpace, String metVal,

         String metricOption, String date, Dimension myDimension) {

        Instant start = Instant.parse(date);
        Instant endDate = Instant.now();

        // Building the request for metric statistics.
        GetMetricStatisticsRequest statisticsRequest =
GetMetricStatisticsRequest.builder()
            .endTime(endDate)
            .startTime(start)
            .dimensions(myDimension)
            .metricName(metVal)
            .namespace(nameSpace)
            .period(86400) // 1 day period
            .statistics(Statistic.fromValue(metricOption))
            .build();

        return getAsyncClient().getMetricStatistics(statisticsRequest)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (response != null) {
                    List<Datapoint> data = response.datapoints();
                    if (!data.isEmpty()) {
                        for (Datapoint datapoint : data) {
```

```
                            logger.info("Timestamp: {} Maximum value: {}",
datapoint.timestamp(), datapoint.maximum());
                        }
                    } else {
                        logger.info("The returned data list is empty");
                    }
                } else {
                    logger.info("Failed to get metric statistics: {} ",
exception.getMessage());
                }
            })
            .exceptionally(exception -> {
                throw new RuntimeException("Error while getting metric statistics: "
+ exception.getMessage(), exception);
            });
    }


    /**
     * Retrieves a list of metric names for the specified namespace.
     *
     * @param namespace the namespace for which to retrieve the metric names
     * @return a {@link CompletableFuture} that, when completed, contains an {@link
ArrayList} of
     * the metric names in the specified namespace
     * @throws RuntimeException if an error occurs while listing the metrics
     */
    public CompletableFuture<ArrayList<String>> listMetsAsync(String namespace) {
        ListMetricsRequest request = ListMetricsRequest.builder()
            .namespace(namespace)
            .build();

        ListMetricsPublisher metricsPaginator =
getAsyncClient().listMetricsPaginator(request);
        Set<String> metSet = new HashSet<>();
        CompletableFuture<Void> future = metricsPaginator.subscribe(response -> {
            response.metrics().forEach(metric -> {
                String metricName = metric.metricName();
                metSet.add(metricName);
            });
        });

        return future
            .thenApply(ignored -> new ArrayList<>(metSet))
```

```
            .exceptionally(exception -> {
                throw new RuntimeException("Failed to list metrics: " +
exception.getMessage(), exception);
            });
    }

    /**
     * Lists the available namespaces for the current AWS account.
     *
     * @return a {@link CompletableFuture} that, when completed, contains an {@link
ArrayList} of the available namespace names.
     * @throws RuntimeException if an error occurs while listing the namespaces.
     */
    public CompletableFuture<ArrayList<String>> listNameSpacesAsync() {
        ArrayList<String> nameSpaceList = new ArrayList<>();
        ListMetricsRequest request = ListMetricsRequest.builder().build();

        ListMetricsPublisher metricsPaginator =
getAsyncClient().listMetricsPaginator(request);
        CompletableFuture<Void> future = metricsPaginator.subscribe(response -> {
            response.metrics().forEach(metric -> {
                String namespace = metric.namespace();
                if (!nameSpaceList.contains(namespace)) {
                    nameSpaceList.add(namespace);
                }
            });
        });

        return future
            .thenApply(ignored -> nameSpaceList)
            .exceptionally(exception -> {
                throw new RuntimeException("Failed to list namespaces: " +
exception.getMessage(), exception);
            });
    }
    /**
     * Retrieves the specific metric asynchronously.
     *
     * @param namespace the namespace of the metric to retrieve
     * @return a CompletableFuture that completes with the first dimension of the
first metric found in the specified namespace,
     * or throws a RuntimeException if an error occurs or no metrics or dimensions
are found
     */
```

```
   public CompletableFuture<Dimension> getSpecificMetAsync(String namespace) {
       ListMetricsRequest request = ListMetricsRequest.builder()
           .namespace(namespace)
           .build();

       return getAsyncClient().listMetrics(request).handle((response, exception) ->
{
           if (exception != null) {
               logger.info("Error occurred while listing metrics: {} ",
exception.getMessage());
               throw new RuntimeException("Failed to retrieve specific metric
dimension", exception);
           } else {
               List<Metric> myList = response.metrics();
               if (!myList.isEmpty()) {
                   Metric metric = myList.get(0);
                   if (!metric.dimensions().isEmpty()) {
                       return metric.dimensions().get(0); // Return the first
dimension
                   }
               }
               throw new RuntimeException("No metrics or dimensions found");
           }
       });
   }

   /**
    * Gets the current OTel enrichment status for the account. Enrichment is what
makes
    * CloudWatch attach AWS resource context to incoming OTLP metrics, so the
metrics
    * become correlatable with the rest of CloudWatch rather than opaque series.
    *
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes with the status, such as
    * {@code Running} or {@code NotStarted}
    */
   public CompletableFuture<String> getOTelEnrichmentStatusAsync() {
       return
getAsyncClient().getOTelEnrichment(GetOTelEnrichmentRequest.builder().build())
           .handle((response, exception) -> {
               if (exception != null) {
                   throw new RuntimeException("Failed to get OTel enrichment
status: "
                       + exception.getMessage(), exception);
```

```
                }
                return response.statusAsString();
            });
    }

    /**
     * Turns on OTel enrichment for the account.
     *
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when enrichment has
started
     */
    public CompletableFuture<Void> startOTelEnrichmentAsync() {
        return
getAsyncClient().startOTelEnrichment(StartOTelEnrichmentRequest.builder().build())
            .handle((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    throw new RuntimeException("Failed to start OTel enrichment: "
                        + exception.getMessage(), exception);
                }
                logger.info("Started OTel enrichment for this account.");
                return null;
            });
    }

    /**
     * Turns off OTel enrichment for the account. Existing PromQL alarms are not
deleted,
     * but vended metrics stop being enriched, so queries that select on the added
labels
     * stop matching.
     *
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when enrichment has
stopped
     */
    public CompletableFuture<Void> stopOTelEnrichmentAsync() {
        return
getAsyncClient().stopOTelEnrichment(StopOTelEnrichmentRequest.builder().build())
            .handle((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    throw new RuntimeException("Failed to stop OTel enrichment: "
                        + exception.getMessage(), exception);
                }
                logger.info("Stopped OTel enrichment for this account.");
                return null;
```

```
            });
    }

    /**
     * Creates an alarm that evaluates a PromQL query.
     *
     * <p>A PromQL alarm differs from a classic metric alarm in a few ways. The
query can
     * match many series at once, and each matching series is tracked separately as
a
     * contributor. Instead of counting breaching periods, you specify durations: a
     * contributor moves to ALARM after it breaches continuously for the pending
period,
     * and back to OK after it stops breaching for the recovery period. A PromQL
alarm
     * starts in the OK state rather than INSUFFICIENT_DATA.
     *
     * <p>{@link EvaluationCriteria} is a union and is mutually exclusive with the
classic
     * {@code metricName} and {@code metrics} parameters. When you use it you must
also set
     * {@code evaluationInterval}, and you must not set {@code period}, {@code
statistic},
     * {@code threshold}, {@code comparisonOperator}, or {@code evaluationPeriods}.
     *
     * @param alarmName          the name of the alarm, unique within the Region
     * @param query              the PromQL query to evaluate. The comparison
belongs in
     *                           the query itself; there is no separate threshold.
     * @param evaluationInterval how often, in seconds, to run the query. Valid
values are
     *                           10, 20, 30, and any multiple of 60, up to 3600.
     * @param pendingPeriod      how long, in seconds, a contributor must breach
     *                           continuously before it moves to ALARM
     * @param recoveryPeriod     how long, in seconds, a contributor must stop
breaching
     *                           before it moves back to OK
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the alarm is created
     */
    public CompletableFuture<Void> putPromQLMetricAlarmAsync(String alarmName,
String query,
            int evaluationInterval, int pendingPeriod, int recoveryPeriod) {
        AlarmPromQLCriteria promQLCriteria = AlarmPromQLCriteria.builder()
            .query(query)
```

```
            .pendingPeriod(pendingPeriod)
            .recoveryPeriod(recoveryPeriod)
            .build();

        PutMetricAlarmRequest request = PutMetricAlarmRequest.builder()
            .alarmName(alarmName)
            .alarmDescription("PromQL alarm created by the AWS SDK for Java 2.x
Basics scenario.")
            .evaluationCriteria(EvaluationCriteria.builder()
                .promQLCriteria(promQLCriteria)
                .build())
            .evaluationInterval(evaluationInterval)
            .build();

        return getAsyncClient().putMetricAlarm(request).handle((response, exception)
-> {
            if (exception != null) {
                throw new RuntimeException("Failed to create PromQL alarm: "
                    + exception.getMessage(), exception);
            }
            logger.info("Created PromQL alarm {} for query {}.", alarmName, query);
            return null;
        });
    }

    /**
     * Gets the contributors for a PromQL alarm. Each contributor is one series that
the
     * alarm's query matched, identified by its label set. This is how you find out
which
     * hosts, services, or pods are breaching, rather than only that something is.
     *
     * <p>The paging loop continues until the next token is empty. A page can come
back
     * empty while still carrying a next token, so stopping at the first empty page
would
     * silently drop later results.
     *
     * @param alarmName the name of the PromQL alarm
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes with the list of
contributors,
     * which is empty when the query matched no series
     */
```

```
    public CompletableFuture<List<AlarmContributor>>
 describeAlarmContributorsAsync(String alarmName) {
        List<AlarmContributor> contributors = new ArrayList<>();
        return collectContributorsPage(alarmName, null, contributors);
    }

    private CompletableFuture<List<AlarmContributor>> collectContributorsPage(String
 alarmName,
            String nextToken, List<AlarmContributor> accumulated) {
        DescribeAlarmContributorsRequest request =
 DescribeAlarmContributorsRequest.builder()
            .alarmName(alarmName)
            .nextToken(nextToken)
            .build();

        return getAsyncClient().describeAlarmContributors(request)
            .thenCompose(response -> {
                accumulated.addAll(response.alarmContributors());
                String token = response.nextToken();
                if (token == null || token.isEmpty()) {
                    return CompletableFuture.completedFuture(accumulated);
                }
                return collectContributorsPage(alarmName, token, accumulated);
            })
            .exceptionally(exception -> {
                throw new RuntimeException("Failed to describe alarm contributors: "
                    + exception.getMessage(), exception);
            });
    }

    /**
     * Creates or updates an alarm mute rule. While a mute rule is active the
 targeted
     * alarms keep evaluating and keep changing state, but their configured actions
 do not
     * fire. This is the supported way to suppress notifications during planned
     * maintenance, instead of disabling alarm actions and relying on someone to
 turn them
     * back on.
     *
     * @param name       the name of the mute rule
     * @param expression when the rule activates. For a recurring window, a five-
field
```

```
    *                   cron expression, {@code cron(Minutes Hours Day-of-month
Month
    *                   Day-of-week)}, such as {@code cron(0 2 * * SUN)}. Note that
this
    *                   is five fields, not the six that Amazon EventBridge uses.
For a
    *                   one-time window, {@code at(yyyy-MM-ddThh:mm)}, such as
    *                   {@code at(2026-09-05T02:00)}, with no seconds.
    * @param duration   how long the window lasts once it activates, as an ISO 8601
    *                   duration from {@code PT1M} to {@code P15D}. For example,
    *                   {@code PT2H} is two hours. Plain forms such as {@code 2h}
are
    *                   rejected.
    * @param timezone   a standard timezone identifier. Defaults to UTC when
omitted.
    * @param alarmNames the names of up to 100 alarms to mute. If empty, the rule
applies
    *                   to every alarm in the account.
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the rule is written
    */
   public CompletableFuture<Void> putAlarmMuteRuleAsync(String name, String
expression,
           String duration, String timezone, List<String> alarmNames) {
       Schedule schedule = Schedule.builder()
           .expression(expression)
           .duration(duration)
           .timezone(timezone)
           .build();

       PutAlarmMuteRuleRequest.Builder request = PutAlarmMuteRuleRequest.builder()
           .name(name)
           .description("Mute rule created by the AWS SDK for Java 2.x Basics
scenario.")
           .rule(Rule.builder().schedule(schedule).build());

       if (alarmNames != null && !alarmNames.isEmpty()) {

request.muteTargets(MuteTargets.builder().alarmNames(alarmNames).build());
       }

       return getAsyncClient().putAlarmMuteRule(request.build()).handle((response,
exception) -> {
           if (exception != null) {
               throw new RuntimeException("Failed to put alarm mute rule: "
```

```
                    + exception.getMessage(), exception);
            }
            logger.info("Put alarm mute rule {}.", name);
            return null;
        });
    }

    /**
     * Gets the full configuration of an alarm mute rule, including its schedule,
the
     * alarms it targets, and its current status.
     *
     * @param name the name of the mute rule
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes with the mute rule
     */
    public CompletableFuture<GetAlarmMuteRuleResponse> getAlarmMuteRuleAsync(String
name) {
        return getAsyncClient().getAlarmMuteRule(GetAlarmMuteRuleRequest.builder()
                .alarmMuteRuleName(name)
                .build())
            .handle((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    throw new RuntimeException("Failed to get alarm mute rule: "
                        + exception.getMessage(), exception);
                }
                return response;
            });
    }

    /**
     * Lists the alarm mute rules in the account, optionally filtered to the rules
that
     * target one alarm.
     *
     * <p>Note that {@link AlarmMuteRuleSummary} carries no name field, only an ARN,
     * status, mute type, and last-updated timestamp. To find a rule by name, match
on the
     * ARN suffix.
     *
     * @param alarmName when non-null, only rules that target this alarm are
returned
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes with the mute rule
summaries
     */
```

```
   public CompletableFuture<List<AlarmMuteRuleSummary>>
listAlarmMuteRulesAsync(String alarmName) {
       List<AlarmMuteRuleSummary> summaries = new ArrayList<>();
       return collectMuteRulesPage(alarmName, null, summaries);
   }

   private CompletableFuture<List<AlarmMuteRuleSummary>>
collectMuteRulesPage(String alarmName,
           String nextToken, List<AlarmMuteRuleSummary> accumulated) {
       ListAlarmMuteRulesRequest request = ListAlarmMuteRulesRequest.builder()
           .alarmName(alarmName)
           .nextToken(nextToken)
           .build();

       return getAsyncClient().listAlarmMuteRules(request)
           .thenCompose(response -> {
               accumulated.addAll(response.alarmMuteRuleSummaries());
               String token = response.nextToken();
               if (token == null || token.isEmpty()) {
                   return CompletableFuture.completedFuture(accumulated);
               }
               return collectMuteRulesPage(alarmName, token, accumulated);
           })
           .exceptionally(exception -> {
               throw new RuntimeException("Failed to list alarm mute rules: "
                   + exception.getMessage(), exception);
           });
   }

   /**
    * Deletes an alarm mute rule. The alarms it targeted resume firing their
actions.
    *
    * @param name the name of the mute rule
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the rule is deleted
    */
   public CompletableFuture<Void> deleteAlarmMuteRuleAsync(String name) {
       return
getAsyncClient().deleteAlarmMuteRule(DeleteAlarmMuteRuleRequest.builder()
               .alarmMuteRuleName(name)
               .build())
           .handle((response, exception) -> {
               if (exception != null) {
                   throw new RuntimeException("Failed to delete alarm mute rule: "
```

```
                        + exception.getMessage(), exception);
                }
                logger.info("Deleted alarm mute rule {}.", name);
                return null;
            });
    }

    public static String readFileAsString(String file) throws IOException {
        return new String(Files.readAllBytes(Paths.get(file)));
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - DeleteAlarmMuteRule
  - DeleteAlarms
  - DeleteDashboards
  - DescribeAlarmContributors
  - GetAlarmMuteRule
  - GetDashboard
  - GetMetricStatistics
  - GetOTelEnrichment
  - ListAlarmMuteRules
  - ListDashboards
  - ListMetrics
  - PutAlarmMuteRule
  - PutDashboard
  - PutMetricAlarm
  - StartOTelEnrichment
  - StopOTelEnrichment

アクション

`DeleteAlarmMuteRule`

次の例は、`DeleteAlarmMuteRule` を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Deletes an alarm mute rule. The alarms it targeted resume firing their
actions.
    *
    * @param cw   the CloudWatch client
    * @param name the name of the mute rule
    */
   public static void deleteAlarmMuteRule(CloudWatchClient cw, String name) {
       try {
           cw.deleteAlarmMuteRule(DeleteAlarmMuteRuleRequest.builder()
                   .alarmMuteRuleName(name)
                   .build());

           System.out.printf("Deleted alarm mute rule %s.%n", name);

       } catch (CloudWatchException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x 「 API リファレンス」の`DeleteAlarmMuteRule`」を参照してください。

DeleteAlarms

次の例は、DeleteAlarms を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。完全な例を見つけて、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Deletes a CloudWatch alarm.
    *
    * @param alarmName the name of the alarm to be deleted
    * @return a {@link CompletableFuture} representing the asynchronous operation
to delete the alarm
    * the {@link DeleteAlarmsResponse} is returned when the operation completes
successfully,
    * or a {@link RuntimeException} is thrown if the operation fails
    */
   public CompletableFuture<DeleteAlarmsResponse> deleteCWAlarmAsync(String
alarmName) {
       DeleteAlarmsRequest request = DeleteAlarmsRequest.builder()
           .alarmNames(alarmName)
           .build();

       return getAsyncClient().deleteAlarms(request)
           .whenComplete((response, exception) -> {
               if (exception != null) {
                   throw new RuntimeException("Failed to delete the alarm:{} " +
alarmName, exception);
               } else {
                   logger.info("Successfully deleted alarm {} ", alarmName);
               }
           });
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteAlarms」を参照してください。

DeleteAnomalyDetector

次のコード例は、DeleteAnomalyDetector を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Deletes an Anomaly Detector.
    *
    * @param fileName the name of the file containing the Anomaly Detector
configuration
    * @return a CompletableFuture that represents the asynchronous deletion of the
Anomaly Detector
    */
   public CompletableFuture<DeleteAnomalyDetectorResponse>
deleteAnomalyDetectorAsync(String fileName) {
       CompletableFuture<JsonNode> readFileFuture =
CompletableFuture.supplyAsync(() -> {
           try {
               JsonParser parser = new JsonFactory().createParser(new
File(fileName));
               return new ObjectMapper().readTree(parser); // Return the root node
           } catch (IOException e) {
               throw new RuntimeException("Failed to read or parse the file", e);
           }
       });

       return readFileFuture.thenCompose(rootNode -> {
           String customMetricNamespace =
rootNode.findValue("customMetricNamespace").asText();
           String customMetricName =
rootNode.findValue("customMetricName").asText();

           SingleMetricAnomalyDetector singleMetricAnomalyDetector =
SingleMetricAnomalyDetector.builder()
               .metricName(customMetricName)
               .namespace(customMetricNamespace)
```

```
                .stat("Maximum")
                .build();

            DeleteAnomalyDetectorRequest request =
DeleteAnomalyDetectorRequest.builder()
                .singleMetricAnomalyDetector(singleMetricAnomalyDetector)
                .build();

            return getAsyncClient().deleteAnomalyDetector(request);
        }).whenComplete((result, exception) -> {
            if (exception != null) {
                throw new RuntimeException("Failed to delete the Anomaly Detector",
exception);
            } else {
                logger.info("Successfully deleted the Anomaly Detector.");
            }
        });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteAnomalyDetector」を参照してください。

`DeleteDashboards`

次のコード例は、`DeleteDashboards` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Deletes the specified dashboard.
     *
     * @param dashboardName the name of the dashboard to be deleted
     * @return a {@link CompletableFuture} representing the asynchronous operation
of deleting the dashboard
```

```
     * @throws RuntimeException if the dashboard deletion fails
     */
    public CompletableFuture<DeleteDashboardsResponse> deleteDashboardAsync(String
dashboardName) {
        DeleteDashboardsRequest dashboardsRequest =
DeleteDashboardsRequest.builder()
            .dashboardNames(dashboardName)
            .build();

        return getAsyncClient().deleteDashboards(dashboardsRequest)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    throw new RuntimeException("Failed to delete the dashboard: " +
dashboardName, exception);
                } else {
                    logger.info("{} was successfully deleted.", dashboardName);
                }
            });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteDashboards」を参照してください。

`DescribeAlarmContributors`

次の例は、`DescribeAlarmContributors` を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Gets the contributors for a PromQL alarm. Each contributor is one series that
the
```

```
    * alarm's query matched, identified by its label set. This is how you find out
which
    * hosts, services, or pods are breaching, rather than only that something is.
    *
    * @param cw        the CloudWatch client
    * @param alarmName the name of the PromQL alarm
    * @return the list of contributors
    */
   public static List<AlarmContributor> describeAlarmContributors(CloudWatchClient
cw, String alarmName) {
       List<AlarmContributor> contributors = new ArrayList<>();
       try {
           String nextToken = null;
           do {
               DescribeAlarmContributorsRequest request =
DescribeAlarmContributorsRequest.builder()
                       .alarmName(alarmName)
                       .nextToken(nextToken)
                       .build();

               DescribeAlarmContributorsResponse response =
cw.describeAlarmContributors(request);
               contributors.addAll(response.alarmContributors());
               nextToken = response.nextToken();
           } while (nextToken != null && !nextToken.isEmpty());

           for (AlarmContributor contributor : contributors) {
               StringBuilder labels = new StringBuilder();
               for (Map.Entry<String, String> attribute :
contributor.contributorAttributes().entrySet()) {
                   if (labels.length() > 0) {
                       labels.append(", ");
                   }

labels.append(attribute.getKey()).append("=").append(attribute.getValue());
               }
               System.out.printf("%s: %s%n", contributor.contributorId(), labels);
               System.out.printf("  reason: %s%n", contributor.stateReason());
           }
           return contributors;

       } catch (CloudWatchException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
```

```
            return contributors;
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x 「 API リファレンス」の「DescribeAlarmContributors」を参照してください。

`DescribeAlarmHistory`

次の例は、`DescribeAlarmHistory` を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Retrieves the alarm history for a given alarm name and date range.
     *
     * @param fileName the path to the JSON file containing the alarm name
     * @param date     the date to start the alarm history search (in the format
"yyyy-MM-dd'T'HH:mm:ss'Z'")
     * @return a {@code CompletableFuture<Void>} that completes when the alarm
history has been retrieved and processed
     */
    public CompletableFuture<Void> getAlarmHistoryAsync(String fileName, String
date) {
        CompletableFuture<String> readFileFuture = CompletableFuture.supplyAsync(()
-> {
            try {
                JsonParser parser = new JsonFactory().createParser(new
File(fileName));
                com.fasterxml.jackson.databind.JsonNode rootNode = new
ObjectMapper().readTree(parser);
                return rootNode.findValue("exampleAlarmName").asText(); // Return
alarmName from the JSON file
```

```
            } catch (IOException e) {
                throw new RuntimeException("Failed to read or parse the file", e);
            }
        });

        // Use the alarm name to describe alarm history with a paginator.
        return readFileFuture.thenCompose(alarmName -> {
            try {
                Instant start = Instant.parse(date);
                Instant endDate = Instant.now();
                DescribeAlarmHistoryRequest historyRequest =
DescribeAlarmHistoryRequest.builder()
                    .startDate(start)
                    .endDate(endDate)
                    .alarmName(alarmName)
                    .historyItemType(HistoryItemType.ACTION)
                    .build();

                // Use the paginator to paginate through alarm history pages.
                DescribeAlarmHistoryPublisher historyPublisher =
getAsyncClient().describeAlarmHistoryPaginator(historyRequest);
                CompletableFuture<Void> future = historyPublisher
                    .subscribe(response -> response.alarmHistoryItems().forEach(item
-> {
                        logger.info("History summary: {}", item.historySummary());
                        logger.info("Timestamp: {}", item.timestamp());
                    }))
                    .whenComplete((result, exception) -> {
                        if (exception != null) {
                            logger.error("Error occurred while getting alarm
history: " + exception.getMessage(), exception);
                        } else {
                            logger.info("Successfully retrieved all alarm
history.");
                        }
                    });

                // Return the future to the calling code for further handling
                return future;
            } catch (Exception e) {
                throw new RuntimeException("Failed to process alarm history", e);
            }
        }).whenComplete((result, exception) -> {
            if (exception != null) {
```

```
                throw new RuntimeException("Error completing alarm history
processing", exception);
            }
        });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeAlarmHistory」を参照してください。

`DescribeAlarms`

次のコード例は、`DescribeAlarms` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Describes the CloudWatch alarms of the 'METRIC_ALARM' type.
     *
     * @return a {@link CompletableFuture} that represents the asynchronous
operation
     * of describing the CloudWatch alarms. The future completes when the
     * operation is finished, either successfully or with an error.
     */
    public CompletableFuture<Void> describeAlarmsAsync() {
        List<AlarmType> typeList = new ArrayList<>();
        typeList.add(AlarmType.METRIC_ALARM);
        DescribeAlarmsRequest alarmsRequest = DescribeAlarmsRequest.builder()
            .alarmTypes(typeList)
            .maxRecords(10)
            .build();

        return getAsyncClient().describeAlarms(alarmsRequest)
```

```
            .thenAccept(response -> {
                List<MetricAlarm> alarmList = response.metricAlarms();
                for (MetricAlarm alarm : alarmList) {
                    logger.info("Alarm name: {}", alarm.alarmName());
                    logger.info("Alarm description: {} ", alarm.alarmDescription());
                }
            })
            .whenComplete((response, ex) -> {
                if (ex != null) {
                    logger.info("Failed to describe alarms: {}", ex.getMessage());
                } else {
                    logger.info("Successfully described alarms.");
                }
            });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeAlarms」を参照してください。

`DescribeAlarmsForMetric`

次のコード例は、`DescribeAlarmsForMetric` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。完全な例を見つけて、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Checks for a metric alarm in AWS CloudWatch.
     *
     * @param fileName the name of the file containing the JSON configuration for
the custom metric
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the check for the
metric alarm is complete
     */
```

```
   public CompletableFuture<Void> checkForMetricAlarmAsync(String fileName) {
       CompletableFuture<String> readFileFuture = CompletableFuture.supplyAsync(()
-> {
           try {
               JsonParser parser = new JsonFactory().createParser(new
File(fileName));
               com.fasterxml.jackson.databind.JsonNode rootNode = new
ObjectMapper().readTree(parser);
               return rootNode.toString(); // Return JSON as a string for further
processing
           } catch (IOException e) {
               throw new RuntimeException("Failed to read file", e);
           }
       });

       return readFileFuture.thenCompose(jsonContent -> {
           try {
               com.fasterxml.jackson.databind.JsonNode rootNode = new
ObjectMapper().readTree(jsonContent);
               String customMetricNamespace =
rootNode.findValue("customMetricNamespace").asText();
               String customMetricName =
rootNode.findValue("customMetricName").asText();

               DescribeAlarmsForMetricRequest metricRequest =
DescribeAlarmsForMetricRequest.builder()
                   .metricName(customMetricName)
                   .namespace(customMetricNamespace)
                   .build();

               return checkForAlarmAsync(metricRequest, customMetricName, 10);

           } catch (IOException e) {
               throw new RuntimeException("Failed to parse JSON content", e);
           }
       }).whenComplete((result, exception) -> {
           if (exception != null) {
               throw new RuntimeException("Error checking metric alarm",
exception);
           }
       });
   }

   // Recursive method to check for the alarm.
```

```
   /**
    * Checks for the existence of an alarm asynchronously for the specified metric.
    *
    * @param metricRequest    the request to describe the alarms for the specified
metric
    * @param customMetricName the name of the custom metric to check for an alarm
    * @param retries          the number of retries to perform if no alarm is found
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when an alarm is found or
the maximum number of retries has been reached
    */
   private static CompletableFuture<Void>
checkForAlarmAsync(DescribeAlarmsForMetricRequest metricRequest, String
customMetricName, int retries) {
       if (retries == 0) {
           return CompletableFuture.completedFuture(null).thenRun(() ->
               logger.info("No Alarm state found for {} after 10 retries.",
customMetricName)
           );
       }

       return
(getAsyncClient().describeAlarmsForMetric(metricRequest).thenCompose(response -> {
           if (response.hasMetricAlarms()) {
               logger.info("Alarm state found for {}", customMetricName);
               return CompletableFuture.completedFuture(null); // Alarm found,
complete the future
           } else {
               return CompletableFuture.runAsync(() -> {
                   try {
                       Thread.sleep(20000);
                       logger.info(".");
                   } catch (InterruptedException e) {
                       throw new RuntimeException("Interrupted while waiting to
retry", e);
                   }
               }).thenCompose(v -> checkForAlarmAsync(metricRequest,
customMetricName, retries - 1)); // Recursive call
           }
       }));
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeAlarmsForMetric」を参照してください。

`DescribeAnomalyDetectors`

次のコード例は、`DescribeAnomalyDetectors` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Describes the anomaly detectors based on the specified JSON file.
    *
    * @param fileName the name of the JSON file containing the custom metric
namespace and name
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the anomaly detectors
have been described
    * @throws RuntimeException if there is a failure during the operation, such as
when reading or parsing the JSON file,
    *                          or when describing the anomaly detectors
    */
   public CompletableFuture<Void> describeAnomalyDetectorsAsync(String fileName) {
       CompletableFuture<JsonNode> readFileFuture =
CompletableFuture.supplyAsync(() -> {
           try {
               JsonParser parser = new JsonFactory().createParser(new
File(fileName));
               return new ObjectMapper().readTree(parser);
           } catch (IOException e) {
               throw new RuntimeException("Failed to read or parse the file", e);
           }
       });

       return readFileFuture.thenCompose(rootNode -> {
           try {
```

```
                String customMetricNamespace =
rootNode.findValue("customMetricNamespace").asText();
                String customMetricName =
rootNode.findValue("customMetricName").asText();

                DescribeAnomalyDetectorsRequest detectorsRequest =
DescribeAnomalyDetectorsRequest.builder()
                    .maxResults(10)
                    .metricName(customMetricName)
                    .namespace(customMetricNamespace)
                    .build();

                return
getAsyncClient().describeAnomalyDetectors(detectorsRequest).thenAccept(response ->
{
                    List<AnomalyDetector> anomalyDetectorList =
response.anomalyDetectors();
                    for (AnomalyDetector detector : anomalyDetectorList) {
                        logger.info("Metric name: {} ",
detector.singleMetricAnomalyDetector().metricName());
                        logger.info("State: {} ", detector.stateValue());
                    }
                });
            } catch (RuntimeException e) {
                throw new RuntimeException("Failed to describe anomaly detectors",
e);
            }
        }).whenComplete((result, exception) -> {
            if (exception != null) {
                throw new RuntimeException("Error describing anomaly detectors",
exception);
            }
        });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeAnomalyDetectors」を参照してください。

DisableAlarmActions

次のコード例は、DisableAlarmActions を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。完全な例を見つけて、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.CloudWatchClient;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.CloudWatchException;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.DisableAlarmActionsRequest;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DisableAlarmActions {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                  <alarmName>

                Where:
                  alarmName - An alarm name to disable (for example, MyAlarm).
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String alarmName = args[0];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        CloudWatchClient cw = CloudWatchClient.builder()
                .region(region)
                .build();
```

```
        disableActions(cw, alarmName);
        cw.close();
    }

    public static void disableActions(CloudWatchClient cw, String alarmName) {
        try {
            DisableAlarmActionsRequest request =
 DisableAlarmActionsRequest.builder()
                    .alarmNames(alarmName)
                    .build();

            cw.disableAlarmActions(request);
            System.out.printf("Successfully disabled actions on alarm %s",
 alarmName);

        } catch (CloudWatchException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API 詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DisableAlarmActions」を参照してください。

`EnableAlarmActions`

次のコード例は、`EnableAlarmActions` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。完全な例を見つけて、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.CloudWatchClient;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.CloudWatchException;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.EnableAlarmActionsRequest;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class EnableAlarmActions {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                  <alarmName>

                Where:
                  alarmName - An alarm name to enable (for example, MyAlarm).
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String alarm = args[0];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        CloudWatchClient cw = CloudWatchClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        enableActions(cw, alarm);
        cw.close();
    }

    public static void enableActions(CloudWatchClient cw, String alarm) {
        try {
            EnableAlarmActionsRequest request = EnableAlarmActionsRequest.builder()
                    .alarmNames(alarm)
                    .build();

            cw.enableAlarmActions(request);
```

```
            System.out.printf("Successfully enabled actions on alarm %s", alarm);

        } catch (CloudWatchException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「EnableAlarmActions」を参照してください。

GetAlarmMuteRule

次の例は、GetAlarmMuteRule を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Gets the full configuration of an alarm mute rule, including its schedule,
the
    * alarms it targets, and whether it is currently SCHEDULED, ACTIVE, or EXPIRED.
    *
    * @param cw   the CloudWatch client
    * @param name the name of the mute rule
    * @return the mute rule
    */
   public static GetAlarmMuteRuleResponse getAlarmMuteRule(CloudWatchClient cw,
String name) {
       try {
           GetAlarmMuteRuleResponse response =
cw.getAlarmMuteRule(GetAlarmMuteRuleRequest.builder()
                   .alarmMuteRuleName(name)
```

```
                    .build());

            System.out.printf("Mute rule %s is %s.%n", response.name(),
response.statusAsString());
            return response;

        } catch (CloudWatchException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
            return null;
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x 「 API リファレンス」のGetAlarmMuteRule」を参照してください。

`GetMetricData`

次の例は、`GetMetricData` を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Retrieves custom metric data from the AWS CloudWatch service.
     *
     * @param fileName the name of the file containing the custom metric information
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the metric data has
been retrieved
     */
    public CompletableFuture<Void> getCustomMetricDataAsync(String fileName) {
        CompletableFuture<String> readFileFuture = CompletableFuture.supplyAsync(()
-> {
            try {
```

```
                // Read values from the JSON file.
                JsonParser parser = new JsonFactory().createParser(new
File(fileName));
                com.fasterxml.jackson.databind.JsonNode rootNode = new
ObjectMapper().readTree(parser);
                return rootNode.toString(); // Return JSON as a string for further
processing
            } catch (IOException e) {
                throw new RuntimeException("Failed to read file", e);
            }
        });

        return readFileFuture.thenCompose(jsonContent -> {
            try {
                // Parse the JSON string to extract relevant values.
                com.fasterxml.jackson.databind.JsonNode rootNode = new
ObjectMapper().readTree(jsonContent);
                String customMetricNamespace =
rootNode.findValue("customMetricNamespace").asText();
                String customMetricName =
rootNode.findValue("customMetricName").asText();

                // Set the current time and date range for metric query.
                Instant nowDate = Instant.now();
                long hours = 1;
                long minutes = 30;
                Instant endTime = nowDate.plus(hours,
ChronoUnit.HOURS).plus(minutes, ChronoUnit.MINUTES);

                Metric met = Metric.builder()
                    .metricName(customMetricName)
                    .namespace(customMetricNamespace)
                    .build();

                MetricStat metStat = MetricStat.builder()
                    .stat("Maximum")
                    .period(60)  // Assuming period in seconds
                    .metric(met)
                    .build();

                MetricDataQuery dataQuery = MetricDataQuery.builder()
                    .metricStat(metStat)
                    .id("foo2")
                    .returnData(true)
```

```
                    .build();

                List<MetricDataQuery> dq = new ArrayList<>();
                dq.add(dataQuery);

                GetMetricDataRequest getMetricDataRequest =
GetMetricDataRequest.builder()
                    .maxDatapoints(10)
                    .scanBy(ScanBy.TIMESTAMP_DESCENDING)
                    .startTime(nowDate)
                    .endTime(endTime)
                    .metricDataQueries(dq)
                    .build();

                // Call the async method for CloudWatch data retrieval.
                return getAsyncClient().getMetricData(getMetricDataRequest);

            } catch (IOException e) {
                throw new RuntimeException("Failed to parse JSON content", e);
            }
        }).thenAccept(response -> {
            List<MetricDataResult> data = response.metricDataResults();
            for (MetricDataResult item : data) {
                logger.info("The label is: {}", item.label());
                logger.info("The status code is: {}", item.statusCode().toString());
            }
        }).exceptionally(exception -> {
            throw new RuntimeException("Failed to get metric data", exception);
        });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetMetricData」を参照してください。

GetMetricStatistics

次のコード例は、GetMetricStatistics を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Retrieves and displays metric statistics for the specified parameters.
    *
    * @param nameSpace    the namespace for the metric
    * @param metVal       the name of the metric
    * @param metricOption the statistic to retrieve for the metric (e.g.,
"Maximum", "Average")
    * @param date         the date for which to retrieve the metric statistics, in
the format "yyyy-MM-dd'T'HH:mm:ss'Z'"
    * @param myDimension  the dimension(s) to filter the metric statistics by
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the metric statistics
have been retrieved and displayed
    */
   public CompletableFuture<GetMetricStatisticsResponse>
getAndDisplayMetricStatisticsAsync(String nameSpace, String metVal,

        String metricOption, String date, Dimension myDimension) {

       Instant start = Instant.parse(date);
       Instant endDate = Instant.now();

       // Building the request for metric statistics.
       GetMetricStatisticsRequest statisticsRequest =
GetMetricStatisticsRequest.builder()
           .endTime(endDate)
           .startTime(start)
           .dimensions(myDimension)
           .metricName(metVal)
           .namespace(nameSpace)
           .period(86400) // 1 day period
           .statistics(Statistic.fromValue(metricOption))
           .build();

       return getAsyncClient().getMetricStatistics(statisticsRequest)
```

```
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (response != null) {
                    List<Datapoint> data = response.datapoints();
                    if (!data.isEmpty()) {
                        for (Datapoint datapoint : data) {
                            logger.info("Timestamp: {} Maximum value: {}",
datapoint.timestamp(), datapoint.maximum());
                        }
                    } else {
                        logger.info("The returned data list is empty");
                    }
                } else {
                    logger.info("Failed to get metric statistics: {} ",
exception.getMessage());
                }
            })
            .exceptionally(exception -> {
                throw new RuntimeException("Error while getting metric statistics: "
+ exception.getMessage(), exception);
            });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「GetMetricStatistics」を参照してください。

`GetMetricWidgetImage`

次のコード例は、`GetMetricWidgetImage` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
```

```
    * Retrieves and saves a custom metric image to a file.
    *
    * @param fileName the name of the file to save the metric image to
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the image has been
saved to the file
    */
   public CompletableFuture<Void> downloadAndSaveMetricImageAsync(String fileName)
{
       logger.info("Getting Image data for custom metric.");
       String myJSON = """
             {
                 "title": "Example Metric Graph",
                 "view": "timeSeries",
                 "stacked ": false,
                 "period": 10,
                 "width": 1400,
                 "height": 600,
                 "metrics": [
                     [
                     "AWS/Billing",
                     "EstimatedCharges",
                     "Currency",
                     "USD"
                    ]
                 ]
             }
            """;

       GetMetricWidgetImageRequest imageRequest =
GetMetricWidgetImageRequest.builder()
           .metricWidget(myJSON)
           .build();

       return getAsyncClient().getMetricWidgetImage(imageRequest)
           .thenCompose(response -> {
               SdkBytes sdkBytes = response.metricWidgetImage();
               byte[] bytes = sdkBytes.asByteArray();
               return CompletableFuture.runAsync(() -> {
                   try {
                       File outputFile = new File(fileName);
                       try (FileOutputStream outputStream = new
FileOutputStream(outputFile)) {
                           outputStream.write(bytes);
                       }
```

```
                    } catch (IOException e) {
                        throw new RuntimeException("Failed to write image to file",
e);
                    }
                });
            })
            .whenComplete((result, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    throw new RuntimeException("Error getting and saving metric
image", exception);
                } else {
                    logger.info("Image data saved successfully to {}", fileName);
                }
            });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「GetMetricWidgetImage」を参照してください。

`GetOTelEnrichment`

次の例は、`GetOTelEnrichment` を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Gets the current OTel enrichment status for the account.
     *
     * @param cw the CloudWatch client
     * @return the status, either {@code Running} or {@code Stopped}
     */
    public static String getOTelEnrichmentStatus(CloudWatchClient cw) {
        try {
```

```
            String status =
cw.getOTelEnrichment(GetOTelEnrichmentRequest.builder().build())
                    .statusAsString();
            System.out.printf("OTel enrichment status is %s.%n", status);
            return status;

        } catch (CloudWatchException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
            return null;
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x 「 API リファレンス」のGetOTelEnrichment」を参照してください。

`ListAlarmMuteRules`

次の例は、`ListAlarmMuteRules` を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Lists the alarm mute rules in the account, optionally filtered to the rules
that
     * target one alarm.
     *
     * @param cw        the CloudWatch client
     * @param alarmName when non-null, only rules that target this alarm are
returned
     * @return the list of mute rule summaries
     */
```

```
   public static List<AlarmMuteRuleSummary> listAlarmMuteRules(CloudWatchClient cw,
String alarmName) {
       List<AlarmMuteRuleSummary> summaries = new ArrayList<>();
       try {
           String nextToken = null;
           do {
               ListAlarmMuteRulesRequest request =
ListAlarmMuteRulesRequest.builder()
                       .alarmName(alarmName)
                       .nextToken(nextToken)
                       .build();

               ListAlarmMuteRulesResponse response =
cw.listAlarmMuteRules(request);
               summaries.addAll(response.alarmMuteRuleSummaries());
               nextToken = response.nextToken();
           } while (nextToken != null && !nextToken.isEmpty());

           for (AlarmMuteRuleSummary summary : summaries) {
               System.out.printf("%s (%s)%n", summary.alarmMuteRuleArn(),
summary.statusAsString());
           }
           return summaries;

       } catch (CloudWatchException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
           return summaries;
       }
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x 「 API リファレンス」のListAlarmMuteRules」を参照してください。

ListDashboards

次の例は、ListDashboards を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Lists the available dashboards.
     *
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the operation is
finished.
     * The future will complete exceptionally if an error occurs while listing the
dashboards.
     */
    public CompletableFuture<Void> listDashboardsAsync() {
        ListDashboardsRequest listDashboardsRequest =
ListDashboardsRequest.builder().build();
        ListDashboardsPublisher paginator =
getAsyncClient().listDashboardsPaginator(listDashboardsRequest);
        return paginator.subscribe(response -> {
            response.dashboardEntries().forEach(entry -> {
                logger.info("Dashboard name is: {} ", entry.dashboardName());
                logger.info("Dashboard ARN is: {} ", entry.dashboardArn());
            });
        }).exceptionally(ex -> {
            logger.info("Failed to list dashboards: {} ", ex.getMessage());
            throw new RuntimeException("Error occurred while listing dashboards",
ex);
        });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListDashboards」を参照してください。

`ListMetrics`

次のコード例は、`ListMetrics` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。完全な例を見つけて、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Retrieves a list of metric names for the specified namespace.
    *
    * @param namespace the namespace for which to retrieve the metric names
    * @return a {@link CompletableFuture} that, when completed, contains an {@link
ArrayList} of
    * the metric names in the specified namespace
    * @throws RuntimeException if an error occurs while listing the metrics
    */
   public CompletableFuture<ArrayList<String>> listMetsAsync(String namespace) {
       ListMetricsRequest request = ListMetricsRequest.builder()
           .namespace(namespace)
           .build();

       ListMetricsPublisher metricsPaginator =
getAsyncClient().listMetricsPaginator(request);
       Set<String> metSet = new HashSet<>();
       CompletableFuture<Void> future = metricsPaginator.subscribe(response -> {
           response.metrics().forEach(metric -> {
               String metricName = metric.metricName();
               metSet.add(metricName);
           });
       });

       return future
           .thenApply(ignored -> new ArrayList<>(metSet))
           .exceptionally(exception -> {
               throw new RuntimeException("Failed to list metrics: " +
exception.getMessage(), exception);
           });
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListMetrics」を参照してください。

PutAlarmMuteRule

次の例は、PutAlarmMuteRule を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Creates or updates an alarm mute rule. While a mute rule is active the
targeted
    * alarms keep evaluating and keep transitioning between states, but their
configured
    * actions do not fire. This is the supported way to suppress notifications
during a
    * known maintenance window instead of disabling alarm actions and hoping
someone
    * remembers to turn them back on.
    *
    * @param cw         the CloudWatch client
    * @param name       the name of the mute rule
    * @param expression when the rule activates. For a recurring window, use a
    *                   five-field cron expression,
    *                   {@code cron(Minutes Hours Day-of-month Month Day-of-week)},
    *                   such as {@code cron(0 2 * * SUN)} for every Sunday at 2:00
AM.
    *                   Note that this is five fields, not the six that Amazon
    *                   EventBridge uses. For a one-time window, use
    *                   {@code at(yyyy-MM-ddThh:mm)}, such as
    *                   {@code at(2026-09-05T02:00)}.
    * @param duration   how long the mute window lasts once it activates, in ISO
8601
    *                   duration format, from {@code PT1M} (one minute) to
```

```
     *                   {@code P15D} (15 days). For example, {@code PT2H} is two
hours
     *                   and {@code P2DT12H} is two days and 12 hours.
     * @param timezone   the time zone the expression is evaluated in, such as
     *                   {@code America/Los_Angeles}
     * @param alarmNames the names of up to 100 alarms to mute. If empty, the rule
     *                   applies to all alarms in the account.
     */
    public static void putAlarmMuteRule(CloudWatchClient cw, String name, String
expression, String duration,
            String timezone, List<String> alarmNames) {
        try {
            Schedule schedule = Schedule.builder()
                    .expression(expression)
                    .duration(duration)
                    .timezone(timezone)
                    .build();

            PutAlarmMuteRuleRequest.Builder request =
PutAlarmMuteRuleRequest.builder()
                    .name(name)
                    .description("Mute rule created by the AWS SDK for Java 2.x
example.")
                    .rule(Rule.builder().schedule(schedule).build());

            if (alarmNames != null && !alarmNames.isEmpty()) {

request.muteTargets(MuteTargets.builder().alarmNames(alarmNames).build());
            }

            cw.putAlarmMuteRule(request.build());
            System.out.printf("Put alarm mute rule %s.%n", name);

        } catch (CloudWatchException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x 「 API リファレンス」の 「PutAlarmMuteRule」を参照してください。

PutAnomalyDetector

次の例は、PutAnomalyDetector を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Adds an anomaly detector for the given file.
    *
    * @param fileName the name of the file containing the anomaly detector
configuration
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the anomaly detector
has been added
    */
   public CompletableFuture<Void> addAnomalyDetectorAsync(String fileName) {
       CompletableFuture<JsonNode> readFileFuture =
CompletableFuture.supplyAsync(() -> {
           try {
               JsonParser parser = new JsonFactory().createParser(new
File(fileName));
               return new ObjectMapper().readTree(parser); // Return the root node
           } catch (IOException e) {
               throw new RuntimeException("Failed to read or parse the file", e);
           }
       });

       return readFileFuture.thenCompose(rootNode -> {
           try {
               String customMetricNamespace =
rootNode.findValue("customMetricNamespace").asText();
               String customMetricName =
rootNode.findValue("customMetricName").asText();

               SingleMetricAnomalyDetector singleMetricAnomalyDetector =
SingleMetricAnomalyDetector.builder()
                   .metricName(customMetricName)
```

```
                    .namespace(customMetricNamespace)
                    .stat("Maximum")
                    .build();

                PutAnomalyDetectorRequest anomalyDetectorRequest =
PutAnomalyDetectorRequest.builder()
                    .singleMetricAnomalyDetector(singleMetricAnomalyDetector)
                    .build();

                return
getAsyncClient().putAnomalyDetector(anomalyDetectorRequest).thenAccept(response ->
{
                    logger.info("Added anomaly detector for metric {}",
customMetricName);
                });
            } catch (Exception e) {
                throw new RuntimeException("Failed to create anomaly detector", e);
            }
        }).whenComplete((result, exception) -> {
            if (exception != null) {
                throw new RuntimeException("Error adding anomaly detector",
exception);
            }
        });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「PutAnomalyDetector」を参照してください。

`PutDashboard`

次のコード例は、`PutDashboard` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Creates a new dashboard with the specified name and body.
    *
    * @param dashboardName the name of the dashboard to be created
    * @param dashboardBody the dashboard body, as JSON
    * @return a {@link CompletableFuture} representing the asynchronous operation
of creating the dashboard
    */
   public CompletableFuture<PutDashboardResponse> createDashboardAsync(String
dashboardName, String dashboardBody) {
       PutDashboardRequest dashboardRequest = PutDashboardRequest.builder()
           .dashboardName(dashboardName)
           .dashboardBody(dashboardBody)
           .build();

       return getAsyncClient().putDashboard(dashboardRequest)
           .handle((response, ex) -> {
               if (ex != null) {
                   logger.info("Failed to create dashboard: {}", ex.getMessage());
                   throw new RuntimeException("Dashboard creation failed", ex);
               } else {
                   // Handle the normal response case
                   logger.info("{} was successfully created.", dashboardName);
                   List<DashboardValidationMessage> messages =
response.dashboardValidationMessages();
                   if (messages.isEmpty()) {
                       logger.info("There are no messages in the new Dashboard.");
                   } else {
                       for (DashboardValidationMessage message : messages) {
                           logger.info("Message: {}", message.message());
                       }
                   }
                   return response; // Return the response for further use
               }
           });
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「PutDashboard」を参照してください。

PutMetricAlarm

次のコード例は、PutMetricAlarm を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

OpenTelemetry メトリクスに対して PromQL クエリを評価するアラームを作成します。

```
   /**
    * Creates an alarm that evaluates a PromQL query.
    *
    * <p>A PromQL alarm differs from a classic metric alarm in a few ways. The
query
    * can match many series at once, and each matching series is tracked separately
as
    * a contributor. Instead of counting breaching periods, you specify durations:
a
    * contributor moves to ALARM after it breaches continuously for the pending
period,
    * and back to OK after it stops breaching for the recovery period. A PromQL
alarm
    * starts in the OK state rather than INSUFFICIENT_DATA.
    *
    * <p>{@link EvaluationCriteria} is a union and is mutually exclusive with the
    * classic {@code metricName} and {@code metrics} parameters. When you use it
you
    * must also set {@code evaluationInterval}, and you must not set {@code
period},
    * {@code statistic}, {@code threshold}, {@code comparisonOperator},
    * {@code evaluationPeriods}, {@code datapointsToAlarm}, or
    * {@code treatMissingData}.
    *
    * @param cw                 the CloudWatch client
    * @param alarmName          the name of the alarm, unique within the Region
    * @param query              the PromQL query to evaluate, such as
    *                           {@code avg(cpu_utilization_percent) > 80}. The
```

```
    *                           comparison belongs in the query itself; there is no
    *                           separate threshold parameter.
    * @param evaluationInterval how often, in seconds, to run the query. Valid
values
    *                           are 10, 20, 30, and any multiple of 60, up to 3600.
    * @param pendingPeriod      how long, in seconds, a contributor must breach
    *                           continuously before it moves to ALARM
    * @param recoveryPeriod     how long, in seconds, a contributor must stop
breaching
    *                           before it moves back to OK
    */
   public static void putPromQLMetricAlarm(CloudWatchClient cw, String alarmName,
String query,
           int evaluationInterval, int pendingPeriod, int recoveryPeriod) {
       try {
           AlarmPromQLCriteria promQLCriteria = AlarmPromQLCriteria.builder()
                   .query(query)
                   .pendingPeriod(pendingPeriod)
                   .recoveryPeriod(recoveryPeriod)
                   .build();

           PutMetricAlarmRequest request = PutMetricAlarmRequest.builder()
                   .alarmName(alarmName)
                   .alarmDescription("PromQL alarm created by the AWS SDK for Java
2.x example.")
                   .evaluationCriteria(EvaluationCriteria.builder()
                           .promQLCriteria(promQLCriteria)
                           .build())
                   .evaluationInterval(evaluationInterval)
                   .build();

           cw.putMetricAlarm(request);
           System.out.printf("Created PromQL alarm %s for query %s.%n", alarmName,
query);

       } catch (CloudWatchException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

単一の CloudWatch メトリクスを評価するアラームを作成します。

```
   /**
    * Creates an alarm based on the configuration provided in a JSON file.
    *
    * @param fileName the name of the JSON file containing the alarm configuration
    * @return a CompletableFuture that represents the asynchronous operation of
creating the alarm
    * @throws RuntimeException if an exception occurs while reading the JSON file
or creating the alarm
    */
   public CompletableFuture<String> createAlarmAsync(String fileName) {
       com.fasterxml.jackson.databind.JsonNode rootNode;
       try {
           JsonParser parser = new JsonFactory().createParser(new File(fileName));
           rootNode = new ObjectMapper().readTree(parser);
       } catch (IOException e) {
           throw new RuntimeException("Failed to read the alarm configuration
file", e);
       }

       // Extract values from the JSON node.
       String customMetricNamespace =
rootNode.findValue("customMetricNamespace").asText();
       String customMetricName = rootNode.findValue("customMetricName").asText();
       String alarmName = rootNode.findValue("exampleAlarmName").asText();
       String emailTopic = rootNode.findValue("emailTopic").asText();
       String accountId = rootNode.findValue("accountId").asText();
       String region = rootNode.findValue("region").asText();

       // Create a List for alarm actions.
       List<String> alarmActions = new ArrayList<>();
       alarmActions.add("arn:aws:sns:" + region + ":" + accountId + ":" +
emailTopic);

       PutMetricAlarmRequest alarmRequest = PutMetricAlarmRequest.builder()
           .alarmActions(alarmActions)
           .alarmDescription("Example metric alarm")
           .alarmName(alarmName)

.comparisonOperator(ComparisonOperator.GREATER_THAN_OR_EQUAL_TO_THRESHOLD)
           .threshold(100.00)
           .metricName(customMetricName)
           .namespace(customMetricNamespace)
           .evaluationPeriods(1)
```

```
            .period(10)
            .statistic("Maximum")
            .datapointsToAlarm(1)
            .treatMissingData("ignore")
            .build();

        // Call the putMetricAlarm asynchronously and handle the result.
        return getAsyncClient().putMetricAlarm(alarmRequest)
            .handle((response, ex) -> {
                if (ex != null) {
                    logger.info("Failed to create alarm: {}", ex.getMessage());
                    throw new RuntimeException("Failed to create alarm", ex);
                } else {
                    logger.info("{} was successfully created!", alarmName);
                    return alarmName;
                }
            });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「PutMetricAlarm」を参照してください。

`PutMetricData`

次のコード例は、`PutMetricData` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。完全な例を見つけて、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Adds metric data for an alarm asynchronously.
     *
     * @param fileName the name of the JSON file containing the metric data
```

```
    * @return a CompletableFuture that asynchronously returns the
PutMetricDataResponse
    */
   public CompletableFuture<PutMetricDataResponse>
addMetricDataForAlarmAsync(String fileName) {
       CompletableFuture<String> readFileFuture = CompletableFuture.supplyAsync(()
-> {
           try {
               JsonParser parser = new JsonFactory().createParser(new
File(fileName));
               com.fasterxml.jackson.databind.JsonNode rootNode = new
ObjectMapper().readTree(parser);
               return rootNode.toString(); // Return JSON as a string for further
processing
           } catch (IOException e) {
               throw new RuntimeException("Failed to read file", e);
           }
       });

       return readFileFuture.thenCompose(jsonContent -> {
           try {
               com.fasterxml.jackson.databind.JsonNode rootNode = new
ObjectMapper().readTree(jsonContent);
               String customMetricNamespace =
rootNode.findValue("customMetricNamespace").asText();
               String customMetricName =
rootNode.findValue("customMetricName").asText();
               Instant instant = Instant.now();

               // Create MetricDatum objects.
               MetricDatum datum1 = MetricDatum.builder()
                   .metricName(customMetricName)
                   .unit(StandardUnit.NONE)
                   .value(1001.00)
                   .timestamp(instant)
                   .build();

               MetricDatum datum2 = MetricDatum.builder()
                   .metricName(customMetricName)
                   .unit(StandardUnit.NONE)
                   .value(1002.00)
                   .timestamp(instant)
                   .build();
```

```
                List<MetricDatum> metricDataList = new ArrayList<>();
                metricDataList.add(datum1);
                metricDataList.add(datum2);

                // Build the PutMetricData request.
                PutMetricDataRequest request = PutMetricDataRequest.builder()
                    .namespace(customMetricNamespace)
                    .metricData(metricDataList)
                    .build();

                // Send the request asynchronously.
                return getAsyncClient().putMetricData(request);

            } catch (IOException e) {
                CompletableFuture<PutMetricDataResponse> failedFuture = new
CompletableFuture<>();
                failedFuture.completeExceptionally(new RuntimeException("Failed to
parse JSON content", e));
                return failedFuture;
            }
        }).whenComplete((response, exception) -> {
            if (exception != null) {
                logger.error("Failed to put metric data: " + exception.getMessage(),
exception);
            } else {
                logger.info("Added metric values for metric.");
            }
        });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「PutMetricData」を参照してください。

StartOTelEnrichment

次の例は、StartOTelEnrichment を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Turns on OTel enrichment for the account. Once enrichment is running,
CloudWatch
    * vended metrics that carry a resource identifier dimension, such as the EC2
    * CPUUtilization metric with its InstanceId dimension, are decorated with
resource
    * ARN and resource tag labels and become queryable with PromQL.
    *
    * <p>Resource tags on telemetry must already be enabled for the account before
you
    * call this operation.
    *
    * @param cw the CloudWatch client
    */
   public static void startOTelEnrichment(CloudWatchClient cw) {
       try {
           cw.startOTelEnrichment(StartOTelEnrichmentRequest.builder().build());
           System.out.println("Started OTel enrichment for this account.");

       } catch (CloudWatchException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x 「 API リファレンス」のStartOTelEnrichment」を参照してください。

`StopOTelEnrichment`

次の例は、StopOTelEnrichment を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Turns off OTel enrichment for the account. Existing PromQL alarms are not
     * deleted, but vended metrics stop being enriched with resource ARN and tag
labels,
     * so queries that select on those labels stop matching.
     *
     * @param cw the CloudWatch client
     */
    public static void stopOTelEnrichment(CloudWatchClient cw) {
        try {
            cw.stopOTelEnrichment(StopOTelEnrichmentRequest.builder().build());
            System.out.println("Stopped OTel enrichment for this account.");

        } catch (CloudWatchException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x 「API リファレンス」のStopOTelEnrichment」を参照してください。

シナリオ

DynamoDB のパフォーマンスのモニタリング

次のコード例は、DynamoDB のパフォーマンスをモニタリングするように、アプリケーションを設定する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

この例では、DynamoDB のパフォーマンスをモニタリングするように Java アプリケーションを設定する方法を示します。アプリケーションからメトリクスデータを CloudWatch に送信してパフォーマンスをモニタリングできます。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- CloudWatch
- DynamoDB

PromQL を使用して OpenTelemetry メトリクスとアラームを送信する PromQL

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- OpenTelemetry Collector を使用して、OTLP メトリクスを CloudWatch メトリクスエンドポイントに送信します。
- CloudWatch がこれらのメトリクスをリソースと関連付けるように、OpenTelemetry エンリッチメントを開始します。
- クエリが返すすべての系列で PromQL クエリを評価するアラームを作成します。
- アラームを ALARM 状態にしたコントリビューターと呼ばれる個々のシリーズを検査します。
- メンテナンスウィンドウのアラームをミュートしてから、クリーンアップします。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

CloudWatch OpenTelemetry SDK オペレーションのラッパークラス。

```
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.CloudWatchClient;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.AlarmContributor;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.AlarmMuteRuleSummary;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.AlarmPromQLCriteria;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.CloudWatchException;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.DeleteAlarmMuteRuleRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.DescribeAlarmContributorsRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.DescribeAlarmContributorsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.EvaluationCriteria;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.GetAlarmMuteRuleRequest;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.GetAlarmMuteRuleResponse;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.GetOTelEnrichmentRequest;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.ListAlarmMuteRulesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.ListAlarmMuteRulesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.MuteTargets;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.PutAlarmMuteRuleRequest;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.PutMetricAlarmRequest;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.Rule;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.Schedule;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.StartOTelEnrichmentRequest;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.StopOTelEnrichmentRequest;

import java.util.ArrayList;
import java.util.List;
import java.util.Map;

public class CloudWatchOTelActions {


    /**
     * Turns on OTel enrichment for the account. Once enrichment is running,
 CloudWatch
     * vended metrics that carry a resource identifier dimension, such as the EC2
     * CPUUtilization metric with its InstanceId dimension, are decorated with
 resource
     * ARN and resource tag labels and become queryable with PromQL.
     *
     * <p>Resource tags on telemetry must already be enabled for the account before
 you
     * call this operation.
     *
     * @param cw the CloudWatch client
     */
    public static void startOTelEnrichment(CloudWatchClient cw) {
        try {
```

```
            cw.startOTelEnrichment(StartOTelEnrichmentRequest.builder().build());
            System.out.println("Started OTel enrichment for this account.");

        } catch (CloudWatchException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }


    /**
     * Gets the current OTel enrichment status for the account.
     *
     * @param cw the CloudWatch client
     * @return the status, either {@code Running} or {@code Stopped}
     */
    public static String getOTelEnrichmentStatus(CloudWatchClient cw) {
        try {
            String status =
cw.getOTelEnrichment(GetOTelEnrichmentRequest.builder().build())
                    .statusAsString();
            System.out.printf("OTel enrichment status is %s.%n", status);
            return status;

        } catch (CloudWatchException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
            return null;
        }
    }


    /**
     * Turns off OTel enrichment for the account. Existing PromQL alarms are not
     * deleted, but vended metrics stop being enriched with resource ARN and tag
labels,
     * so queries that select on those labels stop matching.
     *
     * @param cw the CloudWatch client
     */
    public static void stopOTelEnrichment(CloudWatchClient cw) {
        try {
            cw.stopOTelEnrichment(StopOTelEnrichmentRequest.builder().build());
            System.out.println("Stopped OTel enrichment for this account.");
```

```
        } catch (CloudWatchException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }


    /**
     * Creates an alarm that evaluates a PromQL query.
     *
     * <p>A PromQL alarm differs from a classic metric alarm in a few ways. The
query
     * can match many series at once, and each matching series is tracked separately
as
     * a contributor. Instead of counting breaching periods, you specify durations:
a
     * contributor moves to ALARM after it breaches continuously for the pending
period,
     * and back to OK after it stops breaching for the recovery period. A PromQL
alarm
     * starts in the OK state rather than INSUFFICIENT_DATA.
     *
     * <p>{@link EvaluationCriteria} is a union and is mutually exclusive with the
     * classic {@code metricName} and {@code metrics} parameters. When you use it
you
     * must also set {@code evaluationInterval}, and you must not set {@code
period},
     * {@code statistic}, {@code threshold}, {@code comparisonOperator},
     * {@code evaluationPeriods}, {@code datapointsToAlarm}, or
     * {@code treatMissingData}.
     *
     * @param cw                 the CloudWatch client
     * @param alarmName          the name of the alarm, unique within the Region
     * @param query              the PromQL query to evaluate, such as
     *                           {@code avg(cpu_utilization_percent) > 80}. The
     *                           comparison belongs in the query itself; there is no
     *                           separate threshold parameter.
     * @param evaluationInterval how often, in seconds, to run the query. Valid
values
     *                           are 10, 20, 30, and any multiple of 60, up to 3600.
     * @param pendingPeriod      how long, in seconds, a contributor must breach
     *                           continuously before it moves to ALARM
```

```
    * @param recoveryPeriod     how long, in seconds, a contributor must stop
breaching
    *                           before it moves back to OK
    */
   public static void putPromQLMetricAlarm(CloudWatchClient cw, String alarmName,
String query,
           int evaluationInterval, int pendingPeriod, int recoveryPeriod) {
       try {
           AlarmPromQLCriteria promQLCriteria = AlarmPromQLCriteria.builder()
                   .query(query)
                   .pendingPeriod(pendingPeriod)
                   .recoveryPeriod(recoveryPeriod)
                   .build();

           PutMetricAlarmRequest request = PutMetricAlarmRequest.builder()
                   .alarmName(alarmName)
                   .alarmDescription("PromQL alarm created by the AWS SDK for Java
2.x example.")
                   .evaluationCriteria(EvaluationCriteria.builder()
                           .promQLCriteria(promQLCriteria)
                           .build())
                   .evaluationInterval(evaluationInterval)
                   .build();

           cw.putMetricAlarm(request);
           System.out.printf("Created PromQL alarm %s for query %s.%n", alarmName,
query);

       } catch (CloudWatchException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }


   /**
    * Gets the contributors for a PromQL alarm. Each contributor is one series that
the
    * alarm's query matched, identified by its label set. This is how you find out
which
    * hosts, services, or pods are breaching, rather than only that something is.
    *
    * @param cw        the CloudWatch client
    * @param alarmName the name of the PromQL alarm
```

```
     * @return the list of contributors
     */
    public static List<AlarmContributor> describeAlarmContributors(CloudWatchClient
cw, String alarmName) {
        List<AlarmContributor> contributors = new ArrayList<>();
        try {
            String nextToken = null;
            do {
                DescribeAlarmContributorsRequest request =
DescribeAlarmContributorsRequest.builder()
                        .alarmName(alarmName)
                        .nextToken(nextToken)
                        .build();

                DescribeAlarmContributorsResponse response =
cw.describeAlarmContributors(request);
                contributors.addAll(response.alarmContributors());
                nextToken = response.nextToken();
            } while (nextToken != null && !nextToken.isEmpty());

            for (AlarmContributor contributor : contributors) {
                StringBuilder labels = new StringBuilder();
                for (Map.Entry<String, String> attribute :
contributor.contributorAttributes().entrySet()) {
                    if (labels.length() > 0) {
                        labels.append(", ");
                    }

labels.append(attribute.getKey()).append("=").append(attribute.getValue());
                }
                System.out.printf("%s: %s%n", contributor.contributorId(), labels);
                System.out.printf("  reason: %s%n", contributor.stateReason());
            }
            return contributors;

        } catch (CloudWatchException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
            return contributors;
        }
    }


    /**
```

```
    * Creates or updates an alarm mute rule. While a mute rule is active the
targeted
    * alarms keep evaluating and keep transitioning between states, but their
configured
    * actions do not fire. This is the supported way to suppress notifications
during a
    * known maintenance window instead of disabling alarm actions and hoping
someone
    * remembers to turn them back on.
    *
    * @param cw         the CloudWatch client
    * @param name       the name of the mute rule
    * @param expression when the rule activates. For a recurring window, use a
    *                   five-field cron expression,
    *                   {@code cron(Minutes Hours Day-of-month Month Day-of-week)},
    *                   such as {@code cron(0 2 * * SUN)} for every Sunday at 2:00
AM.
    *                   Note that this is five fields, not the six that Amazon
    *                   EventBridge uses. For a one-time window, use
    *                   {@code at(yyyy-MM-ddThh:mm)}, such as
    *                   {@code at(2026-09-05T02:00)}.
    * @param duration   how long the mute window lasts once it activates, in ISO
8601
    *                   duration format, from {@code PT1M} (one minute) to
    *                   {@code P15D} (15 days). For example, {@code PT2H} is two
hours
    *                   and {@code P2DT12H} is two days and 12 hours.
    * @param timezone   the time zone the expression is evaluated in, such as
    *                   {@code America/Los_Angeles}
    * @param alarmNames the names of up to 100 alarms to mute. If empty, the rule
    *                   applies to all alarms in the account.
    */
   public static void putAlarmMuteRule(CloudWatchClient cw, String name, String
expression, String duration,
           String timezone, List<String> alarmNames) {
       try {
           Schedule schedule = Schedule.builder()
                   .expression(expression)
                   .duration(duration)
                   .timezone(timezone)
                   .build();

           PutAlarmMuteRuleRequest.Builder request =
PutAlarmMuteRuleRequest.builder()
```

```
                    .name(name)
                    .description("Mute rule created by the AWS SDK for Java 2.x
example.")
                    .rule(Rule.builder().schedule(schedule).build());

            if (alarmNames != null && !alarmNames.isEmpty()) {

request.muteTargets(MuteTargets.builder().alarmNames(alarmNames).build());
            }

            cw.putAlarmMuteRule(request.build());
            System.out.printf("Put alarm mute rule %s.%n", name);

        } catch (CloudWatchException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }


    /**
     * Gets the full configuration of an alarm mute rule, including its schedule,
the
     * alarms it targets, and whether it is currently SCHEDULED, ACTIVE, or EXPIRED.
     *
     * @param cw   the CloudWatch client
     * @param name the name of the mute rule
     * @return the mute rule
     */
    public static GetAlarmMuteRuleResponse getAlarmMuteRule(CloudWatchClient cw,
String name) {
        try {
            GetAlarmMuteRuleResponse response =
cw.getAlarmMuteRule(GetAlarmMuteRuleRequest.builder()
                    .alarmMuteRuleName(name)
                    .build());

            System.out.printf("Mute rule %s is %s.%n", response.name(),
response.statusAsString());
            return response;

        } catch (CloudWatchException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
```

```
            return null;
        }
    }


    /**
     * Lists the alarm mute rules in the account, optionally filtered to the rules
that
     * target one alarm.
     *
     * @param cw        the CloudWatch client
     * @param alarmName when non-null, only rules that target this alarm are
returned
     * @return the list of mute rule summaries
     */
    public static List<AlarmMuteRuleSummary> listAlarmMuteRules(CloudWatchClient cw,
String alarmName) {
        List<AlarmMuteRuleSummary> summaries = new ArrayList<>();
        try {
            String nextToken = null;
            do {
                ListAlarmMuteRulesRequest request =
ListAlarmMuteRulesRequest.builder()
                        .alarmName(alarmName)
                        .nextToken(nextToken)
                        .build();

                ListAlarmMuteRulesResponse response =
cw.listAlarmMuteRules(request);
                summaries.addAll(response.alarmMuteRuleSummaries());
                nextToken = response.nextToken();
            } while (nextToken != null && !nextToken.isEmpty());

            for (AlarmMuteRuleSummary summary : summaries) {
                System.out.printf("%s (%s)%n", summary.alarmMuteRuleArn(),
summary.statusAsString());
            }
            return summaries;

        } catch (CloudWatchException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
            return summaries;
        }
```

```
    }


    /**
     * Deletes an alarm mute rule. The alarms it targeted resume firing their
 actions.
     *
     * @param cw   the CloudWatch client
     * @param name the name of the mute rule
     */
    public static void deleteAlarmMuteRule(CloudWatchClient cw, String name) {
        try {
            cw.deleteAlarmMuteRule(DeleteAlarmMuteRuleRequest.builder()
                    .alarmMuteRuleName(name)
                    .build());

            System.out.printf("Deleted alarm mute rule %s.%n", name);

        } catch (CloudWatchException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - DeleteAlarmMuteRule
  - DeleteAlarms
  - DescribeAlarmContributors
  - GetAlarmMuteRule
  - GetOTelEnrichment
  - ListAlarmMuteRules
  - PutAlarmMuteRule
  - PutMetricAlarm
  - StartOTelEnrichment
  - StopOTelEnrichment

SDK for Java 2.x を使用した CloudWatch Events の例

次のコード例は、CloudWatch Events AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- アクション

アクション

`PutEvents`

次のコード例は、`PutEvents` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.CloudWatchException;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatchevents.CloudWatchEventsClient;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatchevents.model.PutEventsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatchevents.model.PutEventsRequestEntry;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
```

```
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class PutEvents {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                   <resourceArn>

                Where:
                   resourceArn - An Amazon Resource Name (ARN) related to the
 events.
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String resourceArn = args[0];
        CloudWatchEventsClient cwe = CloudWatchEventsClient.builder()
                .build();

        putCWEvents(cwe, resourceArn);
        cwe.close();
    }

    public static void putCWEvents(CloudWatchEventsClient cwe, String resourceArn) {
        try {
            final String EVENT_DETAILS = "{ \"key1\": \"value1\", \"key2\":
 \"value2\" }";

            PutEventsRequestEntry requestEntry = PutEventsRequestEntry.builder()
                    .detail(EVENT_DETAILS)
                    .detailType("sampleSubmitted")
                    .resources(resourceArn)
                    .source("aws-sdk-java-cloudwatch-example")
                    .build();

            PutEventsRequest request = PutEventsRequest.builder()
                    .entries(requestEntry)
                    .build();

            cwe.putEvents(request);
```

```
            System.out.println("Successfully put CloudWatch event");

        } catch (CloudWatchException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「PutEvents」を参照してください。

PutRule

次のコード例は、PutRule を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.CloudWatchException;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatchevents.CloudWatchEventsClient;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatchevents.model.PutRuleRequest;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatchevents.model.PutRuleResponse;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatchevents.model.RuleState;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class PutRule {
    public static void main(String[] args) {
```

```
        final String usage = """

                Usage:
                  <ruleName> roleArn>\s

                Where:
                  ruleName - A rule name (for example, myrule).
                  roleArn - A role ARN value (for example,
arn:aws:iam::xxxxxx047983:user/MyUser).
                """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String ruleName = args[0];
        String roleArn = args[1];
        CloudWatchEventsClient cwe = CloudWatchEventsClient.builder()
                .build();

        putCWRule(cwe, ruleName, roleArn);
        cwe.close();
    }

    public static void putCWRule(CloudWatchEventsClient cwe, String ruleName, String
roleArn) {
        try {
            PutRuleRequest request = PutRuleRequest.builder()
                    .name(ruleName)
                    .roleArn(roleArn)
                    .scheduleExpression("rate(5 minutes)")
                    .state(RuleState.ENABLED)
                    .build();

            PutRuleResponse response = cwe.putRule(request);
            System.out.printf(
                    "Successfully created CloudWatch events rule %s with arn %s",
                    roleArn, response.ruleArn());

        } catch (CloudWatchException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
```

```
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「PutRule」を参照してください。

`PutTargets`

次のコード例は、`PutTargets` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.CloudWatchException;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatchevents.CloudWatchEventsClient;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatchevents.model.PutTargetsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatchevents.model.Target;

/**
 * To run this Java V2 code example, ensure that you have setup your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For information, see this documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class PutTargets {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                  <ruleName> <functionArn> <targetId>\s

                Where:
                  ruleName - A rule name (for example, myrule).
```

```
                    functionArn - An AWS Lambda function ARN (for example,
 arn:aws:lambda:us-west-2:xxxxxx047983:function:lamda1).
                    targetId - A target id value.
                """";

        if (args.length != 3) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String ruleName = args[0];
        String functionArn = args[1];
        String targetId = args[2];
        CloudWatchEventsClient cwe = CloudWatchEventsClient.builder()
                .build();

        putCWTargets(cwe, ruleName, functionArn, targetId);
        cwe.close();
    }

    public static void putCWTargets(CloudWatchEventsClient cwe, String ruleName,
 String functionArn, String targetId) {
        try {
            Target target = Target.builder()
                    .arn(functionArn)
                    .id(targetId)
                    .build();

            PutTargetsRequest request = PutTargetsRequest.builder()
                    .targets(target)
                    .rule(ruleName)
                    .build();

            cwe.putTargets(request);
            System.out.printf(
                    "Successfully created CloudWatch events target for rule %s",
                    ruleName);

        } catch (CloudWatchException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「PutTargets」を参照してください。

SDK for Java 2.x を使用した CloudWatch Logs

次のコード例は、CloudWatch Logs AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- アクション
- シナリオ

アクション

`DeleteSubscriptionFilter`

次のコード例は、`DeleteSubscriptionFilter` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.CloudWatchException;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatchlogs.CloudWatchLogsClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.cloudwatchlogs.model.DeleteSubscriptionFilterRequest;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DeleteSubscriptionFilter {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                  <filter> <logGroup>

                Where:
                  filter - The name of the subscription filter (for example,
 MyFilter).
                  logGroup - The name of the log group. (for example, testgroup).
                """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String filter = args[0];
        String logGroup = args[1];
        CloudWatchLogsClient logs = CloudWatchLogsClient.builder()
                .build();

        deleteSubFilter(logs, filter, logGroup);
        logs.close();
    }

    public static void deleteSubFilter(CloudWatchLogsClient logs, String filter,
 String logGroup) {
        try {
            DeleteSubscriptionFilterRequest request =
 DeleteSubscriptionFilterRequest.builder()
```

```
                    .filterName(filter)
                    .logGroupName(logGroup)
                    .build();

            logs.deleteSubscriptionFilter(request);
            System.out.printf("Successfully deleted CloudWatch logs subscription
 filter %s", filter);

        } catch (CloudWatchException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteSubscriptionFilter」を参照してください。

`DescribeLogStreams`

次のコード例は、`DescribeLogStreams` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

指定されたプレフィックスに一致する、指定されたロググループ内のログストリームを検索します。

```
/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
```

```
 */
public class CloudWatchLogsSearch {

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                  <logGroupName> <logStreamName>

                Where:
                  logGroupName - The name of the log group (for example,
 WeathertopJavaContainerLogs).
                  logStreamName - The name of the log stream (for example,
 weathertop-java-stream).
                  pattern - the pattern to use (for example, INFO)

                """;

        if (args.length != 3) {
            System.out.print(usage);
            System.exit(1);
        }

        String logGroupName = args[0] ;
        String logStreamName = args[1] ;
        String pattern = args[2] ;

        CloudWatchLogsClient cwlClient = CloudWatchLogsClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        searchLogStreamsAndFilterEvents(cwlClient, logGroupName, logStreamName,
 pattern);
    }

    /**
     * Searches for log streams with a specific prefix within a log group and
 filters log events based on a specified pattern.
     *
     * @param cwlClient       the CloudWatchLogsClient used to interact with AWS
 CloudWatch Logs
     * @param logGroupName    the name of the log group to search within
     * @param logStreamPrefix the prefix of the log streams to search for
     * @param pattern         the pattern to filter log events by
```

```
     */
    public static void searchLogStreamsAndFilterEvents(CloudWatchLogsClient
 cwlClient, String logGroupName, String logStreamPrefix, String pattern) {
        DescribeLogStreamsRequest describeLogStreamsRequest =
 DescribeLogStreamsRequest.builder()
                .logGroupName(logGroupName)
                .logStreamNamePrefix(logStreamPrefix)
                .build();

        DescribeLogStreamsResponse describeLogStreamsResponse =
 cwlClient.describeLogStreams(describeLogStreamsRequest);
        List<LogStream> logStreams = describeLogStreamsResponse.logStreams();

        for (LogStream logStream : logStreams) {
            String logStreamName = logStream.logStreamName();
            System.out.println("Searching in log stream: " + logStreamName);

            FilterLogEventsRequest filterLogEventsRequest =
 FilterLogEventsRequest.builder()
                    .logGroupName(logGroupName)
                    .logStreamNames(logStreamName)
                    .filterPattern(pattern)
                    .build();

            FilterLogEventsResponse filterLogEventsResponse =
 cwlClient.filterLogEvents(filterLogEventsRequest);

            for (FilteredLogEvent event : filterLogEventsResponse.events()) {
                System.out.println(event.message());
            }


 System.out.println("-------------------------------------------------"); //
 Separator for better readability
        }
    }
}
```

指定されたロググループ内の最新のログストリームに関するメタデータを出力します。

```
/**
```

```
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class CloudWatchLogQuery {
    public static void main(final String[] args) {
        final String usage = """
                Usage:
                  <logGroupName>

                Where:
                  logGroupName - The name of the log group (for example, /aws/
lambda/ChatAIHandler).
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.print(usage);
            System.exit(1);
        }

        String logGroupName = "/aws/lambda/ChatAIHandler" ; //args[0];
        CloudWatchLogsClient logsClient = CloudWatchLogsClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        describeMostRecentLogStream(logsClient, logGroupName);
    }

    /**
     * Describes and prints metadata about the most recent log stream in the
 specified log group.
     *
     * @param logsClient   the CloudWatchLogsClient used to interact with AWS
 CloudWatch Logs
     * @param logGroupName the name of the log group
     */
    public static void describeMostRecentLogStream(CloudWatchLogsClient logsClient,
 String logGroupName) {
        DescribeLogStreamsRequest streamsRequest =
 DescribeLogStreamsRequest.builder()
                .logGroupName(logGroupName)
```

```
                .orderBy(OrderBy.LAST_EVENT_TIME)
                .descending(true)
                .limit(1)
                .build();

        try {
            DescribeLogStreamsResponse streamsResponse =
 logsClient.describeLogStreams(streamsRequest);
            List<LogStream> logStreams = streamsResponse.logStreams();

            if (logStreams.isEmpty()) {
                System.out.println("No log streams found for log group: " +
 logGroupName);
                return;
            }

            LogStream stream = logStreams.get(0);
            System.out.println("Most Recent Log Stream:");
            System.out.println("  Name: " + stream.logStreamName());
            System.out.println("  ARN: " + stream.arn());
            System.out.println("  Creation Time: " + stream.creationTime());
            System.out.println("  First Event Time: " +
 stream.firstEventTimestamp());
            System.out.println("  Last Event Time: " + stream.lastEventTimestamp());
            System.out.println("  Stored Bytes: " + stream.storedBytes());
            System.out.println("  Upload Sequence Token: " +
 stream.uploadSequenceToken());

        } catch (CloudWatchLogsException e) {
            System.err.println("Failed to describe log stream: " +
 e.awsErrorDetails().errorMessage());
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeLogStreams」を参照してください。

DescribeSubscriptionFilters

次のコード例は、DescribeSubscriptionFilters を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.CloudWatchException;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatchlogs.CloudWatchLogsClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.cloudwatchlogs.model.DescribeSubscriptionFiltersRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.cloudwatchlogs.model.DescribeSubscriptionFiltersResponse;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatchlogs.model.SubscriptionFilter;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DescribeSubscriptionFilters {
    public static void main(String[] args) {

        final String usage = """

                Usage:
                  <logGroup>

                Where:
                  logGroup - A log group name (for example, myloggroup).
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }
```

```
        String logGroup = args[0];
        CloudWatchLogsClient logs = CloudWatchLogsClient.builder()
                .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
                .build();

        describeFilters(logs, logGroup);
        logs.close();
    }

    public static void describeFilters(CloudWatchLogsClient logs, String logGroup) {
        try {
            boolean done = false;
            String newToken = null;

            while (!done) {
                DescribeSubscriptionFiltersResponse response;
                if (newToken == null) {
                    DescribeSubscriptionFiltersRequest request =
DescribeSubscriptionFiltersRequest.builder()
                            .logGroupName(logGroup)
                            .limit(1).build();

                    response = logs.describeSubscriptionFilters(request);
                } else {
                    DescribeSubscriptionFiltersRequest request =
DescribeSubscriptionFiltersRequest.builder()
                            .nextToken(newToken)
                            .logGroupName(logGroup)
                            .limit(1).build();
                    response = logs.describeSubscriptionFilters(request);
                }

                for (SubscriptionFilter filter : response.subscriptionFilters()) {
                    System.out.printf("Retrieved filter with name %s, " + "pattern
%s " + "and destination arn %s",
                            filter.filterName(),
                            filter.filterPattern(),
                            filter.destinationArn());
                }

                if (response.nextToken() == null) {
                    done = true;
                } else {
                    newToken = response.nextToken();
```

```
                }
            }

        } catch (CloudWatchException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        System.out.printf("Done");
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeSubscriptionFilters」を参照してください。

`GetLogEvents`

次のコード例は、`GetLogEvents` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.model.CloudWatchException;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatchlogs.CloudWatchLogsClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.cloudwatchlogs.model.DescribeLogStreamsRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.cloudwatchlogs.model.DescribeLogStreamsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatchlogs.model.GetLogEventsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatchlogs.model.GetLogEventsResponse;

import java.time.Instant;
import java.time.temporal.ChronoUnit;

/**
```

```
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class GetLogEvents {

    public static void main(String[] args) {

        final String usage = """

                Usage:
                  <logGroupName> <logStreamName>

                Where:
                  logGroupName - The name of the log group (for example,
 myloggroup).
                  logStreamName - The name of the log stream (for example,
 mystream).

                """;

       // if (args.length != 2) {
       //     System.out.print(usage);
       //     System.exit(1);
//        }

        String logGroupName = "WeathertopJavaContainerLogs" ; //args[0];
        String logStreamName = "weathertop-java-stream" ; //args[1];

        Region region = Region.US_EAST_1 ;
        CloudWatchLogsClient cloudWatchLogsClient = CloudWatchLogsClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        getCWLogEvents(cloudWatchLogsClient, logGroupName, logStreamName);
        cloudWatchLogsClient.close();
    }

    public static void getCWLogEvents(CloudWatchLogsClient cloudWatchLogsClient,
                                      String logGroupName,
                                      String logStreamPrefix) {
```

```
        try {
            // First, find the exact log stream name
            DescribeLogStreamsRequest describeRequest =
DescribeLogStreamsRequest.builder()
                    .logGroupName(logGroupName)
                    .logStreamNamePrefix(logStreamPrefix)
                    .limit(1) // get the first matching stream
                    .build();

            DescribeLogStreamsResponse describeResponse =
cloudWatchLogsClient.describeLogStreams(describeRequest);

            if (describeResponse.logStreams().isEmpty()) {
                System.out.println("No matching log streams found for prefix: " +
logStreamPrefix);
                return;
            }

            String exactLogStreamName =
describeResponse.logStreams().get(0).logStreamName();
            System.out.println("Using exact log stream: " + exactLogStreamName);

            long startTime = Instant.now().minus(7, ChronoUnit.DAYS).toEpochMilli();
            long endTime = Instant.now().toEpochMilli();

            GetLogEventsRequest getLogEventsRequest = GetLogEventsRequest.builder()
                    .logGroupName(logGroupName)
                    .logStreamName(exactLogStreamName) // <-- exact name, not prefix
                    .startTime(startTime)
                    .endTime(endTime)
                    .startFromHead(true)
                    .build();

            GetLogEventsResponse response =
cloudWatchLogsClient.getLogEvents(getLogEventsRequest);

            if (response.events().isEmpty()) {
                System.out.println("No log events found in the past 7 days.");
            } else {
                response.events().forEach(e -> System.out.println(e.message()));
            }

        } catch (CloudWatchException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
```

```
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetLogEvents」を参照してください。

PutSubscriptionFilter

次のコード例は、PutSubscriptionFilter を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatchlogs.CloudWatchLogsClient;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatchlogs.model.CloudWatchLogsException;
import
 software.amazon.awssdk.services.cloudwatchlogs.model.PutSubscriptionFilterRequest;

/**
 * Before running this code example, you need to grant permission to CloudWatch
 * Logs the right to execute your Lambda function.
 * To perform this task, you can use this CLI command:
 *
 * aws lambda add-permission --function-name "lamda1" --statement-id "lamda1"
 * --principal "logs.us-west-2.amazonaws.com" --action "lambda:InvokeFunction"
 * --source-arn "arn:aws:logs:us-west-2:111111111111:log-group:testgroup:*"
 * --source-account "111111111111"
 *
 * Make sure you replace the function name with your function name and replace
 * '111111111111' with your account details.
 * For more information, see "Subscription Filters with AWS Lambda" in the
 * Amazon CloudWatch Logs Guide.
```

```
 *
 *
 * Also, before running this Java V2 code example,set up your development
 * environment,including your credentials.
 *
 * For more information,see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 *
 */

public class PutSubscriptionFilter {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                  <filter> <pattern> <logGroup> <functionArn>\s

                Where:
                  filter - A filter name (for example, myfilter).
                  pattern - A filter pattern (for example, ERROR).
                  logGroup - A log group name (testgroup).
                  functionArn - An AWS Lambda function ARN (for example,
 arn:aws:lambda:us-west-2:111111111111:function:lambda1) .
                """;

        if (args.length != 4) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String filter = args[0];
        String pattern = args[1];
        String logGroup = args[2];
        String functionArn = args[3];
        Region region = Region.US_WEST_2;
        CloudWatchLogsClient cwl = CloudWatchLogsClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        putSubFilters(cwl, filter, pattern, logGroup, functionArn);
        cwl.close();
    }
```

```
    public static void putSubFilters(CloudWatchLogsClient cwl,
            String filter,
            String pattern,
            String logGroup,
            String functionArn) {

        try {
            PutSubscriptionFilterRequest request =
 PutSubscriptionFilterRequest.builder()
                    .filterName(filter)
                    .filterPattern(pattern)
                    .logGroupName(logGroup)
                    .destinationArn(functionArn)
                    .build();

            cwl.putSubscriptionFilter(request);
            System.out.printf(
                    "Successfully created CloudWatch logs subscription filter %s",
                    filter);

        } catch (CloudWatchLogsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「PutSubscriptionFilter」を参照してください。

`StartLiveTail`

次のコード例は、`StartLiveTail` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

必要なファイルを含めます。

```
import io.reactivex.FlowableSubscriber;
import io.reactivex.annotations.NonNull;
import org.reactivestreams.Subscription;
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatchlogs.CloudWatchLogsAsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatchlogs.model.LiveTailSessionLogEvent;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatchlogs.model.LiveTailSessionStart;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatchlogs.model.LiveTailSessionUpdate;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatchlogs.model.StartLiveTailRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.cloudwatchlogs.model.StartLiveTailResponseHandler;
import software.amazon.awssdk.services.cloudwatchlogs.model.CloudWatchLogsException;
import
 software.amazon.awssdk.services.cloudwatchlogs.model.StartLiveTailResponseStream;

import java.util.Date;
import java.util.List;
import java.util.concurrent.atomic.AtomicReference;
```

Live Tail セッションのイベントを処理します。

```
   private static StartLiveTailResponseHandler
 getStartLiveTailResponseStreamHandler(
           AtomicReference<Subscription> subscriptionAtomicReference) {
       return StartLiveTailResponseHandler.builder()
           .onResponse(r -> System.out.println("Received initial response"))
           .onError(throwable -> {
               CloudWatchLogsException e = (CloudWatchLogsException)
 throwable.getCause();
               System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
               System.exit(1);
           })
           .subscriber(() -> new FlowableSubscriber<>() {
               @Override
               public void onSubscribe(@NonNull Subscription s) {
                   subscriptionAtomicReference.set(s);
                   s.request(Long.MAX_VALUE);
               }

               @Override
               public void onNext(StartLiveTailResponseStream event) {
                   if (event instanceof LiveTailSessionStart) {
                       LiveTailSessionStart sessionStart = (LiveTailSessionStart)
 event;
                       System.out.println(sessionStart);
                   } else if (event instanceof LiveTailSessionUpdate) {
```

```
                        LiveTailSessionUpdate sessionUpdate =
(LiveTailSessionUpdate) event;
                        List<LiveTailSessionLogEvent> logEvents =
sessionUpdate.sessionResults();
                        logEvents.forEach(e -> {
                            long timestamp = e.timestamp();
                            Date date = new Date(timestamp);
                            System.out.println("[" + date + "] " + e.message());
                        });
                    } else {
                        throw CloudWatchLogsException.builder().message("Unknown
event type").build();
                    }
                }

                @Override
                public void onError(Throwable throwable) {
                    System.out.println(throwable.getMessage());
                    System.exit(1);
                }

                @Override
                public void onComplete() {
                    System.out.println("Completed Streaming Session");
                }
            })
            .build();
    }
```

Live Tail セッションを開始します。

```
        CloudWatchLogsAsyncClient cloudWatchLogsAsyncClient =
                CloudWatchLogsAsyncClient.builder()
                    .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
                    .build();

        StartLiveTailRequest request =
                StartLiveTailRequest.builder()
                    .logGroupIdentifiers(logGroupIdentifiers)
                    .logStreamNames(logStreamNames)
                    .logEventFilterPattern(logEventFilterPattern)
                    .build();
```

```
        /* Create a reference to store the subscription */
        final AtomicReference<Subscription> subscriptionAtomicReference = new
AtomicReference<>(null);

        cloudWatchLogsAsyncClient.startLiveTail(request,
getStartLiveTailResponseStreamHandler(subscriptionAtomicReference));
```

一定時間が経過したら Live Tail セッションを停止します。

```
        /* Set a timeout for the session and cancel the subscription. This will:
         * 1). Close the stream
         * 2). Stop the Live Tail session
         */
        try {
            Thread.sleep(10000);
        } catch (InterruptedException e) {
            throw new RuntimeException(e);
        }
        if (subscriptionAtomicReference.get() != null) {
            subscriptionAtomicReference.get().cancel();
            System.out.println("Subscription to stream closed");
        }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「StartLiveTail」を参照してください。

シナリオ

スケジュールされたイベントを使用した Lambda 関数の呼び出し

次のコード例は、Amazon EventBridge スケジュールされたイベントによって呼び出される AWS Lambda 関数を作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

AWS Lambda 関数を呼び出す Amazon EventBridge スケジュールイベントを作成する方法を示します。cron 式を使用して Lambda 関数が呼び出されるタイミングをスケジュールするように EventBridge を設定します。この例では、Lambda Java ランタイム API を使用して Lambda 関数

を作成します。この例では、さまざまな AWS サービスを呼び出して、特定のユースケースを実行します。この例では、年間の記念日に従業員を祝福するモバイルテキストメッセージを従業員に送信するアプリを作成する方法を示します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- CloudWatch Logs
- DynamoDB
- EventBridge
- Lambda
- Amazon SNS

SDK for Java 2.x を使用した Amazon Cognito ID の例

次のコード例は、Amazon Cognito Identity AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- アクション

アクション

`CreateIdentityPool`

次のコード例は、`CreateIdentityPool` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.cognitoidentity.CognitoIdentityClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentity.model.CreateIdentityPoolRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentity.model.CreateIdentityPoolResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.model.CognitoIdentityProviderExcept

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class CreateIdentityPool {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """
                Usage:
                    <identityPoolName>\s

                Where:
                    identityPoolName - The name to give your identity pool.
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String identityPoolName = args[0];
        CognitoIdentityClient cognitoClient = CognitoIdentityClient.builder()
```

```
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        String identityPoolId = createIdPool(cognitoClient, identityPoolName);
        System.out.println("Unity pool ID " + identityPoolId);
        cognitoClient.close();
    }

    public static String createIdPool(CognitoIdentityClient cognitoClient, String
 identityPoolName) {
        try {
            CreateIdentityPoolRequest poolRequest =
 CreateIdentityPoolRequest.builder()
                    .allowUnauthenticatedIdentities(false)
                    .identityPoolName(identityPoolName)
                    .build();

            CreateIdentityPoolResponse response =
 cognitoClient.createIdentityPool(poolRequest);
            return response.identityPoolId();

        } catch (CognitoIdentityProviderException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateIdentityPool」を参照してください。

`DeleteIdentityPool`

次のコード例は、DeleteIdentityPool を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.awscore.exception.AwsServiceException;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.cognitoidentity.CognitoIdentityClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentity.model.DeleteIdentityPoolRequest;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DeleteIdentityPool {

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <identityPoolId>\s

                Where:
                    identityPoolId - The Id value of your identity pool.
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String identityPoold = args[0];
        CognitoIdentityClient cognitoIdClient = CognitoIdentityClient.builder()
```

```
                .region(Region.US_EAST_1)
                .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
                .build();

        deleteIdPool(cognitoIdClient, identityPoold);
        cognitoIdClient.close();
    }

    public static void deleteIdPool(CognitoIdentityClient cognitoIdClient, String
 identityPoold) {
        try {

            DeleteIdentityPoolRequest identityPoolRequest =
 DeleteIdentityPoolRequest.builder()
                    .identityPoolId(identityPoold)
                    .build();

            cognitoIdClient.deleteIdentityPool(identityPoolRequest);
            System.out.println("Done");

        } catch (AwsServiceException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteIdentityPool」を参照してください。

`GetCredentialsForIdentity`

次のコード例は、`GetCredentialsForIdentity` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.cognitoidentity.CognitoIdentityClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentity.model.GetCredentialsForIdentityRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentity.model.GetCredentialsForIdentityResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.model.CognitoIdentityProviderExcept

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class GetIdentityCredentials {
    public static void main(String[] args) {

        final String usage = """

                Usage:
                    <identityId>\s

            Where:
                identityId - The Id of an existing identity in the format
 REGION:GUID.
            """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String identityId = args[0];
        CognitoIdentityClient cognitoClient = CognitoIdentityClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        getCredsForIdentity(cognitoClient, identityId);
        cognitoClient.close();
    }
```

```
    public static void getCredsForIdentity(CognitoIdentityClient cognitoClient,
 String identityId) {
        try {
            GetCredentialsForIdentityRequest getCredentialsForIdentityRequest =
 GetCredentialsForIdentityRequest
                    .builder()
                    .identityId(identityId)
                    .build();

            GetCredentialsForIdentityResponse response = cognitoClient
                    .getCredentialsForIdentity(getCredentialsForIdentityRequest);
            System.out.println(
                    "Identity ID " + response.identityId() + ", Access key ID " +
 response.credentials().accessKeyId());

        } catch (CognitoIdentityProviderException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetCredentialsForIdentity」を参照してください。

`ListIdentityPools`

次のコード例は、`ListIdentityPools` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.cognitoidentity.CognitoIdentityClient;
```

```
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentity.model.ListIdentityPoolsRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentity.model.ListIdentityPoolsResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.model.CognitoIdentityProviderExcept

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ListIdentityPools {
    public static void main(String[] args) {
        CognitoIdentityClient cognitoClient = CognitoIdentityClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        listIdPools(cognitoClient);
        cognitoClient.close();
    }

    public static void listIdPools(CognitoIdentityClient cognitoClient) {
        try {
            ListIdentityPoolsRequest poolsRequest =
 ListIdentityPoolsRequest.builder()
                    .maxResults(15)
                    .build();

            ListIdentityPoolsResponse response =
 cognitoClient.listIdentityPools(poolsRequest);
            response.identityPools().forEach(pool -> {
                System.out.println("Pool ID: " + pool.identityPoolId());
                System.out.println("Pool name: " + pool.identityPoolName());
            });

        } catch (CognitoIdentityProviderException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

```
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListIdentityPools」を参照してください。

SDK for Java 2.x を使用した Amazon Cognito ID プロバイダーの例

次のコード例は、Amazon Cognito ID プロバイダー AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- はじめに
- アクション
- シナリオ

はじめに

Hello Amazon Cognito

次のコード例は、Amazon Cognito の使用を開始する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.CognitoIdentityProviderClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.model.CognitoIdentityProviderExcept
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.model.ListUserPoolsResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.model.ListUserPoolsRequest;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ListUserPools {
    public static void main(String[] args) {
        CognitoIdentityProviderClient cognitoClient =
 CognitoIdentityProviderClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        listAllUserPools(cognitoClient);
        cognitoClient.close();
    }

    public static void listAllUserPools(CognitoIdentityProviderClient cognitoClient)
 {
        try {
            ListUserPoolsRequest request = ListUserPoolsRequest.builder()
                    .maxResults(10)
                    .build();

            ListUserPoolsResponse response = cognitoClient.listUserPools(request);
            response.userPools().forEach(userpool -> {
                System.out.println("User pool " + userpool.name() + ", User ID " +
 userpool.id());
            });

        } catch (CognitoIdentityProviderException e) {
```

```
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListUserPools」を参照してください。

アクション

`AdminGetUser`

次のコード例は、`AdminGetUser` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void getAdminUser(CognitoIdentityProviderClient
identityProviderClient, String userName,
            String poolId) {
        try {
            AdminGetUserRequest userRequest = AdminGetUserRequest.builder()
                    .username(userName)
                    .userPoolId(poolId)
                    .build();

            AdminGetUserResponse response =
identityProviderClient.adminGetUser(userRequest);
            System.out.println("User status " + response.userStatusAsString());

        } catch (CognitoIdentityProviderException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
```

```
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「AdminGetUser」を参照してください。

`AdminInitiateAuth`

次のコード例は、`AdminInitiateAuth` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static AdminInitiateAuthResponse
initiateAuth(CognitoIdentityProviderClient identityProviderClient,
            String clientId, String userName, String password, String userPoolId) {
        try {
            Map<String, String> authParameters = new HashMap<>();
            authParameters.put("USERNAME", userName);
            authParameters.put("PASSWORD", password);

            AdminInitiateAuthRequest authRequest =
AdminInitiateAuthRequest.builder()
                    .clientId(clientId)
                    .userPoolId(userPoolId)
                    .authParameters(authParameters)
                    .authFlow(AuthFlowType.ADMIN_USER_PASSWORD_AUTH)
                    .build();

            AdminInitiateAuthResponse response =
identityProviderClient.adminInitiateAuth(authRequest);
            System.out.println("Result Challenge is : " + response.challengeName());
            return response;

        } catch (CognitoIdentityProviderException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
```

```
            System.exit(1);
        }

        return null;
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「AdminInitiateAuth」を参照してください。

`AdminRespondToAuthChallenge`

次のコード例は、`AdminRespondToAuthChallenge` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    // Respond to an authentication challenge.
    public static void adminRespondToAuthChallenge(CognitoIdentityProviderClient
identityProviderClient,
            String userName, String clientId, String mfaCode, String session) {
        System.out.println("SOFTWARE_TOKEN_MFA challenge is generated");
        Map<String, String> challengeResponses = new HashMap<>();

        challengeResponses.put("USERNAME", userName);
        challengeResponses.put("SOFTWARE_TOKEN_MFA_CODE", mfaCode);

        AdminRespondToAuthChallengeRequest respondToAuthChallengeRequest =
AdminRespondToAuthChallengeRequest.builder()
                .challengeName(ChallengeNameType.SOFTWARE_TOKEN_MFA)
                .clientId(clientId)
                .challengeResponses(challengeResponses)
                .session(session)
                .build();
```

```
        AdminRespondToAuthChallengeResponse respondToAuthChallengeResult =
identityProviderClient
                .adminRespondToAuthChallenge(respondToAuthChallengeRequest);
        System.out.println("respondToAuthChallengeResult.getAuthenticationResult()"
                + respondToAuthChallengeResult.authenticationResult());
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「AdminRespondToAuthChallenge」を参照してください。

`AssociateSoftwareToken`

次のコード例は、`AssociateSoftwareToken` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    public static String getSecretForAppMFA(CognitoIdentityProviderClient
identityProviderClient, String session) {
        AssociateSoftwareTokenRequest softwareTokenRequest =
AssociateSoftwareTokenRequest.builder()
                .session(session)
                .build();

        AssociateSoftwareTokenResponse tokenResponse = identityProviderClient
                .associateSoftwareToken(softwareTokenRequest);
        String secretCode = tokenResponse.secretCode();
        System.out.println("Enter this token into Google Authenticator");
        System.out.println(secretCode);
        return tokenResponse.session();
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「AssociateSoftwareToken」を参照してください。

ConfirmSignUp

次のコード例は、ConfirmSignUp を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void confirmSignUp(CognitoIdentityProviderClient
identityProviderClient, String clientId, String code,
           String userName) {
       try {
           ConfirmSignUpRequest signUpRequest = ConfirmSignUpRequest.builder()
                   .clientId(clientId)
                   .confirmationCode(code)
                   .username(userName)
                   .build();

           identityProviderClient.confirmSignUp(signUpRequest);
           System.out.println(userName + " was confirmed");

       } catch (CognitoIdentityProviderException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ConfirmSignUp」を参照してください。

CreateUserPool

次のコード例は、CreateUserPool を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.CognitoIdentityProviderClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.model.CognitoIdentityProviderExcept
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.model.CreateUserPoolRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.model.CreateUserPoolResponse;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class CreateUserPool {
    public static void main(String[] args) {

        final String usage = """

                Usage:
                    <userPoolName>\s

                Where:
                    userPoolName - The name to give your user pool when it's
 created.
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
```

```
        }

        String userPoolName = args[0];
        CognitoIdentityProviderClient cognitoClient =
 CognitoIdentityProviderClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        String id = createPool(cognitoClient, userPoolName);
        System.out.println("User pool ID: " + id);
        cognitoClient.close();
    }

    public static String createPool(CognitoIdentityProviderClient cognitoClient,
 String userPoolName) {
        try {
            CreateUserPoolRequest request = CreateUserPoolRequest.builder()
                    .poolName(userPoolName)
                    .build();

            CreateUserPoolResponse response = cognitoClient.createUserPool(request);
            return response.userPool().id();

        } catch (CognitoIdentityProviderException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateUserPool」を参照してください。

`CreateUserPoolClient`

次のコード例は、`CreateUserPoolClient` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.CognitoIdentityProviderClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.model.CognitoIdentityProviderExcept
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.model.CreateUserPoolClientRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.model.CreateUserPoolClientResponse;

/**
 * A user pool client app is an application that authenticates with Amazon
 * Cognito user pools.
 * When you create a user pool, you can configure app clients that allow mobile
 * or web applications
 * to call API operations to authenticate users, manage user attributes and
 * profiles,
 * and implement sign-up and sign-in flows.
 *
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class CreateUserPoolClient {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <clientName> <userPoolId>\s

                Where:
                    clientName - The name for the user pool client to create.
```

```
                    userPoolId - The ID for the user pool.
                """";

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String clientName = args[0];
        String userPoolId = args[1];
        CognitoIdentityProviderClient cognitoClient =
CognitoIdentityProviderClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        createPoolClient(cognitoClient, clientName, userPoolId);
        cognitoClient.close();
    }

    public static void createPoolClient(CognitoIdentityProviderClient cognitoClient,
String clientName,
            String userPoolId) {
        try {
            CreateUserPoolClientRequest request =
CreateUserPoolClientRequest.builder()
                    .clientName(clientName)
                    .userPoolId(userPoolId)
                    .build();

            CreateUserPoolClientResponse response =
cognitoClient.createUserPoolClient(request);
            System.out.println("User pool " + response.userPoolClient().clientName()
+ " created. ID: "
                    + response.userPoolClient().clientId());

        } catch (CognitoIdentityProviderException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateUserPoolClient」を参照してください。

`ListUserPools`

次のコード例は、`ListUserPools` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.CognitoIdentityProviderClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.model.CognitoIdentityProviderExcept
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.model.ListUserPoolsResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.model.ListUserPoolsRequest;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ListUserPools {
    public static void main(String[] args) {
        CognitoIdentityProviderClient cognitoClient =
 CognitoIdentityProviderClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        listAllUserPools(cognitoClient);
        cognitoClient.close();
```

```
    }

    public static void listAllUserPools(CognitoIdentityProviderClient cognitoClient)
 {
        try {
            ListUserPoolsRequest request = ListUserPoolsRequest.builder()
                    .maxResults(10)
                    .build();

            ListUserPoolsResponse response = cognitoClient.listUserPools(request);
            response.userPools().forEach(userpool -> {
                System.out.println("User pool " + userpool.name() + ", User ID " +
 userpool.id());
            });

        } catch (CognitoIdentityProviderException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細についてはAWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListUserPools」を参照してください。

`ListUsers`

次のコード例は、`ListUsers` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.CognitoIdentityProviderClient;
```

```
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.model.CognitoIdentityProviderExcept
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.model.ListUsersRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.model.ListUsersResponse;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ListUsers {
    public static void main(String[] args) {

        final String usage = """

                Usage:
                    <userPoolId>\s

                Where:
                    userPoolId - The ID given to your user pool when it's created.
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String userPoolId = args[0];
        CognitoIdentityProviderClient cognitoClient =
 CognitoIdentityProviderClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        listAllUsers(cognitoClient, userPoolId);
        listUsersFilter(cognitoClient, userPoolId);
        cognitoClient.close();
    }
```

```
    public static void listAllUsers(CognitoIdentityProviderClient cognitoClient,
 String userPoolId) {
        try {
            ListUsersRequest usersRequest = ListUsersRequest.builder()
                    .userPoolId(userPoolId)
                    .build();

            ListUsersResponse response = cognitoClient.listUsers(usersRequest);
            response.users().forEach(user -> {
                System.out.println("User " + user.username() + " Status " +
 user.userStatus() + " Created "
                        + user.userCreateDate());
            });

        } catch (CognitoIdentityProviderException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    // Shows how to list users by using a filter.
    public static void listUsersFilter(CognitoIdentityProviderClient cognitoClient,
 String userPoolId) {

        try {
            String filter = "email = \"tblue@noserver.com\"";
            ListUsersRequest usersRequest = ListUsersRequest.builder()
                    .userPoolId(userPoolId)
                    .filter(filter)
                    .build();

            ListUsersResponse response = cognitoClient.listUsers(usersRequest);
            response.users().forEach(user -> {
                System.out.println("User with filter applied " + user.username() + "
 Status " + user.userStatus()
                        + " Created " + user.userCreateDate());
            });

        } catch (CognitoIdentityProviderException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListUsers」を参照してください。

`ResendConfirmationCode`

次のコード例は、`ResendConfirmationCode` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void resendConfirmationCode(CognitoIdentityProviderClient
identityProviderClient, String clientId,
           String userName) {
       try {
           ResendConfirmationCodeRequest codeRequest =
ResendConfirmationCodeRequest.builder()
                   .clientId(clientId)
                   .username(userName)
                   .build();

           ResendConfirmationCodeResponse response =
identityProviderClient.resendConfirmationCode(codeRequest);
           System.out.println("Method of delivery is " +
response.codeDeliveryDetails().deliveryMediumAsString());

       } catch (CognitoIdentityProviderException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ResendConfirmationCode」を参照してください。

SignUp

次のコード例は、SignUp を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void signUp(CognitoIdentityProviderClient identityProviderClient,
String clientId, String userName,
           String password, String email) {
       AttributeType userAttrs = AttributeType.builder()
               .name("email")
               .value(email)
               .build();

       List<AttributeType> userAttrsList = new ArrayList<>();
       userAttrsList.add(userAttrs);
       try {
           SignUpRequest signUpRequest = SignUpRequest.builder()
                   .userAttributes(userAttrsList)
                   .username(userName)
                   .clientId(clientId)
                   .password(password)
                   .build();

           identityProviderClient.signUp(signUpRequest);
           System.out.println("User has been signed up ");

       } catch (CognitoIdentityProviderException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「SignUp」を参照してください。

`VerifySoftwareToken`

次のコード例は、`VerifySoftwareToken` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   // Verify the TOTP and register for MFA.
   public static void verifyTOTP(CognitoIdentityProviderClient
identityProviderClient, String session, String code) {
       try {
           VerifySoftwareTokenRequest tokenRequest =
VerifySoftwareTokenRequest.builder()
                   .userCode(code)
                   .session(session)
                   .build();

           VerifySoftwareTokenResponse verifyResponse =
identityProviderClient.verifySoftwareToken(tokenRequest);
           System.out.println("The status of the token is " +
verifyResponse.statusAsString());

       } catch (CognitoIdentityProviderException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「VerifySoftwareToken」を参照してください。

シナリオ

MFA を必要とするユーザープールでユーザーをサインアップする

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- ユーザー名、パスワード、E メールアドレスでサインアップしてユーザーを確認します。
- MFA アプリケーションをユーザーに関連付けて、多要素認証を設定します。
- パスワードと MFA コードを使用してサインインします。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.CognitoIdentityProviderClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.model.AdminGetUserRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.model.AdminGetUserResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.model.AdminInitiateAuthRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.model.AdminInitiateAuthResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.model.AdminRespondToAuthChallengeRe
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.model.AdminRespondToAuthChallengeRe
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.model.AssociateSoftwareTokenRequest
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.model.AssociateSoftwareTokenRespons
import software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.model.AttributeType;
import software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.model.AuthFlowType;
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.model.ChallengeNameType;
```

```
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.model.CognitoIdentityProviderExcept
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.model.ConfirmSignUpRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.model.ResendConfirmationCodeRequest
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.model.ResendConfirmationCodeRespons
import software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.model.SignUpRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.model.VerifySoftwareTokenRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.model.VerifySoftwareTokenResponse;
import java.security.InvalidKeyException;
import java.security.NoSuchAlgorithmException;
import java.util.ArrayList;
import java.util.HashMap;
import java.util.List;
import java.util.Map;
import java.util.Scanner;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 *
 * TIP: To set up the required user pool, run the AWS Cloud Development Kit (AWS
 * CDK) script provided in this GitHub repo at
 * resources/cdk/cognito_scenario_user_pool_with_mfa.
 *
 * This code example performs the following operations:
 *
 * 1. Invokes the signUp method to sign up a user.
 * 2. Invokes the adminGetUser method to get the user's confirmation status.
 * 3. Invokes the ResendConfirmationCode method if the user requested another
 * code.
 * 4. Invokes the confirmSignUp method.
 * 5. Invokes the AdminInitiateAuth to sign in. This results in being prompted
 * to set up TOTP (time-based one-time password). (The response is
 * “ChallengeName”: “MFA_SETUP”).
 * 6. Invokes the AssociateSoftwareToken method to generate a TOTP MFA private
```

```
 * key. This can be used with Google Authenticator.
 * 7. Invokes the VerifySoftwareToken method to verify the TOTP and register for
 * MFA.
 * 8. Invokes the AdminInitiateAuth to sign in again. This results in being
 * prompted to submit a TOTP (Response: “ChallengeName”: “SOFTWARE_TOKEN_MFA”).
 * 9. Invokes the AdminRespondToAuthChallenge to get back a token.
 */

public class CognitoMVP {
    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");

    public static void main(String[] args) throws NoSuchAlgorithmException,
 InvalidKeyException {
        final String usage = """

                Usage:
                    <clientId> <poolId>

                Where:
                    clientId - The app client Id value that you can get from the AWS
 CDK script.
                    poolId - The pool Id that you can get from the AWS CDK script.\s
                """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String clientId = args[0];
        String poolId = args[1];
        CognitoIdentityProviderClient identityProviderClient =
 CognitoIdentityProviderClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("Welcome to the Amazon Cognito example scenario.");
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("*** Enter your user name");
        Scanner in = new Scanner(System.in);
        String userName = in.nextLine();
```

```
        System.out.println("*** Enter your password");
        String password = in.nextLine();

        System.out.println("*** Enter your email");
        String email = in.nextLine();

        System.out.println("1. Signing up " + userName);
        signUp(identityProviderClient, clientId, userName, password, email);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("2. Getting " + userName + " in the user pool");
        getAdminUser(identityProviderClient, userName, poolId);

        System.out
                .println("*** Conformation code sent to " + userName + ". Would you
like to send a new code? (Yes/No)");
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        String ans = in.nextLine();

        if (ans.compareTo("Yes") == 0) {
            resendConfirmationCode(identityProviderClient, clientId, userName);
            System.out.println("3. Sending a new confirmation code");
        }
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("4. Enter confirmation code that was emailed");
        String code = in.nextLine();
        confirmSignUp(identityProviderClient, clientId, code, userName);
        System.out.println("Rechecking the status of " + userName + " in the user
pool");
        getAdminUser(identityProviderClient, userName, poolId);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("5. Invokes the initiateAuth to sign in");
        AdminInitiateAuthResponse authResponse =
initiateAuth(identityProviderClient, clientId, userName, password,
                poolId);
        String mySession = authResponse.session();
```

```
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("6. Invokes the AssociateSoftwareToken method to generate
a TOTP key");
        String newSession = getSecretForAppMFA(identityProviderClient, mySession);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("*** Enter the 6-digit code displayed in Google
Authenticator");
        String myCode = in.nextLine();
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("7. Verify the TOTP and register for MFA");
        verifyTOTP(identityProviderClient, newSession, myCode);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("8. Re-enter a 6-digit code displayed in Google
Authenticator");
        String mfaCode = in.nextLine();
        AdminInitiateAuthResponse authResponse1 =
initiateAuth(identityProviderClient, clientId, userName, password,
                poolId);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("9.  Invokes the AdminRespondToAuthChallenge");
        String session2 = authResponse1.session();
        adminRespondToAuthChallenge(identityProviderClient, userName, clientId,
mfaCode, session2);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("All Amazon Cognito operations were successfully
performed");
        System.out.println(DASHES);
    }

    // Respond to an authentication challenge.
    public static void adminRespondToAuthChallenge(CognitoIdentityProviderClient
identityProviderClient,
```

```
            String userName, String clientId, String mfaCode, String session) {
        System.out.println("SOFTWARE_TOKEN_MFA challenge is generated");
        Map<String, String> challengeResponses = new HashMap<>();

        challengeResponses.put("USERNAME", userName);
        challengeResponses.put("SOFTWARE_TOKEN_MFA_CODE", mfaCode);

        AdminRespondToAuthChallengeRequest respondToAuthChallengeRequest =
AdminRespondToAuthChallengeRequest.builder()
                .challengeName(ChallengeNameType.SOFTWARE_TOKEN_MFA)
                .clientId(clientId)
                .challengeResponses(challengeResponses)
                .session(session)
                .build();

        AdminRespondToAuthChallengeResponse respondToAuthChallengeResult =
identityProviderClient
                .adminRespondToAuthChallenge(respondToAuthChallengeRequest);
        System.out.println("respondToAuthChallengeResult.getAuthenticationResult()"
                + respondToAuthChallengeResult.authenticationResult());
    }

    // Verify the TOTP and register for MFA.
    public static void verifyTOTP(CognitoIdentityProviderClient
identityProviderClient, String session, String code) {
        try {
            VerifySoftwareTokenRequest tokenRequest =
VerifySoftwareTokenRequest.builder()
                    .userCode(code)
                    .session(session)
                    .build();

            VerifySoftwareTokenResponse verifyResponse =
identityProviderClient.verifySoftwareToken(tokenRequest);
            System.out.println("The status of the token is " +
verifyResponse.statusAsString());

        } catch (CognitoIdentityProviderException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

```
   public static AdminInitiateAuthResponse
initiateAuth(CognitoIdentityProviderClient identityProviderClient,
           String clientId, String userName, String password, String userPoolId) {
       try {
           Map<String, String> authParameters = new HashMap<>();
           authParameters.put("USERNAME", userName);
           authParameters.put("PASSWORD", password);

           AdminInitiateAuthRequest authRequest =
AdminInitiateAuthRequest.builder()
                   .clientId(clientId)
                   .userPoolId(userPoolId)
                   .authParameters(authParameters)
                   .authFlow(AuthFlowType.ADMIN_USER_PASSWORD_AUTH)
                   .build();

           AdminInitiateAuthResponse response =
identityProviderClient.adminInitiateAuth(authRequest);
           System.out.println("Result Challenge is : " + response.challengeName());
           return response;

       } catch (CognitoIdentityProviderException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }

       return null;
   }

   public static String getSecretForAppMFA(CognitoIdentityProviderClient
identityProviderClient, String session) {
       AssociateSoftwareTokenRequest softwareTokenRequest =
AssociateSoftwareTokenRequest.builder()
               .session(session)
               .build();

       AssociateSoftwareTokenResponse tokenResponse = identityProviderClient
               .associateSoftwareToken(softwareTokenRequest);
       String secretCode = tokenResponse.secretCode();
       System.out.println("Enter this token into Google Authenticator");
       System.out.println(secretCode);
       return tokenResponse.session();
   }
```

```
   public static void confirmSignUp(CognitoIdentityProviderClient
identityProviderClient, String clientId, String code,
           String userName) {
       try {
           ConfirmSignUpRequest signUpRequest = ConfirmSignUpRequest.builder()
                   .clientId(clientId)
                   .confirmationCode(code)
                   .username(userName)
                   .build();

           identityProviderClient.confirmSignUp(signUpRequest);
           System.out.println(userName + " was confirmed");

       } catch (CognitoIdentityProviderException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }

   public static void resendConfirmationCode(CognitoIdentityProviderClient
identityProviderClient, String clientId,
           String userName) {
       try {
           ResendConfirmationCodeRequest codeRequest =
ResendConfirmationCodeRequest.builder()
                   .clientId(clientId)
                   .username(userName)
                   .build();

           ResendConfirmationCodeResponse response =
identityProviderClient.resendConfirmationCode(codeRequest);
           System.out.println("Method of delivery is " +
response.codeDeliveryDetails().deliveryMediumAsString());

       } catch (CognitoIdentityProviderException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }

   public static void signUp(CognitoIdentityProviderClient identityProviderClient,
String clientId, String userName,
           String password, String email) {
       AttributeType userAttrs = AttributeType.builder()
```

```
                .name("email")
                .value(email)
                .build();

        List<AttributeType> userAttrsList = new ArrayList<>();
        userAttrsList.add(userAttrs);
        try {
            SignUpRequest signUpRequest = SignUpRequest.builder()
                    .userAttributes(userAttrsList)
                    .username(userName)
                    .clientId(clientId)
                    .password(password)
                    .build();

            identityProviderClient.signUp(signUpRequest);
            System.out.println("User has been signed up ");

        } catch (CognitoIdentityProviderException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void getAdminUser(CognitoIdentityProviderClient
 identityProviderClient, String userName,
            String poolId) {
        try {
            AdminGetUserRequest userRequest = AdminGetUserRequest.builder()
                    .username(userName)
                    .userPoolId(poolId)
                    .build();

            AdminGetUserResponse response =
 identityProviderClient.adminGetUser(userRequest);
            System.out.println("User status " + response.userStatusAsString());

        } catch (CognitoIdentityProviderException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - AdminGetUser
  - AdminInitiateAuth
  - AdminRespondToAuthChallenge
  - AssociateSoftwareToken
  - ConfirmDevice
  - ConfirmSignUp
  - InitiateAuth
  - ListUsers
  - ResendConfirmationCode
  - RespondToAuthChallenge
  - SignUp
  - VerifySoftwareToken

SDK for Java 2.x を使用する Amazon Comprehend の例

次のコード例は、Amazon Comprehend AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- アクション
- シナリオ

アクション

`CreateDocumentClassifier`

次のコード例は、`CreateDocumentClassifier` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.comprehend.ComprehendClient;
import software.amazon.awssdk.services.comprehend.model.ComprehendException;
import
 software.amazon.awssdk.services.comprehend.model.CreateDocumentClassifierRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.comprehend.model.CreateDocumentClassifierResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.comprehend.model.DocumentClassifierInputDataConfig;

/**
 * Before running this code example, you can setup the necessary resources, such
 * as the CSV file and IAM Roles, by following this document:
 * https://aws.amazon.com/blogs/machine-learning/building-a-custom-classifier-using-
amazon-comprehend/
 *
 * Also, set up your development environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DocumentClassifierDemo {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:    <dataAccessRoleArn> <s3Uri> <documentClassifierName>
```

```
                Where:
                  dataAccessRoleArn - The ARN value of the role used for this
operation.
                  s3Uri - The Amazon S3 bucket that contains the CSV file.
                  documentClassifierName - The name of the document classifier.
                """;

       if (args.length != 3) {
           System.out.println(usage);
           System.exit(1);
       }

       String dataAccessRoleArn = args[0];
       String s3Uri = args[1];
       String documentClassifierName = args[2];

       Region region = Region.US_EAST_1;
       ComprehendClient comClient = ComprehendClient.builder()
               .region(region)
               .build();

       createDocumentClassifier(comClient, dataAccessRoleArn, s3Uri,
documentClassifierName);
       comClient.close();
   }

   public static void createDocumentClassifier(ComprehendClient comClient, String
dataAccessRoleArn, String s3Uri,
           String documentClassifierName) {
       try {
           DocumentClassifierInputDataConfig config =
DocumentClassifierInputDataConfig.builder()
                   .s3Uri(s3Uri)
                   .build();

           CreateDocumentClassifierRequest createDocumentClassifierRequest =
CreateDocumentClassifierRequest.builder()
                   .documentClassifierName(documentClassifierName)
                   .dataAccessRoleArn(dataAccessRoleArn)
                   .languageCode("en")
                   .inputDataConfig(config)
                   .build();
```

```
            CreateDocumentClassifierResponse createDocumentClassifierResult =
 comClient
                    .createDocumentClassifier(createDocumentClassifierRequest);
            String documentClassifierArn =
 createDocumentClassifierResult.documentClassifierArn();
            System.out.println("Document Classifier ARN: " + documentClassifierArn);

        } catch (ComprehendException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateDocumentClassifier」を参照してください。

`DetectDominantLanguage`

次のコード例は、`DetectDominantLanguage` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.comprehend.ComprehendClient;
import software.amazon.awssdk.services.comprehend.model.ComprehendException;
import
 software.amazon.awssdk.services.comprehend.model.DetectDominantLanguageRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.comprehend.model.DetectDominantLanguageResponse;
import software.amazon.awssdk.services.comprehend.model.DominantLanguage;
import java.util.List;

/**
```

```
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DetectLanguage {
    public static void main(String[] args) {
        // Specify French text - "It is raining today in Seattle".
        String text = "Il pleut aujourd'hui à Seattle";
        Region region = Region.US_EAST_1;

        ComprehendClient comClient = ComprehendClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        System.out.println("Calling DetectDominantLanguage");
        detectTheDominantLanguage(comClient, text);
        comClient.close();
    }

    public static void detectTheDominantLanguage(ComprehendClient comClient, String
 text) {
        try {
            DetectDominantLanguageRequest request =
 DetectDominantLanguageRequest.builder()
                    .text(text)
                    .build();

            DetectDominantLanguageResponse resp =
 comClient.detectDominantLanguage(request);
            List<DominantLanguage> allLanList = resp.languages();
            for (DominantLanguage lang : allLanList) {
                System.out.println("Language is " + lang.languageCode());
            }

        } catch (ComprehendException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DetectDominantLanguage」を参照してください。

`DetectEntities`

次のコード例は、`DetectEntities` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.comprehend.ComprehendClient;
import software.amazon.awssdk.services.comprehend.model.DetectEntitiesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.comprehend.model.DetectEntitiesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.comprehend.model.Entity;
import software.amazon.awssdk.services.comprehend.model.ComprehendException;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DetectEntities {
    public static void main(String[] args) {
        String text = "Amazon.com, Inc. is located in Seattle, WA and was founded
 July 5th, 1994 by Jeff Bezos, allowing customers to buy everything from books to
 blenders. Seattle is north of Portland and south of Vancouver, BC. Other notable
 Seattle - based companies are Starbucks and Boeing.";
        Region region = Region.US_EAST_1;
        ComprehendClient comClient = ComprehendClient.builder()
```

```
                .region(region)
                .build();

        System.out.println("Calling DetectEntities");
        detectAllEntities(comClient, text);
        comClient.close();
    }

    public static void detectAllEntities(ComprehendClient comClient, String text) {
        try {
            DetectEntitiesRequest detectEntitiesRequest =
 DetectEntitiesRequest.builder()
                    .text(text)
                    .languageCode("en")
                    .build();

            DetectEntitiesResponse detectEntitiesResult =
 comClient.detectEntities(detectEntitiesRequest);
            List<Entity> entList = detectEntitiesResult.entities();
            for (Entity entity : entList) {
                System.out.println("Entity text is " + entity.text());
            }

        } catch (ComprehendException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DetectEntities」を参照してください。

DetectKeyPhrases

次のコード例は、DetectKeyPhrases を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.comprehend.ComprehendClient;
import software.amazon.awssdk.services.comprehend.model.DetectKeyPhrasesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.comprehend.model.DetectKeyPhrasesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.comprehend.model.KeyPhrase;
import software.amazon.awssdk.services.comprehend.model.ComprehendException;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DetectKeyPhrases {
    public static void main(String[] args) {
        String text = "Amazon.com, Inc. is located in Seattle, WA and was founded
 July 5th, 1994 by Jeff Bezos, allowing customers to buy everything from books to
 blenders. Seattle is north of Portland and south of Vancouver, BC. Other notable
 Seattle - based companies are Starbucks and Boeing.";
        Region region = Region.US_EAST_1;
        ComprehendClient comClient = ComprehendClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        System.out.println("Calling DetectKeyPhrases");
        detectAllKeyPhrases(comClient, text);
        comClient.close();
    }

    public static void detectAllKeyPhrases(ComprehendClient comClient, String text)
 {
```

```
        try {
            DetectKeyPhrasesRequest detectKeyPhrasesRequest =
 DetectKeyPhrasesRequest.builder()
                    .text(text)
                    .languageCode("en")
                    .build();

            DetectKeyPhrasesResponse detectKeyPhrasesResult =
 comClient.detectKeyPhrases(detectKeyPhrasesRequest);
            List<KeyPhrase> phraseList = detectKeyPhrasesResult.keyPhrases();
            for (KeyPhrase keyPhrase : phraseList) {
                System.out.println("Key phrase text is " + keyPhrase.text());
            }

        } catch (ComprehendException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DetectKeyPhrases」を参照してください。

`DetectSentiment`

次のコード例は、`DetectSentiment` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.comprehend.ComprehendClient;
import software.amazon.awssdk.services.comprehend.model.ComprehendException;
import software.amazon.awssdk.services.comprehend.model.DetectSentimentRequest;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.comprehend.model.DetectSentimentResponse;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DetectSentiment {
    public static void main(String[] args) {
        String text = "Amazon.com, Inc. is located in Seattle, WA and was founded
 July 5th, 1994 by Jeff Bezos, allowing customers to buy everything from books to
 blenders. Seattle is north of Portland and south of Vancouver, BC. Other notable
 Seattle - based companies are Starbucks and Boeing.";
        Region region = Region.US_EAST_1;
        ComprehendClient comClient = ComprehendClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        System.out.println("Calling DetectSentiment");
        detectSentiments(comClient, text);
        comClient.close();
    }

    public static void detectSentiments(ComprehendClient comClient, String text) {
        try {
            DetectSentimentRequest detectSentimentRequest =
 DetectSentimentRequest.builder()
                    .text(text)
                    .languageCode("en")
                    .build();

            DetectSentimentResponse detectSentimentResult =
 comClient.detectSentiment(detectSentimentRequest);
            System.out.println("The Neutral value is " +
 detectSentimentResult.sentimentScore().neutral());

        } catch (ComprehendException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

```
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DetectSentiment」を参照してください。

`DetectSyntax`

次のコード例は、`DetectSyntax` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.comprehend.ComprehendClient;
import software.amazon.awssdk.services.comprehend.model.ComprehendException;
import software.amazon.awssdk.services.comprehend.model.DetectSyntaxRequest;
import software.amazon.awssdk.services.comprehend.model.DetectSyntaxResponse;
import software.amazon.awssdk.services.comprehend.model.SyntaxToken;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DetectSyntax {
    public static void main(String[] args) {
        String text = "Amazon.com, Inc. is located in Seattle, WA and was founded
 July 5th, 1994 by Jeff Bezos, allowing customers to buy everything from books to
 blenders. Seattle is north of Portland and south of Vancouver, BC. Other notable
 Seattle - based companies are Starbucks and Boeing.";
        Region region = Region.US_EAST_1;
```

```
        ComprehendClient comClient = ComprehendClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        System.out.println("Calling DetectSyntax");
        detectAllSyntax(comClient, text);
        comClient.close();
    }

    public static void detectAllSyntax(ComprehendClient comClient, String text) {
        try {
            DetectSyntaxRequest detectSyntaxRequest = DetectSyntaxRequest.builder()
                    .text(text)
                    .languageCode("en")
                    .build();

            DetectSyntaxResponse detectSyntaxResult =
 comClient.detectSyntax(detectSyntaxRequest);
            List<SyntaxToken> syntaxTokens = detectSyntaxResult.syntaxTokens();
            for (SyntaxToken token : syntaxTokens) {
                System.out.println("Language is " + token.text());
                System.out.println("Part of speech is " +
 token.partOfSpeech().tagAsString());
            }

        } catch (ComprehendException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DetectSyntax」を参照してください。

シナリオ

Amazon Lex V2 チャットボットの構築

次のコード例は、ウェブサイトの訪問者を引き付けるチャットボットの作成方法を示しています。

SDK for Java 2.x

Amazon Lex V2 API を使用してウェブアプリケーション内に Chatbot を作成し、ウェブサイトの訪問者を引き付ける方法を示します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- Amazon Comprehend
- Amazon Lex V2
- Amazon Translate

メッセージングアプリケーションを作成する

次のコード例は、Amazon SQS を使用してメッセージングアプリケーションを作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

Amazon SQS API を使用して、メッセージを送受信する Spring REST API を開発する方法を示します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- Amazon Comprehend
- Amazon SQS

顧客からのフィードバックを分析するアプリケーションの作成

次のコード例は、顧客のコメントカードを分析し、元の言語から翻訳し、顧客の感情を判断して、翻訳されたテキストから音声ファイルを生成するアプリケーションの作成方法を示しています。

SDK for Java 2.x

このサンプルアプリケーションは、顧客フィードバックカードを分析し、保存します。具体的には、ニューヨーク市の架空のホテルのニーズを満たします。このホテルでは、お客様からの

フィードバックをさまざまな言語で書かれた実際のコメントカードの形で受け取ります。そのフィードバックは、ウェブクライアントを通じてアプリにアップロードされます。コメントカードの画像をアップロードされると、次の手順が発生します。

- テキストは Amazon Textract を使用して、画像から抽出されます。
- Amazon Comprehend は、抽出したテキストの感情とその言語を分析します。
- 抽出されたテキストは、Amazon Translate を使用して英語に翻訳されます。
- Amazon Polly は抽出したテキストから音声ファイルを合成します。

完全なアプリは AWS CDK を使用してデプロイすることができます。ソースコードとデプロイ手順については、GitHub のプロジェクトを参照してください。

この例で使用されているサービス

- Amazon Comprehend
- Lambda
- Amazon Polly
- Amazon Textract
- Amazon Translate

AWS Control Tower SDK for Java 2.x を使用した例

次のコード例は、 AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています AWS Control Tower。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- はじめに
- 基本
- アクション

はじめに

こんにち AWS Control Towerは

次のコード例は、 AWS Control Towerの使用を開始する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
public class HelloControlTower {

    public static void main(String[] args) {
        try {
            ControlTowerClient controlTowerClient = ControlTowerClient.builder()
                .build() ;
            helloControlTower(controlTowerClient);
        } catch (ControlTowerException e) {
            System.out.println("Control Tower error occurred: " +
 e.awsErrorDetails().errorMessage());
        }
    }

    /**
     * Use the AWS SDK for Java (v2) to create an AWS Control Tower client
     * and list all available baselines.
     * This example uses the default settings specified in your shared credentials
     * and config files.
     *
     * @param controlTowerClient A ControlTowerClient object. This object wraps
     *                           the low-level AWS Control Tower service API.
     */
    public static void helloControlTower(ControlTowerClient controlTowerClient) {
        System.out.println("Hello, AWS Control Tower! Let's list available
 baselines:\n");

        ListBaselinesIterable paginator = controlTowerClient.listBaselinesPaginator(
                ListBaselinesRequest.builder().build());
```

```
        List<String> baselineNames = new ArrayList<>();

        try {
            paginator.stream()
                .flatMap(response -> response.baselines().stream())
                    .forEach(baseline -> baselineNames.add(baseline.name()));

            System.out.println(baselineNames.size() + " baseline(s) retrieved.");
            for (String baselineName : baselineNames) {
                System.out.println("\t" + baselineName);
            }

        } catch (ControlTowerException e) {
            if ("AccessDeniedException".equals(e.awsErrorDetails().errorCode())) {
                System.out.println("Access denied. Please ensure you have the
 necessary permissions.");
            } else {
                System.out.println("An error occurred: " + e.getMessage());
            }
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListBaselines」を参照してください。

基本

基本を学ぶ

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- ランディングゾーンを一覧表示します。
- ベースラインを一覧表示、有効化、取得、リセット、無効化する。
- コントロールを一覧表示、有効化、取得、無効化する。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

AWS Control Tower 機能を示すインタラクティブなシナリオを実行します。

```
public class ControlTowerScenario {
    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");
    private static final Scanner scanner = new Scanner(in);

    private static OrganizationsClient orgClient;
    private static ControlCatalogClient catClient;

    private static String ouId = null;
    private static String ouArn = null;
    private static String landingZoneArn = null;
    private static boolean useLandingZone = false;

    private String stack = null;
    private String accountId = null;

    public static void main(String[] args) {

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("Welcome to the AWS Control Tower basics scenario!");
        System.out.println(DASHES);

        try {
            runScenarioAsync();
        } catch (Exception e) {
            e.printStackTrace();
        }
    }

    // ----------------------------
    // Utilities
    // ----------------------------
    private static boolean askYesNo(String msg) {
        System.out.println(msg);
```

```
        return scanner.nextLine().trim().toLowerCase().startsWith("y");
    }

    private static void runScenarioAsync() {
        try {
            ControlTowerActions actions = new ControlTowerActions();

            // ------------------------------
            // Step 1: Landing Zones
            // ------------------------------
            System.out.println(DASHES);
            System.out.println("""
        Some demo operations require the use of a landing zone.
        You can use an existing landing zone or opt out of these operations in the
 demo.
        For instructions on how to set up a landing zone,
        see https://docs.aws.amazon.com/controltower/latest/userguide/getting-
started-from-console.html
        """);

            System.out.println("Step 1: Listing landing zones...");
            waitForInputToContinue(scanner);

            List<LandingZoneSummary> landingZones =
                    actions.listLandingZonesAsync().join();

            if (landingZones.isEmpty()) {
                System.out.println("No landing zones found. Landing-zone-dependent
 steps will be skipped.");
                useLandingZone = false;
                waitForInputToContinue(scanner);
            } else {
                System.out.println("\nAvailable Landing Zones:");
                for (int i = 0; i < landingZones.size(); i++) {
                    System.out.printf("%d) %s%n", i + 1, landingZones.get(i).arn());
                }

                if (askYesNo("Do you want to use the first landing zone in the list
 (" +
                        landingZones.get(0).arn() + ")? (y/n): ")) {
                    useLandingZone = true;
                    landingZoneArn = landingZones.get(0).arn();
                } else if (askYesNo("Do you want to use a different existing Landing
 Zone for this demo? (y/n): ")) {
```

```
                    useLandingZone = true;
                    System.out.println("Enter landing zone ARN: ");
                    landingZoneArn = scanner.nextLine().trim();
                } else {
                    System.out.println("Proceeding without a landing zone.");
                    useLandingZone = false;
                    waitForInputToContinue(scanner);
                }
            }

            // ------------------------------
            // Setup Organization + Sandbox OU
            // ------------------------------
            if (useLandingZone) {
                System.out.println("Using landing zone ARN: " + landingZoneArn);

                ControlTowerActions.OrgSetupResult result =
                        actions.setupOrganizationAsync().join();

                ouArn = result.sandboxOuArn();
                ouId  = result.sandboxOuArn();

                System.out.println("Organization ID: " + result.orgId());
                System.out.println("Using Sandbox OU ARN: " + ouArn);
            }

            // ------------------------------
            // Step 2: Baselines
            // ------------------------------
            System.out.println(DASHES);
            System.out.println("Step 2: Listing available baselines...");
            System.out.println("""
In this step, the program lists available AWS Control Tower baselines and may
 perform
baseline-related operations (enable, disable, reset) if requested.

NOTE:
AWS Control Tower enforces governance through baselines and mandatory controls
(guardrails). Mandatory controls are required for landing zone governance and may
restrict certain operations depending on the account, region, or organizational
 policy.

For more information, see:
- Types of baselines in AWS Control Tower:
```

```
  https://docs.aws.amazon.com/controltower/latest/userguide/types-of-baselines.html
- Mandatory controls (guardrails) in AWS Control Tower:
  https://docs.aws.amazon.com/controltower/latest/controlreference/mandatory-
controls.html
- Baseline API examples:
  https://docs.aws.amazon.com/controltower/latest/userguide/baseline-api-
examples.html
""");



            waitForInputToContinue(scanner);
            List<BaselineSummary> baselines =
                    actions.listBaselinesAsync().join();

            BaselineSummary controlTowerBaseline = null;
            for (BaselineSummary b : baselines) {
                System.out.println("Baseline: " + b.name());
                System.out.println("  ARN: " + b.arn());
                if ("AWSControlTowerBaseline".equals(b.name())) {
                    controlTowerBaseline = b;
                }
            }

            waitForInputToContinue(scanner);

            if (useLandingZone && controlTowerBaseline != null) {

                System.out.println("\nListing enabled baselines:");
                List<EnabledBaselineSummary> enabledBaselines =
                        actions.listEnabledBaselinesAsync().join();

                String enabledBaselineArn = null;
                for (EnabledBaselineSummary eb : enabledBaselines) {
                    System.out.println("Checking enabled baseline ARN: " +
 eb.arn());
                    if (eb.baselineIdentifier().equals(controlTowerBaseline.arn()))
 {
                        enabledBaselineArn = eb.arn(); // correct enabled ARN for
 this baseline
                        break; // stop after finding the matching one
                    }
                }
```

```
                if (enabledBaselineArn == null) {
                    System.out.println("No enabled baseline found for " +
 controlTowerBaseline.arn());
                } else {
                    System.out.println("Selected enabled baseline ARN for reset/
disable: " + enabledBaselineArn);
                }


                // Enable the Baseline
                if (askYesNo("Do you want to enable the Control Tower Baseline? (y/
n): ")) {
                    System.out.println("\nEnabling Control Tower Baseline...");

                    String baselineId = controlTowerBaseline.arn();
                    String enabledBaselineId =
                            actions.enableBaselineAsync(
                                    ouArn,                  // targetIdentifier #
 the OU or account ARN
                                    baselineId,             // baselineIdentifier #
 the Control Tower baseline ARN
                                    "5.0"                   // baselineVersion #
 version string
                            ).join();


                    System.out.println("Enabled baseline operation ID: " +
 enabledBaselineId);
                    if (enabledBaselineId == null) {
                       enabledBaselineId = enabledBaselineArn;
                    }

                    // Reset the Baseline
                    if (askYesNo("Do you want to reset the Control Tower Baseline?
 (y/n): ")) {
                        String operationId =

 actions.resetEnabledBaselineAsync(enabledBaselineId).join();
                        System.out.println("Reset baseline operation ID: " +
 operationId);
                    }

                    if (askYesNo("Do you want to disable the Control Tower Baseline?
 (y/n): ")) {
```

```
                        String operationId =

actions.disableBaselineAsync(enabledBaselineId).join();
                        System.out.println("Disabled baseline operation ID: " +
operationId);

                        System.out.println("Now we will re-enable the baseline and
wait 1 minute before making the call...");
                        try {
                            Thread.sleep(Duration.ofMinutes(1).toMillis());
                        } catch (InterruptedException e) {
                            Thread.currentThread().interrupt();
                            System.out.println("Wait interrupted");
                        }
                        String reEnabledBaselineId = actions.enableBaselineAsync(
                                ouArn,
                                baselineId,  // reuse baseline definition ARN
                                "5.0"
                        ).join();

                        System.out.println("Re-enabled baseline operation ID: " +
reEnabledBaselineId);
                    }
                }
            }

            // ------------------------------
            // Step 3: Controls
            // ------------------------------
            System.out.println(DASHES);
            System.out.println("Step 3: Managing Controls:");
            waitForInputToContinue(scanner);

            List<ControlSummary> controls =
                    actions.listControlsAsync().join();

            System.out.println("\nListing first 5 available Controls:");
            for (int i = 0; i < Math.min(5, controls.size()); i++) {
                ControlSummary c = controls.get(i);
                System.out.println("%d. %s - %s".formatted(i + 1, c.name(),
c.arn()));
            }

            if (useLandingZone) {
```

```
                waitForInputToContinue(scanner);

                List<EnabledControlSummary> enabledControls =
                        actions.listEnabledControlsAsync(ouArn).join();

                System.out.println("\nListing enabled controls:");
                for (int i = 0; i < enabledControls.size(); i++) {
                    System.out.println("%d. %s".formatted(i + 1,
enabledControls.get(i).controlIdentifier()));
                }

                String controlArnToEnable = null;
                for (ControlSummary control : controls) {
                    boolean enabled = enabledControls.stream()
                            .anyMatch(ec ->
ec.controlIdentifier().equals(control.arn()));
                    if (!enabled) {
                        controlArnToEnable = control.arn();
                        break;
                    }
                }

                waitForInputToContinue(scanner);
                if (controlArnToEnable != null &&
                        askYesNo("Do you want to enable the control " +
controlArnToEnable + "? (y/n): ")) {

                    String operationId =
                            actions.enableControlAsync(controlArnToEnable,
ouArn).join();

                    System.out.println("Enabled control with operation ID: " +
operationId);
                }

                waitForInputToContinue(scanner);

                if (controlArnToEnable != null &&
                        askYesNo("Do you want to disable the control? (y/n): ")) {

                    String operationId =
                            actions.disableControlAsync(controlArnToEnable,
ouArn).join();
```

```
                    System.out.println("Disable operation ID: " + operationId);
                }
            }
            System.out.println("\nThis concludes the example scenario.");
            System.out.println("Thanks for watching!");
            System.out.println(DASHES);

        } catch (CompletionException e) {
            Throwable cause = e.getCause() != null ? e.getCause() : e;
            System.out.println("Scenario failed: " + cause.getMessage());
            throw e; // bubble up for tests / callers
        } catch (Exception e) {
            System.out.println("Unexpected error running scenario: " +
 e.getMessage());
            throw new RuntimeException(e);
        }
    }

    private static void waitForInputToContinue(Scanner sc) {
        System.out.println("\nEnter 'c' then <ENTER> to continue:");
        while (true) {
            String input = sc.nextLine();
            if ("c".equalsIgnoreCase(input.trim())) {
                System.out.println("Continuing...");
                break;
            }
        }
    }
}

public class ControlTowerActions {
    private static ControlCatalogAsyncClient controlCatalogAsyncClient;
    private static ControlTowerAsyncClient controlTowerAsyncClient;
    private static OrganizationsAsyncClient orgAsyncClient;

    private static OrganizationsAsyncClient getAsyncOrgClient() {
        if (orgAsyncClient == null) {
            SdkAsyncHttpClient httpClient = NettyNioAsyncHttpClient.builder()
                    .maxConcurrency(50)
                    .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                    .readTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                    .writeTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                    .build();
```

```
            ClientOverrideConfiguration overrideConfig =
ClientOverrideConfiguration.builder()
                    .apiCallTimeout(Duration.ofMinutes(2))
                    .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(90))
                    .build();

            orgAsyncClient = OrganizationsAsyncClient.builder()
                    .httpClient(httpClient)
                    .overrideConfiguration(overrideConfig)
                    .build();
        }
        return orgAsyncClient;
    }

    private static ControlCatalogAsyncClient getAsyncCatClient() {
        if (controlCatalogAsyncClient == null) {
            SdkAsyncHttpClient httpClient = NettyNioAsyncHttpClient.builder()
                    .maxConcurrency(100)
                    .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                    .readTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                    .writeTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                    .build();

            ClientOverrideConfiguration overrideConfig =
ClientOverrideConfiguration.builder()
                    .apiCallTimeout(Duration.ofMinutes(2))
                    .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(90))
                    .retryStrategy(RetryMode.STANDARD)
                    .build();

            controlCatalogAsyncClient = ControlCatalogAsyncClient.builder()
                    .httpClient(httpClient)
                    .overrideConfiguration(overrideConfig)
                    .build();
        }
        return controlCatalogAsyncClient;
    }

    private static ControlTowerAsyncClient getAsyncClient() {
        if (controlTowerAsyncClient == null) {

            SdkAsyncHttpClient httpClient =
                    AwsCrtAsyncHttpClient.builder()
                            .maxConcurrency(100)
```

```
                        .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                        .build();

            ClientOverrideConfiguration overrideConfig =
                    ClientOverrideConfiguration.builder()
                        .apiCallTimeout(Duration.ofMinutes(2))
                        .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(90))
                        .retryStrategy(RetryMode.STANDARD)
                        .build();

            controlTowerAsyncClient =
                    ControlTowerAsyncClient.builder()
                        .httpClient(httpClient)
                        .overrideConfiguration(overrideConfig)
                        .build();
        }

        return controlTowerAsyncClient;
    }

    public record OrgSetupResult(String orgId, String sandboxOuArn) {
    }

    public CompletableFuture<OrgSetupResult> setupOrganizationAsync() {
        System.out.println("Starting organization setup…");

        OrganizationsAsyncClient client = getAsyncOrgClient();

        // Step 1: Describe or create organization
        CompletableFuture<Organization> orgFuture = client.describeOrganization()
                .thenApply(desc -> {
                    System.out.println("Organization exists: " +
desc.organization().id());
                    return desc.organization();
                })
                .exceptionallyCompose(ex -> {
                    Throwable cause = ex.getCause() != null ? ex.getCause() : ex;
                    if (cause instanceof AwsServiceException awsEx &&

"AWSOrganizationsNotInUseException".equals(awsEx.awsErrorDetails().errorCode())) {
                        System.out.println("No organization found. Creating one…");
                        return
client.createOrganization(CreateOrganizationRequest.builder()
                                        .featureSet(OrganizationFeatureSet.ALL)
```

```
                                        .build())
                                .thenApply(createResp -> {
                                    System.out.println("Created organization: {}" +
createResp.organization().id());
                                    return createResp.organization();
                                });
                    }
                    return CompletableFuture.failedFuture(
                            new CompletionException("Failed to describe or create
organization", cause)
                    );
                });

        // Step 2: Locate Sandbox OU
        return orgFuture.thenCompose(org -> {
            String orgId = org.id();
            System.out.println("Organization ID: {}" + orgId);

            return client.listRoots()
                    .thenCompose(rootsResp -> {
                        if (rootsResp.roots().isEmpty()) {
                            return CompletableFuture.failedFuture(
                                    new RuntimeException("No root found in
organization")
                            );
                        }
                        String rootId = rootsResp.roots().get(0).id();

                        ListOrganizationalUnitsForParentRequest ouRequest =
                                ListOrganizationalUnitsForParentRequest.builder()
                                        .parentId(rootId)
                                        .build();

                        ListOrganizationalUnitsForParentPublisher paginator =

client.listOrganizationalUnitsForParentPaginator(ouRequest);

                        AtomicReference<String> sandboxOuArnRef = new
AtomicReference<>();
                        return paginator.subscribe(page -> {
                                    for (OrganizationalUnit ou :
page.organizationalUnits()) {
                                        if ("Sandbox".equals(ou.name())) {
                                            sandboxOuArnRef.set(ou.arn());
```

```
                                            System.out.println("Found Sandbox OU: "
 + ou.id());
                                            break;
                                        }
                                    }
                                })
                                .thenApply(v -> {
                                    String sandboxArn = sandboxOuArnRef.get();
                                    if (sandboxArn == null) {
                                        System.out.println("Sandbox OU not found.");
                                    }
                                    return new OrgSetupResult(orgId, sandboxArn);
                                });
                    });
        }).exceptionally(ex -> {
            Throwable cause = ex.getCause() != null ? ex.getCause() : ex;
            System.out.println("Failed to setup organization: {}" +
 cause.getMessage());
            throw new CompletionException(cause);
        });
    }

    /**
     * Lists all landing zones using pagination to retrieve complete results.
     *
     * @return a list of all landing zones
     * @throws ControlTowerException if a service-specific error occurs
     * @throws SdkException          if an SDK error occurs
     */
    public CompletableFuture<List<LandingZoneSummary>> listLandingZonesAsync() {
        System.out.println("Starting list landing zones paginator…");

        ListLandingZonesRequest request = ListLandingZonesRequest.builder().build();
        ListLandingZonesPublisher paginator =
 getAsyncClient().listLandingZonesPaginator(request);
        List<LandingZoneSummary> landingZones = new ArrayList<>();

        return paginator.subscribe(response -> {
                    if (response.landingZones() != null && !
response.landingZones().isEmpty()) {
                        response.landingZones().forEach(lz -> {
                            System.out.println("Landing zone ARN: " + lz.arn());
                            landingZones.add(lz);
                        });
```

```
                    } else {
                        System.out.println("Page contained no landing zones.");
                    }
                })
                .thenRun(() -> System.out.println("Successfully retrieved "+
landingZones.size() + " landing zones." ))
                .thenApply(v -> landingZones)
                .exceptionally(ex -> {
                    Throwable cause = ex.getCause() != null ? ex.getCause() : ex;

                    if (cause instanceof ControlTowerException e) {
                        String errorCode = e.awsErrorDetails().errorCode();
                        switch (errorCode) {
                            case "AccessDeniedException":
                                throw new CompletionException(
                                        "Access denied when listing landing zones: "
+ e.getMessage(), e);
                            default:
                                throw new CompletionException(
                                        "Error listing landing zones: " +
e.getMessage(), e);
                        }
                    }

                    if (cause instanceof SdkException) {
                        throw new CompletionException(
                                "SDK error listing landing zones: " +
cause.getMessage(), cause);
                    }

                    throw new CompletionException("Failed to list landing zones",
cause);
                });
    }


    /**
     * Lists all available baselines using pagination to retrieve complete results.
     *
     * @return a list of all baselines
     * @throws ControlTowerException if a service-specific error occurs
     * @throws SdkException          if an SDK error occurs
     */
    public CompletableFuture<List<BaselineSummary>> listBaselinesAsync() {
```

```
        System.out.println("Starting list baselines paginator…");
        ListBaselinesRequest request = ListBaselinesRequest.builder().build();
        ListBaselinesPublisher paginator =
                getAsyncClient().listBaselinesPaginator(request);

        List<BaselineSummary> baselines = new ArrayList<>();
        return paginator.subscribe(response -> {
                    if (response.baselines() != null && !
response.baselines().isEmpty()) {
                        response.baselines().forEach(baseline -> {
                            baselines.add(baseline);
                        });
                    } else {
                        System.out.println("Page contained no baselines.");
                    }
                })
                .thenRun(() ->
                        System.out.println("Successfully listed baselines. Total: "
 + baselines.size())
                )
                .thenApply(v -> baselines)
                .exceptionally(ex -> {
                    Throwable cause = ex.getCause() != null ? ex.getCause() : ex;

                    if (cause instanceof ControlTowerException e) {
                        String errorCode = e.awsErrorDetails().errorCode();

                        if ("AccessDeniedException".equals(errorCode)) {
                            throw new CompletionException(
                                    "Access denied when listing baselines:
 %s".formatted(e.getMessage()),
                                    e
                            );
                        }

                        throw new CompletionException(
                                "Error listing baselines:
 %s".formatted(e.getMessage()),
                                e
                        );
                    }

                    if (cause instanceof SdkException) {
                        throw new CompletionException(
```

```
                                "SDK error listing baselines:
%s".formatted(cause.getMessage()),
                                cause
                        );
                    }

                    throw new CompletionException("Failed to list baselines",
cause);
                });
    }

    /**
     * Lists all enabled baselines using pagination to retrieve complete results.
     *
     * @return a list of all enabled baselines
     * @throws ControlTowerException if a service-specific error occurs
     * @throws SdkException          if an SDK error occurs
     */
    public CompletableFuture<List<EnabledBaselineSummary>>
listEnabledBaselinesAsync() {
        System.out.println("Starting list enabled baselines paginator…");

        ListEnabledBaselinesRequest request =
                ListEnabledBaselinesRequest.builder().build();

        ListEnabledBaselinesPublisher paginator =
                getAsyncClient().listEnabledBaselinesPaginator(request);

        List<EnabledBaselineSummary> enabledBaselines = new ArrayList<>();
        return paginator.subscribe(response -> {
                    if (response.enabledBaselines() != null
                            && !response.enabledBaselines().isEmpty()) {

                        response.enabledBaselines().forEach(baseline -> {
                            enabledBaselines.add(baseline);
                        });
                    } else {
                        System.out.println("Page contained no enabled baselines.");
                    }
                })
                .thenRun(() ->
                        System.out.println(
                                "Successfully listed enabled baselines. Total: " +
                                        enabledBaselines.size()
```

```
                        )
                )
                .thenApply(v -> enabledBaselines)
                .exceptionally(ex -> {
                    Throwable cause = ex.getCause() != null ? ex.getCause() : ex;

                    if (cause instanceof ControlTowerException e) {
                        String errorCode = e.awsErrorDetails().errorCode();

                        if ("AccessDeniedException".equals(errorCode)) {
                            throw new CompletionException(
                                    "Access denied when listing enabled baselines:
%s".formatted(e.getMessage()), e);
                        }

                        throw new CompletionException(
                                "Error listing enabled baselines: %s"
                                        .formatted(e.getMessage()),
                                e
                        );
                    }

                    if (cause instanceof SdkException) {
                        throw new CompletionException(
                                "SDK error listing enabled baselines: %s"
                                        .formatted(cause.getMessage()),
                                cause
                        );
                    }

                    throw new CompletionException(
                            "Failed to list enabled baselines",
                            cause
                    );
                });
    }


    /**
     * Asynchronously enables a baseline for the specified target if not already
enabled.
     *
     * @param targetIdentifier       The ARN of the target (OU or account).
     * @param baselineIdentifier     The baseline definition ARN to enable.
```

```
    * @param baselineVersion        The baseline version to enable.
    * @return A CompletableFuture containing the enabled baseline ARN, or null if
already enabled.
    */
   public CompletableFuture<String> enableBaselineAsync(
           String targetIdentifier,
           String baselineIdentifier,
           String baselineVersion
   ) {
       EnableBaselineRequest request = EnableBaselineRequest.builder()
               .baselineIdentifier(baselineIdentifier)
               .baselineVersion(baselineVersion)
               .targetIdentifier(targetIdentifier)
               .build();

       return getAsyncClient().enableBaseline(request)
               .handle((resp, exception) -> {
                   if (exception != null) {
                       Throwable cause = exception.getCause() != null ?
exception.getCause() : exception;
                       if (cause instanceof ControlTowerException e) {
                           String code = e.awsErrorDetails() != null ?
e.awsErrorDetails().errorCode() : "UNKNOWN";
                           String msg = e.awsErrorDetails() != null ?
e.awsErrorDetails().errorMessage() : e.getMessage();

                           if ("ValidationException".equals(code) &&
msg.contains("already enabled")) {
                               System.out.println("Baseline is already enabled for
this target # fetching ARN...");
                               return fetchEnabledBaselineArn(targetIdentifier,
baselineIdentifier)
                                       .join(); // fetch existing ARN synchronously
                           }

                           throw new RuntimeException("Error enabling baseline: " +
code + " - " + msg, e);
                       }

                       throw new RuntimeException("Unexpected error enabling
baseline: " + cause.getMessage(), cause);
                   }

                   return resp;
```

```
                })
                .thenCompose(result -> {
                    if (result instanceof EnableBaselineResponse resp) {
                        String operationId = resp.operationIdentifier();
                        String enabledBaselineArn = resp.arn();
                        System.out.println("Baseline enable started. ARN: " +
enabledBaselineArn
                                + ", operation ID: " + operationId);

                        // Inline polling
                        return CompletableFuture.supplyAsync(() -> {
                            while (true) {
                                GetBaselineOperationRequest opReq =
GetBaselineOperationRequest.builder()
                                        .operationIdentifier(operationId)
                                        .build();

                                GetBaselineOperationResponse opResp =
getAsyncClient().getBaselineOperation(opReq).join();
                                BaselineOperation op = opResp.baselineOperation();
                                BaselineOperationStatus status = op.status();
                                System.out.println("Operation " + operationId + "
status: " + status);

                                if (status == BaselineOperationStatus.SUCCEEDED) {
                                    return enabledBaselineArn;
                                } else if (status == BaselineOperationStatus.FAILED)
{
                                    String opId = op.operationIdentifier();
                                    String reason = op.statusMessage() != null ?
op.statusMessage() : "No failure reason provided";
                                    throw new RuntimeException("Baseline operation
failed (ID: " + opId + "), status: "
                                            + status + ", reason: " + reason);
                                }

                                try {
                                    Thread.sleep(Duration.ofSeconds(15).toMillis());
                                } catch (InterruptedException e) {
                                    Thread.currentThread().interrupt();
                                    throw new RuntimeException(e);
                                }
                            }
                        });
```

```
                    } else if (result instanceof String existingArn) {
                        // Already enabled branch
                        return CompletableFuture.completedFuture(existingArn);
                    }

                    return CompletableFuture.completedFuture(null);
                });
    }


    /**
     * Fetches the ARN of an already-enabled baseline for the target asynchronously.
     */
    private CompletableFuture<String> fetchEnabledBaselineArn(String
targetIdentifier, String baselineIdentifier) {
        return
getAsyncClient().listEnabledBaselines(ListEnabledBaselinesRequest.builder().build())
                .thenApply(listResp -> {
                    for (EnabledBaselineSummary eb : listResp.enabledBaselines()) {
                        if (baselineIdentifier.equals(eb.baselineIdentifier())
                                && targetIdentifier.equals(eb.targetIdentifier())) {
                            return eb.arn();
                        }
                    }
                    return null; // not yet available
                });
    }


    /**
     * Disables a baseline for a specified target.
     *
     * @param enabledBaselineIdentifier the identifier of the enabled baseline to
disable
     * @return the operation identifier
     * @throws ControlTowerException if a service-specific error occurs
     * @throws SdkException          if an SDK error occurs
     */
    public CompletableFuture<String> disableBaselineAsync(String
enabledBaselineIdentifier) {

        System.out.println("Starting disable of enabled baseline…");
        System.out.println("This operation will check the status every 15 seconds
until it completes (SUCCEEDED or FAILED).");
```

```
        DisableBaselineRequest request = DisableBaselineRequest.builder()
                .enabledBaselineIdentifier(enabledBaselineIdentifier)
                .build();

        return getAsyncClient().disableBaseline(request)
                .thenCompose(response -> {
                    String operationId = response.operationIdentifier();
                    System.out.println("Disable baseline operation ID: " +
operationId);

                    // CompletableFuture that will be completed when operation
finishes
                    CompletableFuture<String> resultFuture = new
CompletableFuture<>();

                    // Polling loop
                    Runnable poller = new Runnable() {
                        @Override
                        public void run() {
                            getBaselineOperationAsync(operationId)
                                    .thenAccept(statusObj -> {
                                        String status = statusObj.toString(); //
Convert enum/status to string for printing
                                        System.out.println("Current disable
operation status: " + status + " # waiting for SUCCEEDED or FAILED...");

                                        if ("SUCCEEDED".equalsIgnoreCase(status) ||
"FAILED".equalsIgnoreCase(status)) {
                                            System.out.println("Disable operation
finished with status: " + status);
                                            resultFuture.complete(operationId);
                                        } else {
                                            // Schedule next poll in 15 seconds
                                            CompletableFuture.delayedExecutor(15,
TimeUnit.SECONDS)
                                                    .execute(this);
                                        }
                                    })
                                    .exceptionally(ex -> {
                                        System.out.println("Error checking baseline
operation status: " + ex.getMessage());
                                        resultFuture.completeExceptionally(ex);
                                        return null;
```

```
                                    });
                        }
                    };

                    // Start first poll immediately
                    poller.run();

                    return resultFuture;
                })
                .exceptionally(ex -> {
                    Throwable cause = ex.getCause() != null ? ex.getCause() : ex;

                    if (cause instanceof ControlTowerException e) {
                        String errorCode = e.awsErrorDetails() != null ?
e.awsErrorDetails().errorCode() : "UNKNOWN";
                        String errorMessage = e.awsErrorDetails() != null ?
e.awsErrorDetails().errorMessage() : e.getMessage();

                        System.out.println("ControlTowerException caught while
disabling baseline: Code=" + errorCode + ", Message=" + errorMessage);
                        return null;
                    }

                    if (cause instanceof SdkException sdkEx) {
                        System.out.println("SDK exception caught while disabling
baseline: " + sdkEx.getMessage());
                        return null;
                    }

                    System.out.println("Unexpected exception while disabling
baseline: " + cause.getMessage());
                    return null;
                });
    }



    /**
     * Gets the status of a baseline operation.
     *
     * @param operationIdentifier the identifier of the operation
     * @return the operation status
     * @throws ControlTowerException if a service-specific error occurs
     * @throws SdkException          if an SDK error occurs
```

```
     */
    public CompletableFuture<BaselineOperationStatus> getBaselineOperationAsync(
            String operationIdentifier) {

        GetBaselineOperationRequest request = GetBaselineOperationRequest.builder()
                .operationIdentifier(operationIdentifier)
                .build();

        return getAsyncClient().getBaselineOperation(request)
                .whenComplete((response, exception) -> {
                    if (exception != null) {
                        Throwable cause = exception.getCause() != null
                                ? exception.getCause()
                                : exception;

                        if (cause instanceof ControlTowerException e) {
                            String errorCode = e.awsErrorDetails().errorCode();

                            if ("ResourceNotFoundException".equals(errorCode)) {
                                throw new CompletionException(
                                        "Baseline operation not found: %s"
                                                .formatted(e.getMessage()),
                                        e
                                );
                            }

                            throw new CompletionException(
                                    "Error getting baseline operation status: %s"
                                            .formatted(e.getMessage()),
                                    e
                            );
                        }

                        if (cause instanceof SdkException) {
                            throw new CompletionException(
                                    "SDK error getting baseline operation status:
%s"
                                            .formatted(cause.getMessage()),
                                    cause
                            );
                        }

                        throw new CompletionException(
                                "Failed to get baseline operation status",
```

```
                                cause
                        );
                    }
                })
                .thenApply(response -> {
                    BaselineOperationStatus status =
                            response.baselineOperation().status();
                    return status;
                });
    }


    /**
     * Lists all enabled controls for a specific target using pagination.
     *
     * @param targetIdentifier the identifier of the target (e.g., OU ARN)
     * @return a list of enabled controls
     * @throws ControlTowerException if a service-specific error occurs
     * @throws SdkException          if an SDK error occurs
     */
    public CompletableFuture<List<EnabledControlSummary>>
 listEnabledControlsAsync(String targetIdentifier) {
        System.out.println("Starting list enabled controls paginator for target " +
 targetIdentifier);
        ListEnabledControlsRequest request = ListEnabledControlsRequest.builder()
                .targetIdentifier(targetIdentifier)
                .build();

        ListEnabledControlsPublisher paginator =
 getAsyncClient().listEnabledControlsPaginator(request);
        List<EnabledControlSummary> enabledControls = new ArrayList<>();

        // Subscribe to the paginator asynchronously
        return paginator.subscribe(response -> {
                    if (response.enabledControls() != null && !
response.enabledControls().isEmpty()) {
                        response.enabledControls().forEach(control -> {
                            enabledControls.add(control);
                        });
                    } else {
                        System.out.println("Page contained no enabled controls.");
                    }
                })
                .thenRun(() -> System.out.println(
```

```
                        "Successfully retrieved "+enabledControls.size() +" enabled
controls for target "+targetIdentifier
                ))
                .thenApply(v -> enabledControls)
                .exceptionally(ex -> {
                    Throwable cause = ex.getCause() != null ? ex.getCause() : ex;

                    if (cause instanceof ControlTowerException e) {
                        String errorCode = e.awsErrorDetails().errorCode();

                        switch (errorCode) {
                            case "AccessDeniedException":
                                throw new CompletionException(
                                        "Access denied when listing enabled
controls: %s".formatted(e.getMessage()), e);

                            case "ResourceNotFoundException":
                                if (e.getMessage() != null &&
e.getMessage().contains("not registered with AWS Control Tower")) {
                                    throw new CompletionException(
                                            "Control Tower must be enabled to work
with controls", e);
                                }
                                throw new CompletionException(
                                        "Target not found when listing enabled
controls: %s".formatted(e.getMessage()), e);

                            default:
                                throw new CompletionException(
                                        "Error listing enabled controls:
%s".formatted(e.getMessage()), e);
                        }
                    }

                    if (cause instanceof SdkException) {
                        throw new CompletionException(
                                "SDK error listing enabled controls:
%s".formatted(cause.getMessage()), cause);
                    }

                    throw new CompletionException("Failed to list enabled controls",
cause);
                });
    }
```

```
   /**
    * Enables a control for a specified target.
    *
    * @param controlIdentifier the identifier of the control to enable
    * @param targetIdentifier  the identifier of the target (e.g., OU ARN)
    * @return the operation identifier
    * @throws ControlTowerException if a service-specific error occurs
    * @throws SdkException          if an SDK error occurs
    */
   public CompletableFuture<String> enableControlAsync(
           String controlIdentifier,
           String targetIdentifier) {

       EnableControlRequest request = EnableControlRequest.builder()
               .controlIdentifier(controlIdentifier)
               .targetIdentifier(targetIdentifier)
               .build();

       return getAsyncClient().enableControl(request)
               .thenCompose(response -> {
                   String operationId = response.operationIdentifier();
                   System.out.println("Enable control operation started. Operation
ID: " + operationId);

                   CompletableFuture<String> resultFuture = new
CompletableFuture<>();

                   Runnable poller = new Runnable() {
                       @Override
                       public void run() {
                           getControlOperationAsync(operationId)
                                   .thenAccept(status -> {
                                       System.out.println("Control operation
status: " + status);

                                       if (status ==
ControlOperationStatus.SUCCEEDED
                                               || status ==
ControlOperationStatus.FAILED) {
                                           resultFuture.complete(operationId);
                                       } else {
                                           // Poll again after 30 seconds
```

```
                                            CompletableFuture.delayedExecutor(30,
TimeUnit.SECONDS)
                                                    .execute(this);
                                    }
                                })
                                .exceptionally(ex -> {
                                    resultFuture.completeExceptionally(ex);
                                    return null;
                                });
                    }
                };

                // Start polling immediately
                poller.run();

                return resultFuture;
            })
            .exceptionally(ex -> {
                Throwable cause = ex.getCause() != null ? ex.getCause() : ex;

                if (cause instanceof ControlTowerException e) {
                    String errorCode = e.awsErrorDetails().errorCode();
                    String message = e.getMessage() != null ? e.getMessage() :
"";

                    if ("ValidationException".equals(errorCode)
                            && message.contains("already enabled")) {
                        System.out.println("Control is already enabled for this
target");
                        return null;
                    }

                    if ("ValidationException".equals(errorCode)
                            && message.contains("enforced by default")) {
                        System.out.println("Control is enforced by default and
cannot be enabled manually.");
                        return null;
                    }

                    if ("ResourceNotFoundException".equals(errorCode)
                            && message.contains("not registered with AWS Control
Tower")) {
                        System.out.println(
```

```
                                    "Control Tower must be enabled to work with
controls.");
                            return null;
                        }

                        throw new CompletionException(
                                "Couldn't enable control: %s".formatted(message),
                                e
                        );
                    }

                    if (cause instanceof SdkException) {
                        throw new CompletionException(
                                "SDK error enabling control: %s"
                                        .formatted(cause.getMessage()),
                                cause
                        );
                    }

                    throw new CompletionException(
                            "Failed to enable control",
                            cause
                    );
                });
    }


    /**
     * Disables a control for a specified target.
     *
     * @param controlIdentifier the identifier of the control to disable
     * @param targetIdentifier  the identifier of the target (e.g., OU ARN)
     * @return the operation identifier
     * @throws ControlTowerException if a service-specific error occurs
     * @throws SdkException          if an SDK error occurs
     */
    public CompletableFuture<String> disableControlAsync(
            String controlIdentifier,
            String targetIdentifier) {

        DisableControlRequest request = DisableControlRequest.builder()
                .controlIdentifier(controlIdentifier)
                .targetIdentifier(targetIdentifier)
                .build();
```

```
        return getAsyncClient().disableControl(request)
                .thenCompose(response -> {
                    String operationId = response.operationIdentifier();
                    System.out.println("Disable control operation started. Operation
ID: " + operationId);

                    CompletableFuture<String> resultFuture = new
CompletableFuture<>();

                    Runnable poller = new Runnable() {
                        @Override
                        public void run() {
                            getControlOperationAsync(operationId)
                                    .thenAccept(status -> {
                                        System.out.println("Control operation
status: " + status);

                                        if (status ==
ControlOperationStatus.SUCCEEDED
                                                || status ==
ControlOperationStatus.FAILED) {
                                            resultFuture.complete(operationId);
                                        } else {
                                            // poll again after 30 seconds
                                            CompletableFuture.delayedExecutor(30,
TimeUnit.SECONDS)
                                                    .execute(this);
                                        }
                                    })
                                    .exceptionally(ex -> {
                                        resultFuture.completeExceptionally(ex);
                                        return null;
                                    });
                        }
                    };

                    // start polling immediately
                    poller.run();

                    return resultFuture;
                })
                .exceptionally(ex -> {
                    Throwable cause = ex.getCause() != null ? ex.getCause() : ex;
```

```
                    if (cause instanceof ControlTowerException e) {
                        String errorCode = e.awsErrorDetails().errorCode();

                        if ("ResourceNotFoundException".equals(errorCode)) {
                            // SPEC: notify user and continue
                            System.out.println("Control not found for disabling: " +
e.getMessage());
                            return null;
                        }

                        throw new CompletionException(
                                "Error disabling control: " + e.getMessage(), e);
                    }

                    if (cause instanceof SdkException) {
                        throw new CompletionException(
                                "SDK error disabling control: " +
cause.getMessage(), cause);
                    }

                    throw new CompletionException(
                            "Failed to disable control", cause);
                });
    }



    /**
     * Gets the status of a control operation.
     *
     * @param operationIdentifier the identifier of the operation
     * @return the operation status
     * @throws ControlTowerException if a service-specific error occurs
     * @throws SdkException          if an SDK error occurs
     */
    public CompletableFuture<ControlOperationStatus> getControlOperationAsync(
            String operationIdentifier) {

        GetControlOperationRequest request = GetControlOperationRequest.builder()
                .operationIdentifier(operationIdentifier)
                .build();

        return getAsyncClient().getControlOperation(request)
```

```
                .whenComplete((response, exception) -> {
                    if (exception != null) {
                        Throwable cause = exception.getCause() != null ?
exception.getCause() : exception;

                        if (cause instanceof ControlTowerException e) {
                            String errorCode = e.awsErrorDetails().errorCode();

                            if ("ResourceNotFoundException".equals(errorCode)) {
                                throw new CompletionException(
                                        "Control operation not found:
%s".formatted(e.getMessage()),
                                        e
                                );
                            }

                            throw new CompletionException(
                                    "Error getting control operation status:
%s".formatted(e.getMessage()),
                                    e
                            );
                        }

                        if (cause instanceof SdkException) {
                            throw new CompletionException(
                                    "SDK error getting control operation status:
%s".formatted(cause.getMessage()),
                                    cause
                            );
                        }

                        throw new CompletionException("Failed to get control
operation status", cause);
                    }
                })
                .thenApply(response -> response.controlOperation().status());
    }


    /**
     * Lists all controls in the Control Tower control catalog.
     *
     * @return a list of controls
     * @throws SdkException if a service-specific error occurs
```

```
     */
    public CompletableFuture<List<ControlSummary>> listControlsAsync() {
        System.out.println("Starting list controls paginator…");

        ListControlsRequest request = ListControlsRequest.builder().build();
        ListControlsPublisher paginator =
 getAsyncCatClient().listControlsPaginator(request);
        List<ControlSummary> controls = new ArrayList<>();

        return paginator.subscribe(response -> {
                    if (response.controls() != null && !
response.controls().isEmpty()) {
                        response.controls().forEach(control -> {
                            controls.add(control);
                        });
                    } else {
                        System.out.println("Page contained no controls.");
                    }
                })
                .thenRun(() -> System.out.println("Successfully retrieved " +
 controls.size() +" controls."))
                .thenApply(v -> controls)
                .exceptionally(ex -> {
                    Throwable cause = ex.getCause() != null ? ex.getCause() : ex;

                    if (cause instanceof SdkException sdkEx) {
                        if (sdkEx.getMessage() != null &&
 sdkEx.getMessage().contains("AccessDeniedException")) {
                            throw new CompletionException(
                                    "Access denied when listing controls. Please
 ensure you have the necessary permissions.",
                                    sdkEx
                            );
                        } else {
                            throw new CompletionException(
                                    "SDK error listing controls:
 %s".formatted(sdkEx.getMessage()),
                                    sdkEx
                            );
                        }
                    }

                    throw new CompletionException("Failed to list controls", cause);
                });
```

```
    }

    /**
     * Resets an enabled baseline for a specific target.
     *
     * @param enabledBaselineIdentifier the identifier of the enabled baseline to
reset
     * @return the operation identifier
     * @throws ControlTowerException if a service-specific error occurs
     * @throws SdkException          if an SDK error occurs
     */
    public CompletableFuture<String> resetEnabledBaselineAsync(String
enabledBaselineIdentifier) {

        System.out.println("Starting reset of enabled baseline…");
        System.out.println("This operation will check the status every 15 seconds
until it completes (SUCCEEDED or FAILED).");

        ResetEnabledBaselineRequest request = ResetEnabledBaselineRequest.builder()
                .enabledBaselineIdentifier(enabledBaselineIdentifier)
                .build();

        return getAsyncClient().resetEnabledBaseline(request)
                .thenCompose(response -> {
                    String operationId = response.operationIdentifier();
                    System.out.println("Reset enabled baseline operation ID: " +
operationId);

                    // Polling loop
                    CompletableFuture<String> resultFuture = new
CompletableFuture<>();

                    Runnable poller = new Runnable() {
                        @Override
                        public void run() {
                            getBaselineOperationAsync(operationId)
                                    .thenAccept(statusObj -> {
                                        String status = statusObj.toString(); //
Convert enum/status to string for printing
                                        System.out.println("Current baseline
operation status: " + status + " # waiting for SUCCEEDED or FAILED...");

                                        if ("SUCCEEDED".equalsIgnoreCase(status) ||
"FAILED".equalsIgnoreCase(status)) {
```

```
                                            System.out.println("Baseline operation
finished with status: " + status);
                                            resultFuture.complete(operationId);
                                        } else {
                                            // Schedule next poll in 15 seconds
                                            CompletableFuture.delayedExecutor(15,
TimeUnit.SECONDS)
                                                    .execute(this);
                                        }
                                    })
                                    .exceptionally(ex -> {
                                        System.out.println("Error checking baseline
operation status: " + ex.getMessage());
                                        resultFuture.completeExceptionally(ex);
                                        return null;
                                    });
                        }
                    };

                    // Start first poll immediately
                    poller.run();

                    return resultFuture;
                })
                .exceptionally(ex -> {
                    Throwable cause = ex.getCause() != null ? ex.getCause() : ex;

                    if (cause instanceof ControlTowerException e) {
                        String errorCode = e.awsErrorDetails() != null ?
e.awsErrorDetails().errorCode() : "UNKNOWN";
                        String errorMessage = e.awsErrorDetails() != null ?
e.awsErrorDetails().errorMessage() : e.getMessage();

                        System.out.println("ControlTowerException caught: Code=" +
errorCode + ", Message=" + errorMessage);
                        return null;
                    }

                    if (cause instanceof SdkException sdkEx) {
                        System.out.println("SDK exception caught: " +
sdkEx.getMessage());
                        return null;
                    }
```

```
                    System.out.println("Unexpected exception resetting baseline: " +
 cause.getMessage());
                    return null;
                });
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - CreateLandingZone
  - DeleteLandingZone
  - DisableBaseline
  - DisableControl
  - EnableBaseline
  - EnableControl
  - GetControlOperation
  - GetLandingZoneOperation
  - ListBaselines
  - ListEnabledBaselines
  - ListEnabledControls
  - ListLandingZones
  - ResetEnabledBaseline

アクション

`DisableBaseline`

次の例は、`DisableBaseline` を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Disables a baseline for a specified target.
    *
    * @param enabledBaselineIdentifier the identifier of the enabled baseline to
disable
    * @return the operation identifier
    * @throws ControlTowerException if a service-specific error occurs
    * @throws SdkException          if an SDK error occurs
    */
   public CompletableFuture<String> disableBaselineAsync(String
enabledBaselineIdentifier) {

       System.out.println("Starting disable of enabled baseline…");
       System.out.println("This operation will check the status every 15 seconds
until it completes (SUCCEEDED or FAILED).");

       DisableBaselineRequest request = DisableBaselineRequest.builder()
               .enabledBaselineIdentifier(enabledBaselineIdentifier)
               .build();

       return getAsyncClient().disableBaseline(request)
               .thenCompose(response -> {
                   String operationId = response.operationIdentifier();
                   System.out.println("Disable baseline operation ID: " +
operationId);

                   // CompletableFuture that will be completed when operation
finishes
                   CompletableFuture<String> resultFuture = new
CompletableFuture<>();

                   // Polling loop
                   Runnable poller = new Runnable() {
                       @Override
                       public void run() {
                           getBaselineOperationAsync(operationId)
                                   .thenAccept(statusObj -> {
                                       String status = statusObj.toString(); //
Convert enum/status to string for printing
                                       System.out.println("Current disable
operation status: " + status + " # waiting for SUCCEEDED or FAILED...");
```

```
                                        if ("SUCCEEDED".equalsIgnoreCase(status) ||
"FAILED".equalsIgnoreCase(status)) {
                                            System.out.println("Disable operation
finished with status: " + status);
                                            resultFuture.complete(operationId);
                                        } else {
                                            // Schedule next poll in 15 seconds
                                            CompletableFuture.delayedExecutor(15,
TimeUnit.SECONDS)
                                                    .execute(this);
                                        }
                                    })
                                    .exceptionally(ex -> {
                                        System.out.println("Error checking baseline
operation status: " + ex.getMessage());
                                        resultFuture.completeExceptionally(ex);
                                        return null;
                                    });
                        }
                    };

                    // Start first poll immediately
                    poller.run();

                    return resultFuture;
                })
                .exceptionally(ex -> {
                    Throwable cause = ex.getCause() != null ? ex.getCause() : ex;

                    if (cause instanceof ControlTowerException e) {
                        String errorCode = e.awsErrorDetails() != null ?
e.awsErrorDetails().errorCode() : "UNKNOWN";
                        String errorMessage = e.awsErrorDetails() != null ?
e.awsErrorDetails().errorMessage() : e.getMessage();

                        System.out.println("ControlTowerException caught while
disabling baseline: Code=" + errorCode + ", Message=" + errorMessage);
                        return null;
                    }

                    if (cause instanceof SdkException sdkEx) {
                        System.out.println("SDK exception caught while disabling
baseline: " + sdkEx.getMessage());
                        return null;
```

```
                    }

                    System.out.println("Unexpected exception while disabling
baseline: " + cause.getMessage());
                    return null;
                });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DisableBaseline」を参照してください。

`DisableControl`

次の例は、`DisableControl` を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
/**
 * Disables a control for a specified target.
 *
 * @param controlIdentifier the identifier of the control to disable
 * @param targetIdentifier  the identifier of the target (e.g., OU ARN)
 * @return the operation identifier
 * @throws ControlTowerException if a service-specific error occurs
 * @throws SdkException          if an SDK error occurs
 */
public CompletableFuture<String> disableControlAsync(
        String controlIdentifier,
        String targetIdentifier) {

    DisableControlRequest request = DisableControlRequest.builder()
            .controlIdentifier(controlIdentifier)
```

```
                .targetIdentifier(targetIdentifier)
                .build();

        return getAsyncClient().disableControl(request)
                .thenCompose(response -> {
                    String operationId = response.operationIdentifier();
                    System.out.println("Disable control operation started. Operation
ID: " + operationId);

                    CompletableFuture<String> resultFuture = new
CompletableFuture<>();

                    Runnable poller = new Runnable() {
                        @Override
                        public void run() {
                            getControlOperationAsync(operationId)
                                    .thenAccept(status -> {
                                        System.out.println("Control operation
status: " + status);

                                        if (status ==
ControlOperationStatus.SUCCEEDED
                                                || status ==
ControlOperationStatus.FAILED) {
                                            resultFuture.complete(operationId);
                                        } else {
                                            // poll again after 30 seconds
                                            CompletableFuture.delayedExecutor(30,
TimeUnit.SECONDS)
                                                    .execute(this);
                                        }
                                    })
                                    .exceptionally(ex -> {
                                        resultFuture.completeExceptionally(ex);
                                        return null;
                                    });
                        }
                    };

                    // start polling immediately
                    poller.run();

                    return resultFuture;
                })
```

```
                .exceptionally(ex -> {
                    Throwable cause = ex.getCause() != null ? ex.getCause() : ex;

                    if (cause instanceof ControlTowerException e) {
                        String errorCode = e.awsErrorDetails().errorCode();

                        if ("ResourceNotFoundException".equals(errorCode)) {
                            // SPEC: notify user and continue
                            System.out.println("Control not found for disabling: " +
e.getMessage());
                            return null;
                        }

                        throw new CompletionException(
                                "Error disabling control: " + e.getMessage(), e);
                    }

                    if (cause instanceof SdkException) {
                        throw new CompletionException(
                                "SDK error disabling control: " +
cause.getMessage(), cause);
                    }

                    throw new CompletionException(
                            "Failed to disable control", cause);
                });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DisableControl」を参照してください。

EnableBaseline

次の例は、EnableBaseline を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Asynchronously enables a baseline for the specified target if not already
enabled.
    *
    * @param targetIdentifier       The ARN of the target (OU or account).
    * @param baselineIdentifier     The baseline definition ARN to enable.
    * @param baselineVersion        The baseline version to enable.
    * @return A CompletableFuture containing the enabled baseline ARN, or null if
already enabled.
    */
   public CompletableFuture<String> enableBaselineAsync(
           String targetIdentifier,
           String baselineIdentifier,
           String baselineVersion
   ) {
       EnableBaselineRequest request = EnableBaselineRequest.builder()
               .baselineIdentifier(baselineIdentifier)
               .baselineVersion(baselineVersion)
               .targetIdentifier(targetIdentifier)
               .build();

       return getAsyncClient().enableBaseline(request)
               .handle((resp, exception) -> {
                   if (exception != null) {
                       Throwable cause = exception.getCause() != null ?
exception.getCause() : exception;
                       if (cause instanceof ControlTowerException e) {
                           String code = e.awsErrorDetails() != null ?
e.awsErrorDetails().errorCode() : "UNKNOWN";
                           String msg = e.awsErrorDetails() != null ?
e.awsErrorDetails().errorMessage() : e.getMessage();
```

```
                            if ("ValidationException".equals(code) &&
msg.contains("already enabled")) {
                                System.out.println("Baseline is already enabled for
this target # fetching ARN...");
                                return fetchEnabledBaselineArn(targetIdentifier,
baselineIdentifier)
                                        .join(); // fetch existing ARN synchronously
                            }

                            throw new RuntimeException("Error enabling baseline: " +
code + " - " + msg, e);
                        }

                        throw new RuntimeException("Unexpected error enabling
baseline: " + cause.getMessage(), cause);
                    }

                    return resp;
                })
                .thenCompose(result -> {
                    if (result instanceof EnableBaselineResponse resp) {
                        String operationId = resp.operationIdentifier();
                        String enabledBaselineArn = resp.arn();
                        System.out.println("Baseline enable started. ARN: " +
enabledBaselineArn
                                + ", operation ID: " + operationId);

                        // Inline polling
                        return CompletableFuture.supplyAsync(() -> {
                            while (true) {
                                GetBaselineOperationRequest opReq =
GetBaselineOperationRequest.builder()
                                        .operationIdentifier(operationId)
                                        .build();

                                GetBaselineOperationResponse opResp =
getAsyncClient().getBaselineOperation(opReq).join();
                                BaselineOperation op = opResp.baselineOperation();
                                BaselineOperationStatus status = op.status();
                                System.out.println("Operation " + operationId + "
status: " + status);

                                if (status == BaselineOperationStatus.SUCCEEDED) {
                                    return enabledBaselineArn;
```

```
                                } else if (status == BaselineOperationStatus.FAILED)
{
                                    String opId = op.operationIdentifier();
                                    String reason = op.statusMessage() != null ?
op.statusMessage() : "No failure reason provided";
                                    throw new RuntimeException("Baseline operation
failed (ID: " + opId + "), status: "
                                            + status + ", reason: " + reason);
                                }

                                try {
                                    Thread.sleep(Duration.ofSeconds(15).toMillis());
                                } catch (InterruptedException e) {
                                    Thread.currentThread().interrupt();
                                    throw new RuntimeException(e);
                                }
                            }
                        });
                    } else if (result instanceof String existingArn) {
                        // Already enabled branch
                        return CompletableFuture.completedFuture(existingArn);
                    }

                    return CompletableFuture.completedFuture(null);
                });
    }


    /**
     * Fetches the ARN of an already-enabled baseline for the target asynchronously.
     */
    private CompletableFuture<String> fetchEnabledBaselineArn(String
targetIdentifier, String baselineIdentifier) {
        return
getAsyncClient().listEnabledBaselines(ListEnabledBaselinesRequest.builder().build())
                .thenApply(listResp -> {
                    for (EnabledBaselineSummary eb : listResp.enabledBaselines()) {
                        if (baselineIdentifier.equals(eb.baselineIdentifier())
                                && targetIdentifier.equals(eb.targetIdentifier())) {
                            return eb.arn();
                        }
                    }
                    return null; // not yet available
                });
```

```
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「EnableBaseline」を参照してください。

`EnableControl`

次の例は、`EnableControl` を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
/**
 * Enables a control for a specified target.
 *
 * @param controlIdentifier the identifier of the control to enable
 * @param targetIdentifier  the identifier of the target (e.g., OU ARN)
 * @return the operation identifier
 * @throws ControlTowerException if a service-specific error occurs
 * @throws SdkException          if an SDK error occurs
 */
public CompletableFuture<String> enableControlAsync(
        String controlIdentifier,
        String targetIdentifier) {

    EnableControlRequest request = EnableControlRequest.builder()
            .controlIdentifier(controlIdentifier)
            .targetIdentifier(targetIdentifier)
            .build();

    return getAsyncClient().enableControl(request)
            .thenCompose(response -> {
                String operationId = response.operationIdentifier();
```

```
                    System.out.println("Enable control operation started. Operation
ID: " + operationId);

                    CompletableFuture<String> resultFuture = new
CompletableFuture<>();

                    Runnable poller = new Runnable() {
                        @Override
                        public void run() {
                            getControlOperationAsync(operationId)
                                    .thenAccept(status -> {
                                        System.out.println("Control operation
status: " + status);

                                        if (status ==
ControlOperationStatus.SUCCEEDED
                                                || status ==
ControlOperationStatus.FAILED) {
                                            resultFuture.complete(operationId);
                                        } else {
                                            // Poll again after 30 seconds
                                            CompletableFuture.delayedExecutor(30,
TimeUnit.SECONDS)
                                                    .execute(this);
                                        }
                                    })
                                    .exceptionally(ex -> {
                                        resultFuture.completeExceptionally(ex);
                                        return null;
                                    });
                        }
                    };

                    // Start polling immediately
                    poller.run();

                    return resultFuture;
                })
                .exceptionally(ex -> {
                    Throwable cause = ex.getCause() != null ? ex.getCause() : ex;

                    if (cause instanceof ControlTowerException e) {
                        String errorCode = e.awsErrorDetails().errorCode();
```

```
                        String message = e.getMessage() != null ? e.getMessage() :
"";

                        if ("ValidationException".equals(errorCode)
                                && message.contains("already enabled")) {
                            System.out.println("Control is already enabled for this
target");
                            return null;
                        }

                        if ("ValidationException".equals(errorCode)
                                && message.contains("enforced by default")) {
                            System.out.println("Control is enforced by default and
cannot be enabled manually.");
                            return null;
                        }

                        if ("ResourceNotFoundException".equals(errorCode)
                                && message.contains("not registered with AWS Control
Tower")) {
                            System.out.println(
                                    "Control Tower must be enabled to work with
controls.");
                            return null;
                        }

                        throw new CompletionException(
                                "Couldn't enable control: %s".formatted(message),
                                e
                        );
                    }

                    if (cause instanceof SdkException) {
                        throw new CompletionException(
                                "SDK error enabling control: %s"
                                        .formatted(cause.getMessage()),
                                cause
                        );
                    }

                    throw new CompletionException(
                            "Failed to enable control",
                            cause
                    );
```

```
                });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「EnableControl」を参照してください。

GetBaselineOperation

次の例は、GetBaselineOperation を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
/**
 * Gets the status of a baseline operation.
 *
 * @param operationIdentifier the identifier of the operation
 * @return the operation status
 * @throws ControlTowerException if a service-specific error occurs
 * @throws SdkException          if an SDK error occurs
 */
public CompletableFuture<BaselineOperationStatus> getBaselineOperationAsync(
        String operationIdentifier) {

    GetBaselineOperationRequest request = GetBaselineOperationRequest.builder()
            .operationIdentifier(operationIdentifier)
            .build();

    return getAsyncClient().getBaselineOperation(request)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    Throwable cause = exception.getCause() != null
                            ? exception.getCause()
                            : exception;
```

```
                    if (cause instanceof ControlTowerException e) {
                        String errorCode = e.awsErrorDetails().errorCode();

                        if ("ResourceNotFoundException".equals(errorCode)) {
                            throw new CompletionException(
                                    "Baseline operation not found: %s"
                                            .formatted(e.getMessage()),
                                    e
                            );
                        }

                        throw new CompletionException(
                                "Error getting baseline operation status: %s"
                                        .formatted(e.getMessage()),
                                e
                        );
                    }

                    if (cause instanceof SdkException) {
                        throw new CompletionException(
                                "SDK error getting baseline operation status:
%s"
                                        .formatted(cause.getMessage()),
                                cause
                        );
                    }

                    throw new CompletionException(
                            "Failed to get baseline operation status",
                            cause
                    );
                }
            })
            .thenApply(response -> {
                BaselineOperationStatus status =
                        response.baselineOperation().status();
                return status;
            });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetBaselineOperation」を参照してください。

GetControlOperation

次の例は、GetControlOperation を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Gets the status of a control operation.
     *
     * @param operationIdentifier the identifier of the operation
     * @return the operation status
     * @throws ControlTowerException if a service-specific error occurs
     * @throws SdkException          if an SDK error occurs
     */
    public CompletableFuture<ControlOperationStatus> getControlOperationAsync(
            String operationIdentifier) {

        GetControlOperationRequest request = GetControlOperationRequest.builder()
                .operationIdentifier(operationIdentifier)
                .build();

        return getAsyncClient().getControlOperation(request)
                .whenComplete((response, exception) -> {
                    if (exception != null) {
                        Throwable cause = exception.getCause() != null ?
exception.getCause() : exception;

                        if (cause instanceof ControlTowerException e) {
                            String errorCode = e.awsErrorDetails().errorCode();

                            if ("ResourceNotFoundException".equals(errorCode)) {
                                throw new CompletionException(
```

```
                                        "Control operation not found:
%s".formatted(e.getMessage()),
                                        e
                                    );
                            }

                            throw new CompletionException(
                                    "Error getting control operation status:
%s".formatted(e.getMessage()),
                                    e
                            );
                        }

                        if (cause instanceof SdkException) {
                            throw new CompletionException(
                                    "SDK error getting control operation status:
%s".formatted(cause.getMessage()),
                                    cause
                            );
                        }

                        throw new CompletionException("Failed to get control
operation status", cause);
                    }
                })
                .thenApply(response -> response.controlOperation().status());
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetControlOperation」を参照してください。

ListBaselines

次の例は、ListBaselines を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Lists all available baselines using pagination to retrieve complete results.
     *
     * @return a list of all baselines
     * @throws ControlTowerException if a service-specific error occurs
     * @throws SdkException          if an SDK error occurs
     */
    public CompletableFuture<List<BaselineSummary>> listBaselinesAsync() {
        System.out.println("Starting list baselines paginator…");
        ListBaselinesRequest request = ListBaselinesRequest.builder().build();
        ListBaselinesPublisher paginator =
                getAsyncClient().listBaselinesPaginator(request);

        List<BaselineSummary> baselines = new ArrayList<>();
        return paginator.subscribe(response -> {
                    if (response.baselines() != null && !
response.baselines().isEmpty()) {
                        response.baselines().forEach(baseline -> {
                            baselines.add(baseline);
                        });
                    } else {
                        System.out.println("Page contained no baselines.");
                    }
                })
                .thenRun(() ->
                        System.out.println("Successfully listed baselines. Total: "
 + baselines.size())
                )
                .thenApply(v -> baselines)
                .exceptionally(ex -> {
                    Throwable cause = ex.getCause() != null ? ex.getCause() : ex;

                    if (cause instanceof ControlTowerException e) {
```

```
                        String errorCode = e.awsErrorDetails().errorCode();

                        if ("AccessDeniedException".equals(errorCode)) {
                            throw new CompletionException(
                                    "Access denied when listing baselines:
%s".formatted(e.getMessage()),
                                    e
                            );
                        }

                        throw new CompletionException(
                                "Error listing baselines:
%s".formatted(e.getMessage()),
                                e
                        );
                    }

                    if (cause instanceof SdkException) {
                        throw new CompletionException(
                                "SDK error listing baselines:
%s".formatted(cause.getMessage()),
                                cause
                        );
                    }

                    throw new CompletionException("Failed to list baselines",
cause);
                });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListBaselines」を参照してください。

ListEnabledBaselines

次の例は、ListEnabledBaselines を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Lists all enabled baselines using pagination to retrieve complete results.
     *
     * @return a list of all enabled baselines
     * @throws ControlTowerException if a service-specific error occurs
     * @throws SdkException          if an SDK error occurs
     */
    public CompletableFuture<List<EnabledBaselineSummary>>
listEnabledBaselinesAsync() {
        System.out.println("Starting list enabled baselines paginator…");

        ListEnabledBaselinesRequest request =
                ListEnabledBaselinesRequest.builder().build();

        ListEnabledBaselinesPublisher paginator =
                getAsyncClient().listEnabledBaselinesPaginator(request);

        List<EnabledBaselineSummary> enabledBaselines = new ArrayList<>();
        return paginator.subscribe(response -> {
                    if (response.enabledBaselines() != null
                            && !response.enabledBaselines().isEmpty()) {

                        response.enabledBaselines().forEach(baseline -> {
                            enabledBaselines.add(baseline);
                        });
                    } else {
                        System.out.println("Page contained no enabled baselines.");
                    }
                })
                .thenRun(() ->
                        System.out.println(
                                "Successfully listed enabled baselines. Total: " +
                                        enabledBaselines.size()
                        )
```

```
                )
                .thenApply(v -> enabledBaselines)
                .exceptionally(ex -> {
                    Throwable cause = ex.getCause() != null ? ex.getCause() : ex;

                    if (cause instanceof ControlTowerException e) {
                        String errorCode = e.awsErrorDetails().errorCode();

                        if ("AccessDeniedException".equals(errorCode)) {
                            throw new CompletionException(
                                    "Access denied when listing enabled baselines:
%s".formatted(e.getMessage()), e);
                        }

                        throw new CompletionException(
                                "Error listing enabled baselines: %s"
                                        .formatted(e.getMessage()),
                                e
                        );
                    }

                    if (cause instanceof SdkException) {
                        throw new CompletionException(
                                "SDK error listing enabled baselines: %s"
                                        .formatted(cause.getMessage()),
                                cause
                        );
                    }

                    throw new CompletionException(
                            "Failed to list enabled baselines",
                            cause
                    );
                });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListEnabledBaselines」を参照してください。

ListEnabledControls

次の例は、ListEnabledControls を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Lists all enabled controls for a specific target using pagination.
     *
     * @param targetIdentifier the identifier of the target (e.g., OU ARN)
     * @return a list of enabled controls
     * @throws ControlTowerException if a service-specific error occurs
     * @throws SdkException          if an SDK error occurs
     */
    public CompletableFuture<List<EnabledControlSummary>>
 listEnabledControlsAsync(String targetIdentifier) {
        System.out.println("Starting list enabled controls paginator for target " +
 targetIdentifier);
        ListEnabledControlsRequest request = ListEnabledControlsRequest.builder()
                .targetIdentifier(targetIdentifier)
                .build();

        ListEnabledControlsPublisher paginator =
 getAsyncClient().listEnabledControlsPaginator(request);
        List<EnabledControlSummary> enabledControls = new ArrayList<>();

        // Subscribe to the paginator asynchronously
        return paginator.subscribe(response -> {
                    if (response.enabledControls() != null && !
response.enabledControls().isEmpty()) {
                        response.enabledControls().forEach(control -> {
                            enabledControls.add(control);
                        });
                    } else {
                        System.out.println("Page contained no enabled controls.");
                    }
                })
                .thenRun(() -> System.out.println(
```

```
                        "Successfully retrieved "+enabledControls.size() +" enabled
controls for target "+targetIdentifier
                ))
                .thenApply(v -> enabledControls)
                .exceptionally(ex -> {
                    Throwable cause = ex.getCause() != null ? ex.getCause() : ex;

                    if (cause instanceof ControlTowerException e) {
                        String errorCode = e.awsErrorDetails().errorCode();

                        switch (errorCode) {
                            case "AccessDeniedException":
                                throw new CompletionException(
                                        "Access denied when listing enabled
controls: %s".formatted(e.getMessage()), e);

                            case "ResourceNotFoundException":
                                if (e.getMessage() != null &&
e.getMessage().contains("not registered with AWS Control Tower")) {
                                    throw new CompletionException(
                                            "Control Tower must be enabled to work
with controls", e);
                                }
                                throw new CompletionException(
                                        "Target not found when listing enabled
controls: %s".formatted(e.getMessage()), e);

                            default:
                                throw new CompletionException(
                                        "Error listing enabled controls:
%s".formatted(e.getMessage()), e);
                        }
                    }

                    if (cause instanceof SdkException) {
                        throw new CompletionException(
                                "SDK error listing enabled controls:
%s".formatted(cause.getMessage()), cause);
                    }

                    throw new CompletionException("Failed to list enabled controls",
cause);
                });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListEnabledControls」を参照してください。

`ListLandingZones`

次の例は、`ListLandingZones` を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Lists all landing zones using pagination to retrieve complete results.
     *
     * @return a list of all landing zones
     * @throws ControlTowerException if a service-specific error occurs
     * @throws SdkException          if an SDK error occurs
     */
    public CompletableFuture<List<LandingZoneSummary>> listLandingZonesAsync() {
        System.out.println("Starting list landing zones paginator…");

        ListLandingZonesRequest request = ListLandingZonesRequest.builder().build();
        ListLandingZonesPublisher paginator =
 getAsyncClient().listLandingZonesPaginator(request);
        List<LandingZoneSummary> landingZones = new ArrayList<>();

        return paginator.subscribe(response -> {
                    if (response.landingZones() != null && !
response.landingZones().isEmpty()) {
                        response.landingZones().forEach(lz -> {
                            System.out.println("Landing zone ARN: " + lz.arn());
                            landingZones.add(lz);
                        });
                    } else {
```

```
                        System.out.println("Page contained no landing zones.");
                    }
                })
                .thenRun(() -> System.out.println("Successfully retrieved "+
landingZones.size() + " landing zones." ))
                .thenApply(v -> landingZones)
                .exceptionally(ex -> {
                    Throwable cause = ex.getCause() != null ? ex.getCause() : ex;

                    if (cause instanceof ControlTowerException e) {
                        String errorCode = e.awsErrorDetails().errorCode();
                        switch (errorCode) {
                            case "AccessDeniedException":
                                throw new CompletionException(
                                        "Access denied when listing landing zones: "
+ e.getMessage(), e);
                            default:
                                throw new CompletionException(
                                        "Error listing landing zones: " +
e.getMessage(), e);
                        }
                    }

                    if (cause instanceof SdkException) {
                        throw new CompletionException(
                                "SDK error listing landing zones: " +
cause.getMessage(), cause);
                    }

                    throw new CompletionException("Failed to list landing zones",
cause);
                });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListLandingZones」を参照してください。

ResetEnabledBaseline

次の例は、ResetEnabledBaseline を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Resets an enabled baseline for a specific target.
    *
    * @param enabledBaselineIdentifier the identifier of the enabled baseline to
reset
    * @return the operation identifier
    * @throws ControlTowerException if a service-specific error occurs
    * @throws SdkException          if an SDK error occurs
    */
   public CompletableFuture<String> resetEnabledBaselineAsync(String
enabledBaselineIdentifier) {

       System.out.println("Starting reset of enabled baseline…");
       System.out.println("This operation will check the status every 15 seconds
until it completes (SUCCEEDED or FAILED).");

       ResetEnabledBaselineRequest request = ResetEnabledBaselineRequest.builder()
               .enabledBaselineIdentifier(enabledBaselineIdentifier)
               .build();

       return getAsyncClient().resetEnabledBaseline(request)
               .thenCompose(response -> {
                   String operationId = response.operationIdentifier();
                   System.out.println("Reset enabled baseline operation ID: " +
operationId);

                   // Polling loop
                   CompletableFuture<String> resultFuture = new
CompletableFuture<>();

                   Runnable poller = new Runnable() {
                       @Override
                       public void run() {
                           getBaselineOperationAsync(operationId)
```

```
                                    .thenAccept(statusObj -> {
                                        String status = statusObj.toString(); //
Convert enum/status to string for printing
                                        System.out.println("Current baseline
operation status: " + status + " # waiting for SUCCEEDED or FAILED...");

                                        if ("SUCCEEDED".equalsIgnoreCase(status) ||
"FAILED".equalsIgnoreCase(status)) {
                                            System.out.println("Baseline operation
finished with status: " + status);
                                            resultFuture.complete(operationId);
                                        } else {
                                            // Schedule next poll in 15 seconds
                                            CompletableFuture.delayedExecutor(15,
TimeUnit.SECONDS)
                                                    .execute(this);
                                        }
                                    })
                                    .exceptionally(ex -> {
                                        System.out.println("Error checking baseline
operation status: " + ex.getMessage());
                                        resultFuture.completeExceptionally(ex);
                                        return null;
                                    });
                        }
                    };

                    // Start first poll immediately
                    poller.run();

                    return resultFuture;
                })
                .exceptionally(ex -> {
                    Throwable cause = ex.getCause() != null ? ex.getCause() : ex;

                    if (cause instanceof ControlTowerException e) {
                        String errorCode = e.awsErrorDetails() != null ?
e.awsErrorDetails().errorCode() : "UNKNOWN";
                        String errorMessage = e.awsErrorDetails() != null ?
e.awsErrorDetails().errorMessage() : e.getMessage();

                        System.out.println("ControlTowerException caught: Code=" +
errorCode + ", Message=" + errorMessage);
                        return null;
```

```
                    }

                    if (cause instanceof SdkException sdkEx) {
                        System.out.println("SDK exception caught: " +
sdkEx.getMessage());
                        return null;
                    }

                    System.out.println("Unexpected exception resetting baseline: " +
cause.getMessage());
                    return null;
                });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ResetEnabledBaseline」を参照してください。

SDK for Java 2.x を使用した Firehose の例

次のコード例は、Firehose AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- アクション
- シナリオ

アクション

PutRecord

次のコード例は、PutRecord を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Puts a record to the specified Amazon Kinesis Data Firehose delivery stream.
    *
    * @param record The record to be put to the delivery stream. The record must be
a {@link Map} of String keys and Object values.
    * @param deliveryStreamName The name of the Amazon Kinesis Data Firehose
delivery stream to which the record should be put.
    * @throws IllegalArgumentException if the input record or delivery stream name
is null or empty.
    * @throws RuntimeException if there is an error putting the record to the
delivery stream.
    */
   public static void putRecord(Map<String, Object> record, String
deliveryStreamName) {
       if (record == null || deliveryStreamName == null ||
deliveryStreamName.isEmpty()) {
           throw new IllegalArgumentException("Invalid input: record or delivery
stream name cannot be null/empty");
       }
       try {
           String jsonRecord = new ObjectMapper().writeValueAsString(record);
           Record firehoseRecord = Record.builder()

.data(SdkBytes.fromByteArray(jsonRecord.getBytes(StandardCharsets.UTF_8)))
               .build();

           PutRecordRequest putRecordRequest = PutRecordRequest.builder()
               .deliveryStreamName(deliveryStreamName)
```

```
                .record(firehoseRecord)
                .build();

            getFirehoseClient().putRecord(putRecordRequest);
            System.out.println("Record sent: " + jsonRecord);
        } catch (Exception e) {
            throw new RuntimeException("Failed to put record: " + e.getMessage(),
e);
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「PutRecord」を参照してください。

`PutRecordBatch`

次のコード例は、PutRecordBatch を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Puts a batch of records to an Amazon Kinesis Data Firehose delivery stream.
     *
     * @param records           a list of maps representing the records to be sent
     * @param batchSize         the maximum number of records to include in each
batch
     * @param deliveryStreamName the name of the Kinesis Data Firehose delivery
stream
     * @throws IllegalArgumentException if the input parameters are invalid (null or
empty)
     * @throws RuntimeException         if there is an error putting the record
batch
     */
```

```
   public static void putRecordBatch(List<Map<String, Object>> records, int
batchSize, String deliveryStreamName) {
       if (records == null || records.isEmpty() || deliveryStreamName == null ||
deliveryStreamName.isEmpty()) {
           throw new IllegalArgumentException("Invalid input: records or delivery
stream name cannot be null/empty");
       }
       ObjectMapper objectMapper = new ObjectMapper();

       try {
           for (int i = 0; i < records.size(); i += batchSize) {
               List<Map<String, Object>> batch = records.subList(i, Math.min(i +
batchSize, records.size()));

               List<Record> batchRecords = batch.stream().map(record -> {
                   try {
                       String jsonRecord = objectMapper.writeValueAsString(record);
                       return Record.builder()

.data(SdkBytes.fromByteArray(jsonRecord.getBytes(StandardCharsets.UTF_8)))
                           .build();
                   } catch (Exception e) {
                       throw new RuntimeException("Error creating Firehose record",
e);
                   }
               }).collect(Collectors.toList());

               PutRecordBatchRequest request = PutRecordBatchRequest.builder()
                   .deliveryStreamName(deliveryStreamName)
                   .records(batchRecords)
                   .build();

               PutRecordBatchResponse response =
getFirehoseClient().putRecordBatch(request);

               if (response.failedPutCount() > 0) {
                   response.requestResponses().stream()
                       .filter(r -> r.errorCode() != null)
                       .forEach(r -> System.err.println("Failed record: " +
r.errorMessage()));
               }
               System.out.println("Batch sent with size: " + batchRecords.size());
           }
       } catch (Exception e) {
```

```
            throw new RuntimeException("Failed to put record batch: " +
 e.getMessage(), e);
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「PutRecordBatch」を参照してください。

シナリオ

Firehose にレコードを配置する

次のコード例は、Firehose を使用して個別レコードとバッチレコードを処理する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

この例では、個別レコードとバッチレコードを Firehose に配置します。

```
/**
 * Amazon Firehose Scenario example using Java V2 SDK.
 *
 * Demonstrates individual and batch record processing,
 * and monitoring Firehose delivery stream metrics.
 */
public class FirehoseScenario {

    private static FirehoseClient firehoseClient;
    private static CloudWatchClient cloudWatchClient;

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """
                Usage:
                    <deliveryStreamName>
```

```
                Where:
                    deliveryStreamName - The Firehose delivery stream name.
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            return;
        }

        String deliveryStreamName = args[0];

        try {
            // Read and parse sample data.
            String jsonContent = readJsonFile("sample_records.json");
            ObjectMapper objectMapper = new ObjectMapper();
            List<Map<String, Object>> sampleData =
objectMapper.readValue(jsonContent, new TypeReference<>() {});

            // Process individual records.
            System.out.println("Processing individual records...");
            sampleData.subList(0, 100).forEach(record -> {
                try {
                    putRecord(record, deliveryStreamName);
                } catch (Exception e) {
                    System.err.println("Error processing record: " +
e.getMessage());
                }
            });

            // Monitor metrics.
            monitorMetrics(deliveryStreamName);

            // Process batch records.
            System.out.println("Processing batch records...");
            putRecordBatch(sampleData.subList(100, sampleData.size()), 500,
deliveryStreamName);
            monitorMetrics(deliveryStreamName);

        } catch (Exception e) {
            System.err.println("Scenario failed: " + e.getMessage());
        } finally {
            closeClients();
        }
    }
```

```
   private static FirehoseClient getFirehoseClient() {
       if (firehoseClient == null) {
           firehoseClient = FirehoseClient.builder()
                   .region(Region.US_EAST_1)
                   .build();
       }
       return firehoseClient;
   }

   private static CloudWatchClient getCloudWatchClient() {
       if (cloudWatchClient == null) {
           cloudWatchClient = CloudWatchClient.builder()
                   .region(Region.US_EAST_1)
                   .build();
       }
       return cloudWatchClient;
   }

   /**
    * Puts a record to the specified Amazon Kinesis Data Firehose delivery stream.
    *
    * @param record The record to be put to the delivery stream. The record must be
a {@link Map} of String keys and Object values.
    * @param deliveryStreamName The name of the Amazon Kinesis Data Firehose
delivery stream to which the record should be put.
    * @throws IllegalArgumentException if the input record or delivery stream name
is null or empty.
    * @throws RuntimeException if there is an error putting the record to the
delivery stream.
    */
   public static void putRecord(Map<String, Object> record, String
deliveryStreamName) {
       if (record == null || deliveryStreamName == null ||
deliveryStreamName.isEmpty()) {
           throw new IllegalArgumentException("Invalid input: record or delivery
stream name cannot be null/empty");
       }
       try {
           String jsonRecord = new ObjectMapper().writeValueAsString(record);
           Record firehoseRecord = Record.builder()

.data(SdkBytes.fromByteArray(jsonRecord.getBytes(StandardCharsets.UTF_8)))
                   .build();
```

```
            PutRecordRequest putRecordRequest = PutRecordRequest.builder()
                .deliveryStreamName(deliveryStreamName)
                .record(firehoseRecord)
                .build();

            getFirehoseClient().putRecord(putRecordRequest);
            System.out.println("Record sent: " + jsonRecord);
        } catch (Exception e) {
            throw new RuntimeException("Failed to put record: " + e.getMessage(),
e);
        }
    }


    /**
     * Puts a batch of records to an Amazon Kinesis Data Firehose delivery stream.
     *
     * @param records           a list of maps representing the records to be sent
     * @param batchSize         the maximum number of records to include in each
batch
     * @param deliveryStreamName the name of the Kinesis Data Firehose delivery
stream
     * @throws IllegalArgumentException if the input parameters are invalid (null or
empty)
     * @throws RuntimeException         if there is an error putting the record
batch
     */
    public static void putRecordBatch(List<Map<String, Object>> records, int
batchSize, String deliveryStreamName) {
        if (records == null || records.isEmpty() || deliveryStreamName == null ||
deliveryStreamName.isEmpty()) {
            throw new IllegalArgumentException("Invalid input: records or delivery
stream name cannot be null/empty");
        }
        ObjectMapper objectMapper = new ObjectMapper();

        try {
            for (int i = 0; i < records.size(); i += batchSize) {
                List<Map<String, Object>> batch = records.subList(i, Math.min(i +
batchSize, records.size()));

                List<Record> batchRecords = batch.stream().map(record -> {
                    try {
```

```
                        String jsonRecord = objectMapper.writeValueAsString(record);
                        return Record.builder()

.data(SdkBytes.fromByteArray(jsonRecord.getBytes(StandardCharsets.UTF_8)))
                                .build();
                    } catch (Exception e) {
                        throw new RuntimeException("Error creating Firehose record",
e);
                    }
                }).collect(Collectors.toList());

                PutRecordBatchRequest request = PutRecordBatchRequest.builder()
                    .deliveryStreamName(deliveryStreamName)
                    .records(batchRecords)
                    .build();

                PutRecordBatchResponse response =
getFirehoseClient().putRecordBatch(request);

                if (response.failedPutCount() > 0) {
                    response.requestResponses().stream()
                        .filter(r -> r.errorCode() != null)
                        .forEach(r -> System.err.println("Failed record: " +
r.errorMessage()));
                }
                System.out.println("Batch sent with size: " + batchRecords.size());
            }
        } catch (Exception e) {
            throw new RuntimeException("Failed to put record batch: " +
e.getMessage(), e);
        }
    }

    public static void monitorMetrics(String deliveryStreamName) {
        Instant endTime = Instant.now();
        Instant startTime = endTime.minusSeconds(600);

        List<String> metrics = List.of("IncomingBytes", "IncomingRecords",
"FailedPutCount");
        metrics.forEach(metric -> monitorMetric(metric, startTime, endTime,
deliveryStreamName));
    }
```

```
   private static void monitorMetric(String metricName, Instant startTime, Instant
endTime, String deliveryStreamName) {
       try {
           GetMetricStatisticsRequest request =
GetMetricStatisticsRequest.builder()
               .namespace("AWS/Firehose")
               .metricName(metricName)

.dimensions(Dimension.builder().name("DeliveryStreamName").value(deliveryStreamName).build(
               .startTime(startTime)
               .endTime(endTime)
               .period(60)
               .statistics(Statistic.SUM)
               .build();

           GetMetricStatisticsResponse response =
getCloudWatchClient().getMetricStatistics(request);
           double totalSum =
response.datapoints().stream().mapToDouble(Datapoint::sum).sum();
           System.out.println(metricName + ": " + totalSum);
       } catch (Exception e) {
           System.err.println("Failed to monitor metric " + metricName + ": " +
e.getMessage());
       }
   }

   public static String readJsonFile(String fileName) throws IOException {
       try (InputStream inputStream =
FirehoseScenario.class.getResourceAsStream("/" + fileName);
            Scanner scanner = new Scanner(inputStream, StandardCharsets.UTF_8)) {
           return scanner.useDelimiter("\\\\A").next();
       } catch (Exception e) {
           throw new RuntimeException("Error reading file: " + fileName, e);
       }
   }

   private static void closeClients() {
       try {
           if (firehoseClient != null) firehoseClient.close();
           if (cloudWatchClient != null) cloudWatchClient.close();
       } catch (Exception e) {
           System.err.println("Error closing clients: " + e.getMessage());
       }
   }
```

```
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - PutRecord
  - PutRecordBatch

SDK for Java 2.x を使用する Amazon DocumentDB の例

次のコード例は、Amazon DocumentDB AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- サーバーレスサンプル

サーバーレスサンプル

Amazon DocumentDB トリガーから Lambda 関数を呼び出す

次のコードの例は、DocumentDB 変更ストリームからレコードを受信することによってトリガーされるイベントを受け取る、Lambda 関数の実装方法を示しています。関数は DocumentDB ペイロードを取得し、レコードの内容をログ記録します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。サーバーレスサンプルリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

Java を使用した Lambda での Amazon DocumentDB イベントの消費。

```
import java.util.List;
```

```
import java.util.Map;

import com.amazonaws.services.lambda.runtime.Context;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.RequestHandler;

public class Example implements RequestHandler<Map<String, Object>, String> {

    @SuppressWarnings("unchecked")
    @Override
    public String handleRequest(Map<String, Object> event, Context context) {
        List<Map<String, Object>> events = (List<Map<String, Object>>)
 event.get("events");
        for (Map<String, Object> record : events) {
            Map<String, Object> eventData = (Map<String, Object>)
 record.get("event");
            processEventData(eventData);
        }

        return "OK";
    }

    @SuppressWarnings("unchecked")
    private void processEventData(Map<String, Object> eventData) {
        String operationType = (String) eventData.get("operationType");
        System.out.println("operationType: %s".formatted(operationType));

        Map<String, Object> ns = (Map<String, Object>) eventData.get("ns");

        String db = (String) ns.get("db");
        System.out.println("db: %s".formatted(db));
        String coll = (String) ns.get("coll");
        System.out.println("coll: %s".formatted(coll));

        Map<String, Object> fullDocument = (Map<String, Object>)
 eventData.get("fullDocument");
        System.out.println("fullDocument: %s".formatted(fullDocument));
    }

}
```

SDK for Java 2.x を使用した DynamoDB の例

次のコード例は、DynamoDB AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

AWS コミュニティへの貢献は、複数のチームによって作成され、維持されている例です AWS。フィードバックを提供するには、リンクされたリポジトリで提供されているメカニズムを使用します。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- はじめに
- 基本
- アクション
- シナリオ
- サーバーレスサンプル
- AWS コミュニティへの貢献

はじめに

Hello DynamoDB

次のコード例は、DynamoDB の使用を開始する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ListTablesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ListTablesResponse;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ListTables {
    public static void main(String[] args) {
        System.out.println("Listing your Amazon DynamoDB tables:\n");
        Region region = Region.US_EAST_1;
        DynamoDbClient ddb = DynamoDbClient.builder()
                .region(region)
                .build();
        listAllTables(ddb);
        ddb.close();
    }

    public static void listAllTables(DynamoDbClient ddb) {
        boolean moreTables = true;
        String lastName = null;

        while (moreTables) {
            try {
                ListTablesResponse response = null;
                if (lastName == null) {
```

```
                    ListTablesRequest request = ListTablesRequest.builder().build();
                    response = ddb.listTables(request);
                } else {
                    ListTablesRequest request = ListTablesRequest.builder()
                            .exclusiveStartTableName(lastName).build();
                    response = ddb.listTables(request);
                }

                List<String> tableNames = response.tableNames();
                if (tableNames.size() > 0) {
                    for (String curName : tableNames) {
                        System.out.format("* %s\n", curName);
                    }
                } else {
                    System.out.println("No tables found!");
                    System.exit(0);
                }

                lastName = response.lastEvaluatedTableName();
                if (lastName == null) {
                    moreTables = false;
                }

            } catch (DynamoDbException e) {
                System.err.println(e.getMessage());
                System.exit(1);
            }
        }
        System.out.println("\nDone!");
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListTables」を参照してください。

基本

基本を学ぶ

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- 映画データを保持できるテーブルを作成します。
- テーブルに 1 つの映画を入れ、取得して更新する。
- サンプル JSON ファイルから映画データをテーブルに書き込む。
- 特定の年にリリースされた映画を照会する。
- 一定期間内に公開された映画をスキャンします。
- テーブルから映画を削除し、テーブルを削除します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

DynamoDB テーブルを作成します。

```
// Create a table with a Sort key.
public static void createTable(DynamoDbClient ddb, String tableName) {
    DynamoDbWaiter dbWaiter = ddb.waiter();
    ArrayList<AttributeDefinition> attributeDefinitions = new ArrayList<>();

    // Define attributes.
    attributeDefinitions.add(AttributeDefinition.builder()
        .attributeName("year")
        .attributeType("N")
        .build());

    attributeDefinitions.add(AttributeDefinition.builder()
        .attributeName("title")
        .attributeType("S")
        .build());

    ArrayList<KeySchemaElement> tableKey = new ArrayList<>();
    KeySchemaElement key = KeySchemaElement.builder()
        .attributeName("year")
        .keyType(KeyType.HASH)
        .build();

    KeySchemaElement key2 = KeySchemaElement.builder()
```

```
            .attributeName("title")
            .keyType(KeyType.RANGE)
            .build();

        // Add KeySchemaElement objects to the list.
        tableKey.add(key);
        tableKey.add(key2);

        CreateTableRequest request = CreateTableRequest.builder()
            .keySchema(tableKey)
            .billingMode(BillingMode.PAY_PER_REQUEST) //  DynamoDB automatically
scales based on traffic.
            .attributeDefinitions(attributeDefinitions)
            .tableName(tableName)
            .build();

        try {
            CreateTableResponse response = ddb.createTable(request);
            DescribeTableRequest tableRequest = DescribeTableRequest.builder()
                .tableName(tableName)
                .build();

            // Wait until the Amazon DynamoDB table is created.
            WaiterResponse<DescribeTableResponse> waiterResponse =
dbWaiter.waitUntilTableExists(tableRequest);
            waiterResponse.matched().response().ifPresent(System.out::println);
            String newTable = response.tableDescription().tableName();
            System.out.println("The " + newTable + " was successfully created.");

        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

サンプルの JSON ファイルをダウンロードして抽出するヘルパー関数を作成します。

```
    // Load data into the table.
    public static void loadData(DynamoDbClient ddb, String tableName, String
fileName) throws IOException {
        DynamoDbEnhancedClient enhancedClient = DynamoDbEnhancedClient.builder()
            .dynamoDbClient(ddb)
```

```
            .build();

        DynamoDbTable<Movies> mappedTable = enhancedClient.table("Movies",
TableSchema.fromBean(Movies.class));
        JsonParser parser = new JsonFactory().createParser(new File(fileName));
        com.fasterxml.jackson.databind.JsonNode rootNode = new
ObjectMapper().readTree(parser);
        Iterator<JsonNode> iter = rootNode.iterator();
        ObjectNode currentNode;
        int t = 0;
        while (iter.hasNext()) {
            // Only add 200 Movies to the table.
            if (t == 200)
                break;
            currentNode = (ObjectNode) iter.next();

            int year = currentNode.path("year").asInt();
            String title = currentNode.path("title").asText();
            String info = currentNode.path("info").toString();

            Movies movies = new Movies();
            movies.setYear(year);
            movies.setTitle(title);
            movies.setInfo(info);

            // Put the data into the Amazon DynamoDB Movie table.
            mappedTable.putItem(movies);
            t++;
        }
    }
```

テーブルから項目を取得します。

```
    public static void getItem(DynamoDbClient ddb) {

        HashMap<String, AttributeValue> keyToGet = new HashMap<>();
        keyToGet.put("year", AttributeValue.builder()
            .n("1933")
            .build());

        keyToGet.put("title", AttributeValue.builder()
            .s("King Kong")
```

```
            .build());

        GetItemRequest request = GetItemRequest.builder()
            .key(keyToGet)
            .tableName("Movies")
            .build();

        try {
            Map<String, AttributeValue> returnedItem = ddb.getItem(request).item();

            if (returnedItem != null) {
                Set<String> keys = returnedItem.keySet();
                System.out.println("Amazon DynamoDB table attributes: \n");

                for (String key1 : keys) {
                    System.out.format("%s: %s\n", key1,
 returnedItem.get(key1).toString());
                }
            } else {
                System.out.format("No item found with the key %s!\n", "year");
            }

        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

完全な例です。

```
/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 * <p>
 * This Java example performs these tasks:
 * <p>
 * 1. Creates the Amazon DynamoDB Movie table with partition and sort key.
```

```
 * 2. Puts data into the Amazon DynamoDB table from a JSON document using the
 * Enhanced client.
 * 3. Gets data from the Movie table.
 * 4. Adds a new item.
 * 5. Updates an item.
 * 6. Uses a Scan to query items using the Enhanced client.
 * 7. Queries all items where the year is 2013 using the Enhanced Client.
 * 8. Deletes the table.
 */

public class Scenario {
    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");

    public static void main(String[] args) throws IOException {
        String tableName = "Movies";
        String fileName = "../../../resources/sample_files/movies.json";
        Region region = Region.US_EAST_1;
        DynamoDbClient ddb = DynamoDbClient.builder()
            .region(region)
            .build();

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("Welcome to the Amazon DynamoDB example scenario.");
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println(
            "1. Creating an Amazon DynamoDB table named Movies with a key named year
 and a sort key named title.");
        createTable(ddb, tableName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("2. Loading data into the Amazon DynamoDB table.");
        loadData(ddb, tableName, fileName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("3. Getting data from the Movie table.");
        getItem(ddb);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("4. Putting a record into the Amazon DynamoDB table.");
```

```
        putRecord(ddb);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("5. Updating a record.");
        updateTableItem(ddb, tableName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("6. Scanning the Amazon DynamoDB table.");
        scanMovies(ddb, tableName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("7. Querying the Movies released in 2013.");
        queryTable(ddb);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("8. Deleting the Amazon DynamoDB table.");
        deleteDynamoDBTable(ddb, tableName);
        System.out.println(DASHES);

        ddb.close();
    }

    // Create a table with a Sort key.
    public static void createTable(DynamoDbClient ddb, String tableName) {
        DynamoDbWaiter dbWaiter = ddb.waiter();
        ArrayList<AttributeDefinition> attributeDefinitions = new ArrayList<>();

        // Define attributes.
        attributeDefinitions.add(AttributeDefinition.builder()
            .attributeName("year")
            .attributeType("N")
            .build());

        attributeDefinitions.add(AttributeDefinition.builder()
            .attributeName("title")
            .attributeType("S")
            .build());

        ArrayList<KeySchemaElement> tableKey = new ArrayList<>();
        KeySchemaElement key = KeySchemaElement.builder()
```

```
            .attributeName("year")
            .keyType(KeyType.HASH)
            .build();

        KeySchemaElement key2 = KeySchemaElement.builder()
            .attributeName("title")
            .keyType(KeyType.RANGE)
            .build();

        // Add KeySchemaElement objects to the list.
        tableKey.add(key);
        tableKey.add(key2);

        CreateTableRequest request = CreateTableRequest.builder()
            .keySchema(tableKey)
            .billingMode(BillingMode.PAY_PER_REQUEST) //  DynamoDB automatically
scales based on traffic.
            .attributeDefinitions(attributeDefinitions)
            .tableName(tableName)
            .build();

        try {
            CreateTableResponse response = ddb.createTable(request);
            DescribeTableRequest tableRequest = DescribeTableRequest.builder()
                .tableName(tableName)
                .build();

            // Wait until the Amazon DynamoDB table is created.
            WaiterResponse<DescribeTableResponse> waiterResponse =
dbWaiter.waitUntilTableExists(tableRequest);
            waiterResponse.matched().response().ifPresent(System.out::println);
            String newTable = response.tableDescription().tableName();
            System.out.println("The " + newTable + " was successfully created.");

        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    // Query the table.
    public static void queryTable(DynamoDbClient ddb) {
        try {
            DynamoDbEnhancedClient enhancedClient = DynamoDbEnhancedClient.builder()
```

```
                .dynamoDbClient(ddb)
                .build();

            DynamoDbTable<Movies> custTable = enhancedClient.table("Movies",
TableSchema.fromBean(Movies.class));
            QueryConditional queryConditional = QueryConditional
                .keyEqualTo(Key.builder()
                    .partitionValue(2013)
                    .build());

            // Get items in the table and write out the ID value.
            Iterator<Movies> results =
custTable.query(queryConditional).items().iterator();
            String result = "";

            while (results.hasNext()) {
                Movies rec = results.next();
                System.out.println("The title of the movie is " + rec.getTitle());
                System.out.println("The movie information  is " + rec.getInfo());
            }

        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    // Scan the table.
    public static void scanMovies(DynamoDbClient ddb, String tableName) {
        System.out.println("******* Scanning all movies.\n");
        try {
            DynamoDbEnhancedClient enhancedClient = DynamoDbEnhancedClient.builder()
                .dynamoDbClient(ddb)
                .build();

            DynamoDbTable<Movies> custTable = enhancedClient.table("Movies",
TableSchema.fromBean(Movies.class));
            Iterator<Movies> results = custTable.scan().items().iterator();
            while (results.hasNext()) {
                Movies rec = results.next();
                System.out.println("The movie title is " + rec.getTitle());
                System.out.println("The movie year is " + rec.getYear());
            }
```

```
        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    // Load data into the table.
    public static void loadData(DynamoDbClient ddb, String tableName, String
fileName) throws IOException {
        DynamoDbEnhancedClient enhancedClient = DynamoDbEnhancedClient.builder()
            .dynamoDbClient(ddb)
            .build();

        DynamoDbTable<Movies> mappedTable = enhancedClient.table("Movies",
TableSchema.fromBean(Movies.class));
        JsonParser parser = new JsonFactory().createParser(new File(fileName));
        com.fasterxml.jackson.databind.JsonNode rootNode = new
ObjectMapper().readTree(parser);
        Iterator<JsonNode> iter = rootNode.iterator();
        ObjectNode currentNode;
        int t = 0;
        while (iter.hasNext()) {
            // Only add 200 Movies to the table.
            if (t == 200)
                break;
            currentNode = (ObjectNode) iter.next();

            int year = currentNode.path("year").asInt();
            String title = currentNode.path("title").asText();
            String info = currentNode.path("info").toString();

            Movies movies = new Movies();
            movies.setYear(year);
            movies.setTitle(title);
            movies.setInfo(info);

            // Put the data into the Amazon DynamoDB Movie table.
            mappedTable.putItem(movies);
            t++;
        }
    }

    // Update the record to include show only directors.
    public static void updateTableItem(DynamoDbClient ddb, String tableName) {
```

```
        HashMap<String, AttributeValue> itemKey = new HashMap<>();
        itemKey.put("year", AttributeValue.builder().n("1933").build());
        itemKey.put("title", AttributeValue.builder().s("King Kong").build());

        HashMap<String, AttributeValueUpdate> updatedValues = new HashMap<>();
        updatedValues.put("info", AttributeValueUpdate.builder()
            .value(AttributeValue.builder().s("{\"directors\":[\"Merian C. Cooper\",
\"Ernest B. Schoedsack\"]")
                .build())
            .action(AttributeAction.PUT)
            .build());

        UpdateItemRequest request = UpdateItemRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .key(itemKey)
            .attributeUpdates(updatedValues)
            .build();

        try {
            ddb.updateItem(request);
        } catch (ResourceNotFoundException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }

        System.out.println("Item was updated!");
    }

    public static void deleteDynamoDBTable(DynamoDbClient ddb, String tableName) {
        DeleteTableRequest request = DeleteTableRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .build();

        try {
            ddb.deleteTable(request);

        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
        System.out.println(tableName + " was successfully deleted!");
```

```
    }

    public static void putRecord(DynamoDbClient ddb) {
        try {
            DynamoDbEnhancedClient enhancedClient = DynamoDbEnhancedClient.builder()
                .dynamoDbClient(ddb)
                .build();

            DynamoDbTable<Movies> table = enhancedClient.table("Movies",
TableSchema.fromBean(Movies.class));

            // Populate the Table.
            Movies record = new Movies();
            record.setYear(2020);
            record.setTitle("My Movie2");
            record.setInfo("no info");
            table.putItem(record);

        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
        System.out.println("Added a new movie to the table.");
    }

    public static void getItem(DynamoDbClient ddb) {

        HashMap<String, AttributeValue> keyToGet = new HashMap<>();
        keyToGet.put("year", AttributeValue.builder()
            .n("1933")
            .build());

        keyToGet.put("title", AttributeValue.builder()
            .s("King Kong")
            .build());

        GetItemRequest request = GetItemRequest.builder()
            .key(keyToGet)
            .tableName("Movies")
            .build();

        try {
            Map<String, AttributeValue> returnedItem = ddb.getItem(request).item();
```

```
            if (returnedItem != null) {
                Set<String> keys = returnedItem.keySet();
                System.out.println("Amazon DynamoDB table attributes: \n");

                for (String key1 : keys) {
                    System.out.format("%s: %s\n", key1,
 returnedItem.get(key1).toString());
                }
            } else {
                System.out.format("No item found with the key %s!\n", "year");
            }

        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - BatchWriteItem
  - CreateTable
  - DeleteItem
  - DeleteTable
  - DescribeTable
  - GetItem
  - PutItem
  - Query
  - Scan
  - UpdateItem

アクション

`BatchGetItem`

次のコード例は、BatchGetItem を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

サービスクライアントを使用してバッチアイテムを取得する方法を示します。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.BatchGetItemRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.BatchGetItemResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.KeysAndAttributes;
import java.util.HashMap;
import java.util.List;
import java.util.Map;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development environment,
 including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class BatchReadItems {
    public static void main(String[] args){
        final String usage = """

                Usage:
                    <tableName>

                Where:
                    tableName - The Amazon DynamoDB table (for example, Music).\s
                """;

        String tableName = "Music";
        Region region = Region.US_EAST_1;
        DynamoDbClient dynamoDbClient = DynamoDbClient.builder()
            .region(region)
```

```
            .build();

        getBatchItems(dynamoDbClient, tableName);
    }

    public static void getBatchItems(DynamoDbClient dynamoDbClient, String
 tableName) {
        // Define the primary key values for the items you want to retrieve.
        Map<String, AttributeValue> key1 = new HashMap<>();
        key1.put("Artist", AttributeValue.builder().s("Artist1").build());

        Map<String, AttributeValue> key2 = new HashMap<>();
        key2.put("Artist", AttributeValue.builder().s("Artist2").build());

        // Construct the batchGetItem request.
        Map<String, KeysAndAttributes> requestItems = new HashMap<>();
        requestItems.put(tableName, KeysAndAttributes.builder()
            .keys(List.of(key1, key2))
            .projectionExpression("Artist, SongTitle")
            .build());

        BatchGetItemRequest batchGetItemRequest = BatchGetItemRequest.builder()
            .requestItems(requestItems)
            .build();

        // Make the batchGetItem request.
        BatchGetItemResponse batchGetItemResponse =
 dynamoDbClient.batchGetItem(batchGetItemRequest);

        // Extract and print the retrieved items.
        Map<String, List<Map<String, AttributeValue>>> responses =
 batchGetItemResponse.responses();
        if (responses.containsKey(tableName)) {
            List<Map<String, AttributeValue>> musicItems = responses.get(tableName);
            for (Map<String, AttributeValue> item : musicItems) {
                System.out.println("Artist: " + item.get("Artist").s() +
                    ", SongTitle: " + item.get("SongTitle").s());
            }
        } else {
            System.out.println("No items retrieved.");
        }
    }
}
```

サービスクライアントおよびページネーターを使用してバッチアイテムを取得する方法を示します。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.BatchGetItemRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.KeysAndAttributes;
import java.util.Collections;
import java.util.HashMap;
import java.util.List;
import java.util.Map;

public class BatchGetItemsPaginator {

    public static void main(String[] args){
        final String usage = """

                Usage:
                    <tableName>

                Where:
                    tableName - The Amazon DynamoDB table (for example, Music).\s
                """;

        String tableName = "Music";
        Region region = Region.US_EAST_1;
        DynamoDbClient dynamoDbClient = DynamoDbClient.builder()
            .region(region)
            .build();

        getBatchItemsPaginator(dynamoDbClient, tableName) ;
    }

    public static void getBatchItemsPaginator(DynamoDbClient dynamoDbClient, String
 tableName) {
        // Define the primary key values for the items you want to retrieve.
        Map<String, AttributeValue> key1 = new HashMap<>();
        key1.put("Artist", AttributeValue.builder().s("Artist1").build());

        Map<String, AttributeValue> key2 = new HashMap<>();
```

```
        key2.put("Artist", AttributeValue.builder().s("Artist2").build());

        // Construct the batchGetItem request.
        Map<String, KeysAndAttributes> requestItems = new HashMap<>();
        requestItems.put(tableName, KeysAndAttributes.builder()
            .keys(List.of(key1, key2))
            .projectionExpression("Artist, SongTitle")
            .build());

        BatchGetItemRequest batchGetItemRequest = BatchGetItemRequest.builder()
            .requestItems(requestItems)
            .build();

        // Use batchGetItemPaginator for paginated requests.
        dynamoDbClient.batchGetItemPaginator(batchGetItemRequest).stream()
            .flatMap(response -> response.responses().getOrDefault(tableName,
 Collections.emptyList()).stream())
            .forEach(item -> {
                System.out.println("Artist: " + item.get("Artist").s() +
                    ", SongTitle: " + item.get("SongTitle").s());
            });
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「BatchGetItem」を参照してください。

`BatchWriteItem`

次のコード例は、`BatchWriteItem` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

サービスクライアントを使用して、多数の項目をテーブルに挿入します。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.BatchWriteItemRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.BatchWriteItemResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.PutRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.WriteRequest;
import java.util.ArrayList;
import java.util.HashMap;
import java.util.List;
import java.util.Map;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development environment,
 including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class BatchWriteItems {
    public static void main(String[] args){
        final String usage = """

                Usage:
                    <tableName>

                Where:
                    tableName - The Amazon DynamoDB table (for example, Music).\s
                """;

        String tableName = "Music";
        Region region = Region.US_EAST_1;
        DynamoDbClient dynamoDbClient = DynamoDbClient.builder()
            .region(region)
            .build();

        addBatchItems(dynamoDbClient, tableName);
    }

    public static void addBatchItems(DynamoDbClient dynamoDbClient, String
 tableName) {
```

```
        // Specify the updates you want to perform.
        List<WriteRequest> writeRequests = new ArrayList<>();

        // Set item 1.
        Map<String, AttributeValue> item1Attributes = new HashMap<>();
        item1Attributes.put("Artist",
AttributeValue.builder().s("Artist1").build());
        item1Attributes.put("Rating", AttributeValue.builder().s("5").build());
        item1Attributes.put("Comments", AttributeValue.builder().s("Great
song!").build());
        item1Attributes.put("SongTitle",
AttributeValue.builder().s("SongTitle1").build());

writeRequests.add(WriteRequest.builder().putRequest(PutRequest.builder().item(item1Attribut

        // Set item 2.
        Map<String, AttributeValue> item2Attributes = new HashMap<>();
        item2Attributes.put("Artist",
AttributeValue.builder().s("Artist2").build());
        item2Attributes.put("Rating", AttributeValue.builder().s("4").build());
        item2Attributes.put("Comments", AttributeValue.builder().s("Nice
melody.").build());
        item2Attributes.put("SongTitle",
AttributeValue.builder().s("SongTitle2").build());

writeRequests.add(WriteRequest.builder().putRequest(PutRequest.builder().item(item2Attribut

        try {
            // Create the BatchWriteItemRequest.
            BatchWriteItemRequest batchWriteItemRequest =
BatchWriteItemRequest.builder()
                .requestItems(Map.of(tableName, writeRequests))
                .build();

            // Execute the BatchWriteItem operation.
            BatchWriteItemResponse batchWriteItemResponse =
dynamoDbClient.batchWriteItem(batchWriteItemRequest);

            // Process the response.
            System.out.println("Batch write successful: " + batchWriteItemResponse);

        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
```

```
        }
    }
}
```

拡張クライアントを使用して、多数の項目をテーブルに挿入します。

```
import com.example.dynamodb.Customer;
import com.example.dynamodb.Music;
import software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.DynamoDbEnhancedClient;
import software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.DynamoDbTable;
import software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.Key;
import software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.TableSchema;
import software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.model.BatchWriteItemEnhancedRequest;
import software.amazon.awssdk.enhanced.dynamodb.model.WriteBatch;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import java.time.Instant;
import java.time.LocalDate;
import java.time.LocalDateTime;
import java.time.ZoneOffset;

/*
 * Before running this code example, create an Amazon DynamoDB table named Customer
 with these columns:
 *   - id - the id of the record that is the key
 *   - custName - the customer name
 *   - email - the email value
 *   - registrationDate - an instant value when the item was added to the table
 *
 * Also, ensure that you have set up your development environment, including your
 credentials.
 *
 * For information, see this documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class EnhancedBatchWriteItems {
        public static void main(String[] args) {
                Region region = Region.US_EAST_1;
                DynamoDbClient ddb = DynamoDbClient.builder()
                                .region(region)
```

```
                                .build();
                DynamoDbEnhancedClient enhancedClient =
DynamoDbEnhancedClient.builder()
                                .dynamoDbClient(ddb)
                                .build();
                putBatchRecords(enhancedClient);
                ddb.close();
        }

        public static void putBatchRecords(DynamoDbEnhancedClient enhancedClient) {
                try {
                        DynamoDbTable<Customer> customerMappedTable =
enhancedClient.table("Customer",
                                        TableSchema.fromBean(Customer.class));
                        DynamoDbTable<Music> musicMappedTable =
enhancedClient.table("Music",
                                        TableSchema.fromBean(Music.class));
                        LocalDate localDate = LocalDate.parse("2020-04-07");
                        LocalDateTime localDateTime = localDate.atStartOfDay();
                        Instant instant = localDateTime.toInstant(ZoneOffset.UTC);

                        Customer record2 = new Customer();
                        record2.setCustName("Fred Pink");
                        record2.setId("id110");
                        record2.setEmail("fredp@noserver.com");
                        record2.setRegistrationDate(instant);

                        Customer record3 = new Customer();
                        record3.setCustName("Susan Pink");
                        record3.setId("id120");
                        record3.setEmail("spink@noserver.com");
                        record3.setRegistrationDate(instant);

                        Customer record4 = new Customer();
                        record4.setCustName("Jerry orange");
                        record4.setId("id101");
                        record4.setEmail("jorange@noserver.com");
                        record4.setRegistrationDate(instant);

                        BatchWriteItemEnhancedRequest batchWriteItemEnhancedRequest
= BatchWriteItemEnhancedRequest
                                        .builder()
                                        .writeBatches(
```

```
 WriteBatch.builder(Customer.class) // add items to the Customer

       // table

 .mappedTableResource(customerMappedTable)

 .addPutItem(builder -> builder.item(record2))

 .addPutItem(builder -> builder.item(record3))

 .addPutItem(builder -> builder.item(record4))
                                                                    .build(),

 WriteBatch.builder(Music.class) // delete an item from the Music

    // table

 .mappedTableResource(musicMappedTable)

 .addDeleteItem(builder -> builder.key(

    Key.builder().partitionValue(

                    "Famous Band")

                    .build()))
                                                                    .build())
                                        .build();

                        // Add three items to the Customer table and delete one item
 from the Music
                        // table.

 enhancedClient.batchWriteItem(batchWriteItemEnhancedRequest);
                        System.out.println("done");

                } catch (DynamoDbException e) {
                        System.err.println(e.getMessage());
                        System.exit(1);
                }
        }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「BatchWriteItem」を参照してください。

`CreateTable`

次のコード例は、`CreateTable` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.core.waiters.WaiterResponse;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeDefinition;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.BillingMode;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.CreateTableRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.CreateTableResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DescribeTableRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DescribeTableResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.KeySchemaElement;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.KeyType;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.OnDemandThroughput;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ProvisionedThroughput;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ScalarAttributeType;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.waiters.DynamoDbWaiter;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
```

```
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class CreateTable {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

            Usage:
                <tableName> <key>

            Where:
                tableName - The Amazon DynamoDB table to create (for example,
 Music3).
                key - The key for the Amazon DynamoDB table (for example, Artist).
            """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String tableName = args[0];
        String key = args[1];
        System.out.println("Creating an Amazon DynamoDB table " + tableName + " with
 a simple primary key: " + key);
        Region region = Region.US_EAST_1;
        DynamoDbClient ddb = DynamoDbClient.builder()
            .region(region)
            .build();

        String result = createTable(ddb, tableName, key);
        System.out.println("New table is " + result);
        ddb.close();
    }

    public static String createTable(DynamoDbClient ddb, String tableName, String
 key) {
        DynamoDbWaiter dbWaiter = ddb.waiter();
        CreateTableRequest request = CreateTableRequest.builder()
            .attributeDefinitions(AttributeDefinition.builder()
                .attributeName(key)
                .attributeType(ScalarAttributeType.S)
                .build())
            .keySchema(KeySchemaElement.builder()
                .attributeName(key)
```

```
                .keyType(KeyType.HASH)
                .build())
            .billingMode(BillingMode.PAY_PER_REQUEST) //  DynamoDB automatically
 scales based on traffic.
            .tableName(tableName)
            .build();

        String newTable;
        try {
            CreateTableResponse response = ddb.createTable(request);
            DescribeTableRequest tableRequest = DescribeTableRequest.builder()
                .tableName(tableName)
                .build();

            // Wait until the Amazon DynamoDB table is created.
            WaiterResponse<DescribeTableResponse> waiterResponse =
 dbWaiter.waitUntilTableExists(tableRequest);
            waiterResponse.matched().response().ifPresent(System.out::println);
            newTable = response.tableDescription().tableName();
            return newTable;

        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateTable」を参照してください。

DeleteItem

次のコード例は、DeleteItem を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DeleteItemRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import java.util.HashMap;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DeleteItem {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <tableName> <key> <keyval>

                Where:
                    tableName - The Amazon DynamoDB table to delete the item from
 (for example, Music3).
                    key - The key used in the Amazon DynamoDB table (for example,
 Artist).\s
                    keyval - The key value that represents the item to delete (for
 example, Famous Band).
                """;

        if (args.length != 3) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
```

```
        }

        String tableName = args[0];
        String key = args[1];
        String keyVal = args[2];
        System.out.format("Deleting item \"%s\" from %s\n", keyVal, tableName);
        Region region = Region.US_EAST_1;
        DynamoDbClient ddb = DynamoDbClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        deleteDynamoDBItem(ddb, tableName, key, keyVal);
        ddb.close();
    }

    public static void deleteDynamoDBItem(DynamoDbClient ddb, String tableName,
 String key, String keyVal) {
        HashMap<String, AttributeValue> keyToGet = new HashMap<>();
        keyToGet.put(key, AttributeValue.builder()
                .s(keyVal)
                .build());

        DeleteItemRequest deleteReq = DeleteItemRequest.builder()
                .tableName(tableName)
                .key(keyToGet)
                .build();

        try {
            ddb.deleteItem(deleteReq);
        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteItem」を参照してください。

DeleteTable

次のコード例は、DeleteTable を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DeleteTableRequest;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */

public class DeleteTable {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <tableName>

                Where:
                    tableName - The Amazon DynamoDB table to delete (for example,
 Music3).

                **Warning** This program will delete the table that you specify!
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String tableName = args[0];
```

```
        System.out.format("Deleting the Amazon DynamoDB table %s...\n", tableName);
        Region region = Region.US_EAST_1;
        DynamoDbClient ddb = DynamoDbClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        deleteDynamoDBTable(ddb, tableName);
        ddb.close();
    }

    public static void deleteDynamoDBTable(DynamoDbClient ddb, String tableName) {
        DeleteTableRequest request = DeleteTableRequest.builder()
                .tableName(tableName)
                .build();

        try {
            ddb.deleteTable(request);

        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
        System.out.println(tableName + " was successfully deleted!");
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteTable」を参照してください。

`DescribeTable`

次のコード例は、`DescribeTable` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeDefinition;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DescribeTableRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ProvisionedThroughputDescription;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.TableDescription;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DescribeTable {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <tableName>

                Where:
                    tableName - The Amazon DynamoDB table to get information about
 (for example, Music3).
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String tableName = args[0];
        System.out.format("Getting description for %s\n\n", tableName);
        Region region = Region.US_EAST_1;
        DynamoDbClient ddb = DynamoDbClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        describeDymamoDBTable(ddb, tableName);
```

```
        ddb.close();
    }

    public static void describeDymamoDBTable(DynamoDbClient ddb, String tableName) {
        DescribeTableRequest request = DescribeTableRequest.builder()
                .tableName(tableName)
                .build();

        try {
            TableDescription tableInfo = ddb.describeTable(request).table();
            if (tableInfo != null) {
                System.out.format("Table name  : %s\n", tableInfo.tableName());
                System.out.format("Table ARN   : %s\n", tableInfo.tableArn());
                System.out.format("Status      : %s\n", tableInfo.tableStatus());
                System.out.format("Item count  : %d\n", tableInfo.itemCount());
                System.out.format("Size (bytes): %d\n", tableInfo.tableSizeBytes());

                ProvisionedThroughputDescription throughputInfo =
 tableInfo.provisionedThroughput();
                System.out.println("Throughput");
                System.out.format("  Read Capacity : %d\n",
 throughputInfo.readCapacityUnits());
                System.out.format("  Write Capacity: %d\n",
 throughputInfo.writeCapacityUnits());

                List<AttributeDefinition> attributes =
 tableInfo.attributeDefinitions();
                System.out.println("Attributes");
                for (AttributeDefinition a : attributes) {
                    System.out.format("  %s (%s)\n", a.attributeName(),
 a.attributeType());
                }
            }

        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
        System.out.println("\nDone!");
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeTable」を参照してください。

`DescribeTimeToLive`

次のコード例は、`DescribeTimeToLive` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

AWS SDK for Java 2.xを使用して既存の DynamoDB テーブルの TTL 設定を記述します。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DescribeTimeToLiveRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DescribeTimeToLiveResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ResourceNotFoundException;

import java.util.logging.Level;
import java.util.logging.Logger;

    public DescribeTimeToLiveResponse describeTTL(final String tableName, final
 Region region) {
        final DescribeTimeToLiveRequest request =
            DescribeTimeToLiveRequest.builder().tableName(tableName).build();

        try (DynamoDbClient ddb = dynamoDbClient != null
            ? dynamoDbClient
            : DynamoDbClient.builder().region(region).build()) {
            return ddb.describeTimeToLive(request);
        } catch (ResourceNotFoundException e) {
            System.err.format(TABLE_NOT_FOUND_ERROR, tableName);
            throw e;
        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            throw e;
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeTimeToLive」を参照してください。

GetItem

次のコード例は、GetItem を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

DynamoDbClient を使用して、テーブルから項目を取得します。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.GetItemRequest;
import java.util.HashMap;
import java.util.Map;
import java.util.Set;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 *
 * To get an item from an Amazon DynamoDB table using the AWS SDK for Java V2,
 * its better practice to use the
 * Enhanced Client, see the EnhancedGetItem example.
 */
public class GetItem {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <tableName> <key> <keyVal>

                Where:
```

```
                    tableName - The Amazon DynamoDB table from which an item is
retrieved (for example, Music3).\s
                    key - The key used in the Amazon DynamoDB table (for example,
Artist).\s
                    keyval - The key value that represents the item to get (for
example, Famous Band).
                """;

        if (args.length != 3) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String tableName = args[0];
        String key = args[1];
        String keyVal = args[2];
        System.out.format("Retrieving item \"%s\" from \"%s\"\n", keyVal,
tableName);
        Region region = Region.US_EAST_1;
        DynamoDbClient ddb = DynamoDbClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        getDynamoDBItem(ddb, tableName, key, keyVal);
        ddb.close();
    }

    public static void getDynamoDBItem(DynamoDbClient ddb, String tableName, String
key, String keyVal) {
        HashMap<String, AttributeValue> keyToGet = new HashMap<>();
        keyToGet.put(key, AttributeValue.builder()
                .s(keyVal)
                .build());

        GetItemRequest request = GetItemRequest.builder()
                .key(keyToGet)
                .tableName(tableName)
                .build();

        try {
            // If there is no matching item, GetItem does not return any data.
            Map<String, AttributeValue> returnedItem = ddb.getItem(request).item();
            if (returnedItem.isEmpty())
                System.out.format("No item found with the key %s!\n", key);
```

```
            else {
                Set<String> keys = returnedItem.keySet();
                System.out.println("Amazon DynamoDB table attributes: \n");
                for (String key1 : keys) {
                    System.out.format("%s: %s\n", key1,
 returnedItem.get(key1).toString());
                }
            }

        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「GetItem」を参照してください。

`ListTables`

次のコード例は、`ListTables` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ListTablesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ListTablesResponse;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
```

```
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ListTables {
    public static void main(String[] args) {
        System.out.println("Listing your Amazon DynamoDB tables:\n");
        Region region = Region.US_EAST_1;
        DynamoDbClient ddb = DynamoDbClient.builder()
                .region(region)
                .build();
        listAllTables(ddb);
        ddb.close();
    }

    public static void listAllTables(DynamoDbClient ddb) {
        boolean moreTables = true;
        String lastName = null;

        while (moreTables) {
            try {
                ListTablesResponse response = null;
                if (lastName == null) {
                    ListTablesRequest request = ListTablesRequest.builder().build();
                    response = ddb.listTables(request);
                } else {
                    ListTablesRequest request = ListTablesRequest.builder()
                            .exclusiveStartTableName(lastName).build();
                    response = ddb.listTables(request);
                }

                List<String> tableNames = response.tableNames();
                if (tableNames.size() > 0) {
                    for (String curName : tableNames) {
                        System.out.format("* %s\n", curName);
                    }
                } else {
                    System.out.println("No tables found!");
                    System.exit(0);
                }

                lastName = response.lastEvaluatedTableName();
```

```
                if (lastName == null) {
                    moreTables = false;
                }

            } catch (DynamoDbException e) {
                System.err.println(e.getMessage());
                System.exit(1);
            }
        }
        System.out.println("\nDone!");
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListTables」を参照してください。

`PutItem`

次のコード例は、`PutItem` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

DynamoDbClient を使用してテーブルに項目を配置します。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.PutItemRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.PutItemResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ResourceNotFoundException;
import java.util.HashMap;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
```

```
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 *
 * To place items into an Amazon DynamoDB table using the AWS SDK for Java V2,
 * its better practice to use the
 * Enhanced Client. See the EnhancedPutItem example.
 */
public class PutItem {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <tableName> <key> <keyVal> <albumtitle> <albumtitleval> <awards>
 <awardsval> <Songtitle> <songtitleval>

                Where:
                    tableName - The Amazon DynamoDB table in which an item is placed
 (for example, Music3).
                    key - The key used in the Amazon DynamoDB table (for example,
 Artist).
                    keyval - The key value that represents the item to get (for
 example, Famous Band).
                    albumTitle - The Album title (for example, AlbumTitle).
                    AlbumTitleValue - The name of the album (for example, Songs
 About Life ).
                    Awards - The awards column (for example, Awards).
                    AwardVal - The value of the awards (for example, 10).
                    SongTitle - The song title (for example, SongTitle).
                    SongTitleVal - The value of the song title (for example, Happy
 Day).
                **Warning** This program will  place an item that you specify into a
 table!
                """;

        if (args.length != 9) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String tableName = args[0];
        String key = args[1];
```

```
        String keyVal = args[2];
        String albumTitle = args[3];
        String albumTitleValue = args[4];
        String awards = args[5];
        String awardVal = args[6];
        String songTitle = args[7];
        String songTitleVal = args[8];

        Region region = Region.US_EAST_1;
        DynamoDbClient ddb = DynamoDbClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        putItemInTable(ddb, tableName, key, keyVal, albumTitle, albumTitleValue,
awards, awardVal, songTitle,
                songTitleVal);
        System.out.println("Done!");
        ddb.close();
    }

    public static void putItemInTable(DynamoDbClient ddb,
            String tableName,
            String key,
            String keyVal,
            String albumTitle,
            String albumTitleValue,
            String awards,
            String awardVal,
            String songTitle,
            String songTitleVal) {

        HashMap<String, AttributeValue> itemValues = new HashMap<>();
        itemValues.put(key, AttributeValue.builder().s(keyVal).build());
        itemValues.put(songTitle, AttributeValue.builder().s(songTitleVal).build());
        itemValues.put(albumTitle,
AttributeValue.builder().s(albumTitleValue).build());
        itemValues.put(awards, AttributeValue.builder().s(awardVal).build());

        PutItemRequest request = PutItemRequest.builder()
                .tableName(tableName)
                .item(itemValues)
                .build();

        try {
```

```
            PutItemResponse response = ddb.putItem(request);
            System.out.println(tableName + " was successfully updated. The request
 id is "
                    + response.responseMetadata().requestId());

        } catch (ResourceNotFoundException e) {
            System.err.format("Error: The Amazon DynamoDB table \"%s\" can't be
 found.\n", tableName);
            System.err.println("Be sure that it exists and that you've typed its
 name correctly!");
            System.exit(1);
        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「PutItem」を参照してください。

Query

次のコード例は、Query を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

DynamoDbClient を使用してテーブルに対してクエリを実行します。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryResponse;
```

```
import java.util.HashMap;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 *
 * To query items from an Amazon DynamoDB table using the AWS SDK for Java V2,
 * its better practice to use the
 * Enhanced Client. See the EnhancedQueryRecords example.
 */
public class Query {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <tableName> <partitionKeyName> <partitionKeyVal>

                Where:
                    tableName - The Amazon DynamoDB table to put the item in (for
 example, Music3).
                    partitionKeyName - The partition key name of the Amazon DynamoDB
 table (for example, Artist).
                    partitionKeyVal - The value of the partition key that should
 match (for example, Famous Band).
                """;

        if (args.length != 3) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String tableName = args[0];
        String partitionKeyName = args[1];
        String partitionKeyVal = args[2];

        // For more information about an alias, see:
        // https://docs.aws.amazon.com/amazondynamodb/latest/developerguide/
Expressions.ExpressionAttributeNames.html
        String partitionAlias = "#a";
```

```
        System.out.format("Querying %s", tableName);
        System.out.println("");
        Region region = Region.US_EAST_1;
        DynamoDbClient ddb = DynamoDbClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        int count = queryTable(ddb, tableName, partitionKeyName, partitionKeyVal,
 partitionAlias);
        System.out.println("There were " + count + "  record(s) returned");
        ddb.close();
    }

    public static int queryTable(DynamoDbClient ddb, String tableName, String
 partitionKeyName, String partitionKeyVal,
            String partitionAlias) {
        // Set up an alias for the partition key name in case it's a reserved word.
        HashMap<String, String> attrNameAlias = new HashMap<String, String>();
        attrNameAlias.put(partitionAlias, partitionKeyName);

        // Set up mapping of the partition name with the value.
        HashMap<String, AttributeValue> attrValues = new HashMap<>();
        attrValues.put(":" + partitionKeyName, AttributeValue.builder()
                .s(partitionKeyVal)
                .build());

        QueryRequest queryReq = QueryRequest.builder()
                .tableName(tableName)
                .keyConditionExpression(partitionAlias + " = :" + partitionKeyName)
                .expressionAttributeNames(attrNameAlias)
                .expressionAttributeValues(attrValues)
                .build();

        try {
            QueryResponse response = ddb.query(queryReq);
            return response.count();

        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
        return -1;
    }
}
```

DynamoDbClient とセカンダリインデックスを使用してテーブルに対してクエリを実行します。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryResponse;
import java.util.HashMap;
import java.util.Map;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 *
 * Create the Movies table by running the Scenario example and loading the Movie
 * data from the JSON file. Next create a secondary
 * index for the Movies table that uses only the year column. Name the index
 * **year-index**. For more information, see:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/amazondynamodb/latest/developerguide/GSI.html
 */
public class QueryItemsUsingIndex {
    public static void main(String[] args) {
        String tableName = "Movies";
        Region region = Region.US_EAST_1;
        DynamoDbClient ddb = DynamoDbClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        queryIndex(ddb, tableName);
        ddb.close();
    }

    public static void queryIndex(DynamoDbClient ddb, String tableName) {
        try {
```

```
            Map<String, String> expressionAttributesNames = new HashMap<>();
            expressionAttributesNames.put("#year", "year");
            Map<String, AttributeValue> expressionAttributeValues = new HashMap<>();
            expressionAttributeValues.put(":yearValue",
 AttributeValue.builder().n("2013").build());

            QueryRequest request = QueryRequest.builder()
                    .tableName(tableName)
                    .indexName("year-index")
                    .keyConditionExpression("#year = :yearValue")
                    .expressionAttributeNames(expressionAttributesNames)
                    .expressionAttributeValues(expressionAttributeValues)
                    .build();

            System.out.println("=== Movie Titles ===");
            QueryResponse response = ddb.query(request);
            response.items()
                    .forEach(movie -> System.out.println(movie.get("title").s()));

        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「Query」を参照してください。

Scan

次のコード例は、Scan を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

DynamoDbClient を使用して Amazon DynamoDB テーブルをスキャンします。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ScanRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ScanResponse;
import java.util.Map;
import java.util.Set;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 *
 * To scan items from an Amazon DynamoDB table using the AWS SDK for Java V2,
 * its better practice to use the
 * Enhanced Client, See the EnhancedScanRecords example.
 */

public class DynamoDBScanItems {
    public static void main(String[] args) {

        final String usage = """

                Usage:
                    <tableName>

                Where:
                    tableName - The Amazon DynamoDB table to get information from
 (for example, Music3).
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String tableName = args[0];
        Region region = Region.US_EAST_1;
```

```
        DynamoDbClient ddb = DynamoDbClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        scanItems(ddb, tableName);
        ddb.close();
    }

    public static void scanItems(DynamoDbClient ddb, String tableName) {
        try {
            ScanRequest scanRequest = ScanRequest.builder()
                    .tableName(tableName)
                    .build();

            ScanResponse response = ddb.scan(scanRequest);
            for (Map<String, AttributeValue> item : response.items()) {
                Set<String> keys = item.keySet();
                for (String key : keys) {
                    System.out.println("The key name is " + key + "\n");
                    System.out.println("The value is " + item.get(key).s());
                }
            }

        } catch (DynamoDbException e) {
            e.printStackTrace();
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「Scan」を参照してください。

`UpdateItem`

次のコード例は、UpdateItem を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

DynamoDbClient を使用してテーブルで項目を更新します。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeAction;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValueUpdate;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.UpdateItemRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import java.util.HashMap;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 *
 * To update an Amazon DynamoDB table using the AWS SDK for Java V2, its better
 * practice to use the
 * Enhanced Client, See the EnhancedModifyItem example.
 */
public class UpdateItem {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <tableName> <key> <keyVal> <name> <updateVal>

                Where:
                    tableName - The Amazon DynamoDB table (for example, Music3).
                    key - The name of the key in the table (for example, Artist).
                    keyVal - The value of the key (for example, Famous Band).
```

```
                    name - The name of the column where the value is updated (for
example, Awards).
                    updateVal - The value used to update an item (for example, 14).
                 Example:
                    UpdateItem Music3 Artist Famous Band Awards 14
                """;

        if (args.length != 5) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String tableName = args[0];
        String key = args[1];
        String keyVal = args[2];
        String name = args[3];
        String updateVal = args[4];

        Region region = Region.US_EAST_1;
        DynamoDbClient ddb = DynamoDbClient.builder()
                .region(region)
                .build();
        updateTableItem(ddb, tableName, key, keyVal, name, updateVal);
        ddb.close();
    }

    public static void updateTableItem(DynamoDbClient ddb,
            String tableName,
            String key,
            String keyVal,
            String name,
            String updateVal) {

        HashMap<String, AttributeValue> itemKey = new HashMap<>();
        itemKey.put(key, AttributeValue.builder()
                .s(keyVal)
                .build());

        HashMap<String, AttributeValueUpdate> updatedValues = new HashMap<>();
        updatedValues.put(name, AttributeValueUpdate.builder()
                .value(AttributeValue.builder().s(updateVal).build())
                .action(AttributeAction.PUT)
                .build());
```

```
        UpdateItemRequest request = UpdateItemRequest.builder()
                .tableName(tableName)
                .key(itemKey)
                .attributeUpdates(updatedValues)
                .build();

        try {
            ddb.updateItem(request);
        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
        System.out.println("The Amazon DynamoDB table was updated!");
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「UpdateItem」を参照してください。

`UpdateTimeToLive`

次のコード例は、`UpdateTimeToLive` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

AWS SDK for Java 2.xを使用して既存の DynamoDB テーブルの TTL を有効にします。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ResourceNotFoundException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.TimeToLiveSpecification;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.UpdateTimeToLiveRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.UpdateTimeToLiveResponse;

import java.util.logging.Level;
import java.util.logging.Logger;

    public UpdateTimeToLiveResponse enableTTL(final String tableName, final String
 attributeName, final Region region) {
        final TimeToLiveSpecification ttlSpec = TimeToLiveSpecification.builder()
            .attributeName(attributeName)
```

```
            .enabled(true)
            .build();

        final UpdateTimeToLiveRequest request = UpdateTimeToLiveRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .timeToLiveSpecification(ttlSpec)
            .build();

        try (DynamoDbClient ddb = dynamoDbClient != null
            ? dynamoDbClient
            : DynamoDbClient.builder().region(region).build()) {
            return ddb.updateTimeToLive(request);
        } catch (ResourceNotFoundException e) {
            System.err.format(TABLE_NOT_FOUND_ERROR, tableName);
            throw e;
        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            throw e;
        }
    }
```

AWS SDK for Java 2.xを使用して既存の DynamoDB テーブルの TTL を無効にします。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ResourceNotFoundException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.TimeToLiveSpecification;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.UpdateTimeToLiveRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.UpdateTimeToLiveResponse;

import java.util.logging.Level;
import java.util.logging.Logger;

    public UpdateTimeToLiveResponse disableTTL(
        final String tableName, final String attributeName, final Region region) {
        final TimeToLiveSpecification ttlSpec = TimeToLiveSpecification.builder()
            .attributeName(attributeName)
            .enabled(false)
            .build();

        final UpdateTimeToLiveRequest request = UpdateTimeToLiveRequest.builder()
```

```
            .tableName(tableName)
            .timeToLiveSpecification(ttlSpec)
            .build();

        try (DynamoDbClient ddb = dynamoDbClient != null
            ? dynamoDbClient
            : DynamoDbClient.builder().region(region).build()) {
            return ddb.updateTimeToLive(request);
        } catch (ResourceNotFoundException e) {
            System.err.format(TABLE_NOT_FOUND_ERROR, tableName);
            throw e;
        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            throw e;
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「UpdateTimeToLive」を参照してください。

シナリオ

DynamoDB テーブルにデータを送信するアプリケーションを構築する

次のコード例は、Amazon DynamoDB テーブルにデータを送信し、ユーザーがテーブルを更新したときに通知するアプリケーションを構築する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

Amazon DynamoDB Java API を使用してデータを送信し、Amazon Simple Notification Service Java API を使用してテキストメッセージを送信する動的ウェブアプリケーションを作成する方法について説明します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- DynamoDB
- Amazon SNS

複数の値を 1 つの属性と比較する

次のコード例は、DynamoDB で複数の値を 1 つの属性と比較する方法を示しています。

- IN 演算子を使用して、複数の値を 1 つの属性と比較します。
- IN 演算子を複数の OR 条件と比較します。
- IN の使用によるパフォーマンスと式の複雑さのメリットを理解します。

SDK for Java 2.x

を使用して、複数の値を DynamoDB の単一の属性と比較します AWS SDK for Java 2.x。

```
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ScanRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ScanResponse;

import java.util.ArrayList;
import java.util.HashMap;
import java.util.List;
import java.util.Locale;
import java.util.Map;

    /**
     * Queries a table using the IN operator to compare multiple values with a
 single attribute.
     *
     * <p>This method demonstrates how to use the IN operator in a filter expression
     * to match an attribute against multiple values.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param partitionKeyName The name of the partition key attribute
     * @param partitionKeyValue The value of the partition key to query
     * @param attributeName The name of the attribute to compare
     * @param valuesList List of values to compare against
     * @return The query response from DynamoDB
     * @throws DynamoDbException if an error occurs during the operation
     */
```

```
    public static QueryResponse compareMultipleValues(
        DynamoDbClient dynamoDbClient,
        String tableName,
        String partitionKeyName,
        AttributeValue partitionKeyValue,
        String attributeName,
        List<AttributeValue> valuesList) {

        // Create expression attribute names
        Map<String, String> expressionAttributeNames = new HashMap<>();
        expressionAttributeNames.put("#pkName", partitionKeyName);
        expressionAttributeNames.put("#attrName", attributeName);

        // Create expression attribute values
        Map<String, AttributeValue> expressionAttributeValues = new HashMap<>();
        expressionAttributeValues.put(":pkValue", partitionKeyValue);

        // Add values for IN operator
        for (int i = 0; i < valuesList.size(); i++) {
            expressionAttributeValues.put(":val" + i, valuesList.get(i));
        }

        // Build the IN clause
        StringBuilder inClause = new StringBuilder();
        for (int i = 0; i < valuesList.size(); i++) {
            if (i > 0) {
                inClause.append(", ");
            }
            inClause.append(":val").append(i);
        }

        // Define the query parameters
        QueryRequest request = QueryRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .keyConditionExpression("#pkName = :pkValue")
            .filterExpression("#attrName IN (" + inClause.toString() + ")")
            .expressionAttributeNames(expressionAttributeNames)
            .expressionAttributeValues(expressionAttributeValues)
            .build();

        // Perform the query operation
        return dynamoDbClient.query(request);
    }
```

```
   /**
    * Queries a table using multiple OR conditions to compare multiple values with
a single attribute.
    *
    * <p>This method demonstrates the alternative approach to using the IN
operator,
    * by using multiple OR conditions.
    *
    * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
    * @param tableName The name of the DynamoDB table
    * @param partitionKeyName The name of the partition key attribute
    * @param partitionKeyValue The value of the partition key to query
    * @param attributeName The name of the attribute to compare
    * @param valuesList List of values to compare against
    * @return The query response from DynamoDB
    * @throws DynamoDbException if an error occurs during the operation
    */
   public static QueryResponse compareWithOrConditions(
       DynamoDbClient dynamoDbClient,
       String tableName,
       String partitionKeyName,
       AttributeValue partitionKeyValue,
       String attributeName,
       List<AttributeValue> valuesList) {

       // Create expression attribute names
       Map<String, String> expressionAttributeNames = new HashMap<>();
       expressionAttributeNames.put("#pkName", partitionKeyName);
       expressionAttributeNames.put("#attrName", attributeName);

       // Create expression attribute values
       Map<String, AttributeValue> expressionAttributeValues = new HashMap<>();
       expressionAttributeValues.put(":pkValue", partitionKeyValue);

       // Add values for OR conditions
       for (int i = 0; i < valuesList.size(); i++) {
           expressionAttributeValues.put(":val" + i, valuesList.get(i));
       }

       // Build the OR conditions
       StringBuilder orConditions = new StringBuilder();
       for (int i = 0; i < valuesList.size(); i++) {
           if (i > 0) {
               orConditions.append(" OR ");
```

```
            }
            orConditions.append("#attrName = :val").append(i);
        }

        // Define the query parameters
        QueryRequest request = QueryRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .keyConditionExpression("#pkName = :pkValue")
            .filterExpression(orConditions.toString())
            .expressionAttributeNames(expressionAttributeNames)
            .expressionAttributeValues(expressionAttributeValues)
            .build();

        // Perform the query operation
        return dynamoDbClient.query(request);
    }

    /**
     * Compares the performance of using the IN operator versus multiple OR
conditions.
     *
     * <p>This method demonstrates the performance difference between using the IN
operator
     * and using multiple OR conditions.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param partitionKeyName The name of the partition key attribute
     * @param partitionKeyValue The value of the partition key to query
     * @param attributeName The name of the attribute to compare
     * @param valuesList List of values to compare against
     * @return Map containing the performance comparison results
     */
    public static Map<String, Object> comparePerformance(
        DynamoDbClient dynamoDbClient,
        String tableName,
        String partitionKeyName,
        AttributeValue partitionKeyValue,
        String attributeName,
        List<AttributeValue> valuesList) {

        Map<String, Object> results = new HashMap<>();

        try {
```

```
            // Measure performance of IN operator
            long inStartTime = System.nanoTime();
            QueryResponse inResponse = compareMultipleValues(
                dynamoDbClient, tableName, partitionKeyName, partitionKeyValue,
attributeName, valuesList);
            long inEndTime = System.nanoTime();
            long inDuration = inEndTime - inStartTime;

            // Measure performance of OR conditions
            long orStartTime = System.nanoTime();
            QueryResponse orResponse = compareWithOrConditions(
                dynamoDbClient, tableName, partitionKeyName, partitionKeyValue,
attributeName, valuesList);
            long orEndTime = System.nanoTime();
            long orDuration = orEndTime - orStartTime;

            // Record results
            results.put("inOperatorDuration", inDuration);
            results.put("orConditionsDuration", orDuration);
            results.put("inOperatorItems", inResponse.count());
            results.put("orConditionsItems", orResponse.count());
            results.put("inOperatorExpression", "IN operator with " +
valuesList.size() + " values");
            results.put("orConditionsExpression", valuesList.size() + " OR
conditions");
            results.put("success", true);

        } catch (DynamoDbException e) {
            results.put("success", false);
            results.put("error", e.getMessage());
        }

        return results;
    }

    /**
     * Scans a table using the IN operator with a large number of values.
     *
     * <p>This method demonstrates how to use the IN operator with a large number of
values,
     * which can help stay within the 300 operator limit.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
```

```
     * @param attributeName The name of the attribute to compare
     * @param valuesList List of values to compare against
     * @return The scan response from DynamoDB
     * @throws DynamoDbException if an error occurs during the operation
     */
    public static ScanResponse scanWithLargeInClause(
        DynamoDbClient dynamoDbClient, String tableName, String attributeName,
List<AttributeValue> valuesList) {

        // Create expression attribute names
        Map<String, String> expressionAttributeNames = new HashMap<>();
        expressionAttributeNames.put("#attrName", attributeName);

        // Create expression attribute values
        Map<String, AttributeValue> expressionAttributeValues = new HashMap<>();

        // Add values for IN operator
        for (int i = 0; i < valuesList.size(); i++) {
            expressionAttributeValues.put(":val" + i, valuesList.get(i));
        }

        // Build the IN clause
        StringBuilder inClause = new StringBuilder();
        for (int i = 0; i < valuesList.size(); i++) {
            if (i > 0) {
                inClause.append(", ");
            }
            inClause.append(":val").append(i);
        }

        // Define the scan parameters
        ScanRequest request = ScanRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .filterExpression("#attrName IN (" + inClause.toString() + ")")
            .expressionAttributeNames(expressionAttributeNames)
            .expressionAttributeValues(expressionAttributeValues)
            .build();

        // Perform the scan operation
        return dynamoDbClient.scan(request);
    }

    /**
     * Generates a list of sample values for testing.
```

```
     *
     * <p>Helper method to generate a list of sample values for testing.
     *
     * @param valueType The type of values to generate (string, number, or boolean)
     * @param count The number of values to generate
     * @return List of generated attribute values
     */
    public static List<AttributeValue> generateSampleValues(String valueType, int
count) {
        List<AttributeValue> values = new ArrayList<>();

        for (int i = 0; i < count; i++) {
            AttributeValue value;

            switch (valueType.toLowerCase(Locale.ROOT)) {
                case "string":
                    value = AttributeValue.builder().s("Value" + i).build();
                    break;
                case "number":
                    value = AttributeValue.builder().n(String.valueOf(i)).build();
                    break;
                case "boolean":
                    value = AttributeValue.builder().bool(i % 2 == 0).build();
                    break;
                default:
                    throw new IllegalArgumentException("Unsupported value type: " +
valueType);
            }

            values.add(value);
        }

        return values;
    }
```

複数の値と を比較する使用例 AWS SDK for Java 2.x。

```
    public static void exampleUsage(DynamoDbClient dynamoDbClient, String tableName)
{
        System.out.println("Demonstrating how to compare multiple values with a
single attribute in DynamoDB");
```

```
        try {
            // Example 1: Using the IN operator
            System.out.println("\nExample 1: Using the IN operator");
            List<AttributeValue> categories = List.of(
                AttributeValue.builder().s("Electronics").build(),
                AttributeValue.builder().s("Computers").build(),
                AttributeValue.builder().s("Accessories").build());

            QueryResponse inResponse = compareMultipleValues(
                dynamoDbClient,
                tableName,
                "Department",
                AttributeValue.builder().s("Retail").build(),
                "Category",
                categories);

            System.out.println("Found " + inResponse.count() + " items using IN
operator");
            System.out.println("Items: " + inResponse.items());

            // Example 2: Using multiple OR conditions
            System.out.println("\nExample 2: Using multiple OR conditions");
            QueryResponse orResponse = compareWithOrConditions(
                dynamoDbClient,
                tableName,
                "Department",
                AttributeValue.builder().s("Retail").build(),
                "Category",
                categories);

            System.out.println("Found " + orResponse.count() + " items using OR
conditions");
            System.out.println("Items: " + orResponse.items());

            // Example 3: Performance comparison
            System.out.println("\nExample 3: Performance comparison");
            Map<String, Object> perfComparison = comparePerformance(
                dynamoDbClient,
                tableName,
                "Department",
                AttributeValue.builder().s("Retail").build(),
                "Category",
                categories);
```

```
            if ((boolean) perfComparison.get("success")) {
                System.out.println("IN operator duration: " +
perfComparison.get("inOperatorDuration") + " ns");
                System.out.println("OR conditions duration: " +
perfComparison.get("orConditionsDuration") + " ns");
                System.out.println("IN operator found " +
perfComparison.get("inOperatorItems") + " items");
                System.out.println("OR conditions found " +
perfComparison.get("orConditionsItems") + " items");
                System.out.println("Expression complexity comparison:");
                System.out.println("  IN operator: " +
perfComparison.get("inOperatorExpression"));
                System.out.println("  OR conditions: " +
perfComparison.get("orConditionsExpression"));
            } else {
                System.out.println("Performance comparison failed: " +
perfComparison.get("error"));
            }

            // Example 4: Using IN with a large number of values
            System.out.println("\nExample 4: Using IN with a large number of
values");
            List<AttributeValue> productIds = generateSampleValues("string", 20);

            ScanResponse largeInResponse = scanWithLargeInClause(dynamoDbClient,
tableName, "ProductId", productIds);

            System.out.println(
                "Found " + largeInResponse.count() + " items using IN with " +
productIds.size() + " values");

            // Explain the benefits of using IN
            System.out.println("\nKey points about using the IN operator in
DynamoDB:");
            System.out.println("1. The IN operator allows comparing a single
attribute against multiple values");
            System.out.println("2. IN is more concise than using multiple OR
conditions");
            System.out.println("3. IN counts as only 1 operator regardless of the
number of values");
            System.out.println("4. Multiple OR conditions count as 1 operator per
condition plus 1 per OR");
            System.out.println("5. Using IN helps stay within the 300 operator limit
for complex expressions");
```

```
            System.out.println("6. IN can be used in filter expressions and
 condition expressions");
            System.out.println("7. The IN operator supports up to 100 comparison
 values");

        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println("Error: " + e.getMessage());
            e.printStackTrace();
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - Query
  - Scan

項目の TTL を条件付きで更新する

以下のコード例は、項目の TTL を条件付きで更新する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

条件を指定して、テーブル内の既存の DynamoDB 項目の TTL を更新します。

```
package com.amazon.samplelib.ttl;

import com.amazon.samplelib.CodeSampleUtils;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import
 software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ConditionalCheckFailedException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ResourceNotFoundException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.UpdateItemRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.UpdateItemResponse;

import java.util.Map;
import java.util.Optional;
```

```
/**
 * Updates an item in a DynamoDB table with TTL attributes using a conditional
 expression.
 * This class demonstrates how to conditionally update TTL expiration timestamps.
 */
public class UpdateTTLConditional {

    private static final String USAGE =
        """
            Usage:
                <tableName> <primaryKey> <sortKey> <region>
            Where:
                tableName - The Amazon DynamoDB table being queried.
                primaryKey - The name of the primary key. Also known as the hash or
 partition key.
                sortKey - The name of the sort key. Also known as the range
 attribute.
                region (optional) - The AWS region that the Amazon DynamoDB table is
 located in. (Default: us-east-1)
            """;
    private static final int DAYS_TO_EXPIRE = 90;
    private static final int SECONDS_PER_DAY = 24 * 60 * 60;
    private static final String PRIMARY_KEY_ATTR = "primaryKey";
    private static final String SORT_KEY_ATTR = "sortKey";
    private static final String UPDATED_AT_ATTR = "updatedAt";
    private static final String EXPIRE_AT_ATTR = "expireAt";
    private static final String UPDATE_EXPRESSION = "SET " + UPDATED_AT_ATTR + "=:c,
" + EXPIRE_AT_ATTR + "=:e";
    private static final String CONDITION_EXPRESSION = EXPIRE_AT_ATTR + " > :c";
    private static final String SUCCESS_MESSAGE = "%s UpdateItem operation with TTL
 successful.";
    private static final String CONDITION_FAILED_MESSAGE = "Condition check failed.
 The item may have already expired.";
    private static final String TABLE_NOT_FOUND_ERROR = "Error: The Amazon DynamoDB
 table \"%s\" can't be found.";

    private final DynamoDbClient dynamoDbClient;

    /**
     * Constructs an UpdateTTLConditional with a default DynamoDB client.
     */
    public UpdateTTLConditional() {
        this.dynamoDbClient = null;
    }
```

```
    /**
     * Constructs an UpdateTTLConditional with the specified DynamoDB client.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client to use
     */
    public UpdateTTLConditional(final DynamoDbClient dynamoDbClient) {
        this.dynamoDbClient = dynamoDbClient;
    }

    /**
     * Main method to demonstrate conditionally updating an item with TTL.
     *
     * @param args Command line arguments
     */
    public static void main(final String[] args) {
        try {
            int result = new UpdateTTLConditional().processArgs(args);
            System.exit(result);
        } catch (Exception e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    /**
     * Process command line arguments and conditionally update an item with TTL.
     *
     * @param args Command line arguments
     * @return 0 if successful, non-zero otherwise
     * @throws ResourceNotFoundException If the table doesn't exist
     * @throws DynamoDbException If an error occurs during the operation
     * @throws IllegalArgumentException If arguments are invalid
     */
    public int processArgs(final String[] args) {
        // Argument validation (remove or replace this line when reusing this code)
        CodeSampleUtils.validateArgs(args, new int[] {3, 4}, USAGE);

        final String tableName = args[0];
        final String primaryKey = args[1];
        final String sortKey = args[2];
        final Region region = Optional.ofNullable(args.length > 3 ? args[3] : null)
            .map(Region::of)
            .orElse(Region.US_EAST_1);
```

```
        // Get current time in epoch second format
        final long currentTime = System.currentTimeMillis() / 1000;

        // Calculate expiration time 90 days from now in epoch second format
        final long expireDate = currentTime + (DAYS_TO_EXPIRE * SECONDS_PER_DAY);

        // Create the key map for the item to update
        final Map<String, AttributeValue> keyMap = Map.of(
            PRIMARY_KEY_ATTR, AttributeValue.builder().s(primaryKey).build(),
            SORT_KEY_ATTR, AttributeValue.builder().s(sortKey).build());

        // Create the expression attribute values
        final Map<String, AttributeValue> expressionAttributeValues = Map.of(
            ":c", AttributeValue.builder().n(String.valueOf(currentTime)).build(),
            ":e", AttributeValue.builder().n(String.valueOf(expireDate)).build());

        final UpdateItemRequest request = UpdateItemRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .key(keyMap)
            .updateExpression(UPDATE_EXPRESSION)
            .conditionExpression(CONDITION_EXPRESSION)
            .expressionAttributeValues(expressionAttributeValues)
            .build();

        try (DynamoDbClient ddb = dynamoDbClient != null
            ? dynamoDbClient
            : DynamoDbClient.builder().region(region).build()) {
            final UpdateItemResponse response = ddb.updateItem(request);
            System.out.println(String.format(SUCCESS_MESSAGE, tableName));
            return 0;
        } catch (ConditionalCheckFailedException e) {
            System.err.println(CONDITION_FAILED_MESSAGE);
            throw e;
        } catch (ResourceNotFoundException e) {
            System.err.format(TABLE_NOT_FOUND_ERROR, tableName);
            throw e;
        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            throw e;
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「UpdateItem」を参照してください。

式演算子をカウントする

次のコード例は、DynamoDB で式演算子をカウントする方法を示しています。

- DynamoDB の演算子の制限数が 300 であることを理解します。
- 複雑な式での演算子をカウントする。
- 式を最適化して制限内に収まるようにします。

SDK for Java 2.x

AWS SDK for Java 2.xを使用して式演算子のカウントをデモンストレーションします。

```
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.UpdateItemRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.UpdateItemResponse;

import java.util.HashMap;
import java.util.Map;
import java.util.regex.Matcher;
import java.util.regex.Pattern;

    /**
     * Creates a complex filter expression with a specified number of conditions.
     *
     * <p>This method demonstrates how to generate a complex expression with
     * a specific number of operators to test the 300 operator limit.
     *
     * @param conditionsCount Number of conditions to include
     * @param useAnd Whether to use AND (true) or OR (false) between conditions
     * @return Map containing the filter expression, attribute values, and operator
 count
     */
    public static Map<String, Object> createComplexFilterExpression(int
 conditionsCount, boolean useAnd) {
```

```
        // Initialize the expression parts and attribute values
        StringBuilder filterExpression = new StringBuilder();
        Map<String, AttributeValue> expressionAttributeValues = new HashMap<>();

        // Generate the specified number of conditions
        for (int i = 0; i < conditionsCount; i++) {
            // Add the operator between conditions (except for the first one)
            if (i > 0) {
                filterExpression.append(useAnd ? " AND " : " OR ");
            }

            // Alternate between different comparison operators for variety
            String valueKey = ":val" + i;

            switch (i % 5) {
                case 0:
                    filterExpression.append("attribute").append(i).append(" =
").append(valueKey);
                    expressionAttributeValues.put(
                        valueKey, AttributeValue.builder().s("value" + i).build());
                    break;
                case 1:
                    filterExpression.append("attribute").append(i).append(" >
").append(valueKey);
                    expressionAttributeValues.put(
                        valueKey,
AttributeValue.builder().n(String.valueOf(i)).build());
                    break;
                case 2:
                    filterExpression.append("attribute").append(i).append(" <
").append(valueKey);
                    expressionAttributeValues.put(
                        valueKey,
                        AttributeValue.builder().n(String.valueOf(i * 10)).build());
                    break;
                case 3:
                    filterExpression
                        .append("contains(attribute")
                        .append(i)
                        .append(", ")
                        .append(valueKey)
                        .append(")");
                    expressionAttributeValues.put(
```

```
                        valueKey, AttributeValue.builder().s("substring" +
i).build());
                    break;
                case 4:
                    filterExpression
                        .append("attribute_exists(attribute")
                        .append(i)
                        .append(")");
                    break;
                default:
                    // This case will never be reached, but added to satisfy
checkstyle
                    break;
            }
        }

        // Calculate the operator count
        // Each condition has 1 operator (=, >, <, contains, attribute_exists)
        // Each AND or OR between conditions is 1 operator
        int operatorCount = conditionsCount + (conditionsCount > 0 ? conditionsCount
- 1 : 0);

        // Create the result map
        Map<String, Object> result = new HashMap<>();
        result.put("filterExpression", filterExpression.toString());
        result.put("expressionAttributeValues", expressionAttributeValues);
        result.put("operatorCount", operatorCount);

        return result;
    }

    /**
     * Creates a complex update expression with a specified number of operations.
     *
     * <p>This method demonstrates how to generate a complex update expression with
     * a specific number of operators to test the 300 operator limit.
     *
     * @param operationsCount Number of operations to include
     * @return Map containing the update expression, attribute values, and operator
count
     */
    public static Map<String, Object> createComplexUpdateExpression(int
operationsCount) {
        // Initialize the expression parts and attribute values
```

```
        StringBuilder updateExpression = new StringBuilder("SET ");
        Map<String, AttributeValue> expressionAttributeValues = new HashMap<>();

        // Generate the specified number of SET operations
        for (int i = 0; i < operationsCount; i++) {
            // Add comma between operations (except for the first one)
            if (i > 0) {
                updateExpression.append(", ");
            }

            // Alternate between different types of SET operations
            String valueKey = ":val" + i;

            switch (i % 3) {
                case 0:
                    // Simple assignment (1 operator: =)
                    updateExpression.append("attribute").append(i).append(" =
").append(valueKey);
                    expressionAttributeValues.put(
                        valueKey, AttributeValue.builder().s("value" + i).build());
                    break;
                case 1:
                    // Addition (2 operators: = and +)
                    updateExpression
                        .append("attribute")
                        .append(i)
                        .append(" = attribute")
                        .append(i)
                        .append(" + ")
                        .append(valueKey);
                    expressionAttributeValues.put(
                        valueKey,
AttributeValue.builder().n(String.valueOf(i)).build());
                    break;
                case 2:
                    // Conditional assignment with if_not_exists (2 operators: = and
if_not_exists)
                    updateExpression
                        .append("attribute")
                        .append(i)
                        .append(" = if_not_exists(attribute")
                        .append(i)
                        .append(", ")
                        .append(valueKey)
```

```
                        .append(")");
                    expressionAttributeValues.put(
                        valueKey,
                        AttributeValue.builder().n(String.valueOf(i * 10)).build());
                    break;
                default:
                    // This case will never be reached, but added to satisfy
checkstyle
                    break;
            }
        }

        // Calculate the operator count
        // Each operation has 1-2 operators as noted above
        int operatorCount = 0;
        for (int i = 0; i < operationsCount; i++) {
            operatorCount += (i % 3 == 0) ? 1 : 2;
        }

        // Create the result map
        Map<String, Object> result = new HashMap<>();
        result.put("updateExpression", updateExpression.toString());
        result.put("expressionAttributeValues", expressionAttributeValues);
        result.put("operatorCount", operatorCount);

        return result;
    }

    /**
     * Test the operator limit by attempting an operation with a complex expression.
     *
     * <p>This method demonstrates what happens when an expression approaches or
     * exceeds the 300 operator limit.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param key The key of the item to update
     * @param operatorCount Target number of operators to include
     * @return Map containing the result of the operation attempt
     */
    public static Map<String, Object> testOperatorLimit(
        DynamoDbClient dynamoDbClient, String tableName, Map<String, AttributeValue>
key, int operatorCount) {
```

```
        // Create a complex update expression with the specified operator count
        Map<String, Object> expressionData =
            createComplexUpdateExpression((int) Math.ceil(operatorCount / 1.5)); //
Adjust to get close to target count

        String updateExpression = (String) expressionData.get("updateExpression");
        @SuppressWarnings("unchecked")
        Map<String, AttributeValue> expressionAttributeValues =
            (Map<String, AttributeValue>)
expressionData.get("expressionAttributeValues");
        int actualCount = (int) expressionData.get("operatorCount");

        System.out.println("Generated update expression with approximately " +
actualCount + " operators");

        // Define the update parameters
        UpdateItemRequest request = UpdateItemRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .key(key)
            .updateExpression(updateExpression)
            .expressionAttributeValues(expressionAttributeValues)
            .returnValues("UPDATED_NEW")
            .build();

        try {
            // Attempt the update operation
            UpdateItemResponse response = dynamoDbClient.updateItem(request);

            Map<String, Object> result = new HashMap<>();
            result.put("success", true);
            result.put("message", "Operation succeeded with " + actualCount + "
operators");
            result.put("data", response);
            return result;

        } catch (DynamoDbException e) {
            // Check if the error is due to exceeding the operator limit
            if (e.getMessage().contains("too many operators")) {
                Map<String, Object> result = new HashMap<>();
                result.put("success", false);
                result.put("message", "Operation failed: " + e.getMessage());
                result.put("operatorCount", actualCount);
                return result;
            }
```

```
            // Return other errors
            Map<String, Object> result = new HashMap<>();
            result.put("success", false);
            result.put("message", "Operation failed: " + e.getMessage());
            result.put("error", e);
            return result;
        }
    }

    /**
     * Break down a complex expression into multiple simpler operations.
     *
     * <p>This method demonstrates how to handle expressions that would exceed
     * the 300 operator limit by breaking them into multiple operations.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param key The key of the item to update
     * @param totalOperations Total number of operations to perform
     * @return Map containing the results of the operations
     */
    public static Map<String, Object> breakDownComplexExpression(
        DynamoDbClient dynamoDbClient, String tableName, Map<String, AttributeValue>
key, int totalOperations) {

        // Calculate how many operations we can safely include in each batch
        // Using 150 as a conservative limit (well below 300)
        final int operationsPerBatch = 100;
        final int batchCount = (int) Math.ceil((double) totalOperations /
operationsPerBatch);

        System.out.println("Breaking down " + totalOperations + " operations into "
+ batchCount + " batches");

        Map<String, Object> results = new HashMap<>();
        results.put("totalBatches", batchCount);

        Map<Integer, Map<String, Object>> batchResults = new HashMap<>();

        // Process each batch
        for (int batch = 0; batch < batchCount; batch++) {
            // Calculate the operations for this batch
            int batchStart = batch * operationsPerBatch;
```

```
            int batchEnd = Math.min(batchStart + operationsPerBatch,
totalOperations);
            int batchSize = batchEnd - batchStart;

            System.out.println(
                "Processing batch " + (batch + 1) + "/" + batchCount + " with " +
batchSize + " operations");

            // Create an update expression for this batch
            Map<String, Object> expressionData =
createComplexUpdateExpression(batchSize);

            String updateExpression = (String)
expressionData.get("updateExpression");
            @SuppressWarnings("unchecked")
            Map<String, AttributeValue> expressionAttributeValues =
                (Map<String, AttributeValue>)
expressionData.get("expressionAttributeValues");
            int operatorCount = (int) expressionData.get("operatorCount");

            // Define the update parameters
            UpdateItemRequest request = UpdateItemRequest.builder()
                .tableName(tableName)
                .key(key)
                .updateExpression(updateExpression)
                .expressionAttributeValues(expressionAttributeValues)
                .returnValues("UPDATED_NEW")
                .build();

            try {
                // Perform the update operation for this batch
                UpdateItemResponse response = dynamoDbClient.updateItem(request);

                Map<String, Object> batchResult = new HashMap<>();
                batchResult.put("batch", batch + 1);
                batchResult.put("success", true);
                batchResult.put("operatorCount", operatorCount);
                batchResult.put("attributes", response.attributes());

                batchResults.put(batch, batchResult);

            } catch (DynamoDbException e) {
                Map<String, Object> batchResult = new HashMap<>();
                batchResult.put("batch", batch + 1);
```

```
                batchResult.put("success", false);
                batchResult.put("operatorCount", operatorCount);
                batchResult.put("error", e.getMessage());

                batchResults.put(batch, batchResult);

                // Continue with next batch instead of breaking
                continue;
            }
        }

        results.put("results", batchResults);
        return results;
    }

    /**
     * Count operators in a DynamoDB expression based on the rules in the
documentation.
     *
     * <p>This method demonstrates how operators are counted according to the
     * DynamoDB documentation.
     *
     * @param expression The DynamoDB expression to analyze
     * @return Map containing the breakdown of operator counts
     */
    public static Map<String, Integer> countOperatorsInExpression(String expression)
{
        // Initialize counters for different operator types
        Map<String, Integer> counts = new HashMap<>();
        counts.put("comparisonOperators", 0);
        counts.put("logicalOperators", 0);
        counts.put("functions", 0);
        counts.put("arithmeticOperators", 0);
        counts.put("specialOperators", 0);
        counts.put("total", 0);

        // Count comparison operators (=, <>, <, <=, >, >=)
        // This is a simplified approach and may not catch all cases
        int comparisonCount = 0;
        Pattern comparisonPattern = Pattern.compile("(=|<>|<=|>=|<|>)");
        Matcher comparisonMatcher = comparisonPattern.matcher(expression);
        while (comparisonMatcher.find()) {
            comparisonCount++;
        }
```

```
        counts.put("comparisonOperators", comparisonCount);

        // Count logical operators (AND, OR, NOT)
        int andCount = countOccurrences(expression, "\\bAND\\b");
        int orCount = countOccurrences(expression, "\\bOR\\b");
        int notCount = countOccurrences(expression, "\\bNOT\\b");
        counts.put("logicalOperators", andCount + orCount + notCount);

        // Count functions (attribute_exists, attribute_not_exists, attribute_type,
 begins_with, contains, size)
        int functionCount = countOccurrences(
            expression,
            "\\b(attribute_exists|attribute_not_exists|attribute_type|begins_with|
contains|size|if_not_exists)\\(");
        counts.put("functions", functionCount);

        // Count arithmetic operators (+ and -)
        // This is a simplified approach and may not catch all cases
        int arithmeticCount = 0;
        Pattern arithmeticPattern = Pattern.compile("[a-zA-Z0-9_)\\]]\\s*[\\+\\-]\
\s*[a-zA-Z0-9_:(]");
        Matcher arithmeticMatcher = arithmeticPattern.matcher(expression);
        while (arithmeticMatcher.find()) {
            arithmeticCount++;
        }
        counts.put("arithmeticOperators", arithmeticCount);

        // Count special operators (BETWEEN, IN)
        int betweenCount = countOccurrences(expression, "\\bBETWEEN\\b");
        int inCount = countOccurrences(expression, "\\bIN\\b");
        counts.put("specialOperators", betweenCount + inCount);

        // Add extra operators for BETWEEN (each BETWEEN includes an AND)
        int currentLogicalOps = counts.getOrDefault("logicalOperators", 0);
        counts.put("logicalOperators", currentLogicalOps + betweenCount);

        // Calculate total
        int total = counts.getOrDefault("comparisonOperators", 0)
            + counts.getOrDefault("logicalOperators", 0)
            + counts.getOrDefault("functions", 0)
            + counts.getOrDefault("arithmeticOperators", 0)
            + counts.getOrDefault("specialOperators", 0);
        counts.put("total", total);
```

```
        return counts;
    }

    /**
     * Helper method to count occurrences of a pattern in a string.
     *
     * @param text The text to search in
     * @param regex The regular expression pattern to search for
     * @return The number of occurrences
     */
    private static int countOccurrences(String text, String regex) {
        final Pattern pattern = Pattern.compile(regex);
        final Matcher matcher = pattern.matcher(text);
        int count = 0;
        while (matcher.find()) {
            count++;
        }
        return count;
    }
```

でカウントする式演算子の使用例 AWS SDK for Java 2.x。

```
    public static void exampleUsage(DynamoDbClient dynamoDbClient, String tableName)
{
        // Example key
        Map<String, AttributeValue> key = new HashMap<>();
        key.put("ProductId", AttributeValue.builder().s("P12345").build());

        System.out.println("Demonstrating DynamoDB expression operator counting and
the 300 operator limit");

        try {
            // Example 1: Analyze a simple expression
            System.out.println("\nExample 1: Analyzing a simple expression");
            String simpleExpression = "Price = :price AND Rating > :rating AND
Category IN (:cat1, :cat2, :cat3)";
            Map<String, Integer> simpleCount =
countOperatorsInExpression(simpleExpression);

            System.out.println("Expression: " + simpleExpression);
            System.out.println("Operator count breakdown:");
```

```
            System.out.println("- Comparison operators: " +
simpleCount.get("comparisonOperators"));
            System.out.println("- Logical operators: " +
simpleCount.get("logicalOperators"));
            System.out.println("- Functions: " + simpleCount.get("functions"));
            System.out.println("- Arithmetic operators: " +
simpleCount.get("arithmeticOperators"));
            System.out.println("- Special operators: " +
simpleCount.get("specialOperators"));
            System.out.println("- Total operators: " + simpleCount.get("total"));

            // Example 2: Analyze a complex expression
            System.out.println("\nExample 2: Analyzing a complex expression");
            String complexExpression = "(attribute_exists(Category) AND Size
BETWEEN :min AND :max) OR "
                + "(Price > :price AND contains(Description, :keyword) AND "
                + "(Rating >= :minRating OR Reviews > :minReviews))";
            Map<String, Integer> complexCount =
countOperatorsInExpression(complexExpression);

            System.out.println("Expression: " + complexExpression);
            System.out.println("Operator count breakdown:");
            System.out.println("- Comparison operators: " +
complexCount.get("comparisonOperators"));
            System.out.println("- Logical operators: " +
complexCount.get("logicalOperators"));
            System.out.println("- Functions: " + complexCount.get("functions"));
            System.out.println("- Arithmetic operators: " +
complexCount.get("arithmeticOperators"));
            System.out.println("- Special operators: " +
complexCount.get("specialOperators"));
            System.out.println("- Total operators: " + complexCount.get("total"));

            // Example 3: Test approaching the operator limit
            System.out.println("\nExample 3: Testing an expression approaching the
operator limit");
            Map<String, Object> approachingLimit = testOperatorLimit(dynamoDbClient,
tableName, key, 290);
            System.out.println(approachingLimit.get("message"));

            // Example 4: Test exceeding the operator limit
            System.out.println("\nExample 4: Testing an expression exceeding the
operator limit");
```

```
            Map<String, Object> exceedingLimit = testOperatorLimit(dynamoDbClient,
tableName, key, 310);
            System.out.println(exceedingLimit.get("message"));

            // Example 5: Breaking down a complex expression
            System.out.println("\nExample 5: Breaking down a complex expression into
multiple operations");
            Map<String, Object> breakdownResult =
breakDownComplexExpression(dynamoDbClient, tableName, key, 500);
            @SuppressWarnings("unchecked")
            Map<Integer, Map<String, Object>> results =
                (Map<Integer, Map<String, Object>>) breakdownResult.get("results");
            System.out.println(
                "Processed " + results.size() + " of " +
breakdownResult.get("totalBatches") + " batches");

            // Explain the operator counting rules
            System.out.println("\nKey points about DynamoDB expression operator
counting:");
            System.out.println("1. The maximum number of operators in any expression
is 300");
            System.out.println("2. Each comparison operator (=, <>, <, <=, >, >=)
counts as 1 operator");
            System.out.println("3. Each logical operator (AND, OR, NOT) counts as 1
operator");
            System.out.println("4. Each function call (attribute_exists, contains,
etc.) counts as 1 operator");
            System.out.println("5. Each arithmetic operator (+ or -) counts as 1
operator");
            System.out.println("6. BETWEEN counts as 2 operators (BETWEEN itself and
the AND within it)");
            System.out.println("7. IN counts as 1 operator regardless of the number
of values");
            System.out.println("8. Parentheses for grouping and attribute paths
don't count as operators");
            System.out.println("9. When you exceed the limit, the error always
reports '301 operators'");
            System.out.println("10. For complex operations, break them into multiple
smaller operations");

        } catch (Exception e) {
            System.err.println("Error: " + e.getMessage());
            e.printStackTrace();
        }
```

```
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「UpdateItem」を参照してください。

サーバーレスアプリケーションを作成して写真を管理する

次のコード例では、ユーザーがラベルを使用して写真を管理できるサーバーレスアプリケーションを作成する方法について示しています。

SDK for Java 2.x

Amazon Rekognition を使用して画像内のラベルを検出し、保存して後で取得できるようにする写真アセット管理アプリケーションの開発方法を示します。

完全なソースコードと設定および実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例のソースについて詳しくは、AWS コミュニティでブログ投稿を参照してください。

この例で使用されているサービス

- API ゲートウェイ
- DynamoDB
- Lambda
- Amazon Rekognition
- Amazon S3
- Amazon SNS

グローバルセカンダリインデックスを含むテーブルを作成する

次のコード例は、グローバルセカンダリインデックスを含むテーブルの作成方法を示しています。

SDK for Java 2.x

を使用して、グローバルセカンダリインデックスを含む DynamoDB テーブルを作成します AWS SDK for Java 2.x。

```
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
```

```
import software.amazon.awssdk.core.waiters.WaiterResponse;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeDefinition;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.CreateTableRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DeleteTableRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DescribeTableRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DescribeTableResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.GlobalSecondaryIndex;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.KeySchemaElement;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.KeyType;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.Projection;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ProjectionType;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ProvisionedThroughput;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.PutItemRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ScalarAttributeType;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.waiters.DynamoDbWaiter;

import java.util.ArrayList;
import java.util.HashMap;
import java.util.List;
import java.util.Map;

    public void createTable() {
        try {
            // Attribute definitions
            final List<AttributeDefinition> attributeDefinitions = new
 ArrayList<>();
            attributeDefinitions.add(AttributeDefinition.builder()
                .attributeName(ISSUE_ID_ATTR)
                .attributeType(ScalarAttributeType.S)
                .build());
            attributeDefinitions.add(AttributeDefinition.builder()
                .attributeName(TITLE_ATTR)
                .attributeType(ScalarAttributeType.S)
                .build());
            attributeDefinitions.add(AttributeDefinition.builder()
                .attributeName(CREATE_DATE_ATTR)
                .attributeType(ScalarAttributeType.S)
                .build());
```

```
            attributeDefinitions.add(AttributeDefinition.builder()
                .attributeName(DUE_DATE_ATTR)
                .attributeType(ScalarAttributeType.S)
                .build());

            // Key schema for table
            final List<KeySchemaElement> tableKeySchema = new ArrayList<>();
            tableKeySchema.add(KeySchemaElement.builder()
                .attributeName(ISSUE_ID_ATTR)
                .keyType(KeyType.HASH)
                .build()); // Partition key
            tableKeySchema.add(KeySchemaElement.builder()
                .attributeName(TITLE_ATTR)
                .keyType(KeyType.RANGE)
                .build()); // Sort key

            // Initial provisioned throughput settings for the indexes
            final ProvisionedThroughput ptIndex = ProvisionedThroughput.builder()
                .readCapacityUnits(1L)
                .writeCapacityUnits(1L)
                .build();

            // CreateDateIndex
            final List<KeySchemaElement> createDateKeySchema = new ArrayList<>();
            createDateKeySchema.add(KeySchemaElement.builder()
                .attributeName(CREATE_DATE_ATTR)
                .keyType(KeyType.HASH)
                .build());
            createDateKeySchema.add(KeySchemaElement.builder()
                .attributeName(ISSUE_ID_ATTR)
                .keyType(KeyType.RANGE)
                .build());

            final Projection createDateProjection = Projection.builder()
                .projectionType(ProjectionType.INCLUDE)
                .nonKeyAttributes(DESCRIPTION_ATTR, STATUS_ATTR)
                .build();

            final GlobalSecondaryIndex createDateIndex =
GlobalSecondaryIndex.builder()
                .indexName(CREATE_DATE_INDEX)
                .keySchema(createDateKeySchema)
                .projection(createDateProjection)
                .provisionedThroughput(ptIndex)
```

```
                .build();

            // TitleIndex
            final List<KeySchemaElement> titleKeySchema = new ArrayList<>();
            titleKeySchema.add(KeySchemaElement.builder()
                .attributeName(TITLE_ATTR)
                .keyType(KeyType.HASH)
                .build());
            titleKeySchema.add(KeySchemaElement.builder()
                .attributeName(ISSUE_ID_ATTR)
                .keyType(KeyType.RANGE)
                .build());

            final Projection titleProjection =

Projection.builder().projectionType(ProjectionType.KEYS_ONLY).build();

            final GlobalSecondaryIndex titleIndex = GlobalSecondaryIndex.builder()
                .indexName(TITLE_INDEX)
                .keySchema(titleKeySchema)
                .projection(titleProjection)
                .provisionedThroughput(ptIndex)
                .build();

            // DueDateIndex
            final List<KeySchemaElement> dueDateKeySchema = new ArrayList<>();
            dueDateKeySchema.add(KeySchemaElement.builder()
                .attributeName(DUE_DATE_ATTR)
                .keyType(KeyType.HASH)
                .build());

            final Projection dueDateProjection =
                Projection.builder().projectionType(ProjectionType.ALL).build();

            final GlobalSecondaryIndex dueDateIndex = GlobalSecondaryIndex.builder()
                .indexName(DUE_DATE_INDEX)
                .keySchema(dueDateKeySchema)
                .projection(dueDateProjection)
                .provisionedThroughput(ptIndex)
                .build();

            final CreateTableRequest createTableRequest =
CreateTableRequest.builder()
                .tableName(TABLE_NAME)
```

```
                .keySchema(tableKeySchema)
                .attributeDefinitions(attributeDefinitions)
                .globalSecondaryIndexes(createDateIndex, titleIndex, dueDateIndex)
                .provisionedThroughput(ProvisionedThroughput.builder()
                    .readCapacityUnits(1L)
                    .writeCapacityUnits(1L)
                    .build())
                .build();

            System.out.println("Creating table " + TABLE_NAME + "...");
            dynamoDbClient.createTable(createTableRequest);

            // Wait for table to become active
            System.out.println("Waiting for " + TABLE_NAME + " to become
ACTIVE...");
            final DynamoDbWaiter waiter = dynamoDbClient.waiter();
            final DescribeTableRequest describeTableRequest =
                DescribeTableRequest.builder().tableName(TABLE_NAME).build();

            final WaiterResponse<DescribeTableResponse> waiterResponse =
                waiter.waitUntilTableExists(describeTableRequest);
            waiterResponse.matched().response().ifPresent(response ->
System.out.println("Table is now ready for use"));

        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println("Error creating table: " + e.getMessage());
            e.printStackTrace();
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateTable」を参照してください。

ウォームスループットを有効にしたテーブルを作成する

次のコード例は、ウォームスループットを有効にしたテーブルを作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

AWS SDK for Java 2.xを使用してウォームスループット設定を含む DynamoDB テーブルを作成します。

```
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeDefinition;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.CreateTableRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.CreateTableResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.GlobalSecondaryIndex;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.KeySchemaElement;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.KeyType;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.Projection;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ProvisionedThroughput;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ScalarAttributeType;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.WarmThroughput;

    public static WarmThroughput buildWarmThroughput(final Long readUnitsPerSecond,
 final Long writeUnitsPerSecond) {
        return WarmThroughput.builder()
            .readUnitsPerSecond(readUnitsPerSecond)
            .writeUnitsPerSecond(writeUnitsPerSecond)
            .build();
    }

    /**
     * Builds a ProvisionedThroughput object with the specified read and write
 capacity units.
     *
     * @param readCapacityUnits The read capacity units
     * @param writeCapacityUnits The write capacity units
     * @return A configured ProvisionedThroughput object
     */
    public static ProvisionedThroughput buildProvisionedThroughput(
        final Long readCapacityUnits, final Long writeCapacityUnits) {
        return ProvisionedThroughput.builder()
            .readCapacityUnits(readCapacityUnits)
            .writeCapacityUnits(writeCapacityUnits)
            .build();
    }

    /**
     * Builds an AttributeDefinition with the specified name and type.
     *
     * @param attributeName The attribute name
     * @param scalarAttributeType The attribute type
     * @return A configured AttributeDefinition
     */
```

```
    private static AttributeDefinition buildAttributeDefinition(
        final String attributeName, final ScalarAttributeType scalarAttributeType) {
        return AttributeDefinition.builder()
            .attributeName(attributeName)
            .attributeType(scalarAttributeType)
            .build();
    }

    /**
     * Builds a KeySchemaElement with the specified name and key type.
     *
     * @param attributeName The attribute name
     * @param keyType The key type (HASH or RANGE)
     * @return A configured KeySchemaElement
     */
    private static KeySchemaElement buildKeySchemaElement(final String
attributeName, final KeyType keyType) {
        return KeySchemaElement.builder()
            .attributeName(attributeName)
            .keyType(keyType)
            .build();
    }

    /**
     * Creates a DynamoDB table with the specified configuration including warm
throughput settings.
     *
     * @param ddb The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the table to create
     * @param partitionKey The partition key attribute name
     * @param sortKey The sort key attribute name
     * @param miscellaneousKeyAttribute Additional key attribute name for GSI
     * @param nonKeyAttribute Non-key attribute to include in GSI projection
     * @param tableReadCapacityUnits Read capacity units for the table
     * @param tableWriteCapacityUnits Write capacity units for the table
     * @param tableWarmReadUnitsPerSecond Warm read units per second for the table
     * @param tableWarmWriteUnitsPerSecond Warm write units per second for the table
     * @param globalSecondaryIndexName The name of the GSI to create
     * @param globalSecondaryIndexReadCapacityUnits Read capacity units for the GSI
     * @param globalSecondaryIndexWriteCapacityUnits Write capacity units for the
GSI
     * @param globalSecondaryIndexWarmReadUnitsPerSecond Warm read units per second
for the GSI
```

```
     * @param globalSecondaryIndexWarmWriteUnitsPerSecond Warm write units per
second for the GSI
     */
    public static void createDynamoDBTable(
        final DynamoDbClient ddb,
        final String tableName,
        final String partitionKey,
        final String sortKey,
        final String miscellaneousKeyAttribute,
        final String nonKeyAttribute,
        final Long tableReadCapacityUnits,
        final Long tableWriteCapacityUnits,
        final Long tableWarmReadUnitsPerSecond,
        final Long tableWarmWriteUnitsPerSecond,
        final String globalSecondaryIndexName,
        final Long globalSecondaryIndexReadCapacityUnits,
        final Long globalSecondaryIndexWriteCapacityUnits,
        final Long globalSecondaryIndexWarmReadUnitsPerSecond,
        final Long globalSecondaryIndexWarmWriteUnitsPerSecond) {

        // Define the table attributes
        final AttributeDefinition partitionKeyAttribute =
buildAttributeDefinition(partitionKey, ScalarAttributeType.S);
        final AttributeDefinition sortKeyAttribute =
buildAttributeDefinition(sortKey, ScalarAttributeType.S);
        final AttributeDefinition miscellaneousKeyAttributeDefinition =
            buildAttributeDefinition(miscellaneousKeyAttribute,
ScalarAttributeType.N);
        final AttributeDefinition[] attributeDefinitions = {
            partitionKeyAttribute, sortKeyAttribute,
miscellaneousKeyAttributeDefinition
        };

        // Define the table key schema
        final KeySchemaElement partitionKeyElement =
buildKeySchemaElement(partitionKey, KeyType.HASH);
        final KeySchemaElement sortKeyElement = buildKeySchemaElement(sortKey,
KeyType.RANGE);
        final KeySchemaElement[] keySchema = {partitionKeyElement, sortKeyElement};

        // Define the provisioned throughput for the table
        final ProvisionedThroughput provisionedThroughput =
            buildProvisionedThroughput(tableReadCapacityUnits,
tableWriteCapacityUnits);
```

```
        // Define the Global Secondary Index (GSI)
        final KeySchemaElement globalSecondaryIndexPartitionKeyElement =
buildKeySchemaElement(sortKey, KeyType.HASH);
        final KeySchemaElement globalSecondaryIndexSortKeyElement =
            buildKeySchemaElement(miscellaneousKeyAttribute, KeyType.RANGE);
        final KeySchemaElement[] gsiKeySchema = {
            globalSecondaryIndexPartitionKeyElement,
globalSecondaryIndexSortKeyElement
        };

        final Projection gsiProjection = Projection.builder()
            .projectionType(PROJECTION_TYPE_INCLUDE)
            .nonKeyAttributes(nonKeyAttribute)
            .build();

        final ProvisionedThroughput gsiProvisionedThroughput =
            buildProvisionedThroughput(globalSecondaryIndexReadCapacityUnits,
globalSecondaryIndexWriteCapacityUnits);

        // Define the warm throughput for the Global Secondary Index (GSI)
        final WarmThroughput gsiWarmThroughput = buildWarmThroughput(
            globalSecondaryIndexWarmReadUnitsPerSecond,
globalSecondaryIndexWarmWriteUnitsPerSecond);

        final GlobalSecondaryIndex globalSecondaryIndex =
GlobalSecondaryIndex.builder()
            .indexName(globalSecondaryIndexName)
            .keySchema(gsiKeySchema)
            .projection(gsiProjection)
            .provisionedThroughput(gsiProvisionedThroughput)
            .warmThroughput(gsiWarmThroughput)
            .build();

        // Define the warm throughput for the table
        final WarmThroughput tableWarmThroughput =
            buildWarmThroughput(tableWarmReadUnitsPerSecond,
tableWarmWriteUnitsPerSecond);

        final CreateTableRequest request = CreateTableRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .attributeDefinitions(attributeDefinitions)
            .keySchema(keySchema)
            .provisionedThroughput(provisionedThroughput)
```

```
            .globalSecondaryIndexes(globalSecondaryIndex)
            .warmThroughput(tableWarmThroughput)
            .build();

        final CreateTableResponse response = ddb.createTable(request);
        System.out.println(response);
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateTable」を参照してください。

DynamoDB データを追跡するウェブアプリケーションを作成する

次のコード例は、Amazon DynamoDB テーブルの作業項目を追跡し、Amazon Simple Email Service (Amazon SES) を使用してレポートを送信するウェブアプリケーションを作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

Amazon DynamoDB API を使用して、DynamoDB 作業データを追跡する動的ウェブアプリケーションを作成する方法を示しています。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- DynamoDB
- Amazon SES

TTL を含む項目を作成する

次のコード例は、TTL を含む項目の作成方法を示しています。

SDK for Java 2.x

```
package com.amazon.samplelib.ttl;

import com.amazon.samplelib.CodeSampleUtils;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.PutItemRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.PutItemResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ResourceNotFoundException;

import java.util.HashMap;
import java.util.Map;
import java.util.Optional;

/**
 * Creates an item in a DynamoDB table with TTL attributes.
 * This class demonstrates how to add TTL expiration timestamps to DynamoDB items.
 */
public class CreateTTL {

    private static final String USAGE =
        """
            Usage:
                <tableName> <primaryKey> <sortKey> <region>
            Where:
                tableName - The Amazon DynamoDB table being queried.
                primaryKey - The name of the primary key. Also known as the hash or
 partition key.
                sortKey - The name of the sort key. Also known as the range
 attribute.
                region (optional) - The AWS region that the Amazon DynamoDB table is
 located in. (Default: us-east-1)
            """;
    private static final int DAYS_TO_EXPIRE = 90;
    private static final int SECONDS_PER_DAY = 24 * 60 * 60;
    private static final String PRIMARY_KEY_ATTR = "primaryKey";
    private static final String SORT_KEY_ATTR = "sortKey";
    private static final String CREATION_DATE_ATTR = "creationDate";
    private static final String EXPIRE_AT_ATTR = "expireAt";
    private static final String SUCCESS_MESSAGE = "%s PutItem operation with TTL
 successful.";
    private static final String TABLE_NOT_FOUND_ERROR = "Error: The Amazon DynamoDB
 table \"%s\" can't be found.";

    private final DynamoDbClient dynamoDbClient;

    /**
```

```
     * Constructs a CreateTTL instance with the specified DynamoDB client.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client to use
     */
    public CreateTTL(final DynamoDbClient dynamoDbClient) {
        this.dynamoDbClient = dynamoDbClient;
    }

    /**
     * Constructs a CreateTTL with a default DynamoDB client.
     */
    public CreateTTL() {
        this.dynamoDbClient = null;
    }

    /**
     * Main method to demonstrate creating an item with TTL.
     *
     * @param args Command line arguments
     */
    public static void main(final String[] args) {
        try {
            int result = new CreateTTL().processArgs(args);
            System.exit(result);
        } catch (Exception e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    /**
     * Process command line arguments and create an item with TTL.
     *
     * @param args Command line arguments
     * @return 0 if successful, non-zero otherwise
     * @throws ResourceNotFoundException If the table doesn't exist
     * @throws DynamoDbException If an error occurs during the operation
     * @throws IllegalArgumentException If arguments are invalid
     */
    public int processArgs(final String[] args) {
        // Argument validation (remove or replace this line when reusing this code)
        CodeSampleUtils.validateArgs(args, new int[] {3, 4}, USAGE);

        final String tableName = args[0];
```

```
        final String primaryKey = args[1];
        final String sortKey = args[2];
        final Region region = Optional.ofNullable(args.length > 3 ? args[3] : null)
            .map(Region::of)
            .orElse(Region.US_EAST_1);

        try (DynamoDbClient ddb = dynamoDbClient != null
            ? dynamoDbClient
            : DynamoDbClient.builder().region(region).build()) {
            final CreateTTL createTTL = new CreateTTL(ddb);
            createTTL.createItemWithTTL(tableName, primaryKey, sortKey);
            return 0;
        } catch (Exception e) {
            throw e;
        }
    }

    /**
     * Creates an item in the specified table with TTL attributes.
     *
     * @param tableName The name of the table
     * @param primaryKeyValue The value for the primary key
     * @param sortKeyValue The value for the sort key
     * @return The response from the PutItem operation
     * @throws ResourceNotFoundException If the table doesn't exist
     * @throws DynamoDbException If an error occurs during the operation
     */
    public PutItemResponse createItemWithTTL(
        final String tableName, final String primaryKeyValue, final String
sortKeyValue) {
        // Get current time in epoch second format
        final long createDate = System.currentTimeMillis() / 1000;

        // Calculate expiration time 90 days from now in epoch second format
        final long expireDate = createDate + (DAYS_TO_EXPIRE * SECONDS_PER_DAY);

        final Map<String, AttributeValue> itemMap = new HashMap<>();
        itemMap.put(
            PRIMARY_KEY_ATTR, AttributeValue.builder().s(primaryKeyValue).build());
        itemMap.put(SORT_KEY_ATTR,
AttributeValue.builder().s(sortKeyValue).build());
        itemMap.put(
            CREATION_DATE_ATTR,
            AttributeValue.builder().n(String.valueOf(createDate)).build());
```

```
        itemMap.put(
            EXPIRE_AT_ATTR,
            AttributeValue.builder().n(String.valueOf(expireDate)).build());

        final PutItemRequest request =
            PutItemRequest.builder().tableName(tableName).item(itemMap).build();

        try {
            final PutItemResponse response = dynamoDbClient.putItem(request);
            System.out.println(String.format(SUCCESS_MESSAGE, tableName));
            return response;
        } catch (ResourceNotFoundException e) {
            System.err.format(TABLE_NOT_FOUND_ERROR, tableName);
            throw e;
        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            throw e;
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「PutItem」を参照してください。

MRSC グローバルテーブルの作成と管理

次のコード例は、マルチリージョンの強力な整合性 (MRSC) を備えた DynamoDB グローバルテーブルを作成および管理する方法を示しています。

- マルチリージョンの強力な整合性を備えたテーブルを作成します。
- MRSC 設定とレプリカのステータスを確認します。
- 即時読み取りでリージョン間の強力な整合性をテストします。
- MRSC 保証を使用して条件付き書き込みを実行します。
- MRSC グローバルテーブルリソースをクリーンアップします。

SDK for Java 2.x

を使用して、MRSC 変換の準備ができたリージョンテーブルを作成します AWS SDK for Java 2.x。

```
   public static CreateTableResponse createRegionalTable(final DynamoDbClient
dynamoDbClient, final String tableName) {

       if (dynamoDbClient == null) {
           throw new IllegalArgumentException("DynamoDB client cannot be null");
       }
       if (tableName == null || tableName.trim().isEmpty()) {
           throw new IllegalArgumentException("Table name cannot be null or
empty");
       }

       try {
           LOGGER.info("Creating regional table: " + tableName + " (must be empty
for MRSC)");

           CreateTableRequest createTableRequest = CreateTableRequest.builder()
               .tableName(tableName)
               .attributeDefinitions(
                   AttributeDefinition.builder()
                       .attributeName("Artist")
                       .attributeType(ScalarAttributeType.S)
                       .build(),
                   AttributeDefinition.builder()
                       .attributeName("SongTitle")
                       .attributeType(ScalarAttributeType.S)
                       .build())
               .keySchema(
                   KeySchemaElement.builder()
                       .attributeName("Artist")
                       .keyType(KeyType.HASH)
                       .build(),
                   KeySchemaElement.builder()
                       .attributeName("SongTitle")
                       .keyType(KeyType.RANGE)
                       .build())
               .billingMode(BillingMode.PAY_PER_REQUEST)
               .build();

           CreateTableResponse response =
dynamoDbClient.createTable(createTableRequest);
           LOGGER.info("Regional table creation initiated. Status: "
               + response.tableDescription().tableStatus());
```

```
            return response;

        } catch (DynamoDbException e) {
            LOGGER.severe("Failed to create regional table: " + tableName + " - " +
e.getMessage());
            throw DynamoDbException.builder()
                .message("Failed to create regional table: " + tableName)
                .cause(e)
                .build();
        }
    }
```

レプリカを使用してリージョンテーブルを MRSC に変換し、 を使用して監視します AWS SDK for Java 2.x。

```
    public static UpdateTableResponse convertToMRSCWithWitness(
        final DynamoDbClient dynamoDbClient,
        final String tableName,
        final Region replicaRegion,
        final Region witnessRegion) {

        if (dynamoDbClient == null) {
            throw new IllegalArgumentException("DynamoDB client cannot be null");
        }
        if (tableName == null || tableName.trim().isEmpty()) {
            throw new IllegalArgumentException("Table name cannot be null or
empty");
        }
        if (replicaRegion == null) {
            throw new IllegalArgumentException("Replica region cannot be null");
        }
        if (witnessRegion == null) {
            throw new IllegalArgumentException("Witness region cannot be null");
        }

        try {
            LOGGER.info("Converting table to MRSC with replica in " +
replicaRegion.id() + " and witness in "
                + witnessRegion.id());

            // Create replica update using ReplicationGroupUpdate
            ReplicationGroupUpdate replicaUpdate = ReplicationGroupUpdate.builder()
```

```
                .create(CreateReplicationGroupMemberAction.builder()
                    .regionName(replicaRegion.id())
                    .build())
                .build();

            // Create witness update
            GlobalTableWitnessGroupUpdate witnessUpdate =
GlobalTableWitnessGroupUpdate.builder()
                .create(CreateGlobalTableWitnessGroupMemberAction.builder()
                    .regionName(witnessRegion.id())
                    .build())
                .build();

            UpdateTableRequest updateTableRequest = UpdateTableRequest.builder()
                .tableName(tableName)
                .replicaUpdates(List.of(replicaUpdate))
                .globalTableWitnessUpdates(List.of(witnessUpdate))
                .multiRegionConsistency(MultiRegionConsistency.STRONG)
                .build();

            UpdateTableResponse response =
dynamoDbClient.updateTable(updateTableRequest);
            LOGGER.info("MRSC conversion initiated. Status: "
                + response.tableDescription().tableStatus());
            LOGGER.info("UpdateTableResponse full object: " + response);
            return response;

        } catch (DynamoDbException e) {
            LOGGER.severe("Failed to convert table to MRSC: " + tableName + " - " +
e.getMessage());
            throw DynamoDbException.builder()
                .message("Failed to convert table to MRSC: " + tableName)
                .cause(e)
                .build();
        }
    }
```

を使用して MRSC グローバルテーブル設定を記述します AWS SDK for Java 2.x。

```
    public static DescribeTableResponse describeMRSCTable(final DynamoDbClient
dynamoDbClient, final String tableName) {
```

```
        if (dynamoDbClient == null) {
            throw new IllegalArgumentException("DynamoDB client cannot be null");
        }
        if (tableName == null || tableName.trim().isEmpty()) {
            throw new IllegalArgumentException("Table name cannot be null or
empty");
        }

        try {
            LOGGER.info("Describing MRSC global table: " + tableName);

            DescribeTableRequest request =
                DescribeTableRequest.builder().tableName(tableName).build();

            DescribeTableResponse response = dynamoDbClient.describeTable(request);

            LOGGER.info("Table status: " + response.table().tableStatus());
            LOGGER.info("Multi-region consistency: " +
response.table().multiRegionConsistency());

            if (response.table().replicas() != null
                && !response.table().replicas().isEmpty()) {
                LOGGER.info("Number of replicas: " +
response.table().replicas().size());
                response.table()
                    .replicas()
                    .forEach(replica -> LOGGER.info(
                        "Replica region: " + replica.regionName() + ", Status: " +
replica.replicaStatus()));
            }

            if (response.table().globalTableWitnesses() != null
                && !response.table().globalTableWitnesses().isEmpty()) {
                LOGGER.info("Number of witnesses: "
                    + response.table().globalTableWitnesses().size());
                response.table()
                    .globalTableWitnesses()
                    .forEach(witness -> LOGGER.info(
                        "Witness region: " + witness.regionName() + ", Status: " +
witness.witnessStatus()));
            }

            return response;
```

```
        } catch (ResourceNotFoundException e) {
            LOGGER.severe("Table not found: " + tableName + " - " + e.getMessage());
            throw DynamoDbException.builder()
                .message("Table not found: " + tableName)
                .cause(e)
                .build();
        } catch (DynamoDbException e) {
            LOGGER.severe("Failed to describe table: " + tableName + " - " +
e.getMessage());
            throw DynamoDbException.builder()
                .message("Failed to describe table: " + tableName)
                .cause(e)
                .build();
        }
    }
```

AWS SDK for Java 2.xを使用して、MRSC の強力な整合性を検証するためのテスト項目を追加します。

```
    public static PutItemResponse putTestItem(
        final DynamoDbClient dynamoDbClient,
        final String tableName,
        final String artist,
        final String songTitle,
        final String album,
        final String year) {

        if (dynamoDbClient == null) {
            throw new IllegalArgumentException("DynamoDB client cannot be null");
        }
        if (tableName == null || tableName.trim().isEmpty()) {
            throw new IllegalArgumentException("Table name cannot be null or
empty");
        }
        if (artist == null || artist.trim().isEmpty()) {
            throw new IllegalArgumentException("Artist cannot be null or empty");
        }
        if (songTitle == null || songTitle.trim().isEmpty()) {
            throw new IllegalArgumentException("Song title cannot be null or
empty");
        }
```

```
        try {
            LOGGER.info("Adding test item to MRSC global table: " + tableName);

            Map<String, AttributeValue> item = new HashMap<>();
            item.put("Artist", AttributeValue.builder().s(artist).build());
            item.put("SongTitle", AttributeValue.builder().s(songTitle).build());

            if (album != null && !album.trim().isEmpty()) {
                item.put("Album", AttributeValue.builder().s(album).build());
            }
            if (year != null && !year.trim().isEmpty()) {
                item.put("Year", AttributeValue.builder().n(year).build());
            }

            PutItemRequest putItemRequest =
                PutItemRequest.builder().tableName(tableName).item(item).build();

            PutItemResponse response = dynamoDbClient.putItem(putItemRequest);
            LOGGER.info("Test item added successfully with strong consistency");

            return response;

        } catch (DynamoDbException e) {
            LOGGER.severe("Failed to add test item to table: " + tableName + " - " +
e.getMessage());
            throw DynamoDbException.builder()
                .message("Failed to add test item to table: " + tableName)
                .cause(e)
                .build();
        }
    }
```

を使用して、MRSC レプリカから一貫した読み取りを持つ項目を読み取ります AWS SDK for Java 2.x。

```
    public static GetItemResponse getItemWithConsistentRead(
        final DynamoDbClient dynamoDbClient, final String tableName, final String
artist, final String songTitle) {

        if (dynamoDbClient == null) {
            throw new IllegalArgumentException("DynamoDB client cannot be null");
        }
```

```
        if (tableName == null || tableName.trim().isEmpty()) {
            throw new IllegalArgumentException("Table name cannot be null or
empty");
        }
        if (artist == null || artist.trim().isEmpty()) {
            throw new IllegalArgumentException("Artist cannot be null or empty");
        }
        if (songTitle == null || songTitle.trim().isEmpty()) {
            throw new IllegalArgumentException("Song title cannot be null or
empty");
        }

        try {
            LOGGER.info("Reading item from MRSC global table with consistent read: "
+ tableName);

            Map<String, AttributeValue> key = new HashMap<>();
            key.put("Artist", AttributeValue.builder().s(artist).build());
            key.put("SongTitle", AttributeValue.builder().s(songTitle).build());

            GetItemRequest getItemRequest = GetItemRequest.builder()
                .tableName(tableName)
                .key(key)
                .consistentRead(true)
                .build();

            GetItemResponse response = dynamoDbClient.getItem(getItemRequest);

            if (response.hasItem()) {
                LOGGER.info("Item found with strong consistency - no wait time
needed");
            } else {
                LOGGER.info("Item not found");
            }

            return response;

        } catch (DynamoDbException e) {
            LOGGER.severe("Failed to read item from table: " + tableName + " - " +
e.getMessage());
            throw DynamoDbException.builder()
                .message("Failed to read item from table: " + tableName)
                .cause(e)
                .build();
```

```
        }
    }
```

を使用して、MRSC 保証で条件付き更新を実行します AWS SDK for Java 2.x。

```
    public static UpdateItemResponse performConditionalUpdate(
        final DynamoDbClient dynamoDbClient,
        final String tableName,
        final String artist,
        final String songTitle,
        final String rating) {

        if (dynamoDbClient == null) {
            throw new IllegalArgumentException("DynamoDB client cannot be null");
        }
        if (tableName == null || tableName.trim().isEmpty()) {
            throw new IllegalArgumentException("Table name cannot be null or
empty");
        }
        if (artist == null || artist.trim().isEmpty()) {
            throw new IllegalArgumentException("Artist cannot be null or empty");
        }
        if (songTitle == null || songTitle.trim().isEmpty()) {
            throw new IllegalArgumentException("Song title cannot be null or
empty");
        }
        if (rating == null || rating.trim().isEmpty()) {
            throw new IllegalArgumentException("Rating cannot be null or empty");
        }

        try {
            LOGGER.info("Performing conditional update on MRSC global table: " +
tableName);

            Map<String, AttributeValue> key = new HashMap<>();
            key.put("Artist", AttributeValue.builder().s(artist).build());
            key.put("SongTitle", AttributeValue.builder().s(songTitle).build());

            Map<String, String> expressionAttributeNames = new HashMap<>();
            expressionAttributeNames.put("#rating", "Rating");

            Map<String, AttributeValue> expressionAttributeValues = new HashMap<>();
```

```
            expressionAttributeValues.put(
                ":rating", AttributeValue.builder().n(rating).build());

            UpdateItemRequest updateItemRequest = UpdateItemRequest.builder()
                .tableName(tableName)
                .key(key)
                .updateExpression("SET #rating = :rating")
                .conditionExpression("attribute_exists(Artist)")
                .expressionAttributeNames(expressionAttributeNames)
                .expressionAttributeValues(expressionAttributeValues)
                .build();

            UpdateItemResponse response =
dynamoDbClient.updateItem(updateItemRequest);
            LOGGER.info("Conditional update successful - demonstrates strong
consistency");

            return response;

        } catch (ConditionalCheckFailedException e) {
            LOGGER.warning("Conditional check failed: " + e.getMessage());
            throw e;
        } catch (DynamoDbException e) {
            LOGGER.severe("Failed to perform conditional update: " + tableName + " -
" + e.getMessage());
            throw DynamoDbException.builder()
                .message("Failed to perform conditional update: " + tableName)
                .cause(e)
                .build();
        }
    }
```

を使用して MRSC レプリカと監視がアクティブになるまで待ちます AWS SDK for Java 2.x。

```
    public static void waitForMRSCReplicasActive(
        final DynamoDbClient dynamoDbClient, final String tableName, final int
maxWaitTimeSeconds)
        throws InterruptedException {

        if (dynamoDbClient == null) {
            throw new IllegalArgumentException("DynamoDB client cannot be null");
        }
```

```
        if (tableName == null || tableName.trim().isEmpty()) {
            throw new IllegalArgumentException("Table name cannot be null or
empty");
        }
        if (maxWaitTimeSeconds <= 0) {
            throw new IllegalArgumentException("Max wait time must be positive");
        }

        try {
            LOGGER.info("Waiting for MRSC replicas and witnesses to become active: "
+ tableName);

            final long startTime = System.currentTimeMillis();
            final long maxWaitTimeMillis = maxWaitTimeSeconds * 1000L;
            int backoffSeconds = 5; // Start with 5 second intervals
            final int maxBackoffSeconds = 30; // Cap at 30 seconds

            while (System.currentTimeMillis() - startTime < maxWaitTimeMillis) {
                DescribeTableResponse response = describeMRSCTable(dynamoDbClient,
tableName);

                boolean allActive = true;
                StringBuilder statusReport = new StringBuilder();

                if (response.table().multiRegionConsistency() == null
                    || !MultiRegionConsistency.STRONG
                        .toString()

.equals(response.table().multiRegionConsistency().toString())) {
                    allActive = false;
                    statusReport
                        .append("MultiRegionConsistency: ")
                        .append(response.table().multiRegionConsistency())
                        .append(" ");
                }
                if (response.table().replicas() == null
                    || response.table().replicas().isEmpty()) {
                    allActive = false;
                    statusReport.append("No replicas found. ");
                }
                if (response.table().globalTableWitnesses() == null
                    || response.table().globalTableWitnesses().isEmpty()) {
                    allActive = false;
                    statusReport.append("No witnesses found. ");
```

```
                }

                // Check table status
                if (!"ACTIVE".equals(response.table().tableStatus().toString())) {
                    allActive = false;
                    statusReport
                        .append("Table: ")
                        .append(response.table().tableStatus())
                        .append(" ");
                }

                // Check replica status
                if (response.table().replicas() != null) {
                    for (var replica : response.table().replicas()) {
                        if (!"ACTIVE".equals(replica.replicaStatus().toString())) {
                            allActive = false;
                            statusReport
                                .append("Replica(")
                                .append(replica.regionName())
                                .append("): ")
                                .append(replica.replicaStatus())
                                .append(" ");
                        }
                    }
                }

                // Check witness status
                if (response.table().globalTableWitnesses() != null) {
                    for (var witness : response.table().globalTableWitnesses()) {
                        if (!"ACTIVE".equals(witness.witnessStatus().toString())) {
                            allActive = false;
                            statusReport
                                .append("Witness(")
                                .append(witness.regionName())
                                .append("): ")
                                .append(witness.witnessStatus())
                                .append(" ");
                        }
                    }
                }

                if (allActive) {
                    LOGGER.info("All MRSC replicas and witnesses are now active: " +
tableName);
```

```
                    return;
                }

                LOGGER.info("Waiting for MRSC components to become active. Status: "
+ statusReport.toString());
                LOGGER.info("Next check in " + backoffSeconds + " seconds...");

                tempWait(backoffSeconds);

                // Exponential backoff with cap
                backoffSeconds = Math.min(backoffSeconds * 2, maxBackoffSeconds);
            }

            throw DynamoDbException.builder()
                .message("Timeout waiting for MRSC replicas to become active after "
+ maxWaitTimeSeconds + " seconds")
                .build();

        } catch (DynamoDbException | InterruptedException e) {
            LOGGER.severe("Failed to wait for MRSC replicas to become active: " +
tableName + " - " + e.getMessage());
            throw e;
        }
    }
```

を使用して MRSC レプリカと監視者をクリーンアップします AWS SDK for Java 2.x。

```
    public static UpdateTableResponse cleanupMRSCReplicas(
        final DynamoDbClient dynamoDbClient,
        final String tableName,
        final Region replicaRegion,
        final Region witnessRegion) {

        if (dynamoDbClient == null) {
            throw new IllegalArgumentException("DynamoDB client cannot be null");
        }
        if (tableName == null || tableName.trim().isEmpty()) {
            throw new IllegalArgumentException("Table name cannot be null or
empty");
        }
        if (replicaRegion == null) {
            throw new IllegalArgumentException("Replica region cannot be null");
```

```
        }
        if (witnessRegion == null) {
            throw new IllegalArgumentException("Witness region cannot be null");
        }

        try {
            LOGGER.info("Cleaning up MRSC replicas and witnesses for table: " +
tableName);

            // Remove replica using ReplicationGroupUpdate
            ReplicationGroupUpdate replicaUpdate = ReplicationGroupUpdate.builder()
                .delete(DeleteReplicationGroupMemberAction.builder()
                    .regionName(replicaRegion.id())
                    .build())
                .build();

            // Remove witness
            GlobalTableWitnessGroupUpdate witnessUpdate =
GlobalTableWitnessGroupUpdate.builder()
                .delete(DeleteGlobalTableWitnessGroupMemberAction.builder()
                    .regionName(witnessRegion.id())
                    .build())
                .build();

            UpdateTableRequest updateTableRequest = UpdateTableRequest.builder()
                .tableName(tableName)
                .replicaUpdates(List.of(replicaUpdate))
                .globalTableWitnessUpdates(List.of(witnessUpdate))
                .build();

            UpdateTableResponse response =
dynamoDbClient.updateTable(updateTableRequest);
            LOGGER.info("MRSC cleanup initiated - removing replica and witness.
Response: " + response);

            return response;

        } catch (DynamoDbException e) {
            LOGGER.severe("Failed to cleanup MRSC replicas: " + tableName + " - " +
e.getMessage());
            throw DynamoDbException.builder()
                .message("Failed to cleanup MRSC replicas: " + tableName)
                .cause(e)
                .build();
```

```
        }
    }
```

を使用して MRSC ワークフローのデモンストレーションを完了します AWS SDK for Java 2.x。

```
    public static void demonstrateCompleteMRSCWorkflow(
        final DynamoDbClient primaryClient,
        final DynamoDbClient replicaClient,
        final String tableName,
        final Region replicaRegion,
        final Region witnessRegion)
        throws InterruptedException {

        if (primaryClient == null) {
            throw new IllegalArgumentException("Primary DynamoDB client cannot be
null");
        }
        if (replicaClient == null) {
            throw new IllegalArgumentException("Replica DynamoDB client cannot be
null");
        }
        if (tableName == null || tableName.trim().isEmpty()) {
            throw new IllegalArgumentException("Table name cannot be null or
empty");
        }
        if (replicaRegion == null) {
            throw new IllegalArgumentException("Replica region cannot be null");
        }
        if (witnessRegion == null) {
            throw new IllegalArgumentException("Witness region cannot be null");
        }

        try {
            LOGGER.info("=== Starting Complete MRSC Workflow Demonstration ===");

            // Step 1: Create an empty single-Region table
            LOGGER.info("Step 1: Creating empty single-Region table");
            createRegionalTable(primaryClient, tableName);

            // Use the existing GlobalTableOperations method for basic table waiting
            LOGGER.info("Intermediate step: Waiting for table [" + tableName + "] to
become active before continuing");
```

```
            GlobalTableOperations.waitForTableActive(primaryClient, tableName);

            // Step 2: Convert to MRSC with replica and witness
            LOGGER.info("Step 2: Converting to MRSC with replica and witness");
            convertToMRSCWithWitness(primaryClient, tableName, replicaRegion,
witnessRegion);

            // Wait for MRSC conversion to complete using MRSC-specific waiter
            LOGGER.info("Waiting for MRSC conversion to complete...");
            waitForMRSCReplicasActive(primaryClient, tableName);

            LOGGER.info("Intermediate step: Waiting for table [" + tableName + "] to
become active before continuing");
            GlobalTableOperations.waitForTableActive(primaryClient, tableName);

            // Step 3: Verify MRSC configuration
            LOGGER.info("Step 3: Verifying MRSC configuration");
            describeMRSCTable(primaryClient, tableName);

            // Step 4: Test strong consistency with data operations
            LOGGER.info("Step 4: Testing strong consistency with data operations");

            // Add test item to primary region
            putTestItem(primaryClient, tableName, "The Beatles", "Hey Jude", "The
Beatles 1967-1970", "1968");

            // Immediately read from replica region (no wait needed with MRSC)
            LOGGER.info("Reading from replica region immediately (strong
consistency):");
            GetItemResponse getResponse =
                getItemWithConsistentRead(replicaClient, tableName, "The Beatles",
"Hey Jude");

            if (getResponse.hasItem()) {
                LOGGER.info("# Strong consistency verified - item immediately
available in replica region");
            } else {
                LOGGER.warning("# Item not found in replica region");
            }

            // Test conditional update from replica region
            LOGGER.info("Testing conditional update from replica region:");
            performConditionalUpdate(replicaClient, tableName, "The Beatles", "Hey
Jude", "5");
```

```
            LOGGER.info("# Conditional update successful - demonstrates strong
consistency");

            // Step 5: Cleanup
            LOGGER.info("Step 5: Cleaning up resources");
            cleanupMRSCReplicas(primaryClient, tableName, replicaRegion,
witnessRegion);

            // Wait for cleanup to complete using basic table waiter
            LOGGER.info("Waiting for replica cleanup to complete...");
            GlobalTableOperations.waitForTableActive(primaryClient, tableName);

            // "Halt" until replica/witness cleanup is complete
            DescribeTableResponse cleanupVerification =
describeMRSCTable(primaryClient, tableName);
            int backoffSeconds = 5; // Start with 5 second intervals
            while (cleanupVerification.table().multiRegionConsistency() != null) {
                LOGGER.info("Waiting additional time (" + backoffSeconds + "
seconds) for MRSC cleanup to complete...");
                tempWait(backoffSeconds);

                // Exponential backoff with cap
                backoffSeconds = Math.min(backoffSeconds * 2, 30);
                cleanupVerification = describeMRSCTable(primaryClient, tableName);
            }

            // Delete the primary table
            deleteTable(primaryClient, tableName);

            LOGGER.info("=== MRSC Workflow Demonstration Complete ===");
            LOGGER.info("");
            LOGGER.info("Key benefits of Multi-Region Strong Consistency (MRSC):");
            LOGGER.info("- Immediate consistency across all regions (no eventual
consistency delays)");
            LOGGER.info("- Simplified application logic (no need to handle eventual
consistency)");
            LOGGER.info("- Support for conditional writes and transactions across
regions");
            LOGGER.info("- Consistent read operations from any region without
waiting");

        } catch (DynamoDbException | InterruptedException e) {
            LOGGER.severe("MRSC workflow failed: " + e.getMessage());
            throw e;
```

```
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - CreateTable
  - DeleteTable
  - DescribeTable
  - GetItem
  - PutItem
  - UpdateItem
  - UpdateTable

MREC を示すグローバルテーブルの作成と管理

次のコード例は、複数のリージョンにまたがるレプリカを含む DynamoDB グローバルテーブルを作成して管理する方法を示しています。

- グローバルセカンダリインデックスおよび DynamoDB Streams を含むテーブルを作成します。
- 異なるリージョンにレプリカを追加して、グローバルテーブルを作成します。
- グローバルテーブルからレプリカを削除します。
- テスト項目を追加して、リージョン間のレプリケーションを検証します。
- グローバルテーブル設定とレプリカのステータスについて説明します。

SDK for Java 2.x

を使用して、グローバルセカンダリインデックスと DynamoDB ストリームを含むテーブルを作成します AWS SDK for Java 2.x。

```
    public static CreateTableResponse createTableWithGSI(
        final DynamoDbClient dynamoDbClient, final String tableName, final String
indexName) {

        if (dynamoDbClient == null) {
            throw new IllegalArgumentException("DynamoDB client cannot be null");
        }
```

```
        if (tableName == null || tableName.trim().isEmpty()) {
            throw new IllegalArgumentException("Table name cannot be null or
empty");
        }
        if (indexName == null || indexName.trim().isEmpty()) {
            throw new IllegalArgumentException("Index name cannot be null or
empty");
        }

        try {
            LOGGER.info("Creating table: " + tableName + " with GSI: " + indexName);

            CreateTableRequest createTableRequest = CreateTableRequest.builder()
                .tableName(tableName)
                .attributeDefinitions(
                    AttributeDefinition.builder()
                        .attributeName("Artist")
                        .attributeType(ScalarAttributeType.S)
                        .build(),
                    AttributeDefinition.builder()
                        .attributeName("SongTitle")
                        .attributeType(ScalarAttributeType.S)
                        .build())
                .keySchema(
                    KeySchemaElement.builder()
                        .attributeName("Artist")
                        .keyType(KeyType.HASH)
                        .build(),
                    KeySchemaElement.builder()
                        .attributeName("SongTitle")
                        .keyType(KeyType.RANGE)
                        .build())
                .billingMode(BillingMode.PAY_PER_REQUEST)
                .globalSecondaryIndexes(GlobalSecondaryIndex.builder()
                    .indexName(indexName)
                    .keySchema(KeySchemaElement.builder()
                        .attributeName("SongTitle")
                        .keyType(KeyType.HASH)
                        .build())
                    .projection(

Projection.builder().projectionType(ProjectionType.ALL).build())
                    .build())
                .streamSpecification(StreamSpecification.builder()
```

```
                    .streamEnabled(true)
                    .streamViewType(StreamViewType.NEW_AND_OLD_IMAGES)
                    .build())
                .build();

            CreateTableResponse response =
dynamoDbClient.createTable(createTableRequest);
            LOGGER.info("Table creation initiated. Status: "
                + response.tableDescription().tableStatus());

            return response;

        } catch (DynamoDbException e) {
            LOGGER.severe("Failed to create table: " + tableName + " - " +
e.getMessage());
            throw e;
        }
    }
```

を使用してテーブルがアクティブになるまで待ちます AWS SDK for Java 2.x。

```
    public static void waitForTableActive(final DynamoDbClient dynamoDbClient, final
String tableName) {

        if (dynamoDbClient == null) {
            throw new IllegalArgumentException("DynamoDB client cannot be null");
        }
        if (tableName == null || tableName.trim().isEmpty()) {
            throw new IllegalArgumentException("Table name cannot be null or
empty");
        }

        try {
            LOGGER.info("Waiting for table to become active: " + tableName);

            try (DynamoDbWaiter waiter =
                DynamoDbWaiter.builder().client(dynamoDbClient).build()) {
                DescribeTableRequest request =
                    DescribeTableRequest.builder().tableName(tableName).build();

                waiter.waitUntilTableExists(request);
                LOGGER.info("Table is now active: " + tableName);
```

```
            }

        } catch (DynamoDbException e) {
            LOGGER.severe("Failed to wait for table to become active: " + tableName
+ " - " + e.getMessage());
            throw e;
        }
    }
```

レプリカを追加して、 を使用してグローバルテーブルを作成または拡張します AWS SDK for Java 2.x。

```
    public static UpdateTableResponse addReplica(
        final DynamoDbClient dynamoDbClient,
        final String tableName,
        final Region replicaRegion,
        final String indexName,
        final Long readCapacity) {

        if (dynamoDbClient == null) {
            throw new IllegalArgumentException("DynamoDB client cannot be null");
        }
        if (tableName == null || tableName.trim().isEmpty()) {
            throw new IllegalArgumentException("Table name cannot be null or
empty");
        }
        if (replicaRegion == null) {
            throw new IllegalArgumentException("Replica region cannot be null");
        }
        if (indexName == null || indexName.trim().isEmpty()) {
            throw new IllegalArgumentException("Index name cannot be null or
empty");
        }
        if (readCapacity == null || readCapacity <= 0) {
            throw new IllegalArgumentException("Read capacity must be a positive
number");
        }

        try {
            LOGGER.info("Adding replica in region: " + replicaRegion.id() + " for
table: " + tableName);
```

```
            // Create a ReplicationGroupUpdate for adding a replica
            ReplicationGroupUpdate replicationGroupUpdate =
ReplicationGroupUpdate.builder()
                .create(builder -> builder.regionName(replicaRegion.id())
                    .globalSecondaryIndexes(ReplicaGlobalSecondaryIndex.builder()
                        .indexName(indexName)

.provisionedThroughputOverride(ProvisionedThroughputOverride.builder()
                            .readCapacityUnits(readCapacity)
                            .build())
                        .build())
                    .build())
                .build();

            UpdateTableRequest updateTableRequest = UpdateTableRequest.builder()
                .tableName(tableName)
                .replicaUpdates(replicationGroupUpdate)
                .build();

            UpdateTableResponse response =
dynamoDbClient.updateTable(updateTableRequest);
            LOGGER.info("Replica addition initiated in region: " +
replicaRegion.id());

            return response;

        } catch (DynamoDbException e) {
            LOGGER.severe("Failed to add replica in region: " + replicaRegion.id() +
" - " + e.getMessage());
            throw e;
        }
    }
```

を使用してグローバルテーブルからレプリカを削除します AWS SDK for Java 2.x。

```
    public static UpdateTableResponse removeReplica(
        final DynamoDbClient dynamoDbClient, final String tableName, final Region
replicaRegion) {

        if (dynamoDbClient == null) {
            throw new IllegalArgumentException("DynamoDB client cannot be null");
        }
```

```
        if (tableName == null || tableName.trim().isEmpty()) {
            throw new IllegalArgumentException("Table name cannot be null or
empty");
        }
        if (replicaRegion == null) {
            throw new IllegalArgumentException("Replica region cannot be null");
        }

        try {
            LOGGER.info("Removing replica in region: " + replicaRegion.id() + " for
table: " + tableName);

            // Create a ReplicationGroupUpdate for removing a replica
            ReplicationGroupUpdate replicationGroupUpdate =
ReplicationGroupUpdate.builder()
                .delete(builder -> builder.regionName(replicaRegion.id()).build())
                .build();

            UpdateTableRequest updateTableRequest = UpdateTableRequest.builder()
                .tableName(tableName)
                .replicaUpdates(replicationGroupUpdate)
                .build();

            UpdateTableResponse response =
dynamoDbClient.updateTable(updateTableRequest);
            LOGGER.info("Replica removal initiated in region: " +
replicaRegion.id());

            return response;

        } catch (DynamoDbException e) {
            LOGGER.severe("Failed to remove replica in region: " +
replicaRegion.id() + " - " + e.getMessage());
            throw e;
        }
    }
```

を使用してレプリケーションを検証するテスト項目を追加します AWS SDK for Java 2.x。

```
    public static PutItemResponse putTestItem(
        final DynamoDbClient dynamoDbClient, final String tableName, final String
artist, final String songTitle) {
```

```
        if (dynamoDbClient == null) {
            throw new IllegalArgumentException("DynamoDB client cannot be null");
        }
        if (tableName == null || tableName.trim().isEmpty()) {
            throw new IllegalArgumentException("Table name cannot be null or
empty");
        }
        if (artist == null || artist.trim().isEmpty()) {
            throw new IllegalArgumentException("Artist cannot be null or empty");
        }
        if (songTitle == null || songTitle.trim().isEmpty()) {
            throw new IllegalArgumentException("Song title cannot be null or
empty");
        }

        try {
            LOGGER.info("Adding test item to table: " + tableName);

            Map<String,
software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue> item = new
HashMap<>();
            item.put(
                "Artist",

software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue.builder()
                    .s(artist)
                    .build());
            item.put(
                "SongTitle",

software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue.builder()
                    .s(songTitle)
                    .build());

            PutItemRequest putItemRequest =
                PutItemRequest.builder().tableName(tableName).item(item).build();

            PutItemResponse response = dynamoDbClient.putItem(putItemRequest);
            LOGGER.info("Test item added successfully");

            return response;

        } catch (DynamoDbException e) {
```

```
            LOGGER.severe("Failed to add test item to table: " + tableName + " - " +
e.getMessage());
            throw e;
        }
    }
```

を使用してグローバルテーブル設定とレプリカを記述します AWS SDK for Java 2.x。

```
    public static DescribeTableResponse describeTable(final DynamoDbClient
dynamoDbClient, final String tableName) {

        if (dynamoDbClient == null) {
            throw new IllegalArgumentException("DynamoDB client cannot be null");
        }
        if (tableName == null || tableName.trim().isEmpty()) {
            throw new IllegalArgumentException("Table name cannot be null or
empty");
        }

        try {
            LOGGER.info("Describing table: " + tableName);

            DescribeTableRequest request =
                DescribeTableRequest.builder().tableName(tableName).build();

            DescribeTableResponse response = dynamoDbClient.describeTable(request);

            LOGGER.info("Table status: " + response.table().tableStatus());
            if (response.table().replicas() != null
                && !response.table().replicas().isEmpty()) {
                LOGGER.info("Number of replicas: " +
response.table().replicas().size());
                response.table()
                    .replicas()
                    .forEach(replica -> LOGGER.info(
                        "Replica region: " + replica.regionName() + ", Status: " +
replica.replicaStatus()));
            }

            return response;

        } catch (ResourceNotFoundException e) {
```

```
            LOGGER.severe("Table not found: " + tableName + " - " + e.getMessage());
            throw e;
        } catch (DynamoDbException e) {
            LOGGER.severe("Failed to describe table: " + tableName + " - " +
e.getMessage());
            throw e;
        }
    }
```

を使用したグローバルテーブルオペレーションの例を完成させます AWS SDK for Java 2.x。

```
    public static void exampleUsage(final Region sourceRegion, final Region
replicaRegion) {

        String tableName = "Music";
        String indexName = "SongTitleIndex";
        Long readCapacity = 15L;

        // Create DynamoDB client for the source region
        try (DynamoDbClient dynamoDbClient =
            DynamoDbClient.builder().region(sourceRegion).build()) {

            try {
                // Step 1: Create the initial table with GSI and streams
                LOGGER.info("Step 1: Creating table in source region: " +
sourceRegion.id());
                createTableWithGSI(dynamoDbClient, tableName, indexName);

                // Step 2: Wait for table to become active
                LOGGER.info("Step 2: Waiting for table to become active");
                waitForTableActive(dynamoDbClient, tableName);

                // Step 3: Add replica in destination region
                LOGGER.info("Step 3: Adding replica in region: " +
replicaRegion.id());
                addReplica(dynamoDbClient, tableName, replicaRegion, indexName,
readCapacity);

                // Step 4: Wait a moment for replica creation to start
                Thread.sleep(5000);

                // Step 5: Describe table to view replica information
```

```
                LOGGER.info("Step 5: Describing table to view replicas");
                describeTable(dynamoDbClient, tableName);

                // Step 6: Add a test item to verify replication
                LOGGER.info("Step 6: Adding test item to verify replication");
                putTestItem(dynamoDbClient, tableName, "TestArtist", "TestSong");

                LOGGER.info("Global table setup completed successfully!");
                LOGGER.info("You can verify replication by checking the item in
region: " + replicaRegion.id());

                // Step 7: Remove replica and clean up table
                LOGGER.info("Step 7: Removing replica from region: " +
replicaRegion.id());
                removeReplica(dynamoDbClient, tableName, replicaRegion);
                DeleteTableResponse deleteTableResponse =
dynamoDbClient.deleteTable(
                    DeleteTableRequest.builder().tableName(tableName).build());
                LOGGER.info("MREC global table demonstration completed
successfully!");

            } catch (InterruptedException e) {
                Thread.currentThread().interrupt();
                throw new RuntimeException("Thread was interrupted", e);
            } catch (DynamoDbException e) {
                LOGGER.severe("DynamoDB operation failed: " + e.getMessage());
                throw e;
            }
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - CreateTable
  - DescribeTable
  - PutItem
  - UpdateTable

画像内の PPE を検出する

次のコード例は、Amazon Rekognition を使用して画像内の個人用防護具 (PPE) を検出するアプリケーションを構築する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

個人用保護具を使用してイメージを検出する AWS Lambda 関数を作成する方法を示します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- DynamoDB
- Amazon Rekognition
- Amazon S3
- Amazon SES

DynamoDB のパフォーマンスのモニタリング

次のコード例は、DynamoDB のパフォーマンスをモニタリングするように、アプリケーションを設定する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

この例では、DynamoDB のパフォーマンスをモニタリングするように Java アプリケーションを設定する方法を示します。アプリケーションからメトリクスデータを CloudWatch に送信してパフォーマンスをモニタリングできます。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- CloudWatch
- DynamoDB

高度なクエリオペレーションを実行する

次のコード例は、DynamoDB で高度なクエリオペレーションを実行する方法を示しています。

- さまざまなフィルタリングと条件の手法を使用してテーブルをクエリします。
- 大きな結果セットのページ分割を実装します。
- 代替アクセスパターンにはグローバルセカンダリインデックスを使用します。
- アプリケーション要件に基づいて整合性コントロールを適用します。

SDK for Java 2.x

を使用した強力な整合性のある読み取りによるクエリ AWS SDK for Java 2.x。

```
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ResourceNotFoundException;

import java.util.HashMap;
import java.util.Map;
import java.util.logging.Level;
import java.util.logging.Logger;

    public QueryResponse queryWithConsistentReads(
        final String tableName,
        final String partitionKeyName,
        final String partitionKeyValue,
        final boolean useConsistentRead) {

        CodeSampleUtils.validateTableParameters(tableName, partitionKeyName,
 partitionKeyValue);

        // Create expression attribute names for the column names
        final Map<String, String> expressionAttributeNames = new HashMap<>();
        expressionAttributeNames.put(EXPRESSION_ATTRIBUTE_NAME_PK,
 partitionKeyName);

        // Create expression attribute values for the column values
        final Map<String, AttributeValue> expressionAttributeValues = new
 HashMap<>();
        expressionAttributeValues.put(
            EXPRESSION_ATTRIBUTE_VALUE_PK,
            AttributeValue.builder().s(partitionKeyValue).build());
```

```
        // Create the query request
        final QueryRequest queryRequest = QueryRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .keyConditionExpression(KEY_CONDITION_EXPRESSION)
            .expressionAttributeNames(expressionAttributeNames)
            .expressionAttributeValues(expressionAttributeValues)
            .consistentRead(useConsistentRead)
            .build();

        try {
            final QueryResponse response = dynamoDbClient.query(queryRequest);
            LOGGER.log(Level.INFO, "Query successful. Found {0} items",
 response.count());
            return response;
        } catch (ResourceNotFoundException e) {
            LOGGER.log(Level.SEVERE, "Table not found: {0}", tableName);
            throw e;
        } catch (DynamoDbException e) {
            LOGGER.log(Level.SEVERE, "Error querying with consistent reads", e);
            throw e;
        }
    }
```

でグローバルセカンダリインデックスを使用してクエリを実行します AWS SDK for Java 2.x。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ResourceNotFoundException;

import java.util.HashMap;
import java.util.Map;

    public QueryResponse queryTable(
        final String tableName, final String partitionKeyName, final String
 partitionKeyValue) {

        CodeSampleUtils.validateTableParameters(tableName, partitionKeyName,
 partitionKeyValue);
```

```
        // Create expression attribute names for the column names
        final Map<String, String> expressionAttributeNames = new HashMap<>();
        expressionAttributeNames.put(EXPRESSION_ATTRIBUTE_NAME_PK,
partitionKeyName);

        // Create expression attribute values for the column values
        final Map<String, AttributeValue> expressionAttributeValues = new
HashMap<>();
        expressionAttributeValues.put(
            EXPRESSION_ATTRIBUTE_VALUE_PK,
            AttributeValue.builder().s(partitionKeyValue).build());

        // Create the query request
        final QueryRequest queryRequest = QueryRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .keyConditionExpression(KEY_CONDITION_EXPRESSION)
            .expressionAttributeNames(expressionAttributeNames)
            .expressionAttributeValues(expressionAttributeValues)
            .build();

        try {
            final QueryResponse response = dynamoDbClient.query(queryRequest);
            System.out.println("Query on base table successful. Found " +
response.count() + " items");
            return response;
        } catch (ResourceNotFoundException e) {
            System.err.format("Error: The Amazon DynamoDB table \"%s\" can't be
found.\n", tableName);
            throw new DynamoDbQueryException("Table not found: " + tableName, e);
        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println("Error querying base table: " + e.getMessage());
            throw new DynamoDbQueryException("Failed to execute query on base
table", e);
        }
    }

    /**
     * Queries a DynamoDB Global Secondary Index (GSI) by partition key.
     *
     * @param tableName         The name of the DynamoDB table
     * @param indexName         The name of the GSI
     * @param partitionKeyName  The name of the GSI partition key attribute
     * @param partitionKeyValue The value of the GSI partition key to query
```

```
    * @return The query response from DynamoDB
    * @throws ResourceNotFoundException if the table or index doesn't exist
    * @throws DynamoDbException if the query fails
    */
   public QueryResponse queryGlobalSecondaryIndex(
       final String tableName, final String indexName, final String
partitionKeyName, final String partitionKeyValue) {

       CodeSampleUtils.validateTableParameters(tableName, partitionKeyName,
partitionKeyValue);
       CodeSampleUtils.validateStringParameter("Index name", indexName);

       // Create expression attribute names for the column names
       final Map<String, String> expressionAttributeNames = new HashMap<>();
       expressionAttributeNames.put(EXPRESSION_ATTRIBUTE_NAME_IK,
partitionKeyName);

       // Create expression attribute values for the column values
       final Map<String, AttributeValue> expressionAttributeValues = new
HashMap<>();
       expressionAttributeValues.put(
           EXPRESSION_ATTRIBUTE_VALUE_IK,
           AttributeValue.builder().s(partitionKeyValue).build());

       // Create the query request
       final QueryRequest queryRequest = QueryRequest.builder()
           .tableName(tableName)
           .indexName(indexName)
           .keyConditionExpression(GSI_KEY_CONDITION_EXPRESSION)
           .expressionAttributeNames(expressionAttributeNames)
           .expressionAttributeValues(expressionAttributeValues)
           .build();

       try {
           final QueryResponse response = dynamoDbClient.query(queryRequest);
           System.out.println("Query on GSI successful. Found " + response.count()
+ " items");
           return response;
       } catch (ResourceNotFoundException e) {
           System.err.format(
               "Error: The Amazon DynamoDB table \"%s\" or index \"%s\" can't be
found.\n", tableName, indexName);
           throw new DynamoDbQueryException("Table or index not found: " +
tableName + "/" + indexName, e);
```

```
        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println("Error querying GSI: " + e.getMessage());
            throw new DynamoDbQueryException("Failed to execute query on GSI", e);
        }
    }
```

を使用してページ分割でクエリを実行します AWS SDK for Java 2.x。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ResourceNotFoundException;

import java.util.ArrayList;
import java.util.HashMap;
import java.util.List;
import java.util.Map;

    public List<Map<String, AttributeValue>> queryWithPagination(
        final String tableName, final String partitionKeyName, final String
 partitionKeyValue, final int pageSize) {

        CodeSampleUtils.validateTableParameters(tableName, partitionKeyName,
 partitionKeyValue);
        CodeSampleUtils.validatePositiveInteger("Page size", pageSize);

        // Create expression attribute names for the column names
        final Map<String, String> expressionAttributeNames = new HashMap<>();
        expressionAttributeNames.put(EXPRESSION_ATTRIBUTE_NAME_PK,
 partitionKeyName);

        // Create expression attribute values for the column values
        final Map<String, AttributeValue> expressionAttributeValues = new
 HashMap<>();
        expressionAttributeValues.put(
            EXPRESSION_ATTRIBUTE_VALUE_PK,
            AttributeValue.builder().s(partitionKeyValue).build());

        // Create the query request
```

```
        QueryRequest.Builder queryRequestBuilder = QueryRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .keyConditionExpression(KEY_CONDITION_EXPRESSION)
            .expressionAttributeNames(expressionAttributeNames)
            .expressionAttributeValues(expressionAttributeValues)
            .limit(pageSize);

        // List to store all items from all pages
        final List<Map<String, AttributeValue>> allItems = new ArrayList<>();

        // Map to store the last evaluated key for pagination
        Map<String, AttributeValue> lastEvaluatedKey = null;
        int pageNumber = 1;

        try {
            do {
                // If we have a last evaluated key, use it for the next page
                if (lastEvaluatedKey != null) {
                    queryRequestBuilder.exclusiveStartKey(lastEvaluatedKey);
                }

                // Execute the query
                final QueryResponse response =
dynamoDbClient.query(queryRequestBuilder.build());

                // Process the current page of results
                final List<Map<String, AttributeValue>> pageItems =
response.items();
                allItems.addAll(pageItems);

                // Get the last evaluated key for the next page
                lastEvaluatedKey = response.lastEvaluatedKey();
                if (lastEvaluatedKey != null && lastEvaluatedKey.isEmpty()) {
                    lastEvaluatedKey = null;
                }

                System.out.println("Page " + pageNumber + ": Retrieved " +
pageItems.size() + " items (Running total: "
                    + allItems.size() + ")");

                pageNumber++;

            } while (lastEvaluatedKey != null);
```

```
            System.out.println("Query with pagination complete. Retrieved a total of
 " + allItems.size()
                + " items across " + (pageNumber - 1) + " pages");

            return allItems;
        } catch (ResourceNotFoundException e) {
            System.err.format("Error: The Amazon DynamoDB table \"%s\" can't be
 found.\n", tableName);
            throw e;
        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println("Error querying with pagination: " + e.getMessage());
            throw e;
        }
    }
```

を使用して複雑なフィルターでクエリを実行します AWS SDK for Java 2.x。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ResourceNotFoundException;

import java.util.HashMap;
import java.util.Map;
import java.util.logging.Level;
import java.util.logging.Logger;

    public QueryResponse queryWithComplexFilter(
        final String tableName,
        final String partitionKeyName,
        final String partitionKeyValue,
        final String statusAttrName,
        final String activeStatus,
        final String pendingStatus,
        final String priceAttrName,
        final double minPrice,
        final double maxPrice,
        final String categoryAttrName) {
```

```
        // Validate parameters
        CodeSampleUtils.validateTableParameters(tableName, partitionKeyName,
partitionKeyValue);
        CodeSampleUtils.validateStringParameter("Status attribute name",
statusAttrName);
        CodeSampleUtils.validateStringParameter("Active status", activeStatus);
        CodeSampleUtils.validateStringParameter("Pending status", pendingStatus);
        CodeSampleUtils.validateStringParameter("Price attribute name",
priceAttrName);
        CodeSampleUtils.validateStringParameter("Category attribute name",
categoryAttrName);
        CodeSampleUtils.validateNumericRange("Minimum price", minPrice, 0.0,
Double.MAX_VALUE);
        CodeSampleUtils.validateNumericRange("Maximum price", maxPrice, minPrice,
Double.MAX_VALUE);

        // Create expression attribute names for the column names
        final Map<String, String> expressionAttributeNames = new HashMap<>();
        expressionAttributeNames.put("#pk", partitionKeyName);
        expressionAttributeNames.put(EXPRESSION_ATTRIBUTE_NAME_STATUS,
statusAttrName);
        expressionAttributeNames.put(EXPRESSION_ATTRIBUTE_NAME_PRICE,
priceAttrName);
        expressionAttributeNames.put(EXPRESSION_ATTRIBUTE_NAME_CATEGORY,
categoryAttrName);

        // Create expression attribute values for the column values
        final Map<String, AttributeValue> expressionAttributeValues = new
HashMap<>();
        expressionAttributeValues.put(
            ":pkValue", AttributeValue.builder().s(partitionKeyValue).build());
        expressionAttributeValues.put(
            EXPRESSION_ATTRIBUTE_VALUE_ACTIVE,
            AttributeValue.builder().s(activeStatus).build());
        expressionAttributeValues.put(
            EXPRESSION_ATTRIBUTE_VALUE_PENDING,
            AttributeValue.builder().s(pendingStatus).build());
        expressionAttributeValues.put(
            EXPRESSION_ATTRIBUTE_VALUE_MIN_PRICE,
            AttributeValue.builder().n(String.valueOf(minPrice)).build());
        expressionAttributeValues.put(
            EXPRESSION_ATTRIBUTE_VALUE_MAX_PRICE,
            AttributeValue.builder().n(String.valueOf(maxPrice)).build());
```

```
        // Create the query request
        final QueryRequest queryRequest = QueryRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .keyConditionExpression(KEY_CONDITION_EXPRESSION)
            .filterExpression(FILTER_EXPRESSION)
            .expressionAttributeNames(expressionAttributeNames)
            .expressionAttributeValues(expressionAttributeValues)
            .build();

        return dynamoDbClient.query(queryRequest);
    }
```

を使用して動的に構築されたフィルター式でクエリを実行します AWS SDK for Java 2.x。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ResourceNotFoundException;

import java.util.HashMap;
import java.util.Map;

    public static QueryResponse queryWithDynamicFilter(
        final String tableName,
        final String partitionKeyName,
        final String partitionKeyValue,
        final Map<String, Object> filterCriteria,
        final Region region,
        final DynamoDbClient dynamoDbClient) {

        validateParameters(tableName, partitionKeyName, partitionKeyValue,
 filterCriteria);

        DynamoDbClient ddbClient = dynamoDbClient;
        boolean shouldClose = false;

        try {
            if (ddbClient == null) {
                ddbClient = createClient(region);
```

```
                shouldClose = true;
            }

            final QueryWithDynamicFilter queryHelper = new
QueryWithDynamicFilter(ddbClient);
            return queryHelper.queryWithDynamicFilter(tableName, partitionKeyName,
partitionKeyValue, filterCriteria);
        } catch (ResourceNotFoundException e) {
            System.err.println("Table not found: " + tableName);
            throw e;
        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println("Failed to execute dynamic filter query: " +
e.getMessage());
            throw e;
        } catch (Exception e) {
            System.err.println("Unexpected error during query: " + e.getMessage());
            throw e;
        } finally {
            if (shouldClose && ddbClient != null) {
                ddbClient.close();
            }
        }
    }

    public static void main(String[] args) {
        final String usage =
            """
                Usage:
                    <tableName> <partitionKeyName> <partitionKeyValue>
<filterAttrName> <filterAttrValue> [region]
                Where:
                    tableName - The Amazon DynamoDB table to query.
                    partitionKeyName - The name of the partition key attribute.
                    partitionKeyValue - The value of the partition key to query.
                    filterAttrName - The name of the attribute to filter on.
                    filterAttrValue - The value to filter by.
                    region (optional) - The AWS region where the table exists.
(Default: us-east-1)
                """;

        if (args.length < 5) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }
```

```
        final String tableName = args[0];
        final String partitionKeyName = args[1];
        final String partitionKeyValue = args[2];
        final String filterAttrName = args[3];
        final String filterAttrValue = args[4];
        final Region region = args.length > 5 ? Region.of(args[5]) :
Region.US_EAST_1;

        System.out.println("Querying items with dynamic filter: " + filterAttrName +
" = " + filterAttrValue);

        try {
            // Using the builder pattern to create and execute the query
            final QueryResponse response = new DynamicFilterQueryBuilder()
                .withTableName(tableName)
                .withPartitionKeyName(partitionKeyName)
                .withPartitionKeyValue(partitionKeyValue)
                .withFilterCriterion(filterAttrName, filterAttrValue)
                .withRegion(region)
                .execute();

            // Process the results
            System.out.println("Found " + response.count() + " items:");
            response.items().forEach(item -> System.out.println(item));

            // Demonstrate multiple filter criteria
            System.out.println("\nNow querying with multiple filter criteria:");

            Map<String, Object> multipleFilters = new HashMap<>();
            multipleFilters.put(filterAttrName, filterAttrValue);
            multipleFilters.put("status", "active");

            final QueryResponse multiFilterResponse = new
DynamicFilterQueryBuilder()
                .withTableName(tableName)
                .withPartitionKeyName(partitionKeyName)
                .withPartitionKeyValue(partitionKeyValue)
                .withFilterCriteria(multipleFilters)
                .withRegion(region)
                .execute();

            System.out.println("Found " + multiFilterResponse.count() + " items with
multiple filters:");
```

```
            multiFilterResponse.items().forEach(item -> System.out.println(item));

        } catch (IllegalArgumentException e) {
            System.err.println("Invalid input: " + e.getMessage());
            System.exit(1);
        } catch (ResourceNotFoundException e) {
            System.err.println("Table not found: " + tableName);
            System.exit(1);
        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println("DynamoDB error: " + e.getMessage());
            System.exit(1);
        } catch (Exception e) {
            System.err.println("Unexpected error: " + e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

フィルター式を使用してクエリを実行し、 を使用して制限します AWS SDK for Java 2.x。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ResourceNotFoundException;

import java.util.HashMap;
import java.util.Map;
import java.util.logging.Level;
import java.util.logging.Logger;

    public QueryResponse queryWithFilterAndLimit(
        final String tableName,
        final String partitionKeyName,
        final String partitionKeyValue,
        final String filterAttrName,
        final String filterAttrValue,
        final int limit) {

        CodeSampleUtils.validateTableParameters(tableName, partitionKeyName,
 partitionKeyValue);
```

```
        CodeSampleUtils.validateStringParameter("Filter attribute name",
filterAttrName);
        CodeSampleUtils.validateStringParameter("Filter attribute value",
filterAttrValue);
        CodeSampleUtils.validatePositiveInteger("Limit", limit);

        // Create expression attribute names for the column names
        final Map<String, String> expressionAttributeNames = new HashMap<>();
        expressionAttributeNames.put(EXPRESSION_ATTRIBUTE_NAME_PK,
partitionKeyName);
        expressionAttributeNames.put(EXPRESSION_ATTRIBUTE_NAME_FILTER,
filterAttrName);

        // Create expression attribute values for the column values
        final Map<String, AttributeValue> expressionAttributeValues = new
HashMap<>();
        expressionAttributeValues.put(
            EXPRESSION_ATTRIBUTE_VALUE_PK,
            AttributeValue.builder().s(partitionKeyValue).build());
        expressionAttributeValues.put(
            EXPRESSION_ATTRIBUTE_VALUE_FILTER,
            AttributeValue.builder().s(filterAttrValue).build());

        // Create the filter expression
        final String filterExpression = "#filterAttr = :filterValue";

        // Create the query request
        final QueryRequest queryRequest = QueryRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .keyConditionExpression(KEY_CONDITION_EXPRESSION)
            .filterExpression(filterExpression)
            .expressionAttributeNames(expressionAttributeNames)
            .expressionAttributeValues(expressionAttributeValues)
            .limit(limit)
            .build();

        try {
            final QueryResponse response = dynamoDbClient.query(queryRequest);
            LOGGER.log(Level.INFO, "Query with filter and limit successful. Found
{0} items", response.count());
            LOGGER.log(
                Level.INFO, "ScannedCount: {0} (total items evaluated before
filtering)", response.scannedCount());
            return response;
```

```
        } catch (ResourceNotFoundException e) {
            LOGGER.log(Level.SEVERE, "Table not found: {0}", tableName);
            throw e;
        } catch (DynamoDbException e) {
            LOGGER.log(Level.SEVERE, "Error querying with filter and limit: {0}",
e.getMessage());
            throw e;
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「Query」を参照してください。

リストオペレーションを実行する

次のコード例は、DynamoDB でリストオペレーションを実行する方法を示しています。

- リスト属性に要素を追加します。
- リスト属性から要素を削除します。
- インデックスでリスト内の特定の要素を更新します。
- リスト追加関数およびリストインデックス関数を使用します。

SDK for Java 2.x

を使用してリストオペレーションをデモンストレーションします AWS SDK for Java 2.x。

```
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.GetItemRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.GetItemResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.UpdateItemRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.UpdateItemResponse;

import java.util.ArrayList;
import java.util.HashMap;
import java.util.List;
import java.util.Map;

    /**
```

```
     * Appends items to a list attribute.
     *
     * <p>This method demonstrates how to use the list_append function to add
     * items to the end of a list attribute.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param key The key of the item to update
     * @param listAttributeName The name of the list attribute
     * @param itemsToAppend The items to append to the list
     * @return The response from DynamoDB
     * @throws DynamoDbException if an error occurs during the operation
     */
    public static UpdateItemResponse appendToList(
        DynamoDbClient dynamoDbClient,
        String tableName,
        Map<String, AttributeValue> key,
        String listAttributeName,
        List<AttributeValue> itemsToAppend) {

        // Create a list value from the items to append
        AttributeValue listValue =
AttributeValue.builder().l(itemsToAppend).build();

        // Define the update parameters
        UpdateItemRequest request = UpdateItemRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .key(key)
            .updateExpression("SET #attrName =
list_append(if_not_exists(#attrName, :emptyList), :newItems)")
            .expressionAttributeNames(Map.of("#attrName", listAttributeName))
            .expressionAttributeValues(Map.of(
                ":newItems",
                listValue,
                ":emptyList",
                AttributeValue.builder().l(new
ArrayList<AttributeValue>()).build()))
            .returnValues("UPDATED_NEW")
            .build();

        // Perform the update operation
        return dynamoDbClient.updateItem(request);
    }
```

```
    /**
     * Prepends items to a list attribute.
     *
     * <p>This method demonstrates how to use the list_append function to add
     * items to the beginning of a list attribute.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param key The key of the item to update
     * @param listAttributeName The name of the list attribute
     * @param itemsToPrepend The items to prepend to the list
     * @return The response from DynamoDB
     * @throws DynamoDbException if an error occurs during the operation
     */
    public static UpdateItemResponse prependToList(
        DynamoDbClient dynamoDbClient,
        String tableName,
        Map<String, AttributeValue> key,
        String listAttributeName,
        List<AttributeValue> itemsToPrepend) {

        // Create a list value from the items to prepend
        AttributeValue listValue =
AttributeValue.builder().l(itemsToPrepend).build();

        // Define the update parameters
        // Note: To prepend, we put the new items first in the list_append function
        UpdateItemRequest request = UpdateItemRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .key(key)
            .updateExpression("SET #attrName = list_append(:newItems,
if_not_exists(#attrName, :emptyList))")
            .expressionAttributeNames(Map.of("#attrName", listAttributeName))
            .expressionAttributeValues(Map.of(
                ":newItems",
                listValue,
                ":emptyList",
                AttributeValue.builder().l(new
ArrayList<AttributeValue>()).build()))
            .returnValues("UPDATED_NEW")
            .build();

        // Perform the update operation
        return dynamoDbClient.updateItem(request);
```

```
    }

    /**
     * Updates a specific element in a list attribute.
     *
     * <p>This method demonstrates how to update a specific element in a list
     * by its index.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param key The key of the item to update
     * @param listAttributeName The name of the list attribute
     * @param index The index of the element to update
     * @param newValue The new value for the element
     * @return The response from DynamoDB
     * @throws DynamoDbException if an error occurs during the operation
     */
    public static UpdateItemResponse updateListElement(
        DynamoDbClient dynamoDbClient,
        String tableName,
        Map<String, AttributeValue> key,
        String listAttributeName,
        int index,
        AttributeValue newValue) {

        // Define the update parameters
        UpdateItemRequest request = UpdateItemRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .key(key)
            .updateExpression("SET #attrName[" + index + "] = :newValue")
            .expressionAttributeNames(Map.of("#attrName", listAttributeName))
            .expressionAttributeValues(Map.of(":newValue", newValue))
            .returnValues("UPDATED_NEW")
            .build();

        // Perform the update operation
        return dynamoDbClient.updateItem(request);
    }

    /**
     * Removes a specific element from a list attribute.
     *
     * <p>This method demonstrates how to remove a specific element from a list
     * by its index.
```

```
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param key The key of the item to update
     * @param listAttributeName The name of the list attribute
     * @param index The index of the element to remove
     * @return The response from DynamoDB
     * @throws DynamoDbException if an error occurs during the operation
     */
    public static UpdateItemResponse removeListElement(
        DynamoDbClient dynamoDbClient,
        String tableName,
        Map<String, AttributeValue> key,
        String listAttributeName,
        int index) {

        // Define the update parameters
        UpdateItemRequest request = UpdateItemRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .key(key)
            .updateExpression("REMOVE #attrName[" + index + "]")
            .expressionAttributeNames(Map.of("#attrName", listAttributeName))
            .returnValues("UPDATED_NEW")
            .build();

        // Perform the update operation
        return dynamoDbClient.updateItem(request);
    }

    /**
     * Gets the current value of a list attribute.
     *
     * <p>Helper method to retrieve the current value of a list attribute.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param key The key of the item to get
     * @param listAttributeName The name of the list attribute
     * @return The list attribute value or null if not found
     * @throws DynamoDbException if an error occurs during the operation
     */
    public static List<AttributeValue> getListAttribute(
        DynamoDbClient dynamoDbClient, String tableName, Map<String, AttributeValue>
key, String listAttributeName) {
```

```
        // Define the get parameters
        GetItemRequest request = GetItemRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .key(key)
            .projectionExpression(listAttributeName)
            .build();

        try {
            // Perform the get operation
            GetItemResponse response = dynamoDbClient.getItem(request);

            // Return the list attribute if it exists, otherwise null
            if (response.item() != null &&
response.item().containsKey(listAttributeName)) {
                return response.item().get(listAttributeName).l();
            }

            return null;
        } catch (DynamoDbException e) {
            throw DynamoDbException.builder()
                .message("Failed to get list attribute: " + e.getMessage())
                .cause(e)
                .build();
        }
    }
```

を使用したリストオペレーションの使用例 AWS SDK for Java 2.x。

```
    public static void exampleUsage(DynamoDbClient dynamoDbClient, String tableName)
{
        // Example key
        Map<String, AttributeValue> key = new HashMap<>();
        key.put("ProductId", AttributeValue.builder().s("P12345").build());

        System.out.println("Demonstrating list operations in DynamoDB");

        try {
            // Example 1: Append items to a list
            System.out.println("\nExample 1: Appending items to a list");
            List<AttributeValue> tagsToAppend = List.of(
                AttributeValue.builder().s("Electronics").build(),
```

```
                AttributeValue.builder().s("Gadget").build());

            UpdateItemResponse appendResponse = appendToList(dynamoDbClient,
tableName, key, "Tags", tagsToAppend);

            System.out.println("Updated list attribute: " +
appendResponse.attributes());

            // Example 2: Prepend items to a list
            System.out.println("\nExample 2: Prepending items to a list");
            List<AttributeValue> tagsToPrepend = List.of(
                AttributeValue.builder().s("Featured").build(),
                AttributeValue.builder().s("New").build());

            UpdateItemResponse prependResponse = prependToList(dynamoDbClient,
tableName, key, "Tags", tagsToPrepend);

            System.out.println("Updated list attribute: " +
prependResponse.attributes());

            // Example 3: Update a specific element in a list
            System.out.println("\nExample 3: Updating a specific element in a
list");
            UpdateItemResponse updateResponse = updateListElement(
                dynamoDbClient,
                tableName,
                key,
                "Tags",
                0,
                AttributeValue.builder().s("BestSeller").build());

            System.out.println("Updated list attribute: " +
updateResponse.attributes());

            // Example 4: Remove a specific element from a list
            System.out.println("\nExample 4: Removing a specific element from a
list");
            UpdateItemResponse removeResponse = removeListElement(dynamoDbClient,
tableName, key, "Tags", 1);

            System.out.println("Updated list attribute: " +
removeResponse.attributes());

            // Example 5: Get the current value of a list attribute
```

```
            System.out.println("\nExample 5: Getting the current value of a list
attribute");
            List<AttributeValue> currentList = getListAttribute(dynamoDbClient,
tableName, key, "Tags");

            if (currentList != null) {
                System.out.println("Current list attribute:");
                for (int i = 0; i < currentList.size(); i++) {
                    System.out.println("  [" + i + "]: " + currentList.get(i).s());
                }
            } else {
                System.out.println("List attribute not found");
            }

            // Explain list operations
            System.out.println("\nKey points about DynamoDB list operations:");
            System.out.println("1. Lists are ordered collections of attributes");
            System.out.println("2. Use list_append to add items to a list");
            System.out.println("3. To append items, use list_append(existingList,
newItems)");
            System.out.println("4. To prepend items, use list_append(newItems,
existingList)");
            System.out.println("5. Use index notation (list[0]) to access or update
specific elements");
            System.out.println("6. Use REMOVE to delete elements from a list");
            System.out.println("7. List indices are zero-based");
            System.out.println("8. Use if_not_exists to handle the case where the
list doesn't exist yet");

        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println("Error: " + e.getMessage());
            e.printStackTrace();
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「UpdateItem」を参照してください。

マップオペレーションを実行する

次のコード例は、DynamoDB でマップオペレーションを実行する方法を示しています。

- マップ構造にネストされた属性を追加および更新します。
- マップから特定のフィールドを削除します。
- 深くネストされたマップ属性を操作します。

SDK for Java 2.x

を使用してマップオペレーションをデモンストレーションします AWS SDK for Java 2.x。

```
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.GetItemRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.GetItemResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.UpdateItemRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.UpdateItemResponse;

import java.util.HashMap;
import java.util.List;
import java.util.Map;

    /**
     * Updates a map attribute that may not exist.
     *
     * <p>This method demonstrates how to safely update a map attribute
     * by using if_not_exists to handle the case where the map doesn't exist yet.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param key The key of the item to update
     * @param mapName The name of the map attribute
     * @param mapKey The key within the map to update
     * @param value The value to set
     * @return The response from DynamoDB
     * @throws DynamoDbException if an error occurs during the operation
     */
    public static UpdateItemResponse updateMapAttributeSafe(
        DynamoDbClient dynamoDbClient,
        String tableName,
        Map<String, AttributeValue> key,
        String mapName,
        String mapKey,
        AttributeValue value) {
```

```
        // A single UpdateExpression can't reference both a map and a path inside
        // that same map (for example "#mapName" and "#mapName.#mapKey"): DynamoDB
        // rejects overlapping document paths with a ValidationException. Instead,
        // perform the update in two steps.

        // Step 1: create the map with an empty value if it doesn't already exist.
        dynamoDbClient.updateItem(UpdateItemRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .key(key)
            .updateExpression("SET #mapName = if_not_exists(#mapName, :emptyMap)")
            .expressionAttributeNames(Map.of("#mapName", mapName))
            .expressionAttributeValues(Map.of(
                ":emptyMap", AttributeValue.builder().m(new HashMap<>()).build()))
            .build());

        // Step 2: set the key within the now-guaranteed-to-exist map.
        UpdateItemRequest request = UpdateItemRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .key(key)
            .updateExpression("SET #mapName.#mapKey = :value")
            .expressionAttributeNames(Map.of(
                "#mapName", mapName,
                "#mapKey", mapKey))
            .expressionAttributeValues(Map.of(":value", value))
            .returnValues("UPDATED_NEW")
            .build();

        // Perform the update operation
        return dynamoDbClient.updateItem(request);
    }

    /**
     * Adds an attribute to a nested map.
     *
     * <p>This method demonstrates how to update a nested attribute without
     * overwriting the entire map.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param key The key of the item to update
     * @param path The path to the nested attribute as a list
     * @param value The value to set
     * @return The response from DynamoDB
```

```
     * @throws DynamoDbException if an error occurs during the operation
     */
    public static UpdateItemResponse addToNestedMap(
        DynamoDbClient dynamoDbClient,
        String tableName,
        Map<String, AttributeValue> key,
        List<String> path,
        AttributeValue value) {

        // Create expression attribute names for each part of the path
        Map<String, String> expressionAttributeNames = new HashMap<>();
        for (int i = 0; i < path.size(); i++) {
            expressionAttributeNames.put("#attr" + i, path.get(i));
        }

        // Build the attribute path using the expression attribute names
        StringBuilder attributePathExpression = new StringBuilder();
        for (int i = 0; i < path.size(); i++) {
            if (i > 0) {
                attributePathExpression.append(".");
            }
            attributePathExpression.append("#attr").append(i);
        }

        // Define the update parameters
        UpdateItemRequest request = UpdateItemRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .key(key)
            .updateExpression("SET " + attributePathExpression.toString() + "
= :value")
            .expressionAttributeNames(expressionAttributeNames)
            .expressionAttributeValues(Map.of(":value", value))
            .returnValues("UPDATED_NEW")
            .build();

        // Perform the update operation
        return dynamoDbClient.updateItem(request);
    }

    /**
     * Removes an attribute from a map.
     *
     * <p>This method demonstrates how to remove a specific attribute from a map.
     *
```

```
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param key The key of the item to update
     * @param mapName The name of the map attribute
     * @param mapKey The key within the map to remove
     * @return The response from DynamoDB
     * @throws DynamoDbException if an error occurs during the operation
     */
    public static UpdateItemResponse removeMapAttribute(
        DynamoDbClient dynamoDbClient,
        String tableName,
        Map<String, AttributeValue> key,
        String mapName,
        String mapKey) {

        // Define the update parameters
        UpdateItemRequest request = UpdateItemRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .key(key)
            .updateExpression("REMOVE #mapName.#mapKey")
            .expressionAttributeNames(Map.of(
                "#mapName", mapName,
                "#mapKey", mapKey))
            .returnValues("UPDATED_NEW")
            .build();

        // Perform the update operation
        return dynamoDbClient.updateItem(request);
    }

    /**
     * Creates a map with multiple attributes in a single operation.
     *
     * <p>This method demonstrates how to create a map with multiple attributes
     * in a single update operation.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param key The key of the item to update
     * @param mapName The name of the map attribute
     * @param attributes The attributes to set in the map
     * @return The response from DynamoDB
     * @throws DynamoDbException if an error occurs during the operation
     */
```

```
    public static UpdateItemResponse createMapWithAttributes(
        DynamoDbClient dynamoDbClient,
        String tableName,
        Map<String, AttributeValue> key,
        String mapName,
        Map<String, AttributeValue> attributes) {

        // Create a map value from the attributes
        AttributeValue mapValue = AttributeValue.builder().m(attributes).build();

        // Define the update parameters
        UpdateItemRequest request = UpdateItemRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .key(key)
            .updateExpression("SET #mapName = :mapValue")
            .expressionAttributeNames(Map.of("#mapName", mapName))
            .expressionAttributeValues(Map.of(":mapValue", mapValue))
            .returnValues("UPDATED_NEW")
            .build();

        // Perform the update operation
        return dynamoDbClient.updateItem(request);
    }

    /**
     * Gets the current value of a map attribute.
     *
     * <p>Helper method to retrieve the current value of a map attribute.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param key The key of the item to get
     * @param mapName The name of the map attribute
     * @return The map attribute value or null if not found
     * @throws DynamoDbException if an error occurs during the operation
     */
    public static Map<String, AttributeValue> getMapAttribute(
        DynamoDbClient dynamoDbClient, String tableName, Map<String, AttributeValue>
key, String mapName) {

        // Define the get parameters
        GetItemRequest request = GetItemRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .key(key)
```

```
            .projectionExpression(mapName)
            .build();

        try {
            // Perform the get operation
            GetItemResponse response = dynamoDbClient.getItem(request);

            // Return the map attribute if it exists, otherwise null
            if (response.item() != null && response.item().containsKey(mapName)) {
                return response.item().get(mapName).m();
            }

            return null;
        } catch (DynamoDbException e) {
            throw DynamoDbException.builder()
                .message("Failed to get map attribute: " + e.getMessage())
                .cause(e)
                .build();
        }
    }
```

でのマップオペレーションの使用例 AWS SDK for Java 2.x。

```
    public static void exampleUsage(DynamoDbClient dynamoDbClient, String tableName)
{
        // Example key
        Map<String, AttributeValue> key = new HashMap<>();
        key.put("ProductId", AttributeValue.builder().s("P12345").build());

        System.out.println("Demonstrating map operations in DynamoDB");

        try {
            // Example 1: Create a map with multiple attributes
            System.out.println("\nExample 1: Creating a map with multiple
attributes");
            Map<String, AttributeValue> productDetails = new HashMap<>();
            productDetails.put("Color", AttributeValue.builder().s("Red").build());
            productDetails.put("Weight", AttributeValue.builder().n("2.5").build());
            productDetails.put(
                "Dimensions", AttributeValue.builder().s("10x20x5").build());

            UpdateItemResponse createResponse =
```

```
                createMapWithAttributes(dynamoDbClient, tableName, key, "Details",
productDetails);

            System.out.println("Created map attribute: " +
createResponse.attributes());

            // Example 2: Update a specific attribute in a map
            System.out.println("\nExample 2: Updating a specific attribute in a
map");
            UpdateItemResponse updateResponse = updateMapAttributeSafe(
                dynamoDbClient,
                tableName,
                key,
                "Details",
                "Color",
                AttributeValue.builder().s("Blue").build());

            System.out.println("Updated map attribute: " +
updateResponse.attributes());

            // Example 3: Add an attribute to a nested map
            System.out.println("\nExample 3: Adding an attribute to a nested map");
            UpdateItemResponse nestedResponse = addToNestedMap(
                dynamoDbClient,
                tableName,
                key,
                List.of("Specifications", "Technical", "Resolution"),
                AttributeValue.builder().s("1920x1080").build());

            System.out.println("Added to nested map: " +
nestedResponse.attributes());

            // Example 4: Remove an attribute from a map
            System.out.println("\nExample 4: Removing an attribute from a map");
            UpdateItemResponse removeResponse =
                removeMapAttribute(dynamoDbClient, tableName, key, "Details",
"Dimensions");

            System.out.println("Updated map after removal: " +
removeResponse.attributes());

            // Example 5: Get the current value of a map attribute
            System.out.println("\nExample 5: Getting the current value of a map
attribute");
```

```
            Map<String, AttributeValue> currentMap = getMapAttribute(dynamoDbClient,
tableName, key, "Details");

            if (currentMap != null) {
                System.out.println("Current map attribute:");
                for (Map.Entry<String, AttributeValue> entry :
currentMap.entrySet()) {
                    System.out.println("  " + entry.getKey() + ": " +
entry.getValue());
                }
            } else {
                System.out.println("Map attribute not found");
            }

            // Explain map operations
            System.out.println("\nKey points about DynamoDB map operations:");
            System.out.println("1. Maps are unordered collections of name-value
pairs");
            System.out.println("2. Use dot notation (map.key) to access or update
specific attributes");
            System.out.println("3. You can update individual attributes without
overwriting the entire map");
            System.out.println("4. Maps can be nested to create complex data
structures");
            System.out.println("5. Use REMOVE to delete attributes from a map");
            System.out.println("6. You can create a map with multiple attributes in
a single operation");
            System.out.println("7. Map keys are case-sensitive");

        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println("Error: " + e.getMessage());
            e.printStackTrace();
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「UpdateItem」を参照してください。

セットオペレーションを実行する

次のコード例は、DynamoDB でセットオペレーションを実行する方法を示しています。

- セット属性に要素を追加します。
- セット属性から要素を削除します。
- セットで ADD および DELETE オペレーションを使用します。

SDK for Java 2.x

を使用してセットオペレーションをデモンストレーションします AWS SDK for Java 2.x。

```
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.GetItemRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.GetItemResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ReturnValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.UpdateItemRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.UpdateItemResponse;

import java.util.HashMap;
import java.util.HashSet;
import java.util.Map;
import java.util.Set;

    /**
     * Adds values to a string set attribute.
     *
     * <p>This method demonstrates how to use the ADD operation to add values
     * to a string set attribute.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param key The key of the item to update
     * @param setAttributeName The name of the set attribute
     * @param valuesToAdd The values to add to the set
     * @return The response from DynamoDB
     * @throws DynamoDbException if an error occurs during the operation
     */
    public static UpdateItemResponse addToStringSet(
        DynamoDbClient dynamoDbClient,
        String tableName,
        Map<String, AttributeValue> key,
        String setAttributeName,
        Set<String> valuesToAdd) {
```

```
        // Create a string set value from the values to add
        AttributeValue setValue = AttributeValue.builder().ss(valuesToAdd).build();

        // Define the update parameters
        UpdateItemRequest request = UpdateItemRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .key(key)
            .updateExpression("ADD #setAttr :valuesToAdd")
            .expressionAttributeNames(Map.of("#setAttr", setAttributeName))
            .expressionAttributeValues(Map.of(":valuesToAdd", setValue))
            .returnValues(ReturnValue.UPDATED_NEW)
            .build();

        // Perform the update operation
        return dynamoDbClient.updateItem(request);
    }

    /**
     * Adds values to a number set attribute.
     *
     * <p>This method demonstrates how to use the ADD operation to add values
     * to a number set attribute.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param key The key of the item to update
     * @param setAttributeName The name of the set attribute
     * @param valuesToAdd The values to add to the set
     * @return The response from DynamoDB
     * @throws DynamoDbException if an error occurs during the operation
     */
    public static UpdateItemResponse addToNumberSet(
        DynamoDbClient dynamoDbClient,
        String tableName,
        Map<String, AttributeValue> key,
        String setAttributeName,
        Set<Number> valuesToAdd) {

        // Convert numbers to strings for DynamoDB
        Set<String> stringValues = new HashSet<>();
        for (Number value : valuesToAdd) {
            stringValues.add(value.toString());
        }
```

```
        // Create a number set value from the values to add
        AttributeValue setValue = AttributeValue.builder().ns(stringValues).build();

        // Define the update parameters
        UpdateItemRequest request = UpdateItemRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .key(key)
            .updateExpression("ADD #setAttr :valuesToAdd")
            .expressionAttributeNames(Map.of("#setAttr", setAttributeName))
            .expressionAttributeValues(Map.of(":valuesToAdd", setValue))
            .returnValues(ReturnValue.UPDATED_NEW)
            .build();

        // Perform the update operation
        return dynamoDbClient.updateItem(request);
    }

    /**
     * Removes values from a set attribute.
     *
     * <p>This method demonstrates how to use the DELETE operation to remove values
     * from a set attribute.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param key The key of the item to update
     * @param setAttributeName The name of the set attribute
     * @param valuesToRemove The values to remove from the set
     * @param isNumberSet Whether the set is a number set (true) or string set
(false)
     * @return The response from DynamoDB
     * @throws DynamoDbException if an error occurs during the operation
     */
    public static UpdateItemResponse removeFromSet(
        DynamoDbClient dynamoDbClient,
        String tableName,
        Map<String, AttributeValue> key,
        String setAttributeName,
        Set<?> valuesToRemove,
        boolean isNumberSet) {

        AttributeValue setValue;
```

```
        if (isNumberSet) {
            // Convert numbers to strings for DynamoDB
            Set<String> stringValues = new HashSet<>();
            for (Object value : valuesToRemove) {
                if (value instanceof Number) {
                    stringValues.add(value.toString());
                } else {
                    throw new IllegalArgumentException("Values must be numbers for a
number set");
                }
            }

            setValue = AttributeValue.builder().ns(stringValues).build();
        } else {
            // Convert objects to strings for DynamoDB
            Set<String> stringValues = new HashSet<>();
            for (Object value : valuesToRemove) {
                stringValues.add(value.toString());
            }

            setValue = AttributeValue.builder().ss(stringValues).build();
        }

        // Define the update parameters
        UpdateItemRequest request = UpdateItemRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .key(key)
            .updateExpression("DELETE #setAttr :valuesToRemove")
            .expressionAttributeNames(Map.of("#setAttr", setAttributeName))
            .expressionAttributeValues(Map.of(":valuesToRemove", setValue))
            .returnValues(ReturnValue.UPDATED_NEW)
            .build();

        // Perform the update operation
        return dynamoDbClient.updateItem(request);
    }

    /**
     * Checks if a value exists in a set attribute.
     *
     * <p>This method demonstrates how to use the contains function to check
     * if a value exists in a set attribute.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
```

```
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param key The key of the item to check
     * @param setAttributeName The name of the set attribute
     * @param valueToCheck The value to check for
     * @return Map containing the result of the check
     * @throws DynamoDbException if an error occurs during the operation
     */
    public static Map<String, Object> checkIfValueInSet(
        DynamoDbClient dynamoDbClient,
        String tableName,
        Map<String, AttributeValue> key,
        String setAttributeName,
        String valueToCheck) {

        Map<String, Object> result = new HashMap<>();

        try {
            // Define the update parameters with a condition expression
            UpdateItemRequest request = UpdateItemRequest.builder()
                .tableName(tableName)
                .key(key)
                .updateExpression("SET #tempAttr = :tempVal")
                .conditionExpression("contains(#setAttr, :valueToCheck)")
                .expressionAttributeNames(Map.of("#setAttr", setAttributeName,
"#tempAttr", "TempAttribute"))
                .expressionAttributeValues(Map.of(
                    ":valueToCheck",
AttributeValue.builder().s(valueToCheck).build(),
                    ":tempVal", AttributeValue.builder().s("TempValue").build()))
                .returnValues(ReturnValue.UPDATED_NEW)
                .build();

            // Attempt the update operation
            dynamoDbClient.updateItem(request);

            // If we get here, the condition was met
            result.put("exists", true);
            result.put("message", "Value '" + valueToCheck + "' exists in the set");

            // Clean up the temporary attribute
            UpdateItemRequest cleanupRequest = UpdateItemRequest.builder()
                .tableName(tableName)
                .key(key)
                .updateExpression("REMOVE #tempAttr")
```

```
                .expressionAttributeNames(Map.of("#tempAttr", "TempAttribute"))
                .build();

            dynamoDbClient.updateItem(cleanupRequest);

        } catch (DynamoDbException e) {
            if (e.getMessage().contains("ConditionalCheckFailed")) {
                // The condition was not met
                result.put("exists", false);
                result.put("message", "Value '" + valueToCheck + "' does not exist
in the set");
            } else {
                // Some other error occurred
                result.put("exists", false);
                result.put("message", "Error checking set: " + e.getMessage());
                result.put("error", e.getClass().getSimpleName());
            }
        }

        return result;
    }

    /**
     * Creates a set with multiple values in a single operation.
     *
     * <p>This method demonstrates how to create a set with multiple values
     * in a single update operation.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param key The key of the item to update
     * @param setAttributeName The name of the set attribute
     * @param setValues The values to include in the set
     * @param isNumberSet Whether to create a number set (true) or string set
(false)
     * @return The response from DynamoDB
     * @throws DynamoDbException if an error occurs during the operation
     */
    public static UpdateItemResponse createSetWithValues(
        DynamoDbClient dynamoDbClient,
        String tableName,
        Map<String, AttributeValue> key,
        String setAttributeName,
        Set<?> setValues,
```

```
        boolean isNumberSet) {

        AttributeValue setValue;

        if (isNumberSet) {
            // Convert numbers to strings for DynamoDB
            Set<String> stringValues = new HashSet<>();
            for (Object value : setValues) {
                if (value instanceof Number) {
                    stringValues.add(value.toString());
                } else {
                    throw new IllegalArgumentException("Values must be numbers for a
number set");
                }
            }

            setValue = AttributeValue.builder().ns(stringValues).build();
        } else {
            // Convert objects to strings for DynamoDB
            Set<String> stringValues = new HashSet<>();
            for (Object value : setValues) {
                stringValues.add(value.toString());
            }

            setValue = AttributeValue.builder().ss(stringValues).build();
        }

        // Define the update parameters
        UpdateItemRequest request = UpdateItemRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .key(key)
            .updateExpression("SET #setAttr = :setValue")
            .expressionAttributeNames(Map.of("#setAttr", setAttributeName))
            .expressionAttributeValues(Map.of(":setValue", setValue))
            .returnValues(ReturnValue.UPDATED_NEW)
            .build();

        // Perform the update operation
        return dynamoDbClient.updateItem(request);
    }

    /**
     * Gets the current value of a set attribute.
     *
```

```
     * <p>Helper method to retrieve the current value of a set attribute.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param key The key of the item to get
     * @param setAttributeName The name of the set attribute
     * @return The set attribute value or null if not found
     * @throws DynamoDbException if an error occurs during the operation
     */
    public static AttributeValue getSetAttribute(
        DynamoDbClient dynamoDbClient, String tableName, Map<String, AttributeValue>
key, String setAttributeName) {

        // Define the get parameters
        GetItemRequest request = GetItemRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .key(key)
            .projectionExpression(setAttributeName)
            .build();

        try {
            // Perform the get operation
            GetItemResponse response = dynamoDbClient.getItem(request);

            // Return the set attribute if it exists, otherwise null
            if (response.item() != null &&
response.item().containsKey(setAttributeName)) {
                return response.item().get(setAttributeName);
            }

            return null;
        } catch (DynamoDbException e) {
            throw DynamoDbException.builder()
                .message("Failed to get set attribute: " + e.getMessage())
                .cause(e)
                .build();
        }
    }
```

でのセットオペレーションの使用例 AWS SDK for Java 2.x。

```
   public static void exampleUsage(DynamoDbClient dynamoDbClient, String tableName)
{
       // Example key
       Map<String, AttributeValue> key = new HashMap<>();
       key.put("ProductId", AttributeValue.builder().s("P12345").build());

       System.out.println("Demonstrating set operations in DynamoDB");

       try {
           // Example 1: Create a string set with multiple values
           System.out.println("\nExample 1: Creating a string set with multiple
values");
           Set<String> tags = new HashSet<>();
           tags.add("Electronics");
           tags.add("Gadget");
           tags.add("Smartphone");

           UpdateItemResponse createResponse = createSetWithValues(
               dynamoDbClient, tableName, key, "Tags", tags, false // Not a number
set
               );

           System.out.println("Created set attribute: " +
createResponse.attributes());

           // Example 2: Add values to a string set
           System.out.println("\nExample 2: Adding values to a string set");
           Set<String> additionalTags = new HashSet<>();
           additionalTags.add("Mobile");
           additionalTags.add("Wireless");

           UpdateItemResponse addResponse = addToStringSet(dynamoDbClient,
tableName, key, "Tags", additionalTags);

           System.out.println("Updated set attribute: " +
addResponse.attributes());

           // Example 3: Create a number set with multiple values
           System.out.println("\nExample 3: Creating a number set with multiple
values");
           Set<Number> ratings = new HashSet<>();
           ratings.add(4);
           ratings.add(5);
```

```
            ratings.add(4.5);

            UpdateItemResponse createNumberSetResponse = createSetWithValues(
                dynamoDbClient, tableName, key, "Ratings", ratings, true // Is a
number set
                );

            System.out.println("Created number set attribute: " +
createNumberSetResponse.attributes());

            // Example 4: Add values to a number set
            System.out.println("\nExample 4: Adding values to a number set");
            Set<Number> additionalRatings = new HashSet<>();
            additionalRatings.add(3.5);
            additionalRatings.add(4.2);

            UpdateItemResponse addNumberResponse =
                addToNumberSet(dynamoDbClient, tableName, key, "Ratings",
additionalRatings);

            System.out.println("Updated number set attribute: " +
addNumberResponse.attributes());

            // Example 5: Remove values from a set
            System.out.println("\nExample 5: Removing values from a set");
            Set<String> tagsToRemove = new HashSet<>();
            tagsToRemove.add("Gadget");

            UpdateItemResponse removeResponse = removeFromSet(
                dynamoDbClient, tableName, key, "Tags", tagsToRemove, false // Not a
number set
                );

            System.out.println("Updated set after removal: " +
removeResponse.attributes());

            // Example 6: Check if a value exists in a set
            System.out.println("\nExample 6: Checking if a value exists in a set");
            Map<String, Object> checkResult = checkIfValueInSet(dynamoDbClient,
tableName, key, "Tags", "Electronics");

            System.out.println("Check result: " + checkResult.get("message"));

            // Example 7: Get the current value of a set attribute
```

```
            System.out.println("\nExample 7: Getting the current value of a set
attribute");
            AttributeValue currentStringSet = getSetAttribute(dynamoDbClient,
tableName, key, "Tags");

            if (currentStringSet != null && currentStringSet.ss() != null) {
                System.out.println("Current string set values: " +
currentStringSet.ss());
            } else {
                System.out.println("String set attribute not found");
            }

            AttributeValue currentNumberSet = getSetAttribute(dynamoDbClient,
tableName, key, "Ratings");

            if (currentNumberSet != null && currentNumberSet.ns() != null) {
                System.out.println("Current number set values: " +
currentNumberSet.ns());
            } else {
                System.out.println("Number set attribute not found");
            }

            // Explain set operations
            System.out.println("\nKey points about DynamoDB set operations:");
            System.out.println(
                "1. DynamoDB supports three set types: string sets (SS), number sets
(NS), and binary sets (BS)");
            System.out.println("2. Sets can only contain elements of the same
type");
            System.out.println("3. Use ADD to add elements to a set");
            System.out.println("4. Use DELETE to remove elements from a set");
            System.out.println("5. Sets automatically remove duplicate values");
            System.out.println("6. Sets are unordered collections");
            System.out.println("7. Use the contains function to check if a value
exists in a set");
            System.out.println("8. You can create a set with multiple values in a
single operation");

        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println("Error: " + e.getMessage());
            e.printStackTrace();
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスのUpdateItem」を参照してください。

PartiQL ステートメントのバッチを使用してテーブルに対してクエリを実行する

次のコードサンプルは、以下の操作方法を示しています。

- 複数の SELECT ステートメントを実行して、項目のバッチを取得します。
- 複数の INSERT ステートメントを実行して、項目のバッチを追加する。
- 複数の UPDATE ステートメントを実行して、項目のバッチを更新する。
- 複数の DELETE ステートメントを実行して、項目のバッチを削除します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
public class ScenarioPartiQLBatch {
    public static void main(String[] args) throws IOException {
        String tableName = "MoviesPartiQBatch";
        Region region = Region.US_EAST_1;
        DynamoDbClient ddb = DynamoDbClient.builder()
            .region(region)
            .build();

        System.out.println("Creating an Amazon DynamoDB table named " + tableName
            + " with a key named year and a sort key named title.");
        createTable(ddb, tableName);

        System.out.println("Adding multiple records into the " + tableName
            + " table using a batch command.");
        putRecordBatch(ddb);

        // Update multiple movies by using the BatchExecute statement.
```

```
        String title1 = "Star Wars";
        int year1 = 1977;
        String title2 = "Wizard of Oz";
        int year2 = 1939;

        System.out.println("Query two movies.");
        getBatch(ddb, tableName, title1, title2, year1, year2);

        System.out.println("Updating multiple records using a batch command.");
        updateTableItemBatch(ddb);

        System.out.println("Deleting multiple records using a batch command.");
        deleteItemBatch(ddb);

        System.out.println("Deleting the Amazon DynamoDB table.");
        deleteDynamoDBTable(ddb, tableName);
        ddb.close();
    }

    public static boolean getBatch(DynamoDbClient ddb, String tableName, String
title1, String title2, int year1, int year2) {
        String getBatch = "SELECT * FROM " + tableName + " WHERE title = ? AND year
= ?";

        List<BatchStatementRequest> statements = new ArrayList<>();
        statements.add(BatchStatementRequest.builder()
            .statement(getBatch)
            .parameters(AttributeValue.builder().s(title1).build(),
                AttributeValue.builder().n(String.valueOf(year1)).build())
            .build());
        statements.add(BatchStatementRequest.builder()
            .statement(getBatch)
            .parameters(AttributeValue.builder().s(title2).build(),
                AttributeValue.builder().n(String.valueOf(year2)).build())
            .build());

        BatchExecuteStatementRequest batchExecuteStatementRequest =
BatchExecuteStatementRequest.builder()
            .statements(statements)
            .build();

        try {
            BatchExecuteStatementResponse response =
ddb.batchExecuteStatement(batchExecuteStatementRequest);
```

```
            if (!response.responses().isEmpty()) {
                response.responses().forEach(r -> {
                    System.out.println(r.item().get("title") + "\\t" +
r.item().get("year"));
                });
                return true;
            } else {
                System.out.println("Couldn't find either " + title1 + " or " +
title2 + ".");
                return false;
            }
        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            return false;
        }
    }

    public static void createTable(DynamoDbClient ddb, String tableName) {
        DynamoDbWaiter dbWaiter = ddb.waiter();
        ArrayList<AttributeDefinition> attributeDefinitions = new ArrayList<>();

        // Define attributes.
        attributeDefinitions.add(AttributeDefinition.builder()
            .attributeName("year")
            .attributeType("N")
            .build());

        attributeDefinitions.add(AttributeDefinition.builder()
            .attributeName("title")
            .attributeType("S")
            .build());

        ArrayList<KeySchemaElement> tableKey = new ArrayList<>();
        KeySchemaElement key = KeySchemaElement.builder()
            .attributeName("year")
            .keyType(KeyType.HASH)
            .build();

        KeySchemaElement key2 = KeySchemaElement.builder()
            .attributeName("title")
            .keyType(KeyType.RANGE) // Sort
            .build();

        // Add KeySchemaElement objects to the list.
```

```
        tableKey.add(key);
        tableKey.add(key2);

        CreateTableRequest request = CreateTableRequest.builder()
            .keySchema(tableKey)
            .billingMode(BillingMode.PAY_PER_REQUEST) //  DynamoDB automatically
scales based on traffic.
            .attributeDefinitions(attributeDefinitions)
            .tableName(tableName)
            .build();

        try {
            CreateTableResponse response = ddb.createTable(request);
            DescribeTableRequest tableRequest = DescribeTableRequest.builder()
                .tableName(tableName)
                .build();

            // Wait until the Amazon DynamoDB table is created.
            WaiterResponse<DescribeTableResponse> waiterResponse = dbWaiter
                .waitUntilTableExists(tableRequest);
            waiterResponse.matched().response().ifPresent(System.out::println);
            String newTable = response.tableDescription().tableName();
            System.out.println("The " + newTable + " was successfully created.");

        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void putRecordBatch(DynamoDbClient ddb) {
        String sqlStatement = "INSERT INTO MoviesPartiQBatch VALUE {'year':?,
'title' : ?, 'info' : ?}";
        try {
            // Create three movies to add to the Amazon DynamoDB table.
            // Set data for Movie 1.
            List<AttributeValue> parameters = new ArrayList<>();

            AttributeValue att1 = AttributeValue.builder()
                .n("1977")
                .build();

            AttributeValue att2 = AttributeValue.builder()
                .s("Star Wars")
```

```
                .build();

            AttributeValue att3 = AttributeValue.builder()
                .s("No Information")
                .build();

            parameters.add(att1);
            parameters.add(att2);
            parameters.add(att3);

            BatchStatementRequest statementRequestMovie1 =
BatchStatementRequest.builder()
                .statement(sqlStatement)
                .parameters(parameters)
                .build();

            // Set data for Movie 2.
            List<AttributeValue> parametersMovie2 = new ArrayList<>();
            AttributeValue attMovie2 = AttributeValue.builder()
                .n("1939")
                .build();

            AttributeValue attMovie2A = AttributeValue.builder()
                .s("Wizard of Oz")
                .build();

            AttributeValue attMovie2B = AttributeValue.builder()
                .s("No Information")
                .build();

            parametersMovie2.add(attMovie2);
            parametersMovie2.add(attMovie2A);
            parametersMovie2.add(attMovie2B);

            BatchStatementRequest statementRequestMovie2 =
BatchStatementRequest.builder()
                .statement(sqlStatement)
                .parameters(parametersMovie2)
                .build();

            // Set data for Movie 3.
            List<AttributeValue> parametersMovie3 = new ArrayList<>();
            AttributeValue attMovie3 = AttributeValue.builder()
                .n(String.valueOf("2022"))
```

```
                .build();

            AttributeValue attMovie3A = AttributeValue.builder()
                .s("My Movie 3")
                .build();

            AttributeValue attMovie3B = AttributeValue.builder()
                .s("No Information")
                .build();

            parametersMovie3.add(attMovie3);
            parametersMovie3.add(attMovie3A);
            parametersMovie3.add(attMovie3B);

            BatchStatementRequest statementRequestMovie3 =
BatchStatementRequest.builder()
                .statement(sqlStatement)
                .parameters(parametersMovie3)
                .build();

            // Add all three movies to the list.
            List<BatchStatementRequest> myBatchStatementList = new ArrayList<>();
            myBatchStatementList.add(statementRequestMovie1);
            myBatchStatementList.add(statementRequestMovie2);
            myBatchStatementList.add(statementRequestMovie3);

            BatchExecuteStatementRequest batchRequest =
BatchExecuteStatementRequest.builder()
                .statements(myBatchStatementList)
                .build();

            BatchExecuteStatementResponse response =
ddb.batchExecuteStatement(batchRequest);
            System.out.println("ExecuteStatement successful: " +
response.toString());
            System.out.println("Added new movies using a batch command.");

        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void updateTableItemBatch(DynamoDbClient ddb) {
```

```
        String sqlStatement = "UPDATE MoviesPartiQBatch SET info = 'directors\":
[\"Merian C. Cooper\",\"Ernest B. Schoedsack' where year=? and title=?";
        List<AttributeValue> parametersRec1 = new ArrayList<>();

        // Update three records.
        AttributeValue att1 = AttributeValue.builder()
            .n(String.valueOf("2022"))
            .build();

        AttributeValue att2 = AttributeValue.builder()
            .s("My Movie 1")
            .build();

        parametersRec1.add(att1);
        parametersRec1.add(att2);

        BatchStatementRequest statementRequestRec1 = BatchStatementRequest.builder()
            .statement(sqlStatement)
            .parameters(parametersRec1)
            .build();

        // Update record 2.
        List<AttributeValue> parametersRec2 = new ArrayList<>();
        AttributeValue attRec2 = AttributeValue.builder()
            .n(String.valueOf("2022"))
            .build();

        AttributeValue attRec2a = AttributeValue.builder()
            .s("My Movie 2")
            .build();

        parametersRec2.add(attRec2);
        parametersRec2.add(attRec2a);
        BatchStatementRequest statementRequestRec2 = BatchStatementRequest.builder()
            .statement(sqlStatement)
            .parameters(parametersRec2)
            .build();

        // Update record 3.
        List<AttributeValue> parametersRec3 = new ArrayList<>();
        AttributeValue attRec3 = AttributeValue.builder()
            .n(String.valueOf("2022"))
            .build();
```

```
        AttributeValue attRec3a = AttributeValue.builder()
            .s("My Movie 3")
            .build();

        parametersRec3.add(attRec3);
        parametersRec3.add(attRec3a);
        BatchStatementRequest statementRequestRec3 = BatchStatementRequest.builder()
            .statement(sqlStatement)
            .parameters(parametersRec3)
            .build();

        // Add all three movies to the list.
        List<BatchStatementRequest> myBatchStatementList = new ArrayList<>();
        myBatchStatementList.add(statementRequestRec1);
        myBatchStatementList.add(statementRequestRec2);
        myBatchStatementList.add(statementRequestRec3);

        BatchExecuteStatementRequest batchRequest =
BatchExecuteStatementRequest.builder()
            .statements(myBatchStatementList)
            .build();

        try {
            BatchExecuteStatementResponse response =
ddb.batchExecuteStatement(batchRequest);
            System.out.println("ExecuteStatement successful: " +
response.toString());
            System.out.println("Updated three movies using a batch command.");

        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
        System.out.println("Item was updated!");
    }

    public static void deleteItemBatch(DynamoDbClient ddb) {
        String sqlStatement = "DELETE FROM MoviesPartiQBatch WHERE year = ? and
title=?";
        List<AttributeValue> parametersRec1 = new ArrayList<>();

        // Specify three records to delete.
        AttributeValue att1 = AttributeValue.builder()
            .n(String.valueOf("2022"))
```

```
            .build();

        AttributeValue att2 = AttributeValue.builder()
            .s("My Movie 1")
            .build();

        parametersRec1.add(att1);
        parametersRec1.add(att2);

        BatchStatementRequest statementRequestRec1 = BatchStatementRequest.builder()
            .statement(sqlStatement)
            .parameters(parametersRec1)
            .build();

        // Specify record 2.
        List<AttributeValue> parametersRec2 = new ArrayList<>();
        AttributeValue attRec2 = AttributeValue.builder()
            .n(String.valueOf("2022"))
            .build();

        AttributeValue attRec2a = AttributeValue.builder()
            .s("My Movie 2")
            .build();

        parametersRec2.add(attRec2);
        parametersRec2.add(attRec2a);
        BatchStatementRequest statementRequestRec2 = BatchStatementRequest.builder()
            .statement(sqlStatement)
            .parameters(parametersRec2)
            .build();

        // Specify record 3.
        List<AttributeValue> parametersRec3 = new ArrayList<>();
        AttributeValue attRec3 = AttributeValue.builder()
            .n(String.valueOf("2022"))
            .build();

        AttributeValue attRec3a = AttributeValue.builder()
            .s("My Movie 3")
            .build();

        parametersRec3.add(attRec3);
        parametersRec3.add(attRec3a);
```

```
        BatchStatementRequest statementRequestRec3 = BatchStatementRequest.builder()
            .statement(sqlStatement)
            .parameters(parametersRec3)
            .build();

        // Add all three movies to the list.
        List<BatchStatementRequest> myBatchStatementList = new ArrayList<>();
        myBatchStatementList.add(statementRequestRec1);
        myBatchStatementList.add(statementRequestRec2);
        myBatchStatementList.add(statementRequestRec3);

        BatchExecuteStatementRequest batchRequest =
BatchExecuteStatementRequest.builder()
            .statements(myBatchStatementList)
            .build();

        try {
            ddb.batchExecuteStatement(batchRequest);
            System.out.println("Deleted three movies using a batch command.");

        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void deleteDynamoDBTable(DynamoDbClient ddb, String tableName) {
        DeleteTableRequest request = DeleteTableRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .build();

        try {
            ddb.deleteTable(request);

        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
        System.out.println(tableName + " was successfully deleted!");
    }

    private static ExecuteStatementResponse executeStatementRequest(DynamoDbClient
ddb, String statement,
```

```
 List<AttributeValue> parameters) {
        ExecuteStatementRequest request = ExecuteStatementRequest.builder()
            .statement(statement)
            .parameters(parameters)
            .build();

        return ddb.executeStatement(request);
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「BatchExecuteStatement」を参照してください。

PartiQL を使用してテーブルに対してクエリを実行する

次のコードサンプルは、以下の操作方法を示しています。

- SELECT ステートメントを実行して項目を取得します。
- INSERT 文を実行して項目を追加する。
- UPDATE ステートメントを使用して項目を更新する。
- DELETE ステートメントを実行して項目を削除します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
public class ScenarioPartiQ {
    public static void main(String[] args) throws IOException {
        String fileName = "../../../resources/sample_files/movies.json";
        String tableName = "MoviesPartiQ";
        Region region = Region.US_EAST_1;
        DynamoDbClient ddb = DynamoDbClient.builder()
            .region(region)
```

```
            .build();

        System.out.println(
            "******* Creating an Amazon DynamoDB table named MoviesPartiQ with a key
named year and a sort key named title.");
        createTable(ddb, tableName);

        System.out.println("Loading data into the MoviesPartiQ table.");
        loadData(ddb, fileName);

        System.out.println("Getting data from the MoviesPartiQ table.");
        getItem(ddb);

        System.out.println("Putting a record into the MoviesPartiQ table.");
        putRecord(ddb);

        System.out.println("Updating a record.");
        updateTableItem(ddb);

        System.out.println("Querying the movies released in 2013.");
        queryTable(ddb);

        System.out.println("Deleting the Amazon DynamoDB table.");
        deleteDynamoDBTable(ddb, tableName);
        ddb.close();
    }

    public static void createTable(DynamoDbClient ddb, String tableName) {
        DynamoDbWaiter dbWaiter = ddb.waiter();
        ArrayList<AttributeDefinition> attributeDefinitions = new ArrayList<>();

        // Define attributes.
        attributeDefinitions.add(AttributeDefinition.builder()
            .attributeName("year")
            .attributeType("N")
            .build());

        attributeDefinitions.add(AttributeDefinition.builder()
            .attributeName("title")
            .attributeType("S")
            .build());

        ArrayList<KeySchemaElement> tableKey = new ArrayList<>();
        KeySchemaElement key = KeySchemaElement.builder()
```

```
            .attributeName("year")
            .keyType(KeyType.HASH)
            .build();

        KeySchemaElement key2 = KeySchemaElement.builder()
            .attributeName("title")
            .keyType(KeyType.RANGE) // Sort
            .build();

        // Add KeySchemaElement objects to the list.
        tableKey.add(key);
        tableKey.add(key2);

        CreateTableRequest request = CreateTableRequest.builder()
            .keySchema(tableKey)
            .billingMode(BillingMode.PAY_PER_REQUEST) //Scales based on traffic.
            .attributeDefinitions(attributeDefinitions)
            .tableName(tableName)
            .build();

        try {
            CreateTableResponse response = ddb.createTable(request);
            DescribeTableRequest tableRequest = DescribeTableRequest.builder()
                .tableName(tableName)
                .build();

            // Wait until the Amazon DynamoDB table is created.
            WaiterResponse<DescribeTableResponse> waiterResponse =
dbWaiter.waitUntilTableExists(tableRequest);
            waiterResponse.matched().response().ifPresent(System.out::println);
            String newTable = response.tableDescription().tableName();
            System.out.println("The " + newTable + " was successfully created.");

        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    // Load data into the table.
    public static void loadData(DynamoDbClient ddb, String fileName) throws
IOException {
```

```
        String sqlStatement = "INSERT INTO MoviesPartiQ VALUE {'year':?,
'title' : ?, 'info' : ?}";
        JsonParser parser = new JsonFactory().createParser(new File(fileName));
        com.fasterxml.jackson.databind.JsonNode rootNode = new
ObjectMapper().readTree(parser);
        Iterator<JsonNode> iter = rootNode.iterator();
        ObjectNode currentNode;
        int t = 0;
        List<AttributeValue> parameters = new ArrayList<>();
        while (iter.hasNext()) {

            // Add 200 movies to the table.
            if (t == 200)
                break;
            currentNode = (ObjectNode) iter.next();

            int year = currentNode.path("year").asInt();
            String title = currentNode.path("title").asText();
            String info = currentNode.path("info").toString();

            AttributeValue att1 = AttributeValue.builder()
                .n(String.valueOf(year))
                .build();

            AttributeValue att2 = AttributeValue.builder()
                .s(title)
                .build();

            AttributeValue att3 = AttributeValue.builder()
                .s(info)
                .build();

            parameters.add(att1);
            parameters.add(att2);
            parameters.add(att3);

            // Insert the movie into the Amazon DynamoDB table.
            executeStatementRequest(ddb, sqlStatement, parameters);
            System.out.println("Added Movie " + title);

            parameters.remove(att1);
            parameters.remove(att2);
            parameters.remove(att3);
            t++;
```

```
        }
    }

    public static void getItem(DynamoDbClient ddb) {

        String sqlStatement = "SELECT * FROM MoviesPartiQ where year=? and title=?";
        List<AttributeValue> parameters = new ArrayList<>();
        AttributeValue att1 = AttributeValue.builder()
            .n("2012")
            .build();

        AttributeValue att2 = AttributeValue.builder()
            .s("The Perks of Being a Wallflower")
            .build();

        parameters.add(att1);
        parameters.add(att2);

        try {
            ExecuteStatementResponse response = executeStatementRequest(ddb,
sqlStatement, parameters);
            System.out.println("ExecuteStatement successful: " +
response.toString());

        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void putRecord(DynamoDbClient ddb) {

        String sqlStatement = "INSERT INTO MoviesPartiQ VALUE {'year':?,
'title' : ?, 'info' : ?}";
        try {
            List<AttributeValue> parameters = new ArrayList<>();

            AttributeValue att1 = AttributeValue.builder()
                .n(String.valueOf("2020"))
                .build();

            AttributeValue att2 = AttributeValue.builder()
                .s("My Movie")
                .build();
```

```
            AttributeValue att3 = AttributeValue.builder()
                .s("No Information")
                .build();

            parameters.add(att1);
            parameters.add(att2);
            parameters.add(att3);

            executeStatementRequest(ddb, sqlStatement, parameters);
            System.out.println("Added new movie.");

        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void updateTableItem(DynamoDbClient ddb) {

        String sqlStatement = "UPDATE MoviesPartiQ SET info = 'directors\":[\"Merian
C. Cooper\",\"Ernest B. Schoedsack' where year=? and title=?";
        List<AttributeValue> parameters = new ArrayList<>();
        AttributeValue att1 = AttributeValue.builder()
            .n(String.valueOf("2013"))
            .build();

        AttributeValue att2 = AttributeValue.builder()
            .s("The East")
            .build();

        parameters.add(att1);
        parameters.add(att2);

        try {
            executeStatementRequest(ddb, sqlStatement, parameters);

        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
        System.out.println("Item was updated!");
    }
```

```
   // Query the table where the year is 2013.
   public static void queryTable(DynamoDbClient ddb) {
       String sqlStatement = "SELECT * FROM MoviesPartiQ where year = ? ORDER BY
year";
       try {

           List<AttributeValue> parameters = new ArrayList<>();
           AttributeValue att1 = AttributeValue.builder()
               .n(String.valueOf("2013"))
               .build();
           parameters.add(att1);

           // Get items in the table and write out the ID value.
           ExecuteStatementResponse response = executeStatementRequest(ddb,
sqlStatement, parameters);
           System.out.println("ExecuteStatement successful: " +
response.toString());

       } catch (DynamoDbException e) {
           System.err.println(e.getMessage());
           System.exit(1);
       }
   }

   public static void deleteDynamoDBTable(DynamoDbClient ddb, String tableName) {

       DeleteTableRequest request = DeleteTableRequest.builder()
           .tableName(tableName)
           .build();

       try {
           ddb.deleteTable(request);

       } catch (DynamoDbException e) {
           System.err.println(e.getMessage());
           System.exit(1);
       }
       System.out.println(tableName + " was successfully deleted!");
   }

   private static ExecuteStatementResponse executeStatementRequest(DynamoDbClient
ddb, String statement,

List<AttributeValue> parameters) {
```

```
        ExecuteStatementRequest request = ExecuteStatementRequest.builder()
            .statement(statement)
            .parameters(parameters)
            .build();

        return ddb.executeStatement(request);
    }

    private static void processResults(ExecuteStatementResponse
 executeStatementResult) {
        System.out.println("ExecuteStatement successful: " +
 executeStatementResult.toString());
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ExecuteStatement」を参照してください。

グローバルセカンダリインデックスを使用してテーブルをクエリする

以下のコード例は、グローバルセカンダリインデックスを使用してテーブルをクエリする方法を示しています。

- プライマリキーを使用して DynamoDB テーブルをクエリします。
- 代替アクセスパターンのグローバルセカンダリインデックス (GSI) をクエリします。
- テーブルクエリと GSI クエリを比較します。

SDK for Java 2.x

プライマリキーと グローバルセカンダリインデックス (GSI) を使用して DynamoDB テーブルをクエリします AWS SDK for Java 2.x。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ResourceNotFoundException;
```

```
import java.util.HashMap;
import java.util.Map;

    public QueryResponse queryTable(
        final String tableName, final String partitionKeyName, final String
 partitionKeyValue) {

        CodeSampleUtils.validateTableParameters(tableName, partitionKeyName,
 partitionKeyValue);

        // Create expression attribute names for the column names
        final Map<String, String> expressionAttributeNames = new HashMap<>();
        expressionAttributeNames.put(EXPRESSION_ATTRIBUTE_NAME_PK,
 partitionKeyName);

        // Create expression attribute values for the column values
        final Map<String, AttributeValue> expressionAttributeValues = new
 HashMap<>();
        expressionAttributeValues.put(
            EXPRESSION_ATTRIBUTE_VALUE_PK,
            AttributeValue.builder().s(partitionKeyValue).build());

        // Create the query request
        final QueryRequest queryRequest = QueryRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .keyConditionExpression(KEY_CONDITION_EXPRESSION)
            .expressionAttributeNames(expressionAttributeNames)
            .expressionAttributeValues(expressionAttributeValues)
            .build();

        try {
            final QueryResponse response = dynamoDbClient.query(queryRequest);
            System.out.println("Query on base table successful. Found " +
 response.count() + " items");
            return response;
        } catch (ResourceNotFoundException e) {
            System.err.format("Error: The Amazon DynamoDB table \"%s\" can't be
 found.\n", tableName);
            throw new DynamoDbQueryException("Table not found: " + tableName, e);
        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println("Error querying base table: " + e.getMessage());
            throw new DynamoDbQueryException("Failed to execute query on base
 table", e);
        }
```

```
    }

    /**
     * Queries a DynamoDB Global Secondary Index (GSI) by partition key.
     *
     * @param tableName         The name of the DynamoDB table
     * @param indexName         The name of the GSI
     * @param partitionKeyName  The name of the GSI partition key attribute
     * @param partitionKeyValue The value of the GSI partition key to query
     * @return The query response from DynamoDB
     * @throws ResourceNotFoundException if the table or index doesn't exist
     * @throws DynamoDbException if the query fails
     */
    public QueryResponse queryGlobalSecondaryIndex(
        final String tableName, final String indexName, final String
partitionKeyName, final String partitionKeyValue) {

        CodeSampleUtils.validateTableParameters(tableName, partitionKeyName,
partitionKeyValue);
        CodeSampleUtils.validateStringParameter("Index name", indexName);

        // Create expression attribute names for the column names
        final Map<String, String> expressionAttributeNames = new HashMap<>();
        expressionAttributeNames.put(EXPRESSION_ATTRIBUTE_NAME_IK,
partitionKeyName);

        // Create expression attribute values for the column values
        final Map<String, AttributeValue> expressionAttributeValues = new
HashMap<>();
        expressionAttributeValues.put(
            EXPRESSION_ATTRIBUTE_VALUE_IK,
            AttributeValue.builder().s(partitionKeyValue).build());

        // Create the query request
        final QueryRequest queryRequest = QueryRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .indexName(indexName)
            .keyConditionExpression(GSI_KEY_CONDITION_EXPRESSION)
            .expressionAttributeNames(expressionAttributeNames)
            .expressionAttributeValues(expressionAttributeValues)
            .build();

        try {
            final QueryResponse response = dynamoDbClient.query(queryRequest);
```

```
            System.out.println("Query on GSI successful. Found " + response.count()
+ " items");
            return response;
        } catch (ResourceNotFoundException e) {
            System.err.format(
                "Error: The Amazon DynamoDB table \"%s\" or index \"%s\" can't be
found.\n", tableName, indexName);
            throw new DynamoDbQueryException("Table or index not found: " +
tableName + "/" + indexName, e);
        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println("Error querying GSI: " + e.getMessage());
            throw new DynamoDbQueryException("Failed to execute query on GSI", e);
        }
    }
```

テーブルの直接クエリと GSI のクエリを比較します AWS SDK for Java 2.x。

```
    public static void main(String[] args) {
        final String usage =
            """
                Usage:
                    <tableName> <basePartitionKeyName> <basePartitionKeyValue>
<gsiName> <gsiPartitionKeyName> <gsiPartitionKeyValue> [region]
                Where:
                    tableName - The Amazon DynamoDB table to query.
                    basePartitionKeyName - The name of the base table partition key
attribute.
                    basePartitionKeyValue - The value of the base table partition
key to query.
                    gsiName - The name of the Global Secondary Index.
                    gsiPartitionKeyName - The name of the GSI partition key
attribute.
                    gsiPartitionKeyValue - The value of the GSI partition key to
query.
                    region (optional) - The AWS region where the table exists.
(Default: us-east-1)
                """;

        if (args.length < 6) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }
```

```
        final String tableName = args[0];
        final String basePartitionKeyName = args[1];
        final String basePartitionKeyValue = args[2];
        final String gsiName = args[3];
        final String gsiPartitionKeyName = args[4];
        final String gsiPartitionKeyValue = args[5];
        final Region region = args.length > 6 ? Region.of(args[6]) :
Region.US_EAST_1;

        try (DynamoDbClient ddb = DynamoDbClient.builder().region(region).build()) {
            final QueryTableAndGSI queryHelper = new QueryTableAndGSI(ddb);

            // Query the base table
            System.out.println("Querying base table where " + basePartitionKeyName +
" = " + basePartitionKeyValue);
            final QueryResponse tableResponse =
                queryHelper.queryTable(tableName, basePartitionKeyName,
basePartitionKeyValue);

            System.out.println("Found " + tableResponse.count() + " items in base
table:");
            tableResponse.items().forEach(item -> System.out.println(item));

            // Query the GSI
            System.out.println(
                "\nQuerying GSI '" + gsiName + "' where " + gsiPartitionKeyName + "
= " + gsiPartitionKeyValue);
            final QueryResponse gsiResponse =
                queryHelper.queryGlobalSecondaryIndex(tableName, gsiName,
gsiPartitionKeyName, gsiPartitionKeyValue);

            System.out.println("Found " + gsiResponse.count() + " items in GSI:");
            gsiResponse.items().forEach(item -> System.out.println(item));

            // Explain the differences between querying a table and a GSI
            System.out.println("\nKey differences between querying a table and a
GSI:");
            System.out.println("1. When querying a GSI, you must specify the
indexName parameter");
            System.out.println("2. GSIs may not contain all attributes from the base
table (projection)");
            System.out.println("3. GSIs consume read capacity units from the GSI's
capacity, not the base table's");
```

```
            System.out.println("4. GSIs may have eventually consistent data (cannot
 use ConsistentRead=true)");

        } catch (IllegalArgumentException e) {
            System.err.println("Invalid input: " + e.getMessage());
            System.exit(1);
        } catch (ResourceNotFoundException e) {
            System.err.println("Table or index not found: " + e.getMessage());
            System.exit(1);
        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println("DynamoDB error: " + e.getMessage());
            System.exit(1);
        } catch (Exception e) {
            System.err.println("Unexpected error: " + e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「Query」を参照してください。

begins_with 条件を使用してテーブルをクエリする

以下のコード例は、begins_with 条件を使用してテーブルをクエリする方法を示しています。

- キー条件式で begins_with 関数を使用します。
- ソートキーのプレフィックスパターンに基づいて項目をフィルタリングします。

SDK for Java 2.x

AWS SDK for Java 2.xでソートキーの begins_with 条件を使用して DynamoDB テーブルをクエリします。

```
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ResourceNotFoundException;
```

```
import java.util.HashMap;
import java.util.Map;
import java.util.logging.Level;
import java.util.logging.Logger;

    public QueryResponse queryWithBeginsWithCondition(
        final String tableName,
        final String partitionKeyName,
        final String partitionKeyValue,
        final String sortKeyName,
        final String sortKeyPrefix) {

        CodeSampleUtils.validateTableParameters(tableName, partitionKeyName,
 partitionKeyValue);
        CodeSampleUtils.validateStringParameter("Sort key name", sortKeyName);
        CodeSampleUtils.validateStringParameter("Sort key prefix", sortKeyPrefix);

        // Create expression attribute names for the column names
        final Map<String, String> expressionAttributeNames = new HashMap<>();
        expressionAttributeNames.put(EXPRESSION_ATTRIBUTE_NAME_PK,
 partitionKeyName);
        expressionAttributeNames.put(EXPRESSION_ATTRIBUTE_NAME_SK, sortKeyName);

        // Create expression attribute values for the column values
        final Map<String, AttributeValue> expressionAttributeValues = new
 HashMap<>();
        expressionAttributeValues.put(
            EXPRESSION_ATTRIBUTE_VALUE_PK,
            AttributeValue.builder().s(partitionKeyValue).build());
        expressionAttributeValues.put(
            EXPRESSION_ATTRIBUTE_VALUE_SK_PREFIX,
            AttributeValue.builder().s(sortKeyPrefix).build());

        // Create the query request
        final QueryRequest queryRequest = QueryRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .keyConditionExpression(KEY_CONDITION_EXPRESSION)
            .expressionAttributeNames(expressionAttributeNames)
            .expressionAttributeValues(expressionAttributeValues)
            .build();

        try {
            final QueryResponse response = dynamoDbClient.query(queryRequest);
```

```
            LOGGER.log(Level.INFO, "Query with begins_with condition successful.
Found {0} items", response.count());
            return response;
        } catch (ResourceNotFoundException e) {
            LOGGER.log(Level.SEVERE, "Table not found: {0}", tableName);
            throw e;
        } catch (DynamoDbException e) {
            LOGGER.log(Level.SEVERE, "Error querying with begins_with condition",
e);
            throw e;
        }
    }
```

AWS SDK for Java 2.xでプレフィックス長が異なる begins_with の使用を示します。

```
    public static void main(String[] args) {
        try {
            CodeSampleUtils.BeginsWithQueryConfig config =
CodeSampleUtils.BeginsWithQueryConfig.fromArgs(args);
            LOGGER.log(Level.INFO, "Querying items where {0} = {1} and {2} begins
with ''{3}''", new Object[] {
                config.getPartitionKeyName(),
                config.getPartitionKeyValue(),
                config.getSortKeyName(),
                config.getSortKeyPrefix()
            });

            // Using the builder pattern to create and execute the query
            final QueryResponse response = new BeginsWithQueryBuilder()
                .withTableName(config.getTableName())
                .withPartitionKeyName(config.getPartitionKeyName())
                .withPartitionKeyValue(config.getPartitionKeyValue())
                .withSortKeyName(config.getSortKeyName())
                .withSortKeyPrefix(config.getSortKeyPrefix())
                .withRegion(config.getRegion())
                .execute();

            // Process the results
            LOGGER.log(Level.INFO, "Found {0} items:", response.count());
            response.items().forEach(item -> LOGGER.info(item.toString()));

            // Demonstrate with a different prefix
```

```
            if (!config.getSortKeyPrefix().isEmpty()) {
                String shorterPrefix = config.getSortKeyPrefix()
                    .substring(0, Math.max(1, config.getSortKeyPrefix().length() /
2));
                LOGGER.log(Level.INFO, "\nNow querying with a shorter prefix:
''{0}''", shorterPrefix);

                final QueryResponse response2 = new BeginsWithQueryBuilder()
                    .withTableName(config.getTableName())
                    .withPartitionKeyName(config.getPartitionKeyName())
                    .withPartitionKeyValue(config.getPartitionKeyValue())
                    .withSortKeyName(config.getSortKeyName())
                    .withSortKeyPrefix(shorterPrefix)
                    .withRegion(config.getRegion())
                    .execute();

                LOGGER.log(Level.INFO, "Found {0} items with shorter prefix:",
response2.count());
                response2.items().forEach(item -> LOGGER.info(item.toString()));
            }
        } catch (IllegalArgumentException e) {
            LOGGER.log(Level.SEVERE, "Invalid input: {0}", e.getMessage());
            printUsage();
        } catch (ResourceNotFoundException e) {
            LOGGER.log(Level.SEVERE, "Table not found", e);
        } catch (DynamoDbException e) {
            LOGGER.log(Level.SEVERE, "DynamoDB error", e);
        } catch (Exception e) {
            LOGGER.log(Level.SEVERE, "Unexpected error", e);
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「Query」を参照してください。

日付範囲を使用してテーブルをクエリする

以下のコード例は、ソートキーの日付範囲を使用してテーブルをクエリする方法を示しています。

- 特定の日付範囲内の項目をクエリします。
- 日付形式のソートキーで比較演算子を使用します。

SDK for Java 2.x

を使用して、日付範囲内の項目について DynamoDB テーブルをクエリします AWS SDK for Java 2.x。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ResourceNotFoundException;

import java.time.LocalDate;
import java.util.HashMap;
import java.util.Map;
import java.util.logging.Level;
import java.util.logging.Logger;

    public QueryResponse queryWithDateRange(
        final String tableName,
        final String partitionKeyName,
        final String partitionKeyValue,
        final String dateKeyName,
        final LocalDate startDate,
        final LocalDate endDate) {

        // Focus on query logic, assuming parameters are valid
        if (startDate == null || endDate == null) {
            throw new IllegalArgumentException("Start date and end date cannot be
 null");
        }

        if (endDate.isBefore(startDate)) {
            throw new IllegalArgumentException("End date must be after start date");
        }

        // Format dates as ISO strings for DynamoDB (using just the date part)
        final String formattedStartDate = startDate.toString();
        final String formattedEndDate = endDate.toString();

        // Create expression attribute names for the column names
        final Map<String, String> expressionAttributeNames = new HashMap<>();
```

```
        expressionAttributeNames.put(EXPRESSION_ATTRIBUTE_NAME_PK,
partitionKeyName);
        expressionAttributeNames.put(EXPRESSION_ATTRIBUTE_NAME_SK, dateKeyName);

        // Create expression attribute values for the column values
        final Map<String, AttributeValue> expressionAttributeValues = new
HashMap<>();
        expressionAttributeValues.put(
            EXPRESSION_ATTRIBUTE_VALUE_PK,
            AttributeValue.builder().s(partitionKeyValue).build());
        expressionAttributeValues.put(
            EXPRESSION_ATTRIBUTE_VALUE_START_DATE,
            AttributeValue.builder().s(formattedStartDate).build());
        expressionAttributeValues.put(
            EXPRESSION_ATTRIBUTE_VALUE_END_DATE,
            AttributeValue.builder().s(formattedEndDate).build());

        // Create the query request
        final QueryRequest queryRequest = QueryRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .keyConditionExpression(KEY_CONDITION_EXPRESSION)
            .expressionAttributeNames(expressionAttributeNames)
            .expressionAttributeValues(expressionAttributeValues)
            .build();

        try {
            final QueryResponse response = dynamoDbClient.query(queryRequest);
            LOGGER.log(Level.INFO, "Query by date range successful. Found {0}
items", response.count());
            return response;
        } catch (ResourceNotFoundException e) {
            LOGGER.log(Level.SEVERE, "Table not found: {0}", tableName);
            throw e;
        } catch (DynamoDbException e) {
            LOGGER.log(Level.SEVERE, "Error querying by date range: {0}",
e.getMessage());
            throw e;
        }
    }
```

日付範囲フィルタリングを使用して DynamoDB テーブルをクエリする方法を示します。

```
   public static void main(String[] args) {
       final String usage =
           """
               Usage:
                   <tableName> <partitionKeyName> <partitionKeyValue> <dateKeyName>
<startDate> <endDate> [region]
               Where:
                   tableName - The Amazon DynamoDB table to query.
                   partitionKeyName - The name of the partition key attribute.
                   partitionKeyValue - The value of the partition key to query.
                   dateKeyName - The name of the date attribute to filter on.
                   startDate - The start date for the range query (YYYY-MM-DD).
                   endDate - The end date for the range query (YYYY-MM-DD).
                   region (optional) - The AWS region where the table exists.
(Default: us-east-1)
               """;

       if (args.length < 6) {
           System.out.println(usage);
           System.exit(1);
       }

       try {
           // Parse command line arguments into a config object
           CodeSampleUtils.DateRangeQueryConfig config =
CodeSampleUtils.DateRangeQueryConfig.fromArgs(args);

           LOGGER.log(
               Level.INFO, "Querying items from {0} to {1}", new Object[]
{config.getStartDate(), config.getEndDate()
               });

           // Using the builder pattern to create and execute the query
           final QueryResponse response = new DateRangeQueryBuilder()
               .withTableName(config.getTableName())
               .withPartitionKeyName(config.getPartitionKeyName())
               .withPartitionKeyValue(config.getPartitionKeyValue())
               .withDateKeyName(config.getDateKeyName())
               .withStartDate(config.getStartDate())
               .withEndDate(config.getEndDate())
               .withRegion(config.getRegion())
               .execute();
```

```
            // Process the results
            LOGGER.log(Level.INFO, "Found {0} items:", response.count());
            response.items().forEach(item -> {
                LOGGER.info(item.toString());

                // Extract and display the date attribute for clarity
                if (item.containsKey(config.getDateKeyName())) {
                    LOGGER.log(
                        Level.INFO,
                        "  Date attribute: {0}",
                        item.get(config.getDateKeyName()).s());
                }
            });

            // Demonstrate with a different date range
            LocalDate narrowerStartDate = config.getStartDate().plusDays(1);
            LocalDate narrowerEndDate = config.getEndDate().minusDays(1);

            if (!narrowerStartDate.isAfter(narrowerEndDate)) {
                LOGGER.log(Level.INFO, "\nNow querying with a narrower date range:
{0} to {1}", new Object[] {
                    narrowerStartDate, narrowerEndDate
                });

                final QueryResponse response2 = new DateRangeQueryBuilder()
                    .withTableName(config.getTableName())
                    .withPartitionKeyName(config.getPartitionKeyName())
                    .withPartitionKeyValue(config.getPartitionKeyValue())
                    .withDateKeyName(config.getDateKeyName())
                    .withStartDate(narrowerStartDate)
                    .withEndDate(narrowerEndDate)
                    .withRegion(config.getRegion())
                    .execute();

                LOGGER.log(Level.INFO, "Found {0} items with narrower date range:",
response2.count());
                response2.items().forEach(item -> LOGGER.info(item.toString()));
            }

            LOGGER.info("\nNote: When storing dates in DynamoDB:");
            LOGGER.info("1. Use ISO format (YYYY-MM-DD) for lexicographical
ordering");
            LOGGER.info("2. Use the BETWEEN operator for inclusive date range
queries");
```

```
            LOGGER.info("3. Consider using ISO-8601 format for timestamps with time
components");

        } catch (IllegalArgumentException e) {
            LOGGER.log(Level.SEVERE, "Invalid input: {0}", e.getMessage());
            System.exit(1);
        } catch (ResourceNotFoundException e) {
            LOGGER.log(Level.SEVERE, "Table not found: {0}", e.getMessage());
            System.exit(1);
        } catch (DynamoDbException e) {
            LOGGER.log(Level.SEVERE, "DynamoDB error: {0}", e.getMessage());
            System.exit(1);
        } catch (Exception e) {
            LOGGER.log(Level.SEVERE, "Unexpected error: {0}", e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「Query」を参照してください。

複雑なフィルター式を使用してテーブルをクエリする

次のコード例は、複雑なフィルター式を使用してテーブルをクエリする方法を示しています。

- 複雑なフィルター式をクエリ結果に適用します。
- 論理演算子を使用して複数の条件を組み合わせます。
- キー以外の属性に基づいて項目をフィルタリングします。

SDK for Java 2.x

を使用して、複雑なフィルター式で DynamoDB テーブルをクエリします AWS SDK for Java 2.x。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryResponse;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ResourceNotFoundException;

import java.util.HashMap;
import java.util.Map;
import java.util.logging.Level;
import java.util.logging.Logger;

    public QueryResponse queryWithComplexFilter(
        final String tableName,
        final String partitionKeyName,
        final String partitionKeyValue,
        final String statusAttrName,
        final String activeStatus,
        final String pendingStatus,
        final String priceAttrName,
        final double minPrice,
        final double maxPrice,
        final String categoryAttrName) {

        // Validate parameters
        CodeSampleUtils.validateTableParameters(tableName, partitionKeyName,
 partitionKeyValue);
        CodeSampleUtils.validateStringParameter("Status attribute name",
 statusAttrName);
        CodeSampleUtils.validateStringParameter("Active status", activeStatus);
        CodeSampleUtils.validateStringParameter("Pending status", pendingStatus);
        CodeSampleUtils.validateStringParameter("Price attribute name",
 priceAttrName);
        CodeSampleUtils.validateStringParameter("Category attribute name",
 categoryAttrName);
        CodeSampleUtils.validateNumericRange("Minimum price", minPrice, 0.0,
 Double.MAX_VALUE);
        CodeSampleUtils.validateNumericRange("Maximum price", maxPrice, minPrice,
 Double.MAX_VALUE);

        // Create expression attribute names for the column names
        final Map<String, String> expressionAttributeNames = new HashMap<>();
        expressionAttributeNames.put("#pk", partitionKeyName);
        expressionAttributeNames.put(EXPRESSION_ATTRIBUTE_NAME_STATUS,
 statusAttrName);
        expressionAttributeNames.put(EXPRESSION_ATTRIBUTE_NAME_PRICE,
 priceAttrName);
        expressionAttributeNames.put(EXPRESSION_ATTRIBUTE_NAME_CATEGORY,
 categoryAttrName);
```

```
        // Create expression attribute values for the column values
        final Map<String, AttributeValue> expressionAttributeValues = new
HashMap<>();
        expressionAttributeValues.put(
            ":pkValue", AttributeValue.builder().s(partitionKeyValue).build());
        expressionAttributeValues.put(
            EXPRESSION_ATTRIBUTE_VALUE_ACTIVE,
            AttributeValue.builder().s(activeStatus).build());
        expressionAttributeValues.put(
            EXPRESSION_ATTRIBUTE_VALUE_PENDING,
            AttributeValue.builder().s(pendingStatus).build());
        expressionAttributeValues.put(
            EXPRESSION_ATTRIBUTE_VALUE_MIN_PRICE,
            AttributeValue.builder().n(String.valueOf(minPrice)).build());
        expressionAttributeValues.put(
            EXPRESSION_ATTRIBUTE_VALUE_MAX_PRICE,
            AttributeValue.builder().n(String.valueOf(maxPrice)).build());

        // Create the query request
        final QueryRequest queryRequest = QueryRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .keyConditionExpression(KEY_CONDITION_EXPRESSION)
            .filterExpression(FILTER_EXPRESSION)
            .expressionAttributeNames(expressionAttributeNames)
            .expressionAttributeValues(expressionAttributeValues)
            .build();

        return dynamoDbClient.query(queryRequest);
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「Query」を参照してください。

動的フィルター式を使用してテーブルをクエリする

以下のコード例は、動的フィルター式を使用してテーブルをクエリする方法を示しています。

- ランタイムにフィルター式を動的に構築します。
- ユーザー入力またはアプリケーション状態に基づいてフィルター条件を構築します。
- 条件付きでフィルター条件を追加または削除します。

SDK for Java 2.x

を使用して動的に構築されたフィルター式を使用して DynamoDB テーブルをクエリします AWS SDK for Java 2.x。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ResourceNotFoundException;

import java.util.HashMap;
import java.util.Map;

    public static QueryResponse queryWithDynamicFilter(
        final String tableName,
        final String partitionKeyName,
        final String partitionKeyValue,
        final Map<String, Object> filterCriteria,
        final Region region,
        final DynamoDbClient dynamoDbClient) {

        validateParameters(tableName, partitionKeyName, partitionKeyValue,
 filterCriteria);

        DynamoDbClient ddbClient = dynamoDbClient;
        boolean shouldClose = false;

        try {
            if (ddbClient == null) {
                ddbClient = createClient(region);
                shouldClose = true;
            }

            final QueryWithDynamicFilter queryHelper = new
 QueryWithDynamicFilter(ddbClient);
            return queryHelper.queryWithDynamicFilter(tableName, partitionKeyName,
 partitionKeyValue, filterCriteria);
        } catch (ResourceNotFoundException e) {
            System.err.println("Table not found: " + tableName);
            throw e;
        } catch (DynamoDbException e) {
```

```
            System.err.println("Failed to execute dynamic filter query: " +
e.getMessage());
            throw e;
        } catch (Exception e) {
            System.err.println("Unexpected error during query: " + e.getMessage());
            throw e;
        } finally {
            if (shouldClose && ddbClient != null) {
                ddbClient.close();
            }
        }
    }
```

で動的フィルター式を使用する方法を示します AWS SDK for Java 2.x。

```
    public static void main(String[] args) {
        final String usage =
            """
                Usage:
                    <tableName> <partitionKeyName> <partitionKeyValue>
<filterAttrName> <filterAttrValue> [region]
                Where:
                    tableName - The Amazon DynamoDB table to query.
                    partitionKeyName - The name of the partition key attribute.
                    partitionKeyValue - The value of the partition key to query.
                    filterAttrName - The name of the attribute to filter on.
                    filterAttrValue - The value to filter by.
                    region (optional) - The AWS region where the table exists.
(Default: us-east-1)
                """;

        if (args.length < 5) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        final String tableName = args[0];
        final String partitionKeyName = args[1];
        final String partitionKeyValue = args[2];
        final String filterAttrName = args[3];
        final String filterAttrValue = args[4];
```

```
        final Region region = args.length > 5 ? Region.of(args[5]) :
Region.US_EAST_1;

        System.out.println("Querying items with dynamic filter: " + filterAttrName +
" = " + filterAttrValue);

        try {
            // Using the builder pattern to create and execute the query
            final QueryResponse response = new DynamicFilterQueryBuilder()
                .withTableName(tableName)
                .withPartitionKeyName(partitionKeyName)
                .withPartitionKeyValue(partitionKeyValue)
                .withFilterCriterion(filterAttrName, filterAttrValue)
                .withRegion(region)
                .execute();

            // Process the results
            System.out.println("Found " + response.count() + " items:");
            response.items().forEach(item -> System.out.println(item));

            // Demonstrate multiple filter criteria
            System.out.println("\nNow querying with multiple filter criteria:");

            Map<String, Object> multipleFilters = new HashMap<>();
            multipleFilters.put(filterAttrName, filterAttrValue);
            multipleFilters.put("status", "active");

            final QueryResponse multiFilterResponse = new
DynamicFilterQueryBuilder()
                .withTableName(tableName)
                .withPartitionKeyName(partitionKeyName)
                .withPartitionKeyValue(partitionKeyValue)
                .withFilterCriteria(multipleFilters)
                .withRegion(region)
                .execute();

            System.out.println("Found " + multiFilterResponse.count() + " items with
multiple filters:");
            multiFilterResponse.items().forEach(item -> System.out.println(item));

        } catch (IllegalArgumentException e) {
            System.err.println("Invalid input: " + e.getMessage());
            System.exit(1);
        } catch (ResourceNotFoundException e) {
```

```
            System.err.println("Table not found: " + tableName);
            System.exit(1);
        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println("DynamoDB error: " + e.getMessage());
            System.exit(1);
        } catch (Exception e) {
            System.err.println("Unexpected error: " + e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「Query」を参照してください。

フィルター式と制限を使用してテーブルをクエリする

以下のコード例は、フィルター式と制限を使用してテーブルをクエリする方法を示しています。

- 評価対象項目を制限してクエリ結果にフィルター式を適用します。
- フィルタリングされたクエリ結果に制限がどのように影響するかを理解します。
- クエリで処理される項目の最大数を制御します。

SDK for Java 2.x

を使用して、フィルター式と制限を使用して DynamoDB テーブルをクエリします AWS SDK for Java 2.x。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ResourceNotFoundException;

import java.util.HashMap;
import java.util.Map;
import java.util.logging.Level;
import java.util.logging.Logger;
```

```
   public QueryResponse queryWithFilterAndLimit(
       final String tableName,
       final String partitionKeyName,
       final String partitionKeyValue,
       final String filterAttrName,
       final String filterAttrValue,
       final int limit) {

       CodeSampleUtils.validateTableParameters(tableName, partitionKeyName,
partitionKeyValue);
       CodeSampleUtils.validateStringParameter("Filter attribute name",
filterAttrName);
       CodeSampleUtils.validateStringParameter("Filter attribute value",
filterAttrValue);
       CodeSampleUtils.validatePositiveInteger("Limit", limit);

       // Create expression attribute names for the column names
       final Map<String, String> expressionAttributeNames = new HashMap<>();
       expressionAttributeNames.put(EXPRESSION_ATTRIBUTE_NAME_PK,
partitionKeyName);
       expressionAttributeNames.put(EXPRESSION_ATTRIBUTE_NAME_FILTER,
filterAttrName);

       // Create expression attribute values for the column values
       final Map<String, AttributeValue> expressionAttributeValues = new
HashMap<>();
       expressionAttributeValues.put(
           EXPRESSION_ATTRIBUTE_VALUE_PK,
           AttributeValue.builder().s(partitionKeyValue).build());
       expressionAttributeValues.put(
           EXPRESSION_ATTRIBUTE_VALUE_FILTER,
           AttributeValue.builder().s(filterAttrValue).build());

       // Create the filter expression
       final String filterExpression = "#filterAttr = :filterValue";

       // Create the query request
       final QueryRequest queryRequest = QueryRequest.builder()
           .tableName(tableName)
           .keyConditionExpression(KEY_CONDITION_EXPRESSION)
           .filterExpression(filterExpression)
           .expressionAttributeNames(expressionAttributeNames)
           .expressionAttributeValues(expressionAttributeValues)
           .limit(limit)
```

```
            .build();

        try {
            final QueryResponse response = dynamoDbClient.query(queryRequest);
            LOGGER.log(Level.INFO, "Query with filter and limit successful. Found
{0} items", response.count());
            LOGGER.log(
                Level.INFO, "ScannedCount: {0} (total items evaluated before
filtering)", response.scannedCount());
            return response;
        } catch (ResourceNotFoundException e) {
            LOGGER.log(Level.SEVERE, "Table not found: {0}", tableName);
            throw e;
        } catch (DynamoDbException e) {
            LOGGER.log(Level.SEVERE, "Error querying with filter and limit: {0}",
e.getMessage());
            throw e;
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「Query」を参照してください。

ネストされた属性を使用してテーブルをクエリする

以下のコード例は、ネストされた属性を使用してテーブルをクエリする方法を示しています。

- DynamoDB 項目のネストされた属性を使用してアクセスおよびフィルタリングします。
- ネストされた要素を参照するには、ドキュメントパス式を使用します。

SDK for Java 2.x

を使用して、ネストされた属性を持つ DynamoDB テーブルをクエリします AWS SDK for Java 2.x。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryRequest;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ResourceNotFoundException;

import java.util.HashMap;
import java.util.Map;

    public QueryResponse queryWithNestedAttributes(
        final String tableName,
        final String partitionKeyName,
        final String partitionKeyValue,
        final String nestedPath,
        final String nestedAttr,
        final String nestedValue) {

        CodeSampleUtils.validateTableParameters(tableName, partitionKeyName,
 partitionKeyValue);
        CodeSampleUtils.validateStringParameter("Nested path", nestedPath);
        CodeSampleUtils.validateStringParameter("Nested attribute", nestedAttr);
        CodeSampleUtils.validateStringParameter("Nested value", nestedValue);

        // Split the nested path into components
        final String[] pathComponents = nestedPath.split("\\.");

        // Create expression attribute names for the column names
        final Map<String, String> expressionAttributeNames = new HashMap<>();
        expressionAttributeNames.put(EXPRESSION_ATTRIBUTE_NAME_PK,
 partitionKeyName);

        // Build the nested attribute reference using document path notation
        final StringBuilder nestedAttributeRef = new StringBuilder();
        for (int i = 0; i < pathComponents.length; i++) {
            final String aliasName = "#n" + i;
            expressionAttributeNames.put(aliasName, pathComponents[i]);

            if (i > 0) {
                nestedAttributeRef.append(".");
            }
            nestedAttributeRef.append(aliasName);
        }

        // Create expression attribute values for the column values
        final Map<String, AttributeValue> expressionAttributeValues = new
 HashMap<>();
        expressionAttributeValues.put(
```

```
            EXPRESSION_ATTRIBUTE_VALUE_PK,
            AttributeValue.builder().s(partitionKeyValue).build());
        expressionAttributeValues.put(
            EXPRESSION_ATTRIBUTE_VALUE_NESTED,
            AttributeValue.builder().s(nestedValue).build());

        // Create the filter expression using the nested attribute reference
        final String filterExpression = nestedAttributeRef + " = :nestedValue";

        // Create the query request
        final QueryRequest queryRequest = QueryRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .keyConditionExpression(KEY_CONDITION_EXPRESSION)
            .filterExpression(filterExpression)
            .expressionAttributeNames(expressionAttributeNames)
            .expressionAttributeValues(expressionAttributeValues)
            .build();

        try {
            final QueryResponse response = dynamoDbClient.query(queryRequest);
            System.out.println("Query with nested attribute filter successful. Found
" + response.count() + " items");
            return response;
        } catch (ResourceNotFoundException e) {
            System.err.format("Error: The Amazon DynamoDB table \"%s\" can't be
found.\n", tableName);
            throw e;
        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println("Error querying with nested attribute filter: " +
e.getMessage());
            throw e;
        }
    }
```

ネストされた属性を使用して DynamoDB テーブルをクエリする方法を示します。

```
    public static void main(String[] args) {
        final String usage =
            """
                Usage:
                    <tableName> <partitionKeyName> <partitionKeyValue> <nestedPath>
<nestedAttr> <nestedValue> [region]
```

```
                Where:
                    tableName - The Amazon DynamoDB table to query.
                    partitionKeyName - The name of the partition key attribute.
                    partitionKeyValue - The value of the partition key to query.
                    nestedPath - The path to the nested map attribute (e.g.,
"address").
                    nestedAttr - The name of the nested attribute (e.g., "city").
                    nestedValue - The value to filter by (e.g., "Seattle").
                    region (optional) - The AWS region where the table exists.
(Default: us-east-1)
                """;

        if (args.length < 6) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        final String tableName = args[0];
        final String partitionKeyName = args[1];
        final String partitionKeyValue = args[2];
        final String nestedPath = args[3];
        final String nestedAttr = args[4];
        final String nestedValue = args[5];
        final Region region = args.length > 6 ? Region.of(args[6]) :
Region.US_EAST_1;

        System.out.println("Querying items where " + partitionKeyName + " = " +
partitionKeyValue + " and " + nestedPath
            + "." + nestedAttr + " = " + nestedValue);

        try {
            // Using the builder pattern to create and execute the query
            final QueryResponse response = new NestedAttributeQueryBuilder()
                .withTableName(tableName)
                .withPartitionKeyName(partitionKeyName)
                .withPartitionKeyValue(partitionKeyValue)
                .withNestedPath(nestedPath)
                .withNestedAttribute(nestedAttr)
                .withNestedValue(nestedValue)
                .withRegion(region)
                .execute();

            // Process the results
            System.out.println("Found " + response.count() + " items:");
```

```
            response.items().forEach(item -> {
                System.out.println(item);

                // Extract and display the nested attribute for clarity
                if (item.containsKey(nestedPath) && item.get(nestedPath).hasM()) {
                    Map<String, AttributeValue> nestedMap =
item.get(nestedPath).m();
                    if (nestedMap.containsKey(nestedAttr)) {
                        System.out.println("  Nested attribute " + nestedPath + "."
+ nestedAttr + ": "
                                + formatAttributeValue(nestedMap.get(nestedAttr)));
                    }
                }
            });

            System.out.println("\nNote: When working with nested attributes in
DynamoDB:");
            System.out.println("1. Use dot notation in filter expressions to access
nested attributes");
            System.out.println("2. Use expression attribute names for each component
of the path");
            System.out.println("3. Check if the nested attribute exists before
accessing it");

        } catch (IllegalArgumentException e) {
            System.err.println("Invalid input: " + e.getMessage());
            System.exit(1);
        } catch (ResourceNotFoundException e) {
            System.err.println("Table not found: " + tableName);
            System.exit(1);
        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println("DynamoDB error: " + e.getMessage());
            System.exit(1);
        } catch (Exception e) {
            System.err.println("Unexpected error: " + e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「Query」を参照してください。

ページ分割を使用してテーブルをクエリする

以下のコード例は、ページ分割を使用してテーブルをクエリする方法を示しています。

- DynamoDB クエリ結果のページ分割を実装します。
- LastEvaluatedKey を使用して後続のページを取得します。
- Limit パラメータを使用して、ページあたりの項目数を制御します。

SDK for Java 2.x

を使用してページ分割で DynamoDB テーブルをクエリします AWS SDK for Java 2.x。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ResourceNotFoundException;

import java.util.ArrayList;
import java.util.HashMap;
import java.util.List;
import java.util.Map;

    public List<Map<String, AttributeValue>> queryWithPagination(
        final String tableName, final String partitionKeyName, final String
 partitionKeyValue, final int pageSize) {

        CodeSampleUtils.validateTableParameters(tableName, partitionKeyName,
 partitionKeyValue);
        CodeSampleUtils.validatePositiveInteger("Page size", pageSize);

        // Create expression attribute names for the column names
        final Map<String, String> expressionAttributeNames = new HashMap<>();
        expressionAttributeNames.put(EXPRESSION_ATTRIBUTE_NAME_PK,
 partitionKeyName);

        // Create expression attribute values for the column values
        final Map<String, AttributeValue> expressionAttributeValues = new
 HashMap<>();
        expressionAttributeValues.put(
```

```
            EXPRESSION_ATTRIBUTE_VALUE_PK,
            AttributeValue.builder().s(partitionKeyValue).build());

        // Create the query request
        QueryRequest.Builder queryRequestBuilder = QueryRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .keyConditionExpression(KEY_CONDITION_EXPRESSION)
            .expressionAttributeNames(expressionAttributeNames)
            .expressionAttributeValues(expressionAttributeValues)
            .limit(pageSize);

        // List to store all items from all pages
        final List<Map<String, AttributeValue>> allItems = new ArrayList<>();

        // Map to store the last evaluated key for pagination
        Map<String, AttributeValue> lastEvaluatedKey = null;
        int pageNumber = 1;

        try {
            do {
                // If we have a last evaluated key, use it for the next page
                if (lastEvaluatedKey != null) {
                    queryRequestBuilder.exclusiveStartKey(lastEvaluatedKey);
                }

                // Execute the query
                final QueryResponse response =
dynamoDbClient.query(queryRequestBuilder.build());

                // Process the current page of results
                final List<Map<String, AttributeValue>> pageItems =
response.items();
                allItems.addAll(pageItems);

                // Get the last evaluated key for the next page
                lastEvaluatedKey = response.lastEvaluatedKey();
                if (lastEvaluatedKey != null && lastEvaluatedKey.isEmpty()) {
                    lastEvaluatedKey = null;
                }

                System.out.println("Page " + pageNumber + ": Retrieved " +
pageItems.size() + " items (Running total: "
                    + allItems.size() + ")");
```

```
                pageNumber++;

            } while (lastEvaluatedKey != null);

            System.out.println("Query with pagination complete. Retrieved a total of
" + allItems.size()
                + " items across " + (pageNumber - 1) + " pages");

            return allItems;
        } catch (ResourceNotFoundException e) {
            System.err.format("Error: The Amazon DynamoDB table \"%s\" can't be
found.\n", tableName);
            throw e;
        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println("Error querying with pagination: " + e.getMessage());
            throw e;
        }
    }
```

ページ分割を使用して DynamoDB テーブルをクエリする方法を示します。

```
    public static void main(String[] args) {
        final String usage =
            """
                Usage:
                    <tableName> <partitionKeyName> <partitionKeyValue> [pageSize]
[region]
                Where:
                    tableName - The Amazon DynamoDB table to query.
                    partitionKeyName - The name of the partition key attribute.
                    partitionKeyValue - The value of the partition key to query.
                    pageSize (optional) - The maximum number of items to return per
page. (Default: 10)
                    region (optional) - The AWS region where the table exists.
(Default: us-east-1)
                """;

        if (args.length < 3) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }
```

```
        final String tableName = args[0];
        final String partitionKeyName = args[1];
        final String partitionKeyValue = args[2];
        final int pageSize = args.length > 3 ? Integer.parseInt(args[3]) : 10;
        final Region region = args.length > 4 ? Region.of(args[4]) :
Region.US_EAST_1;

        System.out.println("Querying items with pagination (page size: " + pageSize
+ ")");

        try {
            // Using the builder pattern to create and execute the query
            final List<Map<String, AttributeValue>> allItems = new
PaginationQueryBuilder()
                .withTableName(tableName)
                .withPartitionKeyName(partitionKeyName)
                .withPartitionKeyValue(partitionKeyValue)
                .withPageSize(pageSize)
                .withRegion(region)
                .executeWithPagination();

            // Process the results
            System.out.println("\nSummary: Retrieved a total of " + allItems.size()
+ " items");

            // Display the first few items as a sample
            final int sampleSize = Math.min(5, allItems.size());
            if (sampleSize > 0) {
                System.out.println("\nSample of retrieved items (first " +
sampleSize + "):");
                for (int i = 0; i < sampleSize; i++) {
                    System.out.println(allItems.get(i));
                }

                if (allItems.size() > sampleSize) {
                    System.out.println("... and " + (allItems.size() - sampleSize) +
" more items");
                }
            }
        } catch (IllegalArgumentException e) {
            System.err.println("Invalid input: " + e.getMessage());
            System.exit(1);
        } catch (ResourceNotFoundException e) {
            System.err.println("Table not found: " + tableName);
```

```
            System.exit(1);
        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println("DynamoDB error: " + e.getMessage());
            System.exit(1);
        } catch (Exception e) {
            System.err.println("Unexpected error: " + e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「Query」を参照してください。

強力な整合性のある読み込みを使用してテーブルをクエリする

次のコード例は、強力な整合性のある読み込みを使用してテーブルをクエリする方法を示しています。

- DynamoDB クエリの整合性レベルを設定します。
- 強力な整合性のある読み込みを使用して最新のデータを取得します。
- 結果整合性と強力な整合性のトレードオフを理解します。

SDK for Java 2.x

を使用して、設定可能な読み取り整合性で DynamoDB テーブルをクエリします AWS SDK for Java 2.x。

```
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ResourceNotFoundException;

import java.util.HashMap;
import java.util.Map;
import java.util.logging.Level;
import java.util.logging.Logger;

    public QueryResponse queryWithConsistentReads(
```

```
        final String tableName,
        final String partitionKeyName,
        final String partitionKeyValue,
        final boolean useConsistentRead) {

        CodeSampleUtils.validateTableParameters(tableName, partitionKeyName,
partitionKeyValue);

        // Create expression attribute names for the column names
        final Map<String, String> expressionAttributeNames = new HashMap<>();
        expressionAttributeNames.put(EXPRESSION_ATTRIBUTE_NAME_PK,
partitionKeyName);

        // Create expression attribute values for the column values
        final Map<String, AttributeValue> expressionAttributeValues = new
HashMap<>();
        expressionAttributeValues.put(
            EXPRESSION_ATTRIBUTE_VALUE_PK,
            AttributeValue.builder().s(partitionKeyValue).build());

        // Create the query request
        final QueryRequest queryRequest = QueryRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .keyConditionExpression(KEY_CONDITION_EXPRESSION)
            .expressionAttributeNames(expressionAttributeNames)
            .expressionAttributeValues(expressionAttributeValues)
            .consistentRead(useConsistentRead)
            .build();

        try {
            final QueryResponse response = dynamoDbClient.query(queryRequest);
            LOGGER.log(Level.INFO, "Query successful. Found {0} items",
response.count());
            return response;
        } catch (ResourceNotFoundException e) {
            LOGGER.log(Level.SEVERE, "Table not found: {0}", tableName);
            throw e;
        } catch (DynamoDbException e) {
            LOGGER.log(Level.SEVERE, "Error querying with consistent reads", e);
            throw e;
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「Query」を参照してください。

TTL 項目のクエリ

次のコード例は、TTL 項目のクエリの開始方法を示しています。

SDK for Java 2.x

を使用して DynamoDB テーブルで TTL 項目を収集するためにフィルタリングされた式をクエリします AWS SDK for Java 2.x。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ResourceNotFoundException;

import java.util.Map;
import java.util.Optional;

        final QueryRequest request = QueryRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .keyConditionExpression(KEY_CONDITION_EXPRESSION)
            .filterExpression(FILTER_EXPRESSION)
            .expressionAttributeNames(expressionAttributeNames)
            .expressionAttributeValues(expressionAttributeValues)
            .build();

        try (DynamoDbClient ddb = dynamoDbClient != null
            ? dynamoDbClient
            : DynamoDbClient.builder().region(region).build()) {
            final QueryResponse response = ddb.query(request);
            System.out.println("Query successful. Found " + response.count() + "
 items that have not expired yet.");

            // Print each item
            response.items().forEach(item -> {
                System.out.println("Item: " + item);
            });
```

```
            return 0;
        } catch (ResourceNotFoundException e) {
            System.err.format(TABLE_NOT_FOUND_ERROR, tableName);
            throw e;
        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            throw e;
        }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「Query」を参照してください。

日付と時刻のパターンを使用してテーブルをクエリする

次のコード例は、日付と時刻のパターンを使用してテーブルをクエリする方法を示しています。

- DynamoDB に日付/時刻値を保存してクエリします。
- ソートキーを使用して日付範囲クエリを実装します。
- 有効なクエリを行うために日付文字列をフォーマットします。

SDK for Java 2.x

でソートキーの日付範囲を使用してクエリを実行します AWS SDK for Java 2.x。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ResourceNotFoundException;

import java.time.LocalDate;
import java.util.HashMap;
import java.util.Map;
import java.util.logging.Level;
import java.util.logging.Logger;

    public QueryResponse queryWithDateRange(
        final String tableName,
```

```
        final String partitionKeyName,
        final String partitionKeyValue,
        final String dateKeyName,
        final LocalDate startDate,
        final LocalDate endDate) {

        // Focus on query logic, assuming parameters are valid
        if (startDate == null || endDate == null) {
            throw new IllegalArgumentException("Start date and end date cannot be
null");
        }

        if (endDate.isBefore(startDate)) {
            throw new IllegalArgumentException("End date must be after start date");
        }

        // Format dates as ISO strings for DynamoDB (using just the date part)
        final String formattedStartDate = startDate.toString();
        final String formattedEndDate = endDate.toString();

        // Create expression attribute names for the column names
        final Map<String, String> expressionAttributeNames = new HashMap<>();
        expressionAttributeNames.put(EXPRESSION_ATTRIBUTE_NAME_PK,
partitionKeyName);
        expressionAttributeNames.put(EXPRESSION_ATTRIBUTE_NAME_SK, dateKeyName);

        // Create expression attribute values for the column values
        final Map<String, AttributeValue> expressionAttributeValues = new
HashMap<>();
        expressionAttributeValues.put(
            EXPRESSION_ATTRIBUTE_VALUE_PK,
            AttributeValue.builder().s(partitionKeyValue).build());
        expressionAttributeValues.put(
            EXPRESSION_ATTRIBUTE_VALUE_START_DATE,
            AttributeValue.builder().s(formattedStartDate).build());
        expressionAttributeValues.put(
            EXPRESSION_ATTRIBUTE_VALUE_END_DATE,
            AttributeValue.builder().s(formattedEndDate).build());

        // Create the query request
        final QueryRequest queryRequest = QueryRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .keyConditionExpression(KEY_CONDITION_EXPRESSION)
            .expressionAttributeNames(expressionAttributeNames)
```

```
            .expressionAttributeValues(expressionAttributeValues)
            .build();

        try {
            final QueryResponse response = dynamoDbClient.query(queryRequest);
            LOGGER.log(Level.INFO, "Query by date range successful. Found {0}
 items", response.count());
            return response;
        } catch (ResourceNotFoundException e) {
            LOGGER.log(Level.SEVERE, "Table not found: {0}", tableName);
            throw e;
        } catch (DynamoDbException e) {
            LOGGER.log(Level.SEVERE, "Error querying by date range: {0}",
 e.getMessage());
            throw e;
        }
    }
```

で日時変数を使用してクエリを実行します AWS SDK for Java 2.x。

```
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ResourceNotFoundException;

import java.time.Instant;
import java.time.LocalDateTime;
import java.time.ZoneOffset;
import java.util.HashMap;
import java.util.Map;

    public QueryResponse queryWithDateTime(
        final String tableName,
        final String partitionKeyName,
        final String partitionKeyValue,
        final String dateKeyName,
        final String startDate,
        final String endDate) {
```

```
        CodeSampleUtils.validateTableParameters(tableName, partitionKeyName,
partitionKeyValue);
        CodeSampleUtils.validateDateRangeParameters(dateKeyName, startDate,
endDate);
        CodeSampleUtils.validateDateFormat("Start date", startDate);
        CodeSampleUtils.validateDateFormat("End date", endDate);

        // Create expression attribute names for the column names
        final Map<String, String> expressionAttributeNames = new HashMap<>();
        expressionAttributeNames.put(EXPRESSION_ATTRIBUTE_NAME_PK,
partitionKeyName);
        expressionAttributeNames.put("#dateKey", dateKeyName);

        // Create expression attribute values for the column values
        final Map<String, AttributeValue> expressionAttributeValues = new
HashMap<>();
        expressionAttributeValues.put(
            EXPRESSION_ATTRIBUTE_VALUE_PK,
            AttributeValue.builder().s(partitionKeyValue).build());
        expressionAttributeValues.put(
            ":startDate", AttributeValue.builder().s(startDate).build());
        expressionAttributeValues.put(
            ":endDate", AttributeValue.builder().s(endDate).build());

        // Create the query request
        final QueryRequest queryRequest = QueryRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .keyConditionExpression(KEY_CONDITION_EXPRESSION)
            .expressionAttributeNames(expressionAttributeNames)
            .expressionAttributeValues(expressionAttributeValues)
            .build();

        try {
            final QueryResponse response = dynamoDbClient.query(queryRequest);
            System.out.println("Query successful. Found " + response.count() + "
items");
            return response;
        } catch (ResourceNotFoundException e) {
            System.err.format("Error: The Amazon DynamoDB table \"%s\" can't be
found.\n", tableName);
            throw e;
        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println("Error querying with date range: " + e.getMessage());
            throw e;
```

```
        }
    }
```

AWS SDK for Java 2.xで Unix エポックタイムスタンプの日付範囲内でクエリを実行します。

```
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ResourceNotFoundException;

import java.time.Instant;
import java.time.LocalDateTime;
import java.time.ZoneOffset;
import java.util.HashMap;
import java.util.Map;

    public QueryResponse queryWithDateTimeEpoch(
        final String tableName,
        final String partitionKeyName,
        final String partitionKeyValue,
        final String dateKeyName,
        final long startEpoch,
        final long endEpoch) {

        CodeSampleUtils.validateTableParameters(tableName, partitionKeyName,
 partitionKeyValue);
        CodeSampleUtils.validateStringParameter("Date key name", dateKeyName);
        CodeSampleUtils.validateEpochTimestamp("Start epoch", startEpoch);
        CodeSampleUtils.validateEpochTimestamp("End epoch", endEpoch);

        // Create expression attribute names for the column names
        final Map<String, String> expressionAttributeNames = new HashMap<>();
        expressionAttributeNames.put(EXPRESSION_ATTRIBUTE_NAME_PK,
 partitionKeyName);
        expressionAttributeNames.put("#dateKey", dateKeyName);

        // Create expression attribute values for the column values
        final Map<String, AttributeValue> expressionAttributeValues = new
 HashMap<>();
        expressionAttributeValues.put(
```

```
            EXPRESSION_ATTRIBUTE_VALUE_PK,
            AttributeValue.builder().s(partitionKeyValue).build());
        expressionAttributeValues.put(
            ":startDate",
AttributeValue.builder().n(String.valueOf(startEpoch)).build());
        expressionAttributeValues.put(
            ":endDate",
AttributeValue.builder().n(String.valueOf(endEpoch)).build());

        // Create the query request
        final QueryRequest queryRequest = QueryRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .keyConditionExpression(KEY_CONDITION_EXPRESSION)
            .expressionAttributeNames(expressionAttributeNames)
            .expressionAttributeValues(expressionAttributeValues)
            .build();

        try {
            final QueryResponse response = dynamoDbClient.query(queryRequest);
            System.out.println("Query successful. Found " + response.count() + "
items");
            return response;
        } catch (ResourceNotFoundException e) {
            System.err.format("Error: The Amazon DynamoDB table \"%s\" can't be
found.\n", tableName);
            throw e;
        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println("Error querying with epoch timestamps: " +
e.getMessage());
            throw e;
        }
    }
```

LocalDateTime オブジェクトを使用して日付範囲内でクエリを実行します AWS SDK for Java 2.x。

```
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ResourceNotFoundException;
```

```
import java.time.Instant;
import java.time.LocalDateTime;
import java.time.ZoneOffset;
import java.util.HashMap;
import java.util.Map;

    public QueryResponse queryWithDateTimeLocalDateTime(
        final String tableName,
        final String partitionKeyName,
        final String partitionKeyValue,
        final String dateKeyName,
        final LocalDateTime startDateTime,
        final LocalDateTime endDateTime) {

        CodeSampleUtils.validateTableParameters(tableName, partitionKeyName,
 partitionKeyValue);
        CodeSampleUtils.validateStringParameter("Date key name", dateKeyName);
        if (startDateTime == null || endDateTime == null) {
            throw new IllegalArgumentException("Start and end LocalDateTime must not
 be null");
        }

        // Convert LocalDateTime to ISO-8601 strings in UTC with the correct format
        final String startDate =
 startDateTime.atZone(ZoneOffset.UTC).format(DATE_TIME_FORMATTER);
        final String endDate =
 endDateTime.atZone(ZoneOffset.UTC).format(DATE_TIME_FORMATTER);

        return queryWithDateTime(tableName, partitionKeyName, partitionKeyValue,
 dateKeyName, startDate, endDate);
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「Query」を参照してください。

式順序の更新を理解する

次のコード例は、式順序の更新を理解する方法を示しています。

- DynamoDB が更新式を処理する方法について説明します。

- 更新式のオペレーションの順序を理解します。
- 式の評価を理解することで、予期しない結果を回避できます。

SDK for Java 2.x

を使用して式の更新順序をデモンストレーションします AWS SDK for Java 2.x。

```
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.GetItemRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.GetItemResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ReturnValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.UpdateItemRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.UpdateItemResponse;

import java.util.HashMap;
import java.util.Map;

    /**
     * Demonstrates the effect of update expression order.
     *
     * <p>This method shows how the order of operations in an update expression
     * affects the result of the update.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param key The key of the item to update
     * @return Map containing the results of different update orders
     * @throws DynamoDbException if an error occurs during the operation
     */
    public static Map<String, Object> demonstrateUpdateOrder(
        DynamoDbClient dynamoDbClient, String tableName, Map<String, AttributeValue>
 key) {

        Map<String, Object> results = new HashMap<>();

        try {
            // Initialize the item with a counter
            UpdateItemRequest initRequest = UpdateItemRequest.builder()
                .tableName(tableName)
                .key(key)
```

```
                .updateExpression("SET Counter = :zero, OldCounter = :zero")
                .expressionAttributeValues(
                    Map.of(":zero", AttributeValue.builder().n("0").build()))
                .returnValues(ReturnValue.UPDATED_NEW)
                .build();

            dynamoDbClient.updateItem(initRequest);

            // Example 1: SET first, then ADD
            UpdateItemRequest setFirstRequest = UpdateItemRequest.builder()
                .tableName(tableName)
                .key(key)
                .updateExpression("SET Counter = :value ADD OldCounter :increment")
                .expressionAttributeValues(Map.of(
                    ":value", AttributeValue.builder().n("10").build(),
                    ":increment", AttributeValue.builder().n("5").build()))
                .returnValues(ReturnValue.UPDATED_NEW)
                .build();

            UpdateItemResponse setFirstResponse =
dynamoDbClient.updateItem(setFirstRequest);
            results.put("setFirstResponse", setFirstResponse);

            // Reset the item
            dynamoDbClient.updateItem(initRequest);

            // Example 2: ADD first, then SET
            UpdateItemRequest addFirstRequest = UpdateItemRequest.builder()
                .tableName(tableName)
                .key(key)
                .updateExpression("ADD Counter :increment SET OldCounter = :value")
                .expressionAttributeValues(Map.of(
                    ":value", AttributeValue.builder().n("10").build(),
                    ":increment", AttributeValue.builder().n("5").build()))
                .returnValues(ReturnValue.UPDATED_NEW)
                .build();

            UpdateItemResponse addFirstResponse =
dynamoDbClient.updateItem(addFirstRequest);
            results.put("addFirstResponse", addFirstResponse);

            // Reset the item
            dynamoDbClient.updateItem(initRequest);
```

```
            // Example 3: SET with multiple attributes
            UpdateItemRequest multiSetRequest = UpdateItemRequest.builder()
                .tableName(tableName)
                .key(key)
                .updateExpression("SET Counter = :value, OldCounter = Counter")
                .expressionAttributeValues(
                    Map.of(":value", AttributeValue.builder().n("10").build()))
                .returnValues(ReturnValue.UPDATED_NEW)
                .build();

            UpdateItemResponse multiSetResponse =
dynamoDbClient.updateItem(multiSetRequest);
            results.put("multiSetResponse", multiSetResponse);

            // Reset the item
            dynamoDbClient.updateItem(initRequest);

            // Example 4: SET with expression using the same attribute
            UpdateItemRequest selfReferenceRequest = UpdateItemRequest.builder()
                .tableName(tableName)
                .key(key)
                .updateExpression("SET Counter = Counter + :increment, OldCounter =
Counter")
                .expressionAttributeValues(
                    Map.of(":increment", AttributeValue.builder().n("5").build()))
                .returnValues(ReturnValue.UPDATED_NEW)
                .build();

            UpdateItemResponse selfReferenceResponse =
dynamoDbClient.updateItem(selfReferenceRequest);
            results.put("selfReferenceResponse", selfReferenceResponse);

            results.put("success", true);

        } catch (DynamoDbException e) {
            results.put("success", false);
            results.put("error", e.getMessage());
        }

        return results;
    }

    /**
     * Updates an item with SET first, then REMOVE.
```

```
     *
     * <p>This method demonstrates updating an item with SET operation first,
     * followed by a REMOVE operation.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param key The key of the item to update
     * @param attributeToSet The attribute to set
     * @param setValue The value to set
     * @param attributeToRemove The attribute to remove
     * @return The response from DynamoDB
     * @throws DynamoDbException if an error occurs during the operation
     */
    public static UpdateItemResponse updateWithSetFirst(
        DynamoDbClient dynamoDbClient,
        String tableName,
        Map<String, AttributeValue> key,
        String attributeToSet,
        AttributeValue setValue,
        String attributeToRemove) {

        // Define the update parameters
        UpdateItemRequest request = UpdateItemRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .key(key)
            .updateExpression("SET #setAttr = :setValue REMOVE #removeAttr")
            .expressionAttributeNames(Map.of(
                "#setAttr", attributeToSet,
                "#removeAttr", attributeToRemove))
            .expressionAttributeValues(Map.of(":setValue", setValue))
            .returnValues(ReturnValue.UPDATED_NEW)
            .build();

        // Perform the update operation
        try {
            return dynamoDbClient.updateItem(request);
        } catch (DynamoDbException e) {
            throw DynamoDbException.builder()
                .message("Failed to update item with SET first: " + e.getMessage())
                .cause(e)
                .build();
        }
    }
```

```
    /**
     * Updates an item with REMOVE first, then SET.
     *
     * <p>This method demonstrates updating an item with REMOVE operation first,
     * followed by a SET operation.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param key The key of the item to update
     * @param attributeToSet The attribute to set
     * @param setValue The value to set
     * @param attributeToRemove The attribute to remove
     * @return The response from DynamoDB
     * @throws DynamoDbException if an error occurs during the operation
     */
    public static UpdateItemResponse updateWithRemoveFirst(
        DynamoDbClient dynamoDbClient,
        String tableName,
        Map<String, AttributeValue> key,
        String attributeToSet,
        AttributeValue setValue,
        String attributeToRemove) {

        // Define the update parameters
        UpdateItemRequest request = UpdateItemRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .key(key)
            .updateExpression("REMOVE #removeAttr SET #setAttr = :setValue")
            .expressionAttributeNames(Map.of(
                "#setAttr", attributeToSet,
                "#removeAttr", attributeToRemove))
            .expressionAttributeValues(Map.of(":setValue", setValue))
            .returnValues(ReturnValue.UPDATED_NEW)
            .build();

        // Perform the update operation
        try {
            return dynamoDbClient.updateItem(request);
        } catch (DynamoDbException e) {
            throw DynamoDbException.builder()
                .message("Failed to update item with REMOVE first: " +
e.getMessage())
                .cause(e)
                .build();
```

```
        }
    }

    /**
     * Updates an item with all operation types in a specific order.
     *
     * <p>This method demonstrates using all operation types (SET, REMOVE, ADD,
DELETE)
     * in a specific order in a single update expression.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param key The key of the item to update
     * @return The response from DynamoDB
     * @throws DynamoDbException if an error occurs during the operation
     */
    public static UpdateItemResponse updateWithAllOperationTypes(
        DynamoDbClient dynamoDbClient, String tableName, Map<String, AttributeValue>
key) {

        // Define the update parameters
        UpdateItemRequest request = UpdateItemRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .key(key)
            .updateExpression("SET #stringAttr = :stringVal, #mapAttr.#nestedAttr
= :nestedVal " + "REMOVE #oldAttr "
                + "ADD #counterAttr :increment "
                + "DELETE #stringSetAttr :stringSetVal")
            .expressionAttributeNames(Map.of(
                "#stringAttr", "StringAttribute",
                "#mapAttr", "MapAttribute",
                "#nestedAttr", "NestedAttribute",
                "#oldAttr", "OldAttribute",
                "#counterAttr", "CounterAttribute",
                "#stringSetAttr", "StringSetAttribute"))
            .expressionAttributeValues(Map.of(
                ":stringVal", AttributeValue.builder().s("New Value").build(),
                ":nestedVal", AttributeValue.builder().s("Nested Value").build(),
                ":increment", AttributeValue.builder().n("1").build(),
                ":stringSetVal", AttributeValue.builder().ss("Value1").build()))
            .returnValues(ReturnValue.UPDATED_NEW)
            .build();

        // Perform the update operation
```

```
        try {
            return dynamoDbClient.updateItem(request);
        } catch (DynamoDbException e) {
            throw DynamoDbException.builder()
                .message("Failed to update item with all operation types: " +
e.getMessage())
                .cause(e)
                .build();
        }
    }

    /**
     * Gets the current state of an item.
     *
     * <p>Helper method to retrieve the current state of an item.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param key The key of the item to get
     * @return The item or null if not found
     * @throws DynamoDbException if an error occurs during the operation
     */
    public static Map<String, AttributeValue> getItem(
        DynamoDbClient dynamoDbClient, String tableName, Map<String, AttributeValue>
key) {

        // Define the get parameters
        GetItemRequest request =
            GetItemRequest.builder().tableName(tableName).key(key).build();

        // Perform the get operation
        try {
            GetItemResponse response = dynamoDbClient.getItem(request);

            // Return the item if it exists, otherwise null
            return response.item();
        } catch (DynamoDbException e) {
            throw DynamoDbException.builder()
                .message("Failed to get item: " + e.getMessage())
                .cause(e)
                .build();
        }
    }
```

での更新式の順序の使用例 AWS SDK for Java 2.x。

```
   public static void exampleUsage(DynamoDbClient dynamoDbClient, String tableName)
{
       // Example key
       Map<String, AttributeValue> key = new HashMap<>();
       key.put("ProductId", AttributeValue.builder().s("P12345").build());

       System.out.println("Demonstrating update expression order in DynamoDB");

       try {
           // Example 1: Demonstrate update order effects
           System.out.println("\nExample 1: Demonstrating update order effects");
           Map<String, Object> orderResults =
demonstrateUpdateOrder(dynamoDbClient, tableName, key);

           if ((boolean) orderResults.get("success")) {
               System.out.println("SET first, then ADD:");
               System.out.println("  " + orderResults.get("setFirstResponse"));

               System.out.println("ADD first, then SET:");
               System.out.println("  " + orderResults.get("addFirstResponse"));

               System.out.println("SET with multiple attributes:");
               System.out.println("  " + orderResults.get("multiSetResponse"));

               System.out.println("SET with self-reference:");
               System.out.println("  " +
orderResults.get("selfReferenceResponse"));
           } else {
               System.out.println("Error: " + orderResults.get("error"));
           }

           // Example 2: Update with SET first, then REMOVE
           System.out.println("\nExample 2: Update with SET first, then REMOVE");
           UpdateItemResponse setFirstResponse = updateWithSetFirst(
               dynamoDbClient,
               tableName,
               key,
               "Status",
               AttributeValue.builder().s("Active").build(),
```

```
                "OldStatus");

            System.out.println("Updated attributes: " +
setFirstResponse.attributes());

            // Example 3: Update with REMOVE first, then SET
            System.out.println("\nExample 3: Update with REMOVE first, then SET");
            UpdateItemResponse removeFirstResponse = updateWithRemoveFirst(
                dynamoDbClient,
                tableName,
                key,
                "Status",
                AttributeValue.builder().s("Inactive").build(),
                "OldStatus");

            System.out.println("Updated attributes: " +
removeFirstResponse.attributes());

            // Example 4: Update with all operation types
            System.out.println("\nExample 4: Update with all operation types");
            UpdateItemResponse allOpsResponse =
updateWithAllOperationTypes(dynamoDbClient, tableName, key);

            System.out.println("Updated attributes: " +
allOpsResponse.attributes());

            // Example 5: Get the current state of the item
            System.out.println("\nExample 5: Current state of the item");
            Map<String, AttributeValue> item = getItem(dynamoDbClient, tableName,
key);

            if (item != null) {
                System.out.println("Item: " + item);
            } else {
                System.out.println("Item not found");
            }

            // Explain update expression order
            System.out.println("\nKey points about update expression order in
DynamoDB:");
            System.out.println("1. Update expressions are processed in this order:
SET, REMOVE, ADD, DELETE");
            System.out.println("2. Within each clause, operations are processed from
left to right");
```

```
            System.out.println("3. SET operations use the item state before any
 updates in the expression");
            System.out.println("4. When an attribute is referenced multiple times,
 the first operation wins");
            System.out.println("5. To reference a new value, split the update into
 multiple operations");
            System.out.println("6. The order of clauses in the expression doesn't
 change the evaluation order");
            System.out.println("7. For complex updates, consider using multiple
 separate update operations");

        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println("Error: " + e.getMessage());
            e.printStackTrace();
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「UpdateItem」を参照してください。

テーブルのウォームスループット設定を更新する

次のコード例は、テーブルのウォームスループット設定を更新する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

AWS SDK for Java 2.xを使用して既存の DynamoDB テーブルのウォームスループット設定を更新します。

```
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.GlobalSecondaryIndexUpdate;
import
 software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.UpdateGlobalSecondaryIndexAction;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.UpdateTableRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.WarmThroughput;

    public static WarmThroughput buildWarmThroughput(final Long readUnitsPerSecond,
 final Long writeUnitsPerSecond) {
        return WarmThroughput.builder()
            .readUnitsPerSecond(readUnitsPerSecond)
            .writeUnitsPerSecond(writeUnitsPerSecond)
```

```
            .build();
    }

    /**
     * Updates a DynamoDB table with warm throughput settings for both the table and
a global secondary index.
     *
     * @param ddb The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the table to update
     * @param tableReadUnitsPerSecond Read units per second for the table
     * @param tableWriteUnitsPerSecond Write units per second for the table
     * @param globalSecondaryIndexName The name of the global secondary index to
update
     * @param globalSecondaryIndexReadUnitsPerSecond Read units per second for the
GSI
     * @param globalSecondaryIndexWriteUnitsPerSecond Write units per second for the
GSI
     */
    public static void updateDynamoDBTable(
        final DynamoDbClient ddb,
        final String tableName,
        final Long tableReadUnitsPerSecond,
        final Long tableWriteUnitsPerSecond,
        final String globalSecondaryIndexName,
        final Long globalSecondaryIndexReadUnitsPerSecond,
        final Long globalSecondaryIndexWriteUnitsPerSecond) {

        final WarmThroughput tableWarmThroughput =
            buildWarmThroughput(tableReadUnitsPerSecond, tableWriteUnitsPerSecond);
        final WarmThroughput gsiWarmThroughput =
            buildWarmThroughput(globalSecondaryIndexReadUnitsPerSecond,
globalSecondaryIndexWriteUnitsPerSecond);

        final GlobalSecondaryIndexUpdate globalSecondaryIndexUpdate =
GlobalSecondaryIndexUpdate.builder()
            .update(UpdateGlobalSecondaryIndexAction.builder()
                .indexName(globalSecondaryIndexName)
                .warmThroughput(gsiWarmThroughput)
                .build())
            .build();

        final UpdateTableRequest request = UpdateTableRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .globalSecondaryIndexUpdates(globalSecondaryIndexUpdate)
```

```
            .warmThroughput(tableWarmThroughput)
            .build();

        try {
            ddb.updateTable(request);
        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            throw e;
        }

        System.out.println(SUCCESS_MESSAGE);
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「UpdateTable」を参照してください。

項目の TTL を更新する

次のコード例は、項目の TTL の更新方法を示しています。

SDK for Java 2.x

テーブル内の既存の DynamoDB 項目の TTL を更新します。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ResourceNotFoundException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.UpdateItemRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.UpdateItemResponse;

import java.util.HashMap;
import java.util.Map;
import java.util.Optional;

    public UpdateItemResponse updateItemWithTTL(
        final String tableName, final String primaryKeyValue, final String
 sortKeyValue) {
        // Get current time in epoch second format
        final long currentTime = System.currentTimeMillis() / 1000;
```

```
        // Calculate expiration time 90 days from now in epoch second format
        final long expireDate = currentTime + (DAYS_TO_EXPIRE * SECONDS_PER_DAY);

        // Create the key map for the item to update
        final Map<String, AttributeValue> keyMap = new HashMap<>();
        keyMap.put(PRIMARY_KEY_ATTR,
AttributeValue.builder().s(primaryKeyValue).build());
        keyMap.put(SORT_KEY_ATTR, AttributeValue.builder().s(sortKeyValue).build());

        // Create the expression attribute values
        final Map<String, AttributeValue> expressionAttributeValues = new
HashMap<>();
        expressionAttributeValues.put(
            ":c", AttributeValue.builder().n(String.valueOf(currentTime)).build());
        expressionAttributeValues.put(
            ":e", AttributeValue.builder().n(String.valueOf(expireDate)).build());

        final UpdateItemRequest request = UpdateItemRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .key(keyMap)
            .updateExpression(UPDATE_EXPRESSION)
            .expressionAttributeValues(expressionAttributeValues)
            .build();

        try {
            final UpdateItemResponse response = dynamoDbClient.updateItem(request);
            System.out.println(String.format(SUCCESS_MESSAGE, tableName));
            return response;
        } catch (ResourceNotFoundException e) {
            System.err.format(TABLE_NOT_FOUND_ERROR, tableName);
            throw e;
        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            throw e;
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「UpdateItem」を参照してください。

API Gateway を使用して Lambda 関数を呼び出す

次のコード例は、Amazon API Gateway によって呼び出される AWS Lambda 関数を作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

Lambda Java ランタイム API を使用して AWS Lambda 関数を作成する方法を示します。この例では、さまざまな AWS サービスを呼び出して、特定のユースケースを実行します。この例では、Amazon API Gateway によって呼び出される Lambda 関数を作成する方法を示します。この関数は、Amazon DynamoDB テーブルをスキャンして、Amazon Simple Notification Service (Amazon SNS) を使用して、従業員に年間の記念日を祝福するテキストメッセージを送信します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- API ゲートウェイ
- DynamoDB
- Lambda
- Amazon SNS

Step Functions を使用して Lambda 関数を呼び出す

次のコード例は、 AWS Lambda 関数を順番に呼び出す AWS Step Functions ステートマシンを作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

AWS Step Functions と を使用して AWS サーバーレスワークフローを作成する方法を示します AWS SDK for Java 2.x。各ワークフローステップは、 AWS Lambda 関数を使用して実装されます。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- DynamoDB

- Lambda
- Amazon SES
- ステップ関数

アトミックカウンタオペレーションを使用する

次のコード例は、DynamoDB でアトミックカウンタオペレーションを使用する方法を示しています。

- ADD および SET オペレーションを使用してカウンタをアトミックに増分します。
- 存在しない可能性のあるカウンターを安全に増分します。
- カウンターオペレーションに楽観的ロックを実装します。

SDK for Java 2.x

を使用してアトミックカウンターオペレーションをデモンストレーションします AWS SDK for Java 2.x。

```
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.GetItemRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.GetItemResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ReturnValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.UpdateItemRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.UpdateItemResponse;

import java.util.HashMap;
import java.util.Map;

    /**
     * Increments a counter using the ADD operation.
     *
     * <p>This method demonstrates how to use the ADD operation to atomically
     * increment a counter attribute.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param key The key of the item to update
     * @param counterName The name of the counter attribute
```

```
     * @param incrementValue The value to increment by
     * @return The response from DynamoDB
     * @throws DynamoDbException if an error occurs during the operation
     */
    public static UpdateItemResponse incrementCounterWithAdd(
        DynamoDbClient dynamoDbClient,
        String tableName,
        Map<String, AttributeValue> key,
        String counterName,
        int incrementValue) {

        // Define the update parameters
        UpdateItemRequest request = UpdateItemRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .key(key)
            .updateExpression("ADD #counterName :increment")
            .expressionAttributeNames(Map.of("#counterName", counterName))
            .expressionAttributeValues(Map.of(
                ":increment",
                AttributeValue.builder().n(String.valueOf(incrementValue)).build()))
            .returnValues(ReturnValue.UPDATED_NEW)
            .build();

        // Perform the update operation
        return dynamoDbClient.updateItem(request);
    }

    /**
     * Increments a counter using the SET operation.
     *
     * <p>This method demonstrates how to use the SET operation with an expression
     * to increment a counter attribute.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param key The key of the item to update
     * @param counterName The name of the counter attribute
     * @param incrementValue The value to increment by
     * @return The response from DynamoDB
     * @throws DynamoDbException if an error occurs during the operation
     */
    public static UpdateItemResponse incrementCounterWithSet(
        DynamoDbClient dynamoDbClient,
        String tableName,
```

```
        Map<String, AttributeValue> key,
        String counterName,
        int incrementValue) {

        // Define the update parameters
        UpdateItemRequest request = UpdateItemRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .key(key)
            .updateExpression("SET #counterName = #counterName + :increment")
            .expressionAttributeNames(Map.of("#counterName", counterName))
            .expressionAttributeValues(Map.of(
                ":increment",
                AttributeValue.builder().n(String.valueOf(incrementValue)).build()))
            .returnValues(ReturnValue.UPDATED_NEW)
            .build();

        // Perform the update operation
        return dynamoDbClient.updateItem(request);
    }

    /**
     * Increments a counter safely, handling the case where the counter doesn't
exist yet.
     *
     * <p>This method demonstrates how to use if_not_exists to safely increment a
counter
     * that may not exist yet.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param key The key of the item to update
     * @param counterName The name of the counter attribute
     * @param incrementValue The value to increment by
     * @return The response from DynamoDB
     * @throws DynamoDbException if an error occurs during the operation
     */
    public static UpdateItemResponse incrementCounterSafely(
        DynamoDbClient dynamoDbClient,
        String tableName,
        Map<String, AttributeValue> key,
        String counterName,
        int incrementValue) {

        // Define the update parameters
```

```
        UpdateItemRequest request = UpdateItemRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .key(key)
            .updateExpression("SET #counterName = if_not_exists(#counterName, :zero)
+ :increment")
            .expressionAttributeNames(Map.of("#counterName", counterName))
            .expressionAttributeValues(Map.of(
                ":increment",

AttributeValue.builder().n(String.valueOf(incrementValue)).build(),
                ":zero", AttributeValue.builder().n("0").build()))
            .returnValues(ReturnValue.UPDATED_NEW)
            .build();

        // Perform the update operation
        return dynamoDbClient.updateItem(request);
    }

    /**
     * Decrements a counter safely, ensuring it doesn't go below zero.
     *
     * <p>This method demonstrates how to use a condition expression to safely
     * decrement a counter without going below zero.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param key The key of the item to update
     * @param counterName The name of the counter attribute
     * @param decrementValue The value to decrement by
     * @return The response from DynamoDB
     * @throws DynamoDbException if an error occurs during the operation or if the
counter would go below zero
     */
    public static UpdateItemResponse decrementCounterSafely(
        DynamoDbClient dynamoDbClient,
        String tableName,
        Map<String, AttributeValue> key,
        String counterName,
        int decrementValue) {

        // Define the update parameters
        UpdateItemRequest request = UpdateItemRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .key(key)
```

```
            .updateExpression("SET #counterName = #counterName - :decrement")
            .conditionExpression("#counterName >= :decrement")
            .expressionAttributeNames(Map.of("#counterName", counterName))
            .expressionAttributeValues(Map.of(
                ":decrement",
                AttributeValue.builder().n(String.valueOf(decrementValue)).build()))
            .returnValues(ReturnValue.UPDATED_NEW)
            .build();

        // Perform the update operation
        return dynamoDbClient.updateItem(request);
    }

    /**
     * Compares the ADD and SET approaches for incrementing counters.
     *
     * <p>This method demonstrates the differences between using ADD and SET
     * for incrementing counters in DynamoDB.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param key The key of the item to update
     * @return Map containing the comparison results
     */
    public static Map<String, Object> compareAddVsSet(
        DynamoDbClient dynamoDbClient, String tableName, Map<String, AttributeValue>
key) {

        Map<String, Object> results = new HashMap<>();

        try {
            // Reset counters to ensure a fair comparison
            UpdateItemRequest resetRequest = UpdateItemRequest.builder()
                .tableName(tableName)
                .key(key)
                .updateExpression("SET AddCounter = :zero, SetCounter = :zero")
                .expressionAttributeValues(
                    Map.of(":zero", AttributeValue.builder().n("0").build()))
                .build();

            dynamoDbClient.updateItem(resetRequest);

            // Increment with ADD
            long addStartTime = System.nanoTime();
```

```
            UpdateItemResponse addResponse = incrementCounterWithAdd(dynamoDbClient,
tableName, key, "AddCounter", 1);
            long addEndTime = System.nanoTime();
            long addDuration = addEndTime - addStartTime;

            // Increment with SET
            long setStartTime = System.nanoTime();
            UpdateItemResponse setResponse = incrementCounterWithSet(dynamoDbClient,
tableName, key, "SetCounter", 1);
            long setEndTime = System.nanoTime();
            long setDuration = setEndTime - setStartTime;

            // Record results
            results.put("addResponse", addResponse);
            results.put("setResponse", setResponse);
            results.put("addDuration", addDuration);
            results.put("setDuration", setDuration);
            results.put("success", true);

        } catch (DynamoDbException e) {
            results.put("success", false);
            results.put("error", e.getMessage());
        }

        return results;
    }

    /**
     * Gets the current value of a counter attribute.
     *
     * <p>Helper method to retrieve the current value of a counter attribute.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param key The key of the item to get
     * @param counterName The name of the counter attribute
     * @return The counter value or null if not found
     * @throws DynamoDbException if an error occurs during the operation
     */
    public static Integer getCounterValue(
        DynamoDbClient dynamoDbClient, String tableName, Map<String, AttributeValue>
key, String counterName) {

        // Define the get parameters
```

```
        GetItemRequest request = GetItemRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .key(key)
            .projectionExpression(counterName)
            .build();

        // Perform the get operation
        GetItemResponse response = dynamoDbClient.getItem(request);

        // Return the counter value if it exists, otherwise null
        if (response.item() != null && response.item().containsKey(counterName)) {
            return Integer.parseInt(response.item().get(counterName).n());
        }

        return null;
    }
```

でのアトミックカウンターオペレーションの使用例 AWS SDK for Java 2.x。

```
    public static void exampleUsage(DynamoDbClient dynamoDbClient, String tableName)
{
        // Example key
        Map<String, AttributeValue> key = new HashMap<>();
        key.put("ProductId", AttributeValue.builder().s("P12345").build());

        System.out.println("Demonstrating atomic counter operations in DynamoDB");

        try {
            // Example 1: Increment a counter using ADD
            System.out.println("\nExample 1: Incrementing a counter using ADD");
            UpdateItemResponse addResponse = incrementCounterWithAdd(dynamoDbClient,
tableName, key, "ViewCount", 1);

            System.out.println("Updated counter: " + addResponse.attributes());

            // Example 2: Increment a counter using SET
            System.out.println("\nExample 2: Incrementing a counter using SET");
            UpdateItemResponse setResponse = incrementCounterWithSet(dynamoDbClient,
tableName, key, "LikeCount", 1);

            System.out.println("Updated counter: " + setResponse.attributes());
```

```
            // Example 3: Increment a counter safely
            System.out.println("\nExample 3: Incrementing a counter safely");
            UpdateItemResponse safeResponse = incrementCounterSafely(dynamoDbClient,
tableName, key, "ShareCount", 1);

            System.out.println("Updated counter: " + safeResponse.attributes());

            // Example 4: Decrement a counter safely
            System.out.println("\nExample 4: Decrementing a counter safely");
            try {
                UpdateItemResponse decrementResponse =
                    decrementCounterSafely(dynamoDbClient, tableName, key,
"InventoryCount", 1);

                System.out.println("Updated counter: " +
decrementResponse.attributes());
            } catch (DynamoDbException e) {
                if (e.getMessage().contains("ConditionalCheckFailed")) {
                    System.out.println("Cannot decrement counter below zero");
                } else {
                    throw e;
                }
            }

            // Example 5: Compare ADD vs SET
            System.out.println("\nExample 5: Comparing ADD vs SET");
            Map<String, Object> comparison = compareAddVsSet(dynamoDbClient,
tableName, key);

            if ((boolean) comparison.get("success")) {
                System.out.println("ADD duration: " + comparison.get("addDuration")
+ " ns");
                System.out.println("SET duration: " + comparison.get("setDuration")
+ " ns");
                System.out.println("ADD response: " +
comparison.get("addResponse"));
                System.out.println("SET response: " +
comparison.get("setResponse"));
            } else {
                System.out.println("Comparison failed: " + comparison.get("error"));
            }

            // Explain atomic counter operations
```

```
            System.out.println("\nKey points about DynamoDB atomic counter
operations:");
            System.out.println("1. Both ADD and SET can be used for atomic
counters");
            System.out.println("2. ADD is more concise for simple increments");
            System.out.println("3. SET with an expression is more flexible for
complex operations");
            System.out.println("4. Use if_not_exists to handle the case where the
counter doesn't exist yet");
            System.out.println("5. Use condition expressions to prevent counters
from going below zero");
            System.out.println("6. Atomic operations are guaranteed to be isolated
from other writes");
            System.out.println("7. ADD can only be used with number and set data
types");

        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println("Error: " + e.getMessage());
            e.printStackTrace();
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「UpdateItem」を参照してください。

条件付きオペレーションを使用する

次のコード例は、DynamoDB で条件付きオペレーションを使用する方法を示しています。

- データの上書きを防ぐため、条件付き書き込みを実装します。
- 条件式を使用してビジネスルールを適用します。
- 条件付きチェックの失敗を適切に処理します。

SDK for Java 2.x

を使用して条件付きオペレーションをデモンストレーションします AWS SDK for Java 2.x。

```
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
```

```
import
 software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ConditionalCheckFailedException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DeleteItemRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DeleteItemResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.GetItemRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.GetItemResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ReturnValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.UpdateItemRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.UpdateItemResponse;

import java.util.HashMap;
import java.util.Map;

    /**
     * Performs a conditional update on an item.
     *
     * <p>This method demonstrates how to use a condition expression to update an
 item
     * only if a specific condition is met.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param key The key of the item to update
     * @param conditionAttribute The attribute to check in the condition
     * @param conditionValue The value to compare against
     * @param updateAttribute The attribute to update
     * @param updateValue The new value to set
     * @return Map containing the operation result and status
     */
    public static Map<String, Object> conditionalUpdate(
        DynamoDbClient dynamoDbClient,
        String tableName,
        Map<String, AttributeValue> key,
        String conditionAttribute,
        AttributeValue conditionValue,
        String updateAttribute,
        AttributeValue updateValue) {

        Map<String, Object> result = new HashMap<>();

        try {
            // Define the update parameters
            UpdateItemRequest request = UpdateItemRequest.builder()
```

```
                .tableName(tableName)
                .key(key)
                .updateExpression("SET #updateAttr = :updateVal")
                .conditionExpression("#condAttr = :condVal")
                .expressionAttributeNames(Map.of(
                    "#condAttr", conditionAttribute,
                    "#updateAttr", updateAttribute))
                .expressionAttributeValues(Map.of(
                    ":condVal", conditionValue,
                    ":updateVal", updateValue))
                .returnValues(ReturnValue.UPDATED_NEW)
                .build();

            // Perform the update operation
            UpdateItemResponse response = dynamoDbClient.updateItem(request);

            // Record success result
            result.put("success", true);
            result.put("message", "Condition was met and update was performed");
            result.put("attributes", response.attributes());

        } catch (ConditionalCheckFailedException e) {
            // Record failure due to condition not being met
            result.put("success", false);
            result.put("message", "Condition was not met, update was not
performed");
            result.put("error", "ConditionalCheckFailedException");

        } catch (DynamoDbException e) {
            // Record failure due to other errors
            result.put("success", false);
            result.put("message", "Error occurred: " + e.getMessage());
            result.put("error", e.getClass().getSimpleName());
        }

        return result;
    }

    /**
     * Performs a conditional delete on an item.
     *
     * <p>This method demonstrates how to use a condition expression to delete an
item
     * only if a specific condition is met.
```

```
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param key The key of the item to delete
     * @param conditionAttribute The attribute to check in the condition
     * @param conditionValue The value to compare against
     * @return Map containing the operation result and status
     */
    public static Map<String, Object> conditionalDelete(
        DynamoDbClient dynamoDbClient,
        String tableName,
        Map<String, AttributeValue> key,
        String conditionAttribute,
        AttributeValue conditionValue) {

        Map<String, Object> result = new HashMap<>();

        try {
            // Define the delete parameters
            DeleteItemRequest request = DeleteItemRequest.builder()
                .tableName(tableName)
                .key(key)
                .conditionExpression("#condAttr = :condVal")
                .expressionAttributeNames(Map.of("#condAttr", conditionAttribute))
                .expressionAttributeValues(Map.of(":condVal", conditionValue))
                .returnValues(ReturnValue.ALL_OLD)
                .build();

            // Perform the delete operation
            DeleteItemResponse response = dynamoDbClient.deleteItem(request);

            // Record success result
            result.put("success", true);
            result.put("message", "Condition was met and delete was performed");
            result.put("attributes", response.attributes());

        } catch (ConditionalCheckFailedException e) {
            // Record failure due to condition not being met
            result.put("success", false);
            result.put("message", "Condition was not met, delete was not
performed");
            result.put("error", "ConditionalCheckFailedException");

        } catch (DynamoDbException e) {
```

```
            // Record failure due to other errors
            result.put("success", false);
            result.put("message", "Error occurred: " + e.getMessage());
            result.put("error", e.getClass().getSimpleName());
        }

        return result;
    }

    /**
     * Demonstrates optimistic locking using a version attribute.
     *
     * <p>This method shows how to implement optimistic locking by using a version
     * attribute that is incremented with each update.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param key The key of the item to update
     * @param versionAttribute The name of the version attribute
     * @return Map containing the operation result
     */
    public static Map<String, Object> optimisticLockingExample(
        DynamoDbClient dynamoDbClient, String tableName, Map<String, AttributeValue>
 key, String versionAttribute) {

        Map<String, Object> result = new HashMap<>();

        try {
            // Get the current version of the item
            GetItemRequest getRequest = GetItemRequest.builder()
                .tableName(tableName)
                .key(key)
                .projectionExpression(versionAttribute)
                .build();

            GetItemResponse getResponse = dynamoDbClient.getItem(getRequest);

            // Check if the item exists
            if (getResponse.item() == null || !
getResponse.item().containsKey(versionAttribute)) {
                // Item doesn't exist or doesn't have a version attribute
                // Initialize with version 1
                UpdateItemRequest initRequest = UpdateItemRequest.builder()
                    .tableName(tableName)
```

```
                    .key(key)
                    .updateExpression("SET #verAttr = :newVer, #dataAttr = :data")
                    .expressionAttributeNames(Map.of("#verAttr", versionAttribute,
"#dataAttr", "Data"))
                    .expressionAttributeValues(Map.of(
                        ":newVer", AttributeValue.builder().n("1").build(),
                        ":data", AttributeValue.builder().s("Initial
data").build()))
                    .returnValues(ReturnValue.UPDATED_NEW)
                    .build();

                UpdateItemResponse initResponse =
dynamoDbClient.updateItem(initRequest);

                result.put("operation", "initialize");
                result.put("success", true);
                result.put("attributes", initResponse.attributes());

                return result;
            }

            // Get the current version number
            int currentVersion =
                Integer.parseInt(getResponse.item().get(versionAttribute).n());
            int newVersion = currentVersion + 1;

            // Update the item with a condition on the version
            UpdateItemRequest updateRequest = UpdateItemRequest.builder()
                .tableName(tableName)
                .key(key)
                .updateExpression("SET #verAttr = :newVer, #dataAttr = :newData")
                .conditionExpression("#verAttr = :curVer")
                .expressionAttributeNames(Map.of("#verAttr", versionAttribute,
"#dataAttr", "Data"))
                .expressionAttributeValues(Map.of(
                    ":curVer",
                        AttributeValue.builder()
                            .n(String.valueOf(currentVersion))
                            .build(),
                    ":newVer",

AttributeValue.builder().n(String.valueOf(newVersion)).build(),
                    ":newData",
                        AttributeValue.builder()
```

```
                            .s("Updated data at version " + newVersion)
                            .build()))
                .returnValues(ReturnValue.UPDATED_NEW)
                .build();

            UpdateItemResponse updateResponse =
dynamoDbClient.updateItem(updateRequest);

            // Record success result
            result.put("operation", "update");
            result.put("success", true);
            result.put("oldVersion", currentVersion);
            result.put("newVersion", newVersion);
            result.put("attributes", updateResponse.attributes());

        } catch (ConditionalCheckFailedException e) {
            // Record failure due to version mismatch
            result.put("operation", "update");
            result.put("success", false);
            result.put("message", "Version mismatch, another process may have
updated the item");
            result.put("error", "ConditionalCheckFailedException");

        } catch (DynamoDbException e) {
            // Record failure due to other errors
            result.put("operation", "update");
            result.put("success", false);
            result.put("message", "Error occurred: " + e.getMessage());
            result.put("error", e.getClass().getSimpleName());
        }

        return result;
    }

    /**
     * Performs a conditional update with multiple conditions.
     *
     * <p>This method demonstrates how to use multiple conditions in a condition
expression.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param key The key of the item to update
     * @param conditions Map of attribute names to values for conditions
```

```
     * @param updateAttribute The attribute to update
     * @param updateValue The new value to set
     * @return Map containing the operation result and status
     */
    public static Map<String, Object> conditionalUpdateWithMultipleConditions(
        DynamoDbClient dynamoDbClient,
        String tableName,
        Map<String, AttributeValue> key,
        Map<String, AttributeValue> conditions,
        String updateAttribute,
        AttributeValue updateValue) {

        Map<String, Object> result = new HashMap<>();

        try {
            // Build the condition expression and attribute names/values
            StringBuilder conditionExpression = new StringBuilder();
            Map<String, String> expressionAttributeNames = new HashMap<>();
            Map<String, AttributeValue> expressionAttributeValues = new HashMap<>();

            // Add update attribute
            expressionAttributeNames.put("#updateAttr", updateAttribute);
            expressionAttributeValues.put(":updateVal", updateValue);

            // Add conditions
            int i = 0;
            for (Map.Entry<String, AttributeValue> condition :
conditions.entrySet()) {
                String attrName = condition.getKey();
                AttributeValue attrValue = condition.getValue();

                String nameKey = "#cond" + i;
                String valueKey = ":val" + i;

                expressionAttributeNames.put(nameKey, attrName);
                expressionAttributeValues.put(valueKey, attrValue);

                // Add AND between conditions (except for the first one)
                if (i > 0) {
                    conditionExpression.append(" AND ");
                }

                conditionExpression.append(nameKey).append(" = ").append(valueKey);
                i++;
```

```
            }

            // Define the update parameters
            UpdateItemRequest request = UpdateItemRequest.builder()
                .tableName(tableName)
                .key(key)
                .updateExpression("SET #updateAttr = :updateVal")
                .conditionExpression(conditionExpression.toString())
                .expressionAttributeNames(expressionAttributeNames)
                .expressionAttributeValues(expressionAttributeValues)
                .returnValues(ReturnValue.UPDATED_NEW)
                .build();

            // Perform the update operation
            UpdateItemResponse response = dynamoDbClient.updateItem(request);

            // Record success result
            result.put("success", true);
            result.put("message", "All conditions were met and update was
performed");
            result.put("attributes", response.attributes());

        } catch (ConditionalCheckFailedException e) {
            // Record failure due to condition not being met
            result.put("success", false);
            result.put("message", "One or more conditions were not met, update was
not performed");
            result.put("error", "ConditionalCheckFailedException");

        } catch (DynamoDbException e) {
            // Record failure due to other errors
            result.put("success", false);
            result.put("message", "Error occurred: " + e.getMessage());
            result.put("error", e.getClass().getSimpleName());
        }

        return result;
    }
```

での条件付きオペレーションの使用例 AWS SDK for Java 2.x。

```
   public static void exampleUsage(DynamoDbClient dynamoDbClient, String tableName)
{
        // Example key
        Map<String, AttributeValue> key = new HashMap<>();
        key.put("ProductId", AttributeValue.builder().s("P12345").build());

        System.out.println("Demonstrating conditional operations in DynamoDB");

        try {
            // Example 1: Conditional update
            System.out.println("\nExample 1: Conditional update");
            Map<String, Object> updateResult = conditionalUpdate(
                dynamoDbClient,
                tableName,
                key,
                "InStock",
                AttributeValue.builder().bool(true).build(),
                "Status",
                AttributeValue.builder().s("Available").build());

            System.out.println("Update result: " + updateResult.get("message"));
            if ((boolean) updateResult.get("success")) {
                System.out.println("Updated attributes: " +
updateResult.get("attributes"));
            }

            // Example 2: Conditional delete
            System.out.println("\nExample 2: Conditional delete");
            Map<String, Object> deleteResult = conditionalDelete(
                dynamoDbClient,
                tableName,
                key,
                "Status",
                AttributeValue.builder().s("Discontinued").build());

            System.out.println("Delete result: " + deleteResult.get("message"));
            if ((boolean) deleteResult.get("success")) {
                System.out.println("Deleted item: " +
deleteResult.get("attributes"));
            }

            // Example 3: Optimistic locking
            System.out.println("\nExample 3: Optimistic locking");
```

```
            Map<String, Object> lockingResult =
optimisticLockingExample(dynamoDbClient, tableName, key, "Version");

            System.out.println("Optimistic locking result:");
            System.out.println("  Operation: " + lockingResult.get("operation"));
            System.out.println("  Success: " + lockingResult.get("success"));
            if (lockingResult.get("operation").equals("update") && (boolean)
lockingResult.get("success")) {
                System.out.println("  Old version: " +
lockingResult.get("oldVersion"));
                System.out.println("  New version: " +
lockingResult.get("newVersion"));
            }
            System.out.println("  Attributes: " + lockingResult.get("attributes"));

            // Example 4: Multiple conditions
            System.out.println("\nExample 4: Multiple conditions");
            Map<String, AttributeValue> conditions = new HashMap<>();
            conditions.put("Price", AttributeValue.builder().n("199.99").build());
            conditions.put("Category",
AttributeValue.builder().s("Electronics").build());

            Map<String, Object> multiConditionResult =
conditionalUpdateWithMultipleConditions(
                dynamoDbClient,
                tableName,
                key,
                conditions,
                "OnSale",
                AttributeValue.builder().bool(true).build());

            System.out.println("Multiple conditions result: " +
multiConditionResult.get("message"));
            if ((boolean) multiConditionResult.get("success")) {
                System.out.println("Updated attributes: " +
multiConditionResult.get("attributes"));
            }

            // Explain conditional operations
            System.out.println("\nKey points about DynamoDB conditional
operations:");
            System.out.println("1. Conditional operations only succeed if the
condition is met");
```

```
            System.out.println("2. ConditionalCheckFailedException is thrown when
the condition fails");
            System.out.println("3. No changes are made to the item if the condition
fails");
            System.out.println("4. Conditions can be used with update, delete, and
put operations");
            System.out.println("5. Multiple conditions can be combined with AND and
OR");
            System.out.println("6. Optimistic locking can be implemented using a
version attribute");
            System.out.println(
                "7. Conditional operations consume the same amount of write capacity
whether they succeed or fail");

        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println("Error: " + e.getMessage());
            e.printStackTrace();
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - DeleteItem
  - PutItem
  - UpdateItem

式の属性名を使用する

次のコード例は、DynamoDB で式の属性名を使用する方法を示しています。

- DynamoDB 式で予約語を操作します。
- 式の属性名のプレースホルダーを使用します。
- 属性名の特殊文字を処理します。

SDK for Java 2.x

を使用して式の属性名をデモンストレーションします AWS SDK for Java 2.x。

```
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.AttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DynamoDbException;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.QueryResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ScanRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ScanResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.UpdateItemRequest;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.UpdateItemResponse;

import java.util.Arrays;
import java.util.HashMap;
import java.util.List;
import java.util.Map;

    /**
     * Updates an attribute that is a reserved word in DynamoDB.
     *
     * <p>This method demonstrates how to use expression attribute names to update
     * attributes that are reserved words in DynamoDB.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param key The key of the item to update
     * @param reservedWordAttribute The reserved word attribute to update
     * @param value The value to set
     * @return The response from DynamoDB
     * @throws DynamoDbException if an error occurs during the operation
     */
    public static UpdateItemResponse updateReservedWordAttribute(
        DynamoDbClient dynamoDbClient,
        String tableName,
        Map<String, AttributeValue> key,
        String reservedWordAttribute,
        AttributeValue value) {

        // Define the update parameters using expression attribute names
        UpdateItemRequest request = UpdateItemRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .key(key)
            .updateExpression("SET #attr = :value")
            .expressionAttributeNames(Map.of("#attr", reservedWordAttribute))
            .expressionAttributeValues(Map.of(":value", value))
            .returnValues("UPDATED_NEW")
            .build();
```

```
        // Perform the update operation
        return dynamoDbClient.updateItem(request);
    }

    /**
     * Updates an attribute that contains special characters.
     *
     * <p>This method demonstrates how to use expression attribute names to update
     * attributes that contain special characters.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param key The key of the item to update
     * @param specialCharAttribute The attribute with special characters to update
     * @param value The value to set
     * @return The response from DynamoDB
     * @throws DynamoDbException if an error occurs during the operation
     */
    public static UpdateItemResponse updateSpecialCharacterAttribute(
        DynamoDbClient dynamoDbClient,
        String tableName,
        Map<String, AttributeValue> key,
        String specialCharAttribute,
        AttributeValue value) {

        // Define the update parameters using expression attribute names
        UpdateItemRequest request = UpdateItemRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .key(key)
            .updateExpression("SET #attr = :value")
            .expressionAttributeNames(Map.of("#attr", specialCharAttribute))
            .expressionAttributeValues(Map.of(":value", value))
            .returnValues("UPDATED_NEW")
            .build();

        // Perform the update operation
        return dynamoDbClient.updateItem(request);
    }

    /**
     * Queries items using an attribute that is a reserved word.
     *
     * <p>This method demonstrates how to use expression attribute names in a query
```

```
     * when the attribute is a reserved word.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param partitionKeyName The name of the partition key attribute
     * @param partitionKeyValue The value of the partition key
     * @param reservedWordAttribute The reserved word attribute to filter on
     * @param value The value to compare against
     * @return The response from DynamoDB
     * @throws DynamoDbException if an error occurs during the operation
     */
    public static QueryResponse queryWithReservedWordAttribute(
        DynamoDbClient dynamoDbClient,
        String tableName,
        String partitionKeyName,
        AttributeValue partitionKeyValue,
        String reservedWordAttribute,
        AttributeValue value) {

        // Define the query parameters using expression attribute names
        Map<String, String> expressionAttributeNames = new HashMap<>();
        expressionAttributeNames.put("#pkName", partitionKeyName);
        expressionAttributeNames.put("#attr", reservedWordAttribute);

        Map<String, AttributeValue> expressionAttributeValues = new HashMap<>();
        expressionAttributeValues.put(":pkValue", partitionKeyValue);
        expressionAttributeValues.put(":value", value);

        QueryRequest request = QueryRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .keyConditionExpression("#pkName = :pkValue")
            .filterExpression("#attr = :value")
            .expressionAttributeNames(expressionAttributeNames)
            .expressionAttributeValues(expressionAttributeValues)
            .build();

        // Perform the query operation
        return dynamoDbClient.query(request);
    }

    /**
     * Updates a nested attribute with a path that contains reserved words.
     *
     * <p>This method demonstrates how to use expression attribute names to update
```

```
     * nested attributes where the path contains reserved words.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param key The key of the item to update
     * @param attributePath The path to the nested attribute as an array
     * @param value The value to set
     * @return The response from DynamoDB
     * @throws DynamoDbException if an error occurs during the operation
     */
    public static UpdateItemResponse updateNestedReservedWordAttribute(
        DynamoDbClient dynamoDbClient,
        String tableName,
        Map<String, AttributeValue> key,
        List<String> attributePath,
        AttributeValue value) {

        // Create expression attribute names for each part of the path
        Map<String, String> expressionAttributeNames = new HashMap<>();
        for (int i = 0; i < attributePath.size(); i++) {
            expressionAttributeNames.put("#attr" + i, attributePath.get(i));
        }

        // Build the attribute path using the expression attribute names
        StringBuilder attributePathExpression = new StringBuilder();
        for (int i = 0; i < attributePath.size(); i++) {
            if (i > 0) {
                attributePathExpression.append(".");
            }
            attributePathExpression.append("#attr").append(i);
        }

        // Define the update parameters
        UpdateItemRequest request = UpdateItemRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .key(key)
            .updateExpression("SET " + attributePathExpression.toString() + "
= :value")
            .expressionAttributeNames(expressionAttributeNames)
            .expressionAttributeValues(Map.of(":value", value))
            .returnValues("UPDATED_NEW")
            .build();

        // Perform the update operation
```

```
        return dynamoDbClient.updateItem(request);
    }

    /**
     * Scans a table with multiple attribute name placeholders.
     *
     * <p>This method demonstrates how to use multiple expression attribute names
     * in a complex filter expression.
     *
     * @param dynamoDbClient The DynamoDB client
     * @param tableName The name of the DynamoDB table
     * @param filters Object mapping attribute names to filter values
     * @return The response from DynamoDB
     * @throws DynamoDbException if an error occurs during the operation
     */
    public static ScanResponse scanWithMultipleAttributeNames(
        DynamoDbClient dynamoDbClient, String tableName, Map<String, AttributeValue>
filters) {

        // Create expression attribute names and values
        Map<String, String> expressionAttributeNames = new HashMap<>();
        Map<String, AttributeValue> expressionAttributeValues = new HashMap<>();
        StringBuilder filterExpression = new StringBuilder();

        // Build the filter expression
        int index = 0;
        for (Map.Entry<String, AttributeValue> entry : filters.entrySet()) {
            String attrName = entry.getKey();
            AttributeValue attrValue = entry.getValue();

            String nameKey = "#attr" + index;
            String valueKey = ":val" + index;

            expressionAttributeNames.put(nameKey, attrName);
            expressionAttributeValues.put(valueKey, attrValue);

            // Add AND between conditions (except for the first one)
            if (index > 0) {
                filterExpression.append(" AND ");
            }

            filterExpression.append(nameKey).append(" = ").append(valueKey);
            index++;
        }
```

```
        // Define the scan parameters
        ScanRequest request = ScanRequest.builder()
            .tableName(tableName)
            .filterExpression(filterExpression.toString())
            .expressionAttributeNames(expressionAttributeNames)
            .expressionAttributeValues(expressionAttributeValues)
            .build();

        // Perform the scan operation
        return dynamoDbClient.scan(request);
    }
```

を使用した式の属性名の使用例 AWS SDK for Java 2.x。

```
    public static void exampleUsage(DynamoDbClient dynamoDbClient, String tableName)
{
        // Example key
        Map<String, AttributeValue> key = new HashMap<>();
        key.put("ProductId", AttributeValue.builder().s("P12345").build());

        System.out.println("Demonstrating expression attribute names in DynamoDB");

        try {
            // Example 1: Update an attribute that is a reserved word
            System.out.println("\nExample 1: Updating an attribute that is a
reserved word");
            UpdateItemResponse response1 = updateReservedWordAttribute(
                dynamoDbClient,
                tableName,
                key,
                "Size", // "SIZE" is a reserved word in DynamoDB
                AttributeValue.builder().s("Large").build());

            System.out.println("Updated attribute: " + response1.attributes());

            // Example 2: Update an attribute with special characters
            System.out.println("\nExample 2: Updating an attribute with special
characters");
            UpdateItemResponse response2 = updateSpecialCharacterAttribute(
                dynamoDbClient,
                tableName,
```

```
                key,
                "Product-Type", // Contains a hyphen, which is a special character
                AttributeValue.builder().s("Electronics").build());

            System.out.println("Updated attribute: " + response2.attributes());

            // Example 3: Query with a reserved word attribute
            System.out.println("\nExample 3: Querying with a reserved word
attribute");
            QueryResponse response3 = queryWithReservedWordAttribute(
                dynamoDbClient,
                tableName,
                "Category",
                AttributeValue.builder().s("Electronics").build(),
                "Count", // "COUNT" is a reserved word in DynamoDB
                AttributeValue.builder().n("10").build());

            System.out.println("Found " + response3.count() + " items");

            // Example 4: Update a nested attribute with reserved words in the path
            System.out.println("\nExample 4: Updating a nested attribute with
reserved words in the path");
            UpdateItemResponse response4 = updateNestedReservedWordAttribute(
                dynamoDbClient,
                tableName,
                key,
                Arrays.asList("Dimensions", "Size", "Height"), // "SIZE" is a
reserved word
                AttributeValue.builder().n("30").build());

            System.out.println("Updated nested attribute: " +
response4.attributes());

            // Example 5: Scan with multiple attribute name placeholders
            System.out.println("\nExample 5: Scanning with multiple attribute name
placeholders");
            Map<String, AttributeValue> filters = new HashMap<>();
            filters.put("Size", AttributeValue.builder().s("Large").build());
            filters.put("Count", AttributeValue.builder().n("10").build());
            filters.put(
                "Product-Type", AttributeValue.builder().s("Electronics").build());

            ScanResponse response5 = scanWithMultipleAttributeNames(dynamoDbClient,
tableName, filters);
```

```
            System.out.println("Found " + response5.count() + " items");

            // Show some common reserved words
            System.out.println("\nSome common DynamoDB reserved words:");
            List<String> commonReservedWords = getDynamoDBReservedWords();
            System.out.println(String.join(", ", commonReservedWords));

            // Explain expression attribute names
            System.out.println("\nKey points about expression attribute names:");
            System.out.println("1. Use expression attribute names (#name) for
reserved words");
            System.out.println("2. Use expression attribute names for attributes
with special characters");
            System.out.println(
                "3. Special characters include: spaces, hyphens, dots, and other
non-alphanumeric characters");
            System.out.println("4. Expression attribute names are required for
nested attributes with reserved words");
            System.out.println("5. You can use multiple expression attribute names
in a single expression");
            System.out.println("6. Expression attribute names are case-sensitive");
            System.out.println("7. Expression attribute names are only used in
expressions, not in the actual data");

        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println("Error: " + e.getMessage());
            e.printStackTrace();
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - クエリ
  - UpdateItem

スケジュールされたイベントを使用した Lambda 関数の呼び出し

次のコード例は、Amazon EventBridge スケジュールされたイベントによって呼び出される AWS Lambda 関数を作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

AWS Lambda 関数を呼び出す Amazon EventBridge スケジュールイベントを作成する方法を示します。cron 式を使用して Lambda 関数が呼び出されるタイミングをスケジュールするように EventBridge を設定します。この例では、Lambda Java ランタイム API を使用して Lambda 関数を作成します。この例では、さまざまな AWS サービスを呼び出して、特定のユースケースを実行します。この例では、年間の記念日に従業員を祝福するモバイルテキストメッセージを従業員に送信するアプリを作成する方法を示します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- CloudWatch Logs
- DynamoDB
- EventBridge
- Lambda
- Amazon SNS

サーバーレスサンプル

DynamoDB トリガーから Lambda 関数を呼び出す

次のコード例は、DynamoDB ストリームからレコードを受信することによってトリガーされるイベントを受け取る、Lambda 関数の実装方法を示しています。関数は DynamoDB ペイロードを取得し、レコードの内容をログ記録します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。サーバーレスサンプルリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

Java を使用した Lambda での DynamoDB イベントの消費。

```
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.Context;
```

```
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.RequestHandler;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.DynamodbEvent;
import
 com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.DynamodbEvent.DynamodbStreamRecord;
import com.google.gson.Gson;
import com.google.gson.GsonBuilder;

public class example implements RequestHandler<DynamodbEvent, Void> {

    private static final Gson GSON = new GsonBuilder().setPrettyPrinting().create();

    @Override
    public Void handleRequest(DynamodbEvent event, Context context) {
        System.out.println(GSON.toJson(event));
        event.getRecords().forEach(this::logDynamoDBRecord);
        return null;
    }

    private void logDynamoDBRecord(DynamodbStreamRecord record) {
        System.out.println(record.getEventID());
        System.out.println(record.getEventName());
        System.out.println("DynamoDB Record: " + GSON.toJson(record.getDynamodb()));
    }
}
```

DynamoDB トリガーで Lambda 関数のバッチアイテムの失敗をレポートする

次のコード例は、DynamoDB ストリームからイベントを受け取る Lambda 関数の部分的なバッチレスポンスの実装方法を示しています。この関数は、レスポンスとしてバッチアイテムの失敗を報告し、対象のメッセージを後で再試行するよう Lambda に伝えます。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。サーバーレスサンプルリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

Java を使用した Lambda での DynamoDB のバッチアイテム失敗のレポート。

```
// Copyright Amazon.com, Inc. or its affiliates. All Rights Reserved.
// SPDX-License-Identifier: Apache-2.0
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.Context;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.RequestHandler;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.DynamodbEvent;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.StreamsEventResponse;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.models.dynamodb.StreamRecord;

import java.util.ArrayList;
import java.util.List;

public class ProcessDynamodbRecords implements RequestHandler<DynamodbEvent,
 StreamsEventResponse> {

    @Override
    public StreamsEventResponse handleRequest(DynamodbEvent input, Context context)
 {

        List<StreamsEventResponse.BatchItemFailure> batchItemFailures = new
 ArrayList<>();
        String curRecordSequenceNumber = "";

        for (DynamodbEvent.DynamodbStreamRecord dynamodbStreamRecord :
 input.getRecords()) {
          try {
                //Process your record
                StreamRecord dynamodbRecord = dynamodbStreamRecord.getDynamodb();
                curRecordSequenceNumber = dynamodbRecord.getSequenceNumber();

            } catch (Exception e) {
                /* Since we are working with streams, we can return the failed item
 immediately.
                   Lambda will immediately begin to retry processing from this
 failed item onwards. */
                batchItemFailures.add(new
 StreamsEventResponse.BatchItemFailure(curRecordSequenceNumber));
                return new StreamsEventResponse(batchItemFailures);
            }
        }

       return new StreamsEventResponse();
    }
}
```

AWS コミュニティへの貢献

サーバーレスアプリケーションの構築とテスト

次のコード例は、Lambda および DynamoDB を備えた API Gateway を使用してサーバーレスアプリケーションを構築およびテストする方法を示しています。

SDK for Java 2.x

Java SDK を使用し、Lambda および DynamoDB を備えた API Gateway で構成されるサーバーレスアプリケーションを構築およびテストする方法が示されます。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- API ゲートウェイ
- DynamoDB
- Lambda

SDK for Java 2.x を使用する Amazon EC2 の例

次のコード例は、Amazon EC2 AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- はじめに
- 基本
- アクション
- シナリオ

はじめに

Hello Amazon EC2

次のコード例は、Amazon EC2 の使用を開始する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Asynchronously describes the security groups for the specified group ID.
    *
    * @param groupName the name of the security group to describe
    * @return a {@link CompletableFuture} that represents the asynchronous
operation
    *         of describing the security groups. The future will complete with a
    *         {@link DescribeSecurityGroupsResponse} object that contains the
    *         security group information.
    */
   public CompletableFuture<String> describeSecurityGroupArnByNameAsync(String
groupName) {
       DescribeSecurityGroupsRequest request =
DescribeSecurityGroupsRequest.builder()
           .groupNames(groupName)
           .build();

       DescribeSecurityGroupsPublisher paginator =
getAsyncClient().describeSecurityGroupsPaginator(request);
```

```
        AtomicReference<String> groupIdRef = new AtomicReference<>();
        return paginator.subscribe(response -> {
            response.securityGroups().stream()
                .filter(securityGroup ->
securityGroup.groupName().equals(groupName))
                .findFirst()
                .ifPresent(securityGroup ->
groupIdRef.set(securityGroup.groupId()));
        }).thenApply(v -> {
            String groupId = groupIdRef.get();
            if (groupId == null) {
                throw new RuntimeException("No security group found with the name: "
+ groupName);
            }
            return groupId;
        }).exceptionally(ex -> {
            logger.info("Failed to describe security group: " + ex.getMessage());
            throw new RuntimeException("Failed to describe security group", ex);
        });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeSecurityGroups」を参照してください。

基本

基本を学ぶ

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- キーペアとセキュリティグループを作成します。
- Amazon マシンイメージ (AMI)と互換性のあるインスタンスタイプを選択し、インスタンスを作成します。
- インスタンスを停止し、再起動します。
- Elastic IP アドレスをインスタンスに関連付けます。
- SSH を使用してインスタンスに接続し、リソースをクリーンアップします。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

コマンドプロンプトでシナリオを実行します。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.CreateKeyPairResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DeleteKeyPairResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeKeyPairsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DisassociateAddressResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.Ec2Exception;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.ReleaseAddressResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ssm.model.GetParametersByPathResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ssm.model.Parameter;

import java.net.InetAddress;
import java.net.UnknownHostException;
import java.util.List;
import java.util.Scanner;
import java.util.concurrent.CompletableFuture;
import java.util.concurrent.CompletionException;

/**
 * Before running this Java (v2) code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 *
 * This Java example performs the following tasks:
 *
 * 1. Creates an RSA key pair and saves the private key data as a .pem file.
 * 2. Lists key pairs.
 * 3. Creates a security group for the default VPC.
 * 4. Displays security group information.
 * 5. Gets a list of Amazon Linux 2 AMIs and selects one.
```

```
 * 6. Gets additional information about the image.
 * 7. Gets a list of instance types that are compatible with the selected AMI's
 * architecture.
 * 8. Creates an instance with the key pair, security group, AMI, and an
 * instance type.
 * 9. Displays information about the instance.
 * 10. Stops the instance and waits for it to stop.
 * 11. Starts the instance and waits for it to start.
 * 12. Allocates an Elastic IP address and associates it with the instance.
 * 13. Displays SSH connection info for the instance.
 * 14. Disassociates and deletes the Elastic IP address.
 * 15. Terminates the instance and waits for it to terminate.
 * 16. Deletes the security group.
 * 17. Deletes the key pair.
 */
public class EC2Scenario {

    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");
    private static final Logger logger = LoggerFactory.getLogger(EC2Scenario.class);
    public static void main(String[] args) throws InterruptedException,
 UnknownHostException {

        logger.info("""
            Usage:
               <keyName> <fileName> <groupName> <groupDesc>

            Where:
               keyName -  A key pair name (for example, TestKeyPair).\s
               fileName -  A file name where the key information is written to.\s
               groupName - The name of the security group.\s
               groupDesc - The description of the security group.\s
            """);

        Scanner scanner = new Scanner(System.in);
        EC2Actions ec2Actions = new EC2Actions();

        String keyName = "TestKeyPair7" ;
        String fileName = "ec2Key.pem";
        String groupName = "TestSecGroup7" ;
        String groupDesc = "Test Group" ;
        String vpcId = ec2Actions.describeFirstEC2VpcAsync().join().vpcId();
        InetAddress localAddress = InetAddress.getLocalHost();
        String myIpAddress = localAddress.getHostAddress();
```

```
        logger.info("""
            Amazon Elastic Compute Cloud (EC2) is a web service that provides
 secure, resizable compute
            capacity in the cloud. It allows developers and organizations to easily
 launch and manage
            virtual server instances, known as EC2 instances, to run their
 applications.

            EC2 provides a wide range of instance types, each with different
 compute, memory,
            and storage capabilities, to meet the diverse needs of various
 workloads. Developers
            can choose the appropriate instance type based on their application's
 requirements,
            such as high-performance computing, memory-intensive tasks, or GPU-
accelerated workloads.

            The `Ec2AsyncClient` interface in the AWS SDK for Java 2.x provides a
 set of methods to
            programmatically interact with the Amazon EC2 service. This allows
 developers to
            automate the provisioning, management, and monitoring of EC2 instances
 as part of their
            application deployment pipelines. With EC2, teams can focus on building
 and deploying
            their applications without having to worry about the underlying
 infrastructure
            required to host and manage physical servers.

            This scenario walks you through how to perform key operations for this
 service.
            Let's get started...
            """);

        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("1. Create an RSA key pair and save the private key material as
 a .pem file.");
        logger.info("""
            An RSA key pair for Amazon EC2 is a security mechanism used to
 authenticate and secure
```

```
            access to your EC2 instances. It consists of a public key and a private
key,
            which are generated as a pair.
            """);
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            CompletableFuture<CreateKeyPairResponse> future =
ec2Actions.createKeyPairAsync(keyName, fileName);
            CreateKeyPairResponse response = future.join();
            logger.info("Key Pair successfully created. Key Fingerprint: " +
response.keyFingerprint());

        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof Ec2Exception ec2Ex) {
                if (ec2Ex.getMessage().contains("already exists")) {
                    // Key pair already exists.
                    logger.info("The key pair '" + keyName + "' already exists.
Moving on...");
                } else {
                    logger.info("EC2 error occurred: Error message: {}, Error code
{}", ec2Ex.getMessage(), ec2Ex.awsErrorDetails().errorCode());
                    return;
                }
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + (rt.getMessage()));
                return;
            }
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("2. List key pairs.");
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            CompletableFuture<DescribeKeyPairsResponse> future =
ec2Actions.describeKeysAsync();
            DescribeKeyPairsResponse keyPairsResponse = future.join();
            keyPairsResponse.keyPairs().forEach(keyPair -> logger.info(
                "Found key pair with name {} and fingerprint {}",
                keyPair.keyName(),
                keyPair.keyFingerprint()));
```

```
        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof Ec2Exception ec2Ex) {
                logger.info("EC2 error occurred: Error message: {}, Error code {}",
ec2Ex.getMessage(), ec2Ex.awsErrorDetails().errorCode());
                return;
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: {}", (cause != null ?
cause.getMessage() : rt.getMessage()));
                return;
            }
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("3. Create a security group.");
        logger.info("""
            An AWS EC2 Security Group is a virtual firewall that controls the
            inbound and outbound traffic to an EC2 instance. It acts as a first
line
            of defense for your EC2 instances, allowing you to specify the rules
that
            govern the network traffic entering and leaving your instances.
           """);
        waitForInputToContinue(scanner);
        String groupId = "";
        try {
            CompletableFuture<String> future =
ec2Actions.createSecurityGroupAsync(groupName, groupDesc, vpcId, myIpAddress);
            future.join();
            logger.info("Created security group") ;

        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof Ec2Exception ec2Ex) {
                if (ec2Ex.awsErrorDetails().errorMessage().contains("already
exists")) {
                    logger.info("The Security Group already exists. Moving on...");
                } else {
                    logger.error("An unexpected error occurred: {}",
ec2Ex.awsErrorDetails().errorMessage());
                    return;
                }
```

```
            } else {
                logger.error("An unexpected error occurred: {}",
cause.getMessage());
                return;
            }
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("4. Display security group information for the new security
group.");
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            CompletableFuture<String> future =
ec2Actions.describeSecurityGroupArnByNameAsync(groupName);
            groupId = future.join();
            logger.info("The security group Id is "+groupId);

        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof Ec2Exception ec2Ex) {
                String errorCode = ec2Ex.awsErrorDetails().errorCode();
                if ("InvalidGroup.NotFound".equals(errorCode)) {
                    logger.info("Security group '{}' does not exist. Error Code:
{}", groupName, errorCode);
                } else {
                    logger.info("EC2 error occurred: Message {}, Error Code: {}",
ec2Ex.getMessage(), errorCode);
                }
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: {}", cause.getMessage());
            }
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("5. Get a list of Amazon Linux 2 AMIs and select one with amzn2
in the name.");
        logger.info("""
            An Amazon EC2 AMI (Amazon Machine Image) is a pre-configured virtual
machine image that
```

```
            serves as a template for launching EC2 instances. It contains all the
necessary software and
            configurations required to run an application or operating system on an
EC2 instance.
            """);
        waitForInputToContinue(scanner);
        String instanceAMI="";
        try {
            CompletableFuture<GetParametersByPathResponse> future =
ec2Actions.getParaValuesAsync();
            GetParametersByPathResponse pathResponse = future.join();
            List<Parameter> parameterList = pathResponse.parameters();
            for (Parameter para : parameterList) {
                if (filterName(para.name())) {
                    instanceAMI = para.value();
                    break;
                }
            }
        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof Ec2Exception ec2Ex) {
                logger.info("EC2 error occurred: Message {}, Error Code:{}",
ec2Ex.getMessage(), ec2Ex.awsErrorDetails().errorCode());
                return;
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: {}", cause.getMessage());
                return;
            }
        }
        logger.info("The AMI value with amzn2 is: {}", instanceAMI);
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("6. Get the (Amazon Machine Image) AMI value from the amzn2
image.");
        logger.info("""
           An AMI value represents a specific version of a virtual machine (VM) or
server image.
           It uniquely identifies a particular version of an EC2 instance, including
its operating system,
           pre-installed software, and any custom configurations. This allows you to
consistently deploy the same
           VM image across your infrastructure.
```

```
            """);
        waitForInputToContinue(scanner);
        String amiValue;
        try {
            CompletableFuture<String> future =
ec2Actions.describeImageAsync(instanceAMI);
            amiValue = future.join();

        } catch (CompletionException ce) {
            Throwable cause = ce.getCause();
            if (cause instanceof Ec2Exception) {
                Ec2Exception ec2Ex = (Ec2Exception) cause;
                logger.info("EC2 error occurred: Message {}, Error Code:{}",
ec2Ex.getMessage(), ec2Ex.awsErrorDetails().errorCode());
                return;
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: {}", cause.getMessage());
                return;
            }
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("7. Retrieves an instance type available in the current AWS
region.");
        waitForInputToContinue(scanner);
        String instanceType;
        try {
            CompletableFuture<String> future = ec2Actions.getInstanceTypesAsync();
            instanceType = future.join();
            if (!instanceType.isEmpty()) {
                logger.info("Found instance type: " + instanceType);
            } else {
                logger.info("Desired instance type not found.");
            }
        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof Ec2Exception ec2Ex) {
                logger.info("EC2 error occurred: Message {}, Error Code:{}",
ec2Ex.getMessage(), ec2Ex.awsErrorDetails().errorCode());
                return;
            } else {
```

```
                logger.info("An unexpected error occurred: {}", cause.getMessage());
                return;
            }
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("8. Create an Amazon EC2 instance using the key pair, the
instance type, the security group, and the EC2 AMI value.");
        logger.info("Once the EC2 instance is created, it is placed into a running
state.");
        waitForInputToContinue(scanner);
        String newInstanceId;
        try {
            CompletableFuture<String> future =
ec2Actions.runInstanceAsync(instanceType, keyName, groupName, amiValue);
            newInstanceId = future.join();
        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof Ec2Exception) {
                Ec2Exception ec2Ex = (Ec2Exception) cause;
                switch (ec2Ex.awsErrorDetails().errorCode()) {
                    case "InvalidParameterValue":
                        logger.info("EC2 error occurred: Message {}, Error Code:{}",
ec2Ex.getMessage(), ec2Ex.awsErrorDetails().errorCode());
                        break;
                    case "InsufficientInstanceCapacity":
                        // Handle insufficient instance capacity.
                        logger.info("Insufficient instance capacity: {}, {}",
ec2Ex.getMessage(), ec2Ex.awsErrorDetails().errorCode());
                        break;
                    case "InvalidGroup.NotFound":
                        // Handle security group not found.
                        logger.info("Security group not found: {},{}",
ec2Ex.getMessage(), ec2Ex.awsErrorDetails().errorCode());
                        break;
                    default:
                        logger.info("EC2 error occurred: {} (Code: {}",
ec2Ex.getMessage(), ec2Ex.awsErrorDetails().errorCode());
                        break;
                }
                return;
            } else {
```

```
                logger.info("An unexpected error occurred: {}", (cause != null ?
cause.getMessage() : rt.getMessage()));
                return;
            }
        }
        logger.info("The instance Id is " + newInstanceId);
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("9. Display information about the running instance. ");

        waitForInputToContinue(scanner);
        String publicIp;
        try {
            CompletableFuture<String> future =
ec2Actions.describeEC2InstancesAsync(newInstanceId);
            publicIp = future.join();
            logger.info("EC2 instance public IP {}", publicIp);
        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof Ec2Exception ec2Ex) {
                logger.info("EC2 error occurred: Message {}, Error Code:{}",
ec2Ex.getMessage(), ec2Ex.awsErrorDetails().errorCode());
                return;
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: {}", cause.getMessage());
                return;
            }

        }
        logger.info("You can SSH to the instance using this command:");
        logger.info("ssh -i " + fileName + " ec2-user@" + publicIp);
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("10. Stop the instance using a waiter (this may take a few
mins).");
        // Remove the 2nd one
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            CompletableFuture<Void> future =
ec2Actions.stopInstanceAsync(newInstanceId);
```

```
            future.join();

        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof Ec2Exception ec2Ex) {
                logger.info("EC2 error occurred: Message {}, Error Code:{}",
ec2Ex.getMessage(), ec2Ex.awsErrorDetails().errorCode());
                return;
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: {}", cause.getMessage());
                return;
            }
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("11. Start the instance using a waiter (this may take a few
mins).");
        try {
            CompletableFuture<Void> future =
ec2Actions.startInstanceAsync(newInstanceId);
            future.join();

        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof Ec2Exception ec2Ex) {
                // Handle EC2 exceptions.
                logger.info("EC2 error occurred: Message {}, Error Code:{}",
ec2Ex.getMessage(), ec2Ex.awsErrorDetails().errorCode());
                return;
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: {}", cause.getMessage());
                return;
            }
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("12. Allocate an Elastic IP address and associate it with the
instance.");
        logger.info("""
```

```
            An Elastic IP address is a static public IP address that you can
associate with your EC2 instance.
            This allows you to have a fixed, predictable IP address that remains the
same even if your instance
            is stopped, terminated, or replaced.
            This is particularly useful for applications or services that need to be
accessed consistently from a
            known IP address.

            An EC2 Allocation ID (also known as a Reserved Instance Allocation
ID) is a unique identifier associated with a Reserved Instance (RI) that you have
purchased in AWS.

            When you purchase a Reserved Instance, AWS assigns a unique Allocation
ID to it.
            This Allocation ID is used to track and identify the specific RI you
have purchased,
            and it is important for managing and monitoring your Reserved Instances.

            """);

        waitForInputToContinue(scanner);
        String allocationId;
        try {
            CompletableFuture<String> future = ec2Actions.allocateAddressAsync();
            allocationId = future.join();
            logger.info("Successfully allocated address with ID: " +allocationId);
        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof Ec2Exception ec2Ex) {
                logger.info("EC2 error occurred: Message {}, Error Code:{}",
ec2Ex.getMessage(), ec2Ex.awsErrorDetails().errorCode());
                return;
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: {}", cause.getMessage());
                return;
            }
        }
        logger.info("The allocation Id value is " + allocationId);
        waitForInputToContinue(scanner);
        String associationId;
        try {
            CompletableFuture<String> future =
ec2Actions.associateAddressAsync(newInstanceId, allocationId);
```

```
            associationId = future.join();
            logger.info("Successfully associated address with ID: " +associationId);
        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof Ec2Exception ec2Ex) {
                logger.info("EC2 error occurred: Message {}, Error Code:{}",
ec2Ex.getMessage(), ec2Ex.awsErrorDetails().errorCode());
                return;
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: {}", cause.getMessage());
                return;
            }
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("13. Describe the instance again. Note that the public IP
address has changed");
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            CompletableFuture<String> future =
ec2Actions.describeEC2InstancesAsync(newInstanceId);
            publicIp = future.join();
            logger.info("EC2 instance public IP: " + publicIp);
            logger.info("You can SSH to the instance using this command:");
            logger.info("ssh -i " + fileName + " ec2-user@" + publicIp);
        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof Ec2Exception ec2Ex) {
                logger.info("EC2 error occurred: Message {}, Error Code:{}",
ec2Ex.getMessage(), ec2Ex.awsErrorDetails().errorCode());
                return;
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: {}", cause.getMessage());
                return;
            }
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("14. Disassociate and release the Elastic IP address.");
        waitForInputToContinue(scanner);
```

```
        try {
            CompletableFuture<DisassociateAddressResponse> future =
ec2Actions.disassociateAddressAsync(associationId);
            future.join();
            logger.info("Address successfully disassociated.");
        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof Ec2Exception ec2Ex) {
                // Handle EC2 exceptions.
                logger.info("EC2 error occurred: Message {}, Error Code:{}",
ec2Ex.getMessage(), ec2Ex.awsErrorDetails().errorCode());
                return;
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: {}", cause.getMessage());
                return;
            }
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            CompletableFuture<ReleaseAddressResponse> future =
ec2Actions.releaseEC2AddressAsync(allocationId);
            future.join(); // Wait for the operation to complete
            logger.info("Elastic IP address successfully released.");
        } catch (RuntimeException rte) {
            logger.info("An unexpected error occurred: {}", rte.getMessage());
            return;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("15. Terminate the instance and use a waiter (this may take a
few mins).");
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            CompletableFuture<Object> future =
ec2Actions.terminateEC2Async(newInstanceId);
            future.join();
            logger.info("EC2 instance successfully terminated.");
        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof Ec2Exception ec2Ex) {
                // Handle EC2 exceptions.
```

```
                logger.info("EC2 error occurred: Message {}, Error Code:{}",
ec2Ex.getMessage(), ec2Ex.awsErrorDetails().errorCode());
                return;
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: {}", cause.getMessage());
                return;
            }
        }
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("16. Delete the security group.");
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            CompletableFuture<Void> future =
ec2Actions.deleteEC2SecGroupAsync(groupId);
            future.join();
            logger.info("Security group successfully deleted.");
        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof Ec2Exception ec2Ex) {
                logger.info("EC2 error occurred: Message {}, Error Code:{}",
ec2Ex.getMessage(), ec2Ex.awsErrorDetails().errorCode());
                return;
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: {}", cause.getMessage());
                return;
            }
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("17. Delete the key.");
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            CompletableFuture<DeleteKeyPairResponse> future =
ec2Actions.deleteKeysAsync(keyName);
            future.join();
            logger.info("Successfully deleted key pair named " + keyName);
        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof Ec2Exception ec2Ex) {
```

```
                logger.info("EC2 error occurred: Message {}, Error Code:{}",
 ec2Ex.getMessage(), ec2Ex.awsErrorDetails().errorCode());
                return;
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: {}", cause.getMessage());
                return;
            }
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("You successfully completed the Amazon EC2 scenario.");
        logger.info(DASHES);
    }
    public static boolean filterName(String name) {
        String[] parts = name.split("/");
        String myValue = parts[4];
        return myValue.contains("amzn2");
    }

    private static void waitForInputToContinue(Scanner scanner) {
        while (true) {
            logger.info("");
            logger.info("Enter 'c' followed by <ENTER> to continue:");
            String input = scanner.nextLine();

            if (input.trim().equalsIgnoreCase("c")) {
                logger.info("Continuing with the program...");
                logger.info("");
                break;
            } else {
                // Handle invalid input.
                logger.info("Invalid input. Please try again.");
            }
        }
    }
}
```

EC2 アクションをラップするクラスを定義します。

```
import org.slf4j.Logger;
```

```
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.core.client.config.ClientOverrideConfiguration;
import software.amazon.awssdk.http.async.SdkAsyncHttpClient;
import software.amazon.awssdk.http.nio.netty.NettyNioAsyncHttpClient;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.Ec2AsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.AllocateAddressRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.AllocateAddressResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.AssociateAddressRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.AssociateAddressResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.ec2.model.AuthorizeSecurityGroupIngressRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.CreateKeyPairRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.CreateKeyPairResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.CreateSecurityGroupRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DeleteKeyPairRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DeleteKeyPairResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DeleteSecurityGroupRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DeleteSecurityGroupResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeImagesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeInstanceTypesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeInstanceTypesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeInstancesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeKeyPairsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeSecurityGroupsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeSecurityGroupsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeVpcsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DisassociateAddressRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DisassociateAddressResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DomainType;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.Ec2Exception;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.Filter;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.InstanceTypeInfo;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.IpPermission;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.IpRange;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.ReleaseAddressRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.ReleaseAddressResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.RunInstancesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.RunInstancesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.StopInstancesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.StartInstancesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.TerminateInstancesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.Vpc;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.paginators.DescribeImagesPublisher;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.ec2.paginators.DescribeInstancesPublisher;
import
 software.amazon.awssdk.services.ec2.paginators.DescribeSecurityGroupsPublisher;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.paginators.DescribeVpcsPublisher;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.waiters.Ec2AsyncWaiter;
import software.amazon.awssdk.services.ssm.SsmAsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.ssm.model.GetParametersByPathRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ssm.model.GetParametersByPathResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.TerminateInstancesResponse;
import java.io.BufferedWriter;
import java.io.FileWriter;
import java.io.IOException;
import java.time.Duration;
import java.util.List;
import java.util.concurrent.CompletableFuture;
import java.util.concurrent.CompletionException;
import java.util.concurrent.atomic.AtomicReference;

public class EC2Actions {
    private static final Logger logger = LoggerFactory.getLogger(EC2Actions.class);
    private static Ec2AsyncClient ec2AsyncClient;

    /**
     * Retrieves an asynchronous Amazon Elastic Container Registry (ECR) client.
     *
     * @return the configured ECR asynchronous client.
     */
    private static Ec2AsyncClient getAsyncClient() {
        if (ec2AsyncClient == null) {
            /*
            The `NettyNioAsyncHttpClient` class is part of the AWS SDK for Java,
 version 2,
            and it is designed to provide a high-performance, asynchronous HTTP
 client for interacting with AWS services.
             It uses the Netty framework to handle the underlying network
 communication and the Java NIO API to
             provide a non-blocking, event-driven approach to HTTP requests and
 responses.
             */
            SdkAsyncHttpClient httpClient = NettyNioAsyncHttpClient.builder()
                .maxConcurrency(50)  // Adjust as needed.
                .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(60))  // Set the connection
 timeout.
                .readTimeout(Duration.ofSeconds(60))  // Set the read timeout.
```

```
                .writeTimeout(Duration.ofSeconds(60))  // Set the write timeout.
                .build();

            ClientOverrideConfiguration overrideConfig =
ClientOverrideConfiguration.builder()
                .apiCallTimeout(Duration.ofMinutes(2))  // Set the overall API call
timeout.
                .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(90))  // Set the
individual call attempt timeout.
                .build();

            ec2AsyncClient = Ec2AsyncClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .httpClient(httpClient)
                .overrideConfiguration(overrideConfig)
                .build();
        }
        return ec2AsyncClient;
    }

    /**
     * Deletes a key pair asynchronously.
     *
     * @param keyPair the name of the key pair to delete
     * @return a {@link CompletableFuture} that represents the result of the
asynchronous operation.
     *         The {@link CompletableFuture} will complete with a {@link
DeleteKeyPairResponse} object
     *         that provides the result of the key pair deletion operation.
     */
    public CompletableFuture<DeleteKeyPairResponse> deleteKeysAsync(String keyPair)
{
        DeleteKeyPairRequest request = DeleteKeyPairRequest.builder()
            .keyName(keyPair)
            .build();

        // Initiate the asynchronous request to delete the key pair.
        CompletableFuture<DeleteKeyPairResponse> response =
getAsyncClient().deleteKeyPair(request);
        return response.whenComplete((resp, ex) -> {
            if (ex != null) {
                throw new RuntimeException("Failed to delete key pair: " + keyPair,
ex);
            } else if (resp == null) {
```

```
                throw new RuntimeException("No response received for deleting key
pair: " + keyPair);
            }
        });
    }

    /**
     * Deletes an EC2 security group asynchronously.
     *
     * @param groupId the ID of the security group to delete
     * @return a CompletableFuture that completes when the security group is deleted
     */
    public CompletableFuture<Void> deleteEC2SecGroupAsync(String groupId) {
        DeleteSecurityGroupRequest request = DeleteSecurityGroupRequest.builder()
            .groupId(groupId)
            .build();

        CompletableFuture<DeleteSecurityGroupResponse> response =
getAsyncClient().deleteSecurityGroup(request);
        return response.whenComplete((resp, ex) -> {
            if (ex != null) {
                throw new RuntimeException("Failed to delete security group with Id
" + groupId, ex);
            } else if (resp == null) {
                throw new RuntimeException("No response received for deleting
security group with Id " + groupId);
            }
        }).thenApply(resp -> null);
    }

    /**
     * Terminates an EC2 instance asynchronously and waits for it to reach the
terminated state.
     *
     * @param instanceId the ID of the EC2 instance to terminate
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the instance has been
terminated
     * @throws RuntimeException if there is no response from the AWS SDK or if there
is a failure during the termination process
     */
    public CompletableFuture<Object> terminateEC2Async(String instanceId) {
        TerminateInstancesRequest terminateRequest =
TerminateInstancesRequest.builder()
            .instanceIds(instanceId)
```

```
            .build();

        CompletableFuture<TerminateInstancesResponse> responseFuture =
getAsyncClient().terminateInstances(terminateRequest);
        return responseFuture.thenCompose(terminateResponse -> {
            if (terminateResponse == null) {
                throw new RuntimeException("No response received for terminating
instance " + instanceId);
            }
            System.out.println("Going to terminate an EC2 instance and use a waiter
to wait for it to be in terminated state");
            return getAsyncClient().waiter()
                .waitUntilInstanceTerminated(r -> r.instanceIds(instanceId))
                .thenApply(waiterResponse -> null);
        }).exceptionally(throwable -> {
            // Handle any exceptions that occurred during the async call
            throw new RuntimeException("Failed to terminate EC2 instance: " +
throwable.getMessage(), throwable);
        });
    }

    /**
     * Releases an Elastic IP address asynchronously.
     *
     * @param allocId the allocation ID of the Elastic IP address to be released
     * @return a {@link CompletableFuture} representing the asynchronous operation
of releasing the Elastic IP address
     */
    public CompletableFuture<ReleaseAddressResponse> releaseEC2AddressAsync(String
allocId) {
        ReleaseAddressRequest request = ReleaseAddressRequest.builder()
            .allocationId(allocId)
            .build();

        CompletableFuture<ReleaseAddressResponse> response =
getAsyncClient().releaseAddress(request);
        response.whenComplete((resp, ex) -> {
            if (ex != null) {
                throw new RuntimeException("Failed to release Elastic IP address",
ex);
            }
        });

        return response;
```

```
    }

    /**
     * Disassociates an Elastic IP address from an instance asynchronously.
     *
     * @param associationId The ID of the association you want to disassociate.
     * @return a {@link CompletableFuture} representing the asynchronous operation
of disassociating the address. The
     *         {@link CompletableFuture} will complete with a {@link
DisassociateAddressResponse} when the operation is
     *         finished.
     * @throws RuntimeException if the disassociation of the address fails.
     */
    public CompletableFuture<DisassociateAddressResponse>
disassociateAddressAsync(String associationId) {
        Ec2AsyncClient ec2 = getAsyncClient();
        DisassociateAddressRequest addressRequest =
DisassociateAddressRequest.builder()
            .associationId(associationId)
            .build();

        // Disassociate the address asynchronously.
        CompletableFuture<DisassociateAddressResponse> response =
ec2.disassociateAddress(addressRequest);
        response.whenComplete((resp, ex) -> {
            if (ex != null) {
                throw new RuntimeException("Failed to disassociate address", ex);
            }
        });

        return response;
    }

    /**
     * Associates an Elastic IP address with an EC2 instance asynchronously.
     *
     * @param instanceId    the ID of the EC2 instance to associate the Elastic IP
address with
     * @param allocationId  the allocation ID of the Elastic IP address to associate
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes with the association ID
when the operation is successful,
     *         or throws a {@link RuntimeException} if the operation fails
     */
```

```
   public CompletableFuture<String> associateAddressAsync(String instanceId, String
allocationId) {
       AssociateAddressRequest associateRequest = AssociateAddressRequest.builder()
           .instanceId(instanceId)
           .allocationId(allocationId)
           .build();

       CompletableFuture<AssociateAddressResponse> responseFuture =
getAsyncClient().associateAddress(associateRequest);
       return responseFuture.thenApply(response -> {
           if (response.associationId() != null) {
               return response.associationId();
           } else {
               throw new RuntimeException("Association ID is null after associating
address.");
           }
       }).whenComplete((result, ex) -> {
           if (ex != null) {
               throw new RuntimeException("Failed to associate address", ex);
           }
       });
   }

   /**
    * Allocates an Elastic IP address asynchronously in the VPC domain.
    *
    * @return a {@link CompletableFuture} containing the allocation ID of the
allocated Elastic IP address
    */
   public CompletableFuture<String> allocateAddressAsync() {
       AllocateAddressRequest allocateRequest = AllocateAddressRequest.builder()
           .domain(DomainType.VPC)
           .build();

       CompletableFuture<AllocateAddressResponse> responseFuture =
getAsyncClient().allocateAddress(allocateRequest);
       return
responseFuture.thenApply(AllocateAddressResponse::allocationId).whenComplete((result,
ex) -> {
           if (ex != null) {
               throw new RuntimeException("Failed to allocate address", ex);
           }
       });
   }
```

```
   /**
    * Asynchronously describes the state of an EC2 instance.
    * The paginator helps you iterate over multiple pages of results.
    *
    * @param newInstanceId the ID of the EC2 instance to describe
    * @return a {@link CompletableFuture} that, when completed, contains a string
describing the state of the EC2 instance
    */
   public CompletableFuture<String> describeEC2InstancesAsync(String newInstanceId)
{
       DescribeInstancesRequest request = DescribeInstancesRequest.builder()
           .instanceIds(newInstanceId)
           .build();

       DescribeInstancesPublisher paginator =
getAsyncClient().describeInstancesPaginator(request);
       AtomicReference<String> publicIpAddressRef = new AtomicReference<>();
       return paginator.subscribe(response -> {
           response.reservations().stream()
               .flatMap(reservation -> reservation.instances().stream())
               .filter(instance -> instance.instanceId().equals(newInstanceId))
               .findFirst()
               .ifPresent(instance ->
publicIpAddressRef.set(instance.publicIpAddress()));
       }).thenApply(v -> {
           String publicIpAddress = publicIpAddressRef.get();
           if (publicIpAddress == null) {
               throw new RuntimeException("Instance with ID " + newInstanceId + "
not found.");
           }
           return publicIpAddress;
       }).exceptionally(ex -> {
           logger.info("Failed to describe instances: " + ex.getMessage());
           throw new RuntimeException("Failed to describe instances", ex);
       });
   }

   /**
    * Runs an EC2 instance asynchronously.
    *
    * @param instanceType The instance type to use for the EC2 instance.
    * @param keyName The name of the key pair to associate with the EC2 instance.
```

```
    * @param groupName The name of the security group to associate with the EC2
instance.
    * @param amiId The ID of the Amazon Machine Image (AMI) to use for the EC2
instance.
    * @return A {@link CompletableFuture} that completes with the ID of the started
EC2 instance.
    * @throws RuntimeException If there is an error running the EC2 instance.
    */
   public CompletableFuture<String> runInstanceAsync(String instanceType, String
keyName, String groupName, String amiId) {
       RunInstancesRequest runRequest = RunInstancesRequest.builder()
           .instanceType(instanceType)
           .keyName(keyName)
           .securityGroups(groupName)
           .maxCount(1)
           .minCount(1)
           .imageId(amiId)
           .build();

       CompletableFuture<RunInstancesResponse> responseFuture =
getAsyncClient().runInstances(runRequest);
       return responseFuture.thenCompose(response -> {
           String instanceIdVal = response.instances().get(0).instanceId();
           System.out.println("Going to start an EC2 instance and use a waiter to
wait for it to be in running state");
           return getAsyncClient().waiter()
               .waitUntilInstanceExists(r -> r.instanceIds(instanceIdVal))
               .thenCompose(waitResponse -> getAsyncClient().waiter()
                   .waitUntilInstanceRunning(r -> r.instanceIds(instanceIdVal))
                   .thenApply(runningResponse -> instanceIdVal));
       }).exceptionally(throwable -> {
           // Handle any exceptions that occurred during the async call
           throw new RuntimeException("Failed to run EC2 instance: " +
throwable.getMessage(), throwable);
       });
   }

   /**
    * Asynchronously retrieves the instance types available in the current AWS
region.
    * <p>
    * This method uses the AWS SDK's asynchronous API to fetch the available
instance types
```

```
    * and then processes the response. It logs the memory information, network
information,
    * and instance type for each instance type returned. Additionally, it returns a
    * {@link CompletableFuture} that resolves to the instance type string for the
"t2.2xlarge"
    * instance type, if it is found in the response. If the "t2.2xlarge" instance
type is not
    * found, an empty string is returned.
    * </p>
    *
    * @return a {@link CompletableFuture} that resolves to the instance type string
for the
    * "t2.2xlarge" instance type, or an empty string if the instance type is not
found
    */
   public CompletableFuture<String> getInstanceTypesAsync() {
       DescribeInstanceTypesRequest typesRequest =
DescribeInstanceTypesRequest.builder()
           .maxResults(10)
           .build();

       CompletableFuture<DescribeInstanceTypesResponse> response =
getAsyncClient().describeInstanceTypes(typesRequest);
       response.whenComplete((resp, ex) -> {
           if (resp != null) {
               List<InstanceTypeInfo> instanceTypes = resp.instanceTypes();
               for (InstanceTypeInfo type : instanceTypes) {
                   logger.info("The memory information of this type is " +
type.memoryInfo().sizeInMiB());
                   logger.info("Network information is " +
type.networkInfo().toString());
                   logger.info("Instance type is " +
type.instanceType().toString());
               }
           } else {
               throw (RuntimeException) ex;
           }
       });

       return response.thenApply(resp -> {
           for (InstanceTypeInfo type : resp.instanceTypes()) {
               String instanceType = type.instanceType().toString();
               if (instanceType.equals("t2.2xlarge")) {
                   return instanceType;
```

```
                }
            }
            return "";
        });
    }

    /**
     * Asynchronously describes an AWS EC2 image with the specified image ID.
     *
     * @param imageId the ID of the image to be described
     * @return a {@link CompletableFuture} that, when completed, contains the ID of
the described image
     * @throws RuntimeException if no images are found with the provided image ID,
or if an error occurs during the AWS API call
     */
    public CompletableFuture<String> describeImageAsync(String imageId) {
        DescribeImagesRequest imagesRequest = DescribeImagesRequest.builder()
            .imageIds(imageId)
            .build();

        AtomicReference<String> imageIdRef = new AtomicReference<>();
        DescribeImagesPublisher paginator =
getAsyncClient().describeImagesPaginator(imagesRequest);
        return paginator.subscribe(response -> {
            response.images().stream()
                .filter(image -> image.imageId().equals(imageId))
                .findFirst()
                .ifPresent(image -> {
                    logger.info("The description of the image is " +
image.description());
                    logger.info("The name of the image is " + image.name());
                    imageIdRef.set(image.imageId());
                });
        }).thenApply(v -> {
            String id = imageIdRef.get();
            if (id == null) {
                throw new RuntimeException("No images found with the provided image
ID.");
            }
            return id;
        }).exceptionally(ex -> {
            logger.info("Failed to describe image: " + ex.getMessage());
            throw new RuntimeException("Failed to describe image", ex);
        });
```

```
    }

    /**
     * Retrieves the parameter values asynchronously using the AWS Systems Manager
(SSM) API.
     *
     * @return a {@link CompletableFuture} that holds the response from the SSM API
call to get parameters by path
     */
    public CompletableFuture<GetParametersByPathResponse> getParaValuesAsync() {
        SsmAsyncClient ssmClient = SsmAsyncClient.builder()
            .region(Region.US_EAST_1)
            .build();

        GetParametersByPathRequest parameterRequest =
GetParametersByPathRequest.builder()
            .path("/aws/service/ami-amazon-linux-latest")
            .build();

        // Create a CompletableFuture to hold the final result.
        CompletableFuture<GetParametersByPathResponse> responseFuture = new
CompletableFuture<>();
        ssmClient.getParametersByPath(parameterRequest)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    responseFuture.completeExceptionally(new
RuntimeException("Failed to get parameters by path", exception));
                } else {
                    responseFuture.complete(response);
                }
            });

        return responseFuture;
    }


    /**
     * Asynchronously describes the security groups for the specified group ID.
     *
     * @param groupName the name of the security group to describe
     * @return a {@link CompletableFuture} that represents the asynchronous
operation
     *         of describing the security groups. The future will complete with a
     *         {@link DescribeSecurityGroupsResponse} object that contains the
```

```
     *         security group information.
     */
    public CompletableFuture<String> describeSecurityGroupArnByNameAsync(String
groupName) {
        DescribeSecurityGroupsRequest request =
DescribeSecurityGroupsRequest.builder()
            .groupNames(groupName)
            .build();

        DescribeSecurityGroupsPublisher paginator =
getAsyncClient().describeSecurityGroupsPaginator(request);
        AtomicReference<String> groupIdRef = new AtomicReference<>();
        return paginator.subscribe(response -> {
            response.securityGroups().stream()
                .filter(securityGroup ->
securityGroup.groupName().equals(groupName))
                .findFirst()
                .ifPresent(securityGroup ->
groupIdRef.set(securityGroup.groupId()));
        }).thenApply(v -> {
            String groupId = groupIdRef.get();
            if (groupId == null) {
                throw new RuntimeException("No security group found with the name: "
+ groupName);
            }
            return groupId;
        }).exceptionally(ex -> {
            logger.info("Failed to describe security group: " + ex.getMessage());
            throw new RuntimeException("Failed to describe security group", ex);
        });
    }

    /**
     * Creates a new security group asynchronously with the specified group name,
description, and VPC ID. It also
     * authorizes inbound traffic on ports 80 and 22 from the specified IP address.
     *
     * @param groupName    the name of the security group to create
     * @param groupDesc    the description of the security group
     * @param vpcId        the ID of the VPC in which to create the security group
     * @param myIpAddress  the IP address from which to allow inbound traffic (e.g.,
"192.168.1.1/0" to allow traffic from
     *                     any IP address in the 192.168.1.0/24 subnet)
```

```
    * @return a CompletableFuture that, when completed, returns the ID of the
created security group
    * @throws RuntimeException if there was a failure creating the security group
or authorizing the inbound traffic
    */
   public CompletableFuture<String> createSecurityGroupAsync(String groupName,
String groupDesc, String vpcId, String myIpAddress) {
       CreateSecurityGroupRequest createRequest =
CreateSecurityGroupRequest.builder()
           .groupName(groupName)
           .description(groupDesc)
           .vpcId(vpcId)
           .build();

       return getAsyncClient().createSecurityGroup(createRequest)
           .thenCompose(createResponse -> {
               String groupId = createResponse.groupId();
               IpRange ipRange = IpRange.builder()
                   .cidrIp(myIpAddress + "/32")
                   .build();

               IpPermission ipPerm = IpPermission.builder()
                   .ipProtocol("tcp")
                   .toPort(80)
                   .fromPort(80)
                   .ipRanges(ipRange)
                   .build();

               IpPermission ipPerm2 = IpPermission.builder()
                   .ipProtocol("tcp")
                   .toPort(22)
                   .fromPort(22)
                   .ipRanges(ipRange)
                   .build();

               AuthorizeSecurityGroupIngressRequest authRequest =
AuthorizeSecurityGroupIngressRequest.builder()
                   .groupName(groupName)
                   .ipPermissions(ipPerm, ipPerm2)
                   .build();

               return getAsyncClient().authorizeSecurityGroupIngress(authRequest)
                   .thenApply(authResponse -> groupId);
           })
```

```
            .whenComplete((result, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    if (exception instanceof CompletionException &&
exception.getCause() instanceof Ec2Exception) {
                        throw (Ec2Exception) exception.getCause();
                    } else {
                        throw new RuntimeException("Failed to create security group:
" + exception.getMessage(), exception);
                    }
                }
            });
   }

   /**
    * Asynchronously describes the key pairs associated with the current AWS
account.
    *
    * @return a {@link CompletableFuture} containing the {@link
DescribeKeyPairsResponse} object, which provides
    * information about the key pairs.
    */
   public CompletableFuture<DescribeKeyPairsResponse> describeKeysAsync() {
       CompletableFuture<DescribeKeyPairsResponse> responseFuture =
getAsyncClient().describeKeyPairs();
       responseFuture.whenComplete((response, exception) -> {
           if (exception != null) {
             throw new RuntimeException("Failed to describe key pairs: " +
exception.getMessage(), exception);
           }
       });

       return responseFuture;
   }

   /**
    * Creates a new key pair asynchronously.
    *
    * @param keyName the name of the key pair to create
    * @param fileName the name of the file to write the key material to
    * @return a {@link CompletableFuture} that represents the asynchronous
operation
    *         of creating the key pair and writing the key material to a file
    */
```

```
   public CompletableFuture<CreateKeyPairResponse> createKeyPairAsync(String
keyName, String fileName) {
       CreateKeyPairRequest request = CreateKeyPairRequest.builder()
           .keyName(keyName)
           .build();

       CompletableFuture<CreateKeyPairResponse> responseFuture =
getAsyncClient().createKeyPair(request);
       responseFuture.whenComplete((response, exception) -> {
           if (response != null) {
               try {
                   BufferedWriter writer = new BufferedWriter(new
FileWriter(fileName));
                   writer.write(response.keyMaterial());
                   writer.close();
               } catch (IOException e) {
                   throw new RuntimeException("Failed to write key material to
file: " + e.getMessage(), e);
               }
           } else {
               throw new RuntimeException("Failed to create key pair: " +
exception.getMessage(), exception);
           }
       });

       return responseFuture;
   }

   /**
    * Describes the first default VPC asynchronously and using a paginator.
    *
    * @return a {@link CompletableFuture} that, when completed, contains the first
default VPC found.\
    */
   public CompletableFuture<Vpc> describeFirstEC2VpcAsync() {
       Filter myFilter = Filter.builder()
           .name("is-default")
           .values("true")
           .build();

       DescribeVpcsRequest request = DescribeVpcsRequest.builder()
           .filters(myFilter)
           .build();
```

```
        DescribeVpcsPublisher paginator =
getAsyncClient().describeVpcsPaginator(request);
        AtomicReference<Vpc> vpcRef = new AtomicReference<>();
        return paginator.subscribe(response -> {
            response.vpcs().stream()
                .findFirst()
                .ifPresent(vpcRef::set);
        }).thenApply(v -> {
            Vpc vpc = vpcRef.get();
            if (vpc == null) {
                throw new RuntimeException("Default VPC not found");
            }
            return vpc;
        }).exceptionally(ex -> {
            logger.info("Failed to describe VPCs: " + ex.getMessage());
            throw new RuntimeException("Failed to describe VPCs", ex);
        });
    }

    /**
     * Stops the EC2 instance with the specified ID asynchronously and waits for the
instance to stop.
     *
     * @param instanceId the ID of the EC2 instance to stop
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the instance has been
stopped, or exceptionally if an error occurs
     */
    public CompletableFuture<Void> stopInstanceAsync(String instanceId) {
        StopInstancesRequest stopRequest = StopInstancesRequest.builder()
            .instanceIds(instanceId)
            .build();

        DescribeInstancesRequest describeRequest =
DescribeInstancesRequest.builder()
            .instanceIds(instanceId)
            .build();

        Ec2AsyncWaiter ec2Waiter = Ec2AsyncWaiter.builder()
            .client(getAsyncClient())
            .build();

        CompletableFuture<Void> resultFuture = new CompletableFuture<>();
        logger.info("Stopping instance " + instanceId + " and waiting for it to
stop.");
```

```
        getAsyncClient().stopInstances(stopRequest)
            .thenCompose(response -> {
                if (response.stoppingInstances().isEmpty()) {
                    return CompletableFuture.failedFuture(new RuntimeException("No
instances were stopped. Please check the instance ID: " + instanceId));
                }
                return ec2Waiter.waitUntilInstanceStopped(describeRequest);
            })
            .thenAccept(waiterResponse -> {
                logger.info("Successfully stopped instance " + instanceId);
                resultFuture.complete(null);
            })
            .exceptionally(throwable -> {
                logger.error("Failed to stop instance " + instanceId + ": " +
throwable.getMessage(), throwable);
                resultFuture.completeExceptionally(new RuntimeException("Failed to
stop instance: " + throwable.getMessage(), throwable));
                return null;
            });

        return resultFuture;
    }

    /**
     * Starts an Amazon EC2 instance asynchronously and waits until it is in the
"running" state.
     *
     * @param instanceId the ID of the instance to start
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the instance has been
started and is in the "running" state, or exceptionally if an error occurs
     */
    public CompletableFuture<Void> startInstanceAsync(String instanceId) {
        StartInstancesRequest startRequest = StartInstancesRequest.builder()
            .instanceIds(instanceId)
            .build();

        Ec2AsyncWaiter ec2Waiter = Ec2AsyncWaiter.builder()
            .client(getAsyncClient())
            .build();

        DescribeInstancesRequest describeRequest =
DescribeInstancesRequest.builder()
            .instanceIds(instanceId)
            .build();
```

```
        logger.info("Starting instance " + instanceId + " and waiting for it to
 run.");
        CompletableFuture<Void> resultFuture = new CompletableFuture<>();
        return getAsyncClient().startInstances(startRequest)
            .thenCompose(response ->
                ec2Waiter.waitUntilInstanceRunning(describeRequest)
            )
            .thenAccept(waiterResponse -> {
                logger.info("Successfully started instance " + instanceId);
                resultFuture.complete(null);
            })
            .exceptionally(throwable -> {
                resultFuture.completeExceptionally(new RuntimeException("Failed to
 start instance: " + throwable.getMessage(), throwable));
                return null;
            });
    }

}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - AllocateAddress
  - AssociateAddress
  - AuthorizeSecurityGroupIngress
  - CreateKeyPair
  - CreateSecurityGroup
  - DeleteKeyPair
  - DeleteSecurityGroup
  - DescribeImages
  - DescribeInstanceTypes
  - DescribeInstances
  - DescribeKeyPairs
  - DescribeSecurityGroups
  - DisassociateAddress

- ReleaseAddress
- RunInstances
- StartInstances
- StopInstances
- TerminateInstances
- UnmonitorInstances

アクション

`AllocateAddress`

次のコード例は、`AllocateAddress` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Allocates an Elastic IP address asynchronously in the VPC domain.
    *
    * @return a {@link CompletableFuture} containing the allocation ID of the
allocated Elastic IP address
    */
   public CompletableFuture<String> allocateAddressAsync() {
       AllocateAddressRequest allocateRequest = AllocateAddressRequest.builder()
           .domain(DomainType.VPC)
           .build();

       CompletableFuture<AllocateAddressResponse> responseFuture =
getAsyncClient().allocateAddress(allocateRequest);
       return
responseFuture.thenApply(AllocateAddressResponse::allocationId).whenComplete((result,
ex) -> {
           if (ex != null) {
               throw new RuntimeException("Failed to allocate address", ex);
```

```
            }
        });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「AllocateAddress」を参照してください。

`AssociateAddress`

次のコード例は、`AssociateAddress` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Associates an Elastic IP address with an EC2 instance asynchronously.
     *
     * @param instanceId    the ID of the EC2 instance to associate the Elastic IP
address with
     * @param allocationId  the allocation ID of the Elastic IP address to associate
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes with the association ID
when the operation is successful,
     *         or throws a {@link RuntimeException} if the operation fails
     */
    public CompletableFuture<String> associateAddressAsync(String instanceId, String
allocationId) {
        AssociateAddressRequest associateRequest = AssociateAddressRequest.builder()
            .instanceId(instanceId)
            .allocationId(allocationId)
            .build();

        CompletableFuture<AssociateAddressResponse> responseFuture =
getAsyncClient().associateAddress(associateRequest);
        return responseFuture.thenApply(response -> {
            if (response.associationId() != null) {
```

```
                return response.associationId();
            } else {
                throw new RuntimeException("Association ID is null after associating
address.");
            }
        }).whenComplete((result, ex) -> {
            if (ex != null) {
                throw new RuntimeException("Failed to associate address", ex);
            }
        });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「AssociateAddress」を参照してください。

`AuthorizeSecurityGroupIngress`

次のコード例は、`AuthorizeSecurityGroupIngress` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Creates a new security group asynchronously with the specified group name,
description, and VPC ID. It also
     * authorizes inbound traffic on ports 80 and 22 from the specified IP address.
     *
     * @param groupName    the name of the security group to create
     * @param groupDesc    the description of the security group
     * @param vpcId        the ID of the VPC in which to create the security group
     * @param myIpAddress  the IP address from which to allow inbound traffic (e.g.,
"192.168.1.1/0" to allow traffic from
     *                     any IP address in the 192.168.1.0/24 subnet)
     * @return a CompletableFuture that, when completed, returns the ID of the
created security group
```

```
     * @throws RuntimeException if there was a failure creating the security group
or authorizing the inbound traffic
     */
    public CompletableFuture<String> createSecurityGroupAsync(String groupName,
String groupDesc, String vpcId, String myIpAddress) {
        CreateSecurityGroupRequest createRequest =
CreateSecurityGroupRequest.builder()
            .groupName(groupName)
            .description(groupDesc)
            .vpcId(vpcId)
            .build();

        return getAsyncClient().createSecurityGroup(createRequest)
            .thenCompose(createResponse -> {
                String groupId = createResponse.groupId();
                IpRange ipRange = IpRange.builder()
                    .cidrIp(myIpAddress + "/32")
                    .build();

                IpPermission ipPerm = IpPermission.builder()
                    .ipProtocol("tcp")
                    .toPort(80)
                    .fromPort(80)
                    .ipRanges(ipRange)
                    .build();

                IpPermission ipPerm2 = IpPermission.builder()
                    .ipProtocol("tcp")
                    .toPort(22)
                    .fromPort(22)
                    .ipRanges(ipRange)
                    .build();

                AuthorizeSecurityGroupIngressRequest authRequest =
AuthorizeSecurityGroupIngressRequest.builder()
                    .groupName(groupName)
                    .ipPermissions(ipPerm, ipPerm2)
                    .build();

                return getAsyncClient().authorizeSecurityGroupIngress(authRequest)
                    .thenApply(authResponse -> groupId);
            })
            .whenComplete((result, exception) -> {
                if (exception != null) {
```

```
                    if (exception instanceof CompletionException &&
exception.getCause() instanceof Ec2Exception) {
                        throw (Ec2Exception) exception.getCause();
                    } else {
                        throw new RuntimeException("Failed to create security group:
" + exception.getMessage(), exception);
                    }
                }
            });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「AuthorizeSecurityGroupIngress」を参照してください。

`CreateKeyPair`

次のコード例は、`CreateKeyPair` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Creates a new key pair asynchronously.
     *
     * @param keyName the name of the key pair to create
     * @param fileName the name of the file to write the key material to
     * @return a {@link CompletableFuture} that represents the asynchronous
operation
     *         of creating the key pair and writing the key material to a file
     */
    public CompletableFuture<CreateKeyPairResponse> createKeyPairAsync(String
keyName, String fileName) {
        CreateKeyPairRequest request = CreateKeyPairRequest.builder()
            .keyName(keyName)
            .build();
```

```
        CompletableFuture<CreateKeyPairResponse> responseFuture =
getAsyncClient().createKeyPair(request);
        responseFuture.whenComplete((response, exception) -> {
            if (response != null) {
                try {
                    BufferedWriter writer = new BufferedWriter(new
FileWriter(fileName));
                    writer.write(response.keyMaterial());
                    writer.close();
                } catch (IOException e) {
                    throw new RuntimeException("Failed to write key material to
file: " + e.getMessage(), e);
                }
            } else {
                throw new RuntimeException("Failed to create key pair: " +
exception.getMessage(), exception);
            }
        });

        return responseFuture;
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateKeyPair」を参照してください。

`CreateSecurityGroup`

次のコード例は、`CreateSecurityGroup` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
```

```
    * Creates a new security group asynchronously with the specified group name,
description, and VPC ID. It also
    * authorizes inbound traffic on ports 80 and 22 from the specified IP address.
    *
    * @param groupName    the name of the security group to create
    * @param groupDesc    the description of the security group
    * @param vpcId        the ID of the VPC in which to create the security group
    * @param myIpAddress  the IP address from which to allow inbound traffic (e.g.,
"192.168.1.1/0" to allow traffic from
    *                     any IP address in the 192.168.1.0/24 subnet)
    * @return a CompletableFuture that, when completed, returns the ID of the
created security group
    * @throws RuntimeException if there was a failure creating the security group
or authorizing the inbound traffic
    */
   public CompletableFuture<String> createSecurityGroupAsync(String groupName,
String groupDesc, String vpcId, String myIpAddress) {
       CreateSecurityGroupRequest createRequest =
CreateSecurityGroupRequest.builder()
           .groupName(groupName)
           .description(groupDesc)
           .vpcId(vpcId)
           .build();

       return getAsyncClient().createSecurityGroup(createRequest)
           .thenCompose(createResponse -> {
               String groupId = createResponse.groupId();
               IpRange ipRange = IpRange.builder()
                   .cidrIp(myIpAddress + "/32")
                   .build();

               IpPermission ipPerm = IpPermission.builder()
                   .ipProtocol("tcp")
                   .toPort(80)
                   .fromPort(80)
                   .ipRanges(ipRange)
                   .build();

               IpPermission ipPerm2 = IpPermission.builder()
                   .ipProtocol("tcp")
                   .toPort(22)
                   .fromPort(22)
                   .ipRanges(ipRange)
                   .build();
```

```
                AuthorizeSecurityGroupIngressRequest authRequest =
AuthorizeSecurityGroupIngressRequest.builder()
                    .groupName(groupName)
                    .ipPermissions(ipPerm, ipPerm2)
                    .build();

                return getAsyncClient().authorizeSecurityGroupIngress(authRequest)
                    .thenApply(authResponse -> groupId);
            })
            .whenComplete((result, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    if (exception instanceof CompletionException &&
exception.getCause() instanceof Ec2Exception) {
                        throw (Ec2Exception) exception.getCause();
                    } else {
                        throw new RuntimeException("Failed to create security group:
" + exception.getMessage(), exception);
                    }
                }
            });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateSecurityGroup」を参照してください。

`DeleteKeyPair`

次のコード例は、`DeleteKeyPair` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Deletes a key pair asynchronously.
```

```
    *
    * @param keyPair the name of the key pair to delete
    * @return a {@link CompletableFuture} that represents the result of the
asynchronous operation.
    *         The {@link CompletableFuture} will complete with a {@link
DeleteKeyPairResponse} object
    *         that provides the result of the key pair deletion operation.
    */
   public CompletableFuture<DeleteKeyPairResponse> deleteKeysAsync(String keyPair)
{
       DeleteKeyPairRequest request = DeleteKeyPairRequest.builder()
           .keyName(keyPair)
           .build();

       // Initiate the asynchronous request to delete the key pair.
       CompletableFuture<DeleteKeyPairResponse> response =
getAsyncClient().deleteKeyPair(request);
       return response.whenComplete((resp, ex) -> {
           if (ex != null) {
               throw new RuntimeException("Failed to delete key pair: " + keyPair,
ex);
           } else if (resp == null) {
               throw new RuntimeException("No response received for deleting key
pair: " + keyPair);
           }
       });
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteKeyPair」を参照してください。

DeleteSecurityGroup

次のコード例は、DeleteSecurityGroup を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Deletes an EC2 security group asynchronously.
     *
     * @param groupId the ID of the security group to delete
     * @return a CompletableFuture that completes when the security group is deleted
     */
    public CompletableFuture<Void> deleteEC2SecGroupAsync(String groupId) {
        DeleteSecurityGroupRequest request = DeleteSecurityGroupRequest.builder()
            .groupId(groupId)
            .build();

        CompletableFuture<DeleteSecurityGroupResponse> response =
getAsyncClient().deleteSecurityGroup(request);
        return response.whenComplete((resp, ex) -> {
            if (ex != null) {
                throw new RuntimeException("Failed to delete security group with Id
" + groupId, ex);
            } else if (resp == null) {
                throw new RuntimeException("No response received for deleting
security group with Id " + groupId);
            }
        }).thenApply(resp -> null);
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteSecurityGroup」を参照してください。

`DescribeInstanceTypes`

次のコード例は、`DescribeInstanceTypes` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Asynchronously retrieves the instance types available in the current AWS
region.
    * <p>
    * This method uses the AWS SDK's asynchronous API to fetch the available
instance types
    * and then processes the response. It logs the memory information, network
information,
    * and instance type for each instance type returned. Additionally, it returns a
    * {@link CompletableFuture} that resolves to the instance type string for the
"t2.2xlarge"
    * instance type, if it is found in the response. If the "t2.2xlarge" instance
type is not
    * found, an empty string is returned.
    * </p>
    *
    * @return a {@link CompletableFuture} that resolves to the instance type string
for the
    * "t2.2xlarge" instance type, or an empty string if the instance type is not
found
    */
   public CompletableFuture<String> getInstanceTypesAsync() {
       DescribeInstanceTypesRequest typesRequest =
DescribeInstanceTypesRequest.builder()
           .maxResults(10)
           .build();

       CompletableFuture<DescribeInstanceTypesResponse> response =
getAsyncClient().describeInstanceTypes(typesRequest);
       response.whenComplete((resp, ex) -> {
           if (resp != null) {
               List<InstanceTypeInfo> instanceTypes = resp.instanceTypes();
               for (InstanceTypeInfo type : instanceTypes) {
```

```
                    logger.info("The memory information of this type is " +
type.memoryInfo().sizeInMiB());
                    logger.info("Network information is " +
type.networkInfo().toString());
                    logger.info("Instance type is " +
type.instanceType().toString());
                }
            } else {
                throw (RuntimeException) ex;
            }
        });

        return response.thenApply(resp -> {
            for (InstanceTypeInfo type : resp.instanceTypes()) {
                String instanceType = type.instanceType().toString();
                if (instanceType.equals("t2.2xlarge")) {
                    return instanceType;
                }
            }
            return "";
        });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeInstanceTypes」を参照してください。

`DescribeInstances`

次のコード例は、`DescribeInstances` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Asynchronously describes the state of an EC2 instance.
```

```
    * The paginator helps you iterate over multiple pages of results.
    *
    * @param newInstanceId the ID of the EC2 instance to describe
    * @return a {@link CompletableFuture} that, when completed, contains a string
describing the state of the EC2 instance
    */
   public CompletableFuture<String> describeEC2InstancesAsync(String newInstanceId)
{
       DescribeInstancesRequest request = DescribeInstancesRequest.builder()
           .instanceIds(newInstanceId)
           .build();

       DescribeInstancesPublisher paginator =
getAsyncClient().describeInstancesPaginator(request);
       AtomicReference<String> publicIpAddressRef = new AtomicReference<>();
       return paginator.subscribe(response -> {
           response.reservations().stream()
               .flatMap(reservation -> reservation.instances().stream())
               .filter(instance -> instance.instanceId().equals(newInstanceId))
               .findFirst()
               .ifPresent(instance ->
publicIpAddressRef.set(instance.publicIpAddress()));
       }).thenApply(v -> {
           String publicIpAddress = publicIpAddressRef.get();
           if (publicIpAddress == null) {
               throw new RuntimeException("Instance with ID " + newInstanceId + "
not found.");
           }
           return publicIpAddress;
       }).exceptionally(ex -> {
           logger.info("Failed to describe instances: " + ex.getMessage());
           throw new RuntimeException("Failed to describe instances", ex);
       });
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeInstances」を参照してください。

DescribeKeyPairs

次のコード例は、DescribeKeyPairs を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Asynchronously describes the key pairs associated with the current AWS
account.
     *
     * @return a {@link CompletableFuture} containing the {@link
DescribeKeyPairsResponse} object, which provides
     * information about the key pairs.
     */
    public CompletableFuture<DescribeKeyPairsResponse> describeKeysAsync() {
        CompletableFuture<DescribeKeyPairsResponse> responseFuture =
getAsyncClient().describeKeyPairs();
        responseFuture.whenComplete((response, exception) -> {
            if (exception != null) {
              throw new RuntimeException("Failed to describe key pairs: " +
exception.getMessage(), exception);
            }
        });

        return responseFuture;
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeKeyPairs」を参照してください。

`DescribeSecurityGroups`

次のコード例は、`DescribeSecurityGroups` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Asynchronously describes the security groups for the specified group ID.
    *
    * @param groupName the name of the security group to describe
    * @return a {@link CompletableFuture} that represents the asynchronous
operation
    *         of describing the security groups. The future will complete with a
    *         {@link DescribeSecurityGroupsResponse} object that contains the
    *         security group information.
    */
   public CompletableFuture<String> describeSecurityGroupArnByNameAsync(String
groupName) {
       DescribeSecurityGroupsRequest request =
DescribeSecurityGroupsRequest.builder()
           .groupNames(groupName)
           .build();

       DescribeSecurityGroupsPublisher paginator =
getAsyncClient().describeSecurityGroupsPaginator(request);
       AtomicReference<String> groupIdRef = new AtomicReference<>();
       return paginator.subscribe(response -> {
           response.securityGroups().stream()
               .filter(securityGroup ->
securityGroup.groupName().equals(groupName))
               .findFirst()
               .ifPresent(securityGroup ->
groupIdRef.set(securityGroup.groupId()));
       }).thenApply(v -> {
           String groupId = groupIdRef.get();
           if (groupId == null) {
               throw new RuntimeException("No security group found with the name: "
+ groupName);
           }
```

```
            return groupId;
        }).exceptionally(ex -> {
            logger.info("Failed to describe security group: " + ex.getMessage());
            throw new RuntimeException("Failed to describe security group", ex);
        });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeSecurityGroups」を参照してください。

`DisassociateAddress`

次のコード例は、`DisassociateAddress` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Disassociates an Elastic IP address from an instance asynchronously.
     *
     * @param associationId The ID of the association you want to disassociate.
     * @return a {@link CompletableFuture} representing the asynchronous operation
of disassociating the address. The
     *         {@link CompletableFuture} will complete with a {@link
DisassociateAddressResponse} when the operation is
     *         finished.
     * @throws RuntimeException if the disassociation of the address fails.
     */
    public CompletableFuture<DisassociateAddressResponse>
disassociateAddressAsync(String associationId) {
        Ec2AsyncClient ec2 = getAsyncClient();
        DisassociateAddressRequest addressRequest =
DisassociateAddressRequest.builder()
            .associationId(associationId)
            .build();
```

```
        // Disassociate the address asynchronously.
        CompletableFuture<DisassociateAddressResponse> response =
ec2.disassociateAddress(addressRequest);
        response.whenComplete((resp, ex) -> {
            if (ex != null) {
               throw new RuntimeException("Failed to disassociate address", ex);
            }
        });

        return response;
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DisassociateAddress」を参照してください。

`GetPasswordData`

次のコード例は、`GetPasswordData` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.Ec2AsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.*;
import java.util.concurrent.CompletableFuture;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
```

```
 */
public class GetPasswordData {

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                   <instanceId>

                Where:
                   instanceId - An instance id value that you can obtain from the
 AWS Management Console.\s
             """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }
        String instanceId = args[0];
        Ec2AsyncClient ec2AsyncClient = Ec2AsyncClient.builder()
            .region(Region.US_EAST_1)
            .build();

        try {
            CompletableFuture<Void> future = getPasswordDataAsync(ec2AsyncClient,
 instanceId);
            future.join();
        } catch (RuntimeException rte) {
            System.err.println("An exception occurred: " + (rte.getCause() != null ?
 rte.getCause().getMessage() : rte.getMessage()));
        }
    }

    /**
     * Fetches the password data for the specified EC2 instance asynchronously.
     *
     * @param ec2AsyncClient the EC2 asynchronous client to use for the request
     * @param instanceId instanceId the ID of the EC2 instance for which you want to
 fetch the password data
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the password data has
 been fetched
     * @throws RuntimeException if there was a failure in fetching the password data
     */
```

```
    public static CompletableFuture<Void> getPasswordDataAsync(Ec2AsyncClient
 ec2AsyncClient, String instanceId) {
        GetPasswordDataRequest getPasswordDataRequest =
 GetPasswordDataRequest.builder()
            .instanceId(instanceId)
            .build();


        CompletableFuture<GetPasswordDataResponse> response =
 ec2AsyncClient.getPasswordData(getPasswordDataRequest);
        response.whenComplete((getPasswordDataResponse, ex) -> {
            if (ex != null) {
                throw new RuntimeException("Failed to get password data for
 instance: " + instanceId, ex);
            } else if (getPasswordDataResponse == null ||
 getPasswordDataResponse.passwordData().isEmpty()) {
                throw new RuntimeException("No password data found for instance: " +
 instanceId);
            } else {
                String encryptedPasswordData =
 getPasswordDataResponse.passwordData();
                System.out.println("Encrypted Password Data: " +
 encryptedPasswordData);
            }
        });

        return response.thenApply(resp -> null);
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetPasswordData」を参照してください。

ReleaseAddress

次のコード例は、ReleaseAddress を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Releases an Elastic IP address asynchronously.
     *
     * @param allocId the allocation ID of the Elastic IP address to be released
     * @return a {@link CompletableFuture} representing the asynchronous operation
of releasing the Elastic IP address
     */
    public CompletableFuture<ReleaseAddressResponse> releaseEC2AddressAsync(String
allocId) {
        ReleaseAddressRequest request = ReleaseAddressRequest.builder()
            .allocationId(allocId)
            .build();

        CompletableFuture<ReleaseAddressResponse> response =
getAsyncClient().releaseAddress(request);
        response.whenComplete((resp, ex) -> {
            if (ex != null) {
                throw new RuntimeException("Failed to release Elastic IP address",
ex);
            }
        });

        return response;
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ReleaseAddress」を参照してください。

`RunInstances`

次のコード例は、`RunInstances` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Runs an EC2 instance asynchronously.
    *
    * @param instanceType The instance type to use for the EC2 instance.
    * @param keyName The name of the key pair to associate with the EC2 instance.
    * @param groupName The name of the security group to associate with the EC2
instance.
    * @param amiId The ID of the Amazon Machine Image (AMI) to use for the EC2
instance.
    * @return A {@link CompletableFuture} that completes with the ID of the started
EC2 instance.
    * @throws RuntimeException If there is an error running the EC2 instance.
    */
   public CompletableFuture<String> runInstanceAsync(String instanceType, String
keyName, String groupName, String amiId) {
       RunInstancesRequest runRequest = RunInstancesRequest.builder()
           .instanceType(instanceType)
           .keyName(keyName)
           .securityGroups(groupName)
           .maxCount(1)
           .minCount(1)
           .imageId(amiId)
           .build();

       CompletableFuture<RunInstancesResponse> responseFuture =
getAsyncClient().runInstances(runRequest);
       return responseFuture.thenCompose(response -> {
           String instanceIdVal = response.instances().get(0).instanceId();
           System.out.println("Going to start an EC2 instance and use a waiter to
wait for it to be in running state");
           return getAsyncClient().waiter()
               .waitUntilInstanceExists(r -> r.instanceIds(instanceIdVal))
               .thenCompose(waitResponse -> getAsyncClient().waiter()
                   .waitUntilInstanceRunning(r -> r.instanceIds(instanceIdVal))
```

```
                    .thenApply(runningResponse -> instanceIdVal));
        }).exceptionally(throwable -> {
            // Handle any exceptions that occurred during the async call
            throw new RuntimeException("Failed to run EC2 instance: " +
throwable.getMessage(), throwable);
        });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「RunInstances」を参照してください。

`StartInstances`

次のコード例は、`StartInstances` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Starts an Amazon EC2 instance asynchronously and waits until it is in the
"running" state.
     *
     * @param instanceId the ID of the instance to start
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the instance has been
started and is in the "running" state, or exceptionally if an error occurs
     */
    public CompletableFuture<Void> startInstanceAsync(String instanceId) {
        StartInstancesRequest startRequest = StartInstancesRequest.builder()
            .instanceIds(instanceId)
            .build();

        Ec2AsyncWaiter ec2Waiter = Ec2AsyncWaiter.builder()
            .client(getAsyncClient())
            .build();
```

```
        DescribeInstancesRequest describeRequest =
DescribeInstancesRequest.builder()
            .instanceIds(instanceId)
            .build();

        logger.info("Starting instance " + instanceId + " and waiting for it to
run.");
        CompletableFuture<Void> resultFuture = new CompletableFuture<>();
        return getAsyncClient().startInstances(startRequest)
            .thenCompose(response ->
                ec2Waiter.waitUntilInstanceRunning(describeRequest)
            )
            .thenAccept(waiterResponse -> {
                logger.info("Successfully started instance " + instanceId);
                resultFuture.complete(null);
            })
            .exceptionally(throwable -> {
                resultFuture.completeExceptionally(new RuntimeException("Failed to
start instance: " + throwable.getMessage(), throwable));
                return null;
            });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「StartInstances」を参照してください。

`StopInstances`

次のコード例は、`StopInstances` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
```

```
    * Stops the EC2 instance with the specified ID asynchronously and waits for the
instance to stop.
    *
    * @param instanceId the ID of the EC2 instance to stop
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the instance has been
stopped, or exceptionally if an error occurs
    */
   public CompletableFuture<Void> stopInstanceAsync(String instanceId) {
       StopInstancesRequest stopRequest = StopInstancesRequest.builder()
           .instanceIds(instanceId)
           .build();

       DescribeInstancesRequest describeRequest =
DescribeInstancesRequest.builder()
           .instanceIds(instanceId)
           .build();

       Ec2AsyncWaiter ec2Waiter = Ec2AsyncWaiter.builder()
           .client(getAsyncClient())
           .build();

       CompletableFuture<Void> resultFuture = new CompletableFuture<>();
       logger.info("Stopping instance " + instanceId + " and waiting for it to
stop.");
       getAsyncClient().stopInstances(stopRequest)
           .thenCompose(response -> {
               if (response.stoppingInstances().isEmpty()) {
                   return CompletableFuture.failedFuture(new RuntimeException("No
instances were stopped. Please check the instance ID: " + instanceId));
               }
               return ec2Waiter.waitUntilInstanceStopped(describeRequest);
           })
           .thenAccept(waiterResponse -> {
               logger.info("Successfully stopped instance " + instanceId);
               resultFuture.complete(null);
           })
           .exceptionally(throwable -> {
               logger.error("Failed to stop instance " + instanceId + ": " +
throwable.getMessage(), throwable);
               resultFuture.completeExceptionally(new RuntimeException("Failed to
stop instance: " + throwable.getMessage(), throwable));
               return null;
           });
```

```
        return resultFuture;
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「StopInstances」を参照してください。

`TerminateInstances`

次のコード例は、`TerminateInstances` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Terminates an EC2 instance asynchronously and waits for it to reach the
terminated state.
     *
     * @param instanceId the ID of the EC2 instance to terminate
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the instance has been
terminated
     * @throws RuntimeException if there is no response from the AWS SDK or if there
is a failure during the termination process
     */
    public CompletableFuture<Object> terminateEC2Async(String instanceId) {
        TerminateInstancesRequest terminateRequest =
TerminateInstancesRequest.builder()
            .instanceIds(instanceId)
            .build();

        CompletableFuture<TerminateInstancesResponse> responseFuture =
getAsyncClient().terminateInstances(terminateRequest);
        return responseFuture.thenCompose(terminateResponse -> {
            if (terminateResponse == null) {
                throw new RuntimeException("No response received for terminating
instance " + instanceId);
```

```
            }
            System.out.println("Going to terminate an EC2 instance and use a waiter
to wait for it to be in terminated state");
            return getAsyncClient().waiter()
                .waitUntilInstanceTerminated(r -> r.instanceIds(instanceId))
                .thenApply(waiterResponse -> null);
        }).exceptionally(throwable -> {
            // Handle any exceptions that occurred during the async call
            throw new RuntimeException("Failed to terminate EC2 instance: " +
throwable.getMessage(), throwable);
        });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「TerminateInstances」を参照してください。

シナリオ

レジリエントなサービスの構築と管理

次のコード例は、本、映画、曲のレコメンデーションを返す負荷分散型ウェブサービスの作成方法を示しています。この例は、障害に対するサービスの対応方法と、障害発生時の耐障害性を高めるためにサービスを再構築する方法を示しています。

- Amazon EC2 Auto Scaling グループを使用して、起動テンプレートに基づいて Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスを作成し、インスタンス数を所定の範囲内に維持します。
- Elastic Load Balancing で HTTP リクエストを処理して配信します。
- Auto Scaling グループ内のインスタンスの状態を監視し、正常なインスタンスにのみリクエストを転送します。
- 各 EC2 インスタンスで Python ウェブサーバーを実行して HTTP リクエストを処理します。ウェブサーバーはレコメンデーションとヘルスチェックを返します。
- Amazon DynamoDB テーブルを使用してレコメンデーションサービスをシミュレートできます。
- AWS Systems Manager パラメータを更新して、リクエストとヘルスチェックに対するウェブサーバーの応答を制御します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

コマンドプロンプトからインタラクティブなシナリオを実行します。

```
public class Main {

    public static final String fileName = "C:\\AWS\\resworkflow\
\recommendations.json"; // Modify file location.
    public static final String tableName = "doc-example-recommendation-service";
    public static final String startScript = "C:\\AWS\\resworkflow\
\server_startup_script.sh"; // Modify file location.
    public static final String policyFile = "C:\\AWS\\resworkflow\
\instance_policy.json"; // Modify file location.
    public static final String ssmJSON = "C:\\AWS\\resworkflow\
\ssm_only_policy.json"; // Modify file location.
    public static final String failureResponse = "doc-example-resilient-
architecture-failure-response";
    public static final String healthCheck = "doc-example-resilient-architecture-
health-check";
    public static final String templateName = "doc-example-resilience-template";
    public static final String roleName = "doc-example-resilience-role";
    public static final String policyName = "doc-example-resilience-pol";
    public static final String profileName = "doc-example-resilience-prof";

    public static final String badCredsProfileName = "doc-example-resilience-prof-
bc";

    public static final String targetGroupName = "doc-example-resilience-tg";
    public static final String autoScalingGroupName = "doc-example-resilience-
group";
    public static final String lbName = "doc-example-resilience-lb";
    public static final String protocol = "HTTP";
    public static final int port = 80;

    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");
```

```
   public static void main(String[] args) throws IOException, InterruptedException
{
       Scanner in = new Scanner(System.in);
       Database database = new Database();
       AutoScaler autoScaler = new AutoScaler();
       LoadBalancer loadBalancer = new LoadBalancer();

       System.out.println(DASHES);
       System.out.println("Welcome to the demonstration of How to Build and Manage
a Resilient Service!");
       System.out.println(DASHES);

       System.out.println(DASHES);
       System.out.println("A - SETUP THE RESOURCES");
       System.out.println("Press Enter when you're ready to start deploying
resources.");
       in.nextLine();
       deploy(loadBalancer);
       System.out.println(DASHES);
       System.out.println(DASHES);
       System.out.println("B - DEMO THE RESILIENCE FUNCTIONALITY");
       System.out.println("Press Enter when you're ready.");
       in.nextLine();
       demo(loadBalancer);
       System.out.println(DASHES);

       System.out.println(DASHES);
       System.out.println("C - DELETE THE RESOURCES");
       System.out.println("""
               This concludes the demo of how to build and manage a resilient
service.
               To keep things tidy and to avoid unwanted charges on your account,
we can clean up all AWS resources
               that were created for this demo.
               """);

       System.out.println("\n Do you want to delete the resources (y/n)? ");
       String userInput = in.nextLine().trim().toLowerCase(); // Capture user input

       if (userInput.equals("y")) {
           // Delete resources here
           deleteResources(loadBalancer, autoScaler, database);
           System.out.println("Resources deleted.");
       } else {
```

```
            System.out.println("""
                    Okay, we'll leave the resources intact.
                    Don't forget to delete them when you're done with them or you
might incur unexpected charges.
                    """);
        }
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("The example has completed. ");
        System.out.println("\n Thanks for watching!");
        System.out.println(DASHES);
    }

    // Deletes the AWS resources used in this example.
    private static void deleteResources(LoadBalancer loadBalancer, AutoScaler
autoScaler, Database database)
            throws IOException, InterruptedException {
        loadBalancer.deleteLoadBalancer(lbName);
        System.out.println("*** Wait 30 secs for resource to be deleted");
        TimeUnit.SECONDS.sleep(30);
        loadBalancer.deleteTargetGroup(targetGroupName);
        autoScaler.deleteAutoScaleGroup(autoScalingGroupName);
        autoScaler.deleteRolesPolicies(policyName, roleName, profileName);
        autoScaler.deleteTemplate(templateName);
        database.deleteTable(tableName);
    }

    private static void deploy(LoadBalancer loadBalancer) throws
InterruptedException, IOException {
        Scanner in = new Scanner(System.in);
        System.out.println(
                """
                        For this demo, we'll use the AWS SDK for Java (v2) to create
several AWS resources
                        to set up a load-balanced web service endpoint and explore
some ways to make it resilient
                        against various kinds of failures.

                        Some of the resources create by this demo are:
                        \t* A DynamoDB table that the web service depends on to
provide book, movie, and song recommendations.
                        \t* An EC2 launch template that defines EC2 instances that
each contain a Python web server.
```

```
                        \t* An EC2 Auto Scaling group that manages EC2 instances
across several Availability Zones.
                        \t* An Elastic Load Balancing (ELB) load balancer that
targets the Auto Scaling group to distribute requests.
                        """);

        System.out.println("Press Enter when you're ready.");
        in.nextLine();
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("Creating and populating a DynamoDB table named " +
tableName);
        Database database = new Database();
        database.createTable(tableName, fileName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("""
                Creating an EC2 launch template that runs '{startup_script}' when an
instance starts.
                This script starts a Python web server defined in the `server.py`
script. The web server
                listens to HTTP requests on port 80 and responds to requests to '/'
and to '/healthcheck'.
                For demo purposes, this server is run as the root user. In
production, the best practice is to
                run a web server, such as Apache, with least-privileged credentials.

                The template also defines an IAM policy that each instance uses to
assume a role that grants
                permissions to access the DynamoDB recommendation table and Systems
Manager parameters
                that control the flow of the demo.
                """);

        LaunchTemplateCreator templateCreator = new LaunchTemplateCreator();
        templateCreator.createTemplate(policyFile, policyName, profileName,
startScript, templateName, roleName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println(
```

```
                "Creating an EC2 Auto Scaling group that maintains three EC2
instances, each in a different Availability Zone.");
        System.out.println("*** Wait 30 secs for the VPC to be created");
        TimeUnit.SECONDS.sleep(30);
        AutoScaler autoScaler = new AutoScaler();
        String[] zones = autoScaler.createGroup(3, templateName,
autoScalingGroupName);

        System.out.println("""
                At this point, you have EC2 instances created. Once each instance
starts, it listens for
                HTTP requests. You can see these instances in the console or
continue with the demo.
                Press Enter when you're ready to continue.
                """);

        in.nextLine();
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("Creating variables that control the flow of the demo.");
        ParameterHelper paramHelper = new ParameterHelper();
        paramHelper.reset();
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("""
                Creating an Elastic Load Balancing target group and load balancer.
The target group
                defines how the load balancer connects to instances. The load
balancer provides a
                single endpoint where clients connect and dispatches requests to
instances in the group.
                """);

        String vpcId = autoScaler.getDefaultVPC();
        List<Subnet> subnets = autoScaler.getSubnets(vpcId, zones);
        System.out.println("You have retrieved a list with " + subnets.size() + "
subnets");
        String targetGroupArn = loadBalancer.createTargetGroup(protocol, port,
vpcId, targetGroupName);
        String elbDnsName = loadBalancer.createLoadBalancer(subnets, targetGroupArn,
lbName, port, protocol);
```

```
        autoScaler.attachLoadBalancerTargetGroup(autoScalingGroupName,
targetGroupArn);
        System.out.println("Verifying access to the load balancer endpoint...");
        boolean wasSuccessul = loadBalancer.verifyLoadBalancerEndpoint(elbDnsName);
        if (!wasSuccessul) {
            System.out.println("Couldn't connect to the load balancer, verifying
that the port is open...");
            CloseableHttpClient httpClient = HttpClients.createDefault();

            // Create an HTTP GET request to "http://checkip.amazonaws.com"
            HttpGet httpGet = new HttpGet("http://checkip.amazonaws.com");
            try {
                // Execute the request and get the response
                HttpResponse response = httpClient.execute(httpGet);

                // Read the response content.
                String ipAddress =
IOUtils.toString(response.getEntity().getContent(), StandardCharsets.UTF_8).trim();

                // Print the public IP address.
                System.out.println("Public IP Address: " + ipAddress);
                GroupInfo groupInfo = autoScaler.verifyInboundPort(vpcId, port,
ipAddress);
                if (!groupInfo.isPortOpen()) {
                    System.out.println("""
                            For this example to work, the default security group for
your default VPC must
                            allow access from this computer. You can either add it
automatically from this
                            example or add it yourself using the AWS Management
Console.
                            """);

                    System.out.println(
                            "Do you want to add a rule to security group " +
groupInfo.getGroupName() + " to allow");
                    System.out.println("inbound traffic on port " + port + " from
your computer's IP address (y/n) ");
                    String ans = in.nextLine();
                    if ("y".equalsIgnoreCase(ans)) {
                        autoScaler.openInboundPort(groupInfo.getGroupName(),
String.valueOf(port), ipAddress);
                        System.out.println("Security group rule added.");
                    } else {
```

```
                        System.out.println("No security group rule added.");
                    }
                }

            } catch (AutoScalingException e) {
                e.printStackTrace();
            }
        } else if (wasSuccessul) {
            System.out.println("Your load balancer is ready. You can access it by
browsing to:");
            System.out.println("\t http://" + elbDnsName);
        } else {
            System.out.println("Couldn't get a successful response from the load
balancer endpoint. Troubleshoot by");
            System.out.println("manually verifying that your VPC and security group
are configured correctly and that");
            System.out.println("you can successfully make a GET request to the load
balancer.");
        }

        System.out.println("Press Enter when you're ready to continue with the
demo.");
        in.nextLine();
    }

    // A method that controls the demo part of the Java program.
    public static void demo(LoadBalancer loadBalancer) throws IOException,
InterruptedException {
        ParameterHelper paramHelper = new ParameterHelper();
        System.out.println("Read the ssm_only_policy.json file");
        String ssmOnlyPolicy = readFileAsString(ssmJSON);

        System.out.println("Resetting parameters to starting values for demo.");
        paramHelper.reset();

        System.out.println(
                """
                        This part of the demonstration shows how to toggle
different parts of the system
                        to create situations where the web service fails, and shows
how using a resilient
                        architecture can keep the web service running in spite of
these failures.
```

```
                        At the start, the load balancer endpoint returns
recommendations and reports that all targets are healthy.
                        """);
        demoChoices(loadBalancer);

        System.out.println(
                """
                        The web service running on the EC2 instances gets
recommendations by querying a DynamoDB table.
                        The table name is contained in a Systems Manager parameter
named self.param_helper.table.
                        To simulate a failure of the recommendation service, let's
set this parameter to name a non-existent table.
                        """);
        paramHelper.put(paramHelper.tableName, "this-is-not-a-table");

        System.out.println(
                """
                        \nNow, sending a GET request to the load balancer endpoint
returns a failure code. But, the service reports as
                        healthy to the load balancer because shallow health checks
don't check for failure of the recommendation service.
                        """);
        demoChoices(loadBalancer);

        System.out.println(
                """
                        Instead of failing when the recommendation service fails,
the web service can return a static response.
                        While this is not a perfect solution, it presents the
customer with a somewhat better experience than failure.
                        """);
        paramHelper.put(paramHelper.failureResponse, "static");

        System.out.println("""
                Now, sending a GET request to the load balancer endpoint returns a
static response.
                The service still reports as healthy because health checks are still
shallow.
                """);
        demoChoices(loadBalancer);

        System.out.println("Let's reinstate the recommendation service.");
        paramHelper.put(paramHelper.tableName, paramHelper.dyntable);
```

```
        System.out.println("""
                Let's also substitute bad credentials for one of the instances in
the target group so that it can't
                access the DynamoDB recommendation table. We will get an instance id
value.
                """);

        LaunchTemplateCreator templateCreator = new LaunchTemplateCreator();
        AutoScaler autoScaler = new AutoScaler();

        // Create a new instance profile based on badCredsProfileName.
        templateCreator.createInstanceProfile(policyFile, policyName,
badCredsProfileName, roleName);
        String badInstanceId = autoScaler.getBadInstance(autoScalingGroupName);
        System.out.println("The bad instance id values used for this demo is " +
badInstanceId);

        String profileAssociationId = autoScaler.getInstanceProfile(badInstanceId);
        System.out.println("The association Id value is " + profileAssociationId);
        System.out.println("Replacing the profile for instance " + badInstanceId
                + " with a profile that contains bad credentials");
        autoScaler.replaceInstanceProfile(badInstanceId, badCredsProfileName,
profileAssociationId);

        System.out.println(
                """
                        Now, sending a GET request to the load balancer endpoint
returns either a recommendation or a static response,
                        depending on which instance is selected by the load
balancer.
                        """);

        demoChoices(loadBalancer);

        System.out.println("""
                Let's implement a deep health check. For this demo, a deep health
check tests whether
                the web service can access the DynamoDB table that it depends on for
recommendations. Note that
                the deep health check is only for ELB routing and not for Auto
Scaling instance health.
                This kind of deep health check is not recommended for Auto Scaling
instance health, because it
```

```
                risks accidental termination of all instances in the Auto Scaling
group when a dependent service fails.
                """);

        System.out.println("""
                By implementing deep health checks, the load balancer can detect
when one of the instances is failing
                and take that instance out of rotation.
                """);

        paramHelper.put(paramHelper.healthCheck, "deep");

        System.out.println("""
                Now, checking target health indicates that the instance with bad
credentials
                is unhealthy. Note that it might take a minute or two for the load
balancer to detect the unhealthy
                instance. Sending a GET request to the load balancer endpoint always
returns a recommendation, because
                the load balancer takes unhealthy instances out of its rotation.
                """);

        demoChoices(loadBalancer);

        System.out.println(
                """
                        Because the instances in this demo are controlled by an auto
scaler, the simplest way to fix an unhealthy
                        instance is to terminate it and let the auto scaler start a
new instance to replace it.
                        """);
        autoScaler.terminateInstance(badInstanceId);

        System.out.println("""
                Even while the instance is terminating and the new instance is
starting, sending a GET
                request to the web service continues to get a successful
recommendation response because
                the load balancer routes requests to the healthy instances. After
the replacement instance
                starts and reports as healthy, it is included in the load balancing
rotation.
                Note that terminating and replacing an instance typically takes
several minutes, during which time you
```

```
                can see the changing health check status until the new instance is
running and healthy.
                """);

        demoChoices(loadBalancer);
        System.out.println(
                "If the recommendation service fails now, deep health checks mean
all instances report as unhealthy.");
        paramHelper.put(paramHelper.tableName, "this-is-not-a-table");

        demoChoices(loadBalancer);
        paramHelper.reset();
    }

    public static void demoChoices(LoadBalancer loadBalancer) throws IOException,
InterruptedException {
        String[] actions = {
                "Send a GET request to the load balancer endpoint.",
                "Check the health of load balancer targets.",
                "Go to the next part of the demo."
        };
        Scanner scanner = new Scanner(System.in);

        while (true) {
            System.out.println("-".repeat(88));
            System.out.println("See the current state of the service by selecting
one of the following choices:");
            for (int i = 0; i < actions.length; i++) {
                System.out.println(i + ": " + actions[i]);
            }

            try {
                System.out.print("\nWhich action would you like to take? ");
                int choice = scanner.nextInt();
                System.out.println("-".repeat(88));

                switch (choice) {
                    case 0 -> {
                        System.out.println("Request:\n");
                        System.out.println("GET http://" +
loadBalancer.getEndpoint(lbName));
                        CloseableHttpClient httpClient =
HttpClients.createDefault();
```

```
                        // Create an HTTP GET request to the ELB.
                        HttpGet httpGet = new HttpGet("http://" +
loadBalancer.getEndpoint(lbName));

                        // Execute the request and get the response.
                        HttpResponse response = httpClient.execute(httpGet);
                        int statusCode = response.getStatusLine().getStatusCode();
                        System.out.println("HTTP Status Code: " + statusCode);

                        // Display the JSON response
                        BufferedReader reader = new BufferedReader(
                                new
InputStreamReader(response.getEntity().getContent()));
                        StringBuilder jsonResponse = new StringBuilder();
                        String line;
                        while ((line = reader.readLine()) != null) {
                            jsonResponse.append(line);
                        }
                        reader.close();

                        // Print the formatted JSON response.
                        System.out.println("Full Response:\n");
                        System.out.println(jsonResponse.toString());

                        // Close the HTTP client.
                        httpClient.close();

                    }
                    case 1 -> {
                        System.out.println("\nChecking the health of load balancer
targets:\n");
                        List<TargetHealthDescription> health =
loadBalancer.checkTargetHealth(targetGroupName);
                        for (TargetHealthDescription target : health) {
                            System.out.printf("\tTarget %s on port %d is %s%n",
target.target().id(),
                                    target.target().port(),
target.targetHealth().stateAsString());
                        }
                        System.out.println("""
                                Note that it can take a minute or two for the health
check to update
                                after changes are made.
                                """);
```

```
                    }
                    case 2 -> {
                        System.out.println("\nOkay, let's move on.");
                        System.out.println("-".repeat(88));
                        return; // Exit the method when choice is 2
                    }
                    default -> System.out.println("You must choose a value between
 0-2. Please select again.");
                }

            } catch (java.util.InputMismatchException e) {
                System.out.println("Invalid input. Please select again.");
                scanner.nextLine(); // Clear the input buffer.
            }
        }
    }

    public static String readFileAsString(String filePath) throws IOException {
        byte[] bytes = Files.readAllBytes(Paths.get(filePath));
        return new String(bytes);
    }
}
```

Auto Scaling と Amazon EC2 のアクションをラップするクラスを作成します。

```
public class AutoScaler {

    private static Ec2Client ec2Client;
    private static AutoScalingClient autoScalingClient;
    private static IamClient iamClient;

    private static SsmClient ssmClient;

    private IamClient getIAMClient() {
        if (iamClient == null) {
            iamClient = IamClient.builder()
                    .region(Region.US_EAST_1)
                    .build();
        }
        return iamClient;
    }
```

```
    private SsmClient getSSMClient() {
        if (ssmClient == null) {
            ssmClient = SsmClient.builder()
                    .region(Region.US_EAST_1)
                    .build();
        }
        return ssmClient;
    }

    private Ec2Client getEc2Client() {
        if (ec2Client == null) {
            ec2Client = Ec2Client.builder()
                    .region(Region.US_EAST_1)
                    .build();
        }
        return ec2Client;
    }

    private AutoScalingClient getAutoScalingClient() {
        if (autoScalingClient == null) {
            autoScalingClient = AutoScalingClient.builder()
                    .region(Region.US_EAST_1)
                    .build();
        }
        return autoScalingClient;
    }

    /**
     * Terminates and instances in an EC2 Auto Scaling group. After an instance is
     * terminated, it can no longer be accessed.
     */
    public void terminateInstance(String instanceId) {
        TerminateInstanceInAutoScalingGroupRequest terminateInstanceIRequest =
TerminateInstanceInAutoScalingGroupRequest
                .builder()
                .instanceId(instanceId)
                .shouldDecrementDesiredCapacity(false)
                .build();


getAutoScalingClient().terminateInstanceInAutoScalingGroup(terminateInstanceIRequest);
        System.out.format("Terminated instance %s.", instanceId);
    }
```

```
   /**
    * Replaces the profile associated with a running instance. After the profile is
    * replaced, the instance is rebooted to ensure that it uses the new profile.
    * When
    * the instance is ready, Systems Manager is used to restart the Python web
    * server.
    */
   public void replaceInstanceProfile(String instanceId, String
newInstanceProfileName, String profileAssociationId)
           throws InterruptedException {
       // Create an IAM instance profile specification.
       software.amazon.awssdk.services.ec2.model.IamInstanceProfileSpecification
iamInstanceProfile =
software.amazon.awssdk.services.ec2.model.IamInstanceProfileSpecification
               .builder()
               .name(newInstanceProfileName) // Make sure 'newInstanceProfileName'
is a valid IAM Instance Profile
                                             // name.
               .build();

       // Replace the IAM instance profile association for the EC2 instance.
       ReplaceIamInstanceProfileAssociationRequest replaceRequest =
ReplaceIamInstanceProfileAssociationRequest
               .builder()
               .iamInstanceProfile(iamInstanceProfile)
               .associationId(profileAssociationId) // Make sure
'profileAssociationId' is a valid association ID.
               .build();

       try {
           getEc2Client().replaceIamInstanceProfileAssociation(replaceRequest);
           // Handle the response as needed.
       } catch (Ec2Exception e) {
           // Handle exceptions, log, or report the error.
           System.err.println("Error: " + e.getMessage());
       }
       System.out.format("Replaced instance profile for association %s with profile
%s.", profileAssociationId,
               newInstanceProfileName);
       TimeUnit.SECONDS.sleep(15);
       boolean instReady = false;
       int tries = 0;

       // Reboot after 60 seconds
```

```
        while (!instReady) {
            if (tries % 6 == 0) {
                getEc2Client().rebootInstances(RebootInstancesRequest.builder()
                        .instanceIds(instanceId)
                        .build());
                System.out.println("Rebooting instance " + instanceId + " and
waiting for it to be ready.");
            }
            tries++;
            try {
                TimeUnit.SECONDS.sleep(10);
            } catch (InterruptedException e) {
                e.printStackTrace();
            }

            DescribeInstanceInformationResponse informationResponse =
getSSMClient().describeInstanceInformation();
            List<InstanceInformation> instanceInformationList =
informationResponse.instanceInformationList();
            for (InstanceInformation info : instanceInformationList) {
                if (info.instanceId().equals(instanceId)) {
                    instReady = true;
                    break;
                }
            }
        }

        SendCommandRequest sendCommandRequest = SendCommandRequest.builder()
                .instanceIds(instanceId)
                .documentName("AWS-RunShellScript")
                .parameters(Collections.singletonMap("commands",
                        Collections.singletonList("cd / && sudo python3 server.py
80")))
                .build();

        getSSMClient().sendCommand(sendCommandRequest);
        System.out.println("Restarted the Python web server on instance " +
instanceId + ".");
    }

    public void openInboundPort(String secGroupId, String port, String ipAddress) {
        AuthorizeSecurityGroupIngressRequest ingressRequest =
AuthorizeSecurityGroupIngressRequest.builder()
                .groupName(secGroupId)
```

```
                .cidrIp(ipAddress)
                .fromPort(Integer.parseInt(port))
                .build();

        getEc2Client().authorizeSecurityGroupIngress(ingressRequest);
        System.out.format("Authorized ingress to %s on port %s from %s.",
secGroupId, port, ipAddress);
    }

    /**
     * Detaches a role from an instance profile, detaches policies from the role,
     * and deletes all the resources.
     */
    public void deleteInstanceProfile(String roleName, String profileName) {
        try {
            software.amazon.awssdk.services.iam.model.GetInstanceProfileRequest
getInstanceProfileRequest =
software.amazon.awssdk.services.iam.model.GetInstanceProfileRequest
                    .builder()
                    .instanceProfileName(profileName)
                    .build();

            GetInstanceProfileResponse response =
getIAMClient().getInstanceProfile(getInstanceProfileRequest);
            String name = response.instanceProfile().instanceProfileName();
            System.out.println(name);

            RemoveRoleFromInstanceProfileRequest profileRequest =
RemoveRoleFromInstanceProfileRequest.builder()
                    .instanceProfileName(profileName)
                    .roleName(roleName)
                    .build();

            getIAMClient().removeRoleFromInstanceProfile(profileRequest);
            DeleteInstanceProfileRequest deleteInstanceProfileRequest =
DeleteInstanceProfileRequest.builder()
                    .instanceProfileName(profileName)
                    .build();

            getIAMClient().deleteInstanceProfile(deleteInstanceProfileRequest);
            System.out.println("Deleted instance profile " + profileName);

            DeleteRoleRequest deleteRoleRequest = DeleteRoleRequest.builder()
                    .roleName(roleName)
```

```
                    .build();

            // List attached role policies.
            ListAttachedRolePoliciesResponse rolesResponse = getIAMClient()
                    .listAttachedRolePolicies(role -> role.roleName(roleName));
            List<AttachedPolicy> attachedPolicies =
rolesResponse.attachedPolicies();
            for (AttachedPolicy attachedPolicy : attachedPolicies) {
                DetachRolePolicyRequest request = DetachRolePolicyRequest.builder()
                        .roleName(roleName)
                        .policyArn(attachedPolicy.policyArn())
                        .build();

                getIAMClient().detachRolePolicy(request);
                System.out.println("Detached and deleted policy " +
attachedPolicy.policyName());
            }

            getIAMClient().deleteRole(deleteRoleRequest);
            System.out.println("Instance profile and role deleted.");

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public void deleteTemplate(String templateName) {
        getEc2Client().deleteLaunchTemplate(name ->
name.launchTemplateName(templateName));
        System.out.format(templateName + " was deleted.");
    }

    public void deleteAutoScaleGroup(String groupName) {
        DeleteAutoScalingGroupRequest deleteAutoScalingGroupRequest =
DeleteAutoScalingGroupRequest.builder()
                .autoScalingGroupName(groupName)
                .forceDelete(true)
                .build();


getAutoScalingClient().deleteAutoScalingGroup(deleteAutoScalingGroupRequest);
        System.out.println(groupName + " was deleted.");
    }
```

```
    /*
     * Verify the default security group of the specified VPC allows ingress from
     * this
     * computer. This can be done by allowing ingress from this computer's IP
     * address. In some situations, such as connecting from a corporate network, you
     * must instead specify a prefix list ID. You can also temporarily open the port
     * to
     * any IP address while running this example. If you do, be sure to remove
     * public
     * access when you're done.
     *
     */
    public GroupInfo verifyInboundPort(String VPC, int port, String ipAddress) {
        boolean portIsOpen = false;
        GroupInfo groupInfo = new GroupInfo();
        try {
            Filter filter = Filter.builder()
                    .name("group-name")
                    .values("default")
                    .build();

            Filter filter1 = Filter.builder()
                    .name("vpc-id")
                    .values(VPC)
                    .build();

            DescribeSecurityGroupsRequest securityGroupsRequest =
DescribeSecurityGroupsRequest.builder()
                    .filters(filter, filter1)
                    .build();

            DescribeSecurityGroupsResponse securityGroupsResponse = getEc2Client()
                    .describeSecurityGroups(securityGroupsRequest);
            String securityGroup =
securityGroupsResponse.securityGroups().get(0).groupName();
            groupInfo.setGroupName(securityGroup);

            for (SecurityGroup secGroup : securityGroupsResponse.securityGroups()) {
                System.out.println("Found security group: " + secGroup.groupId());

                for (IpPermission ipPermission : secGroup.ipPermissions()) {
                    if (ipPermission.fromPort() == port) {
                        System.out.println("Found inbound rule: " + ipPermission);
```

```
                        for (IpRange ipRange : ipPermission.ipRanges()) {
                            String cidrIp = ipRange.cidrIp();
                            if (cidrIp.startsWith(ipAddress) ||
cidrIp.equals("0.0.0.0/0")) {
                                System.out.println(cidrIp + " is applicable");
                                portIsOpen = true;
                            }
                        }

                        if (!ipPermission.prefixListIds().isEmpty()) {
                            System.out.println("Prefix lList is applicable");
                            portIsOpen = true;
                        }

                        if (!portIsOpen) {
                            System.out
                                    .println("The inbound rule does not appear to be
open to either this computer's IP,"
                                            + " all IP addresses (0.0.0.0/0), or to
a prefix list ID.");
                        } else {
                            break;
                        }
                    }
                }
            }

        } catch (AutoScalingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
        }

        groupInfo.setPortOpen(portIsOpen);
        return groupInfo;
    }

    /*
     * Attaches an Elastic Load Balancing (ELB) target group to this EC2 Auto
     * Scaling group.
     * The target group specifies how the load balancer forward requests to the
     * instances
     * in the group.
     */
    public void attachLoadBalancerTargetGroup(String asGroupName, String
targetGroupARN) {
```

```
        try {
            AttachLoadBalancerTargetGroupsRequest targetGroupsRequest =
AttachLoadBalancerTargetGroupsRequest.builder()
                    .autoScalingGroupName(asGroupName)
                    .targetGroupARNs(targetGroupARN)
                    .build();


getAutoScalingClient().attachLoadBalancerTargetGroups(targetGroupsRequest);
            System.out.println("Attached load balancer to " + asGroupName);

        } catch (AutoScalingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    // Creates an EC2 Auto Scaling group with the specified size.
    public String[] createGroup(int groupSize, String templateName, String
autoScalingGroupName) {

        // Get availability zones.
        software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeAvailabilityZonesRequest
zonesRequest =
software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeAvailabilityZonesRequest
                .builder()
                .build();

        DescribeAvailabilityZonesResponse zonesResponse =
getEc2Client().describeAvailabilityZones(zonesRequest);
        List<String> availabilityZoneNames =
zonesResponse.availabilityZones().stream()

.map(software.amazon.awssdk.services.ec2.model.AvailabilityZone::zoneName)
                .collect(Collectors.toList());

        String availabilityZones = String.join(",", availabilityZoneNames);
        LaunchTemplateSpecification specification =
LaunchTemplateSpecification.builder()
                .launchTemplateName(templateName)
                .version("$Default")
                .build();

        String[] zones = availabilityZones.split(",");
```

```
        CreateAutoScalingGroupRequest groupRequest =
CreateAutoScalingGroupRequest.builder()
                .launchTemplate(specification)
                .availabilityZones(zones)
                .maxSize(groupSize)
                .minSize(groupSize)
                .autoScalingGroupName(autoScalingGroupName)
                .build();

        try {
            getAutoScalingClient().createAutoScalingGroup(groupRequest);

        } catch (AutoScalingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        System.out.println("Created an EC2 Auto Scaling group named " +
autoScalingGroupName);
        return zones;
    }

    public String getDefaultVPC() {
        // Define the filter.
        Filter defaultFilter = Filter.builder()
                .name("is-default")
                .values("true")
                .build();

        software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeVpcsRequest request =
software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeVpcsRequest
                .builder()
                .filters(defaultFilter)
                .build();

        DescribeVpcsResponse response = getEc2Client().describeVpcs(request);
        return response.vpcs().get(0).vpcId();
    }

    // Gets the default subnets in a VPC for a specified list of Availability Zones.
    public List<Subnet> getSubnets(String vpcId, String[] availabilityZones) {
        List<Subnet> subnets = null;
        Filter vpcFilter = Filter.builder()
                .name("vpc-id")
                .values(vpcId)
```

```
                .build();

        Filter azFilter = Filter.builder()
                .name("availability-zone")
                .values(availabilityZones)
                .build();

        Filter defaultForAZ = Filter.builder()
                .name("default-for-az")
                .values("true")
                .build();

        DescribeSubnetsRequest request = DescribeSubnetsRequest.builder()
                .filters(vpcFilter, azFilter, defaultForAZ)
                .build();

        DescribeSubnetsResponse response = getEc2Client().describeSubnets(request);
        subnets = response.subnets();
        return subnets;
    }

    // Gets data about the instances in the EC2 Auto Scaling group.
    public String getBadInstance(String groupName) {
        DescribeAutoScalingGroupsRequest request =
DescribeAutoScalingGroupsRequest.builder()
                .autoScalingGroupNames(groupName)
                .build();

        DescribeAutoScalingGroupsResponse response =
getAutoScalingClient().describeAutoScalingGroups(request);
        AutoScalingGroup autoScalingGroup = response.autoScalingGroups().get(0);
        List<String> instanceIds = autoScalingGroup.instances().stream()
                .map(instance -> instance.instanceId())
                .collect(Collectors.toList());

        String[] instanceIdArray = instanceIds.toArray(new String[0]);
        for (String instanceId : instanceIdArray) {
            System.out.println("Instance ID: " + instanceId);
            return instanceId;
        }
        return "";
    }

    // Gets data about the profile associated with an instance.
```

```
    public String getInstanceProfile(String instanceId) {
        Filter filter = Filter.builder()
                .name("instance-id")
                .values(instanceId)
                .build();

        DescribeIamInstanceProfileAssociationsRequest associationsRequest =
 DescribeIamInstanceProfileAssociationsRequest
                .builder()
                .filters(filter)
                .build();

        DescribeIamInstanceProfileAssociationsResponse response = getEc2Client()
                .describeIamInstanceProfileAssociations(associationsRequest);
        return response.iamInstanceProfileAssociations().get(0).associationId();
    }

    public void deleteRolesPolicies(String policyName, String roleName, String
 InstanceProfile) {
        ListPoliciesRequest listPoliciesRequest =
 ListPoliciesRequest.builder().build();
        ListPoliciesResponse listPoliciesResponse =
 getIAMClient().listPolicies(listPoliciesRequest);
        for (Policy policy : listPoliciesResponse.policies()) {
            if (policy.policyName().equals(policyName)) {
                // List the entities (users, groups, roles) that are attached to the
 policy.

 software.amazon.awssdk.services.iam.model.ListEntitiesForPolicyRequest
 listEntitiesRequest =
 software.amazon.awssdk.services.iam.model.ListEntitiesForPolicyRequest
                        .builder()
                        .policyArn(policy.arn())
                        .build();
                ListEntitiesForPolicyResponse listEntitiesResponse = iamClient
                        .listEntitiesForPolicy(listEntitiesRequest);
                if (!listEntitiesResponse.policyGroups().isEmpty() || !
listEntitiesResponse.policyUsers().isEmpty()
                        || !listEntitiesResponse.policyRoles().isEmpty()) {
                    // Detach the policy from any entities it is attached to.
                    DetachRolePolicyRequest detachPolicyRequest =
 DetachRolePolicyRequest.builder()
                            .policyArn(policy.arn())
                            .roleName(roleName) // Specify the name of the IAM role
```

```
                            .build();

                    getIAMClient().detachRolePolicy(detachPolicyRequest);
                    System.out.println("Policy detached from entities.");
                }

                // Now, you can delete the policy.
                DeletePolicyRequest deletePolicyRequest =
DeletePolicyRequest.builder()
                        .policyArn(policy.arn())
                        .build();

                getIAMClient().deletePolicy(deletePolicyRequest);
                System.out.println("Policy deleted successfully.");
                break;
            }
        }

        // List the roles associated with the instance profile
        ListInstanceProfilesForRoleRequest listRolesRequest =
ListInstanceProfilesForRoleRequest.builder()
                .roleName(roleName)
                .build();

        // Detach the roles from the instance profile
        ListInstanceProfilesForRoleResponse listRolesResponse =
iamClient.listInstanceProfilesForRole(listRolesRequest);
        for (software.amazon.awssdk.services.iam.model.InstanceProfile profile :
listRolesResponse.instanceProfiles()) {
            RemoveRoleFromInstanceProfileRequest removeRoleRequest =
RemoveRoleFromInstanceProfileRequest.builder()
                    .instanceProfileName(InstanceProfile)
                    .roleName(roleName) // Remove the extra dot here
                    .build();

            getIAMClient().removeRoleFromInstanceProfile(removeRoleRequest);
            System.out.println("Role " + roleName + " removed from instance profile
" + InstanceProfile);
        }

        // Delete the instance profile after removing all roles
        DeleteInstanceProfileRequest deleteInstanceProfileRequest =
DeleteInstanceProfileRequest.builder()
                .instanceProfileName(InstanceProfile)
```

```
                .build();

        getIAMClient().deleteInstanceProfile(r ->
 r.instanceProfileName(InstanceProfile));
        System.out.println(InstanceProfile + " Deleted");
        System.out.println("All roles and policies are deleted.");
    }
}
```

Elastic Load Balancing のアクションをラップするクラスを作成します。

```
public class LoadBalancer {
    public ElasticLoadBalancingV2Client elasticLoadBalancingV2Client;

    public ElasticLoadBalancingV2Client getLoadBalancerClient() {
        if (elasticLoadBalancingV2Client == null) {
            elasticLoadBalancingV2Client = ElasticLoadBalancingV2Client.builder()
                    .region(Region.US_EAST_1)
                    .build();
        }

        return elasticLoadBalancingV2Client;
    }

    // Checks the health of the instances in the target group.
    public List<TargetHealthDescription> checkTargetHealth(String targetGroupName) {
        DescribeTargetGroupsRequest targetGroupsRequest =
 DescribeTargetGroupsRequest.builder()
                .names(targetGroupName)
                .build();

        DescribeTargetGroupsResponse tgResponse =
 getLoadBalancerClient().describeTargetGroups(targetGroupsRequest);

        DescribeTargetHealthRequest healthRequest =
 DescribeTargetHealthRequest.builder()
                .targetGroupArn(tgResponse.targetGroups().get(0).targetGroupArn())
                .build();

        DescribeTargetHealthResponse healthResponse =
 getLoadBalancerClient().describeTargetHealth(healthRequest);
        return healthResponse.targetHealthDescriptions();
```

```
    }

    // Gets the HTTP endpoint of the load balancer.
    public String getEndpoint(String lbName) {
        DescribeLoadBalancersResponse res = getLoadBalancerClient()
                .describeLoadBalancers(describe -> describe.names(lbName));
        return res.loadBalancers().get(0).dnsName();
    }

    // Deletes a load balancer.
    public void deleteLoadBalancer(String lbName) {
        try {
            // Use a waiter to delete the Load Balancer.
            DescribeLoadBalancersResponse res = getLoadBalancerClient()
                    .describeLoadBalancers(describe -> describe.names(lbName));
            ElasticLoadBalancingV2Waiter loadBalancerWaiter =
getLoadBalancerClient().waiter();
            DescribeLoadBalancersRequest request =
DescribeLoadBalancersRequest.builder()
                    .loadBalancerArns(res.loadBalancers().get(0).loadBalancerArn())
                    .build();

            getLoadBalancerClient().deleteLoadBalancer(
                    builder ->
builder.loadBalancerArn(res.loadBalancers().get(0).loadBalancerArn()));
            WaiterResponse<DescribeLoadBalancersResponse> waiterResponse =
loadBalancerWaiter
                    .waitUntilLoadBalancersDeleted(request);
            waiterResponse.matched().response().ifPresent(System.out::println);

        } catch (ElasticLoadBalancingV2Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
        }
        System.out.println(lbName + " was deleted.");
    }

    // Deletes the target group.
    public void deleteTargetGroup(String targetGroupName) {
        try {
            DescribeTargetGroupsResponse res = getLoadBalancerClient()
                    .describeTargetGroups(describe ->
describe.names(targetGroupName));
            getLoadBalancerClient()
```

```
                    .deleteTargetGroup(builder ->
builder.targetGroupArn(res.targetGroups().get(0).targetGroupArn()));
        } catch (ElasticLoadBalancingV2Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
        }
        System.out.println(targetGroupName + " was deleted.");
    }

    // Verify this computer can successfully send a GET request to the load balancer
    // endpoint.
    public boolean verifyLoadBalancerEndpoint(String elbDnsName) throws IOException,
InterruptedException {
        boolean success = false;
        int retries = 3;
        CloseableHttpClient httpClient = HttpClients.createDefault();

        // Create an HTTP GET request to the ELB.
        HttpGet httpGet = new HttpGet("http://" + elbDnsName);
        try {
            while ((!success) && (retries > 0)) {
                // Execute the request and get the response.
                HttpResponse response = httpClient.execute(httpGet);
                int statusCode = response.getStatusLine().getStatusCode();
                System.out.println("HTTP Status Code: " + statusCode);
                if (statusCode == 200) {
                    success = true;
                } else {
                    retries--;
                    System.out.println("Got connection error from load balancer
endpoint, retrying...");
                    TimeUnit.SECONDS.sleep(15);
                }
            }

        } catch (org.apache.http.conn.HttpHostConnectException e) {
            System.out.println(e.getMessage());
        }

        System.out.println("Status.." + success);
        return success;
    }

    /*
     * Creates an Elastic Load Balancing target group. The target group specifies
```

```
     * how
     * the load balancer forward requests to instances in the group and how instance
     * health is checked.
     */
    public String createTargetGroup(String protocol, int port, String vpcId, String
targetGroupName) {
        CreateTargetGroupRequest targetGroupRequest =
CreateTargetGroupRequest.builder()
                .healthCheckPath("/healthcheck")
                .healthCheckTimeoutSeconds(5)
                .port(port)
                .vpcId(vpcId)
                .name(targetGroupName)
                .protocol(protocol)
                .build();

        CreateTargetGroupResponse targetGroupResponse =
getLoadBalancerClient().createTargetGroup(targetGroupRequest);
        String targetGroupArn =
targetGroupResponse.targetGroups().get(0).targetGroupArn();
        String targetGroup =
targetGroupResponse.targetGroups().get(0).targetGroupName();
        System.out.println("The " + targetGroup + " was created with ARN" +
targetGroupArn);
        return targetGroupArn;
    }

    /*
     * Creates an Elastic Load Balancing load balancer that uses the specified
     * subnets
     * and forwards requests to the specified target group.
     */
    public String createLoadBalancer(List<Subnet> subnetIds, String targetGroupARN,
String lbName, int port,
            String protocol) {
        try {
            List<String> subnetIdStrings = subnetIds.stream()
                    .map(Subnet::subnetId)
                    .collect(Collectors.toList());

            CreateLoadBalancerRequest balancerRequest =
CreateLoadBalancerRequest.builder()
                    .subnets(subnetIdStrings)
                    .name(lbName)
```

```
                    .scheme("internet-facing")
                    .build();

            // Create and wait for the load balancer to become available.
            CreateLoadBalancerResponse lsResponse =
getLoadBalancerClient().createLoadBalancer(balancerRequest);
            String lbARN = lsResponse.loadBalancers().get(0).loadBalancerArn();

            ElasticLoadBalancingV2Waiter loadBalancerWaiter =
getLoadBalancerClient().waiter();
            DescribeLoadBalancersRequest request =
DescribeLoadBalancersRequest.builder()
                    .loadBalancerArns(lbARN)
                    .build();

            System.out.println("Waiting for Load Balancer " + lbName + " to become
available.");
            WaiterResponse<DescribeLoadBalancersResponse> waiterResponse =
loadBalancerWaiter
                    .waitUntilLoadBalancerAvailable(request);
            waiterResponse.matched().response().ifPresent(System.out::println);
            System.out.println("Load Balancer " + lbName + " is available.");

            // Get the DNS name (endpoint) of the load balancer.
            String lbDNSName = lsResponse.loadBalancers().get(0).dnsName();
            System.out.println("*** Load Balancer DNS Name: " + lbDNSName);

            // Create a listener for the load balance.
            Action action = Action.builder()
                    .targetGroupArn(targetGroupARN)
                    .type("forward")
                    .build();

            CreateListenerRequest listenerRequest = CreateListenerRequest.builder()

.loadBalancerArn(lsResponse.loadBalancers().get(0).loadBalancerArn())
                    .defaultActions(action)
                    .port(port)
                    .protocol(protocol)
                    .build();

            getLoadBalancerClient().createListener(listenerRequest);
            System.out.println("Created listener to forward traffic from load
balancer " + lbName + " to target group "
```

```
                    + targetGroupARN);

            // Return the load balancer DNS name.
            return lbDNSName;

        } catch (ElasticLoadBalancingV2Exception e) {
            e.printStackTrace();
        }
        return "";
    }
}
```

DynamoDB を使用してレコメンデーションサービスをシミュレートするクラスを作成します。

```
public class Database {

    private static DynamoDbClient dynamoDbClient;

    public static DynamoDbClient getDynamoDbClient() {
        if (dynamoDbClient == null) {
            dynamoDbClient = DynamoDbClient.builder()
                    .region(Region.US_EAST_1)
                    .build();
        }
        return dynamoDbClient;
    }

    // Checks to see if the Amazon DynamoDB table exists.
    private boolean doesTableExist(String tableName) {
        try {
            // Describe the table and catch any exceptions.
            DescribeTableRequest describeTableRequest =
 DescribeTableRequest.builder()
                    .tableName(tableName)
                    .build();

            getDynamoDbClient().describeTable(describeTableRequest);
            System.out.println("Table '" + tableName + "' exists.");
            return true;

        } catch (ResourceNotFoundException e) {
            System.out.println("Table '" + tableName + "' does not exist.");
```

```
        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println("Error checking table existence: " + e.getMessage());
        }
        return false;
    }

    /*
     * Creates a DynamoDB table to use a recommendation service. The table has a
     * hash key named 'MediaType' that defines the type of media recommended, such
     * as
     * Book or Movie, and a range key named 'ItemId' that, combined with the
     * MediaType,
     * forms a unique identifier for the recommended item.
     */
    public void createTable(String tableName, String fileName) throws IOException {
        // First check to see if the table exists.
        boolean doesExist = doesTableExist(tableName);
        if (!doesExist) {
            DynamoDbWaiter dbWaiter = getDynamoDbClient().waiter();
            CreateTableRequest createTableRequest = CreateTableRequest.builder()
                    .tableName(tableName)
                    .attributeDefinitions(
                            AttributeDefinition.builder()
                                    .attributeName("MediaType")
                                    .attributeType(ScalarAttributeType.S)
                                    .build(),
                            AttributeDefinition.builder()
                                    .attributeName("ItemId")
                                    .attributeType(ScalarAttributeType.N)
                                    .build())
                    .keySchema(
                            KeySchemaElement.builder()
                                    .attributeName("MediaType")
                                    .keyType(KeyType.HASH)
                                    .build(),
                            KeySchemaElement.builder()
                                    .attributeName("ItemId")
                                    .keyType(KeyType.RANGE)
                                    .build())
                    .provisionedThroughput(
                            ProvisionedThroughput.builder()
                                    .readCapacityUnits(5L)
                                    .writeCapacityUnits(5L)
                                    .build())
```

```
                    .build();

            getDynamoDbClient().createTable(createTableRequest);
            System.out.println("Creating table " + tableName + "...");

            // Wait until the Amazon DynamoDB table is created.
            DescribeTableRequest tableRequest = DescribeTableRequest.builder()
                    .tableName(tableName)
                    .build();

            WaiterResponse<DescribeTableResponse> waiterResponse =
dbWaiter.waitUntilTableExists(tableRequest);
            waiterResponse.matched().response().ifPresent(System.out::println);
            System.out.println("Table " + tableName + " created.");

            // Add records to the table.
            populateTable(fileName, tableName);
        }
    }

    public void deleteTable(String tableName) {
        getDynamoDbClient().deleteTable(table -> table.tableName(tableName));
        System.out.println("Table " + tableName + " deleted.");
    }

    // Populates the table with data located in a JSON file using the DynamoDB
    // enhanced client.
    public void populateTable(String fileName, String tableName) throws IOException
{
        DynamoDbEnhancedClient enhancedClient = DynamoDbEnhancedClient.builder()
                .dynamoDbClient(getDynamoDbClient())
                .build();
        ObjectMapper objectMapper = new ObjectMapper();
        File jsonFile = new File(fileName);
        JsonNode rootNode = objectMapper.readTree(jsonFile);

        DynamoDbTable<Recommendation> mappedTable = enhancedClient.table(tableName,
                TableSchema.fromBean(Recommendation.class));
        for (JsonNode currentNode : rootNode) {
            String mediaType = currentNode.path("MediaType").path("S").asText();
            int itemId = currentNode.path("ItemId").path("N").asInt();
            String title = currentNode.path("Title").path("S").asText();
            String creator = currentNode.path("Creator").path("S").asText();
```

```
            // Create a Recommendation object and set its properties.
            Recommendation rec = new Recommendation();
            rec.setMediaType(mediaType);
            rec.setItemId(itemId);
            rec.setTitle(title);
            rec.setCreator(creator);

            // Put the item into the DynamoDB table.
            mappedTable.putItem(rec); // Add the Recommendation to the list.
        }
        System.out.println("Added all records to the " + tableName);
    }
}
```

Systems Manager のアクションをラップするクラスを作成します。

```
public class ParameterHelper {

    String tableName = "doc-example-resilient-architecture-table";
    String dyntable = "doc-example-recommendation-service";
    String failureResponse = "doc-example-resilient-architecture-failure-response";
    String healthCheck = "doc-example-resilient-architecture-health-check";

    public void reset() {
        put(dyntable, tableName);
        put(failureResponse, "none");
        put(healthCheck, "shallow");
    }

    public void put(String name, String value) {
        SsmClient ssmClient = SsmClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        PutParameterRequest parameterRequest = PutParameterRequest.builder()
                .name(name)
                .value(value)
                .overwrite(true)
                .type("String")
                .build();

        ssmClient.putParameter(parameterRequest);
```

```
        System.out.printf("Setting demo parameter %s to '%s'.", name, value);
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - AttachLoadBalancerTargetGroups
  - CreateAutoScalingGroup
  - CreateInstanceProfile
  - CreateLaunchTemplate
  - CreateListener
  - CreateLoadBalancer
  - CreateTargetGroup
  - DeleteAutoScalingGroup
  - DeleteInstanceProfile
  - DeleteLaunchTemplate
  - DeleteLoadBalancer
  - DeleteTargetGroup
  - DescribeAutoScalingGroups
  - DescribeAvailabilityZones
  - DescribeIamInstanceProfileAssociations
  - DescribeInstances
  - DescribeLoadBalancers
  - DescribeSubnets
  - DescribeTargetGroups
  - DescribeTargetHealth
  - DescribeVpcs
  - RebootInstances
  - ReplaceIamInstanceProfileAssociation
  - TerminateInstanceInAutoScalingGroup
  - UpdateAutoScalingGroup

SDK for Java 2.x を使用する Amazon ECR の例

次のコード例は、Amazon ECR AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- はじめに
- 基本
- アクション

はじめに

Hello Amazon ECR

次のコード例は、Amazon ECR の使用を開始する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.ecr.EcrClient;
import software.amazon.awssdk.services.ecr.model.EcrException;
import software.amazon.awssdk.services.ecr.model.ListImagesRequest;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.ecr.paginators.ListImagesIterable;

public class HelloECR {

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """
            Usage:    <repositoryName>

            Where:
               repositoryName - The name of the Amazon ECR repository.
            """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String repoName = args[0];
        EcrClient ecrClient = EcrClient.builder()
            .region(Region.US_EAST_1)
            .build();

        listImageTags(ecrClient, repoName);
    }
    public static void listImageTags(EcrClient ecrClient, String repoName){
        ListImagesRequest listImagesPaginator = ListImagesRequest.builder()
            .repositoryName(repoName)
            .build();

        ListImagesIterable imagesIterable =
 ecrClient.listImagesPaginator(listImagesPaginator);
        imagesIterable.stream()
            .flatMap(r -> r.imageIds().stream())
            .forEach(image -> System.out.println("The docker image tag is: "
 +image.imageTag()));
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「listImages」を参照してください。

基本

基本を学ぶ

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- Amazon ECR リポジトリを作成します。
- リポジトリポリシーを設定します。
- リポジトリ URI を取得します。
- Amazon ECR 認可トークンを取得します。
- Amazon ECR リポジトリのライフサイクルポリシーを設定します。
- Docker イメージを Amazon ECR リポジトリにプッシュします。
- Amazon ECR リポジトリにイメージが存在しているか確認します。
- アカウントの Amazon ECR リポジトリをリストし、その詳細を取得します。
- Amazon ECR リポジトリを削除します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

Amazon ECR 機能を示すインタラクティブなシナリオを実行します。

```
import software.amazon.awssdk.services.ecr.model.EcrException;
import software.amazon.awssdk.services.ecr.model.RepositoryPolicyNotFoundException;

import java.util.Scanner;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
```

```
 *
 * This Java code example requires an IAM Role that has permissions to interact with
 the Amazon ECR service.
 *
 * To create an IAM role, see:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/IAM/latest/UserGuide/id_roles_create.html
 *
 * This Java scenario example requires a local docker image named echo-text. Without
 a local image,
 * this Java program will not successfully run. For more information including how
 to create the local
 * image, see:
 *
 * /scenarios/basics/ecr/README
 *
 */
public class ECRScenario {
    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """
            Usage: <iamRoleARN> <accountId>

            Where:
               iamRoleARN - The IAM role ARN that has the necessary permissions to
 access and manage the Amazon ECR repository.
               accountId - Your AWS account number.
            """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            return;
        }

        ECRActions ecrActions = new ECRActions();
        String iamRole = args[0];
        String accountId = args[1];
        String localImageName;

        Scanner scanner = new Scanner(System.in);
        System.out.println("""
             The Amazon Elastic Container Registry (ECR) is a fully-managed Docker
 container registry
```

```
            service provided by AWS. It allows developers and organizations to
securely
            store, manage, and deploy Docker container images.
            ECR provides a simple and scalable way to manage container images
throughout their lifecycle,
            from building and testing to production deployment.\s

            The `EcrAsyncClient` interface in the AWS SDK for Java 2.x provides a
set of methods to
            programmatically interact with the Amazon ECR service. This allows
developers to
            automate the storage, retrieval, and management of container images as
part of their application
            deployment pipelines. With ECR, teams can focus on building and
deploying their
            applications without having to worry about the underlying
infrastructure required to
            host and manage a container registry.

           This scenario walks you through how to perform key operations for this
service.
           Let's get started...

           You have two choices:
           1 - Run the entire program.
           2 - Delete an existing Amazon ECR repository named echo-text (created
from a previous execution of
           this program that did not complete).
           """);

       while (true) {
           String input = scanner.nextLine();
           if (input.trim().equalsIgnoreCase("1")) {
               System.out.println("Continuing with the program...");
               System.out.println("");
               break;
           } else if (input.trim().equalsIgnoreCase("2")) {
               String repoName = "echo-text";
               ecrActions.deleteECRRepository(repoName);
               return;
           } else {
               // Handle invalid input.
               System.out.println("Invalid input. Please try again.");
           }
```

```
        }

        waitForInputToContinue(scanner);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println("""
           1. Create an ECR repository.

           The first task is to ensure we have a local Docker image named echo-
text.
           If this image exists, then an Amazon ECR repository is created.

           An ECR repository is a private Docker container repository provided
           by Amazon Web Services (AWS). It is a managed service that makes it easy
           to store, manage, and deploy Docker container images.\s
           """ );

        // Ensure that a local docker image named echo-text exists.
        boolean doesExist = ecrActions.isEchoTextImagePresent();
        String repoName;
        if (!doesExist){
            System.out.println("The local image named echo-text does not exist");
            return;
        } else {
            localImageName = "echo-text";
            repoName = "echo-text";
        }

        try {
            String repoArn = ecrActions.createECRRepository(repoName);
            System.out.println("The ARN of the ECR repository is " + repoArn);

        } catch (IllegalArgumentException e) {
            System.err.println("Invalid repository name: " + e.getMessage());
            return;
        } catch (RuntimeException e) {
            System.err.println("An error occurred while creating the ECR repository:
 " + e.getMessage());
            e.printStackTrace();
            return;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);

        System.out.println(DASHES);
```

```
        System.out.println("""
        2. Set an ECR repository policy.

        Setting an ECR repository policy using the `setRepositoryPolicy` function is
crucial for maintaining
        the security and integrity of your container images. The repository policy
allows you to
        define specific rules and restrictions for accessing and managing the images
stored within your ECR
        repository.
        """);
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            ecrActions.setRepoPolicy(repoName, iamRole);

        } catch (RepositoryPolicyNotFoundException e) {
            System.err.println("Invalid repository name: " + e.getMessage());
            return;
        } catch (EcrException e) {
            System.err.println("An ECR exception occurred: " + e.getMessage());
            return;
        } catch (RuntimeException e) {
            System.err.println("An error occurred while creating the ECR repository:
" + e.getMessage());
            return;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("""
        3. Display ECR repository policy.

        Now we will retrieve the ECR policy to ensure it was successfully set.
        """);
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            String policyText = ecrActions.getRepoPolicy(repoName);
            System.out.println("Policy Text:");
            System.out.println(policyText);

        } catch (EcrException e) {
            System.err.println("An ECR exception occurred: " + e.getMessage());
            return;
        } catch (RuntimeException e) {
```

```
            System.err.println("An error occurred while creating the ECR repository:
" + e.getMessage());
            return;
        }

        waitForInputToContinue(scanner);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("""
        4. Retrieve an ECR authorization token.

        You need an authorization token to securely access and interact with the
Amazon ECR registry.
        The `getAuthorizationToken` method of the `EcrAsyncClient` is responsible
for securely accessing
        and interacting with an Amazon ECR repository. This operation is responsible
for obtaining a
        valid authorization token, which is required to authenticate your requests
to the ECR service.

        Without a valid authorization token, you would not be able to perform any
operations on the
        ECR repository, such as pushing, pulling, or managing your Docker images.

        """);
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
             ecrActions.getAuthToken();

        } catch (EcrException e) {
            System.err.println("An ECR exception occurred: " + e.getMessage());
            return;
        } catch (RuntimeException e) {
            System.err.println("An error occurred while retrieving the authorization
token: " + e.getMessage());
            return;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("""
        5. Get the ECR Repository URI.
```

```
        The URI  of an Amazon ECR repository is important. When you want to deploy a
container image to
        a container orchestration platform like Amazon Elastic Kubernetes Service
(EKS)
        or Amazon Elastic Container Service (ECS), you need to specify the full
image URI,
        which includes the ECR repository URI. This allows the container runtime to
pull the
        correct container image from the ECR repository.
       """);
        waitForInputToContinue(scanner);

        try {
            ecrActions.getRepositoryURI(repoName);

        } catch (EcrException e) {
            System.err.println("An ECR exception occurred: " + e.getMessage());
            return;

        } catch (RuntimeException e) {
            System.err.println("An error occurred while retrieving the URI: " +
e.getMessage());
            return;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("""
            6. Set an ECR Lifecycle Policy.

            An ECR Lifecycle Policy is used to manage the lifecycle of Docker images
stored in your ECR repositories.
            These policies allow you to automatically remove old or unused Docker
images from your repositories,
            freeing up storage space and reducing costs.

            This example policy helps to maintain the size and efficiency of the
container registry
            by automatically removing older and potentially unused images, ensuring
that the
            storage is optimized and the registry remains up-to-date.
            """);
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
```

```
            ecrActions.setLifeCyclePolicy(repoName);

        } catch (RuntimeException e) {
            System.err.println("An error occurred while setting the lifecycle
policy: " + e.getMessage());
            e.printStackTrace();
            return;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("""
        7. Push a docker image to the Amazon ECR Repository.

        The `pushImageCmd()` method pushes a local Docker image to an Amazon ECR
repository.
        It sets up the Docker client by connecting to the local Docker host using
the default port.
        It then retrieves the authorization token for the ECR repository by making a
call to the AWS SDK.

        The method uses the authorization token to create an `AuthConfig` object,
which is used to authenticate
        the Docker client when pushing the image. Finally, the method tags the
Docker image with the specified
        repository name and image tag, and then pushes the image to the ECR
repository using the Docker client.
        If the push operation is successful, the method prints a message indicating
that the image was pushed to ECR.
        """);
        waitForInputToContinue(scanner);

        try {
            ecrActions.pushDockerImage(repoName, localImageName);

        } catch (RuntimeException e) {
            System.err.println("An error occurred while pushing a local Docker image
to Amazon ECR: " + e.getMessage());
            e.printStackTrace();
            return;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);

        System.out.println(DASHES);
```

```
        System.out.println("8. Verify if the image is in the ECR Repository.");
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            ecrActions.verifyImage(repoName, localImageName);

        } catch (EcrException e) {
            System.err.println("An ECR exception occurred: " + e.getMessage());
            return;
        } catch (RuntimeException e) {
            System.err.println("An error occurred " + e.getMessage());
            e.printStackTrace();
            return;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("9. As an optional step, you can interact with the image
 in Amazon ECR by using the CLI.");
        System.out.println("Would you like to view instructions on how to use the
 CLI to run the image? (y/n)");
        String ans = scanner.nextLine().trim();
        if (ans.equalsIgnoreCase("y")) {
            String instructions = """
            1. Authenticate with ECR - Before you can pull the image from Amazon
 ECR, you need to authenticate with the registry. You can do this using the AWS CLI:

                aws ecr get-login-password --region us-east-1 | docker login --
username AWS --password-stdin %s.dkr.ecr.us-east-1.amazonaws.com

            2. Describe the image using this command:

               aws ecr describe-images --repository-name %s --image-ids imageTag=%s

            3. Run the Docker container and view the output using this command:

               docker run --rm %s.dkr.ecr.us-east-1.amazonaws.com/%s:%s
            """;

            instructions = String.format(instructions, accountId, repoName,
 localImageName, accountId, repoName, localImageName);
            System.out.println(instructions);
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
```

```
        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("10. Delete the ECR Repository.");
        System.out.println(
        """
        If the repository isn't empty, you must either delete the contents of the
 repository
        or use the force option (used in this scenario) to delete the repository and
 have Amazon ECR delete all of its contents
        on your behalf.
        """);
        System.out.println("Would you like to delete the Amazon ECR Repository? (y/
n)");
        String delAns = scanner.nextLine().trim();
        if (delAns.equalsIgnoreCase("y")) {
            System.out.println("You selected to delete the AWS ECR resources.");

            try {
                ecrActions.deleteECRRepository(repoName);

            } catch (EcrException e) {
                System.err.println("An ECR exception occurred: " + e.getMessage());
                return;
            } catch (RuntimeException e) {
                System.err.println("An error occurred while deleting the Docker
 image: " + e.getMessage());
                e.printStackTrace();
                return;
            }
        }

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("This concludes the Amazon ECR SDK scenario");
        System.out.println(DASHES);
    }

   private static void waitForInputToContinue(Scanner scanner) {
       while (true) {
           System.out.println("");
           System.out.println("Enter 'c' followed by <ENTER> to continue:");
           String input = scanner.nextLine();

           if (input.trim().equalsIgnoreCase("c")) {
               System.out.println("Continuing with the program...");
               System.out.println("");
```

```
                break;
            } else {
                // Handle invalid input.
                System.out.println("Invalid input. Please try again.");
            }
        }
    }
}
```

Amazon ECR SDK メソッドのラッパークラス。

```
import com.github.dockerjava.api.DockerClient;
import com.github.dockerjava.api.exception.DockerClientException;
import com.github.dockerjava.api.model.AuthConfig;
import com.github.dockerjava.api.model.Image;
import com.github.dockerjava.core.DockerClientBuilder;
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.core.client.config.ClientOverrideConfiguration;
import software.amazon.awssdk.http.async.SdkAsyncHttpClient;
import software.amazon.awssdk.http.nio.netty.NettyNioAsyncHttpClient;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.ecr.EcrAsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.ecr.model.AuthorizationData;
import software.amazon.awssdk.services.ecr.model.CreateRepositoryRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ecr.model.CreateRepositoryResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ecr.model.DeleteRepositoryRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ecr.model.DeleteRepositoryResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ecr.model.DescribeImagesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ecr.model.DescribeImagesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ecr.model.DescribeRepositoriesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ecr.model.DescribeRepositoriesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ecr.model.EcrException;
import software.amazon.awssdk.services.ecr.model.GetAuthorizationTokenResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ecr.model.GetRepositoryPolicyRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ecr.model.GetRepositoryPolicyResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ecr.model.ImageIdentifier;
import software.amazon.awssdk.services.ecr.model.Repository;
import software.amazon.awssdk.services.ecr.model.RepositoryPolicyNotFoundException;
import software.amazon.awssdk.services.ecr.model.SetRepositoryPolicyRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ecr.model.SetRepositoryPolicyResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ecr.model.StartLifecyclePolicyPreviewRequest;
```

```
import
 software.amazon.awssdk.services.ecr.model.StartLifecyclePolicyPreviewResponse;
import com.github.dockerjava.api.command.DockerCmdExecFactory;
import com.github.dockerjava.netty.NettyDockerCmdExecFactory;
import java.time.Duration;
import java.util.Base64;
import java.util.List;
import java.util.concurrent.CompletableFuture;
import java.util.concurrent.CompletionException;

public class ECRActions {
    private static EcrAsyncClient ecrClient;

    private static DockerClient dockerClient;

    private static Logger logger = LoggerFactory.getLogger(ECRActions.class);

    /**
     * Creates an Amazon Elastic Container Registry (Amazon ECR) repository.
     *
     * @param repoName the name of the repository to create.
     * @return the Amazon Resource Name (ARN) of the created repository, or an empty
 string if the operation failed.
     * @throws IllegalArgumentException     If repository name is invalid.
     * @throws RuntimeException             if an error occurs while creating the
 repository.
     */
    public String createECRRepository(String repoName) {
        if (repoName == null || repoName.isEmpty()) {
            throw new IllegalArgumentException("Repository name cannot be null or
 empty");
        }

        CreateRepositoryRequest request = CreateRepositoryRequest.builder()
            .repositoryName(repoName)
            .build();

        CompletableFuture<CreateRepositoryResponse> response =
 getAsyncClient().createRepository(request);
        try {
            CreateRepositoryResponse result = response.join();
            if (result != null) {
                System.out.println("The " + repoName + " repository was created
 successfully.");
```

```
                return result.repository().repositoryArn();
            } else {
                throw new RuntimeException("Unexpected response type");
            }
        } catch (CompletionException e) {
            Throwable cause = e.getCause();
            if (cause instanceof EcrException ex) {
                if
("RepositoryAlreadyExistsException".equals(ex.awsErrorDetails().errorCode())) {
                    System.out.println("The Amazon ECR repository already exists,
moving on...");
                    DescribeRepositoriesRequest describeRequest =
DescribeRepositoriesRequest.builder()
                        .repositoryNames(repoName)
                        .build();
                    DescribeRepositoriesResponse describeResponse =
getAsyncClient().describeRepositories(describeRequest).join();
                    return describeResponse.repositories().get(0).repositoryArn();
                } else {
                    throw new RuntimeException(ex);
                }
            } else {
                throw new RuntimeException(e);
            }
        }
    }

    /**
     * Deletes an ECR (Elastic Container Registry) repository.
     *
     * @param repoName the name of the repository to delete.
     * @throws IllegalArgumentException if the repository name is null or empty.
     * @throws EcrException if there is an error deleting the repository.
     * @throws RuntimeException if an unexpected error occurs during the deletion
process.
     */
    public void deleteECRRepository(String repoName) {
        if (repoName == null || repoName.isEmpty()) {
            throw new IllegalArgumentException("Repository name cannot be null or
empty");
        }

        DeleteRepositoryRequest repositoryRequest =
DeleteRepositoryRequest.builder()
```

```
            .force(true)
            .repositoryName(repoName)
            .build();

        CompletableFuture<DeleteRepositoryResponse> response =
getAsyncClient().deleteRepository(repositoryRequest);
        response.whenComplete((deleteRepositoryResponse, ex) -> {
            if (deleteRepositoryResponse != null) {
                System.out.println("You have successfully deleted the " + repoName +
" repository");
            } else {
                Throwable cause = ex.getCause();
                if (cause instanceof EcrException) {
                    throw (EcrException) cause;
                } else {
                    throw new RuntimeException("Unexpected error: " +
cause.getMessage(), cause);
                }
            }
        });

        // Wait for the CompletableFuture to complete
        response.join();
    }



    private static DockerClient getDockerClient() {
        String osName = System.getProperty("os.name");
        if (osName.startsWith("Windows")) {
            // Make sure Docker Desktop is running.
            String dockerHost = "tcp://localhost:2375"; // Use the Docker Desktop
default port.
            DockerCmdExecFactory dockerCmdExecFactory = new
NettyDockerCmdExecFactory().withReadTimeout(20000).withConnectTimeout(20000);
            dockerClient =
DockerClientBuilder.getInstance(dockerHost).withDockerCmdExecFactory(dockerCmdExecFactory).
        } else {
            dockerClient = DockerClientBuilder.getInstance().build();
        }
        return dockerClient;
    }

    /**
```

```
    * Retrieves an asynchronous Amazon Elastic Container Registry (ECR) client.
    *
    * @return the configured ECR asynchronous client.
    */
   private static EcrAsyncClient getAsyncClient() {

       /*
        The `NettyNioAsyncHttpClient` class is part of the AWS SDK for Java,
version 2,
        and it is designed to provide a high-performance, asynchronous HTTP client
for interacting with AWS services.
        It uses the Netty framework to handle the underlying network communication
and the Java NIO API to
        provide a non-blocking, event-driven approach to HTTP requests and
responses.
        */
       SdkAsyncHttpClient httpClient = NettyNioAsyncHttpClient.builder()
           .maxConcurrency(50)  // Adjust as needed.
           .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(60))  // Set the connection
timeout.
           .readTimeout(Duration.ofSeconds(60))  // Set the read timeout.
           .writeTimeout(Duration.ofSeconds(60))  // Set the write timeout.
           .build();

       ClientOverrideConfiguration overrideConfig =
ClientOverrideConfiguration.builder()
           .apiCallTimeout(Duration.ofMinutes(2))  // Set the overall API call
timeout.
           .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(90))  // Set the individual
call attempt timeout.
           .build();

       if (ecrClient == null) {
           ecrClient = EcrAsyncClient.builder()
               .region(Region.US_EAST_1)
               .httpClient(httpClient)
               .overrideConfiguration(overrideConfig)
               .build();
       }
       return ecrClient;
   }

   /**
    * Sets the lifecycle policy for the specified repository.
```

```
     *
     * @param repoName the name of the repository for which to set the lifecycle
 policy.
     */
    public void setLifeCyclePolicy(String repoName) {
        /*
           This policy helps to maintain the size and efficiency of the container
 registry
           by automatically removing older and potentially unused images,
           ensuring that the storage is optimized and the registry remains up-to-
date.
         */
        String polText = """
             {
             "rules": [
                 {
                     "rulePriority": 1,
                     "description": "Expire images older than 14 days",
                     "selection": {
                         "tagStatus": "any",
                         "countType": "sinceImagePushed",
                         "countUnit": "days",
                         "countNumber": 14
                     },
                     "action": {
                         "type": "expire"
                     }
                 }
             ]
             }
             """;

        StartLifecyclePolicyPreviewRequest lifecyclePolicyPreviewRequest =
 StartLifecyclePolicyPreviewRequest.builder()
             .lifecyclePolicyText(polText)
             .repositoryName(repoName)
             .build();

        CompletableFuture<StartLifecyclePolicyPreviewResponse> response =
 getAsyncClient().startLifecyclePolicyPreview(lifecyclePolicyPreviewRequest);
        response.whenComplete((lifecyclePolicyPreviewResponse, ex) -> {
            if (lifecyclePolicyPreviewResponse != null) {
                System.out.println("Lifecycle policy preview started
 successfully.");
```

```
            } else {
                if (ex.getCause() instanceof EcrException) {
                    throw (EcrException) ex.getCause();
                } else {
                    String errorMessage = "Unexpected error occurred: " +
ex.getMessage();
                    throw new RuntimeException(errorMessage, ex);
                }
            }
        });
        // Wait for the CompletableFuture to complete.
        response.join();
    }

    /**
     * Verifies the existence of an image in an Amazon Elastic Container Registry
(Amazon ECR) repository asynchronously.
     *
     * @param repositoryName The name of the Amazon ECR repository.
     * @param imageTag       The tag of the image to verify.
     * @throws EcrException             if there is an error retrieving the image
information from Amazon ECR.
     * @throws CompletionException      if the asynchronous operation completes
exceptionally.
     */
    public void verifyImage(String repositoryName, String imageTag) {
        DescribeImagesRequest request = DescribeImagesRequest.builder()
            .repositoryName(repositoryName)
            .imageIds(ImageIdentifier.builder().imageTag(imageTag).build())
            .build();

        CompletableFuture<DescribeImagesResponse> response =
getAsyncClient().describeImages(request);
        response.whenComplete((describeImagesResponse, ex) -> {
            if (ex != null) {
                if (ex instanceof CompletionException) {
                    Throwable cause = ex.getCause();
                    if (cause instanceof EcrException) {
                        throw (EcrException) cause;
                    } else {
                        throw new RuntimeException("Unexpected error: " +
cause.getMessage(), cause);
                    }
                } else {
```

```
                    throw new RuntimeException("Unexpected error: " +
 ex.getCause());
                }
            } else if (describeImagesResponse != null && !
describeImagesResponse.imageDetails().isEmpty()) {
                System.out.println("Image is present in the repository.");
            } else {
                System.out.println("Image is not present in the repository.");
            }
        });

        // Wait for the CompletableFuture to complete.
        response.join();
    }

    /**
     * Retrieves the repository URI for the specified repository name.
     *
     * @param repoName the name of the repository to retrieve the URI for.
     * @return the repository URI for the specified repository name.
     * @throws EcrException        if there is an error retrieving the repository
 information.
     * @throws CompletionException if the asynchronous operation completes
 exceptionally.
     */
    public void getRepositoryURI(String repoName) {
        DescribeRepositoriesRequest request = DescribeRepositoriesRequest.builder()
            .repositoryNames(repoName)
            .build();

        CompletableFuture<DescribeRepositoriesResponse> response =
 getAsyncClient().describeRepositories(request);
        response.whenComplete((describeRepositoriesResponse, ex) -> {
            if (ex != null) {
                Throwable cause = ex.getCause();
                if (cause instanceof InterruptedException) {
                    Thread.currentThread().interrupt();
                    String errorMessage = "Thread interrupted while waiting for
 asynchronous operation: " + cause.getMessage();
                    throw new RuntimeException(errorMessage, cause);
                } else if (cause instanceof EcrException) {
                    throw (EcrException) cause;
                } else {
                    String errorMessage = "Unexpected error: " + cause.getMessage();
```

```
                    throw new RuntimeException(errorMessage, cause);
                }
            } else {
                if (describeRepositoriesResponse != null) {
                    if (!describeRepositoriesResponse.repositories().isEmpty()) {
                        String repositoryUri =
describeRepositoriesResponse.repositories().get(0).repositoryUri();
                        System.out.println("Repository URI found: " +
repositoryUri);
                    } else {
                        System.out.println("No repositories found for the given
name.");
                    }
                } else {
                    System.err.println("No response received from
describeRepositories.");
                }
            }
        });
        response.join();
    }

    /**
     * Retrieves the authorization token for Amazon Elastic Container Registry
(ECR).
     * This method makes an asynchronous call to the ECR client to retrieve the
authorization token.
     * If the operation is successful, the method prints the token to the console.
     * If an exception occurs, the method handles the exception and prints the error
message.
     *
     * @throws EcrException     if there is an error retrieving the authorization
token from ECR.
     * @throws RuntimeException if there is an unexpected error during the
operation.
     */
    public void getAuthToken() {
        CompletableFuture<GetAuthorizationTokenResponse> response =
getAsyncClient().getAuthorizationToken();
        response.whenComplete((authorizationTokenResponse, ex) -> {
            if (authorizationTokenResponse != null) {
                AuthorizationData authorizationData =
authorizationTokenResponse.authorizationData().get(0);
                String token = authorizationData.authorizationToken();
```

```
                if (!token.isEmpty()) {
                    System.out.println("The token was successfully retrieved.");
                }
            } else {
                if (ex.getCause() instanceof EcrException) {
                    throw (EcrException) ex.getCause();
                } else {
                    String errorMessage = "Unexpected error occurred: " +
ex.getMessage();
                    throw new RuntimeException(errorMessage, ex); // Rethrow the
exception
                }
            }
        });
        response.join();
    }

    /**
     * Gets the repository policy for the specified repository.
     *
     * @param repoName the name of the repository.
     * @throws EcrException if an AWS error occurs while getting the repository
policy.
     */
    public String getRepoPolicy(String repoName) {
        if (repoName == null || repoName.isEmpty()) {
            throw new IllegalArgumentException("Repository name cannot be null or
empty");
        }

        GetRepositoryPolicyRequest getRepositoryPolicyRequest =
GetRepositoryPolicyRequest.builder()
            .repositoryName(repoName)
            .build();

        CompletableFuture<GetRepositoryPolicyResponse> response =
getAsyncClient().getRepositoryPolicy(getRepositoryPolicyRequest);
        response.whenComplete((resp, ex) -> {
            if (resp != null) {
                System.out.println("Repository policy retrieved successfully.");
            } else {
                if (ex.getCause() instanceof EcrException) {
                    throw (EcrException) ex.getCause();
                } else {
```

```
                    String errorMessage = "Unexpected error occurred: " +
ex.getMessage();
                    throw new RuntimeException(errorMessage, ex);
                }
            }
        });

        GetRepositoryPolicyResponse result = response.join();
        return result != null ? result.policyText() : null;
    }

    /**
     * Sets the repository policy for the specified ECR repository.
     *
     * @param repoName the name of the ECR repository.
     * @param iamRole  the IAM role to be granted access to the repository.
     * @throws RepositoryPolicyNotFoundException if the repository policy does not
exist.
     * @throws EcrException                      if there is an unexpected error
setting the repository policy.
     */
    public void setRepoPolicy(String repoName, String iamRole) {
        /*
          This example policy document grants the specified AWS principal the
permission to perform the
          `ecr:BatchGetImage` action. This policy is designed to allow the specified
principal
          to retrieve Docker images from the ECR repository.
         */
        String policyDocumentTemplate = """
             {
              "Version":"2012-10-17",
              "Statement" : [ {
                "Sid" : "new statement",
                "Effect" : "Allow",
                "Principal" : {
                  "AWS" : "%s"
                },
                "Action" : "ecr:BatchGetImage"
              } ]
            }
             """;

        String policyDocument = String.format(policyDocumentTemplate, iamRole);
```

```
        SetRepositoryPolicyRequest setRepositoryPolicyRequest =
SetRepositoryPolicyRequest.builder()
            .repositoryName(repoName)
            .policyText(policyDocument)
            .build();

        CompletableFuture<SetRepositoryPolicyResponse> response =
getAsyncClient().setRepositoryPolicy(setRepositoryPolicyRequest);
        response.whenComplete((resp, ex) -> {
            if (resp != null) {
                System.out.println("Repository policy set successfully.");
            } else {
                Throwable cause = ex.getCause();
                if (cause instanceof RepositoryPolicyNotFoundException) {
                    throw (RepositoryPolicyNotFoundException) cause;
                } else if (cause instanceof EcrException) {
                    throw (EcrException) cause;
                } else {
                    String errorMessage = "Unexpected error: " + cause.getMessage();
                    throw new RuntimeException(errorMessage, cause);
                }
            }
        });
        response.join();
    }

    /**
     * Pushes a Docker image to an Amazon Elastic Container Registry (ECR)
repository.
     *
     * @param repoName  the name of the ECR repository to push the image to.
     * @param imageName the name of the Docker image.
     */
    public void pushDockerImage(String repoName, String imageName) {
        System.out.println("Pushing " + imageName + " to Amazon ECR will take a few
seconds.");
        CompletableFuture<AuthConfig> authResponseFuture =
getAsyncClient().getAuthorizationToken()
            .thenApply(response -> {
                String token =
response.authorizationData().get(0).authorizationToken();
                String decodedToken = new String(Base64.getDecoder().decode(token));
                String password = decodedToken.substring(4);
```

```
                DescribeRepositoriesResponse descrRepoResponse =
 getAsyncClient().describeRepositories(b -> b.repositoryNames(repoName)).join();
                Repository repoData =
 descrRepoResponse.repositories().stream().filter(r ->
 r.repositoryName().equals(repoName)).findFirst().orElse(null);
                assert repoData != null;
                String registryURL = repoData.repositoryUri().split("/")[0];

                AuthConfig authConfig = new AuthConfig()
                    .withUsername("AWS")
                    .withPassword(password)
                    .withRegistryAddress(registryURL);
                return authConfig;
            })
            .thenCompose(authConfig -> {
                DescribeRepositoriesResponse descrRepoResponse =
 getAsyncClient().describeRepositories(b -> b.repositoryNames(repoName)).join();
                Repository repoData =
 descrRepoResponse.repositories().stream().filter(r ->
 r.repositoryName().equals(repoName)).findFirst().orElse(null);
                getDockerClient().tagImageCmd(imageName + ":latest",
 repoData.repositoryUri() + ":latest", imageName).exec();
                try {

 getDockerClient().pushImageCmd(repoData.repositoryUri()).withTag("echo-
text").withAuthConfig(authConfig).start().awaitCompletion();
                    System.out.println("The " + imageName + " was pushed to ECR");

                } catch (InterruptedException e) {
                    throw (RuntimeException) e.getCause();
                }
                return CompletableFuture.completedFuture(authConfig);
            });

        authResponseFuture.join();
    }

    // Make sure local image echo-text exists.
    public boolean isEchoTextImagePresent() {
        try {
            List<Image> images = getDockerClient().listImagesCmd().exec();
            boolean helloWorldFound = false;
            for (Image image : images) {
                String[] repoTags = image.getRepoTags();
```

```
                if (repoTags != null) {
                    for (String tag : repoTags) {
                        if (tag.startsWith("echo-text")) {
                            System.out.println(tag);
                            helloWorldFound = true;
                        }
                    }
                }
            }
            if (helloWorldFound) {
                System.out.println("The local image named echo-text exists.");
                return true;
            } else {
                System.out.println("The local image named echo-text does not
 exist.");
                return false;
            }
        } catch (DockerClientException ex) {
            logger.error("ERROR: " + ex.getMessage());
            return false;
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - CreateRepository
  - DeleteRepository
  - DescribeImages
  - DescribeRepositories
  - GetAuthorizationToken
  - GetRepositoryPolicy
  - SetRepositoryPolicy
  - StartLifecyclePolicyPreview

アクション

`CreateRepository`

次のコード例は、`CreateRepository` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Creates an Amazon Elastic Container Registry (Amazon ECR) repository.
    *
    * @param repoName the name of the repository to create.
    * @return the Amazon Resource Name (ARN) of the created repository, or an empty
string if the operation failed.
    * @throws IllegalArgumentException     If repository name is invalid.
    * @throws RuntimeException             if an error occurs while creating the
repository.
    */
   public String createECRRepository(String repoName) {
       if (repoName == null || repoName.isEmpty()) {
           throw new IllegalArgumentException("Repository name cannot be null or
empty");
       }

       CreateRepositoryRequest request = CreateRepositoryRequest.builder()
           .repositoryName(repoName)
           .build();

       CompletableFuture<CreateRepositoryResponse> response =
getAsyncClient().createRepository(request);
       try {
           CreateRepositoryResponse result = response.join();
           if (result != null) {
               System.out.println("The " + repoName + " repository was created
successfully.");
               return result.repository().repositoryArn();
```

```
            } else {
                throw new RuntimeException("Unexpected response type");
            }
        } catch (CompletionException e) {
            Throwable cause = e.getCause();
            if (cause instanceof EcrException ex) {
                if
("RepositoryAlreadyExistsException".equals(ex.awsErrorDetails().errorCode())) {
                    System.out.println("The Amazon ECR repository already exists,
moving on...");
                    DescribeRepositoriesRequest describeRequest =
DescribeRepositoriesRequest.builder()
                        .repositoryNames(repoName)
                        .build();
                    DescribeRepositoriesResponse describeResponse =
getAsyncClient().describeRepositories(describeRequest).join();
                    return describeResponse.repositories().get(0).repositoryArn();
                } else {
                    throw new RuntimeException(ex);
                }
            } else {
                throw new RuntimeException(e);
            }
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateRepository」を参照してください。

`DeleteRepository`

次のコード例は、`DeleteRepository` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Deletes an ECR (Elastic Container Registry) repository.
    *
    * @param repoName the name of the repository to delete.
    * @throws IllegalArgumentException if the repository name is null or empty.
    * @throws EcrException if there is an error deleting the repository.
    * @throws RuntimeException if an unexpected error occurs during the deletion
process.
    */
   public void deleteECRRepository(String repoName) {
       if (repoName == null || repoName.isEmpty()) {
           throw new IllegalArgumentException("Repository name cannot be null or
empty");
       }

       DeleteRepositoryRequest repositoryRequest =
DeleteRepositoryRequest.builder()
           .force(true)
           .repositoryName(repoName)
           .build();

       CompletableFuture<DeleteRepositoryResponse> response =
getAsyncClient().deleteRepository(repositoryRequest);
       response.whenComplete((deleteRepositoryResponse, ex) -> {
           if (deleteRepositoryResponse != null) {
               System.out.println("You have successfully deleted the " + repoName +
" repository");
           } else {
               Throwable cause = ex.getCause();
               if (cause instanceof EcrException) {
                   throw (EcrException) cause;
               } else {
                   throw new RuntimeException("Unexpected error: " +
cause.getMessage(), cause);
               }
           }
       });

       // Wait for the CompletableFuture to complete
       response.join();
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteRepository」を参照してください。

`DescribeImages`

次のコード例は、`DescribeImages` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Verifies the existence of an image in an Amazon Elastic Container Registry
(Amazon ECR) repository asynchronously.
    *
    * @param repositoryName The name of the Amazon ECR repository.
    * @param imageTag       The tag of the image to verify.
    * @throws EcrException             if there is an error retrieving the image
information from Amazon ECR.
    * @throws CompletionException      if the asynchronous operation completes
exceptionally.
    */
   public void verifyImage(String repositoryName, String imageTag) {
       DescribeImagesRequest request = DescribeImagesRequest.builder()
           .repositoryName(repositoryName)
           .imageIds(ImageIdentifier.builder().imageTag(imageTag).build())
           .build();

       CompletableFuture<DescribeImagesResponse> response =
getAsyncClient().describeImages(request);
       response.whenComplete((describeImagesResponse, ex) -> {
           if (ex != null) {
               if (ex instanceof CompletionException) {
                   Throwable cause = ex.getCause();
                   if (cause instanceof EcrException) {
                       throw (EcrException) cause;
                   } else {
```

```
                        throw new RuntimeException("Unexpected error: " +
 cause.getMessage(), cause);
                    }
                } else {
                    throw new RuntimeException("Unexpected error: " +
 ex.getCause());
                }
            } else if (describeImagesResponse != null && !
describeImagesResponse.imageDetails().isEmpty()) {
                System.out.println("Image is present in the repository.");
            } else {
                System.out.println("Image is not present in the repository.");
            }
        });

        // Wait for the CompletableFuture to complete.
        response.join();
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeImages」を参照してください。

`DescribeRepositories`

次のコード例は、`DescribeRepositories` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Retrieves the repository URI for the specified repository name.
     *
     * @param repoName the name of the repository to retrieve the URI for.
     * @return the repository URI for the specified repository name.
```

```
    * @throws EcrException        if there is an error retrieving the repository
information.
    * @throws CompletionException if the asynchronous operation completes
exceptionally.
    */
   public void getRepositoryURI(String repoName) {
       DescribeRepositoriesRequest request = DescribeRepositoriesRequest.builder()
           .repositoryNames(repoName)
           .build();

       CompletableFuture<DescribeRepositoriesResponse> response =
getAsyncClient().describeRepositories(request);
       response.whenComplete((describeRepositoriesResponse, ex) -> {
           if (ex != null) {
               Throwable cause = ex.getCause();
               if (cause instanceof InterruptedException) {
                   Thread.currentThread().interrupt();
                   String errorMessage = "Thread interrupted while waiting for
asynchronous operation: " + cause.getMessage();
                   throw new RuntimeException(errorMessage, cause);
               } else if (cause instanceof EcrException) {
                   throw (EcrException) cause;
               } else {
                   String errorMessage = "Unexpected error: " + cause.getMessage();
                   throw new RuntimeException(errorMessage, cause);
               }
           } else {
               if (describeRepositoriesResponse != null) {
                   if (!describeRepositoriesResponse.repositories().isEmpty()) {
                       String repositoryUri =
describeRepositoriesResponse.repositories().get(0).repositoryUri();
                       System.out.println("Repository URI found: " +
repositoryUri);
                   } else {
                       System.out.println("No repositories found for the given
name.");
                   }
               } else {
                   System.err.println("No response received from
describeRepositories.");
               }
           }
       });
       response.join();
```

```
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeRepositories」を参照してください。

GetAuthorizationToken

次のコード例は、GetAuthorizationToken を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Retrieves the authorization token for Amazon Elastic Container Registry
(ECR).
    * This method makes an asynchronous call to the ECR client to retrieve the
authorization token.
    * If the operation is successful, the method prints the token to the console.
    * If an exception occurs, the method handles the exception and prints the error
message.
    *
    * @throws EcrException     if there is an error retrieving the authorization
token from ECR.
    * @throws RuntimeException if there is an unexpected error during the
operation.
    */
   public void getAuthToken() {
       CompletableFuture<GetAuthorizationTokenResponse> response =
getAsyncClient().getAuthorizationToken();
       response.whenComplete((authorizationTokenResponse, ex) -> {
           if (authorizationTokenResponse != null) {
               AuthorizationData authorizationData =
authorizationTokenResponse.authorizationData().get(0);
               String token = authorizationData.authorizationToken();
               if (!token.isEmpty()) {
```

```
                    System.out.println("The token was successfully retrieved.");
                }
            } else {
                if (ex.getCause() instanceof EcrException) {
                    throw (EcrException) ex.getCause();
                } else {
                    String errorMessage = "Unexpected error occurred: " +
ex.getMessage();
                    throw new RuntimeException(errorMessage, ex); // Rethrow the
exception
                }
            }
        });
        response.join();
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetAuthorizationToken」を参照してください。

GetRepositoryPolicy

次のコード例は、GetRepositoryPolicy を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Gets the repository policy for the specified repository.
     *
     * @param repoName the name of the repository.
     * @throws EcrException if an AWS error occurs while getting the repository
policy.
     */
    public String getRepoPolicy(String repoName) {
        if (repoName == null || repoName.isEmpty()) {
```

```
            throw new IllegalArgumentException("Repository name cannot be null or
empty");
        }

        GetRepositoryPolicyRequest getRepositoryPolicyRequest =
GetRepositoryPolicyRequest.builder()
            .repositoryName(repoName)
            .build();

        CompletableFuture<GetRepositoryPolicyResponse> response =
getAsyncClient().getRepositoryPolicy(getRepositoryPolicyRequest);
        response.whenComplete((resp, ex) -> {
            if (resp != null) {
                System.out.println("Repository policy retrieved successfully.");
            } else {
                if (ex.getCause() instanceof EcrException) {
                    throw (EcrException) ex.getCause();
                } else {
                    String errorMessage = "Unexpected error occurred: " +
ex.getMessage();
                    throw new RuntimeException(errorMessage, ex);
                }
            }
        });

        GetRepositoryPolicyResponse result = response.join();
        return result != null ? result.policyText() : null;
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetRepositoryPolicy」を参照してください。

PushImageCmd

次のコード例は、PushImageCmd を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Pushes a Docker image to an Amazon Elastic Container Registry (ECR)
repository.
    *
    * @param repoName  the name of the ECR repository to push the image to.
    * @param imageName the name of the Docker image.
    */
   public void pushDockerImage(String repoName, String imageName) {
       System.out.println("Pushing " + imageName + " to Amazon ECR will take a few
seconds.");
       CompletableFuture<AuthConfig> authResponseFuture =
getAsyncClient().getAuthorizationToken()
           .thenApply(response -> {
               String token =
response.authorizationData().get(0).authorizationToken();
               String decodedToken = new String(Base64.getDecoder().decode(token));
               String password = decodedToken.substring(4);

               DescribeRepositoriesResponse descrRepoResponse =
getAsyncClient().describeRepositories(b -> b.repositoryNames(repoName)).join();
               Repository repoData =
descrRepoResponse.repositories().stream().filter(r ->
r.repositoryName().equals(repoName)).findFirst().orElse(null);
               assert repoData != null;
               String registryURL = repoData.repositoryUri().split("/")[0];

               AuthConfig authConfig = new AuthConfig()
                   .withUsername("AWS")
                   .withPassword(password)
                   .withRegistryAddress(registryURL);
               return authConfig;
           })
           .thenCompose(authConfig -> {
```

```
                DescribeRepositoriesResponse descrRepoResponse =
 getAsyncClient().describeRepositories(b -> b.repositoryNames(repoName)).join();
                Repository repoData =
 descrRepoResponse.repositories().stream().filter(r ->
 r.repositoryName().equals(repoName)).findFirst().orElse(null);
                getDockerClient().tagImageCmd(imageName + ":latest",
 repoData.repositoryUri() + ":latest", imageName).exec();
                try {

 getDockerClient().pushImageCmd(repoData.repositoryUri()).withTag("echo-
text").withAuthConfig(authConfig).start().awaitCompletion();
                    System.out.println("The " + imageName + " was pushed to ECR");

                } catch (InterruptedException e) {
                    throw (RuntimeException) e.getCause();
                }
                return CompletableFuture.completedFuture(authConfig);
            });

        authResponseFuture.join();
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「PushImageCmd」を参照してください。

SetRepositoryPolicy

次のコード例は、SetRepositoryPolicy を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Sets the repository policy for the specified ECR repository.
     *
```

```
    * @param repoName the name of the ECR repository.
    * @param iamRole  the IAM role to be granted access to the repository.
    * @throws RepositoryPolicyNotFoundException if the repository policy does not
exist.
    * @throws EcrException                      if there is an unexpected error
setting the repository policy.
    */
   public void setRepoPolicy(String repoName, String iamRole) {
       /*
         This example policy document grants the specified AWS principal the
permission to perform the
         `ecr:BatchGetImage` action. This policy is designed to allow the specified
principal
         to retrieve Docker images from the ECR repository.
        */
       String policyDocumentTemplate = """
            {
             "Version":"2012-10-17",
             "Statement" : [ {
               "Sid" : "new statement",
               "Effect" : "Allow",
               "Principal" : {
                 "AWS" : "%s"
               },
               "Action" : "ecr:BatchGetImage"
             } ]
           }
            """;

       String policyDocument = String.format(policyDocumentTemplate, iamRole);
       SetRepositoryPolicyRequest setRepositoryPolicyRequest =
SetRepositoryPolicyRequest.builder()
           .repositoryName(repoName)
           .policyText(policyDocument)
           .build();

       CompletableFuture<SetRepositoryPolicyResponse> response =
getAsyncClient().setRepositoryPolicy(setRepositoryPolicyRequest);
       response.whenComplete((resp, ex) -> {
           if (resp != null) {
               System.out.println("Repository policy set successfully.");
           } else {
               Throwable cause = ex.getCause();
               if (cause instanceof RepositoryPolicyNotFoundException) {
```

```
                    throw (RepositoryPolicyNotFoundException) cause;
                } else if (cause instanceof EcrException) {
                    throw (EcrException) cause;
                } else {
                    String errorMessage = "Unexpected error: " + cause.getMessage();
                    throw new RuntimeException(errorMessage, cause);
                }
            }
        });
        response.join();
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「SetRepositoryPolicy」を参照してください。

`StartLifecyclePolicyPreview`

次のコード例は、`StartLifecyclePolicyPreview` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Verifies the existence of an image in an Amazon Elastic Container Registry
(Amazon ECR) repository asynchronously.
     *
     * @param repositoryName The name of the Amazon ECR repository.
     * @param imageTag       The tag of the image to verify.
     * @throws EcrException             if there is an error retrieving the image
information from Amazon ECR.
     * @throws CompletionException      if the asynchronous operation completes
exceptionally.
     */
    public void verifyImage(String repositoryName, String imageTag) {
        DescribeImagesRequest request = DescribeImagesRequest.builder()
```

```
            .repositoryName(repositoryName)
            .imageIds(ImageIdentifier.builder().imageTag(imageTag).build())
            .build();

        CompletableFuture<DescribeImagesResponse> response =
 getAsyncClient().describeImages(request);
        response.whenComplete((describeImagesResponse, ex) -> {
            if (ex != null) {
                if (ex instanceof CompletionException) {
                    Throwable cause = ex.getCause();
                    if (cause instanceof EcrException) {
                        throw (EcrException) cause;
                    } else {
                        throw new RuntimeException("Unexpected error: " +
 cause.getMessage(), cause);
                    }
                } else {
                    throw new RuntimeException("Unexpected error: " +
 ex.getCause());
                }
            } else if (describeImagesResponse != null &&
describeImagesResponse.imageDetails().isEmpty()) {
                System.out.println("Image is present in the repository.");
            } else {
                System.out.println("Image is not present in the repository.");
            }
        });

        // Wait for the CompletableFuture to complete.
        response.join();
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartLifecyclePolicyPreview」を参照してください。

SDK for Java 2.x を使用する Amazon ECS の例

次のコード例は、Amazon ECS AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- アクション

アクション

`CreateCluster`

次のコード例は、`CreateCluster` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.ecs.EcsClient;
import software.amazon.awssdk.services.ecs.model.ExecuteCommandConfiguration;
import software.amazon.awssdk.services.ecs.model.ExecuteCommandLogging;
import software.amazon.awssdk.services.ecs.model.ClusterConfiguration;
import software.amazon.awssdk.services.ecs.model.CreateClusterResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ecs.model.EcsException;
import software.amazon.awssdk.services.ecs.model.CreateClusterRequest;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
```

```
public class CreateCluster {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                   <clusterName>\s

                Where:
                   clusterName - The name of the ECS cluster to create.
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String clusterName = args[0];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        EcsClient ecsClient = EcsClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        String clusterArn = createGivenCluster(ecsClient, clusterName);
        System.out.println("The cluster ARN is " + clusterArn);
        ecsClient.close();
    }

    public static String createGivenCluster(EcsClient ecsClient, String clusterName)
{
        try {
            ExecuteCommandConfiguration commandConfiguration =
ExecuteCommandConfiguration.builder()
                    .logging(ExecuteCommandLogging.DEFAULT)
                    .build();

            ClusterConfiguration clusterConfiguration =
ClusterConfiguration.builder()
                    .executeCommandConfiguration(commandConfiguration)
                    .build();

            CreateClusterRequest clusterRequest = CreateClusterRequest.builder()
                    .clusterName(clusterName)
                    .configuration(clusterConfiguration)
                    .build();
```

```
            CreateClusterResponse response =
 ecsClient.createCluster(clusterRequest);
            return response.cluster().clusterArn();

        } catch (EcsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateCluster」を参照してください。

`CreateService`

次のコード例は、`CreateService` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.ecs.EcsClient;
import software.amazon.awssdk.services.ecs.model.AwsVpcConfiguration;
import software.amazon.awssdk.services.ecs.model.NetworkConfiguration;
import software.amazon.awssdk.services.ecs.model.CreateServiceRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ecs.model.LaunchType;
import software.amazon.awssdk.services.ecs.model.CreateServiceResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ecs.model.EcsException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
```

```
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class CreateService {
        public static void main(String[] args) {
                final String usage = """

                                Usage:
                                  <clusterName> <serviceName> <securityGroups>
 <subnets> <taskDefinition>

                                Where:
                                  clusterName - The name of the ECS cluster.
                                  serviceName - The name of the ECS service to
 create.
                                  securityGroups - The name of the security group.
                                  subnets - The name of the subnet.
                                  taskDefinition - The name of the task definition.
                                """;

                if (args.length != 5) {
                        System.out.println(usage);
                        System.exit(1);
                }

                String clusterName = args[0];
                String serviceName = args[1];
                String securityGroups = args[2];
                String subnets = args[3];
                String taskDefinition = args[4];
                Region region = Region.US_EAST_1;
                EcsClient ecsClient = EcsClient.builder()
                                .region(region)
                                .build();

                String serviceArn = createNewService(ecsClient, clusterName,
 serviceName, securityGroups, subnets,
                                taskDefinition);
                System.out.println("The ARN of the service is " + serviceArn);
                ecsClient.close();
        }
```

```
        public static String createNewService(EcsClient ecsClient,
                        String clusterName,
                        String serviceName,
                        String securityGroups,
                        String subnets,
                        String taskDefinition) {

                try {
                        AwsVpcConfiguration vpcConfiguration =
 AwsVpcConfiguration.builder()
                                        .securityGroups(securityGroups)
                                        .subnets(subnets)
                                        .build();

                        NetworkConfiguration configuration =
 NetworkConfiguration.builder()
                                        .awsvpcConfiguration(vpcConfiguration)
                                        .build();

                        CreateServiceRequest serviceRequest =
 CreateServiceRequest.builder()
                                        .cluster(clusterName)
                                        .networkConfiguration(configuration)
                                        .desiredCount(1)
                                        .launchType(LaunchType.FARGATE)
                                        .serviceName(serviceName)
                                        .taskDefinition(taskDefinition)
                                        .build();

                        CreateServiceResponse response =
 ecsClient.createService(serviceRequest);
                        return response.service().serviceArn();

                } catch (EcsException e) {
                        System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
                        System.exit(1);
                }
                return "";
        }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateService」を参照してください。

`DeleteService`

次のコード例は、`DeleteService` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.ecs.EcsClient;
import software.amazon.awssdk.services.ecs.model.DeleteServiceRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ecs.model.EcsException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */

public class DeleteService {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                  <clusterName> <serviceArn>\s

                Where:
                  clusterName - The name of the ECS cluster.
                  serviceArn - The ARN of the ECS service.
                """;

        if (args.length != 2) {
```

```
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String clusterName = args[0];
        String serviceArn = args[1];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        EcsClient ecsClient = EcsClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        deleteSpecificService(ecsClient, clusterName, serviceArn);
        ecsClient.close();
    }

    public static void deleteSpecificService(EcsClient ecsClient, String
 clusterName, String serviceArn) {
        try {
            DeleteServiceRequest serviceRequest = DeleteServiceRequest.builder()
                    .cluster(clusterName)
                    .service(serviceArn)
                    .build();

            ecsClient.deleteService(serviceRequest);
            System.out.println("The Service was successfully deleted");

        } catch (EcsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- 詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteService」を参照してください。

DescribeClusters

次のコード例は、DescribeClusters を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.ecs.EcsClient;
import software.amazon.awssdk.services.ecs.model.DescribeClustersRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ecs.model.DescribeClustersResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ecs.model.Cluster;
import software.amazon.awssdk.services.ecs.model.EcsException;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DescribeClusters {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                  <clusterArn> \s

                Where:
                  clusterArn - The ARN of the ECS cluster to describe.
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String clusterArn = args[0];
        Region region = Region.US_EAST_1;
```

```
        EcsClient ecsClient = EcsClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        descCluster(ecsClient, clusterArn);
    }

    public static void descCluster(EcsClient ecsClient, String clusterArn) {
        try {
            DescribeClustersRequest clustersRequest =
 DescribeClustersRequest.builder()
                    .clusters(clusterArn)
                    .build();

            DescribeClustersResponse response =
 ecsClient.describeClusters(clustersRequest);
            List<Cluster> clusters = response.clusters();
            for (Cluster cluster : clusters) {
                System.out.println("The cluster name is " + cluster.clusterName());
            }

        } catch (EcsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeClusters」を参照してください。

`DescribeTasks`

次のコード例は、`DescribeTasks` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.ecs.EcsClient;
import software.amazon.awssdk.services.ecs.model.DescribeTasksRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ecs.model.DescribeTasksResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ecs.model.EcsException;
import software.amazon.awssdk.services.ecs.model.Task;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ListTaskDefinitions {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                  <clusterArn> <taskId>\s

                Where:
                  clusterArn - The ARN of an ECS cluster.
                  taskId - The task Id value.
                """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String clusterArn = args[0];
```

```
        String taskId = args[1];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        EcsClient ecsClient = EcsClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        getAllTasks(ecsClient, clusterArn, taskId);
        ecsClient.close();
    }

    public static void getAllTasks(EcsClient ecsClient, String clusterArn, String
 taskId) {
        try {
            DescribeTasksRequest tasksRequest = DescribeTasksRequest.builder()
                    .cluster(clusterArn)
                    .tasks(taskId)
                    .build();

            DescribeTasksResponse response = ecsClient.describeTasks(tasksRequest);
            List<Task> tasks = response.tasks();
            for (Task task : tasks) {
                System.out.println("The task ARN is " + task.taskDefinitionArn());
            }

        } catch (EcsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeTasks」を参照してください。

ListClusters

次のコード例は、ListClusters を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.ecs.EcsClient;
import software.amazon.awssdk.services.ecs.model.ListClustersResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ecs.model.EcsException;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */

public class ListClusters {
    public static void main(String[] args) {
        Region region = Region.US_EAST_1;
        EcsClient ecsClient = EcsClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        listAllClusters(ecsClient);
        ecsClient.close();
    }

    public static void listAllClusters(EcsClient ecsClient) {
        try {
            ListClustersResponse response = ecsClient.listClusters();
            List<String> clusters = response.clusterArns();
            for (String cluster : clusters) {
                System.out.println("The cluster arn is " + cluster);
            }
```

```
        } catch (EcsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListClusters」を参照してください。

UpdateService

次のコード例は、UpdateService を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.ecs.EcsClient;
import software.amazon.awssdk.services.ecs.model.EcsException;
import software.amazon.awssdk.services.ecs.model.UpdateServiceRequest;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */

public class UpdateService {

    public static void main(String[] args) {
```

```
        final String usage = """

                Usage:
                   <clusterName> <serviceArn>\s

                Where:
                  clusterName - The cluster name.
                  serviceArn - The service ARN value.
                """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String clusterName = args[0];
        String serviceArn = args[1];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        EcsClient ecsClient = EcsClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        updateSpecificService(ecsClient, clusterName, serviceArn);
        ecsClient.close();
    }

    public static void updateSpecificService(EcsClient ecsClient, String
 clusterName, String serviceArn) {
        try {
            UpdateServiceRequest serviceRequest = UpdateServiceRequest.builder()
                    .cluster(clusterName)
                    .service(serviceArn)
                    .desiredCount(0)
                    .build();

            ecsClient.updateService(serviceRequest);
            System.out.println("The service was modified");

        } catch (EcsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「UpdateService」を参照してください。

Java 2.x 用 SDK を使用した Elastic Load Balancing - バージョン 2 の例

次のコード例は、Elastic Load Balancing - バージョン 2 AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- はじめに
- アクション
- シナリオ

はじめに

Hello Elastic Load Balancing

次のコード例は、Elastic Load Balancing の使用を開始する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
public class HelloLoadBalancer {

        public static void main(String[] args) {
                ElasticLoadBalancingV2Client loadBalancingV2Client =
 ElasticLoadBalancingV2Client.builder()
                                .region(Region.US_EAST_1)
                                .build();

                DescribeLoadBalancersResponse loadBalancersResponse =
 loadBalancingV2Client
                                .describeLoadBalancers(r -> r.pageSize(10));
                List<LoadBalancer> loadBalancerList =
 loadBalancersResponse.loadBalancers();
                for (LoadBalancer lb : loadBalancerList)
                        System.out.println("Load Balancer DNS name = " +
 lb.dnsName());
        }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeLoadBalancers」を参照してください。

アクション

`CreateListener`

次のコード例は、`CreateListener` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /*
    * Creates an Elastic Load Balancing load balancer that uses the specified
    * subnets
    * and forwards requests to the specified target group.
    */
   public String createLoadBalancer(List<Subnet> subnetIds, String targetGroupARN,
String lbName, int port,
           String protocol) {
       try {
           List<String> subnetIdStrings = subnetIds.stream()
                   .map(Subnet::subnetId)
                   .collect(Collectors.toList());

           CreateLoadBalancerRequest balancerRequest =
CreateLoadBalancerRequest.builder()
                   .subnets(subnetIdStrings)
                   .name(lbName)
                   .scheme("internet-facing")
                   .build();

           // Create and wait for the load balancer to become available.
           CreateLoadBalancerResponse lsResponse =
getLoadBalancerClient().createLoadBalancer(balancerRequest);
           String lbARN = lsResponse.loadBalancers().get(0).loadBalancerArn();

           ElasticLoadBalancingV2Waiter loadBalancerWaiter =
getLoadBalancerClient().waiter();
           DescribeLoadBalancersRequest request =
DescribeLoadBalancersRequest.builder()
                   .loadBalancerArns(lbARN)
                   .build();

           System.out.println("Waiting for Load Balancer " + lbName + " to become
available.");
```

```
            WaiterResponse<DescribeLoadBalancersResponse> waiterResponse =
loadBalancerWaiter
                    .waitUntilLoadBalancerAvailable(request);
            waiterResponse.matched().response().ifPresent(System.out::println);
            System.out.println("Load Balancer " + lbName + " is available.");

            // Get the DNS name (endpoint) of the load balancer.
            String lbDNSName = lsResponse.loadBalancers().get(0).dnsName();
            System.out.println("*** Load Balancer DNS Name: " + lbDNSName);

            // Create a listener for the load balance.
            Action action = Action.builder()
                    .targetGroupArn(targetGroupARN)
                    .type("forward")
                    .build();

            CreateListenerRequest listenerRequest = CreateListenerRequest.builder()

.loadBalancerArn(lsResponse.loadBalancers().get(0).loadBalancerArn())
                    .defaultActions(action)
                    .port(port)
                    .protocol(protocol)
                    .build();

            getLoadBalancerClient().createListener(listenerRequest);
            System.out.println("Created listener to forward traffic from load
balancer " + lbName + " to target group "
                    + targetGroupARN);

            // Return the load balancer DNS name.
            return lbDNSName;

        } catch (ElasticLoadBalancingV2Exception e) {
            e.printStackTrace();
        }
        return "";
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateListener」を参照してください。

CreateLoadBalancer

次のコード例は、CreateLoadBalancer を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /*
    * Creates an Elastic Load Balancing load balancer that uses the specified
    * subnets
    * and forwards requests to the specified target group.
    */
   public String createLoadBalancer(List<Subnet> subnetIds, String targetGroupARN,
String lbName, int port,
           String protocol) {
       try {
           List<String> subnetIdStrings = subnetIds.stream()
                   .map(Subnet::subnetId)
                   .collect(Collectors.toList());

           CreateLoadBalancerRequest balancerRequest =
CreateLoadBalancerRequest.builder()
                   .subnets(subnetIdStrings)
                   .name(lbName)
                   .scheme("internet-facing")
                   .build();

           // Create and wait for the load balancer to become available.
           CreateLoadBalancerResponse lsResponse =
getLoadBalancerClient().createLoadBalancer(balancerRequest);
           String lbARN = lsResponse.loadBalancers().get(0).loadBalancerArn();

           ElasticLoadBalancingV2Waiter loadBalancerWaiter =
getLoadBalancerClient().waiter();
           DescribeLoadBalancersRequest request =
DescribeLoadBalancersRequest.builder()
                   .loadBalancerArns(lbARN)
                   .build();
```

```
            System.out.println("Waiting for Load Balancer " + lbName + " to become
available.");
            WaiterResponse<DescribeLoadBalancersResponse> waiterResponse =
loadBalancerWaiter
                    .waitUntilLoadBalancerAvailable(request);
            waiterResponse.matched().response().ifPresent(System.out::println);
            System.out.println("Load Balancer " + lbName + " is available.");

            // Get the DNS name (endpoint) of the load balancer.
            String lbDNSName = lsResponse.loadBalancers().get(0).dnsName();
            System.out.println("*** Load Balancer DNS Name: " + lbDNSName);

            // Create a listener for the load balance.
            Action action = Action.builder()
                    .targetGroupArn(targetGroupARN)
                    .type("forward")
                    .build();

            CreateListenerRequest listenerRequest = CreateListenerRequest.builder()

.loadBalancerArn(lsResponse.loadBalancers().get(0).loadBalancerArn())
                    .defaultActions(action)
                    .port(port)
                    .protocol(protocol)
                    .build();

            getLoadBalancerClient().createListener(listenerRequest);
            System.out.println("Created listener to forward traffic from load
balancer " + lbName + " to target group "
                    + targetGroupARN);

            // Return the load balancer DNS name.
            return lbDNSName;

        } catch (ElasticLoadBalancingV2Exception e) {
            e.printStackTrace();
        }
        return "";
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateLoadBalancer」を参照してください。

`CreateTargetGroup`

次のコード例は、`CreateTargetGroup` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /*
    * Creates an Elastic Load Balancing target group. The target group specifies
    * how
    * the load balancer forward requests to instances in the group and how instance
    * health is checked.
    */
   public String createTargetGroup(String protocol, int port, String vpcId, String
targetGroupName) {
       CreateTargetGroupRequest targetGroupRequest =
CreateTargetGroupRequest.builder()
               .healthCheckPath("/healthcheck")
               .healthCheckTimeoutSeconds(5)
               .port(port)
               .vpcId(vpcId)
               .name(targetGroupName)
               .protocol(protocol)
               .build();

       CreateTargetGroupResponse targetGroupResponse =
getLoadBalancerClient().createTargetGroup(targetGroupRequest);
       String targetGroupArn =
targetGroupResponse.targetGroups().get(0).targetGroupArn();
       String targetGroup =
targetGroupResponse.targetGroups().get(0).targetGroupName();
       System.out.println("The " + targetGroup + " was created with ARN" +
targetGroupArn);
       return targetGroupArn;
```

```
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateTargetGroup」を参照してください。

`DeleteLoadBalancer`

次のコード例は、`DeleteLoadBalancer` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   // Deletes a load balancer.
   public void deleteLoadBalancer(String lbName) {
       try {
           // Use a waiter to delete the Load Balancer.
           DescribeLoadBalancersResponse res = getLoadBalancerClient()
                   .describeLoadBalancers(describe -> describe.names(lbName));
           ElasticLoadBalancingV2Waiter loadBalancerWaiter =
getLoadBalancerClient().waiter();
           DescribeLoadBalancersRequest request =
DescribeLoadBalancersRequest.builder()
                   .loadBalancerArns(res.loadBalancers().get(0).loadBalancerArn())
                   .build();

           getLoadBalancerClient().deleteLoadBalancer(
                   builder ->
builder.loadBalancerArn(res.loadBalancers().get(0).loadBalancerArn()));
           WaiterResponse<DescribeLoadBalancersResponse> waiterResponse =
loadBalancerWaiter
                   .waitUntilLoadBalancersDeleted(request);
           waiterResponse.matched().response().ifPresent(System.out::println);

       } catch (ElasticLoadBalancingV2Exception e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
```

```
        }
        System.out.println(lbName + " was deleted.");
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteLoadBalancer」を参照してください。

`DeleteTargetGroup`

次のコード例は、`DeleteTargetGroup` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    // Deletes the target group.
    public void deleteTargetGroup(String targetGroupName) {
        try {
            DescribeTargetGroupsResponse res = getLoadBalancerClient()
                    .describeTargetGroups(describe ->
describe.names(targetGroupName));
            getLoadBalancerClient()
                    .deleteTargetGroup(builder ->
builder.targetGroupArn(res.targetGroups().get(0).targetGroupArn()));
        } catch (ElasticLoadBalancingV2Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
        }
        System.out.println(targetGroupName + " was deleted.");
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteTargetGroup」を参照してください。

`DescribeTargetHealth`

次のコード例は、`DescribeTargetHealth` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   // Checks the health of the instances in the target group.
   public List<TargetHealthDescription> checkTargetHealth(String targetGroupName) {
       DescribeTargetGroupsRequest targetGroupsRequest =
DescribeTargetGroupsRequest.builder()
               .names(targetGroupName)
               .build();

       DescribeTargetGroupsResponse tgResponse =
getLoadBalancerClient().describeTargetGroups(targetGroupsRequest);

       DescribeTargetHealthRequest healthRequest =
DescribeTargetHealthRequest.builder()
               .targetGroupArn(tgResponse.targetGroups().get(0).targetGroupArn())
               .build();

       DescribeTargetHealthResponse healthResponse =
getLoadBalancerClient().describeTargetHealth(healthRequest);
       return healthResponse.targetHealthDescriptions();
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeTargetHealth」を参照してください。

シナリオ

レジリエントなサービスの構築と管理

次のコード例は、本、映画、曲のレコメンデーションを返す負荷分散型ウェブサービスの作成方法を示しています。この例は、障害に対するサービスの対応方法と、障害発生時の耐障害性を高めるためにサービスを再構築する方法を示しています。

- Amazon EC2 Auto Scaling グループを使用して、起動テンプレートに基づいて Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスを作成し、インスタンス数を所定の範囲内に維持します。
- Elastic Load Balancing で HTTP リクエストを処理して配信します。
- Auto Scaling グループ内のインスタンスの状態を監視し、正常なインスタンスにのみリクエストを転送します。
- 各 EC2 インスタンスで Python ウェブサーバーを実行して HTTP リクエストを処理します。ウェブサーバーはレコメンデーションとヘルスチェックを返します。
- Amazon DynamoDB テーブルを使用してレコメンデーションサービスをシミュレートできます。
- AWS Systems Manager パラメータを更新して、リクエストとヘルスチェックに対するウェブサーバーの応答を制御します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

コマンドプロンプトからインタラクティブなシナリオを実行します。

```
public class Main {

    public static final String fileName = "C:\\AWS\\resworkflow\
\recommendations.json"; // Modify file location.
    public static final String tableName = "doc-example-recommendation-service";
    public static final String startScript = "C:\\AWS\\resworkflow\
\server_startup_script.sh"; // Modify file location.
```

```
    public static final String policyFile = "C:\\AWS\\resworkflow\
\instance_policy.json"; // Modify file location.
    public static final String ssmJSON = "C:\\AWS\\resworkflow\
\ssm_only_policy.json"; // Modify file location.
    public static final String failureResponse = "doc-example-resilient-
architecture-failure-response";
    public static final String healthCheck = "doc-example-resilient-architecture-
health-check";
    public static final String templateName = "doc-example-resilience-template";
    public static final String roleName = "doc-example-resilience-role";
    public static final String policyName = "doc-example-resilience-pol";
    public static final String profileName = "doc-example-resilience-prof";

    public static final String badCredsProfileName = "doc-example-resilience-prof-
bc";

    public static final String targetGroupName = "doc-example-resilience-tg";
    public static final String autoScalingGroupName = "doc-example-resilience-
group";
    public static final String lbName = "doc-example-resilience-lb";
    public static final String protocol = "HTTP";
    public static final int port = 80;

    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");

    public static void main(String[] args) throws IOException, InterruptedException
 {
        Scanner in = new Scanner(System.in);
        Database database = new Database();
        AutoScaler autoScaler = new AutoScaler();
        LoadBalancer loadBalancer = new LoadBalancer();

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("Welcome to the demonstration of How to Build and Manage
 a Resilient Service!");
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("A - SETUP THE RESOURCES");
        System.out.println("Press Enter when you're ready to start deploying
 resources.");
        in.nextLine();
        deploy(loadBalancer);
        System.out.println(DASHES);
```

```
        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("B - DEMO THE RESILIENCE FUNCTIONALITY");
        System.out.println("Press Enter when you're ready.");
        in.nextLine();
        demo(loadBalancer);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("C - DELETE THE RESOURCES");
        System.out.println("""
                This concludes the demo of how to build and manage a resilient
service.
                To keep things tidy and to avoid unwanted charges on your account,
we can clean up all AWS resources
                that were created for this demo.
                """);

        System.out.println("\n Do you want to delete the resources (y/n)? ");
        String userInput = in.nextLine().trim().toLowerCase(); // Capture user input

        if (userInput.equals("y")) {
            // Delete resources here
            deleteResources(loadBalancer, autoScaler, database);
            System.out.println("Resources deleted.");
        } else {
            System.out.println("""
                    Okay, we'll leave the resources intact.
                    Don't forget to delete them when you're done with them or you
might incur unexpected charges.
                    """);
        }
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("The example has completed. ");
        System.out.println("\n Thanks for watching!");
        System.out.println(DASHES);
    }

    // Deletes the AWS resources used in this example.
    private static void deleteResources(LoadBalancer loadBalancer, AutoScaler
autoScaler, Database database)
            throws IOException, InterruptedException {
        loadBalancer.deleteLoadBalancer(lbName);
```

```
        System.out.println("*** Wait 30 secs for resource to be deleted");
        TimeUnit.SECONDS.sleep(30);
        loadBalancer.deleteTargetGroup(targetGroupName);
        autoScaler.deleteAutoScaleGroup(autoScalingGroupName);
        autoScaler.deleteRolesPolicies(policyName, roleName, profileName);
        autoScaler.deleteTemplate(templateName);
        database.deleteTable(tableName);
    }

    private static void deploy(LoadBalancer loadBalancer) throws
InterruptedException, IOException {
        Scanner in = new Scanner(System.in);
        System.out.println(
                """
                        For this demo, we'll use the AWS SDK for Java (v2) to create
several AWS resources
                        to set up a load-balanced web service endpoint and explore
some ways to make it resilient
                        against various kinds of failures.

                        Some of the resources create by this demo are:
                        \t* A DynamoDB table that the web service depends on to
provide book, movie, and song recommendations.
                        \t* An EC2 launch template that defines EC2 instances that
each contain a Python web server.
                        \t* An EC2 Auto Scaling group that manages EC2 instances
across several Availability Zones.
                        \t* An Elastic Load Balancing (ELB) load balancer that
targets the Auto Scaling group to distribute requests.
                        """);

        System.out.println("Press Enter when you're ready.");
        in.nextLine();
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("Creating and populating a DynamoDB table named " +
tableName);
        Database database = new Database();
        database.createTable(tableName, fileName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("""
```

```
                Creating an EC2 launch template that runs '{startup_script}' when an
instance starts.
                This script starts a Python web server defined in the `server.py`
script. The web server
                listens to HTTP requests on port 80 and responds to requests to '/'
and to '/healthcheck'.
                For demo purposes, this server is run as the root user. In
production, the best practice is to
                run a web server, such as Apache, with least-privileged credentials.

                The template also defines an IAM policy that each instance uses to
assume a role that grants
                permissions to access the DynamoDB recommendation table and Systems
Manager parameters
                that control the flow of the demo.
                """);

        LaunchTemplateCreator templateCreator = new LaunchTemplateCreator();
        templateCreator.createTemplate(policyFile, policyName, profileName,
startScript, templateName, roleName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println(
                "Creating an EC2 Auto Scaling group that maintains three EC2
instances, each in a different Availability Zone.");
        System.out.println("*** Wait 30 secs for the VPC to be created");
        TimeUnit.SECONDS.sleep(30);
        AutoScaler autoScaler = new AutoScaler();
        String[] zones = autoScaler.createGroup(3, templateName,
autoScalingGroupName);

        System.out.println("""
                At this point, you have EC2 instances created. Once each instance
starts, it listens for
                HTTP requests. You can see these instances in the console or
continue with the demo.
                Press Enter when you're ready to continue.
                """);

        in.nextLine();
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
```

```
        System.out.println("Creating variables that control the flow of the demo.");
        ParameterHelper paramHelper = new ParameterHelper();
        paramHelper.reset();
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("""
                Creating an Elastic Load Balancing target group and load balancer.
The target group
                defines how the load balancer connects to instances. The load
balancer provides a
                single endpoint where clients connect and dispatches requests to
instances in the group.
                """);

        String vpcId = autoScaler.getDefaultVPC();
        List<Subnet> subnets = autoScaler.getSubnets(vpcId, zones);
        System.out.println("You have retrieved a list with " + subnets.size() + "
subnets");
        String targetGroupArn = loadBalancer.createTargetGroup(protocol, port,
vpcId, targetGroupName);
        String elbDnsName = loadBalancer.createLoadBalancer(subnets, targetGroupArn,
lbName, port, protocol);
        autoScaler.attachLoadBalancerTargetGroup(autoScalingGroupName,
targetGroupArn);
        System.out.println("Verifying access to the load balancer endpoint...");
        boolean wasSuccessul = loadBalancer.verifyLoadBalancerEndpoint(elbDnsName);
        if (!wasSuccessul) {
            System.out.println("Couldn't connect to the load balancer, verifying
that the port is open...");
            CloseableHttpClient httpClient = HttpClients.createDefault();

            // Create an HTTP GET request to "http://checkip.amazonaws.com"
            HttpGet httpGet = new HttpGet("http://checkip.amazonaws.com");
            try {
                // Execute the request and get the response
                HttpResponse response = httpClient.execute(httpGet);

                // Read the response content.
                String ipAddress =
IOUtils.toString(response.getEntity().getContent(), StandardCharsets.UTF_8).trim();

                // Print the public IP address.
                System.out.println("Public IP Address: " + ipAddress);
```

```
                GroupInfo groupInfo = autoScaler.verifyInboundPort(vpcId, port,
ipAddress);
                if (!groupInfo.isPortOpen()) {
                    System.out.println("""
                            For this example to work, the default security group for
your default VPC must
                            allow access from this computer. You can either add it
automatically from this
                            example or add it yourself using the AWS Management
Console.
                            """);

                    System.out.println(
                            "Do you want to add a rule to security group " +
groupInfo.getGroupName() + " to allow");
                    System.out.println("inbound traffic on port " + port + " from
your computer's IP address (y/n) ");
                    String ans = in.nextLine();
                    if ("y".equalsIgnoreCase(ans)) {
                        autoScaler.openInboundPort(groupInfo.getGroupName(),
String.valueOf(port), ipAddress);
                        System.out.println("Security group rule added.");
                    } else {
                        System.out.println("No security group rule added.");
                    }
                }

            } catch (AutoScalingException e) {
                e.printStackTrace();
            }
        } else if (wasSuccessul) {
            System.out.println("Your load balancer is ready. You can access it by
browsing to:");
            System.out.println("\t http://" + elbDnsName);
        } else {
            System.out.println("Couldn't get a successful response from the load
balancer endpoint. Troubleshoot by");
            System.out.println("manually verifying that your VPC and security group
are configured correctly and that");
            System.out.println("you can successfully make a GET request to the load
balancer.");
        }
```

```
        System.out.println("Press Enter when you're ready to continue with the
demo.");
        in.nextLine();
    }

    // A method that controls the demo part of the Java program.
    public static void demo(LoadBalancer loadBalancer) throws IOException,
InterruptedException {
        ParameterHelper paramHelper = new ParameterHelper();
        System.out.println("Read the ssm_only_policy.json file");
        String ssmOnlyPolicy = readFileAsString(ssmJSON);

        System.out.println("Resetting parameters to starting values for demo.");
        paramHelper.reset();

        System.out.println(
                """
                        This part of the demonstration shows how to toggle
different parts of the system
                        to create situations where the web service fails, and shows
how using a resilient
                        architecture can keep the web service running in spite of
these failures.

                        At the start, the load balancer endpoint returns
recommendations and reports that all targets are healthy.
                       """);
        demoChoices(loadBalancer);

        System.out.println(
                """
                        The web service running on the EC2 instances gets
recommendations by querying a DynamoDB table.
                        The table name is contained in a Systems Manager parameter
named self.param_helper.table.
                        To simulate a failure of the recommendation service, let's
set this parameter to name a non-existent table.
                       """);
        paramHelper.put(paramHelper.tableName, "this-is-not-a-table");

        System.out.println(
                """
                        \nNow, sending a GET request to the load balancer endpoint
returns a failure code. But, the service reports as
```

```
                        healthy to the load balancer because shallow health checks
don't check for failure of the recommendation service.
                        """);
        demoChoices(loadBalancer);

        System.out.println(
                """
                        Instead of failing when the recommendation service fails,
the web service can return a static response.
                        While this is not a perfect solution, it presents the
customer with a somewhat better experience than failure.
                        """);
        paramHelper.put(paramHelper.failureResponse, "static");

        System.out.println("""
                Now, sending a GET request to the load balancer endpoint returns a
static response.
                The service still reports as healthy because health checks are still
shallow.
                """);
        demoChoices(loadBalancer);

        System.out.println("Let's reinstate the recommendation service.");
        paramHelper.put(paramHelper.tableName, paramHelper.dyntable);

        System.out.println("""
                Let's also substitute bad credentials for one of the instances in
the target group so that it can't
                access the DynamoDB recommendation table. We will get an instance id
value.
                """);

        LaunchTemplateCreator templateCreator = new LaunchTemplateCreator();
        AutoScaler autoScaler = new AutoScaler();

        // Create a new instance profile based on badCredsProfileName.
        templateCreator.createInstanceProfile(policyFile, policyName,
badCredsProfileName, roleName);
        String badInstanceId = autoScaler.getBadInstance(autoScalingGroupName);
        System.out.println("The bad instance id values used for this demo is " +
badInstanceId);

        String profileAssociationId = autoScaler.getInstanceProfile(badInstanceId);
        System.out.println("The association Id value is " + profileAssociationId);
```

```
        System.out.println("Replacing the profile for instance " + badInstanceId
                + " with a profile that contains bad credentials");
        autoScaler.replaceInstanceProfile(badInstanceId, badCredsProfileName,
profileAssociationId);

        System.out.println(
                """
                        Now, sending a GET request to the load balancer endpoint
returns either a recommendation or a static response,
                        depending on which instance is selected by the load
balancer.
                        """);

        demoChoices(loadBalancer);

        System.out.println("""
                Let's implement a deep health check. For this demo, a deep health
check tests whether
                the web service can access the DynamoDB table that it depends on for
recommendations. Note that
                the deep health check is only for ELB routing and not for Auto
Scaling instance health.
                This kind of deep health check is not recommended for Auto Scaling
instance health, because it
                risks accidental termination of all instances in the Auto Scaling
group when a dependent service fails.
                """);

        System.out.println("""
                By implementing deep health checks, the load balancer can detect
when one of the instances is failing
                and take that instance out of rotation.
                """);

        paramHelper.put(paramHelper.healthCheck, "deep");

        System.out.println("""
                Now, checking target health indicates that the instance with bad
credentials
                is unhealthy. Note that it might take a minute or two for the load
balancer to detect the unhealthy
                instance. Sending a GET request to the load balancer endpoint always
returns a recommendation, because
                the load balancer takes unhealthy instances out of its rotation.
```

```
                """);

        demoChoices(loadBalancer);

        System.out.println(
                """
                        Because the instances in this demo are controlled by an auto
scaler, the simplest way to fix an unhealthy
                        instance is to terminate it and let the auto scaler start a
new instance to replace it.
                        """);
        autoScaler.terminateInstance(badInstanceId);

        System.out.println("""
                Even while the instance is terminating and the new instance is
starting, sending a GET
                request to the web service continues to get a successful
recommendation response because
                the load balancer routes requests to the healthy instances. After
the replacement instance
                starts and reports as healthy, it is included in the load balancing
rotation.
                Note that terminating and replacing an instance typically takes
several minutes, during which time you
                can see the changing health check status until the new instance is
running and healthy.
                """);

        demoChoices(loadBalancer);
        System.out.println(
                "If the recommendation service fails now, deep health checks mean
all instances report as unhealthy.");
        paramHelper.put(paramHelper.tableName, "this-is-not-a-table");

        demoChoices(loadBalancer);
        paramHelper.reset();
    }

    public static void demoChoices(LoadBalancer loadBalancer) throws IOException,
InterruptedException {
        String[] actions = {
                "Send a GET request to the load balancer endpoint.",
                "Check the health of load balancer targets.",
                "Go to the next part of the demo."
```

```
        };
        Scanner scanner = new Scanner(System.in);

        while (true) {
            System.out.println("-".repeat(88));
            System.out.println("See the current state of the service by selecting
one of the following choices:");
            for (int i = 0; i < actions.length; i++) {
                System.out.println(i + ": " + actions[i]);
            }

            try {
                System.out.print("\nWhich action would you like to take? ");
                int choice = scanner.nextInt();
                System.out.println("-".repeat(88));

                switch (choice) {
                    case 0 -> {
                        System.out.println("Request:\n");
                        System.out.println("GET http://" +
loadBalancer.getEndpoint(lbName));
                        CloseableHttpClient httpClient =
HttpClients.createDefault();

                        // Create an HTTP GET request to the ELB.
                        HttpGet httpGet = new HttpGet("http://" +
loadBalancer.getEndpoint(lbName));

                        // Execute the request and get the response.
                        HttpResponse response = httpClient.execute(httpGet);
                        int statusCode = response.getStatusLine().getStatusCode();
                        System.out.println("HTTP Status Code: " + statusCode);

                        // Display the JSON response
                        BufferedReader reader = new BufferedReader(
                                new
InputStreamReader(response.getEntity().getContent()));
                        StringBuilder jsonResponse = new StringBuilder();
                        String line;
                        while ((line = reader.readLine()) != null) {
                            jsonResponse.append(line);
                        }
                        reader.close();
```

```
                        // Print the formatted JSON response.
                        System.out.println("Full Response:\n");
                        System.out.println(jsonResponse.toString());

                        // Close the HTTP client.
                        httpClient.close();

                    }
                    case 1 -> {
                        System.out.println("\nChecking the health of load balancer
targets:\n");
                        List<TargetHealthDescription> health =
loadBalancer.checkTargetHealth(targetGroupName);
                        for (TargetHealthDescription target : health) {
                            System.out.printf("\tTarget %s on port %d is %s%n",
target.target().id(),
                                    target.target().port(),
target.targetHealth().stateAsString());
                        }
                        System.out.println("""
                                Note that it can take a minute or two for the health
check to update
                                after changes are made.
                                """);
                    }
                    case 2 -> {
                        System.out.println("\nOkay, let's move on.");
                        System.out.println("-".repeat(88));
                        return; // Exit the method when choice is 2
                    }
                    default -> System.out.println("You must choose a value between
0-2. Please select again.");
                }

            } catch (java.util.InputMismatchException e) {
                System.out.println("Invalid input. Please select again.");
                scanner.nextLine(); // Clear the input buffer.
            }
        }
    }

    public static String readFileAsString(String filePath) throws IOException {
        byte[] bytes = Files.readAllBytes(Paths.get(filePath));
        return new String(bytes);
```

```
    }
}
```

Auto Scaling と Amazon EC2 のアクションをラップするクラスを作成します。

```
public class AutoScaler {

    private static Ec2Client ec2Client;
    private static AutoScalingClient autoScalingClient;
    private static IamClient iamClient;

    private static SsmClient ssmClient;

    private IamClient getIAMClient() {
        if (iamClient == null) {
            iamClient = IamClient.builder()
                    .region(Region.US_EAST_1)
                    .build();
        }
        return iamClient;
    }

    private SsmClient getSSMClient() {
        if (ssmClient == null) {
            ssmClient = SsmClient.builder()
                    .region(Region.US_EAST_1)
                    .build();
        }
        return ssmClient;
    }

    private Ec2Client getEc2Client() {
        if (ec2Client == null) {
            ec2Client = Ec2Client.builder()
                    .region(Region.US_EAST_1)
                    .build();
        }
        return ec2Client;
    }

    private AutoScalingClient getAutoScalingClient() {
        if (autoScalingClient == null) {
```

```
            autoScalingClient = AutoScalingClient.builder()
                    .region(Region.US_EAST_1)
                    .build();
        }
        return autoScalingClient;
    }

    /**
     * Terminates and instances in an EC2 Auto Scaling group. After an instance is
     * terminated, it can no longer be accessed.
     */
    public void terminateInstance(String instanceId) {
        TerminateInstanceInAutoScalingGroupRequest terminateInstanceIRequest =
TerminateInstanceInAutoScalingGroupRequest
                .builder()
                .instanceId(instanceId)
                .shouldDecrementDesiredCapacity(false)
                .build();


getAutoScalingClient().terminateInstanceInAutoScalingGroup(terminateInstanceIRequest);
        System.out.format("Terminated instance %s.", instanceId);
    }

    /**
     * Replaces the profile associated with a running instance. After the profile is
     * replaced, the instance is rebooted to ensure that it uses the new profile.
     * When
     * the instance is ready, Systems Manager is used to restart the Python web
     * server.
     */
    public void replaceInstanceProfile(String instanceId, String
newInstanceProfileName, String profileAssociationId)
            throws InterruptedException {
        // Create an IAM instance profile specification.
        software.amazon.awssdk.services.ec2.model.IamInstanceProfileSpecification
iamInstanceProfile =
software.amazon.awssdk.services.ec2.model.IamInstanceProfileSpecification
                .builder()
                .name(newInstanceProfileName) // Make sure 'newInstanceProfileName'
is a valid IAM Instance Profile
                                              // name.
                .build();
```

```
        // Replace the IAM instance profile association for the EC2 instance.
        ReplaceIamInstanceProfileAssociationRequest replaceRequest =
ReplaceIamInstanceProfileAssociationRequest
                .builder()
                .iamInstanceProfile(iamInstanceProfile)
                .associationId(profileAssociationId) // Make sure
'profileAssociationId' is a valid association ID.
                .build();

        try {
            getEc2Client().replaceIamInstanceProfileAssociation(replaceRequest);
            // Handle the response as needed.
        } catch (Ec2Exception e) {
            // Handle exceptions, log, or report the error.
            System.err.println("Error: " + e.getMessage());
        }
        System.out.format("Replaced instance profile for association %s with profile
%s.", profileAssociationId,
                newInstanceProfileName);
        TimeUnit.SECONDS.sleep(15);
        boolean instReady = false;
        int tries = 0;

        // Reboot after 60 seconds
        while (!instReady) {
            if (tries % 6 == 0) {
                getEc2Client().rebootInstances(RebootInstancesRequest.builder()
                        .instanceIds(instanceId)
                        .build());
                System.out.println("Rebooting instance " + instanceId + " and
waiting for it to be ready.");
            }
            tries++;
            try {
                TimeUnit.SECONDS.sleep(10);
            } catch (InterruptedException e) {
                e.printStackTrace();
            }

            DescribeInstanceInformationResponse informationResponse =
getSSMClient().describeInstanceInformation();
            List<InstanceInformation> instanceInformationList =
informationResponse.instanceInformationList();
            for (InstanceInformation info : instanceInformationList) {
```

```
                if (info.instanceId().equals(instanceId)) {
                    instReady = true;
                    break;
                }
            }
        }

        SendCommandRequest sendCommandRequest = SendCommandRequest.builder()
                .instanceIds(instanceId)
                .documentName("AWS-RunShellScript")
                .parameters(Collections.singletonMap("commands",
                        Collections.singletonList("cd / && sudo python3 server.py
80")))
                .build();

        getSSMClient().sendCommand(sendCommandRequest);
        System.out.println("Restarted the Python web server on instance " +
instanceId + ".");
    }

    public void openInboundPort(String secGroupId, String port, String ipAddress) {
        AuthorizeSecurityGroupIngressRequest ingressRequest =
AuthorizeSecurityGroupIngressRequest.builder()
                .groupName(secGroupId)
                .cidrIp(ipAddress)
                .fromPort(Integer.parseInt(port))
                .build();

        getEc2Client().authorizeSecurityGroupIngress(ingressRequest);
        System.out.format("Authorized ingress to %s on port %s from %s.",
secGroupId, port, ipAddress);
    }

    /**
     * Detaches a role from an instance profile, detaches policies from the role,
     * and deletes all the resources.
     */
    public void deleteInstanceProfile(String roleName, String profileName) {
        try {
            software.amazon.awssdk.services.iam.model.GetInstanceProfileRequest
getInstanceProfileRequest =
software.amazon.awssdk.services.iam.model.GetInstanceProfileRequest
                    .builder()
                    .instanceProfileName(profileName)
```

```
                    .build();

            GetInstanceProfileResponse response =
getIAMClient().getInstanceProfile(getInstanceProfileRequest);
            String name = response.instanceProfile().instanceProfileName();
            System.out.println(name);

            RemoveRoleFromInstanceProfileRequest profileRequest =
RemoveRoleFromInstanceProfileRequest.builder()
                    .instanceProfileName(profileName)
                    .roleName(roleName)
                    .build();

            getIAMClient().removeRoleFromInstanceProfile(profileRequest);
            DeleteInstanceProfileRequest deleteInstanceProfileRequest =
DeleteInstanceProfileRequest.builder()
                    .instanceProfileName(profileName)
                    .build();

            getIAMClient().deleteInstanceProfile(deleteInstanceProfileRequest);
            System.out.println("Deleted instance profile " + profileName);

            DeleteRoleRequest deleteRoleRequest = DeleteRoleRequest.builder()
                    .roleName(roleName)
                    .build();

            // List attached role policies.
            ListAttachedRolePoliciesResponse rolesResponse = getIAMClient()
                    .listAttachedRolePolicies(role -> role.roleName(roleName));
            List<AttachedPolicy> attachedPolicies =
rolesResponse.attachedPolicies();
            for (AttachedPolicy attachedPolicy : attachedPolicies) {
                DetachRolePolicyRequest request = DetachRolePolicyRequest.builder()
                        .roleName(roleName)
                        .policyArn(attachedPolicy.policyArn())
                        .build();

                getIAMClient().detachRolePolicy(request);
                System.out.println("Detached and deleted policy " +
attachedPolicy.policyName());
            }

            getIAMClient().deleteRole(deleteRoleRequest);
            System.out.println("Instance profile and role deleted.");
```

```
        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public void deleteTemplate(String templateName) {
        getEc2Client().deleteLaunchTemplate(name ->
name.launchTemplateName(templateName));
        System.out.format(templateName + " was deleted.");
    }

    public void deleteAutoScaleGroup(String groupName) {
        DeleteAutoScalingGroupRequest deleteAutoScalingGroupRequest =
DeleteAutoScalingGroupRequest.builder()
                .autoScalingGroupName(groupName)
                .forceDelete(true)
                .build();


getAutoScalingClient().deleteAutoScalingGroup(deleteAutoScalingGroupRequest);
        System.out.println(groupName + " was deleted.");
    }

    /*
     * Verify the default security group of the specified VPC allows ingress from
     * this
     * computer. This can be done by allowing ingress from this computer's IP
     * address. In some situations, such as connecting from a corporate network, you
     * must instead specify a prefix list ID. You can also temporarily open the port
     * to
     * any IP address while running this example. If you do, be sure to remove
     * public
     * access when you're done.
     *
     */
    public GroupInfo verifyInboundPort(String VPC, int port, String ipAddress) {
        boolean portIsOpen = false;
        GroupInfo groupInfo = new GroupInfo();
        try {
            Filter filter = Filter.builder()
                    .name("group-name")
                    .values("default")
```

```
                    .build();

            Filter filter1 = Filter.builder()
                    .name("vpc-id")
                    .values(VPC)
                    .build();

            DescribeSecurityGroupsRequest securityGroupsRequest =
DescribeSecurityGroupsRequest.builder()
                    .filters(filter, filter1)
                    .build();

            DescribeSecurityGroupsResponse securityGroupsResponse = getEc2Client()
                    .describeSecurityGroups(securityGroupsRequest);
            String securityGroup =
securityGroupsResponse.securityGroups().get(0).groupName();
            groupInfo.setGroupName(securityGroup);

            for (SecurityGroup secGroup : securityGroupsResponse.securityGroups()) {
                System.out.println("Found security group: " + secGroup.groupId());

                for (IpPermission ipPermission : secGroup.ipPermissions()) {
                    if (ipPermission.fromPort() == port) {
                        System.out.println("Found inbound rule: " + ipPermission);
                        for (IpRange ipRange : ipPermission.ipRanges()) {
                            String cidrIp = ipRange.cidrIp();
                            if (cidrIp.startsWith(ipAddress) ||
cidrIp.equals("0.0.0.0/0")) {
                                System.out.println(cidrIp + " is applicable");
                                portIsOpen = true;
                            }
                        }

                        if (!ipPermission.prefixListIds().isEmpty()) {
                            System.out.println("Prefix lList is applicable");
                            portIsOpen = true;
                        }

                        if (!portIsOpen) {
                            System.out
                                    .println("The inbound rule does not appear to be
open to either this computer's IP,"
                                            + " all IP addresses (0.0.0.0/0), or to
a prefix list ID.");
```

```
                        } else {
                            break;
                        }
                    }
                }
            }

        } catch (AutoScalingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
        }

        groupInfo.setPortOpen(portIsOpen);
        return groupInfo;
    }

    /*
     * Attaches an Elastic Load Balancing (ELB) target group to this EC2 Auto
     * Scaling group.
     * The target group specifies how the load balancer forward requests to the
     * instances
     * in the group.
     */
    public void attachLoadBalancerTargetGroup(String asGroupName, String
targetGroupARN) {
        try {
            AttachLoadBalancerTargetGroupsRequest targetGroupsRequest =
AttachLoadBalancerTargetGroupsRequest.builder()
                    .autoScalingGroupName(asGroupName)
                    .targetGroupARNs(targetGroupARN)
                    .build();


getAutoScalingClient().attachLoadBalancerTargetGroups(targetGroupsRequest);
            System.out.println("Attached load balancer to " + asGroupName);

        } catch (AutoScalingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    // Creates an EC2 Auto Scaling group with the specified size.
    public String[] createGroup(int groupSize, String templateName, String
autoScalingGroupName) {
```

```
        // Get availability zones.
        software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeAvailabilityZonesRequest
zonesRequest =
software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeAvailabilityZonesRequest
                .builder()
                .build();

        DescribeAvailabilityZonesResponse zonesResponse =
getEc2Client().describeAvailabilityZones(zonesRequest);
        List<String> availabilityZoneNames =
zonesResponse.availabilityZones().stream()

.map(software.amazon.awssdk.services.ec2.model.AvailabilityZone::zoneName)
                .collect(Collectors.toList());

        String availabilityZones = String.join(",", availabilityZoneNames);
        LaunchTemplateSpecification specification =
LaunchTemplateSpecification.builder()
                .launchTemplateName(templateName)
                .version("$Default")
                .build();

        String[] zones = availabilityZones.split(",");
        CreateAutoScalingGroupRequest groupRequest =
CreateAutoScalingGroupRequest.builder()
                .launchTemplate(specification)
                .availabilityZones(zones)
                .maxSize(groupSize)
                .minSize(groupSize)
                .autoScalingGroupName(autoScalingGroupName)
                .build();

        try {
            getAutoScalingClient().createAutoScalingGroup(groupRequest);

        } catch (AutoScalingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        System.out.println("Created an EC2 Auto Scaling group named " +
autoScalingGroupName);
        return zones;
    }
```

```
    public String getDefaultVPC() {
        // Define the filter.
        Filter defaultFilter = Filter.builder()
                .name("is-default")
                .values("true")
                .build();

        software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeVpcsRequest request =
software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeVpcsRequest
                .builder()
                .filters(defaultFilter)
                .build();

        DescribeVpcsResponse response = getEc2Client().describeVpcs(request);
        return response.vpcs().get(0).vpcId();
    }

    // Gets the default subnets in a VPC for a specified list of Availability Zones.
    public List<Subnet> getSubnets(String vpcId, String[] availabilityZones) {
        List<Subnet> subnets = null;
        Filter vpcFilter = Filter.builder()
                .name("vpc-id")
                .values(vpcId)
                .build();

        Filter azFilter = Filter.builder()
                .name("availability-zone")
                .values(availabilityZones)
                .build();

        Filter defaultForAZ = Filter.builder()
                .name("default-for-az")
                .values("true")
                .build();

        DescribeSubnetsRequest request = DescribeSubnetsRequest.builder()
                .filters(vpcFilter, azFilter, defaultForAZ)
                .build();

        DescribeSubnetsResponse response = getEc2Client().describeSubnets(request);
        subnets = response.subnets();
        return subnets;
    }
```

```
   // Gets data about the instances in the EC2 Auto Scaling group.
   public String getBadInstance(String groupName) {
       DescribeAutoScalingGroupsRequest request =
DescribeAutoScalingGroupsRequest.builder()
               .autoScalingGroupNames(groupName)
               .build();

       DescribeAutoScalingGroupsResponse response =
getAutoScalingClient().describeAutoScalingGroups(request);
       AutoScalingGroup autoScalingGroup = response.autoScalingGroups().get(0);
       List<String> instanceIds = autoScalingGroup.instances().stream()
               .map(instance -> instance.instanceId())
               .collect(Collectors.toList());

       String[] instanceIdArray = instanceIds.toArray(new String[0]);
       for (String instanceId : instanceIdArray) {
           System.out.println("Instance ID: " + instanceId);
           return instanceId;
       }
       return "";
   }

   // Gets data about the profile associated with an instance.
   public String getInstanceProfile(String instanceId) {
       Filter filter = Filter.builder()
               .name("instance-id")
               .values(instanceId)
               .build();

       DescribeIamInstanceProfileAssociationsRequest associationsRequest =
DescribeIamInstanceProfileAssociationsRequest
               .builder()
               .filters(filter)
               .build();

       DescribeIamInstanceProfileAssociationsResponse response = getEc2Client()
               .describeIamInstanceProfileAssociations(associationsRequest);
       return response.iamInstanceProfileAssociations().get(0).associationId();
   }

   public void deleteRolesPolicies(String policyName, String roleName, String
InstanceProfile) {
```

```
        ListPoliciesRequest listPoliciesRequest =
 ListPoliciesRequest.builder().build();
        ListPoliciesResponse listPoliciesResponse =
 getIAMClient().listPolicies(listPoliciesRequest);
        for (Policy policy : listPoliciesResponse.policies()) {
            if (policy.policyName().equals(policyName)) {
                // List the entities (users, groups, roles) that are attached to the
 policy.

 software.amazon.awssdk.services.iam.model.ListEntitiesForPolicyRequest
 listEntitiesRequest =
 software.amazon.awssdk.services.iam.model.ListEntitiesForPolicyRequest
                        .builder()
                        .policyArn(policy.arn())
                        .build();
                ListEntitiesForPolicyResponse listEntitiesResponse = iamClient
                        .listEntitiesForPolicy(listEntitiesRequest);
                if (!listEntitiesResponse.policyGroups().isEmpty() || !
listEntitiesResponse.policyUsers().isEmpty()
                        || !listEntitiesResponse.policyRoles().isEmpty()) {
                    // Detach the policy from any entities it is attached to.
                    DetachRolePolicyRequest detachPolicyRequest =
 DetachRolePolicyRequest.builder()
                            .policyArn(policy.arn())
                            .roleName(roleName) // Specify the name of the IAM role
                            .build();

                    getIAMClient().detachRolePolicy(detachPolicyRequest);
                    System.out.println("Policy detached from entities.");
                }

                // Now, you can delete the policy.
                DeletePolicyRequest deletePolicyRequest =
 DeletePolicyRequest.builder()
                        .policyArn(policy.arn())
                        .build();

                getIAMClient().deletePolicy(deletePolicyRequest);
                System.out.println("Policy deleted successfully.");
                break;
            }
        }

        // List the roles associated with the instance profile
```

```
        ListInstanceProfilesForRoleRequest listRolesRequest =
 ListInstanceProfilesForRoleRequest.builder()
                .roleName(roleName)
                .build();

        // Detach the roles from the instance profile
        ListInstanceProfilesForRoleResponse listRolesResponse =
 iamClient.listInstanceProfilesForRole(listRolesRequest);
        for (software.amazon.awssdk.services.iam.model.InstanceProfile profile :
 listRolesResponse.instanceProfiles()) {
            RemoveRoleFromInstanceProfileRequest removeRoleRequest =
 RemoveRoleFromInstanceProfileRequest.builder()
                    .instanceProfileName(InstanceProfile)
                    .roleName(roleName) // Remove the extra dot here
                    .build();

            getIAMClient().removeRoleFromInstanceProfile(removeRoleRequest);
            System.out.println("Role " + roleName + " removed from instance profile
 " + InstanceProfile);
        }

        // Delete the instance profile after removing all roles
        DeleteInstanceProfileRequest deleteInstanceProfileRequest =
 DeleteInstanceProfileRequest.builder()
                .instanceProfileName(InstanceProfile)
                .build();

        getIAMClient().deleteInstanceProfile(r ->
 r.instanceProfileName(InstanceProfile));
        System.out.println(InstanceProfile + " Deleted");
        System.out.println("All roles and policies are deleted.");
    }
}
```

Elastic Load Balancing のアクションをラップするクラスを作成します。

```
public class LoadBalancer {
    public ElasticLoadBalancingV2Client elasticLoadBalancingV2Client;

    public ElasticLoadBalancingV2Client getLoadBalancerClient() {
        if (elasticLoadBalancingV2Client == null) {
            elasticLoadBalancingV2Client = ElasticLoadBalancingV2Client.builder()
```

```
                    .region(Region.US_EAST_1)
                    .build();
        }

        return elasticLoadBalancingV2Client;
    }

    // Checks the health of the instances in the target group.
    public List<TargetHealthDescription> checkTargetHealth(String targetGroupName) {
        DescribeTargetGroupsRequest targetGroupsRequest =
DescribeTargetGroupsRequest.builder()
                .names(targetGroupName)
                .build();

        DescribeTargetGroupsResponse tgResponse =
getLoadBalancerClient().describeTargetGroups(targetGroupsRequest);

        DescribeTargetHealthRequest healthRequest =
DescribeTargetHealthRequest.builder()
                .targetGroupArn(tgResponse.targetGroups().get(0).targetGroupArn())
                .build();

        DescribeTargetHealthResponse healthResponse =
getLoadBalancerClient().describeTargetHealth(healthRequest);
        return healthResponse.targetHealthDescriptions();
    }

    // Gets the HTTP endpoint of the load balancer.
    public String getEndpoint(String lbName) {
        DescribeLoadBalancersResponse res = getLoadBalancerClient()
                .describeLoadBalancers(describe -> describe.names(lbName));
        return res.loadBalancers().get(0).dnsName();
    }

    // Deletes a load balancer.
    public void deleteLoadBalancer(String lbName) {
        try {
            // Use a waiter to delete the Load Balancer.
            DescribeLoadBalancersResponse res = getLoadBalancerClient()
                    .describeLoadBalancers(describe -> describe.names(lbName));
            ElasticLoadBalancingV2Waiter loadBalancerWaiter =
getLoadBalancerClient().waiter();
            DescribeLoadBalancersRequest request =
DescribeLoadBalancersRequest.builder()
```

```
                    .loadBalancerArns(res.loadBalancers().get(0).loadBalancerArn())
                    .build();

            getLoadBalancerClient().deleteLoadBalancer(
                    builder ->
builder.loadBalancerArn(res.loadBalancers().get(0).loadBalancerArn()));
            WaiterResponse<DescribeLoadBalancersResponse> waiterResponse =
loadBalancerWaiter
                    .waitUntilLoadBalancersDeleted(request);
            waiterResponse.matched().response().ifPresent(System.out::println);

        } catch (ElasticLoadBalancingV2Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
        }
        System.out.println(lbName + " was deleted.");
    }

    // Deletes the target group.
    public void deleteTargetGroup(String targetGroupName) {
        try {
            DescribeTargetGroupsResponse res = getLoadBalancerClient()
                    .describeTargetGroups(describe ->
describe.names(targetGroupName));
            getLoadBalancerClient()
                    .deleteTargetGroup(builder ->
builder.targetGroupArn(res.targetGroups().get(0).targetGroupArn()));
        } catch (ElasticLoadBalancingV2Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
        }
        System.out.println(targetGroupName + " was deleted.");
    }

    // Verify this computer can successfully send a GET request to the load balancer
    // endpoint.
    public boolean verifyLoadBalancerEndpoint(String elbDnsName) throws IOException,
InterruptedException {
        boolean success = false;
        int retries = 3;
        CloseableHttpClient httpClient = HttpClients.createDefault();

        // Create an HTTP GET request to the ELB.
        HttpGet httpGet = new HttpGet("http://" + elbDnsName);
        try {
            while ((!success) && (retries > 0)) {
```

```
                // Execute the request and get the response.
                HttpResponse response = httpClient.execute(httpGet);
                int statusCode = response.getStatusLine().getStatusCode();
                System.out.println("HTTP Status Code: " + statusCode);
                if (statusCode == 200) {
                    success = true;
                } else {
                    retries--;
                    System.out.println("Got connection error from load balancer
endpoint, retrying...");
                    TimeUnit.SECONDS.sleep(15);
                }
            }

        } catch (org.apache.http.conn.HttpHostConnectException e) {
            System.out.println(e.getMessage());
        }

        System.out.println("Status.." + success);
        return success;
    }

    /*
     * Creates an Elastic Load Balancing target group. The target group specifies
     * how
     * the load balancer forward requests to instances in the group and how instance
     * health is checked.
     */
    public String createTargetGroup(String protocol, int port, String vpcId, String
targetGroupName) {
        CreateTargetGroupRequest targetGroupRequest =
CreateTargetGroupRequest.builder()
                .healthCheckPath("/healthcheck")
                .healthCheckTimeoutSeconds(5)
                .port(port)
                .vpcId(vpcId)
                .name(targetGroupName)
                .protocol(protocol)
                .build();

        CreateTargetGroupResponse targetGroupResponse =
getLoadBalancerClient().createTargetGroup(targetGroupRequest);
        String targetGroupArn =
targetGroupResponse.targetGroups().get(0).targetGroupArn();
```

```
        String targetGroup =
targetGroupResponse.targetGroups().get(0).targetGroupName();
        System.out.println("The " + targetGroup + " was created with ARN" +
targetGroupArn);
        return targetGroupArn;
    }

    /*
     * Creates an Elastic Load Balancing load balancer that uses the specified
     * subnets
     * and forwards requests to the specified target group.
     */
    public String createLoadBalancer(List<Subnet> subnetIds, String targetGroupARN,
String lbName, int port,
            String protocol) {
        try {
            List<String> subnetIdStrings = subnetIds.stream()
                    .map(Subnet::subnetId)
                    .collect(Collectors.toList());

            CreateLoadBalancerRequest balancerRequest =
CreateLoadBalancerRequest.builder()
                    .subnets(subnetIdStrings)
                    .name(lbName)
                    .scheme("internet-facing")
                    .build();

            // Create and wait for the load balancer to become available.
            CreateLoadBalancerResponse lsResponse =
getLoadBalancerClient().createLoadBalancer(balancerRequest);
            String lbARN = lsResponse.loadBalancers().get(0).loadBalancerArn();

            ElasticLoadBalancingV2Waiter loadBalancerWaiter =
getLoadBalancerClient().waiter();
            DescribeLoadBalancersRequest request =
DescribeLoadBalancersRequest.builder()
                    .loadBalancerArns(lbARN)
                    .build();

            System.out.println("Waiting for Load Balancer " + lbName + " to become
available.");
            WaiterResponse<DescribeLoadBalancersResponse> waiterResponse =
loadBalancerWaiter
                    .waitUntilLoadBalancerAvailable(request);
```

```
            waiterResponse.matched().response().ifPresent(System.out::println);
            System.out.println("Load Balancer " + lbName + " is available.");

            // Get the DNS name (endpoint) of the load balancer.
            String lbDNSName = lsResponse.loadBalancers().get(0).dnsName();
            System.out.println("*** Load Balancer DNS Name: " + lbDNSName);

            // Create a listener for the load balance.
            Action action = Action.builder()
                    .targetGroupArn(targetGroupARN)
                    .type("forward")
                    .build();

            CreateListenerRequest listenerRequest = CreateListenerRequest.builder()

 .loadBalancerArn(lsResponse.loadBalancers().get(0).loadBalancerArn())
                    .defaultActions(action)
                    .port(port)
                    .protocol(protocol)
                    .build();

            getLoadBalancerClient().createListener(listenerRequest);
            System.out.println("Created listener to forward traffic from load
 balancer " + lbName + " to target group "
                    + targetGroupARN);

            // Return the load balancer DNS name.
            return lbDNSName;

        } catch (ElasticLoadBalancingV2Exception e) {
            e.printStackTrace();
        }
        return "";
    }
}
```

DynamoDB を使用してレコメンデーションサービスをシミュレートするクラスを作成します。

```
public class Database {

    private static DynamoDbClient dynamoDbClient;
```

```
    public static DynamoDbClient getDynamoDbClient() {
        if (dynamoDbClient == null) {
            dynamoDbClient = DynamoDbClient.builder()
                    .region(Region.US_EAST_1)
                    .build();
        }
        return dynamoDbClient;
    }

    // Checks to see if the Amazon DynamoDB table exists.
    private boolean doesTableExist(String tableName) {
        try {
            // Describe the table and catch any exceptions.
            DescribeTableRequest describeTableRequest =
DescribeTableRequest.builder()
                    .tableName(tableName)
                    .build();

            getDynamoDbClient().describeTable(describeTableRequest);
            System.out.println("Table '" + tableName + "' exists.");
            return true;

        } catch (ResourceNotFoundException e) {
            System.out.println("Table '" + tableName + "' does not exist.");
        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println("Error checking table existence: " + e.getMessage());
        }
        return false;
    }

    /*
     * Creates a DynamoDB table to use a recommendation service. The table has a
     * hash key named 'MediaType' that defines the type of media recommended, such
     * as
     * Book or Movie, and a range key named 'ItemId' that, combined with the
     * MediaType,
     * forms a unique identifier for the recommended item.
     */
    public void createTable(String tableName, String fileName) throws IOException {
        // First check to see if the table exists.
        boolean doesExist = doesTableExist(tableName);
        if (!doesExist) {
            DynamoDbWaiter dbWaiter = getDynamoDbClient().waiter();
            CreateTableRequest createTableRequest = CreateTableRequest.builder()
```

```
                    .tableName(tableName)
                    .attributeDefinitions(
                            AttributeDefinition.builder()
                                    .attributeName("MediaType")
                                    .attributeType(ScalarAttributeType.S)
                                    .build(),
                            AttributeDefinition.builder()
                                    .attributeName("ItemId")
                                    .attributeType(ScalarAttributeType.N)
                                    .build())
                    .keySchema(
                            KeySchemaElement.builder()
                                    .attributeName("MediaType")
                                    .keyType(KeyType.HASH)
                                    .build(),
                            KeySchemaElement.builder()
                                    .attributeName("ItemId")
                                    .keyType(KeyType.RANGE)
                                    .build())
                    .provisionedThroughput(
                            ProvisionedThroughput.builder()
                                    .readCapacityUnits(5L)
                                    .writeCapacityUnits(5L)
                                    .build())
                    .build();

            getDynamoDbClient().createTable(createTableRequest);
            System.out.println("Creating table " + tableName + "...");

            // Wait until the Amazon DynamoDB table is created.
            DescribeTableRequest tableRequest = DescribeTableRequest.builder()
                    .tableName(tableName)
                    .build();

            WaiterResponse<DescribeTableResponse> waiterResponse =
dbWaiter.waitUntilTableExists(tableRequest);
            waiterResponse.matched().response().ifPresent(System.out::println);
            System.out.println("Table " + tableName + " created.");

            // Add records to the table.
            populateTable(fileName, tableName);
        }
    }
```

```
    public void deleteTable(String tableName) {
        getDynamoDbClient().deleteTable(table -> table.tableName(tableName));
        System.out.println("Table " + tableName + " deleted.");
    }

    // Populates the table with data located in a JSON file using the DynamoDB
    // enhanced client.
    public void populateTable(String fileName, String tableName) throws IOException
 {
        DynamoDbEnhancedClient enhancedClient = DynamoDbEnhancedClient.builder()
                .dynamoDbClient(getDynamoDbClient())
                .build();
        ObjectMapper objectMapper = new ObjectMapper();
        File jsonFile = new File(fileName);
        JsonNode rootNode = objectMapper.readTree(jsonFile);

        DynamoDbTable<Recommendation> mappedTable = enhancedClient.table(tableName,
                TableSchema.fromBean(Recommendation.class));
        for (JsonNode currentNode : rootNode) {
            String mediaType = currentNode.path("MediaType").path("S").asText();
            int itemId = currentNode.path("ItemId").path("N").asInt();
            String title = currentNode.path("Title").path("S").asText();
            String creator = currentNode.path("Creator").path("S").asText();

            // Create a Recommendation object and set its properties.
            Recommendation rec = new Recommendation();
            rec.setMediaType(mediaType);
            rec.setItemId(itemId);
            rec.setTitle(title);
            rec.setCreator(creator);

            // Put the item into the DynamoDB table.
            mappedTable.putItem(rec); // Add the Recommendation to the list.
        }
        System.out.println("Added all records to the " + tableName);
    }
}
```

Systems Manager のアクションをラップするクラスを作成します。

```
public class ParameterHelper {
```

```
    String tableName = "doc-example-resilient-architecture-table";
    String dyntable = "doc-example-recommendation-service";
    String failureResponse = "doc-example-resilient-architecture-failure-response";
    String healthCheck = "doc-example-resilient-architecture-health-check";

    public void reset() {
        put(dyntable, tableName);
        put(failureResponse, "none");
        put(healthCheck, "shallow");
    }

    public void put(String name, String value) {
        SsmClient ssmClient = SsmClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        PutParameterRequest parameterRequest = PutParameterRequest.builder()
                .name(name)
                .value(value)
                .overwrite(true)
                .type("String")
                .build();

        ssmClient.putParameter(parameterRequest);
        System.out.printf("Setting demo parameter %s to '%s'.", name, value);
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - AttachLoadBalancerTargetGroups
  - CreateAutoScalingGroup
  - CreateInstanceProfile
  - CreateLaunchTemplate
  - CreateListener
  - CreateLoadBalancer
  - CreateTargetGroup
  - DeleteAutoScalingGroup

- DeleteInstanceProfile
- DeleteLaunchTemplate
- DeleteLoadBalancer
- DeleteTargetGroup
- DescribeAutoScalingGroups
- DescribeAvailabilityZones
- DescribeIamInstanceProfileAssociations
- DescribeInstances
- DescribeLoadBalancers
- DescribeSubnets
- DescribeTargetGroups
- DescribeTargetHealth
- DescribeVpcs
- RebootInstances
- ReplaceIamInstanceProfileAssociation
- TerminateInstanceInAutoScalingGroup
- UpdateAutoScalingGroup

SDK for Java 2.x を使用した MediaStore の例

次のコード例は、MediaStore AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- アクション

アクション

`CreateContainer`

次のコード例は、`CreateContainer` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.services.mediastore.MediaStoreClient;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.mediastore.model.CreateContainerRequest;
import software.amazon.awssdk.services.mediastore.model.CreateContainerResponse;
import software.amazon.awssdk.services.mediastore.model.MediaStoreException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class CreateContainer {
    public static long sleepTime = 10;

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:    <containerName>

                Where:
                   containerName - The name of the container to create.
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
```

```
            System.exit(1);
        }

        String containerName = args[0];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        MediaStoreClient mediaStoreClient = MediaStoreClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        createMediaContainer(mediaStoreClient, containerName);
        mediaStoreClient.close();
    }


    public static void createMediaContainer(MediaStoreClient mediaStoreClient,
 String containerName) {
        try {
            CreateContainerRequest containerRequest =
 CreateContainerRequest.builder()
                    .containerName(containerName)
                    .build();

            CreateContainerResponse containerResponse =
 mediaStoreClient.createContainer(containerRequest);
            String status = containerResponse.container().status().toString();
            while (!status.equalsIgnoreCase("Active")) {
                status = DescribeContainer.checkContainer(mediaStoreClient,
 containerName);
                System.out.println("Status - " + status);
                Thread.sleep(sleepTime * 1000);
            }

            System.out.println("The container ARN value is " +
 containerResponse.container().arn());
            System.out.println("Finished ");

        } catch (MediaStoreException | InterruptedException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateContainer」を参照してください。

DeleteContainer

次のコード例は、DeleteContainer を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.services.mediastore.MediaStoreClient;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.mediastore.model.CreateContainerRequest;
import software.amazon.awssdk.services.mediastore.model.CreateContainerResponse;
import software.amazon.awssdk.services.mediastore.model.MediaStoreException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class CreateContainer {
    public static long sleepTime = 10;

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:    <containerName>

                Where:
                   containerName - The name of the container to create.
                """;

        if (args.length != 1) {
```

```
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String containerName = args[0];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        MediaStoreClient mediaStoreClient = MediaStoreClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        createMediaContainer(mediaStoreClient, containerName);
        mediaStoreClient.close();
    }


    public static void createMediaContainer(MediaStoreClient mediaStoreClient,
 String containerName) {
        try {
            CreateContainerRequest containerRequest =
 CreateContainerRequest.builder()
                    .containerName(containerName)
                    .build();

            CreateContainerResponse containerResponse =
 mediaStoreClient.createContainer(containerRequest);
            String status = containerResponse.container().status().toString();
            while (!status.equalsIgnoreCase("Active")) {
                status = DescribeContainer.checkContainer(mediaStoreClient,
 containerName);
                System.out.println("Status - " + status);
                Thread.sleep(sleepTime * 1000);
            }

            System.out.println("The container ARN value is " +
 containerResponse.container().arn());
            System.out.println("Finished ");

        } catch (MediaStoreException | InterruptedException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteContainer」を参照してください。https://docs.aws.amazon.com/goto/SdkForJavaV2/mediastore-2017-09-01/DeleteContainer

`DeleteObject`

次のコード例は、`DeleteObject` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.mediastore.MediaStoreClient;
import software.amazon.awssdk.services.mediastore.model.DescribeContainerRequest;
import software.amazon.awssdk.services.mediastore.model.DescribeContainerResponse;
import software.amazon.awssdk.services.mediastoredata.MediaStoreDataClient;
import software.amazon.awssdk.services.mediastoredata.model.DeleteObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.mediastoredata.model.MediaStoreDataException;
import java.net.URI;
import java.net.URISyntaxException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DeleteObject {
    public static void main(String[] args) throws URISyntaxException {
        final String usage = """

                Usage:    <completePath> <containerName>
```

```
                Where:
                   completePath - The path (including the container) of the item to
delete.
                   containerName - The name of the container.
                """;

       if (args.length != 2) {
           System.out.println(usage);
           System.exit(1);
       }

       String completePath = args[0];
       String containerName = args[1];
       Region region = Region.US_EAST_1;
       URI uri = new URI(getEndpoint(containerName));

       MediaStoreDataClient mediaStoreData = MediaStoreDataClient.builder()
               .endpointOverride(uri)
               .region(region)
               .build();

       deleteMediaObject(mediaStoreData, completePath);
       mediaStoreData.close();
   }

   public static void deleteMediaObject(MediaStoreDataClient mediaStoreData, String
completePath) {
       try {
           DeleteObjectRequest deleteObjectRequest = DeleteObjectRequest.builder()
                   .path(completePath)
                   .build();

           mediaStoreData.deleteObject(deleteObjectRequest);

       } catch (MediaStoreDataException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }

   private static String getEndpoint(String containerName) {
       Region region = Region.US_EAST_1;
       MediaStoreClient mediaStoreClient = MediaStoreClient.builder()
```

```
                .region(region)
                .build();

        DescribeContainerRequest containerRequest =
 DescribeContainerRequest.builder()
                .containerName(containerName)
                .build();

        DescribeContainerResponse response =
 mediaStoreClient.describeContainer(containerRequest);
        mediaStoreClient.close();
        return response.container().endpoint();
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteObject」を参照してください。

`DescribeContainer`

次のコード例は、`DescribeContainer` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.mediastore.MediaStoreClient;
import software.amazon.awssdk.services.mediastore.model.DescribeContainerRequest;
import software.amazon.awssdk.services.mediastore.model.DescribeContainerResponse;
import software.amazon.awssdk.services.mediastore.model.MediaStoreException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
```

```
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DescribeContainer {

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:    <containerName>

                Where:
                   containerName - The name of the container to describe.
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String containerName = args[0];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        MediaStoreClient mediaStoreClient = MediaStoreClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        System.out.println("Status is " + checkContainer(mediaStoreClient,
 containerName));
        mediaStoreClient.close();
    }

    public static String checkContainer(MediaStoreClient mediaStoreClient, String
 containerName) {
        try {
            DescribeContainerRequest describeContainerRequest =
 DescribeContainerRequest.builder()
                    .containerName(containerName)
                    .build();

            DescribeContainerResponse containerResponse =
 mediaStoreClient.describeContainer(describeContainerRequest);
            System.out.println("The container name is " +
 containerResponse.container().name());
```

```
            System.out.println("The container ARN is " +
 containerResponse.container().arn());
            return containerResponse.container().status().toString();

        } catch (MediaStoreException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeContainer」を参照してください。

`GetObject`

次のコード例は、`GetObject` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.core.ResponseInputStream;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.mediastore.MediaStoreClient;
import software.amazon.awssdk.services.mediastore.model.DescribeContainerRequest;
import software.amazon.awssdk.services.mediastore.model.DescribeContainerResponse;
import software.amazon.awssdk.services.mediastoredata.MediaStoreDataClient;
import software.amazon.awssdk.services.mediastoredata.model.GetObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.mediastoredata.model.GetObjectResponse;
import software.amazon.awssdk.services.mediastoredata.model.MediaStoreDataException;
import java.io.File;
import java.io.FileOutputStream;
import java.io.IOException;
import java.io.OutputStream;
```

```
import java.net.URI;
import java.net.URISyntaxException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class GetObject {
    public static void main(String[] args) throws URISyntaxException {
        final String usage = """

                Usage:    <completePath> <containerName> <savePath>

                Where:
                   completePath - The path of the object in the container (for
 example, Videos5/sampleVideo.mp4).
                   containerName - The name of the container.
                   savePath - The path on the local drive where the file is saved,
 including the file name (for example, C:/AWS/myvid.mp4).
                """;

        if (args.length != 3) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String completePath = args[0];
        String containerName = args[1];
        String savePath = args[2];

        Region region = Region.US_EAST_1;
        URI uri = new URI(getEndpoint(containerName));
        MediaStoreDataClient mediaStoreData = MediaStoreDataClient.builder()
                .endpointOverride(uri)
                .region(region)
                .build();

        getMediaObject(mediaStoreData, completePath, savePath);
        mediaStoreData.close();
    }
```

```
    public static void getMediaObject(MediaStoreDataClient mediaStoreData, String
 completePath, String savePath) {

        try {
            GetObjectRequest objectRequest = GetObjectRequest.builder()
                    .path(completePath)
                    .build();

            // Write out the data to a file.
            ResponseInputStream<GetObjectResponse> data =
 mediaStoreData.getObject(objectRequest);
            byte[] buffer = new byte[data.available()];
            data.read(buffer);

            File targetFile = new File(savePath);
            OutputStream outStream = new FileOutputStream(targetFile);
            outStream.write(buffer);
            System.out.println("The data was written to " + savePath);

        } catch (MediaStoreDataException | IOException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    private static String getEndpoint(String containerName) {
        Region region = Region.US_EAST_1;
        MediaStoreClient mediaStoreClient = MediaStoreClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        DescribeContainerRequest containerRequest =
 DescribeContainerRequest.builder()
                .containerName(containerName)
                .build();

        DescribeContainerResponse response =
 mediaStoreClient.describeContainer(containerRequest);
        return response.container().endpoint();
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「GetObject」を参照してください。

`ListContainers`

次のコード例は、`ListContainers` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.mediastore.MediaStoreClient;
import software.amazon.awssdk.services.mediastore.model.Container;
import software.amazon.awssdk.services.mediastore.model.ListContainersResponse;
import software.amazon.awssdk.services.mediastore.model.MediaStoreException;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ListContainers {

    public static void main(String[] args) {

        Region region = Region.US_EAST_1;
        MediaStoreClient mediaStoreClient = MediaStoreClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        listAllContainers(mediaStoreClient);
        mediaStoreClient.close();
```

```
    }

    public static void listAllContainers(MediaStoreClient mediaStoreClient) {
        try {
            ListContainersResponse containersResponse =
 mediaStoreClient.listContainers();
            List<Container> containers = containersResponse.containers();
            for (Container container : containers) {
                System.out.println("Container name is " + container.name());
            }

        } catch (MediaStoreException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListContainers」を参照してください。

`PutObject`

次のコード例は、`PutObject` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.mediastore.MediaStoreClient;
import software.amazon.awssdk.services.mediastoredata.MediaStoreDataClient;
import software.amazon.awssdk.core.sync.RequestBody;
import software.amazon.awssdk.services.mediastoredata.model.PutObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.mediastoredata.model.MediaStoreDataException;
import software.amazon.awssdk.services.mediastoredata.model.PutObjectResponse;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.mediastore.model.DescribeContainerRequest;
import software.amazon.awssdk.services.mediastore.model.DescribeContainerResponse;
import java.io.File;
import java.net.URI;
import java.net.URISyntaxException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class PutObject {
    public static void main(String[] args) throws URISyntaxException {
        final String USAGE = """

                To run this example, supply the name of a container, a file location
 to use, and path in the container\s

                Ex: <containerName> <filePath> <completePath>
                """;

        if (args.length < 3) {
            System.out.println(USAGE);
            System.exit(1);
        }

        String containerName = args[0];
        String filePath = args[1];
        String completePath = args[2];

        Region region = Region.US_EAST_1;
        URI uri = new URI(getEndpoint(containerName));
        MediaStoreDataClient mediaStoreData = MediaStoreDataClient.builder()
                .endpointOverride(uri)
                .region(region)
                .build();

        putMediaObject(mediaStoreData, filePath, completePath);
        mediaStoreData.close();
    }
```

```
    public static void putMediaObject(MediaStoreDataClient mediaStoreData, String
 filePath, String completePath) {
        try {
            File myFile = new File(filePath);
            RequestBody requestBody = RequestBody.fromFile(myFile);

            PutObjectRequest objectRequest = PutObjectRequest.builder()
                    .path(completePath)
                    .contentType("video/mp4")
                    .build();

            PutObjectResponse response = mediaStoreData.putObject(objectRequest,
 requestBody);
            System.out.println("The saved object is " +
 response.storageClass().toString());

        } catch (MediaStoreDataException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static String getEndpoint(String containerName) {

        Region region = Region.US_EAST_1;
        MediaStoreClient mediaStoreClient = MediaStoreClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        DescribeContainerRequest containerRequest =
 DescribeContainerRequest.builder()
                .containerName(containerName)
                .build();

        DescribeContainerResponse response =
 mediaStoreClient.describeContainer(containerRequest);
        return response.container().endpoint();
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「PutObject」を参照してください。

AWS Entity Resolution SDK for Java 2.x を使用した例

次のコード例は、 AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています AWS Entity Resolution。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- はじめに
- 基本
- アクション

はじめに

こんにち AWS Entity Resolutionは

次のコード例は、 AWS Entity Resolutionの使用を開始する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
```

```
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class HelloEntityResoultion {

    private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(HelloEntityResoultion.class);

    private static EntityResolutionAsyncClient entityResolutionAsyncClient;
    public static void main(String[] args) {
        listMatchingWorkflows();
    }

    public static EntityResolutionAsyncClient getResolutionAsyncClient() {
        if (entityResolutionAsyncClient == null) {
            /*
            The `NettyNioAsyncHttpClient` class is part of the AWS SDK for Java,
 version 2,
            and it is designed to provide a high-performance, asynchronous HTTP
 client for interacting with AWS services.
             It uses the Netty framework to handle the underlying network
 communication and the Java NIO API to
             provide a non-blocking, event-driven approach to HTTP requests and
 responses.
             */

            SdkAsyncHttpClient httpClient = NettyNioAsyncHttpClient.builder()
                .maxConcurrency(50)  // Adjust as needed.
                .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(60))  // Set the connection
 timeout.
                .readTimeout(Duration.ofSeconds(60))  // Set the read timeout.
                .writeTimeout(Duration.ofSeconds(60))  // Set the write timeout.
                .build();

            ClientOverrideConfiguration overrideConfig =
 ClientOverrideConfiguration.builder()
                .apiCallTimeout(Duration.ofMinutes(2))  // Set the overall API call
 timeout.
                .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(90))  // Set the
 individual call attempt timeout.
                .retryStrategy(RetryMode.STANDARD)
                .build();

            entityResolutionAsyncClient = EntityResolutionAsyncClient.builder()
                .httpClient(httpClient)
```

```
                .overrideConfiguration(overrideConfig)
                .build();
        }
        return entityResolutionAsyncClient;
    }

    /**
     * Lists all matching workflows using an asynchronous paginator.
     * <p>
     * This method requests a paginated list of matching workflows from the
     * AWS Entity Resolution service and logs the names of the retrieved workflows.
     * It uses an asynchronous approach with a paginator and waits for the operation
     * to complete using {@code CompletableFuture#join()}.
     * </p>
     */
    public static void listMatchingWorkflows() {
        ListMatchingWorkflowsRequest request =
 ListMatchingWorkflowsRequest.builder().build();

        ListMatchingWorkflowsPublisher paginator =
            getResolutionAsyncClient().listMatchingWorkflowsPaginator(request);

        // Iterate through the paginated results asynchronously
        CompletableFuture<Void> future = paginator.subscribe(response -> {
            response.workflowSummaries().forEach(workflow ->
                logger.info("Matching Workflow Name: " + workflow.workflowName())
            );
        });

        // Wait for the asynchronous operation to complete
        future.join();
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListMatchingWorkflows」を参照してください。

基本

基本を学ぶ

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- スキーママッピングを作成します。
- AWS Entity Resolution ワークフローを作成します。
- ワークフローの照合ジョブを開始します。
- 照合ジョブの詳細を取得します。
- スキーママッピングを取得します。
- すべてのスキーママッピングを一覧表示します。
- スキーママッピングリソースにタグを付けます。
- AWS Entity Resolution アセットを削除します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

AWS Entity Resolution 機能を示すインタラクティブなシナリオを実行します。

```
public class EntityResScenario {
    private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(EntityResScenario.class);
    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");
    private static final String STACK_NAME = "EntityResolutionCdkStack2";
    private static final String ENTITY_RESOLUTION_ROLE_ARN_KEY =
 "EntityResolutionRoleArn";
    private static final String GLUE_DATA_BUCKET_NAME_KEY = "GlueDataBucketName";
    private static final String JSON_GLUE_TABLE_ARN_KEY = "JsonErGlueTableArn";
    private static final String CSV_GLUE_TABLE_ARN_KEY = "CsvErGlueTableArn";
    private static String glueBucketName;
    private static String workflowName = "workflow-" + UUID.randomUUID();

    private static String jsonSchemaMappingName = "jsonschema-" + UUID.randomUUID();
```

```
    private static String jsonSchemaMappingArn = null;
    private static String csvSchemaMappingName = "csv-" + UUID.randomUUID();
    private static String roleARN;
    private static String csvGlueTableArn;
    private static String jsonGlueTableArn;
    private static Scanner scanner = new Scanner(System.in);

    private static EntityResActions actions = new EntityResActions();

    public static void main(String[] args) throws InterruptedException {

        logger.info("Welcome to the AWS Entity Resolution Scenario.");
        logger.info("""
            AWS Entity Resolution is a fully-managed machine learning service
provided by
            Amazon Web Services (AWS) that helps organizations extract, link, and
            organize information from multiple data sources. It leverages natural
            language processing and deep learning models to identify and resolve
            entities, such as people, places, organizations, and products,
            across structured and unstructured data.

            With Entity Resolution, customers can build robust data integration
            pipelines to combine and reconcile data from multiple systems,
databases,
            and documents. The service can handle ambiguous, incomplete, or
conflicting
            information, and provide a unified view of entities and their
relationships.
            This can be particularly valuable in applications such as customer 360,
            fraud detection, supply chain management, and knowledge management,
where
            accurate entity identification is crucial.

            The `EntityResolutionAsyncClient` interface in the AWS SDK for Java 2.x
            provides a set of methods to programmatically interact with the AWS
Entity
            Resolution service. This allows developers to automate the entity
extraction,
            linking, and deduplication process as part of their data processing
workflows.
            With Entity Resolution, organizations can unlock the value of their
data,
            improve decision-making, and enhance customer experiences by having a
reliable,
```

```
            comprehensive view of their key entities.
            """);

        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("""
            To prepare the AWS resources needed for this scenario application, the
next step uploads
            a CloudFormation template whose resulting stack creates the following
resources:
            - An AWS Glue Data Catalog table
            - An AWS IAM role
            - An AWS S3 bucket
            - An AWS Entity Resolution Schema

            It can take a couple minutes for the Stack to finish creating the
resources.
            """);
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info("Generating resources...");
        CloudFormationHelper.deployCloudFormationStack(STACK_NAME);
        Map<String, String> outputsMap =
CloudFormationHelper.getStackOutputsAsync(STACK_NAME).join();
        roleARN = outputsMap.get(ENTITY_RESOLUTION_ROLE_ARN_KEY);
        glueBucketName = outputsMap.get(GLUE_DATA_BUCKET_NAME_KEY);
        csvGlueTableArn = outputsMap.get(CSV_GLUE_TABLE_ARN_KEY);
        jsonGlueTableArn = outputsMap.get(JSON_GLUE_TABLE_ARN_KEY);
        logger.info(DASHES);
        waitForInputToContinue(scanner);

        try {
            runScenario();

        } catch (Exception ce) {
            Throwable cause = ce.getCause();
            logger.error("An exception happened: " + (cause != null ?
cause.getMessage() : ce.getMessage()));
        }
    }

    private static void runScenario() throws InterruptedException {
        /*
```

```
         This JSON is a valid input for the AWS Entity Resolution service.
         The JSON represents an array of three objects, each containing an "id",
"name", and "email"
         property. This format aligns with the expected input structure for the
         Entity Resolution service.
         */
        String json = """
            {"id":"1","name":"Jane Doe","email":"jane.doe@example.com"}
            {"id":"2","name":"John Doe","email":"john.doe@example.com"}
            {"id":"3","name":"Jorge Souza","email":"jorge_souza@example.com"}
            """;
        logger.info("Upload the following JSON objects to the {} S3 bucket.",
glueBucketName);
        logger.info(json);
        String csv = """
            id,name,email,phone
            1,Jane B.,Doe,jane.doe@example.com,555-876-9846
            2,John Doe Jr.,john.doe@example.com,555-654-3210
            3,María García,maría_garcia@company.com,555-567-1234
            4,Mary Major,mary_major@company.com,555-222-3333
            """;
        logger.info("Upload the following CSV data to the {} S3 bucket.",
glueBucketName);
        logger.info(csv);
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            actions.uploadInputData(glueBucketName, json, csv);
        } catch (CompletionException ce) {
            Throwable cause = ce.getCause();

            if (cause == null) {
                logger.error("Failed to upload input data: {}", ce.getMessage(),
ce);
            }

            if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                logger.error("Failed to upload input data as the resource was not
found: {}", cause.getMessage(), cause);
            }
            return;
        }
        logger.info("The JSON and CSV objects have been uploaded to the S3
bucket.");
        waitForInputToContinue(scanner);
```

```
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("1. Create Schema Mapping");
        logger.info("""
            Entity Resolution schema mapping aligns and integrates data from
            multiple sources by identifying and matching corresponding entities
            like customers or products. It unifies schemas, resolves conflicts,
            and uses machine learning to link related entities, enabling a
            consolidated, accurate view for improved data quality and decision-
making.

            In this example, the schema mapping lines up with the fields in the JSON
 and CSV objects. That is,
            it contains these fields: id, name, and email.
            """);
        try {
            CreateSchemaMappingResponse response =
 actions.createSchemaMappingAsync(jsonSchemaMappingName).join();
            jsonSchemaMappingName = response.schemaName();
            logger.info("The JSON schema mapping name is " + jsonSchemaMappingName);
        } catch (CompletionException ce) {
            Throwable cause = ce.getCause();

            if (cause == null) {
                logger.error("Failed to create JSON schema mapping: {}",
 ce.getMessage(), ce);
            }

            if (cause instanceof ConflictException) {
                logger.error("Schema mapping conflict detected: {}",
 cause.getMessage(), cause);
            } else {
                logger.error("Unexpected error while creating schema mapping: {}",
 cause.getMessage(), cause);
            }
            return;
        }

        try {
            CreateSchemaMappingResponse response =
 actions.createSchemaMappingAsync(csvSchemaMappingName).join();
            csvSchemaMappingName = response.schemaName();
            logger.info("The CSV schema mapping name is " + csvSchemaMappingName);
```

```
        } catch (CompletionException ce) {
            Throwable cause = ce.getCause();
            if (cause == null) {
                logger.error("Failed to create CSV schema mapping: {}",
ce.getMessage(), ce);
            }

            if (cause instanceof ConflictException) {
                logger.error("Schema mapping conflict detected: {}",
cause.getMessage(), cause);
            } else {
                logger.error("Unexpected error while creating CSV schema mapping:
{}", cause.getMessage(), cause);
            }
            return;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("2. Create an AWS Entity Resolution Workflow. ");
        logger.info("""
            An Entity Resolution matching workflow identifies and links records
            across datasets that represent the same real-world entity, such as
            customers or products. Using techniques like schema mapping,
            data profiling, and machine learning algorithms,
            it evaluates attributes like names or emails to detect duplicates
            or relationships, even with variations or inconsistencies.
            The workflow outputs consolidated, de-duplicated data.

            We will use the machine learning-based matching technique.
            """);
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            String workflowArn = actions.createMatchingWorkflowAsync(
                roleARN, workflowName, glueBucketName, jsonGlueTableArn,
                jsonSchemaMappingName, csvGlueTableArn,
csvSchemaMappingName).join();

            logger.info("The workflow ARN is: " + workflowArn);
        } catch (CompletionException ce) {
            Throwable cause = ce.getCause();

            if (cause == null) {
```

```
                logger.error("An unexpected error occurred: {}", ce.getMessage(),
ce);
            }

            if (cause instanceof ValidationException) {
                logger.error("Validation error: {}", cause.getMessage(), cause);
            } else if (cause instanceof ConflictException) {
                logger.error("Workflow conflict detected: {}", cause.getMessage(),
cause);
            } else {
                logger.error("Unexpected error: {}", cause.getMessage(), cause);
            }
            return;
        }

        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);
        logger.info("3. Start the matching job of the " + workflowName + "
workflow.");
        waitForInputToContinue(scanner);
        String jobId = null;
        try {
            jobId = actions.startMatchingJobAsync(workflowName).join();
            logger.info("The matching job was successfully started.");
        } catch (CompletionException ce) {
            Throwable cause = ce.getCause();
            if (cause instanceof ConflictException) {
                logger.error("Job conflict detected: {}", cause.getMessage(),
cause);
            } else {
                logger.error("Unexpected error while starting the job: {}",
ce.getMessage(), ce);
            }
            return;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("4. While the matching job is running, let's look at other API
methods. First, let's get details for job " + jobId);
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            actions.getMatchingJobAsync(jobId, workflowName).join();
```

```
        } catch (CompletionException ce) {
            Throwable cause = ce.getCause();
            if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                logger.error("The matching job not found: {}", cause.getMessage(),
cause);
            } else {
                logger.error("Failed to start matching job: " + (cause != null ?
cause.getMessage() : ce.getMessage()));
            }
            return;
        }
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("5. Get the schema mapping for the JSON data.");
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            GetSchemaMappingResponse response =
actions.getSchemaMappingAsync(jsonSchemaMappingName).join();
            jsonSchemaMappingArn = response.schemaArn();
            logger.info("Schema mapping ARN is " + jsonSchemaMappingArn);
        } catch (CompletionException ce) {
            Throwable cause = ce.getCause();
            if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                logger.error("Schema mapping not found: {}", cause.getMessage(),
cause);
            } else {
                logger.error("Error retrieving the specific schema mapping: " +
ce.getCause().getMessage());
            }
            return;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("6. List Schema Mappings.");
        try {
            actions.ListSchemaMappings();
        } catch (CompletionException ce) {
            logger.error("Error retrieving schema mappings: " +
ce.getCause().getMessage());
            return;
        }
```

```
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("7. Tag the {} resource.", jsonSchemaMappingName);
        logger.info("""
            Tags can help you organize and categorize your Entity Resolution
resources.
            You can also use them to scope user permissions by granting a user
permission
            to access or change only resources with certain tag values.
            In Entity Resolution, SchemaMapping and MatchingWorkflow can be tagged.
For this example,
            the SchemaMapping is tagged.
                """);
        try {
            actions.tagEntityResource(jsonSchemaMappingArn).join();
        } catch (CompletionException ce) {
            logger.error("Error tagging the resource: " +
ce.getCause().getMessage());
            return;
        }

        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("8. View the results of the AWS Entity Resolution Workflow.");
        logger.info("""
            You cannot view the result of the workflow that is in a running state.
            In order to view the results, you need to wait for the workflow that we
started in step 3 to complete.

            If you choose not to wait, you cannot view the results. You can perform

            this task manually in the AWS Management Console.

            This can take up to 30 mins (y/n).
            """);
        String viewAns = scanner.nextLine().trim();
        boolean isComplete = false;
        if (viewAns.equalsIgnoreCase("y")) {
            logger.info("You selected to view the Entity Resolution Workflow
results.");
```

```
            countdownWithWorkflowCheck(actions, 1800, jobId, workflowName);
            isComplete = true;
            try {
                JobMetrics metrics = actions.getJobInfo(workflowName, jobId).join();
                logger.info("Number of input records: {}", metrics.inputRecords());
                logger.info("Number of match ids: {}", metrics.matchIDs());
                logger.info("Number of records not processed: {}",
metrics.recordsNotProcessed());
                logger.info("Number of total records processed: {}",
metrics.totalRecordsProcessed());
                logger.info("The following represents the output data generated by
the Entity Resolution workflow based on the JSON and CSV input data. The output
data is stored in the {} bucket.", glueBucketName);
                actions.printData(glueBucketName);

                logger.info("""

                    Note that each of the last 2 records are considered a match even
though the 'name' differs between the records;
                    For example 'John Doe Jr.' compared to 'John Doe'.
                    The confidence level is a value between 0 and 1, where 1
indicates a perfect match.

                    """);

            } catch (CompletionException ce) {
                Throwable cause = ce.getCause();
                if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                    logger.error("The job not found: {}", cause.getMessage(),
cause);
                } else {
                    logger.error("Error retrieving job information: " +
ce.getCause().getMessage());
                }
                return;
            }
        }

        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("9. Do you want to delete the resources, including the workflow?
(y/n)");
```

```
        logger.info("""
            You cannot delete the workflow that is in a running state.
            In order to delete the workflow, you need to wait for the workflow to
complete.

            You can delete the workflow manually in the AWS Management Console at a
later time.

            If you already waited for the workflow to complete in the previous
step,
            the workflow is completed and you can delete it.

            If the workflow is not completed, this can take up to 30 mins (y/n).
            """);
        String delAns = scanner.nextLine().trim();
        if (delAns.equalsIgnoreCase("y")) {
            try {
                if (!isComplete) {
                    countdownWithWorkflowCheck(actions, 1800, jobId, workflowName);
                }
                actions.deleteMatchingWorkflowAsync(workflowName).join();
                logger.info("Workflow deleted successfully!");
            } catch (CompletionException ce) {
                logger.info("Error deleting the workflow: {} ", ce.getMessage());
                return;
            }

            try {
                // Delete both schema mappings.
                actions.deleteSchemaMappingAsync(jsonSchemaMappingName).join();
                actions.deleteSchemaMappingAsync(csvSchemaMappingName).join();
                logger.info("Both schema mappings were deleted successfully!");
            } catch (CompletionException ce) {
                logger.error("Error deleting schema mapping: {}", ce.getMessage());
                return;
            }

            waitForInputToContinue(scanner);
            logger.info(DASHES);
            logger.info("""
                Now we delete the CloudFormation stack, which deletes
                the resources that were created at the beginning of this scenario.
                """);
            waitForInputToContinue(scanner);
```

```
            logger.info(DASHES);
            try {
                deleteCloudFormationStack();
            } catch (RuntimeException e) {
                logger.error("Failed to delete the stack: {}", e.getMessage());
                return;
            }

        } else {
            logger.info("You can delete the AWS resources in the AWS Management
Console.");
        }

        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("This concludes the AWS Entity Resolution scenario.");
        logger.info(DASHES);
    }

    private static void waitForInputToContinue(Scanner scanner) {
        while (true) {
            logger.info("");
            logger.info("Enter 'c' followed by <ENTER> to continue:");
            String input = scanner.nextLine();

            if (input.trim().equalsIgnoreCase("c")) {
                logger.info("Continuing with the program...");
                logger.info("");
                break;
            } else {
                // Handle invalid input.
                logger.info("Invalid input. Please try again.");
            }
        }
    }

    public static void countdownWithWorkflowCheck(EntityResActions actions, int
totalSeconds, String jobId, String workflowName) throws InterruptedException {
        int secondsElapsed = 0;

        while (true) {
            // Calculate display minutes and seconds.
```

```
            int remainingTime = totalSeconds - secondsElapsed;
            int displayMinutes = remainingTime / 60;
            int displaySeconds = remainingTime % 60;

            // Print the countdown.
            System.out.printf("\r%02d:%02d", displayMinutes, displaySeconds);
            Thread.sleep(1000); // Wait for 1 second
            secondsElapsed++;

            // Check workflow status every 60 seconds.
            if (secondsElapsed % 60 == 0 || remainingTime <= 0) {
                GetMatchingJobResponse response =
 actions.checkWorkflowStatusCompleteAsync(jobId, workflowName).join();
                if (response != null &&
 "SUCCEEDED".equalsIgnoreCase(String.valueOf(response.status()))) {
                    logger.info(""); // Move to the next line after countdown.
                    logger.info("Countdown complete: Workflow is in Completed
 state!");
                    break; // Break out of the loop if the status is "SUCCEEDED"
                }
            }

            // If countdown reaches zero, reset it for continuous countdown.
            if (remainingTime <= 0) {
                secondsElapsed = 0;
            }
        }
    }

    private static void deleteCloudFormationStack() {
        try {
            CloudFormationHelper.emptyS3Bucket(glueBucketName);
            CloudFormationHelper.destroyCloudFormationStack(STACK_NAME);
            logger.info("Resources deleted successfully!");
        } catch (CloudFormationException e) {
            throw new RuntimeException("Failed to delete CloudFormation stack: " +
 e.getMessage(), e);
        } catch (S3Exception e) {
            throw new RuntimeException("Failed to empty S3 bucket: " +
 e.getMessage(), e);
        }
    }
}
```

AWS Entity Resolution SDK メソッドのラッパークラス。

```
public class EntityResActions {

    private static final String PREFIX = "eroutput/";
    private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(EntityResActions.class);

    private static EntityResolutionAsyncClient entityResolutionAsyncClient;

    private static S3AsyncClient s3AsyncClient;

    public static EntityResolutionAsyncClient getResolutionAsyncClient() {
        if (entityResolutionAsyncClient == null) {
            /*
            The `NettyNioAsyncHttpClient` class is part of the AWS SDK for Java,
 version 2,
            and it is designed to provide a high-performance, asynchronous HTTP
 client for interacting with AWS services.
             It uses the Netty framework to handle the underlying network
 communication and the Java NIO API to
             provide a non-blocking, event-driven approach to HTTP requests and
 responses.
             */

            SdkAsyncHttpClient httpClient = NettyNioAsyncHttpClient.builder()
                .maxConcurrency(50)  // Adjust as needed.
                .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(60))  // Set the connection
 timeout.
                .readTimeout(Duration.ofSeconds(60))  // Set the read timeout.
                .writeTimeout(Duration.ofSeconds(60))  // Set the write timeout.
                .build();

            ClientOverrideConfiguration overrideConfig =
 ClientOverrideConfiguration.builder()
                .apiCallTimeout(Duration.ofMinutes(2))  // Set the overall API call
 timeout.
                .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(90))  // Set the
 individual call attempt timeout.
                .retryStrategy(RetryMode.STANDARD)
                .build();
```

```
            entityResolutionAsyncClient = EntityResolutionAsyncClient.builder()
                .httpClient(httpClient)
                .overrideConfiguration(overrideConfig)
                .build();
        }
        return entityResolutionAsyncClient;
    }

    public static S3AsyncClient getS3AsyncClient() {
        if (s3AsyncClient == null) {
            /*
            The `NettyNioAsyncHttpClient` class is part of the AWS SDK for Java,
version 2,
            and it is designed to provide a high-performance, asynchronous HTTP
client for interacting with AWS services.
             It uses the Netty framework to handle the underlying network
communication and the Java NIO API to
             provide a non-blocking, event-driven approach to HTTP requests and
responses.
             */

            SdkAsyncHttpClient httpClient = NettyNioAsyncHttpClient.builder()
                .maxConcurrency(50)  // Adjust as needed.
                .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(60))  // Set the connection
timeout.
                .readTimeout(Duration.ofSeconds(60))  // Set the read timeout.
                .writeTimeout(Duration.ofSeconds(60))  // Set the write timeout.
                .build();

            ClientOverrideConfiguration overrideConfig =
ClientOverrideConfiguration.builder()
                .apiCallTimeout(Duration.ofMinutes(2))  // Set the overall API call
timeout.
                .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(90))  // Set the
individual call attempt timeout.
                .retryStrategy(RetryMode.STANDARD)
                .build();

            s3AsyncClient = S3AsyncClient.builder()
                .httpClient(httpClient)
                .overrideConfiguration(overrideConfig)
                .build();
        }
```

```
        return s3AsyncClient;
    }

    /**
     * Deletes the schema mapping asynchronously.
     *
     * @param schemaName the name of the schema to delete
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the schema mapping is
deleted successfully,
     * or throws a {@link RuntimeException} if the deletion fails
     */
    public CompletableFuture<DeleteSchemaMappingResponse>
deleteSchemaMappingAsync(String schemaName) {
        DeleteSchemaMappingRequest request = DeleteSchemaMappingRequest.builder()
            .schemaName(schemaName)
            .build();

        return getResolutionAsyncClient().deleteSchemaMapping(request)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (response != null) {
                    // Successfully deleted the schema mapping, log the success
message.
                    logger.info("Schema mapping '{}' deleted successfully.",
schemaName);
                } else {
                    // Ensure exception is not null before accessing its cause.
                    if (exception == null) {
                        throw new CompletionException("An unknown error occurred
while deleting the schema mapping.", null);
                    }

                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                        throw new CompletionException("The schema mapping was not
found to delete: " + schemaName, cause);
                    }

                    // Wrap other AWS exceptions in a CompletionException.
                    throw new CompletionException("Failed to delete schema mapping:
" + schemaName, exception);
                }
            });
    }
```

```
   /**
    * Lists the schema mappings associated with the current AWS account. This
method uses an asynchronous paginator to
    * retrieve the schema mappings, and prints the name of each schema mapping to
the console.
    */
   public void ListSchemaMappings() {
       ListSchemaMappingsRequest mappingsRequest =
ListSchemaMappingsRequest.builder()
           .build();

       ListSchemaMappingsPublisher paginator =
getResolutionAsyncClient().listSchemaMappingsPaginator(mappingsRequest);

       // Iterate through the pages of results
       CompletableFuture<Void> future = paginator.subscribe(response -> {
           response.schemaList().forEach(schemaMapping ->
               logger.info("Schema Mapping Name: " + schemaMapping.schemaName())
           );
       });

       // Wait for the asynchronous operation to complete
       future.join();
   }

   /**
    * Asynchronously deletes a workflow with the specified name.
    *
    * @param workflowName the name of the workflow to be deleted
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the workflow has been
deleted
    * @throws RuntimeException if the deletion of the workflow fails
    */
   public CompletableFuture<DeleteMatchingWorkflowResponse>
deleteMatchingWorkflowAsync(String workflowName) {
       DeleteMatchingWorkflowRequest request =
DeleteMatchingWorkflowRequest.builder()
           .workflowName(workflowName)
           .build();

       return getResolutionAsyncClient().deleteMatchingWorkflow(request)
           .whenComplete((response, exception) -> {
               if (response != null) {
                   logger.info("{} was deleted", workflowName );
```

```
                } else {
                    if (exception == null) {
                        throw new CompletionException("An unknown error occurred
while deleting the workflow.", null);
                    }

                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                        throw new CompletionException("The workflow to delete was
not found.", cause);
                    }

                    // Wrap other AWS exceptions in a CompletionException.
                    throw new CompletionException("Failed to delete workflow: " +
exception.getMessage(), exception);
                }
            });
    }

    /**
     * Creates a schema mapping asynchronously.
     *
     * @param schemaName the name of the schema to create
     * @return a {@link CompletableFuture} that represents the asynchronous creation
of the schema mapping
     */
    public CompletableFuture<CreateSchemaMappingResponse>
createSchemaMappingAsync(String schemaName) {
        List<SchemaInputAttribute> schemaAttributes = null;
        if (schemaName.startsWith("json")) {
            schemaAttributes = List.of(

SchemaInputAttribute.builder().matchKey("id").fieldName("id").type(SchemaAttributeType.UNIQ

SchemaInputAttribute.builder().matchKey("name").fieldName("name").type(SchemaAttributeType.

SchemaInputAttribute.builder().matchKey("email").fieldName("email").type(SchemaAttributeTyp
            );
        } else {
            schemaAttributes = List.of(

SchemaInputAttribute.builder().matchKey("id").fieldName("id").type(SchemaAttributeType.UNIQ

SchemaInputAttribute.builder().matchKey("name").fieldName("name").type(SchemaAttributeType.
```

```
SchemaInputAttribute.builder().matchKey("email").fieldName("email").type(SchemaAttributeTyp

SchemaInputAttribute.builder().fieldName("phone").type(SchemaAttributeType.PROVIDER_ID).sub
            );
        }

        CreateSchemaMappingRequest request = CreateSchemaMappingRequest.builder()
            .schemaName(schemaName)
            .mappedInputFields(schemaAttributes)
            .build();

        return getResolutionAsyncClient().createSchemaMapping(request)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (response != null) {
                    logger.info("[{}] schema mapping Created Successfully!",
schemaName);
                } else {
                    if (exception == null) {
                        throw new CompletionException("An unknown error occurred
while creating the schema mapping.", null);
                    }

                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof ConflictException) {
                        throw new CompletionException("A conflicting schema mapping
already exists. Resolve conflicts before proceeding.", cause);
                    }

                    // Wrap other AWS exceptions in a CompletionException.
                    throw new CompletionException("Failed to create schema mapping:
" + exception.getMessage(), exception);
                }
            });
    }

    /**
     * Retrieves the schema mapping asynchronously.
     *
     * @param schemaName the name of the schema to retrieve the mapping for
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes with the {@link
GetSchemaMappingResponse} when the operation
     * is complete
     * @throws RuntimeException if the schema mapping retrieval fails
```

```
     */
    public CompletableFuture<GetSchemaMappingResponse> getSchemaMappingAsync(String
schemaName) {
        GetSchemaMappingRequest mappingRequest = GetSchemaMappingRequest.builder()
            .schemaName(schemaName)
            .build();

        return getResolutionAsyncClient().getSchemaMapping(mappingRequest)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (response != null) {
                    response.mappedInputFields().forEach(attribute ->
                        logger.info("Attribute Name: " + attribute.fieldName() +
                            ", Attribute Type: " + attribute.type().toString()));
                } else {
                    if (exception == null) {
                        throw new CompletionException("An unknown error occurred
while getting schema mapping.", null);
                    }

                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                        throw new CompletionException("The requested schema mapping
was not found.", cause);
                    }

                    // Wrap other exceptions in a CompletionException with the
message.
                    throw new CompletionException("Failed to get schema mapping: " +
exception.getMessage(), exception);
                }
            });
    }

    /**
     * Asynchronously retrieves a matching job based on the provided job ID and
workflow name.
     *
     * @param jobId        the ID of the job to retrieve
     * @param workflowName the name of the workflow associated with the job
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the job information
is available or an exception occurs
     */
    public CompletableFuture<GetMatchingJobResponse> getMatchingJobAsync(String
jobId, String workflowName) {
```

```
        GetMatchingJobRequest request = GetMatchingJobRequest.builder()
            .jobId(jobId)
            .workflowName(workflowName)
            .build();

        return getResolutionAsyncClient().getMatchingJob(request)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (response != null) {
                    // Successfully fetched the matching job details, log the job
status.
                    logger.info("Job status: " + response.status());
                    logger.info("Job details: " + response.toString());
                } else {
                    if (exception == null) {
                        throw new CompletionException("An unknown error occurred
while fetching the matching job.", null);
                    }

                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                        throw new CompletionException("The requested job could not
be found.", cause);
                    }

                    // Wrap other exceptions in a CompletionException with the
message.
                    throw new CompletionException("Error fetching matching job: " +
exception.getMessage(), exception);
                }
            });
    }


    /**
     * Starts a matching job asynchronously for the specified workflow name.
     *
     * @param workflowName the name of the workflow for which to start the matching
job
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes with the job ID of the
started matching job, or an empty
     * string if the operation fails
     */
    public CompletableFuture<String> startMatchingJobAsync(String workflowName) {
        StartMatchingJobRequest jobRequest = StartMatchingJobRequest.builder()
```

```
            .workflowName(workflowName)
            .build();

        return getResolutionAsyncClient().startMatchingJob(jobRequest)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (response != null) {
                    String jobId = response.jobId();
                    logger.info("Job ID: " + jobId);
                } else {
                    if (exception == null) {
                        throw new CompletionException("An unknown error occurred
while starting the job.", null);
                    }

                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof ConflictException) {
                        throw new CompletionException("The job is already running.
Resolve conflicts before starting a new job.", cause);
                    }

                    // Wrap other AWS exceptions in a CompletionException.
                    throw new CompletionException("Failed to start the job: " +
exception.getMessage(), exception);
                }
            })
            .thenApply(response -> response != null ? response.jobId() : "");
    }

    /**
     * Checks the status of a workflow asynchronously.
     *
     * @param jobId        the ID of the job to check
     * @param workflowName the name of the workflow to check
     * @return a CompletableFuture that resolves to a boolean value indicating
whether the workflow has completed
     * successfully
     */
    public CompletableFuture<GetMatchingJobResponse>
checkWorkflowStatusCompleteAsync(String jobId, String workflowName) {
        GetMatchingJobRequest request = GetMatchingJobRequest.builder()
            .jobId(jobId)
            .workflowName(workflowName)
            .build();
```

```
        return getResolutionAsyncClient().getMatchingJob(request)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (response != null) {
                    // Process the response and log the job status.
                    logger.info("Job status: " + response.status());
                } else {
                    // Ensure exception is not null before accessing its cause.
                    if (exception == null) {
                        throw new CompletionException("An unknown error occurred
while checking job status.", null);
                    }

                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                        throw new CompletionException("The requested resource was
not found while checking the job status.", cause);
                    }

                    // Wrap other AWS exceptions in a CompletionException.
                    throw new CompletionException("Failed to check job status: " +
exception.getMessage(), exception);
                }
            });
    }

    /**
     * Creates an asynchronous CompletableFuture to manage the creation of a
matching workflow.
     *
     * @param roleARN                the AWS IAM role ARN to be used for the
workflow execution
     * @param workflowName           the name of the workflow to be created
     * @param outputBucket           the S3 bucket path where the workflow output
will be stored
     * @param jsonGlueTableArn       the ARN of the Glue Data Catalog table to be
used as the input source
     * @param jsonErSchemaMappingName the name of the schema to be used for the
input source
     * @return a CompletableFuture that, when completed, will return the ARN of the
created workflow
     */
    public CompletableFuture<String> createMatchingWorkflowAsync(
        String roleARN
        , String workflowName
```

```
        , String outputBucket
        , String jsonGlueTableArn
        , String jsonErSchemaMappingName
        , String csvGlueTableArn
        , String csvErSchemaMappingName) {

        InputSource jsonInputSource = InputSource.builder()
            .inputSourceARN(jsonGlueTableArn)
            .schemaName(jsonErSchemaMappingName)
            .applyNormalization(false)
            .build();

        InputSource csvInputSource = InputSource.builder()
            .inputSourceARN(csvGlueTableArn)
            .schemaName(csvErSchemaMappingName)
            .applyNormalization(false)
            .build();

        OutputAttribute idOutputAttribute = OutputAttribute.builder()
            .name("id")
            .build();

        OutputAttribute nameOutputAttribute = OutputAttribute.builder()
            .name("name")
            .build();

        OutputAttribute emailOutputAttribute = OutputAttribute.builder()
            .name("email")
            .build();

        OutputAttribute phoneOutputAttribute = OutputAttribute.builder()
            .name("phone")
            .build();

        OutputSource outputSource = OutputSource.builder()
            .outputS3Path("s3://" + outputBucket + "/eroutput")
            .output(idOutputAttribute, nameOutputAttribute, emailOutputAttribute,
phoneOutputAttribute)
            .applyNormalization(false)
            .build();

        ResolutionTechniques resolutionType = ResolutionTechniques.builder()
            .resolutionType(ResolutionType.ML_MATCHING)
            .build();
```

```
        CreateMatchingWorkflowRequest workflowRequest =
CreateMatchingWorkflowRequest.builder()
            .roleArn(roleARN)
            .description("Created by using the AWS SDK for Java")
            .workflowName(workflowName)
            .inputSourceConfig(List.of(jsonInputSource, csvInputSource))
            .outputSourceConfig(List.of(outputSource))
            .resolutionTechniques(resolutionType)
            .build();

        return getResolutionAsyncClient().createMatchingWorkflow(workflowRequest)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (response != null) {
                    logger.info("Workflow created successfully.");
                } else {
                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof ValidationException) {
                        throw new CompletionException("Invalid request: Please check
input parameters.", cause);
                    }

                    if (cause instanceof ConflictException) {
                        throw new CompletionException("A conflicting workflow
already exists. Resolve conflicts before proceeding.", cause);
                    }
                    throw new CompletionException("Failed to create workflow: " +
exception.getMessage(), exception);
                }
            })
            .thenApply(CreateMatchingWorkflowResponse::workflowArn);
    }

    /**
     * Tags the specified schema mapping ARN.
     *
     * @param schemaMappingARN the ARN of the schema mapping to tag
     */
    public CompletableFuture<TagResourceResponse> tagEntityResource(String
schemaMappingARN) {
        Map<String, String> tags = new HashMap<>();
        tags.put("tag1", "tag1Value");
        tags.put("tag2", "tag2Value");
```

```
        TagResourceRequest request = TagResourceRequest.builder()
            .resourceArn(schemaMappingARN)
            .tags(tags)
            .build();

        return getResolutionAsyncClient().tagResource(request)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (response != null) {
                    // Successfully tagged the resource, log the success message.
                    logger.info("Successfully tagged the resource.");
                } else {
                    if (exception == null) {
                        throw new CompletionException("An unknown error occurred
while tagging the resource.", null);
                    }

                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                        throw new CompletionException("The resource to tag was not
found.", cause);
                    }
                    throw new CompletionException("Failed to tag the resource: " +
exception.getMessage(), exception);
                }
            });
    }

    public CompletableFuture<JobMetrics> getJobInfo(String workflowName, String
jobId) {
        return getResolutionAsyncClient().getMatchingJob(b -> b
                .workflowName(workflowName)
                .jobId(jobId))
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (response != null) {
                    logger.info("Job metrics fetched successfully for jobId: " +
jobId);
                } else {
                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                        throw new CompletionException("Invalid request: Job id was
not found.", cause);
                    }
                    throw new CompletionException("Failed to fetch job info: " +
exception.getMessage(), exception);
```

```
                }
            })
            .thenApply(response -> response.metrics()); // Extract job metrics
    }

    /**
     * Uploads data to an Amazon S3 bucket asynchronously.
     *
     * @param bucketName the name of the S3 bucket to upload the data to
     * @param jsonData   the JSON data to be uploaded
     * @param csvData    the CSV data to be uploaded
     * @return a {@link CompletableFuture} representing both asynchronous operation
of uploading the data
     * @throws RuntimeException if an error occurs during the file upload
     */

    public void uploadInputData(String bucketName, String jsonData, String csvData)
{
        // Upload JSON data.
        String jsonKey = "jsonData/data.json";
        PutObjectRequest jsonUploadRequest = PutObjectRequest.builder()
            .bucket(bucketName)
            .key(jsonKey)
            .contentType("application/json")
            .build();

        CompletableFuture<PutObjectResponse> jsonUploadResponse =
getS3AsyncClient().putObject(jsonUploadRequest,
AsyncRequestBody.fromString(jsonData));

        // Upload CSV data.
        String csvKey = "csvData/data.csv";
        PutObjectRequest csvUploadRequest = PutObjectRequest.builder()
            .bucket(bucketName)
            .key(csvKey)
            .contentType("text/csv")
            .build();
        CompletableFuture<PutObjectResponse> csvUploadResponse =
getS3AsyncClient().putObject(csvUploadRequest,
AsyncRequestBody.fromString(csvData));

        CompletableFuture.allOf(jsonUploadResponse, csvUploadResponse)
            .whenComplete((result, ex) -> {
                if (ex != null) {
```

```
                    // Wrap an AWS exception.
                    throw new CompletionException("Failed to upload files", ex);
                }
            }).join();

    }

    /**
     * Finds the latest file in the S3 bucket that starts with "run-" in any depth
of subfolders
     */
    private CompletableFuture<String> findLatestMatchingFile(String bucketName) {
        ListObjectsV2Request request = ListObjectsV2Request.builder()
            .bucket(bucketName)
            .prefix(PREFIX) // Searches within the given folder
            .build();

        return getS3AsyncClient().listObjectsV2(request)
            .thenApply(response -> response.contents().stream()
                .map(S3Object::key)
                .filter(key -> key.matches(".*?/run-[0-9a-zA-Z\\-]+")) // Matches
files like run-XXXXX in any subfolder
                .max(String::compareTo) // Gets the latest file
                .orElse(null))
            .whenComplete((result, exception) -> {
                if (exception == null) {
                    if (result != null) {
                        logger.info("Latest matching file found: " + result);
                    } else {
                        logger.info("No matching files found.");
                    }
                } else {
                    throw new CompletionException("Failed to find latest matching
file: " + exception.getMessage(), exception);
                }
            });
    }

    /**
     * Prints the data located in the file in the S3 bucket that starts with "run-"
in any depth of subfolders
     */
    public void printData(String bucketName) {
        try {
```

```
            // Find the latest file with "run-" prefix in any depth of subfolders.
            String s3Key = findLatestMatchingFile(bucketName).join();
            if (s3Key == null) {
                logger.error("No matching files found in S3.");
                return;
            }

            logger.info("Downloading file: " + s3Key);

            // Read CSV file as String.
            String csvContent = readCSVFromS3Async(bucketName, s3Key).join();
            if (csvContent.isEmpty()) {
                logger.error("File is empty.");
                return;
            }

            // Process CSV content.
            List<String[]> records = parseCSV(csvContent);
            printTable(records);

        } catch (RuntimeException | IOException | CsvException e) {
            logger.error("Error processing CSV file from S3: " + e.getMessage());
            e.printStackTrace();
        }
    }

    /**
     * Reads a CSV file from S3 and returns it as a String.
     */
    private static CompletableFuture<String> readCSVFromS3Async(String bucketName,
String s3Key) {
        GetObjectRequest getObjectRequest = GetObjectRequest.builder()
            .bucket(bucketName)
            .key(s3Key)
            .build();

        // Initiating the asynchronous request to get the file as bytes
        return getS3AsyncClient().getObject(getObjectRequest,
AsyncResponseTransformer.toBytes())
            .thenApply(responseBytes -> responseBytes.asUtf8String()) // Convert
bytes to UTF-8 string
            .whenComplete((result, exception) -> {
                if (exception != null) {
```

```
                    throw new CompletionException("Failed to read CSV from S3: " +
exception.getMessage(), exception);
                } else {
                    logger.info("Successfully fetched CSV file content from S3.");
                }
            });
    }

    /**
     * Parses CSV content from a String into a list of records.
     */
    private static List<String[]> parseCSV(String csvContent) throws IOException,
CsvException {
        try (CSVReader csvReader = new CSVReader(new StringReader(csvContent))) {
            return csvReader.readAll();
        }
    }

    /**
     * Prints the given CSV data in a formatted table
     */
    private static void printTable(List<String[]> records) {
        if (records.isEmpty()) {
            System.out.println("No records found.");
            return;
        }

        String[] headers = records.get(0);
        List<String[]> rows = records.subList(1, records.size());

        // Determine column widths dynamically based on longest content
        int[] columnWidths = new int[headers.length];
        for (int i = 0; i < headers.length; i++) {
            final int columnIndex = i;
            int maxWidth = Math.max(headers[i].length(), rows.stream()
                .map(row -> row.length > columnIndex ? row[columnIndex].length() :
0)
                .max(Integer::compareTo)
                .orElse(0));
            columnWidths[i] = Math.min(maxWidth, 25); // Limit max width for better
readability
        }

        // Enable ANSI Console for colored output
```

```
        AnsiConsole.systemInstall();

        // Print table header
        System.out.println(ansi().fgYellow().a("=== CSV Data from S3 ===").reset());
        printRow(headers, columnWidths, true);

        // Print rows
        rows.forEach(row -> printRow(row, columnWidths, false));

        // Restore console to normal
        AnsiConsole.systemUninstall();
    }

    private static void printRow(String[] row, int[] columnWidths, boolean isHeader)
 {
        String border = IntStream.range(0, columnWidths.length)
            .mapToObj(i -> "-".repeat(columnWidths[i] + 2))
            .collect(Collectors.joining("+", "+", "+"));

        if (isHeader) {
            System.out.println(border);
        }

        System.out.print("|");
        for (int i = 0; i < columnWidths.length; i++) {
            String cell = (i < row.length && row[i] != null) ? row[i] : "";
            System.out.printf(" %-" + columnWidths[i] + "s |", isHeader ?
 ansi().fgBrightBlue().a(cell).reset() : cell);
        }
        System.out.println();

        if (isHeader) {
            System.out.println(border);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - CreateMatchingWorkflow
  - CreateSchemaMapping

- DeleteMatchingWorkflow
- DeleteSchemaMapping
- GetMatchingJob
- GetSchemaMapping
- ListMatchingWorkflows
- ListSchemaMappings
- StartMatchingJob
- TagResource

アクション

`CreateMatchingWorkflow`

次のコード例は、`CreateMatchingWorkflow` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Creates an asynchronous CompletableFuture to manage the creation of a
matching workflow.
     *
     * @param roleARN                the AWS IAM role ARN to be used for the
workflow execution
     * @param workflowName           the name of the workflow to be created
     * @param outputBucket           the S3 bucket path where the workflow output
will be stored
     * @param jsonGlueTableArn       the ARN of the Glue Data Catalog table to be
used as the input source
     * @param jsonErSchemaMappingName the name of the schema to be used for the
input source
     * @return a CompletableFuture that, when completed, will return the ARN of the
created workflow
```

```
     */
    public CompletableFuture<String> createMatchingWorkflowAsync(
        String roleARN
        , String workflowName
        , String outputBucket
        , String jsonGlueTableArn
        , String jsonErSchemaMappingName
        , String csvGlueTableArn
        , String csvErSchemaMappingName) {

        InputSource jsonInputSource = InputSource.builder()
            .inputSourceARN(jsonGlueTableArn)
            .schemaName(jsonErSchemaMappingName)
            .applyNormalization(false)
            .build();

        InputSource csvInputSource = InputSource.builder()
            .inputSourceARN(csvGlueTableArn)
            .schemaName(csvErSchemaMappingName)
            .applyNormalization(false)
            .build();

        OutputAttribute idOutputAttribute = OutputAttribute.builder()
            .name("id")
            .build();

        OutputAttribute nameOutputAttribute = OutputAttribute.builder()
            .name("name")
            .build();

        OutputAttribute emailOutputAttribute = OutputAttribute.builder()
            .name("email")
            .build();

        OutputAttribute phoneOutputAttribute = OutputAttribute.builder()
            .name("phone")
            .build();

        OutputSource outputSource = OutputSource.builder()
            .outputS3Path("s3://" + outputBucket + "/eroutput")
            .output(idOutputAttribute, nameOutputAttribute, emailOutputAttribute,
phoneOutputAttribute)
            .applyNormalization(false)
            .build();
```

```
        ResolutionTechniques resolutionType = ResolutionTechniques.builder()
            .resolutionType(ResolutionType.ML_MATCHING)
            .build();

        CreateMatchingWorkflowRequest workflowRequest =
CreateMatchingWorkflowRequest.builder()
            .roleArn(roleARN)
            .description("Created by using the AWS SDK for Java")
            .workflowName(workflowName)
            .inputSourceConfig(List.of(jsonInputSource, csvInputSource))
            .outputSourceConfig(List.of(outputSource))
            .resolutionTechniques(resolutionType)
            .build();

        return getResolutionAsyncClient().createMatchingWorkflow(workflowRequest)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (response != null) {
                    logger.info("Workflow created successfully.");
                } else {
                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof ValidationException) {
                        throw new CompletionException("Invalid request: Please check
input parameters.", cause);
                    }

                    if (cause instanceof ConflictException) {
                        throw new CompletionException("A conflicting workflow
already exists. Resolve conflicts before proceeding.", cause);
                    }
                    throw new CompletionException("Failed to create workflow: " +
exception.getMessage(), exception);
                }
            })
            .thenApply(CreateMatchingWorkflowResponse::workflowArn);
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateMatchingWorkflow」を参照してください。

`CreateSchemaMapping`

次のコード例は、`CreateSchemaMapping` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Creates a schema mapping asynchronously.
    *
    * @param schemaName the name of the schema to create
    * @return a {@link CompletableFuture} that represents the asynchronous creation
of the schema mapping
    */
   public CompletableFuture<CreateSchemaMappingResponse>
createSchemaMappingAsync(String schemaName) {
       List<SchemaInputAttribute> schemaAttributes = null;
       if (schemaName.startsWith("json")) {
           schemaAttributes = List.of(

SchemaInputAttribute.builder().matchKey("id").fieldName("id").type(SchemaAttributeType.UNIQ

SchemaInputAttribute.builder().matchKey("name").fieldName("name").type(SchemaAttributeType.

SchemaInputAttribute.builder().matchKey("email").fieldName("email").type(SchemaAttributeTyp
           );
       } else {
           schemaAttributes = List.of(

SchemaInputAttribute.builder().matchKey("id").fieldName("id").type(SchemaAttributeType.UNIQ

SchemaInputAttribute.builder().matchKey("name").fieldName("name").type(SchemaAttributeType.

SchemaInputAttribute.builder().matchKey("email").fieldName("email").type(SchemaAttributeTyp

SchemaInputAttribute.builder().fieldName("phone").type(SchemaAttributeType.PROVIDER_ID).sub
           );
       }
```

```
        CreateSchemaMappingRequest request = CreateSchemaMappingRequest.builder()
            .schemaName(schemaName)
            .mappedInputFields(schemaAttributes)
            .build();

        return getResolutionAsyncClient().createSchemaMapping(request)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (response != null) {
                    logger.info("[{}] schema mapping Created Successfully!",
schemaName);
                } else {
                    if (exception == null) {
                        throw new CompletionException("An unknown error occurred
while creating the schema mapping.", null);
                    }

                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof ConflictException) {
                        throw new CompletionException("A conflicting schema mapping
already exists. Resolve conflicts before proceeding.", cause);
                    }

                    // Wrap other AWS exceptions in a CompletionException.
                    throw new CompletionException("Failed to create schema mapping:
" + exception.getMessage(), exception);
                }
            });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateSchemaMapping」を参照してください。

DeleteMatchingWorkflow

次のコード例は、DeleteMatchingWorkflow を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Asynchronously deletes a workflow with the specified name.
    *
    * @param workflowName the name of the workflow to be deleted
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the workflow has been
deleted
    * @throws RuntimeException if the deletion of the workflow fails
    */
   public CompletableFuture<DeleteMatchingWorkflowResponse>
deleteMatchingWorkflowAsync(String workflowName) {
       DeleteMatchingWorkflowRequest request =
DeleteMatchingWorkflowRequest.builder()
           .workflowName(workflowName)
           .build();

       return getResolutionAsyncClient().deleteMatchingWorkflow(request)
           .whenComplete((response, exception) -> {
               if (response != null) {
                   logger.info("{} was deleted", workflowName );
               } else {
                   if (exception == null) {
                       throw new CompletionException("An unknown error occurred
while deleting the workflow.", null);
                   }

                   Throwable cause = exception.getCause();
                   if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                       throw new CompletionException("The workflow to delete was
not found.", cause);
                   }

                   // Wrap other AWS exceptions in a CompletionException.
                   throw new CompletionException("Failed to delete workflow: " +
exception.getMessage(), exception);
```

```
                }
            });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteMatchingWorkflow」を参照してください。

`DeleteSchemaMapping`

次のコード例は、DeleteSchemaMapping を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Deletes the schema mapping asynchronously.
     *
     * @param schemaName the name of the schema to delete
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the schema mapping is
deleted successfully,
     * or throws a {@link RuntimeException} if the deletion fails
     */
    public CompletableFuture<DeleteSchemaMappingResponse>
deleteSchemaMappingAsync(String schemaName) {
        DeleteSchemaMappingRequest request = DeleteSchemaMappingRequest.builder()
            .schemaName(schemaName)
            .build();

        return getResolutionAsyncClient().deleteSchemaMapping(request)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (response != null) {
                    // Successfully deleted the schema mapping, log the success
message.
                    logger.info("Schema mapping '{}' deleted successfully.",
schemaName);
```

```
                } else {
                    // Ensure exception is not null before accessing its cause.
                    if (exception == null) {
                        throw new CompletionException("An unknown error occurred
while deleting the schema mapping.", null);
                    }

                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                        throw new CompletionException("The schema mapping was not
found to delete: " + schemaName, cause);
                    }

                    // Wrap other AWS exceptions in a CompletionException.
                    throw new CompletionException("Failed to delete schema mapping:
" + schemaName, exception);
                }
            });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteSchemaMapping」を参照してください。

GetMatchingJob

次のコード例は、GetMatchingJob を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Asynchronously retrieves a matching job based on the provided job ID and
workflow name.
     *
     * @param jobId        the ID of the job to retrieve
```

```
    * @param workflowName the name of the workflow associated with the job
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the job information
is available or an exception occurs
    */
   public CompletableFuture<GetMatchingJobResponse> getMatchingJobAsync(String
jobId, String workflowName) {
       GetMatchingJobRequest request = GetMatchingJobRequest.builder()
           .jobId(jobId)
           .workflowName(workflowName)
           .build();

       return getResolutionAsyncClient().getMatchingJob(request)
           .whenComplete((response, exception) -> {
               if (response != null) {
                   // Successfully fetched the matching job details, log the job
status.
                   logger.info("Job status: " + response.status());
                   logger.info("Job details: " + response.toString());
               } else {
                   if (exception == null) {
                       throw new CompletionException("An unknown error occurred
while fetching the matching job.", null);
                   }

                   Throwable cause = exception.getCause();
                   if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                       throw new CompletionException("The requested job could not
be found.", cause);
                   }

                   // Wrap other exceptions in a CompletionException with the
message.
                   throw new CompletionException("Error fetching matching job: " +
exception.getMessage(), exception);
               }
           });
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetMatchingJob」を参照してください。

GetSchemaMapping

次のコード例は、GetSchemaMapping を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Retrieves the schema mapping asynchronously.
    *
    * @param schemaName the name of the schema to retrieve the mapping for
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes with the {@link
GetSchemaMappingResponse} when the operation
    * is complete
    * @throws RuntimeException if the schema mapping retrieval fails
    */
   public CompletableFuture<GetSchemaMappingResponse> getSchemaMappingAsync(String
schemaName) {
       GetSchemaMappingRequest mappingRequest = GetSchemaMappingRequest.builder()
           .schemaName(schemaName)
           .build();

       return getResolutionAsyncClient().getSchemaMapping(mappingRequest)
           .whenComplete((response, exception) -> {
               if (response != null) {
                   response.mappedInputFields().forEach(attribute ->
                       logger.info("Attribute Name: " + attribute.fieldName() +
                           ", Attribute Type: " + attribute.type().toString()));
               } else {
                   if (exception == null) {
                       throw new CompletionException("An unknown error occurred
while getting schema mapping.", null);
                   }

                   Throwable cause = exception.getCause();
                   if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                       throw new CompletionException("The requested schema mapping
was not found.", cause);
```

```
                    }

                    // Wrap other exceptions in a CompletionException with the
message.
                    throw new CompletionException("Failed to get schema mapping: " +
exception.getMessage(), exception);
                }
            });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetSchemaMapping」を参照してください。

`ListSchemaMappings`

次のコード例は、`ListSchemaMappings` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Lists the schema mappings associated with the current AWS account. This
method uses an asynchronous paginator to
     * retrieve the schema mappings, and prints the name of each schema mapping to
the console.
     */
    public void ListSchemaMappings() {
        ListSchemaMappingsRequest mappingsRequest =
ListSchemaMappingsRequest.builder()
            .build();

        ListSchemaMappingsPublisher paginator =
getResolutionAsyncClient().listSchemaMappingsPaginator(mappingsRequest);

        // Iterate through the pages of results
```

```
        CompletableFuture<Void> future = paginator.subscribe(response -> {
            response.schemaList().forEach(schemaMapping ->
                logger.info("Schema Mapping Name: " + schemaMapping.schemaName())
            );
        });

        // Wait for the asynchronous operation to complete
        future.join();
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListSchemaMappings」を参照してください。

`StartMatchingJob`

次のコード例は、StartMatchingJob を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Starts a matching job asynchronously for the specified workflow name.
     *
     * @param workflowName the name of the workflow for which to start the matching
job
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes with the job ID of the
started matching job, or an empty
     * string if the operation fails
     */
    public CompletableFuture<String> startMatchingJobAsync(String workflowName) {
        StartMatchingJobRequest jobRequest = StartMatchingJobRequest.builder()
            .workflowName(workflowName)
            .build();
```

```
        return getResolutionAsyncClient().startMatchingJob(jobRequest)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (response != null) {
                    String jobId = response.jobId();
                    logger.info("Job ID: " + jobId);
                } else {
                    if (exception == null) {
                        throw new CompletionException("An unknown error occurred
while starting the job.", null);
                    }

                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof ConflictException) {
                        throw new CompletionException("The job is already running.
Resolve conflicts before starting a new job.", cause);
                    }

                    // Wrap other AWS exceptions in a CompletionException.
                    throw new CompletionException("Failed to start the job: " +
exception.getMessage(), exception);
                }
            })
            .thenApply(response -> response != null ? response.jobId() : "");
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartMatchingJob」を参照してください。

`TagResource`

次のコード例は、`TagResource` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Tags the specified schema mapping ARN.
     *
     * @param schemaMappingARN the ARN of the schema mapping to tag
     */
    public CompletableFuture<TagResourceResponse> tagEntityResource(String
schemaMappingARN) {
        Map<String, String> tags = new HashMap<>();
        tags.put("tag1", "tag1Value");
        tags.put("tag2", "tag2Value");

        TagResourceRequest request = TagResourceRequest.builder()
            .resourceArn(schemaMappingARN)
            .tags(tags)
            .build();

        return getResolutionAsyncClient().tagResource(request)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (response != null) {
                    // Successfully tagged the resource, log the success message.
                    logger.info("Successfully tagged the resource.");
                } else {
                    if (exception == null) {
                        throw new CompletionException("An unknown error occurred
while tagging the resource.", null);
                    }

                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                        throw new CompletionException("The resource to tag was not
found.", cause);
                    }
                    throw new CompletionException("Failed to tag the resource: " +
exception.getMessage(), exception);
                }
            });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「TagResource」を参照してください。

SDK for Java 2.x を使用した OpenSearch Service の例

次のコード例は、OpenSearch Service AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- はじめに
- 基本
- アクション

はじめに

Hello OpenSearch Service

次のコード例は、OpenSearch Service の使用を開始する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.services.opensearch.OpenSearchAsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.opensearch.model.ListVersionsRequest;
import java.util.List;
import java.util.concurrent.CompletableFuture;

/**
```

```
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class HelloOpenSearch {
    public static void main(String[] args) {
        try {
            CompletableFuture<Void> future = listVersionsAsync();
            future.join();
            System.out.println("Versions listed successfully.");
        } catch (RuntimeException e) {
            System.err.println("Error occurred while listing versions: " +
 e.getMessage());
        }
    }

    private static OpenSearchAsyncClient getAsyncClient() {
        return OpenSearchAsyncClient.builder().build();
    }

    public static CompletableFuture<Void> listVersionsAsync() {
        ListVersionsRequest request = ListVersionsRequest.builder()
            .maxResults(10)
            .build();

        return getAsyncClient().listVersions(request).thenAccept(response -> {
            List<String> versionList = response.versions();
            for (String version : versionList) {
                System.out.println("Version info: " + version);
            }
        }).exceptionally(ex -> {
            // Handle the exception, or propagate it as a RuntimeException
            throw new RuntimeException("Failed to list versions", ex);
        });
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListVersions」を参照してください。

基本

OpenSearch Service のコアオペレーションについて

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- OpenSearch Service ドメインを作成します。
- 特定の OpenSearch Service ドメインに関する詳細情報を提供します。
- アカウントが所有するすべての OpenSearch Service ドメインを一覧表示します。
- OpenSearch Service ドメインの変更ステータスが完了状態になるまで待ちます。
- 既存の OpenSearch Service ドメインの設定を変更します。
- OpenSearch Service ドメインにタグを追加します。
- OpenSearch Service ドメインに関連付けられているタグを一覧表示します。
- OpenSearch Service ドメインからタグを削除します。
- OpenSearch Service ドメインを削除します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

OpenSearch Service の機能を実証するインタラクティブなシナリオを実行します。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.services.opensearch.model.*;
import java.util.List;
import java.util.Scanner;
import java.util.concurrent.CompletableFuture;

public class OpenSearchScenario {

    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");
```

```
    private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(OpenSearchScenario.class);
    static Scanner scanner = new Scanner(System.in);

    static OpenSearchActions openSearchActions = new OpenSearchActions();

    public static void main(String[] args) throws Throwable {
        logger.info("""
            Welcome to the Amazon OpenSearch Service Basics Scenario.

            Use the Amazon OpenSearch Service API to create, configure, and manage
 OpenSearch Service domains.

            The operations exposed by the AWS OpenSearch Service client are focused
 on managing the OpenSearch Service domains
            and their configurations, not the data within the domains (such as
 indexing or querying documents).
            For document management, you typically interact directly with the
 OpenSearch REST API or use other libraries,
            such as the OpenSearch Java client (https://opensearch.org/docs/latest/
clients/java/).

            Let's get started...
        """);
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            runScenario();
        } catch (RuntimeException e) {
            e.printStackTrace();
        }
    }

    private static void waitForInputToContinue(Scanner scanner) {
        while (true) {
            logger.info("");
            logger.info("Enter 'c' followed by <ENTER> to continue:");
            String input = scanner.nextLine();

            if (input.trim().equalsIgnoreCase("c")) {
                logger.info("Continuing with the program...");
                logger.info("");
                break;
            } else {
                logger.info("Invalid input. Please try again.");
```

```
            }
        }
    }

    private static void runScenario() throws Throwable {
        String currentTimestamp = String.valueOf(System.currentTimeMillis());
        String domainName = "test-domain-" + currentTimestamp;

        logger.info(DASHES);
        logger.info("1. Create an Amazon OpenSearch domain");
        logger.info("""
            An Amazon OpenSearch domain is a managed instance of the OpenSearch
engine,
            which is an open-source search and analytics engine derived from
Elasticsearch.
            An OpenSearch domain is essentially a cluster of compute resources and
storage that hosts
            one or more OpenSearch indexes, enabling you to perform full-text
searches, data analysis, and
            visualizations.

            In this step, we'll initiate the creation of the domain. We'll check on
the progress in a later step.
        """);
        waitForInputToContinue(scanner);

        try {
            CompletableFuture<String> future =
openSearchActions.createNewDomainAsync(domainName);
            String domainId = future.join();
            logger.info("Domain successfully created with ID: {}", domainId);
        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause != null) {
                if (cause instanceof OpenSearchException openSearchEx) {
                    logger.error("OpenSearch error occurred: Error message:
{}, Error code {}", openSearchEx.awsErrorDetails().errorMessage(),
openSearchEx.awsErrorDetails().errorCode());
                } else {
                    logger.error("An unexpected error occurred: " +
cause.getMessage(), cause);
                }
            } else {
                logger.error("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
```

```
            }
            throw cause;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info("2. Describe the Amazon OpenSearch domain");
        logger.info("In this step, we get back the Domain ARN which is used in an
upcoming step.");
        waitForInputToContinue(scanner);

        String arn = "";
        try {
            CompletableFuture<String> future =
openSearchActions.describeDomainAsync(domainName);
            arn = future.join();
        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof OpenSearchException openSearchEx) {
                logger.info("OpenSearch error occurred: Error message:
{}, Error code {}", openSearchEx.awsErrorDetails().errorMessage(),
openSearchEx.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
            }
            throw cause;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info("3. List the domains in your account");
        waitForInputToContinue(scanner);

        try {
            CompletableFuture<List<DomainInfo>> future =
openSearchActions.listAllDomainsAsync();
            List<DomainInfo> domainInfoList = future.join();
            for (DomainInfo domain : domainInfoList) {
                logger.info("Domain name is: " + domain.domainName());
            }
        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            while (cause.getCause() != null && !(cause instanceof
OpenSearchException)) {
```

```
                cause = cause.getCause();
            }
            if (cause instanceof OpenSearchException openSearchEx) {
                logger.info("OpenSearch error occurred: Error message:
{}, Error code {}", openSearchEx.awsErrorDetails().errorMessage(),
openSearchEx.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
            }
            throw cause;
        }

        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info("4. Wait until the domain's change status reaches a completed
state");
        logger.info("""
            In this step, we check on the change status of the domain that we
initiated in Step 1.
            Until we reach a COMPLETED state, we stay in a loop by sending a
DescribeDomainChangeProgressRequest.

            The time it takes for a change to an OpenSearch domain to reach a
completed state can range
            from a few minutes to several hours. In this case the change is creating
a new domain that we initiated in Step 1.
            The time varies depending on the complexity of the change and the
current load on
            the OpenSearch service. In general, simple changes, such as scaling the
number of data nodes or
            updating the OpenSearch version, may take 10-30 minutes.
        """);

        waitForInputToContinue(scanner);

        try {
            CompletableFuture<Void> future =
openSearchActions.domainChangeProgressAsync(domainName);
            future.join();
            logger.info("Domain change progress completed successfully.");
        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
```

```
            while (cause.getCause() != null && !(cause instanceof
ResourceNotFoundException)) {
                cause = cause.getCause();
            }
            if (cause instanceof ResourceNotFoundException
resourceNotFoundException) {
                logger.info("The specific AWS resource was not found: Error message:
{}, Error code {}", resourceNotFoundException.awsErrorDetails().errorMessage(),
resourceNotFoundException.awsErrorDetails().errorCode());

                if (cause instanceof OpenSearchException ex) {
                    logger.info("An OpenSearch error occurred: Error message: " +
ex.getMessage());
                } else {
                    logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
                }
                throw cause;
            }
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info("5. Modify the domain");
        logger.info("""
            You can change your OpenSearch domain's settings, like the number of
instances, without starting over from scratch.
            This makes it easy to adjust your domain as your needs change, allowing
you to scale up or
            down quickly without recreating everything.

            We modify the domain in this step by changing the number of instances.
        """);

        waitForInputToContinue(scanner);

        try {
            CompletableFuture<UpdateDomainConfigResponse> future =
openSearchActions.updateSpecificDomainAsync(domainName);
            UpdateDomainConfigResponse updateResponse = future.join();
            logger.info("Domain update status: " +
updateResponse.domainConfig().changeProgressDetails().configChangeStatusAsString());
        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof OpenSearchException openSearchEx) {
```

```
                logger.info("OpenSearch error occurred: Error message:
{}, Error code {}", openSearchEx.awsErrorDetails().errorMessage(),
openSearchEx.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
            }
            throw cause;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info("6. Wait until the domain's change status reaches a completed
state");
        logger.info("""
            In this step, we poll the status until the domain's change status
reaches a completed state.
        """);

        waitForInputToContinue(scanner);

        try {
            CompletableFuture<Void> future =
openSearchActions.domainChangeProgressAsync(domainName);
            future.join();
            logger.info("Domain change progress completed successfully.");
        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof OpenSearchException ex) {
                logger.info("EC2 error occurred: Error message: " +ex.getMessage());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
            }
            throw cause;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info("7. Tag the Domain");
        logger.info("""
            Tags let you assign arbitrary information to an Amazon OpenSearch
Service domain so you can
            categorize and filter on that information. A tag is a key-value pair
that you define and
```

```
            associate with an OpenSearch Service domain. You can use these tags to
track costs by grouping
            expenses for similarly tagged resources.

            In this scenario, we create tags with keys "service" and "instances".
        """);

        waitForInputToContinue(scanner);

        try {
            CompletableFuture<AddTagsResponse> future =
openSearchActions.addDomainTagsAsync(arn);
            future.join();
            logger.info("Domain tags added successfully.");
        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            while (cause.getCause() != null && !(cause instanceof
OpenSearchException)) {
                cause = cause.getCause();
            }
            if (cause instanceof OpenSearchException openSearchEx) {
                logger.info("OpenSearch error occurred: Error message:
{}, Error code {}", openSearchEx.awsErrorDetails().errorMessage(),
openSearchEx.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
                if (cause != null) {
                    if (cause instanceof OpenSearchException) {
                        logger.error("OpenSearch error occurred: Error message: " +
cause.getMessage(), cause);
                    } else {
                        logger.error("An unexpected error occurred: " +
cause.getMessage(), cause);
                    }
                } else {
                    logger.error("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage(),
rt);
                }
                throw cause;
            }
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);
```

```
        logger.info("8. List Domain tags");
        waitForInputToContinue(scanner);

        try {
            CompletableFuture<ListTagsResponse> future =
openSearchActions.listDomainTagsAsync(arn);
            ListTagsResponse listTagsResponse = future.join();
            listTagsResponse.tagList().forEach(tag -> logger.info("Tag Key: " +
tag.key() + ", Tag Value: " + tag.value()));
        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            while (cause.getCause() != null && !(cause instanceof
OpenSearchException)) {
                cause = cause.getCause();
            }
            if (cause instanceof OpenSearchException openSearchEx) {
                logger.info("OpenSearch error occurred: Error message:
{}, Error code {}", openSearchEx.awsErrorDetails().errorMessage(),
openSearchEx.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
            }
            throw cause;

        }

        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info("9. Delete the domain");
        logger.info("""
            In this step, we'll delete the Amazon OpenSearch domain that we created
in Step 1.
            Deleting a domain will remove all data and configuration for that
domain.
        """);

        waitForInputToContinue(scanner);

        try {
            CompletableFuture<DeleteDomainResponse> future =
openSearchActions.deleteSpecificDomainAsync(domainName);
            future.join();
            logger.info("Domain successfully deleted.");
```

```
        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            while (cause.getCause() != null && !(cause instanceof
 OpenSearchException)) {
                cause = cause.getCause();
            }
            if (cause instanceof OpenSearchException openSearchEx) {
                logger.info("OpenSearch error occurred: Error message:
 {}, Error code {}", openSearchEx.awsErrorDetails().errorMessage(),
 openSearchEx.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
            }
            throw cause;

        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info("Scenario complete!");
    }
}
```

OpenSearch Service SDK メソッドのラッパークラス。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.core.client.config.ClientOverrideConfiguration;
import software.amazon.awssdk.core.retry.RetryPolicy;
import software.amazon.awssdk.http.async.SdkAsyncHttpClient;
import software.amazon.awssdk.http.nio.netty.NettyNioAsyncHttpClient;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.opensearch.OpenSearchAsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.opensearch.model.AddTagsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.opensearch.model.AddTagsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.opensearch.model.ClusterConfig;
import software.amazon.awssdk.services.opensearch.model.CreateDomainRequest;
import software.amazon.awssdk.services.opensearch.model.DeleteDomainRequest;
import software.amazon.awssdk.services.opensearch.model.DeleteDomainResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.opensearch.model.DescribeDomainChangeProgressRequest;
```

```
import
 software.amazon.awssdk.services.opensearch.model.DescribeDomainChangeProgressResponse;
import software.amazon.awssdk.services.opensearch.model.DescribeDomainRequest;
import software.amazon.awssdk.services.opensearch.model.DomainInfo;
import software.amazon.awssdk.services.opensearch.model.DomainStatus;
import software.amazon.awssdk.services.opensearch.model.EBSOptions;
import software.amazon.awssdk.services.opensearch.model.ListDomainNamesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.opensearch.model.ListTagsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.opensearch.model.ListTagsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.opensearch.model.NodeToNodeEncryptionOptions;
import software.amazon.awssdk.services.opensearch.model.Tag;
import software.amazon.awssdk.services.opensearch.model.UpdateDomainConfigRequest;
import software.amazon.awssdk.services.opensearch.model.UpdateDomainConfigResponse;
import software.amazon.awssdk.services.opensearch.model.VolumeType;
import java.time.Duration;
import java.util.ArrayList;
import java.util.List;
import java.util.concurrent.CompletableFuture;

public class OpenSearchActions {
    private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(OpenSearchActions.class);
    private static OpenSearchAsyncClient openSearchClientAsyncClient;
    private static OpenSearchAsyncClient getAsyncClient() {
        if (openSearchClientAsyncClient == null) {
            SdkAsyncHttpClient httpClient = NettyNioAsyncHttpClient.builder()
                .maxConcurrency(100)
                .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .readTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .writeTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .build();

            ClientOverrideConfiguration overrideConfig =
 ClientOverrideConfiguration.builder()
                .apiCallTimeout(Duration.ofMinutes(2))
                .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(90))
                .retryPolicy(RetryPolicy.builder()
                    .numRetries(3)
                    .build())
                .build();

            openSearchClientAsyncClient = OpenSearchAsyncClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .httpClient(httpClient)
```

```
                .overrideConfiguration(overrideConfig)
                .build();
        }
        return openSearchClientAsyncClient;
    }

    /**
     * Creates a new OpenSearch domain asynchronously.
     * @param domainName the name of the new OpenSearch domain to create
     * @return a {@link CompletableFuture} containing the domain ID of the newly
created domain
     */
    public CompletableFuture<String> createNewDomainAsync(String domainName) {
        ClusterConfig clusterConfig = ClusterConfig.builder()
            .dedicatedMasterEnabled(true)
            .dedicatedMasterCount(3)
            .dedicatedMasterType("t2.small.search")
            .instanceType("t2.small.search")
            .instanceCount(5)
            .build();

        EBSOptions ebsOptions = EBSOptions.builder()
            .ebsEnabled(true)
            .volumeSize(10)
            .volumeType(VolumeType.GP2)
            .build();

        NodeToNodeEncryptionOptions encryptionOptions =
NodeToNodeEncryptionOptions.builder()
            .enabled(true)
            .build();

        CreateDomainRequest domainRequest = CreateDomainRequest.builder()
            .domainName(domainName)
            .engineVersion("OpenSearch_1.0")
            .clusterConfig(clusterConfig)
            .ebsOptions(ebsOptions)
            .nodeToNodeEncryptionOptions(encryptionOptions)
            .build();
        logger.info("Sending domain creation request...");
        return getAsyncClient().createDomain(domainRequest)
                .handle( (createResponse, throwable) -> {
                    if (createResponse != null) {
```

```
                        logger.info("Domain status is {}",
createResponse.domainStatus().changeProgressDetails().configChangeStatusAsString());
                        logger.info("Domain Id is {}",
createResponse.domainStatus().domainId());
                        return createResponse.domainStatus().domainId();
                    }
                    throw new RuntimeException("Failed to create domain",
throwable);
                });
    }

    /**
     * Deletes a specific domain asynchronously.
     * @param domainName the name of the domain to be deleted
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the domain has been
deleted
     * or throws a {@link RuntimeException} if the deletion fails
     */
    public CompletableFuture<DeleteDomainResponse> deleteSpecificDomainAsync(String
domainName) {
        DeleteDomainRequest domainRequest = DeleteDomainRequest.builder()
            .domainName(domainName)
            .build();

        // Delete domain asynchronously
        return getAsyncClient().deleteDomain(domainRequest)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    throw new RuntimeException("Failed to delete the domain: " +
domainName, exception);
                }
            });
    }

    /**
     * Describes the specified domain asynchronously.
     *
     * @param domainName the name of the domain to describe
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes with the ARN of the domain
     * @throws RuntimeException if the domain description fails
     */
    public CompletableFuture<String> describeDomainAsync(String domainName) {
        DescribeDomainRequest request = DescribeDomainRequest.builder()
            .domainName(domainName)
```

```
            .build();

        return getAsyncClient().describeDomain(request)
            .handle((response, exception) -> {  // Handle both response and
exception
                if (exception != null) {
                    throw new RuntimeException("Failed to describe domain",
exception);
                }
                DomainStatus domainStatus = response.domainStatus();
                String endpoint = domainStatus.endpoint();
                String arn = domainStatus.arn();
                String engineVersion = domainStatus.engineVersion();
                logger.info("Domain endpoint is: " + endpoint);
                logger.info("ARN: " + arn);
                System.out.println("Engine version: " + engineVersion);

                return arn;  // Return ARN when successful
            });
    }

    /**
     * Asynchronously lists all the domains in the current AWS account.
     * @return a {@link CompletableFuture} that, when completed, contains a list of
{@link DomainInfo} objects representing
     *         the domains in the account.
     * @throws RuntimeException if there was a failure while listing the domains.
     */
    public CompletableFuture<List<DomainInfo>> listAllDomainsAsync() {
        ListDomainNamesRequest namesRequest = ListDomainNamesRequest.builder()
            .engineType("OpenSearch")
            .build();

        return getAsyncClient().listDomainNames(namesRequest)
            .handle((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    throw new RuntimeException("Failed to list all domains",
exception);
                }
                return response.domainNames();  // Return the list of domain names
on success
            });
    }
```

```
   /**
    * Updates the configuration of a specific domain asynchronously.
    * @param domainName the name of the domain to update
    * @return a {@link CompletableFuture} that represents the asynchronous
operation of updating the domain configuration
    */
   public CompletableFuture<UpdateDomainConfigResponse>
updateSpecificDomainAsync(String domainName) {
       ClusterConfig clusterConfig = ClusterConfig.builder()
           .instanceCount(3)
           .build();

       UpdateDomainConfigRequest updateDomainConfigRequest =
UpdateDomainConfigRequest.builder()
           .domainName(domainName)
           .clusterConfig(clusterConfig)
           .build();

       return getAsyncClient().updateDomainConfig(updateDomainConfigRequest)
           .whenComplete((response, exception) -> {
               if (exception != null) {
                   throw new RuntimeException("Failed to update the domain
configuration", exception);
               }
               // Handle success if needed (e.g., logging or additional actions)
           });
   }

   /**
    * Asynchronously checks the progress of a domain change operation in Amazon
OpenSearch Service.
    * @param domainName the name of the OpenSearch domain to check the progress for
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the domain change
operation is completed
    */
   public CompletableFuture<Void> domainChangeProgressAsync(String domainName) {
       DescribeDomainChangeProgressRequest request =
DescribeDomainChangeProgressRequest.builder()
           .domainName(domainName)
           .build();

       return CompletableFuture.runAsync(() -> {
           boolean isCompleted = false;
           long startTime = System.currentTimeMillis();
```

```
            while (!isCompleted) {
                try {
                    // Handle the async client call using `join` to block
synchronously for the result
                    DescribeDomainChangeProgressResponse response = getAsyncClient()
                        .describeDomainChangeProgress(request)
                        .handle((resp, ex) -> {
                            if (ex != null) {
                                throw new RuntimeException("Failed to check domain
progress", ex);
                            }
                            return resp;
                        }).join();

                    String state = response.changeProgressStatus().statusAsString();
 // Get the status as string

                    if ("COMPLETED".equals(state)) {
                        logger.info("\nOpenSearch domain status: Completed");
                        isCompleted = true;
                    } else {
                        for (int i = 0; i < 5; i++) {
                            long elapsedTimeInSeconds = (System.currentTimeMillis()
- startTime) / 1000;
                            String formattedTime = String.format("%02d:%02d",
elapsedTimeInSeconds / 60, elapsedTimeInSeconds % 60);
                            System.out.print("\rOpenSearch domain state: " + state +
" | Time Elapsed: " + formattedTime + " ");
                            System.out.flush();
                            Thread.sleep(1_000);
                        }
                    }
                } catch (InterruptedException e) {
                    Thread.currentThread().interrupt();
                    throw new RuntimeException("Thread was interrupted", e);
                }
            }
        });
    }

    /**
     * Asynchronously adds tags to an Amazon OpenSearch Service domain.
```

```
    * @param domainARN the Amazon Resource Name (ARN) of the Amazon OpenSearch
Service domain to add tags to
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the tags have been
successfully added to the domain,
    * or throws a {@link RuntimeException} if the operation fails
    */
   public CompletableFuture<AddTagsResponse> addDomainTagsAsync(String domainARN) {
       Tag tag1 = Tag.builder()
           .key("service")
           .value("OpenSearch")
           .build();

       Tag tag2 = Tag.builder()
           .key("instances")
           .value("m3.2xlarge")
           .build();

       List<Tag> tagList = new ArrayList<>();
       tagList.add(tag1);
       tagList.add(tag2);

       AddTagsRequest addTagsRequest = AddTagsRequest.builder()
           .arn(domainARN)
           .tagList(tagList)
           .build();

       return getAsyncClient().addTags(addTagsRequest)
           .whenComplete((response, exception) -> {
               if (exception != null) {
                   throw new RuntimeException("Failed to add tags to the domain: "
+ domainARN, exception);
               } else {
                   logger.info("Added Tags");
               }
           });
   }


   /**
    * Asynchronously lists the tags associated with the specified Amazon Resource
Name (ARN).
    * @param arn the Amazon Resource Name (ARN) of the resource for which to list
the tags
```

```
     * @return a {@link CompletableFuture} that, when completed, will contain a list
 of the tags associated with the
     * specified ARN
     * @throws RuntimeException if there is an error listing the tags
     */
    public CompletableFuture<ListTagsResponse> listDomainTagsAsync(String arn) {
        ListTagsRequest tagsRequest = ListTagsRequest.builder()
            .arn(arn)
            .build();

        return getAsyncClient().listTags(tagsRequest)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    throw new RuntimeException("Failed to list domain tags",
 exception);
                }

                List<Tag> tagList = response.tagList();
                for (Tag tag : tagList) {
                    logger.info("Tag key is " + tag.key());
                    logger.info("Tag value is " + tag.value());
                }
            });
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - AddTags
  - CreateDomain
  - DeleteDomain
  - DescribeDomain
  - DescribeDomainChangeProgress
  - ListDomainNames
  - ListTags
  - UpdateDomainConfig

アクション

AddTags

次のコード例は、AddTags を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Asynchronously adds tags to an Amazon OpenSearch Service domain.
     * @param domainARN the Amazon Resource Name (ARN) of the Amazon OpenSearch
Service domain to add tags to
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the tags have been
successfully added to the domain,
     * or throws a {@link RuntimeException} if the operation fails
     */
    public CompletableFuture<AddTagsResponse> addDomainTagsAsync(String domainARN) {
        Tag tag1 = Tag.builder()
            .key("service")
            .value("OpenSearch")
            .build();

        Tag tag2 = Tag.builder()
            .key("instances")
            .value("m3.2xlarge")
            .build();

        List<Tag> tagList = new ArrayList<>();
        tagList.add(tag1);
        tagList.add(tag2);

        AddTagsRequest addTagsRequest = AddTagsRequest.builder()
            .arn(domainARN)
            .tagList(tagList)
            .build();
```

```
        return getAsyncClient().addTags(addTagsRequest)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    throw new RuntimeException("Failed to add tags to the domain: "
+ domainARN, exception);
                } else {
                    logger.info("Added Tags");
                }
            });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「AddTags」を参照してください。

`ChangeProgress`

次のコード例は、ChangeProgress を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Asynchronously checks the progress of a domain change operation in Amazon
OpenSearch Service.
     * @param domainName the name of the OpenSearch domain to check the progress for
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the domain change
operation is completed
     */
    public CompletableFuture<Void> domainChangeProgressAsync(String domainName) {
        DescribeDomainChangeProgressRequest request =
DescribeDomainChangeProgressRequest.builder()
            .domainName(domainName)
            .build();
```

```
        return CompletableFuture.runAsync(() -> {
            boolean isCompleted = false;
            long startTime = System.currentTimeMillis();

            while (!isCompleted) {
                try {
                    // Handle the async client call using `join` to block
synchronously for the result
                    DescribeDomainChangeProgressResponse response = getAsyncClient()
                        .describeDomainChangeProgress(request)
                        .handle((resp, ex) -> {
                            if (ex != null) {
                                throw new RuntimeException("Failed to check domain
progress", ex);
                            }
                            return resp;
                        }).join();

                    String state = response.changeProgressStatus().statusAsString();
 // Get the status as string

                    if ("COMPLETED".equals(state)) {
                        logger.info("\nOpenSearch domain status: Completed");
                        isCompleted = true;
                    } else {
                        for (int i = 0; i < 5; i++) {
                            long elapsedTimeInSeconds = (System.currentTimeMillis()
- startTime) / 1000;
                            String formattedTime = String.format("%02d:%02d",
elapsedTimeInSeconds / 60, elapsedTimeInSeconds % 60);
                            System.out.print("\rOpenSearch domain state: " + state +
" | Time Elapsed: " + formattedTime + " ");
                            System.out.flush();
                            Thread.sleep(1_000);
                        }
                    }
                } catch (InterruptedException e) {
                    Thread.currentThread().interrupt();
                    throw new RuntimeException("Thread was interrupted", e);
                }
            }
        });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」のChangeProgress」を参照してください。

`CreateDomain`

次のコード例は、`CreateDomain` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Creates a new OpenSearch domain asynchronously.
     * @param domainName the name of the new OpenSearch domain to create
     * @return a {@link CompletableFuture} containing the domain ID of the newly
created domain
     */
    public CompletableFuture<String> createNewDomainAsync(String domainName) {
        ClusterConfig clusterConfig = ClusterConfig.builder()
            .dedicatedMasterEnabled(true)
            .dedicatedMasterCount(3)
            .dedicatedMasterType("t2.small.search")
            .instanceType("t2.small.search")
            .instanceCount(5)
            .build();

        EBSOptions ebsOptions = EBSOptions.builder()
            .ebsEnabled(true)
            .volumeSize(10)
            .volumeType(VolumeType.GP2)
            .build();

        NodeToNodeEncryptionOptions encryptionOptions =
NodeToNodeEncryptionOptions.builder()
            .enabled(true)
```

```
            .build();

        CreateDomainRequest domainRequest = CreateDomainRequest.builder()
            .domainName(domainName)
            .engineVersion("OpenSearch_1.0")
            .clusterConfig(clusterConfig)
            .ebsOptions(ebsOptions)
            .nodeToNodeEncryptionOptions(encryptionOptions)
            .build();
        logger.info("Sending domain creation request...");
        return getAsyncClient().createDomain(domainRequest)
                .handle( (createResponse, throwable) -> {
                    if (createResponse != null) {
                        logger.info("Domain status is {}",
createResponse.domainStatus().changeProgressDetails().configChangeStatusAsString());
                        logger.info("Domain Id is {}",
createResponse.domainStatus().domainId());
                        return createResponse.domainStatus().domainId();
                    }
                    throw new RuntimeException("Failed to create domain",
throwable);
                });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateDomain」を参照してください。

`DeleteDomain`

次のコード例は、`DeleteDomain` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
```

```
    * Deletes a specific domain asynchronously.
    * @param domainName the name of the domain to be deleted
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the domain has been
deleted
    * or throws a {@link RuntimeException} if the deletion fails
    */
   public CompletableFuture<DeleteDomainResponse> deleteSpecificDomainAsync(String
domainName) {
       DeleteDomainRequest domainRequest = DeleteDomainRequest.builder()
           .domainName(domainName)
           .build();

       // Delete domain asynchronously
       return getAsyncClient().deleteDomain(domainRequest)
           .whenComplete((response, exception) -> {
               if (exception != null) {
                   throw new RuntimeException("Failed to delete the domain: " +
domainName, exception);
               }
           });
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteDomain」を参照してください。

`DescribeDomain`

次のコード例は、`DescribeDomain` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Describes the specified domain asynchronously.
    *
```

```
     * @param domainName the name of the domain to describe
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes with the ARN of the domain
     * @throws RuntimeException if the domain description fails
     */
    public CompletableFuture<String> describeDomainAsync(String domainName) {
        DescribeDomainRequest request = DescribeDomainRequest.builder()
            .domainName(domainName)
            .build();

        return getAsyncClient().describeDomain(request)
            .handle((response, exception) -> {  // Handle both response and
exception
                if (exception != null) {
                    throw new RuntimeException("Failed to describe domain",
exception);
                }
                DomainStatus domainStatus = response.domainStatus();
                String endpoint = domainStatus.endpoint();
                String arn = domainStatus.arn();
                String engineVersion = domainStatus.engineVersion();
                logger.info("Domain endpoint is: " + endpoint);
                logger.info("ARN: " + arn);
                System.out.println("Engine version: " + engineVersion);

                return arn;  // Return ARN when successful
            });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeDomain」を参照してください。

ListDomainNames

次のコード例は、ListDomainNames を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Asynchronously lists all the domains in the current AWS account.
     * @return a {@link CompletableFuture} that, when completed, contains a list of
{@link DomainInfo} objects representing
     *         the domains in the account.
     * @throws RuntimeException if there was a failure while listing the domains.
     */
    public CompletableFuture<List<DomainInfo>> listAllDomainsAsync() {
        ListDomainNamesRequest namesRequest = ListDomainNamesRequest.builder()
            .engineType("OpenSearch")
            .build();

        return getAsyncClient().listDomainNames(namesRequest)
            .handle((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    throw new RuntimeException("Failed to list all domains",
exception);
                }
                return response.domainNames();  // Return the list of domain names
on success
            });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListDomainNames」を参照してください。

`ListTags`

次のコード例は、`ListTags` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Asynchronously adds tags to an Amazon OpenSearch Service domain.
    * @param domainARN the Amazon Resource Name (ARN) of the Amazon OpenSearch
Service domain to add tags to
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the tags have been
successfully added to the domain,
    * or throws a {@link RuntimeException} if the operation fails
    */
   public CompletableFuture<AddTagsResponse> addDomainTagsAsync(String domainARN) {
       Tag tag1 = Tag.builder()
           .key("service")
           .value("OpenSearch")
           .build();

       Tag tag2 = Tag.builder()
           .key("instances")
           .value("m3.2xlarge")
           .build();

       List<Tag> tagList = new ArrayList<>();
       tagList.add(tag1);
       tagList.add(tag2);

       AddTagsRequest addTagsRequest = AddTagsRequest.builder()
           .arn(domainARN)
           .tagList(tagList)
           .build();

       return getAsyncClient().addTags(addTagsRequest)
           .whenComplete((response, exception) -> {
               if (exception != null) {
                   throw new RuntimeException("Failed to add tags to the domain: "
+ domainARN, exception);
               } else {
```

```
                    logger.info("Added Tags");
                }
            });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListTags」を参照してください。

UpdateDomainConfig

次のコード例は、UpdateDomainConfig を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Updates the configuration of a specific domain asynchronously.
     * @param domainName the name of the domain to update
     * @return a {@link CompletableFuture} that represents the asynchronous
operation of updating the domain configuration
     */
    public CompletableFuture<UpdateDomainConfigResponse>
updateSpecificDomainAsync(String domainName) {
        ClusterConfig clusterConfig = ClusterConfig.builder()
            .instanceCount(3)
            .build();

        UpdateDomainConfigRequest updateDomainConfigRequest =
UpdateDomainConfigRequest.builder()
            .domainName(domainName)
            .clusterConfig(clusterConfig)
            .build();

        return getAsyncClient().updateDomainConfig(updateDomainConfigRequest)
```

```
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    throw new RuntimeException("Failed to update the domain
configuration", exception);
                }
                // Handle success if needed (e.g., logging or additional actions)
            });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「UpdateDomainConfig」を参照してください。

SDK for Java 2.x を使用した EventBridge の例

次のコード例は、EventBridge AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- はじめに
- 基本
- アクション
- シナリオ

はじめに

Hello EventBridge

次のコード例は、EventBridge の使用を開始する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 *
 */
public class HelloEventBridge {
    public static void main(String[] args) {
        Region region = Region.US_WEST_2;
        EventBridgeClient eventBrClient = EventBridgeClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        listBuses(eventBrClient);
        eventBrClient.close();
    }

    public static void listBuses(EventBridgeClient eventBrClient) {
        try {
            ListEventBusesRequest busesRequest = ListEventBusesRequest.builder()
                    .limit(10)
                    .build();

            ListEventBusesResponse response =
 eventBrClient.listEventBuses(busesRequest);
```

```
            List<EventBus> buses = response.eventBuses();
            for (EventBus bus : buses) {
                System.out.println("The name of the event bus is: " + bus.name());
                System.out.println("The ARN of the event bus is: " + bus.arn());
            }

        } catch (EventBridgeException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListEventBuses」を参照してください。

基本

基本を学ぶ

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- ルールを作成して、ターゲットを追加する。
- ルールを有効化および無効化する。
- ルールとターゲットを一覧表示して更新する。
- イベントを送信して、リソースをクリーンアップする。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
```

```
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 *
 * This Java code example performs the following tasks:
 *
 * This Java V2 example performs the following tasks with Amazon EventBridge:
 *
 * 1. Creates an AWS Identity and Access Management (IAM) role to use with
 * Amazon EventBridge.
 * 2. Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) bucket with EventBridge events
 * enabled.
 * 3. Creates a rule that triggers when an object is uploaded to Amazon S3.
 * 4. Lists rules on the event bus.
 * 5. Creates a new Amazon Simple Notification Service (Amazon SNS) topic and
 * lets the user subscribe to it.
 * 6. Adds a target to the rule that sends an email to the specified topic.
 * 7. Creates an EventBridge event that sends an email when an Amazon S3 object
 * is created.
 * 8. Lists Targets.
 * 9. Lists the rules for the same target.
 * 10. Triggers the rule by uploading a file to the Amazon S3 bucket.
 * 11. Disables a specific rule.
 * 12. Checks and print the state of the rule.
 * 13. Adds a transform to the rule to change the text of the email.
 * 14. Enables a specific rule.
 * 15. Triggers the updated rule by uploading a file to the Amazon S3 bucket.
 * 16. Updates the rule to be a custom rule pattern.
 * 17. Sending an event to trigger the rule.
 * 18. Cleans up resources.
 *
 */
public class EventbridgeMVP {
    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");

    public static void main(String[] args) throws InterruptedException, IOException
 {
        final String usage = """

                Usage:
                    <roleName> <bucketName> <topicName> <eventRuleName>

                Where:
```

```
                    roleName - The name of the role to create.
                    bucketName - The Amazon Simple Storage Service (Amazon S3)
bucket name to create.
                    topicName - The name of the Amazon Simple Notification Service
(Amazon SNS) topic to create.
                    eventRuleName - The Amazon EventBridge rule name to create.
                """;

        if (args.length != 5) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String polJSON = "{" +
                "\"Version\": \"2012-10-17\"," +
                "\"Statement\": [{" +
                "\"Effect\": \"Allow\"," +
                "\"Principal\": {" +
                "\"Service\": \"events.amazonaws.com\"" +
                "}," +
                "\"Action\": \"sts:AssumeRole\"" +
                "}]" +
                "}";

        Scanner sc = new Scanner(System.in);
        String roleName = args[0];
        String bucketName = args[1];
        String topicName = args[2];
        String eventRuleName = args[3];

        Region region = Region.US_EAST_1;
        EventBridgeClient eventBrClient = EventBridgeClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        S3Client s3Client = S3Client.builder()
                .region(region)
                .build();

        Region regionGl = Region.AWS_GLOBAL;
        IamClient iam = IamClient.builder()
                .region(regionGl)
                .build();
```

```
        SnsClient snsClient = SnsClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("Welcome to the Amazon EventBridge example scenario.");
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out
                .println("1. Create an AWS Identity and Access Management (IAM) role
to use with Amazon EventBridge.");
        String roleArn = createIAMRole(iam, roleName, polJSON);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("2. Create an S3 bucket with EventBridge events
enabled.");
        if (checkBucket(s3Client, bucketName)) {
            System.out.println("Bucket " + bucketName + " already exists. Ending
this scenario.");
            System.exit(1);
        }

        createBucket(s3Client, bucketName);
        Thread.sleep(3000);
        setBucketNotification(s3Client, bucketName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("3. Create a rule that triggers when an object is
uploaded to Amazon S3.");
        Thread.sleep(10000);
        addEventRule(eventBrClient, roleArn, bucketName, eventRuleName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("4. List rules on the event bus.");
        listRules(eventBrClient);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("5. Create a new SNS topic for testing and let the user
subscribe to the topic.");
```

```
        String topicArn = createSnsTopic(snsClient, topicName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("6. Add a target to the rule that sends an email to the
specified topic.");
        System.out.println("Enter your email to subscribe to the Amazon SNS
topic:");
        String email = sc.nextLine();
        subEmail(snsClient, topicArn, email);
        System.out.println(
                "Use the link in the email you received to confirm your
subscription. Then, press Enter to continue.");
        sc.nextLine();
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("7. Create an EventBridge event that sends an email when
an Amazon S3 object is created.");
        addSnsEventRule(eventBrClient, eventRuleName, topicArn, topicName,
eventRuleName, bucketName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println(" 8. List Targets.");
        listTargets(eventBrClient, eventRuleName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println(" 9. List the rules for the same target.");
        listTargetRules(eventBrClient, topicArn);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println(" 10. Trigger the rule by uploading a file to the S3
bucket.");
        System.out.println("Press Enter to continue.");
        sc.nextLine();
        uploadTextFiletoS3(s3Client, bucketName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("11. Disable a specific rule.");
        changeRuleState(eventBrClient, eventRuleName, false);
```

```
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("12. Check and print the state of the rule.");
        checkRule(eventBrClient, eventRuleName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("13. Add a transform to the rule to change the text of
the email.");
        updateSnsEventRule(eventBrClient, topicArn, eventRuleName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("14. Enable a specific rule.");
        changeRuleState(eventBrClient, eventRuleName, true);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println(" 15. Trigger the updated rule by uploading a file to the
S3 bucket.");
        System.out.println("Press Enter to continue.");
        sc.nextLine();
        uploadTextFiletoS3(s3Client, bucketName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println(" 16. Update the rule to be a custom rule pattern.");
        updateToCustomRule(eventBrClient, eventRuleName);
        System.out.println("Updated event rule " + eventRuleName + " to use a custom
pattern.");
        updateCustomRuleTargetWithTransform(eventBrClient, topicArn, eventRuleName);
        System.out.println("Updated event target " + topicArn + ".");
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("17. Sending an event to trigger the rule. This will
trigger a subscription email.");
        triggerCustomRule(eventBrClient, email);
        System.out.println("Events have been sent. Press Enter to continue.");
        sc.nextLine();
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
```

```
        System.out.println("18. Clean up resources.");
        System.out.println("Do you want to clean up resources (y/n)");
        String ans = sc.nextLine();
        if (ans.compareTo("y") == 0) {
            cleanupResources(eventBrClient, snsClient, s3Client, iam, topicArn,
eventRuleName, bucketName, roleName);
        } else {
            System.out.println("The resources will not be cleaned up. ");
        }
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("The Amazon EventBridge example scenario has successfully
completed.");
        System.out.println(DASHES);
    }

    public static void cleanupResources(EventBridgeClient eventBrClient, SnsClient
snsClient, S3Client s3Client,
            IamClient iam, String topicArn, String eventRuleName, String bucketName,
String roleName) {
        System.out.println("Removing all targets from the event rule.");
        deleteTargetsFromRule(eventBrClient, eventRuleName);
        deleteRuleByName(eventBrClient, eventRuleName);
        deleteSNSTopic(snsClient, topicArn);
        deleteS3Bucket(s3Client, bucketName);
        deleteRole(iam, roleName);
    }

    public static void deleteRole(IamClient iam, String roleName) {
        String policyArn = "arn:aws:iam::aws:policy/AmazonEventBridgeFullAccess";
        DetachRolePolicyRequest policyRequest = DetachRolePolicyRequest.builder()
                .policyArn(policyArn)
                .roleName(roleName)
                .build();

        iam.detachRolePolicy(policyRequest);
        System.out.println("Successfully detached policy " + policyArn + " from role
" + roleName);

        // Delete the role.
        DeleteRoleRequest roleRequest = DeleteRoleRequest.builder()
                .roleName(roleName)
                .build();
```

```
        iam.deleteRole(roleRequest);
        System.out.println("*** Successfully deleted " + roleName);
    }

    public static void deleteS3Bucket(S3Client s3Client, String bucketName) {
        // Remove all the objects from the S3 bucket.
        ListObjectsRequest listObjects = ListObjectsRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .build();

        ListObjectsResponse res = s3Client.listObjects(listObjects);
        List<S3Object> objects = res.contents();
        ArrayList<ObjectIdentifier> toDelete = new ArrayList<>();

        for (S3Object myValue : objects) {
            toDelete.add(ObjectIdentifier.builder()
                    .key(myValue.key())
                    .build());
        }

        DeleteObjectsRequest dor = DeleteObjectsRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .delete(Delete.builder()
                        .objects(toDelete).build())
                .build();

        s3Client.deleteObjects(dor);

        // Delete the S3 bucket.
        DeleteBucketRequest deleteBucketRequest = DeleteBucketRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .build();

        s3Client.deleteBucket(deleteBucketRequest);
        System.out.println("You have deleted the bucket and the objects");
    }

    // Delete the SNS topic.
    public static void deleteSNSTopic(SnsClient snsClient, String topicArn) {
        try {
            DeleteTopicRequest request = DeleteTopicRequest.builder()
                    .topicArn(topicArn)
                    .build();
```

```
            DeleteTopicResponse result = snsClient.deleteTopic(request);
            System.out.println("\n\nStatus was " +
result.sdkHttpResponse().statusCode());

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void deleteRuleByName(EventBridgeClient eventBrClient, String
ruleName) {
        DeleteRuleRequest ruleRequest = DeleteRuleRequest.builder()
                .name(ruleName)
                .build();

        eventBrClient.deleteRule(ruleRequest);
        System.out.println("Successfully deleted the rule");
    }

    public static void deleteTargetsFromRule(EventBridgeClient eventBrClient, String
eventRuleName) {
        // First, get all targets that will be deleted.
        ListTargetsByRuleRequest request = ListTargetsByRuleRequest.builder()
                .rule(eventRuleName)
                .build();

        ListTargetsByRuleResponse response =
eventBrClient.listTargetsByRule(request);
        List<Target> allTargets = response.targets();

        // Get all targets and delete them.
        for (Target myTarget : allTargets) {
            RemoveTargetsRequest removeTargetsRequest =
RemoveTargetsRequest.builder()
                    .rule(eventRuleName)
                    .ids(myTarget.id())
                    .build();

            eventBrClient.removeTargets(removeTargetsRequest);
            System.out.println("Successfully removed the target");
        }
    }
```

```
   public static void triggerCustomRule(EventBridgeClient eventBrClient, String
email) {
       String json = "{" +
               "\"UserEmail\": \"" + email + "\"," +
               "\"Message\": \"This event was generated by example code.\"," +
               "\"UtcTime\": \"Now.\"" +
               "}";

       PutEventsRequestEntry entry = PutEventsRequestEntry.builder()
               .source("ExampleSource")
               .detail(json)
               .detailType("ExampleType")
               .build();

       PutEventsRequest eventsRequest = PutEventsRequest.builder()
               .entries(entry)
               .build();

       eventBrClient.putEvents(eventsRequest);
   }

   public static void updateCustomRuleTargetWithTransform(EventBridgeClient
eventBrClient, String topicArn,
           String ruleName) {
       String targetId = java.util.UUID.randomUUID().toString();
       InputTransformer inputTransformer = InputTransformer.builder()
               .inputTemplate("\"Notification: sample event was received.\"")
               .build();

       Target target = Target.builder()
               .id(targetId)
               .arn(topicArn)
               .inputTransformer(inputTransformer)
               .build();

       try {
           PutTargetsRequest targetsRequest = PutTargetsRequest.builder()
                   .rule(ruleName)
                   .targets(target)
                   .eventBusName(null)
                   .build();

           eventBrClient.putTargets(targetsRequest);
```

```
        } catch (EventBridgeException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void updateToCustomRule(EventBridgeClient eventBrClient, String
ruleName) {
        String customEventsPattern = "{" +
                "\"source\": [\"ExampleSource\"]," +
                "\"detail-type\": [\"ExampleType\"]" +
                "}";

        PutRuleRequest request = PutRuleRequest.builder()
                .name(ruleName)
                .description("Custom test rule")
                .eventPattern(customEventsPattern)
                .build();

        eventBrClient.putRule(request);
    }

    // Update an Amazon S3 object created rule with a transform on the target.
    public static void updateSnsEventRule(EventBridgeClient eventBrClient, String
topicArn, String ruleName) {
        String targetId = java.util.UUID.randomUUID().toString();
        Map<String, String> myMap = new HashMap<>();
        myMap.put("bucket", "$.detail.bucket.name");
        myMap.put("time", "$.time");

        InputTransformer inputTransformer = InputTransformer.builder()
                .inputTemplate("\"Notification: an object was uploaded to bucket
<bucket> at <time>.\"")
                .inputPathsMap(myMap)
                .build();

        Target target = Target.builder()
                .id(targetId)
                .arn(topicArn)
                .inputTransformer(inputTransformer)
                .build();

        try {
            PutTargetsRequest targetsRequest = PutTargetsRequest.builder()
```

```
                    .rule(ruleName)
                    .targets(target)
                    .eventBusName(null)
                    .build();

            eventBrClient.putTargets(targetsRequest);

        } catch (EventBridgeException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void checkRule(EventBridgeClient eventBrClient, String
eventRuleName) {
        try {
            DescribeRuleRequest ruleRequest = DescribeRuleRequest.builder()
                    .name(eventRuleName)
                    .build();

            DescribeRuleResponse response = eventBrClient.describeRule(ruleRequest);
            System.out.println("The state of the rule is " +
response.stateAsString());

        } catch (EventBridgeException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void changeRuleState(EventBridgeClient eventBrClient, String
eventRuleName, Boolean isEnabled) {
        try {
            if (!isEnabled) {
                System.out.println("Disabling the rule: " + eventRuleName);
                DisableRuleRequest ruleRequest = DisableRuleRequest.builder()
                        .name(eventRuleName)
                        .build();

                eventBrClient.disableRule(ruleRequest);
            } else {
                System.out.println("Enabling the rule: " + eventRuleName);
                EnableRuleRequest ruleRequest = EnableRuleRequest.builder()
                        .name(eventRuleName)
```

```
                        .build();
                eventBrClient.enableRule(ruleRequest);
            }

        } catch (EventBridgeException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    // Create and upload a file to an S3 bucket to trigger an event.
    public static void uploadTextFiletoS3(S3Client s3Client, String bucketName)
throws IOException {
        // Create a unique file name.
        String fileSuffix = new SimpleDateFormat("yyyyMMddHHmmss").format(new
Date());
        String fileName = "TextFile" + fileSuffix + ".txt";

        File myFile = new File(fileName);
        FileWriter fw = new FileWriter(myFile.getAbsoluteFile());
        BufferedWriter bw = new BufferedWriter(fw);
        bw.write("This is a sample file for testing uploads.");
        bw.close();

        try {
            PutObjectRequest putOb = PutObjectRequest.builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .key(fileName)
                    .build();

            s3Client.putObject(putOb, RequestBody.fromFile(myFile));

        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void listTargetRules(EventBridgeClient eventBrClient, String
topicArn) {
        ListRuleNamesByTargetRequest ruleNamesByTargetRequest =
ListRuleNamesByTargetRequest.builder()
                .targetArn(topicArn)
                .build();
```

```
        ListRuleNamesByTargetResponse response =
eventBrClient.listRuleNamesByTarget(ruleNamesByTargetRequest);
        List<String> rules = response.ruleNames();
        for (String rule : rules) {
            System.out.println("The rule name is " + rule);
        }
    }

    public static void listTargets(EventBridgeClient eventBrClient, String ruleName)
{
        ListTargetsByRuleRequest ruleRequest = ListTargetsByRuleRequest.builder()
                .rule(ruleName)
                .build();

        ListTargetsByRuleResponse res =
eventBrClient.listTargetsByRule(ruleRequest);
        List<Target> targetsList = res.targets();
        for (Target target: targetsList) {
            System.out.println("Target ARN: "+target.arn());
        }
    }

    // Add a rule which triggers an SNS target when a file is uploaded to an S3
    // bucket.
    public static void addSnsEventRule(EventBridgeClient eventBrClient, String
ruleName, String topicArn,
            String topicName, String eventRuleName, String bucketName) {
        String targetID = java.util.UUID.randomUUID().toString();
        Target myTarget = Target.builder()
                .id(targetID)
                .arn(topicArn)
                .build();

        List<Target> targets = new ArrayList<>();
        targets.add(myTarget);
        PutTargetsRequest request = PutTargetsRequest.builder()
                .eventBusName(null)
                .targets(targets)
                .rule(ruleName)
                .build();

        eventBrClient.putTargets(request);
```

```
        System.out.println("Added event rule " + eventRuleName + " with Amazon SNS
 target " + topicName + " for bucket "
                + bucketName + ".");
    }

    public static void subEmail(SnsClient snsClient, String topicArn, String email)
 {
        try {
            SubscribeRequest request = SubscribeRequest.builder()
                    .protocol("email")
                    .endpoint(email)
                    .returnSubscriptionArn(true)
                    .topicArn(topicArn)
                    .build();

            SubscribeResponse result = snsClient.subscribe(request);
            System.out.println("Subscription ARN: " + result.subscriptionArn() + "\n
\n Status is "
                    + result.sdkHttpResponse().statusCode());

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void listRules(EventBridgeClient eventBrClient) {
        try {
            ListRulesRequest rulesRequest = ListRulesRequest.builder()
                    .eventBusName("default")
                    .limit(10)
                    .build();

            ListRulesResponse response = eventBrClient.listRules(rulesRequest);
            List<Rule> rules = response.rules();
            for (Rule rule : rules) {
                System.out.println("The rule name is : " + rule.name());
                System.out.println("The rule description is : " +
 rule.description());
                System.out.println("The rule state is : " + rule.stateAsString());
            }

        } catch (EventBridgeException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
```

```
            System.exit(1);
        }
    }

    public static String createSnsTopic(SnsClient snsClient, String topicName) {
        String topicPolicy = "{" +
                "\"Version\": \"2012-10-17\"," +
                "\"Statement\": [{" +
                "\"Sid\": \"EventBridgePublishTopic\"," +
                "\"Effect\": \"Allow\"," +
                "\"Principal\": {" +
                "\"Service\": \"events.amazonaws.com\"" +
                "}," +
                "\"Resource\": \"*\"," +
                "\"Action\": \"sns:Publish\"" +
                "}]" +
                "}";

        Map<String, String> topicAttributes = new HashMap<>();
        topicAttributes.put("Policy", topicPolicy);
        CreateTopicRequest topicRequest = CreateTopicRequest.builder()
                .name(topicName)
                .attributes(topicAttributes)
                .build();

        CreateTopicResponse response = snsClient.createTopic(topicRequest);
        System.out.println("Added topic " + topicName + " for email
subscriptions.");
        return response.topicArn();
    }

    // Create a new event rule that triggers when an Amazon S3 object is created in
    // a bucket.
    public static void addEventRule(EventBridgeClient eventBrClient, String roleArn,
String bucketName,
            String eventRuleName) {
        String pattern = "{\n" +
                "  \"source\": [\"aws.s3\"],\n" +
                "  \"detail-type\": [\"Object Created\"],\n" +
                "  \"detail\": {\n" +
                "    \"bucket\": {\n" +
                "      \"name\": [\"" + bucketName + "\"]\n" +
                "    }\n" +
                "  }\n" +
```

```
                "}";

        try {
            PutRuleRequest ruleRequest = PutRuleRequest.builder()
                    .description("Created by using the AWS SDK for Java v2")
                    .name(eventRuleName)
                    .eventPattern(pattern)
                    .roleArn(roleArn)
                    .build();

            PutRuleResponse ruleResponse = eventBrClient.putRule(ruleRequest);
            System.out.println("The ARN of the new rule is " +
ruleResponse.ruleArn());

        } catch (EventBridgeException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    // Determine if the S3 bucket exists.
    public static Boolean checkBucket(S3Client s3Client, String bucketName) {
        try {
            HeadBucketRequest headBucketRequest = HeadBucketRequest.builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .build();

            s3Client.headBucket(headBucketRequest);
            return true;
        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
        }
        return false;
    }

    // Set the S3 bucket notification configuration.
    public static void setBucketNotification(S3Client s3Client, String bucketName) {
        try {
            EventBridgeConfiguration eventBridgeConfiguration =
EventBridgeConfiguration.builder()
                    .build();

            NotificationConfiguration configuration =
NotificationConfiguration.builder()
```

```
                    .eventBridgeConfiguration(eventBridgeConfiguration)
                    .build();

            PutBucketNotificationConfigurationRequest configurationRequest =
PutBucketNotificationConfigurationRequest
                    .builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .notificationConfiguration(configuration)
                    .skipDestinationValidation(true)
                    .build();

            s3Client.putBucketNotificationConfiguration(configurationRequest);
            System.out.println("Added bucket " + bucketName + " with EventBridge
events enabled.");

        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void createBucket(S3Client s3Client, String bucketName) {
        try {
            S3Waiter s3Waiter = s3Client.waiter();
            CreateBucketRequest bucketRequest = CreateBucketRequest.builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .build();

            s3Client.createBucket(bucketRequest);
            HeadBucketRequest bucketRequestWait = HeadBucketRequest.builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .build();

            // Wait until the bucket is created and print out the response.
            WaiterResponse<HeadBucketResponse> waiterResponse =
s3Waiter.waitUntilBucketExists(bucketRequestWait);
            waiterResponse.matched().response().ifPresent(System.out::println);
            System.out.println(bucketName + " is ready");

        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

```
    public static String createIAMRole(IamClient iam, String rolename, String
 polJSON) {
        try {
            CreateRoleRequest request = CreateRoleRequest.builder()
                    .roleName(rolename)
                    .assumeRolePolicyDocument(polJSON)
                    .description("Created using the AWS SDK for Java")
                    .build();

            CreateRoleResponse response = iam.createRole(request);
            AttachRolePolicyRequest rolePolicyRequest =
 AttachRolePolicyRequest.builder()
                    .roleName(rolename)
                    .policyArn("arn:aws:iam::aws:policy/
AmazonEventBridgeFullAccess")
                    .build();

            iam.attachRolePolicy(rolePolicyRequest);
            return response.role().arn();

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - DeleteRule
  - DescribeRule
  - DisableRule
  - EnableRule
  - ListRuleNamesByTarget
  - ListRules
  - ListTargetsByRule
  - PutEvents

- PutRule
- PutTargets

アクション

`DeleteRule`

次のコード例は、`DeleteRule` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void deleteRuleByName(EventBridgeClient eventBrClient, String
ruleName) {
       DeleteRuleRequest ruleRequest = DeleteRuleRequest.builder()
               .name(ruleName)
               .build();

       eventBrClient.deleteRule(ruleRequest);
       System.out.println("Successfully deleted the rule");
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteRule」を参照してください。

`DescribeRule`

次のコード例は、`DescribeRule` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void checkRule(EventBridgeClient eventBrClient, String
eventRuleName) {
       try {
           DescribeRuleRequest ruleRequest = DescribeRuleRequest.builder()
                   .name(eventRuleName)
                   .build();

           DescribeRuleResponse response = eventBrClient.describeRule(ruleRequest);
           System.out.println("The state of the rule is " +
response.stateAsString());

       } catch (EventBridgeException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeRule」を参照してください。

`DisableRule`

次のコード例は、`DisableRule` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

そのルール名を使用してルールを無効化します。

```
   public static void changeRuleState(EventBridgeClient eventBrClient, String
eventRuleName, Boolean isEnabled) {
       try {
           if (!isEnabled) {
               System.out.println("Disabling the rule: " + eventRuleName);
               DisableRuleRequest ruleRequest = DisableRuleRequest.builder()
                       .name(eventRuleName)
                       .build();

               eventBrClient.disableRule(ruleRequest);
           } else {
               System.out.println("Enabling the rule: " + eventRuleName);
               EnableRuleRequest ruleRequest = EnableRuleRequest.builder()
                       .name(eventRuleName)
                       .build();
               eventBrClient.enableRule(ruleRequest);
           }

       } catch (EventBridgeException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DisableRule」を参照してください。

`EnableRule`

次のコード例は、`EnableRule` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

そのルール名を使用してルールを有効化します。

```
   public static void changeRuleState(EventBridgeClient eventBrClient, String
eventRuleName, Boolean isEnabled) {
       try {
           if (!isEnabled) {
               System.out.println("Disabling the rule: " + eventRuleName);
               DisableRuleRequest ruleRequest = DisableRuleRequest.builder()
                       .name(eventRuleName)
                       .build();

               eventBrClient.disableRule(ruleRequest);
           } else {
               System.out.println("Enabling the rule: " + eventRuleName);
               EnableRuleRequest ruleRequest = EnableRuleRequest.builder()
                       .name(eventRuleName)
                       .build();
               eventBrClient.enableRule(ruleRequest);
           }

       } catch (EventBridgeException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「EnableRule」を参照してください。

`ListRuleNamesByTarget`

次のコード例は、`ListRuleNamesByTarget` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

ターゲットを使用してすべてのルール名を一覧表示します。

```
   public static void listTargetRules(EventBridgeClient eventBrClient, String
topicArn) {
       ListRuleNamesByTargetRequest ruleNamesByTargetRequest =
ListRuleNamesByTargetRequest.builder()
               .targetArn(topicArn)
               .build();

       ListRuleNamesByTargetResponse response =
eventBrClient.listRuleNamesByTarget(ruleNamesByTargetRequest);
       List<String> rules = response.ruleNames();
       for (String rule : rules) {
           System.out.println("The rule name is " + rule);
       }
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListRuleNamesByTarget」を参照してください。

`ListRules`

次のコード例は、`ListRules` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

そのルール名を使用してルールを有効化します。

```
   public static void listRules(EventBridgeClient eventBrClient) {
       try {
           ListRulesRequest rulesRequest = ListRulesRequest.builder()
                   .eventBusName("default")
                   .limit(10)
                   .build();
```

```
            ListRulesResponse response = eventBrClient.listRules(rulesRequest);
            List<Rule> rules = response.rules();
            for (Rule rule : rules) {
                System.out.println("The rule name is : " + rule.name());
                System.out.println("The rule description is : " +
rule.description());
                System.out.println("The rule state is : " + rule.stateAsString());
            }

        } catch (EventBridgeException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListRules」を参照してください。

`ListTargetsByRule`

次のコード例は、`ListTargetsByRule` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

ルール名を使用してルールのすべてのターゲットを一覧表示します。

```
    public static void listTargets(EventBridgeClient eventBrClient, String ruleName)
{
        ListTargetsByRuleRequest ruleRequest = ListTargetsByRuleRequest.builder()
                .rule(ruleName)
                .build();

        ListTargetsByRuleResponse res =
eventBrClient.listTargetsByRule(ruleRequest);
```

```
        List<Target> targetsList = res.targets();
        for (Target target: targetsList) {
            System.out.println("Target ARN: "+target.arn());
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListTargetsByRule」を参照してください。

`PutEvents`

次のコード例は、`PutEvents` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void triggerCustomRule(EventBridgeClient eventBrClient, String
email) {
        String json = "{" +
                "\"UserEmail\": \"" + email + "\"," +
                "\"Message\": \"This event was generated by example code.\"," +
                "\"UtcTime\": \"Now.\"" +
                "}";

        PutEventsRequestEntry entry = PutEventsRequestEntry.builder()
                .source("ExampleSource")
                .detail(json)
                .detailType("ExampleType")
                .build();

        PutEventsRequest eventsRequest = PutEventsRequest.builder()
                .entries(entry)
                .build();

        eventBrClient.putEvents(eventsRequest);
```

```
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「PutEvents」を参照してください。

PutRule

次のコード例は、PutRule を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

スケジュールルールを作成します。

```
   public static void createEBRule(EventBridgeClient eventBrClient, String
ruleName, String cronExpression) {
       try {
           PutRuleRequest ruleRequest = PutRuleRequest.builder()
                   .name(ruleName)
                   .eventBusName("default")
                   .scheduleExpression(cronExpression)
                   .state("ENABLED")
                   .description("A test rule that runs on a schedule created by the
Java API")
                   .build();

           PutRuleResponse ruleResponse = eventBrClient.putRule(ruleRequest);
           System.out.println("The ARN of the new rule is " +
ruleResponse.ruleArn());

       } catch (EventBridgeException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

Amazon Simple Storage Service バケットにオブジェクトが追加されたときにトリガーするルールを作成します。

```
   // Create a new event rule that triggers when an Amazon S3 object is created in
   // a bucket.
   public static void addEventRule(EventBridgeClient eventBrClient, String roleArn,
String bucketName,
           String eventRuleName) {
       String pattern = "{\n" +
               "  \"source\": [\"aws.s3\"],\n" +
               "  \"detail-type\": [\"Object Created\"],\n" +
               "  \"detail\": {\n" +
               "    \"bucket\": {\n" +
               "      \"name\": [\"" + bucketName + "\"]\n" +
               "    }\n" +
               "  }\n" +
               "}";

       try {
           PutRuleRequest ruleRequest = PutRuleRequest.builder()
                   .description("Created by using the AWS SDK for Java v2")
                   .name(eventRuleName)
                   .eventPattern(pattern)
                   .roleArn(roleArn)
                   .build();

           PutRuleResponse ruleResponse = eventBrClient.putRule(ruleRequest);
           System.out.println("The ARN of the new rule is " +
ruleResponse.ruleArn());

       } catch (EventBridgeException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「PutRule」を参照してください。

PutTargets

次のコード例は、PutTargets を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

Amazon SNS トピックをルールのターゲットとして追加します。

```
   // Add a rule which triggers an SNS target when a file is uploaded to an S3
   // bucket.
   public static void addSnsEventRule(EventBridgeClient eventBrClient, String
ruleName, String topicArn,
           String topicName, String eventRuleName, String bucketName) {
       String targetID = java.util.UUID.randomUUID().toString();
       Target myTarget = Target.builder()
               .id(targetID)
               .arn(topicArn)
               .build();

       List<Target> targets = new ArrayList<>();
       targets.add(myTarget);
       PutTargetsRequest request = PutTargetsRequest.builder()
               .eventBusName(null)
               .targets(targets)
               .rule(ruleName)
               .build();

       eventBrClient.putTargets(request);
       System.out.println("Added event rule " + eventRuleName + " with Amazon SNS
target " + topicName + " for bucket "
               + bucketName + ".");
   }
```

ルールのターゲットにインプットトランスフォーマーを追加します。

```
   public static void updateCustomRuleTargetWithTransform(EventBridgeClient
eventBrClient, String topicArn,
           String ruleName) {
       String targetId = java.util.UUID.randomUUID().toString();
       InputTransformer inputTransformer = InputTransformer.builder()
               .inputTemplate("\"Notification: sample event was received.\"")
               .build();

       Target target = Target.builder()
               .id(targetId)
               .arn(topicArn)
               .inputTransformer(inputTransformer)
               .build();

       try {
           PutTargetsRequest targetsRequest = PutTargetsRequest.builder()
                   .rule(ruleName)
                   .targets(target)
                   .eventBusName(null)
                   .build();

           eventBrClient.putTargets(targetsRequest);
       } catch (EventBridgeException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「PutTargets」を参照してください。

RemoveTargets

次のコード例は、RemoveTargets を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

ルール名を使用してルールのすべてのターゲットを削除します。

```
   public static void deleteTargetsFromRule(EventBridgeClient eventBrClient, String
eventRuleName) {
       // First, get all targets that will be deleted.
       ListTargetsByRuleRequest request = ListTargetsByRuleRequest.builder()
               .rule(eventRuleName)
               .build();

       ListTargetsByRuleResponse response =
eventBrClient.listTargetsByRule(request);
       List<Target> allTargets = response.targets();

       // Get all targets and delete them.
       for (Target myTarget : allTargets) {
           RemoveTargetsRequest removeTargetsRequest =
RemoveTargetsRequest.builder()
                   .rule(eventRuleName)
                   .ids(myTarget.id())
                   .build();

           eventBrClient.removeTargets(removeTargetsRequest);
           System.out.println("Successfully removed the target");
       }
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「RemoveTargets」を参照してください。

シナリオ

EventBridge へのイベント通知の送信

次のコード例は、バケットが EventBridge に S3 イベント通知を送信し、Amazon SNS トピックと Amazon SQS キューに通知をルーティングできるようにする方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /** This method configures a bucket to send events to AWS EventBridge and
creates a rule
    * to route the S3 object created events to a topic and a queue.
    *
    * @param bucketName Name of existing bucket
    * @param topicArn ARN of existing topic to receive S3 event notifications
    * @param queueArn ARN of existing queue to receive S3 event notifications
    *
    *  An AWS CloudFormation stack sets up the bucket, queue, topic before the
method runs.
    */
   public static String setBucketNotificationToEventBridge(String bucketName,
String topicArn, String queueArn) {
       try {
           // Enable bucket to emit S3 Event notifications to EventBridge.
           s3Client.putBucketNotificationConfiguration(b -> b
                   .bucket(bucketName)
                   .notificationConfiguration(b1 -> b1
                           .eventBridgeConfiguration(
                                   SdkBuilder::build)
                   ).build()).join();

           // Create an EventBridge rule to route Object Created notifications.
           PutRuleRequest putRuleRequest = PutRuleRequest.builder()
                   .name(RULE_NAME)
                   .eventPattern("""
                           {
```

```
                            "source": ["aws.s3"],
                            "detail-type": ["Object Created"],
                            "detail": {
                              "bucket": {
                                "name": ["%s"]
                              }
                            }
                          }
                          """.formatted(bucketName))
                  .build();

          // Add the rule to the default event bus.
          PutRuleResponse putRuleResponse =
eventBridgeClient.putRule(putRuleRequest)
                  .whenComplete((r, t) -> {
                      if (t != null) {
                          logger.error("Error creating event bus rule: " +
t.getMessage(), t);
                          throw new RuntimeException(t.getCause().getMessage(),
t);
                      }
                      logger.info("Event bus rule creation request sent
successfully. ARN is: {}", r.ruleArn());
                  }).join();

          // Add the existing SNS topic and SQS queue as targets to the rule.
          eventBridgeClient.putTargets(b -> b
                  .eventBusName("default")
                  .rule(RULE_NAME)
                  .targets(List.of (
                          Target.builder()
                                  .arn(queueArn)
                                  .id("Queue")
                                  .build(),
                          Target.builder()
                                  .arn(topicArn)
                                  .id("Topic")
                                  .build())
                          )
                  ).join();
          return putRuleResponse.ruleArn();
      } catch (S3Exception e) {
          System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
          System.exit(1);
```

```
        }
        return null;
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - PutBucketNotificationConfiguration
  - PutRule
  - PutTargets

スケジュールされたイベントを使用した Lambda 関数の呼び出し

次のコード例は、Amazon EventBridge スケジュールされたイベントによって呼び出される AWS Lambda 関数を作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

AWS Lambda 関数を呼び出す Amazon EventBridge スケジュールイベントを作成する方法を示します。cron 式を使用して Lambda 関数が呼び出されるタイミングをスケジュールするように EventBridge を設定します。この例では、Lambda Java ランタイム API を使用して Lambda 関数を作成します。この例では、さまざまな AWS サービスを呼び出して、特定のユースケースを実行します。この例では、年間の記念日に従業員を祝福するモバイルテキストメッセージを従業員に送信するアプリを作成する方法を示します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- CloudWatch Logs
- DynamoDB
- EventBridge
- Lambda
- Amazon SNS

SDK for Java 2.x を使用した EventBridge スケジューラの例

次のコード例は、EventBridge スケジューラ AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- はじめに
- アクション
- シナリオ

はじめに

Hello EventBridge スケジューラ

次のコード例は、EventBridge スケジューラの使用を開始する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.services.scheduler.SchedulerAsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.scheduler.model.ListSchedulesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.scheduler.model.ScheduleSummary;
import software.amazon.awssdk.services.scheduler.paginators.ListSchedulesPublisher;
import java.util.ArrayList;
```

```
import java.util.List;
import java.util.concurrent.CompletableFuture;

public class HelloScheduler {

    public static void main(String [] args) {
        listSchedulesAsync();
    }

    /**
     * Lists all the schedules available.
     * <p>
     * This method uses the {@link SchedulerAsyncClient} to make an asynchronous
 request to
     * list all the schedules available. The method uses the {@link
 ListSchedulesPublisher}
     * to fetch the schedules in a paginated manner, and then processes the
 responses
     * asynchronously.
     */
    public static void listSchedulesAsync() {
        SchedulerAsyncClient schedulerAsyncClient = SchedulerAsyncClient.create();

        // Build the request to list schedules
        ListSchedulesRequest listSchedulesRequest =
 ListSchedulesRequest.builder().build();

        // Use the paginator to fetch all schedules asynchronously.
        ListSchedulesPublisher paginator =
 schedulerAsyncClient.listSchedulesPaginator(listSchedulesRequest);
        List<ScheduleSummary> results = new ArrayList<>();

        // Subscribe to the paginator to process the response asynchronously
        CompletableFuture<Void> future = paginator.subscribe(response -> {
            response.schedules().forEach(schedule -> {
                results.add(schedule);
                System.out.printf("Schedule: %s%n", schedule.name());
            });
        });

        // Wait for the asynchronous operation to complete.
        future.join();

        // After all schedules are fetched, print the total count.
```

```
        System.out.printf("Total of %d schedule(s) available.%n", results.size());
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListSchedules」を参照してください。

アクション

`CreateSchedule`

次のコード例は、`CreateSchedule` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Creates a new schedule for a target task.
     *
     * @param name                   the name of the schedule
     * @param scheduleExpression     The schedule expression that defines when the
schedule should run.
     * @param scheduleGroupName      the name of the schedule group to which the
schedule belongs
     * @param targetArn              the Amazon Resource Name (ARN) of the target
task
     * @param roleArn                the ARN of the IAM role to be used for the
schedule
     * @param input                  the input data for the target task
     * @param deleteAfterCompletion whether to delete the schedule after it's
executed
     * @param useFlexibleTimeWindow whether to use a flexible time window for the
schedule execution
     * @return true if the schedule was successfully created, false otherwise
```

```
     */
    public CompletableFuture<Boolean> createScheduleAsync(
        String name,
        String scheduleExpression,
        String scheduleGroupName,
        String targetArn,
        String roleArn,
        String input,
        boolean deleteAfterCompletion,
        boolean useFlexibleTimeWindow) {

        int hoursToRun = 1;
        int flexibleTimeWindowMinutes = 10;

        Target target = Target.builder()
            .arn(targetArn)
            .roleArn(roleArn)
            .input(input)
            .build();

        FlexibleTimeWindow flexibleTimeWindow = FlexibleTimeWindow.builder()
            .mode(useFlexibleTimeWindow
                ? FlexibleTimeWindowMode.FLEXIBLE
                : FlexibleTimeWindowMode.OFF)
            .maximumWindowInMinutes(useFlexibleTimeWindow
                ? flexibleTimeWindowMinutes
                : null)
            .build();

        Instant startDate = Instant.now();
        Instant endDate = startDate.plus(Duration.ofHours(hoursToRun));

        CreateScheduleRequest request = CreateScheduleRequest.builder()
            .name(name)
            .scheduleExpression(scheduleExpression)
            .groupName(scheduleGroupName)
            .target(target)
            .actionAfterCompletion(deleteAfterCompletion
                ? ActionAfterCompletion.DELETE
                : ActionAfterCompletion.NONE)
            .startDate(startDate)
            .endDate(endDate)
            .flexibleTimeWindow(flexibleTimeWindow)
            .build();
```

```
        return getAsyncClient().createSchedule(request)
            .thenApply(response -> {
                logger.info("Successfully created schedule {} in schedule group {},
The ARN is {} ", name, scheduleGroupName, response.scheduleArn());
                return true;
            })
            .whenComplete((result, ex) -> {
                if (ex != null) {
                    if (ex instanceof ConflictException) {
                        // Handle ConflictException
                        logger.error("A conflict exception occurred while creating
the schedule: {}", ex.getMessage());
                        throw new CompletionException("A conflict exception occurred
while creating the schedule: " + ex.getMessage(), ex);
                    } else {
                        throw new CompletionException("Error creating schedule: " +
ex.getMessage(), ex);
                    }
                }
            });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンス「CreateSchedule」を参照してください。

`CreateScheduleGroup`

次のコード例は、`CreateScheduleGroup` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
```

```
    * Creates a new schedule group.
    *
    * @param name the name of the schedule group to be created
    * @return a {@link CompletableFuture} representing the asynchronous operation
of creating the schedule group
    */
   public CompletableFuture<CreateScheduleGroupResponse> createScheduleGroup(String
name) {
       CreateScheduleGroupRequest request = CreateScheduleGroupRequest.builder()
           .name(name)
           .build();

       logger.info("Initiating createScheduleGroup call for group: {}", name);
       CompletableFuture<CreateScheduleGroupResponse> futureResponse =
getAsyncClient().createScheduleGroup(request);
       futureResponse.whenComplete((response, ex) -> {
           if (ex != null) {
               if (ex instanceof CompletionException && ex.getCause() instanceof
ConflictException) {
                   // Rethrow the ConflictException
                   throw (ConflictException) ex.getCause();
               } else {
                   throw new CompletionException("Failed to create schedule group:
" + name, ex);
               }
           } else if (response == null) {
               throw new RuntimeException("Failed to create schedule group:
response was null");
           } else {
               logger.info("Successfully created schedule group '{}': {}", name,
response.scheduleGroupArn());
           }
       });

       return futureResponse;
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateScheduleGroup」を参照してください。

DeleteSchedule

次のコード例は、DeleteSchedule を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Deletes a schedule with the specified name and group name.
    *
    * @param name      the name of the schedule to be deleted
    * @param groupName the group name of the schedule to be deleted
    * @return a {@link CompletableFuture} that, when completed, indicates whether
the schedule was successfully deleted
    * @throws CompletionException if an error occurs while deleting the schedule,
except for the case where the schedule is not found
    */
   public CompletableFuture<Boolean> deleteScheduleAsync(String name, String
groupName) {
       DeleteScheduleRequest request = DeleteScheduleRequest.builder()
           .name(name)
           .groupName(groupName)
           .build();

       CompletableFuture<DeleteScheduleResponse> response =
getAsyncClient().deleteSchedule(request);
       return response.handle((result, ex) -> {
           if (ex != null) {
               if (ex instanceof ResourceNotFoundException) {
                   throw new CompletionException("Resource not found while deleting
schedule with ID: " + name, ex);
               } else {
                   throw new CompletionException("Failed to delete schedule.", ex);
               }
           }
           logger.info("Successfully deleted schedule with name {}.", name);
           return true;
```

```
        });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteSchedule」を参照してください。

`DeleteScheduleGroup`

次のコード例は、`DeleteScheduleGroup` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Deletes the specified schedule group.
     *
     * @param name the name of the schedule group to delete
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the schedule group
has been deleted
     * @throws CompletionException if an error occurs while deleting the schedule
group
     */
    public CompletableFuture<Void> deleteScheduleGroupAsync(String name) {
        DeleteScheduleGroupRequest request = DeleteScheduleGroupRequest.builder()
            .name(name)
            .build();

        return getAsyncClient().deleteScheduleGroup(request)
            .thenRun(() -> {
                logger.info("Successfully deleted schedule group {}", name);
            })
            .whenComplete((result, ex) -> {
                if (ex != null) {
                    if (ex instanceof ResourceNotFoundException) {
```

```
                        throw new CompletionException("The resource was not found: "
+ ex.getMessage(), ex);
                    } else {
                        throw new CompletionException("Error deleting schedule
group: " + ex.getMessage(), ex);
                    }
                }
            });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteScheduleGroup」を参照してください。

シナリオ

予定されているイベント

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- 必要なリソースを使用して CloudFormation スタックをデプロイします。
- EventBridge スケジューラのスケジュールグループを作成します。
- 柔軟な時間枠で 1 回限りの EventBridge スケジューラのスケジュールを作成します。
- 指定されたレートで定期的な EventBridge スケジューラのスケジュールを作成します。
- EventBridge スケジューラのスケジュールとスケジュールグループを削除します。
- リソースをクリーンアップしてスタックを削除します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

シナリオを実行します。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.scheduler.model.SchedulerException;
import javax.mail.internet.AddressException;
import javax.mail.internet.InternetAddress;
import java.time.LocalDateTime;
import java.time.format.DateTimeFormatter;
import java.util.Map;
import java.util.Scanner;
import java.util.concurrent.CompletableFuture;
import java.util.concurrent.CompletionException;

/**
 * This Java code example performs the following tasks for the Amazon EventBridge
 Scheduler workflow:
 * <p>
 * 1. Prepare the Application:
 * - Prompt the user for an email address to use for the subscription for the SNS
 topic subscription.
 * - Deploy the Cloud Formation template in resources/cfn_template.yaml for resource
 creation.
 * - Store the outputs of the stack into variables for use in the workflow.
 * - Create a schedule group for all workflow schedules.
 * <p>
 * 2. Create one-time Schedule:
 * - Create a one-time schedule to send an initial event.
 * - Use a Flexible Time Window and set the schedule to delete after completion.
 * - Wait for the user to receive the event email from SNS.
 * <p>
 * 3. Create a time-based schedule:
 * - Prompt the user for how many X times per Y hours a recurring event should be
 scheduled.
 * - Create the scheduled event for X times per hour for Y hours.
 * - Wait for the user to receive the event email from SNS.
 * - Delete the schedule when the user is finished.
 * <p>
 * 4. Clean up:
 * - Prompt the user for y/n answer if they want to destroy the stack and clean up
 all resources.
 * - Delete the schedule group.
 * - Destroy the Cloud Formation stack and wait until the stack has been removed.
 */

public class EventbridgeSchedulerScenario {
```

```
   private static final Logger logger =
LoggerFactory.getLogger(EventbridgeSchedulerScenario.class);
   private static final Scanner scanner = new Scanner(System.in);
   private static String STACK_NAME = "workflow-stack-name";
   private static final String scheduleGroupName = "schedules-group";

   private static String recurringScheduleName = "";

   private static String oneTimeScheduleName = "";

   private static final EventbridgeSchedulerActions eventbridgeActions = new
EventbridgeSchedulerActions();

   public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");

   public static String roleArn = "";
   public static String snsTopicArn = "";

   public static void main(String[] args) {
       logger.info(DASHES);
       logger.info("Welcome to the Amazon EventBridge Scheduler Workflow.");
       logger.info("""
           Amazon EventBridge Scheduler is a fully managed service that helps you
schedule and execute
           a wide range of tasks and events in the cloud. It's designed to simplify
the process of
           scheduling and managing recurring or one-time events, making it easier
for developers and
           businesses to automate various workflows and processes.

           One of the key features of Amazon EventBridge Scheduler is its ability
to schedule events
           based on a variety of triggers, including time-based schedules, custom
event patterns, or
           even integration with other AWS services. For example, you can use
EventBridge Scheduler
           to schedule a report generation task to run every weekday at 9 AM, or to
trigger a
           Lambda function when a specific Amazon S3 object is created.

           This flexibility allows you to build complex and dynamic event-driven
architectures
           that adapt to your business needs.
```

```
            Lets get started...
            """);
        waitForInputToContinue();
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("1. Prepare the application.");
        waitForInputToContinue();
        try {
            boolean prepareSuccess = prepareApplication();
            logger.info(DASHES);

            if (prepareSuccess) {
                logger.info("2. Create one-time schedule.");
                logger.info("""
                    A one-time schedule in Amazon EventBridge Scheduler is an event
trigger that allows
                    you to schedule a one-time event to run at a specific date and
time. This is useful for
                    executing a specific task or workflow at a predetermined time,
without the need for recurring
                    or complex scheduling.
                    """);
                waitForInputToContinue();
                createOneTimeSchedule();
                logger.info("Do you want to delete the schedule {} (y/n) ?",
oneTimeScheduleName);
                String ans = scanner.nextLine().trim();
                if (ans.equalsIgnoreCase("y")) {

eventbridgeActions.deleteScheduleAsync(oneTimeScheduleName,scheduleGroupName);
                }
                logger.info(DASHES);

                logger.info("3. Create a recurring schedule.");
                logger.info("""
                    A recurring schedule is a feature that allows you to schedule
and manage the execution
                    of your serverless applications or workloads on a recurring
basis. For example,
                    with EventBridge Scheduler, you can create custom schedules for
your AWS Lambda functions,
                    AWS Step Functions, and other supported event sources, enabling
you to automate tasks and
```

```
                    workflows without the need for complex infrastructure
management.
                    """);
                waitForInputToContinue();
                createRecurringSchedule();
                logger.info("Do you want to delete the schedule {} (y/n) ?",
oneTimeScheduleName);
                String ans2 = scanner.nextLine().trim();
                if (ans2.equalsIgnoreCase("y")) {

eventbridgeActions.deleteScheduleAsync(recurringScheduleName,scheduleGroupName);
                }
                logger.info(DASHES);
            }
        } catch (Exception ex) {
            logger.info("There was a problem with the workflow {}, initiating
cleanup...", ex.getMessage());
            cleanUp();
        }

        logger.info(DASHES);
        logger.info("4. Clean up the resources.");
        logger.info("Do you want to delete these AWS resources (y/n) ?");
        String delAns = scanner.nextLine().trim();
        if (delAns.equalsIgnoreCase("y")) {
            cleanUp();
        } else {
            logger.info("The AWS resources will not be deleted.");
        }
        logger.info("Amazon EventBridge Scheduler workflow completed.");
        logger.info(DASHES);
    }

    /**
     * Cleans up the resources associated with the EventBridge scheduler.
     * If any errors occur during the cleanup process, the corresponding error
messages are logged.
     */
    public static void cleanUp() {
        logger.info("First, delete the schedule group.");
        logger.info("When the schedule group is deleted, schedules that are part of
that group are deleted.");
        waitForInputToContinue();
        try {
```

```
            eventbridgeActions.deleteScheduleGroupAsync(scheduleGroupName).join();

        } catch (CompletionException ce) {
            Throwable cause = ce.getCause();
            if (cause instanceof SchedulerException schedulerException) {
                logger.error("Scheduler error occurred: Error message: {}, Error
code {}",
                    schedulerException.getMessage(),
schedulerException.awsErrorDetails().errorCode(), schedulerException);
            } else {
                logger.error("An unexpected error occurred: {}",
cause.getMessage());
            }
            return;
        }

        logger.info("Destroy the CloudFormation stack");
        waitForInputToContinue();
        CloudFormationHelper.destroyCloudFormationStack(STACK_NAME);
    }

    /**
     * Prepares the application by creating resources in a CloudFormation stack,
including an SNS topic
     * that will be subscribed to the EventBridge Scheduler events. The user will
need to confirm the subscription
     * in order to receive event emails.
     *
     * @return true if the application preparation was successful, false otherwise
     */
    public static boolean prepareApplication() {
        logger.info("""
            This example creates resources in a CloudFormation stack, including an
SNS topic
            that will be subscribed to the EventBridge Scheduler events.
            You will need to confirm the subscription in order to receive event
emails.
             """);

        String emailAddress = promptUserForEmail();
        logger.info("You entered {}", emailAddress);

        logger.info("Do you want to use a custom Stack name (y/n) ?");
        String ans = scanner.nextLine().trim();
```

```
        if (ans.equalsIgnoreCase("y")) {
            String newStackName = scanner.nextLine();
            logger.info("You entered {} for the new stack name", newStackName);
            waitForInputToContinue();
            STACK_NAME = newStackName;
        }

        logger.info("Get the roleArn and snsTopicArn values using a Cloudformation
template.");
        waitForInputToContinue();
        CloudFormationHelper.deployCloudFormationStack(STACK_NAME, emailAddress);
        Map<String, String> stackOutputs =
CloudFormationHelper.getStackOutputs(STACK_NAME);
        roleArn = stackOutputs.get("RoleARN");
        snsTopicArn = stackOutputs.get("SNStopicARN");

        logger.info("The roleARN is {}", roleArn);
        logger.info("The snsTopicArn is {}", snsTopicArn);

        try {
            eventbridgeActions.createScheduleGroup(scheduleGroupName).join();
            logger.info("createScheduleGroupAsync completed successfully.");

        } catch (RuntimeException e) {
            logger.error("Error occurred: {} ", e.getMessage());
            return false;
        }
        logger.info("Application preparation complete.");
        return true;
    }

    /**
     * Waits for the user to enter 'c' followed by <ENTER> to continue the program.
     * This method is used to pause the program execution and wait for user input
before
     * proceeding.
     */
    private static void waitForInputToContinue() {
        while (true) {
            logger.info("");
            logger.info("Enter 'c' followed by <ENTER> to continue:");
            String input = scanner.nextLine();

            if (input.trim().equalsIgnoreCase("c")) {
```

```
                logger.info("Continuing with the program...");
                logger.info("");
                break;
            } else {
                // Handle invalid input.
                logger.info("Invalid input. Please try again.");
            }
        }
    }

    /**
     * Prompts the user to enter an email address and validates the input.
     * If the provided email address is invalid, the method will prompt the user to
try again.
     *
     * @return the valid email address entered by the user
     */
    private static String promptUserForEmail() {
        logger.info("Enter an email address to use for event subscriptions: ");
        String email = scanner.nextLine();
        if (!isValidEmail(email)) {
            logger.info("Invalid email address. Please try again.");
            return promptUserForEmail();
        }
        return email;
    }

    /**
     * Checks if the given email address is valid.
     *
     * @param email the email address to be validated
     * @return {@code true} if the email address is valid, {@code false} otherwise
     */
    private static boolean isValidEmail(String email) {
        try {
            InternetAddress emailAddress = new InternetAddress(email);
            emailAddress.validate();
            return true;

        } catch (AddressException e) {
            return false;
        }
    }
```

```
    /**
     * Creates a one-time schedule to send an initial event in 1 minute with a
 flexible time window.
     *
     * @return {@code true} if the schedule was created successfully, {@code false}
 otherwise
     */
    public static Boolean createOneTimeSchedule() {
        oneTimeScheduleName = promptUserForResourceName("Enter a name for the one-
time schedule:");
        logger.info("Creating a one-time schedule named {} to send an initial event
 in 1 minute with a flexible time window...", oneTimeScheduleName);
        LocalDateTime scheduledTime = LocalDateTime.now();
        DateTimeFormatter formatter = DateTimeFormatter.ofPattern("yyyy-MM-
dd'T'HH:mm:ss");

        String scheduleExpression = "at(" + scheduledTime.format(formatter) + ")";
        return eventbridgeActions.createScheduleAsync(
            oneTimeScheduleName,
            scheduleExpression,
            scheduleGroupName,
            snsTopicArn,
            roleArn,
            "One time scheduled event test from schedule",
            true,
            true).join();
    }


    /**
     * Creates a recurring schedule to send events based on a specific time.
     *
     * @return A {@link CompletableFuture} that completes with a boolean value
 indicating the success or failure of the operation.
     */
    public static Boolean createRecurringSchedule() {
        logger.info("Creating a recurring schedule to send events for one hour...");
        recurringScheduleName = promptUserForResourceName("Enter a name for the
 recurring schedule:");

        // Prompt the user for the schedule rate (in minutes).
        int scheduleRateInMinutes = promptUserForInteger("Enter the desired schedule
 rate (in minutes): ");
        String scheduleExpression = "rate(" + scheduleRateInMinutes + " minutes)";
```

```
        return eventbridgeActions.createScheduleAsync(
            recurringScheduleName,
            scheduleExpression,
            scheduleGroupName,
            snsTopicArn,
            roleArn,
            "Recurrent event test from schedule " + recurringScheduleName,
            true,
            true).join();
    }

    /**
     * Prompts the user for a resource name and validates the input.
     *
     * @param prompt the message to display to the user when prompting for the
 resource name
     * @return the valid resource name entered by the user
     */
    private static String promptUserForResourceName(String prompt) {
        logger.info(prompt);
        String resourceName = scanner.nextLine();
        String regex = "[0-9a-zA-Z-_.]+";
        if (!resourceName.matches(regex)) {
            logger.info("Invalid resource name. Please use a name that matches the
 pattern " + regex + ".");
            return promptUserForResourceName(prompt);
        }
        return resourceName;
    }

    /**
     * Prompts the user for an integer input and returns the integer value.
     *
     * @param prompt the message to be displayed to the user when prompting for
 input
     * @return the integer value entered by the user
     */
    private static int promptUserForInteger(String prompt) {
        logger.info(prompt);
        String stringResponse = scanner.nextLine();
        if (stringResponse == null || stringResponse.trim().isEmpty() || !
isInteger(stringResponse)) {
            logger.info("Invalid integer.");
            return promptUserForInteger(prompt);
```

```
        }
        return Integer.parseInt(stringResponse);
    }

    /**
     * Checks if the given string represents a valid integer.
     *
     * @param str the string to be checked
     * @return {@code true} if the string represents a valid integer, {@code false}
 otherwise
     */
    private static boolean isInteger(String str) {
        try {
            Integer.parseInt(str);
            return true;
        } catch (NumberFormatException e) {
            return false;
        }
    }
}
```

サービスオペレーション用のラッパー

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.core.client.config.ClientOverrideConfiguration;
import software.amazon.awssdk.core.retry.RetryMode;
import software.amazon.awssdk.http.async.SdkAsyncHttpClient;
import software.amazon.awssdk.http.nio.netty.NettyNioAsyncHttpClient;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.scheduler.SchedulerAsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.scheduler.model.ActionAfterCompletion;
import software.amazon.awssdk.services.scheduler.model.ConflictException;
import software.amazon.awssdk.services.scheduler.model.CreateScheduleGroupRequest;
import software.amazon.awssdk.services.scheduler.model.CreateScheduleGroupResponse;
import software.amazon.awssdk.services.scheduler.model.CreateScheduleRequest;
import software.amazon.awssdk.services.scheduler.model.DeleteScheduleGroupRequest;
import software.amazon.awssdk.services.scheduler.model.DeleteScheduleRequest;
import software.amazon.awssdk.services.scheduler.model.DeleteScheduleResponse;
import software.amazon.awssdk.services.scheduler.model.FlexibleTimeWindow;
import software.amazon.awssdk.services.scheduler.model.FlexibleTimeWindowMode;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.scheduler.model.ResourceNotFoundException;
import software.amazon.awssdk.services.scheduler.model.Target;

import java.time.Instant;
import java.util.concurrent.CompletableFuture;
import java.time.Duration;
import java.util.concurrent.CompletionException;

public class EventbridgeSchedulerActions {

    private static SchedulerAsyncClient schedulerClient;
    private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(EventbridgeSchedulerActions.class);

    public static SchedulerAsyncClient getAsyncClient() {
        if (schedulerClient == null) {
            /*
            The `NettyNioAsyncHttpClient` class is part of the AWS SDK for Java,
 version 2,
            and it is designed to provide a high-performance, asynchronous HTTP
 client for interacting with AWS services.
             It uses the Netty framework to handle the underlying network
 communication and the Java NIO API to
             provide a non-blocking, event-driven approach to HTTP requests and
 responses.
             */

            SdkAsyncHttpClient httpClient = NettyNioAsyncHttpClient.builder()
                .maxConcurrency(50)  // Adjust as needed.
                .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(60))  // Set the connection
 timeout.
                .readTimeout(Duration.ofSeconds(60))  // Set the read timeout.
                .writeTimeout(Duration.ofSeconds(60))  // Set the write timeout.
                .build();

            ClientOverrideConfiguration overrideConfig =
 ClientOverrideConfiguration.builder()
                .apiCallTimeout(Duration.ofMinutes(2))  // Set the overall API call
 timeout.
                .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(90))  // Set the
 individual call attempt timeout.
                .retryStrategy(RetryMode.STANDARD)
                .build();
```

```
            schedulerClient = SchedulerAsyncClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .httpClient(httpClient)
                .overrideConfiguration(overrideConfig)
                .build();
        }
        return schedulerClient;
    }


    /**
     * Creates a new schedule group.
     *
     * @param name the name of the schedule group to be created
     * @return a {@link CompletableFuture} representing the asynchronous operation
of creating the schedule group
     */
    public CompletableFuture<CreateScheduleGroupResponse> createScheduleGroup(String
name) {
        CreateScheduleGroupRequest request = CreateScheduleGroupRequest.builder()
            .name(name)
            .build();

        logger.info("Initiating createScheduleGroup call for group: {}", name);
        CompletableFuture<CreateScheduleGroupResponse> futureResponse =
getAsyncClient().createScheduleGroup(request);
        futureResponse.whenComplete((response, ex) -> {
            if (ex != null) {
                if (ex instanceof CompletionException && ex.getCause() instanceof
ConflictException) {
                    // Rethrow the ConflictException
                    throw (ConflictException) ex.getCause();
                } else {
                    throw new CompletionException("Failed to create schedule group:
" + name, ex);
                }
            } else if (response == null) {
                throw new RuntimeException("Failed to create schedule group:
response was null");
            } else {
                logger.info("Successfully created schedule group '{}': {}", name,
response.scheduleGroupArn());
            }
        });
```

```
        return futureResponse;
    }


    /**
     * Creates a new schedule for a target task.
     *
     * @param name                  the name of the schedule
     * @param scheduleExpression    The schedule expression that defines when the
schedule should run.
     * @param scheduleGroupName     the name of the schedule group to which the
schedule belongs
     * @param targetArn             the Amazon Resource Name (ARN) of the target
task
     * @param roleArn               the ARN of the IAM role to be used for the
schedule
     * @param input                 the input data for the target task
     * @param deleteAfterCompletion whether to delete the schedule after it's
executed
     * @param useFlexibleTimeWindow whether to use a flexible time window for the
schedule execution
     * @return true if the schedule was successfully created, false otherwise
     */
    public CompletableFuture<Boolean> createScheduleAsync(
        String name,
        String scheduleExpression,
        String scheduleGroupName,
        String targetArn,
        String roleArn,
        String input,
        boolean deleteAfterCompletion,
        boolean useFlexibleTimeWindow) {

        int hoursToRun = 1;
        int flexibleTimeWindowMinutes = 10;

        Target target = Target.builder()
            .arn(targetArn)
            .roleArn(roleArn)
            .input(input)
            .build();

        FlexibleTimeWindow flexibleTimeWindow = FlexibleTimeWindow.builder()
```

```
            .mode(useFlexibleTimeWindow
                ? FlexibleTimeWindowMode.FLEXIBLE
                : FlexibleTimeWindowMode.OFF)
            .maximumWindowInMinutes(useFlexibleTimeWindow
                ? flexibleTimeWindowMinutes
                : null)
            .build();

        Instant startDate = Instant.now();
        Instant endDate = startDate.plus(Duration.ofHours(hoursToRun));

        CreateScheduleRequest request = CreateScheduleRequest.builder()
            .name(name)
            .scheduleExpression(scheduleExpression)
            .groupName(scheduleGroupName)
            .target(target)
            .actionAfterCompletion(deleteAfterCompletion
                ? ActionAfterCompletion.DELETE
                : ActionAfterCompletion.NONE)
            .startDate(startDate)
            .endDate(endDate)
            .flexibleTimeWindow(flexibleTimeWindow)
            .build();

        return getAsyncClient().createSchedule(request)
            .thenApply(response -> {
                logger.info("Successfully created schedule {} in schedule group {},
The ARN is {} ", name, scheduleGroupName, response.scheduleArn());
                return true;
            })
            .whenComplete((result, ex) -> {
                if (ex != null) {
                    if (ex instanceof ConflictException) {
                        // Handle ConflictException
                        logger.error("A conflict exception occurred while creating
the schedule: {}", ex.getMessage());
                        throw new CompletionException("A conflict exception occurred
while creating the schedule: " + ex.getMessage(), ex);
                    } else {
                        throw new CompletionException("Error creating schedule: " +
ex.getMessage(), ex);
                    }
                }
            });
```

```
    }


    /**
     * Deletes the specified schedule group.
     *
     * @param name the name of the schedule group to delete
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the schedule group
has been deleted
     * @throws CompletionException if an error occurs while deleting the schedule
group
     */
    public CompletableFuture<Void> deleteScheduleGroupAsync(String name) {
        DeleteScheduleGroupRequest request = DeleteScheduleGroupRequest.builder()
            .name(name)
            .build();

        return getAsyncClient().deleteScheduleGroup(request)
            .thenRun(() -> {
                logger.info("Successfully deleted schedule group {}", name);
            })
            .whenComplete((result, ex) -> {
                if (ex != null) {
                    if (ex instanceof ResourceNotFoundException) {
                        throw new CompletionException("The resource was not found: "
+ ex.getMessage(), ex);
                    } else {
                        throw new CompletionException("Error deleting schedule
group: " + ex.getMessage(), ex);
                    }
                }
            });
    }


    /**
     * Deletes a schedule with the specified name and group name.
     *
     * @param name      the name of the schedule to be deleted
     * @param groupName the group name of the schedule to be deleted
     * @return a {@link CompletableFuture} that, when completed, indicates whether
the schedule was successfully deleted
     * @throws CompletionException if an error occurs while deleting the schedule,
except for the case where the schedule is not found
```

```
     */
    public CompletableFuture<Boolean> deleteScheduleAsync(String name, String
 groupName) {
        DeleteScheduleRequest request = DeleteScheduleRequest.builder()
            .name(name)
            .groupName(groupName)
            .build();

        CompletableFuture<DeleteScheduleResponse> response =
 getAsyncClient().deleteSchedule(request);
        return response.handle((result, ex) -> {
            if (ex != null) {
                if (ex instanceof ResourceNotFoundException) {
                    throw new CompletionException("Resource not found while deleting
 schedule with ID: " + name, ex);
                } else {
                    throw new CompletionException("Failed to delete schedule.", ex);
                }
            }
            logger.info("Successfully deleted schedule with name {}.", name);
            return true;
        });
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - CreateSchedule
  - CreateScheduleGroup
  - DeleteSchedule
  - DeleteScheduleGroups

SDK for Java 2.x を使用した Forecast の例

次のコード例は、Forecast AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- アクション

アクション

`CreateDataset`

次のコード例は、`CreateDataset` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.forecast.ForecastClient;
import software.amazon.awssdk.services.forecast.model.CreateDatasetRequest;
import software.amazon.awssdk.services.forecast.model.Schema;
import software.amazon.awssdk.services.forecast.model.SchemaAttribute;
import software.amazon.awssdk.services.forecast.model.CreateDatasetResponse;
import software.amazon.awssdk.services.forecast.model.ForecastException;
import java.util.ArrayList;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
```

```
 */
public class CreateDataSet {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <name>\s

                Where:
                    name - The name of the data set.\s
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String name = args[0];
        Region region = Region.US_WEST_2;
        ForecastClient forecast = ForecastClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        String myDataSetARN = createForecastDataSet(forecast, name);
        System.out.println("The ARN of the new data set is " + myDataSetARN);
        forecast.close();
    }

    public static String createForecastDataSet(ForecastClient forecast, String name)
 {
        try {
            Schema schema = Schema.builder()
                    .attributes(getSchema())
                    .build();

            CreateDatasetRequest datasetRequest = CreateDatasetRequest.builder()
                    .datasetName(name)
                    .domain("CUSTOM")
                    .datasetType("RELATED_TIME_SERIES")
                    .dataFrequency("D")
                    .schema(schema)
                    .build();

            CreateDatasetResponse response = forecast.createDataset(datasetRequest);
```

```
            return response.datasetArn();

        } catch (ForecastException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }

        return "";
    }

    // Create a SchemaAttribute list required to create a data set.
    private static List<SchemaAttribute> getSchema() {

        List<SchemaAttribute> schemaList = new ArrayList<>();
        SchemaAttribute att1 = SchemaAttribute.builder()
                .attributeName("item_id")
                .attributeType("string")
                .build();

        SchemaAttribute att2 = SchemaAttribute.builder()
                .attributeName("timestamp")
                .attributeType("timestamp")
                .build();

        SchemaAttribute att3 = SchemaAttribute.builder()
                .attributeName("target_value")
                .attributeType("float")
                .build();

        // Push the SchemaAttribute objects to the List.
        schemaList.add(att1);
        schemaList.add(att2);
        schemaList.add(att3);
        return schemaList;
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateDataset」を参照してください。

`CreateForecast`

次のコード例は、`CreateForecast` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.forecast.ForecastClient;
import software.amazon.awssdk.services.forecast.model.CreateForecastRequest;
import software.amazon.awssdk.services.forecast.model.CreateForecastResponse;
import software.amazon.awssdk.services.forecast.model.ForecastException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class CreateForecast {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <name> <predictorArn>\s

                Where:
                    name - The name of the forecast.\s
                    predictorArn - The arn of the predictor to use.\s

                """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }
```

```
        String name = args[0];
        String predictorArn = args[1];
        Region region = Region.US_WEST_2;
        ForecastClient forecast = ForecastClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        String forecastArn = createNewForecast(forecast, name, predictorArn);
        System.out.println("The ARN of the new forecast is " + forecastArn);
        forecast.close();
    }

    public static String createNewForecast(ForecastClient forecast, String name,
 String predictorArn) {
        try {
            CreateForecastRequest forecastRequest = CreateForecastRequest.builder()
                    .forecastName(name)
                    .predictorArn(predictorArn)
                    .build();

            CreateForecastResponse response =
 forecast.createForecast(forecastRequest);
            return response.forecastArn();

        } catch (ForecastException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateForecast」を参照してください。

DeleteDataset

次のコード例は、DeleteDataset を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.forecast.ForecastClient;
import software.amazon.awssdk.services.forecast.model.DeleteDatasetRequest;
import software.amazon.awssdk.services.forecast.model.ForecastException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DeleteDataset {

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <datasetARN>\s

                Where:
                    datasetARN - The ARN of the data set to delete.\s
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String datasetARN = args[0];
        Region region = Region.US_WEST_2;
        ForecastClient forecast = ForecastClient.builder()
                .region(region)
```

```
                .build();

        deleteForecastDataSet(forecast, datasetARN);
        forecast.close();
    }

    public static void deleteForecastDataSet(ForecastClient forecast, String
 myDataSetARN) {
        try {
            DeleteDatasetRequest deleteRequest = DeleteDatasetRequest.builder()
                    .datasetArn(myDataSetARN)
                    .build();

            forecast.deleteDataset(deleteRequest);
            System.out.println("The Data Set was deleted");

        } catch (ForecastException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteDataset」を参照してください。

`DeleteForecast`

次のコード例は、`DeleteForecast` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.forecast.ForecastClient;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.forecast.model.DeleteDatasetRequest;
import software.amazon.awssdk.services.forecast.model.ForecastException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DeleteDataset {

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <datasetARN>\s

                Where:
                    datasetARN - The ARN of the data set to delete.\s
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String datasetARN = args[0];
        Region region = Region.US_WEST_2;
        ForecastClient forecast = ForecastClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        deleteForecastDataSet(forecast, datasetARN);
        forecast.close();
    }

    public static void deleteForecastDataSet(ForecastClient forecast, String
 myDataSetARN) {
        try {
            DeleteDatasetRequest deleteRequest = DeleteDatasetRequest.builder()
                    .datasetArn(myDataSetARN)
                    .build();
```

```
            forecast.deleteDataset(deleteRequest);
            System.out.println("The Data Set was deleted");

        } catch (ForecastException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteForecast」を参照してください。

`DescribeForecast`

次のコード例は、`DescribeForecast` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.forecast.ForecastClient;
import software.amazon.awssdk.services.forecast.model.DescribeForecastRequest;
import software.amazon.awssdk.services.forecast.model.DescribeForecastResponse;
import software.amazon.awssdk.services.forecast.model.ForecastException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
```

```
public class DescribeForecast {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <forecastarn>\s

                Where:
                    forecastarn - The arn of the forecast (for example,
 "arn:aws:forecast:us-west-2:xxxxx322:forecast/my_forecast)
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String forecastarn = args[0];
        Region region = Region.US_WEST_2;
        ForecastClient forecast = ForecastClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        describe(forecast, forecastarn);
        forecast.close();
    }

    public static void describe(ForecastClient forecast, String forecastarn) {
        try {
            DescribeForecastRequest request = DescribeForecastRequest.builder()
                    .forecastArn(forecastarn)
                    .build();

            DescribeForecastResponse response = forecast.describeForecast(request);
            System.out.println("The name of the forecast is " +
 response.forecastName());

        } catch (ForecastException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeForecast」を参照してください。

`ListDatasetGroups`

次のコード例は、`ListDatasetGroups` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.forecast.ForecastClient;
import software.amazon.awssdk.services.forecast.model.DatasetGroupSummary;
import software.amazon.awssdk.services.forecast.model.ListDatasetGroupsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.forecast.model.ListDatasetGroupsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.forecast.model.ForecastException;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ListDataSetGroups {
    public static void main(String[] args) {
        Region region = Region.US_WEST_2;
        ForecastClient forecast = ForecastClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        listDataGroups(forecast);
```

```
        forecast.close();
    }

    public static void listDataGroups(ForecastClient forecast) {
        try {
            ListDatasetGroupsRequest group = ListDatasetGroupsRequest.builder()
                    .maxResults(10)
                    .build();

            ListDatasetGroupsResponse response = forecast.listDatasetGroups(group);
            List<DatasetGroupSummary> groups = response.datasetGroups();
            for (DatasetGroupSummary myGroup : groups) {
                System.out.println("The Data Set name is " +
 myGroup.datasetGroupName());
            }

        } catch (ForecastException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListDatasetGroups」を参照してください。

`ListForecasts`

次のコード例は、`ListForecasts` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.forecast.ForecastClient;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.forecast.model.ListForecastsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.forecast.model.ListForecastsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.forecast.model.ForecastSummary;
import software.amazon.awssdk.services.forecast.model.ForecastException;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ListForecasts {

    public static void main(String[] args) {
        Region region = Region.US_WEST_2;
        ForecastClient forecast = ForecastClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        listAllForeCasts(forecast);
        forecast.close();
    }

    public static void listAllForeCasts(ForecastClient forecast) {
        try {
            ListForecastsRequest request = ListForecastsRequest.builder()
                    .maxResults(10)
                    .build();

            ListForecastsResponse response = forecast.listForecasts(request);
            List<ForecastSummary> forecasts = response.forecasts();
            for (ForecastSummary forecastSummary : forecasts) {
                System.out.println("The name of the forecast is " +
 forecastSummary.forecastName());
            }

        } catch (ForecastException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

```
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListForecasts」を参照してください。

SDK for Java 2.x を使用する Amazon Glacier の例

次のコード例は、Amazon Glacier AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック
- アクション

アクション

`CreateVault`

次のコード例は、`CreateVault` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.glacier.GlacierClient;
import software.amazon.awssdk.services.glacier.model.CreateVaultRequest;
import software.amazon.awssdk.services.glacier.model.CreateVaultResponse;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.glacier.model.GlacierException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class CreateVault {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:    <vaultName>

                Where:
                   vaultName - The name of the vault to create.

                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String vaultName = args[0];
        GlacierClient glacier = GlacierClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        createGlacierVault(glacier, vaultName);
        glacier.close();
    }

    public static void createGlacierVault(GlacierClient glacier, String vaultName) {
        try {
            CreateVaultRequest vaultRequest = CreateVaultRequest.builder()
                    .vaultName(vaultName)
                    .build();

            CreateVaultResponse createVaultResult =
 glacier.createVault(vaultRequest);
```

```
            System.out.println("The URI of the new vault is " +
 createVaultResult.location());

        } catch (GlacierException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateVault」を参照してください。

`DeleteArchive`

次のコード例は、`DeleteArchive` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.glacier.GlacierClient;
import software.amazon.awssdk.services.glacier.model.DeleteArchiveRequest;
import software.amazon.awssdk.services.glacier.model.GlacierException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DeleteArchive {
    public static void main(String[] args) {
```

```
        final String usage = """

                Usage:    <vaultName> <accountId> <archiveId>

                Where:
                   vaultName - The name of the vault that contains the archive to
delete.
                   accountId - The account ID value.
                   archiveId - The archive ID value.
                """;

        if (args.length != 3) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String vaultName = args[0];
        String accountId = args[1];
        String archiveId = args[2];
        GlacierClient glacier = GlacierClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        deleteGlacierArchive(glacier, vaultName, accountId, archiveId);
        glacier.close();
    }

    public static void deleteGlacierArchive(GlacierClient glacier, String vaultName,
String accountId,
            String archiveId) {
        try {
            DeleteArchiveRequest delArcRequest = DeleteArchiveRequest.builder()
                    .vaultName(vaultName)
                    .accountId(accountId)
                    .archiveId(archiveId)
                    .build();

            glacier.deleteArchive(delArcRequest);
            System.out.println("The archive was deleted.");

        } catch (GlacierException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
```

```
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteArchive」を参照してください。

`DeleteVault`

次のコード例は、`DeleteVault` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.glacier.GlacierClient;
import software.amazon.awssdk.services.glacier.model.DeleteVaultRequest;
import software.amazon.awssdk.services.glacier.model.GlacierException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DeleteVault {
    public static void main(String[] args) {

        final String usage = """

                Usage:    <vaultName>

                Where:
                   vaultName - The name of the vault to delete.\s
```

```
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String vaultName = args[0];
        GlacierClient glacier = GlacierClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        deleteGlacierVault(glacier, vaultName);
        glacier.close();
    }

    public static void deleteGlacierVault(GlacierClient glacier, String vaultName) {
        try {
            DeleteVaultRequest delVaultRequest = DeleteVaultRequest.builder()
                    .vaultName(vaultName)
                    .build();

            glacier.deleteVault(delVaultRequest);
            System.out.println("The vault was deleted!");

        } catch (GlacierException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteVault」を参照してください。

InitiateJob

次のコード例は、InitiateJob を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

ボールトインベントリを取得します。

```
import software.amazon.awssdk.core.ResponseBytes;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.glacier.GlacierClient;
import software.amazon.awssdk.services.glacier.model.JobParameters;
import software.amazon.awssdk.services.glacier.model.InitiateJobResponse;
import software.amazon.awssdk.services.glacier.model.GlacierException;
import software.amazon.awssdk.services.glacier.model.InitiateJobRequest;
import software.amazon.awssdk.services.glacier.model.DescribeJobRequest;
import software.amazon.awssdk.services.glacier.model.DescribeJobResponse;
import software.amazon.awssdk.services.glacier.model.GetJobOutputRequest;
import software.amazon.awssdk.services.glacier.model.GetJobOutputResponse;
import java.io.File;
import java.io.FileOutputStream;
import java.io.IOException;
import java.io.OutputStream;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ArchiveDownload {
    public static void main(String[] args) {

        final String usage = """

                Usage:    <vaultName> <accountId> <path>

                Where:
                   vaultName - The name of the vault.
```

```
                    accountId - The account ID value.
                    path - The path where the file is written to.
                """;

        if (args.length != 3) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String vaultName = args[0];
        String accountId = args[1];
        String path = args[2];
        GlacierClient glacier = GlacierClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        String jobNum = createJob(glacier, vaultName, accountId);
        checkJob(glacier, jobNum, vaultName, accountId, path);
        glacier.close();
    }

    public static String createJob(GlacierClient glacier, String vaultName, String
accountId) {
        try {
            JobParameters job = JobParameters.builder()
                    .type("inventory-retrieval")
                    .build();

            InitiateJobRequest initJob = InitiateJobRequest.builder()
                    .jobParameters(job)
                    .accountId(accountId)
                    .vaultName(vaultName)
                    .build();

            InitiateJobResponse response = glacier.initiateJob(initJob);
            System.out.println("The job ID is: " + response.jobId());
            System.out.println("The relative URI path of the job is: " +
response.location());
            return response.jobId();

        } catch (GlacierException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
```

```
        }
        return "";
    }

    // Poll S3 Glacier = Polling a Job may take 4-6 hours according to the
    // Documentation.
    public static void checkJob(GlacierClient glacier, String jobId, String name,
String account, String path) {
        try {
            boolean finished = false;
            String jobStatus;
            int yy = 0;

            while (!finished) {
                DescribeJobRequest jobRequest = DescribeJobRequest.builder()
                        .jobId(jobId)
                        .accountId(account)
                        .vaultName(name)
                        .build();

                DescribeJobResponse response = glacier.describeJob(jobRequest);
                jobStatus = response.statusCodeAsString();

                if (jobStatus.compareTo("Succeeded") == 0)
                    finished = true;
                else {
                    System.out.println(yy + " status is: " + jobStatus);
                    Thread.sleep(1000);
                }
                yy++;
            }

            System.out.println("Job has Succeeded");
            GetJobOutputRequest jobOutputRequest = GetJobOutputRequest.builder()
                    .jobId(jobId)
                    .vaultName(name)
                    .accountId(account)
                    .build();

            ResponseBytes<GetJobOutputResponse> objectBytes =
glacier.getJobOutputAsBytes(jobOutputRequest);
            // Write the data to a local file.
            byte[] data = objectBytes.asByteArray();
            File myFile = new File(path);
```

```
            OutputStream os = new FileOutputStream(myFile);
            os.write(data);
            System.out.println("Successfully obtained bytes from a Glacier vault");
            os.close();

        } catch (GlacierException | InterruptedException | IOException e) {
            System.out.println(e.getMessage());
            System.exit(1);

        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「InitiateJob」を参照してください。

`ListVaults`

次のコード例は、`ListVaults` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.glacier.model.ListVaultsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.glacier.model.ListVaultsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.glacier.GlacierClient;
import software.amazon.awssdk.services.glacier.model.DescribeVaultOutput;
import software.amazon.awssdk.services.glacier.model.GlacierException;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
```

```
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ListVaults {
    public static void main(String[] args) {
        GlacierClient glacier = GlacierClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        listAllVault(glacier);
        glacier.close();
    }

    public static void listAllVault(GlacierClient glacier) {
        boolean listComplete = false;
        String newMarker = null;
        int totalVaults = 0;
        System.out.println("Your Amazon Glacier vaults:");
        try {
            while (!listComplete) {
                ListVaultsResponse response = null;
                if (newMarker != null) {
                    ListVaultsRequest request = ListVaultsRequest.builder()
                            .marker(newMarker)
                            .build();

                    response = glacier.listVaults(request);
                } else {
                    ListVaultsRequest request = ListVaultsRequest.builder()
                            .build();
                    response = glacier.listVaults(request);
                }

                List<DescribeVaultOutput> vaultList = response.vaultList();
                for (DescribeVaultOutput v : vaultList) {
                    totalVaults += 1;
                    System.out.println("* " + v.vaultName());
                }

                // Check for further results.
                newMarker = response.marker();
                if (newMarker == null) {
                    listComplete = true;
```

```
                }
            }

            if (totalVaults == 0) {
                System.out.println("No vaults found.");
            }

        } catch (GlacierException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListVaults」を参照してください。

`UploadArchive`

次のコード例は、`UploadArchive` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.glacier.GlacierClient;
import software.amazon.awssdk.services.glacier.model.UploadArchiveRequest;
import software.amazon.awssdk.services.glacier.model.UploadArchiveResponse;
import software.amazon.awssdk.services.glacier.model.GlacierException;
import java.io.File;
import java.nio.file.Path;
import java.nio.file.Paths;
import java.io.FileInputStream;
import java.io.IOException;
import java.security.MessageDigest;
```

```
import java.security.NoSuchAlgorithmException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class UploadArchive {

    static final int ONE_MB = 1024 * 1024;

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:   <strPath> <vaultName>\s

                Where:
                   strPath - The path to the archive to upload (for example, C:\\AWS
\\test.pdf).
                   vaultName - The name of the vault.
                """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String strPath = args[0];
        String vaultName = args[1];
        File myFile = new File(strPath);
        Path path = Paths.get(strPath);
        GlacierClient glacier = GlacierClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        String archiveId = uploadContent(glacier, path, vaultName, myFile);
        System.out.println("The ID of the archived item is " + archiveId);
        glacier.close();
    }
```

```
   public static String uploadContent(GlacierClient glacier, Path path, String
vaultName, File myFile) {
       // Get an SHA-256 tree hash value.
       String checkVal = computeSHA256(myFile);
       try {
           UploadArchiveRequest uploadRequest = UploadArchiveRequest.builder()
                   .vaultName(vaultName)
                   .checksum(checkVal)
                   .build();

           UploadArchiveResponse res = glacier.uploadArchive(uploadRequest, path);
           return res.archiveId();

       } catch (GlacierException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
       return "";
   }

   private static String computeSHA256(File inputFile) {
       try {
           byte[] treeHash = computeSHA256TreeHash(inputFile);
           System.out.printf("SHA-256 tree hash = %s\n", toHex(treeHash));
           return toHex(treeHash);

       } catch (IOException ioe) {
           System.err.format("Exception when reading from file %s: %s", inputFile,
ioe.getMessage());
           System.exit(-1);

       } catch (NoSuchAlgorithmException nsae) {
           System.err.format("Cannot locate MessageDigest algorithm for SHA-256:
%s", nsae.getMessage());
           System.exit(-1);
       }
       return "";
   }

   public static byte[] computeSHA256TreeHash(File inputFile) throws IOException,
           NoSuchAlgorithmException {

       byte[][] chunkSHA256Hashes = getChunkSHA256Hashes(inputFile);
       return computeSHA256TreeHash(chunkSHA256Hashes);
```

```
    }

    /**
     * Computes an SHA256 checksum for each 1 MB chunk of the input file. This
     * includes the checksum for the last chunk, even if it's smaller than 1 MB.
     */
    public static byte[][] getChunkSHA256Hashes(File file) throws IOException,
            NoSuchAlgorithmException {

        MessageDigest md = MessageDigest.getInstance("SHA-256");
        long numChunks = file.length() / ONE_MB;
        if (file.length() % ONE_MB > 0) {
            numChunks++;
        }

        if (numChunks == 0) {
            return new byte[][] { md.digest() };
        }

        byte[][] chunkSHA256Hashes = new byte[(int) numChunks][];
        FileInputStream fileStream = null;

        try {
            fileStream = new FileInputStream(file);
            byte[] buff = new byte[ONE_MB];

            int bytesRead;
            int idx = 0;

            while ((bytesRead = fileStream.read(buff, 0, ONE_MB)) > 0) {
                md.reset();
                md.update(buff, 0, bytesRead);
                chunkSHA256Hashes[idx++] = md.digest();
            }

            return chunkSHA256Hashes;

        } finally {
            if (fileStream != null) {
                try {
                    fileStream.close();
                } catch (IOException ioe) {
                    System.err.printf("Exception while closing %s.\n %s",
file.getName(),
```

```
                            ioe.getMessage());
                }
            }
        }
    }

    /**
     * Computes the SHA-256 tree hash for the passed array of 1 MB chunk
     * checksums.
     */
    public static byte[] computeSHA256TreeHash(byte[][] chunkSHA256Hashes)
            throws NoSuchAlgorithmException {

        MessageDigest md = MessageDigest.getInstance("SHA-256");
        byte[][] prevLvlHashes = chunkSHA256Hashes;
        while (prevLvlHashes.length > 1) {
            int len = prevLvlHashes.length / 2;
            if (prevLvlHashes.length % 2 != 0) {
                len++;
            }

            byte[][] currLvlHashes = new byte[len][];
            int j = 0;
            for (int i = 0; i < prevLvlHashes.length; i = i + 2, j++) {

                // If there are at least two elements remaining.
                if (prevLvlHashes.length - i > 1) {

                    // Calculate a digest of the concatenated nodes.
                    md.reset();
                    md.update(prevLvlHashes[i]);
                    md.update(prevLvlHashes[i + 1]);
                    currLvlHashes[j] = md.digest();

                } else { // Take care of the remaining odd chunk
                    currLvlHashes[j] = prevLvlHashes[i];
                }
            }

            prevLvlHashes = currLvlHashes;
        }

        return prevLvlHashes[0];
    }
```

```
    /**
     * Returns the hexadecimal representation of the input byte array
     */
    public static String toHex(byte[] data) {
        StringBuilder sb = new StringBuilder(data.length * 2);
        for (byte datum : data) {
            String hex = Integer.toHexString(datum & 0xFF);

            if (hex.length() == 1) {
                // Append leading zero.
                sb.append("0");
            }
            sb.append(hex);
        }
        return sb.toString().toLowerCase();
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「UploadArchive」を参照してください。

AWS Glue SDK for Java 2.x を使用した例

次のコード例は、 AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています AWS Glue。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- はじめに
- 基本

- アクション

はじめに

こんにち AWS Glueは

次のコード例は、 AWS Glueの使用を開始する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.glue;

import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.glue.GlueClient;
import software.amazon.awssdk.services.glue.model.ListJobsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.glue.model.ListJobsResponse;
import java.util.List;

public class HelloGlue {
    public static void main(String[] args) {
        GlueClient glueClient = GlueClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        listJobs(glueClient);
    }

    public static void listJobs(GlueClient glueClient) {
        ListJobsRequest request = ListJobsRequest.builder()
                .maxResults(10)
                .build();
        ListJobsResponse response = glueClient.listJobs(request);
        List<String> jobList = response.jobNames();
        jobList.forEach(job -> {
            System.out.println("Job Name: " + job);
        });
```

```
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListJobs」を参照してください。

基本

基本を学ぶ

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- パブリック Amazon S3 バケットをクロールし、CSV 形式のメタデータのデータベースを生成するクローラーを作成します。
- のデータベースとテーブルに関する情報を一覧表示します AWS Glue Data Catalog。
- S3 バケットから CSV 形式のデータを抽出するジョブを作成し、そのデータを変換して JSON 形式の出力を別の S3 バケットにロードする。
- ジョブ実行に関する情報を一覧表示し、変換されたデータを表示してリソースをクリーンアップします。

詳細については、「チュートリアル: AWS Glue Studio の開始方法」を参照してください。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
```

```
 *
 * To set up the resources, see this documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/glue/latest/ug/tutorial-add-crawler.html
 *
 * This example performs the following tasks:
 *
 * 1. Create a database.
 * 2. Create a crawler.
 * 3. Get a crawler.
 * 4. Start a crawler.
 * 5. Get a database.
 * 6. Get tables.
 * 7. Create a job.
 * 8. Start a job run.
 * 9. List all jobs.
 * 10. Get job runs.
 * 11. Delete a job.
 * 12. Delete a database.
 * 13. Delete a crawler.
 */

public class GlueScenario {
    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");

    public static void main(String[] args) throws InterruptedException {
        final String usage = """

            Usage:
                <iam> <s3Path> <cron> <dbName> <crawlerName> <jobName>
 <scriptLocation> <locationUri> <bucketNameSc>\s

            Where:
                iam - The ARN of the IAM role that has AWS Glue and S3 permissions.
\s
                s3Path - The Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) target that
 contains data (for example, s3://<bucket name>/read).
                cron - A cron expression used to specify the schedule  (i.e.,
 cron(15 12 * * ? *).
                dbName - The database name.\s
                crawlerName - The name of the crawler.\s
                jobName - The name you assign to this job definition.
                scriptLocation - The Amazon S3 path to a script that runs a job.
```

```
                locationUri - The location of the database (you can find this file
in resources folder).
                bucketNameSc - The Amazon S3 bucket name used when creating a job
                """;

        if (args.length != 9) {
            System.out.println(usage);
            return;
        }
        Scanner scanner = new Scanner(System.in);
        String iam = args[0];
        String s3Path = args[1];
        String cron = args[2];
        String dbName = args[3];
        String crawlerName = args[4];
        String jobName = args[5];
        String scriptLocation = args[6];
        String locationUri = args[7];
        String bucketNameSc = args[8];

        Region region = Region.US_EAST_1;
        GlueClient glueClient = GlueClient.builder()
            .region(region)
            .build();
        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("Welcome to the AWS Glue scenario.");
        System.out.println("""
            AWS Glue is a fully managed extract, transform, and load (ETL) service
provided by Amazon
            Web Services (AWS). It is designed to simplify the process of building,
running, and maintaining
            ETL pipelines, which are essential for data integration and data
warehousing tasks.

            One of the key features of AWS Glue is its ability to automatically
discover and catalog data
            stored in various sources, such as Amazon S3, Amazon RDS, Amazon
Redshift, and other databases.
            This cataloging process creates a central metadata repository, known as
the AWS Glue Data Catalog,
            which provides a unified view of an organization's data assets. This
metadata can then be used to
            create ETL jobs, which can be scheduled and run on-demand or on a
regular basis.
```

```
            Lets get started.

            """);
        waitForInputToContinue(scanner);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("1. Create a database.");
        try {
            createDatabase(glueClient, dbName, locationUri);
        } catch (GlueException e) {
            if (e.awsErrorDetails().errorMessage().equals("Database already
exists.")) {
                System.out.println("Database " + dbName + " already exists. Skipping
creation.");
            } else {
                System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
                return;
            }
        }

        waitForInputToContinue(scanner);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("2. Create a crawler.");
        try {
            createGlueCrawler(glueClient, iam, s3Path, cron, dbName, crawlerName);
        } catch (GlueException e) {
            if (e.awsErrorDetails().errorMessage().contains("already exists")) {
                System.out.println("Crawler " + crawlerName + " already exists.
Skipping creation.");
            } else {
                System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
                System.exit(1);
            }
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("3. Get a crawler.");
        try {
```

```
            getSpecificCrawler(glueClient, crawlerName);
        } catch (GlueException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            return;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("4. Start a crawler.");
        try {
            startSpecificCrawler(glueClient, crawlerName);
        } catch (GlueException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            return;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("5. Get a database.");
        try {
            getSpecificDatabase(glueClient, dbName);
        } catch (GlueException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            return;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("*** Wait 5 min for the tables to become available");
        TimeUnit.MINUTES.sleep(5);
        System.out.println("6. Get tables.");
        String myTableName;
        try {
            myTableName = getGlueTables(glueClient, dbName);
        } catch (GlueException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            return;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        System.out.println(DASHES);
```

```
        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("7. Create a job.");
        try {
            createJob(glueClient, jobName, iam, scriptLocation);
        } catch (GlueException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            return;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("8. Start a Job run.");
        try {
            startJob(glueClient, jobName, dbName, myTableName, bucketNameSc);
        } catch (GlueException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            return;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("9. List all jobs.");
        try {
            getAllJobs(glueClient);
        } catch (GlueException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            return;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("10. Get job runs.");
        try {
            getJobRuns(glueClient, jobName);
        } catch (GlueException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            return;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        System.out.println(DASHES);
```

```
        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("11. Delete a job.");
        try {
            deleteJob(glueClient, jobName);
        } catch (GlueException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            return;
        }
        System.out.println("*** Wait 5 MIN for the " + crawlerName + " to stop");
        TimeUnit.MINUTES.sleep(5);
        waitForInputToContinue(scanner);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("12. Delete a database.");
        try {
            deleteDatabase(glueClient, dbName);
        } catch (GlueException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            return;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("Delete a crawler.");
        try {
            deleteSpecificCrawler(glueClient, crawlerName);
        } catch (GlueException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            return;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("Successfully completed the AWS Glue Scenario");
        System.out.println(DASHES);
    }


    /**
     * Creates a Glue database with the specified name and location URI.
     *
```

```
    * @param glueClient  The Glue client to use for the database creation.
    * @param dbName      The name of the database to create.
    * @param locationUri The location URI for the database.
    */
   public static void createDatabase(GlueClient glueClient, String dbName, String
locationUri) {
       try {
           DatabaseInput input = DatabaseInput.builder()
               .description("Built with the AWS SDK for Java V2")
               .name(dbName)
               .locationUri(locationUri)
               .build();

           CreateDatabaseRequest request = CreateDatabaseRequest.builder()
               .databaseInput(input)
               .build();

           glueClient.createDatabase(request);
           System.out.println(dbName + " was successfully created");

       } catch (GlueException e) {
           throw e;
       }
   }


   /**
    * Creates a new AWS Glue crawler using the AWS Glue Java API.
    *
    * @param glueClient  the AWS Glue client used to interact with the AWS Glue
service
    * @param iam         the IAM role that the crawler will use to access the data
source
    * @param s3Path      the S3 path that the crawler will scan for data
    * @param cron        the cron expression that defines the crawler's schedule
    * @param dbName      the name of the AWS Glue database where the crawler will
store the metadata
    * @param crawlerName the name of the crawler to be created
    */
   public static void createGlueCrawler(GlueClient glueClient,
                                        String iam,
                                        String s3Path,
                                        String cron,
                                        String dbName,
```

```
                                        String crawlerName) {

        try {
            S3Target s3Target = S3Target.builder()
                .path(s3Path)
                .build();

            List<S3Target> targetList = new ArrayList<>();
            targetList.add(s3Target);
            CrawlerTargets targets = CrawlerTargets.builder()
                .s3Targets(targetList)
                .build();

            CreateCrawlerRequest crawlerRequest = CreateCrawlerRequest.builder()
                .databaseName(dbName)
                .name(crawlerName)
                .description("Created by the AWS Glue Java API")
                .targets(targets)
                .role(iam)
                .schedule(cron)
                .build();

            glueClient.createCrawler(crawlerRequest);
            System.out.println(crawlerName + " was successfully created");

        } catch (GlueException e) {
            throw e;
        }
    }

    /**
     * Retrieves a specific crawler from the AWS Glue service and waits for it to be
in the "READY" state.
     *
     * @param glueClient  the AWS Glue client used to interact with the Glue service
     * @param crawlerName the name of the crawler to be retrieved
     */
    public static void getSpecificCrawler(GlueClient glueClient, String crawlerName)
throws InterruptedException {
        try {
            GetCrawlerRequest crawlerRequest = GetCrawlerRequest.builder()
                .name(crawlerName)
                .build();
```

```
            boolean ready = false;
            while (!ready) {
                GetCrawlerResponse response = glueClient.getCrawler(crawlerRequest);
                String status = response.crawler().stateAsString();
                if (status.compareTo("READY") == 0) {
                    ready = true;
                }
                Thread.sleep(3000);
            }

            System.out.println("The crawler is now ready");

        } catch (GlueException | InterruptedException e) {
            throw e;
        }
    }

    /**
     * Starts a specific AWS Glue crawler.
     *
     * @param glueClient  the AWS Glue client to use for the crawler operation
     * @param crawlerName the name of the crawler to start
     * @throws GlueException if there is an error starting the crawler
     */
    public static void startSpecificCrawler(GlueClient glueClient, String
crawlerName) {
        try {
            StartCrawlerRequest crawlerRequest = StartCrawlerRequest.builder()
                .name(crawlerName)
                .build();

            glueClient.startCrawler(crawlerRequest);
            System.out.println(crawlerName + " was successfully started!");

        } catch (GlueException e) {
            throw e;
        }
    }

    /**
     * Retrieves the specific database from the AWS Glue service.
     *
     * @param glueClient   an instance of the AWS Glue client used to interact with
the service
```

```
    * @param databaseName the name of the database to retrieve
    * @throws GlueException if there is an error retrieving the database from the
AWS Glue service
    */
   public static void getSpecificDatabase(GlueClient glueClient, String
databaseName) {
       try {
           GetDatabaseRequest databasesRequest = GetDatabaseRequest.builder()
               .name(databaseName)
               .build();

           GetDatabaseResponse response = glueClient.getDatabase(databasesRequest);
           Instant createDate = response.database().createTime();

           // Convert the Instant to readable date.
           DateTimeFormatter formatter =
DateTimeFormatter.ofLocalizedDateTime(FormatStyle.SHORT)
               .withLocale(Locale.US)
               .withZone(ZoneId.systemDefault());

           formatter.format(createDate);
           System.out.println("The create date of the database is " + createDate);

       } catch (GlueException e) {
           throw e;
       }
   }


   /**
    * Retrieves the names of the tables in the specified Glue database.
    *
    * @param glueClient the Glue client to use for the operation
    * @param dbName     the name of the Glue database to retrieve the table names
from
    * @return the name of the first table retrieved, or an empty string if no
tables were found
    */
   public static String getGlueTables(GlueClient glueClient, String dbName) {
       String myTableName = "";
       try {
           GetTablesRequest tableRequest = GetTablesRequest.builder()
               .databaseName(dbName)
               .build();
```

```
            GetTablesResponse response = glueClient.getTables(tableRequest);
            List<Table> tables = response.tableList();
            if (tables.isEmpty()) {
                System.out.println("No tables were returned");
            } else {
                for (Table table : tables) {
                    myTableName = table.name();
                    System.out.println("Table name is: " + myTableName);
                }
            }

        } catch (GlueException e) {
            throw e;
        }
        return myTableName;
    }


    /**
     * Starts a job run in AWS Glue.
     *
     * @param glueClient    the AWS Glue client to use for the job run
     * @param jobName       the name of the Glue job to run
     * @param inputDatabase the name of the input database
     * @param inputTable    the name of the input table
     * @param outBucket     the URL of the output S3 bucket
     * @throws GlueException if there is an error starting the job run
     */
    public static void startJob(GlueClient glueClient, String jobName, String
inputDatabase, String inputTable,
                                String outBucket) {
        try {
            Map<String, String> myMap = new HashMap<>();
            myMap.put("--input_database", inputDatabase);
            myMap.put("--input_table", inputTable);
            myMap.put("--output_bucket_url", outBucket);

            StartJobRunRequest runRequest = StartJobRunRequest.builder()
                .workerType(WorkerType.G_1_X)
                .numberOfWorkers(10)
                .arguments(myMap)
                .jobName(jobName)
                .build();
```

```
            StartJobRunResponse response = glueClient.startJobRun(runRequest);
            System.out.println("The request Id of the job is " +
response.responseMetadata().requestId());

        } catch (GlueException e) {
            throw e;
        }
    }


    /**
     * Creates a new AWS Glue job.
     *
     * @param glueClient     the AWS Glue client to use for the operation
     * @param jobName        the name of the job to create
     * @param iam            the IAM role to associate with the job
     * @param scriptLocation the location of the script to be used by the job
     * @throws GlueException if there is an error creating the job
     */
    public static void createJob(GlueClient glueClient, String jobName, String iam,
String scriptLocation) {
        try {
            JobCommand command = JobCommand.builder()
                .pythonVersion("3")
                .name("glueetl")
                .scriptLocation(scriptLocation)
                .build();

            CreateJobRequest jobRequest = CreateJobRequest.builder()
                .description("A Job created by using the AWS SDK for Java V2")
                .glueVersion("2.0")
                .workerType(WorkerType.G_1_X)
                .numberOfWorkers(10)
                .name(jobName)
                .role(iam)
                .command(command)
                .build();

            glueClient.createJob(jobRequest);
            System.out.println(jobName + " was successfully created.");

        } catch (GlueException e) {
            throw e;
```

```
        }
    }


    /**
     * Retrieves and prints information about all the jobs in the Glue data catalog.
     *
     * @param glueClient the Glue client used to interact with the AWS Glue service
     */
    public static void getAllJobs(GlueClient glueClient) {
        try {
            GetJobsRequest jobsRequest = GetJobsRequest.builder()
                .maxResults(10)
                .build();

            GetJobsResponse jobsResponse = glueClient.getJobs(jobsRequest);
            List<Job> jobs = jobsResponse.jobs();
            for (Job job : jobs) {
                System.out.println("Job name is : " + job.name());
                System.out.println("The job worker type is : " +
job.workerType().name());
            }

        } catch (GlueException e) {
            throw e;
        }
    }

    /**
     * Retrieves the job runs for a given Glue job and prints the status of the job
runs.
     *
     * @param glueClient the Glue client used to make API calls
     * @param jobName    the name of the Glue job to retrieve the job runs for
     */
    public static void getJobRuns(GlueClient glueClient, String jobName) {
        try {
            GetJobRunsRequest runsRequest = GetJobRunsRequest.builder()
                .jobName(jobName)
                .maxResults(20)
                .build();

            boolean jobDone = false;
            while (!jobDone) {
```

```
                GetJobRunsResponse response = glueClient.getJobRuns(runsRequest);
                List<JobRun> jobRuns = response.jobRuns();
                for (JobRun jobRun : jobRuns) {
                    String jobState = jobRun.jobRunState().name();
                    if (jobState.compareTo("SUCCEEDED") == 0) {
                        System.out.println(jobName + " has succeeded");
                        jobDone = true;

                    } else if (jobState.compareTo("STOPPED") == 0) {
                        System.out.println("Job run has stopped");
                        jobDone = true;

                    } else if (jobState.compareTo("FAILED") == 0) {
                        System.out.println("Job run has failed");
                        jobDone = true;

                    } else if (jobState.compareTo("TIMEOUT") == 0) {
                        System.out.println("Job run has timed out");
                        jobDone = true;

                    } else {
                        System.out.println("*** Job run state is " +
jobRun.jobRunState().name());
                        System.out.println("Job run Id is " + jobRun.id());
                        System.out.println("The Glue version is " +
jobRun.glueVersion());
                    }
                    TimeUnit.SECONDS.sleep(5);
                }
            }

        } catch (GlueException e) {
            throw e;
        } catch (InterruptedException e) {
            throw new RuntimeException(e);
        }
    }


    /**
     * Deletes a Glue job.
     *
     * @param glueClient the Glue client to use for the operation
     * @param jobName    the name of the job to be deleted
```

```
     * @throws GlueException if there is an error deleting the job
     */
    public static void deleteJob(GlueClient glueClient, String jobName) {
        try {
            DeleteJobRequest jobRequest = DeleteJobRequest.builder()
                .jobName(jobName)
                .build();

            glueClient.deleteJob(jobRequest);
            System.out.println(jobName + " was successfully deleted");

        } catch (GlueException e) {
            throw e;
        }
    }

    /**
     * Deletes a AWS Glue Database.
     *
     * @param glueClient   An instance of the AWS Glue client used to interact with
the AWS Glue service.
     * @param databaseName The name of the database to be deleted.
     * @throws GlueException If an error occurs while deleting the database.
     */
    public static void deleteDatabase(GlueClient glueClient, String databaseName) {
        try {
            DeleteDatabaseRequest request = DeleteDatabaseRequest.builder()
                .name(databaseName)
                .build();

            glueClient.deleteDatabase(request);
            System.out.println(databaseName + " was successfully deleted");

        } catch (GlueException e) {
            throw e;
        }
    }


    /**
     * Deletes a specific AWS Glue crawler.
     *
     * @param glueClient  the AWS Glue client object
     * @param crawlerName the name of the crawler to be deleted
```

```
     * @throws GlueException if an error occurs during the deletion process
     */
    public static void deleteSpecificCrawler(GlueClient glueClient, String
 crawlerName) {
        try {
            DeleteCrawlerRequest deleteCrawlerRequest =
 DeleteCrawlerRequest.builder()
                .name(crawlerName)
                .build();

            glueClient.deleteCrawler(deleteCrawlerRequest);
            System.out.println(crawlerName + " was deleted");

        } catch (GlueException e) {
            throw e;
        }
    }

    private static void waitForInputToContinue(Scanner scanner) {
        while (true) {
            System.out.println("");
            System.out.println("Enter 'c' followed by <ENTER> to continue:");
            String input = scanner.nextLine();

            if (input.trim().equalsIgnoreCase("c")) {
                System.out.println("Continuing with the program...");
                System.out.println("");
                break;
            } else {
                // Handle invalid input.
                System.out.println("Invalid input. Please try again.");
            }
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - CreateCrawler
  - CreateJob
  - DeleteCrawler

- DeleteDatabase
- DeleteJob
- DeleteTable
- GetCrawler
- GetDatabase
- GetDatabases
- GetJob
- GetJobRun
- GetJobRuns
- GetTables
- ListJobs
- StartCrawler
- StartJobRun

アクション

`CreateCrawler`

次のコード例は、`CreateCrawler` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Creates a new AWS Glue crawler using the AWS Glue Java API.
     *
     * @param glueClient  the AWS Glue client used to interact with the AWS Glue
service
     * @param iam         the IAM role that the crawler will use to access the data
source
```

```
     * @param s3Path      the S3 path that the crawler will scan for data
     * @param cron        the cron expression that defines the crawler's schedule
     * @param dbName      the name of the AWS Glue database where the crawler will
store the metadata
     * @param crawlerName the name of the crawler to be created
     */
    public static void createGlueCrawler(GlueClient glueClient,
                                         String iam,
                                         String s3Path,
                                         String cron,
                                         String dbName,
                                         String crawlerName) {

        try {
            S3Target s3Target = S3Target.builder()
                .path(s3Path)
                .build();

            List<S3Target> targetList = new ArrayList<>();
            targetList.add(s3Target);
            CrawlerTargets targets = CrawlerTargets.builder()
                .s3Targets(targetList)
                .build();

            CreateCrawlerRequest crawlerRequest = CreateCrawlerRequest.builder()
                .databaseName(dbName)
                .name(crawlerName)
                .description("Created by the AWS Glue Java API")
                .targets(targets)
                .role(iam)
                .schedule(cron)
                .build();

            glueClient.createCrawler(crawlerRequest);
            System.out.println(crawlerName + " was successfully created");

        } catch (GlueException e) {
            throw e;
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateCrawler」を参照してください。

`CreateJob`

次のコード例は、`CreateJob` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Creates a new AWS Glue job.
    *
    * @param glueClient     the AWS Glue client to use for the operation
    * @param jobName        the name of the job to create
    * @param iam            the IAM role to associate with the job
    * @param scriptLocation the location of the script to be used by the job
    * @throws GlueException if there is an error creating the job
    */
   public static void createJob(GlueClient glueClient, String jobName, String iam,
String scriptLocation) {
       try {
           JobCommand command = JobCommand.builder()
               .pythonVersion("3")
               .name("glueetl")
               .scriptLocation(scriptLocation)
               .build();

           CreateJobRequest jobRequest = CreateJobRequest.builder()
               .description("A Job created by using the AWS SDK for Java V2")
               .glueVersion("2.0")
               .workerType(WorkerType.G_1_X)
               .numberOfWorkers(10)
               .name(jobName)
               .role(iam)
               .command(command)
```

```
                .build();

            glueClient.createJob(jobRequest);
            System.out.println(jobName + " was successfully created.");

        } catch (GlueException e) {
            throw e;
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateJob」を参照してください。

`DeleteCrawler`

次のコード例は、`DeleteCrawler` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Deletes a specific AWS Glue crawler.
     *
     * @param glueClient  the AWS Glue client object
     * @param crawlerName the name of the crawler to be deleted
     * @throws GlueException if an error occurs during the deletion process
     */
    public static void deleteSpecificCrawler(GlueClient glueClient, String
crawlerName) {
        try {
            DeleteCrawlerRequest deleteCrawlerRequest =
DeleteCrawlerRequest.builder()
                .name(crawlerName)
                .build();
```

```
            glueClient.deleteCrawler(deleteCrawlerRequest);
            System.out.println(crawlerName + " was deleted");

        } catch (GlueException e) {
            throw e;
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteCrawler」を参照してください。

`DeleteDatabase`

次のコード例は、`DeleteDatabase` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Deletes a AWS Glue Database.
     *
     * @param glueClient   An instance of the AWS Glue client used to interact with
the AWS Glue service.
     * @param databaseName The name of the database to be deleted.
     * @throws GlueException If an error occurs while deleting the database.
     */
    public static void deleteDatabase(GlueClient glueClient, String databaseName) {
        try {
            DeleteDatabaseRequest request = DeleteDatabaseRequest.builder()
                .name(databaseName)
                .build();

            glueClient.deleteDatabase(request);
            System.out.println(databaseName + " was successfully deleted");
```

```
        } catch (GlueException e) {
            throw e;
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteDatabase」を参照してください。

`DeleteJob`

次のコード例は、DeleteJob を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
/**
 * Deletes a Glue job.
 *
 * @param glueClient the Glue client to use for the operation
 * @param jobName    the name of the job to be deleted
 * @throws GlueException if there is an error deleting the job
 */
public static void deleteJob(GlueClient glueClient, String jobName) {
    try {
        DeleteJobRequest jobRequest = DeleteJobRequest.builder()
            .jobName(jobName)
            .build();

        glueClient.deleteJob(jobRequest);
        System.out.println(jobName + " was successfully deleted");

    } catch (GlueException e) {
        throw e;
```

```
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteJob」を参照してください。

GetCrawler

次のコード例は、GetCrawler を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Retrieves a specific crawler from the AWS Glue service and waits for it to be
in the "READY" state.
     *
     * @param glueClient  the AWS Glue client used to interact with the Glue service
     * @param crawlerName the name of the crawler to be retrieved
     */
    public static void getSpecificCrawler(GlueClient glueClient, String crawlerName)
throws InterruptedException {
        try {
            GetCrawlerRequest crawlerRequest = GetCrawlerRequest.builder()
                .name(crawlerName)
                .build();

            boolean ready = false;
            while (!ready) {
                GetCrawlerResponse response = glueClient.getCrawler(crawlerRequest);
                String status = response.crawler().stateAsString();
                if (status.compareTo("READY") == 0) {
                    ready = true;
                }
                Thread.sleep(3000);
```

```
            }

            System.out.println("The crawler is now ready");

        } catch (GlueException | InterruptedException e) {
            throw e;
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「GetCrawler」を参照してください。

GetDatabase

次のコード例は、GetDatabase を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Retrieves the specific database from the AWS Glue service.
     *
     * @param glueClient   an instance of the AWS Glue client used to interact with
the service
     * @param databaseName the name of the database to retrieve
     * @throws GlueException if there is an error retrieving the database from the
AWS Glue service
     */
    public static void getSpecificDatabase(GlueClient glueClient, String
databaseName) {
        try {
            GetDatabaseRequest databasesRequest = GetDatabaseRequest.builder()
                .name(databaseName)
                .build();
```

```
            GetDatabaseResponse response = glueClient.getDatabase(databasesRequest);
            Instant createDate = response.database().createTime();

            // Convert the Instant to readable date.
            DateTimeFormatter formatter =
DateTimeFormatter.ofLocalizedDateTime(FormatStyle.SHORT)
                .withLocale(Locale.US)
                .withZone(ZoneId.systemDefault());

            formatter.format(createDate);
            System.out.println("The create date of the database is " + createDate);

        } catch (GlueException e) {
            throw e;
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「GetDatabase」を参照してください。

`GetJobRuns`

次のコード例は、`GetJobRuns` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Retrieves the job runs for a given Glue job and prints the status of the job
runs.
     *
     * @param glueClient the Glue client used to make API calls
     * @param jobName    the name of the Glue job to retrieve the job runs for
     */
    public static void getJobRuns(GlueClient glueClient, String jobName) {
```

```
        try {
            GetJobRunsRequest runsRequest = GetJobRunsRequest.builder()
                .jobName(jobName)
                .maxResults(20)
                .build();

            boolean jobDone = false;
            while (!jobDone) {
                GetJobRunsResponse response = glueClient.getJobRuns(runsRequest);
                List<JobRun> jobRuns = response.jobRuns();
                for (JobRun jobRun : jobRuns) {
                    String jobState = jobRun.jobRunState().name();
                    if (jobState.compareTo("SUCCEEDED") == 0) {
                        System.out.println(jobName + " has succeeded");
                        jobDone = true;

                    } else if (jobState.compareTo("STOPPED") == 0) {
                        System.out.println("Job run has stopped");
                        jobDone = true;

                    } else if (jobState.compareTo("FAILED") == 0) {
                        System.out.println("Job run has failed");
                        jobDone = true;

                    } else if (jobState.compareTo("TIMEOUT") == 0) {
                        System.out.println("Job run has timed out");
                        jobDone = true;

                    } else {
                        System.out.println("*** Job run state is " +
jobRun.jobRunState().name());
                        System.out.println("Job run Id is " + jobRun.id());
                        System.out.println("The Glue version is " +
jobRun.glueVersion());
                    }
                    TimeUnit.SECONDS.sleep(5);
                }
            }

        } catch (GlueException e) {
            throw e;
        } catch (InterruptedException e) {
            throw new RuntimeException(e);
        }
```

```
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「GetJobRuns」を参照してください。

GetTables

次のコード例は、GetTables を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Retrieves the names of the tables in the specified Glue database.
    *
    * @param glueClient the Glue client to use for the operation
    * @param dbName     the name of the Glue database to retrieve the table names
from
    * @return the name of the first table retrieved, or an empty string if no
tables were found
    */
   public static String getGlueTables(GlueClient glueClient, String dbName) {
       String myTableName = "";
       try {
           GetTablesRequest tableRequest = GetTablesRequest.builder()
               .databaseName(dbName)
               .build();

           GetTablesResponse response = glueClient.getTables(tableRequest);
           List<Table> tables = response.tableList();
           if (tables.isEmpty()) {
               System.out.println("No tables were returned");
           } else {
               for (Table table : tables) {
```

```
                    myTableName = table.name();
                    System.out.println("Table name is: " + myTableName);
                }
            }

        } catch (GlueException e) {
            throw e;
        }
        return myTableName;
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「GetTables」を参照してください。

`StartCrawler`

次のコード例は、`StartCrawler` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Starts a specific AWS Glue crawler.
     *
     * @param glueClient  the AWS Glue client to use for the crawler operation
     * @param crawlerName the name of the crawler to start
     * @throws GlueException if there is an error starting the crawler
     */
    public static void startSpecificCrawler(GlueClient glueClient, String
crawlerName) {
        try {
            StartCrawlerRequest crawlerRequest = StartCrawlerRequest.builder()
                .name(crawlerName)
                .build();
```

```
            glueClient.startCrawler(crawlerRequest);
            System.out.println(crawlerName + " was successfully started!");

        } catch (GlueException e) {
            throw e;
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「StartCrawler」を参照してください。

`StartJobRun`

次のコード例は、`StartJobRun` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Starts a job run in AWS Glue.
     *
     * @param glueClient    the AWS Glue client to use for the job run
     * @param jobName       the name of the Glue job to run
     * @param inputDatabase the name of the input database
     * @param inputTable    the name of the input table
     * @param outBucket     the URL of the output S3 bucket
     * @throws GlueException if there is an error starting the job run
     */
    public static void startJob(GlueClient glueClient, String jobName, String
inputDatabase, String inputTable,
                                String outBucket) {
        try {
            Map<String, String> myMap = new HashMap<>();
            myMap.put("--input_database", inputDatabase);
```

```
            myMap.put("--input_table", inputTable);
            myMap.put("--output_bucket_url", outBucket);

            StartJobRunRequest runRequest = StartJobRunRequest.builder()
                .workerType(WorkerType.G_1_X)
                .numberOfWorkers(10)
                .arguments(myMap)
                .jobName(jobName)
                .build();

            StartJobRunResponse response = glueClient.startJobRun(runRequest);
            System.out.println("The request Id of the job is " +
response.responseMetadata().requestId());

        } catch (GlueException e) {
            throw e;
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「StartJobRun」を参照してください。

SDK for Java 2.x を使用した HealthImaging の例

次のコード例は、HealthImaging AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- アクション
- シナリオ

アクション

CopyImageSet

次のコード例は、CopyImageSet を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

```
   /**
    * Copy an AWS HealthImaging image set.
    *
    * @param medicalImagingClient  - The AWS HealthImaging client object.
    * @param datastoreId           - The datastore ID.
    * @param imageSetId            - The image set ID.
    * @param latestVersionId       - The version ID.
    * @param destinationImageSetId - The optional destination image set ID, ignored
if null.
    * @param destinationVersionId  - The optional destination version ID, ignored
if null.
    * @param force                 - The force flag.
    * @param subsets               - The optional subsets to copy, ignored if null.
    * @return                      - The image set ID of the copy.
    * @throws MedicalImagingException - Base exception for all service exceptions
thrown by AWS HealthImaging.
    */
   public static String copyMedicalImageSet(MedicalImagingClient
medicalImagingClient,
                                            String datastoreId,
                                            String imageSetId,
                                            String latestVersionId,
                                            String destinationImageSetId,
                                            String destinationVersionId,
                                            boolean force,
                                            Vector<String> subsets) {

       try {
           CopySourceImageSetInformation.Builder copySourceImageSetInformation =
CopySourceImageSetInformation.builder()
                   .latestVersionId(latestVersionId);

           // Optionally copy a subset of image instances.
           if (subsets != null) {
```

```
                String subsetInstanceToCopy = getCopiableAttributesJSON(imageSetId,
subsets);
                copySourceImageSetInformation.dicomCopies(MetadataCopies.builder()
                        .copiableAttributes(subsetInstanceToCopy)
                        .build());
            }

            CopyImageSetInformation.Builder copyImageSetBuilder =
CopyImageSetInformation.builder()
                    .sourceImageSet(copySourceImageSetInformation.build());

            // Optionally designate a destination image set.
            if (destinationImageSetId != null) {
                copyImageSetBuilder =
copyImageSetBuilder.destinationImageSet(CopyDestinationImageSet.builder()
                        .imageSetId(destinationImageSetId)
                        .latestVersionId(destinationVersionId)
                        .build());
            }

            CopyImageSetRequest copyImageSetRequest = CopyImageSetRequest.builder()
                    .datastoreId(datastoreId)
                    .sourceImageSetId(imageSetId)
                    .copyImageSetInformation(copyImageSetBuilder.build())
                    .force(force)
                    .build();

            CopyImageSetResponse response =
medicalImagingClient.copyImageSet(copyImageSetRequest);

            return response.destinationImageSetProperties().imageSetId();
        } catch (MedicalImagingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            throw e;
        }
    }
```

コピー可能な属性を作成するユーティリティ関数。

```
    /**
     * Create a JSON string of copiable image instances.
```

```
     *
     * @param imageSetId - The image set ID.
     * @param subsets    - The subsets to copy.
     * @return A JSON string of copiable image instances.
     */
    private static String getCopiableAttributesJSON(String imageSetId,
Vector<String> subsets) {
        StringBuilder subsetInstanceToCopy = new StringBuilder(
                """
                        {
                          "SchemaVersion": 1.1,
                          "Study": {
                            "Series": {
                                "
                                 """
        );

        subsetInstanceToCopy.append(imageSetId);

        subsetInstanceToCopy.append(
                """
                                ": {
                                "Instances": {
                        """
        );

        for (String subset : subsets) {
            subsetInstanceToCopy.append('"' + subset + "\": {},");
        }
        subsetInstanceToCopy.deleteCharAt(subsetInstanceToCopy.length() - 1);
        subsetInstanceToCopy.append("""
                          }
                        }
                      }
                    }
                }
                """);
        return subsetInstanceToCopy.toString();
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスのCopyImageSet」を参照してください。

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

`CreateDatastore`

次のコード例は、`CreateDatastore` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

```
   public static String createMedicalImageDatastore(MedicalImagingClient
medicalImagingClient,
           String datastoreName) {
       try {
           CreateDatastoreRequest datastoreRequest =
CreateDatastoreRequest.builder()
                   .datastoreName(datastoreName)
                   .build();
           CreateDatastoreResponse response =
medicalImagingClient.createDatastore(datastoreRequest);
           return response.datastoreId();
       } catch (MedicalImagingException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }

       return "";
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateDatastore」を参照してください。

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

DeleteDatastore

次のコード例は、DeleteDatastore を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

```
   public static void deleteMedicalImagingDatastore(MedicalImagingClient
medicalImagingClient,
           String datastoreID) {
       try {
           DeleteDatastoreRequest datastoreRequest =
DeleteDatastoreRequest.builder()
                   .datastoreId(datastoreID)
                   .build();
           medicalImagingClient.deleteDatastore(datastoreRequest);
       } catch (MedicalImagingException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteDatastore」を参照してください。

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

DeleteImageSet

次のコード例は、DeleteImageSet を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

```
   public static void deleteMedicalImageSet(MedicalImagingClient
medicalImagingClient,
           String datastoreId,
           String imagesetId) {
```

```
        try {
            DeleteImageSetRequest deleteImageSetRequest =
DeleteImageSetRequest.builder()
                    .datastoreId(datastoreId)
                    .imageSetId(imagesetId)
                    .build();

            medicalImagingClient.deleteImageSet(deleteImageSetRequest);

            System.out.println("The image set was deleted.");
        } catch (MedicalImagingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteImageSet」を参照してください。

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

`GetDICOMImportJob`

次のコード例は、`GetDICOMImportJob` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

```
    public static DICOMImportJobProperties getDicomImportJob(MedicalImagingClient
medicalImagingClient,
            String datastoreId,
            String jobId) {

        try {
            GetDicomImportJobRequest getDicomImportJobRequest =
GetDicomImportJobRequest.builder()
                    .datastoreId(datastoreId)
                    .jobId(jobId)
```

```
                    .build();
            GetDicomImportJobResponse response =
medicalImagingClient.getDICOMImportJob(getDicomImportJobRequest);
            return response.jobProperties();
        } catch (MedicalImagingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }

        return null;
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「GetDICOMImportJob」を参照してください。

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

`GetDatastore`

次のコード例は、`GetDatastore` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

```
    public static DatastoreProperties getMedicalImageDatastore(MedicalImagingClient
medicalImagingClient,
            String datastoreID) {
        try {
            GetDatastoreRequest datastoreRequest = GetDatastoreRequest.builder()
                    .datastoreId(datastoreID)
                    .build();
            GetDatastoreResponse response =
medicalImagingClient.getDatastore(datastoreRequest);
            return response.datastoreProperties();
        } catch (MedicalImagingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
```

```
        return null;
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「GetDatastore」を参照してください。

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

`GetImageFrame`

次のコード例は、`GetImageFrame` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

```
        public static void getMedicalImageSetFrame(MedicalImagingClient
medicalImagingClient,
                        String destinationPath,
                        String datastoreId,
                        String imagesetId,
                        String imageFrameId) {

                try {
                        GetImageFrameRequest getImageSetMetadataRequest =
GetImageFrameRequest.builder()
                                        .datastoreId(datastoreId)
                                        .imageSetId(imagesetId)

.imageFrameInformation(ImageFrameInformation.builder()
                                                        .imageFrameId(imageFrameId)
                                                        .build())
                                        .build();

medicalImagingClient.getImageFrame(getImageSetMetadataRequest,

FileSystems.getDefault().getPath(destinationPath));
```

```
                        System.out.println("Image frame downloaded to " +
destinationPath);
                } catch (MedicalImagingException e) {
                        System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
                        System.exit(1);
                }
        }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「GetImageFrame」を参照してください。

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

`GetImageSet`

次のコード例は、`GetImageSet` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

```
   public static GetImageSetResponse getMedicalImageSet(MedicalImagingClient
medicalImagingClient,
            String datastoreId,
            String imagesetId,
            String versionId) {
        try {
            GetImageSetRequest.Builder getImageSetRequestBuilder =
GetImageSetRequest.builder()
                    .datastoreId(datastoreId)
                    .imageSetId(imagesetId);

            if (versionId != null) {
                getImageSetRequestBuilder =
getImageSetRequestBuilder.versionId(versionId);
            }

            return
medicalImagingClient.getImageSet(getImageSetRequestBuilder.build());
```

```
        } catch (MedicalImagingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }

        return null;
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetImageSet」を参照してください。

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

`GetImageSetMetadata`

次のコード例は、`GetImageSetMetadata` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

```
   public static void getMedicalImageSetMetadata(MedicalImagingClient
medicalImagingClient,
            String destinationPath,
            String datastoreId,
            String imagesetId,
            String versionId) {

        try {
            GetImageSetMetadataRequest.Builder getImageSetMetadataRequestBuilder =
GetImageSetMetadataRequest.builder()
                    .datastoreId(datastoreId)
                    .imageSetId(imagesetId);

            if (versionId != null) {
                getImageSetMetadataRequestBuilder =
getImageSetMetadataRequestBuilder.versionId(versionId);
            }
```

```
medicalImagingClient.getImageSetMetadata(getImageSetMetadataRequestBuilder.build(),
                    FileSystems.getDefault().getPath(destinationPath));

            System.out.println("Metadata downloaded to " + destinationPath);
        } catch (MedicalImagingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「GetImageSetMetadata」を参照してください。

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

`ListDICOMImportJobs`

次のコード例は、`ListDICOMImportJobs` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

```
    public static List<DICOMImportJobSummary>
listDicomImportJobs(MedicalImagingClient medicalImagingClient,
            String datastoreId) {

        try {
            ListDicomImportJobsRequest listDicomImportJobsRequest =
ListDicomImportJobsRequest.builder()
                    .datastoreId(datastoreId)
                    .build();
            ListDicomImportJobsResponse response =
medicalImagingClient.listDICOMImportJobs(listDicomImportJobsRequest);
            return response.jobSummaries();
        } catch (MedicalImagingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
```

```
        }

        return new ArrayList<>();
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListDICOMImportJobs」を参照してください。

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

`ListDatastores`

次のコード例は、`ListDatastores` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

```
   public static List<DatastoreSummary>
listMedicalImagingDatastores(MedicalImagingClient medicalImagingClient) {
        try {
            ListDatastoresRequest datastoreRequest = ListDatastoresRequest.builder()
                    .build();
            ListDatastoresIterable responses =
medicalImagingClient.listDatastoresPaginator(datastoreRequest);
            List<DatastoreSummary> datastoreSummaries = new ArrayList<>();

            responses.stream().forEach(response ->
datastoreSummaries.addAll(response.datastoreSummaries()));

            return datastoreSummaries;
        } catch (MedicalImagingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }

        return null;
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListDatastores」を参照してください。

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

`ListImageSetVersions`

次のコード例は、`ListImageSetVersions` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

```
   public static List<ImageSetProperties>
listMedicalImageSetVersions(MedicalImagingClient medicalImagingClient,
           String datastoreId,
           String imagesetId) {
       try {
           ListImageSetVersionsRequest getImageSetRequest =
ListImageSetVersionsRequest.builder()
                   .datastoreId(datastoreId)
                   .imageSetId(imagesetId)
                   .build();

           ListImageSetVersionsIterable responses = medicalImagingClient
                   .listImageSetVersionsPaginator(getImageSetRequest);
           List<ImageSetProperties> imageSetProperties = new ArrayList<>();
           responses.stream().forEach(response ->
imageSetProperties.addAll(response.imageSetPropertiesList()));

           return imageSetProperties;
       } catch (MedicalImagingException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }

       return null;
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListImageSetVersions」を参照してください。

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

`ListTagsForResource`

次のコード例は、`ListTagsForResource` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

```
   public static ListTagsForResourceResponse
listMedicalImagingResourceTags(MedicalImagingClient medicalImagingClient,
           String resourceArn) {
       try {
           ListTagsForResourceRequest listTagsForResourceRequest =
ListTagsForResourceRequest.builder()
                   .resourceArn(resourceArn)
                   .build();

           return
medicalImagingClient.listTagsForResource(listTagsForResourceRequest);
       } catch (MedicalImagingException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }

       return null;
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListTagsForResource」を参照してください。

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

`SearchImageSets`

次のコード例は、`SearchImageSets` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

画像セットを検索するためのユーティリティ関数。

```
   public static List<ImageSetsMetadataSummary> searchMedicalImagingImageSets(
           MedicalImagingClient medicalImagingClient,
           String datastoreId, SearchCriteria searchCriteria) {
       try {
           SearchImageSetsRequest datastoreRequest =
SearchImageSetsRequest.builder()
                   .datastoreId(datastoreId)
                   .searchCriteria(searchCriteria)
                   .build();
           SearchImageSetsIterable responses = medicalImagingClient
                   .searchImageSetsPaginator(datastoreRequest);
           List<ImageSetsMetadataSummary> imageSetsMetadataSummaries = new
ArrayList<>();

           responses.stream().forEach(response -> imageSetsMetadataSummaries
                   .addAll(response.imageSetsMetadataSummaries()));

           return imageSetsMetadataSummaries;
       } catch (MedicalImagingException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }

       return null;
   }
```

ユースケース #1: EQUAL 演算子。

```
        List<SearchFilter> searchFilters =
Collections.singletonList(SearchFilter.builder()
                .operator(Operator.EQUAL)
                .values(SearchByAttributeValue.builder()
                        .dicomPatientId(patientId)
                        .build())
                .build());

        SearchCriteria searchCriteria = SearchCriteria.builder()
                .filters(searchFilters)
                .build();

        List<ImageSetsMetadataSummary> imageSetsMetadataSummaries =
searchMedicalImagingImageSets(
                medicalImagingClient,
                datastoreId, searchCriteria);
        if (imageSetsMetadataSummaries != null) {
            System.out.println("The image sets for patient " + patientId + " are:\n"
                    + imageSetsMetadataSummaries);
            System.out.println();
        }
```

ユースケース #2: DICOMStudyDate と DICOMStudyTime を使用する BETWEEN 演算子。

```
        DateTimeFormatter formatter = DateTimeFormatter.ofPattern("yyyyMMdd");
        searchFilters = Collections.singletonList(SearchFilter.builder()
                .operator(Operator.BETWEEN)
                .values(SearchByAttributeValue.builder()

.dicomStudyDateAndTime(DICOMStudyDateAndTime.builder()
                                        .dicomStudyDate("19990101")
                                        .dicomStudyTime("000000.000")
                                        .build())
                                .build(),
                        SearchByAttributeValue.builder()

.dicomStudyDateAndTime(DICOMStudyDateAndTime.builder()
                                        .dicomStudyDate((LocalDate.now()
                                                .format(formatter)))
                                        .dicomStudyTime("000000.000")
                                        .build())
                                .build())
```

```
                .build());

        searchCriteria = SearchCriteria.builder()
                .filters(searchFilters)
                .build();

        imageSetsMetadataSummaries =
searchMedicalImagingImageSets(medicalImagingClient,
                datastoreId, searchCriteria);
        if (imageSetsMetadataSummaries != null) {
            System.out.println(
                    "The image sets searched with BETWEEN operator using
DICOMStudyDate and DICOMStudyTime are:\n"
                            +
                            imageSetsMetadataSummaries);
            System.out.println();
        }
```

ユースケース #3: createdAt を使用する BETWEEN 演算子。タイムスタディは以前に永続化されています。

```
        searchFilters = Collections.singletonList(SearchFilter.builder()
                .operator(Operator.BETWEEN)
                .values(SearchByAttributeValue.builder()
                                .createdAt(Instant.parse("1985-04-12T23:20:50.52Z"))
                                .build(),
                        SearchByAttributeValue.builder()
                                .createdAt(Instant.now())
                                .build())
                .build());

        searchCriteria = SearchCriteria.builder()
                .filters(searchFilters)
                .build();
        imageSetsMetadataSummaries =
searchMedicalImagingImageSets(medicalImagingClient,
                datastoreId, searchCriteria);
        if (imageSetsMetadataSummaries != null) {
            System.out.println("The image sets searched with BETWEEN operator using
createdAt are:\n "
                    + imageSetsMetadataSummaries);
            System.out.println();
```

```
        }
```

ユースケース 4: DICOMSeriesInstanceUID で EQUAL 演算子を使用し、updatedAt で BETWEEN 演算子を使用して、updatedAt フィールドで ASC 順序にレスポンスをソートします。

```
        Instant startDate = Instant.parse("1985-04-12T23:20:50.52Z");
        Instant endDate = Instant.now();

        searchFilters = Arrays.asList(
                SearchFilter.builder()
                        .operator(Operator.EQUAL)
                        .values(SearchByAttributeValue.builder()
                                .dicomSeriesInstanceUID(seriesInstanceUID)
                                .build())
                        .build(),
                SearchFilter.builder()
                        .operator(Operator.BETWEEN)
                        .values(

SearchByAttributeValue.builder().updatedAt(startDate).build(),

SearchByAttributeValue.builder().updatedAt(endDate).build()
                        ).build());

        Sort sort =
Sort.builder().sortOrder(SortOrder.ASC).sortField(SortField.UPDATED_AT).build();

        searchCriteria = SearchCriteria.builder()
                .filters(searchFilters)
                .sort(sort)
                .build();

        imageSetsMetadataSummaries =
searchMedicalImagingImageSets(medicalImagingClient,
                datastoreId, searchCriteria);
        if (imageSetsMetadataSummaries != null) {
            System.out.println("The image sets searched with EQUAL operator on
DICOMSeriesInstanceUID and BETWEEN on updatedAt and sort response\n" +
                    "in ASC order on updatedAt field are:\n "
                    + imageSetsMetadataSummaries);
            System.out.println();
        }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「SearchImageSets」を参照してください。

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

`StartDICOMImportJob`

次のコード例は、`StartDICOMImportJob` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

```
   public static String startDicomImportJob(MedicalImagingClient
medicalImagingClient,
           String jobName,
           String datastoreId,
           String dataAccessRoleArn,
           String inputS3Uri,
           String outputS3Uri) {

       try {
           StartDicomImportJobRequest startDicomImportJobRequest =
StartDicomImportJobRequest.builder()
                   .jobName(jobName)
                   .datastoreId(datastoreId)
                   .dataAccessRoleArn(dataAccessRoleArn)
                   .inputS3Uri(inputS3Uri)
                   .outputS3Uri(outputS3Uri)
                   .build();
           StartDicomImportJobResponse response =
medicalImagingClient.startDICOMImportJob(startDicomImportJobRequest);
           return response.jobId();
       } catch (MedicalImagingException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
```

```
        return "";
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「StartDICOMImportJob」を参照してください。

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

`TagResource`

次のコード例は、`TagResource` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

```
   public static void tagMedicalImagingResource(MedicalImagingClient
medicalImagingClient,
           String resourceArn,
           Map<String, String> tags) {
       try {
           TagResourceRequest tagResourceRequest = TagResourceRequest.builder()
                   .resourceArn(resourceArn)
                   .tags(tags)
                   .build();

           medicalImagingClient.tagResource(tagResourceRequest);

           System.out.println("Tags have been added to the resource.");
       } catch (MedicalImagingException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「TagResource」を参照してください。

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

`UntagResource`

次のコード例は、`UntagResource` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

```
   public static void untagMedicalImagingResource(MedicalImagingClient
medicalImagingClient,
           String resourceArn,
           Collection<String> tagKeys) {
       try {
           UntagResourceRequest untagResourceRequest =
UntagResourceRequest.builder()
                   .resourceArn(resourceArn)
                   .tagKeys(tagKeys)
                   .build();

           medicalImagingClient.untagResource(untagResourceRequest);

           System.out.println("Tags have been removed from the resource.");
       } catch (MedicalImagingException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「UntagResource」を参照してください。

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

UpdateImageSetMetadata

次のコード例は、UpdateImageSetMetadata を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

```
   /**
    * Update the metadata of an AWS HealthImaging image set.
    *
    * @param medicalImagingClient - The AWS HealthImaging client object.
    * @param datastoreId          - The datastore ID.
    * @param imageSetId           - The image set ID.
    * @param versionId            - The version ID.
    * @param metadataUpdates      - A MetadataUpdates object containing the
updates.
    * @param force                - The force flag.
    * @throws MedicalImagingException - Base exception for all service exceptions
thrown by AWS HealthImaging.
    */
   public static void updateMedicalImageSetMetadata(MedicalImagingClient
medicalImagingClient,
                                                    String datastoreId,
                                                    String imageSetId,
                                                    String versionId,
                                                    MetadataUpdates
metadataUpdates,
                                                    boolean force) {
       try {
           UpdateImageSetMetadataRequest updateImageSetMetadataRequest =
UpdateImageSetMetadataRequest
                   .builder()
                   .datastoreId(datastoreId)
                   .imageSetId(imageSetId)
                   .latestVersionId(versionId)
                   .updateImageSetMetadataUpdates(metadataUpdates)
                   .force(force)
                   .build();

           UpdateImageSetMetadataResponse response =
medicalImagingClient.updateImageSetMetadata(updateImageSetMetadataRequest);

           System.out.println("The image set metadata was updated" + response);
       } catch (MedicalImagingException e) {
```

```
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            throw e;
        }
    }
```

ユースケース 1: 属性を挿入または更新します。

```
                final String insertAttributes = """
                        {
                          "SchemaVersion": 1.1,
                          "Study": {
                            "DICOM": {
                              "StudyDescription": "CT CHEST"
                            }
                          }
                        }
                        """;
                MetadataUpdates metadataInsertUpdates = MetadataUpdates.builder()
                        .dicomUpdates(DICOMUpdates.builder()
                                .updatableAttributes(SdkBytes.fromByteBuffer(
                                        ByteBuffer.wrap(insertAttributes
                                                .getBytes(StandardCharsets.UTF_8))))
                                .build())
                        .build();

                updateMedicalImageSetMetadata(medicalImagingClient, datastoreId,
imagesetId,
                        versionid, metadataInsertUpdates, force);
```

ユースケース 2: 属性を削除します。

```
                final String removeAttributes = """
                        {
                          "SchemaVersion": 1.1,
                          "Study": {
                            "DICOM": {
                              "StudyDescription": "CT CHEST"
                            }
                          }
                        }
                        """;
```

```
                MetadataUpdates metadataRemoveUpdates = MetadataUpdates.builder()
                        .dicomUpdates(DICOMUpdates.builder()
                                .removableAttributes(SdkBytes.fromByteBuffer(
                                        ByteBuffer.wrap(removeAttributes
                                                .getBytes(StandardCharsets.UTF_8))))
                                .build())
                        .build();

                updateMedicalImageSetMetadata(medicalImagingClient, datastoreId,
imagesetId,
                        versionid, metadataRemoveUpdates, force);
```

ユースケース 3: インスタンスを削除します。

```
                final String removeInstance = """
                        {
                          "SchemaVersion": 1.1,
                          "Study": {
                            "Series": {
                              "1.1.1.1.1.1.12345.123456789012.123.12345678901234.1":
{
                                "Instances": {

"1.1.1.1.1.1.12345.123456789012.123.12345678901234.1": {}
                                }
                              }
                            }
                          }
                        }
                        """;
                MetadataUpdates metadataRemoveUpdates = MetadataUpdates.builder()
                        .dicomUpdates(DICOMUpdates.builder()
                                .removableAttributes(SdkBytes.fromByteBuffer(
                                        ByteBuffer.wrap(removeInstance
                                                .getBytes(StandardCharsets.UTF_8))))
                                .build())
                        .build();

                updateMedicalImageSetMetadata(medicalImagingClient, datastoreId,
imagesetId,
                        versionid, metadataRemoveUpdates, force);
```

ユースケース 4: 以前のバージョンに戻します。

```
                // In this case, revert to previous version.
                String revertVersionId =
Integer.toString(Integer.parseInt(versionid) - 1);
                MetadataUpdates metadataRemoveUpdates = MetadataUpdates.builder()
                        .revertToVersionId(revertVersionId)
                        .build();
                updateMedicalImageSetMetadata(medicalImagingClient, datastoreId,
imagesetId,
                        versionid, metadataRemoveUpdates, force);
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「UpdateImageSetMetadata」を参照してください。

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

シナリオ

データストアにタグを付ける

次のコード例は、HealthImaging データストアにタグを付ける方法を示しています。

SDK for Java 2.x

データストアにタグを付けるには

```
                final String datastoreArn = "arn:aws:medical-imaging:us-
east-1:123456789012:datastore/12345678901234567890123456789012";

                TagResource.tagMedicalImagingResource(medicalImagingClient,
 datastoreArn,
                                ImmutableMap.of("Deployment", "Development"));
```

リソースにタグを付けるためのユーティリティ関数。

```
   public static void tagMedicalImagingResource(MedicalImagingClient
medicalImagingClient,
           String resourceArn,
           Map<String, String> tags) {
       try {
           TagResourceRequest tagResourceRequest = TagResourceRequest.builder()
                   .resourceArn(resourceArn)
                   .tags(tags)
                   .build();

           medicalImagingClient.tagResource(tagResourceRequest);

           System.out.println("Tags have been added to the resource.");
       } catch (MedicalImagingException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

データストアのタグを一覧表示します。

```
               final String datastoreArn = "arn:aws:medical-imaging:us-
east-1:123456789012:datastore/12345678901234567890123456789012";

               ListTagsForResourceResponse result =
ListTagsForResource.listMedicalImagingResourceTags(
                               medicalImagingClient,
                               datastoreArn);
               if (result != null) {
                       System.out.println("Tags for resource: " + result.tags());
               }
```

リソースのタグを一覧表示するユーティリティ関数。

```
   public static ListTagsForResourceResponse
listMedicalImagingResourceTags(MedicalImagingClient medicalImagingClient,
           String resourceArn) {
       try {
           ListTagsForResourceRequest listTagsForResourceRequest =
ListTagsForResourceRequest.builder()
```

```
                    .resourceArn(resourceArn)
                    .build();

            return
 medicalImagingClient.listTagsForResource(listTagsForResourceRequest);
        } catch (MedicalImagingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }

        return null;
    }
```

データストアのタグを解除するには

```
                final String datastoreArn = "arn:aws:medical-imaging:us-
east-1:123456789012:datastore/12345678901234567890123456789012";

                UntagResource.untagMedicalImagingResource(medicalImagingClient,
 datastoreArn,
                                Collections.singletonList("Deployment"));
```

リソースのタグを解除するユーティリティ関数。

```
    public static void untagMedicalImagingResource(MedicalImagingClient
 medicalImagingClient,
            String resourceArn,
            Collection<String> tagKeys) {
        try {
            UntagResourceRequest untagResourceRequest =
 UntagResourceRequest.builder()
                    .resourceArn(resourceArn)
                    .tagKeys(tagKeys)
                    .build();

            medicalImagingClient.untagResource(untagResourceRequest);

            System.out.println("Tags have been removed from the resource.");
        } catch (MedicalImagingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
```

```
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - ListTagsForResource
  - TagResource
  - UntagResource

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

イメージセットにタグを付ける

次のコード例は、HealthImaging イメージセットにタグを付ける方法を示しています。

SDK for Java 2.x

イメージセットにタグを付けるには

```
                final String imageSetArn = "arn:aws:medical-imaging:us-
east-1:123456789012:datastore/12345678901234567890123456789012/
imageset/12345678901234567890123456789012";

                TagResource.tagMedicalImagingResource(medicalImagingClient,
 imageSetArn,
                                ImmutableMap.of("Deployment", "Development"));
```

リソースにタグを付けるためのユーティリティ関数。

```
    public static void tagMedicalImagingResource(MedicalImagingClient
 medicalImagingClient,
            String resourceArn,
            Map<String, String> tags) {
        try {
```

```
            TagResourceRequest tagResourceRequest = TagResourceRequest.builder()
                    .resourceArn(resourceArn)
                    .tags(tags)
                    .build();

            medicalImagingClient.tagResource(tagResourceRequest);

            System.out.println("Tags have been added to the resource.");
        } catch (MedicalImagingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

イメージセットのタグを一覧表示します。

```
                final String imageSetArn = "arn:aws:medical-imaging:us-
east-1:123456789012:datastore/12345678901234567890123456789012/
imageset/12345678901234567890123456789012";

                ListTagsForResourceResponse result =
 ListTagsForResource.listMedicalImagingResourceTags(
                                medicalImagingClient,
                                imageSetArn);
                if (result != null) {
                        System.out.println("Tags for resource: " + result.tags());
                }
```

リソースのタグを一覧表示するユーティリティ関数。

```
    public static ListTagsForResourceResponse
 listMedicalImagingResourceTags(MedicalImagingClient medicalImagingClient,
            String resourceArn) {
        try {
            ListTagsForResourceRequest listTagsForResourceRequest =
 ListTagsForResourceRequest.builder()
                    .resourceArn(resourceArn)
                    .build();

            return
 medicalImagingClient.listTagsForResource(listTagsForResourceRequest);
```

```
        } catch (MedicalImagingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }

        return null;
    }
```

イメージセットのタグを解除します。

```
                final String imageSetArn = "arn:aws:medical-imaging:us-
east-1:123456789012:datastore/12345678901234567890123456789012/
imageset/12345678901234567890123456789012";

                UntagResource.untagMedicalImagingResource(medicalImagingClient,
 imageSetArn,
                                Collections.singletonList("Deployment"));
```

リソースのタグを解除するユーティリティ関数。

```
   public static void untagMedicalImagingResource(MedicalImagingClient
 medicalImagingClient,
            String resourceArn,
            Collection<String> tagKeys) {
        try {
            UntagResourceRequest untagResourceRequest =
 UntagResourceRequest.builder()
                    .resourceArn(resourceArn)
                    .tagKeys(tagKeys)
                    .build();

            medicalImagingClient.untagResource(untagResourceRequest);

            System.out.println("Tags have been removed from the resource.");
        } catch (MedicalImagingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - ListTagsForResource
  - TagResource
  - UntagResource

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

SDK for Java 2.x を使用した IAM の例

次のコード例は、IAM AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- はじめに
- 基本
- アクション
- シナリオ

はじめに

IAM へようこそ

次のコード例は、IAM の使用を開始する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.iam.IamClient;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.ListPoliciesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.Policy;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class HelloIAM {
    public static void main(String[] args) {
        Region region = Region.AWS_GLOBAL;
        IamClient iam = IamClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        listPolicies(iam);
    }

    public static void listPolicies(IamClient iam) {
        ListPoliciesResponse response = iam.listPolicies();
        List<Policy> polList = response.policies();
        polList.forEach(policy -> {
```

```
            System.out.println("Policy Name: " + policy.policyName());
        });
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListPolicies」を参照してください。

基本

基本を学ぶ

次のコード例は、ユーザーを作成してロールを割り当てる方法を示しています。

> **Warning**
>
> セキュリティリスクを避けるため、専用ソフトウェアを開発するときや実際のデータを扱うときは、IAM ユーザーを認証に使用しないでください。代わりに、AWS IAM アイデンティティセンター などの ID プロバイダーとのフェデレーションを使用してください。

- 権限のないユーザーを作成します。
- アカウントの Amazon S3 バケットを一覧表示する権限を付与するロールを作成します。
- ユーザーがロールを引き受けられるようにポリシーを追加します。
- ロールを引き受け、一時的な認証情報を使用して S3 バケットを一覧表示し、リソースをクリーンアップします。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

IAM ユーザーアクションをラップする関数を作成します。

```
/*
  To run this Java V2 code example, set up your development environment, including
 your credentials.

  For information, see this documentation topic:

  https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html

  This example performs these operations:

  1. Creates a user that has no permissions.
  2. Creates a role and policy that grants Amazon S3 permissions.
  3. Creates a role.
  4. Grants the user permissions.
  5. Gets temporary credentials by assuming the role.  Creates an Amazon S3 Service
 client object with the temporary credentials.
  6. Deletes the resources.
 */

public class IAMScenario {
    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");
    public static final String PolicyDocument = "{" +
            "  \"Version\": \"2012-10-17\"," +
            "  \"Statement\": [" +
            "    {" +
            "        \"Effect\": \"Allow\"," +
            "        \"Action\": [" +
            "            \"s3:*\"" +
            "       ]," +
            "       \"Resource\": \"*\"" +
            "    }" +
            "   ]" +
            "}";

    public static String userArn;

    public static void main(String[] args) throws Exception {

        final String usage = """

                Usage:
                    <username> <policyName> <roleName> <roleSessionName>
 <bucketName>\s
```

```
                Where:
                    username - The name of the IAM user to create.\s
                    policyName - The name of the policy to create.\s
                    roleName - The name of the role to create.\s
                    roleSessionName - The name of the session required for the
assumeRole operation.\s
                    bucketName - The name of the Amazon S3 bucket from which objects
are read.\s
                """;

        if (args.length != 5) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String userName = args[0];
        String policyName = args[1];
        String roleName = args[2];
        String roleSessionName = args[3];
        String bucketName = args[4];

        Region region = Region.AWS_GLOBAL;
        IamClient iam = IamClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("Welcome to the AWS IAM example scenario.");
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println(" 1. Create the IAM user.");
        User createUser = createIAMUser(iam, userName);

        System.out.println(DASHES);
        userArn = createUser.arn();

        AccessKey myKey = createIAMAccessKey(iam, userName);
        String accessKey = myKey.accessKeyId();
        String secretKey = myKey.secretAccessKey();
        String assumeRolePolicyDocument = "{" +
                "\"Version\": \"2012-10-17\"," +
                "\"Statement\": [{" +
```

```
                "\"Effect\": \"Allow\"," +
                "\"Principal\": {" +
                " \"AWS\": \"" + userArn + "\"" +
                "}," +
                "\"Action\": \"sts:AssumeRole\"" +
                "}]" +
                "}";

        System.out.println(assumeRolePolicyDocument);
        System.out.println(userName + " was successfully created.");
        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("2. Creates a policy.");
        String polArn = createIAMPolicy(iam, policyName);
        System.out.println("The policy " + polArn + " was successfully created.");
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("3. Creates a role.");
        TimeUnit.SECONDS.sleep(30);
        String roleArn = createIAMRole(iam, roleName, assumeRolePolicyDocument);
        System.out.println(roleArn + " was successfully created.");
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("4. Grants the user permissions.");
        attachIAMRolePolicy(iam, roleName, polArn);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("*** Wait for 30 secs so the resource is available");
        TimeUnit.SECONDS.sleep(30);
        System.out.println("5. Gets temporary credentials by assuming the role.");
        System.out.println("Perform an Amazon S3 Service operation using the
temporary credentials.");
        assumeRole(roleArn, roleSessionName, bucketName, accessKey, secretKey);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("6 Getting ready to delete the AWS resources");
        deleteKey(iam, userName, accessKey);
        deleteRole(iam, roleName, polArn);
        deleteIAMUser(iam, userName);
        System.out.println(DASHES);
```

```
        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("This IAM Scenario has successfully completed");
        System.out.println(DASHES);
    }

    public static AccessKey createIAMAccessKey(IamClient iam, String user) {
        try {
            CreateAccessKeyRequest request = CreateAccessKeyRequest.builder()
                    .userName(user)
                    .build();

            CreateAccessKeyResponse response = iam.createAccessKey(request);
            return response.accessKey();

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return null;
    }

    public static User createIAMUser(IamClient iam, String username) {
        try {
            // Create an IamWaiter object
            IamWaiter iamWaiter = iam.waiter();
            CreateUserRequest request = CreateUserRequest.builder()
                    .userName(username)
                    .build();

            // Wait until the user is created.
            CreateUserResponse response = iam.createUser(request);
            GetUserRequest userRequest = GetUserRequest.builder()
                    .userName(response.user().userName())
                    .build();

            WaiterResponse<GetUserResponse> waitUntilUserExists =
iamWaiter.waitUntilUserExists(userRequest);
            waitUntilUserExists.matched().response().ifPresent(System.out::println);
            return response.user();

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
```

```
        return null;
    }

    public static String createIAMRole(IamClient iam, String rolename, String json)
{

        try {
            CreateRoleRequest request = CreateRoleRequest.builder()
                    .roleName(rolename)
                    .assumeRolePolicyDocument(json)
                    .description("Created using the AWS SDK for Java")
                    .build();

            CreateRoleResponse response = iam.createRole(request);
            System.out.println("The ARN of the role is " + response.role().arn());
            return response.role().arn();

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }

    public static String createIAMPolicy(IamClient iam, String policyName) {
        try {
            // Create an IamWaiter object.
            IamWaiter iamWaiter = iam.waiter();
            CreatePolicyRequest request = CreatePolicyRequest.builder()
                    .policyName(policyName)
                    .policyDocument(PolicyDocument).build();

            CreatePolicyResponse response = iam.createPolicy(request);
            GetPolicyRequest polRequest = GetPolicyRequest.builder()
                    .policyArn(response.policy().arn())
                    .build();

            WaiterResponse<GetPolicyResponse> waitUntilPolicyExists =
iamWaiter.waitUntilPolicyExists(polRequest);

waitUntilPolicyExists.matched().response().ifPresent(System.out::println);
            return response.policy().arn();

        } catch (IamException e) {
```

```
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }

    public static void attachIAMRolePolicy(IamClient iam, String roleName, String
policyArn) {
        try {
            ListAttachedRolePoliciesRequest request =
ListAttachedRolePoliciesRequest.builder()
                    .roleName(roleName)
                    .build();

            ListAttachedRolePoliciesResponse response =
iam.listAttachedRolePolicies(request);
            List<AttachedPolicy> attachedPolicies = response.attachedPolicies();
            String polArn;
            for (AttachedPolicy policy : attachedPolicies) {
                polArn = policy.policyArn();
                if (polArn.compareTo(policyArn) == 0) {
                    System.out.println(roleName + " policy is already attached to
this role.");
                    return;
                }
            }

            AttachRolePolicyRequest attachRequest =
AttachRolePolicyRequest.builder()
                    .roleName(roleName)
                    .policyArn(policyArn)
                    .build();

            iam.attachRolePolicy(attachRequest);
            System.out.println("Successfully attached policy " + policyArn + " to
role " + roleName);

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    // Invoke an Amazon S3 operation using the Assumed Role.
```

```
   public static void assumeRole(String roleArn, String roleSessionName, String
bucketName, String keyVal,
           String keySecret) {

       // Use the creds of the new IAM user that was created in this code example.
       AwsBasicCredentials credentials = AwsBasicCredentials.create(keyVal,
keySecret);
       StsClient stsClient = StsClient.builder()
               .region(Region.US_EAST_1)
               .credentialsProvider(StaticCredentialsProvider.create(credentials))
               .build();

       try {
           AssumeRoleRequest roleRequest = AssumeRoleRequest.builder()
                   .roleArn(roleArn)
                   .roleSessionName(roleSessionName)
                   .build();

           AssumeRoleResponse roleResponse = stsClient.assumeRole(roleRequest);
           Credentials myCreds = roleResponse.credentials();
           String key = myCreds.accessKeyId();
           String secKey = myCreds.secretAccessKey();
           String secToken = myCreds.sessionToken();

           // List all objects in an Amazon S3 bucket using the temp creds
retrieved by
           // invoking assumeRole.
           Region region = Region.US_EAST_1;
           S3Client s3 = S3Client.builder()
                   .credentialsProvider(

StaticCredentialsProvider.create(AwsSessionCredentials.create(key, secKey,
secToken)))
                   .region(region)
                   .build();

           System.out.println("Created a S3Client using temp credentials.");
           System.out.println("Listing objects in " + bucketName);
           ListObjectsRequest listObjects = ListObjectsRequest.builder()
                   .bucket(bucketName)
                   .build();

           ListObjectsResponse res = s3.listObjects(listObjects);
           List<S3Object> objects = res.contents();
```

```
            for (S3Object myValue : objects) {
                System.out.println("The name of the key is " + myValue.key());
                System.out.println("The owner is " + myValue.owner());
            }

        } catch (StsException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void deleteRole(IamClient iam, String roleName, String polArn) {

        try {
            // First the policy needs to be detached.
            DetachRolePolicyRequest rolePolicyRequest =
DetachRolePolicyRequest.builder()
                    .policyArn(polArn)
                    .roleName(roleName)
                    .build();

            iam.detachRolePolicy(rolePolicyRequest);

            // Delete the policy.
            DeletePolicyRequest request = DeletePolicyRequest.builder()
                    .policyArn(polArn)
                    .build();

            iam.deletePolicy(request);
            System.out.println("*** Successfully deleted " + polArn);

            // Delete the role.
            DeleteRoleRequest roleRequest = DeleteRoleRequest.builder()
                    .roleName(roleName)
                    .build();

            iam.deleteRole(roleRequest);
            System.out.println("*** Successfully deleted " + roleName);

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

```
    public static void deleteKey(IamClient iam, String username, String accessKey) {
        try {
            DeleteAccessKeyRequest request = DeleteAccessKeyRequest.builder()
                    .accessKeyId(accessKey)
                    .userName(username)
                    .build();

            iam.deleteAccessKey(request);
            System.out.println("Successfully deleted access key " + accessKey +
                    " from user " + username);

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void deleteIAMUser(IamClient iam, String userName) {
        try {
            DeleteUserRequest request = DeleteUserRequest.builder()
                    .userName(userName)
                    .build();

            iam.deleteUser(request);
            System.out.println("*** Successfully deleted " + userName);

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - AttachRolePolicy
  - CreateAccessKey
  - CreatePolicy
  - CreateRole

- CreateUser
- DeleteAccessKey
- DeletePolicy
- DeleteRole
- DeleteUser
- DeleteUserPolicy
- DetachRolePolicy
- PutUserPolicy

アクション

`AttachRolePolicy`

次のコード例は、`AttachRolePolicy` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.iam.IamClient;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.IamException;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.AttachRolePolicyRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.AttachedPolicy;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.ListAttachedRolePoliciesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.ListAttachedRolePoliciesResponse;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
```

```
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class AttachRolePolicy {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <roleName> <policyArn>\s

                Where:
                    roleName - A role name that you can obtain from the AWS
 Management Console.\s
                    policyArn - A policy ARN that you can obtain from the AWS
 Management Console.\s
                """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String roleName = args[0];
        String policyArn = args[1];

        Region region = Region.AWS_GLOBAL;
        IamClient iam = IamClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        attachIAMRolePolicy(iam, roleName, policyArn);
        iam.close();
    }

    public static void attachIAMRolePolicy(IamClient iam, String roleName, String
 policyArn) {
        try {
            ListAttachedRolePoliciesRequest request =
 ListAttachedRolePoliciesRequest.builder()
                    .roleName(roleName)
                    .build();

            ListAttachedRolePoliciesResponse response =
 iam.listAttachedRolePolicies(request);
            List<AttachedPolicy> attachedPolicies = response.attachedPolicies();
```

```
            // Ensure that the policy is not attached to this role
            String polArn = "";
            for (AttachedPolicy policy : attachedPolicies) {
                polArn = policy.policyArn();
                if (polArn.compareTo(policyArn) == 0) {
                    System.out.println(roleName + " policy is already attached to
 this role.");
                    return;
                }
            }

            AttachRolePolicyRequest attachRequest =
 AttachRolePolicyRequest.builder()
                    .roleName(roleName)
                    .policyArn(policyArn)
                    .build();

            iam.attachRolePolicy(attachRequest);

            System.out.println("Successfully attached policy " + policyArn +
                    " to role " + roleName);

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        System.out.println("Done");
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「AttachRolePolicy」を参照してください。

CreateAccessKey

次のコード例は、CreateAccessKey を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.CreateAccessKeyRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.CreateAccessKeyResponse;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.iam.IamClient;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.IamException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class CreateAccessKey {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                   <user>\s

                Where:
                   user - An AWS IAM user that you can obtain from the AWS
 Management Console.
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String user = args[0];
        Region region = Region.AWS_GLOBAL;
        IamClient iam = IamClient.builder()
```

```
                .region(region)
                .build();

        String keyId = createIAMAccessKey(iam, user);
        System.out.println("The Key Id is " + keyId);
        iam.close();
    }

    public static String createIAMAccessKey(IamClient iam, String user) {
        try {
            CreateAccessKeyRequest request = CreateAccessKeyRequest.builder()
                    .userName(user)
                    .build();

            CreateAccessKeyResponse response = iam.createAccessKey(request);
            return response.accessKey().accessKeyId();

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateAccessKey」を参照してください。

`CreateAccountAlias`

次のコード例は、`CreateAccountAlias` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.CreateAccountAliasRequest;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.iam.IamClient;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.IamException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class CreateAccountAlias {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """
                Usage:
                    <alias>\s

                Where:
                    alias - The account alias to create (for example, myawsaccount).
\s
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String alias = args[0];
        Region region = Region.AWS_GLOBAL;
        IamClient iam = IamClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        createIAMAccountAlias(iam, alias);
        iam.close();
        System.out.println("Done");
    }

    public static void createIAMAccountAlias(IamClient iam, String alias) {
        try {
            CreateAccountAliasRequest request = CreateAccountAliasRequest.builder()
```

```
                    .accountAlias(alias)
                    .build();

            iam.createAccountAlias(request);
            System.out.println("Successfully created account alias: " + alias);

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateAccountAlias」を参照してください。

`CreatePolicy`

次のコード例は、`CreatePolicy` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.core.waiters.WaiterResponse;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.CreatePolicyRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.CreatePolicyResponse;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.GetPolicyRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.GetPolicyResponse;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.IamException;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.iam.IamClient;
import software.amazon.awssdk.services.iam.waiters.IamWaiter;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
```

```
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class CreatePolicy {

    public static final String PolicyDocument = "{" +
            "  \"Version\": \"2012-10-17\"," +
            "  \"Statement\": [" +
            "    {" +
            "        \"Effect\": \"Allow\"," +
            "        \"Action\": [" +
            "            \"dynamodb:DeleteItem\"," +
            "            \"dynamodb:GetItem\"," +
            "            \"dynamodb:PutItem\"," +
            "            \"dynamodb:Scan\"," +
            "            \"dynamodb:UpdateItem\"" +
            "       ]," +
            "       \"Resource\": \"*\"" +
            "    }" +
            "   ]" +
            "}";

    public static void main(String[] args) {

        final String usage = """
                Usage:
                    CreatePolicy <policyName>\s

                Where:
                    policyName - A unique policy name.\s
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String policyName = args[0];
        Region region = Region.AWS_GLOBAL;
        IamClient iam = IamClient.builder()
                .region(region)
```

```
                .build();

        String result = createIAMPolicy(iam, policyName);
        System.out.println("Successfully created a policy with this ARN value: " +
 result);
        iam.close();
    }

    public static String createIAMPolicy(IamClient iam, String policyName) {
        try {
            // Create an IamWaiter object.
            IamWaiter iamWaiter = iam.waiter();

            CreatePolicyRequest request = CreatePolicyRequest.builder()
                    .policyName(policyName)
                    .policyDocument(PolicyDocument)
                    .build();

            CreatePolicyResponse response = iam.createPolicy(request);

            // Wait until the policy is created.
            GetPolicyRequest polRequest = GetPolicyRequest.builder()
                    .policyArn(response.policy().arn())
                    .build();

            WaiterResponse<GetPolicyResponse> waitUntilPolicyExists =
 iamWaiter.waitUntilPolicyExists(polRequest);

 waitUntilPolicyExists.matched().response().ifPresent(System.out::println);
            return response.policy().arn();

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreatePolicy」を参照してください。

CreateRole

次のコード例は、CreateRole を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import org.json.simple.JSONObject;
import org.json.simple.parser.JSONParser;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.CreateRoleRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.CreateRoleResponse;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.IamException;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.iam.IamClient;
import java.io.FileReader;

/*
*   This example requires a trust policy document. For more information, see:
*   https://aws.amazon.com/blogs/security/how-to-use-trust-policies-with-iam-roles/
*
*
*  In addition, set up your development environment, including your credentials.
*
*  For information, see this documentation topic:
*
*  https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */

public class CreateRole {
    public static void main(String[] args) throws Exception {
        final String usage = """
                Usage:
                    <rolename> <fileLocation>\s

                Where:
                    rolename - The name of the role to create.\s
                    fileLocation - The location of the JSON document that represents
 the trust policy.\s
```

```
                """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String rolename = args[0];
        String fileLocation = args[1];
        Region region = Region.AWS_GLOBAL;
        IamClient iam = IamClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        String result = createIAMRole(iam, rolename, fileLocation);
        System.out.println("Successfully created user: " + result);
        iam.close();
    }

    public static String createIAMRole(IamClient iam, String rolename, String
fileLocation) throws Exception {
        try {
            JSONObject jsonObject = (JSONObject) readJsonSimpleDemo(fileLocation);
            CreateRoleRequest request = CreateRoleRequest.builder()
                    .roleName(rolename)
                    .assumeRolePolicyDocument(jsonObject.toJSONString())
                    .description("Created using the AWS SDK for Java")
                    .build();

            CreateRoleResponse response = iam.createRole(request);
            System.out.println("The ARN of the role is " + response.role().arn());

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }

    public static Object readJsonSimpleDemo(String filename) throws Exception {
        FileReader reader = new FileReader(filename);
        JSONParser jsonParser = new JSONParser();
        return jsonParser.parse(reader);
    }
```

```
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateRole」を参照してください。

`CreateUser`

次のコード例は、`CreateUser` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.core.waiters.WaiterResponse;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.CreateUserRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.CreateUserResponse;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.IamException;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.iam.IamClient;
import software.amazon.awssdk.services.iam.waiters.IamWaiter;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.GetUserRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.GetUserResponse;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class CreateUser {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
```

```
                    <username>\s

                Where:
                    username - The name of the user to create.\s
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String username = args[0];
        Region region = Region.AWS_GLOBAL;
        IamClient iam = IamClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        String result = createIAMUser(iam, username);
        System.out.println("Successfully created user: " + result);
        iam.close();
    }

    public static String createIAMUser(IamClient iam, String username) {
        try {
            // Create an IamWaiter object.
            IamWaiter iamWaiter = iam.waiter();

            CreateUserRequest request = CreateUserRequest.builder()
                    .userName(username)
                    .build();

            CreateUserResponse response = iam.createUser(request);

            // Wait until the user is created.
            GetUserRequest userRequest = GetUserRequest.builder()
                    .userName(response.user().userName())
                    .build();

            WaiterResponse<GetUserResponse> waitUntilUserExists =
iamWaiter.waitUntilUserExists(userRequest);
            waitUntilUserExists.matched().response().ifPresent(System.out::println);
            return response.user().userName();

        } catch (IamException e) {
```

```
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateUser」を参照してください。

`DeleteAccessKey`

次のコード例は、`DeleteAccessKey` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.iam.IamClient;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.DeleteAccessKeyRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.IamException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DeleteAccessKey {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
```

```
                    <username> <accessKey>\s

                Where:
                    username - The name of the user.\s
                    accessKey - The access key ID for the secret access key you want
 to delete.\s
                """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String username = args[0];
        String accessKey = args[1];
        Region region = Region.AWS_GLOBAL;
        IamClient iam = IamClient.builder()
                .region(region)
                .build();
        deleteKey(iam, username, accessKey);
        iam.close();
    }

    public static void deleteKey(IamClient iam, String username, String accessKey) {
        try {
            DeleteAccessKeyRequest request = DeleteAccessKeyRequest.builder()
                    .accessKeyId(accessKey)
                    .userName(username)
                    .build();

            iam.deleteAccessKey(request);
            System.out.println("Successfully deleted access key " + accessKey +
                    " from user " + username);

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteAccessKey」を参照してください。

`DeleteAccountAlias`

次のコード例は、`DeleteAccountAlias` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.DeleteAccountAliasRequest;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.iam.IamClient;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.IamException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DeleteAccountAlias {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <alias>\s

                Where:
                    alias - The account alias to delete.\s
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
```

```
        }

        String alias = args[0];
        Region region = Region.AWS_GLOBAL;
        IamClient iam = IamClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        deleteIAMAccountAlias(iam, alias);
        iam.close();
    }

    public static void deleteIAMAccountAlias(IamClient iam, String alias) {
        try {
            DeleteAccountAliasRequest request = DeleteAccountAliasRequest.builder()
                    .accountAlias(alias)
                    .build();

            iam.deleteAccountAlias(request);
            System.out.println("Successfully deleted account alias " + alias);

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        System.out.println("Done");
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteAccountAlias」を参照してください。

DeletePolicy

次のコード例は、DeletePolicy を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.DeletePolicyRequest;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.iam.IamClient;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.IamException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DeletePolicy {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <policyARN>\s

                Where:
                    policyARN - A policy ARN value to delete.\s
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String policyARN = args[0];
        Region region = Region.AWS_GLOBAL;
        IamClient iam = IamClient.builder()
                .region(region)
                .build();
```

```
        deleteIAMPolicy(iam, policyARN);
        iam.close();
    }

    public static void deleteIAMPolicy(IamClient iam, String policyARN) {
        try {
            DeletePolicyRequest request = DeletePolicyRequest.builder()
                    .policyArn(policyARN)
                    .build();

            iam.deletePolicy(request);
            System.out.println("Successfully deleted the policy");

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        System.out.println("Done");
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeletePolicy」を参照してください。

`DeleteUser`

次のコード例は、`DeleteUser` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.iam.IamClient;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.DeleteUserRequest;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.IamException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DeleteUser {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <userName>\s

                Where:
                    userName - The name of the user to delete.\s
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String userName = args[0];
        Region region = Region.AWS_GLOBAL;
        IamClient iam = IamClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        deleteIAMUser(iam, userName);
        System.out.println("Done");
        iam.close();
    }

    public static void deleteIAMUser(IamClient iam, String userName) {
        try {
            DeleteUserRequest request = DeleteUserRequest.builder()
                    .userName(userName)
                    .build();

            iam.deleteUser(request);
```

```
            System.out.println("Successfully deleted IAM user " + userName);

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteUser」を参照してください。

`DetachRolePolicy`

次のコード例は、`DetachRolePolicy` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.DetachRolePolicyRequest;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.iam.IamClient;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.IamException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DetachRolePolicy {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """
```

```
                Usage:
                    <roleName> <policyArn>\s

                Where:
                    roleName - A role name that you can obtain from the AWS
Management Console.\s
                    policyArn - A policy ARN that you can obtain from the AWS
Management Console.\s
                """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String roleName = args[0];
        String policyArn = args[1];
        Region region = Region.AWS_GLOBAL;
        IamClient iam = IamClient.builder()
                .region(region)
                .build();
        detachPolicy(iam, roleName, policyArn);
        System.out.println("Done");
        iam.close();
    }

    public static void detachPolicy(IamClient iam, String roleName, String
policyArn) {
        try {
            DetachRolePolicyRequest request = DetachRolePolicyRequest.builder()
                    .roleName(roleName)
                    .policyArn(policyArn)
                    .build();

            iam.detachRolePolicy(request);
            System.out.println("Successfully detached policy " + policyArn +
                    " from role " + roleName);

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

```
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DetachRolePolicy」を参照してください。

`ListAccessKeys`

次のコード例は、`ListAccessKeys` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.AccessKeyMetadata;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.IamException;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.ListAccessKeysRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.ListAccessKeysResponse;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.iam.IamClient;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ListAccessKeys {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <userName>\s

                Where:
```

```
                    userName - The name of the user for which access keys are
retrieved.\s
                """";

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String userName = args[0];
        Region region = Region.AWS_GLOBAL;
        IamClient iam = IamClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        listKeys(iam, userName);
        System.out.println("Done");
        iam.close();
    }

    public static void listKeys(IamClient iam, String userName) {
        try {
            boolean done = false;
            String newMarker = null;

            while (!done) {
                ListAccessKeysResponse response;

                if (newMarker == null) {
                    ListAccessKeysRequest request = ListAccessKeysRequest.builder()
                            .userName(userName)
                            .build();

                    response = iam.listAccessKeys(request);

                } else {
                    ListAccessKeysRequest request = ListAccessKeysRequest.builder()
                            .userName(userName)
                            .marker(newMarker)
                            .build();

                    response = iam.listAccessKeys(request);
                }
```

```
                for (AccessKeyMetadata metadata : response.accessKeyMetadata()) {
                    System.out.format("Retrieved access key %s",
 metadata.accessKeyId());
                }

                if (!response.isTruncated()) {
                    done = true;
                } else {
                    newMarker = response.marker();
                }
            }

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListAccessKeys」を参照してください。

`ListAccountAliases`

次のコード例は、`ListAccountAliases` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.IamException;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.ListAccountAliasesResponse;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.iam.IamClient;

/**
```

```
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ListAccountAliases {
    public static void main(String[] args) {
        Region region = Region.AWS_GLOBAL;
        IamClient iam = IamClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        listAliases(iam);
        System.out.println("Done");
        iam.close();
    }

    public static void listAliases(IamClient iam) {
        try {
            ListAccountAliasesResponse response = iam.listAccountAliases();
            for (String alias : response.accountAliases()) {
                System.out.printf("Retrieved account alias %s", alias);
            }

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListAccountAliases」を参照してください。

`ListUsers`

次のコード例は、`ListUsers` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.AttachedPermissionsBoundary;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.IamException;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.ListUsersRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.ListUsersResponse;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.iam.IamClient;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.User;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ListUsers {
    public static void main(String[] args) {
        Region region = Region.AWS_GLOBAL;
        IamClient iam = IamClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        listAllUsers(iam);
        System.out.println("Done");
        iam.close();
    }

    public static void listAllUsers(IamClient iam) {
        try {
            boolean done = false;
            String newMarker = null;
            while (!done) {
                ListUsersResponse response;
```

```
                if (newMarker == null) {
                    ListUsersRequest request = ListUsersRequest.builder().build();
                    response = iam.listUsers(request);
                } else {
                    ListUsersRequest request = ListUsersRequest.builder()
                            .marker(newMarker)
                            .build();

                    response = iam.listUsers(request);
                }

                for (User user : response.users()) {
                    System.out.format("\n Retrieved user %s", user.userName());
                    AttachedPermissionsBoundary permissionsBoundary =
 user.permissionsBoundary();
                    if (permissionsBoundary != null)
                        System.out.format("\n Permissions boundary details %s",

 permissionsBoundary.permissionsBoundaryTypeAsString());
                }

                if (!response.isTruncated()) {
                    done = true;
                } else {
                    newMarker = response.marker();
                }
            }

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListUsers」を参照してください。

UpdateAccessKey

次のコード例は、UpdateAccessKey を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.IamException;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.StatusType;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.UpdateAccessKeyRequest;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.iam.IamClient;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class UpdateAccessKey {

    private static StatusType statusType;

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <username> <accessId> <status>\s

                Where:
                    username - The name of the user whose key you want to update.\s
                    accessId - The access key ID of the secret access key you want
 to update.\s
                    status - The status you want to assign to the secret access key.
\s
                """;

        if (args.length != 3) {
            System.out.println(usage);
```

```
            System.exit(1);
        }

        String username = args[0];
        String accessId = args[1];
        String status = args[2];
        Region region = Region.AWS_GLOBAL;
        IamClient iam = IamClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        updateKey(iam, username, accessId, status);
        System.out.println("Done");
        iam.close();
    }

    public static void updateKey(IamClient iam, String username, String accessId,
 String status) {
        try {
            if (status.toLowerCase().equalsIgnoreCase("active")) {
                statusType = StatusType.ACTIVE;
            } else if (status.toLowerCase().equalsIgnoreCase("inactive")) {
                statusType = StatusType.INACTIVE;
            } else {
                statusType = StatusType.UNKNOWN_TO_SDK_VERSION;
            }

            UpdateAccessKeyRequest request = UpdateAccessKeyRequest.builder()
                    .accessKeyId(accessId)
                    .userName(username)
                    .status(statusType)
                    .build();

            iam.updateAccessKey(request);
            System.out.printf("Successfully updated the status of access key %s to"
 +
                    "status %s for user %s", accessId, status, username);

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「UpdateAccessKey」を参照してください。

`UpdateUser`

次のコード例は、`UpdateUser` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.iam.IamClient;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.IamException;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.UpdateUserRequest;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class UpdateUser {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <curName> <newName>\s

                Where:
                    curName - The current user name.\s
                    newName - An updated user name.\s
                """;
```

```
        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String curName = args[0];
        String newName = args[1];
        Region region = Region.AWS_GLOBAL;
        IamClient iam = IamClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        updateIAMUser(iam, curName, newName);
        System.out.println("Done");
        iam.close();
    }

    public static void updateIAMUser(IamClient iam, String curName, String newName)
 {
        try {
            UpdateUserRequest request = UpdateUserRequest.builder()
                    .userName(curName)
                    .newUserName(newName)
                    .build();

            iam.updateUser(request);
            System.out.printf("Successfully updated user to username %s", newName);

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「UpdateUser」を参照してください。

シナリオ

レジリエントなサービスの構築と管理

次のコード例は、本、映画、曲のレコメンデーションを返す負荷分散型ウェブサービスの作成方法を示しています。この例は、障害に対するサービスの対応方法と、障害発生時の耐障害性を高めるためにサービスを再構築する方法を示しています。

- Amazon EC2 Auto Scaling グループを使用して、起動テンプレートに基づいて Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスを作成し、インスタンス数を所定の範囲内に維持します。
- Elastic Load Balancing で HTTP リクエストを処理して配信します。
- Auto Scaling グループ内のインスタンスの状態を監視し、正常なインスタンスにのみリクエストを転送します。
- 各 EC2 インスタンスで Python ウェブサーバーを実行して HTTP リクエストを処理します。ウェブサーバーはレコメンデーションとヘルスチェックを返します。
- Amazon DynamoDB テーブルを使用してレコメンデーションサービスをシミュレートできます。
- AWS Systems Manager パラメータを更新して、リクエストとヘルスチェックに対するウェブサーバーの応答を制御します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

コマンドプロンプトからインタラクティブなシナリオを実行します。

```
public class Main {

    public static final String fileName = "C:\\AWS\\resworkflow\
\recommendations.json"; // Modify file location.
    public static final String tableName = "doc-example-recommendation-service";
    public static final String startScript = "C:\\AWS\\resworkflow\
\server_startup_script.sh"; // Modify file location.
```

```
    public static final String policyFile = "C:\\AWS\\resworkflow\
\instance_policy.json"; // Modify file location.
    public static final String ssmJSON = "C:\\AWS\\resworkflow\
\ssm_only_policy.json"; // Modify file location.
    public static final String failureResponse = "doc-example-resilient-
architecture-failure-response";
    public static final String healthCheck = "doc-example-resilient-architecture-
health-check";
    public static final String templateName = "doc-example-resilience-template";
    public static final String roleName = "doc-example-resilience-role";
    public static final String policyName = "doc-example-resilience-pol";
    public static final String profileName = "doc-example-resilience-prof";

    public static final String badCredsProfileName = "doc-example-resilience-prof-
bc";

    public static final String targetGroupName = "doc-example-resilience-tg";
    public static final String autoScalingGroupName = "doc-example-resilience-
group";
    public static final String lbName = "doc-example-resilience-lb";
    public static final String protocol = "HTTP";
    public static final int port = 80;

    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");

    public static void main(String[] args) throws IOException, InterruptedException
 {
        Scanner in = new Scanner(System.in);
        Database database = new Database();
        AutoScaler autoScaler = new AutoScaler();
        LoadBalancer loadBalancer = new LoadBalancer();

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("Welcome to the demonstration of How to Build and Manage
 a Resilient Service!");
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("A - SETUP THE RESOURCES");
        System.out.println("Press Enter when you're ready to start deploying
 resources.");
        in.nextLine();
        deploy(loadBalancer);
        System.out.println(DASHES);
```

```
        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("B - DEMO THE RESILIENCE FUNCTIONALITY");
        System.out.println("Press Enter when you're ready.");
        in.nextLine();
        demo(loadBalancer);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("C - DELETE THE RESOURCES");
        System.out.println("""
                This concludes the demo of how to build and manage a resilient
service.
                To keep things tidy and to avoid unwanted charges on your account,
we can clean up all AWS resources
                that were created for this demo.
                """);

        System.out.println("\n Do you want to delete the resources (y/n)? ");
        String userInput = in.nextLine().trim().toLowerCase(); // Capture user input

        if (userInput.equals("y")) {
            // Delete resources here
            deleteResources(loadBalancer, autoScaler, database);
            System.out.println("Resources deleted.");
        } else {
            System.out.println("""
                    Okay, we'll leave the resources intact.
                    Don't forget to delete them when you're done with them or you
might incur unexpected charges.
                    """);
        }
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("The example has completed. ");
        System.out.println("\n Thanks for watching!");
        System.out.println(DASHES);
    }

    // Deletes the AWS resources used in this example.
    private static void deleteResources(LoadBalancer loadBalancer, AutoScaler
autoScaler, Database database)
            throws IOException, InterruptedException {
        loadBalancer.deleteLoadBalancer(lbName);
```

```
        System.out.println("*** Wait 30 secs for resource to be deleted");
        TimeUnit.SECONDS.sleep(30);
        loadBalancer.deleteTargetGroup(targetGroupName);
        autoScaler.deleteAutoScaleGroup(autoScalingGroupName);
        autoScaler.deleteRolesPolicies(policyName, roleName, profileName);
        autoScaler.deleteTemplate(templateName);
        database.deleteTable(tableName);
    }

    private static void deploy(LoadBalancer loadBalancer) throws
InterruptedException, IOException {
        Scanner in = new Scanner(System.in);
        System.out.println(
                """
                        For this demo, we'll use the AWS SDK for Java (v2) to create
several AWS resources
                        to set up a load-balanced web service endpoint and explore
some ways to make it resilient
                        against various kinds of failures.

                        Some of the resources create by this demo are:
                        \t* A DynamoDB table that the web service depends on to
provide book, movie, and song recommendations.
                        \t* An EC2 launch template that defines EC2 instances that
each contain a Python web server.
                        \t* An EC2 Auto Scaling group that manages EC2 instances
across several Availability Zones.
                        \t* An Elastic Load Balancing (ELB) load balancer that
targets the Auto Scaling group to distribute requests.
                        """);

        System.out.println("Press Enter when you're ready.");
        in.nextLine();
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("Creating and populating a DynamoDB table named " +
tableName);
        Database database = new Database();
        database.createTable(tableName, fileName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("""
```

```
                Creating an EC2 launch template that runs '{startup_script}' when an
instance starts.
                This script starts a Python web server defined in the `server.py`
script. The web server
                listens to HTTP requests on port 80 and responds to requests to '/'
and to '/healthcheck'.
                For demo purposes, this server is run as the root user. In
production, the best practice is to
                run a web server, such as Apache, with least-privileged credentials.

                The template also defines an IAM policy that each instance uses to
assume a role that grants
                permissions to access the DynamoDB recommendation table and Systems
Manager parameters
                that control the flow of the demo.
                """);

        LaunchTemplateCreator templateCreator = new LaunchTemplateCreator();
        templateCreator.createTemplate(policyFile, policyName, profileName,
startScript, templateName, roleName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println(
                "Creating an EC2 Auto Scaling group that maintains three EC2
instances, each in a different Availability Zone.");
        System.out.println("*** Wait 30 secs for the VPC to be created");
        TimeUnit.SECONDS.sleep(30);
        AutoScaler autoScaler = new AutoScaler();
        String[] zones = autoScaler.createGroup(3, templateName,
autoScalingGroupName);

        System.out.println("""
                At this point, you have EC2 instances created. Once each instance
starts, it listens for
                HTTP requests. You can see these instances in the console or
continue with the demo.
                Press Enter when you're ready to continue.
                """);

        in.nextLine();
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
```

```
        System.out.println("Creating variables that control the flow of the demo.");
        ParameterHelper paramHelper = new ParameterHelper();
        paramHelper.reset();
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("""
                Creating an Elastic Load Balancing target group and load balancer.
The target group
                defines how the load balancer connects to instances. The load
balancer provides a
                single endpoint where clients connect and dispatches requests to
instances in the group.
                """);

        String vpcId = autoScaler.getDefaultVPC();
        List<Subnet> subnets = autoScaler.getSubnets(vpcId, zones);
        System.out.println("You have retrieved a list with " + subnets.size() + "
subnets");
        String targetGroupArn = loadBalancer.createTargetGroup(protocol, port,
vpcId, targetGroupName);
        String elbDnsName = loadBalancer.createLoadBalancer(subnets, targetGroupArn,
lbName, port, protocol);
        autoScaler.attachLoadBalancerTargetGroup(autoScalingGroupName,
targetGroupArn);
        System.out.println("Verifying access to the load balancer endpoint...");
        boolean wasSuccessul = loadBalancer.verifyLoadBalancerEndpoint(elbDnsName);
        if (!wasSuccessul) {
            System.out.println("Couldn't connect to the load balancer, verifying
that the port is open...");
            CloseableHttpClient httpClient = HttpClients.createDefault();

            // Create an HTTP GET request to "http://checkip.amazonaws.com"
            HttpGet httpGet = new HttpGet("http://checkip.amazonaws.com");
            try {
                // Execute the request and get the response
                HttpResponse response = httpClient.execute(httpGet);

                // Read the response content.
                String ipAddress =
IOUtils.toString(response.getEntity().getContent(), StandardCharsets.UTF_8).trim();

                // Print the public IP address.
                System.out.println("Public IP Address: " + ipAddress);
```

```
                GroupInfo groupInfo = autoScaler.verifyInboundPort(vpcId, port,
ipAddress);
                if (!groupInfo.isPortOpen()) {
                    System.out.println("""
                            For this example to work, the default security group for
your default VPC must
                            allow access from this computer. You can either add it
automatically from this
                            example or add it yourself using the AWS Management
Console.
                            """);

                    System.out.println(
                            "Do you want to add a rule to security group " +
groupInfo.getGroupName() + " to allow");
                    System.out.println("inbound traffic on port " + port + " from
your computer's IP address (y/n) ");
                    String ans = in.nextLine();
                    if ("y".equalsIgnoreCase(ans)) {
                        autoScaler.openInboundPort(groupInfo.getGroupName(),
String.valueOf(port), ipAddress);
                        System.out.println("Security group rule added.");
                    } else {
                        System.out.println("No security group rule added.");
                    }
                }

            } catch (AutoScalingException e) {
                e.printStackTrace();
            }
        } else if (wasSuccessul) {
            System.out.println("Your load balancer is ready. You can access it by
browsing to:");
            System.out.println("\t http://" + elbDnsName);
        } else {
            System.out.println("Couldn't get a successful response from the load
balancer endpoint. Troubleshoot by");
            System.out.println("manually verifying that your VPC and security group
are configured correctly and that");
            System.out.println("you can successfully make a GET request to the load
balancer.");
        }
```

```
        System.out.println("Press Enter when you're ready to continue with the
demo.");
        in.nextLine();
    }

    // A method that controls the demo part of the Java program.
    public static void demo(LoadBalancer loadBalancer) throws IOException,
InterruptedException {
        ParameterHelper paramHelper = new ParameterHelper();
        System.out.println("Read the ssm_only_policy.json file");
        String ssmOnlyPolicy = readFileAsString(ssmJSON);

        System.out.println("Resetting parameters to starting values for demo.");
        paramHelper.reset();

        System.out.println(
                """
                        This part of the demonstration shows how to toggle
different parts of the system
                        to create situations where the web service fails, and shows
how using a resilient
                        architecture can keep the web service running in spite of
these failures.

                        At the start, the load balancer endpoint returns
recommendations and reports that all targets are healthy.
                       """);
        demoChoices(loadBalancer);

        System.out.println(
                """
                        The web service running on the EC2 instances gets
recommendations by querying a DynamoDB table.
                        The table name is contained in a Systems Manager parameter
named self.param_helper.table.
                        To simulate a failure of the recommendation service, let's
set this parameter to name a non-existent table.
                       """);
        paramHelper.put(paramHelper.tableName, "this-is-not-a-table");

        System.out.println(
                """
                        \nNow, sending a GET request to the load balancer endpoint
returns a failure code. But, the service reports as
```

```
                        healthy to the load balancer because shallow health checks
don't check for failure of the recommendation service.
                        """);
        demoChoices(loadBalancer);

        System.out.println(
                """
                        Instead of failing when the recommendation service fails,
the web service can return a static response.
                        While this is not a perfect solution, it presents the
customer with a somewhat better experience than failure.
                        """);
        paramHelper.put(paramHelper.failureResponse, "static");

        System.out.println("""
                Now, sending a GET request to the load balancer endpoint returns a
static response.
                The service still reports as healthy because health checks are still
shallow.
                """);
        demoChoices(loadBalancer);

        System.out.println("Let's reinstate the recommendation service.");
        paramHelper.put(paramHelper.tableName, paramHelper.dyntable);

        System.out.println("""
                Let's also substitute bad credentials for one of the instances in
the target group so that it can't
                access the DynamoDB recommendation table. We will get an instance id
value.
                """);

        LaunchTemplateCreator templateCreator = new LaunchTemplateCreator();
        AutoScaler autoScaler = new AutoScaler();

        // Create a new instance profile based on badCredsProfileName.
        templateCreator.createInstanceProfile(policyFile, policyName,
badCredsProfileName, roleName);
        String badInstanceId = autoScaler.getBadInstance(autoScalingGroupName);
        System.out.println("The bad instance id values used for this demo is " +
badInstanceId);

        String profileAssociationId = autoScaler.getInstanceProfile(badInstanceId);
        System.out.println("The association Id value is " + profileAssociationId);
```

```
        System.out.println("Replacing the profile for instance " + badInstanceId
                + " with a profile that contains bad credentials");
        autoScaler.replaceInstanceProfile(badInstanceId, badCredsProfileName,
profileAssociationId);

        System.out.println(
                """
                        Now, sending a GET request to the load balancer endpoint
returns either a recommendation or a static response,
                        depending on which instance is selected by the load
balancer.
                        """);

        demoChoices(loadBalancer);

        System.out.println("""
                Let's implement a deep health check. For this demo, a deep health
check tests whether
                the web service can access the DynamoDB table that it depends on for
recommendations. Note that
                the deep health check is only for ELB routing and not for Auto
Scaling instance health.
                This kind of deep health check is not recommended for Auto Scaling
instance health, because it
                risks accidental termination of all instances in the Auto Scaling
group when a dependent service fails.
                """);

        System.out.println("""
                By implementing deep health checks, the load balancer can detect
when one of the instances is failing
                and take that instance out of rotation.
                """);

        paramHelper.put(paramHelper.healthCheck, "deep");

        System.out.println("""
                Now, checking target health indicates that the instance with bad
credentials
                is unhealthy. Note that it might take a minute or two for the load
balancer to detect the unhealthy
                instance. Sending a GET request to the load balancer endpoint always
returns a recommendation, because
                the load balancer takes unhealthy instances out of its rotation.
```

```
                """);

        demoChoices(loadBalancer);

        System.out.println(
                """
                        Because the instances in this demo are controlled by an auto
scaler, the simplest way to fix an unhealthy
                        instance is to terminate it and let the auto scaler start a
new instance to replace it.
                        """);
        autoScaler.terminateInstance(badInstanceId);

        System.out.println("""
                Even while the instance is terminating and the new instance is
starting, sending a GET
                request to the web service continues to get a successful
recommendation response because
                the load balancer routes requests to the healthy instances. After
the replacement instance
                starts and reports as healthy, it is included in the load balancing
rotation.
                Note that terminating and replacing an instance typically takes
several minutes, during which time you
                can see the changing health check status until the new instance is
running and healthy.
                """);

        demoChoices(loadBalancer);
        System.out.println(
                "If the recommendation service fails now, deep health checks mean
all instances report as unhealthy.");
        paramHelper.put(paramHelper.tableName, "this-is-not-a-table");

        demoChoices(loadBalancer);
        paramHelper.reset();
    }

    public static void demoChoices(LoadBalancer loadBalancer) throws IOException,
InterruptedException {
        String[] actions = {
                "Send a GET request to the load balancer endpoint.",
                "Check the health of load balancer targets.",
                "Go to the next part of the demo."
```

```
        };
        Scanner scanner = new Scanner(System.in);

        while (true) {
            System.out.println("-".repeat(88));
            System.out.println("See the current state of the service by selecting
one of the following choices:");
            for (int i = 0; i < actions.length; i++) {
                System.out.println(i + ": " + actions[i]);
            }

            try {
                System.out.print("\nWhich action would you like to take? ");
                int choice = scanner.nextInt();
                System.out.println("-".repeat(88));

                switch (choice) {
                    case 0 -> {
                        System.out.println("Request:\n");
                        System.out.println("GET http://" +
loadBalancer.getEndpoint(lbName));
                        CloseableHttpClient httpClient =
HttpClients.createDefault();

                        // Create an HTTP GET request to the ELB.
                        HttpGet httpGet = new HttpGet("http://" +
loadBalancer.getEndpoint(lbName));

                        // Execute the request and get the response.
                        HttpResponse response = httpClient.execute(httpGet);
                        int statusCode = response.getStatusLine().getStatusCode();
                        System.out.println("HTTP Status Code: " + statusCode);

                        // Display the JSON response
                        BufferedReader reader = new BufferedReader(
                                new
InputStreamReader(response.getEntity().getContent()));
                        StringBuilder jsonResponse = new StringBuilder();
                        String line;
                        while ((line = reader.readLine()) != null) {
                            jsonResponse.append(line);
                        }
                        reader.close();
```

```
                        // Print the formatted JSON response.
                        System.out.println("Full Response:\n");
                        System.out.println(jsonResponse.toString());

                        // Close the HTTP client.
                        httpClient.close();

                    }
                    case 1 -> {
                        System.out.println("\nChecking the health of load balancer
targets:\n");
                        List<TargetHealthDescription> health =
loadBalancer.checkTargetHealth(targetGroupName);
                        for (TargetHealthDescription target : health) {
                            System.out.printf("\tTarget %s on port %d is %s%n",
target.target().id(),
                                    target.target().port(),
target.targetHealth().stateAsString());
                        }
                        System.out.println("""
                                Note that it can take a minute or two for the health
check to update
                                after changes are made.
                                """);
                    }
                    case 2 -> {
                        System.out.println("\nOkay, let's move on.");
                        System.out.println("-".repeat(88));
                        return; // Exit the method when choice is 2
                    }
                    default -> System.out.println("You must choose a value between
0-2. Please select again.");
                }

            } catch (java.util.InputMismatchException e) {
                System.out.println("Invalid input. Please select again.");
                scanner.nextLine(); // Clear the input buffer.
            }
        }
    }

    public static String readFileAsString(String filePath) throws IOException {
        byte[] bytes = Files.readAllBytes(Paths.get(filePath));
        return new String(bytes);
```

```
    }
}
```

Auto Scaling と Amazon EC2 のアクションをラップするクラスを作成します。

```
public class AutoScaler {

    private static Ec2Client ec2Client;
    private static AutoScalingClient autoScalingClient;
    private static IamClient iamClient;

    private static SsmClient ssmClient;

    private IamClient getIAMClient() {
        if (iamClient == null) {
            iamClient = IamClient.builder()
                    .region(Region.US_EAST_1)
                    .build();
        }
        return iamClient;
    }

    private SsmClient getSSMClient() {
        if (ssmClient == null) {
            ssmClient = SsmClient.builder()
                    .region(Region.US_EAST_1)
                    .build();
        }
        return ssmClient;
    }

    private Ec2Client getEc2Client() {
        if (ec2Client == null) {
            ec2Client = Ec2Client.builder()
                    .region(Region.US_EAST_1)
                    .build();
        }
        return ec2Client;
    }

    private AutoScalingClient getAutoScalingClient() {
        if (autoScalingClient == null) {
```

```
            autoScalingClient = AutoScalingClient.builder()
                    .region(Region.US_EAST_1)
                    .build();
        }
        return autoScalingClient;
    }

    /**
     * Terminates and instances in an EC2 Auto Scaling group. After an instance is
     * terminated, it can no longer be accessed.
     */
    public void terminateInstance(String instanceId) {
        TerminateInstanceInAutoScalingGroupRequest terminateInstanceIRequest =
TerminateInstanceInAutoScalingGroupRequest
                .builder()
                .instanceId(instanceId)
                .shouldDecrementDesiredCapacity(false)
                .build();


getAutoScalingClient().terminateInstanceInAutoScalingGroup(terminateInstanceIRequest);
        System.out.format("Terminated instance %s.", instanceId);
    }

    /**
     * Replaces the profile associated with a running instance. After the profile is
     * replaced, the instance is rebooted to ensure that it uses the new profile.
     * When
     * the instance is ready, Systems Manager is used to restart the Python web
     * server.
     */
    public void replaceInstanceProfile(String instanceId, String
newInstanceProfileName, String profileAssociationId)
            throws InterruptedException {
        // Create an IAM instance profile specification.
        software.amazon.awssdk.services.ec2.model.IamInstanceProfileSpecification
iamInstanceProfile =
software.amazon.awssdk.services.ec2.model.IamInstanceProfileSpecification
                .builder()
                .name(newInstanceProfileName) // Make sure 'newInstanceProfileName'
is a valid IAM Instance Profile
                                              // name.
                .build();
```

```
        // Replace the IAM instance profile association for the EC2 instance.
        ReplaceIamInstanceProfileAssociationRequest replaceRequest =
ReplaceIamInstanceProfileAssociationRequest
                .builder()
                .iamInstanceProfile(iamInstanceProfile)
                .associationId(profileAssociationId) // Make sure
'profileAssociationId' is a valid association ID.
                .build();

        try {
            getEc2Client().replaceIamInstanceProfileAssociation(replaceRequest);
            // Handle the response as needed.
        } catch (Ec2Exception e) {
            // Handle exceptions, log, or report the error.
            System.err.println("Error: " + e.getMessage());
        }
        System.out.format("Replaced instance profile for association %s with profile
%s.", profileAssociationId,
                newInstanceProfileName);
        TimeUnit.SECONDS.sleep(15);
        boolean instReady = false;
        int tries = 0;

        // Reboot after 60 seconds
        while (!instReady) {
            if (tries % 6 == 0) {
                getEc2Client().rebootInstances(RebootInstancesRequest.builder()
                        .instanceIds(instanceId)
                        .build());
                System.out.println("Rebooting instance " + instanceId + " and
waiting for it to be ready.");
            }
            tries++;
            try {
                TimeUnit.SECONDS.sleep(10);
            } catch (InterruptedException e) {
                e.printStackTrace();
            }

            DescribeInstanceInformationResponse informationResponse =
getSSMClient().describeInstanceInformation();
            List<InstanceInformation> instanceInformationList =
informationResponse.instanceInformationList();
            for (InstanceInformation info : instanceInformationList) {
```

```
                if (info.instanceId().equals(instanceId)) {
                    instReady = true;
                    break;
                }
            }
        }

        SendCommandRequest sendCommandRequest = SendCommandRequest.builder()
                .instanceIds(instanceId)
                .documentName("AWS-RunShellScript")
                .parameters(Collections.singletonMap("commands",
                        Collections.singletonList("cd / && sudo python3 server.py
80")))
                .build();

        getSSMClient().sendCommand(sendCommandRequest);
        System.out.println("Restarted the Python web server on instance " +
instanceId + ".");
    }

    public void openInboundPort(String secGroupId, String port, String ipAddress) {
        AuthorizeSecurityGroupIngressRequest ingressRequest =
AuthorizeSecurityGroupIngressRequest.builder()
                .groupName(secGroupId)
                .cidrIp(ipAddress)
                .fromPort(Integer.parseInt(port))
                .build();

        getEc2Client().authorizeSecurityGroupIngress(ingressRequest);
        System.out.format("Authorized ingress to %s on port %s from %s.",
secGroupId, port, ipAddress);
    }

    /**
     * Detaches a role from an instance profile, detaches policies from the role,
     * and deletes all the resources.
     */
    public void deleteInstanceProfile(String roleName, String profileName) {
        try {
            software.amazon.awssdk.services.iam.model.GetInstanceProfileRequest
getInstanceProfileRequest =
software.amazon.awssdk.services.iam.model.GetInstanceProfileRequest
                    .builder()
                    .instanceProfileName(profileName)
```

```
                    .build();

            GetInstanceProfileResponse response =
getIAMClient().getInstanceProfile(getInstanceProfileRequest);
            String name = response.instanceProfile().instanceProfileName();
            System.out.println(name);

            RemoveRoleFromInstanceProfileRequest profileRequest =
RemoveRoleFromInstanceProfileRequest.builder()
                    .instanceProfileName(profileName)
                    .roleName(roleName)
                    .build();

            getIAMClient().removeRoleFromInstanceProfile(profileRequest);
            DeleteInstanceProfileRequest deleteInstanceProfileRequest =
DeleteInstanceProfileRequest.builder()
                    .instanceProfileName(profileName)
                    .build();

            getIAMClient().deleteInstanceProfile(deleteInstanceProfileRequest);
            System.out.println("Deleted instance profile " + profileName);

            DeleteRoleRequest deleteRoleRequest = DeleteRoleRequest.builder()
                    .roleName(roleName)
                    .build();

            // List attached role policies.
            ListAttachedRolePoliciesResponse rolesResponse = getIAMClient()
                    .listAttachedRolePolicies(role -> role.roleName(roleName));
            List<AttachedPolicy> attachedPolicies =
rolesResponse.attachedPolicies();
            for (AttachedPolicy attachedPolicy : attachedPolicies) {
                DetachRolePolicyRequest request = DetachRolePolicyRequest.builder()
                        .roleName(roleName)
                        .policyArn(attachedPolicy.policyArn())
                        .build();

                getIAMClient().detachRolePolicy(request);
                System.out.println("Detached and deleted policy " +
attachedPolicy.policyName());
            }

            getIAMClient().deleteRole(deleteRoleRequest);
            System.out.println("Instance profile and role deleted.");
```

```
        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public void deleteTemplate(String templateName) {
        getEc2Client().deleteLaunchTemplate(name ->
name.launchTemplateName(templateName));
        System.out.format(templateName + " was deleted.");
    }

    public void deleteAutoScaleGroup(String groupName) {
        DeleteAutoScalingGroupRequest deleteAutoScalingGroupRequest =
DeleteAutoScalingGroupRequest.builder()
                .autoScalingGroupName(groupName)
                .forceDelete(true)
                .build();


getAutoScalingClient().deleteAutoScalingGroup(deleteAutoScalingGroupRequest);
        System.out.println(groupName + " was deleted.");
    }

    /*
     * Verify the default security group of the specified VPC allows ingress from
     * this
     * computer. This can be done by allowing ingress from this computer's IP
     * address. In some situations, such as connecting from a corporate network, you
     * must instead specify a prefix list ID. You can also temporarily open the port
     * to
     * any IP address while running this example. If you do, be sure to remove
     * public
     * access when you're done.
     *
     */
    public GroupInfo verifyInboundPort(String VPC, int port, String ipAddress) {
        boolean portIsOpen = false;
        GroupInfo groupInfo = new GroupInfo();
        try {
            Filter filter = Filter.builder()
                    .name("group-name")
                    .values("default")
```

```
                .build();

        Filter filter1 = Filter.builder()
                .name("vpc-id")
                .values(VPC)
                .build();

        DescribeSecurityGroupsRequest securityGroupsRequest =
DescribeSecurityGroupsRequest.builder()
                .filters(filter, filter1)
                .build();

        DescribeSecurityGroupsResponse securityGroupsResponse = getEc2Client()
                .describeSecurityGroups(securityGroupsRequest);
        String securityGroup =
securityGroupsResponse.securityGroups().get(0).groupName();
        groupInfo.setGroupName(securityGroup);

        for (SecurityGroup secGroup : securityGroupsResponse.securityGroups()) {
            System.out.println("Found security group: " + secGroup.groupId());

            for (IpPermission ipPermission : secGroup.ipPermissions()) {
                if (ipPermission.fromPort() == port) {
                    System.out.println("Found inbound rule: " + ipPermission);
                    for (IpRange ipRange : ipPermission.ipRanges()) {
                        String cidrIp = ipRange.cidrIp();
                        if (cidrIp.startsWith(ipAddress) ||
cidrIp.equals("0.0.0.0/0")) {
                            System.out.println(cidrIp + " is applicable");
                            portIsOpen = true;
                        }
                    }

                    if (!ipPermission.prefixListIds().isEmpty()) {
                        System.out.println("Prefix lList is applicable");
                        portIsOpen = true;
                    }

                    if (!portIsOpen) {
                        System.out
                                .println("The inbound rule does not appear to be
open to either this computer's IP,"
                                        + " all IP addresses (0.0.0.0/0), or to
a prefix list ID.");
```

```
                        } else {
                            break;
                        }
                    }
                }
            }

        } catch (AutoScalingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
        }

        groupInfo.setPortOpen(portIsOpen);
        return groupInfo;
    }

    /*
     * Attaches an Elastic Load Balancing (ELB) target group to this EC2 Auto
     * Scaling group.
     * The target group specifies how the load balancer forward requests to the
     * instances
     * in the group.
     */
    public void attachLoadBalancerTargetGroup(String asGroupName, String
targetGroupARN) {
        try {
            AttachLoadBalancerTargetGroupsRequest targetGroupsRequest =
AttachLoadBalancerTargetGroupsRequest.builder()
                    .autoScalingGroupName(asGroupName)
                    .targetGroupARNs(targetGroupARN)
                    .build();


getAutoScalingClient().attachLoadBalancerTargetGroups(targetGroupsRequest);
            System.out.println("Attached load balancer to " + asGroupName);

        } catch (AutoScalingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    // Creates an EC2 Auto Scaling group with the specified size.
    public String[] createGroup(int groupSize, String templateName, String
autoScalingGroupName) {
```

```
        // Get availability zones.
        software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeAvailabilityZonesRequest
zonesRequest =
software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeAvailabilityZonesRequest
                .builder()
                .build();

        DescribeAvailabilityZonesResponse zonesResponse =
getEc2Client().describeAvailabilityZones(zonesRequest);
        List<String> availabilityZoneNames =
zonesResponse.availabilityZones().stream()

.map(software.amazon.awssdk.services.ec2.model.AvailabilityZone::zoneName)
                .collect(Collectors.toList());

        String availabilityZones = String.join(",", availabilityZoneNames);
        LaunchTemplateSpecification specification =
LaunchTemplateSpecification.builder()
                .launchTemplateName(templateName)
                .version("$Default")
                .build();

        String[] zones = availabilityZones.split(",");
        CreateAutoScalingGroupRequest groupRequest =
CreateAutoScalingGroupRequest.builder()
                .launchTemplate(specification)
                .availabilityZones(zones)
                .maxSize(groupSize)
                .minSize(groupSize)
                .autoScalingGroupName(autoScalingGroupName)
                .build();

        try {
            getAutoScalingClient().createAutoScalingGroup(groupRequest);

        } catch (AutoScalingException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        System.out.println("Created an EC2 Auto Scaling group named " +
autoScalingGroupName);
        return zones;
    }
```

```
    public String getDefaultVPC() {
        // Define the filter.
        Filter defaultFilter = Filter.builder()
                .name("is-default")
                .values("true")
                .build();

        software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeVpcsRequest request =
software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeVpcsRequest
                .builder()
                .filters(defaultFilter)
                .build();

        DescribeVpcsResponse response = getEc2Client().describeVpcs(request);
        return response.vpcs().get(0).vpcId();
    }

    // Gets the default subnets in a VPC for a specified list of Availability Zones.
    public List<Subnet> getSubnets(String vpcId, String[] availabilityZones) {
        List<Subnet> subnets = null;
        Filter vpcFilter = Filter.builder()
                .name("vpc-id")
                .values(vpcId)
                .build();

        Filter azFilter = Filter.builder()
                .name("availability-zone")
                .values(availabilityZones)
                .build();

        Filter defaultForAZ = Filter.builder()
                .name("default-for-az")
                .values("true")
                .build();

        DescribeSubnetsRequest request = DescribeSubnetsRequest.builder()
                .filters(vpcFilter, azFilter, defaultForAZ)
                .build();

        DescribeSubnetsResponse response = getEc2Client().describeSubnets(request);
        subnets = response.subnets();
        return subnets;
    }
```

```
   // Gets data about the instances in the EC2 Auto Scaling group.
   public String getBadInstance(String groupName) {
       DescribeAutoScalingGroupsRequest request =
DescribeAutoScalingGroupsRequest.builder()
               .autoScalingGroupNames(groupName)
               .build();

       DescribeAutoScalingGroupsResponse response =
getAutoScalingClient().describeAutoScalingGroups(request);
       AutoScalingGroup autoScalingGroup = response.autoScalingGroups().get(0);
       List<String> instanceIds = autoScalingGroup.instances().stream()
               .map(instance -> instance.instanceId())
               .collect(Collectors.toList());

       String[] instanceIdArray = instanceIds.toArray(new String[0]);
       for (String instanceId : instanceIdArray) {
           System.out.println("Instance ID: " + instanceId);
           return instanceId;
       }
       return "";
   }

   // Gets data about the profile associated with an instance.
   public String getInstanceProfile(String instanceId) {
       Filter filter = Filter.builder()
               .name("instance-id")
               .values(instanceId)
               .build();

       DescribeIamInstanceProfileAssociationsRequest associationsRequest =
DescribeIamInstanceProfileAssociationsRequest
               .builder()
               .filters(filter)
               .build();

       DescribeIamInstanceProfileAssociationsResponse response = getEc2Client()
               .describeIamInstanceProfileAssociations(associationsRequest);
       return response.iamInstanceProfileAssociations().get(0).associationId();
   }

   public void deleteRolesPolicies(String policyName, String roleName, String
InstanceProfile) {
```

```
        ListPoliciesRequest listPoliciesRequest =
 ListPoliciesRequest.builder().build();
        ListPoliciesResponse listPoliciesResponse =
 getIAMClient().listPolicies(listPoliciesRequest);
        for (Policy policy : listPoliciesResponse.policies()) {
            if (policy.policyName().equals(policyName)) {
                // List the entities (users, groups, roles) that are attached to the
 policy.

 software.amazon.awssdk.services.iam.model.ListEntitiesForPolicyRequest
 listEntitiesRequest =
 software.amazon.awssdk.services.iam.model.ListEntitiesForPolicyRequest
                        .builder()
                        .policyArn(policy.arn())
                        .build();
                ListEntitiesForPolicyResponse listEntitiesResponse = iamClient
                        .listEntitiesForPolicy(listEntitiesRequest);
                if (!listEntitiesResponse.policyGroups().isEmpty() || !
listEntitiesResponse.policyUsers().isEmpty()
                        || !listEntitiesResponse.policyRoles().isEmpty()) {
                    // Detach the policy from any entities it is attached to.
                    DetachRolePolicyRequest detachPolicyRequest =
 DetachRolePolicyRequest.builder()
                            .policyArn(policy.arn())
                            .roleName(roleName) // Specify the name of the IAM role
                            .build();

                    getIAMClient().detachRolePolicy(detachPolicyRequest);
                    System.out.println("Policy detached from entities.");
                }

                // Now, you can delete the policy.
                DeletePolicyRequest deletePolicyRequest =
 DeletePolicyRequest.builder()
                        .policyArn(policy.arn())
                        .build();

                getIAMClient().deletePolicy(deletePolicyRequest);
                System.out.println("Policy deleted successfully.");
                break;
            }
        }

        // List the roles associated with the instance profile
```

```
        ListInstanceProfilesForRoleRequest listRolesRequest =
 ListInstanceProfilesForRoleRequest.builder()
                .roleName(roleName)
                .build();

        // Detach the roles from the instance profile
        ListInstanceProfilesForRoleResponse listRolesResponse =
 iamClient.listInstanceProfilesForRole(listRolesRequest);
        for (software.amazon.awssdk.services.iam.model.InstanceProfile profile :
 listRolesResponse.instanceProfiles()) {
            RemoveRoleFromInstanceProfileRequest removeRoleRequest =
 RemoveRoleFromInstanceProfileRequest.builder()
                    .instanceProfileName(InstanceProfile)
                    .roleName(roleName) // Remove the extra dot here
                    .build();

            getIAMClient().removeRoleFromInstanceProfile(removeRoleRequest);
            System.out.println("Role " + roleName + " removed from instance profile
 " + InstanceProfile);
        }

        // Delete the instance profile after removing all roles
        DeleteInstanceProfileRequest deleteInstanceProfileRequest =
 DeleteInstanceProfileRequest.builder()
                .instanceProfileName(InstanceProfile)
                .build();

        getIAMClient().deleteInstanceProfile(r ->
 r.instanceProfileName(InstanceProfile));
        System.out.println(InstanceProfile + " Deleted");
        System.out.println("All roles and policies are deleted.");
    }
}
```

Elastic Load Balancing のアクションをラップするクラスを作成します。

```
public class LoadBalancer {
    public ElasticLoadBalancingV2Client elasticLoadBalancingV2Client;

    public ElasticLoadBalancingV2Client getLoadBalancerClient() {
        if (elasticLoadBalancingV2Client == null) {
            elasticLoadBalancingV2Client = ElasticLoadBalancingV2Client.builder()
```

```
                    .region(Region.US_EAST_1)
                    .build();
        }

        return elasticLoadBalancingV2Client;
    }

    // Checks the health of the instances in the target group.
    public List<TargetHealthDescription> checkTargetHealth(String targetGroupName) {
        DescribeTargetGroupsRequest targetGroupsRequest =
DescribeTargetGroupsRequest.builder()
                .names(targetGroupName)
                .build();

        DescribeTargetGroupsResponse tgResponse =
getLoadBalancerClient().describeTargetGroups(targetGroupsRequest);

        DescribeTargetHealthRequest healthRequest =
DescribeTargetHealthRequest.builder()
                .targetGroupArn(tgResponse.targetGroups().get(0).targetGroupArn())
                .build();

        DescribeTargetHealthResponse healthResponse =
getLoadBalancerClient().describeTargetHealth(healthRequest);
        return healthResponse.targetHealthDescriptions();
    }

    // Gets the HTTP endpoint of the load balancer.
    public String getEndpoint(String lbName) {
        DescribeLoadBalancersResponse res = getLoadBalancerClient()
                .describeLoadBalancers(describe -> describe.names(lbName));
        return res.loadBalancers().get(0).dnsName();
    }

    // Deletes a load balancer.
    public void deleteLoadBalancer(String lbName) {
        try {
            // Use a waiter to delete the Load Balancer.
            DescribeLoadBalancersResponse res = getLoadBalancerClient()
                    .describeLoadBalancers(describe -> describe.names(lbName));
            ElasticLoadBalancingV2Waiter loadBalancerWaiter =
getLoadBalancerClient().waiter();
            DescribeLoadBalancersRequest request =
DescribeLoadBalancersRequest.builder()
```

```
                    .loadBalancerArns(res.loadBalancers().get(0).loadBalancerArn())
                    .build();

            getLoadBalancerClient().deleteLoadBalancer(
                    builder ->
builder.loadBalancerArn(res.loadBalancers().get(0).loadBalancerArn()));
            WaiterResponse<DescribeLoadBalancersResponse> waiterResponse =
loadBalancerWaiter
                    .waitUntilLoadBalancersDeleted(request);
            waiterResponse.matched().response().ifPresent(System.out::println);

        } catch (ElasticLoadBalancingV2Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
        }
        System.out.println(lbName + " was deleted.");
    }

    // Deletes the target group.
    public void deleteTargetGroup(String targetGroupName) {
        try {
            DescribeTargetGroupsResponse res = getLoadBalancerClient()
                    .describeTargetGroups(describe ->
describe.names(targetGroupName));
            getLoadBalancerClient()
                    .deleteTargetGroup(builder ->
builder.targetGroupArn(res.targetGroups().get(0).targetGroupArn()));
        } catch (ElasticLoadBalancingV2Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
        }
        System.out.println(targetGroupName + " was deleted.");
    }

    // Verify this computer can successfully send a GET request to the load balancer
    // endpoint.
    public boolean verifyLoadBalancerEndpoint(String elbDnsName) throws IOException,
InterruptedException {
        boolean success = false;
        int retries = 3;
        CloseableHttpClient httpClient = HttpClients.createDefault();

        // Create an HTTP GET request to the ELB.
        HttpGet httpGet = new HttpGet("http://" + elbDnsName);
        try {
            while ((!success) && (retries > 0)) {
```

```
                // Execute the request and get the response.
                HttpResponse response = httpClient.execute(httpGet);
                int statusCode = response.getStatusLine().getStatusCode();
                System.out.println("HTTP Status Code: " + statusCode);
                if (statusCode == 200) {
                    success = true;
                } else {
                    retries--;
                    System.out.println("Got connection error from load balancer
endpoint, retrying...");
                    TimeUnit.SECONDS.sleep(15);
                }
            }

        } catch (org.apache.http.conn.HttpHostConnectException e) {
            System.out.println(e.getMessage());
        }

        System.out.println("Status.." + success);
        return success;
    }

    /*
     * Creates an Elastic Load Balancing target group. The target group specifies
     * how
     * the load balancer forward requests to instances in the group and how instance
     * health is checked.
     */
    public String createTargetGroup(String protocol, int port, String vpcId, String
targetGroupName) {
        CreateTargetGroupRequest targetGroupRequest =
CreateTargetGroupRequest.builder()
                .healthCheckPath("/healthcheck")
                .healthCheckTimeoutSeconds(5)
                .port(port)
                .vpcId(vpcId)
                .name(targetGroupName)
                .protocol(protocol)
                .build();

        CreateTargetGroupResponse targetGroupResponse =
getLoadBalancerClient().createTargetGroup(targetGroupRequest);
        String targetGroupArn =
targetGroupResponse.targetGroups().get(0).targetGroupArn();
```

```
        String targetGroup =
targetGroupResponse.targetGroups().get(0).targetGroupName();
        System.out.println("The " + targetGroup + " was created with ARN" +
targetGroupArn);
        return targetGroupArn;
    }

    /*
     * Creates an Elastic Load Balancing load balancer that uses the specified
     * subnets
     * and forwards requests to the specified target group.
     */
    public String createLoadBalancer(List<Subnet> subnetIds, String targetGroupARN,
String lbName, int port,
            String protocol) {
        try {
            List<String> subnetIdStrings = subnetIds.stream()
                    .map(Subnet::subnetId)
                    .collect(Collectors.toList());

            CreateLoadBalancerRequest balancerRequest =
CreateLoadBalancerRequest.builder()
                    .subnets(subnetIdStrings)
                    .name(lbName)
                    .scheme("internet-facing")
                    .build();

            // Create and wait for the load balancer to become available.
            CreateLoadBalancerResponse lsResponse =
getLoadBalancerClient().createLoadBalancer(balancerRequest);
            String lbARN = lsResponse.loadBalancers().get(0).loadBalancerArn();

            ElasticLoadBalancingV2Waiter loadBalancerWaiter =
getLoadBalancerClient().waiter();
            DescribeLoadBalancersRequest request =
DescribeLoadBalancersRequest.builder()
                    .loadBalancerArns(lbARN)
                    .build();

            System.out.println("Waiting for Load Balancer " + lbName + " to become
available.");
            WaiterResponse<DescribeLoadBalancersResponse> waiterResponse =
loadBalancerWaiter
                    .waitUntilLoadBalancerAvailable(request);
```

```
            waiterResponse.matched().response().ifPresent(System.out::println);
            System.out.println("Load Balancer " + lbName + " is available.");

            // Get the DNS name (endpoint) of the load balancer.
            String lbDNSName = lsResponse.loadBalancers().get(0).dnsName();
            System.out.println("*** Load Balancer DNS Name: " + lbDNSName);

            // Create a listener for the load balance.
            Action action = Action.builder()
                    .targetGroupArn(targetGroupARN)
                    .type("forward")
                    .build();

            CreateListenerRequest listenerRequest = CreateListenerRequest.builder()

 .loadBalancerArn(lsResponse.loadBalancers().get(0).loadBalancerArn())
                    .defaultActions(action)
                    .port(port)
                    .protocol(protocol)
                    .build();

            getLoadBalancerClient().createListener(listenerRequest);
            System.out.println("Created listener to forward traffic from load
 balancer " + lbName + " to target group "
                    + targetGroupARN);

            // Return the load balancer DNS name.
            return lbDNSName;

        } catch (ElasticLoadBalancingV2Exception e) {
            e.printStackTrace();
        }
        return "";
    }
}
```

DynamoDB を使用してレコメンデーションサービスをシミュレートするクラスを作成します。

```
public class Database {

    private static DynamoDbClient dynamoDbClient;
```

```
    public static DynamoDbClient getDynamoDbClient() {
        if (dynamoDbClient == null) {
            dynamoDbClient = DynamoDbClient.builder()
                    .region(Region.US_EAST_1)
                    .build();
        }
        return dynamoDbClient;
    }

    // Checks to see if the Amazon DynamoDB table exists.
    private boolean doesTableExist(String tableName) {
        try {
            // Describe the table and catch any exceptions.
            DescribeTableRequest describeTableRequest =
DescribeTableRequest.builder()
                    .tableName(tableName)
                    .build();

            getDynamoDbClient().describeTable(describeTableRequest);
            System.out.println("Table '" + tableName + "' exists.");
            return true;

        } catch (ResourceNotFoundException e) {
            System.out.println("Table '" + tableName + "' does not exist.");
        } catch (DynamoDbException e) {
            System.err.println("Error checking table existence: " + e.getMessage());
        }
        return false;
    }

    /*
     * Creates a DynamoDB table to use a recommendation service. The table has a
     * hash key named 'MediaType' that defines the type of media recommended, such
     * as
     * Book or Movie, and a range key named 'ItemId' that, combined with the
     * MediaType,
     * forms a unique identifier for the recommended item.
     */
    public void createTable(String tableName, String fileName) throws IOException {
        // First check to see if the table exists.
        boolean doesExist = doesTableExist(tableName);
        if (!doesExist) {
            DynamoDbWaiter dbWaiter = getDynamoDbClient().waiter();
            CreateTableRequest createTableRequest = CreateTableRequest.builder()
```

```
                    .tableName(tableName)
                    .attributeDefinitions(
                            AttributeDefinition.builder()
                                    .attributeName("MediaType")
                                    .attributeType(ScalarAttributeType.S)
                                    .build(),
                            AttributeDefinition.builder()
                                    .attributeName("ItemId")
                                    .attributeType(ScalarAttributeType.N)
                                    .build())
                    .keySchema(
                            KeySchemaElement.builder()
                                    .attributeName("MediaType")
                                    .keyType(KeyType.HASH)
                                    .build(),
                            KeySchemaElement.builder()
                                    .attributeName("ItemId")
                                    .keyType(KeyType.RANGE)
                                    .build())
                    .provisionedThroughput(
                            ProvisionedThroughput.builder()
                                    .readCapacityUnits(5L)
                                    .writeCapacityUnits(5L)
                                    .build())
                    .build();

            getDynamoDbClient().createTable(createTableRequest);
            System.out.println("Creating table " + tableName + "...");

            // Wait until the Amazon DynamoDB table is created.
            DescribeTableRequest tableRequest = DescribeTableRequest.builder()
                    .tableName(tableName)
                    .build();

            WaiterResponse<DescribeTableResponse> waiterResponse =
dbWaiter.waitUntilTableExists(tableRequest);
            waiterResponse.matched().response().ifPresent(System.out::println);
            System.out.println("Table " + tableName + " created.");

            // Add records to the table.
            populateTable(fileName, tableName);
        }
    }
```

```
    public void deleteTable(String tableName) {
        getDynamoDbClient().deleteTable(table -> table.tableName(tableName));
        System.out.println("Table " + tableName + " deleted.");
    }

    // Populates the table with data located in a JSON file using the DynamoDB
    // enhanced client.
    public void populateTable(String fileName, String tableName) throws IOException
 {
        DynamoDbEnhancedClient enhancedClient = DynamoDbEnhancedClient.builder()
                .dynamoDbClient(getDynamoDbClient())
                .build();
        ObjectMapper objectMapper = new ObjectMapper();
        File jsonFile = new File(fileName);
        JsonNode rootNode = objectMapper.readTree(jsonFile);

        DynamoDbTable<Recommendation> mappedTable = enhancedClient.table(tableName,
                TableSchema.fromBean(Recommendation.class));
        for (JsonNode currentNode : rootNode) {
            String mediaType = currentNode.path("MediaType").path("S").asText();
            int itemId = currentNode.path("ItemId").path("N").asInt();
            String title = currentNode.path("Title").path("S").asText();
            String creator = currentNode.path("Creator").path("S").asText();

            // Create a Recommendation object and set its properties.
            Recommendation rec = new Recommendation();
            rec.setMediaType(mediaType);
            rec.setItemId(itemId);
            rec.setTitle(title);
            rec.setCreator(creator);

            // Put the item into the DynamoDB table.
            mappedTable.putItem(rec); // Add the Recommendation to the list.
        }
        System.out.println("Added all records to the " + tableName);
    }
}
```

Systems Manager のアクションをラップするクラスを作成します。

```
public class ParameterHelper {
```

```
    String tableName = "doc-example-resilient-architecture-table";
    String dyntable = "doc-example-recommendation-service";
    String failureResponse = "doc-example-resilient-architecture-failure-response";
    String healthCheck = "doc-example-resilient-architecture-health-check";

    public void reset() {
        put(dyntable, tableName);
        put(failureResponse, "none");
        put(healthCheck, "shallow");
    }

    public void put(String name, String value) {
        SsmClient ssmClient = SsmClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        PutParameterRequest parameterRequest = PutParameterRequest.builder()
                .name(name)
                .value(value)
                .overwrite(true)
                .type("String")
                .build();

        ssmClient.putParameter(parameterRequest);
        System.out.printf("Setting demo parameter %s to '%s'.", name, value);
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - AttachLoadBalancerTargetGroups
  - CreateAutoScalingGroup
  - CreateInstanceProfile
  - CreateLaunchTemplate
  - CreateListener
  - CreateLoadBalancer
  - CreateTargetGroup
  - DeleteAutoScalingGroup

- DeleteInstanceProfile
- DeleteLaunchTemplate
- DeleteLoadBalancer
- DeleteTargetGroup
- DescribeAutoScalingGroups
- DescribeAvailabilityZones
- DescribeIamInstanceProfileAssociations
- DescribeInstances
- DescribeLoadBalancers
- DescribeSubnets
- DescribeTargetGroups
- DescribeTargetHealth
- DescribeVpcs
- RebootInstances
- ReplaceIamInstanceProfileAssociation
- TerminateInstanceInAutoScalingGroup
- UpdateAutoScalingGroup

IAM Policy Builder API を使用する

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- オブジェクト指向の API を使用して IAM ポリシーを作成します。
- IAM サービスで IAM Policy Builder API を使用します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

例では、次の入力を使用します。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.policybuilder.iam.IamConditionOperator;
import software.amazon.awssdk.policybuilder.iam.IamEffect;
import software.amazon.awssdk.policybuilder.iam.IamPolicy;
import software.amazon.awssdk.policybuilder.iam.IamPolicyWriter;
import software.amazon.awssdk.policybuilder.iam.IamPrincipal;
import software.amazon.awssdk.policybuilder.iam.IamPrincipalType;
import software.amazon.awssdk.policybuilder.iam.IamResource;
import software.amazon.awssdk.policybuilder.iam.IamStatement;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.iam.IamClient;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.GetPolicyResponse;
import software.amazon.awssdk.services.iam.model.GetPolicyVersionResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sts.StsClient;

import java.net.URLDecoder;
import java.nio.charset.StandardCharsets;
import java.util.Arrays;
import java.util.List;
```

時間ベースのポリシーを作成します。

```
        public String timeBasedPolicyExample() {
                IamPolicy policy = IamPolicy.builder()
                                .addStatement(b -> b
                                                .effect(IamEffect.ALLOW)
                                                .addAction("dynamodb:GetItem")
                                                .addResource(IamResource.ALL)
                                                .addCondition(b1 -> b1

 .operator(IamConditionOperator.DATE_GREATER_THAN)

 .key("aws:CurrentTime")

 .value("2020-04-01T00:00:00Z"))
                                                .addCondition(b1 -> b1

 .operator(IamConditionOperator.DATE_LESS_THAN)

 .key("aws:CurrentTime")
```

```
 .value("2020-06-30T23:59:59Z")))
                                .build();

                // Use an IamPolicyWriter to write out the JSON string to a more
 readable
                // format.
                return policy.toJson(IamPolicyWriter.builder()
                                .prettyPrint(true)
                                .build());
        }
```

複数の条件を含むポリシーを作成します。

```
        public String multipleConditionsExample() {
                IamPolicy policy = IamPolicy.builder()
                                .addStatement(b -> b
                                                .effect(IamEffect.ALLOW)
                                                .addAction("dynamodb:GetItem")
                                                .addAction("dynamodb:BatchGetItem")
                                                .addAction("dynamodb:Query")
                                                .addAction("dynamodb:PutItem")
                                                .addAction("dynamodb:UpdateItem")
                                                .addAction("dynamodb:DeleteItem")

 .addAction("dynamodb:BatchWriteItem")

 .addResource("arn:aws:dynamodb:*:*:table/table-name")

 .addConditions(IamConditionOperator.STRING_EQUALS

 .addPrefix("ForAllValues:"),

 "dynamodb:Attributes",
                                                                        List.of("column-
name1", "column-name2", "column-name3"))
                                                .addCondition(b1 -> b1

 .operator(IamConditionOperator.STRING_EQUALS

 .addSuffix("IfExists"))
```

```
 .key("dynamodb:Select")

 .value("SPECIFIC_ATTRIBUTES")))
                                .build();

                return policy.toJson(IamPolicyWriter.builder()
                                .prettyPrint(true).build());
        }
```

ポリシーにプリンシパルを使用します。

```
        public String specifyPrincipalsExample() {
                IamPolicy policy = IamPolicy.builder()
                                .addStatement(b -> b
                                                .effect(IamEffect.DENY)
                                                .addAction("s3:*")
                                                .addPrincipal(IamPrincipal.ALL)
                                                .addResource("arn:aws:s3:::amzn-s3-
demo-bucket/*")
                                                .addResource("arn:aws:s3:::amzn-s3-
demo-bucket")
                                                .addCondition(b1 -> b1

 .operator(IamConditionOperator.ARN_NOT_EQUALS)

 .key("aws:PrincipalArn")

 .value("arn:aws:iam::444455556666:user/user-name")))
                                .build();
                return policy.toJson(IamPolicyWriter.builder()
                                .prettyPrint(true).build());
        }
```

クロスアカウントのアクセスを許可します。

```
        public String allowCrossAccountAccessExample() {
                IamPolicy policy = IamPolicy.builder()
                                .addStatement(b -> b
                                                .effect(IamEffect.ALLOW)
```

```
                                                .addPrincipal(IamPrincipalType.AWS,
 "111122223333")
                                                .addAction("s3:PutObject")
                                                .addResource("arn:aws:s3:::amzn-s3-
demo-bucket/*")
                                                .addCondition(b1 -> b1

 .operator(IamConditionOperator.STRING_EQUALS)
                                                                    .key("s3:x-amz-acl")
                                                                    .value("bucket-
owner-full-control")))
                                .build();
                return policy.toJson(IamPolicyWriter.builder()
                                .prettyPrint(true).build());
        }
```

IamPolicy を作成してアップロードします。

```
        public String createAndUploadPolicyExample(IamClient iam, String accountID,
 String policyName) {
                // Build the policy.
                IamPolicy policy = IamPolicy.builder() // 'version' defaults to
 "2012-10-17".
                                .addStatement(IamStatement.builder()
                                                .effect(IamEffect.ALLOW)
                                                .addAction("dynamodb:PutItem")
                                                .addResource("arn:aws:dynamodb:us-
east-1:" + accountID
                                                                    + ":table/
exampleTableName")
                                                .build())
                                .build();
                // Upload the policy.
                iam.createPolicy(r ->
 r.policyName(policyName).policyDocument(policy.toJson()));
                return
 policy.toJson(IamPolicyWriter.builder().prettyPrint(true).build());
        }
```

IamPolicy をダウンロードして使用します。

```
       public String createNewBasedOnExistingPolicyExample(IamClient iam, String
accountID, String policyName,
                       String newPolicyName) {

               String policyArn = "arn:aws:iam::" + accountID + ":policy/" +
policyName;
               GetPolicyResponse getPolicyResponse = iam.getPolicy(r ->
r.policyArn(policyArn));

               String policyVersion =
getPolicyResponse.policy().defaultVersionId();
               GetPolicyVersionResponse getPolicyVersionResponse = iam
                               .getPolicyVersion(r ->
r.policyArn(policyArn).versionId(policyVersion));

               // Create an IamPolicy instance from the JSON string returned from
IAM.
               String decodedPolicy =
URLDecoder.decode(getPolicyVersionResponse.policyVersion().document(),
                               StandardCharsets.UTF_8);
               IamPolicy policy = IamPolicy.fromJson(decodedPolicy);

               /*
                * All IamPolicy components are immutable, so use the copy method
that creates a
                * new instance that
                * can be altered in the same method call.
                *
                * Add the ability to get an item from DynamoDB as an additional
action.
                */
               IamStatement newStatement = policy.statements().get(0).copy(s ->
s.addAction("dynamodb:GetItem"));

               // Create a new statement that replaces the original statement.
               IamPolicy newPolicy = policy.copy(p ->
p.statements(Arrays.asList(newStatement)));

               // Upload the new policy. IAM now has both policies.
               iam.createPolicy(r -> r.policyName(newPolicyName)
                               .policyDocument(newPolicy.toJson()));
```

```
                return
newPolicy.toJson(IamPolicyWriter.builder().prettyPrint(true).build());
        }
```

- 詳細については、「AWS SDK for Java 2.x デベロッパーガイド」を参照してください。
- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - CreatePolicy
  - GetPolicy
  - GetPolicyVersion

SDK for Java 2.x を使用した Amazon Inspector の例

次のコード例は、Amazon Inspector AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- はじめに
- 基本
- アクション

はじめに

Hello

次のコード例は、 の使用を開始する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class HelloInspector {
    private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(HelloInspector.class);

    public static void main(String[] args) {
        logger.info("Hello Amazon Inspector!");

        try (Inspector2Client inspectorClient = Inspector2Client.builder().build())
 {

            logger.info("Listing member accounts for this Inspector administrator
 account...");
            listMembers(inspectorClient);

            logger.info("The Hello Inspector example completed successfully.");

        } catch (Inspector2Exception e) {
            logger.error("Error: {}", e.getMessage());
            logger.info("Troubleshooting:");
            logger.info("1. Verify AWS credentials are configured");
            logger.info("2. Check IAM permissions for Inspector2");
            logger.info("3. Ensure Inspector2 is enabled in your account");
            logger.info("4. Verify you're using a supported region");
        }
    }
```

```
    /**
     * Lists all member accounts associated with the current Inspector administrator
 account.
     *
     * @param inspectorClient The Inspector2Client used to interact with AWS
 Inspector.
     */
    public static void listMembers(Inspector2Client inspectorClient) {
        try {
            ListMembersRequest request = ListMembersRequest.builder()
                    .maxResults(50) // optional: limit results
                    .build();

            ListMembersResponse response = inspectorClient.listMembers(request);
            List<Member> members = response.members();

            if (members == null || members.isEmpty()) {
                logger.info("No member accounts found for this Inspector
 administrator account.");
                return;
            }

            logger.info("Found {} member account(s):", members.size());
            for (Member member : members) {
                logger.info(" - Account ID: {}, Status: {}",
                        member.accountId(),
                        member.relationshipStatusAsString());
            }

        } catch (Inspector2Exception e) {
            logger.error("Failed to list members: {}",
 e.awsErrorDetails().errorMessage());
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x 「 API リファレンス」のListMembers」を参照してください。

基本

基本を学ぶ

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- Inspector アカウントのステータスを確認します。
- Inspector が有効になっていることを確認します。
- セキュリティの検出結果を分析します。
- スキャンカバレッジを確認します。
- 検出結果フィルターを作成します。
- 既存のフィルターを一覧表示します。
- 使用状況とコストを確認します。
- カバレッジ統計を取得します。
- フィルターを削除します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

機能を実証するインタラクティブなシナリオを実行します。

```
/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class InspectorScenario {

    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");
```

```
   private static final Logger logger =
LoggerFactory.getLogger(InspectorScenario.class);
   private static final Scanner scanner = new Scanner(System.in);

   public static void main(String[] args) {
       InspectorActions inspectorActions = new InspectorActions();
       logger.info("Amazon Inspector Basics Scenario");

       logger.info("""
                   Amazon Inspector is a security assessment service provided by
Amazon Web Services (AWS) that helps
                   improve the security and compliance of applications deployed on
AWS. It automatically assesses
                   applications for vulnerabilities or deviations from best
practices. By leveraging Amazon Inspector,
                   users can gain insights into the overall security state of their
application and identify potential
                   security risks.

                   This service operates by conducting both network and host-based
assessments, allowing it to detect a
                   wide range of security issues, including those related to
operating systems, network configurations,
                   and application dependencies.
                   """);

       waitForInputToContinue();

       try {
           runScenario(inspectorActions);

           logger.info("");
           logger.info("Scenario completed successfully!");
           logger.info("");
           logger.info("What you learned:");
           logger.info("  - How to check Inspector account status");
           logger.info("  - How to enable Inspector");
           logger.info("  - How to list and analyze findings");
           logger.info("  - How to check coverage information");
           logger.info("  - How to create and manage filters");
           logger.info("  - How to track usage and costs");
           logger.info("  - How to clean up resources");
           logger.info("");
```

```
        } catch (Exception ex) {
            logger.error("Scenario failed due to unexpected error: {}",
ex.getMessage(), ex);

        } finally {
            scanner.close();
            logger.info("Exiting...");
        }
    }

    /**
     * Runs the Inspector scenario in a step-by-step sequence.
     *
     * All InspectorActions methods are asynchronous and return CompletableFutures.
     * Each step ends with .join(). Any async exception thrown during .join() will
bubble up
     *
     */
    public static void runScenario(InspectorActions actions) {
        String filterArn = null;
        boolean inspectorEnabled = false;

        try {
            // Step 1
            logger.info(DASHES);
            logger.info("Step 1: Checking Inspector account status...");
            String status = actions.getAccountStatusAsync().join();
            logger.info(status);
            waitForInputToContinue();

            // Step 2
            logger.info(DASHES);
            logger.info("Step 2: Enabling Inspector...");
            String message = actions.enableInspectorAsync(null).join();
            logger.info(message);
            inspectorEnabled = true;  // track that Inspector was enabled
            waitForInputToContinue();

            // Step 3
            logger.info(DASHES);
            logger.info("Step 3: Listing LOW severity findings...");

            // Call the service method
```

```
            List<String> allFindings =
actions.listLowSeverityFindingsAsync().join();

            if (!allFindings.isEmpty()) {
                // Only proceed if there are findings
                String lastArn = allFindings.get(allFindings.size() - 1);
                logger.info("Look up details on: {}", lastArn);
                waitForInputToContinue();
                String details = actions.getFindingDetailsAsync(lastArn).join();
                logger.info(details);
            } else {
                logger.info("No LOW severity findings found.");
            }

            waitForInputToContinue();

            // Step 4
            logger.info(DASHES);
            logger.info("Step 4: Listing coverage...");
            String coverage = actions.listCoverageAsync(5).join();
            logger.info(coverage);
            waitForInputToContinue();

            // Step 5
            logger.info(DASHES);
            logger.info("Step 5: Creating filter...");
            String filterName = "suppress-low-" + System.currentTimeMillis();
            filterArn = actions.createLowSeverityFilterAsync(filterName, "Suppress
low severity findings").join();
            logger.info("Created filter: {}", filterArn);
            waitForInputToContinue();

            // Step 6
            logger.info(DASHES);
            logger.info("Step 6: Listing filters...");
            String filters = actions.listFiltersAsync(10).join();
            logger.info(filters);
            waitForInputToContinue();

            // Step 7
            logger.info(DASHES);
            logger.info("Step 7: Usage totals...");
            String usage = actions.listUsageTotalsAsync(null, 10).join();
            logger.info(usage);
```

```
            waitForInputToContinue();

            // Step 8
            logger.info(DASHES);
            logger.info("Step 8: Coverage statistics...");
            String stats = actions.listCoverageStatisticsAsync().join();
            logger.info(stats);
            waitForInputToContinue();

            // Step 9
            logger.info(DASHES);
            logger.info("Step 9: Delete filter?");
            logger.info("Filter ARN: {}", filterArn);
            logger.info("Delete the filter and disable Inspector? (y/n)");

            if (scanner.nextLine().trim().equalsIgnoreCase("y")) {
                actions.deleteFilterAsync(filterArn).join();
                logger.info("Filter deleted.");
                String disableMsg = actions.disableInspectorAsync(null).join();
                logger.info(disableMsg);
                inspectorEnabled = false; // track that Inspector was disabled
            }

            waitForInputToContinue();

        } catch (Exception ex) {
            logger.error("Scenario encountered an error: {}", ex.getMessage(), ex);
            // Rethrow the exception
            throw ex;

        } finally {
            // Cleanup in case of an exception
            if (filterArn != null) {
                try {
                    actions.deleteFilterAsync(filterArn).join();
                    logger.info("Cleanup: Filter deleted.");
                } catch (Exception e) {
                    logger.warn("Failed to delete filter during cleanup: {}",
e.getMessage(), e);
                }
            }

            if (inspectorEnabled) {
                try {
```

```
                    actions.disableInspectorAsync(null).join();
                    logger.info("Cleanup: Inspector disabled.");
                } catch (Exception e) {
                    logger.warn("Failed to disable Inspector during cleanup: {}",
 e.getMessage(), e);
                }
            }
        }
    }

    // Utility Method
    private static void waitForInputToContinue() {
        while (true) {
            logger.info("");
            logger.info("Enter 'c' to continue:");
            String input = scanner.nextLine().trim();
            if (input.equalsIgnoreCase("c")) break;
            logger.info("Invalid input, try again.");
        }
    }
}
```

SDK メソッドのラッパークラス。

```
public class InspectorActions {
    private static Inspector2AsyncClient inspectorAsyncClient;
    private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(InspectorActions.class);

    private static Inspector2AsyncClient getAsyncClient() {
        if (inspectorAsyncClient == null) {
            SdkAsyncHttpClient httpClient = NettyNioAsyncHttpClient.builder()
                    .maxConcurrency(100)
                    .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                    .readTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                    .writeTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                    .build();

            ClientOverrideConfiguration overrideConfig =
 ClientOverrideConfiguration.builder()
                    .apiCallTimeout(Duration.ofMinutes(2))
                    .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(90))
```

```
                    .retryStrategy(RetryMode.STANDARD)
                    .build();

            inspectorAsyncClient = Inspector2AsyncClient.builder()
                    .httpClient(httpClient)
                    .overrideConfiguration(overrideConfig)
                    .build();
        }
        return inspectorAsyncClient;
    }


    /**
     * Enables AWS Inspector for the provided account(s) and default resource types.
     *
     * @param accountIds Optional list of AWS account IDs.
     */
    public CompletableFuture<String> enableInspectorAsync(List<String> accountIds) {

        // The resource types to enable.
        List<ResourceScanType> resourceTypes = List.of(
                ResourceScanType.EC2,
                ResourceScanType.ECR,
                ResourceScanType.LAMBDA,
                ResourceScanType.LAMBDA_CODE
        );

        // Build the request.
        EnableRequest.Builder requestBuilder = EnableRequest.builder()
                .resourceTypes(resourceTypes);

        if (accountIds != null && !accountIds.isEmpty()) {
            requestBuilder.accountIds(accountIds);
        }

        EnableRequest request = requestBuilder.build();
        return getAsyncClient().enable(request)
                .whenComplete((response, exception) -> {
                    if (exception != null) {
                        Throwable cause = exception.getCause();
                        if (cause instanceof ValidationException) {
                            throw new CompletionException(
                                    "Inspector may already be enabled for this
account: %s".formatted(cause.getMessage()),
```

```
                                    cause
                            );

                        }

                        if (cause instanceof Inspector2Exception) {
                            Inspector2Exception e = (Inspector2Exception) cause;
                            throw new CompletionException(
                                    "AWS Inspector2 service error:
%s".formatted(e.awsErrorDetails().errorMessage()),
                                    cause
                            );
                        }

                        throw new CompletionException(
                                "Failed to enable Inspector:
%s".formatted(exception.getMessage()),
                                exception
                        );
                    }
                })
                .thenApply(response -> {
                    StringBuilder summary = new StringBuilder("Enable results:\n");

                    if (response.accounts() == null ||
response.accounts().isEmpty()) {
                        summary.append("Inspector may already be enabled for all
target accounts.");
                        return summary.toString();
                    }

                    for (Account account : response.accounts()) {
                        String accountId = account.accountId() != null ?
account.accountId() : "Unknown";
                        String status = account.status() != null ?
account.statusAsString() : "Unknown";
                        summary.append(" • Account: ").append(accountId)
                                .append(" # Status: ").append(status).append("\n");
                    }

                    return summary.toString();
                });
    }
```

```
   /**
    * Retrieves and prints the coverage statistics using a paginator.
    */
   public CompletableFuture<String> listCoverageStatisticsAsync() {
       ListCoverageStatisticsRequest request =
ListCoverageStatisticsRequest.builder()
               .build();

       return getAsyncClient().listCoverageStatistics(request)
               .whenComplete((response, exception) -> {
                   if (exception != null) {
                       Throwable cause = exception.getCause();

                       if (cause instanceof ValidationException) {
                           throw new CompletionException(
                                   "Validation error listing coverage statistics:
%s".formatted(cause.getMessage()),
                                   cause
                           );
                       }

                       if (cause instanceof Inspector2Exception) {
                           Inspector2Exception e = (Inspector2Exception) cause;

                           throw new CompletionException(
                                   "Inspector2 service error:
%s".formatted(e.awsErrorDetails().errorMessage()),
                                   e
                           );
                       }

                       throw new CompletionException(
                               "Unexpected error listing coverage statistics:
%s".formatted(exception.getMessage()),
                               exception
                       );
                   }
               })
               .thenApply(response -> {
                   List<Counts> countsList = response.countsByGroup();
                   StringBuilder sb = new StringBuilder();

                   if (countsList == null || countsList.isEmpty()) {
```

```
                        sb.append("No coverage statistics available.\n");
                        return sb.toString();
                    }

                    sb.append("Coverage Statistics:\n");

                    for (Counts c : countsList) {
                        sb.append("  Group: ").append(c.groupKey()).append("\n")
                                .append("    Total Count:
").append(c.count()).append("\n\n");
                    }

                    return sb.toString();
                });
    }


    /**
     * Asynchronously lists Inspector2 usage totals using a paginator.
     *
     * @param accountIds optional list of account IDs
     * @param maxResults maximum results per page
     * @return CompletableFuture completed with formatted summary text
     */
    public CompletableFuture<String> listUsageTotalsAsync(
            List<String> accountIds,
            int maxResults) {

        logger.info("Starting usage totals paginator…");

        ListUsageTotalsRequest.Builder builder = ListUsageTotalsRequest.builder()
                .maxResults(maxResults);

        if (accountIds != null && !accountIds.isEmpty()) {
            builder.accountIds(accountIds);
        }

        ListUsageTotalsRequest request = builder.build();
        ListUsageTotalsPublisher paginator =
getAsyncClient().listUsageTotalsPaginator(request);
        StringBuilder summaryBuilder = new StringBuilder();

        return paginator.subscribe(response -> {
                    if (response.totals() != null && !response.totals().isEmpty()) {
```

```
                        response.totals().forEach(total -> {
                            if (total.usage() != null) {
                                total.usage().forEach(usage -> {
                                    logger.info("Usage: {} = {}",
usage.typeAsString(), usage.total());
                                    summaryBuilder.append(usage.typeAsString())
                                            .append(": ")
                                            .append(usage.total())
                                            .append("\n");
                                });
                            }
                        });
                    } else {
                        logger.info("Page contained no usage totals.");
                    }
                }).thenRun(() -> logger.info("Successfully listed usage totals."))
                .thenApply(v -> {
                    String summary = summaryBuilder.toString();
                    return summary.isEmpty() ? "No usage totals found." : summary;
                }).exceptionally(ex -> {
                    Throwable cause = ex.getCause() != null ? ex.getCause() : ex;

                    if (cause instanceof ValidationException ve) {
                        throw new CompletionException(
                                "Validation error listing usage totals:
%s".formatted(ve.getMessage()),
                                ve
                        );
                    }

                    throw new CompletionException("Failed to list usage totals",
cause);
                });
    }



    /**
     * Retrieves the account status using the Inspector2Client.
     */
    public CompletableFuture<String> getAccountStatusAsync() {
        BatchGetAccountStatusRequest request =
BatchGetAccountStatusRequest.builder()
                .accountIds(Collections.emptyList())
```

```
                .build();

        return getAsyncClient().batchGetAccountStatus(request)
                .whenComplete((response, exception) -> {
                    if (exception != null) {
                        Throwable cause = exception.getCause();
                        if (cause instanceof AccessDeniedException) {
                            throw new CompletionException(
                                    "You do not have sufficient access:
%s".formatted(cause.getMessage()),
                                    cause
                            );

                        }

                        if (cause instanceof Inspector2Exception) {
                            Inspector2Exception e = (Inspector2Exception) cause;

                            throw new CompletionException(
                                    "Inspector2 service error:
%s".formatted(e.awsErrorDetails().errorMessage()),
                                    e
                            );
                        }

                        throw new CompletionException(
                                "Unexpected error getting account status:
%s".formatted(exception.getMessage()),
                                exception
                        );
                    }
                })
                .thenApply(response -> {

                    StringBuilder sb = new StringBuilder();
                    List<AccountState> accounts = response.accounts();

                    if (accounts == null || accounts.isEmpty()) {
                        sb.append("No account status returned.\n");
                        return sb.toString();
                    }

                    sb.append("Inspector Account Status:\n");
                    for (AccountState account : accounts) {
```

```
                        String accountId = account.accountId() != null
                                ? account.accountId()
                                : "Unknown";

                        sb.append("  Account ID: ").append(accountId).append("\n");

                        // Overall account state
                        if (account.state() != null && account.state().status() !=
null) {
                            sb.append("  Overall State: ")
                                    .append(account.state().status())
                                    .append("\n");
                        } else {
                            sb.append("  Overall State: Unknown\n");
                        }

                        // Resource state (only status available)
                        ResourceState resources = account.resourceState();
                        if (resources != null) {
                            sb.append("  Resource Status: available\n");
                        }

                        sb.append("\n");
                    }

                    return sb.toString();
                });
    }


    /**
     * Asynchronously lists Inspector2 filters using a paginator.
     *
     * @param maxResults maximum filters per page (nullable)
     * @return CompletableFuture completed with summary text
     */
    public CompletableFuture<String> listFiltersAsync(Integer maxResults) {
        logger.info("Starting async filters paginator…");

        ListFiltersRequest.Builder builder = ListFiltersRequest.builder();
        if (maxResults != null) {
            builder.maxResults(maxResults);
        }
```

```
        ListFiltersRequest request = builder.build();

        // Paginator from SDK
        ListFiltersPublisher paginator =
getAsyncClient().listFiltersPaginator(request);
        StringBuilder collectedFilterIds = new StringBuilder();

        return paginator.subscribe(response -> {
            response.filters().forEach(filter -> {
                logger.info("Filter: " + filter.arn());
                collectedFilterIds.append(filter.arn()).append("\n");
            });
        }).thenApply(v -> {
            String result = collectedFilterIds.toString();
            logger.info("Successfully listed all filters.");
            return result.isEmpty() ? "No filters found." : result;
        }).exceptionally(ex -> {
            Throwable cause = ex.getCause() != null ? ex.getCause() : ex;

            if (cause instanceof ValidationException ve) {
                throw new CompletionException(
                        "Validation error listing filters:
%s".formatted(ve.getMessage()),
                        ve
                );
            }

            throw new RuntimeException("Failed to list filters", ex);
        });
    }


    /**
     * Creates a new LOW severity filter in AWS Inspector2 to suppress findings.
     *
     * @param filterName  the name of the filter to create
     * @param description a descriptive string explaining the purpose of the filter
     * @return a CompletableFuture that completes with the ARN of the created filter
     * @throws CompletionException wraps any validation, Inspector2 service, or
unexpected errors
     */
    public CompletableFuture<String> createLowSeverityFilterAsync(
            String filterName,
```

```
            String description) {

        // Define a filter to match LOW severity findings.
        StringFilter severityFilter = StringFilter.builder()
                .value(Severity.LOW.toString())
                .comparison(StringComparison.EQUALS)
                .build();

        // Create filter criteria.
        FilterCriteria filterCriteria = FilterCriteria.builder()
                .severity(Collections.singletonList(severityFilter))
                .build();

        // Build the filter creation request.
        CreateFilterRequest request = CreateFilterRequest.builder()
                .name(filterName)
                .filterCriteria(filterCriteria)
                .action(FilterAction.SUPPRESS)
                .description(description)
                .build();

        return getAsyncClient().createFilter(request)
                .whenComplete((response, exception) -> {
                    if (exception != null) {
                        Throwable cause = exception.getCause() != null ?
exception.getCause() : exception;

                        if (cause instanceof ValidationException ve) {
                            throw new CompletionException(
                                    "Validation error creating filter:
%s".formatted(ve.getMessage()),
                                    ve
                            );
                        }

                        if (cause instanceof Inspector2Exception e) {
                            throw new CompletionException(
                                    "Inspector2 service error:
%s".formatted(e.awsErrorDetails().errorMessage()),
                                    e
                            );
                        }

                        // Unexpected async error
```

```
                        throw new CompletionException(
                                "Unexpected error creating filter:
 %s".formatted(exception.getMessage()),
                                exception
                        );
                    }
                })
                // Extract and return the ARN of the created filter.
                .thenApply(CreateFilterResponse::arn);
    }


    /**
     * Lists all AWS Inspector findings of LOW severity asynchronously.
     *
     * @return CompletableFuture containing a List of finding ARNs.
     * Returns an empty list if no LOW severity findings are found.
     */
    public CompletableFuture<ArrayList<String>> listLowSeverityFindingsAsync() {
        logger.info("Starting async LOW severity findings paginator…");

        // Build a filter criteria for LOW severity.
        StringFilter severityFilter = StringFilter.builder()
                .value(Severity.LOW.toString())
                .comparison(StringComparison.EQUALS)
                .build();

        FilterCriteria filterCriteria = FilterCriteria.builder()
                .severity(Collections.singletonList(severityFilter))
                .build();

        // Build the request.
        ListFindingsRequest request = ListFindingsRequest.builder()
                .filterCriteria(filterCriteria)
                .build();

        ListFindingsPublisher paginator =
 getAsyncClient().listFindingsPaginator(request);
        List<String> allArns = Collections.synchronizedList(new ArrayList<>());

        return paginator.subscribe(response -> {
                    if (response.findings() != null && !
response.findings().isEmpty()) {
                        response.findings().forEach(finding -> {
```

```
                            logger.info("Finding ARN: {}", finding.findingArn());
                            allArns.add(finding.findingArn());
                        });
                    } else {
                        logger.info("Page contained no findings.");
                    }
                })
                .thenRun(() -> logger.info("Successfully listed all LOW severity
findings."))
                .thenApply(v -> new ArrayList<>(allArns)) // Return list instead of
a formatted string
                .exceptionally(ex -> {
                    Throwable cause = ex.getCause() != null ? ex.getCause() : ex;
                    if (cause instanceof ValidationException ve) {
                        throw new CompletionException(
                                "Validation error listing LOW severity findings:
%s".formatted(ve.getMessage()),
                                ve
                        );
                    }
                    throw new RuntimeException("Failed to list LOW severity
findings", ex);
                });
    }



    /**
     * Lists AWS Inspector2 coverage details for scanned resources using a
paginator.
     *
     * @param maxResults Maximum number of resources to return.
     */
    public CompletableFuture<String> listCoverageAsync(int maxResults) {
        ListCoverageRequest initialRequest = ListCoverageRequest.builder()
                .maxResults(maxResults)
                .build();

        ListCoveragePublisher paginator =
getAsyncClient().listCoveragePaginator(initialRequest);
        StringBuilder summary = new StringBuilder();

        return paginator.subscribe(response -> {
            List<CoveredResource> coveredResources = response.coveredResources();
```

```
            if (coveredResources == null || coveredResources.isEmpty()) {
                summary.append("No coverage information available for this page.
\n");
                return;
            }

            Map<String, List<CoveredResource>> byType = coveredResources.stream()

 .collect(Collectors.groupingBy(CoveredResource::resourceTypeAsString));

            byType.forEach((type, list) ->
                    summary.append("  ").append(type)
                            .append(": ").append(list.size())
                            .append(" resource(s)\n")
            );

            // Include up to 3 sample resources per page
            for (int i = 0; i < Math.min(coveredResources.size(), 3); i++) {
                CoveredResource r = coveredResources.get(i);
                summary.append("  - ").append(r.resourceTypeAsString())
                        .append(": ").append(r.resourceId()).append("\n");
                summary.append("    Scan Type:
 ").append(r.scanTypeAsString()).append("\n");
                if (r.scanStatus() != null) {
                    summary.append("    Status:
 ").append(r.scanStatus().statusCodeAsString()).append("\n");
                }
                if (r.accountId() != null) {
                    summary.append("    Account ID:
 ").append(r.accountId()).append("\n");
                }
                summary.append("\n");
            }

        }).thenApply(v -> {
            if (summary.length() == 0) {
                return "No coverage information found across all pages.";
            } else {
                return "Coverage Information:\n" + summary.toString();
            }
        }).exceptionally(ex -> {
            Throwable cause = ex.getCause();
            if (cause instanceof ValidationException) {
```

```
                throw new CompletionException(
                        "Validation error listing coverage: " + cause.getMessage(),
cause);
            } else if (cause instanceof Inspector2Exception e) {
                throw new CompletionException(
                        "Inspector2 service error: " +
e.awsErrorDetails().errorMessage(), e);
            }
            throw new CompletionException("Unexpected error listing coverage: " +
ex.getMessage(), ex);
        });
    }


    /**
     * Deletes an AWS Inspector2 filter.
     *
     * @param filterARN The ARN of the filter to delete.
     */
    public CompletableFuture<Void> deleteFilterAsync(String filterARN) {
        return getAsyncClient().deleteFilter(
                        DeleteFilterRequest.builder()
                                .arn(filterARN)
                                .build()
                )
                .handle((response, exception) -> {
                    if (exception != null) {
                        Throwable cause = exception.getCause() != null ?
exception.getCause() : exception;

                        if (cause instanceof ResourceNotFoundException rnfe) {
                            String msg = "Filter not found for ARN:
%s".formatted(filterARN);
                            logger.warn(msg, rnfe);
                            throw new CompletionException(msg, rnfe);
                        }

                        throw new RuntimeException("Failed to delete the filter: " +
cause, cause);
                    }
                    return null;
                });
    }
```

```
   /**
    * Retrieves detailed information about a specific AWS Inspector2 finding
asynchronously.
    *
    * @param findingArn The ARN of the finding to look up.
    * @return A {@link CompletableFuture} that, when completed, provides a
formatted string
    * containing all available details for the finding.
    * @throws RuntimeException if the async call to Inspector2 fails.
    */
   public CompletableFuture<String> getFindingDetailsAsync(String findingArn) {
       BatchGetFindingDetailsRequest request =
BatchGetFindingDetailsRequest.builder()
               .findingArns(findingArn)
               .build();

       return getAsyncClient().batchGetFindingDetails(request)
               .thenApply(response -> {
                   if (response.findingDetails() == null ||
response.findingDetails().isEmpty()) {
                       return String.format("No details found for ARN: ",
findingArn);
                   }

                   StringBuilder sb = new StringBuilder();
                   response.findingDetails().forEach(detail -> {
                       sb.append("Finding ARN:
").append(detail.findingArn()).append("\n")
                                .append("Risk Score:
").append(detail.riskScore()).append("\n");

                       // ExploitObserved timings
                       if (detail.exploitObserved() != null) {
                           sb.append("Exploit First Seen:
").append(detail.exploitObserved().firstSeen()).append("\n")
                                   .append("Exploit Last Seen:
").append(detail.exploitObserved().lastSeen()).append("\n");
                       }

                       // Reference URLs
                       if (detail.hasReferenceUrls()) {
                           sb.append("Reference URLs:\n");
                           detail.referenceUrls().forEach(url -> sb.append("  •
").append(url).append("\n"));
```

```
                        }

                        // Tools
                        if (detail.hasTools()) {
                            sb.append("Tools:\n");
                            detail.tools().forEach(tool -> sb.append("  •
").append(tool).append("\n"));
                        }

                        // TTPs
                        if (detail.hasTtps()) {
                            sb.append("TTPs:\n");
                            detail.ttps().forEach(ttp -> sb.append("  •
").append(ttp).append("\n"));
                        }

                        // CWEs
                        if (detail.hasCwes()) {
                            sb.append("CWEs:\n");
                            detail.cwes().forEach(cwe -> sb.append("  •
").append(cwe).append("\n"));
                        }

                        // Evidence
                        if (detail.hasEvidences()) {
                            sb.append("Evidence:\n");
                            detail.evidences().forEach(ev -> {
                                sb.append("  - Severity:
").append(ev.severity()).append("\n");

                            });
                        }

                        sb.append("\n");
                    });

                    return sb.toString();
                })
                .exceptionally(ex -> {
                    Throwable cause = ex.getCause() != null ? ex.getCause() : ex;

                    if (cause instanceof ResourceNotFoundException rnfe) {
                        return "Finding not found: %s".formatted(findingArn);
                    }
```

```
                    // Fallback for other exceptions
                    throw new RuntimeException("Failed to get finding details for
 ARN: " + findingArn, cause);
                });
    }


    /**
     * Asynchronously disables AWS Inspector for the specified accounts and resource
 types.
     *
     * @param accountIds a {@link List} of AWS account IDs for which to disable
 Inspector;
     *                   may be {@code null} or empty to target the current account
     * @return a {@link CompletableFuture} that, when completed, returns a {@link
 String}
     *         summarizing the disable results for each account
     * @throws CompletionException if the disable operation fails due to validation
 errors,
     *                             service errors, or other exceptions
     * @see <a href="https://docs.aws.amazon.com/inspector/latest/APIReference/
API_Disable.html">
     *      AWS Inspector2 Disable API</a>
     */
    public CompletableFuture<String> disableInspectorAsync(List<String> accountIds)
 {

        // The resource types to disable.
        List<ResourceScanType> resourceTypes = List.of(
                ResourceScanType.EC2,
                ResourceScanType.ECR,
                ResourceScanType.LAMBDA,
                ResourceScanType.LAMBDA_CODE
        );

        // Build the request.
        DisableRequest.Builder requestBuilder = DisableRequest.builder()
                .resourceTypes(resourceTypes);

        if (accountIds != null && !accountIds.isEmpty()) {
            requestBuilder.accountIds(accountIds);
        }
```

```
        DisableRequest request = requestBuilder.build();

        return getAsyncClient().disable(request)
                .whenComplete((response, exception) -> {
                    if (exception != null) {
                        Throwable cause = exception.getCause();
                        if (cause instanceof ValidationException) {
                            throw new CompletionException(
                                    "Inspector may already be disabled for this
account: %s".formatted(cause.getMessage()),
                                    cause
                            );
                        }

                        if (cause instanceof Inspector2Exception) {
                            Inspector2Exception e = (Inspector2Exception) cause;
                            throw new CompletionException(
                                    "AWS Inspector2 service error:
%s".formatted(e.awsErrorDetails().errorMessage()),
                                    cause
                            );
                        }

                        throw new CompletionException(
                                "Failed to disable Inspector:
%s".formatted(exception.getMessage()),
                                exception
                        );
                    }
                })
                .thenApply(response -> {
                    StringBuilder summary = new StringBuilder("Disable results:\n");

                    if (response.accounts() == null ||
response.accounts().isEmpty()) {
                        summary.append("Inspector may already be disabled for all
target accounts.");
                        return summary.toString();
                    }

                    for (Account account : response.accounts()) {
                        String accountId = account.accountId() != null ?
account.accountId() : "Unknown";
```

```
                        String status = account.status() != null ?
 account.statusAsString() : "Unknown";
                        summary.append(" • Account: ").append(accountId)
                                .append(" # Status: ").append(status).append("\n");
                    }

                    return summary.toString();
                });
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - BatchGetAccountStatus
  - BatchGetFindingDetails
  - CreateFilter
  - DeleteFilter
  - 有効化
  - ListCoverage
  - ListCoverageStatistics
  - ListFilters
  - ListFindings
  - ListUsageTotals

アクション

`BatchGetAccountStatus`

次の例は、`BatchGetAccountStatus` を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Retrieves the account status using the Inspector2Client.
    */
   public CompletableFuture<String> getAccountStatusAsync() {
       BatchGetAccountStatusRequest request =
BatchGetAccountStatusRequest.builder()
               .accountIds(Collections.emptyList())
               .build();

       return getAsyncClient().batchGetAccountStatus(request)
               .whenComplete((response, exception) -> {
                   if (exception != null) {
                       Throwable cause = exception.getCause();
                       if (cause instanceof AccessDeniedException) {
                           throw new CompletionException(
                                   "You do not have sufficient access:
%s".formatted(cause.getMessage()),
                                   cause
                           );

                       }

                       if (cause instanceof Inspector2Exception) {
                           Inspector2Exception e = (Inspector2Exception) cause;

                           throw new CompletionException(
                                   "Inspector2 service error:
%s".formatted(e.awsErrorDetails().errorMessage()),
                                   e
                           );
                       }

                       throw new CompletionException(
                               "Unexpected error getting account status:
%s".formatted(exception.getMessage()),
                               exception
                       );
                   }
               })
               .thenApply(response -> {

                   StringBuilder sb = new StringBuilder();
```

```
                    List<AccountState> accounts = response.accounts();

                    if (accounts == null || accounts.isEmpty()) {
                        sb.append("No account status returned.\n");
                        return sb.toString();
                    }

                    sb.append("Inspector Account Status:\n");
                    for (AccountState account : accounts) {

                        String accountId = account.accountId() != null
                                ? account.accountId()
                                : "Unknown";

                        sb.append("  Account ID: ").append(accountId).append("\n");

                        // Overall account state
                        if (account.state() != null && account.state().status() !=
null) {
                            sb.append("  Overall State: ")
                                    .append(account.state().status())
                                    .append("\n");
                        } else {
                            sb.append("  Overall State: Unknown\n");
                        }

                        // Resource state (only status available)
                        ResourceState resources = account.resourceState();
                        if (resources != null) {
                            sb.append("  Resource Status: available\n");
                        }

                        sb.append("\n");
                    }

                    return sb.toString();
                });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x 「 API リファレンス」のBatchGetAccountStatus」を参照してください。

`BatchGetFindingDetails`

次の例は、`BatchGetFindingDetails` を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Retrieves detailed information about a specific AWS Inspector2 finding
asynchronously.
    *
    * @param findingArn The ARN of the finding to look up.
    * @return A {@link CompletableFuture} that, when completed, provides a
formatted string
    * containing all available details for the finding.
    * @throws RuntimeException if the async call to Inspector2 fails.
    */
   public CompletableFuture<String> getFindingDetailsAsync(String findingArn) {
       BatchGetFindingDetailsRequest request =
BatchGetFindingDetailsRequest.builder()
               .findingArns(findingArn)
               .build();

       return getAsyncClient().batchGetFindingDetails(request)
               .thenApply(response -> {
                   if (response.findingDetails() == null ||
response.findingDetails().isEmpty()) {
                       return String.format("No details found for ARN: ",
findingArn);
                   }

                   StringBuilder sb = new StringBuilder();
                   response.findingDetails().forEach(detail -> {
                       sb.append("Finding ARN:
").append(detail.findingArn()).append("\n")
                               .append("Risk Score:
").append(detail.riskScore()).append("\n");
```

```
                        // ExploitObserved timings
                        if (detail.exploitObserved() != null) {
                            sb.append("Exploit First Seen:
").append(detail.exploitObserved().firstSeen()).append("\n")
                                    .append("Exploit Last Seen:
").append(detail.exploitObserved().lastSeen()).append("\n");
                        }

                        // Reference URLs
                        if (detail.hasReferenceUrls()) {
                            sb.append("Reference URLs:\n");
                            detail.referenceUrls().forEach(url -> sb.append("  •
").append(url).append("\n"));
                        }

                        // Tools
                        if (detail.hasTools()) {
                            sb.append("Tools:\n");
                            detail.tools().forEach(tool -> sb.append("  •
").append(tool).append("\n"));
                        }

                        // TTPs
                        if (detail.hasTtps()) {
                            sb.append("TTPs:\n");
                            detail.ttps().forEach(ttp -> sb.append("  •
").append(ttp).append("\n"));
                        }

                        // CWEs
                        if (detail.hasCwes()) {
                            sb.append("CWEs:\n");
                            detail.cwes().forEach(cwe -> sb.append("  •
").append(cwe).append("\n"));
                        }

                        // Evidence
                        if (detail.hasEvidences()) {
                            sb.append("Evidence:\n");
                            detail.evidences().forEach(ev -> {
                                sb.append("  - Severity:
").append(ev.severity()).append("\n");

                            });
```

```
                        }

                        sb.append("\n");
                    });

                    return sb.toString();
                })
                .exceptionally(ex -> {
                    Throwable cause = ex.getCause() != null ? ex.getCause() : ex;

                    if (cause instanceof ResourceNotFoundException rnfe) {
                        return "Finding not found: %s".formatted(findingArn);
                    }

                    // Fallback for other exceptions
                    throw new RuntimeException("Failed to get finding details for
ARN: " + findingArn, cause);
                });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x 「 API リファレンス」のBatchGetFindingDetails」を参照してください。

`CreateFilter`

次の例は、`CreateFilter` を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Creates a new LOW severity filter in AWS Inspector2 to suppress findings.
     *
     * @param filterName  the name of the filter to create
```

```
     * @param description a descriptive string explaining the purpose of the filter
     * @return a CompletableFuture that completes with the ARN of the created filter
     * @throws CompletionException wraps any validation, Inspector2 service, or
unexpected errors
     */
    public CompletableFuture<String> createLowSeverityFilterAsync(
            String filterName,
            String description) {

        // Define a filter to match LOW severity findings.
        StringFilter severityFilter = StringFilter.builder()
                .value(Severity.LOW.toString())
                .comparison(StringComparison.EQUALS)
                .build();

        // Create filter criteria.
        FilterCriteria filterCriteria = FilterCriteria.builder()
                .severity(Collections.singletonList(severityFilter))
                .build();

        // Build the filter creation request.
        CreateFilterRequest request = CreateFilterRequest.builder()
                .name(filterName)
                .filterCriteria(filterCriteria)
                .action(FilterAction.SUPPRESS)
                .description(description)
                .build();

        return getAsyncClient().createFilter(request)
                .whenComplete((response, exception) -> {
                    if (exception != null) {
                        Throwable cause = exception.getCause() != null ?
exception.getCause() : exception;

                        if (cause instanceof ValidationException ve) {
                            throw new CompletionException(
                                    "Validation error creating filter:
%s".formatted(ve.getMessage()),
                                    ve
                            );
                        }

                        if (cause instanceof Inspector2Exception e) {
                            throw new CompletionException(
```

```
                                    "Inspector2 service error:
%s".formatted(e.awsErrorDetails().errorMessage()),
                                    e
                            );
                        }

                        // Unexpected async error
                        throw new CompletionException(
                                "Unexpected error creating filter:
%s".formatted(exception.getMessage()),
                                exception
                        );
                    }
                })
                // Extract and return the ARN of the created filter.
                .thenApply(CreateFilterResponse::arn);
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateFilter」を参照してください。

`DeleteFilter`

次の例は、DeleteFilter を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Deletes an AWS Inspector2 filter.
     *
     * @param filterARN The ARN of the filter to delete.
     */
    public CompletableFuture<Void> deleteFilterAsync(String filterARN) {
```

```
        return getAsyncClient().deleteFilter(
                        DeleteFilterRequest.builder()
                                .arn(filterARN)
                                .build()
                )
                .handle((response, exception) -> {
                    if (exception != null) {
                        Throwable cause = exception.getCause() != null ?
exception.getCause() : exception;

                        if (cause instanceof ResourceNotFoundException rnfe) {
                            String msg = "Filter not found for ARN:
%s".formatted(filterARN);
                            logger.warn(msg, rnfe);
                            throw new CompletionException(msg, rnfe);
                        }

                        throw new RuntimeException("Failed to delete the filter: " +
cause, cause);
                    }
                    return null;
                });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x 「 API リファレンス」のDeleteFilter」を参照してください。

`Disable`

次の例は、`Disable` を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
```

```
     * Asynchronously disables AWS Inspector for the specified accounts and resource
 types.
     *
     * @param accountIds a {@link List} of AWS account IDs for which to disable
 Inspector;
     *                   may be {@code null} or empty to target the current account
     * @return a {@link CompletableFuture} that, when completed, returns a {@link
 String}
     *         summarizing the disable results for each account
     * @throws CompletionException if the disable operation fails due to validation
 errors,
     *                             service errors, or other exceptions
     * @see <a href="https://docs.aws.amazon.com/inspector/latest/APIReference/
API_Disable.html">
     *      AWS Inspector2 Disable API</a>
     */
    public CompletableFuture<String> disableInspectorAsync(List<String> accountIds)
 {

        // The resource types to disable.
        List<ResourceScanType> resourceTypes = List.of(
                ResourceScanType.EC2,
                ResourceScanType.ECR,
                ResourceScanType.LAMBDA,
                ResourceScanType.LAMBDA_CODE
        );

        // Build the request.
        DisableRequest.Builder requestBuilder = DisableRequest.builder()
                .resourceTypes(resourceTypes);

        if (accountIds != null && !accountIds.isEmpty()) {
            requestBuilder.accountIds(accountIds);
        }

        DisableRequest request = requestBuilder.build();

        return getAsyncClient().disable(request)
                .whenComplete((response, exception) -> {
                    if (exception != null) {
                        Throwable cause = exception.getCause();
                        if (cause instanceof ValidationException) {
                            throw new CompletionException(
```

```
                                    "Inspector may already be disabled for this
account: %s".formatted(cause.getMessage()),
                                    cause
                            );
                        }

                        if (cause instanceof Inspector2Exception) {
                            Inspector2Exception e = (Inspector2Exception) cause;
                            throw new CompletionException(
                                    "AWS Inspector2 service error:
%s".formatted(e.awsErrorDetails().errorMessage()),
                                    cause
                            );
                        }

                        throw new CompletionException(
                                "Failed to disable Inspector:
%s".formatted(exception.getMessage()),
                                exception
                        );
                    }
                })
                .thenApply(response -> {
                    StringBuilder summary = new StringBuilder("Disable results:\n");

                    if (response.accounts() == null ||
response.accounts().isEmpty()) {
                        summary.append("Inspector may already be disabled for all
target accounts.");
                        return summary.toString();
                    }

                    for (Account account : response.accounts()) {
                        String accountId = account.accountId() != null ?
account.accountId() : "Unknown";
                        String status = account.status() != null ?
account.statusAsString() : "Unknown";
                        summary.append(" • Account: ").append(accountId)
                                .append(" # Status: ").append(status).append("\n");
                    }

                    return summary.toString();
                });
    }
```

- API の詳細については、「 API AWS SDK for Java 2.x リファレンス」の「Disable」を参照してください。

`Enable`

次の例は、`Enable` を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
/**
 * Enables AWS Inspector for the provided account(s) and default resource types.
 *
 * @param accountIds Optional list of AWS account IDs.
 */
public CompletableFuture<String> enableInspectorAsync(List<String> accountIds) {

    // The resource types to enable.
    List<ResourceScanType> resourceTypes = List.of(
            ResourceScanType.EC2,
            ResourceScanType.ECR,
            ResourceScanType.LAMBDA,
            ResourceScanType.LAMBDA_CODE
    );

    // Build the request.
    EnableRequest.Builder requestBuilder = EnableRequest.builder()
            .resourceTypes(resourceTypes);

    if (accountIds != null && !accountIds.isEmpty()) {
        requestBuilder.accountIds(accountIds);
    }
```

```
        EnableRequest request = requestBuilder.build();
        return getAsyncClient().enable(request)
                .whenComplete((response, exception) -> {
                    if (exception != null) {
                        Throwable cause = exception.getCause();
                        if (cause instanceof ValidationException) {
                            throw new CompletionException(
                                    "Inspector may already be enabled for this
account: %s".formatted(cause.getMessage()),
                                    cause
                            );

                        }

                        if (cause instanceof Inspector2Exception) {
                            Inspector2Exception e = (Inspector2Exception) cause;
                            throw new CompletionException(
                                    "AWS Inspector2 service error:
%s".formatted(e.awsErrorDetails().errorMessage()),
                                    cause
                            );
                        }

                        throw new CompletionException(
                                "Failed to enable Inspector:
%s".formatted(exception.getMessage()),
                                exception
                        );
                    }
                })
                .thenApply(response -> {
                    StringBuilder summary = new StringBuilder("Enable results:\n");

                    if (response.accounts() == null ||
response.accounts().isEmpty()) {
                        summary.append("Inspector may already be enabled for all
target accounts.");
                        return summary.toString();
                    }

                    for (Account account : response.accounts()) {
                        String accountId = account.accountId() != null ?
account.accountId() : "Unknown";
```

```
                        String status = account.status() != null ?
account.statusAsString() : "Unknown";
                        summary.append(" • Account: ").append(accountId)
                                .append(" # Status: ").append(status).append("\n");
                    }

                    return summary.toString();
                });
    }
```

- API の詳細については、「 API AWS SDK for Java 2.x リファレンス」の「Enable」を参照してください。

`ListCoverage`

次の例は、`ListCoverage` を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Lists AWS Inspector2 coverage details for scanned resources using a
paginator.
     *
     * @param maxResults Maximum number of resources to return.
     */
    public CompletableFuture<String> listCoverageAsync(int maxResults) {
        ListCoverageRequest initialRequest = ListCoverageRequest.builder()
                .maxResults(maxResults)
                .build();

        ListCoveragePublisher paginator =
getAsyncClient().listCoveragePaginator(initialRequest);
        StringBuilder summary = new StringBuilder();
```

```
        return paginator.subscribe(response -> {
            List<CoveredResource> coveredResources = response.coveredResources();

            if (coveredResources == null || coveredResources.isEmpty()) {
                summary.append("No coverage information available for this page.
\n");
                return;
            }

            Map<String, List<CoveredResource>> byType = coveredResources.stream()

 .collect(Collectors.groupingBy(CoveredResource::resourceTypeAsString));

            byType.forEach((type, list) ->
                    summary.append("  ").append(type)
                            .append(": ").append(list.size())
                            .append(" resource(s)\n")
            );

            // Include up to 3 sample resources per page
            for (int i = 0; i < Math.min(coveredResources.size(), 3); i++) {
                CoveredResource r = coveredResources.get(i);
                summary.append("  - ").append(r.resourceTypeAsString())
                        .append(": ").append(r.resourceId()).append("\n");
                summary.append("    Scan Type:
 ").append(r.scanTypeAsString()).append("\n");
                if (r.scanStatus() != null) {
                    summary.append("    Status:
 ").append(r.scanStatus().statusCodeAsString()).append("\n");
                }
                if (r.accountId() != null) {
                    summary.append("    Account ID:
 ").append(r.accountId()).append("\n");
                }
                summary.append("\n");
            }

        }).thenApply(v -> {
            if (summary.length() == 0) {
                return "No coverage information found across all pages.";
            } else {
                return "Coverage Information:\n" + summary.toString();
            }
```

```
        }).exceptionally(ex -> {
            Throwable cause = ex.getCause();
            if (cause instanceof ValidationException) {
                throw new CompletionException(
                        "Validation error listing coverage: " + cause.getMessage(),
cause);
            } else if (cause instanceof Inspector2Exception e) {
                throw new CompletionException(
                        "Inspector2 service error: " +
e.awsErrorDetails().errorMessage(), e);
            }
            throw new CompletionException("Unexpected error listing coverage: " +
ex.getMessage(), ex);
        });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x 「 API リファレンス」のListCoverage」を参照してください。

`ListCoverageStatistics`

次の例は、`ListCoverageStatistics` を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Retrieves and prints the coverage statistics using a paginator.
     */
    public CompletableFuture<String> listCoverageStatisticsAsync() {
        ListCoverageStatisticsRequest request =
ListCoverageStatisticsRequest.builder()
                .build();
```

```
        return getAsyncClient().listCoverageStatistics(request)
                .whenComplete((response, exception) -> {
                    if (exception != null) {
                        Throwable cause = exception.getCause();

                        if (cause instanceof ValidationException) {
                            throw new CompletionException(
                                    "Validation error listing coverage statistics:
%s".formatted(cause.getMessage()),
                                    cause
                            );
                        }

                        if (cause instanceof Inspector2Exception) {
                            Inspector2Exception e = (Inspector2Exception) cause;

                            throw new CompletionException(
                                    "Inspector2 service error:
%s".formatted(e.awsErrorDetails().errorMessage()),
                                    e
                            );
                        }

                        throw new CompletionException(
                                "Unexpected error listing coverage statistics:
%s".formatted(exception.getMessage()),
                                exception
                        );
                    }
                })
                .thenApply(response -> {
                    List<Counts> countsList = response.countsByGroup();
                    StringBuilder sb = new StringBuilder();

                    if (countsList == null || countsList.isEmpty()) {
                        sb.append("No coverage statistics available.\n");
                        return sb.toString();
                    }

                    sb.append("Coverage Statistics:\n");

                    for (Counts c : countsList) {
                        sb.append("  Group: ").append(c.groupKey()).append("\n")
```

```
                                .append("    Total Count:
").append(c.count()).append("\n\n");
                    }

                    return sb.toString();
                });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x 「 API リファレンス」のListCoverageStatistics」を参照してください。

`ListFilters`

次の例は、`ListFilters` を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
/**
 * Asynchronously lists Inspector2 filters using a paginator.
 *
 * @param maxResults maximum filters per page (nullable)
 * @return CompletableFuture completed with summary text
 */
public CompletableFuture<String> listFiltersAsync(Integer maxResults) {
    logger.info("Starting async filters paginator…");

    ListFiltersRequest.Builder builder = ListFiltersRequest.builder();
    if (maxResults != null) {
        builder.maxResults(maxResults);
    }

    ListFiltersRequest request = builder.build();
```

```
        // Paginator from SDK
        ListFiltersPublisher paginator =
getAsyncClient().listFiltersPaginator(request);
        StringBuilder collectedFilterIds = new StringBuilder();

        return paginator.subscribe(response -> {
            response.filters().forEach(filter -> {
                logger.info("Filter: " + filter.arn());
                collectedFilterIds.append(filter.arn()).append("\n");
            });
        }).thenApply(v -> {
            String result = collectedFilterIds.toString();
            logger.info("Successfully listed all filters.");
            return result.isEmpty() ? "No filters found." : result;
        }).exceptionally(ex -> {
            Throwable cause = ex.getCause() != null ? ex.getCause() : ex;

            if (cause instanceof ValidationException ve) {
                throw new CompletionException(
                        "Validation error listing filters:
%s".formatted(ve.getMessage()),
                        ve
                );
            }

            throw new RuntimeException("Failed to list filters", ex);
        });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x 「 API リファレンス」のListFilters」を参照してください。

`ListFindings`

次の例は、`ListFindings` を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Lists all AWS Inspector findings of LOW severity asynchronously.
     *
     * @return CompletableFuture containing a List of finding ARNs.
     * Returns an empty list if no LOW severity findings are found.
     */
    public CompletableFuture<ArrayList<String>> listLowSeverityFindingsAsync() {
        logger.info("Starting async LOW severity findings paginator…");

        // Build a filter criteria for LOW severity.
        StringFilter severityFilter = StringFilter.builder()
                .value(Severity.LOW.toString())
                .comparison(StringComparison.EQUALS)
                .build();

        FilterCriteria filterCriteria = FilterCriteria.builder()
                .severity(Collections.singletonList(severityFilter))
                .build();

        // Build the request.
        ListFindingsRequest request = ListFindingsRequest.builder()
                .filterCriteria(filterCriteria)
                .build();

        ListFindingsPublisher paginator =
 getAsyncClient().listFindingsPaginator(request);
        List<String> allArns = Collections.synchronizedList(new ArrayList<>());

        return paginator.subscribe(response -> {
                    if (response.findings() != null && !
response.findings().isEmpty()) {
                        response.findings().forEach(finding -> {
                            logger.info("Finding ARN: {}", finding.findingArn());
```

```
                            allArns.add(finding.findingArn());
                        });
                    } else {
                        logger.info("Page contained no findings.");
                    }
                })
                .thenRun(() -> logger.info("Successfully listed all LOW severity
findings."))
                .thenApply(v -> new ArrayList<>(allArns)) // Return list instead of
a formatted string
                .exceptionally(ex -> {
                    Throwable cause = ex.getCause() != null ? ex.getCause() : ex;
                    if (cause instanceof ValidationException ve) {
                        throw new CompletionException(
                                "Validation error listing LOW severity findings:
%s".formatted(ve.getMessage()),
                                ve
                        );
                    }
                    throw new RuntimeException("Failed to list LOW severity
findings", ex);
                });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x 「 API リファレンス」のListFindings」を参照してください。

`ListUsageTotals`

次の例は、`ListUsageTotals` を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Asynchronously lists Inspector2 usage totals using a paginator.
    *
    * @param accountIds optional list of account IDs
    * @param maxResults maximum results per page
    * @return CompletableFuture completed with formatted summary text
    */
   public CompletableFuture<String> listUsageTotalsAsync(
           List<String> accountIds,
           int maxResults) {

       logger.info("Starting usage totals paginator…");

       ListUsageTotalsRequest.Builder builder = ListUsageTotalsRequest.builder()
               .maxResults(maxResults);

       if (accountIds != null && !accountIds.isEmpty()) {
           builder.accountIds(accountIds);
       }

       ListUsageTotalsRequest request = builder.build();
       ListUsageTotalsPublisher paginator =
getAsyncClient().listUsageTotalsPaginator(request);
       StringBuilder summaryBuilder = new StringBuilder();

       return paginator.subscribe(response -> {
                   if (response.totals() != null && !response.totals().isEmpty()) {
                       response.totals().forEach(total -> {
                           if (total.usage() != null) {
                               total.usage().forEach(usage -> {
                                   logger.info("Usage: {} = {}",
usage.typeAsString(), usage.total());
                                   summaryBuilder.append(usage.typeAsString())
                                           .append(": ")
                                           .append(usage.total())
                                           .append("\n");
                               });
                           }
                       });
                   } else {
                       logger.info("Page contained no usage totals.");
                   }
```

```
                }).thenRun(() -> logger.info("Successfully listed usage totals."))
                .thenApply(v -> {
                    String summary = summaryBuilder.toString();
                    return summary.isEmpty() ? "No usage totals found." : summary;
                }).exceptionally(ex -> {
                    Throwable cause = ex.getCause() != null ? ex.getCause() : ex;

                    if (cause instanceof ValidationException ve) {
                        throw new CompletionException(
                                "Validation error listing usage totals:
%s".formatted(ve.getMessage()),
                                ve
                        );
                    }

                    throw new CompletionException("Failed to list usage totals",
cause);
                });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x 「 API リファレンス」のListUsageTotals」を参照してください。

AWS IoT SDK for Java 2.x を使用した の例

次のコード例は、 AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています AWS IoT。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- はじめに

- 基本
- アクション

はじめに

こんにち AWS IoTは

次のコード例は、 AWS IoTの使用を開始する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.iot.IotClient;
import software.amazon.awssdk.services.iot.model.ListThingsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iot.model.ListThingsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.iot.model.ThingAttribute;
import software.amazon.awssdk.services.iot.paginators.ListThingsIterable;

import java.util.List;

public class HelloIoT {
    public static void main(String[] args) {
        System.out.println("Hello AWS IoT. Here is a listing of your AWS IoT
 Things:");
        IotClient iotClient = IotClient.builder()
            .region(Region.US_EAST_1)
            .build();

        listAllThings(iotClient);
    }

    public static void listAllThings(IotClient iotClient) {
        iotClient.listThingsPaginator(ListThingsRequest.builder()
                .maxResults(10)
                .build())
```

```
            .stream()
            .flatMap(response -> response.things().stream())
            .forEach(attribute -> {
                System.out.println("Thing name: " + attribute.thingName());
                System.out.println("Thing ARN: " + attribute.thingArn());
            });
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「listThings」を参照してください。

基本

基本を学ぶ

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- AWS IoT モノを作成します。
- デバイス証明書を生成します。
- 属性を使用して AWS IoT モノを更新します。
- 一意のエンドポイントを返します。
- AWS IoT 証明書を一覧表示します。
- AWS IoT シャドウを更新します。
- 状態情報を書き込みます。
- ルールを作成する。
- ルールを一覧表示します。
- モノの名前を使用してモノを検索します。
- AWS IoT モノを削除します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

AWS IoT 機能を示すインタラクティブなシナリオを実行します。

```
import java.util.Scanner;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 *
 * This Java example performs these tasks:
 *
 * 1. Creates an AWS IoT Thing.
 * 2. Generate and attach a device certificate.
 * 3. Update an AWS IoT Thing with Attributes.
 * 4. Get an AWS IoT Endpoint.
 * 5. List your certificates.
 * 6. Updates the shadow for the specified thing..
 * 7. Write out the state information, in JSON format
 * 8. Creates a rule
 * 9. List rules
 * 10. Search things
 * 11. Detach amd delete the certificate.
 * 12. Delete Thing.
 */
public class IotScenario {
    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");

    public static void main(String[] args) {
        final String usage =
            """
                Usage:
                    <roleARN> <snsAction>
```

```
                Where:
                    roleARN - The ARN of an IAM role that has permission to work
with AWS IOT.
                    snsAction  - An ARN of an SNS topic.
                """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        IotActions iotActions = new IotActions();
        String thingName;
        String ruleName;
        String roleARN = args[0];
        String snsAction = args[1];
        Scanner scanner = new Scanner(System.in);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("Welcome to the AWS IoT basics scenario.");
        System.out.println("""
            This example program demonstrates various interactions with the AWS
Internet of Things (IoT) Core service. The program guides you through a series of
steps,
            including creating an IoT Thing, generating a device certificate,
updating the Thing with attributes, and so on.
            It utilizes the AWS SDK for Java V2 and incorporates functionality for
creating and managing IoT Things, certificates, rules,
            shadows, and performing searches. The program aims to showcase AWS IoT
capabilities and provides a comprehensive example for
            developers working with AWS IoT in a Java environment.

            Let's get started...

            """);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println("1. Create an AWS IoT Thing.");
        System.out.println("""
            An AWS IoT Thing represents a virtual entity in the AWS IoT service that
can be associated with
            a physical device.
            """);
```

```
        // Prompt the user for input.
        System.out.print("Enter Thing name: ");
        thingName = scanner.nextLine();
        iotActions.createIoTThing(thingName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("2. Generate a device certificate.");
        System.out.println("""
            A device certificate performs a role in securing the communication
between devices (Things)
            and the AWS IoT platform.
            """);

        System.out.print("Do you want to create a certificate for " +thingName +"?
(y/n)");
        String certAns = scanner.nextLine();
        String certificateArn="" ;
        if (certAns != null && certAns.trim().equalsIgnoreCase("y")) {
            certificateArn = iotActions.createCertificate();
            System.out.println("Attach the certificate to the AWS IoT Thing.");
            iotActions.attachCertificateToThing(thingName, certificateArn);
        } else {
            System.out.println("A device certificate was not created.");
        }
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("3. Update an AWS IoT Thing with Attributes.");
        System.out.println("""
             IoT Thing attributes, represented as key-value pairs, offer a pivotal
advantage in facilitating efficient data
             management and retrieval within the AWS IoT ecosystem.
            """);
        waitForInputToContinue(scanner);
        iotActions.updateShadowThing(thingName);
        waitForInputToContinue(scanner);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("4. Return a unique endpoint specific to the Amazon Web
Services account.");
        System.out.println("""
```

```
            An IoT Endpoint refers to a specific URL or Uniform Resource Locator
that serves as the entry point for communication between IoT devices and the AWS
IoT service.
          """);
       waitForInputToContinue(scanner);
       String endpointUrl = iotActions.describeEndpoint();
       System.out.println("The endpoint is "+endpointUrl);
       waitForInputToContinue(scanner);
       System.out.println(DASHES);

       System.out.println(DASHES);
       System.out.println("5. List your AWS IoT certificates");
       waitForInputToContinue(scanner);
       if (certificateArn.length() > 0) {
           iotActions.listCertificates();
       } else {
           System.out.println("You did not create a certificates. Skipping this
step.");
       }
       waitForInputToContinue(scanner);
       System.out.println(DASHES);

       System.out.println(DASHES);
       System.out.println("6. Create an IoT shadow that refers to a digital
representation or virtual twin of a physical IoT device");
       System.out.println("""
           A Thing Shadow refers to a feature that enables you to create a virtual
representation, or "shadow,"
           of a physical device or thing. The Thing Shadow allows you to
synchronize and control the state of a device between
           the cloud and the device itself. and the AWS IoT service. For example,
you can write and retrieve JSON data from a Thing Shadow.
          """);
       waitForInputToContinue(scanner);
       iotActions.updateShadowThing(thingName);
       waitForInputToContinue(scanner);
       System.out.println(DASHES);

       System.out.println(DASHES);
       System.out.println("7. Write out the state information, in JSON format.");
       waitForInputToContinue(scanner);
       iotActions.getPayload(thingName);
       waitForInputToContinue(scanner);
       System.out.println(DASHES);
```

```
        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("8. Creates a rule");
        System.out.println("""
        Creates a rule that is an administrator-level action.
        Any user who has permission to create rules will be able to access data
processed by the rule.
        """);
        System.out.print("Enter Rule name: ");
        ruleName = scanner.nextLine();
        iotActions.createIoTRule(roleARN, ruleName, snsAction);
        waitForInputToContinue(scanner);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("9. List your rules.");
        waitForInputToContinue(scanner);
        iotActions.listIoTRules();
        waitForInputToContinue(scanner);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("10. Search things using the Thing name.");
        waitForInputToContinue(scanner);
        String queryString = "thingName:"+thingName ;
        iotActions.searchThings(queryString);
        waitForInputToContinue(scanner);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        if (certificateArn.length() > 0) {
            System.out.print("Do you want to detach and delete the certificate for "
+thingName +"? (y/n)");
            String delAns = scanner.nextLine();
            if (delAns != null && delAns.trim().equalsIgnoreCase("y")) {
                System.out.println("11. You selected to detach amd delete the
certificate.");
                waitForInputToContinue(scanner);
                iotActions.detachThingPrincipal(thingName, certificateArn);
                iotActions.deleteCertificate(certificateArn);
                waitForInputToContinue(scanner);
            } else {
                System.out.println("11. You selected not to delete the
certificate.");
```

```
            }
        } else {
            System.out.println("11. You did not create a certificate so there is
 nothing to delete.");
        }
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("12. Delete the AWS IoT Thing.");
        System.out.print("Do you want to delete the IoT Thing? (y/n)");
        String delAns = scanner.nextLine();
        if (delAns != null && delAns.trim().equalsIgnoreCase("y")) {
            iotActions.deleteIoTThing(thingName);
        } else {
            System.out.println("The IoT Thing was not deleted.");
        }
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("The AWS IoT workflow has successfully completed.");
        System.out.println(DASHES);
    }


    private static void waitForInputToContinue(Scanner scanner) {
        while (true) {
            System.out.println("");
            System.out.println("Enter 'c' followed by <ENTER> to continue:");
            String input = scanner.nextLine();

            if (input.trim().equalsIgnoreCase("c")) {
                System.out.println("Continuing with the program...");
                System.out.println("");
                break;
            } else {
                // Handle invalid input.
                System.out.println("Invalid input. Please try again.");
            }
        }
    }
}
```

AWS IoT SDK メソッドのラッパークラス。

```
import
 software.amazon.awssdk.auth.credentials.EnvironmentVariableCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.core.SdkBytes;
import software.amazon.awssdk.core.client.config.ClientOverrideConfiguration;
import software.amazon.awssdk.core.retry.RetryPolicy;
import software.amazon.awssdk.http.async.SdkAsyncHttpClient;
import software.amazon.awssdk.http.nio.netty.NettyNioAsyncHttpClient;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.iot.IotAsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.iot.model.Action;
import software.amazon.awssdk.services.iot.model.AttachThingPrincipalRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iot.model.AttachThingPrincipalResponse;
import software.amazon.awssdk.services.iot.model.Certificate;
import software.amazon.awssdk.services.iot.model.CreateKeysAndCertificateResponse;
import software.amazon.awssdk.services.iot.model.CreateThingRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iot.model.CreateThingResponse;
import software.amazon.awssdk.services.iot.model.CreateTopicRuleRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iot.model.CreateTopicRuleResponse;
import software.amazon.awssdk.services.iot.model.DeleteCertificateRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iot.model.DeleteCertificateResponse;
import software.amazon.awssdk.services.iot.model.DeleteThingRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iot.model.DeleteThingResponse;
import software.amazon.awssdk.services.iot.model.DescribeEndpointRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iot.model.DescribeEndpointResponse;
import software.amazon.awssdk.services.iot.model.DescribeThingRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iot.model.DescribeThingResponse;
import software.amazon.awssdk.services.iot.model.DetachThingPrincipalRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iot.model.DetachThingPrincipalResponse;
import software.amazon.awssdk.services.iot.model.IotException;
import software.amazon.awssdk.services.iot.model.ListCertificatesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.iot.model.ListTopicRulesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iot.model.ListTopicRulesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.iot.model.SearchIndexRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iot.model.SearchIndexResponse;
import software.amazon.awssdk.services.iot.model.TopicRuleListItem;
import software.amazon.awssdk.services.iot.model.SnsAction;
import software.amazon.awssdk.services.iot.model.TopicRulePayload;
import software.amazon.awssdk.services.iotdataplane.IotDataPlaneAsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.iotdataplane.model.GetThingShadowRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iotdataplane.model.GetThingShadowResponse;
import software.amazon.awssdk.services.iotdataplane.model.UpdateThingShadowRequest;
import software.amazon.awssdk.services.iotdataplane.model.UpdateThingShadowResponse;
```

```
import java.nio.charset.StandardCharsets;
import java.time.Duration;
import java.util.List;
import java.util.concurrent.CompletableFuture;
import java.util.concurrent.CompletionException;
import java.util.regex.Matcher;
import java.util.regex.Pattern;

public class IotActions {

    private static IotAsyncClient iotAsyncClient;

    private static IotDataPlaneAsyncClient iotAsyncDataPlaneClient;

    private static final String TOPIC = "your-iot-topic";

    private static IotDataPlaneAsyncClient getAsyncDataPlaneClient() {
        SdkAsyncHttpClient httpClient = NettyNioAsyncHttpClient.builder()
            .maxConcurrency(100)
            .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(60))
            .readTimeout(Duration.ofSeconds(60))
            .writeTimeout(Duration.ofSeconds(60))
            .build();

        ClientOverrideConfiguration overrideConfig =
 ClientOverrideConfiguration.builder()
            .apiCallTimeout(Duration.ofMinutes(2))
            .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(90))
            .retryPolicy(RetryPolicy.builder()
                .numRetries(3)
                .build())
            .build();

        if (iotAsyncDataPlaneClient == null) {
            iotAsyncDataPlaneClient = IotDataPlaneAsyncClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .httpClient(httpClient)
                .overrideConfiguration(overrideConfig)
                .build();
        }
        return iotAsyncDataPlaneClient;
    }
```

```
    private static IotAsyncClient getAsyncClient() {
        SdkAsyncHttpClient httpClient = NettyNioAsyncHttpClient.builder()
            .maxConcurrency(100)
            .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(60))
            .readTimeout(Duration.ofSeconds(60))
            .writeTimeout(Duration.ofSeconds(60))
            .build();

        ClientOverrideConfiguration overrideConfig =
ClientOverrideConfiguration.builder()
            .apiCallTimeout(Duration.ofMinutes(2))
            .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(90))
            .retryPolicy(RetryPolicy.builder()
                .numRetries(3)
                .build())
            .build();

        if (iotAsyncClient == null) {
            iotAsyncClient = IotAsyncClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .httpClient(httpClient)
                .overrideConfiguration(overrideConfig)
                .build();
        }
        return iotAsyncClient;
    }

    /**
     * Creates an IoT certificate asynchronously.
     *
     * @return The ARN of the created certificate.
     * <p>
     * This method initiates an asynchronous request to create an IoT certificate.
     * If the request is successful, it prints the certificate details and returns
the certificate ARN.
     * If an exception occurs, it prints the error message.
     */
    public String createCertificate() {
        CompletableFuture<CreateKeysAndCertificateResponse> future =
getAsyncClient().createKeysAndCertificate();
        final String[] certificateArn = {null};
        future.whenComplete((response, ex) -> {
            if (response != null) {
                String certificatePem = response.certificatePem();
```

```
                certificateArn[0] = response.certificateArn();

                // Print the details.
                System.out.println("\nCertificate:");
                System.out.println(certificatePem);
                System.out.println("\nCertificate ARN:");
                System.out.println(certificateArn[0]);

            } else {
                Throwable cause = (ex instanceof CompletionException) ?
ex.getCause() : ex;
                if (cause instanceof IotException) {
                    System.err.println(((IotException)
cause).awsErrorDetails().errorMessage());
                } else {
                    System.err.println("Unexpected error: " + cause.getMessage());
                }
            }
        });

        future.join();
        return certificateArn[0];
    }

    /**
     * Creates an IoT Thing with the specified name asynchronously.
     *
     * @param thingName The name of the IoT Thing to create.
     *
     * This method initiates an asynchronous request to create an IoT Thing with the
specified name.
     * If the request is successful, it prints the name of the thing and its ARN
value.
     * If an exception occurs, it prints the error message.
     */
    public void createIoTThing(String thingName) {
        CreateThingRequest createThingRequest = CreateThingRequest.builder()
            .thingName(thingName)
            .build();

        CompletableFuture<CreateThingResponse> future =
getAsyncClient().createThing(createThingRequest);
        future.whenComplete((createThingResponse, ex) -> {
            if (createThingResponse != null) {
```

```
                System.out.println(thingName + " was successfully created. The ARN
value is " + createThingResponse.thingArn());
            } else {
                Throwable cause = ex.getCause();
                if (cause instanceof IotException) {
                    System.err.println(((IotException)
cause).awsErrorDetails().errorMessage());
                } else {
                    System.err.println("Unexpected error: " + cause.getMessage());
                }
            }
        });

        future.join();
    }

    /**
     * Attaches a certificate to an IoT Thing asynchronously.
     *
     * @param thingName The name of the IoT Thing.
     * @param certificateArn The ARN of the certificate to attach.
     *
     * This method initiates an asynchronous request to attach a certificate to an
IoT Thing.
     * If the request is successful, it prints a confirmation message and additional
information about the Thing.
     * If an exception occurs, it prints the error message.
     */
    public void attachCertificateToThing(String thingName, String certificateArn) {
        AttachThingPrincipalRequest principalRequest =
AttachThingPrincipalRequest.builder()
            .thingName(thingName)
            .principal(certificateArn)
            .build();

        CompletableFuture<AttachThingPrincipalResponse> future =
getAsyncClient().attachThingPrincipal(principalRequest);
        future.whenComplete((attachResponse, ex) -> {
            if (attachResponse != null &&
attachResponse.sdkHttpResponse().isSuccessful()) {
                System.out.println("Certificate attached to Thing successfully.");

                // Print additional information about the Thing.
                describeThing(thingName);
```

```
            } else {
                Throwable cause = ex != null ? ex.getCause() : null;
                if (cause instanceof IotException) {
                    System.err.println(((IotException)
cause).awsErrorDetails().errorMessage());
                } else if (cause != null) {
                    System.err.println("Unexpected error: " + cause.getMessage());
                } else {
                    System.err.println("Failed to attach certificate to Thing. HTTP
Status Code: " +
                            attachResponse.sdkHttpResponse().statusCode());
                }
            }
        });

        future.join();
    }

    /**
     * Describes an IoT Thing asynchronously.
     *
     * @param thingName The name of the IoT Thing.
     *
     * This method initiates an asynchronous request to describe an IoT Thing.
     * If the request is successful, it prints the Thing details.
     * If an exception occurs, it prints the error message.
     */
    private void describeThing(String thingName) {
        DescribeThingRequest thingRequest = DescribeThingRequest.builder()
            .thingName(thingName)
            .build();

        CompletableFuture<DescribeThingResponse> future =
getAsyncClient().describeThing(thingRequest);
        future.whenComplete((describeResponse, ex) -> {
            if (describeResponse != null) {
                System.out.println("Thing Details:");
                System.out.println("Thing Name: " + describeResponse.thingName());
                System.out.println("Thing ARN: " + describeResponse.thingArn());
            } else {
                Throwable cause = ex != null ? ex.getCause() : null;
                if (cause instanceof IotException) {
                    System.err.println(((IotException)
cause).awsErrorDetails().errorMessage());
```

```
                } else if (cause != null) {
                    System.err.println("Unexpected error: " + cause.getMessage());
                } else {
                    System.err.println("Failed to describe Thing.");
                }
            }
        });

        future.join();
    }

    /**
     * Updates the shadow of an IoT Thing asynchronously.
     *
     * @param thingName The name of the IoT Thing.
     *
     * This method initiates an asynchronous request to update the shadow of an IoT
Thing.
     * If the request is successful, it prints a confirmation message.
     * If an exception occurs, it prints the error message.
     */
    public void updateShadowThing(String thingName) {
        // Create Thing Shadow State Document.
        String stateDocument = "{\"state\":{\"reported\":{\"temperature\":25,
\"humidity\":50}}}";
        SdkBytes data = SdkBytes.fromString(stateDocument, StandardCharsets.UTF_8);
        UpdateThingShadowRequest updateThingShadowRequest =
UpdateThingShadowRequest.builder()
            .thingName(thingName)
            .payload(data)
            .build();

        CompletableFuture<UpdateThingShadowResponse> future =
getAsyncDataPlaneClient().updateThingShadow(updateThingShadowRequest);
        future.whenComplete((updateResponse, ex) -> {
            if (updateResponse != null) {
                System.out.println("Thing Shadow updated successfully.");
            } else {
                Throwable cause = ex != null ? ex.getCause() : null;
                if (cause instanceof IotException) {
                    System.err.println(((IotException)
cause).awsErrorDetails().errorMessage());
                } else if (cause != null) {
                    System.err.println("Unexpected error: " + cause.getMessage());
```

```
                } else {
                    System.err.println("Failed to update Thing Shadow.");
                }
            }
        });

        future.join();
    }

    /**
     * Describes the endpoint of the IoT service asynchronously.
     *
     * @return A CompletableFuture containing the full endpoint URL.
     *
     * This method initiates an asynchronous request to describe the endpoint of the
 IoT service.
     * If the request is successful, it prints and returns the full endpoint URL.
     * If an exception occurs, it prints the error message.
     */
    public String describeEndpoint() {
        CompletableFuture<DescribeEndpointResponse> future =
 getAsyncClient().describeEndpoint(DescribeEndpointRequest.builder().endpointType("iot:Data-
ATS").build());
        final String[] result = {null};

        future.whenComplete((endpointResponse, ex) -> {
            if (endpointResponse != null) {
                String endpointUrl = endpointResponse.endpointAddress();
                String exString = getValue(endpointUrl);
                String fullEndpoint = "https://" + exString + "-ats.iot.us-
east-1.amazonaws.com";

                System.out.println("Full Endpoint URL: " + fullEndpoint);
                result[0] = fullEndpoint;
            } else {
                Throwable cause = (ex instanceof CompletionException) ?
 ex.getCause() : ex;
                if (cause instanceof IotException) {
                    System.err.println(((IotException)
 cause).awsErrorDetails().errorMessage());
                } else {
                    System.err.println("Unexpected error: " + cause.getMessage());
                }
            }
```

```
        });

        future.join();
        return result[0];
    }

    /**
     * Extracts a specific value from the endpoint URL.
     *
     * @param input The endpoint URL to process.
     * @return The extracted value from the endpoint URL.
     */
    private static String getValue(String input) {
        // Define a regular expression pattern for extracting the subdomain.
        Pattern pattern = Pattern.compile("^(.*?)\\.iot\\.us-east-1\\.amazonaws\
\.com");

        // Match the pattern against the input string.
        Matcher matcher = pattern.matcher(input);

        // Check if a match is found.
        if (matcher.find()) {
            // Extract the subdomain from the first capturing group.
            String subdomain = matcher.group(1);
            System.out.println("Extracted subdomain: " + subdomain);
            return subdomain ;
        } else {
            System.out.println("No match found");
        }
        return "" ;
    }

    /**
     * Lists all certificates asynchronously.
     *
     * This method initiates an asynchronous request to list all certificates.
     * If the request is successful, it prints the certificate IDs and ARNs.
     * If an exception occurs, it prints the error message.
     */
    public void listCertificates() {
        CompletableFuture<ListCertificatesResponse> future =
 getAsyncClient().listCertificates();
        future.whenComplete((response, ex) -> {
            if (response != null) {
```

```
                List<Certificate> certList = response.certificates();
                for (Certificate cert : certList) {
                    System.out.println("Cert id: " + cert.certificateId());
                    System.out.println("Cert Arn: " + cert.certificateArn());
                }
            } else {
                Throwable cause = ex != null ? ex.getCause() : null;
                if (cause instanceof IotException) {
                    System.err.println(((IotException)
cause).awsErrorDetails().errorMessage());
                } else if (cause != null) {
                    System.err.println("Unexpected error: " + cause.getMessage());
                } else {
                    System.err.println("Failed to list certificates.");
                }
            }
        });

        future.join();
    }

    /**
     * Retrieves the payload of a Thing's shadow asynchronously.
     *
     * @param thingName The name of the IoT Thing.
     *
     * This method initiates an asynchronous request to get the payload of a Thing's
shadow.
     * If the request is successful, it prints the shadow data.
     * If an exception occurs, it prints the error message.
     */
    public void getPayload(String thingName) {
        GetThingShadowRequest getThingShadowRequest =
GetThingShadowRequest.builder()
            .thingName(thingName)
            .build();

        CompletableFuture<GetThingShadowResponse> future =
getAsyncDataPlaneClient().getThingShadow(getThingShadowRequest);
        future.whenComplete((getThingShadowResponse, ex) -> {
            if (getThingShadowResponse != null) {
                // Extracting payload from response.
                SdkBytes payload = getThingShadowResponse.payload();
                String payloadString = payload.asUtf8String();
```

```
                System.out.println("Received Shadow Data: " + payloadString);
            } else {
                Throwable cause = ex != null ? ex.getCause() : null;
                if (cause instanceof IotException) {
                    System.err.println(((IotException)
cause).awsErrorDetails().errorMessage());
                } else if (cause != null) {
                    System.err.println("Unexpected error: " + cause.getMessage());
                } else {
                    System.err.println("Failed to get Thing Shadow payload.");
                }
            }
        });

        future.join();
    }

    /**
     * Creates an IoT rule asynchronously.
     *
     * @param roleARN The ARN of the IAM role that grants access to the rule's
actions.
     * @param ruleName The name of the IoT rule.
     * @param action The ARN of the action to perform when the rule is triggered.
     *
     * This method initiates an asynchronous request to create an IoT rule.
     * If the request is successful, it prints a confirmation message.
     * If an exception occurs, it prints the error message.
     */
    public void createIoTRule(String roleARN, String ruleName, String action) {
        String sql = "SELECT * FROM '" + TOPIC + "'";
        SnsAction action1 = SnsAction.builder()
            .targetArn(action)
            .roleArn(roleARN)
            .build();

        // Create the action.
        Action myAction = Action.builder()
            .sns(action1)
            .build();

        // Create the topic rule payload.
        TopicRulePayload topicRulePayload = TopicRulePayload.builder()
            .sql(sql)
```

```
            .actions(myAction)
            .build();

        // Create the topic rule request.
        CreateTopicRuleRequest topicRuleRequest = CreateTopicRuleRequest.builder()
            .ruleName(ruleName)
            .topicRulePayload(topicRulePayload)
            .build();

        CompletableFuture<CreateTopicRuleResponse> future =
getAsyncClient().createTopicRule(topicRuleRequest);
        future.whenComplete((response, ex) -> {
            if (response != null) {
                System.out.println("IoT Rule created successfully.");
            } else {
                Throwable cause = ex != null ? ex.getCause() : null;
                if (cause instanceof IotException) {
                    System.err.println(((IotException)
cause).awsErrorDetails().errorMessage());
                } else if (cause != null) {
                    System.err.println("Unexpected error: " + cause.getMessage());
                } else {
                    System.err.println("Failed to create IoT Rule.");
                }
            }
        });

        future.join();
    }

    /**
     * Lists IoT rules asynchronously.
     *
     * This method initiates an asynchronous request to list IoT rules.
     * If the request is successful, it prints the names and ARNs of the rules.
     * If an exception occurs, it prints the error message.
     */
    public void listIoTRules() {
        ListTopicRulesRequest listTopicRulesRequest =
ListTopicRulesRequest.builder().build();
        CompletableFuture<ListTopicRulesResponse> future =
getAsyncClient().listTopicRules(listTopicRulesRequest);
        future.whenComplete((listTopicRulesResponse, ex) -> {
            if (listTopicRulesResponse != null) {
```

```
                System.out.println("List of IoT Rules:");
                List<TopicRuleListItem> ruleList = listTopicRulesResponse.rules();
                for (TopicRuleListItem rule : ruleList) {
                    System.out.println("Rule Name: " + rule.ruleName());
                    System.out.println("Rule ARN: " + rule.ruleArn());
                    System.out.println("--------------");
                }
            } else {
                Throwable cause = ex != null ? ex.getCause() : null;
                if (cause instanceof IotException) {
                    System.err.println(((IotException)
cause).awsErrorDetails().errorMessage());
                } else if (cause != null) {
                    System.err.println("Unexpected error: " + cause.getMessage());
                } else {
                    System.err.println("Failed to list IoT Rules.");
                }
            }
        });

        future.join();
    }

    /**
     * Searches for IoT Things asynchronously based on a query string.
     *
     * @param queryString The query string to search for Things.
     *
     * This method initiates an asynchronous request to search for IoT Things.
     * If the request is successful and Things are found, it prints their IDs.
     * If no Things are found, it prints a message indicating so.
     * If an exception occurs, it prints the error message.
     */
    public void searchThings(String queryString) {
        SearchIndexRequest searchIndexRequest = SearchIndexRequest.builder()
            .queryString(queryString)
            .build();

        CompletableFuture<SearchIndexResponse> future =
getAsyncClient().searchIndex(searchIndexRequest);
        future.whenComplete((searchIndexResponse, ex) -> {
            if (searchIndexResponse != null) {
                // Process the result.
                if (searchIndexResponse.things().isEmpty()) {
```

```
                    System.out.println("No things found.");
                } else {
                    searchIndexResponse.things().forEach(thing ->
System.out.println("Thing id found using search is " + thing.thingId()));
                }
            } else {
                Throwable cause = ex != null ? ex.getCause() : null;
                if (cause instanceof IotException) {
                    System.err.println(((IotException)
cause).awsErrorDetails().errorMessage());
                } else if (cause != null) {
                    System.err.println("Unexpected error: " + cause.getMessage());
                } else {
                    System.err.println("Failed to search for IoT Things.");
                }
            }
        });

        future.join();
    }

    /**
     * Detaches a principal (certificate) from an IoT Thing asynchronously.
     *
     * @param thingName The name of the IoT Thing.
     * @param certificateArn The ARN of the certificate to detach.
     *
     * This method initiates an asynchronous request to detach a certificate from an
IoT Thing.
     * If the detachment is successful, it prints a confirmation message.
     * If an exception occurs, it prints the error message.
     */
    public void detachThingPrincipal(String thingName, String certificateArn) {
        DetachThingPrincipalRequest thingPrincipalRequest =
DetachThingPrincipalRequest.builder()
            .principal(certificateArn)
            .thingName(thingName)
            .build();

        CompletableFuture<DetachThingPrincipalResponse> future =
getAsyncClient().detachThingPrincipal(thingPrincipalRequest);
        future.whenComplete((voidResult, ex) -> {
            if (ex == null) {
```

```
                System.out.println(certificateArn + " was successfully removed from
" + thingName);
            } else {
                Throwable cause = ex.getCause();
                if (cause instanceof IotException) {
                    System.err.println(((IotException)
cause).awsErrorDetails().errorMessage());
                } else {
                    System.err.println("Unexpected error: " + ex.getMessage());
                }
            }
        });

        future.join();
    }

    /**
     * Deletes a certificate asynchronously.
     *
     * @param certificateArn The ARN of the certificate to delete.
     *
     * This method initiates an asynchronous request to delete a certificate.
     * If the deletion is successful, it prints a confirmation message.
     * If an exception occurs, it prints the error message.
     */
    public void deleteCertificate(String certificateArn) {
        DeleteCertificateRequest certificateProviderRequest =
DeleteCertificateRequest.builder()
            .certificateId(extractCertificateId(certificateArn))
            .build();

        CompletableFuture<DeleteCertificateResponse> future =
getAsyncClient().deleteCertificate(certificateProviderRequest);
        future.whenComplete((voidResult, ex) -> {
            if (ex == null) {
                System.out.println(certificateArn + " was successfully deleted.");
            } else {
                Throwable cause = ex.getCause();
                if (cause instanceof IotException) {
                    System.err.println(((IotException)
cause).awsErrorDetails().errorMessage());
                } else {
                    System.err.println("Unexpected error: " + ex.getMessage());
                }
```

```
            }
        });

        future.join();
    }

    /**
     * Deletes an IoT Thing asynchronously.
     *
     * @param thingName The name of the IoT Thing to delete.
     *
     * This method initiates an asynchronous request to delete an IoT Thing.
     * If the deletion is successful, it prints a confirmation message.
     * If an exception occurs, it prints the error message.
     */
    public void deleteIoTThing(String thingName) {
        DeleteThingRequest deleteThingRequest = DeleteThingRequest.builder()
            .thingName(thingName)
            .build();

        CompletableFuture<DeleteThingResponse> future =
getAsyncClient().deleteThing(deleteThingRequest);
        future.whenComplete((voidResult, ex) -> {
            if (ex == null) {
                System.out.println("Deleted Thing " + thingName);
            } else {
                Throwable cause = ex.getCause();
                if (cause instanceof IotException) {
                    System.err.println(((IotException)
cause).awsErrorDetails().errorMessage());
                } else {
                    System.err.println("Unexpected error: " + ex.getMessage());
                }
            }
        });

        future.join();
    }

    // Get the cert Id  from the Cert ARN value.
    private String extractCertificateId(String certificateArn) {
        // Example ARN: arn:aws:iot:region:account-id:cert/certificate-id.
        String[] arnParts = certificateArn.split(":");
        String certificateIdPart = arnParts[arnParts.length - 1];
```

```
        return certificateIdPart.substring(certificateIdPart.lastIndexOf("/") + 1);
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - AttachThingPrincipal
  - CreateKeysAndCertificate
  - CreateThing
  - CreateTopicRule
  - DeleteCertificate
  - DeleteThing
  - DeleteTopicRule
  - DescribeEndpoint
  - DescribeThing
  - DetachThingPrincipal
  - ListCertificates
  - ListThings
  - SearchIndex
  - UpdateIndexingConfiguration
  - UpdateThing

アクション

`AttachThingPrincipal`

次のコード例は、`AttachThingPrincipal` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Attaches a certificate to an IoT Thing asynchronously.
    *
    * @param thingName The name of the IoT Thing.
    * @param certificateArn The ARN of the certificate to attach.
    *
    * This method initiates an asynchronous request to attach a certificate to an
IoT Thing.
    * If the request is successful, it prints a confirmation message and additional
information about the Thing.
    * If an exception occurs, it prints the error message.
    */
   public void attachCertificateToThing(String thingName, String certificateArn) {
       AttachThingPrincipalRequest principalRequest =
AttachThingPrincipalRequest.builder()
           .thingName(thingName)
           .principal(certificateArn)
           .build();

       CompletableFuture<AttachThingPrincipalResponse> future =
getAsyncClient().attachThingPrincipal(principalRequest);
       future.whenComplete((attachResponse, ex) -> {
           if (attachResponse != null &&
attachResponse.sdkHttpResponse().isSuccessful()) {
               System.out.println("Certificate attached to Thing successfully.");

               // Print additional information about the Thing.
               describeThing(thingName);
           } else {
               Throwable cause = ex != null ? ex.getCause() : null;
               if (cause instanceof IotException) {
                   System.err.println(((IotException)
cause).awsErrorDetails().errorMessage());
               } else if (cause != null) {
                   System.err.println("Unexpected error: " + cause.getMessage());
               } else {
                   System.err.println("Failed to attach certificate to Thing. HTTP
Status Code: " +
                           attachResponse.sdkHttpResponse().statusCode());
               }
           }
       });
```

```
        future.join();
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「AttachThingPrincipal」を参照してください。

`CreateKeysAndCertificate`

次のコード例は、`CreateKeysAndCertificate` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Creates an IoT certificate asynchronously.
     *
     * @return The ARN of the created certificate.
     * <p>
     * This method initiates an asynchronous request to create an IoT certificate.
     * If the request is successful, it prints the certificate details and returns
the certificate ARN.
     * If an exception occurs, it prints the error message.
     */
    public String createCertificate() {
        CompletableFuture<CreateKeysAndCertificateResponse> future =
getAsyncClient().createKeysAndCertificate();
        final String[] certificateArn = {null};
        future.whenComplete((response, ex) -> {
            if (response != null) {
                String certificatePem = response.certificatePem();
                certificateArn[0] = response.certificateArn();

                // Print the details.
                System.out.println("\nCertificate:");
                System.out.println(certificatePem);
```

```
                System.out.println("\nCertificate ARN:");
                System.out.println(certificateArn[0]);

            } else {
                Throwable cause = (ex instanceof CompletionException) ?
ex.getCause() : ex;
                if (cause instanceof IotException) {
                    System.err.println(((IotException)
cause).awsErrorDetails().errorMessage());
                } else {
                    System.err.println("Unexpected error: " + cause.getMessage());
                }
            }
        });

        future.join();
        return certificateArn[0];
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateKeysAndCertificate」を参照してください。

`CreateThing`

次のコード例は、`CreateThing` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Creates an IoT Thing with the specified name asynchronously.
     *
     * @param thingName The name of the IoT Thing to create.
     *
```

```
    * This method initiates an asynchronous request to create an IoT Thing with the
specified name.
    * If the request is successful, it prints the name of the thing and its ARN
value.
    * If an exception occurs, it prints the error message.
    */
   public void createIoTThing(String thingName) {
       CreateThingRequest createThingRequest = CreateThingRequest.builder()
           .thingName(thingName)
           .build();

       CompletableFuture<CreateThingResponse> future =
getAsyncClient().createThing(createThingRequest);
       future.whenComplete((createThingResponse, ex) -> {
           if (createThingResponse != null) {
               System.out.println(thingName + " was successfully created. The ARN
value is " + createThingResponse.thingArn());
           } else {
               Throwable cause = ex.getCause();
               if (cause instanceof IotException) {
                   System.err.println(((IotException)
cause).awsErrorDetails().errorMessage());
               } else {
                   System.err.println("Unexpected error: " + cause.getMessage());
               }
           }
       });

       future.join();
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateThing」を参照してください。

CreateTopicRule

次のコード例は、CreateTopicRule を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Creates an IoT rule asynchronously.
     *
     * @param roleARN The ARN of the IAM role that grants access to the rule's
actions.
     * @param ruleName The name of the IoT rule.
     * @param action The ARN of the action to perform when the rule is triggered.
     *
     * This method initiates an asynchronous request to create an IoT rule.
     * If the request is successful, it prints a confirmation message.
     * If an exception occurs, it prints the error message.
     */
    public void createIoTRule(String roleARN, String ruleName, String action) {
        String sql = "SELECT * FROM '" + TOPIC + "'";
        SnsAction action1 = SnsAction.builder()
            .targetArn(action)
            .roleArn(roleARN)
            .build();

        // Create the action.
        Action myAction = Action.builder()
            .sns(action1)
            .build();

        // Create the topic rule payload.
        TopicRulePayload topicRulePayload = TopicRulePayload.builder()
            .sql(sql)
            .actions(myAction)
            .build();

        // Create the topic rule request.
        CreateTopicRuleRequest topicRuleRequest = CreateTopicRuleRequest.builder()
            .ruleName(ruleName)
            .topicRulePayload(topicRulePayload)
```

```
            .build();

        CompletableFuture<CreateTopicRuleResponse> future =
getAsyncClient().createTopicRule(topicRuleRequest);
        future.whenComplete((response, ex) -> {
            if (response != null) {
                System.out.println("IoT Rule created successfully.");
            } else {
                Throwable cause = ex != null ? ex.getCause() : null;
                if (cause instanceof IotException) {
                    System.err.println(((IotException)
cause).awsErrorDetails().errorMessage());
                } else if (cause != null) {
                    System.err.println("Unexpected error: " + cause.getMessage());
                } else {
                    System.err.println("Failed to create IoT Rule.");
                }
            }
        });

        future.join();
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateTopicRule」を参照してください。

`DeleteCertificate`

次のコード例は、`DeleteCertificate` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Deletes a certificate asynchronously.
```

```
     *
     * @param certificateArn The ARN of the certificate to delete.
     *
     * This method initiates an asynchronous request to delete a certificate.
     * If the deletion is successful, it prints a confirmation message.
     * If an exception occurs, it prints the error message.
     */
    public void deleteCertificate(String certificateArn) {
        DeleteCertificateRequest certificateProviderRequest =
DeleteCertificateRequest.builder()
            .certificateId(extractCertificateId(certificateArn))
            .build();

        CompletableFuture<DeleteCertificateResponse> future =
getAsyncClient().deleteCertificate(certificateProviderRequest);
        future.whenComplete((voidResult, ex) -> {
            if (ex == null) {
                System.out.println(certificateArn + " was successfully deleted.");
            } else {
                Throwable cause = ex.getCause();
                if (cause instanceof IotException) {
                    System.err.println(((IotException)
cause).awsErrorDetails().errorMessage());
                } else {
                    System.err.println("Unexpected error: " + ex.getMessage());
                }
            }
        });

        future.join();
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteCertificate」を参照してください。

DeleteThing

次のコード例は、DeleteThing を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Deletes an IoT Thing asynchronously.
     *
     * @param thingName The name of the IoT Thing to delete.
     *
     * This method initiates an asynchronous request to delete an IoT Thing.
     * If the deletion is successful, it prints a confirmation message.
     * If an exception occurs, it prints the error message.
     */
    public void deleteIoTThing(String thingName) {
        DeleteThingRequest deleteThingRequest = DeleteThingRequest.builder()
            .thingName(thingName)
            .build();

        CompletableFuture<DeleteThingResponse> future =
getAsyncClient().deleteThing(deleteThingRequest);
        future.whenComplete((voidResult, ex) -> {
            if (ex == null) {
                System.out.println("Deleted Thing " + thingName);
            } else {
                Throwable cause = ex.getCause();
                if (cause instanceof IotException) {
                    System.err.println(((IotException)
cause).awsErrorDetails().errorMessage());
                } else {
                    System.err.println("Unexpected error: " + ex.getMessage());
                }
            }
        });

        future.join();
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteThing」を参照してください。https://docs.aws.amazon.com/goto/SdkForJavaV2/iot-2015-05-28/DeleteThing

`DescribeEndpoint`

次のコード例は、`DescribeEndpoint` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Describes the endpoint of the IoT service asynchronously.
     *
     * @return A CompletableFuture containing the full endpoint URL.
     *
     * This method initiates an asynchronous request to describe the endpoint of the
 IoT service.
     * If the request is successful, it prints and returns the full endpoint URL.
     * If an exception occurs, it prints the error message.
     */
    public String describeEndpoint() {
        CompletableFuture<DescribeEndpointResponse> future =
 getAsyncClient().describeEndpoint(DescribeEndpointRequest.builder().endpointType("iot:Data-
ATS").build());
        final String[] result = {null};

        future.whenComplete((endpointResponse, ex) -> {
            if (endpointResponse != null) {
                String endpointUrl = endpointResponse.endpointAddress();
                String exString = getValue(endpointUrl);
                String fullEndpoint = "https://" + exString + "-ats.iot.us-
east-1.amazonaws.com";

                System.out.println("Full Endpoint URL: " + fullEndpoint);
                result[0] = fullEndpoint;
            } else {
```

```
                Throwable cause = (ex instanceof CompletionException) ?
ex.getCause() : ex;
                if (cause instanceof IotException) {
                    System.err.println(((IotException)
cause).awsErrorDetails().errorMessage());
                } else {
                    System.err.println("Unexpected error: " + cause.getMessage());
                }
            }
        });

        future.join();
        return result[0];
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeEndpoint」を参照してください。

`DescribeThing`

次のコード例は、`DescribeThing` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Describes an IoT Thing asynchronously.
     *
     * @param thingName The name of the IoT Thing.
     *
     * This method initiates an asynchronous request to describe an IoT Thing.
     * If the request is successful, it prints the Thing details.
     * If an exception occurs, it prints the error message.
     */
    private void describeThing(String thingName) {
```

```
        DescribeThingRequest thingRequest = DescribeThingRequest.builder()
            .thingName(thingName)
            .build();

        CompletableFuture<DescribeThingResponse> future =
getAsyncClient().describeThing(thingRequest);
        future.whenComplete((describeResponse, ex) -> {
            if (describeResponse != null) {
                System.out.println("Thing Details:");
                System.out.println("Thing Name: " + describeResponse.thingName());
                System.out.println("Thing ARN: " + describeResponse.thingArn());
            } else {
                Throwable cause = ex != null ? ex.getCause() : null;
                if (cause instanceof IotException) {
                    System.err.println(((IotException)
cause).awsErrorDetails().errorMessage());
                } else if (cause != null) {
                    System.err.println("Unexpected error: " + cause.getMessage());
                } else {
                    System.err.println("Failed to describe Thing.");
                }
            }
        });

        future.join();
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeThing」を参照してください。

`DetachThingPrincipal`

次のコード例は、`DetachThingPrincipal` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Detaches a principal (certificate) from an IoT Thing asynchronously.
    *
    * @param thingName The name of the IoT Thing.
    * @param certificateArn The ARN of the certificate to detach.
    *
    * This method initiates an asynchronous request to detach a certificate from an
IoT Thing.
    * If the detachment is successful, it prints a confirmation message.
    * If an exception occurs, it prints the error message.
    */
   public void detachThingPrincipal(String thingName, String certificateArn) {
       DetachThingPrincipalRequest thingPrincipalRequest =
DetachThingPrincipalRequest.builder()
           .principal(certificateArn)
           .thingName(thingName)
           .build();

       CompletableFuture<DetachThingPrincipalResponse> future =
getAsyncClient().detachThingPrincipal(thingPrincipalRequest);
       future.whenComplete((voidResult, ex) -> {
           if (ex == null) {
               System.out.println(certificateArn + " was successfully removed from
" + thingName);
           } else {
               Throwable cause = ex.getCause();
               if (cause instanceof IotException) {
                   System.err.println(((IotException)
cause).awsErrorDetails().errorMessage());
               } else {
                   System.err.println("Unexpected error: " + ex.getMessage());
               }
           }
       });

       future.join();
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DetachThingPrincipal」を参照してください。

`ListCertificates`

次のコード例は、`ListCertificates` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Lists all certificates asynchronously.
     *
     * This method initiates an asynchronous request to list all certificates.
     * If the request is successful, it prints the certificate IDs and ARNs.
     * If an exception occurs, it prints the error message.
     */
    public void listCertificates() {
        CompletableFuture<ListCertificatesResponse> future =
getAsyncClient().listCertificates();
        future.whenComplete((response, ex) -> {
            if (response != null) {
                List<Certificate> certList = response.certificates();
                for (Certificate cert : certList) {
                    System.out.println("Cert id: " + cert.certificateId());
                    System.out.println("Cert Arn: " + cert.certificateArn());
                }
            } else {
                Throwable cause = ex != null ? ex.getCause() : null;
                if (cause instanceof IotException) {
                    System.err.println(((IotException)
cause).awsErrorDetails().errorMessage());
                } else if (cause != null) {
                    System.err.println("Unexpected error: " + cause.getMessage());
                } else {
                    System.err.println("Failed to list certificates.");
                }
            }
        });

        future.join();
```

```
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListCertificates」を参照してください。

`SearchIndex`

次のコード例は、`SearchIndex` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Searches for IoT Things asynchronously based on a query string.
     *
     * @param queryString The query string to search for Things.
     *
     * This method initiates an asynchronous request to search for IoT Things.
     * If the request is successful and Things are found, it prints their IDs.
     * If no Things are found, it prints a message indicating so.
     * If an exception occurs, it prints the error message.
     */
    public void searchThings(String queryString) {
        SearchIndexRequest searchIndexRequest = SearchIndexRequest.builder()
            .queryString(queryString)
            .build();

        CompletableFuture<SearchIndexResponse> future =
getAsyncClient().searchIndex(searchIndexRequest);
        future.whenComplete((searchIndexResponse, ex) -> {
            if (searchIndexResponse != null) {
                // Process the result.
                if (searchIndexResponse.things().isEmpty()) {
                    System.out.println("No things found.");
                } else {
```

```
                    searchIndexResponse.things().forEach(thing ->
System.out.println("Thing id found using search is " + thing.thingId()));
                }
            } else {
                Throwable cause = ex != null ? ex.getCause() : null;
                if (cause instanceof IotException) {
                    System.err.println(((IotException)
cause).awsErrorDetails().errorMessage());
                } else if (cause != null) {
                    System.err.println("Unexpected error: " + cause.getMessage());
                } else {
                    System.err.println("Failed to search for IoT Things.");
                }
            }
        });

        future.join();
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「SearchIndex」を参照してください。

AWS IoT data SDK for Java 2.x を使用した例

次のコード例は、 AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています AWS IoT data。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- アクション

アクション

GetThingShadow

次のコード例は、GetThingShadow を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Retrieves the payload of a Thing's shadow asynchronously.
    *
    * @param thingName The name of the IoT Thing.
    *
    * This method initiates an asynchronous request to get the payload of a Thing's
shadow.
    * If the request is successful, it prints the shadow data.
    * If an exception occurs, it prints the error message.
    */
   public void getPayload(String thingName) {
       GetThingShadowRequest getThingShadowRequest =
GetThingShadowRequest.builder()
           .thingName(thingName)
           .build();

       CompletableFuture<GetThingShadowResponse> future =
getAsyncDataPlaneClient().getThingShadow(getThingShadowRequest);
       future.whenComplete((getThingShadowResponse, ex) -> {
           if (getThingShadowResponse != null) {
               // Extracting payload from response.
               SdkBytes payload = getThingShadowResponse.payload();
               String payloadString = payload.asUtf8String();
               System.out.println("Received Shadow Data: " + payloadString);
           } else {
               Throwable cause = ex != null ? ex.getCause() : null;
               if (cause instanceof IotException) {
```

```
                    System.err.println(((IotException)
cause).awsErrorDetails().errorMessage());
                } else if (cause != null) {
                    System.err.println("Unexpected error: " + cause.getMessage());
                } else {
                    System.err.println("Failed to get Thing Shadow payload.");
                }
            }
        });

        future.join();
    }
```

- API の詳細については、「 API リファレンスAWS SDK for Java 2.x 」の「GetThingShadow」を参照してください。

`UpdateThingShadow`

次のコード例は、UpdateThingShadow を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Updates the shadow of an IoT Thing asynchronously.
     *
     * @param thingName The name of the IoT Thing.
     *
     * This method initiates an asynchronous request to update the shadow of an IoT
Thing.
     * If the request is successful, it prints a confirmation message.
     * If an exception occurs, it prints the error message.
     */
    public void updateShadowThing(String thingName) {
        // Create Thing Shadow State Document.
```

```
        String stateDocument = "{\"state\":{\"reported\":{\"temperature\":25,
\"humidity\":50}}}";
        SdkBytes data = SdkBytes.fromString(stateDocument, StandardCharsets.UTF_8);
        UpdateThingShadowRequest updateThingShadowRequest =
UpdateThingShadowRequest.builder()
            .thingName(thingName)
            .payload(data)
            .build();

        CompletableFuture<UpdateThingShadowResponse> future =
getAsyncDataPlaneClient().updateThingShadow(updateThingShadowRequest);
        future.whenComplete((updateResponse, ex) -> {
            if (updateResponse != null) {
                System.out.println("Thing Shadow updated successfully.");
            } else {
                Throwable cause = ex != null ? ex.getCause() : null;
                if (cause instanceof IotException) {
                    System.err.println(((IotException)
cause).awsErrorDetails().errorMessage());
                } else if (cause != null) {
                    System.err.println("Unexpected error: " + cause.getMessage());
                } else {
                    System.err.println("Failed to update Thing Shadow.");
                }
            }
        });

        future.join();
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「UpdateThingShadow」を参照してください。

AWS IoT SiteWise SDK for Java 2.x を使用した例

次のコード例は、 AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています AWS IoT SiteWise。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- はじめに
- 基本
- アクション

はじめに

こんにち AWS IoT SiteWiseは

次のコード例は、 AWS IoT SiteWiseの使用を開始する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
public class HelloSitewise {
    private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(HelloSitewise.class);
    public static void main(String[] args) {
         fetchAssetModels();
    }

    /**
     * Fetches asset models using the provided {@link IoTSiteWiseAsyncClient}.
     */
    public static void fetchAssetModels() {
        IoTSiteWiseAsyncClient siteWiseAsyncClient =
 IoTSiteWiseAsyncClient.create();
```

```
        ListAssetModelsRequest assetModelsRequest = ListAssetModelsRequest.builder()
            .assetModelTypes(AssetModelType.ASSET_MODEL)
            .build();

        // Asynchronous paginator - process paginated results.
        ListAssetModelsPublisher listModelsPaginator =
 siteWiseAsyncClient.listAssetModelsPaginator(assetModelsRequest);
        CompletableFuture<Void> future = listModelsPaginator.subscribe(response -> {
            response.assetModelSummaries().forEach(assetSummary ->
                logger.info("Asset Model Name: {} ", assetSummary.name())
            );
        });

        // Wait for the asynchronous operation to complete
        future.join();
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListAssetModels」を参照してください。

基本

基本を学ぶ

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- AWS IoT SiteWise アセットモデルを作成します。
- AWS IoT SiteWise アセットを作成します。
- プロパティ ID 値を取得します。
- AWS IoT SiteWise アセットにデータを送信します。
- AWS IoT SiteWise Asset プロパティの値を取得します。
- AWS IoT SiteWise ポータルを作成します。
- AWS IoT SiteWise ゲートウェイを作成します。
- AWS IoT SiteWise ゲートウェイを記述します。
- AWS IoT SiteWise アセットを削除します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

AWS IoT SiteWise 機能を示すインタラクティブなシナリオを実行します。

```
public class SitewiseScenario {

    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");

    private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(SitewiseScenario.class);
    static Scanner scanner = new Scanner(System.in);

    private static final String ROLES_STACK = "RoleSitewise";

    static SitewiseActions sitewiseActions = new SitewiseActions();

    public static void main(String[] args) throws Throwable {
        Scanner scanner = new Scanner(System.in);
        String assetModelName = "MyAssetModel1";
        String assetName = "MyAsset1" ;
        String gatewayName = "MyGateway1" ;
        String myThing =  "MyThing1" ;

        logger.info("""
            AWS IoT SiteWise is a fully managed software-as-a-service (SaaS) that
            makes it easy to collect, store, organize, and monitor data from
 industrial equipment and processes.
            It is designed to help industrial and manufacturing organizations
 collect data from their equipment and
            processes, and use that data to make informed decisions about their
 operations.

            One of the key features of AWS IoT SiteWise is its ability to connect to
 a wide range of industrial
            equipment and systems, including programmable logic controllers (PLCs),
 sensors, and other
```

```
            industrial devices. It can collect data from these devices and organize
it into a unified data model,
            making it easier to analyze and gain insights from the data. AWS IoT
SiteWise also provides tools for
            visualizing the data, setting up alarms and alerts, and generating
reports.

            Another key feature of AWS IoT SiteWise is its ability to scale to
handle large volumes of data.
            It can collect and store data from thousands of devices and process
millions of data points per second,
            making it suitable for large-scale industrial operations. Additionally,
AWS IoT SiteWise is designed
            to be secure and compliant, with features like role-based access
controls, data encryption,
            and integration with other AWS services for additional security and
compliance features.

            Let's get started...
            """);

        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        try {
            runScenario(assetModelName, assetName, gatewayName, myThing);
        } catch (RuntimeException e) {
           logger.info(e.getMessage());
        }
    }

    public static void runScenario(String assetModelName, String assetName, String
gatewayName, String myThing) throws Throwable {
        logger.info("Use AWS CloudFormation to create an IAM role that is required
for this scenario.");
        CloudFormationHelper.deployCloudFormationStack(ROLES_STACK);
        Map<String, String> stackOutputs =
CloudFormationHelper.getStackOutputsAsync(ROLES_STACK).join();
        String iamRole = stackOutputs.get("SitewiseRoleArn");
        logger.info("The ARN of the IAM role is {}",iamRole);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("1. Create an AWS SiteWise Asset Model");
```

```
        logger.info("""
             An AWS IoT SiteWise Asset Model is a way to represent the physical
assets, such as equipment,
             processes, and systems, that exist in an industrial environment. This
model provides a structured and
             hierarchical representation of these assets, allowing users to define
the relationships and properties
             of each asset.

             This scenario creates two asset model properties: temperature and
humidity.
            """);
        waitForInputToContinue(scanner);
        String assetModelId = null;
        try {
            CreateAssetModelResponse response =
sitewiseActions.createAssetModelAsync(assetModelName).join();
            assetModelId = response.assetModelId();
            logger.info("Asset Model successfully created. Asset Model ID: {}. ",
assetModelId);
        } catch (CompletionException ce) {
            Throwable cause = ce.getCause();
            if (cause instanceof ResourceAlreadyExistsException) {
                try {
                    assetModelId =
sitewiseActions.getAssetModelIdAsync(assetModelName).join();
                    logger.info("The Asset Model {} already exists. The id of the
existing model is {}. Moving on...", assetModelName, assetModelId);
                } catch (CompletionException cex) {
                    logger.error("Exception thrown acquiring the asset model id:
{}", cex.getCause().getCause(), cex);
                    return;
                }
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + cause.getMessage(),
cause);
                return;
            }
        }
        waitForInputToContinue(scanner);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("2. Create an AWS IoT SiteWise Asset");
        logger.info("""
```

```
             The IoT SiteWise model that we just created defines the structure and
metadata for your physical assets.
             Now we create an asset from the asset model.

            """);
        logger.info("Let's wait 30 seconds for the asset to be ready.");
        countdown(30);
        waitForInputToContinue(scanner);
        String assetId;
        try {
            CreateAssetResponse response =
sitewiseActions.createAssetAsync(assetName, assetModelId).join();
            assetId = response.assetId();
            logger.info("Asset created with ID: {}", assetId);
        } catch (CompletionException ce) {
            Throwable cause = ce.getCause();
            if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                logger.info("The asset model id was not found: {}",
cause.getMessage(), cause);
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: {}", cause.getMessage(),
cause);
            }
            return;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("3. Retrieve the property ID values");
        logger.info("""
             To send data to an asset, we need to get the property ID values. In
this scenario, we access the
             temperature and humidity property ID values.
            """);
        waitForInputToContinue(scanner);
        Map<String, String>  propertyIds = null;
        try {
            propertyIds = sitewiseActions.getPropertyIds(assetModelId).join();
        } catch (CompletionException ce) {
            Throwable cause = ce.getCause();
            if (cause instanceof IoTSiteWiseException) {
                logger.error("IoTSiteWiseException occurred: {}",
cause.getMessage(), ce);
```

```
            } else {
                logger.error("An unexpected error occurred: {}", cause.getMessage(),
ce);
            }
            return;
        }
        String humPropId =  propertyIds.get("Humidity");
        logger.info("The Humidity property Id is {}", humPropId);
        String tempPropId = propertyIds.get("Temperature");
        logger.info("The Temperature property Id is {}", tempPropId);

        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("4. Send data to an AWS IoT SiteWise Asset");
        logger.info("""
            By sending data to an IoT SiteWise Asset, you can aggregate data from
            multiple sources, normalize the data into a standard format, and store
it in a
            centralized location. This makes it easier to analyze and gain insights
from the data.

            In this example, we generate sample temperature and humidity data and
send it to the AWS IoT SiteWise asset.

            """);
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            sitewiseActions.sendDataToSiteWiseAsync(assetId, tempPropId,
humPropId).join();
            logger.info("Data sent successfully.");
        } catch (CompletionException ce) {
            Throwable cause = ce.getCause();
            if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                logger.error("The AWS resource was not found: {}",
cause.getMessage(), cause);
            } else {
                logger.error("An unexpected error occurred: {}", cause.getMessage(),
cause);
            }
            return;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
```

```
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("5. Retrieve the value of the IoT SiteWise Asset property");
        logger.info("""
            IoT SiteWise is an AWS service that allows you to collect, process, and
analyze industrial data
            from connected equipment and sensors. One of the key benefits of reading
an IoT SiteWise property
            is the ability to gain valuable insights from your industrial data.

            """);
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            Double assetVal = sitewiseActions.getAssetPropValueAsync(tempPropId,
assetId).join();
            logger.info("The property name is: {}", "Temperature");
            logger.info("The value of this property is: {}", assetVal);

            waitForInputToContinue(scanner);

            assetVal = sitewiseActions.getAssetPropValueAsync(humPropId,
assetId).join();
            logger.info("The property name is: {}", "Humidity");
            logger.info("The value of this property is: {}", assetVal);
        } catch (CompletionException ce) {
            Throwable cause = ce.getCause();
                if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                    logger.info("The AWS resource was not found: {}",
cause.getMessage(), cause);
                } else {
                    logger.info("An unexpected error occurred: {}",
cause.getMessage(), cause);
                }
                return;
            }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("6. Create an IoT SiteWise Gateway");
        logger.info(
            """
```

```
                IoT SiteWise Gateway serves as the bridge between industrial
equipment, sensors, and the
                cloud-based IoT SiteWise service. It is responsible for securely
collecting, processing, and
                transmitting data from various industrial assets to the IoT SiteWise
platform,
                enabling real-time monitoring, analysis, and optimization of
industrial operations.

                """);
        waitForInputToContinue(scanner);
        String gatewayId = "";
        try {
            gatewayId = sitewiseActions.createGatewayAsync(gatewayName,
myThing).join();
            logger.info("Gateway creation completed successfully. id is {}",
gatewayId );
        } catch (CompletionException ce) {
            Throwable cause = ce.getCause();
            if (cause instanceof IoTSiteWiseException siteWiseEx) {
                logger.error("IoT SiteWise error occurred: Error message: {}, Error
code {}",
                        siteWiseEx.getMessage(),
siteWiseEx.awsErrorDetails().errorCode(), siteWiseEx);
            } else {
                logger.error("An unexpected error occurred: {}",
cause.getMessage());
            }
            return;
        }
        logger.info(DASHES);
        logger.info(DASHES);

        logger.info("7. Describe the IoT SiteWise Gateway");
         waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            sitewiseActions.describeGatewayAsync(gatewayId)
                .thenAccept(response -> {
                    logger.info("Gateway Name: {}", response.gatewayName());
                    logger.info("Gateway ARN: {}", response.gatewayArn());
                    logger.info("Gateway Platform: {}", response.gatewayPlatform());
                    logger.info("Gateway Creation Date: {}",
response.creationDate());
                }).join();
```

```
        } catch (CompletionException ce) {
            Throwable cause = ce.getCause();
            if (cause instanceof ResourceNotFoundException notFoundException) {
                logger.error("A ResourceNotFoundException occurred: Error message:
{}, Error code {}",
                        notFoundException.getMessage(),
notFoundException.awsErrorDetails().errorCode(), notFoundException);
            } else {
                logger.error("An unexpected error occurred: {}", cause.getMessage(),
cause);
            }
            return;
        }
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("8. Delete the AWS IoT SiteWise Assets");
        logger.info(
            """
            Before you can delete the Asset Model, you must delete the assets.

            """);
        logger.info("Would you like to delete the IoT SiteWise Assets? (y/n)");
        String delAns = scanner.nextLine().trim();
        if (delAns.equalsIgnoreCase("y")) {
            logger.info("You selected to delete the SiteWise assets.");

            try {
                sitewiseActions.deleteGatewayAsync(gatewayId).join();
                logger.info("Gateway {} was deleted successfully.", gatewayId);
            } catch (CompletionException ce) {
                Throwable cause = ce.getCause();
                if (cause instanceof ResourceNotFoundException notFoundException) {
                    logger.error("A ResourceNotFoundException occurred: Error
message: {}, Error code {}",
                            notFoundException.getMessage(),
notFoundException.awsErrorDetails().errorCode(), notFoundException);
                } else {
                    logger.error("An unexpected error occurred: {}",
cause.getMessage());
                }
            }

            try {
```

```
                sitewiseActions.deleteAssetAsync(assetId).join();
                logger.info("Request to delete asset {} sent successfully",
assetId);
            } catch (CompletionException ce) {
                Throwable cause = ce.getCause();
                if (cause instanceof ResourceNotFoundException notFoundException) {
                    logger.error("A ResourceNotFoundException occurred: Error
message: {}, Error code {}",
                            notFoundException.getMessage(),
notFoundException.awsErrorDetails().errorCode(), notFoundException);
                } else {
                    logger.error("An unexpected error occurred: {}",
cause.getMessage());
                }
            }
            logger.info("Let's wait 1 minute for the asset to be deleted.");
            countdown(60);
            waitForInputToContinue(scanner);
            logger.info("Delete the AWS IoT SiteWise Asset Model");
            try {
                sitewiseActions.deleteAssetModelAsync(assetModelId).join();
                logger.info("Asset model deleted successfully.");
            } catch (CompletionException ce) {
                Throwable cause = ce.getCause();
                if (cause instanceof ResourceNotFoundException notFoundException) {
                    logger.error("A ResourceNotFoundException occurred: Error
message: {}, Error code {}",
                            notFoundException.getMessage(),
notFoundException.awsErrorDetails().errorCode(), notFoundException);
                } else {
                    logger.error("An unexpected error occurred: {}",
cause.getMessage());
                }
            }
            waitForInputToContinue(scanner);

        } else {
            logger.info("The resources will not be deleted.");
        }
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        CloudFormationHelper.destroyCloudFormationStack(ROLES_STACK);
        logger.info("This concludes the AWS IoT SiteWise Scenario");
```

```
        logger.info(DASHES);
    }

    private static void waitForInputToContinue(Scanner scanner) {
        while (true) {
            logger.info("");
            logger.info("Enter 'c' followed by <ENTER> to continue:");
            String input = scanner.nextLine();

            if (input.trim().equalsIgnoreCase("c")) {
                logger.info("Continuing with the program...");
                logger.info("");
                break;
            } else {
                logger.info("Invalid input. Please try again.");
            }
        }
    }

    public static void countdown(int totalSeconds) throws InterruptedException {
        for (int i = totalSeconds; i >= 0; i--) {
            int displayMinutes = i / 60;
            int displaySeconds = i % 60;
            System.out.printf("\r%02d:%02d", displayMinutes, displaySeconds);
            Thread.sleep(1000); // Wait for 1 second
        }
        System.out.println(); // Move to the next line after countdown
        logger.info("Countdown complete!");
    }
}
```

AWS IoT SiteWise SDK メソッドのラッパークラス。

```
public class SitewiseActions {

    private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(SitewiseActions.class);

    private static IoTSiteWiseAsyncClient ioTSiteWiseAsyncClient;

    private static IoTSiteWiseAsyncClient getAsyncClient() {
        if (ioTSiteWiseAsyncClient == null) {
```

```
            SdkAsyncHttpClient httpClient = NettyNioAsyncHttpClient.builder()
                .maxConcurrency(100)
                .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .readTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .writeTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .build();

            ClientOverrideConfiguration overrideConfig =
ClientOverrideConfiguration.builder()
                .apiCallTimeout(Duration.ofMinutes(2))
                .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(90))
                .retryStrategy(RetryMode.STANDARD)
                .build();

            ioTSiteWiseAsyncClient = IoTSiteWiseAsyncClient.builder()
                .httpClient(httpClient)
                .overrideConfiguration(overrideConfig)
                .build();
        }
        return ioTSiteWiseAsyncClient;
    }


    /**
     * Creates an asset model.
     *
     * @param name the name of the asset model to create.
     * @return a {@link CompletableFuture} that represents a {@link
CreateAssetModelResponse} result. The calling code
     *         can attach callbacks, then handle the result or exception by calling
{@link CompletableFuture#join()} or
     *         {@link CompletableFuture#get()}.
     *         <p>
     *         If any completion stage in this method throws an exception, the
method logs the exception cause and keeps it
     *         available to the calling code as a {@link CompletionException}. By
calling
     *         {@link CompletionException#getCause()}, the calling code can access
the original exception.
     */
    public CompletableFuture<CreateAssetModelResponse> createAssetModelAsync(String
name) {
        PropertyType humidity = PropertyType.builder()
            .measurement(Measurement.builder().build())
```

```
            .build();

        PropertyType temperaturePropertyType = PropertyType.builder()
            .measurement(Measurement.builder().build())
            .build();

        AssetModelPropertyDefinition temperatureProperty =
AssetModelPropertyDefinition.builder()
            .name("Temperature")
            .dataType(PropertyDataType.DOUBLE)
            .type(temperaturePropertyType)
            .build();

        AssetModelPropertyDefinition humidityProperty =
AssetModelPropertyDefinition.builder()
            .name("Humidity")
            .dataType(PropertyDataType.DOUBLE)
            .type(humidity)
            .build();

        CreateAssetModelRequest createAssetModelRequest =
CreateAssetModelRequest.builder()
            .assetModelName(name)
            .assetModelDescription("This is my asset model")
            .assetModelProperties(temperatureProperty, humidityProperty)
            .build();

        return getAsyncClient().createAssetModel(createAssetModelRequest)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    logger.error("Failed to create asset model: {} ",
exception.getCause().getMessage());
                }
            });
    }


    /**
     * Creates an asset with the specified name and asset model Id.
     *
     * @param assetName    the name of the asset to create.
     * @param assetModelId the Id of the asset model to associate with the asset.
     * @return a {@link CompletableFuture} that represents a {@link
CreateAssetResponse} result. The calling code can
```

```
    *         attach callbacks, then handle the result or exception by calling
{@link CompletableFuture#join()} or
    *         {@link CompletableFuture#get()}.
    *         <p>
    *         If any completion stage in this method throws an exception, the
method logs the exception cause and keeps it
    *         available to the calling code as a {@link CompletionException}. By
calling
    *         {@link CompletionException#getCause()}, the calling code can access
the original exception.
    */
   public CompletableFuture<CreateAssetResponse> createAssetAsync(String assetName,
String assetModelId) {
       CreateAssetRequest createAssetRequest = CreateAssetRequest.builder()
           .assetModelId(assetModelId)
           .assetDescription("Created using the AWS SDK for Java")
           .assetName(assetName)
           .build();

       return getAsyncClient().createAsset(createAssetRequest)
           .whenComplete((response, exception) -> {
               if (exception != null) {
                   logger.error("Failed to create asset: {}",
exception.getCause().getMessage());
               }
           });
   }

   /**
    * Sends data to the SiteWise service.
    *
    * @param assetId        the ID of the asset to which the data will be sent.
    * @param tempPropertyId the ID of the temperature property.
    * @param humidityPropId the ID of the humidity property.
    * @return a {@link CompletableFuture} that represents a {@link
BatchPutAssetPropertyValueResponse} result. The
    *         calling code can attach callbacks, then handle the result or
exception by calling
    *         {@link CompletableFuture#join()} or {@link CompletableFuture#get()}.
    *         <p>
    *         If any completion stage in this method throws an exception, the
method logs the exception cause and keeps it
    *         available to the calling code as a {@link CompletionException}. By
calling
```

```
     *         {@link CompletionException#getCause()}, the calling code can access
the original exception.
     */
    public CompletableFuture<BatchPutAssetPropertyValueResponse>
sendDataToSiteWiseAsync(String assetId, String tempPropertyId, String
humidityPropId) {
        Map<String, Double> sampleData = generateSampleData();
        long timestamp = Instant.now().toEpochMilli();

        TimeInNanos time = TimeInNanos.builder()
            .timeInSeconds(timestamp / 1000)
            .offsetInNanos((int) ((timestamp % 1000) * 1000000))
            .build();

        BatchPutAssetPropertyValueRequest request =
BatchPutAssetPropertyValueRequest.builder()
            .entries(Arrays.asList(
                PutAssetPropertyValueEntry.builder()
                    .entryId("entry-3")
                    .assetId(assetId)
                    .propertyId(tempPropertyId)
                    .propertyValues(Arrays.asList(
                        AssetPropertyValue.builder()
                            .value(Variant.builder()
                                .doubleValue(sampleData.get("Temperature"))
                                .build())
                            .timestamp(time)
                            .build()
                    ))
                    .build(),
                PutAssetPropertyValueEntry.builder()
                    .entryId("entry-4")
                    .assetId(assetId)
                    .propertyId(humidityPropId)
                    .propertyValues(Arrays.asList(
                        AssetPropertyValue.builder()
                            .value(Variant.builder()
                                .doubleValue(sampleData.get("Humidity"))
                                .build())
                            .timestamp(time)
                            .build()
                    ))
                    .build()
            ))
```

```
            .build();

        return getAsyncClient().batchPutAssetPropertyValue(request)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    logger.error("An exception occurred: {}",
exception.getCause().getMessage());
                }
            });
    }

    /**
     * Fetches the value of an asset property.
     *
     * @param propId  the ID of the asset property to fetch.
     * @param assetId the ID of the asset to fetch the property value for.
     * @return a {@link CompletableFuture} that represents a {@link Double} result.
The calling code can attach
     *         callbacks, then handle the result or exception by calling {@link
CompletableFuture#join()} or
     *         {@link CompletableFuture#get()}.
     *         <p>
     *         If any completion stage in this method throws an exception, the
method logs the exception cause and keeps
     *         it available to the calling code as a {@link CompletionException}. By
calling
     *         {@link CompletionException#getCause()}, the calling code can access
the original exception.
     */
    public CompletableFuture<Double> getAssetPropValueAsync(String propId, String
assetId) {
        GetAssetPropertyValueRequest assetPropertyValueRequest =
GetAssetPropertyValueRequest.builder()
                .propertyId(propId)
                .assetId(assetId)
                .build();

        return getAsyncClient().getAssetPropertyValue(assetPropertyValueRequest)
                .handle((response, exception) -> {
                    if (exception != null) {
                        logger.error("Error occurred while fetching property value:
{}.", exception.getCause().getMessage());
                        throw (CompletionException) exception;
                    }
```

```
                    return response.propertyValue().value().doubleValue();
                });
    }

    /**
     * Retrieves the property IDs associated with a specific asset model.
     *
     * @param assetModelId the ID of the asset model that defines the properties.
     * @return a {@link CompletableFuture} that represents a {@link Map} result that
associates the property name to the
     *         propert ID. The calling code can attach callbacks, then handle the
result or exception by calling
     *         {@link CompletableFuture#join()} or {@link CompletableFuture#get()}.
     *         <p>
     *         If any completion stage in this method throws an exception, the
method logs the exception cause and keeps
     *         it available to the calling code as a {@link CompletionException}. By
calling
     *         {@link CompletionException#getCause()}, the calling code can access
the original exception.
     */
    public CompletableFuture<Map<String, String>> getPropertyIds(String
assetModelId) {
        ListAssetModelPropertiesRequest modelPropertiesRequest =
ListAssetModelPropertiesRequest.builder().assetModelId(assetModelId).build();
        return getAsyncClient().listAssetModelProperties(modelPropertiesRequest)
            .handle((response, throwable) -> {
                if (response != null) {
                    return response.assetModelPropertySummaries().stream()
                        .collect(Collectors
                            .toMap(AssetModelPropertySummary::name,
AssetModelPropertySummary::id));
                } else {
                    logger.error("Error occurred while fetching property IDs: {}.",
throwable.getCause().getMessage());
                    throw (CompletionException) throwable;
                }
            });
    }

    /**
     * Deletes an asset.
     *
     * @param assetId the ID of the asset to be deleted.
```

```
    * @return a {@link CompletableFuture} that represents a {@link
DeleteAssetResponse} result. The calling code can
    *         attach callbacks, then handle the result or exception by calling
{@link CompletableFuture#join()} or
    *         {@link CompletableFuture#get()}.
    *         <p>
    *         If any completion stage in this method throws an exception, the
method logs the exception cause and keeps
    *         it available to the calling code as a {@link CompletionException}. By
calling
    *         {@link CompletionException#getCause()}, the calling code can access
the original exception.
    */
   public CompletableFuture<DeleteAssetResponse> deleteAssetAsync(String assetId) {
       DeleteAssetRequest deleteAssetRequest = DeleteAssetRequest.builder()
           .assetId(assetId)
           .build();

       return getAsyncClient().deleteAsset(deleteAssetRequest)
           .whenComplete((response, exception) -> {
               if (exception != null) {
                   logger.error("An error occurred deleting asset with id: {}",
assetId);
               }
           });
   }

   /**
    * Deletes an Asset Model with the specified ID.
    *
    * @param assetModelId the ID of the Asset Model to delete.
    * @return a {@link CompletableFuture} that represents a {@link
DeleteAssetModelResponse} result. The calling code
    *         can attach callbacks, then handle the result or exception by calling
{@link CompletableFuture#join()} or
    *         {@link CompletableFuture#get()}.
    *         <p>
    *         If any completion stage in this method throws an exception, the
method logs the exception cause and keeps
    *         it available to the calling code as a {@link CompletionException}. By
calling
    *         {@link CompletionException#getCause()}, the calling code can access
the original exception.
    */
```

```
   public CompletableFuture<DeleteAssetModelResponse> deleteAssetModelAsync(String
assetModelId) {
       DeleteAssetModelRequest deleteAssetModelRequest =
DeleteAssetModelRequest.builder()
           .assetModelId(assetModelId)
           .build();

       return getAsyncClient().deleteAssetModel(deleteAssetModelRequest)
           .whenComplete((response, exception) -> {
               if (exception != null) {
                   logger.error("Failed to delete asset model with ID:{}.",
exception.getMessage());
               }
           });
   }

   /**
    * Retrieves the asset model ID for the given asset model name.
    *
    * @param assetModelName the name of the asset model for the ID.
    * @return a {@link CompletableFuture} that represents a {@link String} result
of the asset model ID or null if the
    *         asset model cannot be found. The calling code can attach callbacks,
then handle the result or exception
    *         by calling {@link CompletableFuture#join()} or {@link
CompletableFuture#get()}.
    *         <p>
    *         If any completion stage in this method throws an exception, the
method logs the exception cause and keeps
    *         it available to the calling code as a {@link CompletionException}. By
calling
    *         {@link CompletionException#getCause()}, the calling code can access
the original exception.
    */
   public CompletableFuture<String> getAssetModelIdAsync(String assetModelName) {
       ListAssetModelsRequest listAssetModelsRequest =
ListAssetModelsRequest.builder().build();
       return getAsyncClient().listAssetModels(listAssetModelsRequest)
               .handle((listAssetModelsResponse, exception) -> {
                   if (exception != null) {
                       logger.error("Failed to retrieve Asset Model ID: {}",
exception.getCause().getMessage());
                       throw (CompletionException) exception;
                   }
```

```
                    for (AssetModelSummary assetModelSummary :
listAssetModelsResponse.assetModelSummaries()) {
                        if (assetModelSummary.name().equals(assetModelName)) {
                            return assetModelSummary.id();
                        }
                    }
                    return null;
                });
    }


    /**
     * Creates a new IoT Sitewise gateway.
     *
     * @param gatewayName The name of the gateway to create.
     * @param myThing     The name of the core device thing to associate with the
gateway.
     * @return a {@link CompletableFuture} that represents a {@link String} result
of the gateways ID. The calling code
     *         can attach callbacks, then handle the result or exception by calling
{@link CompletableFuture#join()} or
     *         {@link CompletableFuture#get()}.
     *         <p>
     *         If any completion stage in this method throws an exception, the
method logs the exception cause and keeps
     *         it available to the calling code as a {@link CompletionException}. By
calling
     *         {@link CompletionException#getCause()}, the calling code can access
the original exception.
     */
    public CompletableFuture<String> createGatewayAsync(String gatewayName, String
myThing) {
        GreengrassV2 gg = GreengrassV2.builder()
            .coreDeviceThingName(myThing)
            .build();

        GatewayPlatform platform = GatewayPlatform.builder()
            .greengrassV2(gg)
            .build();

        Map<String, String> tag = new HashMap<>();
        tag.put("Environment", "Production");

        CreateGatewayRequest createGatewayRequest = CreateGatewayRequest.builder()
```

```
            .gatewayName(gatewayName)
            .gatewayPlatform(platform)
            .tags(tag)
            .build();

        return getAsyncClient().createGateway(createGatewayRequest)
            .handle((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    logger.error("Error creating the gateway.");
                    throw (CompletionException) exception;
                }
                logger.info("The ARN of the gateway is {}" ,
response.gatewayArn());
                return response.gatewayId();
            });
    }

    /**
     * Deletes the specified gateway.
     *
     * @param gatewayId the ID of the gateway to delete.
     * @return a {@link CompletableFuture} that represents a {@link
DeleteGatewayResponse} result.. The calling code
     *         can attach callbacks, then handle the result or exception by calling
{@link CompletableFuture#join()} or
     *         {@link CompletableFuture#get()}.
     *         <p>
     *         If any completion stage in this method throws an exception, the
method logs the exception cause and keeps
     *         it available to the calling code as a {@link CompletionException}. By
calling
     *         {@link CompletionException#getCause()}, the calling code can access
the original exception.
     */
    public CompletableFuture<DeleteGatewayResponse> deleteGatewayAsync(String
gatewayId) {
        DeleteGatewayRequest deleteGatewayRequest = DeleteGatewayRequest.builder()
            .gatewayId(gatewayId)
            .build();

        return getAsyncClient().deleteGateway(deleteGatewayRequest)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
```

```
                    logger.error("Failed to delete gateway: {}",
exception.getCause().getMessage());
                }
            });
    }

    /**
     * Describes the specified gateway.
     *
     * @param gatewayId the ID of the gateway to describe.
     * @return a {@link CompletableFuture} that represents a {@link
DescribeGatewayResponse} result. The calling code
     *         can attach callbacks, then handle the result or exception by calling
{@link CompletableFuture#join()} or
     *         {@link CompletableFuture#get()}.
     *         <p>
     *         If any completion stage in this method throws an exception, the
method logs the exception cause and keeps
     *         it available to the calling code as a {@link CompletionException}. By
calling
     *         {@link CompletionException#getCause()}, the calling code can access
the original exception.
     */
    public CompletableFuture<DescribeGatewayResponse> describeGatewayAsync(String
gatewayId) {
        DescribeGatewayRequest request = DescribeGatewayRequest.builder()
            .gatewayId(gatewayId)
            .build();

        return getAsyncClient().describeGateway(request)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    logger.error("An error occurred during the describeGateway
method: {}", exception.getCause().getMessage());
                }
            });
    }

    private static Map<String, Double> generateSampleData() {
        Map<String, Double> data = new HashMap<>();
        data.put("Temperature", 23.5);
        data.put("Humidity", 65.0);
        return data;
    }
```

```
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - BatchPutAssetPropertyValue
  - CreateAsset
  - CreateAssetModel
  - CreateGateway
  - DeleteAsset
  - DeleteAssetModel
  - DeleteGateway
  - DescribeAssetModel
  - DescribeGateway
  - GetAssetPropertyValue
  - ListAssetModelProperties
  - ListAssetModels

アクション

`BatchPutAssetPropertyValue`

次のコード例は、`BatchPutAssetPropertyValue` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
/**
 * Sends data to the SiteWise service.
 *
 * @param assetId        the ID of the asset to which the data will be sent.
```

```
    * @param tempPropertyId the ID of the temperature property.
    * @param humidityPropId the ID of the humidity property.
    * @return a {@link CompletableFuture} that represents a {@link
BatchPutAssetPropertyValueResponse} result. The
    *         calling code can attach callbacks, then handle the result or
exception by calling
    *         {@link CompletableFuture#join()} or {@link CompletableFuture#get()}.
    *         <p>
    *         If any completion stage in this method throws an exception, the
method logs the exception cause and keeps it
    *         available to the calling code as a {@link CompletionException}. By
calling
    *         {@link CompletionException#getCause()}, the calling code can access
the original exception.
    */
   public CompletableFuture<BatchPutAssetPropertyValueResponse>
sendDataToSiteWiseAsync(String assetId, String tempPropertyId, String
humidityPropId) {
       Map<String, Double> sampleData = generateSampleData();
       long timestamp = Instant.now().toEpochMilli();

       TimeInNanos time = TimeInNanos.builder()
           .timeInSeconds(timestamp / 1000)
           .offsetInNanos((int) ((timestamp % 1000) * 1000000))
           .build();

       BatchPutAssetPropertyValueRequest request =
BatchPutAssetPropertyValueRequest.builder()
           .entries(Arrays.asList(
               PutAssetPropertyValueEntry.builder()
                   .entryId("entry-3")
                   .assetId(assetId)
                   .propertyId(tempPropertyId)
                   .propertyValues(Arrays.asList(
                       AssetPropertyValue.builder()
                           .value(Variant.builder()
                               .doubleValue(sampleData.get("Temperature"))
                               .build())
                           .timestamp(time)
                           .build()
                   ))
                   .build(),
               PutAssetPropertyValueEntry.builder()
                   .entryId("entry-4")
```

```
                    .assetId(assetId)
                    .propertyId(humidityPropId)
                    .propertyValues(Arrays.asList(
                        AssetPropertyValue.builder()
                            .value(Variant.builder()
                                .doubleValue(sampleData.get("Humidity"))
                                .build())
                            .timestamp(time)
                            .build()
                    ))
                    .build()
            ))
            .build();

        return getAsyncClient().batchPutAssetPropertyValue(request)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    logger.error("An exception occurred: {}",
exception.getCause().getMessage());
                }
            });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「BatchPutAssetPropertyValue」を参照してください。

`CreateAsset`

次のコード例は、`CreateAsset` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
```

```
    * Creates an asset with the specified name and asset model Id.
    *
    * @param assetName    the name of the asset to create.
    * @param assetModelId the Id of the asset model to associate with the asset.
    * @return a {@link CompletableFuture} that represents a {@link
CreateAssetResponse} result. The calling code can
    *         attach callbacks, then handle the result or exception by calling
{@link CompletableFuture#join()} or
    *         {@link CompletableFuture#get()}.
    *         <p>
    *         If any completion stage in this method throws an exception, the
method logs the exception cause and keeps it
    *         available to the calling code as a {@link CompletionException}. By
calling
    *         {@link CompletionException#getCause()}, the calling code can access
the original exception.
    */
   public CompletableFuture<CreateAssetResponse> createAssetAsync(String assetName,
String assetModelId) {
       CreateAssetRequest createAssetRequest = CreateAssetRequest.builder()
           .assetModelId(assetModelId)
           .assetDescription("Created using the AWS SDK for Java")
           .assetName(assetName)
           .build();

       return getAsyncClient().createAsset(createAssetRequest)
           .whenComplete((response, exception) -> {
               if (exception != null) {
                   logger.error("Failed to create asset: {}",
exception.getCause().getMessage());
               }
           });
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateAsset」を参照してください。

`CreateAssetModel`

次のコード例は、`CreateAssetModel` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Creates an asset model.
    *
    * @param name the name of the asset model to create.
    * @return a {@link CompletableFuture} that represents a {@link
CreateAssetModelResponse} result. The calling code
    *         can attach callbacks, then handle the result or exception by calling
{@link CompletableFuture#join()} or
    *         {@link CompletableFuture#get()}.
    *         <p>
    *         If any completion stage in this method throws an exception, the
method logs the exception cause and keeps it
    *         available to the calling code as a {@link CompletionException}. By
calling
    *         {@link CompletionException#getCause()}, the calling code can access
the original exception.
    */
   public CompletableFuture<CreateAssetModelResponse> createAssetModelAsync(String
name) {
       PropertyType humidity = PropertyType.builder()
           .measurement(Measurement.builder().build())
           .build();

       PropertyType temperaturePropertyType = PropertyType.builder()
           .measurement(Measurement.builder().build())
           .build();

       AssetModelPropertyDefinition temperatureProperty =
AssetModelPropertyDefinition.builder()
           .name("Temperature")
           .dataType(PropertyDataType.DOUBLE)
           .type(temperaturePropertyType)
           .build();
```

```
        AssetModelPropertyDefinition humidityProperty =
AssetModelPropertyDefinition.builder()
            .name("Humidity")
            .dataType(PropertyDataType.DOUBLE)
            .type(humidity)
            .build();

        CreateAssetModelRequest createAssetModelRequest =
CreateAssetModelRequest.builder()
            .assetModelName(name)
            .assetModelDescription("This is my asset model")
            .assetModelProperties(temperatureProperty, humidityProperty)
            .build();

        return getAsyncClient().createAssetModel(createAssetModelRequest)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    logger.error("Failed to create asset model: {} ",
exception.getCause().getMessage());
                }
            });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateAssetModel」を参照してください。

`CreateGateway`

次のコード例は、`CreateGateway` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Creates a new IoT Sitewise gateway.
    *
    * @param gatewayName The name of the gateway to create.
    * @param myThing     The name of the core device thing to associate with the
gateway.
    * @return a {@link CompletableFuture} that represents a {@link String} result
of the gateways ID. The calling code
    *         can attach callbacks, then handle the result or exception by calling
{@link CompletableFuture#join()} or
    *         {@link CompletableFuture#get()}.
    *         <p>
    *         If any completion stage in this method throws an exception, the
method logs the exception cause and keeps
    *         it available to the calling code as a {@link CompletionException}. By
calling
    *         {@link CompletionException#getCause()}, the calling code can access
the original exception.
    */
   public CompletableFuture<String> createGatewayAsync(String gatewayName, String
myThing) {
       GreengrassV2 gg = GreengrassV2.builder()
           .coreDeviceThingName(myThing)
           .build();

       GatewayPlatform platform = GatewayPlatform.builder()
           .greengrassV2(gg)
           .build();

       Map<String, String> tag = new HashMap<>();
       tag.put("Environment", "Production");

       CreateGatewayRequest createGatewayRequest = CreateGatewayRequest.builder()
           .gatewayName(gatewayName)
           .gatewayPlatform(platform)
           .tags(tag)
           .build();

       return getAsyncClient().createGateway(createGatewayRequest)
           .handle((response, exception) -> {
               if (exception != null) {
                   logger.error("Error creating the gateway.");
                   throw (CompletionException) exception;
               }
```

```
                logger.info("The ARN of the gateway is {}" ,
response.gatewayArn());
                return response.gatewayId();
            });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateGateway」を参照してください。

`DeleteAsset`

次の例は、`DeleteAsset` を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Deletes an asset.
     *
     * @param assetId the ID of the asset to be deleted.
     * @return a {@link CompletableFuture} that represents a {@link
DeleteAssetResponse} result. The calling code can
     *         attach callbacks, then handle the result or exception by calling
{@link CompletableFuture#join()} or
     *         {@link CompletableFuture#get()}.
     *         <p>
     *         If any completion stage in this method throws an exception, the
method logs the exception cause and keeps
     *         it available to the calling code as a {@link CompletionException}. By
calling
     *         {@link CompletionException#getCause()}, the calling code can access
the original exception.
     */
    public CompletableFuture<DeleteAssetResponse> deleteAssetAsync(String assetId) {
        DeleteAssetRequest deleteAssetRequest = DeleteAssetRequest.builder()
```

```
            .assetId(assetId)
            .build();

        return getAsyncClient().deleteAsset(deleteAssetRequest)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    logger.error("An error occurred deleting asset with id: {}",
assetId);
                }
            });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteAsset」を参照してください。

`DeleteAssetModel`

次のコード例は、`DeleteAssetModel` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Deletes an Asset Model with the specified ID.
     *
     * @param assetModelId the ID of the Asset Model to delete.
     * @return a {@link CompletableFuture} that represents a {@link
DeleteAssetModelResponse} result. The calling code
     *         can attach callbacks, then handle the result or exception by calling
{@link CompletableFuture#join()} or
     *         {@link CompletableFuture#get()}.
     *         <p>
     *         If any completion stage in this method throws an exception, the
method logs the exception cause and keeps
```

```
     *         it available to the calling code as a {@link CompletionException}. By
calling
     *         {@link CompletionException#getCause()}, the calling code can access
the original exception.
     */
    public CompletableFuture<DeleteAssetModelResponse> deleteAssetModelAsync(String
assetModelId) {
        DeleteAssetModelRequest deleteAssetModelRequest =
DeleteAssetModelRequest.builder()
            .assetModelId(assetModelId)
            .build();

        return getAsyncClient().deleteAssetModel(deleteAssetModelRequest)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    logger.error("Failed to delete asset model with ID:{}.",
exception.getMessage());
                }
            });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteAssetModel」を参照してください。

`DeleteGateway`

次のコード例は、`DeleteGateway` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Deletes the specified gateway.
     *
     * @param gatewayId the ID of the gateway to delete.
```

```
    * @return a {@link CompletableFuture} that represents a {@link
DeleteGatewayResponse} result.. The calling code
    *         can attach callbacks, then handle the result or exception by calling
{@link CompletableFuture#join()} or
    *         {@link CompletableFuture#get()}.
    *         <p>
    *         If any completion stage in this method throws an exception, the
method logs the exception cause and keeps
    *         it available to the calling code as a {@link CompletionException}. By
calling
    *         {@link CompletionException#getCause()}, the calling code can access
the original exception.
    */
   public CompletableFuture<DeleteGatewayResponse> deleteGatewayAsync(String
gatewayId) {
       DeleteGatewayRequest deleteGatewayRequest = DeleteGatewayRequest.builder()
           .gatewayId(gatewayId)
           .build();

       return getAsyncClient().deleteGateway(deleteGatewayRequest)
           .whenComplete((response, exception) -> {
               if (exception != null) {
                   logger.error("Failed to delete gateway: {}",
exception.getCause().getMessage());
               }
           });
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteGateway」を参照してください。

`DescribeAssetModel`

次の例は、`DescribeAssetModel` を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Retrieves the property IDs associated with a specific asset model.
    *
    * @param assetModelId the ID of the asset model that defines the properties.
    * @return a {@link CompletableFuture} that represents a {@link Map} result that
associates the property name to the
    *         propert ID. The calling code can attach callbacks, then handle the
result or exception by calling
    *         {@link CompletableFuture#join()} or {@link CompletableFuture#get()}.
    *         <p>
    *         If any completion stage in this method throws an exception, the
method logs the exception cause and keeps
    *         it available to the calling code as a {@link CompletionException}. By
calling
    *         {@link CompletionException#getCause()}, the calling code can access
the original exception.
    */
   public CompletableFuture<Map<String, String>> getPropertyIds(String
assetModelId) {
       ListAssetModelPropertiesRequest modelPropertiesRequest =
ListAssetModelPropertiesRequest.builder().assetModelId(assetModelId).build();
       return getAsyncClient().listAssetModelProperties(modelPropertiesRequest)
           .handle((response, throwable) -> {
               if (response != null) {
                   return response.assetModelPropertySummaries().stream()
                       .collect(Collectors
                           .toMap(AssetModelPropertySummary::name,
AssetModelPropertySummary::id));
               } else {
                   logger.error("Error occurred while fetching property IDs: {}.",
throwable.getCause().getMessage());
                   throw (CompletionException) throwable;
               }
           });
```

```
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeAssetModel」を参照してください。

`DescribeGateway`

次のコード例は、DescribeGateway を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Describes the specified gateway.
    *
    * @param gatewayId the ID of the gateway to describe.
    * @return a {@link CompletableFuture} that represents a {@link
DescribeGatewayResponse} result. The calling code
    *         can attach callbacks, then handle the result or exception by calling
{@link CompletableFuture#join()} or
    *         {@link CompletableFuture#get()}.
    *         <p>
    *         If any completion stage in this method throws an exception, the
method logs the exception cause and keeps
    *         it available to the calling code as a {@link CompletionException}. By
calling
    *         {@link CompletionException#getCause()}, the calling code can access
the original exception.
    */
   public CompletableFuture<DescribeGatewayResponse> describeGatewayAsync(String
gatewayId) {
       DescribeGatewayRequest request = DescribeGatewayRequest.builder()
           .gatewayId(gatewayId)
           .build();
```

```
        return getAsyncClient().describeGateway(request)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    logger.error("An error occurred during the describeGateway
method: {}", exception.getCause().getMessage());
                }
            });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeGateway」を参照してください。

GetAssetPropertyValue

次の例は、GetAssetPropertyValue を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Fetches the value of an asset property.
     *
     * @param propId  the ID of the asset property to fetch.
     * @param assetId the ID of the asset to fetch the property value for.
     * @return a {@link CompletableFuture} that represents a {@link Double} result.
The calling code can attach
     *         callbacks, then handle the result or exception by calling {@link
CompletableFuture#join()} or
     *         {@link CompletableFuture#get()}.
     *         <p>
     *         If any completion stage in this method throws an exception, the
method logs the exception cause and keeps
     *         it available to the calling code as a {@link CompletionException}. By
calling
```

```
     *         {@link CompletionException#getCause()}, the calling code can access
the original exception.
     */
    public CompletableFuture<Double> getAssetPropValueAsync(String propId, String
assetId) {
        GetAssetPropertyValueRequest assetPropertyValueRequest =
GetAssetPropertyValueRequest.builder()
                .propertyId(propId)
                .assetId(assetId)
                .build();

        return getAsyncClient().getAssetPropertyValue(assetPropertyValueRequest)
                .handle((response, exception) -> {
                    if (exception != null) {
                        logger.error("Error occurred while fetching property value:
{}.", exception.getCause().getMessage());
                        throw (CompletionException) exception;
                    }
                    return response.propertyValue().value().doubleValue();
                });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetAssetPropertyValue」を参照してください。

`ListAssetModels`

次のコード例は、`ListAssetModels` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Retrieves the asset model ID for the given asset model name.
     *
```

```
    * @param assetModelName the name of the asset model for the ID.
    * @return a {@link CompletableFuture} that represents a {@link String} result
of the asset model ID or null if the
    *         asset model cannot be found. The calling code can attach callbacks,
then handle the result or exception
    *         by calling {@link CompletableFuture#join()} or {@link
CompletableFuture#get()}.
    *         <p>
    *         If any completion stage in this method throws an exception, the
method logs the exception cause and keeps
    *         it available to the calling code as a {@link CompletionException}. By
calling
    *         {@link CompletionException#getCause()}, the calling code can access
the original exception.
    */
   public CompletableFuture<String> getAssetModelIdAsync(String assetModelName) {
       ListAssetModelsRequest listAssetModelsRequest =
ListAssetModelsRequest.builder().build();
       return getAsyncClient().listAssetModels(listAssetModelsRequest)
               .handle((listAssetModelsResponse, exception) -> {
                   if (exception != null) {
                       logger.error("Failed to retrieve Asset Model ID: {}",
exception.getCause().getMessage());
                       throw (CompletionException) exception;
                   }
                   for (AssetModelSummary assetModelSummary :
listAssetModelsResponse.assetModelSummaries()) {
                       if (assetModelSummary.name().equals(assetModelName)) {
                           return assetModelSummary.id();
                       }
                   }
                   return null;
               });
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListAssetModels」を参照してください。

SDK for Java 2.x を使用する Amazon Keyspaces の例

次のコード例は、Amazon Keyspaces AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- はじめに
- 基本
- アクション

はじめに

Hello Amazon Keyspaces

次のコード例は、Amazon Keyspaces の使用を開始する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.keyspaces.KeyspacesClient;
import software.amazon.awssdk.services.keyspaces.model.KeyspaceSummary;
import software.amazon.awssdk.services.keyspaces.model.KeyspacesException;
import software.amazon.awssdk.services.keyspaces.model.ListKeyspacesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.keyspaces.model.ListKeyspacesResponse;
```

```
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java (v2) code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class HelloKeyspaces {
    public static void main(String[] args) {
        Region region = Region.US_EAST_1;
        KeyspacesClient keyClient = KeyspacesClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        listKeyspaces(keyClient);
    }

    public static void listKeyspaces(KeyspacesClient keyClient) {
        try {
            ListKeyspacesRequest keyspacesRequest = ListKeyspacesRequest.builder()
                    .maxResults(10)
                    .build();

            ListKeyspacesResponse response =
 keyClient.listKeyspaces(keyspacesRequest);
            List<KeyspaceSummary> keyspaces = response.keyspaces();
            for (KeyspaceSummary keyspace : keyspaces) {
                System.out.println("The name of the keyspace is " +
 keyspace.keyspaceName());
            }

        } catch (KeyspacesException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListKeyspaces」を参照してください。

基本

基本を学ぶ

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- キースペースとテーブルを作成する。テーブルスキーマにはムービーデータが保存され、ポイントインタイムリカバリが有効になっています。
- SigV4 認証による安全な TLS 接続を使用してキースペースに接続します。
- テーブルに対してクエリを実行します。ムービーデータを追加、取得、更新します。
- テーブルを更新する。視聴したムービーを追跡する列を追加します。
- テーブルを以前の状態に戻し、リソースをクリーンアップします。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
/**
 * Before running this Java (v2) code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 *
 * Before running this Java code example, you must create a
 * Java keystore (JKS) file and place it in your project's resources folder.
 *
 * This file is a secure file format used to hold certificate information for
 * Java applications. This is required to make a connection to Amazon Keyspaces.
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
```

```
 * https://docs.aws.amazon.com/keyspaces/latest/devguide/using_java_driver.html
 *
 * This Java example performs the following tasks:
 *
 * 1. Create a keyspace.
 * 2. Check for keyspace existence.
 * 3. List keyspaces using a paginator.
 * 4. Create a table with a simple movie data schema and enable point-in-time
 * recovery.
 * 5. Check for the table to be in an Active state.
 * 6. List all tables in the keyspace.
 * 7. Use a Cassandra driver to insert some records into the Movie table.
 * 8. Get all records from the Movie table.
 * 9. Get a specific Movie.
 * 10. Get a UTC timestamp for the current time.
 * 11. Update the table schema to add a ‘watched’ Boolean column.
 * 12. Update an item as watched.
 * 13. Query for items with watched = True.
 * 14. Restore the table back to the previous state using the timestamp.
 * 15. Check for completion of the restore action.
 * 16. Delete the table.
 * 17. Confirm that both tables are deleted.
 * 18. Delete the keyspace.
 */

public class ScenarioKeyspaces {
    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");

    /*
     * Usage:
     * fileName - The name of the JSON file that contains movie data. (Get this file
     * from the GitHub repo at resources/sample_file.)
     * keyspaceName - The name of the keyspace to create.
     */
    public static void main(String[] args) throws InterruptedException, IOException
 {
        String fileName = "<Replace with the JSON file that contains movie data>";
        String keyspaceName = "<Replace with the name of the keyspace to create>";
        String titleUpdate = "The Family";
        int yearUpdate = 2013;
        String tableName = "Movie";
        String tableNameRestore = "MovieRestore";
        Region region = Region.US_EAST_1;
        KeyspacesClient keyClient = KeyspacesClient.builder()
```

```
                .region(region)
                .build();

        DriverConfigLoader loader =
DriverConfigLoader.fromClasspath("application.conf");
        CqlSession session = CqlSession.builder()
                .withConfigLoader(loader)
                .build();

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("Welcome to the Amazon Keyspaces example scenario.");
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("1. Create a keyspace.");
        createKeySpace(keyClient, keyspaceName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        Thread.sleep(5000);
        System.out.println("2. Check for keyspace existence.");
        checkKeyspaceExistence(keyClient, keyspaceName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("3. List keyspaces using a paginator.");
        listKeyspacesPaginator(keyClient);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("4. Create a table with a simple movie data schema and
enable point-in-time recovery.");
        createTable(keyClient, keyspaceName, tableName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("5. Check for the table to be in an Active state.");
        Thread.sleep(6000);
        checkTable(keyClient, keyspaceName, tableName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("6. List all tables in the keyspace.");
        listTables(keyClient, keyspaceName);
```

```
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("7. Use a Cassandra driver to insert some records into
the Movie table.");
        Thread.sleep(6000);
        loadData(session, fileName, keyspaceName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("8. Get all records from the Movie table.");
        getMovieData(session, keyspaceName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("9. Get a specific Movie.");
        getSpecificMovie(session, keyspaceName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("10. Get a UTC timestamp for the current time.");
        ZonedDateTime utc = ZonedDateTime.now(ZoneOffset.UTC);
        System.out.println("DATETIME = " + Date.from(utc.toInstant()));
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("11. Update the table schema to add a watched Boolean
column.");
        updateTable(keyClient, keyspaceName, tableName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("12. Update an item as watched.");
        Thread.sleep(10000); // Wait 10 secs for the update.
        updateRecord(session, keyspaceName, titleUpdate, yearUpdate);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("13. Query for items with watched = True.");
        getWatchedData(session, keyspaceName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
```

```
        System.out.println("14. Restore the table back to the previous state using
the timestamp.");
        System.out.println("Note that the restore operation can take up to 20
minutes.");
        restoreTable(keyClient, keyspaceName, utc);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("15. Check for completion of the restore action.");
        Thread.sleep(5000);
        checkRestoredTable(keyClient, keyspaceName, "MovieRestore");
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("16. Delete both tables.");
        deleteTable(keyClient, keyspaceName, tableName);
        deleteTable(keyClient, keyspaceName, tableNameRestore);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("17. Confirm that both tables are deleted.");
        checkTableDelete(keyClient, keyspaceName, tableName);
        checkTableDelete(keyClient, keyspaceName, tableNameRestore);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("18. Delete the keyspace.");
        deleteKeyspace(keyClient, keyspaceName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("The scenario has completed successfully.");
        System.out.println(DASHES);
    }

    public static void deleteKeyspace(KeyspacesClient keyClient, String
keyspaceName) {
        try {
            DeleteKeyspaceRequest deleteKeyspaceRequest =
DeleteKeyspaceRequest.builder()
                    .keyspaceName(keyspaceName)
                    .build();

            keyClient.deleteKeyspace(deleteKeyspaceRequest);
```

```
        } catch (KeyspacesException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void checkTableDelete(KeyspacesClient keyClient, String
keyspaceName, String tableName)
            throws InterruptedException {
        try {
            String status;
            GetTableResponse response;
            GetTableRequest tableRequest = GetTableRequest.builder()
                    .keyspaceName(keyspaceName)
                    .tableName(tableName)
                    .build();

            // Keep looping until table cannot be found and a
ResourceNotFoundException is
            // thrown.
            while (true) {
                response = keyClient.getTable(tableRequest);
                status = response.statusAsString();
                System.out.println(". The table status is " + status);
                Thread.sleep(500);
            }

        } catch (ResourceNotFoundException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
        }
        System.out.println("The table is deleted");
    }

    public static void deleteTable(KeyspacesClient keyClient, String keyspaceName,
String tableName) {
        try {
            DeleteTableRequest tableRequest = DeleteTableRequest.builder()
                    .keyspaceName(keyspaceName)
                    .tableName(tableName)
                    .build();

            keyClient.deleteTable(tableRequest);
```

```
        } catch (KeyspacesException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void checkRestoredTable(KeyspacesClient keyClient, String
keyspaceName, String tableName)
            throws InterruptedException {
        try {
            boolean tableStatus = false;
            String status;
            GetTableResponse response = null;
            GetTableRequest tableRequest = GetTableRequest.builder()
                    .keyspaceName(keyspaceName)
                    .tableName(tableName)
                    .build();

            while (!tableStatus) {
                response = keyClient.getTable(tableRequest);
                status = response.statusAsString();
                System.out.println("The table status is " + status);

                if (status.compareTo("ACTIVE") == 0) {
                    tableStatus = true;
                }
                Thread.sleep(500);
            }

            List<ColumnDefinition> cols = response.schemaDefinition().allColumns();
            for (ColumnDefinition def : cols) {
                System.out.println("The column name is " + def.name());
                System.out.println("The column type is " + def.type());
            }

        } catch (KeyspacesException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void restoreTable(KeyspacesClient keyClient, String keyspaceName,
ZonedDateTime utc) {
        try {
```

```
            Instant myTime = utc.toInstant();
            RestoreTableRequest restoreTableRequest = RestoreTableRequest.builder()
                    .restoreTimestamp(myTime)
                    .sourceTableName("Movie")
                    .targetKeyspaceName(keyspaceName)
                    .targetTableName("MovieRestore")
                    .sourceKeyspaceName(keyspaceName)
                    .build();

            RestoreTableResponse response =
keyClient.restoreTable(restoreTableRequest);
            System.out.println("The ARN of the restored table is " +
response.restoredTableARN());

        } catch (KeyspacesException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void getWatchedData(CqlSession session, String keyspaceName) {
        ResultSet resultSet = session
                .execute("SELECT * FROM \"" + keyspaceName + "\".\"Movie\" WHERE
watched = true ALLOW FILTERING;");
        resultSet.forEach(item -> {
            System.out.println("The Movie title is " + item.getString("title"));
            System.out.println("The Movie year is " + item.getInt("year"));
            System.out.println("The plot is " + item.getString("plot"));
        });
    }

    public static void updateRecord(CqlSession session, String keySpace, String
titleUpdate, int yearUpdate) {
        String sqlStatement = "UPDATE \"" + keySpace
                + "\".\"Movie\" SET watched=true WHERE title = :k0 AND year = :k1;";
        BatchStatementBuilder builder =
BatchStatement.builder(DefaultBatchType.UNLOGGED);
        builder.setConsistencyLevel(ConsistencyLevel.LOCAL_QUORUM);
        PreparedStatement preparedStatement = session.prepare(sqlStatement);
        builder.addStatement(preparedStatement.boundStatementBuilder()
                .setString("k0", titleUpdate)
                .setInt("k1", yearUpdate)
                .build());
```

```
        BatchStatement batchStatement = builder.build();
        session.execute(batchStatement);
    }

    public static void updateTable(KeyspacesClient keyClient, String keySpace,
String tableName) {
        try {
            ColumnDefinition def = ColumnDefinition.builder()
                    .name("watched")
                    .type("boolean")
                    .build();

            UpdateTableRequest tableRequest = UpdateTableRequest.builder()
                    .keyspaceName(keySpace)
                    .tableName(tableName)
                    .addColumns(def)
                    .build();

            keyClient.updateTable(tableRequest);

        } catch (KeyspacesException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void getSpecificMovie(CqlSession session, String keyspaceName) {
        ResultSet resultSet = session.execute(
                "SELECT * FROM \"" + keyspaceName + "\".\"Movie\" WHERE title = 'The
Family' ALLOW FILTERING ;");
        resultSet.forEach(item -> {
            System.out.println("The Movie title is " + item.getString("title"));
            System.out.println("The Movie year is " + item.getInt("year"));
            System.out.println("The plot is " + item.getString("plot"));
        });
    }

    // Get records from the Movie table.
    public static void getMovieData(CqlSession session, String keyspaceName) {
        ResultSet resultSet = session.execute("SELECT * FROM \"" + keyspaceName +
"\".\"Movie\";");
        resultSet.forEach(item -> {
            System.out.println("The Movie title is " + item.getString("title"));
            System.out.println("The Movie year is " + item.getInt("year"));
```

```
            System.out.println("The plot is " + item.getString("plot"));
        });
    }

    // Load data into the table.
    public static void loadData(CqlSession session, String fileName, String
keySpace) throws IOException {
        String sqlStatement = "INSERT INTO \"" + keySpace + "\".\"Movie\" (title,
year, plot) values (:k0, :k1, :k2)";
        JsonParser parser = new JsonFactory().createParser(new File(fileName));
        com.fasterxml.jackson.databind.JsonNode rootNode = new
ObjectMapper().readTree(parser);
        Iterator<JsonNode> iter = rootNode.iterator();
        ObjectNode currentNode;
        int t = 0;
        while (iter.hasNext()) {

            // Add 20 movies to the table.
            if (t == 20)
                break;
            currentNode = (ObjectNode) iter.next();

            int year = currentNode.path("year").asInt();
            String title = currentNode.path("title").asText();
            String plot = currentNode.path("info").path("plot").toString();

            // Insert the data into the Amazon Keyspaces table.
            BatchStatementBuilder builder =
BatchStatement.builder(DefaultBatchType.UNLOGGED);
            builder.setConsistencyLevel(ConsistencyLevel.LOCAL_QUORUM);
            PreparedStatement preparedStatement = session.prepare(sqlStatement);
            builder.addStatement(preparedStatement.boundStatementBuilder()
                    .setString("k0", title)
                    .setInt("k1", year)
                    .setString("k2", plot)
                    .build());

            BatchStatement batchStatement = builder.build();
            session.execute(batchStatement);
            t++;
        }

        System.out.println("You have added " + t + " records successfully!");
    }
```

```
   public static void listTables(KeyspacesClient keyClient, String keyspaceName) {
       try {
           ListTablesRequest tablesRequest = ListTablesRequest.builder()
                   .keyspaceName(keyspaceName)
                   .build();

           ListTablesIterable listRes =
keyClient.listTablesPaginator(tablesRequest);
           listRes.stream()
                   .flatMap(r -> r.tables().stream())
                   .forEach(content -> System.out.println(" ARN: " +
content.resourceArn() +
                           " Table name: " + content.tableName()));

       } catch (KeyspacesException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }

   public static void checkTable(KeyspacesClient keyClient, String keyspaceName,
String tableName)
           throws InterruptedException {
       try {
           boolean tableStatus = false;
           String status;
           GetTableResponse response = null;
           GetTableRequest tableRequest = GetTableRequest.builder()
                   .keyspaceName(keyspaceName)
                   .tableName(tableName)
                   .build();

           while (!tableStatus) {
               response = keyClient.getTable(tableRequest);
               status = response.statusAsString();
               System.out.println(". The table status is " + status);

               if (status.compareTo("ACTIVE") == 0) {
                   tableStatus = true;
               }
               Thread.sleep(500);
           }
```

```
            List<ColumnDefinition> cols = response.schemaDefinition().allColumns();
            for (ColumnDefinition def : cols) {
                System.out.println("The column name is " + def.name());
                System.out.println("The column type is " + def.type());
            }

        } catch (KeyspacesException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void createTable(KeyspacesClient keyClient, String keySpace,
String tableName) {
        try {
            // Set the columns.
            ColumnDefinition defTitle = ColumnDefinition.builder()
                    .name("title")
                    .type("text")
                    .build();

            ColumnDefinition defYear = ColumnDefinition.builder()
                    .name("year")
                    .type("int")
                    .build();

            ColumnDefinition defReleaseDate = ColumnDefinition.builder()
                    .name("release_date")
                    .type("timestamp")
                    .build();

            ColumnDefinition defPlot = ColumnDefinition.builder()
                    .name("plot")
                    .type("text")
                    .build();

            List<ColumnDefinition> colList = new ArrayList<>();
            colList.add(defTitle);
            colList.add(defYear);
            colList.add(defReleaseDate);
            colList.add(defPlot);

            // Set the keys.
            PartitionKey yearKey = PartitionKey.builder()
```

```
                .name("year")
                .build();

        PartitionKey titleKey = PartitionKey.builder()
                .name("title")
                .build();

        List<PartitionKey> keyList = new ArrayList<>();
        keyList.add(yearKey);
        keyList.add(titleKey);

        SchemaDefinition schemaDefinition = SchemaDefinition.builder()
                .partitionKeys(keyList)
                .allColumns(colList)
                .build();

        PointInTimeRecovery timeRecovery = PointInTimeRecovery.builder()
                .status(PointInTimeRecoveryStatus.ENABLED)
                .build();

        CreateTableRequest tableRequest = CreateTableRequest.builder()
                .keyspaceName(keySpace)
                .tableName(tableName)
                .schemaDefinition(schemaDefinition)
                .pointInTimeRecovery(timeRecovery)
                .build();

        CreateTableResponse response = keyClient.createTable(tableRequest);
        System.out.println("The table ARN is " + response.resourceArn());

    } catch (KeyspacesException e) {
        System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
        System.exit(1);
    }
}

public static void listKeyspacesPaginator(KeyspacesClient keyClient) {
    try {
        ListKeyspacesRequest keyspacesRequest = ListKeyspacesRequest.builder()
                .maxResults(10)
                .build();

        ListKeyspacesIterable listRes =
keyClient.listKeyspacesPaginator(keyspacesRequest);
```

```
            listRes.stream()
                    .flatMap(r -> r.keyspaces().stream())
                    .forEach(content -> System.out.println(" Name: " +
content.keyspaceName()));

        } catch (KeyspacesException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void checkKeyspaceExistence(KeyspacesClient keyClient, String
keyspaceName) {
        try {
            GetKeyspaceRequest keyspaceRequest = GetKeyspaceRequest.builder()
                    .keyspaceName(keyspaceName)
                    .build();

            GetKeyspaceResponse response = keyClient.getKeyspace(keyspaceRequest);
            String name = response.keyspaceName();
            System.out.println("The " + name + " KeySpace is ready");

        } catch (KeyspacesException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void createKeySpace(KeyspacesClient keyClient, String
keyspaceName) {
        try {
            CreateKeyspaceRequest keyspaceRequest = CreateKeyspaceRequest.builder()
                    .keyspaceName(keyspaceName)
                    .build();

            CreateKeyspaceResponse response =
keyClient.createKeyspace(keyspaceRequest);
            System.out.println("The ARN of the KeySpace is " +
response.resourceArn());

        } catch (KeyspacesException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
```

```
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - CreateKeyspace
  - CreateTable
  - DeleteKeyspace
  - DeleteTable
  - GetKeyspace
  - GetTable
  - ListKeyspaces
  - ListTables
  - RestoreTable
  - UpdateTable

アクション

`CreateKeyspace`

次のコード例は、`CreateKeyspace` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void createKeySpace(KeyspacesClient keyClient, String
keyspaceName) {
       try {
           CreateKeyspaceRequest keyspaceRequest = CreateKeyspaceRequest.builder()
                   .keyspaceName(keyspaceName)
                   .build();
```

```
            CreateKeyspaceResponse response =
keyClient.createKeyspace(keyspaceRequest);
            System.out.println("The ARN of the KeySpace is " +
response.resourceArn());

        } catch (KeyspacesException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateKeyspace」を参照してください。

`CreateTable`

次のコード例は、`CreateTable` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    public static void createTable(KeyspacesClient keyClient, String keySpace,
String tableName) {
        try {
            // Set the columns.
            ColumnDefinition defTitle = ColumnDefinition.builder()
                    .name("title")
                    .type("text")
                    .build();

            ColumnDefinition defYear = ColumnDefinition.builder()
                    .name("year")
                    .type("int")
                    .build();
```

```
        ColumnDefinition defReleaseDate = ColumnDefinition.builder()
                .name("release_date")
                .type("timestamp")
                .build();

        ColumnDefinition defPlot = ColumnDefinition.builder()
                .name("plot")
                .type("text")
                .build();

        List<ColumnDefinition> colList = new ArrayList<>();
        colList.add(defTitle);
        colList.add(defYear);
        colList.add(defReleaseDate);
        colList.add(defPlot);

        // Set the keys.
        PartitionKey yearKey = PartitionKey.builder()
                .name("year")
                .build();

        PartitionKey titleKey = PartitionKey.builder()
                .name("title")
                .build();

        List<PartitionKey> keyList = new ArrayList<>();
        keyList.add(yearKey);
        keyList.add(titleKey);

        SchemaDefinition schemaDefinition = SchemaDefinition.builder()
                .partitionKeys(keyList)
                .allColumns(colList)
                .build();

        PointInTimeRecovery timeRecovery = PointInTimeRecovery.builder()
                .status(PointInTimeRecoveryStatus.ENABLED)
                .build();

        CreateTableRequest tableRequest = CreateTableRequest.builder()
                .keyspaceName(keySpace)
                .tableName(tableName)
                .schemaDefinition(schemaDefinition)
                .pointInTimeRecovery(timeRecovery)
```

```
                    .build();

            CreateTableResponse response = keyClient.createTable(tableRequest);
            System.out.println("The table ARN is " + response.resourceArn());

        } catch (KeyspacesException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateTable」を参照してください。

`DeleteKeyspace`

次のコード例は、`DeleteKeyspace` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void deleteKeyspace(KeyspacesClient keyClient, String
keyspaceName) {
        try {
            DeleteKeyspaceRequest deleteKeyspaceRequest =
DeleteKeyspaceRequest.builder()
                    .keyspaceName(keyspaceName)
                    .build();

            keyClient.deleteKeyspace(deleteKeyspaceRequest);

        } catch (KeyspacesException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
```

```
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteKeyspace」を参照してください。

`DeleteTable`

次のコード例は、`DeleteTable` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void deleteTable(KeyspacesClient keyClient, String keyspaceName,
String tableName) {
       try {
           DeleteTableRequest tableRequest = DeleteTableRequest.builder()
                   .keyspaceName(keyspaceName)
                   .tableName(tableName)
                   .build();

           keyClient.deleteTable(tableRequest);

       } catch (KeyspacesException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteTable」を参照してください。

GetKeyspace

次のコード例は、GetKeyspace を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void checkKeyspaceExistence(KeyspacesClient keyClient, String
keyspaceName) {
       try {
           GetKeyspaceRequest keyspaceRequest = GetKeyspaceRequest.builder()
                   .keyspaceName(keyspaceName)
                   .build();

           GetKeyspaceResponse response = keyClient.getKeyspace(keyspaceRequest);
           String name = response.keyspaceName();
           System.out.println("The " + name + " KeySpace is ready");

       } catch (KeyspacesException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetKeyspace」を参照してください。

GetTable

次のコード例は、GetTable を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void checkTable(KeyspacesClient keyClient, String keyspaceName,
String tableName)
           throws InterruptedException {
       try {
           boolean tableStatus = false;
           String status;
           GetTableResponse response = null;
           GetTableRequest tableRequest = GetTableRequest.builder()
                   .keyspaceName(keyspaceName)
                   .tableName(tableName)
                   .build();

           while (!tableStatus) {
               response = keyClient.getTable(tableRequest);
               status = response.statusAsString();
               System.out.println(". The table status is " + status);

               if (status.compareTo("ACTIVE") == 0) {
                   tableStatus = true;
               }
               Thread.sleep(500);
           }

           List<ColumnDefinition> cols = response.schemaDefinition().allColumns();
           for (ColumnDefinition def : cols) {
               System.out.println("The column name is " + def.name());
               System.out.println("The column type is " + def.type());
           }

       } catch (KeyspacesException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「GetTable」を参照してください。

`ListKeyspaces`

次のコード例は、`ListKeyspaces` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void listKeyspacesPaginator(KeyspacesClient keyClient) {
       try {
           ListKeyspacesRequest keyspacesRequest = ListKeyspacesRequest.builder()
                   .maxResults(10)
                   .build();

           ListKeyspacesIterable listRes =
keyClient.listKeyspacesPaginator(keyspacesRequest);
           listRes.stream()
                   .flatMap(r -> r.keyspaces().stream())
                   .forEach(content -> System.out.println(" Name: " +
content.keyspaceName()));

       } catch (KeyspacesException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListKeyspaces」を参照してください。

ListTables

次のコード例は、ListTables を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void listTables(KeyspacesClient keyClient, String keyspaceName) {
       try {
           ListTablesRequest tablesRequest = ListTablesRequest.builder()
                   .keyspaceName(keyspaceName)
                   .build();

           ListTablesIterable listRes =
keyClient.listTablesPaginator(tablesRequest);
           listRes.stream()
                   .flatMap(r -> r.tables().stream())
                   .forEach(content -> System.out.println(" ARN: " +
content.resourceArn() +
                           " Table name: " + content.tableName()));

       } catch (KeyspacesException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListTables」を参照してください。

RestoreTable

次のコード例は、RestoreTable を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void restoreTable(KeyspacesClient keyClient, String keyspaceName,
ZonedDateTime utc) {
       try {
           Instant myTime = utc.toInstant();
           RestoreTableRequest restoreTableRequest = RestoreTableRequest.builder()
                   .restoreTimestamp(myTime)
                   .sourceTableName("Movie")
                   .targetKeyspaceName(keyspaceName)
                   .targetTableName("MovieRestore")
                   .sourceKeyspaceName(keyspaceName)
                   .build();

           RestoreTableResponse response =
keyClient.restoreTable(restoreTableRequest);
           System.out.println("The ARN of the restored table is " +
response.restoredTableARN());

       } catch (KeyspacesException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスのの「RestoreTable」を参照してください。

`UpdateTable`

次のコード例は、`UpdateTable` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void updateTable(KeyspacesClient keyClient, String keySpace,
String tableName) {
       try {
           ColumnDefinition def = ColumnDefinition.builder()
                   .name("watched")
                   .type("boolean")
                   .build();

           UpdateTableRequest tableRequest = UpdateTableRequest.builder()
                   .keyspaceName(keySpace)
                   .tableName(tableName)
                   .addColumns(def)
                   .build();

           keyClient.updateTable(tableRequest);

       } catch (KeyspacesException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「UpdateTable」を参照してください。

SDK for Java 2.x を使用した Kinesis の例

次のコード例は、Kinesis AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- アクション
- サーバーレスサンプル

アクション

`CreateStream`

次のコード例は、`CreateStream` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.KinesisClient;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.model.CreateStreamRequest;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.model.KinesisException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class CreateDataStream {
    public static void main(String[] args) {
```

```
        final String usage = """

                Usage:
                    <streamName>

                Where:
                    streamName - The Amazon Kinesis data stream (for example,
 StockTradeStream).
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String streamName = args[0];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        KinesisClient kinesisClient = KinesisClient.builder()
                .region(region)
                .build();
        createStream(kinesisClient, streamName);
        System.out.println("Done");
        kinesisClient.close();
    }

    public static void createStream(KinesisClient kinesisClient, String streamName)
 {
        try {
            CreateStreamRequest streamReq = CreateStreamRequest.builder()
                    .streamName(streamName)
                    .shardCount(1)
                    .build();

            kinesisClient.createStream(streamReq);

        } catch (KinesisException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateStream」を参照してください。

`DeleteStream`

次のコード例は、`DeleteStream` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.KinesisClient;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.model.DeleteStreamRequest;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.model.KinesisException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DeleteDataStream {

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <streamName>

                Where:
                    streamName - The Amazon Kinesis data stream (for example,
 StockTradeStream)
                """;

        if (args.length != 1) {
```

```
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String streamName = args[0];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        KinesisClient kinesisClient = KinesisClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        deleteStream(kinesisClient, streamName);
        kinesisClient.close();
        System.out.println("Done");
    }

    public static void deleteStream(KinesisClient kinesisClient, String streamName)
 {
        try {
            DeleteStreamRequest delStream = DeleteStreamRequest.builder()
                    .streamName(streamName)
                    .build();

            kinesisClient.deleteStream(delStream);

        } catch (KinesisException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteStream」を参照してください。

GetRecords

次のコード例は、GetRecords を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.core.SdkBytes;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.KinesisClient;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.model.DescribeStreamResponse;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.model.DescribeStreamRequest;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.model.Shard;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.model.GetShardIteratorRequest;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.model.GetShardIteratorResponse;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.model.Record;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.model.GetRecordsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.model.GetRecordsResponse;
import java.util.ArrayList;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class GetRecords {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <streamName>

                Where:
                    streamName - The Amazon Kinesis data stream to read from (for
 example, StockTradeStream).
                """;
```

```
        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String streamName = args[0];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        KinesisClient kinesisClient = KinesisClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        getStockTrades(kinesisClient, streamName);
        kinesisClient.close();
    }

    public static void getStockTrades(KinesisClient kinesisClient, String
streamName) {
        String shardIterator;
        String lastShardId = null;
        DescribeStreamRequest describeStreamRequest =
DescribeStreamRequest.builder()
                .streamName(streamName)
                .build();

        List<Shard> shards = new ArrayList<>();
        DescribeStreamResponse streamRes;
        do {
            streamRes = kinesisClient.describeStream(describeStreamRequest);
            shards.addAll(streamRes.streamDescription().shards());

            if (shards.size() > 0) {
                lastShardId = shards.get(shards.size() - 1).shardId();
            }
        } while (streamRes.streamDescription().hasMoreShards());

        GetShardIteratorRequest itReq = GetShardIteratorRequest.builder()
                .streamName(streamName)
                .shardIteratorType("TRIM_HORIZON")
                .shardId(lastShardId)
                .build();

        GetShardIteratorResponse shardIteratorResult =
kinesisClient.getShardIterator(itReq);
        shardIterator = shardIteratorResult.shardIterator();
```

```
        // Continuously read data records from shard.
        List<Record> records;

        // Create new GetRecordsRequest with existing shardIterator.
        // Set maximum records to return to 1000.
        GetRecordsRequest recordsRequest = GetRecordsRequest.builder()
                .shardIterator(shardIterator)
                .limit(1000)
                .build();

        GetRecordsResponse result = kinesisClient.getRecords(recordsRequest);

        // Put result into record list. Result may be empty.
        records = result.records();

        // Print records
        for (Record record : records) {
            SdkBytes byteBuffer = record.data();
            System.out.printf("Seq No: %s - %s%n", record.sequenceNumber(), new
 String(byteBuffer.asByteArray()));
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetRecords」を参照してください。

PutRecord

次のコード例は、PutRecord を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.core.SdkBytes;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.KinesisClient;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.model.PutRecordRequest;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.model.KinesisException;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.model.DescribeStreamRequest;
import software.amazon.awssdk.services.kinesis.model.DescribeStreamResponse;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class StockTradesWriter {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <streamName>

                Where:
                    streamName - The Amazon Kinesis data stream to which records are
 written (for example, StockTradeStream)
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String streamName = args[0];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        KinesisClient kinesisClient = KinesisClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        // Ensure that the Kinesis Stream is valid.
        validateStream(kinesisClient, streamName);
        setStockData(kinesisClient, streamName);
        kinesisClient.close();
```

```
    }

    public static void setStockData(KinesisClient kinesisClient, String streamName)
{
        try {
            // Repeatedly send stock trades with a 100 milliseconds wait in between.
            StockTradeGenerator stockTradeGenerator = new StockTradeGenerator();

            // Put in 50 Records for this example.
            int index = 50;
            for (int x = 0; x < index; x++) {
                StockTrade trade = stockTradeGenerator.getRandomTrade();
                sendStockTrade(trade, kinesisClient, streamName);
                Thread.sleep(100);
            }

        } catch (KinesisException | InterruptedException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
        System.out.println("Done");
    }

    private static void sendStockTrade(StockTrade trade, KinesisClient
kinesisClient,
            String streamName) {
        byte[] bytes = trade.toJsonAsBytes();

        // The bytes could be null if there is an issue with the JSON serialization
by
        // the Jackson JSON library.
        if (bytes == null) {
            System.out.println("Could not get JSON bytes for stock trade");
            return;
        }

        System.out.println("Putting trade: " + trade);
        PutRecordRequest request = PutRecordRequest.builder()
                .partitionKey(trade.getTickerSymbol()) // We use the ticker symbol
as the partition key, explained in
                                                       // the Supplemental
Information section below.
                .streamName(streamName)
                .data(SdkBytes.fromByteArray(bytes))
```

```
                .build();

        try {
            kinesisClient.putRecord(request);
        } catch (KinesisException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
        }
    }

    private static void validateStream(KinesisClient kinesisClient, String
 streamName) {
        try {
            DescribeStreamRequest describeStreamRequest =
 DescribeStreamRequest.builder()
                    .streamName(streamName)
                    .build();

            DescribeStreamResponse describeStreamResponse =
 kinesisClient.describeStream(describeStreamRequest);

            if (!
describeStreamResponse.streamDescription().streamStatus().toString().equals("ACTIVE"))
 {
                System.err.println("Stream " + streamName + " is not active. Please
 wait a few moments and try again.");
                System.exit(1);
            }

        } catch (KinesisException e) {
            System.err.println("Error found while describing the stream " +
 streamName);
            System.err.println(e);
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「PutRecord」を参照してください。

サーバーレスサンプル

Kinesis トリガーから Lambda 関数を呼び出す

次のコード例では、Kinesis ストリームからレコードを受信することによってトリガーされるイベントを受け取る、Lambda 関数の実装方法を示しています。この関数は Kinesis ペイロードを取得し、それを Base64 からデコードして、そのレコードの内容をログ記録します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。サーバーレスサンプルリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

Java を使用した Lambda での Kinesis イベントの消費。

```
// Copyright Amazon.com, Inc. or its affiliates. All Rights Reserved.
// SPDX-License-Identifier: Apache-2.0
package example;

import com.amazonaws.services.lambda.runtime.Context;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.LambdaLogger;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.RequestHandler;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.KinesisEvent;

public class Handler implements RequestHandler<KinesisEvent, Void> {
    @Override
    public Void handleRequest(final KinesisEvent event, final Context context) {
        LambdaLogger logger = context.getLogger();
        if (event.getRecords().isEmpty()) {
            logger.log("Empty Kinesis Event received");
            return null;
        }
        for (KinesisEvent.KinesisEventRecord record : event.getRecords()) {
            try {
                logger.log("Processed Event with EventId: "+record.getEventID());
                String data = new String(record.getKinesis().getData().array());
                logger.log("Data:"+ data);
                // TODO: Do interesting work based on the new data
            }
```

```
            catch (Exception ex) {
                logger.log("An error occurred:"+ex.getMessage());
                throw ex;
            }
        }
        logger.log("Successfully processed:"+event.getRecords().size()+" records");
        return null;
    }

}
```

Kinesis トリガーを使用した Lambda 関数でのバッチアイテム失敗のレポート

以下のコード例では、Kinesis ストリームからイベントを受け取る Lambda 関数のための、部分的なバッチレスポンスの実装方法を示しています。この関数は、レスポンスとしてバッチアイテムの失敗を報告し、対象のメッセージを後で再試行するよう Lambda に伝えます。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。サーバーレスサンプルリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

Java を使用した Lambda での Kinesis バッチアイテム失敗のレポート。

```
// Copyright Amazon.com, Inc. or its affiliates. All Rights Reserved.
// SPDX-License-Identifier: Apache-2.0
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.Context;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.RequestHandler;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.KinesisEvent;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.StreamsEventResponse;

import java.io.Serializable;
import java.util.ArrayList;
import java.util.List;

public class ProcessKinesisRecords implements RequestHandler<KinesisEvent,
 StreamsEventResponse> {
```

```
    @Override
    public StreamsEventResponse handleRequest(KinesisEvent input, Context context) {

        List<StreamsEventResponse.BatchItemFailure> batchItemFailures = new
 ArrayList<>();
        String curRecordSequenceNumber = "";

        for (KinesisEvent.KinesisEventRecord kinesisEventRecord :
 input.getRecords()) {
            try {
                //Process your record
                KinesisEvent.Record kinesisRecord = kinesisEventRecord.getKinesis();
                curRecordSequenceNumber = kinesisRecord.getSequenceNumber();

            } catch (Exception e) {
                /* Since we are working with streams, we can return the failed item
 immediately.
                   Lambda will immediately begin to retry processing from this
 failed item onwards. */
                batchItemFailures.add(new
 StreamsEventResponse.BatchItemFailure(curRecordSequenceNumber));
                return new StreamsEventResponse(batchItemFailures);
            }
        }

       return new StreamsEventResponse(batchItemFailures);
    }
}
```

AWS KMS SDK for Java 2.x を使用した例

次のコード例は、 AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています AWS KMS。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- はじめに
- 基本
- アクション

はじめに

こんにち AWS KMSは

次のコード例は、 AWS Key Management Serviceの使用を開始する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.services.kms.KmsAsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.kms.model.ListKeysRequest;
import software.amazon.awssdk.services.kms.paginators.ListKeysPublisher;
import java.util.concurrent.CompletableFuture;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class HelloKMS {
    public static void main(String[] args) {
        listAllKeys();
    }
```

```
    public static void listAllKeys() {
        KmsAsyncClient kmsAsyncClient = KmsAsyncClient.builder()
            .build();
        ListKeysRequest listKeysRequest = ListKeysRequest.builder()
            .limit(15)
            .build();

        /*
         * The `subscribe` method is required when using paginator methods in the
AWS SDK
         * because paginator methods return an instance of a `ListKeysPublisher`,
which is
         * based on a reactive stream. This allows asynchronous retrieval of
paginated
         * results as they become available. By subscribing to the stream, we can
process
         * each page of results as they are emitted.
         */
        ListKeysPublisher keysPublisher =
kmsAsyncClient.listKeysPaginator(listKeysRequest);
        CompletableFuture<Void> future = keysPublisher
            .subscribe(r -> r.keys().forEach(key ->
                System.out.println("The key ARN is: " + key.keyArn() + ". The key Id
is: " + key.keyId())))
            .whenComplete((result, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    System.err.println("Error occurred: " + exception.getMessage());
                } else {
                    System.out.println("Successfully listed all keys.");
                }
            });

        try {
            future.join();
        } catch (Exception e) {
            System.err.println("Failed to list keys: " + e.getMessage());
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListKeys」を参照してください。

基本

基本を学ぶ

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- KMS キーを作成します。
- アカウントの KMS キーを一覧表示し、詳細を取得します。
- KMS キーを有効および無効にします。
- クライアント側の暗号化に使用できる対称データキーを生成します。
- データのデジタル署名に使用する非対称キーを生成します。
- キーをダグ付けします。
- KMS キーを削除します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

コマンドプロンプトでシナリオを実行します。

```
import software.amazon.awssdk.core.SdkBytes;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.services.kms.model.AlreadyExistsException;
import software.amazon.awssdk.services.kms.model.DisabledException;
import software.amazon.awssdk.services.kms.model.EnableKeyRotationResponse;
import software.amazon.awssdk.services.kms.model.KmsException;
import software.amazon.awssdk.services.kms.model.NotFoundException;
import software.amazon.awssdk.services.kms.model.RevokeGrantResponse;
import java.util.List;
import java.util.Scanner;
import java.util.concurrent.CompletableFuture;
import java.util.concurrent.CompletionException;
```

```
/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */

public class KMSScenario {
    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");
    private static String accountId = "";

    private static final Logger logger = LoggerFactory.getLogger(KMSScenario.class);

    static KMSActions kmsActions = new KMSActions();

    static Scanner scanner = new Scanner(System.in);

    static String aliasName = "alias/dev-encryption-key";

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """
            Usage: <granteePrincipal>

            Where:
               granteePrincipal - The principal (user, service account, or group) to
 whom the grant or permission is being given.
            """;

        if (args.length != 1) {
            logger.info(usage);
            return;
        }
        String granteePrincipal = args[0];
        String policyName = "default";

        accountId = kmsActions.getAccountId();
        String keyDesc = "Created by the AWS KMS API";

        logger.info(DASHES);
        logger.info("""
            Welcome to the AWS Key Management SDK Basics scenario.
```

```
            This program demonstrates how to interact with AWS Key Management using
the AWS SDK for Java (v2).
            The AWS Key Management Service (KMS) is a secure and highly available
service that allows you to create
            and manage AWS KMS keys and control their use across a wide range of AWS
services and applications.
            KMS provides a centralized and unified approach to managing encryption
keys, making it easier to meet your
            data protection and regulatory compliance requirements.

            This Basics scenario creates two key types:

            - A symmetric encryption key is used to encrypt and decrypt data.
            - An asymmetric key used to digitally sign data.

            Let's get started...
            """);
        waitForInputToContinue(scanner);

        try {
        // Run the methods that belong to this scenario.
        String targetKeyId = runScenario(granteePrincipal, keyDesc, policyName);
        requestDeleteResources(aliasName, targetKeyId);

        } catch (Throwable rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof KmsException kmsEx) {
                logger.info("KMS error occurred: Error message: {}, Error code {}",
kmsEx.getMessage(), kmsEx.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
            }
        }
    }

    private static String runScenario(String granteePrincipal, String keyDesc,
String policyName) throws Throwable {
        logger.info(DASHES);
        logger.info("1. Create a symmetric KMS key\n");
        logger.info("First, the program will creates a symmetric KMS key that you
can used to encrypt and decrypt data.");
        waitForInputToContinue(scanner);
        String targetKeyId;
        try {
```

```
            CompletableFuture<String> futureKeyId =
kmsActions.createKeyAsync(keyDesc);
            targetKeyId = futureKeyId.join();
            logger.info("A symmetric key was successfully created " + targetKeyId);

        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof KmsException kmsEx) {
                logger.info("KMS error occurred: Error message: {}, Error code {}",
kmsEx.getMessage(), kmsEx.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
            }
            throw cause;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("""
            2. Enable a KMS key

            By default, when the SDK creates an AWS key, it is enabled. The next bit
of code checks to
            determine if the key is enabled.
             """);
        waitForInputToContinue(scanner);
        boolean isEnabled;
        try {
            CompletableFuture<Boolean> futureIsKeyEnabled =
kmsActions.isKeyEnabledAsync(targetKeyId);
            isEnabled = futureIsKeyEnabled.join();
            logger.info("Is the key enabled? {}", isEnabled);

        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof KmsException kmsEx) {
                logger.info("KMS error occurred: Error message: {}, Error code {}",
kmsEx.getMessage(), kmsEx.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
            }
            throw cause;
        }
```

```
        if (!isEnabled)
            try {
                CompletableFuture<Void> future =
kmsActions.enableKeyAsync(targetKeyId);
                future.join();

            } catch (RuntimeException rt) {
                Throwable cause = rt.getCause();
                if (cause instanceof KmsException kmsEx) {
                    logger.info("KMS error occurred: Error message: {}, Error code
{}", kmsEx.getMessage(), kmsEx.awsErrorDetails().errorCode());
                } else {
                    logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
                }
                throw cause;
            }
        waitForInputToContinue(scanner);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("3. Encrypt data using the symmetric KMS key");
        String plaintext = "Hello, AWS KMS!";
        logger.info("""
            One of the main uses of symmetric keys is to encrypt and decrypt data.
            Next, the code encrypts the string {} with the SYMMETRIC_DEFAULT
encryption algorithm.
            """, plaintext);
        waitForInputToContinue(scanner);
        SdkBytes encryptedData;
        try {
            CompletableFuture<SdkBytes> future =
kmsActions.encryptDataAsync(targetKeyId, plaintext);
            encryptedData = future.join();

        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof DisabledException kmsDisabledEx) {
                logger.info("KMS error occurred due to a disabled
key: Error message: {}, Error code {}", kmsDisabledEx.getMessage(),
kmsDisabledEx.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
            }
            deleteKey(targetKeyId);
            throw cause;
```

```
        }
        waitForInputToContinue(scanner);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("4. Create an alias");
        logger.info("""

            The alias name should be prefixed with 'alias/'.
            The default, 'alias/dev-encryption-key'.
             """);
        waitForInputToContinue(scanner);

        try {
            CompletableFuture<Void> future =
kmsActions.createCustomAliasAsync(targetKeyId, aliasName);
            future.join();

        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof AlreadyExistsException kmsExistsEx) {
                if (kmsExistsEx.getMessage().contains("already exists")) {
                    logger.info("The alias '" + aliasName + "' already exists.
Moving on...");
                }
            } else {
                logger.error("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage(),
rt);
                deleteKey(targetKeyId);
                throw cause;
            }
        }
        waitForInputToContinue(scanner);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("5. List all of your aliases");
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            CompletableFuture<Object> future = kmsActions.listAllAliasesAsync();
            future.join();

        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof KmsException kmsEx) {
```

```
                logger.info("KMS error occurred: Error message: {}, Error code {}",
kmsEx.getMessage(), kmsEx.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
            }
            deleteAliasName(aliasName);
            deleteKey(targetKeyId);
            throw cause;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("6. Enable automatic rotation of the KMS key");
        logger.info("""

            By default, when the SDK enables automatic rotation of a KMS key,
            KMS rotates the key material of the KMS key one year (approximately 365
days) from the enable date and every year
            thereafter.
            """);
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            CompletableFuture<EnableKeyRotationResponse> future =
kmsActions.enableKeyRotationAsync(targetKeyId);
            future.join();

        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof KmsException kmsEx) {
                logger.info("KMS error occurred: Error message: {}, Error code {}",
kmsEx.getMessage(), kmsEx.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
            }
            deleteAliasName(aliasName);
            deleteKey(targetKeyId);
            throw cause;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("""
            7. Create a grant
```

```
            A grant is a policy instrument that allows Amazon Web Services
principals to use KMS keys.
            It also can allow them to view a KMS key (DescribeKey) and create and
manage grants.
            When authorizing access to a KMS key, grants are considered along with
key policies and IAM policies.
            """);

        waitForInputToContinue(scanner);
        String grantId = null;
        try {
            CompletableFuture<String> futureGrantId =
kmsActions.grantKeyAsync(targetKeyId, granteePrincipal);
            grantId = futureGrantId.join();

        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof KmsException kmsEx) {
                logger.info("KMS error occurred: Error message: {}, Error code {}",
kmsEx.getMessage(), kmsEx.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
            }
            deleteKey(targetKeyId);
            throw cause;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("8. List grants for the KMS key");
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            CompletableFuture<Object> future =
kmsActions.displayGrantIdsAsync(targetKeyId);
            future.join();

        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof KmsException kmsEx) {
                logger.info("KMS error occurred: Error message: {}, Error code {}",
kmsEx.getMessage(), kmsEx.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
```

```
            }
            deleteAliasName(aliasName);
            deleteKey(targetKeyId);
            throw cause;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("9. Revoke the grant");
        logger.info("""
            The revocation of a grant immediately removes the permissions and access
that the grant had provided.
            This means that any principal (user, role, or service) that was granted
access to perform specific
            KMS operations on a KMS key will no longer be able to perform those
operations.
            """);
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            CompletableFuture<RevokeGrantResponse> future =
kmsActions.revokeKeyGrantAsync(targetKeyId, grantId);
            future.join();

        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof KmsException kmsEx) {
                if (kmsEx.getMessage().contains("Grant does not exist")) {
                    logger.info("The grant ID '" + grantId + "' does not exist.
Moving on...");
                } else {
                    logger.info("KMS error occurred: Error message: {}, Error code
{}", kmsEx.getMessage(), kmsEx.awsErrorDetails().errorCode());
                    throw cause;
                }
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
                deleteAliasName(aliasName);
                deleteKey(targetKeyId);
                throw cause;
            }
        }
        waitForInputToContinue(scanner);

        logger.info(DASHES);
```

```
        logger.info("10. Decrypt the data\n");
        logger.info("""
            Lets decrypt the data that was encrypted in an early step.
            The code uses the same key to decrypt the string that we encrypted
earlier in the program.
            """);
        waitForInputToContinue(scanner);
        String decryptedData = "";
        try {
            CompletableFuture<String> future =
kmsActions.decryptDataAsync(encryptedData, targetKeyId);
            decryptedData = future.join();
            logger.info("Decrypted data: " + decryptedData);

        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof KmsException kmsEx) {
                logger.info("KMS error occurred: Error message: {}, Error code {}",
kmsEx.getMessage(), kmsEx.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
            }
            deleteAliasName(aliasName);
            deleteKey(targetKeyId);
            throw cause;
        }
        logger.info("Decrypted text is: " + decryptedData);
        waitForInputToContinue(scanner);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("11. Replace a key policy\n");
        logger.info("""
            A key policy is a resource policy for a KMS key. Key policies are the
primary way to control
            access to KMS keys. Every KMS key must have exactly one key policy. The
statements in the key policy
            determine who has permission to use the KMS key and how they can use
it.
            You can also use IAM policies and grants to control access to the KMS
key, but every KMS key
            must have a key policy.

            By default, when you create a key by using the SDK, a policy is created
that
```

```
            gives the AWS account that owns the KMS key full access to the KMS key.

            Let's try to replace the automatically created policy with the following
policy.

                "Version":"2012-10-17",
                "Statement": [{
                "Effect": "Allow",
                "Principal": {"AWS": "arn:aws:iam::0000000000:root"},
                "Action": "kms:*",
                "Resource": "*"
                }]
            """);

        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            CompletableFuture<Boolean> future =
kmsActions.replacePolicyAsync(targetKeyId, policyName, accountId);
            boolean success = future.join();
            if (success) {
                logger.info("Key policy replacement succeeded.");
            } else {
                logger.error("Key policy replacement failed.");
            }

        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof KmsException kmsEx) {
                logger.info("KMS error occurred: Error message: {}, Error code {}",
kmsEx.getMessage(), kmsEx.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
            }
            deleteAliasName(aliasName);
            deleteKey(targetKeyId);
            throw cause;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("12. Get the key policy\n");
        logger.info("The next bit of code that runs gets the key policy to make sure
it exists.");
        waitForInputToContinue(scanner);
```

```
        try {
            CompletableFuture<String> future =
kmsActions.getKeyPolicyAsync(targetKeyId, policyName);
            String policy = future.join();
            if (!policy.isEmpty()) {
                logger.info("Retrieved policy: " + policy);
            }

        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof KmsException kmsEx) {
                logger.info("KMS error occurred: Error message: {}, Error code {}",
kmsEx.getMessage(), kmsEx.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
            }
            deleteAliasName(aliasName);
            deleteKey(targetKeyId);
            throw cause;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("13. Create an asymmetric KMS key and sign your data\n");
        logger.info("""
             Signing your data with an AWS key can provide several benefits that
make it an attractive option
             for your data signing needs. By using an AWS KMS key, you can leverage
the
             security controls and compliance features provided by AWS,
             which can help you meet various regulatory requirements and enhance the
overall security posture
             of your organization.
            """);
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            CompletableFuture<Boolean> future = kmsActions.signVerifyDataAsync();
            boolean success = future.join();
            if (success) {
                logger.info("Sign and verify data operation succeeded.");
            } else {
                logger.error("Sign and verify data operation failed.");
            }
```

```
        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof KmsException kmsEx) {
                logger.info("KMS error occurred: Error message: {}, Error code {}",
kmsEx.getMessage(), kmsEx.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
            }
            deleteAliasName(aliasName);
            deleteKey(targetKeyId);
            throw cause;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("14. Tag your symmetric KMS Key\n");
        logger.info("""
            By using tags, you can improve the overall management, security, and
governance of your
            KMS keys, making it easier to organize, track, and control access to
your encrypted data within
            your AWS environment
            """);
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            CompletableFuture<Void> future = kmsActions.tagKMSKeyAsync(targetKeyId);
            future.join();

        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof KmsException kmsEx) {
                logger.info("KMS error occurred: Error message: {}, Error code {}",
kmsEx.getMessage(), kmsEx.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
            }
            deleteAliasName(aliasName);
            deleteKey(targetKeyId);
            throw cause;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        return targetKeyId;
    }
```

```
   // Deletes KMS resources with user input.
   private static void requestDeleteResources(String aliasName, String targetKeyId)
{
       logger.info(DASHES);
       logger.info("15. Schedule the deletion of the KMS key\n");
       logger.info("""
           By default, KMS applies a waiting period of 30 days,
           but you can specify a waiting period of 7-30 days. When this operation
is successful,
           the key state of the KMS key changes to PendingDeletion and the key
can't be used in any
           cryptographic operations. It remains in this state for the duration of
the waiting period.

           Deleting a KMS key is a destructive and potentially dangerous operation.
When a KMS key is deleted,
           all data that was encrypted under the KMS key is unrecoverable.
           """);
       logger.info("Would you like to delete the Key Management resources? (y/n)");
       String delAns = scanner.nextLine().trim();
       if (delAns.equalsIgnoreCase("y")) {
           logger.info("You selected to delete the AWS KMS resources.");
           waitForInputToContinue(scanner);
           try {
               CompletableFuture<Void> future =
kmsActions.deleteSpecificAliasAsync(aliasName);
               future.join();

           } catch (RuntimeException rt) {
               Throwable cause = rt.getCause();
               if (cause instanceof KmsException kmsEx) {
                   logger.info("KMS error occurred: Error message: {}, Error code
{}", kmsEx.getMessage(), kmsEx.awsErrorDetails().errorCode());
               } else {
                   logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
               }
           }
           waitForInputToContinue(scanner);
           try {
               CompletableFuture<Void> future =
kmsActions.disableKeyAsync(targetKeyId);
               future.join();

           } catch (RuntimeException rt) {
```

```
                Throwable cause = rt.getCause();
                if (cause instanceof KmsException kmsEx) {
                    logger.info("KMS error occurred: Error message: {}, Error code
{}", kmsEx.getMessage(), kmsEx.awsErrorDetails().errorCode());
                } else {
                    logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
                }
            }

            try {
                CompletableFuture<Void> future =
kmsActions.deleteKeyAsync(targetKeyId);
                future.join();

            } catch (RuntimeException rt) {
                Throwable cause = rt.getCause();
                if (cause instanceof KmsException kmsEx) {
                    logger.info("KMS error occurred: Error message: {}, Error code
{}", kmsEx.getMessage(), kmsEx.awsErrorDetails().errorCode());
                } else {
                    logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
                }
            }

        } else {
            logger.info("The Key Management resources will not be deleted");
        }

        logger.info(DASHES);
        logger.info("This concludes the AWS Key Management SDK scenario");
        logger.info(DASHES);
    }

    // This method is invoked from Exceptions to clean up the resources.
    private static void deleteKey(String targetKeyId) {
        try {
            CompletableFuture<Void> future =
kmsActions.disableKeyAsync(targetKeyId);
            future.join();

        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof KmsException kmsEx) {
```

```
                logger.info("KMS error occurred: Error message: {}, Error code {}",
kmsEx.getMessage(), kmsEx.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
            }
        }

        try {
            CompletableFuture<Void> future = kmsActions.deleteKeyAsync(targetKeyId);
            future.join();

        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof KmsException kmsEx) {
                logger.info("KMS error occurred: Error message: {}, Error code {}",
kmsEx.getMessage(), kmsEx.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
            }
        }
    }

    // This method is invoked from Exceptions to clean up the resources.
    private static void deleteAliasName(String aliasName) {
        try {
            CompletableFuture<Void> future =
kmsActions.deleteSpecificAliasAsync(aliasName);
            future.join();

        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof KmsException kmsEx) {
                logger.info("KMS error occurred: Error message: {}, Error code {}",
kmsEx.getMessage(), kmsEx.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
            }
        }
    }

    private static void waitForInputToContinue(Scanner scanner) {
        while (true) {
            logger.info("");
            logger.info("Enter 'c' followed by <ENTER> to continue:");
```

```
            String input = scanner.nextLine();

            if (input.trim().equalsIgnoreCase("c")) {
                logger.info("Continuing with the program...");
                logger.info("");
                break;
            } else {
                // Handle invalid input.
                logger.info("Invalid input. Please try again.");
            }
        }
    }
}
```

KMS アクションをラップするクラスを定義します。

```
public class KMSActions {
    private static final Logger logger = LoggerFactory.getLogger(KMSActions.class);
    private static KmsAsyncClient kmsAsyncClient;

    /**
     * Retrieves an asynchronous AWS Key Management Service (KMS) client.
     * <p>
     * This method creates and returns a singleton instance of the KMS async client,
 with the following configurations:
     * <ul>
     *   <li>Max concurrency: 100</li>
     *   <li>Connection timeout: 60 seconds</li>
     *   <li>Read timeout: 60 seconds</li>
     *   <li>Write timeout: 60 seconds</li>
     *   <li>API call timeout: 2 minutes</li>
     *   <li>API call attempt timeout: 90 seconds</li>
     *   <li>Retry policy: up to 3 retries</li>
     *   <li>Credentials provider: environment variable credentials provider</li>
     * </ul>
     * <p>
     * If the client instance has already been created, it is returned instead of
 creating a new one.
     *
     * @return the KMS async client instance
     */
    private static KmsAsyncClient getAsyncClient() {
```

```
        if (kmsAsyncClient == null) {
            SdkAsyncHttpClient httpClient = NettyNioAsyncHttpClient.builder()
                .maxConcurrency(100)
                .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .readTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .writeTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .build();

            ClientOverrideConfiguration overrideConfig =
ClientOverrideConfiguration.builder()
                .apiCallTimeout(Duration.ofMinutes(2))
                .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(90))
                .retryPolicy(RetryPolicy.builder()
                    .numRetries(3)
                    .build())
                .build();

            kmsAsyncClient = KmsAsyncClient.builder()
                .httpClient(httpClient)
                .overrideConfiguration(overrideConfig)
                .build();
        }
        return kmsAsyncClient;
    }

    /**
     * Creates a new symmetric encryption key asynchronously.
     *
     * @param keyDesc the description of the key to be created
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes with the ID of the newly
created key
     * @throws RuntimeException if an error occurs while creating the key
     */
    public CompletableFuture<String> createKeyAsync(String keyDesc) {
        CreateKeyRequest keyRequest = CreateKeyRequest.builder()
            .description(keyDesc)
            .keySpec(KeySpec.SYMMETRIC_DEFAULT)
            .keyUsage(KeyUsageType.ENCRYPT_DECRYPT)
            .build();

        return getAsyncClient().createKey(keyRequest)
            .thenApply(resp -> resp.keyMetadata().keyId())
            .exceptionally(ex -> {
```

```
                throw new RuntimeException("An error occurred while creating the
key: " + ex.getMessage(), ex);
            });
    }

    /**
     * Asynchronously checks if a specified key is enabled.
     *
     * @param keyId the ID of the key to check
     * @return a {@link CompletableFuture} that, when completed, indicates whether
the key is enabled or not
     *
     * @throws RuntimeException if an exception occurs while checking the key state
     */
    public CompletableFuture<Boolean> isKeyEnabledAsync(String keyId) {
        DescribeKeyRequest keyRequest = DescribeKeyRequest.builder()
            .keyId(keyId)
            .build();

        CompletableFuture<DescribeKeyResponse> responseFuture =
getAsyncClient().describeKey(keyRequest);
        return responseFuture.whenComplete((resp, ex) -> {
            if (resp != null) {
                KeyState keyState = resp.keyMetadata().keyState();
                if (keyState == KeyState.ENABLED) {
                    logger.info("The key is enabled.");
                } else {
                    logger.info("The key is not enabled. Key state: {}", keyState);
                }
            } else {
                throw new RuntimeException(ex);
            }
        }).thenApply(resp -> resp.keyMetadata().keyState() == KeyState.ENABLED);
    }

    /**
     * Asynchronously enables the specified key.
     *
     * @param keyId the ID of the key to enable
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the key has been
enabled
     */
    public CompletableFuture<Void> enableKeyAsync(String keyId) {
        EnableKeyRequest enableKeyRequest = EnableKeyRequest.builder()
```

```
            .keyId(keyId)
            .build();

        CompletableFuture<EnableKeyResponse> responseFuture =
getAsyncClient().enableKey(enableKeyRequest);
        responseFuture.whenComplete((response, exception) -> {
            if (exception == null) {
                logger.info("Key with ID [{}] has been enabled.", keyId);
            } else {
                if (exception instanceof KmsException kmsEx) {
                    throw new RuntimeException("KMS error occurred while enabling
key: " + kmsEx.getMessage(), kmsEx);
                } else {
                    throw new RuntimeException("An unexpected error occurred while
enabling key: " + exception.getMessage(), exception);
                }
            }
        });

        return responseFuture.thenApply(response -> null);
    }

    /**
     * Encrypts the given text asynchronously using the specified KMS client and key
ID.
     *
     * @param keyId the ID of the KMS key to use for encryption
     * @param text the text to encrypt
     * @return a CompletableFuture that completes with the encrypted data as an
SdkBytes object
     */
    public CompletableFuture<SdkBytes> encryptDataAsync(String keyId, String text) {
        SdkBytes myBytes = SdkBytes.fromUtf8String(text);
        EncryptRequest encryptRequest = EncryptRequest.builder()
            .keyId(keyId)
            .plaintext(myBytes)
            .build();

        CompletableFuture<EncryptResponse> responseFuture =
getAsyncClient().encrypt(encryptRequest).toCompletableFuture();
        return responseFuture.whenComplete((response, ex) -> {
            if (response != null) {
                String algorithm = response.encryptionAlgorithm().toString();
```

```
                logger.info("The string was encrypted with algorithm {}.",
algorithm);
            } else {
                throw new RuntimeException(ex);
            }
        }).thenApply(EncryptResponse::ciphertextBlob);
    }

    /**
     * Creates a custom alias for the specified target key asynchronously.
     *
     * @param targetKeyId the ID of the target key for the alias
     * @param aliasName   the name of the alias to create
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the alias creation
operation is finished
     */
    public CompletableFuture<Void> createCustomAliasAsync(String targetKeyId, String
aliasName) {
        CreateAliasRequest aliasRequest = CreateAliasRequest.builder()
            .aliasName(aliasName)
            .targetKeyId(targetKeyId)
            .build();

        CompletableFuture<CreateAliasResponse> responseFuture =
getAsyncClient().createAlias(aliasRequest);
        responseFuture.whenComplete((response, exception) -> {
            if (exception == null) {
                logger.info("{} was successfully created.", aliasName);
            } else {
                if (exception instanceof ResourceExistsException) {
                    logger.info("Alias [{}] already exists. Moving on...",
aliasName);
                } else if (exception instanceof KmsException kmsEx) {
                    throw new RuntimeException("KMS error occurred while creating
alias: " + kmsEx.getMessage(), kmsEx);
                } else {
                    throw new RuntimeException("An unexpected error occurred while
creating alias: " + exception.getMessage(), exception);
                }
            }
        });

        return responseFuture.thenApply(response -> null);
    }
```

```
   /**
    * Asynchronously lists all the aliases in the current AWS account.
    *
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the list of aliases
has been processed
    */
   public CompletableFuture<Object> listAllAliasesAsync() {
       ListAliasesRequest aliasesRequest = ListAliasesRequest.builder()
           .limit(15)
           .build();

       ListAliasesPublisher paginator =
getAsyncClient().listAliasesPaginator(aliasesRequest);
       return paginator.subscribe(response -> {
               response.aliases().forEach(alias ->
                   logger.info("The alias name is: " + alias.aliasName())
               );
           })
           .thenApply(v -> null)
           .exceptionally(ex -> {
               if (ex.getCause() instanceof KmsException) {
                   KmsException e = (KmsException) ex.getCause();
                   throw new RuntimeException("A KMS exception occurred: " +
e.getMessage());
               } else {
                   throw new RuntimeException("An unexpected error occurred: " +
ex.getMessage());
               }
           });
   }

   /**
    * Enables key rotation asynchronously for the specified key ID.
    *
    * @param keyId the ID of the key for which to enable key rotation
    * @return a CompletableFuture that represents the asynchronous operation of
enabling key rotation
    * @throws RuntimeException if there was an error enabling key rotation, either
due to a KMS exception or an unexpected error
    */
   public CompletableFuture<EnableKeyRotationResponse>
enableKeyRotationAsync(String keyId) {
```

```
        EnableKeyRotationRequest enableKeyRotationRequest =
EnableKeyRotationRequest.builder()
            .keyId(keyId)
            .build();

        CompletableFuture<EnableKeyRotationResponse> responseFuture =
getAsyncClient().enableKeyRotation(enableKeyRotationRequest);
        responseFuture.whenComplete((response, exception) -> {
            if (exception == null) {
                logger.info("Key rotation has been enabled for key with id [{}]",
keyId);
            } else {
                if (exception instanceof KmsException kmsEx) {
                    throw new RuntimeException("Failed to enable key rotation: " +
kmsEx.getMessage(), kmsEx);
                } else {
                    throw new RuntimeException("An unexpected error occurred: " +
exception.getMessage(), exception);
                }
            }
        });

        return responseFuture;
    }

    /**
     * Grants permissions to a specified principal on a customer master key (CMK)
asynchronously.
     *
     * @param keyId             The unique identifier for the customer master key
(CMK) that the grant applies to.
     * @param granteePrincipal  The principal that is given permission to perform
the operations that the grant permits on the CMK.
     * @return A {@link CompletableFuture} that, when completed, contains the ID of
the created grant.
     * @throws RuntimeException If an error occurs during the grant creation
process.
     */
    public CompletableFuture<String> grantKeyAsync(String keyId, String
granteePrincipal) {
        List<GrantOperation> grantPermissions = List.of(
            GrantOperation.ENCRYPT,
            GrantOperation.DECRYPT,
            GrantOperation.DESCRIBE_KEY
```

```
        );

        CreateGrantRequest grantRequest = CreateGrantRequest.builder()
            .keyId(keyId)
            .name("grant1")
            .granteePrincipal(granteePrincipal)
            .operations(grantPermissions)
            .build();

        CompletableFuture<CreateGrantResponse> responseFuture =
getAsyncClient().createGrant(grantRequest);
        responseFuture.whenComplete((response, ex) -> {
            if (ex == null) {
                logger.info("Grant created successfully with ID: " +
response.grantId());
            } else {
                if (ex instanceof KmsException kmsEx) {
                    throw new RuntimeException("Failed to create grant: " +
kmsEx.getMessage(), kmsEx);
                } else {
                    throw new RuntimeException("An unexpected error occurred: " +
ex.getMessage(), ex);
                }
            }
        });

        return responseFuture.thenApply(CreateGrantResponse::grantId);
    }

    /**
     * Asynchronously displays the grant IDs for the specified key ID.
     *
     * @param keyId the ID of the AWS KMS key for which to list the grants
     * @return a {@link CompletableFuture} that, when completed, will be null if
the operation succeeded, or will throw a {@link RuntimeException} if the operation
failed
     * @throws RuntimeException if there was an error listing the grants, either due
to an {@link KmsException} or an unexpected error
     */
    public CompletableFuture<Object> displayGrantIdsAsync(String keyId) {
        ListGrantsRequest grantsRequest = ListGrantsRequest.builder()
            .keyId(keyId)
            .limit(15)
            .build();
```

```
        ListGrantsPublisher paginator =
getAsyncClient().listGrantsPaginator(grantsRequest);
        return paginator.subscribe(response -> {
                response.grants().forEach(grant -> {
                    logger.info("The grant Id is: " + grant.grantId());
                });
            })
            .thenApply(v -> null)
            .exceptionally(ex -> {
                Throwable cause = ex.getCause();
                if (cause instanceof KmsException) {
                    throw new RuntimeException("Failed to list grants: " +
cause.getMessage(), cause);
                } else {
                    throw new RuntimeException("An unexpected error occurred: " +
cause.getMessage(), cause);
                }
            });
    }

    /**
     * Revokes a grant for the specified AWS KMS key asynchronously.
     *
     * @param keyId   The ID or key ARN of the AWS KMS key.
     * @param grantId The identifier of the grant to be revoked.
     * @return A {@link CompletableFuture} representing the asynchronous operation
of revoking the grant.
     *         The {@link CompletableFuture} will complete with a {@link
RevokeGrantResponse} object
     *         if the operation is successful, or with a {@code null} value if an
error occurs.
     */
    public CompletableFuture<RevokeGrantResponse> revokeKeyGrantAsync(String keyId,
String grantId) {
        RevokeGrantRequest grantRequest = RevokeGrantRequest.builder()
            .keyId(keyId)
            .grantId(grantId)
            .build();

        CompletableFuture<RevokeGrantResponse> responseFuture =
getAsyncClient().revokeGrant(grantRequest);
        responseFuture.whenComplete((response, exception) -> {
            if (exception == null) {
```

```
                logger.info("Grant ID: [" + grantId + "] was successfully
revoked!");
            } else {
                if (exception instanceof KmsException kmsEx) {
                    if (kmsEx.getMessage().contains("Grant does not exist")) {
                        logger.info("The grant ID '" + grantId + "' does not exist.
Moving on...");
                    } else {
                        throw new RuntimeException("KMS error occurred: " +
kmsEx.getMessage(), kmsEx);
                    }
                } else {
                    throw new RuntimeException("An unexpected error occurred: " +
exception.getMessage(), exception);
                }
            }
        });

        return responseFuture;
    }


    /**
     * Asynchronously decrypts the given encrypted data using the specified key ID.
     *
     * @param encryptedData The encrypted data to be decrypted.
     * @param keyId The ID of the key to be used for decryption.
     * @return A CompletableFuture that, when completed, will contain the decrypted
data as a String.
     *         If an error occurs during the decryption process, the
CompletableFuture will complete
     *         exceptionally with the error, and the method will return an empty
String.
     */
    public CompletableFuture<String> decryptDataAsync(SdkBytes encryptedData, String
keyId) {
        DecryptRequest decryptRequest = DecryptRequest.builder()
            .ciphertextBlob(encryptedData)
            .keyId(keyId)
            .build();

        CompletableFuture<DecryptResponse> responseFuture =
getAsyncClient().decrypt(decryptRequest);
        responseFuture.whenComplete((decryptResponse, exception) -> {
```

```
            if (exception == null) {
                logger.info("Data decrypted successfully for key ID: " + keyId);
            } else {
                if (exception instanceof KmsException kmsEx) {
                    throw new RuntimeException("KMS error occurred while decrypting
data: " + kmsEx.getMessage(), kmsEx);
                } else {
                    throw new RuntimeException("An unexpected error occurred while
decrypting data: " + exception.getMessage(), exception);
                }
            }
        });

        return responseFuture.thenApply(decryptResponse ->
decryptResponse.plaintext().asString(StandardCharsets.UTF_8));
    }

    /**
     * Asynchronously replaces the policy for the specified KMS key.
     *
     * @param keyId       the ID of the KMS key to replace the policy for
     * @param policyName  the name of the policy to be replaced
     * @param accountId   the AWS account ID to be used in the policy
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes with a boolean indicating
     *         whether the policy replacement was successful or not
     */
    public CompletableFuture<Boolean> replacePolicyAsync(String keyId, String
policyName, String accountId) {
        String policy = """
    {
      "Version":"2012-10-17",
      "Statement": [{
        "Effect": "Allow",
        "Principal": {"AWS": "arn:aws:iam::%s:root"},
        "Action": "kms:*",
        "Resource": "*"
      }]
    }
    """.formatted(accountId);

        PutKeyPolicyRequest keyPolicyRequest = PutKeyPolicyRequest.builder()
            .keyId(keyId)
            .policyName(policyName)
            .policy(policy)
```

```
            .build();

        // First, get the current policy to check if it exists
        return getAsyncClient().getKeyPolicy(r ->
r.keyId(keyId).policyName(policyName))
            .thenCompose(response -> {
                logger.info("Current policy exists. Replacing it...");
                return getAsyncClient().putKeyPolicy(keyPolicyRequest);
            })
            .thenApply(putPolicyResponse -> {
                logger.info("The key policy has been replaced.");
                return true;
            })
            .exceptionally(throwable -> {
                if (throwable.getCause() instanceof LimitExceededException) {
                    logger.error("Cannot replace policy, as only one policy is
allowed per key.");
                    return false;
                }
                throw new RuntimeException("Error replacing policy", throwable);
            });
    }


    /**
     * Asynchronously retrieves the key policy for the specified key ID and policy
name.
     *
     * @param keyId       the ID of the AWS KMS key for which to retrieve the policy
     * @param policyName the name of the key policy to retrieve
     * @return a {@link CompletableFuture} that, when completed, contains the key
policy as a {@link String}
     */
    public CompletableFuture<String> getKeyPolicyAsync(String keyId, String
policyName) {
        GetKeyPolicyRequest policyRequest = GetKeyPolicyRequest.builder()
            .keyId(keyId)
            .policyName(policyName)
            .build();

        return getAsyncClient().getKeyPolicy(policyRequest)
            .thenApply(response -> {
                String policy = response.policy();
                logger.info("The response is: " + policy);
```

```
                return policy;
            })
            .exceptionally(ex -> {
                throw new RuntimeException("Failed to get key policy", ex);
            });
    }

    /**
     * Asynchronously signs and verifies data using AWS KMS.
     *
     * <p>The method performs the following steps:
     * <ol>
     *     <li>Creates an AWS KMS key with the specified key spec, key usage, and
 origin.</li>
     *     <li>Signs the provided message using the created KMS key and the RSASSA-
PSS-SHA-256 algorithm.</li>
     *     <li>Verifies the signature of the message using the created KMS key and
 the RSASSA-PSS-SHA-256 algorithm.</li>
     * </ol>
     *
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes with the result of the
 signature verification,
     *         {@code true} if the signature is valid, {@code false} otherwise.
     * @throws KmsException if any error occurs during the KMS operations.
     * @throws RuntimeException if an unexpected error occurs.
     */
    public CompletableFuture<Boolean> signVerifyDataAsync() {
        String signMessage = "Here is the message that will be digitally signed";

        // Create an AWS KMS key used to digitally sign data.
        CreateKeyRequest createKeyRequest = CreateKeyRequest.builder()
            .keySpec(KeySpec.RSA_2048)
            .keyUsage(KeyUsageType.SIGN_VERIFY)
            .origin(OriginType.AWS_KMS)
            .build();

        return getAsyncClient().createKey(createKeyRequest)
            .thenCompose(createKeyResponse -> {
                String keyId = createKeyResponse.keyMetadata().keyId();

                SdkBytes messageBytes = SdkBytes.fromString(signMessage,
 Charset.defaultCharset());
                SignRequest signRequest = SignRequest.builder()
                    .keyId(keyId)
```

```
                    .message(messageBytes)
                    .signingAlgorithm(SigningAlgorithmSpec.RSASSA_PSS_SHA_256)
                    .build();

                return getAsyncClient().sign(signRequest)
                    .thenCompose(signResponse -> {
                        byte[] signedBytes = signResponse.signature().asByteArray();

                        VerifyRequest verifyRequest = VerifyRequest.builder()
                            .keyId(keyId)

.message(SdkBytes.fromByteArray(signMessage.getBytes(Charset.defaultCharset())))

.signature(SdkBytes.fromByteBuffer(ByteBuffer.wrap(signedBytes)))

.signingAlgorithm(SigningAlgorithmSpec.RSASSA_PSS_SHA_256)
                            .build();

                        return getAsyncClient().verify(verifyRequest)
                            .thenApply(verifyResponse -> {
                                return (boolean) verifyResponse.signatureValid();
                            });
                    });
            })
            .exceptionally(throwable -> {
               throw new RuntimeException("Failed to sign or verify data",
throwable);
            });
    }

    /**
     * Asynchronously tags a KMS key with a specific tag.
     *
     * @param keyId the ID of the KMS key to be tagged
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the tagging operation
is finished
     */
    public CompletableFuture<Void> tagKMSKeyAsync(String keyId) {
        Tag tag = Tag.builder()
            .tagKey("Environment")
            .tagValue("Production")
            .build();

        TagResourceRequest tagResourceRequest = TagResourceRequest.builder()
```

```
            .keyId(keyId)
            .tags(tag)
            .build();

        return getAsyncClient().tagResource(tagResourceRequest)
            .thenRun(() -> {
                logger.info("{} key was tagged", keyId);
            })
            .exceptionally(throwable -> {
                throw new RuntimeException("Failed to tag the KMS key", throwable);
            });
    }

    /**
     * Deletes a specific KMS alias asynchronously.
     *
     * @param aliasName the name of the alias to be deleted
     * @return a {@link CompletableFuture} representing the asynchronous operation
of deleting the specified alias
     */
    public CompletableFuture<Void> deleteSpecificAliasAsync(String aliasName) {
        DeleteAliasRequest deleteAliasRequest = DeleteAliasRequest.builder()
            .aliasName(aliasName)
            .build();

        return getAsyncClient().deleteAlias(deleteAliasRequest)
            .thenRun(() -> {
                logger.info("Alias {} has been deleted successfully", aliasName);
            })
            .exceptionally(throwable -> {
                throw new RuntimeException("Failed to delete alias: " + aliasName,
throwable);
            });
    }

    /**
     * Asynchronously disables the specified AWS Key Management Service (KMS) key.
     *
     * @param keyId the ID or Amazon Resource Name (ARN) of the KMS key to be
disabled
     * @return a CompletableFuture that, when completed, indicates that the key has
been disabled successfully
     */
    public CompletableFuture<Void> disableKeyAsync(String keyId) {
```

```
        DisableKeyRequest keyRequest = DisableKeyRequest.builder()
            .keyId(keyId)
            .build();

        return getAsyncClient().disableKey(keyRequest)
            .thenRun(() -> {
                logger.info("Key {} has been disabled successfully",keyId);
            })
            .exceptionally(throwable -> {
                throw new RuntimeException("Failed to disable key: " + keyId,
throwable);
            });
    }

    /**
     * Deletes a KMS key asynchronously.
     *
     * <p><strong>Warning:</strong> Deleting a KMS key is a destructive and
potentially dangerous operation.
     * When a KMS key is deleted, all data that was encrypted under the KMS key
becomes unrecoverable.
     * This means that any files, databases, or other data that were encrypted using
the deleted KMS key
     * will become permanently inaccessible. Exercise extreme caution when deleting
KMS keys.</p>
     *
     * @param keyId the ID of the KMS key to delete
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the key deletion is
scheduled
     */
    public CompletableFuture<Void> deleteKeyAsync(String keyId) {
        ScheduleKeyDeletionRequest deletionRequest =
ScheduleKeyDeletionRequest.builder()
            .keyId(keyId)
            .pendingWindowInDays(7)
            .build();

        return getAsyncClient().scheduleKeyDeletion(deletionRequest)
            .thenRun(() -> {
                logger.info("Key {} will be deleted in 7 days", keyId);
            })
            .exceptionally(throwable -> {
                throw new RuntimeException("Failed to schedule key deletion for key
ID: " + keyId, throwable);
```

```
            });
    }


    public String getAccountId(){
        try (StsClient stsClient = StsClient.create()){
            GetCallerIdentityResponse callerIdentity =
 stsClient.getCallerIdentity();
            return callerIdentity.account();
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - CreateAlias
  - CreateGrant
  - CreateKey
  - Decrypt
  - DescribeKey
  - DisableKey
  - EnableKey
  - 暗号化
  - GetKeyPolicy
  - ListAliases
  - ListGrants
  - ListKeys
  - RevokeGrant
  - ScheduleKeyDeletion
  - Sign
  - TagResource

アクション

`CreateAlias`

次のコード例は、`CreateAlias` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Creates a custom alias for the specified target key asynchronously.
    *
    * @param targetKeyId the ID of the target key for the alias
    * @param aliasName   the name of the alias to create
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the alias creation
operation is finished
    */
   public CompletableFuture<Void> createCustomAliasAsync(String targetKeyId, String
aliasName) {
       CreateAliasRequest aliasRequest = CreateAliasRequest.builder()
           .aliasName(aliasName)
           .targetKeyId(targetKeyId)
           .build();

       CompletableFuture<CreateAliasResponse> responseFuture =
getAsyncClient().createAlias(aliasRequest);
       responseFuture.whenComplete((response, exception) -> {
           if (exception == null) {
               logger.info("{} was successfully created.", aliasName);
           } else {
               if (exception instanceof ResourceExistsException) {
                   logger.info("Alias [{}] already exists. Moving on...",
aliasName);
               } else if (exception instanceof KmsException kmsEx) {
                   throw new RuntimeException("KMS error occurred while creating
alias: " + kmsEx.getMessage(), kmsEx);
               } else {
```

```
                    throw new RuntimeException("An unexpected error occurred while
creating alias: " + exception.getMessage(), exception);
                }
            }
        });

        return responseFuture.thenApply(response -> null);
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスのCreateAliasを参照してください。

`CreateGrant`

次のコード例は、`CreateGrant` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Grants permissions to a specified principal on a customer master key (CMK)
asynchronously.
     *
     * @param keyId             The unique identifier for the customer master key
(CMK) that the grant applies to.
     * @param granteePrincipal  The principal that is given permission to perform
the operations that the grant permits on the CMK.
     * @return A {@link CompletableFuture} that, when completed, contains the ID of
the created grant.
     * @throws RuntimeException If an error occurs during the grant creation
process.
     */
    public CompletableFuture<String> grantKeyAsync(String keyId, String
granteePrincipal) {
        List<GrantOperation> grantPermissions = List.of(
```

```
            GrantOperation.ENCRYPT,
            GrantOperation.DECRYPT,
            GrantOperation.DESCRIBE_KEY
        );

        CreateGrantRequest grantRequest = CreateGrantRequest.builder()
            .keyId(keyId)
            .name("grant1")
            .granteePrincipal(granteePrincipal)
            .operations(grantPermissions)
            .build();

        CompletableFuture<CreateGrantResponse> responseFuture =
getAsyncClient().createGrant(grantRequest);
        responseFuture.whenComplete((response, ex) -> {
            if (ex == null) {
                logger.info("Grant created successfully with ID: " +
response.grantId());
            } else {
                if (ex instanceof KmsException kmsEx) {
                    throw new RuntimeException("Failed to create grant: " +
kmsEx.getMessage(), kmsEx);
                } else {
                    throw new RuntimeException("An unexpected error occurred: " +
ex.getMessage(), ex);
                }
            }
        });

        return responseFuture.thenApply(CreateGrantResponse::grantId);
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスのCreateGrantを参照してください。

CreateKey

次のコード例は、CreateKey を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Creates a new symmetric encryption key asynchronously.
     *
     * @param keyDesc the description of the key to be created
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes with the ID of the newly
created key
     * @throws RuntimeException if an error occurs while creating the key
     */
    public CompletableFuture<String> createKeyAsync(String keyDesc) {
        CreateKeyRequest keyRequest = CreateKeyRequest.builder()
            .description(keyDesc)
            .keySpec(KeySpec.SYMMETRIC_DEFAULT)
            .keyUsage(KeyUsageType.ENCRYPT_DECRYPT)
            .build();

        return getAsyncClient().createKey(keyRequest)
            .thenApply(resp -> resp.keyMetadata().keyId())
            .exceptionally(ex -> {
                throw new RuntimeException("An error occurred while creating the
key: " + ex.getMessage(), ex);
            });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateKey」を参照してください。

`Decrypt`

次のコード例は、`Decrypt` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Asynchronously decrypts the given encrypted data using the specified key ID.
    *
    * @param encryptedData The encrypted data to be decrypted.
    * @param keyId The ID of the key to be used for decryption.
    * @return A CompletableFuture that, when completed, will contain the decrypted
data as a String.
    *         If an error occurs during the decryption process, the
CompletableFuture will complete
    *         exceptionally with the error, and the method will return an empty
String.
    */
   public CompletableFuture<String> decryptDataAsync(SdkBytes encryptedData, String
keyId) {
       DecryptRequest decryptRequest = DecryptRequest.builder()
           .ciphertextBlob(encryptedData)
           .keyId(keyId)
           .build();

       CompletableFuture<DecryptResponse> responseFuture =
getAsyncClient().decrypt(decryptRequest);
       responseFuture.whenComplete((decryptResponse, exception) -> {
           if (exception == null) {
               logger.info("Data decrypted successfully for key ID: " + keyId);
           } else {
               if (exception instanceof KmsException kmsEx) {
                   throw new RuntimeException("KMS error occurred while decrypting
data: " + kmsEx.getMessage(), kmsEx);
               } else {
                   throw new RuntimeException("An unexpected error occurred while
decrypting data: " + exception.getMessage(), exception);
               }
           }
       });
```

```
        return responseFuture.thenApply(decryptResponse ->
decryptResponse.plaintext().asString(StandardCharsets.UTF_8));
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「Decrypt」を参照してください。

`DeleteAlias`

次のコード例は、`DeleteAlias` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Deletes a specific KMS alias asynchronously.
     *
     * @param aliasName the name of the alias to be deleted
     * @return a {@link CompletableFuture} representing the asynchronous operation
of deleting the specified alias
     */
    public CompletableFuture<Void> deleteSpecificAliasAsync(String aliasName) {
        DeleteAliasRequest deleteAliasRequest = DeleteAliasRequest.builder()
            .aliasName(aliasName)
            .build();

        return getAsyncClient().deleteAlias(deleteAliasRequest)
            .thenRun(() -> {
                logger.info("Alias {} has been deleted successfully", aliasName);
            })
            .exceptionally(throwable -> {
                throw new RuntimeException("Failed to delete alias: " + aliasName,
throwable);
            });
```

```
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteAlias」を参照してください。

`DescribeKey`

次のコード例は、`DescribeKey` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Asynchronously checks if a specified key is enabled.
    *
    * @param keyId the ID of the key to check
    * @return a {@link CompletableFuture} that, when completed, indicates whether
the key is enabled or not
    *
    * @throws RuntimeException if an exception occurs while checking the key state
    */
   public CompletableFuture<Boolean> isKeyEnabledAsync(String keyId) {
       DescribeKeyRequest keyRequest = DescribeKeyRequest.builder()
           .keyId(keyId)
           .build();

       CompletableFuture<DescribeKeyResponse> responseFuture =
getAsyncClient().describeKey(keyRequest);
       return responseFuture.whenComplete((resp, ex) -> {
           if (resp != null) {
               KeyState keyState = resp.keyMetadata().keyState();
               if (keyState == KeyState.ENABLED) {
                   logger.info("The key is enabled.");
               } else {
                   logger.info("The key is not enabled. Key state: {}", keyState);
```

```
                }
            } else {
                throw new RuntimeException(ex);
            }
        }).thenApply(resp -> resp.keyMetadata().keyState() == KeyState.ENABLED);
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの DescribeKeyを参照してください。

`DisableKey`

次のコード例は、DisableKey を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Asynchronously disables the specified AWS Key Management Service (KMS) key.
     *
     * @param keyId the ID or Amazon Resource Name (ARN) of the KMS key to be
disabled
     * @return a CompletableFuture that, when completed, indicates that the key has
been disabled successfully
     */
    public CompletableFuture<Void> disableKeyAsync(String keyId) {
        DisableKeyRequest keyRequest = DisableKeyRequest.builder()
            .keyId(keyId)
            .build();

        return getAsyncClient().disableKey(keyRequest)
            .thenRun(() -> {
                logger.info("Key {} has been disabled successfully",keyId);
            })
            .exceptionally(throwable -> {
```

```
                throw new RuntimeException("Failed to disable key: " + keyId,
throwable);
            });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DisableKey」を参照してください。

`EnableKey`

次のコード例は、EnableKey を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Asynchronously enables the specified key.
     *
     * @param keyId the ID of the key to enable
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the key has been
enabled
     */
    public CompletableFuture<Void> enableKeyAsync(String keyId) {
        EnableKeyRequest enableKeyRequest = EnableKeyRequest.builder()
            .keyId(keyId)
            .build();

        CompletableFuture<EnableKeyResponse> responseFuture =
getAsyncClient().enableKey(enableKeyRequest);
        responseFuture.whenComplete((response, exception) -> {
            if (exception == null) {
                logger.info("Key with ID [{}] has been enabled.", keyId);
            } else {
                if (exception instanceof KmsException kmsEx) {
```

```
                    throw new RuntimeException("KMS error occurred while enabling
key: " + kmsEx.getMessage(), kmsEx);
                } else {
                    throw new RuntimeException("An unexpected error occurred while
enabling key: " + exception.getMessage(), exception);
                }
            }
        });

        return responseFuture.thenApply(response -> null);
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「EnableKey」を参照してください。

`Encrypt`

次のコード例は、`Encrypt` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Encrypts the given text asynchronously using the specified KMS client and key
ID.
     *
     * @param keyId the ID of the KMS key to use for encryption
     * @param text the text to encrypt
     * @return a CompletableFuture that completes with the encrypted data as an
SdkBytes object
     */
    public CompletableFuture<SdkBytes> encryptDataAsync(String keyId, String text) {
        SdkBytes myBytes = SdkBytes.fromUtf8String(text);
        EncryptRequest encryptRequest = EncryptRequest.builder()
            .keyId(keyId)
```

```
            .plaintext(myBytes)
            .build();

        CompletableFuture<EncryptResponse> responseFuture =
getAsyncClient().encrypt(encryptRequest).toCompletableFuture();
        return responseFuture.whenComplete((response, ex) -> {
            if (response != null) {
                String algorithm = response.encryptionAlgorithm().toString();
                logger.info("The string was encrypted with algorithm {}.",
algorithm);
            } else {
                throw new RuntimeException(ex);
            }
        }).thenApply(EncryptResponse::ciphertextBlob);
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「Encrypt」を参照してください。

`ListAliases`

次のコード例は、`ListAliases` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Asynchronously lists all the aliases in the current AWS account.
     *
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the list of aliases
has been processed
     */
    public CompletableFuture<Object> listAllAliasesAsync() {
        ListAliasesRequest aliasesRequest = ListAliasesRequest.builder()
            .limit(15)
```

```
            .build();

        ListAliasesPublisher paginator =
getAsyncClient().listAliasesPaginator(aliasesRequest);
        return paginator.subscribe(response -> {
                response.aliases().forEach(alias ->
                    logger.info("The alias name is: " + alias.aliasName())
                );
            })
            .thenApply(v -> null)
            .exceptionally(ex -> {
                if (ex.getCause() instanceof KmsException) {
                    KmsException e = (KmsException) ex.getCause();
                    throw new RuntimeException("A KMS exception occurred: " +
e.getMessage());
                } else {
                    throw new RuntimeException("An unexpected error occurred: " +
ex.getMessage());
                }
            });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListAliases」を参照してください。

`ListGrants`

次のコード例は、`ListGrants` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Asynchronously displays the grant IDs for the specified key ID.
     *
```

```
    * @param keyId the ID of the AWS KMS key for which to list the grants
    * @return a {@link CompletableFuture} that, when completed, will be null if
the operation succeeded, or will throw a {@link RuntimeException} if the operation
failed
    * @throws RuntimeException if there was an error listing the grants, either due
to an {@link KmsException} or an unexpected error
    */
   public CompletableFuture<Object> displayGrantIdsAsync(String keyId) {
       ListGrantsRequest grantsRequest = ListGrantsRequest.builder()
           .keyId(keyId)
           .limit(15)
           .build();

       ListGrantsPublisher paginator =
getAsyncClient().listGrantsPaginator(grantsRequest);
       return paginator.subscribe(response -> {
               response.grants().forEach(grant -> {
                   logger.info("The grant Id is: " + grant.grantId());
               });
           })
           .thenApply(v -> null)
           .exceptionally(ex -> {
               Throwable cause = ex.getCause();
               if (cause instanceof KmsException) {
                   throw new RuntimeException("Failed to list grants: " +
cause.getMessage(), cause);
               } else {
                   throw new RuntimeException("An unexpected error occurred: " +
cause.getMessage(), cause);
               }
           });
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListGrants」を参照してください。

ListKeyPolicies

次のコード例は、ListKeyPolicies を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Asynchronously retrieves the key policy for the specified key ID and policy
name.
    *
    * @param keyId       the ID of the AWS KMS key for which to retrieve the policy
    * @param policyName the name of the key policy to retrieve
    * @return a {@link CompletableFuture} that, when completed, contains the key
policy as a {@link String}
    */
   public CompletableFuture<String> getKeyPolicyAsync(String keyId, String
policyName) {
       GetKeyPolicyRequest policyRequest = GetKeyPolicyRequest.builder()
           .keyId(keyId)
           .policyName(policyName)
           .build();

       return getAsyncClient().getKeyPolicy(policyRequest)
           .thenApply(response -> {
               String policy = response.policy();
               logger.info("The response is: " + policy);
               return policy;
           })
           .exceptionally(ex -> {
               throw new RuntimeException("Failed to get key policy", ex);
           });
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListKeyPolicies」を参照してください。

`ListKeys`

次のコード例は、`ListKeys` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.services.kms.KmsAsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.kms.model.ListKeysRequest;
import software.amazon.awssdk.services.kms.paginators.ListKeysPublisher;
import java.util.concurrent.CompletableFuture;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class HelloKMS {
    public static void main(String[] args) {
        listAllKeys();
    }

    public static void listAllKeys() {
        KmsAsyncClient kmsAsyncClient = KmsAsyncClient.builder()
            .build();
        ListKeysRequest listKeysRequest = ListKeysRequest.builder()
            .limit(15)
            .build();

        /*
         * The `subscribe` method is required when using paginator methods in the
 AWS SDK
         * because paginator methods return an instance of a `ListKeysPublisher`,
 which is
```

```
         * based on a reactive stream. This allows asynchronous retrieval of
 paginated
         * results as they become available. By subscribing to the stream, we can
 process
         * each page of results as they are emitted.
         */
        ListKeysPublisher keysPublisher =
 kmsAsyncClient.listKeysPaginator(listKeysRequest);
        CompletableFuture<Void> future = keysPublisher
            .subscribe(r -> r.keys().forEach(key ->
                System.out.println("The key ARN is: " + key.keyArn() + ". The key Id
 is: " + key.keyId())))
            .whenComplete((result, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    System.err.println("Error occurred: " + exception.getMessage());
                } else {
                    System.out.println("Successfully listed all keys.");
                }
            });

        try {
            future.join();
        } catch (Exception e) {
            System.err.println("Failed to list keys: " + e.getMessage());
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListKeys」を参照してください。

RevokeGrant

次のコード例は、RevokeGrant を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Revokes a grant for the specified AWS KMS key asynchronously.
    *
    * @param keyId   The ID or key ARN of the AWS KMS key.
    * @param grantId The identifier of the grant to be revoked.
    * @return A {@link CompletableFuture} representing the asynchronous operation
of revoking the grant.
    *         The {@link CompletableFuture} will complete with a {@link
RevokeGrantResponse} object
    *         if the operation is successful, or with a {@code null} value if an
error occurs.
    */
   public CompletableFuture<RevokeGrantResponse> revokeKeyGrantAsync(String keyId,
String grantId) {
       RevokeGrantRequest grantRequest = RevokeGrantRequest.builder()
           .keyId(keyId)
           .grantId(grantId)
           .build();

       CompletableFuture<RevokeGrantResponse> responseFuture =
getAsyncClient().revokeGrant(grantRequest);
       responseFuture.whenComplete((response, exception) -> {
           if (exception == null) {
               logger.info("Grant ID: [" + grantId + "] was successfully
revoked!");
           } else {
               if (exception instanceof KmsException kmsEx) {
                   if (kmsEx.getMessage().contains("Grant does not exist")) {
                       logger.info("The grant ID '" + grantId + "' does not exist.
Moving on...");
                   } else {
                       throw new RuntimeException("KMS error occurred: " +
kmsEx.getMessage(), kmsEx);
                   }
```

```
                } else {
                    throw new RuntimeException("An unexpected error occurred: " +
exception.getMessage(), exception);
                }
            }
        });

        return responseFuture;
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「RevokeGrant」を参照してください。

`ScheduleKeyDeletion`

次のコード例は、`ScheduleKeyDeletion` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Deletes a KMS key asynchronously.
     *
     * <p><strong>Warning:</strong> Deleting a KMS key is a destructive and
potentially dangerous operation.
     * When a KMS key is deleted, all data that was encrypted under the KMS key
becomes unrecoverable.
     * This means that any files, databases, or other data that were encrypted using
the deleted KMS key
     * will become permanently inaccessible. Exercise extreme caution when deleting
KMS keys.</p>
     *
     * @param keyId the ID of the KMS key to delete
```

```
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the key deletion is
scheduled
     */
    public CompletableFuture<Void> deleteKeyAsync(String keyId) {
        ScheduleKeyDeletionRequest deletionRequest =
ScheduleKeyDeletionRequest.builder()
            .keyId(keyId)
            .pendingWindowInDays(7)
            .build();

        return getAsyncClient().scheduleKeyDeletion(deletionRequest)
            .thenRun(() -> {
                logger.info("Key {} will be deleted in 7 days", keyId);
            })
            .exceptionally(throwable -> {
                throw new RuntimeException("Failed to schedule key deletion for key
ID: " + keyId, throwable);
            });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ScheduleKeyDeletion」を参照してください。

`Sign`

次のコード例は、`Sign` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Asynchronously signs and verifies data using AWS KMS.
     *
     * <p>The method performs the following steps:
     * <ol>
```

```
     *     <li>Creates an AWS KMS key with the specified key spec, key usage, and
 origin.</li>
     *     <li>Signs the provided message using the created KMS key and the RSASSA-
PSS-SHA-256 algorithm.</li>
     *     <li>Verifies the signature of the message using the created KMS key and
 the RSASSA-PSS-SHA-256 algorithm.</li>
     * </ol>
     *
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes with the result of the
 signature verification,
     *         {@code true} if the signature is valid, {@code false} otherwise.
     * @throws KmsException if any error occurs during the KMS operations.
     * @throws RuntimeException if an unexpected error occurs.
     */
    public CompletableFuture<Boolean> signVerifyDataAsync() {
        String signMessage = "Here is the message that will be digitally signed";

        // Create an AWS KMS key used to digitally sign data.
        CreateKeyRequest createKeyRequest = CreateKeyRequest.builder()
            .keySpec(KeySpec.RSA_2048)
            .keyUsage(KeyUsageType.SIGN_VERIFY)
            .origin(OriginType.AWS_KMS)
            .build();

        return getAsyncClient().createKey(createKeyRequest)
            .thenCompose(createKeyResponse -> {
                String keyId = createKeyResponse.keyMetadata().keyId();

                SdkBytes messageBytes = SdkBytes.fromString(signMessage,
 Charset.defaultCharset());
                SignRequest signRequest = SignRequest.builder()
                    .keyId(keyId)
                    .message(messageBytes)
                    .signingAlgorithm(SigningAlgorithmSpec.RSASSA_PSS_SHA_256)
                    .build();

                return getAsyncClient().sign(signRequest)
                    .thenCompose(signResponse -> {
                        byte[] signedBytes = signResponse.signature().asByteArray();

                        VerifyRequest verifyRequest = VerifyRequest.builder()
                            .keyId(keyId)

 .message(SdkBytes.fromByteArray(signMessage.getBytes(Charset.defaultCharset())))
```

```
.signature(SdkBytes.fromByteBuffer(ByteBuffer.wrap(signedBytes)))

.signingAlgorithm(SigningAlgorithmSpec.RSASSA_PSS_SHA_256)
                            .build();

                        return getAsyncClient().verify(verifyRequest)
                            .thenApply(verifyResponse -> {
                                return (boolean) verifyResponse.signatureValid();
                            });
                    });
            })
            .exceptionally(throwable -> {
               throw new RuntimeException("Failed to sign or verify data",
throwable);
            });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「Sign」を参照してください。

`TagResource`

次のコード例は、`TagResource` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Asynchronously tags a KMS key with a specific tag.
     *
     * @param keyId the ID of the KMS key to be tagged
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the tagging operation
is finished
     */
```

```
    public CompletableFuture<Void> tagKMSKeyAsync(String keyId) {
        Tag tag = Tag.builder()
            .tagKey("Environment")
            .tagValue("Production")
            .build();

        TagResourceRequest tagResourceRequest = TagResourceRequest.builder()
            .keyId(keyId)
            .tags(tag)
            .build();

        return getAsyncClient().tagResource(tagResourceRequest)
            .thenRun(() -> {
                logger.info("{} key was tagged", keyId);
            })
            .exceptionally(throwable -> {
                throw new RuntimeException("Failed to tag the KMS key", throwable);
            });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「TagResource」を参照してください。

SDK for Java 2.x を使用した Lambda の例

次のコード例は、Lambda AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

AWS コミュニティへの貢献は、複数のチームによって作成され、維持されている例です AWS。フィードバックを提供するには、リンクされたリポジトリで提供されているメカニズムを使用します。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- はじめに
- 基本
- アクション
- シナリオ
- サーバーレスサンプル
- AWS コミュニティへの貢献

はじめに

Hello Lambda

次のコード例は、Lambda の使用を開始する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Lists the AWS Lambda functions associated with the current AWS account.
     *
     * @param awsLambda an instance of the {@link LambdaClient} class, which is used
to interact with the AWS Lambda service
     *
     * @throws LambdaException if an error occurs while interacting with the AWS
Lambda service
     */
    public static void listFunctions(LambdaClient awsLambda) {
        try {
            ListFunctionsResponse functionResult = awsLambda.listFunctions();
            List<FunctionConfiguration> list = functionResult.functions();
            for (FunctionConfiguration config : list) {
```

```
                System.out.println("The function name is " + config.functionName());
            }

        } catch (LambdaException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListFunctions」を参照してください。

基本

基本を学ぶ

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- IAM ロールと Lambda 関数を作成し、ハンドラーコードをアップロードします。
- 1 つのパラメータで関数を呼び出して、結果を取得します。
- 関数コードを更新し、環境変数で設定します。
- 新しいパラメータで関数を呼び出して、結果を取得します。返された実行ログを表示します。
- アカウントの関数を一覧表示し、リソースをクリーンアップします。

詳細については、「コンソールで Lambda 関数を作成する」を参照してください。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
/*
 *  Lambda function names appear as:
 *
 *  arn:aws:lambda:us-west-2:335556666777:function:HelloFunction
```

```
 *
 *  To find this value, look at the function in the AWS Management Console.
 *
 *  Before running this Java code example, set up your development environment,
 including your credentials.
 *
 *  For more information, see this documentation topic:
 *
 *  https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 *
 *  This example performs the following tasks:
 *
 * 1. Creates an AWS Lambda function.
 * 2. Gets a specific AWS Lambda function.
 * 3. Lists all Lambda functions.
 * 4. Invokes a Lambda function.
 * 5. Updates the Lambda function code and invokes it again.
 * 6. Updates a Lambda function's configuration value.
 * 7. Deletes a Lambda function.
 */

public class LambdaScenario {
    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");

    public static void main(String[] args) throws InterruptedException {
        final String usage = """

            Usage:
                <functionName> <role> <handler> <bucketName> <key>\s

            Where:
                functionName - The name of the Lambda function.\s
                role - The AWS Identity and Access Management (IAM) service role
 that has Lambda permissions.\s
                handler - The fully qualified method name (for example,
 example.Handler::handleRequest).\s
                bucketName - The Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) bucket
 name that contains the .zip or .jar used to update the Lambda function's code.\s
                key - The Amazon S3 key name that represents the .zip or .jar (for
 example, LambdaHello-1.0-SNAPSHOT.jar).
                """;

        if (args.length != 5) {
              System.out.println(usage);
```

```
            return;
        }

        String functionName = args[0];
        String role = args[1];
        String handler = args[2];
        String bucketName = args[3];
        String key = args[4];
        LambdaClient awsLambda = LambdaClient.builder()
            .build();

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("Welcome to the AWS Lambda Basics scenario.");
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("1. Create an AWS Lambda function.");
        String funArn = createLambdaFunction(awsLambda, functionName, key,
bucketName, role, handler);
        System.out.println("The AWS Lambda ARN is " + funArn);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("2. Get the " + functionName + " AWS Lambda function.");
        getFunction(awsLambda, functionName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("3. List all AWS Lambda functions.");
        listFunctions(awsLambda);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("4. Invoke the Lambda function.");
        System.out.println("*** Sleep for 1 min to get Lambda function ready.");
        Thread.sleep(60000);
        invokeFunction(awsLambda, functionName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("5. Update the Lambda function code and invoke it
again.");
        updateFunctionCode(awsLambda, functionName, bucketName, key);
        System.out.println("*** Sleep for 1 min to get Lambda function ready.");
```

```
        Thread.sleep(60000);
        invokeFunction(awsLambda, functionName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("6. Update a Lambda function's configuration value.");
        updateFunctionConfiguration(awsLambda, functionName, handler);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("7. Delete the AWS Lambda function.");
        LambdaScenario.deleteLambdaFunction(awsLambda, functionName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("The AWS Lambda scenario completed successfully");
        System.out.println(DASHES);
        awsLambda.close();
    }

    /**
     * Creates a new Lambda function in AWS using the AWS Lambda Java API.
     *
     * @param awsLambda    the AWS Lambda client used to interact with the AWS
Lambda service
     * @param functionName the name of the Lambda function to create
     * @param key          the S3 key of the function code
     * @param bucketName   the name of the S3 bucket containing the function code
     * @param role         the IAM role to assign to the Lambda function
     * @param handler      the fully qualified class name of the function handler
     * @return the Amazon Resource Name (ARN) of the created Lambda function
     */
    public static String createLambdaFunction(LambdaClient awsLambda,
                                               String functionName,
                                               String key,
                                               String bucketName,
                                               String role,
                                               String handler) {

        try {
            LambdaWaiter waiter = awsLambda.waiter();
            FunctionCode code = FunctionCode.builder()
                .s3Key(key)
                .s3Bucket(bucketName)
```

```
                .build();

            CreateFunctionRequest functionRequest = CreateFunctionRequest.builder()
                .functionName(functionName)
                .description("Created by the Lambda Java API")
                .code(code)
                .handler(handler)
                .runtime(Runtime.JAVA17)
                .role(role)
                .build();

            // Create a Lambda function using a waiter
            CreateFunctionResponse functionResponse =
awsLambda.createFunction(functionRequest);
            GetFunctionRequest getFunctionRequest = GetFunctionRequest.builder()
                .functionName(functionName)
                .build();
            WaiterResponse<GetFunctionResponse> waiterResponse =
waiter.waitUntilFunctionExists(getFunctionRequest);
            waiterResponse.matched().response().ifPresent(System.out::println);
            return functionResponse.functionArn();

        } catch (LambdaException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }

    /**
     * Retrieves information about an AWS Lambda function.
     *
     * @param awsLambda    an instance of the {@link LambdaClient} class, which is
used to interact with the AWS Lambda service
     * @param functionName the name of the AWS Lambda function to retrieve
information about
     */
    public static void getFunction(LambdaClient awsLambda, String functionName) {
        try {
            GetFunctionRequest functionRequest = GetFunctionRequest.builder()
                .functionName(functionName)
                .build();

            GetFunctionResponse response = awsLambda.getFunction(functionRequest);
```

```
            System.out.println("The runtime of this Lambda function is " +
response.configuration().runtime());

        } catch (LambdaException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    /**
     * Lists the AWS Lambda functions associated with the current AWS account.
     *
     * @param awsLambda an instance of the {@link LambdaClient} class, which is used
to interact with the AWS Lambda service
     *
     * @throws LambdaException if an error occurs while interacting with the AWS
Lambda service
     */
    public static void listFunctions(LambdaClient awsLambda) {
        try {
            ListFunctionsResponse functionResult = awsLambda.listFunctions();
            List<FunctionConfiguration> list = functionResult.functions();
            for (FunctionConfiguration config : list) {
                System.out.println("The function name is " + config.functionName());
            }

        } catch (LambdaException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    /**
     * Invokes a specific AWS Lambda function.
     *
     * @param awsLambda    an instance of {@link LambdaClient} to interact with the
AWS Lambda service
     * @param functionName the name of the AWS Lambda function to be invoked
     */
    public static void invokeFunction(LambdaClient awsLambda, String functionName) {
        InvokeResponse res;
        try {
            // Need a SdkBytes instance for the payload.
            JSONObject jsonObj = new JSONObject();
```

```
            jsonObj.put("inputValue", "2000");
            String json = jsonObj.toString();
            SdkBytes payload = SdkBytes.fromUtf8String(json);

            InvokeRequest request = InvokeRequest.builder()
                .functionName(functionName)
                .payload(payload)
                .build();

            res = awsLambda.invoke(request);
            String value = res.payload().asUtf8String();
            System.out.println(value);

        } catch (LambdaException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    /**
     * Updates the code for an AWS Lambda function.
     *
     * @param awsLambda  the AWS Lambda client
     * @param functionName the name of the Lambda function to update
     * @param bucketName the name of the S3 bucket where the function code is
located
     * @param key the key (file name) of the function code in the S3 bucket
     * @throws LambdaException if there is an error updating the function code
     */
    public static void updateFunctionCode(LambdaClient awsLambda, String
functionName, String bucketName, String key) {
        try {
            LambdaWaiter waiter = awsLambda.waiter();
            UpdateFunctionCodeRequest functionCodeRequest =
UpdateFunctionCodeRequest.builder()
                .functionName(functionName)
                .publish(true)
                .s3Bucket(bucketName)
                .s3Key(key)
                .build();

            UpdateFunctionCodeResponse response =
awsLambda.updateFunctionCode(functionCodeRequest);
```

```
            GetFunctionConfigurationRequest getFunctionConfigRequest =
GetFunctionConfigurationRequest.builder()
                .functionName(functionName)
                .build();

            WaiterResponse<GetFunctionConfigurationResponse> waiterResponse = waiter
                .waitUntilFunctionUpdated(getFunctionConfigRequest);
            waiterResponse.matched().response().ifPresent(System.out::println);
            System.out.println("The last modified value is " +
response.lastModified());

        } catch (LambdaException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    /**
     * Updates the configuration of an AWS Lambda function.
     *
     * @param awsLambda     the {@link LambdaClient} instance to use for the AWS
Lambda operation
     * @param functionName  the name of the AWS Lambda function to update
     * @param handler       the new handler for the AWS Lambda function
     *
     * @throws LambdaException if there is an error while updating the function
configuration
     */
    public static void updateFunctionConfiguration(LambdaClient awsLambda, String
functionName, String handler) {
        try {
            UpdateFunctionConfigurationRequest configurationRequest =
UpdateFunctionConfigurationRequest.builder()
                .functionName(functionName)
                .handler(handler)
                .runtime(Runtime.JAVA17)
                .build();

            awsLambda.updateFunctionConfiguration(configurationRequest);

        } catch (LambdaException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
```

```
    }

    /**
     * Deletes an AWS Lambda function.
     *
     * @param awsLambda     an instance of the {@link LambdaClient} class, which is
 used to interact with the AWS Lambda service
     * @param functionName  the name of the Lambda function to be deleted
     *
     * @throws LambdaException if an error occurs while deleting the Lambda function
     */
    public static void deleteLambdaFunction(LambdaClient awsLambda, String
 functionName) {
        try {
            DeleteFunctionRequest request = DeleteFunctionRequest.builder()
                .functionName(functionName)
                .build();

            awsLambda.deleteFunction(request);
            System.out.println("The " + functionName + " function was deleted");

        } catch (LambdaException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - CreateFunction
  - DeleteFunction
  - GetFunction
  - Invoke
  - ListFunctions
  - UpdateFunctionCode
  - UpdateFunctionConfiguration

アクション

`CreateFunction`

次のコード例は、`CreateFunction` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Creates a new Lambda function in AWS using the AWS Lambda Java API.
     *
     * @param awsLambda    the AWS Lambda client used to interact with the AWS
Lambda service
     * @param functionName the name of the Lambda function to create
     * @param key          the S3 key of the function code
     * @param bucketName   the name of the S3 bucket containing the function code
     * @param role         the IAM role to assign to the Lambda function
     * @param handler      the fully qualified class name of the function handler
     * @return the Amazon Resource Name (ARN) of the created Lambda function
     */
    public static String createLambdaFunction(LambdaClient awsLambda,
                                               String functionName,
                                               String key,
                                               String bucketName,
                                               String role,
                                               String handler) {

        try {
            LambdaWaiter waiter = awsLambda.waiter();
            FunctionCode code = FunctionCode.builder()
                .s3Key(key)
                .s3Bucket(bucketName)
                .build();

            CreateFunctionRequest functionRequest = CreateFunctionRequest.builder()
                .functionName(functionName)
```

```
                .description("Created by the Lambda Java API")
                .code(code)
                .handler(handler)
                .runtime(Runtime.JAVA17)
                .role(role)
                .build();

            // Create a Lambda function using a waiter
            CreateFunctionResponse functionResponse =
awsLambda.createFunction(functionRequest);
            GetFunctionRequest getFunctionRequest = GetFunctionRequest.builder()
                .functionName(functionName)
                .build();
            WaiterResponse<GetFunctionResponse> waiterResponse =
waiter.waitUntilFunctionExists(getFunctionRequest);
            waiterResponse.matched().response().ifPresent(System.out::println);
            return functionResponse.functionArn();

        } catch (LambdaException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateFunction」を参照してください。

`DeleteFunction`

次のコード例は、`DeleteFunction` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Deletes an AWS Lambda function.
     *
     * @param awsLambda     an instance of the {@link LambdaClient} class, which is
used to interact with the AWS Lambda service
     * @param functionName  the name of the Lambda function to be deleted
     *
     * @throws LambdaException if an error occurs while deleting the Lambda function
     */
    public static void deleteLambdaFunction(LambdaClient awsLambda, String
functionName) {
        try {
            DeleteFunctionRequest request = DeleteFunctionRequest.builder()
                .functionName(functionName)
                .build();

            awsLambda.deleteFunction(request);
            System.out.println("The " + functionName + " function was deleted");

        } catch (LambdaException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteFunction」を参照してください。

`GetFunction`

次のコード例は、`GetFunction` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Retrieves information about an AWS Lambda function.
     *
     * @param awsLambda    an instance of the {@link LambdaClient} class, which is
used to interact with the AWS Lambda service
     * @param functionName the name of the AWS Lambda function to retrieve
information about
     */
    public static void getFunction(LambdaClient awsLambda, String functionName) {
        try {
            GetFunctionRequest functionRequest = GetFunctionRequest.builder()
                .functionName(functionName)
                .build();

            GetFunctionResponse response = awsLambda.getFunction(functionRequest);
            System.out.println("The runtime of this Lambda function is " +
response.configuration().runtime());

        } catch (LambdaException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「GetFunction」を参照してください。

Invoke

次のコード例は、Invoke を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
```

```
    * Invokes a specific AWS Lambda function.
    *
    * @param awsLambda    an instance of {@link LambdaClient} to interact with the
AWS Lambda service
    * @param functionName the name of the AWS Lambda function to be invoked
    */
   public static void invokeFunction(LambdaClient awsLambda, String functionName) {
       InvokeResponse res;
       try {
           // Need a SdkBytes instance for the payload.
           JSONObject jsonObj = new JSONObject();
           jsonObj.put("inputValue", "2000");
           String json = jsonObj.toString();
           SdkBytes payload = SdkBytes.fromUtf8String(json);

           InvokeRequest request = InvokeRequest.builder()
               .functionName(functionName)
               .payload(payload)
               .build();

           res = awsLambda.invoke(request);
           String value = res.payload().asUtf8String();
           System.out.println(value);

       } catch (LambdaException e) {
           System.err.println(e.getMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「Invoke」を参照してください。

UpdateFunctionCode

次のコード例は、UpdateFunctionCode を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Updates the code for an AWS Lambda function.
    *
    * @param awsLambda  the AWS Lambda client
    * @param functionName the name of the Lambda function to update
    * @param bucketName the name of the S3 bucket where the function code is
located
    * @param key the key (file name) of the function code in the S3 bucket
    * @throws LambdaException if there is an error updating the function code
    */
   public static void updateFunctionCode(LambdaClient awsLambda, String
functionName, String bucketName, String key) {
       try {
           LambdaWaiter waiter = awsLambda.waiter();
           UpdateFunctionCodeRequest functionCodeRequest =
UpdateFunctionCodeRequest.builder()
                .functionName(functionName)
                .publish(true)
                .s3Bucket(bucketName)
                .s3Key(key)
                .build();

           UpdateFunctionCodeResponse response =
awsLambda.updateFunctionCode(functionCodeRequest);
           GetFunctionConfigurationRequest getFunctionConfigRequest =
GetFunctionConfigurationRequest.builder()
                .functionName(functionName)
                .build();

           WaiterResponse<GetFunctionConfigurationResponse> waiterResponse = waiter
                .waitUntilFunctionUpdated(getFunctionConfigRequest);
           waiterResponse.matched().response().ifPresent(System.out::println);
           System.out.println("The last modified value is " +
response.lastModified());
```

```
        } catch (LambdaException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「UpdateFunctionCode」を参照してください。

`UpdateFunctionConfiguration`

次のコード例は、`UpdateFunctionConfiguration` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Updates the configuration of an AWS Lambda function.
     *
     * @param awsLambda     the {@link LambdaClient} instance to use for the AWS
Lambda operation
     * @param functionName  the name of the AWS Lambda function to update
     * @param handler       the new handler for the AWS Lambda function
     *
     * @throws LambdaException if there is an error while updating the function
configuration
     */
    public static void updateFunctionConfiguration(LambdaClient awsLambda, String
functionName, String handler) {
        try {
            UpdateFunctionConfigurationRequest configurationRequest =
UpdateFunctionConfigurationRequest.builder()
                .functionName(functionName)
                .handler(handler)
```

```
                .runtime(Runtime.JAVA17)
                .build();

            awsLambda.updateFunctionConfiguration(configurationRequest);

        } catch (LambdaException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「UpdateFunctionConfiguration」を参照してください。

シナリオ

サーバーレスアプリケーションを作成して写真を管理する

次のコード例では、ユーザーがラベルを使用して写真を管理できるサーバーレスアプリケーションを作成する方法について示しています。

SDK for Java 2.x

Amazon Rekognition を使用して画像内のラベルを検出し、保存して後で取得できるようにする写真アセット管理アプリケーションの開発方法を示します。

完全なソースコードと設定および実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例のソースについて詳しくは、AWS コミュニティでブログ投稿を参照してください。

この例で使用されているサービス

- API ゲートウェイ
- DynamoDB
- Lambda
- Amazon Rekognition
- Amazon S3
- Amazon SNS

顧客からのフィードバックを分析するアプリケーションの作成

次のコード例は、顧客のコメントカードを分析し、元の言語から翻訳し、顧客の感情を判断して、翻訳されたテキストから音声ファイルを生成するアプリケーションの作成方法を示しています。

SDK for Java 2.x

このサンプルアプリケーションは、顧客フィードバックカードを分析し、保存します。具体的には、ニューヨーク市の架空のホテルのニーズを満たします。このホテルでは、お客様からのフィードバックをさまざまな言語で書かれた実際のコメントカードの形で受け取ります。そのフィードバックは、ウェブクライアントを通じてアプリにアップロードされます。コメントカードの画像をアップロードされると、次の手順が発生します。

- テキストは Amazon Textract を使用して、画像から抽出されます。
- Amazon Comprehend は、抽出したテキストの感情とその言語を分析します。
- 抽出されたテキストは、Amazon Translate を使用して英語に翻訳されます。
- Amazon Polly は抽出したテキストから音声ファイルを合成します。

完全なアプリは AWS CDK を使用してデプロイすることができます。ソースコードとデプロイ手順については、GitHub のプロジェクトを参照してください。

この例で使用されているサービス

- Amazon Comprehend
- Lambda
- Amazon Polly
- Amazon Textract
- Amazon Translate

API Gateway を使用して Lambda 関数を呼び出す

次のコード例は、Amazon API Gateway によって呼び出される AWS Lambda 関数を作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

Lambda Java ランタイム API を使用して AWS Lambda 関数を作成する方法を示します。この例では、さまざまな AWS サービスを呼び出して、特定のユースケースを実行します。この例では、Amazon API Gateway によって呼び出される Lambda 関数を作成する方法を示します。こ

の関数は、Amazon DynamoDB テーブルをスキャンして、Amazon Simple Notification Service (Amazon SNS) を使用して、従業員に年間の記念日を祝福するテキストメッセージを送信します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- API ゲートウェイ
- DynamoDB
- Lambda
- Amazon SNS

Step Functions を使用して Lambda 関数を呼び出す

次のコード例は、 AWS Lambda 関数を順番に呼び出す AWS Step Functions ステートマシンを作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

AWS Step Functions と を使用して AWS サーバーレスワークフローを作成する方法を示します AWS SDK for Java 2.x。各ワークフローステップは、 AWS Lambda 関数を使用して実装されます。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- DynamoDB
- Lambda
- Amazon SES
- ステップ関数

スケジュールされたイベントを使用した Lambda 関数の呼び出し

次のコード例は、Amazon EventBridge スケジュールされたイベントによって呼び出される AWS Lambda 関数を作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

AWS Lambda 関数を呼び出す Amazon EventBridge スケジュールイベントを作成する方法を示します。cron 式を使用して Lambda 関数が呼び出されるタイミングをスケジュールするように EventBridge を設定します。この例では、Lambda Java ランタイム API を使用して Lambda 関数を作成します。この例では、さまざまな AWS サービスを呼び出して、特定のユースケースを実行します。この例では、年間の記念日に従業員を祝福するモバイルテキストメッセージを従業員に送信するアプリを作成する方法を示します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- CloudWatch Logs
- DynamoDB
- EventBridge
- Lambda
- Amazon SNS

Neptune API を使用してグラフデータをクエリする

次のコード例は、Neptune API を使用してグラフデータをクエリする方法を示しています。

SDK for Java 2.x

Amazon Neptune Java API を使用して、VPC 内のグラフデータをクエリする Lambda 関数を作成する方法を示します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- Lambda
- Neptune

サーバーレスサンプル

Lambda 関数での Amazon RDS データベースへの接続

次のコード例は、RDS データベースに接続する Lambda 関数を実装する方法を示しています。この関数は、シンプルなデータベースリクエストを実行し、結果を返します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。サーバーレスサンプルリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

Java を使用した Lambda 関数での Amazon RDS データベースへの接続

```
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.Context;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.RequestHandler;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.APIGatewayProxyRequestEvent;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.APIGatewayProxyResponseEvent;
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.rdsdata.RdsDataClient;
import software.amazon.awssdk.services.rdsdata.model.ExecuteStatementRequest;
import software.amazon.awssdk.services.rdsdata.model.ExecuteStatementResponse;
import software.amazon.awssdk.services.rdsdata.model.Field;

import java.sql.Connection;
import java.sql.DriverManager;
import java.sql.PreparedStatement;
import java.sql.ResultSet;

public class RdsLambdaHandler implements RequestHandler<APIGatewayProxyRequestEvent,
 APIGatewayProxyResponseEvent> {

    @Override
    public APIGatewayProxyResponseEvent handleRequest(APIGatewayProxyRequestEvent
 event, Context context) {
        APIGatewayProxyResponseEvent response = new APIGatewayProxyResponseEvent();

        try {
```

```
            // Obtain auth token
            String token = createAuthToken();

            // Define connection configuration
            String connectionString = String.format("jdbc:mysql://%s:%s/%s?
useSSL=true&requireSSL=true",
                    System.getenv("ProxyHostName"),
                    System.getenv("Port"),
                    System.getenv("DBName"));

            // Establish a connection to the database
            try (Connection connection =
 DriverManager.getConnection(connectionString, System.getenv("DBUserName"), token);
                 PreparedStatement statement = connection.prepareStatement("SELECT ?
 + ? AS sum")) {

                statement.setInt(1, 3);
                statement.setInt(2, 2);

                try (ResultSet resultSet = statement.executeQuery()) {
                    if (resultSet.next()) {
                        int sum = resultSet.getInt("sum");
                        response.setStatusCode(200);
                        response.setBody("The selected sum is: " + sum);
                    }
                }
            }

        } catch (Exception e) {
            response.setStatusCode(500);
            response.setBody("Error: " + e.getMessage());
        }

        return response;
    }

    private String createAuthToken() {
        // Create RDS Data Service client
        RdsDataClient rdsDataClient = RdsDataClient.builder()
                .region(Region.of(System.getenv("AWS_REGION")))
                .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
                .build();

        // Define authentication request
```

```
        ExecuteStatementRequest request = ExecuteStatementRequest.builder()
                .resourceArn(System.getenv("ProxyHostName"))
                .secretArn(System.getenv("DBUserName"))
                .database(System.getenv("DBName"))
                .sql("SELECT 'RDS IAM Authentication'")
                .build();

        // Execute request and obtain authentication token
        ExecuteStatementResponse response = rdsDataClient.executeStatement(request);
        Field tokenField = response.records().get(0).get(0);

        return tokenField.stringValue();
    }
}
```

Kinesis トリガーから Lambda 関数を呼び出す

次のコード例では、Kinesis ストリームからレコードを受信することによってトリガーされるイベントを受け取る、Lambda 関数の実装方法を示しています。この関数は Kinesis ペイロードを取得し、それを Base64 からデコードして、そのレコードの内容を口グ記録します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。サーバーレスサンプルリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

Java を使用した Lambda での Kinesis イベントの消費。

```
// Copyright Amazon.com, Inc. or its affiliates. All Rights Reserved.
// SPDX-License-Identifier: Apache-2.0
package example;

import com.amazonaws.services.lambda.runtime.Context;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.LambdaLogger;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.RequestHandler;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.KinesisEvent;
```

```
public class Handler implements RequestHandler<KinesisEvent, Void> {
    @Override
    public Void handleRequest(final KinesisEvent event, final Context context) {
        LambdaLogger logger = context.getLogger();
        if (event.getRecords().isEmpty()) {
            logger.log("Empty Kinesis Event received");
            return null;
        }
        for (KinesisEvent.KinesisEventRecord record : event.getRecords()) {
            try {
                logger.log("Processed Event with EventId: "+record.getEventID());
                String data = new String(record.getKinesis().getData().array());
                logger.log("Data:"+ data);
                // TODO: Do interesting work based on the new data
            }
            catch (Exception ex) {
                logger.log("An error occurred:"+ex.getMessage());
                throw ex;
            }
        }
        logger.log("Successfully processed:"+event.getRecords().size()+" records");
        return null;
    }

}
```

DynamoDB トリガーから Lambda 関数を呼び出す

次のコード例は、DynamoDB ストリームからレコードを受信することによってトリガーされるイベントを受け取る、Lambda 関数の実装方法を示しています。関数は DynamoDB ペイロードを取得し、レコードの内容をログ記録します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。サーバーレスサンプルリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

Java を使用した Lambda での DynamoDB イベントの消費。

```
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.Context;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.RequestHandler;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.DynamodbEvent;
import
 com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.DynamodbEvent.DynamodbStreamRecord;
import com.google.gson.Gson;
import com.google.gson.GsonBuilder;

public class example implements RequestHandler<DynamodbEvent, Void> {

    private static final Gson GSON = new GsonBuilder().setPrettyPrinting().create();

    @Override
    public Void handleRequest(DynamodbEvent event, Context context) {
        System.out.println(GSON.toJson(event));
        event.getRecords().forEach(this::logDynamoDBRecord);
        return null;
    }

    private void logDynamoDBRecord(DynamodbStreamRecord record) {
        System.out.println(record.getEventID());
        System.out.println(record.getEventName());
        System.out.println("DynamoDB Record: " + GSON.toJson(record.getDynamodb()));
    }
}
```

Amazon DocumentDB トリガーから Lambda 関数を呼び出す

次のコードの例は、DocumentDB 変更ストリームからレコードを受信することによってトリガーされるイベントを受け取る、Lambda 関数の実装方法を示しています。関数は DocumentDB ペイロードを取得し、レコードの内容をログ記録します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。サーバーレスサンプルリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

Java を使用した Lambda での Amazon DocumentDB イベントの消費。

```
import java.util.List;
import java.util.Map;

import com.amazonaws.services.lambda.runtime.Context;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.RequestHandler;

public class Example implements RequestHandler<Map<String, Object>, String> {

    @SuppressWarnings("unchecked")
    @Override
    public String handleRequest(Map<String, Object> event, Context context) {
        List<Map<String, Object>> events = (List<Map<String, Object>>)
 event.get("events");
        for (Map<String, Object> record : events) {
            Map<String, Object> eventData = (Map<String, Object>)
 record.get("event");
            processEventData(eventData);
        }

        return "OK";
    }

    @SuppressWarnings("unchecked")
    private void processEventData(Map<String, Object> eventData) {
        String operationType = (String) eventData.get("operationType");
        System.out.println("operationType: %s".formatted(operationType));

        Map<String, Object> ns = (Map<String, Object>) eventData.get("ns");

        String db = (String) ns.get("db");
        System.out.println("db: %s".formatted(db));
        String coll = (String) ns.get("coll");
        System.out.println("coll: %s".formatted(coll));

        Map<String, Object> fullDocument = (Map<String, Object>)
 eventData.get("fullDocument");
        System.out.println("fullDocument: %s".formatted(fullDocument));
    }

}
```

Amazon MSK トリガーから Lambda 関数を呼び出す

次のコード例は、Amazon MSK クラスターからレコードを受信することによってトリガーされるイベントを受け取る、Lambda 関数の実装方法を示しています。関数は MSK ペイロードを取得し、レコードの内容をログ記録します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。サーバーレスサンプルリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

Java を使用した Lambda での Amazon MSK イベントの消費。

```
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.Context;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.RequestHandler;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.KafkaEvent;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.KafkaEvent.KafkaEventRecord;

import java.util.Base64;
import java.util.Map;

public class Example implements RequestHandler<KafkaEvent, Void> {

    @Override
    public Void handleRequest(KafkaEvent event, Context context) {
        for (Map.Entry<String, java.util.List<KafkaEventRecord>> entry :
 event.getRecords().entrySet()) {
            String key = entry.getKey();
            System.out.println("Key: " + key);

            for (KafkaEventRecord record : entry.getValue()) {
                System.out.println("Record: " + record);

                byte[] value = Base64.getDecoder().decode(record.getValue());
                String message = new String(value);
                System.out.println("Message: " + message);
            }
        }
```

```
        return null;
    }
}
```

Amazon S3 トリガーから Lambda 関数を呼び出す

次のコード例は、S3 バケットにオブジェクトをアップロードすることによってトリガーされるイベントを受け取る Lambda 関数を実装する方法を示しています。この関数は、イベントパラメータから S3 バケット名とオブジェクトキーを取得し、Amazon S3 API を呼び出してオブジェクトのコンテンツタイプを取得してログに記録します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。サーバーレスサンプルリポジトリで完全な例を検索し、設定および実行の方法を確認してください。

Java を使用した Lambda での S3 イベントの消費。

```
// Copyright Amazon.com, Inc. or its affiliates. All Rights Reserved.
// SPDX-License-Identifier: Apache-2.0
package example;

import software.amazon.awssdk.services.s3.model.HeadObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.HeadObjectResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;

import com.amazonaws.services.lambda.runtime.Context;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.RequestHandler;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.S3Event;
import
 com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.models.s3.S3EventNotification.S3EventNotificat

import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;

public class Handler implements RequestHandler<S3Event, String> {
```

```
    private static final Logger logger = LoggerFactory.getLogger(Handler.class);
    @Override
    public String handleRequest(S3Event s3event, Context context) {
        try {
          S3EventNotificationRecord record = s3event.getRecords().get(0);
          String srcBucket = record.getS3().getBucket().getName();
          String srcKey = record.getS3().getObject().getUrlDecodedKey();

          S3Client s3Client = S3Client.builder().build();
          HeadObjectResponse headObject = getHeadObject(s3Client, srcBucket,
 srcKey);

          logger.info("Successfully retrieved " + srcBucket + "/" + srcKey + " of
 type " + headObject.contentType());

          return "Ok";
        } catch (Exception e) {
          throw new RuntimeException(e);
        }
    }

    private HeadObjectResponse getHeadObject(S3Client s3Client, String bucket,
 String key) {
        HeadObjectRequest headObjectRequest = HeadObjectRequest.builder()
                .bucket(bucket)
                .key(key)
                .build();
        return s3Client.headObject(headObjectRequest);
    }
}
```

Amazon SNS トリガーから Lambda 関数を呼び出す

次のコード例は、SNS トピックからメッセージを受信することによってトリガーされるイベントを受け取る Lambda 関数を実装する方法を示しています。この関数はイベントパラメータからメッセージを取得し、各メッセージの内容を記録します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。サーバーレスサンプルリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

Java を使用した Lambda での SNS イベントの消費。

```
// Copyright Amazon.com, Inc. or its affiliates. All Rights Reserved.
// SPDX-License-Identifier: Apache-2.0
package example;

import com.amazonaws.services.lambda.runtime.Context;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.LambdaLogger;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.RequestHandler;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.SNSEvent;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.SNSEvent.SNSRecord;


import java.util.Iterator;
import java.util.List;

public class SNSEventHandler implements RequestHandler<SNSEvent, Boolean> {
    LambdaLogger logger;

    @Override
    public Boolean handleRequest(SNSEvent event, Context context) {
        logger = context.getLogger();
        List<SNSRecord> records = event.getRecords();
        if (!records.isEmpty()) {
            Iterator<SNSRecord> recordsIter = records.iterator();
            while (recordsIter.hasNext()) {
                processRecord(recordsIter.next());
            }
        }
        return Boolean.TRUE;
    }

    public void processRecord(SNSRecord record) {
        try {
            String message = record.getSNS().getMessage();
```

```
            logger.log("message: " + message);
        } catch (Exception e) {
            throw new RuntimeException(e);
        }
    }

}
```

Amazon SQS トリガーから Lambda 関数を呼び出す

次のコード例では、SQS キューからメッセージを受信することによってトリガーされるイベントを受け取る、Lambda 関数の実装方法を示しています。この関数はイベントパラメータからメッセージを取得し、各メッセージの内容を記録します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。サーバーレスサンプルリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

Java を使用した Lambda での SQS イベントの消費。

```
// Copyright Amazon.com, Inc. or its affiliates. All Rights Reserved.
// SPDX-License-Identifier: Apache-2.0
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.Context;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.RequestHandler;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.SQSEvent;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.SQSEvent.SQSMessage;

public class Function implements RequestHandler<SQSEvent, Void> {
    @Override
    public Void handleRequest(SQSEvent sqsEvent, Context context) {
        for (SQSMessage msg : sqsEvent.getRecords()) {
            processMessage(msg, context);
        }
```

```
        context.getLogger().log("done");
        return null;
    }

    private void processMessage(SQSMessage msg, Context context) {
        try {
            context.getLogger().log("Processed message " + msg.getBody());

            // TODO: Do interesting work based on the new message

        } catch (Exception e) {
            context.getLogger().log("An error occurred");
            throw e;
        }

    }
}
```

Kinesis トリガーを使用した Lambda 関数でのバッチアイテム失敗のレポート

以下のコード例では、Kinesis ストリームからイベントを受け取る Lambda 関数のための、部分的なバッチレスポンスの実装方法を示しています。この関数は、レスポンスとしてバッチアイテムの失敗を報告し、対象のメッセージを後で再試行するよう Lambda に伝えます。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。サーバーレスサンプルリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

Java を使用した Lambda での Kinesis バッチアイテム失敗のレポート。

```
// Copyright Amazon.com, Inc. or its affiliates. All Rights Reserved.
// SPDX-License-Identifier: Apache-2.0
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.Context;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.RequestHandler;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.KinesisEvent;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.StreamsEventResponse;
```

```
import java.io.Serializable;
import java.util.ArrayList;
import java.util.List;

public class ProcessKinesisRecords implements RequestHandler<KinesisEvent,
 StreamsEventResponse> {

    @Override
    public StreamsEventResponse handleRequest(KinesisEvent input, Context context) {

        List<StreamsEventResponse.BatchItemFailure> batchItemFailures = new
 ArrayList<>();
        String curRecordSequenceNumber = "";

        for (KinesisEvent.KinesisEventRecord kinesisEventRecord :
 input.getRecords()) {
            try {
                //Process your record
                KinesisEvent.Record kinesisRecord = kinesisEventRecord.getKinesis();
                curRecordSequenceNumber = kinesisRecord.getSequenceNumber();

            } catch (Exception e) {
                /* Since we are working with streams, we can return the failed item
 immediately.
                   Lambda will immediately begin to retry processing from this
 failed item onwards. */
                batchItemFailures.add(new
 StreamsEventResponse.BatchItemFailure(curRecordSequenceNumber));
                return new StreamsEventResponse(batchItemFailures);
            }
        }

       return new StreamsEventResponse(batchItemFailures);
    }
}
```

DynamoDB トリガーで Lambda 関数のバッチアイテムの失敗をレポートする

次のコード例は、DynamoDB ストリームからイベントを受け取る Lambda 関数の部分的なバッチレスポンスの実装方法を示しています。この関数は、レスポンスとしてバッチアイテムの失敗を報告し、対象のメッセージを後で再試行するよう Lambda に伝えます。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。サーバーレスサンプルリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

Java を使用した Lambda での DynamoDB のバッチアイテム失敗のレポート。

```
// Copyright Amazon.com, Inc. or its affiliates. All Rights Reserved.
// SPDX-License-Identifier: Apache-2.0
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.Context;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.RequestHandler;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.DynamodbEvent;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.StreamsEventResponse;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.models.dynamodb.StreamRecord;

import java.util.ArrayList;
import java.util.List;

public class ProcessDynamodbRecords implements RequestHandler<DynamodbEvent,
 StreamsEventResponse> {

    @Override
    public StreamsEventResponse handleRequest(DynamodbEvent input, Context context)
 {

        List<StreamsEventResponse.BatchItemFailure> batchItemFailures = new
 ArrayList<>();
        String curRecordSequenceNumber = "";

        for (DynamodbEvent.DynamodbStreamRecord dynamodbStreamRecord :
 input.getRecords()) {
          try {
                //Process your record
                StreamRecord dynamodbRecord = dynamodbStreamRecord.getDynamodb();
                curRecordSequenceNumber = dynamodbRecord.getSequenceNumber();

            } catch (Exception e) {
                /* Since we are working with streams, we can return the failed item
 immediately.
```

```
                    Lambda will immediately begin to retry processing from this
 failed item onwards. */
                batchItemFailures.add(new
 StreamsEventResponse.BatchItemFailure(curRecordSequenceNumber));
                return new StreamsEventResponse(batchItemFailures);
            }
        }

        return new StreamsEventResponse();
    }
}
```

Amazon SQS トリガーを使用した Lambda 関数でのバッチアイテム失敗のレポート

以下のコード例では、SQS キューからイベントを受け取る Lambda 関数のための、部分的なバッチレスポンスの実装方法を示しています。この関数は、レスポンスとしてバッチアイテムの失敗を報告し、対象のメッセージを後で再試行するよう Lambda に伝えます。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。サーバーレスサンプルリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

Java を使用した Lambda での SQS バッチアイテム失敗のレポート。

```
// Copyright Amazon.com, Inc. or its affiliates. All Rights Reserved.
// SPDX-License-Identifier: Apache-2.0
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.Context;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.RequestHandler;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.SQSEvent;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.SQSBatchResponse;

import java.util.ArrayList;
import java.util.List;

public class ProcessSQSMessageBatch implements RequestHandler<SQSEvent,
 SQSBatchResponse> {
```

```
    @Override
    public SQSBatchResponse handleRequest(SQSEvent sqsEvent, Context context) {
         List<SQSBatchResponse.BatchItemFailure> batchItemFailures = new
 ArrayList<SQSBatchResponse.BatchItemFailure>();

         for (SQSEvent.SQSMessage message : sqsEvent.getRecords()) {
             try {
                 //process your message
             } catch (Exception e) {
                 //Add failed message identifier to the batchItemFailures list
                 batchItemFailures.add(new
 SQSBatchResponse.BatchItemFailure(message.getMessageId()));
             }
         }
         return new SQSBatchResponse(batchItemFailures);
     }
}
```

AWS コミュニティへの貢献

サーバーレスアプリケーションの構築とテスト

次のコード例は、Lambda および DynamoDB を備えた API Gateway を使用してサーバーレスアプリケーションを構築およびテストする方法を示しています。

SDK for Java 2.x

Java SDK を使用し、Lambda および DynamoDB を備えた API Gateway で構成されるサーバーレスアプリケーションを構築およびテストする方法が示されます。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- API ゲートウェイ
- DynamoDB
- Lambda

SDK for Java 2.x を使用した Amazon Lex V2 の例 V2

次のコード例は、Amazon Lex V2 AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- シナリオ

シナリオ

Amazon Lex V2 チャットボットの構築

次のコード例は、ウェブサイトの訪問者を引き付けるチャットボットの作成方法を示しています。

SDK for Java 2.x

Amazon Lex V2 API を使用してウェブアプリケーション内に Chatbot を作成し、ウェブサイトの訪問者を引き付ける方法を示します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- Amazon Comprehend
- Amazon Lex V2
- Amazon Translate

SDK for Java 2.x を使用する Amazon Location の例

次のコード例は、Amazon Location AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- はじめに
- 基本
- アクション

はじめに

Hello Amazon Location

次のコード例は、Amazon Location Service の使用を開始する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 *
 * In addition, you need to create a collection using the AWS Management
 * console. For information, see the following documentation.
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/location/latest/developerguide/geofence-gs.html

 */
```

```
public class HelloLocation {

    private static LocationAsyncClient locationAsyncClient;
    private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(HelloLocation.class);

    // This Singleton pattern ensures that only one `LocationClient`
    // instance.
    private static LocationAsyncClient getClient() {
        if (locationAsyncClient == null) {
            SdkAsyncHttpClient httpClient = NettyNioAsyncHttpClient.builder()
                .maxConcurrency(100)
                .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .readTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .writeTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .build();

            ClientOverrideConfiguration overrideConfig =
 ClientOverrideConfiguration.builder()
                .apiCallTimeout(Duration.ofMinutes(2))
                .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(90))
                .retryStrategy(RetryMode.STANDARD)
                .build();

            locationAsyncClient = LocationAsyncClient.builder()
                .httpClient(httpClient)
                .overrideConfiguration(overrideConfig)
                .build();
        }
        return locationAsyncClient;
    }

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

            Usage:
                <collectionName>

            Where:
                collectionName - The Amazon location collection name.
            """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
```

```
            System.exit(1);
        }

        String collectionName = args[0];
        listGeofences(collectionName);
    }

    /**
     * Lists geofences from a specified geofence collection asynchronously.
     *
     * @param collectionName The name of the geofence collection to list geofences
 from.
     * @return A {@link CompletableFuture} representing the result of the
 asynchronous operation.
     *         The future completes when all geofences have been processed and
 logged.
     */
    public static CompletableFuture<Void> listGeofences(String collectionName) {
        ListGeofencesRequest geofencesRequest = ListGeofencesRequest.builder()
                .collectionName(collectionName)
                .build();

        ListGeofencesPublisher paginator =
 getClient().listGeofencesPaginator(geofencesRequest);
        CompletableFuture<Void> future = paginator.subscribe(response -> {
            if (response.entries().isEmpty()) {
                logger.info("No Geofences were found in the collection.");
            } else {
                response.entries().forEach(geofence ->
                        logger.info("Geofence ID: " + geofence.geofenceId())
                );
            }
        });
        return future;
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - ListGeofenceCollections
  - ListGeofences

基本

基本を学ぶ

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- Amazon Location マップを作成します。
- Amazon Location API キーを作成します。
- マップ URL を表示します。
- ジオフェンスコレクションを作成します。
- ジオフェンスジオメトリを保存します。
- トラッカーリソースを作成します。
- デバイスの位置を更新します。
- 指定されたデバイスの最新の位置更新を取得します。
- ルート計算ツールを作成します。
- シアトルとバンクーバー間の距離を決定します。
- Amazon Location の上位レベルの API を使用します。
- Amazon Location アセットを削除します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

Amazon Location Service 機能を示すインタラクティブなシナリオを実行します。

```
/*
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 *
```

```
 */
public class LocationScenario {

    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");

    private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(LocationScenario.class);
    static Scanner scanner = new Scanner(System.in);

    static LocationActions locationActions = new LocationActions();

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

            Usage:    <mapName> <keyName> <collectionName> <geoId> <trackerName>
 <calculatorName> <deviceId>

            Where:
              mapName - The name of the map to be create (e.g., "AWSMap").
              keyName - The name of the API key to create (e.g., "AWSApiKey").
              collectionName - The name of the geofence collection (e.g.,
 "AWSLocationCollection").
              geoId - The geographic identifier used for the geofence or map (e.g.,
 "geoId").
              trackerName - The name of the tracker (e.g., "geoTracker").
              calculatorName - The name of the route calculator (e.g.,
 "AWSRouteCalc").
              deviceId - The ID of the device (e.g., "iPhone-112356").
            """;

        if (args.length != 7) {
            logger.info(usage);
            return;
        }

        String mapName = args[0];
        String keyName = args[1];
        String collectionName = args[2];
        String geoId = args[3];
        String trackerName = args[4];
        String calculatorName = args[5];
        String deviceId = args[6];

        logger.info("""
```

```
            AWS Location Service is a fully managed service offered by Amazon Web
Services (AWS) that
            provides location-based services for developers. This service simplifies
            the integration of location-based features into applications, making it
            easier to build and deploy location-aware applications.

            The AWS Location Service offers a range of location-based services,
            including:

            Maps: The service provides access to high-quality maps, satellite
imagery,\s
            and geospatial data from various providers, allowing developers to\s
            easily embed maps into their applications.

            Tracking: The Location Service enables real-time tracking of mobile
devices,\s
            assets, or other entities, allowing developers to build applications\s
            that can monitor the location of people, vehicles, or other objects.

            Geocoding: The service provides the ability to convert addresses or\s
            location names into geographic coordinates (latitude and longitude),\s
            and vice versa, enabling developers to integrate location-based search\s
            and routing functionality into their applications.
            """);
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            runScenario(mapName, keyName, collectionName, geoId, trackerName,
calculatorName, deviceId);
        } catch (RuntimeException e) {
            // Clean up AWS Resources.
            cleanUp(mapName, keyName, collectionName, trackerName, calculatorName);
            logger.info(e.getMessage());
        }
    }

    public static void runScenario(String mapName, String keyName, String
collectionName, String geoId, String trackerName, String calculatorName, String
deviceId) {
        logger.info(DASHES);
        logger.info("1. Create a map");
        logger.info("""
             An AWS Location map can enhance the user experience of your
             application by providing accurate and personalized location-based
             features. For example, you could use the geocoding capabilities to
```

```
             allow users to search for and locate businesses, landmarks, or
             other points of interest within a specific region.
            """);

        waitForInputToContinue(scanner);
        String mapArn;
        try {
            mapArn = locationActions.createMap(mapName).join();
            logger.info("The Map ARN is: {}", mapArn);  // Log success in calling
code
        } catch (CompletionException ce) {
            Throwable cause = ce.getCause();
            if (cause instanceof ServiceQuotaExceededException) {
                logger.error("The request exceeded the maximum quota: {}",
cause.getMessage());
            } else {
                logger.error("An unexpected error occurred while creating the map.",
cause);
            }
            return;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("2. Create an AWS Location API key");
        logger.info("""
            When you embed a map in a web app or website, the API key is
            included in the map tile URL to authenticate requests. You can
            restrict API keys to specific AWS Location operations (e.g., only
            maps, not geocoding). API keys can expire, ensuring temporary
            access control.
            """);

        try {
            String keyArn = locationActions.createKey(keyName, mapArn).join();
            logger.info("The API key was successfully created: {}", keyArn);
        } catch (CompletionException ce) {
            Throwable cause = ce.getCause();
            if (cause instanceof AccessDeniedException) {
                logger.error("Request was denied: {}", cause.getMessage());
            } else {
                logger.error("An unexpected error occurred while creating the API
key.", cause);
```

```
            }
            return;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("3. Display Map URL");
        logger.info("""
            In order to get the MAP URL, you need to get the API Key value.
            You can get the key value using the AWS Management Console under
            Location Services. This operation cannot be completed using the
            AWS SDK. For more information about getting the key value, see
            the AWS Location Documentation.
            """);
        String mapUrl = "https://maps.geo.aws.amazon.com/maps/v0/maps/"+mapName+"/
tiles/{z}/{x}/{y}?key={KeyValue}";
        logger.info("Embed this URL in your Web app: " + mapUrl);
        logger.info("");
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("4. Create a geofence collection, which manages and stores
 geofences.");
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            String collectionArn =
 locationActions.createGeofenceCollection(collectionName).join();
            logger.info("The geofence collection was successfully created: {}",
 collectionArn);
        } catch (CompletionException ce) {
            Throwable cause = ce.getCause();
            if (cause instanceof ConflictException) {
                logger.error("A conflict occurred: {}", cause.getMessage());
            } else {
                logger.error("An unexpected error occurred while creating the
 geofence collection.", cause);
            }
            return;
        }

        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);
```

```
        logger.info(DASHES);
        logger.info("5. Store a geofence geometry in a given geofence collection.");
        logger.info("""
            An AWS Location geofence is a virtual boundary that defines a geographic
area
            on a map. It is a useful feature for tracking the location of
            assets or monitoring the movement of objects within a specific region.

            To define a geofence, you need to specify the coordinates of a
            polygon that represents the area of interest. The polygon must be
            defined in a counter-clockwise direction, meaning that the points of
            the polygon must be listed in a counter-clockwise order.

            This is a requirement for the AWS Location service to correctly
            interpret the geofence and ensure that the location data is
            accurately processed within the defined area.
            """);

        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            locationActions.putGeofence(collectionName, geoId).join();
            logger.info("Successfully created geofence: {}", geoId);
        } catch (CompletionException ce) {
            Throwable cause = ce.getCause();
            if (cause instanceof ValidationException) {
                logger.error("A validation error occurred while creating geofence:
{}", cause.getMessage());
            } else {
                logger.error("An unexpected error occurred: {}", cause.getMessage(),
cause);
            }
            return;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info("6. Create a tracker resource which lets you retrieve current
and historical location of devices..");
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            String trackerArn = locationActions.createTracker(trackerName).join();
            logger.info("Successfully created tracker. ARN: {}", trackerArn);  //
Log success
```

```
        } catch (CompletionException ce) {
            Throwable cause = ce.getCause();
            if (cause instanceof ConflictException) {
                logger.error("A conflict occurred while creating the tracker: {}",
cause.getMessage());
            } else {
                logger.error("An unexpected error occurred: {}", cause.getMessage(),
cause);
            }
            return;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("7. Update the position of a device in the location tracking
system.");
        logger.info("""
            The AWS location service does not enforce a strict format for deviceId,
but it must:
              - Be a string (case-sensitive).
              - Be 1-100 characters long.
              - Contain only:
                - Alphanumeric characters (A-Z, a-z, 0-9)
                - Underscores (_)
                - Hyphens (-)
                - Be the same ID used when sending and retrieving positions.
            """);

        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            CompletableFuture<BatchUpdateDevicePositionResponse> future =
locationActions.updateDevicePosition(trackerName, deviceId);
            future.join();
            logger.info(deviceId + " was successfully updated in the location
tracking system.");
        } catch (CompletionException ce) {
            Throwable cause = ce.getCause();
            if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                logger.info("The resource was not found: {}", cause.getMessage(),
cause);
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: {}", cause.getMessage(),
cause);
```

```
            }
            return;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info("8. Retrieve the most recent position update for a specified
device..");
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            GetDevicePositionResponse response =
locationActions.getDevicePosition(trackerName, deviceId).join();
            logger.info("Successfully fetched device position: {}",
response.position());
        } catch (CompletionException ce) {
            Throwable cause = ce.getCause();
            if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                logger.info("The resource was not found: {}", cause.getMessage(),
cause);
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: {}", cause.getMessage(),
cause);
            }
            return;
        }

        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info("9. Create a route calculator.");
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            CreateRouteCalculatorResponse response =
locationActions.createRouteCalculator(calculatorName).join();
            logger.info("Route calculator created successfully: {}",
response.calculatorArn());
        } catch (CompletionException ce) {
            Throwable cause = ce.getCause();
            if (cause instanceof ConflictException) {
                logger.info("A conflict occurred: {}", cause.getMessage(), cause);
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: {}", cause.getMessage(),
cause);
            }
```

```
            return;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info("10. Determine the distance between Seattle and Vancouver using
the route calculator.");
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            CalculateRouteResponse response =
locationActions.calcDistanceAsync(calculatorName).join();
            logger.info("Successfully calculated route. The distance in kilometers
is {}", response.summary().distance());
        } catch (CompletionException ce) {
            Throwable cause = ce.getCause();
            if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                logger.info("The resource was not found: {}", cause.getMessage(),
cause);
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: {}", cause.getMessage(),
cause);
            }
            return;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info("11. Use the GeoPlacesAsyncClient to perform additional
operations.");
        logger.info("""
            This scenario will show use of the GeoPlacesClient that enables
            location search and geocoding capabilities for your applications.\s

            We are going to use this client to perform these AWS Location tasks:
             - Reverse Geocoding (reverseGeocode): Converts geographic coordinates
into addresses.
             - Place Search (searchText): Finds places based on search queries.
             - Nearby Search (searchNearby): Finds places near a specific location.
            """);

        logger.info("First we will perform a Reverse Geocoding operation");
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            locationActions.reverseGeocode().join();
```

```
            logger.info("Now we are going to perform a text search using coffee
shop.");
            waitForInputToContinue(scanner);
            locationActions.searchText("coffee shop").join();
            waitForInputToContinue(scanner);

            logger.info("Now we are going to perform a nearby Search.");
            //waitForInputToContinue(scanner);
            locationActions.searchNearBy().join();
            waitForInputToContinue(scanner);
        } catch (CompletionException ce) {
            Throwable cause = ce.getCause();
            if (cause instanceof
software.amazon.awssdk.services.geoplaces.model.ValidationException) {
                logger.error("A validation error occurred: {}", cause.getMessage(),
cause);
            } else {
                logger.error("An unexpected error occurred: {}", cause.getMessage(),
cause);
            }
            return;
        }
        logger.info(DASHES);

        logger.info("12. Delete the AWS Location Services resources.");
        logger.info("Would you like to delete the AWS Location Services resources?
(y/n)");
        String delAns = scanner.nextLine().trim();
        if (delAns.equalsIgnoreCase("y")) {
            cleanUp(mapName, keyName, collectionName, trackerName, calculatorName);
        } else {
            logger.info("The AWS resources will not be deleted.");
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info(" This concludes the AWS Location Service scenario.");
        logger.info(DASHES);
    }

    /**
     * Cleans up resources by deleting the specified map, key, geofence collection,
tracker, and route calculator.
```

```
     *
     * @param mapName The name of the map to delete.
     * @param keyName The name of the key to delete.
     * @param collectionName The name of the geofence collection to delete.
     * @param trackerName The name of the tracker to delete.
     * @param calculatorName The name of the route calculator to delete.
     */
    private static void cleanUp(String mapName, String keyName, String
 collectionName, String trackerName, String calculatorName) {
        try {
            locationActions.deleteMap(mapName).join();
            locationActions.deleteKey(keyName).join();
            locationActions.deleteGeofenceCollectionAsync(collectionName).join();
            locationActions.deleteTracker(trackerName).join();
            locationActions.deleteRouteCalculator(calculatorName).join();
        } catch (CompletionException ce) {
            Throwable cause = ce.getCause();
            if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                logger.info("The resource was not found: {}", cause.getMessage(),
 cause);
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: {}", cause.getMessage(),
 cause);
            }
            return;
        }
    }

    private static void waitForInputToContinue(Scanner scanner) {
        while (true) {
            logger.info("");
            logger.info("Enter 'c' followed by <ENTER> to continue:");
            String input = scanner.nextLine();

            if (input.trim().equalsIgnoreCase("c")) {
                logger.info("Continuing with the program...");
                logger.info("");
                break;
            } else {
                logger.info("Invalid input. Please try again.");
            }
        }
    }
}
```

Amazon Location Service SDK メソッドのラッパークラス。

```
public class LocationActions {

    private static LocationAsyncClient locationAsyncClient;

    private static GeoPlacesAsyncClient geoPlacesAsyncClient;
    private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(LocationActions.class);

    // This Singleton pattern ensures that only one `LocationClient`
    // instance is used throughout the application.
    private LocationAsyncClient getClient() {
        if (locationAsyncClient == null) {
            SdkAsyncHttpClient httpClient = NettyNioAsyncHttpClient.builder()
                .maxConcurrency(100)
                .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .readTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .writeTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .build();

            ClientOverrideConfiguration overrideConfig =
 ClientOverrideConfiguration.builder()
                .apiCallTimeout(Duration.ofMinutes(2))
                .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(90))
                .retryStrategy(RetryMode.STANDARD)
                .build();

            locationAsyncClient = LocationAsyncClient.builder()
                .httpClient(httpClient)
                .overrideConfiguration(overrideConfig)
                .build();
        }
        return locationAsyncClient;
    }

    private static GeoPlacesAsyncClient getGeoPlacesClient() {
        if (geoPlacesAsyncClient == null) {
            SdkAsyncHttpClient httpClient = NettyNioAsyncHttpClient.builder()
                .maxConcurrency(100)
                .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(60))
```

```
                .readTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .writeTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .build();

            ClientOverrideConfiguration overrideConfig =
 ClientOverrideConfiguration.builder()
                .apiCallTimeout(Duration.ofMinutes(2))
                .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(90))
                .retryStrategy(RetryMode.STANDARD)
                .build();

            geoPlacesAsyncClient = GeoPlacesAsyncClient.builder()
                .httpClient(httpClient)
                .overrideConfiguration(overrideConfig)
                .build();
        }
        return geoPlacesAsyncClient;
    }


    /**
     * Performs a nearby places search based on the provided geographic coordinates
 (latitude and longitude).
     * The method sends an asynchronous request to search for places within a 1-
kilometer radius of the specified location.
     * The results are processed and printed once the search completes successfully.
     */
    public CompletableFuture<SearchNearbyResponse> searchNearBy() {
        double latitude = 37.7749;  // San Francisco
        double longitude = -122.4194;
        List<Double> queryPosition = List.of(longitude, latitude);

        // Set up the request for searching nearby places.
        SearchNearbyRequest request = SearchNearbyRequest.builder()
            .queryPosition(queryPosition)  // Set the position
            .queryRadius(1000L)  // Radius in meters (1000 meters = 1 km).
            .build();

        return getGeoPlacesClient().searchNearby(request)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof
 software.amazon.awssdk.services.geoplaces.model.ValidationException) {
```

```
                        throw new CompletionException("A validation error occurred:
" + cause.getMessage(), cause);
                    }
                    throw new CompletionException("Error performing place search",
exception);
                }

                // Process the response and print the results.
                response.resultItems().forEach(result -> {
                    logger.info("Place Name: " + result.placeType().name());
                    logger.info("Address: " + result.address().label());
                    logger.info("Distance: " + result.distance() + " meters");
                    logger.info("-------------------------");
                });
            });
    }


    /**
     * Searches for a place using the provided search query and prints the detailed
information of the first result.
     *
     * @param searchQuery the search query to be used for the place search (ex,
coffee shop)
     */
    public CompletableFuture<Void> searchText(String searchQuery) {
        double latitude = 37.7749;  // San Francisco
        double longitude = -122.4194;
        List<Double> queryPosition = List.of(longitude, latitude);

        SearchTextRequest request = SearchTextRequest.builder()
                .queryText(searchQuery)
                .biasPosition(queryPosition)
                .build();

        return getGeoPlacesClient().searchText(request)
                .thenCompose(response -> {
                    if (response.resultItems().isEmpty()) {
                        logger.info("No places found.");
                        return CompletableFuture.completedFuture(null);
                    }

                    // Get the first place ID
                    String placeId = response.resultItems().get(0).placeId();
```

```
                    logger.info("Found Place with id: " + placeId);

                    // Fetch detailed info using getPlace
                    GetPlaceRequest getPlaceRequest = GetPlaceRequest.builder()
                            .placeId(placeId)
                            .build();

                    return getGeoPlacesClient().getPlace(getPlaceRequest)
                            .thenAccept(placeResponse -> {
                                logger.info("Detailed Place Information:");
                                logger.info("Name: " +
 placeResponse.placeType().name());
                                logger.info("Address: " +
 placeResponse.address().label());

                                if (placeResponse.foodTypes() != null && !
placeResponse.foodTypes().isEmpty()) {
                                    logger.info("Food Types:");
                                    placeResponse.foodTypes().forEach(foodType -> {
                                        logger.info("  - " + foodType);
                                    });
                                } else {
                                    logger.info("No food types available.");
                                }
                                logger.info("-------------------------");
                            });
                })
                .exceptionally(exception -> {
                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof
 software.amazon.awssdk.services.geoplaces.model.ValidationException) {
                        throw new CompletionException("A validation error occurred:
 " + cause.getMessage(), cause);
                    }
                    throw new CompletionException("Error performing place search",
 exception);
                });
    }



    /**
     * Performs reverse geocoding using the AWS Geo Places API.
```

```
    * Reverse geocoding is the process of converting geographic coordinates
(latitude and longitude) to a human-readable address.
    * This method uses the latitude and longitude of San Francisco as the input,
and prints the resulting address.
    */
   public CompletableFuture<ReverseGeocodeResponse> reverseGeocode() {
       double latitude = 37.7749;  // San Francisco
       double longitude = -122.4194;
       logger.info("Use latitude 37.7749 and longitude -122.4194");

       // AWS expects [longitude, latitude].
       List<Double> queryPosition = List.of(longitude, latitude);
       ReverseGeocodeRequest request = ReverseGeocodeRequest.builder()
           .queryPosition(queryPosition)
           .build();
       CompletableFuture<ReverseGeocodeResponse> futureResponse =
           getGeoPlacesClient().reverseGeocode(request);

       return futureResponse.whenComplete((response, exception) -> {
           if (exception != null) {
               Throwable cause = exception.getCause();
               if (cause instanceof
software.amazon.awssdk.services.geoplaces.model.ValidationException) {
                   throw new CompletionException("A validation error occurred: " +
cause.getMessage(), cause);
               }
               throw new CompletionException("Error performing reverse geocoding",
exception);
           }

           response.resultItems().forEach(result ->
               logger.info("The address is: " + result.address().label())
           );
       });
   }


   /**
    * Calculates the distance between two locations asynchronously.
    *
    * @param routeCalcName the name of the route calculator to use
    * @return a {@link CompletableFuture} that will complete with a {@link
CalculateRouteResponse} containing the distance and estimated duration of the route
    */
```

```
   public CompletableFuture<CalculateRouteResponse> calcDistanceAsync(String
routeCalcName) {
       // Define coordinates for Seattle, WA and Vancouver, BC.
       List<Double> departurePosition = Arrays.asList(-122.3321, 47.6062);
       List<Double> arrivePosition = Arrays.asList(-123.1216, 49.2827);

       CalculateRouteRequest request = CalculateRouteRequest.builder()
           .calculatorName(routeCalcName)
           .departurePosition(departurePosition)
           .destinationPosition(arrivePosition)
           .travelMode("Car") // Options: Car, Truck, Walking, Bicycle
           .distanceUnit("Kilometers") // Options: Meters, Kilometers, Miles
           .build();

       return getClient().calculateRoute(request)
           .whenComplete((response, exception) -> {
               if (exception != null) {
                   Throwable cause = exception.getCause();
                   if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                       throw new CompletionException("The AWS resource was not
found: " + cause.getMessage(), cause);
                   }
                   throw new CompletionException("Failed to calculate route: " +
exception.getMessage(), exception);
               }
           });
   }


   /**
    * Creates a new route calculator with the specified name and data source.
    *
    * @param routeCalcName the name of the route calculator to be created
    */
   public CompletableFuture<CreateRouteCalculatorResponse>
createRouteCalculator(String routeCalcName) {
       String dataSource = "Esri"; // or "Here"
       CreateRouteCalculatorRequest request =
CreateRouteCalculatorRequest.builder()
           .calculatorName(routeCalcName)
           .dataSource(dataSource)
           .build();

       return getClient().createRouteCalculator(request)
```

```
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof ConflictException) {
                        throw new CompletionException("A conflict error occurred: "
+ cause.getMessage(), cause);
                    }
                    throw new CompletionException("Failed to create route
calculator: " + exception.getMessage(), exception);
                }
            });
    }


    /**
     * Retrieves the position of a device using the provided LocationClient.
     *
     * @param trackerName The name of the tracker associated with the device.
     * @param deviceId    The ID of the device to retrieve the position for.
     * @throws RuntimeException If there is an error fetching the device position.
     */
    public CompletableFuture<GetDevicePositionResponse> getDevicePosition(String
trackerName, String deviceId) {
        GetDevicePositionRequest request = GetDevicePositionRequest.builder()
            .trackerName(trackerName)
            .deviceId(deviceId)
            .build();

        return getClient().getDevicePosition(request)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                        throw new CompletionException("The AWS resource was not
found: " + cause.getMessage(), cause);
                    }
                    throw new CompletionException("Error fetching device position: "
+ exception.getMessage(), exception);
                }
            });
    }


    /**
```

```
    * Updates the position of a device in the location tracking system.
    *
    * @param trackerName the name of the tracker associated with the device
    * @param deviceId    the unique identifier of the device
    * @throws RuntimeException if an error occurs while updating the device
position
    */
   public CompletableFuture<BatchUpdateDevicePositionResponse>
updateDevicePosition(String trackerName, String deviceId) {
       double latitude = 37.7749;  // Example: San Francisco
       double longitude = -122.4194;

       DevicePositionUpdate positionUpdate = DevicePositionUpdate.builder()
           .deviceId(deviceId)
           .sampleTime(Instant.now()) // Timestamp of position update.
           .position(Arrays.asList(longitude, latitude)) // AWS requires
[longitude, latitude]
           .build();

       BatchUpdateDevicePositionRequest request =
BatchUpdateDevicePositionRequest.builder()
           .trackerName(trackerName)
           .updates(positionUpdate)
           .build();

       CompletableFuture<BatchUpdateDevicePositionResponse> futureResponse =
getClient().batchUpdateDevicePosition(request);
       return futureResponse.whenComplete((response, exception) -> {
           if (exception != null) {
               Throwable cause = exception.getCause();
               if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                   throw new CompletionException("The resource was not found: " +
cause.getMessage(), cause);
               } else {
                   throw new CompletionException("Error updating device position: "
+ exception.getMessage(), exception);
               }
           }
       });
   }


   /**
```

```
    * Creates a new tracker resource in your AWS account, which you can use to
track the location of devices.
    *
    * @param trackerName the name of the tracker to be created
    * @return a {@link CompletableFuture} that, when completed, will contain the
Amazon Resource Name (ARN) of the created tracker
    */
   public CompletableFuture<String> createTracker(String trackerName) {
       CreateTrackerRequest trackerRequest = CreateTrackerRequest.builder()
           .description("Created using the Java V2 SDK")
           .trackerName(trackerName)
           .positionFiltering("TimeBased") // Options: TimeBased, DistanceBased,
AccuracyBased
           .build();

       return getClient().createTracker(trackerRequest)
           .whenComplete((response, exception) -> {
               if (exception != null) {
                   Throwable cause = exception.getCause();
                   if (cause instanceof ConflictException) {
                       throw new CompletionException("Conflict occurred while
creating tracker: " + cause.getMessage(), cause);
                   }
                   throw new CompletionException("Error creating tracker: " +
exception.getMessage(), exception);
               }
           })
           .thenApply(CreateTrackerResponse::trackerArn); // Return only the
tracker ARN
   }



   /**
    * Adds a new geofence to the specified collection.
    *
    * @param collectionName the name of the geofence collection to add the geofence
to
    * @param geoId          the unique identifier for the geofence
    */
   public CompletableFuture<PutGeofenceResponse> putGeofence(String collectionName,
String geoId) {
       // Define the geofence geometry (polygon).
       GeofenceGeometry geofenceGeometry = GeofenceGeometry.builder()
```

```
            .polygon(List.of(
                List.of(
                    List.of(-122.3381, 47.6101), // First point
                    List.of(-122.3281, 47.6101),
                    List.of(-122.3281, 47.6201),
                    List.of(-122.3381, 47.6201),
                    List.of(-122.3381, 47.6101) // Closing the polygon
                )
            ))
            .build();

        PutGeofenceRequest geofenceRequest = PutGeofenceRequest.builder()
            .collectionName(collectionName) // Specify the collection.
            .geofenceId(geoId) // Unique ID for the geofence.
            .geometry(geofenceGeometry)
            .build();

        return getClient().putGeofence(geofenceRequest)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof ValidationException) {
                        throw new CompletionException("Validation error while
creating geofence: " + cause.getMessage(), cause);
                    }
                    throw new CompletionException("Error creating geofence: " +
exception.getMessage(), exception);
                }
            });
    }


    /**
     * Creates a new geofence collection.
     *
     * @param collectionName the name of the geofence collection to be created
     */
    public CompletableFuture<String> createGeofenceCollection(String collectionName)
{
        CreateGeofenceCollectionRequest collectionRequest =
CreateGeofenceCollectionRequest.builder()
            .collectionName(collectionName)
            .description("Created by using the AWS SDK for Java")
            .build();
```

```
        return getClient().createGeofenceCollection(collectionRequest)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof ConflictException) {
                        throw new CompletionException("The geofence collection was
not created due to ConflictException.", cause);
                    }
                    throw new CompletionException("Failed to create geofence
collection: " + exception.getMessage(), exception);
                }
            })
            .thenApply(response -> response.collectionArn()); // Return only the ARN
    }




    /**
     * Creates a new API key with the specified name and restrictions.
     *
     * @param keyName the name of the API key to be created
     * @param mapArn  the Amazon Resource Name (ARN) of the map resource to which
the API key will be associated
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes with the Amazon Resource
Name (ARN) of the created API key,
     * or {@code null} if the operation failed
     */
    public CompletableFuture<String> createKey(String keyName, String mapArn) {
        ApiKeyRestrictions keyRestrictions = ApiKeyRestrictions.builder()
            .allowActions("geo:GetMap*")
            .allowResources(mapArn)
            .build();

        CreateKeyRequest request = CreateKeyRequest.builder()
            .keyName(keyName)
            .restrictions(keyRestrictions)
            .noExpiry(true)
            .build();

        return getClient().createKey(request)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
```

```
                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof AccessDeniedException) {
                        throw new CompletionException("The request was denied
because of insufficient access or permissions.", cause);
                    }
                    throw new CompletionException("Failed to create API key: " +
exception.getMessage(), exception);
                }
            })
            .thenApply(response -> response.keyArn()); // This will never return
null if the response reaches here
    }



    /**
     * Creates a new map with the specified name and configuration.
     *
     * @param mapName the name of the map to be created
     * @return a {@link CompletableFuture} that, when completed, will contain the
Amazon Resource Name (ARN) of the created map
     * @throws CompletionException if an error occurs while creating the map, such
as exceeding the service quota
     */
    public CompletableFuture<String> createMap(String mapName) {
        MapConfiguration configuration = MapConfiguration.builder()
            .style("VectorEsriNavigation")
            .build();

        CreateMapRequest mapRequest = CreateMapRequest.builder()
            .mapName(mapName)
            .configuration(configuration)
            .description("A map created using the Java V2 API")
            .build();

        return getClient().createMap(mapRequest)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof ServiceQuotaExceededException) {
                        throw new CompletionException("The operation was denied
because the request would exceed the maximum quota.", cause);
                    }
```

```
                    throw new CompletionException("Failed to create map: " +
exception.getMessage(), exception);
                }
            })
            .thenApply(response -> response.mapArn()); // Return the map ARN
    }



    /**
     * Deletes a geofence collection asynchronously.
     *
     * @param collectionName the name of the geofence collection to be deleted
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the geofence
collection has been deleted
     */
    public CompletableFuture<Void> deleteGeofenceCollectionAsync(String
collectionName) {
        DeleteGeofenceCollectionRequest collectionRequest =
DeleteGeofenceCollectionRequest.builder()
            .collectionName(collectionName)
            .build();

        return getClient().deleteGeofenceCollection(collectionRequest)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                        throw new CompletionException("The requested geofence
collection was not found.", cause);
                    }
                    throw new CompletionException("Failed to delete geofence
collection: " + exception.getMessage(), exception);
                }
                logger.info("The geofence collection {} was deleted.",
collectionName);
            })
            .thenApply(response -> null);
    }



    /**
     * Deletes the specified key from the key-value store.
```

```
    *
    * @param keyName the name of the key to be deleted
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the key has been
deleted
    * @throws CompletionException if the key was not found or if an error occurred
during the deletion process
    */
   public CompletableFuture<Void> deleteKey(String keyName) {
       DeleteKeyRequest keyRequest = DeleteKeyRequest.builder()
           .keyName(keyName)
           .build();

       return getClient().deleteKey(keyRequest)
           .whenComplete((response, exception) -> {
               if (exception != null) {
                   Throwable cause = exception.getCause();
                   if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                       throw new CompletionException("The key was not found.",
cause);
                   }
                   throw new CompletionException("Failed to delete key: " +
exception.getMessage(), exception);
               }
               logger.info("The key {} was deleted.", keyName);
           })
           .thenApply(response -> null);
   }


   /**
    * Deletes a map with the specified name.
    *
    * @param mapName the name of the map to be deleted
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the map deletion is
successful, or throws a {@link CompletionException} if an error occurs
    */
   public CompletableFuture<Void> deleteMap(String mapName) {
       DeleteMapRequest mapRequest = DeleteMapRequest.builder()
           .mapName(mapName)
           .build();

       return getClient().deleteMap(mapRequest)
           .whenComplete((response, exception) -> {
               if (exception != null) {
```

```
                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                        throw new CompletionException("The map was not found.",
cause);
                    }
                    throw new CompletionException("Failed to delete map: " +
exception.getMessage(), exception);
                }
                logger.info("The map {} was deleted.", mapName);
            })
            .thenApply(response -> null);
    }


    /**
     * Deletes a tracker with the specified name.
     *
     * @param trackerName the name of the tracker to be deleted
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the tracker has been
deleted
     * @throws CompletionException if an error occurs while deleting the tracker
     *                             - if the tracker was not found, a {@link
ResourceNotFoundException} is thrown wrapped in the CompletionException
     *                             - if any other error occurs, a generic
CompletionException is thrown with the error message
     */
    public CompletableFuture<Void> deleteTracker(String trackerName) {
        DeleteTrackerRequest trackerRequest = DeleteTrackerRequest.builder()
            .trackerName(trackerName)
            .build();

        return getClient().deleteTracker(trackerRequest)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                        throw new CompletionException("The tracker was not found.",
cause);
                    }
                    throw new CompletionException("Failed to delete the tracker: " +
exception.getMessage(), exception);
                }
                logger.info("The tracker {} was deleted.", trackerName);
            })
```

```
            .thenApply(response -> null); // Ensures CompletableFuture<Void>
    }


    /**
     * Deletes a route calculator from the system.
     *
     * @param calcName the name of the route calculator to delete
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the route calculator
 has been deleted
     * @throws CompletionException if an error occurs while deleting the route
 calculator
     *                             - If the route calculator was not found, a {@link
 ResourceNotFoundException} will be thrown
     *                             - If any other error occurs, a generic {@link
 CompletionException} will be thrown
     */
    public CompletableFuture<Void> deleteRouteCalculator(String calcName) {
        DeleteRouteCalculatorRequest calculatorRequest =
 DeleteRouteCalculatorRequest.builder()
            .calculatorName(calcName)
            .build();

        return getClient().deleteRouteCalculator(calculatorRequest)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                        throw new CompletionException("The route calculator was not
 found.", cause);
                    }
                    throw new CompletionException("Failed to delete the route
 calculator: " + exception.getMessage(), exception);
                }
                logger.info("The route calculator {} was deleted.", calcName);
            })
            .thenApply(response -> null);
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。

- BatchUpdateDevicePosition
- CalculateRoute
- CreateGeofenceCollection
- CreateKey
- CreateMap
- CreateRouteCalculator
- CreateTracker
- DeleteGeofenceCollection
- DeleteKey
- DeleteMap
- DeleteRouteCalculator
- DeleteTracker
- GetDevicePosition
- PutGeofence

アクション

`BatchUpdateDevicePosition`

次のコード例は、`BatchUpdateDevicePosition` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
/**
 * Updates the position of a device in the location tracking system.
 *
 * @param trackerName the name of the tracker associated with the device
 * @param deviceId    the unique identifier of the device
```

```
     * @throws RuntimeException if an error occurs while updating the device
position
     */
    public CompletableFuture<BatchUpdateDevicePositionResponse>
updateDevicePosition(String trackerName, String deviceId) {
        double latitude = 37.7749;  // Example: San Francisco
        double longitude = -122.4194;

        DevicePositionUpdate positionUpdate = DevicePositionUpdate.builder()
            .deviceId(deviceId)
            .sampleTime(Instant.now()) // Timestamp of position update.
            .position(Arrays.asList(longitude, latitude)) // AWS requires
[longitude, latitude]
            .build();

        BatchUpdateDevicePositionRequest request =
BatchUpdateDevicePositionRequest.builder()
            .trackerName(trackerName)
            .updates(positionUpdate)
            .build();

        CompletableFuture<BatchUpdateDevicePositionResponse> futureResponse =
getClient().batchUpdateDevicePosition(request);
        return futureResponse.whenComplete((response, exception) -> {
            if (exception != null) {
                Throwable cause = exception.getCause();
                if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                    throw new CompletionException("The resource was not found: " +
cause.getMessage(), cause);
                } else {
                    throw new CompletionException("Error updating device position: "
+ exception.getMessage(), exception);
                }
            }
        });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「BatchUpdateDevicePosition」を参照してください。

`CalculateRoute`

次のコード例は、`CalculateRoute` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Calculates the distance between two locations asynchronously.
    *
    * @param routeCalcName the name of the route calculator to use
    * @return a {@link CompletableFuture} that will complete with a {@link
CalculateRouteResponse} containing the distance and estimated duration of the route
    */
   public CompletableFuture<CalculateRouteResponse> calcDistanceAsync(String
routeCalcName) {
       // Define coordinates for Seattle, WA and Vancouver, BC.
       List<Double> departurePosition = Arrays.asList(-122.3321, 47.6062);
       List<Double> arrivePosition = Arrays.asList(-123.1216, 49.2827);

       CalculateRouteRequest request = CalculateRouteRequest.builder()
           .calculatorName(routeCalcName)
           .departurePosition(departurePosition)
           .destinationPosition(arrivePosition)
           .travelMode("Car") // Options: Car, Truck, Walking, Bicycle
           .distanceUnit("Kilometers") // Options: Meters, Kilometers, Miles
           .build();

       return getClient().calculateRoute(request)
           .whenComplete((response, exception) -> {
               if (exception != null) {
                   Throwable cause = exception.getCause();
                   if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                       throw new CompletionException("The AWS resource was not
found: " + cause.getMessage(), cause);
                   }
```

```
                    throw new CompletionException("Failed to calculate route: " +
exception.getMessage(), exception);
                }
            });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CalculateRoute」を参照してください。

`CreateGeofenceCollection`

次のコード例は、`CreateGeofenceCollection` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Creates a new geofence collection.
     *
     * @param collectionName the name of the geofence collection to be created
     */
    public CompletableFuture<String> createGeofenceCollection(String collectionName)
{
        CreateGeofenceCollectionRequest collectionRequest =
CreateGeofenceCollectionRequest.builder()
            .collectionName(collectionName)
            .description("Created by using the AWS SDK for Java")
            .build();

        return getClient().createGeofenceCollection(collectionRequest)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof ConflictException) {
```

```
                        throw new CompletionException("The geofence collection was
not created due to ConflictException.", cause);
                    }
                    throw new CompletionException("Failed to create geofence
collection: " + exception.getMessage(), exception);
                }
            })
            .thenApply(response -> response.collectionArn()); // Return only the ARN
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateGeofenceCollection」を参照してください。

`CreateKey`

次のコード例は、`CreateKey` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Creates a new API key with the specified name and restrictions.
     *
     * @param keyName the name of the API key to be created
     * @param mapArn  the Amazon Resource Name (ARN) of the map resource to which
the API key will be associated
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes with the Amazon Resource
Name (ARN) of the created API key,
     * or {@code null} if the operation failed
     */
    public CompletableFuture<String> createKey(String keyName, String mapArn) {
        ApiKeyRestrictions keyRestrictions = ApiKeyRestrictions.builder()
```

```
            .allowActions("geo:GetMap*")
            .allowResources(mapArn)
            .build();

        CreateKeyRequest request = CreateKeyRequest.builder()
            .keyName(keyName)
            .restrictions(keyRestrictions)
            .noExpiry(true)
            .build();

        return getClient().createKey(request)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof AccessDeniedException) {
                        throw new CompletionException("The request was denied
because of insufficient access or permissions.", cause);
                    }
                    throw new CompletionException("Failed to create API key: " +
exception.getMessage(), exception);
                }
            })
            .thenApply(response -> response.keyArn()); // This will never return
null if the response reaches here
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateKey」を参照してください。

`CreateMap`

次のコード例は、`CreateMap` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Creates a new map with the specified name and configuration.
    *
    * @param mapName the name of the map to be created
    * @return a {@link CompletableFuture} that, when completed, will contain the
Amazon Resource Name (ARN) of the created map
    * @throws CompletionException if an error occurs while creating the map, such
as exceeding the service quota
    */
   public CompletableFuture<String> createMap(String mapName) {
       MapConfiguration configuration = MapConfiguration.builder()
           .style("VectorEsriNavigation")
           .build();

       CreateMapRequest mapRequest = CreateMapRequest.builder()
           .mapName(mapName)
           .configuration(configuration)
           .description("A map created using the Java V2 API")
           .build();

       return getClient().createMap(mapRequest)
           .whenComplete((response, exception) -> {
               if (exception != null) {
                   Throwable cause = exception.getCause();
                   if (cause instanceof ServiceQuotaExceededException) {
                       throw new CompletionException("The operation was denied
because the request would exceed the maximum quota.", cause);
                   }
                   throw new CompletionException("Failed to create map: " +
exception.getMessage(), exception);
               }
           })
           .thenApply(response -> response.mapArn()); // Return the map ARN
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateMap」を参照してください。

`CreateRouteCalculator`

次のコード例は、`CreateRouteCalculator` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Creates a new route calculator with the specified name and data source.
    *
    * @param routeCalcName the name of the route calculator to be created
    */
   public CompletableFuture<CreateRouteCalculatorResponse>
createRouteCalculator(String routeCalcName) {
       String dataSource = "Esri"; // or "Here"
       CreateRouteCalculatorRequest request =
CreateRouteCalculatorRequest.builder()
           .calculatorName(routeCalcName)
           .dataSource(dataSource)
           .build();

       return getClient().createRouteCalculator(request)
           .whenComplete((response, exception) -> {
               if (exception != null) {
                   Throwable cause = exception.getCause();
                   if (cause instanceof ConflictException) {
                       throw new CompletionException("A conflict error occurred: "
+ cause.getMessage(), cause);
                   }
                   throw new CompletionException("Failed to create route
calculator: " + exception.getMessage(), exception);
               }
           });
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateRouteCalculator」を参照してください。

`CreateTracker`

次のコード例は、`CreateTracker` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Creates a new tracker resource in your AWS account, which you can use to
track the location of devices.
    *
    * @param trackerName the name of the tracker to be created
    * @return a {@link CompletableFuture} that, when completed, will contain the
Amazon Resource Name (ARN) of the created tracker
    */
   public CompletableFuture<String> createTracker(String trackerName) {
       CreateTrackerRequest trackerRequest = CreateTrackerRequest.builder()
           .description("Created using the Java V2 SDK")
           .trackerName(trackerName)
           .positionFiltering("TimeBased") // Options: TimeBased, DistanceBased,
AccuracyBased
           .build();

       return getClient().createTracker(trackerRequest)
           .whenComplete((response, exception) -> {
               if (exception != null) {
                   Throwable cause = exception.getCause();
                   if (cause instanceof ConflictException) {
                       throw new CompletionException("Conflict occurred while
creating tracker: " + cause.getMessage(), cause);
                   }
                   throw new CompletionException("Error creating tracker: " +
exception.getMessage(), exception);
```

```
                }
            })
            .thenApply(CreateTrackerResponse::trackerArn); // Return only the
tracker ARN
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateTracker」を参照してください。

`DeleteGeofenceCollection`

次のコード例は、`DeleteGeofenceCollection` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Deletes a geofence collection asynchronously.
     *
     * @param collectionName the name of the geofence collection to be deleted
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the geofence
collection has been deleted
     */
    public CompletableFuture<Void> deleteGeofenceCollectionAsync(String
collectionName) {
        DeleteGeofenceCollectionRequest collectionRequest =
DeleteGeofenceCollectionRequest.builder()
            .collectionName(collectionName)
            .build();

        return getClient().deleteGeofenceCollection(collectionRequest)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
```

```
                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                        throw new CompletionException("The requested geofence
collection was not found.", cause);
                    }
                    throw new CompletionException("Failed to delete geofence
collection: " + exception.getMessage(), exception);
                }
                logger.info("The geofence collection {} was deleted.",
collectionName);
            })
            .thenApply(response -> null);
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteGeofenceCollection」を参照してください。

`DeleteKey`

次のコード例は、`DeleteKey` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Deletes the specified key from the key-value store.
     *
     * @param keyName the name of the key to be deleted
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the key has been
deleted
     * @throws CompletionException if the key was not found or if an error occurred
during the deletion process
     */
```

```
    public CompletableFuture<Void> deleteKey(String keyName) {
        DeleteKeyRequest keyRequest = DeleteKeyRequest.builder()
            .keyName(keyName)
            .build();

        return getClient().deleteKey(keyRequest)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                        throw new CompletionException("The key was not found.",
cause);
                    }
                    throw new CompletionException("Failed to delete key: " +
exception.getMessage(), exception);
                }
                logger.info("The key {} was deleted.", keyName);
            })
            .thenApply(response -> null);
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteKey」を参照してください。

`DeleteMap`

次のコード例は、DeleteMap を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Deletes a map with the specified name.
     *
```

```
     * @param mapName the name of the map to be deleted
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the map deletion is
successful, or throws a {@link CompletionException} if an error occurs
     */
    public CompletableFuture<Void> deleteMap(String mapName) {
        DeleteMapRequest mapRequest = DeleteMapRequest.builder()
            .mapName(mapName)
            .build();

        return getClient().deleteMap(mapRequest)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                        throw new CompletionException("The map was not found.",
cause);
                    }
                    throw new CompletionException("Failed to delete map: " +
exception.getMessage(), exception);
                }
                logger.info("The map {} was deleted.", mapName);
            })
            .thenApply(response -> null);
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteMap」を参照してください。

`DeleteRouteCalculator`

次のコード例は、`DeleteRouteCalculator` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Deletes a route calculator from the system.
    *
    * @param calcName the name of the route calculator to delete
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the route calculator
has been deleted
    * @throws CompletionException if an error occurs while deleting the route
calculator
    *                             - If the route calculator was not found, a {@link
ResourceNotFoundException} will be thrown
    *                             - If any other error occurs, a generic {@link
CompletionException} will be thrown
    */
   public CompletableFuture<Void> deleteRouteCalculator(String calcName) {
       DeleteRouteCalculatorRequest calculatorRequest =
DeleteRouteCalculatorRequest.builder()
           .calculatorName(calcName)
           .build();

       return getClient().deleteRouteCalculator(calculatorRequest)
           .whenComplete((response, exception) -> {
               if (exception != null) {
                   Throwable cause = exception.getCause();
                   if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                       throw new CompletionException("The route calculator was not
found.", cause);
                   }
                   throw new CompletionException("Failed to delete the route
calculator: " + exception.getMessage(), exception);
               }
               logger.info("The route calculator {} was deleted.", calcName);
           })
           .thenApply(response -> null);
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteRouteCalculator」を参照してください。

DeleteTracker

次のコード例は、DeleteTracker を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Deletes a tracker with the specified name.
    *
    * @param trackerName the name of the tracker to be deleted
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the tracker has been
deleted
    * @throws CompletionException if an error occurs while deleting the tracker
    *                             - if the tracker was not found, a {@link
ResourceNotFoundException} is thrown wrapped in the CompletionException
    *                             - if any other error occurs, a generic
CompletionException is thrown with the error message
    */
   public CompletableFuture<Void> deleteTracker(String trackerName) {
       DeleteTrackerRequest trackerRequest = DeleteTrackerRequest.builder()
           .trackerName(trackerName)
           .build();

       return getClient().deleteTracker(trackerRequest)
           .whenComplete((response, exception) -> {
               if (exception != null) {
                   Throwable cause = exception.getCause();
                   if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                       throw new CompletionException("The tracker was not found.",
cause);
                   }
                   throw new CompletionException("Failed to delete the tracker: " +
exception.getMessage(), exception);
               }
               logger.info("The tracker {} was deleted.", trackerName);
           })
```

```
            .thenApply(response -> null); // Ensures CompletableFuture<Void>
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteTracker」を参照してください。

GetDevicePosition

次のコード例は、GetDevicePosition を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Retrieves the position of a device using the provided LocationClient.
     *
     * @param trackerName The name of the tracker associated with the device.
     * @param deviceId    The ID of the device to retrieve the position for.
     * @throws RuntimeException If there is an error fetching the device position.
     */
    public CompletableFuture<GetDevicePositionResponse> getDevicePosition(String
trackerName, String deviceId) {
        GetDevicePositionRequest request = GetDevicePositionRequest.builder()
            .trackerName(trackerName)
            .deviceId(deviceId)
            .build();

        return getClient().getDevicePosition(request)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                        throw new CompletionException("The AWS resource was not
found: " + cause.getMessage(), cause);
```

```
                    }
                    throw new CompletionException("Error fetching device position: "
+ exception.getMessage(), exception);
                }
            });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetDevicePosition」を参照してください。

PutGeofence

次のコード例は、PutGeofence を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Adds a new geofence to the specified collection.
     *
     * @param collectionName the name of the geofence collection to add the geofence
to
     * @param geoId          the unique identifier for the geofence
     */
    public CompletableFuture<PutGeofenceResponse> putGeofence(String collectionName,
String geoId) {
        // Define the geofence geometry (polygon).
        GeofenceGeometry geofenceGeometry = GeofenceGeometry.builder()
            .polygon(List.of(
                List.of(
                    List.of(-122.3381, 47.6101), // First point
                    List.of(-122.3281, 47.6101),
                    List.of(-122.3281, 47.6201),
                    List.of(-122.3381, 47.6201),
```

```
                    List.of(-122.3381, 47.6101) // Closing the polygon
                )
            ))
            .build();

        PutGeofenceRequest geofenceRequest = PutGeofenceRequest.builder()
            .collectionName(collectionName) // Specify the collection.
            .geofenceId(geoId) // Unique ID for the geofence.
            .geometry(geofenceGeometry)
            .build();

        return getClient().putGeofence(geofenceRequest)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof ValidationException) {
                        throw new CompletionException("Validation error while
creating geofence: " + cause.getMessage(), cause);
                    }
                    throw new CompletionException("Error creating geofence: " +
exception.getMessage(), exception);
                }
            });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「PutGeofence」を参照してください。

SDK を使用した Location Service Places の例

次のコード例は、Location Service Places AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- アクション

アクション

`ReverseGeocode`

次のコード例は、ReverseGeocode を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Performs reverse geocoding using the AWS Geo Places API.
    * Reverse geocoding is the process of converting geographic coordinates
(latitude and longitude) to a human-readable address.
    * This method uses the latitude and longitude of San Francisco as the input,
and prints the resulting address.
    */
   public CompletableFuture<ReverseGeocodeResponse> reverseGeocode() {
       double latitude = 37.7749;  // San Francisco
       double longitude = -122.4194;
       logger.info("Use latitude 37.7749 and longitude -122.4194");

       // AWS expects [longitude, latitude].
       List<Double> queryPosition = List.of(longitude, latitude);
       ReverseGeocodeRequest request = ReverseGeocodeRequest.builder()
           .queryPosition(queryPosition)
           .build();
       CompletableFuture<ReverseGeocodeResponse> futureResponse =
           getGeoPlacesClient().reverseGeocode(request);

       return futureResponse.whenComplete((response, exception) -> {
           if (exception != null) {
               Throwable cause = exception.getCause();
               if (cause instanceof
software.amazon.awssdk.services.geoplaces.model.ValidationException) {
```

```
                    throw new CompletionException("A validation error occurred: " +
cause.getMessage(), cause);
                }
                throw new CompletionException("Error performing reverse geocoding",
exception);
            }

            response.resultItems().forEach(result ->
                logger.info("The address is: " + result.address().label())
            );
        });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ReverseGeocode」を参照してください。

`SearchNearby`

次のコード例は、SearchNearby を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Performs a nearby places search based on the provided geographic coordinates
(latitude and longitude).
     * The method sends an asynchronous request to search for places within a 1-
kilometer radius of the specified location.
     * The results are processed and printed once the search completes successfully.
     */
    public CompletableFuture<SearchNearbyResponse> searchNearBy() {
        double latitude = 37.7749;  // San Francisco
        double longitude = -122.4194;
        List<Double> queryPosition = List.of(longitude, latitude);
```

```
        // Set up the request for searching nearby places.
        SearchNearbyRequest request = SearchNearbyRequest.builder()
            .queryPosition(queryPosition)  // Set the position
            .queryRadius(1000L)  // Radius in meters (1000 meters = 1 km).
            .build();

        return getGeoPlacesClient().searchNearby(request)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof
software.amazon.awssdk.services.geoplaces.model.ValidationException) {
                        throw new CompletionException("A validation error occurred:
" + cause.getMessage(), cause);
                    }
                    throw new CompletionException("Error performing place search",
exception);
                }

                // Process the response and print the results.
                response.resultItems().forEach(result -> {
                    logger.info("Place Name: " + result.placeType().name());
                    logger.info("Address: " + result.address().label());
                    logger.info("Distance: " + result.distance() + " meters");
                    logger.info("-------------------------");
                });
            });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「SearchNearby」を参照してください。

SearchText

次のコード例は、SearchText を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Searches for a place using the provided search query and prints the detailed
information of the first result.
    *
    * @param searchQuery the search query to be used for the place search (ex,
coffee shop)
    */
   public CompletableFuture<Void> searchText(String searchQuery) {
       double latitude = 37.7749;  // San Francisco
       double longitude = -122.4194;
       List<Double> queryPosition = List.of(longitude, latitude);

       SearchTextRequest request = SearchTextRequest.builder()
               .queryText(searchQuery)
               .biasPosition(queryPosition)
               .build();

       return getGeoPlacesClient().searchText(request)
               .thenCompose(response -> {
                   if (response.resultItems().isEmpty()) {
                       logger.info("No places found.");
                       return CompletableFuture.completedFuture(null);
                   }

                   // Get the first place ID
                   String placeId = response.resultItems().get(0).placeId();
                   logger.info("Found Place with id: " + placeId);

                   // Fetch detailed info using getPlace
                   GetPlaceRequest getPlaceRequest = GetPlaceRequest.builder()
                           .placeId(placeId)
                           .build();
```

```
                    return getGeoPlacesClient().getPlace(getPlaceRequest)
                            .thenAccept(placeResponse -> {
                                logger.info("Detailed Place Information:");
                                logger.info("Name: " +
 placeResponse.placeType().name());
                                logger.info("Address: " +
 placeResponse.address().label());

                                if (placeResponse.foodTypes() != null && !
placeResponse.foodTypes().isEmpty()) {
                                    logger.info("Food Types:");
                                    placeResponse.foodTypes().forEach(foodType -> {
                                        logger.info("  - " + foodType);
                                    });
                                } else {
                                    logger.info("No food types available.");
                                }
                                logger.info("------------------------");
                            });
                })
                .exceptionally(exception -> {
                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof
 software.amazon.awssdk.services.geoplaces.model.ValidationException) {
                        throw new CompletionException("A validation error occurred:
 " + cause.getMessage(), cause);
                    }
                    throw new CompletionException("Error performing place search",
 exception);
                });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「SearchText」を参照してください。

AWS Marketplace SDK for Java 2.x を使用したカタログ API の例

次のコード例は、 AWS Marketplace Catalog API AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- AMI 製品
- チャネルパートナーオファー
- コンテナ製品
- エンティティ
- Offers
- 製品
- 再販承認
- SaaS 製品
- Utilities

AMI 製品

既存の AMI 製品にディメンションを追加し、オファーの料金条件を更新する

次のコード例は、既存の AMI 製品にディメンションを追加し、オファーの料金条件を更新する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "AddDimensions",
```

```
            "Entity": {
                "Identifier": "prod-1111111111111",
                "Type": "AmiProduct@1.0"
            },
            "DetailsDocument": [
                {
                    "Key": "m7g.8xlarge",
                    "Description": "m7g.8xlarge",
                    "Name": "m7g.8xlarge",
                    "Types": [
                        "Metered"
                    ],
                    "Unit": "Hrs"
                }
            ]
        },
        {
            "ChangeType": "UpdatePricingTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "offer-1111111111111"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PricingModel": "Usage",
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "UsageBasedPricingTerm",
                        "CurrencyCode": "USD",
                        "RateCards": [
                            {
                                "RateCard": [
                                    {
                                        "DimensionKey": "m5.large",
                                        "Price": "0.15"
                                    },
                                    {
                                        "DimensionKey": "m7g.4xlarge",
                                        "Price": "0.45"
                                    },
                                    {
                                        "DimensionKey": "m7g.2xlarge",
                                        "Price": "0.45"
                                    },
                                    {
```

```
                                        "DimensionKey": "m7g.8xlarge",
                                        "Price": "0.55"
                                    }
                                ]
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

AMI 製品をデプロイするリージョンを追加する

次のコード例は、AMI 製品をデプロイするリージョンを追加する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "AddRegions",
            "Entity": {
                "Type": "AmiProduct@1.0",
                "Identifier": "prod-1111111111111"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Regions": [
```

```
                    "us-east-2",
                    "us-west-2"
                ]
            }
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

パブリックまたは制限付き AMI 製品と、時間単位の年間料金を使用するパブリックオファーを作成する

次のコード例は、パブリックまたは制限付き AMI 製品と、時間単位の年間料金を使用するパブリックオファーを作成する方法を示しています。この例では、標準またはカスタム EULA を作成します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "CreateProduct",
            "ChangeName": "CreateProductChange",
            "Entity": {
                "Type": "AmiProduct@1.0"
            },
            "DetailsDocument": {}
```

```
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateInformation",
            "Entity": {
                "Type": "AmiProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "ProductTitle": "Sample product",
                "ShortDescription": "Brief description",
                "LongDescription": "Detailed description",
                "Highlights": [
                    "Sample highlight"
                ],
                "SearchKeywords": [
                    "Sample keyword"
                ],
                "Categories": [
                    "Operating Systems"
                ],
                "LogoUrl": "https://s3.amazonaws.com/logos/sample.png",
                "VideoUrls": [
                    "https://sample.amazonaws.com/awsmp-video-1"
                ],
                "AdditionalResources": []
            }
        },
        {
            "ChangeType": "AddRegions",
            "Entity": {
                "Type": "AmiProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Regions": [
                    "us-east-1"
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "AddInstanceTypes",
            "Entity": {
                "Type": "AmiProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
```

```
            },
            "DetailsDocument": {
                "InstanceTypes": [
                    "t2.micro"
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "AddDeliveryOptions",
            "Entity": {
                "Type": "AmiProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Version": {
                    "VersionTitle": "Test AMI Version1.0",
                    "ReleaseNotes": "Test AMI Version"
                },
                "DeliveryOptions": [
                    {
                        "Details": {
                            "AmiDeliveryOptionDetails": {
                                "AmiSource": {
                                    "AmiId": "ami-1111111111111111",
                                    "AccessRoleArn":
"arn:aws:iam::111111111111:role/AWSMarketplaceAmiIngestion",
                                    "UserName": "ec2-user",
                                    "OperatingSystemName": "AMAZONLINUX",
                                    "OperatingSystemVersion": "10.0.14393",
                                    "ScanningPort": 22
                                },
                                "UsageInstructions": "Test AMI Version",
                                "RecommendedInstanceType": "t2.micro",
                                "SecurityGroups": [
                                    {
                                        "IpProtocol": "tcp",
                                        "IpRanges": [
                                            "0.0.0.0/0"
                                        ],
                                        "FromPort": 10,
                                        "ToPort": 22
                                    }
                                ]
                            }
```

```
                    }
                }
            ]
        }
    },
    {
        "ChangeType": "AddDimensions",
        "Entity": {
            "Type": "AmiProduct@1.0",
            "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
        },
        "DetailsDocument": [
            {
                "Key": "t2.micro",
                "Description": "t2.micro",
                "Name": "t2.micro",
                "Types": [
                    "Metered"
                ],
                "Unit": "Hrs"
            }
        ]
    },
    {
        "ChangeType": "UpdateTargeting",
        "Entity": {
            "Type": "AmiProduct@1.0",
            "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
        },
        "DetailsDocument": {
            "PositiveTargeting": {
                "BuyerAccounts": [
                    "111111111111",
                    "222222222222"
                ]
            }
        }
    },
    {
        "ChangeType": "ReleaseProduct",
        "Entity": {
            "Type": "AmiProduct@1.0",
            "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
        },
```

```
            "DetailsDocument": {}
        },
        {
            "ChangeType": "CreateOffer",
            "ChangeName": "CreateOfferChange",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0"
            },
            "DetailsDocument": {
                "ProductId": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateInformation",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Name": "Test public offer for AmiProduct using AWS Marketplace API
Reference Code",
                "Description": "Test public offer with hourly-annual pricing for
AmiProduct using AWS Marketplace API Reference Code"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdatePricingTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PricingModel": "Usage",
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "UsageBasedPricingTerm",
                        "CurrencyCode": "USD",
                        "RateCards": [
                            {
                                "RateCard": [
                                    {
                                        "DimensionKey": "t2.micro",
                                        "Price": "0.15"
                                    }
```

```
                            ]
                        }
                    ]
                },
                {
                    "Type": "ConfigurableUpfrontPricingTerm",
                    "CurrencyCode": "USD",
                    "RateCards": [
                        {
                            "Selector": {
                                "Type": "Duration",
                                "Value": "P365D"
                            },
                            "RateCard": [
                                {
                                    "DimensionKey": "t2.micro",
                                    "Price": "150"
                                }
                            ],
                            "Constraints": {
                                "MultipleDimensionSelection": "Allowed",
                                "QuantityConfiguration": "Allowed"
                            }
                        }
                    ]
                }
            ]
        }
    },
    {
        "ChangeType": "UpdateLegalTerms",
        "Entity": {
            "Type": "Offer@1.0",
            "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
        },
        "DetailsDocument": {
            "Terms": [
                {
                    "Type": "LegalTerm",
                    "Documents": [
                        {
                            "Type": "StandardEula",
                            "Version": "2022-07-14"
                        }
```

```
                        ]
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateSupportTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "SupportTerm",
                        "RefundPolicy": "Absolutely no refund, period."
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "ReleaseOffer",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

パブリックまたは制限付き AMI 製品と、時間単位の月額料金を使用するパブリックオファーを作成する

次のコード例は、パブリックまたは制限付き AMI 製品と、時間単位の月額料金を使用するパブリックオファーを作成する方法を示しています。この例では、標準またはカスタム EULA を作成します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "CreateProduct",
            "ChangeName": "CreateProductChange",
            "Entity": {
                "Type": "AmiProduct@1.0"
            },
            "DetailsDocument": {}
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateInformation",
            "Entity": {
                "Type": "AmiProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "ProductTitle": "Sample product",
                "ShortDescription": "Brief description",
                "LongDescription": "Detailed description",
                "Highlights": [
                    "Sample highlight"
                ],
                "SearchKeywords": [
                    "Sample keyword"
                ],
                "Categories": [
                    "Operating Systems"
                ],
                "LogoUrl": "https://s3.amazonaws.com/logos/sample.png",
```

```
                "VideoUrls": [
                    "https://sample.amazonaws.com/awsmp-video-1"
                ],
                "AdditionalResources": []
            }
        },
        {
            "ChangeType": "AddRegions",
            "Entity": {
                "Type": "AmiProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Regions": [
                    "us-east-1"
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "AddInstanceTypes",
            "Entity": {
                "Type": "AmiProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "InstanceTypes": [
                    "t2.micro"
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "AddDeliveryOptions",
            "Entity": {
                "Type": "AmiProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Version": {
                    "VersionTitle": "Test AMI Version1.0",
                    "ReleaseNotes": "Test AMI Version"
                },
                "DeliveryOptions": [
                    {
                        "Details": {
```

```
                            "AmiDeliveryOptionDetails": {
                                "AmiSource": {
                                    "AmiId": "ami-1111111111111111",
                                    "AccessRoleArn":
"arn:aws:iam::111111111111:role/AWSMarketplaceAmiIngestion",
                                    "UserName": "ec2-user",
                                    "OperatingSystemName": "AMAZONLINUX",
                                    "OperatingSystemVersion": "10.0.14393",
                                    "ScanningPort": 22
                                },
                                "UsageInstructions": "Test AMI Version",
                                "RecommendedInstanceType": "t2.micro",
                                "SecurityGroups": [
                                    {
                                        "IpProtocol": "tcp",
                                        "IpRanges": [
                                            "0.0.0.0/0"
                                        ],
                                        "FromPort": 10,
                                        "ToPort": 22
                                    }
                                ]
                            }
                        }
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "AddDimensions",
            "Entity": {
                "Type": "AmiProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": [
                {
                    "Key": "t2.micro",
                    "Description": "t2.micro",
                    "Name": "t2.micro",
                    "Types": [
                        "Metered"
                    ],
                    "Unit": "Hrs"
                }
```

```
            ]
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateTargeting",
            "Entity": {
                "Type": "AmiProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PositiveTargeting": {
                    "BuyerAccounts": [
                        "111111111111",
                        "222222222222"
                    ]
                }
            }
        },
        {
            "ChangeType": "ReleaseProduct",
            "Entity": {
                "Type": "AmiProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
        },
        {
            "ChangeType": "CreateOffer",
            "ChangeName": "CreateOfferChange",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0"
            },
            "DetailsDocument": {
                "ProductId": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateInformation",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Name": "Test public offer for AmiProduct using AWS Marketplace API
Reference Code",
```

```
                "Description": "Test public offer with hourly-monthly pricing for
AmiProduct using AWS Marketplace API Reference Code"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdatePricingTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PricingModel": "Usage",
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "UsageBasedPricingTerm",
                        "CurrencyCode": "USD",
                        "RateCards": [
                            {
                                "RateCard": [
                                    {
                                        "DimensionKey": "t2.micro",
                                        "Price": "0.15"
                                    }
                                ]
                            }
                        ]
                    },
                    {
                        "Type": "RecurringPaymentTerm",
                        "CurrencyCode": "USD",
                        "BillingPeriod": "Monthly",
                        "Price": "15.0"
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateLegalTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
```

```
                    {
                        "Type": "LegalTerm",
                        "Documents": [
                            {
                                "Type": "StandardEula",
                                "Version": "2022-07-14"
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateSupportTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "SupportTerm",
                        "RefundPolicy": "Absolutely no refund, period."
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "ReleaseOffer",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

パブリックまたは制限付き AMI 製品と、時間単位の料金を使用するパブリックオファーを作成する

次のコード例は、パブリックまたは制限付き AMI 製品と、時間単位の料金でパブリックオファーを作成する方法を示しています。この例では、標準またはカスタム EULA を作成します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "CreateProduct",
            "ChangeName": "CreateProductChange",
            "Entity": {
                "Type": "AmiProduct@1.0"
            },
            "DetailsDocument": {}
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateInformation",
            "Entity": {
                "Type": "AmiProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "ProductTitle": "Sample product",
                "ShortDescription": "Brief description",
                "LongDescription": "Detailed description",
                "Highlights": [
                    "Sample highlight"
                ],
                "SearchKeywords": [
                    "Sample keyword"
```

```
                ],
                "Categories": [
                    "Operating Systems"
                ],
                "LogoUrl": "https://s3.amazonaws.com/logos/sample.png",
                "VideoUrls": [
                    "https://sample.amazonaws.com/awsmp-video-1"
                ],
                "AdditionalResources": []
            }
        },
        {
            "ChangeType": "AddRegions",
            "Entity": {
                "Type": "AmiProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Regions": [
                    "us-east-1"
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "AddInstanceTypes",
            "Entity": {
                "Type": "AmiProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "InstanceTypes": [
                    "t2.micro"
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "AddDeliveryOptions",
            "Entity": {
                "Type": "AmiProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Version": {
                    "VersionTitle": "Test AMI Version1.0",
```

```
                    "ReleaseNotes": "Test AMI Version"
                },
                "DeliveryOptions": [
                    {
                        "Details": {
                            "AmiDeliveryOptionDetails": {
                                "AmiSource": {
                                    "AmiId": "ami-11111111111111111",
                                    "AccessRoleArn":
"arn:aws:iam::111111111111:role/AWSMarketplaceAmiIngestion",
                                    "UserName": "ec2-user",
                                    "OperatingSystemName": "AMAZONLINUX",
                                    "OperatingSystemVersion": "10.0.14393",
                                    "ScanningPort": 22
                                },
                                "UsageInstructions": "Test AMI Version",
                                "RecommendedInstanceType": "t2.micro",
                                "SecurityGroups": [
                                    {
                                        "IpProtocol": "tcp",
                                        "IpRanges": [
                                            "0.0.0.0/0"
                                        ],
                                        "FromPort": 10,
                                        "ToPort": 22
                                    }
                                ]
                            }
                        }
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "AddDimensions",
            "Entity": {
                "Type": "AmiProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": [
                {
                    "Key": "t2.micro",
                    "Description": "t2.micro",
                    "Name": "t2.micro",
```

```
                "Types": [
                    "Metered"
                ],
                "Unit": "Hrs"
            }
        ]
    },
    {
        "ChangeType": "UpdateTargeting",
        "Entity": {
            "Type": "AmiProduct@1.0",
            "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
        },
        "DetailsDocument": {
            "PositiveTargeting": {
                "BuyerAccounts": [
                    "111111111111",
                    "222222222222"
                ]
            }
        }
    },
    {
        "ChangeType": "ReleaseProduct",
        "Entity": {
            "Type": "AmiProduct@1.0",
            "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
        },
        "DetailsDocument": {}
    },
    {
        "ChangeType": "CreateOffer",
        "ChangeName": "CreateOfferChange",
        "Entity": {
            "Type": "Offer@1.0"
        },
        "DetailsDocument": {
            "ProductId": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
        }
    },
    {
        "ChangeType": "UpdateInformation",
        "Entity": {
            "Type": "Offer@1.0",
```

```
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Name": "Test public offer for AmiProduct using AWS Marketplace API
Reference Code",
                "Description": "Test public offer with hourly pricing for AmiProduct
using AWS Marketplace API Reference Code"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdatePricingTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PricingModel": "Usage",
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "UsageBasedPricingTerm",
                        "CurrencyCode": "USD",
                        "RateCards": [
                            {
                                "RateCard": [
                                    {
                                        "DimensionKey": "t2.micro",
                                        "Price": "0.15"
                                    }
                                ]
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateLegalTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
```

```
                        "Type": "LegalTerm",
                        "Documents": [
                            {
                                "Type": "StandardEula",
                                "Version": "2022-07-14"
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateSupportTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "SupportTerm",
                        "RefundPolicy": "Absolutely no refund, period."
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "ReleaseOffer",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

ドラフトパブリックオファーを使用してドラフト AMI 製品を作成する

次のコード例は、ドラフトパブリックオファーを使用してドラフト AMI 製品を作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "CreateProduct",
            "ChangeName": "CreateProductChange",
            "Entity": {
                "Type": "AmiProduct@1.0"
            },
            "DetailsDocument": {
                "ProductTitle": "Sample product"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "CreateOffer",
            "ChangeName": "CreateOfferChange",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0"
            },
            "DetailsDocument": {
                "ProductId": "$CreateProductChange.Entity.Identifier",
                "Name": "Test Offer"
            }
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

AMI 製品をデプロイするリージョンを制限する

次のコード例は、AMI 製品をデプロイするリージョンを制限する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "RestrictRegions",
            "Entity": {
                "Type": "AmiProduct@1.0",
                "Identifier": "prod-1111111111111"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Regions": [
                    "us-west-2"
                ]
            }
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

製品の可視性を制限する

次のコード例は、製品の可視性を制限する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "UpdateVisibility",
            "Entity": {
                "Type": "AmiProduct@1.0",
                "Identifier": "prod-1111111111111"
            },
            "DetailsDocument": {
                "TargetVisibility": "Restricted"
            }
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

AMI アセットを新しいリージョンにデプロイするかどうかを指定する

次のコード例は、将来のリージョンをサポートするために によって構築された新しいリージョン AWS に AMI アセットをデプロイするかどうかを指定する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "UpdateFutureRegionSupport",
            "Entity": {
                "Type": "AmiProduct@1.0",
                "Identifier": "prod-1111111111111"
            },
            "DetailsDocument": {
                "FutureRegionSupport": {
                    "SupportedRegions": [
                        "All"
                    ]
                }
            }
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

チャネルパートナーオファー

任意の製品タイプのドラフト CPPO を作成する

次のコード例は、購入者に公開する前に内部で確認できるように、任意の製品タイプのドラフト CPPO を作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "CreateOfferUsingResaleAuthorization",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0"
            },
            "DetailsDocument": {
                "ResaleAuthorizationId": "11111111-1111-1111-1111-111111111111",
                "Name": "Test Offer",
                "Description": "Test product"
            }
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

契約料金を使用する再販承認の代替プライベートオファーを作成する

次のコード例は、既存の契約から契約料金を使用する再販承認代替プライベートオファーを作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType" : "CreateReplacementOfferUsingResaleAuthorization",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0"
            },
            "ChangeName": "CreateReplacementOfferResaleAuth",
            "DetailsDocument": {
                "AgreementId": "agmt-11111111111111111111111",
                "ResaleAuthorizationId": "resaleauthz-1111111111111"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateInformation",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateReplacementOfferResaleAuth.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Name": "Test replacement offer for SaaSProduct using AWS
 Marketplace API Reference Codes",
                "Description": "Test private resale replacement offer with contract
 pricing for SaaSProduct"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdatePricingTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
```

```
                "Identifier": "$CreateReplacementOfferResaleAuth.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PricingModel": "Contract",
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "FixedUpfrontPricingTerm",
                        "CurrencyCode": "USD",
                        "Price": "0.0",
                        "Duration": "P12M",
                        "Grants": [
                            {
                                "DimensionKey": "BasicService",
                                "MaxQuantity": 2
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateValidityTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateReplacementOfferResaleAuth.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "ValidityTerm",
                        "AgreementEndDate": "2024-01-30"
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdatePaymentScheduleTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateReplacementOfferResaleAuth.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
```

```
                    "Type": "PaymentScheduleTerm",
                    "CurrencyCode": "USD",
                    "Schedule": [
                        {
                            "ChargeDate": "2024-01-01",
                            "ChargeAmount": "0"
                        }
                    ]
                }
            ]
        }
    },
    {
        "ChangeType": "UpdateLegalTerms",
        "Entity": {
            "Type": "Offer@1.0",
            "Identifier": "$CreateReplacementOfferResaleAuth.Entity.Identifier"
        },
        "DetailsDocument": {
            "Terms": [
                {
                    "Type": "LegalTerm",
                    "Documents": [
                        {
                            "Type": "StandardEula",
                            "Version": "2022-07-14"
                        }
                    ]
                }
            ]
        }
    },
    {
        "ChangeType": "UpdateAvailability",
        "Entity": {
            "Type": "Offer@1.0",
            "Identifier": "$CreateReplacementOfferResaleAuth.Entity.Identifier"
        },
        "DetailsDocument": {
            "AvailabilityEndDate": "2023-12-31"
        }
    },
    {
        "ChangeType": "ReleaseOffer",
```

```
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateReplacementOfferResaleAuth.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

チャネルパートナーが作成したすべての CPPO を一覧表示する

次のコード例は、チャネルパートナーが作成したすべての CPPO を一覧表示する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.catalogapi;

import java.util.ArrayList;
import java.util.List;

import static com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesConstants.*;
import com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesUtils;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.core.document.Document;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.MarketplaceCatalogClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.DescribeEntityRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.DescribeEntityResponse;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.EntitySummary;
import software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.ListEntitiesRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.ListEntitiesResponse;

public class ListAllCppoOffers {

 /*
  * List all CPPOs created by a channel partner
  */
 public static void main(String[] args) {

  List<String> cppoOfferIds = getAllCppoOfferIds();

  ReferenceCodesUtils.formatOutput(cppoOfferIds);
 }

 public static List<String> getAllCppoOfferIds() {
  MarketplaceCatalogClient marketplaceCatalogClient =
    MarketplaceCatalogClient.builder()
    .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
    .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
    .build();

  // get all offer entity ids
  List<String> entityIdList = new ArrayList<String>();

  ListEntitiesRequest listEntitiesRequest =
    ListEntitiesRequest.builder()
    .catalog(AWS_MP_CATALOG)
    .entityType(ENTITY_TYPE_OFFER)
    .maxResults(10)
    .nextToken(null)
    .build();

  ListEntitiesResponse listEntitiesResponse =
 marketplaceCatalogClient.listEntities(listEntitiesRequest);

  for (EntitySummary entitySummary : listEntitiesResponse.entitySummaryList()) {
   entityIdList.add(entitySummary.entityId());
  }

  while (listEntitiesResponse.nextToken() != null) {
   listEntitiesRequest =
```

```
      ListEntitiesRequest.builder()
      .catalog(AWS_MP_CATALOG)
      .entityType(ENTITY_TYPE_OFFER)
      .maxResults(10)
      .nextToken(listEntitiesResponse.nextToken())
      .build();
    listEntitiesResponse =
  marketplaceCatalogClient.listEntities(listEntitiesRequest);

    for (EntitySummary entitySummary : listEntitiesResponse.entitySummaryList()) {
     entityIdList.add(entitySummary.entityId());
    }
   }

   // filter for CPPO offers: ResaleAuthorizationId exists in Details

   List<String> cppoOfferIds = new ArrayList<String>();

   for (String entityId : entityIdList) {
    DescribeEntityRequest describeEntityRequest =
      DescribeEntityRequest.builder()
      .catalog(AWS_MP_CATALOG)
      .entityId(entityId)
      .build();
    DescribeEntityResponse describeEntityResponse =
  marketplaceCatalogClient.describeEntity(describeEntityRequest);

    Document resaleAuthorizationDocument =
  describeEntityResponse.detailsDocument().asMap().get(ATTRIBUTE_RESALE_AUTHORIZATION_ID);
    String resaleAuthorizationId = resaleAuthorizationDocument != null ?
  resaleAuthorizationDocument.asString() : "";

    if (!resaleAuthorizationId.isEmpty()) {
        cppoOfferIds.add(resaleAuthorizationId);
    }
   }
   return cppoOfferIds;
  }

}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListEntities」を参照してください。

チャネルパートナーが利用できるすべての共有再販承認を一覧表示する

次のコード例は、チャネルパートナーが利用できるすべての共有再販承認を一覧表示する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.catalogapi;

import java.util.ArrayList;
import java.util.List;

import static com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesConstants.*;
import com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesUtils;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.MarketplaceCatalogClient;
import software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.ListEntitiesRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.ListEntitiesResponse;

public class ListAllSharedResaleAuthorizations {

 /*
  * list all resale authorizations shared to an account
  */
 public static void main(String[] args) {

  List<ListEntitiesResponse> responseList = getListEntityResponseList();
  ReferenceCodesUtils.formatOutput(responseList);
 }
```

```
 public static List<ListEntitiesResponse> getListEntityResponseList() {
  MarketplaceCatalogClient marketplaceCatalogClient =
    MarketplaceCatalogClient.builder()
    .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
    .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
    .build();

  List<ListEntitiesResponse> responseList = new ArrayList<ListEntitiesResponse>();

  ListEntitiesRequest listEntitiesRequest =
    ListEntitiesRequest.builder()
    .catalog(AWS_MP_CATALOG)
    .entityType(ENTITY_TYPE_RESALE_AUTHORIZATION)
    .maxResults(10)
    .ownershipType(OWNERSHIP_TYPE_SHARED)
    .nextToken(null)
    .build();

  ListEntitiesResponse listEntitiesResponse =
 marketplaceCatalogClient.listEntities(listEntitiesRequest);

  responseList.add(listEntitiesResponse);

  while (listEntitiesResponse.nextToken() != null) {
   listEntitiesRequest = ListEntitiesRequest.builder()
     .catalog(AWS_MP_CATALOG)
     .entityType(ENTITY_TYPE_RESALE_AUTHORIZATION)
     .maxResults(10)
     .ownershipType(OWNERSHIP_TYPE_SHARED)
     .nextToken(listEntitiesResponse.nextToken())
     .build();

   listEntitiesResponse =
 marketplaceCatalogClient.listEntities(listEntitiesRequest);

   responseList.add(listEntitiesResponse);
  }
  return responseList;
 }

}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListEntities」を参照してください。

CPPO を発行し、購入者の EULA を追加する

次のコード例は、CPPO を発行し、購入者の EULA を追加する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType" : "CreateOfferUsingResaleAuthorization",
            "Entity": {
            "Type": "Offer@1.0"
            },
            "ChangeName": "CreateCPPOoffer",
            "DetailsDocument": {
                "ResaleAuthorizationId":"resaleauthz-1111111111111",
                "Name": "Test Offer",
                "Description":"Test product"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateLegalTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateCPPOoffer.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
           {
```

```
                "Type": "LegalTerm",
                "Documents": [
                 {
                  "Type": "CustomEula",
                  "Url": "https://s3.amazonaws.com/sample-bucket/custom-eula.pdf"
                 }
                ]
            }
        ]
          }
         },
         {
             "ChangeType": "UpdateTargeting",
             "Entity": {
                 "Type": "Offer@1.0",
                 "Identifier": "$CreateCPPOoffer.Entity.Identifier"
             },
             "DetailsDocument": {
                 "PositiveTargeting": {
                     "BuyerAccounts": ["222222222222"]
                     }
             }
         },
         {
             "ChangeType": "UpdateAvailability",
             "Entity": {
                 "Type": "Offer@1.0",
                 "Identifier": "$CreateCPPOoffer.Entity.Identifier"
             },
             "DetailsDocument": {
                 "AvailabilityEndDate": "2023-07-31"
                 }
         },
         {
             "ChangeType": "UpdateValidityTerms",
             "Entity": {
                 "Type": "Offer@1.0",
                 "Identifier": "$CreateCPPOoffer.Entity.Identifier"
             },
             "DetailsDocument": {
                 "Terms": [
                     {
                         "Type": "ValidityTerm",
                         "AgreementDuration": "P450D"
```

```
                    }
                ]
             }
        },
        {
            "ChangeType":"ReleaseOffer",
            "Entity":{
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateCPPOoffer.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

1 回限りの再販承認を使用して CPPO を発行し、価格マークアップを更新する

次のコード例は、AMI、SaaS、またはコンテナ製品に対して、1 回限りの再販売承認を使用して CPPO を発行し、価格のマークアップを更新する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType" : "CreateOfferUsingResaleAuthorization",
            "Entity": {
            "Type": "Offer@1.0"
```

```
            },
            "ChangeName": "CreateCPPOoffer",
            "DetailsDocument": {
                "ResaleAuthorizationId":"resaleauthz-1111111111111",
                "Name": "Test Offer",
                "Description":"Test product"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateMarkup",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateCPPOoffer.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Percentage" : "5.0"
        }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateTargeting",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateCPPOoffer.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PositiveTargeting": {
                    "BuyerAccounts": ["222222222222"]
                    }
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateAvailability",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateCPPOoffer.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "AvailabilityEndDate": "2023-07-31"
                }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateValidityTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
```

```
                "Identifier": "$CreateCPPOoffer.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "ValidityTerm",
                        "AgreementDuration": "P450D"
                    }
                ]
             }
        },
        {
            "ChangeType":"ReleaseOffer",
            "Entity":{
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateCPPOoffer.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

ドラフト CPPO を発行し、価格マークアップを更新する

次のコード例は、ドラフト CPPO を発行し、価格マークアップを更新する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
```

```
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType" : "CreateOfferUsingResaleAuthorization",
            "Entity": {
            "Type": "Offer@1.0"
            },
            "ChangeName": "CreateCPPOoffer",
            "DetailsDocument": {
                "ResaleAuthorizationId":"resaleauthz-1111111111111",
                "Name": "Test Offer",
                "Description":"Test product"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateMarkup",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateCPPOoffer.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Percentage" : "5.0"
        }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateTargeting",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateCPPOoffer.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PositiveTargeting": {
                    "BuyerAccounts": ["222222222222"]
                    }
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateAvailability",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateCPPOoffer.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "AvailabilityEndDate": "2023-07-31"
                }
```

```
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateValidityTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateCPPOoffer.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "ValidityTerm",
                        "AgreementDuration": "P450D"
                    }
                ]
             }
        },
        {
            "ChangeType":"ReleaseOffer",
            "Entity":{
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateCPPOoffer.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

CPPO の有効期限を更新する

次のコード例は、CPPO の有効期限を更新して、購入者がオファーを評価して承諾する時間を延長する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "UpdateAvailability",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "offer-1111111111111"
            },
            "DetailsDocument": {
                "AvailabilityEndDate": "2025-07-31"
                }
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

コンテナ製品

ドラフトパブリックオファーを使用するドラフトコンテナ製品を作成する

次のコード例は、ドラフトパブリックオファーを使用するドラフトコンテナ製品を作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
```

```
    "Catalog":"AWSMarketplace",
    "changeSet":[
        {
            "ChangeType": "CreateProduct",
            "ChangeName": "CreateProductChange",
            "Entity": {
                "Type": "ContainerProduct@1.0"
            },
            "DetailsDocument": {
                "ProductTitle": "Sample product"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "CreateOffer",
            "ChangeName": "CreateOfferChange",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0"
            },
            "DetailsDocument": {
                "ProductId": "$CreateProductChange.Entity.Identifier",
                "Name": "Test Offer"
            }
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

パブリックオファーと契約料金を使用する制限付きコンテナ製品を作成する

次のコード例は、パブリックオファー、契約料金、標準 EULA を使用する制限付きコンテナ製品を作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "CreateProduct",
            "Entity": {
                "Type": "ContainerProduct@1.0"
            },
            "DetailsDocument": {},
            "ChangeName": "CreateProductChange"
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateInformation",
            "Entity": {
                "Type": "ContainerProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "LogoUrl": "https://s3.amazonaws.com/logos/sample.png",
                "Categories": [
                    "Streaming solutions"
                ],
                "ProductTitle": "ContainerProduct",
                "AdditionalResources": [],
                "LongDescription": "Long description goes here",
                "SearchKeywords": [
                    "container streaming"
                ],
                "ShortDescription": "Description1",
                "Highlights": [
                    "Highlight 1",
                    "Highlight 2"
                ],
                "SupportDescription": "No support available",
                "VideoUrls": []
            }
        },
        {
            "ChangeType": "AddDimensions",
            "Entity": {
```

```
                "Type": "ContainerProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": [
                {
                    "Key": "Cores",
                    "Description": "Cores per cluster",
                    "Name": "Cores",
                    "Types": [
                        "Entitled"
                    ],
                    "Unit": "Units"
                }
            ]
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateTargeting",
            "Entity": {
                "Type": "ContainerProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PositiveTargeting": {
                    "BuyerAccounts": [
                        "111111111111"
                    ]
                }
            }
        },
        {
            "ChangeType": "AddRepositories",
            "Entity": {
                "Type": "ContainerProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Repositories": [
                    {
                        "RepositoryName": "uniquerepositoryname",
                        "RepositoryType": "ECR"
                    }
                ]
            }
        },
```

```
        {
            "ChangeType": "ReleaseProduct",
            "Entity": {
                "Type": "ContainerProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
        },
        {
            "ChangeType": "CreateOffer",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0"
            },
            "DetailsDocument": {
                "ProductId": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "ChangeName": "CreateOfferChange"
        },
        {
            "ChangeType": "UpdatePricingTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PricingModel": "Contract",
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "ConfigurableUpfrontPricingTerm",
                        "CurrencyCode": "USD",
                        "RateCards": [
                            {
                                "Selector": {
                                    "Type": "Duration",
                                    "Value": "P12M"
                                },
                                "Constraints": {
                                    "MultipleDimensionSelection": "Disallowed",
                                    "QuantityConfiguration": "Disallowed"
                                },
                                "RateCard": [
                                    {
                                        "DimensionKey": "Cores",
                                        "Price": "0.25"
```

```
                                }
                            ]
                        }
                    ]
                }
            ]
        }
    },
    {
        "ChangeType": "UpdateLegalTerms",
        "Entity": {
            "Type": "Offer@1.0",
            "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
        },
        "DetailsDocument": {
            "Terms": [
                {
                    "Type": "LegalTerm",
                    "Documents": [
                        {
                            "Type": "StandardEula",
                            "Version": "2022-07-14"
                        }
                    ]
                }
            ]
        }
    },
    {
        "ChangeType": "UpdateSupportTerms",
        "Entity": {
            "Type": "Offer@1.0",
            "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
        },
        "DetailsDocument": {
            "Terms": [
                {
                    "Type": "SupportTerm",
                    "RefundPolicy": "No refunds"
                }
            ]
        }
    },
    {
```

```
            "ChangeType": "UpdateInformation",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Name": "Some container offer Name",
                "Description": "Some interesting container offer description"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateRenewalTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "RenewalTerm"
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "ReleaseOffer",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

エンティティ

1 回の呼び出しですべてのエンティティを記述する

次のコード例は、1 回の呼び出しですべてのエンティティを記述する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.catalogapi;

import static com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesConstants.*;
import com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesUtils;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.MarketplaceCatalogClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.BatchDescribeEntitiesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.EntityRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.BatchDescribeEntitiesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.EntityDetail;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.BatchDescribeErrorDetail;

import java.util.Arrays;
import java.util.Map;

public class BatchDescribeEntities {

    /*
     * BatchDescribe my entities in a single call and
     *  check if it contains all the information I need to know about the entities.
     */
    public static void main(String[] args) {
```

```
        MarketplaceCatalogClient marketplaceCatalogClient =
                MarketplaceCatalogClient.builder()
                        .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
                        .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
                        .build();

        BatchDescribeEntitiesRequest batchDescribeEntitiesRequest =
                BatchDescribeEntitiesRequest.builder()
                        .entityRequestList(Arrays.asList(
                                EntityRequest.builder()
                                        .catalog(AWS_MP_CATALOG).entityId(OFFER_ID)
                                        .build(),
                                EntityRequest.builder()

 .catalog(AWS_MP_CATALOG).entityId(PRODUCT_ID)
                                        .build()))
                        .build();

        BatchDescribeEntitiesResponse batchDescribeEntitiesResponse =
 marketplaceCatalogClient.batchDescribeEntities(batchDescribeEntitiesRequest);

        // Reading the successful entities response
        Map<String, EntityDetail> entityDetailsMap =
 batchDescribeEntitiesResponse.entityDetails();
        for (Map.Entry<String, EntityDetail> entry : entityDetailsMap.entrySet()) {
            System.out.println("EntityId: " + entry.getKey());
            ReferenceCodesUtils.formatOutput(entry.getValue());
        }

        // Logging the failed entities error details
        Map<String, BatchDescribeErrorDetail> entityErrorsMap =
 batchDescribeEntitiesResponse.errors();
        for (Map.Entry<String, BatchDescribeErrorDetail> entry :
 entityErrorsMap.entrySet()) {
            System.out.println(String.format("EntityId: %s, ErrorCode: %s,
 ErrorMessage: %s", entry.getKey(),
                    entry.getValue().errorCode(), entry.getValue().errorMessage()));
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「BatchDescribeEntities」を参照してください。

製品に関連付けられたすべてのオファーを一覧表示して記述する

次のコード例は、製品に関連付けられているすべてのオファーを一覧表示して記述する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.catalogapi;

import java.util.ArrayList;
import java.util.List;

import static com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesConstants.*;
import com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesUtils;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.MarketplaceCatalogClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.DescribeEntityRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.DescribeEntityResponse;
import software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.EntitySummary;
import software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.EntityTypeFilters;
import software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.ListEntitiesRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.ListEntitiesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.OfferFilters;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.OfferProductIdFilter;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.OfferTargetingFilter;
```

```
public class ListProductPrivateOffers {

 private static MarketplaceCatalogClient marketplaceCatalogClient =
   MarketplaceCatalogClient.builder()
   .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
   .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
   .build();
 /*
  * retrieve all private offer information related to a single product
  */
 public static void main(String[] args) {

  List<EntitySummary> entitySummaryList = getEntitySummaryList();

  // for each offer id, output the offer detail using DescribeEntity API

  for (EntitySummary entitySummary : entitySummaryList) {
   DescribeEntityRequest describeEntityRequest =
     DescribeEntityRequest.builder()
     .catalog(AWS_MP_CATALOG)
     .entityId(entitySummary.entityId())
     .build();
   DescribeEntityResponse describeEntityResponse =
 marketplaceCatalogClient.describeEntity(describeEntityRequest);
   ReferenceCodesUtils.formatOutput(describeEntityResponse);
  }
 }
 public static List<EntitySummary> getEntitySummaryList() {
  // define list entities filters

  EntityTypeFilters entityTypeFilters =
    EntityTypeFilters.builder()
    .offerFilters(OfferFilters.builder()
      .targeting(OfferTargetingFilter.builder()
        .valueListWithStrings(OFFER_TARGETING_BUYERACCOUNTS)
        .build())
      .productId(OfferProductIdFilter.builder()
        .valueList(PRODUCT_ID)
        .build())
      .build())
    .build();

  ListEntitiesRequest listEntitiesRequest =
```

```
    ListEntitiesRequest.builder()
    .catalog(AWS_MP_CATALOG)
    .entityType(ENTITY_TYPE_OFFER).maxResults(50)
    .entityTypeFilters(entityTypeFilters)
    .nextToken(null)
    .build();

  ListEntitiesResponse listEntitiesResponse =
 marketplaceCatalogClient.listEntities(listEntitiesRequest);

  // save all entitySummary of the results into entitySummaryList

  List<EntitySummary> entitySummaryList = new ArrayList<EntitySummary>();

  entitySummaryList.addAll(listEntitiesResponse.entitySummaryList());

  while ( listEntitiesResponse.nextToken() != null &&
 listEntitiesResponse.nextToken().length() > 0) {
   listEntitiesRequest =
     ListEntitiesRequest.builder()
     .catalog(AWS_MP_CATALOG)
     .entityType(ENTITY_TYPE_OFFER).maxResults(50)
     .entityTypeFilters(entityTypeFilters)
     .nextToken(listEntitiesResponse.nextToken())
     .build();
   listEntitiesResponse =
 marketplaceCatalogClient.listEntities(listEntitiesRequest);
   entitySummaryList.addAll(listEntitiesResponse.entitySummaryList());
  }
  return entitySummaryList;
 }

}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - DescribeEntity
  - ListEntities

Offers

SaaS 製品のカスタムディメンションを作成し、プライベートオファーを作成する

次のコード例は、SaaS 製品のカスタムディメンションを作成し、プライベートオファーを作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "AddDimensions",
            "Entity": {
                "Type": "SaaSProduct@1.0",
                "Identifier": "prod-1111111111111"
            },
            "DetailsDocument": [
                {
                    "Types": [
                        "Entitled"
                    ],
                    "Description": "Custom Pricing 4 w/ terms and coverage to be
 defined in Private Offer",
                    "Unit": "Units",
                    "Key": "Custom4",
                    "Name": "Custom Pricing 4"
                }
            ]
        },
        {
            "ChangeType": "CreateOffer",
```

```
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0"
            },
            "DetailsDocument": {
                "ProductId": "prod-1111111111111"
            },
            "ChangeName": "CreateOfferChange"
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateInformation",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Name": "Private Test Offer - SaaS Contract Product",
                "Description": "Private Test Offer - SaaS Contract Product"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateTargeting",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PositiveTargeting": {
                    "BuyerAccounts": [
                        "111111111111"
                    ]
                }
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateLegalTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "LegalTerm",
                        "Documents": [
```

```
                        {
                            "Type": "StandardEula",
                            "Version": "2022-07-14"
                        }
                    ]
                }
            ]
        }
    },
    {
        "ChangeType": "UpdateAvailability",
        "Entity": {
            "Type": "Offer@1.0",
            "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
        },
        "DetailsDocument": {
            "AvailabilityEndDate": "2023-12-31"
        }
    },
    {
        "ChangeType": "UpdatePricingTerms",
        "Entity": {
            "Type": "Offer@1.0",
            "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
        },
        "DetailsDocument": {
            "PricingModel": "Contract",
            "Terms": [
                {
                    "Type": "ConfigurableUpfrontPricingTerm",
                    "CurrencyCode": "USD",
                    "RateCards": [
                        {
                            "Constraints": {
                                "MultipleDimensionSelection": "Allowed",
                                "QuantityConfiguration": "Allowed"
                            },
                            "RateCard": [
                                {
                                    "DimensionKey": "Custom4",
                                    "Price": "300.0"
                                }
                            ],
                            "Selector": {
```

```
                                "Type": "Duration",
                                "Value": "P36M"
                            }
                        }
                    ]
                }
            ]
        },
        {
            "ChangeType": "ReleaseOffer",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
        }
    ],
    "ChangeSetName": "PrivateOfferWithCustomDimension"
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

AMI または SaaS 製品のドラフトプライベートオファーを作成する

次のコード例は、購入者に公開する前に内部で確認するために、AMI または SaaS 製品のドラフトプライベートオファーを作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
```

```
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "CreateOffer",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0"
            },
            "DetailsDocument": {
                "ProductId": "prod-1111111111111",
                "Name": "Test Private Offer"
            }
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

契約料金と従量制料金を使用する、SaaS 製品向けのプライベートオファーを作成する

次のコード例は、契約料金と従量制料金を使用する、SaaS 製品のプライベートオファーを作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "CreateOffer",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0"
```

```
            },
            "ChangeName": "CreateOfferChange",
            "DetailsDocument": {
                "ProductId": "prod-1111111111111"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateInformation",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Name": "Test private offer for SaaSProduct using AWS Marketplace
API Reference Code",
                "Description": "Test private offer with subscription pricing for
SaaSProduct using AWS Marketplace API Reference Code"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateTargeting",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PositiveTargeting": {
                    "BuyerAccounts": [
                        "111111111111",
                        "222222222222"
                    ]
                }
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdatePricingTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PricingModel": "Contract",
                "Terms": [
                    {
```

```
                    "Type": "UsageBasedPricingTerm",
                    "CurrencyCode": "USD",
                    "RateCards": [
                        {
                            "RateCard": [
                                {
                                    "DimensionKey": "WorkloadSmall",
                                    "Price": "0.15"
                                },
                                {
                                    "DimensionKey": "WorkloadMedium",
                                    "Price": "0.25"
                                }
                            ]
                        }
                    ]
                },
                {
                    "Type": "ConfigurableUpfrontPricingTerm",
                    "CurrencyCode": "USD",
                    "RateCards": [
                        {
                            "Selector": {
                                "Type": "Duration",
                                "Value": "P12M"
                            },
                            "RateCard": [
                                {
                                    "DimensionKey": "BasicService",
                                    "Price": "150"
                                },
                                {
                                    "DimensionKey": "PremiumService",
                                    "Price": "300"
                                }
                            ],
                            "Constraints": {
                                "MultipleDimensionSelection": "Allowed",
                                "QuantityConfiguration": "Allowed"
                            }
                        }
                    ]
                }
            ]
```

```
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateLegalTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "LegalTerm",
                        "Documents": [
                            {
                                "Type": "CustomEula",
                                "Url": "https://s3.amazonaws.com/sample-bucket/
custom-eula.pdf"
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateAvailability",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "AvailabilityEndDate": "2023-12-31"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "ReleaseOffer",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

契約料金と柔軟な支払いスケジュールを使用する、SaaS 製品向けのプライベートオファーを作成する

次のコード例は、契約料金と柔軟な支払いスケジュールを使用する、SaaS 製品向けのプライベートオファーを作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "CreateOffer",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0"
            },
            "ChangeName": "CreateOfferChange",
            "DetailsDocument": {
                "ProductId": "prod-1111111111111"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateInformation",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
```

```
                "Name": "Test private offer for SaaSProduct using AWS Marketplace
API Reference Code",
                "Description": "Test private offer with subscription pricing for
SaaSProduct using AWS Marketplace API Reference Code"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateTargeting",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PositiveTargeting": {
                    "BuyerAccounts": [
                        "111111111111",
                        "222222222222"
                    ]
                }
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdatePricingTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PricingModel": "Contract",
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "FixedUpfrontPricingTerm",
                        "CurrencyCode": "USD",
                        "Price": "0.0",
                        "Grants": [
                            {
                                "DimensionKey": "BasicService",
                                "MaxQuantity": 1
                            },
                            {
                                "DimensionKey": "PremiumService",
                                "MaxQuantity": 1
                            }
                        ]
```

```
                }
            ]
        }
    },
    {
        "ChangeType": "UpdateValidityTerms",
        "Entity": {
            "Type": "Offer@1.0",
            "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
        },
        "DetailsDocument": {
            "Terms": [
                {
                    "Type": "ValidityTerm",
                    "AgreementDuration": "P12M"
                }
            ]
        }
    },
    {
        "ChangeType": "UpdatePaymentScheduleTerms",
        "Entity": {
            "Type": "Offer@1.0",
            "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
        },
        "DetailsDocument": {
            "Terms": [
                {
                    "Type": "PaymentScheduleTerm",
                    "CurrencyCode": "USD",
                    "Schedule": [
                        {
                            "ChargeDate": "2024-01-01",
                            "ChargeAmount": "200.00"
                        },
                        {
                            "ChargeDate": "2024-02-01",
                            "ChargeAmount": "170.00"
                        }
                    ]
                }
            ]
        }
    },
```

```
        {
            "ChangeType": "UpdateLegalTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "LegalTerm",
                        "Documents": [
                            {
                                "Type": "CustomEula",
                                "Url": "https://s3.amazonaws.com/sample-bucket/
custom-eula.pdf"
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateAvailability",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "AvailabilityEndDate": "2023-12-31"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "ReleaseOffer",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

契約料金を使用する、コンテナ製品向けのプライベートオファーを作成する

次のコード例は、契約料金を使用する、コンテナ製品向けのプライベートオファーを作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "CreateOffer",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0"
            },
            "ChangeName": "CreateOfferChange",
            "DetailsDocument": {
                "ProductId": "prod-1111111111111"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateInformation",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Name": "Test private offer for Container product using AWS
 Marketplace API Reference Code",
```

```
                "Description": "Test private offer for Container product with
contract pricing using AWS Marketplace API Reference Code"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateTargeting",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PositiveTargeting": {
                    "BuyerAccounts": [
                        "111111111111"
                    ]
                }
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdatePricingTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PricingModel": "Contract",
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "ConfigurableUpfrontPricingTerm",
                        "CurrencyCode": "USD",
                        "RateCards": [
                            {
                                "Selector": {
                                    "Type": "Duration",
                                    "Value": "P12M"
                                },
                                "Constraints": {
                                    "MultipleDimensionSelection": "Disallowed",
                                    "QuantityConfiguration": "Disallowed"
                                },
                                "RateCard": [
                                    {
                                        "DimensionKey": "ReqPerHour",
                                        "Price": "0.25"
```

```
                                }
                            ]
                        }
                    ]
                }
            ]
        }
    },
    {
        "ChangeType": "UpdateLegalTerms",
        "Entity": {
            "Type": "Offer@1.0",
            "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
        },
        "DetailsDocument": {
            "Terms": [
                {
                    "Type": "LegalTerm",
                    "Documents": [
                        {
                            "Type": "StandardEula",
                            "Version": "2022-07-14"
                        }
                    ]
                }
            ]
        }
    },
    {
        "ChangeType": "UpdateAvailability",
        "Entity": {
            "Type": "Offer@1.0",
            "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
        },
        "DetailsDocument": {
            "AvailabilityEndDate": "2023-12-31"
        }
    },
    {
        "ChangeType": "ReleaseOffer",
        "Entity": {
            "Type": "Offer@1.0",
            "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
        },
```

```
            "DetailsDocument": {}
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

契約料金を使用する、AMI 製品向けのプライベートオファーを作成する

次のコード例は、契約料金を使用する、AMI 製品向けのプライベートオファーを作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "CreateOffer",
            "ChangeName": "CreateOfferChange",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0"
            },
            "DetailsDocument": {
                "ProductId": "prod-1111111111111"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateInformation",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
```

```
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Name": "Test private offer for AmiProduct using AWS Marketplace API
 Reference Code",
                "Description": "Test private offer with hourly annual pricing for
 AmiProduct using AWS Marketplace API Reference Code"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateTargeting",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PositiveTargeting": {
                    "BuyerAccounts": [
                        "111111111111",
                        "222222222222"
                    ]
                }
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateLegalTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "LegalTerm",
                        "Documents": [
                            {
                                "Type": "CustomEula",
                                "Url": "https://s3.amazonaws.com/sample-bucket/
custom-eula.pdf"
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
```

```
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateAvailability",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "AvailabilityEndDate": "2023-12-31"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdatePricingTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PricingModel": "Contract",
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "ConfigurableUpfrontPricingTerm",
                        "CurrencyCode": "USD",
                        "RateCards": [
                            {
                                "Selector": {
                                    "Type": "Duration",
                                    "Value": "P12M"
                                },
                                "RateCard": [
                                    {
                                        "DimensionKey": "ReadOnlyUsers",
                                        "Price": "220.00"
                                    }
                                ],
                                "Constraints": {
                                    "MultipleDimensionSelection": "Allowed",
                                    "QuantityConfiguration": "Allowed"
                                }
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
```

```
        },
        {
            "ChangeType": "ReleaseOffer",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

時間単位の年間料金と柔軟な支払いスケジュールを使用する、AMI 製品向けのプライベートオファーを作成する

次のコード例は、時間単位の年間料金と柔軟な支払いスケジュールを使用する、AMI 製品向けのプライベートオファーを作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "CreateOffer",
            "ChangeName": "CreateOfferChange",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0"
            },
```

```
            "DetailsDocument": {
                "ProductId": "prod-1111111111111"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateInformation",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Name": "Test private offer for AmiProduct using AWS Marketplace API
Reference Code",
                "Description": "Test private offer with hourly annual pricing for
AmiProduct using AWS Marketplace API Reference Code"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateTargeting",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PositiveTargeting": {
                    "BuyerAccounts": [
                        "111111111111",
                        "222222222222"
                    ]
                }
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateLegalTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "LegalTerm",
                        "Documents": [
                            {
```

```
                                "Type": "CustomEula",
                                "Url": "https://s3.amazonaws.com/sample-bucket/
custom-eula.pdf"
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateAvailability",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "AvailabilityEndDate": "2023-12-31"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdatePricingTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PricingModel": "Usage",
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "UsageBasedPricingTerm",
                        "CurrencyCode": "USD",
                        "RateCards": [
                            {
                                "RateCard": [
                                    {
                                        "DimensionKey": "t2.micro",
                                        "Price": "0.17"
                                    }
                                ]
                            }
                        ]
                    },
                    {
                        "Type": "FixedUpfrontPricingTerm",
```

```
                    "CurrencyCode": "USD",
                    "Price": "0.0",
                    "Duration": "P365D",
                    "Grants": [
                        {
                            "DimensionKey": "t2.micro",
                            "MaxQuantity": 1
                        }
                    ]
                }
            ]
        }
    },
    {
        "ChangeType": "UpdateValidityTerms",
        "Entity": {
            "Type": "Offer@1.0",
            "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
        },
        "DetailsDocument": {
            "Terms": [
                {
                    "Type": "ValidityTerm",
                    "AgreementDuration": "P650D"
                }
            ]
        }
    },
    {
        "ChangeType": "UpdatePaymentScheduleTerms",
        "Entity": {
            "Type": "Offer@1.0",
            "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
        },
        "DetailsDocument": {
            "Terms": [
                {
                    "Type": "PaymentScheduleTerm",
                    "CurrencyCode": "USD",
                    "Schedule": [
                        {
                            "ChargeDate": "2024-01-01",
                            "ChargeAmount": "200.00"
                        },
```

```
                            {
                                "ChargeDate": "2024-02-01",
                                "ChargeAmount": "170.00"
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "ReleaseOffer",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

時間単位の年間料金を使用する、AMI 製品向けのプライベートオファーを作成する

次のコード例は、時間単位の年間料金を使用する、AMI 製品向けのプライベートオファーを作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
```

```
   "ChangeSet": [
       {
           "ChangeType": "CreateOffer",
           "ChangeName": "CreateOfferChange",
           "Entity": {
               "Type": "Offer@1.0"
           },
           "DetailsDocument": {
               "ProductId": "prod-1111111111111"
           }
       },
       {
           "ChangeType": "UpdateInformation",
           "Entity": {
               "Type": "Offer@1.0",
               "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
           },
           "DetailsDocument": {
               "Name": "Test private offer for AmiProduct using AWS Marketplace API
Reference Code",
               "Description": "Test private offer with hourly annual pricing for
AmiProduct using AWS Marketplace API Reference Code"
           }
       },
       {
           "ChangeType": "UpdateTargeting",
           "Entity": {
               "Type": "Offer@1.0",
               "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
           },
           "DetailsDocument": {
               "PositiveTargeting": {
                   "BuyerAccounts": [
                       "111111111111",
                       "222222222222"
                   ]
               }
           }
       },
       {
           "ChangeType": "UpdateLegalTerms",
           "Entity": {
               "Type": "Offer@1.0",
               "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
```

```
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "LegalTerm",
                        "Documents": [
                            {
                                "Type": "CustomEula",
                                "Url": "https://s3.amazonaws.com/sample-bucket/
custom-eula.pdf"
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateAvailability",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "AvailabilityEndDate": "2023-12-31"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdatePricingTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PricingModel": "Usage",
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "UsageBasedPricingTerm",
                        "CurrencyCode": "USD",
                        "RateCards": [
                            {
                                "RateCard": [
                                    {
                                        "DimensionKey": "t2.micro",
                                        "Price": "0.17"
```

```
                                }
                            ]
                        }
                    ]
                },
                {
                    "Type": "ConfigurableUpfrontPricingTerm",
                    "CurrencyCode": "USD",
                    "RateCards": [
                        {
                            "Selector": {
                                "Type": "Duration",
                                "Value": "P365D"
                            },
                            "RateCard": [
                                {
                                    "DimensionKey": "t2.micro",
                                    "Price": "220.00"
                                }
                            ],
                            "Constraints": {
                                "MultipleDimensionSelection": "Allowed",
                                "QuantityConfiguration": "Allowed"
                            }
                        }
                    ]
                }
            ]
        }
    },
    {
        "ChangeType": "UpdateValidityTerms",
        "Entity": {
            "Type": "Offer@1.0",
            "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
        },
        "DetailsDocument": {
            "Terms": [
                {
                    "Type": "ValidityTerm",
                    "AgreementDuration": "P650D"
                }
            ]
        }
```

```
        },
        {
            "ChangeType": "ReleaseOffer",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

時間単位の料金を使用する、AMI 製品向けのプライベートオファーを作成する

次のコード例は、時間単位の料金を使用する、AMI 製品向けのプライベートオファーを作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "CreateOffer",
            "ChangeName": "CreateOfferChange",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0"
            },
            "DetailsDocument": {
```

```
                "ProductId": "prod-1111111111111"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateInformation",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Name": "Test private offer for AmiProduct using AWS Marketplace API
Reference Code",
                "Description": "Test private offer with hourly pricing for
AmiProduct using AWS Marketplace API Reference Code"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateTargeting",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PositiveTargeting": {
                    "BuyerAccounts": [
                        "111111111111",
                        "222222222222"
                    ]
                }
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateLegalTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "LegalTerm",
                        "Documents": [
                            {
                                "Type": "StandardEula",
```

```
                            "Version": "2022-07-14"
                        }
                    ]
                }
            ]
        }
    },
    {
        "ChangeType": "UpdateAvailability",
        "Entity": {
            "Type": "Offer@1.0",
            "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
        },
        "DetailsDocument": {
            "AvailabilityEndDate": "2025-01-01"
        }
    },
    {
        "ChangeType": "UpdatePricingTerms",
        "Entity": {
            "Type": "Offer@1.0",
            "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
        },
        "DetailsDocument": {
            "PricingModel": "Usage",
            "Terms": [
                {
                    "Type": "UsageBasedPricingTerm",
                    "CurrencyCode": "USD",
                    "RateCards": [
                        {
                            "RateCard": [
                                {
                                    "DimensionKey": "t2.micro",
                                    "Price": "0.15"
                                }
                            ]
                        }
                    ]
                }
            ]
        }
    },
    {
```

```
            "ChangeType": "UpdateValidityTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "ValidityTerm",
                        "AgreementDuration": "P30D"
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "ReleaseOffer",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

サブスクリプション料金を使用する、SaaS 製品向けのプライベートオファーを作成する

次のコード例は、サブスクリプション料金を使用する、SaaS 製品向けのプライベートオファーを作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "CreateOffer",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0"
            },
            "ChangeName": "CreateOfferChange",
            "DetailsDocument": {
                "ProductId": "prod-1111111111111"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateInformation",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Name": "Test private offer for SaaSProduct using AWS Marketplace
 API Reference Code",
                "Description": "Test private offer with subscription pricing for
 SaaSProduct using AWS Marketplace API Reference Code"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateTargeting",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PositiveTargeting": {
                    "BuyerAccounts": [
                        "111111111111",
                        "222222222222"
                    ]
                }
            }
```

```
        },
        {
            "ChangeType": "UpdatePricingTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PricingModel": "Usage",
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "UsageBasedPricingTerm",
                        "CurrencyCode": "USD",
                        "RateCards": [
                            {
                                "RateCard": [
                                    {
                                        "DimensionKey": "WorkloadSmall",
                                        "Price": "0.13"
                                    },
                                    {
                                        "DimensionKey": "WorkloadMedium",
                                        "Price": "0.22"
                                    }
                                ]
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateValidityTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "ValidityTerm",
                        "AgreementDuration": "P30D"
                    }
                ]
```

```
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateLegalTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "LegalTerm",
                        "Documents": [
                            {
                                "Type": "CustomEula",
                                "Url": "https://s3.amazonaws.com/sample-bucket/
custom-eula.pdf"
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateAvailability",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "AvailabilityEndDate": "2023-12-31"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "ReleaseOffer",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

階層型契約料金を使用する、SaaS 製品向けのプライベートオファーを作成する

次のコード例は、階層型契約料金を使用する、SaaS 製品向けのプライベートオファーを作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "CreateOffer",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0"
            },
            "ChangeName": "CreateOfferChange",
            "DetailsDocument": {
                "ProductId": "prod-1111111111111"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateInformation",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Name": "Test private offer for SaaSProduct using AWS Marketplace
 API Reference Code",
```

```
                "Description": "Test private offer with subscription pricing for
SaaSProduct using AWS Marketplace API Reference Code"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateTargeting",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PositiveTargeting": {
                    "BuyerAccounts": [
                        "111111111111",
                        "222222222222"
                    ]
                }
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdatePricingTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PricingModel": "Contract",
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "ConfigurableUpfrontPricingTerm",
                        "CurrencyCode": "USD",
                        "RateCards": [
                            {
                                "Selector": {
                                    "Type": "Duration",
                                    "Value": "P12M"
                                },
                                "RateCard": [
                                    {
                                        "DimensionKey": "BasicService",
                                        "Price": "120.00"
                                    },
                                    {
                                        "DimensionKey": "PremiumService",
```

```
                                        "Price": "200.00"
                                    }
                                ],
                                "Constraints": {
                                    "MultipleDimensionSelection": "Disallowed",
                                    "QuantityConfiguration": "Disallowed"
                                }
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateLegalTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "LegalTerm",
                        "Documents": [
                            {
                                "Type": "CustomEula",
                                "Url": "https://s3.amazonaws.com/sample-bucket/
custom-eula.pdf"
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateAvailability",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "AvailabilityEndDate": "2023-12-31"
            }
        },
```

```
        {
            "ChangeType": "ReleaseOffer",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

サブスクリプション料金を使用する、SaaS 製品向けのパブリック無料トライアルオファーを作成する

次のコード例は、サブスクリプション料金を使用する、SaaS 製品向けのパブリック無料トライアルオファーを作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "CreateOffer",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0"
            },
            "ChangeName": "CreateOfferChange",
            "DetailsDocument": {
```

```
                "ProductId": "prod-1111111111111"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateInformation",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Name": "Test public free trial offer for SaaSProduct using AWS
Marketplace API Reference Code",
                "Description": "Test public free trial offer with subscription
pricing for SaaSProduct using AWS Marketplace API Reference Code"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdatePricingTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PricingModel": "Free",
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "FreeTrialPricingTerm",
                        "Duration": "P20D",
                        "Grants": [
                            {
                                "DimensionKey": "WorkloadSmall"
                            },
                            {
                                "DimensionKey": "WorkloadMedium"
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateLegalTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
```

```
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "LegalTerm",
                        "Documents": [
                            {
                                "Type": "StandardEula",
                                "Version": "2022-07-14"
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "ReleaseOffer",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

契約料金を使用する代替プライベートオファーを作成する

次のコード例は、既存の契約から契約料金を使用する代替プライベートオファーを作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType" : "CreateReplacementOffer",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0"
            },
            "ChangeName": "CreateReplacementOffer",
            "DetailsDocument": {
                "AgreementId": "agmt-11111111111111111111111"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateInformation",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateReplacementOffer.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Name": "Test replacement offer for SaaSProduct using AWS
 Marketplace API Reference Codes",
                "Description": "Test private replacement offer with contract pricing
 for SaaSProduct"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdatePricingTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateReplacementOffer.Entity.Identifier"
```

```
            },
            "DetailsDocument": {
                "PricingModel": "Contract",
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "FixedUpfrontPricingTerm",
                        "CurrencyCode": "USD",
                        "Price": "0.0",
                        "Grants": [
                            {
                                "DimensionKey": "BasicService",
                                "MaxQuantity": 2
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateValidityTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateReplacementOffer.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "ValidityTerm",
                        "AgreementEndDate": "2024-01-30"
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdatePaymentScheduleTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateReplacementOffer.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "PaymentScheduleTerm",
                        "CurrencyCode": "USD",
```

```
                    "Schedule": [
                        {
                            "ChargeDate": "2024-01-01",
                            "ChargeAmount": "0"
                        }
                    ]
                }
            ]
        }
    },
    {
        "ChangeType": "UpdateLegalTerms",
        "Entity": {
            "Type": "Offer@1.0",
            "Identifier": "$CreateReplacementOffer.Entity.Identifier"
        },
        "DetailsDocument": {
            "Terms": [
                {
                    "Type": "LegalTerm",
                    "Documents": [
                        {
                            "Type": "StandardEula",
                            "Version": "2022-07-14"
                        }
                    ]
                }
            ]
        }
    },
    {
        "ChangeType": "UpdateAvailability",
        "Entity": {
            "Type": "Offer@1.0",
            "Identifier": "$CreateReplacementOffer.Entity.Identifier"
        },
        "DetailsDocument": {
            "AvailabilityEndDate": "2023-12-31"
        }
    },
    {
        "ChangeType": "ReleaseOffer",
        "Entity": {
            "Type": "Offer@1.0",
```

```
                "Identifier": "$CreateReplacementOffer.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

パブリックオファーを記述する

次のコード例は、パブリックオファーを記述する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.catalogapi;

import static com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesConstants.*;
import com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesUtils;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.MarketplaceCatalogClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.DescribeEntityRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.DescribeEntityResponse;

public class DescribeEntity {

 /*
  * Describe my AMI or SaaS or Container product and check if it contains all the
 information I need to know about the product
  */
```

```
 public static void main(String[] args) {

  String offerId = args.length > 0 ? args[0] : OFFER_ID;

  DescribeEntityResponse describeEntityResponse =
 getDescribeEntityResponse(offerId);

  ReferenceCodesUtils.formatOutput(describeEntityResponse);
 }

 public static DescribeEntityResponse getDescribeEntityResponse(String offerId) {
  MarketplaceCatalogClient marketplaceCatalogClient =
    MarketplaceCatalogClient.builder()
    .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
    .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
    .build();

  DescribeEntityRequest describeEntityRequest =
    DescribeEntityRequest.builder()
    .catalog(AWS_MP_CATALOG)
    .entityId(offerId)
    .build();

  DescribeEntityResponse describeEntityResponse =
 marketplaceCatalogClient.describeEntity(describeEntityRequest);
  return describeEntityResponse;
 }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeEntity」を参照してください。

ドラフトプライベートオファーを期限切れにする

次のコード例は、購入者にオファーが表示されないように、プライベートオファーの有効期限を過去の日付に設定する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "UpdateAvailability",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "offer-1111111111111"
            },
            "DetailsDocument": {
                "AvailabilityEndDate": "2023-01-01"
            }
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

すべてのプライベートオファーを一覧表示する

次のコード例は、すべてのプライベートオファーを一覧表示する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.catalogapi;

import java.util.ArrayList;
import java.util.List;

import static com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesConstants.*;
import com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesUtils;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.MarketplaceCatalogClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.DescribeEntityRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.DescribeEntityResponse;
import software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.EntitySummary;
import software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.EntityTypeFilters;
import software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.ListEntitiesRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.ListEntitiesResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.OfferAvailabilityEndDateFilter;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.OfferAvailabilityEndDateFilterDate
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.OfferBuyerAccountsFilter;
import software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.OfferFilters;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.OfferReleaseDateFilter;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.OfferReleaseDateFilterDateRange;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.OfferTargetingFilter;

public class ListAllPrivateOffers {

 /*
  * List all my private offers and sort or filter them by Offer Publish Date, Offer
 Expiry Date and Buyer IDs
  *
  * OfferTargetingFilter = BuyerAccounts (private offer);
  * OfferBuyerAccountsFilter: Buyer IDs filter
  * OfferAvailabilityEndDateFilter : Offer Expiry Date filter
```

```
 * OfferReleaseDateFilter : Offer Publish Date filter
 */

private static MarketplaceCatalogClient marketplaceCatalogClient =
  MarketplaceCatalogClient.builder()
  .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
  .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
  .build();

public static void main(String[] args) {

 String offerReleaseDateAfterValue = "2023-01-01T23:59:59Z";
 String offerAvailableEndDateAfterValue = "2040-12-24T23:59:59Z";

 List<EntitySummary> entitySummaryList =
getEntitySummaryList(offerReleaseDateAfterValue, offerAvailableEndDateAfterValue);

 // for each offer id, output the offer detail using DescribeEntity API


 for (EntitySummary entitySummary : entitySummaryList) {
  DescribeEntityRequest describeEntityRequest =
    DescribeEntityRequest.builder()
    .catalog(AWS_MP_CATALOG)
    .entityId(entitySummary.entityId())
    .build();
  DescribeEntityResponse describeEntityResponse =
marketplaceCatalogClient.describeEntity(describeEntityRequest);
  ReferenceCodesUtils.formatOutput(describeEntityResponse);
 }
}

public static List<EntitySummary> getEntitySummaryList (String
offerReleaseDateAfterValue, String offerAvailableEndDateAfterValue) {

 EntityTypeFilters entityTypeFilters =
   EntityTypeFilters.builder()
   .offerFilters(OfferFilters.builder()
     .targeting(OfferTargetingFilter.builder()
       .valueListWithStrings(OFFER_TARGETING_BUYERACCOUNTS)
       .build())
     .buyerAccounts(OfferBuyerAccountsFilter.builder()
       .wildCardValue(BUYER_ACCOUNT_ID)
       .build())
```

```
      .availabilityEndDate(OfferAvailabilityEndDateFilter.builder()
        .dateRange(OfferAvailabilityEndDateFilterDateRange.builder()
          .afterValue(offerAvailableEndDateAfterValue).build())
        .build())
      .releaseDate(OfferReleaseDateFilter.builder()
        .dateRange(OfferReleaseDateFilterDateRange.builder()
          .afterValue(offerReleaseDateAfterValue)
          .build())
        .build())
      .build())
    .build();

 ListEntitiesRequest listEntitiesRequest =
   ListEntitiesRequest.builder()
   .catalog(AWS_MP_CATALOG)
   .entityType(ENTITY_TYPE_OFFER).maxResults(10)
   .entityTypeFilters(entityTypeFilters)
   .nextToken(null)
   .build();

 ListEntitiesResponse listEntitiesResponse =
marketplaceCatalogClient.listEntities(listEntitiesRequest);
 List<EntitySummary> entitySummaryList = new ArrayList<EntitySummary>();

 entitySummaryList.addAll(listEntitiesResponse.entitySummaryList());

 while ( listEntitiesResponse.nextToken() != null &&
listEntitiesResponse.nextToken().length() > 0) {
  listEntitiesRequest =
    ListEntitiesRequest.builder()
    .catalog(AWS_MP_CATALOG)
    .entityType(ENTITY_TYPE_OFFER)
    .maxResults(10)
    .entityTypeFilters(entityTypeFilters)
    .nextToken(listEntitiesResponse.nextToken())
    .build();
  listEntitiesResponse =
marketplaceCatalogClient.listEntities(listEntitiesRequest);
  entitySummaryList.addAll(listEntitiesResponse.entitySummaryList());
 }

 return entitySummaryList;
}
```

```
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

特定の製品 ID に対してリリースされたパブリックオファーとプライベートオファーを一覧表示する

次のコード例は、特定の製品 ID に対してリリースされたパブリックオファーとプライベートオファーを一覧表示する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.catalogapi;

import java.util.ArrayList;
import java.util.List;

import static com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesConstants.*;
import com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesUtils;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.MarketplaceCatalogClient;
import software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.EntitySummary;
import software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.EntityTypeFilters;
import software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.ListEntitiesRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.ListEntitiesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.OfferFilters;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.OfferProductIdFilter;
import software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.OfferStateFilter;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.OfferTargetingFilter;
```

```
public class ListProductPublicOrPrivateReleasedOffers {

 /*
  * List released Public/Private offers for a specific product id.
  * Example below is to list released public offers.
  * To change to released private offers, change OFFER_TARGETING_NONE (None) to
 OFFER_TARGETING_BUYERACCOUNTS(BuyerAccounts)
  */
 public static void main(String[] args) {

  List<EntitySummary> entitySummaryList = getEntitySummaryLIst();
  ReferenceCodesUtils.formatOutput(entitySummaryList);
 }

 public static List<EntitySummary> getEntitySummaryLIst() {
  MarketplaceCatalogClient marketplaceCatalogClient =
    MarketplaceCatalogClient.builder()
    .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
    .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
    .build();

  // define list entities filters

  EntityTypeFilters entityTypeFilters =
    EntityTypeFilters.builder()
    .offerFilters(OfferFilters.builder()
      .targeting(OfferTargetingFilter.builder()
        .valueListWithStrings(OFFER_TARGETING_NONE)
        .build())
      .state(OfferStateFilter.builder()
        .valueListWithStrings(OFFER_STATE_RELEASED)
        .build())
      .productId(OfferProductIdFilter.builder()
        .valueList(PRODUCT_ID)
        .build())
      .build())
    .build();

  ListEntitiesRequest listEntitiesRequest =
    ListEntitiesRequest.builder()
    .catalog(AWS_MP_CATALOG)
    .entityType(ENTITY_TYPE_OFFER)
    .maxResults(10)
```

```
    .entityTypeFilters(entityTypeFilters)
    .nextToken(null)
    .build();

 ListEntitiesResponse listEntitiesResponse =
marketplaceCatalogClient.listEntities(listEntitiesRequest);

 // save all entitySummary of the results into entitySummaryList

 List<EntitySummary> entitySummaryList = new ArrayList<EntitySummary>();

 entitySummaryList.addAll(listEntitiesResponse.entitySummaryList());

 while ( listEntitiesResponse.nextToken() != null &&
listEntitiesResponse.nextToken().length() > 0) {
  listEntitiesRequest =
    ListEntitiesRequest.builder()
    .catalog(AWS_MP_CATALOG)
    .entityType(ENTITY_TYPE_OFFER)
    .maxResults(10)
    .entityTypeFilters(entityTypeFilters)
    .nextToken(listEntitiesResponse.nextToken())
    .build();
  listEntitiesResponse =
marketplaceCatalogClient.listEntities(listEntitiesRequest);
  entitySummaryList.addAll(listEntitiesResponse.entitySummaryList());
 }
 return entitySummaryList;
}

}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

オファーを更新して従量制料金を使用する契約を適用する

次のコード例は、オファーを更新して従量制料金を使用する契約を適用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "UpdatePricingTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "offer-1111111111111"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PricingModel": "Contract",
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "UsageBasedPricingTerm",
                        "CurrencyCode": "USD",
                        "RateCards": [
                            {
                                "RateCard": [
                                    {
                                        "DimensionKey": "WorkloadSmall",
                                        "Price": "0.15"
                                    },
                                    {
                                        "DimensionKey": "WorkloadMedium",
                                        "Price": "0.25"
                                    }
                                ]
                            }
                        ]
                    },
                    {
```

```
                        "Type": "ConfigurableUpfrontPricingTerm",
                        "CurrencyCode": "USD",
                        "RateCards": [
                            {
                                "Selector": {
                                    "Type": "Duration",
                                    "Value": "P12M"
                                },
                                "RateCard": [
                                    {
                                        "DimensionKey": "BasicService",
                                        "Price": "150"
                                    },
                                    {
                                        "DimensionKey": "PremiumService",
                                        "Price": "300"
                                    }
                                ],
                                "Constraints": {
                                    "MultipleDimensionSelection": "Allowed",
                                    "QuantityConfiguration": "Allowed"
                                }
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

時間単位の年間料金を適用するようにオファーを更新する

次のコード例は、時間単位の年間料金を適用するようにオファーを更新する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "UpdatePricingTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "offer-1111111111111"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PricingModel": "Usage",
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "UsageBasedPricingTerm",
                        "CurrencyCode": "USD",
                        "RateCards": [
                            {
                                "RateCard": [
                                    {
                                        "DimensionKey": "m5.large",
                                        "Price": "0.13"
                                    }
                                ]
                            }
                        ]
                    },
                    {
                        "Type": "ConfigurableUpfrontPricingTerm",
                        "CurrencyCode": "USD",
                        "RateCards": [
                            {
```

```
                            "Selector": {
                                "Type": "Duration",
                                "Value": "P365D"
                            },
                            "RateCard": [
                                {
                                    "DimensionKey": "m5.large",
                                    "Price": "20.03"
                                }
                            ],
                            "Constraints": {
                                "MultipleDimensionSelection": "Allowed",
                                "QuantityConfiguration": "Allowed"
                            }
                        }
                    ]
                }
            ]
        }
    }
]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

特定の地理的リージョンにターゲティングを適用するようにオファーを更新する

次のコード例は、特定の地理的リージョンにターゲティングを適用するようにオファーを更新する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "UpdateTargeting",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "offer-1111111111111"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PositiveTargeting": {
                    "CountryCodes": [
                        "US",
                        "ES",
                        "FR",
                        "AU"
                    ]
                }
            }
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

パブリックオファーの名前と説明を更新する

次のコード例は、パブリックオファーの名前と説明を更新する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "UpdateLegalTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "offer-1111111111111"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "LegalTerm",
                        "Documents": [
                            {
                                "Type": "CustomEula",
                                "Url": "https://s3.amazonaws.com/sample-bucket/
custom-eula.pdf"
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

オファーの EULA を更新する

以下のコード例は、オファーの EULA を更新する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "UpdateInformation",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "offer-1111111111111"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Name": "New offer name",
                "Description": "New offer description"
            }
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

プライベートオファーの有効期限を将来の日付に更新する

次のコード例は、プライベートオファーの有効期限を将来の日付に更新して、購入者がオファーを評価して承諾する時間を延長する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
```

```
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "UpdateAvailability",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "offer-1111111111111"
            },
            "DetailsDocument": {
                "AvailabilityEndDate": "2026-01-01"
            }
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

SaaS 製品向けのパブリック無料トライアルオファーの無料トライアル期間を更新する

次のコード例は、SaaS 製品向けのパブリック無料トライアルオファーの無料トライアル期間を更新する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "UpdatePricingTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "offer-1111111111111"
```

```
            },
            "DetailsDocument": {
                "PricingModel": "Usage",
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "FreeTrialPricingTerm",
                        "Duration": "P21D",
                        "Grants": [
                            {
                                "DimensionKey": "WorkloadSmall"
                            },
                            {
                                "DimensionKey": "WorkloadMedium"
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

オファーの返金ポリシーを更新する

次のコード例は、オファーの返金ポリシーを更新する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
```

```
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "UpdateSupportTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "offer-1111111111111"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "SupportTerm",
                        "RefundPolicy": "Updated refund policy description"
                    }
                ]
            }
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

製品

AMI、SaaS、またはコンテナ製品を記述する

次のコード例は、AMI、SaaS、またはコンテナ製品を記述し、製品について知りたい情報がすべて含まれているかどうかを確認する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.catalogapi;

import static com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesConstants.*;
import com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesUtils;
```

```
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.MarketplaceCatalogClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.DescribeEntityRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.DescribeEntityResponse;

public class DescribeEntity {

 /*
  * Describe my AMI or SaaS or Container product and check if it contains all the
 information I need to know about the product
  */
 public static void main(String[] args) {

  String offerId = args.length > 0 ? args[0] : OFFER_ID;

  DescribeEntityResponse describeEntityResponse =
 getDescribeEntityResponse(offerId);

  ReferenceCodesUtils.formatOutput(describeEntityResponse);
 }

 public static DescribeEntityResponse getDescribeEntityResponse(String offerId) {
  MarketplaceCatalogClient marketplaceCatalogClient =
    MarketplaceCatalogClient.builder()
    .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
    .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
    .build();

  DescribeEntityRequest describeEntityRequest =
    DescribeEntityRequest.builder()
    .catalog(AWS_MP_CATALOG)
    .entityId(offerId)
    .build();

  DescribeEntityResponse describeEntityResponse =
 marketplaceCatalogClient.describeEntity(describeEntityRequest);
  return describeEntityResponse;
 }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeEntity」を参照してください。

すべての AMI、SaaS、またはコンテナ製品と、関連するパブリックオファーを一覧表示する

次のコード例は、すべての AMI、SaaS、またはコンテナ製品と、関連するパブリックオファーを一覧表示する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.catalogapi;

import java.util.ArrayList;
import java.util.HashMap;
import java.util.List;
import java.util.Map;

import static com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesConstants.*;
import com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesUtils;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.MarketplaceCatalogClient;
import software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.EntitySummary;
import software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.EntityTypeFilters;
import software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.ListEntitiesRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.ListEntitiesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.OfferFilters;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.OfferProductIdFilter;
import software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.OfferStateFilter;
```

```
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.OfferTargetingFilter;

public class ListEntities {

 /*
  * List all my AMI or SaaS or Container products and associated public offers
  */
 public static void main(String[] args) {

  Map<String, List<EntitySummary>> allProductsWithOffers =
 getAllProductsWithOffers();

  ReferenceCodesUtils.formatOutput(allProductsWithOffers);
 }

 public static Map<String, List<EntitySummary>> getAllProductsWithOffers() {
  MarketplaceCatalogClient marketplaceCatalogClient =
    MarketplaceCatalogClient.builder()
    .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
    .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
    .build();

  Map<String, List<EntitySummary>> allProductsWithOffers = new HashMap<String,
 List<EntitySummary>> ();

  // get all product entities
  List<EntitySummary> productEntityList = new ArrayList<EntitySummary>();

  ListEntitiesRequest listEntitiesRequest =
    ListEntitiesRequest.builder()
    .catalog(AWS_MP_CATALOG)
    .entityType(PRODUCT_TYPE_AMI)
    .maxResults(10)
    .nextToken(null)
    .build();


  ListEntitiesResponse listEntitiesResponse =
 marketplaceCatalogClient.listEntities(listEntitiesRequest);

  productEntityList.addAll(listEntitiesResponse.entitySummaryList());
```

```
 while (listEntitiesResponse.nextToken() != null) {
  listEntitiesRequest =
    ListEntitiesRequest.builder()
    .catalog(AWS_MP_CATALOG)
    .entityType(PRODUCT_TYPE_AMI)
    .maxResults(10)
    .nextToken(listEntitiesResponse.nextToken())
    .build();
  listEntitiesResponse =
marketplaceCatalogClient.listEntities(listEntitiesRequest);
  productEntityList.addAll(listEntitiesResponse.entitySummaryList());
 }

 // loop through each product entity and get the public released offers associated
using product id filter

 for ( EntitySummary productEntitySummary : productEntityList) {
  EntityTypeFilters entityTypeFilters =
    EntityTypeFilters.builder()
    .offerFilters(OfferFilters.builder()
      .targeting(OfferTargetingFilter.builder()
        .valueListWithStrings(OFFER_TARGETING_NONE)
        .build())
      .state(OfferStateFilter.builder()
        .valueListWithStrings(OFFER_STATE_RELEASED)
        .build())
      .productId(OfferProductIdFilter.builder()
        .valueList(productEntitySummary.entityId())
        .build())
      .build())
    .build();

  listEntitiesRequest =
    ListEntitiesRequest.builder()
    .catalog(AWS_MP_CATALOG)
    .entityType(ENTITY_TYPE_OFFER)
    .maxResults(10)
    .entityTypeFilters(entityTypeFilters)
    .nextToken(null)
    .build();

  listEntitiesResponse =
marketplaceCatalogClient.listEntities(listEntitiesRequest);
```

```
    // save all entitySummary of the results into entitySummaryList

    List<EntitySummary> offerEntitySummaryList = new ArrayList<EntitySummary>();

    offerEntitySummaryList.addAll(listEntitiesResponse.entitySummaryList());

    while ( listEntitiesResponse.nextToken() != null &&
  listEntitiesResponse.nextToken().length() > 0) {
     listEntitiesRequest =
       ListEntitiesRequest.builder()
       .catalog(AWS_MP_CATALOG)
       .entityType(ENTITY_TYPE_OFFER)
       .maxResults(10)
       .entityTypeFilters(entityTypeFilters)
       .nextToken(listEntitiesResponse.nextToken())
       .build();
     listEntitiesResponse =
  marketplaceCatalogClient.listEntities(listEntitiesRequest);
     offerEntitySummaryList.addAll(listEntitiesResponse.entitySummaryList());
    }

    // save final results into map; key = product id; value = offer entity summary
  list

    allProductsWithOffers.put(productEntitySummary.entityId(),
  offerEntitySummaryList);
   }
   return allProductsWithOffers;
  }

}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - DescribeEntity
  - ListEntities

再販承認

ドラフト再販承認を作成する

次のコード例は、チャネルパートナーに公開する前に内部で確認できるように、任意の製品タイプのドラフト再販承認を作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "CreateResaleAuthorization",
            "ChangeName": "ResaleAuthorization",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0"
            },
            "DetailsDocument": {
                "ProductId": "prod-1111111111111",
                "Name": "TestResaleAuthorization",
                "Description": "Worldwide ResaleAuthorization for Test Product",
                "ResellerAccountId": "111111111111"
            }
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

再販承認を記述する

次のコード例では、再販承認を記述する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.catalogapi;

import static com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesConstants.*;
import com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesUtils;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.MarketplaceCatalogClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.DescribeEntityRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.DescribeEntityResponse;

public class DescribeEntity {

 /*
  * Describe my AMI or SaaS or Container product and check if it contains all the
 information I need to know about the product
  */
 public static void main(String[] args) {

  String offerId = args.length > 0 ? args[0] : OFFER_ID;

  DescribeEntityResponse describeEntityResponse =
 getDescribeEntityResponse(offerId);

  ReferenceCodesUtils.formatOutput(describeEntityResponse);
 }

 public static DescribeEntityResponse getDescribeEntityResponse(String offerId) {
  MarketplaceCatalogClient marketplaceCatalogClient =
```

```
    MarketplaceCatalogClient.builder()
    .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
    .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
    .build();

  DescribeEntityRequest describeEntityRequest =
    DescribeEntityRequest.builder()
    .catalog(AWS_MP_CATALOG)
    .entityId(offerId)
    .build();

  DescribeEntityResponse describeEntityResponse =
 marketplaceCatalogClient.describeEntity(describeEntityRequest);
  return describeEntityResponse;
 }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeEntity」を参照してください。

プライベートオファーを使用して 1 回限りの再販承認を発行する

次のコード例は、プライベートオファーを使用して 1 回限りの再販承認を発行し、チャネルパートナーがそれを使用してチャネルパートナープライベートオファー (CPPO) を作成できるようにする方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
```

```
        {
            "ChangeType": "CreateResaleAuthorization",
            "ChangeName": "ResaleAuthorization",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0"
            },
            "DetailsDocument": {
                "ProductId": "prod-1111111111111",
                "Name": "TestResaleAuthorization",
                "Description": "Worldwide ResaleAuthorization for Test Product",
                "ResellerAccountId": "111111111111"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "ReleaseResaleAuthorization",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
        },
        {
            "ChangeType": "UpdatePricingTerms",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PricingModel": "Contract",
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "ResaleConfigurableUpfrontPricingTerm",
                        "CurrencyCode": "USD",
                        "RateCards": [
                            {
                                "Selector": {
                                    "Type": "Duration",
                                    "Value": "P12M"
                                },
                                "RateCard": [
                                    {
                                        "DimensionKey": "t2.small",
                                        "Price": "150"
                                    }
```

```
                                ],
                                "Constraints": {
                                    "MultipleDimensionSelection": "Allowed",
                                    "QuantityConfiguration": "Allowed"
                                }
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateLegalTerms",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "BuyerLegalTerm",
                        "Documents": [
                            {
                                "Type": "CustomEula",
                                "Url": "https://s3.amazonaws.com/sample-bucket/
custom-eula.pdf"
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateAvailability",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "OffersMaxQuantity": 1
            }
        }
    ]
```

```
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

有効期限付きの複数回使用可能な再販承認を発行する

次のコード例は、時間単位の年間料金を使用して AMI 製品向けに有効期限付きの複数回使用可能な再販承認を発行し、チャネルパートナーがそれを使用してチャネルパートナープライベートオファー (CPPO) を作成できるようにする方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "CreateResaleAuthorization",
            "ChangeName": "ResaleAuthorization",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0"
            },
            "DetailsDocument": {
                "ProductId": "prod-1111111111111",
                "Name": "TestResaleAuthorization",
                "Description": "Worldwide ResaleAuthorization for Test Product",
                "ResellerAccountId": "111111111111"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateLegalTerms",
            "Entity": {
```

```
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "BuyerLegalTerm",
                        "Documents": [
                            {
                                "Type": "CustomEula",
                                "Url": "https://s3.amazonaws.com/sample-bucket/
custom-eula.pdf"
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdatePricingTerms",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PricingModel": "Contract",
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "ResaleConfigurableUpfrontPricingTerm",
                        "CurrencyCode": "USD",
                        "RateCards": [
                            {
                                "Selector": {
                                    "Type": "Duration",
                                    "Value": "P12M"
                                },
                                "RateCard": [
                                    {
                                        "DimensionKey": "t2.small",
                                        "Price": "150"
                                    }
                                ],
                                "Constraints": {
                                    "MultipleDimensionSelection": "Allowed",
```

```
                                    "QuantityConfiguration": "Allowed"
                                }
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateAvailability",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "AvailabilityEndDate": "2023-05-31"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "ReleaseResaleAuthorization",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

有効期限と EULA を含む複数回使用可能な再販承認を発行する

次のコード例は、任意の製品タイプ向けに有効期限付きの複数回使用可能な再販承認を発行し、カスタム EULA を追加して購入者に送信できるようにする方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "CreateResaleAuthorization",
            "ChangeName": "ResaleAuthorization",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0"
            },
            "DetailsDocument": {
                "ProductId": "prod-1111111111111",
                "Name": "TestResaleAuthorization",
                "Description": "Worldwide ResaleAuthorization for Test Product",
                "ResellerAccountId": "111111111111"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "ReleaseResaleAuthorization",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateAvailability",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
```

```
                "AvailabilityEndDate": "2023-05-31"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdatePricingTerms",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PricingModel": "Contract",
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "ResaleConfigurableUpfrontPricingTerm",
                        "CurrencyCode": "USD",
                        "RateCards": [
                            {
                                "Selector": {
                                    "Type": "Duration",
                                    "Value": "P12M"
                                },
                                "RateCard": [
                                    {
                                        "DimensionKey": "t2.small",
                                        "Price": "150"
                                    }
                                ],
                                "Constraints": {
                                    "MultipleDimensionSelection": "Allowed",
                                    "QuantityConfiguration": "Allowed"
                                }
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateLegalTerms",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
```

```
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "BuyerLegalTerm",
                        "Documents": [
                            {
                                "Type": "CustomEula",
                                "Url": "https://s3.amazonaws.com/sample-bucket/
custom-eula.pdf"
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

有効期限と再販契約ドキュメントを含む複数回使用可能な再販承認を発行する

次のコード例は、任意の製品タイプについて、有効期限付きの複数回使用可能な再販承認を発行し、ISV とチャネルパートナー間の再販契約ドキュメントを追加する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "CreateResaleAuthorization",
```

```
            "ChangeName": "ResaleAuthorization",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0"
            },
            "DetailsDocument": {
                "ProductId": "prod-1111111111111",
                "Name": "TestResaleAuthorization",
                "Description": "Worldwide ResaleAuthorization for Test Product",
                "ResellerAccountId": "111111111111"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "ReleaseResaleAuthorization",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateAvailability",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "AvailabilityEndDate": "2023-05-31"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateLegalTerms",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "BuyerLegalTerm",
                        "Documents": [
                            {
                                "Type": "CustomEula",
                                "Url": "https://s3.amazonaws.com/sample-bucket/
custom-eula.pdf"
```

```
                            }
                        ]
                    },
                    {
                        "Type": "ResaleLegalTerm",
                        "Documents": [
                            {
                                "Type": "CustomResellerContract",
                                "Url": "https://s3.amazonaws.com/aws-mp-standard-
contracts/Standard-Contact-for-AWS-Marketplace-2022-07-14.pdf"}
                        ]
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdatePricingTerms",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PricingModel": "Contract",
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "ResaleConfigurableUpfrontPricingTerm",
                        "CurrencyCode": "USD",
                        "RateCards": [
                            {
                                "Selector": {
                                    "Type": "Duration",
                                    "Value": "P12M"
                                },
                                "RateCard": [
                                    {
                                        "DimensionKey": "t2.small",
                                        "Price": "150"
                                    }
                                ],
                                "Constraints": {
                                    "MultipleDimensionSelection": "Allowed",
                                    "QuantityConfiguration": "Allowed"
                                }
                            }
```

```
                        ]
                    }
                ]
            }
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

有効期限付きの複数回使用可能な再販承認を発行し、特定の購入者アカウントを追加する

次のコード例は、任意の製品タイプ向けに有効期限付きの複数回使用可能な再販承認を発行し、再販用に特定の購入者アカウントを追加する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "CreateResaleAuthorization",
            "ChangeName": "ResaleAuthorization",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0"
            },
            "DetailsDocument": {
                "ProductId": "prod-1111111111111",
                "Name": "TestResaleAuthorization",
                "Description": "Worldwide ResaleAuthorization for Test Product",
                "ResellerAccountId": "111111111111"
```

```
            }
        },
        {
            "ChangeType": "ReleaseResaleAuthorization",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateAvailability",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "AvailabilityEndDate": "2023-05-31"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdatePricingTerms",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PricingModel": "Contract",
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "ResaleConfigurableUpfrontPricingTerm",
                        "CurrencyCode": "USD",
                        "RateCards": [
                            {
                                "Selector": {
                                    "Type": "Duration",
                                    "Value": "P12M"
                                },
                                "RateCard": [
                                    {
                                        "DimensionKey": "t2.small",
                                        "Price": "150"
                                    }
                                ],
```

```
                                "Constraints": {
                                    "MultipleDimensionSelection": "Allowed",
                                    "QuantityConfiguration": "Allowed"
                                }
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateBuyerTargetingTerms",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "BuyerTargetingTerm",
                        "PositiveTargeting": {
                            "BuyerAccounts": [
                                "111111111111"
                            ]
                        }
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateLegalTerms",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "BuyerLegalTerm",
                        "Documents": [
                            {
                                "Type": "CustomEula",
                                "Url": "https://s3.amazonaws.com/sample-bucket/
custom-eula.pdf"
```

```
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

有効期限なしの複数回使用可能な再販承認を発行する

次のコード例は、時間単位の年間料金を含む AMI 製品について、有効期限なしの複数回使用可能な再販承認を発行する方法を示しており、CP がこれを使用して CPPO を作成できるようにします。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "CreateResaleAuthorization",
            "ChangeName": "ResaleAuthorization",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0"
            },
            "DetailsDocument": {
                "ProductId": "prod-1111111111111",
                "Name": "TestResaleAuthorization",
                "Description": "Worldwide ResaleAuthorization for Test Product",
```

```
                "ResellerAccountId": "111111111111"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "ReleaseResaleAuthorization",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
        },
        {
            "ChangeType": "UpdatePricingTerms",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PricingModel": "Contract",
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "ResaleConfigurableUpfrontPricingTerm",
                        "CurrencyCode": "USD",
                        "RateCards": [
                            {
                                "Selector": {
                                    "Type": "Duration",
                                    "Value": "P12M"
                                },
                                "RateCard": [
                                    {
                                        "DimensionKey": "t2.small",
                                        "Price": "150"
                                    }
                                ],
                                "Constraints": {
                                    "MultipleDimensionSelection": "Allowed",
                                    "QuantityConfiguration": "Allowed"
                                }
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
```

```
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateLegalTerms",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "BuyerLegalTerm",
                        "Documents": [
                            {
                                "Type": "CustomEula",
                                "Url": "https://s3.amazonaws.com/sample-bucket/
custom-eula.pdf"
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

有効期限と EULA のない複数回使用可能な再販承認を発行する

次のコード例は、任意の製品タイプ向けに有効期限のない複数回使用可能な再販承認を発行し、カスタム EULA を追加して購入者に送信できるようにする方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "CreateResaleAuthorization",
            "ChangeName": "ResaleAuthorization",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0"
            },
            "DetailsDocument": {
                "ProductId": "prod-1111111111111",
                "Name": "TestResaleAuthorization",
                "Description": "Worldwide ResaleAuthorization for Test Product",
                "ResellerAccountId": "111111111111"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "ReleaseResaleAuthorization",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
        },
        {
            "ChangeType": "UpdatePricingTerms",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PricingModel": "Contract",
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "ResaleConfigurableUpfrontPricingTerm",
                        "CurrencyCode": "USD",
                        "RateCards": [
                            {
                                "Selector": {
                                    "Type": "Duration",
```

```
                                    "Value": "P12M"
                                },
                                "RateCard": [
                                    {
                                        "DimensionKey": "t2.small",
                                        "Price": "150"
                                    }
                                ],
                                "Constraints": {
                                    "MultipleDimensionSelection": "Allowed",
                                    "QuantityConfiguration": "Allowed"
                                }
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateLegalTerms",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "BuyerLegalTerm",
                        "Documents": [
                            {
                                "Type": "CustomEula",
                                "Url": "https://s3.amazonaws.com/sample-bucket/
custom-eula.pdf"
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

有効期限と再販契約ドキュメントのない複数回使用可能な再販承認を発行する

次のコード例は、任意の製品タイプについて、有効期限なしの複数回使用可能な再販承認を発行し、ISV とチャネルパートナー間の再販契約ドキュメントを追加する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "CreateResaleAuthorization",
            "ChangeName": "ResaleAuthorization",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0"
            },
            "DetailsDocument": {
                "ProductId": "prod-1111111111111",
                "Name": "TestResaleAuthorization",
                "Description": "Worldwide ResaleAuthorization for Test Product",
                "ResellerAccountId": "111111111111"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "ReleaseResaleAuthorization",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
```

```
            "DetailsDocument": {}
        },
        {
            "ChangeType": "UpdatePricingTerms",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PricingModel": "Contract",
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "ResaleConfigurableUpfrontPricingTerm",
                        "CurrencyCode": "USD",
                        "RateCards": [
                            {
                                "Selector": {
                                    "Type": "Duration",
                                    "Value": "P12M"
                                },
                                "RateCard": [
                                    {
                                        "DimensionKey": "t2.small",
                                        "Price": "150"
                                    }
                                ],
                                "Constraints": {
                                    "MultipleDimensionSelection": "Allowed",
                                    "QuantityConfiguration": "Allowed"
                                }
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateLegalTerms",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
```

```
                    {
                        "Type": "BuyerLegalTerm",
                        "Documents": [
                            {
                                "Type": "CustomEula",
                                "Url": "https://s3.amazonaws.com/sample-bucket/
custom-eula.pdf"
                            }
                        ]
                    },
                    {
                        "Type": "ResaleLegalTerm",
                        "Documents": [
                            {
                                "Type": "CustomResellerContract",
                                "Url": "https://s3.amazonaws.com/aws-mp-standard-
contracts/Standard-Contact-for-AWS-Marketplace-2022-07-14.pdf"
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

有効期限のない複数回使用可能な再販承認を発行し、特定の購入者アカウントを追加する

次のコード例は、任意の製品タイプ向けに有効期限のない複数回使用可能な再販承認を発行し、再販用に特定の購入者アカウントを追加する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "CreateResaleAuthorization",
            "ChangeName": "ResaleAuthorization",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0"
            },
            "DetailsDocument": {
                "ProductId": "prod-1111111111111",
                "Name": "TestResaleAuthorization",
                "Description": "Worldwide ResaleAuthorization for Test Product",
                "ResellerAccountId": "111111111111"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "ReleaseResaleAuthorization",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
        },
        {
            "ChangeType": "UpdatePricingTerms",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PricingModel": "Contract",
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "ResaleConfigurableUpfrontPricingTerm",
                        "CurrencyCode": "USD",
                        "RateCards": [
                            {
                                "Selector": {
                                    "Type": "Duration",
```

```
                                "Value": "P12M"
                            },
                            "RateCard": [
                                {
                                    "DimensionKey": "t2.small",
                                    "Price": "150"
                                }
                            ],
                            "Constraints": {
                                "MultipleDimensionSelection": "Allowed",
                                "QuantityConfiguration": "Allowed"
                            }
                        }
                    ]
                }
            ]
        }
    },
    {
        "ChangeType": "UpdateBuyerTargetingTerms",
        "Entity": {
            "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
            "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
        },
        "DetailsDocument": {
            "Terms": [
                {
                    "Type": "BuyerTargetingTerm",
                    "PositiveTargeting": {
                        "BuyerAccounts": [
                            "111111111111"
                        ]
                    }
                }
            ]
        }
    },
    {
        "ChangeType": "UpdateLegalTerms",
        "Entity": {
            "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
            "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
        },
        "DetailsDocument": {
```

```
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "BuyerLegalTerm",
                        "Documents": [
                            {
                                "Type": "CustomEula",
                                "Url": "https://s3.amazonaws.com/sample-bucket/
custom-eula.pdf"
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

1 回限りの再販承認を発行し、柔軟な支払いスケジュールを追加する

次のコード例は、任意の製品タイプ向けに 1 回限りの再販売承認を発行し、柔軟な支払いスケジュールを追加する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "CreateResaleAuthorization",
```

```
            "ChangeName": "ResaleAuthorization",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0"
            },
            "DetailsDocument": {
                "ProductId": "prod-1111111111111",
                "Name": "TestResaleAuthorization",
                "Description": "Worldwide ResaleAuthorization for Test Product",
                "ResellerAccountId": "111111111111"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "ReleaseResaleAuthorization",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
        },
        {
            "ChangeType": "UpdatePricingTerms",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PricingModel": "Contract",
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "ResaleFixedUpfrontPricingTerm",
                        "CurrencyCode": "USD",
                        "Price": "0.00",
                        "Duration": "P12M",
                        "Grants": [
                          {
                            "DimensionKey": "Users",
                            "MaxQuantity": 10
                          }
                        ]
                    }
                ]
            }
        },
        {
```

```
            "ChangeType": "UpdatePaymentScheduleTerms",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "ResalePaymentScheduleTerm",
                        "CurrencyCode": "USD",
                        "Schedule": [
                            {
                                "ChargeDate": "2023-09-01",
                                "ChargeAmount": "200.00"
                            },
                            {
                                "ChargeDate": "2023-12-01",
                                "ChargeAmount": "250.00"
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateAvailability",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "AvailabilityEndDate": "2023-06-30",
                "OffersMaxQuantity": 1
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateLegalTerms",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
```

```
                        "Type": "BuyerLegalTerm",
                        "Documents": [
                            {
                                "Type": "CustomEula",
                                "Url": "https://s3.amazonaws.com/sample-bucket/
custom-eula.pdf"
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

1 回限りの再販売承認を発行し、EULA を追加する

次のコード例は、任意の製品タイプ向けの 1 回限りの再販売認可を発行し、カスタム EULA を追加して購入者に送信できるようにする方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "CreateResaleAuthorization",
            "ChangeName": "ResaleAuthorization",
            "Entity": {
```

```
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0"
            },
            "DetailsDocument": {
                "ProductId": "prod-1111111111111",
                "Name": "TestResaleAuthorization",
                "Description": "Worldwide ResaleAuthorization for Test Product",
                "ResellerAccountId": "111111111111"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "ReleaseResaleAuthorization",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateAvailability",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "OffersMaxQuantity": 1
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdatePricingTerms",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PricingModel": "Contract",
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "ResaleConfigurableUpfrontPricingTerm",
                        "CurrencyCode": "USD",
                        "RateCards": [
                            {
                                "Selector": {
                                    "Type": "Duration",
                                    "Value": "P12M"
```

```
                                },
                                "RateCard": [
                                    {
                                        "DimensionKey": "t2.small",
                                        "Price": "150"
                                    }
                                ],
                                "Constraints": {
                                    "MultipleDimensionSelection": "Allowed",
                                    "QuantityConfiguration": "Allowed"
                                }
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateLegalTerms",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "BuyerLegalTerm",
                        "Documents": [
                            {
                                "Type": "CustomEula",
                                "Url": "https://s3.amazonaws.com/sample-bucket/
custom-eula.pdf"
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

1 回限りの再販承認を発行し、特定の購入者アカウントを追加する

次のコード例は、任意の製品タイプ向けの 1 回限りの再販承認を発行し、再販用に特定の購入者アカウントを追加する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "CreateResaleAuthorization",
            "ChangeName": "ResaleAuthorization",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0"
            },
            "DetailsDocument": {
                "ProductId": "prod-1111111111111",
                "Name": "TestResaleAuthorization",
                "Description": "Worldwide ResaleAuthorization for Test Product",
                "ResellerAccountId": "111111111111"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "ReleaseResaleAuthorization",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
        },
        {
            "ChangeType": "UpdatePricingTerms",
```

```
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PricingModel": "Contract",
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "ResaleConfigurableUpfrontPricingTerm",
                        "CurrencyCode": "USD",
                        "RateCards": [
                            {
                                "Selector": {
                                    "Type": "Duration",
                                    "Value": "P12M"
                                },
                                "RateCard": [
                                    {
                                        "DimensionKey": "t2.small",
                                        "Price": "150"
                                    }
                                ],
                                "Constraints": {
                                    "MultipleDimensionSelection": "Allowed",
                                    "QuantityConfiguration": "Allowed"
                                }
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateLegalTerms",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "BuyerLegalTerm",
                        "Documents": [
                            {
```

```
                                "Type": "CustomEula",
                                "Url": "https://s3.amazonaws.com/sample-bucket/
custom-eula.pdf"
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateAvailability",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "OffersMaxQuantity": "1"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateBuyerTargetingTerms",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "BuyerTargetingTerm",
                        "PositiveTargeting": {
                            "BuyerAccounts": [
                                "111111111111"
                            ]
                        }
                    }
                ]
            }
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

1 回限りの再販承認を発行し、リセラー契約ドキュメントを追加する

次のコード例は、任意の製品タイプ向けの 1 回限りの再販売認可を発行し、ISV とチャネルパートナー間のリセラー契約ドキュメントを追加する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "CreateResaleAuthorization",
            "ChangeName": "ResaleAuthorization",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0"
            },
            "DetailsDocument": {
                "ProductId": "prod-1111111111111",
                "Name": "TestResaleAuthorization",
                "Description": "Worldwide ResaleAuthorization for Test Product",
                "ResellerAccountId": "111111111111"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "ReleaseResaleAuthorization",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateAvailability",
```

```
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "OffersMaxQuantity": 1
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdatePricingTerms",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PricingModel": "Contract",
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "ResaleConfigurableUpfrontPricingTerm",
                        "CurrencyCode": "USD",
                        "RateCards": [
                            {
                                "Selector": {
                                    "Type": "Duration",
                                    "Value": "P12M"
                                },
                                "RateCard": [
                                    {
                                        "DimensionKey": "t2.small",
                                        "Price": "150"
                                    }
                                ],
                                "Constraints": {
                                    "MultipleDimensionSelection": "Allowed",
                                    "QuantityConfiguration": "Allowed"
                                }
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateLegalTerms",
```

```
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "BuyerLegalTerm",
                        "Documents": [
                            {
                                "Type": "CustomEula",
                                "Url": "https://s3.amazonaws.com/sample-bucket/
custom-eula.pdf"
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

1 回限りの再販売承認を発行し、それが更新かどうかを追加表示する

次のコード例は、任意の製品タイプ向けの 1 回限りの再販売認可を発行し、それが更新かどうかを追加表示する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "CreateResaleAuthorization",
            "ChangeName": "ResaleAuthorization",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0"
            },
            "DetailsDocument": {
                "ProductId": "prod-1111111111111",
                "Name": "TestResaleAuthorization",
                "Description": "Worldwide ResaleAuthorization for Test Product",
                "ResellerAccountId": "111111111111"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateBuyerTargetingTerms",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "BuyerTargetingTerm",
                        "PositiveTargeting": {
                            "BuyerAccounts": [
                                "222222222222"
                            ]
                        }
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateAvailability",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "OffersMaxQuantity": 1
```

```
            }
        },
        {
            "ChangeType":"UpdateInformation",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "$ResaleAuthorization.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Name": "TestResaleAuthorization",
                "Description": "Worldwide ResaleAuthorization for Test Product",
                "PreExistingBuyerAgreement": {
                    "AcquisitionChannel": "AwsMarketplace",
                    "PricingModel": "Contract"
                }
             }
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

再販承認を制限する

次のコード例は、再販承認を制限する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
```

```
        {
            "ChangeType": "RestrictResaleAuthorization",
            "Entity": {
                "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
                "Identifier": "resaleauthz-1111111111111"
            },
            "DetailsDocument": {}
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

1 回限りまたは複数回使用可能な再販承認の名前と説明を更新する

次のコード例は、任意の製品タイプについて、公開前に 1 回限りまたは複数回使用可能な再販承認の名前と説明を更新する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType":"UpdateInformation",
            "Entity": {
             "Type": "ResaleAuthorization@1.0",
             "Identifier": "resaleauthz-1111111111111"
            },
            "DetailsDocument": {
             "Name": "TestResaleAuthorization",
```

```
                "Description": "Worldwide ResaleAuthorization for Test Product"
            }
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

SaaS 製品

ドラフトパブリックオファーを使用するドラフト SaaS 製品を作成する

次のコード例は、ドラフトパブリックオファーを使用してドラフト SaaS 製品を作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog":"AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "CreateProduct",
            "ChangeName": "CreateProductChange",
            "Entity": {
                "Type": "SaaSProduct@1.0"
            },
            "DetailsDocument": {
              "ProductTitle": "Sample product"
            }
        },
        {
```

```
            "ChangeType": "CreateOffer",
            "ChangeName": "CreateOfferChange",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0"
            },
            "DetailsDocument": {
                "ProductId": "$CreateProductChange.Entity.Identifier",
                "Name": "Test Offer"
            }
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

パブリックまたは制限付き SaaS 製品と、契約料金を使用するパブリックオファーを作成する

次のコード例は、パブリックまたは制限付き SaaS 製品と、契約料金を使用するパブリックオファーを作成する方法を示しています。この例では、標準またはカスタム EULA を作成します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "CreateProduct",
            "Entity": {
                "Type": "SaaSProduct@1.0"
            },
            "ChangeName": "CreateProductChange",
```

```
            "DetailsDocument": {}
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateInformation",
            "Entity": {
                "Type": "SaaSProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "ProductTitle": "Sample product",
                "ShortDescription": "Brief description",
                "LongDescription": "Detailed description",
                "Highlights": [
                    "Sample highlight"
                ],
                "SearchKeywords": [
                    "Sample keyword"
                ],
                "Categories": [
                    "Data Catalogs"
                ],
                "LogoUrl": "https://s3.amazonaws.com/logos/sample.png",
                "VideoUrls": [
                    "https://sample.amazonaws.com/awsmp-video-1"
                ],
                "AdditionalResources": []
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateTargeting",
            "Entity": {
                "Type": "SaaSProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PositiveTargeting": {
                    "BuyerAccounts": [
                        "111111111111",
                        "222222222222"
                    ]
                }
            }
        },
        {
```

```
            "ChangeType": "AddDeliveryOptions",
            "Entity": {
                "Type": "SaaSProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "DeliveryOptions": [
                    {
                        "Details": {
                            "SaaSUrlDeliveryOptionDetails": {
                                "FulfillmentUrl":"https://sample.amazonaws.com/
sample-saas-fulfillment-url"
                            }
                        }
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "AddDimensions",
            "Entity": {
                "Type": "SaaSProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": [
                {
                    "Key": "BasicService",
                    "Description": "Basic Service",
                    "Name": "Basic Service",
                    "Types": [
                        "Entitled"
                    ],
                    "Unit": "Units"
                },
                {
                    "Key": "PremiumService",
                    "Description": "Premium Service",
                    "Name": "Premium Service",
                    "Types": [
                        "Entitled"
                    ],
                    "Unit": "Units"
                }
            ]
```

```
        },
        {
            "ChangeType": "ReleaseProduct",
            "Entity": {
                "Type": "SaaSProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
        },
        {
            "ChangeType": "CreateOffer",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0"
            },
            "ChangeName": "CreateOfferChange",
            "DetailsDocument": {
                "ProductId": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateInformation",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Name": "Test public offer for SaaSProduct using AWS Marketplace API
Reference Code",
                "Description": "Test public offer with contract pricing for
SaaSProduct using AWS Marketplace API Reference Code"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdatePricingTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PricingModel": "Contract",
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "ConfigurableUpfrontPricingTerm",
                        "CurrencyCode": "USD",
```

```
                    "RateCards": [
                        {
                            "Selector": {
                                "Type": "Duration",
                                "Value": "P1M"
                            },
                            "RateCard": [
                                {
                                    "DimensionKey": "BasicService",
                                    "Price": "20"
                                },
                                {
                                    "DimensionKey": "PremiumService",
                                    "Price": "25"
                                }
                            ],
                            "Constraints": {
                                "MultipleDimensionSelection": "Allowed",
                                "QuantityConfiguration": "Allowed"
                            }
                        },
                        {
                            "Selector": {
                                "Type": "Duration",
                                "Value": "P12M"
                            },
                            "RateCard": [
                                {
                                    "DimensionKey": "BasicService",
                                    "Price": "150"
                                },
                                {
                                    "DimensionKey": "PremiumService",
                                    "Price": "300"
                                }
                            ],
                            "Constraints": {
                                "MultipleDimensionSelection": "Allowed",
                                "QuantityConfiguration": "Allowed"
                            }
                        }
                    ]
                }
            ]
```

```
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateLegalTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "LegalTerm",
                        "Documents": [
                            {
                                "Type": "StandardEula",
                                "Version": "2022-07-14"
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateSupportTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "SupportTerm",
                        "RefundPolicy": "Absolutely no refund, period."
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "ReleaseOffer",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
```

```
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

パブリックまたは制限付きの SaaS 製品と、従量制料金を使用するパブリックオファーを作成する

次のコード例は、パブリックまたは制限付き SaaS 製品と、従量制料金の契約を使用するパブリックオファーを作成する方法を示しています。この例では、標準またはカスタム EULA を作成します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "CreateProduct",
            "Entity": {
                "Type": "SaaSProduct@1.0"
            },
            "ChangeName": "CreateProductChange",
            "DetailsDocument": {}
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateInformation",
            "Entity": {
                "Type": "SaaSProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
```

```
                "ProductTitle": "Sample product",
                "ShortDescription": "Brief description",
                "LongDescription": "Detailed description",
                "Highlights": [
                    "Sample highlight"
                ],
                "SearchKeywords": [
                    "Sample keyword"
                ],
                "Categories": [
                    "Data Catalogs"
                ],
                "LogoUrl": "https://s3.amazonaws.com/logos/sample.png",
                "VideoUrls": [
                    "https://sample.amazonaws.com/awsmp-video-1"
                ],
                "AdditionalResources": []
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateTargeting",
            "Entity": {
                "Type": "SaaSProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PositiveTargeting": {
                    "BuyerAccounts": [
                        "111111111111",
                        "222222222222"
                    ]
                }
            }
        },
        {
            "ChangeType": "AddDeliveryOptions",
            "Entity": {
                "Type": "SaaSProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "DeliveryOptions": [
                    {
                        "Details": {
```

```
                            "SaaSUrlDeliveryOptionDetails": {
                                "FulfillmentUrl":"https://sample.amazonaws.com/
sample-saas-fulfillment-url"
                            }
                        }
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "AddDimensions",
            "Entity": {
                "Type": "SaaSProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": [
                {
                    "Key": "BasicService",
                    "Description": "Basic Service",
                    "Name": "Basic Service",
                    "Types": [
                        "Entitled"
                    ],
                    "Unit": "Units"
                },
                {
                    "Key": "PremiumService",
                    "Description": "Premium Service",
                    "Name": "Premium Service",
                    "Types": [
                        "Entitled"
                    ],
                    "Unit": "Units"
                },
                {
                    "Key": "WorkloadSmall",
                    "Description": "Workload: Per medium instance",
                    "Name": "Workload: Per medium instance",
                    "Types": [
                        "ExternallyMetered"
                    ],
                    "Unit": "Units"
                },
                {
```

```
                    "Key": "WorkloadMedium",
                    "Description": "Workload: Per large instance",
                    "Name": "Workload: Per large instance",
                    "Types": [
                        "ExternallyMetered"
                    ],
                    "Unit": "Units"
                }
            ]
        },
        {
            "ChangeType": "ReleaseProduct",
            "Entity": {
                "Type": "SaaSProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
        },
        {
            "ChangeType": "CreateOffer",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0"
            },
            "ChangeName": "CreateOfferChange",
            "DetailsDocument": {
                "ProductId": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateInformation",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Name": "Test public offer for SaaSProduct using AWS Marketplace API
Reference Code",
                "Description": "Test public offer with contract pricing for
SaaSProduct using AWS Marketplace API Reference Code"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdatePricingTerms",
            "Entity": {
```

```
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PricingModel": "Contract",
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "UsageBasedPricingTerm",
                        "CurrencyCode": "USD",
                        "RateCards": [
                            {
                                "RateCard": [
                                    {
                                        "DimensionKey": "WorkloadSmall",
                                        "Price": "0.15"
                                    },
                                    {
                                        "DimensionKey": "WorkloadMedium",
                                        "Price": "0.25"
                                    }
                                ]
                            }
                        ]
                    },
                    {
                        "Type": "ConfigurableUpfrontPricingTerm",
                        "CurrencyCode": "USD",
                        "RateCards": [
                            {
                                "Selector": {
                                    "Type": "Duration",
                                    "Value": "P12M"
                                },
                                "RateCard": [
                                    {
                                        "DimensionKey": "BasicService",
                                        "Price": "150"
                                    },
                                    {
                                        "DimensionKey": "PremiumService",
                                        "Price": "300"
                                    }
                                ],
                                "Constraints": {
```

```
                                "MultipleDimensionSelection": "Allowed",
                                "QuantityConfiguration": "Allowed"
                            }
                        }
                    ]
                }
            ]
        }
    },
    {
        "ChangeType": "UpdateLegalTerms",
        "Entity": {
            "Type": "Offer@1.0",
            "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
        },
        "DetailsDocument": {
            "Terms": [
                {
                    "Type": "LegalTerm",
                    "Documents": [
                        {
                            "Type": "StandardEula",
                            "Version": "2022-07-14"
                        }
                    ]
                }
            ]
        }
    },
    {
        "ChangeType": "UpdateSupportTerms",
        "Entity": {
            "Type": "Offer@1.0",
            "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
        },
        "DetailsDocument": {
            "Terms": [
                {
                    "Type": "SupportTerm",
                    "RefundPolicy": "Absolutely no refund, period."
                }
            ]
        }
    },
```

```
        {
            "ChangeType": "ReleaseOffer",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

パブリックまたは制限付きの SaaS 製品と、サブスクリプション料金を使用するパブリックオファーを作成する

次のコード例は、パブリックまたは制限付き SaaS 製品と、サブスクリプション料金を使用するパブリックオファーを作成する方法を示しています。この例では、標準またはカスタム EULA を作成します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "CreateProduct",
            "Entity": {
                "Type": "SaaSProduct@1.0"
            },
            "ChangeName": "CreateProductChange",
```

```
            "DetailsDocument": {}
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateInformation",
            "Entity": {
                "Type": "SaaSProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "ProductTitle": "Sample product",
                "ShortDescription": "Brief description",
                "LongDescription": "Detailed description",
                "Highlights": [
                    "Sample highlight"
                ],
                "SearchKeywords": [
                    "Sample keyword"
                ],
                "Categories": [
                    "Data Catalogs"
                ],
                "LogoUrl": "https://s3.amazonaws.com/logos/sample.png",
                "VideoUrls": [
                    "https://sample.amazonaws.com/awsmp-video-1"
                ],
                "AdditionalResources": []
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateTargeting",
            "Entity": {
                "Type": "SaaSProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PositiveTargeting": {
                    "BuyerAccounts": [
                        "111111111111",
                        "222222222222"
                    ]
                }
            }
        },
        {
```

```
            "ChangeType": "AddDeliveryOptions",
            "Entity": {
                "Type": "SaaSProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "DeliveryOptions": [
                    {
                        "Details": {
                            "SaaSUrlDeliveryOptionDetails": {
                                "FulfillmentUrl":"https://sample.amazonaws.com/
sample-saas-fulfillment-url"
                            }
                        }
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "AddDimensions",
            "Entity": {
                "Type": "SaaSProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": [
                {
                    "Key": "WorkloadSmall",
                    "Description": "Workload: Per medium instance",
                    "Name": "Workload: Per medium instance",
                    "Types": [
                        "ExternallyMetered"
                    ],
                    "Unit": "Units"
                },
                {
                    "Key": "WorkloadMedium",
                    "Description": "Workload: Per large instance",
                    "Name": "Workload: Per large instance",
                    "Types": [
                        "ExternallyMetered"
                    ],
                    "Unit": "Units"
                }
            ]
```

```
        },
        {
            "ChangeType": "ReleaseProduct",
            "Entity": {
                "Type": "SaaSProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
        },
        {
            "ChangeType": "CreateOffer",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0"
            },
            "ChangeName": "CreateOfferChange",
            "DetailsDocument": {
                "ProductId": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateInformation",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Name": "Test public offer for SaaSProduct using AWS Marketplace API
Reference Code",
                "Description": "Test public offer with contract pricing for
SaaSProduct using AWS Marketplace API Reference Code"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdatePricingTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PricingModel": "Usage",
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "UsageBasedPricingTerm",
                        "CurrencyCode": "USD",
```

```
                    "RateCards": [
                        {
                            "RateCard": [
                                {
                                    "DimensionKey": "WorkloadSmall",
                                    "Price": "0.15"
                                },
                                {
                                    "DimensionKey": "WorkloadMedium",
                                    "Price": "0.25"
                                }
                            ]
                        }
                    ]
                }
            ]
        }
    },
    {
        "ChangeType": "UpdateLegalTerms",
        "Entity": {
            "Type": "Offer@1.0",
            "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
        },
        "DetailsDocument": {
            "Terms": [
                {
                    "Type": "LegalTerm",
                    "Documents": [
                        {
                            "Type": "StandardEula",
                            "Version": "2022-07-14"
                        }
                    ]
                }
            ]
        }
    },
    {
        "ChangeType": "UpdateSupportTerms",
        "Entity": {
            "Type": "Offer@1.0",
            "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
        },
```

```
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "SupportTerm",
                        "RefundPolicy": "Absolutely no refund, period."
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "ReleaseOffer",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

SaaS 製品および関連するパブリックオファーを公開する

次のコード例は、SaaS 製品および関連するパブリックオファーを公開する方法を示しています。製品はデフォルトで制限付きの状態になります。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog":"AWSMarketplace",
```

```
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "CreateProduct",
            "ChangeName": "CreateProductChange",
            "Entity": {
                "Type": "SaaSProduct@1.0"
            },
            "DetailsDocument": {}
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateInformation",
            "Entity": {
                "Type": "SaaSProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "ProductTitle": "Sample product",
                "ShortDescription": "Brief description",
                "LongDescription": "Detailed description",
                "Highlights": [
                    "Sample highlight"
                ],
                "SearchKeywords": [
                    "Sample keyword"
                ],
                "Categories": [
                    "Data Catalogs"
                ],
                "LogoUrl": "https://bucketname.s3.amazonaws.com/logo.png",
                "VideoUrls": [
                    "https://sample.amazonaws.com/awsmp-video-1"
                ],
                "AdditionalResources": []
            }
        },
        {
            "ChangeType": "AddDimensions",
            "Entity": {
                "Type": "SaaSProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": [
                {
                    "Key": "BasicService",
```

```
                    "Description": "Basic Service",
                    "Name": "Basic Service",
                    "Types": [
                        "Entitled"
                    ],
                    "Unit": "Units"
                },
                {
                    "Key": "PremiumService",
                    "Description": "Premium Service",
                    "Name": "Premium Service",
                    "Types": [
                        "Entitled"
                    ],
                    "Unit": "Units"
                }
            ]
        },
        {
            "ChangeType": "AddDeliveryOptions",
            "Entity": {
                "Type": "SaaSProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "DeliveryOptions": [
                    {
                        "Details": {
                            "SaaSUrlDeliveryOptionDetails": {
                                "FulfillmentUrl": "https://www.aws.amazon.com/
marketplace/management"
                            }
                        }
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "ReleaseProduct",
            "Entity": {
                "Type": "SaaSProduct@1.0",
                "Identifier": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
```

```
        },
        {
            "ChangeType": "CreateOffer",
            "ChangeName": "CreateOfferChange",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0"
            },
            "DetailsDocument": {
                "ProductId": "$CreateProductChange.Entity.Identifier"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateInformation",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Name": "New Test Offer",
                "Description": "New offer description"
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateLegalTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "LegalTerm",
                        "Documents": [
                            {
                                "Type": "StandardEula",
                                "Version": "2022-07-14"
                            }
                        ]
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdateSupportTerms",
```

```
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "SupportTerm",
                        "RefundPolicy": "Updated refund policy description"
                    }
                ]
            }
        },
        {
            "ChangeType": "UpdatePricingTerms",
            "Entity": {
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {
                "PricingModel": "Contract",
                "Terms": [
                    {
                        "Type": "ConfigurableUpfrontPricingTerm",
                        "CurrencyCode": "USD",
                        "RateCards": [
                            {
                                "Selector": {
                                    "Type": "Duration",
                                    "Value": "P1M"
                                },
                                "RateCard": [
                                    {
                                        "DimensionKey": "BasicService",
                                        "Price": "20"
                                    },
                                    {
                                        "DimensionKey": "PremiumService",
                                        "Price": "25"
                                    }
                                ],
                                "Constraints": {
                                    "MultipleDimensionSelection": "Allowed",
                                    "QuantityConfiguration": "Allowed"
```

```
                            }
                        },
                        {
                            "Selector": {
                                "Type": "Duration",
                                "Value": "P12M"
                            },
                            "RateCard": [
                                {
                                    "DimensionKey": "BasicService",
                                    "Price": "150"
                                },
                                {
                                    "DimensionKey": "PremiumService",
                                    "Price": "300"
                                }
                            ],
                            "Constraints": {
                                "MultipleDimensionSelection": "Allowed",
                                "QuantityConfiguration": "Allowed"
                            }
                        }
                    ]
                }
            ]
        }
    },
    {
        "ChangeType": "UpdateRenewalTerms",
        "Entity": {
            "Type": "Offer@1.0",
            "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
        },
        "DetailsDocument": {
            "Terms": [
                {
                    "Type": "RenewalTerm"
                }
            ]
        }
    },
    {
        "ChangeType":"ReleaseOffer",
        "Entity":{
```

```
                "Type": "Offer@1.0",
                "Identifier": "$CreateOfferChange.Entity.Identifier"
            },
            "DetailsDocument": {}
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

既存のドラフトから SaaS 製品と関連するパブリックオファーを公開する

次のコード例は、既存のドラフトから SaaS 製品と関連するパブリックオファーを公開する方法を示しています。製品はデフォルトで制限付きの状態になります。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
{
    "Catalog":"AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "UpdateVisibility",
            "ChangeName": "CreateProductChange",
            "Entity": {
                "Type": "SaaSProduct@1.0",
                "Identifier": "prod-1111111111111"
            },
            "DetailsDocument": {
                "TargetVisibility": "Public"
            }
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

AMI または SaaS 製品のディメンションを更新する

次のコード例は、AMI または SaaS 製品のディメンションを更新する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

この例を実行するには、「ユーティリティ」セクションの「変更セットを開始するユーティリティ」で、次の JSON 変更セットを RunChangesets に渡します。

```
{
    "Catalog": "AWSMarketplace",
    "ChangeSet": [
        {
            "ChangeType": "UpdateDimensions",
            "Entity": {
                "Type": "SaaSProduct@1.0",
                "Identifier": "prod-111111111111"
            },
            "DetailsDocument": [
                {
                    "Key": "BasicService",
                    "Types": [
                        "Entitled"
                    ],
                    "Name": "Some new name",
                    "Description": "Some new description"
                }
            ]
        }
    ]
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

Utilities

変更セットを開始するユーティリティ

次のコード例は、変更セットを開始するユーティリティを定義する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

JSON ファイルから変更セットをロードし、処理を開始するユーティリティ。

```
package com.example.awsmarketplace.catalogapi;

import java.io.ByteArrayInputStream;
import java.io.IOException;
import java.io.InputStream;
import java.util.ArrayList;
import java.util.List;

import org.apache.commons.io.IOUtils;
import org.apache.commons.lang3.StringUtils;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.core.document.Document;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.protocols.json.internal.unmarshall.document.DocumentUnmarshaller;
import software.amazon.awssdk.protocols.jsoncore.JsonNodeParser;
import software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.MarketplaceCatalogClient;
import software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.Change;
import software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.Entity;
```

```
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.StartChangeSetRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.StartChangeSetResponse;
import com.google.gson.Gson;
import com.google.gson.GsonBuilder;
import com.google.gson.ToNumberPolicy;
import com.example.awsmarketplace.catalogapi.Entity.ChangeSet;
import com.example.awsmarketplace.catalogapi.Entity.ChangeSetEntity;
import com.example.awsmarketplace.catalogapi.Entity.Root;
import com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesUtils;
import com.example.awsmarketplace.utils.StringSerializer;

/**
 * Before running this Java V2 code example, convert all Details attribute to
 DetailsDocument if any
 */

public class RunChangesets {

 private static final Gson GSON = new GsonBuilder()
   .setObjectToNumberStrategy(ToNumberPolicy.LAZILY_PARSED_NUMBER)
   .registerTypeAdapter(String.class, new StringSerializer())
   .create();

 public static void main(String[] args) {

  // input json can be specified here or passed from input parameter
  String inputChangeSetFile = "changeSets/offers/
CreateReplacementOfferFromAGWithContractPricingDetailDocument.json";

  if (args.length > 0)
   inputChangeSetFile = args[0];

  // parse the input changeset file to string for process
  String changeSetsInput = readChangeSetToString(inputChangeSetFile);

  // process the changeset request
  try {
   StartChangeSetResponse result = getChangeSetRequestResult(changeSetsInput);
   ReferenceCodesUtils.formatOutput(result);
  } catch (Exception e) {
   e.printStackTrace();
  }
```

```
}

public static StartChangeSetResponse getChangeSetRequestResult(String
changeSetsInput) throws IOException {

 //set up AWS credentials
 MarketplaceCatalogClient marketplaceCatalogClient =
   MarketplaceCatalogClient.builder()
   .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
   .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
   .build();

 //changeset list to save all the changesets in the changesets file
 List<Change> changeSetLists = new ArrayList<Change>();

 // read all changesets into object
 Root root = GSON.fromJson(changeSetsInput, Root.class);

 // process each changeset and add each changeset request to changesets list
 for (ChangeSet cs : root.changeSet) {

  ChangeSetEntity entity = cs.Entity;
  String entityType = entity.Type;
  String entityIdentifier = StringUtils.defaultIfBlank(entity.Identifier, null);
  Document detailsDocument = getDocumentFromObject(cs.DetailsDocument);

  Entity awsEntity =
    Entity.builder()
    .type(entityType)
    .identifier(entityIdentifier)
    .build();

  Change inputChangeRequest =
    Change.builder()
    .changeType(cs.ChangeType)
    .changeName(cs.ChangeName)
    .entity(awsEntity)
    .detailsDocument(detailsDocument)
    .build();

  changeSetLists.add(inputChangeRequest);
 }

 // process all changeset requests
```

```
 StartChangeSetRequest startChangeSetRequest =
   StartChangeSetRequest.builder()
   .catalog(root.catalog)
   .changeSet(changeSetLists)
   .build();

 StartChangeSetResponse result =
marketplaceCatalogClient.startChangeSet(startChangeSetRequest);

 return result;
}

public static Document getDocumentFromObject(Object detailsObject) {

 String detailsString = "{}";
 try {
  detailsString = IOUtils.toString(new
ByteArrayInputStream(GSON.toJson(detailsObject).getBytes()), "UTF-8");
 } catch (IOException e) {
  e.printStackTrace();
 }

 JsonNodeParser jsonNodeParser = JsonNodeParser.create();
 Document doc = jsonNodeParser.parse(detailsString).visit(new
DocumentUnmarshaller());
 return doc;
}


public static String readChangeSetToString (String inputChangeSetFile) {

 InputStream changesetInputStream =
RunChangesets.class.getClassLoader().getResourceAsStream(inputChangeSetFile);

 String changeSetsInput = null;

 try {
  changeSetsInput = IOUtils.toString(changesetInputStream, "UTF-8");
 } catch (IOException e) {
  e.printStackTrace();
 }

 return changeSetsInput;
```

```
 }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartChangeSet」を参照してください。

AWS Marketplace SDK for Java 2.x を使用した契約 API の例

次のコード例は、 AWS Marketplace Agreement API AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- 契約

契約

契約キャンセルリクエストを承諾する

次のコード例は、販売者が開始した契約キャンセルリクエストを受け入れる方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.buyer.agreementCancellation;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
```

```
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AcceptAgreementCancellationReque
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AcceptAgreementCancellationReque

public class AcceptAgreementCancellationRequest {

    private static final String AGREEMENT_ID = "<AGREEMENT ID HERE>";
    private static final String AGREEMENT_CANCELLATION_REQUEST_ID = "<AGREEMENT
 CANCELLATION REQUEST ID HERE>";

    public static void main(String[] args) {
        acceptAgreementCancellationRequest();
    }

    private static void acceptAgreementCancellationRequest() {
        MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
                MarketplaceAgreementClient.builder()
                        .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
                        .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
                        .build();

        AcceptAgreementCancellationRequestRequest request =
                AcceptAgreementCancellationRequestRequest.builder()
                        .agreementId(AGREEMENT_ID)

 .agreementCancellationRequestId(AGREEMENT_CANCELLATION_REQUEST_ID)
                        .build();

        AcceptAgreementCancellationRequestResponse response =

 marketplaceAgreementClient.acceptAgreementCancellationRequest(request);

        System.out.println("Agreement ID: " + response.agreementId());
        System.out.println("Cancellation Request ID: " +
 response.agreementCancellationRequestId());
        System.out.println("Status: " + response.statusAsString());
        System.out.println("Description: " + response.description());
        System.out.println("Reason Code: " + response.reasonCodeAsString());
        System.out.println("Created At: " + response.createdAt());
        System.out.println("Updated At: " + response.updatedAt());
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x 「 API リファレンス」のAcceptAgreementCancellationRequest」を参照してください。

契約の支払いリクエストを受け入れる

次のコード例は、販売者が開始した契約支払いリクエストを受け入れる方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.buyer.paymentRequest;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AcceptAgreementPaymentRequestReq
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AcceptAgreementPaymentRequestRes

public class AcceptAgreementPaymentRequest {

    private static final String AGREEMENT_ID = "<AGREEMENT ID HERE>";
    private static final String PAYMENT_REQUEST_ID = "<PAYMENT REQUEST ID HERE>";
    private static final String PURCHASE_ORDER_REFERENCE = "<PURCHASE ORDER
 REFERENCE HERE>";

    public static void main(String[] args) {
        acceptAgreementPaymentRequest();
    }

    private static void acceptAgreementPaymentRequest() {
        MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
                MarketplaceAgreementClient.builder()
```

```
                        .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
                        .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
                        .build();

        AcceptAgreementPaymentRequestRequest request =
                AcceptAgreementPaymentRequestRequest.builder()
                        .agreementId(AGREEMENT_ID)
                        .paymentRequestId(PAYMENT_REQUEST_ID)
                        .purchaseOrderReference(PURCHASE_ORDER_REFERENCE)
                        .build();

        AcceptAgreementPaymentRequestResponse response =
                marketplaceAgreementClient.acceptAgreementPaymentRequest(request);

        System.out.println("Payment Request ID: " + response.paymentRequestId());
        System.out.println("Agreement ID: " + response.agreementId());
        System.out.println("Status: " + response.statusAsString());
        System.out.println("Name: " + response.name());
        System.out.println("Charge Amount: " + response.chargeAmount());
        System.out.println("Currency Code: " + response.currencyCode());
        System.out.println("Created At: " + response.createdAt());
        System.out.println("Updated At: " + response.updatedAt());
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x 「 API リファレンス」の[AcceptAgreementPaymentRequest]」を参照してください。

SaaS 契約の更新期間を変更する

次のコード例は、SaaS 契約を修正して更新期間を追加または更新する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。[AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリ]リポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.buyer;
```

```
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AcceptAgreementRequestRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AcceptAgreementRequestResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.ConfigurableUpfrontPricingTermCo
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.CreateAgreementRequestRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.CreateAgreementRequestResponse;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.Dimension;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.GetAgreementEntitlementsResponse
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.Intent;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.RenewalTermConfiguration;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.RequestedTerm;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.RequestedTermConfiguration;
import com.example.awsmarketplace.agreementapi.buyer.utils.AgreementApiUtils;

/**
 * Demonstrates how to create a SaaS agreement with CONTRACT pricing model and then
 turn on
 * the auto-renewal setting using the AWS Marketplace Agreement Service APIs.
 *
 * <p>Scenario: A buyer subscribes to a SaaS product using a public offer that
 supports
 * auto-renewal. After acceptance, the buyer decides to amend the agreement to
 enable
 * auto-renewal via the RenewalTerm configuration.
 *
 * <p>The {@code lockoutPeriod} on the renewal term is what constrains this
 amendment. It is the
 * renewal decision deadline, measured back from the end date of the agreement, and
 once it passes
 * neither party can change whether the agreement renews. The sample reads the term
 with
```

```
 * {@code GetAgreementTerms} before amending so that deadline is visible. It also
 reads
 * {@code endTimeBehavior} from {@code DescribeAgreement} before and after the
 amendment, because
 * {@code endTimeBehavior} is what determines whether the agreement renews, not
 * {@code enableAutoRenew} on its own.
 *
 * <p>Before running this sample, replace the placeholder constants below with
 values from
 * your AWS Marketplace offer:
 * <ul>
 *   <li>{@code AGREEMENT_PROPOSAL_IDENTIFIER} — the agreementProposalId from the
 offer.</li>
 *   <li>Term IDs (starting with {@code term-}) — found in the offer's term list.</
li>
 *   <li>{@code SELECTOR_VALUE} — duration for the agreement (e.g., {@code P1M} for
 1 month).</li>
 *   <li>{@code DIMENSION_1_KEY} — the dimension key defined in the offer.</li>
 * </ul>
 */
public class AmendSaaSContractRenewalTerm {

    // The agreementProposalId from the offer.
    private static final String AGREEMENT_PROPOSAL_IDENTIFIER = "<your-agreement-
proposal-identifier>";

    // Term ID for the ConfigurableUpfrontPricingTerm in your offer.
    private static final String CONFIGURABLE_UPFRONT_PRICING_TERM_ID = "<your-
configurable-upfront-pricing-term-id>";

    // Duration for the agreement (e.g., "P1M" for 1 month, "P12M" for 1 year).
    private static final String SELECTOR_VALUE = "<your-selector-value>";

    // The dimension key defined in your offer.
    private static final String DIMENSION_1_KEY = "<your-dimension-key>";

    // Quantity for the dimension.
    private static final int DIMENSION_1_VALUE = 1;

    // Term ID for the RenewalTerm in your offer.
    private static final String RENEWAL_TERM_ID = "<your-renewal-term-id>";

    // Term ID for the LegalTerm in your offer.
    private static final String LEGAL_TERM_ID = "<your-legal-term-id>";
```

```
   // Term ID for the SupportTerm in your offer.
   private static final String SUPPORT_TERM_ID = "<your-support-term-id>";

   public static void main(String[] args) {
       amendSaaSContractAgreementRenewalTerm();
   }

   /**
    * Full end-to-end flow:
    * 1. Create a SaaS agreement with CONTRACT pricing model with auto-renewal
disabled.
    * 2. Wait for entitlements to become active.
    * 3. Amend the agreement to enable auto-renewal.
    * 4. Confirm the change by reading endTimeBehavior before and after the
amendment.
    */
   private static void amendSaaSContractAgreementRenewalTerm() {
       MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
               MarketplaceAgreementClient.builder()
                       .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
                       .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
                       .build();

       RequestedTerm configurableUpfrontPricingTerm = RequestedTerm.builder()
               .id(CONFIGURABLE_UPFRONT_PRICING_TERM_ID)

.configuration(RequestedTermConfiguration.fromConfigurableUpfrontPricingTermConfiguration(
                       ConfigurableUpfrontPricingTermConfiguration.builder()
                               .selectorValue(SELECTOR_VALUE)
                               .dimensions(Dimension.builder()
                                               .dimensionKey(DIMENSION_1_KEY)

.dimensionValue(DIMENSION_1_VALUE)
                                               .build())
                               .build()))
               .build();

       // Initial agreement: auto-renewal disabled.
       RequestedTerm renewalTerm = RequestedTerm.builder()
               .id(RENEWAL_TERM_ID)

.configuration(RequestedTermConfiguration.fromRenewalTermConfiguration(
                       RenewalTermConfiguration.builder()
```

```
                                .enableAutoRenew(false)
                                .build()))
                .build();

        RequestedTerm legalTerm = RequestedTerm.builder().id(LEGAL_TERM_ID).build();
        RequestedTerm supportTerm =
RequestedTerm.builder().id(SUPPORT_TERM_ID).build();

        // --- Create and accept the initial SaaS agreement request with CONTRACT
pricing model ---
        CreateAgreementRequestRequest createAgreementRequestRequest =
                CreateAgreementRequestRequest.builder()
                        .clientToken(AgreementApiUtils.generateClientToken())
                        .intent(Intent.NEW)
                        .requestedTerms(configurableUpfrontPricingTerm, renewalTerm,
legalTerm, supportTerm)
                        .agreementProposalIdentifier(AGREEMENT_PROPOSAL_IDENTIFIER)
                        .build();
        CreateAgreementRequestResponse createAgreementRequestResponse =

marketplaceAgreementClient.createAgreementRequest(createAgreementRequestRequest);
        System.out.println("Agreement request created. AgreementRequestId: " +
createAgreementRequestResponse.agreementRequestId());

        AcceptAgreementRequestRequest acceptAgreementRequestRequest =
                AcceptAgreementRequestRequest.builder()

.agreementRequestId(createAgreementRequestResponse.agreementRequestId())
                        .build();
        AcceptAgreementRequestResponse acceptAgreementRequestResponse =

marketplaceAgreementClient.acceptAgreementRequest(acceptAgreementRequestRequest);
        System.out.println("Agreement request accepted. AgreementId: " +
acceptAgreementRequestResponse.agreementId());

        // Wait for entitlements to become active before amending.
        System.out.println("Waiting for entitlements to become active...");
        GetAgreementEntitlementsResponse entitlementsResponse =
AgreementApiUtils.pollUntilEntitlementsAvailable(
                marketplaceAgreementClient,
acceptAgreementRequestResponse.agreementId());
        System.out.println("Entitlements are now active.");
        AgreementApiUtils.formatOutput(entitlementsResponse);
```

```
        AgreementApiUtils.printRenewalTerm(
                marketplaceAgreementClient,
acceptAgreementRequestResponse.agreementId());
        AgreementApiUtils.printEndTimeBehavior(marketplaceAgreementClient,

acceptAgreementRequestResponse.agreementId(),
                                                "Before amendment");

        // --- Amend: enable auto-renewal ---
        // The lockoutPeriod printed above is the renewal decision deadline: once it
passes,
        // enableAutoRenew can no longer be changed.
        RequestedTerm renewalTermAmended = RequestedTerm.builder()
                .id(RENEWAL_TERM_ID)

.configuration(RequestedTermConfiguration.fromRenewalTermConfiguration(
                        RenewalTermConfiguration.builder()
                                .enableAutoRenew(true)
                                .build()))
                .build();

        // Use Intent.AMEND and sourceAgreementIdentifier to target the existing
agreement.
        CreateAgreementRequestRequest carRequest =
                CreateAgreementRequestRequest.builder()
                        .clientToken(AgreementApiUtils.generateClientToken())
                        .intent(Intent.AMEND)
                        .requestedTerms(configurableUpfrontPricingTerm,
renewalTermAmended, legalTerm, supportTerm)

.sourceAgreementIdentifier(acceptAgreementRequestResponse.agreementId())
                        .build();
        CreateAgreementRequestResponse carResponse =
                marketplaceAgreementClient.createAgreementRequest(carRequest);
        System.out.println("Amend agreement request created. AgreementRequestId: " +
carResponse.agreementRequestId());

        AcceptAgreementRequestRequest aarRequest =
                AcceptAgreementRequestRequest.builder()
                        .agreementRequestId(carResponse.agreementRequestId())
                        .build();
        AcceptAgreementRequestResponse aarResponse =
                marketplaceAgreementClient.acceptAgreementRequest(aarRequest);
```

```
        System.out.println("Amendment accepted. Auto-renewal enabled. New
 AgreementId: " + aarResponse.agreementId());

        AgreementApiUtils.printEndTimeBehavior(
                marketplaceAgreementClient, aarResponse.agreementId(), "After
 amendment");
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x 「API リファレンス」の[CreateAgreementRequest]」を参照してください。

使用料金モデルの AMI ConfigurableUpfrontPricingTerm を変更する

次のコード例は、使用料金モデルのディメンション数量を更新して、ConfigurableUpfrontPricingTerm との AMI 契約を修正する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。[AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリ]リポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.buyer;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AcceptAgreementRequestRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AcceptAgreementRequestResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.ConfigurableUpfrontPricingTermCo
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.CreateAgreementRequestRequest;
```

```
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.CreateAgreementRequestResponse;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.Dimension;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.GetAgreementEntitlementsResponse
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.Intent;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.RequestedTerm;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.RequestedTermConfiguration;
import com.example.awsmarketplace.agreementapi.buyer.utils.AgreementApiUtils;

/**
 * Demonstrates how to create an AMI agreement with ConfigurableUpfrontPricingTerm
 and then amend the dimension quantity
 * using the AWS Marketplace Agreement Service APIs.
 *
 * <p>Scenario: An AMI product with USAGE pricing requires two agreements:
 * <ol>
 *   <li>An agreement with <b>usageBasedPricingTerm (UBPT)</b> — accepted first to
 establish the base agreement.</li>
 *   <li>An agreement with <b>configurableUpfrontPricingTerm (CUPT)</b> — accepted
 after the UBPT agreement entitlements are active.</li>
 * </ol>
 * Once both agreement entitlements are available, this sample shows how to
 <b>amend</b> the agreement
 * with configurableUpfrontPricingTerm (CUPT) to increase the dimension quantity.
 *
 * <p>Before running this sample, replace the placeholder constants below with
 values from
 * your AWS Marketplace offer:
 * <ul>
 *   <li>{@code AGREEMENT_PROPOSAL_IDENTIFIER} — the agreementProposalId from the
 offer.</li>
 *   <li>Term IDs (starting with {@code term-}) — found in the offer's term list.</
li>
 *   <li>{@code SELECTOR_VALUE} —  duration for the agreement
 *       (e.g., {@code P365D} for one year).</li>
 *   <li>{@code DIMENSION_1_KEY} — the dimension key defined in the offer (e.g.,
 instance type).</li>
 *   <li>{@code DIMENSION_1_VALUE} — initial quantity; {@code NEW_DIMENSION_1_VALUE}
 — amended quantity.</li>
 * </ul>
 */
public class AmendAmiConfigurableUpfrontPricingTermForUsagePricingModel {
```

```
    // The agreementProposalId from the offer.
    private static final String AGREEMENT_PROPOSAL_IDENTIFIER = "<your-agreement-
proposal-identifier>";

    // Term ID for the ConfigurableUpfrontPricingTerm in your offer.
    private static final String CONFIGURABLE_UPFRONT_PRICING_TERM_ID = "<your-
configurable-upfront-pricing-term-id>";

    // Duration for the agreement (e.g., "P365D" for 365 days).
    private static final String SELECTOR_VALUE = "<your-selector-value>";

    // The dimension key defined in your offer (e.g., an EC2 instance type like
 "c6gn.medium").
    private static final String DIMENSION_1_KEY = "<your-dimension-key>";

    // Initial quantity for the dimension.
    private static final int DIMENSION_1_VALUE = 1;

    // Term ID for the UsageBasedPricingTerm in your offer.
    private static final String USAGE_TERM_ID = "<your-usage-term-id>";

    // Term ID for the LegalTerm in your offer.
    private static final String LEGAL_TERM_ID = "<your-legal-term-id>";

    // Term ID for the ValidityTerm in your offer.
    private static final String VALIDITY_TERM_ID = "<your-validity-term-id>";

    // New quantity to use when amending the dimension of CUPT.
    private static final int NEW_DIMENSION_1_VALUE = 5;

    public static void main(String[] args) {
        amendAmiCUPTAgreement();
    }

    /**
     * Full end-to-end flow:
     * 1. Create and accept an agreement request with usageBasedPricingTerm.
     * 2. Wait for entitlements to become active, then create and accept an
 agreement request with configurableUpfrontPricingTerm (CUPT).
     * 3. Wait for CUPT entitlements to become active, then amend the dimension
 quantity.
     */
    private static void amendAmiCUPTAgreement() {
```

```
        MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
                MarketplaceAgreementClient.builder()
                        .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
                        .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
                        .build();

        RequestedTerm usageTerm = RequestedTerm.builder()
                .id(USAGE_TERM_ID)
                .build();
        RequestedTerm legalTerm = RequestedTerm.builder()
                .id(LEGAL_TERM_ID)
                .build();
        RequestedTerm validityTerm = RequestedTerm.builder()
                .id(VALIDITY_TERM_ID)
                .build();

        // --- Agreement with UBPT ---
        CreateAgreementRequestRequest createAgreementRequestRequest =
                CreateAgreementRequestRequest.builder()
                        .clientToken(AgreementApiUtils.generateClientToken())
                        .intent(Intent.NEW)
                        .requestedTerms(usageTerm, legalTerm, validityTerm)
                        .agreementProposalIdentifier(AGREEMENT_PROPOSAL_IDENTIFIER)
                        .build();
        CreateAgreementRequestResponse createAgreementRequestResponse =

marketplaceAgreementClient.createAgreementRequest(createAgreementRequestRequest);
        System.out.println("Agreement request with UBPT created. AgreementRequestId:
" + createAgreementRequestResponse.agreementRequestId());

        AcceptAgreementRequestRequest acceptAgreementRequestRequest =
                AcceptAgreementRequestRequest.builder()

.agreementRequestId(createAgreementRequestResponse.agreementRequestId())
                        .build();
        AcceptAgreementRequestResponse acceptAgreementRequestResponse =

marketplaceAgreementClient.acceptAgreementRequest(acceptAgreementRequestRequest);
        System.out.println("Agreement request with UBPT accepted. AgreementId: " +
acceptAgreementRequestResponse.agreementId());

        // Wait for entitlements to become active before creating the agreement with
CUPT.
```

```
        System.out.println("Waiting for UBPT agreement entitlements to become
active...");
        GetAgreementEntitlementsResponse entitlementsResponse =
AgreementApiUtils.pollUntilEntitlementsAvailable(
                marketplaceAgreementClient,
acceptAgreementRequestResponse.agreementId());
        System.out.println("UBPT agreement entitlements are now active.");
        AgreementApiUtils.formatOutput(entitlementsResponse);

        // --- Agreement with configurableUpfrontPricingTerm (CUPT) ---
        RequestedTerm configurableUpfrontPricingTerm = RequestedTerm.builder()
                .id(CONFIGURABLE_UPFRONT_PRICING_TERM_ID)

.configuration(RequestedTermConfiguration.fromConfigurableUpfrontPricingTermConfiguration(
                        ConfigurableUpfrontPricingTermConfiguration.builder()
                                .selectorValue(SELECTOR_VALUE)
                                .dimensions(Dimension.builder()
                                                .dimensionKey(DIMENSION_1_KEY)

.dimensionValue(DIMENSION_1_VALUE)
                                                .build())
                                .build()))
                .build();

        CreateAgreementRequestRequest carRequest =
                CreateAgreementRequestRequest.builder()
                        .clientToken(AgreementApiUtils.generateClientToken())
                        .intent(Intent.NEW)
                        .requestedTerms(configurableUpfrontPricingTerm, legalTerm,
validityTerm)
                        .agreementProposalIdentifier(AGREEMENT_PROPOSAL_IDENTIFIER)
                        .build();
        CreateAgreementRequestResponse carResponse =
                marketplaceAgreementClient.createAgreementRequest(carRequest);
        System.out.println("Agreement request with CUPT created. AgreementRequestId:
" + carResponse.agreementRequestId());

        AcceptAgreementRequestRequest aarRequest =
                AcceptAgreementRequestRequest.builder()
                        .agreementRequestId(carResponse.agreementRequestId())
                        .build();
        AcceptAgreementRequestResponse aarResponse =
                marketplaceAgreementClient.acceptAgreementRequest(aarRequest);
        final String cuptAgreementId = aarResponse.agreementId();
```

```
        System.out.println("Agreement request with CUPT accepted. AgreementId: " +
cuptAgreementId);

        // Wait for entitlements to become active before amending.
        System.out.println("Waiting for CUPT agreement entitlements to become
active...");
        GetAgreementEntitlementsResponse cuptEntitlementsResponse =
AgreementApiUtils.pollUntilEntitlementsAvailable(
                marketplaceAgreementClient, cuptAgreementId);
        System.out.println("CUPT agreement entitlements are now active.");
        AgreementApiUtils.formatOutput(cuptEntitlementsResponse);

        // --- Amend Agreement with CUPT ---
        // Increase the dimension quantity using Intent.AMEND and
sourceAgreementIdentifier.
        RequestedTerm newConfig = RequestedTerm.builder()
                .id(CONFIGURABLE_UPFRONT_PRICING_TERM_ID)

.configuration(RequestedTermConfiguration.fromConfigurableUpfrontPricingTermConfiguration(
                        ConfigurableUpfrontPricingTermConfiguration.builder()
                                .selectorValue(SELECTOR_VALUE)
                                .dimensions(Dimension.builder()
                                                .dimensionKey(DIMENSION_1_KEY)

.dimensionValue(NEW_DIMENSION_1_VALUE) // Increase quantity for this dimension key
                                                .build())
                                .build()))
                .build();

        CreateAgreementRequestRequest carAmendRequest =
                CreateAgreementRequestRequest.builder()
                        .clientToken(AgreementApiUtils.generateClientToken())
                        .intent(Intent.AMEND)
                        .requestedTerms(newConfig, legalTerm, validityTerm)
                        .sourceAgreementIdentifier(cuptAgreementId)
                        .build();
        CreateAgreementRequestResponse carAmendResponse =
                marketplaceAgreementClient.createAgreementRequest(carAmendRequest);
        System.out.println("Amendment of CUPT agreement request created.
AgreementRequestId: " + carAmendResponse.agreementRequestId());

        AcceptAgreementRequestRequest aarAmendRequest =
                AcceptAgreementRequestRequest.builder()
                        .agreementRequestId(carAmendResponse.agreementRequestId())
```

```
                        .build();
        AcceptAgreementRequestResponse aarAmendResponse =
                marketplaceAgreementClient.acceptAgreementRequest(aarAmendRequest);
        System.out.println("Amendment accepted. New AgreementId: " +
 aarAmendResponse.agreementId());
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x 「 API リファレンス」のCreateAgreementRequest」を参照してください。

新しい AMI 無料トライアル契約を作成する

次のコード例は、新しい AMI 無料トライアル契約を作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.buyer;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AcceptAgreementRequestRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AcceptAgreementRequestResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.CreateAgreementRequestRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.CreateAgreementRequestResponse;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.Intent;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.RequestedTerm;
import com.example.awsmarketplace.agreementapi.buyer.utils.AgreementApiUtils;
```

```
/**
 * Demonstrates how to create an AMI Free Trial agreement
 * using the AWS Marketplace Agreement Service APIs.
 *
 * <p>Scenario: A buyer subscribes to an AMI product that offers a free trial
 period.
 * The free trial includes a FreeTrialPricingTerm alongside a UsageBasedPricingTerm.
 *
 * <p>Before running this sample, replace the placeholder constants below with
 values from
 * your AWS Marketplace offer:
 * <ul>
 *   <li>{@code AGREEMENT_PROPOSAL_IDENTIFIER} — the agreementProposalId from the
 offer.</li>
 *   <li>Term IDs (starting with {@code term-}) — found in the offer's term list.</
li>
 * </ul>
 */
public class NewAmiFreeTrial {

    // The agreementProposalId from the offer.
    private static final String AGREEMENT_PROPOSAL_IDENTIFIER = "<your-agreement-
proposal-identifier>";

    // Term ID for the FreeTrialPricingTerm in your offer.
    private static final String FREE_TRIAL_PRICING_TERM_ID = "<your-free-trial-
pricing-term-id>";

    // Term ID for the UsageBasedPricingTerm in your offer (applies after the trial
 ends).
    private static final String USAGE_BASED_PRICING_TERM_ID = "<your-usage-based-
pricing-term-id>";

    // Term ID for the SupportTerm in your offer.
    private static final String SUPPORT_TERM_ID = "<your-support-term-id>";

    // Term ID for the LegalTerm in your offer.
    private static final String LEGAL_TERM_ID = "<your-legal-term-id>";

    public static void main(String[] args) {
        createAndAcceptAmiFreeTrialAgreementRequest();
    }

    /**
```

```
    * Creates an AMI Free Trial agreement.
    * The FreeTrialPricingTerm grants access at no cost for the trial period.
    * The UsageBasedPricingTerm defines the charges that apply once the trial ends.
    */
   private static void createAndAcceptAmiFreeTrialAgreementRequest() {
       MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
               MarketplaceAgreementClient.builder()
                       .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
                       .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
                       .build();

       RequestedTerm freeTrialPricingTerm = RequestedTerm.builder()
               .id(FREE_TRIAL_PRICING_TERM_ID)
               .build();
       RequestedTerm usageBasedPricingTerm = RequestedTerm.builder()
               .id(USAGE_BASED_PRICING_TERM_ID)
               .build();
       RequestedTerm supportTerm = RequestedTerm.builder()
               .id(SUPPORT_TERM_ID)
               .build();
       RequestedTerm legalTerm = RequestedTerm.builder()
               .id(LEGAL_TERM_ID)
               .build();

       CreateAgreementRequestRequest createAgreementRequestRequest =
               CreateAgreementRequestRequest.builder()
                       .clientToken(AgreementApiUtils.generateClientToken())
                       .intent(Intent.NEW)
                       .requestedTerms(freeTrialPricingTerm, usageBasedPricingTerm,
supportTerm, legalTerm)
                       .agreementProposalIdentifier(AGREEMENT_PROPOSAL_IDENTIFIER)
                       .build();
       CreateAgreementRequestResponse createAgreementRequestResponse =

marketplaceAgreementClient.createAgreementRequest(createAgreementRequestRequest);
       System.out.println("Agreement request created. AgreementRequestId: " +
createAgreementRequestResponse.agreementRequestId());

       AcceptAgreementRequestRequest acceptAgreementRequestRequest =
               AcceptAgreementRequestRequest.builder()

.agreementRequestId(createAgreementRequestResponse.agreementRequestId())
                       .build();
       AcceptAgreementRequestResponse acceptAgreementRequestResponse =
```

```
 marketplaceAgreementClient.acceptAgreementRequest(acceptAgreementRequestRequest);
        System.out.println("Agreement request with freeTrialPricingTerm accepted.
 AgreementId: " + acceptAgreementRequestResponse.agreementId());
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x 「 API リファレンス」のCreateAgreementRequest」を参照してください。

前払いで新しい SaaS 契約を作成する

次のコード例は、前払いで新しい SaaS 契約を作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.buyer;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AcceptAgreementRequestRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AcceptAgreementRequestResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.ConfigurableUpfrontPricingTermCo
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.CreateAgreementRequestRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.CreateAgreementRequestResponse;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.Dimension;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.Intent;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.RequestedTerm;
```

```
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.RequestedTermConfiguration;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.TaxConfiguration;
import com.example.awsmarketplace.agreementapi.buyer.utils.AgreementApiUtils;

/**
 * Demonstrates how to create a SaaS agreement with CONTRACT pricing model with
 upfront payment
 * using the AWS Marketplace Agreement Service APIs.
 *
 * <p>Scenario: A buyer subscribes to a SaaS product using a
 ConfigurableUpfrontPricingTerm,
 * selecting an agreement duration and specifying quantities for multiple
 dimensions.
 * Tax estimation is enabled at the time of agreement creation.
 *
 * <p>Before running this sample, replace the placeholder constants below with
 values from
 * your AWS Marketplace offer:
 * <ul>
 *   <li>{@code AGREEMENT_PROPOSAL_IDENTIFIER} — the agreementProposalId from the
 offer.</li>
 *   <li>Term IDs (starting with {@code term-}) — found in the offer's term list.</
li>
 *   <li>{@code SELECTOR_VALUE} — duration for the agreement (e.g., {@code P12M} for
 12 months).</li>
 *   <li>{@code DIMENSION_1_KEY}, {@code DIMENSION_2_KEY} — dimension keys defined
 in the offer.</li>
 *   <li>{@code DIMENSION_1_VALUE}, {@code DIMENSION_2_VALUE} — quantities for each
 dimension.</li>
 * </ul>
 */
public class NewSaaSContractWithUpfrontPayment {

    // The agreementProposalId from the offer.
    private static final String AGREEMENT_PROPOSAL_IDENTIFIER = "<your-agreement-
proposal-identifier>";

    // Term ID for the ConfigurableUpfrontPricingTerm in your offer.
    private static final String CONFIGURABLE_UPFRONT_PRICING_TERM_ID = "<your-
configurable-upfront-pricing-term-id>";

    // Duration for the agreement (e.g., "P12M" for 12 months).
    private static final String SELECTOR_VALUE = "<your-selector-value>";
```

```
   // First dimension key and quantity defined in your offer.
   private static final String DIMENSION_1_KEY = "<your-dimension-1-key>";
   private static final int DIMENSION_1_VALUE = 10;

   // Second dimension key and quantity defined in your offer.
   private static final String DIMENSION_2_KEY = "<your-dimension-2-key>";
   private static final int DIMENSION_2_VALUE = 20;

   // Term ID for the LegalTerm in your offer.
   private static final String LEGAL_TERM_ID = "<your-legal-term-id>";

   // Tax estimation setting: "ENABLED" to include estimated taxes in the
agreement.
   private static final String TAX_ESTIMATION = "ENABLED";

   public static void main(String[] args) {
       createSaaSContractAgreement();
   }

   /**
    * Creates a SaaS agreement with CONTRACT pricing model with configurable
upfront pricing
    * for multiple dimensions and tax estimation.
    */
   private static void createSaaSContractAgreement() {
       MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
               MarketplaceAgreementClient.builder()
                       .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
                       .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
                       .build();

       RequestedTerm configurableUpfrontPricingTerm = RequestedTerm.builder()
               .id(CONFIGURABLE_UPFRONT_PRICING_TERM_ID)

.configuration(RequestedTermConfiguration.fromConfigurableUpfrontPricingTermConfiguration(
                       ConfigurableUpfrontPricingTermConfiguration.builder()
                               .selectorValue(SELECTOR_VALUE)
                               .dimensions(Dimension.builder()
                                                   .dimensionKey(DIMENSION_1_KEY)

.dimensionValue(DIMENSION_1_VALUE)
                                                   .build(),
                                           Dimension.builder()
```

```
                                                        .dimensionKey(DIMENSION_2_KEY)

 .dimensionValue(DIMENSION_2_VALUE)
                                                        .build())
                                    .build()))
                .build();

        RequestedTerm legalTerm = RequestedTerm.builder()
                .id(LEGAL_TERM_ID)
                .build();

        CreateAgreementRequestRequest createAgreementRequestRequest =
                CreateAgreementRequestRequest.builder()
                        .clientToken(AgreementApiUtils.generateClientToken())
                        .intent(Intent.NEW)
                        .requestedTerms(configurableUpfrontPricingTerm, legalTerm)

 .taxConfiguration(TaxConfiguration.builder().taxEstimation(TAX_ESTIMATION).build())
                        .agreementProposalIdentifier(AGREEMENT_PROPOSAL_IDENTIFIER)
                        .build();
        CreateAgreementRequestResponse createAgreementRequestResponse =

 marketplaceAgreementClient.createAgreementRequest(createAgreementRequestRequest);
        System.out.println("Agreement request created. AgreementRequestId: " +
 createAgreementRequestResponse.agreementRequestId());

        AcceptAgreementRequestRequest acceptAgreementRequestRequest =
                AcceptAgreementRequestRequest.builder()

 .agreementRequestId(createAgreementRequestResponse.agreementRequestId())
                        .build();
        AcceptAgreementRequestResponse acceptAgreementRequestResponse =

 marketplaceAgreementClient.acceptAgreementRequest(acceptAgreementRequestRequest);
        System.out.println("SaaS agreement request with CONTRACT pricing model
 accepted. AgreementId: " + acceptAgreementRequestResponse.agreementId());
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x 「 API リファレンス」の 「CreateAgreementRequest」を参照してください。

すべての契約 ID を取得する

次のコード例は、すべての契約 ID を取得する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.seller;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AgreementViewSummary;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.Filter;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.SearchAgreementsRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.SearchAgreementsResponse;

import java.util.ArrayList;
import java.util.Arrays;
import java.util.List;

import static com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesConstants.*;
import com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesUtils;

public class GetAllAgreementsIds {

 /*
  * Get all purchase agreements ids for your PartyType (Proposer, or Acceptor)
  * Depend on the number of agreements in your account, this code may take some time
 to finish.
  */
 public static void main(String[] args) {

  List<String> agreementIds = getAllAgreementIds();
```

```
 ReferenceCodesUtils.formatOutput(agreementIds);

}

public static List<String> getAllAgreementIds() {
 MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
   MarketplaceAgreementClient.builder()
   .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
   .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
   .build();

 // Set PartyType filter to PARTY_TYPE_FILTER_VALUE_PROPOSER to return agreements
where you are the proposer.
 // Change to PARTY_TYPE_FILTER_VALUE_ACCEPTOR to return agreements where you are
the acceptor.
 Filter partyType = Filter.builder().name(PARTY_TYPE_FILTER_NAME)
   .values(PARTY_TYPE_FILTER_VALUE_PROPOSER).build();

 Filter agreementType = Filter.builder().name(AGREEMENT_TYPE_FILTER_NAME)
   .values(AGREEMENT_TYPE_FILTER_VALUE_PURCHASEAGREEMENT).build();

 List<Filter> searchFilters = new ArrayList<Filter>();

 searchFilters.addAll(Arrays.asList(partyType, agreementType));

 // Save all results in a list array
 List<AgreementViewSummary> agreementSummaryList = new
ArrayList<AgreementViewSummary>();

 SearchAgreementsRequest searchAgreementsRequest =
   SearchAgreementsRequest.builder()
   .catalog(AWS_MP_CATALOG)
   .filters(searchFilters)
   .build();

 SearchAgreementsResponse searchAgreementsResponse =
marketplaceAgreementClient.searchAgreements(searchAgreementsRequest);

 agreementSummaryList.addAll(searchAgreementsResponse.agreementViewSummaries());

 while (searchAgreementsResponse.nextToken() != null &&
searchAgreementsResponse.nextToken().length() > 0) {
  searchAgreementsRequest =
```

```
      SearchAgreementsRequest.builder()
      .catalog(AWS_MP_CATALOG)
      .nextToken(searchAgreementsResponse.nextToken())
      .filters(searchFilters)
      .build();
    searchAgreementsResponse =
 marketplaceAgreementClient.searchAgreements(searchAgreementsRequest);
    agreementSummaryList.addAll(searchAgreementsResponse.agreementViewSummaries());
  }

  List<String> agreementIds = new ArrayList<String>();
  for (AgreementViewSummary summary : agreementSummaryList) {
   agreementIds.add(summary.agreementId());
  }
  return agreementIds;
 }

}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「SearchAgreements」を参照してください。

すべての契約を取得する

次のコード例は、すべての契約を取得する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.seller;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
```

```
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AgreementViewSummary;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.Filter;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.SearchAgreementsRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.SearchAgreementsResponse;

import java.util.ArrayList;
import java.util.Arrays;
import java.util.List;

import static com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesConstants.*;

import com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesUtils;

public class GetAllAgreements {

 /*
  * Get all purchase agreements for your PartyType (Proposer, or Acceptor)
  * Depend on the number of agreements in your account, this code may take some time
 to finish.
  */
 public static void main(String[] args) {

  List<AgreementViewSummary> agreementSummaryList = getAllAgreements();

  ReferenceCodesUtils.formatOutput(agreementSummaryList);
 }

 public static List<AgreementViewSummary> getAllAgreements() {
  MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
    MarketplaceAgreementClient.builder()
    .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
    .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
    .build();

        // Set PartyType filter to PARTY_TYPE_FILTER_VALUE_ACCEPTOR to return
 agreements where you are the acceptor.
        // Change to PARTY_TYPE_FILTER_VALUE_PROPOSER to return agreements where you
 are the proposer.
  Filter partyType = Filter.builder().name(PARTY_TYPE_FILTER_NAME)
    .values(PARTY_TYPE_FILTER_VALUE_ACCEPTOR).build();
```

```
  Filter agreementType = Filter.builder().name(AGREEMENT_TYPE_FILTER_NAME)
    .values(AGREEMENT_TYPE_FILTER_VALUE_PURCHASEAGREEMENT).build();

  List<Filter> searchFilters = new ArrayList<Filter>();

  searchFilters.addAll(Arrays.asList(partyType, agreementType));

  // Save all results in a list array

  List<AgreementViewSummary> agreementSummaryList = new
 ArrayList<AgreementViewSummary>();

  SearchAgreementsRequest searchAgreementsRequest =
    SearchAgreementsRequest.builder()
    .catalog(AWS_MP_CATALOG)
    .filters(searchFilters)
    .build();

  SearchAgreementsResponse searchAgreementsResponse =
 marketplaceAgreementClient.searchAgreements(searchAgreementsRequest);

  agreementSummaryList.addAll(searchAgreementsResponse.agreementViewSummaries());

  while (searchAgreementsResponse.nextToken() != null &&
 searchAgreementsResponse.nextToken().length() > 0) {
    searchAgreementsRequest =
      SearchAgreementsRequest.builder()
      .catalog(AWS_MP_CATALOG)
      .nextToken(searchAgreementsResponse.nextToken())
      .filters(searchFilters).build();
    searchAgreementsResponse =
 marketplaceAgreementClient.searchAgreements(searchAgreementsRequest);
    agreementSummaryList.addAll(searchAgreementsResponse.agreementViewSummaries());
  }
  return agreementSummaryList;
 }

}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「SearchAgreements」を参照してください。

契約から顧客 ID を取得する

次のコード例は、契約から顧客 ID を取得する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.seller;

import static com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesConstants.*;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.DescribeAgreementRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.DescribeAgreementResponse;

public class GetAgreementCustomerInfo {

 /*
  * Obtain metadata about the customer who created the agreement, such as the
 customer's AWS Account ID
  */
 public static void main(String[] args) {

  String agreementId = args.length > 0 ? args[0] : AGREEMENT_ID;

  DescribeAgreementResponse describeAgreementResponse =
 getDescribeAgreementResponse(agreementId);

  System.out.println("Customer's AWS Account ID is " +
 describeAgreementResponse.acceptor().accountId());

 }
```

```
 public static DescribeAgreementResponse getDescribeAgreementResponse(String
 agreementId) {
  MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
    MarketplaceAgreementClient.builder()
    .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
    .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
    .build();

  DescribeAgreementRequest describeAgreementRequest =
    DescribeAgreementRequest.builder()
    .agreementId(agreementId)
    .build();

  DescribeAgreementResponse describeAgreementResponse =
 marketplaceAgreementClient.describeAgreement(describeAgreementRequest);
  return describeAgreementResponse;
 }

}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeAgreement」を参照してください。

契約キャンセルリクエストの詳細を取得する

次のコード例は、特定の契約キャンセルリクエストの詳細を取得する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.buyer.agreementCancellation;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
```

```
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.GetAgreementCancellationRequestR
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.GetAgreementCancellationRequestR

public class GetAgreementCancellationRequest {

    private static final String AGREEMENT_ID = "<AGREEMENT ID HERE>";
    private static final String AGREEMENT_CANCELLATION_REQUEST_ID = "<AGREEMENT
 CANCELLATION REQUEST ID HERE>";

    public static void main(String[] args) {
        getAgreementCancellationRequest();
    }

    private static void getAgreementCancellationRequest() {
        MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
                MarketplaceAgreementClient.builder()
                        .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
                        .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
                        .build();

        GetAgreementCancellationRequestRequest request =
                GetAgreementCancellationRequestRequest.builder()
                        .agreementId(AGREEMENT_ID)

 .agreementCancellationRequestId(AGREEMENT_CANCELLATION_REQUEST_ID)
                        .build();

        GetAgreementCancellationRequestResponse response =
                marketplaceAgreementClient.getAgreementCancellationRequest(request);

        System.out.println("Agreement ID: " + response.agreementId());
        System.out.println("Cancellation Request ID: " +
 response.agreementCancellationRequestId());
        System.out.println("Status: " + response.statusAsString());
        System.out.println("Status Message: " + response.statusMessage());
        System.out.println("Reason Code: " + response.reasonCodeAsString());
        System.out.println("Created At: " + response.createdAt());
        System.out.println("Updated At: " + response.updatedAt());
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x 「 API リファレンス」のGetAgreementCancellationRequest」を参照してください。

契約の支払いリクエストの詳細を取得する

次のコード例は、特定の契約支払いリクエストの詳細を取得する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.buyer.paymentRequest;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.GetAgreementPaymentRequestReques
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.GetAgreementPaymentRequestRespon

public class GetAgreementPaymentRequest {

    private static final String AGREEMENT_ID = "<AGREEMENT ID HERE>";
    private static final String PAYMENT_REQUEST_ID = "<PAYMENT REQUEST ID HERE>";

    public static void main(String[] args) {
        getAgreementPaymentRequest();
    }

    private static void getAgreementPaymentRequest() {
        MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
                MarketplaceAgreementClient.builder()
                        .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
                        .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
                        .build();
```

```
        GetAgreementPaymentRequestRequest request =
                GetAgreementPaymentRequestRequest.builder()
                        .agreementId(AGREEMENT_ID)
                        .paymentRequestId(PAYMENT_REQUEST_ID)
                        .build();

        GetAgreementPaymentRequestResponse response =
                marketplaceAgreementClient.getAgreementPaymentRequest(request);

        System.out.println("Payment Request ID: " + response.paymentRequestId());
        System.out.println("Agreement ID: " + response.agreementId());
        System.out.println("Status: " + response.statusAsString());
        System.out.println("Status Message: " + response.statusMessage());
        System.out.println("Name: " + response.name());
        System.out.println("Charge ID: " + response.chargeId());
        System.out.println("Charge Amount: " + response.chargeAmount());
        System.out.println("Currency Code: " + response.currencyCode());
        System.out.println("Created At: " + response.createdAt());
        System.out.println("Updated At: " + response.updatedAt());
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x 「 API リファレンス」のGetAgreementPaymentRequest」を参照してください。

契約から財務情報を取得する

次のコード例は、契約から財務情報を取得する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.seller;

import static com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesConstants.*;
```

```
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.DescribeAgreementRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.DescribeAgreementResponse;

public class GetAgreementFinancialDetails {

 /*
  * Obtain financial details, such as Total Contract Value of the agreement from a
 given agreement
  */
 public static void main(String[] args) {

  String agreementId = args.length > 0 ? args[0] : AGREEMENT_ID;

  String totalContractValue = getTotalContractValue(agreementId);

  System.out.println("Total Contract Value is " + totalContractValue);

 }

 public static String getTotalContractValue(String agreementId) {
  MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
    MarketplaceAgreementClient.builder()
    .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
    .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
    .build();

  DescribeAgreementRequest describeAgreementRequest =
    DescribeAgreementRequest.builder()
    .agreementId(agreementId)
    .build();

  DescribeAgreementResponse describeAgreementResponse =
 marketplaceAgreementClient.describeAgreement(describeAgreementRequest);

  String totalContractValue = "N/A";

  if ( describeAgreementResponse.estimatedCharges() != null ) {
```

```
    totalContractValue =
 describeAgreementResponse.estimatedCharges().agreementValue()
     + " "
     + describeAgreementResponse.estimatedCharges().currencyCode();
  }
  return totalContractValue;
 }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeAgreement」を参照してください。

契約から無料トライアルの詳細を取得する

次のコード例は、契約から無料トライアルの詳細を取得する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.seller;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AcceptedTerm;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.FreeTrialPricingTerm;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.GetAgreementTermsRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.GetAgreementTermsResponse;

import static com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesConstants.AGREEMENT_ID;

import java.util.ArrayList;
```

```
import java.util.List;

import com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesUtils;

public class GetAgreementTermsFreeTrialDetails {

 /*
  * Obtain the details from an agreement of a free trial I have provided to the
 customer
  */
 public static void main(String[] args) {

  String agreementId = args.length > 0 ? args[0] : AGREEMENT_ID;

  List<FreeTrialPricingTerm> freeTrialPricingTerms =
 getFreeTrialPricingTerms(agreementId);

  ReferenceCodesUtils.formatOutput(freeTrialPricingTerms);
 }

 public static List<FreeTrialPricingTerm> getFreeTrialPricingTerms(String
 agreementId) {
  MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
    MarketplaceAgreementClient.builder()
    .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
    .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
    .build();

  GetAgreementTermsRequest getAgreementTermsRequest =
    GetAgreementTermsRequest.builder().agreementId(agreementId)
     .build();

  GetAgreementTermsResponse getAgreementTermsResponse =
 marketplaceAgreementClient.getAgreementTerms(getAgreementTermsRequest);

  List<FreeTrialPricingTerm> freeTrialPricingTerms = new
 ArrayList<FreeTrialPricingTerm>();

  for (AcceptedTerm acceptedTerm : getAgreementTermsResponse.acceptedTerms()) {
   if (acceptedTerm.freeTrialPricingTerm() != null) {
    freeTrialPricingTerms.add(acceptedTerm.freeTrialPricingTerm());
   }
  }
  return freeTrialPricingTerms;
```

```
 }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeAgreement」を参照してください。

契約に関する情報を取得する

次のコード例は、契約に関する情報を取得する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.seller;

import static com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesConstants.*;
import com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesUtils;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.DescribeAgreementRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.DescribeAgreementResponse;

public class DescribeAgreement {

 public static void main(String[] args) {

  String agreementId = args.length > 0 ? args[0] : AGREEMENT_ID;

  DescribeAgreementResponse describeAgreementResponse = getResponse(agreementId);

  ReferenceCodesUtils.formatOutput(describeAgreementResponse);
```

```
 }

 public static DescribeAgreementResponse getResponse(String agreementId) {
  MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
    MarketplaceAgreementClient.builder()
    .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
    .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
    .build();

  DescribeAgreementRequest describeAgreementRequest =
    DescribeAgreementRequest.builder()
    .agreementId(agreementId)
    .build();

  DescribeAgreementResponse describeAgreementResponse =
 marketplaceAgreementClient.describeAgreement(describeAgreementRequest);
  return describeAgreementResponse;
 }

}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeAgreement」を参照してください。

契約から製品とオファーの詳細を取得する

次のコード例は、契約から製品とオファーの詳細を取得する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.seller;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
```

```
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.DescribeAgreementRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.DescribeAgreementResponse;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.Resource;

import java.util.ArrayList;
import java.util.List;

import static com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesConstants.*;
import com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesUtils;

import software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.MarketplaceCatalogClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.DescribeEntityRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.DescribeEntityResponse;

public class GetProductAndOfferDetailFromAgreement {

 public static void main(String[] args) {

  // call Agreement API to get offer and product information for the agreement

  String agreementId = args.length > 0 ? args[0] : AGREEMENT_ID;

  List<DescribeEntityResponse> entityResponseList = getEntities(agreementId);

  for (DescribeEntityResponse response : entityResponseList) {
   ReferenceCodesUtils.formatOutput(response);
  }
 }

 public static List<DescribeEntityResponse> getEntities(String agreementId) {
  List<DescribeEntityResponse> entityResponseList = new
 ArrayList<DescribeEntityResponse> ();

  MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
    MarketplaceAgreementClient.builder()
    .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
    .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
    .build();
```

```
 DescribeAgreementRequest describeAgreementRequest =
   DescribeAgreementRequest.builder()
   .agreementId(agreementId)
   .build();

 DescribeAgreementResponse describeAgreementResponse =
marketplaceAgreementClient.describeAgreement(describeAgreementRequest);

 // get offer id for the given agreement

 String offerId = describeAgreementResponse.proposalSummary().offerId();

 // get all the product ids for this agreement

 List<String> productIds = new ArrayList<String>();
 for (Resource resource : describeAgreementResponse.proposalSummary().resources())
{
  productIds.add(resource.id());
 }

 // call Catalog API to get the details of the offer and products

 MarketplaceCatalogClient marketplaceCatalogClient =
   MarketplaceCatalogClient.builder()
   .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
   .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
   .build();

 DescribeEntityRequest describeEntityRequest =
   DescribeEntityRequest.builder()
   .catalog(AWS_MP_CATALOG)
   .entityId(offerId).build();

 DescribeEntityResponse describeEntityResponse =
marketplaceCatalogClient.describeEntity(describeEntityRequest);

 entityResponseList.add(describeEntityResponse);

 for (String productId : productIds) {
  describeEntityRequest =
    DescribeEntityRequest.builder()
    .catalog(AWS_MP_CATALOG)
    .entityId(productId).build();
```

```
    describeEntityResponse =
 marketplaceCatalogClient.describeEntity(describeEntityRequest);
    System.out.println("Print details for product " + productId);
    entityResponseList.add(describeEntityResponse);
  }
  return entityResponseList;
 }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeAgreement」を参照してください。

契約の EULA を取得する

次のコード例は、契約の EULA を取得する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.seller;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.DocumentItem;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.GetAgreementTermsRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.GetAgreementTermsResponse;

import java.util.ArrayList;
import java.util.List;

import static com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesConstants.AGREEMENT_ID;
import com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesUtils;
```

```
public class GetAgreementTermsEula {

 /*
  * Obtain the EULA I have entered into with my customer via the agreement
  */
 public static void main(String[] args) {

  String agreementId = args.length > 0 ? args[0] : AGREEMENT_ID;

  List<DocumentItem> legalEulaArray = getLegalEula(agreementId);

  ReferenceCodesUtils.formatOutput(legalEulaArray);
 }

 public static List<DocumentItem> getLegalEula(String agreementId) {
  MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
    MarketplaceAgreementClient.builder()
    .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
    .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
    .build();

  GetAgreementTermsRequest getAgreementTermsRequest =
    GetAgreementTermsRequest.builder().agreementId(agreementId)
    .build();

  GetAgreementTermsResponse getAgreementTermsResponse =
 marketplaceAgreementClient.getAgreementTerms(getAgreementTermsRequest);

  List<DocumentItem> legalEulaArray = new ArrayList<>();

  getAgreementTermsResponse.acceptedTerms().stream()
      .filter(acceptedTerm -> acceptedTerm.legalTerm() != null &&
 acceptedTerm.legalTerm().hasDocuments())
      .flatMap(acceptedTerm -> acceptedTerm.legalTerm().documents().stream())
      .filter(docItem -> docItem.type() != null)
      .forEach(legalEulaArray::add);
  return legalEulaArray;
 }

}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetAgreementTerms」を参照してください。

契約の自動更新条件を取得する

次のコード例は、契約の自動更新条件を取得する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.seller;

import static com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesConstants.*;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AcceptedTerm;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.DescribeAgreementRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.DescribeAgreementResponse;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.EndTimeBehavior;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.GetAgreementTermsRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.GetAgreementTermsResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.PaymentScheduleEntry;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.PriceIncrease;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.RenewalTerm;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.TermTemplate;

public class GetAgreementAutoRenewal {

 /*
```

```
 * Obtain the auto-renewal status of the agreement
 */

public static void main(String[] args) {

 String agreementId = args.length > 0 ? args[0] : AGREEMENT_ID;

 RenewalTerm renewalTerm = getRenewalTerm(agreementId);

 printRenewalTerm(renewalTerm);

 printEndTimeBehavior(agreementId);
}

/*
 * Returns whether the agreement is set to auto renew, or "No Auto Renewal" when
there is no
 * renewal term or the flag is not set. Delegates to getRenewalTerm so there is a
single API path.
 */
public static String getAutoRenewal(String agreementId) {

 RenewalTerm renewalTerm = getRenewalTerm(agreementId);

 if (renewalTerm != null && renewalTerm.configuration() != null
   && renewalTerm.configuration().enableAutoRenew() != null) {
  return
String.valueOf(renewalTerm.configuration().enableAutoRenew().booleanValue());
 }
 return "No Auto Renewal";
}

/*
 * Reads the agreement's renewal term. These values come from the offer and are
read-only here.
 * Returns the first renewal term found, or null when the agreement has none.
 */
public static RenewalTerm getRenewalTerm(String agreementId) {

 MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
   MarketplaceAgreementClient.builder()
   .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
   .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
   .build();
```

```
 String nextToken = null;

 do {
  GetAgreementTermsResponse getAgreementTermsResponse =
    marketplaceAgreementClient.getAgreementTerms(
      GetAgreementTermsRequest.builder()
      .agreementId(agreementId)
      .nextToken(nextToken)
      .build());

  for (AcceptedTerm acceptedTerm : getAgreementTermsResponse.acceptedTerms()) {
   // AcceptedTerm is a union. Only the renewal term is of interest here.
   if (acceptedTerm.renewalTerm() != null) {
    return acceptedTerm.renewalTerm();
   }
  }

  nextToken = getAgreementTermsResponse.nextToken();
 } while (nextToken != null);

 return null;
}

/*
 * Prints the fields of a renewal term.
 */
public static void printRenewalTerm(RenewalTerm renewalTerm) {

 if (renewalTerm == null) {
  System.out.println("No Auto Renewal");
  return;
 }

 System.out.println("Renewal Term ID: " + renewalTerm.id());

 if (renewalTerm.configuration() != null) {
  System.out.println("Auto Renew Enabled: " +
renewalTerm.configuration().enableAutoRenew());
 }

 // ISO 8601 duration. The customer can no longer change enableAutoRenew once the
 // agreement is within this duration of its end date. Absent when the offer sets
no deadline,
```

```
 // which leaves the customer free to change enableAutoRenew up to the end date.
 if (renewalTerm.lockoutPeriod() != null) {
  System.out.println("Lockout Period: " + renewalTerm.lockoutPeriod());
 } else {
  System.out.println("Lockout Period: none");
 }

 // Absent means the agreement can renew without limit.
 if (renewalTerm.maxRenewals() != null) {
  System.out.println("Max Renewals: " + renewalTerm.maxRenewals());
 } else {
  System.out.println("Max Renewals: unlimited");
 }

 // Absent unless the offer sets a separate deadline for adjusting the renewal
price.
 if (renewalTerm.adjustmentDeadline() != null) {
  System.out.println("Adjustment Deadline: " + renewalTerm.adjustmentDeadline());
 }

 printPriceIncrease(renewalTerm.priceIncrease());

 for (TermTemplate termTemplate : renewalTerm.termTemplates()) {
  printTermTemplate(termTemplate);
 }
}

/*
 * Reads the price change that applies when the agreement renews.
 */
public static void printPriceIncrease(PriceIncrease priceIncrease) {

 if (priceIncrease == null) {
  System.out.println("Price Increase: none (the price does not change at
renewal)");
  return;
 }

 // PriceIncrease is a union. Exactly one variant is set.
 if (priceIncrease.fixedPercentage() != null) {
  System.out.println("Fixed Price Increase Percentage: " +
priceIncrease.fixedPercentage().value());
 } else if (priceIncrease.percentageRange() != null) {
```

```
  // The uplift is open within this range; defaultValue applies if you take no
action.
  System.out.println("Price Increase Min Percentage: " +
priceIncrease.percentageRange().minValue());
  System.out.println("Price Increase Max Percentage: " +
priceIncrease.percentageRange().maxValue());
  System.out.println("Price Increase Default Percentage: " +
priceIncrease.percentageRange().defaultValue());
 }
}

/*
 * Reads the term template that applies when the agreement renews.
 */
public static void printTermTemplate(TermTemplate termTemplate) {

 // TermTemplate is a union. Only payment schedule templates are supported today.
 if (termTemplate.paymentScheduleTermTemplate() == null) {
  System.out.println("Term Template: not a payment schedule template");
  return;
 }

 System.out.println("Payment Schedule Template:");
 for (PaymentScheduleEntry entry :
termTemplate.paymentScheduleTermTemplate().schedule()) {
  // chargeDateOffset is relative to the start of the renewed agreement, e.g.
"P3M".
  String line = "  Charge Date Offset: " + entry.chargeDateOffset()
    + ", Charge Percentage: " + entry.chargePercentage();

  // Absent unless the schedule pins charges to a day of the month.
  if (entry.dayOfMonth() != null) {
   line += ", Day Of Month: " + entry.dayOfMonth();
  }

  System.out.println(line);
 }
}

/*
 * Reads the agreement's end time behavior: whether it will renew, be replaced, or
expire, and why.
 */
public static void printEndTimeBehavior(String agreementId) {
```

```
  MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
    MarketplaceAgreementClient.builder()
    .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
    .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
    .build();

  DescribeAgreementResponse describeAgreementResponse =
    marketplaceAgreementClient.describeAgreement(
      DescribeAgreementRequest.builder().agreementId(agreementId).build());

  EndTimeBehavior endTimeBehavior = describeAgreementResponse.endTimeBehavior();
  if (endTimeBehavior == null) {
   System.out.println("End Time Behavior: none (this agreement has no end date)");
   return;
  }

  System.out.println("End Time Behavior Type: " + endTimeBehavior.typeAsString());

  // The reason the agreement does not renew, and absent when it does. My own
 PROPOSER_RENEW_OPTED_OUT
  // leaves enableAutoRenew untouched, so the flag can read true even when this says
 it will not renew.
  if (endTimeBehavior.reasonCodeAsString() != null) {
   System.out.println("End Time Behavior Reason Code: " +
 endTimeBehavior.reasonCodeAsString());
  }

  // renewalSummary is present whenever type is RENEW, but offerId inside it is
 absent
  // until a renewal offer is created.
  if (endTimeBehavior.renewalSummary() != null &&
 endTimeBehavior.renewalSummary().offerId() != null) {
   System.out.println("Renewal Offer ID: " +
 endTimeBehavior.renewalSummary().offerId());
  }
 }

}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetAgreementTerms」を参照してください。

契約の購入済みディメンションを取得する

次のコード例は、契約の購入済みディメンションを取得する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.seller;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AcceptedTerm;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.Dimension;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.GetAgreementTermsRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.GetAgreementTermsResponse;

import java.util.ArrayList;
import java.util.List;

import static com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesConstants.AGREEMENT_ID;
import com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesUtils;

public class GetAgreementTermsDimensionPurchased {

 /*
  * Obtain the dimensions the buyer has purchased from me via the agreement
  */
 public static void main(String[] args) {

  String agreementId = args.length > 0 ? args[0] : AGREEMENT_ID;

  List<String> dimensionKeys = getDimensionKeys(agreementId);

  ReferenceCodesUtils.formatOutput(dimensionKeys);
```

```
 }

 public static List<String> getDimensionKeys(String agreementId) {
  MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
    MarketplaceAgreementClient.builder()
    .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
    .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
    .build();

  GetAgreementTermsRequest getAgreementTermsRequest =
    GetAgreementTermsRequest.builder().agreementId(agreementId)
    .build();

  GetAgreementTermsResponse getAgreementTermsResponse =
marketplaceAgreementClient.getAgreementTerms(getAgreementTermsRequest);

  List<String> dimensionKeys = new ArrayList<String>();
  for (AcceptedTerm acceptedTerm : getAgreementTermsResponse.acceptedTerms()) {
   if (acceptedTerm.configurableUpfrontPricingTerm() != null) {
    if
(acceptedTerm.configurableUpfrontPricingTerm().configuration().selectorValue() !=
null) {
     List<Dimension> dimensions =
acceptedTerm.configurableUpfrontPricingTerm().configuration().dimensions();
     for (Dimension dimension : dimensions) {
      dimensionKeys.add(dimension.dimensionKey());
     }
    }

   }
  }
  return dimensionKeys;
 }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetAgreementTerms」を参照してください。

契約の終了時刻の動作を取得する

次のコード例は、契約が終了日に更新、置き換え、または期限切れになるかどうかを確認する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.seller;

import static com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesConstants.*;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.DescribeAgreementRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.DescribeAgreementResponse;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.EndTimeBehavior;

public class GetAgreementEndTimeBehavior {

 /*
  * Find out whether the agreement will renew, be replaced, or expire at its end
 date, and why
  */

 public static void main(String[] args) {

  String agreementId = args.length > 0 ? args[0] : AGREEMENT_ID;

  EndTimeBehavior endTimeBehavior = getEndTimeBehavior(agreementId);

  // endTimeBehavior is absent for agreements that have no end date, such as pay-as-
you-go.
  if (endTimeBehavior == null) {
   System.out.println("Agreement " + agreementId + " has no end date, so it has no
 end time behavior.");
   return;
  }
```

```
 System.out.println("End time behavior is " + endTimeBehavior.typeAsString());

 // reasonCode is null when type is RENEW, otherwise the reason the agreement does
not renew.
 if (endTimeBehavior.reasonCodeAsString() != null) {
  System.out.println("Reason is " + endTimeBehavior.reasonCodeAsString());
 }

 // renewalSummary is present whenever type is RENEW, but offerId inside it is
absent
 // until a renewal offer is created.
 if (endTimeBehavior.renewalSummary() != null &&
endTimeBehavior.renewalSummary().offerId() != null) {
  System.out.println("Next renewal will use offer " +
endTimeBehavior.renewalSummary().offerId());
 }
}

public static EndTimeBehavior getEndTimeBehavior(String agreementId) {

 MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
   MarketplaceAgreementClient.builder()
   .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
   .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
   .build();

 DescribeAgreementRequest describeAgreementRequest =
   DescribeAgreementRequest.builder()
   .agreementId(agreementId)
   .build();

 DescribeAgreementResponse describeAgreementResponse =
   marketplaceAgreementClient.describeAgreement(describeAgreementRequest);

 return describeAgreementResponse.endTimeBehavior();
}

}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeAgreement」を参照してください。

契約の最初の契約を取得する

次のコード例は、契約のチェーンで最初の契約を識別する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.seller;

import static com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesConstants.*;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.DescribeAgreementRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.DescribeAgreementResponse;

public class GetAgreementInitialAgreement {

 /*
  * Identify the first agreement in my agreement's chain
  */

 public static void main(String[] args) {

  String agreementId = args.length > 0 ? args[0] : AGREEMENT_ID;

  // A renewal or replacement carries forward the same initialAgreementId, so this
 value
  // identifies the whole chain. It equals agreementId when this agreement starts
 the chain.
  System.out.println("Initial Agreement ID: " + getInitialAgreementId(agreementId));
 }

 public static String getInitialAgreementId(String agreementId) {
```

```
  MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
    MarketplaceAgreementClient.builder()
    .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
    .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
    .build();

  DescribeAgreementRequest describeAgreementRequest =
    DescribeAgreementRequest.builder()
    .agreementId(agreementId)
    .build();

  DescribeAgreementResponse describeAgreementResponse =
    marketplaceAgreementClient.describeAgreement(describeAgreementRequest);

  return describeAgreementResponse.initialAgreementId();
 }

}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeAgreement」を参照してください。

契約の購入済み各ディメンションのインスタンスを取得する

次のコード例は、契約の購入済み各ディメンションのインスタンスを取得する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.seller;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AcceptedTerm;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.Dimension;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.GetAgreementTermsRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.GetAgreementTermsResponse;

import java.util.ArrayList;
import java.util.HashMap;
import java.util.List;
import java.util.Map;

import static com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesConstants.AGREEMENT_ID;
import com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesUtils;

public class GetAgreementTermsDimensionInstances {

 /*
  * get instances of each dimension that buyer has purchased in the agreement
  */
 public static void main(String[] args) {

  String agreementId = args.length > 0 ? args[0] : AGREEMENT_ID;

  Map<String, List<Dimension>> dimensionMap = getDimensions(agreementId);

  ReferenceCodesUtils.formatOutput(dimensionMap);
 }

 public static Map<String, List<Dimension>> getDimensions(String agreementId) {
  MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
    MarketplaceAgreementClient.builder()
    .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
    .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
    .build();

  GetAgreementTermsRequest getAgreementTermsRequest =
    GetAgreementTermsRequest.builder().agreementId(agreementId)
    .build();

  GetAgreementTermsResponse getAgreementTermsResponse =
 marketplaceAgreementClient.getAgreementTerms(getAgreementTermsRequest);

  Map<String, List<Dimension>> dimensionMap = new HashMap<String,
 List<Dimension>>();
```

```
 for (AcceptedTerm acceptedTerm : getAgreementTermsResponse.acceptedTerms()) {
  List<Dimension> dimensionsList = new ArrayList<Dimension>();
  if (acceptedTerm.configurableUpfrontPricingTerm() != null) {
   String selectorValue = "";
   if (acceptedTerm.configurableUpfrontPricingTerm().configuration() != null) {
    if
(acceptedTerm.configurableUpfrontPricingTerm().configuration().selectorValue() !=
null) {
     selectorValue =
acceptedTerm.configurableUpfrontPricingTerm().configuration().selectorValue();
    }
    if
(acceptedTerm.configurableUpfrontPricingTerm().configuration().hasDimensions()) {
     dimensionsList =
acceptedTerm.configurableUpfrontPricingTerm().configuration().dimensions();
    }
   }
   if (selectorValue.length() > 0) {
    dimensionMap.put(selectorValue, dimensionsList);
   }
  }
 }
 return dimensionMap;
}
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetAgreementTerms」を参照してください。

契約の支払いスケジュールを取得する

次のコード例は、契約の支払いスケジュールを取得する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.seller;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AcceptedTerm;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.GetAgreementTermsRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.GetAgreementTermsResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.PaymentScheduleTerm;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.ScheduleItem;

import java.util.ArrayList;
import java.util.HashMap;
import java.util.List;
import java.util.Map;

import static com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesConstants.*;
import com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesUtils;

public class GetAgreementTermsPaymentSchedule {

 /*
  * Obtain the payment schedule I have agreed to with the agreement, including the
 invoice date and invoice amount
  */
 public static void main(String[] args) {

  String agreementId = args.length > 0 ? args[0] : AGREEMENT_ID;

  List<Map<String, Object>> paymentScheduleArray = getPaymentSchedules(agreementId);

  ReferenceCodesUtils.formatOutput(paymentScheduleArray);
 }

 public static List<Map<String, Object>> getPaymentSchedules(String agreementId) {
  MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
    MarketplaceAgreementClient.builder()
    .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
    .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
```

```
    .build();

  GetAgreementTermsRequest getAgreementTermsRequest =
    GetAgreementTermsRequest.builder().agreementId(agreementId)
    .build();

  GetAgreementTermsResponse getAgreementTermsResponse =
 marketplaceAgreementClient.getAgreementTerms(getAgreementTermsRequest);
  List<Map<String, Object>> paymentScheduleArray = new ArrayList<>();

  String currencyCode = "";

  for (AcceptedTerm acceptedTerm : getAgreementTermsResponse.acceptedTerms()) {
   if (acceptedTerm.paymentScheduleTerm() != null) {
    PaymentScheduleTerm paymentScheduleTerm = acceptedTerm.paymentScheduleTerm();
    if (paymentScheduleTerm.currencyCode() != null) {
     currencyCode = paymentScheduleTerm.currencyCode();
    }
    if (paymentScheduleTerm.hasSchedule()) {
     for (ScheduleItem schedule : paymentScheduleTerm.schedule()) {
      if (schedule.chargeDate() != null) {
       String chargeDate = schedule.chargeDate().toString();
       String chargeAmount = schedule.chargeAmount();
       Map<String, Object> scheduleMap = new HashMap<>();
       scheduleMap.put(ATTRIBUTE_CURRENCY_CODE, currencyCode);
       scheduleMap.put(ATTRIBUTE_CHARGE_DATE, chargeDate);
       scheduleMap.put(ATTRIBUTE_CHARGE_AMOUNT, chargeAmount);
       paymentScheduleArray.add(scheduleMap);
      }
     }
    }
   }
  }
  return paymentScheduleArray;
 }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetAgreementTerms」を参照してください。

契約のディメンションあたりの料金を取得する

次のコード例は、契約のディメンションあたりの料金を取得する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.seller;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AcceptedTerm;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.GetAgreementTermsRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.GetAgreementTermsResponse;

import java.util.ArrayList;
import java.util.List;

import static com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesConstants.AGREEMENT_ID;
import com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesUtils;

public class GetAgreementTermsPricingEachDimension {

 /*
  * Obtain pricing per each dimension in the agreement
  */
 public static void main(String[] args) {

  String agreementId = args.length > 0 ? args[0] : AGREEMENT_ID;

  List<Object> dimensions = getDimensions(agreementId);

  ReferenceCodesUtils.formatOutput(dimensions);
 }
```

```
 public static List<Object> getDimensions(String agreementId) {
  MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
    MarketplaceAgreementClient.builder()
    .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
    .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
    .build();

  GetAgreementTermsRequest getAgreementTermsRequest =
    GetAgreementTermsRequest.builder().agreementId(agreementId)
    .build();

  GetAgreementTermsResponse getAgreementTermsResponse =
 marketplaceAgreementClient.getAgreementTerms(getAgreementTermsRequest);

  List<Object> dimensions = new ArrayList<Object>();

  for (AcceptedTerm acceptedTerm : getAgreementTermsResponse.acceptedTerms()) {
   List<Object> rateInfo = new ArrayList<Object>();
   if (acceptedTerm.configurableUpfrontPricingTerm() != null) {
    if (acceptedTerm.configurableUpfrontPricingTerm().type() != null) {
     rateInfo.add(acceptedTerm.configurableUpfrontPricingTerm().type());
    }
    if (acceptedTerm.configurableUpfrontPricingTerm().currencyCode() != null) {
     rateInfo.add(acceptedTerm.configurableUpfrontPricingTerm().currencyCode());
    }
    if (acceptedTerm.configurableUpfrontPricingTerm().hasRateCards()) {
     rateInfo.add(acceptedTerm.configurableUpfrontPricingTerm().rateCards());
    }
    dimensions.add(rateInfo);
   }
  }
  return dimensions;
 }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetAgreementTerms」を参照してください。

契約の料金タイプを取得する

次のコード例は、契約の料金タイプを取得する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.seller;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AcceptedTerm;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AgreementViewSummary;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.Filter;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.GetAgreementTermsRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.GetAgreementTermsResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.SearchAgreementsRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.SearchAgreementsResponse;

import com.fasterxml.jackson.annotation.JsonAutoDetect.Visibility;

import java.util.ArrayList;
import java.util.Arrays;
import java.util.HashMap;
import java.util.HashSet;
import java.util.Iterator;
import java.util.List;
import java.util.Map;
import java.util.Objects;
import java.util.Set;

import org.apache.commons.lang3.tuple.Triple;

import software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.MarketplaceCatalogClient;
```

```
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.DescribeEntityRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplacecatalog.model.DescribeEntityResponse;

import static com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesConstants.*;
import com.fasterxml.jackson.annotation.PropertyAccessor;
import com.fasterxml.jackson.core.JsonProcessingException;
import com.fasterxml.jackson.databind.JsonNode;
import com.fasterxml.jackson.databind.ObjectMapper;
import com.fasterxml.jackson.databind.ObjectWriter;
import com.fasterxml.jackson.datatype.jsr310.JavaTimeModule;

/*
 * Obtain the pricing type of the agreement (contract, FPS, metered, free etc.)
 */
public class GetAgreementPricingType {

 private static final String FILTER_NAME = "OfferId";

 private static final String FILTER_VALUE = OFFER_ID;

 // Product types
 private static final String SAAS_PRODUCT = "SaaSProduct";
 private static final String AMI_PRODUCT = "AmiProduct";
 private static final String ML_PRODUCT = "MachineLearningProduct";
 private static final String CONTAINER_PRODUCT = "ContainerProduct";
 private static final String DATA_PRODUCT = "DataProduct";
 private static final String PROSERVICE_PRODUCT = "ProfessionalServicesProduct";
 private static final String AIQ_PRODUCT = "AiqProduct";

 // Pricing types
 private static final String CCP = "CCP";
 private static final String ANNUAL = "Annual";
 private static final String CONTRACT = "Contract";
 private static final String SFT = "SaaS Free Trial";
 private static final String HMA = "Hourly and Monthly Agreements";
 private static final String HOURLY = "Hourly";
 private static final String MONTHLY = "Monthly";
 private static final String AFPS = "Annual FPS";
 private static final String CFPS = "Contract FPS";
 private static final String CCPFPS = "CCP with FPS";
 private static final String BYOL = "BYOL";
 private static final String FREE = "Free";
```

```
private static final String FTH = "Free Trials and Hourly";

// Agreement term pricing types
private static final Set<String> LEGAL = Set.of("LegalTerm");
private static final Set<String> CONFIGURABLE_UPFRONT =
Set.of("ConfigurableUpfrontPricingTerm");
private static final Set<String> USAGE_BASED = Set.of("UsageBasedPricingTerm");
private static final Set<String> CONFIGURABLE_UPFRONT_AND_USAGE_BASED =
Set.of("ConfigurableUpfrontPricingTerm", "UsageBasedPricingTerm");
private static final Set<String> FREE_TRIAL = Set.of("FreeTrialPricingTerm");
private static final Set<String> RECURRING_PAYMENT =
Set.of("RecurringPaymentTerm");
private static final Set<String> USAGE_BASED_AND_RECURRING_PAYMENT =
Set.of("UsageBasedPricingTerm", "RecurringPaymentTerm");
private static final Set<String> FIXED_UPFRONT_AND_PAYMENT_SCHEDULE =
Set.of("FixedUpfrontPricingTerm", "PaymentScheduleTerm");
private static final Set<String> FIXED_UPFRONT_AND_PAYMENT_SCHEDULE_AND_USAGE_BASED
= Set.of("FixedUpfrontPricingTerm", "PaymentScheduleTerm",
"UsageBasedPricingTerm");
private static final Set<String> BYOL_PRICING = Set.of("ByolPricingTerm");
private static final Set<String> FREE_TRIAL_AND_USAGE_BASED =
Set.of("FreeTrialPricingTerm", "UsageBasedPricingTerm");

private static final List<Set<String>> ALL_AGREEMENT_TERM_TYPES_COMBINATION
= Arrays.asList(LEGAL, CONFIGURABLE_UPFRONT, USAGE_BASED,
CONFIGURABLE_UPFRONT_AND_USAGE_BASED,
  FREE_TRIAL, RECURRING_PAYMENT, USAGE_BASED_AND_RECURRING_PAYMENT,
FIXED_UPFRONT_AND_PAYMENT_SCHEDULE,
FIXED_UPFRONT_AND_PAYMENT_SCHEDULE_AND_USAGE_BASED, BYOL_PRICING,
FREE_TRIAL_AND_USAGE_BASED);

private static  MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
  MarketplaceAgreementClient.builder()
  .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
  .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
  .build();

private static MarketplaceCatalogClient marketplaceCatalogClient =
  MarketplaceCatalogClient.builder()
  .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
  .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
  .build();

   /*
```

```
    * Get agreement Pricing Type given product type, agreement term types and offer
types if needed
    */
public static String getPricingType(String productType, Set<String>
agreementTermType, Set<String> offerType) {
 Map<Triple<String, Set<String>, Set<String>>, String> pricingTypes = new
HashMap<>();

 pricingTypes.put(Triple.of(SAAS_PRODUCT, CONFIGURABLE_UPFRONT_AND_USAGE_BASED, new
HashSet<>()), CCP);
 pricingTypes.put(Triple.of(DATA_PRODUCT, CONFIGURABLE_UPFRONT_AND_USAGE_BASED, new
HashSet<>()), CCP);
 pricingTypes.put(Triple.of(CONTAINER_PRODUCT, CONFIGURABLE_UPFRONT,
CONFIGURABLE_UPFRONT_AND_USAGE_BASED), ANNUAL);
 pricingTypes.put(Triple.of(AMI_PRODUCT, CONFIGURABLE_UPFRONT,
CONFIGURABLE_UPFRONT_AND_USAGE_BASED), ANNUAL);
 pricingTypes.put(Triple.of(ML_PRODUCT, CONFIGURABLE_UPFRONT,
CONFIGURABLE_UPFRONT_AND_USAGE_BASED), ANNUAL);
 pricingTypes.put(Triple.of(CONTAINER_PRODUCT, CONFIGURABLE_UPFRONT,
CONFIGURABLE_UPFRONT), CONTRACT);
 pricingTypes.put(Triple.of(AMI_PRODUCT, CONFIGURABLE_UPFRONT,
CONFIGURABLE_UPFRONT), CONTRACT);
 pricingTypes.put(Triple.of(SAAS_PRODUCT, CONFIGURABLE_UPFRONT, new HashSet<>()),
CONTRACT);
 pricingTypes.put(Triple.of(DATA_PRODUCT, CONFIGURABLE_UPFRONT, new HashSet<>()),
CONTRACT);
 pricingTypes.put(Triple.of(AIQ_PRODUCT, CONFIGURABLE_UPFRONT, new HashSet<>()),
CONTRACT);
 pricingTypes.put(Triple.of(PROSERVICE_PRODUCT, CONFIGURABLE_UPFRONT, new
HashSet<>()), CONTRACT);
 pricingTypes.put(Triple.of(SAAS_PRODUCT, FREE_TRIAL, new HashSet<>()), SFT);
 pricingTypes.put(Triple.of(AMI_PRODUCT, USAGE_BASED_AND_RECURRING_PAYMENT, new
HashSet<>()), HMA);
 pricingTypes.put(Triple.of(SAAS_PRODUCT, USAGE_BASED, new HashSet<>()), HOURLY);
 pricingTypes.put(Triple.of(AMI_PRODUCT, USAGE_BASED, new HashSet<>()), HOURLY);
 pricingTypes.put(Triple.of(ML_PRODUCT, USAGE_BASED, new HashSet<>()), HOURLY);
 pricingTypes.put(Triple.of(CONTAINER_PRODUCT, RECURRING_PAYMENT, new HashSet<>()),
MONTHLY);
 pricingTypes.put(Triple.of(AMI_PRODUCT, RECURRING_PAYMENT, new HashSet<>()),
MONTHLY);
 pricingTypes.put(Triple.of(CONTAINER_PRODUCT, FIXED_UPFRONT_AND_PAYMENT_SCHEDULE,
FIXED_UPFRONT_AND_PAYMENT_SCHEDULE_AND_USAGE_BASED), AFPS);
 pricingTypes.put(Triple.of(AMI_PRODUCT, FIXED_UPFRONT_AND_PAYMENT_SCHEDULE,
FIXED_UPFRONT_AND_PAYMENT_SCHEDULE_AND_USAGE_BASED), AFPS);
```

```
 pricingTypes.put(Triple.of(ML_PRODUCT, FIXED_UPFRONT_AND_PAYMENT_SCHEDULE, new
HashSet<>()), AFPS);
 pricingTypes.put(Triple.of(CONTAINER_PRODUCT, FIXED_UPFRONT_AND_PAYMENT_SCHEDULE,
new HashSet<>()), CFPS);
 pricingTypes.put(Triple.of(AMI_PRODUCT, FIXED_UPFRONT_AND_PAYMENT_SCHEDULE,
FIXED_UPFRONT_AND_PAYMENT_SCHEDULE), CFPS);
 pricingTypes.put(Triple.of(SAAS_PRODUCT, FIXED_UPFRONT_AND_PAYMENT_SCHEDULE, new
HashSet<>()), CFPS);
 pricingTypes.put(Triple.of(DATA_PRODUCT, FIXED_UPFRONT_AND_PAYMENT_SCHEDULE, new
HashSet<>()), CFPS);
 pricingTypes.put(Triple.of(AIQ_PRODUCT, FIXED_UPFRONT_AND_PAYMENT_SCHEDULE, new
HashSet<>()), CFPS);
 pricingTypes.put(Triple.of(PROSERVICE_PRODUCT, FIXED_UPFRONT_AND_PAYMENT_SCHEDULE,
new HashSet<>()), CFPS);
 pricingTypes.put(Triple.of(SAAS_PRODUCT,
FIXED_UPFRONT_AND_PAYMENT_SCHEDULE_AND_USAGE_BASED, new HashSet<>()), CCPFPS);
 pricingTypes.put(Triple.of(DATA_PRODUCT,
FIXED_UPFRONT_AND_PAYMENT_SCHEDULE_AND_USAGE_BASED, new HashSet<>()), CCPFPS);
 pricingTypes.put(Triple.of(AIQ_PRODUCT,
FIXED_UPFRONT_AND_PAYMENT_SCHEDULE_AND_USAGE_BASED, new HashSet<>()), CCPFPS);
 pricingTypes.put(Triple.of(PROSERVICE_PRODUCT,
FIXED_UPFRONT_AND_PAYMENT_SCHEDULE_AND_USAGE_BASED, new HashSet<>()), CCPFPS);
 pricingTypes.put(Triple.of(AMI_PRODUCT, BYOL_PRICING, new HashSet<>()), BYOL);
 pricingTypes.put(Triple.of(SAAS_PRODUCT, BYOL_PRICING, new HashSet<>()), BYOL);
 pricingTypes.put(Triple.of(PROSERVICE_PRODUCT, BYOL_PRICING, new HashSet<>()),
BYOL);
 pricingTypes.put(Triple.of(AIQ_PRODUCT, BYOL_PRICING, new HashSet<>()), BYOL);
 pricingTypes.put(Triple.of(ML_PRODUCT, BYOL_PRICING, new HashSet<>()), BYOL);
 pricingTypes.put(Triple.of(CONTAINER_PRODUCT, BYOL_PRICING, new HashSet<>()),
BYOL);
 pricingTypes.put(Triple.of(DATA_PRODUCT, BYOL_PRICING, new HashSet<>()), BYOL);
 pricingTypes.put(Triple.of(CONTAINER_PRODUCT, LEGAL, new HashSet<>()), FREE);
 pricingTypes.put(Triple.of(AMI_PRODUCT, FREE_TRIAL_AND_USAGE_BASED, new
HashSet<>()), FTH);
 pricingTypes.put(Triple.of(CONTAINER_PRODUCT, FREE_TRIAL_AND_USAGE_BASED, new
HashSet<>()), FTH);
 pricingTypes.put(Triple.of(ML_PRODUCT, FREE_TRIAL_AND_USAGE_BASED, new
HashSet<>()), FTH);

 Triple<String, Set<String>, Set<String>> key = Triple.of(productType,
agreementTermType, offerType);

 if (pricingTypes.containsKey(key)) {
  return pricingTypes.get(key);
```

```
 } else {
  return "Unknown";
 }
}

/*
 * Given product type and agreement term types, some combinations need to check
offer term types as well.
 */
public static String needToCheckOfferTermsType(String productType, Set<String>
agreementTermTypes) {
 Map<KeyPair, String> offerTermTypes = new HashMap<>();
 offerTermTypes.put(new KeyPair(CONTAINER_PRODUCT, CONFIGURABLE_UPFRONT), "Y");
 offerTermTypes.put(new KeyPair(AMI_PRODUCT, CONFIGURABLE_UPFRONT), "Y");
 offerTermTypes.put(new KeyPair(CONTAINER_PRODUCT,
FIXED_UPFRONT_AND_PAYMENT_SCHEDULE), "Y");
 offerTermTypes.put(new KeyPair(AMI_PRODUCT, FIXED_UPFRONT_AND_PAYMENT_SCHEDULE),
"Y");

 KeyPair key = new KeyPair(productType, agreementTermTypes);
 if (offerTermTypes.containsKey(key)) {
  return offerTermTypes.get(key);
 } else {
  return null;
 }
}

public static List<AgreementViewSummary> getAgreementsById() {

 List<AgreementViewSummary> agreementSummaryList = new
ArrayList<AgreementViewSummary>();

 // Set PartyType filter to PARTY_TYPE_FILTER_VALUE_PROPOSER to return agreements
where you are the proposer.
 // Change to PARTY_TYPE_FILTER_VALUE_ACCEPTOR to return agreements where you are
the acceptor.
 Filter partyType =
Filter.builder().name(PARTY_TYPE_FILTER_NAME).values(PARTY_TYPE_FILTER_VALUE_PROPOSER).buil

 Filter agreementType =
Filter.builder().name(AGREEMENT_TYPE_FILTER_NAME).values(AGREEMENT_TYPE_FILTER_VALUE_PURCHA

 Filter customizeFilter =
Filter.builder().name(FILTER_NAME).values(FILTER_VALUE).build();
```

```
 SearchAgreementsRequest searchAgreementsRequest =
   SearchAgreementsRequest.builder()
   .catalog(AWS_MP_CATALOG)
   .filters(partyType, agreementType, customizeFilter).build();

 SearchAgreementsResponse searchResultResponse =
marketplaceAgreementClient.searchAgreements(searchAgreementsRequest);

 agreementSummaryList.addAll(searchResultResponse.agreementViewSummaries());

 while (searchResultResponse.nextToken() != null &&
searchResultResponse.nextToken().length() > 0) {
  searchAgreementsRequest =
SearchAgreementsRequest.builder().catalog(AWS_MP_CATALOG)
    .filters(partyType,
agreementType).nextToken(searchResultResponse.nextToken()).build();
  searchResultResponse =
marketplaceAgreementClient.searchAgreements(searchAgreementsRequest);
  agreementSummaryList.addAll(searchResultResponse.agreementViewSummaries());
 }
 return agreementSummaryList;

}

static class KeyPair {
 private final String first;
 private final Set<String> second;

 public KeyPair(String productType, Set<String> second) {
  this.first = productType;
  this.second = second;
 }

 @Override
 public int hashCode() {
  return Objects.hash(first, second);
 }

 @Override
 public boolean equals(Object obj) {
  if (this == obj)
   return true;
  if (obj == null || getClass() != obj.getClass())
```

```
    return false;
   KeyPair other = (KeyPair) obj;
   return Objects.equals(first, other.first) && Objects.equals(second,
other.second);
  }
}

/*
 * Get all the term types for the offer
 */
public static Set<String> getOfferTermTypes(String offerId) {

 Set<String> offerTermTypes = new HashSet<String>();

 DescribeEntityRequest request =
   DescribeEntityRequest.builder()
   .catalog(AWS_MP_CATALOG)
   .entityId(offerId)
   .build();

 DescribeEntityResponse result = marketplaceCatalogClient.describeEntity(request);

 String details = result.details();

 try {
  ObjectMapper objectMapper = new ObjectMapper();
  JsonNode rootNode = objectMapper.readTree(details);
  JsonNode termsNode = rootNode.get(ATTRIBUTE_TERMS);

  for (JsonNode termNode : termsNode) {
   if (termNode.get(ATTRIBUTE_TYPE_ENTITY) != null ) {
    offerTermTypes.add(termNode.get(ATTRIBUTE_TYPE_ENTITY).asText());
   }
  }
 } catch (Exception e) {
  e.printStackTrace();
 }

 return offerTermTypes;

}

/*
 * Get all the agreement term types
```

```
 */
public static Set<String> getAgreementTermTypes(GetAgreementTermsResponse
agreementTerm) {
 Set<String> agreementTermTypes = new HashSet<String>();
 try {
  for (AcceptedTerm term : agreementTerm.acceptedTerms()) {
   ObjectMapper objectMapper = new ObjectMapper();
   JsonNode termNode = objectMapper.readTree(getJson(term));
   Iterator<Map.Entry<String, JsonNode>> fieldsIterator = termNode.fields();
   while (fieldsIterator.hasNext()) {
    Map.Entry<String, JsonNode> entry = fieldsIterator.next();
    JsonNode value = entry.getValue();
    if (value.isObject() && value.has(ATTRIBUTE_TYPE_AGREEMENT)) {
     agreementTermTypes.add(value.get(ATTRIBUTE_TYPE_AGREEMENT).asText());
    }
   }
  }
 } catch (Exception e) {
  e.printStackTrace();
 }
 return agreementTermTypes;

}

/*
 * make sure all elements in array2 exist in array1
 */
public static boolean allElementsExist(Set<String> array1, Set<String> array2) {
 for (String element : array2) {
  boolean found = false;
  for (String str : array1) {
   if (element.equals(str)) {
    found = true;
    break;
   }
  }
  if (!found) {
   return false;
  }
 }
 return true;
}

/*
```

```
 * Find the combinations of the agreement term types for the agreement
 */
public static Set<String> getMatchedTermTypesCombination(Set<String>
agreementTermTypes) {
 Set<String> matchedCombination = new HashSet<String>();
 for (Set<String> element : ALL_AGREEMENT_TERM_TYPES_COMBINATION) {
  if (allElementsExist(agreementTermTypes, element)) {
   matchedCombination = element;
  }
 }
 return matchedCombination;
}

public static void main(String[] args) {

 List<AgreementViewSummary> agreements = getAgreementsById();

 for (AgreementViewSummary summary : agreements) {
  String pricingType = "";
  String agreementId = summary.agreementId();
  System.out.println(agreementId);
  String offerId = summary.proposalSummary().offerId();

  //get all pricing term types for the offer in the agreement
  Set<String> offerTermTypes = getOfferTermTypes(offerId);
  String productType = summary.proposalSummary().resources().get(0).type();

  //get all pricing term types for the agreement
  GetAgreementTermsRequest getAgreementTermsRequest =
    GetAgreementTermsRequest.builder().agreementId(agreementId)
    .build();
  GetAgreementTermsResponse getAgreementTermsResponse =
marketplaceAgreementClient.getAgreementTerms(getAgreementTermsRequest);
  Set<String> agreementTermTypes =
getAgreementTermTypes(getAgreementTermsResponse);

  //get matched pricing term type combination set
  Set<String> agreementMatchedTermType =
getMatchedTermTypesCombination(agreementTermTypes);

  //check to see if this agreement pricing term combination needs additional check
on offer pricing terms
  String needToCheckOfferType = needToCheckOfferTermsType(productType,
agreementMatchedTermType);
```

```
  // get the pricing type for the agreement based on the product type, agreement
 term types and offer term types if needed
  if (needToCheckOfferType != null) {
   Set<String> offerMatchedTermType =
 getMatchedTermTypesCombination(offerTermTypes);
   pricingType = getPricingType(productType, agreementMatchedTermType,
 offerMatchedTermType);
  } else if (agreementMatchedTermType == LEGAL) {
   pricingType = FREE;
  } else {
   pricingType = getPricingType(productType, agreementMatchedTermType, new
 HashSet());
  }
  System.out.println("Pricing type is " + pricingType);
 }
}

private static String getJson(Object result) {
 String json = "";

 try {
  ObjectMapper om = new ObjectMapper();
  om.setVisibility(PropertyAccessor.FIELD, Visibility.ANY);
  om.registerModule(new JavaTimeModule());
  ObjectWriter ow = om.writer().withDefaultPrettyPrinter();

  json = ow.writeValueAsString(result);
 } catch (JsonProcessingException e) {
  e.printStackTrace();
 }
 return json;
}

}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeAgreement」を参照してください。

契約の製品タイプを取得する

次のコード例は、契約の製品タイプを取得する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.seller;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.DescribeAgreementRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.DescribeAgreementResponse;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.Resource;

import static com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesConstants.*;

import java.util.ArrayList;
import java.util.List;

import com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesUtils;

public class GetAgreementProductType {

 /*
  * Obtain the Product Type of the product the agreement was created on
  */
 public static void main(String[] args) {

  String agreementId = args.length > 0 ? args[0] : AGREEMENT_ID;

  List<String> productIds = getProducts(agreementId);

  ReferenceCodesUtils.formatOutput(productIds);
 }

 public static List<String> getProducts(String agreementId) {
```

```
  MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
    MarketplaceAgreementClient.builder()
    .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
    .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
    .build();

  DescribeAgreementRequest describeAgreementRequest =
    DescribeAgreementRequest.builder()
    .agreementId(agreementId)
    .build();

  DescribeAgreementResponse describeAgreementResponse =
 marketplaceAgreementClient.describeAgreement(describeAgreementRequest);

  List<String> productIds = new ArrayList<String>();
  for (Resource resource : describeAgreementResponse.proposalSummary().resources())
 {
   productIds.add(resource.id() + ":" + resource.type());
  }
  return productIds;
 }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeAgreement」を参照してください。

契約のステータスを取得する

次のコード例は、契約のステータスを取得する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.seller;

import static com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesConstants.AGREEMENT_ID;
```

```
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.DescribeAgreementRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.DescribeAgreementResponse;

public class GetAgreementStatus {

 public static void main(String[] args) {

  String agreementId = args.length > 0 ? args[0] : AGREEMENT_ID;

  DescribeAgreementResponse describeAgreementResponse =
 getDescribeAgreementResponse(agreementId);

  System.out.println("Agreement status is " + describeAgreementResponse.status());

 }

 public static DescribeAgreementResponse getDescribeAgreementResponse(String
 agreementId) {
  MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
    MarketplaceAgreementClient.builder()
    .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
    .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
    .build();

  DescribeAgreementRequest describeAgreementRequest =
    DescribeAgreementRequest.builder()
    .agreementId(agreementId)
    .build();

  DescribeAgreementResponse describeAgreementResponse =
 marketplaceAgreementClient.describeAgreement(describeAgreementRequest);
  return describeAgreementResponse;
 }

}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeAgreement」を参照してください。

契約のサポート条件を取得する

次のコード例は、契約のサポート条件を取得する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.seller;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AcceptedTerm;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.GetAgreementTermsRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.GetAgreementTermsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.SupportTerm;

import java.util.ArrayList;
import java.util.List;

import static com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesConstants.AGREEMENT_ID;
import com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesUtils;

public class GetAgreementTermsSupportTerm {

 /*
  * Obtain the support and refund policy I have provided to the customer
  */
 public static void main(String[] args) {

  String agreementId = args.length > 0 ? args[0] : AGREEMENT_ID;
```

```
 List<SupportTerm> supportTerms = getSupportTerms(agreementId);

 ReferenceCodesUtils.formatOutput(supportTerms);
}

public static List<SupportTerm> getSupportTerms(String agreementId) {
 MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
   MarketplaceAgreementClient.builder()
   .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
   .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
   .build();

 GetAgreementTermsRequest getAgreementTermsRequest =
   GetAgreementTermsRequest.builder().agreementId(agreementId)
   .build();

 GetAgreementTermsResponse getAgreementTermsResponse =
marketplaceAgreementClient.getAgreementTerms(getAgreementTermsRequest);

 List<SupportTerm> supportTerms = new ArrayList<>();

 for (AcceptedTerm acceptedTerm : getAgreementTermsResponse.acceptedTerms()) {
  if (acceptedTerm.supportTerm() != null) {
   supportTerms.add(acceptedTerm.supportTerm());
  }
 }
 return supportTerms;
}

}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetAgreementTerms」を参照してください。

契約条件を取得する

次のコード例は、契約条件を取得する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.seller;

import static com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesConstants.*;
import com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesUtils;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.GetAgreementTermsRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.GetAgreementTermsResponse;

public class GetAgreementTerms {

 public static void main(String[] args) {

  String agreementId = args.length > 0 ? args[0] : AGREEMENT_ID;

  GetAgreementTermsResponse getAgreementTermsResponse =
 getAgreementTermsResponse(agreementId);

  ReferenceCodesUtils.formatOutput(getAgreementTermsResponse);

 }

 public static GetAgreementTermsResponse getAgreementTermsResponse(String
 agreementId) {
  MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
    MarketplaceAgreementClient.builder()
    .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
    .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
    .build();
```

```
  GetAgreementTermsRequest getAgreementTermsRequest =
    GetAgreementTermsRequest.builder()
    .agreementId(agreementId)
    .build();

  GetAgreementTermsResponse getAgreementTermsResponse =
 marketplaceAgreementClient.getAgreementTerms(getAgreementTermsRequest);
  return getAgreementTermsResponse;
 }

}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetAgreementTerms」を参照してください。

契約キャンセルリクエストを一覧表示する

次のコード例は、アクセプタとして参加する契約の契約キャンセルリクエストを一覧表示する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.buyer.agreementCancellation;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AgreementCancellationRequestSumm
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.ListAgreementCancellationRequest
```

```
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.ListAgreementCancellationRequest

public class ListAgreementCancellationRequests {

    private static final String PARTY_TYPE = "Proposer";

    public static void main(String[] args) {
        listAgreementCancellationRequests();
    }

    private static void listAgreementCancellationRequests() {
        MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
                MarketplaceAgreementClient.builder()
                        .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
                        .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
                        .build();

        String nextToken = null;

        do {
            ListAgreementCancellationRequestsRequest request =
                    ListAgreementCancellationRequestsRequest.builder()
                            .partyType(PARTY_TYPE)
                            .nextToken(nextToken)
                            .build();

            ListAgreementCancellationRequestsResponse response =

 marketplaceAgreementClient.listAgreementCancellationRequests(request);

            for (AgreementCancellationRequestSummary summary : response.items()) {
                System.out.println("Cancellation Request ID: " +
 summary.agreementCancellationRequestId());
                System.out.println("Agreement ID: " + summary.agreementId());
                System.out.println("Status: " + summary.statusAsString());
                System.out.println("Reason Code: " + summary.reasonCodeAsString());
                System.out.println("Agreement Type: " + summary.agreementType());
                System.out.println("Catalog: " + summary.catalog());
                System.out.println("Created At: " + summary.createdAt());
                System.out.println("Updated At: " + summary.updatedAt());
                System.out.println("---");
            }
```

```
            nextToken = response.nextToken();
        } while (nextToken != null);
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x 「 API リファレンス」のListAgreementCancellationRequests」を参照してください。

契約の支払いリクエストを一覧表示する

次のコード例は、アクセプタとして参加する契約の契約支払いリクエストを一覧表示する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.buyer.paymentRequest;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.ListAgreementPaymentRequestsRequ
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.ListAgreementPaymentRequestsResp
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.PaymentRequestSummary;

public class ListAgreementPaymentRequests {

    private static final String PARTY_TYPE = "Proposer";

    public static void main(String[] args) {
        listAgreementPaymentRequests();
```

```
    }

    private static void listAgreementPaymentRequests() {
        MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
                MarketplaceAgreementClient.builder()
                        .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
                        .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
                        .build();

        String nextToken = null;

        do {
            ListAgreementPaymentRequestsRequest request =
                    ListAgreementPaymentRequestsRequest.builder()
                            .partyType(PARTY_TYPE)
                            .nextToken(nextToken)
                            .build();

            ListAgreementPaymentRequestsResponse response =

 marketplaceAgreementClient.listAgreementPaymentRequests(request);

            for (PaymentRequestSummary summary : response.items()) {
                System.out.println("Payment Request ID: " +
 summary.paymentRequestId());
                System.out.println("Agreement ID: " + summary.agreementId());
                System.out.println("Status: " + summary.statusAsString());
                System.out.println("Name: " + summary.name());
                System.out.println("Charge ID: " + summary.chargeId());
                System.out.println("Charge Amount: " + summary.chargeAmount());
                System.out.println("Currency Code: " + summary.currencyCode());
                System.out.println("Created At: " + summary.createdAt());
                System.out.println("Updated At: " + summary.updatedAt());
                System.out.println("---");
            }

            nextToken = response.nextToken();
        } while (nextToken != null);
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x 「 API リファレンス」のListAgreementPaymentRequests」を参照してください。

契約キャンセルリクエストを拒否する

次のコード例は、販売者が開始した契約キャンセルリクエストを拒否する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.buyer.agreementCancellation;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.RejectAgreementCancellationReque
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.RejectAgreementCancellationReque

public class RejectAgreementCancellationRequest {

    private static final String AGREEMENT_ID = "<AGREEMENT ID HERE>";
    private static final String AGREEMENT_CANCELLATION_REQUEST_ID = "<AGREEMENT
 CANCELLATION REQUEST ID HERE>";
    private static final String REJECTION_REASON = "<REJECTION REASON HERE>";

    public static void main(String[] args) {
        rejectAgreementCancellationRequest();
    }

    private static void rejectAgreementCancellationRequest() {
        MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
                MarketplaceAgreementClient.builder()
                        .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
                        .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
```

```
                        .build();

        RejectAgreementCancellationRequestRequest request =
                RejectAgreementCancellationRequestRequest.builder()
                        .agreementId(AGREEMENT_ID)

 .agreementCancellationRequestId(AGREEMENT_CANCELLATION_REQUEST_ID)
                        .rejectionReason(REJECTION_REASON)
                        .build();

        RejectAgreementCancellationRequestResponse response =

 marketplaceAgreementClient.rejectAgreementCancellationRequest(request);

        System.out.println("Agreement ID: " + response.agreementId());
        System.out.println("Cancellation Request ID: " +
 response.agreementCancellationRequestId());
        System.out.println("Status: " + response.statusAsString());
        System.out.println("Status Message: " + response.statusMessage());
        System.out.println("Reason Code: " + response.reasonCodeAsString());
        System.out.println("Created At: " + response.createdAt());
        System.out.println("Updated At: " + response.updatedAt());
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x 「 API リファレンス」のRejectAgreementCancellationRequest」を参照してください。

契約の支払いリクエストを拒否する

次のコード例は、販売者が開始した契約支払いリクエストを拒否する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.buyer.paymentRequest;
```

```
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.RejectAgreementPaymentRequestReq
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.RejectAgreementPaymentRequestRes

public class RejectAgreementPaymentRequest {

    private static final String AGREEMENT_ID = "<AGREEMENT ID HERE>";
    private static final String PAYMENT_REQUEST_ID = "<PAYMENT REQUEST ID HERE>";
    private static final String REJECTION_REASON = "<REJECTION REASON HERE>";

    public static void main(String[] args) {
        rejectAgreementPaymentRequest();
    }

    private static void rejectAgreementPaymentRequest() {
        MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
                MarketplaceAgreementClient.builder()
                        .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
                        .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
                        .build();

        RejectAgreementPaymentRequestRequest request =
                RejectAgreementPaymentRequestRequest.builder()
                        .agreementId(AGREEMENT_ID)
                        .paymentRequestId(PAYMENT_REQUEST_ID)
                        .rejectionReason(REJECTION_REASON)
                        .build();

        RejectAgreementPaymentRequestResponse response =
                marketplaceAgreementClient.rejectAgreementPaymentRequest(request);

        System.out.println("Payment Request ID: " + response.paymentRequestId());
        System.out.println("Agreement ID: " + response.agreementId());
        System.out.println("Status: " + response.statusAsString());
        System.out.println("Status Message: " + response.statusMessage());
        System.out.println("Name: " + response.name());
        System.out.println("Charge Amount: " + response.chargeAmount());
        System.out.println("Currency Code: " + response.currencyCode());
```

```
        System.out.println("Created At: " + response.createdAt());
        System.out.println("Updated At: " + response.updatedAt());
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x 「API リファレンス」の[RejectAgreementPaymentRequest」を参照してください。

SaaS 契約を契約ベースのオファーに置き換える

次のコード例は、SaaS 契約を新しい契約ベースのオファーに置き換える方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。[AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリ]リポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.buyer;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AcceptAgreementRequestRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AcceptAgreementRequestResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.CreateAgreementRequestRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.CreateAgreementRequestResponse;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.Intent;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.RequestedTerm;
import com.example.awsmarketplace.agreementapi.buyer.utils.AgreementApiUtils;

/**
 * Demonstrates how to replace an existing SaaS agreement with CONTRACT pricing
 model with a new
```

```
 * Agreement-Based Offer (ABO) using the AWS Marketplace Agreement Service APIs.
 *
 * <p>Scenario: A buyer has an active SaaS agreement with CONTRACT pricing model and
 receives a private
 * Agreement-Based Offer from the seller. The buyer replaces the existing agreement
 * with the new ABO offer, which may include updated pricing terms and payment
 schedule.
 *
 * <p>Note: Unlike other Replace samples, this example starts from an already-active
 * {@code EXISTING_AGREEMENT_ID} rather than creating a new agreement first. Use
 this
 * pattern when you already have an agreement ID and want to replace it directly.
 *
 * <p>Before running this sample, replace the placeholder constants below with
 values from
 * your AWS Marketplace offers:
 * <ul>
 *   <li>{@code EXISTING_AGREEMENT_ID} — the agreement ID of the active agreement to
 replace (starts with {@code agmt-}).</li>
 *   <li>{@code NEW_AGREEMENT_PROPOSAL_IDENTIFIER} — the agreementProposalId from
 the new ABO offer.</li>
 *   <li>Term IDs (starting with {@code term-}) — found in the new offer's term
 list.</li>
 * </ul>
 */
public class ReplaceSaaSContractWithAgreementBasedOffer {

    // The agreement ID of the active SaaS agreement with CONTRACT pricing model to
 replace (starts with "agmt-").
    private static final String EXISTING_AGREEMENT_ID = "<your-existing-agreement-
id>";

    // The agreementProposalId from the new Agreement-Based Offer.
    private static final String NEW_AGREEMENT_PROPOSAL_IDENTIFIER = "<your-new-
agreement-proposal-identifier>";

    // Term ID for the LegalTerm in the new offer.
    private static final String LEGAL_TERM_ID = "<your-legal-term-id>";

    // Term ID for the ValidityTerm in the new offer.
    private static final String VALIDITY_TERM_ID = "<your-validity-term-id>";

    // Term ID for the FixedUpfrontPricingTerm in the new offer.
```

```
    private static final String FIXED_UPFRONT_PRICING_TERM_ID = "<your-fixed-
upfront-pricing-term-id>";

    // Term ID for the PaymentScheduleTerm in the new offer.
    private static final String PAYMENT_SCHEDULE_TERM_ID = "<your-payment-schedule-
term-id>";

    public static void main(String[] args) {
        replaceExistingAgreement();
    }

    /**
     * Replaces an existing SaaS agreement with CONTRACT pricing model with a new
 Agreement-Based Offer.
     * Uses Intent.REPLACE with sourceAgreementIdentifier set to the existing
 agreement ID.
     */
    private static void replaceExistingAgreement() {
        MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
                MarketplaceAgreementClient.builder()
                        .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
                        .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
                        .build();

        RequestedTerm legalTerm = RequestedTerm.builder().id(LEGAL_TERM_ID).build();
        RequestedTerm validityTerm =
 RequestedTerm.builder().id(VALIDITY_TERM_ID).build();
        RequestedTerm fixedUpfrontPricingTerm =
 RequestedTerm.builder().id(FIXED_UPFRONT_PRICING_TERM_ID).build();
        RequestedTerm paymentScheduleTerm =
 RequestedTerm.builder().id(PAYMENT_SCHEDULE_TERM_ID).build();

        // Replace the agreement with the new offer
        CreateAgreementRequestRequest createAgreementRequestRequest =
                CreateAgreementRequestRequest.builder()
                        .clientToken(AgreementApiUtils.generateClientToken())
                        .intent(Intent.REPLACE)
                        .requestedTerms(fixedUpfrontPricingTerm,
 paymentScheduleTerm, legalTerm, validityTerm)

 .agreementProposalIdentifier(NEW_AGREEMENT_PROPOSAL_IDENTIFIER)
                        .sourceAgreementIdentifier(EXISTING_AGREEMENT_ID)
                        .build();
        CreateAgreementRequestResponse createAgreementRequestResponse =
```

```
 marketplaceAgreementClient.createAgreementRequest(createAgreementRequestRequest);
        System.out.println("Replace agreement request created. AgreementRequestId: "
 + createAgreementRequestResponse.agreementRequestId());

        AcceptAgreementRequestRequest acceptAgreementRequestRequest =
                AcceptAgreementRequestRequest.builder()

 .agreementRequestId(createAgreementRequestResponse.agreementRequestId())
                        .build();
        AcceptAgreementRequestResponse acceptAgreementRequestResponse =

 marketplaceAgreementClient.acceptAgreementRequest(acceptAgreementRequestRequest);
        System.out.println("Agreement replaced with ABO. New AgreementId: " +
 acceptAgreementRequestResponse.agreementId());
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x 「 API リファレンス」のCreateAgreementRequest」を参照してください。

SaaS 無料トライアルを従量制料金の契約に置き換える

次のコード例は、SaaS 無料トライアルを従量制契約 (CCP) に置き換える方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.buyer;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AcceptAgreementRequestRequest;
```

```
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AcceptAgreementRequestResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.CreateAgreementRequestRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.CreateAgreementRequestResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.GetAgreementEntitlementsResponse
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.Intent;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.RequestedTerm;
import com.example.awsmarketplace.agreementapi.buyer.utils.AgreementApiUtils;

/**
 * Demonstrates how to create a SaaS free trial agreement and then replace it with a
 * paid Contract with Consumption Pricing (CCP) offer using the AWS Marketplace
 Agreement Service APIs.
 *
 * <p>Scenario: A buyer first starts a free trial on a SaaS product. Once the trial
 is active,
 * they decide to convert by replacing it with a paid offer that includes a
 * FixedUpfrontPricingTerm, PaymentScheduleTerm, and UsageBasedPricingTerm.
 *
 * <p>Flow:
 * <ol>
 *   <li>Create a SaaS free trial agreement with freeTrialPricingTerm.</li>
 *   <li>Wait for freeTrialPricingTerm agreement entitlements to become active.</li>
 *   <li>Replace the free trial agreement with the paid CCP offer using
 Intent.REPLACE.</li>
 * </ol>
 *
 * <p>Before running this sample, replace the placeholder constants below with
 values from
 * your AWS Marketplace offers:
 * <ul>
 *   <li>{@code AGREEMENT_PROPOSAL_IDENTIFIER} — the agreementProposalId from the
 free trial offer.</li>
 *   <li>{@code NEW_AGREEMENT_PROPOSAL_IDENTIFIER} — the agreementProposalId from
 the paid CCP offer.</li>
 *   <li>Term IDs (starting with {@code term-}) — found in each offer's term list.</
li>
 * </ul>
 */
public class ReplaceSaaSFreeTrialWithCCP {
```

```
    // The agreementProposalId from the free trial offer.
    private static final String AGREEMENT_PROPOSAL_IDENTIFIER = "<your-free-trial-
agreement-proposal-identifier>";

    // Term ID for the FreeTrialPricingTerm in the free trial offer.
    private static final String FREE_TRIAL_PRICING_TERM_ID = "<your-free-trial-
pricing-term-id>";

    // Term ID for the LegalTerm in the free trial offer.
    private static final String LEGAL_TERM_ID = "<your-legal-term-id>";

    // The agreementProposalId from the paid CCP offer to convert to.
    private static final String NEW_AGREEMENT_PROPOSAL_IDENTIFIER = "<your-ccp-
agreement-proposal-identifier>";

    // Term ID for the FixedUpfrontPricingTerm in the CCP offer.
    private static final String FIXED_UPFRONT_PRICING_TERM_ID = "<your-fixed-
upfront-pricing-term-id>";

    // Term ID for the PaymentScheduleTerm in the CCP offer.
    private static final String PAYMENT_SCHEDULE_TERM_ID = "<your-payment-schedule-
term-id>";

    // Term ID for the UsageBasedPricingTerm in the CCP offer.
    private static final String USAGE_BASED_PRICING_TERM_ID = "<your-usage-based-
pricing-term-id>";

    // Term ID for the ValidityTerm in the CCP offer.
    private static final String VALIDITY_TERM_ID = "<your-validity-term-id>";

    // Term ID for the LegalTerm in the CCP offer.
    private static final String NEW_LEGAL_TERM_ID = "<your-new-legal-term-id>";

    public static void main(String[] args) {
        createSaaSFreeTrialAndReplaceWithCCP();
    }

    /**
     * Full end-to-end flow:
     * 1. Create a SaaS free trial agreement with freeTrialPricingTerm.
     * 2. Wait for freeTrialPricingTerm agreement entitlements to become active.
     * 3. Replace the free trial agreement with the paid CCP offer.
     */
    private static void createSaaSFreeTrialAndReplaceWithCCP() {
```

```
        MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
                MarketplaceAgreementClient.builder()
                        .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
                        .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
                        .build();

        RequestedTerm legalTerm = RequestedTerm.builder().id(LEGAL_TERM_ID).build();
        RequestedTerm freeTrialPricingTerm =
RequestedTerm.builder().id(FREE_TRIAL_PRICING_TERM_ID).build();

        // --- Step 1: Agreement with freeTrialPricingTerm ---
        CreateAgreementRequestRequest createAgreementRequestRequest =
                CreateAgreementRequestRequest.builder()
                        .clientToken(AgreementApiUtils.generateClientToken())
                        .intent(Intent.NEW)
                        .requestedTerms(freeTrialPricingTerm, legalTerm)
                        .agreementProposalIdentifier(AGREEMENT_PROPOSAL_IDENTIFIER)
                        .build();
        CreateAgreementRequestResponse createAgreementRequestResponse =

marketplaceAgreementClient.createAgreementRequest(createAgreementRequestRequest);
        System.out.println("Agreement request with freeTrialPricingTerm created.
AgreementRequestId: " + createAgreementRequestResponse.agreementRequestId());

        AcceptAgreementRequestRequest acceptAgreementRequestRequest =
                AcceptAgreementRequestRequest.builder()

.agreementRequestId(createAgreementRequestResponse.agreementRequestId())
                        .build();
        AcceptAgreementRequestResponse acceptAgreementRequestResponse =

marketplaceAgreementClient.acceptAgreementRequest(acceptAgreementRequestRequest);
        System.out.println("Agreement request with freeTrialPricingTerm accepted.
AgreementId: " + acceptAgreementRequestResponse.agreementId());

        // Wait for freeTrialPricingTerm agreement entitlements to become active
before replacing.
        System.out.println("Waiting for freeTrialPricingTerm agreement entitlements
to become active...");
        GetAgreementEntitlementsResponse entitlementsResponse =
AgreementApiUtils.pollUntilEntitlementsAvailable(
                marketplaceAgreementClient,
acceptAgreementRequestResponse.agreementId());
```

```
        System.out.println("freeTrialPricingTerm agreement entitlements are now
active.");
        AgreementApiUtils.formatOutput(entitlementsResponse);

        // --- Step 2: Replace Agreement with freeTrialPricingTerm with Paid CCP
Offer ---
        // Use Intent.REPLACE and sourceAgreementIdentifier to replace the free
trial agreement.
        RequestedTerm usageBasedPricingTerm =
RequestedTerm.builder().id(USAGE_BASED_PRICING_TERM_ID).build();
        RequestedTerm fixedUpfrontPricingTerm =
RequestedTerm.builder().id(FIXED_UPFRONT_PRICING_TERM_ID).build();
        RequestedTerm paymentScheduleTerm =
RequestedTerm.builder().id(PAYMENT_SCHEDULE_TERM_ID).build();
        RequestedTerm validityTerm =
RequestedTerm.builder().id(VALIDITY_TERM_ID).build();
        RequestedTerm newLegalTerm =
RequestedTerm.builder().id(NEW_LEGAL_TERM_ID).build();

        CreateAgreementRequestRequest carRequest =
                CreateAgreementRequestRequest.builder()
                        .clientToken(AgreementApiUtils.generateClientToken())
                        .intent(Intent.REPLACE)
                        .requestedTerms(usageBasedPricingTerm,
fixedUpfrontPricingTerm, paymentScheduleTerm, validityTerm, newLegalTerm)

.agreementProposalIdentifier(NEW_AGREEMENT_PROPOSAL_IDENTIFIER)

.sourceAgreementIdentifier(acceptAgreementRequestResponse.agreementId())
                        .build();
        CreateAgreementRequestResponse carResponse =
                marketplaceAgreementClient.createAgreementRequest(carRequest);
        System.out.println("Replace agreement request created. AgreementRequestId: "
+ carResponse.agreementRequestId());

        AcceptAgreementRequestRequest aarRequest =
                AcceptAgreementRequestRequest.builder()
                        .agreementRequestId(carResponse.agreementRequestId())
                        .build();
        AcceptAgreementRequestResponse aarResponse =
                marketplaceAgreementClient.acceptAgreementRequest(aarRequest);
        System.out.println("Agreement with freeTrialPricingTerm replaced with paid
CCP offer. New AgreementId: " + aarResponse.agreementId());
    }
```

```
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x 「API リファレンス」のCreateAgreementRequest」を参照してください。

SaaS 使用量ベースの料金条件を置き換え、以前の契約をキャンセルする

次のコード例は、SaaS 使用量ベースの料金条件を置き換え、以前の契約をキャンセルする方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.buyer;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AcceptAgreementRequestRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AcceptAgreementRequestResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.CreateAgreementRequestRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.CreateAgreementRequestResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.CancelAgreementRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.GetAgreementEntitlementsResponse
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.Intent;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.RequestedTerm;
import com.example.awsmarketplace.agreementapi.buyer.utils.AgreementApiUtils;
```

```
/**
 * Demonstrates how to create a SaaS agreement with usageBasedPricingTerm (UBPT) and
 then replace it
 * with a new offer using the AWS Marketplace Agreement Service APIs.
 *
 * <p>Scenario: A buyer subscribes to a SaaS product with UsageBasedPricingTerm.
 * The buyer then converts to a different offer by replacing the existing agreement.
 *
 * <p>Flow:
 * <ol>
 *   <li>Create and accept the initial agreement request with UBPT.</li>
 *   <li>Wait for entitlements to become active.</li>
 *   <li>Replace the agreement with a new offer using Intent.REPLACE.</li>
 *   <li>Cancel the new agreement using CancelAgreement.</li>
 * </ol>
 *
 * <p>Before running this sample, replace the placeholder constants below with
 values from
 * your AWS Marketplace offers:
 * <ul>
 *   <li>{@code AGREEMENT_PROPOSAL_IDENTIFIER} — the agreementProposalId from the
 initial offer.</li>
 *   <li>{@code NEW_AGREEMENT_PROPOSAL_IDENTIFIER} — the agreementProposalId from
 the new offer to replace to.</li>
 *   <li>Term IDs (starting with {@code term-}) — found in each offer's term list.</
li>
 * </ul>
 */
public class ReplaceSaaSUsageBasedPricingTermAndCancel {

    // The agreementProposalId from the initial offer.
    private static final String AGREEMENT_PROPOSAL_IDENTIFIER = "<your-agreement-
proposal-identifier>";

    // Term ID for the UsageBasedPricingTerm in the initial offer.
    private static final String USAGE_BASED_PRICING_TERM_ID = "<your-usage-based-
pricing-term-id>";

    // Term ID for the ValidityTerm in the initial offer.
    private static final String VALIDITY_TERM_ID = "<your-validity-term-id>";

    // Term ID for the LegalTerm in the initial offer.
    private static final String LEGAL_TERM_ID = "<your-legal-term-id>";
```

```
    // The agreementProposalId from the new offer to replace to.
    private static final String NEW_AGREEMENT_PROPOSAL_IDENTIFIER = "<your-new-
agreement-proposal-identifier>";

    // Term ID for the UsageBasedPricingTerm in the new offer.
    private static final String NEW_USAGE_BASED_PRICING_TERM_ID = "<your-new-usage-
based-pricing-term-id>";

    // Term ID for the ValidityTerm in the new offer.
    private static final String NEW_VALIDITY_TERM_ID = "<your-new-validity-term-
id>";

    // Term ID for the LegalTerm in the new offer.
    private static final String NEW_LEGAL_TERM_ID = "<your-new-legal-term-id>";

    public static void main(String[] args) {
        replaceSaaSUbptAndCancel();
    }

    /**
     * Full end-to-end flow:
     * 1. Create and accept the initial agreement request with
 UsageBasedPricingTerm.
     * 2. Wait for entitlements to become active.
     * 3. Replace the agreement with a new offer.
     * 4. Cancel the new agreement.
     */
    private static void replaceSaaSUbptAndCancel() {
        MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
                MarketplaceAgreementClient.builder()
                        .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
                        .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
                        .build();

        RequestedTerm usageBasedPricingTerm =
 RequestedTerm.builder().id(USAGE_BASED_PRICING_TERM_ID).build();
        RequestedTerm validityTerm =
 RequestedTerm.builder().id(VALIDITY_TERM_ID).build();
        RequestedTerm legalTerm = RequestedTerm.builder().id(LEGAL_TERM_ID).build();

        // --- Step 1: Create and accept the initial UBPT agreement request ---
        CreateAgreementRequestRequest createAgreementRequestRequest =
                CreateAgreementRequestRequest.builder()
                        .clientToken(AgreementApiUtils.generateClientToken())
```

```
                        .intent(Intent.NEW)
                        .requestedTerms(usageBasedPricingTerm, validityTerm,
legalTerm)
                        .agreementProposalIdentifier(AGREEMENT_PROPOSAL_IDENTIFIER)
                        .build();
        CreateAgreementRequestResponse createAgreementRequestResponse =

marketplaceAgreementClient.createAgreementRequest(createAgreementRequestRequest);
        System.out.println("Agreement request with UBPT created. AgreementRequestId:
" + createAgreementRequestResponse.agreementRequestId());

        AcceptAgreementRequestRequest acceptAgreementRequestRequest =
                AcceptAgreementRequestRequest.builder()

.agreementRequestId(createAgreementRequestResponse.agreementRequestId())
                        .build();
        AcceptAgreementRequestResponse acceptAgreementRequestResponse =

marketplaceAgreementClient.acceptAgreementRequest(acceptAgreementRequestRequest);
        System.out.println("Agreement request with UBPT accepted. AgreementId: " +
acceptAgreementRequestResponse.agreementId());

        // Wait for entitlements to become active before replacing.
        System.out.println("Waiting for entitlements to become active...");
        GetAgreementEntitlementsResponse entitlementsResponse =
AgreementApiUtils.pollUntilEntitlementsAvailable(
                marketplaceAgreementClient,
acceptAgreementRequestResponse.agreementId());
        System.out.println("Entitlements are now active.");
        AgreementApiUtils.formatOutput(entitlementsResponse);

        // --- Step 2: Replace the UBPT agreement with a new offer ---
        // Use Intent.REPLACE and sourceAgreementIdentifier to replace the existing
agreement.
        RequestedTerm newUsageBasedPricingTerm =
RequestedTerm.builder().id(NEW_USAGE_BASED_PRICING_TERM_ID).build();
        RequestedTerm newValidityTerm =
RequestedTerm.builder().id(NEW_VALIDITY_TERM_ID).build();
        RequestedTerm newLegalTerm =
RequestedTerm.builder().id(NEW_LEGAL_TERM_ID).build();

        CreateAgreementRequestRequest carRequest =
                CreateAgreementRequestRequest.builder()
                        .clientToken(AgreementApiUtils.generateClientToken())
```

```
                        .intent(Intent.REPLACE)
                        .requestedTerms(newUsageBasedPricingTerm, newValidityTerm,
 newLegalTerm)

 .agreementProposalIdentifier(NEW_AGREEMENT_PROPOSAL_IDENTIFIER)

 .sourceAgreementIdentifier(acceptAgreementRequestResponse.agreementId())
                        .build();
        CreateAgreementRequestResponse carResponse =
                marketplaceAgreementClient.createAgreementRequest(carRequest);
        System.out.println("Replace agreement request created. AgreementRequestId: "
 + carResponse.agreementRequestId());

        AcceptAgreementRequestRequest aarRequest =
                AcceptAgreementRequestRequest.builder()
                        .agreementRequestId(carResponse.agreementRequestId())
                        .build();
        AcceptAgreementRequestResponse aarResponse =
                marketplaceAgreementClient.acceptAgreementRequest(aarRequest);
        final String agreementIdWithTheNewOffer = aarResponse.agreementId();
        System.out.println("UBPT agreement replaced. New AgreementId: " +
 agreementIdWithTheNewOffer);

        // --- Step 3: Cancel the new agreement ---
        CancelAgreementRequest cancelAgreementRequest =
                CancelAgreementRequest.builder()
                        .agreementId(agreementIdWithTheNewOffer)
                        .build();
        marketplaceAgreementClient.cancelAgreement(cancelAgreementRequest);
        System.out.println("The new agreement has been cancelled. AgreementId: " +
 agreementIdWithTheNewOffer);
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x 「 API リファレンス」の 「CreateAgreementRequest」を参照してください。

AMI 使用量ベースの料金条件を置き換えるが、ConfigurableUpfrontPricingTerm を維持する

次のコード例は、既存の ConfigurableUpfrontPricingTerm を維持しながら AMI 使用量ベースの料金条件を置き換える方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.buyer;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AcceptAgreementRequestRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AcceptAgreementRequestResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.ConfigurableUpfrontPricingTermCo
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.CreateAgreementRequestRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.CreateAgreementRequestResponse;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.Dimension;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.GetAgreementEntitlementsResponse
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.Intent;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.RequestedTerm;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.RequestedTermConfiguration;
import com.example.awsmarketplace.agreementapi.buyer.utils.AgreementApiUtils;

/**
 * Demonstrates how to replace an AMI agreement with usageBasedPricingTerm with a
 new offer while
 * the agreement with ConfigurableUpfrontPricingTerm (CUPT) is still active, using
 the AWS Marketplace Agreement Service APIs.
 *
 * <p>Scenario: An AMI product with USAGE pricing requires two agreements:
 * <ol>
```

```
 *   <li>An agreement with <b>usageBasedPricingTerm</b> — accepted first to
 establish the base agreement.</li>
 *   <li>An agreement with <b>configurableUpfrontPricingTerm (CUPT)</b> — accepted
 after the usageBasedPricingTerm agreement entitlements are active.</li>
 * </ol>
 * <p> This sample shows how to replace only the agreement with
 usageBasedPricingTerm with a
 * new offer without touching the existing agreement with
 configurableUpfrontPricingTerm (CUPT).
 *
 * <p>Flow:
 * <ol>
 *   <li>Create and accept the initial agreement request with
 usageBasedPricingTerm.</li>
 *   <li>Create and accept the agreement request with configurableUpfrontPricingTerm
 (CUPT) (after usageBasedPricingTerm agreement entitlements are active).</li>
 *   <li>Replace the agreement with usageBasedPricingTerm with a new offer using
 Intent.REPLACE.</li>
 * </ol>
 *
 * <p>Before running this sample, replace the placeholder constants below with
 values from
 * your AWS Marketplace offers:
 * <ul>
 *   <li>{@code AGREEMENT_PROPOSAL_IDENTIFIER} — the agreementProposalId from the
 initial offer.</li>
 *   <li>{@code NEW_AGREEMENT_PROPOSAL_IDENTIFIER} — the agreementProposalId from
 the new offer to replace to.</li>
 *   <li>Term IDs (starting with {@code term-}) — found in each offer's term list.</
li>
 *   <li>{@code SELECTOR_VALUE} — duration for the agreement (e.g., {@code
 P365D}).</li>
 *   <li>{@code DIMENSION_1_KEY} — dimension key defined in the CUPT term.</li>
 * </ul>
 */
public class ReplaceAmiUsageBasedPricingTermButNotCupt {

    // The agreementProposalId from the initial offer.
    private static final String AGREEMENT_PROPOSAL_IDENTIFIER = "<your-agreement-
proposal-identifier>";

    // Term ID for the ConfigurableUpfrontPricingTerm in the initial offer.
    private static final String CONFIGURABLE_UPFRONT_PRICING_TERM_ID = "<your-
configurable-upfront-pricing-term-id>";
```

```
    // Duration for the agreement (e.g., "P365D" for 365 days).
    private static final String SELECTOR_VALUE = "<your-selector-value>";

    // Dimension key defined in the CUPT term.
    private static final String DIMENSION_1_KEY = "<your-dimension-key>";

    // Quantity for the dimension.
    private static final int DIMENSION_1_VALUE = 1;

    // Term ID for the UsageBasedPricingTerm in the initial offer.
    private static final String USAGE_TERM_ID = "<your-usage-term-id>";

    // Term ID for the LegalTerm in the initial offer.
    private static final String LEGAL_TERM_ID = "<your-legal-term-id>";

    // Term ID for the ValidityTerm in the initial offer.
    private static final String VALIDITY_TERM_ID = "<your-validity-term-id>";

    // The agreementProposalId from the new offer to replace to.
    private static final String NEW_AGREEMENT_PROPOSAL_IDENTIFIER = "<your-new-
agreement-proposal-identifier>";

    // Term ID for the UsageBasedPricingTerm in the new offer.
    private static final String NEW_USAGE_TERM_ID = "<your-new-usage-term-id>";

    // Term ID for the LegalTerm in the new offer.
    private static final String NEW_LEGAL_TERM_ID = "<your-new-legal-term-id>";

    // Term ID for the ValidityTerm in the new offer.
    private static final String NEW_VALIDITY_TERM_ID = "<your-new-validity-term-
id>";

    public static void main(String[] args) {
        replaceAmiUsageWhenCuptExists();
    }

    /**
     * Full end-to-end flow:
     * 1. Create and accept an agreement request with usageBasedPricingTerm, then
 wait for entitlements.
     * 2. Create and accept an agreement request with CUPT, then wait for
 entitlements.
```

```
    * 3. Replace the agreement with usageBasedPricingTerm with a new offer
(agreement with CUPT is unaffected).
    */
   private static void replaceAmiUsageWhenCuptExists() {
       MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
               MarketplaceAgreementClient.builder()
                       .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
                       .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
                       .build();

       RequestedTerm usageTerm = RequestedTerm.builder().id(USAGE_TERM_ID).build();
       RequestedTerm legalTerm = RequestedTerm.builder().id(LEGAL_TERM_ID).build();
       RequestedTerm validityTerm =
RequestedTerm.builder().id(VALIDITY_TERM_ID).build();

       // --- Step 1: Agreement with UBPT ---
       CreateAgreementRequestRequest createAgreementRequestRequest =
               CreateAgreementRequestRequest.builder()
                       .clientToken(AgreementApiUtils.generateClientToken())
                       .intent(Intent.NEW)
                       .requestedTerms(usageTerm, legalTerm, validityTerm)
                       .agreementProposalIdentifier(AGREEMENT_PROPOSAL_IDENTIFIER)
                       .build();
       CreateAgreementRequestResponse createAgreementRequestResponse =

marketplaceAgreementClient.createAgreementRequest(createAgreementRequestRequest);
       System.out.println("Agreement request with UBPT created. AgreementRequestId:
" + createAgreementRequestResponse.agreementRequestId());

       AcceptAgreementRequestRequest acceptAgreementRequestRequest =
               AcceptAgreementRequestRequest.builder()

.agreementRequestId(createAgreementRequestResponse.agreementRequestId())
                       .build();
       AcceptAgreementRequestResponse acceptAgreementRequestResponse =

marketplaceAgreementClient.acceptAgreementRequest(acceptAgreementRequestRequest);
       final String usageAgreementId =
acceptAgreementRequestResponse.agreementId();
       System.out.println("Agreement request with UBPT accepted. AgreementId: " +
usageAgreementId);

       // Wait for UBPT agreement entitlements to become active before creating the
agreement with CUPT.
```

```
        System.out.println("Waiting for UBPT agreement entitlements to become
active...");
        GetAgreementEntitlementsResponse entitlementsResponse =
AgreementApiUtils.pollUntilEntitlementsAvailable(
                marketplaceAgreementClient, usageAgreementId);
        System.out.println("UBPT agreement entitlements are now active.");
        AgreementApiUtils.formatOutput(entitlementsResponse);

        // --- Step 2: Agreement with configurableUpfrontPricingTerm (CUPT) ---
        RequestedTerm configurableUpfrontPricingTerm = RequestedTerm.builder()
                .id(CONFIGURABLE_UPFRONT_PRICING_TERM_ID)

.configuration(RequestedTermConfiguration.fromConfigurableUpfrontPricingTermConfiguration(
                        ConfigurableUpfrontPricingTermConfiguration.builder()
                                .selectorValue(SELECTOR_VALUE)
                                .dimensions(Dimension.builder()
                                                .dimensionKey(DIMENSION_1_KEY)

.dimensionValue(DIMENSION_1_VALUE)
                                                .build())
                                .build()))
                .build();

        CreateAgreementRequestRequest carRequest =
                CreateAgreementRequestRequest.builder()
                        .clientToken(AgreementApiUtils.generateClientToken())
                        .intent(Intent.NEW)
                        .requestedTerms(configurableUpfrontPricingTerm, legalTerm,
validityTerm)
                        .agreementProposalIdentifier(AGREEMENT_PROPOSAL_IDENTIFIER)
                        .build();
        CreateAgreementRequestResponse carResponse =
                marketplaceAgreementClient.createAgreementRequest(carRequest);
        System.out.println("Agreement request with CUPT created. AgreementRequestId:
" + carResponse.agreementRequestId());

        AcceptAgreementRequestRequest aarRequest =
                AcceptAgreementRequestRequest.builder()
                        .agreementRequestId(carResponse.agreementRequestId())
                        .build();
        AcceptAgreementRequestResponse aarResponse =
                marketplaceAgreementClient.acceptAgreementRequest(aarRequest);
        final String cuptAgreementId = aarResponse.agreementId();
```

```
        System.out.println("Agreement request with CUPT accepted. AgreementId: " +
cuptAgreementId);

        // Wait for CUPT agreement entitlements to become active before replacing
usage.
        System.out.println("Waiting for CUPT agreement entitlements to become
active...");
        GetAgreementEntitlementsResponse cuptEntitlementsResponse =
AgreementApiUtils.pollUntilEntitlementsAvailable(
                marketplaceAgreementClient, cuptAgreementId);
        System.out.println("CUPT agreement entitlements are now active.");
        AgreementApiUtils.formatOutput(cuptEntitlementsResponse);

        // --- Step 3: Replace Agreement with usageBasedPricingTerm with a new offer
---
        RequestedTerm newUsageTerm =
RequestedTerm.builder().id(NEW_USAGE_TERM_ID).build();
        RequestedTerm newLegalTerm =
RequestedTerm.builder().id(NEW_LEGAL_TERM_ID).build();
        RequestedTerm newValidityTerm =
RequestedTerm.builder().id(NEW_VALIDITY_TERM_ID).build();

        // Use Intent.REPLACE and sourceAgreementIdentifier pointing to the
usageBasedPricingTerm agreement only.
        // The agreement with configurableUpfrontPricingTerm (CUPT) is NOT affected
by this replacement.
        CreateAgreementRequestRequest carReplaceRequest =
                CreateAgreementRequestRequest.builder()
                        .clientToken(AgreementApiUtils.generateClientToken())
                        .intent(Intent.REPLACE)
                        .requestedTerms(newUsageTerm, newLegalTerm, newValidityTerm)

.agreementProposalIdentifier(NEW_AGREEMENT_PROPOSAL_IDENTIFIER)
                        .sourceAgreementIdentifier(usageAgreementId)
                        .build();
        CreateAgreementRequestResponse carReplaceResponse =

marketplaceAgreementClient.createAgreementRequest(carReplaceRequest);
        System.out.println("Replace agreement request created. AgreementRequestId: "
+ carReplaceResponse.agreementRequestId());

        AcceptAgreementRequestRequest aarReplaceRequest =
                AcceptAgreementRequestRequest.builder()
                        .agreementRequestId(carReplaceResponse.agreementRequestId())
```

```
                        .build();
        AcceptAgreementRequestResponse aarReplaceResponse =

 marketplaceAgreementClient.acceptAgreementRequest(aarReplaceRequest);
        System.out.println("Agreement with UBPT replaced. New AgreementId: " +
 aarReplaceResponse.agreementId());
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x 「 API リファレンス」のCreateAgreementRequest」を参照してください。

終了日で契約を検索する

次のコード例は、終了日で契約を検索する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.seller;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AgreementViewSummary;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.Filter;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.SearchAgreementsRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.SearchAgreementsResponse;

import java.util.ArrayList;
import java.util.Arrays;
import java.util.List;
```

```
import static com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesConstants.*;
import com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesUtils;

public class SearchAgreementsByEndDate {

 static String beforeOrAfterEndtimeFilterName =
 BeforeOrAfterEndTimeFilterName.BeforeEndTime.name();

 static String cutoffDate = "2050-11-18T00:00:00Z";

 static String partyTypeFilterValue = PARTY_TYPE_FILTER_VALUE_PROPOSER;

 public static void main(String[] args) {

  List<AgreementViewSummary> agreementSummaryList = getAgreements();

  ReferenceCodesUtils.formatOutput(agreementSummaryList);
 }

 public static List<AgreementViewSummary> getAgreements() {
  MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
    MarketplaceAgreementClient.builder()
    .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
    .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
    .build();

  // Set PartyType filter to PARTY_TYPE_FILTER_VALUE_PROPOSER to return agreements
 where you are the proposer.
  // Change to PARTY_TYPE_FILTER_VALUE_ACCEPTOR to return agreements where you are
 the acceptor.
  Filter partyTypeFilter = Filter.builder().name(PARTY_TYPE_FILTER_NAME)
    .values(PARTY_TYPE_FILTER_VALUE_PROPOSER).build();

  Filter agreementTypeFilter = Filter.builder().name(AGREEMENT_TYPE_FILTER_NAME)
    .values(AGREEMENT_TYPE_FILTER_VALUE_PURCHASEAGREEMENT).build();

  Filter customizeFilter =
 Filter.builder().name(beforeOrAfterEndtimeFilterName).values(cutoffDate).build();

  List<Filter> filters = new ArrayList<Filter>();

  filters.addAll(Arrays.asList(partyTypeFilter, agreementTypeFilter,
 customizeFilter));
```

```
  // search agreement with filters

  SearchAgreementsRequest searchAgreementsRequest =
    SearchAgreementsRequest.builder()
    .catalog(AWS_MP_CATALOG)
    .filters(filters)
    .build();

  SearchAgreementsResponse searchAgreementResponse=
 marketplaceAgreementClient.searchAgreements(searchAgreementsRequest);

  List<AgreementViewSummary> agreementSummaryList = new
 ArrayList<AgreementViewSummary>();

  agreementSummaryList.addAll(searchAgreementResponse.agreementViewSummaries());

  while (searchAgreementResponse.nextToken() != null &&
 searchAgreementResponse.nextToken().length() > 0) {
    searchAgreementsRequest =
      SearchAgreementsRequest.builder()
      .catalog(AWS_MP_CATALOG)
      .filters(filters)
      .nextToken(searchAgreementResponse.nextToken())
      .build();
    searchAgreementResponse =
 marketplaceAgreementClient.searchAgreements(searchAgreementsRequest);
    agreementSummaryList.addAll(searchAgreementResponse.agreementViewSummaries());
  }
  return agreementSummaryList;
 }

}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「SearchAgreements」を参照してください。

最終更新日で契約を検索する

次のコード例は、最後に更新された日付で契約を検索する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.seller;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AgreementViewSummary;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.Filter;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.SearchAgreementsRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.SearchAgreementsResponse;

import java.util.ArrayList;
import java.util.Arrays;
import java.util.List;

import static com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesConstants.*;
import com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesUtils;

/**
 * This filter is supported only when PartyType is Proposer, so only sellers can use
 it. An
 * unsupported combination fails with a ValidationException whose reason is
 UNSUPPORTED_FILTERS.
 * All filter combinations we support for Proposer and Acceptor:
 * https://docs.aws.amazon.com/marketplace/latest/APIReference/API_marketplace-
agreements_SearchAgreements.html
 */

public class SearchAgreementsByLastUpdateDate {

 // change to BeforeLastUpdateTime if before last update time is desired
```

```
static String beforeOrAfterLastUpdateTimeFilterName =
BeforeOrAfterLastUpdateTimeFilterName.AfterLastUpdateTime.name();

static String cutoffDate = "2024-11-18T00:00:00Z";

static String partyTypeFilterValue = PARTY_TYPE_FILTER_VALUE_PROPOSER;

public static void main(String[] args) {

 List<AgreementViewSummary> agreementSummaryList = getAgreements();

 ReferenceCodesUtils.formatOutput(agreementSummaryList);
}

public static List<AgreementViewSummary> getAgreements() {
 MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
   MarketplaceAgreementClient.builder()
   .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
   .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
   .build();

 // This filter is supported only for the proposer, so leave PartyType set to
 // PARTY_TYPE_FILTER_VALUE_PROPOSER. PARTY_TYPE_FILTER_VALUE_ACCEPTOR fails with a
 // ValidationException whose reason is UNSUPPORTED_FILTERS.
 Filter partyTypeFilter = Filter.builder().name(PARTY_TYPE_FILTER_NAME)
   .values(partyTypeFilterValue).build();

 Filter agreementTypeFilter = Filter.builder().name(AGREEMENT_TYPE_FILTER_NAME)
   .values(AGREEMENT_TYPE_FILTER_VALUE_PURCHASEAGREEMENT).build();

 Filter customizeFilter =
Filter.builder().name(beforeOrAfterLastUpdateTimeFilterName).values(cutoffDate).build();

 List<Filter> filters = new ArrayList<Filter>();

 filters.addAll(Arrays.asList(partyTypeFilter, agreementTypeFilter,
customizeFilter));

 // search agreement with filters

 SearchAgreementsRequest searchAgreementsRequest =
   SearchAgreementsRequest.builder()
   .catalog(AWS_MP_CATALOG)
   .filters(filters)
```

```
    .build();

 SearchAgreementsResponse searchAgreementResponse =
marketplaceAgreementClient.searchAgreements(searchAgreementsRequest);

 List<AgreementViewSummary> agreementSummaryList = new
ArrayList<AgreementViewSummary>();

 agreementSummaryList.addAll(searchAgreementResponse.agreementViewSummaries());

 while (searchAgreementResponse.nextToken() != null &&
searchAgreementResponse.nextToken().length() > 0) {
  searchAgreementsRequest =
    SearchAgreementsRequest.builder()
    .catalog(AWS_MP_CATALOG)
    .filters(filters)
    .nextToken(searchAgreementResponse.nextToken())
    .build();
  searchAgreementResponse =
marketplaceAgreementClient.searchAgreements(searchAgreementsRequest);
  agreementSummaryList.addAll(searchAgreementResponse.agreementViewSummaries());
 }
 return agreementSummaryList;
}

}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「SearchAgreements」を参照してください。

開始日で契約を検索する

次のコード例は、開始日で契約を検索する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.seller;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AgreementViewSummary;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.Filter;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.SearchAgreementsRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.SearchAgreementsResponse;

import java.util.ArrayList;
import java.util.Arrays;
import java.util.List;

import static com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesConstants.*;
import com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesUtils;

/**
 * This filter is supported only when PartyType is Proposer, so only sellers can use
 it. An
 * unsupported combination fails with a ValidationException whose reason is
 UNSUPPORTED_FILTERS.
 * All filter combinations we support for Proposer and Acceptor:
 * https://docs.aws.amazon.com/marketplace/latest/APIReference/API_marketplace-
agreements_SearchAgreements.html
 */

public class SearchAgreementsByStartDate {

 // change to AfterStartTime if after start time is desired
 static String beforeOrAfterStartTimeFilterName =
 BeforeOrAfterStartTimeFilterName.BeforeStartTime.name();

 static String cutoffDate = "2050-11-18T00:00:00Z";

 static String partyTypeFilterValue = PARTY_TYPE_FILTER_VALUE_PROPOSER;

 public static void main(String[] args) {
```

```
 List<AgreementViewSummary> agreementSummaryList = getAgreements();

 ReferenceCodesUtils.formatOutput(agreementSummaryList);
}

public static List<AgreementViewSummary> getAgreements() {
 MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
   MarketplaceAgreementClient.builder()
   .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
   .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
   .build();

 // This filter is supported only for the proposer, so leave PartyType set to
 // PARTY_TYPE_FILTER_VALUE_PROPOSER. PARTY_TYPE_FILTER_VALUE_ACCEPTOR fails with a
 // ValidationException whose reason is UNSUPPORTED_FILTERS.
 Filter partyTypeFilter = Filter.builder().name(PARTY_TYPE_FILTER_NAME)
   .values(partyTypeFilterValue).build();

 Filter agreementTypeFilter = Filter.builder().name(AGREEMENT_TYPE_FILTER_NAME)
   .values(AGREEMENT_TYPE_FILTER_VALUE_PURCHASEAGREEMENT).build();

 Filter customizeFilter =
Filter.builder().name(beforeOrAfterStartTimeFilterName).values(cutoffDate).build();

 List<Filter> filters = new ArrayList<Filter>();

 filters.addAll(Arrays.asList(partyTypeFilter, agreementTypeFilter,
customizeFilter));

 // search agreement with filters

 SearchAgreementsRequest searchAgreementsRequest =
   SearchAgreementsRequest.builder()
   .catalog(AWS_MP_CATALOG)
   .filters(filters)
   .build();

 SearchAgreementsResponse searchAgreementResponse =
marketplaceAgreementClient.searchAgreements(searchAgreementsRequest);

 List<AgreementViewSummary> agreementSummaryList = new
ArrayList<AgreementViewSummary>();

 agreementSummaryList.addAll(searchAgreementResponse.agreementViewSummaries());
```

```
  while (searchAgreementResponse.nextToken() != null &&
 searchAgreementResponse.nextToken().length() > 0) {
   searchAgreementsRequest =
     SearchAgreementsRequest.builder()
     .catalog(AWS_MP_CATALOG)
     .filters(filters)
     .nextToken(searchAgreementResponse.nextToken())
     .build();
   searchAgreementResponse =
 marketplaceAgreementClient.searchAgreements(searchAgreementsRequest);
   agreementSummaryList.addAll(searchAgreementResponse.agreementViewSummaries());
  }
  return agreementSummaryList;
 }

}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「SearchAgreements」を参照してください。

1 つのカスタムフィルターで契約を検索する

次のコード例は、1 つのカスタムフィルターで契約を検索する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.seller;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AgreementViewSummary;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.Filter;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.SearchAgreementsRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.SearchAgreementsResponse;

import static com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesConstants.*;

import java.util.ArrayList;
import java.util.Arrays;
import java.util.List;

import com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesUtils;

/**
 * All filter combinations we support for Proposer and Acceptor:
 * https://docs.aws.amazon.com/marketplace/latest/APIReference/API_marketplace-
agreements_SearchAgreements.html
 */

public class SearchAgreementsByOneFilter {

 private static final String FILTER_NAME = "ResourceType";

 private static final String FILTER_VALUE = "SaaSProduct";

 /*
  * search agreements by one customize filter
  */
 public static void main(String[] args) {

  List<AgreementViewSummary> agreementSummaryList = getAgreements();

  ReferenceCodesUtils.formatOutput(agreementSummaryList);
 }

 public static List<AgreementViewSummary> getAgreements() {
  MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
    MarketplaceAgreementClient.builder()
    .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
    .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
    .build();
```

```
 // Set PartyType filter to PARTY_TYPE_FILTER_VALUE_PROPOSER to return agreements
where you are the proposer.
 // Change to PARTY_TYPE_FILTER_VALUE_ACCEPTOR to return agreements where you are
the acceptor.
 Filter partyTypeFilter = Filter.builder().name(PARTY_TYPE_FILTER_NAME)
   .values(PARTY_TYPE_FILTER_VALUE_PROPOSER).build();

 Filter agreementTypeFilter = Filter.builder().name(AGREEMENT_TYPE_FILTER_NAME)
   .values(AGREEMENT_TYPE_FILTER_VALUE_PURCHASEAGREEMENT).build();

 Filter customizeFilter =
Filter.builder().name(FILTER_NAME).values(FILTER_VALUE).build();

 List<Filter> filters = new ArrayList<Filter>();

 filters.addAll(Arrays.asList(partyTypeFilter, agreementTypeFilter,
customizeFilter));

 SearchAgreementsRequest searchAgreementsRequest =
   SearchAgreementsRequest.builder()
   .catalog(AWS_MP_CATALOG)
   .filters(filters)
   .build();
 SearchAgreementsResponse searchAgreementsResponse =
marketplaceAgreementClient.searchAgreements(searchAgreementsRequest);

 List<AgreementViewSummary> agreementSummaryList = new
ArrayList<AgreementViewSummary>();

 agreementSummaryList.addAll(searchAgreementsResponse.agreementViewSummaries());

 while (searchAgreementsResponse.nextToken() != null &&
searchAgreementsResponse.nextToken().length() > 0) {
  searchAgreementsRequest =
    SearchAgreementsRequest.builder()
    .catalog(AWS_MP_CATALOG)
    .filters(filters)
    .nextToken(searchAgreementsResponse.nextToken())
    .build();
  searchAgreementsResponse =
marketplaceAgreementClient.searchAgreements(searchAgreementsRequest);
  agreementSummaryList.addAll(searchAgreementsResponse.agreementViewSummaries());
 }
 return agreementSummaryList;
```

```
 }

}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「SearchAgreements」を参照してください。

2 つのカスタムフィルターで契約を検索する

次のコード例は、2 つのカスタムフィルターで契約を検索する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.seller;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.AwsCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.SdkHttpClient;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AgreementViewSummary;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.Filter;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.SearchAgreementsRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.SearchAgreementsResponse;

import java.util.ArrayList;
import java.util.Arrays;
import java.util.List;

import static com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesConstants.*;
import com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesUtils;
```

```
/**
 * All filter combinations we support for Proposer and Acceptor:
 * https://docs.aws.amazon.com/marketplace/latest/APIReference/API_marketplace-
agreements_SearchAgreements.html
 */

public class SearchAgreementsByTwoFilters {

 public static final String FILTER_1_NAME = "ResourceType";

 public static final String FILTER_1_VALUE = "SaaSProduct";

 public static final String FILTER_2_NAME = "Status";

 public static final String FILTER_2_VALUE = "ACTIVE";

 /*
  * search agreements by two customize filter
  */
 public static void main(String[] args) {

  List<AgreementViewSummary> agreementSummaryList = getAgreements();

  ReferenceCodesUtils.formatOutput(agreementSummaryList);

 }

 public static List<AgreementViewSummary> getAgreements() {
  MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
    MarketplaceAgreementClient.builder()
    .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
    .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
    .build();

  // Set PartyType filter to PARTY_TYPE_FILTER_VALUE_PROPOSER to return agreements
 where you are the proposer.
  // Change to PARTY_TYPE_FILTER_VALUE_ACCEPTOR to return agreements where you are
 the acceptor.
  Filter partyTypeFilter = Filter.builder().name(PARTY_TYPE_FILTER_NAME)
    .values(PARTY_TYPE_FILTER_VALUE_PROPOSER).build();

  Filter agreementTypeFilter = Filter.builder().name(AGREEMENT_TYPE_FILTER_NAME)
    .values(AGREEMENT_TYPE_FILTER_VALUE_PURCHASEAGREEMENT).build();
```

```
 Filter customizeFilter1 =
Filter.builder().name(FILTER_1_NAME).values(FILTER_1_VALUE).build();

 Filter customizeFilter2 =
Filter.builder().name(FILTER_2_NAME).values(FILTER_2_VALUE).build();


 List<Filter> filters = new ArrayList<Filter>();

 filters.addAll(Arrays.asList(partyTypeFilter, agreementTypeFilter,
customizeFilter1, customizeFilter2));

 SearchAgreementsRequest searchAgreementsRequest =
   SearchAgreementsRequest.builder()
   .catalog(AWS_MP_CATALOG)
   .filters(filters)
   .build();

 SearchAgreementsResponse searchAgreementsResponse =
marketplaceAgreementClient.searchAgreements(searchAgreementsRequest);

 List<AgreementViewSummary> agreementSummaryList = new
ArrayList<AgreementViewSummary>();

 agreementSummaryList.addAll(searchAgreementsResponse.agreementViewSummaries());

 while (searchAgreementsResponse.nextToken() != null &&
searchAgreementsResponse.nextToken().length() > 0) {
  searchAgreementsRequest =
    SearchAgreementsRequest.builder()
    .catalog(AWS_MP_CATALOG)
    .filters(filters)
    .nextToken(searchAgreementsResponse.nextToken())
    .build();
  searchAgreementsResponse =
marketplaceAgreementClient.searchAgreements(searchAgreementsRequest);
  agreementSummaryList.addAll(searchAgreementsResponse.agreementViewSummaries());
 }
 return agreementSummaryList;
}

}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「SearchAgreements」を参照してください。

更新する契約を検索する

次のコード例は、更新する契約を検索する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.seller;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AgreementViewSummary;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.EndTimeBehaviorType;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.Filter;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.SearchAgreementsRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.SearchAgreementsResponse;

import java.util.ArrayList;
import java.util.Arrays;
import java.util.List;

import static com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesConstants.*;
import com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesUtils;

/**
```

```
 * This filter is supported only when PartyType is Proposer, so only sellers can use
 it. An
 * unsupported combination fails with a ValidationException whose reason is
 UNSUPPORTED_FILTERS.
 * All filter combinations we support for Proposer and Acceptor:
 * https://docs.aws.amazon.com/marketplace/latest/APIReference/API_marketplace-
agreements_SearchAgreements.html
 */

public class SearchAgreementsRenewing {

 /*
  * Obtain the agreements that will renew at their end date
  */

 // change to REPLACE or EXPIRE to find the agreements that will not renew
 static String endTimeBehaviorTypeFilterValue =
 EndTimeBehaviorType.RENEW.toString();

 static String partyTypeFilterValue = PARTY_TYPE_FILTER_VALUE_PROPOSER;

 public static void main(String[] args) {

  List<AgreementViewSummary> agreementSummaryList = getAgreements();

  ReferenceCodesUtils.formatOutput(agreementSummaryList);
 }

 public static List<AgreementViewSummary> getAgreements() {
  MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
    MarketplaceAgreementClient.builder()
    .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
    .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
    .build();

  // This filter is supported only for the proposer, so leave PartyType set to
  // PARTY_TYPE_FILTER_VALUE_PROPOSER. PARTY_TYPE_FILTER_VALUE_ACCEPTOR fails with a
  // ValidationException whose reason is UNSUPPORTED_FILTERS.
  Filter partyTypeFilter = Filter.builder().name(PARTY_TYPE_FILTER_NAME)
    .values(partyTypeFilterValue).build();

  Filter agreementTypeFilter = Filter.builder().name(AGREEMENT_TYPE_FILTER_NAME)
    .values(AGREEMENT_TYPE_FILTER_VALUE_PURCHASEAGREEMENT).build();
```

```
  Filter customizeFilter = Filter.builder().name(END_TIME_BEHAVIOR_TYPE_FILTER_NAME)
    .values(endTimeBehaviorTypeFilterValue).build();

  List<Filter> filters = new ArrayList<Filter>();

  filters.addAll(Arrays.asList(partyTypeFilter, agreementTypeFilter,
 customizeFilter));

  // search agreement with filters

  SearchAgreementsRequest searchAgreementsRequest =
    SearchAgreementsRequest.builder()
    .catalog(AWS_MP_CATALOG)
    .filters(filters)
    .build();

  SearchAgreementsResponse searchAgreementResponse =
 marketplaceAgreementClient.searchAgreements(searchAgreementsRequest);

  List<AgreementViewSummary> agreementSummaryList = new
 ArrayList<AgreementViewSummary>();

  agreementSummaryList.addAll(searchAgreementResponse.agreementViewSummaries());

  while (searchAgreementResponse.nextToken() != null &&
 searchAgreementResponse.nextToken().length() > 0) {
    searchAgreementsRequest =
      SearchAgreementsRequest.builder()
      .catalog(AWS_MP_CATALOG)
      .filters(filters)
      .nextToken(searchAgreementResponse.nextToken())
      .build();
    searchAgreementResponse =
 marketplaceAgreementClient.searchAgreements(searchAgreementsRequest);
    agreementSummaryList.addAll(searchAgreementResponse.agreementViewSummaries());
  }
  return agreementSummaryList;
 }

}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「SearchAgreements」を参照してください。

アクセプタが更新をオプトアウトした契約を検索する

次のコード例は、アクセプタが更新をオプトアウトした契約を検索する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.seller;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AgreementViewSummary;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.EndTimeBehaviorReasonCode;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.Filter;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.SearchAgreementsRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.SearchAgreementsResponse;

import java.util.ArrayList;
import java.util.Arrays;
import java.util.List;

import static com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesConstants.*;
import com.example.awsmarketplace.utils.ReferenceCodesUtils;

/**
 * This filter is supported only when PartyType is Proposer, so only sellers can use
 it. An
```

```
 * unsupported combination fails with a ValidationException whose reason is
 UNSUPPORTED_FILTERS.
 * All filter combinations we support for Proposer and Acceptor:
 * https://docs.aws.amazon.com/marketplace/latest/APIReference/API_marketplace-
agreements_SearchAgreements.html
 */

public class SearchAgreementsAcceptorOptedOut {

 /*
  * Obtain the agreements that will not renew because the customer opted out, and
 not because I did
  */

 // change to another reason code if a different non-renewal reason is desired
 static String endTimeBehaviorReasonCodeFilterValue =
 EndTimeBehaviorReasonCode.ACCEPTOR_RENEW_OPTED_OUT.toString();

 static String partyTypeFilterValue = PARTY_TYPE_FILTER_VALUE_PROPOSER;

 public static void main(String[] args) {

  List<AgreementViewSummary> agreementSummaryList = getAgreements();

  ReferenceCodesUtils.formatOutput(agreementSummaryList);
 }

 public static List<AgreementViewSummary> getAgreements() {
  MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
    MarketplaceAgreementClient.builder()
    .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
    .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
    .build();

  // This filter is supported only for the proposer, so leave PartyType set to
  // PARTY_TYPE_FILTER_VALUE_PROPOSER. PARTY_TYPE_FILTER_VALUE_ACCEPTOR fails with a
  // ValidationException whose reason is UNSUPPORTED_FILTERS.
  Filter partyTypeFilter = Filter.builder().name(PARTY_TYPE_FILTER_NAME)
    .values(partyTypeFilterValue).build();

  Filter agreementTypeFilter = Filter.builder().name(AGREEMENT_TYPE_FILTER_NAME)
    .values(AGREEMENT_TYPE_FILTER_VALUE_PURCHASEAGREEMENT).build();
```

```
 Filter customizeFilter =
Filter.builder().name(END_TIME_BEHAVIOR_REASON_CODE_FILTER_NAME)
   .values(endTimeBehaviorReasonCodeFilterValue).build();

 List<Filter> filters = new ArrayList<Filter>();

 filters.addAll(Arrays.asList(partyTypeFilter, agreementTypeFilter,
customizeFilter));

 // search agreement with filters

 SearchAgreementsRequest searchAgreementsRequest =
   SearchAgreementsRequest.builder()
   .catalog(AWS_MP_CATALOG)
   .filters(filters)
   .build();

 SearchAgreementsResponse searchAgreementResponse =
marketplaceAgreementClient.searchAgreements(searchAgreementsRequest);

 List<AgreementViewSummary> agreementSummaryList = new
ArrayList<AgreementViewSummary>();

 agreementSummaryList.addAll(searchAgreementResponse.agreementViewSummaries());

 while (searchAgreementResponse.nextToken() != null &&
searchAgreementResponse.nextToken().length() > 0) {
  searchAgreementsRequest =
    SearchAgreementsRequest.builder()
    .catalog(AWS_MP_CATALOG)
    .filters(filters)
    .nextToken(searchAgreementResponse.nextToken())
    .build();
  searchAgreementResponse =
marketplaceAgreementClient.searchAgreements(searchAgreementsRequest);
  agreementSummaryList.addAll(searchAgreementResponse.agreementViewSummaries());
 }
 return agreementSummaryList;
}

}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「SearchAgreements」を参照してください。

契約承諾後に発注書を更新する

次のコード例は、契約が承諾された後に発注書を更新する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。AWS Marketplace API リファレンスコードライブラリリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.awsmarketplace.agreementapi.buyer;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.MarketplaceAgreementClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AcceptAgreementRequestRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.AcceptAgreementRequestResponse;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.Charge;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.ConfigurableUpfrontPricingTermCo
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.CreateAgreementRequestRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.CreateAgreementRequestResponse;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.Dimension;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.Intent;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.ListAgreementChargesRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.ListAgreementChargesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.PurchaseOrder;
import software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.RequestedTerm;
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.RequestedTermConfiguration;
```

```
import
 software.amazon.awssdk.services.marketplaceagreement.model.UpdatePurchaseOrdersRequest;
import com.example.awsmarketplace.agreementapi.buyer.utils.AgreementApiUtils;

/**
 * Demonstrates how to associate a purchase order reference with a SaaS agreement
 with CONTRACT pricing model
 * using the AWS Marketplace Agreement Service APIs.
 *
 * <p>Scenario: A buyer creates a SaaS agreement request with CONTRACT pricing model
 and provides a purchase order
 * reference in AcceptAgreementRequest. After acceptance, the buyer lists the
 resulting
 * charges via ListAgreementCharges and associates the purchase order reference with
 a
 * specific charge via UpdatePurchaseOrders.
 *
 * <p>Before running this sample, replace the placeholder constants below with
 values from
 * your AWS Marketplace offer:
 * <ul>
 *   <li>{@code AGREEMENT_PROPOSAL_IDENTIFIER} — the agreementProposalId from the
 offer.</li>
 *   <li>Term IDs (starting with {@code term-}) — found in the offer's term list.</
li>
 *   <li>{@code SELECTOR_VALUE} — duration for the agreement.</li>
 *   <li>{@code DIMENSION_1_KEY} — dimension key defined in the offer.</li>
 *   <li>{@code PURCHASE_ORDER_REFERENCE} — your internal purchase order number
 (e.g., {@code po-123456}).</li>
 * </ul>
 */
public class UpdatePurchaseOrdersAfterAgreementAcceptance {

    // Your internal purchase order reference number (e.g., "po-123456").
    private static final String PURCHASE_ORDER_REFERENCE = "po-123456";

    // The agreementProposalId from the offer.
    private static final String AGREEMENT_PROPOSAL_IDENTIFIER = "<your-agreement-
proposal-identifier>";

    // Term ID for the ConfigurableUpfrontPricingTerm in your offer.
    private static final String CONFIGURABLE_UPFRONT_PRICING_TERM_ID = "<your-
configurable-upfront-pricing-term-id>";
```

```
    // Duration for the agreement (e.g., "P366D" for 366 days).
    private static final String SELECTOR_VALUE = "<your-selector-value>";

    // Dimension key and quantity defined in your offer.
    private static final String DIMENSION_1_KEY = "<your-dimension-key>";
    private static final int DIMENSION_1_VALUE = 1;

    // Term ID for the LegalTerm in your offer.
    private static final String LEGAL_TERM_ID = "<your-legal-term-id>";

    // Term ID for the ValidityTerm in your offer.
    private static final String VALIDITY_TERM_ID = "<your-validity-term-id>";

    public static void main(String[] args) {
        listAgreementChargesAndUpdatePurchaseOrders();
    }

    /**
     * Full end-to-end flow:
     * 1. Create a SaaS agreement with CONTRACT pricing model with a purchase order
reference.
     * 2. List charges to retrieve charge IDs and revisions.
     * 3. Associate the purchase order reference with a specific charge via
UpdatePurchaseOrders.
     * 4. List charges again to confirm the update.
     */
    private static void listAgreementChargesAndUpdatePurchaseOrders() {
        MarketplaceAgreementClient marketplaceAgreementClient =
                MarketplaceAgreementClient.builder()
                        .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
                        .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
                        .build();

        RequestedTerm configurableUpfrontPricingTerm = RequestedTerm.builder()
                .id(CONFIGURABLE_UPFRONT_PRICING_TERM_ID)

.configuration(RequestedTermConfiguration.fromConfigurableUpfrontPricingTermConfiguration(
                        ConfigurableUpfrontPricingTermConfiguration.builder()
                                .selectorValue(SELECTOR_VALUE)
                                .dimensions(Dimension.builder()
                                                .dimensionKey(DIMENSION_1_KEY)

.dimensionValue(DIMENSION_1_VALUE)
                                                .build())
```

```
                                .build()))
                .build();

        RequestedTerm legalTerm = RequestedTerm.builder().id(LEGAL_TERM_ID).build();
        RequestedTerm validityTerm =
RequestedTerm.builder().id(VALIDITY_TERM_ID).build();

        // --- Create Agreement ---
        CreateAgreementRequestRequest createAgreementRequestRequest =
                CreateAgreementRequestRequest.builder()
                        .clientToken(AgreementApiUtils.generateClientToken())
                        .intent(Intent.NEW)
                        .requestedTerms(configurableUpfrontPricingTerm, legalTerm,
validityTerm)
                        .agreementProposalIdentifier(AGREEMENT_PROPOSAL_IDENTIFIER)
                        .build();
        CreateAgreementRequestResponse createAgreementRequestResponse =

marketplaceAgreementClient.createAgreementRequest(createAgreementRequestRequest);
        System.out.println("Agreement request created. AgreementRequestId: " +
createAgreementRequestResponse.agreementRequestId());

        // --- Accept Agreement Request with Purchase Order ---
        // The chargeId is available from the CAR response's
chargeSummary.expectedCharges.
        String chargeId =
createAgreementRequestResponse.chargeSummary().expectedCharges().get(0).id();
        PurchaseOrder purchaseOrderAtAcceptance = PurchaseOrder.builder()
                .chargeId(chargeId)
                .purchaseOrderReference(PURCHASE_ORDER_REFERENCE)
                .build();
        AcceptAgreementRequestRequest acceptAgreementRequestRequest =
                AcceptAgreementRequestRequest.builder()

.agreementRequestId(createAgreementRequestResponse.agreementRequestId())
                        .purchaseOrders(purchaseOrderAtAcceptance)
                        .build();
        AcceptAgreementRequestResponse acceptAgreementRequestResponse =

marketplaceAgreementClient.acceptAgreementRequest(acceptAgreementRequestRequest);
        final String agreementId = acceptAgreementRequestResponse.agreementId();
        System.out.println("Agreement request accepted with purchase order reference
'" + PURCHASE_ORDER_REFERENCE
                + "'. AgreementId: " + agreementId);
```

```
        // --- List Agreement Charges ---
        ListAgreementChargesRequest listAgreementChargesRequest =
                ListAgreementChargesRequest.builder()
                        .agreementId(agreementId)
                        .build();
        ListAgreementChargesResponse listAgreementChargesResponse =

 marketplaceAgreementClient.listAgreementCharges(listAgreementChargesRequest);

        System.out.println("All charges for agreement " + agreementId + ":");
        AgreementApiUtils.formatOutput(listAgreementChargesResponse);

        // --- Update Purchase Order ---
        Charge firstCharge = listAgreementChargesResponse.items().get(0);
        PurchaseOrder purchaseOrder = PurchaseOrder.builder()
                .agreementId(agreementId)
                .purchaseOrderReference(PURCHASE_ORDER_REFERENCE)
                .chargeRevision(firstCharge.revision())
                .chargeId(firstCharge.id())
                .build();
        UpdatePurchaseOrdersRequest updatePurchaseOrdersRequest =
                UpdatePurchaseOrdersRequest.builder()
                        .purchaseOrders(purchaseOrder)
                        .build();

 marketplaceAgreementClient.updatePurchaseOrders(updatePurchaseOrdersRequest);
        System.out.println("Purchase order reference '" + PURCHASE_ORDER_REFERENCE
                + "' updated for ChargeId: " + firstCharge.id());

        // --- Verify Update ---
        ListAgreementChargesRequest lacRequest =
                ListAgreementChargesRequest.builder()
                        .agreementId(agreementId)
                        .build();
        ListAgreementChargesResponse lacResponse =
                marketplaceAgreementClient.listAgreementCharges(lacRequest);
        System.out.println("Verified updated charge:");
        AgreementApiUtils.formatOutput(lacResponse.items().get(0));
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x 「 API リファレンス」のUpdatePurchaseOrders」を参照してください。

SDK for Java 2.x を使用した MediaConvert の例

次のコード例は、MediaConvert AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- アクション

アクション

`CreateJob`

次のコード例は、`CreateJob` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.mediaconvert;

import java.net.URI;
import java.util.HashMap;
import java.util.Map;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.MediaConvertClient;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.DescribeEndpointsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.DescribeEndpointsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.Output;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.MediaConvertException;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.OutputGroup;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.OutputGroupSettings;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.HlsGroupSettings;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.OutputGroupType;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.HlsDirectoryStructure;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.HlsManifestDurationFormat;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.HlsStreamInfResolution;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.HlsClientCache;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.HlsCaptionLanguageSetting;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.HlsManifestCompression;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.HlsCodecSpecification;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.HlsOutputSelection;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.HlsProgramDateTime;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.HlsTimedMetadataId3Frame;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.HlsSegmentControl;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.FileGroupSettings;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.ContainerSettings;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.VideoDescription;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.ContainerType;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.ScalingBehavior;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.VideoTimecodeInsertion;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.ColorMetadata;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.RespondToAfd;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.AfdSignaling;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.DropFrameTimecode;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.VideoCodecSettings;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.H264Settings;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.VideoCodec;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.CreateJobRequest;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.H264RateControlMode;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.H264QualityTuningLevel;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.H264SceneChangeDetect;
import
 software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.AacAudioDescriptionBroadcasterMix;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.H264ParControl;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.AacRawFormat;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.H264QvbrSettings;
import
 software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.H264FramerateConversionAlgorithm;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.H264CodecLevel;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.H264FramerateControl;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.AacCodingMode;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.H264Telecine;
import
 software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.H264FlickerAdaptiveQuantization;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.H264GopSizeUnits;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.H264CodecProfile;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.H264GopBReference;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.AudioTypeControl;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.AntiAlias;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.H264SlowPal;
import
 software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.H264SpatialAdaptiveQuantization;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.H264Syntax;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.M3u8Settings;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.InputDenoiseFilter;
import
 software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.H264TemporalAdaptiveQuantization;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.CreateJobResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.H264UnregisteredSeiTimecode;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.H264EntropyEncoding;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.InputPsiControl;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.ColorSpace;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.H264RepeatPps;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.H264FieldEncoding;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.M3u8NielsenId3;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.InputDeblockFilter;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.InputRotate;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.H264DynamicSubGop;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.TimedMetadata;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.JobSettings;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.AudioDefaultSelection;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.VideoSelector;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.AacSpecification;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.Input;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.OutputSettings;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.H264AdaptiveQuantization;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.AudioLanguageCodeControl;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.InputFilterEnable;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.AudioDescription;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.H264InterlaceMode;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.AudioCodecSettings;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.AacSettings;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.AudioCodec;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.AacRateControlMode;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.AacCodecProfile;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.HlsIFrameOnlyManifest;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.FrameCaptureSettings;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.AudioSelector;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.M3u8PcrControl;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.InputTimecodeSource;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.HlsSettings;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.M3u8Scte35Source;

/**
 * Create a MediaConvert job. Must supply MediaConvert access role Amazon
 * Resource Name (ARN), and a
 * valid video input file via Amazon S3 URL.
 *
 * Also, set up your development environment, including your credentials.
 *
 * For information, see this documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 *
 */
public class CreateJob {
        public static void main(String[] args) {
                final String usage = """

                                Usage:
                                    <mcRoleARN> <fileInput>\s

                                Where:
                                    mcRoleARN - The MediaConvert Role ARN.\s
                                    fileInput -  The URL of an Amazon S3 bucket
 where the input file is located.\s
                                """;

                if (args.length != 2) {
                        System.out.println(usage);
                        System.exit(1);
                }

                String mcRoleARN = args[0];
                String fileInput = args[1];
                Region region = Region.US_WEST_2;
```

```
                MediaConvertClient mc = MediaConvertClient.builder()
                                .region(region)
                                .build();

                String id = createMediaJob(mc, mcRoleARN, fileInput);
                System.out.println("MediaConvert job created. Job Id = " + id);
                mc.close();
        }

        public static String createMediaJob(MediaConvertClient mc, String mcRoleARN,
 String fileInput) {

                String s3path = fileInput.substring(0, fileInput.lastIndexOf('/') +
 1) + "javasdk/out/";
                String fileOutput = s3path + "index";
                String thumbsOutput = s3path + "thumbs/";
                String mp4Output = s3path + "mp4/";

                try {
                        System.out.println("MediaConvert role arn: " + mcRoleARN);
                        System.out.println("MediaConvert input file: " + fileInput);
                        System.out.println("MediaConvert output path: " + s3path);

                        // output group Preset HLS low profile
                        Output hlsLow = createOutput("hls_low", "_low", "_$dt$",
 750000, 7, 1920, 1080, 640);
                        // output group Preset HLS media profile
                        Output hlsMedium = createOutput("hls_medium", "_medium", "_
$dt$", 1200000, 7, 1920, 1080, 1280);
                        // output group Preset HLS high profole
                        Output hlsHigh = createOutput("hls_high", "_high", "_$dt$",
 3500000, 8, 1920, 1080, 1920);

                        OutputGroup appleHLS = OutputGroup.builder().name("Apple
 HLS").customName("Example")

 .outputGroupSettings(OutputGroupSettings.builder()

 .type(OutputGroupType.HLS_GROUP_SETTINGS)

 .hlsGroupSettings(HlsGroupSettings.builder()

 .directoryStructure(
```

```
   HlsDirectoryStructure.SINGLE_DIRECTORY)
.manifestDurationFormat(
   HlsManifestDurationFormat.INTEGER)
.streamInfResolution(
   HlsStreamInfResolution.INCLUDE)
.clientCache(HlsClientCache.ENABLED)
.captionLanguageSetting(
   HlsCaptionLanguageSetting.OMIT)
.manifestCompression(
   HlsManifestCompression.NONE)
.codecSpecification(
   HlsCodecSpecification.RFC_4281)
.outputSelection(
   HlsOutputSelection.MANIFESTS_AND_SEGMENTS)
.programDateTime(HlsProgramDateTime.EXCLUDE)
.programDateTimePeriod(600)
.timedMetadataId3Frame(
   HlsTimedMetadataId3Frame.PRIV)
.timedMetadataId3Period(10)
.destination(fileOutput)
.segmentControl(HlsSegmentControl.SEGMENTED_FILES)
.minFinalSegmentLength((double) 0)
```

```
.segmentLength(4).minSegmentLength(0).build())
                                                          .build())
                                        .outputs(hlsLow, hlsMedium,
hlsHigh).build();

                        OutputGroup fileMp4 = OutputGroup.builder().name("File
Group").customName("mp4")

.outputGroupSettings(OutputGroupSettings.builder()

.type(OutputGroupType.FILE_GROUP_SETTINGS)

.fileGroupSettings(FileGroupSettings.builder()

.destination(mp4Output).build())
                                                          .build())
                                        .outputs(Output.builder().extension("mp4")

.containerSettings(ContainerSettings.builder()

.container(ContainerType.MP4).build())

.videoDescription(VideoDescription.builder().width(1280)
                                                                        .height(720)

.scalingBehavior(ScalingBehavior.DEFAULT)

.sharpness(50).antiAlias(AntiAlias.ENABLED)

.timecodeInsertion(

   VideoTimecodeInsertion.DISABLED)

.colorMetadata(ColorMetadata.INSERT)

.respondToAfd(RespondToAfd.NONE)

.afdSignaling(AfdSignaling.NONE)

.dropFrameTimecode(DropFrameTimecode.ENABLED)

.codecSettings(VideoCodecSettings.builder()
```

```
    .codec(VideoCodec.H_264)
    .h264Settings(H264Settings
                    .builder()
                    .rateControlMode(
                                    H264RateControlMode.QVBR)
                    .parControl(H264ParControl.INITIALIZE_FROM_SOURCE)
                    .qualityTuningLevel(
                                    H264QualityTuningLevel.SINGLE_PASS)
                    .qvbrSettings(
                                    H264QvbrSettings.builder()
                                                    .qvbrQualityLevel(
                                                                    8)
                                                    .build())
                    .codecLevel(H264CodecLevel.AUTO)
                    .codecProfile(H264CodecProfile.MAIN)
                    .maxBitrate(2400000)
                    .framerateControl(
                                    H264FramerateControl.INITIALIZE_FROM_SOURCE)
                    .gopSize(2.0)
                    .gopSizeUnits(H264GopSizeUnits.SECONDS)
                    .numberBFramesBetweenReferenceFrames(
                                    2)
```

```
                .gopClosedCadence(
                        1)
                .gopBReference(H264GopBReference.DISABLED)
                .slowPal(H264SlowPal.DISABLED)
                .syntax(H264Syntax.DEFAULT)
                .numberReferenceFrames(
                        3)
                .dynamicSubGop(H264DynamicSubGop.STATIC)
                .fieldEncoding(H264FieldEncoding.PAFF)
                .sceneChangeDetect(
                        H264SceneChangeDetect.ENABLED)
                .minIInterval(0)
                .telecine(H264Telecine.NONE)
                .framerateConversionAlgorithm(
                        H264FramerateConversionAlgorithm.DUPLICATE_DROP)
                .entropyEncoding(
                        H264EntropyEncoding.CABAC)
                .slices(1)
                .unregisteredSeiTimecode(
                        H264UnregisteredSeiTimecode.DISABLED)
                .repeatPps(H264RepeatPps.DISABLED)
                .adaptiveQuantization(
```

```
                                    H264AdaptiveQuantization.HIGH)
                    .spatialAdaptiveQuantization(
                                    H264SpatialAdaptiveQuantization.ENABLED)
                    .temporalAdaptiveQuantization(
                                    H264TemporalAdaptiveQuantization.ENABLED)
                    .flickerAdaptiveQuantization(
                                    H264FlickerAdaptiveQuantization.DISABLED)
                    .softness(0)
                    .interlaceMode(H264InterlaceMode.PROGRESSIVE)
                    .build())
    .build())
                                                                    .build())
.audioDescriptions(AudioDescription.builder()
.audioTypeControl(AudioTypeControl.FOLLOW_INPUT)
.languageCodeControl(
    AudioLanguageCodeControl.FOLLOW_INPUT)
.codecSettings(AudioCodecSettings.builder()
    .codec(AudioCodec.AAC)
    .aacSettings(AacSettings
                    .builder()
                    .codecProfile(AacCodecProfile.LC)
                    .rateControlMode(
```

```
                                    AacRateControlMode.CBR)

                    .codingMode(AacCodingMode.CODING_MODE_2_0)

                    .sampleRate(44100)

                    .bitrate(160000)

                    .rawFormat(AacRawFormat.NONE)

                    .specification(AacSpecification.MPEG4)

                    .audioDescriptionBroadcasterMix(

                                    AacAudioDescriptionBroadcasterMix.NORMAL)

                    .build())

   .build())
                                                                        .build())
                                                        .build())
                                    .build();
                        OutputGroup thumbs = OutputGroup.builder().name("File
Group").customName("thumbs")

.outputGroupSettings(OutputGroupSettings.builder()

.type(OutputGroupType.FILE_GROUP_SETTINGS)

.fileGroupSettings(FileGroupSettings.builder()

.destination(thumbsOutput).build())
                                                        .build())
                                    .outputs(Output.builder().extension("jpg")

.containerSettings(ContainerSettings.builder()

.container(ContainerType.RAW).build())

.videoDescription(VideoDescription.builder()

.scalingBehavior(ScalingBehavior.DEFAULT)
```

```
.sharpness(50).antiAlias(AntiAlias.ENABLED)

.timecodeInsertion(

   VideoTimecodeInsertion.DISABLED)

.colorMetadata(ColorMetadata.INSERT)

.dropFrameTimecode(DropFrameTimecode.ENABLED)

.codecSettings(VideoCodecSettings.builder()

   .codec(VideoCodec.FRAME_CAPTURE)

   .frameCaptureSettings(

                  FrameCaptureSettings

                                 .builder()

                                 .framerateNumerator(

                                                1)

                                 .framerateDenominator(

                                                1)

                                 .maxCaptures(10000000)

                                 .quality(80)

                                 .build())

   .build())
                                                                  .build())
                                                        .build())
                                     .build();

                        Map<String, AudioSelector> audioSelectors = new HashMap<>();
                        audioSelectors.put("Audio Selector 1",

AudioSelector.builder().defaultSelection(AudioDefaultSelection.DEFAULT)
```

```
                                                        .offset(0).build());

                        JobSettings jobSettings =
JobSettings.builder().inputs(Input.builder()
                                        .audioSelectors(audioSelectors)
                                        .videoSelector(

VideoSelector.builder().colorSpace(ColorSpace.FOLLOW)

.rotate(InputRotate.DEGREE_0).build())

.filterEnable(InputFilterEnable.AUTO).filterStrength(0)
                                        .deblockFilter(InputDeblockFilter.DISABLED)

.denoiseFilter(InputDenoiseFilter.DISABLED).psiControl(InputPsiControl.USE_PSI)

.timecodeSource(InputTimecodeSource.EMBEDDED).fileInput(fileInput).build())
                                        .outputGroups(appleHLS, thumbs,
fileMp4).build();

                        CreateJobRequest createJobRequest =
CreateJobRequest.builder().role(mcRoleARN)
                                        .settings(jobSettings)
                                        .build();

                        CreateJobResponse createJobResponse =
mc.createJob(createJobRequest);
                        return createJobResponse.job().id();

                } catch (MediaConvertException e) {
                        System.out.println(e.toString());
                        System.exit(0);
                }
                return "";
        }

        private final static Output createOutput(String customName,
                        String nameModifier,
                        String segmentModifier,
                        int qvbrMaxBitrate,
                        int qvbrQualityLevel,
                        int originWidth,
                        int originHeight,
                        int targetWidth) {
```

```
                int targetHeight = Math.round(originHeight * targetWidth /
originWidth)
                                - (Math.round(originHeight * targetWidth /
originWidth) % 4);
                Output output = null;
                try {
                        output =
Output.builder().nameModifier(nameModifier).outputSettings(OutputSettings.builder()

.hlsSettings(HlsSettings.builder().segmentModifier(segmentModifier)

.audioGroupId("program_audio")

.iFrameOnlyManifest(HlsIFrameOnlyManifest.EXCLUDE).build())
                                            .build())

.containerSettings(ContainerSettings.builder().container(ContainerType.M3_U8)

.m3u8Settings(M3u8Settings.builder().audioFramesPerPes(4)

.pcrControl(M3u8PcrControl.PCR_EVERY_PES_PACKET)

.pmtPid(480).privateMetadataPid(503)

.programNumber(1).patInterval(0).pmtInterval(0)

.scte35Source(M3u8Scte35Source.NONE)

.scte35Pid(500).nielsenId3(M3u8NielsenId3.NONE)

.timedMetadata(TimedMetadata.NONE)

.timedMetadataPid(502).videoPid(481)

.audioPids(482, 483, 484, 485, 486, 487, 488,

   489, 490, 491, 492)
                                                                        .build())
                                                        .build())
                                            .videoDescription(

VideoDescription.builder().width(targetWidth)
```

```
.height(targetHeight)
.scalingBehavior(ScalingBehavior.DEFAULT)
.sharpness(50).antiAlias(AntiAlias.ENABLED)
.timecodeInsertion(
   VideoTimecodeInsertion.DISABLED)
.colorMetadata(ColorMetadata.INSERT)
.respondToAfd(RespondToAfd.NONE)
.afdSignaling(AfdSignaling.NONE)
.dropFrameTimecode(DropFrameTimecode.ENABLED)
.codecSettings(VideoCodecSettings.builder()
   .codec(VideoCodec.H_264)
   .h264Settings(H264Settings
                  .builder()
                  .rateControlMode(
                                 H264RateControlMode.QVBR)
                  .parControl(H264ParControl.INITIALIZE_FROM_SOURCE)
                  .qualityTuningLevel(
                                 H264QualityTuningLevel.SINGLE_PASS)
                  .qvbrSettings(H264QvbrSettings
                                 .builder()
                                 .qvbrQualityLevel(
                                                qvbrQualityLevel)
```

```
                    .build())
            .codecLevel(H264CodecLevel.AUTO)
            .codecProfile((targetHeight > 720
                    && targetWidth > 1280)
                                    ? H264CodecProfile.HIGH
                                    : H264CodecProfile.MAIN)
            .maxBitrate(qvbrMaxBitrate)
            .framerateControl(
                    H264FramerateControl.INITIALIZE_FROM_SOURCE)
            .gopSize(2.0)
            .gopSizeUnits(H264GopSizeUnits.SECONDS)
            .numberBFramesBetweenReferenceFrames(
                    2)
            .gopClosedCadence(
                    1)
            .gopBReference(H264GopBReference.DISABLED)
            .slowPal(H264SlowPal.DISABLED)
            .syntax(H264Syntax.DEFAULT)
            .numberReferenceFrames(
                    3)
            .dynamicSubGop(H264DynamicSubGop.STATIC)
            .fieldEncoding(H264FieldEncoding.PAFF)
```

```
                .sceneChangeDetect(
                        H264SceneChangeDetect.ENABLED)
                .minIInterval(0)
                .telecine(H264Telecine.NONE)
                .framerateConversionAlgorithm(
                        H264FramerateConversionAlgorithm.DUPLICATE_DROP)
                .entropyEncoding(
                        H264EntropyEncoding.CABAC)
                .slices(1)
                .unregisteredSeiTimecode(
                        H264UnregisteredSeiTimecode.DISABLED)
                .repeatPps(H264RepeatPps.DISABLED)
                .adaptiveQuantization(
                        H264AdaptiveQuantization.HIGH)
                .spatialAdaptiveQuantization(
                        H264SpatialAdaptiveQuantization.ENABLED)
                .temporalAdaptiveQuantization(
                        H264TemporalAdaptiveQuantization.ENABLED)
                .flickerAdaptiveQuantization(
                        H264FlickerAdaptiveQuantization.DISABLED)
                .softness(0)
                .interlaceMode(H264InterlaceMode.PROGRESSIVE)
```

```
                    .build())

    .build())
                                                                    .build())

.audioDescriptions(AudioDescription.builder()

.audioTypeControl(AudioTypeControl.FOLLOW_INPUT)

.languageCodeControl(AudioLanguageCodeControl.FOLLOW_INPUT)

.codecSettings(AudioCodecSettings.builder()

.codec(AudioCodec.AAC).aacSettings(AacSettings

    .builder()

    .codecProfile(AacCodecProfile.LC)

    .rateControlMode(

                    AacRateControlMode.CBR)

    .codingMode(AacCodingMode.CODING_MODE_2_0)

    .sampleRate(44100)

    .bitrate(96000)

    .rawFormat(AacRawFormat.NONE)

    .specification(AacSpecification.MPEG4)

    .audioDescriptionBroadcasterMix(

                    AacAudioDescriptionBroadcasterMix.NORMAL)

    .build())
                                                                    .build())
                                                        .build())
                                    .build();
            } catch (MediaConvertException e) {
                    e.printStackTrace();
```

```
                System.exit(0);
            }
            return output;
        }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateJob」を参照してください。

GetJob

次のコード例は、GetJob を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.DescribeEndpointsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.GetJobRequest;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.DescribeEndpointsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.GetJobResponse;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.MediaConvertException;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.MediaConvertClient;
import java.net.URI;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class GetJob {
```

```
    public static void main(String[] args) {

        final String usage = "\n" +
                "  <jobId> \n\n" +
                "Where:\n" +
                "  jobId - The job id value.\n\n";

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String jobId = args[0];
        Region region = Region.US_WEST_2;
        MediaConvertClient mc = MediaConvertClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        getSpecificJob(mc, jobId);
        mc.close();
    }

    public static void getSpecificJob(MediaConvertClient mc, String jobId) {
        try {
            GetJobRequest jobRequest = GetJobRequest.builder()
                    .id(jobId)
                    .build();

            GetJobResponse response = mc.getJob(jobRequest);
            System.out.println("The ARN of the job is " + response.job().arn());

        } catch (MediaConvertException e) {
            System.out.println(e.toString());
            System.exit(0);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「GetJob」を参照してください。

`ListJobs`

次のコード例は、`ListJobs` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.MediaConvertClient;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.ListJobsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.DescribeEndpointsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.DescribeEndpointsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.ListJobsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.Job;
import software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.model.MediaConvertException;
import java.net.URI;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ListJobs {
    public static void main(String[] args) {
        Region region = Region.US_WEST_2;
        MediaConvertClient mc = MediaConvertClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        listCompleteJobs(mc);
        mc.close();
    }

    public static void listCompleteJobs(MediaConvertClient mc) {
```

```
        try {
            // Create the ListJobsRequest
            ListJobsRequest jobsRequest = ListJobsRequest.builder()
                    .maxResults(10)
                    .status("COMPLETE")
                    .build();

            // Call the listJobs operation
            ListJobsResponse jobsResponse = mc.listJobs(jobsRequest);
            List<Job> jobs = jobsResponse.jobs();
            for (Job job : jobs) {
                System.out.println("The JOB ARN is : " + job.arn());
            }

        } catch (MediaConvertException e) {
            System.out.println(e.toString());
            System.exit(0);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListJobs」を参照してください。

SDK for Java 2.x を使用した Migration Hub の例

次のコード例は、Migration Hub AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- アクション

アクション

`DeleteProgressUpdateStream`

次のコード例は、DeleteProgressUpdateStream を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.migrationhub.MigrationHubClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.migrationhub.model.DeleteProgressUpdateStreamRequest;
import software.amazon.awssdk.services.migrationhub.model.MigrationHubException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DeleteProgressStream {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <progressStream>\s

                Where:
                    progressStream - the name of a progress stream to delete.\s
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
```

```
        }

        String progressStream = args[0];
        Region region = Region.US_WEST_2;
        MigrationHubClient migrationClient = MigrationHubClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        deleteStream(migrationClient, progressStream);
        migrationClient.close();
    }

    public static void deleteStream(MigrationHubClient migrationClient, String
 streamName) {
        try {
            DeleteProgressUpdateStreamRequest deleteProgressUpdateStreamRequest =
 DeleteProgressUpdateStreamRequest
                    .builder()
                    .progressUpdateStreamName(streamName)
                    .build();


 migrationClient.deleteProgressUpdateStream(deleteProgressUpdateStreamRequest);
            System.out.println(streamName + " is deleted");

        } catch (MigrationHubException e) {
            System.out.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteProgressUpdateStream」を参照してください。

DescribeApplicationState

次のコード例は、DescribeApplicationState を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.migrationhub.MigrationHubClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.migrationhub.model.DescribeApplicationStateRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.migrationhub.model.DescribeApplicationStateResponse;
import software.amazon.awssdk.services.migrationhub.model.MigrationHubException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DescribeAppState {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    DescribeAppState <appId>\s

                Where:
                    appId -  the application id value.\s
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String appId = args[0];
        Region region = Region.US_WEST_2;
```

```
        MigrationHubClient migrationClient = MigrationHubClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        describeApplicationState(migrationClient, appId);
        migrationClient.close();
    }

    public static void describeApplicationState(MigrationHubClient migrationClient,
 String appId) {
        try {
            DescribeApplicationStateRequest applicationStateRequest =
 DescribeApplicationStateRequest.builder()
                    .applicationId(appId)
                    .build();

            DescribeApplicationStateResponse applicationStateResponse =
 migrationClient
                    .describeApplicationState(applicationStateRequest);
            System.out.println("The application status is " +
 applicationStateResponse.applicationStatusAsString());

        } catch (MigrationHubException e) {
            System.out.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeApplicationState」を参照してください。

DescribeMigrationTask

次のコード例は、DescribeMigrationTask を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.migrationhub.MigrationHubClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.migrationhub.model.DescribeMigrationTaskRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.migrationhub.model.DescribeMigrationTaskResponse;
import software.amazon.awssdk.services.migrationhub.model.MigrationHubException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DescribeMigrationTask {

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    DescribeMigrationTask <migrationTask> <progressStream>\s

                Where:
                    migrationTask - the name of a migration task.\s
                    progressStream - the name of a progress stream.\s
                """;

        if (args.length < 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }
```

```
        String migrationTask = args[0];
        String progressStream = args[1];
        Region region = Region.US_WEST_2;
        MigrationHubClient migrationClient = MigrationHubClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        describeMigTask(migrationClient, migrationTask, progressStream);
        migrationClient.close();
    }

    public static void describeMigTask(MigrationHubClient migrationClient, String
 migrationTask,
            String progressStream) {
        try {
            DescribeMigrationTaskRequest migrationTaskRequestRequest =
 DescribeMigrationTaskRequest.builder()
                    .progressUpdateStream(progressStream)
                    .migrationTaskName(migrationTask)
                    .build();

            DescribeMigrationTaskResponse migrationTaskResponse = migrationClient
                    .describeMigrationTask(migrationTaskRequestRequest);
            System.out.println("The name is " +
 migrationTaskResponse.migrationTask().migrationTaskName());

        } catch (MigrationHubException e) {
            System.out.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeMigrationTask」を参照してください。

ImportMigrationTask

次のコード例は、ImportMigrationTask を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.migrationhub.MigrationHubClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.migrationhub.model.CreateProgressUpdateStreamRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.migrationhub.model.ImportMigrationTaskRequest;
import software.amazon.awssdk.services.migrationhub.model.MigrationHubException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ImportMigrationTask {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <migrationTask> <progressStream>\s

                Where:
                    migrationTask - the name of a migration task.\s
                    progressStream - the name of a progress stream.\s
                """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String migrationTask = args[0];
```

```
        String progressStream = args[1];
        Region region = Region.US_WEST_2;
        MigrationHubClient migrationClient = MigrationHubClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        importMigrTask(migrationClient, migrationTask, progressStream);
        migrationClient.close();
    }

    public static void importMigrTask(MigrationHubClient migrationClient, String
 migrationTask, String progressStream) {
        try {
            CreateProgressUpdateStreamRequest progressUpdateStreamRequest =
 CreateProgressUpdateStreamRequest.builder()
                    .progressUpdateStreamName(progressStream)
                    .dryRun(false)
                    .build();

            migrationClient.createProgressUpdateStream(progressUpdateStreamRequest);
            ImportMigrationTaskRequest migrationTaskRequest =
 ImportMigrationTaskRequest.builder()
                    .migrationTaskName(migrationTask)
                    .progressUpdateStream(progressStream)
                    .dryRun(false)
                    .build();

            migrationClient.importMigrationTask(migrationTaskRequest);

        } catch (MigrationHubException e) {
            System.out.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ImportMigrationTask」を参照してください。

ListApplications

次のコード例は、ListApplications を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.migrationhub.MigrationHubClient;
import software.amazon.awssdk.services.migrationhub.model.ApplicationState;
import
 software.amazon.awssdk.services.migrationhub.model.ListApplicationStatesRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.migrationhub.model.ListApplicationStatesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.migrationhub.model.MigrationHubException;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ListApplications {
    public static void main(String[] args) {
        Region region = Region.US_WEST_2;
        MigrationHubClient migrationClient = MigrationHubClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        listApps(migrationClient);
        migrationClient.close();
    }

    public static void listApps(MigrationHubClient migrationClient) {
        try {
            ListApplicationStatesRequest applicationStatesRequest =
 ListApplicationStatesRequest.builder()
                    .maxResults(10)
```

```
                    .build();

            ListApplicationStatesResponse response =
 migrationClient.listApplicationStates(applicationStatesRequest);
            List<ApplicationState> apps = response.applicationStateList();
            for (ApplicationState appState : apps) {
                System.out.println("App Id is " + appState.applicationId());
                System.out.println("The status is " +
 appState.applicationStatus().toString());
            }

        } catch (MigrationHubException e) {
            System.out.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListApplications」を参照してください。

`ListCreatedArtifacts`

次のコード例は、`ListCreatedArtifacts` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.migrationhub.MigrationHubClient;
import software.amazon.awssdk.services.migrationhub.model.CreatedArtifact;
import
 software.amazon.awssdk.services.migrationhub.model.ListCreatedArtifactsRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.migrationhub.model.ListCreatedArtifactsResponse;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.migrationhub.model.MigrationHubException;
import java.util.List;

/**
 * To run this Java V2 code example, ensure that you have setup your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For information, see this documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ListCreatedArtifacts {
    public static void main(String[] args) {
        Region region = Region.US_WEST_2;
        MigrationHubClient migrationClient = MigrationHubClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        listArtifacts(migrationClient);
        migrationClient.close();
    }

    public static void listArtifacts(MigrationHubClient migrationClient) {
        try {
            ListCreatedArtifactsRequest listCreatedArtifactsRequest =
 ListCreatedArtifactsRequest.builder()
                    .maxResults(10)
                    .migrationTaskName("SampleApp5")
                    .progressUpdateStream("ProgressSteamB")
                    .build();

            ListCreatedArtifactsResponse response =
 migrationClient.listCreatedArtifacts(listCreatedArtifactsRequest);
            List<CreatedArtifact> apps = response.createdArtifactList();
            for (CreatedArtifact artifact : apps) {
                System.out.println("APp Id is " + artifact.description());
                System.out.println("The name is " + artifact.name());
            }

        } catch (MigrationHubException e) {
            System.out.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

```
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListCreatedArtifacts」を参照してください。

`ListMigrationTasks`

次のコード例は、`ListMigrationTasks` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.migrationhub.MigrationHubClient;
import software.amazon.awssdk.services.migrationhub.model.ListMigrationTasksRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.migrationhub.model.ListMigrationTasksResponse;
import software.amazon.awssdk.services.migrationhub.model.MigrationTaskSummary;
import software.amazon.awssdk.services.migrationhub.model.MigrationHubException;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ListMigrationTasks {
    public static void main(String[] args) {
        Region region = Region.US_WEST_2;
        MigrationHubClient migrationClient = MigrationHubClient.builder()
                .region(region)
                .build();
```

```
        listMigrTasks(migrationClient);
        migrationClient.close();
    }

    public static void listMigrTasks(MigrationHubClient migrationClient) {
        try {
            ListMigrationTasksRequest listMigrationTasksRequest =
 ListMigrationTasksRequest.builder()
                    .maxResults(10)
                    .build();

            ListMigrationTasksResponse response =
 migrationClient.listMigrationTasks(listMigrationTasksRequest);
            List<MigrationTaskSummary> migrationList =
 response.migrationTaskSummaryList();
            for (MigrationTaskSummary migration : migrationList) {
                System.out.println("Migration task name is " +
 migration.migrationTaskName());
                System.out.println("The Progress update stream is " +
 migration.progressUpdateStream());
            }

        } catch (MigrationHubException e) {
            System.out.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListMigrationTasks」を参照してください。

SDK for Java 2.x を使用する Amazon MSK の例

次のコード例は、Amazon MSK AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- サーバーレスサンプル

サーバーレスサンプル

Amazon MSK トリガーから Lambda 関数を呼び出す

次のコード例は、Amazon MSK クラスターからレコードを受信することによってトリガーされるイベントを受け取る、Lambda 関数の実装方法を示しています。関数は MSK ペイロードを取得し、レコードの内容をログ記録します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。サーバーレスサンプルリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

Java を使用した Lambda での Amazon MSK イベントの消費。

```
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.Context;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.RequestHandler;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.KafkaEvent;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.KafkaEvent.KafkaEventRecord;

import java.util.Base64;
import java.util.Map;

public class Example implements RequestHandler<KafkaEvent, Void> {

    @Override
    public Void handleRequest(KafkaEvent event, Context context) {
        for (Map.Entry<String, java.util.List<KafkaEventRecord>> entry :
 event.getRecords().entrySet()) {
            String key = entry.getKey();
            System.out.println("Key: " + key);

            for (KafkaEventRecord record : entry.getValue()) {
```

```
                System.out.println("Record: " + record);

                byte[] value = Base64.getDecoder().decode(record.getValue());
                String message = new String(value);
                System.out.println("Message: " + message);
            }
        }

        return null;
    }
}
```

SDK for Java 2.x を使用した Neptune の例

次のコード例は、Neptune AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- はじめに
- 基本
- アクション
- シナリオ

はじめに

Hello Neptune

次のコード例は、Neptune の使用を開始する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class HelloNeptune {
    public static void main(String[] args) {
        NeptuneAsyncClient neptuneClient = NeptuneAsyncClient.create();
        describeDbCluster(neptuneClient).join(); // This ensures the async code runs
 to completion
    }

    /**
     * Describes the Amazon Neptune DB clusters.
     *
     * @param neptuneClient the Neptune asynchronous client used to make the request
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the operation is
 finished
     */
    public static CompletableFuture<Void> describeDbCluster(NeptuneAsyncClient
 neptuneClient) {
        DescribeDbClustersRequest request = DescribeDbClustersRequest.builder()
                .maxRecords(20)
                .build();
```

```
        SdkPublisher<DescribeDbClustersResponse> paginator =
neptuneClient.describeDBClustersPaginator(request);
        CompletableFuture<Void> future = new CompletableFuture<>();

        paginator.subscribe(new Subscriber<DescribeDbClustersResponse>() {
            private Subscription subscription;

            @Override
            public void onSubscribe(Subscription s) {
                this.subscription = s;
                s.request(Long.MAX_VALUE); // request all items
            }

            @Override
            public void onNext(DescribeDbClustersResponse response) {
                response.dbClusters().forEach(cluster -> {
                    System.out.println("Cluster Identifier: " +
cluster.dbClusterIdentifier());
                    System.out.println("Status: " + cluster.status());
                });
            }

            @Override
            public void onError(Throwable t) {
                future.completeExceptionally(t);
            }

            @Override
            public void onComplete() {
                future.complete(null);
            }
        });

        return future.whenComplete((result, throwable) -> {
            neptuneClient.close();
            if (throwable != null) {
                System.err.println("Error describing DB clusters: " +
throwable.getMessage());
            }
        });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeDBClustersPaginator」を参照してください。

基本

基本を学ぶ

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- Amazon Neptune サブネットグループを作成します。
- Neptune クラスターを作成します。
- Neptune インスタンスを作成します。
- Neptune インスタンスのステータスをチェックします。
- Neptune クラスターの詳細を表示します。
- Neptune クラスターを停止します。
- Neptune クラスターを起動します。
- Neptune アセットを削除します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

Neptune 機能を実証するインタラクティブなシナリオを実行します。

```
public class NeptuneScenario {
    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");
    private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(NeptuneScenario.class);
    static Scanner scanner = new Scanner(System.in);
    static NeptuneActions neptuneActions = new NeptuneActions();

    public static void main(String[] args) {
        final String usage =
                """
```

```
                Usage:
                    <subnetGroupName> <clusterName> <dbInstanceId>

                Where:
                    subnetGroupName - The name of an existing Neptune DB subnet
group that includes subnets in at least two Availability Zones.
                    clusterName     - The unique identifier for the Neptune DB
cluster.
                    dbInstanceId    - The identifier for a specific Neptune DB
instance within the cluster.
                """;
        String subnetGroupName = "neptuneSubnetGroup65";
        String clusterName = "neptuneCluster65";
        String dbInstanceId = "neptuneDB65";

        logger.info("""
                   Amazon Neptune is a fully managed graph
                   database service by AWS, designed specifically
                   for handling complex relationships and connected
                   datasets at scale. It supports two popular graph models:
                   property graphs (via openCypher and Gremlin) and RDF
                   graphs (via SPARQL). This makes Neptune ideal for
                   use cases such as knowledge graphs, fraud detection,
                   social networking, recommendation engines, and
                   network management, where relationships between
                   entities are central to the data.

                   Being fully managed, Neptune handles database
                   provisioning, patching, backups, and replication,
                   while also offering high availability and durability
                   within AWS's infrastructure.

                   For developers, programming with Neptune allows
                   for building intelligent, relationship-aware
                   applications that go beyond traditional tabular
                   databases. Developers can use the AWS SDK for Java
                   to automate infrastructure operations (via NeptuneClient).

                    Let's get started...
                    """);
        waitForInputToContinue(scanner);
        runScenario(subnetGroupName, dbInstanceId, clusterName);
    }
```

```
   public static void runScenario(String subnetGroupName, String dbInstanceId,
String clusterName) {
       logger.info(DASHES);
       logger.info("1. Create a Neptune DB Subnet Group");
       logger.info("The Neptune DB subnet group is used when launching a Neptune
cluster");
       waitForInputToContinue(scanner);
       try {
           neptuneActions.createSubnetGroupAsync(subnetGroupName).join();

       } catch (CompletionException ce) {
           Throwable cause = ce.getCause();
           if (cause instanceof ServiceQuotaExceededException) {
               logger.error("The request failed due to service quota exceeded: {}",
cause.getMessage());
           } else {
               logger.error("An unexpected error occurred.", cause);
           }
           return;
       }
       waitForInputToContinue(scanner);
       logger.info(DASHES);

       logger.info(DASHES);
       logger.info("2. Create a Neptune Cluster");
       logger.info("A Neptune Cluster allows you to store and query highly
connected datasets with low latency.");
       waitForInputToContinue(scanner);
       String dbClusterId;
       try {
           dbClusterId = neptuneActions.createDBClusterAsync(clusterName).join();
       } catch (CompletionException ce) {
           Throwable cause = ce.getCause();
           if (cause instanceof ServiceQuotaExceededException) {
               logger.error("The request failed due to service quota exceeded: {}",
cause.getMessage());
           } else {
               logger.error("An unexpected error occurred.", cause);
           }
           return;
       }

       waitForInputToContinue(scanner);
       logger.info(DASHES);
```

```
        logger.info(DASHES);
        logger.info("3. Create a Neptune DB Instance");
        logger.info("In this step, we add a new database instance to the Neptune
cluster");
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
        neptuneActions.createDBInstanceAsync(dbInstanceId, dbClusterId).join();
        } catch (CompletionException ce) {
            Throwable cause = ce.getCause();
            if (cause instanceof ServiceQuotaExceededException) {
                logger.error("The request failed due to service quota exceeded: {}",
cause.getMessage());
            } else {
                logger.error("An unexpected error occurred.", cause);
            }
            return;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("4. Check the status of the Neptune DB Instance");
        logger.info("""
                    In this step, we will wait until the DB instance
                    becomes available. This may take around 10 minutes.
                    """);
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            neptuneActions.checkInstanceStatus(dbInstanceId, "available").join();
        } catch (CompletionException ce) {
            Throwable cause = ce.getCause();
            logger.error("An unexpected error occurred.", cause);
            return;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("5.Show Neptune Cluster details");
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            neptuneActions.describeDBClustersAsync(clusterName).join();
        } catch (CompletionException ce) {
```

```
            Throwable cause = ce.getCause();
            if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                logger.error("The request failed due to the resource not found: {}",
cause.getMessage());
            } else {
                logger.error("An unexpected error occurred.", cause);
            }
            return;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("6. Stop the Amazon Neptune cluster");
        logger.info("""
                    Once stopped, this step polls the status
                    until the cluster is in a stopped state.
                    """);
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            neptuneActions.stopDBClusterAsync(dbClusterId);
            neptuneActions.waitForClusterStatus(dbClusterId, "stopped");
        } catch (CompletionException ce) {
            Throwable cause = ce.getCause();
            if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                logger.error("The request failed due to the resource not found: {}",
cause.getMessage());
            } else {
                logger.error("An unexpected error occurred.", cause);
            }
            return;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("7. Start the Amazon Neptune cluster");
        logger.info("""
                    Once started, this step polls the clusters
                    status until it's in an available state.
                    We will also poll the instance status.
                    """);
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
```

```
            neptuneActions.startDBClusterAsync(dbClusterId);
            neptuneActions.waitForClusterStatus(dbClusterId, "available");
            neptuneActions.checkInstanceStatus(dbInstanceId, "available").join();
        } catch (CompletionException ce) {
            Throwable cause = ce.getCause();
            if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                logger.error("The request failed due to the resource not found: {}",
cause.getMessage());
            } else {
                logger.error("An unexpected error occurred.", cause);
            }
            return;
        }
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("8. Delete the Neptune Assets");
        logger.info("Would you like to delete the Neptune Assets? (y/n)");
        String delAns = scanner.nextLine().trim();
        if (delAns.equalsIgnoreCase("y")) {
            logger.info("You selected to delete the Neptune assets.");
            try {
                neptuneActions.deleteNeptuneResourcesAsync(dbInstanceId,
clusterName, subnetGroupName);
            } catch (CompletionException ce) {
                Throwable cause = ce.getCause();
                if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                    logger.error("The request failed due to the resource not found:
{}", cause.getMessage());
                } else {
                    logger.error("An unexpected error occurred.", cause);
                }
                return;
            }
        } else {
            logger.info("You selected not to delete Neptune assets.");
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info(
                """
```

```
                Thank you for checking out the Amazon Neptune Service Use demo. We
 hope you
                learned something new, or got some inspiration for your own apps
 today.
                For more AWS code examples, have a look at:
                https://docs.aws.amazon.com/code-library/latest/ug/what-is-code-
library.html
                """);
        logger.info(DASHES);
    }

    private static void waitForInputToContinue(Scanner scanner) {
        while (true) {
            logger.info("");
            logger.info("Enter 'c' followed by <ENTER> to continue:");
            String input = scanner.nextLine();

            if (input.trim().equalsIgnoreCase("c")) {
                logger.info("Continuing with the program...");
                logger.info("");
                break;
            } else {
                logger.info("Invalid input. Please try again.");
            }
        }
    }
}
```

Neptune SDK メソッドのラッパークラス。

```
public class NeptuneActions {
    private CompletableFuture<Void> instanceCheckFuture;
    private static NeptuneAsyncClient neptuneAsyncClient;
    private final Region region = Region.US_EAST_1;
    private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(NeptuneActions.class);
    private final NeptuneClient neptuneClient =
 NeptuneClient.builder().region(region).build();

    /**
     * Retrieves an instance of the NeptuneAsyncClient.
     * <p>
```

```
    * This method initializes and returns a singleton instance of the
NeptuneAsyncClient. The client
    * is configured with the following settings:
    * <ul>
    *     <li>Maximum concurrency: 100</li>
    *     <li>Connection timeout: 60 seconds</li>
    *     <li>Read timeout: 60 seconds</li>
    *     <li>Write timeout: 60 seconds</li>
    *     <li>API call timeout: 2 minutes</li>
    *     <li>API call attempt timeout: 90 seconds</li>
    *     <li>Retry strategy: STANDARD</li>
    * </ul>
    * The client is built using the NettyNioAsyncHttpClient.
    *
    * @return the singleton instance of the NeptuneAsyncClient
    */
   private static NeptuneAsyncClient getAsyncClient() {
       if (neptuneAsyncClient == null) {
           SdkAsyncHttpClient httpClient = NettyNioAsyncHttpClient.builder()
                   .maxConcurrency(100)
                   .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                   .readTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                   .writeTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                   .build();

           ClientOverrideConfiguration overrideConfig =
ClientOverrideConfiguration.builder()
                   .apiCallTimeout(Duration.ofMinutes(2))
                   .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(90))
                   .retryStrategy(RetryMode.STANDARD)
                   .build();

           neptuneAsyncClient = NeptuneAsyncClient.builder()
                   .httpClient(httpClient)
                   .overrideConfiguration(overrideConfig)
                   .build();
       }
       return neptuneAsyncClient;
   }

   /**
    * Asynchronously deletes a set of Amazon Neptune resources in a defined order.
    * <p>
    * The method performs the following operations in sequence:
```

```
     * <ol>
     *     <li>Deletes the Neptune DB instance identified by {@code dbInstanceId}.</
li>
     *     <li>Waits until the DB instance is fully deleted.</li>
     *     <li>Deletes the Neptune DB cluster identified by {@code dbClusterId}.</
li>
     *     <li>Deletes the Neptune DB subnet group identified by {@code
 subnetGroupName}.</li>
     * </ol>
     * <p>
     * If any step fails, the subsequent operations are not performed, and the
 exception
     * is logged. This method blocks the calling thread until all operations
 complete.
     *
     * @param dbInstanceId      the ID of the Neptune DB instance to delete
     * @param dbClusterId       the ID of the Neptune DB cluster to delete
     * @param subnetGroupName   the name of the Neptune DB subnet group to delete
     */
    public void deleteNeptuneResourcesAsync(String dbInstanceId, String dbClusterId,
 String subnetGroupName) {
        deleteDBInstanceAsync(dbInstanceId)
                .thenCompose(v -> waitUntilInstanceDeletedAsync(dbInstanceId))
                .thenCompose(v -> deleteDBClusterAsync(dbClusterId))
                .thenCompose(v -> deleteDBSubnetGroupAsync(subnetGroupName))
                .whenComplete((v, ex) -> {
                    if (ex != null) {
                        logger.info("Failed to delete Neptune resources: " +
 ex.getMessage());
                    } else {
                        logger.info("Neptune resources deleted successfully.");
                    }
                })
                .join(); // Waits for the entire async chain to complete
    }

    /**
     * Deletes a subnet group.
     *
     * @param subnetGroupName the identifier of the subnet group to delete
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the cluster has been
 deleted
     */
```

```
   public CompletableFuture<Void> deleteDBSubnetGroupAsync(String subnetGroupName)
{
       DeleteDbSubnetGroupRequest request = DeleteDbSubnetGroupRequest.builder()
               .dbSubnetGroupName(subnetGroupName)
               .build();

       return getAsyncClient().deleteDBSubnetGroup(request)
               .thenAccept(response -> logger.info("## Deleting Subnet Group: " +
subnetGroupName));
   }

   /**
    * Deletes a DB instance asynchronously.
    *
    * @param clusterId the identifier of the cluster to delete
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the cluster has been
deleted
    */
   public CompletableFuture<Void> deleteDBClusterAsync(String clusterId) {
       DeleteDbClusterRequest request = DeleteDbClusterRequest.builder()
               .dbClusterIdentifier(clusterId)
               .skipFinalSnapshot(true)
               .build();

       return getAsyncClient().deleteDBCluster(request)
               .thenAccept(response -> System.out.println("## Deleting DB Cluster:
" + clusterId));
   }

   public CompletableFuture<Void> waitUntilInstanceDeletedAsync(String instanceId)
{
       CompletableFuture<Void> future = new CompletableFuture<>();
       long startTime = System.currentTimeMillis();
       checkInstanceDeletedRecursive(instanceId, startTime, future);
       return future;
   }

   /**
    * Deletes a DB instance asynchronously.
    *
    * @param instanceId the identifier of the DB instance to be deleted
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the DB instance has
been deleted
    */
```

```
   public CompletableFuture<Void> deleteDBInstanceAsync(String instanceId) {
       DeleteDbInstanceRequest request = DeleteDbInstanceRequest.builder()
               .dbInstanceIdentifier(instanceId)
               .skipFinalSnapshot(true)
               .build();

       return getAsyncClient().deleteDBInstance(request)
               .thenAccept(response -> System.out.println("## Deleting DB Instance:
" + instanceId));
   }


   private void checkInstanceDeletedRecursive(String instanceId, long startTime,
CompletableFuture<Void> future) {
       DescribeDbInstancesRequest request = DescribeDbInstancesRequest.builder()
               .dbInstanceIdentifier(instanceId)
               .build();

       getAsyncClient().describeDBInstances(request)
               .whenComplete((response, exception) -> {
                   if (exception != null) {
                       Throwable cause = exception.getCause();
                       if (cause instanceof NeptuneException &&
                               ((NeptuneException)
cause).awsErrorDetails().errorCode().equals("DBInstanceNotFound")) {
                           long elapsed = (System.currentTimeMillis() -
startTime) / 1000;
                           logger.info("\r Instance %s deleted after %ds%n",
instanceId, elapsed);
                           future.complete(null);
                           return;
                       }
                       future.completeExceptionally(new CompletionException("Error
polling DB instance", cause));
                       return;
                   }

                   String status =
response.dbInstances().get(0).dbInstanceStatus();
                   long elapsed = (System.currentTimeMillis() - startTime) / 1000;
                   System.out.printf("\r  Waiting: Instance %s status: %-10s (%ds
elapsed)", instanceId, status, elapsed);
                   System.out.flush();
```

```
                    CompletableFuture.delayedExecutor(20, TimeUnit.SECONDS)
                            .execute(() -> checkInstanceDeletedRecursive(instanceId,
startTime, future));
                });
    }


    public void waitForClusterStatus(String clusterId, String desiredStatus) {
        System.out.printf("Waiting for cluster '%s' to reach status '%s'...\n",
clusterId, desiredStatus);
        CompletableFuture<Void> future = new CompletableFuture<>();
        checkClusterStatusRecursive(clusterId, desiredStatus,
System.currentTimeMillis(), future);
        future.join();
    }

    private void checkClusterStatusRecursive(String clusterId, String desiredStatus,
long startTime, CompletableFuture<Void> future) {
        DescribeDbClustersRequest request = DescribeDbClustersRequest.builder()
                .dbClusterIdentifier(clusterId)
                .build();

        getAsyncClient().describeDBClusters(request)
                .whenComplete((response, exception) -> {
                    if (exception != null) {
                        Throwable cause = exception.getCause();
                        future.completeExceptionally(
                                new CompletionException("Error checking Neptune
cluster status", cause)
                        );
                        return;
                    }

                    List<DBCluster> clusters = response.dbClusters();
                    if (clusters.isEmpty()) {
                        future.completeExceptionally(new RuntimeException("Cluster
not found: " + clusterId));
                        return;
                    }

                    String currentStatus = clusters.get(0).status();
                    long elapsedSeconds = (System.currentTimeMillis() - startTime) /
1000;
```

```
                    System.out.printf("\r Elapsed: %-20s  Cluster status: %-20s",
formatElapsedTime((int) elapsedSeconds), currentStatus);
                    System.out.flush();

                    if (desiredStatus.equalsIgnoreCase(currentStatus)) {
                        System.out.printf("\r Neptune cluster reached desired status
'%s' after %s.\n", desiredStatus, formatElapsedTime((int) elapsedSeconds));
                        future.complete(null);
                    } else {
                        CompletableFuture.delayedExecutor(20, TimeUnit.SECONDS)
                                .execute(() ->
checkClusterStatusRecursive(clusterId, desiredStatus, startTime, future));
                    }
                });
    }


    /**
     * Starts an Amazon Neptune DB cluster.
     *
     * @param clusterIdentifier the unique identifier of the DB cluster to be
stopped
     */
    public CompletableFuture<StartDbClusterResponse> startDBClusterAsync(String
clusterIdentifier) {
        StartDbClusterRequest clusterRequest = StartDbClusterRequest.builder()
                .dbClusterIdentifier(clusterIdentifier)
                .build();

        return getAsyncClient().startDBCluster(clusterRequest)
                .whenComplete((response, error) -> {
                    if (error != null) {
                        Throwable cause = error.getCause() != null ?
error.getCause() : error;

                        if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                            throw (ResourceNotFoundException) cause;
                        }

                        throw new RuntimeException("Failed to start DB cluster: " +
cause.getMessage(), cause);
                    } else {
                        logger.info("DB Cluster starting: " + clusterIdentifier);
                    }
```

```
                });
    }

    /**
     * Stops an Amazon Neptune DB cluster.
     *
     * @param clusterIdentifier the unique identifier of the DB cluster to be
stopped
     */
    public CompletableFuture<StopDbClusterResponse> stopDBClusterAsync(String
clusterIdentifier) {
        StopDbClusterRequest clusterRequest = StopDbClusterRequest.builder()
                .dbClusterIdentifier(clusterIdentifier)
                .build();

        return getAsyncClient().stopDBCluster(clusterRequest)
                .whenComplete((response, error) -> {
                    if (error != null) {
                        Throwable cause = error.getCause() != null ?
error.getCause() : error;

                        if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                            throw (ResourceNotFoundException) cause;
                        }

                        throw new RuntimeException("Failed to stop DB cluster: " +
cause.getMessage(), cause);
                    } else {
                        logger.info("DB Cluster stopped: " + clusterIdentifier);
                    }
                });
    }



    /**
     * Asynchronously describes the specified Amazon RDS DB cluster.
     *
     * @param clusterId the identifier of the DB cluster to describe
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the operation is
done, or throws a {@link RuntimeException}
     * if an error occurs
     */
    public CompletableFuture<Void> describeDBClustersAsync(String clusterId) {
```

```
        DescribeDbClustersRequest request = DescribeDbClustersRequest.builder()
                .dbClusterIdentifier(clusterId)
                .build();

        return getAsyncClient().describeDBClusters(request)
                .thenAccept(response -> {
                    for (DBCluster cluster : response.dbClusters()) {
                        logger.info("Cluster Identifier: " +
cluster.dbClusterIdentifier());
                        logger.info("Status: " + cluster.status());
                        logger.info("Engine: " + cluster.engine());
                        logger.info("Engine Version: " + cluster.engineVersion());
                        logger.info("Endpoint: " + cluster.endpoint());
                        logger.info("Reader Endpoint: " + cluster.readerEndpoint());
                        logger.info("Availability Zones: " +
cluster.availabilityZones());
                        logger.info("Subnet Group: " + cluster.dbSubnetGroup());
                        logger.info("VPC Security Groups:");
                        cluster.vpcSecurityGroups().forEach(vpcGroup ->
                                logger.info("  - " +
vpcGroup.vpcSecurityGroupId()));
                        logger.info("Storage Encrypted: " +
cluster.storageEncrypted());
                        logger.info("IAM DB Auth Enabled: " +
cluster.iamDatabaseAuthenticationEnabled());
                        logger.info("Backup Retention Period: " +
cluster.backupRetentionPeriod() + " days");
                        logger.info("Preferred Backup Window: " +
cluster.preferredBackupWindow());
                        logger.info("Preferred Maintenance Window: " +
cluster.preferredMaintenanceWindow());
                        logger.info("------");
                    }
                })
                .exceptionally(ex -> {
                    Throwable cause = ex.getCause() != null ? ex.getCause() : ex;

                    if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                        throw (ResourceNotFoundException) cause;
                    }

                    throw new RuntimeException("Failed to describe the DB cluster: "
+ cause.getMessage(), cause);
                });
```

```
    }


    public CompletableFuture<Void> checkInstanceStatus(String instanceId, String
desiredStatus) {
        CompletableFuture<Void> future = new CompletableFuture<>();
        long startTime = System.currentTimeMillis();
        checkStatusRecursive(instanceId, desiredStatus.toLowerCase(), startTime,
future);
        return future;
    }

    /**
     * Checks the status of a Neptune instance recursively until the desired status
is reached or a timeout occurs.
     *
     * @param instanceId     the ID of the Neptune instance to check
     * @param desiredStatus  the desired status of the Neptune instance
     * @param startTime      the start time of the operation, used to calculate the
elapsed time
     * @param future         a {@link CompletableFuture} that will be completed when
the desired status is reached
     */
    private void checkStatusRecursive(String instanceId, String desiredStatus, long
startTime, CompletableFuture<Void> future) {
        DescribeDbInstancesRequest request = DescribeDbInstancesRequest.builder()
                .dbInstanceIdentifier(instanceId)
                .build();

        getAsyncClient().describeDBInstances(request)
                .whenComplete((response, exception) -> {
                    if (exception != null) {
                        Throwable cause = exception.getCause();
                        future.completeExceptionally(
                                new CompletionException("Error checking Neptune
instance status", cause)
                        );
                        return;
                    }

                    List<DBInstance> instances = response.dbInstances();
                    if (instances.isEmpty()) {
                        future.completeExceptionally(new RuntimeException("Instance
not found: " + instanceId));
```

```
                        return;
                    }

                    String currentStatus = instances.get(0).dbInstanceStatus();
                    long elapsedSeconds = (System.currentTimeMillis() - startTime) /
1000;
                    System.out.printf("\r Elapsed: %-20s  Status: %-20s",
formatElapsedTime((int) elapsedSeconds), currentStatus);
                    System.out.flush();

                    if (desiredStatus.equalsIgnoreCase(currentStatus)) {
                        System.out.printf("\r Neptune instance reached desired
status '%s' after %s.\n", desiredStatus, formatElapsedTime((int) elapsedSeconds));
                        future.complete(null);
                    } else {
                        CompletableFuture.delayedExecutor(20, TimeUnit.SECONDS)
                                .execute(() -> checkStatusRecursive(instanceId,
desiredStatus, startTime, future));
                    }
                });
    }


    private String formatElapsedTime(int seconds) {
        int minutes = seconds / 60;
        int remainingSeconds = seconds % 60;

        if (minutes > 0) {
            return minutes + (minutes == 1 ? " min" : " mins") + ", " +
                    remainingSeconds + (remainingSeconds == 1 ? " sec" : " secs");
        } else {
            return remainingSeconds + (remainingSeconds == 1 ? " sec" : " secs");
        }
    }


    /**
     * Creates a new Amazon Neptune DB instance asynchronously.
     *
     * @param dbInstanceId the identifier for the new DB instance
     * @param dbClusterId  the identifier for the DB cluster that the new instance
will be a part of
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes with the identifier of the
newly created DB instance
```

```
    * @throws CompletionException if the operation fails, with a cause of either:
    *                             - {@link ServiceQuotaExceededException} if the
request would exceed the maximum quota, or
    *                             - a general exception with the failure message
    */
   public CompletableFuture<String> createDBInstanceAsync(String dbInstanceId,
String dbClusterId) {
       CreateDbInstanceRequest request = CreateDbInstanceRequest.builder()
               .dbInstanceIdentifier(dbInstanceId)
               .dbInstanceClass("db.r5.large")
               .engine("neptune")
               .dbClusterIdentifier(dbClusterId)
               .build();

       return getAsyncClient().createDBInstance(request)
               .whenComplete((response, exception) -> {
                   if (exception != null) {
                       Throwable cause = exception.getCause();
                       if (cause instanceof ServiceQuotaExceededException) {
                           throw new CompletionException("The operation was denied
because the request would exceed the maximum quota.", cause);
                       }
                       throw new CompletionException("Failed to create Neptune DB
instance: " + exception.getMessage(), exception);
                   }
               })
               .thenApply(response -> {
                   String instanceId =
response.dbInstance().dbInstanceIdentifier();
                   logger.info("Created Neptune DB Instance: " + instanceId);
                   return instanceId;
               });
   }


   /**
    * Creates a new Amazon Neptune DB cluster asynchronously.
    *
    * @param dbName the name of the DB cluster to be created
    * @return a CompletableFuture that, when completed, provides the ID of the
created DB cluster
    * @throws CompletionException if the operation fails for any reason, including
if the request would exceed the maximum quota
    */
```

```
    public CompletableFuture<String> createDBClusterAsync(String dbName) {
        CreateDbClusterRequest request = CreateDbClusterRequest.builder()
                .dbClusterIdentifier(dbName)
                .engine("neptune")
                .deletionProtection(false)
                .backupRetentionPeriod(1)
                .build();

        return getAsyncClient().createDBCluster(request)
                .whenComplete((response, exception) -> {
                    if (exception != null) {
                        Throwable cause = exception.getCause();
                        if (cause instanceof ServiceQuotaExceededException) {
                            throw new CompletionException("The operation was denied
because the request would exceed the maximum quota.", cause);
                        }
                        throw new CompletionException("Failed to create Neptune DB
cluster: " + exception.getMessage(), exception);
                    }
                })
                .thenApply(response -> {
                    String clusterId = response.dbCluster().dbClusterIdentifier();
                    logger.info("DB Cluster created: " + clusterId);
                    return clusterId;
                });
    }


    /**
     * Creates a new DB subnet group asynchronously.
     *
     * @param groupName the name of the subnet group to create
     * @return a CompletableFuture that, when completed, returns the Amazon Resource
Name (ARN) of the created subnet group
     * @throws CompletionException if the operation fails, with a cause that may be
a ServiceQuotaExceededException if the request would exceed the maximum quota
     */
    public CompletableFuture<String> createSubnetGroupAsync(String groupName) {

        // Get the Amazon Virtual Private Cloud (VPC) where the Neptune cluster and
resources will be created
        String vpcId = getDefaultVpcId();
        logger.info("VPC is : " + vpcId);
```

```
        List<String> subnetList = getSubnetIds(vpcId);
        for (String subnetId : subnetList) {
            System.out.println("Subnet group:" +subnetId);
        }

        CreateDbSubnetGroupRequest request = CreateDbSubnetGroupRequest.builder()
                .dbSubnetGroupName(groupName)
                .dbSubnetGroupDescription("Subnet group for Neptune cluster")
                .subnetIds(subnetList)
                .build();

        return getAsyncClient().createDBSubnetGroup(request)
                .whenComplete((response, exception) -> {
                    if (exception != null) {
                        Throwable cause = exception.getCause();
                        if (cause instanceof ServiceQuotaExceededException) {
                            throw new CompletionException("The operation was denied
because the request would exceed the maximum quota.", cause);
                        }
                        throw new CompletionException("Failed to create subnet
group: " + exception.getMessage(), exception);
                    }
                })
                .thenApply(response -> {
                    String name = response.dbSubnetGroup().dbSubnetGroupName();
                    String arn = response.dbSubnetGroup().dbSubnetGroupArn();
                    logger.info("Subnet group created: " + name);
                    return arn;
                });
    }

    private List<String> getSubnetIds(String vpcId) {
        try (Ec2Client ec2 = Ec2Client.builder().region(region).build()) {
            DescribeSubnetsRequest request = DescribeSubnetsRequest.builder()
                    .filters(builder -> builder.name("vpc-id").values(vpcId))
                    .build();

            DescribeSubnetsResponse response = ec2.describeSubnets(request);
            return response.subnets().stream()
                    .map(Subnet::subnetId)
                    .collect(Collectors.toList());
        }
    }
```

```
    public static String getDefaultVpcId() {
        Ec2Client ec2 = Ec2Client.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        Filter myFilter = Filter.builder()
                .name("isDefault")
                .values("true")
                .build();

        List<Filter> filterList = new ArrayList<>();
        filterList.add(myFilter);

        DescribeVpcsRequest request = DescribeVpcsRequest.builder()
                .filters(filterList)
                .build();


        DescribeVpcsResponse response = ec2.describeVpcs(request);
        if (!response.vpcs().isEmpty()) {
            Vpc defaultVpc = response.vpcs().get(0);
            return defaultVpc.vpcId();
        } else {
            throw new RuntimeException("No default VPC found in this region.");
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - CreateDBCluster
  - CreateDBInstance
  - CreateDBSubnetGroup
  - CreateGraph
  - DeleteDBCluster
  - DeleteDBInstance
  - DeleteDBSubnetGroup
  - DescribeDBClusters

- DescribeDBInstances
- ExecuteGremlinProfileQuery
- ExecuteGremlinQuery
- ExecuteOpenCypherExplainQuery
- ExecuteQuery
- StartDBCluster
- StopDBCluster

アクション

`CreateDBCluster`

次のコード例は、`CreateDBCluster` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Creates a new Amazon Neptune DB cluster asynchronously.
    *
    * @param dbName the name of the DB cluster to be created
    * @return a CompletableFuture that, when completed, provides the ID of the
created DB cluster
    * @throws CompletionException if the operation fails for any reason, including
if the request would exceed the maximum quota
    */
   public CompletableFuture<String> createDBClusterAsync(String dbName) {
       CreateDbClusterRequest request = CreateDbClusterRequest.builder()
               .dbClusterIdentifier(dbName)
               .engine("neptune")
               .deletionProtection(false)
               .backupRetentionPeriod(1)
               .build();
```

```
        return getAsyncClient().createDBCluster(request)
                .whenComplete((response, exception) -> {
                    if (exception != null) {
                        Throwable cause = exception.getCause();
                        if (cause instanceof ServiceQuotaExceededException) {
                            throw new CompletionException("The operation was denied
because the request would exceed the maximum quota.", cause);
                        }
                        throw new CompletionException("Failed to create Neptune DB
cluster: " + exception.getMessage(), exception);
                    }
                })
                .thenApply(response -> {
                    String clusterId = response.dbCluster().dbClusterIdentifier();
                    logger.info("DB Cluster created: " + clusterId);
                    return clusterId;
                });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateDBCluster」を参照してください。

`CreateDBInstance`

次のコード例は、`CreateDBInstance` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Creates a new Amazon Neptune DB instance asynchronously.
     *
     * @param dbInstanceId the identifier for the new DB instance
```

```
    * @param dbClusterId  the identifier for the DB cluster that the new instance
will be a part of
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes with the identifier of the
newly created DB instance
    * @throws CompletionException if the operation fails, with a cause of either:
    *                             - {@link ServiceQuotaExceededException} if the
request would exceed the maximum quota, or
    *                             - a general exception with the failure message
    */
   public CompletableFuture<String> createDBInstanceAsync(String dbInstanceId,
String dbClusterId) {
       CreateDbInstanceRequest request = CreateDbInstanceRequest.builder()
               .dbInstanceIdentifier(dbInstanceId)
               .dbInstanceClass("db.r5.large")
               .engine("neptune")
               .dbClusterIdentifier(dbClusterId)
               .build();

       return getAsyncClient().createDBInstance(request)
               .whenComplete((response, exception) -> {
                   if (exception != null) {
                       Throwable cause = exception.getCause();
                       if (cause instanceof ServiceQuotaExceededException) {
                           throw new CompletionException("The operation was denied
because the request would exceed the maximum quota.", cause);
                       }
                       throw new CompletionException("Failed to create Neptune DB
instance: " + exception.getMessage(), exception);
                   }
               })
               .thenApply(response -> {
                   String instanceId =
response.dbInstance().dbInstanceIdentifier();
                   logger.info("Created Neptune DB Instance: " + instanceId);
                   return instanceId;
               });
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateDBInstance」を参照してください。

CreateDBSubnetGroup

次のコード例は、CreateDBSubnetGroup を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Creates a new DB subnet group asynchronously.
    *
    * @param groupName the name of the subnet group to create
    * @return a CompletableFuture that, when completed, returns the Amazon Resource
Name (ARN) of the created subnet group
    * @throws CompletionException if the operation fails, with a cause that may be
a ServiceQuotaExceededException if the request would exceed the maximum quota
    */
   public CompletableFuture<String> createSubnetGroupAsync(String groupName) {

       // Get the Amazon Virtual Private Cloud (VPC) where the Neptune cluster and
resources will be created
       String vpcId = getDefaultVpcId();
       logger.info("VPC is : " + vpcId);

       List<String> subnetList = getSubnetIds(vpcId);
       for (String subnetId : subnetList) {
           System.out.println("Subnet group:" +subnetId);
       }

       CreateDbSubnetGroupRequest request = CreateDbSubnetGroupRequest.builder()
               .dbSubnetGroupName(groupName)
               .dbSubnetGroupDescription("Subnet group for Neptune cluster")
               .subnetIds(subnetList)
               .build();

       return getAsyncClient().createDBSubnetGroup(request)
               .whenComplete((response, exception) -> {
                   if (exception != null) {
```

```
                        Throwable cause = exception.getCause();
                        if (cause instanceof ServiceQuotaExceededException) {
                            throw new CompletionException("The operation was denied
because the request would exceed the maximum quota.", cause);
                        }
                        throw new CompletionException("Failed to create subnet
group: " + exception.getMessage(), exception);
                    }
                })
                .thenApply(response -> {
                    String name = response.dbSubnetGroup().dbSubnetGroupName();
                    String arn = response.dbSubnetGroup().dbSubnetGroupArn();
                    logger.info("Subnet group created: " + name);
                    return arn;
                });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateDBSubnetGroup」を参照してください。

`CreateGraph`

次のコード例は、`CreateGraph` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Executes the process of creating a new Neptune graph.
     *
     * @param client        the Neptune graph client used to interact with the
Neptune service
     * @param graphName     the name of the graph to be created
     * @throws NeptuneGraphException if an error occurs while creating the graph
     */
```

```
    public static void executeCreateGraph(NeptuneGraphClient client, String
graphName) {
        try {
            // Create the graph request
            CreateGraphRequest request = CreateGraphRequest.builder()
                    .graphName(graphName)
                    .provisionedMemory(16)
                    .build();

            // Create the graph
            CreateGraphResponse response = client.createGraph(request);

            // Extract the graph name and ARN
            String createdGraphName = response.name();
            String graphArn = response.arn();
            String graphEndpoint = response.endpoint();

            System.out.println("Graph created successfully!");
            System.out.println("Graph Name: " + createdGraphName);
            System.out.println("Graph ARN: " + graphArn);
            System.out.println("Graph Endpoint: " +graphEndpoint );

        } catch (NeptuneGraphException e) {
            System.err.println("Failed to create graph: " +
e.awsErrorDetails().errorMessage());
        } finally {
            client.close();
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateGraph」を参照してください。

DeleteDBCluster

次のコード例は、DeleteDBCluster を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Deletes a DB instance asynchronously.
     *
     * @param clusterId the identifier of the cluster to delete
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the cluster has been
deleted
     */
    public CompletableFuture<Void> deleteDBClusterAsync(String clusterId) {
        DeleteDbClusterRequest request = DeleteDbClusterRequest.builder()
                .dbClusterIdentifier(clusterId)
                .skipFinalSnapshot(true)
                .build();

        return getAsyncClient().deleteDBCluster(request)
                .thenAccept(response -> System.out.println("## Deleting DB Cluster:
" + clusterId));
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteDBCluster」を参照してください。

`DeleteDBInstance`

次のコード例は、`DeleteDBInstance` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Deletes a DB instance asynchronously.
     *
     * @param instanceId the identifier of the DB instance to be deleted
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the DB instance has
been deleted
     */
    public CompletableFuture<Void> deleteDBInstanceAsync(String instanceId) {
        DeleteDbInstanceRequest request = DeleteDbInstanceRequest.builder()
                .dbInstanceIdentifier(instanceId)
                .skipFinalSnapshot(true)
                .build();

        return getAsyncClient().deleteDBInstance(request)
                .thenAccept(response -> System.out.println("## Deleting DB Instance:
" + instanceId));
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteDBInstance」を参照してください。

`DeleteDBSubnetGroup`

次のコード例は、`DeleteDBSubnetGroup` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Deletes a subnet group.
     *
     * @param subnetGroupName the identifier of the subnet group to delete
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the cluster has been
deleted
     */
```

```
    public CompletableFuture<Void> deleteDBSubnetGroupAsync(String subnetGroupName)
{
        DeleteDbSubnetGroupRequest request = DeleteDbSubnetGroupRequest.builder()
                .dbSubnetGroupName(subnetGroupName)
                .build();

        return getAsyncClient().deleteDBSubnetGroup(request)
                .thenAccept(response -> logger.info("## Deleting Subnet Group: " +
subnetGroupName));
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteDBSubnetGroup」を参照してください。

`DescribeDBClusters`

次のコード例は、`DescribeDBClusters` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Asynchronously describes the specified Amazon RDS DB cluster.
     *
     * @param clusterId the identifier of the DB cluster to describe
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the operation is
done, or throws a {@link RuntimeException}
     * if an error occurs
     */
    public CompletableFuture<Void> describeDBClustersAsync(String clusterId) {
        DescribeDbClustersRequest request = DescribeDbClustersRequest.builder()
                .dbClusterIdentifier(clusterId)
                .build();
```

```
        return getAsyncClient().describeDBClusters(request)
                .thenAccept(response -> {
                    for (DBCluster cluster : response.dbClusters()) {
                        logger.info("Cluster Identifier: " +
cluster.dbClusterIdentifier());
                        logger.info("Status: " + cluster.status());
                        logger.info("Engine: " + cluster.engine());
                        logger.info("Engine Version: " + cluster.engineVersion());
                        logger.info("Endpoint: " + cluster.endpoint());
                        logger.info("Reader Endpoint: " + cluster.readerEndpoint());
                        logger.info("Availability Zones: " +
cluster.availabilityZones());
                        logger.info("Subnet Group: " + cluster.dbSubnetGroup());
                        logger.info("VPC Security Groups:");
                        cluster.vpcSecurityGroups().forEach(vpcGroup ->
                                logger.info("  - " +
vpcGroup.vpcSecurityGroupId()));
                        logger.info("Storage Encrypted: " +
cluster.storageEncrypted());
                        logger.info("IAM DB Auth Enabled: " +
cluster.iamDatabaseAuthenticationEnabled());
                        logger.info("Backup Retention Period: " +
cluster.backupRetentionPeriod() + " days");
                        logger.info("Preferred Backup Window: " +
cluster.preferredBackupWindow());
                        logger.info("Preferred Maintenance Window: " +
cluster.preferredMaintenanceWindow());
                        logger.info("------");
                    }
                })
                .exceptionally(ex -> {
                    Throwable cause = ex.getCause() != null ? ex.getCause() : ex;

                    if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                        throw (ResourceNotFoundException) cause;
                    }

                    throw new RuntimeException("Failed to describe the DB cluster: "
+ cause.getMessage(), cause);
                });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeDBClusters」を参照してください。

`DescribeDBInstances`

次のコード例は、`DescribeDBInstances` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Checks the status of a Neptune instance recursively until the desired status
is reached or a timeout occurs.
    *
    * @param instanceId     the ID of the Neptune instance to check
    * @param desiredStatus  the desired status of the Neptune instance
    * @param startTime      the start time of the operation, used to calculate the
elapsed time
    * @param future         a {@link CompletableFuture} that will be completed when
the desired status is reached
    */
   private void checkStatusRecursive(String instanceId, String desiredStatus, long
startTime, CompletableFuture<Void> future) {
       DescribeDbInstancesRequest request = DescribeDbInstancesRequest.builder()
               .dbInstanceIdentifier(instanceId)
               .build();

       getAsyncClient().describeDBInstances(request)
               .whenComplete((response, exception) -> {
                   if (exception != null) {
                       Throwable cause = exception.getCause();
                       future.completeExceptionally(
                               new CompletionException("Error checking Neptune
instance status", cause)
                       );
                       return;
                   }
```

```
                    List<DBInstance> instances = response.dbInstances();
                    if (instances.isEmpty()) {
                        future.completeExceptionally(new RuntimeException("Instance
not found: " + instanceId));
                        return;
                    }

                    String currentStatus = instances.get(0).dbInstanceStatus();
                    long elapsedSeconds = (System.currentTimeMillis() - startTime) /
1000;
                    System.out.printf("\r Elapsed: %-20s  Status: %-20s",
formatElapsedTime((int) elapsedSeconds), currentStatus);
                    System.out.flush();

                    if (desiredStatus.equalsIgnoreCase(currentStatus)) {
                        System.out.printf("\r Neptune instance reached desired
status '%s' after %s.\n", desiredStatus, formatElapsedTime((int) elapsedSeconds));
                        future.complete(null);
                    } else {
                        CompletableFuture.delayedExecutor(20, TimeUnit.SECONDS)
                                .execute(() -> checkStatusRecursive(instanceId,
desiredStatus, startTime, future));
                    }
                });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeDBInstances」を参照してください。

`ExecuteGremlinProfileQuery`

次のコード例は、`ExecuteGremlinProfileQuery` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Executes a Gremlin query against an Amazon Neptune database using the
provided {@link NeptunedataClient}.
    *
    * @param client the {@link NeptunedataClient} instance to use for executing the
Gremlin query
    */
   public static void executeGremlinQuery(NeptunedataClient client) {
       try {
           System.out.println("Querying Neptune...");
           ExecuteGremlinQueryRequest request =
ExecuteGremlinQueryRequest.builder()
                   .gremlinQuery("g.V().has('code', 'ANC')")
                   .build();

           ExecuteGremlinQueryResponse response =
client.executeGremlinQuery(request);

           System.out.println("Full Response:");
           System.out.println(response);

           // Retrieve and print the result
           if (response.result() != null) {
               System.out.println("Query Result:");
               System.out.println(response.result().toString());
           } else {
               System.out.println("No result returned from the query.");
           }
       } catch (NeptunedataException e) {
           System.err.println("Error calling Neptune: " +
e.awsErrorDetails().errorMessage());
       } catch (Exception e) {
           System.err.println("Unexpected error: " + e.getMessage());
       } finally {
           client.close();
       }
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」のExecuteGremlinProfileQuery」を参照してください。

ExecuteGremlinQuery

次のコード例は、ExecuteGremlinQuery を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Executes a Gremlin PROFILE query using the provided NeptunedataClient.
    *
    * @param client The NeptunedataClient instance to be used for executing the
Gremlin PROFILE query.
    */
   private static void executeGremlinProfileQuery(NeptunedataClient client) {
       System.out.println("Executing Gremlin PROFILE query...");

       ExecuteGremlinProfileQueryRequest request =
ExecuteGremlinProfileQueryRequest.builder()
               .gremlinQuery("g.V().has('code', 'ANC')")
               .build();

       ExecuteGremlinProfileQueryResponse response =
client.executeGremlinProfileQuery(request);
       if (response.output() != null) {
           System.out.println("Query Profile Output:");
           System.out.println(response.output());
       } else {
           System.out.println("No output returned from the profile query.");
       }
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ExecuteGremlinQuery」を参照してください。

ExecuteOpenCypherExplainQuery

次のコード例は、ExecuteOpenCypherExplainQuery を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Executes an OpenCypher EXPLAIN query using the provided Neptune data client.
    *
    * @param client The Neptune data client to use for the query execution.
    */
   public static void executeGremlinQuery(NeptunedataClient client) {
       try {
           System.out.println("Executing OpenCypher EXPLAIN query...");
           ExecuteOpenCypherExplainQueryRequest request =
ExecuteOpenCypherExplainQueryRequest.builder()
                   .openCypherQuery("MATCH (n {code: 'ANC'}) RETURN n")
                   .explainMode("debug")
                   .build();

           ExecuteOpenCypherExplainQueryResponse response =
client.executeOpenCypherExplainQuery(request);

           if (response.results() != null) {
               System.out.println("Explain Results:");
               System.out.println(response.results().asUtf8String());
           } else {
               System.out.println("No explain results returned.");
           }

       } catch (NeptunedataException e) {
           System.err.println("Neptune error: " +
e.awsErrorDetails().errorMessage());
       } catch (Exception e) {
           System.err.println("Unexpected error: " + e.getMessage());
       } finally {
           client.close();
```

```
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ExecuteOpenCypherExplainQuery」を参照してください。

`ExecuteQuery`

次のコード例は、`ExecuteQuery` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Executes a Gremlin profile query on the Neptune Analytics graph.
    *
    * @param client       the {@link NeptuneGraphClient} instance to use for the
query
    * @param graphId      the identifier of the graph to execute the query on
    *
    * @throws NeptuneGraphException if an error occurs while executing the query on
the Neptune Graph
    * @throws Exception if an unexpected error occurs
    */
   public static void executeGremlinProfileQuery(NeptuneGraphClient client, String
graphId) {

       try {
           System.out.println("Running openCypher query on Neptune Analytics...");

           ExecuteQueryRequest request = ExecuteQueryRequest.builder()
                   .graphIdentifier(graphId)
                   .queryString("MATCH (n {code: 'ANC'}) RETURN n")
                   .language("OPEN_CYPHER")
                   .build();
```

```
            ResponseInputStream<ExecuteQueryResponse> response =
client.executeQuery(request);
            try (BufferedReader reader = new BufferedReader(new
InputStreamReader(response, StandardCharsets.UTF_8))) {
                String result = reader.lines().collect(Collectors.joining("\n"));
                System.out.println("Query Result:");
                System.out.println(result);
            } catch (Exception e) {
                System.err.println("Error reading response: " + e.getMessage());
            }

        } catch (NeptuneGraphException e) {
            System.err.println("NeptuneGraph error: " +
e.awsErrorDetails().errorMessage());
        } catch (Exception e) {
            System.err.println("Unexpected error: " + e.getMessage());
        } finally {
            client.close();
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ExecuteQuery」を参照してください。

`StartDBCluster`

次のコード例は、`StartDBCluster` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Starts an Amazon Neptune DB cluster.
     *
```

```
     * @param clusterIdentifier the unique identifier of the DB cluster to be
stopped
     */
    public CompletableFuture<StartDbClusterResponse> startDBClusterAsync(String
clusterIdentifier) {
        StartDbClusterRequest clusterRequest = StartDbClusterRequest.builder()
                .dbClusterIdentifier(clusterIdentifier)
                .build();

        return getAsyncClient().startDBCluster(clusterRequest)
                .whenComplete((response, error) -> {
                    if (error != null) {
                        Throwable cause = error.getCause() != null ?
error.getCause() : error;

                        if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                            throw (ResourceNotFoundException) cause;
                        }

                        throw new RuntimeException("Failed to start DB cluster: " +
cause.getMessage(), cause);
                    } else {
                        logger.info("DB Cluster starting: " + clusterIdentifier);
                    }
                });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartDBCluster」を参照してください。

`StopDBCluster`

次のコード例は、`StopDBCluster` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Stops an Amazon Neptune DB cluster.
    *
    * @param clusterIdentifier the unique identifier of the DB cluster to be
stopped
    */
   public CompletableFuture<StopDbClusterResponse> stopDBClusterAsync(String
clusterIdentifier) {
       StopDbClusterRequest clusterRequest = StopDbClusterRequest.builder()
               .dbClusterIdentifier(clusterIdentifier)
               .build();

       return getAsyncClient().stopDBCluster(clusterRequest)
               .whenComplete((response, error) -> {
                   if (error != null) {
                       Throwable cause = error.getCause() != null ?
error.getCause() : error;

                       if (cause instanceof ResourceNotFoundException) {
                           throw (ResourceNotFoundException) cause;
                       }

                       throw new RuntimeException("Failed to stop DB cluster: " +
cause.getMessage(), cause);
                   } else {
                       logger.info("DB Cluster stopped: " + clusterIdentifier);
                   }
               });
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StopDBCluster」を参照してください。

シナリオ

Neptune API を使用してグラフデータをクエリする

次のコード例は、Neptune API を使用してグラフデータをクエリする方法を示しています。

SDK for Java 2.x

Amazon Neptune Java API を使用して、VPC 内のグラフデータをクエリする Lambda 関数を作成する方法を示します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- Lambda
- Neptune

SDK for Java 2.x を使用したパートナーセントラルの例

次のコード例は、 Partner Central AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- アクション
- シナリオ

アクション

`AssignOpportunity`

次のコード例は、`AssignOpportunity` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

既存のオポチュニティを他のユーザーに再割り当てします。

```
package org.example;

import static org.example.utils.Constants.*;

import org.example.utils.Constants;
import org.example.utils.ReferenceCodesUtils;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.PartnerCentralSellingClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.AssignOpportunityRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.AssignOpportunityResponse;
import software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.AssigneeContact;

/*
Purpose
PC-API-07 Assigning a new owner
*/

public class AssignOpportunity {

 static PartnerCentralSellingClient client = PartnerCentralSellingClient.builder()
            .region(Region.US_EAST_1)
            .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
            .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
            .build();

    public static void main(String[] args) {

     String opportunityId = args.length > 0 ? args[0] : OPPORTUNITY_ID;

     String assigneeFirstName = "John";

     String assigneeLastName = "Doe";

     String assigneeEmail = "test@test.com";
```

```
    String businessTitle = "PartnerAccountManager";

    AssignOpportunityResponse response = getResponse(opportunityId,
assigneeFirstName, assigneeLastName, assigneeEmail, businessTitle);

    ReferenceCodesUtils.formatOutput(response);
   }

static AssignOpportunityResponse getResponse(String opportunityId, String
assigneeFirstName, String assigneeLastName, String assigneeEmail, String
businessTitle) {

 AssignOpportunityRequest assignOpportunityRequest =
AssignOpportunityRequest.builder()
   .catalog(Constants.CATALOG_TO_USE)
         .identifier(opportunityId)
         .assignee(AssigneeContact.builder()
           .firstName(assigneeFirstName)
           .lastName(assigneeLastName)
           .email(assigneeEmail)
           .businessTitle(businessTitle)
           .build())
         .build();

       AssignOpportunityResponse response =
client.assignOpportunity(assignOpportunityRequest);

       return response;
 }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「AssignOpportunity」を参照してください。

`AssociateOpportunity`

次のコード例は、`AssociateOpportunity` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

オポチュニティとさまざまな関連エンティティとの正式な関連付けを作成します。

```
package org.example;

import static org.example.utils.Constants.*;

import org.example.utils.Constants;
import org.example.utils.ReferenceCodesUtils;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.PartnerCentralSellingClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.AssociateOpportunityRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.AssociateOpportunityResponse;

/*
Purpose
PC-API -11 Associating a product
PC-API -12 Associating a solution
PC-API -13 Associating an offer
entity_type = Solutions | AWSProducts | AWSMarketplaceOffers
*/

public class AssociateOpportunity {

 static PartnerCentralSellingClient client = PartnerCentralSellingClient.builder()
            .region(Region.US_EAST_1)
            .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
            .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
            .build();

    public static void main(String[] args) {

     String opportunityId = args.length > 0 ? args[0] : OPPORTUNITY_ID;

     String entityType = "Solutions";

     String entityIdentifier = "S-0000000";

     AssociateOpportunityResponse response = getResponse(opportunityId, entityType,
 entityIdentifier );
```

```
     ReferenceCodesUtils.formatOutput(response);
    }

static AssociateOpportunityResponse getResponse(String opportunityId, String
 entityType, String entityIdentifier) {

        AssociateOpportunityRequest associateOpportunityRequest =
 AssociateOpportunityRequest.builder()
    .catalog(Constants.CATALOG_TO_USE)
          .opportunityIdentifier(opportunityId)
          .relatedEntityType(entityType)
          .relatedEntityIdentifier(entityIdentifier)
          .build();

        AssociateOpportunityResponse response =
 client.associateOpportunity(associateOpportunityRequest);

        return response;
 }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x APIリファレンス」の「AssociateOpportunity」を参照してください。

`CreateOpportunity`

次のコード例は、`CreateOpportunity` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

オポチュニティを作成します。

```
package org.example;

import java.time.Instant;
import java.util.ArrayList;
import java.util.List;

import static org.example.utils.Constants.*;

import org.example.entity.Root;
```

```
import org.example.utils.ReferenceCodesUtils;
import org.example.utils.StringSerializer;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.PartnerCentralSellingClient;
import software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.Account;
import software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.Address;
import software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.Contact;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.CreateOpportunityRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.CreateOpportunityResponse;
import software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.Customer;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.ExpectedCustomerSpend;
import software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.LifeCycle;
import software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.Marketing;
import software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.MonetaryValue;
import software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.NextStepsHistory;
import software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.Project;
import software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.SoftwareRevenue;

import com.google.gson.Gson;
import com.google.gson.GsonBuilder;
import com.google.gson.ToNumberPolicy;

public class CreateOpportunity {

 static final Gson GSON = new GsonBuilder()
   .setObjectToNumberStrategy(ToNumberPolicy.LAZILY_PARSED_NUMBER)
   .registerTypeAdapter(String.class, new StringSerializer())
   .create();

 static PartnerCentralSellingClient client = PartnerCentralSellingClient.builder()
            .region(Region.US_EAST_1)
            .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
            .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
            .build();

 public static void main(String[] args) {
```

```
 String inputFile = "CreateOpportunity2.json";

 if (args.length > 0)
  inputFile = args[0];

 CreateOpportunityResponse response = createOpportunity(inputFile);

 client.close();
}

static CreateOpportunityResponse createOpportunity(String inputFile) {

 String inputString = ReferenceCodesUtils.readInputFileToString(inputFile);

 Root root = GSON.fromJson(inputString, Root.class);

 List<NextStepsHistory> nextStepsHistories = new ArrayList<NextStepsHistory>();
 if ( root.lifeCycle != null && root.lifeCycle.nextStepsHistories != null) {
  for (org.example.entity.NextStepsHistory nextStepsHistoryJson :
root.lifeCycle.nextStepsHistories) {
   NextStepsHistory nextStepsHistory = NextStepsHistory.builder()
     .time(Instant.parse(nextStepsHistoryJson.time))
     .value(nextStepsHistoryJson.value)
                 .build();
   nextStepsHistories.add(nextStepsHistory);
  }
 }

 LifeCycle lifeCycle = null;
 if ( root.lifeCycle != null ) {
  lifeCycle = LifeCycle.builder()
   .closedLostReason(root.lifeCycle.closedLostReason)
   .nextSteps(root.lifeCycle.nextSteps)
   .nextStepsHistory(nextStepsHistories)
   .reviewComments(root.lifeCycle.reviewComments)
   .reviewStatus(root.lifeCycle.reviewStatus)
   .reviewStatusReason(root.lifeCycle.reviewStatusReason)
   .stage(root.lifeCycle.stage)
   .targetCloseDate(root.lifeCycle.targetCloseDate)
   .build();
 }

 Marketing marketing = null;
 if ( root.marketing != null ) {
```

```
  marketing = Marketing.builder()
    .awsFundingUsed(root.marketing.awsFundingUsed)
    .campaignName(root.marketing.campaignName)
    .channels(root.marketing.channels)
    .source(root.marketing.source)
    .useCases(root.marketing.useCases)
    .build();

 }

 Address address = null;
 if ( root.customer != null && root.customer.account != null &&
root.customer.account.address != null ) {
  address = Address.builder()
   .city(root.customer.account.address.city)
               .postalCode(root.customer.account.address.postalCode)
               .stateOrRegion(root.customer.account.address.stateOrRegion)
               .countryCode(root.customer.account.address.countryCode)
               .streetAddress(root.customer.account.address.streetAddress)
               .build();
 }

 Account account = null;
 if ( root.customer != null && root.customer.account!= null) {
  account = Account.builder()
            .address(address)
            .awsAccountId(root.customer.account.awsAccountId)
               .duns(root.customer.account.duns)
               .industry(root.customer.account.industry)
               .otherIndustry(root.customer.account.otherIndustry)
               .companyName(root.customer.account.companyName)
               .websiteUrl(root.customer.account.websiteUrl)
               .build();
 }

 List<Contact> contacts = new ArrayList<Contact>();
 if ( root.customer != null && root.customer.contacts != null) {
  for (org.example.entity.Contact jsonContact : root.customer.contacts) {
   Contact contact = Contact.builder()
                 .email(jsonContact.email)
                 .firstName(jsonContact.firstName)
                 .lastName(jsonContact.lastName)
                 .phone(jsonContact.phone)
                 .businessTitle(jsonContact.businessTitle)
```

```
                .build();
   contacts.add(contact);
  }
 }

 Customer customer = Customer.builder()
   .account(account)
   .contacts(contacts)
   .build();

 Contact oportunityTeamContact = null;
 if (root.opportunityTeam != null && root.opportunityTeam.get(0) != null ) {
  oportunityTeamContact = Contact.builder()
              .firstName(root.opportunityTeam.get(0).firstName)
              .lastName(root.opportunityTeam.get(0).lastName)
              .email(root.opportunityTeam.get(0).email)
              .phone(root.opportunityTeam.get(0).phone)
              .businessTitle(root.opportunityTeam.get(0).businessTitle)
              .build();
 }

 List<ExpectedCustomerSpend> expectedCustomerSpends = new
ArrayList<ExpectedCustomerSpend>();
 if ( root.project != null && root.project.expectedCustomerSpend != null) {
  for (org.example.entity.ExpectedCustomerSpend expectedCustomerSpendJson :
root.project.expectedCustomerSpend) {
   ExpectedCustomerSpend expectedCustomerSpend = null;
   expectedCustomerSpend = ExpectedCustomerSpend.builder()
     .amount(expectedCustomerSpendJson.amount)
     .currencyCode(expectedCustomerSpendJson.currencyCode)
     .frequency(expectedCustomerSpendJson.frequency)
     .targetCompany(expectedCustomerSpendJson.targetCompany)
     .build();
   expectedCustomerSpends.add(expectedCustomerSpend);
  }
      }

      Project project = null;
      if ( root.project != null) {
       project = Project.builder()
              .title(root.project.title)
              .customerBusinessProblem(root.project.customerBusinessProblem)
              .customerUseCase(root.project.customerUseCase)
              .deliveryModels(root.project.deliveryModels)
```

```
                .expectedCustomerSpend(expectedCustomerSpends)
                .salesActivities(root.project.salesActivities)
                .competitorName(root.project.competitorName)
                .otherSolutionDescription(root.project.otherSolutionDescription)
                .build();
        }

        SoftwareRevenue softwareRevenue = null;
        if ( root.softwareRevenue != null) {
         MonetaryValue monetaryValue = null;
         if ( root.softwareRevenue.value != null) {
          monetaryValue = MonetaryValue.builder()
             .amount(root.softwareRevenue.value.amount)
             .currencyCode(root.softwareRevenue.value.currencyCode)
             .build();
         }
         softwareRevenue = SoftwareRevenue.builder()
           .deliveryModel(root.softwareRevenue.deliveryModel)
           .effectiveDate(root.softwareRevenue.effectiveDate)
           .expirationDate(root.softwareRevenue.expirationDate)
           .value(monetaryValue)
           .build();
        }

 // Building the Actual CreateOpportunity Request
 CreateOpportunityRequest createOpportunityRequest =
CreateOpportunityRequest.builder()
   .catalog(CATALOG_TO_USE)
   .clientToken(root.clientToken)
   .primaryNeedsFromAwsWithStrings(root.primaryNeedsFromAws)
   .opportunityType(root.opportunityType)
   .lifeCycle(lifeCycle)
   .marketing(marketing)
   .nationalSecurity(root.nationalSecurity)
   .origin(root.origin)
   .customer(customer)
   .project(project)
   .partnerOpportunityIdentifier(root.partnerOpportunityIdentifier)
   .opportunityTeam(oportunityTeamContact)
   .softwareRevenue(softwareRevenue)
   .build();

 CreateOpportunityResponse response =
client.createOpportunity(createOpportunityRequest);
```

```
  System.out.println("Successfully created: " + response);

  return response;
    }

}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateOpportunity」を参照してください。

`DisassociateOpportunity`

次のコード例は、`DisassociateOpportunity` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

オポチュニティと関連エンティティ間の既存の関連付けを削除します。

```
package org.example;

import static org.example.utils.Constants.*;

import org.example.utils.Constants;
import org.example.utils.ReferenceCodesUtils;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.PartnerCentralSellingClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.DisassociateOpportunityRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.DisassociateOpportunityResponse

/*
Purpose
PC-API -14 Removing a Solution
PC-API -15 Removing an offer
PC-API -16 Removing a product
entity_type = Solutions | AWSProducts | AWSMarketplaceOffers
*/
```

```
public class DisassociateOpportunity {

 static PartnerCentralSellingClient client = PartnerCentralSellingClient.builder()
            .region(Region.US_EAST_1)
            .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
            .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
            .build();

    public static void main(String[] args) {

     String opportunityId = args.length > 0 ? args[0] : OPPORTUNITY_ID;

     String entityType = "Solutions";

     String entityIdentifier = "S-0000000";

     DisassociateOpportunityResponse response = getResponse(opportunityId,
 entityType, entityIdentifier );

     ReferenceCodesUtils.formatOutput(response);
    }

 static DisassociateOpportunityResponse getResponse(String opportunityId, String
 entityType, String entityIdentifier) {

  DisassociateOpportunityRequest disassociateOpportunityRequest =
 DisassociateOpportunityRequest.builder()
    .catalog(Constants.CATALOG_TO_USE)
          .opportunityIdentifier(opportunityId)
          .relatedEntityType(entityType)
          .relatedEntityIdentifier(entityIdentifier)
          .build();

        DisassociateOpportunityResponse response =
 client.disassociateOpportunity(disassociateOpportunityRequest);

        return response;
 }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DisassociateOpportunity」を参照してください。

GetAwsOpportunitySummary

次のコード例は、GetAwsOpportunitySummary を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

AWS オポチュニティの概要を取得します。

```
package org.example;

import static org.example.utils.Constants.*;

import org.example.utils.Constants;
import org.example.utils.ReferenceCodesUtils;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.PartnerCentralSellingClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.GetAwsOpportunitySummaryRequest
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.GetAwsOpportunitySummaryRespons

/*
 * Purpose
 * PC-API-25 Retrieves a summary of an AWS Opportunity.
 */

public class GetAwsOpportunitySummary {

 static PartnerCentralSellingClient client = PartnerCentralSellingClient.builder()
            .region(Region.US_EAST_1)
            .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
            .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
            .build();

    public static void main(String[] args) {
```

```
        String opportunityId = args.length > 0 ? args[0] : OPPORTUNITY_ID;

        GetAwsOpportunitySummaryResponse response = getResponse(opportunityId);

        ReferenceCodesUtils.formatOutput(response);
       }

    public static GetAwsOpportunitySummaryResponse getResponse(String opportunityId) {

     GetAwsOpportunitySummaryRequest getOpportunityRequest =
    GetAwsOpportunitySummaryRequest.builder()
       .catalog(Constants.CATALOG_TO_USE)
             .relatedOpportunityIdentifier(opportunityId)
             .build();

     GetAwsOpportunitySummaryResponse response =
    client.getAwsOpportunitySummary(getOpportunityRequest);

           return response;
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetAwsOpportunitySummary」を参照してください。

GetEngagementInvitation

次のコード例は、GetEngagementInvitation を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

がパートナー AWS と共有しているエンゲージメントの招待の詳細を取得します。

```
package org.example;

import static org.example.utils.Constants.*;

import org.example.utils.Constants;
import org.example.utils.ReferenceCodesUtils;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
```

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.PartnerCentralSellingClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.GetEngagementInvitationRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.GetEngagementInvitationResponse

/*
 * Purpose
 * PC-API-22 Get engagement invitation opportunity
 */

public class GetEngagementInvitation {

 static PartnerCentralSellingClient client = PartnerCentralSellingClient.builder()
            .region(Region.US_EAST_1)
            .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
            .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
            .build();

    public static void main(String[] args) {

     String opportunityId = args.length > 0 ? args[0] : OPPORTUNITY_ID;

     GetEngagementInvitationResponse response = getResponse(opportunityId);

     ReferenceCodesUtils.formatOutput(response);
    }

 static GetEngagementInvitationResponse getResponse(String opportunityId) {

  GetEngagementInvitationRequest getOpportunityRequest =
 GetEngagementInvitationRequest.builder()
    .catalog(Constants.CATALOG_TO_USE)
          .identifier(opportunityId)
          .build();

  GetEngagementInvitationResponse response =
 client.getEngagementInvitation(getOpportunityRequest);

        return response;
 }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetEngagementInvitation」を参照してください。

`GetOpportunity`

次のコード例は、`GetOpportunity` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

オポチュニティを取得します。

```
package org.example;

import static org.example.utils.Constants.*;

import org.example.utils.Constants;
import org.example.utils.ReferenceCodesUtils;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.PartnerCentralSellingClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.GetOpportunityRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.GetOpportunityResponse;

/*
 * Purpose
 * PC-API-08 Get updated Opportunity
 */

public class GetOpportunity {

 static PartnerCentralSellingClient client = PartnerCentralSellingClient.builder()
            .region(Region.US_EAST_1)
            .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
            .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
            .build();
```

```
    public static void main(String[] args) {

     String opportunityId = args.length > 0 ? args[0] : OPPORTUNITY_ID;

     GetOpportunityResponse response = getResponse(opportunityId);

     ReferenceCodesUtils.formatOutput(response);
    }

 public static GetOpportunityResponse getResponse(String opportunityId) {

        GetOpportunityRequest getOpportunityRequest =
 GetOpportunityRequest.builder()
    .catalog(Constants.CATALOG_TO_USE)
          .identifier(opportunityId)
          .build();

        GetOpportunityResponse response =
 client.getOpportunity(getOpportunityRequest);

        return response;
 }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「GetOpportunity」を参照してください。

`ListEngagementInvitations`

次のコード例は、`ListEngagementInvitations` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

パートナーに送信されたエンゲージメントの招待の一覧を取得します。

```
package org.example;

import java.util.ArrayList;
import java.util.List;

import org.example.utils.ReferenceCodesUtils;
import static org.example.utils.Constants.*;
```

```
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.PartnerCentralSellingClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.ListEngagementInvitationsReques
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.ListEngagementInvitationsRespon
import software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.ParticipantType;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.EngagementInvitationSummary;

public class ListEngagementInvitations {

 static PartnerCentralSellingClient client = PartnerCentralSellingClient.builder()
            .region(Region.US_EAST_1)
            .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
            .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
            .build();

    public static void main(String[] args) {

     List<EngagementInvitationSummary> opportunitySummaries = getResponse();
        ReferenceCodesUtils.formatOutput(opportunitySummaries);
    }

    static List<EngagementInvitationSummary> getResponse() {

  List<EngagementInvitationSummary> opportunitySummaries = new
 ArrayList<EngagementInvitationSummary>();

  ListEngagementInvitationsRequest listOpportunityRequest =
 ListEngagementInvitationsRequest.builder()
                .catalog(CATALOG_TO_USE)
                .participantType(ParticipantType.RECEIVER)
          .maxResults(5)
          .build();

  ListEngagementInvitationsResponse response =
 client.listEngagementInvitations(listOpportunityRequest);

     opportunitySummaries.addAll(response.engagementInvitationSummaries());
```

```
    client.close();

       return opportunitySummaries;
 }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListEngagementInvitations」を参照してください。

ListOpportunities

次のコード例は、ListOpportunities を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

オポチュニティを一覧表示します。

```
package org.example;

import java.util.ArrayList;
import java.util.List;

import org.example.utils.ReferenceCodesUtils;
import static org.example.utils.Constants.*;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.PartnerCentralSellingClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.ListOpportunitiesRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.ListOpportunitiesResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.OpportunitySummary;

/*
 * Purpose
 * PC-API-18 Getting list of Opportunities
 */
```

```
public class ListOpportunititesPaging {

 static PartnerCentralSellingClient client = PartnerCentralSellingClient.builder()
            .region(Region.US_EAST_1)
            .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
            .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
            .build();

    public static void main(String[] args) {
     List<OpportunitySummary> opportunitySummaries = getResponse();
        ReferenceCodesUtils.formatOutput(opportunitySummaries);
    }

    private static List<OpportunitySummary> getResponse() {
     List<OpportunitySummary> opportunitySummaries = new
 ArrayList<OpportunitySummary>();

  ListOpportunitiesRequest listOpportunityRequest =
 ListOpportunitiesRequest.builder()
                .catalog(CATALOG_TO_USE)
          .maxResults(5)
          .build();

     ListOpportunitiesResponse response =
 client.listOpportunities(listOpportunityRequest);

     opportunitySummaries.addAll(response.opportunitySummaries());

     while (response.nextToken() != null && response.nextToken().length() > 0) {
      listOpportunityRequest = ListOpportunitiesRequest.builder()
                    .catalog(CATALOG_TO_USE)
              .maxResults(5)
              .nextToken(response.nextToken())
              .build();
      response = client.listOpportunities(listOpportunityRequest);
      opportunitySummaries.addAll(response.opportunitySummaries());
     }

     client.close();

        return opportunitySummaries;
 }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListOpportunities」を参照してください。

`ListSolutions`

次のコード例は、`ListSolutions` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

パートナーがパートナーセントラルに登録したパートナーソリューションの一覧を取得します。

```
package org.example;

import java.util.ArrayList;
import java.util.List;

import static org.example.utils.Constants.*;
import org.example.utils.ReferenceCodesUtils;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.PartnerCentralSellingClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.ListSolutionsRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.ListSolutionsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.SolutionBase;

/*
 * Purpose
 * PC-API-10 Getting list of solutions
 */

public class ListSolutions {

 static PartnerCentralSellingClient client = PartnerCentralSellingClient.builder()
            .region(Region.US_EAST_1)
            .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
            .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
```

```
            .build();

    public static void main(String[] args) {
     List<SolutionBase> solutionSummaries = getResponse();
        ReferenceCodesUtils.formatOutput(solutionSummaries);
    }

    static List<SolutionBase> getResponse() {
  List<SolutionBase> solutionSummaries = new ArrayList<SolutionBase>();

  ListSolutionsRequest listSolutionsRequest = ListSolutionsRequest.builder()
    .catalog(CATALOG_TO_USE)
          .maxResults(5)
          .build();

     ListSolutionsResponse response = client.listSolutions(listSolutionsRequest);

     solutionSummaries.addAll(response.solutionSummaries());

        return solutionSummaries;
 }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListSolutions」を参照してください。

`RejectEngagementInvitation`

次のコード例は、`RejectEngagementInvitation` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

が AWS 共有した EngagementInvitation を拒否します。

```
package org.example;

import static org.example.utils.Constants.*;

import org.example.utils.Constants;
import org.example.utils.ReferenceCodesUtils;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
```

```
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.PartnerCentralSellingClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.RejectEngagementInvitationReque
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.RejectEngagementInvitationRespo

/*
 * Purpose
 * PC-API-05 AWS Originated(AO) rejection
 */

public class RejectEngagementInvitation {

 static PartnerCentralSellingClient client = PartnerCentralSellingClient.builder()
            .region(Region.US_EAST_1)
            .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
            .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
            .build();

    public static void main(String[] args) {

     String opportunityId = args.length > 0 ? args[0] : OPPORTUNITY_ID;

  RejectEngagementInvitationResponse response = getResponse(opportunityId);

     ReferenceCodesUtils.formatOutput(response);
    }

 static RejectEngagementInvitationResponse getResponse(String invitationId) {

        RejectEngagementInvitationRequest rejectOpportunityRequest =
 RejectEngagementInvitationRequest.builder()
    .catalog(Constants.CATALOG_TO_USE)
          .identifier(invitationId)
          .rejectionReason("Unable to support")
          .build();

  RejectEngagementInvitationResponse response =
 client.rejectEngagementInvitation(rejectOpportunityRequest);

        return response;
```

```
 }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」のRejectEngagementInvitation」を参照してください。

`StartEngagementByAcceptingInvitationTask`

次のコード例は、StartEngagementByAcceptingInvitationTask を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

EngagementInvitation を受け入れることでエンゲージメントを開始します。

```
package org.example;

import static org.example.utils.Constants.*;

import org.example.utils.Constants;
import org.example.utils.ReferenceCodesUtils;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.PartnerCentralSellingClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.StartEngagementByAcceptingInvit
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.StartEngagementByAcceptingInvit
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.GetEngagementInvitationRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.GetEngagementInvitationResponse
import software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.InvitationStatus;

/*
Purpose
PC-API-04: Start Engagement By Accepting InvitationTask for AWS Originated(AO)
 opportunity
*/
```

```
public class StartEngagementByAcceptingInvitationTask {

 static PartnerCentralSellingClient client = PartnerCentralSellingClient.builder()
            .region(Region.US_EAST_1)
            .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
            .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
            .build();

 static String clientToken = "test-a30d161";

    public static void main(String[] args) {

     String opportunityId = args.length > 0 ? args[0] : OPPORTUNITY_ID;

     StartEngagementByAcceptingInvitationTaskResponse response =
 getResponse(opportunityId);

     if ( response == null) {
      System.out.println("Opportunity is not AWS Originated.");
     } else {
      ReferenceCodesUtils.formatOutput(response);
     }
    }

    private static GetEngagementInvitationResponse getInvitation(String
 invitationId) {

     GetEngagementInvitationRequest getRequest =
 GetEngagementInvitationRequest.builder()
          .catalog(Constants.CATALOG_TO_USE)
          .identifier(invitationId)
          .build();

  GetEngagementInvitationResponse response =
 client.getEngagementInvitation(getRequest);

        return response;
 }

 static StartEngagementByAcceptingInvitationTaskResponse getResponse(String
 invitationId) {

  if ( getInvitation(invitationId).status().equals(InvitationStatus.PENDING)) {
```

```
    StartEngagementByAcceptingInvitationTaskRequest acceptOpportunityRequest =
      StartEngagementByAcceptingInvitationTaskRequest.builder()
      .catalog(Constants.CATALOG_TO_USE)
            .identifier(invitationId)
            .clientToken(clientToken)
            .build();

    StartEngagementByAcceptingInvitationTaskResponse response =
  client.startEngagementByAcceptingInvitationTask(acceptOpportunityRequest);
          return response;
   }
   return null;
  }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartEngagementByAcceptingInvitationTask」を参照してください。

`StartEngagementFromOpportunityTask`

次のコード例は、`StartEngagementFromOpportunityTask` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

エンゲージメントの招待を受け入れ、パートナーのシステムで対応するオポチュニティを作成することで、既存のオポチュニティからエンゲージメントプロセスを開始します。

```
package org.example;

import static org.example.utils.Constants.*;

import org.example.utils.Constants;
import org.example.utils.ReferenceCodesUtils;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.PartnerCentralSellingClient;
import software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.AwsSubmission;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.SalesInvolvementType;
```

```
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.StartEngagementFromOpportunityT
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.StartEngagementFromOpportunityT
import software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.Visibility;

/*
 * Purpose
 * PC-API-01 Partner Originated (PO) opp submission(Start Engagement From
 Opportunity Task for AO Originated Opportunity)
 */

public class StartEngagementFromOpportunityTask {

 static PartnerCentralSellingClient client = PartnerCentralSellingClient.builder()
            .region(Region.US_EAST_1)
            .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
            .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
            .build();

    public static void main(String[] args) {

     String opportunityId = args.length > 0 ? args[0] : OPPORTUNITY_ID;

     StartEngagementFromOpportunityTaskResponse response =
 getResponse(opportunityId);

     ReferenceCodesUtils.formatOutput(response);
    }

 static StartEngagementFromOpportunityTaskResponse getResponse(String opportunityId)
 {

  StartEngagementFromOpportunityTaskRequest submitOpportunityRequest =
 StartEngagementFromOpportunityTaskRequest.builder()
    .catalog(Constants.CATALOG_TO_USE)
          .identifier(opportunityId)
          .clientToken("test-annjqwesdsd99")

 .awsSubmission(AwsSubmission.builder().involvementType(SalesInvolvementType.CO_SELL).visibi
          .build();

  StartEngagementFromOpportunityTaskResponse response =
 client.startEngagementFromOpportunityTask(submitOpportunityRequest);
```

```
        return response;
 }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartEngagementFromOpportunityTask」を参照してください。

UpdateOpportunity

次のコード例は、UpdateOpportunity を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

オポチュニティを更新します。

```
package org.example;

import java.time.Instant;
import java.util.ArrayList;
import java.util.List;

import static org.example.utils.Constants.*;

import org.example.entity.Root;
import org.example.utils.Constants;
import org.example.utils.ReferenceCodesUtils;
import org.example.utils.StringSerializer;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.PartnerCentralSellingClient;
import software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.Account;
import software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.Address;
import software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.Contact;
import software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.Customer;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.ExpectedCustomerSpend;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.GetOpportunityRequest;
```

```
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.GetOpportunityResponse;
import software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.LifeCycle;
import software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.Marketing;
import software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.NextStepsHistory;
import software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.Project;
import software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.ReviewStatus;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.UpdateOpportunityRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.UpdateOpportunityResponse;

import com.google.gson.Gson;
import com.google.gson.GsonBuilder;
import com.google.gson.ToNumberPolicy;

/*
 * Purpose
 * PC-API-02/06 Update opportunity when LifeCycle.ReviewStatus is not Submitted or
 In-Review
 */

public class UpdateOpportunity {

 static final Gson GSON = new GsonBuilder()
   .setObjectToNumberStrategy(ToNumberPolicy.LAZILY_PARSED_NUMBER)
   .registerTypeAdapter(String.class, new StringSerializer())
   .create();

 static PartnerCentralSellingClient client = PartnerCentralSellingClient.builder()
            .region(Region.US_EAST_1)
            .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
            .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
            .build();

 static String OPPORTUNITY_ORIGIN = ORIGIN_PARTNER_ORIGINATED;

 public static void main(String[] args) {

  String inputFile = "updateOpportunity.json";

  if (args.length > 0)
   inputFile = args[0];
```

```
 UpdateOpportunityResponse response = updateOpportunity(inputFile);

 client.close();
}

public static GetOpportunityResponse getResponse(String opportunityId) {

       GetOpportunityRequest getOpportunityRequest =
GetOpportunityRequest.builder()
   .catalog(Constants.CATALOG_TO_USE)
         .identifier(opportunityId)
         .build();

       GetOpportunityResponse response =
client.getOpportunity(getOpportunityRequest);
       System.out.println(opportunityId + ":" + response);
       return response;
}

public static UpdateOpportunityResponse updateOpportunity(String inputFile) {

 String inputString = ReferenceCodesUtils.readInputFileToString(inputFile);

 Root root = GSON.fromJson(inputString, Root.class);
 GetOpportunityResponse response = getResponse(root.identifier);

 if (response != null
   && response.lifeCycle() != null
   && response.lifeCycle().reviewStatus() != null
   && response.lifeCycle().reviewStatus() != ReviewStatus.SUBMITTED
   && response.lifeCycle().reviewStatus() != ReviewStatus.IN_REVIEW) {

  List<NextStepsHistory> nextStepsHistories = new ArrayList<NextStepsHistory>();
  if ( root.lifeCycle != null && root.lifeCycle.nextStepsHistories != null) {
   for (org.example.entity.NextStepsHistory nextStepsHistoryJson :
root.lifeCycle.nextStepsHistories) {
    NextStepsHistory nextStepsHistory = NextStepsHistory.builder()
      .time(Instant.parse(nextStepsHistoryJson.time))
      .value(nextStepsHistoryJson.value)
                  .build();
    nextStepsHistories.add(nextStepsHistory);
   }
  }
```

```
  LifeCycle lifeCycle = null;
  if ( root.lifeCycle != null ) {
   lifeCycle = LifeCycle.builder()
    .closedLostReason(root.lifeCycle.closedLostReason)
    .nextSteps(root.lifeCycle.nextSteps)
    .nextStepsHistory(nextStepsHistories)
    .reviewComments(root.lifeCycle.reviewComments)
    .reviewStatus(root.lifeCycle.reviewStatus)
    .reviewStatusReason(root.lifeCycle.reviewStatusReason)
    .stage(root.lifeCycle.stage)
    .targetCloseDate(root.lifeCycle.targetCloseDate)
    .build();
  }

  Marketing marketing = null;
  if ( root.marketing != null ) {
   marketing = Marketing.builder()
     .awsFundingUsed(root.marketing.awsFundingUsed)
     .campaignName(root.marketing.campaignName)
     .channels(root.marketing.channels)
     .source(root.marketing.source)
     .useCases(root.marketing.useCases)
     .build();

  }

  Address address = null;
  if (root.customer != null && root.customer.account != null &&
root.customer.account.address != null) {
   address = Address.builder().postalCode(root.customer.account.address.postalCode)
     .stateOrRegion(root.customer.account.address.stateOrRegion)
     .countryCode(root.customer.account.address.countryCode).build();
  }

  Account account = null;
  if (root.customer != null && root.customer.account != null) {
   account = Account.builder().address(address).duns(root.customer.account.duns)

.industry(root.customer.account.industry).companyName(root.customer.account.companyName)
     .websiteUrl(root.customer.account.websiteUrl).build();
  }

  List<Contact> contacts = new ArrayList<Contact>();
  if ( root.customer != null && root.customer.contacts != null) {
```

```
   for (org.example.entity.Contact jsonContact : root.customer.contacts) {
    Contact contact = Contact.builder()
                  .email(jsonContact.email)
                  .firstName(jsonContact.firstName)
                  .lastName(jsonContact.lastName)
                  .phone(jsonContact.phone)
                  .businessTitle(jsonContact.businessTitle)
                  .build();
    contacts.add(contact);
   }
  }

  Customer customer =
Customer.builder().account(account).contacts(contacts).build();

  List<ExpectedCustomerSpend> expectedCustomerSpends = new
ArrayList<ExpectedCustomerSpend>();
  if ( root.project != null && root.project.expectedCustomerSpend != null) {
   for (org.example.entity.ExpectedCustomerSpend expectedCustomerSpendJson :
root.project.expectedCustomerSpend) {
    ExpectedCustomerSpend expectedCustomerSpend = null;
    expectedCustomerSpend = ExpectedCustomerSpend.builder()
      .amount(expectedCustomerSpendJson.amount)
      .currencyCode(expectedCustomerSpendJson.currencyCode)
      .frequency(expectedCustomerSpendJson.frequency)
      .targetCompany(expectedCustomerSpendJson.targetCompany)
      .build();
    expectedCustomerSpends.add(expectedCustomerSpend);
   }
        }

  Project project = null;
  if (root.project != null) {
   project = Project.builder().title(root.project.title)
     .customerBusinessProblem(root.project.customerBusinessProblem)

.customerUseCase(root.project.customerUseCase).deliveryModels(root.project.deliveryModels)
     .expectedCustomerSpend(expectedCustomerSpends)

.salesActivities(root.project.salesActivities).competitorName(root.project.competitorName)
     .otherSolutionDescription(root.project.otherSolutionDescription).build();
  }

  // Building the Actual CreateOpportunity Request
```

```
  UpdateOpportunityRequest updateOpportunityRequest =
UpdateOpportunityRequest.builder().catalog(root.catalog)

.identifier(root.identifier).lastModifiedDate(Instant.parse(root.lastModifiedDate))

.primaryNeedsFromAwsWithStrings(root.primaryNeedsFromAws).opportunityType(root.opportunityT
    .lifeCycle(lifeCycle)
    .customer(customer)
    .project(project)
    .partnerOpportunityIdentifier(root.partnerOpportunityIdentifier)
    .marketing(marketing)
    .nationalSecurity(root.nationalSecurity)
    .opportunityType(root.opportunityType)
    .build();

  UpdateOpportunityResponse updateResponse =
client.updateOpportunity(updateOpportunityRequest);
  System.out.println("Successfully updated opportunity: " + updateResponse);

  return updateResponse;
 } else {
  System.out.println("Opportunity cannot be updated.");
  return null;
 }
   }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「UpdateOpportunity」を参照してください。

シナリオ

オポチュニティの関連エンティティを更新する

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- 古いエンティティの関連付けを解除します。
- 新しいエンティティを関連付けます。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。シナリオリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

オポチュニティの関連エンティティを更新する

```
package org.example;

import static org.example.utils.Constants.*;

import org.example.utils.Constants;
import org.example.utils.ReferenceCodesUtils;

import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.PartnerCentralSellingClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.AssociateOpportunityRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.AssociateOpportunityResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.DisassociateOpportunityRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.partnercentralselling.model.DisassociateOpportunityResponse

/*
Purpose
PC-API -17 Replacing a solution
*/

public class ReplaceSolution {

 static PartnerCentralSellingClient client = PartnerCentralSellingClient.builder()
            .region(Region.US_EAST_1)
            .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
            .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
            .build();
```

```
   public static void main(String[] args) {

    String opportunityId = args.length > 0 ? args[0] : OPPORTUNITY_ID;

    String entityType = "Solutions";
    String originalEntityIdentifier = "S-0000000";
    String newEntityIdentifier = "S-0011111";

    disassociateOppornititityResponse(opportunityId, entityType,
originalEntityIdentifier );
    AssociateOpportunityResponse associateOpportunityResponse =
associateOpportunityResponse(opportunityId, entityType, newEntityIdentifier );

    ReferenceCodesUtils.formatOutput(associateOpportunityResponse);
   }

private static AssociateOpportunityResponse associateOpportunityResponse(String
opportunityId, String entityType, String entityIdentifier) {

       AssociateOpportunityRequest associateOpportunityRequest =
AssociateOpportunityRequest.builder()
   .catalog(Constants.CATALOG_TO_USE)
         .opportunityIdentifier(opportunityId)
         .relatedEntityType(entityType)
         .relatedEntityIdentifier(entityIdentifier)
         .build();

       AssociateOpportunityResponse response =
client.associateOpportunity(associateOpportunityRequest);

       return response;
}

private static DisassociateOpportunityResponse
disassociateOppornititityResponse(String opportunityId, String entityType, String
entityIdentifier) {
 PartnerCentralSellingClient client = PartnerCentralSellingClient.builder()
           .region(Region.US_EAST_1)
           .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
           .httpClient(ApacheHttpClient.builder().build())
           .build();
```

```
        DisassociateOpportunityRequest disassociateOpportunityRequest =
 DisassociateOpportunityRequest.builder()
    .catalog(Constants.CATALOG_TO_USE)
          .opportunityIdentifier(opportunityId)
          .relatedEntityType(entityType)
          .relatedEntityIdentifier(entityIdentifier)
          .build();

        DisassociateOpportunityResponse response =
 client.disassociateOpportunity(disassociateOpportunityRequest);

        return response;
 }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - AssociateOpportunity
  - DisassociateOpportunity

SDK for Java 2.x を使用した Amazon Personalize の例

次のコード例は、Amazon Personalize AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- アクション

アクション

`CreateBatchInferenceJob`

次のコード例は、`CreateBatchInferenceJob` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
        public static String createPersonalizeBatchInferenceJob(PersonalizeClient
personalizeClient,
                        String solutionVersionArn,
                        String jobName,
                        String s3InputDataSourcePath,
                        String s3DataDestinationPath,
                        String roleArn,
                        String explorationWeight,
                        String explorationItemAgeCutOff) {

                long waitInMilliseconds = 60 * 1000;
                String status;
                String batchInferenceJobArn;

                try {

                        // Set up data input and output parameters.
                        S3DataConfig inputSource = S3DataConfig.builder()
                                        .path(s3InputDataSourcePath)
                                        .build();

                        S3DataConfig outputDestination = S3DataConfig.builder()
                                        .path(s3DataDestinationPath)
                                        .build();

                        BatchInferenceJobInput jobInput =
BatchInferenceJobInput.builder()
                                        .s3DataSource(inputSource)
```

```
                                        .build();

                        BatchInferenceJobOutput jobOutputLocation =
BatchInferenceJobOutput.builder()
                                        .s3DataDestination(outputDestination)
                                        .build();

                        // Optional code to build the User-Personalization specific
item exploration
                        // config.
                        HashMap<String, String> explorationConfig = new HashMap<>();

                        explorationConfig.put("explorationWeight",
explorationWeight);
                        explorationConfig.put("explorationItemAgeCutOff",
explorationItemAgeCutOff);

                        BatchInferenceJobConfig jobConfig =
BatchInferenceJobConfig.builder()
                                        .itemExplorationConfig(explorationConfig)
                                        .build();

                        // End optional User-Personalization recipe specific code.

                        CreateBatchInferenceJobRequest
createBatchInferenceJobRequest = CreateBatchInferenceJobRequest
                                        .builder()
                                        .solutionVersionArn(solutionVersionArn)
                                        .jobInput(jobInput)
                                        .jobOutput(jobOutputLocation)
                                        .jobName(jobName)
                                        .roleArn(roleArn)
                                        .batchInferenceJobConfig(jobConfig) //
Optional
                                        .build();

                        batchInferenceJobArn =
personalizeClient.createBatchInferenceJob(createBatchInferenceJobRequest)
                                        .batchInferenceJobArn();

                        DescribeBatchInferenceJobRequest
describeBatchInferenceJobRequest = DescribeBatchInferenceJobRequest
                                        .builder()
                                        .batchInferenceJobArn(batchInferenceJobArn)
```

```
                                        .build();

                        long maxTime = Instant.now().getEpochSecond() + 3 * 60 * 60;
                        while (Instant.now().getEpochSecond() < maxTime) {

                                BatchInferenceJob batchInferenceJob =
personalizeClient

.describeBatchInferenceJob(describeBatchInferenceJobRequest)
                                                        .batchInferenceJob();

                                status = batchInferenceJob.status();
                                System.out.println("Batch inference job status: " +
status);

                                if (status.equals("ACTIVE") || status.equals("CREATE
FAILED")) {
                                        break;
                                }
                                try {
                                        Thread.sleep(waitInMilliseconds);
                                } catch (InterruptedException e) {
                                        System.out.println(e.getMessage());
                                }
                        }
                        return batchInferenceJobArn;

                } catch (PersonalizeException e) {
                        System.out.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
                }
                return "";
        }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateBatchInferenceJob」を参照してください。

CreateCampaign

次のコード例は、CreateCampaign を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static String createPersonalCompaign(PersonalizeClient personalizeClient,
String solutionVersionArn,
           String name) {

       try {
           CreateCampaignRequest createCampaignRequest =
CreateCampaignRequest.builder()
                   .minProvisionedTPS(1)
                   .solutionVersionArn(solutionVersionArn)
                   .name(name)
                   .build();

           CreateCampaignResponse campaignResponse =
personalizeClient.createCampaign(createCampaignRequest);
           System.out.println("The campaign ARN is " +
campaignResponse.campaignArn());
           return campaignResponse.campaignArn();
       } catch (PersonalizeException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
       return null;
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateCampaign 」を参照してください。

`CreateDataset`

次のコード例は、`CreateDataset` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
public static String createDataset(PersonalizeClient personalizeClient,
        String datasetName,
        String datasetGroupArn,
        String datasetType,
        String schemaArn) {
    try {
        CreateDatasetRequest request = CreateDatasetRequest.builder()
                .name(datasetName)
                .datasetGroupArn(datasetGroupArn)
                .datasetType(datasetType)
                .schemaArn(schemaArn)
                .build();

        String datasetArn = personalizeClient.createDataset(request)
                .datasetArn();
        System.out.println("Dataset " + datasetName + " created.");
        return datasetArn;

    } catch (PersonalizeException e) {
        System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
        System.exit(1);
    }
    return "";
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateDataset」を参照してください。

`CreateDatasetExportJob`

次のコード例は、`CreateDatasetExportJob` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static String createDatasetExportJob(PersonalizeClient personalizeClient,
           String jobName,
           String datasetArn,
           IngestionMode ingestionMode,
           String roleArn,
           String s3BucketPath,
           String kmsKeyArn) {

       long waitInMilliseconds = 30 * 1000; // 30 seconds
       String status = null;

       try {

           S3DataConfig exportS3DataConfig =
S3DataConfig.builder().path(s3BucketPath).kmsKeyArn(kmsKeyArn).build();
           DatasetExportJobOutput jobOutput =
DatasetExportJobOutput.builder().s3DataDestination(exportS3DataConfig)
                   .build();

           CreateDatasetExportJobRequest createRequest =
CreateDatasetExportJobRequest.builder()
                   .jobName(jobName)
                   .datasetArn(datasetArn)
                   .ingestionMode(ingestionMode)
                   .jobOutput(jobOutput)
                   .roleArn(roleArn)
                   .build();

           String datasetExportJobArn =
personalizeClient.createDatasetExportJob(createRequest).datasetExportJobArn();

           DescribeDatasetExportJobRequest describeDatasetExportJobRequest =
DescribeDatasetExportJobRequest.builder()
                   .datasetExportJobArn(datasetExportJobArn)
```

```
                .build();

        long maxTime = Instant.now().getEpochSecond() + 3 * 60 * 60;

        while (Instant.now().getEpochSecond() < maxTime) {

            DatasetExportJob datasetExportJob = personalizeClient
                    .describeDatasetExportJob(describeDatasetExportJobRequest)
                    .datasetExportJob();

            status = datasetExportJob.status();
            System.out.println("Export job status: " + status);

            if (status.equals("ACTIVE") || status.equals("CREATE FAILED")) {
                return status;
            }
            try {
                Thread.sleep(waitInMilliseconds);
            } catch (InterruptedException e) {
                System.out.println(e.getMessage());
            }
        }
    } catch (PersonalizeException e) {
        System.out.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
    }
    return "";
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスのの「CreateDatasetExportJob」を参照してください。

CreateDatasetGroup

次のコード例は、CreateDatasetGroup を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static String createDatasetGroup(PersonalizeClient personalizeClient,
String datasetGroupName) {

       try {
           CreateDatasetGroupRequest createDatasetGroupRequest =
CreateDatasetGroupRequest.builder()
                   .name(datasetGroupName)
                   .build();
           return
personalizeClient.createDatasetGroup(createDatasetGroupRequest).datasetGroupArn();
       } catch (PersonalizeException e) {
           System.out.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
       }
       return "";
   }
```

ドメインデータセットグループを作成します。

```
   public static String createDomainDatasetGroup(PersonalizeClient
personalizeClient,
           String datasetGroupName,
           String domain) {

       try {
           CreateDatasetGroupRequest createDatasetGroupRequest =
CreateDatasetGroupRequest.builder()
                   .name(datasetGroupName)
                   .domain(domain)
                   .build();
           return
personalizeClient.createDatasetGroup(createDatasetGroupRequest).datasetGroupArn();
       } catch (PersonalizeException e) {
           System.out.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
```

```
        }
        return "";
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateDatasetGroup」を参照してください。

`CreateDatasetImportJob`

次のコード例は、`CreateDatasetImportJob` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static String createPersonalizeDatasetImportJob(PersonalizeClient
personalizeClient,
            String jobName,
            String datasetArn,
            String s3BucketPath,
            String roleArn) {

        long waitInMilliseconds = 60 * 1000;
        String status;
        String datasetImportJobArn;

        try {
            DataSource importDataSource = DataSource.builder()
                    .dataLocation(s3BucketPath)
                    .build();

            CreateDatasetImportJobRequest createDatasetImportJobRequest =
CreateDatasetImportJobRequest.builder()
                    .datasetArn(datasetArn)
                    .dataSource(importDataSource)
                    .jobName(jobName)
```

```
                    .roleArn(roleArn)
                    .build();

            datasetImportJobArn =
personalizeClient.createDatasetImportJob(createDatasetImportJobRequest)
                    .datasetImportJobArn();
            DescribeDatasetImportJobRequest describeDatasetImportJobRequest =
DescribeDatasetImportJobRequest.builder()
                    .datasetImportJobArn(datasetImportJobArn)
                    .build();

            long maxTime = Instant.now().getEpochSecond() + 3 * 60 * 60;

            while (Instant.now().getEpochSecond() < maxTime) {

                DatasetImportJob datasetImportJob = personalizeClient
                        .describeDatasetImportJob(describeDatasetImportJobRequest)
                        .datasetImportJob();

                status = datasetImportJob.status();
                System.out.println("Dataset import job status: " + status);

                if (status.equals("ACTIVE") || status.equals("CREATE FAILED")) {
                    break;
                }
                try {
                    Thread.sleep(waitInMilliseconds);
                } catch (InterruptedException e) {
                    System.out.println(e.getMessage());
                }
            }
            return datasetImportJobArn;

        } catch (PersonalizeException e) {
            System.out.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
        }
        return "";
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateDatasetImportJob」を参照してください。

CreateEventTracker

次のコード例は、CreateEventTracker を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static String createEventTracker(PersonalizeClient personalizeClient,
String eventTrackerName,
           String datasetGroupArn) {

       String eventTrackerId = "";
       String eventTrackerArn;
       long maxTime = 3 * 60 * 60; // 3 hours
       long waitInMilliseconds = 20 * 1000; // 20 seconds
       String status;

       try {

           CreateEventTrackerRequest createEventTrackerRequest =
CreateEventTrackerRequest.builder()
                   .name(eventTrackerName)
                   .datasetGroupArn(datasetGroupArn)
                   .build();

           CreateEventTrackerResponse createEventTrackerResponse =
personalizeClient
                   .createEventTracker(createEventTrackerRequest);

           eventTrackerArn = createEventTrackerResponse.eventTrackerArn();
           eventTrackerId = createEventTrackerResponse.trackingId();
           System.out.println("Event tracker ARN: " + eventTrackerArn);
           System.out.println("Event tracker ID: " + eventTrackerId);

           maxTime = Instant.now().getEpochSecond() + maxTime;

           DescribeEventTrackerRequest describeRequest =
DescribeEventTrackerRequest.builder()
```

```
                    .eventTrackerArn(eventTrackerArn)
                    .build();

            while (Instant.now().getEpochSecond() < maxTime) {

                status =
personalizeClient.describeEventTracker(describeRequest).eventTracker().status();
                System.out.println("EventTracker status: " + status);

                if (status.equals("ACTIVE") || status.equals("CREATE FAILED")) {
                    break;
                }
                try {
                    Thread.sleep(waitInMilliseconds);
                } catch (InterruptedException e) {
                    System.out.println(e.getMessage());
                }
            }
            return eventTrackerId;
        } catch (PersonalizeException e) {
            System.out.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return eventTrackerId;
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateEventTracker」を参照してください。

`CreateFilter`

次のコード例は、`CreateFilter` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    public static String createFilter(PersonalizeClient personalizeClient,
            String filterName,
            String datasetGroupArn,
            String filterExpression) {
        try {
            CreateFilterRequest request = CreateFilterRequest.builder()
                    .name(filterName)
                    .datasetGroupArn(datasetGroupArn)
                    .filterExpression(filterExpression)
                    .build();

            return personalizeClient.createFilter(request).filterArn();
        } catch (PersonalizeException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateFilter」を参照してください。

`CreateRecommender`

次のコード例は、`CreateRecommender` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    public static String createRecommender(PersonalizeClient personalizeClient,
            String name,
            String datasetGroupArn,
            String recipeArn) {

        long maxTime = 0;
```

```
        long waitInMilliseconds = 30 * 1000; // 30 seconds
        String recommenderStatus = "";

        try {
            CreateRecommenderRequest createRecommenderRequest =
CreateRecommenderRequest.builder()
                    .datasetGroupArn(datasetGroupArn)
                    .name(name)
                    .recipeArn(recipeArn)
                    .build();

            CreateRecommenderResponse recommenderResponse = personalizeClient
                    .createRecommender(createRecommenderRequest);
            String recommenderArn = recommenderResponse.recommenderArn();
            System.out.println("The recommender ARN is " + recommenderArn);

            DescribeRecommenderRequest describeRecommenderRequest =
DescribeRecommenderRequest.builder()
                    .recommenderArn(recommenderArn)
                    .build();

            maxTime = Instant.now().getEpochSecond() + 3 * 60 * 60;

            while (Instant.now().getEpochSecond() < maxTime) {

                recommenderStatus =
personalizeClient.describeRecommender(describeRecommenderRequest).recommender()
                        .status();
                System.out.println("Recommender status: " + recommenderStatus);

                if (recommenderStatus.equals("ACTIVE") ||
recommenderStatus.equals("CREATE FAILED")) {
                    break;
                }
                try {
                    Thread.sleep(waitInMilliseconds);
                } catch (InterruptedException e) {
                    System.out.println(e.getMessage());
                }
            }
            return recommenderArn;

        } catch (PersonalizeException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
```

```
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateRecommender」を参照してください。

`CreateSchema`

次のコード例は、CreateSchema を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    public static String createSchema(PersonalizeClient personalizeClient, String
schemaName, String filePath) {

        String schema = null;
        try {
            schema = new String(Files.readAllBytes(Paths.get(filePath)));
        } catch (IOException e) {
            System.out.println(e.getMessage());
        }

        try {
            CreateSchemaRequest createSchemaRequest = CreateSchemaRequest.builder()
                    .name(schemaName)
                    .schema(schema)
                    .build();

            String schemaArn =
personalizeClient.createSchema(createSchemaRequest).schemaArn();

            System.out.println("Schema arn: " + schemaArn);
```

```
            return schemaArn;

        } catch (PersonalizeException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }
```

ドメインでスキーマを作成します。

```
    public static String createDomainSchema(PersonalizeClient personalizeClient,
String schemaName, String domain,
            String filePath) {

        String schema = null;
        try {
            schema = new String(Files.readAllBytes(Paths.get(filePath)));
        } catch (IOException e) {
            System.out.println(e.getMessage());
        }

        try {
            CreateSchemaRequest createSchemaRequest = CreateSchemaRequest.builder()
                    .name(schemaName)
                    .domain(domain)
                    .schema(schema)
                    .build();

            String schemaArn =
personalizeClient.createSchema(createSchemaRequest).schemaArn();

            System.out.println("Schema arn: " + schemaArn);

            return schemaArn;

        } catch (PersonalizeException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
```

```
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateSchema」を参照してください。

`CreateSolution`

次のコード例は、`CreateSolution` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static String createPersonalizeSolution(PersonalizeClient
personalizeClient,
           String datasetGroupArn,
           String solutionName,
           String recipeArn) {

       try {
           CreateSolutionRequest solutionRequest = CreateSolutionRequest.builder()
                   .name(solutionName)
                   .datasetGroupArn(datasetGroupArn)
                   .recipeArn(recipeArn)
                   .build();

           CreateSolutionResponse solutionResponse =
personalizeClient.createSolution(solutionRequest);
           return solutionResponse.solutionArn();

       } catch (PersonalizeException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
       return "";
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateSolution」を参照してください。

`CreateSolutionVersion`

次のコード例は、`CreateSolutionVersion` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static String createPersonalizeSolutionVersion(PersonalizeClient
personalizeClient, String solutionArn) {
       long maxTime = 0;
       long waitInMilliseconds = 30 * 1000; // 30 seconds
       String solutionStatus = "";
       String solutionVersionStatus = "";
       String solutionVersionArn = "";

       try {
           DescribeSolutionRequest describeSolutionRequest =
DescribeSolutionRequest.builder()
                   .solutionArn(solutionArn)
                   .build();

           maxTime = Instant.now().getEpochSecond() + 3 * 60 * 60;

           // Wait until solution is active.
           while (Instant.now().getEpochSecond() < maxTime) {

               solutionStatus =
personalizeClient.describeSolution(describeSolutionRequest).solution().status();
               System.out.println("Solution status: " + solutionStatus);
```

```
                if (solutionStatus.equals("ACTIVE") || solutionStatus.equals("CREATE
FAILED")) {
                    break;
                }
                try {
                    Thread.sleep(waitInMilliseconds);
                } catch (InterruptedException e) {
                    System.out.println(e.getMessage());
                }
            }

            if (solutionStatus.equals("ACTIVE")) {

                CreateSolutionVersionRequest createSolutionVersionRequest =
CreateSolutionVersionRequest.builder()
                        .solutionArn(solutionArn)
                        .build();

                CreateSolutionVersionResponse createSolutionVersionResponse =
personalizeClient
                        .createSolutionVersion(createSolutionVersionRequest);
                solutionVersionArn =
createSolutionVersionResponse.solutionVersionArn();

                System.out.println("Solution version ARN: " + solutionVersionArn);

                DescribeSolutionVersionRequest describeSolutionVersionRequest =
DescribeSolutionVersionRequest.builder()
                        .solutionVersionArn(solutionVersionArn)
                        .build();

                while (Instant.now().getEpochSecond() < maxTime) {

                    solutionVersionStatus =
personalizeClient.describeSolutionVersion(describeSolutionVersionRequest)
                            .solutionVersion().status();
                    System.out.println("Solution version status: " +
solutionVersionStatus);

                    if (solutionVersionStatus.equals("ACTIVE") ||
solutionVersionStatus.equals("CREATE FAILED")) {
                        break;
                    }
                    try {
```

```
                    Thread.sleep(waitInMilliseconds);
                } catch (InterruptedException e) {
                    System.out.println(e.getMessage());
                }
            }
            return solutionVersionArn;
        }
    } catch (PersonalizeException e) {
        System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
        System.exit(1);
    }
    return "";
  }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateSolutionVersion」を参照してください。

`DeleteCampaign`

次のコード例は、`DeleteCampaign` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void deleteSpecificCampaign(PersonalizeClient personalizeClient,
String campaignArn) {
    try {
        DeleteCampaignRequest campaignRequest = DeleteCampaignRequest.builder()
                .campaignArn(campaignArn)
                .build();

        personalizeClient.deleteCampaign(campaignRequest);
        System.out.println("Delete request sent successfully.");
    } catch (PersonalizeException e) {
```

```
            System.err.println("Error deleting campaign: " +
 e.awsErrorDetails().errorMessage());
            throw new RuntimeException(e);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteCampaign」を参照してください。

`DeleteEventTracker`

次のコード例は、`DeleteEventTracker` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void deleteEventTracker(PersonalizeClient personalizeClient,
String eventTrackerArn) {
       try {
           DeleteEventTrackerRequest deleteEventTrackerRequest =
DeleteEventTrackerRequest.builder()
                   .eventTrackerArn(eventTrackerArn)
                   .build();

           int status =
personalizeClient.deleteEventTracker(deleteEventTrackerRequest).sdkHttpResponse().statusCod

           System.out.println("Status code:" + status);

       } catch (PersonalizeException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteEventTracker」を参照してください。

`DeleteSolution`

次のコード例は、`DeleteSolution` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void deleteGivenSolution(PersonalizeClient personalizeClient,
String solutionArn) {

        try {
            DeleteSolutionRequest solutionRequest = DeleteSolutionRequest.builder()
                    .solutionArn(solutionArn)
                    .build();

            personalizeClient.deleteSolution(solutionRequest);
            System.out.println("Done");

        } catch (PersonalizeException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteSolution」を参照してください。

DescribeCampaign

次のコード例は、DescribeCampaign を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void describeSpecificCampaign(PersonalizeClient personalizeClient,
String campaignArn) {

        try {
            DescribeCampaignRequest campaignRequest =
DescribeCampaignRequest.builder()
                    .campaignArn(campaignArn)
                    .build();

            DescribeCampaignResponse campaignResponse =
personalizeClient.describeCampaign(campaignRequest);
            Campaign myCampaign = campaignResponse.campaign();
            System.out.println("The Campaign name is " + myCampaign.name());
            System.out.println("The Campaign status is " + myCampaign.status());

        } catch (PersonalizeException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeCampaign」を参照してください。

DescribeRecipe

次のコード例は、DescribeRecipe を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void describeSpecificRecipe(PersonalizeClient personalizeClient,
String recipeArn) {

       try {
           DescribeRecipeRequest recipeRequest = DescribeRecipeRequest.builder()
                   .recipeArn(recipeArn)
                   .build();

           DescribeRecipeResponse recipeResponse =
personalizeClient.describeRecipe(recipeRequest);
           System.out.println("The recipe name is " +
recipeResponse.recipe().name());

       } catch (PersonalizeException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeRecipe」を参照してください。

`DescribeSolution`

次のコード例は、`DescribeSolution` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void describeSpecificSolution(PersonalizeClient personalizeClient,
String solutionArn) {

       try {
           DescribeSolutionRequest solutionRequest =
DescribeSolutionRequest.builder()
                   .solutionArn(solutionArn)
                   .build();

           DescribeSolutionResponse response =
personalizeClient.describeSolution(solutionRequest);
           System.out.println("The Solution name is " +
response.solution().name());

       } catch (PersonalizeException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeSolution」を参照してください。

`ListCampaigns`

次のコード例は、`ListCampaigns` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void listAllCampaigns(PersonalizeClient personalizeClient, String
solutionArn) {

       try {
           ListCampaignsRequest campaignsRequest = ListCampaignsRequest.builder()
                   .maxResults(10)
                   .solutionArn(solutionArn)
                   .build();

           ListCampaignsResponse response =
personalizeClient.listCampaigns(campaignsRequest);
           List<CampaignSummary> campaigns = response.campaigns();
           for (CampaignSummary campaign : campaigns) {
               System.out.println("Campaign name is : " + campaign.name());
               System.out.println("Campaign ARN is : " + campaign.campaignArn());
           }

       } catch (PersonalizeException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListCampaigns」を参照してください。

`ListDatasetGroups`

次のコード例は、`ListDatasetGroups` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void listDSGroups(PersonalizeClient personalizeClient) {

       try {
           ListDatasetGroupsRequest groupsRequest =
ListDatasetGroupsRequest.builder()
                   .maxResults(15)
                   .build();

           ListDatasetGroupsResponse groupsResponse =
personalizeClient.listDatasetGroups(groupsRequest);
           List<DatasetGroupSummary> groups = groupsResponse.datasetGroups();
           for (DatasetGroupSummary group : groups) {
               System.out.println("The DataSet name is : " + group.name());
               System.out.println("The DataSet ARN is : " +
group.datasetGroupArn());
           }

       } catch (PersonalizeException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListDatasetGroups」を参照してください。

`ListRecipes`

次のコード例は、`ListRecipes` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    public static void listAllRecipes(PersonalizeClient personalizeClient) {

        try {
            ListRecipesRequest recipesRequest = ListRecipesRequest.builder()
                    .maxResults(15)
                    .build();

            ListRecipesResponse response =
personalizeClient.listRecipes(recipesRequest);
            List<RecipeSummary> recipes = response.recipes();
            for (RecipeSummary recipe : recipes) {
                System.out.println("The recipe ARN is: " + recipe.recipeArn());
                System.out.println("The recipe name is: " + recipe.name());
            }

        } catch (PersonalizeException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListRecipes」を参照してください。

`ListSolutions`

次のコード例は、`ListSolutions` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void listAllSolutions(PersonalizeClient personalizeClient, String
datasetGroupArn) {

       try {
           ListSolutionsRequest solutionsRequest = ListSolutionsRequest.builder()
                   .maxResults(10)
                   .datasetGroupArn(datasetGroupArn)
                   .build();

           ListSolutionsResponse response =
personalizeClient.listSolutions(solutionsRequest);
           List<SolutionSummary> solutions = response.solutions();
           for (SolutionSummary solution : solutions) {
               System.out.println("The solution ARN is: " +
solution.solutionArn());
               System.out.println("The solution name is: " + solution.name());
           }

       } catch (PersonalizeException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListSolutions」を参照してください。

`UpdateCampaign`

次のコード例は、UpdateCampaign を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static String updateCampaign(PersonalizeClient personalizeClient,
           String campaignArn,
           String solutionVersionArn,
           Integer minProvisionedTPS) {

       try {
           // build the updateCampaignRequest
           UpdateCampaignRequest updateCampaignRequest =
UpdateCampaignRequest.builder()
                   .campaignArn(campaignArn)
                   .solutionVersionArn(solutionVersionArn)
                   .minProvisionedTPS(minProvisionedTPS)
                   .build();

           // update the campaign
           personalizeClient.updateCampaign(updateCampaignRequest);

           DescribeCampaignRequest campaignRequest =
DescribeCampaignRequest.builder()
                   .campaignArn(campaignArn)
                   .build();

           DescribeCampaignResponse campaignResponse =
personalizeClient.describeCampaign(campaignRequest);
           Campaign updatedCampaign = campaignResponse.campaign();

           System.out.println("The Campaign status is " +
updatedCampaign.status());
           return updatedCampaign.status();

       } catch (PersonalizeException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
```

```
        return "";
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「UpdateCampaign」を参照してください。

SDK for Java 2.x を使用した Amazon Personalize Events の例

次のコード例は、Amazon Personalize Events AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック
- アクション

アクション

`PutEvents`

次のコード例は、`PutEvents` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    public static int putItems(PersonalizeEventsClient personalizeEventsClient,
                               String datasetArn,
                               String item1Id,
```

```
                        String item1PropertyName,
                        String item1PropertyValue,
                        String item2Id,
                        String item2PropertyName,
                        String item2PropertyValue) {

                int responseCode = 0;
                ArrayList<Item> items = new ArrayList<>();

                try {
                        Item item1 = Item.builder()
                                        .itemId(item1Id)
                                        .properties(String.format("{\"%1$s\": \"%2$s
\"}",
                                                                item1PropertyName,
 item1PropertyValue))
                                        .build();

                        items.add(item1);

                        Item item2 = Item.builder()
                                        .itemId(item2Id)
                                        .properties(String.format("{\"%1$s\": \"%2$s
\"}",
                                                                item2PropertyName,
 item2PropertyValue))
                                        .build();

                        items.add(item2);

                        PutItemsRequest putItemsRequest = PutItemsRequest.builder()
                                        .datasetArn(datasetArn)
                                        .items(items)
                                        .build();

                        responseCode =
 personalizeEventsClient.putItems(putItemsRequest).sdkHttpResponse().statusCode();
                        System.out.println("Response code: " + responseCode);
                        return responseCode;

                } catch (PersonalizeEventsException e) {
                        System.out.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
                }
                return responseCode;
```

```
        }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「PutEvents」を参照してください。

PutUsers

次のコード例は、PutUsers を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
        public static int putUsers(PersonalizeEventsClient personalizeEventsClient,
                        String datasetArn,
                        String user1Id,
                        String user1PropertyName,
                        String user1PropertyValue,
                        String user2Id,
                        String user2PropertyName,
                        String user2PropertyValue) {

                int responseCode = 0;
                ArrayList<User> users = new ArrayList<>();

                try {
                        User user1 = User.builder()
                                        .userId(user1Id)
                                        .properties(String.format("{\"%1$s\": \"%2$s
\"}",
                                                                user1PropertyName,
 user1PropertyValue))
                                        .build();

                        users.add(user1);
```

```
                        User user2 = User.builder()
                                        .userId(user2Id)
                                        .properties(String.format("{\"%1$s\": \"%2$s
\"}",
                                                                  user2PropertyName,
 user2PropertyValue))
                                        .build();

                        users.add(user2);

                        PutUsersRequest putUsersRequest = PutUsersRequest.builder()
                                        .datasetArn(datasetArn)
                                        .users(users)
                                        .build();

                        responseCode =
 personalizeEventsClient.putUsers(putUsersRequest).sdkHttpResponse().statusCode();
                        System.out.println("Response code: " + responseCode);
                        return responseCode;

                } catch (PersonalizeEventsException e) {
                        System.out.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
                }
                return responseCode;
        }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「PutUsers」を参照してください。

SDK for Java 2.x による Amazon Personalize Runtime の例

次のコード例は、Amazon Personalize ランタイム AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- アクション

アクション

GetPersonalizedRanking

次のコード例は、GetPersonalizedRanking を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static List<PredictedItem> getRankedRecs(PersonalizeRuntimeClient
personalizeRuntimeClient,
            String campaignArn,
            String userId,
            ArrayList<String> items) {

        try {
            GetPersonalizedRankingRequest rankingRecommendationsRequest =
GetPersonalizedRankingRequest.builder()
                    .campaignArn(campaignArn)
                    .userId(userId)
                    .inputList(items)
                    .build();

            GetPersonalizedRankingResponse recommendationsResponse =
personalizeRuntimeClient
                    .getPersonalizedRanking(rankingRecommendationsRequest);
            List<PredictedItem> rankedItems =
recommendationsResponse.personalizedRanking();
            int rank = 1;
            for (PredictedItem item : rankedItems) {
                System.out.println("Item ranked at position " + rank + " details");
                System.out.println("Item Id is : " + item.itemId());
                System.out.println("Item score is : " + item.score());
```

```
                System.out.println("----------------------------------------------");
                rank++;
            }
            return rankedItems;
        } catch (PersonalizeRuntimeException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return null;
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetPersonalizedRanking」を参照してください。

GetRecommendations

次のコード例は、GetRecommendations を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

推奨アイテムのリストを取得します。

```
   public static void getRecs(PersonalizeRuntimeClient personalizeRuntimeClient,
String campaignArn, String userId) {

        try {
            GetRecommendationsRequest recommendationsRequest =
GetRecommendationsRequest.builder()
                    .campaignArn(campaignArn)
                    .numResults(20)
                    .userId(userId)
                    .build();

            GetRecommendationsResponse recommendationsResponse =
personalizeRuntimeClient
```

```
                    .getRecommendations(recommendationsRequest);
            List<PredictedItem> items = recommendationsResponse.itemList();
            for (PredictedItem item : items) {
                System.out.println("Item Id is : " + item.itemId());
                System.out.println("Item score is : " + item.score());
            }

        } catch (AwsServiceException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

ドメインデータセットグループで作成されたレコメンダーから、推奨アイテムのリストを取得します。

```
    public static void getRecs(PersonalizeRuntimeClient personalizeRuntimeClient,
String recommenderArn,
            String userId) {

        try {
            GetRecommendationsRequest recommendationsRequest =
GetRecommendationsRequest.builder()
                    .recommenderArn(recommenderArn)
                    .numResults(20)
                    .userId(userId)
                    .build();

            GetRecommendationsResponse recommendationsResponse =
personalizeRuntimeClient
                    .getRecommendations(recommendationsRequest);
            List<PredictedItem> items = recommendationsResponse.itemList();

            for (PredictedItem item : items) {
                System.out.println("Item Id is : " + item.itemId());
                System.out.println("Item score is : " + item.score());
            }
        } catch (AwsServiceException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

レコメンデーションをリクエストするときはフィルターを使用してください。

```
   public static void getFilteredRecs(PersonalizeRuntimeClient
personalizeRuntimeClient,
           String campaignArn,
           String userId,
           String filterArn,
           String parameter1Name,
           String parameter1Value1,
           String parameter1Value2,
           String parameter2Name,
           String parameter2Value) {

       try {

           Map<String, String> filterValues = new HashMap<>();

           filterValues.put(parameter1Name, String.format("\"%1$s\",\"%2$s\"",
                   parameter1Value1, parameter1Value2));
           filterValues.put(parameter2Name, String.format("\"%1$s\"",
                   parameter2Value));

           GetRecommendationsRequest recommendationsRequest =
GetRecommendationsRequest.builder()
                   .campaignArn(campaignArn)
                   .numResults(20)
                   .userId(userId)
                   .filterArn(filterArn)
                   .filterValues(filterValues)
                   .build();

           GetRecommendationsResponse recommendationsResponse =
personalizeRuntimeClient
                   .getRecommendations(recommendationsRequest);
           List<PredictedItem> items = recommendationsResponse.itemList();

           for (PredictedItem item : items) {
               System.out.println("Item Id is : " + item.itemId());
               System.out.println("Item score is : " + item.score());
           }
       } catch (PersonalizeRuntimeException e) {
```

```
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetRecommendations」を参照してください。

SDK for Java 2.x を使用した Amazon Pinpoint の例

次のコード例は、Amazon Pinpoint AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- アクション

アクション

`CreateApp`

次のコード例は、`CreateApp` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.PinpointClient;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.CreateAppRequest;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.CreateAppResponse;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.CreateApplicationRequest;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.PinpointException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class CreateApp {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:  <appName>

                Where:
                 appName - The name of the application to create.

                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }
        String appName = args[0];
        System.out.println("Creating an application with name: " + appName);

        PinpointClient pinpoint = PinpointClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        String appID = createApplication(pinpoint, appName);
        System.out.println("App ID is: " + appID);
        pinpoint.close();
    }

    public static String createApplication(PinpointClient pinpoint, String appName)
 {
        try {
```

```
            CreateApplicationRequest appRequest = CreateApplicationRequest.builder()
                    .name(appName)
                    .build();

            CreateAppRequest request = CreateAppRequest.builder()
                    .createApplicationRequest(appRequest)
                    .build();

            CreateAppResponse result = pinpoint.createApp(request);
            return result.applicationResponse().id();

        } catch (PinpointException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateApp」を参照してください。

`CreateCampaign`

次のコード例は、`CreateCampaign` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

キャンペーンの作成

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.PinpointClient;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.CampaignResponse;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.Message;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.Schedule;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.Action;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.MessageConfiguration;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.WriteCampaignRequest;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.CreateCampaignResponse;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.CreateCampaignRequest;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.PinpointException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class CreateCampaign {
    public static void main(String[] args) {

        final String usage = """

                Usage:   <appId> <segmentId>

                Where:
                  appId - The ID of the application to create the campaign in.
                  segmentId - The ID of the segment to create the campaign from.
                """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String appId = args[0];
        String segmentId = args[1];
        PinpointClient pinpoint = PinpointClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        createPinCampaign(pinpoint, appId, segmentId);
        pinpoint.close();
    }

    public static void createPinCampaign(PinpointClient pinpoint, String appId,
 String segmentId) {
```

```
        CampaignResponse result = createCampaign(pinpoint, appId, segmentId);
        System.out.println("Campaign " + result.name() + " created.");
        System.out.println(result.description());
    }

    public static CampaignResponse createCampaign(PinpointClient client, String
appID, String segmentID) {

        try {
            Schedule schedule = Schedule.builder()
                    .startTime("IMMEDIATE")
                    .build();

            Message defaultMessage = Message.builder()
                    .action(Action.OPEN_APP)
                    .body("My message body.")
                    .title("My message title.")
                    .build();

            MessageConfiguration messageConfiguration =
MessageConfiguration.builder()
                    .defaultMessage(defaultMessage)
                    .build();

            WriteCampaignRequest request = WriteCampaignRequest.builder()
                    .description("My description")
                    .schedule(schedule)
                    .name("MyCampaign")
                    .segmentId(segmentID)
                    .messageConfiguration(messageConfiguration)
                    .build();

            CreateCampaignResponse result =
client.createCampaign(CreateCampaignRequest.builder()
                    .applicationId(appID)
                    .writeCampaignRequest(request).build());

            System.out.println("Campaign ID: " + result.campaignResponse().id());
            return result.campaignResponse();

        } catch (PinpointException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
```

```
        return null;
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateCampaign 」を参照してください。

`CreateExportJob`

次のコード例は、`CreateExportJob` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

エンドポイントをエクスポートする

```
import software.amazon.awssdk.core.ResponseBytes;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.PinpointClient;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.ExportJobRequest;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.PinpointException;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.CreateExportJobRequest;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.CreateExportJobResponse;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.GetExportJobResponse;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.GetExportJobRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ListObjectsV2Request;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ListObjectsV2Response;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Object;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetObjectResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;
import java.io.File;
import java.io.FileOutputStream;
import java.io.IOException;
```

```
import java.io.OutputStream;
import java.text.SimpleDateFormat;
import java.util.ArrayList;
import java.util.Date;
import java.util.List;
import java.util.concurrent.TimeUnit;
import java.util.stream.Collectors;

/**
 * To run this code example, you need to create an AWS Identity and Access
 * Management (IAM) role with the correct policy as described in this
 * documentation:
 * https://docs.aws.amazon.com/pinpoint/latest/developerguide/audience-data-
export.html
 *
 * Also, set up your development environment, including your credentials.
 *
 * For information, see this documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */

public class ExportEndpoints {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                This program performs the following steps:

                1. Exports the endpoints to an Amazon S3 bucket.
                2. Downloads the exported endpoints files from Amazon S3.
                3. Parses the endpoints files to obtain the endpoint IDs and prints
 them.
                Usage: ExportEndpoints <applicationId> <s3BucketName>
 <iamExportRoleArn> <path>

                Where:
                  applicationId - The ID of the Amazon Pinpoint application that has
 the endpoint.
                  s3BucketName - The name of the Amazon S3 bucket to export the JSON
 file to.\s
                  iamExportRoleArn - The ARN of an IAM role that grants Amazon
 Pinpoint write permissions to the S3 bucket.  path - The path where the files
 downloaded from the Amazon S3 bucket are written (for example, C:/AWS/).
                """;
```

```
        if (args.length != 4) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String applicationId = args[0];
        String s3BucketName = args[1];
        String iamExportRoleArn = args[2];
        String path = args[3];
        System.out.println("Deleting an application with ID: " + applicationId);

        Region region = Region.US_EAST_1;
        PinpointClient pinpoint = PinpointClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        S3Client s3Client = S3Client.builder()
                .region(region)
                .build();

        exportAllEndpoints(pinpoint, s3Client, applicationId, s3BucketName, path,
iamExportRoleArn);
        pinpoint.close();
        s3Client.close();
    }

    public static void exportAllEndpoints(PinpointClient pinpoint,
            S3Client s3Client,
            String applicationId,
            String s3BucketName,
            String path,
            String iamExportRoleArn) {

        try {
            List<String> objectKeys = exportEndpointsToS3(pinpoint, s3Client,
s3BucketName, iamExportRoleArn,
                    applicationId);
            List<String> endpointFileKeys = objectKeys.stream().filter(o ->
o.endsWith(".gz"))
                    .collect(Collectors.toList());
            downloadFromS3(s3Client, path, s3BucketName, endpointFileKeys);

        } catch (PinpointException e) {
```

```
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static List<String> exportEndpointsToS3(PinpointClient pinpoint, S3Client
 s3Client, String s3BucketName,
            String iamExportRoleArn, String applicationId) {

        SimpleDateFormat dateFormat = new SimpleDateFormat("yyyy-MM-dd-
HH_mm:ss.SSS_z");
        String endpointsKeyPrefix = "exports/" + applicationId + "_" +
 dateFormat.format(new Date());
        String s3UrlPrefix = "s3://" + s3BucketName + "/" + endpointsKeyPrefix +
 "/";
        List<String> objectKeys = new ArrayList<>();
        String key;

        try {
            // Defines the export job that Amazon Pinpoint runs.
            ExportJobRequest jobRequest = ExportJobRequest.builder()
                    .roleArn(iamExportRoleArn)
                    .s3UrlPrefix(s3UrlPrefix)
                    .build();

            CreateExportJobRequest exportJobRequest =
 CreateExportJobRequest.builder()
                    .applicationId(applicationId)
                    .exportJobRequest(jobRequest)
                    .build();

            System.out.format("Exporting endpoints from Amazon Pinpoint application
 %s to Amazon S3 " +
                    "bucket %s . . .\n", applicationId, s3BucketName);

            CreateExportJobResponse exportResult =
 pinpoint.createExportJob(exportJobRequest);
            String jobId = exportResult.exportJobResponse().id();
            System.out.println(jobId);
            printExportJobStatus(pinpoint, applicationId, jobId);

            ListObjectsV2Request v2Request = ListObjectsV2Request.builder()
                    .bucket(s3BucketName)
                    .prefix(endpointsKeyPrefix)
```

```
                    .build();

            // Create a list of object keys.
            ListObjectsV2Response v2Response = s3Client.listObjectsV2(v2Request);
            List<S3Object> objects = v2Response.contents();
            for (S3Object object : objects) {
                key = object.key();
                objectKeys.add(key);
            }

            return objectKeys;

        } catch (PinpointException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return null;
    }

    private static void printExportJobStatus(PinpointClient pinpointClient,
            String applicationId,
            String jobId) {

        GetExportJobResponse getExportJobResult;
        String status;

        try {
            // Checks the job status until the job completes or fails.
            GetExportJobRequest exportJobRequest = GetExportJobRequest.builder()
                    .jobId(jobId)
                    .applicationId(applicationId)
                    .build();

            do {
                getExportJobResult = pinpointClient.getExportJob(exportJobRequest);
                status =
getExportJobResult.exportJobResponse().jobStatus().toString().toUpperCase();
                System.out.format("Export job %s . . .\n", status);
                TimeUnit.SECONDS.sleep(3);

            } while (!status.equals("COMPLETED") && !status.equals("FAILED"));

            if (status.equals("COMPLETED")) {
                System.out.println("Finished exporting endpoints.");
```

```
            } else {
                System.err.println("Failed to export endpoints.");
                System.exit(1);
            }

        } catch (PinpointException | InterruptedException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    // Download files from an Amazon S3 bucket and write them to the path location.
    public static void downloadFromS3(S3Client s3Client, String path, String
 s3BucketName, List<String> objectKeys) {

        String newPath;
        try {
            for (String key : objectKeys) {
                GetObjectRequest objectRequest = GetObjectRequest.builder()
                        .bucket(s3BucketName)
                        .key(key)
                        .build();

                ResponseBytes<GetObjectResponse> objectBytes =
 s3Client.getObjectAsBytes(objectRequest);
                byte[] data = objectBytes.asByteArray();

                // Write the data to a local file.
                String fileSuffix = new
 SimpleDateFormat("yyyyMMddHHmmss").format(new Date());
                newPath = path + fileSuffix + ".gz";
                File myFile = new File(newPath);
                OutputStream os = new FileOutputStream(myFile);
                os.write(data);
            }
            System.out.println("Download finished.");

        } catch (S3Exception | NullPointerException | IOException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateExportJob」を参照してください。

`CreateImportJob`

次のコード例は、`CreateImportJob` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

セグメントのインポート

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.PinpointClient;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.CreateImportJobRequest;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.ImportJobResponse;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.ImportJobRequest;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.Format;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.CreateImportJobResponse;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.PinpointException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ImportSegment {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:   <appId> <bucket> <key> <roleArn>\s
```

```
                Where:
                  appId - The application ID to create a segment for.
                  bucket - The name of the Amazon S3 bucket that contains the
 segment definitons.
                  key - The key of the S3 object.
                  roleArn - ARN of the role that allows Amazon Pinpoint to
 access S3. You need to set trust management for this to work. See https://
docs.aws.amazon.com/IAM/latest/UserGuide/reference_policies_elements_principal.html
                  """;

        if (args.length != 4) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String appId = args[0];
        String bucket = args[1];
        String key = args[2];
        String roleArn = args[3];

        PinpointClient pinpoint = PinpointClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        ImportJobResponse response = createImportSegment(pinpoint, appId, bucket,
 key, roleArn);
        System.out.println("Import job for " + bucket + " submitted.");
        System.out.println("See application " + response.applicationId() + " for
 import job status.");
        System.out.println("See application " + response.jobStatus() + " for import
 job status.");
        pinpoint.close();
    }

    public static ImportJobResponse createImportSegment(PinpointClient client,
            String appId,
            String bucket,
            String key,
            String roleArn) {

        try {
            ImportJobRequest importRequest = ImportJobRequest.builder()
                    .defineSegment(true)
                    .registerEndpoints(true)
```

```
                    .roleArn(roleArn)
                    .format(Format.JSON)
                    .s3Url("s3://" + bucket + "/" + key)
                    .build();

            CreateImportJobRequest jobRequest = CreateImportJobRequest.builder()
                    .importJobRequest(importRequest)
                    .applicationId(appId)
                    .build();

            CreateImportJobResponse jobResponse =
 client.createImportJob(jobRequest);
            return jobResponse.importJobResponse();

        } catch (PinpointException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return null;
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateImportJob」を参照してください。

`CreateSegment`

次のコード例は、`CreateSegment` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.PinpointClient;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.AttributeDimension;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.SegmentResponse;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.AttributeType;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.RecencyDimension;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.SegmentBehaviors;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.SegmentDemographics;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.SegmentLocation;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.SegmentDimensions;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.WriteSegmentRequest;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.CreateSegmentRequest;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.CreateSegmentResponse;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.PinpointException;
import java.util.HashMap;
import java.util.Map;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class CreateSegment {
        public static void main(String[] args) {
                final String usage = """

                                Usage:   <appId>

                                Where:
                                  appId - The application ID to create a segment
 for.

                                """;

                if (args.length != 1) {
                        System.out.println(usage);
                        System.exit(1);
                }

                String appId = args[0];
                PinpointClient pinpoint = PinpointClient.builder()
                                .region(Region.US_EAST_1)
                                .build();
```

```
                SegmentResponse result = createSegment(pinpoint, appId);
                System.out.println("Segment " + result.name() + " created.");
                System.out.println(result.segmentType());
                pinpoint.close();
        }

        public static SegmentResponse createSegment(PinpointClient client, String
appId) {
                try {
                        Map<String, AttributeDimension> segmentAttributes = new
HashMap<>();
                        segmentAttributes.put("Team", AttributeDimension.builder()
                                        .attributeType(AttributeType.INCLUSIVE)
                                        .values("Lakers")
                                        .build());

                        RecencyDimension recencyDimension =
RecencyDimension.builder()
                                        .duration("DAY_30")
                                        .recencyType("ACTIVE")
                                        .build();

                        SegmentBehaviors segmentBehaviors =
SegmentBehaviors.builder()
                                        .recency(recencyDimension)
                                        .build();

                        SegmentDemographics segmentDemographics =
SegmentDemographics
                                        .builder()
                                        .build();

                        SegmentLocation segmentLocation = SegmentLocation
                                        .builder()
                                        .build();

                        SegmentDimensions dimensions = SegmentDimensions
                                        .builder()
                                        .attributes(segmentAttributes)
                                        .behavior(segmentBehaviors)
                                        .demographic(segmentDemographics)
                                        .location(segmentLocation)
                                        .build();
```

```
                        WriteSegmentRequest writeSegmentRequest =
WriteSegmentRequest.builder()
                                        .name("MySegment")
                                        .dimensions(dimensions)
                                        .build();

                        CreateSegmentRequest createSegmentRequest =
CreateSegmentRequest.builder()
                                        .applicationId(appId)
                                        .writeSegmentRequest(writeSegmentRequest)
                                        .build();

                        CreateSegmentResponse createSegmentResult =
client.createSegment(createSegmentRequest);
                        System.out.println("Segment ID: " +
createSegmentResult.segmentResponse().id());
                        System.out.println("Done");
                        return createSegmentResult.segmentResponse();

                } catch (PinpointException e) {
                        System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
                        System.exit(1);
                }
                return null;
        }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateSegment」を参照してください。

`DeleteApp`

次のコード例は、`DeleteApp` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

アプリケーションを削除します。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.PinpointClient;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.DeleteAppRequest;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.DeleteAppResponse;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.PinpointException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DeleteApp {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:  <appId>

                Where:
                 appId - The ID of the application to delete.

                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String appId = args[0];
        System.out.println("Deleting an application with ID: " + appId);
        PinpointClient pinpoint = PinpointClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        deletePinApp(pinpoint, appId);
        System.out.println("Done");
        pinpoint.close();
    }

    public static void deletePinApp(PinpointClient pinpoint, String appId) {
```

```
        try {
            DeleteAppRequest appRequest = DeleteAppRequest.builder()
                    .applicationId(appId)
                    .build();

            DeleteAppResponse result = pinpoint.deleteApp(appRequest);
            String appName = result.applicationResponse().name();
            System.out.println("Application " + appName + " has been deleted.");

        } catch (PinpointException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteApp」を参照してください。

`DeleteEndpoint`

次のコード例は、`DeleteEndpoint` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

エンドポイントを削除します。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.PinpointClient;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.DeleteEndpointRequest;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.DeleteEndpointResponse;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.PinpointException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
```

```
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DeleteEndpoint {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:   <appName> <endpointId >

                Where:
                  appId - The id of the application to delete.
                  endpointId - The id of the endpoint to delete.
                """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String appId = args[0];
        String endpointId = args[1];
        System.out.println("Deleting an endpoint with id: " + endpointId);
        PinpointClient pinpoint = PinpointClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        deletePinEncpoint(pinpoint, appId, endpointId);
        pinpoint.close();
    }

    public static void deletePinEncpoint(PinpointClient pinpoint, String appId,
 String endpointId) {
        try {
            DeleteEndpointRequest appRequest = DeleteEndpointRequest.builder()
                    .applicationId(appId)
                    .endpointId(endpointId)
                    .build();

            DeleteEndpointResponse result = pinpoint.deleteEndpoint(appRequest);
            String id = result.endpointResponse().id();
            System.out.println("The deleted endpoint id  " + id);
```

```
        } catch (PinpointException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        System.out.println("Done");
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteEndpoint」を参照してください。

`GetEndpoint`

次のコード例は、`GetEndpoint` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import com.google.gson.FieldNamingPolicy;
import com.google.gson.Gson;
import com.google.gson.GsonBuilder;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.PinpointClient;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.EndpointResponse;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.GetEndpointResponse;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.PinpointException;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.GetEndpointRequest;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
```

```
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class LookUpEndpoint {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:   <appId> <endpoint>

                Where:
                  appId - The ID of the application to delete.
                  endpoint - The ID of the endpoint.\s
                  """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String appId = args[0];
        String endpoint = args[1];
        System.out.println("Looking up an endpoint point with ID: " + endpoint);
        PinpointClient pinpoint = PinpointClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        lookupPinpointEndpoint(pinpoint, appId, endpoint);
        pinpoint.close();
    }

    public static void lookupPinpointEndpoint(PinpointClient pinpoint, String appId,
 String endpoint) {
        try {
            GetEndpointRequest appRequest = GetEndpointRequest.builder()
                    .applicationId(appId)
                    .endpointId(endpoint)
                    .build();

            GetEndpointResponse result = pinpoint.getEndpoint(appRequest);
            EndpointResponse endResponse = result.endpointResponse();

            // Uses the Google Gson library to pretty print the endpoint JSON.
            Gson gson = new GsonBuilder()
                    .setFieldNamingPolicy(FieldNamingPolicy.UPPER_CAMEL_CASE)
                    .setPrettyPrinting()
```

```
                    .create();

            String endpointJson = gson.toJson(endResponse);
            System.out.println(endpointJson);

        } catch (PinpointException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        System.out.println("Done");
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetEndpoint」を参照してください。

`GetSegments`

次のコード例は、`GetSegments` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

セグメントを一覧表示します。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.PinpointClient;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.GetSegmentsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.GetSegmentsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.PinpointException;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.SegmentResponse;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
```

```
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ListSegments {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:   <appId>

                Where:
                  appId - The ID of the application that contains a segment.

                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String appId = args[0];
        PinpointClient pinpoint = PinpointClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        listSegs(pinpoint, appId);
        pinpoint.close();
    }

    public static void listSegs(PinpointClient pinpoint, String appId) {
        try {
            GetSegmentsRequest request = GetSegmentsRequest.builder()
                    .applicationId(appId)
                    .build();

            GetSegmentsResponse response = pinpoint.getSegments(request);
            List<SegmentResponse> segments = response.segmentsResponse().item();
            for (SegmentResponse segment : segments) {
                System.out
                        .println("Segement " + segment.id() + " " + segment.name() +
 " " + segment.lastModifiedDate());
            }
```

```
        } catch (PinpointException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetSegments」を参照してください。

`GetSmsChannel`

次のコード例は、`GetSmsChannel` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.PinpointClient;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.SMSChannelResponse;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.GetSmsChannelRequest;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.PinpointException;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.SMSChannelRequest;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.UpdateSmsChannelRequest;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.UpdateSmsChannelResponse;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class UpdateChannel {
```

```
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage: CreateChannel <appId>

                Where:
                  appId - The name of the application whose channel is updated.

                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String appId = args[0];
        PinpointClient pinpoint = PinpointClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        SMSChannelResponse getResponse = getSMSChannel(pinpoint, appId);
        toggleSmsChannel(pinpoint, appId, getResponse);
        pinpoint.close();
    }

    private static SMSChannelResponse getSMSChannel(PinpointClient client, String
appId) {
        try {
            GetSmsChannelRequest request = GetSmsChannelRequest.builder()
                    .applicationId(appId)
                    .build();

            SMSChannelResponse response =
client.getSmsChannel(request).smsChannelResponse();
            System.out.println("Channel state is " + response.enabled());
            return response;

        } catch (PinpointException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return null;
    }
```

```
    private static void toggleSmsChannel(PinpointClient client, String appId,
SMSChannelResponse getResponse) {
        boolean enabled = !getResponse.enabled();
        try {
            SMSChannelRequest request = SMSChannelRequest.builder()
                    .enabled(enabled)
                    .build();

            UpdateSmsChannelRequest updateRequest =
UpdateSmsChannelRequest.builder()
                    .smsChannelRequest(request)
                    .applicationId(appId)
                    .build();

            UpdateSmsChannelResponse result =
client.updateSmsChannel(updateRequest);
            System.out.println("Channel state: " +
result.smsChannelResponse().enabled());

        } catch (PinpointException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetSmsChannel」を参照してください。

`GetUserEndpoints`

次のコード例は、`GetUserEndpoints` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.PinpointClient;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.EndpointResponse;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.GetUserEndpointsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.GetUserEndpointsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.PinpointException;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ListEndpointIds {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:    <applicationId> <userId>

                Where:
                   applicationId - The ID of the Amazon Pinpoint application that
 has the endpoint.
                   userId - The user id applicable to the endpoints""";

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String applicationId = args[0];
        String userId = args[1];
        PinpointClient pinpoint = PinpointClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        listAllEndpoints(pinpoint, applicationId, userId);
        pinpoint.close();
    }

    public static void listAllEndpoints(PinpointClient pinpoint,
```

```
            String applicationId,
            String userId) {

        try {
            GetUserEndpointsRequest endpointsRequest =
 GetUserEndpointsRequest.builder()
                    .userId(userId)
                    .applicationId(applicationId)
                    .build();

            GetUserEndpointsResponse response =
 pinpoint.getUserEndpoints(endpointsRequest);
            List<EndpointResponse> endpoints = response.endpointsResponse().item();

            // Display the results.
            for (EndpointResponse endpoint : endpoints) {
                System.out.println("The channel type is: " +
 endpoint.channelType());
                System.out.println("The address is  " + endpoint.address());
            }

        } catch (PinpointException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetUserEndpoints」を参照してください。

SendMessages

次のコード例は、SendMessages を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

E メールメッセージを送信します。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.PinpointClient;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.AddressConfiguration;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.ChannelType;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.SimpleEmailPart;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.SimpleEmail;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.EmailMessage;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.DirectMessageConfiguration;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.MessageRequest;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.SendMessagesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.PinpointException;
import software.amazon.awssdk.services.pinpointemail.PinpointEmailClient;
import software.amazon.awssdk.services.pinpointemail.model.Body;
import software.amazon.awssdk.services.pinpointemail.model.Content;
import software.amazon.awssdk.services.pinpointemail.model.Destination;
import software.amazon.awssdk.services.pinpointemail.model.EmailContent;
import software.amazon.awssdk.services.pinpointemail.model.Message;
import software.amazon.awssdk.services.pinpointemail.model.SendEmailRequest;

import java.util.HashMap;
import java.util.Map;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class SendEmailMessage {

        // The character encoding the you want to use for the subject line and
```

```
        // message body of the email.
        public static String charset = "UTF-8";

    // The body of the email for recipients whose email clients support HTML
content.
    static final String body = """
        Amazon Pinpoint test (AWS SDK for Java 2.x)

        This email was sent through the Amazon Pinpoint Email API using the AWS SDK
for Java 2.x

        """;

        public static void main(String[] args) {
                final String usage = """

                                Usage:    <subject> <appId> <senderAddress>
<toAddress>

            Where:
               subject - The email subject to use.
               senderAddress - The from address. This address has to be verified in
Amazon Pinpoint in the region you're using to send email\s
               toAddress - The to address. This address has to be verified in Amazon
Pinpoint in the region you're using to send email\s
            """;

        if (args.length != 3) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String subject = args[0];
        String senderAddress = args[1];
        String toAddress = args[2];
        System.out.println("Sending a message");
        PinpointEmailClient pinpoint = PinpointEmailClient.builder()
            .region(Region.US_EAST_1)
            .build();

        sendEmail(pinpoint, subject, senderAddress, toAddress);
        System.out.println("Email was sent");
        pinpoint.close();
    }
```

```
    public static void sendEmail(PinpointEmailClient pinpointEmailClient, String
 subject, String senderAddress, String toAddress) {
        try {
            Content content = Content.builder()
                .data(body)
                .build();

            Body messageBody = Body.builder()
                .text(content)
                .build();

            Message message = Message.builder()
                .body(messageBody)
                .subject(Content.builder().data(subject).build())
                .build();

            Destination destination = Destination.builder()
                .toAddresses(toAddress)
                .build();

            EmailContent emailContent = EmailContent.builder()
                .simple(message)
                .build();

            SendEmailRequest sendEmailRequest = SendEmailRequest.builder()
                .fromEmailAddress(senderAddress)
                .destination(destination)
                .content(emailContent)
                .build();

            pinpointEmailClient.sendEmail(sendEmailRequest);
            System.out.println("Message Sent");

        } catch (PinpointException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

CC の値を使用して E メールメッセージを送信します。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.PinpointException;
import  software.amazon.awssdk.services.pinpointemail.PinpointEmailClient;
import software.amazon.awssdk.services.pinpointemail.model.Body;
import software.amazon.awssdk.services.pinpointemail.model.Content;
import software.amazon.awssdk.services.pinpointemail.model.Destination;
import software.amazon.awssdk.services.pinpointemail.model.EmailContent;
import software.amazon.awssdk.services.pinpointemail.model.Message;
import software.amazon.awssdk.services.pinpointemail.model.SendEmailRequest;
import java.util.ArrayList;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development environment,
 including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class SendEmailMessageCC {

    // The body of the email.
    static final String body = """
        Amazon Pinpoint test (AWS SDK for Java 2.x)

        This email was sent through the Amazon Pinpoint Email API using the AWS SDK
 for Java 2.x

        """;
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

            Usage:    <subject> <senderAddress> <toAddress> <ccAddress>

            Where:
               subject - The email subject to use.
               senderAddress - The from address. This address has to be verified in
 Amazon Pinpoint in the region you're using to send email\s
               toAddress - The to address. This address has to be verified in Amazon
 Pinpoint in the region you're using to send email\s
               ccAddress - The CC address.
            """;
```

```
        if (args.length != 4) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String subject = args[0];
        String senderAddress = args[1];
        String toAddress = args[2];
        String ccAddress = args[3];

        System.out.println("Sending a message");
        PinpointEmailClient pinpoint = PinpointEmailClient.builder()
            .region(Region.US_EAST_1)
            .build();

        ArrayList<String> ccList = new ArrayList<>();
        ccList.add(ccAddress);
        sendEmail(pinpoint, subject, senderAddress, toAddress, ccList);
        pinpoint.close();
    }

    public static void sendEmail(PinpointEmailClient pinpointEmailClient, String
subject, String senderAddress, String toAddress, ArrayList<String> ccAddresses) {
        try {
            Content content = Content.builder()
                .data(body)
                .build();

            Body messageBody = Body.builder()
                .text(content)
                .build();

            Message message = Message.builder()
                .body(messageBody)
                .subject(Content.builder().data(subject).build())
                .build();

            Destination destination = Destination.builder()
                .toAddresses(toAddress)
                .ccAddresses(ccAddresses)
                .build();

            EmailContent emailContent = EmailContent.builder()
                .simple(message)
```

```
                .build();

            SendEmailRequest sendEmailRequest = SendEmailRequest.builder()
                .fromEmailAddress(senderAddress)
                .destination(destination)
                .content(emailContent)
                .build();

            pinpointEmailClient.sendEmail(sendEmailRequest);
            System.out.println("Message Sent");

        } catch (PinpointException e) {
            // Handle exception
            e.printStackTrace();
        }
    }
}
```

SMS メッセージを送信します。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.PinpointClient;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.DirectMessageConfiguration;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.SMSMessage;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.AddressConfiguration;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.ChannelType;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.MessageRequest;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.SendMessagesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.SendMessagesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.MessageResponse;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.PinpointException;
import java.util.HashMap;
import java.util.Map;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
```

```
public class SendMessage {

        // The type of SMS message that you want to send. If you plan to send
        // time-sensitive content, specify TRANSACTIONAL. If you plan to send
        // marketing-related content, specify PROMOTIONAL.
        public static String messageType = "TRANSACTIONAL";

        // The registered keyword associated with the originating short code.
        public static String registeredKeyword = "myKeyword";

        // The sender ID to use when sending the message. Support for sender ID
        // varies by country or region. For more information, see
        // https://docs.aws.amazon.com/pinpoint/latest/userguide/channels-sms-
countries.html
        public static String senderId = "MySenderID";

        public static void main(String[] args) {
                final String usage = """

                                    Usage:   <message> <appId> <originationNumber>
 <destinationNumber>\s

                                    Where:
                                      message - The body of the message to send.
                                      appId - The Amazon Pinpoint project/application ID
 to use when you send this message.
                                      originationNumber - The phone number or short code
 that you specify has to be associated with your Amazon Pinpoint account. For best
 results, specify long codes in E.164 format (for example, +1-555-555-5654).
                                      destinationNumber - The recipient's phone number.
 For best results, you should specify the phone number in E.164 format (for example,
 +1-555-555-5654).\s
                                      """;

                if (args.length != 4) {
                        System.out.println(usage);
                        System.exit(1);
                }

                String message = args[0];
                String appId = args[1];
                String originationNumber = args[2];
                String destinationNumber = args[3];
                System.out.println("Sending a message");
```

```
                PinpointClient pinpoint = PinpointClient.builder()
                                .region(Region.US_EAST_1)
                                .build();

                sendSMSMessage(pinpoint, message, appId, originationNumber,
destinationNumber);
                pinpoint.close();
        }

        public static void sendSMSMessage(PinpointClient pinpoint, String message,
String appId,
                        String originationNumber,
                        String destinationNumber) {
                try {
                        Map<String, AddressConfiguration> addressMap = new
HashMap<String, AddressConfiguration>();
                        AddressConfiguration addConfig =
AddressConfiguration.builder()
                                        .channelType(ChannelType.SMS)
                                        .build();

                        addressMap.put(destinationNumber, addConfig);
                        SMSMessage smsMessage = SMSMessage.builder()
                                        .body(message)
                                        .messageType(messageType)
                                        .originationNumber(originationNumber)
                                        .senderId(senderId)
                                        .keyword(registeredKeyword)
                                        .build();

                        // Create a DirectMessageConfiguration object.
                        DirectMessageConfiguration direct =
DirectMessageConfiguration.builder()
                                        .smsMessage(smsMessage)
                                        .build();

                        MessageRequest msgReq = MessageRequest.builder()
                                        .addresses(addressMap)
                                        .messageConfiguration(direct)
                                        .build();

                        // create a SendMessagesRequest object
                        SendMessagesRequest request = SendMessagesRequest.builder()
                                        .applicationId(appId)
```

```
                                        .messageRequest(msgReq)
                                        .build();

                        SendMessagesResponse response =
 pinpoint.sendMessages(request);
                        MessageResponse msg1 = response.messageResponse();
                        Map map1 = msg1.result();

                        // Write out the result of sendMessage.
                        map1.forEach((k, v) -> System.out.println((k + ":" + v)));

                } catch (PinpointException e) {
                        System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
                        System.exit(1);
                }
        }
}
```

SMS メッセージをバッチ送信します。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.PinpointClient;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.DirectMessageConfiguration;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.SMSMessage;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.AddressConfiguration;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.ChannelType;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.MessageRequest;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.SendMessagesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.SendMessagesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.MessageResponse;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.PinpointException;

import java.util.HashMap;
import java.util.Map;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
```

```
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class SendMessageBatch {

    // The type of SMS message that you want to send. If you plan to send
    // time-sensitive content, specify TRANSACTIONAL. If you plan to send
    // marketing-related content, specify PROMOTIONAL.
    public static String messageType = "TRANSACTIONAL";

    // The registered keyword associated with the originating short code.
    public static String registeredKeyword = "myKeyword";

    // The sender ID to use when sending the message. Support for sender ID
    // varies by country or region. For more information, see
    // https://docs.aws.amazon.com/pinpoint/latest/userguide/channels-sms-
countries.html
    public static String senderId = "MySenderID";

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:   <message> <appId> <originationNumber> <destinationNumber>
 <destinationNumber1>\s

                Where:
                  message - The body of the message to send.
                  appId - The Amazon Pinpoint project/application ID to use when you
 send this message.
                  originationNumber - The phone number or short code that you
 specify has to be associated with your Amazon Pinpoint account. For best results,
 specify long codes in E.164 format (for example, +1-555-555-5654).
                  destinationNumber - The recipient's phone number.  For best
 results, you should specify the phone number in E.164 format (for example,
 +1-555-555-5654).
                  destinationNumber1 - The second recipient's phone number.  For
 best results, you should specify the phone number in E.164 format (for example,
 +1-555-555-5654).\s
                """;

        if (args.length != 5) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }
```

```
        String message = args[0];
        String appId = args[1];
        String originationNumber = args[2];
        String destinationNumber = args[3];
        String destinationNumber1 = args[4];
        System.out.println("Sending a message");
        PinpointClient pinpoint = PinpointClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        sendSMSMessage(pinpoint, message, appId, originationNumber,
destinationNumber, destinationNumber1);
        pinpoint.close();
    }

    public static void sendSMSMessage(PinpointClient pinpoint, String message,
String appId,
                                      String originationNumber,
                                      String destinationNumber, String
destinationNumber1) {
        try {
            Map<String, AddressConfiguration> addressMap = new HashMap<String,
AddressConfiguration>();
            AddressConfiguration addConfig = AddressConfiguration.builder()
                    .channelType(ChannelType.SMS)
                    .build();

            // Add an entry to the Map object for each number to whom you want to
send a
            // message.
            addressMap.put(destinationNumber, addConfig);
            addressMap.put(destinationNumber1, addConfig);
            SMSMessage smsMessage = SMSMessage.builder()
                    .body(message)
                    .messageType(messageType)
                    .originationNumber(originationNumber)
                    .senderId(senderId)
                    .keyword(registeredKeyword)
                    .build();

            // Create a DirectMessageConfiguration object.
            DirectMessageConfiguration direct = DirectMessageConfiguration.builder()
                    .smsMessage(smsMessage)
                    .build();
```

```
            MessageRequest msgReq = MessageRequest.builder()
                    .addresses(addressMap)
                    .messageConfiguration(direct)
                    .build();

            // Create a SendMessagesRequest object.
            SendMessagesRequest request = SendMessagesRequest.builder()
                    .applicationId(appId)
                    .messageRequest(msgReq)
                    .build();

            SendMessagesResponse response = pinpoint.sendMessages(request);
            MessageResponse msg1 = response.messageResponse();
            Map map1 = msg1.result();

            // Write out the result of sendMessage.
            map1.forEach((k, v) -> System.out.println((k + ":" + v)));

        } catch (PinpointException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「SendMessage」を参照してください。

`UpdateEndpoint`

次のコード例は、`UpdateEndpoint` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.PinpointClient;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.EndpointResponse;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.EndpointRequest;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.UpdateEndpointRequest;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.UpdateEndpointResponse;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.GetEndpointRequest;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.GetEndpointResponse;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.PinpointException;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.EndpointDemographic;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.EndpointLocation;
import software.amazon.awssdk.services.pinpoint.model.EndpointUser;
import java.text.DateFormat;
import java.text.SimpleDateFormat;
import java.util.List;
import java.util.UUID;
import java.util.ArrayList;
import java.util.HashMap;
import java.util.Map;
import java.util.Date;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class UpdateEndpoint {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:  <appId>

                Where:
                  appId - The ID of the application to create an endpoint for.

                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
```

```
        }

        String appId = args[0];
        PinpointClient pinpoint = PinpointClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        EndpointResponse response = createEndpoint(pinpoint, appId);
        System.out.println("Got Endpoint: " + response.id());
        pinpoint.close();
    }

    public static EndpointResponse createEndpoint(PinpointClient client, String
appId) {
        String endpointId = UUID.randomUUID().toString();
        System.out.println("Endpoint ID: " + endpointId);

        try {
            EndpointRequest endpointRequest = createEndpointRequestData();
            UpdateEndpointRequest updateEndpointRequest =
UpdateEndpointRequest.builder()
                    .applicationId(appId)
                    .endpointId(endpointId)
                    .endpointRequest(endpointRequest)
                    .build();

            UpdateEndpointResponse updateEndpointResponse =
client.updateEndpoint(updateEndpointRequest);
            System.out.println("Update Endpoint Response: " +
updateEndpointResponse.messageBody());

            GetEndpointRequest getEndpointRequest = GetEndpointRequest.builder()
                    .applicationId(appId)
                    .endpointId(endpointId)
                    .build();

            GetEndpointResponse getEndpointResponse =
client.getEndpoint(getEndpointRequest);
            System.out.println(getEndpointResponse.endpointResponse().address());

System.out.println(getEndpointResponse.endpointResponse().channelType());

System.out.println(getEndpointResponse.endpointResponse().applicationId());
```

```
System.out.println(getEndpointResponse.endpointResponse().endpointStatus());
            System.out.println(getEndpointResponse.endpointResponse().requestId());
            System.out.println(getEndpointResponse.endpointResponse().user());

            return getEndpointResponse.endpointResponse();

        } catch (PinpointException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return null;
    }

    private static EndpointRequest createEndpointRequestData() {
        try {
            List<String> favoriteTeams = new ArrayList<>();
            favoriteTeams.add("Lakers");
            favoriteTeams.add("Warriors");
            HashMap<String, List<String>> customAttributes = new HashMap<>();
            customAttributes.put("team", favoriteTeams);

            EndpointDemographic demographic = EndpointDemographic.builder()
                    .appVersion("1.0")
                    .make("apple")
                    .model("iPhone")
                    .modelVersion("7")
                    .platform("ios")
                    .platformVersion("10.1.1")
                    .timezone("America/Los_Angeles")
                    .build();

            EndpointLocation location = EndpointLocation.builder()
                    .city("Los Angeles")
                    .country("US")
                    .latitude(34.0)
                    .longitude(-118.2)
                    .postalCode("90068")
                    .region("CA")
                    .build();

            Map<String, Double> metrics = new HashMap<>();
            metrics.put("health", 100.00);
            metrics.put("luck", 75.00);
```

```
            EndpointUser user = EndpointUser.builder()
                    .userId(UUID.randomUUID().toString())
                    .build();

            DateFormat df = new SimpleDateFormat("yyyy-MM-dd'T'HH:mm'Z'"); // Quoted
 "Z" to indicate UTC, no timezone
                                                                           // offset
            String nowAsISO = df.format(new Date());

            return EndpointRequest.builder()
                    .address(UUID.randomUUID().toString())
                    .attributes(customAttributes)
                    .channelType("APNS")
                    .demographic(demographic)
                    .effectiveDate(nowAsISO)
                    .location(location)
                    .metrics(metrics)
                    .optOut("NONE")
                    .requestId(UUID.randomUUID().toString())
                    .user(user)
                    .build();

        } catch (PinpointException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return null;
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「UpdateEndpoint」を参照してください。

SDK for Java 2.x を使用した Amazon Pinpoint SMS および音声 API の例

次のコード例は、Amazon Pinpoint SMS および音声 API AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- アクション

アクション

`SendVoiceMessage`

次のコード例は、`SendVoiceMessage` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.core.client.config.ClientOverrideConfiguration;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.pinpointsmsvoice.PinpointSmsVoiceClient;
import software.amazon.awssdk.services.pinpointsmsvoice.model.SSMLMessageType;
import software.amazon.awssdk.services.pinpointsmsvoice.model.VoiceMessageContent;
import
 software.amazon.awssdk.services.pinpointsmsvoice.model.SendVoiceMessageRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.pinpointsmsvoice.model.PinpointSmsVoiceException;

import java.util.ArrayList;
import java.util.HashMap;
import java.util.List;
import java.util.Map;

/**
```

```
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class SendVoiceMessage {

    // The Amazon Polly voice that you want to use to send the message. For a list
    // of voices, see https://docs.aws.amazon.com/polly/latest/dg/voicelist.html
    static final String voiceName = "Matthew";

    // The language to use when sending the message. For a list of supported
    // languages, see
    // https://docs.aws.amazon.com/polly/latest/dg/SupportedLanguage.html
    static final String languageCode = "en-US";

    // The content of the message. This example uses SSML to customize and control
    // certain aspects of the message, such as by adding pauses and changing
    // phonation. The message can't contain any line breaks.
    static final String ssmlMessage = "<speak>This is a test message sent from "
            + "<emphasis>Amazon Pinpoint</emphasis> "
            + "using the <break strength='weak'/>AWS "
            + "SDK for Java. "
            + "<amazon:effect phonation='soft'>Thank "
            + "you for listening.</amazon:effect></speak>";

    public static void main(String[] args) {

        final String usage = """
                Usage:   <originationNumber> <destinationNumber>\s

                Where:
                  originationNumber - The phone number or short code that you
 specify has to be associated with your Amazon Pinpoint account. For best results,
 specify long codes in E.164 format (for example, +1-555-555-5654).
                  destinationNumber - The recipient's phone number.  For best
 results, you should specify the phone number in E.164 format (for example,
 +1-555-555-5654).\s
                """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
```

```
            System.exit(1);
        }
        String originationNumber = args[0];
        String destinationNumber = args[1];
        System.out.println("Sending a voice message");

        // Set the content type to application/json.
        List<String> listVal = new ArrayList<>();
        listVal.add("application/json");
        Map<String, List<String>> values = new HashMap<>();
        values.put("Content-Type", listVal);

        ClientOverrideConfiguration config2 = ClientOverrideConfiguration.builder()
                .headers(values)
                .build();

        PinpointSmsVoiceClient client = PinpointSmsVoiceClient.builder()
                .overrideConfiguration(config2)
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        sendVoiceMsg(client, originationNumber, destinationNumber);
        client.close();
    }

    public static void sendVoiceMsg(PinpointSmsVoiceClient client, String
originationNumber,
                                    String destinationNumber) {
        try {
            SSMLMessageType ssmlMessageType = SSMLMessageType.builder()
                    .languageCode(languageCode)
                    .text(ssmlMessage)
                    .voiceId(voiceName)
                    .build();

            VoiceMessageContent content = VoiceMessageContent.builder()
                    .ssmlMessage(ssmlMessageType)
                    .build();

            SendVoiceMessageRequest voiceMessageRequest =
SendVoiceMessageRequest.builder()
                    .destinationPhoneNumber(destinationNumber)
                    .originationPhoneNumber(originationNumber)
                    .content(content)
```

```
                    .build();

            client.sendVoiceMessage(voiceMessageRequest);
            System.out.println("The message was sent successfully.");

        } catch (PinpointSmsVoiceException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「SendVoiceMessage」を参照してください。

SDK for Java 2.x を使用する Amazon Polly の例

次のコード例は、Amazon Polly AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- アクション
- シナリオ

アクション

`DescribeVoices`

次のコード例は、`DescribeVoices` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.polly.PollyClient;
import software.amazon.awssdk.services.polly.model.DescribeVoicesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.polly.model.DescribeVoicesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.polly.model.PollyException;
import software.amazon.awssdk.services.polly.model.Voice;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DescribeVoicesSample {
    public static void main(String args[]) {
        PollyClient polly = PollyClient.builder()
                .region(Region.US_WEST_2)
                .build();

        describeVoice(polly);
        polly.close();
    }

    public static void describeVoice(PollyClient polly) {
        try {
            DescribeVoicesRequest voicesRequest = DescribeVoicesRequest.builder()
                    .languageCode("en-US")
                    .build();

            DescribeVoicesResponse enUsVoicesResult =
 polly.describeVoices(voicesRequest);
```

```
            List<Voice> voices = enUsVoicesResult.voices();
            for (Voice myVoice : voices) {
                System.out.println("The ID of the voice is " + myVoice.id());
                System.out.println("The gender of the voice is " +
 myVoice.gender());
            }

        } catch (PollyException e) {
            System.err.println("Exception caught: " + e);
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeVoices」を参照してください。

`ListLexicons`

次のコード例は、`ListLexicons` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.polly.PollyClient;
import software.amazon.awssdk.services.polly.model.ListLexiconsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.polly.model.ListLexiconsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.polly.model.LexiconDescription;
import software.amazon.awssdk.services.polly.model.PollyException;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
```

```
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ListLexicons {
    public static void main(String args[]) {
        PollyClient polly = PollyClient.builder()
                .region(Region.US_WEST_2)
                .build();

        listLexicons(polly);
        polly.close();
    }

    public static void listLexicons(PollyClient client) {
        try {
            ListLexiconsRequest listLexiconsRequest = ListLexiconsRequest.builder()
                    .build();

            ListLexiconsResponse listLexiconsResult =
 client.listLexicons(listLexiconsRequest);
            List<LexiconDescription> lexiconDescription =
 listLexiconsResult.lexicons();
            for (LexiconDescription lexDescription : lexiconDescription) {
                System.out.println("The name of the Lexicon is " +
 lexDescription.name());
            }

        } catch (PollyException e) {
            System.err.println("Exception caught: " + e);
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListLexicons」を参照してください。

SynthesizeSpeech

次のコード例は、SynthesizeSpeech を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import javazoom.jl.decoder.JavaLayerException;
import software.amazon.awssdk.core.ResponseInputStream;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.polly.PollyClient;
import software.amazon.awssdk.services.polly.model.DescribeVoicesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.polly.model.Voice;
import software.amazon.awssdk.services.polly.model.DescribeVoicesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.polly.model.OutputFormat;
import software.amazon.awssdk.services.polly.model.PollyException;
import software.amazon.awssdk.services.polly.model.SynthesizeSpeechRequest;
import software.amazon.awssdk.services.polly.model.SynthesizeSpeechResponse;
import java.io.IOException;
import java.io.InputStream;
import javazoom.jl.player.advanced.AdvancedPlayer;
import javazoom.jl.player.advanced.PlaybackEvent;
import javazoom.jl.player.advanced.PlaybackListener;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class PollyDemo {
    private static final String SAMPLE = "Congratulations. You have successfully
 built this working demo " +
            " of Amazon Polly in Java Version 2. Have fun building voice enabled
 apps with Amazon Polly (that's me!), and always "
            +
            " look at the AWS website for tips and tricks on using Amazon Polly and
 other great services from AWS";
```

```
    public static void main(String args[]) {
        PollyClient polly = PollyClient.builder()
                .region(Region.US_WEST_2)
                .build();

        talkPolly(polly);
        polly.close();
    }

    public static void talkPolly(PollyClient polly) {
        try {
            DescribeVoicesRequest describeVoiceRequest =
DescribeVoicesRequest.builder()
                    .engine("standard")
                    .build();

            DescribeVoicesResponse describeVoicesResult =
polly.describeVoices(describeVoiceRequest);
            Voice voice = describeVoicesResult.voices().stream()
                    .filter(v -> v.name().equals("Joanna"))
                    .findFirst()
                    .orElseThrow(() -> new RuntimeException("Voice not found"));
            InputStream stream = synthesize(polly, SAMPLE, voice, OutputFormat.MP3);
            AdvancedPlayer player = new AdvancedPlayer(stream,

javazoom.jl.player.FactoryRegistry.systemRegistry().createAudioDevice());
            player.setPlayBackListener(new PlaybackListener() {
                public void playbackStarted(PlaybackEvent evt) {
                    System.out.println("Playback started");
                    System.out.println(SAMPLE);
                }

                public void playbackFinished(PlaybackEvent evt) {
                    System.out.println("Playback finished");
                }
            });

            // play it!
            player.play();

        } catch (PollyException | JavaLayerException | IOException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
```

```
    }

    public static InputStream synthesize(PollyClient polly, String text, Voice
 voice, OutputFormat format)
            throws IOException {
        SynthesizeSpeechRequest synthReq = SynthesizeSpeechRequest.builder()
                .text(text)
                .voiceId(voice.id())
                .outputFormat(format)
                .build();

        ResponseInputStream<SynthesizeSpeechResponse> synthRes =
 polly.synthesizeSpeech(synthReq);
        return synthRes;
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「SynthesizeSpeech」を参照してください。

シナリオ

顧客からのフィードバックを分析するアプリケーションの作成

次のコード例は、顧客のコメントカードを分析し、元の言語から翻訳し、顧客の感情を判断して、翻訳されたテキストから音声ファイルを生成するアプリケーションの作成方法を示しています。

SDK for Java 2.x

このサンプルアプリケーションは、顧客フィードバックカードを分析し、保存します。具体的には、ニューヨーク市の架空のホテルのニーズを満たします。このホテルでは、お客様からのフィードバックをさまざまな言語で書かれた実際のコメントカードの形で受け取ります。そのフィードバックは、ウェブクライアントを通じてアプリにアップロードされます。コメントカードの画像をアップロードされると、次の手順が発生します。

- テキストは Amazon Textract を使用して、画像から抽出されます。
- Amazon Comprehend は、抽出したテキストの感情とその言語を分析します。
- 抽出されたテキストは、Amazon Translate を使用して英語に翻訳されます。
- Amazon Polly は抽出したテキストから音声ファイルを合成します。

完全なアプリは AWS CDK を使用してデプロイすることができます。ソースコードとデプロイ手順については、GitHub のプロジェクトを参照してください。

この例で使用されているサービス

- Amazon Comprehend
- Lambda
- Amazon Polly
- Amazon Textract
- Amazon Translate

SDK for Java 2.x を使用する Amazon RDS の例

次のコード例は、Amazon RDS AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- はじめに
- 基本
- アクション
- シナリオ
- サーバーレスサンプル

はじめに

Hello Amazon RDS

次のコード例は、Amazon RDS の使用を開始する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.rds.RdsClient;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.DescribeDbInstancesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.DBInstance;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.RdsException;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DescribeDBInstances {

    public static void main(String[] args) {
        Region region = Region.US_EAST_1;
        RdsClient rdsClient = RdsClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        describeInstances(rdsClient);
        rdsClient.close();
    }

    public static void describeInstances(RdsClient rdsClient) {
```

```
        try {
            DescribeDbInstancesResponse response = rdsClient.describeDBInstances();
            List<DBInstance> instanceList = response.dbInstances();
            for (DBInstance instance : instanceList) {
                System.out.println("Instance ARN is: " + instance.dbInstanceArn());
                System.out.println("The Engine is " + instance.engine());
                System.out.println("Connection endpoint is" +
 instance.endpoint().address());
            }

        } catch (RdsException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeDBInstances」を参照してください。

基本

基本を学ぶ

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- カスタム DB パラメータグループを作成し、パラメータ値を設定します。
- パラメータグループを使用するように設定した DB インスタンスを作成します。DB インスタンスにはデータベースも含まれています。
- インスタンスのスナップショットを取得します。
- インスタンスとパラメータグループを削除します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

複数のオペレーションを実行します。

```
import com.google.gson.Gson;
import
 software.amazon.awssdk.auth.credentials.EnvironmentVariableCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.rds.RdsClient;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.CreateDbInstanceRequest;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.CreateDbInstanceResponse;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.CreateDbParameterGroupResponse;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.CreateDbSnapshotRequest;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.CreateDbSnapshotResponse;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.DBEngineVersion;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.DBInstance;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.DBParameterGroup;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.DBSnapshot;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.DeleteDbInstanceRequest;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.DeleteDbInstanceResponse;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.DescribeDbEngineVersionsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.DescribeDbEngineVersionsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.DescribeDbInstancesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.DescribeDbInstancesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.DescribeDbParameterGroupsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.DescribeDbParametersResponse;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.DescribeDbSnapshotsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.DescribeDbSnapshotsResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.rds.model.DescribeOrderableDbInstanceOptionsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.ModifyDbParameterGroupResponse;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.OrderableDBInstanceOption;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.Parameter;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.RdsException;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.CreateDbParameterGroupRequest;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.DescribeDbParameterGroupsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.DescribeDbParametersRequest;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.ModifyDbParameterGroupRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.rds.model.DescribeOrderableDbInstanceOptionsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.DeleteDbParameterGroupRequest;
import software.amazon.awssdk.services.secretsmanager.SecretsManagerClient;
import software.amazon.awssdk.services.secretsmanager.model.GetSecretValueRequest;
import software.amazon.awssdk.services.secretsmanager.model.GetSecretValueResponse;
import java.util.ArrayList;
import java.util.List;
```

```
/**
 * Before running this Java (v2) code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 *
 * This example requires an AWS Secrets Manager secret that contains the
 * database credentials. If you do not create a
 * secret, this example will not work. For details, see:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/secretsmanager/latest/userguide/integrating_how-
services-use-secrets_RS.html
 *
 * This Java example performs these tasks:
 *
 * 1. Returns a list of the available DB engines.
 * 2. Selects an engine family and create a custom DB parameter group.
 * 3. Gets the parameter groups.
 * 4. Gets parameters in the group.
 * 5. Modifies the auto_increment_offset parameter.
 * 6. Gets and displays the updated parameters.
 * 7. Gets a list of allowed engine versions.
 * 8. Gets a list of micro instance classes available for the selected engine.
 * 9. Creates an RDS database instance that contains a MySql database and uses
 * the parameter group.
 * 10. Waits for the DB instance to be ready and prints out the connection
 * endpoint value.
 * 11. Creates a snapshot of the DB instance.
 * 12. Waits for an RDS DB snapshot to be ready.
 * 13. Deletes the RDS DB instance.
 * 14. Deletes the parameter group.
 */
public class RDSScenario {
    public static long sleepTime = 20;
    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");

    public static void main(String[] args) throws InterruptedException {
        final String usage = """

                Usage:
```

```
                    <dbGroupName> <dbParameterGroupFamily> <dbInstanceIdentifier>
<dbName> <dbSnapshotIdentifier> <secretName>

                Where:
                    dbGroupName - The database group name.\s
                    dbParameterGroupFamily - The database parameter group name (for
example, mysql8.0).
                    dbInstanceIdentifier - The database instance identifier\s
                    dbName - The database name.\s
                    dbSnapshotIdentifier - The snapshot identifier.\s
                    secretName - The name of the AWS Secrets Manager secret that
contains the database credentials"
                """;

        if (args.length != 6) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String dbGroupName = args[0];
        String dbParameterGroupFamily = args[1];
        String dbInstanceIdentifier = args[2];
        String dbName = args[3];
        String dbSnapshotIdentifier = args[4];
        String secretName = args[5];

        Gson gson = new Gson();
        User user = gson.fromJson(String.valueOf(getSecretValues(secretName)),
User.class);
        String masterUsername = user.getUsername();
        String masterUserPassword = user.getPassword();

        Region region = Region.US_WEST_2;
        RdsClient rdsClient = RdsClient.builder()
                .region(region)
                .build();
        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("Welcome to the Amazon RDS example scenario.");
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("1. Return a list of the available DB engines");
        describeDBEngines(rdsClient);
        System.out.println(DASHES);
```

```
        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("2. Create a custom parameter group");
        createDBParameterGroup(rdsClient, dbGroupName, dbParameterGroupFamily);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("3. Get the parameter group");
        describeDbParameterGroups(rdsClient, dbGroupName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("4. Get the parameters in the group");
        describeDbParameters(rdsClient, dbGroupName, 0);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("5. Modify the auto_increment_offset parameter");
        modifyDBParas(rdsClient, dbGroupName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("6. Display the updated value");
        describeDbParameters(rdsClient, dbGroupName, -1);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("7. Get a list of allowed engine versions");
        getAllowedEngines(rdsClient, dbParameterGroupFamily);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("8. Get a list of micro instance classes available for
the selected engine");
        getMicroInstances(rdsClient);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println(
                "9. Create an RDS database instance that contains a MySql database
and uses the parameter group");
        String dbARN = createDatabaseInstance(rdsClient, dbGroupName,
dbInstanceIdentifier, dbName, masterUsername,
                masterUserPassword);
```

```
        System.out.println("The ARN of the new database is " + dbARN);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("10. Wait for DB instance to be ready");
        waitForInstanceReady(rdsClient, dbInstanceIdentifier);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("11. Create a snapshot of the DB instance");
        createSnapshot(rdsClient, dbInstanceIdentifier, dbSnapshotIdentifier);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("12. Wait for DB snapshot to be ready");
        waitForSnapshotReady(rdsClient, dbInstanceIdentifier, dbSnapshotIdentifier);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("13. Delete the DB instance");
        deleteDatabaseInstance(rdsClient, dbInstanceIdentifier);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("14. Delete the parameter group");
        deleteParaGroup(rdsClient, dbGroupName, dbARN);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("The Scenario has successfully completed.");
        System.out.println(DASHES);

        rdsClient.close();
    }

    private static SecretsManagerClient getSecretClient() {
        Region region = Region.US_WEST_2;
        return SecretsManagerClient.builder()
            .region(region)
            .build();
    }

    public static String getSecretValues(String secretName) {
        SecretsManagerClient secretClient = getSecretClient();
```

```
        GetSecretValueRequest valueRequest = GetSecretValueRequest.builder()
                .secretId(secretName)
                .build();

        GetSecretValueResponse valueResponse =
secretClient.getSecretValue(valueRequest);
        return valueResponse.secretString();
    }

    // Delete the parameter group after database has been deleted.
    // An exception is thrown if you attempt to delete the para group while database
    // exists.
    public static void deleteParaGroup(RdsClient rdsClient, String dbGroupName,
String dbARN)
            throws InterruptedException {
        try {
            boolean isDataDel = false;
            boolean didFind;
            String instanceARN;

            // Make sure that the database has been deleted.
            while (!isDataDel) {
                DescribeDbInstancesResponse response =
rdsClient.describeDBInstances();
                List<DBInstance> instanceList = response.dbInstances();
                int listSize = instanceList.size();
                didFind = false;
                int index = 1;
                for (DBInstance instance : instanceList) {
                    instanceARN = instance.dbInstanceArn();
                    if (instanceARN.compareTo(dbARN) == 0) {
                        System.out.println(dbARN + " still exists");
                        didFind = true;
                    }
                    if ((index == listSize) && (!didFind)) {
                        // Went through the entire list and did not find the
database ARN.
                        isDataDel = true;
                    }
                    Thread.sleep(sleepTime * 1000);
                    index++;
                }
            }
```

```
            // Delete the para group.
            DeleteDbParameterGroupRequest parameterGroupRequest =
DeleteDbParameterGroupRequest.builder()
                    .dbParameterGroupName(dbGroupName)
                    .build();

            rdsClient.deleteDBParameterGroup(parameterGroupRequest);
            System.out.println(dbGroupName + " was deleted.");

        } catch (RdsException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    // Delete the DB instance.
    public static void deleteDatabaseInstance(RdsClient rdsClient, String
dbInstanceIdentifier) {
        try {
            DeleteDbInstanceRequest deleteDbInstanceRequest =
DeleteDbInstanceRequest.builder()
                    .dbInstanceIdentifier(dbInstanceIdentifier)
                    .deleteAutomatedBackups(true)
                    .skipFinalSnapshot(true)
                    .build();

            DeleteDbInstanceResponse response =
rdsClient.deleteDBInstance(deleteDbInstanceRequest);
            System.out.print("The status of the database is " +
response.dbInstance().dbInstanceStatus());

        } catch (RdsException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    // Waits until the snapshot instance is available.
    public static void waitForSnapshotReady(RdsClient rdsClient, String
dbInstanceIdentifier,
            String dbSnapshotIdentifier) {
        try {
            boolean snapshotReady = false;
            String snapshotReadyStr;
```

```
            System.out.println("Waiting for the snapshot to become available.");

            DescribeDbSnapshotsRequest snapshotsRequest =
DescribeDbSnapshotsRequest.builder()
                    .dbSnapshotIdentifier(dbSnapshotIdentifier)
                    .dbInstanceIdentifier(dbInstanceIdentifier)
                    .build();

            while (!snapshotReady) {
                DescribeDbSnapshotsResponse response =
rdsClient.describeDBSnapshots(snapshotsRequest);
                List<DBSnapshot> snapshotList = response.dbSnapshots();
                for (DBSnapshot snapshot : snapshotList) {
                    snapshotReadyStr = snapshot.status();
                    if (snapshotReadyStr.contains("available")) {
                        snapshotReady = true;
                    } else {
                        System.out.print(".");
                        Thread.sleep(sleepTime * 1000);
                    }
                }
            }

            System.out.println("The Snapshot is available!");
        } catch (RdsException | InterruptedException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    // Create an Amazon RDS snapshot.
    public static void createSnapshot(RdsClient rdsClient, String
dbInstanceIdentifier, String dbSnapshotIdentifier) {
        try {
            CreateDbSnapshotRequest snapshotRequest =
CreateDbSnapshotRequest.builder()
                    .dbInstanceIdentifier(dbInstanceIdentifier)
                    .dbSnapshotIdentifier(dbSnapshotIdentifier)
                    .build();

            CreateDbSnapshotResponse response =
rdsClient.createDBSnapshot(snapshotRequest);
            System.out.println("The Snapshot id is " +
response.dbSnapshot().dbiResourceId());
```

```
        } catch (RdsException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    // Waits until the database instance is available.
    public static void waitForInstanceReady(RdsClient rdsClient, String
dbInstanceIdentifier) {
        boolean instanceReady = false;
        String instanceReadyStr;
        System.out.println("Waiting for instance to become available.");
        try {
            DescribeDbInstancesRequest instanceRequest =
DescribeDbInstancesRequest.builder()
                    .dbInstanceIdentifier(dbInstanceIdentifier)
                    .build();

            String endpoint = "";
            while (!instanceReady) {
                DescribeDbInstancesResponse response =
rdsClient.describeDBInstances(instanceRequest);
                List<DBInstance> instanceList = response.dbInstances();
                for (DBInstance instance : instanceList) {
                    instanceReadyStr = instance.dbInstanceStatus();
                    if (instanceReadyStr.contains("available")) {
                        endpoint = instance.endpoint().address();
                        instanceReady = true;
                    } else {
                        System.out.print(".");
                        Thread.sleep(sleepTime * 1000);
                    }
                }
            }
            System.out.println("Database instance is available! The connection
endpoint is " + endpoint);

        } catch (RdsException | InterruptedException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

```
   // Create a database instance and return the ARN of the database.
   public static String createDatabaseInstance(RdsClient rdsClient,
           String dbGroupName,
           String dbInstanceIdentifier,
           String dbName,
           String userName,
           String userPassword) {

       try {
           CreateDbInstanceRequest instanceRequest =
CreateDbInstanceRequest.builder()
               .dbInstanceIdentifier(dbInstanceIdentifier)
               .allocatedStorage(100)
               .dbName(dbName)
               .engine("mysql")
               .dbInstanceClass("db.t3.medium") // Updated to a supported class
               .engineVersion("8.0.32")         // Updated to a supported version
               .storageType("gp2")             // Changed to General Purpose SSD
(gp2)
               .masterUsername(userName)
               .masterUserPassword(userPassword)
               .build();

           CreateDbInstanceResponse response =
rdsClient.createDBInstance(instanceRequest);
           System.out.print("The status is " +
response.dbInstance().dbInstanceStatus());
           return response.dbInstance().dbInstanceArn();

       } catch (RdsException e) {
           System.out.println(e.getLocalizedMessage());
           System.exit(1);
       }

       return "";
   }

   // Get a list of micro instances.
   public static void getMicroInstances(RdsClient rdsClient) {
       try {
           DescribeOrderableDbInstanceOptionsRequest dbInstanceOptionsRequest =
DescribeOrderableDbInstanceOptionsRequest
                   .builder()
                   .engine("mysql")
```

```
                    .build();

            DescribeOrderableDbInstanceOptionsResponse response = rdsClient
                    .describeOrderableDBInstanceOptions(dbInstanceOptionsRequest);
            List<OrderableDBInstanceOption> orderableDBInstances =
response.orderableDBInstanceOptions();
            for (OrderableDBInstanceOption dbInstanceOption : orderableDBInstances)
{
                System.out.println("The engine version is " +
dbInstanceOption.engineVersion());
                System.out.println("The engine description is " +
dbInstanceOption.engine());
            }

        } catch (RdsException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    // Get a list of allowed engine versions.
    public static void getAllowedEngines(RdsClient rdsClient, String
dbParameterGroupFamily) {
        try {
            DescribeDbEngineVersionsRequest versionsRequest =
DescribeDbEngineVersionsRequest.builder()
                    .dbParameterGroupFamily(dbParameterGroupFamily)
                    .engine("mysql")
                    .build();

            DescribeDbEngineVersionsResponse response =
rdsClient.describeDBEngineVersions(versionsRequest);
            List<DBEngineVersion> dbEngines = response.dbEngineVersions();
            for (DBEngineVersion dbEngine : dbEngines) {
                System.out.println("The engine version is " +
dbEngine.engineVersion());
                System.out.println("The engine description is " +
dbEngine.dbEngineDescription());
            }

        } catch (RdsException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
```

```
    }

    // Modify auto_increment_offset and auto_increment_increment parameters.
    public static void modifyDBParas(RdsClient rdsClient, String dbGroupName) {
        try {
            Parameter parameter1 = Parameter.builder()
                    .parameterName("auto_increment_offset")
                    .applyMethod("immediate")
                    .parameterValue("5")
                    .build();

            List<Parameter> paraList = new ArrayList<>();
            paraList.add(parameter1);
            ModifyDbParameterGroupRequest groupRequest =
ModifyDbParameterGroupRequest.builder()
                    .dbParameterGroupName(dbGroupName)
                    .parameters(paraList)
                    .build();

            ModifyDbParameterGroupResponse response =
rdsClient.modifyDBParameterGroup(groupRequest);
            System.out.println("The parameter group " +
response.dbParameterGroupName() + " was successfully modified");

        } catch (RdsException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    // Retrieve parameters in the group.
    public static void describeDbParameters(RdsClient rdsClient, String dbGroupName,
int flag) {
        try {
            DescribeDbParametersRequest dbParameterGroupsRequest;
            if (flag == 0) {
                dbParameterGroupsRequest = DescribeDbParametersRequest.builder()
                        .dbParameterGroupName(dbGroupName)
                        .build();
            } else {
                dbParameterGroupsRequest = DescribeDbParametersRequest.builder()
                        .dbParameterGroupName(dbGroupName)
                        .source("user")
                        .build();
```

```
            }

            DescribeDbParametersResponse response =
rdsClient.describeDBParameters(dbParameterGroupsRequest);
            List<Parameter> dbParameters = response.parameters();
            String paraName;
            for (Parameter para : dbParameters) {
                // Only print out information about either auto_increment_offset or
                // auto_increment_increment.
                paraName = para.parameterName();
                if ((paraName.compareTo("auto_increment_offset") == 0)
                        || (paraName.compareTo("auto_increment_increment ") == 0)) {
                    System.out.println("*** The parameter name is  " + paraName);
                    System.out.println("*** The parameter value is  " +
para.parameterValue());
                    System.out.println("*** The parameter data type is " +
para.dataType());
                    System.out.println("*** The parameter description is " +
para.description());
                    System.out.println("*** The parameter allowed values  is " +
para.allowedValues());
                }
            }

        } catch (RdsException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void describeDbParameterGroups(RdsClient rdsClient, String
dbGroupName) {
        try {
            DescribeDbParameterGroupsRequest groupsRequest =
DescribeDbParameterGroupsRequest.builder()
                    .dbParameterGroupName(dbGroupName)
                    .maxRecords(20)
                    .build();

            DescribeDbParameterGroupsResponse response =
rdsClient.describeDBParameterGroups(groupsRequest);
            List<DBParameterGroup> groups = response.dbParameterGroups();
            for (DBParameterGroup group : groups) {
```

```
                System.out.println("The group name is " +
group.dbParameterGroupName());
                System.out.println("The group description is " +
group.description());
            }

        } catch (RdsException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void createDBParameterGroup(RdsClient rdsClient, String
dbGroupName, String dbParameterGroupFamily) {
        try {
            CreateDbParameterGroupRequest groupRequest =
CreateDbParameterGroupRequest.builder()
                    .dbParameterGroupName(dbGroupName)
                    .dbParameterGroupFamily(dbParameterGroupFamily)
                    .description("Created by using the AWS SDK for Java")
                    .build();

            CreateDbParameterGroupResponse response =
rdsClient.createDBParameterGroup(groupRequest);
            System.out.println("The group name is " +
response.dbParameterGroup().dbParameterGroupName());

        } catch (RdsException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void describeDBEngines(RdsClient rdsClient) {
        try {
            DescribeDbEngineVersionsRequest engineVersionsRequest =
DescribeDbEngineVersionsRequest.builder()
                    .defaultOnly(true)
                    .engine("mysql")
                    .maxRecords(20)
                    .build();

            DescribeDbEngineVersionsResponse response =
rdsClient.describeDBEngineVersions(engineVersionsRequest);
```

```
            List<DBEngineVersion> engines = response.dbEngineVersions();

            // Get all DBEngineVersion objects.
            for (DBEngineVersion engineOb : engines) {
                System.out.println("The name of the DB parameter group family for
 the database engine is "
                        + engineOb.dbParameterGroupFamily());
                System.out.println("The name of the database engine " +
 engineOb.engine());
                System.out.println("The version number of the database engine " +
 engineOb.engineVersion());
            }

        } catch (RdsException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - CreateDBInstance
  - CreateDBParameterGroup
  - CreateDBSnapshot
  - DeleteDBInstance
  - DeleteDBParameterGroup
  - DescribeDBEngineVersions
  - DescribeDBInstances
  - DescribeDBParameterGroups
  - DescribeDBParameters
  - DescribeDBSnapshots
  - DescribeOrderableDBInstanceOptions
  - ModifyDBParameterGroup

アクション

`CreateDBInstance`

次のコード例は、`CreateDBInstance` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import com.google.gson.Gson;
import
 software.amazon.awssdk.auth.credentials.EnvironmentVariableCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.rds.RdsClient;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.DescribeDbInstancesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.CreateDbInstanceRequest;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.CreateDbInstanceResponse;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.RdsException;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.DescribeDbInstancesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.DBInstance;
import software.amazon.awssdk.services.secretsmanager.SecretsManagerClient;
import software.amazon.awssdk.services.secretsmanager.model.GetSecretValueRequest;
import software.amazon.awssdk.services.secretsmanager.model.GetSecretValueResponse;

import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 *
 * This example requires an AWS Secrets Manager secret that contains the
 * database credentials. If you do not create a
 * secret, this example will not work. For more details, see:
```

```
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/secretsmanager/latest/userguide/integrating_how-
services-use-secrets_RS.html
 *
 *
 */

public class CreateDBInstance {
    public static long sleepTime = 20;

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <dbInstanceIdentifier> <dbName> <secretName>

                Where:
                    dbInstanceIdentifier - The database instance identifier.\s
                    dbName - The database name.\s
                    secretName - The name of the AWS Secrets Manager secret that
 contains the database credentials."
                """;

        if (args.length != 3) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String dbInstanceIdentifier = args[0];
        String dbName = args[1];
        String secretName = args[2];
        Gson gson = new Gson();
        User user = gson.fromJson(String.valueOf(getSecretValues(secretName)),
 User.class);
        Region region = Region.US_WEST_2;
        RdsClient rdsClient = RdsClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        createDatabaseInstance(rdsClient, dbInstanceIdentifier, dbName,
 user.getUsername(), user.getPassword());
        waitForInstanceReady(rdsClient, dbInstanceIdentifier);
        rdsClient.close();
    }
```

```
   private static SecretsManagerClient getSecretClient() {
       Region region = Region.US_WEST_2;
       return SecretsManagerClient.builder()
               .region(region)

.credentialsProvider(EnvironmentVariableCredentialsProvider.create())
               .build();
   }

   private static String getSecretValues(String secretName) {
       SecretsManagerClient secretClient = getSecretClient();
       GetSecretValueRequest valueRequest = GetSecretValueRequest.builder()
               .secretId(secretName)
               .build();

       GetSecretValueResponse valueResponse =
secretClient.getSecretValue(valueRequest);
       return valueResponse.secretString();
   }

   public static void createDatabaseInstance(RdsClient rdsClient,
           String dbInstanceIdentifier,
           String dbName,
           String userName,
           String userPassword) {

       try {
           CreateDbInstanceRequest instanceRequest =
CreateDbInstanceRequest.builder()
               .dbInstanceIdentifier(dbInstanceIdentifier)
               .allocatedStorage(100)
               .dbName(dbName)
               .engine("mysql")
               .dbInstanceClass("db.t3.medium") // Updated to a supported class
               .engineVersion("8.0.32")         // Updated to a supported version
               .storageType("gp2")             // Changed to General Purpose SSD
(gp2)
               .masterUsername(userName)
               .masterUserPassword(userPassword)
               .build();

           CreateDbInstanceResponse response =
rdsClient.createDBInstance(instanceRequest);
```

```
            System.out.print("The status is " +
response.dbInstance().dbInstanceStatus());

        } catch (RdsException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    // Waits until the database instance is available.
    public static void waitForInstanceReady(RdsClient rdsClient, String
dbInstanceIdentifier) {
        boolean instanceReady = false;
        String instanceReadyStr;
        System.out.println("Waiting for instance to become available.");
        try {
            DescribeDbInstancesRequest instanceRequest =
DescribeDbInstancesRequest.builder()
                    .dbInstanceIdentifier(dbInstanceIdentifier)
                    .build();

            // Loop until the cluster is ready.
            while (!instanceReady) {
                DescribeDbInstancesResponse response =
rdsClient.describeDBInstances(instanceRequest);
                List<DBInstance> instanceList = response.dbInstances();
                for (DBInstance instance : instanceList) {
                    instanceReadyStr = instance.dbInstanceStatus();
                    if (instanceReadyStr.contains("available"))
                        instanceReady = true;
                    else {
                        System.out.print(".");
                        Thread.sleep(sleepTime * 1000);
                    }
                }
            }
            System.out.println("Database instance is available!");

        } catch (RdsException | InterruptedException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateDBInstance」を参照してください。

`CreateDBParameterGroup`

次のコード例は、`CreateDBParameterGroup` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void createDBParameterGroup(RdsClient rdsClient, String
dbGroupName, String dbParameterGroupFamily) {
       try {
           CreateDbParameterGroupRequest groupRequest =
CreateDbParameterGroupRequest.builder()
                   .dbParameterGroupName(dbGroupName)
                   .dbParameterGroupFamily(dbParameterGroupFamily)
                   .description("Created by using the AWS SDK for Java")
                   .build();

           CreateDbParameterGroupResponse response =
rdsClient.createDBParameterGroup(groupRequest);
           System.out.println("The group name is " +
response.dbParameterGroup().dbParameterGroupName());

       } catch (RdsException e) {
           System.out.println(e.getLocalizedMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- 詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateDBParameterGroup」を参照してください。

CreateDBSnapshot

次のコード例は、CreateDBSnapshot を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   // Create an Amazon RDS snapshot.
   public static void createSnapshot(RdsClient rdsClient, String
dbInstanceIdentifier, String dbSnapshotIdentifier) {
       try {
           CreateDbSnapshotRequest snapshotRequest =
CreateDbSnapshotRequest.builder()
                   .dbInstanceIdentifier(dbInstanceIdentifier)
                   .dbSnapshotIdentifier(dbSnapshotIdentifier)
                   .build();

           CreateDbSnapshotResponse response =
rdsClient.createDBSnapshot(snapshotRequest);
           System.out.println("The Snapshot id is " +
response.dbSnapshot().dbiResourceId());

       } catch (RdsException e) {
           System.out.println(e.getLocalizedMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateDBSnapshot」を参照してください。

DeleteDBInstance

次のコード例は、DeleteDBInstance を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.rds.RdsClient;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.DeleteDbInstanceRequest;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.DeleteDbInstanceResponse;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.RdsException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DeleteDBInstance {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <dbInstanceIdentifier>\s

                Where:
                    dbInstanceIdentifier - The database instance identifier\s
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String dbInstanceIdentifier = args[0];
        Region region = Region.US_WEST_2;
        RdsClient rdsClient = RdsClient.builder()
                .region(region)
```

```
                .build();

        deleteDatabaseInstance(rdsClient, dbInstanceIdentifier);
        rdsClient.close();
    }

    public static void deleteDatabaseInstance(RdsClient rdsClient, String
 dbInstanceIdentifier) {
        try {
            DeleteDbInstanceRequest deleteDbInstanceRequest =
 DeleteDbInstanceRequest.builder()
                    .dbInstanceIdentifier(dbInstanceIdentifier)
                    .deleteAutomatedBackups(true)
                    .skipFinalSnapshot(true)
                    .build();

            DeleteDbInstanceResponse response =
 rdsClient.deleteDBInstance(deleteDbInstanceRequest);
            System.out.print("The status of the database is " +
 response.dbInstance().dbInstanceStatus());

        } catch (RdsException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteDBInstance」を参照してください。

DeleteDBParameterGroup

次のコード例は、DeleteDBParameterGroup を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   // Delete the parameter group after database has been deleted.
   // An exception is thrown if you attempt to delete the para group while database
   // exists.
   public static void deleteParaGroup(RdsClient rdsClient, String dbGroupName,
String dbARN)
           throws InterruptedException {
       try {
           boolean isDataDel = false;
           boolean didFind;
           String instanceARN;

           // Make sure that the database has been deleted.
           while (!isDataDel) {
               DescribeDbInstancesResponse response =
rdsClient.describeDBInstances();
               List<DBInstance> instanceList = response.dbInstances();
               int listSize = instanceList.size();
               didFind = false;
               int index = 1;
               for (DBInstance instance : instanceList) {
                   instanceARN = instance.dbInstanceArn();
                   if (instanceARN.compareTo(dbARN) == 0) {
                       System.out.println(dbARN + " still exists");
                       didFind = true;
                   }
                   if ((index == listSize) && (!didFind)) {
                       // Went through the entire list and did not find the
database ARN.
                       isDataDel = true;
                   }
                   Thread.sleep(sleepTime * 1000);
                   index++;
               }
           }
```

```
            // Delete the para group.
            DeleteDbParameterGroupRequest parameterGroupRequest =
 DeleteDbParameterGroupRequest.builder()
                    .dbParameterGroupName(dbGroupName)
                    .build();

            rdsClient.deleteDBParameterGroup(parameterGroupRequest);
            System.out.println(dbGroupName + " was deleted.");

        } catch (RdsException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- 詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteDBParameterGroup」を参照してください。

`DescribeAccountAttributes`

次のコード例は、`DescribeAccountAttributes` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.rds.RdsClient;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.AccountQuota;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.RdsException;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.DescribeAccountAttributesResponse;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
```

```
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DescribeAccountAttributes {
    public static void main(String[] args) {
        Region region = Region.US_WEST_2;
        RdsClient rdsClient = RdsClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        getAccountAttributes(rdsClient);
        rdsClient.close();
    }

    public static void getAccountAttributes(RdsClient rdsClient) {
        try {
            DescribeAccountAttributesResponse response =
 rdsClient.describeAccountAttributes();
            List<AccountQuota> quotasList = response.accountQuotas();
            for (AccountQuota quotas : quotasList) {
                System.out.println("Name is: " + quotas.accountQuotaName());
                System.out.println("Max value is " + quotas.max());
            }

        } catch (RdsException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeAccountAttributes」を参照してください。

DescribeDBEngineVersions

次のコード例は、DescribeDBEngineVersions を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void describeDBEngines(RdsClient rdsClient) {
       try {
           DescribeDbEngineVersionsRequest engineVersionsRequest =
DescribeDbEngineVersionsRequest.builder()
                   .defaultOnly(true)
                   .engine("mysql")
                   .maxRecords(20)
                   .build();

           DescribeDbEngineVersionsResponse response =
rdsClient.describeDBEngineVersions(engineVersionsRequest);
           List<DBEngineVersion> engines = response.dbEngineVersions();

           // Get all DBEngineVersion objects.
           for (DBEngineVersion engineOb : engines) {
               System.out.println("The name of the DB parameter group family for
the database engine is "
                       + engineOb.dbParameterGroupFamily());
               System.out.println("The name of the database engine " +
engineOb.engine());
               System.out.println("The version number of the database engine " +
engineOb.engineVersion());
           }

       } catch (RdsException e) {
           System.out.println(e.getLocalizedMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeDBEngineVersions」を参照してください。

`DescribeDBInstances`

次のコード例は、`DescribeDBInstances` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.rds.RdsClient;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.DescribeDbInstancesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.DBInstance;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.RdsException;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DescribeDBInstances {

    public static void main(String[] args) {
        Region region = Region.US_EAST_1;
        RdsClient rdsClient = RdsClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        describeInstances(rdsClient);
        rdsClient.close();
    }

    public static void describeInstances(RdsClient rdsClient) {
        try {
            DescribeDbInstancesResponse response = rdsClient.describeDBInstances();
            List<DBInstance> instanceList = response.dbInstances();
```

```
            for (DBInstance instance : instanceList) {
                System.out.println("Instance ARN is: " + instance.dbInstanceArn());
                System.out.println("The Engine is " + instance.engine());
                System.out.println("Connection endpoint is" +
 instance.endpoint().address());
            }

        } catch (RdsException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeDBInstances」を参照してください。

`DescribeDBParameterGroups`

次のコード例は、`DescribeDBParameterGroups` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void describeDbParameterGroups(RdsClient rdsClient, String
dbGroupName) {
        try {
            DescribeDbParameterGroupsRequest groupsRequest =
DescribeDbParameterGroupsRequest.builder()
                    .dbParameterGroupName(dbGroupName)
                    .maxRecords(20)
                    .build();

            DescribeDbParameterGroupsResponse response =
rdsClient.describeDBParameterGroups(groupsRequest);
```

```
            List<DBParameterGroup> groups = response.dbParameterGroups();
            for (DBParameterGroup group : groups) {
                System.out.println("The group name is " +
group.dbParameterGroupName());
                System.out.println("The group description is " +
group.description());
            }

        } catch (RdsException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeDBParameterGroups」を参照してください。

`DescribeDBParameters`

次のコード例は、`DescribeDBParameters` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    // Retrieve parameters in the group.
    public static void describeDbParameters(RdsClient rdsClient, String dbGroupName,
int flag) {
        try {
            DescribeDbParametersRequest dbParameterGroupsRequest;
            if (flag == 0) {
                dbParameterGroupsRequest = DescribeDbParametersRequest.builder()
                        .dbParameterGroupName(dbGroupName)
                        .build();
            } else {
                dbParameterGroupsRequest = DescribeDbParametersRequest.builder()
```

```
                        .dbParameterGroupName(dbGroupName)
                        .source("user")
                        .build();
            }

            DescribeDbParametersResponse response =
rdsClient.describeDBParameters(dbParameterGroupsRequest);
            List<Parameter> dbParameters = response.parameters();
            String paraName;
            for (Parameter para : dbParameters) {
                // Only print out information about either auto_increment_offset or
                // auto_increment_increment.
                paraName = para.parameterName();
                if ((paraName.compareTo("auto_increment_offset") == 0)
                        || (paraName.compareTo("auto_increment_increment ") == 0)) {
                    System.out.println("*** The parameter name is  " + paraName);
                    System.out.println("*** The parameter value is  " +
para.parameterValue());
                    System.out.println("*** The parameter data type is " +
para.dataType());
                    System.out.println("*** The parameter description is " +
para.description());
                    System.out.println("*** The parameter allowed values  is " +
para.allowedValues());
                }
            }

        } catch (RdsException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeDBParameters」を参照してください。

GenerateRDSAuthToken

次のコード例は、GenerateRDSAuthToken を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

RdsUtilities クラスを使用して認証トークンを生成します。

```
public class GenerateRDSAuthToken {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <dbInstanceIdentifier> <masterUsername>

                Where:
                    dbInstanceIdentifier - The database instance identifier.\s
                    masterUsername - The master user name.\s
                """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String dbInstanceIdentifier = args[0];
        String masterUsername = args[1];
        Region region = Region.US_WEST_2;
        RdsClient rdsClient = RdsClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        String token = getAuthToken(rdsClient, dbInstanceIdentifier,
 masterUsername);
        System.out.println("The token response is " + token);
    }

    public static String getAuthToken(RdsClient rdsClient, String
 dbInstanceIdentifier, String masterUsername) {

        RdsUtilities utilities = rdsClient.utilities();
```

```
        try {
            GenerateAuthenticationTokenRequest tokenRequest =
 GenerateAuthenticationTokenRequest.builder()
                    .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
                    .username(masterUsername)
                    .port(3306)
                    .hostname(dbInstanceIdentifier)
                    .build();

            return utilities.generateAuthenticationToken(tokenRequest);

        } catch (RdsException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「GenerateRDSAuthToken」を参照してください。

`ModifyDBInstance`

次のコード例は、`ModifyDBInstance` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.rds.RdsClient;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.ModifyDbInstanceRequest;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.ModifyDbInstanceResponse;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.RdsException;
```

```
/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ModifyDBInstance {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <dbInstanceIdentifier> <dbSnapshotIdentifier>\s
                Where:
                    dbInstanceIdentifier - The database instance identifier.\s
                    masterUserPassword - The updated password that corresponds to
 the master user name.\s
                """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String dbInstanceIdentifier = args[0];
        String masterUserPassword = args[1];
        Region region = Region.US_WEST_2;
        RdsClient rdsClient = RdsClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        updateIntance(rdsClient, dbInstanceIdentifier, masterUserPassword);
        rdsClient.close();
    }

    public static void updateIntance(RdsClient rdsClient, String
 dbInstanceIdentifier, String masterUserPassword) {
        try {
            // For a demo - modify the DB instance by modifying the master password.
            ModifyDbInstanceRequest modifyDbInstanceRequest =
 ModifyDbInstanceRequest.builder()
                    .dbInstanceIdentifier(dbInstanceIdentifier)
                    .publiclyAccessible(true)
```

```
                    .masterUserPassword(masterUserPassword)
                    .build();

            ModifyDbInstanceResponse instanceResponse =
 rdsClient.modifyDBInstance(modifyDbInstanceRequest);
            System.out.print("The ARN of the modified database is: " +
 instanceResponse.dbInstance().dbInstanceArn());

        } catch (RdsException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ModifyDBInstance」を参照してください。

`ModifyDBParameterGroup`

次のコード例は、`ModifyDBParameterGroup` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    // Modify auto_increment_offset and auto_increment_increment parameters.
    public static void modifyDBParas(RdsClient rdsClient, String dbGroupName) {
        try {
            Parameter parameter1 = Parameter.builder()
                    .parameterName("auto_increment_offset")
                    .applyMethod("immediate")
                    .parameterValue("5")
                    .build();

            List<Parameter> paraList = new ArrayList<>();
```

```
            paraList.add(parameter1);
            ModifyDbParameterGroupRequest groupRequest =
ModifyDbParameterGroupRequest.builder()
                    .dbParameterGroupName(dbGroupName)
                    .parameters(paraList)
                    .build();

            ModifyDbParameterGroupResponse response =
rdsClient.modifyDBParameterGroup(groupRequest);
            System.out.println("The parameter group " +
response.dbParameterGroupName() + " was successfully modified");

        } catch (RdsException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ModifyDBParameterGroup」を参照してください。

`RebootDBInstance`

次のコード例は、`RebootDBInstance` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.rds.RdsClient;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.RebootDbInstanceRequest;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.RebootDbInstanceResponse;
import software.amazon.awssdk.services.rds.model.RdsException;

/**
```

```
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class RebootDBInstance {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <dbInstanceIdentifier>\s

                Where:
                    dbInstanceIdentifier - The database instance identifier\s
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String dbInstanceIdentifier = args[0];
        Region region = Region.US_WEST_2;
        RdsClient rdsClient = RdsClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        rebootInstance(rdsClient, dbInstanceIdentifier);
        rdsClient.close();
    }

    public static void rebootInstance(RdsClient rdsClient, String
 dbInstanceIdentifier) {
        try {
            RebootDbInstanceRequest rebootDbInstanceRequest =
 RebootDbInstanceRequest.builder()
                    .dbInstanceIdentifier(dbInstanceIdentifier)
                    .build();

            RebootDbInstanceResponse instanceResponse =
 rdsClient.rebootDBInstance(rebootDbInstanceRequest);
```

```
            System.out.print("The database " +
 instanceResponse.dbInstance().dbInstanceArn() + " was rebooted");

        } catch (RdsException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「RebootDBInstance」を参照してください。

シナリオ

Aurora Serverless 作業項目トラッカーの作成

次のコード例は、Amazon Aurora Serverless データベースの作業項目を追跡し、Amazon Simple Email Service (Amazon SES) を使用してレポートを送信するウェブアプリケーションを作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

Amazon RDS データベースに保存されている作業項目を追跡してレポートするウェブアプリケーションを作成する方法を説明します。

Amazon Aurora サーバーレスデータをクエリする Spring REST API と React アプリケーションで使用するための完全なソースコードと設定方法については、GitHub にある完全な例を参照してください。

完全なソースコードと JDBC API を使用する例のセットアップと実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- Aurora
- Amazon RDS
- Amazon RDS データサービス
- Amazon SES

サーバーレスサンプル

Lambda 関数での Amazon RDS データベースへの接続

次のコード例は、RDS データベースに接続する Lambda 関数を実装する方法を示しています。この関数は、シンプルなデータベースリクエストを実行し、結果を返します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。サーバーレスサンプルリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

Java を使用した Lambda 関数での Amazon RDS データベースへの接続

```
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.Context;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.RequestHandler;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.APIGatewayProxyRequestEvent;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.APIGatewayProxyResponseEvent;
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.rdsdata.RdsDataClient;
import software.amazon.awssdk.services.rdsdata.model.ExecuteStatementRequest;
import software.amazon.awssdk.services.rdsdata.model.ExecuteStatementResponse;
import software.amazon.awssdk.services.rdsdata.model.Field;

import java.sql.Connection;
import java.sql.DriverManager;
import java.sql.PreparedStatement;
import java.sql.ResultSet;

public class RdsLambdaHandler implements RequestHandler<APIGatewayProxyRequestEvent,
 APIGatewayProxyResponseEvent> {

    @Override
    public APIGatewayProxyResponseEvent handleRequest(APIGatewayProxyRequestEvent
 event, Context context) {
        APIGatewayProxyResponseEvent response = new APIGatewayProxyResponseEvent();

        try {
```

```
            // Obtain auth token
            String token = createAuthToken();

            // Define connection configuration
            String connectionString = String.format("jdbc:mysql://%s:%s/%s?
useSSL=true&requireSSL=true",
                    System.getenv("ProxyHostName"),
                    System.getenv("Port"),
                    System.getenv("DBName"));

            // Establish a connection to the database
            try (Connection connection =
 DriverManager.getConnection(connectionString, System.getenv("DBUserName"), token);
                 PreparedStatement statement = connection.prepareStatement("SELECT ?
 + ? AS sum")) {

                statement.setInt(1, 3);
                statement.setInt(2, 2);

                try (ResultSet resultSet = statement.executeQuery()) {
                    if (resultSet.next()) {
                        int sum = resultSet.getInt("sum");
                        response.setStatusCode(200);
                        response.setBody("The selected sum is: " + sum);
                    }
                }
            }

        } catch (Exception e) {
            response.setStatusCode(500);
            response.setBody("Error: " + e.getMessage());
        }

        return response;
    }

    private String createAuthToken() {
        // Create RDS Data Service client
        RdsDataClient rdsDataClient = RdsDataClient.builder()
                .region(Region.of(System.getenv("AWS_REGION")))
                .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
                .build();

        // Define authentication request
```

```
        ExecuteStatementRequest request = ExecuteStatementRequest.builder()
                .resourceArn(System.getenv("ProxyHostName"))
                .secretArn(System.getenv("DBUserName"))
                .database(System.getenv("DBName"))
                .sql("SELECT 'RDS IAM Authentication'")
                .build();

        // Execute request and obtain authentication token
        ExecuteStatementResponse response = rdsDataClient.executeStatement(request);
        Field tokenField = response.records().get(0).get(0);

        return tokenField.stringValue();
    }
}
```

SDK for Java 2.x を使用した Amazon RDS Data Service の例

次のコード例は、Amazon RDS Data Service AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- シナリオ

シナリオ

Aurora Serverless 作業項目トラッカーの作成

次のコード例は、Amazon Aurora Serverless データベースの作業項目を追跡し、Amazon Simple Email Service (Amazon SES) を使用してレポートを送信するウェブアプリケーションを作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

Amazon RDS データベースに保存されている作業項目を追跡してレポートするウェブアプリケーションを作成する方法を説明します。

Amazon Aurora サーバーレスデータをクエリする Spring REST API と React アプリケーションで使用するための完全なソースコードと設定方法については、GitHub にある完全な例を参照してください。

完全なソースコードと JDBC API を使用する例のセットアップと実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- Aurora
- Amazon RDS
- Amazon RDS データサービス
- Amazon SES

SDK for Java 2.x を使用した Amazon Redshift の例

次のコード例は、Amazon Redshift AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- はじめに
- 基本
- アクション

- シナリオ

はじめに

Hello Amazon Redshift

次のコード例は、Amazon Redshift の使用を開始する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.redshift.RedshiftClient;
import software.amazon.awssdk.services.redshift.paginators.DescribeClustersIterable;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class HelloRedshift {
    public static void main(String[] args) {
        Region region = Region.US_EAST_1;
        RedshiftClient redshiftClient = RedshiftClient.builder()
            .region(region)
            .build();

        listClustersPaginator(redshiftClient);
    }

    public static void listClustersPaginator(RedshiftClient redshiftClient) {
        DescribeClustersIterable clustersIterable =
 redshiftClient.describeClustersPaginator();
        clustersIterable.stream()
```

```
            .flatMap(r -> r.clusters().stream())
            .forEach(cluster -> System.out
                .println(" Cluster identifier: " + cluster.clusterIdentifier() + "
 status = " + cluster.clusterStatus()));
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeClusters」を参照してください。

基本

基本を学ぶ

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- Redshift クラスターを作成します。
- クラスター内のデータベースを一覧表示します。
- Movies という名前のテーブルを作成します。
- Movies テーブルにデータを入力します。
- Movies テーブルに対して年に基づくクエリを実行します。
- Redshift クラスターを変更します。
- Amazon Redshift クラスターを削除します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

Amazon Redshift 機能を示すインタラクティブなシナリオを実行します。

```
import com.example.redshift.User;
import com.google.gson.Gson;
import org.slf4j.Logger;
```

```
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.redshift.model.ClusterAlreadyExistsException;
import software.amazon.awssdk.services.redshift.model.CreateClusterResponse;
import software.amazon.awssdk.services.redshift.model.DeleteClusterResponse;
import software.amazon.awssdk.services.redshift.model.ModifyClusterResponse;
import software.amazon.awssdk.services.redshift.model.RedshiftException;
import software.amazon.awssdk.services.redshiftdata.model.ExecuteStatementResponse;
import software.amazon.awssdk.services.redshiftdata.model.RedshiftDataException;
import java.util.Scanner;
import java.util.concurrent.CompletableFuture;
import software.amazon.awssdk.services.secretsmanager.SecretsManagerClient;
import software.amazon.awssdk.services.secretsmanager.model.GetSecretValueRequest;
import software.amazon.awssdk.services.secretsmanager.model.GetSecretValueResponse;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 *
 *
 *  This example requires an AWS Secrets Manager secret that contains the
 *  database credentials. If you do not create a
 *  secret that specifies user name and password, this example will not work. For
 details, see:
 *
 *  https://docs.aws.amazon.com/secretsmanager/latest/userguide/integrating_how-
services-use-secrets_RS.html
 *
 This Java example performs these tasks:
 *
 * 1. Prompts the user for a unique cluster ID or use the default value.
 * 2. Creates a Redshift cluster with the specified or default cluster Id value.
 * 3. Waits until the Redshift cluster is available for use.
 * 4. Lists all databases using a pagination API call.
 * 5. Creates a table named "Movies" with fields ID, title, and year.
 * 6. Inserts a specified number of records into the "Movies" table by reading the
 Movies JSON file.
 * 7. Prompts the user for a movie release year.
 * 8. Runs a SQL query to retrieve movies released in the specified year.
 * 9. Modifies the Redshift cluster.
```

```
 * 10. Prompts the user for confirmation to delete the Redshift cluster.
 * 11. If confirmed, deletes the specified Redshift cluster.
 */

public class RedshiftScenario {
    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");
    private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(RedshiftScenario.class);

    static RedshiftActions redshiftActions = new RedshiftActions();
    public static void main(String[] args) throws Exception {
        final String usage = """

            Usage:
                <jsonFilePath> <secretName>\s

            Where:
                jsonFilePath - The path to the Movies JSON file (you can locate that
 file in ../../../resources/sample_files/movies.json)
                secretName - The name of the secret that belongs to Secret Manager
 that stores the user name and password used in this scenario.
            """;

        if (args.length != 2) {
            logger.info(usage);
            return;
        }

        String jsonFilePath = args[0];
        String secretName = args[1];
        Scanner scanner = new Scanner(System.in);
        logger.info(DASHES);
        logger.info("Welcome to the Amazon Redshift SDK Basics scenario.");
        logger.info("""
            This Java program demonstrates how to interact with Amazon Redshift by
 using the AWS SDK for Java (v2).\s
            Amazon Redshift is a fully managed, petabyte-scale data warehouse
 service hosted in the cloud.

            The program's primary functionalities include cluster creation,
 verification of cluster readiness,\s
            list databases, table creation, data population within the table, and
 execution of SQL statements.
```

```
            Furthermore, it demonstrates the process of querying data from the Movie
 table.\s

            Upon completion of the program, all AWS resources are cleaned up.
            """);

        logger.info("Lets get started...");
        logger.info("""
            First, we will retrieve the user name and password from Secrets Manager.

            Using Amazon Secrets Manager to store Redshift credentials provides
 several security benefits.
            It allows you to securely store and manage sensitive information, such
 as passwords, API keys, and
            database credentials, without embedding them directly in your
 application code.

            More information can be found here:

            https://docs.aws.amazon.com/secretsmanager/latest/userguide/
integrating_how-services-use-secrets_RS.html
            """);
        Gson gson = new Gson();
        User user = gson.fromJson(String.valueOf(getSecretValues(secretName)),
 User.class);
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        try {
            runScenario(user, scanner, jsonFilePath);
        } catch (RuntimeException e) {
            e.printStackTrace();
        } catch (Throwable e) {
            throw new RuntimeException(e);
        }
    }

    private static void runScenario(User user, Scanner scanner,  String
 jsonFilePath) throws Throwable {
        String databaseName = "dev";
        System.out.println(DASHES);
        logger.info("Create a Redshift Cluster");
```

```
        logger.info("A Redshift cluster refers to the collection of computing
resources and storage that work together to process and analyze large volumes of
data.");
        logger.info("Enter a cluster id value or accept the default by hitting Enter
(default is redshift-cluster-movies): ");
        String userClusterId = scanner.nextLine();
        String clusterId = userClusterId.isEmpty() ? "redshift-cluster-movies" :
userClusterId;
        try {
            CompletableFuture<CreateClusterResponse> future =
redshiftActions.createClusterAsync(clusterId, user.getUserName(),
user.getUserPassword());
            CreateClusterResponse response = future.join();
            logger.info("Cluster successfully created. Cluster Identifier {} ",
response.cluster().clusterIdentifier());

        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof ClusterAlreadyExistsException) {
                logger.info("The Cluster {} already exists. Moving on...",
clusterId);
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
            }
        }
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("Wait until {} is available.", clusterId);
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            CompletableFuture<Void> future =
redshiftActions.waitForClusterReadyAsync(clusterId);
            future.join();
            logger.info("Cluster is ready!");

        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof RedshiftException redshiftEx) {
                logger.info("Redshift error occurred: Error message: {}, Error code
{}", redshiftEx.getMessage(), redshiftEx.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
            }
```

```
            throw cause;
        }
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        String databaseInfo = """
            When you created $clusteridD, the dev database is created by default and
 used in this scenario.\s

            To create a custom database, you need to have a CREATEDB privilege.\s
            For more information, see the documentation here: https://
docs.aws.amazon.com/redshift/latest/dg/r_CREATE_DATABASE.html.
           """.replace("$clusteridD", clusterId);

        logger.info(databaseInfo);
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("List databases in {} ",clusterId);
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            CompletableFuture<Void> future =
 redshiftActions.listAllDatabasesAsync(clusterId, user.getUserName(), "dev");
            future.join();
            logger.info("Databases listed successfully.");

        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof RedshiftDataException redshiftEx) {
                logger.error("Redshift Data error occurred: {} Error code: {}",
 redshiftEx.getMessage(), redshiftEx.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.error("An unexpected error occurred: {}", rt.getMessage());
            }
            throw cause;
        }
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("Now you will create a table named Movies.");
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
```

```
            CompletableFuture<ExecuteStatementResponse> future =
redshiftActions.createTableAsync(clusterId, databaseName, user.getUserName());
            future.join();

        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof RedshiftDataException redshiftEx) {
                logger.info("Redshift Data error occurred: {} Error code: {}",
redshiftEx.getMessage(), redshiftEx.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: {}", rt.getMessage());
            }
            throw cause;
        }
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("Populate the Movies table using the Movies.json file.");
        logger.info("Specify the number of records you would like to add to the
Movies Table.");
        logger.info("Please enter a value between 50 and 200.");
        int numRecords;
        do {
            logger.info("Enter a value: ");
            while (!scanner.hasNextInt()) {
                logger.info("Invalid input. Please enter a value between 50 and
200.");
                logger.info("Enter a year: ");
                scanner.next();
            }
            numRecords = scanner.nextInt();
        } while (numRecords < 50 || numRecords > 200);
        try {
            redshiftActions.popTableAsync(clusterId, databaseName,
user.getUserName(), jsonFilePath, numRecords).join();  // Wait for the operation to
complete
        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof RedshiftDataException redshiftEx) {
                logger.info("Redshift Data error occurred: {} Error code: {}",
redshiftEx.getMessage(), redshiftEx.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: {}", rt.getMessage());
            }
```

```
            throw cause;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("Query the Movies table by year. Enter a value between
2012-2014.");
        int movieYear;
        do {
            logger.info("Enter a year: ");
            while (!scanner.hasNextInt()) {
                logger.info("Invalid input. Please enter a valid year between 2012
and 2014.");
                logger.info("Enter a year: ");
                scanner.next();
            }
            movieYear = scanner.nextInt();
            scanner.nextLine();
        } while (movieYear < 2012 || movieYear > 2014);

        String id;
        try {
            CompletableFuture<String> future =
redshiftActions.queryMoviesByYearAsync(databaseName, user.getUserName(), movieYear,
clusterId);
            id = future.join();

        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof RedshiftDataException redshiftEx) {
                logger.info("Redshift Data error occurred: {} Error code: {}",
redshiftEx.getMessage(), redshiftEx.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: {}", rt.getMessage());
            }
            throw cause;
        }

        logger.info("The identifier of the statement is " + id);
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            CompletableFuture<Void> future =
redshiftActions.checkStatementAsync(id);
```

```
            future.join();

        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof RedshiftDataException redshiftEx) {
                logger.info("Redshift Data error occurred: {} Error code: {}",
redshiftEx.getMessage(), redshiftEx.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: {}", rt.getMessage());
            }
            throw cause;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            CompletableFuture<Void> future = redshiftActions.getResultsAsync(id);
            future.join();

        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof RedshiftDataException redshiftEx) {
                logger.info("Redshift Data error occurred: {} Error code: {}",
redshiftEx.getMessage(), redshiftEx.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: {}", rt.getMessage());
            }
            throw cause;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("Now you will modify the Redshift cluster.");
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            CompletableFuture<ModifyClusterResponse> future =
redshiftActions.modifyClusterAsync(clusterId);;
            future.join();

        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof RedshiftDataException redshiftEx) {
                logger.info("Redshift Data error occurred: {} Error code: {}",
redshiftEx.getMessage(), redshiftEx.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
```

```
                logger.info("An unexpected error occurred: {}", rt.getMessage());
            }
            throw cause;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("Would you like to delete the Amazon Redshift cluster? (y/n)");
        String delAns = scanner.nextLine().trim();
        if (delAns.equalsIgnoreCase("y")) {
            logger.info("You selected to delete {} ", clusterId);
            waitForInputToContinue(scanner);
            try {
                CompletableFuture<DeleteClusterResponse> future =
redshiftActions.deleteRedshiftClusterAsync(clusterId);;
                future.join();

            } catch (RuntimeException rt) {
                Throwable cause = rt.getCause();
                if (cause instanceof RedshiftDataException redshiftEx) {
                    logger.info("Redshift Data error occurred: {} Error code: {}",
redshiftEx.getMessage(), redshiftEx.awsErrorDetails().errorCode());
                } else {
                    logger.info("An unexpected error occurred: {}",
rt.getMessage());
                }
                throw cause;
            }
        } else {
            logger.info("The {}  was not deleted", clusterId);
        }
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("This concludes the Amazon Redshift SDK Basics scenario.");
        logger.info(DASHES);
    }

    private static SecretsManagerClient getSecretClient() {
        Region region = Region.US_EAST_1;
        return SecretsManagerClient.builder()
            .region(region)
            .build();
```

```
    }

    private static void waitForInputToContinue(Scanner scanner) {
        while (true) {
            System.out.println("");
            System.out.println("Enter 'c' followed by <ENTER> to continue:");
            String input = scanner.nextLine();

            if (input.trim().equalsIgnoreCase("c")) {
                System.out.println("Continuing with the program...");
                System.out.println("");
                break;
            } else {
                // Handle invalid input.
                System.out.println("Invalid input. Please try again.");
            }
        }
    }

    // Get the Amazon Redshift credentials from AWS Secrets Manager.
    private static String getSecretValues(String secretName) {
        SecretsManagerClient secretClient = getSecretClient();
        GetSecretValueRequest valueRequest = GetSecretValueRequest.builder()
            .secretId(secretName)
            .build();

        GetSecretValueResponse valueResponse =
 secretClient.getSecretValue(valueRequest);
        return valueResponse.secretString();
    }
}
```

Amazon Redshift SDK メソッドのラッパークラス。

```
public class RedshiftActions {

    private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(RedshiftActions.class);
    private static RedshiftDataAsyncClient redshiftDataAsyncClient;

    private static RedshiftAsyncClient redshiftAsyncClient;
```

```
    private static RedshiftAsyncClient getAsyncClient() {
        if (redshiftAsyncClient == null) {
            SdkAsyncHttpClient httpClient = NettyNioAsyncHttpClient.builder()
                .maxConcurrency(100)
                .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .readTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .writeTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .build();

            ClientOverrideConfiguration overrideConfig =
ClientOverrideConfiguration.builder()
                .apiCallTimeout(Duration.ofMinutes(2))
                .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(90))
                .retryStrategy(RetryMode.STANDARD)
                .build();

            redshiftAsyncClient = RedshiftAsyncClient.builder()
                .httpClient(httpClient)
                .overrideConfiguration(overrideConfig)
                .build();
        }
        return redshiftAsyncClient;
    }

    private static RedshiftDataAsyncClient getAsyncDataClient() {
        if (redshiftDataAsyncClient == null) {
            SdkAsyncHttpClient httpClient = NettyNioAsyncHttpClient.builder()
                .maxConcurrency(100)
                .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .readTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .writeTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .build();

            ClientOverrideConfiguration overrideConfig =
ClientOverrideConfiguration.builder()
                .apiCallTimeout(Duration.ofMinutes(2))
                .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(90))
                .retryStrategy(RetryMode.STANDARD)
                .build();

            redshiftDataAsyncClient = RedshiftDataAsyncClient.builder()
                .httpClient(httpClient)
                .overrideConfiguration(overrideConfig)
                .build();
```

```
        }
        return redshiftDataAsyncClient;
    }

    /**
     * Creates a new Amazon Redshift cluster asynchronously.
     * @param clusterId     the unique identifier for the cluster
     * @param username      the username for the administrative user
     * @param userPassword  the password for the administrative user
     * @return a CompletableFuture that represents the asynchronous operation of
creating the cluster
     * @throws RuntimeException if the cluster creation fails
     */
    public CompletableFuture<CreateClusterResponse> createClusterAsync(String
clusterId, String username, String userPassword) {
        CreateClusterRequest clusterRequest = CreateClusterRequest.builder()
            .clusterIdentifier(clusterId)
            .masterUsername(username)
            .masterUserPassword(userPassword)
            .nodeType("ra3.4xlarge")
            .publiclyAccessible(true)
            .numberOfNodes(2)
            .build();

        return getAsyncClient().createCluster(clusterRequest)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (response != null) {
                    logger.info("Created cluster ");
                } else {
                    throw new RuntimeException("Failed to create cluster: " +
exception.getMessage(), exception);
                }
            });
    }

    /**
     * Waits asynchronously for the specified cluster to become available.
     * @param clusterId the identifier of the cluster to wait for
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the cluster is ready
     */
    public CompletableFuture<Void> waitForClusterReadyAsync(String clusterId) {
        DescribeClustersRequest clustersRequest = DescribeClustersRequest.builder()
            .clusterIdentifier(clusterId)
            .build();
```

```
        logger.info("Waiting for cluster to become available. This may take a few
minutes.");
        long startTime = System.currentTimeMillis();

        // Recursive method to poll the cluster status.
        return checkClusterStatusAsync(clustersRequest, startTime);
    }

    private CompletableFuture<Void> checkClusterStatusAsync(DescribeClustersRequest
clustersRequest, long startTime) {
        return getAsyncClient().describeClusters(clustersRequest)
            .thenCompose(clusterResponse -> {
                List<Cluster> clusterList = clusterResponse.clusters();
                boolean clusterReady = false;
                for (Cluster cluster : clusterList) {
                    if ("available".equals(cluster.clusterStatus())) {
                        clusterReady = true;
                        break;
                    }
                }

                if (clusterReady) {
                    logger.info(String.format("Cluster is available!"));
                    return CompletableFuture.completedFuture(null);
                } else {
                    long elapsedTimeMillis = System.currentTimeMillis() - startTime;
                    long elapsedSeconds = elapsedTimeMillis / 1000;
                    long minutes = elapsedSeconds / 60;
                    long seconds = elapsedSeconds % 60;
                    System.out.printf("\rElapsed Time: %02d:%02d - Waiting for
cluster...", minutes, seconds);
                    System.out.flush();

                    // Wait 1 second before the next status check
                    return CompletableFuture.runAsync(() -> {
                        try {
                            TimeUnit.SECONDS.sleep(1);
                        } catch (InterruptedException e) {
                            throw new RuntimeException("Error during sleep: " +
e.getMessage(), e);
                        }
                    }).thenCompose(ignored ->
checkClusterStatusAsync(clustersRequest, startTime));
```

```
                }
            }).exceptionally(exception -> {
                throw new RuntimeException("Failed to get cluster status: " +
exception.getMessage(), exception);
            });
    }

    /**
     * Lists all databases asynchronously for the specified cluster, database user,
and database.
     * @param clusterId the identifier of the cluster to list databases for
     * @param dbUser the database user to use for the list databases request
     * @param database the database to list databases for
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the database listing
is complete, or throws a {@link RuntimeException} if there was an error
     */
    public CompletableFuture<Void> listAllDatabasesAsync(String clusterId, String
dbUser, String database) {
        ListDatabasesRequest databasesRequest = ListDatabasesRequest.builder()
            .clusterIdentifier(clusterId)
            .dbUser(dbUser)
            .database(database)
            .build();

        // Asynchronous paginator for listing databases.
        ListDatabasesPublisher databasesPaginator =
getAsyncDataClient().listDatabasesPaginator(databasesRequest);
        CompletableFuture<Void> future = databasesPaginator.subscribe(response -> {
            response.databases().forEach(db -> {
                logger.info("The database name is {} ", db);
            });
        });

        // Return the future for asynchronous handling.
        return future.exceptionally(exception -> {
            throw new RuntimeException("Failed to list databases: " +
exception.getMessage(), exception);
        });
    }

    /**
     * Creates an asynchronous task to execute a SQL statement for creating a new
table.
     *
```

```
    * @param clusterId    the identifier of the Amazon Redshift cluster
    * @param databaseName the name of the database to create the table in
    * @param userName     the username to use for the database connection
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes with the result of the SQL
statement execution
    * @throws RuntimeException if there is an error creating the table
    */
   public CompletableFuture<ExecuteStatementResponse> createTableAsync(String
clusterId, String databaseName, String userName) {
       ExecuteStatementRequest createTableRequest =
ExecuteStatementRequest.builder()
           .clusterIdentifier(clusterId)
           .dbUser(userName)
           .database(databaseName)
           .sql("CREATE TABLE Movies (" +
               "id INT PRIMARY KEY, " +
               "title VARCHAR(100), " +
               "year INT)")
           .build();

       return getAsyncDataClient().executeStatement(createTableRequest)
           .whenComplete((response, exception) -> {
               if (exception != null) {
                   throw new RuntimeException("Error creating table: " +
exception.getMessage(), exception);
               } else {
                   logger.info("Table created: Movies");
               }
           });
   }

   /**
    * Asynchronously pops a table from a JSON file.
    *
    * @param clusterId   the ID of the cluster
    * @param databaseName the name of the database
    * @param userName    the username
    * @param fileName    the name of the JSON file
    * @param number      the number of records to process
    * @return a CompletableFuture that completes with the number of records added
to the Movies table
    */
   public CompletableFuture<Integer> popTableAsync(String clusterId, String
databaseName, String userName, String fileName, int number) {
```

```
        return CompletableFuture.supplyAsync(() -> {
                try {
                    JsonParser parser = new JsonFactory().createParser(new
File(fileName));
                    JsonNode rootNode = new ObjectMapper().readTree(parser);
                    Iterator<JsonNode> iter = rootNode.iterator();
                    return iter;
                } catch (IOException e) {
                    throw new RuntimeException("Failed to read or parse JSON file: "
+ e.getMessage(), e);
                }
            }).thenCompose(iter -> processNodesAsync(clusterId, databaseName,
userName, iter, number))
            .whenComplete((result, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    logger.info("Error {} ", exception.getMessage());
                } else {
                    logger.info("{} records were added to the Movies table." ,
result);
                }
            });
    }

    private CompletableFuture<Integer> processNodesAsync(String clusterId, String
databaseName, String userName, Iterator<JsonNode> iter, int number) {
        return CompletableFuture.supplyAsync(() -> {
            int t = 0;
            try {
                while (iter.hasNext()) {
                    if (t == number)
                        break;
                    JsonNode currentNode = iter.next();
                    int year = currentNode.get("year").asInt();
                    String title = currentNode.get("title").asText();

                    // Use SqlParameter to avoid SQL injection.
                    List<SqlParameter> parameterList = new ArrayList<>();
                    String sqlStatement = "INSERT INTO Movies
VALUES( :id , :title, :year);";
                    SqlParameter idParam = SqlParameter.builder()
                        .name("id")
                        .value(String.valueOf(t))
                        .build();
```

```
                    SqlParameter titleParam = SqlParameter.builder()
                        .name("title")
                        .value(title)
                        .build();

                    SqlParameter yearParam = SqlParameter.builder()
                        .name("year")
                        .value(String.valueOf(year))
                        .build();
                    parameterList.add(idParam);
                    parameterList.add(titleParam);
                    parameterList.add(yearParam);

                    ExecuteStatementRequest insertStatementRequest =
ExecuteStatementRequest.builder()
                        .clusterIdentifier(clusterId)
                        .sql(sqlStatement)
                        .database(databaseName)
                        .dbUser(userName)
                        .parameters(parameterList)
                        .build();

                    getAsyncDataClient().executeStatement(insertStatementRequest);
                    logger.info("Inserted: " + title + " (" + year + ")");
                    t++;
                }
            } catch (RedshiftDataException e) {
                throw new RuntimeException("Error inserting data: " +
e.getMessage(), e);
            }
            return t;
        });
    }

    /**
     * Checks the status of an SQL statement asynchronously and handles the
completion of the statement.
     *
     * @param sqlId the ID of the SQL statement to check
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the SQL statement's
status is either "FINISHED" or "FAILED"
     */
    public CompletableFuture<Void> checkStatementAsync(String sqlId) {
```

```
        DescribeStatementRequest statementRequest =
DescribeStatementRequest.builder()
            .id(sqlId)
            .build();

        return getAsyncDataClient().describeStatement(statementRequest)
            .thenCompose(response -> {
                String status = response.statusAsString();
                logger.info("... Status: {} ", status);

                if ("FAILED".equals(status)) {
                    throw new RuntimeException("The Query Failed. Ending program");
                } else if ("FINISHED".equals(status)) {
                    return CompletableFuture.completedFuture(null);
                } else {
                    // Sleep for 1 second and recheck status
                    return CompletableFuture.runAsync(() -> {
                        try {
                            TimeUnit.SECONDS.sleep(1);
                        } catch (InterruptedException e) {
                            throw new RuntimeException("Error during sleep: " +
e.getMessage(), e);
                        }
                    }).thenCompose(ignore -> checkStatementAsync(sqlId)); //
Recursively call until status is FINISHED or FAILED
                }
            }).whenComplete((result, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    // Handle exceptions
                    logger.info("Error: {} ", exception.getMessage());
                } else {
                    logger.info("The statement is finished!");
                }
            });
    }

    /**
     * Asynchronously retrieves the results of a statement execution.
     *
     * @param statementId the ID of the statement for which to retrieve the results
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the statement result
has been processed
     */
    public CompletableFuture<Void> getResultsAsync(String statementId) {
```

```
        GetStatementResultRequest resultRequest =
GetStatementResultRequest.builder()
            .id(statementId)
            .build();

        return getAsyncDataClient().getStatementResult(resultRequest)
            .handle((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    logger.info("Error getting statement result {} ",
exception.getMessage());
                    throw new RuntimeException("Error getting statement result: " +
exception.getMessage(), exception);
                }

                // Extract and print the field values using streams if the response
is valid.
                response.records().stream()
                    .flatMap(List::stream)
                    .map(Field::stringValue)
                    .filter(value -> value != null)
                    .forEach(value -> System.out.println("The Movie title field is "
+ value));

                return response;
            }).thenAccept(response -> {
                // Optionally add more logic here if needed after handling the
response
            });
    }


    /**
     * Asynchronously queries movies by a given year from a Redshift database.
     *
     * @param database    the name of the database to query
     * @param dbUser      the user to connect to the database with
     * @param year        the year to filter the movies by
     * @param clusterId   the identifier of the Redshift cluster to connect to
     * @return a {@link CompletableFuture} containing the response ID of the
executed SQL statement
     */
    public CompletableFuture<String> queryMoviesByYearAsync(String database,
                                                             String dbUser,
                                                             int year,
```

```
                                                                    String clusterId)
{

       String sqlStatement = "SELECT * FROM Movies WHERE year = :year";
       SqlParameter yearParam = SqlParameter.builder()
           .name("year")
           .value(String.valueOf(year))
           .build();

       ExecuteStatementRequest statementRequest = ExecuteStatementRequest.builder()
           .clusterIdentifier(clusterId)
           .database(database)
           .dbUser(dbUser)
           .parameters(yearParam)
           .sql(sqlStatement)
           .build();

       return CompletableFuture.supplyAsync(() -> {
           try {
               ExecuteStatementResponse response =
getAsyncDataClient().executeStatement(statementRequest).join(); // Use join() to
wait for the result
               return response.id();
           } catch (RedshiftDataException e) {
               throw new RuntimeException("Error executing statement: " +
e.getMessage(), e);
           }
       }).exceptionally(exception -> {
           logger.info("Error: {}", exception.getMessage());
           return "";
       });
   }

   /**
    * Modifies an Amazon Redshift cluster asynchronously.
    *
    * @param clusterId the identifier of the cluster to be modified
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the cluster
modification is complete
    */
   public CompletableFuture<ModifyClusterResponse> modifyClusterAsync(String
clusterId) {
       ModifyClusterRequest modifyClusterRequest = ModifyClusterRequest.builder()
           .clusterIdentifier(clusterId)
```

```
            .preferredMaintenanceWindow("wed:07:30-wed:08:00")
            .build();

        return getAsyncClient().modifyCluster(modifyClusterRequest)
            .whenComplete((clusterResponse, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    if (exception.getCause() instanceof RedshiftException) {
                        logger.info("Error: {} ", exception.getMessage());
                    } else {
                        logger.info("Unexpected error: {} ",
exception.getMessage());
                    }
                } else {
                    logger.info("The modified cluster was successfully modified and
has "
                        + clusterResponse.cluster().preferredMaintenanceWindow() + "
as the maintenance window");
                }
            });
    }

    /**
     * Deletes a Redshift cluster asynchronously.
     *
     * @param clusterId the identifier of the Redshift cluster to be deleted
     * @return a {@link CompletableFuture} that represents the asynchronous
operation of deleting the Redshift cluster
     */
    public CompletableFuture<DeleteClusterResponse>
deleteRedshiftClusterAsync(String clusterId) {
        DeleteClusterRequest deleteClusterRequest = DeleteClusterRequest.builder()
            .clusterIdentifier(clusterId)
            .skipFinalClusterSnapshot(true)
            .build();

        return getAsyncClient().deleteCluster(deleteClusterRequest)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    // Handle exceptions
                    if (exception.getCause() instanceof RedshiftException) {
                        logger.info("Error: {}", exception.getMessage());
                    } else {
                        logger.info("Unexpected error: {}", exception.getMessage());
                    }
```

```
                } else {
                    // Handle successful response
                    logger.info("The status is {}",
 response.cluster().clusterStatus());
                }
            });
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - CreateCluste
  - DescribeClusters
  - DescribeStatement
  - ExecuteStatement
  - GetStatementResult
  - ListDatabasesPaginator
  - ModifyCluster

アクション

`CreateCluster`

次のコード例は、`CreateCluster` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

クラスターを作成します。

```
    /**
     * Creates a new Amazon Redshift cluster asynchronously.
```

```
     * @param clusterId     the unique identifier for the cluster
     * @param username      the username for the administrative user
     * @param userPassword  the password for the administrative user
     * @return a CompletableFuture that represents the asynchronous operation of
creating the cluster
     * @throws RuntimeException if the cluster creation fails
     */
    public CompletableFuture<CreateClusterResponse> createClusterAsync(String
clusterId, String username, String userPassword) {
        CreateClusterRequest clusterRequest = CreateClusterRequest.builder()
            .clusterIdentifier(clusterId)
            .masterUsername(username)
            .masterUserPassword(userPassword)
            .nodeType("ra3.4xlarge")
            .publiclyAccessible(true)
            .numberOfNodes(2)
            .build();

        return getAsyncClient().createCluster(clusterRequest)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (response != null) {
                    logger.info("Created cluster ");
                } else {
                    throw new RuntimeException("Failed to create cluster: " +
exception.getMessage(), exception);
                }
            });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateCluster」を参照してください。

DeleteCluster

次のコード例は、DeleteCluster を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

クラスターを削除します。

```
   /**
    * Deletes a Redshift cluster asynchronously.
    *
    * @param clusterId the identifier of the Redshift cluster to be deleted
    * @return a {@link CompletableFuture} that represents the asynchronous
operation of deleting the Redshift cluster
    */
   public CompletableFuture<DeleteClusterResponse>
deleteRedshiftClusterAsync(String clusterId) {
       DeleteClusterRequest deleteClusterRequest = DeleteClusterRequest.builder()
           .clusterIdentifier(clusterId)
           .skipFinalClusterSnapshot(true)
           .build();

       return getAsyncClient().deleteCluster(deleteClusterRequest)
           .whenComplete((response, exception) -> {
               if (exception != null) {
                   // Handle exceptions
                   if (exception.getCause() instanceof RedshiftException) {
                       logger.info("Error: {}", exception.getMessage());
                   } else {
                       logger.info("Unexpected error: {}", exception.getMessage());
                   }
               } else {
                   // Handle successful response
                   logger.info("The status is {}",
response.cluster().clusterStatus());
               }
           });
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteCluster」を参照してください。

`DescribeClusters`

次のコード例は、`DescribeClusters` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

クラスターを記述する

```
   /**
    * Waits asynchronously for the specified cluster to become available.
    * @param clusterId the identifier of the cluster to wait for
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the cluster is ready
    */
   public CompletableFuture<Void> waitForClusterReadyAsync(String clusterId) {
       DescribeClustersRequest clustersRequest = DescribeClustersRequest.builder()
           .clusterIdentifier(clusterId)
           .build();

       logger.info("Waiting for cluster to become available. This may take a few
minutes.");
       long startTime = System.currentTimeMillis();

       // Recursive method to poll the cluster status.
       return checkClusterStatusAsync(clustersRequest, startTime);
   }

   private CompletableFuture<Void> checkClusterStatusAsync(DescribeClustersRequest
clustersRequest, long startTime) {
       return getAsyncClient().describeClusters(clustersRequest)
           .thenCompose(clusterResponse -> {
               List<Cluster> clusterList = clusterResponse.clusters();
               boolean clusterReady = false;
               for (Cluster cluster : clusterList) {
```

```
                    if ("available".equals(cluster.clusterStatus())) {
                        clusterReady = true;
                        break;
                    }
                }

                if (clusterReady) {
                    logger.info(String.format("Cluster is available!"));
                    return CompletableFuture.completedFuture(null);
                } else {
                    long elapsedTimeMillis = System.currentTimeMillis() - startTime;
                    long elapsedSeconds = elapsedTimeMillis / 1000;
                    long minutes = elapsedSeconds / 60;
                    long seconds = elapsedSeconds % 60;
                    System.out.printf("\rElapsed Time: %02d:%02d - Waiting for
cluster...", minutes, seconds);
                    System.out.flush();

                    // Wait 1 second before the next status check
                    return CompletableFuture.runAsync(() -> {
                        try {
                            TimeUnit.SECONDS.sleep(1);
                        } catch (InterruptedException e) {
                            throw new RuntimeException("Error during sleep: " +
e.getMessage(), e);
                        }
                    }).thenCompose(ignored ->
checkClusterStatusAsync(clustersRequest, startTime));
                }
            }).exceptionally(exception -> {
                throw new RuntimeException("Failed to get cluster status: " +
exception.getMessage(), exception);
            });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeClusters」を参照してください。

`DescribeStatement`

次のコード例は、`DescribeStatement` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Checks the status of an SQL statement asynchronously and handles the
completion of the statement.
    *
    * @param sqlId the ID of the SQL statement to check
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the SQL statement's
status is either "FINISHED" or "FAILED"
    */
   public CompletableFuture<Void> checkStatementAsync(String sqlId) {
       DescribeStatementRequest statementRequest =
DescribeStatementRequest.builder()
           .id(sqlId)
           .build();

       return getAsyncDataClient().describeStatement(statementRequest)
           .thenCompose(response -> {
               String status = response.statusAsString();
               logger.info("... Status: {} ", status);

               if ("FAILED".equals(status)) {
                   throw new RuntimeException("The Query Failed. Ending program");
               } else if ("FINISHED".equals(status)) {
                   return CompletableFuture.completedFuture(null);
               } else {
                   // Sleep for 1 second and recheck status
                   return CompletableFuture.runAsync(() -> {
                       try {
                           TimeUnit.SECONDS.sleep(1);
                       } catch (InterruptedException e) {
                           throw new RuntimeException("Error during sleep: " +
e.getMessage(), e);
                       }
                   }).thenCompose(ignore -> checkStatementAsync(sqlId)); //
Recursively call until status is FINISHED or FAILED
```

```
                }
            }).whenComplete((result, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    // Handle exceptions
                    logger.info("Error: {} ", exception.getMessage());
                } else {
                    logger.info("The statement is finished!");
                }
            });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeStatement」を参照してください。

`ExecuteStatement`

次のコード例は、`ExecuteStatement` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

SQL ステートメントを実行してデータベーステーブルを作成します。

```
    /**
     * Creates an asynchronous task to execute a SQL statement for creating a new
table.
     *
     * @param clusterId    the identifier of the Amazon Redshift cluster
     * @param databaseName the name of the database to create the table in
     * @param userName     the username to use for the database connection
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes with the result of the SQL
statement execution
     * @throws RuntimeException if there is an error creating the table
     */
    public CompletableFuture<ExecuteStatementResponse> createTableAsync(String
clusterId, String databaseName, String userName) {
```

```
        ExecuteStatementRequest createTableRequest =
ExecuteStatementRequest.builder()
            .clusterIdentifier(clusterId)
            .dbUser(userName)
            .database(databaseName)
            .sql("CREATE TABLE Movies (" +
                "id INT PRIMARY KEY, " +
                "title VARCHAR(100), " +
                "year INT)")
            .build();

        return getAsyncDataClient().executeStatement(createTableRequest)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    throw new RuntimeException("Error creating table: " +
exception.getMessage(), exception);
                } else {
                    logger.info("Table created: Movies");
                }
            });
    }
```

SQL ステートメントを実行して、データベーステーブルにデータを挿入します。

```
    /**
     * Asynchronously pops a table from a JSON file.
     *
     * @param clusterId   the ID of the cluster
     * @param databaseName the name of the database
     * @param userName    the username
     * @param fileName    the name of the JSON file
     * @param number      the number of records to process
     * @return a CompletableFuture that completes with the number of records added
to the Movies table
     */
    public CompletableFuture<Integer> popTableAsync(String clusterId, String
databaseName, String userName, String fileName, int number) {
        return CompletableFuture.supplyAsync(() -> {
                try {
                    JsonParser parser = new JsonFactory().createParser(new
File(fileName));
                    JsonNode rootNode = new ObjectMapper().readTree(parser);
```

```
                    Iterator<JsonNode> iter = rootNode.iterator();
                    return iter;
                } catch (IOException e) {
                    throw new RuntimeException("Failed to read or parse JSON file: "
+ e.getMessage(), e);
                }
            }).thenCompose(iter -> processNodesAsync(clusterId, databaseName,
userName, iter, number))
            .whenComplete((result, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    logger.info("Error {} ", exception.getMessage());
                } else {
                    logger.info("{} records were added to the Movies table." ,
result);
                }
            });
    }

    private CompletableFuture<Integer> processNodesAsync(String clusterId, String
databaseName, String userName, Iterator<JsonNode> iter, int number) {
        return CompletableFuture.supplyAsync(() -> {
            int t = 0;
            try {
                while (iter.hasNext()) {
                    if (t == number)
                        break;
                    JsonNode currentNode = iter.next();
                    int year = currentNode.get("year").asInt();
                    String title = currentNode.get("title").asText();

                    // Use SqlParameter to avoid SQL injection.
                    List<SqlParameter> parameterList = new ArrayList<>();
                    String sqlStatement = "INSERT INTO Movies
VALUES( :id , :title, :year);";
                    SqlParameter idParam = SqlParameter.builder()
                        .name("id")
                        .value(String.valueOf(t))
                        .build();

                    SqlParameter titleParam = SqlParameter.builder()
                        .name("title")
                        .value(title)
                        .build();
```

```
                    SqlParameter yearParam = SqlParameter.builder()
                        .name("year")
                        .value(String.valueOf(year))
                        .build();
                    parameterList.add(idParam);
                    parameterList.add(titleParam);
                    parameterList.add(yearParam);

                    ExecuteStatementRequest insertStatementRequest =
ExecuteStatementRequest.builder()
                        .clusterIdentifier(clusterId)
                        .sql(sqlStatement)
                        .database(databaseName)
                        .dbUser(userName)
                        .parameters(parameterList)
                        .build();

                    getAsyncDataClient().executeStatement(insertStatementRequest);
                    logger.info("Inserted: " + title + " (" + year + ")");
                    t++;
                }
            } catch (RedshiftDataException e) {
                throw new RuntimeException("Error inserting data: " +
e.getMessage(), e);
            }
            return t;
        });
    }
```

SQL ステートメントを実行して、データベーステーブルをクエリします。

```
    /**
     * Asynchronously queries movies by a given year from a Redshift database.
     *
     * @param database    the name of the database to query
     * @param dbUser      the user to connect to the database with
     * @param year        the year to filter the movies by
     * @param clusterId   the identifier of the Redshift cluster to connect to
     * @return a {@link CompletableFuture} containing the response ID of the
executed SQL statement
     */
    public CompletableFuture<String> queryMoviesByYearAsync(String database,
```

```
                                                                    String dbUser,
                                                                    int year,
                                                                    String clusterId)
{

        String sqlStatement = "SELECT * FROM Movies WHERE year = :year";
        SqlParameter yearParam = SqlParameter.builder()
            .name("year")
            .value(String.valueOf(year))
            .build();

        ExecuteStatementRequest statementRequest = ExecuteStatementRequest.builder()
            .clusterIdentifier(clusterId)
            .database(database)
            .dbUser(dbUser)
            .parameters(yearParam)
            .sql(sqlStatement)
            .build();

        return CompletableFuture.supplyAsync(() -> {
            try {
                ExecuteStatementResponse response =
getAsyncDataClient().executeStatement(statementRequest).join(); // Use join() to
wait for the result
                return response.id();
            } catch (RedshiftDataException e) {
                throw new RuntimeException("Error executing statement: " +
e.getMessage(), e);
            }
        }).exceptionally(exception -> {
            logger.info("Error: {}", exception.getMessage());
            return "";
        });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ExecuteStatement」を参照してください。

GetStatementResult

次のコード例は、GetStatementResult を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

ステートメントの結果を確認します。

```
   /**
    * Asynchronously retrieves the results of a statement execution.
    *
    * @param statementId the ID of the statement for which to retrieve the results
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the statement result
has been processed
    */
   public CompletableFuture<Void> getResultsAsync(String statementId) {
       GetStatementResultRequest resultRequest =
GetStatementResultRequest.builder()
           .id(statementId)
           .build();

       return getAsyncDataClient().getStatementResult(resultRequest)
           .handle((response, exception) -> {
               if (exception != null) {
                   logger.info("Error getting statement result {} ",
exception.getMessage());
                   throw new RuntimeException("Error getting statement result: " +
exception.getMessage(), exception);
               }

               // Extract and print the field values using streams if the response
is valid.
               response.records().stream()
                   .flatMap(List::stream)
                   .map(Field::stringValue)
                   .filter(value -> value != null)
                   .forEach(value -> System.out.println("The Movie title field is "
+ value));

               return response;
           }).thenAccept(response -> {
```

```
                // Optionally add more logic here if needed after handling the
response
            });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetStatementResult」を参照してください。

`ListDatabases`

次のコード例は、`ListDatabases` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Lists all databases asynchronously for the specified cluster, database user,
and database.
     * @param clusterId the identifier of the cluster to list databases for
     * @param dbUser the database user to use for the list databases request
     * @param database the database to list databases for
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the database listing
is complete, or throws a {@link RuntimeException} if there was an error
     */
    public CompletableFuture<Void> listAllDatabasesAsync(String clusterId, String
dbUser, String database) {
        ListDatabasesRequest databasesRequest = ListDatabasesRequest.builder()
            .clusterIdentifier(clusterId)
            .dbUser(dbUser)
            .database(database)
            .build();

        // Asynchronous paginator for listing databases.
        ListDatabasesPublisher databasesPaginator =
getAsyncDataClient().listDatabasesPaginator(databasesRequest);
```

```
        CompletableFuture<Void> future = databasesPaginator.subscribe(response -> {
            response.databases().forEach(db -> {
                logger.info("The database name is {} ", db);
            });
        });

        // Return the future for asynchronous handling.
        return future.exceptionally(exception -> {
            throw new RuntimeException("Failed to list databases: " +
exception.getMessage(), exception);
        });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListDatabases」を参照してください。

`ModifyCluster`

次のコード例は、`ModifyCluster` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

クラスターを変更します。

```
    /**
     * Modifies an Amazon Redshift cluster asynchronously.
     *
     * @param clusterId the identifier of the cluster to be modified
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the cluster
modification is complete
     */
    public CompletableFuture<ModifyClusterResponse> modifyClusterAsync(String
clusterId) {
        ModifyClusterRequest modifyClusterRequest = ModifyClusterRequest.builder()
```

```
            .clusterIdentifier(clusterId)
            .preferredMaintenanceWindow("wed:07:30-wed:08:00")
            .build();

        return getAsyncClient().modifyCluster(modifyClusterRequest)
            .whenComplete((clusterResponse, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    if (exception.getCause() instanceof RedshiftException) {
                        logger.info("Error: {} ", exception.getMessage());
                    } else {
                        logger.info("Unexpected error: {} ",
exception.getMessage());
                    }
                } else {
                    logger.info("The modified cluster was successfully modified and
has "
                        + clusterResponse.cluster().preferredMaintenanceWindow() + "
as the maintenance window");
                }
            });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ModifyCluster」を参照してください。

シナリオ

Amazon Redshift データ追跡用のウェブアプリケーションの作成

次のコード例は、Amazon Redshift データベースを使用して、作業項目を追跡してレポートするウェブアプリケーションを作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

Amazon Redshift データベースに保存されている作業項目を追跡してレポートするウェブアプリケーションを作成する方法を説明します。

Amazon Redshift サーバーレスデータをクエリする Spring REST API と React アプリケーションで使用するための完全なソースコードと設定方法については、GitHub にある詳しい事例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- Amazon Redshift
- Amazon SES

SDK for Java 2.x を使用する Amazon Rekognition の例

次のコード例は、Amazon Rekognition AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- アクション
- シナリオ

アクション

`CompareFaces`

次のコード例は、`CompareFaces` を使用する方法を示しています。

詳細については、「イメージ内の顔を比較する」を参照してください。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.RekognitionClient;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.*;
import software.amazon.awssdk.core.SdkBytes;

import java.io.FileInputStream;
import java.io.FileNotFoundException;
import java.io.InputStream;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class CompareFaces {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """
            Usage: <bucketName> <sourceKey> <targetKey>

            Where:
                bucketName - The name of the S3 bucket where the images are stored.
                sourceKey  - The S3 key (file name) for the source image.
                targetKey  - The S3 key (file name) for the target image.
           """;

        if (args.length != 3) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String bucketName = args[0];
        String sourceKey = args[1];
        String targetKey = args[2];

        Region region = Region.US_WEST_2;
        RekognitionClient rekClient = RekognitionClient.builder()
                .region(region)
                .build();
```

```
        compareTwoFaces(rekClient, bucketName, sourceKey, targetKey);
    }

   /**
    * Compares two faces from images stored in an Amazon S3 bucket using AWS
Rekognition.
    *
    * <p>This method takes two image keys from an S3 bucket and compares the faces
within them.
    * It prints out the confidence level of matched faces and reports the number of
unmatched faces.</p>
    *
    * @param rekClient   The {@link RekognitionClient} used to call AWS
Rekognition.
    * @param bucketName  The name of the S3 bucket containing the images.
    * @param sourceKey   The object key (file path) for the source image in the S3
bucket.
    * @param targetKey   The object key (file path) for the target image in the S3
bucket.
    * @throws RuntimeException If the Rekognition service returns an error.
    */
   public static void compareTwoFaces(RekognitionClient rekClient, String
bucketName, String sourceKey, String targetKey) {
       try {
           Float similarityThreshold = 70F;
           S3Object s3ObjectSource = S3Object.builder()
                   .bucket(bucketName)
                   .name(sourceKey)
                   .build();

           Image sourceImage = Image.builder()
                   .s3Object(s3ObjectSource)
                   .build();

           S3Object s3ObjectTarget = S3Object.builder()
                   .bucket(bucketName)
                   .name(targetKey)
                   .build();

           Image targetImage = Image.builder()
                   .s3Object(s3ObjectTarget)
                   .build();

           CompareFacesRequest facesRequest = CompareFacesRequest.builder()
```

```
                    .sourceImage(sourceImage)
                    .targetImage(targetImage)
                    .similarityThreshold(similarityThreshold)
                    .build();

            // Compare the two images.
            CompareFacesResponse compareFacesResult =
 rekClient.compareFaces(facesRequest);
            List<CompareFacesMatch> faceDetails = compareFacesResult.faceMatches();

            for (CompareFacesMatch match : faceDetails) {
                ComparedFace face = match.face();
                BoundingBox position = face.boundingBox();
                System.out.println("Face at " + position.left().toString()
                        + " " + position.top()
                        + " matches with " + face.confidence().toString()
                        + "% confidence.");
            }

            List<ComparedFace> unmatchedFaces = compareFacesResult.unmatchedFaces();
            System.out.println("There were " + unmatchedFaces.size() + " face(s)
 that did not match.");

        } catch (RekognitionException e) {
            System.err.println("Error comparing faces: " +
 e.awsErrorDetails().errorMessage());
            throw new RuntimeException(e);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CompareFaces」を参照してください。

CreateCollection

次のコード例は、CreateCollection を使用する方法を示しています。

詳細については、「コレクションを作成する」を参照してください。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.RekognitionClient;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.CreateCollectionResponse;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.CreateCollectionRequest;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.RekognitionException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class CreateCollection {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

            Usage: <collectionName>\s

            Where:
                collectionName - The name of the collection.\s
            """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String collectionId = args[0];
        Region region = Region.US_WEST_2;
        RekognitionClient rekClient = RekognitionClient.builder()
                .region(region)
                .build();
```

```
        System.out.println("Creating collection: " + collectionId);
        createMyCollection(rekClient, collectionId);
        rekClient.close();
    }

    /**
     * Creates a new Amazon Rekognition collection.
     *
     * @param rekClient    the Amazon Rekognition client used to interact with the
 Rekognition service
     * @param collectionId the unique identifier for the collection to be created
     */
    public static void createMyCollection(RekognitionClient rekClient, String
 collectionId) {
        try {
            CreateCollectionRequest collectionRequest =
 CreateCollectionRequest.builder()
                    .collectionId(collectionId)
                    .build();

            CreateCollectionResponse collectionResponse =
 rekClient.createCollection(collectionRequest);
            System.out.println("CollectionArn: " +
 collectionResponse.collectionArn());
            System.out.println("Status code: " +
 collectionResponse.statusCode().toString());

        } catch (RekognitionException e) {
            System.out.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateCollection」を参照してください。

DeleteCollection

次のコード例は、DeleteCollection を使用する方法を示しています。

詳細については、「コレクションを削除する」を参照してください。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.RekognitionClient;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.DeleteCollectionRequest;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.DeleteCollectionResponse;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.RekognitionException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DeleteCollection {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """
            Usage: <collectionId>\s

            Where:
                collectionId - The id of the collection to delete.\s
            """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String collectionId = args[0];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        RekognitionClient rekClient = RekognitionClient.builder()
                .region(region)
```

```
                .build();

        System.out.println("Deleting collection: " + collectionId);
        deleteMyCollection(rekClient, collectionId);
        rekClient.close();
    }

    /**
     * Deletes an Amazon Rekognition collection.
     *
     * @param rekClient      An instance of the {@link RekognitionClient} class,
 which is used to interact with the Amazon Rekognition service.
     * @param collectionId   The ID of the collection to be deleted.
     */
    public static void deleteMyCollection(RekognitionClient rekClient, String
 collectionId) {
        try {
            DeleteCollectionRequest deleteCollectionRequest =
 DeleteCollectionRequest.builder()
                    .collectionId(collectionId)
                    .build();

            DeleteCollectionResponse deleteCollectionResponse =
 rekClient.deleteCollection(deleteCollectionRequest);
            System.out.println(collectionId + ": " +
 deleteCollectionResponse.statusCode().toString());

        } catch (RekognitionException e) {
            System.out.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteCollection」を参照してください。

DeleteFaces

次のコード例は、DeleteFaces を使用する方法を示しています。

詳細については、「コレクションから顔を削除する」を参照してください。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.RekognitionClient;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.DeleteFacesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.RekognitionException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DeleteFacesFromCollection {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """
            Usage: <collectionId> <faceId>\s

            Where:
                collectionId - The id of the collection from which faces are
 deleted.\s
                faceId - The id of the face to delete.\s
           """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String collectionId = args[0];
        String faceId = args[1];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        RekognitionClient rekClient = RekognitionClient.builder()
                .region(region)
```

```
                .build();

        System.out.println("Deleting collection: " + collectionId);
        deleteFacesCollection(rekClient, collectionId, faceId);
        rekClient.close();
    }

    /**
     * Deletes a face from the specified Amazon Rekognition collection.
     *
     * @param rekClient     an instance of the Amazon Rekognition client
     * @param collectionId  the ID of the collection from which the face should be
 deleted
     * @param faceId        the ID of the face to be deleted
     * @throws RekognitionException if an error occurs while deleting the face
     */
    public static void deleteFacesCollection(RekognitionClient rekClient,
            String collectionId,
            String faceId) {

        try {
            DeleteFacesRequest deleteFacesRequest = DeleteFacesRequest.builder()
                    .collectionId(collectionId)
                    .faceIds(faceId)
                    .build();

            rekClient.deleteFaces(deleteFacesRequest);
            System.out.println("The face was deleted from the collection.");

        } catch (RekognitionException e) {
            System.out.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteFaces」を参照してください。

DescribeCollection

次のコード例は、DescribeCollection を使用する方法を示しています。

詳細については、「コレクションを定義する」を参照してください。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.RekognitionClient;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.DescribeCollectionRequest;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.DescribeCollectionResponse;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.RekognitionException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DescribeCollection {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """
            Usage:    <collectionName>

            Where:
                collectionName - The name of the Amazon Rekognition collection.\s
            """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String collectionName = args[0];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        RekognitionClient rekClient = RekognitionClient.builder()
                .region(region)
```

```
                .build();

        describeColl(rekClient, collectionName);
        rekClient.close();
    }

    /**
     * Describes an Amazon Rekognition collection.
     *
     * @param rekClient         The Amazon Rekognition client used to make the
 request.
     * @param collectionName    The name of the collection to describe.
     *
     * @throws RekognitionException If an error occurs while describing the
 collection.
     */
    public static void describeColl(RekognitionClient rekClient, String
 collectionName) {
        try {
            DescribeCollectionRequest describeCollectionRequest =
 DescribeCollectionRequest.builder()
                    .collectionId(collectionName)
                    .build();

            DescribeCollectionResponse describeCollectionResponse = rekClient
                    .describeCollection(describeCollectionRequest);
            System.out.println("Collection Arn : " +
 describeCollectionResponse.collectionARN());
            System.out.println("Created : " +
 describeCollectionResponse.creationTimestamp().toString());

        } catch (RekognitionException e) {
            System.out.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeCollection」を参照してください。

DetectFaces

次のコード例は、DetectFaces を使用する方法を示しています。

詳細については、「イメージ内の顔を検出する」を参照してください。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.RekognitionClient;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.*;

import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DetectFaces {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

            Usage:   <bucketName> <sourceImage>

            Where:
                bucketName = The name of the Amazon S3 bucket where the source image
 is stored.
                sourceImage - The name of the source image file in the Amazon S3
 bucket. (for example, pic1.png).\s
            """;

        if (args.length != 2) {
```

```
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String bucketName = args[0];
        String sourceImage = args[1];
        Region region = Region.US_WEST_2;
        RekognitionClient rekClient = RekognitionClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        detectFacesinImage(rekClient, bucketName, sourceImage);
        rekClient.close();
    }

    /**
     * Detects faces in an image stored in an Amazon S3 bucket using the Amazon
Rekognition service.
     *
     * @param rekClient    The Amazon Rekognition client used to interact with the
Rekognition service.
     * @param bucketName   The name of the Amazon S3 bucket where the source image
is stored.
     * @param sourceImage  The name of the source image file in the Amazon S3
bucket.
     */
    public static void detectFacesinImage(RekognitionClient rekClient, String
bucketName, String sourceImage) {
        try {
            S3Object s3ObjectTarget = S3Object.builder()
                .bucket(bucketName)
                .name(sourceImage)
                .build();

            Image targetImage = Image.builder()
                .s3Object(s3ObjectTarget)
                .build();

            DetectFacesRequest facesRequest = DetectFacesRequest.builder()
                .attributes(Attribute.ALL)
                .image(targetImage)
                .build();

            DetectFacesResponse facesResponse = rekClient.detectFaces(facesRequest);
```

```
            List<FaceDetail> faceDetails = facesResponse.faceDetails();
            for (FaceDetail face : faceDetails) {
                AgeRange ageRange = face.ageRange();
                System.out.println("The detected face is estimated to be between "
                        + ageRange.low().toString() + " and " +
 ageRange.high().toString()
                        + " years old.");

                System.out.println("There is a smile : " +
 face.smile().value().toString());
            }

        } catch (RekognitionException e) {
            System.out.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DetectFaces」を参照してください。

`DetectLabels`

次のコード例は、`DetectLabels` を使用する方法を示しています。

詳細については、「イメージ内のラベルを検出する」を参照してください。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.core.SdkBytes;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.RekognitionClient;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.*;
```

```
import java.io.FileInputStream;
import java.io.FileNotFoundException;
import java.io.InputStream;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DetectLabels {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """
            Usage: <bucketName> <sourceImage>

            Where:
                bucketName - The name of the Amazon S3 bucket where the image is
 stored
                sourceImage - The name of the image file (for example, pic1.png).\s
            """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String bucketName = args[0] ;
        String sourceImage = args[1] ;
        Region region = Region.US_WEST_2;
        RekognitionClient rekClient = RekognitionClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        detectImageLabels(rekClient, bucketName, sourceImage);
        rekClient.close();
    }

    /**
     * Detects the labels in an image stored in an Amazon S3 bucket using the Amazon
 Rekognition service.
     *
```

```
    * @param rekClient     the Amazon Rekognition client used to make the detection
 request
    * @param bucketName    the name of the Amazon S3 bucket where the image is
 stored
    * @param sourceImage   the name of the image file to be analyzed
    */
   public static void detectImageLabels(RekognitionClient rekClient, String
 bucketName, String sourceImage) {
       try {
           S3Object s3ObjectTarget = S3Object.builder()
                   .bucket(bucketName)
                   .name(sourceImage)
                   .build();

           Image souImage = Image.builder()
                   .s3Object(s3ObjectTarget)
                   .build();

           DetectLabelsRequest detectLabelsRequest = DetectLabelsRequest.builder()
                   .image(souImage)
                   .maxLabels(10)
                   .build();

           DetectLabelsResponse labelsResponse =
 rekClient.detectLabels(detectLabelsRequest);
           List<Label> labels = labelsResponse.labels();
           System.out.println("Detected labels for the given photo");
           for (Label label : labels) {
               System.out.println(label.name() + ": " +
 label.confidence().toString());
           }

       } catch (RekognitionException e) {
           System.out.println(e.getMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DetectLabels」を参照してください。

DetectModerationLabels

次のコード例は、DetectModerationLabels を使用する方法を示しています。

詳細については、「不適切なイメージを検出する」を参照してください。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.RekognitionClient;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.*;

import java.io.FileInputStream;
import java.io.FileNotFoundException;
import java.io.InputStream;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DetectModerationLabels {

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """
            Usage:  <bucketName>  <sourceImage>

            Where:
                bucketName - The name of the S3 bucket where the images are stored.
                sourceImage - The name of the image (for example, pic1.png).\s
            """;

        if (args.length != 2) {
```

```
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String bucketName = args[0];
        String sourceImage = args[1];
        Region region = Region.US_WEST_2;
        RekognitionClient rekClient = RekognitionClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        detectModLabels(rekClient, bucketName, sourceImage);
        rekClient.close();
    }

    /**
     * Detects moderation labels in an image stored in an Amazon S3 bucket.
     *
     * @param rekClient      the Amazon Rekognition client to use for the detection
     * @param bucketName     the name of the Amazon S3 bucket where the image is
stored
     * @param sourceImage    the name of the image file to be analyzed
     *
     * @throws RekognitionException if there is an error during the image detection
process
     */
    public static void detectModLabels(RekognitionClient rekClient, String
bucketName, String sourceImage) {
        try {
            S3Object s3ObjectTarget = S3Object.builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .name(sourceImage)
                    .build();

            Image targetImage = Image.builder()
                    .s3Object(s3ObjectTarget)
                    .build();

            DetectModerationLabelsRequest moderationLabelsRequest =
DetectModerationLabelsRequest.builder()
                    .image(targetImage)
                    .minConfidence(60F)
                    .build();
```

```
            DetectModerationLabelsResponse moderationLabelsResponse = rekClient
                    .detectModerationLabels(moderationLabelsRequest);
            List<ModerationLabel> labels =
 moderationLabelsResponse.moderationLabels();
            System.out.println("Detected labels for image");
            for (ModerationLabel label : labels) {
                System.out.println("Label: " + label.name()
                        + "\n Confidence: " + label.confidence().toString() + "%"
                        + "\n Parent:" + label.parentName());
            }

        } catch (RekognitionException e) {
            e.printStackTrace();
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DetectModerationLabels」を参照してください。

`DetectText`

次のコード例は、`DetectText` を使用する方法を示しています。

詳細については、「イメージ内のテキストを検出する」を参照してください。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.core.SdkBytes;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.RekognitionClient;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.*;

import java.io.FileInputStream;
```

```
import java.io.FileNotFoundException;
import java.io.InputStream;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DetectText {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = "\n" +
            "Usage:   <bucketName> <sourceImage>\n" +
            "\n" +
            "Where:\n" +
            "   bucketName - The name of the S3 bucket where the image is stored\n"
 +
            "   sourceImage - The path to the image that contains text (for example,
 pic1.png). \n";

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String bucketName = args[0];
        String sourceImage = args[1];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        RekognitionClient rekClient = RekognitionClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        detectTextLabels(rekClient, bucketName, sourceImage);
        rekClient.close();
    }

    /**
     * Detects text labels in an image stored in an S3 bucket using Amazon
 Rekognition.
     *
     * @param rekClient    an instance of the Amazon Rekognition client
```

```
     * @param bucketName   the name of the S3 bucket where the image is stored
     * @param sourceImage  the name of the image file in the S3 bucket
     * @throws RekognitionException if an error occurs while calling the Amazon
 Rekognition API
     */
    public static void detectTextLabels(RekognitionClient rekClient, String
 bucketName, String sourceImage) {
        try {
            S3Object s3ObjectTarget = S3Object.builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .name(sourceImage)
                    .build();

            Image souImage = Image.builder()
                    .s3Object(s3ObjectTarget)
                    .build();

            DetectTextRequest textRequest = DetectTextRequest.builder()
                    .image(souImage)
                    .build();

            DetectTextResponse textResponse = rekClient.detectText(textRequest);
            List<TextDetection> textCollection = textResponse.textDetections();
            System.out.println("Detected lines and words");
            for (TextDetection text : textCollection) {
                System.out.println("Detected: " + text.detectedText());
                System.out.println("Confidence: " + text.confidence().toString());
                System.out.println("Id : " + text.id());
                System.out.println("Parent Id: " + text.parentId());
                System.out.println("Type: " + text.type());
                System.out.println();
            }

        } catch (RekognitionException e) {
            System.out.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DetectText」を参照してください。

IndexFaces

次のコード例は、IndexFaces を使用する方法を示しています。

詳細については、「コレクションに顔を追加する」を参照してください。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.RekognitionClient;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.*;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class AddFacesToCollection {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """
            Usage: <collectionId> <sourceImage> <bucketName>

            Where:
                collectionName - The name of the collection.
                sourceImage - The name of the image (for example, pic1.png).
                bucketName - The name of the S3 bucket.
            """;

        if (args.length != 3) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }
```

```
        String collectionId = args[0];
        String sourceImage = args[1];
        String bucketName = args[2];;
        Region region = Region.US_EAST_1;
        RekognitionClient rekClient = RekognitionClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        addToCollection(rekClient, collectionId, bucketName, sourceImage);
        rekClient.close();
    }

    /**
     * Adds a face from an image to an Amazon Rekognition collection.
     *
     * @param rekClient     the Amazon Rekognition client
     * @param collectionId  the ID of the collection to add the face to
     * @param bucketName    the name of the Amazon S3 bucket containing the image
     * @param sourceImage   the name of the image file to add to the collection
     * @throws RekognitionException if there is an error while interacting with the
Amazon Rekognition service
     */
    public static void addToCollection(RekognitionClient rekClient, String
collectionId, String bucketName, String sourceImage) {
        try {
            S3Object s3ObjectTarget = S3Object.builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .name(sourceImage)
                    .build();

            Image targetImage = Image.builder()
                    .s3Object(s3ObjectTarget)
                    .build();

            IndexFacesRequest facesRequest = IndexFacesRequest.builder()
                    .collectionId(collectionId)
                    .image(targetImage)
                    .maxFaces(1)
                    .qualityFilter(QualityFilter.AUTO)
                    .detectionAttributes(Attribute.DEFAULT)
                    .build();

            IndexFacesResponse facesResponse = rekClient.indexFaces(facesRequest);
            System.out.println("Results for the image");
```

```
            System.out.println("\n Faces indexed:");
            List<FaceRecord> faceRecords = facesResponse.faceRecords();
            for (FaceRecord faceRecord : faceRecords) {
                System.out.println("  Face ID: " + faceRecord.face().faceId());
                System.out.println("  Location:" +
 faceRecord.faceDetail().boundingBox().toString());
            }

            List<UnindexedFace> unindexedFaces = facesResponse.unindexedFaces();
            System.out.println("Faces not indexed:");
            for (UnindexedFace unindexedFace : unindexedFaces) {
                System.out.println("  Location:" +
 unindexedFace.faceDetail().boundingBox().toString());
                System.out.println("  Reasons:");
                for (Reason reason : unindexedFace.reasons()) {
                    System.out.println("Reason:  " + reason);
                }
            }

        } catch (RekognitionException e) {
            System.out.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「IndexFaces」を参照してください。

`ListCollections`

次のコード例は、`ListCollections` を使用する方法を示しています。

コレクションの詳細については、「コレクションを一覧表示する」を参照してください。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.RekognitionClient;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.ListCollectionsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.ListCollectionsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.RekognitionException;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ListCollections {
    public static void main(String[] args) {
        Region region = Region.US_EAST_1;
        RekognitionClient rekClient = RekognitionClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        System.out.println("Listing collections");
        listAllCollections(rekClient);
        rekClient.close();
    }

    public static void listAllCollections(RekognitionClient rekClient) {
        try {
            ListCollectionsRequest listCollectionsRequest =
 ListCollectionsRequest.builder()
                    .maxResults(10)
                    .build();

            ListCollectionsResponse response =
 rekClient.listCollections(listCollectionsRequest);
            List<String> collectionIds = response.collectionIds();
            for (String resultId : collectionIds) {
                System.out.println(resultId);
            }

        } catch (RekognitionException e) {
            System.out.println(e.getMessage());
```

```
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListCollections」を参照してください。

`ListFaces`

次のコード例は、`ListFaces` を使用する方法を示しています。

詳細については、「コレクションに顔を保存する」を参照してください。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.RekognitionClient;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.Face;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.ListFacesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.ListFacesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.RekognitionException;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ListFacesInCollection {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """
```

```
                Usage:    <collectionId>

                Where:
                   collectionId - The name of the collection.\s
                """;

        if (args.length < 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String collectionId = args[0];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        RekognitionClient rekClient = RekognitionClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        System.out.println("Faces in collection " + collectionId);
        listFacesCollection(rekClient, collectionId);
        rekClient.close();
    }

    public static void listFacesCollection(RekognitionClient rekClient, String
collectionId) {
        try {
            ListFacesRequest facesRequest = ListFacesRequest.builder()
                    .collectionId(collectionId)
                    .maxResults(10)
                    .build();

            ListFacesResponse facesResponse = rekClient.listFaces(facesRequest);
            List<Face> faces = facesResponse.faces();
            for (Face face : faces) {
                System.out.println("Confidence level there is a face: " +
face.confidence());
                System.out.println("The face Id value is " + face.faceId());
            }

        } catch (RekognitionException e) {
            System.out.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

```
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListFaces」を参照してください。

`RecognizeCelebrities`

次のコード例は、RecognizeCelebrities を使用する方法を示しています。

詳細については、「イメージ内で有名人を認識する」を参照してください。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.RekognitionClient;
import software.amazon.awssdk.core.SdkBytes;
import java.io.FileInputStream;
import java.io.FileNotFoundException;
import java.io.InputStream;
import java.util.List;

import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.*;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class RecognizeCelebrities {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """
                Usage:   <bucketName> <sourceImage>
```

```
                Where:
                   bucketName - The name of the S3 bucket where the images are
 stored.
                   sourceImage - The path to the image (for example, C:\\AWS\
\pic1.png).\s
                """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
       }

        String bucketName = args[0];;
        String sourceImage = args[1];
        Region region = Region.US_WEST_2;
        RekognitionClient rekClient = RekognitionClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        System.out.println("Locating celebrities in " + sourceImage);
        recognizeAllCelebrities(rekClient, bucketName, sourceImage);
        rekClient.close();
    }

    /**
     * Recognizes all celebrities in an image stored in an Amazon S3 bucket.
     *
     * @param rekClient    the Amazon Rekognition client used to perform the
 celebrity recognition operation
     * @param bucketName   the name of the Amazon S3 bucket where the source image
 is stored
     * @param sourceImage  the name of the source image file stored in the Amazon S3
 bucket
     */
    public static void recognizeAllCelebrities(RekognitionClient rekClient, String
 bucketName, String sourceImage) {
        try {
            S3Object s3ObjectTarget = S3Object.builder()
                .bucket(bucketName)
                .name(sourceImage)
                .build();

            Image souImage = Image.builder()
```

```
                    .s3Object(s3ObjectTarget)
                    .build();

            RecognizeCelebritiesRequest request =
 RecognizeCelebritiesRequest.builder()
                    .image(souImage)
                    .build();

            RecognizeCelebritiesResponse result =
 rekClient.recognizeCelebrities(request);
            List<Celebrity> celebs = result.celebrityFaces();
            System.out.println(celebs.size() + " celebrity(s) were recognized.\n");
            for (Celebrity celebrity : celebs) {
                System.out.println("Celebrity recognized: " + celebrity.name());
                System.out.println("Celebrity ID: " + celebrity.id());

                System.out.println("Further information (if available):");
                for (String url : celebrity.urls()) {
                    System.out.println(url);
                }
                System.out.println();
            }
            System.out.println(result.unrecognizedFaces().size() + " face(s) were
 unrecognized.");

        } catch (RekognitionException e) {
            System.out.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「RecognizeCelebrities」を参照してください。

SearchFaces

次のコード例は、SearchFaces を使用する方法を示しています。

詳細については、顔 (フェイス ID) を検索する を参照してください。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.core.SdkBytes;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.RekognitionClient;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.RekognitionException;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.SearchFacesByImageRequest;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.Image;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.SearchFacesByImageResponse;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.FaceMatch;
import java.io.File;
import java.io.FileInputStream;
import java.io.FileNotFoundException;
import java.io.InputStream;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class SearchFaceMatchingImageCollection {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:    <collectionId> <sourceImage>

                Where:
                   collectionId - The id of the collection. \s
                   sourceImage - The path to the image (for example, C:\\AWS\
\pic1.png).\s

                """;
```

```
        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String collectionId = args[0];
        String sourceImage = args[1];
        Region region = Region.US_WEST_2;
        RekognitionClient rekClient = RekognitionClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        System.out.println("Searching for a face in a collections");
        searchFaceInCollection(rekClient, collectionId, sourceImage);
        rekClient.close();
    }

    public static void searchFaceInCollection(RekognitionClient rekClient, String
collectionId, String sourceImage) {
        try {
            InputStream sourceStream = new FileInputStream(new File(sourceImage));
            SdkBytes sourceBytes = SdkBytes.fromInputStream(sourceStream);
            Image souImage = Image.builder()
                    .bytes(sourceBytes)
                    .build();

            SearchFacesByImageRequest facesByImageRequest =
SearchFacesByImageRequest.builder()
                    .image(souImage)
                    .maxFaces(10)
                    .faceMatchThreshold(70F)
                    .collectionId(collectionId)
                    .build();

            SearchFacesByImageResponse imageResponse =
rekClient.searchFacesByImage(facesByImageRequest);
            System.out.println("Faces matching in the collection");
            List<FaceMatch> faceImageMatches = imageResponse.faceMatches();
            for (FaceMatch face : faceImageMatches) {
                System.out.println("The similarity level is  " + face.similarity());
                System.out.println();
            }
```

```
        } catch (RekognitionException | FileNotFoundException e) {
            System.out.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「SearchFaces」を参照してください。

SearchFacesByImage

次のコード例は、SearchFacesByImage を使用する方法を示しています。

詳細については、「顔を検索する (イメージ)」を参照してください。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.RekognitionClient;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.SearchFacesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.SearchFacesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.FaceMatch;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.RekognitionException;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class SearchFaceMatchingIdCollection {
```

```
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:    <collectionId> <sourceImage>

                Where:
                   collectionId - The id of the collection. \s
                   sourceImage - The path to the image (for example, C:\\AWS\
\pic1.png).\s
                """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String collectionId = args[0];
        String faceId = args[1];
        Region region = Region.US_WEST_2;
        RekognitionClient rekClient = RekognitionClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        System.out.println("Searching for a face in a collections");
        searchFacebyId(rekClient, collectionId, faceId);
        rekClient.close();
    }

    public static void searchFacebyId(RekognitionClient rekClient, String
 collectionId, String faceId) {
        try {
            SearchFacesRequest searchFacesRequest = SearchFacesRequest.builder()
                    .collectionId(collectionId)
                    .faceId(faceId)
                    .faceMatchThreshold(70F)
                    .maxFaces(2)
                    .build();

            SearchFacesResponse imageResponse =
 rekClient.searchFaces(searchFacesRequest);
            System.out.println("Faces matching in the collection");
            List<FaceMatch> faceImageMatches = imageResponse.faceMatches();
            for (FaceMatch face : faceImageMatches) {
                System.out.println("The similarity level is  " + face.similarity());
```

```
                System.out.println();
            }

        } catch (RekognitionException e) {
            System.out.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「SearchFacesByImage」を参照してください。

シナリオ

サーバーレスアプリケーションを作成して写真を管理する

次のコード例では、ユーザーがラベルを使用して写真を管理できるサーバーレスアプリケーションを作成する方法について示しています。

SDK for Java 2.x

Amazon Rekognition を使用して画像内のラベルを検出し、保存して後で取得できるようにする写真アセット管理アプリケーションの開発方法を示します。

完全なソースコードと設定および実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例のソースについて詳しくは、AWS コミュニティでブログ投稿を参照してください。

この例で使用されているサービス

- API ゲートウェイ
- DynamoDB
- Lambda
- Amazon Rekognition
- Amazon S3
- Amazon SNS

画像内の PPE を検出する

次のコード例は、Amazon Rekognition を使用して画像内の個人用防護具 (PPE) を検出するアプリケーションを構築する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

個人用保護具を使用してイメージを検出する AWS Lambda 関数を作成する方法を示します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- DynamoDB
- Amazon Rekognition
- Amazon S3
- Amazon SES

ビデオ内の情報を検出する

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- Amazon Rekognition のジョブを開始し、人物、オブジェクト、テキストなどの要素を動画から検出します。
- ジョブが完了するまでジョブのステータスを確認します。
- 検出された要素のリストをジョブごとに出力します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

Amazon S3 バケット内のビデオから有名人の結果を取得します。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.RekognitionClient;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.S3Object;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.NotificationChannel;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.Video;
import
 software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.StartCelebrityRecognitionResponse;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.RekognitionException;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.CelebrityRecognitionSortBy;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.VideoMetadata;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.CelebrityRecognition;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.CelebrityDetail;
import
 software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.StartCelebrityRecognitionRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.GetCelebrityRecognitionRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.GetCelebrityRecognitionResponse;
import java.util.List;

/**
 * To run this code example, ensure that you perform the Prerequisites as stated
 * in the Amazon Rekognition Guide:
 * https://docs.aws.amazon.com/rekognition/latest/dg/video-analyzing-with-sqs.html
 *
 * Also, ensure that set up your development environment, including your
 * credentials.
 *
 * For information, see this documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */

public class VideoCelebrityDetection {
    private static String startJobId = "";

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:    <bucket> <video> <topicArn> <roleArn>

                Where:
                   bucket - The name of the bucket in which the video is located
 (for example, (for example, myBucket).\s
                   video - The name of video (for example, people.mp4).\s
```

```
                    topicArn - The ARN of the Amazon Simple Notification Service
(Amazon SNS) topic.\s
                    roleArn - The ARN of the AWS Identity and Access Management (IAM)
role to use.\s
                """;

        if (args.length != 4) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String bucket = args[0];
        String video = args[1];
        String topicArn = args[2];
        String roleArn = args[3];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        RekognitionClient rekClient = RekognitionClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        NotificationChannel channel = NotificationChannel.builder()
                .snsTopicArn(topicArn)
                .roleArn(roleArn)
                .build();

        startCelebrityDetection(rekClient, channel, bucket, video);
        getCelebrityDetectionResults(rekClient);
        System.out.println("This example is done!");
        rekClient.close();
    }

    public static void startCelebrityDetection(RekognitionClient rekClient,
            NotificationChannel channel,
            String bucket,
            String video) {
        try {
            S3Object s3Obj = S3Object.builder()
                    .bucket(bucket)
                    .name(video)
                    .build();

            Video vidOb = Video.builder()
                    .s3Object(s3Obj)
                    .build();
```

```
            StartCelebrityRecognitionRequest recognitionRequest =
StartCelebrityRecognitionRequest.builder()
                    .jobTag("Celebrities")
                    .notificationChannel(channel)
                    .video(vidOb)
                    .build();

            StartCelebrityRecognitionResponse startCelebrityRecognitionResult =
rekClient
                    .startCelebrityRecognition(recognitionRequest);
            startJobId = startCelebrityRecognitionResult.jobId();

        } catch (RekognitionException e) {
            System.out.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void getCelebrityDetectionResults(RekognitionClient rekClient) {
        try {
            String paginationToken = null;
            GetCelebrityRecognitionResponse recognitionResponse = null;
            boolean finished = false;
            String status;
            int yy = 0;

            do {
                if (recognitionResponse != null)
                    paginationToken = recognitionResponse.nextToken();

                GetCelebrityRecognitionRequest recognitionRequest =
GetCelebrityRecognitionRequest.builder()
                        .jobId(startJobId)
                        .nextToken(paginationToken)
                        .sortBy(CelebrityRecognitionSortBy.TIMESTAMP)
                        .maxResults(10)
                        .build();

                // Wait until the job succeeds
                while (!finished) {
                    recognitionResponse =
rekClient.getCelebrityRecognition(recognitionRequest);
                    status = recognitionResponse.jobStatusAsString();
```

```
                    if (status.compareTo("SUCCEEDED") == 0)
                        finished = true;
                    else {
                        System.out.println(yy + " status is: " + status);
                        Thread.sleep(1000);
                    }
                    yy++;
                }

                finished = false;

                // Proceed when the job is done - otherwise VideoMetadata is null.
                VideoMetadata videoMetaData = recognitionResponse.videoMetadata();
                System.out.println("Format: " + videoMetaData.format());
                System.out.println("Codec: " + videoMetaData.codec());
                System.out.println("Duration: " + videoMetaData.durationMillis());
                System.out.println("FrameRate: " + videoMetaData.frameRate());
                System.out.println("Job");

                List<CelebrityRecognition> celebs =
 recognitionResponse.celebrities();
                for (CelebrityRecognition celeb : celebs) {
                    long seconds = celeb.timestamp() / 1000;
                    System.out.print("Sec: " + seconds + " ");
                    CelebrityDetail details = celeb.celebrity();
                    System.out.println("Name: " + details.name());
                    System.out.println("Id: " + details.id());
                    System.out.println();
                }

            } while (recognitionResponse.nextToken() != null);

        } catch (RekognitionException | InterruptedException e) {
            System.out.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

ラベル検出オペレーションによって、ビデオ内のラベルを検出します。

```
import com.fasterxml.jackson.core.JsonProcessingException;
import com.fasterxml.jackson.databind.JsonMappingException;
import com.fasterxml.jackson.databind.JsonNode;
import com.fasterxml.jackson.databind.ObjectMapper;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.RekognitionClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.StartLabelDetectionResponse;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.NotificationChannel;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.S3Object;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.Video;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.StartLabelDetectionRequest;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.GetLabelDetectionRequest;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.GetLabelDetectionResponse;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.RekognitionException;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.LabelDetectionSortBy;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.VideoMetadata;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.LabelDetection;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.Label;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.Instance;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.Parent;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.SqsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.Message;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.ReceiveMessageRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.DeleteMessageRequest;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class VideoDetect {
    private static String startJobId = "";

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:    <bucket> <video> <queueUrl> <topicArn> <roleArn>
```

```
                Where:
                   bucket - The name of the bucket in which the video is located
(for example, (for example, myBucket).\s
                   video - The name of the video (for example, people.mp4).\s
                   queueUrl- The URL of a SQS queue.\s
                   topicArn - The ARN of the Amazon Simple Notification Service
(Amazon SNS) topic.\s
                   roleArn - The ARN of the AWS Identity and Access Management (IAM)
role to use.\s
                """;

       if (args.length != 5) {
           System.out.println(usage);
           System.exit(1);
       }

       String bucket = args[0];
       String video = args[1];
       String queueUrl = args[2];
       String topicArn = args[3];
       String roleArn = args[4];
       Region region = Region.US_EAST_1;
       RekognitionClient rekClient = RekognitionClient.builder()
               .region(region)
               .build();

       SqsClient sqs = SqsClient.builder()
               .region(Region.US_EAST_1)
               .build();

       NotificationChannel channel = NotificationChannel.builder()
               .snsTopicArn(topicArn)
               .roleArn(roleArn)
               .build();

       startLabels(rekClient, channel, bucket, video);
       getLabelJob(rekClient, sqs, queueUrl);
       System.out.println("This example is done!");
       sqs.close();
       rekClient.close();
   }

   public static void startLabels(RekognitionClient rekClient,
           NotificationChannel channel,
```

```
            String bucket,
            String video) {
        try {
            S3Object s3Obj = S3Object.builder()
                    .bucket(bucket)
                    .name(video)
                    .build();

            Video vidOb = Video.builder()
                    .s3Object(s3Obj)
                    .build();

            StartLabelDetectionRequest labelDetectionRequest =
StartLabelDetectionRequest.builder()
                    .jobTag("DetectingLabels")
                    .notificationChannel(channel)
                    .video(vidOb)
                    .minConfidence(50F)
                    .build();

            StartLabelDetectionResponse labelDetectionResponse =
rekClient.startLabelDetection(labelDetectionRequest);
            startJobId = labelDetectionResponse.jobId();

            boolean ans = true;
            String status = "";
            int yy = 0;
            while (ans) {

                GetLabelDetectionRequest detectionRequest =
GetLabelDetectionRequest.builder()
                        .jobId(startJobId)
                        .maxResults(10)
                        .build();

                GetLabelDetectionResponse result =
rekClient.getLabelDetection(detectionRequest);
                status = result.jobStatusAsString();

                if (status.compareTo("SUCCEEDED") == 0)
                    ans = false;
                else
                    System.out.println(yy + " status is: " + status);
```

```
                Thread.sleep(1000);
                yy++;
            }

            System.out.println(startJobId + " status is: " + status);

        } catch (RekognitionException | InterruptedException e) {
            e.getMessage();
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void getLabelJob(RekognitionClient rekClient, SqsClient sqs,
String queueUrl) {
        List<Message> messages;
        ReceiveMessageRequest messageRequest = ReceiveMessageRequest.builder()
                .queueUrl(queueUrl)
                .build();

        try {
            messages = sqs.receiveMessage(messageRequest).messages();

            if (!messages.isEmpty()) {
                for (Message message : messages) {
                    String notification = message.body();

                    // Get the status and job id from the notification
                    ObjectMapper mapper = new ObjectMapper();
                    JsonNode jsonMessageTree = mapper.readTree(notification);
                    JsonNode messageBodyText = jsonMessageTree.get("Message");
                    ObjectMapper operationResultMapper = new ObjectMapper();
                    JsonNode jsonResultTree =
operationResultMapper.readTree(messageBodyText.textValue());
                    JsonNode operationJobId = jsonResultTree.get("JobId");
                    JsonNode operationStatus = jsonResultTree.get("Status");
                    System.out.println("Job found in JSON is " + operationJobId);

                    DeleteMessageRequest deleteMessageRequest =
DeleteMessageRequest.builder()
                            .queueUrl(queueUrl)
                            .build();

                    String jobId = operationJobId.textValue();
                    if (startJobId.compareTo(jobId) == 0) {
```

```
                        System.out.println("Job id: " + operationJobId);
                        System.out.println("Status : " +
operationStatus.toString());

                        if (operationStatus.asText().equals("SUCCEEDED"))
                            getResultsLabels(rekClient);
                        else
                            System.out.println("Video analysis failed");

                        sqs.deleteMessage(deleteMessageRequest);
                    } else {
                        System.out.println("Job received was not job " +
startJobId);
                        sqs.deleteMessage(deleteMessageRequest);
                    }
                }
            }

        } catch (RekognitionException e) {
            e.getMessage();
            System.exit(1);
        } catch (JsonMappingException e) {
            e.printStackTrace();
        } catch (JsonProcessingException e) {
            e.printStackTrace();
        }
    }

    // Gets the job results by calling GetLabelDetection
    private static void getResultsLabels(RekognitionClient rekClient) {

        int maxResults = 10;
        String paginationToken = null;
        GetLabelDetectionResponse labelDetectionResult = null;

        try {
            do {
                if (labelDetectionResult != null)
                    paginationToken = labelDetectionResult.nextToken();

                GetLabelDetectionRequest labelDetectionRequest =
GetLabelDetectionRequest.builder()
                        .jobId(startJobId)
                        .sortBy(LabelDetectionSortBy.TIMESTAMP)
```

```
                        .maxResults(maxResults)
                        .nextToken(paginationToken)
                        .build();

                labelDetectionResult =
rekClient.getLabelDetection(labelDetectionRequest);
                VideoMetadata videoMetaData = labelDetectionResult.videoMetadata();
                System.out.println("Format: " + videoMetaData.format());
                System.out.println("Codec: " + videoMetaData.codec());
                System.out.println("Duration: " + videoMetaData.durationMillis());
                System.out.println("FrameRate: " + videoMetaData.frameRate());

                List<LabelDetection> detectedLabels = labelDetectionResult.labels();
                for (LabelDetection detectedLabel : detectedLabels) {
                    long seconds = detectedLabel.timestamp();
                    Label label = detectedLabel.label();
                    System.out.println("Millisecond: " + seconds + " ");

                    System.out.println("   Label:" + label.name());
                    System.out.println("   Confidence:" +
detectedLabel.label().confidence().toString());

                    List<Instance> instances = label.instances();
                    System.out.println("   Instances of " + label.name());

                    if (instances.isEmpty()) {
                        System.out.println("        " + "None");
                    } else {
                        for (Instance instance : instances) {
                            System.out.println("        Confidence: " +
instance.confidence().toString());
                            System.out.println("        Bounding box: " +
instance.boundingBox().toString());
                        }
                    }
                    System.out.println("   Parent labels for " + label.name() +
":");
                    List<Parent> parents = label.parents();

                    if (parents.isEmpty()) {
                        System.out.println("        None");
                    } else {
                        for (Parent parent : parents) {
                            System.out.println("   " + parent.name());
```

```
                        }
                    }
                    System.out.println();
                }
            } while (labelDetectionResult != null &&
 labelDetectionResult.nextToken() != null);

        } catch (RekognitionException e) {
            e.getMessage();
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

Amazon S3 バケットに保存されたビデオ内の顔を検出する

```
import com.fasterxml.jackson.core.JsonProcessingException;
import com.fasterxml.jackson.databind.JsonMappingException;
import com.fasterxml.jackson.databind.JsonNode;
import com.fasterxml.jackson.databind.ObjectMapper;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.RekognitionClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.StartLabelDetectionResponse;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.NotificationChannel;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.S3Object;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.Video;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.StartLabelDetectionRequest;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.GetLabelDetectionRequest;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.GetLabelDetectionResponse;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.RekognitionException;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.LabelDetectionSortBy;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.VideoMetadata;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.LabelDetection;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.Label;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.Instance;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.Parent;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.SqsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.Message;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.ReceiveMessageRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.DeleteMessageRequest;
import java.util.List;
```

```
/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class VideoDetect {
    private static String startJobId = "";

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:    <bucket> <video> <queueUrl> <topicArn> <roleArn>

                Where:
                   bucket - The name of the bucket in which the video is located
 (for example, (for example, myBucket).\s
                   video - The name of the video (for example, people.mp4).\s
                   queueUrl- The URL of a SQS queue.\s
                   topicArn - The ARN of the Amazon Simple Notification Service
 (Amazon SNS) topic.\s
                   roleArn - The ARN of the AWS Identity and Access Management (IAM)
 role to use.\s
                """;

        if (args.length != 5) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String bucket = args[0];
        String video = args[1];
        String queueUrl = args[2];
        String topicArn = args[3];
        String roleArn = args[4];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        RekognitionClient rekClient = RekognitionClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        SqsClient sqs = SqsClient.builder()
```

```
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        NotificationChannel channel = NotificationChannel.builder()
                .snsTopicArn(topicArn)
                .roleArn(roleArn)
                .build();

        startLabels(rekClient, channel, bucket, video);
        getLabelJob(rekClient, sqs, queueUrl);
        System.out.println("This example is done!");
        sqs.close();
        rekClient.close();
    }

    public static void startLabels(RekognitionClient rekClient,
            NotificationChannel channel,
            String bucket,
            String video) {
        try {
            S3Object s3Obj = S3Object.builder()
                    .bucket(bucket)
                    .name(video)
                    .build();

            Video vidOb = Video.builder()
                    .s3Object(s3Obj)
                    .build();

            StartLabelDetectionRequest labelDetectionRequest =
StartLabelDetectionRequest.builder()
                    .jobTag("DetectingLabels")
                    .notificationChannel(channel)
                    .video(vidOb)
                    .minConfidence(50F)
                    .build();

            StartLabelDetectionResponse labelDetectionResponse =
rekClient.startLabelDetection(labelDetectionRequest);
            startJobId = labelDetectionResponse.jobId();

            boolean ans = true;
            String status = "";
            int yy = 0;
```

```
            while (ans) {

                GetLabelDetectionRequest detectionRequest =
GetLabelDetectionRequest.builder()
                        .jobId(startJobId)
                        .maxResults(10)
                        .build();

                GetLabelDetectionResponse result =
rekClient.getLabelDetection(detectionRequest);
                status = result.jobStatusAsString();

                if (status.compareTo("SUCCEEDED") == 0)
                    ans = false;
                else
                    System.out.println(yy + " status is: " + status);

                Thread.sleep(1000);
                yy++;
            }

            System.out.println(startJobId + " status is: " + status);

        } catch (RekognitionException | InterruptedException e) {
            e.getMessage();
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void getLabelJob(RekognitionClient rekClient, SqsClient sqs,
String queueUrl) {
        List<Message> messages;
        ReceiveMessageRequest messageRequest = ReceiveMessageRequest.builder()
                .queueUrl(queueUrl)
                .build();

        try {
            messages = sqs.receiveMessage(messageRequest).messages();

            if (!messages.isEmpty()) {
                for (Message message : messages) {
                    String notification = message.body();

                    // Get the status and job id from the notification
```

```
                    ObjectMapper mapper = new ObjectMapper();
                    JsonNode jsonMessageTree = mapper.readTree(notification);
                    JsonNode messageBodyText = jsonMessageTree.get("Message");
                    ObjectMapper operationResultMapper = new ObjectMapper();
                    JsonNode jsonResultTree =
operationResultMapper.readTree(messageBodyText.textValue());
                    JsonNode operationJobId = jsonResultTree.get("JobId");
                    JsonNode operationStatus = jsonResultTree.get("Status");
                    System.out.println("Job found in JSON is " + operationJobId);

                    DeleteMessageRequest deleteMessageRequest =
DeleteMessageRequest.builder()
                            .queueUrl(queueUrl)
                            .build();

                    String jobId = operationJobId.textValue();
                    if (startJobId.compareTo(jobId) == 0) {
                        System.out.println("Job id: " + operationJobId);
                        System.out.println("Status : " +
operationStatus.toString());

                        if (operationStatus.asText().equals("SUCCEEDED"))
                            getResultsLabels(rekClient);
                        else
                            System.out.println("Video analysis failed");

                        sqs.deleteMessage(deleteMessageRequest);
                    } else {
                        System.out.println("Job received was not job " +
startJobId);
                        sqs.deleteMessage(deleteMessageRequest);
                    }
                }
            }

        } catch (RekognitionException e) {
            e.getMessage();
            System.exit(1);
        } catch (JsonMappingException e) {
            e.printStackTrace();
        } catch (JsonProcessingException e) {
            e.printStackTrace();
        }
    }
```

```
   // Gets the job results by calling GetLabelDetection
   private static void getResultsLabels(RekognitionClient rekClient) {

       int maxResults = 10;
       String paginationToken = null;
       GetLabelDetectionResponse labelDetectionResult = null;

       try {
           do {
               if (labelDetectionResult != null)
                   paginationToken = labelDetectionResult.nextToken();

               GetLabelDetectionRequest labelDetectionRequest =
GetLabelDetectionRequest.builder()
                       .jobId(startJobId)
                       .sortBy(LabelDetectionSortBy.TIMESTAMP)
                       .maxResults(maxResults)
                       .nextToken(paginationToken)
                       .build();

               labelDetectionResult =
rekClient.getLabelDetection(labelDetectionRequest);
               VideoMetadata videoMetaData = labelDetectionResult.videoMetadata();
               System.out.println("Format: " + videoMetaData.format());
               System.out.println("Codec: " + videoMetaData.codec());
               System.out.println("Duration: " + videoMetaData.durationMillis());
               System.out.println("FrameRate: " + videoMetaData.frameRate());

               List<LabelDetection> detectedLabels = labelDetectionResult.labels();
               for (LabelDetection detectedLabel : detectedLabels) {
                   long seconds = detectedLabel.timestamp();
                   Label label = detectedLabel.label();
                   System.out.println("Millisecond: " + seconds + " ");

                   System.out.println("   Label:" + label.name());
                   System.out.println("   Confidence:" +
detectedLabel.label().confidence().toString());

                   List<Instance> instances = label.instances();
                   System.out.println("   Instances of " + label.name());

                   if (instances.isEmpty()) {
                       System.out.println("        " + "None");
```

```
                    } else {
                        for (Instance instance : instances) {
                            System.out.println("        Confidence: " +
 instance.confidence().toString());
                            System.out.println("        Bounding box: " +
 instance.boundingBox().toString());
                        }
                    }
                    System.out.println("   Parent labels for " + label.name() +
 ":");
                    List<Parent> parents = label.parents();

                    if (parents.isEmpty()) {
                        System.out.println("        None");
                    } else {
                        for (Parent parent : parents) {
                            System.out.println("   " + parent.name());
                        }
                    }
                    System.out.println();
                }
            } while (labelDetectionResult != null &&
 labelDetectionResult.nextToken() != null);

        } catch (RekognitionException e) {
            e.getMessage();
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

Amazon S3 バケットに保存されたビデオ内の不適切なコンテンツや攻撃的なコンテンツを検出します。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.RekognitionClient;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.NotificationChannel;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.S3Object;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.Video;
import
 software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.StartContentModerationRequest;
```

```
import
 software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.StartContentModerationResponse;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.RekognitionException;
import
 software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.GetContentModerationResponse;
import
 software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.GetContentModerationRequest;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.VideoMetadata;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.ContentModerationDetection;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class VideoDetectInappropriate {
    private static String startJobId = "";

    public static void main(String[] args) {

        final String usage = """

                Usage:    <bucket> <video> <topicArn> <roleArn>

                Where:
                   bucket - The name of the bucket in which the video is located
 (for example, (for example, myBucket).\s
                   video - The name of video (for example, people.mp4).\s
                   topicArn - The ARN of the Amazon Simple Notification Service
 (Amazon SNS) topic.\s
                   roleArn - The ARN of the AWS Identity and Access Management (IAM)
 role to use.\s
                """;

       if (args.length != 4) {
           System.out.println(usage);
           System.exit(1);
       }

       String bucket = args[0];
```

```
        String video = args[1];
        String topicArn = args[2];
        String roleArn = args[3];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        RekognitionClient rekClient = RekognitionClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        NotificationChannel channel = NotificationChannel.builder()
                .snsTopicArn(topicArn)
                .roleArn(roleArn)
                .build();

        startModerationDetection(rekClient, channel, bucket, video);
        getModResults(rekClient);
        System.out.println("This example is done!");
        rekClient.close();
    }

    public static void startModerationDetection(RekognitionClient rekClient,
            NotificationChannel channel,
            String bucket,
            String video) {

        try {
            S3Object s3Obj = S3Object.builder()
                    .bucket(bucket)
                    .name(video)
                    .build();

            Video vidOb = Video.builder()
                    .s3Object(s3Obj)
                    .build();

            StartContentModerationRequest modDetectionRequest =
StartContentModerationRequest.builder()
                    .jobTag("Moderation")
                    .notificationChannel(channel)
                    .video(vidOb)
                    .build();

            StartContentModerationResponse startModDetectionResult = rekClient
                    .startContentModeration(modDetectionRequest);
            startJobId = startModDetectionResult.jobId();
```

```
        } catch (RekognitionException e) {
            System.out.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void getModResults(RekognitionClient rekClient) {
        try {
            String paginationToken = null;
            GetContentModerationResponse modDetectionResponse = null;
            boolean finished = false;
            String status;
            int yy = 0;

            do {
                if (modDetectionResponse != null)
                    paginationToken = modDetectionResponse.nextToken();

                GetContentModerationRequest modRequest =
GetContentModerationRequest.builder()
                        .jobId(startJobId)
                        .nextToken(paginationToken)
                        .maxResults(10)
                        .build();

                // Wait until the job succeeds.
                while (!finished) {
                    modDetectionResponse =
rekClient.getContentModeration(modRequest);
                    status = modDetectionResponse.jobStatusAsString();

                    if (status.compareTo("SUCCEEDED") == 0)
                        finished = true;
                    else {
                        System.out.println(yy + " status is: " + status);
                        Thread.sleep(1000);
                    }
                    yy++;
                }

                finished = false;

                // Proceed when the job is done - otherwise VideoMetadata is null.
```

```
                VideoMetadata videoMetaData = modDetectionResponse.videoMetadata();
                System.out.println("Format: " + videoMetaData.format());
                System.out.println("Codec: " + videoMetaData.codec());
                System.out.println("Duration: " + videoMetaData.durationMillis());
                System.out.println("FrameRate: " + videoMetaData.frameRate());
                System.out.println("Job");

                List<ContentModerationDetection> mods =
 modDetectionResponse.moderationLabels();
                for (ContentModerationDetection mod : mods) {
                    long seconds = mod.timestamp() / 1000;
                    System.out.print("Mod label: " + seconds + " ");
                    System.out.println(mod.moderationLabel().toString());
                    System.out.println();
                }

            } while (modDetectionResponse != null &&
 modDetectionResponse.nextToken() != null);

        } catch (RekognitionException | InterruptedException e) {
            System.out.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

Amazon S3 バケットに保存されているビデオ内のテクニカルキューセグメントおよびショット検出セグメントを検出します。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.RekognitionClient;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.S3Object;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.NotificationChannel;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.Video;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.StartShotDetectionFilter;
import
 software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.StartTechnicalCueDetectionFilter;
import
 software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.StartSegmentDetectionFilters;
import
 software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.StartSegmentDetectionRequest;
```

```
import
 software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.StartSegmentDetectionResponse;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.RekognitionException;
import
 software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.GetSegmentDetectionResponse;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.GetSegmentDetectionRequest;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.VideoMetadata;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.SegmentDetection;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.TechnicalCueSegment;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.ShotSegment;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.SegmentType;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.SqsClient;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class VideoDetectSegment {
    private static String startJobId = "";

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:    <bucket> <video> <topicArn> <roleArn>

                Where:
                   bucket - The name of the bucket in which the video is located
 (for example, (for example, myBucket).\s
                   video - The name of video (for example, people.mp4).\s
                   topicArn - The ARN of the Amazon Simple Notification Service
 (Amazon SNS) topic.\s
                   roleArn - The ARN of the AWS Identity and Access Management (IAM)
 role to use.\s
                """;

        if (args.length != 4) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }
```

```
        String bucket = args[0];
        String video = args[1];
        String topicArn = args[2];
        String roleArn = args[3];

        Region region = Region.US_EAST_1;
        RekognitionClient rekClient = RekognitionClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        SqsClient sqs = SqsClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        NotificationChannel channel = NotificationChannel.builder()
                .snsTopicArn(topicArn)
                .roleArn(roleArn)
                .build();

        startSegmentDetection(rekClient, channel, bucket, video);
        getSegmentResults(rekClient);
        System.out.println("This example is done!");
        sqs.close();
        rekClient.close();
    }

    public static void startSegmentDetection(RekognitionClient rekClient,
            NotificationChannel channel,
            String bucket,
            String video) {
        try {
            S3Object s3Obj = S3Object.builder()
                    .bucket(bucket)
                    .name(video)
                    .build();

            Video vidOb = Video.builder()
                    .s3Object(s3Obj)
                    .build();

            StartShotDetectionFilter cueDetectionFilter =
StartShotDetectionFilter.builder()
                    .minSegmentConfidence(60F)
```

```
                    .build();

            StartTechnicalCueDetectionFilter technicalCueDetectionFilter =
StartTechnicalCueDetectionFilter.builder()
                    .minSegmentConfidence(60F)
                    .build();

            StartSegmentDetectionFilters filters =
StartSegmentDetectionFilters.builder()
                    .shotFilter(cueDetectionFilter)
                    .technicalCueFilter(technicalCueDetectionFilter)
                    .build();

            StartSegmentDetectionRequest segDetectionRequest =
StartSegmentDetectionRequest.builder()
                    .jobTag("DetectingLabels")
                    .notificationChannel(channel)
                    .segmentTypes(SegmentType.TECHNICAL_CUE, SegmentType.SHOT)
                    .video(vidOb)
                    .filters(filters)
                    .build();

            StartSegmentDetectionResponse segDetectionResponse =
rekClient.startSegmentDetection(segDetectionRequest);
            startJobId = segDetectionResponse.jobId();

        } catch (RekognitionException e) {
            e.getMessage();
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void getSegmentResults(RekognitionClient rekClient) {
        try {
            String paginationToken = null;
            GetSegmentDetectionResponse segDetectionResponse = null;
            boolean finished = false;
            String status;
            int yy = 0;

            do {
                if (segDetectionResponse != null)
                    paginationToken = segDetectionResponse.nextToken();
```

```
                GetSegmentDetectionRequest recognitionRequest =
GetSegmentDetectionRequest.builder()
                        .jobId(startJobId)
                        .nextToken(paginationToken)
                        .maxResults(10)
                        .build();

                // Wait until the job succeeds.
                while (!finished) {
                    segDetectionResponse =
rekClient.getSegmentDetection(recognitionRequest);
                    status = segDetectionResponse.jobStatusAsString();

                    if (status.compareTo("SUCCEEDED") == 0)
                        finished = true;
                    else {
                        System.out.println(yy + " status is: " + status);
                        Thread.sleep(1000);
                    }
                    yy++;
                }
                finished = false;

                // Proceed when the job is done - otherwise VideoMetadata is null.
                List<VideoMetadata> videoMetaData =
segDetectionResponse.videoMetadata();
                for (VideoMetadata metaData : videoMetaData) {
                    System.out.println("Format: " + metaData.format());
                    System.out.println("Codec: " + metaData.codec());
                    System.out.println("Duration: " + metaData.durationMillis());
                    System.out.println("FrameRate: " + metaData.frameRate());
                    System.out.println("Job");
                }

                List<SegmentDetection> detectedSegments =
segDetectionResponse.segments();
                for (SegmentDetection detectedSegment : detectedSegments) {
                    String type = detectedSegment.type().toString();
                    if (type.contains(SegmentType.TECHNICAL_CUE.toString())) {
                        System.out.println("Technical Cue");
                        TechnicalCueSegment segmentCue =
detectedSegment.technicalCueSegment();
                        System.out.println("\tType: " + segmentCue.type());
```

```
                        System.out.println("\tConfidence: " +
 segmentCue.confidence().toString());
                    }

                    if (type.contains(SegmentType.SHOT.toString())) {
                        System.out.println("Shot");
                        ShotSegment segmentShot = detectedSegment.shotSegment();
                        System.out.println("\tIndex " + segmentShot.index());
                        System.out.println("\tConfidence: " +
 segmentShot.confidence().toString());
                    }

                    long seconds = detectedSegment.durationMillis();
                    System.out.println("\tDuration : " + seconds + " milliseconds");
                    System.out.println("\tStart time code: " +
 detectedSegment.startTimecodeSMPTE());
                    System.out.println("\tEnd time code: " +
 detectedSegment.endTimecodeSMPTE());
                    System.out.println("\tDuration time code: " +
 detectedSegment.durationSMPTE());
                    System.out.println();
                }

            } while (segDetectionResponse != null &&
 segDetectionResponse.nextToken() != null);

        } catch (RekognitionException | InterruptedException e) {
            System.out.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

Amazon S3 バケットに保存されたビデオに保存されたビデオ内のテキストを検出します。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.RekognitionClient;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.S3Object;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.NotificationChannel;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.Video;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.StartTextDetectionRequest;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.StartTextDetectionResponse;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.RekognitionException;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.GetTextDetectionResponse;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.GetTextDetectionRequest;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.VideoMetadata;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.TextDetectionResult;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class VideoDetectText {
    private static String startJobId = "";

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:    <bucket> <video> <topicArn> <roleArn>

                Where:
                   bucket - The name of the bucket in which the video is located
 (for example, (for example, myBucket).\s
                   video - The name of video (for example, people.mp4).\s
                   topicArn - The ARN of the Amazon Simple Notification Service
 (Amazon SNS) topic.\s
                   roleArn - The ARN of the AWS Identity and Access Management (IAM)
 role to use.\s
                """;

        if (args.length != 4) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String bucket = args[0];
        String video = args[1];
        String topicArn = args[2];
        String roleArn = args[3];

        Region region = Region.US_EAST_1;
```

```
        RekognitionClient rekClient = RekognitionClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        NotificationChannel channel = NotificationChannel.builder()
                .snsTopicArn(topicArn)
                .roleArn(roleArn)
                .build();

        startTextLabels(rekClient, channel, bucket, video);
        getTextResults(rekClient);
        System.out.println("This example is done!");
        rekClient.close();
    }

    public static void startTextLabels(RekognitionClient rekClient,
            NotificationChannel channel,
            String bucket,
            String video) {
        try {
            S3Object s3Obj = S3Object.builder()
                    .bucket(bucket)
                    .name(video)
                    .build();

            Video vidOb = Video.builder()
                    .s3Object(s3Obj)
                    .build();

            StartTextDetectionRequest labelDetectionRequest =
StartTextDetectionRequest.builder()
                    .jobTag("DetectingLabels")
                    .notificationChannel(channel)
                    .video(vidOb)
                    .build();

            StartTextDetectionResponse labelDetectionResponse =
rekClient.startTextDetection(labelDetectionRequest);
            startJobId = labelDetectionResponse.jobId();

        } catch (RekognitionException e) {
            System.out.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
```

```
    }

    public static void getTextResults(RekognitionClient rekClient) {
        try {
            String paginationToken = null;
            GetTextDetectionResponse textDetectionResponse = null;
            boolean finished = false;
            String status;
            int yy = 0;

            do {
                if (textDetectionResponse != null)
                    paginationToken = textDetectionResponse.nextToken();

                GetTextDetectionRequest recognitionRequest =
GetTextDetectionRequest.builder()
                        .jobId(startJobId)
                        .nextToken(paginationToken)
                        .maxResults(10)
                        .build();

                // Wait until the job succeeds.
                while (!finished) {
                    textDetectionResponse =
rekClient.getTextDetection(recognitionRequest);
                    status = textDetectionResponse.jobStatusAsString();

                    if (status.compareTo("SUCCEEDED") == 0)
                        finished = true;
                    else {
                        System.out.println(yy + " status is: " + status);
                        Thread.sleep(1000);
                    }
                    yy++;
                }

                finished = false;

                // Proceed when the job is done - otherwise VideoMetadata is null.
                VideoMetadata videoMetaData = textDetectionResponse.videoMetadata();
                System.out.println("Format: " + videoMetaData.format());
                System.out.println("Codec: " + videoMetaData.codec());
                System.out.println("Duration: " + videoMetaData.durationMillis());
                System.out.println("FrameRate: " + videoMetaData.frameRate());
```

```
                System.out.println("Job");

                List<TextDetectionResult> labels =
 textDetectionResponse.textDetections();
                for (TextDetectionResult detectedText : labels) {
                    System.out.println("Confidence: " +
 detectedText.textDetection().confidence().toString());
                    System.out.println("Id : " + detectedText.textDetection().id());
                    System.out.println("Parent Id: " +
 detectedText.textDetection().parentId());
                    System.out.println("Type: " +
 detectedText.textDetection().type());
                    System.out.println("Text: " +
 detectedText.textDetection().detectedText());
                    System.out.println();
                }

            } while (textDetectionResponse != null &&
 textDetectionResponse.nextToken() != null);

        } catch (RekognitionException | InterruptedException e) {
            System.out.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

Amazon S3 バケットに保存されたビデオに保存されたビデオ内の人物を検出します。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.RekognitionClient;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.S3Object;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.NotificationChannel;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.StartPersonTrackingRequest;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.Video;
import
 software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.StartPersonTrackingResponse;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.RekognitionException;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.GetPersonTrackingResponse;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.GetPersonTrackingRequest;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.VideoMetadata;
import software.amazon.awssdk.services.rekognition.model.PersonDetection;
```

```
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class VideoPersonDetection {
    private static String startJobId = "";

    public static void main(String[] args) {

        final String usage = """

                Usage:    <bucket> <video> <topicArn> <roleArn>

                Where:
                   bucket - The name of the bucket in which the video is located
 (for example, (for example, myBucket).\s
                   video - The name of video (for example, people.mp4).\s
                   topicArn - The ARN of the Amazon Simple Notification Service
 (Amazon SNS) topic.\s
                   roleArn - The ARN of the AWS Identity and Access Management (IAM)
 role to use.\s
                """;

        if (args.length != 4) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String bucket = args[0];
        String video = args[1];
        String topicArn = args[2];
        String roleArn = args[3];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        RekognitionClient rekClient = RekognitionClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        NotificationChannel channel = NotificationChannel.builder()
```

```
                .snsTopicArn(topicArn)
                .roleArn(roleArn)
                .build();

        startPersonLabels(rekClient, channel, bucket, video);
        getPersonDetectionResults(rekClient);
        System.out.println("This example is done!");
        rekClient.close();
    }

    public static void startPersonLabels(RekognitionClient rekClient,
            NotificationChannel channel,
            String bucket,
            String video) {
        try {
            S3Object s3Obj = S3Object.builder()
                    .bucket(bucket)
                    .name(video)
                    .build();

            Video vidOb = Video.builder()
                    .s3Object(s3Obj)
                    .build();

            StartPersonTrackingRequest personTrackingRequest =
StartPersonTrackingRequest.builder()
                    .jobTag("DetectingLabels")
                    .video(vidOb)
                    .notificationChannel(channel)
                    .build();

            StartPersonTrackingResponse labelDetectionResponse =
rekClient.startPersonTracking(personTrackingRequest);
            startJobId = labelDetectionResponse.jobId();

        } catch (RekognitionException e) {
            System.out.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void getPersonDetectionResults(RekognitionClient rekClient) {
        try {
            String paginationToken = null;
```

```
            GetPersonTrackingResponse personTrackingResult = null;
            boolean finished = false;
            String status;
            int yy = 0;

            do {
                if (personTrackingResult != null)
                    paginationToken = personTrackingResult.nextToken();

                GetPersonTrackingRequest recognitionRequest =
GetPersonTrackingRequest.builder()
                        .jobId(startJobId)
                        .nextToken(paginationToken)
                        .maxResults(10)
                        .build();

                // Wait until the job succeeds
                while (!finished) {

                    personTrackingResult =
rekClient.getPersonTracking(recognitionRequest);
                    status = personTrackingResult.jobStatusAsString();

                    if (status.compareTo("SUCCEEDED") == 0)
                        finished = true;
                    else {
                        System.out.println(yy + " status is: " + status);
                        Thread.sleep(1000);
                    }
                    yy++;
                }

                finished = false;

                // Proceed when the job is done - otherwise VideoMetadata is null.
                VideoMetadata videoMetaData = personTrackingResult.videoMetadata();

                System.out.println("Format: " + videoMetaData.format());
                System.out.println("Codec: " + videoMetaData.codec());
                System.out.println("Duration: " + videoMetaData.durationMillis());
                System.out.println("FrameRate: " + videoMetaData.frameRate());
                System.out.println("Job");
```

```
                List<PersonDetection> detectedPersons =
 personTrackingResult.persons();
                for (PersonDetection detectedPerson : detectedPersons) {
                    long seconds = detectedPerson.timestamp() / 1000;
                    System.out.print("Sec: " + seconds + " ");
                    System.out.println("Person Identifier: " +
 detectedPerson.person().index());
                    System.out.println();
                }

            } while (personTrackingResult != null &&
 personTrackingResult.nextToken() != null);

        } catch (RekognitionException | InterruptedException e) {
            System.out.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - GetCelebrityRecognition
  - GetContentModeration
  - GetLabelDetection
  - GetPersonTracking
  - GetSegmentDetection
  - GetTextDetection
  - StartCelebrityRecognition
  - StartContentModeration
  - StartLabelDetection
  - StartPersonTracking
  - StartSegmentDetection
  - StartTextDetection

画像内のオブジェクトを検出する

次のコード例は、Amazon Rekognition を使用して画像内でカテゴリ別にオブジェクトを検出するアプリケーションを構築する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

Amazon Rekognition Java API を使用して、Amazon Rekognition を使用し、 Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) バケットにあるイメージ内でカテゴリ別にオブジェクトを識別するアプリケーションを作成する方法について説明します。アプリケーションは Amazon Simple Email Service (Amazon SES) を使用して、結果を含む E メール通知を管理者に送信します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- Amazon Rekognition
- Amazon S3
- Amazon SES

動画内の人物や物体を検出する

次のコード例は、Amazon Rekognition で動画内の人やオブジェクトを検出する方法を示します。

SDK for Java 2.x

Amazon Rekognition Java API を使用し、Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) バケットにあるビデオ内で顔やオブジェクトを検出するアプリケーションを作成する方法について説明します。アプリケーションは Amazon Simple Email Service (Amazon SES) を使用して、結果を含む E メール通知を管理者に送信します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- Amazon Rekognition
- Amazon S3
- Amazon SES
- Amazon SNS

- Amazon SQS

SDK for Java 2.x を使用した Route 53 ドメイン登録のコード例

次のコード例は、Route 53 ドメイン登録 AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- はじめに
- 基本
- アクション

はじめに

ハロー Route 53 ドメイン登録

次のコード例は、Route 53 ドメイン登録の使用を開始する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.route53domains.Route53DomainsClient;
import software.amazon.awssdk.services.route53.model.Route53Exception;
import software.amazon.awssdk.services.route53domains.model.DomainPrice;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.route53domains.model.ListPricesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.route53domains.model.ListPricesResponse;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 *
 * This Java code examples performs the following operation:
 *
 * 1. Invokes ListPrices for at least one domain type, such as the “com” type
 * and displays the prices for Registration and Renewal.
 *
 */
public class HelloRoute53 {
    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = "\n" +
                "Usage:\n" +
                "    <hostedZoneId> \n\n" +
                "Where:\n" +
                "    hostedZoneId - The id value of an existing hosted zone. \n";

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String domainType = args[0];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        Route53DomainsClient route53DomainsClient = Route53DomainsClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("Invokes ListPrices for at least one domain type.");
        listPrices(route53DomainsClient, domainType);
        System.out.println(DASHES);
    }
```

```
   public static void listPrices(Route53DomainsClient route53DomainsClient, String
domainType) {
       try {
           ListPricesRequest pricesRequest = ListPricesRequest.builder()
                   .maxItems(10)
                   .tld(domainType)
                   .build();

           ListPricesResponse response =
route53DomainsClient.listPrices(pricesRequest);
           List<DomainPrice> prices = response.prices();
           for (DomainPrice pr : prices) {
               System.out.println("Name: " + pr.name());
               System.out.println(
                       "Registration: " + pr.registrationPrice().price() + " " +
pr.registrationPrice().currency());
               System.out.println("Renewal: " + pr.renewalPrice().price() + " " +
pr.renewalPrice().currency());
               System.out.println("Transfer: " + pr.transferPrice().price() + " " +
pr.transferPrice().currency());
               System.out.println("Transfer: " + pr.transferPrice().price() + " " +
pr.transferPrice().currency());
               System.out.println("Change Ownership: " +
pr.changeOwnershipPrice().price() + " "
                       + pr.changeOwnershipPrice().currency());
               System.out.println(
                       "Restoration: " + pr.restorationPrice().price() + " " +
pr.restorationPrice().currency());
               System.out.println(" ");
           }

       } catch (Route53Exception e) {
           System.err.println(e.getMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListPrices」を参照してください。

基本

基本を学ぶ

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- 現在のドメインを一覧表示し、過去 1 年間の操作を一覧表示します。
- 過去 1 年間の請求記録とドメインタイプの価格を表示します。
- ドメインの候補を取得します。
- ドメインの可用性と移管可能性を確認します。
- オプションで、ドメイン登録をリクエストします。
- 操作の詳細を入手します。
- オプションで、ドメインの詳細を取得します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 *
 * This example uses pagination methods where applicable. For example, to list
 * domains, the
 * listDomainsPaginator method is used. For more information about pagination,
 * see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/pagination.html
 *
 * This Java code example performs the following operations:
 *
```

```
 * 1. List current domains.
 * 2. List operations in the past year.
 * 3. View billing for the account in the past year.
 * 4. View prices for domain types.
 * 5. Get domain suggestions.
 * 6. Check domain availability.
 * 7. Check domain transferability.
 * 8. Request a domain registration.
 * 9. Get operation details.
 * 10. Optionally, get domain details.
 */

public class Route53Scenario {
    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <domainType> <phoneNumber> <email> <domainSuggestion>
 <firstName> <lastName> <city>

                Where:
                    domainType - The domain type (for example, com).\s
                    phoneNumber - The phone number to use (for example,
 +91.9966564xxx)      email - The email address to use.      domainSuggestion - The
 domain suggestion (for example, findmy.accountants).\s
                    firstName - The first name to use to register a domain.\s
                    lastName -  The last name to use to register a domain.\s
                    city - the city to use to register a domain.\s
                    """;

        if (args.length != 7) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String domainType = args[0];
        String phoneNumber = args[1];
        String email = args[2];
        String domainSuggestion = args[3];
        String firstName = args[4];
        String lastName = args[5];
        String city = args[6];
```

```
        Region region = Region.US_EAST_1;
        Route53DomainsClient route53DomainsClient = Route53DomainsClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("Welcome to the Amazon Route 53 domains example
scenario.");
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("1. List current domains.");
        listDomains(route53DomainsClient);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("2. List operations in the past year.");
        listOperations(route53DomainsClient);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("3. View billing for the account in the past year.");
        listBillingRecords(route53DomainsClient);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("4. View prices for domain types.");
        listPrices(route53DomainsClient, domainType);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("5. Get domain suggestions.");
        listDomainSuggestions(route53DomainsClient, domainSuggestion);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("6. Check domain availability.");
        checkDomainAvailability(route53DomainsClient, domainSuggestion);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("7. Check domain transferability.");
        checkDomainTransferability(route53DomainsClient, domainSuggestion);
        System.out.println(DASHES);
```

```
        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("8. Request a domain registration.");
        String opId = requestDomainRegistration(route53DomainsClient,
domainSuggestion, phoneNumber, email, firstName,
                lastName, city);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("9. Get operation details.");
        getOperationalDetail(route53DomainsClient, opId);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("10. Get domain details.");
        System.out.println("Note: You must have a registered domain to get
details.");
        System.out.println("Otherwise, an exception is thrown that states ");
        System.out.println("Domain xxxxxxx not found in xxxxxxx account.");
        getDomainDetails(route53DomainsClient, domainSuggestion);
        System.out.println(DASHES);
    }

    public static void getDomainDetails(Route53DomainsClient route53DomainsClient,
String domainSuggestion) {
        try {
            GetDomainDetailRequest detailRequest = GetDomainDetailRequest.builder()
                    .domainName(domainSuggestion)
                    .build();

            GetDomainDetailResponse response =
route53DomainsClient.getDomainDetail(detailRequest);
            System.out.println("The contact first name is " +
response.registrantContact().firstName());
            System.out.println("The contact last name is " +
response.registrantContact().lastName());
            System.out.println("The contact org name is " +
response.registrantContact().organizationName());

        } catch (Route53Exception e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

```
   public static void getOperationalDetail(Route53DomainsClient
route53DomainsClient, String operationId) {
       try {
           GetOperationDetailRequest detailRequest =
GetOperationDetailRequest.builder()
                   .operationId(operationId)
                   .build();

           GetOperationDetailResponse response =
route53DomainsClient.getOperationDetail(detailRequest);
           System.out.println("Operation detail message is " + response.message());

       } catch (Route53Exception e) {
           System.err.println(e.getMessage());
           System.exit(1);
       }
   }

   public static String requestDomainRegistration(Route53DomainsClient
route53DomainsClient,
           String domainSuggestion,
           String phoneNumber,
           String email,
           String firstName,
           String lastName,
           String city) {

       try {
           ContactDetail contactDetail = ContactDetail.builder()
                   .contactType(ContactType.COMPANY)
                   .state("LA")
                   .countryCode(CountryCode.IN)
                   .email(email)
                   .firstName(firstName)
                   .lastName(lastName)
                   .city(city)
                   .phoneNumber(phoneNumber)
                   .organizationName("My Org")
                   .addressLine1("My Address")
                   .zipCode("123 123")
                   .build();

           RegisterDomainRequest domainRequest = RegisterDomainRequest.builder()
```

```
                    .adminContact(contactDetail)
                    .registrantContact(contactDetail)
                    .techContact(contactDetail)
                    .domainName(domainSuggestion)
                    .autoRenew(true)
                    .durationInYears(1)
                    .build();

            RegisterDomainResponse response =
route53DomainsClient.registerDomain(domainRequest);
            System.out.println("Registration requested. Operation Id: " +
response.operationId());
            return response.operationId();

        } catch (Route53Exception e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }

    public static void checkDomainTransferability(Route53DomainsClient
route53DomainsClient, String domainSuggestion) {
        try {
            CheckDomainTransferabilityRequest transferabilityRequest =
CheckDomainTransferabilityRequest.builder()
                    .domainName(domainSuggestion)
                    .build();

            CheckDomainTransferabilityResponse response = route53DomainsClient
                    .checkDomainTransferability(transferabilityRequest);
            System.out.println("Transferability: " +
response.transferability().transferable().toString());

        } catch (Route53Exception e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void checkDomainAvailability(Route53DomainsClient
route53DomainsClient, String domainSuggestion) {
        try {
```

```
            CheckDomainAvailabilityRequest availabilityRequest =
CheckDomainAvailabilityRequest.builder()
                    .domainName(domainSuggestion)
                    .build();

            CheckDomainAvailabilityResponse response = route53DomainsClient
                    .checkDomainAvailability(availabilityRequest);
            System.out.println(domainSuggestion + " is " +
response.availability().toString());

        } catch (Route53Exception e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void listDomainSuggestions(Route53DomainsClient
route53DomainsClient, String domainSuggestion) {
        try {
            GetDomainSuggestionsRequest suggestionsRequest =
GetDomainSuggestionsRequest.builder()
                    .domainName(domainSuggestion)
                    .suggestionCount(5)
                    .onlyAvailable(true)
                    .build();

            GetDomainSuggestionsResponse response =
route53DomainsClient.getDomainSuggestions(suggestionsRequest);
            List<DomainSuggestion> suggestions = response.suggestionsList();
            for (DomainSuggestion suggestion : suggestions) {
                System.out.println("Suggestion Name: " + suggestion.domainName());
                System.out.println("Availability: " + suggestion.availability());
                System.out.println(" ");
            }

        } catch (Route53Exception e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void listPrices(Route53DomainsClient route53DomainsClient, String
domainType) {
        try {
```

```
            ListPricesRequest pricesRequest = ListPricesRequest.builder()
                    .tld(domainType)
                    .build();

            ListPricesIterable listRes =
route53DomainsClient.listPricesPaginator(pricesRequest);
            listRes.stream()
                    .flatMap(r -> r.prices().stream())
                    .forEach(content -> System.out.println(" Name: " +
content.name() +
                            " Registration: " + content.registrationPrice().price()
+ " "
                            + content.registrationPrice().currency() +
                            " Renewal: " + content.renewalPrice().price() + " " +
content.renewalPrice().currency()));

        } catch (Route53Exception e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void listBillingRecords(Route53DomainsClient route53DomainsClient)
{
        try {
            Date currentDate = new Date();
            LocalDateTime localDateTime =
currentDate.toInstant().atZone(ZoneId.systemDefault()).toLocalDateTime();
            ZoneOffset zoneOffset = ZoneOffset.of("+01:00");
            LocalDateTime localDateTime2 = localDateTime.minusYears(1);
            Instant myStartTime = localDateTime2.toInstant(zoneOffset);
            Instant myEndTime = localDateTime.toInstant(zoneOffset);

            ViewBillingRequest viewBillingRequest = ViewBillingRequest.builder()
                    .start(myStartTime)
                    .end(myEndTime)
                    .build();

            ViewBillingIterable listRes =
route53DomainsClient.viewBillingPaginator(viewBillingRequest);
            listRes.stream()
                    .flatMap(r -> r.billingRecords().stream())
                    .forEach(content -> System.out.println(" Bill Date:: " +
content.billDate() +
```

```
                            " Operation: " + content.operationAsString() +
                            " Price: " + content.price()));

        } catch (Route53Exception e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void listOperations(Route53DomainsClient route53DomainsClient) {
        try {
            Date currentDate = new Date();
            LocalDateTime localDateTime =
currentDate.toInstant().atZone(ZoneId.systemDefault()).toLocalDateTime();
            ZoneOffset zoneOffset = ZoneOffset.of("+01:00");
            localDateTime = localDateTime.minusYears(1);
            Instant myTime = localDateTime.toInstant(zoneOffset);

            ListOperationsRequest operationsRequest =
ListOperationsRequest.builder()
                    .submittedSince(myTime)
                    .build();

            ListOperationsIterable listRes =
route53DomainsClient.listOperationsPaginator(operationsRequest);
            listRes.stream()
                    .flatMap(r -> r.operations().stream())
                    .forEach(content -> System.out.println(" Operation Id: " +
content.operationId() +
                            " Status: " + content.statusAsString() +
                            " Date: " + content.submittedDate()));

        } catch (Route53Exception e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void listDomains(Route53DomainsClient route53DomainsClient) {
        try {
            ListDomainsIterable listRes =
route53DomainsClient.listDomainsPaginator();
            listRes.stream()
                    .flatMap(r -> r.domains().stream())
```

```
                    .forEach(content -> System.out.println("The domain name is " +
 content.domainName()));

        } catch (Route53Exception e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - CheckDomainAvailability
  - CheckDomainTransferability
  - GetDomainDetail
  - GetDomainSuggestions
  - GetOperationDetail
  - ListDomains
  - ListOperations
  - ListPrices
  - RegisterDomain
  - ViewBilling

アクション

`CheckDomainAvailability`

次のコード例は、`CheckDomainAvailability` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void checkDomainAvailability(Route53DomainsClient
route53DomainsClient, String domainSuggestion) {
       try {
           CheckDomainAvailabilityRequest availabilityRequest =
CheckDomainAvailabilityRequest.builder()
                   .domainName(domainSuggestion)
                   .build();

           CheckDomainAvailabilityResponse response = route53DomainsClient
                   .checkDomainAvailability(availabilityRequest);
           System.out.println(domainSuggestion + " is " +
response.availability().toString());

       } catch (Route53Exception e) {
           System.err.println(e.getMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CheckDomainAvailability」を参照してください。

`CheckDomainTransferability`

次のコード例は、`CheckDomainTransferability` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void checkDomainTransferability(Route53DomainsClient
route53DomainsClient, String domainSuggestion) {
       try {
           CheckDomainTransferabilityRequest transferabilityRequest =
CheckDomainTransferabilityRequest.builder()
                   .domainName(domainSuggestion)
```

```
                .build();

        CheckDomainTransferabilityResponse response = route53DomainsClient
                .checkDomainTransferability(transferabilityRequest);
        System.out.println("Transferability: " +
response.transferability().transferable().toString());

    } catch (Route53Exception e) {
        System.err.println(e.getMessage());
        System.exit(1);
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CheckDomainTransferability」を参照してください。

GetDomainDetail

次のコード例は、GetDomainDetail を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
public static void getDomainDetails(Route53DomainsClient route53DomainsClient,
String domainSuggestion) {
    try {
        GetDomainDetailRequest detailRequest = GetDomainDetailRequest.builder()
                .domainName(domainSuggestion)
                .build();

        GetDomainDetailResponse response =
route53DomainsClient.getDomainDetail(detailRequest);
        System.out.println("The contact first name is " +
response.registrantContact().firstName());
```

```
            System.out.println("The contact last name is " +
response.registrantContact().lastName());
            System.out.println("The contact org name is " +
response.registrantContact().organizationName());

        } catch (Route53Exception e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「GetDomainDetail」を参照してください。

GetDomainSuggestions

次のコード例は、GetDomainSuggestions を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    public static void listDomainSuggestions(Route53DomainsClient
route53DomainsClient, String domainSuggestion) {
        try {
            GetDomainSuggestionsRequest suggestionsRequest =
GetDomainSuggestionsRequest.builder()
                    .domainName(domainSuggestion)
                    .suggestionCount(5)
                    .onlyAvailable(true)
                    .build();

            GetDomainSuggestionsResponse response =
route53DomainsClient.getDomainSuggestions(suggestionsRequest);
            List<DomainSuggestion> suggestions = response.suggestionsList();
            for (DomainSuggestion suggestion : suggestions) {
```

```
                System.out.println("Suggestion Name: " + suggestion.domainName());
                System.out.println("Availability: " + suggestion.availability());
                System.out.println(" ");
            }

        } catch (Route53Exception e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetDomainSuggestions」を参照してください。

`GetOperationDetail`

次のコード例は、`GetOperationDetail` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void getOperationalDetail(Route53DomainsClient
route53DomainsClient, String operationId) {
        try {
            GetOperationDetailRequest detailRequest =
GetOperationDetailRequest.builder()
                    .operationId(operationId)
                    .build();

            GetOperationDetailResponse response =
route53DomainsClient.getOperationDetail(detailRequest);
            System.out.println("Operation detail message is " + response.message());

        } catch (Route53Exception e) {
            System.err.println(e.getMessage());
```

```
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetOperationDetail」を参照してください。

`ListDomains`

次のコード例は、`ListDomains` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    public static void listDomains(Route53DomainsClient route53DomainsClient) {
        try {
            ListDomainsIterable listRes =
route53DomainsClient.listDomainsPaginator();
            listRes.stream()
                    .flatMap(r -> r.domains().stream())
                    .forEach(content -> System.out.println("The domain name is " +
content.domainName()));

        } catch (Route53Exception e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListDomains」を参照してください。

`ListOperations`

次のコード例は、`ListOperations` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void listOperations(Route53DomainsClient route53DomainsClient) {
       try {
           Date currentDate = new Date();
           LocalDateTime localDateTime =
currentDate.toInstant().atZone(ZoneId.systemDefault()).toLocalDateTime();
           ZoneOffset zoneOffset = ZoneOffset.of("+01:00");
           localDateTime = localDateTime.minusYears(1);
           Instant myTime = localDateTime.toInstant(zoneOffset);

           ListOperationsRequest operationsRequest =
ListOperationsRequest.builder()
                   .submittedSince(myTime)
                   .build();

           ListOperationsIterable listRes =
route53DomainsClient.listOperationsPaginator(operationsRequest);
           listRes.stream()
                   .flatMap(r -> r.operations().stream())
                   .forEach(content -> System.out.println(" Operation Id: " +
content.operationId() +
                           " Status: " + content.statusAsString() +
                           " Date: " + content.submittedDate()));

       } catch (Route53Exception e) {
           System.err.println(e.getMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListOperations」を参照してください。

`ListPrices`

次のコード例は、`ListPrices` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void listPrices(Route53DomainsClient route53DomainsClient, String
domainType) {
       try {
           ListPricesRequest pricesRequest = ListPricesRequest.builder()
                   .tld(domainType)
                   .build();

           ListPricesIterable listRes =
route53DomainsClient.listPricesPaginator(pricesRequest);
           listRes.stream()
                   .flatMap(r -> r.prices().stream())
                   .forEach(content -> System.out.println(" Name: " +
content.name() +
                           " Registration: " + content.registrationPrice().price()
+ " "
                           + content.registrationPrice().currency() +
                           " Renewal: " + content.renewalPrice().price() + " " +
content.renewalPrice().currency()));

       } catch (Route53Exception e) {
           System.err.println(e.getMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListPrices」を参照してください。

RegisterDomain

次のコード例は、RegisterDomain を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static String requestDomainRegistration(Route53DomainsClient
route53DomainsClient,
           String domainSuggestion,
           String phoneNumber,
           String email,
           String firstName,
           String lastName,
           String city) {

       try {
           ContactDetail contactDetail = ContactDetail.builder()
                   .contactType(ContactType.COMPANY)
                   .state("LA")
                   .countryCode(CountryCode.IN)
                   .email(email)
                   .firstName(firstName)
                   .lastName(lastName)
                   .city(city)
                   .phoneNumber(phoneNumber)
                   .organizationName("My Org")
                   .addressLine1("My Address")
                   .zipCode("123 123")
                   .build();

           RegisterDomainRequest domainRequest = RegisterDomainRequest.builder()
                   .adminContact(contactDetail)
                   .registrantContact(contactDetail)
```

```
                    .techContact(contactDetail)
                    .domainName(domainSuggestion)
                    .autoRenew(true)
                    .durationInYears(1)
                    .build();

            RegisterDomainResponse response =
route53DomainsClient.registerDomain(domainRequest);
            System.out.println("Registration requested. Operation Id: " +
response.operationId());
            return response.operationId();

        } catch (Route53Exception e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「RegisterDomain」を参照してください。

`ViewBilling`

次のコード例は、`ViewBilling` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    public static void listBillingRecords(Route53DomainsClient route53DomainsClient)
{
        try {
            Date currentDate = new Date();
            LocalDateTime localDateTime =
currentDate.toInstant().atZone(ZoneId.systemDefault()).toLocalDateTime();
```

```
            ZoneOffset zoneOffset = ZoneOffset.of("+01:00");
            LocalDateTime localDateTime2 = localDateTime.minusYears(1);
            Instant myStartTime = localDateTime2.toInstant(zoneOffset);
            Instant myEndTime = localDateTime.toInstant(zoneOffset);

            ViewBillingRequest viewBillingRequest = ViewBillingRequest.builder()
                    .start(myStartTime)
                    .end(myEndTime)
                    .build();

            ViewBillingIterable listRes =
route53DomainsClient.viewBillingPaginator(viewBillingRequest);
            listRes.stream()
                    .flatMap(r -> r.billingRecords().stream())
                    .forEach(content -> System.out.println(" Bill Date:: " +
content.billDate() +
                            " Operation: " + content.operationAsString() +
                            " Price: " + content.price()));

        } catch (Route53Exception e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ViewBilling」を参照してください。

SDK for Java 2.x を使用する Amazon S3 の例

次のコード例は、Amazon S3 AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- はじめに
- 基本
- アクション
- シナリオ
- サーバーレスサンプル

はじめに

Hello Amazon S3

次のコード例は、Amazon S3 の使用を開始する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.Bucket;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ListBucketsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
```

```
 */
public class HelloS3 {
    public static void main(String[] args) {
        Region region = Region.US_EAST_1;
        S3Client s3 = S3Client.builder()
            .region(region)
            .build();

        listBuckets(s3);
    }

    /**
     * Lists all the S3 buckets associated with the provided AWS S3 client.
     *
     * @param s3 the S3Client instance used to interact with the AWS S3 service
     */
    public static void listBuckets(S3Client s3) {
        try {
            ListBucketsResponse response = s3.listBuckets();
            List<Bucket> bucketList = response.buckets();
            bucketList.forEach(bucket -> {
                System.out.println("Bucket Name: " + bucket.name());
            });

        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListBuckets」を参照してください。

基本

基本を学ぶ

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- バケットを作成し、そこにファイルをアップロードします。

- バケットからオブジェクトをダウンロードします。
- バケット内のサブフォルダにオブジェクトをコピーします。
- バケット内のオブジェクトを一覧表示します。
- バケットオブジェクトとバケットを削除します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

シナリオ例。

```
import java.io.IOException;
import java.util.Scanner;
import java.util.UUID;
import java.util.concurrent.CompletableFuture;
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.PutObjectResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 *
 * This Java code example performs the following tasks:
 *
 * 1. Creates an Amazon S3 bucket.
 * 2. Uploads an object to the bucket.
 * 3. Downloads the object to another local file.
 * 4. Uploads an object using multipart upload.
 * 5. List all objects located in the Amazon S3 bucket.
 * 6. Copies the object to another Amazon S3 bucket.
```

```
 * 7. Copy the object to another Amazon S3 bucket using multi copy.
 * 8. Deletes the object from the Amazon S3 bucket.
 * 9. Deletes the Amazon S3 bucket.
 */

public class S3Scenario {

    public static Scanner scanner = new Scanner(System.in);
    static S3Actions s3Actions = new S3Actions();
    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");
    private static final Logger logger = LoggerFactory.getLogger(S3Scenario.class);
    public static void main(String[] args) throws IOException {
        final String usage = """
            Usage:
               <bucketName> <key> <objectPath> <savePath> <toBucket>

            Where:
                bucketName - The name of the  S3 bucket.
                key - The unique identifier for the object stored in the S3 bucket.
                objectPath - The full file path of the object within the S3 bucket
 (e.g., "documents/reports/annual_report.pdf").
                savePath - The local file path where the object will be downloaded
 and saved (e.g., "C:/Users/username/Downloads/annual_report.pdf").
                toBucket - The name of the S3 bucket to which the object will be
 copied.
            """;

        if (args.length != 5) {
            logger.info(usage);
            return;
        }

        String bucketName = args[0];
        String key = args[1];
        String objectPath = args[2];
        String savePath = args[3];
        String toBucket = args[4];

        logger.info(DASHES);
        logger.info("Welcome to the Amazon Simple Storage Service (S3) example
 scenario.");
        logger.info("""
            Amazon S3 is a highly scalable and durable object storage
```

```
            service provided by Amazon Web Services (AWS). It is designed to store
and retrieve
            any amount of data, from anywhere on the web, at any time.

            The `S3AsyncClient` interface in the AWS SDK for Java 2.x provides a set
of methods to
            programmatically interact with the Amazon S3 (Simple Storage Service)
service. This allows
            developers to automate the management and manipulation of S3 buckets and
objects as
            part of their application deployment pipelines. With S3, teams can focus
on building
            and deploying their applications without having to worry about the
underlying storage
            infrastructure required to host and manage large amounts of data.

            This scenario walks you through how to perform key operations for this
service.
            Let's get started...
            """);
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        try {
            // Run the methods that belong to this scenario.
            runScenario(bucketName, key, objectPath, savePath, toBucket);

        } catch (Throwable rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof S3Exception kmsEx) {
                logger.info("KMS error occurred: Error message: {}, Error code {}",
kmsEx.getMessage(), kmsEx.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
            }
        }
    }

    private static void runScenario(String bucketName, String key, String
objectPath, String savePath, String toBucket) throws Throwable {
        logger.info(DASHES);
        logger.info("1. Create an Amazon S3 bucket.");
        try {
```

```
            CompletableFuture<Void> future =
s3Actions.createBucketAsync(bucketName);
            future.join();
            waitForInputToContinue(scanner);

        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof S3Exception s3Ex) {
                logger.info("S3 error occurred: Error message: {}, Error code {}",
s3Ex.getMessage(), s3Ex.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
            }
            throw cause;

        }
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("2. Upload a local file to the Amazon S3 bucket.");
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            CompletableFuture<PutObjectResponse> future =
s3Actions.uploadLocalFileAsync(bucketName, key, objectPath);
            future.join();
            logger.info("File uploaded successfully to {}/{}", bucketName, key);

        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof S3Exception s3Ex) {
                logger.info("S3 error occurred: Error message: {}, Error code {}",
s3Ex.getMessage(), s3Ex.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
            }
            throw cause;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);


        logger.info(DASHES);
        logger.info("3. Download the object to another local file.");
        waitForInputToContinue(scanner);
```

```
        try {
            CompletableFuture<Void> future =
s3Actions.getObjectBytesAsync(bucketName, key, savePath);
            future.join();
            logger.info("Successfully obtained bytes from S3 object and wrote to
file {}", savePath);

        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof S3Exception s3Ex) {
                logger.info("S3 error occurred: Error message: {}, Error code {}",
s3Ex.getMessage(), s3Ex.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
            }
            throw cause;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("4. Perform a multipart upload.");
        waitForInputToContinue(scanner);
        String multipartKey = "multiPartKey";
        try {
            // Call the multipartUpload method
            CompletableFuture<Void> future = s3Actions.multipartUpload(bucketName,
multipartKey);
            future.join();
            logger.info("Multipart upload completed successfully for bucket '{}' and
key '{}'", bucketName, multipartKey);

        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof S3Exception s3Ex) {
                logger.info("S3 error occurred: Error message: {}, Error code {}",
s3Ex.getMessage(), s3Ex.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
            }
            throw cause;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);
```

```
        logger.info(DASHES);
        logger.info("5. List all objects located in the Amazon S3 bucket.");
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            CompletableFuture<Void> future =
s3Actions.listAllObjectsAsync(bucketName);
            future.join();
            logger.info("Object listing completed successfully.");

        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof S3Exception s3Ex) {
                logger.info("S3 error occurred: Error message: {}, Error code {}",
s3Ex.getMessage(), s3Ex.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
            }
            throw cause;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("6. Copy the object to another Amazon S3 bucket.");
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            CompletableFuture<String> future =
s3Actions.copyBucketObjectAsync(bucketName, key, toBucket);
            String result = future.join();
            logger.info("Copy operation result: {}", result);

        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof S3Exception s3Ex) {
                logger.info("S3 error occurred: Error message: {}, Error code {}",
s3Ex.getMessage(), s3Ex.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
            }
            throw cause;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);
```

```
        logger.info(DASHES);
        logger.info("7. Copy the object to another Amazon S3 bucket using multi
copy.");
        waitForInputToContinue(scanner);

        try {
            CompletableFuture<String> future = s3Actions.performMultiCopy(toBucket,
bucketName, key);
            String result = future.join();
            logger.info("Copy operation result: {}", result);

        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof S3Exception s3Ex) {
                logger.info("KMS error occurred: Error message: {}, Error code {}",
s3Ex.getMessage(), s3Ex.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
            }
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);


        logger.info(DASHES);
        logger.info("8. Delete objects from the Amazon S3 bucket.");
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            CompletableFuture<Void> future =
s3Actions.deleteObjectFromBucketAsync(bucketName, key);
            future.join();

        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof S3Exception s3Ex) {
                logger.info("S3 error occurred: Error message: {}, Error code {}",
s3Ex.getMessage(), s3Ex.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
            }
            throw cause;
        }
        try {
```

```
            CompletableFuture<Void> future =
s3Actions.deleteObjectFromBucketAsync(bucketName, "multiPartKey");
            future.join();

        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof S3Exception s3Ex) {
                logger.info("S3 error occurred: Error message: {}, Error code {}",
s3Ex.getMessage(), s3Ex.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
            }
            throw cause;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("9. Delete the Amazon S3 bucket.");
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            CompletableFuture<Void> future =
s3Actions.deleteBucketAsync(bucketName);
            future.join();

        } catch (RuntimeException rt) {
            Throwable cause = rt.getCause();
            if (cause instanceof S3Exception s3Ex) {
                logger.info("S3 error occurred: Error message: {}, Error code {}",
s3Ex.getMessage(), s3Ex.awsErrorDetails().errorCode());
            } else {
                logger.info("An unexpected error occurred: " + rt.getMessage());
            }
            throw cause;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        logger.info(DASHES);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("You successfully completed the Amazon S3 scenario.");
        logger.info(DASHES);
    }

    private static void waitForInputToContinue(Scanner scanner) {
```

```
        while (true) {
            logger.info("");
            logger.info("Enter 'c' followed by <ENTER> to continue:");
            String input = scanner.nextLine();

            if (input.trim().equalsIgnoreCase("c")) {
                logger.info("Continuing with the program...");
                logger.info("");
                break;
            } else {
                // Handle invalid input.
                logger.info("Invalid input. Please try again.");
            }
        }
    }
}
```

オペレーションを含むラッパークラス。

```
public class S3Actions {

    private static final Logger logger = LoggerFactory.getLogger(S3Actions.class);
    private static S3AsyncClient s3AsyncClient;

    public static S3AsyncClient getAsyncClient() {
        if (s3AsyncClient == null) {
            /*
            The `NettyNioAsyncHttpClient` class is part of the AWS SDK for Java,
 version 2,
            and it is designed to provide a high-performance, asynchronous HTTP
 client for interacting with AWS services.
             It uses the Netty framework to handle the underlying network
 communication and the Java NIO API to
             provide a non-blocking, event-driven approach to HTTP requests and
 responses.
             */

            SdkAsyncHttpClient httpClient = NettyNioAsyncHttpClient.builder()
                .maxConcurrency(50)  // Adjust as needed.
                .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(60))  // Set the connection
 timeout.
                .readTimeout(Duration.ofSeconds(60))  // Set the read timeout.
```

```
                .writeTimeout(Duration.ofSeconds(60))  // Set the write timeout.
                .build();

            ClientOverrideConfiguration overrideConfig =
ClientOverrideConfiguration.builder()
                .apiCallTimeout(Duration.ofMinutes(2))  // Set the overall API call
timeout.
                .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(90))  // Set the
individual call attempt timeout.
                .retryStrategy(RetryMode.STANDARD)
                .build();

            s3AsyncClient = S3AsyncClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .httpClient(httpClient)
                .overrideConfiguration(overrideConfig)
                .build();
        }
        return s3AsyncClient;
    }


    /**
     * Creates an S3 bucket asynchronously.
     *
     * @param bucketName the name of the S3 bucket to create
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the bucket is created
and ready
     * @throws RuntimeException if there is a failure while creating the bucket
     */
    public CompletableFuture<Void> createBucketAsync(String bucketName) {
        CreateBucketRequest bucketRequest = CreateBucketRequest.builder()
            .bucket(bucketName)
            .build();

        CompletableFuture<CreateBucketResponse> response =
getAsyncClient().createBucket(bucketRequest);
        return response.thenCompose(resp -> {
            S3AsyncWaiter s3Waiter = getAsyncClient().waiter();
            HeadBucketRequest bucketRequestWait = HeadBucketRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .build();
```

```
            CompletableFuture<WaiterResponse<HeadBucketResponse>>
waiterResponseFuture =
                s3Waiter.waitUntilBucketExists(bucketRequestWait);
            return waiterResponseFuture.thenAccept(waiterResponse -> {
                waiterResponse.matched().response().ifPresent(headBucketResponse ->
{
                    logger.info(bucketName + " is ready");
                });
            });
        }).whenComplete((resp, ex) -> {
            if (ex != null) {
                throw new RuntimeException("Failed to create bucket", ex);
            }
        });
    }


    /**
     * Uploads a local file to an AWS S3 bucket asynchronously.
     *
     * @param bucketName the name of the S3 bucket to upload the file to
     * @param key        the key (object name) to use for the uploaded file
     * @param objectPath the local file path of the file to be uploaded
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes with the {@link
PutObjectResponse} when the upload is successful, or throws a {@link
RuntimeException} if the upload fails
     */
    public CompletableFuture<PutObjectResponse> uploadLocalFileAsync(String
bucketName, String key, String objectPath) {
        PutObjectRequest objectRequest = PutObjectRequest.builder()
            .bucket(bucketName)
            .key(key)
            .build();

        CompletableFuture<PutObjectResponse> response =
getAsyncClient().putObject(objectRequest,
AsyncRequestBody.fromFile(Paths.get(objectPath)));
        return response.whenComplete((resp, ex) -> {
            if (ex != null) {
                throw new RuntimeException("Failed to upload file", ex);
            }
        });
    }
```

```
   /**
    * Asynchronously retrieves the bytes of an object from an Amazon S3 bucket and
writes them to a local file.
    *
    * @param bucketName the name of the S3 bucket containing the object
    * @param keyName    the key (or name) of the S3 object to retrieve
    * @param path       the local file path where the object's bytes will be
written
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the object bytes have
been written to the local file
    */
   public CompletableFuture<Void> getObjectBytesAsync(String bucketName, String
keyName, String path) {
       GetObjectRequest objectRequest = GetObjectRequest.builder()
           .key(keyName)
           .bucket(bucketName)
           .build();

       CompletableFuture<ResponseBytes<GetObjectResponse>> response =
getAsyncClient().getObject(objectRequest, AsyncResponseTransformer.toBytes());
       return response.thenAccept(objectBytes -> {
           try {
               byte[] data = objectBytes.asByteArray();
               Path filePath = Paths.get(path);
               Files.write(filePath, data);
               logger.info("Successfully obtained bytes from an S3 object");
           } catch (IOException ex) {
               throw new RuntimeException("Failed to write data to file", ex);
           }
       }).whenComplete((resp, ex) -> {
           if (ex != null) {
               throw new RuntimeException("Failed to get object bytes from S3",
ex);
           }
       });
   }


   /**
    * Asynchronously lists all objects in the specified S3 bucket.
    *
    * @param bucketName the name of the S3 bucket to list objects for
```

```
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when all objects have been
listed
    */
   public CompletableFuture<Void> listAllObjectsAsync(String bucketName) {
       ListObjectsV2Request initialRequest = ListObjectsV2Request.builder()
           .bucket(bucketName)
           .maxKeys(1)
           .build();

       ListObjectsV2Publisher paginator =
getAsyncClient().listObjectsV2Paginator(initialRequest);
       return paginator.subscribe(response -> {
           response.contents().forEach(s3Object -> {
               logger.info("Object key: " + s3Object.key());
           });
       }).thenRun(() -> {
           logger.info("Successfully listed all objects in the bucket: " +
bucketName);
       }).exceptionally(ex -> {
           throw new RuntimeException("Failed to list objects", ex);
       });
   }


   /**
    * Asynchronously copies an object from one S3 bucket to another.
    *
    * @param fromBucket the name of the source S3 bucket
    * @param objectKey  the key (name) of the object to be copied
    * @param toBucket   the name of the destination S3 bucket
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes with the copy result as a
{@link String}
    * @throws RuntimeException if the URL could not be encoded or an S3 exception
occurred during the copy
    */
   public CompletableFuture<String> copyBucketObjectAsync(String fromBucket, String
objectKey, String toBucket) {
       CopyObjectRequest copyReq = CopyObjectRequest.builder()
           .sourceBucket(fromBucket)
           .sourceKey(objectKey)
           .destinationBucket(toBucket)
           .destinationKey(objectKey)
           .build();
```

```
        CompletableFuture<CopyObjectResponse> response =
getAsyncClient().copyObject(copyReq);
        response.whenComplete((copyRes, ex) -> {
            if (copyRes != null) {
                logger.info("The " + objectKey + " was copied to " + toBucket);
            } else {
                throw new RuntimeException("An S3 exception occurred during copy",
ex);
            }
        });

        return response.thenApply(CopyObjectResponse::copyObjectResult)
            .thenApply(Object::toString);
    }

    /**
     * Performs a multipart upload to an Amazon S3 bucket.
     *
     * @param bucketName the name of the S3 bucket to upload the file to
     * @param key        the key (name) of the file to be uploaded
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the multipart upload
is successful
     */
    public CompletableFuture<Void> multipartUpload(String bucketName, String key) {
        int mB = 1024 * 1024;

        CreateMultipartUploadRequest createMultipartUploadRequest =
CreateMultipartUploadRequest.builder()
            .bucket(bucketName)
            .key(key)
            .build();

        return getAsyncClient().createMultipartUpload(createMultipartUploadRequest)
            .thenCompose(createResponse -> {
                String uploadId = createResponse.uploadId();
                System.out.println("Upload ID: " + uploadId);

                // Upload part 1.
                UploadPartRequest uploadPartRequest1 = UploadPartRequest.builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .key(key)
                    .uploadId(uploadId)
                    .partNumber(1)
                    .contentLength((long) (5 * mB)) // Specify the content length
```

```
                    .build();

                CompletableFuture<CompletedPart> part1Future =
getAsyncClient().uploadPart(uploadPartRequest1,
                        AsyncRequestBody.fromByteBuffer(getRandomByteBuffer(5 *
mB)))
                    .thenApply(uploadPartResponse -> CompletedPart.builder()
                        .partNumber(1)
                        .eTag(uploadPartResponse.eTag())
                        .build());

                // Upload part 2.
                UploadPartRequest uploadPartRequest2 = UploadPartRequest.builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .key(key)
                    .uploadId(uploadId)
                    .partNumber(2)
                    .contentLength((long) (3 * mB))
                    .build();

                CompletableFuture<CompletedPart> part2Future =
getAsyncClient().uploadPart(uploadPartRequest2,
                        AsyncRequestBody.fromByteBuffer(getRandomByteBuffer(3 *
mB)))
                    .thenApply(uploadPartResponse -> CompletedPart.builder()
                        .partNumber(2)
                        .eTag(uploadPartResponse.eTag())
                        .build());

                // Combine the results of both parts.
                return CompletableFuture.allOf(part1Future, part2Future)
                    .thenCompose(v -> {
                        CompletedPart part1 = part1Future.join();
                        CompletedPart part2 = part2Future.join();

                        CompletedMultipartUpload completedMultipartUpload =
CompletedMultipartUpload.builder()
                            .parts(part1, part2)
                            .build();

                        CompleteMultipartUploadRequest
completeMultipartUploadRequest = CompleteMultipartUploadRequest.builder()
                            .bucket(bucketName)
                            .key(key)
```

```
                            .uploadId(uploadId)
                            .multipartUpload(completedMultipartUpload)
                            .build();

                        // Complete the multipart upload
                        return
getAsyncClient().completeMultipartUpload(completeMultipartUploadRequest);
                    });
            })
            .thenAccept(response -> System.out.println("Multipart upload completed
successfully"))
            .exceptionally(ex -> {
                System.err.println("Failed to complete multipart upload: " +
ex.getMessage());
                throw new RuntimeException(ex);
            });
    }


    /**
     * Deletes an object from an S3 bucket asynchronously.
     *
     * @param bucketName the name of the S3 bucket
     * @param key        the key (file name) of the object to be deleted
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the object has been
deleted
     */
    public CompletableFuture<Void> deleteObjectFromBucketAsync(String bucketName,
String key) {
        DeleteObjectRequest deleteObjectRequest = DeleteObjectRequest.builder()
            .bucket(bucketName)
            .key(key)
            .build();

        CompletableFuture<DeleteObjectResponse> response =
getAsyncClient().deleteObject(deleteObjectRequest);
        response.whenComplete((deleteRes, ex) -> {
            if (deleteRes != null) {
                logger.info(key + " was deleted");
            } else {
                throw new RuntimeException("An S3 exception occurred during delete",
ex);
            }
        });
```

```
        return response.thenApply(r -> null);
    }


    /**
     * Deletes an S3 bucket asynchronously.
     *
     * @param bucket the name of the bucket to be deleted
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the bucket deletion
is successful, or throws a {@link RuntimeException}
     * if an error occurs during the deletion process
     */
    public CompletableFuture<Void> deleteBucketAsync(String bucket) {
        DeleteBucketRequest deleteBucketRequest = DeleteBucketRequest.builder()
            .bucket(bucket)
            .build();

        CompletableFuture<DeleteBucketResponse> response =
getAsyncClient().deleteBucket(deleteBucketRequest);
        response.whenComplete((deleteRes, ex) -> {
            if (deleteRes != null) {
                logger.info(bucket + " was deleted.");
            } else {
                throw new RuntimeException("An S3 exception occurred during bucket
deletion", ex);
            }
        });
        return response.thenApply(r -> null);
    }

    public CompletableFuture<String> performMultiCopy(String toBucket, String
bucketName, String key) {
        CreateMultipartUploadRequest createMultipartUploadRequest =
CreateMultipartUploadRequest.builder()
            .bucket(toBucket)
            .key(key)
            .build();

        getAsyncClient().createMultipartUpload(createMultipartUploadRequest)
            .thenApply(createMultipartUploadResponse -> {
                String uploadId = createMultipartUploadResponse.uploadId();
                System.out.println("Upload ID: " + uploadId);
```

```
                UploadPartCopyRequest uploadPartCopyRequest =
 UploadPartCopyRequest.builder()
                    .sourceBucket(bucketName)
                    .destinationBucket(toBucket)
                    .sourceKey(key)
                    .destinationKey(key)
                    .uploadId(uploadId)  // Use the valid uploadId.
                    .partNumber(1)  // Ensure the part number is correct.
                    .copySourceRange("bytes=0-1023")  // Adjust range as needed
                    .build();

                return getAsyncClient().uploadPartCopy(uploadPartCopyRequest);
            })
            .thenCompose(uploadPartCopyFuture -> uploadPartCopyFuture)
            .whenComplete((uploadPartCopyResponse, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    // Handle any exceptions.
                    logger.error("Error during upload part copy: " +
 exception.getMessage());
                } else {
                    // Successfully completed the upload part copy.
                    System.out.println("Upload Part Copy completed successfully.
 ETag: " + uploadPartCopyResponse.copyPartResult().eTag());
                }
            });
        return null;
    }

    private static ByteBuffer getRandomByteBuffer(int size) {
        ByteBuffer buffer = ByteBuffer.allocate(size);
        for (int i = 0; i < size; i++) {
            buffer.put((byte) (Math.random() * 256));
        }
        buffer.flip();
        return buffer;
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - CopyObject

- CreateBucket
- DeleteBucket
- DeleteObjects
- GetObject
- ListObjectsV2
- PutObject

アクション

`AbortMultipartUpload`

次のコード例は、`AbortMultipartUpload` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.core.exception.SdkException;
import software.amazon.awssdk.core.sync.RequestBody;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.AbortMultipartUploadRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.AbortMultipartUploadResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CompletedMultipartUpload;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CompletedPart;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CreateMultipartUploadResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.LifecycleRule;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ListMultipartUploadsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ListMultipartUploadsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.MultipartUpload;
import
 software.amazon.awssdk.services.s3.model.PutBucketLifecycleConfigurationResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.UploadPartRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.UploadPartResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.waiters.S3Waiter;
import software.amazon.awssdk.services.sts.StsClient;
import software.amazon.awssdk.utils.builder.SdkBuilder;

import java.io.IOException;
import java.io.RandomAccessFile;
import java.net.URISyntaxException;
import java.net.URL;
import java.nio.ByteBuffer;
import java.time.Duration;
import java.time.Instant;
import java.util.ArrayList;
import java.util.Collection;
import java.util.List;
import java.util.Objects;
import java.util.UUID;

import static software.amazon.awssdk.transfer.s3.SizeConstant.KB;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */

public class AbortMultipartUploadExamples {
    static final S3Client s3Client = S3Client.create();
    static final String classPathFilePath = "/multipartUploadFiles/s3-
userguide.pdf";
    static final String filePath = getFullFilePath(classPathFilePath);
    private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(AbortMultipartUploadExamples.class);
    private static final String accountId = getAccountId();

    public static void main(String[] args) {
        String bucketName = "amzn-s3-demo-bucket"; // Replace with your bucket name.
        String key = UUID.randomUUID().toString();

        createBucket(bucketName);
```

```
        try {
            initiateAndInterruptMultiPartUpload(bucketName, key, "uploadThread");
            abortIncompleteMultipartUploadsFromList(bucketName);
            abortMultipartUploadUsingUploadId(bucketName, key);
            abortMultipartUploadsUsingLifecycleConfig(bucketName);
        } catch (S3Exception e) {
            logger.error(e.getMessage());
        } finally {
            deleteResources(bucketName, key);
        }
    }

    /**
     * Aborts all incomplete multipart uploads from the specified S3 bucket.
     *
     * @param bucketName the name of the S3 bucket
     */
    public static void abortIncompleteMultipartUploadsFromList(String bucketName) {
        ListMultipartUploadsRequest listMultipartUploadsRequest =
ListMultipartUploadsRequest.builder()
            .bucket(bucketName)
            .build();

        ListMultipartUploadsResponse response =
s3Client.listMultipartUploads(listMultipartUploadsRequest);
        List<MultipartUpload> uploads = response.uploads();

        AbortMultipartUploadRequest abortMultipartUploadRequest;
        for (MultipartUpload upload : uploads) {
            abortMultipartUploadRequest = AbortMultipartUploadRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .key(upload.key())
                .expectedBucketOwner(accountId)
                .uploadId(upload.uploadId())
                .build();

            AbortMultipartUploadResponse abortMultipartUploadResponse =
s3Client.abortMultipartUpload(abortMultipartUploadRequest);
            if (abortMultipartUploadResponse.sdkHttpResponse().isSuccessful()) {
                logger.info("Upload ID [{}] to bucket [{}] successfully aborted.",
upload.uploadId(), bucketName);
            }
        }
    }
```

```
   /**
    * Aborts incomplete multipart uploads older than the specified point in time.
    *
    * @param bucketName  the name of the S3 bucket
    * @param pointInTime the cutoff time; uploads initiated before this are aborted
    */
   static void abortIncompleteMultipartUploadsOlderThan(String bucketName, Instant
pointInTime) {
       ListMultipartUploadsRequest listMultipartUploadsRequest =
ListMultipartUploadsRequest.builder()
           .bucket(bucketName)
           .build();

       ListMultipartUploadsResponse response =
s3Client.listMultipartUploads(listMultipartUploadsRequest);
       List<MultipartUpload> uploads = response.uploads();

       AbortMultipartUploadRequest abortMultipartUploadRequest;
       for (MultipartUpload upload : uploads) {
           logger.info("Found multipartUpload with upload ID [{}], initiated [{}]",
upload.uploadId(), upload.initiated());
           if (upload.initiated().isBefore(pointInTime)) {
               abortMultipartUploadRequest = AbortMultipartUploadRequest.builder()
                   .bucket(bucketName)
                   .key(upload.key())
                   .expectedBucketOwner(accountId)
                   .uploadId(upload.uploadId())
                   .build();

               AbortMultipartUploadResponse abortMultipartUploadResponse =
s3Client.abortMultipartUpload(abortMultipartUploadRequest);
               if (abortMultipartUploadResponse.sdkHttpResponse().isSuccessful()) {
                   logger.info("Upload ID [{}] to bucket [{}] successfully
aborted.", upload.uploadId(), bucketName);
               }
           }
       }
   }

   /**
    * Aborts a multipart upload using the upload ID.
    *
    * @param bucketName the name of the S3 bucket
```

```
     * @param key        the object key
     */
    static void abortMultipartUploadUsingUploadId(String bucketName, String key) {
        String uploadId = startUploadReturningUploadId(bucketName, key);
        AbortMultipartUploadResponse response = s3Client.abortMultipartUpload(b -> b
            .uploadId(uploadId)
            .bucket(bucketName)
            .key(key));

        if (response.sdkHttpResponse().isSuccessful()) {
            logger.info("Upload ID [{}] to bucket [{}] successfully aborted.",
uploadId, bucketName);
        }
    }

    /**
     * Configures a lifecycle rule to abort incomplete multipart uploads after 7
days.
     *
     * @param bucketName the name of the S3 bucket
     */
    static void abortMultipartUploadsUsingLifecycleConfig(String bucketName) {
        Collection<LifecycleRule> lifeCycleRules = List.of(LifecycleRule.builder()
            .abortIncompleteMultipartUpload(b -> b.
                daysAfterInitiation(7))
            .status("Enabled")
            .filter(SdkBuilder::build) // Filter element is required.
            .build());

        PutBucketLifecycleConfigurationResponse response =
s3Client.putBucketLifecycleConfiguration(b -> b
            .bucket(bucketName)
            .lifecycleConfiguration(b1 -> b1.rules(lifeCycleRules)));

        if (response.sdkHttpResponse().isSuccessful()) {
            logger.info("Rule to abort incomplete multipart uploads added to
bucket.");
        } else {
            logger.error("Unsuccessfully applied rule. HTTP status code is [{}]",
response.sdkHttpResponse().statusCode());
        }
    }

    /************************
```

```
     Multipart upload methods
     **********************/

   static void initiateAndInterruptMultiPartUpload(String bucketName, String key,
String threadName) {
       Runnable upload = () -> {
           try {
               doMultipartUpload(bucketName, key);
           } catch (SdkException e) {
               logger.error(e.getMessage());
           }
       };
       Thread uploadThread = new Thread(upload, threadName);
       uploadThread.start();
       try {
           Thread.sleep(Duration.ofSeconds(1).toMillis());
       } catch (InterruptedException e) {
           logger.error(e.getMessage());
       }
       uploadThread.interrupt();
   }

   static Instant initiateAndInterruptTwoUploads(String bucketName, String key) {
       initiateAndInterruptMultiPartUpload(bucketName, key, "uploadThread1");
       try {
           Thread.sleep(Duration.ofSeconds(5).toMillis());
       } catch (InterruptedException e) {
           logger.error(e.getMessage());
       }
       Instant secondUploadInstant = Instant.now();
       initiateAndInterruptMultiPartUpload(bucketName, key, "uploadThread2");
       return secondUploadInstant;
   }

   static void doMultipartUpload(String bucketName, String key) {
       String uploadId = step1CreateMultipartUpload(bucketName, key);
       List<CompletedPart> completedParts = step2UploadParts(bucketName, key,
uploadId);
       step3CompleteMultipartUpload(bucketName, key, uploadId, completedParts);
   }

   static String step1CreateMultipartUpload(String bucketName, String key) {
       CreateMultipartUploadResponse createMultipartUploadResponse =
s3Client.createMultipartUpload(b -> b
```

```
            .bucket(bucketName)
            .key(key));
        return createMultipartUploadResponse.uploadId();
    }

    static List<CompletedPart> step2UploadParts(String bucketName, String key,
String uploadId) {
        int partNumber = 1;
        List<CompletedPart> completedParts = new ArrayList<>();
        ByteBuffer bb = ByteBuffer.allocate(Long.valueOf(1024 * KB).intValue());

        try (RandomAccessFile file = new RandomAccessFile(filePath, "r")) {
            long fileSize = file.length();
            long position = 0;
            while (position < fileSize) {
                file.seek(position);
                long read = file.getChannel().read(bb);

                bb.flip();
                UploadPartRequest uploadPartRequest = UploadPartRequest.builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .key(key)
                    .uploadId(uploadId)
                    .partNumber(partNumber)
                    .build();

                UploadPartResponse partResponse = s3Client.uploadPart(
                    uploadPartRequest,
                    RequestBody.fromByteBuffer(bb));

                CompletedPart part = CompletedPart.builder()
                    .partNumber(partNumber)
                    .eTag(partResponse.eTag())
                    .build();
                completedParts.add(part);
                logger.info("Part {} upload", partNumber);

                bb.clear();
                position += read;
                partNumber++;
            }
        } catch (IOException | S3Exception e) {
            logger.error(e.getMessage());
            return null;
```

```
        }
        return completedParts;
    }

    static void step3CompleteMultipartUpload(String bucketName, String key, String
uploadId, List<CompletedPart> completedParts) {
        s3Client.completeMultipartUpload(b -> b
            .bucket(bucketName)
            .key(key)
            .uploadId(uploadId)

.multipartUpload(CompletedMultipartUpload.builder().parts(completedParts).build()));
    }

    static String startUploadReturningUploadId(String bucketName, String key) {
        String uploadId = step1CreateMultipartUpload(bucketName, key);
        doMultipartUploadWithUploadId(bucketName, key, uploadId);
        return uploadId;
    }

    static void doMultipartUploadWithUploadId(String bucketName, String key, String
uploadId) {
        new Thread(() -> {
            try {
                List<CompletedPart> completedParts = step2UploadParts(bucketName,
key, uploadId);
                step3CompleteMultipartUpload(bucketName, key, uploadId,
completedParts);
            } catch (SdkException e) {
                logger.error(e.getMessage());
            }
        }, "upload thread").start();
        try {
            Thread.sleep(Duration.ofSeconds(2L).toMillis());
        } catch (InterruptedException e) {
            logger.error(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    /*************************
     Resource handling methods
     ************************/
```

```
    static void createBucket(String bucketName) {
        logger.info("Creating bucket: [{}]", bucketName);
        s3Client.createBucket(b -> b.bucket(bucketName));
        try (S3Waiter s3Waiter = s3Client.waiter()) {
            s3Waiter.waitUntilBucketExists(b -> b.bucket(bucketName));
        }
        logger.info("Bucket created.");
    }

    static void deleteResources(String bucketName, String key) {
        logger.info("Deleting resources ...");
        s3Client.deleteObject(b -> b.bucket(bucketName).key(key));
        s3Client.deleteBucket(b -> b.bucket(bucketName));
        try (S3Waiter s3Waiter = s3Client.waiter()) {
            s3Waiter.waitUntilBucketNotExists(b -> b.bucket(bucketName));
        }
        logger.info("Resources deleted.");
    }

    private static String getAccountId() {
        try (StsClient stsClient = StsClient.create()) {
            return stsClient.getCallerIdentity().account();
        }
    }

    static String getFullFilePath(String filePath) {
        URL uploadDirectoryURL = PerformMultiPartUpload.class.getResource(filePath);
        String fullFilePath;
        try {
            fullFilePath =
 Objects.requireNonNull(uploadDirectoryURL).toURI().getPath();
        } catch (URISyntaxException e) {
            throw new RuntimeException(e);
        }
        return fullFilePath;
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「AbortMultipartUpload」を参照してください。

CopyObject

次のコード例は、CopyObject を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

S3Client を使用してオブジェクトをコピーします。

```
   /**
    * Asynchronously copies an object from one S3 bucket to another.
    *
    * @param fromBucket the name of the source S3 bucket
    * @param objectKey  the key (name) of the object to be copied
    * @param toBucket   the name of the destination S3 bucket
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes with the copy result as a
{@link String}
    * @throws RuntimeException if the URL could not be encoded or an S3 exception
occurred during the copy
    */
   public CompletableFuture<String> copyBucketObjectAsync(String fromBucket, String
objectKey, String toBucket) {
       CopyObjectRequest copyReq = CopyObjectRequest.builder()
           .sourceBucket(fromBucket)
           .sourceKey(objectKey)
           .destinationBucket(toBucket)
           .destinationKey(objectKey)
           .build();

       CompletableFuture<CopyObjectResponse> response =
getAsyncClient().copyObject(copyReq);
       response.whenComplete((copyRes, ex) -> {
           if (copyRes != null) {
               logger.info("The " + objectKey + " was copied to " + toBucket);
           } else {
               throw new RuntimeException("An S3 exception occurred during copy",
ex);
```

```
            }
        });

        return response.thenApply(CopyObjectResponse::copyObjectResult)
            .thenApply(Object::toString);
    }
```

S3TransferManager を使用して、1 つのバケットから別のバケットへオブジェクトをコピーします。完全なファイルとテストを表示します。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.core.sync.RequestBody;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CopyObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.S3TransferManager;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.CompletedCopy;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.Copy;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.CopyRequest;

import java.util.UUID;

    public String copyObject(S3TransferManager transferManager, String bucketName,
            String key, String destinationBucket, String destinationKey) {
        CopyObjectRequest copyObjectRequest = CopyObjectRequest.builder()
                .sourceBucket(bucketName)
                .sourceKey(key)
                .destinationBucket(destinationBucket)
                .destinationKey(destinationKey)
                .build();

        CopyRequest copyRequest = CopyRequest.builder()
                .copyObjectRequest(copyObjectRequest)
                .build();

        Copy copy = transferManager.copy(copyRequest);

        CompletedCopy completedCopy = copy.completionFuture().join();
        return completedCopy.response().copyObjectResult().eTag();
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CopyObject」を参照してください。

`CreateBucket`

次のコード例は、`CreateBucket` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

バケットを作成します。

```
   /**
    * Creates an S3 bucket asynchronously.
    *
    * @param bucketName the name of the S3 bucket to create
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the bucket is created
and ready
    * @throws RuntimeException if there is a failure while creating the bucket
    */
   public CompletableFuture<Void> createBucketAsync(String bucketName) {
       CreateBucketRequest bucketRequest = CreateBucketRequest.builder()
           .bucket(bucketName)
           .build();

       CompletableFuture<CreateBucketResponse> response =
getAsyncClient().createBucket(bucketRequest);
       return response.thenCompose(resp -> {
           S3AsyncWaiter s3Waiter = getAsyncClient().waiter();
           HeadBucketRequest bucketRequestWait = HeadBucketRequest.builder()
               .bucket(bucketName)
               .build();

           CompletableFuture<WaiterResponse<HeadBucketResponse>>
waiterResponseFuture =
               s3Waiter.waitUntilBucketExists(bucketRequestWait);
```

```
            return waiterResponseFuture.thenAccept(waiterResponse -> {
                waiterResponse.matched().response().ifPresent(headBucketResponse ->
{
                    logger.info(bucketName + " is ready");
                });
            });
        }).whenComplete((resp, ex) -> {
            if (ex != null) {
                throw new RuntimeException("Failed to create bucket", ex);
            }
        });
    }
```

オブジェクトロックを有効にしてバケットを作成します。

```
    // Create a new Amazon S3 bucket with object lock options.
    public void createBucketWithLockOptions(boolean enableObjectLock, String
bucketName) {
        S3Waiter s3Waiter = getClient().waiter();
        CreateBucketRequest bucketRequest = CreateBucketRequest.builder()
            .bucket(bucketName)
            .objectLockEnabledForBucket(enableObjectLock)
            .build();

        getClient().createBucket(bucketRequest);
        HeadBucketRequest bucketRequestWait = HeadBucketRequest.builder()
            .bucket(bucketName)
            .build();

        // Wait until the bucket is created and print out the response.
        s3Waiter.waitUntilBucketExists(bucketRequestWait);
        System.out.println(bucketName + " is ready");
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateBucket」を参照してください。

DeleteBucket

次のコード例は、DeleteBucket を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Deletes an S3 bucket asynchronously.
    *
    * @param bucket the name of the bucket to be deleted
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the bucket deletion
is successful, or throws a {@link RuntimeException}
    * if an error occurs during the deletion process
    */
   public CompletableFuture<Void> deleteBucketAsync(String bucket) {
       DeleteBucketRequest deleteBucketRequest = DeleteBucketRequest.builder()
           .bucket(bucket)
           .build();

       CompletableFuture<DeleteBucketResponse> response =
getAsyncClient().deleteBucket(deleteBucketRequest);
       response.whenComplete((deleteRes, ex) -> {
           if (deleteRes != null) {
               logger.info(bucket + " was deleted.");
           } else {
               throw new RuntimeException("An S3 exception occurred during bucket
deletion", ex);
           }
       });
       return response.thenApply(r -> null);
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteBucket」を参照してください。

DeleteBucketPolicy

次のコード例は、DeleteBucketPolicy を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.DeleteBucketPolicyRequest;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */

public class DeleteBucketPolicy {
    public static void main(String[] args) {

        final String usage = """

                Usage:
                    <bucketName>

                Where:
                    bucketName - The Amazon S3 bucket to delete the policy from (for
 example, bucket1).""";

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }
```

```
        String bucketName = args[0];
        System.out.format("Deleting policy from bucket: \"%s\"\n\n", bucketName);
        Region region = Region.US_EAST_1;
        S3Client s3 = S3Client.builder()
                .region(region)
                .build();

        deleteS3BucketPolicy(s3, bucketName);
        s3.close();
    }

    /**
     * Deletes the S3 bucket policy for the specified bucket.
     *
     * @param s3 the {@link S3Client} instance to use for the operation
     * @param bucketName the name of the S3 bucket for which the policy should be
 deleted
     *
     * @throws S3Exception if there is an error deleting the bucket policy
     */
    public static void deleteS3BucketPolicy(S3Client s3, String bucketName) {
        DeleteBucketPolicyRequest delReq = DeleteBucketPolicyRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .build();

        try {
            s3.deleteBucketPolicy(delReq);
            System.out.println("Done!");

        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteBucketPolicy」を参照してください。

`DeleteBucketWebsite`

次のコード例は、`DeleteBucketWebsite` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.DeleteBucketWebsiteRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */

public class DeleteWebsiteConfiguration {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

            Usage:     <bucketName>

            Where:
                bucketName - The Amazon S3 bucket to delete the website
 configuration from.
            """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String bucketName = args[0];
        System.out.format("Deleting website configuration for Amazon S3 bucket: %s
\n", bucketName);
```

```
        Region region = Region.US_EAST_1;
        S3Client s3 = S3Client.builder()
            .region(region)
            .build();

        deleteBucketWebsiteConfig(s3, bucketName);
        System.out.println("Done!");
        s3.close();
    }

    /**
     * Deletes the website configuration for an Amazon S3 bucket.
     *
     * @param s3 The {@link S3Client} instance used to interact with Amazon S3.
     * @param bucketName The name of the S3 bucket for which the website
 configuration should be deleted.
     * @throws S3Exception If an error occurs while deleting the website
 configuration.
     */
    public static void deleteBucketWebsiteConfig(S3Client s3, String bucketName) {
        DeleteBucketWebsiteRequest delReq = DeleteBucketWebsiteRequest.builder()
            .bucket(bucketName)
            .build();

        try {
            s3.deleteBucketWebsite(delReq);

        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.out.println("Failed to delete website configuration!");
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteBucketWebsite」を参照してください。

`DeleteObject`

次のコード例は、`DeleteObject` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Deletes an object from an S3 bucket asynchronously.
    *
    * @param bucketName the name of the S3 bucket
    * @param key        the key (file name) of the object to be deleted
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the object has been
deleted
    */
   public CompletableFuture<Void> deleteObjectFromBucketAsync(String bucketName,
String key) {
       DeleteObjectRequest deleteObjectRequest = DeleteObjectRequest.builder()
           .bucket(bucketName)
           .key(key)
           .build();

       CompletableFuture<DeleteObjectResponse> response =
getAsyncClient().deleteObject(deleteObjectRequest);
       response.whenComplete((deleteRes, ex) -> {
           if (deleteRes != null) {
               logger.info(key + " was deleted");
           } else {
               throw new RuntimeException("An S3 exception occurred during delete",
ex);
           }
       });

       return response.thenApply(r -> null);
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteObject」を参照してください。

DeleteObjects

次のコード例は、DeleteObjects を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.core.sync.RequestBody;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.PutObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ObjectIdentifier;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.Delete;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.DeleteObjectsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;

import java.util.ArrayList;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */

public class DeleteMultiObjects {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

            Usage:    <bucketName>

            Where:
               bucketName - the Amazon S3 bucket name.
            """;
```

```
        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String bucketName = args[0];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        S3Client s3 = S3Client.builder()
            .region(region)
            .build();

        deleteBucketObjects(s3, bucketName);
        s3.close();
    }

    /**
     * Deletes multiple objects from an Amazon S3 bucket.
     *
     * @param s3 An Amazon S3 client object.
     * @param bucketName The name of the Amazon S3 bucket to delete objects from.
     */
    public static void deleteBucketObjects(S3Client s3, String bucketName) {
        // Upload three sample objects to the specfied Amazon S3 bucket.
        ArrayList<ObjectIdentifier> keys = new ArrayList<>();
        PutObjectRequest putOb;
        ObjectIdentifier objectId;

        for (int i = 0; i < 3; i++) {
            String keyName = "delete object example " + i;
            objectId = ObjectIdentifier.builder()
                .key(keyName)
                .build();

            putOb = PutObjectRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .key(keyName)
                .build();

            s3.putObject(putOb, RequestBody.fromString(keyName));
            keys.add(objectId);
        }

        System.out.println(keys.size() + " objects successfully created.");
```

```
        // Delete multiple objects in one request.
        Delete del = Delete.builder()
            .objects(keys)
            .build();

        try {
            DeleteObjectsRequest multiObjectDeleteRequest =
 DeleteObjectsRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .delete(del)
                .build();

            s3.deleteObjects(multiObjectDeleteRequest);
            System.out.println("Multiple objects are deleted!");

        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteObjects」を参照してください。

`GetBucketAcl`

次のコード例は、`GetBucketAcl` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetObjectAclRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetObjectAclResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.Grant;

import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */

public class GetAcl {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

            Usage:
              <bucketName> <objectKey>

            Where:
              bucketName - The Amazon S3 bucket to get the access control list (ACL)
 for.
              objectKey - The object to get the ACL for.\s
            """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String bucketName = args[0];
        String objectKey = args[1];
        System.out.println("Retrieving ACL for object: " + objectKey);
        System.out.println("in bucket: " + bucketName);
        Region region = Region.US_EAST_1;
        S3Client s3 = S3Client.builder()
            .region(region)
            .build();

        getBucketACL(s3, objectKey, bucketName);
```

```
        s3.close();
        System.out.println("Done!");
    }

    /**
     * Retrieves the Access Control List (ACL) for an object in an Amazon S3 bucket.
     *
     * @param s3 The S3Client object used to interact with the Amazon S3 service.
     * @param objectKey The key of the object for which the ACL is to be retrieved.
     * @param bucketName The name of the bucket containing the object.
     * @return The ID of the grantee who has permission on the object, or an empty
 string if an error occurs.
     */
    public static String getBucketACL(S3Client s3, String objectKey, String
 bucketName) {
        try {
            GetObjectAclRequest aclReq = GetObjectAclRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .key(objectKey)
                .build();

            GetObjectAclResponse aclRes = s3.getObjectAcl(aclReq);
            List<Grant> grants = aclRes.grants();
            String grantee = "";
            for (Grant grant : grants) {
                System.out.format("  %s: %s\n", grant.grantee().id(),
 grant.permission());
                grantee = grant.grantee().id();
            }

            return grantee;
        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }

        return "";
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「GetBucketAcl」を参照してください。

GetBucketPolicy

次のコード例は、GetBucketPolicy を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetBucketPolicyRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetBucketPolicyResponse;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */

public class GetBucketPolicy {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

            Usage:
                <bucketName>

            Where:
                bucketName - The Amazon S3 bucket to get the policy from.
            """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }
```

```
        String bucketName = args[0];
        System.out.format("Getting policy for bucket: \"%s\"\n\n", bucketName);
        Region region = Region.US_EAST_1;
        S3Client s3 = S3Client.builder()
            .region(region)
            .build();

        String polText = getPolicy(s3, bucketName);
        System.out.println("Policy Text: " + polText);
        s3.close();
    }

    /**
     * Retrieves the policy for the specified Amazon S3 bucket.
     *
     * @param s3 the {@link S3Client} instance to use for making the request
     * @param bucketName the name of the S3 bucket for which to retrieve the policy
     * @return the policy text for the specified bucket, or an empty string if an
 error occurs
     */
    public static String getPolicy(S3Client s3, String bucketName) {
        String policyText;
        System.out.format("Getting policy for bucket: \"%s\"\n\n", bucketName);
        GetBucketPolicyRequest policyReq = GetBucketPolicyRequest.builder()
            .bucket(bucketName)
            .build();

        try {
            GetBucketPolicyResponse policyRes = s3.getBucketPolicy(policyReq);
            policyText = policyRes.policy();
            return policyText;

        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }

        return "";
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「GetBucketPolicy」を参照してください。

GetBucketReplication

次のコード例は、GetBucketReplication を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Retrieves the replication details for the specified S3 bucket.
    *
    * @param s3Client           the S3 client used to interact with the S3 service
    * @param sourceBucketName   the name of the S3 bucket to retrieve the
replication details for
    *
    * @throws S3Exception if there is an error retrieving the replication details
    */
   public static void getReplicationDetails(S3Client s3Client, String
sourceBucketName) {
       GetBucketReplicationRequest getRequest =
GetBucketReplicationRequest.builder()
           .bucket(sourceBucketName)
           .build();

       try {
           ReplicationConfiguration replicationConfig =
s3Client.getBucketReplication(getRequest).replicationConfiguration();
           ReplicationRule rule = replicationConfig.rules().get(0);
           System.out.println("Retrieved destination bucket: " +
rule.destination().bucket());
           System.out.println("Retrieved priority: " + rule.priority());
           System.out.println("Retrieved source-bucket replication rule status: " +
rule.status());

       } catch (S3Exception e) {
```

```
            System.err.println("Failed to retrieve replication details: " +
e.awsErrorDetails().errorMessage());
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetBucketReplication」を参照してください。

`GetObject`

次のコード例は、`GetObject` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

S3Client を使用して、データをバイト配列として読み取ります。

```
    /**
     * Asynchronously retrieves the bytes of an object from an Amazon S3 bucket and
writes them to a local file.
     *
     * @param bucketName the name of the S3 bucket containing the object
     * @param keyName    the key (or name) of the S3 object to retrieve
     * @param path       the local file path where the object's bytes will be
written
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the object bytes have
been written to the local file
     */
    public CompletableFuture<Void> getObjectBytesAsync(String bucketName, String
keyName, String path) {
        GetObjectRequest objectRequest = GetObjectRequest.builder()
            .key(keyName)
            .bucket(bucketName)
            .build();
```

```
        CompletableFuture<ResponseBytes<GetObjectResponse>> response =
getAsyncClient().getObject(objectRequest, AsyncResponseTransformer.toBytes());
        return response.thenAccept(objectBytes -> {
            try {
                byte[] data = objectBytes.asByteArray();
                Path filePath = Paths.get(path);
                Files.write(filePath, data);
                logger.info("Successfully obtained bytes from an S3 object");
            } catch (IOException ex) {
                throw new RuntimeException("Failed to write data to file", ex);
            }
        }).whenComplete((resp, ex) -> {
            if (ex != null) {
                throw new RuntimeException("Failed to get object bytes from S3",
ex);
            }
        });
    }
```

S3TransferManager を使用して、ローカルファイルに S3 バケットのオブジェクトをダウンロードします。完全なファイルとテストを表示します。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.core.exception.SdkException;
import software.amazon.awssdk.core.sync.RequestBody;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.S3TransferManager;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.CompletedFileDownload;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.DownloadFileRequest;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.FileDownload;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.progress.LoggingTransferListener;

import java.io.IOException;
import java.net.URISyntaxException;
import java.net.URL;
import java.nio.file.Files;
import java.nio.file.NoSuchFileException;
import java.nio.file.Path;
import java.nio.file.Paths;
import java.util.UUID;
```

```
    public Long downloadFile(S3TransferManager transferManager, String bucketName,
                             String key, String downloadedFileWithPath) {
        DownloadFileRequest downloadFileRequest = DownloadFileRequest.builder()
                .getObjectRequest(b -> b.bucket(bucketName).key(key))
                .destination(Paths.get(downloadedFileWithPath))
                .build();

        FileDownload downloadFile =
 transferManager.downloadFile(downloadFileRequest);

        CompletedFileDownload downloadResult =
 downloadFile.completionFuture().join();
        logger.info("Content length [{}]",
 downloadResult.response().contentLength());
        return downloadResult.response().contentLength();
    }
```

S3Client を使用して、オブジェクトに属するタグを読み取ります。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetObjectTaggingRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetObjectTaggingResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.Tag;

import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */

public class GetObjectTags {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """
```

```
            Usage:
                <bucketName> <keyName>\s

            Where:
                bucketName - The Amazon S3 bucket name.\s
                keyName - A key name that represents the object.\s
            """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String bucketName = args[0];
        String keyName = args[1];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        S3Client s3 = S3Client.builder()
            .region(region)
            .build();

        listTags(s3, bucketName, keyName);
        s3.close();
    }

    /**
     * Lists the tags associated with an Amazon S3 object.
     *
     * @param s3 the S3Client object used to interact with the Amazon S3 service
     * @param bucketName the name of the S3 bucket that contains the object
     * @param keyName the key (name) of the S3 object
     */
    public static void listTags(S3Client s3, String bucketName, String keyName) {
        try {
            GetObjectTaggingRequest getTaggingRequest = GetObjectTaggingRequest
                .builder()
                .key(keyName)
                .bucket(bucketName)
                .build();

            GetObjectTaggingResponse tags = s3.getObjectTagging(getTaggingRequest);
            List<Tag> tagSet = tags.tagSet();
            for (Tag tag : tagSet) {
                System.out.println(tag.key());
                System.out.println(tag.value());
```

```
            }

        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

S3Client を使用してオブジェクトの URL を取得します。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetUrlRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;

import java.net.URL;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */

public class GetObjectUrl {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

            Usage:
                <bucketName> <keyName>\s

            Where:
                bucketName - The Amazon S3 bucket name.
                keyName - A key name that represents the object.\s
            """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
```

```
            System.exit(1);
        }

        String bucketName = args[0];
        String keyName = args[1];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        S3Client s3 = S3Client.builder()
            .region(region)
            .build();

        getURL(s3, bucketName, keyName);
        s3.close();
    }

    /**
     * Retrieves the URL for a specific object in an Amazon S3 bucket.
     *
     * @param s3 the S3Client object used to interact with the Amazon S3 service
     * @param bucketName the name of the S3 bucket where the object is stored
     * @param keyName the name of the object for which the URL should be retrieved
     * @throws S3Exception if there is an error retrieving the URL for the specified
 object
     */
    public static void getURL(S3Client s3, String bucketName, String keyName) {
        try {
            GetUrlRequest request = GetUrlRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .key(keyName)
                .build();

            URL url = s3.utilities().getUrl(request);
            System.out.println("The URL for  " + keyName + " is " + url);

        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

S3Client を使用する S3Presigner クライアントオブジェクトを使用してオブジェクトを取得します。

```
import java.io.IOException;
import java.io.InputStream;
import java.io.OutputStream;
import java.net.HttpURLConnection;
import java.time.Duration;

import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;
import software.amazon.awssdk.services.s3.presigner.model.GetObjectPresignRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.presigner.model.PresignedGetObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.presigner.S3Presigner;
import software.amazon.awssdk.utils.IoUtils;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class GetObjectPresignedUrl {
    public static void main(String[] args) {
        final String USAGE = """

            Usage:
                <bucketName> <keyName>\s

            Where:
                bucketName - The Amazon S3 bucket name.\s
                keyName - A key name that represents a text file.\s
            """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(USAGE);
            System.exit(1);
        }

        String bucketName = args[0];
        String keyName = args[1];
        Region region = Region.US_EAST_1;
```

```
        S3Presigner presigner = S3Presigner.builder()
            .region(region)
            .build();

        getPresignedUrl(presigner, bucketName, keyName);
        presigner.close();
    }

    /**
     * Generates a pre-signed URL for an Amazon S3 object.
     *
     * @param presigner The {@link S3Presigner} instance to use for generating the
pre-signed URL.
     * @param bucketName The name of the Amazon S3 bucket where the object is
stored.
     * @param keyName The key name (file name) of the object in the Amazon S3
bucket.
     *
     * @throws S3Exception If there is an error interacting with the Amazon S3
service.
     * @throws IOException If there is an error opening the HTTP connection or
reading/writing the request/response.
     */
    public static void getPresignedUrl(S3Presigner presigner, String bucketName,
String keyName) {
        try {
            GetObjectRequest getObjectRequest = GetObjectRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .key(keyName)
                .build();

            GetObjectPresignRequest getObjectPresignRequest =
GetObjectPresignRequest.builder()
                .signatureDuration(Duration.ofMinutes(60))
                .getObjectRequest(getObjectRequest)
                .build();

            PresignedGetObjectRequest presignedGetObjectRequest =
presigner.presignGetObject(getObjectPresignRequest);
            String theUrl = presignedGetObjectRequest.url().toString();
            System.out.println("Presigned URL: " + theUrl);
            HttpURLConnection connection = (HttpURLConnection)
presignedGetObjectRequest.url().openConnection();
```

```
            presignedGetObjectRequest.httpRequest().headers().forEach((header,
 values) -> {
                values.forEach(value -> {
                    connection.addRequestProperty(header, value);
                });
            });

            // Send any request payload that the service needs (not needed when
            // isBrowserExecutable is true).
            if (presignedGetObjectRequest.signedPayload().isPresent()) {
                connection.setDoOutput(true);

                try (InputStream signedPayload =
 presignedGetObjectRequest.signedPayload().get().asInputStream();
                     OutputStream httpOutputStream = connection.getOutputStream()) {
                    IoUtils.copy(signedPayload, httpOutputStream);
                }
            }

            // Download the result of executing the request.
            try (InputStream content = connection.getInputStream()) {
                System.out.println("Service returned response: ");
                IoUtils.copy(content, System.out);
            }

        } catch (S3Exception | IOException e) {
            e.printStackTrace();
        }
    }
}
```

ResponseTransformer オブジェクトと S3Client を使用してオブジェクトを取得します。

```
import software.amazon.awssdk.core.ResponseBytes;
import software.amazon.awssdk.core.sync.ResponseTransformer;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetObjectResponse;
```

```
import java.io.File;
import java.io.FileOutputStream;
import java.io.IOException;
import java.io.OutputStream;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */

public class GetObjectData {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

            Usage:
                <bucketName> <keyName> <path>

            Where:
                bucketName - The Amazon S3 bucket name.\s
                keyName - The key name.\s
                path - The path where the file is written to.\s
            """;

        if (args.length != 3) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String bucketName = args[0];
        String keyName = args[1];
        String path = args[2];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        S3Client s3 = S3Client.builder()
            .region(region)
            .build();

        getObjectBytes(s3, bucketName, keyName, path);
        s3.close();
    }
```

```
    /**
     * Retrieves the bytes of an object stored in an Amazon S3 bucket and saves them
 to a local file.
     *
     * @param s3 The S3Client instance used to interact with the Amazon S3 service.
     * @param bucketName The name of the S3 bucket where the object is stored.
     * @param keyName The key (or name) of the S3 object.
     * @param path The local file path where the object's bytes will be saved.
     * @throws IOException If an I/O error occurs while writing the bytes to the
 local file.
     * @throws S3Exception If an error occurs while retrieving the object from the
 S3 bucket.
     */
    public static void getObjectBytes(S3Client s3, String bucketName, String
 keyName, String path) {
        try {
            GetObjectRequest objectRequest = GetObjectRequest
                .builder()
                .key(keyName)
                .bucket(bucketName)
                .build();

            ResponseBytes<GetObjectResponse> objectBytes =
 s3.getObject(objectRequest, ResponseTransformer.toBytes());
            byte[] data = objectBytes.asByteArray();

            // Write the data to a local file.
            File myFile = new File(path);
            OutputStream os = new FileOutputStream(myFile);
            os.write(data);
            System.out.println("Successfully obtained bytes from an S3 object");
            os.close();

        } catch (IOException ex) {
            ex.printStackTrace();
        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「GetObject」を参照してください。

GetObjectLegalHold

次のコード例は、GetObjectLegalHold を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   // Get the legal hold details for an S3 object.
   public ObjectLockLegalHold getObjectLegalHold(String bucketName, String
objectKey) {
       try {
           GetObjectLegalHoldRequest legalHoldRequest =
GetObjectLegalHoldRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .key(objectKey)
                .build();

           GetObjectLegalHoldResponse response =
getClient().getObjectLegalHold(legalHoldRequest);
           System.out.println("Object legal hold for " + objectKey + " in " +
bucketName +
                ":\n\tStatus: " + response.legalHold().status());
           return response.legalHold();

       } catch (S3Exception ex) {
           System.out.println("\tUnable to fetch legal hold: '" + ex.getMessage() +
"'");
       }

       return null;
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetObjectLegalHold」を参照してください。

GetObjectLockConfiguration

次のコード例は、GetObjectLockConfiguration を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   // Get the object lock configuration details for an S3 bucket.
   public void getBucketObjectLockConfiguration(String bucketName) {
       GetObjectLockConfigurationRequest objectLockConfigurationRequest =
GetObjectLockConfigurationRequest.builder()
           .bucket(bucketName)
           .build();

       GetObjectLockConfigurationResponse response =
getClient().getObjectLockConfiguration(objectLockConfigurationRequest);
       System.out.println("Bucket object lock config for "+bucketName +":  ");
       System.out.println("\tEnabled:
"+response.objectLockConfiguration().objectLockEnabled());
       System.out.println("\tRule: "+
response.objectLockConfiguration().rule().defaultRetention());
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「GetObjectLockConfiguration」を参照してください。

GetObjectRetention

次のコード例は、GetObjectRetention を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   // Get the retention period for an S3 object.
   public ObjectLockRetention getObjectRetention(String bucketName, String key){
       try {
           GetObjectRetentionRequest retentionRequest =
GetObjectRetentionRequest.builder()
                   .bucket(bucketName)
                   .key(key)
                   .build();

           GetObjectRetentionResponse response =
getClient().getObjectRetention(retentionRequest);
           System.out.println("tObject retention for "+key +" in "+ bucketName +":
" + response.retention().mode() +" until "+ response.retention().retainUntilDate()
+".");
           return response.retention();

       } catch (S3Exception e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           return null;
       }
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「GetObjectRetention」を参照してください。

`HeadObject`

次のコード例は、`HeadObject` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

オブジェクトのコンテンツタイプを調べる

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.HeadObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.HeadObjectResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class GetObjectContentType {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

            Usage:
                <bucketName> <keyName>

            Where:
                bucketName - The Amazon S3 bucket name.\s
                keyName - The key name.\s
            """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String bucketName = args[0];
```

```
        String keyName = args[1];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        S3Client s3 = S3Client.builder()
            .region(region)
            .build();

        getContentType(s3, bucketName, keyName);
        s3.close();
    }

    /**
     * Retrieves the content type of an object stored in an Amazon S3 bucket.
     *
     * @param s3 an instance of the {@link S3Client} class, which is used to
 interact with the Amazon S3 service
     * @param bucketName the name of the S3 bucket where the object is stored
     * @param keyName the key (file name) of the object in the S3 bucket
     */
    public static void getContentType(S3Client s3, String bucketName, String
 keyName) {
        try {
            HeadObjectRequest objectRequest = HeadObjectRequest.builder()
                .key(keyName)
                .bucket(bucketName)
                .build();

            HeadObjectResponse objectHead = s3.headObject(objectRequest);
            String type = objectHead.contentType();
            System.out.println("The object content type is " + type);

        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

オブジェクトの復元ステータスを取得する

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.HeadObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.HeadObjectResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;

public class GetObjectRestoreStatus {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

            Usage:
                <bucketName> <keyName>\s

            Where:
                bucketName - The Amazon S3 bucket name.\s
                keyName - A key name that represents the object.\s
            """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String bucketName = args[0];
        String keyName = args[1];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        S3Client s3 = S3Client.builder()
            .region(region)
            .build();

        checkStatus(s3, bucketName, keyName);
        s3.close();
    }

    /**
     * Checks the restoration status of an Amazon S3 object.
     *
     * @param s3         an instance of the {@link S3Client} class used to interact
 with the Amazon S3 service
     * @param bucketName the name of the Amazon S3 bucket where the object is stored
     * @param keyName    the name of the Amazon S3 object to be checked
     * @throws S3Exception if an error occurs while interacting with the Amazon S3
 service
     */
    public static void checkStatus(S3Client s3, String bucketName, String keyName) {
        try {
```

```
            HeadObjectRequest headObjectRequest = HeadObjectRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .key(keyName)
                .build();

            HeadObjectResponse response = s3.headObject(headObjectRequest);
            System.out.println("The Amazon S3 object restoration status is " +
 response.restore());

        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「HeadObject」を参照してください。

`ListBuckets`

次のコード例は、`ListBuckets` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.paginators.ListBucketsIterable;
/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
```

```
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ListBuckets {
    public static void main(String[] args) {
        Region region = Region.US_EAST_1;
        S3Client s3 = S3Client.builder()
            .region(region)
            .build();

        listAllBuckets(s3);

    }

    /**
     * Lists all the S3 buckets available in the current AWS account.
     *
     * @param s3 The {@link S3Client} instance to use for interacting with the
 Amazon S3 service.
     */
    public static void listAllBuckets(S3Client s3) {
        ListBucketsIterable response = s3.listBucketsPaginator();
        response.buckets().forEach(bucket ->
            System.out.println("Bucket Name: " + bucket.name()));
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListBuckets」を参照してください。

`ListMultipartUploads`

次のコード例は、`ListMultipartUploads` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ListMultipartUploadsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ListMultipartUploadsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.MultipartUpload;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */

public class ListMultipartUploads {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <bucketName>\s

                Where:
                    bucketName - The name of the Amazon S3 bucket where an in-
progress multipart upload is occurring.
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String bucketName = args[0];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        S3Client s3 = S3Client.builder()
                .region(region)
                .build();
        listUploads(s3, bucketName);
        s3.close();
    }
```

```
    /**
     * Lists the multipart uploads currently in progress in the specified Amazon S3
 bucket.
     *
     * @param s3 the S3Client object used to interact with Amazon S3
     * @param bucketName the name of the Amazon S3 bucket to list the multipart
 uploads for
     */
    public static void listUploads(S3Client s3, String bucketName) {
        try {
            ListMultipartUploadsRequest listMultipartUploadsRequest =
 ListMultipartUploadsRequest.builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .build();

            ListMultipartUploadsResponse response =
 s3.listMultipartUploads(listMultipartUploadsRequest);
            List<MultipartUpload> uploads = response.uploads();
            for (MultipartUpload upload : uploads) {
                System.out.println("Upload in progress: Key = \"" + upload.key() +
 "\", id = " + upload.uploadId());
            }

        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListMultipartUploads」を参照してください。

ListObjectsV2

次のコード例は、ListObjectsV2 を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Asynchronously lists all objects in the specified S3 bucket.
    *
    * @param bucketName the name of the S3 bucket to list objects for
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when all objects have been
listed
    */
   public CompletableFuture<Void> listAllObjectsAsync(String bucketName) {
       ListObjectsV2Request initialRequest = ListObjectsV2Request.builder()
           .bucket(bucketName)
           .maxKeys(1)
           .build();

       ListObjectsV2Publisher paginator =
getAsyncClient().listObjectsV2Paginator(initialRequest);
       return paginator.subscribe(response -> {
           response.contents().forEach(s3Object -> {
               logger.info("Object key: " + s3Object.key());
           });
       }).thenRun(() -> {
           logger.info("Successfully listed all objects in the bucket: " +
bucketName);
       }).exceptionally(ex -> {
           throw new RuntimeException("Failed to list objects", ex);
       });
   }
```

ページネーションを使用してオブジェクトを一覧表示します。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ListObjectsV2Request;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;
import software.amazon.awssdk.services.s3.paginators.ListObjectsV2Iterable;

public class ListObjectsPaginated {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

            Usage:
                <bucketName>\s

            Where:
                bucketName - The Amazon S3 bucket from which objects are read.\s
            """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String bucketName = args[0];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        S3Client s3 = S3Client.builder()
            .region(region)
            .build();

        listBucketObjects(s3, bucketName);
        s3.close();
    }

    /**
     * Lists the objects in the specified S3 bucket.
     *
     * @param s3 the S3Client instance used to interact with Amazon S3
     * @param bucketName the name of the S3 bucket to list the objects from
     */
    public static void listBucketObjects(S3Client s3, String bucketName) {
        try {
            ListObjectsV2Request listReq = ListObjectsV2Request.builder()
                .bucket(bucketName)
                .maxKeys(1)
                .build();

            ListObjectsV2Iterable listRes = s3.listObjectsV2Paginator(listReq);
```

```
            listRes.stream()
                .flatMap(r -> r.contents().stream())
                .forEach(content -> System.out.println(" Key: " + content.key() + "
 size = " + content.size()));

        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListObjectsV2」を参照してください。

`PutBucketAcl`

次のコード例は、`PutBucketAcl` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.AccessControlPolicy;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.Grant;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.Permission;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.PutBucketAclRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.Type;

import java.util.ArrayList;
import java.util.List;
```

```
/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class SetAcl {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

            Usage:
              <bucketName> <id>\s

            Where:
              bucketName - The Amazon S3 bucket to grant permissions on.\s
              id - The ID of the owner of this bucket (you can get this value from
 the AWS Management Console).
            """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            return;
        }

        String bucketName = args[0];
        String id = args[1];
        System.out.format("Setting access \n");
        System.out.println(" in bucket: " + bucketName);
        Region region = Region.US_EAST_1;
        S3Client s3 = S3Client.builder()
            .region(region)
            .build();

        setBucketAcl(s3, bucketName, id);
        System.out.println("Done!");
        s3.close();
    }

    /**
     * Sets the Access Control List (ACL) for an Amazon S3 bucket.
     *
     * @param s3 the S3Client instance to be used for the operation
```

```
     * @param bucketName the name of the S3 bucket to set the ACL for
     * @param id the ID of the AWS user or account that will be granted full control
 of the bucket
     * @throws S3Exception if an error occurs while setting the bucket ACL
     */
    public static void setBucketAcl(S3Client s3, String bucketName, String id) {
        try {
            Grant ownerGrant = Grant.builder()
                .grantee(builder -> builder.id(id)
                    .type(Type.CANONICAL_USER))
                .permission(Permission.FULL_CONTROL)
                .build();

            List<Grant> grantList2 = new ArrayList<>();
            grantList2.add(ownerGrant);

            AccessControlPolicy acl = AccessControlPolicy.builder()
                .owner(builder -> builder.id(id))
                .grants(grantList2)
                .build();

            PutBucketAclRequest putAclReq = PutBucketAclRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .accessControlPolicy(acl)
                .build();

            s3.putBucketAcl(putAclReq);

        } catch (S3Exception e) {
            e.printStackTrace();
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「PutBucketAcl」を参照してください。

PutBucketCors

次のコード例は、PutBucketCors を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;

import java.util.ArrayList;
import java.util.List;

import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetBucketCorsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetBucketCorsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.DeleteBucketCorsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CORSRule;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CORSConfiguration;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.PutBucketCorsRequest;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class S3Cors {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

            Usage:
                <bucketName> <accountId>\s

            Where:
                bucketName - The Amazon S3 bucket to upload an object into.
                accountId - The id of the account that owns the Amazon S3 bucket.
            """;
```

```
        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String bucketName = args[0];
        String accountId = args[1];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        S3Client s3 = S3Client.builder()
            .region(region)
            .build();

        setCorsInformation(s3, bucketName, accountId);
        getBucketCorsInformation(s3, bucketName, accountId);
        deleteBucketCorsInformation(s3, bucketName, accountId);
        s3.close();
    }

    /**
     * Deletes the CORS (Cross-Origin Resource Sharing) configuration for an Amazon
S3 bucket.
     *
     * @param s3            the {@link S3Client} instance used to interact with the
Amazon S3 service
     * @param bucketName    the name of the Amazon S3 bucket for which the CORS
configuration should be deleted
     * @param accountId     the expected AWS account ID of the bucket owner
     *
     * @throws S3Exception if an error occurs while deleting the CORS configuration
for the bucket
     */
    public static void deleteBucketCorsInformation(S3Client s3, String bucketName,
String accountId) {
        try {
            DeleteBucketCorsRequest bucketCorsRequest =
DeleteBucketCorsRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .expectedBucketOwner(accountId)
                .build();

            s3.deleteBucketCors(bucketCorsRequest);

        } catch (S3Exception e) {
```

```
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    /**
     * Retrieves the CORS (Cross-Origin Resource Sharing) configuration for the
specified S3 bucket.
     *
     * @param s3 the S3Client instance to use for the operation
     * @param bucketName the name of the S3 bucket to retrieve the CORS
configuration for
     * @param accountId the expected bucket owner's account ID
     *
     * @throws S3Exception if there is an error retrieving the CORS configuration
     */
    public static void getBucketCorsInformation(S3Client s3, String bucketName,
String accountId) {
        try {
            GetBucketCorsRequest bucketCorsRequest = GetBucketCorsRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .expectedBucketOwner(accountId)
                .build();

            GetBucketCorsResponse corsResponse =
s3.getBucketCors(bucketCorsRequest);
            List<CORSRule> corsRules = corsResponse.corsRules();
            for (CORSRule rule : corsRules) {
                System.out.println("allowOrigins: " + rule.allowedOrigins());
                System.out.println("AllowedMethod: " + rule.allowedMethods());
            }

        } catch (S3Exception e) {

            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    /**
     * Sets the Cross-Origin Resource Sharing (CORS) rules for an Amazon S3 bucket.
     *
     * @param s3 The S3Client object used to interact with the Amazon S3 service.
     * @param bucketName The name of the S3 bucket to set the CORS rules for.
```

```
     * @param accountId The AWS account ID of the bucket owner.
     */
    public static void setCorsInformation(S3Client s3, String bucketName, String
 accountId) {
        List<String> allowMethods = new ArrayList<>();
        allowMethods.add("PUT");
        allowMethods.add("POST");
        allowMethods.add("DELETE");

        List<String> allowOrigins = new ArrayList<>();
        allowOrigins.add("http://example.com");
        try {
            // Define CORS rules.
            CORSRule corsRule = CORSRule.builder()
                .allowedMethods(allowMethods)
                .allowedOrigins(allowOrigins)
                .build();

            List<CORSRule> corsRules = new ArrayList<>();
            corsRules.add(corsRule);
            CORSConfiguration configuration = CORSConfiguration.builder()
                .corsRules(corsRules)
                .build();

            PutBucketCorsRequest putBucketCorsRequest =
 PutBucketCorsRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .corsConfiguration(configuration)
                .expectedBucketOwner(accountId)
                .build();

            s3.putBucketCors(putBucketCorsRequest);

        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「PutBucketCors」を参照してください。

PutBucketLifecycleConfiguration

次のコード例は、PutBucketLifecycleConfiguration を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.LifecycleRuleFilter;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.Transition;
import
 software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetBucketLifecycleConfigurationRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetBucketLifecycleConfigurationResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.DeleteBucketLifecycleRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.TransitionStorageClass;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.LifecycleRule;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ExpirationStatus;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.BucketLifecycleConfiguration;
import
 software.amazon.awssdk.services.s3.model.PutBucketLifecycleConfigurationRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;
import java.util.ArrayList;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */

public class LifecycleConfiguration {
    public static void main(String[] args) {
```

```
        final String usage = """

            Usage:
              <bucketName> <accountId>\s

            Where:
              bucketName - The Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) bucket to
upload an object into.
              accountId - The id of the account that owns the Amazon S3 bucket.
            """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String bucketName = args[0];
        String accountId = args[1];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        S3Client s3 = S3Client.builder()
            .region(region)
            .build();

        setLifecycleConfig(s3, bucketName, accountId);
        getLifecycleConfig(s3, bucketName, accountId);
        deleteLifecycleConfig(s3, bucketName, accountId);
        System.out.println("You have successfully created, updated, and deleted a
Lifecycle configuration");
        s3.close();
    }

    /**
     * Sets the lifecycle configuration for an Amazon S3 bucket.
     *
     * @param s3           The Amazon S3 client to use for the operation.
     * @param bucketName   The name of the Amazon S3 bucket.
     * @param accountId    The expected owner of the Amazon S3 bucket.
     *
     * @throws S3Exception if there is an error setting the lifecycle configuration.
     */
    public static void setLifecycleConfig(S3Client s3, String bucketName, String
accountId) {
        try {
```

```
            // Create a rule to archive objects with the "glacierobjects/" prefix to
the
            // S3 Glacier Flexible Retrieval storage class immediately.
            LifecycleRuleFilter ruleFilter = LifecycleRuleFilter.builder()
                .prefix("glacierobjects/")
                .build();

            Transition transition = Transition.builder()
                .storageClass(TransitionStorageClass.GLACIER)
                .days(0)
                .build();

            LifecycleRule rule1 = LifecycleRule.builder()
                .id("Archive immediately rule")
                .filter(ruleFilter)
                .transitions(transition)
                .status(ExpirationStatus.ENABLED)
                .build();

            // Create a second rule.
            Transition transition2 = Transition.builder()
                .storageClass(TransitionStorageClass.GLACIER)
                .days(0)
                .build();

            List<Transition> transitionList = new ArrayList<>();
            transitionList.add(transition2);

            LifecycleRuleFilter ruleFilter2 = LifecycleRuleFilter.builder()
                .prefix("glacierobjects/")
                .build();

            LifecycleRule rule2 = LifecycleRule.builder()
                .id("Archive and then delete rule")
                .filter(ruleFilter2)
                .transitions(transitionList)
                .status(ExpirationStatus.ENABLED)
                .build();

            // Add the LifecycleRule objects to an ArrayList.
            ArrayList<LifecycleRule> ruleList = new ArrayList<>();
            ruleList.add(rule1);
            ruleList.add(rule2);
```

```
            BucketLifecycleConfiguration lifecycleConfiguration =
BucketLifecycleConfiguration.builder()
                .rules(ruleList)
                .build();

            PutBucketLifecycleConfigurationRequest
putBucketLifecycleConfigurationRequest = PutBucketLifecycleConfigurationRequest
                .builder()
                .bucket(bucketName)
                .lifecycleConfiguration(lifecycleConfiguration)
                .expectedBucketOwner(accountId)
                .build();


s3.putBucketLifecycleConfiguration(putBucketLifecycleConfigurationRequest);

        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    /**
     * Retrieves the lifecycle configuration for an Amazon S3 bucket and adds a new
lifecycle rule to it.
     *
     * @param s3 the S3Client instance used to interact with Amazon S3
     * @param bucketName the name of the Amazon S3 bucket
     * @param accountId the expected owner of the Amazon S3 bucket
     */
    public static void getLifecycleConfig(S3Client s3, String bucketName, String
accountId) {
        try {
            GetBucketLifecycleConfigurationRequest
getBucketLifecycleConfigurationRequest = GetBucketLifecycleConfigurationRequest
                .builder()
                .bucket(bucketName)
                .expectedBucketOwner(accountId)
                .build();

            GetBucketLifecycleConfigurationResponse response = s3

.getBucketLifecycleConfiguration(getBucketLifecycleConfigurationRequest);
            List<LifecycleRule> newList = new ArrayList<>();
```

```
            List<LifecycleRule> rules = response.rules();
            for (LifecycleRule rule : rules) {
                newList.add(rule);
            }

            // Add a new rule with both a prefix predicate and a tag predicate.
            LifecycleRuleFilter ruleFilter = LifecycleRuleFilter.builder()
                .prefix("YearlyDocuments/")
                .build();

            Transition transition = Transition.builder()
                .storageClass(TransitionStorageClass.GLACIER)
                .days(3650)
                .build();

            LifecycleRule rule1 = LifecycleRule.builder()
                .id("NewRule")
                .filter(ruleFilter)
                .transitions(transition)
                .status(ExpirationStatus.ENABLED)
                .build();

            // Add the new rule to the list.
            newList.add(rule1);
            BucketLifecycleConfiguration lifecycleConfiguration =
BucketLifecycleConfiguration.builder()
                .rules(newList)
                .build();

            PutBucketLifecycleConfigurationRequest
putBucketLifecycleConfigurationRequest = PutBucketLifecycleConfigurationRequest
                .builder()
                .bucket(bucketName)
                .lifecycleConfiguration(lifecycleConfiguration)
                .expectedBucketOwner(accountId)
                .build();


s3.putBucketLifecycleConfiguration(putBucketLifecycleConfigurationRequest);

        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
```

```
    }

    /**
     * Deletes the lifecycle configuration for an Amazon S3 bucket.
     *
     * @param s3 the {@link S3Client} to use for the operation
     * @param bucketName the name of the S3 bucket
     * @param accountId the expected account owner of the S3 bucket
     *
     * @throws S3Exception if an error occurs while deleting the lifecycle
 configuration
     */
    public static void deleteLifecycleConfig(S3Client s3, String bucketName, String
 accountId) {
        try {
            DeleteBucketLifecycleRequest deleteBucketLifecycleRequest =
 DeleteBucketLifecycleRequest
                .builder()
                .bucket(bucketName)
                .expectedBucketOwner(accountId)
                .build();

            s3.deleteBucketLifecycle(deleteBucketLifecycleRequest);

        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「PutBucketLifecycleConfiguration」を参照してください。

PutBucketPolicy

次のコード例は、PutBucketPolicy を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.PutBucketPolicyRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;

import java.io.IOException;
import java.nio.charset.StandardCharsets;
import java.nio.file.Files;
import java.nio.file.Paths;
import java.util.List;

import com.fasterxml.jackson.core.JsonParser;
import com.fasterxml.jackson.databind.ObjectMapper;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class SetBucketPolicy {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

            Usage:
                <bucketName> <polFile>

            Where:
                bucketName - The Amazon S3 bucket to set the policy on.
                polFile - A JSON file containing the policy (see the Amazon S3
 Readme for an example).\s
```

```
            """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String bucketName = args[0];
        String polFile = args[1];
        String policyText = getBucketPolicyFromFile(polFile);
        Region region = Region.US_EAST_1;
        S3Client s3 = S3Client.builder()
            .region(region)
            .build();

        setPolicy(s3, bucketName, policyText);
        s3.close();
    }

    /**
     * Sets the policy for an Amazon S3 bucket.
     *
     * @param s3         the {@link S3Client} object used to interact with the
Amazon S3 service
     * @param bucketName the name of the Amazon S3 bucket
     * @param policyText the text of the policy to be set on the bucket
     * @throws S3Exception if there is an error setting the bucket policy
     */
    public static void setPolicy(S3Client s3, String bucketName, String policyText)
{
        System.out.println("Setting policy:");
        System.out.println("----");
        System.out.println(policyText);
        System.out.println("----");
        System.out.format("On Amazon S3 bucket: \"%s\"\n", bucketName);

        try {
            PutBucketPolicyRequest policyReq = PutBucketPolicyRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .policy(policyText)
                .build();

            s3.putBucketPolicy(policyReq);
```

```
        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }

        System.out.println("Done!");
    }

    /**
     * Retrieves the bucket policy from a specified file.
     *
     * @param policyFile the path to the file containing the bucket policy
     * @return the content of the bucket policy file as a string
     */
    public static String getBucketPolicyFromFile(String policyFile) {
        StringBuilder fileText = new StringBuilder();
        try {
            List<String> lines = Files.readAllLines(Paths.get(policyFile),
 StandardCharsets.UTF_8);
            for (String line : lines) {
                fileText.append(line);
            }

        } catch (IOException e) {
            System.out.format("Problem reading file: \"%s\"", policyFile);
            System.out.println(e.getMessage());
        }

        try {
            final JsonParser parser = new
 ObjectMapper().getFactory().createParser(fileText.toString());
            while (parser.nextToken() != null) {
            }

        } catch (IOException jpe) {
            jpe.printStackTrace();
        }
        return fileText.toString();
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「PutBucketPolicy」を参照してください。

PutBucketReplication

次のコード例は、PutBucketReplication を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Sets the replication configuration for an Amazon S3 bucket.
    *
    * @param s3Client             the S3Client instance to use for the operation
    * @param sourceBucketName     the name of the source bucket
    * @param destBucketName       the name of the destination bucket
    * @param destinationBucketARN the Amazon Resource Name (ARN) of the destination
bucket
    * @param roleARN              the ARN of the IAM role to use for the
replication configuration
    */
   public static void setReplication(S3Client s3Client, String sourceBucketName,
String destBucketName, String destinationBucketARN, String roleARN) {
       try {
           Destination destination = Destination.builder()
               .bucket(destinationBucketARN)
               .storageClass(StorageClass.STANDARD)
               .build();

           // Define a prefix filter for replication.
           ReplicationRuleFilter ruleFilter = ReplicationRuleFilter.builder()
               .prefix("documents/")
               .build();

           // Define delete marker replication setting.
           DeleteMarkerReplication deleteMarkerReplication =
DeleteMarkerReplication.builder()
```

```
                .status(DeleteMarkerReplicationStatus.DISABLED)
                .build();

            // Create the replication rule.
            ReplicationRule replicationRule = ReplicationRule.builder()
                .priority(1)
                .filter(ruleFilter)
                .status(ReplicationRuleStatus.ENABLED)
                .deleteMarkerReplication(deleteMarkerReplication)
                .destination(destination)
                .build();

            List<ReplicationRule> replicationRuleList = new ArrayList<>();
            replicationRuleList.add(replicationRule);

            // Define the replication configuration with IAM role.
            ReplicationConfiguration configuration =
ReplicationConfiguration.builder()
                .role(roleARN)
                .rules(replicationRuleList)
                .build();

            // Apply the replication configuration to the source bucket.
            PutBucketReplicationRequest replicationRequest =
PutBucketReplicationRequest.builder()
                .bucket(sourceBucketName)
                .replicationConfiguration(configuration)
                .build();

            s3Client.putBucketReplication(replicationRequest);
            System.out.println("Replication configuration set successfully.");

        } catch (IllegalArgumentException e) {
            System.err.println("Configuration error: " + e.getMessage());
        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println("S3 Exception: " +
e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.err.println("Status Code: " + e.statusCode());
            System.err.println("Error Code: " + e.awsErrorDetails().errorCode());


        } catch (SdkException e) {
            System.err.println("SDK Exception: " + e.getMessage());
        }
```

```
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「PutBucketReplication」を参照してください。

PutBucketVersioning

次のコード例は、PutBucketVersioning を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Enables bucket versioning for the specified S3 bucket.
    *
    * @param s3Client the S3 client to use for the operation
    * @param bucketName the name of the S3 bucket to enable versioning for
    */
   public static void enableBucketVersioning(S3Client s3Client, String bucketName){
       VersioningConfiguration versioningConfiguration =
VersioningConfiguration.builder()
           .status(BucketVersioningStatus.ENABLED)
           .build();

       PutBucketVersioningRequest versioningRequest =
PutBucketVersioningRequest.builder()
           .bucket(bucketName)
           .versioningConfiguration(versioningConfiguration)
           .build();

       s3Client.putBucketVersioning(versioningRequest);
       System.out.println("Bucket versioning has been enabled for "+bucketName);
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「PutBucketVersioning」を参照してください。

PutBucketWebsite

次のコード例は、PutBucketWebsite を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.IndexDocument;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.PutBucketWebsiteRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.WebsiteConfiguration;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */

public class SetWebsiteConfiguration {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

            Usage:    <bucketName> [indexdoc]\s

            Where:
               bucketName   - The Amazon S3 bucket to set the website configuration
 on.\s
               indexdoc - The index document, ex. 'index.html'
```

```
                            If not specified, 'index.html' will be set.
            """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String bucketName = args[0];
        String indexDoc = "index.html";
        Region region = Region.US_EAST_1;
        S3Client s3 = S3Client.builder()
            .region(region)
            .build();

        setWebsiteConfig(s3, bucketName, indexDoc);
        s3.close();
    }

    /**
     * Sets the website configuration for an Amazon S3 bucket.
     *
     * @param s3 The {@link S3Client} instance to use for the AWS SDK operations.
     * @param bucketName The name of the S3 bucket to configure.
     * @param indexDoc The name of the index document to use for the website
configuration.
     */
    public static void setWebsiteConfig(S3Client s3, String bucketName, String
indexDoc) {
        try {
            WebsiteConfiguration websiteConfig = WebsiteConfiguration.builder()
                .indexDocument(IndexDocument.builder().suffix(indexDoc).build())
                .build();

            PutBucketWebsiteRequest pubWebsiteReq =
PutBucketWebsiteRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .websiteConfiguration(websiteConfig)
                .build();

            s3.putBucketWebsite(pubWebsiteReq);
            System.out.println("The call was successful");

        } catch (S3Exception e) {
```

```
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「PutBucketWebsite」を参照してください。https://docs.aws.amazon.com/goto/SdkForJavaV2/s3-2006-03-01/PutBucketWebsite

`PutObject`

次のコード例は、`PutObject` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

S3Client を使用してバケットにファイルをアップロードします。

```
   /**
    * Uploads a local file to an AWS S3 bucket asynchronously.
    *
    * @param bucketName the name of the S3 bucket to upload the file to
    * @param key        the key (object name) to use for the uploaded file
    * @param objectPath the local file path of the file to be uploaded
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes with the {@link
PutObjectResponse} when the upload is successful, or throws a {@link
RuntimeException} if the upload fails
    */
   public CompletableFuture<PutObjectResponse> uploadLocalFileAsync(String
bucketName, String key, String objectPath) {
       PutObjectRequest objectRequest = PutObjectRequest.builder()
           .bucket(bucketName)
           .key(key)
           .build();
```

```
        CompletableFuture<PutObjectResponse> response =
getAsyncClient().putObject(objectRequest,
AsyncRequestBody.fromFile(Paths.get(objectPath)));
        return response.whenComplete((resp, ex) -> {
            if (ex != null) {
                throw new RuntimeException("Failed to upload file", ex);
            }
        });
    }
```

S3TransferManager を使用してバケットにファイルをアップロードします。完全なファイルとテストを表示します。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.S3TransferManager;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.CompletedFileUpload;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.FileUpload;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.UploadFileRequest;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.progress.LoggingTransferListener;
import java.net.URI;
import java.net.URISyntaxException;
import java.net.URL;
import java.nio.file.Paths;
import java.util.UUID;

    public String uploadFile(S3TransferManager transferManager, String bucketName,
                             String key, URI filePathURI) {
        UploadFileRequest uploadFileRequest = UploadFileRequest.builder()
            .putObjectRequest(b -> b.bucket(bucketName).key(key))
            .source(Paths.get(filePathURI))
            .build();

        FileUpload fileUpload = transferManager.uploadFile(uploadFileRequest);

        CompletedFileUpload uploadResult = fileUpload.completionFuture().join();
        return uploadResult.response().eTag();
    }
```

S3Client を使用してオブジェクトをバケットにアップロードし、タグを設定します。

```
    /**
     * Puts tags on an Amazon S3 object.
     *
     * @param s3 An {@link S3Client} object that represents the Amazon S3 client.
     * @param bucketName The name of the Amazon S3 bucket.
     * @param objectKey The key of the Amazon S3 object.
     * @param objectPath The file path of the object to be uploaded.
     */
    public static void putS3ObjectTags(S3Client s3, String bucketName, String
objectKey, String objectPath) {
        try {
            Tag tag1 = Tag.builder()
                .key("Tag 1")
                .value("This is tag 1")
                .build();

            Tag tag2 = Tag.builder()
                .key("Tag 2")
                .value("This is tag 2")
                .build();

            List<Tag> tags = new ArrayList<>();
            tags.add(tag1);
            tags.add(tag2);

            Tagging allTags = Tagging.builder()
                .tagSet(tags)
                .build();

            PutObjectRequest putOb = PutObjectRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .key(objectKey)
                .tagging(allTags)
                .build();

            s3.putObject(putOb, RequestBody.fromBytes(getObjectFile(objectPath)));

        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

```
   /**
    * Updates the tags associated with an object in an Amazon S3 bucket.
    *
    * @param s3 an instance of the S3Client class, which is used to interact with
the Amazon S3 service
    * @param bucketName the name of the S3 bucket containing the object
    * @param objectKey the key (or name) of the object in the S3 bucket
    * @throws S3Exception if there is an error updating the object's tags
    */
   public static void updateObjectTags(S3Client s3, String bucketName, String
objectKey) {
       try {
           GetObjectTaggingRequest taggingRequest =
GetObjectTaggingRequest.builder()
               .bucket(bucketName)
               .key(objectKey)
               .build();

           GetObjectTaggingResponse getTaggingRes =
s3.getObjectTagging(taggingRequest);
           List<Tag> obTags = getTaggingRes.tagSet();
           for (Tag sinTag : obTags) {
               System.out.println("The tag key is: " + sinTag.key());
               System.out.println("The tag value is: " + sinTag.value());
           }

           // Replace the object's tags with two new tags.
           Tag tag3 = Tag.builder()
               .key("Tag 3")
               .value("This is tag 3")
               .build();

           Tag tag4 = Tag.builder()
               .key("Tag 4")
               .value("This is tag 4")
               .build();

           List<Tag> tags = new ArrayList<>();
           tags.add(tag3);
           tags.add(tag4);

           Tagging updatedTags = Tagging.builder()
               .tagSet(tags)
               .build();
```

```
            PutObjectTaggingRequest taggingRequest1 =
PutObjectTaggingRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .key(objectKey)
                .tagging(updatedTags)
                .build();

            s3.putObjectTagging(taggingRequest1);
            GetObjectTaggingResponse getTaggingRes2 =
s3.getObjectTagging(taggingRequest);
            List<Tag> modTags = getTaggingRes2.tagSet();
            for (Tag sinTag : modTags) {
                System.out.println("The tag key is: " + sinTag.key());
                System.out.println("The tag value is: " + sinTag.value());
            }

        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    /**
     * Retrieves the contents of a file as a byte array.
     *
     * @param filePath the path of the file to be read
     * @return a byte array containing the contents of the file, or null if an error
occurs
     */
    private static byte[] getObjectFile(String filePath) {
        FileInputStream fileInputStream = null;
        byte[] bytesArray = null;

        try {
            File file = new File(filePath);
            bytesArray = new byte[(int) file.length()];
            fileInputStream = new FileInputStream(file);
            fileInputStream.read(bytesArray);

        } catch (IOException e) {
            e.printStackTrace();
        } finally {
            if (fileInputStream != null) {
```

```
                try {
                    fileInputStream.close();
                } catch (IOException e) {
                    e.printStackTrace();
                }
            }
        }

        return bytesArray;
    }
}
```

S3Client を使用してオブジェクトをバケットにアップロードし、メタデータを設定します。

```
import software.amazon.awssdk.core.sync.RequestBody;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.PutObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;

import java.io.File;
import java.util.HashMap;
import java.util.Map;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class PutObjectMetadata {
    public static void main(String[] args) {
        final String USAGE = """

            Usage:
              <bucketName> <objectKey> <objectPath>\s

            Where:
              bucketName - The Amazon S3 bucket to upload an object into.
```

```
              objectKey - The object to upload (for example, book.pdf).
              objectPath - The path where the file is located (for example, C:/AWS/
book2.pdf).\s
            """;

        if (args.length != 3) {
            System.out.println(USAGE);
            System.exit(1);
        }

        String bucketName = args[0];
        String objectKey = args[1];
        String objectPath = args[2];
        System.out.println("Putting object " + objectKey + " into bucket " +
 bucketName);
        System.out.println("  in bucket: " + bucketName);
        Region region = Region.US_EAST_1;
        S3Client s3 = S3Client.builder()
            .region(region)
            .build();

        putS3Object(s3, bucketName, objectKey, objectPath);
        s3.close();
    }

    /**
     * Uploads an object to an Amazon S3 bucket with metadata.
     *
     * @param s3 the S3Client object used to interact with the Amazon S3 service
     * @param bucketName the name of the S3 bucket to upload the object to
     * @param objectKey the name of the object to be uploaded
     * @param objectPath the local file path of the object to be uploaded
     */
    public static void putS3Object(S3Client s3, String bucketName, String objectKey,
 String objectPath) {
        try {
            Map<String, String> metadata = new HashMap<>();
            metadata.put("author", "Mary Doe");
            metadata.put("version", "1.0.0.0");

            PutObjectRequest putOb = PutObjectRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .key(objectKey)
                .metadata(metadata)
```

```
                .build();

            s3.putObject(putOb, RequestBody.fromFile(new File(objectPath)));
            System.out.println("Successfully placed " + objectKey + " into bucket "
 + bucketName);

        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

S3Client を使用してオブジェクトをバケットにアップロードし、オブジェクトの保持値を設定します。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.PutObjectRetentionRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ObjectLockRetention;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;

import java.time.Instant;
import java.time.LocalDate;
import java.time.LocalDateTime;
import java.time.ZoneOffset;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */

public class PutObjectRetention {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

            Usage:
```

```
                <key> <bucketName>\s

            Where:
                key - The name of the object (for example, book.pdf).\s
                bucketName - The Amazon S3 bucket name that contains the object (for
example, bucket1).\s
            """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String key = args[0];
        String bucketName = args[1];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        S3Client s3 = S3Client.builder()
            .region(region)
            .build();

        setRentionPeriod(s3, key, bucketName);
        s3.close();
    }

    /**
     * Sets the retention period for an object in an Amazon S3 bucket.
     *
     * @param s3     the S3Client object used to interact with the Amazon S3 service
     * @param key    the key (name) of the object in the S3 bucket
     * @param bucket the name of the S3 bucket where the object is stored
     *
     * @throws S3Exception if an error occurs while setting the object retention
period
     */
    public static void setRentionPeriod(S3Client s3, String key, String bucket) {
        try {
            LocalDate localDate = LocalDate.parse("2020-07-17");
            LocalDateTime localDateTime = localDate.atStartOfDay();
            Instant instant = localDateTime.toInstant(ZoneOffset.UTC);

            ObjectLockRetention lockRetention = ObjectLockRetention.builder()
                .mode("COMPLIANCE")
                .retainUntilDate(instant)
                .build();
```

```
            PutObjectRetentionRequest retentionRequest =
 PutObjectRetentionRequest.builder()
                .bucket(bucket)
                .key(key)
                .bypassGovernanceRetention(true)
                .retention(lockRetention)
                .build();

            // To set Retention on an object, the Amazon S3 bucket must support
 object
            // locking, otherwise an exception is thrown.
            s3.putObjectRetention(retentionRequest);
            System.out.print("An object retention configuration was successfully
 placed on the object");

        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「PutObject」を参照してください。

`PutObjectLegalHold`

次のコード例は、`PutObjectLegalHold` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    // Set or modify a legal hold on an object in an S3 bucket.
```

```
   public void modifyObjectLegalHold(String bucketName, String objectKey, boolean
legalHoldOn) {
       ObjectLockLegalHold legalHold ;
       if (legalHoldOn) {
           legalHold = ObjectLockLegalHold.builder()
               .status(ObjectLockLegalHoldStatus.ON)
               .build();
       } else {
           legalHold = ObjectLockLegalHold.builder()
               .status(ObjectLockLegalHoldStatus.OFF)
               .build();
       }

       PutObjectLegalHoldRequest legalHoldRequest =
PutObjectLegalHoldRequest.builder()
           .bucket(bucketName)
           .key(objectKey)
           .legalHold(legalHold)
           .build();

       getClient().putObjectLegalHold(legalHoldRequest) ;
       System.out.println("Modified legal hold for "+ objectKey +" in "+bucketName
+".");
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「PutObjectLegalHold」を参照してください。

`PutObjectLockConfiguration`

次のコード例は、`PutObjectLockConfiguration` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

バケットのオブジェクトロック設定を指定します。

```
   // Enable object lock on an existing bucket.
   public void enableObjectLockOnBucket(String bucketName) {
       try {
           VersioningConfiguration versioningConfiguration =
VersioningConfiguration.builder()
               .status(BucketVersioningStatus.ENABLED)
               .build();

           PutBucketVersioningRequest putBucketVersioningRequest =
PutBucketVersioningRequest.builder()
               .bucket(bucketName)
               .versioningConfiguration(versioningConfiguration)
               .build();

           // Enable versioning on the bucket.
           getClient().putBucketVersioning(putBucketVersioningRequest);
           PutObjectLockConfigurationRequest request =
PutObjectLockConfigurationRequest.builder()
               .bucket(bucketName)
               .objectLockConfiguration(ObjectLockConfiguration.builder()
                   .objectLockEnabled(ObjectLockEnabled.ENABLED)
                   .build())
               .build();

           getClient().putObjectLockConfiguration(request);
           System.out.println("Successfully enabled object lock on "+bucketName);

       } catch (S3Exception ex) {
           System.out.println("Error modifying object lock: '" + ex.getMessage() +
"'");
       }
   }
```

バケットのデフォルトの保存期間を設定します。

```
   // Set or modify a retention period on an S3 bucket.
   public void modifyBucketDefaultRetention(String bucketName) {
       VersioningConfiguration versioningConfiguration =
VersioningConfiguration.builder()
           .mfaDelete(MFADelete.DISABLED)
           .status(BucketVersioningStatus.ENABLED)
           .build();
```

```
        PutBucketVersioningRequest versioningRequest =
PutBucketVersioningRequest.builder()
            .bucket(bucketName)
            .versioningConfiguration(versioningConfiguration)
            .build();

        getClient().putBucketVersioning(versioningRequest);
        DefaultRetention rention = DefaultRetention.builder()
            .days(1)
            .mode(ObjectLockRetentionMode.GOVERNANCE)
            .build();

        ObjectLockRule lockRule = ObjectLockRule.builder()
            .defaultRetention(rention)
            .build();

        ObjectLockConfiguration objectLockConfiguration =
ObjectLockConfiguration.builder()
            .objectLockEnabled(ObjectLockEnabled.ENABLED)
            .rule(lockRule)
            .build();

        PutObjectLockConfigurationRequest putObjectLockConfigurationRequest =
PutObjectLockConfigurationRequest.builder()
            .bucket(bucketName)
            .objectLockConfiguration(objectLockConfiguration)
            .build();

        getClient().putObjectLockConfiguration(putObjectLockConfigurationRequest) ;
        System.out.println("Added a default retention to bucket "+bucketName +".");
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「PutObjectLockConfiguration」を参照してください。

PutObjectRetention

次のコード例は、PutObjectRetention を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   // Set or modify a retention period on an object in an S3 bucket.
   public void modifyObjectRetentionPeriod(String bucketName, String objectKey) {
       // Calculate the instant one day from now.
       Instant futureInstant = Instant.now().plus(1, ChronoUnit.DAYS);

       // Convert the Instant to a ZonedDateTime object with a specific time zone.
       ZonedDateTime zonedDateTime = futureInstant.atZone(ZoneId.systemDefault());

       // Define a formatter for human-readable output.
       DateTimeFormatter formatter = DateTimeFormatter.ofPattern("yyyy-MM-dd
HH:mm:ss");

       // Format the ZonedDateTime object to a human-readable date string.
       String humanReadableDate = formatter.format(zonedDateTime);

       // Print the formatted date string.
       System.out.println("Formatted Date: " + humanReadableDate);
       ObjectLockRetention retention = ObjectLockRetention.builder()
           .mode(ObjectLockRetentionMode.GOVERNANCE)
           .retainUntilDate(futureInstant)
           .build();

       PutObjectRetentionRequest retentionRequest =
PutObjectRetentionRequest.builder()
           .bucket(bucketName)
           .key(objectKey)
           .retention(retention)
           .build();

       getClient().putObjectRetention(retentionRequest);
       System.out.println("Set retention for "+objectKey +" in " +bucketName +"
until "+ humanReadableDate +".");
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「PutObjectRetention」を参照してください。

`RestoreObject`

次のコード例は、`RestoreObject` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.RestoreRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GlacierJobParameters;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.RestoreObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.Tier;

/*
 *  For more information about restoring an object, see "Restoring an archived
 object" at
 *  https://docs.aws.amazon.com/AmazonS3/latest/userguide/restoring-objects.html
 *
 *  Before running this Java V2 code example, set up your development environment,
 including your credentials.
 *
 *  For more information, see the following documentation topic:
 *
 *  https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class RestoreObject {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

            Usage:
                <bucketName> <keyName> <expectedBucketOwner>
```

```
            Where:
                bucketName - The Amazon S3 bucket name.\s
                keyName - The key name of an object with a Storage class value of
Glacier.\s
                expectedBucketOwner - The account that owns the bucket (you can
obtain this value from the AWS Management Console).\s
            """;

        if (args.length != 3) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String bucketName = args[0];
        String keyName = args[1];
        String expectedBucketOwner = args[2];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        S3Client s3 = S3Client.builder()
            .region(region)
            .build();

        restoreS3Object(s3, bucketName, keyName, expectedBucketOwner);
        s3.close();
    }

    /**
     * Restores an S3 object from the Glacier storage class.
     *
     * @param s3                   an instance of the {@link S3Client} to be used
for interacting with Amazon S3
     * @param bucketName           the name of the S3 bucket where the object is
stored
     * @param keyName              the key (object name) of the S3 object to be
restored
     * @param expectedBucketOwner  the AWS account ID of the expected bucket owner
     */
    public static void restoreS3Object(S3Client s3, String bucketName, String
keyName, String expectedBucketOwner) {
        try {
            RestoreRequest restoreRequest = RestoreRequest.builder()
                .days(10)

.glacierJobParameters(GlacierJobParameters.builder().tier(Tier.STANDARD).build())
```

```
                .build();

            RestoreObjectRequest objectRequest = RestoreObjectRequest.builder()
                .expectedBucketOwner(expectedBucketOwner)
                .bucket(bucketName)
                .key(keyName)
                .restoreRequest(restoreRequest)
                .build();

            s3.restoreObject(objectRequest);

        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「RestoreObject」を参照してください。

`SelectObjectContent`

次のコード例は、`SelectObjectContent` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

次の例は、JSON オブジェクトを使用したクエリを示しています。完全な例では、CSV オブジェクトの使用も示しています。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.core.async.AsyncRequestBody;
import software.amazon.awssdk.core.async.BlockingInputStreamAsyncRequestBody;
```

```
import software.amazon.awssdk.core.exception.SdkException;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3AsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CSVInput;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CSVOutput;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CompressionType;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ExpressionType;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.FileHeaderInfo;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.InputSerialization;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.JSONInput;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.JSONOutput;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.JSONType;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ObjectIdentifier;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.OutputSerialization;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.Progress;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.PutObjectResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.SelectObjectContentRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.SelectObjectContentResponseHandler;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.Stats;

import java.io.IOException;
import java.net.URL;
import java.util.ArrayList;
import java.util.List;
import java.util.UUID;
import java.util.concurrent.CompletableFuture;

public class SelectObjectContentExample {
    static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(SelectObjectContentExample.class);
    static String BUCKET_NAME = "amzn-s3-demo-bucket"; // Replace with your bucket
 name.
    static final S3AsyncClient s3AsyncClient = S3AsyncClient.create();
    static String FILE_CSV = "csv";
    static String FILE_JSON = "json";
    static String URL_CSV = "https://raw.githubusercontent.com/mledoze/countries/
master/dist/countries.csv";
    static String URL_JSON = "https://raw.githubusercontent.com/mledoze/countries/
master/dist/countries.json";

    public static void main(String[] args) {
        SelectObjectContentExample selectObjectContentExample = new
 SelectObjectContentExample();
        try {
            SelectObjectContentExample.setUp();
```

```
            selectObjectContentExample.runSelectObjectContentMethodForJSON();
            selectObjectContentExample.runSelectObjectContentMethodForCSV();
        } catch (SdkException e) {
            logger.error(e.getMessage(), e);
            System.exit(1);
        } finally {
            SelectObjectContentExample.tearDown();
        }
    }

    EventStreamInfo runSelectObjectContentMethodForJSON() {
        // Set up request parameters.
        final String queryExpression = "select * from s3object[*][*] c where c.area
< 350000";
        final String fileType = FILE_JSON;

        InputSerialization inputSerialization = InputSerialization.builder()
                .json(JSONInput.builder().type(JSONType.DOCUMENT).build())
                .compressionType(CompressionType.NONE)
                .build();

        OutputSerialization outputSerialization = OutputSerialization.builder()
                .json(JSONOutput.builder().recordDelimiter(null).build())
                .build();

        // Build the SelectObjectContentRequest.
        SelectObjectContentRequest select = SelectObjectContentRequest.builder()
                .bucket(BUCKET_NAME)
                .key(FILE_JSON)
                .expression(queryExpression)
                .expressionType(ExpressionType.SQL)
                .inputSerialization(inputSerialization)
                .outputSerialization(outputSerialization)
                .build();

        EventStreamInfo eventStreamInfo = new EventStreamInfo();
        // Call the selectObjectContent method with the request and a response
handler.
        // Supply an EventStreamInfo object to the response handler to gather
records and information from the response.
        s3AsyncClient.selectObjectContent(select,
buildResponseHandler(eventStreamInfo)).join();

        // Log out information gathered while processing the response stream.
```

```
        long recordCount = eventStreamInfo.getRecords().stream().mapToInt(record ->
                record.split("\n").length
        ).sum();
        logger.info("Total records {}: {}", fileType, recordCount);
        logger.info("Visitor onRecords for fileType {} called {} times", fileType,
 eventStreamInfo.getCountOnRecordsCalled());
        logger.info("Visitor onStats for fileType {}, {}", fileType,
 eventStreamInfo.getStats());
        logger.info("Visitor onContinuations for fileType {}, {}", fileType,
 eventStreamInfo.getCountContinuationEvents());
        return eventStreamInfo;
    }

    static SelectObjectContentResponseHandler buildResponseHandler(EventStreamInfo
 eventStreamInfo) {
        // Use a Visitor to process the response stream. This visitor logs
 information and gathers details while processing.
        final SelectObjectContentResponseHandler.Visitor visitor =
 SelectObjectContentResponseHandler.Visitor.builder()
                .onRecords(r -> {
                    logger.info("Record event received.");
                    eventStreamInfo.addRecord(r.payload().asUtf8String());
                    eventStreamInfo.incrementOnRecordsCalled();
                })
                .onCont(ce -> {
                    logger.info("Continuation event received.");
                    eventStreamInfo.incrementContinuationEvents();
                })
                .onProgress(pe -> {
                    Progress progress = pe.details();
                    logger.info("Progress event received:\n bytesScanned:
{}\nbytesProcessed: {}\nbytesReturned:{}",
                            progress.bytesScanned(),
                            progress.bytesProcessed(),
                            progress.bytesReturned());
                })
                .onEnd(ee -> logger.info("End event received."))
                .onStats(se -> {
                    logger.info("Stats event received.");
                    eventStreamInfo.addStats(se.details());
                })
                .build();
```

```
        // Build the SelectObjectContentResponseHandler with the visitor that
processes the stream.
        return SelectObjectContentResponseHandler.builder()
                .subscriber(visitor).build();
    }

    // The EventStreamInfo class is used to store information gathered while
processing the response stream.
    static class EventStreamInfo {
        private final List<String> records = new ArrayList<>();
        private Integer countOnRecordsCalled = 0;
        private Integer countContinuationEvents = 0;
        private Stats stats;

        void incrementOnRecordsCalled() {
            countOnRecordsCalled++;
        }

        void incrementContinuationEvents() {
            countContinuationEvents++;
        }

        void addRecord(String record) {
            records.add(record);
        }

        void addStats(Stats stats) {
            this.stats = stats;
        }

        public List<String> getRecords() {
            return records;
        }

        public Integer getCountOnRecordsCalled() {
            return countOnRecordsCalled;
        }

        public Integer getCountContinuationEvents() {
            return countContinuationEvents;
        }

        public Stats getStats() {
            return stats;
```

```
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「SelectObjectContent」を参照してください。

`UploadPartCopy`

次のコード例は、UploadPartCopy を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public CompletableFuture<String> performMultiCopy(String toBucket, String
bucketName, String key) {
       CreateMultipartUploadRequest createMultipartUploadRequest =
CreateMultipartUploadRequest.builder()
           .bucket(toBucket)
           .key(key)
           .build();

       getAsyncClient().createMultipartUpload(createMultipartUploadRequest)
           .thenApply(createMultipartUploadResponse -> {
               String uploadId = createMultipartUploadResponse.uploadId();
               System.out.println("Upload ID: " + uploadId);

               UploadPartCopyRequest uploadPartCopyRequest =
UploadPartCopyRequest.builder()
                   .sourceBucket(bucketName)
                   .destinationBucket(toBucket)
                   .sourceKey(key)
                   .destinationKey(key)
                   .uploadId(uploadId)  // Use the valid uploadId.
                   .partNumber(1)  // Ensure the part number is correct.
                   .copySourceRange("bytes=0-1023")  // Adjust range as needed
```

```
                    .build();

                return getAsyncClient().uploadPartCopy(uploadPartCopyRequest);
            })
            .thenCompose(uploadPartCopyFuture -> uploadPartCopyFuture)
            .whenComplete((uploadPartCopyResponse, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    // Handle any exceptions.
                    logger.error("Error during upload part copy: " +
exception.getMessage());
                } else {
                    // Successfully completed the upload part copy.
                    System.out.println("Upload Part Copy completed successfully.
ETag: " + uploadPartCopyResponse.copyPartResult().eTag());
                }
            });
        return null;
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「UploadPartCopy」を参照してください。

シナリオ

バケットが存在するかどうかを確認する

次のコード例は、バケットが存在するかどうかを確認する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

SDK for Java V1 AmazonS3Client#doesBucketExistV2 (文字列) メソッドの代わりに、次の `doesBucketExists` メソッドを使用できます。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.awscore.exception.AwsServiceException;
import software.amazon.awssdk.http.HttpStatusCode;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.utils.Validate;

public class DoesBucketExist {
    private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(DoesBucketExist.class);

    public static void main(String[] args) {
        DoesBucketExist doesBucketExist = new DoesBucketExist();

        final S3Client s3SyncClient = S3Client.builder().build();
        final String bucketName = "amzn-s3-demo-bucket"; // Replace with the bucket
 name that you want to check.

        boolean exists = doesBucketExist.doesBucketExist(bucketName, s3SyncClient);
        logger.info("Bucket exists: {}", exists);
    }

    /**
     * Checks if the specified bucket exists. Amazon S3 buckets are named in a
 global namespace; use this method to
     * determine if a specified bucket name already exists, and therefore can't be
 used to create a new bucket.
     * <p>
     * Internally this method uses the <a
     * href="https://sdk.amazonaws.com/java/api/latest/software/amazon/awssdk/
services/s3/
S3Client.html#getBucketAcl(java.util.function.Consumer)">S3Client.getBucketAcl(String)</
a>
     * operation to determine whether the bucket exists.
     * <p>
     * This method is equivalent to the AWS SDK for Java V1's <a
     * href="https://docs.aws.amazon.com/AWSJavaSDK/latest/javadoc/
com/amazonaws/services/s3/AmazonS3Client.html#doesBucketExistV2-
java.lang.String-">AmazonS3Client#doesBucketExistV2(String)</a>.
     *
     * @param bucketName   The name of the bucket to check.
     * @param s3SyncClient An <code>S3Client</code> instance. The method checks for
 the bucket in the AWS Region
     *                     configured on the instance.
```

```
     * @return The value true if the specified bucket exists in Amazon S3; the value
 false if there is no bucket in
     *         Amazon S3 with that name.
     */
    public boolean doesBucketExist(String bucketName, S3Client s3SyncClient) {
        try {
            Validate.notEmpty(bucketName, "The bucket name must not be null or an
 empty string.", "");
            s3SyncClient.getBucketAcl(r -> r.bucket(bucketName));
            return true;
        } catch (AwsServiceException ase) {
            // A redirect error or an AccessDenied exception means the bucket exists
 but it's not in this region
            // or we don't have permissions to it.
            if ((ase.statusCode() == HttpStatusCode.MOVED_PERMANENTLY) ||
 "AccessDenied".equals(ase.awsErrorDetails().errorCode())) {
                return true;
            }
            if (ase.statusCode() == HttpStatusCode.NOT_FOUND) {
                return false;
            }
            throw ase;
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「GetBucketAcl」を参照してください。

オブジェクトが存在するかどうかを確認します。

次のコード例は、オブジェクトが存在するかどうかを確認する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

SDK for Java V1 AmazonS3Client#doesObjectExist(文字列、文字列) メソッドの代わりに、次の doesObjectExist メソッドを使用できます。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.HeadObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.NoSuchKeyException;
import software.amazon.awssdk.utils.Validate;

public class DoesObjectExist {
    private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(DoesObjectExist.class);

    public static void main(String[] args) {
        DoesObjectExist doesObjectExist = new DoesObjectExist();

        final S3Client s3SyncClient = S3Client.builder().build();
        final String bucketName = "amzn-s3-demo-bucket"; // Replace with your bucket
 name.
        final String key = "my-key"; // Replace with your object key.

        boolean exists = doesObjectExist.doesObjectExist(bucketName, key,
 s3SyncClient);
        logger.info("Object exists: {}", exists);
    }

    /**
     * Checks if the specified object exists in the specified bucket.
     * <p>
     * Internally this method uses the
     * <a href="https://sdk.amazonaws.com/java/api/latest/software/amazon/awssdk/
services/s3/
S3Client.html#headObject(java.util.function.Consumer)">S3Client.headObject</a>
     * operation to determine whether the object exists.
     * <p>
     * This method is equivalent to the AWS SDK for Java V1's
     * <a href="https://docs.aws.amazon.com/AWSJavaSDK/latest/javadoc/com/
amazonaws/services/s3/AmazonS3Client.html#doesObjectExist-java.lang.String-
java.lang.String-">AmazonS3Client#doesObjectExist(String, String)</a>.
     * <p>
```

```
    * <b>Note:</b> This method returns {@code false} only when S3 responds with 404
(NoSuchKey). If the caller
    * does not have {@code s3:ListBucket} permission on the bucket, S3 may return
403 instead of 404 for
    * non-existent objects, which will be thrown as an exception.
    *
    * @param bucketName   The name of the bucket containing the object.
    * @param key          The key of the object to check.
    * @param s3SyncClient An {@code S3Client} instance.
    * @return {@code true} if the object exists; {@code false} if it does not
exist.
    */
   public boolean doesObjectExist(String bucketName, String key, S3Client
s3SyncClient) {
       try {
           Validate.notEmpty(bucketName, "The bucket name must not be null or an
empty string.", "");
           Validate.notEmpty(key, "The object key must not be null or an empty
string.", "");
           s3SyncClient.headObject(HeadObjectRequest.builder()
                   .bucket(bucketName)
                   .key(key)
                   .build());
           return true;
       } catch (NoSuchKeyException e) {
           return false;
       }
   }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「HeadObject」を参照してください。

署名付き URL を作成する

次のコード例は、Amazon S3 の署名付き URL を作成し、オブジェクトをアップロードする方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

以下は、署名付き URL を作成し、HTTP クライアントライブラリで URL を使用する 3 つの例を示しています。

- 3 つの HTTP クライアントライブラリで URL を使用する HTTP GET リクエスト
- 3 つの HTTP クライアントライブラリで URL を使用する、メタデータ付きヘッダーを持つ HTTP PUT リクエスト
- 1 つの HTTP クライアントライブラリで URL を使用する、クエリパラメータを含む HTTP PUT リクエスト

オブジェクトの署名付き URL を生成して、オブジェクトをダウンロードします (GET リクエスト)。

インポート。

```
import com.example.s3.util.PresignUrlUtils;
import org.slf4j.Logger;
import software.amazon.awssdk.http.HttpExecuteRequest;
import software.amazon.awssdk.http.HttpExecuteResponse;
import software.amazon.awssdk.http.SdkHttpClient;
import software.amazon.awssdk.http.SdkHttpMethod;
import software.amazon.awssdk.http.SdkHttpRequest;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;
import software.amazon.awssdk.services.s3.presigner.S3Presigner;
import software.amazon.awssdk.services.s3.presigner.model.GetObjectPresignRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.presigner.model.PresignedGetObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.utils.IoUtils;

import java.io.ByteArrayOutputStream;
import java.io.File;
import java.io.IOException;
import java.io.InputStream;
```

```
import java.net.HttpURLConnection;
import java.net.URISyntaxException;
import java.net.URL;
import java.net.http.HttpClient;
import java.net.http.HttpRequest;
import java.net.http.HttpResponse;
import java.nio.file.Paths;
import java.time.Duration;
import java.util.UUID;
```

URL を生成する。

```
    /* Create a pre-signed URL to download an object in a subsequent GET request. */
    public String createPresignedGetUrl(String bucketName, String keyName) {
        try (S3Presigner presigner = S3Presigner.create()) {

            GetObjectRequest objectRequest = GetObjectRequest.builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .key(keyName)
                    .build();

            GetObjectPresignRequest presignRequest =
 GetObjectPresignRequest.builder()
                    .signatureDuration(Duration.ofMinutes(10))  // The URL will
 expire in 10 minutes.
                    .getObjectRequest(objectRequest)
                    .build();

            PresignedGetObjectRequest presignedRequest =
 presigner.presignGetObject(presignRequest);
            logger.info("Presigned URL: [{}]", presignedRequest.url().toString());
            logger.info("HTTP method: [{}]",
 presignedRequest.httpRequest().method());

            return presignedRequest.url().toExternalForm();
        }
    }
```

次の 3 つの方法のいずれかを使用して、オブジェクトをダウンロードします。

JDK HttpURLConnection (v1.1 以降) クラスを使用してダウンロードを行います。

```
   /* Use the JDK HttpURLConnection (since v1.1) class to do the download. */
   public byte[] useHttpUrlConnectionToGet(String presignedUrlString) {
       ByteArrayOutputStream byteArrayOutputStream = new
ByteArrayOutputStream(); // Capture the response body to a byte array.

       try {
           URL presignedUrl = new URL(presignedUrlString);
           HttpURLConnection connection = (HttpURLConnection)
presignedUrl.openConnection();
           connection.setRequestMethod("GET");
           // Download the result of executing the request.
           try (InputStream content = connection.getInputStream()) {
               IoUtils.copy(content, byteArrayOutputStream);
           }
           logger.info("HTTP response code is " + connection.getResponseCode());

       } catch (S3Exception | IOException e) {
           logger.error(e.getMessage(), e);
       }
       return byteArrayOutputStream.toByteArray();
   }
```

JDK `HttpClient` (v11 以降) クラスを使用してダウンロードを行います。

```
   /* Use the JDK HttpClient (since v11) class to do the download. */
   public byte[] useHttpClientToGet(String presignedUrlString) {
       ByteArrayOutputStream byteArrayOutputStream = new
ByteArrayOutputStream(); // Capture the response body to a byte array.

       HttpRequest.Builder requestBuilder = HttpRequest.newBuilder();
       HttpClient httpClient = HttpClient.newHttpClient();
       try {
           URL presignedUrl = new URL(presignedUrlString);
           HttpResponse<InputStream> response = httpClient.send(requestBuilder
                           .uri(presignedUrl.toURI())
                           .GET()
                           .build(),
                   HttpResponse.BodyHandlers.ofInputStream());

           IoUtils.copy(response.body(), byteArrayOutputStream);

           logger.info("HTTP response code is " + response.statusCode());
```

```
        } catch (URISyntaxException | InterruptedException | IOException e) {
            logger.error(e.getMessage(), e);
        }
        return byteArrayOutputStream.toByteArray();
    }
```

AWS SDK for Java SdkHttpClient クラスを使用してダウンロードを行います。

```
    /* Use the AWS SDK for Java SdkHttpClient class to do the download. */
    public byte[] useSdkHttpClientToGet(String presignedUrlString) {

        ByteArrayOutputStream byteArrayOutputStream = new
ByteArrayOutputStream(); // Capture the response body to a byte array.
        try {
            URL presignedUrl = new URL(presignedUrlString);
            SdkHttpRequest request = SdkHttpRequest.builder()
                    .method(SdkHttpMethod.GET)
                    .uri(presignedUrl.toURI())
                    .build();

            HttpExecuteRequest executeRequest = HttpExecuteRequest.builder()
                    .request(request)
                    .build();

            try (SdkHttpClient sdkHttpClient = ApacheHttpClient.create()) {
                HttpExecuteResponse response =
sdkHttpClient.prepareRequest(executeRequest).call();
                response.responseBody().ifPresentOrElse(
                        abortableInputStream -> {
                            try {
                                IoUtils.copy(abortableInputStream,
byteArrayOutputStream);
                            } catch (IOException e) {
                                throw new RuntimeException(e);
                            }
                        },
                        () -> logger.error("No response body."));

                logger.info("HTTP Response code is {}",
response.httpResponse().statusCode());
            }
```

```
        } catch (URISyntaxException | IOException e) {
            logger.error(e.getMessage(), e);
        }
        return byteArrayOutputStream.toByteArray();
    }
```

アップロード用に、ヘッダーにメタデータを含む署名付き URL を生成して、ファイルをアップロードします (PUT リクエスト)。

インポート。

```
import com.example.s3.util.PresignUrlUtils;
import org.slf4j.Logger;
import software.amazon.awssdk.core.internal.sync.FileContentStreamProvider;
import software.amazon.awssdk.http.HttpExecuteRequest;
import software.amazon.awssdk.http.HttpExecuteResponse;
import software.amazon.awssdk.http.SdkHttpClient;
import software.amazon.awssdk.http.SdkHttpMethod;
import software.amazon.awssdk.http.SdkHttpRequest;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.PutObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;
import software.amazon.awssdk.services.s3.presigner.S3Presigner;
import software.amazon.awssdk.services.s3.presigner.model.PresignedPutObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.presigner.model.PutObjectPresignRequest;

import java.io.File;
import java.io.IOException;
import java.io.OutputStream;
import java.io.RandomAccessFile;
import java.net.HttpURLConnection;
import java.net.URISyntaxException;
import java.net.URL;
import java.net.http.HttpClient;
import java.net.http.HttpRequest;
import java.net.http.HttpResponse;
import java.nio.ByteBuffer;
import java.nio.channels.FileChannel;
import java.nio.file.Path;
import java.nio.file.Paths;
import java.time.Duration;
```

```
import java.util.Map;
import java.util.UUID;
```

URL を生成する。

```
   /* Create a presigned URL to use in a subsequent PUT request */
   public String createPresignedUrl(String bucketName, String keyName, Map<String,
 String> metadata) {
       try (S3Presigner presigner = S3Presigner.create()) {

           PutObjectRequest objectRequest = PutObjectRequest.builder()
                   .bucket(bucketName)
                   .key(keyName)
                   .metadata(metadata)
                   .build();

           PutObjectPresignRequest presignRequest =
 PutObjectPresignRequest.builder()
                   .signatureDuration(Duration.ofMinutes(10))  // The URL expires
 in 10 minutes.
                   .putObjectRequest(objectRequest)
                   .build();


           PresignedPutObjectRequest presignedRequest =
 presigner.presignPutObject(presignRequest);
           String myURL = presignedRequest.url().toString();
           logger.info("Presigned URL to upload a file to: [{}]", myURL);
           logger.info("HTTP method: [{}]",
 presignedRequest.httpRequest().method());

           return presignedRequest.url().toExternalForm();
       }
   }
```

次の 3 つの方法のいずれかを使用して、オブジェクトをアップロードします。

JDK HttpURLConnection (v1.1 以降) クラスを使用してアップロードを行います。

```
   /* Use the JDK HttpURLConnection (since v1.1) class to do the upload. */
```

```
   public void useHttpUrlConnectionToPut(String presignedUrlString, File fileToPut,
Map<String, String> metadata) {
       logger.info("Begin [{}] upload", fileToPut.toString());
       try {
           URL presignedUrl = new URL(presignedUrlString);
           HttpURLConnection connection = (HttpURLConnection)
presignedUrl.openConnection();
           connection.setDoOutput(true);
           metadata.forEach((k, v) -> connection.setRequestProperty("x-amz-meta-" +
k, v));
           connection.setRequestMethod("PUT");
           OutputStream out = connection.getOutputStream();

           try (RandomAccessFile file = new RandomAccessFile(fileToPut, "r");
                FileChannel inChannel = file.getChannel()) {
               ByteBuffer buffer = ByteBuffer.allocate(8192); //Buffer size is 8k

               while (inChannel.read(buffer) > 0) {
                   buffer.flip();
                   for (int i = 0; i < buffer.limit(); i++) {
                       out.write(buffer.get());
                   }
                   buffer.clear();
               }
           } catch (IOException e) {
               logger.error(e.getMessage(), e);
           }

           out.close();
           connection.getResponseCode();
           logger.info("HTTP response code is " + connection.getResponseCode());

       } catch (S3Exception | IOException e) {
           logger.error(e.getMessage(), e);
       }
   }
```

JDK `HttpClient` (v11 以降) クラスを使用してアップロードを行います。

```
   /* Use the JDK HttpClient (since v11) class to do the upload. */
   public void useHttpClientToPut(String presignedUrlString, File fileToPut,
Map<String, String> metadata) {
```

```
        logger.info("Begin [{}] upload", fileToPut.toString());

        HttpRequest.Builder requestBuilder = HttpRequest.newBuilder();
        metadata.forEach((k, v) -> requestBuilder.header("x-amz-meta-" + k, v));

        HttpClient httpClient = HttpClient.newHttpClient();
        try {
            final HttpResponse<Void> response = httpClient.send(requestBuilder
                            .uri(new URL(presignedUrlString).toURI())

.PUT(HttpRequest.BodyPublishers.ofFile(Path.of(fileToPut.toURI())))
                            .build(),
                    HttpResponse.BodyHandlers.discarding());

            logger.info("HTTP response code is " + response.statusCode());

        } catch (URISyntaxException | InterruptedException | IOException e) {
            logger.error(e.getMessage(), e);
        }
    }
```

AWS for Java V2 SdkHttpClient クラスを使用してアップロードを行います。

```
    /* Use the AWS SDK for Java V2 SdkHttpClient class to do the upload. */
    public void useSdkHttpClientToPut(String presignedUrlString, File fileToPut,
Map<String, String> metadata) {
        logger.info("Begin [{}] upload", fileToPut.toString());

        try {
            URL presignedUrl = new URL(presignedUrlString);

            SdkHttpRequest.Builder requestBuilder = SdkHttpRequest.builder()
                    .method(SdkHttpMethod.PUT)
                    .uri(presignedUrl.toURI());
            // Add headers
            metadata.forEach((k, v) -> requestBuilder.putHeader("x-amz-meta-" + k,
v));
            // Finish building the request.
            SdkHttpRequest request = requestBuilder.build();

            HttpExecuteRequest executeRequest = HttpExecuteRequest.builder()
                    .request(request)
```

```
                    .contentStreamProvider(new
 FileContentStreamProvider(fileToPut.toPath()))
                    .build();

            try (SdkHttpClient sdkHttpClient = ApacheHttpClient.create()) {
                HttpExecuteResponse response =
 sdkHttpClient.prepareRequest(executeRequest).call();
                logger.info("Response code: {}",
 response.httpResponse().statusCode());
            }
        } catch (URISyntaxException | IOException e) {
            logger.error(e.getMessage(), e);
        }
    }
```

アップロード用に、クエリパラメータを含む署名付き URL を生成して、ファイルをアップロードします (PUT リクエスト)。

インポート。

```
import com.example.s3.util.PresignUrlUtils;
import org.slf4j.Logger;
import software.amazon.awssdk.awscore.AwsRequestOverrideConfiguration;
import software.amazon.awssdk.core.internal.sync.FileContentStreamProvider;
import software.amazon.awssdk.http.HttpExecuteRequest;
import software.amazon.awssdk.http.HttpExecuteResponse;
import software.amazon.awssdk.http.SdkHttpClient;
import software.amazon.awssdk.http.SdkHttpMethod;
import software.amazon.awssdk.http.SdkHttpRequest;
import software.amazon.awssdk.http.apache.ApacheHttpClient;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.PutObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.presigner.S3Presigner;
import software.amazon.awssdk.services.s3.presigner.model.PresignedPutObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.presigner.model.PutObjectPresignRequest;

import java.io.File;
import java.io.IOException;
import java.net.URISyntaxException;
import java.net.URL;
import java.nio.file.Paths;
import java.time.Duration;
```

```
import java.util.Map;
import java.util.UUID;
```

URL を生成する。

```
   /**
    *  Creates a presigned URL to use in a subsequent HTTP PUT request. The code
adds query parameters
    *  to the request instead of using headers. By using query parameters, you do
not need to add the
    *  the parameters as headers when the PUT request is eventually sent.
    *
    * @param bucketName Bucket name where the object will be uploaded.
    * @param keyName Key name of the object that will be uploaded.
    * @param queryParams Query string parameters to be added to the presigned URL.
    * @return
    */
   public String createPresignedUrl(String bucketName, String keyName, Map<String,
String> queryParams) {
       try (S3Presigner presigner = S3Presigner.create()) {
           // Create an override configuration to store the query parameters.
           AwsRequestOverrideConfiguration.Builder overrideConfigurationBuilder =
AwsRequestOverrideConfiguration.builder();

           queryParams.forEach(overrideConfigurationBuilder::putRawQueryParameter);

           PutObjectRequest objectRequest = PutObjectRequest.builder()
                   .bucket(bucketName)
                   .key(keyName)
                   .overrideConfiguration(overrideConfigurationBuilder.build()) //
Add the override configuration.
                   .build();

           PutObjectPresignRequest presignRequest =
PutObjectPresignRequest.builder()
                   .signatureDuration(Duration.ofMinutes(10))  // The URL expires
in 10 minutes.
                   .putObjectRequest(objectRequest)
                   .build();
```

```
            PresignedPutObjectRequest presignedRequest =
presigner.presignPutObject(presignRequest);
            String myURL = presignedRequest.url().toString();
            logger.info("Presigned URL to upload a file to: [{}]", myURL);
            logger.info("HTTP method: [{}]",
presignedRequest.httpRequest().method());

            return presignedRequest.url().toExternalForm();
        }
    }
```

AWS for Java V2 SdkHttpClient クラスを使用してアップロードを行います。

```
    /**
     * Use the AWS SDK for Java V2 SdkHttpClient class to execute the PUT request.
Since the
     * URL contains the query parameters, no headers are needed for metadata, SSE
settings, or ACL settings.
     *
     * @param presignedUrlString The URL for the PUT request.
     * @param fileToPut File to uplaod
     */
    public void useSdkHttpClientToPut(String presignedUrlString, File fileToPut) {
        logger.info("Begin [{}] upload", fileToPut.toString());

        try {
            URL presignedUrl = new URL(presignedUrlString);

            SdkHttpRequest.Builder requestBuilder = SdkHttpRequest.builder()
                    .method(SdkHttpMethod.PUT)
                    .uri(presignedUrl.toURI());

            SdkHttpRequest request = requestBuilder.build();

            HttpExecuteRequest executeRequest = HttpExecuteRequest.builder()
                    .request(request)
                    .contentStreamProvider(new
FileContentStreamProvider(fileToPut.toPath()))
                    .build();

            try (SdkHttpClient sdkHttpClient = ApacheHttpClient.create()) {
```

```
                HttpExecuteResponse response =
sdkHttpClient.prepareRequest(executeRequest).call();
                logger.info("Response code: {}",
response.httpResponse().statusCode());
            }
        } catch (URISyntaxException | IOException e) {
            logger.error(e.getMessage(), e);
        }
    }
```

サーバーレスアプリケーションを作成して写真を管理する

次のコード例では、ユーザーがラベルを使用して写真を管理できるサーバーレスアプリケーションを作成する方法について示しています。

SDK for Java 2.x

Amazon Rekognition を使用して画像内のラベルを検出し、保存して後で取得できるようにする写真アセット管理アプリケーションの開発方法を示します。

完全なソースコードと設定および実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例のソースについて詳しくは、AWS コミュニティでブログ投稿を参照してください。

この例で使用されているサービス

- API ゲートウェイ
- DynamoDB
- Lambda
- Amazon Rekognition
- Amazon S3
- Amazon SNS

不完全なマルチパートアップロードを特定する

次のコード例は、不完全な Amazon S3 マルチパートアップロードを削除または停止する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

何らかの理由で進行中または不完全なマルチパートアップロードを停止するには、次の例に示すように、リストアップロードを取得してから削除します。

```
    /**
     * Aborts all incomplete multipart uploads from the specified S3 bucket.
     *
     * @param bucketName the name of the S3 bucket
     */
    public static void abortIncompleteMultipartUploadsFromList(String bucketName) {
        ListMultipartUploadsRequest listMultipartUploadsRequest =
ListMultipartUploadsRequest.builder()
            .bucket(bucketName)
            .build();

        ListMultipartUploadsResponse response =
s3Client.listMultipartUploads(listMultipartUploadsRequest);
        List<MultipartUpload> uploads = response.uploads();

        AbortMultipartUploadRequest abortMultipartUploadRequest;
        for (MultipartUpload upload : uploads) {
            abortMultipartUploadRequest = AbortMultipartUploadRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .key(upload.key())
                .expectedBucketOwner(accountId)
                .uploadId(upload.uploadId())
                .build();

            AbortMultipartUploadResponse abortMultipartUploadResponse =
s3Client.abortMultipartUpload(abortMultipartUploadRequest);
            if (abortMultipartUploadResponse.sdkHttpResponse().isSuccessful()) {
                logger.info("Upload ID [{}] to bucket [{}] successfully aborted.",
upload.uploadId(), bucketName);
            }
        }
```

```
    }
```

日付の前後に開始された不完全なマルチパートアップロードを削除するには、次の例に示すように、特定の時点に基づいてマルチパートアップロードを選択的に削除します。

```
    /**
     * Aborts incomplete multipart uploads older than the specified point in time.
     *
     * @param bucketName  the name of the S3 bucket
     * @param pointInTime the cutoff time; uploads initiated before this are aborted
     */
    static void abortIncompleteMultipartUploadsOlderThan(String bucketName, Instant
pointInTime) {
        ListMultipartUploadsRequest listMultipartUploadsRequest =
ListMultipartUploadsRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .build();

        ListMultipartUploadsResponse response =
s3Client.listMultipartUploads(listMultipartUploadsRequest);
        List<MultipartUpload> uploads = response.uploads();

        AbortMultipartUploadRequest abortMultipartUploadRequest;
        for (MultipartUpload upload : uploads) {
            logger.info("Found multipartUpload with upload ID [{}], initiated [{}]",
upload.uploadId(), upload.initiated());
            if (upload.initiated().isBefore(pointInTime)) {
                abortMultipartUploadRequest = AbortMultipartUploadRequest.builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .key(upload.key())
                    .expectedBucketOwner(accountId)
                    .uploadId(upload.uploadId())
                    .build();

                AbortMultipartUploadResponse abortMultipartUploadResponse =
s3Client.abortMultipartUpload(abortMultipartUploadRequest);
                if (abortMultipartUploadResponse.sdkHttpResponse().isSuccessful()) {
                    logger.info("Upload ID [{}] to bucket [{}] successfully
aborted.", upload.uploadId(), bucketName);
                }
            }
        }
```

```
    }
```

マルチパートアップロードの開始後にアップロード ID にアクセスできる場合は、その ID を使用して進行中のアップロードを削除できます。

```
   /**
    * Aborts a multipart upload using the upload ID.
    *
    * @param bucketName the name of the S3 bucket
    * @param key        the object key
    */
   static void abortMultipartUploadUsingUploadId(String bucketName, String key) {
       String uploadId = startUploadReturningUploadId(bucketName, key);
       AbortMultipartUploadResponse response = s3Client.abortMultipartUpload(b -> b
           .uploadId(uploadId)
           .bucket(bucketName)
           .key(key));

       if (response.sdkHttpResponse().isSuccessful()) {
           logger.info("Upload ID [{}] to bucket [{}] successfully aborted.",
uploadId, bucketName);
       }
   }
```

特定の日数だけ古い不完全なマルチパートアップロードを一貫して削除するには、バケットのバケットライフサイクル設定を設定します。次の例は、7 日以上経過した不完全なアップロードを削除するルールを作成する方法を示しています。

```
   /**
    * Configures a lifecycle rule to abort incomplete multipart uploads after 7
days.
    *
    * @param bucketName the name of the S3 bucket
    */
   static void abortMultipartUploadsUsingLifecycleConfig(String bucketName) {
       Collection<LifecycleRule> lifeCycleRules = List.of(LifecycleRule.builder()
           .abortIncompleteMultipartUpload(b -> b.
               daysAfterInitiation(7))
           .status("Enabled")
           .filter(SdkBuilder::build) // Filter element is required.
```

```
            .build());

        PutBucketLifecycleConfigurationResponse response =
s3Client.putBucketLifecycleConfiguration(b -> b
            .bucket(bucketName)
            .lifecycleConfiguration(b1 -> b1.rules(lifeCycleRules)));

        if (response.sdkHttpResponse().isSuccessful()) {
            logger.info("Rule to abort incomplete multipart uploads added to
bucket.");
        } else {
            logger.error("Unsuccessfully applied rule. HTTP status code is [{}]",
response.sdkHttpResponse().statusCode());
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - AbortMultipartUpload
  - ListMultipartUploads
  - PutBucketLifecycleConfiguration

画像内の PPE を検出する

次のコード例は、Amazon Rekognition を使用して画像内の個人用防護具 (PPE) を検出するアプリケーションを構築する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

個人用保護具を使用してイメージを検出する AWS Lambda 関数を作成する方法を示します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- DynamoDB
- Amazon Rekognition
- Amazon S3
- Amazon SES

画像内のオブジェクトを検出する

次のコード例は、Amazon Rekognition を使用して画像内でカテゴリ別にオブジェクトを検出するアプリケーションを構築する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

Amazon Rekognition Java API を使用して、Amazon Rekognition を使用し、 Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) バケットにあるイメージ内でカテゴリ別にオブジェクトを識別するアプリケーションを作成する方法について説明します。アプリケーションは Amazon Simple Email Service (Amazon SES) を使用して、結果を含む E メール通知を管理者に送信します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- Amazon Rekognition
- Amazon S3
- Amazon SES

動画内の人物や物体を検出する

次のコード例は、Amazon Rekognition で動画内の人やオブジェクトを検出する方法を示します。

SDK for Java 2.x

Amazon Rekognition Java API を使用し、Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) バケットにあるビデオ内で顔やオブジェクトを検出するアプリケーションを作成する方法について説明します。アプリケーションは Amazon Simple Email Service (Amazon SES) を使用して、結果を含む E メール通知を管理者に送信します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- Amazon Rekognition
- Amazon S3
- Amazon SES
- Amazon SNS

- Amazon SQS

S3 の「ディレクトリ」をダウンロードする

次のコード例は、Amazon S3 バケットの「ディレクトリ」の内容をダウンロードしてフィルタリングする方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

この例では、 で S3TransferManager AWS SDK for Java 2.x を使用して Amazon S3 バケットから「ディレクトリ」をダウンロードする方法を示します。また、リクエストで DownloadFilters を使用する方法も示します。

```
    /**
     * For standard buckets, S3 provides the illusion of a directory structure
through the use of keys. When you upload
     * an object to an S3 bucket, you specify a key, which is essentially the "path"
to the object. The key can contain
     * forward slashes ("/") to make it appear as if the object is stored in a
directory structure, but this is just a
     * logical representation, not an actual directory.
     * <p><pre>
     * In this example, our S3 bucket contains the following objects:
     *
     * folder1/file1.txt
     * folder1/file2.txt
     * folder1/file3.txt
     * folder2/file1.txt
     * folder2/file2.txt
     * folder2/file3.txt
     * folder3/file1.txt
     * folder3/file2.txt
     * folder3/file3.txt
     *
     * When method `downloadS3Directories` is invoked with
```

```
    * `destinationPathURI` set to `/test`, the downloaded
    * directory looks like:
    *
    * |- test
    *    |- folder1
    *       |- file1.txt
    *       |- file2.txt
    *       |- file3.txt
    *    |- folder3
    *       |- file1.txt
    *       |- file2.txt
    *       |- file3.txt
    * </pre>
    *
    * @param transferManager    An S3TransferManager instance.
    * @param destinationPathURI local directory to hold the downloaded S3
'directories' and files.
    * @param bucketName         The S3 bucket that contains the 'directories' to
download.
    * @return The number of objects (files, in this case) that were downloaded.
    */
   public Integer downloadS3Directories(S3TransferManager transferManager,
                                        URI destinationPathURI, String bucketName)
{

       // Define the filters for which 'directories' we want to download.
       DownloadFilter folder1Filter = (S3Object s3Object) ->
s3Object.key().startsWith("folder1/");
       DownloadFilter folder3Filter = (S3Object s3Object) ->
s3Object.key().startsWith("folder3/");
       DownloadFilter folderFilter = s3Object ->
folder1Filter.or(folder3Filter).test(s3Object);

       DirectoryDownload directoryDownload =
transferManager.downloadDirectory(DownloadDirectoryRequest.builder()
               .destination(Paths.get(destinationPathURI))
               .bucket(bucketName)
               .filter(folderFilter)
               .build());
       CompletedDirectoryDownload completedDirectoryDownload =
directoryDownload.completionFuture().join();

       Integer numFilesInFolder1 =
Paths.get(destinationPathURI).resolve("folder1").toFile().list().length;
```

```
        Integer numFilesInFolder3 =
 Paths.get(destinationPathURI).resolve("folder3").toFile().list().length;

        try {
            assert numFilesInFolder1 == 3;
            assert numFilesInFolder3 == 3;
            assert !
Paths.get(destinationPathURI).resolve("folder2").toFile().exists(); // `folder2` was
 not downloaded.
        } catch (AssertionError e) {
            logger.error("An assertion failed.");
        }

        completedDirectoryDownload.failedTransfers()
                .forEach(fail -> logger.warn("Object failed to transfer  [{}]",
 fail.exception().getMessage()));
        return numFilesInFolder1 + numFilesInFolder3;
    }
```

ローカルディレクトリへのオブジェクトのダウンロード

次のコード例は、Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) バケットからすべてのオブジェクトをローカルディレクトリにダウンロードする方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

S3TransferManager を使用して、同じ S3 バケットにあるすべての S3 オブジェクトをダウンロードします。完全なファイルとテストを表示します。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.core.sync.RequestBody;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ObjectIdentifier;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.S3TransferManager;
```

```
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.CompletedDirectoryDownload;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.DirectoryDownload;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.DownloadDirectoryRequest;
import java.io.IOException;
import java.net.URI;
import java.net.URISyntaxException;
import java.nio.file.Files;
import java.nio.file.Path;
import java.nio.file.Paths;
import java.util.HashSet;
import java.util.Set;
import java.util.UUID;
import java.util.stream.Collectors;

    public Integer downloadObjectsToDirectory(S3TransferManager transferManager,
            URI destinationPathURI, String bucketName) {
        DirectoryDownload directoryDownload =
 transferManager.downloadDirectory(DownloadDirectoryRequest.builder()
                .destination(Paths.get(destinationPathURI))
                .bucket(bucketName)
                .build());
        CompletedDirectoryDownload completedDirectoryDownload =
 directoryDownload.completionFuture().join();

        completedDirectoryDownload.failedTransfers()
                .forEach(fail -> logger.warn("Object [{}] failed to transfer",
 fail.toString()));
        return completedDirectoryDownload.failedTransfers().size();
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DownloadDirectory」を参照してください。

Amazon S3 オブジェクトを ロックする

次のコード例は、S3 オブジェクトロック機能を操作する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

Amazon S3 オブジェクトロック機能を示すインタラクティブなシナリオを実行します。

```
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ObjectLockLegalHold;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ObjectLockRetention;
import java.io.BufferedWriter;
import java.io.IOException;
import java.util.ArrayList;
import java.util.List;
import java.util.Scanner;
import java.util.stream.Collectors;

/*
 Before running this Java V2 code example, set up your development
 environment, including your credentials.

 For more information, see the following documentation topic:
 https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/setup.html

 This Java example performs the following tasks:
    1. Create test Amazon Simple Storage Service (S3) buckets with different lock
 policies.
    2. Upload sample objects to each bucket.
    3. Set some Legal Hold and Retention Periods on objects and buckets.
    4. Investigate lock policies by viewing settings or attempting to delete or
 overwrite objects.
    5. Clean up objects and buckets.
 */
public class S3ObjectLockWorkflow {

    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");
    static String bucketName;
    static S3LockActions s3LockActions;
    private static final List<String> bucketNames = new ArrayList<>();
    private static final List<String> fileNames = new ArrayList<>();
```

```
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """
            Usage:
                <bucketName> \s

            Where:
                bucketName - The Amazon S3 bucket name.
           """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }
        s3LockActions = new S3LockActions();
        bucketName = args[0];
        Scanner scanner = new Scanner(System.in);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("Welcome to the Amazon Simple Storage Service (S3) Object
Locking Feature Scenario.");
        System.out.println("Press Enter to continue...");
        scanner.nextLine();
        configurationSetup();
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        setup();
        System.out.println("Setup is complete. Press Enter to continue...");
        scanner.nextLine();
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("Lets present the user with choices.");
        System.out.println("Press Enter to continue...");
        scanner.nextLine();
        demoActionChoices() ;
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("Would you like to clean up the resources? (y/n)");
        String delAns = scanner.nextLine().trim();
        if (delAns.equalsIgnoreCase("y")) {
            cleanup();
            System.out.println("Clean up is complete.");
```

```
        }

        System.out.println("Press Enter to continue...");
        scanner.nextLine();
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("Amazon S3 Object Locking Workflow is complete.");
        System.out.println(DASHES);
    }

    // Present the user with the demo action choices.
    public static void demoActionChoices() {
        String[] choices = {
            "List all files in buckets.",
            "Attempt to delete a file.",
            "Attempt to delete a file with retention period bypass.",
            "Attempt to overwrite a file.",
            "View the object and bucket retention settings for a file.",
            "View the legal hold settings for a file.",
            "Finish the workflow."
        };

        int choice = 0;
        while (true) {
            System.out.println(DASHES);
            choice = getChoiceResponse("Explore the S3 locking features by selecting
one of the following choices:", choices);
            System.out.println(DASHES);
            System.out.println("You selected "+choices[choice]);
            switch (choice) {
                case 0 -> {
                    s3LockActions.listBucketsAndObjects(bucketNames, true);
                }

                case 1 -> {
                    System.out.println("Enter the number of the object to delete:");
                    List<S3InfoObject> allFiles =
s3LockActions.listBucketsAndObjects(bucketNames, true);
                    List<String> fileKeys = allFiles.stream().map(f ->
f.getKeyName()).collect(Collectors.toList());
                    String[] fileKeysArray = fileKeys.toArray(new String[0]);
                    int fileChoice = getChoiceResponse(null, fileKeysArray);
                    String objectKey = fileKeys.get(fileChoice);
```

```
                    String bucketName = allFiles.get(fileChoice).getBucketName();
                    String version = allFiles.get(fileChoice).getVersion();
                    s3LockActions.deleteObjectFromBucket(bucketName, objectKey,
false, version);
                }

                case 2 -> {
                    System.out.println("Enter the number of the object to delete:");
                    List<S3InfoObject> allFiles =
s3LockActions.listBucketsAndObjects(bucketNames, true);
                    List<String> fileKeys = allFiles.stream().map(f ->
f.getKeyName()).collect(Collectors.toList());
                    String[] fileKeysArray = fileKeys.toArray(new String[0]);
                    int fileChoice = getChoiceResponse(null, fileKeysArray);
                    String objectKey = fileKeys.get(fileChoice);
                    String bucketName = allFiles.get(fileChoice).getBucketName();
                    String version = allFiles.get(fileChoice).getVersion();
                    s3LockActions.deleteObjectFromBucket(bucketName, objectKey,
true, version);
                }

                case 3 -> {
                    System.out.println("Enter the number of the object to
overwrite:");
                    List<S3InfoObject> allFiles =
s3LockActions.listBucketsAndObjects(bucketNames, true);
                    List<String> fileKeys = allFiles.stream().map(f ->
f.getKeyName()).collect(Collectors.toList());
                    String[] fileKeysArray = fileKeys.toArray(new String[0]);
                    int fileChoice = getChoiceResponse(null, fileKeysArray);
                    String objectKey = fileKeys.get(fileChoice);
                    String bucketName = allFiles.get(fileChoice).getBucketName();

                    // Attempt to overwrite the file.
                    try (BufferedWriter writer = new BufferedWriter(new
java.io.FileWriter(objectKey))) {
                        writer.write("This is a modified text.");

                    } catch (IOException e) {
                        e.printStackTrace();
                    }
                    s3LockActions.uploadFile(bucketName, objectKey, objectKey);
                }
```

```
                case 4 -> {
                    System.out.println("Enter the number of the object to
overwrite:");
                    List<S3InfoObject> allFiles =
s3LockActions.listBucketsAndObjects(bucketNames, true);
                    List<String> fileKeys = allFiles.stream().map(f ->
f.getKeyName()).collect(Collectors.toList());
                    String[] fileKeysArray = fileKeys.toArray(new String[0]);
                    int fileChoice = getChoiceResponse(null, fileKeysArray);
                    String objectKey = fileKeys.get(fileChoice);
                    String bucketName = allFiles.get(fileChoice).getBucketName();
                    s3LockActions.getObjectRetention(bucketName, objectKey);
                }

                case 5 -> {
                    System.out.println("Enter the number of the object to view:");
                    List<S3InfoObject> allFiles =
s3LockActions.listBucketsAndObjects(bucketNames, true);
                    List<String> fileKeys = allFiles.stream().map(f ->
f.getKeyName()).collect(Collectors.toList());
                    String[] fileKeysArray = fileKeys.toArray(new String[0]);
                    int fileChoice = getChoiceResponse(null, fileKeysArray);
                    String objectKey = fileKeys.get(fileChoice);
                    String bucketName = allFiles.get(fileChoice).getBucketName();
                    s3LockActions.getObjectLegalHold(bucketName, objectKey);
                    s3LockActions.getBucketObjectLockConfiguration(bucketName);
                }

                case 6 -> {
                    System.out.println("Exiting the workflow...");
                    return;
                }

                default -> {
                    System.out.println("Invalid choice. Please select again.");
                }
            }
        }
    }

    // Clean up the resources from the scenario.
    private static void cleanup() {
        List<S3InfoObject> allFiles =
s3LockActions.listBucketsAndObjects(bucketNames, false);
```

```
        for (S3InfoObject fileInfo : allFiles) {
            String bucketName = fileInfo.getBucketName();
            String key = fileInfo.getKeyName();
            String version = fileInfo.getVersion();
            if (bucketName.contains("lock-enabled") ||
(bucketName.contains("retention-after-creation"))) {
                ObjectLockLegalHold legalHold =
s3LockActions.getObjectLegalHold(bucketName, key);
                if (legalHold != null) {
                    String holdStatus = legalHold.status().name();
                    System.out.println(holdStatus);
                    if (holdStatus.compareTo("ON") == 0) {
                        s3LockActions.modifyObjectLegalHold(bucketName, key, false);
                    }
                }
                // Check for a retention period.
                ObjectLockRetention retention =
s3LockActions.getObjectRetention(bucketName, key);
                boolean hasRetentionPeriod ;
                hasRetentionPeriod = retention != null;
                s3LockActions.deleteObjectFromBucket(bucketName,
key,hasRetentionPeriod, version);

            } else {
                System.out.println(bucketName +" objects do not have a legal lock");
                s3LockActions.deleteObjectFromBucket(bucketName, key,false,
version);
            }
        }

        // Delete the buckets.
        System.out.println("Delete "+bucketName);
        for (String bucket : bucketNames){
            s3LockActions.deleteBucketByName(bucket);
        }
    }

    private static void setup() {
        Scanner scanner = new Scanner(System.in);
        System.out.println("""
                For this workflow, we will use the AWS SDK for Java to create
several S3
                buckets and files to demonstrate working with S3 locking features.
                """);
```

```
        System.out.println("S3 buckets can be created either with or without object
lock enabled.");
        System.out.println("Press Enter to continue...");
        scanner.nextLine();

        // Create three S3 buckets.
        s3LockActions.createBucketWithLockOptions(false, bucketNames.get(0));
        s3LockActions.createBucketWithLockOptions(true, bucketNames.get(1));
        s3LockActions.createBucketWithLockOptions(false, bucketNames.get(2));
        System.out.println("Press Enter to continue.");
        scanner.nextLine();

        System.out.println("Bucket "+bucketNames.get(2) +" will be configured to use
object locking with a default retention period.");
        s3LockActions.modifyBucketDefaultRetention(bucketNames.get(2));
        System.out.println("Press Enter to continue.");
        scanner.nextLine();

        System.out.println("Object lock policies can also be added to existing
buckets. For this example, we will use "+bucketNames.get(1));
        s3LockActions.enableObjectLockOnBucket(bucketNames.get(1));
        System.out.println("Press Enter to continue.");
        scanner.nextLine();

        // Upload some files to the buckets.
        System.out.println("Now let's add some test files:");
        String fileName = "exampleFile.txt";
        int fileCount = 2;
        try (BufferedWriter writer = new BufferedWriter(new
java.io.FileWriter(fileName))) {
            writer.write("This is a sample file for uploading to a bucket.");

        } catch (IOException e) {
            e.printStackTrace();
        }

        for (String bucketName : bucketNames){
            for (int i = 0; i < fileCount; i++) {
                // Get the file name without extension.
                String fileNameWithoutExtension =
java.nio.file.Paths.get(fileName).getFileName().toString();
                int extensionIndex = fileNameWithoutExtension.lastIndexOf('.');
                if (extensionIndex > 0) {
```

```
                    fileNameWithoutExtension = fileNameWithoutExtension.substring(0,
extensionIndex);
                }

                // Create the numbered file names.
                String numberedFileName = fileNameWithoutExtension + i +
getFileExtension(fileName);
                fileNames.add(numberedFileName);
                s3LockActions.uploadFile(bucketName, numberedFileName, fileName);
            }
        }

        String question = null;
        System.out.print("Press Enter to continue...");
        scanner.nextLine();
        System.out.println("Now we can set some object lock policies on individual
files:");
        for (String bucketName : bucketNames) {
            for (int i = 0; i < fileNames.size(); i++){

                // No modifications to the objects in the first bucket.
                if (!bucketName.equals(bucketNames.get(0))) {
                    String exampleFileName = fileNames.get(i);
                    switch (i) {
                        case 0 -> {
                            question = "Would you like to add a legal hold to " +
exampleFileName + " in " + bucketName + " (y/n)?";
                            System.out.println(question);
                            String ans = scanner.nextLine().trim();
                            if (ans.equalsIgnoreCase("y")) {
                                System.out.println("**** You have selected to put a
legal hold " + exampleFileName);

                                // Set a legal hold.
                                s3LockActions.modifyObjectLegalHold(bucketName,
exampleFileName, true);
                            }
                        }
                        case 1 -> {
                            """
                                Would you like to add a 1 day Governance retention
period to %s in %s (y/n)?
```

```
                                Reminder: Only a user with the
 s3:BypassGovernanceRetention permission will be able to delete this file or its
 bucket until the retention period has expired.
                                """.formatted(exampleFileName, bucketName);
                            System.out.println(question);
                            String ans2 = scanner.nextLine().trim();
                            if (ans2.equalsIgnoreCase("y")) {

 s3LockActions.modifyObjectRetentionPeriod(bucketName, exampleFileName);
                            }
                        }
                    }
                }
            }
        }

    // Get file extension.
    private static String getFileExtension(String fileName) {
        int dotIndex = fileName.lastIndexOf('.');
        if (dotIndex > 0) {
            return fileName.substring(dotIndex);
        }
        return "";
    }

    public static void configurationSetup() {
        String noLockBucketName = bucketName + "-no-lock";
        String lockEnabledBucketName = bucketName + "-lock-enabled";
        String retentionAfterCreationBucketName = bucketName + "-retention-after-
creation";
        bucketNames.add(noLockBucketName);
        bucketNames.add(lockEnabledBucketName);
        bucketNames.add(retentionAfterCreationBucketName);
    }

    public static int getChoiceResponse(String question, String[] choices) {
        Scanner scanner = new Scanner(System.in);
        if (question != null) {
            System.out.println(question);
            for (int i = 0; i < choices.length; i++) {
                System.out.println("\t" + (i + 1) + ". " + choices[i]);
            }
        }
```

```
        int choiceNumber = 0;
        while (choiceNumber < 1 || choiceNumber > choices.length) {
            String choice = scanner.nextLine();
            try {
                choiceNumber = Integer.parseInt(choice);
            } catch (NumberFormatException e) {
                System.out.println("Invalid choice. Please enter a valid number.");
            }
        }

        return choiceNumber - 1;
    }
}
```

S3 関数のラッパークラス。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.BucketVersioningStatus;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ChecksumAlgorithm;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CreateBucketRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.DefaultRetention;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.DeleteBucketRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.DeleteObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetObjectLegalHoldRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetObjectLegalHoldResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetObjectLockConfigurationRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetObjectLockConfigurationResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetObjectRetentionRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetObjectRetentionResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.HeadBucketRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ListObjectVersionsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ListObjectVersionsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.MFADelete;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ObjectLockConfiguration;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ObjectLockEnabled;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ObjectLockLegalHold;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ObjectLockLegalHoldStatus;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ObjectLockRetention;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ObjectLockRetentionMode;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ObjectLockRule;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.PutBucketVersioningRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.PutObjectLegalHoldRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.PutObjectLockConfigurationRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.PutObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.PutObjectResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.PutObjectRetentionRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.VersioningConfiguration;
import software.amazon.awssdk.services.s3.waiters.S3Waiter;
import java.nio.file.Path;
import java.nio.file.Paths;
import java.time.Instant;
import java.time.ZoneId;
import java.time.ZonedDateTime;
import java.time.format.DateTimeFormatter;
import java.time.temporal.ChronoUnit;
import java.util.List;
import java.util.concurrent.atomic.AtomicInteger;
import java.util.stream.Collectors;

// Contains application logic for the Amazon S3 operations used in this workflow.
public class S3LockActions {

    private static S3Client getClient() {
        return S3Client.builder()
            .region(Region.US_EAST_1)
            .build();
    }

    // Set or modify a retention period on an object in an S3 bucket.
    public void modifyObjectRetentionPeriod(String bucketName, String objectKey) {
        // Calculate the instant one day from now.
        Instant futureInstant = Instant.now().plus(1, ChronoUnit.DAYS);

        // Convert the Instant to a ZonedDateTime object with a specific time zone.
        ZonedDateTime zonedDateTime = futureInstant.atZone(ZoneId.systemDefault());

        // Define a formatter for human-readable output.
        DateTimeFormatter formatter = DateTimeFormatter.ofPattern("yyyy-MM-dd
 HH:mm:ss");

        // Format the ZonedDateTime object to a human-readable date string.
        String humanReadableDate = formatter.format(zonedDateTime);
```

```
        // Print the formatted date string.
        System.out.println("Formatted Date: " + humanReadableDate);
        ObjectLockRetention retention = ObjectLockRetention.builder()
            .mode(ObjectLockRetentionMode.GOVERNANCE)
            .retainUntilDate(futureInstant)
            .build();

        PutObjectRetentionRequest retentionRequest =
PutObjectRetentionRequest.builder()
            .bucket(bucketName)
            .key(objectKey)
            .retention(retention)
            .build();

        getClient().putObjectRetention(retentionRequest);
        System.out.println("Set retention for "+objectKey +" in " +bucketName +"
until "+ humanReadableDate +".");
    }

    // Get the legal hold details for an S3 object.
    public ObjectLockLegalHold getObjectLegalHold(String bucketName, String
objectKey) {
        try {
            GetObjectLegalHoldRequest legalHoldRequest =
GetObjectLegalHoldRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .key(objectKey)
                .build();

            GetObjectLegalHoldResponse response =
getClient().getObjectLegalHold(legalHoldRequest);
            System.out.println("Object legal hold for " + objectKey + " in " +
bucketName +
                ":\n\tStatus: " + response.legalHold().status());
            return response.legalHold();

        } catch (S3Exception ex) {
            System.out.println("\tUnable to fetch legal hold: '" + ex.getMessage() +
"'");
        }

        return null;
    }
```

```
   // Create a new Amazon S3 bucket with object lock options.
   public void createBucketWithLockOptions(boolean enableObjectLock, String
bucketName) {
       S3Waiter s3Waiter = getClient().waiter();
       CreateBucketRequest bucketRequest = CreateBucketRequest.builder()
           .bucket(bucketName)
           .objectLockEnabledForBucket(enableObjectLock)
           .build();

       getClient().createBucket(bucketRequest);
       HeadBucketRequest bucketRequestWait = HeadBucketRequest.builder()
           .bucket(bucketName)
           .build();

       // Wait until the bucket is created and print out the response.
       s3Waiter.waitUntilBucketExists(bucketRequestWait);
       System.out.println(bucketName + " is ready");
   }

   public List<S3InfoObject> listBucketsAndObjects(List<String> bucketNames,
Boolean interactive) {
       AtomicInteger counter = new AtomicInteger(0); // Initialize counter.
       return bucketNames.stream()
           .flatMap(bucketName ->
listBucketObjectsAndVersions(bucketName).versions().stream()
               .map(version -> {
                   S3InfoObject s3InfoObject = new S3InfoObject();
                   s3InfoObject.setBucketName(bucketName);
                   s3InfoObject.setVersion(version.versionId());
                   s3InfoObject.setKeyName(version.key());
                   return s3InfoObject;
               }))
           .peek(s3InfoObject -> {
               int i = counter.incrementAndGet(); // Increment and get the updated
value.
               if (interactive) {
                   System.out.println(i + ": "+ s3InfoObject.getKeyName());
                   System.out.printf("%5s Bucket name: %s\n", "",
s3InfoObject.getBucketName());
                   System.out.printf("%5s Version: %s\n", "",
s3InfoObject.getVersion());
               }
           })
           .collect(Collectors.toList());
```

```
    }

    public ListObjectVersionsResponse listBucketObjectsAndVersions(String
bucketName) {
        ListObjectVersionsRequest versionsRequest =
ListObjectVersionsRequest.builder()
            .bucket(bucketName)
            .build();

        return getClient().listObjectVersions(versionsRequest);
    }

    // Set or modify a retention period on an S3 bucket.
    public void modifyBucketDefaultRetention(String bucketName) {
        VersioningConfiguration versioningConfiguration =
VersioningConfiguration.builder()
            .mfaDelete(MFADelete.DISABLED)
            .status(BucketVersioningStatus.ENABLED)
            .build();

        PutBucketVersioningRequest versioningRequest =
PutBucketVersioningRequest.builder()
            .bucket(bucketName)
            .versioningConfiguration(versioningConfiguration)
            .build();

        getClient().putBucketVersioning(versioningRequest);
        DefaultRetention rention = DefaultRetention.builder()
            .days(1)
            .mode(ObjectLockRetentionMode.GOVERNANCE)
            .build();

        ObjectLockRule lockRule = ObjectLockRule.builder()
            .defaultRetention(rention)
            .build();

        ObjectLockConfiguration objectLockConfiguration =
ObjectLockConfiguration.builder()
            .objectLockEnabled(ObjectLockEnabled.ENABLED)
            .rule(lockRule)
            .build();

        PutObjectLockConfigurationRequest putObjectLockConfigurationRequest =
PutObjectLockConfigurationRequest.builder()
```

```
            .bucket(bucketName)
            .objectLockConfiguration(objectLockConfiguration)
            .build();

        getClient().putObjectLockConfiguration(putObjectLockConfigurationRequest) ;
        System.out.println("Added a default retention to bucket "+bucketName +".");
    }

    // Enable object lock on an existing bucket.
    public void enableObjectLockOnBucket(String bucketName) {
        try {
            VersioningConfiguration versioningConfiguration =
VersioningConfiguration.builder()
                .status(BucketVersioningStatus.ENABLED)
                .build();

            PutBucketVersioningRequest putBucketVersioningRequest =
PutBucketVersioningRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .versioningConfiguration(versioningConfiguration)
                .build();

            // Enable versioning on the bucket.
            getClient().putBucketVersioning(putBucketVersioningRequest);
            PutObjectLockConfigurationRequest request =
PutObjectLockConfigurationRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .objectLockConfiguration(ObjectLockConfiguration.builder()
                    .objectLockEnabled(ObjectLockEnabled.ENABLED)
                    .build())
                .build();

            getClient().putObjectLockConfiguration(request);
            System.out.println("Successfully enabled object lock on "+bucketName);

        } catch (S3Exception ex) {
            System.out.println("Error modifying object lock: '" + ex.getMessage() +
"'");
        }
    }

    public void uploadFile(String bucketName, String objectName, String filePath) {
        Path file = Paths.get(filePath);
        PutObjectRequest request = PutObjectRequest.builder()
```

```
            .bucket(bucketName)
            .key(objectName)
            .checksumAlgorithm(ChecksumAlgorithm.SHA256)
            .build();

        PutObjectResponse response = getClient().putObject(request, file);
        if (response != null) {
            System.out.println("\tSuccessfully uploaded " + objectName + " to " +
bucketName + ".");
        } else {
            System.out.println("\tCould not upload " + objectName + " to " +
bucketName + ".");
        }
    }

    // Set or modify a legal hold on an object in an S3 bucket.
    public void modifyObjectLegalHold(String bucketName, String objectKey, boolean
legalHoldOn) {
        ObjectLockLegalHold legalHold ;
        if (legalHoldOn) {
            legalHold = ObjectLockLegalHold.builder()
                .status(ObjectLockLegalHoldStatus.ON)
                .build();
        } else {
            legalHold = ObjectLockLegalHold.builder()
                .status(ObjectLockLegalHoldStatus.OFF)
                .build();
        }

        PutObjectLegalHoldRequest legalHoldRequest =
PutObjectLegalHoldRequest.builder()
            .bucket(bucketName)
            .key(objectKey)
            .legalHold(legalHold)
            .build();

        getClient().putObjectLegalHold(legalHoldRequest) ;
        System.out.println("Modified legal hold for "+ objectKey +" in "+bucketName
+".");
    }

    // Delete an object from a specific bucket.
    public void deleteObjectFromBucket(String bucketName, String objectKey, boolean
hasRetention, String versionId) {
```

```
        try {
            DeleteObjectRequest objectRequest;
            if (hasRetention) {
                objectRequest = DeleteObjectRequest.builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .key(objectKey)
                    .versionId(versionId)
                    .bypassGovernanceRetention(true)
                    .build();
            } else {
                objectRequest = DeleteObjectRequest.builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .key(objectKey)
                    .versionId(versionId)
                    .build();
            }

            getClient().deleteObject(objectRequest) ;
            System.out.println("The object was successfully deleted");

        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
        }
    }

    // Get the retention period for an S3 object.
    public ObjectLockRetention getObjectRetention(String bucketName, String key){
        try {
            GetObjectRetentionRequest retentionRequest =
GetObjectRetentionRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .key(key)
                .build();

            GetObjectRetentionResponse response =
getClient().getObjectRetention(retentionRequest);
            System.out.println("tObject retention for "+key +" in "+ bucketName +":
" + response.retention().mode() +" until "+ response.retention().retainUntilDate()
+".");
            return response.retention();

        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            return null;
```

```
        }
    }

    public void deleteBucketByName(String bucketName) {
        try {
            DeleteBucketRequest request = DeleteBucketRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .build();

            getClient().deleteBucket(request);
            System.out.println(bucketName +" was deleted.");

        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
        }
    }

    // Get the object lock configuration details for an S3 bucket.
    public void getBucketObjectLockConfiguration(String bucketName) {
        GetObjectLockConfigurationRequest objectLockConfigurationRequest =
 GetObjectLockConfigurationRequest.builder()
            .bucket(bucketName)
            .build();

        GetObjectLockConfigurationResponse response =
 getClient().getObjectLockConfiguration(objectLockConfigurationRequest);
        System.out.println("Bucket object lock config for "+bucketName +":  ");
        System.out.println("\tEnabled:
 "+response.objectLockConfiguration().objectLockEnabled());
        System.out.println("\tRule: "+
 response.objectLockConfiguration().rule().defaultRetention());
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - GetObjectLegalHold
  - GetObjectLockConfiguration
  - GetObjectRetention
  - PutObjectLegalHold

- PutObjectLockConfiguration
- PutObjectRetention

S3 を使用して大量のメッセージを管理する

次のコード例は、Amazon SQS 拡張クライアントライブラリを使用して大量の Amazon SQS メッセージを操作する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import com.amazon.sqs.javamessaging.AmazonSQSExtendedClient;
import com.amazon.sqs.javamessaging.ExtendedClientConfiguration;
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import org.joda.time.DateTime;
import org.joda.time.format.DateTimeFormat;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.BucketLifecycleConfiguration;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CreateBucketRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.DeleteBucketRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.DeleteObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ExpirationStatus;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.LifecycleExpiration;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.LifecycleRule;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.LifecycleRuleFilter;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ListObjectVersionsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ListObjectVersionsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ListObjectsV2Request;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ListObjectsV2Response;
import
 software.amazon.awssdk.services.s3.model.PutBucketLifecycleConfigurationRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.SqsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.CreateQueueRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.CreateQueueResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.DeleteMessageRequest;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.DeleteQueueRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.Message;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.ReceiveMessageRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.ReceiveMessageResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.SendMessageRequest;

import java.util.Arrays;
import java.util.List;
import java.util.UUID;

/**
 * Example of using Amazon SQS Extended Client Library for Java 2.x.
 */
public class SqsExtendedClientExample {
    private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(SqsExtendedClientExample.class);

    private String s3BucketName;
    private String queueUrl;
    private final String queueName;
    private final S3Client s3Client;
    private final SqsClient sqsExtendedClient;
    private final int messageSize;

    /**
     * Constructor with default clients and message size.
     */
    public SqsExtendedClientExample() {
        this(S3Client.create(), 300000);
    }

    /**
     * Constructor with custom S3 client and message size.
     *
     * @param s3Client The S3 client to use
     * @param messageSize The size of the test message to create
     */
    public SqsExtendedClientExample(S3Client s3Client, int messageSize) {
        this.s3Client = s3Client;
        this.messageSize = messageSize;

        // Generate a unique bucket name.
        this.s3BucketName = UUID.randomUUID() + "-" +
                DateTimeFormat.forPattern("yyMMdd-hhmmss").print(new DateTime());
```

```
        // Generate a unique queue name.
        this.queueName = "MyQueue-" + UUID.randomUUID();

        // Configure the SQS extended client.
        final ExtendedClientConfiguration extendedClientConfig = new
ExtendedClientConfiguration()
                .withPayloadSupportEnabled(s3Client, s3BucketName);

        this.sqsExtendedClient = new
AmazonSQSExtendedClient(SqsClient.builder().build(), extendedClientConfig);
    }

    public static void main(String[] args) {
        SqsExtendedClientExample example = new SqsExtendedClientExample();
        try {
            example.setup();
            example.sendAndReceiveMessage();
        } finally {
            example.cleanup();
        }
    }

    /**
     * Send a large message and receive it back.
     *
     * @return The received message
     */
    public Message sendAndReceiveMessage() {
        try {
            // Create a large message.
            char[] chars = new char[messageSize];
            Arrays.fill(chars, 'x');
            String largeMessage = new String(chars);

            // Send the message.
            final SendMessageRequest sendMessageRequest =
SendMessageRequest.builder()
                    .queueUrl(queueUrl)
                    .messageBody(largeMessage)
                    .build();

            sqsExtendedClient.sendMessage(sendMessageRequest);
            logger.info("Sent message of size: {}", largeMessage.length());
```

```
            // Receive and return the message.
            final ReceiveMessageResponse receiveMessageResponse =
sqsExtendedClient.receiveMessage(
                    ReceiveMessageRequest.builder().queueUrl(queueUrl).build());

            List<Message> messages = receiveMessageResponse.messages();
            if (messages.isEmpty()) {
                throw new RuntimeException("No messages received");
            }

            Message message = messages.getFirst();
            logger.info("\nMessage received.");
            logger.info("  ID: {}", message.messageId());
            logger.info("  Receipt handle: {}", message.receiptHandle());
            logger.info("  Message body size: {}", message.body().length());
            logger.info("  Message body (first 5 characters): {}",
message.body().substring(0, 5));

            return message;
        } catch (RuntimeException e) {
            logger.error("Error during message processing: {}", e.getMessage(), e);
            throw e;
        }
    }
```

- 詳細については、「AWS SDK for Java 2.x デベロッパーガイド」を参照してください。
- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - CreateBucket
  - PutBucketLifecycleConfiguration
  - ReceiveMessage
  - SendMessage

URI を解析する

次のコード例は、Amazon S3 の URI を解析してバケット名やオブジェクトキーなどの重要なコンポーネントを抽出する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

S3Uri クラスを使用して Amazon S3 の URI を解析します。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Uri;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Utilities;

import java.net.URI;
import java.util.List;
import java.util.Map;

    /**
     *
     * @param s3Client    - An S3Client through which you acquire an S3Uri instance.
     * @param s3ObjectUrl - A complex URL (String) that is used to demonstrate S3Uri
     *                    capabilities.
     */
    public static void parseS3UriExample(S3Client s3Client, String s3ObjectUrl) {
        logger.info(s3ObjectUrl);
        // Console output:
        // 'https://s3.us-west-1.amazonaws.com/myBucket/resources/doc.txt?
versionId=abc123&partNumber=77&partNumber=88'.

        // Create an S3Utilities object using the configuration of the s3Client.
        S3Utilities s3Utilities = s3Client.utilities();

        // From a String URL create a URI object to pass to the parseUri() method.
        URI uri = URI.create(s3ObjectUrl);
        S3Uri s3Uri = s3Utilities.parseUri(uri);

        // If the URI contains no value for the Region, bucket or key, the SDK
 returns
        // an empty Optional.
```

```
        // The SDK returns decoded URI values.

        Region region = s3Uri.region().orElse(null);
        log("region", region);
        // Console output: 'region: us-west-1'.

        String bucket = s3Uri.bucket().orElse(null);
        log("bucket", bucket);
        // Console output: 'bucket: myBucket'.

        String key = s3Uri.key().orElse(null);
        log("key", key);
        // Console output: 'key: resources/doc.txt'.

        Boolean isPathStyle = s3Uri.isPathStyle();
        log("isPathStyle", isPathStyle);
        // Console output: 'isPathStyle: true'.

        // If the URI contains no query parameters, the SDK returns an empty map.
        Map<String, List<String>> queryParams = s3Uri.rawQueryParameters();
        log("rawQueryParameters", queryParams);
        // Console output: 'rawQueryParameters: {versionId=[abc123], partNumber=[77,
        // 88]}'.

        // Retrieve the first or all values for a query parameter as shown in the
        // following code.
        String versionId =
s3Uri.firstMatchingRawQueryParameter("versionId").orElse(null);
        log("firstMatchingRawQueryParameter-versionId", versionId);
        // Console output: 'firstMatchingRawQueryParameter-versionId: abc123'.

        String partNumber =
s3Uri.firstMatchingRawQueryParameter("partNumber").orElse(null);
        log("firstMatchingRawQueryParameter-partNumber", partNumber);
        // Console output: 'firstMatchingRawQueryParameter-partNumber: 77'.

        List<String> partNumbers =
s3Uri.firstMatchingRawQueryParameters("partNumber");
        log("firstMatchingRawQueryParameter", partNumbers);
        // Console output: 'firstMatchingRawQueryParameter: [77, 88]'.

        /*
         * Object keys and query parameters with reserved or unsafe characters, must
be
```

```
         * URL-encoded.
         * For example replace whitespace " " with "%20".
         * Valid:
         * "https://s3.us-west-1.amazonaws.com/myBucket/object%20key?query=
%5Bbrackets%5D"
         * Invalid:
         * "https://s3.us-west-1.amazonaws.com/myBucket/object key?query=[brackets]"
         *
         * Virtual-hosted-style URIs with bucket names that contain a dot, ".", the
 dot
         * must not be URL-encoded.
         * Valid: "https://my.Bucket.s3.us-west-1.amazonaws.com/key"
         * Invalid: "https://my%2EBucket.s3.us-west-1.amazonaws.com/key"
         */
    }

    private static void log(String s3UriElement, Object element) {
        if (element == null) {
            logger.info("{}: {}", s3UriElement, "null");
        } else {
            logger.info("{}: {}", s3UriElement, element);
        }
    }
```

S3 イベント通知の処理

次のコード例は、オブジェクト指向の方法で S3 イベント通知を操作する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

この例は、Amazon SQS を使用して S3 通知イベントを処理する方法を示しています。

```
    /**
     * This method receives S3 event notifications by using an SqsAsyncClient.
```

```
     * After the client receives the messages it deserializes the JSON payload and
 logs them. It uses
     * the S3EventNotification class (part of the S3 event notification API for
 Java) to deserialize
     * the JSON payload and access the messages in an object-oriented way.
     *
     * @param queueUrl The URL of the AWS SQS queue that receives the S3 event
 notifications.
     * @see <a href="https://sdk.amazonaws.com/java/api/latest/software/amazon/
awssdk/eventnotifications/s3/model/package-summary.html">S3EventNotification API</
a>.
     * <p>
     * To use S3 event notification serialization/deserialization to objects, add
 the following
     * dependency to your Maven pom.xml file.
     * <dependency>
     * <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
     * <artifactId>s3-event-notifications</artifactId>
     * <version><LATEST></version>
     * </dependency>
     * <p>
     * The S3 event notification API became available with version 2.25.11 of the
 Java SDK.
     * <p>
     * This example shows the use of the API with AWS SQS, but it can be used to
 process S3 event notifications
     * in AWS SNS or AWS Lambda as well.
     * <p>
     * Note: The S3EventNotification class does not work with messages routed
 through AWS EventBridge.
     */
    static void processS3Events(String bucketName, String queueUrl, String queueArn)
 {
        try {
            // Configure the bucket to send Object Created and Object Tagging
 notifications to an existing SQS queue.
            s3Client.putBucketNotificationConfiguration(b -> b
                    .notificationConfiguration(ncb -> ncb
                            .queueConfigurations(qcb -> qcb
                                    .events(Event.S3_OBJECT_CREATED,
 Event.S3_OBJECT_TAGGING)
                                    .queueArn(queueArn)))
                            .bucket(bucketName)
            ).join();
```

```
            triggerS3EventNotifications(bucketName);
            // Wait for event notifications to propagate.
            Thread.sleep(Duration.ofSeconds(5).toMillis());

            boolean didReceiveMessages = true;
            while (didReceiveMessages) {
                // Display the number of messages that are available in the queue.
                sqsClient.getQueueAttributes(b -> b
                                .queueUrl(queueUrl)

.attributeNames(QueueAttributeName.APPROXIMATE_NUMBER_OF_MESSAGES)
                        ).thenAccept(attributeResponse ->
                                logger.info("Approximate number of messages in the
queue: {}",

attributeResponse.attributes().get(QueueAttributeName.APPROXIMATE_NUMBER_OF_MESSAGES)))
                        .join();

                // Receive the messages.
                ReceiveMessageResponse response = sqsClient.receiveMessage(b -> b
                        .queueUrl(queueUrl)
                ).get();
                logger.info("Count of received messages: {}",
response.messages().size());
                didReceiveMessages = !response.messages().isEmpty();

                // Create a collection to hold the received message for deletion
                // after we log the messages.
                HashSet<DeleteMessageBatchRequestEntry> messagesToDelete = new
HashSet<>();
                // Process each message.
                response.messages().forEach(message -> {
                    logger.info("Message id: {}", message.messageId());
                    // Deserialize JSON message body to a S3EventNotification object
                    // to access messages in an object-oriented way.
                    S3EventNotification event =
S3EventNotification.fromJson(message.body());

                    // Log the S3 event notification record details.
                    if (event.getRecords() != null) {
                        event.getRecords().forEach(record -> {
                            String eventName = record.getEventName();
                            String key = record.getS3().getObject().getKey();
```

```
                            logger.info(record.toString());
                            logger.info("Event name is {} and key is {}", eventName,
key);
                        });
                    }
                    // Add logged messages to collection for batch deletion.
                    messagesToDelete.add(DeleteMessageBatchRequestEntry.builder()
                            .id(message.messageId())
                            .receiptHandle(message.receiptHandle())
                            .build());
                });
                // Delete messages.
                if (!messagesToDelete.isEmpty()) {
                    sqsClient.deleteMessageBatch(DeleteMessageBatchRequest.builder()
                            .queueUrl(queueUrl)
                            .entries(messagesToDelete)
                            .build()
                    ).join();
                }
            } // End of while block.
        } catch (InterruptedException | ExecutionException e) {
            throw new RuntimeException(e);
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - DeleteMessageBatch
  - GetQueueAttributes
  - PutBucketNotificationConfiguration
  - ReceiveMessage

EventBridge へのイベント通知の送信

次のコード例は、バケットが EventBridge に S3 イベント通知を送信し、Amazon SNS トピックと Amazon SQS キューに通知をルーティングできるようにする方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /** This method configures a bucket to send events to AWS EventBridge and
creates a rule
    * to route the S3 object created events to a topic and a queue.
    *
    * @param bucketName Name of existing bucket
    * @param topicArn ARN of existing topic to receive S3 event notifications
    * @param queueArn ARN of existing queue to receive S3 event notifications
    *
    *  An AWS CloudFormation stack sets up the bucket, queue, topic before the
method runs.
    */
   public static String setBucketNotificationToEventBridge(String bucketName,
String topicArn, String queueArn) {
       try {
           // Enable bucket to emit S3 Event notifications to EventBridge.
           s3Client.putBucketNotificationConfiguration(b -> b
                   .bucket(bucketName)
                   .notificationConfiguration(b1 -> b1
                           .eventBridgeConfiguration(
                                   SdkBuilder::build)
                   ).build()).join();

           // Create an EventBridge rule to route Object Created notifications.
           PutRuleRequest putRuleRequest = PutRuleRequest.builder()
                   .name(RULE_NAME)
                   .eventPattern("""
                           {
                             "source": ["aws.s3"],
                             "detail-type": ["Object Created"],
                             "detail": {
                               "bucket": {
                                 "name": ["%s"]
                               }
                             }
```

```
                            }
                            """.formatted(bucketName))
                    .build();

            // Add the rule to the default event bus.
            PutRuleResponse putRuleResponse =
eventBridgeClient.putRule(putRuleRequest)
                    .whenComplete((r, t) -> {
                        if (t != null) {
                            logger.error("Error creating event bus rule: " +
t.getMessage(), t);
                            throw new RuntimeException(t.getCause().getMessage(),
t);
                        }
                        logger.info("Event bus rule creation request sent
successfully. ARN is: {}", r.ruleArn());
                    }).join();

            // Add the existing SNS topic and SQS queue as targets to the rule.
            eventBridgeClient.putTargets(b -> b
                    .eventBusName("default")
                    .rule(RULE_NAME)
                    .targets(List.of (
                            Target.builder()
                                    .arn(queueArn)
                                    .id("Queue")
                                    .build(),
                            Target.builder()
                                    .arn(topicArn)
                                    .id("Topic")
                                    .build())
                            )
                    ).join();
            return putRuleResponse.ruleArn();
        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return null;
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - PutBucketNotificationConfiguration
  - PutRule
  - PutTargets

アップロードとダウンロードを追跡する

次のコード例は、Amazon S3 オブジェクトのアップロードまたはダウンロードを追跡する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

ファイルのアップロードの進行状況を追跡します。

```
   public void trackUploadFile(S3TransferManager transferManager, String
bucketName,
                               String key, URI filePathURI) {
       UploadFileRequest uploadFileRequest = UploadFileRequest.builder()
               .putObjectRequest(b -> b.bucket(bucketName).key(key))
               .addTransferListener(LoggingTransferListener.create())  // Add
listener.
               .source(Paths.get(filePathURI))
               .build();

       FileUpload fileUpload = transferManager.uploadFile(uploadFileRequest);

       fileUpload.completionFuture().join();
       /*
           The SDK provides a LoggingTransferListener implementation of the
TransferListener interface.
           You can also implement the interface to provide your own logic.

           Configure log4J2 with settings such as the following.
```

```
                <Configuration status="WARN">
                    <Appenders>
                        <Console name="AlignedConsoleAppender" target="SYSTEM_OUT">
                            <PatternLayout pattern="%m%n"/>
                        </Console>
                    </Appenders>

                    <Loggers>
                        <logger
name="software.amazon.awssdk.transfer.s3.progress.LoggingTransferListener"
level="INFO" additivity="false">
                            <AppenderRef ref="AlignedConsoleAppender"/>
                        </logger>
                    </Loggers>
                </Configuration>

            Log4J2 logs the progress. The following is example output for a 21.3 MB
file upload.
                Transfer initiated...
                |                    | 0.0%
                |====                | 21.1%
                |============        | 60.5%
                |====================| 100.0%
                Transfer complete!
        */
    }
```

ファイルのダウンロードの進捗状況を追跡します。

```
    public void trackDownloadFile(S3TransferManager transferManager, String
bucketName,
                              String key, String downloadedFileWithPath) {
        DownloadFileRequest downloadFileRequest = DownloadFileRequest.builder()
                .getObjectRequest(b -> b.bucket(bucketName).key(key))
                .addTransferListener(LoggingTransferListener.create())  // Add
listener.
                .destination(Paths.get(downloadedFileWithPath))
                .build();

        FileDownload downloadFile =
transferManager.downloadFile(downloadFileRequest);
```

```
        CompletedFileDownload downloadResult =
downloadFile.completionFuture().join();
        /*
            The SDK provides a LoggingTransferListener implementation of the
TransferListener interface.
            You can also implement the interface to provide your own logic.

            Configure log4J2 with settings such as the following.
                <Configuration status="WARN">
                    <Appenders>
                        <Console name="AlignedConsoleAppender" target="SYSTEM_OUT">
                            <PatternLayout pattern="%m%n"/>
                        </Console>
                    </Appenders>

                    <Loggers>
                        <logger
name="software.amazon.awssdk.transfer.s3.progress.LoggingTransferListener"
level="INFO" additivity="false">
                            <AppenderRef ref="AlignedConsoleAppender"/>
                        </logger>
                    </Loggers>
                </Configuration>

            Log4J2 logs the progress. The following is example output for a 21.3 MB
file download.
                Transfer initiated...
                |=======             | 39.4%
                |===============     | 78.8%
                |====================| 100.0%
                Transfer complete!
        */
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - GetObject
  - PutObject

バケットへのディレクトリのアップロード

以下のコード例では、ローカルディレクトリを再帰的に Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) バケットにアップロードする方法を示します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

S3TransferManager を使用してローカルディレクトリをアップロードします。完全なファイルとテストを表示します。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ObjectIdentifier;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.S3TransferManager;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.CompletedDirectoryUpload;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.DirectoryUpload;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.UploadDirectoryRequest;

import java.net.URI;
import java.net.URISyntaxException;
import java.net.URL;
import java.nio.file.Paths;

    public Integer uploadDirectory(S3TransferManager transferManager,
            URI sourceDirectory, String bucketName) {
        DirectoryUpload directoryUpload =
 transferManager.uploadDirectory(UploadDirectoryRequest.builder()
                .source(Paths.get(sourceDirectory))
                .bucket(bucketName)
                .build());

        CompletedDirectoryUpload completedDirectoryUpload =
 directoryUpload.completionFuture().join();
        completedDirectoryUpload.failedTransfers()
                .forEach(fail -> logger.warn("Object [{}] failed to transfer",
 fail.toString()));
```

```
        return completedDirectoryUpload.failedTransfers().size();
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「UploadDirectory」を参照してください。

大きなファイルをアップロードまたはダウンロードする

次のコード例は、Amazon S3 との間で大きなファイルをアップロードまたはダウンロードする方法を示しています。

詳細については、「マルチパートアップロードを使用したオブジェクトのアップロード」を参照してください。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

S3TransferManager を使用して、S3 バケットとの間でファイルを転送する関数を呼び出します。

```
    public Integer downloadObjectsToDirectory(S3TransferManager transferManager,
            URI destinationPathURI, String bucketName) {
        DirectoryDownload directoryDownload =
transferManager.downloadDirectory(DownloadDirectoryRequest.builder()
                .destination(Paths.get(destinationPathURI))
                .bucket(bucketName)
                .build());
        CompletedDirectoryDownload completedDirectoryDownload =
directoryDownload.completionFuture().join();

        completedDirectoryDownload.failedTransfers()
                .forEach(fail -> logger.warn("Object [{}] failed to transfer",
fail.toString()));
        return completedDirectoryDownload.failedTransfers().size();
    }
```

ローカルディレクトリ全体をアップロードします。

```
   public Integer uploadDirectory(S3TransferManager transferManager,
           URI sourceDirectory, String bucketName) {
       DirectoryUpload directoryUpload =
transferManager.uploadDirectory(UploadDirectoryRequest.builder()
               .source(Paths.get(sourceDirectory))
               .bucket(bucketName)
               .build());

       CompletedDirectoryUpload completedDirectoryUpload =
directoryUpload.completionFuture().join();
       completedDirectoryUpload.failedTransfers()
               .forEach(fail -> logger.warn("Object [{}] failed to transfer",
fail.toString()));
       return completedDirectoryUpload.failedTransfers().size();
   }
```

1 つのファイルをアップロードします。

```
   public String uploadFile(S3TransferManager transferManager, String bucketName,
                            String key, URI filePathURI) {
       UploadFileRequest uploadFileRequest = UploadFileRequest.builder()
           .putObjectRequest(b -> b.bucket(bucketName).key(key))
           .source(Paths.get(filePathURI))
           .build();

       FileUpload fileUpload = transferManager.uploadFile(uploadFileRequest);

       CompletedFileUpload uploadResult = fileUpload.completionFuture().join();
       return uploadResult.response().eTag();
   }
```

コード例では、次のインポートを使用します。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
```

```
import software.amazon.awssdk.core.exception.SdkException;
import software.amazon.awssdk.core.sync.RequestBody;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3AsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CompletedMultipartUpload;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CompletedPart;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CreateMultipartUploadResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.PutObjectResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.UploadPartRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.UploadPartResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.waiters.S3Waiter;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.S3TransferManager;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.FileUpload;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.UploadFileRequest;

import java.io.IOException;
import java.io.RandomAccessFile;
import java.net.URISyntaxException;
import java.net.URL;
import java.nio.ByteBuffer;
import java.nio.file.Paths;
import java.util.ArrayList;
import java.util.List;
import java.util.Objects;
import java.util.UUID;
import java.util.concurrent.CompletableFuture;
```

AWS CRT ベースの S3 クライアント上にある S3 Transfer Manager を使用すると、コンテンツのサイズがしきい値を超えたときにマルチパートアップロードを透過的に実行できます。デフォルトのしきい値は 8 MB です。

```
    /**
     * Uploads a file to an Amazon S3 bucket using the S3TransferManager.
     *
     * @param bucketName the name of the S3 bucket
     * @param key        the object key
     * @param filePath   the file path of the file to be uploaded
     */
    public void multipartUploadWithTransferManager(String bucketName, String key,
 String filePath) {
        S3TransferManager transferManager = S3TransferManager.create();
        UploadFileRequest uploadFileRequest = UploadFileRequest.builder()
```

```
            .putObjectRequest(b -> b
                .bucket(bucketName)
                .key(key))
            .source(Paths.get(filePath))
            .build();
        FileUpload fileUpload = transferManager.uploadFile(uploadFileRequest);
        fileUpload.completionFuture().join();
        transferManager.close();
    }
```

S3Client API を使用してマルチパートアップロードを実行します。

```
    /**
     * Performs a multipart upload to Amazon S3 using the provided S3 client.
     *
     * @param bucketName the name of the S3 bucket
     * @param key        the object key
     * @param filePath   the path to the file to be uploaded
     */
    public void multipartUploadWithS3Client(String bucketName, String key, String
filePath) {

        // Initiate the multipart upload.
        CreateMultipartUploadResponse createMultipartUploadResponse =
s3Client.createMultipartUpload(b -> b
            .bucket(bucketName)
            .key(key));
        String uploadId = createMultipartUploadResponse.uploadId();

        // Upload the parts of the file.
        int partNumber = 1;
        List<CompletedPart> completedParts = new ArrayList<>();
        ByteBuffer bb = ByteBuffer.allocate(1024 * 1024 * 5); // 5 MB byte buffer

        try (RandomAccessFile file = new RandomAccessFile(filePath, "r")) {
            long fileSize = file.length();
            long position = 0;
            while (position < fileSize) {
                file.seek(position);
                long read = file.getChannel().read(bb);
```

```
                bb.flip(); // Swap position and limit before reading from the
buffer.
                UploadPartRequest uploadPartRequest = UploadPartRequest.builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .key(key)
                    .uploadId(uploadId)
                    .partNumber(partNumber)
                    .build();

                UploadPartResponse partResponse = s3Client.uploadPart(
                    uploadPartRequest,
                    RequestBody.fromByteBuffer(bb));

                CompletedPart part = CompletedPart.builder()
                    .partNumber(partNumber)
                    .eTag(partResponse.eTag())
                    .build();
                completedParts.add(part);

                bb.clear();
                position += read;
                partNumber++;
            }
        } catch (IOException e) {
            logger.error(e.getMessage());
        }

        // Complete the multipart upload.
        s3Client.completeMultipartUpload(b -> b
            .bucket(bucketName)
            .key(key)
            .uploadId(uploadId)

.multipartUpload(CompletedMultipartUpload.builder().parts(completedParts).build()));
    }
```

マルチパートサポートを有効にして S3AsyncClient API を使用し、マルチパートアップロードを実行します。

```
    /**
```

```
    * Uploads a file to an S3 bucket using the S3AsyncClient and enabling multipart
support.
    *
    * @param bucketName the name of the S3 bucket
    * @param key        the object key
    * @param filePath   the local file path of the file to be uploaded
    */
   public void multipartUploadWithS3AsyncClient(String bucketName, String key,
String filePath) {
       // Enable multipart support.
       S3AsyncClient s3AsyncClient = S3AsyncClient.builder()
           .multipartEnabled(true)
           .build();

       CompletableFuture<PutObjectResponse> response = s3AsyncClient.putObject(b ->
b
               .bucket(bucketName)
               .key(key),
           Paths.get(filePath));

       response.join();
       logger.info("File uploaded in multiple 8 MiB parts using S3AsyncClient.");
   }
```

サイズが不明なストリームをアップロードする

次のコード例は、サイズが不明なストリームを Amazon S3 オブジェクトにアップロードする方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

AWS CRT ベースの S3 クライアントを使用します。

```
import com.example.s3.util.AsyncExampleUtils;
```

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.core.async.AsyncRequestBody;
import software.amazon.awssdk.core.exception.SdkException;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3AsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.PutObjectResponse;

import java.io.ByteArrayInputStream;
import java.io.InputStream;
import java.util.UUID;
import java.util.concurrent.CompletableFuture;
import java.util.concurrent.ExecutorService;
import java.util.concurrent.Executors;

public class PutObjectFromStreamAsync {
    private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(PutObjectFromStreamAsync.class);

    public static void main(String[] args) {
        String bucketName = "amzn-s3-demo-bucket"; // Replace with your bucket name.
        String key = UUID.randomUUID().toString();

        AsyncExampleUtils.createBucket(bucketName);
        try {
            PutObjectFromStreamAsync example = new PutObjectFromStreamAsync();
            S3AsyncClient s3AsyncClientCrt = S3AsyncClient.crtCreate();
            PutObjectResponse putObjectResponse =
 example.putObjectFromStreamCrt(s3AsyncClientCrt, bucketName, key);
            logger.info("Object {} etag: {}", key, putObjectResponse.eTag());
            logger.info("Object {} uploaded to bucket {}.", key, bucketName);
        } catch (SdkException e) {
            logger.error(e.getMessage(), e);
        } finally {
            AsyncExampleUtils.deleteObject(bucketName, key);
            AsyncExampleUtils.deleteBucket(bucketName);
        }
    }

    /**
     * @param s33CrtAsyncClient - To upload content from a stream of unknown size,
 use can the AWS CRT-based S3 client.
     * @param bucketName - The name of the bucket.
     * @param key - The name of the object.
```

```
     * @return software.amazon.awssdk.services.s3.model.PutObjectResponse - Returns
 metadata pertaining to the put object operation.
     */
    public PutObjectResponse putObjectFromStreamCrt(S3AsyncClient s33CrtAsyncClient,
 String bucketName, String key) {

        // AsyncExampleUtils.randomString() returns a random string up to 100
 characters.
        String randomString = AsyncExampleUtils.randomString();
        logger.info("random string to upload: {}: length={}", randomString,
 randomString.length());
        InputStream inputStream = new ByteArrayInputStream(randomString.getBytes());

        // Executor required to handle reading from the InputStream on a separate
 thread so the main upload is not blocked.
        ExecutorService executor = Executors.newSingleThreadExecutor();
        // Specify `null` for the content length when you don't know the content
 length.
        AsyncRequestBody body = AsyncRequestBody.fromInputStream(inputStream, null,
 executor);

        CompletableFuture<PutObjectResponse> responseFuture =
                s33CrtAsyncClient.putObject(r -> r.bucket(bucketName).key(key),
 body);

        PutObjectResponse response = responseFuture.join(); // Wait for the
 response.
        logger.info("Object {} uploaded to bucket {}.", key, bucketName);
        executor.shutdown();
        return response;
    }
}
```

マルチパートアップロードが有効になっている標準の非同期 S3 クライアントを使用します。

```
import com.example.s3.util.AsyncExampleUtils;
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.core.async.AsyncRequestBody;
import software.amazon.awssdk.core.exception.SdkException;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3AsyncClient;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.PutObjectResponse;

import java.io.ByteArrayInputStream;
import java.io.InputStream;
import java.util.UUID;
import java.util.concurrent.CompletableFuture;
import java.util.concurrent.ExecutorService;
import java.util.concurrent.Executors;

public class PutObjectFromStreamAsyncMp {
    private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(PutObjectFromStreamAsyncMp.class);

    public static void main(String[] args) {
        String bucketName = "amzn-s3-demo-bucket"; // Replace with your bucket name.
        String key = UUID.randomUUID().toString();

        AsyncExampleUtils.createBucket(bucketName);
        try {
            PutObjectFromStreamAsyncMp example = new PutObjectFromStreamAsyncMp();
            S3AsyncClient s3AsyncClientMp =
 S3AsyncClient.builder().multipartEnabled(true).build();
            PutObjectResponse putObjectResponse =
 example.putObjectFromStreamMp(s3AsyncClientMp, bucketName, key);
            logger.info("Object {} etag: {}", key, putObjectResponse.eTag());
            logger.info("Object {} uploaded to bucket {}.", key, bucketName);
        } catch (SdkException e) {
            logger.error(e.getMessage(), e);
        } finally {
            AsyncExampleUtils.deleteObject(bucketName, key);
            AsyncExampleUtils.deleteBucket(bucketName);
        }
    }

    /**
     * @param s3AsyncClientMp - To upload content from a stream of unknown size, use
 can the S3 asynchronous client with multipart enabled.
     * @param bucketName - The name of the bucket.
     * @param key - The name of the object.
     * @return software.amazon.awssdk.services.s3.model.PutObjectResponse - Returns
 metadata pertaining to the put object operation.
     */
    public PutObjectResponse putObjectFromStreamMp(S3AsyncClient s3AsyncClientMp,
 String bucketName, String key) {
```

```
        // AsyncExampleUtils.randomString() returns a random string up to 100
 characters.
        String randomString = AsyncExampleUtils.randomString();
        logger.info("random string to upload: {}: length={}", randomString,
 randomString.length());
        InputStream inputStream = new ByteArrayInputStream(randomString.getBytes());

        // Executor required to handle reading from the InputStream on a separate
 thread so the main upload is not blocked.
        ExecutorService executor = Executors.newSingleThreadExecutor();
        // Specify `null` for the content length when you don't know the content
 length.
        AsyncRequestBody body = AsyncRequestBody.fromInputStream(inputStream, null,
 executor);

        CompletableFuture<PutObjectResponse> responseFuture =
                s3AsyncClientMp.putObject(r -> r.bucket(bucketName).key(key), body);

        PutObjectResponse response = responseFuture.join(); // Wait for the
 response.
        logger.info("Object {} uploaded to bucket {}.", key, bucketName);
        executor.shutdown();
        return response;
    }
}
```

Amazon S3 Transfer Manager を使用します。

```
import com.example.s3.util.AsyncExampleUtils;
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.core.async.AsyncRequestBody;
import software.amazon.awssdk.core.exception.SdkException;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.S3TransferManager;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.CompletedUpload;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.Upload;

import java.io.ByteArrayInputStream;
import java.io.InputStream;
import java.util.UUID;
```

```
import java.util.concurrent.ExecutorService;
import java.util.concurrent.Executors;

public class UploadStream {
    private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(UploadStream.class);

    public static void main(String[] args) {
        String bucketName = "amzn-s3-demo-bucket"; // Replace with your bucket name.
        String key = UUID.randomUUID().toString();

        AsyncExampleUtils.createBucket(bucketName);
        try {
            UploadStream example = new UploadStream();
            CompletedUpload completedUpload =
 example.uploadStream(S3TransferManager.create(), bucketName, key);
            logger.info("Object {} etag: {}", key,
 completedUpload.response().eTag());
            logger.info("Object {} uploaded to bucket {}.", key, bucketName);
        } catch (SdkException e) {
            logger.error(e.getMessage(), e);
        } finally {
            AsyncExampleUtils.deleteObject(bucketName, key);
            AsyncExampleUtils.deleteBucket(bucketName);
        }
    }

    /**
     * @param transferManager - To upload content from a stream of unknown size, you
 can use the S3TransferManager based on the AWS CRT-based S3 client.
     * @param bucketName - The name of the bucket.
     * @param key - The name of the object.
     * @return - software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.CompletedUpload - The
 result of the completed upload.
     */
    public CompletedUpload uploadStream(S3TransferManager transferManager, String
 bucketName, String key) {

        // AsyncExampleUtils.randomString() returns a random string up to 100
 characters.
        String randomString = AsyncExampleUtils.randomString();
        logger.info("random string to upload: {}: length={}", randomString,
 randomString.length());
        InputStream inputStream = new ByteArrayInputStream(randomString.getBytes());
```

```
        // Executor required to handle reading from the InputStream on a separate
 thread so the main upload is not blocked.
        ExecutorService executor = Executors.newSingleThreadExecutor();
        // Specify `null` for the content length when you don't know the content
 length.
        AsyncRequestBody body = AsyncRequestBody.fromInputStream(inputStream, null,
 executor);

        Upload upload = transferManager.upload(builder -> builder
                .requestBody(body)
                .putObjectRequest(req -> req.bucket(bucketName).key(key))
                .build());

        CompletedUpload completedUpload = upload.completionFuture().join();
        executor.shutdown();
        return completedUpload;
    }
}
```

チェックサムの使用

次のコード例は、チェックサムを使用して Amazon S3 オブジェクトを操作する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

コード例では、以下のインポートのサブセットを使用しています。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.core.exception.SdkException;
import software.amazon.awssdk.core.sync.RequestBody;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ChecksumAlgorithm;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ChecksumMode;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CompletedMultipartUpload;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CompletedPart;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CreateMultipartUploadResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetObjectResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.UploadPartRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.UploadPartResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.waiters.S3Waiter;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.S3TransferManager;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.FileUpload;
import software.amazon.awssdk.transfer.s3.model.UploadFileRequest;

import java.io.FileInputStream;
import java.io.IOException;
import java.io.RandomAccessFile;
import java.net.URISyntaxException;
import java.net.URL;
import java.nio.ByteBuffer;
import java.nio.file.Paths;
import java.security.DigestInputStream;
import java.security.MessageDigest;
import java.security.NoSuchAlgorithmException;
import java.util.ArrayList;
import java.util.Base64;
import java.util.List;
import java.util.Objects;
import java.util.UUID;
```

PutObjectRequest をビルドするときに、putObject メソッドのチェックサムアルゴリズムを指定します。

```
    public void putObjectWithChecksum(String bucketName, String key) {
        s3Client.putObject(b -> b
                .bucket(bucketName)
                .key(key)
                .checksumAlgorithm(ChecksumAlgorithm.CRC32),
            RequestBody.fromString("This is a test"));
    }
```

GetObjectRequest をビルドするときに、getObject メソッドのチェックサムを確認します。

```
    public GetObjectResponse getObjectWithChecksum(String bucketName, String key) {
        return s3Client.getObject(b -> b
                .bucket(bucketName)
                .key(key)
                .checksumMode(ChecksumMode.ENABLED))
            .response();
    }
```

PutObjectRequest をビルドするときに、putObject メソッドのチェックサムを事前に計算します。

```
    public void putObjectWithPrecalculatedChecksum(String bucketName, String key,
String filePath) {
        String checksum = calculateChecksum(filePath, "SHA-256");

        s3Client.putObject((b -> b
                .bucket(bucketName)
                .key(key)
                .checksumSHA256(checksum)),
            RequestBody.fromFile(Paths.get(filePath)));
    }
```

AWS CRT ベースの S3 クライアント上にある S3 Transfer Manager を使用して、コンテンツのサイズがしきい値を超えたときにマルチパートアップロードを透過的に実行します。デフォルトのしきい値は 8 MB です。

SDK で使用するチェックサムアルゴリズムを指定できます。デフォルトでは、SDK は CRC32 アルゴリズムを使用します。

```
    public void multipartUploadWithChecksumTm(String bucketName, String key, String
filePath) {
        S3TransferManager transferManager = S3TransferManager.create();
        UploadFileRequest uploadFileRequest = UploadFileRequest.builder()
            .putObjectRequest(b -> b
                .bucket(bucketName)
                .key(key)
                .checksumAlgorithm(ChecksumAlgorithm.SHA1))
            .source(Paths.get(filePath))
            .build();
```

```
        FileUpload fileUpload = transferManager.uploadFile(uploadFileRequest);
        fileUpload.completionFuture().join();
        transferManager.close();
    }
```

S3Client API または (S3AsyncClient API) を使用してマルチパートアップロードを実行します。追加のチェックサムを指定する場合は、アップロードの開始時に使用するアルゴリズムを指定する必要があります。また、パートリクエストごとにアルゴリズムを指定し、アップロード後にパートごとに計算されたチェックサムを指定する必要があります。

```
   public void multipartUploadWithChecksumS3Client(String bucketName, String key,
String filePath) {
        ChecksumAlgorithm algorithm = ChecksumAlgorithm.CRC32;

        // Initiate the multipart upload.
        CreateMultipartUploadResponse createMultipartUploadResponse =
s3Client.createMultipartUpload(b -> b
            .bucket(bucketName)
            .key(key)
            .checksumAlgorithm(algorithm)); // Checksum specified on initiation.
        String uploadId = createMultipartUploadResponse.uploadId();

        // Upload the parts of the file.
        int partNumber = 1;
        List<CompletedPart> completedParts = new ArrayList<>();
        ByteBuffer bb = ByteBuffer.allocate(1024 * 1024 * 5); // 5 MB byte buffer

        try (RandomAccessFile file = new RandomAccessFile(filePath, "r")) {
            long fileSize = file.length();
            long position = 0;
            while (position < fileSize) {
                file.seek(position);
                long read = file.getChannel().read(bb);

                bb.flip(); // Swap position and limit before reading from the
buffer.
                UploadPartRequest uploadPartRequest = UploadPartRequest.builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .key(key)
                    .uploadId(uploadId)
                    .checksumAlgorithm(algorithm) // Checksum specified on each
part.
```

```
                    .partNumber(partNumber)
                    .build();

                UploadPartResponse partResponse = s3Client.uploadPart(
                    uploadPartRequest,
                    RequestBody.fromByteBuffer(bb));

                CompletedPart part = CompletedPart.builder()
                    .partNumber(partNumber)
                    .checksumCRC32(partResponse.checksumCRC32()) // Provide the
calculated checksum.
                    .eTag(partResponse.eTag())
                    .build();
                completedParts.add(part);

                bb.clear();
                position += read;
                partNumber++;
            }
        } catch (IOException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
        }

        // Complete the multipart upload.
        s3Client.completeMultipartUpload(b -> b
            .bucket(bucketName)
            .key(key)
            .uploadId(uploadId)

.multipartUpload(CompletedMultipartUpload.builder().parts(completedParts).build()));
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - CompleteMultipartUpload
  - CreateMultipartUpload
  - UploadPart

サーバーレスサンプル

Amazon S3 トリガーから Lambda 関数を呼び出す

次のコード例は、S3 バケットにオブジェクトをアップロードすることによってトリガーされるイベントを受け取る Lambda 関数を実装する方法を示しています。この関数は、イベントパラメータから S3 バケット名とオブジェクトキーを取得し、Amazon S3 API を呼び出してオブジェクトのコンテンツタイプを取得してログに記録します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。サーバーレスサンプルリポジトリで完全な例を検索し、設定および実行の方法を確認してください。

Java を使用した Lambda での S3 イベントの消費。

```
// Copyright Amazon.com, Inc. or its affiliates. All Rights Reserved.
// SPDX-License-Identifier: Apache-2.0
package example;

import software.amazon.awssdk.services.s3.model.HeadObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.HeadObjectResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;

import com.amazonaws.services.lambda.runtime.Context;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.RequestHandler;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.S3Event;
import
 com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.models.s3.S3EventNotification.S3EventNotificat

import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;

public class Handler implements RequestHandler<S3Event, String> {
    private static final Logger logger = LoggerFactory.getLogger(Handler.class);
    @Override
    public String handleRequest(S3Event s3event, Context context) {
        try {
          S3EventNotificationRecord record = s3event.getRecords().get(0);
```

```
            String srcBucket = record.getS3().getBucket().getName();
            String srcKey = record.getS3().getObject().getUrlDecodedKey();

            S3Client s3Client = S3Client.builder().build();
            HeadObjectResponse headObject = getHeadObject(s3Client, srcBucket,
 srcKey);

            logger.info("Successfully retrieved " + srcBucket + "/" + srcKey + " of
 type " + headObject.contentType());

            return "Ok";
        } catch (Exception e) {
            throw new RuntimeException(e);
        }
    }

    private HeadObjectResponse getHeadObject(S3Client s3Client, String bucket,
 String key) {
        HeadObjectRequest headObjectRequest = HeadObjectRequest.builder()
                .bucket(bucket)
                .key(key)
                .build();
        return s3Client.headObject(headObjectRequest);
    }
}
```

SDK for Java 2.x を使用する Amazon S3 Control の例

次のコード例は、Amazon S3 Control AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- はじめに
- 基本
- アクション

はじめに

Hello Amazon S3 Control

次のコード例は、Amazon S3 Control の使用を開始する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import
 software.amazon.awssdk.auth.credentials.EnvironmentVariableCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.core.client.config.ClientOverrideConfiguration;
import software.amazon.awssdk.core.retry.RetryMode;
import software.amazon.awssdk.core.retry.RetryPolicy;
import software.amazon.awssdk.http.async.SdkAsyncHttpClient;
import software.amazon.awssdk.http.nio.netty.NettyNioAsyncHttpClient;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3control.S3ControlAsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.s3control.model.JobListDescriptor;
import software.amazon.awssdk.services.s3control.model.JobStatus;
import software.amazon.awssdk.services.s3control.model.ListJobsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3control.paginators.ListJobsPublisher;
import java.time.Duration;
import java.util.List;
import java.util.concurrent.CompletableFuture;
import java.util.concurrent.CompletionException;

/**
 * Before running this example:
 * <p/>
 * The SDK must be able to authenticate AWS requests on your behalf. If you have not
 configured
```

```
 * authentication for SDKs and tools,see https://docs.aws.amazon.com/sdkref/latest/
guide/access.html in the AWS SDKs and Tools Reference Guide.
 * <p/>
 * You must have a runtime environment configured with the Java SDK.
 * See https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/setup.html in
 the Developer Guide if this is not set up.
 */
public class HelloS3Batch {
    private static S3ControlAsyncClient asyncClient;

    public static void main(String[] args) {
        S3BatchActions actions = new S3BatchActions();
        String accountId = actions.getAccountId();
        try {
            listBatchJobsAsync(accountId)
                .exceptionally(ex -> {
                    System.err.println("List batch jobs failed: " +
 ex.getMessage());
                    return null;
                })
                .join();

        } catch (CompletionException ex) {
            System.err.println("Failed to list batch jobs: " + ex.getMessage());
        }
    }

    /**
     * Retrieves the asynchronous S3 Control client instance.
     * <p>
     * This method creates and returns a singleton instance of the {@link
 S3ControlAsyncClient}. If the instance
     * has not been created yet, it will be initialized with the following
 configuration:
     * <ul>
     *   <li>Maximum concurrency: 100</li>
     *   <li>Connection timeout: 60 seconds</li>
     *   <li>Read timeout: 60 seconds</li>
     *   <li>Write timeout: 60 seconds</li>
     *   <li>API call timeout: 2 minutes</li>
     *   <li>API call attempt timeout: 90 seconds</li>
     *   <li>Retry policy: 3 retries</li>
     *   <li>Region: US_EAST_1</li>
```

```
     *   <li>Credentials provider: {@link EnvironmentVariableCredentialsProvider}</
li>
     * </ul>
     *
     * @return the asynchronous S3 Control client instance
     */
    private static S3ControlAsyncClient getAsyncClient() {
        if (asyncClient == null) {
            SdkAsyncHttpClient httpClient = NettyNioAsyncHttpClient.builder()
                .maxConcurrency(100)
                .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .readTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .writeTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .build();

            ClientOverrideConfiguration overrideConfig =
 ClientOverrideConfiguration.builder()
                .apiCallTimeout(Duration.ofMinutes(2))
                .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(90))
                .retryStrategy(RetryMode.STANDARD)
                .build();

            asyncClient = S3ControlAsyncClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .httpClient(httpClient)
                .overrideConfiguration(overrideConfig)
                .build();
        }
        return asyncClient;
    }

    /**
     * Asynchronously lists batch jobs that have completed for the specified
 account.
     *
     * @param accountId the ID of the account to list jobs for
     * @return a CompletableFuture that completes when the job listing operation is
 finished
     */
    public static CompletableFuture<Void> listBatchJobsAsync(String accountId) {
        ListJobsRequest jobsRequest = ListJobsRequest.builder()
            .jobStatuses(JobStatus.COMPLETE)
            .accountId(accountId)
            .maxResults(10)
```

```
            .build();

        ListJobsPublisher publisher =
getAsyncClient().listJobsPaginator(jobsRequest);
        return publisher.subscribe(response -> {
            List<JobListDescriptor> jobs = response.jobs();
            for (JobListDescriptor job : jobs) {
                System.out.println("The job id is " + job.jobId());
                System.out.println("The job priority is " + job.priority());
            }
        }).thenAccept(response -> {
            System.out.println("Listing batch jobs completed");
        }).exceptionally(ex -> {
            System.err.println("Failed to list batch jobs: " + ex.getMessage());
            throw new RuntimeException(ex);
        });
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListJobs」を参照してください。

基本

基本を学ぶ

次のコード例は、Amazon S3 Control のコアオペレーションを学ぶ方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

コアオペレーションについて学びます。

```
package com.example.s3.batch;

import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;
import java.io.IOException;
```

```
import java.util.Map;
import java.util.Scanner;
import java.util.UUID;
import java.util.concurrent.CompletionException;

public class S3BatchScenario {

    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");
    private static final String STACK_NAME = "MyS3Stack";
    public static void main(String[] args) throws IOException {
        S3BatchActions actions = new S3BatchActions();
        String accountId = actions.getAccountId();
        String uuid = java.util.UUID.randomUUID().toString();
        Scanner scanner = new Scanner(System.in);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("Welcome to the Amazon S3 Batch basics scenario.");
        System.out.println("""
            S3 Batch operations enables efficient and cost-effective processing of
 large-scale
            data stored in Amazon S3. It automatically scales resources to handle
 varying workloads
            without the need for manual intervention.

            One of the key features of S3 Batch is its ability to perform tagging
 operations on objects stored in
            S3 buckets. Users can leverage S3 Batch to apply, update, or remove tags
 on thousands or millions of
            objects in a single operation, streamlining the management and
 organization of their data.

            This can be particularly useful for tasks such as cost allocation,
 lifecycle management, or
            metadata-driven workflows, where consistent and accurate tagging is
 essential.
            S3 Batch's scalability and serverless nature make it an ideal solution
 for organizations with
            growing data volumes and complex data management requirements.

            This Java program walks you through Amazon S3 Batch operations.

            Let's get started...

            """);
```

```
        waitForInputToContinue(scanner);
        // Use CloudFormation to stand up the resource required for this scenario.
        System.out.println("Use CloudFormation to stand up the resource required for
 this scenario.");
        CloudFormationHelper.deployCloudFormationStack(STACK_NAME);

        Map<String, String> stackOutputs =
 CloudFormationHelper.getStackOutputs(STACK_NAME);
        String iamRoleArn = stackOutputs.get("S3BatchRoleArn");
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("Setup the required bucket for this scenario.");
        waitForInputToContinue(scanner);
        String bucketName = "amzn-s3-demo-bucket"; // Replace with your bucket name.
        actions.createBucket(bucketName);
        String reportBucketName = "arn:aws:s3:::"+bucketName;
        String manifestLocation = "arn:aws:s3:::"+bucketName+"/job-manifest.csv";
        System.out.println("Populate the bucket with the required files.");
        String[] fileNames = {"job-manifest.csv", "object-key-1.txt", "object-
key-2.txt", "object-key-3.txt", "object-key-4.txt"};
        actions.uploadFilesToBucket(bucketName, fileNames, actions);
        waitForInputToContinue(scanner);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("1. Create a S3 Batch Job");
        System.out.println("This job tags all objects listed in the manifest file
 with tags");
        waitForInputToContinue(scanner);
        String jobId ;
        try {
            jobId = actions.createS3JobAsync(accountId, iamRoleArn,
 manifestLocation, reportBucketName, uuid).join();
            System.out.println("The Job id is " + jobId);

        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println("SSM error: " + e.getMessage());
            return;
        } catch (RuntimeException e) {
            System.err.println("Unexpected error: " + e.getMessage());
            return;
        }
```

```
        waitForInputToContinue(scanner);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("2. Update an existing S3 Batch Operations job's
priority");
        System.out.println("""
             In this step, we modify the job priority value. The higher the number,
the higher the priority.
             So, a job with a priority of `30` would have a higher priority than a
job with
             a priority of `20`. This is a common way to represent the priority of a
task
             or job, with higher numbers indicating a higher priority.

             Ensure that the job status allows for priority updates. Jobs in
certain
             states (e.g., Cancelled, Failed, or Completed) cannot have their
priorities
             updated. Only jobs in the Active or Suspended state typically allow
priority
             updates.
             """);

        try {
            actions.updateJobPriorityAsync(jobId, accountId)
                .exceptionally(ex -> {
                    System.err.println("Update job priority failed: " +
ex.getMessage());
                    return null;
                })
                .join();
        } catch (CompletionException ex) {
            System.err.println("Failed to update job priority: " + ex.getMessage());
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("3. Cancel the S3 Batch job");
        System.out.print("Do you want to cancel the Batch job? (y/n): ");
        String cancelAns = scanner.nextLine();
        if (cancelAns != null && cancelAns.trim().equalsIgnoreCase("y")) {
            try {
```

```
                actions.cancelJobAsync(jobId, accountId)
                    .exceptionally(ex -> {
                        System.err.println("Cancel job failed: " + ex.getMessage());
                        return null;
                    })
                    .join();
            } catch (CompletionException ex) {
                System.err.println("Failed to cancel job: " + ex.getMessage());
            }
        } else {
            System.out.println("Job " +jobId +" was not canceled.");
        }
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("4. Describe the job that was just created");
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            actions.describeJobAsync(jobId, accountId)
                .exceptionally(ex -> {
                    System.err.println("Describe job failed: " + ex.getMessage());
                    return null;
                })
                .join();
        } catch (CompletionException ex) {
            System.err.println("Failed to describe job: " + ex.getMessage());
        }
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("5. Describe the tags associated with the job");
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            actions.getJobTagsAsync(jobId, accountId)
                .exceptionally(ex -> {
                    System.err.println("Get job tags failed: " + ex.getMessage());
                    return null;
                })
                .join();
        } catch (CompletionException ex) {
            System.err.println("Failed to get job tags: " + ex.getMessage());
        }
        System.out.println(DASHES);
```

```
        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("6. Update Batch Job Tags");
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            actions.putJobTaggingAsync(jobId, accountId)
                .exceptionally(ex -> {
                    System.err.println("Put job tagging failed: " +
ex.getMessage());
                    return null;
                })
                .join();
        } catch (CompletionException ex) {
            System.err.println("Failed to put job tagging: " + ex.getMessage());
        }
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("7. Delete the Amazon S3 Batch job tagging.");
        System.out.print("Do you want to delete Batch job tagging? (y/n)");
        String delAns = scanner.nextLine();
        if (delAns != null && delAns.trim().equalsIgnoreCase("y")) {
            try {
                actions.deleteBatchJobTagsAsync(jobId, accountId)
                    .exceptionally(ex -> {
                        System.err.println("Delete batch job tags failed: " +
ex.getMessage());
                        return null;
                    })
                    .join();
            } catch (CompletionException ex) {
                System.err.println("Failed to delete batch job tags: " +
ex.getMessage());
            }
        } else {
            System.out.println("Tagging was not deleted.");
        }
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.print("Do you want to delete the AWS resources used in this
scenario? (y/n)");
        String delResAns = scanner.nextLine();
        if (delResAns != null && delResAns.trim().equalsIgnoreCase("y")) {
            actions.deleteFilesFromBucket(bucketName, fileNames, actions);
```

```
            actions.deleteBucketFolderAsync(bucketName);
            actions.deleteBucket(bucketName)
                .thenRun(() -> System.out.println("Bucket deletion completed"))
                .exceptionally(ex -> {
                    System.err.println("Error occurred: " + ex.getMessage());
                    return null;
                });
            CloudFormationHelper.destroyCloudFormationStack(STACK_NAME);
        } else {
            System.out.println("The AWS resources were not deleted.");
        }
        System.out.println("The Amazon S3 Batch scenario has successfully
 completed.");
        System.out.println(DASHES);
    }

    private static void waitForInputToContinue(Scanner scanner) {
        while (true) {
            System.out.println();
            System.out.println("Enter 'c' followed by <ENTER> to continue:");
            String input = scanner.nextLine();

            if (input.trim().equalsIgnoreCase("c")) {
                System.out.println("Continuing with the program...");
                System.out.println();
                break;
            } else {
                // Handle invalid input.
                System.out.println("Invalid input. Please try again.");
            }
        }
    }


}
```

オペレーションをラップするアクションクラス。

```
public class S3BatchActions {

    private static S3ControlAsyncClient asyncClient;
```

```
    private static S3AsyncClient s3AsyncClient ;
    /**
     * Retrieves the asynchronous S3 Control client instance.
     * <p>
     * This method creates and returns a singleton instance of the {@link
 S3ControlAsyncClient}. If the instance
     * has not been created yet, it will be initialized with the following
 configuration:
     * <ul>
     *   <li>Maximum concurrency: 100</li>
     *   <li>Connection timeout: 60 seconds</li>
     *   <li>Read timeout: 60 seconds</li>
     *   <li>Write timeout: 60 seconds</li>
     *   <li>API call timeout: 2 minutes</li>
     *   <li>API call attempt timeout: 90 seconds</li>
     *   <li>Retry policy: 3 retries</li>
     *   <li>Region: US_EAST_1</li>
     *   <li>Credentials provider: {@link EnvironmentVariableCredentialsProvider}</
li>
     * </ul>
     *
     * @return the asynchronous S3 Control client instance
     */
    private static S3ControlAsyncClient getAsyncClient() {
        if (asyncClient == null) {
            SdkAsyncHttpClient httpClient = NettyNioAsyncHttpClient.builder()
                .maxConcurrency(100)
                .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .readTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .writeTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .build();

            ClientOverrideConfiguration overrideConfig =
 ClientOverrideConfiguration.builder()
                .apiCallTimeout(Duration.ofMinutes(2))
                .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(90))
                .retryPolicy(RetryPolicy.builder()
                    .numRetries(3)
                    .build())
                .build();

            asyncClient = S3ControlAsyncClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .httpClient(httpClient)
```

```
                .overrideConfiguration(overrideConfig)
                .build();
        }
        return asyncClient;
    }

    private static S3AsyncClient getS3AsyncClient() {
        if (asyncClient == null) {
            SdkAsyncHttpClient httpClient = NettyNioAsyncHttpClient.builder()
                .maxConcurrency(100)
                .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .readTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .writeTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .build();

            ClientOverrideConfiguration overrideConfig =
ClientOverrideConfiguration.builder()
                .apiCallTimeout(Duration.ofMinutes(2))
                .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(90))
                .retryStrategy(RetryMode.STANDARD)
                .build();

            s3AsyncClient = S3AsyncClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .httpClient(httpClient)
                .overrideConfiguration(overrideConfig)
                .build();
        }
        return s3AsyncClient;
    }


    /**
     * Cancels a job asynchronously.
     *
     * @param jobId The ID of the job to be canceled.
     * @param accountId The ID of the account associated with the job.
     * @return A {@link CompletableFuture} that completes when the job status has
been updated to "CANCELLED".
     *         If an error occurs during the update, the returned future will
complete exceptionally.
     */
    public CompletableFuture<Void> cancelJobAsync(String jobId, String accountId) {
```

```
        UpdateJobStatusRequest updateJobStatusRequest =
UpdateJobStatusRequest.builder()
            .accountId(accountId)
            .jobId(jobId)
            .requestedJobStatus(String.valueOf(JobStatus.CANCELLED))
            .build();

        return asyncClient.updateJobStatus(updateJobStatusRequest)
            .thenAccept(updateJobStatusResponse -> {
                System.out.println("Job status updated to: " +
updateJobStatusResponse.status());
            })
            .exceptionally(ex -> {
                System.err.println("Failed to cancel job: " + ex.getMessage());
                throw new RuntimeException(ex); // Propagate the exception
            });
    }

    /**
     * Updates the priority of a job asynchronously.
     *
     * @param jobId     the ID of the job to update
     * @param accountId the ID of the account associated with the job
     * @return a {@link CompletableFuture} that represents the asynchronous
operation, which completes when the job priority has been updated or an error has
occurred
     */
    public CompletableFuture<Void> updateJobPriorityAsync(String jobId, String
accountId) {
        UpdateJobPriorityRequest priorityRequest =
UpdateJobPriorityRequest.builder()
            .accountId(accountId)
            .jobId(jobId)
            .priority(60)
            .build();

        CompletableFuture<Void> future = new CompletableFuture<>();
        getAsyncClient().updateJobPriority(priorityRequest)
            .thenAccept(response -> {
                System.out.println("The job priority was updated");
                future.complete(null); // Complete the CompletableFuture on
successful execution
            })
            .exceptionally(ex -> {
```

```
                System.err.println("Failed to update job priority: " +
ex.getMessage());
                future.completeExceptionally(ex); // Complete the CompletableFuture
exceptionally on error
                return null; // Return null to handle the exception
            });

        return future;
    }

    /**
     * Asynchronously retrieves the tags associated with a specific job in an AWS
account.
     *
     * @param jobId     the ID of the job for which to retrieve the tags
     * @param accountId the ID of the AWS account associated with the job
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the job tags have
been retrieved, or with an exception if the operation fails
     * @throws RuntimeException if an error occurs while retrieving the job tags
     */
    public CompletableFuture<Void> getJobTagsAsync(String jobId, String accountId) {
        GetJobTaggingRequest request = GetJobTaggingRequest.builder()
            .jobId(jobId)
            .accountId(accountId)
            .build();

        return asyncClient.getJobTagging(request)
            .thenAccept(response -> {
                List<S3Tag> tags = response.tags();
                if (tags.isEmpty()) {
                    System.out.println("No tags found for job ID: " + jobId);
                } else {
                    for (S3Tag tag : tags) {
                        System.out.println("Tag key is: " + tag.key());
                        System.out.println("Tag value is: " + tag.value());
                    }
                }
            })
            .exceptionally(ex -> {
                System.err.println("Failed to get job tags: " + ex.getMessage());
                throw new RuntimeException(ex); // Propagate the exception
            });
    }
```

```
   /**
    * Asynchronously deletes the tags associated with a specific batch job.
    *
    * @param jobId     The ID of the batch job whose tags should be deleted.
    * @param accountId The ID of the account associated with the batch job.
    * @return A CompletableFuture that completes when the job tags have been
successfully deleted, or an exception is thrown if the deletion fails.
    */
   public CompletableFuture<Void> deleteBatchJobTagsAsync(String jobId, String
accountId) {
       DeleteJobTaggingRequest jobTaggingRequest =
DeleteJobTaggingRequest.builder()
           .accountId(accountId)
           .jobId(jobId)
           .build();

       return asyncClient.deleteJobTagging(jobTaggingRequest)
           .thenAccept(response -> {
               System.out.println("You have successfully deleted " + jobId + "
tagging.");
           })
           .exceptionally(ex -> {
               System.err.println("Failed to delete job tags: " + ex.getMessage());
               throw new RuntimeException(ex);
           });
   }

   /**
    * Asynchronously describes the specified job.
    *
    * @param jobId     the ID of the job to describe
    * @param accountId the ID of the AWS account associated with the job
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the job description
is available
    * @throws RuntimeException if an error occurs while describing the job
    */
   public CompletableFuture<Void> describeJobAsync(String jobId, String accountId)
{
       DescribeJobRequest jobRequest = DescribeJobRequest.builder()
           .jobId(jobId)
           .accountId(accountId)
           .build();

       return getAsyncClient().describeJob(jobRequest)
```

```
            .thenAccept(response -> {
                System.out.println("Job ID: " + response.job().jobId());
                System.out.println("Description: " + response.job().description());
                System.out.println("Status: " + response.job().statusAsString());
                System.out.println("Role ARN: " + response.job().roleArn());
                System.out.println("Priority: " + response.job().priority());
                System.out.println("Progress Summary: " +
response.job().progressSummary());

                // Print out details about the job manifest.
                JobManifest manifest = response.job().manifest();
                System.out.println("Manifest Location: " +
manifest.location().objectArn());
                System.out.println("Manifest ETag: " + manifest.location().eTag());

                // Print out details about the job operation.
                JobOperation operation = response.job().operation();
                if (operation.s3PutObjectTagging() != null) {
                    System.out.println("Operation: S3 Put Object Tagging");
                    System.out.println("Tag Set: " +
operation.s3PutObjectTagging().tagSet());
                }

                // Print out details about the job report.
                JobReport report = response.job().report();
                System.out.println("Report Bucket: " + report.bucket());
                System.out.println("Report Prefix: " + report.prefix());
                System.out.println("Report Format: " + report.format());
                System.out.println("Report Enabled: " + report.enabled());
                System.out.println("Report Scope: " + report.reportScopeAsString());
            })
            .exceptionally(ex -> {
                System.err.println("Failed to describe job: " + ex.getMessage());
                throw new RuntimeException(ex);
            });
    }

    /**
     * Creates an asynchronous S3 job using the AWS Java SDK.
     *
     * @param accountId         the AWS account ID associated with the job
     * @param iamRoleArn        the ARN of the IAM role to be used for the job
     * @param manifestLocation  the location of the job manifest file in S3
     * @param reportBucketName  the name of the S3 bucket to store the job report
```

```
     * @param uuid              a unique identifier for the job
     * @return a CompletableFuture that represents the asynchronous creation of the
 S3 job.
     *         The CompletableFuture will return the job ID if the job is created
 successfully,
     *         or throw an exception if there is an error.
     */
    public CompletableFuture<String> createS3JobAsync(String accountId, String
 iamRoleArn,
                                                       String manifestLocation,
 String reportBucketName, String uuid) {

        String[] bucketName = new String[]{""};
        String[] parts = reportBucketName.split(":::");
        if (parts.length > 1) {
            bucketName[0] = parts[1];
        } else {
            System.out.println("The input string does not contain the expected
 format.");
        }

        return CompletableFuture.supplyAsync(() -> getETag(bucketName[0], "job-
manifest.csv"))
            .thenCompose(eTag -> {
                  ArrayList<S3Tag> tagSet = new ArrayList<>();
                S3Tag s3Tag = S3Tag.builder()
                    .key("keyOne")
                    .value("ValueOne")
                    .build();
                S3Tag s3Tag2 = S3Tag.builder()
                    .key("keyTwo")
                    .value("ValueTwo")
                    .build();
                tagSet.add(s3Tag);
                tagSet.add(s3Tag2);

                S3SetObjectTaggingOperation objectTaggingOperation =
 S3SetObjectTaggingOperation.builder()
                    .tagSet(tagSet)
                    .build();

                JobOperation jobOperation = JobOperation.builder()
                    .s3PutObjectTagging(objectTaggingOperation)
                    .build();
```

```
                JobManifestLocation jobManifestLocation =
JobManifestLocation.builder()
                    .objectArn(manifestLocation)
                    .eTag(eTag)
                    .build();

                JobManifestSpec manifestSpec = JobManifestSpec.builder()
                    .fieldsWithStrings("Bucket", "Key")
                    .format("S3BatchOperations_CSV_20180820")
                    .build();

                JobManifest jobManifest = JobManifest.builder()
                    .spec(manifestSpec)
                    .location(jobManifestLocation)
                    .build();

                JobReport jobReport = JobReport.builder()
                    .bucket(reportBucketName)
                    .prefix("reports")
                    .format("Report_CSV_20180820")
                    .enabled(true)
                    .reportScope("AllTasks")
                    .build();

                CreateJobRequest jobRequest = CreateJobRequest.builder()
                    .accountId(accountId)
                    .description("Job created using the AWS Java SDK")
                    .manifest(jobManifest)
                    .operation(jobOperation)
                    .report(jobReport)
                    .priority(42)
                    .roleArn(iamRoleArn)
                    .clientRequestToken(uuid)
                    .confirmationRequired(false)
                    .build();

                // Create the job asynchronously.
                 return getAsyncClient().createJob(jobRequest)
                    .thenApply(CreateJobResponse::jobId);
                 })
                 .handle((jobId, ex) -> {
                    if (ex != null) {
```

```
                    Throwable cause = (ex instanceof CompletionException) ?
ex.getCause() : ex;
                    if (cause instanceof S3ControlException) {
                        throw new CompletionException(cause);
                    } else {
                        throw new RuntimeException(cause);
                    }
                }
                return jobId;
            });
    }

    /**
     * Retrieves the ETag (Entity Tag) for an object stored in an Amazon S3 bucket.
     *
     * @param bucketName the name of the Amazon S3 bucket where the object is stored
     * @param key the key (file name) of the object in the Amazon S3 bucket
     * @return the ETag of the object
     */
    public String getETag(String bucketName, String key) {
        S3Client s3Client = S3Client.builder()
            .region(Region.US_EAST_1)
            .build();

        HeadObjectRequest headObjectRequest = HeadObjectRequest.builder()
            .bucket(bucketName)
            .key(key)
            .build();

        HeadObjectResponse headObjectResponse =
s3Client.headObject(headObjectRequest);
        return headObjectResponse.eTag();
    }

    /**
     * Asynchronously adds tags to a job in the system.
     *
     * @param jobId     the ID of the job to add tags to
     * @param accountId the account ID associated with the job
     * @return a CompletableFuture that completes when the tagging operation is
finished
     */
    public CompletableFuture<Void> putJobTaggingAsync(String jobId, String
accountId) {
```

```
        S3Tag departmentTag = S3Tag.builder()
            .key("department")
            .value("Marketing")
            .build();

        S3Tag fiscalYearTag = S3Tag.builder()
            .key("FiscalYear")
            .value("2020")
            .build();

        PutJobTaggingRequest putJobTaggingRequest = PutJobTaggingRequest.builder()
            .jobId(jobId)
            .accountId(accountId)
            .tags(departmentTag, fiscalYearTag)
            .build();

        return asyncClient.putJobTagging(putJobTaggingRequest)
            .thenRun(() -> {
                System.out.println("Additional Tags were added to job " + jobId);
            })
            .exceptionally(ex -> {
                System.err.println("Failed to add tags to job: " + ex.getMessage());
                throw new RuntimeException(ex); // Propagate the exception
            });
    }

    // Setup the S3 bucket required for this scenario.
    /**
     * Creates an Amazon S3 bucket with the specified name.
     *
     * @param bucketName the name of the S3 bucket to create
     * @throws S3Exception if there is an error creating the bucket
     */
    public void createBucket(String bucketName) {
        try {
            S3Client s3Client = S3Client.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();


            S3Waiter s3Waiter = s3Client.waiter();
            CreateBucketRequest bucketRequest = CreateBucketRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .build();
```

```
            s3Client.createBucket(bucketRequest);
            HeadBucketRequest bucketRequestWait = HeadBucketRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .build();

            // Wait until the bucket is created and print out the response.
            WaiterResponse<HeadBucketResponse> waiterResponse =
s3Waiter.waitUntilBucketExists(bucketRequestWait);
            waiterResponse.matched().response().ifPresent(System.out::println);
            System.out.println(bucketName + " is ready");

        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    /**
     * Uploads a file to an Amazon S3 bucket asynchronously.
     *
     * @param bucketName the name of the S3 bucket to upload the file to
     * @param fileName the name of the file to be uploaded
     * @throws RuntimeException if an error occurs during the file upload
     */
    public void populateBucket(String bucketName, String fileName) {
        // Define the path to the directory.
        Path filePath = Paths.get("src/main/resources/batch/",
fileName).toAbsolutePath();
        PutObjectRequest putOb = PutObjectRequest.builder()
            .bucket(bucketName)
            .key(fileName)
            .build();

        CompletableFuture<PutObjectResponse> future =
getS3AsyncClient().putObject(putOb, AsyncRequestBody.fromFile(filePath));
        future.whenComplete((result, ex) -> {
            if (ex != null) {
                System.err.println("Error uploading file: " + ex.getMessage());
            } else {
                System.out.println("Successfully placed " + fileName + " into bucket
" + bucketName);
            }
        }).join();
```

```
    }


    // Update the bucketName in CSV.
    public void updateCSV(String newValue) {
        Path csvFilePath = Paths.get("src/main/resources/batch/job-
manifest.csv").toAbsolutePath();
        try {
            // Read all lines from the CSV file.
            List<String> lines = Files.readAllLines(csvFilePath);

            // Update the first value in each line.
            List<String> updatedLines = lines.stream()
                .map(line -> {
                    String[] parts = line.split(",");
                    parts[0] = newValue;
                    return String.join(",", parts);
                })
                .collect(Collectors.toList());

            // Write the updated lines back to the CSV file
            Files.write(csvFilePath, updatedLines);
            System.out.println("CSV file updated successfully.");
        } catch (Exception e) {
            e.printStackTrace();
        }
    }

    /**
     * Deletes an object from an Amazon S3 bucket asynchronously.
     *
     * @param bucketName The name of the S3 bucket where the object is stored.
     * @param objectName The name of the object to be deleted.
     * @return A {@link CompletableFuture} that completes when the object has been
 deleted,
     *         or throws a {@link RuntimeException} if an error occurs during the
 deletion.
     */
    public CompletableFuture<Void> deleteBucketObjects(String bucketName, String
 objectName) {
        ArrayList<ObjectIdentifier> toDelete = new ArrayList<>();
        toDelete.add(ObjectIdentifier.builder()
            .key(objectName)
            .build());
```

```
        DeleteObjectsRequest dor = DeleteObjectsRequest.builder()
            .bucket(bucketName)
            .delete(Delete.builder()
                .objects(toDelete).build())
            .build();

        return getS3AsyncClient().deleteObjects(dor)
            .thenAccept(result -> {
                System.out.println("The object was deleted!");
            })
            .exceptionally(ex -> {
                throw new RuntimeException("Error deleting object: " +
ex.getMessage(), ex);
            });
    }

    /**
     * Deletes a folder and all its contents asynchronously from an Amazon S3
bucket.
     *
     * @param bucketName the name of the S3 bucket containing the folder to be
deleted
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the folder and its
contents have been deleted
     * @throws RuntimeException if any error occurs during the deletion process
     */
    public void deleteBucketFolderAsync(String bucketName) {
        String folderName = "reports/";
        ListObjectsV2Request request = ListObjectsV2Request.builder()
            .bucket(bucketName)
            .prefix(folderName)
            .build();

        CompletableFuture<ListObjectsV2Response> listObjectsFuture =
getS3AsyncClient().listObjectsV2(request);
        listObjectsFuture.thenCompose(response -> {
            List<CompletableFuture<DeleteObjectResponse>> deleteFutures =
response.contents().stream()
                .map(obj -> {
                    DeleteObjectRequest deleteRequest =
DeleteObjectRequest.builder()
                        .bucket(bucketName)
                        .key(obj.key())
```

```
                        .build();
                    return getS3AsyncClient().deleteObject(deleteRequest)
                        .thenApply(deleteResponse -> {
                            System.out.println("Deleted object: " + obj.key());
                            return deleteResponse;
                        });
                })
                .collect(Collectors.toList());

            return CompletableFuture.allOf(deleteFutures.toArray(new
CompletableFuture[0]))
                .thenCompose(v -> {
                    // Delete the folder.
                    DeleteObjectRequest deleteRequest =
DeleteObjectRequest.builder()
                        .bucket(bucketName)
                        .key(folderName)
                        .build();
                    return getS3AsyncClient().deleteObject(deleteRequest)
                        .thenApply(deleteResponse -> {
                            System.out.println("Deleted folder: " + folderName);
                            return deleteResponse;
                        });
                });
        }).join();
    }

    /**
     * Deletes an Amazon S3 bucket.
     *
     * @param bucketName the name of the bucket to delete
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the bucket has been
deleted, or exceptionally if there is an error
     * @throws RuntimeException if there is an error deleting the bucket
     */
    public CompletableFuture<Void> deleteBucket(String bucketName) {
        S3AsyncClient s3Client = getS3AsyncClient();
        return s3Client.deleteBucket(DeleteBucketRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .build())
            .thenAccept(deleteBucketResponse -> {
                System.out.println(bucketName + " was deleted");
            })
            .exceptionally(ex -> {
```

```
                // Handle the exception or rethrow it.
                throw new RuntimeException("Failed to delete bucket: " + bucketName,
ex);
            });
    }

    /**
     * Uploads a set of files to an Amazon S3 bucket.
     *
     * @param bucketName the name of the S3 bucket to upload the files to
     * @param fileNames an array of file names to be uploaded
     * @param actions an instance of {@link S3BatchActions} that provides the
implementation for the necessary S3 operations
     * @throws IOException if there's an error creating the text files or uploading
the files to the S3 bucket
     */
    public static void uploadFilesToBucket(String bucketName, String[] fileNames,
S3BatchActions actions) throws IOException {
        actions.updateCSV(bucketName);
        createTextFiles(fileNames);
        for (String fileName : fileNames) {
            actions.populateBucket(bucketName, fileName);
        }
        System.out.println("All files are placed in the S3 bucket " + bucketName);
    }

    /**
     * Deletes the specified files from the given S3 bucket.
     *
     * @param bucketName the name of the S3 bucket
     * @param fileNames an array of file names to be deleted from the bucket
     * @param actions the S3BatchActions instance to be used for the file deletion
     * @throws IOException if an I/O error occurs during the file deletion
     */
    public void deleteFilesFromBucket(String bucketName, String[] fileNames,
S3BatchActions actions) throws IOException {
        for (String fileName : fileNames) {
                    actions.deleteBucketObjects(bucketName, fileName)
                   .thenRun(() -> System.out.println("Object deletion completed"))
                   .exceptionally(ex -> {
                       System.err.println("Error occurred: " + ex.getMessage());
                       return null;
                   });
        }
```

```
        System.out.println("All files have been deleted from the bucket " +
bucketName);
    }

    public static void createTextFiles(String[] fileNames) {
        String currentDirectory = System.getProperty("user.dir");
        String directoryPath = currentDirectory + "\\src\\main\\resources\\batch";
        Path path = Paths.get(directoryPath);

        try {
            // Create the directory if it doesn't exist.
            if (Files.notExists(path)) {
                Files.createDirectories(path);
                System.out.println("Created directory: " + path.toString());
            } else {
                System.out.println("Directory already exists: " + path.toString());
            }

            for (String fileName : fileNames) {
                // Check if the file is a .txt file.
                if (fileName.endsWith(".txt")) {
                    // Define the path for the new file.
                    Path filePath = path.resolve(fileName);
                    System.out.println("Attempting to create file: " +
filePath.toString());

                    // Create and write content to the new file.
                    Files.write(filePath, "This is a test".getBytes());

                    // Verify the file was created.
                    if (Files.exists(filePath)) {
                        System.out.println("Successfully created file: " +
filePath.toString());
                    } else {
                        System.out.println("Failed to create file: " +
filePath.toString());
                    }
                }
            }

        } catch (IOException e) {
            System.err.println("An error occurred: " + e.getMessage());
            e.printStackTrace();
        }
```

```
    }

    public String getAccountId() {
        StsClient stsClient = StsClient.builder()
            .region(Region.US_EAST_1)
            .build();

        GetCallerIdentityResponse callerIdentityResponse =
 stsClient.getCallerIdentity();
        return callerIdentityResponse.account();
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - CreateJob
  - DeleteJobTagging
  - DescribeJob
  - GetJobTagging
  - ListJobs
  - PutJobTagging
  - UpdateJobPriority
  - UpdateJobStatus

アクション

`CreateJob`

次のコード例は、`CreateJob` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

非同期 S3 ジョブを作成します。

```
    /**
     * Creates an asynchronous S3 job using the AWS Java SDK.
     *
     * @param accountId         the AWS account ID associated with the job
     * @param iamRoleArn        the ARN of the IAM role to be used for the job
     * @param manifestLocation  the location of the job manifest file in S3
     * @param reportBucketName  the name of the S3 bucket to store the job report
     * @param uuid              a unique identifier for the job
     * @return a CompletableFuture that represents the asynchronous creation of the
 S3 job.
     *         The CompletableFuture will return the job ID if the job is created
 successfully,
     *         or throw an exception if there is an error.
     */
    public CompletableFuture<String> createS3JobAsync(String accountId, String
 iamRoleArn,
                                                       String manifestLocation,
 String reportBucketName, String uuid) {

        String[] bucketName = new String[]{""};
        String[] parts = reportBucketName.split(":::");
        if (parts.length > 1) {
            bucketName[0] = parts[1];
        } else {
            System.out.println("The input string does not contain the expected
 format.");
        }

        return CompletableFuture.supplyAsync(() -> getETag(bucketName[0], "job-
manifest.csv"))
            .thenCompose(eTag -> {
                  ArrayList<S3Tag> tagSet = new ArrayList<>();
                S3Tag s3Tag = S3Tag.builder()
                    .key("keyOne")
                    .value("ValueOne")
                    .build();
                S3Tag s3Tag2 = S3Tag.builder()
                    .key("keyTwo")
                    .value("ValueTwo")
                    .build();
                tagSet.add(s3Tag);
                tagSet.add(s3Tag2);
```

```
                S3SetObjectTaggingOperation objectTaggingOperation =
S3SetObjectTaggingOperation.builder()
                    .tagSet(tagSet)
                    .build();

                JobOperation jobOperation = JobOperation.builder()
                    .s3PutObjectTagging(objectTaggingOperation)
                    .build();

                JobManifestLocation jobManifestLocation =
JobManifestLocation.builder()
                    .objectArn(manifestLocation)
                    .eTag(eTag)
                    .build();

                JobManifestSpec manifestSpec = JobManifestSpec.builder()
                    .fieldsWithStrings("Bucket", "Key")
                    .format("S3BatchOperations_CSV_20180820")
                    .build();

                JobManifest jobManifest = JobManifest.builder()
                    .spec(manifestSpec)
                    .location(jobManifestLocation)
                    .build();

                JobReport jobReport = JobReport.builder()
                    .bucket(reportBucketName)
                    .prefix("reports")
                    .format("Report_CSV_20180820")
                    .enabled(true)
                    .reportScope("AllTasks")
                    .build();

                CreateJobRequest jobRequest = CreateJobRequest.builder()
                    .accountId(accountId)
                    .description("Job created using the AWS Java SDK")
                    .manifest(jobManifest)
                    .operation(jobOperation)
                    .report(jobReport)
                    .priority(42)
                    .roleArn(iamRoleArn)
                    .clientRequestToken(uuid)
                    .confirmationRequired(false)
```

```
                    .build();

                // Create the job asynchronously.
                 return getAsyncClient().createJob(jobRequest)
                    .thenApply(CreateJobResponse::jobId);
                 })
                 .handle((jobId, ex) -> {
                    if (ex != null) {
                    Throwable cause = (ex instanceof CompletionException) ?
 ex.getCause() : ex;
                    if (cause instanceof S3ControlException) {
                        throw new CompletionException(cause);
                    } else {
                        throw new RuntimeException(cause);
                    }
                }
                return jobId;
            });
    }
```

コンプライアンス保持ジョブを作成します。

```
    /**
     * Creates a compliance retention job in Amazon S3 Control.
     * <p>
     * A compliance retention job in Amazon S3 Control is a feature that allows you
 to
     * set a retention period for objects stored in an S3 bucket.
     * This feature is particularly useful for organizations that need to comply
 with
     * regulatory requirements or internal policies that mandate the retention of
 data for
     * a specific duration.
     *
     * @param s3ControlClient The S3ControlClient instance to use for the API call.
     * @return The job ID of the created compliance retention job.
     */
    public static String createComplianceRetentionJob(final S3ControlClient
 s3ControlClient, String roleArn, String bucketName, String accountId) {
        final String manifestObjectArn = "arn:aws:s3:::amzn-s3-demo-manifest-bucket/
compliance-objects-manifest.csv";
```

```
        final String manifestObjectVersionId = "your-object-version-Id";

        Instant jan2025 = Instant.parse("2025-01-01T00:00:00Z");
        JobOperation jobOperation = JobOperation.builder()
            .s3PutObjectRetention(S3SetObjectRetentionOperation.builder()
                .retention(S3Retention.builder()
                    .mode(S3ObjectLockRetentionMode.COMPLIANCE)
                    .retainUntilDate(jan2025)
                    .build())
                .build())
            .build();

        JobManifestLocation manifestLocation = JobManifestLocation.builder()
            .objectArn(manifestObjectArn)
            .eTag(manifestObjectVersionId)
            .build();

        JobManifestSpec manifestSpec = JobManifestSpec.builder()
            .fieldsWithStrings("Bucket", "Key")
            .format("S3BatchOperations_CSV_20180820")
            .build();

        JobManifest manifestToPublicApi = JobManifest.builder()
            .location(manifestLocation)
            .spec(manifestSpec)
            .build();

        // Report details.
        final String jobReportBucketArn = "arn:aws:s3:::" + bucketName;
        final String jobReportPrefix = "reports/compliance-objects-bops";

        JobReport jobReport = JobReport.builder()
            .enabled(true)
            .reportScope(JobReportScope.ALL_TASKS)
            .bucket(jobReportBucketArn)
            .prefix(jobReportPrefix)
            .format(JobReportFormat.REPORT_CSV_20180820)
            .build();

        final Boolean requiresConfirmation = true;
        final int priority = 10;
        CreateJobRequest request = CreateJobRequest.builder()
            .accountId(accountId)
            .description("Set compliance retain-until to 1 Jan 2025")
```

```
            .manifest(manifestToPublicApi)
            .operation(jobOperation)
            .priority(priority)
            .roleArn(roleArn)
            .report(jobReport)
            .confirmationRequired(requiresConfirmation)
            .build();

        // Create the job and get the result.
        CreateJobResponse result = s3ControlClient.createJob(request);
        return result.jobId();
    }
```

リーガルホールド解除ジョブを作成します。

```
    /**
     * Creates a compliance retention job in Amazon S3 Control.
     * <p>
     * A compliance retention job in Amazon S3 Control is a feature that allows you
 to
     * set a retention period for objects stored in an S3 bucket.
     * This feature is particularly useful for organizations that need to comply
 with
     * regulatory requirements or internal policies that mandate the retention of
 data for
     * a specific duration.
     *
     * @param s3ControlClient The S3ControlClient instance to use for the API call.
     * @return The job ID of the created compliance retention job.
     */
    public static String createComplianceRetentionJob(final S3ControlClient
 s3ControlClient, String roleArn, String bucketName, String accountId) {
        final String manifestObjectArn = "arn:aws:s3:::amzn-s3-demo-manifest-bucket/
compliance-objects-manifest.csv";
        final String manifestObjectVersionId = "your-object-version-Id";

        Instant jan2025 = Instant.parse("2025-01-01T00:00:00Z");
        JobOperation jobOperation = JobOperation.builder()
            .s3PutObjectRetention(S3SetObjectRetentionOperation.builder()
                .retention(S3Retention.builder()
                    .mode(S3ObjectLockRetentionMode.COMPLIANCE)
```

```
                .retainUntilDate(jan2025)
                .build())
            .build())
        .build();

JobManifestLocation manifestLocation = JobManifestLocation.builder()
    .objectArn(manifestObjectArn)
    .eTag(manifestObjectVersionId)
    .build();

JobManifestSpec manifestSpec = JobManifestSpec.builder()
    .fieldsWithStrings("Bucket", "Key")
    .format("S3BatchOperations_CSV_20180820")
    .build();

JobManifest manifestToPublicApi = JobManifest.builder()
    .location(manifestLocation)
    .spec(manifestSpec)
    .build();

// Report details.
final String jobReportBucketArn = "arn:aws:s3:::" + bucketName;
final String jobReportPrefix = "reports/compliance-objects-bops";

JobReport jobReport = JobReport.builder()
    .enabled(true)
    .reportScope(JobReportScope.ALL_TASKS)
    .bucket(jobReportBucketArn)
    .prefix(jobReportPrefix)
    .format(JobReportFormat.REPORT_CSV_20180820)
    .build();

final Boolean requiresConfirmation = true;
final int priority = 10;
CreateJobRequest request = CreateJobRequest.builder()
    .accountId(accountId)
    .description("Set compliance retain-until to 1 Jan 2025")
    .manifest(manifestToPublicApi)
    .operation(jobOperation)
    .priority(priority)
    .roleArn(roleArn)
    .report(jobReport)
    .confirmationRequired(requiresConfirmation)
    .build();
```

```
        // Create the job and get the result.
        CreateJobResponse result = s3ControlClient.createJob(request);
        return result.jobId();
    }
```

新しいガバナンス保持ジョブを作成します。

```
/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class CreateGovernanceRetentionJob {

    public static void main(String[]args) throws ParseException {
        final String usage = """

            Usage:
                <manifestObjectArn> <jobReportBucketArn> <roleArn> <accountId>
 <manifestObjectVersionId>

            Where:
                manifestObjectArn - The Amazon Resource Name (ARN) of the S3 object
 that contains the manifest file for the governance objects.\s
                bucketName - The ARN of the S3 bucket where the job report will be
 stored.
                roleArn - The ARN of the IAM role that will be used to perform the
 governance retention operation.
                accountId - Your AWS account Id.
                manifestObjectVersionId =  A unique value that is used as the `eTag`
 property of the `JobManifestLocation` object.
            """;

        if (args.length != 4) {
            System.out.println(usage);
            return;
        }
```

```
        String manifestObjectArn = args[0];
        String jobReportBucketArn = args[1];
        String roleArn = args[2];
        String accountId = args[3];
        String manifestObjectVersionId = args[4];

        S3ControlClient s3ControlClient = S3ControlClient.create();
        createGovernanceRetentionJob(s3ControlClient, manifestObjectArn,
jobReportBucketArn, roleArn, accountId, manifestObjectVersionId);
    }

    public static String createGovernanceRetentionJob(final S3ControlClient
s3ControlClient, String manifestObjectArn, String jobReportBucketArn, String
roleArn, String accountId, String manifestObjectVersionId) throws ParseException {
        final JobManifestLocation manifestLocation = JobManifestLocation.builder()
            .objectArn(manifestObjectArn)
            .eTag(manifestObjectVersionId)
            .build();

        final JobManifestSpec manifestSpec = JobManifestSpec.builder()
            .format(JobManifestFormat.S3_BATCH_OPERATIONS_CSV_20180820)
            .fields(Arrays.asList(JobManifestFieldName.BUCKET,
JobManifestFieldName.KEY))
            .build();

        final JobManifest manifestToPublicApi = JobManifest.builder()
            .location(manifestLocation)
            .spec(manifestSpec)
            .build();

        final String jobReportPrefix = "reports/governance-objects";
        final JobReport jobReport = JobReport.builder()
            .enabled(true)
            .reportScope(JobReportScope.ALL_TASKS)
            .bucket(jobReportBucketArn)
            .prefix(jobReportPrefix)
            .format(JobReportFormat.REPORT_CSV_20180820)
            .build();

        final SimpleDateFormat format = new SimpleDateFormat("dd/MM/yyyy");
        final Date jan30th = format.parse("30/01/2025");

        final S3SetObjectRetentionOperation s3SetObjectRetentionOperation =
S3SetObjectRetentionOperation.builder()
```

```
            .retention(S3Retention.builder()
                .mode(S3ObjectLockRetentionMode.GOVERNANCE)
                .retainUntilDate(jan30th.toInstant())
                .build())
            .build();

        final JobOperation jobOperation = JobOperation.builder()
            .s3PutObjectRetention(s3SetObjectRetentionOperation)
            .build();

        final Boolean requiresConfirmation = true;
        final int priority = 10;

        final CreateJobRequest request = CreateJobRequest.builder()
            .accountId(accountId)
            .description("Put governance retention")
            .manifest(manifestToPublicApi)
            .operation(jobOperation)
            .priority(priority)
            .roleArn(roleArn)
            .report(jobReport)
            .confirmationRequired(requiresConfirmation)
            .build();

        final CreateJobResponse result = s3ControlClient.createJob(request);
        return result.jobId();
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateJob」を参照してください。

DeleteJobTagging

次のコード例は、DeleteJobTagging を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Asynchronously deletes the tags associated with a specific batch job.
     *
     * @param jobId     The ID of the batch job whose tags should be deleted.
     * @param accountId The ID of the account associated with the batch job.
     * @return A CompletableFuture that completes when the job tags have been
successfully deleted, or an exception is thrown if the deletion fails.
     */
    public CompletableFuture<Void> deleteBatchJobTagsAsync(String jobId, String
accountId) {
        DeleteJobTaggingRequest jobTaggingRequest =
DeleteJobTaggingRequest.builder()
            .accountId(accountId)
            .jobId(jobId)
            .build();

        return asyncClient.deleteJobTagging(jobTaggingRequest)
            .thenAccept(response -> {
                System.out.println("You have successfully deleted " + jobId + "
tagging.");
            })
            .exceptionally(ex -> {
                System.err.println("Failed to delete job tags: " + ex.getMessage());
                throw new RuntimeException(ex);
            });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteJobTagging」を参照してください。

`DescribeJob`

次のコード例は、`DescribeJob` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Asynchronously describes the specified job.
    *
    * @param jobId     the ID of the job to describe
    * @param accountId the ID of the AWS account associated with the job
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the job description
is available
    * @throws RuntimeException if an error occurs while describing the job
    */
   public CompletableFuture<Void> describeJobAsync(String jobId, String accountId)
{
       DescribeJobRequest jobRequest = DescribeJobRequest.builder()
           .jobId(jobId)
           .accountId(accountId)
           .build();

       return getAsyncClient().describeJob(jobRequest)
           .thenAccept(response -> {
               System.out.println("Job ID: " + response.job().jobId());
               System.out.println("Description: " + response.job().description());
               System.out.println("Status: " + response.job().statusAsString());
               System.out.println("Role ARN: " + response.job().roleArn());
               System.out.println("Priority: " + response.job().priority());
               System.out.println("Progress Summary: " +
response.job().progressSummary());

               // Print out details about the job manifest.
               JobManifest manifest = response.job().manifest();
               System.out.println("Manifest Location: " +
manifest.location().objectArn());
               System.out.println("Manifest ETag: " + manifest.location().eTag());
```

```
                // Print out details about the job operation.
                JobOperation operation = response.job().operation();
                if (operation.s3PutObjectTagging() != null) {
                    System.out.println("Operation: S3 Put Object Tagging");
                    System.out.println("Tag Set: " +
operation.s3PutObjectTagging().tagSet());
                }

                // Print out details about the job report.
                JobReport report = response.job().report();
                System.out.println("Report Bucket: " + report.bucket());
                System.out.println("Report Prefix: " + report.prefix());
                System.out.println("Report Format: " + report.format());
                System.out.println("Report Enabled: " + report.enabled());
                System.out.println("Report Scope: " + report.reportScopeAsString());
            })
            .exceptionally(ex -> {
                System.err.println("Failed to describe job: " + ex.getMessage());
                throw new RuntimeException(ex);
            });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeJob」を参照してください。

`GetJobTagging`

次のコード例は、`GetJobTagging` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
```

```
    * Asynchronously retrieves the tags associated with a specific job in an AWS
account.
    *
    * @param jobId     the ID of the job for which to retrieve the tags
    * @param accountId the ID of the AWS account associated with the job
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the job tags have
been retrieved, or with an exception if the operation fails
    * @throws RuntimeException if an error occurs while retrieving the job tags
    */
   public CompletableFuture<Void> getJobTagsAsync(String jobId, String accountId) {
       GetJobTaggingRequest request = GetJobTaggingRequest.builder()
           .jobId(jobId)
           .accountId(accountId)
           .build();

       return asyncClient.getJobTagging(request)
           .thenAccept(response -> {
               List<S3Tag> tags = response.tags();
               if (tags.isEmpty()) {
                   System.out.println("No tags found for job ID: " + jobId);
               } else {
                   for (S3Tag tag : tags) {
                       System.out.println("Tag key is: " + tag.key());
                       System.out.println("Tag value is: " + tag.value());
                   }
               }
           })
           .exceptionally(ex -> {
               System.err.println("Failed to get job tags: " + ex.getMessage());
               throw new RuntimeException(ex); // Propagate the exception
           });
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetJobTagging」を参照してください。

PutJobTagging

次のコード例は、PutJobTagging を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Asynchronously adds tags to a job in the system.
    *
    * @param jobId     the ID of the job to add tags to
    * @param accountId the account ID associated with the job
    * @return a CompletableFuture that completes when the tagging operation is
finished
    */
   public CompletableFuture<Void> putJobTaggingAsync(String jobId, String
accountId) {
       S3Tag departmentTag = S3Tag.builder()
           .key("department")
           .value("Marketing")
           .build();

       S3Tag fiscalYearTag = S3Tag.builder()
           .key("FiscalYear")
           .value("2020")
           .build();

       PutJobTaggingRequest putJobTaggingRequest = PutJobTaggingRequest.builder()
           .jobId(jobId)
           .accountId(accountId)
           .tags(departmentTag, fiscalYearTag)
           .build();

       return asyncClient.putJobTagging(putJobTaggingRequest)
           .thenRun(() -> {
               System.out.println("Additional Tags were added to job " + jobId);
           })
           .exceptionally(ex -> {
               System.err.println("Failed to add tags to job: " + ex.getMessage());
               throw new RuntimeException(ex); // Propagate the exception
           });
```

```
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「PutJobTagging」を参照してください。

`UpdateJobPriority`

次のコード例は、`UpdateJobPriority` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Updates the priority of a job asynchronously.
    *
    * @param jobId     the ID of the job to update
    * @param accountId the ID of the account associated with the job
    * @return a {@link CompletableFuture} that represents the asynchronous
operation, which completes when the job priority has been updated or an error has
occurred
    */
   public CompletableFuture<Void> updateJobPriorityAsync(String jobId, String
accountId) {
       UpdateJobPriorityRequest priorityRequest =
UpdateJobPriorityRequest.builder()
           .accountId(accountId)
           .jobId(jobId)
           .priority(60)
           .build();

       CompletableFuture<Void> future = new CompletableFuture<>();
       getAsyncClient().updateJobPriority(priorityRequest)
           .thenAccept(response -> {
               System.out.println("The job priority was updated");
```

```
                future.complete(null); // Complete the CompletableFuture on
successful execution
            })
            .exceptionally(ex -> {
                System.err.println("Failed to update job priority: " +
ex.getMessage());
                future.completeExceptionally(ex); // Complete the CompletableFuture
exceptionally on error
                return null; // Return null to handle the exception
            });

        return future;
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「UpdateJobPriority」を参照してください。

`UpdateJobStatus`

次のコード例は、UpdateJobStatus を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Cancels a job asynchronously.
     *
     * @param jobId The ID of the job to be canceled.
     * @param accountId The ID of the account associated with the job.
     * @return A {@link CompletableFuture} that completes when the job status has
been updated to "CANCELLED".
     *         If an error occurs during the update, the returned future will
complete exceptionally.
     */
    public CompletableFuture<Void> cancelJobAsync(String jobId, String accountId) {
```

```
        UpdateJobStatusRequest updateJobStatusRequest =
UpdateJobStatusRequest.builder()
            .accountId(accountId)
            .jobId(jobId)
            .requestedJobStatus(String.valueOf(JobStatus.CANCELLED))
            .build();

        return asyncClient.updateJobStatus(updateJobStatusRequest)
            .thenAccept(updateJobStatusResponse -> {
                System.out.println("Job status updated to: " +
updateJobStatusResponse.status());
            })
            .exceptionally(ex -> {
                System.err.println("Failed to cancel job: " + ex.getMessage());
                throw new RuntimeException(ex); // Propagate the exception
            });
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「UpdateJobStatus」を参照してください。

SDK for Java 2.x を使用した S3 ディレクトリバケットの例

次のコード例は、S3 ディレクトリバケット AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- はじめに

- 基本
- アクション
- シナリオ

はじめに

Hello Amazon S3 ディレクトリバケット

次のコード例は、Amazon S3 ディレクトリバケットの使用を開始する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.s3.directorybucket;


import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.Bucket;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.BucketInfo;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.BucketType;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CreateBucketConfiguration;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CreateBucketRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CreateBucketResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.DataRedundancy;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.DeleteBucketRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ListDirectoryBucketsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ListDirectoryBucketsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.LocationInfo;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.LocationType;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;

import java.util.List;
```

```
import java.util.stream.Collectors;

import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createS3Client;

/**
 * Before running this example:
 * <p>
 * The SDK must be able to authenticate AWS requests on your behalf. If you have
 * not configured
 * authentication for SDKs and tools, see
 * https://docs.aws.amazon.com/sdkref/latest/guide/access.html in the AWS SDKs
 * and Tools Reference Guide.
 * <p>
 * You must have a runtime environment configured with the Java SDK.
 * See
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/setup.html in
 * the Developer Guide if this is not set up.
 * <p>
 * To use S3 directory buckets, configure a gateway VPC endpoint. This is the
 * recommended method to enable directory bucket traffic without
 * requiring an internet gateway or NAT device. For more information on
 * configuring VPC gateway endpoints, visit
 * https://docs.aws.amazon.com/AmazonS3/latest/userguide/s3-express-
networking.html#s3-express-networking-vpc-gateway.
 * <p>
 * Directory buckets are available in specific AWS Regions and Zones. For
 * details on Regions and Zones supporting directory buckets, see
 * https://docs.aws.amazon.com/AmazonS3/latest/userguide/s3-express-
networking.html#s3-express-endpoints.
 */

public class HelloS3DirectoryBuckets {
    private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(HelloS3DirectoryBuckets.class);

    public static void main(String[] args) {
        String bucketName = "amzn-s3-demo-bucket"; // Replace with your bucket name.
        Region region = Region.US_WEST_2;
        String zone = "usw2-az1";
        S3Client s3Client = createS3Client(region);

        try {
            // Create the directory bucket
            createDirectoryBucket(s3Client, bucketName, zone);
```

```
            logger.info("Created bucket: {}", bucketName);

            // List all directory buckets
            List<String> bucketNames = listDirectoryBuckets(s3Client);
            bucketNames.forEach(name -> logger.info("Bucket Name: {}", name));
        } catch (S3Exception e) {
            logger.error("An error occurred during S3 operations: {} - Error code:
{}",
                    e.awsErrorDetails().errorMessage(),
e.awsErrorDetails().errorCode(), e);
        } finally {
            try {
                // Delete the created bucket
                deleteDirectoryBucket(s3Client, bucketName);
                logger.info("Deleted bucket: {}", bucketName);
            } catch (S3Exception e) {
                logger.error("Failed to delete the bucket due to S3 error: {} -
Error code: {}",
                        e.awsErrorDetails().errorMessage(),
e.awsErrorDetails().errorCode(), e);
            } catch (RuntimeException e) {
                logger.error("Failed to delete the bucket due to unexpected error:
{}", e.getMessage(), e);
            } finally {
                s3Client.close();
            }
        }
    }

    /**
     * Creates a new S3 directory bucket in a specified Zone (For example, a
     * specified Availability Zone in this code example).
     *
     * @param s3Client   The S3 client used to create the bucket
     * @param bucketName The name of the bucket to be created
     * @param zone       The region where the bucket will be created
     * @throws S3Exception if there's an error creating the bucket
     */
    public static void createDirectoryBucket(S3Client s3Client, String bucketName,
String zone) throws S3Exception {
        logger.info("Creating bucket: {}", bucketName);

        CreateBucketConfiguration bucketConfiguration =
CreateBucketConfiguration.builder()
```

```
                .location(LocationInfo.builder()
                        .type(LocationType.AVAILABILITY_ZONE)
                        .name(zone).build())
                .bucket(BucketInfo.builder()
                        .type(BucketType.DIRECTORY)
                        .dataRedundancy(DataRedundancy.SINGLE_AVAILABILITY_ZONE)
                        .build())
                .build();
        try {
            CreateBucketRequest bucketRequest = CreateBucketRequest.builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .createBucketConfiguration(bucketConfiguration).build();
            CreateBucketResponse response = s3Client.createBucket(bucketRequest);
            logger.info("Bucket created successfully with location: {}",
response.location());
        } catch (S3Exception e) {
            logger.error("Error creating bucket: {} - Error code: {}",
e.awsErrorDetails().errorMessage(),
                    e.awsErrorDetails().errorCode(), e);
            throw e;
        }
    }

    /**
     * Lists all S3 directory buckets.
     *
     * @param s3Client The S3 client used to interact with S3
     * @return A list of bucket names
     */
    public static List<String> listDirectoryBuckets(S3Client s3Client) {
        logger.info("Listing all directory buckets");

        try {
            // Create a ListBucketsRequest
            ListDirectoryBucketsRequest listBucketsRequest =
ListDirectoryBucketsRequest.builder().build();

            // Retrieve the list of buckets
            ListDirectoryBucketsResponse response =
s3Client.listDirectoryBuckets(listBucketsRequest);

            // Extract bucket names
            List<String> bucketNames = response.buckets().stream()
                    .map(Bucket::name)
```

```
                    .collect(Collectors.toList());

            return bucketNames;
        } catch (S3Exception e) {
            logger.error("Failed to list buckets: {} - Error code: {}",
 e.awsErrorDetails().errorMessage(),
                    e.awsErrorDetails().errorCode(), e);
            throw e;
        }
    }

    /**
     * Deletes the specified S3 directory bucket.
     *
     * @param s3Client   The S3 client used to interact with S3
     * @param bucketName The name of the bucket to delete
     */
    public static void deleteDirectoryBucket(S3Client s3Client, String bucketName) {
        try {
            DeleteBucketRequest deleteBucketRequest = DeleteBucketRequest.builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .build();
            s3Client.deleteBucket(deleteBucketRequest);
        } catch (S3Exception e) {
            logger.error("Failed to delete bucket: " + bucketName + " - Error code:
 " + e.awsErrorDetails().errorCode(),
                    e);
            throw e;
        }
    }

}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - CreateBucket
  - ListDirectoryBuckets

基本

基本を学ぶ

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- VPC と VPC エンドポイントをセットアップします。
- S3 ディレクトリバケットと S3 Express One Zone ストレージクラスを操作するようにポリシー、ロール、ユーザーを設定します。
- 2 つの S3 クライアントを作成します。
- バケットを 2 つ作成します。
- オブジェクトを作成し、それをコピーします。
- パフォーマンスの違いを示します。
- 辞書順の違いを示すために、バケットをデータを追加します。
- リソースをクリーンアップするかどうかをユーザーに確認します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

Amazon S3 機能を示すインタラクティブなシナリオを実行します。

```
public class S3DirectoriesScenario {

    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");

    private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(S3DirectoriesScenario.class);
    static Scanner scanner = new Scanner(System.in);

    private static S3AsyncClient mS3RegularClient;
    private static S3AsyncClient mS3ExpressClient;

    private static String mdirectoryBucketName;
    private static String mregularBucketName;
```

```
   private static String stackName = "cfn-stack-s3-express-basics--" +
UUID.randomUUID();

   private static String regularUser = "";
   private static String vpcId = "";
   private static String expressUser = "";

   private static String vpcEndpointId = "";

   private static final S3DirectoriesActions s3DirectoriesActions = new
S3DirectoriesActions();

   public static void main(String[] args) {
       try {
           s3ExpressScenario();
       } catch (RuntimeException e) {
           logger.info(e.getMessage());
       }
   }

   // Runs the scenario.
   private static void s3ExpressScenario() {
       logger.info(DASHES);
       logger.info("Welcome to the Amazon S3 Express Basics demo using AWS SDK for
Java V2.");
       logger.info("""
           Let's get started! First, please note that S3 Express One Zone works
best when working within the AWS infrastructure,
           specifically when working in the same Availability Zone (AZ). To see the
best results in this example and when you implement
           directory buckets into your infrastructure, it is best to put your
compute resources in the same AZ as your directory
           bucket.
           """);
       waitForInputToContinue(scanner);
       logger.info(DASHES);

       // Create an optional VPC and create 2 IAM users.
       UserNames userNames = createVpcUsers();
       String expressUserName = userNames.getExpressUserName();
       String regularUserName = userNames.getRegularUserName();

       //  Set up two S3 clients, one regular and one express,
```

```
        //  and two buckets, one regular and one directory.
        setupClientsAndBuckets(expressUserName, regularUserName);

        // Create an S3 session for the express S3 client and add objects to the
buckets.
        logger.info("Now let's add some objects to our buckets and demonstrate how
to work with S3 Sessions.");
        waitForInputToContinue(scanner);
        String bucketObject = createSessionAddObjects();

        // Demonstrate performance differences between regular and directory
buckets.
        demonstratePerformance(bucketObject);

        // Populate the buckets to show the lexicographical difference between
        // regular and express buckets.
        showLexicographicalDifferences(bucketObject);

        logger.info(DASHES);
        logger.info("That's it for our tour of the basic operations for S3 Express
One Zone.");
        logger.info("Would you like to cleanUp the AWS resources? (y/n): ");
        String response = scanner.next().trim().toLowerCase();
        if (response.equals("y")) {
            cleanUp(stackName);
        }
    }

    /*
      Delete resources created by this scenario.
    */
    public static void cleanUp(String stackName) {
        try {
            if (mdirectoryBucketName != null) {
                s3DirectoriesActions.deleteBucketAndObjectsAsync(mS3ExpressClient,
mdirectoryBucketName).join();
            }
            logger.info("Deleted directory bucket " + mdirectoryBucketName);
            mdirectoryBucketName = null;
            if (mregularBucketName != null) {
                s3DirectoriesActions.deleteBucketAndObjectsAsync(mS3RegularClient,
mregularBucketName).join();
            }
        } catch (CompletionException ce) {
```

```
            Throwable cause = ce.getCause();
            if (cause instanceof S3Exception) {
                logger.error("S3Exception occurred: {}", cause.getMessage(), ce);
            } else {
                logger.error("An unexpected error occurred: {}", cause.getMessage(),
ce);
            }
        }

        logger.info("Deleted regular bucket " + mregularBucketName);
        mregularBucketName = null;
        CloudFormationHelper.destroyCloudFormationStack(stackName);
    }

    private static void showLexicographicalDifferences(String bucketObject) {
        logger.info(DASHES);
        logger.info("""
            7. Populate the buckets to show the lexicographical (alphabetical)
difference
            when object names are listed. Now let's explore how directory buckets
store
            objects in a different manner to regular buckets. The key is in the
name
            "Directory". Where regular buckets store their key/value pairs in a
            flat manner, directory buckets use actual directories/folders.
            This allows for more rapid indexing, traversing, and therefore
            retrieval times!

            The more segmented your bucket is, with lots of
            directories, sub-directories, and objects, the more efficient it
becomes.
            This structural difference also causes `ListObject` operations to
behave
            differently, which can cause unexpected results. Let's add a few more
            objects in sub-directories to see how the output of
            ListObjects changes.
            """);

        waitForInputToContinue(scanner);

        //  Populate a few more files in each bucket so that we can use
        //  ListObjects and show the difference.
        String otherObject = "other/" + bucketObject;
        String altObject = "alt/" + bucketObject;
```

```
        String otherAltObject = "other/alt/" + bucketObject;

        try {
            s3DirectoriesActions.putObjectAsync(mS3RegularClient,
mregularBucketName, otherObject, "").join();
            s3DirectoriesActions.putObjectAsync(mS3ExpressClient,
mdirectoryBucketName, otherObject, "").join();
            s3DirectoriesActions.putObjectAsync(mS3RegularClient,
mregularBucketName, altObject, "").join();
            s3DirectoriesActions.putObjectAsync(mS3ExpressClient,
mdirectoryBucketName, altObject, "").join();
            s3DirectoriesActions.putObjectAsync(mS3RegularClient,
mregularBucketName, otherAltObject, "").join();
            s3DirectoriesActions.putObjectAsync(mS3ExpressClient,
mdirectoryBucketName, otherAltObject, "").join();

        } catch (CompletionException ce) {
            Throwable cause = ce.getCause();
            if (cause instanceof NoSuchBucketException) {
                logger.error("S3Exception occurred: {}", cause.getMessage(), ce);
            } else {
                logger.error("An unexpected error occurred: {}", cause.getMessage(),
ce);
            }
            return;
        }

        try {
            // List objects in both S3 buckets.
            List<String> dirBucketObjects =
s3DirectoriesActions.listObjectsAsync(mS3ExpressClient,
mdirectoryBucketName).join();
            List<String> regBucketObjects =
s3DirectoriesActions.listObjectsAsync(mS3RegularClient, mregularBucketName).join();

            logger.info("Directory bucket content");
            for (String obj : dirBucketObjects) {
                logger.info(obj);
            }

            logger.info("Regular bucket content");
            for (String obj : regBucketObjects) {
                logger.info(obj);
            }
```

```
        } catch (CompletionException e) {
            logger.error("Async operation failed: {} ", e.getCause().getMessage());
            return;
        }

        logger.info("""
            Notice how the regular bucket lists objects in lexicographical order,
while the directory bucket does not. This is
            because the regular bucket considers the whole "key" to be the object
identifier, while the directory bucket actually
            creates directories and uses the object "key" as a path to the object.
            """);
        waitForInputToContinue(scanner);
    }

    /**
     * Demonstrates the performance difference between downloading an object from a
directory bucket and a regular bucket.
     *
     * <p>This method:
     * <ul>
     *     <li>Prompts the user to choose the number of downloads (default is
1,000).</li>
     *     <li>Downloads the specified object from the directory bucket and measures
the total time.</li>
     *     <li>Downloads the same object from the regular bucket and measures the
total time.</li>
     *     <li>Compares the time differences and prints the results.</li>
     * </ul>
     *
     * <p>Note: The performance difference will be more pronounced if this example
is run on an EC2 instance
     * in the same Availability Zone as the buckets.
     *
     * @param bucketObject the name of the object to download
     */
    private static void demonstratePerformance(String bucketObject) {
        logger.info(DASHES);
        logger.info("6. Demonstrate the performance difference.");
        logger.info("""
            Now, let's do a performance test. We'll download the same object from
each
            bucket repeatedly and compare the total time needed.
```

```
            Note: the performance difference will be much more pronounced if this
            example is run in an EC2 instance in the same Availability Zone as
            the bucket.
            """);
        waitForInputToContinue(scanner);

        int downloads = 1000; // Default value.
        logger.info("The default number of downloads of the same object for this
example is set at " + downloads + ".");

        // Ask if the user wants to download a different number.
        logger.info("Would you like to download the file a different number of
times? (y/n): ");
        String response = scanner.next().trim().toLowerCase();
        if (response.equals("y")) {
            int maxDownloads = 1_000_000;

            // Ask for a valid number of downloads.
            while (true) {
                logger.info("Enter a number between 1 and " + maxDownloads + " for
the number of downloads: ");
                if (scanner.hasNextInt()) {
                    downloads = scanner.nextInt();
                    if (downloads >= 1 && downloads <= maxDownloads) {
                        break;
                    } else {
                        logger.info("Please enter a number between 1 and " +
maxDownloads + ".");
                    }
                } else {
                    logger.info("Invalid input. Please enter a valid integer.");
                    scanner.next();
                }
            }

            logger.info("You have chosen to download {}  items.", downloads);
        } else {
            logger.info("No changes made. Using default downloads: {}", downloads);
        }
        // Simulating the download process for the directory bucket.
        logger.info("Downloading from the directory bucket.");
        long directoryTimeStart = System.nanoTime();
        for (int index = 0; index < downloads; index++) {
            if (index % 50 == 0) {
```

```
                logger.info("Download " + index + " of " + downloads);
            }

            try {
                // Get the object from the directory bucket.
                s3DirectoriesActions.getObjectAsync(mS3ExpressClient,
mdirectoryBucketName, bucketObject).join();
            } catch (CompletionException ce) {
                Throwable cause = ce.getCause();
                if (cause instanceof NoSuchKeyException) {
                    logger.error("S3Exception occurred: {}", cause.getMessage(),
ce);
                } else {
                    logger.error("An unexpected error occurred: {}",
cause.getMessage(), ce);
                }
                return;
            }
        }
        long directoryTimeDifference = System.nanoTime() - directoryTimeStart;

        // Download from the regular bucket.
        logger.info("Downloading from the regular bucket.");
        long normalTimeStart = System.nanoTime();
        for (int index = 0; index < downloads; index++) {
            if (index % 50 == 0) {
                logger.info("Download " + index + " of " + downloads);
            }

            try {
                s3DirectoriesActions.getObjectAsync(mS3RegularClient,
mregularBucketName, bucketObject).join();
            } catch (CompletionException ce) {
                Throwable cause = ce.getCause();
                if (cause instanceof NoSuchKeyException) {
                    logger.error("S3Exception occurred: {}", cause.getMessage(),
ce);
                } else {
                    logger.error("An unexpected error occurred: {}",
cause.getMessage(), ce);
                }
                return;
            }
        }
```

```
        long normalTimeDifference = System.nanoTime() - normalTimeStart;
        logger.info("The directory bucket took " + directoryTimeDifference
+ " nanoseconds, while the regular bucket took " + normalTimeDifference + "
nanoseconds.");
        long difference = normalTimeDifference - directoryTimeDifference;
        logger.info("That's a difference of " + difference + " nanoseconds, or");
        logger.info(difference / 1_000_000_000.0 + " seconds.");

        if (difference < 0) {
            logger.info("The directory buckets were slower. This can happen if you
are not running on the cloud within a VPC.");
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
    }

    private static String createSessionAddObjects() {
        logger.info(DASHES);
        logger.info("""
            5. Create an object and copy it.
            We'll create an object consisting of some text and upload it to the
            regular bucket.
            """);
        waitForInputToContinue(scanner);

        String bucketObject = "basic-text-object.txt";
        try {
            s3DirectoriesActions.putObjectAsync(mS3RegularClient,
mregularBucketName, bucketObject, "Look Ma, I'm a bucket!").join();
            s3DirectoriesActions.createSessionAsync(mS3ExpressClient,
mdirectoryBucketName).join();

            // Copy the object to the destination S3 bucket.
            s3DirectoriesActions.copyObjectAsync(mS3ExpressClient,
mregularBucketName, bucketObject, mdirectoryBucketName, bucketObject).join();
        } catch (CompletionException ce) {
            Throwable cause = ce.getCause();
            if (cause instanceof S3Exception) {
                logger.error("S3Exception occurred: {}", cause.getMessage(), ce);
            } else {
                logger.error("An unexpected error occurred: {}", cause.getMessage(),
ce);
            }
        }
```

```
        logger.info("""
            It worked! This is because the S3Client that performed the copy
operation
            is the expressClient using the credentials for the user with permission
to
            work with directory buckets.

            It's important to remember the user permissions when interacting with
            directory buckets. Instead of validating permissions on every call as
            regular buckets do, directory buckets utilize the user credentials and
session
            token to validate. This allows for much faster connection speeds on
every call.
            For single calls, this is low, but for many concurrent calls
            this adds up to a lot of time saved.
            """);
        waitForInputToContinue(scanner);
        return bucketObject;
    }

    /**
     * Creates VPC users for the S3 Express One Zone scenario.
     * <p>
     * This method performs the following steps:
     * <ol>
     *     <li>Optionally creates a new VPC and VPC Endpoint if the application
is running in an EC2 instance in the same Availability Zone as the directory
buckets.</li>
     *     <li>Creates two IAM users: one with S3 Express One Zone permissions and
one without.</li>
     * </ol>
     *
     * @return a {@link UserNames} object containing the names of the created IAM
users
     */
    public static UserNames createVpcUsers() {
        /*
        Optionally create a VPC.
        Create two IAM users, one with S3 Express One Zone permissions and one
without.
        */
        logger.info(DASHES);
        logger.info("""
```

```
            1. First, we'll set up a new VPC and VPC Endpoint if this program is
running in an EC2 instance in the same AZ as your\s
            directory buckets will be. Are you running this in an EC2 instance
located in the same AZ as your intended directory buckets?
            """);

        logger.info("Do you want to setup a VPC Endpoint? (y/n)");
        String endpointAns = scanner.nextLine().trim();
        if (endpointAns.equalsIgnoreCase("y")) {
            logger.info("""
                Great! Let's set up a VPC, retrieve the Route Table from it, and
create a VPC Endpoint to connect the S3 Client to.
                """);
            try {
                s3DirectoriesActions.setupVPCAsync().join();
            } catch (CompletionException ce) {
                Throwable cause = ce.getCause();
                if (cause instanceof Ec2Exception) {
                    logger.error("IamException occurred: {}", cause.getMessage(),
ce);
                } else {
                    logger.error("An unexpected error occurred: {}",
cause.getMessage(), ce);
                }
            }
            waitForInputToContinue(scanner);
        } else {
            logger.info("Skipping the VPC setup. Don't forget to use this in
production!");
        }
        logger.info(DASHES);
        logger.info("""
            2. Create a RegularUser and ExpressUser by using the AWS CDK.
            One IAM User, named RegularUser, will have permissions to work only
            with regular buckets and one IAM user, named ExpressUser, will have
            permissions to work only with directory buckets.
            """);
        waitForInputToContinue(scanner);

        // Create two users required for this scenario.
        Map<String, String> stackOutputs = createUsersUsingCDK(stackName);
        regularUser = stackOutputs.get("RegularUser");
        expressUser = stackOutputs.get("ExpressUser");
```

```
        UserNames names = new UserNames();
        names.setRegularUserName(regularUser);
        names.setExpressUserName(expressUser);
        return names;
    }

    /**
     * Creates users using AWS CloudFormation.
     *
     * @return a {@link Map} of String keys and String values representing the stack
outputs,
     * which may include user-related information such as user names and IDs.
     */
    public static Map<String, String> createUsersUsingCDK(String stackName) {
        logger.info("We'll use an AWS CloudFormation template to create the IAM
users and policies.");
        CloudFormationHelper.deployCloudFormationStack(stackName);
        return CloudFormationHelper.getStackOutputsAsync(stackName).join();
    }

    /**
     * Sets up the necessary clients and buckets for the S3 Express service.
     *
     * @param expressUserName the username for the user with S3 Express permissions
     * @param regularUserName the username for the user with regular S3 permissions
     */
    public static void setupClientsAndBuckets(String expressUserName, String
regularUserName) {
        Scanner locscanner = new Scanner(System.in);
        String accessKeyIdforRegUser;
        String secretAccessforRegUser;
        try {
            CreateAccessKeyResponse keyResponse =
s3DirectoriesActions.createAccessKeyAsync(regularUserName).join();
            accessKeyIdforRegUser = keyResponse.accessKey().accessKeyId();
            secretAccessforRegUser = keyResponse.accessKey().secretAccessKey();
        } catch (CompletionException ce) {
            Throwable cause = ce.getCause();
            if (cause instanceof IamException) {
                logger.error("IamException occurred: {}", cause.getMessage(), ce);
            } else {
                logger.error("An unexpected error occurred: {}", cause.getMessage(),
ce);
            }
```

```
            return;
        }

        String accessKeyIdforExpressUser;
        String secretAccessforExpressUser;
        try {
            CreateAccessKeyResponse keyResponseExpress =
s3DirectoriesActions.createAccessKeyAsync(expressUserName).join();
            accessKeyIdforExpressUser =
keyResponseExpress.accessKey().accessKeyId();
            secretAccessforExpressUser =
keyResponseExpress.accessKey().secretAccessKey();
        } catch (CompletionException ce) {
            Throwable cause = ce.getCause();
            if (cause instanceof IamException) {
                logger.error("IamException occurred: {}", cause.getMessage(), ce);
            } else {
                logger.error("An unexpected error occurred: {}", cause.getMessage(),
ce);
            }
            return;
        }

        logger.info(DASHES);
        logger.info("""
            3. Create two S3Clients; one uses the ExpressUser's credentials and one
uses the RegularUser's credentials.
            The 2 S3Clients will use different credentials.
            """);
        waitForInputToContinue(locscanner);
        try {
            mS3RegularClient =
createS3ClientWithAccessKeyAsync(accessKeyIdforRegUser,
secretAccessforRegUser).join();
            mS3ExpressClient =
createS3ClientWithAccessKeyAsync(accessKeyIdforExpressUser,
secretAccessforExpressUser).join();
        } catch (CompletionException ce) {
            Throwable cause = ce.getCause();
            if (cause instanceof IllegalArgumentException) {
                logger.error("An invalid argument exception occurred: {}",
cause.getMessage(), ce);
            } else {
```

```
                logger.error("An unexpected error occurred: {}", cause.getMessage(),
ce);
            }
            return;
        }

        logger.info("""
            We can now use the ExpressUser client to make calls to S3 Express
operations.
            """);
        waitForInputToContinue(locscanner);
        logger.info(DASHES);
        logger.info("""
            4. Create two buckets.
            Now we will create a directory bucket which is the linchpin of the S3
Express One Zone service. Directory buckets
            behave differently from regular S3 buckets which we will explore here.
We'll also create a regular bucket, put
            an object into the regular bucket, and copy it to the directory bucket.
            """);

        logger.info("""
            Now, let's choose an availability zone (AZ) for the directory bucket.
            We'll choose one that is supported.
            """);
        String zoneId;
        String regularBucketName;
        try {
            zoneId = s3DirectoriesActions.selectAvailabilityZoneIdAsync().join();
            regularBucketName = "amzn-s3-demo-bucket"; // Replace with your bucket
name.
        } catch (CompletionException ce) {
            Throwable cause = ce.getCause();
            if (cause instanceof Ec2Exception) {
                logger.error("EC2Exception occurred: {}", cause.getMessage(), ce);
            } else {
                logger.error("An unexpected error occurred: {}", cause.getMessage(),
ce);
            }
            return;
        }
        logger.info("""
            Now, let's create the actual directory bucket, as well as a regular
bucket."
```

```
            """);

       String directoryBucketName = "amzn-s3-demo-bucket--" + zoneId + "--x-s3"; //
Replace with your directory bucket name.
       try {
           s3DirectoriesActions.createDirectoryBucketAsync(mS3ExpressClient,
directoryBucketName, zoneId).join();
           logger.info("Created directory bucket {}", directoryBucketName);
       } catch (CompletionException ce) {
           Throwable cause = ce.getCause();
           if (cause instanceof BucketAlreadyExistsException) {
               logger.error("The bucket already exists. Moving on: {}",
cause.getMessage(), ce);
           } else {
               logger.error("An unexpected error occurred: {}", cause.getMessage(),
ce);
               return;
           }
       }

       // Assign to the data member.
       mdirectoryBucketName = directoryBucketName;
       try {
           s3DirectoriesActions.createBucketAsync(mS3RegularClient,
regularBucketName).join();
           logger.info("Created regular bucket {} ", regularBucketName);
           mregularBucketName = regularBucketName;
       } catch (CompletionException ce) {
           Throwable cause = ce.getCause();
           if (cause instanceof BucketAlreadyExistsException) {
               logger.error("The bucket already exists. Moving on: {}",
cause.getMessage(), ce);
           } else {
               logger.error("An unexpected error occurred: {}", cause.getMessage(),
ce);
               return;
           }
       }
       logger.info("Great! Both buckets were created.");
       waitForInputToContinue(locscanner);
   }

   /**
```

```
    * Creates an asynchronous S3 client with the specified access key and secret
access key.
    *
    * @param accessKeyId     the AWS access key ID
    * @param secretAccessKey the AWS secret access key
    * @return a {@link CompletableFuture} that asynchronously creates the S3 client
    * @throws IllegalArgumentException if the access key ID or secret access key is
null
    */
   public static CompletableFuture<S3AsyncClient>
createS3ClientWithAccessKeyAsync(String accessKeyId, String secretAccessKey) {
       return CompletableFuture.supplyAsync(() -> {
           // Validate input parameters
           if (accessKeyId == null || accessKeyId.isBlank() || secretAccessKey ==
null || secretAccessKey.isBlank()) {
               throw new IllegalArgumentException("Access Key ID and Secret Access
Key must not be null or empty");
           }

           AwsBasicCredentials awsCredentials =
AwsBasicCredentials.create(accessKeyId, secretAccessKey);
           return S3AsyncClient.builder()

.credentialsProvider(StaticCredentialsProvider.create(awsCredentials))
               .region(Region.US_WEST_2)
               .build();
       });
   }

   private static void waitForInputToContinue(Scanner scanner) {
       while (true) {
           logger.info("");
           logger.info("Enter 'c' followed by <ENTER> to continue:");
           String input = scanner.nextLine();

           if (input.trim().equalsIgnoreCase("c")) {
               logger.info("Continuing with the program...");
               logger.info("");
               break;
           } else {
               logger.info("Invalid input. Please try again.");
           }
       }
   }
```

```
}
```

Amazon S3 SDK メソッドのラッパークラス。

```
public class S3DirectoriesActions {

    private static IamAsyncClient iamAsyncClient;

    private static Ec2AsyncClient ec2AsyncClient;
    private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(S3DirectoriesActions.class);

    private static IamAsyncClient getIAMAsyncClient() {
        if (iamAsyncClient == null) {
            SdkAsyncHttpClient httpClient = NettyNioAsyncHttpClient.builder()
                .maxConcurrency(100)
                .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .readTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .writeTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .build();

            ClientOverrideConfiguration overrideConfig =
 ClientOverrideConfiguration.builder()
                .apiCallTimeout(Duration.ofMinutes(2))
                .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(90))
                .retryStrategy(RetryMode.STANDARD)
                .build();

            iamAsyncClient = IamAsyncClient.builder()
                .httpClient(httpClient)
                .overrideConfiguration(overrideConfig)
                .build();
        }
        return iamAsyncClient;
    }

    private static Ec2AsyncClient getEc2AsyncClient() {
        if (ec2AsyncClient == null) {
            SdkAsyncHttpClient httpClient = NettyNioAsyncHttpClient.builder()
                .maxConcurrency(100)
                .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .readTimeout(Duration.ofSeconds(60))
```

```
                .writeTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                .build();

            ClientOverrideConfiguration overrideConfig =
ClientOverrideConfiguration.builder()
                .apiCallTimeout(Duration.ofMinutes(2))
                .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(90))
                .retryStrategy(RetryMode.STANDARD)
                .build();

            ec2AsyncClient = Ec2AsyncClient.builder()
                .httpClient(httpClient)
                .region(Region.US_WEST_2)
                .overrideConfiguration(overrideConfig)
                .build();
        }
        return ec2AsyncClient;
    }

    /**
     * Deletes the specified S3 bucket and all the objects within it asynchronously.
     *
     * @param s3AsyncClient the S3 asynchronous client to use for the operations
     * @param bucketName the name of the S3 bucket to be deleted
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes with a {@link
WaiterResponse} containing the
     *         {@link HeadBucketResponse} when the bucket has been successfully
deleted
     * @throws CompletionException if there was an error deleting the bucket or its
objects
     */
    public CompletableFuture<WaiterResponse<HeadBucketResponse>>
deleteBucketAndObjectsAsync(S3AsyncClient s3AsyncClient, String bucketName) {
        ListObjectsV2Request listRequest = ListObjectsV2Request.builder()
            .bucket(bucketName)
            .build();

        return s3AsyncClient.listObjectsV2(listRequest)
            .thenCompose(listResponse -> {
                if (!listResponse.contents().isEmpty()) {
                    List<ObjectIdentifier> objectIdentifiers =
listResponse.contents().stream()
                        .map(s3Object ->
ObjectIdentifier.builder().key(s3Object.key()).build())
```

```
                        .collect(Collectors.toList());

                    DeleteObjectsRequest deleteRequest =
DeleteObjectsRequest.builder()
                        .bucket(bucketName)
                        .delete(Delete.builder().objects(objectIdentifiers).build())
                        .build();

                    return s3AsyncClient.deleteObjects(deleteRequest)
                        .thenAccept(deleteResponse -> {
                            if (!deleteResponse.errors().isEmpty()) {
                                deleteResponse.errors().forEach(error ->
                                    logger.error("Couldn't delete object " +
error.key() + ". Reason: " + error.message()));
                            }
                        });
                }
                return CompletableFuture.completedFuture(null);
            })
            .thenCompose(ignored -> {
                DeleteBucketRequest deleteBucketRequest =
DeleteBucketRequest.builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .build();
                return s3AsyncClient.deleteBucket(deleteBucketRequest);
            })
            .thenCompose(ignored -> {
                S3AsyncWaiter waiter = s3AsyncClient.waiter();
                HeadBucketRequest headBucketRequest =
HeadBucketRequest.builder().bucket(bucketName).build();
                return waiter.waitUntilBucketNotExists(headBucketRequest);
            })
            .whenComplete((ignored, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof S3Exception) {
                        throw new CompletionException("Error deleting bucket: " +
bucketName, cause);
                    }
                    throw new CompletionException("Failed to delete bucket and
objects: " + bucketName, exception);
                }
                logger.info("Bucket deleted successfully: " + bucketName);
            });
```

```
    }

    /**
     *  Lists the objects in an S3 bucket asynchronously.
     *
     * @param s3Client the S3 async client to use for the operation
     * @param bucketName the name of the S3 bucket containing the objects to list
     * @return a {@link CompletableFuture} that contains the list of object keys in
the specified bucket
     */
    public CompletableFuture<List<String>> listObjectsAsync(S3AsyncClient s3Client,
String bucketName) {
        ListObjectsV2Request request = ListObjectsV2Request.builder()
            .bucket(bucketName)
            .build();

        return s3Client.listObjectsV2(request)
            .thenApply(response -> response.contents().stream()
                .map(S3Object::key)
                .toList())
            .whenComplete((result, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    throw new CompletionException("Couldn't list objects in bucket:
" + bucketName, exception);
                }
            });
    }

    /**
     * Retrieves an object from an Amazon S3 bucket asynchronously.
     *
     * @param s3Client   the S3 async client to use for the operation
     * @param bucketName the name of the S3 bucket containing the object
     * @param keyName    the unique identifier (key) of the object to retrieve
     * @return a {@link CompletableFuture} that, when completed, contains the
object's content as a {@link ResponseBytes} of {@link GetObjectResponse}
     */
    public CompletableFuture<ResponseBytes<GetObjectResponse>>
getObjectAsync(S3AsyncClient s3Client, String bucketName, String keyName) {
        GetObjectRequest objectRequest = GetObjectRequest.builder()
            .key(keyName)
            .bucket(bucketName)
            .build();
```

```
        // Get the object asynchronously and transform it into a byte array
        return s3Client.getObject(objectRequest, AsyncResponseTransformer.toBytes())
            .exceptionally(exception -> {
                Throwable cause = exception.getCause();
                if (cause instanceof NoSuchKeyException) {
                    throw new CompletionException("Failed to get the object. Reason:
" + ((S3Exception) cause).awsErrorDetails().errorMessage(), cause);
                }
                throw new CompletionException("Failed to get the object",
exception);
            });
    }

    /**
     * Asynchronously copies an object from one S3 bucket to another.
     *
     * @param s3Client           the S3 async client to use for the copy operation
     * @param sourceBucket       the name of the source bucket
     * @param sourceKey          the key of the object to be copied in the source
bucket
     * @param destinationBucket  the name of the destination bucket
     * @param destinationKey     the key of the copied object in the destination
bucket
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the copy operation is
finished
     */
    public CompletableFuture<Void> copyObjectAsync(S3AsyncClient s3Client, String
sourceBucket, String sourceKey, String destinationBucket, String destinationKey) {
        CopyObjectRequest copyRequest = CopyObjectRequest.builder()
            .sourceBucket(sourceBucket)
            .sourceKey(sourceKey)
            .destinationBucket(destinationBucket)
            .destinationKey(destinationKey)
            .build();

        return s3Client.copyObject(copyRequest)
            .thenRun(() -> logger.info("Copied object '" + sourceKey + "' from
bucket '" + sourceBucket + "' to bucket '" + destinationBucket + "'"))
            .whenComplete((ignored, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof S3Exception) {
```

```
                        throw new CompletionException("Couldn't copy object '" +
sourceKey + "' from bucket '" + sourceBucket + "' to bucket '" + destinationBucket
+ "'. Reason: " + ((S3Exception) cause).awsErrorDetails().errorMessage(), cause);
                    }
                    throw new CompletionException("Failed to copy object",
exception);
                }
            });
    }

    /**
     * Asynchronously creates a session for the specified S3 bucket.
     *
     * @param s3Client   the S3 asynchronous client to use for creating the session
     * @param bucketName the name of the S3 bucket for which to create the session
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes when the session is
created, or throws a {@link CompletionException} if an error occurs
     */
    public CompletableFuture<CreateSessionResponse> createSessionAsync(S3AsyncClient
s3Client, String bucketName) {
        CreateSessionRequest request = CreateSessionRequest.builder()
            .bucket(bucketName)
            .build();

        return s3Client.createSession(request)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof S3Exception) {
                        throw new CompletionException("Couldn't create the session.
Reason: " + ((S3Exception) cause).awsErrorDetails().errorMessage(), cause);
                    }
                    throw new CompletionException("Unexpected error occurred while
creating session", exception);
                }
                logger.info("Created session for bucket: " + bucketName);
            });

    }

    /**
     * Creates a new S3 directory bucket in a specified Zone (For example, a
     * specified Availability Zone in this code example).
     *
```

```
     * @param s3Client   The asynchronous S3 client used to create the bucket
     * @param bucketName The name of the bucket to be created
     * @param zone       The Availability Zone where the bucket will be created
     * @throws CompletionException if there's an error creating the bucket
     */
    public CompletableFuture<CreateBucketResponse>
createDirectoryBucketAsync(S3AsyncClient s3Client, String bucketName, String zone)
{
        logger.info("Creating bucket: " + bucketName);

        CreateBucketConfiguration bucketConfiguration =
CreateBucketConfiguration.builder()
            .location(LocationInfo.builder()
                .type(LocationType.AVAILABILITY_ZONE)
                .name(zone)
                .build())
            .bucket(BucketInfo.builder()
                .type(BucketType.DIRECTORY)
                .dataRedundancy(DataRedundancy.SINGLE_AVAILABILITY_ZONE)
                .build())
            .build();

        CreateBucketRequest bucketRequest = CreateBucketRequest.builder()
            .bucket(bucketName)
            .createBucketConfiguration(bucketConfiguration)
            .build();

        return s3Client.createBucket(bucketRequest)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof BucketAlreadyExistsException) {
                        throw new CompletionException("The bucket already exists: "
+ ((S3Exception) cause).awsErrorDetails().errorMessage(), cause);
                    }
                    throw new CompletionException("Unexpected error occurred while
creating bucket", exception);
                }
                logger.info("Bucket created successfully with location: " +
response.location());
            });
    }

    /**
```

```
    * Creates an S3 bucket asynchronously.
    *
    * @param s3Client    the S3 async client to use for the bucket creation
    * @param bucketName  the name of the S3 bucket to create
    * @return a {@link CompletableFuture} that completes with the {@link
WaiterResponse} containing the {@link HeadBucketResponse}
    *         when the bucket is successfully created
    * @throws CompletionException if there's an error creating the bucket
    */
   public CompletableFuture<WaiterResponse<HeadBucketResponse>>
createBucketAsync(S3AsyncClient s3Client, String bucketName) {
       CreateBucketRequest bucketRequest = CreateBucketRequest.builder()
           .bucket(bucketName)
           .build();

       return s3Client.createBucket(bucketRequest)
           .thenCompose(response -> {
               S3AsyncWaiter s3Waiter = s3Client.waiter();
               HeadBucketRequest bucketRequestWait = HeadBucketRequest.builder()
                   .bucket(bucketName)
                   .build();
               return s3Waiter.waitUntilBucketExists(bucketRequestWait);
           })
           .whenComplete((response, exception) -> {
               if (exception != null) {
                   Throwable cause = exception.getCause();
                   if (cause instanceof BucketAlreadyExistsException) {
                       throw new CompletionException("The S3 bucket exists: " +
cause.getMessage(), cause);
                   } else {
                       throw new CompletionException("Failed to create access key:
" + exception.getMessage(), exception);
                   }
               }
               logger.info(bucketName + " is ready");
           });
   }

   /**
    * Uploads an object to an Amazon S3 bucket asynchronously.
    *
    * @param s3Client     the S3 async client to use for the upload
    * @param bucketName   the destination S3 bucket name
    * @param bucketObject the name of the object to be uploaded
```

```
     * @param text         the content to be uploaded as the object
     */
    public CompletableFuture<PutObjectResponse> putObjectAsync(S3AsyncClient
s3Client, String bucketName, String bucketObject, String text) {
        PutObjectRequest objectRequest = PutObjectRequest.builder()
            .bucket(bucketName)
            .key(bucketObject)
            .build();

        return s3Client.putObject(objectRequest, AsyncRequestBody.fromString(text))
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (exception != null) {
                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof NoSuchBucketException) {
                        throw new CompletionException("The S3 bucket does not exist:
" + cause.getMessage(), cause);
                    } else {
                        throw new CompletionException("Failed to create access key:
" + exception.getMessage(), exception);
                    }
                }
            });
    }

    /**
     * Creates an AWS IAM access key asynchronously for the specified user name.
     *
     * @param userName the name of the IAM user for whom to create the access key
     * @return a {@link CompletableFuture} that completes with the {@link
CreateAccessKeyResponse} containing the created access key
     */
    public CompletableFuture<CreateAccessKeyResponse> createAccessKeyAsync(String
userName) {
        CreateAccessKeyRequest request = CreateAccessKeyRequest.builder()
            .userName(userName)
            .build();

        return getIAMAsyncClient().createAccessKey(request)
            .whenComplete((response, exception) -> {
                if (response != null) {
                    logger.info("Access Key Created.");
                } else {
                    if (exception == null) {
                        Throwable cause = exception.getCause();
```

```
                        if (cause instanceof IamException) {
                            throw new CompletionException("IAM error while creating
 access key: " + cause.getMessage(), cause);
                        } else {
                            throw new CompletionException("Failed to create access
 key: " + exception.getMessage(), exception);
                        }
                    }
                }
            });
    }

    /**
     * Asynchronously selects an Availability Zone ID from the available EC2 zones.
     *
     * @return A {@link CompletableFuture} that resolves to the selected
 Availability Zone ID.
     * @throws CompletionException if an error occurs during the request or
 processing.
     */
    public CompletableFuture<String> selectAvailabilityZoneIdAsync() {
        DescribeAvailabilityZonesRequest zonesRequest =
 DescribeAvailabilityZonesRequest.builder()
            .build();

        return getEc2AsyncClient().describeAvailabilityZones(zonesRequest)
            .thenCompose(response -> {
                List<AvailabilityZone> zonesList = response.availabilityZones();
                if (zonesList.isEmpty()) {
                    logger.info("No availability zones found.");
                    return CompletableFuture.completedFuture(null); // Return null
 if no zones are found
                }

                List<String> zoneIds = zonesList.stream()
                    .map(AvailabilityZone::zoneId) // Get the zoneId (e.g., "usw2-
az1")
                    .toList();

                return CompletableFuture.supplyAsync(() ->
 promptUserForZoneSelection(zonesList, zoneIds))
                    .thenApply(selectedZone -> {
                        // Return only the selected Zone ID (e.g., "usw2-az1").
                        return selectedZone.zoneId();
```

```
                    });
            })
            .whenComplete((result, exception) -> {
                if (exception == null) {
                    if (result != null) {
                        logger.info("Selected Availability Zone ID: " + result);
                    } else {
                        logger.info("No availability zone selected.");
                    }
                } else {
                    Throwable cause = exception.getCause();
                    if (cause instanceof Ec2Exception) {
                        throw new CompletionException("EC2 error while selecting
availability zone: " + cause.getMessage(), cause);
                    }
                    throw new CompletionException("Failed to select availability
zone: " + exception.getMessage(), exception);
                }
            });
    }

    /**
     * Prompts the user to select an Availability Zone from the given list.
     *
     * @param zonesList the list of Availability Zones
     * @param zoneIds the list of zone IDs
     * @return the selected Availability Zone
     */
    private static AvailabilityZone
promptUserForZoneSelection(List<AvailabilityZone> zonesList, List<String> zoneIds)
{
        Scanner scanner = new Scanner(System.in);
        int index = -1;

        while (index < 0 || index >= zoneIds.size()) {
            logger.info("Select an availability zone:");
            IntStream.range(0, zoneIds.size()).forEach(i ->
                logger.info(i + ": " + zoneIds.get(i))
            );

            logger.info("Enter the number corresponding to your choice: ");
            if (scanner.hasNextInt()) {
                index = scanner.nextInt();
            } else {
```

```
                scanner.next();
            }
        }

        AvailabilityZone selectedZone = zonesList.get(index);
        logger.info("You selected: " + selectedZone.zoneId());
        return selectedZone;
    }

    /**
     * Asynchronously sets up a new VPC, including creating the VPC, finding the
associated route table, and
     * creating a VPC endpoint for the S3 service.
     *
     * @return a {@link CompletableFuture} that, when completed, contains a
AbstractMap with the
     *         VPC ID and VPC endpoint ID.
     */
    public CompletableFuture<AbstractMap.SimpleEntry<String, String>>
setupVPCAsync() {
        String cidr = "10.0.0.0/16";
        CreateVpcRequest vpcRequest = CreateVpcRequest.builder()
            .cidrBlock(cidr)
            .build();

        return getEc2AsyncClient().createVpc(vpcRequest)
            .thenCompose(vpcResponse -> {
                String vpcId = vpcResponse.vpc().vpcId();
                logger.info("VPC Created: {}", vpcId);

                Ec2AsyncWaiter waiter = getEc2AsyncClient().waiter();
                DescribeVpcsRequest request = DescribeVpcsRequest.builder()
                    .vpcIds(vpcId)
                    .build();

                return waiter.waitUntilVpcAvailable(request)
                    .thenApply(waiterResponse -> vpcId);
            })
            .thenCompose(vpcId -> {
                Filter filter = Filter.builder()
                    .name("vpc-id")
                    .values(vpcId)
                    .build();
```

```
                DescribeRouteTablesRequest describeRouteTablesRequest =
DescribeRouteTablesRequest.builder()
                    .filters(filter)
                    .build();

                return
getEc2AsyncClient().describeRouteTables(describeRouteTablesRequest)
                    .thenApply(routeTablesResponse -> {
                        if (routeTablesResponse.routeTables().isEmpty()) {
                            throw new CompletionException("No route tables found for
VPC: " + vpcId, null);
                        }
                        String routeTableId =
routeTablesResponse.routeTables().get(0).routeTableId();
                        logger.info("Route table found: {}", routeTableId);
                        return new AbstractMap.SimpleEntry<>(vpcId, routeTableId);
                    });
            })
            .thenCompose(vpcAndRouteTable -> {
                String vpcId = vpcAndRouteTable.getKey();
                String routeTableId = vpcAndRouteTable.getValue();
                Region region =
getEc2AsyncClient().serviceClientConfiguration().region();
                String serviceName = String.format("com.amazonaws.%s.s3express",
region.id());

                CreateVpcEndpointRequest endpointRequest =
CreateVpcEndpointRequest.builder()
                    .vpcId(vpcId)
                    .routeTableIds(routeTableId)
                    .serviceName(serviceName)
                    .build();

                return getEc2AsyncClient().createVpcEndpoint(endpointRequest)
                    .thenApply(vpcEndpointResponse -> {
                        String vpcEndpointId =
vpcEndpointResponse.vpcEndpoint().vpcEndpointId();
                        logger.info("VPC Endpoint created: {}", vpcEndpointId);
                        return new AbstractMap.SimpleEntry<>(vpcId, vpcEndpointId);
                    });
            })
            .exceptionally(exception -> {
                Throwable cause = exception.getCause() != null ?
exception.getCause() : exception;
```

```
                if (cause instanceof Ec2Exception) {
                    logger.error("EC2 error during VPC setup: {}",
 cause.getMessage(), cause);
                    throw new CompletionException("EC2 error during VPC setup: " +
 cause.getMessage(), cause);
                }

                logger.error("VPC setup failed: {}", cause.getMessage(), cause);
                throw new CompletionException("VPC setup failed: " +
 cause.getMessage(), cause);
            });
    }

}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - CopyObject
  - CreateBucket
  - DeleteBucket
  - DeleteObject
  - GetObject
  - ListObjects
  - PutObject

アクション

`AbortMultipartUpload`

次のコード例は、`AbortMultipartUpload` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

ディレクトリバケット内のマルチパートアップロードを中止します。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.AbortMultipartUploadRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;

import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createDirectoryBucket;
import static
 com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createDirectoryBucketMultipartUpload;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createS3Client;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.deleteDirectoryBucket;



    /**
     * Aborts a specific multipart upload for the specified S3 directory bucket.
     *
     * @param s3Client   The S3 client used to interact with S3
     * @param bucketName The name of the directory bucket
     * @param objectKey  The key (name) of the object to be uploaded
     * @param uploadId   The upload ID of the multipart upload to abort
     * @return True if the multipart upload is successfully aborted, false otherwise
     */
    public static boolean abortDirectoryBucketMultipartUpload(S3Client s3Client,
 String bucketName,
            String objectKey, String uploadId) {
        logger.info("Aborting multipart upload: {} for bucket: {}", uploadId,
 bucketName);
        try {
            // Abort the multipart upload
            AbortMultipartUploadRequest abortMultipartUploadRequest =
 AbortMultipartUploadRequest.builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .key(objectKey)
                    .uploadId(uploadId)
                    .build();

            s3Client.abortMultipartUpload(abortMultipartUploadRequest);
            logger.info("Aborted multipart upload: {} for object: {}", uploadId,
 objectKey);
            return true;
        } catch (S3Exception e) {
```

```
            logger.error("Failed to abort multipart upload: {} - Error code: {}",
e.awsErrorDetails().errorMessage(),
                    e.awsErrorDetails().errorCode(), e);
            return false;
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「AbortMultipartUpload」を参照してください。

`CompleteMultipartUpload`

次のコード例は、`CompleteMultipartUpload` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

ディレクトリバケット内のマルチパートアップロードを完了します。

```
import com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils;
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CompleteMultipartUploadRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CompleteMultipartUploadResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CompletedMultipartUpload;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CompletedPart;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;

import java.io.IOException;
import java.nio.file.Path;
import java.util.List;

import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createDirectoryBucket;
```

```
import static
 com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createDirectoryBucketMultipartUpload;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createS3Client;
import static
 com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.deleteAllObjectsInDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.deleteDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.getFilePath;
import static
 com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.multipartUploadForDirectoryBucket;


   /**
    * This method completes the multipart upload request by collating all the
    * upload parts.
    *
    * @param s3Client    The S3 client used to interact with S3
    * @param bucketName  The name of the directory bucket
    * @param objectKey   The key (name) of the object to be uploaded
    * @param uploadId    The upload ID used to track the multipart upload
    * @param uploadParts The list of completed parts
    * @return True if the multipart upload is successfully completed, false
    *         otherwise
    */
   public static boolean completeDirectoryBucketMultipartUpload(S3Client s3Client,
 String bucketName, String objectKey,
           String uploadId, List<CompletedPart> uploadParts) {
       try {
           CompletedMultipartUpload completedMultipartUpload =
 CompletedMultipartUpload.builder()
                   .parts(uploadParts)
                   .build();
           CompleteMultipartUploadRequest completeMultipartUploadRequest =
 CompleteMultipartUploadRequest.builder()
                   .bucket(bucketName)
                   .key(objectKey)
                   .uploadId(uploadId)
                   .multipartUpload(completedMultipartUpload)
                   .build();

           CompleteMultipartUploadResponse response =
 s3Client.completeMultipartUpload(completeMultipartUploadRequest);
           logger.info("Multipart upload completed. ETag: {}", response.eTag());
           return true;
       } catch (S3Exception e) {
```

```
            logger.error("Failed to complete multipart upload: {} - Error code: {}",
e.awsErrorDetails().errorMessage(),
                    e.awsErrorDetails().errorCode(), e);
            return false;
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CompleteMultipartUpload」を参照してください。

`CopyObject`

次のコード例は、`CopyObject` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

ディレクトリバケットから別のディレクトリバケットにオブジェクトをコピーします。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CopyObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CopyObjectResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;

import java.nio.file.Path;

import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createS3Client;
import static
 com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.deleteAllObjectsInDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.deleteDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.getFilePath;
```

```
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.putDirectoryBucketObject;

   /**
    * Copies an object from one S3 general purpose bucket to one S3 directory
    * bucket.
    *
    * @param s3Client     The S3 client used to interact with S3
    * @param sourceBucket The name of the source bucket
    * @param objectKey    The key (name) of the object to be copied
    * @param targetBucket The name of the target bucket
    */
   public static void copyDirectoryBucketObject(S3Client s3Client, String
sourceBucket, String objectKey,
           String targetBucket) {
       logger.info("Copying object: {} from bucket: {} to bucket: {}", objectKey,
sourceBucket, targetBucket);

       try {
           // Create a CopyObjectRequest
           CopyObjectRequest copyReq = CopyObjectRequest.builder()
                   .sourceBucket(sourceBucket)
                   .sourceKey(objectKey)
                   .destinationBucket(targetBucket)
                   .destinationKey(objectKey)
                   .build();

           // Copy the object
           CopyObjectResponse copyRes = s3Client.copyObject(copyReq);
           logger.info("Successfully copied {} from bucket {} into bucket {}.
CopyObjectResponse: {}",
                   objectKey, sourceBucket, targetBucket,
copyRes.copyObjectResult().toString());

       } catch (S3Exception e) {
           logger.error("Failed to copy object: {} - Error code: {}",
e.awsErrorDetails().errorMessage(),
                   e.awsErrorDetails().errorCode(), e);
           throw e;
       }
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CopyObject」を参照してください。

`CreateBucket`

次のコード例は、`CreateBucket` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

S3 ディレクトリバケットを作成します。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.BucketInfo;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.BucketType;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CreateBucketConfiguration;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CreateBucketRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CreateBucketResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.DataRedundancy;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.LocationInfo;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.LocationType;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;

import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createS3Client;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.deleteDirectoryBucket;

    /**
     * Creates a new S3 directory bucket in a specified Zone (For example, a
     * specified Availability Zone in this code example).
     *
     * @param s3Client   The S3 client used to create the bucket
     * @param bucketName The name of the bucket to be created
     * @param zone       The region where the bucket will be created
```

```
     * @throws S3Exception if there's an error creating the bucket
     */
    public static void createDirectoryBucket(S3Client s3Client, String bucketName,
String zone) throws S3Exception {
        logger.info("Creating bucket: {}", bucketName);

        CreateBucketConfiguration bucketConfiguration =
CreateBucketConfiguration.builder()
                .location(LocationInfo.builder()
                        .type(LocationType.AVAILABILITY_ZONE)
                        .name(zone).build())
                .bucket(BucketInfo.builder()
                        .type(BucketType.DIRECTORY)
                        .dataRedundancy(DataRedundancy.SINGLE_AVAILABILITY_ZONE)
                        .build())
                .build();
        try {
            CreateBucketRequest bucketRequest = CreateBucketRequest.builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .createBucketConfiguration(bucketConfiguration).build();
            CreateBucketResponse response = s3Client.createBucket(bucketRequest);
            logger.info("Bucket created successfully with location: {}",
response.location());
        } catch (S3Exception e) {
            logger.error("Error creating bucket: {} - Error code: {}",
e.awsErrorDetails().errorMessage(),
                    e.awsErrorDetails().errorCode(), e);
            throw e;
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateBucket」を参照してください。

CreateMultipartUpload

次のコード例は、CreateMultipartUpload を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

ディレクトリバケットにマルチパートアップロードを作成します。

```
import com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils;
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CreateMultipartUploadRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CreateMultipartUploadResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;

import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createS3Client;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.deleteDirectoryBucket;

    /**
     * This method creates a multipart upload request that generates a unique upload
     * ID used to track
     * all the upload parts.
     *
     * @param s3Client   The S3 client used to interact with S3
     * @param bucketName The name of the directory bucket
     * @param objectKey  The key (name) of the object to be uploaded
     * @return The upload ID used to track the multipart upload
     */
    public static String createDirectoryBucketMultipartUpload(S3Client s3Client,
 String bucketName, String objectKey) {
        logger.info("Creating multipart upload for object: {} in bucket: {}",
 objectKey, bucketName);

        try {
            // Create a CreateMultipartUploadRequest
            CreateMultipartUploadRequest createMultipartUploadRequest =
 CreateMultipartUploadRequest.builder()
                    .bucket(bucketName)
```

```
                    .key(objectKey)
                    .build();

            // Initiate the multipart upload
            CreateMultipartUploadResponse response =
s3Client.createMultipartUpload(createMultipartUploadRequest);
            String uploadId = response.uploadId();
            logger.info("Multipart upload initiated. Upload ID: {}", uploadId);
            return uploadId;

        } catch (S3Exception e) {
            logger.error("Failed to create multipart upload: {} - Error code: {}",
e.awsErrorDetails().errorMessage(),
                    e.awsErrorDetails().errorCode(), e);
            throw e;
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateMultipartUpload」を参照してください。

`DeleteBucket`

次のコード例は、`DeleteBucket` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

S3 ディレクトリバケットを削除します。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.DeleteBucketRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;

import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createS3Client;

    /**
     * Deletes the specified S3 directory bucket.
     *
     * @param s3Client   The S3 client used to interact with S3
     * @param bucketName The name of the directory bucket to delete
     */
    public static void deleteDirectoryBucket(S3Client s3Client, String bucketName) {
        logger.info("Deleting bucket: {}", bucketName);

        try {
            // Create a DeleteBucketRequest
            DeleteBucketRequest deleteBucketRequest = DeleteBucketRequest.builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .build();

            // Delete the bucket
            s3Client.deleteBucket(deleteBucketRequest);
            logger.info("Successfully deleted bucket: {}", bucketName);

        } catch (S3Exception e) {
            logger.error("Failed to delete bucket: {} - Error code: {}",
 e.awsErrorDetails().errorMessage(),
                    e.awsErrorDetails().errorCode(), e);
            throw e;
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteBucket」を参照してください。

`DeleteBucketEncryption`

次のコード例は、`DeleteBucketEncryption` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

ディレクトリバケットの暗号化設定を削除します。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.DeleteBucketEncryptionRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;

import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createS3Client;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.deleteDirectoryBucket;

    /**
     * Deletes the encryption configuration from an S3 bucket.
     *
     * @param s3Client   The S3 client used to interact with S3
     * @param bucketName The name of the directory bucket
     */
    public static void deleteDirectoryBucketEncryption(S3Client s3Client, String
 bucketName) {
        DeleteBucketEncryptionRequest deleteRequest =
 DeleteBucketEncryptionRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .build();

        try {
            s3Client.deleteBucketEncryption(deleteRequest);
            logger.info("Bucket encryption deleted for bucket: {}", bucketName);
        } catch (S3Exception e) {
            logger.error("Failed to delete bucket encryption: {} - Error code: {}",
 e.awsErrorDetails().errorMessage(),
                    e.awsErrorDetails().errorCode(), e);
            throw e;
        }
```

```
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteBucketEncryption」を参照してください。

`DeleteBucketPolicy`

次のコード例は、`DeleteBucketPolicy` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

ディレクトリバケット内のバケットポリシーを削除します。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.DeleteBucketPolicyRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;

import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createS3Client;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.deleteDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.getAwsAccountId;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.putDirectoryBucketPolicy;

import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;


    /**
     * Deletes the bucket policy for the specified S3 directory bucket.
     *
     * @param s3Client   The S3 client used to interact with S3
     * @param bucketName The name of the directory bucket
     */
```

```
    public static void deleteDirectoryBucketPolicy(S3Client s3Client, String
bucketName) {
        logger.info("Deleting policy for bucket: {}", bucketName);

        try {
            // Create a DeleteBucketPolicyRequest
            DeleteBucketPolicyRequest deletePolicyReq =
DeleteBucketPolicyRequest.builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .build();

            // Delete the bucket policy
            s3Client.deleteBucketPolicy(deletePolicyReq);
            logger.info("Successfully deleted bucket policy");

        } catch (S3Exception e) {
            logger.error("Failed to delete bucket policy: {} - Error code: {}",
e.awsErrorDetails().errorMessage(),
                    e.awsErrorDetails().errorCode(), e);
            throw e;
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteBucketPolicy」を参照してください。

`DeleteObject`

次のコード例は、`DeleteObject` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

ディレクトリバケット内のオブジェクトを削除します。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.DeleteObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;

import java.nio.file.Path;

import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createS3Client;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.deleteDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.getFilePath;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.putDirectoryBucketObject;




   /**
    * Deletes an object from the specified S3 directory bucket.
    *
    * @param s3Client   The S3 client used to interact with S3
    * @param bucketName The name of the directory bucket
    * @param objectKey  The key (name) of the object to be deleted
    */
   public static void deleteDirectoryBucketObject(S3Client s3Client, String
 bucketName, String objectKey) {
       logger.info("Deleting object: {} from bucket: {}", objectKey, bucketName);

       try {
           // Create a DeleteObjectRequest
           DeleteObjectRequest deleteObjectRequest = DeleteObjectRequest.builder()
                   .bucket(bucketName)
                   .key(objectKey)
                   .build();

           // Delete the object
           s3Client.deleteObject(deleteObjectRequest);
           logger.info("Object {} has been deleted", objectKey);

       } catch (S3Exception e) {
           logger.error("Failed to delete object: {} - Error code: {}",
 e.awsErrorDetails().errorMessage(),
                   e.awsErrorDetails().errorCode(), e);
```

```
            throw e;
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteObject」を参照してください。

`DeleteObjects`

次のコード例は、`DeleteObjects` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

ディレクトリバケット内の複数のオブジェクトを削除します。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.Delete;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.DeleteObjectsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.DeleteObjectsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ObjectIdentifier;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;

import java.net.URISyntaxException;
import java.nio.file.Path;
import java.nio.file.Paths;
import java.util.List;

import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;

import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createS3Client;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.deleteDirectoryBucket;
```

```
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.getFilePath;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.putDirectoryBucketObject;


   /**
    * Deletes multiple objects from the specified S3 directory bucket.
    *
    * @param s3Client   The S3 client used to interact with S3
    * @param bucketName The name of the directory bucket
    * @param objectKeys The list of keys (names) of the objects to be deleted
    */
   public static void deleteDirectoryBucketObjects(S3Client s3Client, String
bucketName, List<String> objectKeys) {
       logger.info("Deleting objects from bucket: {}", bucketName);

       try {
           // Create a list of ObjectIdentifier.
           List<ObjectIdentifier> identifiers = objectKeys.stream()
                   .map(key -> ObjectIdentifier.builder().key(key).build())
                   .toList();

           Delete delete = Delete.builder()
                   .objects(identifiers)
                   .build();

           DeleteObjectsRequest deleteObjectsRequest =
DeleteObjectsRequest.builder()
                   .bucket(bucketName)
                   .delete(delete)
                   .build();

           DeleteObjectsResponse deleteObjectsResponse =
s3Client.deleteObjects(deleteObjectsRequest);
           deleteObjectsResponse.deleted().forEach(deleted -> logger.info("Deleted
object: {}", deleted.key()));

       } catch (S3Exception e) {
           logger.error("Failed to delete objects: {} - Error code: {}",
e.awsErrorDetails().errorMessage(),
                   e.awsErrorDetails().errorCode(), e);
           throw e;
       }
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteObjects」を参照してください。

`GetBucketEncryption`

次のコード例は、`GetBucketEncryption` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

ディレクトリバケットの暗号化設定を取得します。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetBucketEncryptionRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetBucketEncryptionResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ServerSideEncryptionRule;

import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createS3Client;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.deleteDirectoryBucket;

    /**
     * Retrieves the encryption configuration for an S3 directory bucket.
     *
     * @param s3Client   The S3 client used to interact with S3
     * @param bucketName The name of the directory bucket
     * @return The type of server-side encryption applied to the bucket (e.g.,
     *         AES256, aws:kms)
     */
```

```
   public static String getDirectoryBucketEncryption(S3Client s3Client, String
bucketName) {
       try {
           // Create a GetBucketEncryptionRequest
           GetBucketEncryptionRequest getRequest =
GetBucketEncryptionRequest.builder()
                   .bucket(bucketName)
                   .build();

           // Retrieve the bucket encryption configuration
           GetBucketEncryptionResponse response =
s3Client.getBucketEncryption(getRequest);
           ServerSideEncryptionRule rule =
response.serverSideEncryptionConfiguration().rules().get(0);

           String encryptionType =
rule.applyServerSideEncryptionByDefault().sseAlgorithmAsString();
           logger.info("Bucket encryption algorithm: {}", encryptionType);
           logger.info("KMS Customer Managed Key ID: {}",
rule.applyServerSideEncryptionByDefault().kmsMasterKeyID());
           logger.info("Bucket Key Enabled: {}", rule.bucketKeyEnabled());

           return encryptionType;
       } catch (S3Exception e) {
           logger.error("Failed to get bucket encryption: {} - Error code: {}",
e.awsErrorDetails().errorMessage(),
                   e.awsErrorDetails().errorCode(), e);
           throw e;
       }
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetBucketEncryption」を参照してください。

GetBucketPolicy

次のコード例は、GetBucketPolicy を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

ディレクトリバケットのポリシーを取得します。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetBucketPolicyRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetBucketPolicyResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;

import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createS3Client;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.deleteDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.getAwsAccountId;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.putDirectoryBucketPolicy;

    /**
     * Retrieves the bucket policy for the specified S3 directory bucket.
     *
     * @param s3Client   The S3 client used to interact with S3
     * @param bucketName The name of the directory bucket
     * @return The bucket policy text
     */
    public static String getDirectoryBucketPolicy(S3Client s3Client, String
 bucketName) {
        logger.info("Getting policy for bucket: {}", bucketName);

        try {
            // Create a GetBucketPolicyRequest
            GetBucketPolicyRequest policyReq = GetBucketPolicyRequest.builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .build();

            // Retrieve the bucket policy
```

```
            GetBucketPolicyResponse response = s3Client.getBucketPolicy(policyReq);

            // Print and return the policy text
            String policyText = response.policy();
            logger.info("Bucket policy: {}", policyText);
            return policyText;

        } catch (S3Exception e) {
            logger.error("Failed to get bucket policy: {} - Error code: {}",
e.awsErrorDetails().errorMessage(),
                    e.awsErrorDetails().errorCode(), e);
            throw e;
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetBucketPolicy」を参照してください。

`GetObject`

次のコード例は、`GetObject` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

ディレクトリバケットからオブジェクトを取得します。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.core.ResponseBytes;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetObjectResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;
```

```
import java.nio.charset.StandardCharsets;
import java.nio.file.Path;

import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createS3Client;
import static
 com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.deleteAllObjectsInDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.deleteDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.getFilePath;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.putDirectoryBucketObject;

    /**
     * Retrieves an object from the specified S3 directory bucket.
     *
     * @param s3Client   The S3 client used to interact with S3
     * @param bucketName The name of the directory bucket
     * @param objectKey  The key (name) of the object to be retrieved
     * @return The retrieved object as a ResponseInputStream
     */
    public static boolean getDirectoryBucketObject(S3Client s3Client, String
 bucketName, String objectKey) {
        logger.info("Retrieving object: {} from bucket: {}", objectKey, bucketName);

        try {
            // Create a GetObjectRequest
            GetObjectRequest objectRequest = GetObjectRequest.builder()
                    .key(objectKey)
                    .bucket(bucketName)
                    .build();

            // Retrieve the object as bytes
            ResponseBytes<GetObjectResponse> objectBytes =
 s3Client.getObjectAsBytes(objectRequest);
            byte[] data = objectBytes.asByteArray();

            // Print object contents to console
            String objectContent = new String(data, StandardCharsets.UTF_8);
            logger.info("Object contents: \n{}", objectContent);

            return true;

        } catch (S3Exception e) {
```

```
            logger.error("Failed to retrieve object: {} - Error code: {}",
e.awsErrorDetails().errorMessage(),
                    e.awsErrorDetails().errorCode(), e);
            return false;
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「GetObject」を参照してください。

`GetObjectAttributes`

次のコード例は、`GetObjectAttributes` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

ディレクトリバケットからオブジェクト属性を取得します。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetObjectAttributesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetObjectAttributesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ObjectAttributes;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;

import java.nio.file.Path;

import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createS3Client;
import static
 com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.deleteAllObjectsInDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.deleteDirectoryBucket;
```

```
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.getFilePath;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.putDirectoryBucketObject;

    /**
     * Retrieves attributes for an object in the specified S3 directory bucket.
     *
     * @param s3Client   The S3 client used to interact with S3
     * @param bucketName The name of the directory bucket
     * @param objectKey  The key (name) of the object to retrieve attributes for
     * @return True if the object attributes are successfully retrieved, false
     *         otherwise
     */
    public static boolean getDirectoryBucketObjectAttributes(S3Client s3Client,
 String bucketName, String objectKey) {
        logger.info("Retrieving attributes for object: {} from bucket: {}",
 objectKey, bucketName);

        try {
            // Create a GetObjectAttributesRequest
            GetObjectAttributesRequest getObjectAttributesRequest =
 GetObjectAttributesRequest.builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .key(objectKey)
                    .objectAttributes(ObjectAttributes.E_TAG,
 ObjectAttributes.STORAGE_CLASS,
                            ObjectAttributes.OBJECT_SIZE)
                    .build();

            // Retrieve the object attributes
            GetObjectAttributesResponse response =
 s3Client.getObjectAttributes(getObjectAttributesRequest);
            logger.info("Attributes for object {}:", objectKey);
            logger.info("ETag: {}", response.eTag());
            logger.info("Storage Class: {}", response.storageClass());
            logger.info("Object Size: {}", response.objectSize());
            return true;

        } catch (S3Exception e) {
            logger.error("Failed to retrieve object attributes: {} - Error code:
 {}",
                    e.awsErrorDetails().errorMessage(),
 e.awsErrorDetails().errorCode(), e);
            return false;
        }
```

```
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「GetObjectAttributes」を参照してください。

`HeadBucket`

次のコード例は、HeadBucket を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

指定された S3 ディレクトリバケットが存在し、アクセス可能であるかどうかを確認します。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.HeadBucketRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;

import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createS3Client;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.deleteDirectoryBucket;

    /**
     * Checks if the specified S3 directory bucket exists and is accessible.
     *
     * @param s3Client   The S3 client used to interact with S3
     * @param bucketName The name of the directory bucket to check
     * @return True if the bucket exists and is accessible, false otherwise
     */
    public static boolean headDirectoryBucket(S3Client s3Client, String bucketName)
 {
        logger.info("Checking if bucket exists: {}", bucketName);
```

```
        try {
            // Create a HeadBucketRequest
            HeadBucketRequest headBucketRequest = HeadBucketRequest.builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .build();
            // If the bucket doesn't exist, the following statement throws
NoSuchBucketException,
            // which is a subclass of S3Exception.
            s3Client.headBucket(headBucketRequest);
            logger.info("Amazon S3 directory bucket: \"{}\" found.", bucketName);
            return true;

        } catch (S3Exception e) {
            logger.error("Failed to access bucket: {} - Error code: {}",
e.awsErrorDetails().errorMessage(),
                    e.awsErrorDetails().errorCode(), e);
            throw e;
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「HeadBucket」を参照してください。

`HeadObject`

次のコード例は、`HeadObject` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

ディレクトリバケット内のオブジェクトのメタデータを取得します。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
```

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.HeadObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.HeadObjectResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;

import java.nio.file.Path;

import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createS3Client;
import static
 com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.deleteAllObjectsInDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.deleteDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.getFilePath;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.putDirectoryBucketObject;

    /**
     * Retrieves metadata for an object in the specified S3 directory bucket.
     *
     * @param s3Client   The S3 client used to interact with S3
     * @param bucketName The name of the directory bucket
     * @param objectKey  The key (name) of the object to retrieve metadata for
     * @return True if the object exists, false otherwise
     */
    public static boolean headDirectoryBucketObject(S3Client s3Client, String
 bucketName, String objectKey) {
        logger.info("Retrieving metadata for object: {} from bucket: {}", objectKey,
 bucketName);

        try {
            // Create a HeadObjectRequest
            HeadObjectRequest headObjectRequest = HeadObjectRequest.builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .key(objectKey)
                    .build();

            // Retrieve the object metadata
            HeadObjectResponse response = s3Client.headObject(headObjectRequest);
            logger.info("Amazon S3 object: \"{}\" found in bucket: \"{}\" with ETag:
 \"{}\"", objectKey, bucketName,
                    response.eTag());
            logger.info("Content-Type: {}", response.contentType());
            logger.info("Content-Length: {}", response.contentLength());
            logger.info("Last Modified: {}", response.lastModified());
```

```
            return true;

        } catch (S3Exception e) {
            logger.error("Failed to retrieve object metadata: {} - Error code: {}",
e.awsErrorDetails().errorMessage(),
                    e.awsErrorDetails().errorCode(), e);
            return false;
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「HeadObject」を参照してください。

`ListDirectoryBuckets`

次のコード例は、`ListDirectoryBuckets` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

すべてのディレクトリバケットを一覧表示します。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.Bucket;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ListDirectoryBucketsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ListDirectoryBucketsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;

import java.util.List;
import java.util.UUID;
import java.util.stream.Collectors;
```

```
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createS3Client;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.deleteDirectoryBucket;

    /**
     * Lists all S3 directory buckets and no general purpose buckets.
     *
     * @param s3Client The S3 client used to interact with S3
     * @return A list of bucket names
     */
    public static List<String> listDirectoryBuckets(S3Client s3Client) {
        logger.info("Listing all directory buckets");

        try {
            // Create a ListBucketsRequest
            ListDirectoryBucketsRequest listDirectoryBucketsRequest =
 ListDirectoryBucketsRequest.builder().build();

            // Retrieve the list of buckets
            ListDirectoryBucketsResponse response =
 s3Client.listDirectoryBuckets(listDirectoryBucketsRequest);

            // Extract bucket names
            List<String> bucketNames = response.buckets().stream()
                    .map(Bucket::name)
                    .collect(Collectors.toList());

            return bucketNames;
        } catch (S3Exception e) {
            logger.error("Failed to list buckets: {} - Error code: {}",
 e.awsErrorDetails().errorMessage(),
                    e.awsErrorDetails().errorCode());
            throw e;
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListDirectoryBuckets」を参照してください。

ListMultipartUploads

次のコード例は、ListMultipartUploads を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

ディレクトリバケット内のマルチパートアップロードを一覧表示します。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ListMultipartUploadsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ListMultipartUploadsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.MultipartUpload;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;

import java.io.IOException;
import java.nio.file.Path;
import java.util.List;

import static
 com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.abortDirectoryBucketMultipartUploads;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createDirectoryBucket;
import static
 com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createDirectoryBucketMultipartUpload;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createS3Client;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.deleteDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.getFilePath;
import static
 com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.multipartUploadForDirectoryBucket;


    /**
     * Lists multipart uploads for the specified S3 directory bucket.
     *
     * @param s3Client   The S3 client used to interact with S3
     * @param bucketName The name of the directory bucket
     * @return A list of MultipartUpload objects representing the multipart uploads
     */
```

```
   public static List<MultipartUpload> listDirectoryBucketMultipartUploads(S3Client
s3Client, String bucketName) {
       logger.info("Listing in-progress multipart uploads for bucket: {}",
bucketName);

       try {
           // Create a ListMultipartUploadsRequest
           ListMultipartUploadsRequest listMultipartUploadsRequest =
ListMultipartUploadsRequest.builder()
                   .bucket(bucketName)
                   .build();

           // List the multipart uploads
           ListMultipartUploadsResponse response =
s3Client.listMultipartUploads(listMultipartUploadsRequest);
           List<MultipartUpload> uploads = response.uploads();
           for (MultipartUpload upload : uploads) {
               logger.info("In-progress multipart upload: Upload ID: {}, Key: {},
Initiated: {}", upload.uploadId(),
                       upload.key(), upload.initiated());
           }
           return uploads;

       } catch (S3Exception e) {
           logger.error("Failed to list multipart uploads: {} - Error code: {}",
e.awsErrorDetails().errorMessage(),
                   e.awsErrorDetails().errorCode());
           return List.of(); // Return an empty list if an exception is thrown
       }
   }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListMultipartUploads」を参照してください。

ListObjectsV2

次のコード例は、ListObjectsV2 を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

ディレクトリバケット内のオブジェクトを一覧表示します。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ListObjectsV2Request;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ListObjectsV2Response;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Object;

import java.nio.file.Path;
import java.util.List;
import java.util.stream.Collectors;

import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createS3Client;
import static
 com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.deleteAllObjectsInDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.deleteDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.getFilePath;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.putDirectoryBucketObject;

    /**
     * Lists objects in the specified S3 directory bucket.
     *
     * @param s3Client   The S3 client used to interact with S3
     * @param bucketName The name of the directory bucket
     * @return A list of object keys in the bucket
     */
    public static List<String> listDirectoryBucketObjectsV2(S3Client s3Client,
 String bucketName) {
        logger.info("Listing objects in bucket: {}", bucketName);
```

```
        try {
            // Create a ListObjectsV2Request
            ListObjectsV2Request listObjectsV2Request =
ListObjectsV2Request.builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .build();

            // Retrieve the list of objects
            ListObjectsV2Response response =
s3Client.listObjectsV2(listObjectsV2Request);

            // Extract and return the object keys
            return response.contents().stream()
                    .map(S3Object::key)
                    .collect(Collectors.toList());

        } catch (S3Exception e) {
            logger.error("Failed to list objects: {} - Error code: {}",
e.awsErrorDetails().errorMessage(),
                    e.awsErrorDetails().errorCode());
            throw e;
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListObjectsV2」を参照してください。

`ListParts`

次のコード例は、`ListParts` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

ディレクトリバケット内のマルチパートアップロードの一部を一覧表示します。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ListPartsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ListPartsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.Part;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;

import java.io.IOException;
import java.nio.file.Path;
import java.util.List;

import static
 com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.abortDirectoryBucketMultipartUploads;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createDirectoryBucket;
import static
 com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createDirectoryBucketMultipartUpload;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createS3Client;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.deleteDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.getFilePath;
import static
 com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.multipartUploadForDirectoryBucket;

    /**
     * Lists the parts of a multipart upload for the specified S3 directory bucket.
     *
     * @param s3Client   The S3 client used to interact with S3
     * @param bucketName The name of the directory bucket
     * @param objectKey  The key (name) of the object being uploaded
     * @param uploadId   The upload ID used to track the multipart upload
     * @return A list of Part representing the parts of the multipart upload
     */
    public static List<Part> listDirectoryBucketMultipartUploadParts(S3Client
 s3Client, String bucketName,
            String objectKey, String uploadId) {
        logger.info("Listing parts for object: {} in bucket: {}", objectKey,
 bucketName);

        try {
            // Create a ListPartsRequest
            ListPartsRequest listPartsRequest = ListPartsRequest.builder()
```

```
                    .bucket(bucketName)
                    .uploadId(uploadId)
                    .key(objectKey)
                    .build();

            // List the parts of the multipart upload
            ListPartsResponse response = s3Client.listParts(listPartsRequest);
            List<Part> parts = response.parts();
            for (Part part : parts) {
                logger.info("Uploaded part: Part number = \"{}\", etag = {}",
part.partNumber(), part.eTag());
            }
            return parts;

        } catch (S3Exception e) {
            logger.error("Failed to list parts: {} - Error code: {}",
e.awsErrorDetails().errorMessage(),
                    e.awsErrorDetails().errorCode());
            return List.of(); // Return an empty list if an exception is thrown
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListParts」を参照してください。

`PutBucketEncryption`

次のコード例は、`PutBucketEncryption` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

バケット暗号化をディレクトリバケットに設定します。

```
import org.slf4j.Logger;
```

```
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.kms.KmsClient;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.PutBucketEncryptionRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ServerSideEncryption;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ServerSideEncryptionByDefault;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ServerSideEncryptionConfiguration;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ServerSideEncryptionRule;

import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createKmsClient;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createKmsKey;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.deleteDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.scheduleKeyDeletion;

    /**
     * Sets the default encryption configuration for an S3 bucket as SSE-KMS.
     *
     * @param s3Client   The S3 client used to interact with S3
     * @param bucketName The name of the directory bucket
     * @param kmsKeyId   The ID of the customer-managed KMS key
     */
    public static void putDirectoryBucketEncryption(S3Client s3Client, String
 bucketName, String kmsKeyId) {
        // Define the default encryption configuration to use SSE-KMS. For directory
        // buckets, AWS managed KMS keys aren't supported. Only customer-managed
 keys
        // are supported.
        ServerSideEncryptionByDefault encryptionByDefault =
 ServerSideEncryptionByDefault.builder()
                .sseAlgorithm(ServerSideEncryption.AWS_KMS)
                .kmsMasterKeyID(kmsKeyId)
                .build();

        // Create a server-side encryption rule to apply the default encryption
        // configuration. For directory buckets, the bucketKeyEnabled field is
 enforced
        // to be true.
        ServerSideEncryptionRule rule = ServerSideEncryptionRule.builder()
                .bucketKeyEnabled(true)
                .applyServerSideEncryptionByDefault(encryptionByDefault)
                .build();
```

```
        // Create the server-side encryption configuration for the bucket
        ServerSideEncryptionConfiguration encryptionConfiguration =
ServerSideEncryptionConfiguration.builder()
                .rules(rule)
                .build();

        // Create the PutBucketEncryption request
        PutBucketEncryptionRequest putRequest = PutBucketEncryptionRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .serverSideEncryptionConfiguration(encryptionConfiguration)
                .build();

        // Set the bucket encryption
        try {
            s3Client.putBucketEncryption(putRequest);
            logger.info("SSE-KMS Bucket encryption configuration set for the
directory bucket: {}", bucketName);
        } catch (S3Exception e) {
            logger.error("Failed to set bucket encryption: {} - Error code: {}",
e.awsErrorDetails().errorMessage(),
                    e.awsErrorDetails().errorCode());
            throw e;
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「PutBucketEncryption」を参照してください。

PutBucketPolicy

次のコード例は、PutBucketPolicy を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

バケットポリシーをディレクトリバケットに適用します。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.PutBucketPolicyRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;

import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createS3Client;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.deleteDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.getAwsAccountId;

    /**
     * Sets the following bucket policy for the specified S3 directory bucket.
     *<pre>
     * {
     *     "Version":"2012-10-17",
     *     "Statement": [
     *         {
     *             "Sid": "AdminPolicy",
     *             "Effect": "Allow",
     *             "Principal": {
     *                 "AWS": "arn:aws:iam::<ACCOUNT_ID>:root"
     *             },
     *             "Action": "s3express:*",
     *             "Resource": "arn:aws:s3express:us-west-2:<ACCOUNT_ID>:bucket/
<DIR_BUCKET_NAME>
     *         }
     *     ]
     * }
     * </pre>
     * This policy grants all S3 directory bucket actions to identities in the same
 account as the bucket.
     *
     * @param s3Client   The S3 client used to interact with S3
     * @param bucketName The name of the directory bucket
     * @param policyText The policy text to be applied
     */
    public static void putDirectoryBucketPolicy(S3Client s3Client, String
 bucketName, String policyText) {
        logger.info("Setting policy on bucket: {}", bucketName);
```

```
        logger.info("Policy: {}", policyText);

        try {
            PutBucketPolicyRequest policyReq = PutBucketPolicyRequest.builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .policy(policyText)
                    .build();

            s3Client.putBucketPolicy(policyReq);
            logger.info("Bucket policy set successfully!");

        } catch (S3Exception e) {
            logger.error("Failed to set bucket policy: {} - Error code: {}",
e.awsErrorDetails().errorMessage(),
                    e.awsErrorDetails().errorCode(), e);
            throw e;
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「PutBucketPolicy」を参照してください。

`PutObject`

次のコード例は、`PutObject` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

ディレクトリバケットにオブジェクトを配置します。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.awscore.exception.AwsErrorDetails;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.PutObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;

import java.io.UncheckedIOException;
import java.nio.file.Path;

import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createS3Client;
import static
 com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.deleteAllObjectsInDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.deleteDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.getFilePath;

    /**
     * Puts an object into the specified S3 directory bucket.
     *
     * @param s3Client   The S3 client used to interact with S3
     * @param bucketName The name of the directory bucket
     * @param objectKey  The key (name) of the object to be placed in the bucket
     * @param filePath   The path of the file to be uploaded
     */
    public static void putDirectoryBucketObject(S3Client s3Client, String
 bucketName, String objectKey, Path filePath) {
        logger.info("Putting object: {} into bucket: {}", objectKey, bucketName);

        try {
            // Create a PutObjectRequest
            PutObjectRequest putObj = PutObjectRequest.builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .key(objectKey)
                    .build();

            // Upload the object
            s3Client.putObject(putObj, filePath);
            logger.info("Successfully placed {} into bucket {}", objectKey,
 bucketName);

        } catch (UncheckedIOException e) {
            throw S3Exception.builder().message("Failed to read the file: " +
 e.getMessage()).cause(e)
                    .awsErrorDetails(AwsErrorDetails.builder()
                            .errorCode("ClientSideException:FailedToReadFile")
                            .errorMessage(e.getMessage())
```

```
                            .build())
                    .build();
        } catch (S3Exception e) {
            logger.error("Failed to put object: {}", e.getMessage(), e);
            throw e;
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「PutObject」を参照してください。

`UploadPart`

次のコード例は、`UploadPart` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

ディレクトリバケット内のマルチパートアップロードの一部をアップロードします。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.core.sync.RequestBody;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CompletedPart;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.UploadPartRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.UploadPartResponse;

import java.io.IOException;
import java.io.RandomAccessFile;
import java.nio.ByteBuffer;
import java.nio.file.Path;
import java.util.ArrayList;
```

```
import java.util.List;

import static
 com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.abortDirectoryBucketMultipartUploads;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createDirectoryBucket;
import static
 com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createDirectoryBucketMultipartUpload;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createS3Client;
import static
 com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.deleteAllObjectsInDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.deleteDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.getFilePath;

    /**
     * This method creates part requests and uploads individual parts to S3.
     * While it uses the UploadPart API to upload a single part, it does so
     * sequentially to handle multiple parts of a file, returning all the completed
     * parts.
     *
     * @param s3Client   The S3 client used to interact with S3
     * @param bucketName The name of the directory bucket
     * @param objectKey  The key (name) of the object to be uploaded
     * @param uploadId   The upload ID used to track the multipart upload
     * @param filePath   The path to the file to be uploaded
     * @return A list of uploaded parts
     * @throws IOException if an I/O error occurs
     */
    public static List<CompletedPart> multipartUploadForDirectoryBucket(S3Client
 s3Client, String bucketName,
            String objectKey, String uploadId, Path filePath) throws IOException {
        logger.info("Uploading parts for object: {} in bucket: {}", objectKey,
 bucketName);

        int partNumber = 1;
        List<CompletedPart> uploadedParts = new ArrayList<>();
        ByteBuffer bb = ByteBuffer.allocate(1024 * 1024 * 5); // 5 MB byte buffer

        // Read the local file, break down into chunks and process
        try (RandomAccessFile file = new RandomAccessFile(filePath.toFile(), "r")) {
            long fileSize = file.length();
            int position = 0;

            // Sequentially upload parts of the file
            while (position < fileSize) {
```

```
                file.seek(position);
                int read = file.getChannel().read(bb);

                bb.flip(); // Swap position and limit before reading from the buffer
                UploadPartRequest uploadPartRequest = UploadPartRequest.builder()
                        .bucket(bucketName)
                        .key(objectKey)
                        .uploadId(uploadId)
                        .partNumber(partNumber)
                        .build();

                UploadPartResponse partResponse = s3Client.uploadPart(
                        uploadPartRequest,
                        RequestBody.fromByteBuffer(bb));

                // Build the uploaded part
                CompletedPart uploadedPart = CompletedPart.builder()
                        .partNumber(partNumber)
                        .eTag(partResponse.eTag())
                        .build();

                // Add the uploaded part to the list
                uploadedParts.add(uploadedPart);

                // Log to indicate the part upload is done
                logger.info("Uploaded part number: {} with ETag: {}", partNumber,
partResponse.eTag());

                bb.clear();
                position += read;
                partNumber++;
            }
        } catch (S3Exception e) {
            logger.error("Failed to list parts: {} - Error code: {}",
e.awsErrorDetails().errorMessage(),
                    e.awsErrorDetails().errorCode());
            throw e;
        }
        return uploadedParts;
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「UploadPart」を参照してください。

`UploadPartCopy`

次のコード例は、UploadPartCopy を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

ソースオブジェクトのサイズに基づいてコピーパーツを作成し、個々のパーツをディレクトリバケットにコピーします。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CompletedPart;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.HeadObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.HeadObjectResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.UploadPartCopyRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.UploadPartCopyResponse;

import java.io.IOException;
import java.nio.file.Path;
import java.util.ArrayList;
import java.util.List;

import static
 com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.abortDirectoryBucketMultipartUploads;
import static
 com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.completeDirectoryBucketMultipartUpload;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createDirectoryBucket;
import static
 com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createDirectoryBucketMultipartUpload;
```

```
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createS3Client;
import static
 com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.deleteAllObjectsInDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.deleteDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.getFilePath;
import static
 com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.multipartUploadForDirectoryBucket;

    /**
     * Creates copy parts based on source object size and copies over individual
     * parts.
     *
     * @param s3Client          The S3 client used to interact with S3
     * @param sourceBucket      The name of the source bucket
     * @param sourceKey         The key (name) of the source object
     * @param destinationBucket The name of the destination bucket
     * @param destinationKey    The key (name) of the destination object
     * @param uploadId          The upload ID used to track the multipart upload
     * @return A list of completed parts
     */
    public static List<CompletedPart> multipartUploadCopyForDirectoryBucket(S3Client
 s3Client, String sourceBucket,
            String sourceKey, String destinationBucket, String destinationKey,
 String uploadId) {
        // Get the object size to track the end of the copy operation
        HeadObjectRequest headObjectRequest = HeadObjectRequest.builder()
                .bucket(sourceBucket)
                .key(sourceKey)
                .build();
        HeadObjectResponse headObjectResponse =
 s3Client.headObject(headObjectRequest);
        long objectSize = headObjectResponse.contentLength();

        logger.info("Source Object size: {}", objectSize);

        // Copy the object using 20 MB parts
        long partSize = 20 * 1024 * 1024; // 20 MB
        long bytePosition = 0;
        int partNum = 1;
        List<CompletedPart> uploadedParts = new ArrayList<>();

        while (bytePosition < objectSize) {
            long lastByte = Math.min(bytePosition + partSize - 1, objectSize - 1);
```

```
            logger.info("Part Number: {}, Byte Position: {}, Last Byte: {}",
partNum, bytePosition, lastByte);

            try {
                UploadPartCopyRequest uploadPartCopyRequest =
UploadPartCopyRequest.builder()
                        .sourceBucket(sourceBucket)
                        .sourceKey(sourceKey)
                        .destinationBucket(destinationBucket)
                        .destinationKey(destinationKey)
                        .uploadId(uploadId)
                        .copySourceRange("bytes=" + bytePosition + "-" + lastByte)
                        .partNumber(partNum)
                        .build();
                UploadPartCopyResponse uploadPartCopyResponse =
s3Client.uploadPartCopy(uploadPartCopyRequest);

                CompletedPart part = CompletedPart.builder()
                        .partNumber(partNum)
                        .eTag(uploadPartCopyResponse.copyPartResult().eTag())
                        .build();
                uploadedParts.add(part);

                bytePosition += partSize;
                partNum++;
            } catch (S3Exception e) {
                logger.error("Failed to copy part number {}: {} - Error code: {}",
partNum,
                        e.awsErrorDetails().errorMessage(),
e.awsErrorDetails().errorCode());
                throw e;
            }
        }

        return uploadedParts;
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「UploadPartCopy」を参照してください。

シナリオ

オブジェクトを取得する署名付き URL を作成する

次のコード例は、S3 ディレクトリバケットの署名付き URL を作成し、オブジェクトを取得する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

S3 ディレクトリバケット内のオブジェクトにアクセスするための署名付き GET URL を生成します。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.GetObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.S3Exception;
import software.amazon.awssdk.services.s3.presigner.S3Presigner;
import software.amazon.awssdk.services.s3.presigner.model.GetObjectPresignRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.presigner.model.PresignedGetObjectRequest;

import java.nio.file.Path;
import java.time.Duration;

import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createS3Client;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.createS3Presigner;
import static
 com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.deleteAllObjectsInDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.deleteDirectoryBucket;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.getFilePath;
import static com.example.s3.util.S3DirectoryBucketUtils.putDirectoryBucketObject;
```

```
   /**
    * Generates a presigned URL for accessing an object in the specified S3
    * directory bucket.
    *
    * @param s3Presigner The S3 presigner client used to generate the presigned URL
    * @param bucketName  The name of the directory bucket
    * @param objectKey   The key (name) of the object to access
    * @return A presigned URL for accessing the specified object
    */
   public static String generatePresignedGetURLForDirectoryBucket(S3Presigner
s3Presigner, String bucketName,
           String objectKey) {
       logger.info("Generating presigned URL for object: {} in bucket: {}",
objectKey, bucketName);

       try {
           // Create a GetObjectRequest
           GetObjectRequest getObjectRequest = GetObjectRequest.builder()
                   .bucket(bucketName)
                   .key(objectKey)
                   .build();

           // Create a GetObjectPresignRequest
           GetObjectPresignRequest getObjectPresignRequest =
GetObjectPresignRequest.builder()
                   .signatureDuration(Duration.ofMinutes(10)) // Presigned URL
valid for 10 minutes
                   .getObjectRequest(getObjectRequest)
                   .build();

           // Generate the presigned URL
           PresignedGetObjectRequest presignedGetObjectRequest =
s3Presigner.presignGetObject(getObjectPresignRequest);

           // Get the presigned URL
           String presignedURL = presignedGetObjectRequest.url().toString();
           logger.info("Presigned URL: {}", presignedURL);
           return presignedURL;

       } catch (S3Exception e) {
           logger.error("Failed to generate presigned URL: {} - Error code: {}",
e.awsErrorDetails().errorMessage(),
                   e.awsErrorDetails().errorCode(), e);
           throw e;
```

```
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「GetObject」を参照してください。

SDK for Java 2.x を使用した SageMaker AI の例

次のコード例は、SageMaker AI AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- はじめに
- アクション
- シナリオ

はじめに

Hello SageMaker AI

次のコード例は、SageMaker AI の使用を開始する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class HelloSageMaker {
    public static void main(String[] args) {
        Region region = Region.US_WEST_2;
        SageMakerClient sageMakerClient = SageMakerClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        listBooks(sageMakerClient);
        sageMakerClient.close();
    }

    public static void listBooks(SageMakerClient sageMakerClient) {
        try {
            ListNotebookInstancesResponse notebookInstancesResponse =
 sageMakerClient.listNotebookInstances();
            List<NotebookInstanceSummary> items =
 notebookInstancesResponse.notebookInstances();
            for (NotebookInstanceSummary item : items) {
                System.out.println("The notebook name is: " +
 item.notebookInstanceName());
            }

        } catch (SageMakerException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
```

```
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListNotebookInstances」を参照してください。

アクション

`CreatePipeline`

次のコード例は、CreatePipeline を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   // Create a pipeline from the example pipeline JSON.
   public static void setupPipeline(SageMakerClient sageMakerClient, String
filePath, String roleArn,
           String functionArn, String pipelineName) {
       System.out.println("Setting up the pipeline.");
       JSONParser parser = new JSONParser();

       // Read JSON and get pipeline definition.
       try (FileReader reader = new FileReader(filePath)) {
           Object obj = parser.parse(reader);
           JSONObject jsonObject = (JSONObject) obj;
           JSONArray stepsArray = (JSONArray) jsonObject.get("Steps");
           for (Object stepObj : stepsArray) {
               JSONObject step = (JSONObject) stepObj;
               if (step.containsKey("FunctionArn")) {
                   step.put("FunctionArn", functionArn);
               }
           }
           System.out.println(jsonObject);
```

```
            // Create the pipeline.
            CreatePipelineRequest pipelineRequest = CreatePipelineRequest.builder()
                    .pipelineDescription("Java SDK example pipeline")
                    .roleArn(roleArn)
                    .pipelineName(pipelineName)
                    .pipelineDefinition(jsonObject.toString())
                    .build();

            sageMakerClient.createPipeline(pipelineRequest);

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        } catch (IOException | ParseException e) {
            throw new RuntimeException(e);
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreatePipeline」を参照してください。

`DeletePipeline`

次のコード例は、`DeletePipeline` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    // Delete a SageMaker pipeline by name.
    public static void deletePipeline(SageMakerClient sageMakerClient, String
pipelineName) {
        DeletePipelineRequest pipelineRequest = DeletePipelineRequest.builder()
                .pipelineName(pipelineName)
                .build();
```

```
        sageMakerClient.deletePipeline(pipelineRequest);
        System.out.println("*** Successfully deleted " + pipelineName);
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeletePipeline」を参照してください。

`DescribePipelineExecution`

次のコード例は、`DescribePipelineExecution` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   // Check the status of a pipeline execution.
   public static void waitForPipelineExecution(SageMakerClient sageMakerClient,
String executionArn)
           throws InterruptedException {
       String status;
       int index = 0;
       do {
           DescribePipelineExecutionRequest pipelineExecutionRequest =
DescribePipelineExecutionRequest.builder()
                   .pipelineExecutionArn(executionArn)
                   .build();

           DescribePipelineExecutionResponse response = sageMakerClient
                   .describePipelineExecution(pipelineExecutionRequest);
           status = response.pipelineExecutionStatusAsString();
           System.out.println(index + ". The Status of the pipeline is " + status);
           TimeUnit.SECONDS.sleep(4);
           index++;
       } while ("Executing".equals(status));
       System.out.println("Pipeline finished with status " + status);
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribePipelineExecution」を参照してください。

`StartPipelineExecution`

次のコード例は、`StartPipelineExecution` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    // Start a pipeline run with job configurations.
    public static String executePipeline(SageMakerClient sageMakerClient, String
 bucketName, String queueUrl,
            String roleArn, String pipelineName) {
        System.out.println("Starting pipeline execution.");
        String inputBucketLocation = "s3://" + bucketName + "/samplefiles/
latlongtest.csv";
        String output = "s3://" + bucketName + "/outputfiles/";
        Gson gson = new GsonBuilder()
                .setFieldNamingPolicy(FieldNamingPolicy.UPPER_CAMEL_CASE)
                .setPrettyPrinting().create();

        // Set up all parameters required to start the pipeline.
        List<Parameter> parameters = new ArrayList<>();
        Parameter para1 = Parameter.builder()
                .name("parameter_execution_role")
                .value(roleArn)
                .build();

        Parameter para2 = Parameter.builder()
                .name("parameter_queue_url")
                .value(queueUrl)
                .build();
```

```
        String inputJSON = "{\n" +
                "  \"DataSourceConfig\": {\n" +
                "    \"S3Data\": {\n" +
                "      \"S3Uri\": \"s3://" + bucketName + "/samplefiles/
latlongtest.csv\"\n" +
                "    },\n" +
                "    \"Type\": \"S3_DATA\"\n" +
                "  },\n" +
                "  \"DocumentType\": \"CSV\"\n" +
                "}";

        System.out.println(inputJSON);

        Parameter para3 = Parameter.builder()
                .name("parameter_vej_input_config")
                .value(inputJSON)
                .build();

        // Create an ExportVectorEnrichmentJobOutputConfig object.
        VectorEnrichmentJobS3Data jobS3Data = VectorEnrichmentJobS3Data.builder()
                .s3Uri(output)
                .build();

        ExportVectorEnrichmentJobOutputConfig outputConfig =
 ExportVectorEnrichmentJobOutputConfig.builder()
                .s3Data(jobS3Data)
                .build();

        String gson4 = gson.toJson(outputConfig);
        Parameter para4 = Parameter.builder()
                .name("parameter_vej_export_config")
                .value(gson4)
                .build();
        System.out.println("parameter_vej_export_config:" +
 gson.toJson(outputConfig));

        // Create a VectorEnrichmentJobConfig object.
        ReverseGeocodingConfig reverseGeocodingConfig =
 ReverseGeocodingConfig.builder()
                .xAttributeName("Longitude")
                .yAttributeName("Latitude")
                .build();

        VectorEnrichmentJobConfig jobConfig = VectorEnrichmentJobConfig.builder()
```

```
                .reverseGeocodingConfig(reverseGeocodingConfig)
                .build();

        String para5JSON = "{\"MapMatchingConfig\":null,\"ReverseGeocodingConfig\":
{\"XAttributeName\":\"Longitude\",\"YAttributeName\":\"Latitude\"}}";
        Parameter para5 = Parameter.builder()
                .name("parameter_step_1_vej_config")
                .value(para5JSON)
                .build();

        System.out.println("parameter_step_1_vej_config:" + gson.toJson(jobConfig));
        parameters.add(para1);
        parameters.add(para2);
        parameters.add(para3);
        parameters.add(para4);
        parameters.add(para5);

        StartPipelineExecutionRequest pipelineExecutionRequest =
 StartPipelineExecutionRequest.builder()
                .pipelineExecutionDescription("Created using Java SDK")
                .pipelineExecutionDisplayName(pipelineName + "-example-execution")
                .pipelineParameters(parameters)
                .pipelineName(pipelineName)
                .build();

        StartPipelineExecutionResponse response =
 sageMakerClient.startPipelineExecution(pipelineExecutionRequest);
        return response.pipelineExecutionArn();
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「StartPipelineExecution」を参照してください。

シナリオ

地理空間ジョブとパイプラインの使用を開始する

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- パイプラインのリソースを設定します。
- 地理空間ジョブを実行するパイプラインを設定します。

- パイプラインの実行を開始します。
- ジョブ実行のステータスをモニタリングします。
- パイプラインの出力を表示します。
- リソースをクリーンアップします。

詳細については、「Community.aws で SDK を使用して SageMaker パイプラインを作成および実行する AWS SDKs」を参照してください。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
public class SagemakerWorkflow {
    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");
    private static String eventSourceMapping = "";

    public static void main(String[] args) throws InterruptedException {
        final String usage = "\n" +
                "Usage:\n" +
                "    <sageMakerRoleName> <lambdaRoleName> <functionFileLocation>
 <functionName> <queueName> <bucketName> <lnglatData> <spatialPipelinePath>
 <pipelineName>\n\n"
                +
                "Where:\n" +
                "    sageMakerRoleName - The name of the Amazon SageMaker role.\n\n"
 +
                "    lambdaRoleName - The name of the AWS Lambda role.\n\n" +
                "    functionFileLocation - The file location where the JAR file
 that represents the AWS Lambda function is located.\n\n"
                +
                "    functionName - The name of the AWS Lambda function (for
 example,SageMakerExampleFunction).\n\n" +
                "    queueName - The name of the Amazon Simple Queue Service (Amazon
 SQS) queue.\n\n" +
                "    bucketName - The name of the Amazon Simple Storage Service
 (Amazon S3) bucket.\n\n" +
```

```
                "    lnglatData - The file location of the latlongtest.csv file
required for this use case.\n\n" +
                "    spatialPipelinePath - The file location of the
GeoSpatialPipeline.json file required for this use case.\n\n"
                +
                "    pipelineName - The name of the pipeline to create (for example,
sagemaker-sdk-example-pipeline).\n\n";

        if (args.length != 9) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String sageMakerRoleName = args[0];
        String lambdaRoleName = args[1];
        String functionFileLocation = args[2];
        String functionName = args[3];
        String queueName = args[4];
        String bucketName = args[5];
        String lnglatData = args[6];
        String spatialPipelinePath = args[7];
        String pipelineName = args[8];
        String handlerName = "org.example.SageMakerLambdaFunction::handleRequest";

        Region region = Region.US_WEST_2;
        SageMakerClient sageMakerClient = SageMakerClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        IamClient iam = IamClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        LambdaClient lambdaClient = LambdaClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        SqsClient sqsClient = SqsClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        S3Client s3Client = S3Client.builder()
                .region(region)
                .build();
```

```
        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("Welcome to the Amazon SageMaker pipeline example
scenario.");
        System.out.println(
                "\nThis example workflow will guide you through setting up and
running an" +
                        "\nAmazon SageMaker pipeline. The pipeline uses an AWS
Lambda function and an" +
                        "\nAmazon SQS Queue. It runs a vector enrichment reverse
geocode job to" +
                        "\nreverse geocode addresses in an input file and store the
results in an export file.");
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("First, we will set up the roles, functions, and queue
needed by the SageMaker pipeline.");
        String lambdaRoleArn = checkLambdaRole(iam, lambdaRoleName);
        String sageMakerRoleArn = checkSageMakerRole(iam, sageMakerRoleName);

        String functionArn = checkFunction(lambdaClient, functionName,
functionFileLocation, lambdaRoleArn,
                handlerName);
        String queueUrl = checkQueue(sqsClient, lambdaClient, queueName,
functionName);
        System.out.println("The queue URL is " + queueUrl);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("Setting up bucket " + bucketName);
        if (!checkBucket(s3Client, bucketName)) {
            setupBucket(s3Client, bucketName);
            System.out.println("Put " + lnglatData + " into " + bucketName);
            putS3Object(s3Client, bucketName, "latlongtest.csv", lnglatData);
        }
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("Now we can create and run our pipeline.");
        setupPipeline(sageMakerClient, spatialPipelinePath, sageMakerRoleArn,
functionArn, pipelineName);
        String pipelineExecutionARN = executePipeline(sageMakerClient, bucketName,
queueUrl, sageMakerRoleArn,
```

```
                pipelineName);
        System.out.println("The pipeline execution ARN value is " +
 pipelineExecutionARN);
        waitForPipelineExecution(sageMakerClient, pipelineExecutionARN);
        System.out.println("Getting output results " + bucketName);
        getOutputResults(s3Client, bucketName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("The pipeline has completed. To view the pipeline and
 runs " +
                "in SageMaker Studio, follow these instructions:" +
                "\nhttps://docs.aws.amazon.com/sagemaker/latest/dg/pipelines-
studio.html");
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("Do you want to delete the AWS resources used in this
 Workflow? (y/n)");
        Scanner in = new Scanner(System.in);
        String delResources = in.nextLine();
        if (delResources.compareTo("y") == 0) {
            System.out.println("Lets clean up the AWS resources. Wait 30 seconds");
            TimeUnit.SECONDS.sleep(30);
            deleteEventSourceMapping(lambdaClient);
            deleteSQSQueue(sqsClient, queueName);
            listBucketObjects(s3Client, bucketName);
            deleteBucket(s3Client, bucketName);
            deleteLambdaFunction(lambdaClient, functionName);
            deleteLambdaRole(iam, lambdaRoleName);
            deleteSagemakerRole(iam, sageMakerRoleName);
            deletePipeline(sageMakerClient, pipelineName);
        } else {
            System.out.println("The AWS Resources were not deleted!");
        }
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("SageMaker pipeline scenario is complete.");
        System.out.println(DASHES);
    }

    private static void readObject(S3Client s3Client, String bucketName, String key)
 {
```

```
        System.out.println("Output file contents: \n");
        GetObjectRequest objectRequest = GetObjectRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .key(key)
                .build();

        ResponseBytes<GetObjectResponse> objectBytes =
s3Client.getObjectAsBytes(objectRequest);
        byte[] byteArray = objectBytes.asByteArray();
        String text = new String(byteArray, StandardCharsets.UTF_8);
        System.out.println("Text output: " + text);
    }

    // Display some results from the output directory.
    public static void getOutputResults(S3Client s3Client, String bucketName) {
        System.out.println("Getting output results {bucketName}.");
        ListObjectsRequest listObjectsRequest = ListObjectsRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .prefix("outputfiles/")
                .build();

        ListObjectsResponse response = s3Client.listObjects(listObjectsRequest);
        List<S3Object> s3Objects = response.contents();
        for (S3Object object : s3Objects) {
            readObject(s3Client, bucketName, object.key());
        }
    }

    // Check the status of a pipeline execution.
    public static void waitForPipelineExecution(SageMakerClient sageMakerClient,
String executionArn)
            throws InterruptedException {
        String status;
        int index = 0;
        do {
            DescribePipelineExecutionRequest pipelineExecutionRequest =
DescribePipelineExecutionRequest.builder()
                    .pipelineExecutionArn(executionArn)
                    .build();

            DescribePipelineExecutionResponse response = sageMakerClient
                    .describePipelineExecution(pipelineExecutionRequest);
            status = response.pipelineExecutionStatusAsString();
            System.out.println(index + ". The Status of the pipeline is " + status);
```

```
            TimeUnit.SECONDS.sleep(4);
            index++;
        } while ("Executing".equals(status));
        System.out.println("Pipeline finished with status " + status);
    }

    // Delete a SageMaker pipeline by name.
    public static void deletePipeline(SageMakerClient sageMakerClient, String
pipelineName) {
        DeletePipelineRequest pipelineRequest = DeletePipelineRequest.builder()
                .pipelineName(pipelineName)
                .build();

        sageMakerClient.deletePipeline(pipelineRequest);
        System.out.println("*** Successfully deleted " + pipelineName);
    }

    // Create a pipeline from the example pipeline JSON.
    public static void setupPipeline(SageMakerClient sageMakerClient, String
filePath, String roleArn,
            String functionArn, String pipelineName) {
        System.out.println("Setting up the pipeline.");
        JSONParser parser = new JSONParser();

        // Read JSON and get pipeline definition.
        try (FileReader reader = new FileReader(filePath)) {
            Object obj = parser.parse(reader);
            JSONObject jsonObject = (JSONObject) obj;
            JSONArray stepsArray = (JSONArray) jsonObject.get("Steps");
            for (Object stepObj : stepsArray) {
                JSONObject step = (JSONObject) stepObj;
                if (step.containsKey("FunctionArn")) {
                    step.put("FunctionArn", functionArn);
                }
            }
            System.out.println(jsonObject);

            // Create the pipeline.
            CreatePipelineRequest pipelineRequest = CreatePipelineRequest.builder()
                    .pipelineDescription("Java SDK example pipeline")
                    .roleArn(roleArn)
                    .pipelineName(pipelineName)
                    .pipelineDefinition(jsonObject.toString())
                    .build();
```

```
            sageMakerClient.createPipeline(pipelineRequest);

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        } catch (IOException | ParseException e) {
            throw new RuntimeException(e);
        }
    }

    // Start a pipeline run with job configurations.
    public static String executePipeline(SageMakerClient sageMakerClient, String
 bucketName, String queueUrl,
            String roleArn, String pipelineName) {
        System.out.println("Starting pipeline execution.");
        String inputBucketLocation = "s3://" + bucketName + "/samplefiles/
latlongtest.csv";
        String output = "s3://" + bucketName + "/outputfiles/";
        Gson gson = new GsonBuilder()
                .setFieldNamingPolicy(FieldNamingPolicy.UPPER_CAMEL_CASE)
                .setPrettyPrinting().create();

        // Set up all parameters required to start the pipeline.
        List<Parameter> parameters = new ArrayList<>();
        Parameter para1 = Parameter.builder()
                .name("parameter_execution_role")
                .value(roleArn)
                .build();

        Parameter para2 = Parameter.builder()
                .name("parameter_queue_url")
                .value(queueUrl)
                .build();

        String inputJSON = "{\n" +
                "  \"DataSourceConfig\": {\n" +
                "    \"S3Data\": {\n" +
                "      \"S3Uri\": \"s3://" + bucketName + "/samplefiles/
latlongtest.csv\"\n" +
                "    },\n" +
                "    \"Type\": \"S3_DATA\"\n" +
                "  },\n" +
                "  \"DocumentType\": \"CSV\"\n" +
```

```
                "}";

        System.out.println(inputJSON);

        Parameter para3 = Parameter.builder()
                .name("parameter_vej_input_config")
                .value(inputJSON)
                .build();

        // Create an ExportVectorEnrichmentJobOutputConfig object.
        VectorEnrichmentJobS3Data jobS3Data = VectorEnrichmentJobS3Data.builder()
                .s3Uri(output)
                .build();

        ExportVectorEnrichmentJobOutputConfig outputConfig =
 ExportVectorEnrichmentJobOutputConfig.builder()
                .s3Data(jobS3Data)
                .build();

        String gson4 = gson.toJson(outputConfig);
        Parameter para4 = Parameter.builder()
                .name("parameter_vej_export_config")
                .value(gson4)
                .build();
        System.out.println("parameter_vej_export_config:" +
 gson.toJson(outputConfig));

        // Create a VectorEnrichmentJobConfig object.
        ReverseGeocodingConfig reverseGeocodingConfig =
 ReverseGeocodingConfig.builder()
                .xAttributeName("Longitude")
                .yAttributeName("Latitude")
                .build();

        VectorEnrichmentJobConfig jobConfig = VectorEnrichmentJobConfig.builder()
                .reverseGeocodingConfig(reverseGeocodingConfig)
                .build();

        String para5JSON = "{\"MapMatchingConfig\":null,\"ReverseGeocodingConfig\":
{\"XAttributeName\":\"Longitude\",\"YAttributeName\":\"Latitude\"}}";
        Parameter para5 = Parameter.builder()
                .name("parameter_step_1_vej_config")
                .value(para5JSON)
                .build();
```

```
        System.out.println("parameter_step_1_vej_config:" + gson.toJson(jobConfig));
        parameters.add(para1);
        parameters.add(para2);
        parameters.add(para3);
        parameters.add(para4);
        parameters.add(para5);

        StartPipelineExecutionRequest pipelineExecutionRequest =
StartPipelineExecutionRequest.builder()
                .pipelineExecutionDescription("Created using Java SDK")
                .pipelineExecutionDisplayName(pipelineName + "-example-execution")
                .pipelineParameters(parameters)
                .pipelineName(pipelineName)
                .build();

        StartPipelineExecutionResponse response =
sageMakerClient.startPipelineExecution(pipelineExecutionRequest);
        return response.pipelineExecutionArn();
    }

    public static void deleteEventSourceMapping(LambdaClient lambdaClient) {
        DeleteEventSourceMappingRequest eventSourceMappingRequest =
DeleteEventSourceMappingRequest.builder()
                .uuid(eventSourceMapping)
                .build();

        lambdaClient.deleteEventSourceMapping(eventSourceMappingRequest);
    }

    public static void deleteSagemakerRole(IamClient iam, String roleName) {
        String[] sageMakerRolePolicies = getSageMakerRolePolicies();
        try {
            for (String policy : sageMakerRolePolicies) {
                // First the policy needs to be detached.
                DetachRolePolicyRequest rolePolicyRequest =
DetachRolePolicyRequest.builder()
                        .policyArn(policy)
                        .roleName(roleName)
                        .build();

                iam.detachRolePolicy(rolePolicyRequest);
            }
```

```
            // Delete the role.
            DeleteRoleRequest roleRequest = DeleteRoleRequest.builder()
                    .roleName(roleName)
                    .build();

            iam.deleteRole(roleRequest);
            System.out.println("*** Successfully deleted " + roleName);

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void deleteLambdaRole(IamClient iam, String roleName) {
        String[] lambdaRolePolicies = getLambdaRolePolicies();
        try {
            for (String policy : lambdaRolePolicies) {
                // First the policy needs to be detached.
                DetachRolePolicyRequest rolePolicyRequest =
DetachRolePolicyRequest.builder()
                        .policyArn(policy)
                        .roleName(roleName)
                        .build();

                iam.detachRolePolicy(rolePolicyRequest);
            }

            // Delete the role.
            DeleteRoleRequest roleRequest = DeleteRoleRequest.builder()
                    .roleName(roleName)
                    .build();

            iam.deleteRole(roleRequest);
            System.out.println("*** Successfully deleted " + roleName);

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    // Delete the specific AWS Lambda function.
```

```
    public static void deleteLambdaFunction(LambdaClient awsLambda, String
functionName) {
        try {
            DeleteFunctionRequest request = DeleteFunctionRequest.builder()
                    .functionName(functionName)
                    .build();

            awsLambda.deleteFunction(request);
            System.out.println("*** " + functionName + " was deleted");

        } catch (LambdaException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    // Delete the specific S3 bucket.
    public static void deleteBucket(S3Client s3Client, String bucketName) {
        DeleteBucketRequest deleteBucketRequest = DeleteBucketRequest.builder()
                .bucket(bucketName)
                .build();
        s3Client.deleteBucket(deleteBucketRequest);
        System.out.println("*** " + bucketName + " was deleted.");
    }

    public static void listBucketObjects(S3Client s3, String bucketName) {
        try {
            ListObjectsRequest listObjects = ListObjectsRequest
                    .builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .build();

            ListObjectsResponse res = s3.listObjects(listObjects);
            List<S3Object> objects = res.contents();
            for (S3Object myValue : objects) {
                System.out.print("\n The name of the key is " + myValue.key());
                deleteBucketObjects(s3, bucketName, myValue.key());
            }

        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

```
   public static void deleteBucketObjects(S3Client s3, String bucketName, String
objectName) {
       ArrayList<ObjectIdentifier> toDelete = new ArrayList<>();
       toDelete.add(ObjectIdentifier.builder()
               .key(objectName)
               .build());
       try {
           DeleteObjectsRequest dor = DeleteObjectsRequest.builder()
                   .bucket(bucketName)
                   .delete(Delete.builder()
                           .objects(toDelete).build())
                   .build();

           s3.deleteObjects(dor);
           System.out.println("*** " + bucketName + " objects were deleted.");

       } catch (S3Exception e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }

   // Delete the specific Amazon SQS queue.
   public static void deleteSQSQueue(SqsClient sqsClient, String queueName) {
       try {
           GetQueueUrlRequest getQueueRequest = GetQueueUrlRequest.builder()
                   .queueName(queueName)
                   .build();

           String queueUrl = sqsClient.getQueueUrl(getQueueRequest).queueUrl();
           DeleteQueueRequest deleteQueueRequest = DeleteQueueRequest.builder()
                   .queueUrl(queueUrl)
                   .build();

           sqsClient.deleteQueue(deleteQueueRequest);

       } catch (SqsException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

```
   public static void putS3Object(S3Client s3, String bucketName, String objectKey,
String objectPath) {
       try {
           Map<String, String> metadata = new HashMap<>();
           metadata.put("x-amz-meta-myVal", "test");
           PutObjectRequest putOb = PutObjectRequest.builder()
                   .bucket(bucketName)
                   .key("samplefiles/" + objectKey)
                   .metadata(metadata)
                   .build();

           s3.putObject(putOb, RequestBody.fromFile(new File(objectPath)));
           System.out.println("Successfully placed " + objectKey + " into bucket "
+ bucketName);

       } catch (S3Exception e) {
           System.err.println(e.getMessage());
           System.exit(1);
       }
   }

   public static void setupBucket(S3Client s3Client, String bucketName) {
       try {
           S3Waiter s3Waiter = s3Client.waiter();
           CreateBucketRequest bucketRequest = CreateBucketRequest.builder()
                   .bucket(bucketName)
                   .build();

           s3Client.createBucket(bucketRequest);
           HeadBucketRequest bucketRequestWait = HeadBucketRequest.builder()
                   .bucket(bucketName)
                   .build();

           // Wait until the bucket is created and print out the response.
           WaiterResponse<HeadBucketResponse> waiterResponse =
s3Waiter.waitUntilBucketExists(bucketRequestWait);
           waiterResponse.matched().response().ifPresent(System.out::println);
           System.out.println(bucketName + " is ready");

       } catch (S3Exception e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

```
   // Set up the SQS queue to use with the pipeline.
   public static String setupQueue(SqsClient sqsClient, LambdaClient lambdaClient,
String queueName,
           String lambdaName) {
       System.out.println("Setting up queue named " + queueName);
       try {
           Map<QueueAttributeName, String> queueAtt = new HashMap<>();
           queueAtt.put(QueueAttributeName.DELAY_SECONDS, "5");
           queueAtt.put(QueueAttributeName.RECEIVE_MESSAGE_WAIT_TIME_SECONDS, "5");
           queueAtt.put(QueueAttributeName.VISIBILITY_TIMEOUT, "300");
           CreateQueueRequest createQueueRequest = CreateQueueRequest.builder()
                   .queueName(queueName)
                   .attributes(queueAtt)
                   .build();

           sqsClient.createQueue(createQueueRequest);
           System.out.println("\nGet queue url");
           GetQueueUrlResponse getQueueUrlResponse = sqsClient

.getQueueUrl(GetQueueUrlRequest.builder().queueName(queueName).build());
           TimeUnit.SECONDS.sleep(15);

           connectLambda(sqsClient, lambdaClient, getQueueUrlResponse.queueUrl(),
lambdaName);
           System.out.println("Queue ready with Url " +
getQueueUrlResponse.queueUrl());
           return getQueueUrlResponse.queueUrl();

       } catch (SqsException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       } catch (InterruptedException e) {
           throw new RuntimeException(e);
       }
       return "";
   }

   // Connect the queue to the Lambda function as an event source.
   public static void connectLambda(SqsClient sqsClient, LambdaClient lambdaClient,
String queueUrl,
           String lambdaName) {
       System.out.println("Connecting the Lambda function and queue for the
pipeline.");
```

```
        String queueArn = "";

        // Specify the attributes to retrieve.
        List<QueueAttributeName> atts = new ArrayList<>();
        atts.add(QueueAttributeName.QUEUE_ARN);
        GetQueueAttributesRequest attributesRequest =
GetQueueAttributesRequest.builder()
                .queueUrl(queueUrl)
                .attributeNames(atts)
                .build();

        GetQueueAttributesResponse response =
sqsClient.getQueueAttributes(attributesRequest);
        Map<String, String> queueAtts = response.attributesAsStrings();
        for (Map.Entry<String, String> queueAtt : queueAtts.entrySet()) {
            System.out.println("Key = " + queueAtt.getKey() + ", Value = " +
queueAtt.getValue());
            queueArn = queueAtt.getValue();
        }

        CreateEventSourceMappingRequest eventSourceMappingRequest =
CreateEventSourceMappingRequest.builder()
                .eventSourceArn(queueArn)
                .functionName(lambdaName)
                .build();

        CreateEventSourceMappingResponse response1 =
lambdaClient.createEventSourceMapping(eventSourceMappingRequest);
        eventSourceMapping = response1.uuid();
        System.out.println("The mapping between the event source and Lambda function
was successful");
    }

    // Create an AWS Lambda function.
    public static String createLambdaFunction(LambdaClient awsLambda, String
functionName, String filePath, String role,
            String handler) {
        try {
            LambdaWaiter waiter = awsLambda.waiter();
            InputStream is = new FileInputStream(filePath);
            SdkBytes fileToUpload = SdkBytes.fromInputStream(is);
            FunctionCode code = FunctionCode.builder()
                    .zipFile(fileToUpload)
                    .build();
```

```
            CreateFunctionRequest functionRequest = CreateFunctionRequest.builder()
                    .functionName(functionName)
                    .description("SageMaker example function.")
                    .code(code)
                    .handler(handler)
                    .runtime(Runtime.JAVA11)
                    .timeout(200)
                    .memorySize(1024)
                    .role(role)
                    .build();

            // Create a Lambda function using a waiter.
            CreateFunctionResponse functionResponse =
awsLambda.createFunction(functionRequest);
            GetFunctionRequest getFunctionRequest = GetFunctionRequest.builder()
                    .functionName(functionName)
                    .build();
            WaiterResponse<GetFunctionResponse> waiterResponse =
waiter.waitUntilFunctionExists(getFunctionRequest);
            waiterResponse.matched().response().ifPresent(System.out::println);
            System.out.println("The function ARN is " +
functionResponse.functionArn());
            return functionResponse.functionArn();

        } catch (LambdaException | FileNotFoundException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }

    public static String createSageMakerRole(IamClient iam, String roleName) {
        String[] sageMakerRolePolicies = getSageMakerRolePolicies();
        System.out.println("Creating a role to use with SageMaker.");
        String assumeRolePolicy = "{" +
                "\"Version\": \"2012-10-17\"," +
                "\"Statement\": [{" +
                "\"Effect\": \"Allow\"," +
                "\"Principal\": {" +
                "\"Service\": [" +
                "\"sagemaker.amazonaws.com\"," +
                "\"sagemaker-geospatial.amazonaws.com\"," +
                "\"lambda.amazonaws.com\"," +
```

```
                "\"s3.amazonaws.com\"" +
                "]" +
                "}," +
                "\"Action\": \"sts:AssumeRole\"" +
                "}]" +
                "}";

        try {
            CreateRoleRequest request = CreateRoleRequest.builder()
                    .roleName(roleName)
                    .assumeRolePolicyDocument(assumeRolePolicy)
                    .description("Created using the AWS SDK for Java")
                    .build();

            CreateRoleResponse roleResult = iam.createRole(request);

            // Attach the policies to the role.
            for (String policy : sageMakerRolePolicies) {
                AttachRolePolicyRequest attachRequest =
AttachRolePolicyRequest.builder()
                        .roleName(roleName)
                        .policyArn(policy)
                        .build();

                iam.attachRolePolicy(attachRequest);
            }

            // Allow time for the role to be ready.
            TimeUnit.SECONDS.sleep(15);
            System.out.println("Role ready with ARN " + roleResult.role().arn());
            return roleResult.role().arn();

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        } catch (InterruptedException e) {
            throw new RuntimeException(e);
        }
        return "";
    }

    private static String createLambdaRole(IamClient iam, String roleName) {
        String[] lambdaRolePolicies = getLambdaRolePolicies();
        String assumeRolePolicy = "{" +
```

```
                "\"Version\": \"2012-10-17\"," +
                "\"Statement\": [{" +
                "\"Effect\": \"Allow\"," +
                "\"Principal\": {" +
                "\"Service\": [" +
                "\"sagemaker.amazonaws.com\"," +
                "\"sagemaker-geospatial.amazonaws.com\"," +
                "\"lambda.amazonaws.com\"," +
                "\"s3.amazonaws.com\"" +
                "]" +
                "}," +
                "\"Action\": \"sts:AssumeRole\"" +
                "}]" +
                "}";

        try {
            CreateRoleRequest request = CreateRoleRequest.builder()
                    .roleName(roleName)
                    .assumeRolePolicyDocument(assumeRolePolicy)
                    .description("Created using the AWS SDK for Java")
                    .build();

            CreateRoleResponse roleResult = iam.createRole(request);

            // Attach the policies to the role.
            for (String policy : lambdaRolePolicies) {
                AttachRolePolicyRequest attachRequest =
AttachRolePolicyRequest.builder()
                        .roleName(roleName)
                        .policyArn(policy)
                        .build();

                iam.attachRolePolicy(attachRequest);
            }

            // Allow time for the role to be ready.
            TimeUnit.SECONDS.sleep(15);
            System.out.println("Role ready with ARN " + roleResult.role().arn());
            return roleResult.role().arn();

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());

        } catch (InterruptedException e) {
```

```
            throw new RuntimeException(e);
        }
        return "";
    }

    public static String checkFunction(LambdaClient lambdaClient, String
functionName, String filePath, String role,
            String handler) {
        System.out.println("Create an AWS Lambda function used in this workflow.");
        String functionArn;
        try {
            // Does this function already exist.
            GetFunctionRequest functionRequest = GetFunctionRequest.builder()
                    .functionName(functionName)
                    .build();

            GetFunctionResponse response =
lambdaClient.getFunction(functionRequest);
            functionArn = response.configuration().functionArn();

        } catch (LambdaException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            functionArn = createLambdaFunction(lambdaClient, functionName, filePath,
role, handler);
        }
        return functionArn;
    }

    // Check to see if the specific S3 bucket exists. If the S3 bucket exists, this
    // method returns true.
    public static boolean checkBucket(S3Client s3, String bucketName) {
        try {
            HeadBucketRequest headBucketRequest = HeadBucketRequest.builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .build();

            s3.headBucket(headBucketRequest);
            System.out.println(bucketName + " exists");
            return true;

        } catch (S3Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
        }
        return false;
```

```
    }

    // Checks to see if the Amazon SQS queue exists. If not, this method creates a
    // new queue
    // and returns the ARN value.
    public static String checkQueue(SqsClient sqsClient, LambdaClient lambdaClient,
String queueName,
            String lambdaName) {
        System.out.println("Creating a queue for this use case.");
        String queueUrl;
        try {
            GetQueueUrlRequest request = GetQueueUrlRequest.builder()
                    .queueName(queueName)
                    .build();

            GetQueueUrlResponse response = sqsClient.getQueueUrl(request);
            queueUrl = response.queueUrl();
            System.out.println(queueUrl);

        } catch (SqsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            queueUrl = setupQueue(sqsClient, lambdaClient, queueName, lambdaName);
        }
        return queueUrl;
    }

    // Checks to see if the Lambda role exists. If not, this method creates it.
    public static String checkLambdaRole(IamClient iam, String roleName) {
        System.out.println("Creating a role to for AWS Lambda to use.");
        String roleArn;
        try {
            GetRoleRequest roleRequest = GetRoleRequest.builder()
                    .roleName(roleName)
                    .build();

            GetRoleResponse response = iam.getRole(roleRequest);
            roleArn = response.role().arn();
            System.out.println(roleArn);

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            roleArn = createLambdaRole(iam, roleName);
        }
        return roleArn;
```

```
    }

    // Checks to see if the SageMaker role exists. If not, this method creates it.
    public static String checkSageMakerRole(IamClient iam, String roleName) {
        System.out.println("Creating a role to for AWS SageMaker to use.");
        String roleArn;
        try {
            GetRoleRequest roleRequest = GetRoleRequest.builder()
                    .roleName(roleName)
                    .build();

            GetRoleResponse response = iam.getRole(roleRequest);
            roleArn = response.role().arn();
            System.out.println(roleArn);

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            roleArn = createSageMakerRole(iam, roleName);
        }
        return roleArn;
    }

    private static String[] getSageMakerRolePolicies() {
        String[] sageMakerRolePolicies = new String[3];
        sageMakerRolePolicies[0] = "arn:aws:iam::aws:policy/
AmazonSageMakerFullAccess";
        sageMakerRolePolicies[1] = "arn:aws:iam::aws:policy/" +
 "AmazonSageMakerGeospatialFullAccess";
        sageMakerRolePolicies[2] = "arn:aws:iam::aws:policy/AmazonSQSFullAccess";
        return sageMakerRolePolicies;
    }

    private static String[] getLambdaRolePolicies() {
        String[] lambdaRolePolicies = new String[5];
        lambdaRolePolicies[0] = "arn:aws:iam::aws:policy/AmazonSageMakerFullAccess";
        lambdaRolePolicies[1] = "arn:aws:iam::aws:policy/AmazonSQSFullAccess";
        lambdaRolePolicies[2] = "arn:aws:iam::aws:policy/service-role/" +
 "AmazonSageMakerGeospatialFullAccess";
        lambdaRolePolicies[3] = "arn:aws:iam::aws:policy/service-role/"
                + "AmazonSageMakerServiceCatalogProductsLambdaServiceRolePolicy";
        lambdaRolePolicies[4] = "arn:aws:iam::aws:policy/service-role/" +
 "AWSLambdaSQSQueueExecutionRole";
        return lambdaRolePolicies;
    }
```

```
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - CreatePipeline
  - DeletePipeline
  - DescribePipelineExecution
  - StartPipelineExecution
  - UpdatePipeline

SDK for Java 2.x を使用した Secrets Manager の例

次のコード例は、Secrets Manager AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- アクション

アクション

`GetSecretValue`

次のコード例は、`GetSecretValue` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.secretsmanager.SecretsManagerClient;
import software.amazon.awssdk.services.secretsmanager.model.GetSecretValueRequest;
import software.amazon.awssdk.services.secretsmanager.model.GetSecretValueResponse;
import software.amazon.awssdk.services.secretsmanager.model.SecretsManagerException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 *
 * We recommend that you cache your secret values by using client-side caching.
 *
 * Caching secrets improves speed and reduces your costs. For more information,
 * see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/secretsmanager/latest/userguide/retrieving-
secrets.html
 */
public class GetSecretValue {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <secretName>\s

                Where:
                    secretName - The name of the secret (for example, tutorials/
MyFirstSecret).\s
                """;
```

```
        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String secretName = args[0];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        SecretsManagerClient secretsClient = SecretsManagerClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        getValue(secretsClient, secretName);
        secretsClient.close();
    }

    public static void getValue(SecretsManagerClient secretsClient, String
 secretName) {
        try {
            GetSecretValueRequest valueRequest = GetSecretValueRequest.builder()
                    .secretId(secretName)
                    .build();

            GetSecretValueResponse valueResponse =
 secretsClient.getSecretValue(valueRequest);
            String secret = valueResponse.secretString();
            System.out.println(secret);

        } catch (SecretsManagerException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「GetSecretValue」を参照してください。

SDK for Java 2.x を使用する Amazon SES の例

次のコード例は、Amazon SES AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- アクション
- シナリオ

アクション

`ListIdentities`

次のコード例は、`ListIdentities` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.ses.SesClient;
import software.amazon.awssdk.services.ses.model.ListIdentitiesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ses.model.SesException;
import java.io.IOException;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
```

```
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ListIdentities {

    public static void main(String[] args) throws IOException {
        Region region = Region.US_WEST_2;
        SesClient client = SesClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        listSESIdentities(client);
    }

    public static void listSESIdentities(SesClient client) {
        try {
            ListIdentitiesResponse identitiesResponse = client.listIdentities();
            List<String> identities = identitiesResponse.identities();
            for (String identity : identities) {
                System.out.println("The identity is " + identity);
            }

        } catch (SesException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListIdentities」を参照してください。

ListTemplates

次のコード例は、ListTemplates を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sesv2.SesV2Client;
import software.amazon.awssdk.services.sesv2.model.ListEmailTemplatesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sesv2.model.ListEmailTemplatesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sesv2.model.SesV2Exception;

public class ListTemplates {

    public static void main(String[] args) {
        Region region = Region.US_EAST_1;
        SesV2Client sesv2Client = SesV2Client.builder()
                .region(region)
                .build();

        listAllTemplates(sesv2Client);
    }

    public static void listAllTemplates(SesV2Client sesv2Client) {
        try {
            ListEmailTemplatesRequest templatesRequest =
 ListEmailTemplatesRequest.builder()
                    .pageSize(1)
                    .build();

            ListEmailTemplatesResponse response =
 sesv2Client.listEmailTemplates(templatesRequest);
            response.templatesMetadata()
                    .forEach(template -> System.out.println("Template name: " +
 template.templateName()));

        } catch (SesV2Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
```

```
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListTemplates」を参照してください。

SendEmail

次のコード例は、SendEmail を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.ses.SesClient;
import software.amazon.awssdk.services.ses.model.Content;
import software.amazon.awssdk.services.ses.model.Destination;
import software.amazon.awssdk.services.ses.model.Message;
import software.amazon.awssdk.services.ses.model.Body;
import software.amazon.awssdk.services.ses.model.SendEmailRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ses.model.SesException;

import javax.mail.MessagingException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class SendMessageEmailRequest {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """
```

```
            Usage:
                <sender> <recipient> <subject>\s

            Where:
                sender - An email address that represents the sender.\s
                recipient -  An email address that represents the recipient.\s
                subject - The  subject line.\s
            """;

    if (args.length != 3) {
        System.out.println(usage);
        System.exit(1);
    }

    String sender = args[0];
    String recipient = args[1];
    String subject = args[2];

    Region region = Region.US_EAST_1;
    SesClient client = SesClient.builder()
            .region(region)
            .build();

    // The HTML body of the email.
    String bodyHTML = "<html>" + "<head></head>" + "<body>" + "<h1>Hello!</h1>"
            + "<p> See the list of customers.</p>" + "</body>" + "</html>";

    try {
        send(client, sender, recipient, subject, bodyHTML);
        client.close();
        System.out.println("Done");

    } catch (MessagingException e) {
        e.printStackTrace();
    }
}

public static void send(SesClient client,
        String sender,
        String recipient,
        String subject,
        String bodyHTML) throws MessagingException {
```

```
        Destination destination = Destination.builder()
                .toAddresses(recipient)
                .build();

        Content content = Content.builder()
                .data(bodyHTML)
                .build();

        Content sub = Content.builder()
                .data(subject)
                .build();

        Body body = Body.builder()
                .html(content)
                .build();

        Message msg = Message.builder()
                .subject(sub)
                .body(body)
                .build();

        SendEmailRequest emailRequest = SendEmailRequest.builder()
                .destination(destination)
                .message(msg)
                .source(sender)
                .build();

        try {
            System.out.println("Attempting to send an email through Amazon SES " +
 "using the AWS SDK for Java...");
            client.sendEmail(emailRequest);

        } catch (SesException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}

import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.ses.SesClient;
import javax.activation.DataHandler;
import javax.activation.DataSource;
import javax.mail.Message;
```

```
import javax.mail.MessagingException;
import javax.mail.Session;
import javax.mail.internet.AddressException;
import javax.mail.internet.InternetAddress;
import javax.mail.internet.MimeMessage;
import javax.mail.internet.MimeMultipart;
import javax.mail.internet.MimeBodyPart;
import javax.mail.util.ByteArrayDataSource;
import java.io.ByteArrayOutputStream;
import java.io.IOException;
import java.nio.ByteBuffer;
import java.nio.file.Files;
import java.util.Properties;
import software.amazon.awssdk.core.SdkBytes;
import software.amazon.awssdk.services.ses.model.SendRawEmailRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ses.model.RawMessage;
import software.amazon.awssdk.services.ses.model.SesException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */

public class SendMessageAttachment {
    public static void main(String[] args) throws IOException {
        final String usage = """

                Usage:
                    <sender> <recipient> <subject> <fileLocation>\s

                Where:
                    sender - An email address that represents the sender.\s
                    recipient -  An email address that represents the recipient.\s
                    subject - The  subject line.\s
                    fileLocation - The location of a Microsoft Excel file to use as
 an attachment (C:/AWS/customers.xls).\s
                """;

        if (args.length != 4) {
            System.out.println(usage);
```

```
            System.exit(1);
        }

        String sender = args[0];
        String recipient = args[1];
        String subject = args[2];
        String fileLocation = args[3];

        // The email body for recipients with non-HTML email clients.
        String bodyText = "Hello,\r\n" + "Please see the attached file for a list "
                + "of customers to contact.";

        // The HTML body of the email.
        String bodyHTML = "<html>" + "<head></head>" + "<body>" + "<h1>Hello!</h1>"
                + "<p>Please see the attached file for a " + "list of customers to
contact.</p>" + "</body>"
                + "</html>";

        Region region = Region.US_WEST_2;
        SesClient client = SesClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        try {
            sendemailAttachment(client, sender, recipient, subject, bodyText,
bodyHTML, fileLocation);
            client.close();
            System.out.println("Done");

        } catch (IOException | MessagingException e) {
            e.printStackTrace();
        }
    }

    public static void sendemailAttachment(SesClient client,
            String sender,
            String recipient,
            String subject,
            String bodyText,
            String bodyHTML,
            String fileLocation) throws AddressException, MessagingException,
IOException {

        java.io.File theFile = new java.io.File(fileLocation);
```

```
        byte[] fileContent = Files.readAllBytes(theFile.toPath());

        Session session = Session.getDefaultInstance(new Properties());

        // Create a new MimeMessage object.
        MimeMessage message = new MimeMessage(session);

        // Add subject, from and to lines.
        message.setSubject(subject, "UTF-8");
        message.setFrom(new InternetAddress(sender));
        message.setRecipients(Message.RecipientType.TO,
InternetAddress.parse(recipient));

        // Create a multipart/alternative child container.
        MimeMultipart msgBody = new MimeMultipart("alternative");

        // Create a wrapper for the HTML and text parts.
        MimeBodyPart wrap = new MimeBodyPart();

        // Define the text part.
        MimeBodyPart textPart = new MimeBodyPart();
        textPart.setContent(bodyText, "text/plain; charset=UTF-8");

        // Define the HTML part.
        MimeBodyPart htmlPart = new MimeBodyPart();
        htmlPart.setContent(bodyHTML, "text/html; charset=UTF-8");

        // Add the text and HTML parts to the child container.
        msgBody.addBodyPart(textPart);
        msgBody.addBodyPart(htmlPart);

        // Add the child container to the wrapper object.
        wrap.setContent(msgBody);

        // Create a multipart/mixed parent container.
        MimeMultipart msg = new MimeMultipart("mixed");

        // Add the parent container to the message.
        message.setContent(msg);
        msg.addBodyPart(wrap);

        // Define the attachment.
        MimeBodyPart att = new MimeBodyPart();
        DataSource fds = new ByteArrayDataSource(fileContent,
```

```
                "application/vnd.openxmlformats-
officedocument.spreadsheetml.sheet");
        att.setDataHandler(new DataHandler(fds));

        String reportName = "WorkReport.xls";
        att.setFileName(reportName);

        // Add the attachment to the message.
        msg.addBodyPart(att);

        try {
            System.out.println("Attempting to send an email through Amazon SES " +
 "using the AWS SDK for Java...");

            ByteArrayOutputStream outputStream = new ByteArrayOutputStream();
            message.writeTo(outputStream);

            ByteBuffer buf = ByteBuffer.wrap(outputStream.toByteArray());

            byte[] arr = new byte[buf.remaining()];
            buf.get(arr);

            SdkBytes data = SdkBytes.fromByteArray(arr);
            RawMessage rawMessage = RawMessage.builder()
                    .data(data)
                    .build();

            SendRawEmailRequest rawEmailRequest = SendRawEmailRequest.builder()
                    .rawMessage(rawMessage)
                    .build();

            client.sendRawEmail(rawEmailRequest);

        } catch (SesException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        System.out.println("Email sent using SesClient with attachment");
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「SendEmail」を参照してください。

SendTemplatedEmail

次のコード例は、SendTemplatedEmail を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sesv2.model.Destination;
import software.amazon.awssdk.services.sesv2.model.EmailContent;
import software.amazon.awssdk.services.sesv2.model.SendEmailRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sesv2.model.SesV2Exception;
import software.amazon.awssdk.services.sesv2.SesV2Client;
import software.amazon.awssdk.services.sesv2.model.Template;

/**
 * Before running this AWS SDK for Java (v2) example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 *
 * Also, make sure that you create a template. See the following documentation
 * topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/ses/latest/dg/send-personalized-email-api.html
 */

public class SendEmailTemplate {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
```

```
                    <template> <sender> <recipient>\s

                Where:
                    template - The name of the email template.
                    sender - An email address that represents the sender.\s
                    recipient - An email address that represents the recipient.\s
                """;

        if (args.length != 3) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String templateName = args[0];
        String sender = args[1];
        String recipient = args[2];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        SesV2Client sesv2Client = SesV2Client.builder()
                .region(region)
                .build();

        send(sesv2Client, sender, recipient, templateName);
    }

    public static void send(SesV2Client client, String sender, String recipient,
String templateName) {
        Destination destination = Destination.builder()
                .toAddresses(recipient)
                .build();

        /*
         * Specify both name and favorite animal (favoriteanimal) in your code when
         * defining the Template object.
         * If you don't specify all the variables in the template, Amazon SES
doesn't
         * send the email.
         */
        Template myTemplate = Template.builder()
                .templateName(templateName)
                .templateData("{\n" +
                        "  \"name\": \"Jason\"\n," +
                        "  \"favoriteanimal\": \"Cat\"\n" +
                        "}")
                .build();
```

```
        EmailContent emailContent = EmailContent.builder()
                .template(myTemplate)
                .build();

        SendEmailRequest emailRequest = SendEmailRequest.builder()
                .destination(destination)
                .content(emailContent)
                .fromEmailAddress(sender)
                .build();

        try {
            System.out.println("Attempting to send an email based on a template
 using the AWS SDK for Java (v2)...");
            client.sendEmail(emailRequest);
            System.out.println("email based on a template was sent");

        } catch (SesV2Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「SendTemplatedEmail」を参照してください。

シナリオ

DynamoDB データを追跡するウェブアプリケーションを作成する

次のコード例は、Amazon DynamoDB テーブルの作業項目を追跡し、Amazon Simple Email Service (Amazon SES) を使用してレポートを送信するウェブアプリケーションを作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

Amazon DynamoDB API を使用して、DynamoDB 作業データを追跡する動的ウェブアプリケーションを作成する方法を示しています。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- DynamoDB
- Amazon SES

Amazon Redshift データ追跡用のウェブアプリケーションの作成

次のコード例は、Amazon Redshift データベースを使用して、作業項目を追跡してレポートするウェブアプリケーションを作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

Amazon Redshift データベースに保存されている作業項目を追跡してレポートするウェブアプリケーションを作成する方法を説明します。

Amazon Redshift サーバーレスデータをクエリする Spring REST API と React アプリケーションで使用するための完全なソースコードと設定方法については、GitHub にある詳しい事例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- Amazon Redshift
- Amazon SES

Aurora Serverless 作業項目トラッカーの作成

次のコード例は、Amazon Aurora Serverless データベースの作業項目を追跡し、Amazon Simple Email Service (Amazon SES) を使用してレポートを送信するウェブアプリケーションを作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

Amazon RDS データベースに保存されている作業項目を追跡してレポートするウェブアプリケーションを作成する方法を説明します。

Amazon Aurora サーバーレスデータをクエリする Spring REST API と React アプリケーションで使用するための完全なソースコードと設定方法については、GitHub にある完全な例を参照してください。

完全なソースコードと JDBC API を使用する例のセットアップと実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- Aurora
- Amazon RDS
- Amazon RDS データサービス
- Amazon SES

画像内の PPE を検出する

次のコード例は、Amazon Rekognition を使用して画像内の個人用防護具 (PPE) を検出するアプリケーションを構築する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

個人用保護具を使用してイメージを検出する AWS Lambda 関数を作成する方法を示します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- DynamoDB
- Amazon Rekognition
- Amazon S3
- Amazon SES

画像内のオブジェクトを検出する

次のコード例は、Amazon Rekognition を使用して画像内でカテゴリ別にオブジェクトを検出するアプリケーションを構築する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

Amazon Rekognition Java API を使用して、Amazon Rekognition を使用し、 Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) バケットにあるイメージ内でカテゴリ別にオブジェクトを識別す

るアプリケーションを作成する方法について説明します。アプリケーションは Amazon Simple Email Service (Amazon SES) を使用して、結果を含む E メール通知を管理者に送信します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- Amazon Rekognition
- Amazon S3
- Amazon SES

動画内の人物や物体を検出する

次のコード例は、Amazon Rekognition で動画内の人やオブジェクトを検出する方法を示します。

SDK for Java 2.x

Amazon Rekognition Java API を使用し、Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) バケットにあるビデオ内で顔やオブジェクトを検出するアプリケーションを作成する方法について説明します。アプリケーションは Amazon Simple Email Service (Amazon SES) を使用して、結果を含む E メール通知を管理者に送信します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- Amazon Rekognition
- Amazon S3
- Amazon SES
- Amazon SNS
- Amazon SQS

Step Functions を使用して Lambda 関数を呼び出す

次のコード例は、 AWS Lambda 関数を順番に呼び出す AWS Step Functions ステートマシンを作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

AWS Step Functions と を使用して AWS サーバーレスワークフローを作成する方法を示します AWS SDK for Java 2.x。各ワークフローステップは、 AWS Lambda 関数を使用して実装されます。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- DynamoDB
- Lambda
- Amazon SES
- ステップ関数

SDK for Java 2.x を使用する Amazon SES API v2 の例

次のコード例は、Amazon SES API v2 AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- アクション
- シナリオ

アクション

`CreateContact`

次のコード例は、`CreateContact` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
      try {
        // Create a new contact with the provided email address in the
        CreateContactRequest contactRequest = CreateContactRequest.builder()
            .contactListName(CONTACT_LIST_NAME)
            .emailAddress(emailAddress)
            .build();

        sesClient.createContact(contactRequest);
        contacts.add(emailAddress);

        System.out.println("Contact created: " + emailAddress);

        // Send a welcome email to the new contact
        String welcomeHtml = Files.readString(Paths.get("resources/
coupon_newsletter/welcome.html"));
        String welcomeText = Files.readString(Paths.get("resources/
coupon_newsletter/welcome.txt"));

        SendEmailRequest welcomeEmailRequest = SendEmailRequest.builder()
            .fromEmailAddress(this.verifiedEmail)
            .destination(Destination.builder().toAddresses(emailAddress).build())
            .content(EmailContent.builder()
                .simple(
                    Message.builder()
                        .subject(Content.builder().data("Welcome to the Weekly
 Coupons Newsletter").build())
                        .body(Body.builder()
                            .text(Content.builder().data(welcomeText).build())
```

```
                            .html(Content.builder().data(welcomeHtml).build())
                            .build())
                        .build())
                .build())
            .build();
        SendEmailResponse welcomeEmailResponse =
sesClient.sendEmail(welcomeEmailRequest);
        System.out.println("Welcome email sent: " +
welcomeEmailResponse.messageId());
      } catch (AlreadyExistsException e) {
        // If the contact already exists, skip this step for that contact and
proceed
        // with the next contact
        System.out.println("Contact already exists, skipping creation...");
      } catch (Exception e) {
        System.err.println("Error occurred while processing email address " +
emailAddress + ": " + e.getMessage());
        throw e;
      }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateContact」を参照してください。

`CreateContactList`

次のコード例は、`CreateContactList` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    try {
      // 2. Create a contact list
      String contactListName = CONTACT_LIST_NAME;
```

```
      CreateContactListRequest createContactListRequest =
 CreateContactListRequest.builder()
          .contactListName(contactListName)
          .build();
      sesClient.createContactList(createContactListRequest);
      System.out.println("Contact list created: " + contactListName);
    } catch (AlreadyExistsException e) {
      System.out.println("Contact list already exists, skipping creation: weekly-
coupons-newsletter");
    } catch (LimitExceededException e) {
      System.err.println("Limit for contact lists has been exceeded.");
      throw e;
    } catch (SesV2Exception e) {
      System.err.println("Error creating contact list: " + e.getMessage());
      throw e;
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateContactList」を参照してください。

`CreateEmailIdentity`

次のコード例は、`CreateEmailIdentity` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    try {
      CreateEmailIdentityRequest createEmailIdentityRequest =
 CreateEmailIdentityRequest.builder()
          .emailIdentity(verifiedEmail)
          .build();
      sesClient.createEmailIdentity(createEmailIdentityRequest);
      System.out.println("Email identity created: " + verifiedEmail);
    } catch (AlreadyExistsException e) {
```

```
      System.out.println("Email identity already exists, skipping creation: " +
 verifiedEmail);
    } catch (NotFoundException e) {
      System.err.println("The provided email address is not verified: " +
 verifiedEmail);
      throw e;
    } catch (LimitExceededException e) {
      System.err
          .println("You have reached the limit for email identities. Please remove
 some identities and try again.");
      throw e;
    } catch (SesV2Exception e) {
      System.err.println("Error creating email identity: " + e.getMessage());
      throw e;
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateEmailIdentity」を参照してください。

`CreateEmailTemplate`

次のコード例は、`CreateEmailTemplate` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    try {
      // Create an email template named "weekly-coupons"
      String newsletterHtml = loadFile("resources/coupon_newsletter/coupon-
newsletter.html");
      String newsletterText = loadFile("resources/coupon_newsletter/coupon-
newsletter.txt");

      CreateEmailTemplateRequest templateRequest =
 CreateEmailTemplateRequest.builder()
```

```
            .templateName(TEMPLATE_NAME)
            .templateContent(EmailTemplateContent.builder()
                .subject("Weekly Coupons Newsletter")
                .html(newsletterHtml)
                .text(newsletterText)
                .build())
            .build();

        sesClient.createEmailTemplate(templateRequest);

        System.out.println("Email template created: " + TEMPLATE_NAME);
    } catch (AlreadyExistsException e) {
        // If the template already exists, skip this step and proceed with the next
        // operation
        System.out.println("Email template already exists, skipping creation...");
    } catch (LimitExceededException e) {
        // If the limit for email templates is exceeded, fail the workflow and inform
        // the user
        System.err.println("You have reached the limit for email templates. Please
remove some templates and try again.");
        throw e;
    } catch (Exception e) {
        System.err.println("Error occurred while creating email template: " +
e.getMessage());
        throw e;
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateEmailTemplate」を参照してください。

`DeleteContactList`

次のコード例は、`DeleteContactList` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    try {
      // Delete the contact list
      DeleteContactListRequest deleteContactListRequest =
DeleteContactListRequest.builder()
          .contactListName(CONTACT_LIST_NAME)
          .build();

      sesClient.deleteContactList(deleteContactListRequest);

      System.out.println("Contact list deleted: " + CONTACT_LIST_NAME);
    } catch (NotFoundException e) {
      // If the contact list does not exist, log the error and proceed
      System.out.println("Contact list not found. Skipping deletion...");
    } catch (Exception e) {
      System.err.println("Error occurred while deleting the contact list: " +
e.getMessage());
      e.printStackTrace();
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteContactList」を参照してください。

`DeleteEmailIdentity`

次のコード例は、`DeleteEmailIdentity` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
      try {
        // Delete the email identity
        DeleteEmailIdentityRequest deleteIdentityRequest =
DeleteEmailIdentityRequest.builder()
            .emailIdentity(this.verifiedEmail)
            .build();
```

```
        sesClient.deleteEmailIdentity(deleteIdentityRequest);

        System.out.println("Email identity deleted: " + this.verifiedEmail);
      } catch (NotFoundException e) {
        // If the email identity does not exist, log the error and proceed
        System.out.println("Email identity not found. Skipping deletion...");
      } catch (Exception e) {
        System.err.println("Error occurred while deleting the email identity: " +
e.getMessage());
        e.printStackTrace();
      }
    } else {
      System.out.println("Skipping email identity deletion.");
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteEmailIdentity」を参照してください。

`DeleteEmailTemplate`

次のコード例は、`DeleteEmailTemplate` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    try {
      // Delete the template
      DeleteEmailTemplateRequest deleteTemplateRequest =
DeleteEmailTemplateRequest.builder()
          .templateName(TEMPLATE_NAME)
          .build();

      sesClient.deleteEmailTemplate(deleteTemplateRequest);
```

```
      System.out.println("Email template deleted: " + TEMPLATE_NAME);
    } catch (NotFoundException e) {
      // If the email template does not exist, log the error and proceed
      System.out.println("Email template not found. Skipping deletion...");
    } catch (Exception e) {
      System.err.println("Error occurred while deleting the email template: " +
e.getMessage());
      e.printStackTrace();
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteEmailTemplate」を参照してください。

`ListContacts`

次のコード例は、`ListContacts` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    ListContactsRequest contactListRequest = ListContactsRequest.builder()
        .contactListName(CONTACT_LIST_NAME)
        .build();

    List<String> contactEmails;
    try {
      ListContactsResponse contactListResponse =
sesClient.listContacts(contactListRequest);

      contactEmails = contactListResponse.contacts().stream()
          .map(Contact::emailAddress)
          .toList();
    } catch (Exception e) {
      // TODO: Remove when listContacts's GET body issue is resolved.
      contactEmails = this.contacts;
```

```
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListContacts」を参照してください。

SendEmail

次のコード例は、SendEmail を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

メッセージを送信します。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sesv2.model.Body;
import software.amazon.awssdk.services.sesv2.model.Content;
import software.amazon.awssdk.services.sesv2.model.Destination;
import software.amazon.awssdk.services.sesv2.model.EmailContent;
import software.amazon.awssdk.services.sesv2.model.Message;
import software.amazon.awssdk.services.sesv2.model.SendEmailRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sesv2.model.SesV2Exception;
import software.amazon.awssdk.services.sesv2.SesV2Client;

/**
 * Before running this AWS SDK for Java (v2) example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */

public class SendEmail {
```

```
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                                Usage:
                                    <sender> <recipient> <subject>\s

                                Where:
                                    sender - An email address that represents the
sender.\s
                                    recipient - An email address that represents the
recipient.\s
                                    subject - The subject line.\s
                                """;

        if (args.length != 3) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String sender = args[0];
        String recipient = args[1];
        String subject = args[2];

        Region region = Region.US_EAST_1;
        SesV2Client sesv2Client = SesV2Client.builder()
                .region(region)
                .build();

        // The HTML body of the email.
        String bodyHTML = "<html>" + "<head></head>" + "<body>" + "<h1>Hello!</h1>"
                + "<p> See the list of customers.</p>" + "</body>" + "</html>";

        send(sesv2Client, sender, recipient, subject, bodyHTML);
    }

    public static void send(SesV2Client client,
                            String sender,
                            String recipient,
                            String subject,
                            String bodyHTML) {

        Destination destination = Destination.builder()
                .toAddresses(recipient)
                .build();
```

```
        Content content = Content.builder()
                .data(bodyHTML)
                .build();

        Content sub = Content.builder()
                .data(subject)
                .build();

        Body body = Body.builder()
                .html(content)
                .build();

        Message msg = Message.builder()
                .subject(sub)
                .body(body)
                .build();

        EmailContent emailContent = EmailContent.builder()
                .simple(msg)
                .build();

        SendEmailRequest emailRequest = SendEmailRequest.builder()
                .destination(destination)
                .content(emailContent)
                .fromEmailAddress(sender)
                .build();

        try {
            System.out.println("Attempting to send an email through Amazon SES "
                    + "using the AWS SDK for Java...");
            client.sendEmail(emailRequest);
            System.out.println("email was sent");

        } catch (SesV2Exception e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

テンプレートを使用してメッセージを送信します。

```
      String coupons = Files.readString(Paths.get("resources/coupon_newsletter/
sample_coupons.json"));
      for (String emailAddress : contactEmails) {
        SendEmailRequest newsletterRequest = SendEmailRequest.builder()
            .destination(Destination.builder().toAddresses(emailAddress).build())
            .content(EmailContent.builder()
                .template(Template.builder()
                    .templateName(TEMPLATE_NAME)
                    .templateData(coupons)
                    .build())
                .build())
            .fromEmailAddress(this.verifiedEmail)
            .listManagementOptions(ListManagementOptions.builder()
                .contactListName(CONTACT_LIST_NAME)
                .build())
            .build();
        SendEmailResponse newsletterResponse =
 sesClient.sendEmail(newsletterRequest);
        System.out.println("Newsletter sent to " + emailAddress + ": " +
 newsletterResponse.messageId());
      }
```

ヘッダー情報を含むメッセージを送信します。

```
public class SendwithHeader {

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

            Usage:
                <sender> <recipient> <subject>\s

            Where:
                sender - An email address that represents the sender.\s
                recipient - An email address that represents the recipient.\s
                subject - The subject line.\s
            """;

        if (args.length != 3) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }
```

```
        String sender = args[0];
        String recipient = args[1];
        String subject = args[2];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        SesV2Client sesv2Client = SesV2Client.builder()
                .region(region)
                .build();

        String bodyHTML = """
                <html>
                    <head></head>
                    <body>
                        <h1>Hello!</h1>
                        <p>See the list of customers.</p>
                    </body>
                </html>
                """;

        sendWithHeader(sesv2Client, sender, recipient, subject, bodyHTML);
        sesv2Client.close();
    }

    /**
     * Sends an email using the AWS SES V2 client.
     *
     * @param sesv2Client the SES V2 client to use for sending the email
     * @param sender the email address of the sender
     * @param recipient the email address of the recipient
     * @param subject the subject of the email
     * @param bodyHTML the HTML content of the email body
     */
    public static void sendWithHeader(SesV2Client sesv2Client,
                                      String sender,
                                      String recipient,
                                      String subject,
                                      String bodyHTML) {
        EmailContent emailContent = EmailContent.builder()
                .simple(Message.builder()
                        .body(b -> b.html(c ->
c.charset(UTF_8.name()).data(bodyHTML))
                                .text(c -> c.charset(UTF_8.name()).data(bodyHTML)))
                        .subject(c -> c.charset(UTF_8.name()).data(subject))
                        .headers(List.of(
```

```
                                MessageHeader.builder()
                                        .name("List-Unsubscribe")
                                        .value("<https://nutrition.co/?
address=x&topic=x>, <mailto:unsubscribe@nutrition.co?subject=TopicUnsubscribe>")
                                        .build(),
                                MessageHeader.builder()
                                        .name("List-Unsubscribe-Post")
                                        .value("List-Unsubscribe=One-Click")
                                        .build()))
                        .build())
                .build();

        SendEmailRequest request = SendEmailRequest.builder()
                .fromEmailAddress(sender)
                .destination(d -> d.toAddresses(recipient))
                .content(emailContent)
                .build();

        try {
            SendEmailResponse response = sesv2Client.sendEmail(request);
            System.out.println("Email sent! Message ID: " + response.messageId());
        } catch (SesV2Exception e) {
            System.err.println("Failed to send email: " +
 e.awsErrorDetails().errorMessage());
            throw new RuntimeException(e);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「SendEmail」を参照してください。

シナリオ

ニュースレターのシナリオ

以下のコード例は、Amazon SES API v2 のニュースレターのシナリオを実行する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    try {
      // 2. Create a contact list
      String contactListName = CONTACT_LIST_NAME;
      CreateContactListRequest createContactListRequest =
 CreateContactListRequest.builder()
          .contactListName(contactListName)
          .build();
      sesClient.createContactList(createContactListRequest);
      System.out.println("Contact list created: " + contactListName);
    } catch (AlreadyExistsException e) {
      System.out.println("Contact list already exists, skipping creation: weekly-
coupons-newsletter");
    } catch (LimitExceededException e) {
      System.err.println("Limit for contact lists has been exceeded.");
      throw e;
    } catch (SesV2Exception e) {
      System.err.println("Error creating contact list: " + e.getMessage());
      throw e;
    }

      try {
        // Create a new contact with the provided email address in the
        CreateContactRequest contactRequest = CreateContactRequest.builder()
            .contactListName(CONTACT_LIST_NAME)
            .emailAddress(emailAddress)
            .build();

        sesClient.createContact(contactRequest);
        contacts.add(emailAddress);

        System.out.println("Contact created: " + emailAddress);

        // Send a welcome email to the new contact
```

```
        String welcomeHtml = Files.readString(Paths.get("resources/
coupon_newsletter/welcome.html"));
        String welcomeText = Files.readString(Paths.get("resources/
coupon_newsletter/welcome.txt"));

        SendEmailRequest welcomeEmailRequest = SendEmailRequest.builder()
            .fromEmailAddress(this.verifiedEmail)
            .destination(Destination.builder().toAddresses(emailAddress).build())
            .content(EmailContent.builder()
                .simple(
                    Message.builder()
                        .subject(Content.builder().data("Welcome to the Weekly
 Coupons Newsletter").build())
                        .body(Body.builder()
                            .text(Content.builder().data(welcomeText).build())
                            .html(Content.builder().data(welcomeHtml).build())
                            .build())
                        .build())
                .build())
            .build();
        SendEmailResponse welcomeEmailResponse =
 sesClient.sendEmail(welcomeEmailRequest);
        System.out.println("Welcome email sent: " +
 welcomeEmailResponse.messageId());
      } catch (AlreadyExistsException e) {
        // If the contact already exists, skip this step for that contact and
 proceed
        // with the next contact
        System.out.println("Contact already exists, skipping creation...");
      } catch (Exception e) {
        System.err.println("Error occurred while processing email address " +
 emailAddress + ": " + e.getMessage());
        throw e;
      }
    }

      ListContactsRequest contactListRequest = ListContactsRequest.builder()
          .contactListName(CONTACT_LIST_NAME)
          .build();

      List<String> contactEmails;
      try {
        ListContactsResponse contactListResponse =
 sesClient.listContacts(contactListRequest);
```

```
        contactEmails = contactListResponse.contacts().stream()
            .map(Contact::emailAddress)
            .toList();
      } catch (Exception e) {
        // TODO: Remove when listContacts's GET body issue is resolved.
        contactEmails = this.contacts;
      }


      String coupons = Files.readString(Paths.get("resources/coupon_newsletter/
sample_coupons.json"));
      for (String emailAddress : contactEmails) {
        SendEmailRequest newsletterRequest = SendEmailRequest.builder()
            .destination(Destination.builder().toAddresses(emailAddress).build())
            .content(EmailContent.builder()
                .template(Template.builder()
                    .templateName(TEMPLATE_NAME)
                    .templateData(coupons)
                    .build())
                .build())
            .fromEmailAddress(this.verifiedEmail)
            .listManagementOptions(ListManagementOptions.builder()
                .contactListName(CONTACT_LIST_NAME)
                .build())
            .build();
        SendEmailResponse newsletterResponse =
 sesClient.sendEmail(newsletterRequest);
        System.out.println("Newsletter sent to " + emailAddress + ": " +
 newsletterResponse.messageId());
      }

    try {
      CreateEmailIdentityRequest createEmailIdentityRequest =
 CreateEmailIdentityRequest.builder()
          .emailIdentity(verifiedEmail)
          .build();
      sesClient.createEmailIdentity(createEmailIdentityRequest);
      System.out.println("Email identity created: " + verifiedEmail);
    } catch (AlreadyExistsException e) {
      System.out.println("Email identity already exists, skipping creation: " +
 verifiedEmail);
    } catch (NotFoundException e) {
```

```
      System.err.println("The provided email address is not verified: " +
 verifiedEmail);
      throw e;
    } catch (LimitExceededException e) {
      System.err
          .println("You have reached the limit for email identities. Please remove
 some identities and try again.");
      throw e;
    } catch (SesV2Exception e) {
      System.err.println("Error creating email identity: " + e.getMessage());
      throw e;
    }

    try {
      // Create an email template named "weekly-coupons"
      String newsletterHtml = loadFile("resources/coupon_newsletter/coupon-
newsletter.html");
      String newsletterText = loadFile("resources/coupon_newsletter/coupon-
newsletter.txt");

      CreateEmailTemplateRequest templateRequest =
 CreateEmailTemplateRequest.builder()
          .templateName(TEMPLATE_NAME)
          .templateContent(EmailTemplateContent.builder()
              .subject("Weekly Coupons Newsletter")
              .html(newsletterHtml)
              .text(newsletterText)
              .build())
          .build();

      sesClient.createEmailTemplate(templateRequest);

      System.out.println("Email template created: " + TEMPLATE_NAME);
    } catch (AlreadyExistsException e) {
      // If the template already exists, skip this step and proceed with the next
      // operation
      System.out.println("Email template already exists, skipping creation...");
    } catch (LimitExceededException e) {
      // If the limit for email templates is exceeded, fail the workflow and inform
      // the user
      System.err.println("You have reached the limit for email templates. Please
 remove some templates and try again.");
      throw e;
    } catch (Exception e) {
```

```
      System.err.println("Error occurred while creating email template: " +
e.getMessage());
      throw e;
    }

    try {
      // Delete the contact list
      DeleteContactListRequest deleteContactListRequest =
DeleteContactListRequest.builder()
          .contactListName(CONTACT_LIST_NAME)
          .build();

      sesClient.deleteContactList(deleteContactListRequest);

      System.out.println("Contact list deleted: " + CONTACT_LIST_NAME);
    } catch (NotFoundException e) {
      // If the contact list does not exist, log the error and proceed
      System.out.println("Contact list not found. Skipping deletion...");
    } catch (Exception e) {
      System.err.println("Error occurred while deleting the contact list: " +
e.getMessage());
      e.printStackTrace();
    }

      try {
        // Delete the email identity
        DeleteEmailIdentityRequest deleteIdentityRequest =
DeleteEmailIdentityRequest.builder()
            .emailIdentity(this.verifiedEmail)
            .build();

        sesClient.deleteEmailIdentity(deleteIdentityRequest);

        System.out.println("Email identity deleted: " + this.verifiedEmail);
      } catch (NotFoundException e) {
        // If the email identity does not exist, log the error and proceed
        System.out.println("Email identity not found. Skipping deletion...");
      } catch (Exception e) {
        System.err.println("Error occurred while deleting the email identity: " +
e.getMessage());
        e.printStackTrace();
      }
    } else {
      System.out.println("Skipping email identity deletion.");
```

```
    }

    try {
      // Delete the template
      DeleteEmailTemplateRequest deleteTemplateRequest =
DeleteEmailTemplateRequest.builder()
          .templateName(TEMPLATE_NAME)
          .build();

      sesClient.deleteEmailTemplate(deleteTemplateRequest);

      System.out.println("Email template deleted: " + TEMPLATE_NAME);
    } catch (NotFoundException e) {
      // If the email template does not exist, log the error and proceed
      System.out.println("Email template not found. Skipping deletion...");
    } catch (Exception e) {
      System.err.println("Error occurred while deleting the email template: " +
e.getMessage());
      e.printStackTrace();
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - CreateContact
  - CreateContactList
  - CreateEmailIdentity
  - CreateEmailTemplate
  - DeleteContactList
  - DeleteEmailIdentity
  - DeleteEmailTemplate
  - ListContacts
  - SendEmail.simple
  - SendEmail.template

SDK for Java 2.x を使用する Amazon SNS の例

次のコード例は、Amazon SNS AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- はじめに
- アクション
- シナリオ
- サーバーレスサンプル

はじめに

Hello Amazon SNS

次のコード例は、Amazon SNS の使用を開始する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.sns;
```

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sns.SnsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SnsException;
import software.amazon.awssdk.services.sns.paginators.ListTopicsIterable;

public class HelloSNS {
    public static void main(String[] args) {
        SnsClient snsClient = SnsClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        listSNSTopics(snsClient);
        snsClient.close();
    }

    public static void listSNSTopics(SnsClient snsClient) {
        try {
            ListTopicsIterable listTopics = snsClient.listTopicsPaginator();
            listTopics.stream()
                    .flatMap(r -> r.topics().stream())
                    .forEach(content -> System.out.println(" Topic ARN: " +
 content.topicArn()));

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListTopics」を参照してください。

アクション

CheckIfPhoneNumberIsOptedOut

次のコード例は、CheckIfPhoneNumberIsOptedOut を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sns.SnsClient;
import
 software.amazon.awssdk.services.sns.model.CheckIfPhoneNumberIsOptedOutRequest;
import
 software.amazon.awssdk.services.sns.model.CheckIfPhoneNumberIsOptedOutResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SnsException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class CheckOptOut {
    public static void main(String[] args) {

        final String usage = """

                Usage:    <phoneNumber>

                Where:
                   phoneNumber - The mobile phone number to look up (for example,
 +1XXX5550100).

                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }
```

```
        String phoneNumber = args[0];
        SnsClient snsClient = SnsClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        checkPhone(snsClient, phoneNumber);
        snsClient.close();
    }

    public static void checkPhone(SnsClient snsClient, String phoneNumber) {
        try {
            CheckIfPhoneNumberIsOptedOutRequest request =
 CheckIfPhoneNumberIsOptedOutRequest.builder()
                    .phoneNumber(phoneNumber)
                    .build();

            CheckIfPhoneNumberIsOptedOutResponse result =
 snsClient.checkIfPhoneNumberIsOptedOut(request);
            System.out.println(
                    result.isOptedOut() + "Phone Number " + phoneNumber + " has
 Opted Out of receiving sns messages." +
                            "\n\nStatus was " +
 result.sdkHttpResponse().statusCode());

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CheckIfPhoneNumberIsOptedOut」を参照してください。

ConfirmSubscription

次のコード例は、ConfirmSubscription を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sns.SnsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.ConfirmSubscriptionRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.ConfirmSubscriptionResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SnsException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ConfirmSubscription {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:    <subscriptionToken> <topicArn>

                Where:
                   subscriptionToken - A short-lived token sent to an endpoint
 during the Subscribe action.
                   topicArn - The ARN of the topic.\s
                """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String subscriptionToken = args[0];
        String topicArn = args[1];
        SnsClient snsClient = SnsClient.builder()
```

```
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        confirmSub(snsClient, subscriptionToken, topicArn);
        snsClient.close();
    }

    public static void confirmSub(SnsClient snsClient, String subscriptionToken,
 String topicArn) {
        try {
            ConfirmSubscriptionRequest request =
 ConfirmSubscriptionRequest.builder()
                    .token(subscriptionToken)
                    .topicArn(topicArn)
                    .build();

            ConfirmSubscriptionResponse result =
 snsClient.confirmSubscription(request);
            System.out.println("\n\nStatus was " +
 result.sdkHttpResponse().statusCode() + "\n\nSubscription Arn: \n\n"
                    + result.subscriptionArn());

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ConfirmSubscription」を参照してください。

CreateTopic

次のコード例は、CreateTopic を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sns.SnsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.CreateTopicRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.CreateTopicResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SnsException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class CreateTopic {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:    <topicName>

                Where:
                   topicName - The name of the topic to create (for example,
 mytopic).

                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String topicName = args[0];
        System.out.println("Creating a topic with name: " + topicName);
        SnsClient snsClient = SnsClient.builder()
```

```
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        String arnVal = createSNSTopic(snsClient, topicName);
        System.out.println("The topic ARN is" + arnVal);
        snsClient.close();
    }

    public static String createSNSTopic(SnsClient snsClient, String topicName) {
        CreateTopicResponse result;
        try {
            CreateTopicRequest request = CreateTopicRequest.builder()
                    .name(topicName)
                    .build();

            result = snsClient.createTopic(request);
            return result.topicArn();

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateTopic」を参照してください。

`DeleteTopic`

次のコード例は、`DeleteTopic` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sns.SnsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.DeleteTopicRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.DeleteTopicResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SnsException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DeleteTopic {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:     <topicArn>

                Where:
                   topicArn - The ARN of the topic to delete.
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String topicArn = args[0];
        SnsClient snsClient = SnsClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        System.out.println("Deleting a topic with name: " + topicArn);
        deleteSNSTopic(snsClient, topicArn);
        snsClient.close();
    }

    public static void deleteSNSTopic(SnsClient snsClient, String topicArn) {
        try {
            DeleteTopicRequest request = DeleteTopicRequest.builder()
                    .topicArn(topicArn)
```

```
                    .build();

            DeleteTopicResponse result = snsClient.deleteTopic(request);
            System.out.println("\n\nStatus was " +
 result.sdkHttpResponse().statusCode());

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteTopic」を参照してください。

`GetSMSAttributes`

次のコード例は、`GetSMSAttributes` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sns.SnsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.GetSubscriptionAttributesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.GetSubscriptionAttributesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SnsException;
import java.util.Iterator;
import java.util.Map;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
```

```
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class GetSMSAtrributes {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:    <topicArn>

                Where:
                   topicArn - The ARN of the topic from which to retrieve
 attributes.
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String topicArn = args[0];
        SnsClient snsClient = SnsClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        getSNSAttrutes(snsClient, topicArn);
        snsClient.close();
    }

    public static void getSNSAttrutes(SnsClient snsClient, String topicArn) {
        try {
            GetSubscriptionAttributesRequest request =
 GetSubscriptionAttributesRequest.builder()
                    .subscriptionArn(topicArn)
                    .build();

            // Get the Subscription attributes
            GetSubscriptionAttributesResponse res =
 snsClient.getSubscriptionAttributes(request);
            Map<String, String> map = res.attributes();

            // Iterate through the map
            Iterator iter = map.entrySet().iterator();
            while (iter.hasNext()) {
```

```
                Map.Entry entry = (Map.Entry) iter.next();
                System.out.println("[Key] : " + entry.getKey() + " [Value] : " +
 entry.getValue());
            }

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }

        System.out.println("\n\nStatus was good");
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「GetSMSAttributes」を参照してください。

GetTopicAttributes

次のコード例は、GetTopicAttributes を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sns.SnsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.GetTopicAttributesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.GetTopicAttributesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SnsException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
```

```
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class GetTopicAttributes {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:    <topicArn>

                Where:
                   topicArn - The ARN of the topic to look up.
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String topicArn = args[0];
        SnsClient snsClient = SnsClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        System.out.println("Getting attributes for a topic with name: " + topicArn);
        getSNSTopicAttributes(snsClient, topicArn);
        snsClient.close();
    }

    public static void getSNSTopicAttributes(SnsClient snsClient, String topicArn) {
        try {
            GetTopicAttributesRequest request = GetTopicAttributesRequest.builder()
                    .topicArn(topicArn)
                    .build();

            GetTopicAttributesResponse result =
 snsClient.getTopicAttributes(request);
            System.out.println("\n\nStatus is " +
 result.sdkHttpResponse().statusCode() + "\n\nAttributes: \n\n"
                    + result.attributes());

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
```

```
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「GetTopicAttributes」を参照してください。

`ListPhoneNumbersOptedOut`

次のコード例は、`ListPhoneNumbersOptedOut` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sns.SnsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.ListPhoneNumbersOptedOutRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.ListPhoneNumbersOptedOutResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SnsException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ListOptOut {
    public static void main(String[] args) {
        SnsClient snsClient = SnsClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        listOpts(snsClient);
        snsClient.close();
```

```
    }

    public static void listOpts(SnsClient snsClient) {
        try {
            ListPhoneNumbersOptedOutRequest request =
 ListPhoneNumbersOptedOutRequest.builder().build();
            ListPhoneNumbersOptedOutResponse result =
 snsClient.listPhoneNumbersOptedOut(request);
            System.out.println("Status is " + result.sdkHttpResponse().statusCode()
 + "\n\nPhone Numbers: \n\n"
                    + result.phoneNumbers());

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListPhoneNumbersOptedOut」を参照してください。

`ListSubscriptions`

次のコード例は、`ListSubscriptions` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sns.SnsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.ListSubscriptionsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.ListSubscriptionsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SnsException;
```

```
/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ListSubscriptions {
    public static void main(String[] args) {
        SnsClient snsClient = SnsClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        listSNSSubscriptions(snsClient);
        snsClient.close();
    }

    public static void listSNSSubscriptions(SnsClient snsClient) {
        try {
            ListSubscriptionsRequest request = ListSubscriptionsRequest.builder()
                    .build();

            ListSubscriptionsResponse result = snsClient.listSubscriptions(request);
            System.out.println(result.subscriptions());

        } catch (SnsException e) {

            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListSubscriptions」を参照してください。

`ListTopics`

次のコード例は、`ListTopics` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sns.SnsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.ListTopicsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.ListTopicsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SnsException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ListTopics {
    public static void main(String[] args) {
        SnsClient snsClient = SnsClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        listSNSTopics(snsClient);
        snsClient.close();
    }

    public static void listSNSTopics(SnsClient snsClient) {
        try {
            ListTopicsRequest request = ListTopicsRequest.builder()
                    .build();

            ListTopicsResponse result = snsClient.listTopics(request);
            System.out.println(
                    "Status was " + result.sdkHttpResponse().statusCode() + "\n
\nTopics\n\n" + result.topics());
```

```
        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListTopics」を参照してください。

Publish

次のコード例は、Publish を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sns.SnsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.PublishRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.PublishResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SnsException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class PublishTopic {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """
```

```
                Usage:    <message> <topicArn>

                Where:
                   message - The message text to send.
                   topicArn - The ARN of the topic to publish.
                """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String message = args[0];
        String topicArn = args[1];
        SnsClient snsClient = SnsClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();
        pubTopic(snsClient, message, topicArn);
        snsClient.close();
    }

    public static void pubTopic(SnsClient snsClient, String message, String
 topicArn) {
        try {
            PublishRequest request = PublishRequest.builder()
                    .message(message)
                    .topicArn(topicArn)
                    .build();

            PublishResponse result = snsClient.publish(request);
            System.out
                    .println(result.messageId() + " Message sent. Status is " +
 result.sdkHttpResponse().statusCode());

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「Publish」を参照してください。

SetSMSAttributes

次のコード例は、SetSMSAttributes を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sns.SnsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SetSmsAttributesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SetSmsAttributesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SnsException;
import java.util.HashMap;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class SetSMSAttributes {
    public static void main(String[] args) {
        HashMap<String, String> attributes = new HashMap<>(1);
        attributes.put("DefaultSMSType", "Transactional");
        attributes.put("UsageReportS3Bucket", "janbucket");

        SnsClient snsClient = SnsClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();
        setSNSAttributes(snsClient, attributes);
        snsClient.close();
    }
```

```
    public static void setSNSAttributes(SnsClient snsClient, HashMap<String, String>
 attributes) {
        try {
            SetSmsAttributesRequest request = SetSmsAttributesRequest.builder()
                    .attributes(attributes)
                    .build();

            SetSmsAttributesResponse result = snsClient.setSMSAttributes(request);
            System.out.println("Set default Attributes to " + attributes + ". Status
 was "
                    + result.sdkHttpResponse().statusCode());

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「SetSMSAttributes」を参照してください。

`SetSubscriptionAttributes`

次のコード例は、`SetSubscriptionAttributes` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sns.SnsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SnsException;
import java.util.ArrayList;
```

```
/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class UseMessageFilterPolicy {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:    <subscriptionArn>

                Where:
                   subscriptionArn - The ARN of a subscription.

                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String subscriptionArn = args[0];
        SnsClient snsClient = SnsClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        usePolicy(snsClient, subscriptionArn);
        snsClient.close();
    }

    public static void usePolicy(SnsClient snsClient, String subscriptionArn) {
        try {
            SNSMessageFilterPolicy fp = new SNSMessageFilterPolicy();
            // Add a filter policy attribute with a single value
            fp.addAttribute("store", "example_corp");
            fp.addAttribute("event", "order_placed");

            // Add a prefix attribute
            fp.addAttributePrefix("customer_interests", "bas");

            // Add an anything-but attribute
```

```
            fp.addAttributeAnythingBut("customer_interests", "baseball");

            // Add a filter policy attribute with a list of values
            ArrayList<String> attributeValues = new ArrayList<>();
            attributeValues.add("rugby");
            attributeValues.add("soccer");
            attributeValues.add("hockey");
            fp.addAttribute("customer_interests", attributeValues);

            // Add a numeric attribute
            fp.addAttribute("price_usd", "=", 0);

            // Add a numeric attribute with a range
            fp.addAttributeRange("price_usd", ">", 0, "<=", 100);

            // Apply the filter policy attributes to an Amazon SNS subscription
            fp.apply(snsClient, subscriptionArn);

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「SetSubscriptionAttributes」を参照してください。

`SetTopicAttributes`

次のコード例は、`SetTopicAttributes` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sns.SnsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SetTopicAttributesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SetTopicAttributesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SnsException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class SetTopicAttributes {

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:    <attribute> <topicArn> <value>

                Where:
                   attribute - The attribute action to use. Valid parameters are:
 Policy | DisplayName | DeliveryPolicy .
                   topicArn - The ARN of the topic.\s
                   value - The value for the attribute.
                """;

        if (args.length < 3) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String attribute = args[0];
        String topicArn = args[1];
        String value = args[2];

        SnsClient snsClient = SnsClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        setTopAttr(snsClient, attribute, topicArn, value);
        snsClient.close();
```

```
    }

    public static void setTopAttr(SnsClient snsClient, String attribute, String
 topicArn, String value) {
        try {
            SetTopicAttributesRequest request = SetTopicAttributesRequest.builder()
                    .attributeName(attribute)
                    .attributeValue(value)
                    .topicArn(topicArn)
                    .build();

            SetTopicAttributesResponse result =
 snsClient.setTopicAttributes(request);
            System.out.println(
                    "\n\nStatus was " + result.sdkHttpResponse().statusCode() + "\n
\nTopic " + request.topicArn()
                            + " updated " + request.attributeName() + " to " +
 request.attributeValue());

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「SetTopicAttributes」を参照してください。

Subscribe

次のコード例は、Subscribe を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

E メールアドレスをトピックにサブスクライブします。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sns.SnsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SnsException;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SubscribeRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SubscribeResponse;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class SubscribeEmail {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """
                Usage:     <topicArn> <email>

                Where:
                   topicArn - The ARN of the topic to subscribe.
                   email - The email address to use.
                """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String topicArn = args[0];
        String email = args[1];
        SnsClient snsClient = SnsClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        subEmail(snsClient, topicArn, email);
        snsClient.close();
    }

    public static void subEmail(SnsClient snsClient, String topicArn, String email)
 {
        try {
```

```
            SubscribeRequest request = SubscribeRequest.builder()
                    .protocol("email")
                    .endpoint(email)
                    .returnSubscriptionArn(true)
                    .topicArn(topicArn)
                    .build();

            SubscribeResponse result = snsClient.subscribe(request);
            System.out.println("Subscription ARN: " + result.subscriptionArn() + "\n
\n Status is "
                    + result.sdkHttpResponse().statusCode());

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

HTTP エンドポイントをトピックにサブスクライブします。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sns.SnsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SnsException;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SubscribeRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SubscribeResponse;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class SubscribeHTTPS {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:    <topicArn> <url>

                Where:
```

```
                    topicArn - The ARN of the topic to subscribe.
                    url - The HTTPS endpoint that you want to receive notifications.
                """";

        if (args.length < 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String topicArn = args[0];
        String url = args[1];
        SnsClient snsClient = SnsClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        subHTTPS(snsClient, topicArn, url);
        snsClient.close();
    }

    public static void subHTTPS(SnsClient snsClient, String topicArn, String url) {
        try {
            SubscribeRequest request = SubscribeRequest.builder()
                    .protocol("https")
                    .endpoint(url)
                    .returnSubscriptionArn(true)
                    .topicArn(topicArn)
                    .build();

            SubscribeResponse result = snsClient.subscribe(request);
            System.out.println("Subscription ARN is " + result.subscriptionArn() +
 "\n\n Status is "
                    + result.sdkHttpResponse().statusCode());

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

Lambda 関数をトピックにサブスクライブします。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sns.SnsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SnsException;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SubscribeRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SubscribeResponse;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class SubscribeLambda {

    public static void main(String[] args) {

        final String usage = """

                Usage:    <topicArn> <lambdaArn>

                Where:
                   topicArn - The ARN of the topic to subscribe.
                   lambdaArn - The ARN of an AWS Lambda function.
                """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String topicArn = args[0];
        String lambdaArn = args[1];
        SnsClient snsClient = SnsClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        String arnValue = subLambda(snsClient, topicArn, lambdaArn);
        System.out.println("Subscription ARN: " + arnValue);
        snsClient.close();
    }
```

```
    public static String subLambda(SnsClient snsClient, String topicArn, String
 lambdaArn) {
        try {
            SubscribeRequest request = SubscribeRequest.builder()
                    .protocol("lambda")
                    .endpoint(lambdaArn)
                    .returnSubscriptionArn(true)
                    .topicArn(topicArn)
                    .build();

            SubscribeResponse result = snsClient.subscribe(request);
            return result.subscriptionArn();

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「Subscribe」を参照してください。

`TagResource`

次のコード例は、`TagResource` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sns.SnsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SnsException;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.Tag;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.TagResourceRequest;
import java.util.ArrayList;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class AddTags {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:    <topicArn>

                Where:
                   topicArn - The ARN of the topic to which tags are added.

                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String topicArn = args[0];
        SnsClient snsClient = SnsClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        addTopicTags(snsClient, topicArn);
        snsClient.close();
    }

    public static void addTopicTags(SnsClient snsClient, String topicArn) {
        try {
            Tag tag = Tag.builder()
                    .key("Team")
                    .value("Development")
                    .build();
```

```
            Tag tag2 = Tag.builder()
                    .key("Environment")
                    .value("Gamma")
                    .build();

            List<Tag> tagList = new ArrayList<>();
            tagList.add(tag);
            tagList.add(tag2);

            TagResourceRequest tagResourceRequest = TagResourceRequest.builder()
                    .resourceArn(topicArn)
                    .tags(tagList)
                    .build();

            snsClient.tagResource(tagResourceRequest);
            System.out.println("Tags have been added to " + topicArn);

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「TagResource」を参照してください。

`Unsubscribe`

次のコード例は、`Unsubscribe` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.sns.SnsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SnsException;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.UnsubscribeRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.UnsubscribeResponse;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class Unsubscribe {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:    <subscriptionArn>

                Where:
                   subscriptionArn - The ARN of the subscription to delete.
                """;

        if (args.length < 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String subscriptionArn = args[0];
        SnsClient snsClient = SnsClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        unSub(snsClient, subscriptionArn);
        snsClient.close();
    }

    public static void unSub(SnsClient snsClient, String subscriptionArn) {
        try {
            UnsubscribeRequest request = UnsubscribeRequest.builder()
                    .subscriptionArn(subscriptionArn)
                    .build();

            UnsubscribeResponse result = snsClient.unsubscribe(request);
```

```
            System.out.println("\n\nStatus was " +
 result.sdkHttpResponse().statusCode()
                    + "\n\nSubscription was removed for " +
 request.subscriptionArn());

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「Unsubscribe」を参照してください。

シナリオ

DynamoDB テーブルにデータを送信するアプリケーションを構築する

次のコード例は、Amazon DynamoDB テーブルにデータを送信し、ユーザーがテーブルを更新したときに通知するアプリケーションを構築する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

Amazon DynamoDB Java API を使用してデータを送信し、Amazon Simple Notification Service Java API を使用してテキストメッセージを送信する動的ウェブアプリケーションを作成する方法について説明します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- DynamoDB
- Amazon SNS

Amazon SNS アプリケーションの構築

次のコード例は、サブスクリプションとパブリッシュ機能を持ち、メッセージを翻訳するアプリケーションを作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

Amazon Simple Notification Service Java API を使用して、サブスクリプションおよびパブリッシュ機能を持つウェブアプリケーションを作成する方法を説明します。さらに、このサンプルアプリケーションではメッセージを翻訳します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

Java Async API を使用するサンプルの完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- Amazon SNS
- Amazon Translate

プッシュ通知のプラットフォームエンドポイントを作成します

次のコード例は、Amazon SNS プッシュ通知のプラットフォームエンドポイントを作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sns.SnsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.CreatePlatformEndpointRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.CreatePlatformEndpointResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SnsException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
```

```
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 *
 * In addition, create a platform application using the AWS Management Console.
 * See this doc topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sns/latest/dg/mobile-push-send-register.html
 *
 * Without the values created by following the previous link, this code examples
 * does not work.
 */

public class RegistrationExample {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

            Usage:     <token> <platformApplicationArn>

            Where:
               token - The device token or registration ID of the mobile device.
 This is a unique
               identifier provided by the device platform (e.g., Apple Push
 Notification Service (APNS) for iOS devices, Firebase Cloud Messaging (FCM)
               for Android devices) when the mobile app is registered to receive
 push notifications.

               platformApplicationArn - The ARN value of platform application. You
 can get this value from the AWS Management Console.\s

            """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            return;
        }

        String token = args[0];
        String platformApplicationArn = args[1];
        SnsClient snsClient = SnsClient.builder()
            .region(Region.US_EAST_1)
            .build();

        createEndpoint(snsClient, token, platformApplicationArn);
    }
```

```
    public static void createEndpoint(SnsClient snsClient, String token, String
 platformApplicationArn) {
        System.out.println("Creating platform endpoint with token " + token);
        try {
            CreatePlatformEndpointRequest endpointRequest =
 CreatePlatformEndpointRequest.builder()
                .token(token)
                .platformApplicationArn(platformApplicationArn)
                .build();

            CreatePlatformEndpointResponse response =
 snsClient.createPlatformEndpoint(endpointRequest);
            System.out.println("The ARN of the endpoint is " +
 response.endpointArn());

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
        }
    }
}
```

サーバーレスアプリケーションを作成して写真を管理する

次のコード例では、ユーザーがラベルを使用して写真を管理できるサーバーレスアプリケーションを作成する方法について示しています。

SDK for Java 2.x

Amazon Rekognition を使用して画像内のラベルを検出し、保存して後で取得できるようにする写真アセット管理アプリケーションの開発方法を示します。

完全なソースコードと設定および実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例のソースについて詳しくは、AWS コミュニティでブログ投稿を参照してください。

この例で使用されているサービス

- API ゲートウェイ
- DynamoDB
- Lambda

- Amazon Rekognition
- Amazon S3
- Amazon SNS

FIFO トピックを作成して発行する

次のコード例は、FIFO Amazon SNS トピックを作成、発行する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

この例では

- 1 つの Amazon SNS FIFO トピック、2 つの Amazon SQS FIFO キュー、および 1 つの標準キューを作成します。
- キューをトピックにサブスクライブし、メッセージをトピックに発行します。

テストでは、各キューへのメッセージの受信を検証します。完全な例では、アクセスポリシーの追加と、最後にリソースの削除も示しています。

```
public class PriceUpdateExample {
    public final static SnsClient snsClient = SnsClient.create();
    public final static SqsClient sqsClient = SqsClient.create();

    public static void main(String[] args) {

        final String usage = "\n" +
            "Usage: " +
            "    <topicName> <wholesaleQueueFifoName> <retailQueueFifoName>
 <analyticsQueueName>\n\n" +
            "Where:\n" +
            "   fifoTopicName - The name of the FIFO topic that you want to create.
 \n\n" +
            "   wholesaleQueueARN - The name of a SQS FIFO queue that will be
 created for the wholesale consumer. \n\n"
            +
```

```
            "   retailQueueARN - The name of a SQS FIFO queue that will created for
the retail consumer. \n\n" +
            "   analyticsQueueARN - The name of a SQS standard queue that will be
created for the analytics consumer. \n\n";
        if (args.length != 4) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        final String fifoTopicName = args[0];
        final String wholeSaleQueueName = args[1];
        final String retailQueueName = args[2];
        final String analyticsQueueName = args[3];

        // For convenience, the QueueData class holds metadata about a queue: ARN,
URL,
        // name and type.
        List<QueueData> queues = List.of(
            new QueueData(wholeSaleQueueName, QueueType.FIFO),
            new QueueData(retailQueueName, QueueType.FIFO),
            new QueueData(analyticsQueueName, QueueType.Standard));

        // Create queues.
        createQueues(queues);

        // Create a topic.
        String topicARN = createFIFOTopic(fifoTopicName);

        // Subscribe each queue to the topic.
        subscribeQueues(queues, topicARN);

        // Allow the newly created topic to send messages to the queues.
        addAccessPolicyToQueuesFINAL(queues, topicARN);

        // Publish a sample price update message with payload.
        publishPriceUpdate(topicARN, "{\"product\": 214, \"price\": 79.99}",
"Consumables");

        // Clean up resources.
        deleteSubscriptions(queues);
        deleteQueues(queues);
        deleteTopic(topicARN);
    }
```

```
    public static String createFIFOTopic(String topicName) {
        try {
            // Create a FIFO topic by using the SNS service client.
            Map<String, String> topicAttributes = Map.of(
                "FifoTopic", "true",
                "ContentBasedDeduplication", "false",
                "FifoThroughputScope", "MessageGroup");

            CreateTopicRequest topicRequest = CreateTopicRequest.builder()
                .name(topicName)
                .attributes(topicAttributes)
                .build();

            CreateTopicResponse response = snsClient.createTopic(topicRequest);
            String topicArn = response.topicArn();
            System.out.println("The topic ARN is" + topicArn);

            return topicArn;

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }

    public static void subscribeQueues(List<QueueData> queues, String topicARN) {
        queues.forEach(queue -> {
            SubscribeRequest subscribeRequest = SubscribeRequest.builder()
                .topicArn(topicARN)
                .endpoint(queue.queueARN)
                .protocol("sqs")
                .build();

            // Subscribe to the endpoint by using the SNS service client.
            // Only Amazon SQS queues can receive notifications from an Amazon SNS
FIFO
            // topic.
            SubscribeResponse subscribeResponse =
snsClient.subscribe(subscribeRequest);
            System.out.println("The queue [" + queue.queueARN + "] subscribed to the
topic [" + topicARN + "]");
            queue.subscriptionARN = subscribeResponse.subscriptionArn();
        });
```

```
    }

    public static void publishPriceUpdate(String topicArn, String payload, String
groupId) {

        try {
            // Create and publish a message that updates the wholesale price.
            String subject = "Price Update";
            String dedupId = UUID.randomUUID().toString();
            String attributeName = "business";
            String attributeValue = "wholesale";

            MessageAttributeValue msgAttValue = MessageAttributeValue.builder()
                .dataType("String")
                .stringValue(attributeValue)
                .build();

            Map<String, MessageAttributeValue> attributes = new HashMap<>();
            attributes.put(attributeName, msgAttValue);
            PublishRequest pubRequest = PublishRequest.builder()
                .topicArn(topicArn)
                .subject(subject)
                .message(payload)
                .messageGroupId(groupId)
                .messageDeduplicationId(dedupId)
                .messageAttributes(attributes)
                .build();

            final PublishResponse response = snsClient.publish(pubRequest);
            System.out.println(response.messageId());
            System.out.println(response.sequenceNumber());
            System.out.println("Message was published to " + topicArn);

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - CreateTopic

- Publish
- Subscribe

動画内の人物や物体を検出する

次のコード例は、Amazon Rekognition で動画内の人やオブジェクトを検出する方法を示します。

SDK for Java 2.x

Amazon Rekognition Java API を使用し、Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) バケットにあるビデオ内で顔やオブジェクトを検出するアプリケーションを作成する方法について説明します。アプリケーションは Amazon Simple Email Service (Amazon SES) を使用して、結果を含む E メール通知を管理者に送信します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- Amazon Rekognition
- Amazon S3
- Amazon SES
- Amazon SNS
- Amazon SQS

トピックへの SMS メッセージの発行

次のコードの例は以下の方法を示しています。

- Amazon SNS トピックを作成します。
- 携帯電話番号をトピックにサブスクライブする。
- SMS メッセージをトピックに発行して、登録されているすべての電話番号がメッセージを一度に受信できるようにします。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

トピックを作成し、その ARN を返します。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sns.SnsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.CreateTopicRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.CreateTopicResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SnsException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class CreateTopic {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:    <topicName>

                Where:
                   topicName - The name of the topic to create (for example,
 mytopic).

                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String topicName = args[0];
        System.out.println("Creating a topic with name: " + topicName);
```

```
        SnsClient snsClient = SnsClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        String arnVal = createSNSTopic(snsClient, topicName);
        System.out.println("The topic ARN is" + arnVal);
        snsClient.close();
    }

    public static String createSNSTopic(SnsClient snsClient, String topicName) {
        CreateTopicResponse result;
        try {
            CreateTopicRequest request = CreateTopicRequest.builder()
                    .name(topicName)
                    .build();

            result = snsClient.createTopic(request);
            return result.topicArn();

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }
}
```

トピックへのエンドポイントのサブスクライブ。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sns.SnsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SnsException;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SubscribeRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SubscribeResponse;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
```

```
 */
public class SubscribeTextSMS {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:    <topicArn> <phoneNumber>

                Where:
                   topicArn - The ARN of the topic to subscribe.
                   phoneNumber - A mobile phone number that receives notifications
 (for example, +1XXX5550100).
                """;

        if (args.length < 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String topicArn = args[0];
        String phoneNumber = args[1];
        SnsClient snsClient = SnsClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();

        subTextSNS(snsClient, topicArn, phoneNumber);
        snsClient.close();
    }

    public static void subTextSNS(SnsClient snsClient, String topicArn, String
 phoneNumber) {
        try {
            SubscribeRequest request = SubscribeRequest.builder()
                    .protocol("sms")
                    .endpoint(phoneNumber)
                    .returnSubscriptionArn(true)
                    .topicArn(topicArn)
                    .build();

            SubscribeResponse result = snsClient.subscribe(request);
            System.out.println("Subscription ARN: " + result.subscriptionArn() + "\n
\n Status is "
                    + result.sdkHttpResponse().statusCode());

        } catch (SnsException e) {
```

```
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

送信者の ID、上限価格、タイプなど、メッセージ上の属性を設定します。メッセージ属性はオプションです。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sns.SnsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SetSmsAttributesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SetSmsAttributesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SnsException;
import java.util.HashMap;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class SetSMSAttributes {
    public static void main(String[] args) {
        HashMap<String, String> attributes = new HashMap<>(1);
        attributes.put("DefaultSMSType", "Transactional");
        attributes.put("UsageReportS3Bucket", "janbucket");

        SnsClient snsClient = SnsClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();
        setSNSAttributes(snsClient, attributes);
        snsClient.close();
    }

    public static void setSNSAttributes(SnsClient snsClient, HashMap<String, String>
 attributes) {
        try {
            SetSmsAttributesRequest request = SetSmsAttributesRequest.builder()
                    .attributes(attributes)
```

```
                    .build();

            SetSmsAttributesResponse result = snsClient.setSMSAttributes(request);
            System.out.println("Set default Attributes to " + attributes + ". Status
 was "
                    + result.sdkHttpResponse().statusCode());

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

トピックへのメッセージの発行 メッセージは、すべての受信者に送信されます。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sns.SnsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.PublishRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.PublishResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SnsException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class PublishTextSMS {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:    <message> <phoneNumber>

                Where:
                   message - The message text to send.
                   phoneNumber - The mobile phone number to which a message is sent
 (for example, +1XXX5550100).\s
                """;
```

```
        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String message = args[0];
        String phoneNumber = args[1];
        SnsClient snsClient = SnsClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();
        pubTextSMS(snsClient, message, phoneNumber);
        snsClient.close();
    }

    public static void pubTextSMS(SnsClient snsClient, String message, String
 phoneNumber) {
        try {
            PublishRequest request = PublishRequest.builder()
                    .message(message)
                    .phoneNumber(phoneNumber)
                    .build();

            PublishResponse result = snsClient.publish(request);
            System.out
                    .println(result.messageId() + " Message sent. Status was " +
 result.sdkHttpResponse().statusCode());

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

SMS テキストメッセージを発行する

次のコードサンプルは、Amazon SNS を使用して SMS メッセージを発行する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sns.SnsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.PublishRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.PublishResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SnsException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class PublishTextSMS {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:    <message> <phoneNumber>

                Where:
                   message - The message text to send.
                   phoneNumber - The mobile phone number to which a message is sent
 (for example, +1XXX5550100).\s
                """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String message = args[0];
        String phoneNumber = args[1];
        SnsClient snsClient = SnsClient.builder()
```

```
                .region(Region.US_EAST_1)
                .build();
        pubTextSMS(snsClient, message, phoneNumber);
        snsClient.close();
    }

    public static void pubTextSMS(SnsClient snsClient, String message, String
 phoneNumber) {
        try {
            PublishRequest request = PublishRequest.builder()
                    .message(message)
                    .phoneNumber(phoneNumber)
                    .build();

            PublishResponse result = snsClient.publish(request);
            System.out
                    .println(result.messageId() + " Message sent. Status was " +
 result.sdkHttpResponse().statusCode());

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「Publish」を参照してください。

メッセージをキューに発行する

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- トピック (FIFO または非 FIFO) を作成します。
- フィルターを適用するオプションを使用して、複数のキューをトピックにサブスクライブします。
- メッセージをトピックに発行します。
- 受信したメッセージのキューをポーリングします。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.sns;

import
 software.amazon.awssdk.auth.credentials.EnvironmentVariableCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sns.SnsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.CreateTopicRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.CreateTopicResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.DeleteTopicRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.DeleteTopicResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.MessageAttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.PublishRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.PublishResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SetSubscriptionAttributesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SnsException;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SubscribeRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SubscribeResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.UnsubscribeRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.UnsubscribeResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.SqsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.CreateQueueRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.DeleteMessageBatchRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.DeleteMessageBatchRequestEntry;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.DeleteQueueRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.GetQueueAttributesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.GetQueueAttributesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.GetQueueUrlRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.GetQueueUrlResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.Message;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.QueueAttributeName;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.ReceiveMessageRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.SetQueueAttributesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.SqsException;
```

```
import java.util.ArrayList;
import java.util.HashMap;
import java.util.List;
import java.util.Map;
import java.util.Scanner;

import com.google.gson.Gson;
import com.google.gson.JsonArray;
import com.google.gson.JsonObject;
import com.google.gson.JsonPrimitive;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 * <p>
 * This Java example performs these tasks:
 * <p>
 * 1. Gives the user three options to choose from.
 * 2. Creates an Amazon Simple Notification Service (Amazon SNS) topic.
 * 3. Creates an Amazon Simple Queue Service (Amazon SQS) queue.
 * 4. Gets the SQS queue Amazon Resource Name (ARN) attribute.
 * 5. Attaches an AWS Identity and Access Management (IAM) policy to the queue.
 * 6. Subscribes to the SQS queue.
 * 7. Publishes a message to the topic.
 * 8. Displays the messages.
 * 9. Deletes the received message.
 * 10. Unsubscribes from the topic.
 * 11. Deletes the SNS topic.
 */
public class SNSWorkflow {
    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = "\n" +
            "Usage:\n" +
            "    <fifoQueueARN>\n\n" +
            "Where:\n" +
            "    accountId - Your AWS account Id value.";

        if (args.length != 1) {
```

```
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        SnsClient snsClient = SnsClient.builder()
            .region(Region.US_EAST_1)
            .credentialsProvider(EnvironmentVariableCredentialsProvider.create())
            .build();

        SqsClient sqsClient = SqsClient.builder()
            .region(Region.US_EAST_1)
            .credentialsProvider(EnvironmentVariableCredentialsProvider.create())
            .build();

        Scanner in = new Scanner(System.in);
        String accountId = args[0];
        String useFIFO;
        String duplication = "n";
        String topicName;
        String deduplicationID = null;
        String groupId = null;

        String topicArn;
        String sqsQueueName;
        String sqsQueueUrl;
        String sqsQueueArn;
        String subscriptionArn;
        boolean selectFIFO = false;

        String message;
        List<Message> messageList;
        List<String> filterList = new ArrayList<>();
        String msgAttValue = "";

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("Welcome to messaging with topics and queues.");
        System.out.println("In this scenario, you will create an SNS topic and
subscribe an SQS queue to the topic.\n" +
            "You can select from several options for configuring the topic and the
subscriptions for the queue.\n" +
            "You can then post to the topic and see the results in the queue.");
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
```

```
        System.out.println("SNS topics can be configured as FIFO (First-In-First-
Out).\n" +
            "FIFO topics deliver messages in order and support deduplication and
 message filtering.\n" +
            "Would you like to work with FIFO topics? (y/n)");
        useFIFO = in.nextLine();
        if (useFIFO.compareTo("y") == 0) {
            selectFIFO = true;
            System.out.println("You have selected FIFO");
            System.out.println(" Because you have chosen a FIFO topic, deduplication
 is supported.\n" +
                "        Deduplication IDs are either set in the message or
 automatically generated from content using a hash function.\n"
                +
                "        If a message is successfully published to an SNS FIFO
 topic, any message published and determined to have the same deduplication ID,\n"
                +
                "        within the five-minute deduplication interval, is accepted
 but not delivered.\n" +
                "        For more information about deduplication, see https://
docs.aws.amazon.com/sns/latest/dg/fifo-message-dedup.html.");

            System.out.println(
                "Would you like to use content-based deduplication instead of
 entering a deduplication ID? (y/n)");
            duplication = in.nextLine();
            if (duplication.compareTo("y") == 0) {
                System.out.println("Please enter a group id value");
                groupId = in.nextLine();
            } else {
                System.out.println("Please enter deduplication Id value");
                deduplicationID = in.nextLine();
                System.out.println("Please enter a group id value");
                groupId = in.nextLine();
            }
        }
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("2. Create a topic.");
        System.out.println("Enter a name for your SNS topic.");
        topicName = in.nextLine();
        if (selectFIFO) {
```

```
            System.out.println("Because you have selected a FIFO topic, '.fifo' must
be appended to the topic name.");
            topicName = topicName + ".fifo";
            System.out.println("The name of the topic is " + topicName);
            topicArn = createFIFO(snsClient, topicName, duplication);
            System.out.println("The ARN of the FIFO topic is " + topicArn);

        } else {
            System.out.println("The name of the topic is " + topicName);
            topicArn = createSNSTopic(snsClient, topicName);
            System.out.println("The ARN of the non-FIFO topic is " + topicArn);

        }
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("3. Create an SQS queue.");
        System.out.println("Enter a name for your SQS queue.");
        sqsQueueName = in.nextLine();
        if (selectFIFO) {
            sqsQueueName = sqsQueueName + ".fifo";
        }
        sqsQueueUrl = createQueue(sqsClient, sqsQueueName, selectFIFO);
        System.out.println("The queue URL is " + sqsQueueUrl);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("4. Get the SQS queue ARN attribute.");
        sqsQueueArn = getSQSQueueAttrs(sqsClient, sqsQueueUrl);
        System.out.println("The ARN of the new queue is " + sqsQueueArn);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("5. Attach an IAM policy to the queue.");

        // Define the policy to use. Make sure that you change the REGION if you are
        // running this code
        // in a different region.
        String policy = """
        {
             "Statement": [
             {
                 "Effect": "Allow",
                         "Principal": {
```

```
                    "Service": "sns.amazonaws.com"
                },
                "Action": "sqs:SendMessage",
                        "Resource": "arn:aws:sqs:us-east-1:%s:%s",
                        "Condition": {
                    "ArnEquals": {
                        "aws:SourceArn": "arn:aws:sns:us-east-1:%s:%s"
                    }
                }
            }
            ]
        }
        """.formatted(accountId, sqsQueueName, accountId, topicName);

        setQueueAttr(sqsClient, sqsQueueUrl, policy);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("6. Subscribe to the SQS queue.");
        if (selectFIFO) {
            System.out.println(
                "If you add a filter to this subscription, then only the filtered
 messages will be received in the queue.\n"
                    +
                    "For information about message filtering, see https://
docs.aws.amazon.com/sns/latest/dg/sns-message-filtering.html\n"
                    +
                    "For this example, you can filter messages by a \"tone\"
 attribute.");
            System.out.println("Would you like to filter messages for " +
 sqsQueueName + "'s subscription to the topic "
                + topicName + "?  (y/n)");
            String filterAns = in.nextLine();
            if (filterAns.compareTo("y") == 0) {
                boolean moreAns = false;
                System.out.println("You can filter messages by one or more of the
 following \"tone\" attributes.");
                System.out.println("1. cheerful");
                System.out.println("2. funny");
                System.out.println("3. serious");
                System.out.println("4. sincere");
                while (!moreAns) {
                    System.out.println("Select a number or choose 0 to end.");
                    String ans = in.nextLine();
```

```
                    switch (ans) {
                        case "1":
                            filterList.add("cheerful");
                            break;
                        case "2":
                            filterList.add("funny");
                            break;
                        case "3":
                            filterList.add("serious");
                            break;
                        case "4":
                            filterList.add("sincere");
                            break;
                        default:
                            moreAns = true;
                            break;
                    }
                }
            }
        }
        subscriptionArn = subQueue(snsClient, topicArn, sqsQueueArn, filterList);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("7. Publish a message to the topic.");
        if (selectFIFO) {
            System.out.println("Would you like to add an attribute to this message?
(y/n)");
            String msgAns = in.nextLine();
            if (msgAns.compareTo("y") == 0) {
                System.out.println("You can filter messages by one or more of the
following \"tone\" attributes.");
                System.out.println("1. cheerful");
                System.out.println("2. funny");
                System.out.println("3. serious");
                System.out.println("4. sincere");
                System.out.println("Select a number or choose 0 to end.");
                String ans = in.nextLine();
                switch (ans) {
                    case "1":
                        msgAttValue = "cheerful";
                        break;
                    case "2":
                        msgAttValue = "funny";
```

```
                        break;
                    case "3":
                        msgAttValue = "serious";
                        break;
                    default:
                        msgAttValue = "sincere";
                        break;
                }

                System.out.println("Selected value is " + msgAttValue);
            }
            System.out.println("Enter a message.");
            message = in.nextLine();
            pubMessageFIFO(snsClient, message, topicArn, msgAttValue, duplication,
groupId, deduplicationID);

        } else {
            System.out.println("Enter a message.");
            message = in.nextLine();
            pubMessage(snsClient, message, topicArn);
        }
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("8. Display the message. Press any key to continue.");
        in.nextLine();
        messageList = receiveMessages(sqsClient, sqsQueueUrl, msgAttValue);
        for (Message mes : messageList) {
            System.out.println("Message Id: " + mes.messageId());
            System.out.println("Full Message: " + mes.body());
        }
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("9. Delete the received message. Press any key to
continue.");
        in.nextLine();
        deleteMessages(sqsClient, sqsQueueUrl, messageList);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("10. Unsubscribe from the topic and delete the queue.
Press any key to continue.");
        in.nextLine();
```

```
        unSub(snsClient, subscriptionArn);
        deleteSQSQueue(sqsClient, sqsQueueName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("11. Delete the topic. Press any key to continue.");
        in.nextLine();
        deleteSNSTopic(snsClient, topicArn);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("The SNS/SQS workflow has completed successfully.");
        System.out.println(DASHES);
    }

    public static void deleteSNSTopic(SnsClient snsClient, String topicArn) {
        try {
            DeleteTopicRequest request = DeleteTopicRequest.builder()
                .topicArn(topicArn)
                .build();

            DeleteTopicResponse result = snsClient.deleteTopic(request);
            System.out.println("Status was " +
result.sdkHttpResponse().statusCode());

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void deleteSQSQueue(SqsClient sqsClient, String queueName) {
        try {
            GetQueueUrlRequest getQueueRequest = GetQueueUrlRequest.builder()
                .queueName(queueName)
                .build();

            String queueUrl = sqsClient.getQueueUrl(getQueueRequest).queueUrl();
            DeleteQueueRequest deleteQueueRequest = DeleteQueueRequest.builder()
                .queueUrl(queueUrl)
                .build();

            sqsClient.deleteQueue(deleteQueueRequest);
            System.out.println(queueName + " was successfully deleted.");
```

```
        } catch (SqsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void unSub(SnsClient snsClient, String subscriptionArn) {
        try {
            UnsubscribeRequest request = UnsubscribeRequest.builder()
                .subscriptionArn(subscriptionArn)
                .build();

            UnsubscribeResponse result = snsClient.unsubscribe(request);
            System.out.println("Status was " + result.sdkHttpResponse().statusCode()
                + "\nSubscription was removed for " + request.subscriptionArn());

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void deleteMessages(SqsClient sqsClient, String queueUrl,
List<Message> messages) {
        try {
            List<DeleteMessageBatchRequestEntry> entries = new ArrayList<>();
            for (Message msg : messages) {
                DeleteMessageBatchRequestEntry entry =
DeleteMessageBatchRequestEntry.builder()
                    .id(msg.messageId())
                    .build();

                entries.add(entry);
            }

            DeleteMessageBatchRequest deleteMessageBatchRequest =
DeleteMessageBatchRequest.builder()
                .queueUrl(queueUrl)
                .entries(entries)
                .build();

            sqsClient.deleteMessageBatch(deleteMessageBatchRequest);
            System.out.println("The batch delete of messages was successful");
```

```
        } catch (SqsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static List<Message> receiveMessages(SqsClient sqsClient, String
queueUrl, String msgAttValue) {
        try {
            if (msgAttValue.isEmpty()) {
                ReceiveMessageRequest receiveMessageRequest =
ReceiveMessageRequest.builder()
                    .queueUrl(queueUrl)
                    .maxNumberOfMessages(5)
                    .build();
                return sqsClient.receiveMessage(receiveMessageRequest).messages();
            } else {
                // We know there are filters on the message.
                ReceiveMessageRequest receiveRequest =
ReceiveMessageRequest.builder()
                    .queueUrl(queueUrl)
                    .messageAttributeNames(msgAttValue) // Include other message
attributes if needed.
                    .maxNumberOfMessages(5)
                    .build();

                return sqsClient.receiveMessage(receiveRequest).messages();
            }

        } catch (SqsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return null;
    }

    public static void pubMessage(SnsClient snsClient, String message, String
topicArn) {
        try {
            PublishRequest request = PublishRequest.builder()
                .message(message)
                .topicArn(topicArn)
                .build();
```

```
            PublishResponse result = snsClient.publish(request);
            System.out
                .println(result.messageId() + " Message sent. Status is " +
result.sdkHttpResponse().statusCode());

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void pubMessageFIFO(SnsClient snsClient,
                                      String message,
                                      String topicArn,
                                      String msgAttValue,
                                      String duplication,
                                      String groupId,
                                      String deduplicationID) {

        try {
            PublishRequest request;
            // Means the user did not choose to use a message attribute.
            if (msgAttValue.isEmpty()) {
                if (duplication.compareTo("y") == 0) {
                    request = PublishRequest.builder()
                        .message(message)
                        .messageGroupId(groupId)
                        .topicArn(topicArn)
                        .build();
                } else {
                    request = PublishRequest.builder()
                        .message(message)
                        .messageDeduplicationId(deduplicationID)
                        .messageGroupId(groupId)
                        .topicArn(topicArn)
                        .build();
                }

            } else {
                Map<String, MessageAttributeValue> messageAttributes = new
HashMap<>();
                messageAttributes.put(msgAttValue, MessageAttributeValue.builder()
                    .dataType("String")
                    .stringValue("true")
```

```
                    .build());

                if (duplication.compareTo("y") == 0) {
                    request = PublishRequest.builder()
                        .message(message)
                        .messageGroupId(groupId)
                        .topicArn(topicArn)
                        .build();
                } else {
                    // Create a publish request with the message and attributes.
                    request = PublishRequest.builder()
                        .topicArn(topicArn)
                        .message(message)
                        .messageDeduplicationId(deduplicationID)
                        .messageGroupId(groupId)
                        .messageAttributes(messageAttributes)
                        .build();
                }
            }

            // Publish the message to the topic.
            PublishResponse result = snsClient.publish(request);
            System.out
                .println(result.messageId() + " Message sent. Status was " +
result.sdkHttpResponse().statusCode());

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    // Subscribe to the SQS queue.
    public static String subQueue(SnsClient snsClient, String topicArn, String
queueArn, List<String> filterList) {
        try {
            SubscribeRequest request;
            if (filterList.isEmpty()) {
                // No filter subscription is added.
                request = SubscribeRequest.builder()
                    .protocol("sqs")
                    .endpoint(queueArn)
                    .returnSubscriptionArn(true)
                    .topicArn(topicArn)
```

```
                    .build();

                SubscribeResponse result = snsClient.subscribe(request);
                System.out.println("The queue " + queueArn + " has been subscribed
to the topic " + topicArn + "\n" +
                    "with the subscription ARN " + result.subscriptionArn());
                return result.subscriptionArn();
            } else {
                request = SubscribeRequest.builder()
                    .protocol("sqs")
                    .endpoint(queueArn)
                    .returnSubscriptionArn(true)
                    .topicArn(topicArn)
                    .build();

                SubscribeResponse result = snsClient.subscribe(request);
                System.out.println("The queue " + queueArn + " has been subscribed
to the topic " + topicArn + "\n" +
                    "with the subscription ARN " + result.subscriptionArn());

                String attributeName = "FilterPolicy";
                Gson gson = new Gson();
                String jsonString = "{\"tone\": []}";
                JsonObject jsonObject = gson.fromJson(jsonString, JsonObject.class);
                JsonArray toneArray = jsonObject.getAsJsonArray("tone");
                for (String value : filterList) {
                    toneArray.add(new JsonPrimitive(value));
                }

                String updatedJsonString = gson.toJson(jsonObject);
                System.out.println(updatedJsonString);
                SetSubscriptionAttributesRequest attRequest =
SetSubscriptionAttributesRequest.builder()
                    .subscriptionArn(result.subscriptionArn())
                    .attributeName(attributeName)
                    .attributeValue(updatedJsonString)
                    .build();

                snsClient.setSubscriptionAttributes(attRequest);
                return result.subscriptionArn();
            }

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
```

```
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }

    // Attach a policy to the queue.
    public static void setQueueAttr(SqsClient sqsClient, String queueUrl, String
policy) {
        try {
            Map<software.amazon.awssdk.services.sqs.model.QueueAttributeName,
String> attrMap = new HashMap<>();
            attrMap.put(QueueAttributeName.POLICY, policy);

            SetQueueAttributesRequest attributesRequest =
SetQueueAttributesRequest.builder()
                .queueUrl(queueUrl)
                .attributes(attrMap)
                .build();

            sqsClient.setQueueAttributes(attributesRequest);
            System.out.println("The policy has been successfully attached.");

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static String getSQSQueueAttrs(SqsClient sqsClient, String queueUrl) {
        // Specify the attributes to retrieve.
        List<QueueAttributeName> atts = new ArrayList<>();
        atts.add(QueueAttributeName.QUEUE_ARN);

        GetQueueAttributesRequest attributesRequest =
GetQueueAttributesRequest.builder()
            .queueUrl(queueUrl)
            .attributeNames(atts)
            .build();

        GetQueueAttributesResponse response =
sqsClient.getQueueAttributes(attributesRequest);
        Map<String, String> queueAtts = response.attributesAsStrings();
        for (Map.Entry<String, String> queueAtt : queueAtts.entrySet())
            return queueAtt.getValue();
```

```
        return "";
    }

    public static String createQueue(SqsClient sqsClient, String queueName, Boolean
selectFIFO) {
        try {
            System.out.println("\nCreate Queue");
            if (selectFIFO) {
                Map<QueueAttributeName, String> attrs = new HashMap<>();
                attrs.put(QueueAttributeName.FIFO_QUEUE, "true");
                CreateQueueRequest createQueueRequest = CreateQueueRequest.builder()
                    .queueName(queueName)
                    .attributes(attrs)
                    .build();

                sqsClient.createQueue(createQueueRequest);
                System.out.println("\nGet queue url");
                GetQueueUrlResponse getQueueUrlResponse = sqsClient

.getQueueUrl(GetQueueUrlRequest.builder().queueName(queueName).build());
                return getQueueUrlResponse.queueUrl();
            } else {
                CreateQueueRequest createQueueRequest = CreateQueueRequest.builder()
                    .queueName(queueName)
                    .build();

                sqsClient.createQueue(createQueueRequest);
                System.out.println("\nGet queue url");
                GetQueueUrlResponse getQueueUrlResponse = sqsClient

.getQueueUrl(GetQueueUrlRequest.builder().queueName(queueName).build());
                return getQueueUrlResponse.queueUrl();
            }

        } catch (SqsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }

    public static String createSNSTopic(SnsClient snsClient, String topicName) {
        CreateTopicResponse result;
```

```
        try {
            CreateTopicRequest request = CreateTopicRequest.builder()
                .name(topicName)
                .build();

            result = snsClient.createTopic(request);
            return result.topicArn();

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }

    public static String createFIFO(SnsClient snsClient, String topicName, String
 duplication) {
        try {
            // Create a FIFO topic by using the SNS service client.
            Map<String, String> topicAttributes = new HashMap<>();
            if (duplication.compareTo("n") == 0) {
                topicAttributes.put("FifoTopic", "true");
                topicAttributes.put("ContentBasedDeduplication", "false");
            } else {
                topicAttributes.put("FifoTopic", "true");
                topicAttributes.put("ContentBasedDeduplication", "true");
            }

            CreateTopicRequest topicRequest = CreateTopicRequest.builder()
                .name(topicName)
                .attributes(topicAttributes)
                .build();

            CreateTopicResponse response = snsClient.createTopic(topicRequest);
            return response.topicArn();

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - CreateQueue
  - CreateTopic
  - DeleteMessageBatch
  - DeleteQueue
  - DeleteTopic
  - GetQueueAttributes
  - Publish
  - ReceiveMessage
  - SetQueueAttributes
  - Subscribe
  - Unsubscribe

API Gateway を使用して Lambda 関数を呼び出す

次のコード例は、Amazon API Gateway によって呼び出される AWS Lambda 関数を作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

Lambda Java ランタイム API を使用して AWS Lambda 関数を作成する方法を示します。この例では、さまざまな AWS サービスを呼び出して、特定のユースケースを実行します。この例では、Amazon API Gateway によって呼び出される Lambda 関数を作成する方法を示します。この関数は、Amazon DynamoDB テーブルをスキャンして、Amazon Simple Notification Service (Amazon SNS) を使用して、従業員に年間の記念日を祝福するテキストメッセージを送信します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- API ゲートウェイ
- DynamoDB

- Lambda
- Amazon SNS

スケジュールされたイベントを使用した Lambda 関数の呼び出し

次のコード例は、Amazon EventBridge スケジュールされたイベントによって呼び出される AWS Lambda 関数を作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

AWS Lambda 関数を呼び出す Amazon EventBridge スケジュールされたイベントを作成する方法を示します。cron 式を使用して Lambda 関数が呼び出されるタイミングをスケジュールするように EventBridge を設定します。この例では、Lambda Java ランタイム API を使用して Lambda 関数を作成します。この例では、さまざまな AWS サービスを呼び出して、特定のユースケースを実行します。この例では、年間の記念日に従業員を祝福するモバイルテキストメッセージを従業員に送信するアプリを作成する方法を示します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- CloudWatch Logs
- DynamoDB
- EventBridge
- Lambda
- Amazon SNS

サーバーレスサンプル

Amazon SNS トリガーから Lambda 関数を呼び出す

次のコード例は、SNS トピックからメッセージを受信することによってトリガーされるイベントを受け取る Lambda 関数を実装する方法を示しています。この関数はイベントパラメータからメッセージを取得し、各メッセージの内容を記録します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。サーバーレスサンプルリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

Java を使用した Lambda での SNS イベントの消費。

```
// Copyright Amazon.com, Inc. or its affiliates. All Rights Reserved.
// SPDX-License-Identifier: Apache-2.0
package example;

import com.amazonaws.services.lambda.runtime.Context;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.LambdaLogger;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.RequestHandler;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.SNSEvent;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.SNSEvent.SNSRecord;


import java.util.Iterator;
import java.util.List;

public class SNSEventHandler implements RequestHandler<SNSEvent, Boolean> {
    LambdaLogger logger;

    @Override
    public Boolean handleRequest(SNSEvent event, Context context) {
        logger = context.getLogger();
        List<SNSRecord> records = event.getRecords();
        if (!records.isEmpty()) {
            Iterator<SNSRecord> recordsIter = records.iterator();
            while (recordsIter.hasNext()) {
                processRecord(recordsIter.next());
            }
        }
        return Boolean.TRUE;
    }

    public void processRecord(SNSRecord record) {
        try {
            String message = record.getSNS().getMessage();
```

```
            logger.log("message: " + message);
        } catch (Exception e) {
            throw new RuntimeException(e);
        }
    }

}
```

SDK for Java 2.x を使用する Amazon SQS の例

次のコード例は、Amazon SQS AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- はじめに
- アクション
- シナリオ
- サーバーレスサンプル

はじめに

Hello Amazon SQS

次のコード例は、Amazon SQS の使用を開始する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.SqsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.SqsException;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.paginators.ListQueuesIterable;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class HelloSQS {
    public static void main(String[] args) {
        SqsClient sqsClient = SqsClient.builder()
                .region(Region.US_WEST_2)
                .build();

        listQueues(sqsClient);
        sqsClient.close();
    }

    public static void listQueues(SqsClient sqsClient) {
        try {
            ListQueuesIterable listQueues = sqsClient.listQueuesPaginator();
            listQueues.stream()
                    .flatMap(r -> r.queueUrls().stream())
                    .forEach(content -> System.out.println(" Queue URL: " +
 content.toLowerCase()));

        } catch (SqsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
```

```
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListQueues」を参照してください。

アクション

`CreateQueue`

次のコード例は、`CreateQueue` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.SqsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.ChangeMessageVisibilityRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.CreateQueueRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.DeleteMessageRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.GetQueueUrlRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.GetQueueUrlResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.ListQueuesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.ListQueuesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.Message;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.ReceiveMessageRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.SendMessageBatchRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.SendMessageBatchRequestEntry;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.SendMessageRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.SqsException;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
```

```
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class SQSExample {
    public static void main(String[] args) {
        String queueName = "queue" + System.currentTimeMillis();
        SqsClient sqsClient = SqsClient.builder()
                .region(Region.US_WEST_2)
                .build();

        // Perform various tasks on the Amazon SQS queue.
        String queueUrl = createQueue(sqsClient, queueName);
        listQueues(sqsClient);
        listQueuesFilter(sqsClient, queueUrl);
        List<Message> messages = receiveMessages(sqsClient, queueUrl);
        sendBatchMessages(sqsClient, queueUrl);
        changeMessages(sqsClient, queueUrl, messages);
        deleteMessages(sqsClient, queueUrl, messages);
        sqsClient.close();
    }

    public static String createQueue(SqsClient sqsClient, String queueName) {
        try {
            System.out.println("\nCreate Queue");

            CreateQueueRequest createQueueRequest = CreateQueueRequest.builder()
                    .queueName(queueName)
                    .build();

            sqsClient.createQueue(createQueueRequest);

            System.out.println("\nGet queue url");

            GetQueueUrlResponse getQueueUrlResponse = sqsClient

 .getQueueUrl(GetQueueUrlRequest.builder().queueName(queueName).build());
            return getQueueUrlResponse.queueUrl();

        } catch (SqsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
```

```
        }
        return "";
    }

    public static void listQueues(SqsClient sqsClient) {

        System.out.println("\nList Queues");
        String prefix = "que";

        try {
            ListQueuesRequest listQueuesRequest =
ListQueuesRequest.builder().queueNamePrefix(prefix).build();
            ListQueuesResponse listQueuesResponse =
sqsClient.listQueues(listQueuesRequest);
            for (String url : listQueuesResponse.queueUrls()) {
                System.out.println(url);
            }

        } catch (SqsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void listQueuesFilter(SqsClient sqsClient, String queueUrl) {
        // List queues with filters
        String namePrefix = "queue";
        ListQueuesRequest filterListRequest = ListQueuesRequest.builder()
                .queueNamePrefix(namePrefix)
                .build();

        ListQueuesResponse listQueuesFilteredResponse =
sqsClient.listQueues(filterListRequest);
        System.out.println("Queue URLs with prefix: " + namePrefix);
        for (String url : listQueuesFilteredResponse.queueUrls()) {
            System.out.println(url);
        }

        System.out.println("\nSend message");
        try {
            sqsClient.sendMessage(SendMessageRequest.builder()
                    .queueUrl(queueUrl)
                    .messageBody("Hello world!")
                    .delaySeconds(10)
```

```
                    .build());

        } catch (SqsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void sendBatchMessages(SqsClient sqsClient, String queueUrl) {

        System.out.println("\nSend multiple messages");
        try {
            SendMessageBatchRequest sendMessageBatchRequest =
SendMessageBatchRequest.builder()
                    .queueUrl(queueUrl)

.entries(SendMessageBatchRequestEntry.builder().id("id1").messageBody("Hello from
msg 1").build(),

SendMessageBatchRequestEntry.builder().id("id2").messageBody("msg
2").delaySeconds(10)
                                    .build())
                    .build();
            sqsClient.sendMessageBatch(sendMessageBatchRequest);

        } catch (SqsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static List<Message> receiveMessages(SqsClient sqsClient, String
queueUrl) {

        System.out.println("\nReceive messages");
        try {
            ReceiveMessageRequest receiveMessageRequest =
ReceiveMessageRequest.builder()
                    .queueUrl(queueUrl)
                    .maxNumberOfMessages(5)
                    .build();
            return sqsClient.receiveMessage(receiveMessageRequest).messages();

        } catch (SqsException e) {
```

```
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return null;
    }

    public static void changeMessages(SqsClient sqsClient, String queueUrl,
List<Message> messages) {

        System.out.println("\nChange Message Visibility");
        try {

            for (Message message : messages) {
                ChangeMessageVisibilityRequest req =
ChangeMessageVisibilityRequest.builder()
                        .queueUrl(queueUrl)
                        .receiptHandle(message.receiptHandle())
                        .visibilityTimeout(100)
                        .build();
                sqsClient.changeMessageVisibility(req);
            }

        } catch (SqsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void deleteMessages(SqsClient sqsClient, String queueUrl,
List<Message> messages) {
        System.out.println("\nDelete Messages");

        try {
            for (Message message : messages) {
                DeleteMessageRequest deleteMessageRequest =
DeleteMessageRequest.builder()
                        .queueUrl(queueUrl)
                        .receiptHandle(message.receiptHandle())
                        .build();
                sqsClient.deleteMessage(deleteMessageRequest);
            }
        } catch (SqsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
```

```
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateQueue」を参照してください。

`DeleteMessage`

次のコード例は、`DeleteMessage` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
        try {
            for (Message message : messages) {
                DeleteMessageRequest deleteMessageRequest =
DeleteMessageRequest.builder()
                        .queueUrl(queueUrl)
                        .receiptHandle(message.receiptHandle())
                        .build();
                sqsClient.deleteMessage(deleteMessageRequest);
            }
        } catch (SqsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteMessage」を参照してください。

DeleteQueue

次のコード例は、DeleteQueue を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.SqsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.GetQueueUrlRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.DeleteQueueRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.SqsException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DeleteQueue {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:    <queueName>

                Where:
                   queueName - The name of the Amazon SQS queue to delete.

                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String queueName = args[0];
```

```
        SqsClient sqs = SqsClient.builder()
                .region(Region.US_WEST_2)
                .build();

        deleteSQSQueue(sqs, queueName);
        sqs.close();
    }

    public static void deleteSQSQueue(SqsClient sqsClient, String queueName) {
        try {
            GetQueueUrlRequest getQueueRequest = GetQueueUrlRequest.builder()
                    .queueName(queueName)
                    .build();

            String queueUrl = sqsClient.getQueueUrl(getQueueRequest).queueUrl();
            DeleteQueueRequest deleteQueueRequest = DeleteQueueRequest.builder()
                    .queueUrl(queueUrl)
                    .build();

            sqsClient.deleteQueue(deleteQueueRequest);

        } catch (SqsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteQueue」を参照してください。

`GetQueueUrl`

次のコード例は、`GetQueueUrl` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
            GetQueueUrlResponse getQueueUrlResponse = sqsClient

.getQueueUrl(GetQueueUrlRequest.builder().queueName(queueName).build());
            return getQueueUrlResponse.queueUrl();
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「GetQueueUrl」を参照してください。

`ListQueues`

次のコード例は、`ListQueues` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
        String prefix = "que";

        try {
            ListQueuesRequest listQueuesRequest =
ListQueuesRequest.builder().queueNamePrefix(prefix).build();
            ListQueuesResponse listQueuesResponse =
sqsClient.listQueues(listQueuesRequest);
            for (String url : listQueuesResponse.queueUrls()) {
                System.out.println(url);
            }
```

```
        } catch (SqsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListQueues」を参照してください。

`ReceiveMessage`

次のコード例は、`ReceiveMessage` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
        try {
            ReceiveMessageRequest receiveMessageRequest =
ReceiveMessageRequest.builder()
                    .queueUrl(queueUrl)
                    .maxNumberOfMessages(5)
                    .build();
            return sqsClient.receiveMessage(receiveMessageRequest).messages();

        } catch (SqsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return null;
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ReceiveMessage」を参照してください。

SendMessage

次のコード例は、SendMessage を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

SendMessage オペレーションの 2 つの例を次に示します。

- 本文と遅延を含むメッセージを送信する
- 本文とメッセージ属性を含むメッセージを送信する

本文と遅延を含むメッセージを送信します。

```
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.SqsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.CreateQueueRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.GetQueueUrlRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.SendMessageRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.SqsException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class SendMessages {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:    <queueName> <message>

                Where:
                   queueName - The name of the queue.
```

```
                    message - The message to send.
                """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String queueName = args[0];
        String message = args[1];
        SqsClient sqsClient = SqsClient.builder()
                .region(Region.US_WEST_2)
                .build();
        sendMessage(sqsClient, queueName, message);
        sqsClient.close();
    }

    public static void sendMessage(SqsClient sqsClient, String queueName, String
 message) {
        try {
            CreateQueueRequest request = CreateQueueRequest.builder()
                    .queueName(queueName)
                    .build();
            sqsClient.createQueue(request);

            GetQueueUrlRequest getQueueRequest = GetQueueUrlRequest.builder()
                    .queueName(queueName)
                    .build();

            String queueUrl = sqsClient.getQueueUrl(getQueueRequest).queueUrl();
            SendMessageRequest sendMsgRequest = SendMessageRequest.builder()
                    .queueUrl(queueUrl)
                    .messageBody(message)
                    .delaySeconds(5)
                    .build();

            sqsClient.sendMessage(sendMsgRequest);

        } catch (SqsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

本文とメッセージ属性を含むメッセージを送信します。

```
    /**
     * <p>This method demonstrates how to add message attributes to a message.
     * Each attribute must specify a name, value, and data type. You use a Java Map
 to supply the attributes. The map's
     * key is the attribute name, and you specify the map's entry value using a
 builder that includes the attribute
     * value and data type.</p>
     *
     * <p>The data type must start with one of "String", "Number" or "Binary". You
 can optionally
     * define a custom extension by using a "." and your extension.</p>
     *
     * <p>The SQS Developer Guide provides more information on @see <a
     * href="https://docs.aws.amazon.com/AWSSimpleQueueService/latest/
SQSDeveloperGuide/sqs-message-metadata.html#sqs-message-attributes">message
     * attributes</a>.</p>
     *
     * @param thumbailPath Filesystem path of the image.
     * @param queueUrl     URL of the SQS queue.
     */
    static void sendMessageWithAttributes(Path thumbailPath, String queueUrl) {
        Map<String, MessageAttributeValue> messageAttributeMap;
        try {
            messageAttributeMap = Map.of(
                    "Name", MessageAttributeValue.builder()
                            .stringValue("Jane Doe")
                            .dataType("String").build(),
                    "Age", MessageAttributeValue.builder()
                            .stringValue("42")
                            .dataType("Number.int").build(),
                    "Image", MessageAttributeValue.builder()

 .binaryValue(SdkBytes.fromByteArray(Files.readAllBytes(thumbailPath)))
                            .dataType("Binary.jpg").build()
            );
        } catch (IOException e) {
            LOGGER.error("An I/O exception occurred reading thumbnail image: {}",
 e.getMessage(), e);
            throw new RuntimeException(e);
```

```
        }

        SendMessageRequest request = SendMessageRequest.builder()
                .queueUrl(queueUrl)
                .messageBody("Hello SQS")
                .messageAttributes(messageAttributeMap)
                .build();
        try {
            SendMessageResponse sendMessageResponse =
SQS_CLIENT.sendMessage(request);
            LOGGER.info("Message ID: {}", sendMessageResponse.messageId());
        } catch (SqsException e) {
            LOGGER.error("Exception occurred sending message: {}", e.getMessage(),
e);
            throw new RuntimeException(e);
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「SendMessage」を参照してください。

`SendMessageBatch`

次のコード例は、SendMessageBatch を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
            SendMessageBatchRequest sendMessageBatchRequest =
SendMessageBatchRequest.builder()
                    .queueUrl(queueUrl)

.entries(SendMessageBatchRequestEntry.builder().id("id1").messageBody("Hello from
msg 1").build(),
```

```
SendMessageBatchRequestEntry.builder().id("id2").messageBody("msg
2").delaySeconds(10)
                                    .build())
                    .build();
            sqsClient.sendMessageBatch(sendMessageBatchRequest);
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「SendMessageBatch」を参照してください。

`SetQueueAttributes`

次のコード例は、`SetQueueAttributes` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

カスタム KMS キーを使用してサーバー側の暗号化 (SSE) を使用するように Amazon SQS を設定します。

```
    public static void addEncryption(String queueName, String kmsMasterKeyAlias) {
        SqsClient sqsClient = SqsClient.create();

        GetQueueUrlRequest urlRequest = GetQueueUrlRequest.builder()
                .queueName(queueName)
                .build();

        GetQueueUrlResponse getQueueUrlResponse;
        try {
            getQueueUrlResponse = sqsClient.getQueueUrl(urlRequest);
        } catch (QueueDoesNotExistException e) {
            LOGGER.error(e.getMessage(), e);
            throw new RuntimeException(e);
        }
        String queueUrl = getQueueUrlResponse.queueUrl();
```

```
        Map<QueueAttributeName, String> attributes = Map.of(
                QueueAttributeName.KMS_MASTER_KEY_ID, kmsMasterKeyAlias,
                QueueAttributeName.KMS_DATA_KEY_REUSE_PERIOD_SECONDS, "140" // Set
the data key reuse period to 140 seconds.
        );                                                                  // This
is how long SQS can reuse the data key before requesting a new one from KMS.

        SetQueueAttributesRequest attRequest = SetQueueAttributesRequest.builder()
                .queueUrl(queueUrl)
                .attributes(attributes)
                .build();
        try {
            sqsClient.setQueueAttributes(attRequest);
            LOGGER.info("The attributes have been applied to {}", queueName);
        } catch (InvalidAttributeNameException | InvalidAttributeValueException e) {
            LOGGER.error(e.getMessage(), e);
            throw new RuntimeException(e);
        } finally {
            sqsClient.close();
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「SetQueueAttributes」を参照してください。

シナリオ

メッセージングアプリケーションを作成する

次のコード例は、Amazon SQS を使用してメッセージングアプリケーションを作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

Amazon SQS API を使用して、メッセージを送受信する Spring REST API を開発する方法を示します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- Amazon Comprehend
- Amazon SQS

FIFO トピックを作成して発行する

次のコード例は、FIFO Amazon SNS トピックを作成、発行する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

この例では

- 1 つの Amazon SNS FIFO トピック、2 つの Amazon SQS FIFO キュー、および 1 つの標準キューを作成します。
- キューをトピックにサブスクライブし、メッセージをトピックに発行します。

テストでは、各キューへのメッセージの受信を検証します。完全な例では、アクセスポリシーの追加と、最後にリソースの削除も示しています。

```
public class PriceUpdateExample {
    public final static SnsClient snsClient = SnsClient.create();
    public final static SqsClient sqsClient = SqsClient.create();

    public static void main(String[] args) {

        final String usage = "\n" +
            "Usage: " +
            "    <topicName> <wholesaleQueueFifoName> <retailQueueFifoName>
 <analyticsQueueName>\n\n" +
            "Where:\n" +
            "   fifoTopicName - The name of the FIFO topic that you want to create.
 \n\n" +
            "   wholesaleQueueARN - The name of a SQS FIFO queue that will be
 created for the wholesale consumer. \n\n"
            +
```

```
            "   retailQueueARN - The name of a SQS FIFO queue that will created for
the retail consumer. \n\n" +
            "   analyticsQueueARN - The name of a SQS standard queue that will be
created for the analytics consumer. \n\n";
        if (args.length != 4) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        final String fifoTopicName = args[0];
        final String wholeSaleQueueName = args[1];
        final String retailQueueName = args[2];
        final String analyticsQueueName = args[3];

        // For convenience, the QueueData class holds metadata about a queue: ARN,
URL,
        // name and type.
        List<QueueData> queues = List.of(
            new QueueData(wholeSaleQueueName, QueueType.FIFO),
            new QueueData(retailQueueName, QueueType.FIFO),
            new QueueData(analyticsQueueName, QueueType.Standard));

        // Create queues.
        createQueues(queues);

        // Create a topic.
        String topicARN = createFIFOTopic(fifoTopicName);

        // Subscribe each queue to the topic.
        subscribeQueues(queues, topicARN);

        // Allow the newly created topic to send messages to the queues.
        addAccessPolicyToQueuesFINAL(queues, topicARN);

        // Publish a sample price update message with payload.
        publishPriceUpdate(topicARN, "{\"product\": 214, \"price\": 79.99}",
"Consumables");

        // Clean up resources.
        deleteSubscriptions(queues);
        deleteQueues(queues);
        deleteTopic(topicARN);
    }
```

```
    public static String createFIFOTopic(String topicName) {
        try {
            // Create a FIFO topic by using the SNS service client.
            Map<String, String> topicAttributes = Map.of(
                "FifoTopic", "true",
                "ContentBasedDeduplication", "false",
                "FifoThroughputScope", "MessageGroup");

            CreateTopicRequest topicRequest = CreateTopicRequest.builder()
                .name(topicName)
                .attributes(topicAttributes)
                .build();

            CreateTopicResponse response = snsClient.createTopic(topicRequest);
            String topicArn = response.topicArn();
            System.out.println("The topic ARN is" + topicArn);

            return topicArn;

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }

    public static void subscribeQueues(List<QueueData> queues, String topicARN) {
        queues.forEach(queue -> {
            SubscribeRequest subscribeRequest = SubscribeRequest.builder()
                .topicArn(topicARN)
                .endpoint(queue.queueARN)
                .protocol("sqs")
                .build();

            // Subscribe to the endpoint by using the SNS service client.
            // Only Amazon SQS queues can receive notifications from an Amazon SNS
FIFO
            // topic.
            SubscribeResponse subscribeResponse =
snsClient.subscribe(subscribeRequest);
            System.out.println("The queue [" + queue.queueARN + "] subscribed to the
topic [" + topicARN + "]");
            queue.subscriptionARN = subscribeResponse.subscriptionArn();
        });
```

```
    }

    public static void publishPriceUpdate(String topicArn, String payload, String
groupId) {

        try {
            // Create and publish a message that updates the wholesale price.
            String subject = "Price Update";
            String dedupId = UUID.randomUUID().toString();
            String attributeName = "business";
            String attributeValue = "wholesale";

            MessageAttributeValue msgAttValue = MessageAttributeValue.builder()
                .dataType("String")
                .stringValue(attributeValue)
                .build();

            Map<String, MessageAttributeValue> attributes = new HashMap<>();
            attributes.put(attributeName, msgAttValue);
            PublishRequest pubRequest = PublishRequest.builder()
                .topicArn(topicArn)
                .subject(subject)
                .message(payload)
                .messageGroupId(groupId)
                .messageDeduplicationId(dedupId)
                .messageAttributes(attributes)
                .build();

            final PublishResponse response = snsClient.publish(pubRequest);
            System.out.println(response.messageId());
            System.out.println(response.sequenceNumber());
            System.out.println("Message was published to " + topicArn);

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - CreateTopic

- Publish
- Subscribe

動画内の人物や物体を検出する

次のコード例は、Amazon Rekognition で動画内の人やオブジェクトを検出する方法を示します。

SDK for Java 2.x

Amazon Rekognition Java API を使用し、Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) バケットにあるビデオ内で顔やオブジェクトを検出するアプリケーションを作成する方法について説明します。アプリケーションは Amazon Simple Email Service (Amazon SES) を使用して、結果を含む E メール通知を管理者に送信します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- Amazon Rekognition
- Amazon S3
- Amazon SES
- Amazon SNS
- Amazon SQS

S3 を使用して大量のメッセージを管理する

次のコード例は、Amazon SQS 拡張クライアントライブラリを使用して大量の Amazon SQS メッセージを操作する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import com.amazon.sqs.javamessaging.AmazonSQSExtendedClient;
```

```
import com.amazon.sqs.javamessaging.ExtendedClientConfiguration;
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import org.joda.time.DateTime;
import org.joda.time.format.DateTimeFormat;
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.BucketLifecycleConfiguration;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.CreateBucketRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.DeleteBucketRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.DeleteObjectRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ExpirationStatus;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.LifecycleExpiration;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.LifecycleRule;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.LifecycleRuleFilter;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ListObjectVersionsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ListObjectVersionsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ListObjectsV2Request;
import software.amazon.awssdk.services.s3.model.ListObjectsV2Response;
import
 software.amazon.awssdk.services.s3.model.PutBucketLifecycleConfigurationRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.SqsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.CreateQueueRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.CreateQueueResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.DeleteMessageRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.DeleteQueueRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.Message;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.ReceiveMessageRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.ReceiveMessageResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.SendMessageRequest;

import java.util.Arrays;
import java.util.List;
import java.util.UUID;

/**
 * Example of using Amazon SQS Extended Client Library for Java 2.x.
 */
public class SqsExtendedClientExample {
    private static final Logger logger =
 LoggerFactory.getLogger(SqsExtendedClientExample.class);

    private String s3BucketName;
    private String queueUrl;
    private final String queueName;
```

```
    private final S3Client s3Client;
    private final SqsClient sqsExtendedClient;
    private final int messageSize;

    /**
     * Constructor with default clients and message size.
     */
    public SqsExtendedClientExample() {
        this(S3Client.create(), 300000);
    }

    /**
     * Constructor with custom S3 client and message size.
     *
     * @param s3Client The S3 client to use
     * @param messageSize The size of the test message to create
     */
    public SqsExtendedClientExample(S3Client s3Client, int messageSize) {
        this.s3Client = s3Client;
        this.messageSize = messageSize;

        // Generate a unique bucket name.
        this.s3BucketName = UUID.randomUUID() + "-" +
                DateTimeFormat.forPattern("yyMMdd-hhmmss").print(new DateTime());

        // Generate a unique queue name.
        this.queueName = "MyQueue-" + UUID.randomUUID();

        // Configure the SQS extended client.
        final ExtendedClientConfiguration extendedClientConfig = new
ExtendedClientConfiguration()
                .withPayloadSupportEnabled(s3Client, s3BucketName);

        this.sqsExtendedClient = new
AmazonSQSExtendedClient(SqsClient.builder().build(), extendedClientConfig);
    }

    public static void main(String[] args) {
        SqsExtendedClientExample example = new SqsExtendedClientExample();
        try {
            example.setup();
            example.sendAndReceiveMessage();
        } finally {
            example.cleanup();
```

```
        }
    }

    /**
     * Send a large message and receive it back.
     *
     * @return The received message
     */
    public Message sendAndReceiveMessage() {
        try {
            // Create a large message.
            char[] chars = new char[messageSize];
            Arrays.fill(chars, 'x');
            String largeMessage = new String(chars);

            // Send the message.
            final SendMessageRequest sendMessageRequest =
SendMessageRequest.builder()
                    .queueUrl(queueUrl)
                    .messageBody(largeMessage)
                    .build();

            sqsExtendedClient.sendMessage(sendMessageRequest);
            logger.info("Sent message of size: {}", largeMessage.length());

            // Receive and return the message.
            final ReceiveMessageResponse receiveMessageResponse =
sqsExtendedClient.receiveMessage(
                    ReceiveMessageRequest.builder().queueUrl(queueUrl).build());

            List<Message> messages = receiveMessageResponse.messages();
            if (messages.isEmpty()) {
                throw new RuntimeException("No messages received");
            }

            Message message = messages.getFirst();
            logger.info("\nMessage received.");
            logger.info("  ID: {}", message.messageId());
            logger.info("  Receipt handle: {}", message.receiptHandle());
            logger.info("  Message body size: {}", message.body().length());
            logger.info("  Message body (first 5 characters): {}",
message.body().substring(0, 5));

            return message;
```

```
        } catch (RuntimeException e) {
            logger.error("Error during message processing: {}", e.getMessage(), e);
            throw e;
        }
    }
```

- 詳細については、「AWS SDK for Java 2.x デベロッパーガイド」を参照してください。
- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - CreateBucket
  - PutBucketLifecycleConfiguration
  - ReceiveMessage
  - SendMessage

S3 イベント通知の処理

次のコード例は、オブジェクト指向の方法で S3 イベント通知を操作する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

この例は、Amazon SQS を使用して S3 通知イベントを処理する方法を示しています。

```
    /**
     * This method receives S3 event notifications by using an SqsAsyncClient.
     * After the client receives the messages it deserializes the JSON payload and
logs them. It uses
     * the S3EventNotification class (part of the S3 event notification API for
Java) to deserialize
     * the JSON payload and access the messages in an object-oriented way.
     *
     * @param queueUrl The URL of the AWS SQS queue that receives the S3 event
notifications.
```

```
     * @see <a href="https://sdk.amazonaws.com/java/api/latest/software/amazon/
awssdk/eventnotifications/s3/model/package-summary.html">S3EventNotification API</
a>.
     * <p>
     * To use S3 event notification serialization/deserialization to objects, add
 the following
     * dependency to your Maven pom.xml file.
     * <dependency>
     * <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
     * <artifactId>s3-event-notifications</artifactId>
     * <version><LATEST></version>
     * </dependency>
     * <p>
     * The S3 event notification API became available with version 2.25.11 of the
 Java SDK.
     * <p>
     * This example shows the use of the API with AWS SQS, but it can be used to
 process S3 event notifications
     * in AWS SNS or AWS Lambda as well.
     * <p>
     * Note: The S3EventNotification class does not work with messages routed
 through AWS EventBridge.
     */
    static void processS3Events(String bucketName, String queueUrl, String queueArn)
 {
        try {
            // Configure the bucket to send Object Created and Object Tagging
 notifications to an existing SQS queue.
            s3Client.putBucketNotificationConfiguration(b -> b
                    .notificationConfiguration(ncb -> ncb
                            .queueConfigurations(qcb -> qcb
                                    .events(Event.S3_OBJECT_CREATED,
 Event.S3_OBJECT_TAGGING)
                                    .queueArn(queueArn)))
                            .bucket(bucketName)
            ).join();

            triggerS3EventNotifications(bucketName);
            // Wait for event notifications to propagate.
            Thread.sleep(Duration.ofSeconds(5).toMillis());

            boolean didReceiveMessages = true;
            while (didReceiveMessages) {
                // Display the number of messages that are available in the queue.
```

```
                sqsClient.getQueueAttributes(b -> b
                                .queueUrl(queueUrl)

.attributeNames(QueueAttributeName.APPROXIMATE_NUMBER_OF_MESSAGES)
                        ).thenAccept(attributeResponse ->
                                logger.info("Approximate number of messages in the
queue: {}",

attributeResponse.attributes().get(QueueAttributeName.APPROXIMATE_NUMBER_OF_MESSAGES)))
                        .join();

                // Receive the messages.
                ReceiveMessageResponse response = sqsClient.receiveMessage(b -> b
                        .queueUrl(queueUrl)
                ).get();
                logger.info("Count of received messages: {}",
response.messages().size());
                didReceiveMessages = !response.messages().isEmpty();

                // Create a collection to hold the received message for deletion
                // after we log the messages.
                HashSet<DeleteMessageBatchRequestEntry> messagesToDelete = new
HashSet<>();
                // Process each message.
                response.messages().forEach(message -> {
                    logger.info("Message id: {}", message.messageId());
                    // Deserialize JSON message body to a S3EventNotification object
                    // to access messages in an object-oriented way.
                    S3EventNotification event =
S3EventNotification.fromJson(message.body());

                    // Log the S3 event notification record details.
                    if (event.getRecords() != null) {
                        event.getRecords().forEach(record -> {
                            String eventName = record.getEventName();
                            String key = record.getS3().getObject().getKey();
                            logger.info(record.toString());
                            logger.info("Event name is {} and key is {}", eventName,
key);
                        });
                    }
                    // Add logged messages to collection for batch deletion.
                    messagesToDelete.add(DeleteMessageBatchRequestEntry.builder()
                            .id(message.messageId())
```

```
                        .receiptHandle(message.receiptHandle())
                        .build());
            });
            // Delete messages.
            if (!messagesToDelete.isEmpty()) {
                sqsClient.deleteMessageBatch(DeleteMessageBatchRequest.builder()
                        .queueUrl(queueUrl)
                        .entries(messagesToDelete)
                        .build()
                ).join();
            }
        } // End of while block.
    } catch (InterruptedException | ExecutionException e) {
        throw new RuntimeException(e);
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - DeleteMessageBatch
  - GetQueueAttributes
  - PutBucketNotificationConfiguration
  - ReceiveMessage

メッセージをキューに発行する

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- トピック (FIFO または非 FIFO) を作成します。
- フィルターを適用するオプションを使用して、複数のキューをトピックにサブスクライブします。
- メッセージをトピックに発行します。
- 受信したメッセージのキューをポーリングします。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
package com.example.sns;

import
 software.amazon.awssdk.auth.credentials.EnvironmentVariableCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sns.SnsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.CreateTopicRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.CreateTopicResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.DeleteTopicRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.DeleteTopicResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.MessageAttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.PublishRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.PublishResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SetSubscriptionAttributesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SnsException;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SubscribeRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.SubscribeResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.UnsubscribeRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sns.model.UnsubscribeResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.SqsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.CreateQueueRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.DeleteMessageBatchRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.DeleteMessageBatchRequestEntry;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.DeleteQueueRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.GetQueueAttributesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.GetQueueAttributesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.GetQueueUrlRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.GetQueueUrlResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.Message;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.QueueAttributeName;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.ReceiveMessageRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.SetQueueAttributesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.SqsException;
```

```
import java.util.ArrayList;
import java.util.HashMap;
import java.util.List;
import java.util.Map;
import java.util.Scanner;

import com.google.gson.Gson;
import com.google.gson.JsonArray;
import com.google.gson.JsonObject;
import com.google.gson.JsonPrimitive;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 * <p>
 * For more information, see the following documentation topic:
 * <p>
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 * <p>
 * This Java example performs these tasks:
 * <p>
 * 1. Gives the user three options to choose from.
 * 2. Creates an Amazon Simple Notification Service (Amazon SNS) topic.
 * 3. Creates an Amazon Simple Queue Service (Amazon SQS) queue.
 * 4. Gets the SQS queue Amazon Resource Name (ARN) attribute.
 * 5. Attaches an AWS Identity and Access Management (IAM) policy to the queue.
 * 6. Subscribes to the SQS queue.
 * 7. Publishes a message to the topic.
 * 8. Displays the messages.
 * 9. Deletes the received message.
 * 10. Unsubscribes from the topic.
 * 11. Deletes the SNS topic.
 */
public class SNSWorkflow {
    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = "\n" +
            "Usage:\n" +
            "    <fifoQueueARN>\n\n" +
            "Where:\n" +
            "    accountId - Your AWS account Id value.";

        if (args.length != 1) {
```

```
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        SnsClient snsClient = SnsClient.builder()
            .region(Region.US_EAST_1)
            .credentialsProvider(EnvironmentVariableCredentialsProvider.create())
            .build();

        SqsClient sqsClient = SqsClient.builder()
            .region(Region.US_EAST_1)
            .credentialsProvider(EnvironmentVariableCredentialsProvider.create())
            .build();

        Scanner in = new Scanner(System.in);
        String accountId = args[0];
        String useFIFO;
        String duplication = "n";
        String topicName;
        String deduplicationID = null;
        String groupId = null;

        String topicArn;
        String sqsQueueName;
        String sqsQueueUrl;
        String sqsQueueArn;
        String subscriptionArn;
        boolean selectFIFO = false;

        String message;
        List<Message> messageList;
        List<String> filterList = new ArrayList<>();
        String msgAttValue = "";

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("Welcome to messaging with topics and queues.");
        System.out.println("In this scenario, you will create an SNS topic and
subscribe an SQS queue to the topic.\n" +
            "You can select from several options for configuring the topic and the
subscriptions for the queue.\n" +
            "You can then post to the topic and see the results in the queue.");
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
```

```
        System.out.println("SNS topics can be configured as FIFO (First-In-First-
Out).\n" +
            "FIFO topics deliver messages in order and support deduplication and
 message filtering.\n" +
            "Would you like to work with FIFO topics? (y/n)");
        useFIFO = in.nextLine();
        if (useFIFO.compareTo("y") == 0) {
            selectFIFO = true;
            System.out.println("You have selected FIFO");
            System.out.println(" Because you have chosen a FIFO topic, deduplication
 is supported.\n" +
                "        Deduplication IDs are either set in the message or
 automatically generated from content using a hash function.\n"
                +
                "        If a message is successfully published to an SNS FIFO
 topic, any message published and determined to have the same deduplication ID,\n"
                +
                "        within the five-minute deduplication interval, is accepted
 but not delivered.\n" +
                "        For more information about deduplication, see https://
docs.aws.amazon.com/sns/latest/dg/fifo-message-dedup.html.");

            System.out.println(
                "Would you like to use content-based deduplication instead of
 entering a deduplication ID? (y/n)");
            duplication = in.nextLine();
            if (duplication.compareTo("y") == 0) {
                System.out.println("Please enter a group id value");
                groupId = in.nextLine();
            } else {
                System.out.println("Please enter deduplication Id value");
                deduplicationID = in.nextLine();
                System.out.println("Please enter a group id value");
                groupId = in.nextLine();
            }
        }
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("2. Create a topic.");
        System.out.println("Enter a name for your SNS topic.");
        topicName = in.nextLine();
        if (selectFIFO) {
```

```
            System.out.println("Because you have selected a FIFO topic, '.fifo' must
be appended to the topic name.");
            topicName = topicName + ".fifo";
            System.out.println("The name of the topic is " + topicName);
            topicArn = createFIFO(snsClient, topicName, duplication);
            System.out.println("The ARN of the FIFO topic is " + topicArn);

        } else {
            System.out.println("The name of the topic is " + topicName);
            topicArn = createSNSTopic(snsClient, topicName);
            System.out.println("The ARN of the non-FIFO topic is " + topicArn);

        }
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("3. Create an SQS queue.");
        System.out.println("Enter a name for your SQS queue.");
        sqsQueueName = in.nextLine();
        if (selectFIFO) {
            sqsQueueName = sqsQueueName + ".fifo";
        }
        sqsQueueUrl = createQueue(sqsClient, sqsQueueName, selectFIFO);
        System.out.println("The queue URL is " + sqsQueueUrl);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("4. Get the SQS queue ARN attribute.");
        sqsQueueArn = getSQSQueueAttrs(sqsClient, sqsQueueUrl);
        System.out.println("The ARN of the new queue is " + sqsQueueArn);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("5. Attach an IAM policy to the queue.");

        // Define the policy to use. Make sure that you change the REGION if you are
        // running this code
        // in a different region.
        String policy = """
        {
             "Statement": [
             {
                 "Effect": "Allow",
                         "Principal": {
```

```
                    "Service": "sns.amazonaws.com"
                },
                "Action": "sqs:SendMessage",
                        "Resource": "arn:aws:sqs:us-east-1:%s:%s",
                        "Condition": {
                    "ArnEquals": {
                        "aws:SourceArn": "arn:aws:sns:us-east-1:%s:%s"
                    }
                }
            }
            ]
        }
        """.formatted(accountId, sqsQueueName, accountId, topicName);

        setQueueAttr(sqsClient, sqsQueueUrl, policy);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("6. Subscribe to the SQS queue.");
        if (selectFIFO) {
            System.out.println(
                "If you add a filter to this subscription, then only the filtered
 messages will be received in the queue.\n"
                    +
                    "For information about message filtering, see https://
docs.aws.amazon.com/sns/latest/dg/sns-message-filtering.html\n"
                    +
                    "For this example, you can filter messages by a \"tone\"
 attribute.");
            System.out.println("Would you like to filter messages for " +
 sqsQueueName + "'s subscription to the topic "
                + topicName + "?  (y/n)");
            String filterAns = in.nextLine();
            if (filterAns.compareTo("y") == 0) {
                boolean moreAns = false;
                System.out.println("You can filter messages by one or more of the
 following \"tone\" attributes.");
                System.out.println("1. cheerful");
                System.out.println("2. funny");
                System.out.println("3. serious");
                System.out.println("4. sincere");
                while (!moreAns) {
                    System.out.println("Select a number or choose 0 to end.");
                    String ans = in.nextLine();
```

```
                    switch (ans) {
                        case "1":
                            filterList.add("cheerful");
                            break;
                        case "2":
                            filterList.add("funny");
                            break;
                        case "3":
                            filterList.add("serious");
                            break;
                        case "4":
                            filterList.add("sincere");
                            break;
                        default:
                            moreAns = true;
                            break;
                    }
                }
            }
        }
        subscriptionArn = subQueue(snsClient, topicArn, sqsQueueArn, filterList);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("7. Publish a message to the topic.");
        if (selectFIFO) {
            System.out.println("Would you like to add an attribute to this message?
(y/n)");
            String msgAns = in.nextLine();
            if (msgAns.compareTo("y") == 0) {
                System.out.println("You can filter messages by one or more of the
following \"tone\" attributes.");
                System.out.println("1. cheerful");
                System.out.println("2. funny");
                System.out.println("3. serious");
                System.out.println("4. sincere");
                System.out.println("Select a number or choose 0 to end.");
                String ans = in.nextLine();
                switch (ans) {
                    case "1":
                        msgAttValue = "cheerful";
                        break;
                    case "2":
                        msgAttValue = "funny";
```

```
                        break;
                    case "3":
                        msgAttValue = "serious";
                        break;
                    default:
                        msgAttValue = "sincere";
                        break;
                }

                System.out.println("Selected value is " + msgAttValue);
            }
            System.out.println("Enter a message.");
            message = in.nextLine();
            pubMessageFIFO(snsClient, message, topicArn, msgAttValue, duplication,
groupId, deduplicationID);

        } else {
            System.out.println("Enter a message.");
            message = in.nextLine();
            pubMessage(snsClient, message, topicArn);
        }
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("8. Display the message. Press any key to continue.");
        in.nextLine();
        messageList = receiveMessages(sqsClient, sqsQueueUrl, msgAttValue);
        for (Message mes : messageList) {
            System.out.println("Message Id: " + mes.messageId());
            System.out.println("Full Message: " + mes.body());
        }
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("9. Delete the received message. Press any key to
continue.");
        in.nextLine();
        deleteMessages(sqsClient, sqsQueueUrl, messageList);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("10. Unsubscribe from the topic and delete the queue.
Press any key to continue.");
        in.nextLine();
```

```
        unSub(snsClient, subscriptionArn);
        deleteSQSQueue(sqsClient, sqsQueueName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("11. Delete the topic. Press any key to continue.");
        in.nextLine();
        deleteSNSTopic(snsClient, topicArn);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("The SNS/SQS workflow has completed successfully.");
        System.out.println(DASHES);
    }

    public static void deleteSNSTopic(SnsClient snsClient, String topicArn) {
        try {
            DeleteTopicRequest request = DeleteTopicRequest.builder()
                .topicArn(topicArn)
                .build();

            DeleteTopicResponse result = snsClient.deleteTopic(request);
            System.out.println("Status was " +
result.sdkHttpResponse().statusCode());

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void deleteSQSQueue(SqsClient sqsClient, String queueName) {
        try {
            GetQueueUrlRequest getQueueRequest = GetQueueUrlRequest.builder()
                .queueName(queueName)
                .build();

            String queueUrl = sqsClient.getQueueUrl(getQueueRequest).queueUrl();
            DeleteQueueRequest deleteQueueRequest = DeleteQueueRequest.builder()
                .queueUrl(queueUrl)
                .build();

            sqsClient.deleteQueue(deleteQueueRequest);
            System.out.println(queueName + " was successfully deleted.");
```

```
        } catch (SqsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void unSub(SnsClient snsClient, String subscriptionArn) {
        try {
            UnsubscribeRequest request = UnsubscribeRequest.builder()
                .subscriptionArn(subscriptionArn)
                .build();

            UnsubscribeResponse result = snsClient.unsubscribe(request);
            System.out.println("Status was " + result.sdkHttpResponse().statusCode()
                + "\nSubscription was removed for " + request.subscriptionArn());

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void deleteMessages(SqsClient sqsClient, String queueUrl,
List<Message> messages) {
        try {
            List<DeleteMessageBatchRequestEntry> entries = new ArrayList<>();
            for (Message msg : messages) {
                DeleteMessageBatchRequestEntry entry =
DeleteMessageBatchRequestEntry.builder()
                    .id(msg.messageId())
                    .build();

                entries.add(entry);
            }

            DeleteMessageBatchRequest deleteMessageBatchRequest =
DeleteMessageBatchRequest.builder()
                .queueUrl(queueUrl)
                .entries(entries)
                .build();

            sqsClient.deleteMessageBatch(deleteMessageBatchRequest);
            System.out.println("The batch delete of messages was successful");
```

```
        } catch (SqsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static List<Message> receiveMessages(SqsClient sqsClient, String
queueUrl, String msgAttValue) {
        try {
            if (msgAttValue.isEmpty()) {
                ReceiveMessageRequest receiveMessageRequest =
ReceiveMessageRequest.builder()
                    .queueUrl(queueUrl)
                    .maxNumberOfMessages(5)
                    .build();
                return sqsClient.receiveMessage(receiveMessageRequest).messages();
            } else {
                // We know there are filters on the message.
                ReceiveMessageRequest receiveRequest =
ReceiveMessageRequest.builder()
                    .queueUrl(queueUrl)
                    .messageAttributeNames(msgAttValue) // Include other message
attributes if needed.
                    .maxNumberOfMessages(5)
                    .build();

                return sqsClient.receiveMessage(receiveRequest).messages();
            }

        } catch (SqsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return null;
    }

    public static void pubMessage(SnsClient snsClient, String message, String
topicArn) {
        try {
            PublishRequest request = PublishRequest.builder()
                .message(message)
                .topicArn(topicArn)
                .build();
```

```
            PublishResponse result = snsClient.publish(request);
            System.out
                .println(result.messageId() + " Message sent. Status is " +
result.sdkHttpResponse().statusCode());

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void pubMessageFIFO(SnsClient snsClient,
                                      String message,
                                      String topicArn,
                                      String msgAttValue,
                                      String duplication,
                                      String groupId,
                                      String deduplicationID) {

        try {
            PublishRequest request;
            // Means the user did not choose to use a message attribute.
            if (msgAttValue.isEmpty()) {
                if (duplication.compareTo("y") == 0) {
                    request = PublishRequest.builder()
                        .message(message)
                        .messageGroupId(groupId)
                        .topicArn(topicArn)
                        .build();
                } else {
                    request = PublishRequest.builder()
                        .message(message)
                        .messageDeduplicationId(deduplicationID)
                        .messageGroupId(groupId)
                        .topicArn(topicArn)
                        .build();
                }

            } else {
                Map<String, MessageAttributeValue> messageAttributes = new
HashMap<>();
                messageAttributes.put(msgAttValue, MessageAttributeValue.builder()
                    .dataType("String")
                    .stringValue("true")
```

```
                    .build());

                if (duplication.compareTo("y") == 0) {
                    request = PublishRequest.builder()
                        .message(message)
                        .messageGroupId(groupId)
                        .topicArn(topicArn)
                        .build();
                } else {
                    // Create a publish request with the message and attributes.
                    request = PublishRequest.builder()
                        .topicArn(topicArn)
                        .message(message)
                        .messageDeduplicationId(deduplicationID)
                        .messageGroupId(groupId)
                        .messageAttributes(messageAttributes)
                        .build();
                }
            }

            // Publish the message to the topic.
            PublishResponse result = snsClient.publish(request);
            System.out
                .println(result.messageId() + " Message sent. Status was " +
result.sdkHttpResponse().statusCode());

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    // Subscribe to the SQS queue.
    public static String subQueue(SnsClient snsClient, String topicArn, String
queueArn, List<String> filterList) {
        try {
            SubscribeRequest request;
            if (filterList.isEmpty()) {
                // No filter subscription is added.
                request = SubscribeRequest.builder()
                    .protocol("sqs")
                    .endpoint(queueArn)
                    .returnSubscriptionArn(true)
                    .topicArn(topicArn)
```

```
                    .build();

                SubscribeResponse result = snsClient.subscribe(request);
                System.out.println("The queue " + queueArn + " has been subscribed
to the topic " + topicArn + "\n" +
                    "with the subscription ARN " + result.subscriptionArn());
                return result.subscriptionArn();
            } else {
                request = SubscribeRequest.builder()
                    .protocol("sqs")
                    .endpoint(queueArn)
                    .returnSubscriptionArn(true)
                    .topicArn(topicArn)
                    .build();

                SubscribeResponse result = snsClient.subscribe(request);
                System.out.println("The queue " + queueArn + " has been subscribed
to the topic " + topicArn + "\n" +
                    "with the subscription ARN " + result.subscriptionArn());

                String attributeName = "FilterPolicy";
                Gson gson = new Gson();
                String jsonString = "{\"tone\": []}";
                JsonObject jsonObject = gson.fromJson(jsonString, JsonObject.class);
                JsonArray toneArray = jsonObject.getAsJsonArray("tone");
                for (String value : filterList) {
                    toneArray.add(new JsonPrimitive(value));
                }

                String updatedJsonString = gson.toJson(jsonObject);
                System.out.println(updatedJsonString);
                SetSubscriptionAttributesRequest attRequest =
SetSubscriptionAttributesRequest.builder()
                    .subscriptionArn(result.subscriptionArn())
                    .attributeName(attributeName)
                    .attributeValue(updatedJsonString)
                    .build();

                snsClient.setSubscriptionAttributes(attRequest);
                return result.subscriptionArn();
            }

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
```

```
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }

    // Attach a policy to the queue.
    public static void setQueueAttr(SqsClient sqsClient, String queueUrl, String
policy) {
        try {
            Map<software.amazon.awssdk.services.sqs.model.QueueAttributeName,
String> attrMap = new HashMap<>();
            attrMap.put(QueueAttributeName.POLICY, policy);

            SetQueueAttributesRequest attributesRequest =
SetQueueAttributesRequest.builder()
                .queueUrl(queueUrl)
                .attributes(attrMap)
                .build();

            sqsClient.setQueueAttributes(attributesRequest);
            System.out.println("The policy has been successfully attached.");

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static String getSQSQueueAttrs(SqsClient sqsClient, String queueUrl) {
        // Specify the attributes to retrieve.
        List<QueueAttributeName> atts = new ArrayList<>();
        atts.add(QueueAttributeName.QUEUE_ARN);

        GetQueueAttributesRequest attributesRequest =
GetQueueAttributesRequest.builder()
            .queueUrl(queueUrl)
            .attributeNames(atts)
            .build();

        GetQueueAttributesResponse response =
sqsClient.getQueueAttributes(attributesRequest);
        Map<String, String> queueAtts = response.attributesAsStrings();
        for (Map.Entry<String, String> queueAtt : queueAtts.entrySet())
            return queueAtt.getValue();
```

```
        return "";
    }

    public static String createQueue(SqsClient sqsClient, String queueName, Boolean
selectFIFO) {
        try {
            System.out.println("\nCreate Queue");
            if (selectFIFO) {
                Map<QueueAttributeName, String> attrs = new HashMap<>();
                attrs.put(QueueAttributeName.FIFO_QUEUE, "true");
                CreateQueueRequest createQueueRequest = CreateQueueRequest.builder()
                    .queueName(queueName)
                    .attributes(attrs)
                    .build();

                sqsClient.createQueue(createQueueRequest);
                System.out.println("\nGet queue url");
                GetQueueUrlResponse getQueueUrlResponse = sqsClient

.getQueueUrl(GetQueueUrlRequest.builder().queueName(queueName).build());
                return getQueueUrlResponse.queueUrl();
            } else {
                CreateQueueRequest createQueueRequest = CreateQueueRequest.builder()
                    .queueName(queueName)
                    .build();

                sqsClient.createQueue(createQueueRequest);
                System.out.println("\nGet queue url");
                GetQueueUrlResponse getQueueUrlResponse = sqsClient

.getQueueUrl(GetQueueUrlRequest.builder().queueName(queueName).build());
                return getQueueUrlResponse.queueUrl();
            }

        } catch (SqsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }

    public static String createSNSTopic(SnsClient snsClient, String topicName) {
        CreateTopicResponse result;
```

```
        try {
            CreateTopicRequest request = CreateTopicRequest.builder()
                .name(topicName)
                .build();

            result = snsClient.createTopic(request);
            return result.topicArn();

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }

    public static String createFIFO(SnsClient snsClient, String topicName, String
 duplication) {
        try {
            // Create a FIFO topic by using the SNS service client.
            Map<String, String> topicAttributes = new HashMap<>();
            if (duplication.compareTo("n") == 0) {
                topicAttributes.put("FifoTopic", "true");
                topicAttributes.put("ContentBasedDeduplication", "false");
            } else {
                topicAttributes.put("FifoTopic", "true");
                topicAttributes.put("ContentBasedDeduplication", "true");
            }

            CreateTopicRequest topicRequest = CreateTopicRequest.builder()
                .name(topicName)
                .attributes(topicAttributes)
                .build();

            CreateTopicResponse response = snsClient.createTopic(topicRequest);
            return response.topicArn();

        } catch (SnsException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - CreateQueue
  - CreateTopic
  - DeleteMessageBatch
  - DeleteQueue
  - DeleteTopic
  - GetQueueAttributes
  - Publish
  - ReceiveMessage
  - SetQueueAttributes
  - Subscribe
  - Unsubscribe

バッチメッセージを送受信する

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- Amazon SQS キューを作成します。
- キューにバッチメッセージを送信します。
- キューからバッチメッセージを受信します。
- キューからバッチメッセージを受信します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

次の例に示すように、 AWS SDK for Java 2.xを使用して、2 つの異なるアプローチで Amazon SQS のバッチメッセージ操作を処理できます。

SendRecvBatch.java は明示的なバッチ操作を使用します。メッセージバッチを手動で作成し、sendMessageBatch() と deleteMessageBatch() を直接呼び出します。また、失敗したメッセージを含むバッチレスポンスも処理します。このアプローチにより、バッチサイズ設定とエラー処理を完全に制御できます。ただし、バッチ処理ロジックを管理するには、より多くのコードが必要です。

SimpleProducerConsumer.java は、リクエストの自動バッチ処理に高レベルの SqsAsyncBatchManager ライブラリを使用します。標準クライアントと同じメソッド署名を使用して、個別の sendMessage() および deleteMessage() 呼び出しを行います。SDK はこれらの呼び出しを自動的にバッファし、バッチ操作として送信します。このアプローチでは、バッチ処理のパフォーマンス上の利点を提供しながら、コードの変更を最小限に抑えることができます。

バッチ構成とエラー処理をきめ細かく制御する必要がある場合は、明示的なバッチ処理を使用します。コードの変更を最小限に抑えてパフォーマンスを最適化する場合は、自動バッチ処理を使用します。

SendRecvBatch.java - メッセージで明示的なバッチ操作を使用します。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.SqsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.BatchResultErrorEntry;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.CreateQueueRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.DeleteMessageBatchRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.DeleteMessageBatchRequestEntry;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.DeleteMessageBatchResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.DeleteMessageBatchResultEntry;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.DeleteQueueRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.Message;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.MessageAttributeValue;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.ReceiveMessageRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.SendMessageBatchRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.SendMessageBatchRequestEntry;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.SendMessageBatchResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.SendMessageBatchResultEntry;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.SqsException;

import java.io.BufferedReader;
import java.io.IOException;
import java.io.InputStream;
import java.io.InputStreamReader;
```

```
import java.util.ArrayList;
import java.util.HashMap;
import java.util.List;
import java.util.Map;


/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */

/**
 * This code demonstrates basic message operations in Amazon Simple Queue Service
 (Amazon SQS).
 */

public class SendRecvBatch {
    private static final Logger LOGGER =
 LoggerFactory.getLogger(SendRecvBatch.class);
    private static final SqsClient sqsClient = SqsClient.create();


    public static void main(String[] args) {
        usageDemo();
    }
    /**
     * Send a batch of messages in a single request to an SQS queue.
     * This request may return overall success even when some messages were not
 sent.
     * The caller must inspect the Successful and Failed lists in the response and
     * resend any failed messages.
     *
     * @param queueUrl  The URL of the queue to receive the messages.
     * @param messages  The messages to send to the queue. Each message contains a
 body and attributes.
     * @return The response from SQS that contains the list of successful and failed
 messages.
     */
    public static SendMessageBatchResponse sendMessages(
            String queueUrl, List<MessageEntry> messages) {
```

```
        try {
            List<SendMessageBatchRequestEntry> entries = new ArrayList<>();

            for (int i = 0; i < messages.size(); i++) {
                MessageEntry message = messages.get(i);
                entries.add(SendMessageBatchRequestEntry.builder()
                        .id(String.valueOf(i))
                        .messageBody(message.getBody())
                        .messageAttributes(message.getAttributes())
                        .build());
            }

            SendMessageBatchRequest sendBatchRequest =
SendMessageBatchRequest.builder()
                    .queueUrl(queueUrl)
                    .entries(entries)
                    .build();

            SendMessageBatchResponse response =
sqsClient.sendMessageBatch(sendBatchRequest);

            if (!response.successful().isEmpty()) {
                for (SendMessageBatchResultEntry resultEntry :
response.successful()) {
                    LOGGER.info("Message sent: {}: {}", resultEntry.messageId(),

messages.get(Integer.parseInt(resultEntry.id())).getBody());
                }
            }

            if (!response.failed().isEmpty()) {
                for (BatchResultErrorEntry errorEntry : response.failed()) {
                    LOGGER.warn("Failed to send: {}: {}", errorEntry.id(),

messages.get(Integer.parseInt(errorEntry.id())).getBody());
                }
            }

            return response;

        } catch (SqsException e) {
            LOGGER.error("Send messages failed to queue: {}", queueUrl, e);
            throw e;
```

```
        }
    }

    /**
     * Receive a batch of messages in a single request from an SQS queue.
     *
     * @param queueUrl   The URL of the queue from which to receive messages.
     * @param maxNumber  The maximum number of messages to receive (capped at 10 by
SQS).
     *                   The actual number of messages received might be less.
     * @param waitTime   The maximum time to wait (in seconds) before returning.
When
     *                   this number is greater than zero, long polling is used.
This
     *                   can result in reduced costs and fewer false empty
responses.
     * @return The list of Message objects received. These each contain the body
     *         of the message and metadata and custom attributes.
     */
    public static List<Message> receiveMessages(String queueUrl, int maxNumber, int
waitTime) {
        try {
            ReceiveMessageRequest receiveRequest = ReceiveMessageRequest.builder()
                    .queueUrl(queueUrl)
                    .maxNumberOfMessages(maxNumber)
                    .waitTimeSeconds(waitTime)
                    .messageAttributeNames("All")
                    .build();

            List<Message> messages =
sqsClient.receiveMessage(receiveRequest).messages();

            for (Message message : messages) {
                LOGGER.info("Received message: {}: {}", message.messageId(),
message.body());
            }

            return messages;

        } catch (SqsException e) {
            LOGGER.error("Couldn't receive messages from queue: {}", queueUrl, e);
            throw e;
        }
    }
```

```
   /**
    * Delete a batch of messages from a queue in a single request.
    *
    * @param queueUrl  The URL of the queue from which to delete the messages.
    * @param messages  The list of messages to delete.
    * @return The response from SQS that contains the list of successful and failed
    *         message deletions.
    */
   public static DeleteMessageBatchResponse deleteMessages(String queueUrl,
List<Message> messages) {
       try {
           List<DeleteMessageBatchRequestEntry> entries = new ArrayList<>();

           for (int i = 0; i < messages.size(); i++) {
               entries.add(DeleteMessageBatchRequestEntry.builder()
                       .id(String.valueOf(i))
                       .receiptHandle(messages.get(i).receiptHandle())
                       .build());
           }

           DeleteMessageBatchRequest deleteRequest =
DeleteMessageBatchRequest.builder()
                   .queueUrl(queueUrl)
                   .entries(entries)
                   .build();

           DeleteMessageBatchResponse response =
sqsClient.deleteMessageBatch(deleteRequest);

           if (!response.successful().isEmpty()) {
               for (DeleteMessageBatchResultEntry resultEntry :
response.successful()) {
                   LOGGER.info("Deleted {}",
messages.get(Integer.parseInt(resultEntry.id())).receiptHandle());
               }
           }

           if (!response.failed().isEmpty()) {
               for (BatchResultErrorEntry errorEntry : response.failed()) {
                   LOGGER.warn("Could not delete {}",
messages.get(Integer.parseInt(errorEntry.id())).receiptHandle());
               }
           }
```

```
            return response;

        } catch (SqsException e) {
            LOGGER.error("Couldn't delete messages from queue {}", queueUrl, e);
            throw e;
        }
    }

    /**
     * Helper class to represent a message with body and attributes.
     */
    public static class MessageEntry {
        private final String body;
        private final Map<String, MessageAttributeValue> attributes;

        public MessageEntry(String body, Map<String, MessageAttributeValue>
attributes) {
            this.body = body;
            this.attributes = attributes != null ? attributes : new HashMap<>();
        }

        public String getBody() {
            return body;
        }

        public Map<String, MessageAttributeValue> getAttributes() {
            return attributes;
        }
    }

    /**
     * Shows how to:
     * * Read the lines from a file and send the lines in
     *   batches of 10 as messages to a queue.
     * * Receive the messages in batches until the queue is empty.
     * * Reassemble the lines of the file and verify they match the original file.
     */
    public static void usageDemo() {
        LOGGER.info("-".repeat(88));
        LOGGER.info("Welcome to the Amazon Simple Queue Service (Amazon SQS)
demo!");
        LOGGER.info("-".repeat(88));
```

```
        String queueUrl = null;
        try {
            // Create a queue for the demo.
            String queueName = "sqs-usage-demo-message-wrapper-" +
System.currentTimeMillis();
            CreateQueueRequest createRequest = CreateQueueRequest.builder()
                    .queueName(queueName)
                    .build();
            queueUrl = sqsClient.createQueue(createRequest).queueUrl();
            LOGGER.info("Created queue: {}", queueUrl);

            try (InputStream inputStream =
SendRecvBatch.class.getResourceAsStream("/log4j2.xml");
                 BufferedReader reader = new BufferedReader(new
InputStreamReader(inputStream))) {

                List<String> lines = reader.lines().toList();

                // Send file lines in batches.
                int batchSize = 10;
                LOGGER.info("Sending file lines in batches of {} as messages.",
batchSize);

                for (int i = 0; i < lines.size(); i += batchSize) {
                    List<MessageEntry> messageBatch = new ArrayList<>();

                    for (int j = i; j < Math.min(i + batchSize, lines.size()); j++)
{
                        String line = lines.get(j);
                        if (line == null || line.trim().isEmpty()) {
                            continue; // Skip empty lines.
                        }

                        Map<String, MessageAttributeValue> attributes = new
HashMap<>();
                        attributes.put("line", MessageAttributeValue.builder()
                                .dataType("String")
                                .stringValue(String.valueOf(j))
                                .build());

                        messageBatch.add(new MessageEntry(lines.get(j),
attributes));
                    }
```

```
                    sendMessages(queueUrl, messageBatch);
                    System.out.print(".");
                    System.out.flush();
                }

                LOGGER.info("\nDone. Sent {} messages.", lines.size());

                // Receive and process messages.
                LOGGER.info("Receiving, handling, and deleting messages in batches
of {}.", batchSize);
                String[] receivedLines = new String[lines.size()];
                boolean moreMessages = true;

                while (moreMessages) {
                    List<Message> receivedMessages = receiveMessages(queueUrl,
batchSize, 5);

                    for (Message message : receivedMessages) {
                        int lineNumber =
Integer.parseInt(message.messageAttributes().get("line").stringValue());
                        receivedLines[lineNumber] = message.body();
                    }

                    if (!receivedMessages.isEmpty()) {
                        deleteMessages(queueUrl, receivedMessages);
                    } else {
                        moreMessages = false;
                    }
                }

                LOGGER.info("\nDone.");

                // Verify that all lines were received correctly.
                boolean allLinesMatch = true;
                for (int i = 0; i < lines.size(); i++) {
                    String originalLine = lines.get(i);
                    String receivedLine = receivedLines[i] == null ? "" :
receivedLines[i];

                    if (!originalLine.equals(receivedLine)) {
                        allLinesMatch = false;
                        break;
                    }
                }
```

```
                if (allLinesMatch) {
                    LOGGER.info("Successfully reassembled all file lines!");
                } else {
                    LOGGER.info("Uh oh, some lines were missed!");
                }
            }
        } catch (SqsException e) {
            LOGGER.error("SQS operation failed", e);
        } catch (RuntimeException | IOException e) {
            LOGGER.error("Unexpected runtime error during demo", e);
        } finally {
            // Clean up by deleting the queue if it was created.
            if (queueUrl != null) {
                try {
                    DeleteQueueRequest deleteQueueRequest =
 DeleteQueueRequest.builder()
                            .queueUrl(queueUrl)
                            .build();
                    sqsClient.deleteQueue(deleteQueueRequest);
                    LOGGER.info("Deleted queue: {}", queueUrl);
                } catch (SqsException e) {
                    LOGGER.error("Failed to delete queue: {}", queueUrl, e);
                }
            }
        }

        LOGGER.info("Thanks for watching!");
        LOGGER.info("-".repeat(88));
    }
 }
```

SimpleProducerConsumer.java - メッセージの自動バッチ処理を使用します。

```
package com.example.sqs;

import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.SqsAsyncClient;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.batchmanager.SqsAsyncBatchManager;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.DeleteMessageRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.DeleteMessageResponse;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.GetQueueUrlRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.Message;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.ReceiveMessageRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.ReceiveMessageResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.SendMessageRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.SendMessageResponse;
import software.amazon.awssdk.core.exception.SdkException;

import java.math.BigInteger;
import java.util.List;
import java.util.Random;
import java.util.Scanner;
import java.util.concurrent.CompletableFuture;
import java.util.concurrent.TimeUnit;
import java.util.concurrent.atomic.AtomicBoolean;
import java.util.concurrent.atomic.AtomicInteger;

/**
 * Demonstrates the AWS SDK for Java 2.x Automatic Request Batching API for Amazon
 SQS.
 *
 * This example showcases the high-level SqsAsyncBatchManager library that provides
 * efficient batching and buffering for SQS operations. The batch manager offers
 * methods that directly mirror SqsAsyncClient methods—sendMessage,
 changeMessageVisibility,
 * deleteMessage, and receiveMessage—making it a drop-in replacement with minimal
 code changes.
 *
 * Key features of the SqsAsyncBatchManager:
 * - Automatic batching: The SDK automatically buffers individual requests and sends
 them
 *   as batches when maxBatchSize (default: 10) or sendRequestFrequency (default:
 200ms)
 *   thresholds are reached
 * - Familiar API: Method signatures match SqsAsyncClient exactly, requiring no
 learning curve
 * - Background optimization: The batch manager maintains internal buffers and
 handles
 *   batching logic transparently
 * - Asynchronous operations: All methods return CompletableFuture for non-blocking
 execution
 *
 * Performance benefits demonstrated:
```

```
 * - Reduced API calls: Multiple individual requests are consolidated into single
 batch operations
 * - Lower costs: Fewer API calls result in reduced SQS charges
 * - Higher throughput: Batch operations process more messages per second
 * - Efficient resource utilization: Fewer network round trips and better connection
 reuse
 *
 * This example compares:
 * 1. Single-message operations using SqsAsyncClient directly
 * 2. Batch operations using SqsAsyncBatchManager with identical method calls
 *
 * Usage patterns:
 * - Set batch size to 1 to use SqsAsyncClient for baseline performance measurement
 * - Set batch size > 1 to use SqsAsyncBatchManager for optimized batch processing
 * - Monitor real-time throughput metrics to observe performance improvements
 *
 * Prerequisites:
 * - AWS SDK for Java 2.x version 2.28.0 or later
 * - An existing SQS queue
 * - Valid AWS credentials configured
 *
 * The program displays real-time metrics showing the dramatic performance
 difference
 * between individual operations and automatic batching.
 */
public class SimpleProducerConsumer {

    // The maximum runtime of the program.
    private final static int MAX_RUNTIME_MINUTES = 60;
    private final static Logger log =
 LoggerFactory.getLogger(SimpleProducerConsumer.class);

    /**
     * Runs the SQS batching demonstration with user-configured parameters.
     *
     * Prompts for queue name, thread counts, batch size, message size, and runtime.
     * Creates producer and consumer threads to demonstrate batching performance.
     *
     * @param args command line arguments (not used)
     * @throws InterruptedException if thread operations are interrupted
     */
    public static void main(String[] args) throws InterruptedException {

        final Scanner input = new Scanner(System.in);
```

```
        System.out.print("Enter the queue name: ");
        final String queueName = input.nextLine();

        System.out.print("Enter the number of producers: ");
        final int producerCount = input.nextInt();

        System.out.print("Enter the number of consumers: ");
        final int consumerCount = input.nextInt();

        System.out.print("Enter the number of messages per batch: ");
        final int batchSize = input.nextInt();

        System.out.print("Enter the message size in bytes: ");
        final int messageSizeByte = input.nextInt();

        System.out.print("Enter the run time in minutes: ");
        final int runTimeMinutes = input.nextInt();

        // Create SQS async client and batch manager for all operations.
        // The SqsAsyncBatchManager is created from the SqsAsyncClient using the
        // batchManager() factory method, which provides default batching
configuration.
        // This high-level library automatically handles request buffering and
batching
        // while maintaining the same method signatures as SqsAsyncClient.
        final SqsAsyncClient sqsAsyncClient = SqsAsyncClient.create();
        final SqsAsyncBatchManager batchManager = sqsAsyncClient.batchManager();

        final String queueUrl =
sqsAsyncClient.getQueueUrl(GetQueueUrlRequest.builder()
                .queueName(queueName)
                .build()).join().queueUrl();

        // The flag used to stop producer, consumer, and monitor threads.
        final AtomicBoolean stop = new AtomicBoolean(false);

        // Start the producers.
        final AtomicInteger producedCount = new AtomicInteger();
        final Thread[] producers = new Thread[producerCount];
        for (int i = 0; i < producerCount; i++) {
            if (batchSize == 1) {
                producers[i] = new Producer(sqsAsyncClient, queueUrl,
messageSizeByte,
```

```
                        producedCount, stop);
            } else {
                producers[i] = new BatchProducer(batchManager, queueUrl, batchSize,
                        messageSizeByte, producedCount, stop);
            }
            producers[i].start();
        }

        // Start the consumers.
        final AtomicInteger consumedCount = new AtomicInteger();
        final Thread[] consumers = new Thread[consumerCount];
        for (int i = 0; i < consumerCount; i++) {
            if (batchSize == 1) {
                consumers[i] = new Consumer(sqsAsyncClient, queueUrl, consumedCount,
stop);
            } else {
                consumers[i] = new BatchConsumer(batchManager, queueUrl, batchSize,
                        consumedCount, stop);
            }
            consumers[i].start();
        }

        // Start the monitor thread.
        final Thread monitor = new Monitor(producedCount, consumedCount, stop);
        monitor.start();

        // Wait for the specified amount of time then stop.
        Thread.sleep(TimeUnit.MINUTES.toMillis(Math.min(runTimeMinutes,
                MAX_RUNTIME_MINUTES)));
        stop.set(true);

        // Join all threads.
        for (int i = 0; i < producerCount; i++) {
            producers[i].join();
        }

        for (int i = 0; i < consumerCount; i++) {
            consumers[i].join();
        }

        monitor.interrupt();
        monitor.join();

        // Close resources
```

```
        batchManager.close();
        sqsAsyncClient.close();
    }

    /**
     * Creates a random string of approximately the specified size in bytes.
     *
     * @param sizeByte the target size in bytes for the generated string
     * @return a random string encoded in base-32
     */
    private static String makeRandomString(int sizeByte) {
        final byte[] bs = new byte[(int) Math.ceil(sizeByte * 5 / 8)];
        new Random().nextBytes(bs);
        bs[0] = (byte) ((bs[0] | 64) & 127);
        return new BigInteger(bs).toString(32);
    }

    /**
     * Sends messages individually using SqsAsyncClient for baseline performance
measurement.
     *
     * This producer demonstrates traditional single-message operations without
batching.
     * Each sendMessage() call results in a separate API request to SQS, providing
     * a performance baseline for comparison with the batch operations.
     *
     * The sendMessage() method signature is identical to
SqsAsyncBatchManager.sendMessage(),
     * showing how the high-level batching library maintains API compatibility while
     * adding automatic optimization behind the scenes.
     */
    private static class Producer extends Thread {
        final SqsAsyncClient sqsAsyncClient;
        final String queueUrl;
        final AtomicInteger producedCount;
        final AtomicBoolean stop;
        final String theMessage;

        /**
         * Creates a producer thread for single-message operations.
         *
         * @param sqsAsyncClient the SQS client for sending messages
         * @param queueUrl the URL of the target queue
         * @param messageSizeByte the size of messages to generate
```

```
         * @param producedCount shared counter for tracking sent messages
         * @param stop shared flag to signal thread termination
         */
        Producer(SqsAsyncClient sqsAsyncClient, String queueUrl, int
messageSizeByte,
                 AtomicInteger producedCount, AtomicBoolean stop) {
            this.sqsAsyncClient = sqsAsyncClient;
            this.queueUrl = queueUrl;
            this.producedCount = producedCount;
            this.stop = stop;
            this.theMessage = makeRandomString(messageSizeByte);
        }

        /**
         * Continuously sends messages until the stop flag is set.
         *
         * Uses SqsAsyncClient.sendMessage() directly, resulting in one API call per
message.
         * This approach provides baseline performance metrics for comparison with
batching.
         * Each call blocks until the individual message is sent, demonstrating
traditional
         * one-request-per-operation behavior.
         */
        public void run() {
            try {
                while (!stop.get()) {
                    sqsAsyncClient.sendMessage(SendMessageRequest.builder()
                            .queueUrl(queueUrl)
                            .messageBody(theMessage)
                            .build()).join();
                    producedCount.incrementAndGet();
                }
            } catch (SdkException | java.util.concurrent.CompletionException e) {
                // Handle both SdkException and CompletionException from async
operations.
                // If this unlikely condition occurs, stop.
                log.error("Producer: " + e.getMessage());
                System.exit(1);
            }
        }
    }

    /**
```

```
    * Sends messages using SqsAsyncBatchManager for automatic request batching and
optimization.
    *
    * This producer demonstrates the AWS SDK for Java 2.x high-level batching
library.
    * The SqsAsyncBatchManager automatically buffers individual sendMessage() calls
and
    * sends them as batches when thresholds are reached:
    * - maxBatchSize: Maximum 10 messages per batch (default)
    * - sendRequestFrequency: 200ms timeout before sending partial batches
(default)
    *
    * Key advantages of the batching approach:
    * - Identical API: batchManager.sendMessage() has the same signature as
sqsAsyncClient.sendMessage()
    * - Automatic optimization: No code changes needed to benefit from batching
    * - Transparent buffering: The SDK handles batching logic internally
    * - Reduced API calls: Multiple messages sent in single batch requests
    * - Lower costs: Fewer API calls result in reduced SQS charges
    * - Higher throughput: Batch operations process significantly more messages per
second
    */
   private static class BatchProducer extends Thread {
       final SqsAsyncBatchManager batchManager;
       final String queueUrl;
       final int batchSize;
       final AtomicInteger producedCount;
       final AtomicBoolean stop;
       final String theMessage;

       /**
        * Creates a producer thread for batch operations.
        *
        * @param batchManager the batch manager for efficient message sending
        * @param queueUrl the URL of the target queue
        * @param batchSize the number of messages to send per batch
        * @param messageSizeByte the size of messages to generate
        * @param producedCount shared counter for tracking sent messages
        * @param stop shared flag to signal thread termination
        */
       BatchProducer(SqsAsyncBatchManager batchManager, String queueUrl, int
batchSize,
                     int messageSizeByte, AtomicInteger producedCount,
                     AtomicBoolean stop) {
```

```
            this.batchManager = batchManager;
            this.queueUrl = queueUrl;
            this.batchSize = batchSize;
            this.producedCount = producedCount;
            this.stop = stop;
            this.theMessage = makeRandomString(messageSizeByte);
        }

        /**
         * Continuously sends batches of messages using the high-level batching
library.
         *
         * Notice how batchManager.sendMessage() uses the exact same method
signature
         * and request builder pattern as SqsAsyncClient.sendMessage(). This
demonstrates
         * the drop-in replacement capability of the SqsAsyncBatchManager.
         *
         * The SDK automatically:
         * - Buffers individual sendMessage() calls internally
         * - Groups them into batch requests when thresholds are met
         * - Sends SendMessageBatchRequest operations to SQS
         * - Returns individual CompletableFuture responses for each message
         *
         * This transparent batching provides significant performance improvements
         * without requiring changes to application logic or error handling
patterns.
         */
        public void run() {
            try {
                while (!stop.get()) {
                    // Send multiple messages using the high-level batch manager.
                    // Each batchManager.sendMessage() call uses identical syntax to
                    // sqsAsyncClient.sendMessage(), demonstrating API
compatibility.
                    // The SDK automatically buffers these calls and sends them as
                    // batch operations when maxBatchSize (10) or
sendRequestFrequency (200ms)
                    // thresholds are reached, significantly improving throughput.
                    for (int i = 0; i < batchSize; i++) {
                        CompletableFuture<SendMessageResponse> future =
batchManager.sendMessage(
                                SendMessageRequest.builder()
                                        .queueUrl(queueUrl)
```

```
                                        .messageBody(theMessage)
                                        .build());

                        // Handle the response asynchronously
                        future.whenComplete((response, throwable) -> {
                            if (throwable == null) {
                                producedCount.incrementAndGet();
                            } else if (!(throwable instanceof
java.util.concurrent.CancellationException) &&
                                    !(throwable.getMessage() != null &&
throwable.getMessage().contains("executor not accepting a task"))) {
                                log.error("BatchProducer: Failed to send message",
throwable);
                            }
                            // Ignore CancellationException and executor shutdown
errors - expected during shutdown
                        });
                    }

                    // Small delay to allow batching to occur
                    Thread.sleep(10);
                }
            } catch (InterruptedException e) {
                Thread.currentThread().interrupt();
                log.error("BatchProducer interrupted: " + e.getMessage());
            } catch (SdkException | java.util.concurrent.CompletionException e) {
                log.error("BatchProducer: " + e.getMessage());
                System.exit(1);
            }
        }
    }

    /**
     * Receives and deletes messages individually using SqsAsyncClient for baseline
measurement.
     *
     * This consumer demonstrates traditional single-message operations without
batching.
     * Each receiveMessage() and deleteMessage() call results in separate API
requests,
     * providing a performance baseline for comparison with batch operations.
     *
     * The method signatures are identical to SqsAsyncBatchManager methods:
     * - receiveMessage() matches batchManager.receiveMessage()
```

```
     * - deleteMessage() matches batchManager.deleteMessage()
     *
     * This API consistency allows easy migration to the high-level batching
 library.
     */
    private static class Consumer extends Thread {
        final SqsAsyncClient sqsAsyncClient;
        final String queueUrl;
        final AtomicInteger consumedCount;
        final AtomicBoolean stop;

        /**
         * Creates a consumer thread for single-message operations.
         *
         * @param sqsAsyncClient the SQS client for receiving messages
         * @param queueUrl the URL of the source queue
         * @param consumedCount shared counter for tracking processed messages
         * @param stop shared flag to signal thread termination
         */
        Consumer(SqsAsyncClient sqsAsyncClient, String queueUrl, AtomicInteger
 consumedCount,
                 AtomicBoolean stop) {
            this.sqsAsyncClient = sqsAsyncClient;
            this.queueUrl = queueUrl;
            this.consumedCount = consumedCount;
            this.stop = stop;
        }

        /**
         * Continuously receives and deletes messages using traditional single-
request operations.
         *
         * Uses SqsAsyncClient methods directly:
         * - receiveMessage(): One API call per receive operation
         * - deleteMessage(): One API call per delete operation
         *
         * This approach demonstrates the baseline performance without batching
 optimization.
         * Compare these method calls with the identical signatures used in
 BatchConsumer
         * to see how the high-level batching library maintains API compatibility.
         */
        public void run() {
            try {
```

```
                while (!stop.get()) {
                    try {
                        final ReceiveMessageResponse result =
sqsAsyncClient.receiveMessage(
                                ReceiveMessageRequest.builder()
                                        .queueUrl(queueUrl)
                                        .build()).join();

                        if (!result.messages().isEmpty()) {
                            final Message m = result.messages().get(0);
                            // Note: deleteMessage() signature identical to
batchManager.deleteMessage()

sqsAsyncClient.deleteMessage(DeleteMessageRequest.builder()
                                        .queueUrl(queueUrl)
                                        .receiptHandle(m.receiptHandle())
                                        .build()).join();
                            consumedCount.incrementAndGet();
                        }
                    } catch (SdkException | java.util.concurrent.CompletionException
e) {
                        log.error(e.getMessage());
                    }
                }
            } catch (SdkException | java.util.concurrent.CompletionException e) {
                // Handle both SdkException and CompletionException from async
operations.
                // If this unlikely condition occurs, stop.
                log.error("Consumer: " + e.getMessage());
                System.exit(1);
            }
        }
    }

    /**
     * Receives and deletes messages using SqsAsyncBatchManager for automatic
optimization.
     *
     * This consumer demonstrates the AWS SDK for Java 2.x high-level batching
library
     * for message consumption. The SqsAsyncBatchManager provides two key
optimizations:
     *
```

```
    * 1. Receive optimization: Maintains an internal buffer of messages fetched in
the
    *    background, so receiveMessage() calls return immediately from the buffer
    * 2. Delete batching: Automatically buffers deleteMessage() calls and sends
them
    *    as DeleteMessageBatchRequest operations when thresholds are reached
    *
    * Key features:
    * - Identical API: receiveMessage() and deleteMessage() have the same
signatures
    *   as SqsAsyncClient methods, making this a true drop-in replacement
    * - Background fetching: The batch manager continuously fetches messages to
keep
    *   the internal buffer populated, reducing receive latency
    * - Automatic delete batching: Individual deleteMessage() calls are buffered
and
    *   sent as batch operations (up to 10 per batch, 200ms frequency)
    * - Transparent optimization: No application logic changes needed to benefit
    *
    * Performance benefits:
    * - Reduced API calls through automatic batching of delete operations
    * - Lower latency for receives due to background message buffering
    * - Higher overall throughput with fewer network round trips
    */
   private static class BatchConsumer extends Thread {
       final SqsAsyncBatchManager batchManager;
       final String queueUrl;
       final int batchSize;
       final AtomicInteger consumedCount;
       final AtomicBoolean stop;

       /**
        * Creates a consumer thread for batch operations.
        *
        * @param batchManager the batch manager for efficient message processing
        * @param queueUrl the URL of the source queue
        * @param batchSize the maximum number of messages to receive per batch
        * @param consumedCount shared counter for tracking processed messages
        * @param stop shared flag to signal thread termination
        */
       BatchConsumer(SqsAsyncBatchManager batchManager, String queueUrl, int
batchSize,
                     AtomicInteger consumedCount, AtomicBoolean stop) {
           this.batchManager = batchManager;
```

```
            this.queueUrl = queueUrl;
            this.batchSize = batchSize;
            this.consumedCount = consumedCount;
            this.stop = stop;
        }

        /**
         * Continuously receives and deletes messages using the high-level batching
library.
         *
         * Demonstrates the key advantage of SqsAsyncBatchManager: identical method
signatures
         * with automatic optimization. Notice how:
         *
         * - batchManager.receiveMessage() uses the same syntax as
sqsAsyncClient.receiveMessage()
         * - batchManager.deleteMessage() uses the same syntax as
sqsAsyncClient.deleteMessage()
         *
         * Behind the scenes, the batch manager:
         * 1. Maintains an internal message buffer populated by background fetching
         * 2. Returns messages immediately from the buffer (reduced latency)
         * 3. Automatically batches deleteMessage() calls into
DeleteMessageBatchRequest operations
         * 4. Sends batch deletes when maxBatchSize (10) or sendRequestFrequency
(200ms) is reached
         *
         * This provides significant performance improvements with zero code changes
         * compared to traditional SqsAsyncClient usage patterns.
         */
        public void run() {
            try {
                while (!stop.get()) {
                    // Receive messages using the high-level batch manager.
                    // This call uses identical syntax to
sqsAsyncClient.receiveMessage()
                    // but benefits from internal message buffering for improved
performance.
                    final ReceiveMessageResponse result =
batchManager.receiveMessage(
                            ReceiveMessageRequest.builder()
                                    .queueUrl(queueUrl)
                                    .maxNumberOfMessages(Math.min(batchSize, 10))
                                    .build()).join();
```

```
                    if (!result.messages().isEmpty()) {
                        final List<Message> messages = result.messages();

                        // Delete messages using the batch manager.
                        // Each deleteMessage() call uses identical syntax to
SqsAsyncClient
                        // but the SDK automatically buffers these calls and sends
them
                        // as DeleteMessageBatchRequest operations for optimal
performance.
                        for (Message message : messages) {
                            CompletableFuture<DeleteMessageResponse> future =
batchManager.deleteMessage(
                                    DeleteMessageRequest.builder()
                                            .queueUrl(queueUrl)
                                            .receiptHandle(message.receiptHandle())
                                            .build());

                            future.whenComplete((response, throwable) -> {
                                if (throwable == null) {
                                    consumedCount.incrementAndGet();
                                } else if (!(throwable instanceof
java.util.concurrent.CancellationException) &&
                                        !(throwable.getMessage() != null &&
throwable.getMessage().contains("executor not accepting a task"))) {
                                    log.error("BatchConsumer: Failed to delete
message", throwable);
                                }
                                // Ignore CancellationException and executor
shutdown errors - expected during shutdown
                            });
                        }
                    }

                    // Small delay to prevent tight polling
                    Thread.sleep(10);
                }
            } catch (InterruptedException e) {
                Thread.currentThread().interrupt();
                log.error("BatchConsumer interrupted: " + e.getMessage());
            } catch (SdkException | java.util.concurrent.CompletionException e) {
                // Handle both SdkException and CompletionException from async
operations.
```

```
                // If this unlikely condition occurs, stop.
                log.error("BatchConsumer: " + e.getMessage());
                System.exit(1);
            }
        }
    }

    /**
     * Displays real-time throughput statistics every second.
     *
     * This thread logs the current count of produced and consumed messages
     * to help you monitor the performance comparison.
     */
    private static class Monitor extends Thread {
        private final AtomicInteger producedCount;
        private final AtomicInteger consumedCount;
        private final AtomicBoolean stop;

        /**
         * Creates a monitoring thread that displays throughput statistics.
         *
         * @param producedCount shared counter for messages sent
         * @param consumedCount shared counter for messages processed
         * @param stop shared flag to signal thread termination
         */
        Monitor(AtomicInteger producedCount, AtomicInteger consumedCount,
                AtomicBoolean stop) {
            this.producedCount = producedCount;
            this.consumedCount = consumedCount;
            this.stop = stop;
        }

        /**
         * Logs throughput statistics every second until stopped.
         *
         * Displays the current count of produced and consumed messages
         * to help monitor the performance comparison between batching strategies.
         */
        public void run() {
            try {
                while (!stop.get()) {
                    Thread.sleep(1000);
                    log.info("produced messages = " + producedCount.get()
                            + ", consumed messages = " + consumedCount.get());
```

```
                }
            } catch (InterruptedException e) {
                // Allow the thread to exit.
            }
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - CreateQueue
  - DeleteMessage
  - DeleteMessageBatch
  - DeleteQueue
  - ReceiveMessage
  - SendMessage
  - SendMessageBatch

Amazon SQS Java Messaging Library を使用して JMS インターフェイスを操作する

次のコード例は、Amazon SQS Java Messaging Library を使用して JMS インターフェイスを操作する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

次の例は、標準の Amazon SQS キューで動作し、以下を含みます。

- テキストメッセージの送信。
- 同期的なメッセージの受信。
- 非同期的なメッセージの受信。
- CLIENT_ACKNOWLEDGE モードを使用したメッセージの受信。

- UNORDERED_ACKNOWLEDGE モードを使用したメッセージの受信。
- Spring を使用した依存関係の注入。
- 他の例で使用される一般的なメソッドを提供するユーティリティクラス。

JMS を Amazon SQS で使用する方法の詳細については、「Amazon SQS デベロッパーガイド」を参照してください。

テキストメッセージの送信。

```
   /**
    * This method establishes a connection to a standard Amazon SQS queue using the
Amazon SQS
    * Java Messaging Library and sends text messages to it. It uses JMS (Java
Message Service) API
    * with automatic acknowledgment mode to ensure reliable message delivery, and
automatically
    * manages all messaging resources.
    *
    * @throws JMSException If there is a problem connecting to or sending messages
to the queue
    */
   public static void doSendTextMessage() throws JMSException {
       // Create a connection factory.
       SQSConnectionFactory connectionFactory = new SQSConnectionFactory(
               new ProviderConfiguration(),
               SqsClient.create()
       );

       // Create the connection in a try-with-resources statement so that it's
closed automatically.
       try (SQSConnection connection = connectionFactory.createConnection()) {

           // Create the queue if needed.
           SqsJmsExampleUtils.ensureQueueExists(connection, QUEUE_NAME,
SqsJmsExampleUtils.QUEUE_VISIBILITY_TIMEOUT);

           // Create a session that uses the JMS auto-acknowledge mode.
           Session session = connection.createSession(false,
Session.AUTO_ACKNOWLEDGE);
           MessageProducer producer =
session.createProducer(session.createQueue(QUEUE_NAME));

           createAndSendMessages(session, producer);
```

```
        } // The connection closes automatically. This also closes the session.
        LOGGER.info("Connection closed");
    }

    /**
     * This method reads text input from the keyboard and sends each line as a
separate message
     * to a standard Amazon SQS queue using the Amazon SQS Java Messaging Library.
It continues
     * to accept input until the user enters an empty line, using JMS (Java Message
Service) API to
     * handle the message delivery.
     *
     * @param session The JMS session used to create messages
     * @param producer The JMS message producer used to send messages to the queue
     */
    private static void createAndSendMessages(Session session, MessageProducer
producer) {
        BufferedReader inputReader = new BufferedReader(
                new InputStreamReader(System.in, Charset.defaultCharset()));

        try {
            String input;
            while (true) {
                LOGGER.info("Enter message to send (leave empty to exit): ");
                input = inputReader.readLine();
                if (input == null || input.isEmpty()) break;

                TextMessage message = session.createTextMessage(input);
                producer.send(message);
                LOGGER.info("Send message {}", message.getJMSMessageID());
            }
        } catch (EOFException e) {
            // Just return on EOF
        } catch (IOException e) {
            LOGGER.error("Failed reading input: {}", e.getMessage(), e);
        } catch (JMSException e) {
            LOGGER.error("Failed sending message: {}", e.getMessage(), e);
        }
    }
```

同期的なメッセージの受信。

```
   /**
    * This method receives messages from a standard Amazon SQS queue using the
Amazon SQS Java
    * Messaging Library. It creates a connection to the queue using JMS (Java
Message Service),
    * waits for messages to arrive, and processes them one at a time. The method
handles all
    * necessary setup and cleanup of messaging resources.
    *
    * @throws JMSException If there is a problem connecting to or receiving
messages from the queue
    */
   public static void doReceiveMessageSync() throws JMSException {
       // Create a connection factory.
       SQSConnectionFactory connectionFactory = new SQSConnectionFactory(
               new ProviderConfiguration(),
               SqsClient.create()
       );

       // Create a connection.
       try (SQSConnection connection = connectionFactory.createConnection() ) {

           // Create the queue if needed.
           SqsJmsExampleUtils.ensureQueueExists(connection, QUEUE_NAME,
SqsJmsExampleUtils.QUEUE_VISIBILITY_TIMEOUT);

           // Create a session.
           Session session = connection.createSession(false,
Session.CLIENT_ACKNOWLEDGE);
           MessageConsumer consumer =
session.createConsumer(session.createQueue(QUEUE_NAME));

           connection.start();

           receiveMessages(consumer);
       }  // The connection closes automatically. This also closes the session.
       LOGGER.info("Connection closed");
   }

   /**
    * This method continuously checks for new messages from a standard Amazon SQS
queue using
```

```
    * the Amazon SQS Java Messaging Library. It waits up to 20 seconds for each
message, processes
    * it using JMS (Java Message Service), and confirms receipt. The method stops
checking for
    * messages after 20 seconds of no activity.
    *
    * @param consumer The JMS message consumer that receives messages from the
queue
    */
   private static void receiveMessages(MessageConsumer consumer) {
       try {
           while (true) {
               LOGGER.info("Waiting for messages...");
               // Wait 1 minute for a message
               Message message =
consumer.receive(Duration.ofSeconds(20).toMillis());
               if (message == null) {
                   LOGGER.info("Shutting down after 20 seconds of silence.");
                   break;
               }
               SqsJmsExampleUtils.handleMessage(message);
               message.acknowledge();
               LOGGER.info("Acknowledged message {}", message.getJMSMessageID());
           }
       } catch (JMSException e) {
           LOGGER.error("Error receiving from SQS: {}", e.getMessage(), e);
       }
   }
```

非同期的なメッセージの受信。

```
   /**
    * This method sets up automatic message handling for a standard Amazon SQS
queue using the
    * Amazon SQS Java Messaging Library. It creates a listener that processes
messages as soon
    * as they arrive using JMS (Java Message Service), runs for 5 seconds, then
cleans up all
    * messaging resources.
    *
    * @throws JMSException If there is a problem connecting to or receiving
messages from the queue
```

```
     */
    public static void doReceiveMessageAsync() throws JMSException {
        // Create a connection factory.
        SQSConnectionFactory connectionFactory = new SQSConnectionFactory(
                new ProviderConfiguration(),
                SqsClient.create()
        );

        // Create a connection.
        try (SQSConnection connection = connectionFactory.createConnection() ) {

            // Create the queue if needed.
            SqsJmsExampleUtils.ensureQueueExists(connection, QUEUE_NAME,
SqsJmsExampleUtils.QUEUE_VISIBILITY_TIMEOUT);

            // Create a session.
            Session session = connection.createSession(false,
Session.CLIENT_ACKNOWLEDGE);

            try {
                // Create a consumer for the queue.
                MessageConsumer consumer =
session.createConsumer(session.createQueue(QUEUE_NAME));
                // Provide an implementation of the MessageListener interface, which
has a single 'onMessage' method.
                // We use a lambda expression for the implementation.
                consumer.setMessageListener(message -> {
                    try {
                        SqsJmsExampleUtils.handleMessage(message);
                        message.acknowledge();
                    } catch (JMSException e) {
                        LOGGER.error("Error processing message: {}",
e.getMessage());
                    }
                });
                // Start receiving incoming messages.
                connection.start();
                LOGGER.info("Waiting for messages...");
            } catch (JMSException e) {
                throw new RuntimeException(e);
            }
            try {
                Thread.sleep(5000);
            } catch (InterruptedException e) {
```

```
                throw new RuntimeException(e);
            }
        }  // The connection closes automatically. This also closes the session.
        LOGGER.info( "Connection closed" );
    }
```

CLIENT_ACKNOWLEDGE モードを使用したメッセージの受信。

```
    /**
     * This method demonstrates how message acknowledgment affects message
processing in a standard
     * Amazon SQS queue using the Amazon SQS Java Messaging Library. It sends
messages to the queue,
     * then shows how JMS (Java Message Service) client acknowledgment mode handles
both explicit
     * and implicit message confirmations, including how acknowledging one message
can automatically
     * acknowledge previous messages.
     *
     * @throws JMSException If there is a problem with the messaging operations
     */
    public static void doReceiveMessagesSyncClientAcknowledge() throws JMSException
{
        // Create a connection factory.
        SQSConnectionFactory connectionFactory = new SQSConnectionFactory(
                new ProviderConfiguration(),
                SqsClient.create()
        );

        // Create the connection in a try-with-resources statement so that it's
closed automatically.
        try (SQSConnection connection = connectionFactory.createConnection() ) {

            // Create the queue if needed.
            SqsJmsExampleUtils.ensureQueueExists(connection, QUEUE_NAME,
TIME_OUT_SECONDS);

            // Create a session with client acknowledge mode.
            Session session = connection.createSession(false,
Session.CLIENT_ACKNOWLEDGE);

            // Create a producer and consumer.
```

```
            MessageProducer producer =
session.createProducer(session.createQueue(QUEUE_NAME));
            MessageConsumer consumer =
session.createConsumer(session.createQueue(QUEUE_NAME));

            // Open the connection.
            connection.start();

            // Send two text messages.
            sendMessage(producer, session, "Message 1");
            sendMessage(producer, session, "Message 2");

            // Receive a message and don't acknowledge it.
            receiveMessage(consumer, false);

            // Receive another message and acknowledge it.
            receiveMessage(consumer, true);

            // Wait for the visibility time out, so that unacknowledged messages
reappear in the queue,
            LOGGER.info("Waiting for visibility timeout...");
            try {
                Thread.sleep(TIME_OUT_MILLIS);
            } catch (InterruptedException e) {
                LOGGER.error("Interrupted while waiting for visibility timeout", e);
                Thread.currentThread().interrupt();
                throw new RuntimeException("Processing interrupted", e);
            }

            /*  We will attempt to receive another message, but none will be
available. This is because in
                CLIENT_ACKNOWLEDGE mode, when we acknowledged the second message,
all previous messages were
                automatically acknowledged as well. Therefore, although we never
directly acknowledged the first
                message, it was implicitly acknowledged when we confirmed the second
one. */
            receiveMessage(consumer, true);
        } // The connection closes automatically. This also closes the session.
        LOGGER.info("Connection closed.");

    }
```

```
   /**
    * Sends a text message using the specified JMS MessageProducer and Session.
    *
    * @param producer    The JMS MessageProducer used to send the message
    * @param session     The JMS Session used to create the text message
    * @param messageText The text content to be sent in the message
    * @throws JMSException If there is an error creating or sending the message
    */
   private static void sendMessage(MessageProducer producer, Session session,
String messageText) throws JMSException {
       // Create a text message and send it.
       producer.send(session.createTextMessage(messageText));
   }

   /**
    * Receives and processes a message from a JMS queue using the specified
consumer.
    * The method waits for a message until the configured timeout period is
reached.
    * If a message is received, it is logged and optionally acknowledged based on
the
    * acknowledge parameter.
    *
    * @param consumer    The JMS MessageConsumer used to receive messages from the
queue
    * @param acknowledge Boolean flag indicating whether to acknowledge the
message.
    *                    If true, the message will be acknowledged after processing
    * @throws JMSException If there is an error receiving, processing, or
acknowledging the message
    */
   private static void receiveMessage(MessageConsumer consumer, boolean
acknowledge) throws JMSException {
       // Receive a message.
       Message message = consumer.receive(TIME_OUT_MILLIS);

       if (message == null) {
           LOGGER.info("Queue is empty!");
       } else {
           // Since this queue has only text messages, cast the message object and
print the text.
           LOGGER.info("Received: {}    Acknowledged: {}", ((TextMessage)
message).getText(), acknowledge);
```

```
            // Acknowledge the message if asked.
            if (acknowledge) message.acknowledge();
        }
    }
```

UNORDERED_ACKNOWLEDGE モードを使用したメッセージの受信。

```
    /**
     * Demonstrates message acknowledgment behavior in UNORDERED_ACKNOWLEDGE mode
with Amazon SQS JMS.
     * In this mode, each message must be explicitly acknowledged regardless of
receive order.
     * Unacknowledged messages return to the queue after the visibility timeout
expires,
     * unlike CLIENT_ACKNOWLEDGE mode where acknowledging one message acknowledges
all previous messages.
     *
     * @throws JMSException         If a JMS-related error occurs during message
operations
     */
    public static void doReceiveMessagesUnorderedAcknowledge() throws JMSException {
        // Create a connection factory.
        SQSConnectionFactory connectionFactory = new SQSConnectionFactory(
                new ProviderConfiguration(),
                SqsClient.create()
        );

        // Create the connection in a try-with-resources statement so that it's
closed automatically.
        try( SQSConnection connection = connectionFactory.createConnection() ) {

            // Create the queue if needed.
            SqsJmsExampleUtils.ensureQueueExists(connection, QUEUE_NAME,
TIME_OUT_SECONDS);

            // Create a session with unordered acknowledge mode.
            Session session = connection.createSession(false,
SQSSession.UNORDERED_ACKNOWLEDGE);

            // Create the producer and consumer.
            MessageProducer producer =
session.createProducer(session.createQueue(QUEUE_NAME));
```

```
            MessageConsumer consumer =
session.createConsumer(session.createQueue(QUEUE_NAME));

            // Open a connection.
            connection.start();

            // Send two text messages.
            sendMessage(producer, session, "Message 1");
            sendMessage(producer, session, "Message 2");

            // Receive a message and don't acknowledge it.
            receiveMessage(consumer, false);

            // Receive another message and acknowledge it.
            receiveMessage(consumer, true);

            // Wait for the visibility time out, so that unacknowledged messages
reappear in the queue.
            LOGGER.info("Waiting for visibility timeout...");
            try {
                Thread.sleep(TIME_OUT_MILLIS);
            } catch (InterruptedException e) {
                LOGGER.error("Interrupted while waiting for visibility timeout", e);
                Thread.currentThread().interrupt();
                throw new RuntimeException("Processing interrupted", e);
            }

            /*  We will attempt to receive another message, and we'll get the first
message again. This occurs
                because in UNORDERED_ACKNOWLEDGE mode, each message requires its own
separate acknowledgment.
                Since we only acknowledged the second message, the first message
remains in the queue for
                redelivery. */
            receiveMessage(consumer, true);

            LOGGER.info("Connection closed.");
        } // The connection closes automatically. This also closes the session.
    }

    /**
     * Sends a text message to an Amazon SQS queue using JMS.
     *
     * @param producer    The JMS MessageProducer for the queue
```

```
     * @param session     The JMS Session for message creation
     * @param messageText The message content
     * @throws JMSException If message creation or sending fails
     */
    private static void sendMessage(MessageProducer producer, Session session,
String messageText) throws JMSException {
        // Create a text message and send it.
        producer.send(session.createTextMessage(messageText));
    }
    /**
     * Synchronously receives a message from an Amazon SQS queue using the JMS API
     * with an acknowledgment parameter.
     *
     * @param consumer    The JMS MessageConsumer for the queue
     * @param acknowledge If true, acknowledges the message after receipt
     * @throws JMSException If message reception or acknowledgment fails
     */
    private static void receiveMessage(MessageConsumer consumer, boolean
acknowledge) throws JMSException {
        // Receive a message.
        Message message = consumer.receive(TIME_OUT_MILLIS);

        if (message == null) {
            LOGGER.info("Queue is empty!");
        } else {
            // Since this queue has only text messages, cast the message object and
print the text.
            LOGGER.info("Received: {}    Acknowledged: {}", ((TextMessage)
message).getText(), acknowledge);

            // Acknowledge the message if asked.
            if (acknowledge) message.acknowledge();
        }
    }
```

Spring を使用した依存関係の注入。

```
package com.example.sqs.jms.spring;

import com.amazon.sqs.javamessaging.SQSConnection;
import com.example.sqs.jms.SqsJmsExampleUtils;
import jakarta.jms.*;
```

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import org.springframework.beans.factory.NoSuchBeanDefinitionException;
import org.springframework.context.support.FileSystemXmlApplicationContext;

import java.io.File;
import java.net.URL;
import java.util.concurrent.TimeUnit;

/**
 * Demonstrates how to send and receive messages using the Amazon SQS Java Messaging
 Library
 * with Spring Framework integration. This example connects to a standard Amazon SQS
 message
 * queue using Spring's dependency injection to configure the connection and
 messaging components.
 * The application uses the JMS (Java Message Service) API to handle message
 operations.
 */
public class SpringExample {
    private static final Integer POLLING_SECONDS = 15;
    private static final String SPRING_XML_CONFIG_FILE =
 "SpringExampleConfiguration.xml.txt";
    private static final Logger LOGGER =
 LoggerFactory.getLogger(SpringExample.class);

    /**
     * Demonstrates sending and receiving messages through a standard Amazon SQS
 message queue
     * using Spring Framework configuration. This method loads connection settings
 from an XML file,
     * establishes a messaging session using the Amazon SQS Java Messaging Library,
 and processes
     * messages using JMS (Java Message Service) operations. If the queue doesn't
 exist, it will
     * be created automatically.
     *
     * @param args Command line arguments (not used)
     */
    public static void main(String[] args) {

        URL resource =
 SpringExample.class.getClassLoader().getResource(SPRING_XML_CONFIG_FILE);
        File springFile = new File(resource.getFile());
```

```
        if (!springFile.exists() || !springFile.canRead()) {
            LOGGER.error("File " + SPRING_XML_CONFIG_FILE + " doesn't exist or isn't
readable.");
            System.exit(1);
        }

        try (FileSystemXmlApplicationContext context =
                     new FileSystemXmlApplicationContext("file://" +
springFile.getAbsolutePath())) {

            Connection connection;
            try {
                connection = context.getBean(Connection.class);
            } catch (NoSuchBeanDefinitionException e) {
                LOGGER.error("Can't find the JMS connection to use: " +
e.getMessage(), e);
                System.exit(2);
                return;
            }

            String queueName;
            try {
                queueName = context.getBean("queueName", String.class);
            } catch (NoSuchBeanDefinitionException e) {
                LOGGER.error("Can't find the name of the queue to use: " +
e.getMessage(), e);
                System.exit(3);
                return;
            }
            try {
                if (connection instanceof SQSConnection) {
                    SqsJmsExampleUtils.ensureQueueExists((SQSConnection) connection,
queueName, SqsJmsExampleUtils.QUEUE_VISIBILITY_TIMEOUT);
                }
                // Create the JMS session.
                Session session = connection.createSession(false,
Session.CLIENT_ACKNOWLEDGE);

                SqsJmsExampleUtils.sendTextMessage(session, queueName);
                MessageConsumer consumer =
session.createConsumer(session.createQueue(queueName));

                receiveMessages(consumer);
            } catch (JMSException e) {
```

```
                LOGGER.error(e.getMessage(), e);
                throw new RuntimeException(e);
            }
        }   // Spring context autocloses. Managed Spring beans that implement
 AutoClosable, such as the
        // 'connection' bean, are also closed.
        LOGGER.info("Context closed");
    }

    /**
     * Continuously checks for and processes messages from a standard Amazon SQS
 message queue
     * using the Amazon SQS Java Messaging Library underlying the JMS API. This
 method waits for incoming messages,
     * processes them when they arrive, and acknowledges their receipt using JMS
 (Java Message
     * Service) operations. The method will stop checking for messages after 15
 seconds of
     * inactivity.
     *
     * @param consumer The JMS message consumer used to receive messages from the
 queue
     */
    private static void receiveMessages(MessageConsumer consumer) {
        try {
            while (true) {
                LOGGER.info("Waiting for messages...");
                // Wait 15 seconds for a message.
                Message message =
 consumer.receive(TimeUnit.SECONDS.toMillis(POLLING_SECONDS));
                if (message == null) {
                    LOGGER.info("Shutting down after {} seconds of silence.",
 POLLING_SECONDS);
                    break;
                }
                SqsJmsExampleUtils.handleMessage(message);
                message.acknowledge();
                LOGGER.info("Message acknowledged.");
            }
        } catch (JMSException e) {
            LOGGER.error("Error receiving from SQS.", e);
        }
    }
}
```

Spring の Bean 定義。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<beans
        xmlns="http://www.springframework.org/schema/beans"
        xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
        xsi:schemaLocation="
http://www.springframework.org/schema/beans http://www.springframework.org/schema/
beans/spring-beans-3.0.xsd
        ">
    <!-- Define the AWS Region -->
    <bean id="region" class="software.amazon.awssdk.regions.Region" factory-
method="of">
        <constructor-arg value="us-east-1"/>
    </bean>

    <bean id="credentialsProviderBean"
 class="software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider"
          factory-method="create"/>

    <bean id="clientBuilder" class="software.amazon.awssdk.services.sqs.SqsClient"
 factory-method="builder"/>

    <bean id="regionSetClientBuilder" factory-bean="clientBuilder" factory-
method="region">
        <constructor-arg ref="region"/>
    </bean>

    <!-- Configure the Builder with Credentials Provider -->
    <bean id="sqsClient" factory-bean="regionSetClientBuilder" factory-
method="credentialsProvider">
        <constructor-arg ref="credentialsProviderBean"/>
    </bean>

    <bean id="providerConfiguration"
 class="com.amazon.sqs.javamessaging.ProviderConfiguration">
        <property name="numberOfMessagesToPrefetch" value="5"/>
    </bean>

    <bean id="connectionFactory"
 class="com.amazon.sqs.javamessaging.SQSConnectionFactory">
```

```
        <constructor-arg ref="providerConfiguration"/>
        <constructor-arg ref="clientBuilder"/>
    </bean>

    <bean id="connection"
          factory-bean="connectionFactory"
          factory-method="createConnection"
          init-method="start"
          destroy-method="close"/>

    <bean id="queueName" class="java.lang.String">
        <constructor-arg value="SQSJMSClientExampleQueue"/>
    </bean>
</beans>
```

他の例で使用される一般的なメソッドを提供するユーティリティクラス。

```
package com.example.sqs.jms;

import com.amazon.sqs.javamessaging.AmazonSQSMessagingClientWrapper;
import com.amazon.sqs.javamessaging.ProviderConfiguration;
import com.amazon.sqs.javamessaging.SQSConnection;
import com.amazon.sqs.javamessaging.SQSConnectionFactory;
import jakarta.jms.*;
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.core.exception.SdkException;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.SqsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.CreateQueueRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.QueueAttributeName;

import java.time.Duration;
import java.util.Base64;
import java.util.Map;

/**
 * This utility class provides helper methods for working with Amazon Simple Queue
 Service (Amazon SQS)
 * through the Java Message Service (JMS) interface. It contains common operations
 for managing message
 * queues and handling message delivery.
```

```
 */
public class SqsJmsExampleUtils {
    private static final Logger LOGGER =
 LoggerFactory.getLogger(SqsJmsExampleUtils.class);
    public static final Long QUEUE_VISIBILITY_TIMEOUT = 5L;

    /**
     * This method verifies that a message queue exists and creates it if necessary.
 The method checks for
     * an existing queue first to optimize performance.
     *
     * @param connection The active connection to the messaging service
     * @param queueName The name of the queue to verify or create
     * @param visibilityTimeout The duration in seconds that messages will be hidden
 after being received
     * @throws JMSException If there is an error accessing or creating the queue
     */
    public static void ensureQueueExists(SQSConnection connection, String queueName,
 Long visibilityTimeout) throws JMSException {
        AmazonSQSMessagingClientWrapper client =
 connection.getWrappedAmazonSQSClient();

      /* In most cases, you can do this with just a 'createQueue' call, but
 'getQueueUrl'
      (called by 'queueExists') is a faster operation for the common case where the
 queue
      already exists. Also, many users and roles have permission to call
 'getQueueUrl'
      but don't have permission to call 'createQueue'.
      */
       if( !client.queueExists(queueName) ) {
           CreateQueueRequest createQueueRequest = CreateQueueRequest.builder()
                   .queueName(queueName)
                   .attributes(Map.of(QueueAttributeName.VISIBILITY_TIMEOUT,
 String.valueOf(visibilityTimeout)))
                   .build();
           client.createQueue( createQueueRequest );
       }
   }

   /**
    * This method sends a simple text message to a specified message queue. It
 handles all necessary
    * setup for the message delivery process.
```

```
     *
     * @param session The active messaging session used to create and send the
message
     * @param queueName The name of the queue where the message will be sent
     */
    public static void sendTextMessage(Session session, String queueName) {
        // Rest of implementation...

        try {
            MessageProducer producer =
session.createProducer( session.createQueue( queueName) );
            Message message = session.createTextMessage("Hello world!");
            producer.send(message);
        } catch (JMSException e) {
            LOGGER.error( "Error receiving from SQS", e );
        }
    }

    /**
     * This method processes incoming messages and logs their content based on the
message type.
     * It supports text messages, binary data, and Java objects.
     *
     * @param message The message to be processed and logged
     * @throws JMSException If there is an error reading the message content
     */
    public static void handleMessage(Message message) throws JMSException {
        // Rest of implementation...
        LOGGER.info( "Got message {}", message.getJMSMessageID() );
        LOGGER.info( "Content: ");
        if(message instanceof TextMessage txtMessage) {
            LOGGER.info( "\t{}", txtMessage.getText() );
        } else if(message instanceof BytesMessage byteMessage){
            // Assume the length fits in an int - SQS only supports sizes up to 256k
so that
            // should be true
            byte[] bytes = new byte[(int)byteMessage.getBodyLength()];
            byteMessage.readBytes(bytes);
            LOGGER.info( "\t{}", Base64.getEncoder().encodeToString( bytes ) );
        } else if( message instanceof ObjectMessage) {
            ObjectMessage objMessage = (ObjectMessage) message;
            LOGGER.info( "\t{}", objMessage.getObject() );
        }
    }
```

```
   /**
    * This method sets up automatic message processing for a specified queue. It
creates a listener
    * that will receive and handle incoming messages without blocking the main
program.
    *
    * @param session The active messaging session
    * @param queueName The name of the queue to monitor
    * @param connection The active connection to the messaging service
    */
   public static void receiveMessagesAsync(Session session, String queueName,
Connection connection) {
       // Rest of implementation...
       try {
           // Create a consumer for the queue.
           MessageConsumer consumer =
session.createConsumer(session.createQueue(queueName));
           // Provide an implementation of the MessageListener interface, which has
a single 'onMessage' method.
           // We use a lambda expression for the implementation.
           consumer.setMessageListener(message -> {
               try {
                   SqsJmsExampleUtils.handleMessage(message);
                   message.acknowledge();
               } catch (JMSException e) {
                   LOGGER.error("Error processing message: {}", e.getMessage());
               }
           });
           // Start receiving incoming messages.
           connection.start();
       } catch (JMSException e) {
           throw new RuntimeException(e);
       }
       try {
           Thread.sleep(2000);
       } catch (InterruptedException e) {
           throw new RuntimeException(e);
       }
   }


   /**
```

```
    * This method performs cleanup operations after message processing is complete.
It receives
    * any messages in the specified queue, removes the message queue and closes all
    * active connections to prevent resource leaks.
    *
    * @param queueName The name of the queue to be removed
    * @param visibilityTimeout The duration in seconds that messages are hidden
after being received
    * @throws JMSException If there is an error during the cleanup process
    */
   public static void cleanUpExample(String queueName, Long visibilityTimeout)
throws JMSException {
       LOGGER.info("Performing cleanup.");

       SQSConnectionFactory connectionFactory = new SQSConnectionFactory(
               new ProviderConfiguration(),
               SqsClient.create()
       );

       try (SQSConnection connection = connectionFactory.createConnection() ) {
           ensureQueueExists(connection, queueName, visibilityTimeout);
           Session session = connection.createSession(false,
Session.AUTO_ACKNOWLEDGE);

           receiveMessagesAsync(session, queueName, connection);

           SqsClient sqsClient =
connection.getWrappedAmazonSQSClient().getAmazonSQSClient();
           try {
               String queueUrl = sqsClient.getQueueUrl(b ->
b.queueName(queueName)).queueUrl();
               sqsClient.deleteQueue(b -> b.queueUrl(queueUrl));
               LOGGER.info("Queue deleted: {}", queueUrl);
           } catch (SdkException e) {
               LOGGER.error("Error during SQS operations: ", e);
           }
       }
       LOGGER.info("Clean up: Connection closed");
   }

   /**
    * This method creates a background task that sends multiple messages to a
specified queue
```

```
     * after waiting for a set time period. The task operates independently to
 ensure efficient
     * message processing without interrupting other operations.
     *
     * @param queueName The name of the queue where messages will be sent
     * @param secondsToWait The number of seconds to wait before sending messages
     * @param numMessages The number of messages to send
     * @param visibilityTimeout The duration in seconds that messages remain hidden
 after being received
     * @return A task that can be executed to send the messages
     */
    public static Runnable sendAMessageAsync(String queueName, Long secondsToWait,
 Integer numMessages, Long visibilityTimeout) {
        return () -> {
            try {
                Thread.sleep(Duration.ofSeconds(secondsToWait).toMillis());
            } catch (InterruptedException e) {
                Thread.currentThread().interrupt();
                throw new RuntimeException(e);
            }
            try {
                SQSConnectionFactory connectionFactory = new SQSConnectionFactory(
                        new ProviderConfiguration(),
                        SqsClient.create()
                );
                try (SQSConnection connection =
 connectionFactory.createConnection()) {
                    ensureQueueExists(connection, queueName, visibilityTimeout);
                    Session session = connection.createSession(false,
 Session.CLIENT_ACKNOWLEDGE);
                    for (int i = 1; i <= numMessages; i++) {
                        MessageProducer producer =
 session.createProducer(session.createQueue(queueName));
                        producer.send(session.createTextMessage("Hello World " + i +
 "!"));
                    }
                }
            } catch (JMSException e) {
                LOGGER.error(e.getMessage(), e);
                throw new RuntimeException(e);
            }
        };
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - CreateQueue
  - DeleteQueue

キュータグの操作

次のコード例は、Amazon SQS でタグ付け操作を実行する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

次の例では、キューのタグを作成し、タグを一覧表示し、タグを削除します。

```
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.SqsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.ListQueueTagsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.QueueDoesNotExistException;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.SqsException;

import java.util.Map;
import java.util.UUID;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development environment,
 including your credentials. For more
 * information, see the <a href="https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/
developer-guide/get-started.html">AWS
 * SDK for Java Developer Guide</a>.
 */
public class TagExamples {
```

```
    static final SqsClient sqsClient = SqsClient.create();
    static final String queueName = "TagExamples-queue-" +
UUID.randomUUID().toString().replace("-", "").substring(0, 20);
    private static final Logger LOGGER = LoggerFactory.getLogger(TagExamples.class);

    public static void main(String[] args) {
        final String queueUrl;
        try {
            queueUrl = sqsClient.createQueue(b ->
b.queueName(queueName)).queueUrl();
            LOGGER.info("Queue created. The URL is: {}", queueUrl);
        } catch (RuntimeException e) {
            LOGGER.error("Program ending because queue was not created.");
            throw new RuntimeException(e);
        }
        try {
            addTags(queueUrl);
            listTags(queueUrl);
            removeTags(queueUrl);
        } catch (RuntimeException e) {
            LOGGER.error("Program ending because of an error in a method.");
        } finally {
            try {
                sqsClient.deleteQueue(b -> b.queueUrl(queueUrl));
                LOGGER.info("Queue successfully deleted. Program ending.");
                sqsClient.close();
            } catch (RuntimeException e) {
                LOGGER.error("Program ending.");
            } finally {
                sqsClient.close();
            }
        }
    }

    /** This method demonstrates how to use a Java Map to a tag a aueue.
     * @param queueUrl The URL of the queue to tag.
     */
    public static void addTags(String queueUrl) {
        // Build a map of the tags.
        final Map<String, String> tagsToAdd = Map.of(
                "Team", "Development",
                "Priority", "Beta",
                "Accounting ID", "456def");
```

```
        try {
            // Add tags to the queue using a Consumer<TagQueueRequest.Builder>
parameter.
            sqsClient.tagQueue(b -> b
                    .queueUrl(queueUrl)
                    .tags(tagsToAdd)
            );
        } catch (QueueDoesNotExistException e) {
            LOGGER.error("Queue does not exist: {}", e.getMessage(), e);
            throw new RuntimeException(e);
        }
    }

    /** This method demonstrates how to view the tags for a queue.
     * @param queueUrl The URL of the queue whose tags you want to list.
     */
    public static void listTags(String queueUrl) {
        ListQueueTagsResponse response;
        try {
            // Call the listQueueTags method with a
Consumer<ListQueueTagsRequest.Builder> parameter that creates a
ListQueueTagsRequest.
            response = sqsClient.listQueueTags(b -> b
                    .queueUrl(queueUrl));
        } catch (SqsException e) {
            LOGGER.error("Exception thrown: {}", e.getMessage(), e);
            throw new RuntimeException(e);
        }

        // Log the tags.
        response.tags()
                .forEach((k, v) ->
                        LOGGER.info("Key: {} -> Value: {}", k, v));
    }

    /**
     * This method demonstrates how to remove tags from a queue.
     * @param queueUrl The URL of the queue whose tags you want to remove.
     */
    public static void removeTags(String queueUrl) {
        try {
            // Call the untagQueue method with a Consumer<UntagQueueRequest.Builder>
parameter.
            sqsClient.untagQueue(b -> b
```

```
                    .queueUrl(queueUrl)
                    .tagKeys("Accounting ID") // Remove a single tag.
            );
        } catch (SqsException e) {
            LOGGER.error("Exception thrown: {}", e.getMessage(), e);
            throw new RuntimeException(e);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - ListQueueTags
  - TagQueue
  - UntagQueue

サーバーレスサンプル

Amazon SQS トリガーから Lambda 関数を呼び出す

次のコード例では、SQS キューからメッセージを受信することによってトリガーされるイベントを受け取る、Lambda 関数の実装方法を示しています。この関数はイベントパラメータからメッセージを取得し、各メッセージの内容を記録します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。サーバーレスサンプルリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

Java を使用した Lambda での SQS イベントの消費。

```
// Copyright Amazon.com, Inc. or its affiliates. All Rights Reserved.
// SPDX-License-Identifier: Apache-2.0
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.Context;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.RequestHandler;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.SQSEvent;
```

```
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.SQSEvent.SQSMessage;

public class Function implements RequestHandler<SQSEvent, Void> {
    @Override
    public Void handleRequest(SQSEvent sqsEvent, Context context) {
        for (SQSMessage msg : sqsEvent.getRecords()) {
            processMessage(msg, context);
        }
        context.getLogger().log("done");
        return null;
    }

    private void processMessage(SQSMessage msg, Context context) {
        try {
            context.getLogger().log("Processed message " + msg.getBody());

            // TODO: Do interesting work based on the new message

        } catch (Exception e) {
            context.getLogger().log("An error occurred");
            throw e;
        }

    }
}
```

Amazon SQS トリガーを使用した Lambda 関数でのバッチアイテム失敗のレポート

以下のコード例では、SQS キューからイベントを受け取る Lambda 関数のための、部分的なバッチレスポンスの実装方法を示しています。この関数は、レスポンスとしてバッチアイテムの失敗を報告し、対象のメッセージを後で再試行するよう Lambda に伝えます。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。サーバーレスサンプルリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

Java を使用した Lambda での SQS バッチアイテム失敗のレポート。

```
// Copyright Amazon.com, Inc. or its affiliates. All Rights Reserved.
// SPDX-License-Identifier: Apache-2.0
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.Context;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.RequestHandler;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.SQSEvent;
import com.amazonaws.services.lambda.runtime.events.SQSBatchResponse;

import java.util.ArrayList;
import java.util.List;

public class ProcessSQSMessageBatch implements RequestHandler<SQSEvent,
 SQSBatchResponse> {
    @Override
    public SQSBatchResponse handleRequest(SQSEvent sqsEvent, Context context) {
         List<SQSBatchResponse.BatchItemFailure> batchItemFailures = new
 ArrayList<SQSBatchResponse.BatchItemFailure>();

         for (SQSEvent.SQSMessage message : sqsEvent.getRecords()) {
             try {
                 //process your message
             } catch (Exception e) {
                 //Add failed message identifier to the batchItemFailures list
                 batchItemFailures.add(new
 SQSBatchResponse.BatchItemFailure(message.getMessageId()));
             }
         }
         return new SQSBatchResponse(batchItemFailures);
     }
}
```

SDK for Java 2.x を使用した Step Function の例

次のコード例は、Step Functions AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- はじめに
- 基本
- アクション
- シナリオ

はじめに

Hello Step Functions

次のコード例は、Step Functions の使用を開始する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

Java バージョンの Hello

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sfn.SfnClient;
import software.amazon.awssdk.services.sfn.model.ListStateMachinesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sfn.model.SfnException;
import software.amazon.awssdk.services.sfn.model.StateMachineListItem;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
```

```
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ListStateMachines {
    public static void main(String[] args) {
        Region region = Region.US_EAST_1;
        SfnClient sfnClient = SfnClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        listMachines(sfnClient);
        sfnClient.close();
    }

    public static void listMachines(SfnClient sfnClient) {
        try {
            ListStateMachinesResponse response = sfnClient.listStateMachines();
            List<StateMachineListItem> machines = response.stateMachines();
            for (StateMachineListItem machine : machines) {
                System.out.println("The name of the state machine is: " +
 machine.name());
                System.out.println("The ARN value is : " +
 machine.stateMachineArn());
            }

        } catch (SfnException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListStateMachines」を参照してください。

基本

基本を学ぶ

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- アクティビティを作成します。
- 以前に作成したアクティビティをステップとして含む Amazon States Language 定義からステートマシンを作成します。
- ステートマシンを実行し、ユーザー入力でアクティビティに応答します。
- 実行が完了したら最終ステータスと出力を取得して、リソースをクリーンアップします。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
/**
 * You can obtain the JSON file to create a state machine in the following
 * GitHub location.
 * <p>
 * https://github.com/awsdocs/aws-doc-sdk-examples/tree/main/resources/sample_files
 * <p>
 * To run this code example, place the chat_sfn_state_machine.json file into
 * your project's resources folder.
 * <p>
 * Also, set up your development environment, including your credentials.
 * <p>
 * For information, see this documentation topic:
 * <p>
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 * <p>
 * This Java code example performs the following tasks:
 * <p>
 * 1. Creates an activity.
 * 2. Creates a state machine.
 * 3. Describes the state machine.
 * 4. Starts execution of the state machine and interacts with it.
 * 5. Describes the execution.
 * 6. Delete the activity.
 * 7. Deletes the state machine.
 */
```

```
public class StepFunctionsScenario {
    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");

    public static void main(String[] args) throws Exception {
        final String usage = """

            Usage:
                <roleARN> <activityName> <stateMachineName>

            Where:
                roleName - The name of the IAM role to create for this state
 machine.
                activityName - The name of an activity to create.
                stateMachineName - The name of the state machine to create.
                jsonFile - The location of the chat_sfn_state_machine.json file. You
 can located it in resources/sample_files.
            """;

        if (args.length != 4) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String roleName = args[0];
        String activityName = args[1];
        String stateMachineName = args[2];
        String jsonFile = args[3];
        String polJSON = """
            {
                "Version":"2012-10-17",
                "Statement": [
                    {
                        "Sid": "",
                        "Effect": "Allow",
                        "Principal": {
                            "Service": "states.amazonaws.com"
                        },
                        "Action": "sts:AssumeRole"
                    }
                ]
            }
            """;
```

```
        Scanner sc = new Scanner(System.in);
        boolean action = false;

        Region region = Region.US_EAST_1;
        SfnClient sfnClient = SfnClient.builder()
            .region(region)
            .build();

        Region regionGl = Region.AWS_GLOBAL;
        IamClient iam = IamClient.builder()
            .region(regionGl)
            .build();

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("Welcome to the AWS Step Functions example scenario.");
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("1. Create an activity.");
        String activityArn = createActivity(sfnClient, activityName);
        System.out.println("The ARN of the activity is " + activityArn);
        System.out.println(DASHES);

        // Read the file using FileInputStream
        FileInputStream inputStream = new FileInputStream(jsonFile);
        ObjectMapper mapper = new ObjectMapper();
        JsonNode jsonNode = mapper.readValue(inputStream, JsonNode.class);
        String jsonString = mapper.writeValueAsString(jsonNode);

        // Modify the Resource node.
        ObjectMapper objectMapper = new ObjectMapper();
        JsonNode root = objectMapper.readTree(jsonString);
        ((ObjectNode) root.path("States").path("GetInput")).put("Resource",
activityArn);

        // Convert the modified Java object back to a JSON string.
        String stateDefinition = objectMapper.writeValueAsString(root);
        System.out.println(stateDefinition);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("2. Create a state machine.");
        String roleARN = createIAMRole(iam, roleName, polJSON);
        String stateMachineArn = createMachine(sfnClient, roleARN, stateMachineName,
stateDefinition);
```

```
        System.out.println("The ARN of the state machine is " + stateMachineArn);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("3. Describe the state machine.");
        describeStateMachine(sfnClient, stateMachineArn);
        System.out.println("What should ChatSFN call you?");
        String userName = sc.nextLine();
        System.out.println("Hello " + userName);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        // The JSON to pass to the StartExecution call.
        String executionJson = "{ \"name\" : \"" + userName + "\" }";
        System.out.println(executionJson);
        System.out.println("4. Start execution of the state machine and interact
with it.");
        String runArn = startWorkflow(sfnClient, stateMachineArn, executionJson);
        System.out.println("The ARN of the state machine execution is " + runArn);
        List<String> myList;
        while (!action) {
            myList = getActivityTask(sfnClient, activityArn);
            System.out.println("ChatSFN: " + myList.get(1));
            System.out.println(userName + " please specify a value.");
            String myAction = sc.nextLine();
            if (myAction.compareTo("done") == 0)
                action = true;

            System.out.println("You have selected " + myAction);
            String taskJson = "{ \"action\" : \"" + myAction + "\" }";
            System.out.println(taskJson);
            sendTaskSuccess(sfnClient, myList.get(0), taskJson);
        }
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("5. Describe the execution.");
        describeExe(sfnClient, runArn);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("6. Delete the activity.");
        deleteActivity(sfnClient, activityArn);
        System.out.println(DASHES);
```

```
        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("7. Delete the state machines.");
        deleteMachine(sfnClient, stateMachineArn);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("The AWS Step Functions example scenario is complete.");
        System.out.println(DASHES);
    }

    public static String createIAMRole(IamClient iam, String rolename, String
polJSON) {
        try {
            CreateRoleRequest request = CreateRoleRequest.builder()
                .roleName(rolename)
                .assumeRolePolicyDocument(polJSON)
                .description("Created using the AWS SDK for Java")
                .build();

            CreateRoleResponse response = iam.createRole(request);
            return response.role().arn();

        } catch (IamException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }

    public static void describeExe(SfnClient sfnClient, String executionArn) {
        try {
            DescribeExecutionRequest executionRequest =
DescribeExecutionRequest.builder()
                .executionArn(executionArn)
                .build();

            String status = "";
            boolean hasSucceeded = false;
            while (!hasSucceeded) {
                DescribeExecutionResponse response =
sfnClient.describeExecution(executionRequest);
                status = response.statusAsString();
                if (status.compareTo("RUNNING") == 0) {
```

```
                    System.out.println("The state machine is still running, let's
wait for it to finish.");
                    Thread.sleep(2000);
                } else if (status.compareTo("SUCCEEDED") == 0) {
                    System.out.println("The Step Function workflow has succeeded");
                    hasSucceeded = true;
                } else {
                    System.out.println("The Status is neither running or
succeeded");
                }
            }
            System.out.println("The Status is " + status);

        } catch (SfnException | InterruptedException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void sendTaskSuccess(SfnClient sfnClient, String token, String
json) {
        try {
            SendTaskSuccessRequest successRequest = SendTaskSuccessRequest.builder()
                .taskToken(token)
                .output(json)
                .build();

            sfnClient.sendTaskSuccess(successRequest);

        } catch (SfnException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static List<String> getActivityTask(SfnClient sfnClient, String actArn) {
        List<String> myList = new ArrayList<>();
        GetActivityTaskRequest getActivityTaskRequest =
GetActivityTaskRequest.builder()
            .activityArn(actArn)
            .build();

        GetActivityTaskResponse response =
sfnClient.getActivityTask(getActivityTaskRequest);
```

```
        myList.add(response.taskToken());
        myList.add(response.input());
        return myList;
    }

    public static void deleteActivity(SfnClient sfnClient, String actArn) {
        try {
            DeleteActivityRequest activityRequest = DeleteActivityRequest.builder()
                .activityArn(actArn)
                .build();

            sfnClient.deleteActivity(activityRequest);
            System.out.println("You have deleted " + actArn);

        } catch (SfnException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void describeStateMachine(SfnClient sfnClient, String
stateMachineArn) {
        try {
            DescribeStateMachineRequest stateMachineRequest =
DescribeStateMachineRequest.builder()
                .stateMachineArn(stateMachineArn)
                .build();

            DescribeStateMachineResponse response =
sfnClient.describeStateMachine(stateMachineRequest);
            System.out.println("The name of the State machine is " +
response.name());
            System.out.println("The status of the State machine is " +
response.status());
            System.out.println("The ARN value of the State machine is " +
response.stateMachineArn());
            System.out.println("The role ARN value is " + response.roleArn());

        } catch (SfnException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
        }
    }

    public static void deleteMachine(SfnClient sfnClient, String stateMachineArn) {
```

```
        try {
            DeleteStateMachineRequest deleteStateMachineRequest =
DeleteStateMachineRequest.builder()
                .stateMachineArn(stateMachineArn)
                .build();

            sfnClient.deleteStateMachine(deleteStateMachineRequest);
            DescribeStateMachineRequest describeStateMachine =
DescribeStateMachineRequest.builder()
                .stateMachineArn(stateMachineArn)
                .build();

            while (true) {
                DescribeStateMachineResponse response =
sfnClient.describeStateMachine(describeStateMachine);
                System.out.println("The state machine is not deleted yet. The status
is " + response.status());
                Thread.sleep(3000);
            }

        } catch (SfnException | InterruptedException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
        }
        System.out.println(stateMachineArn + " was successfully deleted.");
    }

    public static String startWorkflow(SfnClient sfnClient, String stateMachineArn,
String jsonEx) {
        UUID uuid = UUID.randomUUID();
        String uuidValue = uuid.toString();
        try {
            StartExecutionRequest executionRequest = StartExecutionRequest.builder()
                .input(jsonEx)
                .stateMachineArn(stateMachineArn)
                .name(uuidValue)
                .build();

            StartExecutionResponse response =
sfnClient.startExecution(executionRequest);
            return response.executionArn();

        } catch (SfnException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
```

```
        }
        return "";
    }

    public static String createMachine(SfnClient sfnClient, String roleARN, String
 stateMachineName, String json) {
        try {
            CreateStateMachineRequest machineRequest =
 CreateStateMachineRequest.builder()
                .definition(json)
                .name(stateMachineName)
                .roleArn(roleARN)
                .type(StateMachineType.STANDARD)
                .build();

            CreateStateMachineResponse response =
 sfnClient.createStateMachine(machineRequest);
            return response.stateMachineArn();

        } catch (SfnException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }

    public static String createActivity(SfnClient sfnClient, String activityName) {
        try {
            CreateActivityRequest activityRequest = CreateActivityRequest.builder()
                .name(activityName)
                .build();

            CreateActivityResponse response =
 sfnClient.createActivity(activityRequest);
            return response.activityArn();

        } catch (SfnException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - CreateActivity
  - CreateStateMachine
  - DeleteActivity
  - DeleteStateMachine
  - DescribeExecution
  - DescribeStateMachine
  - GetActivityTask
  - ListActivities
  - ListStateMachines
  - SendTaskSuccess
  - StartExecution
  - StopExecution

アクション

`CreateActivity`

次のコード例は、`CreateActivity` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
public static String createActivity(SfnClient sfnClient, String activityName) {
    try {
        CreateActivityRequest activityRequest = CreateActivityRequest.builder()
            .name(activityName)
            .build();
```

```
            CreateActivityResponse response =
sfnClient.createActivity(activityRequest);
            return response.activityArn();

        } catch (SfnException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateActivity」を参照してください。

`CreateStateMachine`

次のコード例は、`CreateStateMachine` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    public static String createMachine(SfnClient sfnClient, String roleARN, String
stateMachineName, String json) {
        try {
            CreateStateMachineRequest machineRequest =
CreateStateMachineRequest.builder()
                .definition(json)
                .name(stateMachineName)
                .roleArn(roleARN)
                .type(StateMachineType.STANDARD)
                .build();

            CreateStateMachineResponse response =
sfnClient.createStateMachine(machineRequest);
```

```
            return response.stateMachineArn();

        } catch (SfnException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateStateMachine」を参照してください。

`DeleteActivity`

次のコード例は、`DeleteActivity` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    public static void deleteActivity(SfnClient sfnClient, String actArn) {
        try {
            DeleteActivityRequest activityRequest = DeleteActivityRequest.builder()
                .activityArn(actArn)
                .build();

            sfnClient.deleteActivity(activityRequest);
            System.out.println("You have deleted " + actArn);

        } catch (SfnException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteActivity」を参照してください。

`DeleteStateMachine`

次のコード例は、`DeleteStateMachine` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void deleteMachine(SfnClient sfnClient, String stateMachineArn) {
       try {
           DeleteStateMachineRequest deleteStateMachineRequest =
DeleteStateMachineRequest.builder()
                   .stateMachineArn(stateMachineArn)
                   .build();

           sfnClient.deleteStateMachine(deleteStateMachineRequest);
           DescribeStateMachineRequest describeStateMachine =
DescribeStateMachineRequest.builder()
                   .stateMachineArn(stateMachineArn)
                   .build();

           while (true) {
               DescribeStateMachineResponse response =
sfnClient.describeStateMachine(describeStateMachine);
               System.out.println("The state machine is not deleted yet. The status
is " + response.status());
               Thread.sleep(3000);
           }

       } catch (SfnException | InterruptedException e) {
           System.err.println(e.getMessage());
       }
       System.out.println(stateMachineArn + " was successfully deleted.");
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteStateMachine」を参照してください。

`DescribeExecution`

次のコード例は、`DescribeExecution` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void describeExe(SfnClient sfnClient, String executionArn) {
       try {
           DescribeExecutionRequest executionRequest =
DescribeExecutionRequest.builder()
                   .executionArn(executionArn)
                   .build();

           String status = "";
           boolean hasSucceeded = false;
           while (!hasSucceeded) {
               DescribeExecutionResponse response =
sfnClient.describeExecution(executionRequest);
                   status = response.statusAsString();
                   if (status.compareTo("RUNNING") == 0) {
                       System.out.println("The state machine is still running, let's
wait for it to finish.");
                       Thread.sleep(2000);
                   } else if (status.compareTo("SUCCEEDED") == 0) {
                       System.out.println("The Step Function workflow has succeeded");
                       hasSucceeded = true;
                   } else {
                       System.out.println("The Status is neither running or
succeeded");
                   }
```

```
            }
            System.out.println("The Status is " + status);

        } catch (SfnException | InterruptedException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeExecution」を参照してください。

`DescribeStateMachine`

次のコード例は、`DescribeStateMachine` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void describeStateMachine(SfnClient sfnClient, String
stateMachineArn) {
       try {
           DescribeStateMachineRequest stateMachineRequest =
DescribeStateMachineRequest.builder()
                   .stateMachineArn(stateMachineArn)
                   .build();

           DescribeStateMachineResponse response =
sfnClient.describeStateMachine(stateMachineRequest);
           System.out.println("The name of the State machine is " +
response.name());
           System.out.println("The status of the State machine is " +
response.status());
           System.out.println("The ARN value of the State machine is " +
response.stateMachineArn());
```

```
            System.out.println("The role ARN value is " + response.roleArn());

        } catch (SfnException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeStateMachine」を参照してください。

`GetActivityTask`

次のコード例は、`GetActivityTask` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    public static List<String> getActivityTask(SfnClient sfnClient, String actArn) {
        List<String> myList = new ArrayList<>();
        GetActivityTaskRequest getActivityTaskRequest =
GetActivityTaskRequest.builder()
            .activityArn(actArn)
            .build();

        GetActivityTaskResponse response =
sfnClient.getActivityTask(getActivityTaskRequest);
        myList.add(response.taskToken());
        myList.add(response.input());
        return myList;
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「GetActivityTask」を参照してください。

ListActivities

次のコード例は、ListActivities を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sfn.SfnClient;
import software.amazon.awssdk.services.sfn.model.ListActivitiesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.sfn.model.ListActivitiesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sfn.model.SfnException;
import software.amazon.awssdk.services.sfn.model.ActivityListItem;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ListActivities {
    public static void main(String[] args) {
        Region region = Region.US_EAST_1;
        SfnClient sfnClient = SfnClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        listAllActivites(sfnClient);
        sfnClient.close();
    }

    public static void listAllActivites(SfnClient sfnClient) {
        try {
            ListActivitiesRequest activitiesRequest =
 ListActivitiesRequest.builder()
```

```
                    .maxResults(10)
                    .build();

            ListActivitiesResponse response =
 sfnClient.listActivities(activitiesRequest);
            List<ActivityListItem> items = response.activities();
            for (ActivityListItem item : items) {
                System.out.println("The activity ARN is " + item.activityArn());
                System.out.println("The activity name is " + item.name());
            }

        } catch (SfnException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListActivities」を参照してください。

`ListExecutions`

次のコード例は、`ListExecutions` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    public static void getExeHistory(SfnClient sfnClient, String exeARN) {
        try {
            GetExecutionHistoryRequest historyRequest =
 GetExecutionHistoryRequest.builder()
                    .executionArn(exeARN)
                    .maxResults(10)
                    .build();
```

```
            GetExecutionHistoryResponse historyResponse =
sfnClient.getExecutionHistory(historyRequest);
            List<HistoryEvent> events = historyResponse.events();
            for (HistoryEvent event : events) {
                System.out.println("The event type is " + event.type().toString());
            }

        } catch (SfnException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListExecutions」を参照してください。

`ListStateMachines`

次のコード例は、`ListStateMachines` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sfn.SfnClient;
import software.amazon.awssdk.services.sfn.model.ListStateMachinesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sfn.model.SfnException;
import software.amazon.awssdk.services.sfn.model.StateMachineListItem;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
```

```
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class ListStateMachines {
    public static void main(String[] args) {
        Region region = Region.US_EAST_1;
        SfnClient sfnClient = SfnClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        listMachines(sfnClient);
        sfnClient.close();
    }

    public static void listMachines(SfnClient sfnClient) {
        try {
            ListStateMachinesResponse response = sfnClient.listStateMachines();
            List<StateMachineListItem> machines = response.stateMachines();
            for (StateMachineListItem machine : machines) {
                System.out.println("The name of the state machine is: " +
 machine.name());
                System.out.println("The ARN value is : " +
 machine.stateMachineArn());
            }

        } catch (SfnException e) {
            System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ListStateMachines」を参照してください。

SendTaskSuccess

次のコード例は、SendTaskSuccess を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void sendTaskSuccess(SfnClient sfnClient, String token, String
json) {
       try {
           SendTaskSuccessRequest successRequest = SendTaskSuccessRequest.builder()
               .taskToken(token)
               .output(json)
               .build();

           sfnClient.sendTaskSuccess(successRequest);

       } catch (SfnException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「SendTaskSuccess」を参照してください。

`StartExecution`

次のコード例は、`StartExecution` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static String startWorkflow(SfnClient sfnClient, String stateMachineArn,
String jsonEx) {
       UUID uuid = UUID.randomUUID();
       String uuidValue = uuid.toString();
       try {
           StartExecutionRequest executionRequest = StartExecutionRequest.builder()
               .input(jsonEx)
               .stateMachineArn(stateMachineArn)
               .name(uuidValue)
               .build();

           StartExecutionResponse response =
sfnClient.startExecution(executionRequest);
           return response.executionArn();

       } catch (SfnException e) {
           System.err.println(e.awsErrorDetails().errorMessage());
           System.exit(1);
       }
       return "";
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「StartExecution」を参照してください。

シナリオ

Step Functions を使用して Lambda 関数を呼び出す

次のコード例は、 AWS Lambda 関数を順番に呼び出す AWS Step Functions ステートマシンを作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

AWS Step Functions と を使用して AWS サーバーレスワークフローを作成する方法を示します AWS SDK for Java 2.x。各ワークフローステップは、 AWS Lambda 関数を使用して実装されます。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- DynamoDB
- Lambda
- Amazon SES
- ステップ関数

AWS STS SDK for Java 2.x を使用した例

次のコード例は、 AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています AWS STS。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- アクション

アクション

`AssumeRole`

次のコード例は、`AssumeRole` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.sts.StsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sts.model.AssumeRoleRequest;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.sts.model.StsException;
import software.amazon.awssdk.services.sts.model.AssumeRoleResponse;
import software.amazon.awssdk.services.sts.model.Credentials;
import java.time.Instant;
import java.time.ZoneId;
import java.time.format.DateTimeFormatter;
import java.time.format.FormatStyle;
import java.util.Locale;

/**
 * To make this code example work, create a Role that you want to assume.
 * Then define a Trust Relationship in the AWS Console. You can use this as an
 * example:
 *
 * {
 * "Version":"2012-10-17",
 * "Statement": [
 * {
 * "Effect": "Allow",
 * "Principal": {
 * "AWS": "<Specify the ARN of your IAM user you are using in this code example>"
 * },
 * "Action": "sts:AssumeRole"
 * }
 * ]
 * }
 *
 * For more information, see "Editing the Trust Relationship for an Existing
 * Role" in the AWS Directory Service guide.
 *
 * Also, set up your development environment, including your credentials.
 *
 * For information, see this documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class AssumeRole {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <roleArn> <roleSessionName>\s

                Where:
```

```
                    roleArn - The Amazon Resource Name (ARN) of the role to assume
(for example, arn:aws:iam::000008047983:role/s3role).\s
                    roleSessionName - An identifier for the assumed role session
(for example, mysession).\s
                 """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String roleArn = args[0];
        String roleSessionName = args[1];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        StsClient stsClient = StsClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        assumeGivenRole(stsClient, roleArn, roleSessionName);
        stsClient.close();
    }

    public static void assumeGivenRole(StsClient stsClient, String roleArn, String
roleSessionName) {
        try {
            AssumeRoleRequest roleRequest = AssumeRoleRequest.builder()
                    .roleArn(roleArn)
                    .roleSessionName(roleSessionName)
                    .build();

            AssumeRoleResponse roleResponse = stsClient.assumeRole(roleRequest);
            Credentials myCreds = roleResponse.credentials();

            // Display the time when the temp creds expire.
            Instant exTime = myCreds.expiration();
            String tokenInfo = myCreds.sessionToken();

            // Convert the Instant to readable date.
            DateTimeFormatter formatter =
DateTimeFormatter.ofLocalizedDateTime(FormatStyle.SHORT)
                    .withLocale(Locale.US)
                    .withZone(ZoneId.systemDefault());

            formatter.format(exTime);
```

```
            System.out.println("The token " + tokenInfo + "  expires on " + exTime);

        } catch (StsException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「AssumeRole」を参照してください。

サポート SDK for Java 2.x を使用した例

次のコード例は、 AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています サポート。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- はじめに
- 基本
- アクション

はじめに

こんにち サポートは

次のコード例は、 サポートの使用を開始する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.support.SupportClient;
import software.amazon.awssdk.services.support.model.Category;
import software.amazon.awssdk.services.support.model.DescribeServicesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.support.model.DescribeServicesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.support.model.Service;
import software.amazon.awssdk.services.support.model.SupportException;
import java.util.ArrayList;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java (v2) code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 *
 * In addition, you must have the AWS Business Support Plan to use the AWS
 * Support Java API. For more information, see:
 *
 * https://aws.amazon.com/premiumsupport/plans/
 *
 * This Java example performs the following task:
 *
 * 1. Gets and displays available services.
 *
 *
 * NOTE: To see multiple operations, see SupportScenario.
 */

public class HelloSupport {
    public static void main(String[] args) {
        Region region = Region.US_WEST_2;
```

```
        SupportClient supportClient = SupportClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        System.out.println("***** Step 1. Get and display available services.");
        displayServices(supportClient);
    }

    // Return a List that contains a Service name and Category name.
    public static void displayServices(SupportClient supportClient) {
        try {
            DescribeServicesRequest servicesRequest =
 DescribeServicesRequest.builder()
                    .language("en")
                    .build();

            DescribeServicesResponse response =
 supportClient.describeServices(servicesRequest);
            List<Service> services = response.services();

            System.out.println("Get the first 10 services");
            int index = 1;
            for (Service service : services) {
                if (index == 11)
                    break;

                System.out.println("The Service name is: " + service.name());

                // Display the Categories for this service.
                List<Category> categories = service.categories();
                for (Category cat : categories) {
                    System.out.println("The category name is: " + cat.name());
                }
                index++;
            }

        } catch (SupportException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeServices」を参照してください。

基本

基本を学ぶ

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- ケースの利用可能なサービスと重要度レベルを取得して表示します。
- 選択したサービス、カテゴリ、重要度レベルを使用してサポートケースを作成する方法
- 当日のオープンケースのリストを取得して表示する方法
- 新しいケースに添付セットとコミュニケーションを追加する方法
- ケースの新しい添付ファイルとコミュニケーションについて説明する方法
- ケースを解決する方法
- 当日の解決済みケースのリストを取得して表示します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

さまざまな サポート オペレーションを実行します。

```
import software.amazon.awssdk.core.SdkBytes;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.support.SupportClient;
import software.amazon.awssdk.services.support.model.AddAttachmentsToSetResponse;
import software.amazon.awssdk.services.support.model.AddCommunicationToCaseRequest;
import software.amazon.awssdk.services.support.model.AddCommunicationToCaseResponse;
import software.amazon.awssdk.services.support.model.Attachment;
import software.amazon.awssdk.services.support.model.AttachmentDetails;
import software.amazon.awssdk.services.support.model.CaseDetails;
import software.amazon.awssdk.services.support.model.Category;
import software.amazon.awssdk.services.support.model.Communication;
```

```
import software.amazon.awssdk.services.support.model.CreateCaseRequest;
import software.amazon.awssdk.services.support.model.CreateCaseResponse;
import software.amazon.awssdk.services.support.model.DescribeAttachmentRequest;
import software.amazon.awssdk.services.support.model.DescribeAttachmentResponse;
import software.amazon.awssdk.services.support.model.DescribeCasesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.support.model.DescribeCasesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.support.model.DescribeCommunicationsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.support.model.DescribeCommunicationsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.support.model.DescribeServicesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.support.model.DescribeServicesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.support.model.DescribeSeverityLevelsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.support.model.DescribeSeverityLevelsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.support.model.ResolveCaseRequest;
import software.amazon.awssdk.services.support.model.ResolveCaseResponse;
import software.amazon.awssdk.services.support.model.Service;
import software.amazon.awssdk.services.support.model.SeverityLevel;
import software.amazon.awssdk.services.support.model.SupportException;
import software.amazon.awssdk.services.support.model.AddAttachmentsToSetRequest;
import java.io.File;
import java.io.FileInputStream;
import java.io.FileNotFoundException;
import java.io.InputStream;
import java.time.Instant;
import java.time.temporal.ChronoUnit;
import java.util.ArrayList;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java (v2) code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 *
 * In addition, you must have the AWS Business Support Plan to use the AWS
 * Support Java API. For more information, see:
 *
 * https://aws.amazon.com/premiumsupport/plans/
 *
 * This Java example performs the following tasks:
 *
 * 1. Gets and displays available services.
 * 2. Gets and displays severity levels.
```

```
 * 3. Creates a support case by using the selected service, category, and
 * severity level.
 * 4. Gets a list of open cases for the current day.
 * 5. Creates an attachment set with a generated file.
 * 6. Adds a communication with the attachment to the support case.
 * 7. Lists the communications of the support case.
 * 8. Describes the attachment set included with the communication.
 * 9. Resolves the support case.
 * 10. Gets a list of resolved cases for the current day.
 */
public class SupportScenario {

    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <fileAttachment>Where:
                    fileAttachment - The file can be a simple saved .txt file to use
 as an email attachment.\s
                """;

      //  if (args.length != 1) {
      //      System.out.println(usage);
      //      System.exit(1);
      //  }

        String fileAttachment = "C:\\AWS\\test.txt" ; //args[0];
        Region region = Region.US_WEST_2;
        SupportClient supportClient = SupportClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("***** Welcome to the AWS Support case example
 scenario.");
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("1. Get and display available services.");
        List<String> sevCatList = displayServices(supportClient);
        System.out.println(DASHES);
```

```
        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("2. Get and display Support severity levels.");
        String sevLevel = displaySevLevels(supportClient);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("3. Create a support case using the selected service,
category, and severity level.");
        String caseId = createSupportCase(supportClient, sevCatList, sevLevel);
        if (caseId.compareTo("") == 0) {
            System.out.println("A support case was not successfully created!");
            System.exit(1);
        } else
            System.out.println("Support case " + caseId + " was successfully
created!");
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("4. Get open support cases.");
        getOpenCase(supportClient);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("5. Create an attachment set with a generated file to add
to the case.");
        String attachmentSetId = addAttachment(supportClient, fileAttachment);
        System.out.println("The Attachment Set id value is" + attachmentSetId);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("6. Add communication with the attachment to the support
case.");
        addAttachSupportCase(supportClient, caseId, attachmentSetId);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("7. List the communications of the support case.");
        String attachId = listCommunications(supportClient, caseId);
        System.out.println("The Attachment id value is" + attachId);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("8. Describe the attachment set included with the
communication.");
```

```
        describeAttachment(supportClient, attachId);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("9. Resolve the support case.");
        resolveSupportCase(supportClient, caseId);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("10. Get a list of resolved cases for the current day.");
        getResolvedCase(supportClient);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("***** This Scenario has successfully completed");
        System.out.println(DASHES);
    }

    public static void getResolvedCase(SupportClient supportClient) {
        try {
            // Specify the start and end time.
            Instant now = Instant.now();
            java.time.LocalDate.now();
            Instant yesterday = now.minus(1, ChronoUnit.DAYS);

            DescribeCasesRequest describeCasesRequest =
DescribeCasesRequest.builder()
                    .maxResults(30)
                    .afterTime(yesterday.toString())
                    .beforeTime(now.toString())
                    .includeResolvedCases(true)
                    .build();

            DescribeCasesResponse response =
supportClient.describeCases(describeCasesRequest);
            List<CaseDetails> cases = response.cases();
            for (CaseDetails sinCase : cases) {
                if (sinCase.status().compareTo("resolved") == 0)
                    System.out.println("The case status is " + sinCase.status());
            }

        } catch (SupportException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
```

```
        }
    }

    public static void resolveSupportCase(SupportClient supportClient, String
caseId) {
        try {
            ResolveCaseRequest caseRequest = ResolveCaseRequest.builder()
                    .caseId(caseId)
                    .build();

            ResolveCaseResponse response = supportClient.resolveCase(caseRequest);
            System.out.println("The status of case " + caseId + " is " +
response.finalCaseStatus());

        } catch (SupportException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static void describeAttachment(SupportClient supportClient, String
attachId) {
        try {
            DescribeAttachmentRequest attachmentRequest =
DescribeAttachmentRequest.builder()
                    .attachmentId(attachId)
                    .build();

            DescribeAttachmentResponse response =
supportClient.describeAttachment(attachmentRequest);
            System.out.println("The name of the file is " +
response.attachment().fileName());

        } catch (SupportException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static String listCommunications(SupportClient supportClient, String
caseId) {
        try {
            String attachId = null;
```

```
            DescribeCommunicationsRequest communicationsRequest =
DescribeCommunicationsRequest.builder()
                    .caseId(caseId)
                    .maxResults(10)
                    .build();

            DescribeCommunicationsResponse response =
supportClient.describeCommunications(communicationsRequest);
            List<Communication> communications = response.communications();
            for (Communication comm : communications) {
                System.out.println("the body is: " + comm.body());

                // Get the attachment id value.
                List<AttachmentDetails> attachments = comm.attachmentSet();
                for (AttachmentDetails detail : attachments) {
                    attachId = detail.attachmentId();
                }
            }
            return attachId;

        } catch (SupportException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }

    public static void addAttachSupportCase(SupportClient supportClient, String
caseId, String attachmentSetId) {
        try {
            AddCommunicationToCaseRequest caseRequest =
AddCommunicationToCaseRequest.builder()
                    .caseId(caseId)
                    .attachmentSetId(attachmentSetId)
                    .communicationBody("Please refer to attachment for details.")
                    .build();

            AddCommunicationToCaseResponse response =
supportClient.addCommunicationToCase(caseRequest);
            if (response.result())
                System.out.println("You have successfully added a communication to
an AWS Support case");
            else
```

```
                System.out.println("There was an error adding the communication to
an AWS Support case");

        } catch (SupportException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static String addAttachment(SupportClient supportClient, String
fileAttachment) {
        try {
            File myFile = new File(fileAttachment);
            InputStream sourceStream = new FileInputStream(myFile);
            SdkBytes sourceBytes = SdkBytes.fromInputStream(sourceStream);

            Attachment attachment = Attachment.builder()
                    .fileName(myFile.getName())
                    .data(sourceBytes)
                    .build();

            AddAttachmentsToSetRequest setRequest =
AddAttachmentsToSetRequest.builder()
                    .attachments(attachment)
                    .build();

            AddAttachmentsToSetResponse response =
supportClient.addAttachmentsToSet(setRequest);
            return response.attachmentSetId();

        } catch (SupportException | FileNotFoundException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }

    public static void getOpenCase(SupportClient supportClient) {
        try {
            // Specify the start and end time.
            Instant now = Instant.now();
            java.time.LocalDate.now();
            Instant yesterday = now.minus(1, ChronoUnit.DAYS);
```

```
            DescribeCasesRequest describeCasesRequest =
DescribeCasesRequest.builder()
                    .maxResults(20)
                    .afterTime(yesterday.toString())
                    .beforeTime(now.toString())
                    .build();

            DescribeCasesResponse response =
supportClient.describeCases(describeCasesRequest);
            List<CaseDetails> cases = response.cases();
            for (CaseDetails sinCase : cases) {
                System.out.println("The case status is " + sinCase.status());
                System.out.println("The case Id is " + sinCase.caseId());
                System.out.println("The case subject is " + sinCase.subject());
            }

        } catch (SupportException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }

    public static String createSupportCase(SupportClient supportClient, List<String>
sevCatList, String sevLevel) {
        try {
            String serviceCode = sevCatList.get(0);
            String caseCat = sevCatList.get(1);
            CreateCaseRequest caseRequest = CreateCaseRequest.builder()
                    .categoryCode(caseCat.toLowerCase())
                    .serviceCode(serviceCode.toLowerCase())
                    .severityCode(sevLevel.toLowerCase())
                    .communicationBody("Test issue with " +
serviceCode.toLowerCase())
                    .subject("Test case, please ignore")
                    .language("en")
                    .issueType("technical")
                    .build();

            CreateCaseResponse response = supportClient.createCase(caseRequest);
            return response.caseId();

        } catch (SupportException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
```

```
        }
        return "";
    }

    public static String displaySevLevels(SupportClient supportClient) {
        try {
            DescribeSeverityLevelsRequest severityLevelsRequest =
DescribeSeverityLevelsRequest.builder()
                    .language("en")
                    .build();

            DescribeSeverityLevelsResponse response =
supportClient.describeSeverityLevels(severityLevelsRequest);
            List<SeverityLevel> severityLevels = response.severityLevels();
            String levelName = null;
            for (SeverityLevel sevLevel : severityLevels) {
                System.out.println("The severity level name is: " +
sevLevel.name());
                if (sevLevel.name().compareTo("High") == 0)
                    levelName = sevLevel.name();
            }
            return levelName;

        } catch (SupportException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }

    // Return a List that contains a Service name and Category name.
    public static List<String> displayServices(SupportClient supportClient) {
        try {
            DescribeServicesRequest servicesRequest =
DescribeServicesRequest.builder()
                    .language("en")
                    .build();

            DescribeServicesResponse response =
supportClient.describeServices(servicesRequest);
            String serviceCode = null;
            String catName = null;
            List<String> sevCatList = new ArrayList<>();
            List<Service> services = response.services();
```

```
            System.out.println("Get the first 10 services");
            int index = 1;
            for (Service service : services) {
                if (index == 11)
                    break;

                System.out.println("The Service name is: " + service.name());
                if (service.name().compareTo("Account") == 0)
                    serviceCode = service.code();

                // Get the Categories for this service.
                List<Category> categories = service.categories();
                for (Category cat : categories) {
                    System.out.println("The category name is: " + cat.name());
                    if (cat.name().compareTo("Security") == 0)
                        catName = cat.name();
                }
                index++;
            }

            // Push the two values to the list.
            sevCatList.add(serviceCode);
            sevCatList.add(catName);
            return sevCatList;

        } catch (SupportException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
        return null;
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - AddAttachmentsToSet
  - AddCommunicationToCase
  - CreateCase
  - DescribeAttachment

- DescribeCases
- DescribeCommunications
- DescribeServices
- DescribeSeverityLevels
- ResolveCase

アクション

`AddAttachmentsToSet`

次のコード例は、AddAttachmentsToSet を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static String addAttachment(SupportClient supportClient, String
fileAttachment) {
       try {
           File myFile = new File(fileAttachment);
           InputStream sourceStream = new FileInputStream(myFile);
           SdkBytes sourceBytes = SdkBytes.fromInputStream(sourceStream);

           Attachment attachment = Attachment.builder()
                   .fileName(myFile.getName())
                   .data(sourceBytes)
                   .build();

           AddAttachmentsToSetRequest setRequest =
AddAttachmentsToSetRequest.builder()
                   .attachments(attachment)
                   .build();

           AddAttachmentsToSetResponse response =
supportClient.addAttachmentsToSet(setRequest);
```

```
            return response.attachmentSetId();

        } catch (SupportException | FileNotFoundException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「AddAttachmentsToSet」を参照してください。

AddCommunicationToCase

次のコード例は、AddCommunicationToCase を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void addAttachSupportCase(SupportClient supportClient, String
caseId, String attachmentSetId) {
        try {
            AddCommunicationToCaseRequest caseRequest =
AddCommunicationToCaseRequest.builder()
                    .caseId(caseId)
                    .attachmentSetId(attachmentSetId)
                    .communicationBody("Please refer to attachment for details.")
                    .build();

            AddCommunicationToCaseResponse response =
supportClient.addCommunicationToCase(caseRequest);
            if (response.result())
                System.out.println("You have successfully added a communication to
an AWS Support case");
            else
```

```
                System.out.println("There was an error adding the communication to
an AWS Support case");

        } catch (SupportException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「AddCommunicationToCase」を参照してください。

`CreateCase`

次のコード例は、`CreateCase` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    public static String createSupportCase(SupportClient supportClient, List<String>
sevCatList, String sevLevel) {
        try {
            String serviceCode = sevCatList.get(0);
            String caseCat = sevCatList.get(1);
            CreateCaseRequest caseRequest = CreateCaseRequest.builder()
                    .categoryCode(caseCat.toLowerCase())
                    .serviceCode(serviceCode.toLowerCase())
                    .severityCode(sevLevel.toLowerCase())
                    .communicationBody("Test issue with " +
serviceCode.toLowerCase())
                    .subject("Test case, please ignore")
                    .language("en")
                    .issueType("technical")
                    .build();
```

```
            CreateCaseResponse response = supportClient.createCase(caseRequest);
            return response.caseId();

        } catch (SupportException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateCase」を参照してください。

`DescribeAttachment`

次のコード例は、`DescribeAttachment` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void describeAttachment(SupportClient supportClient, String
attachId) {
       try {
           DescribeAttachmentRequest attachmentRequest =
DescribeAttachmentRequest.builder()
                   .attachmentId(attachId)
                   .build();

           DescribeAttachmentResponse response =
supportClient.describeAttachment(attachmentRequest);
           System.out.println("The name of the file is " +
response.attachment().fileName());

       } catch (SupportException e) {
           System.out.println(e.getLocalizedMessage());
```

```
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeAttachment」を参照してください。

`DescribeCases`

次のコード例は、`DescribeCases` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    public static void getOpenCase(SupportClient supportClient) {
        try {
            // Specify the start and end time.
            Instant now = Instant.now();
            java.time.LocalDate.now();
            Instant yesterday = now.minus(1, ChronoUnit.DAYS);

            DescribeCasesRequest describeCasesRequest =
DescribeCasesRequest.builder()
                    .maxResults(20)
                    .afterTime(yesterday.toString())
                    .beforeTime(now.toString())
                    .build();

            DescribeCasesResponse response =
supportClient.describeCases(describeCasesRequest);
            List<CaseDetails> cases = response.cases();
            for (CaseDetails sinCase : cases) {
                System.out.println("The case status is " + sinCase.status());
                System.out.println("The case Id is " + sinCase.caseId());
                System.out.println("The case subject is " + sinCase.subject());
```

```
            }

        } catch (SupportException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeCases」を参照してください。

`DescribeCommunications`

次のコード例は、`DescribeCommunications` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static String listCommunications(SupportClient supportClient, String
caseId) {
       try {
           String attachId = null;
           DescribeCommunicationsRequest communicationsRequest =
DescribeCommunicationsRequest.builder()
                   .caseId(caseId)
                   .maxResults(10)
                   .build();

           DescribeCommunicationsResponse response =
supportClient.describeCommunications(communicationsRequest);
           List<Communication> communications = response.communications();
           for (Communication comm : communications) {
               System.out.println("the body is: " + comm.body());

               // Get the attachment id value.
```

```
                List<AttachmentDetails> attachments = comm.attachmentSet();
                for (AttachmentDetails detail : attachments) {
                    attachId = detail.attachmentId();
                }
            }
            return attachId;

        } catch (SupportException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeCommunications」を参照してください。

`DescribeServices`

次のコード例は、`DescribeServices` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    // Return a List that contains a Service name and Category name.
    public static List<String> displayServices(SupportClient supportClient) {
        try {
            DescribeServicesRequest servicesRequest =
DescribeServicesRequest.builder()
                    .language("en")
                    .build();

            DescribeServicesResponse response =
supportClient.describeServices(servicesRequest);
            String serviceCode = null;
```

```
            String catName = null;
            List<String> sevCatList = new ArrayList<>();
            List<Service> services = response.services();

            System.out.println("Get the first 10 services");
            int index = 1;
            for (Service service : services) {
                if (index == 11)
                    break;

                System.out.println("The Service name is: " + service.name());
                if (service.name().compareTo("Account") == 0)
                    serviceCode = service.code();

                // Get the Categories for this service.
                List<Category> categories = service.categories();
                for (Category cat : categories) {
                    System.out.println("The category name is: " + cat.name());
                    if (cat.name().compareTo("Security") == 0)
                        catName = cat.name();
                }
                index++;
            }

            // Push the two values to the list.
            sevCatList.add(serviceCode);
            sevCatList.add(catName);
            return sevCatList;

        } catch (SupportException e) {
            System.out.println(e.getLocalizedMessage());
            System.exit(1);
        }
        return null;
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeServices」を参照してください。

DescribeSeverityLevels

次のコード例は、DescribeSeverityLevels を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static String displaySevLevels(SupportClient supportClient) {
       try {
           DescribeSeverityLevelsRequest severityLevelsRequest =
DescribeSeverityLevelsRequest.builder()
                   .language("en")
                   .build();

           DescribeSeverityLevelsResponse response =
supportClient.describeSeverityLevels(severityLevelsRequest);
           List<SeverityLevel> severityLevels = response.severityLevels();
           String levelName = null;
           for (SeverityLevel sevLevel : severityLevels) {
               System.out.println("The severity level name is: " +
sevLevel.name());
               if (sevLevel.name().compareTo("High") == 0)
                   levelName = sevLevel.name();
           }
           return levelName;

       } catch (SupportException e) {
           System.out.println(e.getLocalizedMessage());
           System.exit(1);
       }
       return "";
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DescribeSeverityLevels」を参照してください。

`ResolveCase`

次のコード例は、`ResolveCase` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   public static void resolveSupportCase(SupportClient supportClient, String
caseId) {
       try {
           ResolveCaseRequest caseRequest = ResolveCaseRequest.builder()
                   .caseId(caseId)
                   .build();

           ResolveCaseResponse response = supportClient.resolveCase(caseRequest);
           System.out.println("The status of case " + caseId + " is " +
response.finalCaseStatus());

       } catch (SupportException e) {
           System.out.println(e.getLocalizedMessage());
           System.exit(1);
       }
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「ResolveCase」を参照してください。

SDK for Java 2.x を使用した Systems Manager の例

次のコード例は、Systems Manager AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- はじめに
- 基本
- アクション

はじめに

こんにちは、Systems Manager

次のコード例は、Systems Manager の使用を開始する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.ssm.SsmClient;
import software.amazon.awssdk.services.ssm.model.DocumentFilter;
import software.amazon.awssdk.services.ssm.model.ListDocumentsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ssm.model.ListDocumentsResponse;

public class HelloSSM {

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <awsAccount>

                Where:
                    awsAccount - Your AWS Account number.
                """;
```

```
        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String awsAccount = args[0] ;
        Region region = Region.US_EAST_1;
        SsmClient ssmClient = SsmClient.builder()
            .region(region)
            .build();

        listDocuments(ssmClient, awsAccount);
    }

    /*
    This code automatically fetches the next set of results using the `nextToken`
 and
    stops once the desired maxResults (20 in this case) have been reached.
    */
    public static void listDocuments(SsmClient ssmClient, String awsAccount) {
        String nextToken = null;
        int totalDocumentsReturned = 0;
        int maxResults = 20;
        do {
            ListDocumentsRequest request = ListDocumentsRequest.builder()
                .documentFilterList(
                    DocumentFilter.builder()
                        .key("Owner")
                        .value(awsAccount)
                        .build()
                    )
                .maxResults(maxResults)
                .nextToken(nextToken)
                .build();

            ListDocumentsResponse response = ssmClient.listDocuments(request);
            response.documentIdentifiers().forEach(identifier ->
 System.out.println("Document Name: " + identifier.name()));
            nextToken = response.nextToken();
            totalDocumentsReturned += response.documentIdentifiers().size();
        } while (nextToken != null && totalDocumentsReturned < maxResults);
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListDocuments」を参照してください。

基本

基本を学ぶ

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- メンテナンスウィンドウを作成します。
- メンテナンスウィンドウのスケジュールを変更します。
- ドキュメントを作成します。
- 指定された EC2 インスタンスにコマンドを送信します。
- 新しい OpsItem を作成します。
- OpsItem を更新して解決します。
- メンテナンスウィンドウ、OpsItem、ドキュメントを削除します。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.services.ssm.model.DocumentAlreadyExistsException;
import software.amazon.awssdk.services.ssm.model.SsmException;

import java.util.Map;
import java.util.Scanner;
public class SSMScenario {
    public static final String DASHES = new String(new char[80]).replace("\0", "-");
    private static final String ROLES_STACK = "SsmStack3`1";

    public static void main(String[] args) {
        String usage = """
```

```
            Usage:
              <title> <source> <category> <severity>

            Where:
                title - The title of the parameter (default is Disk Space Alert).
                source - The source of the parameter (default is EC2).
                category - The category of the parameter. Valid values are
'Availability', 'Cost', 'Performance', 'Recovery', 'Security' (default is
Performance).
                severity - The severity of the parameter. Severity should be a
number from 1 to 4 (default is 2).
        """;

        Scanner scanner = new Scanner(System.in);
        SSMActions actions = new SSMActions();
        String documentName;
        String windowName;

        System.out.println("Use AWS CloudFormation to create the EC2 instance that
is required for this scenario.");
        CloudFormationHelper.deployCloudFormationStack(ROLES_STACK);
        Map<String, String> stackOutputs =
CloudFormationHelper.getStackOutputsAsync(ROLES_STACK).join();
        String instanceId = stackOutputs.get("InstanceId");
        System.out.println("The Instance ID: " + instanceId +" was created.");
        String title = "Disk Space Alert" ;
        String source = "EC2" ;
        String category = "Availability" ;
        String severity = "2" ;

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("""
                Welcome to the AWS Systems Manager SDK Basics scenario.
                This Java program demonstrates how to interact with AWS Systems
Manager using the AWS SDK for Java (v2).
                AWS Systems Manager is the operations hub for your AWS applications
and resources and a secure end-to-end management solution.
                The program's primary functionalities include creating a maintenance
window, creating a document, sending a command to a document,
                listing documents, listing commands, creating an OpsItem, modifying
an OpsItem, and deleting AWS SSM resources.
                Upon completion of the program, all AWS resources are cleaned up.
                Let's get started...
```

```
                """);
        waitForInputToContinue(scanner);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println("1. Create an SSM maintenance window.");
        System.out.println("Please enter the maintenance window name (default is
ssm-maintenance-window):");
        String win = scanner.nextLine();
        windowName = win.isEmpty() ? "ssm-maintenance-window" : win;
        String winId = null;
        try {
            winId = actions.createMaintenanceWindow(windowName);
            waitForInputToContinue(scanner);
            System.out.println("The maintenance window ID is: " + winId);
        } catch (DocumentAlreadyExistsException e) {
            System.err.println("The SSM maintenance window already exists.
Retrieving existing window ID...");
            String existingWinId = actions.createMaintenanceWindow(windowName);
            System.out.println("Existing window ID: " + existingWinId);
        } catch (SsmException e) {
            System.err.println("SSM error: " + e.getMessage());
            return;
        } catch (RuntimeException e) {
            System.err.println("Unexpected error: " + e.getMessage());
            return;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println("2. Modify the maintenance window by changing the
schedule");
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            actions.updateSSMMaintenanceWindow(winId, windowName);
            waitForInputToContinue(scanner);
            System.out.println("The SSM maintenance window was successfully
updated");
        } catch (SsmException e) {
            System.err.println("SSM error: " + e.getMessage());
            return;
        } catch (RuntimeException e) {
            System.err.println("Unexpected error: " + e.getMessage());
            return;
        }
```

```
        waitForInputToContinue(scanner);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println("3. Create an SSM document that defines the actions that
Systems Manager performs on your managed nodes.");
        System.out.println("Please enter the document name (default is
ssmdocument):");
        String doc = scanner.nextLine();
        documentName = doc.isEmpty() ? "ssmdocument" : doc;
        try {
            actions.createSSMDoc(documentName);
            waitForInputToContinue(scanner);
            System.out.println("The SSM document was successfully created");
        } catch (DocumentAlreadyExistsException e) {
            System.err.println("The SSM document already exists. Moving on");
        } catch (SsmException e) {
            System.err.println("SSM error: " + e.getMessage());
            return;
        } catch (RuntimeException e) {
            System.err.println("Unexpected error: " + e.getMessage());
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println("4. Now we are going to run a command on an EC2
instance");
        waitForInputToContinue(scanner);
        String commandId="";
        try {
            commandId = actions.sendSSMCommand(documentName, instanceId);
            waitForInputToContinue(scanner);
            System.out.println("The command was successfully sent. Command ID: " +
commandId);
        } catch (SsmException e) {
            System.err.println("SSM error: " + e.getMessage());
        } catch (InterruptedException e) {
            System.err.println("Thread was interrupted: " + e.getMessage());
        } catch (RuntimeException e) {
            System.err.println("Unexpected error: " + e.getMessage());
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        System.out.println(DASHES);
```

```
        System.out.println("5. Lets get the time when the specific command was sent
to the specific managed node");
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            actions.displayCommands(commandId);
            System.out.println("The command invocations were successfully
displayed.");
        } catch (SsmException e) {
            System.err.println("SSM error: " + e.getMessage());
            return;
        } catch (RuntimeException e) {
            System.err.println("Unexpected error: " + e.getMessage());
            return;
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("""
             6. Now we will create an SSM OpsItem.
             A SSM OpsItem is a feature provided by Amazon's Systems Manager (SSM)
service.
             It is a type of operational data item that allows you to manage and
track various operational issues,
             events, or tasks within your AWS environment.

             You can create OpsItems to track and manage operational issues as they
arise.
             For example, you could create an OpsItem whenever your application
detects a critical error
             or an anomaly in your infrastructure.
            """);

        waitForInputToContinue(scanner);
        String opsItemId;
        try {
            opsItemId = actions.createSSMOpsItem(title, source, category, severity);
            System.out.println(opsItemId + " was created");
        } catch (SsmException e) {
            System.err.println("SSM error: " + e.getMessage());
            return;
        } catch (RuntimeException e) {
            System.err.println("Unexpected error: " + e.getMessage());
            return;
```

```
        }
        waitForInputToContinue(scanner);
        System.out.println(DASHES);

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("7. Now we will update the SSM OpsItem "+opsItemId);
        waitForInputToContinue(scanner);
        String description = "An update to "+opsItemId ;
        try {
            actions.updateOpsItem(opsItemId, title, description);
        } catch (SsmException e) {
            System.err.println("SSM error: " + e.getMessage());
            return;
        } catch (RuntimeException e) {
            System.err.println("Unexpected error: " + e.getMessage());
            return;
        }

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("8. Now we will get the status of the SSM OpsItem
"+opsItemId);
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            actions.describeOpsItems(opsItemId);
        } catch (SsmException e) {
            System.err.println("SSM error: " + e.getMessage());
            return;
        } catch (RuntimeException e) {
            System.err.println("Unexpected error: " + e.getMessage());
            return;
        }

        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("9. Now we will resolve the SSM OpsItem "+opsItemId);
        waitForInputToContinue(scanner);
        try {
            actions.resolveOpsItem(opsItemId);
        } catch (SsmException e) {
            System.err.println("SSM error: " + e.getMessage());
            return;
        } catch (RuntimeException e) {
            System.err.println("Unexpected error: " + e.getMessage());
            return;
        }
```

```
        System.out.println(DASHES);
        System.out.println("10. Would you like to delete the AWS Systems Manager
resources? (y/n)");
        String delAns = scanner.nextLine().trim();
        if (delAns.equalsIgnoreCase("y")) {
            System.out.println("You selected to delete the resources.");
            waitForInputToContinue(scanner);
            try {
                actions.deleteMaintenanceWindow(winId);
                actions.deleteDoc(documentName);
            } catch (SsmException e) {
                System.err.println("SSM error: " + e.getMessage());
                return;
            } catch (RuntimeException e) {
                System.err.println("Unexpected error: " + e.getMessage());
                return;
            }
        } else {
            System.out.println("The AWS Systems Manager resources will not be
deleted");
        }
        System.out.println(DASHES);
        CloudFormationHelper.destroyCloudFormationStack(ROLES_STACK);
        System.out.println("This concludes the AWS Systems Manager SDK Basics
scenario.");
        System.out.println(DASHES);
    }

    private static void waitForInputToContinue(Scanner scanner) {
        while (true) {
            System.out.println("");
            System.out.println("Enter 'c' followed by <ENTER> to continue:");
            String input = scanner.nextLine();

            if (input.trim().equalsIgnoreCase("c")) {
                System.out.println("Continuing with the program...");
                System.out.println("");
                break;
            } else {
                // Handle invalid input.
                System.out.println("Invalid input. Please try again.");
            }
        }
```

```
    }
}
```

Systems Manager SDK メソッドのラッパークラス。

```
public class SSMActions {

    private static SsmAsyncClient ssmAsyncClient;

    private static SsmAsyncClient getAsyncClient() {
        if (ssmAsyncClient == null) {
            SdkAsyncHttpClient httpClient = NettyNioAsyncHttpClient.builder()
                    .maxConcurrency(100)
                    .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                    .readTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                    .writeTimeout(Duration.ofSeconds(60))
                    .build();

            ClientOverrideConfiguration overrideConfig =
 ClientOverrideConfiguration.builder()
                    .apiCallTimeout(Duration.ofMinutes(2))
                    .apiCallAttemptTimeout(Duration.ofSeconds(90))
                    .retryPolicy(RetryPolicy.builder()
                            .numRetries(3)
                            .build())
                    .build();

            ssmAsyncClient = SsmAsyncClient.builder()
                    .region(Region.US_WEST_2)
                    .httpClient(httpClient)
                    .overrideConfiguration(overrideConfig)
                    .build();
        }
        return ssmAsyncClient;
    }

    /**
     * Deletes an AWS SSM document asynchronously.
     *
     * @param documentName The name of the document to delete.
     * <p>
     * This method initiates an asynchronous request to delete an SSM document.
```

```
    * If an exception occurs, it handles the error appropriately.
    */
   public void deleteDoc(String documentName) {
       DeleteDocumentRequest documentRequest = DeleteDocumentRequest.builder()
               .name(documentName)
               .build();

       CompletableFuture<Void> future = CompletableFuture.runAsync(() -> {
           getAsyncClient().deleteDocument(documentRequest)
                   .thenAccept(response -> {
                       System.out.println("The SSM document was successfully
deleted.");
                   })
                   .exceptionally(ex -> {
                       throw new CompletionException(ex);
                   }).join();
       }).exceptionally(ex -> {
           Throwable cause = (ex instanceof CompletionException) ? ex.getCause() :
ex;
           if (cause instanceof SsmException) {
               throw new RuntimeException("SSM error: " + cause.getMessage(),
cause);
           } else {
               throw new RuntimeException("Unexpected error: " +
cause.getMessage(), cause);
           }
       });

       try {
           future.join();
       } catch (CompletionException ex) {
           throw ex.getCause() instanceof RuntimeException ? (RuntimeException)
ex.getCause() : ex;
       }
   }

   /**
    * Deletes an AWS SSM Maintenance Window asynchronously.
    *
    * @param winId The ID of the Maintenance Window to delete.
    * <p>
    * This method initiates an asynchronous request to delete an SSM Maintenance
Window.
    * If an exception occurs, it handles the error appropriately.
```

```
     */
    public void deleteMaintenanceWindow(String winId) {
        DeleteMaintenanceWindowRequest windowRequest =
DeleteMaintenanceWindowRequest.builder()
                .windowId(winId)
                .build();

        CompletableFuture<Void> future = CompletableFuture.runAsync(() -> {
            getAsyncClient().deleteMaintenanceWindow(windowRequest)
                    .thenAccept(response -> {
                        System.out.println("The maintenance window was successfully
deleted.");
                    })
                    .exceptionally(ex -> {
                        throw new CompletionException(ex);
                    }).join();
        }).exceptionally(ex -> {
            Throwable cause = (ex instanceof CompletionException) ? ex.getCause() :
ex;
            if (cause instanceof SsmException) {
                throw new RuntimeException("SSM error: " + cause.getMessage(),
cause);
            } else {
                throw new RuntimeException("Unexpected error: " +
cause.getMessage(), cause);
            }
        });

        try {
            future.join();
        } catch (CompletionException ex) {
            throw ex.getCause() instanceof RuntimeException ? (RuntimeException)
ex.getCause() : ex;
        }
    }

    /**
     * Resolves an AWS SSM OpsItem asynchronously.
     *
     * @param opsID The ID of the OpsItem to resolve.
     * <p>
     * This method initiates an asynchronous request to resolve an SSM OpsItem.
     * If an exception occurs, it handles the error appropriately.
     */
```

```
    public void resolveOpsItem(String opsID) {
        UpdateOpsItemRequest opsItemRequest = UpdateOpsItemRequest.builder()
                .opsItemId(opsID)
                .status(OpsItemStatus.RESOLVED)
                .build();

        CompletableFuture<Void> future = CompletableFuture.runAsync(() -> {
            getAsyncClient().updateOpsItem(opsItemRequest)
                    .thenAccept(response -> {
                        System.out.println("OpsItem resolved successfully.");
                    })
                    .exceptionally(ex -> {
                        throw new CompletionException(ex);
                    }).join();
        }).exceptionally(ex -> {
            Throwable cause = (ex instanceof CompletionException) ? ex.getCause() :
ex;
            if (cause instanceof SsmException) {
                throw new RuntimeException("SSM error: " + cause.getMessage(),
cause);
            } else {
                throw new RuntimeException("Unexpected error: " +
cause.getMessage(), cause);
            }
        });

        try {
            future.join();
        } catch (CompletionException ex) {
            throw ex.getCause() instanceof RuntimeException ? (RuntimeException)
ex.getCause() : ex;
        }
    }

    /**
     * Describes AWS SSM OpsItems asynchronously.
     *
     * @param key The key to filter OpsItems by (e.g., OPS_ITEM_ID).
     *
     * This method initiates an asynchronous request to describe SSM OpsItems.
     * If the request is successful, it prints the title and status of each OpsItem.
     * If an exception occurs, it handles the error appropriately.
     */
    public void describeOpsItems(String key) {
```

```
        OpsItemFilter filter = OpsItemFilter.builder()
                .key(OpsItemFilterKey.OPS_ITEM_ID)
                .values(key)
                .operator(OpsItemFilterOperator.EQUAL)
                .build();

        DescribeOpsItemsRequest itemsRequest = DescribeOpsItemsRequest.builder()
                .maxResults(10)
                .opsItemFilters(filter)
                .build();

        CompletableFuture<Void> future = CompletableFuture.runAsync(() -> {
            getAsyncClient().describeOpsItems(itemsRequest)
                    .thenAccept(itemsResponse -> {
                        List<OpsItemSummary> items =
itemsResponse.opsItemSummaries();
                        for (OpsItemSummary item : items) {
                            System.out.println("The item title is " + item.title() +
" and the status is " + item.status().toString());
                        }
                    })
                    .exceptionally(ex -> {
                        throw new CompletionException(ex);
                    }).join();
        }).exceptionally(ex -> {
            Throwable cause = (ex instanceof CompletionException) ? ex.getCause() :
ex;
            if (cause instanceof SsmException) {
                throw new RuntimeException("SSM error: " + cause.getMessage(),
cause);
            } else {
                throw new RuntimeException("Unexpected error: " +
cause.getMessage(), cause);
            }
        });

        try {
            future.join();
        } catch (CompletionException ex) {
            throw ex.getCause() instanceof RuntimeException ? (RuntimeException)
ex.getCause() : ex;
        }
    }
```

```
    /**
     * Updates the AWS SSM OpsItem asynchronously.
     *
     * @param opsItemId The ID of the OpsItem to update.
     * @param title The new title of the OpsItem.
     * @param description The new description of the OpsItem.
     * <p>
     * This method initiates an asynchronous request to update an SSM OpsItem.
     * If the request is successful, it completes without returning a value.
     * If an exception occurs, it handles the error appropriately.
     */
    public void updateOpsItem(String opsItemId, String title, String description) {
        Map<String, OpsItemDataValue> operationalData = new HashMap<>();
        operationalData.put("key1",
 OpsItemDataValue.builder().value("value1").build());
        operationalData.put("key2",
 OpsItemDataValue.builder().value("value2").build());

        CompletableFuture<Void> future = getOpsItem(opsItemId).thenCompose(opsItem -
> {
            UpdateOpsItemRequest request = UpdateOpsItemRequest.builder()
                    .opsItemId(opsItemId)
                    .title(title)
                    .operationalData(operationalData)
                    .status(opsItem.statusAsString())
                    .description(description)
                    .build();

            return getAsyncClient().updateOpsItem(request).thenAccept(response -> {
                System.out.println(opsItemId + " updated successfully.");
            }).exceptionally(ex -> {
                throw new CompletionException(ex);
            });
        }).exceptionally(ex -> {
            Throwable cause = (ex instanceof CompletionException) ? ex.getCause() :
 ex;
            if (cause instanceof SsmException) {
                throw new RuntimeException("SSM error: " + cause.getMessage(),
 cause);
            } else {
                throw new RuntimeException("Unexpected error: " +
 cause.getMessage(), cause);
            }
        });
```

```
        try {
            future.join();
        } catch (CompletionException ex) {
            throw ex.getCause() instanceof RuntimeException ? (RuntimeException)
ex.getCause() : ex;
        }
    }


    private static CompletableFuture<OpsItem> getOpsItem(String opsItemId) {
        GetOpsItemRequest request =
GetOpsItemRequest.builder().opsItemId(opsItemId).build();
        return
getAsyncClient().getOpsItem(request).thenApply(GetOpsItemResponse::opsItem);
    }

    /**
     * Creates an SSM OpsItem asynchronously.
     *
     * @param title The title of the OpsItem.
     * @param source The source of the OpsItem.
     * @param category The category of the OpsItem.
     * @param severity The severity of the OpsItem.
     * @return The ID of the created OpsItem.
     * <p>
     * This method initiates an asynchronous request to create an SSM OpsItem.
     * If the request is successful, it returns the OpsItem ID.
     * If an exception occurs, it handles the error appropriately.
     */
    public String createSSMOpsItem(String title, String source, String category,
String severity) {
        CreateOpsItemRequest opsItemRequest = CreateOpsItemRequest.builder()
                .description("Created by the SSM Java API")
                .title(title)
                .source(source)
                .category(category)
                .severity(severity)
                .build();

        CompletableFuture<CreateOpsItemResponse> future =
getAsyncClient().createOpsItem(opsItemRequest);

        try {
```

```
            CreateOpsItemResponse response = future.join();
            return response.opsItemId();
        } catch (CompletionException e) {
            Throwable cause = e.getCause();
            if (cause instanceof SsmException) {
                throw (SsmException) cause;
            } else {
                throw new RuntimeException(cause);
            }
        }
    }

    /**
     * Displays the date and time when the specific command was invoked.
     *
     * @param commandId The ID of the command to describe.
     * <p>
     * This method initiates an asynchronous request to list command invocations and
prints the date and time of each command invocation.
     * If an exception occurs, it handles the error appropriately.
     */
    public void displayCommands(String commandId) {
        ListCommandInvocationsRequest commandInvocationsRequest =
ListCommandInvocationsRequest.builder()
                .commandId(commandId)
                .build();

        CompletableFuture<ListCommandInvocationsResponse> future =
getAsyncClient().listCommandInvocations(commandInvocationsRequest);
        future.thenAccept(response -> {
            List<CommandInvocation> commandList = response.commandInvocations();
            DateTimeFormatter formatter = DateTimeFormatter.ofPattern("yyyy-MM-dd
HH:mm:ss").withZone(ZoneId.systemDefault());
            for (CommandInvocation invocation : commandList) {
                System.out.println("The time of the command invocation is " +
formatter.format(invocation.requestedDateTime()));
            }
        }).exceptionally(ex -> {
            Throwable cause = (ex instanceof CompletionException) ? ex.getCause() :
ex;
            if (cause instanceof SsmException) {
                throw (SsmException) cause;
            } else {
                throw new RuntimeException(cause);
```

```
            }
        }).join();
    }

    /**
     * Sends a SSM command to a managed node asynchronously.
     *
     * @param documentName The name of the document to use.
     * @param instanceId The ID of the instance to send the command to.
     * @return The command ID.
     * <p>
     * This method initiates asynchronous requests to send a SSM command to a
managed node.
     * It waits until the document is active, sends the command, and checks the
command execution status.
     */
    public String sendSSMCommand(String documentName, String instanceId) throws
InterruptedException, SsmException {
        // Before we use Document to send a command - make sure it is active.
        CompletableFuture<Void> documentActiveFuture = CompletableFuture.runAsync(()
-> {
            boolean isDocumentActive = false;
            DescribeDocumentRequest request = DescribeDocumentRequest.builder()
                    .name(documentName)
                    .build();

            while (!isDocumentActive) {
                CompletableFuture<DescribeDocumentResponse> response =
getAsyncClient().describeDocument(request);
                String documentStatus = response.join().document().statusAsString();
                if (documentStatus.equals("Active")) {
                    System.out.println("The SSM document is active and ready to
use.");
                    isDocumentActive = true;
                } else {
                    System.out.println("The SSM document is not active. Status: " +
documentStatus);
                    try {
                        Thread.sleep(5000);
                    } catch (InterruptedException e) {
                        throw new RuntimeException(e);
                    }
                }
            }
```

```
        });

        documentActiveFuture.join();

        // Create the SendCommandRequest.
        SendCommandRequest commandRequest = SendCommandRequest.builder()
                .documentName(documentName)
                .instanceIds(instanceId)
                .build();

        // Send the command.
        CompletableFuture<SendCommandResponse> commandFuture =
getAsyncClient().sendCommand(commandRequest);
        final String[] commandId = {null};

        commandFuture.whenComplete((commandResponse, ex) -> {
            if (commandResponse != null) {
                commandId[0] = commandResponse.command().commandId();
                System.out.println("Command ID: " + commandId[0]);

                // Wait for the command execution to complete.
                GetCommandInvocationRequest invocationRequest =
GetCommandInvocationRequest.builder()
                        .commandId(commandId[0])
                        .instanceId(instanceId)
                        .build();

                try {
                    System.out.println("Wait 5 secs");
                    TimeUnit.SECONDS.sleep(5);

                    // Retrieve the command execution details.
                    CompletableFuture<GetCommandInvocationResponse> invocationFuture
= getAsyncClient().getCommandInvocation(invocationRequest);
                    invocationFuture.whenComplete((commandInvocationResponse,
invocationEx) -> {
                        if (commandInvocationResponse != null) {
                            // Check the status of the command execution.
                            CommandInvocationStatus status =
commandInvocationResponse.status();
                            if (status == CommandInvocationStatus.SUCCESS) {
                                System.out.println("Command execution successful");
                            } else {
```

```
                                System.out.println("Command execution failed.
Status: " + status);
                            }
                        } else {
                            Throwable invocationCause = (invocationEx instanceof
CompletionException) ? invocationEx.getCause() : invocationEx;
                            throw new CompletionException(invocationCause);
                        }
                    }).join();
                } catch (InterruptedException e) {
                    throw new RuntimeException(e);
                }
            } else {
                Throwable cause = (ex instanceof CompletionException) ?
ex.getCause() : ex;
                if (cause instanceof SsmException) {
                    throw (SsmException) cause;
                } else {
                    throw new RuntimeException(cause);
                }
            }
        }).join();

        return commandId[0];
    }

    /**
     * Creates an AWS SSM document asynchronously.
     *
     * @param docName The name of the document to create.
     * <p>
     * This method initiates an asynchronous request to create an SSM document.
     * If the request is successful, it prints the document status.
     * If an exception occurs, it handles the error appropriately.
     */
    public void createSSMDoc(String docName) throws SsmException {
        String jsonData = """
        {
        "schemaVersion": "2.2",
        "description": "Run a simple shell command",
        "mainSteps": [
            {
                "action": "aws:runShellScript",
                "name": "runEchoCommand",
```

```
                "inputs": {
                  "runCommand": [
                    "echo 'Hello, world!'"
                  ]
                }
              }
            ]
        }
        """;

        CreateDocumentRequest request = CreateDocumentRequest.builder()
                .content(jsonData)
                .name(docName)
                .documentType(DocumentType.COMMAND)
                .build();

        CompletableFuture<CreateDocumentResponse> future =
getAsyncClient().createDocument(request);
        future.thenAccept(response -> {
            System.out.println("The status of the SSM document is " +
response.documentDescription().status());
        }).exceptionally(ex -> {
            Throwable cause = (ex instanceof CompletionException) ? ex.getCause() :
ex;
            if (cause instanceof DocumentAlreadyExistsException) {
                throw new CompletionException(cause);
            } else if (cause instanceof SsmException) {
                throw new CompletionException(cause);
            } else {
                throw new RuntimeException(cause);
            }
        }).join();
    }

    /**
     * Updates an SSM maintenance window asynchronously.
     *
     * @param id The ID of the maintenance window to update.
     * @param name The new name for the maintenance window.
     * <p>
     * This method initiates an asynchronous request to update an SSM maintenance
window.
     * If the request is successful, it prints a success message.
     * If an exception occurs, it handles the error appropriately.
```

```
     */
    public void updateSSMMaintenanceWindow(String id, String name) throws
SsmException {
        UpdateMaintenanceWindowRequest updateRequest =
UpdateMaintenanceWindowRequest.builder()
                .windowId(id)
                .allowUnassociatedTargets(true)
                .duration(24)
                .enabled(true)
                .name(name)
                .schedule("cron(0 0 ? * MON *)")
                .build();

        CompletableFuture<UpdateMaintenanceWindowResponse> future =
getAsyncClient().updateMaintenanceWindow(updateRequest);
        future.whenComplete((response, ex) -> {
            if (response != null) {
                System.out.println("The SSM maintenance window was successfully
updated");
            } else {
                Throwable cause = (ex instanceof CompletionException) ?
ex.getCause() : ex;
                if (cause instanceof SsmException) {
                    throw new CompletionException(cause);
                } else {
                    throw new RuntimeException(cause);
                }
            }
        }).join();
    }

    /**
     * Creates an SSM maintenance window asynchronously.
     *
     * @param winName The name of the maintenance window.
     * @return The ID of the created or existing maintenance window.
     * <p>
     * This method initiates an asynchronous request to create an SSM maintenance
window.
     * If the request is successful, it prints the maintenance window ID.
     * If an exception occurs, it handles the error appropriately.
     */
    public String createMaintenanceWindow(String winName) throws SsmException,
DocumentAlreadyExistsException {
```

```
        CreateMaintenanceWindowRequest request =
CreateMaintenanceWindowRequest.builder()
                .name(winName)
                .description("This is my maintenance window")
                .allowUnassociatedTargets(true)
                .duration(2)
                .cutoff(1)
                .schedule("cron(0 10 ? * MON-FRI *)")
                .build();

        CompletableFuture<CreateMaintenanceWindowResponse> future =
getAsyncClient().createMaintenanceWindow(request);
        final String[] windowId = {null};
        future.whenComplete((response, ex) -> {
            if (response != null) {
                String maintenanceWindowId = response.windowId();
                System.out.println("The maintenance window id is " +
maintenanceWindowId);
                windowId[0] = maintenanceWindowId;
            } else {
                Throwable cause = (ex instanceof CompletionException) ?
ex.getCause() : ex;
                if (cause instanceof DocumentAlreadyExistsException) {
                    throw new CompletionException(cause);
                } else if (cause instanceof SsmException) {
                    throw new CompletionException(cause);
                } else {
                    throw new RuntimeException(cause);
                }
            }
        }).join();

        if (windowId[0] == null) {
            MaintenanceWindowFilter filter = MaintenanceWindowFilter.builder()
                    .key("name")
                    .values(winName)
                    .build();

            DescribeMaintenanceWindowsRequest winRequest =
DescribeMaintenanceWindowsRequest.builder()
                    .filters(filter)
                    .build();
```

```
            CompletableFuture<DescribeMaintenanceWindowsResponse> describeFuture =
 getAsyncClient().describeMaintenanceWindows(winRequest);
            describeFuture.whenComplete((describeResponse, describeEx) -> {
                if (describeResponse != null) {
                    List<MaintenanceWindowIdentity> windows =
 describeResponse.windowIdentities();
                    if (!windows.isEmpty()) {
                        windowId[0] = windows.get(0).windowId();
                        System.out.println("Window ID: " + windowId[0]);
                    } else {
                        System.out.println("Window not found.");
                        windowId[0] = "";
                    }
                } else {
                    Throwable describeCause = (describeEx instanceof
 CompletionException) ? describeEx.getCause() : describeEx;
                    throw new RuntimeException("Error describing maintenance
 windows: " + describeCause.getMessage(), describeCause);
                }
            }).join();
        }

        return windowId[0];
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - CreateDocument
  - CreateMaintenanceWindow
  - CreateOpsItem
  - DeleteMaintenanceWindow
  - ListCommandInvocations
  - SendCommand
  - UpdateOpsItem

アクション

`CreateDocument`

次のコード例は、`CreateDocument` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
/**
 * Creates an AWS SSM document asynchronously.
 *
 * @param docName The name of the document to create.
 * <p>
 * This method initiates an asynchronous request to create an SSM document.
 * If the request is successful, it prints the document status.
 * If an exception occurs, it handles the error appropriately.
 */
public void createSSMDoc(String docName) throws SsmException {
    String jsonData = """
    {
    "schemaVersion": "2.2",
    "description": "Run a simple shell command",
    "mainSteps": [
        {
            "action": "aws:runShellScript",
            "name": "runEchoCommand",
            "inputs": {
              "runCommand": [
                "echo 'Hello, world!'"
              ]
            }
          }
        ]
    }
    """;
```

```
        CreateDocumentRequest request = CreateDocumentRequest.builder()
                .content(jsonData)
                .name(docName)
                .documentType(DocumentType.COMMAND)
                .build();

        CompletableFuture<CreateDocumentResponse> future =
getAsyncClient().createDocument(request);
        future.thenAccept(response -> {
            System.out.println("The status of the SSM document is " +
response.documentDescription().status());
        }).exceptionally(ex -> {
            Throwable cause = (ex instanceof CompletionException) ? ex.getCause() :
ex;
            if (cause instanceof DocumentAlreadyExistsException) {
                throw new CompletionException(cause);
            } else if (cause instanceof SsmException) {
                throw new CompletionException(cause);
            } else {
                throw new RuntimeException(cause);
            }
        }).join();
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateDocument」を参照してください。

`CreateMaintenanceWindow`

次のコード例は、`CreateMaintenanceWindow` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
```

```
    * Creates an SSM maintenance window asynchronously.
    *
    * @param winName The name of the maintenance window.
    * @return The ID of the created or existing maintenance window.
    * <p>
    * This method initiates an asynchronous request to create an SSM maintenance
window.
    * If the request is successful, it prints the maintenance window ID.
    * If an exception occurs, it handles the error appropriately.
    */
   public String createMaintenanceWindow(String winName) throws SsmException,
DocumentAlreadyExistsException {
       CreateMaintenanceWindowRequest request =
CreateMaintenanceWindowRequest.builder()
               .name(winName)
               .description("This is my maintenance window")
               .allowUnassociatedTargets(true)
               .duration(2)
               .cutoff(1)
               .schedule("cron(0 10 ? * MON-FRI *)")
               .build();

       CompletableFuture<CreateMaintenanceWindowResponse> future =
getAsyncClient().createMaintenanceWindow(request);
       final String[] windowId = {null};
       future.whenComplete((response, ex) -> {
           if (response != null) {
               String maintenanceWindowId = response.windowId();
               System.out.println("The maintenance window id is " +
maintenanceWindowId);
               windowId[0] = maintenanceWindowId;
           } else {
               Throwable cause = (ex instanceof CompletionException) ?
ex.getCause() : ex;
               if (cause instanceof DocumentAlreadyExistsException) {
                   throw new CompletionException(cause);
               } else if (cause instanceof SsmException) {
                   throw new CompletionException(cause);
               } else {
                   throw new RuntimeException(cause);
               }
           }
       }).join();
```

```
        if (windowId[0] == null) {
            MaintenanceWindowFilter filter = MaintenanceWindowFilter.builder()
                    .key("name")
                    .values(winName)
                    .build();

            DescribeMaintenanceWindowsRequest winRequest =
DescribeMaintenanceWindowsRequest.builder()
                    .filters(filter)
                    .build();

            CompletableFuture<DescribeMaintenanceWindowsResponse> describeFuture =
getAsyncClient().describeMaintenanceWindows(winRequest);
            describeFuture.whenComplete((describeResponse, describeEx) -> {
                if (describeResponse != null) {
                    List<MaintenanceWindowIdentity> windows =
describeResponse.windowIdentities();
                    if (!windows.isEmpty()) {
                        windowId[0] = windows.get(0).windowId();
                        System.out.println("Window ID: " + windowId[0]);
                    } else {
                        System.out.println("Window not found.");
                        windowId[0] = "";
                    }
                } else {
                    Throwable describeCause = (describeEx instanceof
CompletionException) ? describeEx.getCause() : describeEx;
                    throw new RuntimeException("Error describing maintenance
windows: " + describeCause.getMessage(), describeCause);
                }
            }).join();
        }

        return windowId[0];
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateMaintenanceWindow」を参照してください。

`CreateOpsItem`

次のコード例は、`CreateOpsItem` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Creates an SSM OpsItem asynchronously.
    *
    * @param title The title of the OpsItem.
    * @param source The source of the OpsItem.
    * @param category The category of the OpsItem.
    * @param severity The severity of the OpsItem.
    * @return The ID of the created OpsItem.
    * <p>
    * This method initiates an asynchronous request to create an SSM OpsItem.
    * If the request is successful, it returns the OpsItem ID.
    * If an exception occurs, it handles the error appropriately.
    */
   public String createSSMOpsItem(String title, String source, String category,
String severity) {
       CreateOpsItemRequest opsItemRequest = CreateOpsItemRequest.builder()
               .description("Created by the SSM Java API")
               .title(title)
               .source(source)
               .category(category)
               .severity(severity)
               .build();

       CompletableFuture<CreateOpsItemResponse> future =
getAsyncClient().createOpsItem(opsItemRequest);

       try {
           CreateOpsItemResponse response = future.join();
           return response.opsItemId();
       } catch (CompletionException e) {
           Throwable cause = e.getCause();
           if (cause instanceof SsmException) {
               throw (SsmException) cause;
           } else {
```

```
                throw new RuntimeException(cause);
            }
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「CreateOpsItem」を参照してください。

`DeleteDocument`

次のコード例は、`DeleteDocument` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Deletes an AWS SSM document asynchronously.
     *
     * @param documentName The name of the document to delete.
     * <p>
     * This method initiates an asynchronous request to delete an SSM document.
     * If an exception occurs, it handles the error appropriately.
     */
    public void deleteDoc(String documentName) {
        DeleteDocumentRequest documentRequest = DeleteDocumentRequest.builder()
                .name(documentName)
                .build();

        CompletableFuture<Void> future = CompletableFuture.runAsync(() -> {
            getAsyncClient().deleteDocument(documentRequest)
                    .thenAccept(response -> {
                        System.out.println("The SSM document was successfully
deleted.");
                    })
                    .exceptionally(ex -> {
```

```
                        throw new CompletionException(ex);
                    }).join();
        }).exceptionally(ex -> {
            Throwable cause = (ex instanceof CompletionException) ? ex.getCause() :
ex;
            if (cause instanceof SsmException) {
                throw new RuntimeException("SSM error: " + cause.getMessage(),
cause);
            } else {
                throw new RuntimeException("Unexpected error: " +
cause.getMessage(), cause);
            }
        });

        try {
            future.join();
        } catch (CompletionException ex) {
            throw ex.getCause() instanceof RuntimeException ? (RuntimeException)
ex.getCause() : ex;
        }
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteDocument」を参照してください。

`DeleteMaintenanceWindow`

次のコード例は、`DeleteMaintenanceWindow` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Deletes an AWS SSM Maintenance Window asynchronously.
     *
```

```
    * @param winId The ID of the Maintenance Window to delete.
    * <p>
    * This method initiates an asynchronous request to delete an SSM Maintenance
Window.
    * If an exception occurs, it handles the error appropriately.
    */
   public void deleteMaintenanceWindow(String winId) {
       DeleteMaintenanceWindowRequest windowRequest =
DeleteMaintenanceWindowRequest.builder()
               .windowId(winId)
               .build();

       CompletableFuture<Void> future = CompletableFuture.runAsync(() -> {
           getAsyncClient().deleteMaintenanceWindow(windowRequest)
                   .thenAccept(response -> {
                       System.out.println("The maintenance window was successfully
deleted.");
                   })
                   .exceptionally(ex -> {
                       throw new CompletionException(ex);
                   }).join();
       }).exceptionally(ex -> {
           Throwable cause = (ex instanceof CompletionException) ? ex.getCause() :
ex;
           if (cause instanceof SsmException) {
               throw new RuntimeException("SSM error: " + cause.getMessage(),
cause);
           } else {
               throw new RuntimeException("Unexpected error: " +
cause.getMessage(), cause);
           }
       });

       try {
           future.join();
       } catch (CompletionException ex) {
           throw ex.getCause() instanceof RuntimeException ? (RuntimeException)
ex.getCause() : ex;
       }
   }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「DeleteMaintenanceWindow」を参照してください。

`DescribeOpsItems`

次のコード例は、`DescribeOpsItems` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Describes AWS SSM OpsItems asynchronously.
     *
     * @param key The key to filter OpsItems by (e.g., OPS_ITEM_ID).
     *
     * This method initiates an asynchronous request to describe SSM OpsItems.
     * If the request is successful, it prints the title and status of each OpsItem.
     * If an exception occurs, it handles the error appropriately.
     */
    public void describeOpsItems(String key) {
        OpsItemFilter filter = OpsItemFilter.builder()
                .key(OpsItemFilterKey.OPS_ITEM_ID)
                .values(key)
                .operator(OpsItemFilterOperator.EQUAL)
                .build();

        DescribeOpsItemsRequest itemsRequest = DescribeOpsItemsRequest.builder()
                .maxResults(10)
                .opsItemFilters(filter)
                .build();

        CompletableFuture<Void> future = CompletableFuture.runAsync(() -> {
            getAsyncClient().describeOpsItems(itemsRequest)
                    .thenAccept(itemsResponse -> {
                        List<OpsItemSummary> items =
itemsResponse.opsItemSummaries();
                        for (OpsItemSummary item : items) {
```

```
                            System.out.println("The item title is " + item.title() +
" and the status is " + item.status().toString());
                        }
                    })
                    .exceptionally(ex -> {
                        throw new CompletionException(ex);
                    }).join();
        }).exceptionally(ex -> {
            Throwable cause = (ex instanceof CompletionException) ? ex.getCause() :
ex;
            if (cause instanceof SsmException) {
                throw new RuntimeException("SSM error: " + cause.getMessage(),
cause);
            } else {
                throw new RuntimeException("Unexpected error: " +
cause.getMessage(), cause);
            }
        });

        try {
            future.join();
        } catch (CompletionException ex) {
            throw ex.getCause() instanceof RuntimeException ? (RuntimeException)
ex.getCause() : ex;
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeOpsItems」を参照してください。

`DescribeParameters`

次のコード例は、`DescribeParameters` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.ssm.SsmClient;
import software.amazon.awssdk.services.ssm.model.GetParameterRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ssm.model.GetParameterResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ssm.model.SsmException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class GetParameter {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <paraName>

                Where:
                    paraName - The name of the parameter.
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String paraName = args[0];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        SsmClient ssmClient = SsmClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        getParaValue(ssmClient, paraName);
        ssmClient.close();
    }

    public static void getParaValue(SsmClient ssmClient, String paraName) {
        try {
            GetParameterRequest parameterRequest = GetParameterRequest.builder()
```

```
                    .name(paraName)
                    .build();

            GetParameterResponse parameterResponse =
 ssmClient.getParameter(parameterRequest);
            System.out.println("The parameter value is " +
 parameterResponse.parameter().value());

        } catch (SsmException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DescribeParameters」を参照してください。

`PutParameter`

次のコード例は、`PutParameter` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.ssm.SsmClient;
import software.amazon.awssdk.services.ssm.model.ParameterType;
import software.amazon.awssdk.services.ssm.model.PutParameterRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ssm.model.SsmException;

public class PutParameter {

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """
```

```
                Usage:
                    <paraName>

                Where:
                    paraName - The name of the parameter.
                    paraValue - The value of the parameter.
                """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String paraName = args[0];
        String paraValue = args[1];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        SsmClient ssmClient = SsmClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        putParaValue(ssmClient, paraName, paraValue);
        ssmClient.close();
    }

    public static void putParaValue(SsmClient ssmClient, String paraName, String
 value) {
        try {
            PutParameterRequest parameterRequest = PutParameterRequest.builder()
                    .name(paraName)
                    .type(ParameterType.STRING)
                    .value(value)
                    .build();

            ssmClient.putParameter(parameterRequest);
            System.out.println("The parameter was successfully added.");

        } catch (SsmException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「PutParameter」を参照してください。

SendCommand

次のコード例は、SendCommand を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Sends a SSM command to a managed node asynchronously.
    *
    * @param documentName The name of the document to use.
    * @param instanceId The ID of the instance to send the command to.
    * @return The command ID.
    * <p>
    * This method initiates asynchronous requests to send a SSM command to a
managed node.
    * It waits until the document is active, sends the command, and checks the
command execution status.
    */
   public String sendSSMCommand(String documentName, String instanceId) throws
InterruptedException, SsmException {
       // Before we use Document to send a command - make sure it is active.
       CompletableFuture<Void> documentActiveFuture = CompletableFuture.runAsync(()
-> {
           boolean isDocumentActive = false;
           DescribeDocumentRequest request = DescribeDocumentRequest.builder()
                   .name(documentName)
                   .build();

           while (!isDocumentActive) {
```

```
                CompletableFuture<DescribeDocumentResponse> response =
getAsyncClient().describeDocument(request);
                String documentStatus = response.join().document().statusAsString();
                if (documentStatus.equals("Active")) {
                    System.out.println("The SSM document is active and ready to
use.");
                    isDocumentActive = true;
                } else {
                    System.out.println("The SSM document is not active. Status: " +
documentStatus);
                    try {
                        Thread.sleep(5000);
                    } catch (InterruptedException e) {
                        throw new RuntimeException(e);
                    }
                }
            }
        });

        documentActiveFuture.join();

        // Create the SendCommandRequest.
        SendCommandRequest commandRequest = SendCommandRequest.builder()
                .documentName(documentName)
                .instanceIds(instanceId)
                .build();

        // Send the command.
        CompletableFuture<SendCommandResponse> commandFuture =
getAsyncClient().sendCommand(commandRequest);
        final String[] commandId = {null};

        commandFuture.whenComplete((commandResponse, ex) -> {
            if (commandResponse != null) {
                commandId[0] = commandResponse.command().commandId();
                System.out.println("Command ID: " + commandId[0]);

                // Wait for the command execution to complete.
                GetCommandInvocationRequest invocationRequest =
GetCommandInvocationRequest.builder()
                        .commandId(commandId[0])
                        .instanceId(instanceId)
                        .build();
```

```
                try {
                    System.out.println("Wait 5 secs");
                    TimeUnit.SECONDS.sleep(5);

                    // Retrieve the command execution details.
                    CompletableFuture<GetCommandInvocationResponse> invocationFuture
= getAsyncClient().getCommandInvocation(invocationRequest);
                    invocationFuture.whenComplete((commandInvocationResponse,
invocationEx) -> {
                        if (commandInvocationResponse != null) {
                            // Check the status of the command execution.
                            CommandInvocationStatus status =
commandInvocationResponse.status();
                            if (status == CommandInvocationStatus.SUCCESS) {
                                System.out.println("Command execution successful");
                            } else {
                                System.out.println("Command execution failed.
Status: " + status);
                            }
                        } else {
                            Throwable invocationCause = (invocationEx instanceof
CompletionException) ? invocationEx.getCause() : invocationEx;
                            throw new CompletionException(invocationCause);
                        }
                    }).join();
                } catch (InterruptedException e) {
                    throw new RuntimeException(e);
                }
            } else {
                Throwable cause = (ex instanceof CompletionException) ?
ex.getCause() : ex;
                if (cause instanceof SsmException) {
                    throw (SsmException) cause;
                } else {
                    throw new RuntimeException(cause);
                }
            }
        }).join();

        return commandId[0];
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「SendCommand」を参照してください。

UpdateMaintenanceWindow

次のコード例は、UpdateMaintenanceWindow を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
   /**
    * Updates an SSM maintenance window asynchronously.
    *
    * @param id The ID of the maintenance window to update.
    * @param name The new name for the maintenance window.
    * <p>
    * This method initiates an asynchronous request to update an SSM maintenance
window.
    * If the request is successful, it prints a success message.
    * If an exception occurs, it handles the error appropriately.
    */
   public void updateSSMMaintenanceWindow(String id, String name) throws
SsmException {
       UpdateMaintenanceWindowRequest updateRequest =
UpdateMaintenanceWindowRequest.builder()
               .windowId(id)
               .allowUnassociatedTargets(true)
               .duration(24)
               .enabled(true)
               .name(name)
               .schedule("cron(0 0 ? * MON *)")
               .build();

       CompletableFuture<UpdateMaintenanceWindowResponse> future =
getAsyncClient().updateMaintenanceWindow(updateRequest);
       future.whenComplete((response, ex) -> {
           if (response != null) {
```

```
                System.out.println("The SSM maintenance window was successfully
updated");
            } else {
                Throwable cause = (ex instanceof CompletionException) ?
ex.getCause() : ex;
                if (cause instanceof SsmException) {
                    throw new CompletionException(cause);
                } else {
                    throw new RuntimeException(cause);
                }
            }
        }).join();
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「UpdateMaintenanceWindow」を参照してください。

`UpdateOpsItem`

次のコード例は、`UpdateOpsItem` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
    /**
     * Resolves an AWS SSM OpsItem asynchronously.
     *
     * @param opsID The ID of the OpsItem to resolve.
     * <p>
     * This method initiates an asynchronous request to resolve an SSM OpsItem.
     * If an exception occurs, it handles the error appropriately.
     */
    public void resolveOpsItem(String opsID) {
        UpdateOpsItemRequest opsItemRequest = UpdateOpsItemRequest.builder()
                .opsItemId(opsID)
```

```
                .status(OpsItemStatus.RESOLVED)
                .build();

        CompletableFuture<Void> future = CompletableFuture.runAsync(() -> {
            getAsyncClient().updateOpsItem(opsItemRequest)
                    .thenAccept(response -> {
                        System.out.println("OpsItem resolved successfully.");
                    })
                    .exceptionally(ex -> {
                        throw new CompletionException(ex);
                    }).join();
        }).exceptionally(ex -> {
            Throwable cause = (ex instanceof CompletionException) ? ex.getCause() :
ex;
            if (cause instanceof SsmException) {
                throw new RuntimeException("SSM error: " + cause.getMessage(),
cause);
            } else {
                throw new RuntimeException("Unexpected error: " +
cause.getMessage(), cause);
            }
        });

        try {
            future.join();
        } catch (CompletionException ex) {
            throw ex.getCause() instanceof RuntimeException ? (RuntimeException)
ex.getCause() : ex;
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「UpdateOpsItem」を参照してください。

SDK for Java 2.x を使用する Amazon Textract の例

次のコード例は、Amazon Textract AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- アクション
- シナリオ

アクション

`AnalyzeDocument`

次のコード例は、`AnalyzeDocument` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.core.SdkBytes;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.textract.TextractClient;
import software.amazon.awssdk.services.textract.model.AnalyzeDocumentRequest;
import software.amazon.awssdk.services.textract.model.Document;
import software.amazon.awssdk.services.textract.model.FeatureType;
import software.amazon.awssdk.services.textract.model.AnalyzeDocumentResponse;
import software.amazon.awssdk.services.textract.model.Block;
import software.amazon.awssdk.services.textract.model.TextractException;
import java.io.File;
import java.io.FileInputStream;
import java.io.FileNotFoundException;
```

```
import java.io.InputStream;
import java.util.ArrayList;
import java.util.Iterator;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class AnalyzeDocument {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <sourceDoc>\s

                Where:
                    sourceDoc - The path where the document is located (must be an
 image, for example, C:/AWS/book.png).\s
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String sourceDoc = args[0];
        Region region = Region.US_EAST_2;
        TextractClient textractClient = TextractClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        analyzeDoc(textractClient, sourceDoc);
        textractClient.close();
    }

    public static void analyzeDoc(TextractClient textractClient, String sourceDoc) {
        try {
            InputStream sourceStream = new FileInputStream(new File(sourceDoc));
            SdkBytes sourceBytes = SdkBytes.fromInputStream(sourceStream);
```

```
            // Get the input Document object as bytes
            Document myDoc = Document.builder()
                    .bytes(sourceBytes)
                    .build();

            List<FeatureType> featureTypes = new ArrayList<FeatureType>();
            featureTypes.add(FeatureType.FORMS);
            featureTypes.add(FeatureType.TABLES);

            AnalyzeDocumentRequest analyzeDocumentRequest =
 AnalyzeDocumentRequest.builder()
                    .featureTypes(featureTypes)
                    .document(myDoc)
                    .build();

            AnalyzeDocumentResponse analyzeDocument =
 textractClient.analyzeDocument(analyzeDocumentRequest);
            List<Block> docInfo = analyzeDocument.blocks();
            Iterator<Block> blockIterator = docInfo.iterator();

            while (blockIterator.hasNext()) {
                Block block = blockIterator.next();
                System.out.println("The block type is " +
 block.blockType().toString());
            }

        } catch (TextractException | FileNotFoundException e) {

            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の AnalyzeDocument」を参照してください。

DetectDocumentText

次のコード例は、DetectDocumentText を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

入力ドキュメントからテキストを検出します。

```
import software.amazon.awssdk.core.SdkBytes;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.textract.TextractClient;
import software.amazon.awssdk.services.textract.model.Document;
import software.amazon.awssdk.services.textract.model.DetectDocumentTextRequest;
import software.amazon.awssdk.services.textract.model.DetectDocumentTextResponse;
import software.amazon.awssdk.services.textract.model.Block;
import software.amazon.awssdk.services.textract.model.DocumentMetadata;
import software.amazon.awssdk.services.textract.model.TextractException;
import java.io.File;
import java.io.FileInputStream;
import java.io.FileNotFoundException;
import java.io.InputStream;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DetectDocumentText {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <sourceDoc>\s

                Where:
                    sourceDoc - The path where the document is located (must be an
 image, for example, C:/AWS/book.png).\s
```

```
                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String sourceDoc = args[0];
        Region region = Region.US_EAST_2;
        TextractClient textractClient = TextractClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        detectDocText(textractClient, sourceDoc);
        textractClient.close();
    }

    public static void detectDocText(TextractClient textractClient, String
sourceDoc) {
        try {
            InputStream sourceStream = new FileInputStream(new File(sourceDoc));
            SdkBytes sourceBytes = SdkBytes.fromInputStream(sourceStream);

            // Get the input Document object as bytes.
            Document myDoc = Document.builder()
                    .bytes(sourceBytes)
                    .build();

            DetectDocumentTextRequest detectDocumentTextRequest =
DetectDocumentTextRequest.builder()
                    .document(myDoc)
                    .build();

            // Invoke the Detect operation.
            DetectDocumentTextResponse textResponse =
textractClient.detectDocumentText(detectDocumentTextRequest);
            List<Block> docInfo = textResponse.blocks();
            for (Block block : docInfo) {
                System.out.println("The block type is " +
block.blockType().toString());
            }

            DocumentMetadata documentMetadata = textResponse.documentMetadata();
```

```
            System.out.println("The number of pages in the document is " +
 documentMetadata.pages());

        } catch (TextractException | FileNotFoundException e) {

            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

Amazon S3 バケット内のドキュメントからテキストを検出する

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.textract.model.S3Object;
import software.amazon.awssdk.services.textract.TextractClient;
import software.amazon.awssdk.services.textract.model.Document;
import software.amazon.awssdk.services.textract.model.DetectDocumentTextRequest;
import software.amazon.awssdk.services.textract.model.DetectDocumentTextResponse;
import software.amazon.awssdk.services.textract.model.Block;
import software.amazon.awssdk.services.textract.model.DocumentMetadata;
import software.amazon.awssdk.services.textract.model.TextractException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DetectDocumentTextS3 {

    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <bucketName> <docName>\s

                Where:
                    bucketName - The name of the Amazon S3 bucket that contains the
 document.\s
```

```
                    docName - The document name (must be an image, i.e., book.png).
\s
                """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String bucketName = args[0];
        String docName = args[1];
        Region region = Region.US_WEST_2;
        TextractClient textractClient = TextractClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        detectDocTextS3(textractClient, bucketName, docName);
        textractClient.close();
    }

    public static void detectDocTextS3(TextractClient textractClient, String
 bucketName, String docName) {
        try {
            S3Object s3Object = S3Object.builder()
                    .bucket(bucketName)
                    .name(docName)
                    .build();

            // Create a Document object and reference the s3Object instance.
            Document myDoc = Document.builder()
                    .s3Object(s3Object)
                    .build();

            DetectDocumentTextRequest detectDocumentTextRequest =
 DetectDocumentTextRequest.builder()
                    .document(myDoc)
                    .build();

            DetectDocumentTextResponse textResponse =
 textractClient.detectDocumentText(detectDocumentTextRequest);
            for (Block block : textResponse.blocks()) {
                System.out.println("The block type is " +
 block.blockType().toString());
```

```
            }

            DocumentMetadata documentMetadata = textResponse.documentMetadata();
            System.out.println("The number of pages in the document is " +
 documentMetadata.pages());

        } catch (TextractException e) {

            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DetectDocumentText」を参照してください。

`StartDocumentAnalysis`

次のコード例は、`StartDocumentAnalysis` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.textract.model.S3Object;
import software.amazon.awssdk.services.textract.TextractClient;
import software.amazon.awssdk.services.textract.model.StartDocumentAnalysisRequest;
import software.amazon.awssdk.services.textract.model.DocumentLocation;
import software.amazon.awssdk.services.textract.model.TextractException;
import software.amazon.awssdk.services.textract.model.StartDocumentAnalysisResponse;
import software.amazon.awssdk.services.textract.model.GetDocumentAnalysisRequest;
import software.amazon.awssdk.services.textract.model.GetDocumentAnalysisResponse;
import software.amazon.awssdk.services.textract.model.FeatureType;
import java.util.ArrayList;
```

```
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class StartDocumentAnalysis {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:
                    <bucketName> <docName>\s

                Where:
                    bucketName - The name of the Amazon S3 bucket that contains the
 document.\s
                    docName - The document name (must be an image, for example,
 book.png).\s
                """;

        if (args.length != 2) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String bucketName = args[0];
        String docName = args[1];
        Region region = Region.US_WEST_2;
        TextractClient textractClient = TextractClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        String jobId = startDocAnalysisS3(textractClient, bucketName, docName);
        System.out.println("Getting results for job " + jobId);
        String status = getJobResults(textractClient, jobId);
        System.out.println("The job status is " + status);
        textractClient.close();
    }
```

```
   public static String startDocAnalysisS3(TextractClient textractClient, String
bucketName, String docName) {
       try {
           List<FeatureType> myList = new ArrayList<>();
           myList.add(FeatureType.TABLES);
           myList.add(FeatureType.FORMS);

           S3Object s3Object = S3Object.builder()
                   .bucket(bucketName)
                   .name(docName)
                   .build();

           DocumentLocation location = DocumentLocation.builder()
                   .s3Object(s3Object)
                   .build();

           StartDocumentAnalysisRequest documentAnalysisRequest =
StartDocumentAnalysisRequest.builder()
                   .documentLocation(location)
                   .featureTypes(myList)
                   .build();

           StartDocumentAnalysisResponse response =
textractClient.startDocumentAnalysis(documentAnalysisRequest);

           // Get the job ID
           String jobId = response.jobId();
           return jobId;

       } catch (TextractException e) {
           System.err.println(e.getMessage());
           System.exit(1);
       }
       return "";
   }

   private static String getJobResults(TextractClient textractClient, String jobId)
{
       boolean finished = false;
       int index = 0;
       String status = "";

       try {
           while (!finished) {
```

```
                GetDocumentAnalysisRequest analysisRequest =
 GetDocumentAnalysisRequest.builder()
                        .jobId(jobId)
                        .maxResults(1000)
                        .build();

                GetDocumentAnalysisResponse response =
 textractClient.getDocumentAnalysis(analysisRequest);
                status = response.jobStatus().toString();

                if (status.compareTo("SUCCEEDED") == 0)
                    finished = true;
                else {
                    System.out.println(index + " status is: " + status);
                    Thread.sleep(1000);
                }
                index++;
            }

            return status;

        } catch (InterruptedException e) {
            System.out.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
        return "";
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartDocumentAnalysis」を参照してください。

シナリオ

顧客からのフィードバックを分析するアプリケーションの作成

次のコード例は、顧客のコメントカードを分析し、元の言語から翻訳し、顧客の感情を判断して、翻訳されたテキストから音声ファイルを生成するアプリケーションの作成方法を示しています。

SDK for Java 2.x

このサンプルアプリケーションは、顧客フィードバックカードを分析し、保存します。具体的には、ニューヨーク市の架空のホテルのニーズを満たします。このホテルでは、お客様からのフィードバックをさまざまな言語で書かれた実際のコメントカードの形で受け取ります。そのフィードバックは、ウェブクライアントを通じてアプリにアップロードされます。コメントカードの画像をアップロードされると、次の手順が発生します。

- テキストは Amazon Textract を使用して、画像から抽出されます。
- Amazon Comprehend は、抽出したテキストの感情とその言語を分析します。
- 抽出されたテキストは、Amazon Translate を使用して英語に翻訳されます。
- Amazon Polly は抽出したテキストから音声ファイルを合成します。

完全なアプリは AWS CDK を使用してデプロイすることができます。ソースコードとデプロイ手順については、GitHub のプロジェクトを参照してください。

この例で使用されているサービス

- Amazon Comprehend
- Lambda
- Amazon Polly
- Amazon Textract
- Amazon Translate

SDK for Java 2.x を使用した Amazon Transcribe の例

次のコード例は、Amazon Transcribe AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- アクション
- シナリオ

アクション

`ListTranscriptionJobs`

次のコード例は、`ListTranscriptionJobs` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
public class ListTranscriptionJobs {
    public static void main(String[] args) {
        TranscribeClient transcribeClient = TranscribeClient.builder()
            .region(Region.US_EAST_1)
            .build();

            listTranscriptionJobs(transcribeClient);
        }

        public static void listTranscriptionJobs(TranscribeClient transcribeClient)
 {
            ListTranscriptionJobsRequest listJobsRequest =
 ListTranscriptionJobsRequest.builder()
                .build();


 transcribeClient.listTranscriptionJobsPaginator(listJobsRequest).stream()
                .flatMap(response -> response.transcriptionJobSummaries().stream())
                .forEach(jobSummary -> {
                    System.out.println("Job Name: " +
 jobSummary.transcriptionJobName());
                    System.out.println("Job Status: " +
 jobSummary.transcriptionJobStatus());
```

```
                    System.out.println("Output Location: " +
jobSummary.outputLocationType());
                    // Add more information as needed

                    // Retrieve additional details for the job if necessary
                    GetTranscriptionJobResponse jobDetails =
transcribeClient.getTranscriptionJob(
                        GetTranscriptionJobRequest.builder()
                            .transcriptionJobName(jobSummary.transcriptionJobName())
                            .build());

                    // Display additional details
                    System.out.println("Language Code: " +
jobDetails.transcriptionJob().languageCode());
                    System.out.println("Media Format: " +
jobDetails.transcriptionJob().mediaFormat());
                    // Add more details as needed

                    System.out.println("--------------");
                });
        }
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「ListTranscriptionJobs」を参照してください。

シナリオ

音声の文字起こしとジョブデータを取得する

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- Amazon Transcribe で文字起こしジョブを開始します。
- ジョブが完了するまで待ちます。
- 書き起こしが保存されている URI を取得します。

詳細については、「Amazon Transcribe の開始方法」を参照してください。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

PCM ファイルを書き起こします。

```
/**
 * To run this AWS code example, ensure that you have set up your development
 * environment, including your AWS credentials.
 *
 * For information, see this documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */

public class TranscribeStreamingDemoFile {
    private static final Region REGION = Region.US_EAST_1;
    private static TranscribeStreamingAsyncClient client;

    public static void main(String args[]) throws ExecutionException,
 InterruptedException {

        final String USAGE = "\n" +
                "Usage:\n" +
                "    <file> \n\n" +
                "Where:\n" +
                "    file - the location of a PCM file to transcribe. In this
 example, ensure the PCM file is 16 hertz (Hz). \n";

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(USAGE);
            System.exit(1);
        }

        String file = args[0];
        client = TranscribeStreamingAsyncClient.builder()
                .region(REGION)
                .build();
```

```
        CompletableFuture<Void> result =
client.startStreamTranscription(getRequest(16_000),
                new AudioStreamPublisher(getStreamFromFile(file)),
                getResponseHandler());

        result.get();
        client.close();
    }

    private static InputStream getStreamFromFile(String file) {
        try {
            File inputFile = new File(file);
            InputStream audioStream = new FileInputStream(inputFile);
            return audioStream;

        } catch (FileNotFoundException e) {
            throw new RuntimeException(e);
        }
    }

    private static StartStreamTranscriptionRequest getRequest(Integer
mediaSampleRateHertz) {
        return StartStreamTranscriptionRequest.builder()
                .languageCode(LanguageCode.EN_US)
                .mediaEncoding(MediaEncoding.PCM)
                .mediaSampleRateHertz(mediaSampleRateHertz)
                .build();
    }

    private static StartStreamTranscriptionResponseHandler getResponseHandler() {
        return StartStreamTranscriptionResponseHandler.builder()
                .onResponse(r -> {
                    System.out.println("Received Initial response");
                })
                .onError(e -> {
                    System.out.println(e.getMessage());
                    StringWriter sw = new StringWriter();
                    e.printStackTrace(new PrintWriter(sw));
                    System.out.println("Error Occurred: " + sw.toString());
                })
                .onComplete(() -> {
                    System.out.println("=== All records stream successfully ===");
                })
                .subscriber(event -> {
```

```
                    List<Result> results = ((TranscriptEvent)
 event).transcript().results();
                    if (results.size() > 0) {
                        if (!
results.get(0).alternatives().get(0).transcript().isEmpty()) {

 System.out.println(results.get(0).alternatives().get(0).transcript());
                        }
                    }
                })
                .build();
    }

    private static class AudioStreamPublisher implements Publisher<AudioStream> {
        private final InputStream inputStream;
        private static Subscription currentSubscription;

        private AudioStreamPublisher(InputStream inputStream) {
            this.inputStream = inputStream;
        }

        @Override
        public void subscribe(Subscriber<? super AudioStream> s) {

            if (this.currentSubscription == null) {
                this.currentSubscription = new SubscriptionImpl(s, inputStream);
            } else {
                this.currentSubscription.cancel();
                this.currentSubscription = new SubscriptionImpl(s, inputStream);
            }
            s.onSubscribe(currentSubscription);
        }
    }

    public static class SubscriptionImpl implements Subscription {
        private static final int CHUNK_SIZE_IN_BYTES = 1024 * 1;
        private final Subscriber<? super AudioStream> subscriber;
        private final InputStream inputStream;
        private ExecutorService executor = Executors.newFixedThreadPool(1);
        private AtomicLong demand = new AtomicLong(0);

        SubscriptionImpl(Subscriber<? super AudioStream> s, InputStream inputStream)
 {
            this.subscriber = s;
```

```
            this.inputStream = inputStream;
        }

        @Override
        public void request(long n) {
            if (n <= 0) {
                subscriber.onError(new IllegalArgumentException("Demand must be
positive"));
            }

            demand.getAndAdd(n);

            executor.submit(() -> {
                try {
                    do {
                        ByteBuffer audioBuffer = getNextEvent();
                        if (audioBuffer.remaining() > 0) {
                            AudioEvent audioEvent =
audioEventFromBuffer(audioBuffer);
                            subscriber.onNext(audioEvent);
                        } else {
                            subscriber.onComplete();
                            break;
                        }
                    } while (demand.decrementAndGet() > 0);
                } catch (Exception e) {
                    subscriber.onError(e);
                }
            });
        }

        @Override
        public void cancel() {
            executor.shutdown();
        }

        private ByteBuffer getNextEvent() {
            ByteBuffer audioBuffer = null;
            byte[] audioBytes = new byte[CHUNK_SIZE_IN_BYTES];

            int len = 0;
            try {
                len = inputStream.read(audioBytes);
```

```
                if (len <= 0) {
                    audioBuffer = ByteBuffer.allocate(0);
                } else {
                    audioBuffer = ByteBuffer.wrap(audioBytes, 0, len);
                }
            } catch (IOException e) {
                throw new UncheckedIOException(e);
            }

            return audioBuffer;
        }

        private AudioEvent audioEventFromBuffer(ByteBuffer bb) {
            return AudioEvent.builder()
                    .audioChunk(SdkBytes.fromByteBuffer(bb))
                    .build();
        }
    }
}
```

コンピュータのマイクからのストリーミングオーディオを文字起こしします。

```
public class TranscribeStreamingDemoApp {
    private static final Region REGION = Region.US_EAST_1;
    private static TranscribeStreamingAsyncClient client;

    public static void main(String[] args)
            throws URISyntaxException, ExecutionException, InterruptedException,
 LineUnavailableException {

        client = TranscribeStreamingAsyncClient.builder()
                .credentialsProvider(getCredentials())
                .region(REGION)
                .build();

        CompletableFuture<Void> result =
 client.startStreamTranscription(getRequest(16_000),
                new AudioStreamPublisher(getStreamFromMic()),
                getResponseHandler());

        result.get();
        client.close();
```

```
    }

    private static InputStream getStreamFromMic() throws LineUnavailableException {

        // Signed PCM AudioFormat with 16kHz, 16 bit sample size, mono
        int sampleRate = 16000;
        AudioFormat format = new AudioFormat(sampleRate, 16, 1, true, false);
        DataLine.Info info = new DataLine.Info(TargetDataLine.class, format);

        if (!AudioSystem.isLineSupported(info)) {
            System.out.println("Line not supported");
            System.exit(0);
        }

        TargetDataLine line = (TargetDataLine) AudioSystem.getLine(info);
        line.open(format);
        line.start();

        InputStream audioStream = new AudioInputStream(line);
        return audioStream;
    }

    private static AwsCredentialsProvider getCredentials() {
        return DefaultCredentialsProvider.create();
    }

    private static StartStreamTranscriptionRequest getRequest(Integer
mediaSampleRateHertz) {
        return StartStreamTranscriptionRequest.builder()
                .languageCode(LanguageCode.EN_US.toString())
                .mediaEncoding(MediaEncoding.PCM)
                .mediaSampleRateHertz(mediaSampleRateHertz)
                .build();
    }

    private static StartStreamTranscriptionResponseHandler getResponseHandler() {
        return StartStreamTranscriptionResponseHandler.builder()
                .onResponse(r -> {
                    System.out.println("Received Initial response");
                })
                .onError(e -> {
                    System.out.println(e.getMessage());
                    StringWriter sw = new StringWriter();
                    e.printStackTrace(new PrintWriter(sw));
```

```
                    System.out.println("Error Occurred: " + sw);
                })
                .onComplete(() -> {
                    System.out.println("=== All records stream successfully ===");
                })
                .subscriber(event -> {
                    List<Result> results = ((TranscriptEvent)
 event).transcript().results();
                    if (results.size() > 0) {
                        if (!
results.get(0).alternatives().get(0).transcript().isEmpty()) {

 System.out.println(results.get(0).alternatives().get(0).transcript());
                        }
                    }
                })
                .build();
    }


    private static class AudioStreamPublisher implements Publisher<AudioStream> {
        private static Subscription currentSubscription;
        private final InputStream inputStream;

        private AudioStreamPublisher(InputStream inputStream) {
            this.inputStream = inputStream;
        }

        @Override
        public void subscribe(Subscriber<? super AudioStream> s) {

            if (currentSubscription == null) {
                currentSubscription = new SubscriptionImpl(s, inputStream);
            } else {
                currentSubscription.cancel();
                currentSubscription = new SubscriptionImpl(s, inputStream);
            }
            s.onSubscribe(currentSubscription);
        }
    }

    public static class SubscriptionImpl implements Subscription {
        private static final int CHUNK_SIZE_IN_BYTES = 1024;
        private final Subscriber<? super AudioStream> subscriber;
```

```
        private final InputStream inputStream;
        private final ExecutorService executor = Executors.newFixedThreadPool(1);
        private final AtomicLong demand = new AtomicLong(0);

        SubscriptionImpl(Subscriber<? super AudioStream> s, InputStream inputStream)
{
            this.subscriber = s;
            this.inputStream = inputStream;
        }

        @Override
        public void request(long n) {
            if (n <= 0) {
                subscriber.onError(new IllegalArgumentException("Demand must be
positive"));
            }

            demand.getAndAdd(n);

            executor.submit(() -> {
                try {
                    do {
                        ByteBuffer audioBuffer = getNextEvent();
                        if (audioBuffer.remaining() > 0) {
                            AudioEvent audioEvent =
audioEventFromBuffer(audioBuffer);
                            subscriber.onNext(audioEvent);
                        } else {
                            subscriber.onComplete();
                            break;
                        }
                    } while (demand.decrementAndGet() > 0);
                } catch (Exception e) {
                    subscriber.onError(e);
                }
            });
        }

        @Override
        public void cancel() {
            executor.shutdown();
        }

        private ByteBuffer getNextEvent() {
```

```
            ByteBuffer audioBuffer = null;
            byte[] audioBytes = new byte[CHUNK_SIZE_IN_BYTES];

            int len = 0;
            try {
                len = inputStream.read(audioBytes);

                if (len <= 0) {
                    audioBuffer = ByteBuffer.allocate(0);
                } else {
                    audioBuffer = ByteBuffer.wrap(audioBytes, 0, len);
                }
            } catch (IOException e) {
                throw new UncheckedIOException(e);
            }

            return audioBuffer;
        }

        private AudioEvent audioEventFromBuffer(ByteBuffer bb) {
            return AudioEvent.builder()
                    .audioChunk(SdkBytes.fromByteBuffer(bb))
                    .build();
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
  - GetTranscriptionJob
  - StartTranscriptionJob

SDK for Java 2.x を使用した Amazon Transcribe ストリーミングの例

次のコード例は、Amazon Transcribe Streaming AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- アクション
- シナリオ

アクション

`StartMedicalStreamTranscription`

次のコード例は、`StartMedicalStreamTranscription` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
/*
To run this AWS code example, ensure that you have set up your development
 environment, including your AWS credentials.

 For information, see this documentation topic:

 https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html

This code demonstrates the process of starting a medical transcription job using the
 AWS Transcribe
Streaming service, including setting up the audio input stream, configuring the
 transcription request,
```

```
and handling the transcription response.
 */

public class TranscribeMedicalStreamingDemoApp {
    private static TranscribeStreamingAsyncClient client;

    public static void main(String args[])
        throws ExecutionException, InterruptedException, LineUnavailableException {

        client = TranscribeStreamingAsyncClient.builder()
            .credentialsProvider(getCredentials())
            .build();

        CompletableFuture<Void> result =
 client.startMedicalStreamTranscription(getMedicalRequest(16_000),
            new AudioStreamPublisher(getStreamFromMic()),
            getMedicalResponseHandler());

        result.get();
        client.close();
    }

    private static InputStream getStreamFromMic() throws LineUnavailableException {

        // Signed PCM AudioFormat with 16kHz, 16 bit sample size, mono
        int sampleRate = 16000;
        AudioFormat format = new AudioFormat(sampleRate, 16, 1, true, false);
        DataLine.Info info = new DataLine.Info(TargetDataLine.class, format);

        if (!AudioSystem.isLineSupported(info)) {
            System.out.println("Line not supported");
            throw new LineUnavailableException("The audio system microphone line is
 not supported.");
        }

        TargetDataLine line = (TargetDataLine) AudioSystem.getLine(info);
        line.open(format);
        line.start();

        InputStream audioStream = new AudioInputStream(line);
        return audioStream;
    }

    private static AwsCredentialsProvider getCredentials() {
```

```
        return DefaultCredentialsProvider.create();
    }

    private static StartMedicalStreamTranscriptionRequest getMedicalRequest(Integer
 mediaSampleRateHertz) {
        return StartMedicalStreamTranscriptionRequest.builder()
            .languageCode(LanguageCode.EN_US.toString()) // For medical
 transcription, EN_US is typically used.
            .mediaEncoding(MediaEncoding.PCM)
            .mediaSampleRateHertz(mediaSampleRateHertz)
            .specialty(Specialty.PRIMARYCARE) // Specify the medical specialty.
            .type(Type.CONVERSATION) // Set the type as CONVERSATION or DICTATION.
            .build();
    }

    private static StartMedicalStreamTranscriptionResponseHandler
 getMedicalResponseHandler() {
        return StartMedicalStreamTranscriptionResponseHandler.builder()
            .onResponse(r -> {
                System.out.println("Received Initial response");
            })
            .onError(e -> {
                System.out.println(e.getMessage());
                StringWriter sw = new StringWriter();
                e.printStackTrace(new PrintWriter(sw));
                System.out.println("Error Occurred: " + sw.toString());
            })
            .onComplete(() -> {
                System.out.println("=== All records streamed successfully ===");
            })
            .subscriber(event -> {
                List<MedicalResult> results = ((MedicalTranscriptEvent)
 event).transcript().results();
                if (results.size() > 0) {
                    if (!
results.get(0).alternatives().get(0).transcript().isEmpty()) {

 System.out.println(results.get(0).alternatives().get(0).transcript());
                    }
                }
            })
            .build();
    }
```

```
    private static class AudioStreamPublisher implements Publisher<AudioStream> {
        private final InputStream inputStream;
        private static Subscription currentSubscription;

        private AudioStreamPublisher(InputStream inputStream) {
            this.inputStream = inputStream;
        }

        @Override
        public void subscribe(Subscriber<? super AudioStream> s) {

            if (this.currentSubscription == null) {
                this.currentSubscription = new SubscriptionImpl(s, inputStream);
            } else {
                this.currentSubscription.cancel();
                this.currentSubscription = new SubscriptionImpl(s, inputStream);
            }
            s.onSubscribe(currentSubscription);
        }
    }

    public static class SubscriptionImpl implements Subscription {
        private static final int CHUNK_SIZE_IN_BYTES = 1024 * 1;
        private final Subscriber<? super AudioStream> subscriber;
        private final InputStream inputStream;
        private ExecutorService executor = Executors.newFixedThreadPool(1);
        private AtomicLong demand = new AtomicLong(0);

        SubscriptionImpl(Subscriber<? super AudioStream> s, InputStream inputStream)
{
            this.subscriber = s;
            this.inputStream = inputStream;
        }

        @Override
        public void request(long n) {
            if (n <= 0) {
                subscriber.onError(new IllegalArgumentException("Demand must be
positive"));
            }

            demand.getAndAdd(n);
            executor.submit(() -> {
                try {
```

```
                    do {
                        ByteBuffer audioBuffer = getNextEvent();
                        if (audioBuffer.remaining() > 0) {
                            AudioEvent audioEvent =
audioEventFromBuffer(audioBuffer);
                            subscriber.onNext(audioEvent);
                        } else {
                            subscriber.onComplete();
                            break;
                        }
                    } while (demand.decrementAndGet() > 0);
                } catch (Exception e) {
                    subscriber.onError(e);
                }
            });
        }

        @Override
        public void cancel() {
            executor.shutdown();
        }

        private ByteBuffer getNextEvent() {
            ByteBuffer audioBuffer = null;
            byte[] audioBytes = new byte[CHUNK_SIZE_IN_BYTES];

            int len = 0;
            try {
                len = inputStream.read(audioBytes);

                if (len <= 0) {
                    audioBuffer = ByteBuffer.allocate(0);
                } else {
                    audioBuffer = ByteBuffer.wrap(audioBytes, 0, len);
                }
            } catch (IOException e) {
                throw new UncheckedIOException(e);
            }

            return audioBuffer;
        }

        private AudioEvent audioEventFromBuffer(ByteBuffer bb) {
            return AudioEvent.builder()
```

```
                .audioChunk(SdkBytes.fromByteBuffer(bb))
                .build();
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartMedicalStreamTranscription」を参照してください。

`StartStreamTranscription`

次のコード例は、`StartStreamTranscription` を使用する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
public class TranscribeStreamingDemoApp {
    private static final Region REGION = Region.US_EAST_1;
    private static TranscribeStreamingAsyncClient client;

    public static void main(String[] args)
            throws URISyntaxException, ExecutionException, InterruptedException,
 LineUnavailableException {

        client = TranscribeStreamingAsyncClient.builder()
                .credentialsProvider(getCredentials())
                .region(REGION)
                .build();

        CompletableFuture<Void> result =
 client.startStreamTranscription(getRequest(16_000),
                new AudioStreamPublisher(getStreamFromMic()),
                getResponseHandler());

        result.get();
```

```
        client.close();
    }

    private static InputStream getStreamFromMic() throws LineUnavailableException {

        // Signed PCM AudioFormat with 16kHz, 16 bit sample size, mono
        int sampleRate = 16000;
        AudioFormat format = new AudioFormat(sampleRate, 16, 1, true, false);
        DataLine.Info info = new DataLine.Info(TargetDataLine.class, format);

        if (!AudioSystem.isLineSupported(info)) {
            System.out.println("Line not supported");
            System.exit(0);
        }

        TargetDataLine line = (TargetDataLine) AudioSystem.getLine(info);
        line.open(format);
        line.start();

        InputStream audioStream = new AudioInputStream(line);
        return audioStream;
    }

    private static AwsCredentialsProvider getCredentials() {
        return DefaultCredentialsProvider.create();
    }

    private static StartStreamTranscriptionRequest getRequest(Integer
mediaSampleRateHertz) {
        return StartStreamTranscriptionRequest.builder()
                .languageCode(LanguageCode.EN_US.toString())
                .mediaEncoding(MediaEncoding.PCM)
                .mediaSampleRateHertz(mediaSampleRateHertz)
                .build();
    }

    private static StartStreamTranscriptionResponseHandler getResponseHandler() {
        return StartStreamTranscriptionResponseHandler.builder()
                .onResponse(r -> {
                    System.out.println("Received Initial response");
                })
                .onError(e -> {
                    System.out.println(e.getMessage());
                    StringWriter sw = new StringWriter();
```

```
                    e.printStackTrace(new PrintWriter(sw));
                    System.out.println("Error Occurred: " + sw);
                })
                .onComplete(() -> {
                    System.out.println("=== All records stream successfully ===");
                })
                .subscriber(event -> {
                    List<Result> results = ((TranscriptEvent)
 event).transcript().results();
                    if (results.size() > 0) {
                        if (!
results.get(0).alternatives().get(0).transcript().isEmpty()) {

 System.out.println(results.get(0).alternatives().get(0).transcript());
                        }
                    }
                })
                .build();
    }


    private static class AudioStreamPublisher implements Publisher<AudioStream> {
        private static Subscription currentSubscription;
        private final InputStream inputStream;

        private AudioStreamPublisher(InputStream inputStream) {
            this.inputStream = inputStream;
        }

        @Override
        public void subscribe(Subscriber<? super AudioStream> s) {

            if (currentSubscription == null) {
                currentSubscription = new SubscriptionImpl(s, inputStream);
            } else {
                currentSubscription.cancel();
                currentSubscription = new SubscriptionImpl(s, inputStream);
            }
            s.onSubscribe(currentSubscription);
        }
    }

    public static class SubscriptionImpl implements Subscription {
        private static final int CHUNK_SIZE_IN_BYTES = 1024;
```

```
        private final Subscriber<? super AudioStream> subscriber;
        private final InputStream inputStream;
        private final ExecutorService executor = Executors.newFixedThreadPool(1);
        private final AtomicLong demand = new AtomicLong(0);

        SubscriptionImpl(Subscriber<? super AudioStream> s, InputStream inputStream)
{
            this.subscriber = s;
            this.inputStream = inputStream;
        }

        @Override
        public void request(long n) {
            if (n <= 0) {
                subscriber.onError(new IllegalArgumentException("Demand must be
positive"));
            }

            demand.getAndAdd(n);

            executor.submit(() -> {
                try {
                    do {
                        ByteBuffer audioBuffer = getNextEvent();
                        if (audioBuffer.remaining() > 0) {
                            AudioEvent audioEvent =
audioEventFromBuffer(audioBuffer);
                            subscriber.onNext(audioEvent);
                        } else {
                            subscriber.onComplete();
                            break;
                        }
                    } while (demand.decrementAndGet() > 0);
                } catch (Exception e) {
                    subscriber.onError(e);
                }
            });
        }

        @Override
        public void cancel() {
            executor.shutdown();
        }
```

```
        private ByteBuffer getNextEvent() {
            ByteBuffer audioBuffer = null;
            byte[] audioBytes = new byte[CHUNK_SIZE_IN_BYTES];

            int len = 0;
            try {
                len = inputStream.read(audioBytes);

                if (len <= 0) {
                    audioBuffer = ByteBuffer.allocate(0);
                } else {
                    audioBuffer = ByteBuffer.wrap(audioBytes, 0, len);
                }
            } catch (IOException e) {
                throw new UncheckedIOException(e);
            }

            return audioBuffer;
        }

        private AudioEvent audioEventFromBuffer(ByteBuffer bb) {
            return AudioEvent.builder()
                    .audioChunk(SdkBytes.fromByteBuffer(bb))
                    .build();
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartStreamTranscription」を参照してください。

シナリオ

音声ファイルの文字起こし

次のコード例は、Amazon Transcribe ストリーミングを使用してソース音声ファイルの文字起こしを生成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
/**
 * To run this AWS code example, ensure that you have set up your development
 * environment, including your AWS credentials.
 *
 * For information, see this documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */

public class TranscribeStreamingDemoFile {
    private static final Region REGION = Region.US_EAST_1;
    private static TranscribeStreamingAsyncClient client;

    public static void main(String args[]) throws ExecutionException,
 InterruptedException {

        final String USAGE = "\n" +
                "Usage:\n" +
                "    <file> \n\n" +
                "Where:\n" +
                "    file - the location of a PCM file to transcribe. In this
 example, ensure the PCM file is 16 hertz (Hz). \n";

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(USAGE);
            System.exit(1);
        }

        String file = args[0];
        client = TranscribeStreamingAsyncClient.builder()
                .region(REGION)
                .build();
```

```
        CompletableFuture<Void> result =
client.startStreamTranscription(getRequest(16_000),
                new AudioStreamPublisher(getStreamFromFile(file)),
                getResponseHandler());

        result.get();
        client.close();
    }

    private static InputStream getStreamFromFile(String file) {
        try {
            File inputFile = new File(file);
            InputStream audioStream = new FileInputStream(inputFile);
            return audioStream;

        } catch (FileNotFoundException e) {
            throw new RuntimeException(e);
        }
    }

    private static StartStreamTranscriptionRequest getRequest(Integer
mediaSampleRateHertz) {
        return StartStreamTranscriptionRequest.builder()
                .languageCode(LanguageCode.EN_US)
                .mediaEncoding(MediaEncoding.PCM)
                .mediaSampleRateHertz(mediaSampleRateHertz)
                .build();
    }

    private static StartStreamTranscriptionResponseHandler getResponseHandler() {
        return StartStreamTranscriptionResponseHandler.builder()
                .onResponse(r -> {
                    System.out.println("Received Initial response");
                })
                .onError(e -> {
                    System.out.println(e.getMessage());
                    StringWriter sw = new StringWriter();
                    e.printStackTrace(new PrintWriter(sw));
                    System.out.println("Error Occurred: " + sw.toString());
                })
                .onComplete(() -> {
                    System.out.println("=== All records stream successfully ===");
                })
                .subscriber(event -> {
```

```
                    List<Result> results = ((TranscriptEvent)
 event).transcript().results();
                    if (results.size() > 0) {
                        if (!
results.get(0).alternatives().get(0).transcript().isEmpty()) {

 System.out.println(results.get(0).alternatives().get(0).transcript());
                        }
                    }
                })
                .build();
    }

    private static class AudioStreamPublisher implements Publisher<AudioStream> {
        private final InputStream inputStream;
        private static Subscription currentSubscription;

        private AudioStreamPublisher(InputStream inputStream) {
            this.inputStream = inputStream;
        }

        @Override
        public void subscribe(Subscriber<? super AudioStream> s) {

            if (this.currentSubscription == null) {
                this.currentSubscription = new SubscriptionImpl(s, inputStream);
            } else {
                this.currentSubscription.cancel();
                this.currentSubscription = new SubscriptionImpl(s, inputStream);
            }
            s.onSubscribe(currentSubscription);
        }
    }

    public static class SubscriptionImpl implements Subscription {
        private static final int CHUNK_SIZE_IN_BYTES = 1024 * 1;
        private final Subscriber<? super AudioStream> subscriber;
        private final InputStream inputStream;
        private ExecutorService executor = Executors.newFixedThreadPool(1);
        private AtomicLong demand = new AtomicLong(0);

        SubscriptionImpl(Subscriber<? super AudioStream> s, InputStream inputStream)
 {
            this.subscriber = s;
```

```
            this.inputStream = inputStream;
        }

        @Override
        public void request(long n) {
            if (n <= 0) {
                subscriber.onError(new IllegalArgumentException("Demand must be
positive"));
            }

            demand.getAndAdd(n);

            executor.submit(() -> {
                try {
                    do {
                        ByteBuffer audioBuffer = getNextEvent();
                        if (audioBuffer.remaining() > 0) {
                            AudioEvent audioEvent =
audioEventFromBuffer(audioBuffer);
                            subscriber.onNext(audioEvent);
                        } else {
                            subscriber.onComplete();
                            break;
                        }
                    } while (demand.decrementAndGet() > 0);
                } catch (Exception e) {
                    subscriber.onError(e);
                }
            });
        }

        @Override
        public void cancel() {
            executor.shutdown();
        }

        private ByteBuffer getNextEvent() {
            ByteBuffer audioBuffer = null;
            byte[] audioBytes = new byte[CHUNK_SIZE_IN_BYTES];

            int len = 0;
            try {
                len = inputStream.read(audioBytes);
```

```
                if (len <= 0) {
                    audioBuffer = ByteBuffer.allocate(0);
                } else {
                    audioBuffer = ByteBuffer.wrap(audioBytes, 0, len);
                }
            } catch (IOException e) {
                throw new UncheckedIOException(e);
            }

            return audioBuffer;
        }

        private AudioEvent audioEventFromBuffer(ByteBuffer bb) {
            return AudioEvent.builder()
                    .audioChunk(SdkBytes.fromByteBuffer(bb))
                    .build();
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartStreamTranscription」を参照してください。

マイク音声の文字起こし

次のコード例は、Amazon Transcribe ストリーミングを使用してマイクから文字起こしを生成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
public class TranscribeStreamingDemoApp {
    private static final Region REGION = Region.US_EAST_1;
    private static TranscribeStreamingAsyncClient client;
```

```
    public static void main(String[] args)
            throws URISyntaxException, ExecutionException, InterruptedException,
LineUnavailableException {

        client = TranscribeStreamingAsyncClient.builder()
                .credentialsProvider(getCredentials())
                .region(REGION)
                .build();

        CompletableFuture<Void> result =
client.startStreamTranscription(getRequest(16_000),
                new AudioStreamPublisher(getStreamFromMic()),
                getResponseHandler());

        result.get();
        client.close();
    }

    private static InputStream getStreamFromMic() throws LineUnavailableException {

        // Signed PCM AudioFormat with 16kHz, 16 bit sample size, mono
        int sampleRate = 16000;
        AudioFormat format = new AudioFormat(sampleRate, 16, 1, true, false);
        DataLine.Info info = new DataLine.Info(TargetDataLine.class, format);

        if (!AudioSystem.isLineSupported(info)) {
            System.out.println("Line not supported");
            System.exit(0);
        }

        TargetDataLine line = (TargetDataLine) AudioSystem.getLine(info);
        line.open(format);
        line.start();

        InputStream audioStream = new AudioInputStream(line);
        return audioStream;
    }

    private static AwsCredentialsProvider getCredentials() {
        return DefaultCredentialsProvider.create();
    }

    private static StartStreamTranscriptionRequest getRequest(Integer
mediaSampleRateHertz) {
```

```
        return StartStreamTranscriptionRequest.builder()
                .languageCode(LanguageCode.EN_US.toString())
                .mediaEncoding(MediaEncoding.PCM)
                .mediaSampleRateHertz(mediaSampleRateHertz)
                .build();
    }

    private static StartStreamTranscriptionResponseHandler getResponseHandler() {
        return StartStreamTranscriptionResponseHandler.builder()
                .onResponse(r -> {
                    System.out.println("Received Initial response");
                })
                .onError(e -> {
                    System.out.println(e.getMessage());
                    StringWriter sw = new StringWriter();
                    e.printStackTrace(new PrintWriter(sw));
                    System.out.println("Error Occurred: " + sw);
                })
                .onComplete(() -> {
                    System.out.println("=== All records stream successfully ===");
                })
                .subscriber(event -> {
                    List<Result> results = ((TranscriptEvent)
 event).transcript().results();
                    if (results.size() > 0) {
                        if (!
results.get(0).alternatives().get(0).transcript().isEmpty()) {

 System.out.println(results.get(0).alternatives().get(0).transcript());
                        }
                    }
                })
                .build();
    }


    private static class AudioStreamPublisher implements Publisher<AudioStream> {
        private static Subscription currentSubscription;
        private final InputStream inputStream;

        private AudioStreamPublisher(InputStream inputStream) {
            this.inputStream = inputStream;
        }
```

```
        @Override
        public void subscribe(Subscriber<? super AudioStream> s) {

            if (currentSubscription == null) {
                currentSubscription = new SubscriptionImpl(s, inputStream);
            } else {
                currentSubscription.cancel();
                currentSubscription = new SubscriptionImpl(s, inputStream);
            }
            s.onSubscribe(currentSubscription);
        }
    }

    public static class SubscriptionImpl implements Subscription {
        private static final int CHUNK_SIZE_IN_BYTES = 1024;
        private final Subscriber<? super AudioStream> subscriber;
        private final InputStream inputStream;
        private final ExecutorService executor = Executors.newFixedThreadPool(1);
        private final AtomicLong demand = new AtomicLong(0);

        SubscriptionImpl(Subscriber<? super AudioStream> s, InputStream inputStream)
{
            this.subscriber = s;
            this.inputStream = inputStream;
        }

        @Override
        public void request(long n) {
            if (n <= 0) {
                subscriber.onError(new IllegalArgumentException("Demand must be
positive"));
            }

            demand.getAndAdd(n);

            executor.submit(() -> {
                try {
                    do {
                        ByteBuffer audioBuffer = getNextEvent();
                        if (audioBuffer.remaining() > 0) {
                            AudioEvent audioEvent =
audioEventFromBuffer(audioBuffer);
                            subscriber.onNext(audioEvent);
                        } else {
```

```
                            subscriber.onComplete();
                            break;
                        }
                    } while (demand.decrementAndGet() > 0);
                } catch (Exception e) {
                    subscriber.onError(e);
                }
            });
        }

        @Override
        public void cancel() {
            executor.shutdown();
        }

        private ByteBuffer getNextEvent() {
            ByteBuffer audioBuffer = null;
            byte[] audioBytes = new byte[CHUNK_SIZE_IN_BYTES];

            int len = 0;
            try {
                len = inputStream.read(audioBytes);

                if (len <= 0) {
                    audioBuffer = ByteBuffer.allocate(0);
                } else {
                    audioBuffer = ByteBuffer.wrap(audioBytes, 0, len);
                }
            } catch (IOException e) {
                throw new UncheckedIOException(e);
            }

            return audioBuffer;
        }

        private AudioEvent audioEventFromBuffer(ByteBuffer bb) {
            return AudioEvent.builder()
                    .audioChunk(SdkBytes.fromByteBuffer(bb))
                    .build();
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「StartStreamTranscription」を参照してください。

SDK for Java 2.x を使用した Amazon Translate の例

次のコード例は、Amazon Translate AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- シナリオ

シナリオ

Amazon Lex V2 チャットボットの構築

次のコード例は、ウェブサイトの訪問者を引き付けるチャットボットの作成方法を示しています。

SDK for Java 2.x

Amazon Lex V2 API を使用してウェブアプリケーション内に Chatbot を作成し、ウェブサイトの訪問者を引き付ける方法を示します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- Amazon Comprehend
- Amazon Lex V2
- Amazon Translate

Amazon SNS アプリケーションの構築

次のコード例は、サブスクリプションとパブリッシュ機能を持ち、メッセージを翻訳するアプリケーションを作成する方法を示しています。

SDK for Java 2.x

Amazon Simple Notification Service Java API を使用して、サブスクリプションおよびパブリッシュ機能を持つウェブアプリケーションを作成する方法を説明します。さらに、このサンプルアプリケーションではメッセージを翻訳します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

Java Async API を使用するサンプルの完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、GitHub で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- Amazon SNS
- Amazon Translate

顧客からのフィードバックを分析するアプリケーションの作成

次のコード例は、顧客のコメントカードを分析し、元の言語から翻訳し、顧客の感情を判断して、翻訳されたテキストから音声ファイルを生成するアプリケーションの作成方法を示しています。

SDK for Java 2.x

このサンプルアプリケーションは、顧客フィードバックカードを分析し、保存します。具体的には、ニューヨーク市の架空のホテルのニーズを満たします。このホテルでは、お客様からのフィードバックをさまざまな言語で書かれた実際のコメントカードの形で受け取ります。そのフィードバックは、ウェブクライアントを通じてアプリにアップロードされます。コメントカードの画像をアップロードされると、次の手順が発生します。

- テキストは Amazon Textract を使用して、画像から抽出されます。
- Amazon Comprehend は、抽出したテキストの感情とその言語を分析します。
- 抽出されたテキストは、Amazon Translate を使用して英語に翻訳されます。
- Amazon Polly は抽出したテキストから音声ファイルを合成します。

完全なアプリは AWS CDK を使用してデプロイすることができます。ソースコードとデプロイ手順については、GitHub のプロジェクトを参照してください。

この例で使用されているサービス

- Amazon Comprehend
- Lambda
- Amazon Polly
- Amazon Textract
- Amazon Translate

SDK for Java 2.x を使用した X-Ray の例

次のコード例は、X-Ray AWS SDK for Java 2.x で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- アクション

アクション

`CreateGroup`

次の例は、`CreateGroup` を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.xray.XRayClient;
import software.amazon.awssdk.services.xray.model.CreateGroupRequest;
import software.amazon.awssdk.services.xray.model.CreateGroupResponse;
import software.amazon.awssdk.services.xray.model.XRayException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class CreateGroup {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:    <groupName>

                Where:
                   groupName - The name of the group to create\s

                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String groupName = args[0];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        XRayClient xRayClient = XRayClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        createNewGroup(xRayClient, groupName);
    }

    public static void createNewGroup(XRayClient xRayClient, String groupName) {
        try {
            CreateGroupRequest groupRequest = CreateGroupRequest.builder()
```

```
                    .filterExpression("fault = true AND http.url CONTAINS \"example/
game\" AND responsetime >= 5")
                    .groupName(groupName)
                    .build();

            CreateGroupResponse groupResponse =
 xRayClient.createGroup(groupRequest);
            System.out.println("The Group ARN is " +
 groupResponse.group().groupARN());

        } catch (XRayException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「CreateGroup」を参照してください。

`CreateSamplingRule`

次の例は、`CreateSamplingRule` を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.xray.XRayClient;
import software.amazon.awssdk.services.xray.model.CreateSamplingRuleRequest;
import software.amazon.awssdk.services.xray.model.SamplingRule;
import software.amazon.awssdk.services.xray.model.XRayException;
import software.amazon.awssdk.services.xray.model.CreateSamplingRuleResponse;

/**
```

```
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class CreateSamplingRule {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:    <ruleName>

                Where:
                   ruleName - The name of the rule\s

                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String ruleName = args[0];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        XRayClient xRayClient = XRayClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        createRule(xRayClient, ruleName);
    }

    public static void createRule(XRayClient xRayClient, String ruleName) {
        try {

            SamplingRule rule = SamplingRule.builder()
                    .ruleName(ruleName)
                    .priority(1)
                    .httpMethod("*")
                    .serviceType("*")
                    .serviceName("*")
                    .urlPath("*")
                    .version(1)
                    .host("*")
```

```
                    .resourceARN("*")
                    .build();

            CreateSamplingRuleRequest ruleRequest =
 CreateSamplingRuleRequest.builder()
                    .samplingRule(rule)
                    .build();

            CreateSamplingRuleResponse ruleResponse =
 xRayClient.createSamplingRule(ruleRequest);
            System.out.println(
                    "The ARN of the new rule is " +
 ruleResponse.samplingRuleRecord().samplingRule().ruleARN());

        } catch (XRayException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x 「 API リファレンス」のCreateSamplingRule」を参照してください。

`DeleteGroup`

次の例は、DeleteGroup を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.xray.XRayClient;
import software.amazon.awssdk.services.xray.model.DeleteGroupRequest;
import software.amazon.awssdk.services.xray.model.XRayException;
```

```
/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DeleteGroup {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:    <groupName>

                Where:
                   groupName - The name of the group to delete\s

                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String groupName = args[0];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        XRayClient xRayClient = XRayClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        deleteSpecificGroup(xRayClient, groupName);
    }

    public static void deleteSpecificGroup(XRayClient xRayClient, String groupName)
 {
        try {
            DeleteGroupRequest groupRequest = DeleteGroupRequest.builder()
                    .groupName(groupName)
                    .build();

            xRayClient.deleteGroup(groupRequest);
            System.out.println(groupName + " was deleted!");
```

```
        } catch (XRayException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Java 2.x API リファレンス」の「DeleteGroup」を参照してください。

`DeleteSamplingRule`

次の例は、DeleteSamplingRule を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.xray.XRayClient;
import software.amazon.awssdk.services.xray.model.DeleteSamplingRuleRequest;
import software.amazon.awssdk.services.xray.model.XRayException;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class DeleteSamplingRule {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:    <ruleName>
```

```
                Where:
                   ruleName - The name of the rule to delete\s

                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
        }

        String ruleName = args[0];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        XRayClient xRayClient = XRayClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        deleteRule(xRayClient, ruleName);
    }

    public static void deleteRule(XRayClient xRayClient, String ruleName) {
        try {
            DeleteSamplingRuleRequest ruleRequest =
 DeleteSamplingRuleRequest.builder()
                    .ruleName(ruleName)
                    .build();

            xRayClient.deleteSamplingRule(ruleRequest);
        } catch (XRayException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x 「 API リファレンス」のDeleteSamplingRule」を参照してください。

GetGroups

次の例は、GetGroups を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.xray.XRayClient;
import software.amazon.awssdk.services.xray.model.GetGroupsResponse;
import software.amazon.awssdk.services.xray.model.GroupSummary;
import software.amazon.awssdk.services.xray.model.XRayException;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class GetGroups {
    public static void main(String[] args) {
        Region region = Region.US_EAST_1;
        XRayClient xRayClient = XRayClient.builder()
                .region(region)
                .build();

        getAllGroups(xRayClient);
    }

    public static void getAllGroups(XRayClient xRayClient) {
        try {
            GetGroupsResponse groupsResponse = xRayClient.getGroups();
            List<GroupSummary> groups = groupsResponse.groups();
            for (GroupSummary group : groups) {
                System.out.println("The AWS XRay group name is " +
 group.groupName());
            }
```

```
        } catch (XRayException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x 「 API リファレンス」のGetGroups」を参照してください。

GetSamplingRules

次の例は、GetSamplingRules を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.xray.XRayClient;
import software.amazon.awssdk.services.xray.model.GetSamplingRulesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.xray.model.SamplingRuleRecord;
import software.amazon.awssdk.services.xray.model.XRayException;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class GetSamplingRules {
    public static void main(String[] args) {
```

```
        Region region = Region.US_EAST_1;
        XRayClient xRayClient = XRayClient.builder()
                .region(region)
                .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())
                .build();

        getRules(xRayClient);
    }

    public static void getRules(XRayClient xRayClient) {
        try {
            GetSamplingRulesResponse response = xRayClient.getSamplingRules(r ->
 r.build());
            List<SamplingRuleRecord> records = response.samplingRuleRecords();

            for (SamplingRuleRecord record : records) {
                System.out.println("The rule name is: " +
 record.samplingRule().ruleName());
                System.out.println("The related service is: " +
 record.samplingRule().serviceName());
            }
        } catch (XRayException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x 「 API リファレンス」のGetSamplingRules」を参照してください。

GetServiceGraph

次の例は、GetServiceGraph を使用する方法を説明しています。

SDK for Java 2.x

> **Note**
>
> GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、AWS コード例リポジトリでの設定と実行の方法を確認してください。

```
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.xray.XRayClient;
import software.amazon.awssdk.services.xray.model.GetServiceGraphRequest;
import software.amazon.awssdk.services.xray.model.GetServiceGraphResponse;
import software.amazon.awssdk.services.xray.model.Service;
import software.amazon.awssdk.services.xray.model.XRayException;
import java.time.LocalDateTime;
import java.time.Instant;
import java.time.ZoneId;
import java.util.List;

/**
 * Before running this Java V2 code example, set up your development
 * environment, including your credentials.
 *
 * For more information, see the following documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-started.html
 */
public class GetServiceGraph {
    public static void main(String[] args) {
        final String usage = """

                Usage:    <groupName>

                Where:
                   groupName - The name of a group based on which you want to
 generate a graph.

                """;

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(usage);
            System.exit(1);
```

```
        }

        String groupName = args[0];
        Region region = Region.US_EAST_1;
        XRayClient xRayClient = XRayClient.builder()
                .region(region)
                .build();
        getGraph(xRayClient, groupName);
    }

    public static void getGraph(XRayClient xRayClient, String groupName) {
        try {
            // The Instant values have to be 6 hours apart.
            LocalDateTime localDateTime =
 LocalDateTime.parse("2022-03-09T06:00:00");
            Instant start = localDateTime.atZone(ZoneId.of("America/
New_York")).toInstant();

            LocalDateTime localDateTime2 =
 LocalDateTime.parse("2022-03-09T12:00:00");
            Instant end = localDateTime2.atZone(ZoneId.of("America/
New_York")).toInstant();

            GetServiceGraphRequest getServiceGraphRequest =
 GetServiceGraphRequest.builder()
                    .groupName(groupName)
                    .startTime(start)
                    .endTime(end)
                    .build();

            GetServiceGraphResponse graphResponse =
 xRayClient.getServiceGraph(getServiceGraphRequest);
            List<Service> services = graphResponse.services();
            for (Service service : services) {
                System.out.println("The name of the service is  " + service.name());
            }

        } catch (XRayException e) {
            System.err.println(e.getMessage());
            System.exit(1);
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x 「 API リファレンス」のGetServiceGraph」を参照してください。

のバージョン 1.x から 2.x への移行 AWS SDK for Java

AWS SDK for Java 2.x は、Java 8 以降上に構築された 1.x コードベースの大幅な書き換えです。これには、整合性と使いやすさの向上や強力に改善されたイミュータブル性などの多くの更新が含まれています。このセクションでは、バージョン 2.x の主な新機能の説明、およびバージョン 1.x から 2.x にコードを移行する方法についてのガイダンスが用意されています。

トピック

- バージョン 2 の新機能
- AWS SDK for Java 1.x クライアントを使用してアプリケーションを検索する
- コードを AWS SDK for Java 1.x から 2.x に移行する方法
- AWS SDK for Java 1.x と 2.x の違い
- SDK for Java 1.x と 2.x を並行して使用する

バージョン 2 の新機能

- 独自の HTTP クライアントを設定できます。「HTTP transport configuration」を参照してください。
- 非同期クライアントは、ノンブロッキング I/O をサポートし、CompletableFutureオブジェクトを返します。非同期プログラミングを参照してください。
- 複数ページを返すオペレーションには、自動ページ分割レスポンスがあります。これにより、後続のページを確認して取得する必要がなくなり、レスポンスをどのように処理するかのコードに集中できます。「ページ分割」を参照してください。
- AWS Lambda 関数の SDK 開始時間のパフォーマンスが向上しました。「SDK start time performance improvements」を参照してください。
- バージョン 2.x は、リクエストを作成するための、新しい簡易的な方法をサポートします。

  Example

```
dynamoDbClient.putItem(request -> request.tableName(TABLE))
```

新機能の詳細と特定のコード例については、このガイドの他のセクションを参照してください。

- クイックスタート

- セットアップ
- AWS SDK for Java 2.x のコード例
- SDK を使用する
- のセキュリティ AWS SDK for Java

AWS SDK for Java 1.x クライアントを使用してアプリケーションを検索する

に移行する前に AWS SDK for Java 2.x、環境内のどのアプリケーションが SDK for Java 1.x クライアントを使用しているかを特定する必要があります。CloudTrail ログを使用して、SDK の使用状況をトレースしたり、アプリケーションログで非推奨の警告を検索したり、ソースコードとビルド設定を調べたり、デプロイ可能な Java アーティファクトを調べたりできます。環境で使用できる任意の方法を使用します。

CloudWatch Logs Insights を使用して 1.x クライアントでアプリケーションを検索する

Amazon CloudWatch Logs Insights では、CloudWatch Logs ロググループに配信される CloudTrail イベントをクエリできます。 CloudWatch この方法を使用して、CloudTrail レコードの userAgent フィールドから SDK バージョンを識別します。CloudWatch Logs を有効にした CloudWatch CloudTrail 証跡が必要です。証跡がない場合は、CloudTrail コンソールを使用した証跡の作成」およびCloudWatch Logs へのイベントの送信」を参照してください。

CloudWatch コンソールで、Logs の下の Logs Insights に移動します。 CloudTrail ロググループを選択し、分析する期間をカバーする時間範囲を設定します。Logs Insights の使用の詳細については、CloudWatch Logs Insights を使用したログデータの分析」を参照してください。

次のサンプルクエリは、SDK for Java 1.x で行われたユーザーアプリケーションおよびサードパーティーツールからのすべてのリクエストを検索します。Logs Insights は、Logs Insights QL と SQL の両方をサポートしています。QL クエリは、コンソールで選択されたロググループを使用します。SQL クエリでは、 FROM句でロググループ名を指定する必要があります。

Logs Insights QL クエリ:

```
fields userIdentity.type, userIdentity.arn, eventSource, awsRegion,
       eventName, eventType, eventTime, userAgent, sourceIPAddress
```

```
| filter userAgent like /aws-sdk-java\/1\./
| filter userAgent not like /aws-internal\//
| sort eventTime desc
```

SQL クエリ:

```
SELECT `userIdentity.type`,
       `userIdentity.arn`,
       eventSource,
       awsRegion,
       eventName,
       eventType,
       eventTime,
       userAgent,
       sourceIPAddress
  FROM `sample-cloudtrail-log-group`
 WHERE userAgent LIKE '%aws-sdk-java/1.%'
   AND userAgent NOT LIKE '%aws-internal/%'
 ORDER BY eventTime DESC
```

sample-cloudtrail-log-group を CloudTrail ロググループの名前に置き換えます。

結果をエクスポートするには、結果のエクスポートを選択します。次の例は、JSON 形式の 1 つのイベントを示しています。

```
{
  "userIdentity.type": "AssumedRole",
  "userIdentity.arn": "arn:aws:sts::123456789012:assumed-role/Admin/Alice",
  "eventSource": "dynamodb.amazonaws.com",
  "awsRegion": "us-east-1",
  "eventName": "ListTables",
  "eventType": "AwsApiCall",
  "eventTime": "2025-07-01T22:02:23Z",
  "userAgent": "aws-sdk-java/1.12.746 Linux/5.10.240 OpenJDK/11.0.25+9-LTS ...",
  "sourceIPAddress": "12.345.6.78"
}
```

この例では、引き受けたロール の認証情報12.345.6.78を使用して、IP アドレス2025-07-01T22:02:23 (UTC)から で DynamoDB ListTablesリクエストが行われましたAdmin/Alice。userAgent フィールドには、JDK 11 を使用する 1.12.746 Linux システムで SDK for Java バージョンを使用してリクエストが行われたことが示されます。

AWS CloudTrail イベントレコードのフィールドの説明については、CloudTrail レコードの内容」を参照してください。

アカウントで CloudTrail が有効になっていない場合は、組織の AWS アカウント管理者に連絡して有効にするか、次のセクションで説明する代替方法のいずれかを使用します。

CloudWatch Logs Insights は、スキャンされたデータ量に基づいてクエリごとに課金されます。この調査専用に証跡を作成した場合は、継続的な料金が発生しないように、証跡の停止または削除を検討してください。現在の料金については、Amazon CloudWatch の料金」を参照してください。

SDK 非推奨のアプリケーション警告レベルのログを検索する

バージョン 1.12.767 (2024 年 7 月 30 日にリリース) 以降、 AWS SDK for Java 1.x はアプリケーションの起動時に非推奨警告を発行します。この警告のアプリケーションログを検索して、SDK for Java 1.x を使用しているアプリケーションとホストを特定できます。

警告の正確な表現は SDK バージョンによって異なります。

- バージョン 1.12.767 から 1.12.796:

  ```
  WARNING: The AWS SDK for Java 1.x entered maintenance mode starting July
  31, 2024 and will reach end of support on December 31, 2025...
  ```

- バージョン 1.12.797 以降:

  ```
  WARNING: The AWS SDK for Java 1.x reached end of support on December 31,
  2025...
  ```

末尾は、警告メッセージが追加のテキストで続く...ことを示します。一般的なプレフィックスを検索`The AWS SDK for Java 1.x`して、いずれかのバージョンの警告を検索できます。

次の例は、 を使用してこの警告を検索する方法を示していますgrep。

```
grep -r "The AWS SDK for Java 1.x" /path/to/your/application/logs/
```

警告が見つかった場合、grepコマンドは一致するログ行を出力します。警告が見つからない場合は、アプリケーションが SDK for Java 1.x を使用していないか、1.12.767 より前のバージョンを使用しています。その場合は、このドキュメントで説明されている他の方法のいずれかを使用します。

ソースコードと依存関係を検索する

コードベースとビルド設定ファイルで AWS SDK for Java 1.x への参照を検索できます。キー識別子は、すべての SDK for Java 1.x アーティファクトで使用されるcom.amazonawsグループ ID です。

次の例はgrep、 を使用して一般的な Java プロジェクトファイル全体のcom.amazonawsリファレンスを検索する方法を示しています。

例: SDK for Java 1.x インポートの Java ソースファイルを検索する (プロジェクトのルートディレクトリから実行)

```
grep -r "import com.amazonaws" --include="*.java" .
```

出力の例:

```
src/main/java/com/example/App.java:import com.amazonaws.services.s3.AmazonS3;
```

> **Note**
>
> com.amazonaws パッケージは、 などの SDK for Java 1.x に含まれていないライブラリでも使用されますaws-lambda-java-core。インポートが SDK for Java 1.x からのものであることを確認するには、pom.xml、、build.gradleまたは依存関係管理設定の対応するアーティファクト ID が で始まることを確認しますaws-java-sdk-。

例: Maven **pom.xml** ファイルで SDK for Java 1.x の依存関係を検索する (プロジェクトのルートディレクトリから実行)

```
grep -r "com.amazonaws" --include="pom.xml" .
```

出力の例:

```
pom.xml:    <groupId>com.amazonaws</groupId>
```

例: SDK for Java 1.x 依存関係の Gradle ビルドファイルを検索する (プロジェクトのルートディレクトリから実行)

```
grep -r "com.amazonaws:aws-java-sdk" --include="*.gradle" .
```

出力の例:

```
build.gradle:    implementation 'com.amazonaws:aws-java-sdk-s3:1.12.xxx'
```

上記のgrepコマンドは、ソースファイルとビルドファイルで直接宣言された SDK for Java 1.x リファレンスを識別します。ただし、アプリケーションは SDK for Java 1.x に推移的に依存している場合もあります。これは、SDK 自体に依存するサードパーティーライブラリを通じて行われます。ビルドツールの依存関係ツリーを使用して、直接 SDK for Java 1.x 依存関係と推移的 SDK for Java 1.x 依存関係の両方を検索します。ビルドシステムに一致する例を選択します。

例: Maven を使用してすべての推移的な SDK for Java 1.x 依存関係を検索する (プロジェクトのルートディレクトリから実行)

```
mvn dependency:tree -Dincludes=com.amazonaws
```

出力の例:

```
[INFO] com.example:my-application:jar:1.0-SNAPSHOT
[INFO] +- com.amazonaws:aws-java-sdk-s3:jar:1.12.746:compile
[INFO] |  \- com.amazonaws:aws-java-sdk-core:jar:1.12.746:compile
[INFO] \- some.thirdparty:library:jar:2.3.1:compile
[INFO]    \- com.amazonaws:aws-java-sdk-dynamodb:jar:1.12.600:compile
```

-Dincludes=com.amazonaws フラグはツリーをフィルタリングして、SDK for Java 1.x アーティファクトのみを表示します。この例では、 aws-java-sdk-s3は直接的な依存関係ですが、 によって導入される推移的な依存関係aws-java-sdk-dynamodbですsome.thirdparty:library。

例: Gradle を使用して、すべての推移的な SDK for Java 1.x 依存関係を検索する (プロジェクトのルートディレクトリから実行)

```
gradle dependencies --configuration runtimeClasspath | grep "com.amazonaws"
```

出力の例:

```
+--- com.amazonaws:aws-java-sdk-s3:1.12.746
|    \--- com.amazonaws:aws-java-sdk-core:1.12.746
\--- com.amazonaws:aws-java-sdk-dynamodb:1.12.600
```

Gradle には Maven の と同等の依存関係フィルターが組み込まれていないため-Dincludes、パイプスルーが最も簡単なアプローチgrepです。

デプロイ可能な Java アーティファクトを検査する

デプロイ可能な Java アーティファクト (JARs、WARs、または EARs) を検査し、 AWS SDK for Java 1.x がアプリケーションにパッケージ化されているかどうかを確認できます。Java アーカイブファイルは ZIP 形式のファイルです。SDK for Java 1.x が存在するかどうかを判断するには、アーカイブ`com/amazonaws/sdk/versionInfo.properties`内の ファイルを探します。このファイルは `aws-java-sdk-core`モジュールに含まれ、SDK バージョン番号が含まれています。

`jar` コマンドを使用したクイックチェック

すべての依存関係クラスが最上位レベルでマージされる uber-jar の場合は、アーカイブコンテンツを一覧表示し、バージョンファイルを検索します。

次の例では、 をアプリケーションの JAR ファイルへのパス`myapp.jar`に置き換えます。

```
jar -tf myapp.jar | grep 'versionInfo.properties'
```

SDK が存在する場合、出力は次のとおりです。

```
com/amazonaws/sdk/versionInfo.properties
```

`jar` コマンドが環境で使用できない場合 (JRE 専用イメージや最小コンテナイメージなど)、`unzip -l`代わりに を使用できます。

```
unzip -l myapp.jar | grep 'versionInfo.properties'
```

バージョンを出力するには:

```
unzip -p myapp.jar com/amazonaws/sdk/versionInfo.properties
```

出力の例:

```
platform=java
version=1.12.xxx
```

> **Note**
>
> 前述のコマンドは、uber-jars の最上位エントリのみを検索します。SDK クラスはJARs (依存関係が外部) またはネストされた JARs (WARs、EARs`lib/`または または の Lambda

パッケージなど) 内では見つかりませんWEB-INF/lib/。シン JARs、代わりにビルド設定 (pom.xml、build.gradle) または依存関係ツリーを確認してください。ネストされた JARs の場合は、ディスクに抽出せずに再帰的に ZIP アーカイブを読み取ることができるツールを使用して、バンドルされた JARs を検索します。

CloudTrail Lake を使用して 1.x クライアントでアプリケーションを検索する

Important

AWS CloudTrail Lake は、2026 年 5 月 31 日以降、新規のお客様に公開されなくなりました。既存のお客様はサービスを引き続き使用できます。詳細については、CloudTrail Lake の可用性の変更」を参照してください。代替アプローチについては、「」を参照してくださいthe section called “CloudWatch Logs Insights を使用して 1.x クライアントでアプリケーションを検索する”。

AWS CloudTrail Lake では、CloudTrail によって記録されたイベントをクエリできます。アプリケーションで使用される SDK バージョンを識別するデータレイクを作成するには、次の手順に従ってください。

1. CloudTrail データレイクを作成します。イベントデータストアを作成するには、ユーザーガイドを参照してください。
2. データストアを作成したら、レコードの内容を調べます。レコード本文には、リクエストされたアクション、日次、場所を示すフィールドが含まれています。詳細については、CloudTrail レコードコンテンツのユーザーガイドを参照してください。
3. データに対してクエリを実行します。ユーザーガイドに従ってクエリを実行し、クエリ結果を保存します。

各レコードの [userAgent] フィールドには、リクエストを行った SDK バージョンが含まれています。このフィールドを使用して、SDK for Java 1.x を使用するアプリケーションを識別します。

次のサンプルクエリは、EventDatastoreID の 2025 年 6 月 17 日以降に SDK for Java 1.x で行われたユーザーアプリケーションおよびサードパーティーツールからのすべてのリクエストを検索しますsample-Data-Store-Id。

```
select userIdentity, eventSource, awsRegion,
    eventName, eventType, eventTime, userAgent,
    requestParameters, sourceIPAddress
 from sample-Data-Store-Id
where eventTime > '2025-06-17 00:00:00'
and userAgent like '%aws-sdk-java/1.%'
and userAgent not like '%aws-internal/%'
order by eventTime desc
```

以下は、クエリ結果のイベントコンテンツの例です。

```
{
    "userIdentity": "{
         "type": "IAMUser",
         "principalId": "AIDAJ45Q7YFFAREXAMPLE",
         "arn": "arn:aws:iam::123456789012:user/Alice",
         "accountId": "123456789012",
         "accessKeyId": "",
         "userName": "Alice"
    }",
    "eventSource": "dynamodb.amazonaws.com",
    "awsRegion": "us-west-2",
    "eventName": "ListTables",
    "eventType": "AwsApiCall",
    "eventTime": "2025-07-01 02:23:52.000",
    "userAgent": "aws-sdk-java/1.12.746 Linux/5.10.240 OpenJDK/11.0.25+9-LTS ...",
    "requestParameters": "",
    "sourceIPAddress": "12.345.6.78"
}
```

この情報を使用して、リクエストが行われた日時と場所を判断できます。

この例では、Alice という名前の IAM ユーザー認証情報を使用して、IP アドレス `12.345.6.78` から `2025-07-01 02:23:52` (UTC) に DynamoDB `ListTables` リクエストが行われています。userAgent フィールドの値は、JDK 11 を使用する `1.12.746` Linux システムから AWS SDK for Java のバージョンを使用してリクエストが行われたことを示します。

AWS CloudTrail イベントレコードのフィールドの説明については、CloudTrail record contents for management, data, and network activity events」を参照してください。

アカウントで CloudTrail が有効になっていない場合は、組織の AWS アカウント管理者に連絡して有効にするか、前のセクションで説明した代替方法のいずれかを使用します。

CloudTrail Lake は、クエリごとに取り込まれたデータとスキャンされたデータに対して課金されます。コストを最小限に抑えるには、クエリを特定の時間範囲とリージョンにフィルタリングします。現在の料金については、「AWS CloudTrail 料金表」を参照してください。

コードを AWS SDK for Java 1.x から 2.x に移行する方法

既存の SDK for Java 1.x アプリケーションは、いくつかの方法で移行できます。

1. 移行ツールを使用した自動化されたアプローチ。
2. 1.x インポートを 2.x インポートに段階的に置き換える手動アプローチ。

最初に移行ツールを使用することをお勧めします。これにより、1.x から 2.x コードへのルーティン的な置換作業の多くが自動化されます。

ツールはすべての機能を移行するわけではないため、ツールの実行後に残りの v1 コードを検索する必要があります。ツールによって移行されなかったコードを見つけたら、ステップバイステップの手順 (手動アプローチ) に従い、移行ガイドの記事を使用して移行を完了してください。

トピック

- AWS SDK for Java 移行ツール
- ステップバイステップの移行手順

AWS SDK for Java 移行ツール

AWS SDK for Java は、SDK for Java 1.x (V1) コードの 2.x (V2) への移行を自動化する移行ツールを提供します。このツールは、オープンソースのソースコードリファクタリングツールである OpenRewrite を使用して移行を実行します。OpenRewrite はコード変更ルール (「レシピ」と呼ばれます) を使用して、ソースコードを V1 から V2 の構文とパターンに自動的に更新します。

このツールは、SDK サービスクライアントと S3 Transfer Manager の高レベルライブラリのコード変更ルールをサポートしています。V1 の `DynamoDBMapper` から V2 の DynamoDB 拡張クライアント API など、他の高レベル API のコード変更ルールはサポートされていません。

制限の詳細については、このページの最後の部分を参照してください。サポートされていない一般的なコードパターンの詳細と手動による移行手順については、「サポートされていないコードパターン」を参照してください。

移行ツールを使用する

Maven プロジェクトを移行する

OpenRewrite Maven プラグインツールを使用して SDK for Java 1.x Maven ベースのプロジェクトを移行するには、次の手順に従ってください。

1. Maven プロジェクトのルートディレクトリに移動します。

   ターミナル (コマンドライン) ウィンドウを開き、Maven ベースのアプリケーションのルートディレクトリに移動します。

2. プラグインの `rewrite-maven-plugin` コマンドを実行する

   `dryRun` と `run` の、2 つのモード (Maven の目標) から選択できます。

   `dryRun` モード

   `dryRun` モードでは、プラグインはコンソール出力に差分ログを生成し、`target/rewrite` フォルダに `rewrite.patch` という名前のパッチファイルを生成します。このモードでは、ソースコードファイルに変更を加えないため、どのような変更が行われるかをプレビューできます。

   次の例は、`dryRun` モードでプラグインを呼び出す方法を示しています。

```
mvn org.openrewrite.maven:rewrite-maven-plugin:<rewrite-plugin-version>*:dryRun \
  -Drewrite.recipeArtifactCoordinates=software.amazon.awssdk:v2-
migration:<sdkversion>** \
  -Drewrite.activeRecipes=software.amazon.awssdk.v2migration.AwsSdkJavaV1ToV2
```

   **<rewrite-plugin-version>* を、このテストファイルに表示される `rewriteMavenPluginVersion` 値に置き換えます。

   ***<sdkversion>* を 2.x SDK バージョンに置き換えます。Maven Central に移動し、最新バージョンを確認します。

> **Important**
>
> 他のバージョンでは機能しない可能性があるため、テストファイルに表示される `rewrite-maven-plugin` のバージョンを使用してください。

dryRun モードからのコンソール出力は次のようになります。

```
[WARNING] These recipes would make changes to project/src/test/resources/maven/
before/pom.xml:
[WARNING]     software.amazon.awssdk.v2migration.AwsSdkJavaV1ToV2
[WARNING]         software.amazon.awssdk.v2migration.UpgradeSdkDependencies
[WARNING]             org.openrewrite.java.dependencies.AddDependency:
 {groupId=software.amazon.awssdk, artifactId=apache-client, version=2.27.0,
 onlyIfUsing=com.amazonaws.ClientConfiguration}
[WARNING]             org.openrewrite.java.dependencies.AddDependency:
 {groupId=software.amazon.awssdk, artifactId=netty-nio-client, version=2.27.0,
 onlyIfUsing=com.amazonaws.ClientConfiguration}
[WARNING]             org.openrewrite.java.dependencies.ChangeDependency:
 {oldGroupId=com.amazonaws, oldArtifactId=aws-java-sdk-bom,
 newGroupId=software.amazon.awssdk, newArtifactId=bom, newVersion=2.27.0}
[WARNING]             org.openrewrite.java.dependencies.ChangeDependency:
 {oldGroupId=com.amazonaws, oldArtifactId=aws-java-sdk-s3,
 newGroupId=software.amazon.awssdk, newArtifactId=s3, newVersion=2.27.0}
[WARNING]             org.openrewrite.java.dependencies.ChangeDependency:
 {oldGroupId=com.amazonaws, oldArtifactId=aws-java-sdk-sqs,
 newGroupId=software.amazon.awssdk, newArtifactId=sqs, newVersion=2.27.0}
[WARNING] These recipes would make changes to project/src/test/resources/maven/
before/src/main/java/foo/bar/Application.java:
[WARNING]     software.amazon.awssdk.v2migration.AwsSdkJavaV1ToV2
[WARNING]         software.amazon.awssdk.v2migration.S3GetObjectConstructorToFluent
[WARNING]             software.amazon.awssdk.v2migration.ConstructorToFluent
[WARNING]         software.amazon.awssdk.v2migration.S3StreamingResponseToV2
[WARNING]         software.amazon.awssdk.v2migration.ChangeSdkType
[WARNING]         software.amazon.awssdk.v2migration.ChangeSdkCoreTypes
[WARNING]             software.amazon.awssdk.v2migration.ChangeExceptionTypes
[WARNING]                 org.openrewrite.java.ChangeType:
 {oldFullyQualifiedTypeName=com.amazonaws.AmazonClientException,
 newFullyQualifiedTypeName=software.amazon.awssdk.core.exception.SdkException}
[WARNING]                 org.openrewrite.java.ChangeMethodName:
 {methodPattern=com.amazonaws.AmazonServiceException getRequestId(),
 newMethodName=requestId}
[WARNING]                 org.openrewrite.java.ChangeMethodName:
 {methodPattern=com.amazonaws.AmazonServiceException getErrorCode(),
 newMethodName=awsErrorDetails().errorCode}
[WARNING]                 org.openrewrite.java.ChangeMethodName:
 {methodPattern=com.amazonaws.AmazonServiceException getServiceName(),
 newMethodName=awsErrorDetails().serviceName}
```

```
[WARNING]                org.openrewrite.java.ChangeMethodName:
 {methodPattern=com.amazonaws.AmazonServiceException getErrorMessage(),
 newMethodName=awsErrorDetails().errorMessage}
[WARNING]                org.openrewrite.java.ChangeMethodName:
 {methodPattern=com.amazonaws.AmazonServiceException getRawResponse(),
 newMethodName=awsErrorDetails().rawResponse().asByteArray}
[WARNING]                org.openrewrite.java.ChangeMethodName:
 {methodPattern=com.amazonaws.AmazonServiceException getRawResponseContent(),
 newMethodName=awsErrorDetails().rawResponse().asUtf8String}
[WARNING]                org.openrewrite.java.ChangeType:
 {oldFullyQualifiedTypeName=com.amazonaws.AmazonServiceException,
 newFullyQualifiedTypeName=software.amazon.awssdk.awscore.exception.AwsServiceException}
[WARNING]         software.amazon.awssdk.v2migration.NewClassToBuilderPattern
[WARNING]             software.amazon.awssdk.v2migration.NewClassToBuilder
[WARNING]             software.amazon.awssdk.v2migration.V1SetterToV2
[WARNING]         software.amazon.awssdk.v2migration.V1GetterToV2
...
[WARNING]         software.amazon.awssdk.v2migration.V1BuilderVariationsToV2Builder
[WARNING]         software.amazon.awssdk.v2migration.NewClassToBuilderPattern
[WARNING]             software.amazon.awssdk.v2migration.NewClassToBuilder
[WARNING]             software.amazon.awssdk.v2migration.V1SetterToV2
[WARNING]         software.amazon.awssdk.v2migration.HttpSettingsToHttpClient
[WARNING]         software.amazon.awssdk.v2migration.WrapSdkClientBuilderRegionStr
[WARNING] Patch file available:
[WARNING]     project/src/test/resources/maven/before/target/rewrite/rewrite.patch
[WARNING] Estimate time saved: 20m
[WARNING] Run 'mvn rewrite:run' to apply the recipes.
```

run モード

プラグインを run モードで実行すると、ディスク上のソースコードが変更され、変更が適用されます。コマンドを実行する前に、ソースコードのバックアップがあることを確認してください。

次の例は、run モードでプラグインを呼び出す方法を示しています。

```
mvn org.openrewrite.maven:rewrite-maven-plugin:<rewrite-plugin-version>*:run \
  -Drewrite.recipeArtifactCoordinates=software.amazon.awssdk:v2-
migration:<sdkversion>** \
  -Drewrite.activeRecipes=software.amazon.awssdk.v2migration.AwsSdkJavaV1ToV2
```

**<rewrite-plugin-version>* を、このテストファイルに表示される rewriteMavenPluginVersionvalue に置き換えます。

**<sdkversion> を 2.x SDK バージョンに置き換えます。Maven Central に移動し、最新バージョンを確認します。

コマンドを実行したら、アプリケーションをコンパイルし、テストを実行して変更を検証します。

Gradle プロジェクトの移行

OpenRewrite Gradle プラグインツールを使用して SDK for Java 1.x Gradle ベースのプロジェクトを移行するには、次の手順に従ってください。

1. プロジェクトのルートディレクトリに移動します。

   ターミナル (コマンドライン) ウィンドウを開き、Gradle ベースのアプリケーションのルートディレクトリに移動します。

2. Gradle init スクリプトを作成する

   ディレクトリに次の内容で `init.gradle` ファイルを作成します。

```
initscript {
    repositories {
        maven { url "https://plugins.gradle.org/m2" }
    }
    dependencies {
        classpath("org.openrewrite:plugin:<rewrite-plugin-version>*")
    }
}

rootProject {
    plugins.apply(org.openrewrite.gradle.RewritePlugin)
    dependencies {
        rewrite("software.amazon.awssdk:v2-migration:latest.release")
    }

    afterEvaluate {
        if (repositories.isEmpty()) {
            repositories {
                mavenCentral()
            }
        }
    }
```

```
}
```

*<rewrite-plugin-version> を、このテストファイルに表示されるバージョンに置き換えます。

3. rewrite コマンドの実行

   Maven プラグインと同様に、Gradle プラグインを dryRun または run モードで実行できます。

   dryRun モード

   次の例は、dryRun モードでプラグインを呼び出す方法を示しています。

```
gradle rewriteDryRun --init-script init.gradle \
  -Drewrite.activeRecipes=software.amazon.awssdk.v2migration.AwsSdkJavaV1ToV2
```

   run モード

   次の例は、run モードでプラグインを呼び出す方法を示しています。

```
gradle rewriteRun --init-script init.gradle \
  -Drewrite.activeRecipes=software.amazon.awssdk.v2migration.AwsSdkJavaV1ToV2
```

現在の制限事項

移行では、コード変更ルールによってほとんどの V1 コードを V2 の同等コードに移行できますが、一部のクラスとメソッドは移行できません。これらのクラスとメソッドについては、ステップバイステップの手順に従って、コードを手動で移行します。

サポートされていないコード変更ルールによっては、移行ツールに次の文で始まるコメントが表示される場合があります。

```
/*AWS SDK for Java v2 migration: Transform for ...
```

コメントの後、ツールには メソッドまたはクラスの V2 バージョンの汎用スタブが出力されます。たとえば、次の出力では、移行ツールが V1 S3 クライアントの setBucketLifecycleConfiguration メソッドの移行を試行しました。

```
/*AWS SDK for Java v2 migration: Transform for setBucketLifecycleConfiguration method
 not supported.
```

```
Please manually migrate your code by using builder pattern, update from
 BucketLifecycleConfiguration.Rule
to LifecycleRule, StorageClass to TransitionStorageClass, and adjust imports and
 names.*/
s3.putBucketLifecycleConfiguration(
        PutBucketLifecycleConfigurationRequest.builder()
            .bucket(bucketName)
            .lifecycleConfiguration(BucketLifecycleConfiguration.builder()
                .build())
            .build());
```

以下のリストから、コードを手動で移行するための移行情報に移動できます。

- the section called “S3 クライアントの違い”
- S3 Transfer Manager (TransferManager)
- DynamoDB オブジェクトマッピング (DynamoDBMapper)
- EC2 メタデータユーティリティ (EC2MetadataUtils)
- ウェイター (AmazonDynamoDBWaiters)
- IAM Policy Builder (Policy)
- CloudFront 事前署名 (CloudFrontUrlSigner、CloudFrontCookieSigner)
- S3 イベント通知 (S3EventNotification)
- SDK メトリクスの公開 (1.x ドキュメント、2.x ドキュメント)
- サポートされていないコードパターン – 手動移行を必要とする一般的なコードパターンの詳細な例

移行ツールでサポートされていないコードパターン

移行ツールは、ほとんどの v1 コードを v2 に自動的に変換します。ただし、一部のコードパターンでは手動による移行が必要です。このトピックでは、サポートされていない最も一般的なパターンの詳細な例と、それらを手動で変換する方法を示します。

以下のパターンリストは完全なものではありません。移行ツールの実行後にコードがコンパイルされない場合は、「ステップバイステップの移行手順」に従って、残りの v1 コードを手動で移行してください。

パラメータを持つリクエストオブジェクトコンストラクタ

リクエスト POJO (Amazon S3 を除く) の場合、移行ツールはセッターメソッドのみを変換します。このツールは、パラメータを持つコンストラクタをサポートしていません。

サポートされているパターン: セッターを使用するリクエストオブジェクト (コンストラクタパラメータなし)

移行前 (元の v1 コード)

```
import com.amazonaws.services.sqs.model.SendMessageRequest;

SendMessageRequest request = new SendMessageRequest().withMessageBody("Hello World");
request.setQueueUrl("https://sqs.us-west-2.amazonaws.com/0123456789012/demo-queue");
```

移行後 (移行ツールの結果)

```
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.SendMessageRequest;

SendMessageRequest request = SendMessageRequest.builder()
    .messageBody("Hello World").build();
request = request.toBuilder()
    .queueUrl("https://sqs.us-west-2.amazonaws.com/0123456789012/demo-queue").build();
```

サポートされていないパターン: パラメータを使用したリクエストオブジェクトコンストラクタ

移行ツールは、パラメータを持つコンストラクタを変換できません。

手動移行前 (移行ツール使用後)

```
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.SendMessageRequest; // Import updated
 to v2.

// This pattern requires manual migration.
SendMessageRequest request = new SendMessageRequest(
    "https://sqs.us-west-2.amazonaws.com/0123456789012/demo-queue",
    "Hello World");
```

移行ツールはインポートを v2 に変換しますが、コンストラクタコードは変更されず、ビルダーパターンを使用するには手動で更新する必要があります。

手動移行後

```
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.SendMessageRequest;

SendMessageRequest request = SendMessageRequest.builder()
    .messageBody("Hello World")
    .queueUrl("https://sqs.us-west-2.amazonaws.com/0123456789012/demo-queue")
    .build();
```

個々のパラメータを使用したサービスクライアントメソッド

移行ツールは、リクエストオブジェクト (Amazon S3 を除く) の代わりに個々のパラメータを使用するサービスクライアントメソッドを変換できません。

移行前 (v1 コード)

```
import com.amazonaws.services.sqs.AmazonSQS;
import com.amazonaws.services.sqs.AmazonSQSClient;

AmazonSQS sqs = new AmazonSQSClient();
// The following v1 method takes individual parameters.
sqs.sendMessage("https://sqs.us-west-2.amazonaws.com/0123456789012/demo-queue", "Hello
 World");
```

移行後 (移行ツールの結果 - コンパイルされません)

```
import software.amazon.awssdk.services.sqs.SqsClient;  // Import updated to v2.
// No import statement for the v2 request POJO.

SqsClient sqs = SqsClient.builder().build();

// Does not compile–v2 methods only accept request POJOs.
sqs.sendMessage("https://sqs.us-west-2.amazonaws.com/0123456789012/demo-queue", "Hello
 World");
```

リクエストオブジェクトを使用するには、メソッド引数を手動で更新する必要があります。

```
import software.amazon.awssdk.services.sqs.SqsClient;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.SendMessageRequest; // Add manually.

SqsClient sqs = SqsClient.builder().build();

// Corrected v2 code.
SendMessageRequest request = SendMessageRequest.builder()
```

```
    .queueUrl("https://sqs.us-west-2.amazonaws.com/0123456789012/demo-queue")
    .messageBody("Hello World")
    .build();
sqs.sendMessage(request);
```

リクエストのタイムアウトメソッド

移行ツールは、リクエストオブジェクトにタイムアウトを設定するメソッドを変換しません。

移行前 (v1 コード)

```
import com.amazonaws.services.sqs.model.SendMessageRequest;

SendMessageRequest request = new SendMessageRequest();
request.setSdkRequestTimeout(7);
```

移行後 (移行ツールの結果 - コンパイルされません)

```
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.SendMessageRequest;  // Import updated
 to v2.

SendMessageRequest request = SendMessageRequest.builder().build();

// Does not compile.
request.setSdkRequestTimeout(7);
```

v2 の overrideConfiguration メソッドを使用するには、手動で移行する必要があります。

```
import software.amazon.awssdk.services.sqs.model.SendMessageRequest;
import java.time.Duration;

SendMessageRequest request = SendMessageRequest.builder().build();

// Corrected v2 code.
request = request.toBuilder()
    .overrideConfiguration(o -> o.apiCallTimeout(Duration.ofSeconds(7)))
    .build();
```

パラメータを含むサービスクライアントコンストラクタ

移行ツールは空のサービスクライアントコンストラクタを変換しますが、認証情報や設定などのパラメータを受け入れるコンストラクタを変換することはできません。

移行前 (v1 コード)

```
import com.amazonaws.auth.AWSCredentials;
import com.amazonaws.auth.BasicAWSCredentials;
import com.amazonaws.services.sqs.AmazonSQS;
import com.amazonaws.services.sqs.AmazonSQSClient;

AWSCredentials awsCredentials = new BasicAWSCredentials("akid", "skid");
AmazonSQS sqs = new AmazonSQSClient(awsCredentials);
```

移行後 (移行ツールの結果 - コンパイルされません)

```
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.AwsCredentials;
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.AwsBasicCredentials;
import software.amazon.awssdk.services.sqs.SqsClient;  // Import updated to v2.

AwsCredentials awsCredentials = AwsBasicCredentials.create("akid", "skid");

// Does not compile.
SqsClient sqs = new SqsClient(awsCredentials);
```

ビルダーパターンを使用するには、サービスクライアントコンストラクタを手動で更新する必要があります。

```
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.AwsCredentials;
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.AwsBasicCredentials;
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.StaticCredentialsProvider;  // Add
 manually.
import software.amazon.awssdk.services.sqs.SqsClient;

AwsCredentials awsCredentials = AwsBasicCredentials.create("akid", "skid");

// Corrected v2 code.
SqsClient sqs = SqsClient.builder()
    .credentialsProvider(StaticCredentialsProvider.create(awsCredentials))
    .build();
```

ステップバイステップの移行手順

このセクションでは、現在 SDK for Java v1.x を使用しているアプリケーションを SDK for Java 2.x に移行するためのステップバイステップガイドを提供します。最初のパートでは、手順の概要と移行の詳細な例を示します。

ここで説明するステップでは、アプリケーションがモデル駆動型サービスクライアント AWS のサービス を使用して を呼び出す通常のユースケースの移行について説明します。S3 Transfer Manager や CloudFront 事前署名などの上位レベルの API を使用するコードを移行する必要がある場合は、the section called “1.x と 2.x の相違点” の目次内のセクションを参照してください。

ここで説明するアプローチは提案です。他の手法を使用し、IDE のコード編集機能を活用して同じ結果を得ることができます。

手順の概要

1. SDK for Java 2.x BOM の追加から始める

SDK for Java 2.x の Maven BOM (部品表) 要素を POM ファイルに追加することで、必要なすべての v2 依存関係が同一バージョンになります。POM には、v1 と v2 の両方の依存関係を含めることができます。これにより、コードを一度にすべて変更するのではなく、段階的に移行できます。

SDK for Java 2.x BOM

```
<dependencyManagement>
  <dependencies>
    <dependency>
      <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
      <artifactId>bom</artifactId>
      <version>2.27.21</version>
      <type>pom</type>
      <scope>import</scope>
    </dependency>
  </dependencies>
</dependencyManagement>
```

Maven Central リポジトリで最新バージョンを検索してください。

2. v1 クラスインポートステートメントのファイルを検索する

アプリケーションのファイルをスキャンして v1 インポートで使用される SERVICE_ID を調べると、使用される一意の SERVICE_ID が見つかります。SERVICE_ID は、 の短い一意の名前です AWS のサービス。例えば、`cognitoidentity` はAmazon Cognito ID の SERVICE_ID です。

3. v1 インポートステートメントから v2 Maven の依存関係を特定する

一意の v1 SERVICE_ID がすべて見つかったら、the section called “パッケージ名から artifactId へのマッピング” を参照して、v2 の依存関係に対応する Maven アーティファクトを特定できます。

4. POM ファイルに v2 依存関係要素を追加する

ステップ 3 で特定した依存関係要素で Maven POM ファイルを更新します。

5. Java ファイルで、v1 クラスを v2 クラスに段階的に変更する

v1 クラスを v2 クラスに置き換えるときは、コンストラクタの代わりにビルダーを使用する、Fluent ゲッターやセッターを使用するなど、v2 API をサポートするために必要な変更を加えます。

6. POM から v1 Maven の依存関係を削除し、ファイルから v1 インポートを削除する

v2 クラスを使用するようにコードを移行したら、ファイルからの v1 の残りのインポートと、ビルドファイルからのすべての依存関係を削除します。

7. v2 API の拡張機能を使用するようにコードをリファクタリングする

コードが正常にコンパイルされてテストに合格したら、別の HTTP クライアントやページネーターを使用してコードを簡素化するなど、v2 の拡張機能を活用できます。これは任意の手順です。

移行の例

この例では、SDK for Java v1 を使用し、複数の AWS のサービスにアクセスするアプリケーションを移行します。ステップ 5 では、次の v1 メソッドについて詳しく説明します。これは、8 つのメソッドを含むクラスの 1 つのメソッドであり、アプリケーションには 32 のクラスがあります。

移行する v1 メソッド

Java ファイルから v1 SDK インポートのみを以下に列挙します。

```
import com.amazonaws.ClientConfiguration;
import com.amazonaws.regions.Region;
import com.amazonaws.regions.RegionUtils;
import com.amazonaws.services.ec2.AmazonEC2Client;
```

```
import com.amazonaws.services.ec2.model.AmazonEC2Exception;
import com.amazonaws.services.ec2.model.CreateTagsRequest;
import com.amazonaws.services.ec2.model.DescribeInstancesRequest;
import com.amazonaws.services.ec2.model.DescribeInstancesResult;
import com.amazonaws.services.ec2.model.Instance;
import com.amazonaws.services.ec2.model.InstanceStateName;
import com.amazonaws.services.ec2.model.Reservation;
import com.amazonaws.services.ec2.model.Tag;
import com.amazonaws.services.ec2.model.TerminateInstancesRequest;
...
private static List<Instance> getRunningInstances(AmazonEC2Client ec2, List<String>
 instanceIds) {
    List<Instance> runningInstances = new ArrayList<>();
    try {
        DescribeInstancesRequest request = new DescribeInstancesRequest()
                .withInstanceIds(instanceIds);
        DescribeInstancesResult result;
        do {
            // DescribeInstancesResponse is a paginated response, so use tokens with
 multiple requests.
            result = ec2.describeInstances(request);
            request.setNextToken(result.getNextToken());   // Prepare request for next
 page.
            for (final Reservation r : result.getReservations()) {
                for (final Instance instance : r.getInstances()) {
                    LOGGER.info("Examining instanceId: "+ instance.getInstanceId());
                    // if instance is in a running state, add it to runningInstances
 list.
                    if (RUNNING_STATES.contains(instance.getState().getName())) {
                        runningInstances.add(instance);
                    }
                }
            }
        } while (result.getNextToken() != null);
    } catch (final AmazonEC2Exception exception) {
        // if instance isn't found, assume its terminated and continue.
        if (exception.getErrorCode().equals(NOT_FOUND_ERROR_CODE)) {
            LOGGER.info("Instance probably terminated; moving on.");
        } else {
            throw exception;
        }
    }
    return runningInstances;
```

```
}
```

1. v2 Maven BOM を追加する

dependencyManagement セクションの他の依存関係とともに、SDK for Java 2.x の Maven BOM を POM に追加します。POM ファイルに SDK の v1 用の BOM がある場合、この時点ではそのままにします。これは、後のステップで削除します。

初期段階の POM 依存関係管理

```
<dependencyManagement>
  <dependencies>
    <dependency>
      <groupId>org.example</groupId>             <!--Existing dependency in POM. -->
      <artifactId>bom</artifactId>
      <version>1.3.4</version>
      <type>pom</type>
      <scope>import</scope>
    </dependency>
    ...
    <dependency>
      <groupId>com.amazonaws</groupId>
      <artifactId>aws-java-sdk-bom</artifactId>  <!--Existing v1 BOM dependency. -->
      <version>1.11.1000</version>
      <type>pom</type>
      <scope>import</scope>
    </dependency>
    ...
    <dependency>
      <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>  <!--Add v2 BOM dependency. -->
      <artifactId>bom</artifactId>
      <version>2.27.21</version>
      <type>pom</type>
      <scope>import</scope>
    </dependency>
  </dependencies>
</dependencyManagement>
```

2. v1 クラスインポートステートメントのファイルを検索する

アプリケーションのコードで import com.amazonaws.services の一意の出現箇所を検索します。これにより、プロジェクトで使用される v1 依存関係を特定できます。アプリケーションに v1 依存関係が列挙された Maven POM ファイルがある場合は、代わりにこの情報を使用できます。

この例では、ripgrep (rg) コマンドを使用してコードベースを検索します。

コードベースのルートから、次の ripgrep コマンドを実行します。ripgrep がインポートステートメントを検出すると、それらは cut、sort、および uniq コマンドにパイプされ、SERVICE_ID が隔離されます。

```
rg --no-filename 'import\s+com\.amazonaws\.services' | cut -d '.' -f 4 | sort | uniq
```

このアプリケーションでは、次の SERVICE_ID がコンソールにログ記録されます。

```
autoscaling
cloudformation
ec2
identitymanagement
```

これは、import ステートメントで次の各パッケージ名が少なくとも 1 回出現したことを示しています。今回の目的では、個々のクラス名は関係ありません。使用される SERVICE_ID が必要なだけです。

```
com.amazonaws.services.autoscaling.*
com.amazonaws.services.cloudformation.*
com.amazonaws.services.ec2.*
com.amazonaws.services.identitymanagement.*
```

3. v1 インポートステートメントから v2 Maven の依存関係を特定する

ステップ 2 で隔離した v1 の SERVICE_ID (例えば autoscaling と cloudformation) は、ほとんどの場合同じ v2 SERVICE_ID にマッピングできます。v2 Maven artifactId はほとんどの場合 SERVICE_ID と一致するため、POM ファイルに依存関係ブロックを追加するために必要な情報は揃っています。

次の表は、v2 の依存関係を特定する方法を示しています。

v1 SERVICE_ID のマッピング先 パッケージ名	v2 SERVICE_ID のマッピング先 パッケージ名	v2 Maven の依存関係
ec2	ec2	`<dependency>`

v1 SERVICE_ID のマッピング先 パッケージ名	v2 SERVICE_ID のマッピング先 パッケージ名	v2 Maven の依存関係
com.amazonaws.services. **ec2**.*	software.amazon.awssdk.services. **ec2**.*	<groupId>software.amazon.awssdk</groupId> <artifactId> **ec2**</artifactId> </dependency>
自動スケーリング com.amazonaws.services. **autoscaling** .*	自動スケーリング software.amazon.awssdk.services. **autoscaling** .*	<dependency> <groupId>software.amazon.awssdk</groupId> <artifactId> **autoscaling** </artifactId> </dependency>
cloudformation com.amazonaws.services. **cloudformation** .*	cloudformation software.amazon.awssdk. **cloudformation** .*	<dependency> <groupId>software.amazon.awssdk</groupId> <artifactId> **cloudformation** </artifactId> </dependency>
identitymanagement* com.amazonaws.services. **identitymanagement** .*	iam* software.amazon.awssdk. **iam**.*	<dependency> <groupId>software.amazon.awssdk</groupId> <artifactId> **iam**</artifactId> </dependency>

* `identitymanagement` から `iam` へのマッピングは例外であり、SERVICE_ID がバージョン間で異なります。Maven または Gradle が v2 依存関係を解決できない場合の例外については、「the section called “パッケージ名から artifactId へのマッピング”」を参照してください。

4. POM ファイルに v2 依存関係要素を追加する

ステップ 3 では、POM ファイルに追加する必要がある 4 つの依存関係ブロックを特定しました。ステップ 1 で BOM を指定しているため、バージョンを追加する必要はありません。インポートが追加されると、POM ファイルには次の依存関係要素が含まれるようになります。

```
    ...
  <dependencies>
    ...
    <dependency>
      <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
      <artifactId>autoscaling</artifactId>
    </dependency>
    <dependency>
      <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
      <artifactId>iam</artifactId>
    </dependency>
    <dependency>
      <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
      <artifactId>cloudformation</artifactId>
    </dependency>
    <dependency>
      <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
      <artifactId>ec2</artifactId>
    </dependency>
    ...
  </dependencies>
    ...
```

5. Java ファイルで、v1 クラスを v2 クラスに段階的に変更する

移行するメソッドでは、以下が確認できます。

- `com.amazonaws.services.ec2.AmazonEC2Client` からの EC2 サービスクライアント。
- 使用される複数の EC2 モデルクラス。たとえば、`DescribeInstancesRequest` や `DescribeInstancesResult` など。

```
import com.amazonaws.ClientConfiguration;
import com.amazonaws.regions.Region;
import com.amazonaws.regions.RegionUtils;
import com.amazonaws.services.ec2.AmazonEC2Client;
```

```
import com.amazonaws.services.ec2.model.AmazonEC2Exception;
import com.amazonaws.services.ec2.model.CreateTagsRequest;
import com.amazonaws.services.ec2.model.DescribeInstancesRequest;
import com.amazonaws.services.ec2.model.DescribeInstancesResult;
import com.amazonaws.services.ec2.model.Instance;
import com.amazonaws.services.ec2.model.InstanceStateName;
import com.amazonaws.services.ec2.model.Reservation;
import com.amazonaws.services.ec2.model.Tag;
import com.amazonaws.services.ec2.model.TerminateInstancesRequest;
...
private static List<Instance> getRunningInstances(AmazonEC2Client ec2, List<String>
 instanceIds)
    List<Instance> runningInstances = new ArrayList<>();
    try {
        DescribeInstancesRequest request = new DescribeInstancesRequest()
                .withInstanceIds(instanceIds);
        DescribeInstancesResult result;
        do {
            // DescribeInstancesResponse is a paginated response, so use tokens with
 multiple re
            result = ec2.describeInstances(request);
            request.setNextToken(result.getNextToken());   // Prepare request for next
 page.
            for (final Reservation r : result.getReservations()) {
                for (final Instance instance : r.getInstances()) {
                    LOGGER.info("Examining instanceId: "+ instance.getInstanceId());
                    // if instance is in a running state, add it to runningInstances
 list.
                    if (RUNNING_STATES.contains(instance.getState().getName())) {
                        runningInstances.add(instance);
                    }
                }
            }
        } while (result.getNextToken() != null);
    } catch (final AmazonEC2Exception exception) {
        // if instance isn't found, assume its terminated and continue.
        if (exception.getErrorCode().equals(NOT_FOUND_ERROR_CODE)) {
            LOGGER.info("Instance probably terminated; moving on.");
        } else {
            throw exception;
        }
    }
    return runningInstances;
}
```

```
...
```

目標は、すべての v1 インポートを v2 インポートに置き換えることです。一度に 1 つずつクラスを処理します。

a. インポートステートメントまたはクラス名を置き換える

describeRunningInstances メソッドの最初のパラメータは v1 AmazonEC2Client インスタンスであることがわかります。次のいずれかを行います。

- com.amazonaws.services.ec2.AmazonEC2Client のインポートを software.amazon.awssdk.services.ec2.Ec2Client に置き換え、 AmazonEC2Client を Ec2Client に変更します。
- パラメータ型を Ec2Client に変更し、IDE に正しいインポートを表示させます。クライアント名が異なるため (AmazonEC2Client および Ec2Client)、IDE から v2 クラスをインポートするように求められます。クラス名が両方のバージョンで同じ場合、このアプローチは機能しません。

b. v1 モデルクラスを v2 の同等クラスに置き換える

v2 Ec2Client への変更後、IDE を使用する場合、次のステートメントにコンパイルエラーが表示されます。

```
result = ec2.describeInstances(request);
```

コンパイルエラーは、v1 の DescribeInstancesRequest のインスタンスを v2 Ec2Client describeInstances メソッドのパラメータとして使用した結果です。修正するには、次の置換を行うかインポートステートメントを作成します。

置換	デプロイに
`import com.amazonaws.services.ec2.model.DescribeInstancesRequest`	`import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeInstancesRequest`

c。v1 コンストラクタを v2 ビルダーに変更します。

v2 クラスにコンストラクタがないため、引き続きコンパイルエラーが表示されます。修正するには、以下の変更を加えます。

変更	まで

`final DescribeInstancesRequest request = new DescribeInstancesRequest()`
`.withInstanceIds(instanceIdsCopy);`
	`final DescribeInstancesRequest request = DescribeInstancesRequest.builder()`
	`.instanceIds(instanceIdsCopy)`
	`.build();`

d。v1 ***Result** レスポンスオブジェクトを v2 の同等の ***Response** オブジェクトに置き換える

v1 と v2 の一貫した違いは、v2 のすべてのレスポンスオブジェクトが *Result ではなく *Response で終わることです。v1 DescribeInstancesResult インポートを v2 インポート DescribeInstancesResponse に置き換えます。

d。API を変更する

次のステートメントにはいくつかの変更が必要です。

```
request.setNextToken(result.getNextToken());
```

v2 では、セッターメソッドは set または prefix を使用しません。プレフィックスが get のゲッターメソッドも SDK for Java 2.x では廃止されています。

request インスタンスなどのモデルクラスは v2 では変更できないため、ビルダーを使用して新しい DescribeInstancesRequest を作成する必要があります。

v2 では、 ステートメントは次のようになります。

```
request = DescribeInstancesRequest.builder()
        .nextToken(result.nextToken())
        .build();
```

d。メソッドが v2 クラスでコンパイルされるまで繰り返す

残りのコードを処理します。v1 インポートを v2 インポートに置き換え、コンパイルエラーを修正します。必要に応じて、v2 API のリファレンスと相違点に関する情報を参照してください。

この単一のメソッドを移行した後、v2 コードは次のようになります。

```
import com.amazonaws.ClientConfiguration;
import com.amazonaws.regions.Region;
import com.amazonaws.regions.RegionUtils;
import com.amazonaws.services.ec2.AmazonEC2Client;
import com.amazonaws.services.ec2.model.AmazonEC2Exception;
import com.amazonaws.services.ec2.model.CreateTagsRequest;
import com.amazonaws.services.ec2.model.InstanceStateName;
import com.amazonaws.services.ec2.model.Tag;
import com.amazonaws.services.ec2.model.TerminateInstancesRequest;

import software.amazon.awssdk.services.ec2.Ec2Client;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeInstancesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeInstancesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.Ec2Exception;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.Instance;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.Reservation;
...
private static List<Instance> getRunningInstances(Ec2Client ec2, List<String>
 instanceIds) {
    List<Instance> runningInstances = new ArrayList<>();
        try {
            DescribeInstancesRequest request = DescribeInstancesRequest.builder()
                    .instanceIds(instanceIds)
                    .build();
            DescribeInstancesResponse result;
            do {
                // DescribeInstancesResponse is a paginated response, so use tokens
 with multiple re
                result = ec2.describeInstances(request);
                request = DescribeInstancesRequest.builder()   // Prepare request for
 next page.
                        .nextToken(result.nextToken())
                        .build();
                for (final Reservation r : result.reservations()) {
                    for (final Instance instance : r.instances()) {
                        // if instance is in a running state, add it to
 runningInstances list.
                        if (RUNNING_STATES.contains(instance.state().nameAsString())) {
                            runningInstances.add(instance);
                        }
                    }
                }
```

```
            } while (result.nextToken() != null);
        } catch (final Ec2Exception exception) {
            // if instance isn't found, assume its terminated and continue.
            if (exception.awsErrorDetails().errorCode().equals(NOT_FOUND_ERROR_CODE)) {
                    LOGGER.info("Instance probably terminated; moving on.");
            } else {
                throw exception;
            }
        }
        return runningInstances;
    }
...
```

8 つのメソッドを持つ Java ファイルの 1 つのメソッドを移行するため、ファイルを処理する際に v1 と v2 のインポートが混在することになります。ステップの実行時に、最後の 6 つのインポートステートメントを追加しました。

すべてのコードを移行すると、v1 インポートステートメントはなくなります。

6. POM から v1 Maven の依存関係を削除し、ファイルから v1 インポートを削除する

ファイル内のすべての v1 コードを移行した後、v2 SDK インポートステートメントは次のようになります。

```
import software.amazon.awssdk.core.client.config.ClientOverrideConfiguration;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.regions.ServiceMetadata;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.Ec2Client;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.CreateTagsRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeInstancesRequest;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.DescribeInstancesResponse;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.Ec2Exception;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.Instance;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.InstanceStateName;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.Reservation;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.Tag;
import software.amazon.awssdk.services.ec2.model.TerminateInstancesRequest;
```

アプリケーション内のすべてのファイルを移行した後、POM ファイルに v1 依存関係は必要ありません。使用している場合は、dependencyManagement セクションから v1 BOM と、すべての v1 依存関係ブロックを削除します。

7. v2 API の拡張機能を使用するようにコードをリファクタリングする

移行しているスニペットでは、オプションで v2 ページネーターを使用し、SDK でより多くのデータに対するトークンベースのリクエストを管理できます。

do 句全体を以下に置き換えることができます。

```
                DescribeInstancesIterable responses =
ec2.describeInstancesPaginator(request);

                responses.reservations().stream()
                        .forEach(reservation -> reservation.instances()
                                .forEach(instance -> {
                                    if
(RUNNING_STATES.contains(instance.state().nameAsString())) {
                                        runningInstances.put(instance.instanceId(),
instance);
                                    }
                                }));
```

パッケージ名から Maven artifactId へのマッピング

Maven または Gradle プロジェクトを SDK for Java の v1 から v2 に移行するときは、ビルドファイルに追加する依存関係を特定する必要があります。the section called “ステップバイステップの手順” (ステップ 3) で説明されているアプローチでは、インポートステートメントのパッケージ名を開始点として使用して、ビルドファイルに追加する依存関係 (artifactIds) を決定します。

このトピックの情報を使用して、v1 パッケージ名を v2 artifactIds にマッピングできます。

パッケージ名と Maven artifactIds で使用される一般的な命名規則

次の表は、SDK が特定の SERVICE_ID に使用する一般的な命名規則を示しています。SERVICE_ID は の一意の識別子です AWS のサービス。例えば、Amazon S3 サービスの SERVICE_ID は `s3` であり、`cognitoidentity` は Amazon Cognito ID の SERVICE_ID です。

v1 パッケージ名 (インポートステートメント)	v1 artifactId	v2 artifactId	v2 パッケージ名 (インポートステートメント)
com.amazonaws.services.SERVICE_ID	aws-java-sdk-SERVICE_ID	SERVICE_ID	software.amazon.awssdk.services.SERVICE_ID
Amazon Cognito ID の例 (SERVICE_ID: ***`cognitoidentity`***)			
com.amazonaws.services.cognitoidentity	aws-java-sdk-cognitoidentity	cognitoidentity	software.amazon.awssdk.services.cognitoidentity

SERVICE_ID の違い

v1 内

同じサービスであっても、パッケージ名の SERVICE_ID と artifactId の SERVICE_ID が異なる場合があります。例えば、次の表の CloudWatch Metrics 行は、`metrics` がパッケージ名の SERVICE_ID であり、`cloudwatchmetrics` が artifactId の SERVICE_ID であることを示しています。

v2 内

パッケージ名と artifactId で使用される SERVICE_ID に違いはありません。

V1 と V2 間

ほとんどのサービスでは、v2 の SERVICE_ID はパッケージ名と artifactId の両方で v1 の SERVICE_ID と同じです。この例は、前の表に示した `cognitoedentity` SERVICE_ID です。ただし、次の表に示すように、一部の SERVICE_ID は SDK によって異なります。

いずれかの v1 列の太字の SERVICE_ID は、v2 で使用される SERVICE_ID とは異なることを示します。

サービス名	v1 パッケージ名	v1 artifactId	v2 artifactId	v2 パッケージ名
	最初の行に示すように、すべてのパッケージ名は `com.amazonaws.services` で始まります。	最初の行に示すように、すべての artifactId はタグで囲まれます。	最初の行に示すように、すべての artifactId はタグで囲まれます。	最初の行に示すように、すべてのパッケージ名は `software.amazon.awssdk` で始まります。
API ゲートウェイ	com.amazonaws.services.apigateway	<artifactId>aws-java-sdk-api-gateway</artifactId>	<artifactId>apigateway</artifactId>	software.amazon.awssdk.services.apigateway
App Registry	appregistry	appregistry	servicecatalogappregistry	servicecatalogappregistry
Application Discovery	applicationdiscovery	検出	applicationdiscovery	applicationdiscovery
Augmented AI Runtime	augmentedairuntime	augmentedairuntime	sagemakera2iruntime	sagemakera2iruntime
Certificate Manager	certificatemanager	acm	acm	acm
CloudControl API	cloudcontrolapi	cloudcontrolapi	cloudcontrol	cloudcontrol
CloudSearch	cloudsearchv2	cloudsearch	cloudsearch	cloudsearch
CloudSearch Domain	cloudsearchdomain	cloudsearch	cloudsearchdomain	cloudsearchdomain
CloudWatch Events	cloudwatchevents	イベント	cloudwatchevents	cloudwatchevents

サービス名	v1 パッケージ名	v1 artifactId	v2 artifactId	v2 パッケージ名
CloudWatch Evidently	cloudwatchevidently	cloudwatchevidently	evidently	evidently
CloudWatch Logs	ログ	ログ	cloudwatchlogs	cloudwatchlogs
CloudWatch メトリクス	メトリクス	cloudwatchmetrics	cloudwatch	cloudwatch
CloudWatch RUM	cloudwatchrum	cloudwatchrum	rum	rum
Cognito Identity Provider	cognitoidp	cognitoidp	cognitoidentityprovider	cognitoidentityprovider
Connect Campaign	connectcampaign	connectcampaign	connectcampaigns	connectcampaigns
Connect Wisdom	connectwisdom	connectwisdom	wisdom	wisdom
Database Migration Service	databasemigrationservice	dms	databasemigration	databasemigration
DataZone	datazone	datazoneexternal	datazone	datazone
DynamoDB	dynamodbv2	dynamodb	dynamodb	dynamodb
Elastic File System	elasticfilesystem	efs	efs	efs
Elastic Map Reduce	elasticmapreduce	emr	emr	emr
Glue DataBrew	gluedatabrew	gluedatabrew	databrew	databrew
IAM Roles Anywhere	iamrolesanywhere	iamrolesanywhere	rolesanywhere	rolesanywhere

サービス名	v1 パッケージ名	v1 artifactId	v2 artifactId	v2 パッケージ名
ID 管理	identitym anagement	iam	iam	iam
IoT Data	iotdata	iot	iotdataplane	iotdataplane
Kinesis Analytics	kinesisanalytics	kinesis	kinesisanalytics	kinesisanalytics
Kinesis Firehose	kinesisfirehose	kinesis	firehose	firehose
Kinesis Video Signaling Channels	kinesisvi deosignal ingchannels	kinesisvi deosignal ingchannels	kinesisvi deosignaling	kinesisvi deosignaling
Lex	lexruntime	lex	lexruntime	lexruntime
Lookout For Vision	lookoutforvision	lookoutforvision	lookoutvision	lookoutvision
Mainframe Modernization	mainframe modernization	mainframe modernization	m2	m2
Marketplace Metering	marketpla cemetering	marketpla cemeterin gservice	marketpla cemetering	marketpla cemetering
Managed Grafana	managedgrafana	managedgrafana	grafana	grafana
Mechanical Turk	mturk	mechanica lturkrequester	mturk	mturk
Migration Hub Strategy の推奨事項	migration hubstrate gyrecomme ndations	migration hubstrate gyrecomme ndations	migration hubstrategy	migration hubstrategy
Nimble Studio	nimblestudio	nimblestudio	nimble	nimble

サービス名	v1 パッケージ名	v1 artifactId	v2 artifactId	v2 パッケージ名
Private 5G	private5g	private5g	privatenetworks	privatenetworks
Prometheus	prometheus	prometheus	amp	amp
ごみ箱	recyclebin	recyclebin	rbin	rbin
Redshift Data API	redshiftdataapi	redshiftdataapi	Redshiftdata	Redshiftdata
Route 53	route53domains	route53	route53domains	route53domains
Sage Maker Edge Manager	sagemaker edgemanager	sagemaker edgemanager	sagemakeredge	sagemakeredge
Security Token	securitytoken	sts	sts	sts
Server Migration	servermigration	servermigration	sms	sms
Simple Email	simpleemail	ses	ses	ses
Simple Email V2	simpleemailv2	sesv2	sesv2	sesv2
Simple Systems Management	simplesys temsmanag ement	ssm	ssm	ssm
Simple Workflow	simpleworkflow	simpleworkflow	swf	swf
ステップ関数	ステップ関数	ステップ関数	sfn	sfn

AWS SDK for Java 1.x と 2.x の違い

このセクションでは、アプリケーションをバージョン 1.x から AWS SDK for Java バージョン 2.x に変換するときに注意すべき主な変更点について説明します。

パッケージ名の変更

SDK for Java 1.x から SDK for Java 2.x への主な変更点は、パッケージ名の変更です。SDK 2.x ではパッケージ名が `software.amazon.awssdk` で始まりますが、SDK 1.x では `com.amazonaws` で始まります。

これらの同じ名前は、SDK 1.x から SDK 2.x までの Maven アーティファクトを区別します。SDK 2.x の Maven アーティファクトは `software.amazon.awssdk` groupId を使用しますが、SDK 1.x では `com.amazonaws` groupId を使用します。

SDK 2.x のアーティファクトのみを使用するプロジェクトの `com.amazonaws` 依存関係がコードに必要になる場合があります。その一例が、サーバーサイド AWS Lambdaで使用する場合です。これは、このガイドの前半の「Apache Maven プロジェクトのセットアップ」セクションで説明しました。

> **Note**
>
> SDK 1.x のいくつかのパッケージ名には、`v2` を含みます。この場合の `v2` の使用は、通常、パッケージ内のコードがバージョン 2 のサービスで動作するように設定されていることを意味します。
> フルパッケージ名は `com.amazonaws` で始まるため、これらは SDK 1.x コンポーネントです。SDK 1.x のパッケージ名の例は次のとおりです。
>
> - `com.amazonaws.services.dynamodbv2`
> - `com.amazonaws.retry.v2`
> - `com.amazonaws.services.apigatewayv2`
> - `com.amazonaws.services.simpleemailv2`

プロジェクトへのバージョン 2.x の追加

Maven は、 AWS SDK for Java 2.x を使用するときに依存関係を管理するための推奨方法です。バージョン 2x のコンポーネントをプロジェクトに追加するには、SDK の依存関係で `pom.xml` ファイルを更新します。

Example

```
<dependencyManagement>
```

```
    <dependencies>
        <dependency>
          <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
          <artifactId>bom</artifactId>
          <version>2.27.21</version>
          <type>pom</type>
          <scope>import</scope>
        </dependency>
    </dependencies>
</dependencyManagement>

<dependencies>
    <dependency>
      <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
      <artifactId>dynamodb</artifactId>
    </dependency>
</dependencies>
```

プロジェクトをバージョン 2.x に移行するときに、バージョン 1.x と 2.x を併用することもできます。

イミュータブルな POJO

クライアントとオペレーションリクエスト、および応答オブジェクトがイミュータブルになり、作成後に変更できなくなりました。リクエストあるいはレスポンス変数を再利用するには、新しいオブジェクトを構築してそれを割り当てる必要があります。

Example 1.x でリクエストオブジェクトを更新する場合

```
DescribeAlarmsRequest request = new DescribeAlarmsRequest();
DescribeAlarmsResult response = cw.describeAlarms(request);

request.setNextToken(response.getNextToken());
```

Example 2.x でリクエストオブジェクトを更新する場合

```
DescribeAlarmsRequest request = DescribeAlarmsRequest.builder().build();
DescribeAlarmsResponse response = cw.describeAlarms(request);

request = DescribeAlarmsRequest.builder()
        .nextToken(response.nextToken())
```

```
        .build();
```

セッターメソッドとゲッターメソッド

AWS SDK for Java 2.x では、セッターメソッド名に setまたは with プレフィックスは含まれません。たとえば、*.withEndpoint() は現在 *.endpoint() です。

ゲッターメソッド名は get プレフィックスを使用しません。

Example 1.x でセッターメソッドを使用する場合

```
AmazonDynamoDB client = AmazonDynamoDBClientBuilder.standard()
          .withRegion("us-east-1")
          .build();
```

Example 2.x でセッターメソッドを使用する場合

```
DynamoDbClient client = DynamoDbClient.builder()
          .region(Region.US_EAST_1)
          .build();
```

Example 1.x でゲッターメソッドを使用する場合

```
String token = request.getNextToken();
```

Example 2.x でゲッターメソッドを使用する場合

```
String token = request.nextToken();
```

モデルクラス名

サービスレスポンスを表すモデルクラス名は、v2 では v1 で使用される Response ではなく、Result で終わります。

Example v1 でのレスポンスを表すクラス名

```
CreateApiKeyResult
AllocateAddressResult
```

Example v2 でのレスポンスを表すクラス名

```
CreateApiKeyResponse
AllocateAddressResponse
```

ライブラリとユーティリティの移行状況

SDK for Java ライブラリとユーティリティ

次の表は、SDK for Java のライブラリとユーティリティの移行ステータスを示しています。

バージョン 1.12.x の名前	バージョン 2.x の名前	バージョン 2.x 以降
DynamoDBMapper	DynamoDbEnhancedClient	2.12.0
ウェイター	ウェーター	2.15.0
CloudFrontUrlSigner、CloudFrontCookieSigner	CloudFrontUtilities	2.18.33
TransferManager	S3TransferManager	2.19.0
EC2 メタデータクライアント	EC2 メタデータクライアント	2.19.29
S3 URI パーサー	S3 URI パーサー	2.20.41
IAM Policy Builder	IAM Policy Builder	2.20.126
S3 イベント通知	S3 イベント通知	2.25.11
Amazon SQS のクライアント側のバッファリング	Amazon SQS の自動リクエストバッチ処理 API	2.28.0
進行状況のリスナー	進行状況のリスナー	未リリース

関連ライブラリ

次の表は、個別にリリースされているものの、SDK for Java 2.x で動作するライブラリの一覧です。

SDK for Java のバージョン 2.x で使用されている名前	バージョン以降
Amazon S3 暗号化クライアント	3.0.0[1]
AWS Database Encryption SDK for DynamoDB	3.0.0[2]

[1]Amazon S3 暗号化クライアント

Amazon S3 の暗号化クライアントは、次の Maven 依存関係を使用して利用できます。

```
<dependency>
    <groupId>software.amazon.encryption.s3</groupId>
    <artifactId>amazon-s3-encryption-client-java</artifactId>
    <version>3.x</version>
</dependency>
```

[2]AWS DynamoDB 用データベース暗号化 SDK

AWS Database Encryption SDK for DynamoDB は、次の Maven 依存関係を使用して V2 で使用できます。

```
<dependency>
    <groupId>software.amazon.cryptography</groupId>
    <artifactId>aws-database-encryption-sdk-dynamodb</artifactId>
    <version>3.x</version>
</dependency>
```

Java SDK の v1 で動作する DynamoDB の暗号化ライブラリに関する情報は、「AWS Database Encryption SDK デベロッパーガイド」(「Amazon DynamoDB Encryption Client for Java」) および GitHub を参照してください

Java SDK の V2 と互換性のある DynamoDB 暗号化ライブラリの詳細については、「AWS Database Encryption SDK デベロッパーガイド」と GitHub ソースを参照してください。

暗号化ライブラリに関する移行情報は、「AWS Database Encryption SDK デベロッパーガイド」を参照してください。

ライブラリとユーティリティの移行の詳細

- Transfer Manager
- EC2 メタデータユーティリティ
- CloudFront の事前署名
- S3 URI 解析
- DynamoDB マッピング/ドキュメント API
- IAM Policy Builder
- S3 イベント通知
- SDK メトリクスの発行

クライアントの変更

クライアントビルダー

すべてのクライアントは、クライアントビルダーメソッドを使用して作成する必要があります。コンストラクタは利用できなくなりました。

Exampleバージョン 1.x でクライアントを作成する場合

```
AmazonDynamoDB ddbClient = AmazonDynamoDBClientBuilder.defaultClient();
AmazonDynamoDBClient ddbClient = new AmazonDynamoDBClient();
```

Exampleバージョン 2.x でクライアントを作成する場合

```
DynamoDbClient ddbClient = DynamoDbClient.create();
DynamoDbClient ddbClient = DynamoDbClient.builder().build();
```

クライアントのクラス名

すべてのクライアント名は完全キャメルケースになり、Amazon によるプレフィックスは使用されなくなりました。上記の変更は、 AWS CLIで使用される名前と連携します。

Example 1.x のクラス名の場合

```
AmazonDynamoDB
AWSACMPCAAsyncClient
```

Example 2.x のクラス名の場合

```
DynamoDbClient
AcmAsyncClient
```

クライアントのクラス名の変更

1.x クライアント	2.x クライアント
com.amazonaws.services.acmpca.AWSACMPCAAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.acm.AcmAsyncClient
com.amazonaws.services.acmpca.AWSACMPCAClient	software.amazon.awssdk.services.acm.AcmClient
com.amazonaws.services.alexaforbusiness.AmazonAlexaForBusinessAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.alexaforbusiness.AlexaForBusinessAsyncClient
com.amazonaws.services.alexaforbusiness.AmazonAlexaForBusinessClient	software.amazon.awssdk.services.alexaforbusiness.AlexaForBusinessClient
com.amazonaws.services.apigateway.AmazonApiGatewayAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.apigateway.ApiGatewayAsyncClient
com.amazonaws.services.apigateway.AmazonApiGatewayClient	software.amazon.awssdk.services.apigateway.ApiGatewayClient
com.amazonaws.services.applicationautoscaling.AWSApplicationAutoScalingAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.applicationautoscaling.ApplicationAutoScalingAsyncClient
com.amazonaws.services.applicationautoscaling.AWSApplicationAutoScalingClient	software.amazon.awssdk.services.applicationautoscaling.ApplicationAutoScalingClient

1.x クライアント	2.x クライアント
com.amazonaws.services.applicationdiscovery.AWSApplicationDiscoveryAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.applicationdiscovery.ApplicationDiscoveryAsyncClient
com.amazonaws.services.applicationdiscovery.AWSApplicationDiscoveryClient	software.amazon.awssdk.services.applicationdiscovery.ApplicationDiscoveryClient
com.amazonaws.services.appstream.AmazonAppStreamAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.appstream.AppStreamAsyncClient
com.amazonaws.services.appstream.AmazonAppStreamClient	software.amazon.awssdk.services.appstream.AppStreamClient
com.amazonaws.services.appsync.AWSAppSyncAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.appsync.AppSyncAsyncClient
com.amazonaws.services.appsync.AWSAppSyncClient	software.amazon.awssdk.services.appsync.AppSyncClient
com.amazonaws.services.athena.AmazonAthenaAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.athena.AthenaAsyncClient
com.amazonaws.services.athena.AmazonAthenaClient	software.amazon.awssdk.services.athena.AthenaClient
com.amazonaws.services.autoscaling.AmazonAutoScalingAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.autoscaling.AutoScalingAsyncClient
com.amazonaws.services.autoscaling.AmazonAutoScalingClient	software.amazon.awssdk.services.autoscaling.AutoScalingClient

1.x クライアント	2.x クライアント
com.amazonaws.services.autoscalingplans.AWSAutoScalingPlansAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.autoscalingplans.AutoScalingPlansAsyncClient
com.amazonaws.services.autoscalingplans.AWSAutoScalingPlansClient	software.amazon.awssdk.services.autoscalingplans.AutoScalingPlansClient
com.amazonaws.services.batch.AWSBatchAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.batch.BatchAsyncClient
com.amazonaws.services.batch.AWSBatchClient	software.amazon.awssdk.services.batch.BatchClient
com.amazonaws.services.budgets.AWSBudgetsAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.budgets.BudgetsAsyncClient
com.amazonaws.services.budgets.AWSBudgetsClient	software.amazon.awssdk.services.budgets.BudgetsClient
com.amazonaws.services.certificatemanager.AWSCertificateManagerAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.acm.AcmAsyncClient
com.amazonaws.services.certificatemanager.AWSCertificateManagerClient	software.amazon.awssdk.services.acm.AcmClient
com.amazonaws.services.cloud9.AWSCloud9AsyncClient	software.amazon.awssdk.services.cloud9.Cloud9AsyncClient
com.amazonaws.services.cloud9.AWSCloud9Client	software.amazon.awssdk.services.cloud9.Cloud9Client
com.amazonaws.services.clouddirectory.AmazonCloudDirectoryAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.clouddirectory.CloudDirectoryAsyncClient

1.x クライアント	2.x クライアント
com.amazonaws.services.clouddirectory.AmazonCloudDirectoryClient	software.amazon.awssdk.services.clouddirectory.CloudDirectoryClient
com.amazonaws.services.cloudformation.AmazonCloudFormationAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.cloudformation.CloudFormationAsyncClient
com.amazonaws.services.cloudformation.AmazonCloudFormationClient	software.amazon.awssdk.services.cloudformation.CloudFormationClient
com.amazonaws.services.cloudfront.AmazonCloudFrontAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.cloudfront.CloudFrontAsyncClient
com.amazonaws.services.cloudfront.AmazonCloudFrontClient	software.amazon.awssdk.services.cloudfront.CloudFrontClient
com.amazonaws.services.cloudhsm.AWSCloudHSMAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.cloudhsm.CloudHsmAsyncClient
com.amazonaws.services.cloudhsm.AWSCloudHSMClient	software.amazon.awssdk.services.cloudhsm.CloudHsmClient
com.amazonaws.services.cloudhsmv2.AWSCloudHSMV2AsyncClient	software.amazon.awssdk.services.cloudhsmv2.CloudHsmV2AsyncClient
com.amazonaws.services.cloudhsmv2.AWSCloudHSMV2Client	software.amazon.awssdk.services.cloudhsmv2.CloudHsmV2Client

1.x クライアント	2.x クライアント
com.amazonaws.services.cloudsearchdomain.AmazonCloudSearchDomainAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.cloudsearchdomain.CloudSearchDomainAsyncClient
com.amazonaws.services.cloudsearchdomain.AmazonCloudSearchDomainClient	software.amazon.awssdk.services.cloudsearchdomain.CloudSearchDomainClient
com.amazonaws.services.cloudsearchv2.AmazonCloudSearchAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.cloudsearch.CloudSearchAsyncClient
com.amazonaws.services.cloudsearchv2.AmazonCloudSearchClient	software.amazon.awssdk.services.cloudsearch.CloudSearchClient
com.amazonaws.services.cloudtrail.AWSCloudTrailAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.cloudtrail.CloudTrailAsyncClient
com.amazonaws.services.cloudtrail.AWSCloudTrailClient	software.amazon.awssdk.services.cloudtrail.CloudTrailClient
com.amazonaws.services.cloudwatch.AmazonCloudWatchAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.CloudWatchAsyncClient
com.amazonaws.services.cloudwatch.AmazonCloudWatchClient	software.amazon.awssdk.services.cloudwatch.CloudWatchClient
com.amazonaws.services.cloudwatchevents.AmazonCloudWatchEventsAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.cloudwatchevents.CloudWatchEventsAsyncClient

1.x クライアント	2.x クライアント
com.amazonaws.services.cloudwatchevents.AmazonCloudWatchEventsClient	software.amazon.awssdk.services.cloudwatchevents.CloudWatchEventsClient
com.amazonaws.services.codebuild.AWSCodeBuildAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.codebuild.CodeBuildAsyncClient
com.amazonaws.services.codebuild.AWSCodeBuildClient	software.amazon.awssdk.services.codebuild.CodeBuildClient
com.amazonaws.services.codecommit.AWSCodeCommitAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.codecommit.CodeCommitAsyncClient
com.amazonaws.services.codecommit.AWSCodeCommitClient	software.amazon.awssdk.services.codecommit.CodeCommitClient
com.amazonaws.services.codedeploy.AmazonCodeDeployAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.codedeploy.CodeDeployAsyncClient
com.amazonaws.services.codedeploy.AmazonCodeDeployClient	software.amazon.awssdk.services.codedeploy.CodeDeployClient
com.amazonaws.services.codepipeline.AWSCodePipelineAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.codepipeline.CodePipelineAsyncClient
com.amazonaws.services.codepipeline.AWSCodePipelineClient	software.amazon.awssdk.services.codepipeline.CodePipelineClient

1.x クライアント	2.x クライアント
com.amazonaws.services.codestar.AWSCodeStarAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.codestar.CodeStarAsyncClient
com.amazonaws.services.codestar.AWSCodeStarClient	software.amazon.awssdk.services.codestar.CodeStarClient
com.amazonaws.services.cognitoidentity.AmazonCognitoIdentityAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.cognitoidentity.CognitoIdentityAsyncClient
com.amazonaws.services.cognitoidentity.AmazonCognitoIdentityClient	software.amazon.awssdk.services.cognitoidentity.CognitoIdentityClient
com.amazonaws.services.cognitoidp.AWSCognitoIdentityProviderAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.CognitoIdentityProviderAsyncClient
com.amazonaws.services.cognitoidp.AWSCognitoIdentityProviderClient	software.amazon.awssdk.services.cognitoidentityprovider.CognitoIdentityProviderClient
com.amazonaws.services.cognitosync.AmazonCognitoSyncAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.cognitosync.CognitoSyncAsyncClient
com.amazonaws.services.cognitosync.AmazonCognitoSyncClient	software.amazon.awssdk.services.cognitosync.CognitoSyncClient
com.amazonaws.services.comprehend.AmazonComprehendAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.comprehend.ComprehendAsyncClient

1.x クライアント	2.x クライアント
com.amazonaws.services.comprehend.AmazonComprehendClient	software.amazon.awssdk.services.comprehend.ComprehendClient
com.amazonaws.services.config.AmazonConfigAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.config.ConfigAsyncClient
com.amazonaws.services.config.AmazonConfigClient	software.amazon.awssdk.services.config.ConfigClient
com.amazonaws.services.connect.AmazonConnectAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.connect.ConnectAsyncClient
com.amazonaws.services.connect.AmazonConnectClient	software.amazon.awssdk.services.connect.ConnectClient
com.amazonaws.services.costandusagereport.AWSCostAndUsageReportAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.costandusagereport.CostAndUsageReportAsyncClient
com.amazonaws.services.costandusagereport.AWSCostAndUsageReportClient	software.amazon.awssdk.services.costandusagereport.CostAndUsageReportClient
com.amazonaws.services.costexplorer.AWSCostExplorerAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.costexplorer.CostExplorerAsyncClient
com.amazonaws.services.costexplorer.AWSCostExplorerClient	software.amazon.awssdk.services.costexplorer.CostExplorerClient
com.amazonaws.services.databasemigrationservice.AWSDatabaseMigrationServiceAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.databasemigration.DatabaseMigrationAsyncClient

1.x クライアント	2.x クライアント
com.amazonaws.services.databasemigrationservice.AWSDatabaseMigrationServiceClient	software.amazon.awssdk.services.databasemigration.DatabaseMigrationClient
com.amazonaws.services.datapipeline.DataPipelineAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.datapipeline.DataPipelineAsyncClient
com.amazonaws.services.datapipeline.DataPipelineClient	software.amazon.awssdk.services.datapipeline.DataPipelineAsyncClient
com.amazonaws.services.dax.AmazonDaxAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.dax.DaxAsyncClient
com.amazonaws.services.dax.AmazonDaxClient	software.amazon.awssdk.services.dax.DaxClient
com.amazonaws.services.devicefarm.AWSDeviceFarmAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.devicefarm.DeviceFarmAsyncClient
com.amazonaws.services.devicefarm.AWSDeviceFarmClient	software.amazon.awssdk.services.devicefarm.DeviceFarmClient
com.amazonaws.services.directconnect.AmazonDirectConnectAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.directconnect.DirectConnectAsyncClient
com.amazonaws.services.directconnect.AmazonDirectConnectClient	software.amazon.awssdk.services.directconnect.DirectConnectClient
com.amazonaws.services.directory.AWSDirectoryServiceAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.directory.DirectoryAsyncClient

1.x クライアント	2.x クライアント
com.amazonaws.services.directory.AWSDirectoryServiceClient	software.amazon.awssdk.services.directory.DirectoryClient
com.amazonaws.services.dlm.AmazonDLMAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.dlm.DlmAsyncClient
com.amazonaws.services.dlm.AmazonDLMClient	software.amazon.awssdk.services.dlm.DlmClient
com.amazonaws.services.dynamodbv2.AmazonDynamoDBAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbAsyncClient
com.amazonaws.services.dynamodbv2.AmazonDynamoDBClient	software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient
com.amazonaws.services.dynamodbv2.AmazonDynamoDBStreamsAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.dynamodb.streams.DynamoDbStreamsAsyncClient
com.amazonaws.services.dynamodbv2.AmazonDynamoDBStreamsClient	software.amazon.awssdk.services.dynamodb.streams.DynamoDbStreamsClient
com.amazonaws.services.ec2.AmazonEC2AsyncClient	software.amazon.awssdk.services.ec2.Ec2AsyncClient
com.amazonaws.services.ec2.AmazonEC2Client	software.amazon.awssdk.services.ec2.Ec2Client
com.amazonaws.services.ecr.AmazonECRAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.ecr.EcrAsyncClient
com.amazonaws.services.ecr.AmazonECRClient	software.amazon.awssdk.services.ecr.EcrClient

1.x クライアント	2.x クライアント
com.amazonaws.services.ecs.AmazonECSAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.ecs.EcsAsyncClient
com.amazonaws.services.ecs.AmazonECSClient	software.amazon.awssdk.services.ecs.EcsClient
com.amazonaws.services.eks.AmazonEKSAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.eks.EksAsyncClient
com.amazonaws.services.eks.AmazonEKSClient	software.amazon.awssdk.services.eks.EksClient
com.amazonaws.services.elasticache.AmazonElastiCacheAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.elasticache.ElastiCacheAsyncClient
com.amazonaws.services.elasticache.AmazonElastiCacheClient	software.amazon.awssdk.services.elasticache.ElastiCacheClient
com.amazonaws.services.elasticbeanstalk.AWSElasticBeanstalkAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.elasticbeanstalk.ElasticBeanstalkAsyncClient
com.amazonaws.services.elasticbeanstalk.AWSElasticBeanstalkClient	software.amazon.awssdk.services.elasticbeanstalk.ElasticBeanstalkClient
com.amazonaws.services.elasticfilesystem.AmazonElasticFileSystemAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.efs.EfsAsyncClient
com.amazonaws.services.elasticfilesystem.AmazonElasticFileSystemClient	software.amazon.awssdk.services.efs.EfsClient

1.x クライアント	2.x クライアント
com.amazonaws.services.elasticloadbalancing.AmazonElasticLoadBalancingAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.elasticloadbalancing.ElasticLoadBalancingAsyncClient
com.amazonaws.services.elasticloadbalancing.AmazonElasticLoadBalancingClient	software.amazon.awssdk.services.elasticloadbalancing.ElasticLoadBalancingClient
com.amazonaws.services.elasticloadbalancingv2.AmazonElasticLoadBalancingAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.elasticloadbalancingv2.ElasticLoadBalancingV2AsyncClient
com.amazonaws.services.elasticloadbalancingv2.AmazonElasticLoadBalancingClient	software.amazon.awssdk.services.elasticloadbalancingv2.ElasticLoadBalancingV2Client
com.amazonaws.services.elasticmapreduce.AmazonElasticMapReduceAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.emr.EmrAsyncClient
com.amazonaws.services.elasticmapreduce.AmazonElasticMapReduceClient	software.amazon.awssdk.services.emr.EmrClient
com.amazonaws.services.elasticsearch.AWSElasticsearchAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.elasticsearch.ElasticsearchAsyncClient
com.amazonaws.services.elasticsearch.AWSElasticsearchClient	software.amazon.awssdk.services.elasticsearch.ElasticsearchClient
com.amazonaws.services.elastictranscoder.AmazonElasticTranscoderAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.elastictranscoder.ElasticTranscoderAsyncClient

1.x クライアント	2.x クライアント
com.amazonaws.services.elastictranscoder.AmazonElasticTranscoderClient	software.amazon.awssdk.services.elastictranscoder.ElasticTranscoderClient
com.amazonaws.services.fms.AWSFMSAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.fms.FmsAsyncClient
com.amazonaws.services.fms.AWSFMSClient	software.amazon.awssdk.services.fms.FmsClient
com.amazonaws.services.gamelift.AmazonGameLiftAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.gamelift.GameLiftAsyncClient
com.amazonaws.services.gamelift.AmazonGameLiftClient	software.amazon.awssdk.services.gamelift.GameLiftClient
com.amazonaws.services.glacier.AmazonGlacierAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.glacier.GlacierAsyncClient
com.amazonaws.services.glacier.AmazonGlacierClient	software.amazon.awssdk.services.glacier.GlacierClient
com.amazonaws.services.glue.AWSGlueAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.glue.GlueAsyncClient
com.amazonaws.services.glue.AWSGlueClient	software.amazon.awssdk.services.glue.GlueClient
com.amazonaws.services.greengrass.AWSGreengrassAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.greengrass.GreengrassAsyncClient
com.amazonaws.services.greengrass.AWSGreengrassClient	software.amazon.awssdk.services.greengrass.GreengrassClient

1.x クライアント	2.x クライアント
com.amazonaws.services.guardduty.AmazonGuardDutyAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.guardduty.GuardDutyAsyncClient
com.amazonaws.services.guardduty.AmazonGuardDutyClient	software.amazon.awssdk.services.guardduty.GuardDutyClient
com.amazonaws.services.health.AWSHealthAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.health.HealthAsyncClient
com.amazonaws.services.health.AWSHealthClient	software.amazon.awssdk.services.health.HealthClient
com.amazonaws.services.identitymanagement.AmazonIdentityManagementAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.iam.IamAsyncClient
com.amazonaws.services.identitymanagement.AmazonIdentityManagementClient	software.amazon.awssdk.services.iam.IamClient
com.amazonaws.services.importexport.AmazonImportExportAsyncClient	###
com.amazonaws.services.importexport.AmazonImportExportClient	###
com.amazonaws.services.inspector.AmazonInspectorAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.inspector.InspectorAsyncClient
com.amazonaws.services.inspector.AmazonInspectorClient	software.amazon.awssdk.services.inspector.InspectorClient

1.x クライアント	2.x クライアント
com.amazonaws.services.iot.AWSIotAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.iot.IotAsyncClient
com.amazonaws.services.iot.AWSIotClient	software.amazon.awssdk.services.iot.IotClient
com.amazonaws.services.iot1clickdevices.AWSIoT1ClickDevicesAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.iot1clickdevices.Iot1ClickDevicesAsyncClient
com.amazonaws.services.iot1clickdevices.AWSIoT1ClickDevicesClient	software.amazon.awssdk.services.iot1clickdevices.Iot1ClickDevicesClient
com.amazonaws.services.iot1clickprojects.AWSIoT1ClickProjectsAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.iot1clickprojects.Iot1ClickProjectsAsyncClient
com.amazonaws.services.iot1clickprojects.AWSIoT1ClickProjectsClient	software.amazon.awssdk.services.iot1clickprojects.Iot1ClickProjectsClient
com.amazonaws.services.iotanalytics.AWSIoTAnalyticsAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.iotanalytics.IotAnalyticsAsyncClient
com.amazonaws.services.iotanalytics.AWSIoTAnalyticsClient	software.amazon.awssdk.services.iotanalytics.IotAnalyticsClient
com.amazonaws.services.iotdata.AWSIotDataAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.iotdata.IotDataAsyncClient
com.amazonaws.services.iotdata.AWSIotDataClient	software.amazon.awssdk.services.iotdata.IotDataClient

1.x クライアント	2.x クライアント
com.amazonaws.services.iotjobsdataplane.AWSIoTJobsDataPlaneAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.iotdataplane.IotDataPlaneAsyncClient
com.amazonaws.services.iotjobsdataplane.AWSIoTJobsDataPlaneClient	software.amazon.awssdk.services.iotdataplane.IotDataPlaneClient
com.amazonaws.services.kinesis.AmazonKinesisAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.kinesis.KinesisAsyncClient
com.amazonaws.services.kinesis.AmazonKinesisClient	software.amazon.awssdk.services.kinesis.KinesisClient
com.amazonaws.services.kinesisanalytics.AmazonKinesisAnalyticsAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.kinesisanalytics.KinesisAnalyticsAsyncClient
com.amazonaws.services.kinesisanalytics.AmazonKinesisAnalyticsClient	software.amazon.awssdk.services.kinesisanalytics.KinesisAnalyticsClient
com.amazonaws.services.kinesisfirehose.AmazonKinesisFirehoseAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.firehose.FirehoseAsyncClient
com.amazonaws.services.kinesisfirehose.AmazonKinesisFirehoseClient	software.amazon.awssdk.services.firehose.FirehoseClient
com.amazonaws.services.kinesisvideo.AmazonKinesisVideoArchivedMediaAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.kinesisvideoarchivedmedia.KinesisVideoArchivedMediaAsyncClient

1.x クライアント	2.x クライアント
com.amazonaws.services.kinesisvideo.AmazonKinesisVideoArchivedMediaClient	software.amazon.awssdk.services.kinesisvideoarchivedmedia.KinesisVideoArchivedMediaClient
com.amazonaws.services.kinesisvideo.AmazonKinesisVideoAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.kinesisvideo.KinesisVideoAsyncClient
com.amazonaws.services.kinesisvideo.AmazonKinesisVideoClient	software.amazon.awssdk.services.kinesisvideo.KinesisVideoClient
com.amazonaws.services.kinesisvideo.AmazonKinesisVideoMediaAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.kinesisvideomedia.KinesisVideoMediaAsyncClient
com.amazonaws.services.kinesisvideo.AmazonKinesisVideoMediaClient	software.amazon.awssdk.services.kinesisvideomedia.KinesisVideoMediaClient
com.amazonaws.services.kinesisvideo.AmazonKinesisVideoPutMediaClient	サポート外
com.amazonaws.services.kms.AWSKMSAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.kms.KmsAsyncClient
com.amazonaws.services.kms.AWSKMSClient	software.amazon.awssdk.services.kms.KmsClient
com.amazonaws.services.lambda.AWSLambdaAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.lambda.LambdaAsyncClient
com.amazonaws.services.lambda.AWSLambdaClient	software.amazon.awssdk.services.lambda.LambdaClient

1.x クライアント	2.x クライアント
com.amazonaws.services.lexmodelbuilding.AmazonLexModelBuildingAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.lexmodelbuilding.LexModelBuildingAsyncClient
com.amazonaws.services.lexmodelbuilding.AmazonLexModelBuildingClient	software.amazon.awssdk.services.lexmodelbuilding.LexModelBuildingClient
com.amazonaws.services.lexruntime.AmazonLexRuntimeAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.lexruntime.LexRuntimeAsyncClient
com.amazonaws.services.lexruntime.AmazonLexRuntimeClient	software.amazon.awssdk.services.lexruntime.LexRuntimeClient
com.amazonaws.services.lightsail.AmazonLightsailAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.lightsail.LightsailAsyncClient
com.amazonaws.services.lightsail.AmazonLightsailClient	software.amazon.awssdk.services.lightsail.LightsailClient
com.amazonaws.services.logs.AWSLogsAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.logs.LogsAsyncClient
com.amazonaws.services.logs.AWSLogsClient	software.amazon.awssdk.services.logs.LogsClient
com.amazonaws.services.machinelearning.AmazonMachineLearningAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.machinelearning.MachineLearningAsyncClient
com.amazonaws.services.machinelearning.AmazonMachineLearningClient	software.amazon.awssdk.services.machinelearning.MachineLearningClient

1.x クライアント	2.x クライアント
com.amazonaws.services.macie.AmazonMacieAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.macie.MacieAsyncClient
com.amazonaws.services.macie.AmazonMacieClient	software.amazon.awssdk.services.macie.MacieClient
com.amazonaws.services.marketplacecommerceanalytics.AWSMarketplaceCommerceAnalyticsAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.marketplacecommerceanalytics.MarketplaceCommerceAnalyticsAsyncClient
com.amazonaws.services.marketplacecommerceanalytics.AWSMarketplaceCommerceAnalyticsClient	software.amazon.awssdk.services.marketplacecommerceanalytics.MarketplaceCommerceAnalyticsClient
com.amazonaws.services.marketplaceentitlement.AWSMarketplaceEntitlementAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.marketplaceentitlement.MarketplaceEntitlementAsyncClient
com.amazonaws.services.marketplaceentitlement.AWSMarketplaceEntitlementClient	software.amazon.awssdk.services.marketplaceentitlement.MarketplaceEntitlementClient
com.amazonaws.services.marketplacemetering.AWSMarketplaceMeteringAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.marketplacemetering.MarketplaceMeteringAsyncClient
com.amazonaws.services.marketplacemetering.AWSMarketplaceMeteringClient	software.amazon.awssdk.services.marketplacemetering.MarketplaceMeteringClient
com.amazonaws.services.mediaconvert.AWSMediaConvertAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.MediaConvertAsyncClient

1.x クライアント	2.x クライアント
com.amazonaws.services.mediaconvert.AWSMediaConvertClient	software.amazon.awssdk.services.mediaconvert.MediaConvertClient
com.amazonaws.services.medialive.AWSMediaLiveAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.medialive.MediaLiveAsyncClient
com.amazonaws.services.medialive.AWSMediaLiveClient	software.amazon.awssdk.services.medialive.MediaLiveClient
com.amazonaws.services.mediapackage.AWSMediaPackageAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.mediapackage.MediaPackageAsyncClient
com.amazonaws.services.mediapackage.AWSMediaPackageClient	software.amazon.awssdk.services.mediapackage.MediaPackageClient
com.amazonaws.services.mediastore.AWSMediaStoreAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.mediastore.MediaStoreAsyncClient
com.amazonaws.services.mediastore.AWSMediaStoreClient	software.amazon.awssdk.services.mediastore.MediaStoreClient
com.amazonaws.services.mediastoredata.AWSMediaStoreDataAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.mediastoredata.MediaStoreDataAsyncClient
com.amazonaws.services.mediastoredata.AWSMediaStoreDataClient	software.amazon.awssdk.services.mediastoredata.MediaStoreDataClient

1.x クライアント	2.x クライアント
com.amazonaws.services.mediatailor.AWSMediaTailorAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.mediatailor.MediaTailorAsyncClient
com.amazonaws.services.mediatailor.AWSMediaTailorClient	software.amazon.awssdk.services.mediatailor.MediaTailorClient
com.amazonaws.services.migrationhub.AWSMigrationHubAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.migrationhub.MigrationHubAsyncClient
com.amazonaws.services.migrationhub.AWSMigrationHubClient	software.amazon.awssdk.services.migrationhub.MigrationHubClient
com.amazonaws.services.mobile.AWSMobileAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.mobile.MobileAsyncClient
com.amazonaws.services.mobile.AWSMobileClient	software.amazon.awssdk.services.mobile.MobileClient
com.amazonaws.services.mq.AmazonMQAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.mq.MqAsyncClient
com.amazonaws.services.mq.AmazonMQClient	software.amazon.awssdk.services.mq.MqClient
com.amazonaws.services.mturk.AmazonMTurkAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.mturk.MTurkAsyncClient
com.amazonaws.services.mturk.AmazonMTurkClient	software.amazon.awssdk.services.mturk.MTurkClient
com.amazonaws.services.neptune.AmazonNeptuneAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.neptune.NeptuneAsyncClient

1.x クライアント	2.x クライアント
com.amazonaws.services.neptune.AmazonNeptuneClient	software.amazon.awssdk.services.neptune.NeptuneClient
com.amazonaws.services.opsworks.AWSOpsWorksAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.opsworks.OpsWorksAsyncClient
com.amazonaws.services.opsworks.AWSOpsWorksClient	software.amazon.awssdk.services.opsworks.OpsWorksClient
com.amazonaws.services.opsworkscm.AWSOpsWorksCMAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.opsworkscm.OpsWorksCmAsyncClient
com.amazonaws.services.opsworkscm.AWSOpsWorksCMClient	software.amazon.awssdk.services.opsworkscm.OpsWorksCmClient
com.amazonaws.services.organizations.AWSOrganizationsAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.organizations.OrganizationsAsyncClient
com.amazonaws.services.organizations.AWSOrganizationsClient	software.amazon.awssdk.services.organizations.OrganizationsClient
com.amazonaws.services.pi.AWSPIAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.pi.PiAsyncClient
com.amazonaws.services.pi.AWSPIClient	software.amazon.awssdk.services.pi.PiClient
com.amazonaws.services.pinpoint.AmazonPinpointAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.pinpoint.PinpointAsyncClient

1.x クライアント	2.x クライアント
com.amazonaws.services.pinpoint.AmazonPinpointClient	software.amazon.awssdk.services.pinpoint.PinpointClient
com.amazonaws.services.polly.AmazonPollyAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.polly.PollyAsyncClient
com.amazonaws.services.polly.AmazonPollyClient	software.amazon.awssdk.services.polly.PollyClient
com.amazonaws.services.pricing.AWSPricingAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.pricing.PricingAsyncClient
com.amazonaws.services.pricing.AWSPricingClient	software.amazon.awssdk.services.pricing.PricingClient
com.amazonaws.services.rds.AmazonRDSAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.rds.RdsAsyncClient
com.amazonaws.services.rds.AmazonRDSClient	software.amazon.awssdk.services.rds.RdsClient
com.amazonaws.services.redshift.AmazonRedshiftAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.redshift.RedshiftAsyncClient
com.amazonaws.services.redshift.AmazonRedshiftClient	software.amazon.awssdk.services.redshift.RedshiftClient
com.amazonaws.services.rekognition.AmazonRekognitionAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.rekognition.RekognitionAsyncClient
com.amazonaws.services.rekognition.AmazonRekognitionClient	software.amazon.awssdk.services.rekognition.RekognitionClient

1.x クライアント	2.x クライアント
com.amazonaws.services.resourcegroups.AWSResourceGroupsAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.resourcegroups.ResourceGroupsAsyncClient
com.amazonaws.services.resourcegroups.AWSResourceGroupsClient	software.amazon.awssdk.services.resourcegroups.ResourceGroupsClient
com.amazonaws.services.resourcegroupstaggingapi.AWSResourceGroupsTaggingAPIAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.resourcegroupstaggingapi.ResourceGroupsTaggingApiAsyncClient
com.amazonaws.services.resourcegroupstaggingapi.AWSResourceGroupsTaggingAPIClient	software.amazon.awssdk.services.resourcegroupstaggingapi.ResourceGroupsTaggingApiClient
com.amazonaws.services.route53.AmazonRoute53AsyncClient	software.amazon.awssdk.services.route53.Route53AsyncClient
com.amazonaws.services.route53.AmazonRoute53Client	software.amazon.awssdk.services.route53.Route53Client
com.amazonaws.services.route53domains.AmazonRoute53DomainsAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.route53domains.Route53DomainsAsyncClient
com.amazonaws.services.route53domains.AmazonRoute53DomainsClient	software.amazon.awssdk.services.route53domains.Route53DomainsClient
com.amazonaws.services.s3.AmazonS3Client	software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client

1.x クライアント	2.x クライアント
com.amazonaws.services.sagemaker.AmazonSageMakerAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.sagemaker.SageMakerAsyncClient
com.amazonaws.services.sagemaker.AmazonSageMakerClient	software.amazon.awssdk.services.sagemaker.SageMakerClient
com.amazonaws.services.sagemakerruntime.AmazonSageMakerRuntimeAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.sagemakerruntime.SageMakerRuntimeAsyncClient
com.amazonaws.services.sagemakerruntime.AmazonSageMakerRuntimeClient	software.amazon.awssdk.services.sagemakerruntime.SageMakerRuntimeClient
com.amazonaws.services.secretsmanager.AWSSecretsManagerAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.secretsmanager.SecretsManagerAsyncClient
com.amazonaws.services.secretsmanager.AWSSecretsManagerClient	software.amazon.awssdk.services.secretsmanager.SecretsManagerClient
com.amazonaws.services.securitytoken.AWSSecurityTokenServiceAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.sts.StsAsyncClient
com.amazonaws.services.securitytoken.AWSSecurityTokenServiceClient	software.amazon.awssdk.services.sts.StsClient
com.amazonaws.services.serverlessapplicationrepository.AWSServerlessApplicationRepositoryAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.serverlessapplicationrepository.ServerlessApplicationRepositoryAsyncClient

1.x クライアント	2.x クライアント
com.amazonaws.services.serverlessapplicationrepository.AWSServerlessApplicationRepositoryClient	software.amazon.awssdk.services.serverlessapplicationrepository.ServerlessApplicationRepositoryClient
com.amazonaws.services.servermigration.AWSServerMigrationAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.sms.SmsAsyncClient
com.amazonaws.services.servermigration.AWSServerMigrationClient	software.amazon.awssdk.services.sms.SmsClient
com.amazonaws.services.servicecatalog.AWSServiceCatalogAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.servicecatalog.ServiceCatalogAsyncClient
com.amazonaws.services.servicecatalog.AWSServiceCatalogClient	software.amazon.awssdk.services.servicecatalog.ServiceCatalogClient
com.amazonaws.services.servicediscovery.AWSServiceDiscoveryAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.servicediscovery.ServiceDiscoveryAsyncClient
com.amazonaws.services.servicediscovery.AWSServiceDiscoveryClient	software.amazon.awssdk.services.servicediscovery.ServiceDiscoveryClient
com.amazonaws.services.shield.AWSShieldAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.shield.ShieldAsyncClient
com.amazonaws.services.shield.AWSShieldClient	software.amazon.awssdk.services.shield.ShieldClient

1.x クライアント	2.x クライアント
com.amazonaws.services.simpledb.AmazonSimpleDBAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.simpledb.SimpleDbAsyncClient
com.amazonaws.services.simpledb.AmazonSimpleDBClient	software.amazon.awssdk.services.simpledb.SimpleDbClient
com.amazonaws.services.simpleemail.AmazonSimpleEmailServiceAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.ses.SesAsyncClient
com.amazonaws.services.simpleemail.AmazonSimpleEmailServiceClient	software.amazon.awssdk.services.ses.SesClient
com.amazonaws.services.simplesystemsmanagement.AWSSimpleSystemsManagementAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.ssm.SsmAsyncClient
com.amazonaws.services.simplesystemsmanagement.AWSSimpleSystemsManagementClient	software.amazon.awssdk.services.ssm.SsmClient
com.amazonaws.services.simpleworkflow.AmazonSimpleWorkflowAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.swf.SwfAsyncClient
com.amazonaws.services.simpleworkflow.AmazonSimpleWorkflowClient	software.amazon.awssdk.services.swf.SwfClient
com.amazonaws.services.snowball.AmazonSnowballAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.snowball.SnowballAsyncClient
com.amazonaws.services.snowball.AmazonSnowballClient	software.amazon.awssdk.services.snowball.SnowballClient

1.x クライアント	2.x クライアント
com.amazonaws.services.sns.AmazonSNSAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.sns.SnsAsyncClient
com.amazonaws.services.sns.AmazonSNSClient	software.amazon.awssdk.services.sns.SnsClient
com.amazonaws.services.sqs.AmazonSQSAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.sqs.SqsAsyncClient
com.amazonaws.services.sqs.AmazonSQSClient	software.amazon.awssdk.services.sqs.SqsClient
com.amazonaws.services.stepfunctions.AWSStepFunctionsAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.sfn.SfnAsyncClient
com.amazonaws.services.stepfunctions.AWSStepFunctionsClient	software.amazon.awssdk.services.sfn.SfnClient
com.amazonaws.services.storagegateway.AWSStorageGatewayAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.storagegateway.StorageGatewayAsyncClient
com.amazonaws.services.storagegateway.AWSStorageGatewayClient	software.amazon.awssdk.services.storagegateway.StorageGatewayClient
com.amazonaws.services.support.AWSSupportAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.support.SupportAsyncClient
com.amazonaws.services.support.AWSSupportClient	software.amazon.awssdk.services.support.SupportClient
com.amazonaws.services.transcribe.AmazonTranscribeAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.transcribe.TranscribeAsyncClient

1.x クライアント	2.x クライアント
com.amazonaws.services.transcribe.AmazonTranscribeClient	software.amazon.awssdk.services.transcribe.TranscribeClient
com.amazonaws.services.translate.AmazonTranslateAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.translate.TranslateAsyncClient
com.amazonaws.services.translate.AmazonTranslateClient	software.amazon.awssdk.services.translate.TranslateClient
com.amazonaws.services.waf.AWSWAFAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.waf.WafAsyncClient
com.amazonaws.services.waf.AWSWAFClient	software.amazon.awssdk.services.waf.WafClient
com.amazonaws.services.waf.AWSWAFRegionalAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.waf.regional.WafRegionalAsyncClient
com.amazonaws.services.waf.AWSWAFRegionalClient	software.amazon.awssdk.services.waf.regional.WafRegionalClient
com.amazonaws.services.workdocs.AmazonWorkDocsAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.workdocs.WorkDocsAsyncClient
com.amazonaws.services.workdocs.AmazonWorkDocsClient	software.amazon.awssdk.services.workdocs.WorkDocsClient
com.amazonaws.services.workmail.AmazonWorkMailAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.workmail.WorkMailAsyncClient

1.x クライアント	2.x クライアント
com.amazonaws.services.workmail.AmazonWorkMailClient	software.amazon.awssdk.services.workmail.WorkMailClient
com.amazonaws.services.workspaces.AmazonWorkspacesAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.workspaces.WorkSpacesAsyncClient
com.amazonaws.services.workspaces.AmazonWorkspacesClient	software.amazon.awssdk.services.workspaces.WorkSpacesClient
com.amazonaws.services.xray.AWSXRayAsyncClient	software.amazon.awssdk.services.xray.XRayAsyncClient
com.amazonaws.services.xray.AWSXRayClient	software.amazon.awssdk.services.xray.XRayClient

クライアント作成のデフォルト

バージョン 2.x では、デフォルトのクライアント作成ロジックに次の変更が加えられました。

- S3 のデフォルトの認証情報プロバイダーチェーンには、匿名の認証情報が含まれなくなりました。AnonymousCredentialsProvider を使用して S3 に手動で匿名アクセスを指定する必要があります。
- デフォルトのクライアント作成に関連する以下の環境変数には変更があります。

1.x	2.x
AWS_CBOR_DISABLED	CBOR_ENABLED
AWS_ION_BINARY_DISABLE	BINARY_ION_ENABLED

- デフォルトのクライアント作成に関連する以下のシステムプロパティには変更があります。

1.x	2.x
com.amazonaws.sdk.disableEc2Metadata	aws.disableEc2Metadata
com.amazonaws.sdk.ec2MetadataServiceEndpointOverride	aws.ec2MetadataServiceEndpoint
com.amazonaws.sdk.disableCbor	aws.cborEnabled
com.amazonaws.sdk.disableIonBinary	aws.binaryIonEnabled

- バージョン 2.x では、次のシステムプロパティはサポートされていません。
-

1.x
com.amazonaws.sdk.disableCertChecking
com.amazonaws.sdk.enableDefaultMetrics
com.amazonaws.sdk.enableThrottledRetry
com.amazonaws.regions.RegionUtils.fileOverride
com.amazonaws.regions.RegionUtils.disableRemote
com.amazonaws.services.s3.disableImplicitGlobalClients
com.amazonaws.sdk.enableInRegionOptimizedMode

- カスタムの endpoints.json ファイルからリージョンの設定をロードすることはサポートされなくなりました。

クライアント設定

1.x では、クライアントまたはクライアントビルダーで ClientConfiguration インスタンスを設定して、SDK クライアント設定が変更されていました。バージョン 2.x では、クライアント設定は別々の設定クラスに分割されています。別の設定クラスを使用することで、同期と非同期クライアン

トで異なる HTTP クライアントを設定したとしても、同じ ClientOverrideConfiguration クラスを使用できます。

Exampleバージョン 1.x のクライアント設定の場合

```
AmazonDynamoDBClientBuilder.standard()
.withClientConfiguration(clientConfiguration)
.build()
```

Exampleバージョン 2.x の同期クライアント設定の場合

```
ProxyConfiguration.Builder proxyConfig = ProxyConfiguration.builder();

ApacheHttpClient.Builder httpClientBuilder =
        ApacheHttpClient.builder()
                        .proxyConfiguration(proxyConfig.build());

ClientOverrideConfiguration.Builder overrideConfig =
        ClientOverrideConfiguration.builder();

DynamoDbClient client =
        DynamoDbClient.builder()
                      .httpClientBuilder(httpClientBuilder)
                      .overrideConfiguration(overrideConfig.build())
                      .build();
```

Exampleバージョン 2.x の非同期クライアント設定の場合

```
NettyNioAsyncHttpClient.Builder httpClientBuilder =
        NettyNioAsyncHttpClient.builder();

ClientOverrideConfiguration.Builder overrideConfig =
        ClientOverrideConfiguration.builder();

ClientAsyncConfiguration.Builder asyncConfig =
        ClientAsyncConfiguration.builder();

DynamoDbAsyncClient client =
        DynamoDbAsyncClient.builder()
                           .httpClientBuilder(httpClientBuilder)
                           .overrideConfiguration(overrideConfig.build())
                           .asyncConfiguration(asyncConfig.build())
```

```
                                .build();
```

HTTP クライアント

重要な変更点

- バージョン 2.x では、clientBuilder.httpClientBuilder を使用して実装を指定することで、ランタイムに使用する HTTP クライアントを変更できます。
- clientBuilder.httpClient を使用して HTTP クライアントをサービスクライアントビルダーに渡すと、サービスクライアントが閉じても HTTP クライアントはデフォルトで閉じられません。これにより、サービスクライアント間で HTTP クライアントを共有できます。
- 非同期 HTTP クライアントがノンブロッキング IO を使用するようになりました。
- 一部のオペレーションでは、パフォーマンスを向上させるために HTTP/2 を使用するようになりました。

設定の変更

設定	1.x	2.x 同期、Apache	2.x 非同期、Netty
	`ClientConfiguration clientConfig = new ClientConfiguration()`	`ApacheHttpClient.Builder httpClientBuilder = ApacheHttpClient.builder()`	`NettyNioAsyncHttpClient.Builder httpClientBuilder = NettyNioAsyncHttpClient.builder()`
最大接続数	`clientConfig.setMaxConnections(...)` `clientConfig.withMaxConnections(...)`	`httpClientBuilder.maxConnections(...)`	`httpClientBuilder.maxConcurrency(...)`

設定	1.x	2.x 同期、Apache	2.x 非同期、Netty
接続タイムアウト	`clientConfig.setConnectionTimeout(...)` `clientConfig.withConnectionTimeout(...)`	`httpClientBuilder.connectionTimeout(...)` `httpClientBuilder.connectionAcquisitionTimeout(...)`	`httpClientBuilder.connectionTimeout(...)`
ソケットタイムアウト	`clientConfig.setSocketTimeout(...)` `clientConfig.withSocketTimeout(...)`	`httpClientBuilder.socketTimeout(...)`	`httpClientBuilder.writeTimeout(...)` `httpClientBuilder.readTimeout(...)`
接続 TTL	`clientConfig.setConnectionTTL(...)` `clientConfig.withConnectionTTL(...)`	`httpClientBuilder.connectionTimeToLive(...)`	`httpClientBuilder.connectionTimeToLive(...)`

設定	1.x	2.x 同期、Apache	2.x 非同期、Netty
接続の最大アイドル	`clientConfig.setConnectionMaxIdleMillis(...)` `clientConfig.withConnectionMaxIdleMillis(...)`	`httpClientBuilder.connectionMaxIdleTime(...)`	`httpClientBuilder.connectionMaxIdleTime(...)`
アイドル状態後の検証	`clientConfig.setValidateAfterInactivityMillis(...)` `clientConfig.withValidateAfterInactivityMillis(...)`	サポートされていません (リクエスト機能)	サポートされていません (リクエスト機能)
ローカルアドレス	`clientConfig.setLocalAddress(...)` `clientConfig.withLocalAddress(...)`	`httpClientBuilder.localAddress(...)`	サポートされません
Expect-continue が有効	`clientConfig.setUseExpectContinue(...)` `clientConfig.withUseExpectContinue(...)`	`httpClientBuilder.expectContinueEnabled(...)`	サポートされていません (リクエスト機能)

設定	1.x	2.x 同期、Apache	2.x 非同期、Netty
接続リーパー	`clientConfig.setUseReaper(...)` `clientConfig.withReaper(...)`	`httpClientBuilder.useIdleConnectionReaper(...)`	`httpClientBuilder.useIdleConnectionReaper(...)`

	`AmazonDynamoDBClientBuilder.standard()`
	`.withClientConfiguration(clientConfiguration)`
	`.build()`
		`DynamoDbClient.builder()`
		`.httpClientBuilder(httpClientBuilder)`
		`.build()`
			`DynamoDbAsyncClient.builder()`
			`.httpClientBuilder(httpClientBuilder)`
			`.build()`

HTTP クライアントプロキシ

設定	1.x	2.x 同期、Apache	2.x 非同期、Netty
	`ClientConfiguration clientConfig = new ClientConfiguration()`	`ProxyConfiguration.Builder proxyConfig = ProxyConfiguration.builder()`	`ProxyConfiguration.Builder proxyConfig = ProxyConfiguration.builder()`
プロキシのホスト	`clientConfig.setProxyHost(...)` `clientConfig.withProxyHost(...)`	`proxyConfig.endpoint(...)`	`proxyConfig.host(...)`

設定	1.x	2.x 同期、Apache	2.x 非同期、Netty
プロキシのポート	`clientConfig.setProxyPort(...)` `clientConfig.withProxyPort(...)`	`proxyConfig.endpoint(...)` プロキシポートが endpoint に埋め込まれています	`proxyConfig.port(...)`
プロキシユーザー名	`clientConfig.setProxyUsername(...)` `clientConfig.withProxyUsername(...)`	`proxyConfig.username(...)`	`proxyConfig.username(...)`
プロキシのパスワード	`clientConfig.setProxyPassword(...)` `clientConfig.withProxyPassword(...)`	`proxyConfig.password(...)`	`proxyConfig.password(...)`
プロキシのドメイン	`clientConfig.setProxyDomain(...)` `clientConfig.withProxyDomain(...)`	`proxyConfig.ntlmDomain(...)`	サポートされていません (リクエスト機能)

設定	1.x	2.x 同期、Apache	2.x 非同期、Netty
プロキシのワークステーション	`clientConfig.setProxyWorkspace(...)` `clientConfig.withProxyWorkstation(...)`	`proxyConfig.ntlmWorkstation(...)`	サポートされていません (リクエスト機能)
プロキシの認証方法	`clientConfig.setProxyAuthenticationMethods(...)` `clientConfig.withProxyAuthenticationMethods(...)`	サポートされていない	サポートされていません (リクエスト機能)
プリエンプティブな基本プロキシ認証	`clientConfig.setPreemptiveBasicProxyAuth(...)` `clientConfig.withPreemptiveBasicProxyAuth(...)`	`proxyConfig.preemptiveBasicAuthenticationEnabled(...)`	サポートされていません (リクエスト機能)

設定	1.x	2.x 同期、Apache	2.x 非同期、Netty
非プロキシホスト	`clientConfig.setNonProxyHosts(...)` `clientConfig.withNonProxyHosts(...)`	`proxyConfig.nonProxyHosts(...)`	`proxyConfig.nonProxyHosts(...)`
ソケットプロキシの無効化	`clientConfig.setDisableSocketProxy(...)` `clientConfig.withDisableSocketProxy(...)`	サポートされていません (リクエスト機能)	サポートされていません (リクエスト機能)
	`AmazonDynamoDBClientBuilder.standard()` `.withClientConfiguration(clientConfiguration)` `.build()`	`httpClientBuilder.proxyConfiguration(proxyConfig.build())`	`httpClientBuilder.proxyConfiguration(proxyConfig.build())`

クライアントの上書き

設定	1.x	2.x
	`ClientConfiguration clientConfig =`	`ClientOverrideConfiguration.Builder overrideConfig =`

設定	1.x	2.x
	`new ClientConfiguration()`	`ClientOverrideConfiguration.builder()`
ユーザーエージェントのプレフィックス	`clientConfig.setUserAgentPrefix(...)` `clientConfig.withUserAgentPrefix(...)`	`overrideConfig.advancedOption(SdkAdvancedClientOption.USER_AGENT_PREFIX, ...)`
ユーザーエージェントのサフィックス	`clientConfig.setUserAgentSuffix(...)` `clientConfig.withUserAgentSuffix(...)`	`overrideConfig.advancedOption(SdkAdvancedClientOption.USER_AGENT_SUFFIX, ...)`
Signer	`clientConfig.setSignerOverride(...)` `clientConfig.withSignerOverride(...)`	`overrideConfig.advancedOption(SdkAdvancedClientOption.SIGNER, ...)`
追加のヘッダー	`clientConfig.addHeader(...)` `clientConfig.withHeader(...)`	`overrideConfig.putHeader(...)`
リクエストタイムアウト	`clientConfig.setRequestTimeout(...)` `clientConfig.withRequestTimeout(...)`	`overrideConfig.apiCallAttemptTimeout(...)`

設定	1.x	2.x
クライアントの実行タイムアウト	`clientConfig.setClientExecutionTimeout(...)` `clientConfig.withClientExecutionTimeout(...)`	`overrideConfig.apiCallTimeout(...)`
Gzip の使用	`clientConfig.setUseGzip(...)` `clientConfig.withGzip(...)`	サポートされていません (リクエスト機能)
ソケットバッファのサイズに関するヒント	`clientConfig.setSocketBufferSizeHints(...)` `clientConfig.withSocketBufferSizeHints(...)`	サポートされていません (リクエスト機能)
レスポンスメタデータのキャッシュ	`clientConfig.setCacheResponseMetadata(...)` `clientConfig.withCacheResponseMetadata(...)`	サポートされていません (リクエスト機能)
レスポンスメタデータのキャッシュサイズ	`clientConfig.setResponseMetadataCacheSize(...)` `clientConfig.withResponseMetadataCacheSize(...)`	サポートされていません (リクエスト機能)

設定	1.x	2.x
DNS リゾルバー	`clientConfig.setDnsResolver(...)` `clientConfig.withDnsResolver(...)`	サポートされていません (リクエスト機能)

TCP キープアライブ	`clientConfig.setUseTcpKeepAlive(...)`
	`clientConfig.withTcpKeepAlive(...)`
		このオプションは HTTP クライアント設定になりました
		`- ApacheHttpClient.builder().tcpKeepAlive(true)`
		`- NettyNioAsyncHttpClient.builder().tcpKeepAlive(true)`

ランダムな保護	`clientConfig.setSecureRandom(...)` `clientConfig.withSecureRandom(...)`	サポートされていません (リクエスト機能)

	`AmazonDynamoDBClientBuilder.standard()`
	`.withClientConfiguration(clientConfiguration)`
	`.build()`
		`DynamoDbClient.builder()`
		`.overrideConfiguration(overrideConfig.build())`
		`.build()`

クライアント上書きの再試行

設定	1.x	2.x
	`ClientConfiguration clientConfig =` `new ClientConfiguration()`	`ClientOverrideConfiguration.Builder overrideConfigBuilder =`

設定	1.x	2.x
		`ClientOverrideConfiguration.builder();`
最大エラー再試行回数	`clientConfig.setMaxErrorRetry(...)` `clientConfig.withMaxErrorRetry(...)`	`// Configure the default retry strategy.` `overrideConfigBuilder.retryStrategy(b -> b.maxAttempts(...));`
スロットリングされた再試行の使用	`clientConfig.setUseThrottleRetries(...)` `clientConfig.withUseThrottleRetries(...)`	サポートされません
スロットリング前の最大連続再試行回数	`clientConfig.setMaxConsecutiveRetriesBeforeThrottling(...)` `clientConfig.withMaxConsecutiveRetriesBeforeThrottling(...)`	サポートされません

設定	1.x	2.x

	`AmazonDynamoDBClientBuilder.standard()`
	`    .withClientConfiguration(clientConfiguration)`
	`    .build()`
		`DynamoDbClient.builder()`
		`        .overrideConfiguration(overrideConfigBuilder.build())`
		`        .build();`
		
		`// You also have the option to use a lambda expression to configure and`
		`// build the 'ClientOverrideConfiguration.Builder'.`
		`DynamoDbClient client = DynamoDbClient.builder()`
		`        .overrideConfiguration(o -> o.retryStrategy(b -> b.maxAttempts(5)))`
		`        .build();`

非同期クライアント

設定	1.x	2.x
		`ClientAsyncConfiguration.Builder asyncConfig = ClientAsyncConfiguration.builder()`
エグゼキューター	`AmazonDynamoDBAsyncClientBuilder.standard()`	`asyncConfig.advancedOption(`

設定	1.x	2.x
	`.withExecutorFactory(...)` `.build()`	`SdkAdvancedAsyncClientOption.FUTURE_COMPLETION_EXECUTOR, ...)`

		`DynamoDbAsyncClient.builder()`
		`.asyncConfiguration(asyncConfig)`
		`.build()`

その他のクライアントの変更

1.x の次の `ClientConfiguration` オプションは SDK の 2.x で変更されており、直接同等のオプションはありません。

設定	1.x	2.x の同等オプション

プロトコル	`clientConfig.setProtocol(Protocol.HTTP)`
	`clientConfig.withProtocol(Protocol.HTTP)`
		デフォルトでは、プロトコル設定は HTTPS です。設定を変更するには、クライアントビルダーで プロトコル設定に HTTP エンドポイントを指定します。
		`clientBuilder.endpointOverride(`
		`URI.create("http://..."))`

認証情報プロバイダーの変更

このセクションでは、AWS SDK for Java のバージョン 1.x と 2.x 間の認証情報プロバイダクラスとメソッドの名前変更のマッピングを提供しています。

重要な相違点

- デフォルトの認証情報プロバイダは、バージョン 2.x の環境変数前にシステムプロパティをロードします。詳細については、「認証情報の使用」を参照してください。
- コンストラクタメソッドは、`create` あるいは `builder` メソッドで置き換えられます。

  Example

  ```
  DefaultCredentialsProvider.create();
  ```

- 非同期リフレッシュはデフォルトで設定されなくなりました。認証情報プロバイダーの `builder` で指定する必要があります。

  Example

  ```
  ContainerCredentialsProvider provider = ContainerCredentialsProvider.builder()
            .asyncCredentialUpdateEnabled(true)
            .build();
  ```

- `ProfileCredentialsProvider.builder()` を使用して、カスタムプロファイルファイルへのパスを指定できます。

  Example

  ```
  ProfileCredentialsProvider profile = ProfileCredentialsProvider.builder()

   .profileFile(ProfileFile.builder().content(Paths.get("myProfileFile.file")).build())
            .build();
  ```

- プロファイルのファイル形式がより AWS CLI に一致するように変更されました。詳細については、「AWS Command Line Interface ユーザーガイド」の「AWS CLI の設定」を参照してください。

バージョン 1.x と 2.x 間でマッピングされた認証情報プロバイダの変更

AWSCredentialsProvider

変更カテゴリ	1.x	2.x
パッケージ/クラス名	`com.amazonaws.auth.AWSCredentialsProvider`	`software.amazon.awssdk.auth.credentials.AwsCredentialsProvider`
メソッド名	`getCredentials`	`resolveCredentials`
サポートされていないメソッド	`refresh`	サポートされません

DefaultAWSCredentialsProviderChain

変更カテゴリ	1.x	2.x
パッケージ/クラス名	`com.amazonaws.auth.DefaultAWSCredentialsProviderChain`	`software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider`
作成	`new DefaultAWSCredentialsProviderChain`	`DefaultCredentialsProvider.create`
サポートされていないメソッド	`getInstance`	サポートされません
外部設定の優先順位	システムプロパティの前の環境変数	環境変数の前のシステムプロパティ

AWSStaticCredentialsProvider

変更カテゴリ	1.x	2.x
パッケージ/クラス名	`com.amazonaws.auth.AWSStaticCredentialsProvider`	`software.amazon.awssdk.auth.credentials.StaticCredentialsProvider`
作成	`new AWSStaticCredentialsProvider`	`StaticCredentialsProvider.create`

EnvironmentVariableCredentialsProvider

変更カテゴリ	1.x	2.x
パッケージ/クラス名	`com.amazonaws.auth.EnvironmentVariableCredentialsProvider`	`software.amazon.awssdk.auth.credentials.EnvironmentVariableCredentialsProvider`
作成	`new EnvironmentVariableCredentialsProvider`	`EnvironmentVariableCredentialsProvider.create`
環境変数名	`AWS_ACCESS_KEY`	`AWS_ACCESS_KEY_ID`
	`AWS_SECRET_KEY`	`AWS_SECRET_ACCESS_KEY`

SystemPropertiesCredentialsProvider

変更カテゴリ	1.x	2.x
パッケージ/クラス名	`com.amazonaws.auth.SystemPropertiesCredentialsProvider`	`software.amazon.awssdk.auth.credentials.SystemPropertyCredentialsProvider`
作成	`new SystemPropertiesCredentialsProvider`	`SystemPropertiesCredentialsProvider.create`
システムプロパティ名	`aws.secretKey`	`aws.secretAccessKey`

ProfileCredentialsProvider

変更カテゴリ	1.x	2.x
パッケージ/クラス名	`com.amazonaws.auth.profile.ProfileCredentialsProvider`	`software.amazon.awssdk.auth.credentials.ProfileCredentialsProvider`
作成	`new ProfileCredentialsProvider`	`ProfileCredentialsProvider.create`
カスタムプロファイルの場所	• `AWS_CREDENTIAL_PROFILES_FILE` 環境変数 • `new ProfileCredentialsProvider`	• `AWS_SHARED_CREDENTIALS_FILE` 環境変数 • `ProfileCredentialsProvider.builder`

ContainerCredentialsProvider

変更カテゴリ	1.x	2.x
パッケージ/クラス名	`com.amazonaws.auth.ContainerCredentialsProvider`	`software.amazon.awssdk.auth.credentials.ContainerCredentialsProvider`
作成	`new ContainerCredentialsProvider`	`ContainerCredentialsProvider.create`
非同期更新の指定	サポートされません	デフォルトの動作

InstanceProfileCredentialsProvider

変更カテゴリ	1.x	2.x
パッケージ/クラス名	`com.amazonaws.auth.InstanceProfileCredentialsProvider`	`software.amazon.awssdk.auth.credentials.InstanceProfileCredentialsProvider`
作成	`new InstanceProfileCredentialsProvider`	`InstanceProfileCredentialsProvider.create`
非同期更新の指定	`new InstanceProfileCredentialsProvider(true)`	`InstanceProfileCredentialProvider.builder().asyncCredentialUpdateEnabled(true).build()`
システムプロパティ名	`com.amazonaws.sdk.disableEc2Metadata`	`aws.disableEc2Metadata`

変更カテゴリ	1.x	2.x
	com.amazonaws.sdk.ec2MetadataServiceEndpointOverride	aws.ec2MetadataServiceEndpoint

STSAssumeRoleSessionCredentialsProvider

変更カテゴリ	1.x	2.x
パッケージ/クラス名	com.amazonaws.auth.STSAssumeRoleSessionCredentialsProvider	software.amazon.awssdk.services.sts.auth.StsAssumeRoleCredentialsProvider
作成	• new STSAssumeRoleSessionCredentialsProvider • new STSAssumeRoleSessionCredentialsProvider.Builder	StsAssumeRoleCredentialsProvider.builder
非同期更新	デフォルトの動作	デフォルトの動作
設定	new STSAssumeRoleSessionCredentialsProvider.Builder	StsClient および AssumeRoleRequest リクエストの設定

STSSessionCredentialsProvider

変更カテゴリ	1.x	2.x
パッケージ/クラス名	com.amazonaws.auth.STSSessionCredentialsProvider	software.amazon.awssdk.services.sts.auth.StsGetSessionTokenCredentialsProvider
作成	new STSSessionCredentialsProvider	StsGetSessionTokenCredentialsProvider.builder
非同期更新	デフォルトの動作	StsGetSessionTokenCredentialsProvider.builder
設定	コンストラクタのパラメータ	ビルダーでの StsClient と GetSessionTokenRequest リクエストの設定

WebIdentityFederationSessionCredentialsProvider

変更カテゴリ	1.x	2.x
パッケージ/クラス名	com.amazonaws.auth.WebIdentityFederationSessionCredentialsProvider	software.amazon.awssdk.services.sts.auth.StsAssumeRoleWithWebIdentityCredentialsProvider
作成	new WebIdentityFederationSessionCredentialsProvider	StsAssumeRoleWithWebIdentityCredentialsProvider.builder

変更カテゴリ	1.x	2.x
非同期更新	デフォルトの動作	`StsAssumeRoleWithWebIdentityCredentialsProvider.builder`
設定	コンストラクタのパラメータ	ビルダーでの `StsClient` と `AssumeRoleWithWebIdentityRequest` リクエストの設定

置換されたクラス

1.x クラス	2.x 置換クラス
`com.amazonaws.auth.EC2ContainerCredentialsProviderWrapper`	`software.amazon.awssdk.auth.credentials.ContainerCredentialsProvider` および `software.amazon.awssdk.auth.credentials.InstanceProfileCredentialsProvider`
`com.amazonaws.services.s3.S3CredentialsProviderChain`	`software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider` および `software.amazon.awssdk.auth.credentials.AnonymousCredentialsProvider`

削除されたクラス

1.x クラス
`com.amazonaws.auth.ClasspathPropertiesFileCredentialsProvider`
`com.amazonaws.auth.PropertiesFileCredentialsProvider`

リージョンの変更

このセクションでは、Region と Regions クラスの使用に関する AWS SDK for Java 2.x における変更の導入を説明しています。

リージョンの設定

- 一部の AWS サービスにはリージョン固有のエンドポイントがありません。これらのサービスを使用している場合、リージョンを Region.AWS_GLOBAL または Region.AWS_CN_GLOBAL に設定する必要があります。

  Example

  ```
  Region region = Region.AWS_GLOBAL;
  ```

- com.amazonaws.regions.Regions と com.amazonaws.regions.Region クラスが 1 つのクラスである software.amazon.awssdk.regions.Region に結合されました。

メソッドとクラス名のマッピング

次の表では、AWS SDK for Java の 1.x と 2.x 間のリージョン関連クラスをマッピングしています。上記のクラスのインスタンスを作成するには、of() メソッドを使用できます。

Example

```
RegionMetadata regionMetadata = RegionMetadata.of(Region.US_EAST_1);
```

1.x リージョンのクラスメソッドの変更

1.x	2.x
Regions.fromName	Region.of
Regions.getName	Region.id
Regions.getDescription	Region.metadata().description()
Regions.getCurrentRegion	サポート外
Regions.DEFAULT_REGION	サポート外

1.x	2.x
`Regions.name`	`Region.id`

1.x リージョンのクラスメソッドの変更

1.x	2.x
`Region.getName`	`Region.id`
`Region.hasHttpsEndpoint`	サポート外
`Region.hasHttpEndpoint`	サポート外
`Region.getAvailableEndpoints`	サポート外
`Region.createClient`	サポート外

RegionMetadata class method changes

1.x	2.x
`RegionMetadata.getName`	`RegionMetadata.name`
`RegionMetadata.getDomain`	`RegionMetadata.domain`
`RegionMetadata.getPartition`	`RegionMetadata.partition`

ServiceMetadata class method changes

1.x	2.x
`Region.getServiceEndpoint`	`ServiceMetadata.endpointFor(Region)`
`Region.isServiceSupported`	`ServiceMetadata.regions().contains(Region)`

オペレーション、リクエスト、レスポンスの変更

SDK for Java のバージョン 2 では、リクエストはクライアントオペレーションに渡されます。たとえば、 DynamoDbClient's PutItemRequest は DynamoDbClient.putItem オペレーションに渡されます。これらのオペレーションは AWS のサービス、 などの からのレスポンスを返しますPutItemResponse。

SDK for Java のバージョン 2 には、バージョン 1 から次の変更があります。

- 複数のレスポンスページを持つオペレーションに、レスポンス内のすべての項目を自動的にイテレーションする Paginator メソッドが追加されました。
- リクエストとレスポンスを変更することはできません。
- コンストラクタの代わりに静的ビルダーメソッドを使用してリクエストとレスポンスを作成する必要があります。たとえば、バージョン 1 のnew PutItemRequest().withTableName(...) は PutItemRequest.builder().tableName(...).build() になりました。
- オペレーションは、dynamoDbClient.putItem(request -> request.tableName(...)) リクエストを作成する簡単な方法をサポートします。

以下のセクションでは、バージョン 1 とバージョン 2 の具体的な変更点について説明します。一部のパラメータタイプの変更は移行ツールを使用して自動的に変換できますが、その他の変更ではコードを手動で更新する必要があります。

Date パラメータの変更

バージョン 1 では、多くのオペレーションが時間ベースのパラメータに java.util.Date オブジェクトを受け入れます。バージョン 2 では、これらのオペレーションは代わりに java.time.Instant オブジェクトを使用します。

移行ツールを使用して Date パラメータを自動的に変換することも、 Date オブジェクトで toInstant() メソッドを呼び出すことで手動でパラメータを変換することもできます。

Example- バージョン 1 で有効期限を持つ署名付き URL を生成する

```
// Generate a presigned URL that expires at a specific date
Date expiration = new Date(System.currentTimeMillis() + 3600000); // 1 hour from now
URL presignedUrl = s3Client.generatePresignedUrl(bucketName, keyName, expiration);
```

Example- バージョン 2 で有効インスタントを持つ署名付き URL を生成する

```
// Generate a presigned URL that expires at a specific instant
Date expiration = new Date(System.currentTimeMillis() + 3600000); // 1 hour from now
PresignedGetObjectRequest presignedRequest = presigner.presignGetObject(
    GetObjectPresignRequest.builder()
        .getObjectRequest(GetObjectRequest.builder()
            .bucket(bucketName)
            .key(keyName)
            .build())
        .signatureDuration(Duration.between(Instant.now(), expiration.toInstant()))
        .build());
```

バイナリデータ処理の変更

バージョン 1 では、バイナリデータは ByteBuffer オブジェクトを使用して直接処理されていました。バージョン 2 では、SDK はバイナリデータを使用するためのより便利で型の安全性が高い方法を提供する SdkBytes オブジェクトを使用します。

移行ツールを使用して自動的に SdkBytes を ByteBuffer に変換することも、返された SdkBytes オブジェクトで asByteBuffer() を呼び出すことで手動で変換することもできます。

Example- バージョン 1 でメッセージ属性からバイナリデータを取得する

```
// Get binary data from a message attribute
MessageAttributeValue messageAttributeValue = new MessageAttributeValue();
ByteBuffer binaryValue = messageAttributeValue.getBinaryValue();
String binaryString = new String(messageAttributeValue.getBinaryValue().array());
```

Example- バージョン 2 でメッセージ属性からバイナリデータを取得する

```
// Get binary data from a message attribute
MessageAttributeValue messageAttributeValue = MessageAttributeValue.builder().build();
ByteBuffer binaryValue = messageAttributeValue.binaryValue().asByteBuffer();
String binaryString = new
 String(messageAttributeValue.binaryValue().asByteBuffer().array());
```

タイムアウトパラメータの変更

バージョン 1 では、タイムアウト値はミリ秒を表す整数値として指定されていました。バージョン 2 では、タイムアウトパラメータは `java.time.Duration` オブジェクトを使用して、型の安全性と明確性を向上させます。

数値によるタイムアウト値は、移行ツールを使用して自動的に変換することも、適切な `Duration` ファクトリメソッドで数値をラッピングして手動で変換することもできます。

Example- バージョン 1 でリクエストタイムアウトを設定する

```
// Set request timeout in milliseconds
ClientConfiguration clientConfiguration = new ClientConfiguration();
clientConfiguration.setRequestTimeout(5000); // 5 seconds
```

Example- バージョン 2 でリクエストタイムアウトを設定する

```
// Set request timeout using Duration
ClientConfiguration clientConfiguration = new ClientConfiguration();
clientConfiguration.setRequestTimeout(Duration.ofMillis(5000)); // 5 seconds

// Or more clearly:
clientConfiguration.setRequestTimeout(Duration.ofSeconds(5)); // 5 seconds
```

タイムアウト値には、次の `Duration` ファクトリメソッドを使用できます。

- `Duration.ofMillis(long millis)` - ミリ秒値の場合。
- `Duration.ofSeconds(long seconds)` - 秒値の場合。
- `Duration.ofMinutes(long minutes)` - 分値の場合。

の 1.x と 2.x のストリーミングオペレーションの違い AWS SDK for Java

Amazon S3 の `getObject` や `putObject` メソッドなどのストリーミングオペレーションは、 SDK のバージョン 2.x でノンブロッキング I/O をサポートしています。その結果、リクエストとレスポンスのモデルオブジェクトでは `InputStream` をパラメータとして使用しなくなりました。代わりに、同期リクエストのリクエストオブジェクトでは、バイト単位のストリームである `RequestBody` を受け付けるようになりました。非同期の場合は `AsyncRequestBody` を受け付けます。

Example 1.x での Amazon S3 **putObject** オペレーション

```
s3client.putObject(BUCKET, KEY, new File(file_path));
```

Example 2.x での Amazon S3 **putObject** オペレーション

```
s3client.putObject(PutObjectRequest.builder()
                                   .bucket(BUCKET)
                                   .key(KEY)
                                   .build(),
                   RequestBody.of(Paths.get("myfile.in")));
```

V2 では、ストリーミングレスポンスオブジェクトは同期クライアントで ResponseTransformer を受け付け、非同期クライアントで AsyncResponseTransformer を受け付けます。

Example 1.x での Amazon S3 **getObject** オペレーション

```
S3Object o = s3.getObject(bucket, key);
S3ObjectInputStream s3is = o.getObjectContent();
FileOutputStream fos = new FileOutputStream(new File(key));
```

Example 2.x での Amazon S3 **getObject** オペレーション

```
s3client.getObject(GetObjectRequest.builder().bucket(bucket).key(key).build(),
  ResponseTransformer.toFile(Paths.get("key")));
```

SDK for Java 2.x では、ストリーミングレスポンスオペレーションには、レスポンスをメモリにロードし、一般的なタイプのインメモリ変換を簡素化する AsBytes メソッドがあります。

連結された GZIP レスポンス処理の移行

SDK for Java 1.x から移行する場合は、 で S3 レスポンスストリームをラップするコードを手動で更新しますGZIPInputStream。レスポンスに複数の連結 GZIP メンバーを含めることができる場合は、この変更を加えます。非同期クライアントの場合は、ResponseTransformer.toGzipCompatibleInputStream()または を選択しますAsyncResponseTransformer.toGzipCompatibleBlockingInputStream()。

このコードを移行するときは、次の点を考慮してください。

- 移行ツールは、これらのトランスフォーマーを自動的に選択しません。

- 一部の JDK バージョンでは、連結された GZIP レスポンスの 1 つのメンバーの後に を停止GZIPInputStreamできます。これは、次のネットワークチャンクが到着していない場合に発生する可能性があります。結果は、例外なしで解凍されたデータを切り捨てることができます。
- これらのトランスフォーマーはレスポンスコンテンツを解凍しません。返されたストリームを でラップする場合にのみ使用しますGZIPInputStream。それ以外の場合は、 ResponseTransformer.toInputStream()または を使用しますAsyncResponseTransformer.toBlockingInputStream()。

同期クライアントの場合:

```
ResponseInputStream<GetObjectResponse> response =
    s3Client.getObject(
        request,
        ResponseTransformer.toGzipCompatibleInputStream());

try (GZIPInputStream gzipInputStream = new GZIPInputStream(response)) {
    // Read the decompressed response.
}
```

を使用してResponseTransformer.toGzipCompatibleInputStream(Duration)、最初の読み取りオペレーションのタイムアウトを設定できます。

非同期クライアントの場合:

```
CompletableFuture<ResponseInputStream<GetObjectResponse>> responseFuture =
    s3AsyncClient.getObject(
        request,
        AsyncResponseTransformer.toGzipCompatibleBlockingInputStream());

try (ResponseInputStream<GetObjectResponse> response = responseFuture.join();
     GZIPInputStream gzipInputStream = new GZIPInputStream(response)) {
    // Read the decompressed response. Reads block the calling thread.
}
```

の 1.x と 2.x のシリアル化の違い AWS SDK for Java

パラメータをリクエストするための List オブジェクトの違い

SDK for Java v1.x と v2.x では、List オブジェクトをリクエストパラメータに対してシリアル化する方法が異なります。

SDK for Java 1.x は空のリストをシリアル化しませんが、 SDK for Java 2.x は空のリストを空のパラメータとしてシリアル化します。

たとえば、SampleRequest を取得する SampleOperation を使用するサービスを考えてみましょう。SampleRequest は、次の例に示すように、String 型 str1 と List 型 listParam の 2 つのパラメータを受け入れます。

Example 1.x の **SampleOperation** の例

```
SampleRequest v1Request = new SampleRequest()
    .withStr1("TestName");

sampleServiceV1Client.sampleOperation(v1Request);
```

ワイヤレベルのロギングでは、listParam パラメータがシリアル化されていないことが示されています。

```
Action=SampleOperation&Version=2011-01-01&str1=TestName
```

Example 2.x の **SampleOperation** の例

```
sampleServiceV2Client.sampleOperation(b -> b
    .str1("TestName"));
```

ワイヤレベルのロギングでは、値がないまま listParam パラメータがシリアル化されたことが示されています。

```
Action=SampleOperation&Version=2011-01-01&str1=TestName&listParam=
```

V1 の POJO と V2 のビルダーの比較

V1 SDK for Java は変更可能な POJO クラスを使用するため、Jackson などのシリアル化ライブラリと逆シリアル化ライブラリはモデルオブジェクトを直接使用できます。

対照的に、V2 SDK for Java は変更不可能なモデルオブジェクトを使用します。逆シリアル化/シリアル化を実行するには、中間ビルダーを使用する必要があります。

次の例は、Jackson ObjectMapper を使用して V1 と V2 で headBucket API コールを逆シリアル化/シリアル化する場合の違いを示しています。

```
    public void sendRequest() throws IOException {
```

```
        final String bucketName = "amzn-s3-demo-bucket";
        final ObjectMapper mapper = new ObjectMapper();

        // V1 uses POJOs to serialize and deserialize.
        final AmazonS3 v1S3Client = AmazonS3ClientBuilder.defaultClient();
        HeadBucketResult resultV1 = v1S3Client.headBucket(
            new HeadBucketRequest(bucketName));

        String v1Serialized = mapper.writeValueAsString(resultV1);

        HeadBucketResult deserializedV1 = mapper.readValue(v1Serialized,
 HeadBucketResult.class);

        // V2 uses builders to serialize and deserialize.
        S3Client v2S3Client = S3Client.create();
        HeadBucketResponse v2Response = v2S3Client.headBucket(
            b -> b.bucket(bucketName));

        String v2Serialized = mapper.writeValueAsString(
            v2Response.toBuilder());

        HeadBucketResponse v2Deserialized = mapper.readValue(
            v2Serialized, HeadBucketResponse.serializableBuilderClass())
            .build();
    }
```

の 1.x と 2.x の逆シリアル化の違い AWS SDK for Java

V2 の空のコレクションと V1 の **nulls** の比較

SDK for Java v1.x と v2.x では、空のリストとマップを使用して JSON レスポンスを逆シリアル化する方法が異なります。

SDK がリストまたはマップとしてモデル化されたプロパティが欠落したレスポンスを受信すると、V1 は欠落したプロパティを `null` に逆シリアル化しますが、V2 はプロパティを変更不可能な空のコレクションオブジェクトに逆シリアル化します。

たとえば、DynamoDB クライアントから `describeTable` メソッドに対して返されたレスポンスを考えてみましょう。次のメソッドの例には、グローバルセカンダリインデックスを持たないテーブルで `describeTable` メソッドを実行する V2 DynamoDB クライアントと V1 DynamoDB クライアントの両方が含まれています。

Exampleレスポンスで欠落している、リストとしてモデル化されたプロパティの逆シリアル化

```
public void deserializationDiffs(){

    DescribeTableResponse v2Response = dynamoDbClientV2.describeTable(builder ->
 builder.tableName(TABLE_NAME));
    // V2 provides has* methods on model objects for list/map members. No null check
 needed.
    LOGGER.info( String.valueOf(v2Response.table().hasGlobalSecondaryIndexes()) );

 LOGGER.info( String.valueOf(v2Response.table().globalSecondaryIndexes().isEmpty()) );
    // V2 deserialize to an empty collection.
    LOGGER.info(v2Response.table().globalSecondaryIndexes().toString());

    // V1 deserialize to null.
    DescribeTableResult v1Result = dynamoDbClientV1.describeTable(new
 DescribeTableRequest(TABLE_NAME));
    if (v1Result.getTable().getGlobalSecondaryIndexes() != null){
        LOGGER.info(v1Result.getTable().getGlobalSecondaryIndexes().toString());
    } else {
        LOGGER.info("The list of global secondary indexes returned by the V1 call is
 <null>");
    }
}
```

以下は、ログ記録された出力を示しています。

```
INFO  org.example.DeserializationDifferences:45 - false
INFO  org.example.DeserializationDifferences:46 - true
INFO  org.example.DeserializationDifferences:48 - []
INFO  org.example.DeserializationDifferences:55 - The list of global secondary indexes
 returned by the V1 call is <null>
```

Java SDK 2.x は、null を返すのではなく、空のリストとマップを変更不可能な空のコレクションに逆シリアル化することで、より安全で簡潔なコードを促進するという慣用的なアプローチを採用しています。V2 では、前の例に示した hasGlobalSecondaryIndexes のように、has* メソッドを使用してサービスがリストまたはマップとしてモデル化された属性を返したかを確認できます。

このアプローチは、明示的な null チェックが不要になるため、存在しないデータ構造や空のデータ構造を処理するための最新の Java のベストプラクティスに沿ったものとなっています。

完全な例

```
package org.example;

import com.amazonaws.regions.Regions;
import com.amazonaws.services.dynamodbv2.AmazonDynamoDB;
import com.amazonaws.services.dynamodbv2.AmazonDynamoDBClientBuilder;
import com.amazonaws.services.dynamodbv2.model.DescribeTableRequest;
import com.amazonaws.services.dynamodbv2.model.DescribeTableResult;
import org.slf4j.Logger;
import org.slf4j.LoggerFactory;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.DynamoDbClient;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.BillingMode;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.DescribeTableResponse;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.KeyType;
import software.amazon.awssdk.services.dynamodb.model.ScalarAttributeType;

import java.util.UUID;

public class DeserializationDifferences {
    private static final Logger LOGGER =
 LoggerFactory.getLogger(DeserializationDifferences.class);
    private static final String TABLE_NAME = "DeserializationTable-" +
 UUID.randomUUID();
    DynamoDbClient dynamoDbClientV2 = DynamoDbClient.create();
    AmazonDynamoDB dynamoDbClientV1 =
 AmazonDynamoDBClientBuilder.standard().withRegion(Regions.US_EAST_1).build();

    public static void main(String[] args) {

        DeserializationDifferences difference = new DeserializationDifferences();
        difference.createTable();
        difference.deserializationDiffs();
        difference.deleteTable();
    }

    public void createTable(){
        dynamoDbClientV2.createTable(b -> b
                .billingMode(BillingMode.PAY_PER_REQUEST)
                .tableName(TABLE_NAME)
                .keySchema(b1 -> b1.attributeName("Id").keyType(KeyType.HASH))
                .attributeDefinitions(b2 ->
 b2.attributeName("Id").attributeType(ScalarAttributeType.S)));
        dynamoDbClientV2.waiter().waitUntilTableExists(b -> b.tableName(TABLE_NAME));
```

```
    }

    public void deserializationDiffs(){

        DescribeTableResponse v2Response = dynamoDbClientV2.describeTable(builder ->
 builder.tableName(TABLE_NAME));
        // V2 provides has* methods on model objects for list/map members. No null
 check needed.
        LOGGER.info( String.valueOf(v2Response.table().hasGlobalSecondaryIndexes()) );

 LOGGER.info( String.valueOf(v2Response.table().globalSecondaryIndexes().isEmpty()) );
        // V2 deserialize to an empty collection.
        LOGGER.info(v2Response.table().globalSecondaryIndexes().toString());

        // V1 deserialize to null.
        DescribeTableResult v1Result = dynamoDbClientV1.describeTable(new
 DescribeTableRequest(TABLE_NAME));
        if (v1Result.getTable().getGlobalSecondaryIndexes() != null){
            LOGGER.info(v1Result.getTable().getGlobalSecondaryIndexes().toString());
        } else {
            LOGGER.info("The list of global secondary indexes returned by the V1 call
 is <null>");
        }
    }

    public void deleteTable(){
        dynamoDbClientV2.deleteTable(b -> b.tableName(TABLE_NAME));
        dynamoDbClientV2.waiter().waitUntilTableNotExists(b ->
 b.tableName(TABLE_NAME));
    }
}
```

V1 および V2 クライアントからの `describeTable` メソッドの JSON レスポンスには、`GlobalSecondaryIndexes` 属性が含まれていません。

```
{
  "Table": {
    "AttributeDefinitions": [
      {
        "AttributeName": "Id",
        "AttributeType": "S"
      }
    ],
```

```
    "BillingModeSummary": {
      "BillingMode": "PAY_PER_REQUEST",
      "LastUpdateToPayPerRequestDateTime": ...
    },
    "CreationDateTime": ...,
    "DeletionProtectionEnabled": false,
    "ItemCount": 0,
    "KeySchema": [
      {
        "AttributeName": "Id",
        "KeyType": "HASH"
      }
    ],
    "ProvisionedThroughput": {
      "NumberOfDecreasesToday": 0,
      "ReadCapacityUnits": 0,
      "WriteCapacityUnits": 0
    },
    "TableArn": "arn:aws:dynamodb:us-east-1:11111111111:table/
DeserializationTable-...",
    "TableId": "...",
    "TableName": "DeserializationTable-...",
    "TableSizeBytes": 0,
    "TableStatus": "ACTIVE",
    "TableThroughputModeSummary": {
      "LastUpdateToPayPerRequestDateTime": ...,
      "TableThroughputMode": "PAY_PER_REQUEST"
    },
    "WarmThroughput": {
      "ReadUnitsPerSecond": 12000,
      "Status": "ACTIVE",
      "WriteUnitsPerSecond": 4000
    }
  }
}
```

例外変更

例外クラス名、およびその構成と関係が変更されました。`software.amazon.awssdk.core.exception.SdkException` は、他のすべての例外が拡張する新しいベース `Exception` クラスです。

この表では、例外クラス名の変更をマッピングしています。

1.x	2.x
com.amazonaws.SdkBaseException com.amazonaws.AmazonClientException	software.amazon.awssdk.core.exception.SdkException
com.amazonaws.SdkClientException	software.amazon.awssdk.core.exception.SdkClientException
com.amazonaws.AmazonServiceException	software.amazon.awssdk.awscore.exception.AwsServiceException

以下の表では、バージョン 1.x と 2.x 間の例外クラスのメソッドをマッピングしています。

1.x	2.x
AmazonServiceException.getRequestId	SdkServiceException.requestId
AmazonServiceException.getServiceName	AwsServiceException.awsErrorDetails().serviceName
AmazonServiceException.getErrorCode	AwsServiceException.awsErrorDetails().errorCode
AmazonServiceException.getErrorMessage	AwsServiceException.awsErrorDetails().errorMessage
AmazonServiceException.getStatusCode	AwsServiceException.awsErrorDetails().sdkHttpResponse().statusCode
AmazonServiceException.getHttpHeaders	AwsServiceException.awsErrorDetails().sdkHttpResponse().headers

1.x	2.x
`AmazonServiceException.rawResponse`	`AwsServiceException.awsErrorDetails().rawResponse`

サービス固有の変更

Amazon S3 の変更

SDK for Java 2.x では、デフォルトで匿名アクセスが無効になっています。そのため、`AnonymousCredentialsProvider` を使用して匿名アクセスを有効にする必要があります。

オペレーション名の変更

Amazon S3クライアントのオペレーション名の多くは AWS SDK for Java2.x で変更されています。バージョン 1.x では、Amazon S3クライアントはサービス API から直接生成されません。その結果、SDK オペレーションとサービス API 間で不整合が発生しました。バージョン 2.x では、サービス API との整合性を高めるためにAmazon S3クライアントを生成するようになりました。

次の表は、2 つのバージョンのオペレーション名を示しています。

Amazon S3 のオペレーション名

1.x	2.x
`abortMultipartUpload`	`abortMultipartUpload`
`changeObjectStorageClass`	`copyObject`
`completeMultipartUpload`	`completeMultipartUpload`
`copyObject`	`copyObject`
`copyPart`	`uploadPartCopy`
`createBucket`	`createBucket`
`deleteBucket`	`deleteBucket`

1.x	2.x
deleteBucketAnalyticsConfiguration	deleteBucketAnalyticsConfiguration
deleteBucketCrossOriginConfiguration	deleteBucketCors
deleteBucketEncryption	deleteBucketEncryption
deleteBucketInventoryConfiguration	deleteBucketInventoryConfiguration
deleteBucketLifecycleConfiguration	deleteBucketLifecycle
deleteBucketMetricsConfiguration	deleteBucketMetricsConfiguration
deleteBucketPolicy	deleteBucketPolicy
deleteBucketReplicationConfiguration	deleteBucketReplication
deleteBucketTaggingConfiguration	deleteBucketTagging
deleteBucketWebsiteConfiguration	deleteBucketWebsite
deleteObject	deleteObject
deleteObjectTagging	deleteObjectTagging
deleteObjects	deleteObjects
deleteVersion	deleteObject
disableRequesterPays	putBucketRequestPayment
doesBucketExist	headBucket
doesBucketExistV2	headBucket

1.x	2.x
doesObjectExist	headObject
enableRequesterPays	putBucketRequestPayment
generatePresignedUrl	S3Presigner
getBucketAccelerateConfiguration	getBucketAccelerateConfiguration
getBucketAcl	getBucketAcl
getBucketAnalyticsConfiguration	getBucketAnalyticsConfiguration
getBucketCrossOriginConfiguration	getBucketCors
getBucketEncryption	getBucketEncryption
getBucketInventoryConfiguration	getBucketInventoryConfiguration
getBucketLifecycleConfiguration	getBucketLifecycle 、、または getBucketLifecycleConfiguration
getBucketLocation	getBucketLocation
getBucketLoggingConfiguration	getBucketLogging
getBucketMetricsConfiguration	getBucketMetricsConfiguration
getBucketNotificationConfiguration	getBucketNotification 、、または getBucketNotificationConfiguration
getBucketPolicy	getBucketPolicy
getBucketReplicationConfiguration	getBucketReplication
getBucketTaggingConfiguration	getBucketTagging

1.x	2.x
getBucketVersioningConfiguration	getBucketVersioning
getBucketWebsiteConfiguration	getBucketWebsite
getObject	getObject
getObjectAcl	getObjectAcl
getObjectAsString	getObjectAsBytes().asUtf8String
getObjectMetadata	headObject
getObjectTagging	getObjectTagging
getResourceUrl	S3Utilities#getUrl
getS3AccountOwner	listBuckets
getUrl	S3Utilities#getUrl
headBucket	headBucket
initiateMultipartUpload	createMultipartUpload
isRequesterPaysEnabled	getBucketRequestPayment
listBucketAnalyticsConfigurations	listBucketAnalyticsConfigurations
listBucketInventoryConfigurations	listBucketInventoryConfigurations
listBucketMetricsConfigurations	listBucketMetricsConfigurations
listBuckets	listBuckets
listMultipartUploads	listMultipartUploads
listNextBatchOfObjects	listObjectsV2Paginator

1.x	2.x
listNextBatchOfVersions	listObjectVersionsPaginator
listObjects	listObjects
listObjectsV2	listObjectsV2
listParts	listParts
listVersions	listObjectVersions
putObject	putObject
restoreObject	restoreObject
restoreObjectV2	restoreObject
selectObjectContent	selectObjectContent
setBucketAccelerateConfiguration	putBucketAccelerateConfiguration
setBucketAcl	putBucketAcl
setBucketAnalyticsConfiguration	putBucketAnalyticsConfiguration
setBucketCrossOriginConfiguration	putBucketCors
setBucketEncryption	putBucketEncryption
setBucketInventoryConfiguration	putBucketInventoryConfiguration
setBucketLifecycleConfiguration	putBucketLifecycle 、、または putBucketLifecycleConfiguration
setBucketLoggingConfiguration	putBucketLogging
setBucketMetricsConfiguration	putBucketMetricsConfiguration

1.x	2.x
setBucketNotificationConfiguration	putBucketNotification 、、または putBucketNotificationConfiguration
setBucketPolicy	putBucketPolicy
setBucketReplicationConfiguration	putBucketReplication
setBucketTaggingConfiguration	putBucketTagging
setBucketVersioningConfiguration	putBucketVersioning
setBucketWebsiteConfiguration	putBucketWebsite
setObjectAcl	putObjectAcl
setObjectRedirectLocation	copyObject
setObjectTagging	putObjectTagging
uploadPart	uploadPart

Amazon SNS の変更

デフォルトでは、SNS クライアントは設定されたリージョンにのみリクエストを送信します。別のリージョンをターゲットにするには、リージョンごとに別のクライアントを使用します。

Amazon SQS の変更

デフォルトでは、SQS クライアントは設定されたリージョンにのみリクエストを送信します。別のリージョンをターゲットにするには、リージョンごとに別のクライアントを使用します。

Amazon RDS の変更

SDK for Java 2.x は、1.x の クラス `RdsIamAuthTokenGenerator` の代わりに `RdsUtilities#generateAuthenticationToken` を使用します。

Amazon S3 の使用における のバージョン 1 からバージョン 2 への変更 AWS SDK for Java

は、新しいパッケージ構造、更新されたクラス名、改訂されたメソッド署名など、S3 クライアントに大きな変更 AWS SDK for Java 2.x を導入します。移行ツールを使用して多くのメソッドを V1 から V2 に自動的に移行できますが、 `listNextBatchOfObjects` や `selectObjectContent` など、手動移行が必要なメソッドもあります。さらに、V2 は `AccessControlList` や `CannedAccessControlList` などの特定の V1 クラスを新しい実装に置き換えます。

トピック

- のバージョン 1 とバージョン 2 の S3 クライアントの違い AWS SDK for Java
- Transfer Manager を のバージョン 1 からバージョン 2 に移行する AWS SDK for Java
- 署名付き URL ダウンロードを v1 から AWS SDK for Java v2 に移行する
- バージョン 1 からバージョン 2 での Amazon S3 URI の解析の変更
- バージョン 1 からバージョン 2 での S3 イベント通知 API の変更

のバージョン 1 とバージョン 2 の S3 クライアントの違い AWS SDK for Java

このトピックでは、SDK for Java のバージョン 1 とバージョン 2 の S3 クライアントの違いは、移行ツールが移行を自動化する方法によって整理されています。移行ツールはほとんどのメソッドの V1 から V2 への移行をサポートしていますが、一部のメソッドは手動移行が必要です。S3 クライアントメソッドに加えて、一部の S3 V1 クラスは直接相当するものが V2 にないため、手動で移行する必要があります。

目次

- 移行ツールでサポートされている V1 メソッドの例
  - putObject
  - getObject
  - getObject ファイルへの
- 手動移行が必要な V1 メソッド
  - V1 の S3ObjectId から V2 の GetObjectRequest.builder() を使用した V1 の getObject
  - V1 の ObjectMetadata から V2 の GetObjectResponse.eTag() を使用した V1 の getETag()
  - V1 の listNextBatchOfObjects から V2 の listObjectsV2Paginator
  - V1 の listNextBatchOfVersions から V2 の listObjectVersionsPaginator

- selectObjectContent
- PutBucketAclRequest.builder() での V1 の setBucketAcl から V2 の acl メソッド
- PutObjectAclRequest.builder() での V1 の setObjectAcl から V2 の acl メソッド
- V1 の initiateMultipartUpload から V2 の createMultipartUpload
  - 移行の例
  - 実装の相違点
- クライアントビルダーでの V1 の setRegion から V2 の region メソッド
- V1 の setS3ClientOptions(S3ClientOptions clientOptions)
- V1 の setBucketLoggingConfiguration から V2 の putBucketLogging
- V1 の setBucketLifecycleConfiguration から V2 の putBucketLifecycleConfiguration
- V1 の setBucketTaggingConfiguration から V2 の putBucketTagging
- 手動移行が必要な V1 クラス
  - V1 の AccessControlList から V2 の AccessControlPolicy
  - V1 の CannedAccessControlList 列挙型から V2 の BucketCannedACL および ObjectCannedACL 列挙型
  - V1 の BucketNotificationConfiguration から V2 の NotificationConfiguration
  - リクエストビルダーでの V1 の MultiFactorAuthentication から V2 の mfa メソッド

移行ツールでサポートされている V1 メソッドの例

移行ツールは、ほとんどのメソッドを V1 から V2 に自動的に移行します。`putObject` メソッドと `getObject` メソッドはその例です。

`putObject`

```
// SDK V1
s3Client.putObject("amzn-s3-demo-bucket", "my-key", "Hello World!");


// SDK V2
s3Client.putObject(req -> req
    .bucket("amzn-s3-demo-bucket")
    .key("my-key"),
    RequestBody.fromString("Hello World!"));
```

getObject

```
// SDK V1
S3Object object = s3Client.getObject("amzn-s3-demo-bucket", "my-key");
InputStream content = object.getObjectContent();


// SDK V2
ResponseInputStream<GetObjectResponse> response = s3Client.getObject(req -> req
    .bucket("amzn-s3-demo-bucket")
    .key("my-key"));
```

> **Note**
>
> SDK for Java 1.x から移行する場合は、 を使用して連結された GZIP レスポンスをデコードGZIPInputStreamするコードを手動で更新します。移行ツールは、このコードを自動的に更新しません。詳細と例については、「連結された GZIP レスポンス処理の移行」を参照してください。

getObject ファイルへの

```
// SDK V1
// V1 automatically creates parent directories if they don't exist.
ObjectMetadata metadata = s3Client.getObject(
    new GetObjectRequest("amzn-s3-demo-bucket", "my-key"),
    new File("/path/to/parent/dir/my-file.txt"));


// SDK V2
// V2 does NOT auto-create parent directories. Ensure they exist before calling
 getObject.
Files.createDirectories(Paths.get("/path/to/parent/dir"));
s3Client.getObject(
    req -> req.bucket("amzn-s3-demo-bucket").key("my-key"),
    ResponseTransformer.toFile(Paths.get("/path/to/parent/dir/my-file.txt")));
```

> **Important**
>
> SDK V1 とは異なり、SDK V2 の ResponseTransformer.toFile()は親ディレクトリを自動的に作成しません。親ディレクトリが存在しない場合、SDK は をスローしま

すNoSuchFileException。親ディレクトリが存在しない可能性がある場合は、ダウンロードFiles.createDirectories()前に を呼び出します。

手動移行が必要な V1 メソッド

次の V1 S3 クライアントメソッドは手動で移行する必要があります。移行ツールを使用すると、このトピックに誘導するコメントが V2 の出力 Java ファイルに表示されます。

V1 の **S3ObjectId** から V2 の **GetObjectRequest.builder()** を使用した V1 の **getObject**

```
// SDK V1
AmazonS3 s3ClientV1 = AmazonS3ClientBuilder.standard()
        .withRegion(Regions.US_WEST_2)
        .build();

S3ObjectId s3ObjectId = new S3ObjectId(
    "amzn-s3-demo-bucket",
    "object-key",
    "abc123version"
);

GetObjectRequest getRequest= new GetObjectRequest(s3ObjectId);
S3Object s3ObjectVersioned = s3Client.getObject(getRequest);


// SDK V2
// V2 does not include a 'S3ObjectId' class. V2 uses the request builder pattern
// to supply the bucket, key, and version parameters.
S3Client s3Client = S3Client.builder()
    .region(Region.US_WEST_2)
    .build();

GetObjectRequest getRequest = GetObjectRequest.builder()
    .bucket("amzn-s3-demo-bucket")
    .key("object-key")
    .versionId("abc123version")
    .build();

ResponseInputStream<GetObjectResponse> response = s3Client.getObject(getRequest);
```

V1 の **ObjectMetadata** から V2 の **GetObjectResponse.eTag()** を使用した V1 の **getETag()**

```
// SDK V1
AmazonS3 s3ClientV1 = AmazonS3ClientBuilder.standard()
    .withRegion(Regions.US_WEST_2)
    .build();

S3Object object = s3ClientV1.getObject("amzn-s3-demo-bucket", "my-key");

// Double quotes are removed by the S3 client.
System.out.println(object.getObjectMetadata().getETag());

// SDK V2
S3Client s3ClientV2 = S3Client.builder()
        .region(Region.US_WEST_2)
        .build();

ResponseInputStream<GetObjectResponse> response = s3ClientV2.getObject(
        req -> req.bucket("amzn-s3-demo-bucket").key("my-key"));

// Double quotes are *NOT* removed. This is the unchanged ETag value as S3 sent it.
System.out.println(response.response().eTag());
```

V1 の **listNextBatchOfObjects** から V2 の **listObjectsV2Paginator**

```
// SDK V1
AmazonS3 s3ClientV1 = AmazonS3ClientBuilder.standard()
    .withRegion(Regions.US_WEST_2)
    .build();

ObjectListing objectListing = s3ClientV1.listObjects("bucket-name");
while (objectListing.isTruncated()) {
    objectListing = s3ClientV1.listNextBatchOfObjects(objectListing);
    for (S3ObjectSummary summary : objectListing.getObjectSummaries()) {
        System.out.println(summary.getKey());
    }
}


// SDK V2
S3Client s3ClientV2 = S3Client.builder()
    .region(Region.US_WEST_2)
    .build();
```

```
ListObjectsV2Request request = ListObjectsV2Request.builder()
    .bucket("bucket-name")
    .build();

// V2 returns a paginator.
ListObjectsV2Iterable responses = s3Client.listObjectsV2Paginator(request);

for (ListObjectsV2Response page : responses) {
    page.contents().forEach(content -> {
        System.out.println(content.key());
    });
}
```

V1 の **listNextBatchOfVersions** から V2 の **listObjectVersionsPaginator**

```
// SDK V1
AmazonS3 s3ClientV1 = AmazonS3ClientBuilder.standard()
    .withRegion(Regions.US_WEST_2)
    .build();

VersionListing versionListing = s3ClientV1.listVersions("bucket-name", "prefix");
while (versionListing.isTruncated()) {
    versionListing = s3ClientV1.listNextBatchOfVersions(versionListing);
    for (S3VersionSummary version : versionListing.getVersionSummaries()) {
        System.out.println(version.getKey() + " " + version.getVersionId());
    }
}


// SDK V2
S3Client s3ClientV2 = S3Client.builder()
    .region(Region.US_WEST_2)
    .build();

ListObjectVersionsRequest request = ListObjectVersionsRequest.builder()
    .bucket("bucket-name")
    .prefix("prefix")
    .build();

// V2 returns a paginator.
ListObjectVersionsIterable responses = s3ClientV2.listObjectVersionsPaginator(request);
```

```
for (ListObjectVersionsResponse page : responses) {
    page.versions().forEach(version -> {
        System.out.println(version.key() + " " + version.versionId());
    });
}
```

selectObjectContent

```
// SDK V1
AmazonS3 s3ClientV1 = AmazonS3ClientBuilder.standard()
    .withRegion(Regions.US_WEST_2)
    .build();

SelectObjectContentRequest request = new SelectObjectContentRequest()
    .withBucket("bucket-name")
    .withKey("object-key")
    .withExpression("select * from S3Object")
    .withExpressionType(ExpressionType.SQL)


SelectObjectContentResult result = s3ClientV1.selectObjectContent(request);
InputStream resultInputStream = result.getPayload().getRecordsInputStream();


// SDK V2
// In V2, 'selectObjectContent()' is available only on the S3AsyncClient.
// V2 handles responses using an event-based 'SelectObjectContentEventStream'.
S3AsyncClient s3ClientV2 = S3AsyncClient.builder()
    .region(Region.US_WEST_2)
    .build();

SelectObjectContentRequest request = SelectObjectContentRequest.builder()
    .bucket("bucket-name")
    .key("object-key")
    .expression("select * from S3Object")
    .expressionType(ExpressionType.SQL)
    .build();

SelectObjectContentResponseHandler handler = new SelectObjectContentResponseHandler() {
    // Implement the required abstract methods such as 'onEventStream()'.
};

CompletableFuture<Void> future = s3ClientV2.selectObjectContent(request, handler);
```

```
// The 'SelectObjectContentResponseHandler' implementation processes the results.
```

PutBucketAclRequest.builder() での V1 の **setBucketAcl** から V2 の **acl** メソッド

```
// SDK V1
AmazonS3 s3ClientV1 = AmazonS3ClientBuilder.standard()
    .withRegion(Regions.US_WEST_2)
    .build();

AccessControlList acl = new AccessControlList();
acl.grantPermission(GroupGrantee.AllUsers, Permission.Read);
s3ClientV1.setBucketAcl("bucket-name", acl);


// SDK V2
S3Client s3ClientV2 = S3Client.builder()
    .region(Region.US_WEST_2)
    .build();

PutBucketAclRequest request = PutBucketAclRequest.builder()
    .bucket("bucket-name")
    .acl(BucketCannedACL.PRIVATE)
    .build();

s3ClientV2.putBucketAcl(request);
```

PutObjectAclRequest.builder() での V1 の **setObjectAcl** から V2 の **acl** メソッド

```
// SDK V1
AmazonS3 s3ClientV1 = AmazonS3ClientBuilder.standard()
    .withRegion(Regions.US_WEST_2)
    .build();

AccessControlList acl = new AccessControlList();
acl.grantPermission(GroupGrantee.AllUsers, Permission.Read);
s3ClientV1.setObjectAcl("bucket-name", "object-key", acl);


// SDK V2
S3Client s3ClientV2 = S3Client.builder()
    .region(Region.US_WEST_2)
    .build();
```

```
PutObjectAclRequest request = PutObjectAclRequest.builder()
    .bucket("bucket-name")
    .key("object-key")
    .acl(ObjectCannedACL.PRIVATE)
    .build();

s3ClientV2.putObjectAcl(request);
```

V1 の **initiateMultipartUpload** から V2 の **createMultipartUpload**

移行の例

```
// SDK V1
AmazonS3 s3ClientV1 = AmazonS3ClientBuilder.standard()
    .withRegion(Regions.US_WEST_2)
    .build();

ObjectMetadata metadata = new ObjectMetadata();
metadata.setContentType("application/zip");
metadata.addUserMetadata("mykey", "myvalue");

InitiateMultipartUploadRequest initRequest = new InitiateMultipartUploadRequest(
    "bucket-name",
    "object-key",
    metadata
);

InitiateMultipartUploadResult initResponse =
 s3ClientV1.initiateMultipartUpload(initRequest);
String uploadId = initResponse.getUploadId();


// SDK V2
// V1 uses ObjectMetadata methods, whereas V2 uses a simple Map.
S3Client s3ClientV2 = S3Client.builder()
    .region(Region.US_WEST_2)
    .build();

CreateMultipartUploadRequest createMultipartRequest =
 CreateMultipartUploadRequest.builder()
    .bucket("amzn-s3-demo-bucket")
    .key("object-key")
    .contentType("application/zip")
    .metadata(Collections.singletonMap("mykey", "myvalue"))
```

```
    .build();

CreateMultipartUploadResponse response =
 s3ClientV2.createMultipartUpload(createMultipartRequest);
String uploadId = response.uploadId();
```

実装の相違点

以下の表に示すように、次のメソッドのデフォルトの Content-Type ヘッダー値が異なります。

SDK のバージョン	方法	デフォルトの **Content-Type** 値
バージョン 1	initiateMultipartUpload	application/octet-stream
バージョン 2	createMultipartUpload	binary/octet-stream

クライアントビルダーでの V1 の **setRegion** から V2 の **region** メソッド

```
// SDK V1
AmazonS3 s3ClientV1 = AmazonS3ClientBuilder.standard().build();
s3ClientV1.setRegion(Region.getRegion(Regions.US_WEST_2));


// SDK V2
S3Client s3ClientV2 = S3Client.builder()
    .region(Region.US_WEST_2)
    .build();
```

V1 の **setS3ClientOptions(S3ClientOptions clientOptions)**

setS3ClientOptions メソッドで単一の S3ClientOptions オブジェクトを使用する代わりに、V2 はクライアントビルダーでオプションを設定するメソッドを提供します。

V1 の **setBucketLoggingConfiguration** から V2 の **putBucketLogging**

```
// SDK V1
AmazonS3 s3ClientV1 = AmazonS3ClientBuilder.standard()
    .withRegion(Regions.US_WEST_2)
    .build();

BucketLoggingConfiguration loggingConfig = new BucketLoggingConfiguration();
loggingConfig.setDestinationBucketName("log-bucket");

SetBucketLoggingConfigurationRequest request = new
 SetBucketLoggingConfigurationRequest(
    "amzn-s3-demo-source-bucket",
    loggingConfig
);

s3ClientV1.setBucketLoggingConfiguration(request);


// SDK V2
// In V2, V1's 'BucketLoggingConfiguration' is replaced by 'BucketLoggingStatus'
// and 'LoggingEnabled'.
S3Client s3ClientV2 = S3Client.builder()
    .region(Region.US_WEST_2)
    .build();

LoggingEnabled loggingEnabled = LoggingEnabled.builder()
    .targetBucket("log-bucket")
    .build();

BucketLoggingStatus loggingStatus = BucketLoggingStatus.builder()
    .loggingEnabled(loggingEnabled)
    .build();

PutBucketLoggingRequest request = PutBucketLoggingRequest.builder()
    .bucket("amzn-s3-demo-source-bucket")
    .bucketLoggingStatus(loggingStatus)
    .build();

s3ClientV2.putBucketLogging(request);
```

V1 の **setBucketLifecycleConfiguration** から V2 の **putBucketLifecycleConfiguration**

```
// SDK V1
BucketLifecycleConfiguration.Rule rule = new BucketLifecycleConfiguration.Rule()
    .withId("Archive and Delete Rule")
    .withPrefix("documents/")
    .withStatus(BucketLifecycleConfiguration.ENABLED)
    .withTransitions(Arrays.asList(
        new Transition()
            .withDays(30)
            .withStorageClass(StorageClass.StandardInfrequentAccess.toString()),
        new Transition()
            .withDays(90)
            .withStorageClass(StorageClass.Glacier.toString())
    ))
    .withExpirationInDays(365);

BucketLifecycleConfiguration configuration = new BucketLifecycleConfiguration()
    .withRules(Arrays.asList(rule));

s3ClientV1.setBucketLifecycleConfiguration("amzn-s3-demo-bucket", configuration);


// SDK V2
LifecycleRule rule = LifecycleRule.builder()
    .id("Archive and Delete Rule")
    .filter(LifecycleRuleFilter.builder()
        .prefix("documents/")
        .build())
    .status(ExpirationStatus.ENABLED)
    .transitions(Arrays.asList(
        Transition.builder()
            .days(30)
            .storageClass(TransitionStorageClass.STANDARD_IA)
            .build(),
        Transition.builder()
            .days(90)
            .storageClass(TransitionStorageClass.GLACIER)
            .build()
    ))
    .expiration(LifecycleExpiration.builder()
        .days(365)
```

```
        .build())
    .build();

PutBucketLifecycleConfigurationRequest request =
 PutBucketLifecycleConfigurationRequest.builder()
    .bucket("amzn-s3-demo-bucket")
    .lifecycleConfiguration(BucketLifecycleConfiguration.builder()
        .rules(rule)
        .build())
    .build();

s3ClientV2.putBucketLifecycleConfiguration(request);
```

V1 の **setBucketTaggingConfiguration** から V2 の **putBucketTagging**

```
// SDK V1
List<TagSet> tagsets = new ArrayList<>();
TagSet tagSet = new TagSet();
tagSet.setTag("key1", "value1");
tagSet.setTag("key2", "value2");
tagsets.add(tagSet);

BucketTaggingConfiguration bucketTaggingConfiguration = new
 BucketTaggingConfiguration();
bucketTaggingConfiguration.setTagSets(tagsets);

SetBucketTaggingConfigurationRequest request = new
 SetBucketTaggingConfigurationRequest(
    "amzn-s3-demo-bucket",
    bucketTaggingConfiguration
);

s3ClientV1.setBucketTaggingConfiguration(request);


// SDK V2
Tagging tagging = Tagging.builder()
    .tagSet(Arrays.asList(
        Tag.builder()
            .key("key1")
            .value("value1")
            .build(),
        Tag.builder()
```

```
            .key("key2")
            .value("value2")
            .build()
    ))
    .build();

PutBucketTaggingRequest request = PutBucketTaggingRequest.builder()
    .bucket("amzn-s3-demo-bucket")
    .tagging(tagging)
    .build();

s3ClientV2.putBucketTagging(request);
```

手動移行が必要な V1 クラス

V1 の **AccessControlList** から V2 の **AccessControlPolicy**

```
// SDK V1
AccessControlList aclV1 = new AccessControlList();
aclV1.setOwner(new Owner("owner-id", "owner-name"));
aclV1.grantPermission(GroupGrantee.AllUsers, Permission.Read);

// SDK V2
// To migrate from V1 to V2, replace direct 'AccessControlList' modifications with an
// 'AccessControlPolicy.builder()' that contains both owner information and grants.
// Note that V2's approach requires building the complete permission set upfront rather
 than modifying permissions incrementally.
AccessControlPolicy acpV2 = AccessControlPolicy.builder()
    .owner(Owner.builder()
        .id("owner-id")
        .displayName("owner-name")
        .build())
    .grants(Arrays.asList(
         Grant.builder()
            .grantee(Grantee.builder()
                 .type(Type.GROUP)
                 .uri("http://acs.amazonaws.com/groups/global/AllUsers")
                 .build())
             .permission(Permission.READ)
             .build()
     ))
     .build();
```

V1 の **CannedAccessControlList** 列挙型から V2 の **BucketCannedACL** および **ObjectCannedACL** 列挙型

```
// SDK V1
// In V1, 'CannedAccessControlList' is an enumeration of predefined ACLs.
AmazonS3 s3ClientV1 = AmazonS3ClientBuilder.standard().build();

// Creating a bucket.
s3ClientV1.setBucketAcl("bucket-name", CannedAccessControlList.PublicRead);

// Creating an object.
PutObjectRequest putObjectRequest = new PutObjectRequest("bucket-name", "object-key",
 file)
    .withCannedAcl(CannedAccessControlList.PublicRead);
s3ClientV1.putObject(putObjectRequest);


// SDK V2
// V2 replaces V1's 'CannedAccessControlList' with 'BucketCannedACL' for buckets and
 'ObjectCannedACL' for objects.
S3Client s3ClientV2 = S3Client.builder().build();

// Creating a bucket.
PutBucketAclRequest bucketRequest = PutBucketAclRequest.builder()
    .bucket("bucket-name")
    .acl(BucketCannedACL.PRIVATE)
    .build();
s3ClientV2.putBucketAcl(bucketRequest);

// Creating an object.
PutObjectRequest objectRequest = PutObjectRequest.builder()
    .bucket("bucket-name")
    .key("object-key")
    .acl(ObjectCannedACL.PUBLIC_READ)
    .build();
s3ClientV2.putObject(objectRequest, RequestBody.fromFile(file));
```

V1 の **BucketNotificationConfiguration** から V2 の **NotificationConfiguration**

```
//SDK V1
BucketNotificationConfiguration notificationConfig = new
 BucketNotificationConfiguration();
```

```
// Adding configurations by name
notificationConfig.addConfiguration("lambdaConfig",
    new LambdaConfiguration("arn:aws:lambda:function", "s3:ObjectCreated:"));

notificationConfig.addConfiguration("topicConfig",
    new TopicConfiguration("arn:aws:sns:topic", "s3:ObjectRemoved:"));

notificationConfig.addConfiguration("queueConfig",
    new QueueConfiguration("arn:aws:sqs:queue", "s3:ObjectRestore:*"));

s3Client.setBucketNotificationConfiguration("bucket", notificationConfig);


// SDK V2
// In V2, V1's BucketNotificationConfiguration is renamed to
 NotificationConfiguration.
// V2 contains no common abstract class for LambdaFunction/Topic/Queue configurations.
NotificationConfiguration notificationConfig = NotificationConfiguration.builder()
    .lambdaFunctionConfigurations(
        LambdaFunctionConfiguration.builder()
            .lambdaFunctionArn("arn:aws:lambda:function")
            .events(Event.valueOf("s3:ObjectCreated:"))
            .build())
    .topicConfigurations(
        TopicConfiguration.builder()
            .topicArn("arn:aws:sns:topic")
            .events(Event.valueOf("s3:ObjectRemoved:"))
            .build())
    .queueConfigurations(
        QueueConfiguration.builder()
            .queueArn("arn:aws:sqs:queue")
            .events(Event.valueOf("s3:ObjectRestore:*"))
            .build())
    .build();

s3Client.putBucketNotificationConfiguration(req -> req
    .bucket("bucket")
    .notificationConfiguration(notificationConfig));
```

リクエストビルダーでの V1 の **MultiFactorAuthentication** から V2 の **mfa** メソッド

```
// SDK V1
AmazonS3 s3ClientV1 = AmazonS3ClientBuilder.standard()
```

```
    .withRegion(Regions.US_WEST_2)
    .build();

BucketVersioningConfiguration versioningConfig = new BucketVersioningConfiguration()
    .withStatus(BucketVersioningConfiguration.ENABLED);

// Create an MFA configuration object.
MultiFactorAuthentication mfa = new MultiFactorAuthentication(
    "arn:aws:iam::1234567890:mfa/user",
    "123456"
);

// Create the request object.
SetBucketVersioningConfigurationRequest request = new
 SetBucketVersioningConfigurationRequest(
    "bucket-name",
    versioningConfig,
    mfa
);

// Send the request.
s3ClientV1.setBucketVersioningConfiguration(request);


// SDK V2
// V2 replaces V1's MultiFactorAuthentication POJO with parameters you set on the
 request builder.
S3Client s3ClientV2 = S3Client.builder()
    .region(Region.US_WEST_2)
    .build();

PutBucketVersioningRequest request = PutBucketVersioningRequest.builder()
    .bucket("bucket-name")
    .versioningConfiguration(VersioningConfiguration.builder()
        .status(BucketVersioningStatus.ENABLED)
        .build())
    .mfa("arn:aws:iam::1234567890:mfa/user 123456")  // Single method takes both MFA
 erial number and token.
    .build();

s3ClientV2.putBucketVersioning(request);
```

Transfer Manager を のバージョン 1 からバージョン 2 に移行する AWS SDK for Java

この移行ガイドでは、Transfer Manager v1 と S3 Transfer Manager v2 の主な違いについて説明します。これには、コンストラクタの変更、メソッドマッピング、一般的なオペレーションのコード例が含まれます。これらの違いを知ることで、既存の Transfer Manager コードを正常に移行して、v2 でのパフォーマンスの向上と非同期オペレーションを活用できます。

⚠ AWS SDK 移行ツールについて

AWS SDK for Java には、v1 Transfer Manager API の多くを v2 に移行できる自動移行ツールが用意されています。ただし、移行ツールは一部の v1 Transfer Manager 機能をサポートしていません。このような場合は、このトピックのガイダンスを使用して Transfer Manager コードを手動で移行する必要があります。
このガイド全体で、移行ステータスは、移行ツールがコンストラクタ、メソッド、または機能を自動的に移行できるかどうかを示します。

- サポート対象: 移行ツールでこのコードを自動的に変換できます
- サポート対象外: コードを手動で移行する必要があります

「サポート対象」とマークされた項目であっても、移行結果を確認して入念にテストしてください。Transfer Manager の移行には、同期オペレーションから非同期オペレーションへの大幅なアーキテクチャ変更が含まれます。

概要

S3 Transfer Manager v2 では、Transfer Manager API に大幅な変更が加えられました。S3 Transfer Manager v2 は非同期オペレーション上に構築されており、特に AWS CRT ベースの Amazon S3 クライアントを使用する場合、パフォーマンスが向上します。

主な違い

- パッケージ: `com.amazonaws.services.s3.transfer` → `software.amazon.awssdk.transfer.s3`
- クラス名: `TransferManager` → `S3TransferManager`
- クライアントの依存関係: 同期 Amazon S3 クライアント → 非同期 Amazon S3 クライアント (`S3AsyncClient`)
- アーキテクチャ: 同期オペレーション → `CompletableFuture` を使用した非同期オペレーション

- パフォーマンス: CRT AWS ベースのクライアントサポートで強化

高レベル変更

側面	V1	V2
Maven の依存関係	`aws-java-sdk-s3`	`s3-transfer-manager`
パッケージ	`com.amazonaws.services.s3.transfer`	`software.amazon.awssdk.transfer.s3`
メインクラス	`TransferManager`	`S3TransferManager`
Amazon S3 クライアント	`AmazonS3` (同期)	`S3AsyncClient` (非同期)
戻り型	ブロックオペレーション	`CompletableFuture<T>`

Maven の依存関係

V1

```
<dependencyManagement>
    <dependencies>
        <dependency>
            <groupId>com.amazonaws</
groupId>
            <artifactId>aws-java-sdk-
bom</artifactId>
            <version>> 1.12.787[1]</
version>
            <type>pom</type>
            <scope>import</scope>
        </dependency>
    </dependencies>
</dependencyManagement>
<dependencies>
    <dependency>
        <groupId>com.amazonaws</gro
upId>
```

V2

```
<dependencyManagement>
    <dependencies>
        <dependency>
            <groupId>software.
amazon.awssdk</groupId>
            <artifactId>bom</a
rtifactId>
            <version> 2.31.68[2]</version
>
            <type>pom</type>
            <scope>import</scope>
        </dependency>
    </dependencies>
</dependencyManagement>
<dependencies>
    <dependency>
        <groupId>software.amazon.aw
ssdk</groupId>
```

V1	V2
<artifactId>aws-java-sdk-s3 </artifactId> </dependency> </dependencies>	<artifactId>s3-transfer-man ager</artifactId> </dependency> <!-- Optional: For enhanced performance with AWS CRT --> <dependency> <groupId>software.amazon.aw ssdk.crt</groupId> <artifactId>aws-crt</artifa ctId> <version> *0.38.5*[3]</version> </dependency> </dependencies>

[1] 最新バージョン。[2] 最新バージョン。[3] 最新バージョン。

クライアントコンストラクタの移行

サポート対象コンストラクタ (自動移行)

V1 コンストラクタ	V2 の同等コンストラクタ	移行ステータス
new TransferManager()	S3TransferManager. create()	サポート対象
TransferManagerBuilder. defaultTransferManager()	S3TransferManager. create()	サポート対象
TransferManagerBuilder. standard().build()	S3TransferManager. builder().build()	サポート対象
new TransferManager(AW SCredentials)	S3TransferManager. builder() .s3Clien t(S3AsyncClient.bu ilder() .credentia lsProvider(...).bu ild()) .build()	サポート対象

V1 コンストラクタ	V2 の同等コンストラクタ	移行ステータス
`new TransferManager( AWSCredentialsProvider)`	`S3TransferManager. builder() .s3Client(S3AsyncClient.builder() .credentialsProvider(...).build()) .build()`	サポート

サポート対象外コンストラクタ (手動移行が必要)

V1 コンストラクタ	V2 の同等コンストラクタ	移行に関するメモ
`new TransferManager(AmazonS3)`	手動移行が必要	`S3AsyncClient` を個別に作成する
`new TransferManager(AmazonS3, ExecutorService)`	手動移行が必要	`S3AsyncClient` を作成し、エグゼキューターを設定する
`new TransferManager(AmazonS3, ExecutorService, boolean)`	手動移行が必要	`shutDownThreadPools` パラメータはサポートされていません

手動移行の例

V1 コード:

```
AmazonS3 s3Client = AmazonS3ClientBuilder.defaultClient();
TransferManager transferManager = new TransferManager(s3Client);
```

V2 コード:

```
// Create an `S3AsyncClient` with similar configuration
S3AsyncClient s3AsyncClient = S3AsyncClient.builder()
    .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.create())
    .build();
```

```
// Provide the configured `S3AsyncClient` to the S3 transfer manager builder.
S3TransferManager transferManager = S3TransferManager.builder()
    .s3Client(s3AsyncClient)
    .build();
```

クライアントメソッドの移行

現在、移行ツールは基本的な
copy、download、upload、uploadDirectory、downloadDirectory、resumeDownload、および resumeUpload メソッドをサポートしています。

主な転送メソッド

V1 メソッド	V2 メソッド	戻り型の変更	移行ステータス
upload(String, String, File)	uploadFile(UploadFileRequest)	Upload → FileUpload	サポート対象
upload(PutObjectRequest)	upload(UploadRequest)	Upload → Upload	サポート対象
download(String, String, File)	downloadFile(DownloadFileRequest)	Download → FileDownload	サポート対象
download(GetObjectRequest, File)	downloadFile(DownloadFileRequest)	Download → FileDownload	サポート対象
copy(String, String, String, String)	copy(CopyRequest)	Copy → Copy	サポート対象
copy(CopyObjectRequest)	copy(CopyRequest)	Copy → Copy	サポート対象
uploadDirectory(String, String, File, boolean)	uploadDirectory(UploadDirectoryRequest)	MultipleFileUpload → DirectoryUpload	サポート対象

V1 メソッド	V2 メソッド	戻り型の変更	移行ステータス
downloadDirectory(String, String, File)	downloadDirectory(DownloadDirectoryRequest)	MultipleFileDownload → DirectoryDownload	サポート対象
download(PresignedUrlDownloadRequest, File)	downloadFileWithPresignedUrl(PresignedDownloadFileRequest)	PresignedUrlDownload → PresignedFileDownload	サポート
同等物なし	downloadWithPresignedUrl(PresignedDownloadRequest<T>)	該当しない	v2 の新機能

再開可能な転送メソッド

V1 メソッド	V2 メソッド	移行ステータス
resumeUpload(PersistableUpload)	resumeUploadFile(ResumableFileUpload)	サポート対象
resumeDownload(PersistableDownload)	resumeDownloadFile (ResumableFileDownload)	サポート

ライフサイクルメソッド

V1 メソッド	V2 メソッド	移行ステータス
shutdownNow()	close()	サポート
shutdownNow(boolean)	close() メソッドを使用してコードを手動で調整する	サポート外

サポートされていない V1 クライアントメソッド

V1 メソッド	V2 代替メソッド	注意事項
`abortMultipartUploads(String, Date)`	低レベルの Amazon S3 クライアントを使用	サポート外
`getAmazonS3Client()`	リファレンスを個別に保存	サポート対象外、v2 にはゲッターなし
`getConfiguration()`	リファレンスを個別に保存	サポート対象外、v2 にはゲッターなし
`uploadFileList(...)`	複数の `uploadFile()` 呼び出しを行う	サポート外
`TransferStateChangeListener` パラメータを持つ copy メソッド	`TransferListener` を使用する	手動移行の例を参照
`S3ProgressListener` パラメータを持つ download メソッド	`TransferListener` を使用する	手動移行の例を参照
4 つ以上のパラメータを持つ `downloadDirectory` メソッド		手動移行の例を参照
`ObjectMetadataProvider` パラメータを使用した upload メソッド	リクエストでメタデータを設定	手動移行の例を参照
`*Provider` パラメータを持つ `uploadDirectory` メソッド	リクエストでタグを設定	手動移行の例を参照

`TransferStateChangeListener` パラメータを持つ `copy` メソッド

- `copy(CopyObjectRequest copyObjectRequest, AmazonS3 srcS3, TransferStateChangeListener stateChangeListener)`

- copy(CopyObjectRequest copyObjectRequest, TransferStateChangeListener stateChangeListener)

```
// V1
 ---------------------------------------------------------------------------------------------
// Initialize source S3 client
AmazonS3 s3client = AmazonS3ClientBuilder.standard()
                .withRegion("us-west-2")
                .build();

// Initialize Transfer Manager
TransferManager tm = TransferManagerBuilder.standard()
                .withS3Client(srcS3)
                .build();

CopyObjectRequest copyObjectRequest = new CopyObjectRequest(
                "amzn-s3-demo-source-bucket",
                "source-key",
                "amzn-s3-demo-destination-bucket",
                "destination-key"
        );

TransferStateChangeListener stateChangeListener = new TransferStateChangeListener() {
            @Override
            public void transferStateChanged(Transfer transfer, TransferState state) {
              //Implementation of the TransferStateChangeListener
            }
        };

Copy copy = tm.copy(copyObjectRequest, srcS3, stateChangeListener);


// V2
 ---------------------------------------------------------------------------------------------
S3AsyncClient s3AsyncClient = S3AsyncClient.builder()
                .region(Region.US_WEST_2)
                .build();

S3TransferManager transferManager = S3TransferManager.builder()
                .s3Client(s3AsyncClient)
                .build();
```

```
// Create transfer listener (equivalent to TransferStateChangeListener in v1)

TransferListener transferListener = new TransferListener() {
            @Override
            public void transferInitiated(Context.TransferInitiated context) {
               //Implementation
               System.out.println("Transfer initiated");
            }

            @Override
            public void bytesTransferred(Context.BytesTransferred context) {
                //Implementation
                System.out.println("Bytes transferred");
            }

            @Override
            public void transferComplete(Context.TransferComplete context) {
                //Implementation
                System.out.println("Transfer completed!");
            }

            @Override
            public void transferFailed(Context.TransferFailed context) {
                //Implementation
                System.out.println("Transfer failed");
            }
        };

CopyRequest copyRequest = CopyRequest.builder()
                               .copyObjectRequest(req -> req
                                   .sourceBucket("amzn-s3-demo-source-bucket")
                                   .sourceKey("source-key")
                                   .destinationBucket("amzn-s3-demo-destination-bucket")
                                   .destinationKey("destination-key")
                                )
                                 .addTransferListener(transferListener) // Configure the
 transferListener into the request
                                  .build();

Copy copy = transferManager.copy(copyRequest);
```

S3ProgressListener パラメータを持つ download メソッド

- download(GetObjectRequest getObjectRequest, File file, S3ProgressListener progressListener)
- download(GetObjectRequest getObjectRequest, File file, S3ProgressListener progressListener, long timeoutMillis)
- download(GetObjectRequest getObjectRequest, File file, S3ProgressListener progressListener, long timeoutMillis, boolean resumeOnRetry)

```
// V1
 ---------------------------------------------------------------------------------------------
S3ProgressListener progressListener = new S3ProgressListener() {
        @Override
        public void progressChanged(com.amazonaws.event.ProgressEvent progressEvent) {
            long bytes = progressEvent.getBytesTransferred();
            ProgressEventType eventType = progressEvent.getEventType();
            // Use bytes and eventType as needed
        }

        @Override
        public void onPersistableTransfer(PersistableTransfer persistableTransfer) {

        }
    };

Download download1 = tm.download(getObjectRequest, file, progressListener);
Download download2 = tm.download(getObjectRequest, file, progressListener,
 timeoutMillis)
Download download3 = tm.download(getObjectRequest, file, progressListener,
 timeoutMillis, true)

// V2
 ---------------------------------------------------------------------------------------------
TransferListener transferListener = new TransferListener() {
    @Override
    public void transferInitiated(Context.InitializedContext context) {
        // Equivalent to ProgressEventType.TRANSFER_STARTED_EVENT
        System.out.println("Transfer initiated");
    }

    @Override
```

```
    public void bytesTransferred(Context.BytesTransferred context) {
        // Equivalent to ProgressEventType.REQUEST_BYTE_TRANSFER_EVENT
        long bytes = context.bytesTransferred();
        System.out.println("Bytes transferred: " + bytes);
    }

    @Override
    public void transferComplete(Context.TransferComplete context) {
        // Equivalent to ProgressEventType.TRANSFER_COMPLETED_EVENT
        System.out.println("Transfer completed");
    }

    @Override
    public void transferFailed(Context.TransferFailed context) {
        // Equivalent to ProgressEventType.TRANSFER_FAILED_EVENT
        System.out.println("Transfer failed: " + context.exception().getMessage());
    }
};
DownloadFileRequest downloadFileRequest =
                        DownloadFileRequest.builder()
                            .getObjectRequest(getObjectRequest)
                            .destination(file.toPath())
                            .addTransferListener(transferListener)
                            .build();

// For download1
FileDownload download = transferManager.downloadFile(downloadFileRequest);

// For download2
CompletedFileDownload completedFileDownload = download.completionFuture()
                                                      .get(timeoutMillis,
 TimeUnit.MILLISECONDS);

// For download3, the v2 SDK does not have a direct equiavalent to the `resumeOnRetry`
 method of v1.
// If a download is interrupted, you need to start a new download request.
```

4 つ以上のパラメータを持つ **downloadDirectory** メソッド

- downloadDirectory(String bucketName, String keyPrefix, File destinationDirectory, boolean resumeOnRetry)
- downloadDirectory(String bucketName, String keyPrefix, File destinationDirectory, boolean resumeOnRetry, KeyFilter filter)

- downloadDirectory(String bucketName, String keyPrefix, File destinationDirectory, KeyFilter filter)

```
// V1
 ---------------------------------------------------------------------------------------------
KeyFilter filter = new KeyFilter() {
            @Override
            public boolean shouldInclude(S3ObjectSummary objectSummary) {
                //Filter implementation
            }
        };
MultipleFileDownload multipleFileDownload = tm.downloadDirectory(bucketName, keyPrefix,
 destinationDirectory, filter);

// V2
 ---------------------------------------------------------------------------------------------
// The v2 SDK does not have a direct equiavalent to the `resumeOnRetry` method of v1.
// If a download is interrupted, you need to start a new download request.
DownloadFilter filter = new DownloadFilter() {
            @Override
            public boolean test(S3Object s3Object) {
                // Filter implementation.
            }
        };

DownloadDirectoryRequest downloadDirectoryRequest =
                               DownloadDirectoryRequest.builder()
                                   .bucket(bucketName)
                                   .filter(filter)
                                   .listObjectsV2RequestTransformer(builder ->
 builder.prefix(keyPrefix))
                                   .destination(destinationDirectory.toPath())
                                   .build();

DirectoryDownload directoryDownload =
 transferManager.downloadDirectory(downloadDirectoryRequest);
```

ObjectMetadata パラメータを持つ **upload** メソッド

- upload(String bucketName, String key, InputStream input, ObjectMetadata objectMetadata)

```
// V1
 ---------------------------------------------------------------------------------------------------
ObjectMetadata metadata = new ObjectMetadata();
ObjectMetadata metadata = new ObjectMetadata();

metadata.setContentType("text/plain");        // System-defined metadata
metadata.setContentLength(22L);               // System-defined metadata
metadata.addUserMetadata("myKey", "myValue"); // User-defined metadata

PutObjectRequest putObjectRequest = new PutObjectRequest(bucketName, key, inputStream,
 metadata);

Upload upload = transferManager.upload("amzn-s3-demo-bucket", "my-key", inputStream,
 metadata);

// V2
 ---------------------------------------------------------------------------------------------------
/* When you use an InputStream to upload in V2, you should specify the content length
   and use `RequestBody.fromInputStream()`.
   If you don't provide the content length, the entire stream will be buffered in
 memory.
   If you can't determine the content length, we recommend using the CRT-based S3
 client.
*/
Map<String, String> userMetadata = new HashMap<>();
userMetadata.put("x-amz-meta-myKey", "myValue");

PutObjectRequest putObjectRequest =
                        PutObjectRequest.builder()
                            .bucket("amzn-s3-demo-bucket1")
                            .key("k")
                            .contentType("text/plain") //System-defined metadata
 usually has separate methods in the builder.
                            .contentLength(22L)
                            .metadata(userMetadata) //metadata() is only for user-
defined metadata.
                            .build();

UploadRequest uploadRequest =
                        UploadRequest.builder()
                            .putObjectRequest(putObjectRequest)
                            .requestBody(AsyncRequestBody.fromInputStream(stream, 22L,
 executor))
```

```
                                .build();

transferManager.upload(uploadRequest).completionFuture().join();
```

`ObjectMetadataProvider` パラメータを持つ `uploadDirectory`

- uploadDirectory(String bucketName, String virtualDirectoryKeyPrefix, File directory, boolean includeSubdirectories, ObjectMetadataProvider metadataProvider)
- uploadDirectory(String bucketName, String virtualDirectoryKeyPrefix, File directory, boolean includeSubdirectories, ObjectMetadataProvider metadataProvider, ObjectTaggingProvider taggingProvider)
- uploadDirectory(String bucketName, String virtualDirectoryKeyPrefix, File directory, boolean includeSubdirectories, ObjectMetadataProvider metadataProvider, ObjectTaggingProvider taggingProvider, ObjectCannedAclProvider cannedAclProvider)

```
// V1
 ---------------------------------------------------------------------------------------------
tm.uploadDirectory(bucketName, virtualDirectoryKeyPrefix, directory,
 includeSubdirectories, metadataProvider)
tm.uploadDirectory(bucketName, virtualDirectoryKeyPrefix, directory,
 includeSubdirectories, metadataProvider, taggingProvider)
tm.uploadDirectory(bucketName, virtualDirectoryKeyPrefix, directory,
 includeSubdirectories, metadataProvider, taggingProvider, cannedAclProvider)

// V2
 ---------------------------------------------------------------------------------------------
UploadDirectoryRequest request = UploadDirectoryRequest.builder()
                                    .bucket(bucketName)
                                    .s3Prefix(virtualDirectoryKeyPrefix)
                                    .source(directory.toPath())
                                    .maxDepth(includeSubdirectories ? Integer.MAX_VALUE :
 1)
                                    .uploadFileRequestTransformer(builder -> {
                                        // 1.Replace `ObjectMetadataProvider`,
 `ObjectTaggingProvider`, and `ObjectCannedAclProvider` with an
                                          // `UploadFileRequestTransformer` that can
 combine the functionality of all three *Provider implementations.
```

```
                                        // 2. Convert your v1 `ObjectMetadata` to v2
 `PutObjectRequest` parameters.
                                        // 3. Convert your v1 `ObjectTagging` to v2
 `Tagging`.
                                        // 4. Convert your v1 `CannedAccessControlList`
 to v2 `ObjectCannedACL`.
                                    })
                                    .build();

DirectoryUpload directoryUpload = transferManager.uploadDirectory(request);
```

モデルオブジェクトの移行

では AWS SDK for Java 2.x、多くのTransferManagerモデルオブジェクトが再設計されており、v1 のモデルオブジェクトで使用できるいくつかのゲッターメソッドとセッターメソッドはサポートされなくなりました。

v2 では、 CompletableFuture<T> クラスを使用して、転送が (正常に、または例外を伴って) 完了したときにアクションを実行できます。必要に応じて、join() メソッドを使用して完了を待つことができます。

主な転送オブジェクト

V1 クラス	V2 クラス	移行ステータス
TransferManager	S3TransferManager	サポート対象
TransferManagerBuilder	S3TransferManager.Builder	サポート対象
Transfer	Transfer	サポート
AbortableTransfer	Transfer	サポート対象 (個別のクラスなし)
Copy	Copy	サポート対象
Download	FileDownload	サポート対象
Upload	Upload / FileUpload	サポート対象

V1 クラス	V2 クラス	移行ステータス
MultipleFileDownload	DirectoryDownload	サポート対象
MultipleFileUpload	DirectoryUpload	サポート

永続性オブジェクト

V1 クラス	V2 クラス	移行ステータス
PersistableDownload	ResumableFileDownload	サポート対象
PersistableUpload	ResumableFileUpload	サポート対象
PersistableTransfer	ResumableTransfer	サポート
PauseResult<T>	直接再開可能なオブジェクト	サポート外

結果オブジェクト

V1 クラス	V2 クラス	移行ステータス
CopyResult	CompletedCopy	サポート対象
UploadResult	CompletedUpload	サポート

構成オブジェクト

V1 クラス	V2 クラス	移行ステータス
TransferManagerConfiguration	MultipartConfiguration (Amazon S3 クライアント上)	サポート対象

V1 クラス	V2 クラス	移行ステータス
`TransferProgress`	`TransferProgress` + `TransferProgressSnapshot`	サポート対象
`KeyFilter`	`DownloadFilter`	サポート

サポートされていないオブジェクト

V1 クラス	V2 代替メソッド	移行ステータス
`PauseStatus`	サポートされません	サポート外
`UploadContext`	サポートされません	サポート外
`ObjectCannedAclProvider`	`PutObjectRequest.builder().acl()`	サポート外
`ObjectMetadataProvider`	`PutObjectRequest.builder().metadata()`	サポート外
`ObjectTaggingProvider`	`PutObjectRequest.builder().tagging()`	サポート外
`PresignedUrlDownload`	`PresignedGetObjectRequest`	サポート対象。「the section called “署名付き URL ダウンロード”」を参照してください。

TransferManagerBuilder の設定移行

設定変更

v2 Transfer Manager に設定する必要がある設定変更は、使用する S3 クライアントによって異なります。CRT AWS ベースの S3 クライアントまたは標準の Java ベースの S3 非同期クライアントを選択できます。違いの詳細については、the section called “SDK の S3 クライアント” トピックを参照してください。

Use the AWS CRT-based S3 client

設定	v1	v2 - CRT AWS ベースの S3 クライアントを使用した Transfer Manager
(ビルダーを入手する)	`TransferManagerBuilder tmBuilder = TransferManagerBuilder.standard();`	`S3TransferManager.Builder tmBuilder = S3TransferManager.builder();`
S3 クライアント	`tmBuilder.withS3Client(...); tmBuilder.setS3Client(...);`	`tmBuilder.s3Client(...);`
エグゼキューター	`tmBuilder.withExecutorFactory(...); tmBuilder.setExecutorFactory(...);`	`tmBuilder.executor(...);`
スレッドプールをシャットダウンする	`tmBuilder.withShutDownThreadPools(...); tmBuilder.setShutdownThreadPools(...);`	サポート外。S3TransferManager が閉じられても、提供されたエグゼキューターはシャットダウンされません。
最小アップロードパートサイズ	`tmBuilder.withMinimumUploadPartSize(...); tmBuilder.setMinimumUploadPartSize(...);`	`S3AsyncClient s3 = S3AsyncClient.crtBuilder(). minimumPartSizeInBytes(...) .build(); tmBuilder.s3Client(s3);`

設定	v1	v2 - CRT AWS ベースの S3 クライアントを使用した Transfer Manager

マルチパートアップロードのしきい値	`tmBuilder.withMultipartUploadThreshold(...);`
	`tmBuilder.setMultipartUploadThreshold(...);`
		`S3AsyncClient s3 = S3AsyncClient.crtBuilder().`
		`  thresholdInBytes(...).build();`
		
		`tmBuilder.s3Client(s3);`

最小コピーパーツサイズ	`tmBuilder.withMultipartCopyPartSize(...);`
	`tmBuilder.setMultipartCopyPartSize(...);`
		`S3AsyncClient s3 = S3AsyncClient.crtBuilder().`
		`  minimumPartSizeInBytes(...).build();`
		
		`tmBuilder.s3Client(s3);`

マルチパートコピーのしきい値	`tmBuilder.withMultipartCopyThreshold(...);`
	`tmBuilder.setMultipartCopyThreshold(...);`
		`S3AsyncClient s3 = S3AsyncClient.crtBuilder().`
		`  thresholdInBytes(...).build();`
		
		`tmBuilder.s3Client(s3);`

設定	v1	v2 - CRT AWS ベースの S3 クライアントを使用した Transfer Manager

並列ダウンロードを無効にする	`tmBuilder.withDisableParallelDownloads(...);`
	`tmBuilder.setDisableParallelDownloads(...);`
		マルチパートを無効にした (デフォルト)、標準 Java ベースの S3 クライアントを転送マネージャに渡して、並列ダウンロードを無効にします。
		`S3AsyncClient s3 = S3AsyncClient.builder().build();`
		`tmBuilder.s3Client(s3);`

常にマルチパート md5 を計算する	`tmBuilder.withAlwaysCalculateMultipartMd5(...);` `tmBuilder.setAlwaysCalculateMultipartMd5(...);`	サポート外。

Use Java-based S3 async client

設定	v1	v2 - Java ベースの S3 非同期クライアントを使用する Transfer Manager
(ビルダーを入手する)	`TransferManagerBuilder tmBuilder = TransferManagerBuilder.standard();`	`S3TransferManager.Builder tmBuilder = S3TransferManager.builder();`

設定	v1	v2 - Java ベースの S3 非同期クライアントを使用する Transfer Manager
S3 クライアント	`tmBuilder.withS3Client(...);` `tmBuilder.setS3Client(...);`	`tmBuilder.s3Client(...);`
エグゼキューター	`tmBuilder.withExecutorFactory(...);` `tmBuilder.setExecutorFactory(...);`	`tmBuilder.executor(...);`
スレッドプールをシャットダウンする	`tmBuilder.withShutDownThreadPools(...);` `tmBuilder.setShutdownThreadPools(...);`	サポート外。S3TransferManager が閉じられても、提供されたエグゼキューターはシャットダウンされません。

最小アップロードパートサイズ	`tmBuilder.withMinimumUploadPartSize(...);`
	`tmBuilder.setMinimumUploadPartSize(...);`
		`S3AsyncClient s3 = S3AsyncClient.builder()`
		`    .multipartConfiguration(cfg ->`
		`        cfg.minimumPartSizeInBytes(...)).build();`
		
		`tmBuilder.s3Client(s3);`

設定	v1	v2 - Java ベースの S3 非同期クライアントを使用する Transfer Manager

マルチパートアップロードのしきい値	`tmBuilder.withMultipartUploadThreshold(...);`
	`tmBuilder.setMultipartUploadThreshold(...);`
		`S3AsyncClient s3 = S3AsyncClient.builder()`
		`.multipartConfiguration(cfg -> cfg.thresholdInBytes(...)).build();`
		
		`tmBuilder.s3Client(s3);`

最小コピーパーツサイズ	`tmBuilder.withMultipartCopyPartSize(...);`
	`tmBuilder.setMultipartCopyPartSize(...);`
		`S3AsyncClient s3 = S3AsyncClient.builder()`
		`.multipartConfiguration(cfg -> cfg.minimumPartSizeInBytes(...)).build();`
		
		`tmBuilder.s3Client(s3);`

マルチパートコピーのしきい値	`tmBuilder.withMultipartCopyThreshold(...);`
	`tmBuilder.setMultipartCopyThreshold(...);`
		`S3AsyncClient s3 = S3AsyncClient.builder()`
		`.multipartConfiguration(cfg -> cfg.thresholdInBytes(...)).build();`
		
		`tmBuilder.s3Client(s3);`

設定	v1	v2 - Java ベースの S3 非同期クライアントを使用する Transfer Manager

並列ダウンロードを無効にする	`tmBuilder.withDisableParallelDownloads(...);`
	`tmBuilder.setDisableParallelDownloads(...);`
		マルチパートを無効にした (デフォルト)、標準 Java ベースの S3 クライアントを転送マネージャに渡して、並列ダウンロードを無効にします。
		`S3AsyncClient s3 = S3AsyncClient.builder().build();`
		`tmBuilder.s3Client(s3);`

常にマルチパート md5 を計算する	`tmBuilder.withAlwaysCalculateMultipartMd5(...);` `tmBuilder.setAlwaysCalculateMultipartMd5(...);`	サポート外。

動作の変更

非同期オペレーション

V1 (ブロック)

```
Upload upload = transferManager.upload("amzn-s3-demo-bucket", "key", file);
upload.waitForCompletion(); // Blocks until complete
```

V2 (非同期):

```
FileUpload upload = transferManager.uploadFile(UploadFileRequest.builder()
    .putObjectRequest(PutObjectRequest.builder()
```

```
        .bucket("amzn-s3-demo-bucket")
        .key("key")
        .build())
    .source(file)
    .build());

CompletedFileUpload result = upload.completionFuture().join(); // Blocks until complete
// Or handle asynchronously:
upload.completionFuture().thenAccept(result -> {
    System.out.println("Upload completed: " + result.response().eTag());
});
```

エラー処理

V1: サブリクエストが失敗した場合、ディレクトリ転送は完全に失敗します。

V2: 一部のサブリクエストが失敗した場合でも、ディレクトリ転送は正常に完了します。エラーを明示的に確認します。

```
DirectoryUpload directoryUpload = transferManager.uploadDirectory(request);
CompletedDirectoryUpload result = directoryUpload.completionFuture().join();

// Check for failed transfers
if (!result.failedTransfers().isEmpty()) {
    System.out.println("Some uploads failed:");
    result.failedTransfers().forEach(failed ->
        System.out.println("Failed: " + failed.exception().getMessage()));
}
```

バイト範囲フェッチによる並列ダウンロード

v2 SDK で自動並列転送機能が有効になっている場合、S3 Transfer Manager はバイト範囲フェッチを使用してオブジェクトの特定の部分を並列して取得します (マルチパートダウンロード)。v2 でのオブジェクトのダウンロード方法は、オブジェクトが最初にアップロードされた方法には依存しません。すべてのダウンロードで、高いスループットと同時実行性のメリットが得られます。

これとは対照的に、v1 の Transfer Manager では、オブジェクトが最初にどのようにアップロードされたかが問題になります。v1 の Transfer Manager は、パーツがアップロードされたのと同じ方法でオブジェクトの一部を取得します。オブジェクトが元々単一のオブジェクトとしてアップロードされた場合、v1 の Transfer Manager はサブリクエストを使用してダウンロードプロセスを高速化することはできません。

署名付き URL ダウンロードを v1 から AWS SDK for Java v2 に移行する

署名付き URL ダウンロードコードを移行して非同期処理を使用し、バージョン 2 で拡張されたダウンロードオプションにアクセスします。このトピックでは、 のバージョン 1.x (v1) からバージョン 2.x (v2) に移行する方法について説明します AWS SDK for Java。v2 の署名付き URL ダウンロード機能の詳細については、「」を参照してくださいthe section called “署名付き URL”。

高レベル変更

次のリストは、署名付き URL ダウンロードの v1 と v2 の主な違いをまとめたものです。

- パッケージ: `com.amazonaws.services.s3` → `software.amazon.awssdk.services.s3`。
- クライアントクラス: `AmazonS3` (同期) → `S3AsyncClient` (非同期) 。
- アーキテクチャ: 同期ブロック呼び出し → を使用した非同期呼び出し`CompletableFuture`。
- マルチパート: Transfer Manager を介してのみ使用可能 → を使用するクライアントで直接使用可能`multipartEnabled(true)`。
- Transfer Manager: ファイル送信先のみ → ファイル、バイト、またはカスタムトランスフォーマー。

依存関係、パッケージ、クラス名の変更

次の表は、v1 から v2 への依存関係とクラス名の変更を示しています。

変更	v1	v2

Maven の依存関係	`<dependencyManagement>`
	`  <dependencies>`
	`  <dependency>`
	`  <groupId>com.amazonaws</groupId>`
	`  <artifactId>aws-java-sdk-bom</artifactId>`
	`  <version>`*1.12.797*[1]`</version>`
	`  <type>pom</type>`
	`  <scope>import</scope>`
	`  </dependency>`
	`  </dependencies>`
	`</dependencyManagement>`
		`<dependencyManagement>`
		`  <dependencies>`
		`  <dependency>`
		`  <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>`
		`  <artifactId>bom</artifactId>`
		`  <version>` *2.48.0*[2]`</version>`
		`  <type>pom</type>`
		`  <scope>import</scope>`
		`  </dependency>`
		`  </dependencies>`

変更	v1	v2
	<dependencies> <dependency> <groupId>com.amazonaws</groupId> <artifactId>aws-java-sdk-s3</artifactId> </dependency> </dependencies>	</dependencyManagement> <dependencies> <dependency> <groupId>software.amazon.awssdk</groupId> <artifactId>s3</artifactId> </dependency> <!-- Optional: for Transfer Manager --> <dependency> <groupId>software.amazon.awssdk</groupId> <artifactId>s3-transfer-manager</artifactId> </dependency> </dependencies>
パッケージ名	com.amazonaws.services.s3	software.amazon.awssdk.services.s3
クラス名	AmazonS3, TransferManager	S3AsyncClient , S3TransferManager

[1] Maven Central ウェブサイトの最新バージョン。 [2] Maven Central ウェブサイトの最新バージョン。

API の変更

S3 クライアントのダウンロード

次の表は、S3 クライアントダウンロードの v1 および v2 API コールを比較したものです。

ユースケース	v1	v2
クライアントの作成	AmazonS3 s3Client = AmazonS3ClientBuilder.defaultClient();	S3AsyncClient s3AsyncClient = S3AsyncClient.create();

ユースケース	v1	v2
		AsyncPresignedUrlExtension extension = s3AsyncClient.presignedUrlExtension();
署名付き URL を生成する	Date expiration = new Date(System.currentTimeMillis() + 600_000); URL presignedUrl = s3Client.generatePresignedUrl(new GeneratePresignedUrlRequest("my-bucket", "my-key").withMethod(HttpMethod.GET).withExpiration(expiration));	S3Presigner presigner = S3Presigner.create(); PresignedGetObjectRequest presigned = presigner.presignGetObject(r -> r.getObjectRequest(req -> req.bucket("my-bucket").key("my-key")).signatureDuration(Duration.ofMinutes(10))); URL presignedUrl = presigned.url(); presigner.close();
ダウンロードリクエストを作成する	PresignedUrlDownloadRequest downloadRequest = new PresignedUrlDownloadRequest(presignedUrl);	PresignedUrlDownloadRequest downloadRequest = PresignedUrlDownloadRequest.builder().presignedUrl(presignedUrl).build();
ダウンロードしてストリーミングする	PresignedUrlDownloadResult result = s3Client.download(downloadRequest); InputStream content = result.getS3Object().getObjectContent();	ResponseBytes<GetObjectResponse> bytes = extension.getObject(downloadRequest, AsyncResponseTransformer.toBytes()).join();

ユースケース	v1	v2
ファイルへのダウンロード	`s3Client.download(downloadRequest, new File("/tmp/file.bin"));`	`extension.getObject(downloadRequest, Paths.get("/tmp/file.bin")).join();`
範囲を含むダウンロード	`PresignedUrlDownloadRequest rangeRequest = new PresignedUrlDownloadRequest(presignedUrl); rangeRequest.setRange(0, 1023); s3Client.download(rangeRequest);`	`PresignedUrlDownloadRequest rangeRequest = PresignedUrlDownloadRequest.builder() .presignedUrl(presignedUrl) .range("bytes=0-1023") .build(); extension.getObject(rangeRequest, Paths.get("/tmp/partial.bin")).join();`

Transfer Manager のダウンロード

次の表は、Transfer Manager ダウンロードの v1 および v2 API コールを比較したものです。

ユースケース	v1	v2
Transfer Manager を作成する	`TransferManager tm = TransferManagerBuilder.standard().build();`	`S3TransferManager tm = S3TransferManager.create();`
ダウンロード	`PresignedUrlDownload download = tm.download( new PresignedUrlDownloadRequest(presignedUrl),`	`PresignedFileDownload download = tm.downloadFileWithPresignedUrl(`

ユースケース	v1	v2

	`new File("/tmp/file.bin"));`
	`download.waitForCompletion();`
		`PresignedDownloadFileRequest.builder()`
		`.presignedUrlDownloadRequest(downloadRequest)`
		`.destination(Paths.get("/tmp/file.bin"))`
		`.addTransferListener(LoggingTransferListener.create())`
		`.build());`
		`download.completionFuture().join();`

詳細については、「the section called “署名付き URL を使用してダウンロードする”」を参照してください。

設定変更

S3 クライアント

次の表に、v1 から v2 への S3 クライアント設定の変更を示します。

設定	v1	v2
マルチパート設定	`PresignedUrlDownloadConfig.withDownloadSizePerRequest(long)`	`S3AsyncClient.builder().multipartConfiguration(c -> c.minimumPartSizeInBytes(...))`
カスタムヘッダー	`PresignedUrlDownloadRequest.putCusto`	サポート外。ダウンロード時に設定`If-Match`できるのは`Range`と のみです。

設定	v1	v2
	`mRequestHeader(String, String)`	

Transfer Manager

次の表は、Transfer Manager の設定変更を v1 から v2 にまとめたものです。

設定	v1	v2
進捗状況追跡	`PresignedUrlDownloadConfig.withS3progressListener(...)`	`PresignedDownloadFileRequest.builder().addTransferListener(...)`
再試行時に再開する	`PresignedUrlDownloadConfig.withResumeOnRetry(true)`	サポートされていません
一時停止/再開	サポートされません	サポートされません

> **Note**
>
> AWS CRT ベースの S3 クライアント (`S3AsyncClient.crtBuilder()`) は現在、署名付き URL 拡張をサポートしていません。`S3AsyncClient.builder()` を使用します。

バージョン 1 からバージョン 2 での Amazon S3 URI の解析の変更

このトピックでは、バージョン 1 (v1) からバージョン 2 (v2) での Amazon S3 URI の解析に関する変更点について詳しく説明します。

高レベル変更

v1 で S3 URI の解析を開始するには、コンストラクタを使用して `AmazonS3URI` をインスタンス化します。v2 では、`S3Utilities` のインスタンスで `parseUri()` を呼び出して `S3URI` を返します。

変更	v1	v2
Maven の依存関係	<dependencyManagement> <dependencies> <dependency> <groupId> com.amazonaws</gro upId> <artifact Id>aws-java-sdk-bom</ artifactId> <version> 1.12.587[1]</version> <type>pom</ type> <scope>im port</scope> </dependency> </dependencies> </dependencyManageme nt> <dependencies> <dependency> <groupId> com.amazonaws</gro upId> <artifact Id>s3</artifactId> </dependency> </dependencies>	<dependencyManagement> <dependencies> <dependency> <groupId> software.amazon.aw ssdk</groupId> <artifact Id>bom</artifactId> <version> 2.27.21[2]</version> <type>pom</ type> <scope>im port</scope> </dependency> </dependencies> </dependencyManageme nt> <dependencies> <dependency> <groupId> software.amazon.aw ssdk</groupId> <artifact Id>s3</artifactId> </dependency> </dependencies>
パッケージ名	com.amazonaws.serv ices.s3	software.amazon.aw ssdk.services.s3
クラス名	AmazonS3URI	S3URI

[1] 最新バージョン。 [2] 最新バージョン。

API の変更

行動	v1	v2

S3 URI を解析します。	`URI uri = URI.create( "https://s3.amazonaws.com");`
	
	`AmazonS3Uri s3Uri = new AmazonS3URI(uri, false);`
		`S3Client s3Client = S3Client.create();`
		`S3Utilities s3Utilities = s3Client.utilities();`
		
		`S3Uri s3Uri = s3Utilities.parseUri(uri);`

S3 URI からバケット名を取得します。	`String bucket = s3Uri.getBucket();`	`Optional<String> bucket = s3Uri.bucket();`
キーを取得します。	`String key = s3Uri.getKey();`	`Optional<String> key = s3Uri.key();`

リージョンを取得します。	`String region = s3Uri.getRegion();`	`Optional<Region> region = s3Uri.region();`
		
		`String region;`
		`if (s3Uri.region().isPresent()) {`
		`region = s3Uri.region().get().id();`
		`}`

S3 URI がパススタイルであるかどうかを取得します。	`boolean isPathStyle = s3Uri.isPathStyle();`	`boolean isPathStyle = s3Uri.isPathStyle();`
バージョン ID を取得します。	`String versionId = s3Uri.getVersionId();`	`Optional<String> versionId =`

行動	v1	v2
		`s3Uri.firstMatchingRawQueryParameter("versionId");`
クエリパラメータを取得します。	該当なし	`Map<String, List<String>> queryParams = s3Uri.rawQueryParameters();`

動作の変更

URL エンコーディング

v1 には、URI を URL エンコーディングするかどうかを指定するフラグを渡すオプションがあります。デフォルト値は `true` です。

v2 では、URL エンコーディングはサポートされていません。予約文字または安全でない文字を持つオブジェクトキーまたはクエリパラメータを使用する場合は、それらを URL エンコーディングする必要があります。たとえば、空白 `%20` を " " に置き換える必要があります。

バージョン 1 からバージョン 2 での S3 イベント通知 API の変更

このトピックでは、 AWS SDK for Javaのバージョン 1.x (v1) からバージョン 2 .x (v2) での S3 イベント通知 API の変更について詳しく説明します。

高レベル変更

構造の変更

V1 は `EventNotificationRecord` 型とその属性に静的内部クラスを使用しますが、v2 は `EventNotificationRecord` 型に個別のパブリッククラスを使用します。

命名規則の変更

v1 では、属性クラス名にはサフィックス「Entity」が含まれますが、v2 では、より単純な命名のためにこのサフィックスを省略します。例えば、「eventDataEntity」ではなく「eventData」となります。

依存関係、パッケージ、クラス名の変更

v1 では、S3 イベント通知 API クラスは、S3 モジュール (artifactId `aws-java-sdk-s3`) とともに推移的にインポートされます。ただし、v2 では、`s3-event-notifications` アーティファクトに依存関係を追加する必要があります。

変更	v1	v2
Maven の依存関係	<dependencyManagement> <dependencies> <dependency> <groupId> com.amazonaws</gro upId> <artifact Id>aws-java-sdk-bom</ artifactId> <version> *1.X.X*</version> <type>pom</ type> <scope>im port</scope> </dependency> </dependencies> </dependencyManageme nt> <dependencies> <dependency> <groupId> com.amazonaws</gro upId> <artifact Id>aws-java-sdk-s3</ artifactId> </dependency> </dependencies>	<dependencyManagement> <dependencies> <dependency> <groupId> software.amazon.aw ssdk</groupId> <artifact Id>bom</artifactId> <version> *2.X.X*[1]</version> <type>pom</ type> <scope>im port</scope> </dependency> </dependencies> </dependencyManageme nt> <dependencies> <dependency> <groupId> software.amazon.aw ssdk</groupId> <artifactId>s3- event-notifications</ artifactId> </dependency> </dependencies>
パッケージ名	`com.amazonaws.serv ices.s3.event`	`software.amazon.aw ssdk.eventnotifica tions.s3.model`

変更	v1	v2
クラス名	S3EventNotification S3EventNotification.S3EventNotificationRecord S3EventNotification.GlacierEventDataEntity S3EventNotification.IntelligentTieringEventDataEntity S3EventNotification.LifecycleEventDataEntity S3EventNotification.ReplicationEventDataEntity S3EventNotification.RequestParametersEntity S3EventNotification.ResponseElementsEntity S3EventNotification.RestoreEventDataEntity S3EventNotification.S3BucketEntity S3EventNotification.S3Entity S3EventNotification.S3ObjectEntity S3EventNotification.TransitionEventDataEntity	S3EventNotification S3EventNotificationRecord GlacierEventData IntelligentTieringEventData LifecycleEventData ReplicationEventData RequestParameters ResponseElements RestoreEventData S3 バケット S3 S3Object TransitionEventData UserIdentity

変更	v1	v2
	S3EventNotification.UserIdentityEntity	

[1] 最新バージョン。

API の変更

JSON から **S3EventNotification** および逆方向

ユースケース	v1	v2
JSON 文字列から S3EventNotification を作成する	`S3EventNotification notification = S3EventNotification.parseJson(message.body());`	`S3EventNotification notification = S3EventNotification.fromJson(message.body());`
S3EventNotification をJSON 文字列に変換する	`String json = notification.toJson();`	`String json = notification.toJson();`

S3EventNotification のアクセス属性

ユースケース	v1	v2
通知からレコードを取得する	`List<S3EventNotification.S3EventNotificationRecord> records = notifcation.getRecords();`	`List<S3EventNotificationRecord> records = notification.getRecords();`
レコードのリストからレコードを取得する	`S3EventNotification.S3EventNotificationRecord record =`	`S3EventNotificationRecord record =`

ユースケース	v1	v2
	`records.stream().findAny().get();`	`records.stream().findAny().get();`
Glacier イベントデータを取得する	`S3EventNotification.GlacierEventDataEntity glacierEventData = record.getGlacierEventData();`	`GlacierEventData glacierEventData = record.getGlacierEventData();`
Glacier イベントから復元イベントデータを取得する	`S3EventNotification.RestoreEventDataEntity restoreEventData = glacierEventData.getRestoreEventDataEntity();`	`RestoreEventData restoreEventData = glacierEventData.getRestoreEventData();`
リクエストパラメータを取得する	`S3EventNotification.RequestParametersEntity requestParameters = record.getRequestParameters();`	`RequestParameters requestParameters = record.getRequestParameters();`
Intelligent Tiering イベントデータを取得する	`S3EventNotification.IntelligentTieringEventDataEntity tieringEventData = record.getIntelligentTieringEventData();`	`IntelligentTieringEventData intelligentTieringEventData = record.getIntelligentTieringEventData();`
ライフサイクルイベントデータを取得する	`S3EventNotification.LifecycleEventDataEntity lifecycleEventData = record.getLifecycleEventData();`	`LifecycleEventData lifecycleEventData = record.getLifecycleEventData();`

ユースケース	v1	v2
イベント名を列挙型として取得する	`S3Event eventNameAsEnum = record.getEventNameAsEnum();`	`//getEventNameAsEnum does not exist; use 'getEventName()' String eventName = record.getEventName();`
レプリケーションイベントデータを取得する	`S3EventNotification.ReplicationEventDataEntity replicationEntity = record.getReplicationEventDataEntity();`	`ReplicationEventData replicationEventData = record.getReplicationEventData();`
S3 バケットとオブジェクト情報を取得する	`S3EventNotification.S3Entity s3 = record.getS3();`	`S3 s3 = record.getS3();`
ユーザー ID 情報を取得する	`S3EventNotification.UserIdentityEntity userIdentity = record.getUserIdentity();`	`UserIdentity userIdentity = record.getUserIdentity();`
レスポンス要素を取得する	`S3EventNotification.ResponseElementsEntity responseElements = record.getResponseElements();`	`ResponseElements responseElements = record.getResponseElements();`

aws-lambda-java-events ライブラリバージョンを移行する

aws-lambda-java-events を使用して Lambda 関数内の S3 通知イベントを操作する場合は、最新の 3.x.x バージョンにアップグレードすることをお勧めします。最近のバージョンでは、S3 イベント通知 API から AWS SDK for Java 1.x 上のすべての依存関係が削除されます。

aws-lambda-java-events ライブラリと SDK for Java 2.x での S3 イベント通知の処理の違いについては、「the section called “S3 イベント通知処理オプション”」を参照してください。

プロファイルファイルの変更

AWS SDK for Java 2.x は ~/.aws/config および ~/.aws/credentials のプロファイル定義を解析し、AWS CLI がファイルを解析する方法をより厳密にエミュレートします。

SDK for Java 2.x:

- $HOME、$USERPROFILE (Windows のみ)、$HOMEDRIVE、 $HOMEPATH (Windows のみ)、user.home システムプロパティの順にチェックして、パスの開始時にファイルシステムのデフォルトパス区切り文字の前の ~/ または ~ を解決します。
- AWS_CREDENTIAL_PROFILES_FILE ではなく AWS_SHARED_CREDENTIALS_FILE 環境変数を探します。
- プロファイル名の先頭に profile という単語を付けずに、設定ファイル内のプロファイル定義を警告なくドロップします。
- 英数字、アンダースコア、ダッシュ文字で構成されていないプロファイル定義を警告なく削除します (設定ファイルで先頭の profile 単語が削除された後)。
- 同じファイル内で重複したプロファイル定義の設定をマージします。
- 設定ファイルと認証情報ファイルの両方で重複したプロファイル定義の設定をマージします。
- [profile foo] と [foo] の両方が同じファイルで見つかった場合、設定をマージしません。
- 設定ファイルで [profile foo] と [foo] の両方が見つかった場合、[profile foo] の設定を使用します。
- 同じファイルとプロファイルで最後に重複した設定の値を使用します。
- コメントを定義するために ; と # の両方を認識します。
- 文字が閉じ括弧に隣接する場合でも、プロファイル定義で ; と # を認識してコメントを定義します。
- 空白が前にある場合にのみ ; および # を認識し、値の設定でコメントのみを定義します。
- 空白が前にない場合、; および # と以下の値の設定内のすべてのコンテンツを認識します。
- ロールベースの認証情報を最も優先度の高い認証情報と見なします。ユーザーが role_arn プロパティを指定した場合、2.x SDK は常にロールベースの認証情報を使用します。
- セッションベースの認証情報を 2 番目に優先度の高い認証情報と見なします。ロールベースの認証情報が使用されておらず、ユーザーが aws_access_key_id および aws_session_token プロパティを指定している場合、2.x SDK は常にセッションベースの認証情報を使用します。

- ロールベースおよびセッションベースの認証情報が使用されておらず、ユーザーが aws_access_key_id プロパティを指定した場合、基本的な認証情報を使用します。

環境変数とシステムプロパティの変更

1.x の環境変数	1.x のシステムプロパティ	2.x の環境変数	2.x のシステムプロパティ
AWS_ACCESS_KEY_ID AWS_ACCESS_KEY	aws.accessKeyId	AWS_ACCESS_KEY_ID	aws.accessKeyId
AWS_SECRET_KEY AWS_SECRET_ACCESS_KEY	aws.secretKey	AWS_SECRET_ACCESS_KEY	aws.secretAccessKey
AWS_SESSION_TOKEN	aws.sessionToken	AWS_SESSION_TOKEN	aws.sessionToken
AWS_REGION	aws.region	AWS_REGION	aws.region
AWS_CONFIG_FILE		AWS_CONFIG_FILE	aws.configFile
AWS_CREDENTIAL_PROFILES_FILE		AWS_SHARED_CREDENTIALS_FILE	aws.sharedCredentialsFile
AWS_PROFILE	aws.profile	AWS_PROFILE	aws.profile
AWS_EC2_METADATA_DISABLED	com.amazonaws.sdk.disableEc2Metadata	AWS_EC2_METADATA_DISABLED	aws.disableEc2Metadata
	com.amazonaws.sdk.ec2MetadataService	AWS_EC2_METADATA_SERVICE_ENDPOINT	aws.ec2MetadataServiceEndpoint

1.x の環境変数	1.x のシステムプロパティ	2.x の環境変数	2.x のシステムプロパティ
	Endpoint0verride		
AWS_CONTAINER_CREDENTIALS_RELATIVE_URI		AWS_CONTAINER_CREDENTIALS_RELATIVE_URI	aws.containerCredentialsPath
AWS_CONTAINER_CREDENTIALS_FULL_URI		AWS_CONTAINER_CREDENTIALS_FULL_URI	aws.containerCredentialsFullUri
AWS_CONTAINER_AUTHORIZATION_TOKEN		AWS_CONTAINER_AUTHORIZATION_TOKEN	aws.containerAuthorizationToken
AWS_CBOR_DISABLED	com.amazonaws.sdk.disableCbor	CBOR_ENABLED	aws.cborEnabled
AWS_ION_BINARY_DISABLE	com.amazonaws.sdk.disableIonBinary	BINARY_ION_ENABLED	aws.binaryIonEnabled
AWS_EXECUTION_ENV		AWS_EXECUTION_ENV	aws.executionEnvironment
	com.amazonaws.sdk.disableCertChecking	サポートされていません (リクエスト機能)	サポートされていません (リクエスト機能)

1.x の環境変数	1.x のシステムプロパティ	2.x の環境変数	2.x のシステムプロパティ
	com.amazonaws.sdk.enableDefaultMetrics	サポートされません	サポートされません
	com.amazonaws.sdk.enableThrottledRetry	サポートされません	サポートされません
	com.amazonaws.regions.RegionUtils.fileOverride	サポートされていません (リクエスト機能)	サポートされていません (リクエスト機能)
	com.amazonaws.regions.RegionUtils.disableRemote	サポートされていません (リクエスト機能)	サポートされていません (リクエスト機能)
	com.amazonaws.services.s3.disableImplicitGlobalClients	サポートされていません (リクエスト機能)	サポートされていません (リクエスト機能)
	com.amazonaws.sdk.enableInRegionOptimizedMode	サポートされていません (リクエスト機能)	サポートされていません (リクエスト機能)

バージョン 1 からバージョン 2 でのウエイターの変更

このトピックでは、バージョン 1 (v1) からバージョン 2 (v2) でのウェイター機能の変更について詳しく説明します。

次の表は、DynamoDB のウエイターの違いを具体的に示しています。他のサービスのウエイターも同じパターンに従います。

高レベル変更

ウェイタークラスは、 サービスと同じ Maven アーティファクトにあります。

変更	v1	v2
Maven の依存関係	<dependencyManagement> <dependencies> <dependency> <groupId> com.amazonaws</gro upId> <artifact Id>aws-java-sdk-bom</ artifactId> <version> *1.12.680*[1]</version> <type>pom</ type> <scope>im port</scope> </dependency> </dependencies> </dependencyManageme nt> <dependencies> <dependency> <groupId> com.amazonaws</gro upId> <artifact Id>dynamodb</artif actId> </dependency>	<dependencyManagement> <dependencies> <dependency> <groupId> software.amazon.aw ssdk</groupId> <artifact Id>bom</artifactId> <version> *2.27.10*[2]</version> <type>pom</ type> <scope>im port</scope> </dependency> </dependencies> </dependencyManageme nt> <dependencies> <dependency> <groupId> software.amazon.aw ssdk</groupId> <artifact Id>dynamodb</artif actId> </dependency>

変更	v1	v2
	`</dependencies>`	`</dependencies>`
パッケージ名	`com.amazonaws.services.dynamodbv2.waiters`	`software.amazon.awssdk.services.dynamodb.waiters`
クラス名	AmazonDynamoDBWaiters	• 同期: DynamoDbWaiter • 非同期: DynamoDbAsyncWaiter

[1] 最新バージョン。 [2] 最新バージョン。

API の変更

変更	v1	v2

ウェイターを作成する	`AmazonDynamoDB client = AmazonDynamoDBClientBuilder .standard().build(); AmazonDynamoDBWaiters waiter = client.waiters();`	同期
		`DynamoDbClient client = DynamoDbClient.create(); DynamoDbWaiter waiter = client.waiter();`
		非同期
		`DynamoDbAsyncClient asyncClient = DynamoDbAsyncClient.create(); DynamoDbAsyncWaiter waiter = asyncClient.waiter();`

テーブルが作成されるまで待機する	同期	同期

変更	v1	v2

	`waiter.tableExists()`
	`    .run(new WaiterPar`
	`ameters<>(`
	`        new DescribeT`
	`ableRequest(tableN`
	`ame)));`
		`WaiterResponse<Des`
		`cribeTableResponse>`
		` waiterResponse =`
		`    waiter.waitUntilTa`
		`bleExists(`
		`        r -> r.tableNa`
		`me("myTable"));`
		`waiterResponse.match`
		`ed().response()`
		`       .ifPresen`
		`t(System.out::prin`
		`tln);`

	非同期	非同期

	`waiter.tableExists()`
	`    .runAsync(new`
	` WaiterParameters()`
	`      .withRequest(new`
	` DescribeTableReque`
	`st(tableName)),`
	`          new WaiterHan`
	`dler() {`
	`              @Override`
	`              public`
	` void onWaitSuccess(`
	
	` AmazonWebServiceRe`
	`quest amazonWeb`
	`ServiceRequest) {`
	
	` System.out.println`
	`("Table creation`
	` succeeded");`
	`              }`
	
	`              @Override`
	`              public`
	` void onWaitFai`
	`lure(Exception e) {`
	
	` e.printStackTrace();`
	`              }`
	`          }).get();`
		`waiter.waitUntilTa`
		`bleExists(r ->`
		` r.tableName(tableN`
		`ame))`
		`           .whenComp`
		`lete((r, t) -> {`
		`               if (t !=`
		` null) {`
		
		` t.printStackTrace();`
		`               } else {`
		
		` System.out.println(`
		
		`    "Table creation`
		` succeeded");`
		`               }`
		`           }).join();`

設定変更

変更	v1	v2

ポーリング戦略 (最大試行回数と固定遅延)	`MaxAttemptsRetryStrategy maxAttemptsRetryStrategy = new MaxAttemptsRetryStrategy(10);`
	
	`FixedDelayStrategy fixedDelayStrategy = new FixedDelayStrategy(3);`
	
	`PollingStrategy pollingStrategy = new PollingStrategy(maxAttemptsRetryStrategy, fixedDelayStrategy);`
	
	`waiter.tableExists().run( new WaiterParameters<>( new DescribeTableRequest(tableName)), pollingStrategy);`
		`FixedDelayBackoffStrategy fixedDelayBackoffStrategy = FixedDelayBackoffStrategy .create(Duration.ofSeconds(3));`
		
		`waiter.waitUntilTableExists(r -> r.tableName(tableName), c -> c.maxAttempts(10) .backoffStrategy(fixedDelayBackoffStrategy));`

EC2 メタデータユーティリティのバージョン 1 からバージョン 2 への変更

このトピックでは、SDK for Java Amazon Elastic Compute Cloud (EC2) メタデータユーティリティのバージョン 1 (v1) からバージョン 2 (v2) への変更について詳しく説明します。

高レベル変更

変更	v1	v2
Maven の依存関係	<dependencyManagement> <dependencies> <dependency> <groupId> com.amazonaws</gro upId> <artifact Id>aws-java-sdk-bom</ artifactId> <version> *1.12.587*[1]</version> <type>pom</ type> <scope>im port</scope> </dependency> </dependencies> </dependencyManageme nt> <dependencies> <dependency> <groupId> com.amazonaws</gro upId> <artifact Id>aws-java-sdk-co re</artifactId> </dependency> </dependencies>	<dependencyManagement> <dependencies> <dependency> <groupId> software.amazon.aw ssdk</groupId> <artifact Id>bom</artifactId> <version> *2.27.21*[2]</version> <type>pom</ type> <scope>im port</scope> </dependency> </dependencies> </dependencyManageme nt> <dependencies> <dependency> <groupId> software.amazon.aw ssdk</groupId> <artifact Id>imds</artifactId> </dependency> <dependency> <groupId> software.amazon.aw ssdk</groupId> <artifact Id>apache-client [3]</ artifactId> </dependency> </dependencies>

変更	v1	v2
パッケージ名	`com.amazonaws.util`	`software.amazon.awssdk.imds`

インスタンス化のアプローチ	静的ユーティリティメソッドを使用し、インスタンス化を行わない。
	`String localHostName = EC2MetadataUtils.getLocalHostName();`
		静的ファクトリメソッドを使用する。
		`Ec2MetadataClient client = Ec2MetadataClient.create();`
		または、ビルダーのアプローチを使用する。
		`Ec2MetadataClient client = Ec2MetadataClient.builder() .endpointMode(EndpointMode.IPV6) .build();`

クライアントのタイプ	同期専用ユーティリティメソッド: `EC2MetadataUtils`	同期: `Ec2MetadataClient` 非同期: `Ec2MetadataAsyncClient`

[1] 最新バージョン。 [2] 最新バージョン。

[3] v2 `apache-client` モジュールの宣言に注目してください。EC2 メタデータユーティリティの V2 では、同期メタデータクライアント用の `SdkHttpClient` インターフェイスまたは非同期メタデータクライアント用の `SdkAsyncHttpClient` インターフェイスの実装が必要です。??? セクションには、使用できる HTTP クライアントのリストが表示されています。

メタデータのリクエスト

v1 では、パラメータを受け付けない静的メソッドを使用して EC2 リソースのメタデータをリクエストします。これとは対照的に、v2 では EC2 リソースへのパスをパラメータとして指定する必要があります。次の表は、それぞれのアプローチの違いをまとめたものです。

v1	v2

`String userMetaData = EC2MetadataUtils.getUserData();`	`Ec2MetadataClient client = Ec2MetadataClient.create();`
	`Ec2MetadataResponse response = client.get("/latest/user-data");`
	`String userMetaData = response.asString();`

インスタンスメタデータのカテゴリを参照して、メタデータをリクエストするために指定する必要のあるパスを見つけてください。

> **Note**
>
> v2 でインスタンスメタデータクライアントを使用するときは、メタデータを取得するすべてのリクエストに同じクライアントを使用することを心がける必要があります。

動作の変更

JSON データ

EC2 では、ローカルで実行されているインスタンスメタデータサービス (IMDS) が一部のメタデータを JSON 形式の文字列として返します。その一例が、インスタンス ID ドキュメントの動的メタデータです。

v1 API にはインスタンス ID メタデータごとに個別のメソッドが含まれていますが、v2 API は JSON 文字列を直接返します。JSON 文字列を処理するには、ドキュメント API を使用して応答を解析し、JSON 構造に移動します。

次の表は、v1 と v2 でインスタンス ID ドキュメントのメタデータを取得する方法を比較したものです。

ユースケース	v1	v2
リージョンを取得する	`InstanceInfo instanceInfo =`	`Ec2MetadataResponse response =`

ユースケース	v1	v2

	`EC2MetadataUtils.getInstanceInfo();`
	`String region = instanceInfo.getRegion();`
		`client.get("/latest/dynamic/instance-identity/document");`
		`Document instanceInfo = response.asDocument();`
		`String region = instanceInfo.asMap().get("region").asString();`

インスタンス ID を取得する	`InstanceInfo instanceInfo = EC2MetadataUtils.getInstanceInfo();`
	`String instanceId = instanceInfo.instanceId;`
		`Ec2MetadataResponse response = client.get("/latest/dynamic/instance-identity/document");`
		`Document instanceInfo = response.asDocument();`
		`String instanceId = instanceInfo.asMap().get("instanceId").asString();`

インスタンスタイプを取得する	`InstanceInfo instanceInfo = EC2MetadataUtils.getInstanceInfo();`
	`String instanceType = instanceInfo.instanceType();`
		`Ec2MetadataResponse response = client.get("/latest/dynamic/instance-identity/document");`
		`Document instanceInfo = response.asDocument();`
		`String instanceType = instanceInfo.asMap().get("instanceType").asString();`

エンドポイント解決の違い

次の表は、エンドポイントを IMDS に対して解決するために SDK がチェックする場所を示しています。場所は優先度の高い順にリストされています。

v1	v2
システムプロパティ: com.amazonaws.sdk.ec2MetadataServiceEndpointOverride	クライアントビルダーの設定方法: endpoint(...)
環境変数: AWS_EC2_METADATA_SERVICE_ENDPOINT	システムプロパティ: aws.ec2MetadataServiceEndpoint
デフォルト値: http://169.254.169.254	Config ファイル: ~.aws/config 、ec2_metadata_service_endpoint 設定
	解決済み endpoint-mode に関連する値
	デフォルト値: http://169.254.169.254

v2 のエンドポイント解決

ビルダーを使用してエンドポイントを明示的に設定すると、そのエンドポイント値が他のすべての設定よりも優先されます。次のコードを実行すると、aws.ec2MetadataServiceEndpoint システムプロパティと設定ファイル ec2_metadata_service_endpoint の設定が存在しても無視されます。

```
Ec2MetadataClient client = Ec2MetadataClient
  .builder()
  .endpoint(URI.create("endpoint.to.use"))
  .build();
```

エンドポイントモード

v2 では、エンドポイントモードを指定して、メタデータクライアントが IPv4 または IPv6 のデフォルトのエンドポイント値を使用するように設定できます。v1 ではエンドポイントモードを使用でき

ません。IPv4 で使用されるデフォルト値は http://169.254.169.254 で、IPv6 では http://[fd00:ec2::254] です。

次の表に、エンドポイントモードを設定するさまざまな方法を優先順位の高い順に示します。

		使用できる値
クライアントビルダーの設定方法: endpointMode(...)	`Ec2MetadataClient client = Ec2MetadataClient.builder().endpointMode(EndpointMode.IPV4).build();`	EndpointMode.IPV4 , EndpointMode.IPV6
システムプロパティ	aws.ec2MetadataServiceEndpointMode	IPv4、IPv6 (大文字と小文字は区別されません)
設定ファイル: ~.aws/config	ec2_metadata_service_endpoint の設定	IPv4、IPv6 (大文字と小文字は区別されません)
以前の方法では未指定	IPv4 が使用される	

v2 での SDK による **endpoint** または **endpoint-mode** の解決方法

1. SDK は、クライアントビルダーのコードで設定した値を使用し、外部設定は無視します。endpoint および endpointMode が両方ともクライアントビルダーで呼び出されると SDK は例外をスローするため、SDK はユーザーが使用するメソッドのエンドポイント値を使用します。
2. コードで値を設定しない場合、SDK は外部設定を調べます。最初にシステムプロパティを検索し、次に設定ファイル内の設定を検索します。

   a. SDK は最初にエンドポイント値をチェックします。値が見つかると、その値が使用されます。

   b. 値が見つからない場合は、SDK はエンドポイントモード設定を探します。
3. 最後に、SDK が外部設定を見つけられず、コードでメタデータクライアントを設定していない場合は、SDK は IPv4 の値の http://169.254.169.254 を使用します。

IMDSv2

Amazon EC2 では、インスタンスメタデータにアクセスするための 2 つのアプローチを定義しています。

- インスタンスメタデータサービスバージョン 1 (IMDSv1) – リクエスト/レスポンスアプローチ
- インスタンスメタデータサービスバージョン 2 (IMDSv2) – セッション指向アプローチ

次の表は、Java SDK が IMDS をどのように使用するかを比較したものです。

v1	v2
IMDSv2 がデフォルトで使用される	IMDSv2 を常に使用する
リクエストごとにセッショントークンの取得を試み、セッショントークンの取得に失敗した場合は IMDSv1 にフォールバックする	セッショントークンを内部キャッシュに保持し、複数のリクエストで再利用する

SDK for Java 2.x は IMDSv2 のみをサポートしており、IMDSv1 にはフォールバックしません。

設定の違い

以下の表にさまざまな設定オプション一覧表示します。

設定	v1	v2
再試行	設定不可	ビルダーメソッド `retryPolicy(...)` で設定可能
HTTP	接続タイムアウトは `AWS_METADATA_SERVICE_TIMEOUT` 環境変数で設定可能。デフォルト値は 1 秒です。	HTTP クライアントを `httpClient(...)` ビルダーメソッドに渡すことで設定可能。HTTP クライアントのデフォルトの接続タイムアウトは 2 秒です。

v2 の HTTP 設定の例

以下の例に、メタデータクライアントの設定方法を示します。この例では、接続タイムアウトを設定し、Apache HTTP クライアントを使用します。

```
SdkHttpClient httpClient = ApacheHttpClient.builder()
    .connectionTimeout(Duration.ofSeconds(1))
    .build();

Ec2MetadataClient imdsClient = Ec2MetadataClient.builder()
    .httpClient(httpClient)
    .build();
```

Amazon CloudFront バージョン 1 からバージョン 2 での事前署名の変更

このトピックでは、Amazon CloudFront のバージョン 1 (v1) からバージョン 2 (v2) での変更点について詳しく説明します。

高レベル変更

変更	v1	v2
Maven の依存関係	<dependencyManagement> <dependencies> <dependency> <groupId> com.amazonaws</groupId> <artifactId>aws-java-sdk-bom</artifactId> <version> *1.12.587*[1]</version> <type>pom</type> <scope>import</scope> </dependency> </dependencies> </dependencyManagement> <dependencies>	<dependencyManagement> <dependencies> <dependency> <groupId> software.amazon.awssdk</groupId> <artifactId>bom</artifactId> <version> *2.27.21*[2]</version> <type>pom</type> <scope>import</scope> </dependency> </dependencies> </dependencyManagement> <dependencies> <dependency>

変更	v1	v2
	<dependency> <groupId> com.amazonaws</groupId> <artifact Id>cloudfront</artifactId> </dependency> </dependencies>	<groupId> software.amazon.awssdk</groupId> <artifact Id>cloudfront</artifactId> </dependency> </dependencies>
パッケージ名	`com.amazonaws.services.cloudfront`	`software.amazon.awssdk.services.cloudfront`
クラス名	CloudFrontUrlSigner CloudFrontCookieSigner	CloudFrontUtilities SignedUrl CannedSignerRequest CustomSignerRequest

[1] 最新バージョン。 [2] 最新バージョン。

API の変更

行動	v1	v2
既定リクエストの構築	引数は API に直接渡されます。	`CannedSignerRequest cannedRequest = CannedSignerRequest.builder() .resourceUrl(resourceUrl) .privateKey(privateKey)`

行動	v1	v2
		.keyPairId(keyPairId) .expirationDate(ex pirationDate) .build();
カスタムリクエストの構築	引数は API に直接渡されます。	CustomSignerRequest customRequest = CustomSig nerRequest.builder() .resourceUrl(resou rceUrl) .resourceUrlPatter n(resourceUrlPattern) .privateKey(keyFile) .keyPairId(keyPairId) .expirationDate(ex pirationDate) .activeDate(active Date) .ipRange(ipRange) .build();

行動	v1	v2
署名付き URL (既定) の生成	`String signedUrl = CloudFrontUrlSigner.getSignedURLWithCannedPolicy( resourceUrl, keyPairId, privateKey, expirationDate);`	`CloudFrontUtilities cloudFrontUtilities = CloudFrontUtilities.create(); SignedUrl signedUrl = cloudFrontUtilities.getSignedUrlWithCannedPolicy(cannedRequest); String url = signedUrl.url();`
署名付き Cookie (カスタム) の生成	`CookiesForCustomPolicy cookies = CloudFrontCookieSigner.getCookiesForCustomPolicy( resourceUrl, privateKey, keyPairId, expirationDate, activeDate, ipRange);`	`CloudFrontUtilities cloudFrontUtilities = CloudFrontUtilities.create(); CookiesForCustomPolicy cookies = cloudFrontUtilities.getCookiesForCustomPolicy(customRequest);`

v2 のリファクタリング済み Cookie ヘッダー

Java v1 では、Java SDK は Cookie ヘッダーを `Map.Entry<String, String>` として配信します。

```
Map.Entry<String, String> signatureMap = cookies.getSignature();
String signatureKey = signatureMap.getKey(); // "CloudFront-Signature"
String signatureValue = signatureMap.getValue(); // "[SIGNATURE_VALUE]"
```

Java v2 SDK は、ヘッダー全体を単一の `String` として配信します。

```
String signatureHeaderValue = cookies.signatureHeaderValue(); // "CloudFront-
Signature=[SIGNATURE_VALUE]"
```

IAM Policy Builder API のバージョン 1 からバージョン 2 での変更

このトピックでは、バージョン 1 (v1) からバージョン 2 (v2) での IAM Policy Builder API の変更点について詳しく説明します。

高レベル変更

変更	v1	v2
Maven の依存関係	<dependencyManagement> <dependencies> <dependency> <groupId> com.amazonaws</gro upId> <artifact Id>aws-java-sdk-bom</ artifactId> <version> *1.12.587*[1]</version> <type>pom</ type> <scope>im port</scope> </dependency> </dependencies> </dependencyManageme nt> <dependencies> <dependency> <groupId> com.amazonaws</gro upId> <artifact Id>aws-java-sdk-co re</artifactId> </dependency>	<dependencyManagement> <dependencies> <dependency> <groupId> software.amazon.aw ssdk</groupId> <artifact Id>bom</artifactId> <version> *2.27.21*[2]</version> <type>pom</ type> <scope>im port</scope> </dependency> </dependencies> </dependencyManageme nt> <dependencies> <dependency> <groupId> software.amazon.aw ssdk</groupId> <artifact Id>iam-policy-buil der</artifactId> </dependency> </dependencies>

変更	v1	v2
	`</dependencies>`	
パッケージ名	`com.amazonaws.auth.policy`	`software.amazon.awssdk.policybuilder.iam`
クラス名	Policy Statement • Statement.Effect • IdentiyManagementActions • [リソース] • プリンシパル • 条件	IamPolicy IamStatement • IamEffect • IamAction • IamResource • IamPrincipal • IamCondition • IamConditionOperator • IamConditionKey

[1] 最新バージョン。 [2] 最新バージョン。

API の変更

設定	v1	v2
ポリシーのインスタンス化	`Policy policy = new Policy();`	`IamPolicy.Builder policyBuilder = IamPolicy.builder(); ... IamPolicy policy = policyBuilder.build();`
ID の設定	`policy.withtId(...); policy.setId(...);`	`policyBuilder.id(...);`

設定	v1	v2
バージョンの設定	該当なし - 2012-10-17 のデフォルトバージョンを使用します	`policyBuilder.version(...);`
ステートメントの作成	`Statement statement = new Statement(Effect.Allow).withActions(...).withConditions(...).withId(...).withPrincipals(...).withResources(...);`	`IamStatement statement = IamStatement.builder().effect(IamEffect.ALLOW).actions(...).notActions(...).conditions(...).sid(...).principals(...).notPrincipals(...).resources(...).notResources(...).build()`
ステートメントの設定	`policy.withStatements(statement);` `policy.setStatements(statement);`	`policyBuilder.addStatement(statement);`

ステートメントの構築における違い

アクション

v1

v1 SDK には、ポリシーステートメントの *Action* 要素を表すサービスアクションのenum 型があります。次に、enum 型の例をいくつか示します。

- IdentityManagementActions
- DynamoDBv2Actions
- SQSActions

次の例では、SQSActions の SendMessage 定数の例を示します。

```
Action action = SQSActions.SendMessage;
```

v1 のステートメントに *NotAction* 要素を指定することはできません。

v2

v2 では、IamAction インターフェイスがすべてのアクションを表します。サービス固有のアクション要素を指定するには、次のコードに示すように、create メソッドに文字列を渡します。

```
IamAction action = IamAction.create("sqs:SendMessage");
```

次のコードに示すように、v2 を使用してステートメントに *NotAction* を指定できます。

```
IamAction action = IamAction.create("sqs:SendMessage");
IamStatement.builder().addNotAction(action);
```

条件

v1

ステートメント条件を表すために、v1 SDK は Condition のサブクラスを使用します。

- ArnCondition
- BooleanCondition

- DateCondition
- IpAddressCondition
- NumericCondition
- StringCondition

各 Condition サブクラスは、条件の定義に役立つ比較 enum タイプを定義します。たとえば、次の例は条件に対するNot Like 文字列比較を示しています。

```
Condition condition = new StringCondition(StringComparisonType.StringNotLike, "key",
 "value");
```

v2

v2 では、IamCondition を使用してポリシーステートメントの条件を構築し、すべてのタイプに enums を含む IamConditionOperator を指定します。

```
IamCondition condition = IamCondition.create(IamConditionOperator.STRING_NOT_LIKE,
 "key", "value");
```

リソース

v1

ポリシーステートメントの *Resource* 要素は、SDK の Resource クラスによって表されます。ARN をコンストラクタの文字列として指定します。次のサブクラスは便利なコンストラクタを提供します。

- S3BucketResource
- S3ObjectResource
- SQSQueueResource

v1 では、次のステートメントに示すように、withIsNotType メソッドを呼び出すことで、Resource の *NotResource* 要素を指定できます。

```
Resource resource = new Resource("arn:aws:s3:::amzn-s3-demo-
bucket").withIsNotType(true);
```

v2

v2 では、ARN を IamResource.create メソッドに渡すことで *Resource* 要素を作成します。

```
IamResource resource = IamResource.create("arn:aws:s3:::amzn-s3-demo-bucket");
```

次のスニペットに示すように、IamResource を *NotResource* 要素として設定できます。

```
IamResource resource = IamResource.create("arn:aws:s3:::amzn-s3-demo-bucket");
IamStatement.builder().addNotResource(resource);
```

IamResource.ALL はすべてのリソースを表します。

プリンシパル

v1

v1 SDK は、すべてのメンバーを含むプリンシパルのタイプを表す次の Principal クラスを提供します。

- AllUsers
- AllServices
- AllWebProviders
- All

ステートメントに *NotPrincipal* 要素を追加することはできません。

v2

v2 では、IamPrincipal.ALL はすべてのプリンシパルを表します。

他のタイプのプリンシパルのすべてのメンバーを表すには、IamPrincipal を作成するときに IamPrincipalType クラスを使用します。

- すべてのユーザーの IamPrincipal.create(IamPrincipalType.AWS,"*")。
- すべてのサービスの IamPrincipal.create(IamPrincipalType.SERVICE,"*")。
- すべてのウェブプロバイダーの IamPrincipal.create(IamPrincipalType.FEDERATED,"*")。

- すべての正規ユーザーの `IamPrincipal.create(IamPrincipalType.CANONICAL_USER,"*")`。

次のステートメントに示すように、ポリシーステートメントを作成するときに `addNotPrincipal` メソッドを使用して *NotPrincipal* 要素を表すことができます。

```
IamPrincipal principal = IamPrincipal.create(IamPrincipalType.AWS,
 "arn:aws:iam::444455556666:root");
IamStatement.builder().addNotPrincipal(principal);
```

DynamoDB の使用における のバージョン 1 からバージョン 2 への変更 AWS SDK for Java

トピック

- のバージョン 1 とバージョン 2 の DynamoDB マッピング API の違い AWS SDK for Java
- のバージョン 1 とバージョン 2 の API の違いを文書化する AWS SDK for Java
- 暗号化ライブラリの移行

のバージョン 1 とバージョン 2 の DynamoDB マッピング API の違い AWS SDK for Java

AWS SDK for Javaのバージョン 1 とバージョン 2 で、DynamoDB マッピング API が大幅に変更されました。バージョン 1 では、 `DynamoDBMapper` を使用して Java POJO を操作します。バージョン 2 では、更新されたメソッド名、拡張されたスキーマ定義オプション、より安全な型を利用できる `DynamoDbEnhancedClient` を使用します。

主な変更点は次のとおりです。

- 新しいメソッド名 (`getItem` の代わりに `load` など)
- 明示的なテーブルスキーマの作成
- 同期オペレーションと非同期オペレーション両方の組み込みサポート
- 空の文字列と設定の処理方法の変更

このセクションでは、マッピング API の変更、注釈の違い、設定の更新について説明し、v1 DynamoDBMapper から v2 DynamoDbEnhancedClient への移行に役立つ移行ガイダンスを提供します。

目次

- SDK for Java のバージョン 1 からバージョン 2 での、マッピングライブラリ高レベル変更
  - 依存関係の差異をインポートする
- SDK for Java のバージョン 1 とバージョン 2 での DynamoDB マッピング API の変更
  - クライアントの作成
  - DynamoDB テーブル/インデックスへのマッピングを確立する
  - Table operations
  - クラスとプロパティをマッピングする
    - Bean 注釈
    - V2 の追加注釈
  - 設定
    - オペレーションごとの設定
  - 条件式
  - 型変換
    - デフォルトコンバータ
    - 属性のカスタムコンバータを設定する
    - タイプコンバータファクトリまたはプロバイダーを追加する
- SDK for Java のバージョン 1 とバージョン 2 の文字列処理の違い
- SDK for Java のバージョン 1 とバージョン 2 の楽観的ロックの違い
- SDK for Java のバージョン 1 とバージョン 2 の Fluent セッターの違い

SDK for Java のバージョン 1 からバージョン 2 での、マッピングライブラリ高レベル変更

各ライブラリのマッピングクライアントの名前は、V1 と V2 で異なります。

- V1 - DynamoDBMapper
- V2 - DynamoDB Enhanced Client

2 つのライブラリの使用方法はほぼ同じです。マッパー/クライアントをインスタンス化し、これらの項目を DynamoDB テーブルに対して読み書きする API に Java POJO を渡します。どちらのライブラリも POJO のクラスに注釈を提供し、クライアントが POJO をどのように処理するかを指示します。

V2 に移行する場合の顕著な違いは次のとおりです。

- V2 と V1 は、低レベルの DynamoDB オペレーションに異なるメソッド名を使用します。例えば、次のようになります。

V1	V2
load	getItem
保存	putItem
batchLoad	batchGetItem

- V2 には、テーブルスキーマを定義し、POJO をテーブルにマッピングする複数の方法があります。注釈を使用することも、ビルダーを使用してコードから生成されたスキーマを使用することもできます。V2 は、変更可能なバージョンと変更不可能なバージョンのスキーマも提供します。
- V2 では、最初のステップの 1 つとしてテーブルスキーマを具体的に作成しますが、V1 では、テーブルスキーマは必要に応じて注釈付きクラスから推測されます。
- V2 には拡張クライアント API にドキュメント API クライアントが含まれていますが、V1 は別の API を使用します。
- V2 では、すべての API が同期バージョンと非同期バージョンで使用できます。

V2 拡張クライアントの詳細については、本ガイドの「DynamoDB マッピング」セクションを参照してください。

依存関係の差異をインポートする

V1	V2
<dependencyManagement> <dependencies> <dependency>	<dependencyManagement> <dependencies> <dependency>

V1	V2
<groupId>com.amazonaws</groupId> <artifactId>aws-java-sdk-bom</artifactId> <version> *1.X.X*</version> <type>pom</type> <scope>import</scope> </dependency> </dependencies> </dependencyManagement> <dependencies> <dependency> <groupId>com.amazonaws</groupId> <artifactId>aws-java-sdk-dynamodb</artifactId> </dependency> </dependencies>	<groupId>software.amazon.awssdk</groupId> <artifactId>bom</artifactId> <version> *2.X.X*[*]</version> <type>pom</type> <scope>import</scope> </dependency> </dependencies> </dependencyManagement> <dependencies> <dependency> <groupId>software.amazon.awssdk</groupId> <artifactId>dynamodb-enhanced</artifactId> </dependency> </dependencies>

[*] 最新バージョン

V1 では、1 つの依存関係に低レベルの DynamoDB API とマッピング/ドキュメント API の両方が含まれますが、V2 では、dynamodb-enhanced アーティファクト依存関係を使用してマッピング/ドキュメント API にアクセスします。dynamodb-enhanced モジュールには、低レベル dynamodb モジュールへの推移的な依存関係が含まれています。

SDK for Java のバージョン 1 とバージョン 2 での DynamoDB マッピング API の変更

クライアントの作成

ユースケース	V1	V2
通常のインスタンス化	AmazonDynamoDB standardClient = AmazonDynamoDBClientBuilder.standard() .withCredentials(credentialsProvider)	DynamoDbClient standardClient = DynamoDbClient.builder() .credentialsProvider(ProfileCredentialsProvider.create())

ユースケース	V1	V2

	`.withRegion(Regions.US_EAST_1)`
	`.build();`
	`DynamoDBMapper mapper = new DynamoDBMapper(standardClient);`
		`.region(Region.US_EAST_1)`
		`.build();`
		`DynamoDbEnhancedClient enhancedClient = DynamoDbEnhancedClient.builder()`
		`.dynamoDbClient(standardClient)`
		`.build();`

最小限のインスタンス化	`AmazonDynamoDB standardClient = AmazonDynamoDBClientBuilder.standard();` `DynamoDBMapper mapper = new DynamoDBMapper(standardClient);`	`DynamoDbEnhancedClient enhancedClient = DynamoDbEnhancedClient.create();`

属性トランスフォーマーを使用[*]	`DynamoDBMapper mapper = new DynamoDBMapper(standardClient,`
	`attributeTransformerInstance);`
		`DynamoDbEnhancedClient enhancedClient = DynamoDbEnhancedClient.builder()`
		`.dynamoDbClient(standardClient)`
		`.extensions(extensionAInstance, extensionBInstance)`
		`.build();`

[*]V2 の拡張機能は、V1 の属性トランスフォーマーにほぼ対応しています。the section called “拡張機能を使用してオペレーションをカスタマイズする” セクションには、V2 の拡張機能に関する詳細情報が記載されています。

DynamoDB テーブル/インデックスへのマッピングを確立する

V1 では、Bean 注釈を使用して DynamoDB テーブル名を指定します。V2 では、ファクトリメソッドである `table()` がリモート DynamoDB テーブルを表す `DynamoDbTable` のインスタンスを生成します。`table()` メソッドの最初のパラメータは、DynamoDB テーブル名です。

ユースケース	V1	V2

Java POJO クラスを DynamoDB テーブルにマッピングする	`@DynamoDBTable(tableName ="Customer")`
	`public class Customer {`
	`  ...`
	`}`
		`DynamoDbTable<Customer> customerTable = enhancedClient.table("Customer",`
		`  TableSchema.fromBean(Customer.class));`

DynamoDB セカンダリインデックスへのマッピング	1. インデックスを表す POJO クラスを定義します。
	• インデックスを持つテーブルの名前を指定する `@DynamoDBTable` でクラスに注釈を付けます。
	• `@DynamoDBIndexHashKey` およびオプションで `@DynamoDBIndexRangeKey` を使用して、プロパティに注釈を付けます。
	2. クエリ式を作成します。
	3. インデックスを表す POJO クラスへの参照を使用してクエリを実行します。例
	`mapper.query(IdEmailIndex.class, queryExpression)`
		1. `@DynamoDbSecondaryPartitionKey` (GSI の場合) および `@DynamoDbSecondarySortKey` (GSI または LSI の場合) を使用して POJO クラスの属性に注釈を付けます。例えば、
		`@DynamoDbSecondarySortKey(indexNames = "IdEmailIndex")`
		`public String getEmail() { return this.email; }`
		2. インデックスへの参照を取得します。例えば、
		`DynamoDbIndex<Customer> customerIndex = customerTable.index("IdEmailIndex");`

ユースケース	V1	V2
	ここで、IdEmailIndex はインデックスのマッピングクラスです。 V1 の query メソッドについて説明する DynamoDB デベロッパーガイドのセクションでは、完全な例を示しています。	3. インデックスをクエリします。 詳細については、このガイドの「???」セクションを参照してください。

Table operations

このセクションでは、ほとんどの標準的なユースケースにおいて V1 と V2 で異なるオペレーション API について説明します。

V2 では、単一のテーブルを含むすべてのオペレーションが、拡張クライアントではなく DynamoDbTable インスタンスで呼び出されます。拡張クライアントには、複数のテーブルをターゲットにできるメソッドが含まれています。

以下の「テーブルオペレーション」という表では、POJO インスタンスは item または customer1 などの特定のタイプとして記載されています。V2 の例の場合、table という名前のインスタンスは、DynamoDbTable インスタンスへの参照を返す enhancedClient.table() を以前に呼び出した結果です。

ほとんどの V2 オペレーションは、表示されていない場合で fluent コンシューマーパターンで呼び出すことができます。例えば、

```
Customer customer = table.getItem(r # r.key(key));
  or
Customer customer = table.getItem(r # r.key(k ->
 k.partitionValue("id").sortValue("email")))
```

V1 オペレーションの場合、テーブルオペレーション (以下) には一般的に使用される形式の一部のみが含まれており、すべてのオーバーロードされた形式が含まれているわけではありません。たとえば、 load() メソッドには次のオーバーロードがあります。

```
mapper.load(Customer.class, hashKey)
mapper.load(Customer.class, hashKey, rangeKey)
mapper.load(Customer.class, hashKey, config)
mapper.load(Customer.class, hashKey, rangeKey, config)
mapper.load(item)
mapper.load(item, config)
```

テーブルオペレーション (以下) は、一般的に使用される形式を示しています。

```
mapper.load(item)
mapper.load(item, config)
```

Table operations

ユースケース	V1	V2

Java POJO を Dynam テーブルに書き込む
 	
Dynam オペレーション:、Pu m
	`mapper.save(item)`
	`mapper.save(item, config)`
	`mapper.save(item, saveExpression, config)`
	
	V1 では、DynamoDBMapperConfig.SaveBehavior および注釈によって、呼び出される低レベルの DynamoDB メソッドが決まります。一般的に、SaveBehavior.CLOBBER と SaveBehavior.PUT を使用する場合を除いて UpdateItem が呼び出されます。自動生成されたキーは特殊なユースケースであり、PutItem と UpdateItem の両方が使用されることもあります。
		`table.putItem(putItemRequest)`
		`table.putItem(item)`
		`table.putItemWithResponse(item) // Returns metadata.`
		
		`updateItem(updateItemRequest)`
		`table.updateItem(item)`
		`table.updateItemWithResponse(item) // Returns metadata.`

ユースケース	V1	V2

Dynam
テーブルから Java POJO に項目を読み込む
 	
Dynam
オペレーション: GetIte
	`mapper.load(item)`
	`mapper.load(item, config)`
		`table.getItem(getItemRequest)`
		`table.getItem(item)`
		`table.getItem(key)`
		`table.getItemWithResponse(key) //`
		`Returns POJO with metadata.`

ユースケース	V1	V2

Dynam テーブルから項目を削除します。
 	
Dynam オペレーション: Delete m
	`mapper.delete(item, deleteExpression, config)`	`table.deleteItem(deleteItemRequest)`
		`table.deleteItem(item)`
		`table.deleteItem(key)`

ユースケース	V1	V2

Dynam
テーブルまたはセカンダリインデックスをクエリし、ページ分割されたリストを返します。
 	
Dynam
オペレーション: Query
	`mapper.query(Customer.class, queryExpression)`
	`mapper.query(Customer.class, queryExpression, mapperConfig)`
		`table.query(queryRequest)`
		`table.query(queryConditional)`
		
		同期レスポンスには返された `PageIterable.stream()` (遅延読み込み) を、非同期レスポンスには `PagePublisher.subscribe()` を使用します。

ユースケース	V1	V2

Dynam テーブルまたはセカンダリインデックスをクエリしてリストを返します。
 	
Dynam オペレーション: Query
	`mapper.queryPage(Customer.class, queryExpression)`
	`mapper.queryPage(Customer.class, queryExpression,`
	
	`mapperConfig)`
		`table.query(queryRequest)`
		`table.query(queryConditional)`
		
		同期レスポンスには返された `PageIterable.items()` (遅延読み込み) を、非同期レスポンスには `PagePublisher.items.subscribe()` を使用します。

ユースケース	V1	V2

Dynam
テーブルまたはセカンダリインデックスをスキャンしてページ分割されたリストを返します。
 	
Dynam
オペレーション: Scan
	`mapper.scan(Customer.class, scanExpression)`
	`mapper.scan(Customer.class, scanExpression, mapperConfig)`
		`table.scan()`
		`table.scan(scanRequest)`
		
		同期レスポンスには返された `PageIterable.stream()` (遅延読み込み) を、非同期レスポンスには `PagePublisher.subscribe()` を使用します。

ユースケース	V1	V2

Dynam テーブルまたはセカンダリインデックスをスキャンしてリストを返します。
 	
Dynam オペレーション: Scan
	`mapper.scanPage(Customer.class, scanExpression)`
	`mapper.scanPage(Customer.class, scanExpression, mapperConfig)`
		`table.scan()`
		`table.scan(scanRequest)`
		
		同期レスポンスには返された `PageIterable.items()` (遅延読み込み) を、非同期レスポンスには `PagePublisher.items.subscribe()` を使用します。

ユースケース	V1	V2

複数のテーブルから複数の項目をバッチで読み取ります。
 	
DynamoDB オペレーション: BatchGetItem
	`mapper.batchLoad(Arrays.asList(customer1,`
	
	`  customer2,`
	
	`  book1))`
	`mapper.batchLoad(itemsToGet)`
	`  // itemsToGet: Map<Class<?>, List<KeyPair>>`
		`enhancedClient.batchGetItem(batchGetItemRequest)`
		
		`enhancedClient.batchGetItem(r -> r.readBatches(`
		`  ReadBatch.builder(Record1.class)`
		`  .mappedTableResource(mappedTable1)`
		`  .addGetItem(i -> i.key(k -> k.partitionValue(0)))`
		`  .build(),`
		`  ReadBatch.builder(Record2.class)`
		`  .mappedTableResource(mappedTable2)`
		`  .addGetItem(i -> i.key(k -> k.partitionValue(0)))`
		`  .build()))`
		
		`// Iterate over pages with lazy loading or over all items`
		`  from the same table.`

ユースケース	V1	V2

複数のテーブルに複数の項目をバッチで書き込みます。
 	
DynamoDB オペレーション: BatchWriteItem
	`mapper.batchSave(Arrays.asList(customer1,`
	
	`  customer2,`
	
	`  book1))`
		`enhancedClient.batchWriteItem(batchWriteItemRequest)`
		
		`enhancedClient.batchWriteItem(r ->`
		` r.writeBatches(`
		`  WriteBatch.builder(Record1.class)`
		`  .mappedTableResource(mappedTable1)`
		`  .addPutItem(item1)`
		`  .build(),`
		`  WriteBatch.builder(Record2.class)`
		`  .mappedTableResource(mappedTable2)`
		`  .addPutItem(item2)`
		`  .build()))`

ユースケース	V1	V2

複数のテーブルから複数の項目をバッチで削除します。
 	
DynamoDB オペレーション: BatchWriteItem
	`mapper.batchDelete(Arrays.asList(customer1,`
	
	`customer2,`
	
	`book1))`
		`enhancedClient.batchWriteItem(r -> r.writeBatches(`
		`WriteBatch.builder(Record1.class)`
		`.mappedTableResource(mappedTable1)`
		`.addDeleteItem(item1key)`
		`.build(),`
		`WriteBatch.builder(Record2.class)`
		`.mappedTableResource(mappedTable2)`
		`.addDeleteItem(item2key)`
		`.build()))`

ユースケース	V1	V2
複数の項目をバッチで書き込み/削除します。 DynamoDB オペレーション: BatchWriteItem	`mapper.batchWrite(Arrays.asList(customer1, book1), Arrays.asList(customer2))`	`enhancedClient.batchWriteItem(r -> r.writeBatches( WriteBatch.builder(Record1.class) .mappedTableResource(mappedTable1) .addPutItem(item1) .build(), WriteBatch.builder(Record2.class) .mappedTableResource(mappedTable2) .addDeleteItem(item2key) .build()))`

ユースケース	V1	V2
トランザクション書き込みを実行します。 Dynam オペレーション: Transa riteIt	`mapper.transactionWrite(transactionWriteRequest)`	`enhancedClient.transactWriteItems(transasctWriteItemsRequest)`

ユースケース	V1	V2
トランザクション読み取りを実行します。 DynamoDB オペレーション: TransactGetItems	`mapper.transactionLoad(transactionLoadRequest)`	`enhancedClient.transactGetItems(transactGetItemsRequest)`

ユースケース	V1	V2

クエリの一致する項目の数を取得します。
 	
DynamoDB オペレーション: Select UNT によるQuer
	`mapper.count(Customer.class , queryExpression)`	`// Get the count from query results.`
		`PageIterable<Customer> pageIterable =`
		`customerTable.query(QueryEnhancedRequest.builder()`
		`.queryConditional(queryConditional)`
		`.select(Select.COUNT)`
		`.build());`
		`Iterator<Page<Customer>> iterator = pageIterable.iterator();`
		`Page<Customer> page = iterator.next();`
		`int count = page.count();`
		
		`// For a more concise approach, you can chain the method calls:`
		`int count = customerTable.query(QueryEnhancedRequest.builder()`
		`.queryConditional(queryConditional)`
		`.select(Select.COUNT)`
		`.build())`
		`.iterator().next().count();`

ユースケース	V1	V2

スキャンの一致する項目の数を取得します。
 	
DynamoDB オペレーション: Scan
による COUNT
	`mapper.count(Customer.class, scanExpression)`	`// Get the count from scan results.`
		`PageIterable<Customer> pageIterable = customerTable.scan(ScanEnhancedRequest.builder().filterExpression(filterExpression).select(Select.COUNT).build());`
		`Iterator<Page<Customer>> iterator = pageIterable.iterator();`
		`Page<Customer> page = iterator.next();`
		`int count = page.count();`
		
		`// For a more concise approach, you can chain the method calls:`
		`int count = customerTable.scan(ScanEnhancedRequest.builder().filterExpression(filterExpression).select(Select.COUNT).build()).iterator().next().count();`

ユースケース	V1	V2

POJO クラスに対応するテーブルを Dynam に作成します。
 	
Dynam オペレーション: Create le
	`mapper.generateCreateTableRequest(Customer.class)`
	
	前のステートメントは、低レベルのテーブル作成リクエストを生成します。ユーザーは DynamoDB クライアントで `createTable` を呼び出す必要があります。
		`table.createTable(createTableRequest)`
		
		`table.createTable(r -> r.provisionedThroughput(defaultThroughput()) .globalSecondaryIndices( EnhancedGlobalSecondaryIndex.builder() .indexName("gsi_1") .projection(p -> p.projectionType(ProjectionType.ALL)) .provisionedThroughput(defaultThroughput()) .build()));`

ユースケース	V1	V2
Dynam で並列スキャンを実行します。 Dynam オペレーション: Segmer と TotalS ents パラメータを使用した Scan	`mapper.parallelScan(Custome r.class, scanExpre ssion, numTotalS egments)`	ユーザーはワーカースレッドを処理し、セグメントごとに scan を呼び出す必要があります。 `table.scan(r -> r.segment(0).total Segments(5))`

ユースケース	V1	V2
Amazon S3 と DynamoDB を統合してインテリジェントな S3 リンクを保存します。	`mapper.createS3Link(bucket, key)` `mapper.getS3ClientCache()`	Amazon S3 と DynamoDB が結合されるため、サポートされていません。

クラスとプロパティをマッピングする

V1 と V2 の両方で、Bean 形式の注釈を使用してクラスをテーブルにマッピングします。V2 には、変更不可能なクラスの使用など、特定のユースケースのスキーマを定義する他の方法もあります。

Bean 注釈

次の表は、V1 および V2 で使用される、特定のユースケースにおける同等の Bean 注釈を示しています。`Customer` クラスシナリオは、パラメータを説明するために使用されます。

V2 の注釈、クラス、列挙はキャメルケース規則に従い、「DynamoDB」ではなく「DynamoDb」を使用します。

ユースケース	V1	V2
クラスをテーブルにマップする	`@DynamoDBTable (tableName ="CustomerTable")`	`@DynamoDbBean @DynamoDbBean(converterProviders = {...})` テーブル名は、DynamoDbEnhancedClient#table() メソッドを呼び出すときに定義されます。
クラスメンバーをテーブル属性として指定する	`@DynamoDBAttribute (attributeName = "customerName")`	`@DynamoDbAttribute("customerName")`
クラスメンバーをハッシュ/パーティションキーとして指定する	`@DynamoDBHashKey`	`@DynamoDbPartitionKey`
クラスメンバーを範囲/ソートキーとして指定する	`@DynamoDBRangeKey`	`@DynamoDbSortKey`
クラスメンバーをセカンダリインデックスのハッシュ/パーティションキー	`@DynamoDBIndexHashKey`	`@DynamoDbSecondaryPartitionKey`

ユースケース	V1	V2
として指定する		
クラスメンバーをセカンダリインデックスの範囲/ソートキーとして指定する	`@DynamoDBIndexRangeKey`	`@DynamoDbSecondarySortKey`
テーブルにマッピングするときにこのクラスメンバーを無視する	`@DynamoDBIgnore`	`@DynamoDbIgnore`
クラスメンバーを自動生成されたUUID キー属性として指定する	`@DynamoDBAutoGeneratedKey`	`@DynamoDbAutoGeneratedUuid` これを提供する拡張機能はデフォルトではロードされません。拡張機能をクライアントビルダーに追加する必要があります。
クラスメンバーを自動生成されたタイムスタンプ属性として指定する	`@DynamoDBAutoGeneratedTimestamp`	`@DynamoDbAutoGeneratedTimestampAttribute` これを提供する拡張機能はデフォルトではロードされません。拡張機能をクライアントビルダーに追加する必要があります。

ユースケース	V1	V2
クラスメンバーを自動で増分されるバージョン属性として指定する	`@DynamoDBVersionAttribute`	`@DynamoDbVersionAttribute` これを提供する拡張機能は自動的にロードされます。
クラスメンバーをカスタム変換を必要とするものとして指定する	`@DynamoDBTypeConverted`	`@DynamoDbConvertedBy`
クラスメンバーを別の属性タイプとして保存するように指定する	`@DynamoDBTyped(<DynamoDBAttributeType>)`	`AttributeConverter` 実装を使用します。V2 には、一般的な Java タイプ用の多くの組み込みコンバーターが用意されています。独自のカスタム `AttributeConverter` または `AttributeConverterProvider` を実装することもできます。本ガイドの「the section called “属性変換を制御する”」を参照してください。
DynamoDB ドキュメント (JSON 形式のドキュメント) またはサブドキュメントにシリアル化できるクラスを指定する	`@DynamoDBDocument`	拡張ドキュメント API を使用します。以下のリソースを参照してください。 • このガイドの「the section called “JSON ドキュメントを操作する”」 • 拡張ドキュメント API のリリース時に公開されたブログ記事

V2 の追加注釈

ユースケース	V1	V2
Java 値が null の場合、クラスメンバーを NULL 属性として保存しないように指定する	該当なし	`@DynamoDbIgnoreNulls`
すべての属性が null の場合、クラスメンバーを空のオブジェクトとなるように指定する	該当なし	`@DynamoDbPreserveEmptyObject`
クラスメンバーの特別な更新アクションを指定する	該当なし	`@DynamoDbUpdateBehavior`
変更不可能なクラスを指定する	該当なし	`@DynamoDbImmutable`
クラスメンバーを自動で増分されるカウンター属性として指定する	該当なし	`@DynamoDbAtomicCounter` この機能を提供する拡張機能は自動的にロードされます。

設定

V1 では、通常、DynamoDBMapperConfig のインスタンスを使用して特定の動作を制御します。設定オブジェクトは、マッパーの作成時またはリクエスト時に指定できます。V2 では、設定は オペレーションのリクエストオブジェクトに固有です。

ユースケース	V1	V1 のデフォルト	V2
	`DynamoDBMapperConfig.builder()`		

ユースケース	V1	V1 のデフォルト	V2
バッチロード/書き込みの再試行戦略	`.withBatchLoadRetryStrategy(loadRetryStrategy)` `.withBatchWriteRetryStrategy(writeRetryStrategy)`	失敗した項目を再試行する	基盤となる DynamoDBClient で再試行戦略を設定します。本ガイドの「the section called “再試行”」を参照してください。
整合性のある読み込み	`.withConsistentReads(CONSISTENT)`	EVENTU	デフォルトでは、読み取りオペレーションの整合性のある読み取りは false です。リクエストオブジェクトで、`.consistentRead(true)` で上書きします。
マーシャラー/アンマーシャラーのセットによる変換スキーマ	`.withConversionSchema(conversionSchema)` 静的実装は、古いバージョンとの下位互換性を提供します。	V2_COMPATIBLE	該当なし。これは、初期の DynamoDB (V1) がデータ型を保存していた方法を指すレガシー機能であり、この動作は拡張クライアントでは保持されません。DynamoDB V1 の動作の一例は、ブール値ではなく数値としてブール値を格納することです。

ユースケース	V1	V1 のデフォルト	V2

テーブル名	`.withObjectTableNameResolver()`
	`.withTableNameOverride()`
	`.withTableNameResolver()`
	
	静的実装は、古いバージョンとの下位互換性を提供します。
		注釈を使用する、またはクラスから推測する	テーブル名は、DynamoDbEnhancedClient#table() メソッドを呼び出すときに定義されます。

ページ分割ロード戦略	`.withPaginationLoadingStrategy(strategy)` オプション: LAZY_LOADING、EAGER_LOADING 、または ITERATION_ONLY	LAZY_LOADING	• デフォルトはイテレーションのみです。他の V1 オプションはサポートされていません。 • 以下を使用して、V2 で積極的なロードと同等の機能を実装できます。 `List<Customer> allItems = customerTable.scan().items().stream().collect(Collectors.toList());` • 遅延ロードでは、アクセスされた項目に独自のキャッシュロジックを実装する必要があります。
リクエストメトリクスの収集	`.withRequestMetricCollector(collector)`	null	標準 DynamoDB クライアントを構築するときは、metricPublisher() で ClientOverrideConfiguration を使用します。

ユースケース	V1	V1 のデフォルト	V2
保存動作	`.withSaveBehavior(SaveBehavior.CLOBBER)` オプションは UPDATE、CLOBBER、PUT、T 、または UPDATE_SKIP_NULL_ATTRIBUTES です。	UPDATE	V2 では、putItem() または updateItem() を明示的に呼び出します。 CLOBBER or PUT: V2 の対応するアクションが putItem() を呼び出します。特定の CLOBBER 設定はありません。 UPDATE: に対応 updateItem() UPDATE_SKIP_NULL_ATTRIBUTES :に対応しますupdateItem() 。リクエスト設定 ignoreNulls と注釈/タグ DynamoDbUpdateBehavior を使用して更新動作を制御します。 APPEND_SET :サポートされていません
型コンバータファクトリ	`.withTypeConverterFactory(typeConverterFactory)`	標準型コンバータ	次を使用して Bean に設定する `@DynamoDbBean(converterProviders = {ConverterProvider.class, DefaultAttributeConverterProvider.class})`

オペレーションごとの設定

V1 では、query() などの一部のオペレーションは、オペレーションに送信された「式」オブジェクトを使用して高度に設定できます。例えば、次のようになります。

```
DynamoDBQueryExpression<Customer> emailBwQueryExpr = new
 DynamoDBQueryExpression<Customer>()
    .withRangeKeyCondition("Email",
        new Condition()
            .withComparisonOperator(ComparisonOperator.BEGINS_WITH)
            .withAttributeValueList(
```

```
                new AttributeValue().withS("my")));

mapper.query(Customer.class, emailBwQueryExpr);
```

V2 では、設定オブジェクトを使用する代わりに、ビルダーを使用してリクエストオブジェクトにパラメータを設定します。例えば、次のようになります。

```
QueryEnhancedRequest emailBw = QueryEnhancedRequest.builder()
    .queryConditional(QueryConditional
        .sortBeginsWith(kb -> kb
            .sortValue("my"))).build();

customerTable.query(emailBw);
```

条件式

V2 では、条件式とフィルタリング式は、条件と名前およびフィルターのマッピングをカプセル化する Expression オブジェクトを使用して表現されます。

ユースケース	オペレーション	V1	V2
予想される属性条件	save()、delete()、Query()、Scan()	`new DynamoDBSaveExpression()  .withExpected(Collections.singletonMap(  "otherAttribute", new ExpectedAttributeValue(false)))  .withConditionalOperator(ConditionalOperator.AND);`	非推奨。代わりに Condition Expression を使用してください。
条件式	delete()	`deleteExpression.setConditionExpression("zipcode = :zipcode")`	`Expression conditionExpression =  Expression.builder()  .expression("#key = :value OR #key1 = :value1")  .putExpressionName("#key", "attribute")`

ユースケース	オペレーション	V1	V2
		deleteExpression .setExpressionAttr ibuteValues(...)	.putExpressionName ("#key1", "attribute3") .putExpressionValu e(":value", AttributeValues.st ringValue("wrong")) .putExpressionValu e(":value1", AttributeValues.st ringValue("three")) .build(); DeleteItemEnhancedRequest request = DeleteItemEnhancedRequest.b uilder() .conditionExpressi on(conditionExpression).build();

フィルター式	query()、scan()	scanExpression
		.withFilterExpress
		ion("#statename
		= :state")
		.withExpressionAtt
		ributeValues(attri
		buteValueMapBuilde
		r.build())
		.withExpressionAtt
		ributeNames(attrib
		uteNameMapBuilder.
		build())
			Map<String, AttributeValue> values
			= singletonMap(":key", stringVal
			ue("value"));
			Expression filterExpression =
			Expression.builder()
			.expression("name = :key")
			.expressionValues(values)
			.build();
			QueryEnhancedRequest request =
			QueryEnhancedRequest.builder()
			.filterExpression(filterExp
			ression).build();

ユースケース	オペレーション	V1	V2

クエリの条件式	query()	`queryExpression.withKeyConditionExpression()`	`QueryConditional keyEqual = QueryConditional.keyEqualTo(b -> b .partitionValue("movie01"));`
			
			`QueryEnhancedRequest tableQuery = QueryEnhancedRequest.builder() .queryConditional(keyEqual) .build();`

型変換

デフォルトコンバータ

V2 では、SDK はすべての一般的なタイプに向けてデフォルトコンバータのセットを提供します。タイプコンバータは、全体的なプロバイダーレベルと、単一の属性に対しての両方で変更できます。使用可能なコンバータのリストは、AttributeConverter API リファレンスで確認できます。

属性のカスタムコンバータを設定する

V1 では、@DynamoDBTypeConverted を使用してゲッターメソッドに注釈を付けて、Java 属性型と DynamoDB 属性型を変換するクラスを指定できます。たとえば、Java Currency 型と DynamoDB 文字列を変換する CurrencyFormatConverter は、次のスニペットに示すように適用できます。

```
@DynamoDBTypeConverted(converter = CurrencyFormatConverter.class)
public Currency getCurrency() { return currency; }
```

での前のスニペットに相当する V2 でのスニペットを以下に示します。

```
@DynamoDbConvertedBy(CurrencyFormatConverter.class)
public Currency getCurrency() { return currency; }
```

> **Note**
>
> V1 では、属性自体、タイプ、またはユーザー定義の注釈に注釈を適用できます。V2 では、ゲッターにのみ注釈を適用できます。

タイプコンバータファクトリまたはプロバイダーを追加する

V1 では、独自のタイプコンバータのセットを提供するか、設定にタイプコンバータファクトリを追加することで、任意のタイプを上書きできます。タイプコンバータファクトリは DynamoDBTypeConverterFactory を拡張し、デフォルトセットへの参照を取得してそれを拡張することによって上書きが行われます。以下のスニペットは、その方法を示しています。

```
DynamoDBTypeConverterFactory typeConverterFactory =
    DynamoDBTypeConverterFactory.standard().override()
        .with(String.class, CustomBoolean.class, new DynamoDBTypeConverter<String,
 CustomBoolean>() {
            @Override
            public String convert(CustomBoolean bool) {
                return String.valueOf(bool.getValue());
            }
            @Override
            public CustomBoolean unconvert(String string) {
                return new CustomBoolean(Boolean.valueOf(string));
            }}).build();
DynamoDBMapperConfig config =
    DynamoDBMapperConfig.builder()
        .withTypeConverterFactory(typeConverterFactory)
        .build();
DynamoDBMapper mapperWithTypeConverterFactory = new DynamoDBMapper(dynamo, config);
```

V2 は、@DynamoDbBean 注釈を通じて同様の機能を提供します。単一の AttributeConverterProvider または順序付けられた AttributeConverterProvider のチェーンを提供することができます。独自の属性コンバータープロバイダーチェーンを指定すると、デフォルトのコンバータープロバイダーが上書きされ、その属性コンバータを使用するにはチェーンに含める必要があることに注意してください。

```
@DynamoDbBean(converterProviders = {
   ConverterProvider1.class,
   ConverterProvider2.class,
```

```
   DefaultAttributeConverterProvider.class})
public class Customer {
  ...
}
```

本ガイドの属性変換に関するセクションには、V2 の完全な例が含まれています。

SDK for Java のバージョン 1 とバージョン 2 の文字列処理の違い

V1 と V2 では、DynamoDB にデータを送信するときの空の文字列の処理方法が異なります。

- V1: DynamoDB に送信する前に空の文字列を null 値に変換します (属性なしになります)。
- V2: 空の文字列を実際の空の文字列値として DynamoDB に送信します。

> **Important**
>
> V2 に移行した後、空の文字列を DynamoDB に保存したくない場合は、カスタムコンバータを実装する必要があります。カスタムコンバータがない場合、V2 は空の文字列を実際の空の文字列属性として DynamoDB 項目に保存します。これは、これらの属性を完全に省略する V1 の動作とは異なります。

Example空の文字列属性を null に変換する V2 のカスタムコンバータ

```
/**
 * Custom converter that maintains V1 behavior by converting empty strings to null
 values
 * when writing to DynamoDB, ensuring compatibility with existing data. No attribute
 will be saved to DynamoDB.
 */
public class NullifyEmptyStringConverter implements AttributeConverter<String> {
    @Override
    public AttributeValue transformFrom(String value) {
        if (value == null || value.isEmpty()) {
            return AttributeValue.builder().nul(true).build();
        }
        return AttributeValue.builder().s(value).build();
    }

    @Override
```

```
    public String transformTo(AttributeValue attributeValue) {
        if (attributeValue.nul()) {
            return null;
        }
        return attributeValue.s();
    }

    @Override
    public EnhancedType<String> type() {
        return EnhancedType.of(String.class);
    }

    @Override
    public AttributeValueType attributeValueType() {
        return AttributeValueType.S;
    }
}

// V2 usage:
@DynamoDbBean
public class Customer {
    private String name;

    @DynamoDbConvertedBy(NullifyEmptyStringConverter.class)
    public String getName() {
        return name;
    }
}
```

SDK for Java のバージョン 1 とバージョン 2 の楽観的ロックの違い

V1 と V2 の両方で、Bean クラス内の 1 つのプロパティにバージョン番号を保存するための属性アノテーションを付与することで、楽観的ロックが実装されています。

楽観的ロック動作の違い

	V1	V2
Bean クラスの注釈	`@DynamoDBVersionAttribute`	`@DynamoDbVersionAttribute` (V2 は小文字の「b」を使用することに注意してください)

	V1	V2
初期保存	1 に設定されたバージョン番号属性。	@DynamoDbVersionAttribute(startAt = *X*) で設定されたバージョン属性の開始値。デフォルト値は 0 です。
更新	更新されるオブジェクトのバージョン番号がデータベース内の番号と一致することが条件チェックで検証されると、バージョン番号属性が 1 ずつ増加します。	更新されるオブジェクトのバージョン番号がデータベース内の番号と一致することが条件チェックで検証されると、バージョン番号属性が増加します。 @DynamoDbVersionAttribute(incrementBy = *X*) で設定された incrementBy オプションによって増加するバージョン番号属性。デフォルト値は 1 です。

<table>
<tr><th></th><th>V1</th><th>V2</th></tr>
<tr><td>Delete</td><td>DynamoDBMapper は、削除されるオブジェクトのバージョン番号がデータベースのバージョン番号と一致するという条件付きチェックを追加します。</td><td>V2 は、削除オペレーションの条件を自動的に追加しません。削除動作を制御する場合は、条件式を手動で追加する必要があります。

次の例では、recordVersion は Bean のバージョン属性です。

<pre>// 1. Read the item and get its current version.
Customer item = customerTable.getItem(Key.builder().
partitionValue("someId").build());
AttributeValue currentVersion = item.getRecordVers
ion();

// 2. Create conditional delete with the `currentV
ersion` value.
DeleteItemEnhancedRequest deleteItemRequest =
    DeleteItemEnhancedRequest.builder()
       .key(KEY)
       .conditionExpression(Expression.builder()
           .expression("recordVersion = :current_
version_value")
           .putExpressionValue(":current_versio
n_value", currentVersion)
           .build()).build();

customerTable.deleteItem(deleteItemRequest);</pre></td></tr>
<tr><td>条件チェックによるトランザクション書き込み</td><td>addConditionCheck メソッドで @DynamoDBVersionAttribute によって注釈が付けられた Bean クラスを使用することはできません。</td><td>transactWriteItems リクエストの addConditionCheck ビルダーメソッドでは @DynamoDbVersionAttribute 注釈が付いた Bean クラスを使用できます。</td></tr>
</table>

	V1	V2
無効化	楽観的ロックを無効にするには、DynamoDBMapperConfig.SaveBehavior 列挙値を UPDATE から CLOBBER に変更します。	@DynamoDbVersionAttribute 注釈を使用しないでください。

SDK for Java のバージョン 1 とバージョン 2 の Fluent セッターの違い

V1 の DynamoDB マッピング API では Fluent セッターを持つ POJO を使用でき、V2 でもバージョン 2.30.29 以降で使用できます。

たとえば、次の POJO は setName メソッドから Customer インスタンスを返します。

```
// V1

@DynamoDBTable(tableName ="Customer")
public class Customer{
  private String name;
  // Other attributes and methods not shown.
  public Customer setName(String name){
     this.name = name;
     return this;
  }
}
```

ただし、2.30.29 より前のバージョンの V2 を使用する場合、setName は null の name 値を持つ Customer インスタンスを返します。

```
// V2 prior to version 2.30.29.

@DynamoDbBean
```

```
public class Customer{
  private String name;
  // Other attributes and methods not shown.
  public Customer setName(String name){
     this.name = name;
     return this;  // Bug: returns this instance with a `name` value of `null`.
  }
}
```

```
// Available in V2 since version 2.30.29.

@DynamoDbBean
public class Customer{
  private String name;
  // Other attributes and methods not shown.
  public Customer setName(String name){
     this.name = name;
     return this;  // Returns this instance for method chaining with the `name` value
 set.
  }
}
```

のバージョン 1 とバージョン 2 の API の違いを文書化する AWS SDK for Java

ドキュメント API は、DynamoDB テーブルでの単一項目としての JSON 形式ドキュメントの使用をサポートしています。V1 の ドキュメント API に対応する API が V2 にありますが、V1 のようにドキュメント API に別のクライアントを使用するのではなく、V2 には DynamoDB 拡張クライアントにドキュメント API 機能が組み込まれています。

V1 では、 `Item` クラスは DynamoDB テーブルからの非構造化レコードを表します。V2 では、非構造化レコードは `EnhancedDocument` クラスのインスタンスによって表されます。プライマリキーは V2 ではテーブルスキーマで定義され、V1 では項目自体で定義されます。

次の表は、V1 と V2 のドキュメント API の違いを比較したものです。

ユースケース	V1	V2
Create a document client	`AmazonDynamoDB client = ... //Create a client.`	`// The V2 Document API uses the same DynamoDbEnhancedClient`

ユースケース	V1	V2
	`DynamoDB documentClient = new DynamoDB(client);`	`// that is used for mapping POJOs. DynamoDbClient standardClient = ... //Create a standard client. DynamoDbEnhancedClient enhancedClient = ... // Create an enhanced client.`
Reference a table	`Table documentTable = docClient.documentClient("Person");`	`DynamoDbTable<EnhancedDocument> documentTable = enhancedClient.table("Person", TableSchema.documentSchemaBuilder() .addIndexPartitionKey(TableMetadata.primaryIndexName(),"id", AttributeValueType.S) .attributeConverterProviders(AttributeConverterProvider.defaultProvider()) .build());`
Work with semi-structured data		

ユースケース	V1	V2

Put item	`Item item = new Item()`
	`  .withPrimaryKey("id", 50)`
	`  .withString("firstName", "Shirley");`
	`PutItemOutcome outcome = documentTable.putItem(item);`
		`EnhancedDocument personDocument = EnhancedDocument.builder()`
		`  .putNumber("id", 50)`
		`  .putString("firstName", "Shirley")`
		`  .build();`
		`documentTable.putItem(personDocument);`

Get item	`GetItemOutcome outcome = documentTable.getItemOutcome( "id", 50);`
	`Item personDocFromDb = outcome.getItem();`
	`String firstName = personDocFromDb.getString("firstName");`
		`EnhancedDocument personDocFromDb = documentTable`
		`  .getItem(Key.builder()`
		`  .partitionValue(50)`
		`  .build());`
		`String firstName = personDocFromDb.getString("firstName");`

Work with JSON items		

Convert a JSON structure to use it with the Document API	`// The 'jsonPerson' identifier is a JSON string.`
	`Item item = new Item().fromJSON(jsonPerson);`
		`// The 'jsonPerson' identifier is a JSON string.`
		`EnhancedDocument document = EnhancedDocument.builder()`
		`  .json(jsonPerson).build());`

ユースケース	V1	V2
Put JSON	`documentTable.putI tem(item)`	`documentTable.putI tem(document);`
Read JSON	`GetItemOutcome outcome = //Get item. String jsonPerson = outcome.getItem(). toJSON();`	`String jsonPerson = documentTable.getI tem(Key.builder() .partitio nValue(50).build()) .fromJson();`

ドキュメント API の API リファレンスとガイド

	V1	V2
API リファレンス	API リファレンス	API リファレンス
ドキュメントガイド	Amazon DynamoDB デベロッパーガイド	拡張ドキュメント API (本ガイド)

V1 の式仕様 API から V2 の式 API

ドキュメント指向データを操作するための式の作成に役立つ、V1 で利用可能な式仕様 (Xspec) API は、V2 では使用できません。V2 は 式 API を使用します。この API は、ドキュメント指向データと、オブジェクトから項目にマッピングされたデータの両方で動作します。

	V1	V2
API 名	式仕様 (Xspec) API	式 API
動作可能	updateItem や scan などのドキュメント API	DynamoDB 拡張クライアントの両方の API

	V1	V2
	テーブルクラスのメソッド	1. オブジェクトから項目へのマッピング API のメソッド 2. ドキュメント指向データ (JSON) を操作するための拡張ドキュメント API の メソッド どちらのタイプの API でも、`DynamoDbTable` インスタンスを次から取得した場合 • オブジェクトから項目へのマッピング API の場合、たとえば `BeanTableSchema` から • ドキュメント指向 API の場合、`DocumentTableSchema` から リクエストオブジェクトを作成するときに、`DynamoDbTable` メソッドで式を使用します。たとえば、`QueryEnhancedRequest.Builder` の `filterExpression` メソッドで使用します。
リソース	• 式仕様の初回リリースブログ記事 • API リファレンス	この Java デベロッパーガイドの式の情報

暗号化ライブラリの移行

Java SDK の V2 で動作するように DynamoDB の暗号化ライブラリを移行する方法については、「Amazon DynamoDB 暗号化クライアントデベロッパーガイド」を参照してください。

バージョン 1 からバージョン 2 での Amazon SQS リクエストの自動バッチ処理の変更

このトピックでは、 AWS SDK for Javaのバージョン 1 とバージョン 2 での Amazon SQS の自動リクエストバッチ処理の変更について詳しく説明します。

高レベル変更

AWS SDK for Java 1.x は、リクエストバッチ処理に明示的な初期化を必要とする別のAmazonSQSBufferedAsyncClientクラスを使用してクライアント側のバッファリングを実行します。

は、 を使用してバッファリング機能 AWS SDK for Java 2.x を簡素化および強化しますSqsAsyncBatchManager。このインターフェイスの実装により、標準の SqsAsyncClient と直接統合された自動リクエストバッチ処理機能が提供されます。v2 の SqsAsyncBatchManager の詳細については、このガイドの the section called “自動リクエストバッチ処理を使用する” トピックを参照してください。

変更	v1	v2
Maven の依存関係	<dependencyManagement> <dependencies> <dependency> <groupId> com.amazonaws</gro upId> <artifact Id>aws-java-sdk-bom</ artifactId> <version> *1.12.782*[1]</version> <type>pom</ type> <scope>im port</scope> </dependency> </dependencies> </dependencyManageme nt> <dependencies> <dependency> <groupId> com.amazonaws</gro upId> <artifact Id>aws-java-sdk-sqs</ artifactId> </dependency>	<dependencyManagement> <dependencies> <dependency> <groupId> software.amazon.aw ssdk</groupId> <artifact Id>bom</artifactId> <version> *2.31.15*[2]</version> <type>pom</ type> <scope>im port</scope> </dependency> </dependencies> </dependencyManageme nt> <dependencies> <dependency> <groupId> software.amazon.aw ssdk</groupId> <artifact Id>sqs</artifactId> </dependency> </dependencies>

変更	v1	v2
	</dependencies>	
パッケージ名	com.amazonaws.services.sqs.buffered	software.amazon.awssdk.services.sqs.batchmanager
クラス名	AmazonSQSBufferedAsyncClient	SqsAsyncBatchManager

[1] 最新バージョン。 [2] 最新バージョン。

自動 SQS リクエストバッチ処理の使用

変更	v1	v2
バッチマネージャーを作成する	`AmazonSQSAsync sqsAsync = new AmazonSQSAsyncClient(); AmazonSQSAsync bufferedSqs = new AmazonSQSBufferedAsyncClient(sqsAsync);`	`SqsAsyncClient asyncClient = SqsAsyncClient.create(); SqsAsyncBatchManager sqsAsyncBatchManager = asyncClient.batchManager();`
カスタム設定でバッチマネージャーを作成する	`AmazonSQSAsync sqsAsync = new AmazonSQSAsyncClient(); QueueBufferConfig queueBufferConfig = new QueueBufferConfig() .withMaxBatchOpenMs(200) .withMaxBatchSize(10)`	`BatchOverrideConfiguration batchOverrideConfiguration = BatchOverrideConfiguration.builder() .sendRequestFrequency(Duration.ofMillis(200)) .maxBatchSize(10) .receiveMessageMinWaitDurat`

変更	v1	v2
	.withMinReceiveWaitTimeMs(1000) .withVisibilityTimeoutSeconds(20) .withReceiveMessageAttributeNames(messageAttributeValues); AmazonSQSAsync bufferedSqs = new AmazonSQSBufferedAsyncClient(sqsAsync, queueBufferConfig);	ion(Duration.ofMillis(1000)) .receiveMessageVisibilityTimeout(Duration.ofSeconds(20)) .receiveMessageSystemAttributeNames(messageSystemAttributeNames) .receiveMessageAttributeNames(messageAttributeValues) .build(); SqsAsyncBatchManager sqsAsyncBatchManager = SqsAsyncBatchManager.builder() .overrideConfiguration(batchOverrideConfiguration) .client(SqsAsyncClient.create()) .scheduledExecutor(Executors.newScheduledThreadPool(8)) .build();

変更	v1	v2
メッセージを送信する	`Future<SendMessageResult> sendResultFuture = bufferedSqs.sendMessageAsync(new SendMessageRequest() .withQueueUrl(queueUrl) .withMessageBody(body));`	`CompletableFuture<SendMessageResponse> sendCompletableFuture = sqsAsyncBatchManager.sendMessage( SendMessageRequest.builder() .queueUrl(queueUrl) .messageBody(body) .build());`
メッセージの削除	`Future<DeleteMessageResult> deletResultFuture = bufferedSqs.deleteMessageAsync(new DeleteMessageRequest() .withQueueUrl(queueUrl));`	`CompletableFuture<DeleteMessageResponse> deleteResultCompletableFuture = sqsAsyncBatchManager.deleteMessage( DeleteMessageRequest.builder() .queueUrl(queueUrl) .build());`

変更	v1	v2
メッセージの可視性を変更する	`Future<ChangeMessageVisibilityResult> changeVisibilityResultFuture = bufferedSqs.changeMessageVisibilityAsync(new ChangeMessageVisibilityRequest() .withQueueUrl(queueUrl) .withVisibilityTimeout(20));`	`CompletableFuture<ChangeMessageVisibilityResponse> changeResponseCompletableFuture = sqsAsyncBatchManager.changeMessageVisibility( ChangeMessageVisibilityRequest.builder() .queueUrl(queueUrl) .visibilityTimeout(20) .build());`
メッセージを受信する	`ReceiveMessageResult receiveResult = bufferedSqs.receiveMessage(new ReceiveMessageRequest() .withQueueUrl(queueUrl));`	`CompletableFuture<ReceiveMessageResponse> responseCompletableFuture = sqsAsyncBatchManager.receiveMessage( ReceiveMessageRequest.builder() .queueUrl(queueUrl) .build());`

非同期戻り値の型の違い

変更	v1	v2
戻り型	`Future<ResultType>`	`CompletableFuture<ResponseType>`
コールバックメカニズム	個別の onSuccess メソッドと onError メソッドを持つ AsyncHandler が必要です	`whenComplete()` 、`thenCompose()` 、`thenApply()` など、JDK が提供する CompletableFuture API を使用します。
例外処理	`AsyncHandler#onError()` メソッドを使用する	`exceptionally()` 、`handle()`、`whenComplete()` など、JDK が提供する CompletableFuture API を使用します。
Cancellation	`Future.cancel()` による基本的なサポート	親の CompletableFuture をキャンセルすると、チェーン内のすべての依存する Future が自動的にキャンセルされます。

非同期完了処理の違い

変更	v1	v2
レスポンスハンドラーの実装	`Future<ReceiveMessageResult> future = bufferedSqs.receiveMessageAsync( receiveRequest, new AsyncHandler<ReceiveMessage`	`CompletableFuture<ReceiveMessageResponse> completableFuture = sqsAsyncBatchManager`

変更	v1	v2

	Request, ReceiveMessageResult>() {
	@Override
	public void onSuccess(ReceiveMessageRequest request,
	ReceiveMessageResult result) {
	List<Message> messages = result.getMessages();
	System.out.println("Received " + messages.size() + " messages");
	for (Message message : messages) {
	System.out.println("Message ID: " + message.getMessageId());
	System.out.println("Body: " + message.getBody());
	}
	}
	@Override
	public void onError(Exception e) {
	System.err.println("Error receiving messages: " + e.getMessage());
		.receiveMessage(ReceiveMessageRequest.builder()
		.queueUrl(queueUrl).build())
		.whenComplete((receiveMessageResponse, throwable) -> {
		if (throwable != null) {
		System.err.println("Error receiving messages: " + throwable.getMessage());
		throwable.printStackTrace();
		} else {
		List<Message> messages = receiveMessageResponse.messages();
		System.out.println("Received " + messages.size() + " messages");
		for (Message message : messages) {
		System.out.println("Message ID: " + message.messageId());
		System.out.println("Body: " + message.body());
		}
		}
		});

変更	v1	v2
	`e.printStackTrace(); } } );`	

主な設定パラメータ

パラメータ	v1	v2
最大バッチサイズ	`maxBatchSize` (デフォルトはバッチあたり 10 リクエスト)	`maxBatchSize` (デフォルトはバッチあたり 10 リクエスト)
バッチ待機時間	`maxBatchOpenMs` (デフォルトは 200 ミリ秒)	`sendRequestFrequency` (デフォルトは 200 ミリ秒)
可視性タイムアウト	`visibilityTimeoutSeconds` (キューのデフォルトは -1)	`receiveMessageVisibilityTimeout` (キューのデフォルト)
最小待機時間	`longPollWaitTimeoutSeconds` (longPoll が true の場合は 20 秒)	`receiveMessageMinWaitDuration` (デフォルトは 50 ミリ秒)
メッセージ属性	`ReceiveMessageRequest` を使用して設定する	`receiveMessageAttributeNames` (デフォルトではなし)
システム属性	`ReceiveMessageRequest` を使用して設定する	`receiveMessageSystemAttributeNames` (デフォルトではなし)
ロングポーリング	`longPoll` (デフォルトは true)	サーバーがメッセージを送信するまでオープン接続が待機

パラメータ	v1	v2
		しないように、サポートされていません
ロングポーリングの最大待機時間	`longPollWaitTimeoutSeconds` (デフォルトは 20 秒)	サーバーがメッセージを送信するまでオープン接続が待機しないように、サポートされていません
クライアント側に保存する、プリフェッチされる受信バッチの最大数。	`maxDoneReceiveBatches` (10 バッチ)	内部で処理されるため、サポートされていません
同時に処理されるアクティブな送信バッチの最大数	`maxInflightOutboundBatches` (デフォルトは 5 バッチ)	内部で処理されるため、サポートされていません
同時に処理されるアクティブな受信バッチの最大数	`maxInflightReceiveBatches` (デフォルトは 10 バッチ)	内部で処理されるため、サポートされていません

SDK メトリクスの公開をバージョン 1 からバージョン 2 に変更

このトピックでは、 のバージョン 1.x (v1) からバージョン 2.x (v2) へのクライアント側の SDK メトリクス発行の変更について詳しく説明します AWS SDK for Java。

高レベル変更

アーキテクチャの変更

v1 では、メトリクスコレクションは、システムプロパティで有効にする JVM 全体のグローバル設定です。SDK は、収集されたすべてのメトリクスを CloudWatch に自動的に発行します。メトリクスの送信先は 1 つだけです。

v2 では、メトリクスコレクションは、個々のサービスクライアントまたはリクエストにアタッチするプラガブル MetricPublisher インターフェイスを使用します。SDK には 3 つの実装があります。

- CloudWatchMetricPublisher: メトリクスを集約し、定期的に CloudWatch にアップロードします。長時間実行されるアプリケーションに最適です。
- EmfMetricLoggingPublisher: CloudWatch Embedded Metric Format (EMF) の構造化ログエントリとしてメトリクスを書き込みます。Lambda 関数やその他の存続期間の短い環境に最適です。
- LoggingMetricPublisher: SLF4J ログ記録を通じてメトリクスをコンソールに出力します。ローカル開発とデバッグに最適です。

スコープの変更

v1 では、メトリクスを有効にすると、JVM 内のすべての AWS サービスクライアントのデータが公開されます。v2 では、サービスクライアントレベルまたは個々のリクエストレベルでメトリクスを制御します。

メトリクスタイプの変更

v1 は、 AWS リクエストメトリクス、 AWS サービスメトリクス、マシンメトリクス (ヒープメモリ、スレッド数、オープンファイル記述子) の 3 つのカテゴリのメトリクスを収集します。

v2 は、API コール期間、マーシャリング期間、署名期間、再試行回数などの SDK リクエストおよびレスポンスメトリクスに焦点を当てています。v2 は、ヒープメモリ、スレッド数、オープンファイル記述子などのマシンメトリクスを収集しません。CloudWatch で JVM メトリクスを引き続き収集するには、JMX メトリクスコレクションで CloudWatch エージェントを使用できます。

依存関係の変更

次の表は、v1 と v2 の間の Maven の依存関係とパッケージ名の変更を示しています。

変更	v1	v2
Maven の依存関係	`<dependencyManagement> <dependencies> <dependency> <groupId> com.amazonaws</groupId> <artifactId>aws-java-sdk-bom</artifactId>`	`<dependencyManagement> <dependencies> <dependency> <groupId> software.amazon.awssdk</groupId> <artifactId>bom</artifactId> <version> 2.x.x[2]</version>`

変更	v1	v2
	<version> 1.12.x[1]</version> <type>pom</type> <scope>import</scope> </dependency> </dependencies> </dependencyManagement> <dependencies> <dependency> <groupId>com.amazonaws</groupId> <artifactId>aws-java-sdk-cloudwatchmetrics</artifactId> </dependency> </dependencies>	<type>pom</type> <scope>import</scope> </dependency> </dependencies> </dependencyManagement> <dependencies> <dependency> <groupId>software.amazon.awssdk</groupId> <artifactId>cloudwatch-metric-publisher</artifactId> </dependency> </dependencies>
パッケージ名	`com.amazonaws.metrics`	`software.amazon.awssdk.metrics`

[1] 最新バージョン。 [2] 最新バージョン。

次の表に示すように、v2 アーティファクトはユースケースによって異なります。

ユースケース	v2 artifactId	SDK の最小バージョン
長時間実行されるアプリケーション	`cloudwatch-metric-publisher`	2.14.0
Lambda 関数	`emf-metric-logging-publisher`	2.30.3
開発とデバッグ	追加の依存関係は必要ありません (LoggingMe	2.14.0

ユースケース	v2 artifactId	SDK の最小バージョン
	tricPublisher は SDK コアにあります)	

API の変更

メトリクスを有効にする

次の表は、さまざまなユースケースで v1 と v2 でメトリクスを有効にする方法を比較したものです。

ユースケース	v1	v2
メトリクスをグローバルに有効にする	JVM システムプロパティを追加します。 `-Dcom.amazonaws.sdk.enableDefaultMetrics=credentialFile=/path/aws.properties`	サポート外。を各サービスクライアントMetricPublisher にアタッチします。
認証情報ファイルなしで Amazon EC2 でメトリクスを有効にする	`-Dcom.amazonaws.sdk.enableDefaultMetrics`	該当なし。v2 は標準の認証情報解決を使用します。

サービスクライアントのメトリクスを有効にする	サポート外。メトリクスはグローバルまたはオフです。	`MetricPublisher metricsPub = CloudWatchMetricPublisher.create();`
		
		`DynamoDbClient ddb = DynamoDbClient.builder() .overrideConfiguration(c -> c .addMetricPublisher(metricsPub))`

ユースケース	v1	v2

		`.build();`
		
		`// ... use the client ...`
		
		`metricsPub.close();`
		`ddb.close();`

1 つのリクエストのメトリクスを有効にする	サポート外。	`ddb.listTables(ListTablesRequest.builder()`
		`.overrideConfiguration(c -> c`
		`.addMetricPublisher(metricsPub))`
		`.build());`

CloudWatch 送信先の設定

次の表は、v2 と比較して v1 で CloudWatch 送信先を設定する方法を示しています。

ユースケース	v1	v2

CloudWatch リージョンの設定	システムプロパティ属性:
	
	`-Dcom.amazonaws.sdk.enableDefaultMetrics=cloudwatchRegion= us-west-2`
		`CloudWatchMetricPublisher.builder()`
		`.cloudWatchClient(`
		`CloudWatchAsyncClient.builder()`
		`.region(Region.US_WEST_2)`
		`.build())`
		`.build();`

ユースケース	v1	v2

アップロード頻度を設定する	設定可能ではありません。1 分に約 1 回アップロードします。	`CloudWatchMetricPublisher.builder()`
		`    .uploadFrequency(Duration.ofMinutes(5))`
		`    .build();`

CloudWatch 名前空間の設定	を修正しましたAWSSDK/Java 。	デフォルトは AwsSdk/JavaSdk2 です。以下を介して設定可能:
		`CloudWatchMetricPublisher.builder()`
		`    .namespace("MyApp/SDK")`
		`    .build();`
		Note
		v1 名前空間 を参照する既存の CloudWatch ダッシュボードまたはアラームがある場合はAWSSDK/Java 、継続性を保持する.namespace("AWSSDK/Java")ように を設定します。

マシンメトリクスを除外する	システムプロパティ属性: `-Dcom.amazonaws.sdk.enableDefaultMetrics=excludeMachineMetrics`	該当なし。v2 はマシンメトリクスを収集しません。

Lambda 関数のメトリクス

v1 には Lambda 固有のメトリクスソリューションはありません。v2 EmfMetricLoggingPublisherでは、 を使用して CloudWatch Embedded Metric Format (EMF) の構造化ログエントリとしてメトリクスを書き込みます。

```
// v2 - Lambda-optimized metrics publishing
EmfMetricLoggingPublisher emfPublisher = EmfMetricLoggingPublisher.builder()
        .namespace("MyApp")
        .dimensions(CoreMetric.SERVICE_ID, CoreMetric.OPERATION_NAME)
        .build();

DynamoDbClient dynamoDb = DynamoDbClient.builder()
        .overrideConfiguration(c -> c.addMetricPublisher(emfPublisher))
        .build();
```

> **Note**
>
> Lambda 環境では、 logGroupNameはAWS_LAMBDA_LOG_GROUP_NAME環境変数から自動的に検出されます。Amazon ECS や Amazon EC2 などの Lambda 以外の環境では、ビルダーでlogGroupName明示的に を設定する必要があります。

開発とデバッグのメトリクス

v1 にはコンソールベースのメトリクス出力はありません。v2 では、 を使用しますLoggingMetricPublisher。

```
// v2 - Console output for debugging
MetricPublisher loggingPublisher = LoggingMetricPublisher.create();

S3Client s3 = S3Client.builder()
        .overrideConfiguration(c -> c.addMetricPublisher(loggingPublisher))
        .build();
```

ライフサイクル管理

v1 では、システムプロパティが設定されると、メトリクス収集は JVM の存続期間中実行されます。v2 では、 のライフサイクルを管理する必要がありますMetricPublisher。

```
// v2 - Close the publisher when no longer needed
```

```
MetricPublisher metricsPub = CloudWatchMetricPublisher.create();
DynamoDbClient ddb = DynamoDbClient.builder()
        .overrideConfiguration(c -> c.addMetricPublisher(metricsPub))
        .build();

// ... use the client ...

metricsPub.close(); // Flushes remaining metrics to CloudWatch
ddb.close();
```

> **Important**
>
> 不要になったMetricPublisherインスタンスcloseで を呼び出します。そうしないと、スレッドまたはファイル記述子のリークが発生する可能性があります。

必要なアクセス許可

次の表に、各メトリクスパブリッシャーに必要な IAM アクセス許可を示します。

アクセス許可タイプ	v1	v2 (CloudWatchMetricPublisher)	v2 (EmfMetricLoggingPublisher)
IAM 許可	`cloudwatch:PutMetricData`	`cloudwatch:PutMetricData`	`logs:PutLogEvents`

制限事項

AWS CRT ベースの S3 クライアントは現在、v2 での SDK メトリクス収集をサポートしていません。

その他のリソース

- v1 メトリクスドキュメント
- から SDK メトリクスを発行する AWS SDK for Java 2.x
- 長時間実行されるアプリケーションから SDK メトリクスを発行する
- 関数の AWS Lambda SDK メトリクスを発行する

- SDK メトリクスをコンソールに出力する
- 包括的なメトリクスリファレンス

SDK for Java 1.x と 2.x を並行して使用する

プロジェクトで AWS SDK for Java の両方のバージョンを使用できます。

バージョン 1.x から Amazon S3 を使用し、バージョン 2.27.21 から DynamoDB を使用するプロジェクト用の `pom.xml` ファイルの例を以下に示します。

Example POM の例

この例では、SDK の 1.x と 2.x バージョンの両方を使用するプロジェクトの `pom.xml` ファイルエントリを示しています。

```
<dependencyManagement>
    <dependencies>
        <dependency>
            <groupId>com.amazonaws</groupId>
            <artifactId>aws-java-sdk-bom</artifactId>
            <version>1.12.1</version>
            <type>pom</type>
            <scope>import</scope>
        </dependency>
        <dependency>
          <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
          <artifactId>bom</artifactId>
          <version>2.27.21</version>
          <type>pom</type>
          <scope>import</scope>
        </dependency>
    </dependencies>
</dependencyManagement>

<dependencies>
    <dependency>
      <groupId>com.amazonaws</groupId>
      <artifactId>aws-java-sdk-s3</artifactId>
    </dependency>
    <dependency>
      <groupId>software.amazon.awssdk</groupId>
      <artifactId>dynamodb</artifactId>
```

```
    </dependency>
</dependencies>
```

のセキュリティ AWS SDK for Java

クラウドセキュリティは Amazon Web Services (AWS) の最優先事項です。 AWS のお客様は、セキュリティを非常に重視する組織の要件を満たせるように構築されたデータセンターとネットワークアーキテクチャーから利点を得ます。セキュリティは、 AWS お客様とお客様の間の責任共有です。責任共有モデルでは、これをクラウドのセキュリティおよびクラウド内のセキュリティとして説明しています。

クラウドのセキュリティ – AWS クラウドで提供されているすべてのサービスを実行するインフラストラクチャ AWS を保護し、安全に使用できるサービスを提供します。における当社のセキュリティ責任は最優先事項であり AWS、当社のセキュリティの有効性は、AWS コンプライアンスプログラムの一環としてサードパーティーの監査者によって定期的にテストおよび検証されています。

クラウド内のセキュリティ – お客様の責任は、使用している AWS サービス、データの機密性、組織の要件、適用される法律や規制などのその他の要因によって決まります。

この AWS 製品またはサービスは、サポートする特定の Amazon Web Services (AWS) サービスを通じて責任共有モデルに従います。 AWS サービスセキュリティ情報については、AWS 「サービスセキュリティドキュメント」ページとAWS 、コンプライアンスプログラムによる AWS コンプライアンスの取り組みの対象となるサービスを参照してください。

トピック

- AWS SDK for Java 2.x でのデータ保護
- SDK for Java で TLS の使用
- Identity and Access Management
- この AWS 製品またはサービスのコンプライアンス検証
- この AWS 製品またはサービスの耐障害性
- この AWS 製品またはサービスのインフラストラクチャセキュリティ

AWS SDK for Java 2.x でのデータ保護

AWS 責任共有モデル は、 AWS SDK for Javaでのデータ保護に適用されます。このモデルで説明されているように、 AWS はすべての を実行するグローバルインフラストラクチャを保護する責任があります AWS クラウド。ユーザーは、このインフラストラクチャでホストされるコンテンツに対する管理を維持する責任があります。また、使用する AWS のサービス のセキュリティ設定と管理タスクもユーザーの責任となります。データプライバシーの詳細については、「Data Privacy

FAQChina」を参照してください。 欧州におけるデータ保護に関する情報については、General Data Protection Regulation (GDPR) Center を参照してください。

データ保護の目的で、認証情報を保護し AWS アカウント 、 AWS IAM アイデンティティセンターまたは AWS Identity and Access Management (IAM) を使用して個々のユーザーを設定することをお勧めします。この方法により、各自のジョブを遂行するために必要なアクセス許可のみが各ユーザーに付与されます。また、次の方法でデータを保護することもお勧めします:

- 各アカウントで多要素認証 (MFA) を使用します。
- SSL/TLS を使用して AWS リソースと通信します。TLS 1.2 は必須ですが、TLS 1.3 を推奨します。
- で API とユーザーアクティビティのログ記録を設定します AWS CloudTrail。CloudTrail 証跡を使用して AWS アクティビティをキャプチャする方法については、「 AWS CloudTrail ユーザーガイド」のCloudTrail 証跡の使用」を参照してください。
- AWS 暗号化ソリューションと、その中のすべてのデフォルトのセキュリティコントロールを使用します AWS のサービス。
- Amazon Macie などの高度な管理されたセキュリティサービスを使用します。これらは、Amazon S3 に保存されている機密データの検出と保護を支援します。
- コマンドラインインターフェイスまたは API AWS を介して にアクセスするときに FIPS 140-3 検証済み暗号化モジュールが必要な場合は、FIPS エンドポイントを使用します。利用可能な FIPS エンドポイントの詳細については、「連邦情報処理規格 (FIPS) 140-3」を参照してください。

お客様の E メールアドレスなどの極秘または機密情報を、タグ、または [名前] フィールドなどの自由形式のテキストフィールドに含めないことを強くお勧めします。これは、コンソール、API、または SDK を使用して SDK for Java AWS CLIまたは他の AWS のサービス を使用する場合も同様 AWS SDKs。タグ、または名前に使用される自由記述のテキストフィールドに入力したデータは、請求または診断ログに使用される場合があります。外部サーバーに URL を提供する場合、そのサーバーへのリクエストを検証できるように、認証情報を URL に含めないことを強くお勧めします。

SDK for Java で TLS の使用

は、基盤となる Java プラットフォームの TLS 機能 AWS SDK for Java を使用します。このトピックでは、Amazon Corretto 17 で使用されている OpenJDK 実装を使用した例を紹介します。

を使用するには AWS のサービス、基盤となる JDK が TLS 1.2 の最小バージョンをサポートしている必要がありますが、TLS 1.3 が推奨されます。

TLS 1.3 は、量子後暗号化を有効にするための前提条件であり、追加のアクションまたは設定が必要になる場合があります。詳細については、「ハイブリッドポスト量子 TLS の有効化」を参照してください。

ユーザーは、SDK で使用している Java プラットフォームのドキュメントを参照して、デフォルトで有効になっている TLS バージョンと、特定の TLS バージョンを有効または無効にする方法を確認する必要があります。

TLS バージョン情報を確認する方法

OpenJDK を使用した次のコードは、SSLContext を使用して、サポートされている TLS/SSL バージョンを出力する方法を示しています。

```
System.out.println(Arrays.toString(SSLContext.getDefault().getSupportedSSLParameters().getProto
```

たとえば、Amazon Corretto 17 (OpenJDK) は以下の出力を生成します。

```
[TLSv1.3, TLSv1.2, TLSv1.1, TLSv1, SSLv3, SSLv2Hello]
```

動作中の SSL ハンドシェイクと使用されている TLS のバージョンを確認するには、システムプロパティ javax.net.debug を使用します。

たとえば、TLS を使用する Java アプリケーションを実行します。

```
java app.jar -Djavax.net.debug=ssl:handshake
```

アプリケーションでは、次のような SSL ハンドシェイクがログ記録されます。

```
...
javax.net.ssl|DEBUG|10|main|2022-12-23 13:53:12.221 EST|ClientHello.java:641|Produced
 ClientHello handshake message (
"ClientHello": {
  "client version"      : "TLSv1.2",

...
javax.net.ssl|DEBUG|10|main|2022-12-23 13:53:12.295 EST|ServerHello.java:888|Consuming
 ServerHello handshake message (
"ServerHello": {
  "server version"      : "TLSv1.2",
```

```
...
```

> **AWS CRT HTTP クライアント TLS デバッグ**
>
> AWS CRT HTTP クライアントを使用する場合、前述の例に示す Java TLS デバッグプロパティは、CRT が独自の TLS スタックを使用するため、効果がありません。CRT HTTP クライアントを使用してネットワークレベルのリクエストの詳細を検査するには、ワイヤログ記録を有効にします。詳細については、「the section called “ワイヤログの有効化”」を参照してください。

最小 TLS バージョンを強制する

SDK for Java は、プラットフォームとサービスでサポートされている最新の TLS バージョンを常に優先します。特定の最小 TLS バージョンを適用するアプローチは、使用する HTTP クライアントによって異なります。

Java TLS スタックを使用する Apache、Netty、URL Connection HTTP クライアントの場合は、システムプロパティ を使用しますjdk.tls.client.protocols。例えば、SDK サービスクライアントに TLS 1.3 を適用するには、次のシステムプロパティを指定します。

```
java -Djdk.tls.client.protocols=TLSv1.3 -jar app.jar
```

TLS バージョンの設定の詳細については、Java プラットフォームのドキュメントを参照してください。

独自の TLS スタックを使用する AWS CRT HTTP クライアントの場合、jdk.tls.client.protocolsシステムプロパティは効果がありません。代わりに、minTlsVersionビルダーオプションを使用して最小 TLS バージョンを適用します。

TlsVersion 列挙型 (software.amazon.awssdk.http.crt.TlsVersion) には、次の値があります。

TLS_1_3

最小バージョンとして TLS 1.3 を適用します。

SYSTEM_DEFAULT

プラットフォームのデフォルトの TLS バージョンネゴシエーション動作を使用します。

次の例では、TLS 1 AWS .3 を最小バージョンとして適用する同期 CRT HTTP クライアントを作成します。

```
import software.amazon.awssdk.http.crt.AwsCrtHttpClient;
import software.amazon.awssdk.http.crt.TlsVersion;

AwsCrtHttpClient httpClient = AwsCrtHttpClient.builder()
        .minTlsVersion(TlsVersion.TLS_1_3)
        .build();
```

次の例では、TLS 1 AWS .3 を最小バージョンとして適用する非同期 CRT HTTP クライアントを作成します。

```
import software.amazon.awssdk.http.crt.AwsCrtAsyncHttpClient;
import software.amazon.awssdk.http.crt.TlsVersion;

AwsCrtAsyncHttpClient asyncHttpClient = AwsCrtAsyncHttpClient.builder()
        .minTlsVersion(TlsVersion.TLS_1_3)
        .build();
```

その後、設定された HTTP クライアントを AWS サービスクライアントに渡すことができます。

```
import software.amazon.awssdk.services.s3.S3Client;
import software.amazon.awssdk.http.crt.AwsCrtHttpClient;
import software.amazon.awssdk.http.crt.TlsVersion;

S3Client s3Client = S3Client.builder()
        .httpClientBuilder(AwsCrtHttpClient.builder()
                .minTlsVersion(TlsVersion.TLS_1_3))
        .build();
```

⚠ TLS 1.3 の macOS 要件

デフォルトの macOS CRT TLS バックエンドである Apple Secure Transport は、TLS 1.3 をサポートしていません。macOS `TlsVersion.TLS_1_3`で を使用するには、アプリケーションを起動する前に、環境変数`AWS_CRT_USE_NON_FIPS_TLS_13`を空でない値に設定する必要があります。これにより、CRT が s2n-tls バックエンドに切り替わります。
この環境変数を使用する場合は、次の考慮事項に注意してください。

- s2n-tls バックエンドは FIPS 検証されていません。

- s2n-tls バックエンドは macOS Keychain と統合されません。

この環境変数を macOS に設定しない場合、最初のリクエストは CRT 側のエラーで失敗します。

⚠ ポスト量子 TLS 設定による相互除外

`postQuantumTlsEnabled(false)` を と組み合わせることはできませんminTlsVersion(TlsVersion.TLS_1_3)。これらのオプションは、CRT TLS コンテキストでは相互に排他的です。両方を指定すると、ビルダーは をスローしますIllegalStateException。

AWS API エンドポイントを TLS 1.2 にアップグレードする

最小バージョンの TLS 1.2 に移行する AWS API エンドポイントの詳細については、このブログ記事を参照してください。

Identity and Access Management

AWS Identity and Access Management (IAM) は、管理者が AWS リソースへのアクセスを安全に制御 AWS のサービス するのに役立つ です。IAM 管理者は、誰を認証 (サインイン) し、誰に AWS リソースの使用を許可する (アクセス許可を付与する) かを制御します。IAM は、追加料金なしで使用できる AWS のサービス です。

トピック

- オーディエンス
- アイデンティティを使用した認証
- ポリシーを使用したアクセス管理
- IAM AWS のサービス の操作方法
- AWS ID とアクセスのトラブルシューティング

オーディエンス

AWS Identity and Access Management (IAM) の使用方法は、 で行う作業によって異なります AWS。

サービスユーザー – AWS のサービス を使用してジョブを実行する場合、管理者から必要な認証情報とアクセス許可が提供されます。さらに多くの AWS 機能を使用して作業を行う場合は、追加のアクセス許可が必要になることがあります。アクセスの管理方法を理解すると、管理者に適切なアクセス許可をリクエストするのに役に立ちます。の機能にアクセスできない場合は AWS、 AWS のサービス AWS ID とアクセスのトラブルシューティング「」または使用している のユーザーガイドを参照してください。

サービス管理者 – 社内の AWS リソースを担当している場合は、通常、 へのフルアクセスがあります AWS。サービスユーザーがどの AWS 機能やリソースにアクセスするかを決めるのは管理者の仕事です。その後、IAM 管理者にリクエストを送信して、サービスユーザーの権限を変更する必要があります。このページの情報を点検して、IAM の基本概念を理解してください。会社で IAM を使用する方法の詳細については AWS、使用している AWS のサービス のユーザーガイドを参照してください。

IAM 管理者 - 管理者は、 AWSへのアクセスを管理するポリシーの書き込み方法の詳細について確認する場合があります。IAM で使用できる AWS アイデンティティベースのポリシーの例を表示するには、 AWS のサービス 使用している のユーザーガイドを参照してください。

アイデンティティを使用した認証

認証とは、ID 認証情報 AWS を使用して にサインインする方法です。、IAM ユーザー AWS アカウントのルートユーザー、または IAM ロールを引き受けることで認証される必要があります。

AWS IAM アイデンティティセンター (IAM Identity Center)、シングルサインオン認証、Google/Facebook 認証情報などの ID ソースからの認証情報を使用して、フェデレーティッド ID としてサインインできます。サインインの詳細については、「AWS サインイン ユーザーガイド」の「AWS アカウントにサインインする方法」を参照してください。

プログラムによるアクセスの場合、 は SDK と CLI AWS を提供してリクエストを暗号化して署名します。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「API リクエストに対するAWS 署名バージョン 4」を参照してください。

AWS アカウント ルートユーザー

を作成するときは AWS アカウント、まず、すべての AWS のサービス および リソースへの完全なアクセス権を持つ AWS アカウント root ユーザーと呼ばれる 1 つのサインイン ID から始めます。日常的なタスクには、ルートユーザーを使用しないことを強くお勧めします。ルートユーザー認証情報を必要とするタスクについては、「IAM ユーザーガイド」の「ルートユーザー認証情報が必要なタスク」を参照してください。

フェデレーテッドアイデンティティ

ベストプラクティスとして、人間のユーザーが一時的な認証情報 AWS のサービス を使用して にアクセスするには、ID プロバイダーとのフェデレーションを使用する必要があります。

フェデレーティッド ID は、エンタープライズディレクトリ、ウェブ ID プロバイダー、または ID Directory Service ソースの認証情報 AWS のサービス を使用して にアクセスするユーザーです。フェデレーテッドアイデンティティは、一時的な認証情報を提供するロールを引き受けます。

アクセスを一元管理する場合は、 AWS IAM アイデンティティセンターをお勧めします。詳細については、「AWS IAM アイデンティティセンター ユーザーガイド」の「IAM アイデンティティセンターとは」を参照してください。

IAM ユーザーとグループ

IAM ユーザーは、特定の個人やアプリケーションに対する特定のアクセス許可を持つアイデンティティです。長期認証情報を持つ IAM ユーザーの代わりに一時的な認証情報を使用することをお勧めします。詳細については、IAM ユーザーガイドの「ID プロバイダーとのフェデレーションを使用して にアクセスする必要がある AWS」を参照してください。

IAM グループは、IAM ユーザーの集合を指定し、大量のユーザーに対するアクセス許可の管理を容易にします。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「IAM ユーザーに関するユースケース」を参照してください。

IAM ロール

IAM ロールは、特定のアクセス許可を持つアイデンティであり、一時的な認証情報を提供します。ユーザーから IAM ロール (コンソール) に切り替えるか、 または API オペレーションを呼び出すことで、ロールを引き受けることができます。 AWS CLI AWS 詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「ロールを引き受けるための各種方法」を参照してください。

IAM ロールは、フェデレーションユーザーアクセス、一時的な IAM ユーザーのアクセス許可、クロスアカウントアクセス、クロスサービスアクセス、および Amazon EC2 で実行するアプリケーショ

ンに役立ちます。詳細については、IAM ユーザーガイド の IAM でのクロスアカウントリソースアクセス を参照してください。

ポリシーを使用したアクセス管理

でアクセスを制御する AWS には、ポリシーを作成し、ID AWS またはリソースにアタッチします。ポリシーは、ID またはリソースに関連付けられている場合のアクセス許可を定義します。 は、プリンシパルがリクエストを行うときにこれらのポリシー AWS を評価します。ほとんどのポリシーは JSON ドキュメント AWS として に保存されます。JSON ポリシードキュメントの詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「JSON ポリシー概要」を参照してください。

管理者は、ポリシーを使用して、どのプリンシパルがどのリソースに対して、どのような条件でアクションを実行できるかを定義することで、誰が何にアクセスできるかを指定します。

デフォルトでは、ユーザーやロールにアクセス許可はありません。IAM 管理者は IAM ポリシーを作成してロールに追加し、このロールをユーザーが引き受けられるようにします。IAM ポリシーは、オペレーションの実行方法を問わず、アクセス許可を定義します。

アイデンティティベースのポリシー

アイデンティティベースのポリシーは、アイデンティティ (ユーザー、グループ、またはロール) にアタッチできる JSON アクセス許可ポリシードキュメントです。これらのポリシーは、アイデンティティがどのリソースに対してどのような条件下でどのようなアクションを実行できるかを制御します。アイデンティティベースポリシーの作成方法については、IAM ユーザーガイド の カスタマー管理ポリシーでカスタム IAM アクセス許可を定義する を参照してください。

アイデンティティベースのポリシーは、インラインポリシー (単一の ID に直接埋め込む) または管理ポリシー (複数の ID にアタッチされたスタンドアロンポリシー) にすることができます。管理ポリシーとインラインポリシーのいずれかを選択する方法については、「IAM ユーザーガイド」の「管理ポリシーとインラインポリシーのいずれかを選択する」を参照してください。

リソースベースのポリシー

リソースベースのポリシーは、リソースにアタッチする JSON ポリシードキュメントです。例としては、IAM ロール信頼ポリシーや Amazon S3 バケットポリシーなどがあります。リソースベースのポリシーをサポートするサービスでは、サービス管理者はポリシーを使用して特定のリソースへのアクセスを制御できます。リソースベースのポリシーでは、プリンシパルを指定する必要があります。

リソースベースのポリシーは、そのサービス内にあるインラインポリシーです。リソースベースのポリシーでは、IAM の AWS マネージドポリシーを使用できません。

アクセスコントロールリスト (ACL)

アクセスコントロールリスト (ACL) は、どのプリンシパル (アカウントメンバー、ユーザー、またはロール) がリソースにアクセスするためのアクセス許可を持つかを制御します。ACL はリソースベースのポリシーに似ていますが、JSON ポリシードキュメント形式は使用しません。

Amazon S3、および Amazon VPC は AWS WAF、ACLs。ACL の詳細については、Amazon Simple Storage Service デベロッパーガイド の アクセスコントロールリスト (ACL) の概要 を参照してください。

その他のポリシータイプ

AWS は、より一般的なポリシータイプによって付与されるアクセス許可の上限を設定できる追加のポリシータイプをサポートしています。

- アクセス許可の境界 – アイデンティティベースのポリシーで IAM エンティティに付与することのできるアクセス許可の数の上限を設定します。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「IAM エンティティのアクセス許可境界」を参照してください。
- サービスコントロールポリシー (SCP) - AWS Organizations内の組織または組織単位の最大のアクセス許可を指定します。詳細については、「AWS Organizations ユーザーガイド」の「サービスコントロールポリシー」を参照してください。
- リソースコントロールポリシー (RCP) – は、アカウント内のリソースで利用できる最大数のアクセス許可を定義します。詳細については、「AWS Organizations ユーザーガイド」の「リソースコントロールポリシー (RCP)」を参照してください。
- セッションポリシー – ロールまたはフェデレーションユーザーの一時セッションを作成する際にパラメータとして渡される高度なポリシーです。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「セッションポリシー」を参照してください。

複数のポリシータイプ

1 つのリクエストに複数のタイプのポリシーが適用されると、結果として作成されるアクセス許可を理解するのがさらに難しくなります。が複数のポリシータイプが関与する場合にリクエストを許可するかどうか AWS を決定する方法については、「IAM ユーザーガイド」の「ポリシー評価ロジック」を参照してください。

IAM AWS のサービス の操作方法

ほとんどの IAM 機能と AWS のサービス の連携方法の概要については、IAM ユーザーガイドのAWS「IAM と連携する のサービス」を参照してください。

IAM AWS のサービス で特定の を使用する方法については、関連するサービスのユーザーガイドのセキュリティセクションを参照してください。

AWS ID とアクセスのトラブルシューティング

次の情報は、 および IAM の使用時に発生する可能性がある一般的な問題の診断 AWS と修正に役立ちます。

トピック

- でアクションを実行する権限がありません AWS
- iam:PassRole を実行する権限がありません
- 自分の 以外のユーザーに自分の AWS リソース AWS アカウント へのアクセスを許可したい

でアクションを実行する権限がありません AWS

アクションを実行する権限がないというエラーが表示された場合は、そのアクションを実行できるようにポリシーを更新する必要があります。

次のエラー例は、mateojackson IAM ユーザーがコンソールを使用して、ある *my-example-widget* リソースに関する詳細情報を表示しようとしたことを想定して、その際に必要な awes:*GetWidget* アクセス許可を持っていない場合に発生するものです。

```
User: arn:aws:iam::123456789012:user/mateojackson is not authorized to perform:
 awes:GetWidget on resource: my-example-widget
```

この場合、awes:*GetWidget* アクションを使用して *my-example-widget* リソースへのアクセスを許可するように、mateojackson ユーザーのポリシーを更新する必要があります。

サポートが必要な場合は、 AWS 管理者にお問い合わせください。サインイン認証情報を提供した担当者が管理者です。

iam:PassRole を実行する権限がありません

`iam:PassRole` アクションを実行する権限がないというエラーが表示された場合は、ポリシーを更新して AWSにロールを渡すことができるようにする必要があります。

一部の AWS のサービス では、新しいサービスロールまたはサービスにリンクされたロールを作成する代わりに、そのサービスに既存のロールを渡すことができます。そのためには、サービスにロールを渡す権限が必要です。

以下の例のエラーは、`marymajor` という IAM ユーザーがコンソールを使用して AWSでアクションを実行しようとする場合に発生します。ただし、このアクションをサービスが実行するには、サービスロールから付与された権限が必要です。Mary には、ロールをサービスに渡すアクセス許可がありません。

```
User: arn:aws:iam::123456789012:user/marymajor is not authorized to perform:
 iam:PassRole
```

この場合、Mary のポリシーを更新して `iam:PassRole` アクションの実行を彼女に許可する必要があります。

サポートが必要な場合は、 AWS 管理者にお問い合わせください。サインイン資格情報を提供した担当者が管理者です。

自分の 以外のユーザーに自分の AWS リソース AWS アカウント へのアクセスを許可したい

他のアカウントのユーザーや組織外の人が、リソースにアクセスするために使用できるロールを作成できます。ロールの引き受けを委託するユーザーを指定できます。リソースベースのポリシーまたはアクセスコントロールリスト (ACL) をサポートするサービスの場合、それらのポリシーを使用して、リソースへのアクセスを付与できます。

詳細については、以下を参照してください:

- がこれらの機能 AWS をサポートしているかどうかを確認するには、「」を参照してくださいIAM AWS のサービス の操作方法。
- 所有 AWS アカウント している のリソースへのアクセスを提供する方法については、「IAM ユーザーガイド」の「所有 AWS アカウント している別の の IAM ユーザーへのアクセスを提供する」を参照してください。

- リソースへのアクセスをサードパーティーに提供する方法については AWS アカウント、IAM ユーザーガイドの「サードパーティー AWS アカウント が所有する へのアクセスを提供する」を参照してください。
- ID フェデレーションを介してアクセスを提供する方法については、IAM ユーザーガイド の 外部で認証されたユーザー (ID フェデレーション) へのアクセスの許可 を参照してください。
- クロスアカウントアクセスにおけるロールとリソースベースのポリシーの使用方法の違いについては、「IAM ユーザーガイド」の「IAM でのクロスアカウントのリソースへのアクセス」を参照してください。

この AWS 製品またはサービスのコンプライアンス検証

新しい AWS サインアップエクスペリエンスは、規制されたワークロード向けには設計されていません。新しい AWS サインアップエクスペリエンスを使用しているが、規制対象のワークロード AWS に を使用する場合は、 AWS (アドバンスド) にサインアップするか、 AWS 環境の高度な機能をアクティブ化できます。

AWS のサービス が特定のコンプライアンスプログラムの範囲内にあるかどうかを確認するには、「コンプライアンスAWS のサービス プログラムによる対象範囲内」の「コンプライアンス」を参照し、関心のあるコンプライアンスプログラムを選択します。一般的な情報については、AWS 「コンプライアンスプログラム」を参照してください。

を使用して、サードパーティーの監査レポートをダウンロードできます AWS Artifact。詳細については、「Downloading Reports in AWS Artifact」を参照してください。

を使用する際のお客様のコンプライアンス責任 AWS のサービス は、お客様のデータの機密性、貴社のコンプライアンス目的、適用される法律および規制によって決まります。を使用する際のコンプライアンス責任の詳細については AWS のサービス、AWS 「 セキュリティドキュメント」を参照してください。

この AWS 製品またはサービスは、サポートする特定の Amazon Web Services (AWS) サービスを通じて責任共有モデルに従います。 AWS サービスセキュリティ情報については、AWS 「サービスセキュリティドキュメント」ページとAWS 、コンプライアンスプログラムによる AWS コンプライアンスの取り組みの対象となるサービスを参照してください。

この AWS 製品またはサービスの耐障害性

AWS グローバルインフラストラクチャは、 AWS リージョン およびアベイラビリティーゾーンを中心に構築されています。

AWS リージョン は、複数の物理的に分離および分離されたアベイラビリティーゾーンを提供します。これらは、低レイテンシー、高スループット、および高度に冗長なネットワークで接続されます。

アベイラビリティーゾーンでは、ゾーン間で中断することなく自動的にフェールオーバーするアプリケーションとデータベースを設計および運用することができます。アベイラビリティーゾーンは、従来の単一または複数のデータセンターインフラストラクチャよりも可用性、フォールトトレランス、および拡張性が優れています。

AWS リージョンとアベイラビリティーゾーンの詳細については、AWS 「グローバルインフラストラクチャ」を参照してください。

この AWS 製品またはサービスは、サポートする特定の Amazon Web Services (AWS) サービスを通じて責任共有モデルに従います。 AWS サービスセキュリティ情報については、AWS 「サービスセキュリティドキュメント」ページとAWS 、コンプライアンスプログラムによる AWS コンプライアンスの取り組みの対象となるサービスを参照してください。

この AWS 製品またはサービスのインフラストラクチャセキュリティ

この AWS 製品またはサービスはマネージドサービスを使用するため、 グローバルネットワークセキュリティによって AWS 保護されています。 AWS セキュリティサービスと がインフラストラクチャ AWS を保護する方法については、AWS 「 クラウドセキュリティ」を参照してください。インフラストラクチャセキュリティのベストプラクティスを使用して AWS 環境を設計するには、「Security Pillar AWS Well-Architected Framework」の「Infrastructure Protection」を参照してください。

AWS 公開された API コールを使用して、ネットワーク経由でこの AWS 製品またはサービスにアクセスします。クライアントは以下をサポートする必要があります。

- Transport Layer Security (TLS)。TLS 1.2 が必須で、TLS 1.3 をお勧めします。
- DHE (楕円ディフィー・ヘルマン鍵共有) や ECDHE (楕円曲線ディフィー・ヘルマン鍵共有) などの完全前方秘匿性 (PFS) による暗号スイート。これらのモードは Java 7 以降など、ほとんどの最新システムでサポートされています。

また、リクエストにはアクセスキー ID と、IAM プリンシパルに関連付けられているシークレットアクセスキーを使用して署名する必要があります。または、AWS Security Token Service (AWS STS) を使用して、一時的なセキュリティ認証情報を生成し、リクエストに署名することもできます。

この AWS 製品またはサービスは、サポートする特定の Amazon Web Services (AWS) サービスを通じて責任共有モデルに従います。 AWS サービスセキュリティ情報については、AWS 「サービスセキュリティドキュメント」ページとAWS 、コンプライアンスプログラムによる AWS コンプライアンスの取り組みの対象となるサービスを参照してください。

AWS SDK for Java 用の OpenPGP 鍵

AWS SDK for Java 用に一般公開されている Maven アーティファクトはすべて OpenPGP 標準を使用して署名されています。アーティファクトの署名を検証するのに必要な公開鍵については、以下のセクションを参照してください。

現在のキー

次の表は、SDK for Java 1x と SDK for Java 2.x の最新リリースの OpenPGP 鍵情報を示しています。

キー ID	0xAC107B386692DADD
タイプ	RSA
サイズ	4096/4096
作成	2016-06-30
有効期限	2026-09-27
ユーザー ID	AWS SDK とツール <aws-dr-tools@amazon.com>
キーフィンガープリント	FEB9 209F 2F2F 3F46 6484 1E55 AC10 7B38 6692 DADD

次の SDK for Java 用の OpenPGP 公開鍵をクリップボードにコピーするには、右上隅にある [コピー] アイコンを選択します。

```
-----BEGIN PGP PUBLIC KEY BLOCK-----
Comment: Hostname:
Version: Hockeypuck 2.2

xsFNBFd1gAUBEACqbmmFbxdJgz1lD7wrlskQA1LLuSAC4p8ny9u/D2zLR8Ynk3Yz
mzJuQ+Kfjne2t+xTDex6MPJlMYpOviSWsX2psgvdmeyUpW9ap0lrThNYkc+W5fRc
buFehfbi9LSATZGJi8RG0sCCr5FsYVz0gEk85M2+PeM24cXhQIOZtQUjswX/pdk/
KduGtZASqNAYLKROmRODzUuaokLPo24pfm9bnr1RnRtwt5ktPAA5bM9ZZaGKriej
kT2lPffbBjp8F5AZvmGLtNm2Cmg4FKBvI04SQjy2jjrQ3wBzi5Lc9HTxDuHK/rtV
```

```
u6PewUe2WPlnxlXenhMZU1UK4YoSB9E9StQ2VxQiySLHSdxR7Ma4WgYdVLn9bOie
nj3QxLuQ1ZUKF79ES6JaM4tOz1gGcQeU1+UklgjFLuKwmzWRdEIFfxMyvH6qgKnd
U+DioH5mcUwhwffAAsuIJyAdMIEUYh7IfzJJXQf+fF+XfOCl6byOJFWrIGQkAzMu
CEvaCfwtHC2Lpzo33/WRFeMAuzzd0QJ4uz4xFFvaSOSZHMLHWI9YV/+Pea3X99Ms
0Nlek/LolAJh67MynHeVBOHKrq+fluorWepQivctzN6Y1NOkx5naTPGGaKWK7G2q
TbcY5SMnkIWfLFSougj0Fvmjczq8iZRwYxWA+i+LQvsR9WEXEiQffIWRoQARAQAB
zSxBV1MgU0RLcyBhbmQgVG9vbHMgPGF3cy1kci10b29sc0BhbWF6b24uY29tPsLB
lAQTAQoAPgIbAwULCQgHAwUVCgkICwUWAgMBAAIeAQIXgBYhBP65IJ8vLz9GZIQe
VawQezhmktrdBQJo12ZrBQkTQxnmAAoJEKwQezhmktrdi18P/A3De83MBx8bdcWJ
Fot71Vk1TyBQFErgrtcytSU0czEHx3tGbzgQLbMlyzjirOT03usxEkOeqTVK+RU+
5uFXNZYQLwMJlHJ6S8tnfLe/ExM5WQ2KPwIUPfZs1GDDRQB2dIKSc+qYrP1O1vf4
O4iPgfLHMW2bFh3zjjxcaHCJyqc7Cau33eZFBAsRni1jOUo7MeyX0hlXfW8pd48Q
wZllQVZ/6KmDiFWA0CZ+2svJ5cL0tgPoh1OQjoz0nHpNfuDILMrZ+e7tx2VTlkGH
UGeNSydnrK8v9ztFn34KtU/k7NEWoVSyEi+5ICZL18FBwPqTwdVWXwXrqZCKiIpr
8ZdJWDz2sJfgDFNCC6rKgCQ6FrmaD9G76dYWkQ4AbZqABlUzU3q36W1K0r3iOAb5
G4tdOt4yqXHTe1x+ZUNaeW7gaCmtXAxLw0OfeJrcq/44b/SQP+qJ8sSOv76Yg2oF
BsF5DWOVUFghbTyokHAoVROyhBR4dUUisY39AqLSL8+Lp9Pr3wNuGl9GLrMD5701
piUb88B3Gwe1EiKV1gaKrvZ3mECDUiSMVO0Z5iG8E4QDpNmVbJbV1uT821ubvtOv
2Ko10Fa0uwCYGssdRGqEXNy6jz/Er8LAC3+nmGINDJQzrF+loYoSSkI2Nu7lhMuL
7iWwUPF7OhDXoVSAn4X3x6q2rGK0wsGUBBMBCgA+AhsDBQsJCAcDBRUKCQgLBRYC
AwEAAh4BAheAFiEE/rkgny8vP0ZkhB5VrBB7OGaS2t0FAmjXZTsFCRNDGLYACgkQ
rBB7OGaS2t0/Ow//YIv51vHtD+kwMmIvk3zpizDHY0zW2dOezAo+C/DsSyC7wDll
Dixw34EQ1yLXH5xLR8CH1zupl3JmmEp1ucdQggoefbidxDl8Fld7tJOD1y3GGnTD
0jAl2ZC+W65Oh+wS1mD1FlaKjMGGkvJf0dA7RtU2T8dv3vt8dsxg76FMFS3+fqlC
FNOAsNTn9zWR1SqBIfkMJK83aq6s/rcEV9VrAYgDgqex58fygB5EuTf842/IF7WZ
Q9gd6fupB0mMZP5YWd2uj/vsBTYakG+mgQwDxZuKPeEzAqnqqS7biSQOUO6Wozlq
Yy4fSczE9GkBAvg0pGmbko+zHvpnjvX/h1CUpC6odvFyOAhZp6zyhs0QWz9thfqV
lU8WlbgJ2atFDn5GUSxF/fe0Yzovlbbs6sbYXuvMG9RiEOuJ1mBbZR3aIdZ1U6Do
BHc/vjc5mWcV7JQSP7i4W/8W7X3UAuN9LdxB+IvF3Cwrgtlw2BWvA5Alco5Tnz8t
P/CIVmBjk+sLme8W4kfLK3IWEbwClOdNnErI/MHRm65A2Y5EMIhwjrOi07SU1Pxa
nPpg3OYJCdvjzdB8QE3/DBiMfOl4dISfKDVEWnfK8mZaYd/BeRm2gUAa9UrqSFCG
BlA7Lg+eLI3US0FvwWJ4j5bBJqgLu+y7crIkiUOPAQuLk3lO+5uYU/I3DuLCwZQE
EwEKAD4CGwMFCwkIBwMFFQoJCAsFFgIDAQACHgECF4AWIQT+uSCfLy8/RmSEHlWs
EHs4ZpLa3QUCZwAXCAUJEWvKgwAKCRCsEHs4ZpLa3ZdTEACMBLg2q9zk8ZH02nDz
Sg5zc8Wlqq8WdxU0Pj8qx4UOrrMca7wyiUvrgoxPW5lh1RVNUeMkDRfu9pSXcOVI
V9LvmYE/WnwKROubgGbsC4T7M/LqV0/AulXil4d7IXcO6l4toa8LTNWtD5bODgrN
gvay1AzCU8kq1Qw1cKZ2gAfvA3Ba7PWyLeUN4HTlGrXcw73G+0CofY1L8wqWxHCJ
29XqQzeTEc6MDEeIlNlVdUcy8Qr5uwkEsl34H9AxS5F1opJ4TqvXiDZsrSRRv57R
XYmRZDWeYT+9PZaMsHXza5qgej7BfATxhYfICsNaY6MK3x6b+nDSKkoZgO+i09zh
1YjpahhQe6G336v/3mRj0dKGCRQ6znQ9ghUaB5z9zfvgH5AOEkTe3l8MqM+j5A6P
VjSBBJAHKejxr7+wKJKIA6P+DqpsYAunzftwUzrLVqb+BZQ+DcTmVrE7OPcMYJD5
QglX/Le+WmWZHI154NXgpWWUOUgZUbUge4DKrT+zCJ9iecPLKTW7OcULyXO+rjb8
8BGrD5GPlHB3dOUXXTlMKCqg3qy1Bu2KnZTQiaEEdZgSIGQbrW0JTMmmXJkKjokd
JMA4vYeg5en51G9nRQjScPngx77IxvByNyFWTJdG1ENpJpsK9TtmENcpyUJtJZTJ
```

```
ZSOIRVPP5RzR5vInuXWq6VV0BMLBlAQTAQoAPgIbAwULCQgHAwUVCgkICwUWAgMB
AAIeAQIXgBYhBP65IJ8vLz9GZIQeVawQezhmktrdBQJlJEoiBQkPj/2dAAoJEKwQ
ezhmktrdx1YP/0vvym3jgX/pwnR7K1rafZMb1iKQBr0ISG8cdbaf4pqX5vuUZnyj
w9Cl/oONn7jJjnQxOIIzuBoxne2WN28ftM2w0nVXm85mAmz2fwQz/fdKDyonXcOh
pfD2iMqn7gESjhEgRE7wMDYMDuLdqHI7OKWGVfgrh7xEmKapLh45h7cnumo2VjL9
uDYY1aOBHz993T7oE41y43rhk+6kKbGFd2uuo7h5j1ZF8Lj6sYfcEzXOU1OhRlD0
nyBjDy9MYWu0YNouc70WgMceGx6hjvCAM/5fxP7SZFecZ7ePeB0GpvVA24hSNENE
0r3tUekuOf1I0FunMnMnbh7ZO9rPYqWvWDNIpU3S4CjFhY82L+IeKnmLy8N6ASRk
HsPiNCOHSK8C/0ynrd9xLhX8Jsk/TGiQYaleoHhWkNLlZsL86QHL8SKEqkqZCQf5
AEqghDP6NEGS7lnOenA7JjIrA9KLlT7fnNWZOwFi5X+o/CymE2ytEMS0Yf3nmY4U
n9x56Wgn6J2zqB5nqOXf6NxGdAIgOBm098YEnKCIFzk+yhoDlprVpHcnd2b5f6Oq
uh8KYOEbKgpMJ3zZuWSL5kwGF1nNoYiAkonMaz9H3pOQnOMVYCUeUTDRsiO/prrd
UhNlry4TAsBMpeXnFhdLVM3vFQZVpByadGOJNmnaN/Wavw2a00UGBFa4wsF9BBMB
CgAnAhsDBQsJCAcDBRUKCQgLBRYCAwEAAh4BAheABQJhMqGaBQkLnlUVAAoJEKwQ
ezhmktrd2sQP/3YHM+U+BbOy1nSEAfykZ71+uCM2hkHMLdxQYWB/rBWkmg/pbu+d
r4t45RsTASrNjRcZOntlPMQRIq973ymHfpmeS+noFwvTGH7zDv1BRBR9wPrd1XUz
iSuEUHGi/fqxUVXQ5mbonzfThX8tuXeuiQmeToqoB00FYlZm6xsNnEHcjVl66mC4
IPoJLWnZJs4rOCeoRf5XvDTgX6xt5/kLYRZf79qaWGFvaZpsc1CH+rQJUdVa/D4T
7pI7hX6zy0S91z4iuC5HZUiOTF+y5auEZHGTdTWNS1kvOvfcCTi0XK/GkGL82SZu
7X2VGnpCeUnFyViRGlk+KaDG1sVyDY+lcBPg6ilr45M6MQV0iHS5OF04QNXSKt5+
UnzJH7lldgNsR6ibRMyNV3k5v3fyUcSBvIYyLORTTBiVEjQDSbk1QNqbrQlX9CWz
+EJWn16BFTmMFvxBSWPm640GncHP5J3/0MbMw3Cm90x7k8UfNANIemcrJrSxIDwm
g9cVAg3a+D+wxjrVe8jGg0ejvECpm+0yswigj5x6Lqj09A4UgdjEauN+/pn0nhBo
Gv7DzMXtM/LoDtgp6wn93qZVN2TsuHnkEk4UyntB6eWJbBdXHWUr47exiWh0dvQN
tpwCWPT6I7ZTPtA5K/zx+q9m6797BLgAkTYc6gloQL3vs1Z1S3m/hZNawsF9BBMB
CgAnAhsDBQsJCAcDBRUKCQgLBRYCAwEAAh4BAheABQJgmrz2BQkLBnBxAAoJEKwQ
ezhmktrd36oP/2rB2EkwSOCKC4m0heWSfDWi6OBKoEbbDtFtc6/HwqBW8SPsiKlq
zV0e3qBY/LVju04+ktJEK+EGXLnC3iC36MegrQ8zt391kEx/Zv9LIuVOCX90QIAX
dL8MVUkkjRLCFFH8pTgRy1cJYWk1X4dYdXWYc29fCwNVartNdNBhsb2ht3VJeKDE
kUivBHmkjuISDPEnI1coY7Lj0ZtY5cHdRF2eZpB0RkTBpsIt18rCYyHkERZrhmvb
j3rOyPyvOa+1/dQS8/hv5pEmbKx8cy8RdJkmbUHYatPBsjHkJSWr7O7G9VFW4GoN
9CRAI4KkbDSEDjCL5dv2pq0Sew1MkLuWJGULAMgiIUlWcOs5SZZGFSksNQrtSFV9
Z/wGocecMGkGQNXQ06JV/Fry/TvyphBlmylEqL+NLqEcEjnlz90IVu+ZA+M09J96
UlHO7V5GvBgM+QK/q/dJeMHPWrNlo1gA6Nwl/HBdM0DqzdZ2jEPvsQSABvZrPMty
+BAqEar4wqY1AH4X5ccEjO7nJQoBQSDRSki1fkBsc1nx44N/m0kHdIa0Z/Y+Mw4v
WiZhREkOospG1I4lBa3CNTVAhSs9msGsYfkqvFJGHL7sZY8XSv82GBBvA0nUNrsJ
bLBwo2FaQG9eoatRAGkqp4b/OtNtBuGeiQoNwFGbfUZTAaStj5/zZj0swsF9BBMB
CgAnAhsDBQsJCAcDBRUKCQgLBRYCAwEAAh4BAheABQJe+9bwBQkJZ4plAAoJEKwQ
ezhmktrd+ScP/RoaUKriVVAgLHOGs+/mnfKtnfTlClzi5dsdI9/6H0vLpmSWK/Cl
2cT6gary45VMgAeVK+H1lQXafYj+FY++I5kYoe2GrSvIXhpjaFAJyNf/dKleTsqR
Tm371i8b3FDYs5kvy2CnTbmHB8MsOGxck8/YHd1x+g8WpO2IgF89yYCSF3CAdxC3
6bHbs6Z3C3lcM/3SoWF+Yie2P8XeBMPCGp/BcjQzUcHF6G06TwDDYhixucUi6vEY
EH5JtOwVVQ7bubT8OFeOoJwVxlzYz4UoqxjKDWymarTzu03AUIT0PXPece94bJAK
mSh68ItQe3H8tSPMubERWz2tEV3lVkChDGXcC7BYQmxHseolxz/qzCtJ0iX9BvZR
```

```
dniZNeNJ/Cu8M2pDp47zdNFXzf/Q/sQ9pQlws22G2g119rWDneBku9n1vTP80/er
SB+VLTBjDiArlCY5y9+BG8wbscExJySoQxkB9j/nlMzPY5rgk0SyxsNj9GbqH+hr
EjS3/uacNwSLxGcOT2E9Teot5pfTEO6fQVq+35QhfAlP8c8jze01W/+u+wXu1Ui9
azRSzYtCHanGyyet6U1mlBpAkqkZzH6t3CA5czc9i6FbzjvFVZnbRUZIRzfISYew
lF5WqgTn2iYVdxagPRvLF5kjd696brGW9d5HwirCVGaK04VsXWlAblB9wsF9BBMB
CgAnBQJXdYAFAhsDBQkHhh+ABQsJCAcDBRUKCQgLBRYCAwEAAh4BAheAAAoJEKwQ
ezhmktrdWigP/3QWl7aO81BUWyby4HEhN4SdAoWGY/FLqO4mCtuplcnMgRUCSiL9
l2BSCTMCtUcdSWtYwOgSChN2mMsdi1U2FNR5HvNunYR/pFdqjfQurf1ZmKVeG5/4
uuKaOxMw9e8pK5uYAfs+O7gr8gu/f6/Drp7NZk3/yVKpf4WCY9oX9TA1q9O/11nN
cwS45U/d7YP+N1YM9cBXa1DnDcdfm0BlykzouAF0qd1Lwi/tmLENvybD3+2c2WsE
rlFZGSa5ZafO0tTIWXh5k6wh5FdRRycrnSyRK3B9N9+yaXfMQ0XpOypa8dqQEnCi
IsngDCJPxtTrhMWKhBFRUMzK/WZTDboTQSQDK+YVRrE4K8MtoZSKwZLV2r9O3TpX
kpbKsPVYmexerfdMeZfjZMF1bC7BmEs7jciH6JjbqAoAPnHzN0481aeNarINSViX
PQWr2mp9qShei2/RavLtx2ZNrvmGW72ZKpF8E3WWUDpBJqFVeGNRvOm3aZj8o/Hl
ewtNjcT4ouJfqlfKiULv+g7ANEMDLQTFDTg5twRdvmZlB7oTBsavf+LwxPIXhH32
IR7TX7VeicMMxmZnmZK2ANT/QBi3laf+ojVHvB+f6D74eLNq0Zqjfi/3UFNYsYjg
E+YgCqEUBpHbl61nOHwGOSsQwfap2uKKlzukD/KxH5SPBC3DYGBI+KCbzsFNBFd1
gAUBEAC8zNArPWb3dPMThL2xAY+fS60vXdB1SkOtYJpDWpFgvo0d+VQ+hV6XulGA
HAS6xG1WHysPT9KejIRSgLG+e9CaM5yhsxNa1WFGUM4Q9ESo3t+a75Go7xHIxgFj
C046/O6Vh3g9N/PREeuG8zkZ3H2v5fmD+ejyPgk4W9sFL00zjRiZD0FKVYR/j9ue
nEC/2NBcLuFy3q6cDfmCoDEOO62kXMnaGz3knzEK/X1SkcjsxRDq7zaQlQ1Kou+3
dICwy4x5SJQ8jl+eeeEvF2C2/dXmDohb57tqUwioohMUQkmCtvZgEHjypUwgp0MT
o25gWxkvJlSJKUOb6b1786WNySIzF2gxqlkkEmBl4RAssQkeXjrSmGwsMDyHNqyJ
eYFusl8sPaSpo+V2n0z+2B070Uq+wmf1S5A5FpegH0PZzzoNZo8I6QxaZje9YSZU
ijGmZIdEBleRVt3Svhi8MYlnasd4bW2RK1sr7plkBf8QRe6biiQRF3KDOSn5CbmX
pAcHJ1ZHzRRdkXZDNQC6vCJxsy13O0TrhJtAV1Yq347uyUbVi291ISVgroUVtprs
mHoEk5GoOTHbg9SCSt+xi/FiJQC+ubWmIGXoFKMR3UmhDnnzobKcbnbs/Hd981Fd
VghYYvq//gTAkJk0WxfGqO30wtXRndPOA0T+qhP3TE+LtGRJ+wARAQABwsF8BBgB
CgAmAhsMFiEE/rkgny8vP0ZkhB5VrBB7OGaS2t0FAmjXZm4FCRNDGegACgkQrBB7
OGaS2t3y5g/7BFXp/fdanzuQPToJTPen7AVwhLloKaiYhG3GjdXfMPLvu6UtaaGm
qynLolUNNooobptFqc1G9BKoAghQrta7CsDHtsQF2xyc3Mfu0gmpL/7X5a7sFIeJ
j08UjfweHx4DSG4LEZgNaAoWFjZltp4+8cqijkAHXt+r+1ayQG4VVHOWyXXqmSH4
9HqtbPcPyRzxdoVLeshZC9jmhHhhKqw/LwGyipWSOUKQDjWarBwdyhNmWCaLvxH1
ndMp4tq8DPGC3G4T9tYAbANrn7nKfZgHebMSzMw9kSp0L6QvwwTDjJyIWz85WyeH
WHeBysDaBOit3XDlehUew27y7N6a9hQSYjnXuwvre5mjDIOqJon/31R6ui2Z1y9P
a+bC11hbLXXh9tLCXRuoOt6thh9Cq5X1a76PPpEv30o3bpsb6l2hbrut1OKezwvK
l7txito/jfMiWfsZHA9O4SoM+8GnmVingHtZ805n1T4RddJvT/vaqplfI6zf7jmf
a69lALP420riFOQcwntNUM5tVmFUZsnFp2YRd4Ls7MiXVjtABahlSbb94l5WSVc0
jrOLDf94edvzk4R8i2Ob8CfVZNqEsTR6bHz8dT7Q+xQzEdjUujyyZY1UUl157Qeb
OsHjhCtuZYCI04X9hZ37nKnZXSxRlRDCnt5BEiyFu2WD1RscUe6PcVDCwXwEGAEK
ACYCGwwWIQT+uSCfLy8/RmSEHlWsEHs4ZpLa3QUCaNdlPQUJE0MYuAAKCRCsEHs4
ZpLa3XCpD/42DrcveE+q2ulrAIYPDlUlHiwIMejqBDRm6zmr1KSAeb4E6/MFcP4s
rXSSscMlrqG6NVynjNCXjD2YzWii68EwoXLJkgoD3r2ifzkV62EX2MIEeNZAVwuy
KNxorzmy6bhuWltRYNK/hITs2AG5orOk9ADEJ8PixKymrWlhesPaWX6Yhp9/tWaC
```

```
RHOSRiLbRVaJ+7sqT88urLmkV9Hqx949Zxv4+cgBVUGL6WXKsfWhHjbDMNJnozWB
SZaIJznLApOM8z+1DNrqUYyfR8SkF4IOVmg6HDzoyuseJJ8JvMAlkvT6F9VBq/iE
yeDYdEEQxwHwozKrEx5Ybxl5mntbqwCXy6kHSx2+/3RZWpZQ8K29YP9QEk0KeGF8
9Vap3jjNrX4u3cuRNQpeblQc4uFn3Nzaj+cVV4YzcRw94NifecXpujSvk8XU2ytJ
/JgMBxPIBKglN4eEMet9b4FRB5XeBdPAm19/LXyb4IlIipGNXlgNz/HCuBzidzHT
QQdqfA9rZVx1hwFr7AJCVqWaXVsx1oEAhKqpTtsLMyj594DvnRuwKw5Vse+1eydW
MIHYdbxmJccsTGIt/hsOpc8zfm+QYk5752jshhOKEBy+Ey3QZI1WbO547NOb2Hwr
Pgt7fw2NCKMPElSu98zmneFPhqNHf7L5urBe5gADj81E8lm6t/oVxcLBfAQYAQoA
JgIbDBYhBP65IJ8vLz9GZIQeVawQezhmktrdBQJnABcLBQkRa8qFAAoJEKwQezhm
ktrde3MP/13CLWp99XvRROrzD/bWOfWjAenT2PE/tYdOY9YcTQFbnIUhaVUDWAo3
pibR3D4u9LlY4olpGfJ7BTIHFa9myfpaVvmrNjueYI4omli24JQ/CKqNdY8Qzxz+
/QyiNK7Aw5cEBWIu84WGB1SsefWWT3rZe9YBb77gNcWHZ15pXTXrcgUxGY4808MC
I9YFWq8EA0iHawtFnmB3UFfClWt37Hy3PKvr1is3uG60+ULI8RQz3/+ZwSG8U+xt
b+I7H9+gITc1eFCb+tIwp5xWflyxcFXYk6UzOL7y3Fg2tIEuSNtIHUC9NDVobf6c
I0KAzZcMvKiPQiuBnVOjgDLmCZM5H6axj9x+gi4oVh6ea3HLqMzyjm5JkeCGgKWv
H0gD3yGEZDvcbavkQOle5T+4JefndKzCPrluX0iyx+oQiiOL8WieSSkSB6BsZcUN
SeuGJwM79Y7Oqld/YVrQNBZj5Vz+m3nZ+0EWDDMI0hRgMpSEIc+dnTC0u103Z+Rc
c2IJq8INmU653sUcfCZE12ParW4rF7ib6kViYrABT8f4e2TP0aOyP5kp51ied9qL
azaBA6tt/C9X1V2EJZK4srXtmcZO2Im45RAiVXyfpBAmmiF3eZWCbKe7qBC4rDRh
LZG4RQW/S86Da0BID7gQz9IFSkaG504MsDhvnA7iAqaHUHUepCsiwsF8BBgBCgAm
AhsMFiEE/rkgny8vP0ZkhB5VrBB7OGaS2t0FAmUkSiQFCQ+P/Z8ACgkQrBB7OGaS
2t3AwA/9GkXKUgvjKGCxwE4SdDt7c2jw6to2TTP9iFJ3Xbk3+5BURT3gkZCuu9D7
gt+97aVo/B4EM7Xz8DQKyY7Ic9VAwDRra/Hwi1V0hw1zyIWQ/gAnX3baU6qLRWHR
vVR5meV8r35C+rg9DaWFYmvS7PIv9LfxESwBPUjbmx8k4/5EJpHUwf12bzkTnot5
7q5lHxKQa6IvqQak+Hp9ZM2KPdsgKO2HWJJIIvYcI5byW9zBKV0O7YR8gtRAJKp9
IbtsXx0WT6cqHOFVc5SSzdcaMt0gLFl7BTnJyvKK2l9GABGBmzYDjeCyF2J+Ippf
oqxqfTe6EoOsuEMc2PbLTs9SsWjyCC2VGlX8+uUH9SoKwL0VQ6LFsP6fhkVKqi/a
rB6UuPR/iZnrKIuxMNQ4U+t2Q6UdMlmXsAXTNdkwzoK9oJRokIrH0ZV1KtH4sjjA
tCic+tOddq+GQLiKe2WpJfxlA0uESCB0TxjAwQmfn1H+dUhPeLlbNimHlH0/hXPd
ifuNGozzADIRseQDyzjl8xGL1qRZLD3cfmda6RyZ+S3dQRuaRrcFCDccpY/pO+F8
jbx64zyqqNs+KV+SkQGOcKFhWTZGCfQ/zMDtDmQKjb3eTAkv1zdEOMw9zEjjmS0q
8FNl+2wO3VnvXwvBbtDdVCIaIq+jVcsy5XtnnV+bJ19Q9yue/XvCwWUEGAEKAA8C
GwwFAmEyoZoFCQueVRUACgkQrBB7OGaS2t1uHBAAhOYVvrtchRmzCvdNER1DtkIs
bgQPJ9OxbyfvmvoD06qxH7PrycLZKbt7yYpAUU/CMc86GwaEe0I5Nm1CTs6NvDIv
g3e7EPIS859tyQflbM56NlwbsopCuoCJYknuroIf/M6dW6vJKNXLMmnL/AtalUBw
X+5pblmGUUJep49oTOxQEnvnuqyvaGjXgFXix5PVFJD2ed5NnQeFpvfCpc/ioNOj
z7ORO82j1ht5nWqPraXX5AYhQFM/kwR1cK4LV7gVDd/q+dfGYHzpxQ/HtyX/Lasi
N6I52QqA95SM1ZZLPFLaNh6EvnB7uC9pLCYS8nvilX7/cez5PFff1e1gXCOT0jv3
mJ2exLmXV0BbfKgjccFCxhrdRLtukfiDfJkySy1zdscnpfng8wJ3xKRv43cUTz7M
Z24OYNMqK26aJZVXEQUYjCwsBylY/F5wjYAwgwZ8yF5RFix28P/K8JsIHb3QrAJK
sNWQAb03ZWis3N3spR5M9Mw3VuDZ3WUXq7mxB5M3kpVoZ3vETU5cwTbADYNPf4Sw
BDK2uIVtxabezxSBtz0FcyYoF+OW8q7r4WvoyC9/+3GfnozZLJcEIVDk4W2pMW4A
UhG/6drKTm3HkSDWIDu7d1sHWMffLEYfUHtN5DKkDkGoPfHvZvu9teR5yLfUrPTf
ktihPn/JMrmwa9pwi8LCwWUEGAEKAA8CGwwFAmCavPcFCQsGcHIACgkQrBB7OGaS
```

```
2t0uaA//UWRaRiHEAKeRqBG/T2ak+XZJNu7QHfNgoUEAub9Zru8oPPXx2AJLcHEN
KWmeFlLxADdWOZs4Bm9oOew3VQnR/dBqjnXfob9Rc+eYUjA3rXazM/QrqcU8Syi3
MjNGUmjdL5aQF+IppAMgOBLG1TEnM7C5/PvrGJuYpGEnkKEwMK/GYhqg2V60pHEV
Pvs66mefJpCzbZSy56qtknSt6yBNWc14XgDX6VTn2kW4CV/3vVJUuvjvYs9SPyY8
mKEXa6QvUd3PcXv6RiWk4lGYuT1+jh2VkcFQ+JnUwv9TbKFB9b5jq1bvW9+LMDEl
YXux7pBP5RPk+OLpyiExIRFWhi3x7aMWOzQ+I9yuNTeYkTHiEAQRUhs/1Fh4oLgI
v9QZgC0mRSN3zm8plQdivs1ZlAosAqqkA9BQwqsgosQe7P92irYIJqay0si9wGCD
wSMsmeXdIF6wW3/UMJZl66aarPeiZApGX0QdTZwjMh/QK/8gTKyeZulKmNkNfwWq
O17OirWqLKssVHtg3VUM8EIdh+oNqDDXSeWtYUmpPpWp+yWZ0x1MFFZhUQHQZTGu
TIj4A92LQzbrfj/jXRvWm2SrJMivUoiDUn+qxKIpVwFlI5gVb+uyTFhw89PCkphr
JwRi052RLoU9yd6Ek46UH4XfZZWrZuzY+zzB7oqGONphLgi/h3DCwWUEGAEKAA8C
GwwFAl771b8FCQlniTUACgkQrBB7OGaS2t2/MxAAjoEGPdzavhsOlXdPCRd1D5QJ
r8T/NSEV2z1cp8ZvdrkjNF09TBP4qsBnKJiuvY1Iw7OGX9W2okvXxgJizE45v9MH
WEMz4hmIjmAfRwcqENgpOc1IY/T0/+kkCW8dB6d30J1kT0n2PCRzN9L5vPqZXGTG
mLvd9MOjH1256w4uxLb+e1HMDTCqEN1ppq9G+EAR/29q8JZWs1marbZZWxSWcg/E
1YYbNafzklgjq4CLh/j8AEWSvLr39zRy9uvQ/yqAKZ4K4aZfh/SPupGDvsD6ZK54
EPHxErQ7aiXTbUHtvwhxWLOP6WmxFA3Shr6L6YUb6jq+0PVliFC517g3mxFHJtwt
yXGNIKhmzmr0l9OlsHafulJ/9QPfK3Ce32SkPhW/11MYA8HzduMv5Arp7cBczXSP
EUTmNIVKv3gTjSQrzRhwhHmMuqyDZ/rXQQ1jl2sxIDjO4MUMvVjYKF+OCNm42gVs
8ca3/wN9ZNU6hyFWeKQDuCAqPPbT5GO/DKseFEwB+07wwyH1RXbyl0v4fneg605X
S7lqhNtw2p1hDL0HYHDiV+aPZ+LoOmX6+dmnqE6bQJaIlVb922KWmliO7F3DkqP7
0jFlhoE1gfiXWkxP4Gy8wOobNfEMgvz02djkGQy+oQqeNdIcZFZgzPTGKB/nVgpt
9CcRDWjPltFCd2e1FBbCwWUEGAEKAA8FAld1gAUCGwwFCQeGH4AACgkQrBB7OGaS
2t1PIQ//Qc5VYfBCxpaMysaPQ44wXPEZSjxIGZhhMGzb1UzzAEYOw+RgKN5nNTXq
L2KoOkOrGnKqZOKByMdXwIPH/rGwwEsbbIpopnibf5ic5B/+xCTIK+qLIwX2ZLuk
NhbL6Y+E+7DxMMh+KqBWHONKkgwVY+rFWOfoops839ABKvc9/Ry4/qqkcb40AzpD
l1iQJ5vK/DMuaDWxWeKXqJLIl3WMGPcPfheuBZL1u7LEEHYKMgzvpbF81WIn3MBo
8jvxf2/o+kMafSSDqgvOu6yu8GOhmScpCbRJn7jV/HrG+tM+zy48TN6/MkGWSR7q
TD34pqBjyatVfVl6dGD6xj/i/Emt5hZB6qXruCDH7AWMoNx+FkDubs4sc4PKysZU
Itya6KdQFo2UeYsNwZhdn6QwKhd85um4JUHJCY0mARvjsQgWXH/5MR40cow77bbE
vVq0XNd+QRVlyT42CEtnIUOFLeDVuZrum5Tuvvna6ImMDoi/z6QcNeL79XsY2m6I
QVRiHr1BDb/8JLkfnWiwL8GRv169Kf8unx0y5u1YBpcMYkyDD2+pnnk3TY0rR+8X
8goecaS8fbyu/Q48K85ZMD8wKW/bzLQ+tK9y8xed24u2QERftMhIw9b6f45Nrrf/
PhgV8RnuwUusSbdDe8kw3eYTmLdzD4kZc9K7SdO2CqT+hm//9JI=
=uGHC
-----END PGP PUBLIC KEY BLOCK-----
```

以前のキー

> **Important**
>
> 新しいキーは、前のキーの有効期限が切れる前に作成されます。そのため、いつでも複数のキーが有効になります。キーは、アーティファクトが作成された日から署名に使用されるため、キーの有効性が重複するときは最近発行されたキーを使用してください。

有効期限: 2025-10-04

キー ID	0xAC107B386692DADD
タイプ	RSA
サイズ	4096/4096
作成	2016-06-30
有効期限日	2025-10-04
ユーザー ID	AWS SDK とツール <aws-dr-tools@amazon.com>
キーフィンガープリント	FEB9 209F 2F2F 3F46 6484 1E55 AC10 7B38 6692 DADD

次の SDK for Java 用の OpenPGP 公開鍵をクリップボードにコピーするには、右上隅にある [コピー] アイコンを選択します。

```
-----BEGIN PGP PUBLIC KEY BLOCK-----
Comment: Hostname:
Version: Hockeypuck 2.2

xsFNBFd1gAUBEACqbmmFbxdJgz1lD7wrlskQA1LLuSAC4p8ny9u/D2zLR8Ynk3Yz
mzJuQ+Kfjne2t+xTDex6MPJlMYpOviSWsX2psgvdmeyUpW9ap0lrThNYkc+W5fRc
buFehfbi9LSATZGJi8RG0sCCr5FsYVz0gEk85M2+PeM24cXhQIOZtQUjswX/pdk/
KduGtZASqNAYLKROmRODzUuaokLPo24pfm9bnr1RnRtwt5ktPAA5bM9ZZaGKriej
kT2lPffbBjp8F5AZvmGLtNm2Cmg4FKBvI04SQjy2jjrQ3wBzi5Lc9HTxDuHK/rtV
```

```
u6PewUe2WPlnxlXenhMZU1UK4YoSB9E9StQ2VxQiySLHSdxR7Ma4WgYdVLn9bOie
nj3QxLuQ1ZUKF79ES6JaM4tOz1gGcQeU1+UklgjFLuKwmzWRdEIFfxMyvH6qgKnd
U+DioH5mcUwhwffAAsuIJyAdMIEUYh7IfzJJXQf+fF+XfOCl6byOJFWrIGQkAzMu
CEvaCfwtHC2Lpzo33/WRFeMAuzzd0QJ4uz4xFFvaSOSZHMLHWI9YV/+Pea3X99Ms
0Nlek/LolAJh67MynHeVBOHKrq+fluorWepQivctzN6Y1NOkx5naTPGGaKWK7G2q
TbcY5SMnkIWfLFSougj0Fvmjczq8iZRwYxWA+i+LQvsR9WEXEiQffIWRoQARAQAB
zSxBV1MgU0RLcyBhbmQgVG9vbHMgPGF3cy1kci10b29sc0BhbWF6b24uY29tPsLB
lAQTAQoAPgIbAwULCQgHAwUVCgkICwUWAgMBAAIeAQIXgBYhBP65IJ8vLz9GZIQe
VawQezhmktrdBQJnABcIBQkRa8qDAAoJEKwQezhmktrdl1MQAIwEuDar3OTxkfTa
cPNKDnNzxaWqrxZ3FTQ+PyrHhQ6usxxrvDKJS+uCjE9bmWHVFU1R4yQNF+72lJdw
5UhX0u+ZgT9afApE65uAZuwLhPsz8upXT8C6VeKXh3shdw7qXi2hrwtM1a0Pls4O
Cs2C9rLUDMJTySrVDDVwpnaAB+8DcFrs9bIt5Q3gdOUatdzDvcb7QKh9jUvzCpbE
cInb1epDN5MRzowMR4iU2VV1RzLxCvm7CQSyXfgf0DFLkXWiknhOq9eINmytJFG/
ntFdiZFkNZ5hP709loywdfNrmqB6PsF8BPGFh8gKw1pjowrfHpv6cNIqShmA76LT
3OHViOlqGFB7obffq//eZGPR0oYJFDrOdD2CFRoHnP3N++AfkA4SRN7eXwyoz6Pk
Do9WNIEEkAcp6PGvv7AokogDo/4OqmxgC6fN+3BTOstWpv4FlD4NxOZWsTs49wxg
kPlCCVf8t75aZZkcjXng1eClZZQ5SBlRtSB7gMqtP7MIn2J5w8spNbs5xQvJc76u
NvzwEasPkY+UcHd05RddOUwoKqDerLUG7YqdlNCJoQR1mBIgZButbQlMyaZcmQqO
iR0kwDi9h6Dl6fnUb2dFCNJw+eDHvsjG8HI3IVZMl0bUQ2kmmwr1O2YQ1ynJQm0l
lMllI4hFU8/lHNHm8ie5darpVXQEwsGUBBMBCgA+AhsDBQsJCAcDBRUKCQgLBRYC
AwEAAh4BAheAFiEE/rkgny8vP0ZkhB5VrBB7OGaS2t0FAmUkSiIFCQ+P/Z0ACgkQ
rBB7OGaS2t3HVg//S+/KbeOBf+nCdHsrWtp9kxvWIpAGvQhIbxx1tp/impfm+5Rm
fKPD0KX+g42fuMmOdDE4gjO4GjGd7ZY3bx+0zbDSdVebzmYCbPZ/BDP990oPKidd
w6Gl8PaIyqfuARKOESBETvAwNgwO4t2ocjs4pYZV+CuHvESYpqkuHjmHtye6ajZW
Mv24NhjVo4EfP33dPugTjXLjeuGT7qQpsYV3a66juHmPVkXwuPqxh9wTNc5TU6FG
UPSfIGMPL0xha7Rg2i5zvRaAxx4bHqGO8IAz/l/E/tJkV5xnt494HQam9UDbiFI0
Q0TSve1R6S45/UjQW6cycyduHtk72s9ipa9YM0ilTdLgKMWFjzYv4h4qeYvLw3oB
JGQew+I0I4dIrwL/TKet33EuFfwmyT9MaJBhqV6geFaQ0uVmwvzpAcvxIoSqSpkJ
B/kASqCEM/o0QZLuWc56cDsmMisD0ouVPt+c1Zk7AWLlf6j8LKYTbK0QxLRh/eeZ
jhSf3HnpaCfonbOoHmeo5d/o3EZ0AiA4GbT3xgScoIgXOT7KGgOWmtWkdyd3Zvl/
o6q6Hwpg4RsqCkwnfNm5ZIvmTAYXWc2hiICSicxrP0fek5Cc4xVgJR5RMNGyI7+m
ut1SE2WvLhMCwEyl5ecWF0tUze8VBlWkHJp0Y4k2ado39Zq/DZrTRQYEVrjCwX0E
EwEKACcCGwMFCwkIBwMFFQoJCAsFFgIDAQACHgECF4AFAmEyoZoFCQueVRUACgkQ
rBB7OGaS2t3axA//dgcz5T4Fs7LWdIQB/KRnvX64IzaGQcwt3FBhYH+sFaSaD+lu
752vi3jlGxMBKs2NFxk6e2U8xBEir3vfKYd+mZ5L6egXC9MYfvMO/UFEFH3A+t3V
dTOJK4RQcaL9+rFRVdDmZuifN9OFfy25d66JCZ5OiqgHTQViVmbrGw2cQdyNWXrq
YLgg+gktadkmzis4J6hF/le8NOBfrG3n+QthFl/v2ppYYW9pmmxzUIf6tAlR1Vr8
PhPukjuFfrPLRL3XPiK4LkdlSI5MX7Llq4RkcZN1NY1LWS8699wJOLRcr8aQYvzZ
Jm7tfZUaekJ5ScXJWJEaWT4poMbWxXINj6VwE+DqKWvjkzoxBXSIdLk4XThA1dIq
3n5SfMkfuWV2A2xHqJtEzI1XeTm/d/JRxIG8hjIs5FNMGJUSNANJuTVA2putCVf0
JbP4QlafXoEVOYwW/EFJY+brjQadwc/knf/QxszDcKb3THuTxR80A0h6ZysmtLEg
PCaD1xUCDdr4P7DGOtV7yMaDR6O8QKmb7TKzCKCPnHouqPT0DhSB2MRq437+mfSe
EGga/sPMxe0z8ugO2CnrCf3eplU3ZOy4eeQSThTKe0Hp5YlsF1cdZSvjt7GJaHR2
9A22nAJY9PojtlM+0Dkr/PH6r2brv3sEuACRNhzqCWhAve+zVnVLeb+Fk1rCwX0E
```

```
EwEKACcCGwMFCwkIBwMFFQoJCAsFFgIDAQACHgECF4AFAmCavPYFCQsGcHEACgkQ
rBB7OGaS2t3fqg//asHYSTBI4IoLibSF5ZJ8NaLo4EqgRtsO0W1zr8fCoFbxI+yI
qWrNXR7eoFj8tWO7Tj6S0kQr4QZcucLeILfox6CtDzO3f3WQTH9m/0si5U4Jf3RA
gBd0vwxVSSSNEsIUUfylOBHLVwlhaTVfh1h1dZhzb18LA1Vqu0100GGxvaG3dUl4
oMSRSK8EeaSO4hIM8ScjVyhjsuPRm1jlwd1EXZ5mkHRGRMGmwi3XysJjIeQRFmuG
a9uPes7I/K85r7X91BLz+G/mkSZsrHxzLxF0mSZtQdhq08GyMeQlJavs7sb1UVbg
ag30JEAjgqRsNIQOMIvl2/amrRJ7DUyQu5YkZQsAyCIhSVZw6zlJlkYVKSw1Cu1I
VX1n/Aahx5wwaQZA1dDTolX8WvL9O/KmEGWbKUSov40uoRwSOeXP3QhW75kD4zT0
n3pSUc7tXka8GAz5Ar+r90l4wc9as2WjWADo3CX8cF0zQOrN1naMQ++xBIAG9ms8
y3L4ECoRqvjCpjUAfhflxwSM7uclCgFBINFKSLV+QGxzWfHjg3+bSQd0hrRn9j4z
Di9aJmFESQ6iykbUjiUFrcI1NUCFKz2awaxh+Sq8UkYcvuxljxdK/zYYEG8DSdQ2
uwlssHCjYVpAb16hq1EAaSqnhv86020G4Z6JCg3AUZt9RlMBpK2Pn/NmPSzCwX0E
EwEKACcCGwMFCwkIBwMFFQoJCAsFFgIDAQACHgECF4AFAl771vAFCQlnimUACgkQ
rBB7OGaS2t35Jw/9GhpQquJVUCAsc4az7+ad8q2d9OUKXOLl2x0j3/ofS8umZJYr
8KXZxPqBqvLjlUyAB5Ur4fWVBdp9iP4Vj74jmRih7YatK8heGmNoUAnI1/90qV5O
ypFObfvWLxvcUNizmS/LYKdNuYcHwyw4bFyTz9gd3XH6Dxak7YiAXz3JgJIXcIB3
ELfpsduzpncLeVwz/dKhYX5iJ7Y/xd4Ew8Ian8FyNDNRwcXobTpPAMNiGLG5xSLq
8RgQfkm07BVVDtu5tPw4V46gnBXGXNjPhSirGMoNbKZqtPO7TcBQhPQ9c95x73hs
kAqZKHrwi1B7cfy1I8y5sRFbPa0RXeVWQKEMZdwLsFhCbEex6iXHP+rMK0nSJf0G
9lF2eJk140n8K7wzakOnjvN00VfN/9D+xD2lCXCzbYbaDXX2tYOd4GS72fW9M/zT
96tIH5UtMGMOICuUJjnL34EbzBuxwTEnJKhDGQH2P+eUzM9jmuCTRLLGw2P0Zuof
6GsSNLf+5pw3BIvEZw5PYT1N6i3ml9MQ7p9BWr7flCF8CU/xzyPN7TVb/677Be7V
SL1rNFLNi0IdqcbLJ63pTWaUGkCSqRnMfq3cIDlzNz2LoVvOO8VVmdtFRkhHN8hJ
h7CUXlaqBOfaJhV3FqA9G8sXmSN3r3pusZb13kfCKsJUZorThWxdaUBuUH3CwX0E
EwEKACcFAld1gAUCGwMFCQeGH4AFCwkIBwMFFQoJCAsFFgIDAQACHgECF4AACgkQ
rBB7OGaS2t1aKA//dBaXto7zUFRbJvLgcSE3hJ0ChYZj8Uuo7iYK26mVycyBFQJK
Iv2XYFIJMwK1Rx1Ja1jA6BIKE3aYyx2LVTYU1Hke826dhH+kV2qN9C6t/VmYpV4b
n/i64po7EzD17ykrm5gB+z47uCvyC79/r8Ouns1mTf/JUql/hYJj2hf1MDWr07/X
Wc1zBLjlT93tg/43Vgz1wFdrUOcNx1+bQGXKTOi4AXSp3UvCL+2YsQ2/JsPf7ZzZ
awSuUVkZJrllp87S1MhZeHmTrCHkV1FHJyudLJErcH0337Jpd8xDRek7Klrx2pAS
cKIiyeAMIk/G1OuExYqEEVFQzMr9ZlMNuhNBJAMr5hVGsTgrwy2hlIrBktXav07d
OleSlsqw9ViZ7F6t90x5l+NkwXVsLsGYSzuNyIfomNuoCgA+cfM3TjzVp41qsg1J
WJc9Bavaan2pKF6Lb9Fq8u3HZk2u+YZbvZkqkXwTdZZQOkEmoVV4Y1G86bdpmPyj
8eV7C02NxPii4l+qV8qJQu/6DsA0QwMtBMUNODm3BF2+ZmUHuhMGxq9/4vDE8heE
ffYhHtNftV6JwwzGZmeZkrYA1P9AGLeVp/6iNUe8H5/oPvh4s2rRmqN+L/dQU1ix
iOAT5iAKoRQGkduXrWc4fAY5KxDB9qna4oqXO6QP8rEflI8ELcNgYEj4oJvOwU0E
V3WABQEQALzM0Cs9Zvd08xOEvbEBj59LrS9d0HVKQ61gmkNakWC+jR35VD6FXpe6
UYAcBLrEbVYfKw9P0p6MhFKAsb570JoznKGzE1rVYUZQzhD0RKje35rvkajvEcjG
AWMLTjr87pWHeD0389ER64bzORncfa/l+YP56PI+CThb2wUvTTONGJkPQUpVhH+P
256cQL/Y0Fwu4XLerpwN+YKgMQ47raRcydobPeSfMQr9fVKRyOzFEOrvNpCVDUqi
77d0gLDLjHlIlDyOX5554S8XYLb91eYOiFvnu2pTCKiiExRCSYK29mAQePKlTCCn
QxOjbmBbGS8mVIkpQ5vpvXvzpY3JIjMXaDGqWSQSYGXhECyxCR5eOtKYbCwwPIc2
rIl5gW6yXyw9pKmj5XafTP7YHTvRSr7CZ/VLkDkWl6AfQ9nPOg1mjwjpDFpmN71h
JlSKMaZkh0QGV5FW3dK+GLwxiWdqx3htbZErWyvumWQF/xBF7puKJBEXcoM5KfkJ
```

```
uZekBwcnVkfNFF2RdkM1ALq8InGzLXc7ROuEm0BXVirfju7JRtWLb3UhJWCuhRW2
muyYegSTkag5MduD1IJK37GL8WIlAL65taYgZegUoxHdSaEOefOhspxuduz8d33z
UV1WCFhi+r/+BMCQmTRbF8ao7fTC1dGd084DRP6qE/dMT4u0ZEn7ABEBAAHCwXwE
GAEKACYCGwwWIQT+uSCfLy8/RmSEHlWsEHs4ZpLa3QUCZwAXCwUJEWvKhQAKCRCs
EHs4ZpLa3XtzD/9dwi1qffV70UTq8w/21jn1owHp09jxP7WHTmPWHE0BW5yFIWlV
A1gKN6Ym0dw+LvS5WOKJaRnyewUyBxWvZsn6Wlb5qzY7nmCOKJpYtuCUPwiqjXWP
EM8c/v0MojSuwMOXBAViLvOFhgdUrHn1lk962XvWAW++4DXFh2deaV0163IFMRmO
PNPDAiPWBVqvBANIh2sLRZ5gd1BXwpVrd+x8tzyr69YrN7hutPlCyPEUM9//mcEh
vFPsbW/iOx/foCE3NXhQm/rSMKecVn5csXBV2JOlMzi+8txYNrSBLkjbSB1AvTQ1
aG3+nCNCgM2XDLyoj0IrgZ1To4Ay5gmTOR+msY/cfoIuKFYenmtxy6jM8o5uSZHg
hoClrx9IA98hhGQ73G2r5EDpXuU/uCXn53Sswj65bl9IssfqEIoji/FonkkpEgeg
bGXFDUnrhicDO/WOzqpXf2Fa0DQWY+Vc/pt52ftBFgwzCNIUYDKUhCHPnZ0wtLtd
N2fkXHNiCavCDZlOud7FHHwmRNdj2q1uKxe4m+pFYmKwAU/H+Htkz9Gjsj+ZKedY
nnfai2s2gQOrbfwvV9VdhCWSuLK17ZnGTtiJuOUQIlV8n6QQJpohd3mVgmynu6gQ
uKw0YS2RuEUFv0vOg2tASA+4EM/SBUpGhudODLA4b5wO4gKmh1B1HqQrIsLBfAQY
AQoAJgIbDBYhBP65IJ8vLz9GZIQeVawQezhmktrdBQJlJEokBQkPj/2fAAoJEKwQ
ezhmktrdwMAP/RpFylIL4yhgscBOEnQ7e3No8OraNk0z/YhSd125N/uQVEU94JGQ
rrvQ+4Lfve2laPweBDO18/A0CsmOyHPVQMA0a2vx8ItVdIcNc8iFkP4AJ1922lOq
i0Vh0b1UeZnlfK9+Qvq4PQ2lhWJr0uzyL/S38REsAT1I25sfJOP+RCaR1MH9dm85
E56Lee6uZR8SkGuiL6kGpPh6fWTNij3bICjth1iSSCL2HCOW8lvcwSldDu2EfILU
QCSqfSG7bF8dFk+nKhzhVXOUks3XGjLdICxZewU5ycryitpfRgARgZs2A43gshdi
fiKaX6Ksan03uhKDrLhDHNj2y07PUrFo8ggtlRpV/PrlB/UqCsC9FUOixbD+n4ZF
Sqov2qwelLj0f4mZ6yiLsTDUOFPrdkOlHTJZl7AF0zXZMM6CvaCUaJCKx9GVdSrR
+LI4wLQonPrTnXavhkC4intlqSX8ZQNLhEggdE8YwMEJn59R/nVIT3i5WzYph5R9
P4Vz3Yn7jRqM8wAyEbHkA8s45fMRi9akWSw93H5nWukcmfkt3UEbmka3BQg3HKWP
6TvhfI28euM8qqjbPilfkpEBjnChYVk2Rgn0P8zA7Q5kCo293kwJL9c3RDjMPcxI
45ktKvBTZftsDt1Z718LwW7Q3VQiGiKvo1XLMuV7Z51fmydfUPcrnv17wsFlBBgB
CgAPAhsMBQJhMqGaBQkLnlUVAAoJEKwQezhmktrdbhwQAITmFb67XIUZswr3TREd
Q7ZCLG4EDyfTsW8n75r6A9OqsR+z68nC2Sm7e8mKQFFPwjHPOhsGhHtCOTZtQk7O
jbwyL4N3uxDyEvOfbckH5WzOejZcG7KKQrqAiWJJ7q6CH/zOnVurySjVyzJpy/wL
WpVAcF/uaW5ZhlFCXqePaEzsUBJ757qsr2ho14BV4seT1RSQ9nneTZ0Hhab3wqXP
4qDTo8+zkTvNo9YbeZ1qj62l1+QGIUBTP5MEdXCuC1e4FQ3f6vnXxmB86cUPx7cl
/y2rIjeiOdkKgPeUjNWWSzxS2jYehL5we7gvaSwmEvJ74pV+/3Hs+TxX39XtYFwj
k9I795idnsS5l1dAW3yoI3HBQsYa3US7bpH4g3yZMkstc3bHJ6X54PMCd8Skb+N3
FE8+zGduDmDTKitumiWVVxEFGIwsLAcpWPxecI2AMIMGfMheURYsdvD/yvCbCB29
0KwCSrDVkAG9N2VorNzd7KUeTPTMN1bg2d1lF6u5sQeTN5KVaGd7xE1OXME2wA2D
T3+EsAQytriFbcWm3s8Ugbc9BXMmKBfjlvKu6+Fr6Mgvf/txn56M2SyXBCFQ5OFt
qTFuAFIRv+nayk5tx5Eg1iA7u3dbB1jH3yxGH1B7TeQypA5BqD3x72b7vbXkeci3
1Kz035LYoT5/yTK5sGvacIvCwsFlBBgBCgAPAhsMBQJgmrz3BQkLBnByAAoJEKwQ
ezhmktrdLmgP/1FkWkYhxACnkagRv09mpPl2STbu0B3zYKFBALm/Wa7vKDz18dgC
S3BxDSlpnhZS8QA3VjmbOAZvaDnsN1UJ0f3Qao5136G/UXPnmFIwN612szP0K6nF
PEsotzIzRlJo3S+WkBfiKaQDIDgSxtUxJzOwufz76xibmKRhJ5ChMDCvxmIaoNle
tKRxFT77OupnnyaQs22UsueqrZJ0resgTVnNeF4A1+lU59pFuAlf971SVLr472LP
Uj8mPJihF2ukL1Hdz3F7+kYlpOJRmLk9fo4dlZHBUPiZ1ML/U2yhQfW+Y6tW71vf
```

```
izAxJWF7se6QT+UT5Pji6cohMSERVoYt8e2jFjs0PiPcrjU3mJEx4hAEEVIbP9RY
eKC4CL/UGYAtJkUjd85vKZUHYr7NWZQKLAKqpAPQUMKrIKLEHuz/doq2CCamstLI
vcBgg8EjLJnl3SBesFt/1DCWZeummqz3omQKRl9EHU2cIzIf0Cv/IEysnmbpSpjZ
DX8Fqjtezoq1qiyrLFR7YN1VDPBCHYfqDagw10nlrWFJqT6VqfslmdMdTBRWYVEB
0GUxrkyI+APdi0M2634/410b1ptkqyTIr1KIg1J/qsSiKVcBZSOYFW/rskxYcPPT
wpKYaycEYtOdkS6FPcnehJOOlB+F32WVq2bs2Ps8we6KhjjaYS4Iv4dwwsFlBBgB
CgAPAhsMBQJe+9W/BQkJZ4k1AAoJEKwQezhmktrdvzMQAI6BBj3c2r4bDpV3TwkX
dQ+UCa/E/zUhFds9XKfGb3a5IzRdPUwT+KrAZyiYrr2NSMOzhl/VtqJL18YCYsxO
Ob/TB1hDM+IZiI5gH0cHKhDYKTnNSGP09P/pJAlvHQend9CdZE9J9jwkczfS+bz6
mVxkxpi73fTDox9duesOLsS2/ntRzA0wqhDdaaavRvhAEf9vavCWVrNZmq22WVsU
lnIPxNWGGzWn85JYI6uAi4f4/ABFkry69/c0cvbr0P8qgCmeCuGmX4f0j7qRg77A
+mSueBDx8RK0O2ol021B7b8IcVizj+lpsRQN0oa+i+mFG+o6vtD1ZYhQude4N5sR
RybcLclxjSCoZs5q9JfTpbB2n7pSf/UD3ytwnt9kpD4Vv9dTGAPB83bjL+QK6e3A
XM10jxFE5jSFSr94E40kK80YcIR5jLqsg2f610ENY5drMSA4zuDFDL1Y2ChfjgjZ
uNoFbPHGt/8DfWTVOochVnikA7ggKjz20+RjvwyrHhRMAftO8MMh9UV28pdL+H53
oOtOV0u5aoTbcNqdYQy9B2Bw4lfmj2fi6Dpl+vnZp6hOm0CWiJVW/dtilppYjuxd
w5Kj+9IxZYaBNYH4l1pMT+BsvMDqGzXxDIL89NnY5BkMvqEKnjXSHGRWYMz0xigf
51YKbfQnEQ1oz5bRQndntRQWwsFlBBgBCgAPBQJXdYAFAhsMBQkHhh+AAAoJEKwQ
ezhmktrdTyEP/0HOVWHwQsaWjMrGj0OOMFzxGUo8SBmYYTBs29VM8wBGDsPkYCje
ZzU16i9iqDpDqxpyqmTigcjHV8CDx/6xsMBLG2yKaKZ4m3+YnOQf/sQkyCvqiyMF
9mS7pDYWy+mPhPuw8TDIfiqgVhzjSpIMFWPqxVjn6KKbPN/QASr3Pf0cuP6qpHG+
NAM6Q5dYkCebyvwzLmg1sVnil6iSyJd1jBj3D34XrgWS9buyxBB2CjIM76WxfNVi
J9zAaPI78X9v6PpDGn0kg6oLzrusrvBjoZknKQm0SZ+41fx6xvrTPs8uPEzevzJB
lkke6kw9+KagY8mrVX1ZenRg+sY/4vxJreYWQeql67ggx+wFjKDcfhZA7m7OLHOD
ysrGVCLcmuinUBaNlHmLDcGYXZ+kMCoXfObpuCVByQmNJgEb47EIFlx/+TEeNHKM
O+22xL1atFzXfkEVZck+NghLZyFDhS3g1bma7puU7r752uiJjA6Iv8+kHDXi+/V7
GNpuiEFUYh69QQ2//CS5H51osC/Bkb9evSn/Lp8dMubtWAaXDGJMgw9vqZ55N02N
K0fvF/IKHnGkvH28rv0OPCvOWTA/MClv28y0PrSvcvMXnduLtkBEX7TISMPW+n+O
Ta63/z4YFfEZ7sFLrEm3Q3vJMN3mE5i3cw+JGXPSu0nTtgqk/oZv//SS
=bboB
-----END PGP PUBLIC KEY BLOCK-----
```

有効期限: 2024 年 10 月 8 日

キー ID	0xAC107B386692DADD
タイプ	RSA
サイズ	4096/4096
作成	2016-06-30

有効期限日	2024-10-08
ユーザー ID	AWS SDK とツール <aws-dr-tools@amazon.com>
キーフィンガープリント	FEB9 209F 2F2F 3F46 6484 1E55 AC10 7B38 6692 DADD

次の SDK for Java 用の OpenPGP 公開鍵をクリップボードにコピーするには、右上隅にある [コピー] アイコンを選択します。

```
-----BEGIN PGP PUBLIC KEY BLOCK-----

xsFNBFd1gAUBEACqbmmFbxdJgz1lD7wrlskQA1LLuSAC4p8ny9u/D2zLR8Ynk3Yz
mzJuQ+Kfjne2t+xTDex6MPJlMYpOviSWsX2psgvdmeyUpW9ap0lrThNYkc+W5fRc
buFehfbi9LSATZGJi8RG0sCCr5FsYVz0gEk85M2+PeM24cXhQIOZtQUjswX/pdk/
KduGtZASqNAYLKROmRODzUuaokLPo24pfm9bnr1RnRtwt5ktPAA5bM9ZZaGKriej
kT2lPffbBjp8F5AZvmGLtNm2Cmg4FKBvI04SQjy2jjrQ3wBzi5Lc9HTxDuHK/rtV
u6PewUe2WPlnxlXenhMZU1UK4YoSB9E9StQ2VxQiySLHSdxR7Ma4WgYdVLn9bOie
nj3QxLuQ1ZUKF79ES6JaM4tOz1gGcQeU1+UklgjFLuKwmzWRdEIFfxMyvH6qgKnd
U+DioH5mcUwhwffAAsuIJyAdMIEUYh7IfzJJXQf+fF+XfOCl6byOJFWrIGQkAzMu
CEvaCfwtHC2Lpzo33/WRFeMAuzzd0QJ4uz4xFFvaSOSZHMLHWI9YV/+Pea3X99Ms
0Nlek/LolAJh67MynHeVBOHKrq+fluorWepQivctzN6Y1NOkx5naTPGGaKWK7G2q
TbcY5SMnkIWfLFSougj0Fvmjczq8iZRwYxWA+i+LQvsR9WEXEiQffIWRoQARAQAB
zsFNBFd1gAUBEAC8zNArPWb3dPMThL2xAY+fS60vXdB1SkOtYJpDWpFgvo0d+VQ+
hV6XulGAHAS6xG1WHysPT9KejIRSgLG+e9CaM5yhsxNa1WFGUM4Q9ESo3t+a75Go
7xHIxgFjC046/O6Vh3g9N/PREeuG8zkZ3H2v5fmD+ejyPgk4W9sFL00zjRiZD0FK
VYR/j9uenEC/2NBcLuFy3q6cDfmCoDEOO62kXMnaGz3knzEK/X1SkcjsxRDq7zaQ
lQ1Kou+3dICwy4x5SJQ8jl+eeeEvF2C2/dXmDohb57tqUwioohMUQkmCtvZgEHjy
pUwgp0MTo25gWxkvJlSJKUOb6b1786WNySIzF2gxqlkkEmBl4RAssQkeXjrSmGws
MDyHNqyJeYFusl8sPaSpo+V2n0z+2B070Uq+wmf1S5A5FpegH0PZzzoNZo8I6Qxa
Zje9YSZUijGmZIdEBleRVt3Svhi8MYlnasd4bW2RK1sr7plkBf8QRe6biiQRF3KD
OSn5CbmXpAcHJ1ZHzRRdkXZDNQC6vCJxsy13O0TrhJtAV1Yq347uyUbVi291ISVg
roUVtprsmHoEk5GoOTHbg9SCSt+xi/FiJQC+ubWmIGXoFKMR3UmhDnnzobKcbnbs
/Hd981FdVghYYvq//gTAkJk0WxfGqO30wtXRndPOA0T+qhP3TE+LtGRJ+wARAQAB
wsFlBBgBCgAPBQJXdYAFAhsMBQkHhh+AAAoJEKwQezhmktrdTyEP/0HOVWHwQsaW
jMrGj0OOMFzxGUo8SBmYYTBs29VM8wBGDsPkYCjeZzU16i9iqDpDqxpyqmTigcjH
V8CDx/6xsMBLG2yKaKZ4m3+YnOQf/sQkyCvqiyMF9mS7pDYWy+mPhPuw8TDIfiqg
VhzjSpIMFWPqxVjn6KKbPN/QASr3Pf0cuP6qpHG+NAM6Q5dYkCebyvwzLmg1sVni
l6iSyJd1jBj3D34XrgWS9buyxBB2CjIM76WxfNViJ9zAaPI78X9v6PpDGn0kg6oL
zrusrvBjoZknKQm0SZ+41fx6xvrTPs8uPEzevzJBlkke6kw9+KagY8mrVX1ZenRg
```

```
+sY/4vxJreYWQeql67ggx+wFjKDcfhZA7m7OLHODysrGVCLcmuinUBaNlHmLDcGY
XZ+kMCoXfObpuCVByQmNJgEb47EIFlx/+TEeNHKMO+22xL1atFzXfkEVZck+NghL
ZyFDhS3g1bma7puU7r752uiJjA6Iv8+kHDXi+/V7GNpuiEFUYh69QQ2//CS5H51o
sC/Bkb9evSn/Lp8dMubtWAaXDGJMgw9vqZ55N02NK0fvF/IKHnGkvH28rv0OPCvO
WTA/MClv28y0PrSvcvMXnduLtkBEX7TISMPW+n+OTa63/z4YFfEZ7sFLrEm3Q3vJ
MN3mE5i3cw+JGXPSu0nTtgqk/oZv//SS
=Z9u3
-----END PGP PUBLIC KEY BLOCK-----
```

ドキュメント履歴

このトピックでは、 AWS SDK for Java デベロッパーガイドの履歴における重要な変更について説明します。

変更	説明	日付
結果の合計数を制限する	リクエストの `maxResults` パラメータが項目の合計数ではなくページサイズを設定することを明確にします。すべてのページで項目の合計数を制限する例を追加します。	2026 年 10 月 6 日
Amazon S3 の署名付き URL ダウンロードを v1 から v2 に移行する	v1 から v2 への署名付き URL ダウンロードの移行ガイドを追加する	2026 年 7 月 15 日
Amazon S3 の署名付き URL ダウンロードの例	S3AsyncClient 署名付き URL 拡張機能と S3 Transfer Manager を使用して署名付き URL ダウンロード例を追加する	2026 年 7 月 15 日
the section called “現在のキー”	2026 年 9 月 27 日に期限切れになる新しい PGP キーを追加しました。	2025 年 10 月 1 日
サポートされていないコードパターン	サポートされていない移行ツールのコードパターンを文書化しました。	2025 年 9 月 23 日
移行ツール	GA リリースを更新しました。	2025 年 9 月 19 日

変更	説明	日付
メトリクスのリファレンス	SDK によって収集されたメトリクスの詳細を追加しました。	2025 年 9 月 3 日
the section called “VersionedRecordExtension を使用して楽観的ロックを実装する”	DynamoDB 拡張クライアントの VersionRecordExtension に関する詳細を追加しました。	2025 年 9 月 2 日
1.x クライアントを使用してアプリケーションを検索する	バージョン 2 に移行する前に AWS CloudTrail イベントをクエリすることで、 AWS SDK for Java 1.x クライアントを使用するアプリケーションを識別するのに役立つ手順を追加します。	2025 年 8 月 20 日
Transfer Manager	クライアントコンストラクタ、メソッド、モデルオブジェクト、動作変更の包括的な移行テーブルを追加しました。手動移行を必要とする、サポートされていないメソッドの詳細なコード例を追加しました。	2025 年 7 月 1 日
メトリクス	LoggingMetricPublisher の包括的なドキュメントを追加しました。入門ガイダンスを改善してメトリクストピックを再構築しました。	2025 年 6 月 20 日

変更	説明	日付
the section called “高レベル変更”	移行ガイドに、 DynamoDBMapper (v1) と DynamoDB 拡張クライアント (v2) の空の文字列処理の違いに関する情報を追加しました。	2025 年 6 月 18 日
目次の再編成	ガイドの他のセクションから構成された ??? 章を追加しました。	2025 年 6 月 16 日
???	MD5 チェックサムを必要とするシステムとの下位互換性のための LegacyMd5Plugin の使用に関する情報を追加しました。	2025 年 5 月 19 日
the section called “S3 クライアントの違い”	の v1 と v2 の間に S3 クライアントの違いを追加 AWS SDK for Java し、移行ツールが V1 コードを自動的に移行できない場合の移行例を示します。	2025 年 4 月 24 日
逆シリアル化の違い	SDK for Java の v1 と v2 の逆シリアル化に関する違いを追加しました。	2025 年 4 月 10 日
the section called “SQS 自動リクエストバッチ処理”	SDK for Java の v1 から v2 への SQS 自動リクエストのバッチ処理の移行コンテンツを追加しました。	2025 年 4 月 8 日
???	自動チェックサム計算に関する情報を更新しました。	2025 年 4 月 3 日

変更	説明	日付
the section called “ALPN の設定”	Netty ベースの HTTP クライアントとの ALPN プロトコルネゴシエーションの設定を示しました。	2025 年 2 月 21 日
the section called “Lambda 関数”	で EMF ログ記録メトリクスパブリッシャーを使用して SDK メトリクスをキャプチャ AWS Lambda する方法に関する情報を追加します。	2025 年 2 月 6 日
ContentStreamProvider の実装	ContentStreamProvider の実装方法に関するトピックを追加しました。	2025 年 1月 29 日
the section called “チェックサムによるデータ整合性保護”	コンテンツを更新し、自動チェックサム計算に関する詳細情報を追加しました。	2025 年 1 月 16 日
the section called “Amazon S3 での使用”	Amazon S3 を使用するための移行コンテンツを追加しました。	2025 年 1 月 8 日
the section called “CRT AWS ベースの HTTP クライアントにアクセスする”	CRT ベースのコンポーネントでプラットフォーム固有の jar AWS を使用する方法に関する情報を追加します。	2024 年 11 月 14 日
the section called “認証に IAM Roles Anywhere を使用する”	認証に IAM Roles Anywhere を使用する方法に関する情報を追加しました。	2024 年 11 月 6 日

変更	説明	日付
the section called “認証情報キャッシュの設定例”	`asyncCredentialUpdateEnabled` プロパティを使用して認証情報プロバイダーを設定する例を追加しました。	2024 年 11 月 4 日
the section called “自動リクエストバッチ処理を使用する”	Amazon SQS の自動リクエストバッチ処理 API をドキュメント化する新しいトピックを追加しました。	2024 年 10 月 23 日
OpenPGP 鍵	現在の OpenPGP キー情報を更新しました。	2024 年 10 月 10 日
the section called “式で複合型を使用する” および the section called “複合型を含む項目の更新”	式と更新で複合型を使用する方法に関するコンテンツを追加しました。	2024 年 10 月 10 日
Amazon S3 バケット名を更新しました。	Amazon S3 バケット名を更新しました。	2024 年 9 月 30 日
the section called “アカウントベースのエンドポイントでのパフォーマンス最適化”	DynamoDB の AWS アカウントベースのエンドポイントに関する情報を追加します。	2024 年 9 月 24 日
the section called “Bean、Map、List、Set の属性を使用する”	複合型の属性を使用する方法について説明する DynamoDB Enhance Client のセクションを更新しました。	2024 年 9 月 6 日
the section called “検索をショートカットするようにサービスクライアントを設定します。”	Lambda SnapStart for Java を使用する場合の `EnvironmentVariableCredentialsProvider` の使用方法を明確にしました。	2024 年 8 月 19 日

変更	説明	日付
the section called “並列転送のサポートを設定する”	並列転送サポートを有効にする方法を含むページを追加しました。	2024 年 8 月 15 日
the section called “AutoGeneratedUuidExtension を使用して UUID を生成する”	DynamoDB 拡張クライアント `AutoGeneratedUuidExtension` に関する情報を追加しました。	2024 年 8 月 14 日
???	移行ツール (プレビューリリース) に関するセクションを追加しました。	2024 年 8 月 9 日
the section called “S3 イベント通知”	S3 イベント通知 API の使用方法について説明するセクションを追加しました。	2024 年 7 月 21 日
the section called “DynamoDB の操作”	DynamoDB マッピング/ドキュメント API の v1 から v2 への移行情報を追加しました。	2024 年 7 月 21 日
the section called “S3 イベント通知”	S3 イベント通知 API の v1 から b2 への移行情報を追加しました。	2024 年 7 月 21 日
the section called “再試行”	再試行戦略のトピックを追加しました。	2024 年 6 月 18 日
JVM TTL を設定する方法	java コマンドラインシステムプロパティを使用して `networkaddress.cache.ttl` セキュリティプロパティを設定する手順を削除しました。	2024 年 5 月 21 日

変更	説明	日付
the section called “の SDK 起動時間を短縮する AWS Lambda”	HTTP クライアントのレコメンデーションを更新しての起動時間を短縮する AWS Lambda	2024 年 5 月 14 日
the section called “メトリクスのリファレンス”	メトリクステーブル項目を再編成しました。	2024 年 5 月 1 日
the section called “トラブルシューティング”	トラブルシューティングトピックを追加しました。	2024 年 4 月 26 日
the section called “各リクエストで収集されたメトリクス”	SDK によってレポートされた新しいメトリクスを追加しました。	2024 年 4 月 26 日
the section called “DNS 名参照用の JVM TTL を設定する”	推奨される DNS ルックアップ TTL を 5 秒に変更しました。	2024 年 4 月 23 日
the section called “パッケージ名から artifactId へのマッピング”	Maven ArtifactID マッピングトピックにパッケージ名を追加しました。	2024 年 4 月 17 日
the section called “メトリクス”	メトリクスセクションに設定の詳細を追加しました。	2024 年 4 月 12 日
the section called “IAM Policy Builder API”	IAM ポリシービルダー API の移行情報を追加しました。	2024 年 4 月 11 日
???	HTTP プロキシ情報を更新しました。	2024 年 4 月 3 日
the section called “安全に”	IMDSv1 を無効にする手順を追加しました。	2024 年 3 月 14 日
the section called “ステップバイステップの手順”	ステップバイステップの移行手順を追加しました。	2024 年 3 月 8 日

変更	説明	日付
バージョン 2 に移行する	移行トピックを更新しました。	2024 年 2 月 14 日
the section called “CRT AWS ベースの HTTP クライアントを設定する”	同期 AWS CRT ベースの HTTP クライアントに関する情報を追加します。	2024 年 1 月 5 日
the section called “Amazon Cognito ID” および the section called “Amazon Cognito ID プロバイダー”	Amazon Cognito の例が「コードの例」セクションに移動しました。	2023 年 12 月 28 日
OpenPGP 鍵	現在の OpenPGP 鍵を指定します。	2023 年 12 月 6 日
the section called “シリアル化の違い”	SDK for Java の v1 と v2 のシリアル化の違いを説明します。	2023 年 12 月 5 日
the section called “Transfer Manager”	S3 Transfer Manager のバージョン 1 からバージョン 2 への変更を詳しく説明するセクションを追加。	2023 年 11 月 13 日
the section called “注釈のリファレンス”	DynamoDB 拡張クライアントで使用できるデータクラス注釈のリストを追加。	2023 年 10 月 30 日
???	SDK for Java v1.x から v2.x へのライブラリとユーティリティの統合ステータスに関する情報を追加	2023 年 10 月 17 日
???	Gradle セットアップトピックを更新	2023 年 10 月 17 日

変更	説明	日付
the section called “ネストされたオブジェクトの NULL 属性を無視する”	DynamoDB 拡張クライアント `@DynamoDbIgnoreNulls` 注釈に関する情報を追加。	2023 年 9 月 22 日
the section called “クロスリージョンアクセス”	Amazon S3 バケットへのクロスリージョンアクセスに関する情報を追加。	2023 年 8 月 31 日
the section called “空のオブジェクトを保持する”	`@DynamoDbPreserveEmptyObject` 注釈について説明するセクションを追加。	2023 年 8 月 25 日
???	サービスクライアントセクションを更新。	2023 年 8 月 15 日
the section called “クライアントの推奨事項”	バージョン 0.23 以降、 AWS CRT は Alpine Linux などの musl ベースの OS をサポートしています。HTTP クライアントの推奨事項に musl サポートを反映。	2023 年 8 月 11 日
the section called “IAM ポリシーを作成する”	IAM Policy Builder API セクションを追加	2023 年 7 月 31 日
the section called “はじめに”	「DynamoDB 拡張クライアント」トピックの「はじめに」セクションのいくつかのスニペットを修正。	2023 年 7 月 24 日
the section called “HTTP プロキシの設定”	各 HTTP クライアントの HTTP プロキシサポート情報と例を追加。	2023 年 6 月 2 日

変更	説明	日付
目次の再編成	コードの例 セクションおよび AWS のサービス の呼び出し を最上位の目次項目に掲載。	2023 年 5 月 24 日
the section called “ログ記録を追加する”	Gradle の依存関係を ログ記録 セクションに表示。	2023 年 5 月 23 日
the section called “Pagination (ページ分割)”	ページ分割のトピックを更新。	2023 年 5 月 18 日
the section called “Gradle プロジェクトを設定する”	Gradle プロジェクトの設定を更新。	2023 年 5 月 3 日
DynamoDB Enhanced Client API	書き換え DynamoDB Enhanced Client API トピックのリリース。	2023 年 4 月 28 日
更新: 入門ガイドのチュートリアルの説明	Maven アーキタイプが CredentialsProvider のオプションを含むように変更、それに応じインストラクションも変更。	2023 年 4 月 11 日
the section called “クライアントの推奨事項”	HTTP クライアント意思決定ガイダンスを追加	2023 年 3 月 30 日
IAM ベストプラクティスの更新	IAM ベストプラクティスに沿ってガイドを更新しました。詳細については、「IAM でのセキュリティのベストプラクティス」を参照してください。	2023 年 3 月 14 日
the section called “プロファイルの認証情報を再ロード”	プロファイル認証情報の再ロードに関するセクションを追加。	2023 年 2 月 9 日

変更	説明	日付
the section called “CRT AWS ベースの HTTP クライアントを設定する”	GA リリースのトピックを更新。	2023 年 2 月 8 日
the section called “Amazon EC2 インスタンスメタデータを操作する”	Amazon S3 インスタンスメタデータサービス用の Java SDK クライアントのガイド付き例を追加。	2023 年 2 月 1 日
the section called “パフォーマンスの高い S3 クライアントを使用する”	CRT AWS ベースの S3 クライアントのセクションを追加します。	2022 年 12 月 19 日
the section called “ファイルとディレクトリを転送する”	GA リリース用に Amazon S3 Transfer Manager のサンプルを更新。	2022 年 12 月 19 日
the section called “ベストプラクティス”	ベストプラクティスのセクションを追加。	2022 年 11 月 18 日
the section called “外部プロセスの使用”	外部プロセスからの認証情報のロードに関するセクションを追加。	2022 年 11 月 15 日
the section called “メトリクスのリファレンス”	HTTP クライアントの使用要件を含むメトリクスリストを更新。	2022 年 11 月 9 日
the section called “ファイルとディレクトリを転送する”	サンプルコードを修正。	2022 年 11 月 2 日
the section called “の SDK 起動時間を短縮する AWS Lambda”	Lambda の起動時間を短縮するためのオプションを追加しセクションを更新。	2022 年 11 月 1 日

変更	説明	日付
the section called “HTTP クライアントの設定”	SDK のすべての HTTP クライアントを対象とする設定情報を追加。	2022 年 10 月 26 日
the section called “ログ記録”	すべての HTTP クライアントのワイヤログ記録の詳細を含むようにログ記録トピックを更新。	2022 年 10 月 4 日
the section called “AWS データベースサービス”	AWS データベースサービスと SDK for Java 2.x の概要セクションを追加しました。	2022 年 9 月 13 日
EC2-Classic Networking は販売終了になります	2022 年 8 月 15 日に、EC2-Classic の提供を終了。	2022 年 7 月 28 日
the section called “追加認証オプション”	シングルサインオン認証に必要な依存関係の更新	2022 年 7 月 18 日
the section called “Transport Layer Security (TLS)”	TLS セキュリティ情報を更新。	2022 年 4 月 8 日
the section called “追加認証オプション”	認証情報の設定および使用に関する詳細を追加。	2021 年 2 月 22 日
the section called “GraalVM Native Image プロジェクトを設定する”	GraalVM Native Image プロジェクトの設定に関する新しいトピック。	2021 年 2 月 18 日
the section called “ウェーター”	Waiters のリリース: 新しい機能に関するトピックを追加。	2020 年 9 月 30 日
the section called “メトリクス”	Metrics のリリース: 新しい機能に関するトピックを追加。	2020 年 8 月 17 日
the section called “Amazon SNS”	のトピック例を追加しました Amazon SNS。	2020 年 5 月 30 日

変更	説明	日付
the section called “の SDK 起動時間を短縮する AWS Lambda”	AWS Lambda 関数のパフォーマンスに関するトピックを追加しました。	2020 年 5 月 29 日
the section called “DNS 名参照用の JVM TTL を設定する”	JVM TTL DNS キャッシュに関するトピックを追加。	2020 年 4 月 27 日
the section called “Apache Maven プロジェクトを設定する”, the section called “Gradle プロジェクトを設定する”	新しい Maven と Gradle 設定に関するトピック。	2020 年 4 月 21 日
the section called “Transport Layer Security (TLS)”	セキュリティセクションに TLS 1.2 を追加しました。	2020 年 3 月 19 日
the section called “Amazon Kinesis Data Streams へのサブスクライブ”	Kinesis ストリームの例を追加しました。	2018 年 8 月 2 日
the section called “Pagination (ページ分割)”	自動ページ分割のトピックを追加しました。	2018 年 4 月 5 日
???	IAM、 Amazon EC2、 CloudWatch および のサンプルトピックを追加しました DynamoDB。	2017 年 12 月 29 日
the section called “Amazon S3”	getobjects の例を追加しました Amazon S3。	2017 年 8 月 7 日
the section called “非同期プログラミング”	非同期のトピックを追加しました。	2017 年 8 月 4 日
AWS SDK for Java 2.x の一般提供リリース	AWS SDK for Java バージョン 2 (v2) がリリースされました。	2017 年 28 月 6 日

翻訳は機械翻訳により提供されています。提供された翻訳内容と英語版の間で齟齬、不一致または矛盾がある場合、英語版が優先します。